ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

1

アーウチワ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

1

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel (262)5111 (代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　　8211

はじめに

私は〈読む〉ことには四つの目的があると思っている。第1は自分の仕事——私のような研究者の場合には専門的研究——に直接に役立つ知識をうるために読む。第2は人としての自分の生き方に発展的影響をうるために読む。第3は常識というか，ただ知ること自体のために読む。第4は娯楽として読む。

〈よい百科事典〉はまさにこの第3として最も有効なものである。そこではそれぞれの項目について，それを真に理解している——真に理解しているというのは，ただ知識として知っているのではなく，その人の専門的研究の推進にその知識が有効に生かされていることである——専門家によって書かれているからである。それで，われわれ素人が読んで〈よくわかった〉ような満足感をうるのである。第3の意義での〈読書〉ではそれで十分である。私は手近なところに百科事典を備えて，ちょっとした疑問があるといつでも利用している。なかなか楽しいものである。

日本学術会議会長
東京大学教授

江　上　不　二　夫

編　集　委　員

（五 十 音 順）

東京都立大学教授	生　物	秋野美樹
玉川大学教授	地　理	浅井得一
成城大学教授	映　画	浅沼圭司
名古屋大学名誉教授	物　理	有山兼孝
国学院大学教授	神　道	安津素彦
東京工業大学教授	工業化学	池田朔次
大正大学助教授	仏　教	石上善応
早稲田大学教授	電　気	伊藤糾次
東京都立大学助教授	中国文学	今村与志雄
慈恵医科大学付属病院	医　学	岩井　寛
東京水産大学教授	水　産	石野　誠
和光大学学長	教　育	梅根　悟
慶応義塾大学教授	経　済	大熊一郎
慶応義塾大学講師	精神医学	小此木啓吾
九州大学教授	地　学	片山信夫
東京農業大学教授	農　学	金木良三
早稲田大学教授	演　劇	河竹登志夫
東京農工大学教授	林　学	川名　明
昭和女子大学学長	有職故実	河鰭実英
中央大学教授	社会学	樺　俊雄

東京国立博物館	美術	北村哲郎
早稲田大学教授	金属	草川隆次
早稲田大学教授	民法	黒木三郎
東邦大学教授	医学	桑原章吾
一橋大学教授	経済	小泉明
学習院大学教授	日本史	児玉幸多
東京教育大学教授	数学	小西勇雄
音楽評論家	音楽	向坂正久
東京水産大学教授	海洋物理	佐々木忠義
慶応義塾大学塾長	外国文学	佐藤朔
中央大学教授	マスコミ	佐藤智雄
東京工業大学教授	化学	志田正二
明治大学教授	経営	清水晶
明治大学教授	宇宙	新羅一郎
神奈川県工業試験所所長	化学	鈴木篁
東京大学教授	人類学	鈴木尚
立正大学教授	行政・政治	鈴木安蔵
東京大学教授	国際法	寺沢一
東京教育大学教授	民俗学	直江広治
東京大学教授	航空	中口博
法政大学総長	政治	中村哲
東京大学教授	西洋史	中屋健一
中央大学教授	社会保障	那須宗一
駒沢大学助教授	仏教	奈良康明
一橋大学教授	中国哲学	西順蔵
東北大学助教授	美術	西田秀穂
東京大学教授	外国文学	日高八郎
京都大学教授	東洋史	日比野丈夫
横浜国立大学助教授	科学史	藤村淳
都留文科大学学長	宗教	増谷文雄
明治大学教授	労働法	松岡三郎
学習院大学教授	日本史	黛弘道
東京国立近代美術館	美術	三木多聞
東京教育大学教授	西洋哲学	村治能就
東京教育大学講師	仏教	山折哲雄
東京工業大学教授	科学史	山崎俊雄
埼玉大学教授	日本文学	吉田精一
東京大学教授	医学	吉利和

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

{ **しんくう**　【真空】
{ **しんぐう**　【新宮(市)】
{ **じんぐう**　【神宮】

{ **はい**　【肺】
{ **ばい**　【蛽】
{ **パイ**　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ **じゅう**　【銃】
{ **じゆう**　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】　⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1975年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　**【関西弁】**　⇨方言
しょせき　**【書籍】**　⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

→ ➔ 解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　**【藍色】**　……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　**【安山岩】**　中性の火山岩*。
いほうじん　**【異邦人】**　カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり，……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治5)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第1巻

あ

ああぎょくはいにはなうけて【ああ玉杯に花うけて】 佐藤紅緑*の代表的な少年小説。貧しい家の少年青木千三(せんぞう)が友情にささえられ，艱難(かんなん)にうちかって，第一高等学校入学の栄冠をかちとるまでの話を描いたもの。1927年(昭和２)から翌年にかけて雑誌《少年倶楽部*(くらぶ)》に連載，圧倒的好評を博した。紅緑の作品の三大主題―立身出世主義・刻苦勉励主義・友情がみられる点で紅緑の少年小説の典型とされる。題名は一高の寮歌による。 〔大藤幹夫〕

あい【藍】 双子葉植物・タデ科の一年生草本。タデアイともいう。最も古く中国から輸入された染料植物。茎は紅紫色で，高さ50～60cm。葉は長楕円(ちょうだえん)形で先はややとがり，長さ７～９cm。乾燥すると黒っぽい藍色となる。秋の初め，茎の先から出た枝にたくさんの紅色の小花を穂状につける。全草にインジカン(加水分解を受けてインドキシルとなり，さらに酸化されるとインジゴ*となる)を含む。果実は黒かっ色2mmほどで，漢方では解熱薬として用いられる。 〔小清水義隆〕

あい【藍】 天然染料*の植物染料の一種。藍を含む植物はマメ科・コマツナギ属のインドアイ，アブラナ科のセイヨウタイセイ，タデ科のタデアイ，キツネノマゴ科のリュウキュウアイなどである。藍をつくるにはこれらの植物の葉を発酵させて遊離青藍(せいらん)とする。日本では古くからタデアイ・ヤマアイが利用され，藍の生産では阿波(あわ)(徳島県)が著名であった。藍は石灰とふすまを用い暖めて還元して染色し，空気中で酸化発色する方法で紺色を染め，淡色では浅葱(あさぎ)・花色・納戸(なんど)などの色が染められた。かすり・しま・小紋・中形・無地などの藍染め物が広く普及した。しかし，人造染料*のインジゴ*が発明されてからは天然藍の需要もしだいに減り，現在ではきわめて少ない。➔藍色 〔小川安朗〕

あい【愛】 愛はつねになにかを新たに生み出していく働きである。この働きには二つ以上の力が結合し協同する。①自然の段階では，雌雄の両極が引き合い，働き合う性愛の形をとる。ギリシア語のエロスはこれを表わしている。自然的なエロスは生殖と成長の形で前進する。人間の段階でも，この愛は肉体の欲求と根源的に一つとみられているが，プラトン*は，《饗宴*(きょうえん)》の中で，その前進する働きを上昇過程でとらえ，自然的・肉体的な愛欲ないし恋愛から美しいものの制作やよい行為，さらに知識(真理の認識)への愛(哲学)へとたえず物的なものから浄化されながら，ついに突如として美のイデアの神秘的な観照に至る道を説いた。これがいわゆるプラトニックラブ*である。肉体からの精神の浄化は，地上の愛と天上の愛を分ける。ルネサンス初頭では，キリスト教を背景にこの区別が強調された。また，上昇する愛は豊かさ(完全さ)を求めながら，満たされてもなお貧しさ(不満・不完全)を残すから，プラトンはこのエロスをペニア(欠乏の女神)とポロス(富有神)の間に生まれたダイモン*(魔神・半神)として，神話的に物語っている。このギリシア的なエロスは文化生産の力でもあって，現代，再び盛んに活動している。②これに対して，生まれたもの(子)に対して生むもの(親)からの，いわば上からの愛がある。これがアガペーである。この愛も母性愛と父性愛に分けられる。聖母は前者を代表するが，キリスト教の創造神は父性愛を代表する。この神の愛のもとに，神の子たちである人間どうしの隣人愛がなりたつ。これは，アリストテレス*が友人間に働く愛として尊重したフィリア(友愛)に対応する。③フィリアは，もと自己愛を中心にして自己と同列に存在する他者の自己を同等に尊重し合うことに発展する。エロスとアガペーが縦の関係だとすれば，フィリアは横の関係・広がりを示すであろう。これは同性間



ア　イ

①



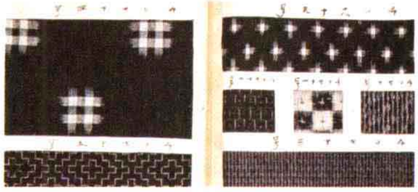
②



③



④



1　藍染め染料のすくも(右)と，すくもをとるタデアイ
2　糸を，藍がめに浸して染める
3　藍染めした糸の乾燥
4　明治時代の藍染めの見本帳

藍

にも異性間にもなりたつ。自己愛のうちに閉ざされたナルシシズムは，この友愛によって他己愛へと開かれねばならない。現代の社会にたえずきびしく要求されている世界同胞愛や人類愛も，よい人格をもった友人相互になりたつ友愛を完全な愛とし，原動力としてのみ達成されよう。〔村治能就〕

仏教においては，愛を肉体的・感覚的な愛と，精神的・理性的な愛との２通りに分けて考える長い歴史を有している。人生についての仏教の古い説明の形式の一つである〈十二縁起*〉の中にあっても，愛は人間存在の原因となる一つの要因と考えられている。その意味では，愛は人間にとって不可避のものともいえるが，仏教ではこの愛をもってそのまま理想へ到達する要因とは考えず，これだけでは動物的存在としての人間に付随する欲望的愛(欲愛)であるとしている。この欲愛を脱して，理想の境地にまで高めるには，愛そのものを真実と一致させなければならない。個人の本能に基づいた個別的な愛，名利の愛，性の愛などは汚れた愛(染汚愛)とされ退けられる。法に基づいた愛，広く自と他を愛する愛こそ汚れなき愛(不染汚愛)とされ，これこそ仏・菩薩(ぼさつ)の愛とされる。この考えはインド仏教の最終形態まで変わらず，理(真理)こそ愛とされていた。〔金岡秀友〕

アイアイ [aye-aye] 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・アイアイ科。マダガスカル島にすむ原猿(げんえん)の一種。１科１属１種の珍しいもので，原猿の中でも最も下等なものといわれる。頭胴長約40cm，尾は約60cmで，深い毛におおわれ，一見キツネに似る。体色は全般的に黒みがかり，顔から腹は黄白色。指は長く足の親指のみ平づめ，他はかぎづめである。熱帯降雨林にすみ，完全な夜行性。昼は巣をつくって寝る。食性はこん虫を主食とした雑食。高くて鋭い金属的な声で鳴く。単独生活をし群れをつくらない。〔河合雅雄〕

アイアス [Aias] ギリシア英雄伝説上の武将。

1 大アイアス。サラミスの王テラモンの子で，トロヤ戦争に参加したギリシア方の軍勢にあって，アキレウス*に次ぐ武将。身体巨大で，腕力・勇気ともにすぐれ，ギリシア勢を率いて獅子(しし)奮迅の活躍をする。敵将ヘクトル*との一騎打ち，怒りを解かぬアキレウスとの会見，オデュッセウス*とのすもうなどで知られる。アキレウスの死後，その武具の相続をオデュッセウスと争い，敗れて狂死したとされるが，死については諸説がある。

2 小アイアス。ロクリスの王オイレウスの子でロクリス勢を率いてギリシア方に加わる。しばしば大アイアスと組んで行動するが，武将としての骨がらは比ぶべくもなく卑しい。トロヤ王女カッサンドラを凌辱(りょうじょく)したためアテナ女神に憎まれ，ギリシアへの帰還の途中海難にあい溺死(できし)した。〔松田 治〕

アイアールビーエム [IRBM] intermediate range ballistic missile の略称。準中距離弾道ミサイル。射程1,500～3,000kmで，代表的なものはジュピター*・ポラリス*(いずれもアメリカ)・T-2(ソ連)など。

アイイー [IE] ⇨インダストリアル-エンジニアリング

あいいくけんきゅうじょ【愛育研究所】⇨教育研究所

あいいろ【藍色】色名。やや暗く，鈍い青色。本来は藍*で染めた色をいい，わが国では古くから好んで用いられてきた。藍染めの濃い色は紺色*といい，紺ほど濃くない藍色は縹(はなだ)色*といったが，これには深縹(こきはなだ)・浅縹(うすはなだ)があり，水縹(みはなだ)は最も薄く，納戸(なんど)色*である。また，ごく薄い藍色の〈かめのぞき〉は，藍がまだよく染まりきっていない，つまり，藍甕(あいがめ)をのぞいてみたくらいの色の意味である。日本工業規格(JIS)慣用色名〈アイ色〉は，色相2.0PB，明度3.0，彩度5.0の色と規定されている。➔色 〔武井邦彦〕

アイエーイーエー [IAEA] ⇨国際原子力機関

アイエーエスワイ [IASY] ⇨太陽活動期国際観測年

アイエーエフ [IAF] ⇨国際宇宙航行連盟

アイエスオー [ISO] ⇨国際標準化機構

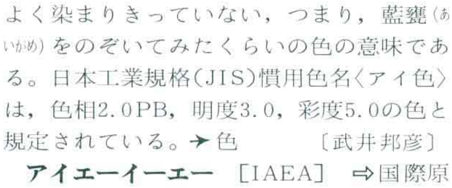
アイエーティーエー [IATA] ⇨国際航空運送協会

アイエムエフ [IMF] International Monetary Fundの略称。国際通貨基金。1944年７月１日に議決された国際協定(いわゆるブレトンウッズ協定*)に基づき設立された国際金融機構。1947年３月１日，加盟国わずか40か国で業務を開始し，1969年12月現在加盟国は115か国に達し，ソ連圏を除いたほとんどすべての国が参加している。IMFは，各国が相互に協議協調して，為替(かわせ)相場の安定，制限的または差別的な通貨措置の撤廃を図り，自由かつ多角的な国際貿易および決済を維持し促進することを目的としている。日本は1952年８月，２億5,000万ドルの割り当て額をもって加盟した。

【組織】IMF加盟国は，金または1944年７月１日現在の純分と量目を有するアメリカのドルで自国通貨の為替平価*を表示し，この為替平価を維持する義務を負っている。すなわち直物(じきもの)為替*の取引に実際に適用される為替相場，つまり直物取引相場の変動幅を，平価の上下１％内に維持しなければならないことになっている。ただし，基礎的不均衡が存在すると認められる場合には，IMFの承認のもとに，各加盟国は為替平価を変更することができる。

また各加盟国は，それぞれ割り当て額が決定されていて，その割り当て額に相当する額を金および自国通貨でIMFに出資することになっている。一般的には，各加盟国は，自国の割り当て額の25％を金で，残りの75％を自国通貨で出資する。加盟国の割り当て額は，IMFの業務開始の時期には総額74億1,250万ドルにすぎなかったが，1969年７月現在では209億8,760万ドルに増加している。各加盟国は，IMFに割り当て額を出資するかわりに，国際収支の赤字の発生その他の理由で外貨の不足に直面した場合には，金または自国通貨を対価としてIMFから所要外貨を買い入れることができる(金を対価とする場合には，まったく無制限に所要外貨を買い入れることができるが，実際には金を対価とすることはほとんどない)。ただし，その場合特定の外貨が現実に必要であるむねをIMFに明示して審査を受け，IMFによって適格と認められた場合にのみ所要外貨を買い入れることができる。その限度は５年間にわたって最高割り当て額の125％までで，所要外貨を買い入れた各加盟国は金または交換可能通貨でIMFの保有する自国通貨を買いもどすことを義務づけられている。買いもどしを義務づけているのは，IMFの資金が回転的に運用される資金であることから当然であるが，買いもどしが加盟国の通貨準備の増減と関連して規定されているのは，加盟国がIMFから外貨を買い入れて不当に自国の準備を蓄積したり，あるいは買いもどしの義務が準備の減少しつつある加盟国に対して不当の圧迫を加えたりすることがないように考慮されているからである。

さらに，加盟国の一般的義務として，経常取引に関する制限を撤廃すること，差別的通貨措置を撤廃すること，および外国が保有する自国通貨残高の交換性(いわゆる自国通貨の対外交換性)を維持することが規定されている。この加盟国の一般的義務



ア イ ア イ



アイアス(大) アキレウスの遺体をめぐってトロヤ方と戦うアイアス(左)。右はアキレウスを弓で射たパリス

はIMF協定第8条に規定されているが，IMF設立当時における世界経済の混乱期には大多数の加盟国は厳格な為替管理*・差別的措置などを施行しており，この第8条の義務を直ちに引き受けることが不可能な状態に置かれていた。そこでIMFの業務開始の時期より5か年間を〈戦後過渡期〉と定め，加盟国は戦後過渡期に関するかぎり第8条の義務を免除される旨の規定が設けられた。

〔運営方法〕IMFは総務会および理事会の管理のもとに運営される。総務会はIMFの最高意志決定機関であり，各加盟国ごとに任命される総務1名および総務代理1名によって構成されている。総務会は年1回開催される年次総会のほか総務会の決定または理事会の招集によって開催される。理事会は，IMFの一般的業務を運営する責任を有し，このために総務会から委任されたすべての権限を行使する。理事は12人以上であり，そのうちから選出された専務理事が理事会の議長となる。また専務理事は，IMF事務職員の長として理事会の指示・監督のもとにIMFの業務を運営する。IMFの設立当時においては，第8条に規定された加盟国の一般的義務を履行することができたいわゆる8条国は，アメリカその他のわずか5か国にすぎず，大多数の加盟国は〈戦後過渡期〉の規定を利用して為替管理その他の制限的措置にたよらなければならなかった。設立当初，IMFは，厳格な審査のもとに適格と認められた加盟国に対してのみ外貨を供与するにすぎなかったため，大多数の加盟国は外貨の供与を受けることができなかった。また，ヨーロッパ復興計画*の発足に伴って，IMFは，1948年4月以降，復興計画参加国に対する外貨の供与を事実上停止してしまったため，設立当初におけるIMFの実績はきわめて制限されたものにすぎなかった。

〔活動経過〕IMFの規定した5か年のいわゆる〈戦後過渡期〉は1951年2月までに終了したが，大多数の加盟国において為替管理その他の制限は緩和されるどころかかえって強化される傾向にあり，いぜんとして8条国も当初からの5か国にすぎなかった。ヨーロッパ復興計画は1951年6月に中止され，IMFは各加盟国との個別的協議を通じて為替管理その他の制限的措置の緩和ないしは撤廃に努力するとともに，外貨の供与に関して新しい方針を打ち出した。

1951年5月，IMFは加盟国が国内通貨価値の安定，為替管理その他の制限的措置の緩和などIMFの目的に合致する具体的計画を実施する場合にはこれを支持し，必要とする外貨資金を供与することになり，外貨の供与を受けた加盟国は3年ないしは5年のうちに返済すればよいことになった。1952年にはいると，IMFの外貨供与はいっそう寛大になり，ゴールド-トランシュの範囲内(各加盟国通貨のIMF保有額が，その国割り当て額の75～100％の範囲)では，加盟国に対してほとんど問題なしに外貨の供与を行ない，またファースト-クレジット-トランシュ(100～125％)の範囲内でも，加盟国が自国の問題の解決に努力していると認めるかぎり，外貨の供与を行なうことになった。1952年10月にはスタンド-バイ協定に基づくIMFの新しい外貨供与方式が導入された。これによって加盟国は，現在直ちに外貨の供与を受ける必要がなくても，事前に外貨の供与を受ける権利を確保しておくことが可能となった。

しかし，新しい方針にもかかわらず1950年代の前半期にはIMFの外貨供与は比較的少額にすぎず，1950年代の後半期にはいってやっと積極的になりはじめた。ことに1956年7月のスエズ動乱の勃発(ぼっぱつ)により諸加盟国の国際収支困難が発生した際には，IMFはきわめて積極的に多額の外貨供与を行なって諸加盟国の危機を救済した。1958年10月，ニューデリーで開催された第13回年次総会ではIMFの割り当て額を50％増額する提案が行なわれ，1959年2月に正式に可決された。

1958年12月にヨーロッパ主要諸国の通貨の交換性が回復され，これら諸国は1961年2月に8条国となり，世界経済は自由化の段階に移行した。自由化への移行に伴ってIMFは外貨の供与に関して新しい方針を導入した。①従来，IMFの供与する通貨はもっぱらアメリカ-ドルに集中されていたのであるが，1960年以降，IMFはいずれの加盟国に対しても数種類の交換可能通貨に分散して外貨の供与を行なうようになった。このことによってIMFはドル手持ち額を枯渇させる危険を免れ，また加盟国の要求に応じて一時に多額の外貨を供与することが可能となった。②IMFは，その当初から原則として資本移動のために必要な外貨を供与することは，例外的な場合を除いて一般に認めなかった。しかし，自由化が進行するにつれて国際間に短期資本の移動がひんぱんとなり，しばしば各加盟国の国際収支の困難を助長する傾向が生じたため，1961年7月にIMFは短期資本の流出によって困難に直面した加盟国に対しても，その加盟国が国際収支均衡化のために適当な措置をとることを条件として外貨の供与を行なうことになった。③1962年1月，IMFは加盟国10か国との間に一般借り入れ協定(GAB)を締結し，IMFが必要な場合にはいつでも規定された限度額まで参加加盟国からその国通貨を借り入れることを取り決めた。

〔今後の問題点〕1950年代以降においては，IMFは世界経済情勢の推移に即応して巧妙に運営され，その活動はますます積極的かつ弾力的になった。戦争直後の混乱期から世界経済の自由化体制の確立に至るまでの長い過程においてIMFが国際金融面において払ったなみなみならぬ努力とその業績は高く評価されなければならない。しかし，自由化体制への移行が国際金融界の前途に明るい期待を生みだしたおりもおり，ドル不安の発生によって国際金融界は根本的な問題に直面しなければならなかった。この問題をめぐって多くの議論が展開され，1963年10月には主要諸国10か国の蔵相会議が開催された。十か国蔵相会議*は，この問題について徹底的な討議を行ない，1967年8月，新しい準備資産としてIMFが特別引き出し権(SDR)を創出する提案を発表し，このSDR創出案は同年9月，リオデジャネイロで開催されたIMF第22回年次総会で議決された。IMFは，従来からの一般的引き出し権(GDR)に加えて新しくSDRを創出することによって今後ますます国際金融の中心機構として重要な役割を演ずることになるであろう。➔SDR ➔国際通貨

〔安井孝治〕

アイエルオー ［ILO］ International Labour Organizationの略称。国際労働機関。第1次世界大戦後の1919年(大正8)6月28日，ベルサイユ条約第13編(国際労働規約)に基づいて国際連盟*の一機関として創設された。第2次世界大戦勃発(ぼっぱつ)のため，国際連盟は解消したが，ILOは単独で存続し，1945年(昭和20)第27回労働総会で国際労働規約を修正，国際労働機関憲章を採択した。1946年第29回労働総会において国際連合*の専門機関の一つとして再発足した。本部は当初ジュネーブにあったが，第2次世界大戦の勃発によって所在地をカナダのモントリオールに移し現在に至っている。加盟国は121(1970年2月)。

ILOには，総会・理事会・事務局の三つの機関がある。総会はすべての加盟国から各国4名の代表者によって構成される。4名の代表者のうち2名は政府の代表者であるが，他の2名はそれぞれ使用者と労働者の代表者であり，このような三部制の代表方式は，他の国際機関にはみられない特色である。理事会は執行機関であり，政府代表20名，使用者と労働者の代表それぞれ10名，合計40名からなる。政府代表のうちの10名は主要産業国を代表し，他の10名は総会における政府代表が選挙した国の代表者である。

ILOの目的は，社会正義を推進することにより恒久平和の実現に貢献すること，および国際的活動により労働条件および社会的安定を促進することである。この目的を達成するために種々の機能をもつが，最も重要なものは国際条約と勧告という二つの形式をとる準立法機能である。これらは総会において出席代表の3分の2の多数によって採択される。採択された条約は批准を必要とし，各加盟国はその条約を〈権限ある機関〉に付議して立法その他の措置をとる義務がある。このような条約を国際労働

条約(ILO条約)という。

わが国は1919年のILO創設に参加し，1938年11月に脱退するまで常任理事国として活動した。1951年11月に再び加盟が承認され，1954年から主要産業国として常任理事国となった。わが国はILO総会が採択した条約について積極的に受け入れようとしており，すでに批准したものではILO87号条約(結社の自由および団結権の保護に関する条約)・98号条約(団結権および団体交渉権の保護に関する条約)・100号条約(同一価値の労働についての男女労働者に対する同一報酬に関する条約)などが重要なものであるが，特に87号条約は大きな問題となった。87号条約は結社の自由と団結権の擁護に関する条約で，98号条約が労使相互の関係での団結権・団体交渉権の擁護を目的としているのに対して，国家権力からの団結権抑圧に対する保障を重点に，団結権擁護のために国家が必要な措置をとるよう義務づけたものである。労働者側の強い要望にもかかわらず，条約が関係国内法(国家公務員法*・地方公務員法*・公共企業体等労働関係法*・地方公営企業労働関係法*)と抵触するため政府は批准に手間どったが，ILO調査団が来日し，国際自由労働組合連盟が関与するなど国内的のみならず国際的にも大きな問題となり，結局1965年に関係国内法が改正され，条約は1966年6月14日に発効した。〔広部和也〕

あいおい　【相生(市)】　兵庫県南西部の市。明治後期の造船所設置以後発展し，1942年(昭和17)市制施行。人口41,000。

播磨灘(はりまなだ)に臨む相生湾の湾奥部にあり，産業三大別人口比は4：54：42。石川島播磨重工業の造船所や関連工場が多く，〈造船の町〉とよばれる。山陽本線と赤穂(あこう)線の分岐点で山陽新幹線の駅もあり，国道2号線・250号線に沿う。海岸は風光が美しく瀬戸内海国立公園に含まれる。長崎から取り入れた年中行事〈ペーロン競走〉(6月初旬)，朝鮮ふうの石仏である羅漢仏(らかんぶつ)など観光資源に富む。

アイオーシー　[IOC]　⇨国際オリンピック委員会

アイオージェー　[IOJ]　⇨国際ジャーナリスト機関

アイオロス　[Aiolos]

1 ギリシア神話で，浮き島アイオリアに住む風の支配者。ホメロス*の《オデュッセイア*》では，神々と親しい人間として描かれたが，オデュッセウス*に対しては逆風を封じこめた袋を与えて帰国をはばんだ。また，ローマの詩人ウェルギリウス*の《アエネーイス*》では，彼は風の神で風を洞穴(どうけつ)に閉じ込めているように描かれている。

2 ギリシア人(ヘレネス)の祖とされるヘレン*とニンフ*のオルセイスの子で，アイオリス人の伝説上の祖。

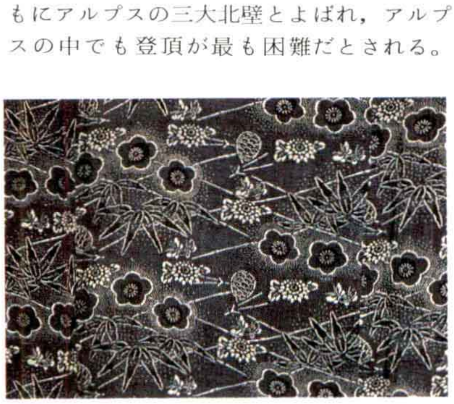
アイオワ(州)　[Iowa]　アメリカ合衆国



アイガー　クライネ-シャイデックから見たアイガーの北壁。ここから北壁の登攀者を目で追うことができる

中北部の州。面積14万5,000km²，人口279万3,000(1970)。州都デモイン。1846年12月合衆国第29番めの州となる。州名は〈眠らされた人〉の意のシウ-インディアン語に由来する。肥沃(ひよく)なコーンベルト*(トウモロコシ地帯)にあって，農業生産高はカリフォルニア州に次いで合衆国第2位であり，農畜産物の加工業が主である。ブタの飼育頭数は合衆国第1位。また農業機械製造を中心とする工業が急速に発達してその生産額は1967年で農業所得の3倍となった。主要都市はデモイン・シーダーラピッズ。〔相村大彬〕

アイガー(山)　[Eiger]　ヨーロッパアルプスのうち，西アルプスに属するベルニーズアルプスの高峰。標高3,973m。スイス中南部のグリンデルワルトの南南東約11kmに位置する。初登頂はイギリスのバリントン(1858)。アイガー北壁は1,800mの絶壁で，グランドジョラス・マッターホーンとともにアルプスの三大北壁とよばれ，アルプスの中でも登頂が最も困難だとされる。日本人では高田光政(みつまさ)が1965年(昭和40)登頂に成功した。東山稜(さんりょう)は槇有恒*(まきありつね)が1921年(大正10)に初登頂したものである。〔大石堪山〕


藍型

あいかた　【合方】　三味線(しゃみせん)音楽で歌と歌との間に置かれ，かなり独立性の強い器楽だけの部分をいう。長唄(ながうた)《越後獅子*(えちごじし)》のように，踊りのための曲では〈さらしの合方〉のように踊りの技巧に結びついた構成の合方が置かれている。一方，踊りと関係のない長唄《吾妻八景*(あづまはっけい)》や《秋色種*(あきのいろくさ)》では，歌詞の内容と関連しながらも音楽的に独立した構想でつくられた合方が，三味線の技巧を伴って組み込まれている。特に後者の〈虫の合方〉は名高い。〔徳丸吉彦〕

あいがた　【藍型】　琉球(りゅうきゅう)の型染めの一をいい琉球では〈ええがた〉という。各種の顔料を用いた多色な紅型*(びんがた)に対し，本来は藍一色に染め上げたものをいう。庶民的でふだん着として用いられたところから，一般には麻・芭蕉布(ばしょうふ)・桐板(とんびゃん)・もめんに染められ，絹には染められない。白地に藍の濃淡で文様を染め上げた浅葱(あさぎ)花取り，紅などの色をごくわずかに加えた紅入り藍型など，多少の変化を加えたものもある。

あいがも　【合鴨】　本来はナキアヒル(アヒルとマガモの飼育交配種およびマガモの飼育種の両方)のことであるが，肉用鳥の商品名としてアヒルのことをアイガモともいう。

あいかわ　【相川(町)】　新潟県佐渡郡の町。人口13,000。佐渡島の西岸，大佐渡山地の南西のふもとにある。1601年(慶長6)

佐渡鉱山*が発見されて以来，金鉱の町として繁栄し，人口も一時は10万を越えたといわれる。江戸時代の末期になって金の産出が減り，現在は三菱(みつびし)金属の子会社の佐渡金山株式会社の手により，わずかに採掘が続けられている。金山や佐渡奉行所(ぶぎょうしょ)などの遺跡は観光客を集め，また尖閣(せんかく)湾や，外海府などの海岸が美しい。毎年7月25～27日に行なわれる鉱山祭りの鬼太鼓と春駒(はるこま)踊りは鉱山の全盛時代をしのばせる。伝統的な工芸品として無名異焼がある。

あいぎ　【合い着】　冬と夏の間，すなわち春や秋の季節に着る，冬物でもなく夏物でもない衣服。〈間着(あいぎ)〉という字があてられ同意語に解釈することがあるが，これは着物の上着と下着との間に着るものの意で区別する。➔合い服

あいぎ　【間着】　女物長着*の一種。打ち掛け*の下に着る長着で，本来長着(江戸時代，小袖(こそで)といった)の3枚重ねの上1枚を表着(うわぎ)，次に重ねるのを間着，その下に重ねるのを下着とよんだ。➔小そで

あいきどう　【合気道】　武道の一種であるが，すぐれた護身術また健康法として特に第2次世界大戦後盛んとなり，国内はもとより海外にも諸所に道場が設けられている。もとは古流柔術の大東流合気柔術の流れをくむ。伝書によれば，源義光(よしみつ)を始祖とし，甲斐(かい)(山梨県)の武田(たけだ)家から会津(福島県)の武田家へ伝わったもので，大正時代末期，武田惣角(そうかく)の高弟植芝盛平が合気術または合気武道として大東流から独立し，第2次世界大戦後に合気道と改称した。基本の技法としては体の転換法，投げわざ，固めわざがあるが，相手の身体各部の関節を逆にとるわざに特色がある。　〔呉　政男〕

アイキュー　[IQ]　⇨知能指数

アイキューエスワイ　[IQSY]　⇨国際太陽極小期観測年

アイキューせい　【IQ制】　⇨輸入割り当て制

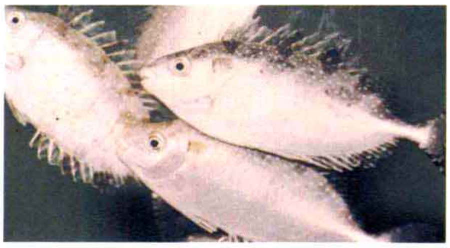
あいきょうげん　【間狂言】　アイともいう。能の中で狂言方の演ずる役のこと。普通は前半を終わって前ジテが退場したあと，後ジテが登場するまでの間に，ワキを相手に曲の内容を物語る。すわって語る居語りのほか，神社の下級の神として立って語る立シャベリやシテ・ワキとともに演劇的な場面を演ずる会釈間(あしらいあい)があり，間狂言だけで一場の独立した劇を演ずることもある。なお，人形浄瑠璃(じょうるり)や歌舞伎(かぶき)で，おもな演目・場面などの間にはさまって演じられる軽い一場の出し物のこともいう。　〔長尾一雄〕

あいきょうじゅく　【愛郷塾】　⇨橘孝三郎(たちばなこうざぶろう)

あいくおうざん　【阿育王山】　アーユイワン山　中国浙江(せっこう)省鄞県(ぎんけん)にある山。旧名は鄮山(ぼうざん)。3世紀後半，劉薩訶(りゅうさっか)がインド古代の仏教帰依者アショカ(阿育)王*の舎利を得てここに祭ったところからこの名がある。晋(しん)代に建立(こんりゅう)された阿育王寺がある。明(みん)の嘉靖(かせい)年間(1522～1566)に倭寇(わこう)に襲撃された歴史がある。



合気道　両手持ち入り身突き



アイゴ

あいくち　【匕首】　合口とも書き，鞘(さや)の鯉口(こいぐち)と柄の縁がぴったり合うようにつくった短刀。その長さから九寸五分(くすんごぶ)ともいわれ，中世の短刀は多くこの形式である。隠し持つ武器なので鍔(つば)がなく，飾りもないのが特徴である。しかし，江戸時代には柄を白鮫(しらさめ)でつくったり，琴糸で巻いたりした。また，鯉口のところで自家の紋所が合うように描かれたものもあった。無飾りの匕首は多く無頼の徒が懐中にし，これは武器というより凶器といったほうがよい。

あいぐんじょうやく　【愛琿条約】　中国の黒龍江(こくりゅうこう)省北部の愛琿で，1858年5月，清(しん)国(黒龍江将軍奕山(えきざん))とロシア(東シベリア総督ムラビヨフ)の間で調印された条約。阿片(あへん)戦争後における列強の中国侵略の一環をなすものである。国境線・河川航行権などを規定し，黒龍江左岸はロシア領とし，右岸のウスリー川以東は共同管理として関係河川の航行権を両国船舶に限るとした。清政府はのちにこれを否認しようとしたが，1860年の北京(ペキン)条約*では本条約を確認したのみならず，ウスリー川以東をもロシア領とされるに至った。　〔狭間直樹〕

あいご　【藍子】　硬骨魚類・アイゴ科。約30cmになる海産魚。タイやフナに似た形だが，体の厚みは薄い。死ぬと全体ほとんど斑紋(はんもん)のないオリーブ色になるが，生時は黄かっ色を基調として環境の変化に応じて複雑な斑紋を現わす。うろこは非常に細かい。中部日本以南の沿岸にすみ，藻(も)を食べることが多い。都会の魚屋にはなかなか姿を見せないが，淡白でかなり美味。同属のヒフキアイゴは，黒い頭に黄色の体で口がひょっとこのように突き出ている。日本内地にはいないが，沖縄あたりから運ばれてきて観賞用に飼われている。

あいこくこうしんきょく　【愛国行進曲】　1937年(昭和12)，内閣情報部が選定した公募の国民歌。森川幸雄作詞，瀬戸口藤吉作曲。歌詞は八紘(はっこう)一宇の立場に立つ勇壮なもの，旋律は対照感のある整ったもので，第2次世界大戦終戦まで愛唱された。

あいこくこうとう　【愛国公党】　1874年(明治7)結成された日本最初の政党。征韓論(せいかんろん)に敗れ下野した板垣(いたがき)退助・後藤象二郎(しょうじろう)・副島種臣(そえじまたねおみ)・江藤新平らは，同年民選議院設立建白書*を出すとともに同党を結成。天賦人権・君民一体の愛国理論を公然と主張，全国的な自由民権運動の口火を切る。同年佐賀の乱勃発(ぼっぱつ)とともに発展をみず解消。運動分裂後，主流は板垣退助らの立志社*へ移っていった。

あいこくしゃ　【愛国社】　1875年(明治8)愛国公党*関係者，おもに立志社*が中心となり，各地の自由民権運動政社を大阪に集めて結成した最初の全国的政党。当初数十名の士族の参加にとどまり，政治意識の未成熟，資金難，かつ大阪会議後，板垣(いたがき)退助の入閣により実際的活動をみずに事実上崩壊した。1878年民間政治勢力結集のため再興し，九州・四国など西南地方から東進し東京にも分社を設置した。勢力は最終大会では総代114名，加盟団体27社，北海道を除き2府22県，87,000人に及んだ。1880年第4回大会で国会期成同盟と改称して国会開設運動を展開した。1881年，自由党*に吸収合併された。　〔千野境子〕

あいこくしん　【愛国心】　自己の属する国や民族に対する愛情ないしは一体観。それはナショナリズム*の形成基盤となる心情である。愛国心は自己の生まれた郷土やその山河への自然的な愛情を含むが，それ自体はむしろ意識的に育てられるものである。愛国心は他国や他民族への対抗関係においてつちかわれるものだからである。18世紀イギリスの思想家リチャード・プライスは〈国を愛することは自己の属するコミュニティー(共同社会)を愛することである〉と述べて，コミュニティーが侵されそうなときにその防衛に立ち上がらねばならないとしている。この場合，敵と考えられるのは単に外国だけではなく自国の支配者も含まれる。このように近代における愛国心は民主主義*を守ることでもあった。現代における愛国

心は主として帝国主義*＝植民地主義*に対する民族独立運動として展開された。しかし愛国心は支配階級の対外的な膨張主義や国内の反対派弾圧のための武器として利用されることがしばしばあったし，これからもありうる。愛国心は危険な反動的な要素をもっている。それゆえ愛国心は，一概に全面肯定することも全面否定することもできない。重要なことは，いかなる国をいかなる方法で愛すべきかを考えることである。〔西尾孝司〕

あいこくふじんかい【愛国婦人会】1901年(明治34)婦人運動家奥村五百子(いおこ)が，陸海軍部・貴族院議長近衛篤麿(このえあつまろ)らの援助を得て創立した軍事援護事業を目的とした婦人団体。総裁は皇族妃，会員もはじめは皇族・貴族など上流婦人が中心であったが，日露戦争時には会員は急増し，1905年46万人。援護事業のみならず，思想教化・社会事業に着手したが，昭和に至り，ファッショ化の進行中，軍部は婦人会の貴族的性格にあきたりず，1932年(昭和7)，別に大日本国防婦人会*を結成した。両団体は激しく対立し戦争協力を競い合ったが，1942年大政翼賛会の下部組織である大日本婦人会*に統合された。〔千野境子〕

アイコノスコープ ⇨撮像管

あいさ【秋沙】鳥類・ガンカモ科・アイサ亜科の総称。世界に6種を数える。わが国にはウミアイサ・カワアイサ・ミコアイサの3種が渡来し越冬する。ウミアイサはおもに海域に，あとの2種はおもに大きな湖沼に生息する。アイサ類のくちばしは他のカモ類に比べて細長く，その縁に歯状突起がくし状にある。水中にもぐり，このくちばしを使い，主として魚を捕えて食べる。カナダではサケ・マス類の稚魚の害鳥として問題にされることがある。〔安部直哉〕

あいさつ【挨拶】人間関係をなごやかにするための，親愛の情や敬意をこめたことばの語りかけ。黙礼や会釈のように，音声やことばを伴わないものもあるが，これはことばが省かれたものである。極度に形式化された言語表現であり，いろいろの条件，たとえば，話すと書く，未知の人と既知の人，男と女，地域，職業その他の別によって表現方法や表現態度が変わってくる。たとえば，目下の者には〈おはよう〉と言っても，目上の者にはもっとていねいに〈おはようございます〉と言ったり，話しことばで〈こんにちは〉と言うところを手紙では〈拝啓〉と書いたりする。このような条件の変化に即応できることが社会人としての重要な資格とされることが多い。あいさつには簡素化すべき点が多いが，これまでの慣習に無知であっては礼を失しふつごうが生じる。話しことばでは式辞，祝詞，開会・閉会の辞，悔やみ，わび，見舞い，特殊な社会での仁義なども，広い意味でのあいさつにあたる。〔芳賀綏〕



アイサ (上)カワアイサ (下)ウミアイサ

あいざわじけん【相沢事件】1935年(昭和10)8月12日，陸軍皇道派の相沢三郎(さぶろう)中佐が陸軍省軍務局長永田(ながた)鉄山(少将)を，同局長室で刺殺した事件。同年の天皇機関説*問題をめぐり，統制派の永田らは軍の統制強化を理由に真崎甚三郎(じんざぶろう)教育総監ら強硬論を主張する皇道派を排除した。すなわち7月16日に真崎罷免，8月2日に村中孝次中尉らを免官したことにより，相沢は永田を皇軍を私兵化する者として殺害を断行した。1936年7月相沢は死刑。この一連の事件で二・二六事件*が誘発された。〔千野境子〕

あいざわせいしさい【会沢正志斎】(1782～1863) 江戸末期の水戸(みと)学者・思想家。本名は安。水戸(茨城県)の人。藤田幽谷に学ぶ。徳川斉昭(なりあき)を擁立して藩政改革を推進し，水戸彰考館総裁となる。のち弘道館(こうどうかん)教授督学兼小姓頭(こしょうがしら)となり，後期水戸学*の発展に貢献した。主著《新論*》は尊皇攘夷(じょうい)運動の理論的支柱となった。神道(しんとう)をもって儒教を説明し，祭祀(さいし)を重んじて崇拝の精神を発揮し，神を祭る心のもとに政治を行なう祭政一致を説き，国体の擁護，国体美の高揚に努め，忠孝道を力説した。〔熊谷保孝〕

アイシー［IC］⇨集積回路

アイシーアイ［ICI］Imperial Chemical Industries Ltd.の略称。イギリスの化学薬品会社。1919年，ダイナマイトの製造を開始し，急成長を遂げ，1926年にはイギリスの四大化学工業会社(ノーベル・ブランナー-モンド・合同アルカリ・イギリス染料)の合同によって総合化学工業会社に発展した。第2次世界大戦前には広く海外へ進出し，ドイツのイー-ゲー-ファルベン*，アメリカのデュポン*と海外市場をめぐって争い，世界市場を3分割していた。現在でも輸出と国内販売がほぼ同額で，農業用薬品・医薬品・合成繊維・染料・石油精製・プラスチック・建築用品・塗料などの製造・販売を行なっている。農業用薬品では蒸気改質法によるアンモニア・濃縮窒素肥料，合成繊維ではナイロン・ポリプロピレン・ポリエステル，医薬品では麻酔薬，心臓病の治療薬，建築用品では耐熱新建材・壁紙の製造に力を入れている。本社ロンドン。年間売上高35億5,000万ドル，従業員数19万2,000(1969)。〔氏家尚〕

アイシーエーオー［ICAO］⇨国際民間航空機関

アイシーシー［ICC］⇨国際商業会議所

アイジーシー［IGC］⇨国際地球観測協力

アイシービーエム［ICBM］intercontinental ballistic missileの略称。大陸間弾道ミサイル。射程約8,000km以上で，核弾頭の威力とあいまって，現代の代表的な戦争抑止兵器とされている。米・ソ両国のICBMの保有数が，両国の戦力のめやすとされることがある。

アイジーワイ［IGY］⇨国際地球観測年

あいしんかくら【愛新覚羅】アイシンギョロ 中国，清(しん)王室の姓。満州語でアイシンは金を意味し，いにしえの金朝の支裔(しえい)という観念に由来する。ギョロは建州女直(→女真)の有力氏族の姓である。太祖ヌルハチ*は，はじめ満州姓ツンギャに由来する佟(とう)という中国姓を唱えていたが，1583年挙兵に際し，佟姓を廃棄してはじめてアイシンギョロ姓を名のり，ギョロ族を結集して，統一国家への第一歩を踏み出した。〔若松寛〕

あいず【会津】⇨あいづ

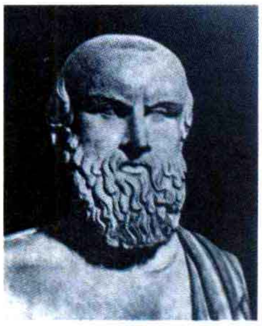
アイスキネス［Aischines］(BC390～BC330) 古代ギリシアの雄弁家。アテナイの人。苦学力行して書記官となる。BC348年，フィリッポス2世への使節団の一員としてマケドニアにおもむき，逆にマケドニア側についてギリシア側の説得に努めたため，デモステネス*の激しい攻撃を受けた。また，BC339年の演説中の無責任な放言は，マケドニアのギリシア内政干渉の遠因となった。彼は演説にあたってしばしば詩文を引用し，聴衆への効果を巧みに計算したが，歴史的展望に欠けていた。技巧的な雄弁によって立身したソフィスト*の典型のひとりである。〔久保正彰〕

アイスキャンデー［ice candy］氷菓子。水または果汁(かじゅう)に砂糖その他の甘味料を加えて着色し，フリーザーにかけて凍結させてつくる。ふつう，棒にろうそく形に巻き，または紙に包んで小箱に入れて販売されている。作り方は金属製の箱の中に材料を入れて氷結させるのであるが，フリ

ーザーは氷と食塩を混合した槽中(そうちゅう)にこの箱を装置した回転機である。わが国では1919～1920年(大正８～９)ごろ，アイスクリームの代用として考案され，安価で大衆的な食品として普及した。製造・販売の際には衛生上の注意が必要である。
〔泉　敬子〕

アイスキュロス ［Aischylos］（BC525または524～BC456または455） 古代ギリシアの三大悲劇詩人のひとり。草創期に活躍した。アテナイの西方エレウシスの貴族で，秘儀をつかさどる神官の家に生まれた。少年のころ僭主政(せんしゅせい)が倒れ，民主政の発展とともに成長した。敬虔(けいけん)で愛国心に富み，ペルシア戦争ではマラトンの戦い*，サラミスの海戦*に従軍。BC499年ごろより悲劇の創作を手がけていたが，BC484年にはじめて悲劇競演で第１等を得た。以後90編にのぼる作品を発表し，生前では13回優勝した。死後上演された作品では数多くの賞を得たといわれる。BC470年ごろ，当時の文人墨客が多く集まったシチリアのヒエロン王の宮廷に招かれ，悲劇作品を上演した。のち，アテナイでは公私ともに利なく，再びシチリアにおもむき，ゲラで客死した。墓碑には〈マラトンの勇士〉とのみ記され，彼の愛国者としての面目を伝えている。

作品中現存しているのは７編のみである。歴史事件に取材した《ペルシアの人々》はBC472年上演。《アガメムノン》《コエポロイ（供養する女たち）》《エウメニデス（いつくしみの女神たち）》の三つの作品からなる《オレステイア》は三部作形式の完全に現存している唯一の例である。その他テーバイ伝説に取材した《テーバイに向かう７将》，反体制の巨神の受難劇《しばられたプロメテウス》，BC463年ごろの作品と推定される《救いを求める女たち》がある。彼は素朴(そぼく)な段階にあった演劇を大改革し，古典悲劇完成への端緒を開いた。俳優を２人に増し，仮面や衣装にくふうを凝らすなど上演形式にも改革を施し，合唱隊の構成ならびに役割を一新した。作劇法としては三部作形式を創始して，統一あるテーマを長い時間的な相においてとらえた。せりふは長く荘重で，合唱歌も長く，おごそかな反復が用いられている。登場人物の性格は荒削りで力に満ち，情熱の具現ともいえるくらい人間離れしている。彼は作品を通じて神々の正義と摂理の正しいことを，敬虔な態度をもってくり返し説いた。
〔久保正彰〕



アイスキュロス

アイスクリーム ［ice cream］ 冷凍菓子の一種。生クリームに牛乳（代用としてバター・粉乳・練乳）・砂糖・香料・安定剤（ゼラチン・アルギン酸塩・カルボキシメチルセルローズなど）・乳化剤などを加えて調製した原料を，冷却・攪拌(かくはん)・凍結させてつくる。一般的な組成は牛乳脂肪８～14％（わが国では３～８％のものが多い。厚生省令で３％以上をアイスクリームとし，シャーベット*などと区別する），無脂固形分９～11％，砂糖14～15％，安定剤0.2～0.5％，乳化剤0.2％である。100gで150～180Calを有し，ビタミンAやビタミンB_2も多く，栄養的にすぐれた食品である。また特有の風味があり，嗜好(しこう)性も高い。西洋料理の正餐(せいさん)でデザートコースに出されるが，現在では普通の茶菓と同様に用いられ，また病人食などとしてもすぐれている。〈歴史〉《東方見聞録*》（1298～1299）に東洋でアイスクリームが愛用されたと述べられているが，事実ははっきりしていない。一般に伝えられるアイスクリームの原型とみられるものは，古くギリシア・ローマ時代にあり，果汁(かじゅう)を山の雪などで凍らせたいわゆるシャーベット状のもので，王宮などで用いられていたぜいたくな食品であった。現在のようなアイスクリームは，1550年ごろイタリアで考案され，カトリーヌ-ド-メディシス王妃によってフランスに伝えられ，パリでカフェを開いていたイタリア人によって発売されたといわれる。次いでイギリスに渡り，さらにアメリカにも伝えられた。1867年ドイツで製氷機が発明されたのち，凍結技術と酪農の発達に伴って工業的に生産されるようになり世界に普及した。わが国では1870年（明治３）に横浜で西洋人がつくったのが最初であるといわれ，工業的には1922年（大正11）極東練乳（明治乳業の前身）で行なわれたのがはじめである。近年，特に第２次世界大戦後は生産が非常に多くなっている。〈製法〉①工業的製法：原料を調製し66～74℃で30分間加熱攪拌し，これを均質機によって均質化し，次に３℃まで冷却してのち６～24時間熟成を行なう。次にフリーザーの中で－４℃まで温度を下げるとソフトアイスクリームができる。これをさらに－20～－30℃の硬化室に入れると急速に水分が凍結してアイスクリームができる。②家庭での製法：アイスクリームフリーザーを用い電気冷蔵庫製氷室で固める方法や，氷・食塩などを寒剤として回転式フリーザーで固めてつくる方法などがある。現在では各種原料を配合し粉末状にしたアイスクリームパウダーも市販されており，家庭でも比較的容易につくられる。

アイスクリームには多くの種類があり，プレーン，各種フルーツ・コーヒー・チョコレート・ひき茶・プディング・カスタード・３色アイスクリームなどが製造されている。アイスクリームは冷たいので舌の感覚が鈍くなるため，ウエハースを添えて交互に食するのが普通であるが，今日ではアイスクリームといっしょに食べられるようにアイスクリームコーンなどの容器に盛ったものもある。また保存性をもつように薄いチョコレートの皮で包んだものもある。
〔泉　敬子〕

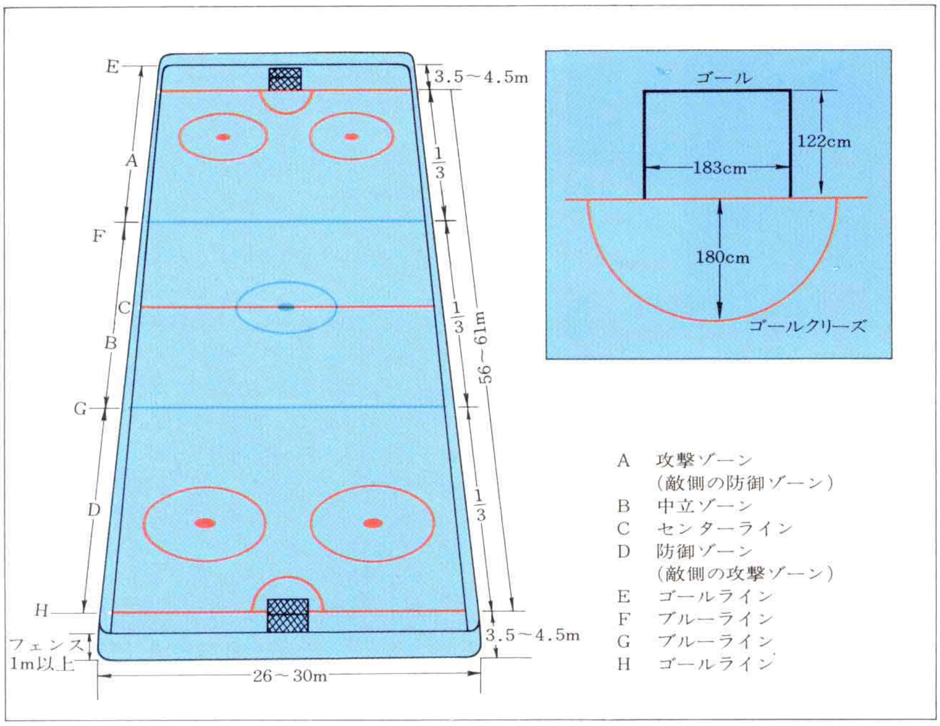
アイスクリーム-フリーザー ［ice cream freezer］ アイスクリームを凍らせるための用器。家庭用には金属製または木製のおけ形をし，中央にアイスクリームの材料を入れる亜鉛製の円筒を置き，その外側を塩と氷片（塩１・氷５の割合）とを混ぜたもので包み，すみやかに円筒を回転させて内容を凍らせるしくみになっている。

アイススケート ⇨スケート

アイスせんりょう 【アイス染料】 ⇨アゾイック染料

アイスボックス ［icebox］ 氷冷蔵庫。木製と鋼板製とがある。大きさは容積または１日に必要とする氷の量で示すが，容積100lのもので１日必要氷量は3.75kg，140lで5.63kgである。庫内温度は13～18℃ぐらいで，十分な温度降下は望めない。〈使用上の注意〉①はじめは定量より多少多いめに氷を入れ，十分冷却してから食品を入れること。②氷の十分なときでも10℃以下に保つことは困難である。③氷に近い箇所が最も温度が低く，対流によって庫内を冷却するので，これを妨げないようにすきまをつくって物を入れること。④氷がしだいに少なくなると15℃を越すこともあるから長期の貯蔵は避けること。
〔前田一枝〕

アイスホッケー ［ice hockey］ スケート競技の一。高さ約1.2mの板またはプラスチックなどのへいで囲んだホッケーリンクで，スケートをはいた双方６人ずつの競技者が，木製のスティックで硬化ゴム製のパック（円盤）を相手ゴールに入れ合う競技。〔競技方法〕チームは，ゴールキーパー（GK），ディフェンス（DF）２人，フォワード（FW）３人の６人で編成される。競技は２歩以内の助走を伴うボディーチェック（体あたり）が許され，かなり荒っぽい。また，スティック使用などの関係から，危害予防のため各プレーヤーは腰当てなどのはいった厚いパンツをはじめ肩当て・胸当て・ひじ当て・すね当て・手袋・ヘッドギヤーなどの防具で身を固める。体力の消耗が激しいので，競技中いつでも選手の交替が許される。１チーム17人のプレーヤーの登録が認められ，入れ替わり立ち替わり出て行ってプレーする。ふつうFW・DFを３組ずつもち，そのコンビネーションを生かして組ごとそっくり交替する方法をとっている。競技はセンターラインの中央で，審判が落とすパ





アイスホッケー オリンピック-グルノーブル大会におけるアメリカ-ソ連戦

ックの奪い合い(両チームから出た各1人の選手による)によって開始(フェイス-オフ)。パックは厚さ2.5cm，直径8cm，重さ約170gで，選手たちはパックをスティックで運び，あるいはショットして相手ゴールへ入れ合って得点を争う。GKだけは手でパックを扱うことができる。試合時間は正味20分のピリオドを3回，各ピリオド間に10分の休憩がある。得点は1ゴール1点で，得点数で勝敗を決定。

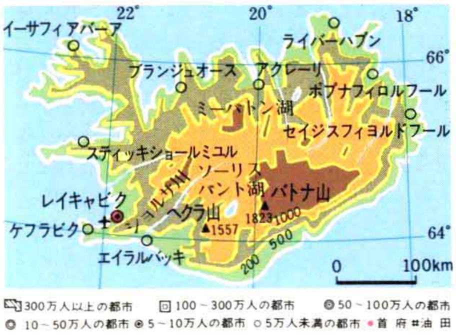
【反則と罰則】最も多い反則はブルーライン-オフサイド・レッドライン-オフサイド・アイシングである。①ブルーライン-オフサイド：攻撃ゾーンへパックより先に攻撃側プレーヤーがはいると競技は一時停止され，攻撃ゾーンのブルーラインでフェイス-オフ。②レッドライン-オフサイド：防御ゾーンからセンターラインまでのパスはよいが，センターラインを越えるパスは，パスが出された所へもどしてフェイス-オフ。③アイシング：センターラインの手前からのパスに失敗したときやショットしたパックが相手側ゴール-ラインを越えたときは，パックを防御ゾーンへもどしてフェイス-オフ。これら一般的な反則のほか，競技には危険が伴うため，危害防止の目的でペナルティー(罰則)が規定されている。スティックで相手の足を払ったり，ひじ鉄砲をくわせたり，審判に悪態をついたりすると，その種類やたび重なる度合いにより，大きく分けて次の五つのペナルティーが課される。①マイナー-ペナルティー：2分間退場。②メジャー-ペナルティー：5分間退場。③ミスコンダクト-ペナルティー：5分または10分間退場。④マッチ-ペナルティー：残り時間全部の退場。⑤ペナルティー-ショット：GKひとりを残して，相手チーム代表による1回の攻撃が許される。ペナルティーを課された選手は，リンクサイドに設けられたペナルティー-ボックスに入れられ，チームは反則者の数だけ少ないメンバーで戦う。ただしミスコンダクト-ペナルティーはおもに選手のマナーに関する罰則で，直ちに交替選手の出場が認められる。またマッチ-ペナルティーを課された選手は，直接更衣室への退場を命ぜられ，交替選手の出場は10分後でなければ許されない。

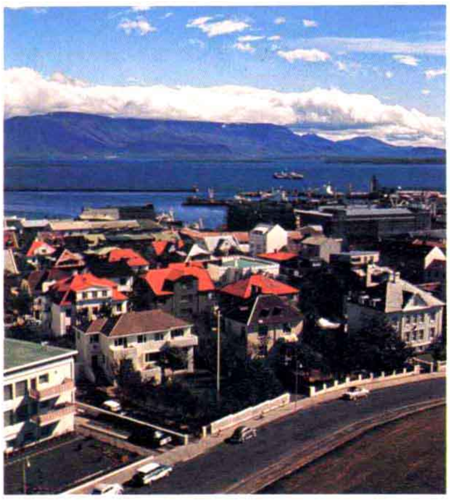
【歴史】ヨーロッパ北部やソ連で現在も盛んに行なわれている氷上球技〈バンディー〉が，カナダに渡ってくふう改良されたものといわれる。現形に近いルールは1879年12月，モントリオールのマックギル大学のロバートソン教授がフィールド-ホッケーとラグビーのルールを参考に創案したもので，チームは9人，四角いパックが使用された。1880年には世界最初の対校試合が川の上のリンクで行なわれ，以後モントリオールを中心にカナダ全土に流行した。その後，本国イギリスへ伝えられ，1895年にイギリスで最初の競技が行なわれ，1903年ロンドンにインドアのリンクができて，5チームによるリーグが結成された。1908年5月フランス人マグネスの手で国際アイスホッケー連盟が創立され，1910年には第1回ヨーロッパ選手権大会が開催されて，イギリスが優勝した。やがて連盟加盟国はヨーロッパ以外にも及び，カナダ・アメリカは1920年に，日本は1935年(昭和10)に加盟した。わが国のスケート競技は，1877年(明治10)札幌(さっぽろ)農学校(北海道大学の前身)に着任したアメリカ人教師ブルックスによってもたらされ，1902年に諏訪(すわ)(長野県)地方へ伝えられ，諏訪湖はスピード競技とアイスホッケーの揺籃(ようらん)の地となった。その後，1924年(大正13)に全国学生氷上競技連盟が結成され，翌年1月にわが国最初のアイスホッケー戦(早稲田(わせだ)大学対松本高等学校，慶応義塾(ぎじゅく)大学対東京大学の2試合)が長野県松本市外で開催された。一方，白系ロシア人の手ほどきを受けた満州医大チームが1930年ヨーロッパへ単独遠征し，6戦全敗ながら日本アイスホッケー界発展のいとぐちをつくった。1936年には第4回オリンピック冬季大会に選手団を派遣した。〔矢野博一〕

アイスランド(共和国)［Republic of Iceland, Lýdveldid Island］ グリーンランドの南東約300km，ノルウェーの西約900kmに位置する共和国。北部を北極圏に接した孤島で，日本の本州の半分くらいの面積(10万3,000km^2)。人口23万(1978)。首都レイキャビク。

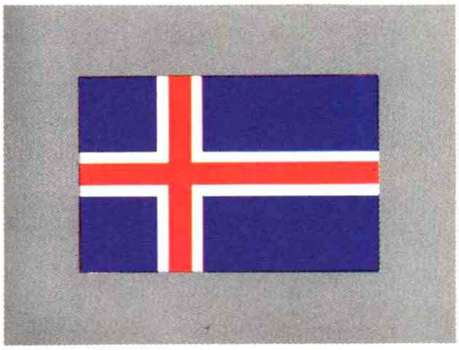
【自然】島の基盤は第三紀層からなり，ヘクラ山(1,557m)をはじめ100余の火山から流れ出た溶岩が全島をおおう。火山活動が盛んであり，地震による災害が多い。特に1783年ラキの大噴火による溶岩は565km^2に広がり，その後の飢饉(ききん)と合わせて，当時の人口の5分の1(9,000人)の命が奪われ，家畜の半分以上が死んだ。温泉は数百を数え，間欠泉も多々みられる。氷河が面積の12%をおおい，バトナ氷河は8,800km^2でヨーロッパ第1。西岸海洋性気候に支配され，国土の大部は緯度のわりには暖かく，レイキャビクの年平均気温は5℃である。北部はツンドラ気候に属し，アキレーリの年平均気温0.5℃。メキシコ湾流と寒流が交わっており，夏，南海岸は濃霧に包まれる。低地は少なく，大部分は700～1,000mの高原。森林はほとんどないが，急な河川や湖沼が多い。

【歴史】8世紀ごろアイルランドの僧が発見した島で，865年ごろバイキングのフロキがアイスランドと命名した。無人島であったが，874年インゴルフル-アルナルソンが





アイスランド
首都レイキャビクの市街。ファクサ湾に臨む港と住宅地。対岸に火山性の台地状山地が続く



アイスランドの国旗 1915年制定。スカンジナビア人の移住によって成立した国なので，北欧諸国に共通の十字形が表わされている。青は古くからの民族色である

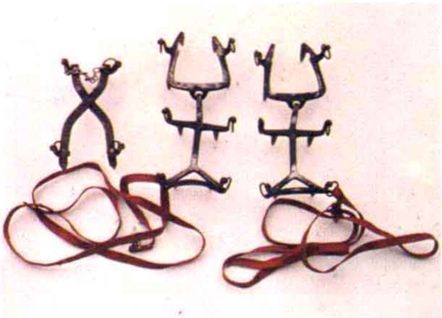


温泉は島の南部の低地に多く，世界的に有名な間欠泉があり，高く熱湯を吹き上げる景観を呈する

レイキャビクに渡ってから，930年にかけてノルウェー・アイルランド・スコットランドからあいついで入植した。930年から世界最初の民主議会と総集会(アルティン)による政治が行なわれた共和国であった。しかし，1262年ノルウェーの治下にはいり，1381年デンマーク領となってからは，その貿易独占によって産業が衰退した。1918年デンマークと共通の王をいただくという条件で独立を認められ，1944年，人民投票によって700年ぶりに完全独立した。憲法によって軍隊はないが，1949年NATO(北大西洋条約機構)に加盟，北大西洋横断航空路として重要な空港のあるケフラビクにはアメリカ空軍基地がある。

〔産業・経済〕国土の大半が不毛であり，耕地は0.5％にすぎない。農産物はジャガイモ・干し草・カブなどである。穀物をはじめ石油・石炭・織物・機械・金属・紙に至るまで輸入している。漁業・牧畜が主要な産業。漁業は大陸棚(たいりくだな)と寒暖海流の会合による良漁場があり，20世紀にはいって動力トロール漁船を導入してから盛んになった。冷凍タラやニシンの魚粉・魚油が重要輸出品である。牧畜は，ヒツジ(85万頭)がおもで，乳牛(40,000頭)も多く，デンマークから協同組合方式を取り入れている。おもな貿易相手国は戦前はイギリスであり，戦後はアメリカ合衆国になったが，1958年以来，ソ連との貿易も盛んである。

〔梶川勇作〕



アイゼン



アイゼンハワー

アイゼナハ [Eisenach] 東ドイツ西部，チューリンゲン森の北西端の都市。人口51,000(1969)。鉄道の要地。岩塩を産し，機械・金属・ガラス・製紙工業も盛ん。音楽家バッハの生誕地で，その生家は現在は博物館になっている。マルチン-ルターの聖書翻訳や，ベーベルのドイツ社会民主党結成にゆかりが深い。

アイゼナハは [アイゼナハ派] 1869年，アイゼナハでリープクネヒト*・ベーベル*らを中心に結成されたドイツ社会民主労働党の別称。ラッサール*の指導する全ドイツ労働者同盟に対抗するマルクス主義的な組織であったが，のちラッサール派と合同してドイツ社会主義労働党を結成した。➔ドイツ社会民主党

アイセル(湖) [Ijssel meel] オランダ，北海沿岸にある湖。別名ゾイデル海(南の海の意)。フルボとよばれた淡水湖が沈降して北海の一湾入となり，1932年締切堤防の完成以後，外海と隔てられて再び淡水化した。

アイゼン [Eisen] 正しくはシュタイクアイゼン。氷雪上の登降に際して登山ぐつの底につけ，つめを氷雪に食い込ませて安全を図り，また行動を容易にするもの。8本づめのものが一般的だが，夏山での雪渓(せっけい)登降用の4本づめや，厳冬期の青氷上などに向く12本づめのものもある。つめは登山者の安全にかかわるものであるから，つねに手入れをして先端を鋭くしておく必要がある。19世紀末にイギリスで考案され，わが国へは槇有恒*(まきありつね)が1920年(大正9)にヨーロッパ留学の帰途はじめて持ち帰った。〔大島幸夫〕

アイゼンハワー [Dwight David Eisenhower] (1890～1969) アメリカ合衆国の軍人・政治家。第34代大統領。在任1953～1961年。ウェストポイント陸軍士官学校卒業。第2次世界大戦で，1942年北アフリカ方面連合軍最高司令官，1943年ヨーロッパ方面連合軍最高司令官としてシチリア・イタリアに転戦し，1944年ノルマンジー上陸作戦に成功して，元帥となる。戦後軍務を退き，1948年コロンビア大学総長となる。だが翌年復帰して統合参謀本部議長，1950年NATO軍最高司令官を経て1952年共和党より大統領に当選した。1956年再選された。〈ニュー-リパブリカニズム〉をスローガンに政府機能の縮小を図り，大資本優遇の自由主義政策をとった。対外的には，朝鮮戦争の休戦，イラン石油問題・スエズ問題の解決，西欧統合，NATO結成に努力し，巻き返し政策*や原水爆中心のニュールック政策による反共強硬外交を展開した。〈産軍複合体〉の脅威を警告した告別演説は有名。〔折井一彦〕

アイゼンハワー-ドクトリン [Eisenhower Doctrine] 1957年1月アメリカ合衆国大統領アイゼンハワー*が，中東の防衛に



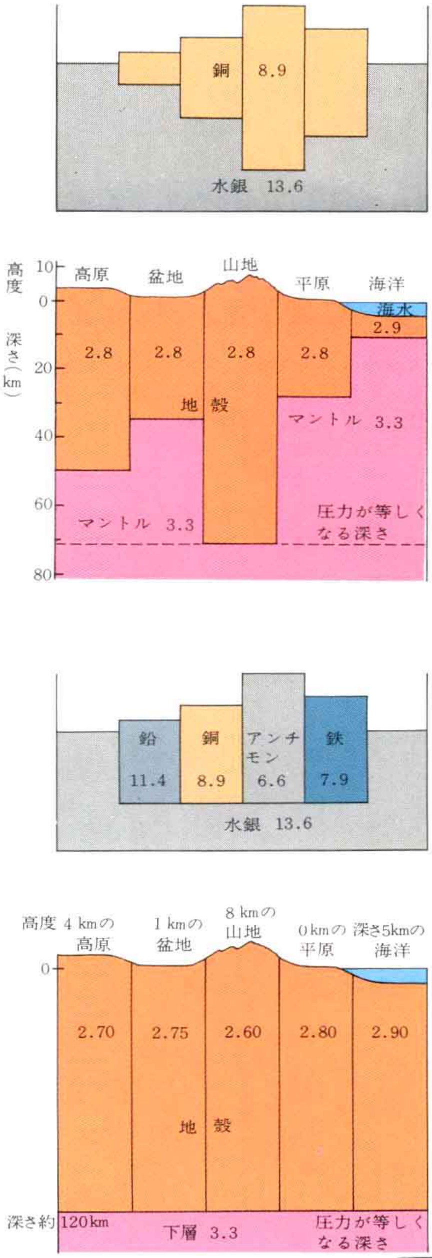
愛染明王　金剛峯寺蔵

関して発表した外交政策。中東への共産主義勢力の進出に対抗して，中近東諸国の領土と独立を守るため，希望国に経済・軍事援助を拡大すること，共産主義国からの武力攻撃に対してはアメリカ軍の出動もありうることを明らかにした。中近東諸国における石油資源と軍事基地保全のおもわくがからんで生まれた政策である。

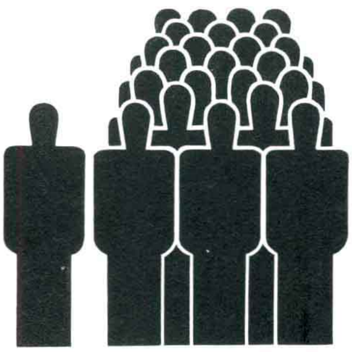
アイゼンヒュッテンシュタット　〔Eisenhüttenstadt〕　東ドイツ東部，ポーランドとの国境をなすオーデル川流域にある町。人口45,000(1969)。1961年1月フュルステンベルクとスターリンシュタットが合併して成立，アイゼンヒュッテン鉄鋼コンビナートの住宅地区として発達した。

あいぜんみょうおう　**【愛染明王】**　仏教における明王*の一。梵語(ぼんご) Rāgarāja（ラーガラージャ，愛の王）または，Vajra-rāja-priya（バジュラ-ラージャ-プリヤ，金剛王愛）の訳語。大日如来*の分身といわれ，大日如来の愛の心を具現した仏といわれる。つねに大日如来を愛し，また愛され，人々を愛して悟り*に向かわすといわれる。しかし，その姿は三つの顔と六つの手をもち，怒りの顔である。毎月26日がこの仏の縁日となり，天台宗・真言宗系の寺でこれを行なう。《理趣経*》の主尊と考えられた。〔金岡秀友〕

アイソスタシー　〔isostasy〕　地殻(ちかく)均衡。地球の表面には山や海があり，それぞれ質量の過不足があると思われる。ところが，質量が余分にあると思われる山の下には，それを打ち消すような質量の不足があり，逆に，海洋の底には余分な質量があって不足分を補っていて，ある深さでは地表の凹凸(おうとつ)に関係なしに一定の圧力となっている。このように地殻がつりあいの状態にあることを，アイソスタシーという。18世紀前半，フランスのブーゲーは山の近くでの鉛直線*の傾きから，地球の性質を知ろうとした。ところが，山の及ぼす引力は，山が空洞(くうどう)になっていなければ



アイソスタシー　(上)エアリー説　(下)プラット説



アイソタイプ　オットー-ノイラートの〈個人〉と〈集団〉

ならないほどに小さかった。また，19世紀の中ごろ，インドのJ. H. プラットがヒマラヤ山脈の近くで鉛直線の傾きを測定した(1855)。一方，地上に出ている山塊の重さから傾きを計算して比較したところ，実際の鉛直線の傾きは計算の3分の1にすぎなかった。イギリスのG. B. エアリーは，この事実を説明するために地殻の下には密度の大きい液状の物質があり，氷山が水に浮いているように，密度の小さい岩石が浮いているのであろうと考え，大きな山塊でも密度の小さい山の根本の部分が，その下の密度の大きいものを排除して伸びているために，引力がそれほど大きくならず，山による重力の偏差を少なくするのだろうと結論した(1855)。これに対して，プラットは高い山は密度が小さく，地面の下のある深さですべての重さがつりあって，底は平面になっていると考えた。実際には，プラットのように場所により地殻密度が違うというのは考えがたい。地震波による研究では，地下50kmくらいに伝播(でんぱ)速度の不連続があることが知られている。地殻均衡説をもとに，地殻の厚さを計算してみると，エアリー説ではだいたい60kmぐらいとなり，地震波の観測と一致するが，プラット説では120km程度となり一致しない。氷河時代に氷河でおおわれていた土地が，現在，隆起している事実などは地殻均衡説によって説明される。〔相原正彦〕

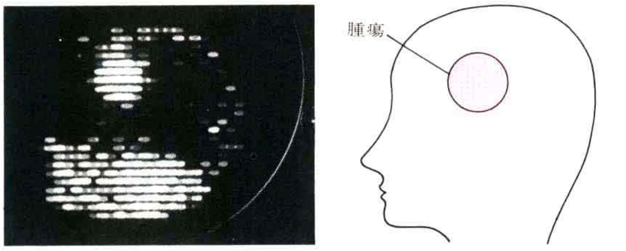
アイソタイプ　〔isotype〕　International System of Typographic Picture Educationの略。1920年代に，オットー-ノイラート*が児童教育の教材として創案した国際的な視覚言語*で，文字の代わりに象徴的な図形や記号の配列を用い，2,000以上の記号を含む視覚辞典と記号の文法からなっていた。その後，この研究は，展覧会の展示デザインに画期的な進歩をもたらし，統計図表デザイン・標識記号・シンボルマーク*などの視覚表現にも大きな影響を与えた。ノイラートの死後は，夫人のマリーに研究が引き継がれて世界的な普及をみた。しかし，アイソタイプには，情報量があまりにも少ない，異民族間に伝統の相違からの誤認を生みやすい，科学技術の急速な進展に遅れる，という問題点があり，これらの解決が今後の課題とされている。〔武井邦彦〕

アイソトープ　〔isotope〕　同位元素，または同位体。同じ原子番号をもち原子質量(質量数)が異なる元素。化学反応など化学的性質はほとんど同じであるが，重さが違うように物理的性質は異なる。周期律表*では同じ場所に属するのでギリシア語のisos(同じ)topos(場所)ということばでよばれた。同位元素の存在は放射性元素において発見された。1906年B.B.ボルトウッドはイオニウム Io を発見し，これがトリウム Th と似た化学的性質をもっていることを知った。





アイソトープ
ジャガイモの貯蔵中の発芽を放射線（この場合は^{60}Coのγ線）照射で抑制し貯蔵期間を延ばす。しかし，どの時期に照射してもよいというのではなく，収穫後早い時期（7月照射，左）に照射したほうが，収穫後長いもの（室温貯蔵9月照射，右）より効果的である。
チューリップに放射線（この場合は^{60}Coのγ線）を照射すると草丈が低くなる。これを利用して，中央に照射しないもの，周囲に0.5krad，1kradを照射したものを配すると，このようなドーム状の花壇が得られる（駒沢公園）



トレーサーの応用。脳腫瘍の位置をアイソトープ（この場合は^{203}Hgを含む薬品）を静脈内に注射し，シンチュレーションカメラにて撮影診断したもの

ハーバード大学のT.W.リチャーズは出所の異なる鉛はその原子量に差があることに気づいた。1912年にJ.J.トムソンはネオンガスの陽極線を分析して，ネオンNeには原子量20と22の2種類あることを発見した。そしてF.ソディはこのような元素をアイソトープとよぶことを提唱した。以後精密な質量分析器が開発されて次々と詳細に調べられ，現在ではほとんどすべての元素についてアイソトープが見いだされている。地球上，天然に存在する同じ元素のアイソトープの割合（同位元素の自然存在比）は，その元素が存在する場所に関係なく一定である。つまり化学的原子量はつねに一定の値となる。たとえば酸素Oの存在比は ^{16}O：^{17}O：^{18}O＝99.76：0.04：0.20であるが，海水中の酸素，空気中や岩石中の酸素の別なく，そしてそれらの試料が採集された場所などにいっさい関係なくこの比は一定であり，化学的にはこれらの平均値として原子量を16として一定の値になっている。原子炉や粒子加速器を使い，原子核反応によって人工的に種々の同位元素をつくることができる。これら人工のものは主としてラジオアイソトープである。元素の化学的性質は核外電子の数，つまり核内の陽子の数（Z）（原子番号）によって決まるといえる。このZ個の陽子に対しN個の中性子が核内に存在して全体として原子量（$Z+N$）の元素がつくられている。同位元素は中性子がN個より余分にまたは不足している元素で，陽子数と中性子数の割合により原子核が安定であったり不安定（放射性）になったりする。安定なものではスズSnは10個，カドミウムCd 8個，コバルトCo 1個，酸素3個というように，同位元素の数が元素によりまちまちであり，ラジオアイソトープでは主としてβ崩壊するのはそのためである。同位元素は研究や応用利用のためそれぞれの原子量のものに分離されることが多い。方法は元素によってよい効率のものが使われデューテリュームDやリチウム^{6}Liの電解法，^{18}Oの化学交換反応法があり，最も完全な方法は質量分析器による電磁的方法である。ラジオアイソトープは，核爆発のときに多量にできて〈死の灰〉として人間など生物に害を与えるが，平和利用としてはラジウムの代わりにコバルト60（^{60}Co）・セシウム137（^{137}Cs）は癌（がん）・腫瘍（しゅよう）の放射線治療などの医療用や工業製品の非破壊検査などに用いられて有名である。他のラジオアイソトープもトレーサーとして化学・工学・生物学・農学・医学など学術研究や応用に広く利用されている。〔福井崇時〕

アイソポス［Aisopos］　生没年不詳。古代ギリシアの作家。《イソップ物語》の作者で，寓話（ぐうわ）形式の創始者。紀元前6世紀ごろサモスに住んでいた奴隷といわれるが，真偽詳細は不明。動物を主人公とした短い物語の中に，道徳や人生訓・処世訓を寓意的にこめ，無学な庶民にもわかるように語って聞かせた。作者はこの物語の功によって自由の身となったといわれる。現在伝えられている物語は，彼自身の作のみでなく，後世の諸作家の作品や民話などが集大成されたものである。〔久保正彰〕

アイーダ［Aida］　ベルディ作曲の4幕のオペラ。台本はフランスのエジプト学者マリエットの原案をイタリアの台本作者ギスランツォーニが完成。スエズ運河開通記念に建てられたカイロ歌劇場の開場式用に依頼され，1871年初演。登場人物はアイーダ（エチオピア王女，ソプラノ）・ラダメス（エジプトの武将，テノール）・アムネリス（エジプト王女，ソプラノ）など。ベルディ中期の傑作の一つで，アイーダのアリア〈勝ちて帰れ〉や豪壮な〈凱旋（がいせん）行進曲〉は単独でもよく演奏される。〔向坂正久〕

あいたいすましれい【相対済し令】　江戸時代の金銭貸借の訴訟不受理令。相対済しとは当事者の相談で解決すること。幕府は1661年（寛文1）はじめて発令。1719年（享保4），将来までに継続するとして発布した。その目的は渋滞していた裁判の処理と，旗本（はたもと）・御家人の窮乏救済にあった。しかし借金の踏み倒しなど金融界が混乱したため1729年いったん廃止したが，以後もしばしば発布された。

アイタペ［Aitape］　ニューギニア島東部の北半，オーストラリア信託統治領テリトリー-オブ-ニューギニアの港町で，同名州の州都。人口62,000（1966）。第2次世界大戦初期日本軍が占領したが，1944年（昭和19）4月22日連合軍が逆上陸し，激戦の末日本軍は撤退した。

アイダホ（州）［Idaho］　アメリカ合衆国北西部の州。面積21万4,000km²，人口69万8,000（1970）。州都ボイシ。1890年7月合衆国第43番めの州となる。州名は〈山の上の光〉を意味するショショーン-インディアン語に由来する。ロッキー山脈の西斜面を占め，全面積の39％は森林である。農業・牧畜業・林業・鉱業の盛んな州であるが，最近は工業生産も盛んになり，農業に次いで第2位となった。合衆国全州中，ジャガイモは第1位，テンサイは第2位であり，その他，大麦・小麦・リンゴの生産も多い。ヒツジの頭数は全国第9位で，銀・アンチモンは第1位，鉛・コバルト・ザクロ石・イオウは第2位，亜鉛・水銀は第3位と，地下資源にも恵まれている。南部を流れるスネーク川，北部を流れるサーモン川は深い峡谷をつくり，その風景は観光資源になっている。主要都市はボイシ・アイダホフォールズ・ポカテロ。〔相村大彬〕

あいだやすあき【会田安明】（1747～1817）　江戸時代の数学者。出羽（でわ）（山形県）に生まれ，江戸に出て御普請役（幕府の下役人で，天領の河川の修理普請の監督）となる。のち数学研究に専念，最上流を名のって多くの弟子（でし）を養成し，著書も多い。関流（→関孝和（たかかず））とあいいれず，20年以上も論戦した。なお，明治初期の，主として東北地方の算術・数学教育は，彼の孫弟子たちの力によるところがはなはだ大きかった。



愛知県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

あいち　【愛知(県)】　中部地方南西部の県。南西は伊勢(いせ)湾に臨み，北は岐阜・長野，東は静岡，西は三重の各県に接する。尾張・三河(みかわ)両国の全域にあたり，面積5,109km²，人口616万8,000，人口密度は1km²あたり1,207。東京都・大阪府・神奈川県・埼玉県に次ぐ全国第5位の人口過密県で，総人口の約35％が名古屋市に集中する。県花はカキツバタ，県木はハナノキ，県鳥はコノハズク。県庁のある名古屋以下30市，15郡(47町11村)に分かれる。

〔自然〕地形は，西部の濃尾平野を中心とする平野部と，東部の三河高原を中心とする山地部に大別される。濃尾平野は，県北部から岐阜県南部にかけて庄内(しょうない)川・日光川・木曾(きそ)川・長良(ながら)川など，各河川流域に広がり，地形は西へゆるく傾いて，木曾川下流部では海抜0m，伊勢湾沿岸の干拓デルタ地帯では海抜0m以下となる。各河川の流域には天井川が多く，多くの中州では昔から輪中*をつくって洪水(こうずい)に備えている。東に連なる岡崎平野(西三河平野)は矢作(やはぎ)川流域のやや台地状の地形で，濃尾平野と対照的に水に乏しく，明治用水*・愛知用水*などの人工水路によって開発が進んだ。東部の豊川(とよかわ)下流流域には豊橋平野(東三河平野)がある。三河高原は高さ600～700m前後の隆起準平原で，北東部には1,000mを越す火山地形もみられ，最高点は長野県境の茶臼(ちゃうす)山(1,415m)である。静岡県境に近い鳳来寺(ほうらいじ)山(684m)一帯は，コノハズク*(ブッポウソウ)の生息地として知られる。海岸線には西に知多，東に渥美(あつみ)の両半島がそれぞれ南北・東西方向に突き出し，いずれも台地性の地形を示す。両半島にいだかれた三河湾は篠島(しのしま)・日間賀(ひまか)島・佐久島によって西の知多湾，東の渥美湾にくぎられ，風光が美しく〈東海の瀬戸内海〉の称がある。最近は沿岸に温泉も開発されて，三河湾国定公園に指定されている。気候は一般に温暖で，たとえば名古屋の年平均気温14.7℃，降水量1,540mmの東海式気候*を呈し，冬季には快晴が続き，降雪が少ない。半島部は特に暖かく，渥美半島南部では無霜期間280日，冬季でも平均気温5.8℃を記録する。濃尾平野北部では，伊吹山の山あいを吹きおろす風が冷たく，三河高原は気温がやや低い。伊勢湾沿岸はしばしば台風の通過地となり，1959年(昭和34)の伊勢湾台風では高潮の被害を受けた。





(左)渥美半島の草花栽培。半島の南側に集中的に盛んで，温室栽培・露地栽培がともに行なわれている。最近は交通の発達に伴って観光地的要素をもつようになった。写真は越戸部落のストックの栽培

(右)中京工業地帯の中心部。南区の上空付近から名古屋港を望んだもの。手前の水面に貯木場が見える。港の対岸背後の水面は庄内川・日光川の河口で，その向こうは木曾川デルタの干拓地になる

【産業・経済】日本経済の高度成長を反映して，最近第2次・第3次産業が急激に発展し，就業人口はいずれも100万を越える。工業は中京工業地帯の中核となり，経済面では中京圏が形成されて，近県諸地域にまで及んでいる。産業三大別人口比は，県下で5：44：51，岐阜・静岡・三重の3県を加えた東海ブロックでは8：43：49を示し，県民分配所得は1人あたり145万円で，東京都・大阪府・神奈川県に次ぎ全国第4位である。《農林水産業》濃尾・岡崎の両平野を中心として徹底した集約化と二毛作を特色とする。16万戸の農家が11万ヘクタールの耕地をもち，水田はその65%を越え，江戸初期以来干拓が進んだ伊勢湾沿岸や木曾川下流部に特に多い。良質の米を産するが，年間収量は26万tで，県内消費量に満たない。裏作の小麦・大麦はかつては全国の10位以内の生産をあげていたが，いまでは裏作はほとんど行なわれなくなっている。濃尾平野東部は古くから野菜園芸で名高く，岡崎平野とともに名古屋の近郊農業の中心地帯である。岡崎平野の安城付近は多角的な農業経営が発達し，穀類のほか，スイカ・ナシをつくり，ニワトリその他家畜類の飼育も盛んで，〈日本のデンマーク〉とよばれている。岡崎平野の灌漑(かんがい)には古くから明治用水が利用されてきたが，最近は木曾川から水を引く愛知用水が濃尾平野との境を南流して，知多半島の南端に至り，天龍(てんりゅう)水系を利用した豊川用水が豊橋平野を潤して，渥美半島西端まで達している。知多半島ではミカン・ビワなどの果樹栽培が盛んで，気候の温暖な渥美半島では温室園芸が行なわれ，抑制栽培の電照ギクやメロンがつくられる。畜産業では古くから〈養鶏王国〉とよばれて，岡崎平野を中心に約1,200万羽のニワトリが飼われ，産卵数は年間13億個を越える。これは全国一ではあるが，最近はやや衰退の傾向にあり，またかつては盛んであった名古屋*(名古屋コーチン)の飼育は，ブロイラーに押されて，ほとんど途絶えていたが，ブロイラーの肉が大味のため，名古屋の肉のおいしさが見なおされて，最近飼育が少しずつ復活しつつある。またウズラも多く飼われ，全国の675万羽(1975年)のうちの65％を愛知県が占めている。ブタの飼育は29万頭を数え，乳牛は53,000頭に達する。三河の山間部を主として32,000頭の役肉用牛も飼育される。林業は奥三河山地が主産地で，マツ・スギ・ヒノキが伐採されるが，生産はあまり多くない。豊川に沿う新城(しんしろ)が木材集散の中心地で，製材・木工業が行なわれる。また，名古屋市堀川(ほりかわ)付近は海外からのラワンその他の木材が集まり，東京の木場*，大阪の木津川筋とともに木材の大市場となる。外洋性の漁業はあまりふるわないが，伊勢湾・三河湾の沿岸でノリ・ウナギなどの養殖が行なわれる。また木曾川河口に近い弥富(やとみ)はキンギョの産地として知られる。《鉱工業》代表的な地下資源は，岐阜県境に近い北部山地で産出される陶土で，瀬戸付近では古くから陶磁器の製造が盛んである。近代工業の発展はめざましく，名古屋付近から三重県北部にかけての伊勢湾沿岸部には中京工業地帯が広がる。工業は，伝統的な家内工業を基盤として，明治以降，繊維・窯業・食料品・木材などの軽工業が発達し，名古屋市北西方の一宮(いちのみや)・尾西(びさい)・津島一帯は日本最大の毛織物地帯，北方の瀬戸や知多半島西岸の常滑(とこなめ)周辺はこれも日本一の窯業地帯を形成している。重工業は，第2次世界大戦中の航空機生産をきっかけとして，戦後は自動車・電気機械・鉄鋼などの諸工業が発達し，豊田にはわが国の代表的な自動車工場がある。このほか，豊橋から浜松(静岡県)にかけては紡績・染め物などの繊維工業が発達し，半田・岡崎・碧南(へきなん)では醸造業が盛んである。東三河地方は県下では工業の後進地域であったが，1963年(昭和38)に工業整備特別地域の指定を受け，知多湾奥部に衣浦(きぬうら)港(重要港湾)と同臨海工業地帯，渥美湾奥部に東三河臨海工業地帯が造成されつつあり，今後の発展の可能性が大きい。

【交通・都市】関東・関西の中間に位置するため，古くから交通路が開け，江戸時代には，太平洋沿岸部を走る東海道をはじめ，中山道(なかせんどう)・岐阜街道・姫街道などが集まり，その沿道に多くの都市が開けた。明治以降の鉄道もほぼ街道筋に開かれ，東海道本線・同新幹線は太平洋ベルト地帯の大動脈となり，中央本線は中山道沿いに濃尾平野と甲州・信州の中央山地を結び，関西本線は名古屋から四日市を経て湊町(みなとちょう)(大阪市内)に通じ，豊橋で東海道本線から分岐する飯田(いいだ)線は，豊川の谷沿いに伊那(いな)地方へ通ずる。東海道本線大府(おおぶ)駅からは武豊(たけとよ)線が分かれて知多半島東岸の武豊へ通じる。私鉄は，名古屋を中心に各地と結ぶ名古屋鉄道が県内交通の主体となり，そのほか，大阪と結ぶ近畿(きんき)日本鉄道，豊橋から渥美半島へ延びる豊橋鉄道などがあり，道路の発達した県東部や南部に密な路線をもつバス交通とともに県民の足となっている。道路交通では，東名高速道路(正式には東海自道車道)・名神高速道路(正式には中央自動車道西宮線の一部)・名四高速道路(正式には近畿自動車道伊勢線の一部)などが太平洋ベルト地帯を走って幹線道路となり，小牧から東への中央自動車道西宮線の工事も進んでおり，鳳来寺山パークウエー・三河湾スカイラインなどの観光道路も整備されている。名古屋を中心とする放射状交通路には，長野市と結ぶ国道19号線，岐阜市と結ぶ22号線，

犬山・飛騨(ひだ)地方へ通ずる41号線などがあるが，交通量の増大に伴い，その拡幅・整備がさらに望まれている。国営ハイキングコースとしての東海自然歩道(東京―大阪)も，1974年(昭和49)一応道路部分は全通，東海北陸自動車道(一宮―砺波(となみ))も一部施工中である。航路・航空路では，名古屋港と小牧にある名古屋空港が海と空の玄関口にあたり，小牧は東名・名神・中央などの高速道路接合点として，ハイウエー時代の花形都市である。三河湾国定公園の観光開発が進むにつれて，渥美半島伊良湖岬(いらごみさき)から鳥羽(とば)市(三重県)へ通ずるフェリーボートや，豊橋・蒲郡(がまごおり)から篠島を経て名古屋に至る航路も脚光を浴びるようになった。

都市はおもに平野部に発達し，名古屋市中心の半径35kmの圏内は中京圏の核心部で，名古屋と経済的・文化的に密接な関係をもつ多くの衛星都市が集まり，その外辺の東三河地方には豊橋・豊川などの都市がある。これらの都市はかつての城下町・宿場町が多く，前者には名古屋・岡崎・豊橋(もと吉田(よしだ))・刈谷・犬山・西尾・豊田(もと挙母(ころも))など，後者には二川・豊橋・御津(もと御油)・赤坂・藤川・岡崎・知立(ちりゅう)(もと池鯉鮒(ちりょ))・鳴海(なるみ)・熱田(名古屋市域内)があげられる。第2次世界大戦後は，これらの都市圏がさらに近県にも及び，首都圏・近畿圏と関連をもちながら中部圏を形成しており，名古屋・岡崎などの中京地区は都市整備区域，豊橋・豊川などの東三河地区は都市開発区域，三河湾と奥三河を含む天龍・奥三河地区は保全区域に指定されている。また，河川の汚濁を防ぎ，都市環境を整備することを目標に，県下を庄内・日光両川流域の尾張地区，矢作・境両川流域の西三河地区，豊川流域の東三河地区の3ブロックに分けて，広域下水道計画が進められている。

〔歴史〕古くから開けた地方で，各地に多くの古墳や出土品がみられる。古代には尾張(木曽川・庄内川地方)・三河(矢作川地方)・穂(豊川地方)の3国に，律令(りつりょう)時代には尾張・三河の2国に分かれた。室町時代から戦国時代にかけては各地に豪族が割拠し，織田・豊臣(とよとみ)・徳川の3氏があいついで天下を統一し，徳川幕府の成立によって日本の近世を開いた。江戸時代には，家康(いえやす)の九男義直(よしなお)が尾張一円六十二万石を領有し，以来尾張藩は徳川御三家の筆頭として，三河の有力な譜代大名10藩とともに，東海道の守備を固めた。1871年(明治4)の廃藩置県に際して，尾張は名古屋県，三河は額田(ぬかた)県となり，その翌年合併して愛知県となった。

〔浅井得一〕

あいちようすい【愛知用水】 岐阜県南部の兼山で木曽(きそ)川の水を取り入れ，濃尾平野東部の丘陵地域を経て知多半島突端の師崎(もろざき)に至る多目的用水で1957年(昭和32年)に着工し，1962年に完成した。工事費423億円のうち約80%は世界銀行融資と余剰農産物見返り資金でまかなった。取り入れ口から毎秒30t(最大)の水が112kmの幹線水路を通って各支線水路に送られる。事業の主目的は水不足に悩んでいた知多半島丘陵部の開田をはじめとする農業開発であったが，最近は工業用水や飲料水の利用も増加している。〔竹内淳彦〕

あいづ【会津】 福島県の西部，阿賀野(あがの)川上流の阿賀川流域にある会津盆地と，そのまわりの越後(えちご)・奥羽・帝釈(たいしゃく)などの山地をいい，会津若松・喜多方の2市と，南会津・北会津・耶麻(やま)・河沼(かわぬま)・大沼の5郡を含み，福島県の約5分の2の地域を占める。古くは相津と書き，江戸時代にはその北半が親藩松平氏の会津領，南半が天領で，東北諸藩のおさえとなっていた。義を重んじ，武勇をとうとぶのが会津人の気質といわれ，幕末の会津戦争*にはこれがよく発揮された。維新後も多くの軍人を出している。〔浅井得一〕

あいづせんそう【会津戦争】 1868年(明治1)に起こった維新政府軍と旧幕府との戦い。薩摩(さつま)・長州2藩を中核とする政府軍に奥羽諸藩が反抗。5月3日会津・庄内(しょうない)2藩を中心に奥羽越列藩同盟*を結成して抗戦した。白河(しらかわ)・二本松など落城後，若松城(鶴ケ城(つるがじょう)城主松平容保(かたもり))の攻防は1か月続いた。9月22日会津藩は降伏，盛岡・庄内藩もあいつぎ帰順した。諸藩主は減封・謹慎などに処せられた。→戊辰(ぼしん)戦争

あいづぬり【会津塗】 福島県会津若松市を中心に生産される漆器。室町時代に葦名(あしな)氏が領主のころ，南部椀(わん)を参考に地元のトチ・ブナ・カツラなどを素材に椀類をつくったのが起源といわれる。以後，歴代領主がいずれも奨励策をとり，現在なお漆器生産地として著名である。朱塗り・黒塗りが主流であったが，寛永年間(1624～1643)保科正之(ほしなまさゆき)が藩主のとき，上方より蒔絵(まきえ)法を取り入れ，会津消粉蒔



愛知用水　愛知用水の幹線水路。名古屋市東方の丘陵地から知多半島の台地中央部の複雑な地形を縫ってえんえんと続く



会津戦争　奥羽列藩の牙城となった鶴ケ城も，白虎隊・娘子隊などの決死の抗戦もむなしく，ついに降伏開城した。当時の模様を描いた錦絵

絵といわれる独特の蒔絵法を考案，蒔絵漆器産地としての基盤も確立した。〔河田　貞〕

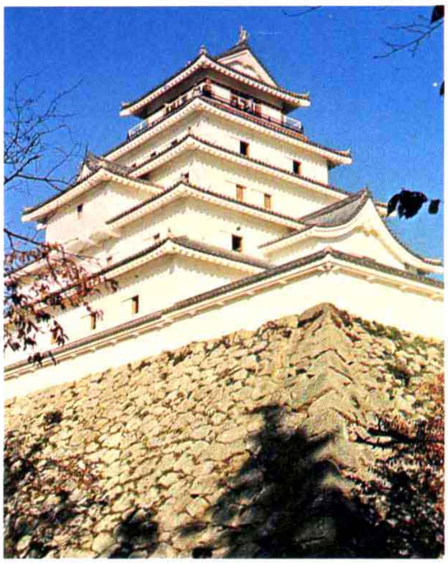
あいづはん【会津藩】陸奥(むつ)(福島県)会津郡に所在した藩。1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐*のあと蒲生氏郷(がもううじさと)が領有し，以後上杉景勝(うえすぎかげかつ)・蒲生秀行(ひでゆき)・加藤嘉明(よしあき)らを経て，1643年(寛永20)保科正之(ほしなまさゆき)が出羽(でわ)(山形県)から入封。石高二十三万石。３代正容(まさかた)のとき松平の姓を与えられ，家門として重きをなした。正之は将軍徳川家光(いえみつ)の弟で家綱を補佐して幕政に参与し，また藩政を確立した名君として名高い。すなわち家訓の制定，検地や人口調査，新田開発を行ない，漆ロウの専売制の実施などにより領国経済の安定を図った。しかし1749年(寛延２)の百姓一揆(いっき)，天明の大飢饉(だいききん)を契機に藩財政は窮乏の一途をたどったため，国産奨励，産物会所の設置，子女養育仕法と移住政策による農村復興などの方法で藩権力の再編成に努めた。９代容保(かたもり)は1862年(文久２)京都守護職となり，幕末の政局に活躍した。1868年(明治１)会津戦争で敗北。陸奥(青森県)斗南(となみ)藩に移された。鶴ケ城(つるがじょう)落城のおりの白虎隊*(びゃっこたい)の悲話は名高い。〔善積美恵子〕

あいづばんげ【会津坂下(町)】福島県河沼(かわぬま)郡の町。人口21,000。会津盆地西部の中心で，1955年(昭和30)に坂下町ほか５村が合併して生まれた。旧坂下町は，越後(えちご)街道の宿場町で六斎市が開かれ，いまは会津線に沿っている。付近は会津盆地の中でも最も米の産の多い地方である。

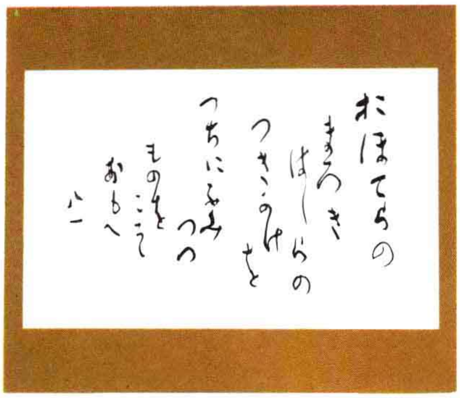
あいづばんだいさん【会津磐梯山】福島県会津地方の盆踊り歌。明治初期に新潟県からもたらされたといわれる。土地では〈かんしょ(気違い)踊り〉とよばれるように，陽気である。また，歌いやすいので，全国に知られているが，これには1935年(昭和10)の小唄(こうた)勝太郎のレコードの果たした役割が大きい。

あいづぼんち【会津盆地】福島県北西部の盆地で，会津地方の中心地域。奥羽・越後(えちご)の両山脈にはさまれた東西に断層崖(だんそうがい)をもつ地溝(ちこう)盆地で，かつては盆地床に湖をたたえていたらしく，一部に湖底堆積物(たいせきぶつ)らしいものが発見されている。東西約12km，南北約25kmで，南から只見(ただみ)川，東から日橋川が流入し，盆地の北西部で合流して，阿賀(あが)川となっている。盆地床を会津平といい，地味がよく肥えていて米作が盛んである。

あいづやいち【会津八一】(1881～1956)歌人・書家・美術史家。新潟県新潟市に生まれた。別号は秋艸(しゅうそう)道人・渾斎(こんさい)。早稲田(わせだ)大学英文科卒，文学博士。1910年(明治43)から1945年(昭和20)まで早稲田中学・早大で教鞭(きょうべん)をとり，英文



会津若松　鶴ケ城の天守閣。鶴ケ城は徳川期を通じて保科氏(会津松平氏)の居城であった。城は戊辰戦争で荒廃したが，戦後修復され，観光客が訪れる



会津八一

学・美術史を講じた。退職後は新潟に帰住，名誉市民となった。歌集に《南京新唱》《南京余唱》《鹿鳴集(ろくめいしゅう)》《山光集》《寒燈集》があり，学位を受けた《法隆寺・法起寺・法輪寺建立(こんりゅう)年代の研究》のほかに全歌集・書跡集などがある。〔三浦　仁〕

あいづわかまつ【会津若松(市)】福島県西部の市。もと若松とよばれ，江戸時代には松平氏二十三万石の城下町で，会津戦争*の兵火にあったが，その後復興して1899年(明治32)市制施行。1955年(昭和30)会津若松と改称した。人口11万3,000。

市域は，会津盆地*南東部から猪苗代(いなわしろ)盆地南西部に及び，大川の谷口扇状地上に位置する中心市街には，城下町特有の複雑な街路網がみられる。会津地方の行政・商業・交通の中心都市で，産業三大別人口比は11：31：58。会津塗*の製造が盛んで，土蔵造りの漆器工場が多いが，その生産の近代化を図って，最近市街地南部に漆器工業団地が建設された。磐越西(ばんえつさい)線と会津線の分岐点で，国道49号線・121号線に沿う。鶴ケ城(つるがじょう)跡，白虎隊*(びゃっこたい)記念館，飯盛(いいもり)山，蒲生氏郷*(がもううじさと)の墓，山鹿(やまが)素行*の生地などの史跡に富む。南東に東山温泉があり，年中行事の東山盆踊り(８月13～16日)が知られる。

アイティーエー［ITA］⇨独立テレビジョン協会

アイディーエー［IDA］⇨国際開発協会

アイティーオー［ITO］⇨国際貿易機関

アイティーティー［ITT］International Telephone and Telegraph Corp. の略称。アメリカの国際通信事業を独占している民営の国際電話電信会社。電話事業はアメリカ国内では行なっていないが，ブラジル・チリ・プエルトリコ・ペルーなど海外に進出している。電信やラジオ中継では世界的に活躍し，そのほか通信機器・電線・ケーブル・ラジオ・テレビセット・冷蔵冷凍設備などを製造している。また，小口融資会社からレンタカーの事業まで種々雑多の会社を傘下(さんか)に収め，収益を急上昇させたコングロマリット*として有名である。世界各地の研究所には25,000人の科学者が働いており，通信に関して数多くの研究成果をあげてきた。その代表的なものに，スイッチ接点にPNPNダイオードを使った自動交換装置や，一つの無線ビームで1,800チャンネルを運べるマイクロウエーブ無線リレーシステムなどがある。1920年S.ベーンが設立。本社ニューヨーク。年間売上高54億7,000万ドル，従業員数35万3,000(1969)。〔氏家　尚〕

アイディーピーエス［IDPS］Integrated Data Processing System の略称。総合データ処理方式。通常のデータ処理組織が局所的に発生する情報を受け入れて，その場所で処理して結果を取り出すのに対し，IDPSは，いろいろな場所で時々刻々に発生する情報を一つの処理装置に集中して，それらを総合的に処理し，要求される結果をつくりだす。➔EDPS　➔コンピューター

アイティーユー［ITU］⇨国際電気通信連合

アイディーユー［IDU］⇨イドキシウリジン

アイディル［idyl(１)］叙情詩*の一形式。田園詩・牧歌。田園の素朴(そぼく)で平和な風景や生活を賛美するもので，テオクリトス*を始祖とし，ウェルギリウス*に受け継がれ，ルネサンス期にも隆盛をみた。

あいとにんしきとのしゅっぱつ【愛と認識との出発】倉田百三*の評論。第一高等学校在学中から30歳くらいまでの間に書かれた感想・論文17編を集め，1921年(大正10)３月岩波書店から出版された。阿部(あべ)次郎の《三太郎の日記》とともに大正・昭和期を通じて広く読まれた。一編のテーマは，

利己主義・宗教的ヒューマニズムにあり，西田幾多郎*の《善の研究》の影響もみられる。作者の〈青春の記念碑〉である。

あいどの 【相殿】 一つの社殿内に２柱以上の神を合祀(ごうし)した社殿，または合祀された神。社殿は本殿の２間を一つに合わせた構造をもち，相殿造りとよばれる。祭神は相殿神とよばれ，２柱以上がともに主神であることもあるが，一般には主神に対する配祀神で，待遇も主神より一段下がる。

アイドホール ［eidophor］ テレビ用拡大投影装置。スイスのフィッシャーによって発明されたもので，ブラウン管の螢光(けいこう)面を拡大投影する方式でなく，光源を別に備えているため，明るい拡大像を得ることができる。この装置の構成は図-１のように，つねに一定の厚さの油膜が形成されるように考えられた回転する凹面鏡(おうめんきょう)(アイドホール面)が主体となっている。アイドホール面の一部に電子ビームによってテレビ映像をつくると，ビームのあたったところは油面の帯電により反発されて図-2中のＡ部のようなくぼみができる。このくぼみにあたった平行光線は散乱されるため，バーミラー(反射鏡)のすきまを通り抜けて投影レンズによってスクリーン上に像をつくる。この像はブラウン管では電子ビームがあたってできる光点に相当する。図-２中のＢ部のように，電子ビームの照射を受けない部分に入射した光は，再びバーミラーで反射されてしまうため，投影レンズには到達しない。 〔伊藤糾次〕

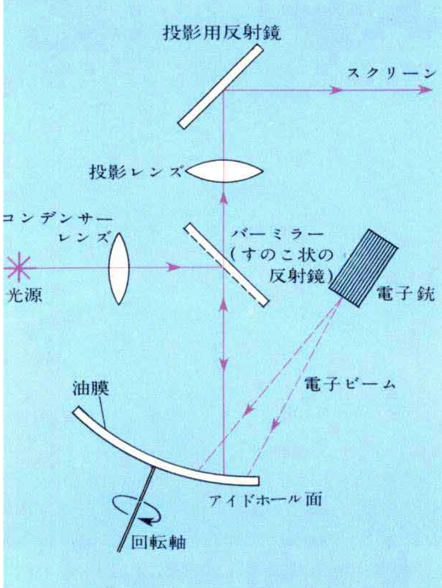


図-１ アイドホールの構成

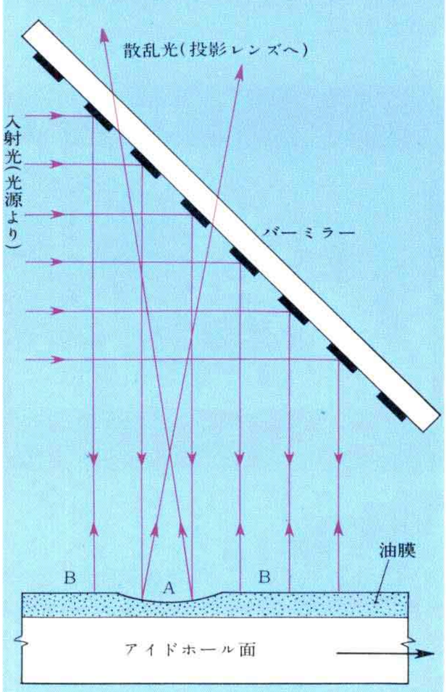


図-２ アイドホールの作用

アイドホール

アイナー ［INAH］ ⇨イソニアジド

あいなめ 【鮎魚女】 硬骨魚類・アイナメ科。海産で大きなものは約40cmに達する。鮮黄から暗かっ色まで体色の変化が著しく，それに複雑な濃淡の模様が加わる。側線が数本あることで大いに他の魚と違う。体はやや細長くコイなどに似る。日本全国の沿岸にすみ，底に静止していることが多く，泳ぎはへた。よくつり人の針にかかる。美味で，都会の魚屋でもよく姿を見かける。


ア イ ナ メ

あいなめのまつり 【相嘗祭】 上代の宮廷儀礼の一。〈あいにえのまつり〉〈あいんべのまつり〉ともいう。諸神に先だってアマテラスオオミカミにその年の新穀を供える神嘗祭*(かんなめのまつり)，天皇が新穀を食するまえに諸神にそれを奉る新嘗祭*(にいなめのまつり)と並ぶ重要な祭儀であったが，早くすたれたため，祭儀の内容は詳しく伝わっていない。《延喜式》によれば，山城・大和(やまと)・河内(かわち)・摂津・紀伊(きい)の５国に相嘗祭神71座を定めて新穀を奉った。

アイヌ

【名称・歴史】 北海道本島を中心に，その周辺に広く居住していた民族。みずからはアイヌ(人間の意)と称し，日本人からは〈クイ〉，カムチャツカの原住民からは〈クリル〉とよばれていた。隣接民族が体毛の少ない，はれぼったい目をしているモンゴリアンであるのに対し，世界で最も濃い体毛をもち，〈一眉(いちび)深眼〉といわれる目をしていて，ヨーロッパ人的な特色を多くもっている。それで，アイヌの祖先は石器時代の白人が東進してこの島に落ち着いたものであろうと考えられている。アイヌは17世紀初めの確実な記録では，本州の北端から，樺太(からふと)(現在のサハーリン)の南半，カムチャツカの南端にかけて居住しているが，それ以前にはさらに南部にまで広がっていたとも考えられる。

アイヌの単語にも，風習にも，日本の古代にあったものが残っており，両者の関係が古くからあったと思われるが，日本人の影響が強くなったのは18世紀の末，徳川幕府が同化政策をとりはじめてからである。そのころアイヌの人口は約27,000人を数えていたが，その後疱瘡(ほうそう)の流行によって15,000人台に減じ，まったく日本人に隷属してしまった。人口の減少は強制種痘によって食い止めることができたが，明治以後の北海道の急激な開拓によって従来の漁猟生活を続けることができず，そのうえ移民に伍(ご)して生活をせざるをえなくなったのと，保護救済のためにとられた義務教育の普及によって，固有の言語・風習・信仰を失い，雑婚によって体質的な特徴も失われて，まったく日本人に吸収されてしまった。同じころからロシアに隷属した北千島アイヌは千島樺太交換条約によって日本に属し，色丹(しこたん)島に移されたが，第２次世界大戦までにほとんどその姿を消してしまった。今日純粋なアイヌは北海道にごく少数を数えるだけである。

【生活】 最近世紀まで，石器を使用し，竪穴(たてあな)に住み，毛皮を着，肉食を主とする，いわゆる石器時代の生活をしていたが，南方からの影響を受け，西南のほうからしだいに鉄器を用い，地上の小屋に住み，植物性繊維で織った着物を着，穀食をするようになってきた。18世紀初めには西南部に住む者はすでにアワ・ヒエ・カブなどを主とする原始的農業を行なっていたが，その本質は漁猟民族で，農耕はあくまでも補充的なものにすぎなかった。獲物は地方によって異なるが，秋のサケ，冬のシカもしくは海獣が主で，それに春秋の植物性食物の採取，夏の雑魚(ざこ)漁などが加わった。つまり彼らの生活は夏漁と冬猟とによってささえられていたのである。漁猟具はきわめて簡単なもので，棍棒(こんぼう)のほかには小刀・山刀・やり・投げ銛(もり)・魚鉤(うおかぎ)・鷲鉤(わしかぎ)など部分的に鉄を用いたものがあったにすぎない。鉄は加工することは知っていたが，製法は知らなかった。道具で最も進んだものは木皮でつくった小形の網と弓矢であった。小形の網は，くいや石で川の魚道をせばめてすくうのに用いられ，弓矢は矢じりにトリカブトの根からとった毒を塗ることによっていっそう効果をあげ

た。弾力はアイヌの使った唯一の動力である。

その生活はまったく天恵に依存するものであったので，多くは小集団をなし，季節ごとに獲物を追って居所を変えていた。小集団は血縁を主としたもので，内部は協力と相互扶助をたてまえとし，長老によって助けられる酋長(しゅうちょう)によって率いられていた。各集団は一定の漁猟区をもっていて，互いに犯すことはなかった。秩序が乱された場合は，棍棒での打ち合い(祓(はら)いの一種と思われる)，財宝での償い，集団からの追放などによって解決され，理非は古今の例を引いて議論するチャランケ，または神意を伺うことによって決せられた。

物の運搬は荷なわを前額にかけて背に負い，大量の物は丸木舟を用いた。海ではそれに側板を木皮でとじた大船を用い，櫂(かい)または蓆帆(むしろほ)で走らせた。旅宿には棒を円錐(えんすい)形に立て，蒲蓆(がまむしろ)を巻きつけた仮小屋をつくった。樺太ではイヌにそりや船・スキーなどを引かせたが，本島では18世紀にウマがはいるまでは徒歩が唯一の方法であった。

〔衣食〕常の衣服には男女ともにシナノキ(榀)・ニレ(楡)・イラクサなどの皮でつくった糸で織った布でつくり，背・えり・裳(も)などに伏せ縫いをした着物を用いた。それに脚絆(きゃはん)をはき，腰に小刀をさげた姿で働く。平生ははだしであるが冬には魚や獣の皮のくつまたは木皮で編んだはき物をはいた。しかし晴れのときは日本や中国から得た絹やにしき，もしくはもめんなどに伏せ縫いをしたはでな着物を身につけ，耳環(みみわ)をし，男はイナウのついた礼帽をかぶり，飾り刀を刀帯で肩から下げ，女は首飾りをつけ，飾り玉を胸に下げる。いずれもシャマンの正装を模したものである。榀皮製の着物をアットシ(→厚司)といい，簡単な手機(てばた)で織る。ししゅうには独特のデザインがあって，男の彫刻と同様女の特技として尊ばれた。

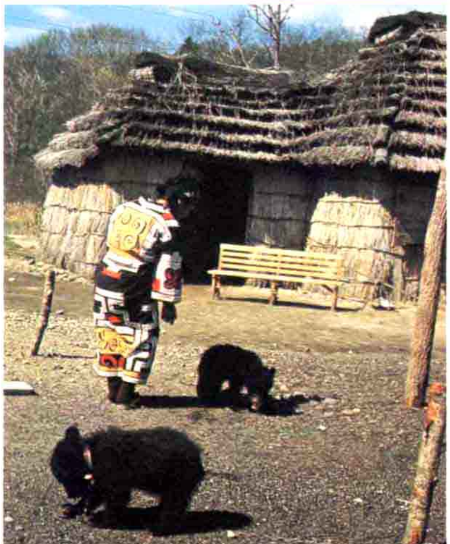
食生活は単純で，調味料としては格別のものがなく，貯蔵法としては乾燥が主で，ときとして凍らせたり，炉の上で薫製にしたりした。酒とたばこは非常に愛好され，それを入手するためにはすべてを犠牲にして顧みなかったが，元来は隣接民族から交易によって得られるものであった。火を得るには火打ち石が伝来するまでは乾燥した木の摩擦によっていた。生活の用器は樹皮・繊維や鳥獣魚の皮・骨などあらゆるものでつくられたが，木器が主位を占めていた。木器には美しい彫刻が施され，彫刻は男のたいせつな仕事の一つだった。なお，用器として日本本土の漆器が珍重された。

〔住居〕家は屋根や壁を葦(あし)・笹(ささ)・木皮などでふいたもので，屋根組みは三脚を二つ棟木(むなぎ)でつないだ独特の構造をもち，まず地上で組んでのち周囲に立てた柱の上に載せる。へやは1室しかなく，それに玄関兼物置のような出張りが加えられる。各家は玄関の反対側の中央の壁にあけられた窓が必ず一定の方向(東)をとるように建てられている。その窓に向かって右手にあかり取りの窓があけられる。奥の窓は神の窓といい，神の出入りする口と考えられていた。天井は張らず，土間は草敷きの上に蒲蓆を敷き詰め，中央に炉を切り，炉鉤をつって煮たきをした。すべては炉を中心として位置が決められ，向かって左奥が最も神聖な場所として床を組み，祭器や武器・狩猟具などが置かれ，その手前に家長夫婦の寝台があり，衣類が置かれ，それを背に夫婦の常座がある。その向かい側が客座である。炉の奥の広場は賓客を招いて儀式の行なわれる場所，反対側の入り口は下人の座で，台所用具なども置かれる。

屋外も一定の配置をもち，神窓の外に祖先や草木，漁猟をつかさどる神々を祭る祭壇があり，その左に神の子として招かれたクマ・フクロウ・タヌキなどの宮居すなわちおりがある。入り口近くに倉や物干し場があり，離れて便所が置かれている。倉は地上に1.5mぐらいの柱を立てて，その上に建てられ，丸太に足場を刻んだはしごで出入りするようになっていた。

〔風俗習慣〕成人の男はひげをたくわえ，額をそり上げ，頭髪をまん中から分けて，首筋のところで切りそろえた。美鬚(びしゅ)は男の誇りであった。女は成女になるとくちびるの周辺と手の甲から前腕にかけて入れ墨をし，ワンピース形のはだ着を着た。人前ではだを出すことは貞操を失うのと同じ意味をもっていた。アイヌの生活は物神崇拝とシャーマニズムとの入り混じった信仰が基調となっている。身辺の物質はすべて神のこの世の仮の姿であり，これが破壊されると神の国に帰る。アイヌに役だつ神はその崇拝を受け，天上でアイヌのささげる供物によって豊かな生活を営むが，悪神は地下に落ちて苦しむか悪霊となってさまよう。アイヌは悪霊を避けるために呪術(じゅじゅつ)を使い，善神の恵みを受けるために敬虔(けいけん)な祭りを絶やさない。有名な熊(くま)祭りは狩りをつかさどる神の仮の姿であるクマを迎え，その霊を仮の姿から解き放して，再び訪れるように祈りながら神の国に帰す送別の儀式である。不幸があったときには死人の身内を刀背で打ったり，姿を変えたり，集団で大声をあげて行進したり，家を焼いたりするが，それはまだ神の国に落ち

アイヌ









①アイヌと子グマ：子グマを養い育てて熊祭りを行なう。②アイヌの家屋(チセ)：四季を通してこのようなかやぶきの家屋に居住していた。かやぶき屋根にその特徴がみられる。③ヌササン：家屋の背後につくられている祭壇。④エカシコロベ：男から男へ継承される漆器や刀などのような宝物

着かない霊を近づけないためである。神を祭るとき，アイヌはイナウとよぶ種々の形の〈削りかけ〉をつくるが，それは神の喜ぶものであり，また神とアイヌとの間の使いとなるものだと考えられている。神意を聞く場合もしくは悪霊を祓う場合には，ツスとよぶ女のシャーマンが活躍した。アイヌの歌謡や舞踊はこのツスの動作から出ているといわれている。アイヌの英雄アイヌラックルを主人公とした長編の叙事詩ユーカラ(蝦夷浄瑠璃(えぞじょうるり)などとよばれた)はアイヌ文学を代表するものであるが，これも本来呪術として語りながら舞ったときの歌曲が発達したものといわれている。〔高倉新一郎〕

【音楽】アイヌの音楽は声楽が中心で，中でも長大な叙事詩《ユーカラ》の反復旋律的朗唱が代表的なものである。これにはアイヌの音楽的文化および，その思惟(しい)がまとめあげられていて，社会的ないし儀式的にも重要性をもっている。《トウイター》はやはり伝説神話を扱うものであるが《ユーカラ》よりも音楽的要素は薄い。ほかに，《ハウキー》という語り物，恋歌《ヤイカテカラ》，子もり歌《イフンケ》，叙情歌《シノッチャ》，座歌《ウポポ》などがある。踊りと結びついたものでは，宗教的な《リムセ》のほか，鳥・クジラ・ネズミ・ウサギなど動物の動作を模倣した踊りがあり，熊祭りの踊り《イヨマンテ》はその代表的なものである。また踊りには，男女いっしょのもの，別々のものという区別が，種類に応じて厳然と守られている。楽器は少なく，片面枠太鼓(わくだいこ)〈カチョ〉・口琴〈ムックリ〉・撥弦(はつげん)楽器〈トンコリ〉が用いられる程度である。笛も昔はあったと推定されているが，いまは伝わらない。〔山口　修〕

アイヌご　【アイヌ語】　古く東北地方北部から北海道・樺太(からふと)(サハリン)・千島・カムチャツカにわたって分布していた土語。大部分の地域ですでに消滅し，現在は北海道方言と樺太方言だけが残っている。両方言とも数名の古老が記憶しているだけで，日常生活としてはもはや用いられていない。口語と，伝承された詩に使われる雅語とがある。語順は日本語とほぼ同じ。助詞の使い方なども日本語と似ている。語形成法は日本語と非常に違う。動詞や名詞に人称を表わす接辞がつくのも日本語と違った特徴である(例：ku-saha ku-nukar〈私の-姉　私-見た〉すなわち〈(私は)姉を見た〉)。系統は不明で，通常ギリヤーク語など隣接地域の諸言語とともに古アジア語群あるいは旧シベリア諸言語などと総称される。文字がないため記録は少ないが，17世紀にはポルトガル人宣教師によるローマ字の記録があり，18世紀には日本人によるかたかな表記の詳しい辞書が出ている。〔田村すゞ子〕

アイヌもよう　【アイヌ文様】　おもにアイヌの厚司*やチカルカルペとよばれている広そでのはんてんに用いられている意匠。多くはそで先や肩・すそなどを飾っているが，中には表面全体を装飾する場合もある。文様の主体はほとんど直線で構成されているが，これにうずまき状の形象を加えた複雑な文様もある。この組成方式は，中国の殷(いん)・周時代に盛行した青銅器の文様に類似している。また，これらの文様は，アップリケの手法や糸を連ねた線のみの表現によっているが，他のわが国の文様とはまったく性質を異にしていて，人種的な特徴を色濃く反映している。なお，このほか，アイヌが使用しているひげ上げへらや木製の盆に彫られたきわめて単純な文様もある。〔毛利　登〕

あいのがっこう　【愛の学校】　⇨クオレ

あいのしょうり　【愛の勝利】　バレエの題名。リュリ作曲，ピエール-ボーシャン振り付け。1681年，サン-ジェルマン劇場で初演されたが，作品内容については不詳。バレエ史上はじめて女性舞踊家が登場し，バレエ発展の契機となった画期的な作品。

あいのて　【合の手】　日本音楽で歌のフレーズとフレーズの間に挿入(そうにゅう)される短い器楽の部分。長いものは合方*とよばれ，特に地歌・箏曲(そうきょく)では手事*とよばれる。日常会話で挿入される語句を合の手というのはここからきている。

アイバク　［Kutb-ud-din Aibak］（？～1210）　インドの奴隷王朝*の創始者。在位1206～1210年。奴隷出身のトルコ人。アフガニスタンのゴール朝*の部将となり，北インド征服を行ない，そのままインドにおける最初のイスラム支配者となって，デリーに首都を置いた。

アイバンク　［eye bank］　目の銀行。その目的は角膜移植用の角膜を確保することにある。日本では大学病院などの一定の大病院にアイバンクを置き，移植用角膜の提供者はそこへ登録するシステムになっている。登録者が死亡した場合，その角膜は提供され，通常死後24時間以内に角膜移植手術に使用される。大ぜいの人々が進んで目の提供者になってくれることが望ましいが，日本ではいまだ認識が薄い。

アイバンホー　スコット*の小説(1819)。12世紀中ごろ，騎士アイバンホーが，衰退したサクソン王家を再興しようと，リチャード1世の率いる十字軍に従軍し，ロビンフッド*らの協力を受けて王位をねらう王弟の一派を撃退させる物語で，恋と武勇とを織りなした活劇である。当時のサクソン人とノルマン人との対立がその背景となっている。

アイピーアール　［IPR］　⇨太平洋問題調査会

アイビーアールディー　［IBRD］　⇨国際復興開発銀行

アイビーエム　［IBM］　International Business Machines Corp.の略称。アメリカの電子計算機会社。海外の電子計算機市場の67％を占める世界最大のメーカーで，営業網を約102か国に広げている。カナダ・アルゼンチン・オーストラリアなどに海外工場をもち，計算機や電動タイプライター・データ処理装置をつくり，その販売や賃貸，データ処理の引き受け業務などを行なっている。日本にも進出し，子会社日本IBMを設立，神奈川県藤沢に工場をもつ。わが国の大手電機メーカーもデータ処理装置について技術を導入している。近年，IBMの共同使用サービスを利用して情報処理をする顧客がふえている。ヒューストンのNASA(航空宇宙局)にも大きいIBM装置が備え付けられており，同装置はアポロ宇宙船の仕事にも使われた。設立は1911年。本社ニューヨーク。年間売上高72億ドル，従業員数25万9,000(1969)。〔氏家　尚〕

アイヒェンドルフ　［Joseph Freiherr von Eichendorff］（1788～1857）　ドイツの詩人・小説家。カトリック系貴族の出で，大学で法律を学び，ナポレオン侵略に対する解放戦争に義勇軍少尉として参加，その後官吏となる。後期ロマン主義*の代表的叙情詩人のひとり。シューマン*・メンデルスゾーン*らによって作曲され愛唱されている詩が少なくない。《詩集》のほかに小説も多く，中でも《のらくら者の生活から》が有名。

アイビーピー　［IBP］　International Biological Programme 国際生物学事業計画の略称。1963年の国際学術連合会議(ICUS)の総会で採択・提唱され，ユネスコの援助を得て，約65か国が参加している。わが国では，学術会議が参加を決定し，2,500余の研究者が計画に従事している。計画の目的は，将来の世界人口増加に見合う食糧などの生物的資源を確保・増産する課題に対して，国際協力のもとで基礎生物学的研究によって貢献することにある。各地域の生物生産の実態を明らかにし，地球全体ではどれだけの生産が行なわれているか，その要因はなにか，生物生産を増大させる可能性はどうかなどの基礎研究に主眼が置かれている。実施期間は1965年から1972年6月までの7か年。研究活動は次の7分科に分かれて行なわれている。陸上群集の生産力，生物生産の諸過程，陸上群集の自然保護，陸水群集の生産力，海洋群集の生産力，人の適応能，生物資源の利用と管理。〔船越真樹〕

アイヒマン　［Adolf Eichmann］（1906～1962）　第2次世界大戦中，ナチス-ドイツの親衛隊中佐。戦後，ナチス秘密警察ゲシュタポのユダヤ課長として行なったユダヤ人虐殺の責任をイスラエル政府に追及され，1960年アルゼンチンで潜伏中のところを逮捕され，イスラエルでの裁判によって処刑された。

アイピーユー　［IPU］　⇨列国議会同盟

あいふく　【合い服】　春秋の季節に着る服。日本のように春夏秋冬の四季の区別がはっきりしている所では，季節によりその気候に応じた衣服の調節が必要となり，防寒用の冬服，防暑用の夏服のほかに春秋の合い服が用いられる。合い服に適した素材は薄手中肉のウールや合繊，厚地もめんや絹など広範囲で，デザインも自由に楽しめるが，気温の変化の起こりやすい時期なので，調節のしやすいアンサンブル形式など組み合わせ服が便利。男子服では背抜き仕立てが多い。なお近年は暖房・冷房の設備が発達したため，合い服が四季に用いられる傾向となってきている。　〔小池千枝〕

アイブス　［Charles Edward Ives］（1874～1954）　アメリカの作曲家。エール大学作曲科でH.パーカーに学び，その後会社員として生計を立てながら作曲を続けた。大胆な不協和音や複雑なリズムを使用する彼の作風は，きわめて前衛的なもので，当時の聴衆からはほとんど理解されなかった。しかしその急進的な様式は，H.カウエルはじめ，アメリカの前衛作曲家たちに多くの影響を与えている。4曲の交響曲，交響組曲《ニューイングランドの三つの場所》などが代表作。　〔船山　隆〕

アイベックス　［ibex］　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。アルプスアイベックスともいう。体長1.3m，肩の高さ90cmほど。ヤギに似るが，角は雌雄双方にあり，雄の角は雌よりも長く1m以上に達する。夏毛は短く灰かっ色だが，冬毛は長く黄かっ色。アルプスの雪線付近に小群ですみ，夜になると森林地帯に下り，草や木の葉などを食べる。険しい岩場を巧みに動き回る。妊娠期間154～161日，1腹1子。子は6～7月に生まれ，生後まもなく親について歩くことができる。近似種にシベリアアイベックス・ヌビアアイベックスなどがある。　〔今泉吉典〕

あいべつりく　【愛別離苦】　⇨四苦八苦

アイボリー-コースト　⇨コートジボアール共和国

あいまいや　【曖昧屋】　表向きはしるこ屋・麦とろ・楊弓(ようきゅう)場の看板をあげていたり，しもた屋だったりするが，裏では給仕女や矢取り女が，安く手軽に売淫(ばいいん)した家。曖昧宿ともいう。江戸末期にも曖昧茶屋の名はあったが，その全盛は明治時代初期で，町の一角を公然と占めることもあった。大正から昭和へかけての銘酒屋*もこの一種である。

あいみつ　【靉光】　（1907～1946）　特異な作風の前衛画家。本名石村日郎，画名靉川光郎・靉光。広島県の生まれ。初め大阪で学び，のち太平洋画会*の研究所に学ぶ。二科会・1930年協会・独立美術協会展などに出品，1940年(昭和15)に美術文化協会，1942年に新人画会の結成に参加。初期にはゴッホ*の影響を受けたが，しだいに超現実



アイベックス



靉　光《鳥》1940



アイリス　(左)オランダアヤメ　(右)ドイツアヤメ

主義的作風となった。1943年第2次世界大戦に応召し，戦後に上海(シャンハイ)で病死した。代表作として《眼のある風景》《ライオン》《鳥》などがあげられる。　〔陰里鉄郎〕

アイユーブちょう　【アイユーブ朝】　1169～1252年の間，西アジアを支配したイスラム王朝。イラン系クルド人のサラディンにより建てられた。彼はファティマ朝*の将軍であったが，のちに主家を倒して独立した。その支配下のエジプトは十字軍の侵攻に対して最も強力な反対勢力であった。

あいら　【姶良(町)】　鹿児島県姶良郡の町。人口32,000。鹿児島湾の北西岸に面し，日豊本線に沿う。シラス地帯のため米の生産性は低いが，最近は養鶏が盛んになってきている。また鹿児島市に近いので，住宅や工場が進出してきつつある。中心集落は帖佐(ちょうさ)。

アイリス　［*Iris*］　単子葉植物・アヤメ科・アヤメ属の総称。北半球の温帯に約150種あり日本にはそのうち8種がある。園芸品種としては次の四つに大別される。①イングリッシュアイリス：球根性で花は白か紫色で5月ごろ開花する。②ジャーマンアイリス：塊茎があり，多くの種を交雑してつくられた品種で，かおりがよい。③スパニッシュアイリス：球根性で，原種は紫色であるが，園芸品種は多くの花色のものがある。④ダッチアイリス：球根性で，スパニッシュアイリスとほか3種の交雑によってつくられた品種である。4～5月ごろ咲き，球根アイリスの代表とされている。アイリスはラテン語で〈にじ〉の意味である。　〔横井朝子〕

アイリッシュ(海)　［Irish］　グレートブリテン島(イギリス)とアイルランド島にはさまれた海域。北はノース海峡，南はセントジョージ海峡を経て大西洋に連なる。イギリスの大貿易港リバプール，アイルランド共和国の首都ダブリンは，この海に面している。

アイルランド(共和国)　［Irish Republic］　アイルランド島*の島の大部分を占める共和国。アイリッシュ海・セントジョージ海峡を隔ててイギリス(グレートブリテン島)に相対する。アイルランド語でエールといわれる。面積70,000km²。人口337万(1978)。首都はダブリン。

【自然・住民】島の中央は平原で，これを囲むように丘陵性の山地が不連続に分布している。平原は標高50m以下で，氷食によって平坦(へいたん)化された石炭紀層を泥炭(でいたん)がおおっている。氷食による湖沼や湿地が多く，またカルスト地形も各所にみられる。北部の山地はカレドニア褶曲(しゅうきょく)，南部はヘルシニア褶曲という古い造山期のもので，地質上，グレートブリテン島と連続している。最高峰は南西部のカランツアル山(1,041m)で，多くは500m以下である。河川は緩流して多くの湖沼をつなぎ，運河で結ばれ，内陸水運として利用されている。西岸海洋性気候であり，北大西洋海流の影響を受けて緯度のわりには温暖である。西または南西の風が卓越しているが，南北に走る山地がないので，東岸と西岸の気候差はみられない。年降水量は東部で750～1,000mm，西部で1,000～1,500mm程度。東岸のダブリンの気温は最高の7月で15°C，最低の1月で5°Cと較差が小さい。住民はケルト人で，英語のほかにケルト語系のアイルランド語を使い，カトリック信奉者が93%と多い。

【産業・経済】主産業は農牧業であるが，耕地に恵まれないため，牧場が4分の3を占める。農業従事者は就業人口の40%を占めるが，一般に家族労働を中心とする小農



アイルランド

業経営が圧倒的に多い。小麦・燕麦(えんばく)・ジャガイモなどの産があるが，小麦も自給できない状態にある。水産業も重要産業で，1961年の漁港生産額は135万ポンドに達した。酪農製品や牛肉を輸出し，石油・石炭・小麦・工業製品を輸入している。輸出入ともにその半分をイギリスとの取引が占める。近代的大工業はほとんど行なわれず，ビール・ウイスキーなどの醸造業，バターなどの食品加工業，皮革工業・毛織物工業などがあるにすぎない。

〔歴史〕紀元前4～紀元前3世紀ごろ，ケルト人がフランス北部から移住してこの島を開拓し，4世紀にはキリスト教が伝来した。8世紀にはノルマン人が来襲し，海岸に植民地を建設，ダブリンやコークなどの都市の起源となった。12世紀からイギリスの支配を受け，17世紀にはその支配は全島に及び，住民は窮乏にあえいだ。18世紀後半からフランス革命の影響もあって愛国運動が活発となり，イギリスとの激しい抗争をくり返した。1845～1848年の飢饉(ききん)はアイルランド人を海外移住にかりたて，1841年820万人であった人口は1871年には540万に減少した。

19世紀末から，イギリス議会にも，アイルランドの自治を認めようとする動きが起こったが，北部アルスター地方のプロテスタントを信奉する住民の反対によって独立は第1次世界大戦後まで延ばされた。1920年のアイルランド統治法によって，島は北と南に分裂した。南は1922年アイルランド自由国となり，1937年には新憲法を発布して名目上の独立をした。第2次世界大戦中は中立を守り，戦後1949年，外交権を獲得して



アイルランドの国旗 19世紀に起こった独立運動の旗に由来する。緑は古い要素，オレンジは新しい要素を表わし，白はその連帯を象徴している。なお，左右の色を入れ替えるとコートジボアールの国旗になる



ダブリン市の中心街オコンネル通りとオコンネル橋。街路の中央にアイルランド独立運動の指導者ダニエル-オコンネルの銅像が見える。遠景の柱塔はネルソン-ピラー



アイルランド演劇 焼失前のアベー座

正式に独立した。また，19世紀の末葉からは国民運動とともにアイルランド文芸復興*が叫ばれ，その中から詩人イエイツ，作家バーナード-ショー・オスカー-ワイルドらが現われた。　〔梶川勇作〕

アイルランド(島) 〔Ireland〕 イギリス諸島第2の大島。東はアイリッシュ海・ノース海峡・セントジョージ海峡を隔ててグレートブリテン島に向かい合い，西は大西洋に面する。面積83,851km²。政治的には，南部を占めるアイルランド共和国と，北部約4分の1のイギリスの北アイルランドと領土を分け合う。海岸線は出入りが多く，西海岸は典型的なリアス式海岸である。周囲は丘陵で囲まれ，低地は中央部にあるが，地味はやせている。最高峰はカランツアル山(1,040m)。北大西洋海流の影響で，緯度のわりには温和で，降雨も年1,000～1,500mmと多い。この気候は草の生育に適し，〈エメラルドの島〉とよばれ，牧畜が盛んに行なわれる。　〔大崎　晃〕

アイルランドえんげき 〔アイルランド演劇〕 アイルランド演劇は，19世紀末に起こったアイルランド文芸復興*運動の中で，イエイツ*・グレゴリー夫人らが中心となって推進した国民演劇運動をもって始まりとされる。それまではイギリスの劇団が巡業に来ることはあっても，イエイツらが標榜(ひょうぼう)したように，アイルランド人が書いた真にアイルランド的な作品をアイルランド人によって上演するということはなかった。1902年，国民演劇協会が組織され，さらに1904年，アベー座が建設されるや運動はその拠点を得，イエイツの詩劇，グレゴリー夫人のペーソスのある喜劇を中心とするアイルランドの伝説やアイルランド人の日常生活に題材を求めた作品が次々に上演された。以来，アベー座から輩出した劇作家の中でも，とりわけアイルランド方言を用いてすぐれた詩的世界を構成したシング*，ダブリンの貧民生活をリアルに描いたオケーシー*の名は忘れられない。時代の推移とともにアベー座は必ずしも指導的存在ではなくなったが国民劇場の地位を保ち，1951年火災にあった建物は，1966年政府の援助によって再建されている。

アイルランド演劇にとってアベー座と補足的な立場にあるのが，1928年創立のゲート座である。シェークスピア*・イプセン*・オニール*など欧米作家のすぐれた作品を次次に紹介し，アベー座が伝統と引き換えに失っていった実験精神を受け継ぎ，アイルランド演劇の水準を高め，多様な作家を育て，両世界大戦間の時代に最も光芒(こうぼう)を放った。1950年代には数多くの小劇場が生まれたが，中では1955年，ベケット*の《ゴドーを待ちながら》の英語版，ビーハンの《死刑囚》などが初演されたパイク劇場が有名である。　〔岡崎涼子〕

アイルランドぶんげいふっこう 〔アイルランド文芸復興〕 1890年ごろからアイルランドを中心に，ケルト族の民族芸術の復興をめざした文芸運動。アイルランドでは昔から民族独立運動が盛んであったが，知識階級の間に，政治的反抗よりも文化的活動によって，アイルランド人の本質を究明し，民族的な覚醒(かくせい)を図ろうとする傾向がみられた。詩人イエイツ*は，1891年ロンドンにアイルランド文学協会を，翌年ダブリンにアイルランド国民文学協会を設立し，国民文学の誕生を唱えた。それは古代ケルト民族の口碑伝説と民族精神の復活に基づく伝統的な文学であることが強調された。

アイルランド古来の言語・文化の復興に努力したダグラス-ハイドやグレゴリー夫人も運動の協力者だった。そして，イプセン*流のリアリズムに反対する新しい演劇創造の面で最も成果をあげ，アイルランド文学座やアベー座を根拠地に，多くの国民的演劇が生まれ，近代劇史上に輝かしい一ページを残した。上記の作家以外に，シング*・ダンセーニ・マーティン・オケーシー*らも活躍した劇作家である。〔星野恒彦〕

アイルランドみんよう【アイルランド民謡】 アイルランドの民謡は多様であるが，一般に古風な形をとどめており，情感も豊かで，歴史的にもスコットランドやウェールズに影響を及ぼした。また19世紀，トマス-ムアの作詩した歌によって，ヨーロッパにも広く知られた。なかでも《吟遊詩人》《わが思い》は有名である。中世に卓越した吟遊詩人であるバードあるいはミンストレルが多かったといわれているが，はっきりした根拠はない。

アイレ ⇒アイルランド共和国

アイロニー［irony］ ギリシア語のエイローネイア(eironeia)に由来し，〈皮肉〉〈反語〉という意味。本来は〈ふりをすること〉〈偽ること〉であるが，ソクラテス*はこれを〈無知を装うこと〉の意味に広げた。みずから無知を装って相手と問答しながら逆に相手の無知を暴露してより高次の知に導く方法が〈ソクラテス的アイロニー〉である。キルケゴール*も美的人生観の虚無性を暴露して倫理的人生観に導く方法としてアイロニーを考えた。〔本橋正義〕

アイロン［iron］ 衣服や布地のしわを伸ばしたり，形を整えたり，折り目をつけたりする用具で，和・洋裁，洗たく後の仕上げに用いる。日本では火のし・こてといわれて古くから使用されていた。火のしは木柄をつけた金属製の火ざらに炭火を入れてその熱を利用するもので，すでに10世紀ごろ中国から渡来している。西洋では16世紀に鉄製のこて棒や鉄ごてが使われ，17世紀ごろから炭用のアイロン，19世紀になってガス・電気アイロンが使われるようになった。

〔種類〕熱源によって炭火アイロン・ガスアイロン・電気アイロンに分けられる。

①炭火アイロン：電気アイロンの普及とともに今日ではほとんど見られなくなった。上ぶたをあけ炭火を入れて使用する。上ぶたの前部に煙穴，後方の下部に空気穴があり，中の炭火をおこす。底部の形は電気アイロンと同様である。

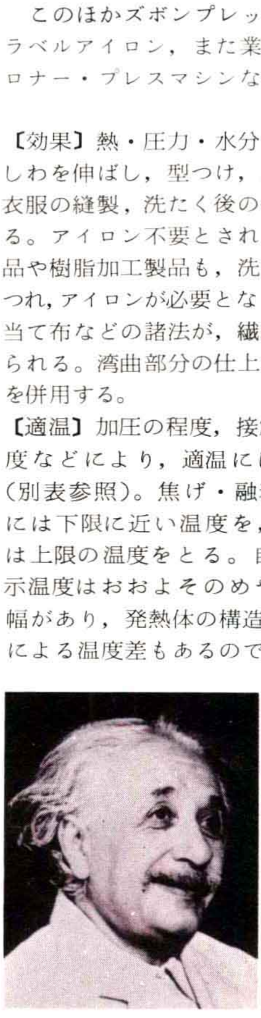
②ガスアイロン：ガスバーナーが内装されているアイロンで，普通アイロンとスチームアイロンがある。熱源のコストが安く経済的である反面，点火や調節がめんどうなどの欠点がある。ほとんど職業用として使われている。

③電気アイロン：電気による発熱体が内装され，衛生的で取り扱いが簡単なため，今日では最も一般的に使われている。㋑普通電気アイロン：当初電気アイロンといえばこの種類をさしたが，スチームアイロンができてからこの名でよばれるようになった。電圧は100Vで150～1,500Wまで11種あり，家庭用・職業用がある。家庭用は250～350Wぐらいが使われる。プラグを差し込んだままの使用で170～180℃を保つようにされているので，温度の調節はプラグの抜き差しによって行なう。また手もとのスイッチで調節できるものもある。㋺スチームアイロン：底部からスチームを噴出するアイロン。霧吹きの必要がないので主として仕上げ用に使われ，またビロードなど布地の風合いのそこねやすいものに適する。しかし布地が浮きやすいので，裁縫中の仕事用アイロンとしては不向きである。蒸気の発生にはタンク式とドリップ式があり，前者はタンク内の水を沸騰させて噴出させる方式，後者はタンク内の水を発熱体の上に滴下して蒸気にする方式で，スチームボタンの上下により普通電気アイロンとしても使用できる。またハンドルの前部から斜め下方に向かってもスチームを噴出できるものもある。㋩自動電気アイロン：自動温度調節器がつき，布地に合わせて目盛りをセットすれば，適当な温度が自動的に調節される。

このほかズボンプレッサー，旅行用のトラベルアイロン，また業務用としてはアイロナー・プレスマシンなどがある。〔小室正雄〕

〔効果〕熱・圧力・水分の総合効果により，しわを伸ばし，型つけ，収縮部の伸長など，衣服の縫製，洗たく後の仕上げ効果を高める。アイロン不要とされている合成繊維製品や樹脂加工製品も，洗たく回数を経るにつれ，アイロンが必要となる。乾熱・湿熱・当て布などの諸法が，繊維別・形態別にとられる。湾曲部分の仕上げにはアイロン台を併用する。

〔適温〕加圧の程度，接触時間，水分の程度などにより，適温には温度範囲がある(別表参照)。焦げ・融着を起こさぬためには下限に近い温度を，効果を上げるには上限の温度をとる。自動アイロンの指示温度はおおよそのめやすで3～5℃の幅があり，発熱体の構造により底面の部分による温度差もあるので注意。底面に水滴を落とし，その蒸発音や蒸発状態で温度のめやすをつけることができる。正確には表面温度計を用い測定する。



アインシュタイン

アイロンの適温（℃）

アセテート	120～140
ナイロン	120～140
ビニロン	130～140
ポリエステル	140～150
アクリル	130～170
絹	100～130
羊毛	130～150
レーヨン	150～160
綿・麻	160～200

〔アイロン効果の測定〕20×5cmの試片を中央10cmのところで二つ折りにして，所定のアイロンかけを行ない，水平に張った糸または針金にひっかけ，折り目角の大小で効果を測定，開きの小さいほど効果が大きい。

〔操作上の注意〕湿熱のほうが効果が大である。特に羊毛・絹・ビニロン・アセテート・レーヨンなど。綿・麻・レーヨンは表からかけ，絹は裏から，毛織物は湿った当て布をして表から，合成繊維はかわいた当て布で表からかける。混紡・交織品は耐熱性の低いほうを基準とする。平滑仕上げにはかためのアイロン台，毛織物のように表面を柔らかく仕上げるには，毛布などの柔らかい下地を用いる。〔矢部章彦〕

アインシュタイン［Albert Einstein］(1879～1955) ドイツ生まれの理論物理学者。相対性理論*の建設者として特に著名である。南ドイツのウルムに生まれ，ミュンヘン・ミラノへ移住し，スイスで学校を終え市民権を得て，ベルンの特許局に勤務した。その間，非研究的なふんい気の中で光量子論，ブラウン運動の理論，さらに現在特殊相対性理論とよばれる理論を次々に研究し，これらを1905年に発表した。特殊相対性理論*は，ニュートン力学と電磁気学の矛盾を調和させるとともに，時間・空間などに関する旧概念を一変させ，また質量とエネルギーの同等性を確立して物理学の進展に金字塔を打ち立てるものであった。これらの業績により，チューリヒ大学・プラハ大学などに招かれ，さらにベルリン大学教授，カイザー-ウィルヘルム研究所長を勤めた。その後一般相対性理論(1916)，統一場の理論などを提出，また《ボーズ-アインシュタイン統計》など統計力学*の分野での貢献もある。光量子の研究によりノーベル賞を受賞(1921)。やがてナチズムの勃興(ぼっこう)と反ユダヤ主義の波の中で1933年渡米，プリンストン高等研究所の教授として以後アメリカに定住，市民権を得た(1940)。戦時中反ナチスの立場から行なった原爆問題への提言を反省し，戦後は平和運動に積極的に参加し，世界連邦運動の有力メンバーとして活動した。〔藤村　淳〕

アインシュタイン［Alfred Einstein］

(1880～1952) ドイツ生まれのアメリカの音楽学者。物理学者アインシュタイン*のまたいとこ。1933年まで，ドイツで音楽批評家として活動したが，ナチスの台頭に伴いイギリス・イタリアに移り，1939年からはアメリカで教職についた。代表的な研究は《イタリアのマドリガル》であるが，モーツァルトの作品目録の校訂や《ロマン派の音楽》などに包括的な学識がうかがわれる。日本では，特に《音楽史》《モーツァルト》《シューベルト》《音楽における偉大さ》などの翻訳書で知られる。〔徳丸吉彦〕

アインシュタインとう 【アインシュタイン塔】 1924年，ドイツのポツダム天文台に建設された，太陽の分光観測を目的とする塔望遠鏡*。アインシュタイン*の一般相対性理論によると，スペクトル線の波長は重力の影響を受けて長波長(赤色)側にずれる。この効果を確かめるためにつくられたので，アインシュタイン塔の名がある。高さ約20 m の塔の上に置かれた直径90cmのシーロスタット*と，口径60cm，焦点距離14.5m の対物レンズによって，太陽光を地下の実験室に導き，そこで分散度の大きいスペクトルをつくって精密な観測を行なう。

この塔は，当時の最新鋭の研究設備であっただけでなく，イギリスの表現派の建築家E. メンデルゾーン(1887～1953)の設計になる新しいデザインの建物として注目を浴びた。〔守山史生〕

アインシュタインのひねつりろん 【アインシュタインの比熱理論】 固体の比熱は，高温では温度によらず一定の値(6 kcal/モル)になっているが(→デュロン-プチの法則)，低温ではその値は小さく絶対零度*では0になっている。このように，比熱が温度によって変わり，低温で比熱が小さくなるのは，本質的に量子効果に基づくものであることを見抜いたのがアインシュタイン*である。アインシュタインは，結晶を構成している各原子が独立に一定の振動数で振動していて，この振動のエネルギーは，振動数にプランク定数*をかけたものの整数倍の値しかとりえないとして，低温で比熱が0に近づいていく現象を説明した。しかし，アインシュタインの模型から得られる比熱は，低温で現実の物質よりもずっと急激に0に近づくので，デバイ*は各原子の振動は互いに独立ではなく相互に関連し合って振動しており，その振動数にはいろいろのものがあることを考慮に入れて，現実の物質の比熱を理論的に説明することができた。金属などでは，自由電子の比熱(低温で絶対温度に比例する)が存在するが，通例極低温を除いて上に述べた格子(こうし)振動による比熱(低温で絶対温度の3乗に比例する)に比べてきわめて小さい。〔中野藤生〕

アインスタイニウム ［einsteinium］ 超ウラン元素*の一。記号Es，原子番号99。1952年アメリカの物理学者G. T. シーボーグらにより存在を確認され，アインシュタインの名にちなんで命名された。11種の同位元素があるが，質量数254のものが最も安定で，その半減期*は480日である。

アイントホーヘン ［Eindhoven］ オランダ南部の都市。人口18万9,000(1971)。バターの取引が多く，また電気機具・自転車・プラスチックなどの工業が盛ん。工業化に伴って急速に発展し，第2次世界大戦中は連合軍の空軍の拠点となった。

アウエルシュタットのたたかい 【アウエルシュタットの戦い】 ⇨イエナの戦い

アウエンブルッガー ［Joseph Leopold Auenbrugger］ (1722～1809) オーストリアの医学者。ウィーン医学校を卒業後，ウィーンにあるスペイン病院の医師となり，1762年まで勤め，その後開業した。1761年《新発見》を著わし胸の内部の状態を知るための打診法を紹介。これは酒だるをたたいてその中にある酒の量を知る方法から思いついたという。

アウグスチヌス ［Aurelius Augustinus］ (354～430) キリスト教のプラトンとよばれ，古代異教(ギリシア)思想とキリスト教を結びつけ，古代から中世への移行期にキリスト教の信仰と神学を確立した最大の教父。北アフリカのタガステ(現在のスク-アラス)に生まれた。熱心なカトリック信者であった母モニカの感化を幼時から強く受けた。17歳のとき首都カルタゴに出て弁論術を学ぶ。19歳のころキケロ*の《ホルテンシウス》を読み，哲学へと導かれた。聖書を読んだが，あきたりなかった。むしろ善悪二元を説く唯物論的なマニ教*に近づき，その影響下に長くあったが，382年教師ファウストスに会ってから，疑問が深まり，しだいに遠ざかるようになった。376年以来カルタゴで弁論術を教え，384年にはミラノでその教授に任命された。この世の数々の欲望に悩まされどおしだった彼は，同地の司教アンブロシウス*の説教で聖書の霊的な解釈を与えられ，カトリック洗礼志願者となる決意をした。また，このころ新プラトン主義の祖プロチノス*を読み，精神的超越的な一者としての神への信仰が固まった。384年夏，突然回心を体験。職を辞し，ミラノ近郊で，母やむすこやいとこを交え，友人たちと研究のために共同生活にはいった。その所産として《幸福な共同生活について》《独白録》その他の対話編が生まれた。387年4月アンブロシウスから洗礼を受けた。秋オスチアから船出の直前，母の死にあう。母とともに味わった神秘的な体験は有名である。388年帰郷し，修道院を建てて修道生活にはいった。391年ヒッポの司祭，396年には司教に選ばれた。この地にも修道院を建て，以後死ぬまで司教として活動した。ローマ滞在以来マニ教の批判書を数々書き，また異端ドナチスト派と論争し，カトリック教確立のための書を書き続けた。398年から401年に書き継がれた《告白*》は，神のうちに安らぎを求めて苦闘し遍歴した司教の魂の回想的告白と，至りついた神への賛美が織りなされ，文学と哲学と神学が渾然(こんぜん)一体化した独自の省察録として，万人の心をとらえてやまない。デカルトの《省察*》もルソーの《告白録*》もここに源泉がある。以後，宣教活動のかたわら著わされた書物はおびただしいが，とりわけ《ヨハネ福音書論》《三位一体論》《神の国*》があげられよう。430年バンダル人がヒッポを包囲するさなか，司教は遺言もなく静かに死んだ。〔村治能就〕



A.アウグスチヌス



アウグストゥス　バチカン美術館蔵

アウグスチヌス ［Augustinus］ (?～604) イギリスにキリスト教を伝道した宣教者。はじめローマの聖アンドレアス修道院長。596年教皇グレゴリウス1世*の命で，40人の修道士とともにケントに上陸。短時日の間に宣教に成功し，アングロ-サクソン民族のキリスト教化の基礎を築いた。翌年カンタベリー主教，603年には初代同大主教。死後，聖人のうちに数えられる。

アウグスチノかい 【アウグスチノ会】 1256年結成のキリスト教修道団。日本に渡来したキリシタン伝道団の一。近世初頭の地理上の発見や，教会改革によるカトリック教会の海外伝道に従った。日本へは1602年(慶長7)平戸に渡来したのがはじめである。九州を中心に布教したが，江戸幕府の弾圧によって日本での活動は消滅した。

アウグストゥス ［Gaius Octavius Augustus］ (BC63～AD14) ローマ帝国の初代皇帝。在位BC27～AD14年。カエサル*のめいアティアを母として生まれた。BC44年カエサルの死後，その遺言によってカエサルの養子とされ，ガイウス-ユリウス-カエサル-オクタビアヌスと称した。BC43年ア

ントニウス・レピドゥスとともにいわゆる第2次三頭政治を結び，キケロをはじめ反対者の粛正と財産没収を行ない，BC42年アントニウスとともにカエサル暗殺者ブルトゥスおよびカッシウスらをフィリッピの戦いに敗死させた。その後アントニウスと一時不和になったが，BC40年ブルンディシウムに会し，姉オクタビアをアントニウスにとつがせて和解し，BC37年，三頭政治を更新した。しかし，彼がBC36年にイタリアおよび西方の実権者となったのに対し，東方を勢力範囲としたアントニウスはパルチア遠征に失敗したうえ，エジプト女王クレオパトラの才色におぼれ，ヘレニズム的王権の性格をおびるようになって，両者は対立した。BC31年9月アクチウムの戦いに，オクタビアヌスはアントニウスとクレオパトラ連合軍を破り翌年アレキサンドリアを包囲して両名を自殺に追い込んだ。この戦争の準備中にイタリア諸都も貴族も彼の傘下(さんか)にはいり，西方諸属州は彼に忠誠の誓いをしてそのクリエンテス(被護民)となるなどしたので，戦後，彼の実力はあらゆる意味で帝国第一となった。しかし，かつてカエサルが国家第一の最高の実力者でありながら，王位を望んでいると思われただけで共和主義者の凶刃に倒れた先例を忘れず，BC27年1月13日の元老院会議で自己のすべての反共和政的権限を元老院に返却し，共和政の再建を宣言した。結局はこの会議で全帝国の属州支配を元老院と彼との間で分掌し，軍隊の大部分の指揮権を合法的に握ったので，このとき事実上の帝政が始まった。同年1月16日元老院から〈アウグストゥス(尊厳者)〉の称号を受け，属州総督としての権限(プロコンスル命令権)のほかに，執政官命令権・護民官職権など，共和政時代の官職にみずから就任することなくその職権のみを抽象化して自己に集め，実権をむしろ強化した。このような彼の特殊な地位はプリンケプス(元首)とよばれ，プリンケプスを中心にすえた政体はプリンキパトゥス(元首政)とよばれる。元首としての彼の政治は，軍制の整理と組織化，元首財政の独立と強化を中心とした。軍隊については属州の拡大を控えて28軍団にとどめたが，このうちウァルスに率いられた3軍団はAD9年，トイトブルクの森でアルミニウスを将とするゲルマン軍に敗れて全滅した。

彼はまた道徳と社会秩序を回復する立法を行ない，姦通(かんつう)の禁止，奢侈(しゃし)の制限，結婚の半強制化，奴隷解放の数と条件の制限などを命じた。一方，彼は学芸をも愛し，かたわらにはすぐれた文人を置いたので，この時代には，彼の政治をたたえたウェルギリウス・ホラチウスをはじめ，リウィウス・オウィディウスらが輩出し，ラテン文学の黄金時代を現出した。〔弓削　達〕

アウグスブルク ［Augsburg］ 西ドイツ南部，バイエルン州の工業都市。人口21万2,000(1970)。鉄道・道路交通の要衝。町の歴史は古く，BC15年ローマ皇帝アウグストゥス治下の城砦(じょうさい)建設にさかのぼり，地名も彼の名に由来する。中世には南ドイツの商業の中心地となりフッガー家などの富豪が出た。17世紀以降，貿易の中心が地中海から大西洋に移るといったん衰えたが，今日では繊維工業(主として綿紡績)の中心地となり，金属・化学・製紙などの工業も盛んである。〔野間三郎〕

アウグスブルクしゅうきょうわぎ 【アウグスブルク宗教和議】 1555年アウグスブルクの国会で，ドイツのキリスト教新旧両教派の間に結ばれた宗教和議。ドイツではルターの宗教改革運動が開始され，神聖ローマ皇帝カール5世が新教抑圧策をとったことから，新旧両教派の抗争がしだいに激しくなり，1530年新教派の諸侯・諸都市はシュマルカルデン同盟を結んで皇帝に激しく抵抗した。その結果皇帝はこの宗教和議を結んで，ルター派の布教を許可し，新旧両教徒に同等の権利を認め，ドイツにおけるカトリックの統一的支配に終止符が打たれた。しかし，公認されたのはルター派のみでカルバン派その他が除かれたことや，新旧両教いずれをとるかの決定権は諸侯・諸都市にのみ与えられて，個人の信仰の自由が認められなかったことなど，問題を以後に残し，三十年戦争の遠因ともなった。〔大野慎一郎〕

アウグスブルクどうめいせんそう 【アウグスブルク同盟戦争】 1689～1697年にかけて，フランスのルイ14世とドイツ・スペイン・オランダ・ファルツ・ザクセンなどの結成するアウグスブルク同盟との間に行なわれた戦争。ファルツ戦争ともいう。ファルツ公の継承問題に乗じたルイ14世の侵略戦争で，イギリスが同盟側に参加して新大陸にも波及し，ウィリアム王戦争となった。フランス軍は劣勢で，ライスウィック条約を結び，アルザスその他を得たにとどまった。この戦争は第2次百年戦争の発端となった。〔大野慎一郎〕

アウシュビッツ ［Auschwitz］ ポーランド南部，クラクフの西方50kmにある町。ポーランド語ではオシュビンチム。商業の中心であり，化学工業とともに13世紀からの魚類孵卵(ふらん)場で有名。第2次世界大戦中，ドイツ軍はここにキャンプを集中して設営し，有毒ガス・フェノール注射などによって，ユダヤ人・ポーランド人など27か国にわたる400万人を殺害した。広島とともに第2次世界大戦の悲劇を伝える呼称ともなった。〔梶川勇作〕

アウステルリッツのたたかい 【アウステルリッツの戦い】 三帝会戦ともいう。1805年12月ナポレオン1世がオーストリア皇帝フランツ1世とロシア皇帝アレクサンドル1世の連合軍を，ウィーン北方のアウステルリッツに破った戦い。これよりまえの10月，ナポレオン1世はトラファルガーの海戦で敗れたが，この戦勝によって第3回対フランス大同盟を崩壊させ，大陸征服作戦を大きく前進させた。

アウソニウス ［Decimus Magnus Ausonius］(?～395) 4世紀初頭の政治家・詩人。ボルドーの生まれ。30歳ごろまで故郷で弁論学・文献学を教えていたが，請われてローマに上り，グラチアヌス帝の教育係となる。のちゴール知事・地方総督・執政官などを歴任。晩年は郷里に隠退し，書簡をしたためたり詩作に専念した。多様の韻律で多くの詩を発表したが，中でも《モセラ川に寄す》は川の明け暮れ，四季のたたずまい，岸べの建物，川にすむ魚などをうたった愛すべき詩編として名高い。〔久保正彰〕

アウタルキー ［Autarkie］ 自給自足の経済体制をいう。ふつう原始共同体ではアウタルキーがとられるが，商品交換経済の発達につれて薄れていく。現在では一国の経済を自給自足できるよう計画的に発展させる体制をこうよんでいる。1929～1933年の世界恐慌後，自国の経済を守るために，先進資本主義国では自由な世界市場に依存することをやめ，関税障壁を巡らして自国の産業を保護し，植民地を含めて〈自給自足〉できる体制を強化しようとした。また，第2次世界大戦前にはアメリカ・イギリス・フランスなどの経済圏に対抗し，ドイツやイタリアなどは〈集団的アウタルキー〉をとろうとした。

アウトサイダー C.ウィルソンの評論(1956)。社会から離脱して自己に沈潜した思想家や芸術家の系譜をたどり，直観的な洞察(どうさつ)による意識の拡大と，精神の深化の必要を説いた作品。その思想は〈新実存主義〉ともよばれ，内省と自己超克による新しい価値観の創造という精神主義の復活が，物質文明の空虚さに倦(う)んだ人々の間に広く共感をよび，アカデミックな教育に背を向けてストイックな読書生活を続けてきた当時24歳の作者を，一躍世界的に有名にした。《続アウトサイダー》がある。〔栗原行雄〕

アウトサイダーくみあい 【アウトサイダー組合】 ⇨法外組合

アウトストラーダ ［Autostrada del Sole］ イタリアの高速自動車道。ミラノ～ローマ～ナポリ間738kmを結ぶ。〈太陽道路〉の意。幅員24m，4車線で中央分離帯のほかに駐車帯をもち，最高制限速度は時速160km，最低速度70km。北部工業地帯と南部低開発地帯を結んで，同国の総合開発政策の骨格となる。政府委託の建設特許会社が建設と管理を行なっている。

アウトバーン ［Autobahn］ ドイツの高速自動車道路。正式にはライヒス-アウトバーンという。1933年，ヒトラーが政権を得

た直後に計画したもので，増加する自動車とその事故防止対策として，専用道路網をドイツ全土に巡らすという構想による。軍事的にも重要な道路であった。完全立体交差，幅員18.5～20mで，中央に3.5～5mの中央緑地帯をはさんでいる。全体計画は17か年，17,000km。計画の統一性，規模などから典型的な高速自動車道路といわれている。建設は1933年9月に始まり，第2次世界大戦の開始までに，延長4,000kmに達した。東ドイツでは1964年末には1,390km,西ドイツではブンデスアウトバーンと改称され，1965年末には3,372kmに達している。〔野間三郎〕

アウト-フォーカス［Out Focus］写真用語。俗にいうピンぼけのこと。シャープな画像を得ようとしながら，ピントが合わずにぼけた写真になってしまったときは，明らかに技術的な失敗か，カメラの欠陥のためである。しかし，意図的に前景または遠景をアウト-フォーカスにして，ある種の画面効果を求めることもある。ぶれた写真もぼけて見えるので，混同しがちだが，これの原因はまったく別のものである。〔大辻　清〕

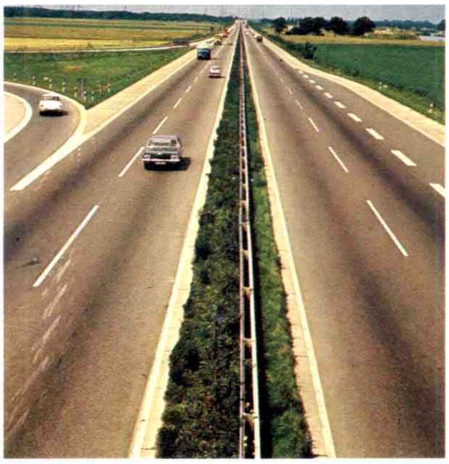
アウトラインステッチ［outline stitch］欧風ししゅうの技法で，基本的なステッチ*の一。左端から右方向に縫い，直線・曲線を縫い表わすときに用いる。針目の長さや布目をすくうときの傾斜度・密度の違いによって，太い線，細い線，強弱のある線などが自由に表現できる。曲線は，弧の張りを向こうにして左端から縫い進めると縫いやすい。線縫いに適しているが面を埋めることもあり，使用範囲が広い。

あうはわかれの【逢うは別れの】⇨おうはわかれの

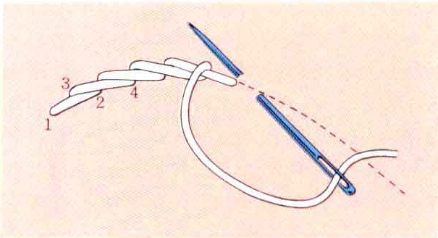
アウフヘーベン［Aufheben］ヘーゲル*の弁証法の用語。〈止揚〉〈揚棄〉などと訳される。原語には〈否定する，高める，保存する〉などの意味がある。思弁的思索の発展は，一連関のうちにある矛盾し合う概念が，互いに他を否定し合うことによって高められ，さらに高次の概念に総合されることによる。そのとき，さきに矛盾し合っていたものの実質は消滅することなく，この高次の段階のうちにそれを構成する契機(モメント)として新たな秩序のうちに高められ，保存されているという。この運動をさして，アウフヘーベンという。➔弁証法〔豊福英利〕

アウラ［aula］古代ギリシアの住宅建築でペリスタイル*(列柱廊)に囲まれた中庭。中庭は中央広間的機能をもち，その周囲に諸室が配置される。➔アトリウム

アウランゼーブ［Aurangzēb］(1618～1707)ムガール*朝第6代の皇帝。在位1659～1707年。柔弱となった王朝の復興に努め，イスラム精神で種々の改革を行なった。しかしジズヤ*の復活などイスラムによる支配が厳格でありすぎたため，かえってヒンズー教徒やシク教徒の離反を招き，王朝崩壊の端緒をつくった。



アウトバーン　ルール工業地帯のジュッセルドルフからケルンに通ずるアウトバーン



アウトラインステッチ

アウレリウス ⇨マルクス-アウレリウス

アウロラ ⇨オーロラ

あうん【阿吽】梵語(ぼんご)のa音とhūṃ音の音写。阿音は口を開いて出す最初の音で，吽は口を閉じて出す最後の音であるところから，この2音によって，すべての音，すべてのもののはじめと終わりが表わされると考えた。字音によってすべてのものと心とを説明しようとする密教では特に阿・吽を尊び，阿をすべてのもののもとである理を表わすもの，吽をすべてのものの帰着する智(ち)を表わすものとした。山門の仁王*(におう)・獅子*(しし)はそれぞれ阿吽を表わす。➔阿字観〔金岡秀友〕

アーエーゲー-テレフンケン［AEG-Telefunken A. G.］Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft, Telefunken A. G.の略称。ジーメンス*に次ぐ西ドイツ第2の電機メーカー。小形モーターから発電機・原子炉に至るまで一貫生産をしている。1883年にドイツ-エジソン会社として設立，1887年にAEGの名称となる。第1次世界大戦前に早くも強電部門を発展させ，ジーメンス・シュッケルトベルク社と並び，ドイツ市場を3分していた。第2次世界大戦の敗戦で主要工場のすべてを失ったが，ベルリンの工場・研究所，西ドイツ・南ドイツの諸工場は残存したものが多く，1950～1956年の間に諸工場は復旧ないし拡大され，1956年度には戦前の生産を越えた。1967年テレフンケンと合併，1968年にジーメンスと重電部門を統合した。年間売上高17億8,700万ドル，従業員数16万4,000(1969)。

アエタぞく【アエタ族】フィリピンのネグリート矮小(わいしょう)黒人種の総称。ちぢれ毛，低身長の黒人で，おもにルソン島の東岸，アパヤオ沼沢地，ザンバレス山地，ミンダナオ島東部，パラワン島北部などの辺隅地に後退して分布している。人口約36,000人(1916)。狩猟・漁労・採取で生活し，20～30人程度の地縁集団で放浪生活している。

アエネーイス［Aeneis］古代ローマの詩人ウェルギリウス*作の叙事詩。ローマ建国の基礎を築いた英雄アエネアスの放浪と冒険をうたった12巻の作品。トロヤの王族，英雄アエネアスはトロヤ落城の際，両親を背に負い，むすこと祖先の神々を伴ってギリシア本土をさまよい，諸国に都を建てる。そしてカルタゴで女王ディドと灼熱(しゃくねつ)の恋に陥るが，使命感に促されて女王のもとを去り，ローマに来て近隣の諸国を平定し，国の基を開く。両親を敬い神々を祭り，敬虔(けいけん)の念あつく，国運を憂える英雄の姿が格調高い文章で描かれている。〔久保正彰〕

あえばこうそん【饗庭篁村】(1855～1922)小説家・劇評家。江戸下谷龍泉寺(したやりゅうせんじ)町の生まれ。本名は与三郎(よさぶろう)，別号は竹の屋主人。1874年(明治7)読売新聞社に入社，のち東京朝日新聞社に転じた。1891年ごろまで江戸戯作(げさく)文学系の作家として活躍，代表作に《当世商人気質(かたぎ)》《蓮葉娘(はすはむすめ)》《掘出し物》《良夜》，小説集《むら竹》などがある。1893年以後は劇評に力を注いだ。

あえばの【饗庭野】琵琶湖(びわこ)北西岸の今津市の南に広がる洪積(こうせき)台地。東西約8km，南北約5kmの荒地で，台地の南のはしは安曇(あど)川の谷となる。明治初期に井上馨(かおる)が荒地の開拓に手をつけたが，水利の便がなく放棄した。その後，陸軍の演習地・米軍用地・自衛隊駐屯地(ちゅうとんち)となって現在に至っている。

あえもの【和え物】下ごしらえした材料に，それに適した衣を混ぜ合わせた料理。衣により独特の味をつくり出し，舌ざわり・歯切れ・色彩も賞味する。材料は野菜・魚介・鳥肉などで，いずれも塩でもむ，薄味をつける，塩でしめて酢洗いする，ゆでるなどの下処理をする。材料も衣も十分さめてから用い，また材料によってはあえておくと水けが出て，味が薄く不味となるので，食べる直前にあえる必要がある。《種類》衣によって次のような種類がある。白あえ(豆腐・白ゴマ・白みそ)，白酢あえ(豆腐・白ゴマ・酢)，ごまあえ(ゴマ・煮出しじる)，ごま酢あえ(ゴマ・酢)，木の芽あえ(白みそ・木の芽)，酢みそあえ(みそ・砂糖・酢)，その他くるみあえ・ピーナツあえ・枝豆あえ(じん

だあえ)・うの花あえ・うにあえ・わさびあえ・からしあえ・おろしあえなど。
〔塩川ふみ〕

アエロフロート 〔Aeroflot〕 ソ連国営航空会社。1923年の開設で，現在ヨーロッパ・アジア・アフリカ・アメリカの50か国，60万kmに及ぶ航路をもつ世界最大規模の航空会社。IL-62・TU-114・TU-134・YAK-40などの機種をもつ。国内・国際線の旅客輸送のほか,国内の貨物・郵便輸送，8,000万ヘクタールの広域にわたる農薬散布，山林の防火作業，鉱床の発見，送油管の建設，極地探検，救難作業など各種の航空事業を行なっている。わが国とソ連との日ソ航空協定交渉は1958年(昭和33)開始以来9年間難行を続けてきたが，1967年に妥結をみ，同年4月から日本航空*・アエロフロートの共同運航による東京ーモスクワ路線が実現し，1969年3月には日本航空の自主運航によるシベリア航路が開設された。

あえん 【亜鉛】 周期律表第II族に属する金属元素。記号Zn，原子量65.37，原子番号30。天然に単体としては存在せず，硫化物・酸化物として産出する。現在，鉄・アルミニウム・銅に次いで多く使われている金属である。

【性質】青みをおびた銀白色を呈し，金属光沢をもつ。比重7.13(20℃)融点419.5℃，沸点907℃。常温ではもろいが,100～150℃では展性・延性が大きくなり薄板や針金にすることができる。しかし200℃になると，再びもろくなり，粉砕して粉末とすることができる。溶融した亜鉛を水中に注ぐと,不規則な表面をもつ粒状亜鉛が得られる。イオン化傾向が大きく，希酸を加えると水素を発生して容易にとけ，塩を生ずる。また濃アルカリ溶液と熱しても水素を発生してとけ亜鉛酸塩M_2ZnO_2を生ずる。空気中に放置すると，塩基性炭酸塩の薄膜におおわれ，内部がさらに侵されるのを保護する。また空気中で強熱すると，青白い炎を上げて燃え，酸化亜鉛となる。水と煮沸しても変化しないが，赤熱した亜鉛に水蒸気を通すと，水を分解して水素を発生し酸化亜鉛となる。金・銅・鉛などの塩の溶液に亜鉛を入れると，亜鉛は溶解して溶液中にはいり，他の金属は海綿状となって析出する。この性質は金の精錬に利用される。

【生産】原鉱石のおもなものはセンアエン鉱(硫化亜鉛)で，リョウアエン鉱(炭酸亜鉛),イキョク鉱(ケイ酸亜鉛)などもある。わが国には神岡など相当の鉱床がある。まず，浮遊選鉱法*によって亜鉛精鉱(亜鉛50%以上)とする。カドミウムは硫化カドミウムCdSの形でセンアエン鉱に伴い，副産的に回収される。製練法には乾式法(還元揮発製練法)と湿式法(電解法)とがあり，湿式法の方がやや広く行なわれている。

乾式法の原理は，硫化亜鉛精鉱ZnSを焙焼炉で酸化して焼鉱ZnOとし，これをコークスなどの還元剤と共に炉に装入し1000℃以上で加熱・還元して，気化した亜鉛蒸気をコンデンサー(凝縮器)に導いて回収するものである。装置および技術の面から次の数種に分類される。①竪型蒸留法：竪型レトルト(炭化ケイ素煉瓦製反応器)に焼鉱と石炭を混合した団鉱を装入し，マッフル式に外部加熱する連続蒸留法。②電熱蒸留法:円筒型の炉の上下に炭素電極を装着し，装入物(焼鉱とコークス)を直接抵抗加熱する方法。③ISP法：溶鉱炉(ISF)で亜鉛と鉛を同時に製練・分離するのを特徴とする方法などがある。

亜鉛の湿式製練法は金属の電解採取法の代表的な例でありその原理は図に示すように，まず硫化亜鉛を焙焼して酸化亜鉛とし，これを電解尾液(硫酸)に溶解して硫酸亜鉛溶液$ZnSO_4$とする。次に浄液工程で，この水溶液中の鉄・カドミウム・銅・ニッケル・ヒ素・アンチモニーなどの不純物を取り除いた清浄液を電解液とし,アルミニウムを陰極，鉛合金を不溶性陽極として電気分解し，亜鉛を陰極に析出させ，これを剝離(はくり)して低周波電気炉で溶解し製品とする。一般に純度はよく，99.95%以上で，おもな不純物は，鉛・カドミウム・鉄・スズなどである。電解尾液は焼鉱の浸出溶解に循環して使用される。カドミウムは，浄液残渣(ざんさ)を硫酸で再溶解し,亜鉛末で置換沈殿させさらに浄液のあと電解採取される。

【用途】酸にもアルカリにも容易に侵されるが，湿った空気中に置くと耐食性のある薄膜(炭酸亜鉛など)ができ内部を保護するので亜鉛鉄板(トタン板)・亜鉛めっきなどに使われ,また他の金属(銅・アルミニウムなど)と合金をつくりやすく,黄銅・洋白などの合金材，ダイカスト合金，乾電池の極板，写真印刷の亜鉛製版用などに利用される。また，亜鉛の化合物としては，酸化亜鉛(亜鉛華*)が塗料・薬品などに，硫酸亜鉛が目薬・媒染剤・防腐剤に塩化亜鉛は防腐剤，はんだづけのフラックスなどに用いられる。
〔西村文雄・藤瀬直正〕

あえんか 【亜鉛華】 ZnO 酸化亜鉛の別名。製造法には湿式法と乾式法とがある。湿式法は亜鉛塩溶液からつくる方法で，乾式法には亜鉛鉱*から直接亜鉛華をつくるアメリカ法(直接法)と亜鉛鉱から一度金属亜鉛をつくり，これを原料として亜鉛華をつくるフランス法(間接法)とがある。粒子の大きさは約0.5μ，比重は5.4～5.7，屈折率は1.9～2.0で鉛白より被覆力は劣るが，着色力は鉛白*の2倍以上である。毒性はなく，水およびアルコールにはほとんどとけないが，希酸・濃アルカリおよびアンモニア水などにはとける。亜鉛白ともいい，白色顔料として用いられる。紫外線の吸収は白色顔料中最も大きい。塗料用顔料として多量に使用されるほか,印刷用インキ・絵の具・パテ・リノリウム・プラスチック・製紙な

世界の亜鉛生産量　単位1,000t

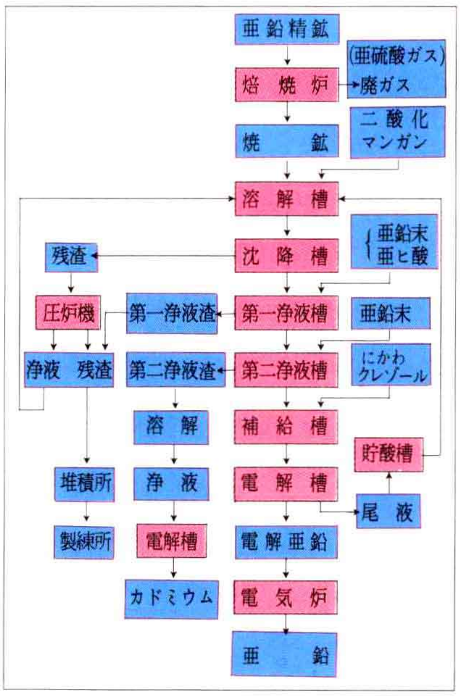
国名＼年度	1978	1979	1980
ソ連	1,055.0	1,085.0	1,085.0
日本	768.0	789.4	739.1
カナダ	495.4	580.5	591.6
アメリカ	441.5	525.7	366.5
西ドイツ	306.8	355.5	365.2
オーストラリア	294.3	309.6	306.0
フランス	231.2	249.0	252.8
ベルギー	232.9	252.6	247.5
ポーランド	222.0	209.0	209.0
イタリア	177.6	202.8	207.3
オランダ	185.3	153.9	169.5
世界合計	6,030.4	6,442.0	6,194.2

世界の亜鉛鉱生産量(金属含有量)　単位1,000t

国名＼年度	1978	1979	1980
カナダ	1,245.2	1,202.6	1,058.7
ソ連	1,030.0	1,020.0	1,020.0
オーストラリア	473.3	531.8	493.8
ペルー	457.5	490.8	486.9
アメリカ	337.0	293.8	344.4
日本	274.6	243.4	238.1
メキシコ	244.9	245.5	236.1
ポーランド	231.0	237.0	237.0
アイルランド	176.0	212.1	228.7
スウェーデン	167.4	169.2	167.4
スペイン	143.2	144.2	167.5
世界合計	6,442.4	6,341.5	6,228.9

注) World Metal Statistics 1981年6月号

亜鉛湿式製錬系統図



どに広く使用されている。また，収斂(しゅうれん)・防腐・保護作用があるため医薬としても用いられ，デンプンを加えた亜鉛華デンプン，植物油と混ぜたチンク油などとして広く外用剤に利用される。近年亜鉛光電特性を利用して電子写真にも用いられるようになった。〔品田 登〕

あえんき 【亜鉛黄】 ⇨ジンククロメート

あえんこう 【亜鉛鉱】 亜鉛の鉱石鉱物としてはセンアエン鉱である。本鉱物は等軸晶系に属し，その化学式はZnSであるが，一般には鉄を含有しており(ZnFe)Sの化学式で表わす。純粋のZnSは亜鉛67.10％イオウ32.90％である。天然におけるセンアエン鉱の鉄の含量の最大は約20％である。また，少量のカドミウム・マンガン・インジウム・カリウム・ゲルマニウムなども含有する。また同じ硫化亜鉛であるが六方晶系に属するウルツ鉱(センイアエン鉱)が亜鉛の鉱石として採掘されていることもある。これら硫化亜鉛は地表近くで風化分解してリョウアエン鉱($ZnCO_3$)，カラミン(H_2O・$2ZnO$・SiO_2)などの白色の比較的重い鉱物となる。採掘された亜鉛鉱の亜鉛の品位はふつう20～4％くらいで，ほかにセキエイその他の鉱物を含んでいるが選鉱して亜鉛含有率を50～60％にして製錬工場に送る。これを焼いて亜鉛の酸化物に変える。これを焼鉱という。焼鉱から乾式製錬法または湿式製錬法により亜鉛を採取する。➔前ページ(表・図) 〔今井秀喜〕

あえんぞくげんそ 【亜鉛族元素】 周期律表第II族に属する元素のうち亜鉛*・カドミウム*・水銀*の3元素の総称。これらの元素は次のように互いによく似た性質を示す。①融点・沸点が比較的低く蒸留しやすい。②いずれも＋2価の原子価をもつ(水銀は＋1価として作用する場合も少なくない)。③水酸化物はアンモニア水によって可溶性の錯塩をつくる。ただし，水銀には安定な水酸化物はないがアンモニアを作用させると錯化合物をつくる。④中性塩は塩基性塩に変化しやすい。⑤炭酸塩は不安定で熱すると酸化物になりやすく，酸化物を還元すれば容易に金属が得られる。⑥硫化物はいずれも水にとけにくい。

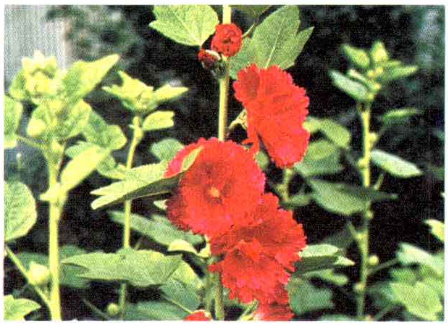
あえんてっぱん 【亜鉛鉄板】 トタン板ともいう。薄鋼板に純良な亜鉛めっきを施したものである。亜鉛自身は大気中または中性溶液中ではほとんど浸食されないが，鉄よりもイオン化傾向*が大きいので，鉄素地が露出した場合には，みずからを犠牲にして鉄素地を保護する作用があり，そのためピンホールとか，傷などの影響を受けることが少ない。値段は安く実用性が大きい。製品には平板と平板に波付加工を施した波板とがある。用途は大半が屋根板・へいなどの建築用で，そのほか農機具・バケツ・雑貨などに使われている。めっきの方法には熱浸法・シェラダイジング法・電気めっき法などがあるが，大半は熱浸法によるものである。〔長谷川正義〕



襖



アオアシシギ



アオイ　タチアオイ

あえんはく 【亜鉛白】 ⇨亜鉛華

あえんまつ 【亜鉛末】 ジンクダストともいう。蒸留亜鉛をつくるときに副産物として生じる灰色の粉末で，約98％の亜鉛金属を含んでいる。粒子の大きさは約0.5～10数μ，比重は約7.6である。強い還元力をもっているので還元剤として用いられ，また鉄に対して電気化学的にさび止め効果がすぐれているのでさび止め塗料*に用いられている。

あえんめっき 【亜鉛鍍金】 金属体の表面を亜鉛で被覆する方法。被処理物の金属体は多くの場合鉄鋼である。処理方法には，一般に次の四つがある。①溶融状態の亜鉛に被処理物を浸漬(しんせき)する溶融めっき，②半溶融状態の亜鉛粒子を吹き付ける溶射法，③電気亜鉛めっき，④乾式亜鉛めっきと俗称する亜鉛浸透法(亜鉛拡散めっき，シェラダイジングともいう)。亜鉛の溶融めっきはガルバナイジングといわれ，広く用いられている。トタン板は溶融亜鉛めっき薄鋼板のことである。板材や線材は連続的にめっきされるが，型鋼や管類は自動めっき装置が開発され，しだいに従来のハンドディップは少なくなった。電気亜鉛めっきは，硫酸亜鉛を主成分とする酸性浴，シアン化亜鉛・シアン化ナトリウムを含有するシアン化亜鉛浴などが用いられるが，前者はつきまわりが悪く電着面が粗雑になりやすい。また，後者は公害の問題を起こしやすいという欠点がある。薄鋼板を連続的に電気亜鉛めっきする方法は開発中である。溶射法による亜鉛めっきは，おもに化学装置，構造物などの補修用に用いられる。亜鉛浸透法は金属体表面から亜鉛を内部に拡散させるもので，寸法変化が比較的少ないという特長があるが，管類(電線用管など)その他特殊部品に限られ，ほとんど溶融めっきに置き換えられた。

亜鉛めっき鋼は耐食性，特に大気中の腐食に対してすぐれた抵抗性がある。亜鉛めっき後，さらにクロム酸に浸漬するクロメート処理を施すと，その耐食性はよりいっそう向上する。〔上田重明〕

あお 【青】 ⇨色

あお 【襖】 直垂*(ひたたれ)に似ているが，胸ひものない上着。中国伝来のもので律令(りつりょう)の服制に採用され，武官の正装と定められ，位階によって色を分けた。袴(はかま)と併用して活動的である。のちの素襖*(すおう)の原形である。奈良時代以後は一般にも普及し，下人・婦女子も着た。なお，闕腋*(けってき)の異称，また狩衣*(かりぎぬ)の別称でもある。

あおあししぎ 【青脚鷸】 鳥類・シギ科。嘴長(しちょう)5～6cm，翼長18～20cm。脚はその名のように灰青色。上面は灰かっ色，下面は白色のじみな色であるが，美しい中形のシギ。ユーラシア大陸北部で繁殖し，アジア側で繁殖するものはニュージーランド・オーストラリアなどに渡って越冬する。わが国には，渡りの途中，干潟(ひがた)や大きな川の河口などに普通に渡来する。鳴き声は〈キョーキョーキョー〉と聞こえ，シギ類中でも特に風情のある音色である。➔シギ 〔安部直哉〕

あおい 【葵】 双子葉植物・アオイ科・アオイ属。アオイという植物名はなく一般にはタチアオイ*またはフユアオイ*をさす。アオイ科の植物は一般に花が大きく観賞用に栽培され，トロロアオイ・ブッソウゲ・フヨウ・ムクゲなどがある。徳川家の家紋であったいわゆる葵の紋の植物はまったく別種であり，ウマノスズクサ科のフタバアオイのことである。また，万葉集の〈あふひ〉はタチアオイのことである。

あおいがい 【葵介】 軟体動物・頭足類・アオイガイ科。カイダコともいう。雌雄で形状がまったく異なり，雌は体長40cmほどで長さ25cmほどの殻(から)をもっており，この殻に産卵し，孵化(ふか)するまで守る。世

界じゅうの温・熱帯海洋の中層を泳いでいる。生きたものを見ることは少ないが，死後，殻が岸に打ち上げられることもある。殻は繊細な模様をもち白色，縁が黒く美しい。雄は殻をもたず小さい(15mmほど)。よく似たものにタコブネ*がある。

あおいし【青石】 青みを呈する庭石。緑ディ片岩。和歌山県紀ノ川下流およびその近海，徳島県・愛媛県などに産出する青石は，それぞれ紀州石・阿波(あわ)石・伊予(いよ)石とよばれている。色は緑，青みがかった紫，それに若干のかっ色のさびがあり，形状も美しく愛用されている。なお，凝灰岩の一種の静岡県伊豆半島に産する緻密(ちみつ)な石質の沢田石は，淡緑色を呈することから青石として知られ，室内装飾や建築物の外装などに用いられる。

あおいととんぼ【青糸蜻蛉】 金緑色をした美しいイトトンボ*の一群。樹陰に多く成虫は水中に産卵せず，水辺の低木の枝や草の茎などに産卵する。日本には5種が産し，成虫越冬するオツネントンボ・ホソミオツネントンボなどとともにアオイトトンボ科をつくる。

あおいとり【青い鳥】 メーテルランク*の童話劇(1908)。6幕12景。貧しいきこりの子ども，チルチルとミチルの兄妹が，クリスマス前夜に見た夢を幻想的な美しさのうちに描く。兄妹は，〈幸福の鳥〉青い鳥を求めて妖精(ようせい)とともに旅をするが，青い鳥は見つからない。夢からさめた兄妹は，自分たちの飼っていた鳥が青い鳥であるのを知る。幸福は身近にあるという寓意(ぐうい)が美しく描きだされ，世界各国で上演された。日本での初演は1920年(大正9)。

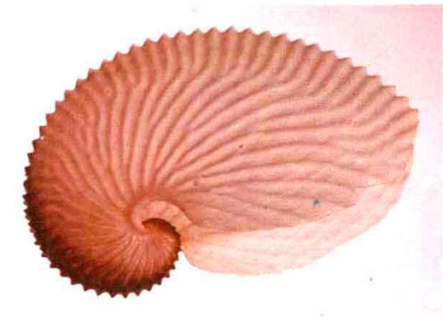
あおいのうえ【葵上】

①《源氏物語*》の作中人物のひとり。時の権威者左大臣の愛娘(まなむすめ)として育ち，16歳で光源氏と結婚，最初の正妻となるが，夫より4歳の年長であった。自尊心が高く〈あまりに麗しき〉資質のために，源氏との仲は冷たかった。10年後にはじめて源氏の長子夕霧を生むが，六条御息所(みやすどころ)の生霊(いきりょう)に苦しめられて死ぬ。〔間野知子〕

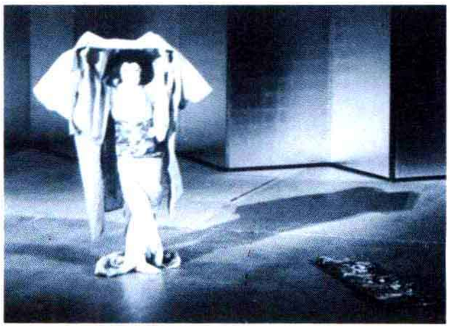
②能の曲名。四番目物。作者不明の古い能で，《源氏物語 葵の巻》に基づく。光源氏の正妻葵上は重病に悩んでいる。巫女(みこ)照日御子(てるひのみこ)に口寄せをしてもらうと，源氏とねんごろだった六条御息所の怨霊(おんりょう)が現われて葵上をさいなむ。横川小聖(こひじり)が呼ばれて祈ると，六条御息所は鬼女の姿となって争うが，結局打ち負かされ，経文の力を賛美して終わる。シテは六条御息所の生霊。シテは中入りせず，舞台の奥で鬼の姿に着替えるのが普通の演出である。シテヅレは照日御子，ワキは横川小聖，ワキヅレは帝(みかど)の臣下，間狂言(あいきょうげん)は小聖を呼びに行く従者。葵上は〈出し小袖(こそで)〉といって人物は出ず，小袖だけを病人の姿になぞらえて舞台に置く。前ジテの見せ場は小袖を中心にツレと争う場面，後ジテは小聖の法力と戦うイノリで，この後ジテは《道成寺》などとともに般若(はんにゃ)の面が最もよく似合う。〔長尾一雄〕

③邦楽曲名。生田流地歌・山田流箏曲(そうきょく)・長唄(ながうた)・河東節・一中節にあり，地唄舞もしばしば行なわれる。いずれも能の《葵上》に基づいてつくられた。山田流箏曲は，語り物的要素と歌い物的要素の交錯する名曲で，奥許*(おくゆるし)の一曲となっている。〔山口 修〕

あおいはな【青い花】 ノバーリス*の代表作(1899)。主人公ハインリヒは夢に〈青い花〉を見てあこがれにかられ，旅に出る。さまざまなできごとにあい，しだいに詩人として成長し，マチルデとの恋愛によってついに世界のいっさいを総合する根源的愛〈青い花〉を見いだす。以来，〈青い花〉は浪漫派文学ないし浪漫的な無限へのあこがれのシンボルとみなされるようになった。



アオイガイ



葵　上　地歌舞《葵上》(神崎ひで演)。終局部で，葵上に対する六条御息所の生霊の嫉妬がしだいにくだけていくくだり

あおいまつり【葵祭】 ⇨賀茂(かも)祭

あおいろしんこく【青色申告】 シャウプ勧告により1950年(昭和25)4月から実施されるようになった申告納税制度*。他の申告と区別するために青色の申告用紙が用いられていることからこの名がある。所得税と法人税に適用され，所得税の場合には，事業所得・不動産所得・山林所得のあるものに限られている。この制度のねらいは帳簿記入の普及とそれに基づく正確な申告，ならびにその帳簿の調査による妥当な更正決定*にある。青色申告を行なうには税務当局の承認を必要とし，所得の計算について所定の帳簿を備え，所定の事項を記載しなければならない。一方，この申告による納税者には次のいくつかの特典が認められている。①更正決定に対する制限・理由の付記，②損金の繰り越し・繰りもどし，③貸し倒れ引当金・価格変動準備金・特別修繕引当金の損金算入，④固定資産の耐用年数短縮・増加償却，⑤新規重要物産の製造などから生ずる所得の免税，⑥家族従業員給与・家事関係費の必要経費算入。〔西野義彦〕

あおうきくさ【青萍】 双子葉植物・ウキクサ科の多年生草本。水田や池の表面をおおい，平らで葉と茎の区別がない。大きさ2～5mm，下面中央から1本の根を出し，花は白色，秋に出た芽は水底で冬を越す。

あおうどうでんぜん【亜欧堂田善】(1748～1822) 江戸後期の洋画家。姓は永田(ながた)・俗称は善吉，略して田善と称した。岩代(いわしろ)(福島県)須賀川(すかがわ)の生まれ。はじめ画僧月僊(げっせん)に学び，のち松平定信(さだのぶ)の知遇を得てから谷文晁(ぶんちょう)に師事。銅版画の制作に意欲を注ぎ，独特の技法を考案した。亜欧堂の号は，1810年(文化7)に幕府の天文方高橋景保(かげやす)編《新訂万国全図》の銅版作図を完成したとき，定信から与えられた。作品には蘭画(らんが)の模刻，江戸名所図を写した銅版画，肉筆画の大作《浅間山真景図屏風(びょうぶ)》などがある。〔小林 忠〕



亜欧堂田善《浅間山真景図屛風》 東京国立博物館蔵

あおうまのせちえ 【白馬節会】 正月7日，左右馬寮(さうめりょう)から馬21頭を引き出し，平安初期には豊楽殿，のち紫宸殿(ししんでん)の庭で天皇の御覧にいれてのち，諸臣に宴を賜わる儀式。この日に青馬を見ると年中の邪気を払うという中国の故事による。奈良時代ごろから行なわれ，平安時代に特に盛んであった。その後，江戸時代まで継続的に行なわれた。古くは青馬(黒いつやのある馬)を用いたが，のち白馬にかわった。

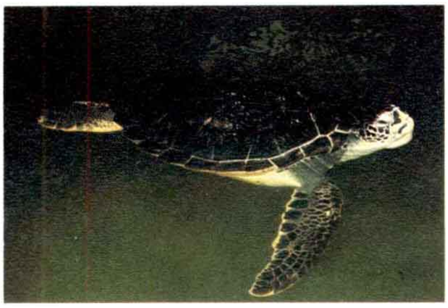
あおうみがめ 【青海亀】 爬虫(はちゅう)類・ウミガメ科の代表種。ショウカクボウ(正覚坊)ともいう。太平洋・インド洋・大西洋に分布。アマモなどの海草が豊富にある熱帯の浅い海にすみ，海草のほかに軟体動物・甲殻(こうかく)類などをも捕食する。甲長140cm，背面は青みをおびた黒色で，腹面は黄白色。餌場(えさば)と産卵場所との間を移動するが，産卵期は場所によって異なる。砂浜に上陸し直径4～5cmくらいの球形卵を60～200個くらい産む。肉とスープは美味。数が減り保護を要する。 〔松井孝爾〕

あおおさむし 【青歩行虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長30～50mm。体背面は金緑色ないし銅赤色で，産地によって色彩にいくぶん変異がみられる。本州中部以北に分布する普通種。肉食で，おもにこん虫類の幼虫や小動物などを捕食する。冬季は土中にもぐって成虫で越冬する。本州中部以南には近縁で全体黒色ないし藍紫(らんし)色のオオオサムシが産する。

あおがい 【青貝】 軟体動物・腹足類。長さ3cm，高さ1cmほどのかさ形の貝で，磯(いそ)の岩にぴったりはりついている。殻(から)の表面は茶かっ色だが，裏面が青いためこの名がついた。本州以南，台湾・中国に分布する。なお，水貝として食通にとうとばれるクロアワビもアオガイとよばれる。

あおがえる 【青蛙】 両生類・アオガエル科。日本・中国・台湾・東南アジアに広く分布し，100種以上が知られている。あわ状の卵塊を産むが，種類によって産卵状態が異なる。琉球(りゅうきゅう)列島に3亜種が分布するが，雌の体長は60～70mmに達する大形。樹上性で水辺に産卵。

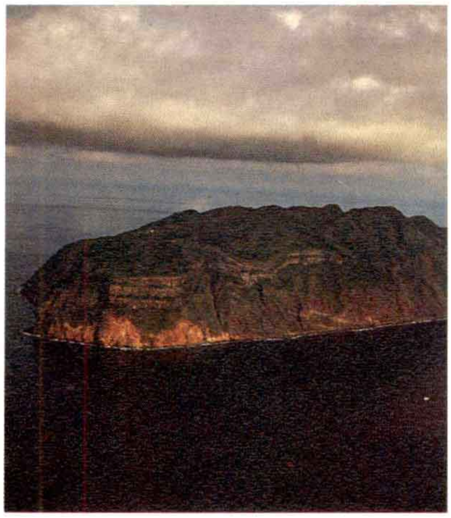
あおがしま 【青ケ島】 伊豆(いず)諸島の最南端の火山島。東京から360km，八丈島から65km南方の洋上にある。面積5.2km^2，人口185。人口は明治時代には750あったが，大正にはいってから減少する一方で，最近は青少年層の流出が特に激しくなっている。東京都八丈島支庁青ケ島村に属し，1島1村である。幼年期の二重式火山で，外輪山壁には噴気孔がある。中央火口丘の丸山の高さは223mで，最高点は外輪山の大凸部(おおとつぶ)の423mである。北部の山すそに休戸(やすんど)と西郷の2部落があり，1戸あたり約50アールの耕地にサツマイモ・サトイモ・陸稲などをつくり，米が配給になるまではカンモとよばれるサツマイモを主食



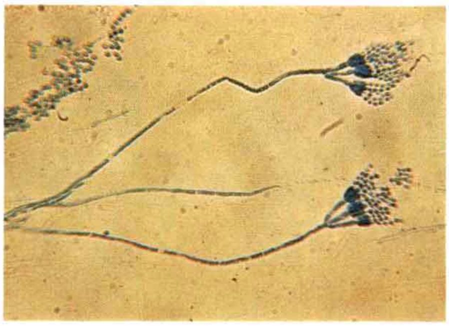
アオウミガメ



アオガエル
アマミアオガエル



青ケ島



アオカビ (*Penicirium notatum*)

としていた。乳牛・役牛を飼い，製炭をしてそれが現金収入源となっていたが，いまはともに不振である。また近くにカツオの好漁場がありながら，漁船も港もないので出漁できず，失業対策の土木事業が生活の大きなささえとなっている。島のまわりは高さ100～200mの絶壁で，北に神子(みこ)の浦，南に三宝という岩陰を利用した船着き場があり，八丈島から月に1回定期船が延航してくる。しかし，冬は荒天のためにはしけが出せず，本船は沖合いまで来ながら引き返すことが多い。1785年(天明5)に大噴火して，130～140名の死者を出し，生き残った203名は八丈島へのがれたが，1817年(文化14)から1834年(天保5)までの間に全員241名がまた島へもどった。このときの名主の次郎大夫(じろうだゆう)は，八丈島へ逃げのびたときは15歳の少年であったが，64歳になっていた。 〔浅井得一〕

あおかび 【青黴】 一般的には青色のかびの総称ともなっているが，学問的にはペニシリウム属のかびをさす。ペニシリウム属のかびは基質上を横に伸びる匍匐(ほふく)菌糸より垂直に伸びる分生胞子柄ができ，その先端にほうき状の梗子(こうし)(胞子形成器官)ができ，先に分生胞子をつくる。アオカビの名のとおり青色のものが多いが，白色・緑色・黄色などがある。不完全菌類に属するが，有性世代が発見されたものは子嚢(しのう)菌類となる。アオカビの一種はペニシリンを生産することで有名である。このほかいろいろの抗生物質を生産し利用される。反対に病変米(黄変米)の原因となる種類もある。 〔曽根田正己〕

あおがりしりょう 【青刈り飼料】 家畜は牧草または野草のはえた土地に放牧するのが最も自然的で，かつ理想的な方法であるが，広い面積が必要である。そこで放牧面積が少なく人口の多い地方では放牧法は困難となり，なるべく自然に近い方法が考えられ，牧草・野草を刈って与えたりするほか種実などの利用できる作物の茎葉を飼料用に栽培し，結実などのまえに刈り取って生草のまま与えて家畜を飼育する。これを青刈り飼料という。この目的で栽培される作物は，イネ科ではライムギ・オオムギ・エンバク・ソルゴー・テオシント・トウモロコシ・パールミレット・ヒエなど，マメ科ではダイズ・ソラマメなど，その他の科のものではヒマワリ・キクイモ・レープなどがある。1年じゅう平均して家畜に青物が与えられるように，栄養分がかたよらないように，いろいろの作物を組み合わせて栽培する。 〔勝木辰男〕

あおがれびょう 【青枯れ病】 夏の高温期(気温20℃以上)に排水不良の畑で，トマト・ナス・ジャガイモ・タバコなどの茎・葉が緑色を保ったまま急激にしおれる病気。被害茎を切断すると，維管束が褐変(かっぺん)し，道管から乳白色の汁液(じゅうえき)(細菌の集団)を分泌する。病原細菌は長く土中に生存し，根や茎の傷口から侵入する。防除困難な土壌(どじょう)伝染病で，輪作，苗床・畑の土壌消毒，排水をよくすることなどで予

防する。　　　　　　　　　〔渡辺　実〕

あおき【青木】双子葉植物・ミズキ科。庭木として植えられる常緑低木。高さ1.5～3m。全体に無毛で，葉は有柄で暗緑色，対生で荒い鋸歯(きょし)があり，長さ8～20cm，幅2～10cm，かわくと黒色となる。枝は緑色，折ると少し臭い。淡黄色の托葉(たくよう)は早脱する。雌雄異株。3～5月に花をつける。雄花は4本のおしべをもち多数枝先に集まり，10cm内外の円錐(えんすい)花序をなす。雌花は1本のめしべがあり数花集まって2cmぐらいの円錐花序をなす。12月から翌年の4月に1.5～2cmの表面に光沢のある果実が赤熟するが，黄熟するもの(キミノアオキ)もある。葉が斑(ふ)入りのもの，細長いもの，丸いものなど種々の園芸品種がある。民間では葉をあぶったものをすり傷ややけどの治療に用いることがある。

〔加藤僖重〕

あおきがはら【青木ケ原】富士山の北西麓(ろく)にある原野。海抜1,200～1,000mで，一帯には青木ケ原樹海とよばれる広い原生林が広がる。9世紀の中ごろ富士山の噴火で流出した青木ケ原丸尾(まるび)とよばれる溶岩流でおおわれており，この溶岩流は御坂山地との間に凹地(くぼち)をつくったが，それらが現在，西湖・精進湖(しょうじこ)・本栖湖(もとすこ)として残されている。

あおきこ【青木湖】長野県大町市の北東端にある湖。面積1.8km²，最大深度59m。南にある中綱湖・木崎湖と小川で結ばれ，中世のこの地方の地名から仁科(にしな)三湖とよばれる。ともに断層湖である。水面の海抜は822mで，高山と美しい森林の静かな環境に恵まれている。国道148号線に沿い，大糸線簗場(やなば)駅から近く，近年付近は夏の保養地となっている。

あおきこんよう【青木昆陽】(1698～1769)江戸中期の儒学者・蘭学者(らんがくしゃ)。名は敦書(あつぶみ)。江戸の人。伊藤東涯*(いとうとうがい)について古義学を学んだが，経義文章の究明よりもむしろ実学を重んじた。《蕃薯考(ばんしょこう)》を著わして救荒食物として甘藷(かんしょ)の栽培を奨励し，甘藷先生とよばれた。のち幕府の書物方として，関東・東海の古文書を調査収集した。また将軍吉宗(よしむね)の命によって野呂(のろ)元丈とともにオランダ語を研究し，《解体新書》を訳した杉田(すぎた)玄白*らに影響を与えた。〔熊谷保孝〕

あおきしげる【青木繁】(1882～1911)明治末期の洋画家。福岡県久留米(くるめ)市の生まれ。1899年(明治32)中学を中退して上京，小山正太郎*の不同舎に学び，翌年東京美術学校に入学，1904年に卒業，同年の〈白馬会〉展に《海の幸(さち)》を発表，装飾的構図に強烈なロマン的詩情を表わして注目され，1907年には《わだつみのいろこの宮》を東京府勧業博覧会に出品して入賞した。しかし以後は，強い個性と家庭の不幸な事情などから九州各地を流浪し，不遇のうちに夭折(ようせつ)した。　　　　〔陰里鉄郎〕

あおきしは【青騎士派】カンジンスキー・マルク・ミュンター・クビンらによるドイツ表現主義絵画の一つの派。1911年ミュンヘンの新芸術家協会の分裂に際して，絵画の主観的表現をめざして組織された。キルヒナーを中心とするドレスデンの橋派*と並んで，初期の表現主義運動(→表現主義)の中心を形成し，のちにはクレー・ヤウレンスキー・マッケらの参加があり，青騎士展にはフランスのキュービスム*・フォービスム*の画家も出品したが，1914年，第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によってわずか数年で解散するに至った。この派の運動の特徴は，いわゆる写実主義を放棄して芸術家各自の内的必然性を重んじたことにあった。ことにカンジンスキーは，音楽的・精神的表現に基づく純粋絵画(→アブストラクト・アート)への道を切り開き，1912年に第1輯(しゅう)のみが刊行された年鑑誌《青騎士》とともに，現代絵画に果たした役割は大きい。

〔子安三喜男〕

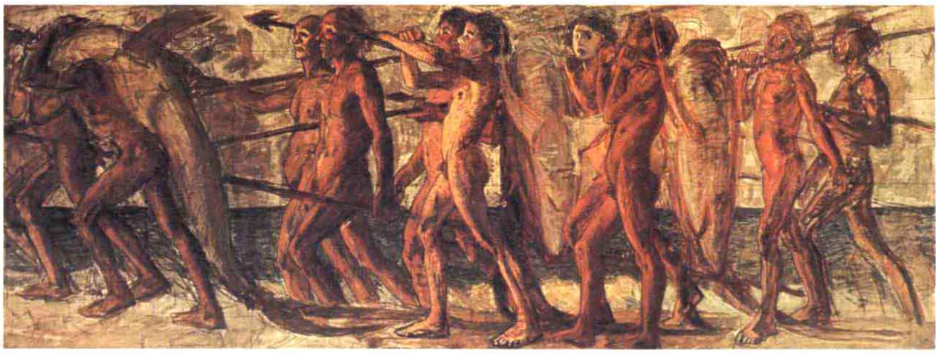


アオキ

あおきしゅうぞう【青木周蔵】(1844～1914)外交官。長州(山口県)の村医三浦玄仲の長子。青木研蔵の養子となり，1868年(慶応4)藩費でドイツに留学，政治・法律を学んで1874年(明治7)ドイツ公使を皮切りに，外務次官・大臣など明治外交に重要な働きをなした。1891年松方内閣の外務大臣在任中大津事件*が起こって，引責辞職した。1894年イギリス公使のとき日英通商航海条約*の調印に成功。子爵・枢密顧問官。

あおきもくべい【青木木米】(1767～1833)江戸後期の陶工・南画家。幼名八十八(やそはち)，通称木屋佐兵衛(さへえ)，字(あざな)青来。号の木米は氏と名を合わせているが，中年に耳を病み聾米(ろうべい)ともいい，ほかに九々鱗(くくりん)・古器観などともいう。京都の料亭(りょうてい)の生まれで，奥田穎川(えいせん)門の名工として知られ，作品は染め付け，青磁の技法による煎茶器(せんちゃき)を主とする。近年は文人画家としての評価が高く，藍(あい)と代赭(たいしゃ)を淡く彩色する，いわゆる浅絳(せんこう)山水が得意で《兎道朝暾図(うじちょうとんず)》《鷹寿南星図(せんじゅなんせいず)》などの名作を残した。独特のつやをもつ色彩や奇抜な構図に陶工木米の面目がある。また，《陶説*》の翻刻もなした。　　　　〔小林　忠〕

あおぎり【青桐・梧桐】双子葉植物・アオギリ科。中国原産の10mほどになる落葉高木。街路樹・庭木として用いられる。幹や枝が緑色，枝は先端でも細くならない。冬芽に茶かっ色の短毛が密生する。葉は長



青木　繁　《海の幸》　1904　ブリヂストン美術館蔵



青木木米
《兎道朝暾図》　1824

い柄をもち，大形で3～5裂し，表面は無毛，裏面は脈に沿って茶かっ色の毛がある。雌雄同株。6～7月に枝の先端に大きな円錐(えんすい)花序をつける。がく片5，花弁0，おしべは15本が1本に合着する。めしべは5裂した柱頭をもつ。9～10月に果実は熟すまえに4裂開し，縁に2～3個のえんどう豆のような種子をつける。材は家具・楽器として用いられ，樹皮から採れる粘液は製紙用ののり，繊維はなわに利用される。〔加藤僖重〕

あおくさかめむし【青臭亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長14～16mm。全体一様につやの少ない鮮緑色であるが，まれに前胸背の前半が淡かっ色のものがある。日本各地に広く分布し，ダイズ・アワ・ナスなど各種の作物に害を与える。年2回発生し，成虫で越冬する。夏季燈火によく集まる。

あおくびあひる【青首鶩】日本在来のアヒル*の中で最も古いもので，中国から輸入されたものを中心に改良された。雌はかっ色，雄は青い首とかっ色の羽をもち，体重は雄3.7kg，雌3.4kg。肉は美味であるが，産卵数は少ない。

あおげばとうとし【仰げば尊し】1884年(明治17)刊行の《小学唱歌集*》に収められた歌。作詞者不詳。歌詞は卒業する生徒の恩師への感謝を表わしている。《蛍(ほたる)の光*》などとともに，今日でもよく歌われる。旋律はスコットランド民謡で，長調7音音階。当時としては珍しい8分の6拍子である。

あおげら【緑啄木鳥】鳥類・キツツキ科。全長30cm近いキツツキ*の一種。緑色で頭頂が赤い。日本の本州以南にのみ産し，天然林では普通にみられる。北海道にはこれによく似たヤマゲラがすむが，これはヨーロッパに達する広い分布域をもつ。

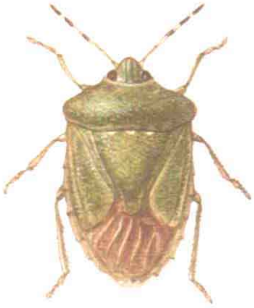
あおこ【青粉】春から秋にかけ，湖沼の水面を青藍(せいらん)色におおう藍藻(らんそう)類の異常増殖現象。比較的浅い，栄養塩濃度の高い湖沼で，ミクロキスティス・アナベナ・アファノカプサなどに属する藍藻が大量に増殖する。活発な増殖期に水面に浮上し，高い光合成速度を示す。有毒物質を蓄積し，水鳥や水を飲みにきた陸上動物を殺すことがある。なお，春さきや秋に湖水を緑色に変える植物プランクトンの増殖(水の華*(はな))をも青粉とよぶことがある。

あおごみむし【青芥虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシ科の一群。色彩は変化に富み，全世界にきわめて多くの種類が分布し，日本にも数十種が知られる。畑地や川原などに多く，ごみや石の下に潜み，夜活動して他の小こん虫を捕食する。攻撃されると一種の悪臭を発する。

あおさ【石蓴】緑藻(りょくそう)植物・アオサ科・アオサ属の総称。浅い海に生じ，大形で穴のあいているアナアオサ，小形で高



アオギリ



アオクサカメムシ



アオサ



アオザイ



アオジ

潮線付近に生ずるボタンアオサなどがわが国各地でみられる。2層の細胞からなる膜状体で，外見的には区別できない二つの世代がある。つまり2べん毛の配偶子を生ずるもの(配偶体，単相)と，4べん毛の遊走子により繁殖するもの(胞子体，複相)が同形である。多量にとれるところでは肥料や飼料とする。苦みがあり食用には向かない。

アオザイ ベトナムの婦人用民族衣装。アオは着物，ザイは長いの意味。上着は立ちえり・長そで・長すそで，両側面と背面に深い切れ込みがある。上着の下に，クワンというズボンをはくので，クワンアオともよぶ。材料は絹または人絹。長衣の形は，中国の婦人服旗袍(チーパオ)の影響を受けている。

あおさぎ【青鷺】鳥類・サギ科。上背面は灰色，翼上面は青黒色，後頭に長い青黒色の飾り羽がある。下面は白色で，首にかっ色縦斑(じゅうはん)がある。立っているときには120～130cmあり，翼開長は約1.5m。わが国に生息するサギ*では最大である。集団で樹上で営巣する。繁殖期の成鳥は特に美しく，一般の人はツルやコウノトリとよくまちがえることがある。

あおさぶらい【青侍】六位の袍*(ほう)(衣冠束帯に用いる上着)の色が青であることから公卿(くぎょう)家に仕える六位の侍をさすとの説もあるが，《中右記*》には〈青侍は未熟の義なり〉とし，熟さないくだものの青色にたとえてあり，《宇治拾遺物語*》では父母も主人もない独身の侍を青侍といっている。

あおざめ【青鮫】軟骨魚類・アオザメ科。7mほどになるサメ。その名のとおり藍色(あいいろ)で腹側はやや色が薄い。いかにもサメらしく軽快な姿だが，性質が荒く人食いザメの一つに数えられ，恐れられている。全世界の暖かい外洋を泳ぎ回り，日本では本州中部以南にいる。かまぼこ原料としてすぐれている。胎生魚。

あおじ【青鵐】鳥類・ホオジロ科。全長約16cmの小鳥。上面暗緑かっ色，下面淡黄色。アジアの東北部に分布し，わが国では中部地方の高原から北海道の平地にかけて繁殖し，冬季は本州以南の平地へ渡来する。→ホオジロ

あおしま【青島】宮崎県南部の太平洋岸にある周囲約1.2kmの小さな陸繋島(りくけいとう)で，対岸から弥生(やよい)橋がかかっているが，干潮のときは歩いて行ける。宮崎市に属し，市街から南方約15kmにあり，日南線青島駅が近く，バス交通もよく発達している。島の周囲は，第三紀新層の柔らかい砂岩とかたいケツ岩の互層が，海食によって細かい波状地形をなしていて珍しく，〈鬼のせんたく板〉とよばれている。またビロウをはじめ，74科226種の亜熱帯植物が密生し，青島亜熱帯性植物群落として特別天然記念物に指定されている。縁結びと厄(やく)よけの神である青島神社があり，四季を通



青　島　上空から見た青島の全景。島は熱帯性の自然林でおおわれ，周囲は〈鬼のせんたく板〉といわれる波状の岩で取り巻かれている。砂岩と泥岩の互層が波食によって砂岩だけが残った

じて観光客が多い。日南海岸国定公園に属している。〔浅井得一〕

あおじゃしん【青写真】鉄塩の感光性を利用した写真法。シアノタイプまたは鉄写真法ともいう。この方法で複製した設計図面をさす場合もある。クエン酸第二鉄アンモニウム水溶液を紙に塗布乾燥すると感光紙となる。光のあたった部分は3価の鉄が還元されて2価の鉄となり，フェリシアン化カリウム*で現像するとタンブルブルーの沈殿ができて，原図の黒線は青地に白線の像となる(白線法)。またフェロシアン化カリウム*で現像すると，光のあたらない部分にベルリン青の沈殿が生じ，白地に青線の像となる(青線法)。実際にはあらかじめ暗所で感光液と現像液を混合塗布し乾燥して感光紙とする。感光紙に原稿図面を重ねて日光に数分あて，酸および水で洗って定着し，かわかして仕上げる。安価で正確なため工作図面・設計図面などの複製に広く用いられている。〔竹下三吉〕

あおすじあげは【青条揚羽】こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70～90mmで，黒色の地に淡青色の帯状の紋が縦に走っている。飛び方は活発で，ヤブカラシ・ネギなどの花や湿地，獣糞(じゅうふん)などに好んで集まる。年2～4回発生。幼虫はクスノキ科植物の葉を食べる。本州中部以南の東アジア一帯に広く分布する。➔アゲハチョウ



アオダイショウ

あおだいしょう【青大将】爬虫(はちゅう)類・ヘビ科。日本本土産のヘビ類の最大種で，体長2.5mに達する。北海道・本州・四国・九州に分布し，平地の耕作地や人家付近に多い。人家や倉庫にはいってネズミ類を捕食するので有益。しかし小鳥やその卵を食べることもある。



青砥稿花紅彩画　浜松屋の場。たんかをきる弁天小僧(中村勘三郎)と南郷力丸(守田勘弥)

あおたけいろ【青竹色】色名。青々としたタケのような色。青みの緑。わが国では，古くから青という名称で藍色(あいいろ)系統の色と緑色系統の色を表わしてきたが，青竹色という場合は，藍色がかったタケの色という意味ではなく，青竹，すなわち緑色のタケのような色をさし，緑青(ろくしょう)色*と同じ色である。青竹色に対し，古いすすけたタケの色を煤竹(すすたけ)色といい，青竹色よりもやや緑みの多い色に老竹色がある。近年になって流行した新橋色は，青竹色のやや青みの多い色をさしている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈青竹色〉は，色相2.5BG，明度5.0，彩度6.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

あおだち【青立ち】イネが冷害にあって登熟あるいは出穂できずに緑を保ったままで枯れてしまう現象。冷害がイネの生育初期にくれば生育は遅延し，出穂せぬまま青立ちとなる。また早く秋冷がくれば登熟できぬまま青立ちとなる。旱魃(かんばつ)ののち雨にあうと，イネは普通に生育することがあるが出穂できぬことが多い。このときは旱(ひでり)青立ちといって，普通の青立ちと区別して扱う。

あおたばいばい【青田売買】イネの収穫前に収穫を見越して青田のまま売買することをいう。これは1930年(昭和5)に始まる農業恐慌*期に，窮迫した農民が早急に現金を入手するために広く行なわれたもので，農民の経済的貧困と農村の金融の不備によるものであり，しばしば農民に不利な条件で売買され社会問題とされていた。なお，現在〈青田刈り〉ということばは，1955年以降の日本経済の著しい経済成長の中で，若年新規労働力の不足が顕著となり，新規労働力確保のため企業側で学生・生徒が卒業する以前に採用を早期に内定するようになってきていることをさして用いられている。〔高山隆三〕

あおとぞうしはなのにしきえ【青砥稿花紅彩画】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《白浪五人男(しらなみごにんおとこ)》《弁天小僧》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1862年(文久2)市村座初演。3世歌川豊国(とよくに)の錦絵(にしきえ)から構想を立て，日本駄右衛門(だえもん)・南郷力丸・赤星重三(じゅうざ)・忠信(ただのぶ)利平・弁天小僧菊之助の5人の盗賊の活躍を描いた世話物。武家の娘に化けた弁天小僧が正体を見破られ，裸になって〈知らざあ言って聞かしやしょう〉と名せりふでたんかをきる〈浜松屋〉の場面，5人が勢ぞろいする〈稲瀬(いなせ)川〉の場面はことに人気があり，しばしば上演される。〔松井俊諭〕

あおナイル【青ナイル】⇨ナイル川

あおに【青煮】青いものの色を保つように煮る調理法。調味料の色がつかないように仕上げ，材料にはフキ・サヤエンドウ・サヤインゲン・ワラビ・青菜類などあり，代表的なのがフキの青煮である。フキを長いまま熱湯に塩を入れた中でさっとゆで，水にさらし皮をむく。濃い煮出しじるに砂糖・塩・薄口しょうゆ・酒・化学調味料などを加え，煮立ったときフキを入れ，一度煮立たせてすぐおろし，しると材料を別々に手早くさまし，再びさめたしるの中に材

料を入れて含ませる。〔塩川ふみ〕

あおねおんせん【青根温泉】宮城県柴田(しばた)郡川崎町にある温泉。蔵王(ざおう)山の東斜面，高さ500mの所にあり，蔵王国定公園に属する。泉温54℃の単純泉。金華(きんか)山まで展望でき，けしきが雄大でまた蔵王登山の基地として夏も冬もにぎわう。伊達(だて)藩主代々の湯治場であった。

あおねこ【青猫】萩原朔太郎*(はぎわらさくたろう)の詩55編のほか詩論1編を収めた第2詩集。1923年(大正12)刊。自序に〈青猫〉は〈物憂(ものう)げなる猫〉の意味であるというとおり，一巻を貫く情緒は詩人の生理的・心理的ゆううつ感である。内面に漂う人生の倦怠感(けんたいかん)，思索につきまとう憂愁感をなめらかな口語自由律でうたい，日本語の響きを生かした独自の音楽美をつくりだした。

あおのすえきち【青野季吉】(1890～1961) 文芸評論家。新潟県佐渡に生まれた。早稲田(わせだ)大学英文科卒業。はじめ左翼運動に投じ，1922年(大正11)《心霊の滅亡》によって評論家として立ち，《種蒔(ま)く人*》《文芸戦線*》などでプロレタリア文学運動の理論的指導者として活躍，その分裂・抗争・結合の中で一貫して山川均*(ひとし)らの労農派*を支持したが，1938年(昭和13)人民戦線事件で入獄後に転向した。第2次世界大戦後は幅の広い民主主義活動を行なった。主要著書に《現代文学論》《解放の芸術》《転換期の文学》などがある。〔三浦 仁〕

あおのどうもん【青ノ洞門】大分県下毛郡本耶馬溪(ほんやばけい)町にある名所。18世紀中ごろ，ここを通りかかった旅僧禅海が通行者を苦しめていた鎖渡しの難所を解消するため，村人の嘲笑(ちょうしょう)をよそに30年の年月を費やしてうがったといわれる通路。現在は約200mのトンネルの横に，記念として旧態をとどめるにすぎないが，付近は広大な溶岩台地が山国川に侵食されて渓谷や岩壁の美観を呈している。江戸中期の地理学者古川古松軒の《西遊雑記》にみえ，菊池寛の小説《恩讐(おんしゅう)の彼方(かなた)に》は禅海の偉業を書いたものである。〔菊池万雄〕



青ノ洞門 本耶馬溪町の山国川右岸にあり，国道212号線が通る。洞門の一部には僧禅海が独力で掘り抜いたと伝えられる部分も残っている

あおのやま【青野山】島根県の南西隅(ぐう)に位置する火山。標高908m。安山岩からなる鐘状の山容をもち，山体はあまり侵食が進んでいない。付近には三つの小寄生火山がある。

あおのり【青海苔】緑藻(りょくそう)植物・アオサ科・アオノリ属の総称。河口や汽水の入り江に生ずる大形のスジアオノリ，アサクサノリと混生するウスバアオノリ，淡水のカワアオノリなど。1層の細胞からなり，管状で，細かく枝分かれするものが多い。アオサと同じ形式の世代交代*をする。のりひびや船底についてきらわれるが，かおりがよいため食用とされる。製品には，ひもにかけて干した掛け青のり，すいたすき青のり，粉にした粉青のりがあり，ふりかけや薬味とする。紙にすきこんでふすま紙などとすることもある。



アオノリ



アオバアリガタハネカクシ



アオバセセリ



アオバト

あおばありがたはねかくし【青翅蟻形隠翅虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハネカクシ科。幼虫は水田や湿地の地表面で生活する。成虫は体長約7㎜，頭部は黒色，胸部がだいだい色，翅(はね)が青藍(せいらん)色。形がアリに似ているのでこの名がある。7月ごろに多く，夜間に燈火によく集まる。卵・幼虫・さなぎ・成虫を通じて体液中にペデリンという毒物を含み，これが人の皮膚につくと水ぶくれができる。発生源が広大であり，駆除の決め手はないため，防虫網を張って屋内に虫を入れないようにする。また，虫を見つけたらつぶさないで処分する。〔鈴木 猛〕

あおばじょう【青葉城】⇨仙台(せんだい)城

あおばずく【青葉木菟・緑葉梟】鳥類・フクロウ科。全長30cmくらいの中形のフクロウ*の一種でアジアの東南部に広く分布する。ズクという名をもつが，いわゆる耳はない。〈ホウ・ホウ〉と2声ずつ聞こえる鳴き声は5月から7月にかけての夜の音としてよく知られている。主食はこん虫。夏鳥。

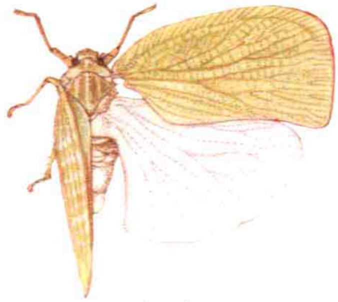
あおばせせり【青翅挵蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科の最大形種。翅(はね)を広げた長さ45～55㎜。暗緑色で後翅の後縁角のみだいだい色。成虫は低山地の谷川や湿地帯を好み敏速に飛ぶ。幼虫はアワブキの葉を食する。北海道を除く日本各地をはじめ東アジア一帯に広く分布する。年2回発生。

あおばと【緑鳩】鳥類・ハト科。全長32～33cm。ほぼ全身緑色で天然林にすむ。〈オアーオ・アーオ・アーオ〉と聞こえる声で鳴き，そのためシャクハチバトの異名がある。北海道から台湾を経てベトナムまで分布している。➔ハト

あおばのふえものがたり【青葉の笛物語】御伽(おとぎ)草子*。別名《仁明(にんみょう)天皇物語》。法華経(ほけきょう)読誦(どくしょう)の功を積ん

だ在原業平（ありわらのなりひら）が，笛を吹く美しい稚児（ちご）に導かれて箕面（みのお）山に至り，青葉のついた笛をもらって帰り，仁明天皇に奉った。のち業平はめでたく栄えたという物語。法華経の功徳を中心とした音楽霊験談。《神道集（しんとうしゅう）》の第18話，《諏訪（すわ）の大明神の五月会（さつきえ）の事》はこの物語の原拠。〔信太　周〕

あおばはごろも【青翅羽衣】こん虫類・半翅（はんし）目・アオバハゴロモ科。体長5.5～7㎜。翅（はね）を広げた長さ18～22㎜。体は淡緑色で死後は黄かっ色になる。後翅は乳白色。関東地方以西に普通にみられる。夏季クズなどに多数の個体が集まっているのがしばしば観察されるが，ときにクワ・チャ，各種の果樹などの若芽を吸液して加害することがある。



アオバハゴロモ

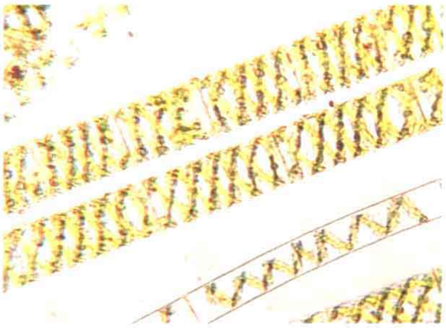
あおふどう【青不動】青蓮院*（しょうれんいん）に伝わる画像。正しくは不動明王二童子像といい，平安時代の制作。全身が群青（ぐんじょう）で青色に塗られていることから俗称されている。岩上に座して二童子を従え，高野山の《赤不動*》，園城（おんじょう）寺の《黄不動*》とともに三不動として知られる。国宝。密教画の代表作。



青　本

あおほん【青本】草双紙*の一。赤本*の発展したもの。表紙が萌黄（もえぎ）色のためこの名がついた。1740年（延享1）ごろから出版された。体裁・内容ともに黒本*と同じで，表紙の色だけが異なる。当時流行した浄瑠璃（じょうるり）・歌舞伎（かぶき）・軍記・巷談（こうだん）を翻案・簡略化した内容が多く，文章は赤本よりもやや細かい。代表的作者は富川房信（ふさのぶ）（吟雪）・鳥居清経（きよつね）・鳥居清満ら。

あおみどろ【水綿】緑藻（りょくそう）植物・ホシミドロ科・アオミドロ属の藻類。濁っていないたまり水や池・水田・谷川などの淡水に広くみられる。水中に浮きまたは石などにつき，種類が多い。一列細胞の糸状体で枝分かれしない。1ないし数本のらせん形の葉緑体があるのが特徴。細胞分裂によって糸状体が伸び，切断されて繁殖する。環境条件が悪くなると接合子をつくり休眠する。異性の糸状体が接近すると双方から接合管を出して連結し，雄の糸状体の細胞内容が雌のほうへ移動し，そこで接合子がつくられる。これをすきこんだ手すき和紙はのり紙とよばれ，ふすま・びんせんなどに用いられる。



アオミドロ

あおむし【青虫】モンシロチョウの幼虫を俗に青虫または菜の青虫という。また，イネの害虫フタオビコヤガの幼虫をさしてイネの青虫とよぶことがある。さらに鱗翅（りんし）目*の幼虫のうち体毛が少なく緑色のものは総称して青虫とよばれる。

あおむしこまゆばち【青虫小繭蜂】こん虫類・膜翅（まくし）目・コマユバチ科の微小種。体長3㎜内外。黒色。モンシロチョウの幼虫（青虫）の有力な天敵の一つで，その体内に寄生し，老熟すると寄主の体壁を破って脱出し，淡黄色長楕円（ちょうだえん）形の小さな繭をつくる。このために，寄主はさなぎになれずに死ぬ。日本からヨーロッパに至る各地に広く分布する。



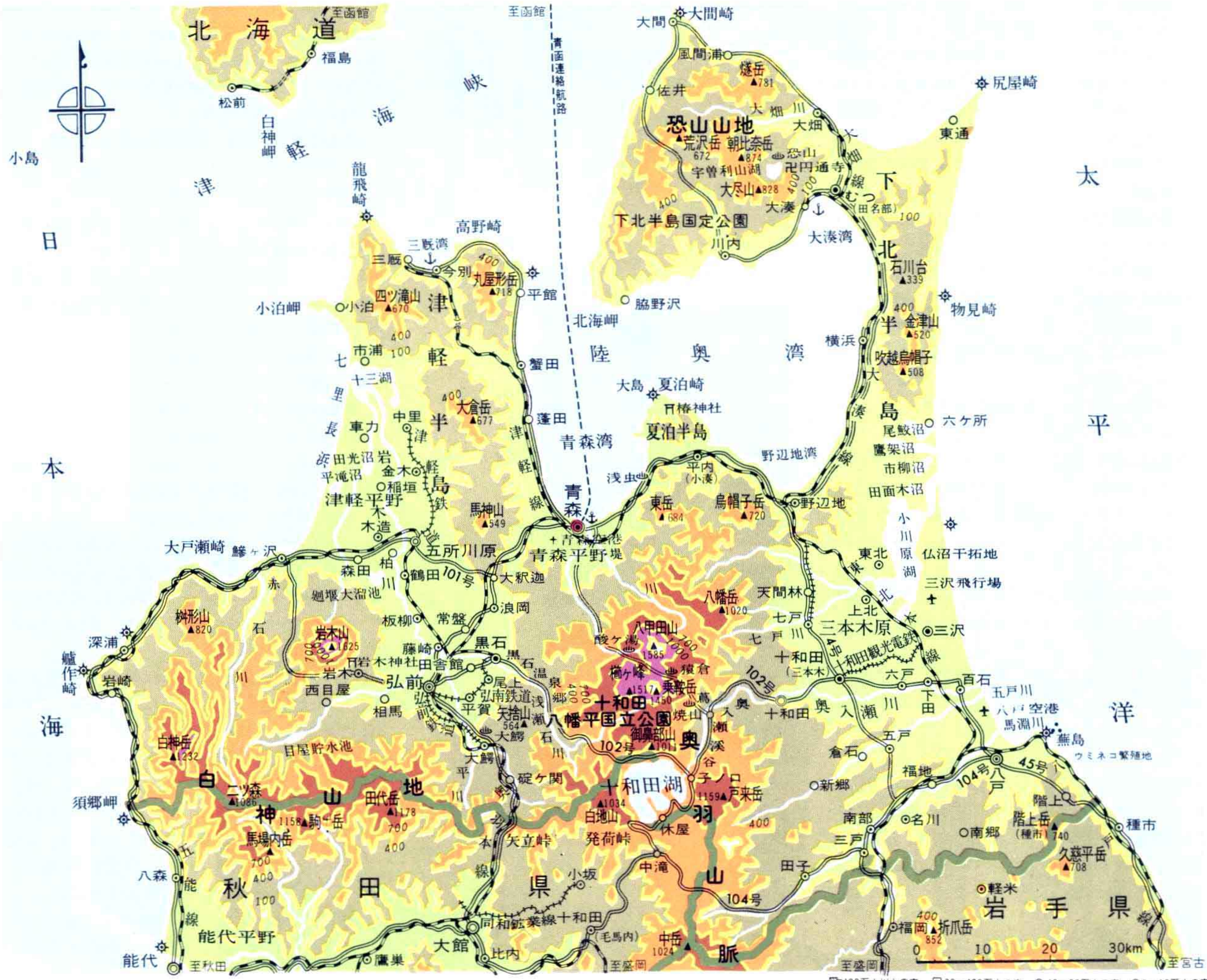
アオムシコマユバチ　（上）成虫　（下）青虫の体壁を破って出てきた幼虫。黄色の繭をつくりかけている

あおものいちば【青物市場】野菜・くだもの類の取引を専門にする市場。中世から発生し近世になって発達した。多くは大都市の近郊にあった。京都の八百屋（やおや）町・不動堂・高倉の各市場，江戸の駒込（こまごめ）・神田（かんだ）・京橋・本所四ツ目・本所浜町・本所竹町・千住（せんじゅ）の各市場，大阪の天満（てんま）市場，名古屋の枇杷島（びわじま）市場が有名。市場の運営は問屋仲間が行ない，幕府・藩の保護統制を受けた。➔市

あおもり【青森（県）】本州最北端の県。津軽海峡を隔てて北海道と相対し，南は秋田・岩手の両県と境を接する。陸奥（むつ）の大半を占め，面積9,614㎢。人口154万8,000，人口密度は1㎢あたり161人。県花は5月中旬に咲くリンゴの白い花，県木は県下に群生するヒバ，県鳥はむつ市大湊（おおみなと）などに飛来するハクチョウである。県庁のある青森以下8市と8郡（33町26村）に分かれる。

〔自然〕東に下北，西に津軽の両半島が突出して陸奥湾を囲む。奥羽山脈が中央部を南北に走り，夏泊半島で一度陸奥湾に沈んだのち下北半島の恐山山地を形成する。那須（なす）火山帯は奥羽山脈に重なって，恐山山地の朝比奈岳（あさひなだけ）（874ｍ），大尽山（828ｍ），八甲田山の大岳（1,585ｍ），乗鞍岳（のりくらだけ）（1,450ｍ）などの火山を噴出させている。風光の美しいカルデラ湖の十和田湖（とわだこ）周辺には酸ケ湯（すかゆ）・猿倉（さるくら）・蔦（つた）などの温泉もわき出して十和田八幡平（はちまんたい）国立公園に指定されている。奥羽山脈の西側は津軽地方で，岩木川の中流流域に津軽平野が開ける。平野の南西方には出羽（でわ）山地北端部の白神山地が延びて鳥海火山帯と重なり，〈津軽富士〉とよばれる岩木山（1,625ｍ）がそびえる。岩木川は北流して津軽半島西岸に潟湖（せきこ）の十三湖をつくる。津軽平野の北東部には青森湾に面して青森平野がある。奥羽山脈の東側は南部地方で，三本木原などの洪積層（こうせきそう）台地が開け，十和田湖から流出する奥入瀬（おいらせ）川や馬淵（まぶち）川流域には細長い沖積（ちゅうせき）平野がある。三本木原の北東部には，小川原湖（おがわらこ）や鷹架沼（たかほこぬま）など，川が海岸の砂丘にせきとめられてできた大小の潟湖群がある。東から西へかけて太平洋・津軽海峡・日本海と三方を海に囲まれ，海岸線は延長680kmに達する。

気候は温帯気候の中でも冷涼型に属し，低温で長い冬，短い夏，希薄な梅雨型天気などの特徴がある。青森市の年平均気温は9.6℃で東京と比べて5℃以上も低い。南部地方は春から夏にかけて低温の偏東風やませが吹き，しばしば冷害に襲われる。青森市の



青森県

100万人以上の市 30～100万人の市 10～30万人の市 5～10万人の市 5万人未満の市 町名 村名 字名 地方庁所在地 油田 港湾 漁港



岩木山とリンゴの花　5月上旬ごろがリンゴの開花期で，人工交配をするための花摘みをする。津軽平野のリンゴ畑は，岩木川の流路付近や平野周辺の山麓に分布する。5月上旬の岩木山はまだ白雪におおわれている



青森市内の暮れの大歳の市
青森市は北海道への関門をなし，小売り・卸し売りなどの商業活動が活発で，市内にはいろいろな市がたつ

年降水量は1,424㎜である。津軽地方は冬の北西の季節風によってふぶきに見舞われるが，北陸地方ほどの豪雪地帯はない。海岸部は降雪も少なく比較的暖かい。

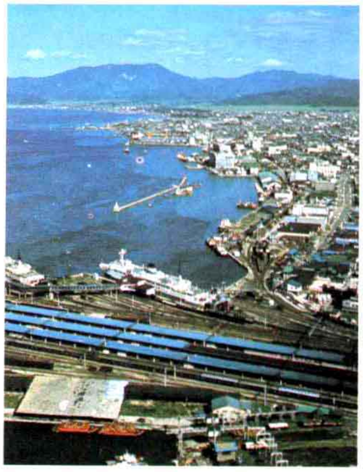
〔産業・経済〕 産業三大別人口比は27：22：51で，第1次産業の比率は全国でもっとも高く，第2次産業は全国最下位，県民分配所得は1人あたり103万円(1977年度)で，低いほうから沖縄県・鹿児島県・岩手県に次ぎ44位である。**〈農林水産業〉** 県の中心産業は農業で，耕地総面積17万ヘクタール，このうち，水田率56％である(1975)。おもな農産物は津軽平野の米とリンゴで，米の平年収量47万1,000tのうち40％を移出し，リンゴの平年収量は44万3,000tで，全国総生産の48％を産出し，海外へも輸出する。南部地方では畑作がおもに行なわれ，トウモロコシ・ヒエ・ジャガイモなどを栽培する。三本木原は，江戸末期から水田が開拓され，最近米の生産が著しく進んでおり，馬淵川流域にはリンゴ畑が増加している。

小川原湖は干拓が進み，下北半島では北海道の根釧(こんせん)台地の例にならって機械開墾によるパイロット－ファームが建設されている。畜産業は，南部地方は，古くからウマの産地として有名で，ウマを飼う農家の構造もそのために曲家*(まがりや)となっていたが，現在はウマはわずか260頭(1975)となり，ウマに替わって乳牛が飼われ，27,000頭(1975)に達し，全国でも中位以上である。林野面積は6,340km²余で県全域の65％を占め，その60％にあたる国有林の比率は全国一高く，特に津軽・下北両半島では，家の軒さきまで国有林という地区が多い。おもな樹種はヒバとブナで，津軽半島のヒバは，木曽(きそ)のヒノキ，秋田のスギと並んで，日本三大美林の一つにあげられる。民有林は太平洋岸に分布し，スギ・アカマツ・クロマツが多い。水産業は，太平洋沿岸に三陸沖の好漁場を控えて古くから行なわれ，大小80の漁港があり，漁業戸数7,400を数える。近年沿岸漁業はやや衰えたが，一本づり漁法によるスルメイカ・サンマ・サバなどの漁獲が多く，八戸(はちのへ)港は水揚げ高で北海道の釧路(くしろ)に次いで，全国第2の52万t(1973)を記録している。陸奥湾の野辺地(のへじ)付近ではホタテガイの養殖が行なわれ，下北・津軽半島の近海ではコンブ・ワカメを採取する。日本海沿岸には，鰺ケ沢(あじがさわ)・深浦など古い歴史をもつ漁港があるが，最近は沿岸漁業が不振で，出かせぎしたり，農業に転じたりする漁家が増加している。《鉱業》地下資源の種類は豊富で下北半島北岸や南東部の三戸郡に砂鉄が分布し，埋蔵量は1億2,000万t，全国の約半ばを占めると推定され，かつては年間60万t近くも採掘したことがあったが，最近は10数万tに減少している。石灰岩は下北半島北東部と八戸市周辺が主産地で，その埋蔵量は5億tと推定される。そのほか，県下各地で硫化鉄・銅・亜鉛・鉛などの産出がみられ，石油層も奥羽山脈の山麓部(さんろくぶ)や津軽半島，白神山地に分布するが，未開発である。《工業》各都市に食料品・木材製品などの中小工場があるだけで近代工業はあまりふるわない。1964年(昭和39)，八戸市周辺地域が新産業都市に指定され，セメント・肥料・鉄鋼などを主とする八戸臨海工業地帯が造成されて，東北地方で数少ない工業地帯の1つとなっている。しかし青森県の工業出荷額は東北地方では最低である。郷土産業は弘前(ひろさき)の津軽塗が代表的で，ヒバを材料として漆を40回以上も塗り，50日もかけて仕上げる伝統的な手法は《津軽のばか塗り》といわれ珍重されている。年産約2億円で，輸出もされている。〔交通・都市〕陸上交通は一般に南北方向に発達し，東西方向は奥羽山脈にはばまれて未発達である。東北本線・奥羽本線は県下を縦断して青森市に達し，青森港から青函(せいかん)連絡船が函館(はこだて)へ向かう。大湊線・大畑線が下北半島へ，津軽線が津軽半島へ通じ，五能線は日本海岸を，八戸線は太平洋岸を結ぶ。私鉄は津軽平野でかなり発達している。近い将来，津軽海峡の海底トンネルが開通すると津軽線がきわめて重要な役割を果たすことが予測される。主要道路としては，国道4号線(陸羽街道)が県下を縦断して東京から青森へ通じ，日本海岸・太平洋岸をそれぞれ走る7号線(羽州街道)・45号線，東西交通を助ける101号線・102号線・104号線があり，津軽岩木スカイラインは県下唯一の有料道路である。海上交通では，青函連絡船のほか，北海道との間のフェリーボートの航路として，青森—函館，野辺地(のへじ)—函館，大間(下北半島北西端)—函館，青森—室蘭(むろらん)，三厩(みんまや，津軽半島北端)—福島(渡島(おしま)半島南西部)，八戸—苫小牧(とまこまい)などがある。航空路としては，太平洋岸の三沢・八戸の両空港，青森市の青森空港があり，東京・北海道方面に定期便をもつ。都市の分布は少ないが，県庁があり交通都市の性格をもつ青森，旧城下町で学都の弘前，新興工業都市で漁港のある八戸の3市が主要都市である。津軽地方の黒石・五所川原(ごしょがわら)，南部地方の十和田・三沢，下北半島のむつの5市は，1953年の町村合併促進法施行以後の新市で，航空自衛隊とアメリカ空軍の基地の町三沢を除きいずれも各地域の中心にあたる田園都市の性格が強い。〔歴史〕西部の日本海沿岸地方は，県下における先進地域で，奈良時代からすでに畿内(きない)と交渉をもっていた。太平洋沿岸部は，平安期以降に開発されて，平安末期には奥州藤原氏が県下全域を支配した。鎌倉時代には，津軽半島西岸の十三湊(とさみなと)が〈日本七湊〉の一つとして栄え，北海道や関西との交易を行なった。鎌倉初期に源頼朝(よりとも)が藤原氏を滅ぼし，南部光行を当時糠部(ぬかのぶ)といった県東部の地頭職とした。南部氏は三戸を本拠として糠部を一戸から九戸までの〈戸〉に分け，それぞれに牧場を設けてウマの生産にあたった。一方，西部ではしばしば地頭職が交替し，やがて安倍貞任(あべのさだとう)の子孫といわれる安東氏が勢力をふるった。南北朝時代には，安東氏は南朝方に，南部氏は北朝方につき，安東氏が滅びて，15世紀半ばから南部氏が県全域を支配した。16世紀後半，南部氏の内紛に乗じて，大浦為信(ためのぶ)が西部に勢力をふるい，1593年(文禄2)豊臣秀吉(とよとみひでよし)から津軽四万五千石の領主に封じられて津軽氏を名のり，2代信枚(のぶひら)が弘前に築城して津軽藩の基礎を固めた。一方，南部氏は，江戸初期に本拠を不来方(こずかた)(いまの盛岡)へ移し，現在の岩手県中・北部と青森県東部に南部藩領を確立した。18世紀末以降，両藩は幕令によって樺太(からふと)(サハリン)・千島・北海道の警備にあたり，ロシア人の南下に備えた。このため幕府は津軽藩を十万石，南部藩を二十万石の家格に引き上げた。1871年(明治4)の廃藩置県に際し，弘前藩(津軽藩)・黒石藩(津軽支藩)・八戸藩(南部支藩)・七戸藩(南部支藩)・斗南(となみ)藩がそれぞれ独立して県となり，次いで北海道松前県を含めて弘前県に統合され，さらに県庁を青森に移して青森県と改称した。斗南藩は，会津戦争で敗れた会津松平氏が戦犯の汚名をこうむって，下北半島の僻地(へきち)に転封されたものである。〔浅井得一〕

あおもり【青森(市)】青森県中央部，県庁のある市。もとは善知鳥(うとう)とよばれ，江戸初期に津軽藩の港が開かれて以来発展した。1898年(明治31)市制施行。人口28万5,000。市域は青森湾に臨む外ケ浜の砂浜と低湿地一帯を占めるが，第2次世界大戦中戦災を受けてその大半を焼失した。その後50m道路を中心とする街路の整備が進み，近代都市として復興した。産業三大



青森市のねぶた祭　毎年8月3～7日に行なわれ，紙ばりの出し物が市中をにぎやかに練り歩く。全国的に有名で，東京などからも見物客が出かける



青森港　手前は長いプラットホームの青森駅。岸壁には同形の2隻の連絡船が接岸している。遠景は青森港と浅虫温泉方面

別人口比は9：19：72。東北本線・奥羽本線，国道4号線・101号線が通じ，青函（せいかん）連絡船が北海道と結ぶ，本州北門の要地である。1964年（昭和39），青森港に10,000t級船舶用岸壁が完成し，翌1965年には青森空港も開かれた。付近の農産物，特にリンゴを集散する。港に水揚げされる水産物の加工も盛んで，ちくわ・かまぼこ・かんづめなどをつくるが，近代工業はあまりふるわない。市域内に青森大学その他の文教施設があり，浅虫・酸ケ湯（すかゆ）・蔦（つた）など温泉が多く，また十和田湖（とわだこ）の観光基地となる。年中行事のねぶた祭*（8月3～7日）は東北四大祭りの一つに数えられる。

あおやま【青山】 東京都港区の北西地区。現在北青山・南青山の町名があるが，青山というのは，江戸時代の初めに，のちの丹波篠山（ささやま）の大名青山氏の所有地であり，現在の渋谷区・新宿区の一部も含んでいた。山手（やまのて）台地の末端にあたり，江戸時代には大山街道沿いに社寺・武家屋敷が多く，いまは青山通りが都心部と渋谷を結んで，高層ビルの商店街が沿道に，高級住宅地が周辺部に集まる。明治以降第2次世界大戦までは陸軍大学校や師団司令部も置かれる軍人の町でもあった。新宿区にまたがる青山練兵場あとは，明治神宮外苑（がいえん）として都民のレクリエーションの場となり，青山通りを隔てて南には青山墓地がある。〔浅井得一〕

あおやまたねみち【青山胤通】（1859～1916） 医学者。美濃（みの）（岐阜県）苗木藩士景通（かげみち）の三男として同藩江戸下屋敷に生まれる。1882年（明治15）東京大学医学部を卒業，内科学教室にはいり，ベルツ*に師事。1883年ベルリン大学へ留学，内科学を専攻。1887年帝国大学医科大学教授となり，内科学講座を分担。1894年，ペスト病調査のため香港（ホンコン）へ行き，日本医学の名をあげる。その後東京帝国大学医科大学の青山内科の主宰者として医界に隠然たる勢力を示した。〔大鳥蘭三郎〕

あおんそくき【亜音速機】 もっぱら音速よりおそい速度で飛ぶようにつくられた飛行機。音速は大気温度によって決まり，海面上標準大気状態（15℃）で340m/秒＝1,224km/時，高度11kmで295.2m/秒≒1,063km/時である。輸送機関としての飛行機の効率は亜音速領域で最も高いから，超音速輸送機の時代がきても亜音速機はいろいろな用途に長く使用されるであろう。亜音速機用の推進装置は速度600km/時程度を境に，それ以下ではレシプロ-エンジン*またはターボプロップ-エンジンとプロペラ*との組み合わせが大部分であり，それ以上の速度ではターボジェット-エンジンまたはターボファン-エンジンがもっぱら用いられる。機体の外形上の特長は，速度700km/時付近を境に，それ以下では直線翼，それ以上では後退翼が採用される差はあるが，いずれもアスペクト比（翼幅の2乗を翼面積で割った商）が5ないし15程度の横長の主翼が使用されることである。〔中口　博〕

あか【垢】 表皮の最上層を占める角質層はたえず鱗片（りんぺん）のように離脱している。角化し核を失った細胞，すなわちすでに生命を失った細胞が脱落して，汗・皮脂・外界のほこりと混じり合ってあかをつくる。角質に含まれる水の量は外界および下方よりの水分補給に大きく支配される。この二つのバランスがくずれ皮膚が乾燥し角層の水分が10％以下になると，表皮の脱落が激しくあかは増大する。あかがたまると皮脂・汗の分泌を妨げ，体温の調節や新陳代謝障害をきたし，身体保護の見地から有害である。〔平野修助〕

あか【閼伽】 梵語（ぼんご）のargha（アルガ）の音訳で，〈価値〉の意。仏教で水・功徳水などと訳され，仏前に献ずる清浄水をいい，ときにこれを入れる容器をいう。古来インドでは客の招待のおり，洗足・漱口（そうこう）の水を出す習慣があり，これにならった。多くの場合水に香花を浮かべ，きわめて重要な供物の一つである。〈閼伽水〉と重ねていわれることもある。

アカイアじん【アカイア人】 ホメロス*の叙事詩ではトロヤ戦争に従軍した全ギリシア人をさす。南下第1波のギリシア人で，ミケーネ文化の形成者と考えられる。BC1000年ころ以後は，テッサリアからペロポネソス半島北岸に至る地に定住したギリシア人の一派をさし，アイオリス人，またはエオリア人とよばれるのがこれである。BC251年アカイア同盟を結成し，コリントやスパルタも加盟して強力であったが，BC146年ローマの支配下にはいった。

あかいえか【赤家蚊】 こん虫類・双翅（そうし）目・カ科。わが国で最も普通にみられるカ*で，体長は5mmほど。イエカ属に属し，下水・汚水だめ・野つぼなど，有機質の多い汚水に発生する。フィラリア病を媒介する。この駆除には，発生源に定期的に殺虫剤を散布し，幼虫を殺すのが効果的である。

あかいしがに【赤石蟹】 甲殻（こうかく）類・ワタリガニ科。鮮紅色で甲の幅8cmほどになる。東京湾以南インド洋まで分布し，砂泥（さでい）質の10～100mの海底にすむ。ベニイシガニは名が紛らわしいが別種。どちらも色以外はイシガニに似る。



赤い鳥　創刊号

あかいしさんみゃく【赤石山脈】 中部地方南東部に，ほぼ南北に延びる壮年期の山地。西は天龍（てんりゅう）川の流れる伊那（いな）盆地，東は甲府盆地の西縁でくぎられる。南アルプスともよばれ，木曾（きそ）山脈・飛驒（ひだ）山脈と合わせた日本アルプスの一つである。3,000m級の標高をもつ山々が連なり，最高の白根山*（北岳）（3,192m）は富士山に次ぐわが国第2の高峰である。北部の仙丈ケ岳（せんじょうがたけ）などにはカールがあり，氷食地形が観察される。地質は古生代（北部）・中生代（南部）の堆積（たいせき）岩からなり，天龍川や富士川の支流，大井川の上流が深い溪谷（けいこく）を刻んで流れ出ている。山地の西縁は地体構造的には中央構造線の一部にあたり，また東縁はフォッサマグナ*の糸魚川（いといがわ）-静岡線の一部にあたる。〔高野　繁〕

あかいしだけ【赤石岳】 長野・静岡の県境にある赤石山脈の高峰の一。標高3,120m。山体は秩父（ちちぶ）古生層からなり，山稜（さんりょう）はあまり急峻（きゅうしゅん）ではなく，山腹は深い森林でおおわれ，山頂部東側2,800m付近に二つのカール地形が認められる。山地の東斜面は大井川上流の峡谷に臨む。南アルプス国立公園に属する。

あかいとり【赤い鳥】 日本の代表的な児童文学雑誌。鈴木三重吉*主宰，赤い鳥社発行。1918年（大正7）7月創刊，途中休刊をはさんで1936年（昭和11）10月に廃刊となるまで通巻198冊を出した。作家の三重吉が小説の筆を折ってこの雑誌を始めた動機については諸説があるが，新しい教育思潮を背景に芸術的な童話・童謡の創造をモットーとしたこの運動には，秋田雨雀*（うじゃく）・宇野浩二*（こうじ）・小川未明*・菊池寛*・佐藤春夫*（はるお）・豊島（とよしま）与志雄*ら当時の文壇作家がこぞって参加，有島武郎（たけお）の《一房（ふさ）の葡萄（ぶどう）》，芥川龍之介*（あくたがわりゅうのすけ）の《蜘蛛（くも）の糸》や北原白秋*・西条八十*（やそ）の童謡をはじめ，古典的生命を保つ数々の名作が生まれた。また坪田譲治*・新美南吉*・平塚武二（ひらつかたけじ）・与田準一*らの新しい作家を生みだし，三重吉選の児童つづり方，白秋選の児童詩，山本鼎*（かなえ）選の児童画の面でも特色のある誌面をつくりだし，日本の児童文学史に大きな影響を与える記念碑的な雑誌として，不朽の名をとどめている。〔鳥越　信〕

あかいはな【赤い花】 ガルシン*の短編小説（1883）。精神病院の庭に咲く深紅のケシが地上のいっさいの悪の化身であると信じた狂人が，生命を賭（と）して花をもぎ取り，使命を果たしたと安堵（あんど）して死ぬ。作者の体験が悪と犠牲の問題を中心にみごとに結晶した傑作。

あかいはね【赤い羽根】 街頭募金で知

られている共同募金運動。金額的にはその約9割が戸別募金である。1947年(昭和22)〈少年の町〉のフラナガン神父の勧めで始められた。この運動の意義は人々の善意が結集され，運動を通じて助け合いの精神を育てることにある。毎年10月1日から12月末日まで行なわれ，社会福祉事業法(1951年制定)によりその運営が規定されている。

あかいひろば【赤い広場】モスクワにある広場で，市街はここを中心に円形に発達している。15世紀からトルグ(商業)広場・ポジャール(火事)広場の名があったが，17世紀に〈赤い(美しいの意)〉を表わすクラスナヤという形容詞がつけられた。毎年，メーデーや革命記念のパレードや集会が行なわれる。広場にはレーニン廟(びょう)の周囲にはクレムリンの城壁や塔，ブラジョンヌイ寺院・博物館・国営百貨店などがある。

アーガイルもよう【アーガイル模様】アーガイルチェックともいう。数色の糸で構成した編み組織のダイヤモンド格子(こうし)。スコットランドのアーガイル州にちなむ名称。セーター・ソックスなどに広く用いられるがらである。

あかいろうそくとにんぎょ【赤い蠟燭と人魚】小川未明の童話。1921年(大正10)2月，東京朝日新聞に連載された。捨て子にされた人魚の少女の半生が，未明特有の象徴的手法によって鮮明に形象化された作品である。社会主義の影響を受けはじめた時期の作品で，アナーキズムふうな苦悩の影が濃い。未明の代表作であると同時に，大正期象徴童話の傑作でもある。

あかいろやさい【赤色野菜】⇨緑黄野菜

あかいんこ【赤犬子】生没年不詳。琉球(りゅうきゅう)音楽の祖としてあがめられている半ば伝説化した人物で，15世紀末から16世紀初めに沖縄島近くの津堅島に生まれ，その近辺で死んだという。14世紀末に中国から伝えられた三線(さんしん)(三味線(しゃみせん)，蛇皮線(じゃびせん))に手を加えて改良し，琉歌に伴奏をつけて作田節(つくてんぶし)・天川節・柳節などをつくった。古謡おもろにもほめたたえられている。

あかうきくさ【赤浮草】シダ植物・サンショウモ科。長さ10mm幅2mm程度の浮遊性のシダ。茎は細かく分枝し，無柄で先が2裂した鱗片(りんぺん)状葉を密につける。葉および茎に粒状突起がある。側枝の第1葉に胞子嚢(ほうしのう)群がつく。

あかうに【赤海胆】棘皮(きょくひ)動物・ウニ綱。東京湾から九州までの浅い海に普通のウニで，殻(から)もとげも暗紅色。まれにとげの白い個体もある。殻の直径10cm，高さ5cmに達し，10月末に産卵する。卵巣・精巣は美味。日本特産種。ヒラタウニともいう。

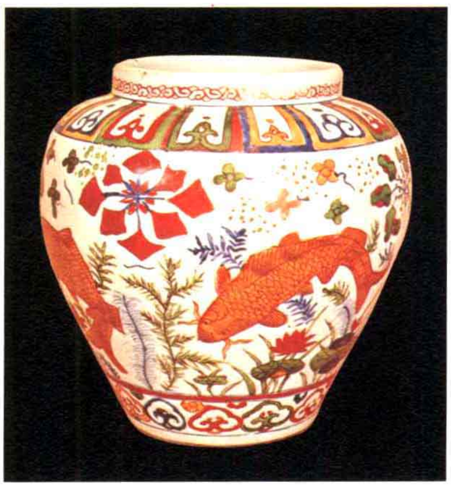
あかうみがめ【赤海亀】爬虫(はちゅう)類・ウミガメ科。甲長80cm，甲の背面は赤かっ色，腹面は淡黄色で，太平洋・インド洋に広く分布し，本州中部の太平洋岸にも6～7月ごろ産卵のため上陸する。卵は直径4cmくらいの球形で，海岸の砂中に掘った穴に100～170個ぐらいを産卵。



赤い広場　クレムリン宮殿城壁の前の〈赤い広場〉。城壁の中央にレーニン廟があり，内外の参拝人，観光客の絶えることがない。左手正面は歴史博物館の建物



アカウニ



赤　絵　五彩魚藻文壺〈大明嘉靖年製〉銘　畠山記念館蔵



アカエイ

あかえ【赤絵】陶磁器の技法の一。素焼きした陶磁器の胎部に，チョウ石質の透明釉(とうめいゆう)をかけ，本窯(ほんがま)で焼いて白磁胎をつくり，さらに赤を主調に各種の金属顔料で上絵付けを施し，より低火度の錦窯(きんがま)に入れて焼きあげる。中国で宋(そう)代に始まり宋赤絵の名で知られているが，最も精彩を放った作品は明(みん)代に多い。わが国では色絵ともいい，江戸初期に京都の陶工や有田(佐賀県)の酒井田柿右衛門(かきえもん)が開発した。柿右衛門の完成した赤絵磁器は赤の発色が美しい。ほかに，いわゆる古九谷赤絵は，緑を主調として伊万里(いまり)赤絵とは異なった様式を完成している。なお，幕末・明治初期の赤色がきわだって濃い錦絵(にしきえ)や疱瘡(ほうそう)よけのまじないに赤一色で摺(す)った〈疱瘡絵〉も赤絵といわれている。〔矢部良明・小林忠〕

あかえい【赤鱝】軟骨魚類・アカエイ科。尾を除いた本体だけで50cmほどになる。体の背面は赤かっ色，腹面は黄色。体は上下に押しつぶされた形で，体側に水平に張り出したひれと合わせて，ほぼひし形を呈し，これにむちのような50cmほどの長い尾がつく。尾のつけ根に毒のあるかたいとげがふつう1本，まれに2～3本あり，刺されるとひどく痛む。夏に美味，みそしるに仕立てたりする。本州中部以南にすみ，冬は深みに下るが，夏，内湾の砂底にきて数尾の子を産む。つまり胎生である。〔菅野　徹〕

あかえぞふうせつこう【赤蝦夷風説考】仙台(せんだい)藩医工藤平助の著。上下2巻。赤蝦夷はロシア人のこと。蝦夷地(北海道)へのロシアの進出や密貿易の状態を述べ，ロシアとの正式貿易の開始や蝦夷地開発の必要性・方法を説いている。1783年(天明3)老中田沼意次(おきつぐ)に献ぜられ，田沼の蝦夷地開発計画の端緒となった。

あかえび【赤海老】甲殻(こうかく)類・クルマエビ科。体長10cm内外。甲は赤かっ色で細毛がはえている。瀬戸内海に多く，100mほどまでの泥底(でいてい)にすむ。食用。三河(みかわ)湾・伊勢(いせ)湾・有明海・八代(やつしろ)海にもいる。

あかえりひれあしぎ【赤襟鰭足鷸】⇨ヒレアシシギ

あかおおかみ【赤狼】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。ドールともいう。体長97cm，尾長38cmほど。オオカミに似るが，尾が太く長く，下顎臼歯(かがくきゅうし)が1対少ない。北はシベリアのアルタイ山脈からアムール・サハリンまで，南は朝鮮・中国・インドからジャワまで広く分布する。暑い地方にすむものは短毛で濃いオレンジ色だが，

北方のものは長毛で色が薄い。群れをつくり，シカやイノシシなどを捕食する。

あかがい 【赤貝】 軟体動物・二枚貝類・フネガイ科。殻(から)の幅12cmに達する。殻表(かくひょう)に深いみぞが42～43本あり，その上をビロード状の皮がおおう。北海道から九州までの内湾の泥底(でいてい)にすむ。血液にはヘモグロビンを含み，肉は橙紅(とうこう)色。生で食べると美味で，すし種に欠かせない。よく似た貝にサルボウ*がある。

あかがえる 【赤蛙】 両生類・アカガエル科。日本に分布するいわゆるアカガエル類は7種であるが，そのうちニホンアカガエルが代表種であり，本州・四国・九州に分布。体長7cm以下で体背面は赤かっ色，四肢(しし)は発達しジャンプ力が強い。平地の池や小さい流れの近くにすみ，12～3月に1,000個くらいを産卵する。

あかがし 【赤樫】 双子葉植物・ブナ科。暖地性の常緑高木。高さ15～20m。幹は暗かっ色，葉は厚く無毛で長さ6～15cm，幅2.5～4.5cm。全縁(縁に鋸歯(きょし)がない)。初春，雄尾状花序は枝の下部より下垂し，雌花序は上部に直立して数花をつける。➔カシ

あかがねこうざん 【赤金鉱山】 岩手県江刺市にあるわが国第4位の産出量を示す鉄鉱山。赤鉄鉱を産し旧坑道には水沢緯度観測所の傾斜計が置かれている。現在，同和鉱業が経営している。

あかかびびょう 【赤黴病】 ムギ類・イネ・トウモロコシの出穂期から乳熟期に降雨が続くと，穂がかっ色に枯れ，桃色のかび(病原菌の分生胞子)を生ずるのが特徴で，のちにその部分に黒い小粒の子嚢殻(しのうかく)を形成する。子嚢殻は被子器ともいい，病原菌が有性生殖で生ずる子嚢胞子を保護する容器で，越年に役だつ。被害ムギを家畜に与えると中毒を起こすことがある。防除法は無病種子を有機水銀剤で消毒して用い，出穂期に有機イオウ剤を散布する。
〔渡辺　実〕

あかがみ 【赤紙】 ⇨召集令状

あかがわ 【赤川】 山形県西部の朝日山地から北流する大鳥川と梵字(ぼんじ)川が，庄内(しょうない)平野への出口で合流して赤川となり，鶴岡(つるおか)市を過ぎ，酒田市の南部で日本海へ注ぐ。もとは河口の近くで最上(もがみ)川に合流していたが，洪水(こうずい)の害が多いので，1935年(昭和10)砂丘を横断して直接日本海へ出る赤川新川を掘った。旧河道は水田となっている。上流にはいくつかのダムがあり，山形県で最も重要な電源地帯である。長さ75km。
〔浅井得一〕

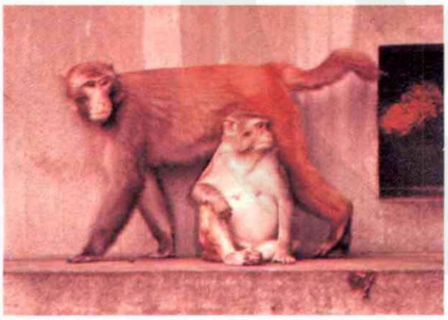
あかぎがたやね 【赤城型屋根】 関東北西地域における平入り住家*の切り落とし屋根*。屋根裏を養蚕に利用するために寄棟(よせむね)草屋根の前側斜面の下半部を切り落として採光・通風の窓を設けた形式で，江戸時代末期，群馬県の赤城山麓(さんろく)地方に分布した。初期のものは土間の上にあたる屋根の一部分が切り落とされたが，のちには正面の斜面全体の下半部が切り落とされるようになった。この形式およびその変化型は関東平野の中部以南まで広まっている。
〔佐藤甚次郎〕



アカガエル　ニホンアカガエル



赤城山　赤城山頂にある火口原湖大沼とその背後にそびえる黒檜山。湖畔には旅館があり，冬にはスケート・スキー客，夏には登山客などでにぎわう



アカゲザル

あかぎさん 【赤城山】 群馬県東部，関東平野北西隅(ぐう)にそびえる二重式の成層火山で，南・南西は広い裾野(すその)をひいて関東平野に臨む。外輪山の黒檜(くろび)山(1,828m)が最高峰である。中央火口丘の地蔵岳と外輪山にはさまれて火口原湖大沼*(おの)(赤城湖)があり，ほかに地蔵岳の東側に寄生火山の火口湖小沼(この)がある。東京から近く，また頂上の大沼まで自動車道路があり，冬はスキー・スケート，夏は登山者でにぎわう。山麓(さんろく)斜面にはクワ畑・水田が開ける。
〔高野　繁〕

あかぎれ 【皹】 指腹や足の裏の側縁など角質の厚い部分に生じる，細く深い裂け目。血がにじみ出て赤く見えるため，あかぎれという。細かい浅い裂け目を生じたものがひびで，おもに手指背にできる。体質，ビタミンAなどの欠乏，寒冷による脂腺(しせん)や汗腺の機能低下，中性洗剤の使用，手足のよごれにより角質が乾燥して弾力性を失うことによって生じる。あかぎれを予防するには，皮膚はつねに清潔にし，水仕事のあとは洗剤などが残らないように洗い落とし，よくふいてかわかしてハンドクリームをすりこんでおく。寒冷期には寒さにさらされないように手袋をしたり，油性クリームをすりこんでマッサージを行ない血行を促す。あかぎれが生じた場合は，細菌感染を起こさないよう，殺菌作用のある軟膏(なんこう)類を塗布して包帯しておく。
〔田嶋公子〕

あかくらおんせん 【赤倉温泉】 山形県最上(もがみ)郡最上町にある温泉で，小国川に沿う。泉温50～68℃のセッコウ性苦味泉。冬はスキー客が集まる。

あかくらおんせん 【赤倉温泉】 新潟県中頸城(なかくびき)郡妙高高原町にある温泉で，高さ785mの高原上にあり，眺望(ちょうぼう)がよい。炭酸単純泉で，泉温54～60℃。信越本線妙高高原駅から6kmの位置にあり，その近くに新赤倉温泉があって，別荘地ともなっている。両温泉とも泉源は妙高山の火口原の北地獄谷である。付近一帯は，設備のよく整った日本でも代表的なスキー場である。

あかくらげ 【赤水母】 腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ綱。形はミズクラゲに似る。かさの直径15cm，触手はその数倍に達する。北海道から台湾までの沿岸に普通で，かさに赤かっ色の放射状のしまがあり，他の種類との見わけが容易。そのしま模様から軍艦旗クラゲの別名もある。

あかげざる 【赤毛猿】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・マカク属。西パキスタン北部から，インド・インドシナ半島北部を通り，中国の福建省にまで分布し，サル類中最も繁栄している種。腹部は白いが，全体に赤かっ色の毛でおおわれる。頭胴長約50cm，尾長約25cm，体重7～8kg。インドでは市街にも普通。食性は雑食。10～40頭の群れをつくる。群れにはリーダーがおり，ニホンザル社会と類似している。子どもはペットにされるが大きくなると危険。実験用動物として重要。
〔河合雅雄〕

あかげら 【赤啄木鳥】 鳥類・キツツキ科。全長25cm弱のキツツキ*の一種。白と黒の入り混じった体色で，下腹部と雄の後頭部が赤い。この色彩からアカフンドシ(赤褌)の俗名がある。ユーラシア大陸の北部と東部に広く分布している。わが国では本州以

北にのみ産する。よく似た種にオオアカゲラ(日本全土)・コアカゲラ(北海道のみ)があり，世界的分布はどちらもアカゲラとほぼ同様である。

あかごづか【赤子塚】 塚の中から赤子の泣き声が聞こえ，掘ってみると赤子を得たという類の伝説。日本各地に多く伝わり，有名な佐夜中山(さやのなかやま)の夜泣石*の伝説や，全国にある賽(さい)の川原*，赤子の足跡石の伝説とも深い関係がある。赤子が成長して傑出した人物になったと説く例が多いが，これは明らかに後世のこじつけである。この伝説で重要な点は，伝説に現われる場所が境の神の祭場付近であることである。生まれ変わりを信じていた昔の人は，幼くして死んだ者はいっそう生まれ変わりやすいと思われる葬り方をし，その霊を境の神の管理にゆだねておいたらしい。赤子塚の伝説はこうした信仰に基づいている。
〔山路勝彦〕

あかこっこ【島赤腹】 鳥類・ツグミ科。ツグミ類の一種で，全長23～24cm。アカハラ*によく似ているがそれよりずっと濃色で，雄の頭部はほとんど黒色。伊豆(いず)七島と屋久島にのみ産し，大島を除く伊豆七島の森林に多い。➔ツグミ

あかざ【藜】 双子葉植物・アカザ科。畑などにはえる中国原産の一年生草本。高さは150cmに達し，葉は丸みをおびたひし形で鋸歯(きょし)がある。若い葉は紅紫色，のちに緑色となる。夏から秋にかけて茎の先に枝を出し，黄緑色の小さな花を密につける。生長した茎は太さ3cmにもなり，かたく，かわかせば軽いのでつえをつくるのに適する。若葉はおひたしなどにして食べられる。民間では虫に刺されたとき葉をもんで塗る。いたるところにはえ，この植物に似ているが，若い葉が紅紫色とならないものにシロザがある。〔小清水義隆〕

あかさか【赤坂】 東京都港区の北部地区で，青山とともに旧赤坂区をなしていた。現在，赤坂・赤坂葵(あおい)町・元赤坂の町名が残っている。坂と谷の多い山手(やまのて)台地上に位置し，その地名のもとは赤土の台地からきているとも，あるいは赤坂離宮*(現在の迎賓館)の東から赤坂見附方面へ下る紀ノ国坂を一名赤坂と呼んだからだともいわれ，赤坂という坂の名は旧赤坂離宮すなわち紀伊(きい)徳川家の中屋敷内にアカネ*が多く茂っていたのでつけられたという。江戸時代は尾張・紀伊の両徳川家をはじめとする大名屋敷が集まり，いまも高級住宅が多い。麴町(こうじまち)と山王台との間の溜池(ためいけ)は明治初期に沼沢地を埋め立てた地区で，赤坂見付へかけて自動車の販売修理店が多く，裏通りの一ツ木周辺には高級料亭(りょうてい)が集まっている。最近はラジオ・テレビの放送局やホテル・ナイトクラブも進出し，芸能人・文化人の往来が多い。旧陸軍歩兵第1連隊の跡が防衛庁となってお


アカゲラ


アカコッコ


アカザ


明石市 明石公園の台地から市街を隔てて明石海峡を望む。対岸の陸地は淡路島の北端，近景に山陽本線の高架が見える

り，アメリカ大使館や日本最初の私立美術館である大倉集古館があり，紀伊徳川家の中屋敷であった旧赤坂離宮は第2次世界大戦後一時国会図書館になっていたが，1974年(昭和49)に迎賓館としての改装が完成した。〔浅井得一〕

あかさかただまさ【赤坂忠正】(?～1657) 京都の鐔工(たんこう)で，庄右衛門(しょうえもん)または庄左衛門(しょうざえもん)ともいう。名を得てから京都の鐔商雁金屋彦兵衛(かりがねやひこべえ)とともに江戸(赤坂)に移住し，後世8代まで続いた赤坂派の基礎を築いた。初代忠正の作品で在銘あるものはなく，その作風は尾張透(おわりすかし)に類した古典的雅趣があり，切羽台上部のとがっている点に特色がある。

あかさかりきゅう【赤坂離宮】 東京都港区元赤坂町にある。江戸時代に紀伊(きい)徳川家の中屋敷のあった所で，1871年(明治4)宮内省が仮皇居を設けたのがはじまりである。1889年宮城が造営されてからは東宮仮御所となり，1909年ベルサイユ宮殿を模した現在の建造物が完成。第2次世界大戦後は国立国会図書館分室と法務省が使用していたが，1974年(昭和49)に〈国の応接間〉としての迎賓館(正式名は総理府の付属機関の〈迎賓館赤坂離宮〉)への改修が完成，この年ベルギー国王ボードワン夫妻，アメリカ合衆国大統領フォードを迎えた。

あかざけ【赤酒】 熊本県に産する酒で赤かっ色であるからこの名がある。本来清酒の一種で，原料米に対し水量を詰めて60%くらいに仕込み糖分を残した甘い酒である。アルコール分は11～13度くらい。圧搾まえに灰を入れて中和し，また変敗したとき灰を加えて調整するので灰持酒(あくもちざけ)の名がある。近来ブドウ糖・水あめ，アルコールなどを加え増量するので，税法上リキュールの部に入れられている。おもに料理用に使われる。〔住江金之〕

あかさびいろ【赤錆色】 色名。鉄などの赤さびのような色。黄みのある，鈍い赤色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈赤サビ色〉は，色相9.0R，明度3.5，彩度8.5の色と規定されている。➔色

あかさんご【赤珊瑚】 腔腸(こうちょう)動物・花虫綱。装飾品として珍重される。群体は樹状でほぼ一平面上に扇状に広がる。高さ・幅とも30cm，基部の直径3cm，重さ3kgに達するものがある。暗赤色。四国地方の南部，九州の五島近海，八丈島以南小笠原(おがさわら)付近の数十ないし数百メートルの海底の岩石上に着生する。

あかし【明石(市)】 兵庫県南部の市。古代には赤石と書かれ，瀬戸内海に臨む美しい風光は，須磨*(すま)と並称された。山陽道の宿駅，四国街道の基点にあたり，江戸初期には小笠原(おがさわら)氏十万石，中期以降は松平氏八万石の城下町であった。1919年(大正8)市制施行。人口25万1,000。

市域は，六甲山地が切れて姫路平野にはいる東端に位置し，東は神戸(こうべ)市，南は明石海峡を隔てて淡路島と接する。産業三大別人口比は3：42：55。播磨(はりま)工業地域の東端にあたり，鉄鋼・機械・繊維などの工場地帯が国道2号線沿いに発達する。鹿ノ瀬(しかのせ)の好漁場があり，タイ・サワラ・タコなどを漁獲するが，最近は乱獲と

海水の汚染で水揚げ高が減少した。山陽本線と山陽電鉄が市域を東西に貫き，山陽新幹線の西明石駅があり，明石港から対岸の淡路島岩屋(淡路町)や淡路島北西部の富島(北淡町)への定期航路がある。本州と四国を結ぶ明石海峡の架橋は，まだ工事が開始されていない。人丸山には，柿本人麻呂*(かきのもとひとまろ)を祭る人丸神社があり，その境内に東経135°の日本標準時子午線が通る市立天文科学館がある。明石城跡を利用した明石公園，明石ノ浦などの景勝地に富み，〈明石原人*〉の人骨も考古学上名高い。年中行事〈菊人形〉がある。特産は明石タイ・明石タコ・清酒・かわらなど。〔浅井得一〕

アガシー［Jean Louis Rundolphe Agassiz］(1807～1873) スイス生まれのアメリカの海洋生物学者・地質学者・古生物学者。ハーバード大学教授。はじめスイスで地質学・氷河学について研究，チューリヒ・ハイデルベルク・ミュンヘンの学校で医学と博物学を学んだ。学生時代に現生魚類および化石魚類を研究し，古生物学の論文を公表している。キュビエ*やフンボルト*とも親交があり，若くして名声をあげている。1834年に，イギリスの化石魚類を研究する目的で同地を訪れたときに，ロンドン地質学会からワラストン賞を受けた。1846年渡米後は海洋などの研究に転じ，その調査の結果から大洋と大陸は太古と変わらぬ位置を占め恒久な存在であるという説を出した。水産学に対する貢献も大きく，またダーウィン*の進化論に対する有力な反対者でもあった。子息(Alexander Agassiz, 1835～1910)も海洋学者。アルバトロズ号で西インド近海・東太平洋赤道域などの探検調査を行なった。またハーバード大学の比較動物学博物館に多額の寄付をし長年その管理をした。〔根本順吉〕

アカシア［*Acacia*］広く熱帯，特にオーストラリアに分布するマメ科の大きな属の一つで，400～500種が知られる。どの種類も常緑高木～低木で葉は互生。小さな小葉の2回羽状複葉のもの(キンゴウカン・ギンバアカシア・モリシマアカシア・フサアカシアなど)と葉身部分がなく葉柄にあたる部分が平たくなって仮葉となるもの(ウロコアカシア・スギバアカシア・ソウシジュ・マキバアカシアなど)がある。花は黄色で7～8月に葉腋(ようえき)に多数集まって球状をなす。花弁5枚，おしべ多数，めしべは糸状で1本。豆果は大形で，扁平(へんぺい)・じゅず状・円筒状などがある。庭園樹に用いられる。アラビアゴムをとるアラビアゴムノキはこの仲間である。札幌(さっぽろ)などの街路樹でアカシアとよばれている木はニセアカシア(ハリエンジュ)のことで，まったく別属の植物である。〔加藤僖重〕

あかしお【赤潮】プランクトンの異常増殖現象。鞭毛藻(べんもうそう)・珪藻(けいそう)・藍藻(らんそう)・原生動物・細菌などのある種類が，突然水域の一部だけで大量に増殖して変色水塊を形成する。増殖した種に応じて，その色素の違いから，水の色は桃色・赤かっ色・黄かっ色・緑色などいろいろみられるが，赤潮と総称する。内湾や沿岸部海域にしばしば発生するが，外洋・湖でも知られている。大村湾・瀬戸内海・志摩半島沿岸・東京湾・松島港などでよく発生し，1964年(昭和39)の相模湖(さがみこ)の場合は鞭毛藻によるものであった。外国ではフロリダ沿岸・アゾフ海・紅海・地中海で頻発(ひんぱつ)。紅海は藍藻のトリコデスミウムが増殖して紅色水塊をつくるために名づけられた。高密度に達する赤潮が発生すると，有毒物質を生産したり，えらに付着して呼吸阻害を起こしたり，死骸(しがい)の腐敗によって無酸素水塊をつくるなど，魚介類の大量死亡や逃避行動を招く。沿岸で工業開発とともに頻発する傾向にあり，工業廃液との関連なども研究されている。

あかしか【赤鹿】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・シカ科。体長2.2m，肩の高さ1.3mほど。ヨーロッパや北アフリカおよびアジア中北部の森林にすむ。群れをなし草や木の葉を食べる。秋になると雄どうしは長大な角で戦い，勝った雄は多数の雌を従えハレムをつくる。妊娠期間約8か月，1腹1子。

あかしかいきょう【明石海峡】兵庫県明石市と淡路島の間の海峡で，淡路町の松帆ノ浦までの距離は約4kmである。明石港から淡路町の東岸の岩屋港に日本道路公団のフェリーボートが通じている。潮流が速く，最高は時速9kmであるが，古くからタイやタコの好漁場となっている。明石～淡路島～鳴門(なると)のルートは，瀬戸内海架橋の有力な候補の一つである。



アカシア ミモザアカシア



赤潮 相模湾

あかしかくいち【明石覚一】(1300ごろ～1371) 平家琵琶(びわ)の演奏家。一方流の流祖如一の弟子(でし)。足利尊氏(あしかがたかうじ)のいとこでもあったところから，盲人の保護機関である当道の組織をはじめ，それを統括した。音楽的才能に恵まれ，天皇や上皇のために琵琶を奏した。平家琵琶の旋律パターンをふやすことにも貢献したといわれる。

あかしげんじん【明石原人】1931年(昭和6)明石市西八木海岸で直良信夫(なおらのぶお)が採集した人骨。現物は第2次世界大戦中焼滅し，石膏(せっこう)型を調査した長谷部言人(はせべことんど)が北京(ペキン)原人*とほぼ等しい化石人骨であるとしてニッポナントロプス-アカシエンシス(Nipponanthropus-Akashiensis)と命名した。採集当時実物を実見した金関丈夫(たけお)はその人骨は化石化しておらず，海岸のがけ上に墓地があるので，若年男性の骨盤であるとして，化石人であることを否定した。戦後同地を発掘したが，積極的に人骨が出土する証拠が得られなかった。最近に至り，人骨と同時に採集された石器が旧石器として正しいものであるとの説が出されている。〔坪井清足〕

あかじこうさい【赤字公債】財政の赤字を補塡(ほてん)するために発行される公債。政府が発行する国債，地方自治体が発行する地方債，政府が償還を保証する政府保証債などがある。建設公債などと異なり，有形資産の裏づけがないため，インフレの誘因になる。わが国では，第2次世界大戦前から戦中にかけて，巨額の軍事費を赤字公債の日本銀行引き受けによってまかなったため，激しいインフレーションをひき起こした。現在は，公債を国の歳出財源にすることや，日本銀行に公債を引き受けさせることは，原則として禁止されている。ただし，公共事業費・出資金・貸付金の財源としての公債発行と，〈特別の事由がある場合〉に公債を日本銀行に引き受けさせることは，国会で議決されれば，議決された金額の範囲内でできることになっている(財政法4条・5条)。最近では，1965年度以降，毎年国債が発行されている。〔速水 保〕

あかじざいせい【赤字財政】財政支出を租税その他の経常収入でまかなうことができず，公債や借入金にたよらざるをえないような財政状態をいう。このような状態が生まれてくるケースとしては，①経費が膨張してきた結果，それをまかなうに足るだけの収入が，租税によって得られなくな

り，やむをえず公債や借入金にたよることになるという場合と，②財政を景気調整の手段として用い，不況時において景気刺激策として意識的に収支の赤字をつくりだすという場合とがある。構造的不況のもとでは，景気回復策としてむしろ赤字財政をとることがあり，赤字財政がつねに不健全であるとみることは必ずしも妥当ではないが，必要以上の大きな赤字や，長期にわたる慢性的な赤字はインフレーションを招くものであり，いずれにしても避けなければならない。➔均衡財政　〔西野義彦〕

あかしじみ【赤小灰蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科の一種。翅(はね)を広げた長さは約40mm。翅の地色はだいだい色をおびた赤色，前翅の外縁前半部に黒色の帯があり，裏面は表面に比べて赤みが少なく，白条に縁どられた濃色の帯がある。初夏日本各地の雑木林に普通にみられる。幼虫はクヌギ・ナラ・カシワなどの葉を食べる。近縁のウラナミアカシジミは，本種よりもやや早く出現し，裏面に前後翅を縦走する9条の黒色の帯をもっている。

あかしちぢみ【明石縮】1901年(明治34)ごろ新潟県十日町市で開発され，のちには京都の西陣でも生産された絹織物の一。単に明石ともいい，経(たて)には生糸，緯(ぬき)には強撚(きょうねん)の練り糸を用いた平織物。織り上げ後，湯通しをして細かい皺(しぼ)を出す。経緯とも糸が細く，しかも生経で皺があるため，薄地で張りがあり，しゃりっとしたはだざわりと軽さを特徴とする。絣(かすり)・縞(しま)・格子柄(こうしがら)の女物夏着尺として明治末期から大正期にかけて流行し，従来の絹夏物透綾(すきや)を凌駕(りょうが)するに至った。ぬれると極端に縮む欠点を除くために，大正期には防縮加工を施すなどのくふうもこらされたが，現在ではまったく生産されていない。　〔北村哲郎〕

あかしで【赤四手】双子葉植物・カバノキ科。山地にはえる落葉高木。高さ10～15m。幹は暗灰色で平滑，若枝は暗かっ色ではじめ長毛をもつ。葉は互生し長卵形，鋭頭で縁に細かい重鋸歯(じゅうきょし)がある。初春，雄花穂は前年の枝に，雌花穂は今年の枝につく。

あかしょうびん【赤翡翠】鳥類・カワセミ科。全長27～28cm。全身赤色で美しい。インドから東南アジアにかけて主産し，わが国には夏季のみ渡来するが，東北日本には少ない。カワセミと異なりこん虫・トカゲ・カタツムリ・サワガニなどを主食とする。

あかしらつるばみ【赤白橡】色名。赤みのある，鈍い黄かっ色。青白橡(あおしらつるばみ)とともに《延喜式(えんぎしき)》にみえている色名で，櫨(はぜ)染めの黄かっ色に，茜(あかね)染めの緋(ひ)色を加えて，肉色を濃くしたような色に近いという。青白橡は，やや青緑みのある灰色で，紫根(しこん)(➔ムラサキ)の紫と，カリヤス(刈安)の黄とで染めた色と考えられ，山鳩(やまばと)色のような色であるという。

あかしんぶん【赤新聞】興味本位に暴露記事を扱ったり，性的興味をそそる内容などを売り物にする新聞。明治20年代の後半，東京の商業新聞が激しい販売競争に際して，暴露記事などで販売部数の増加を図った新聞を広く赤新聞とよんだ。1892年(明治25)黒岩周六(涙香)が創刊した《万朝報(よろずちょうほう)》がこの種の新聞としては最初。同紙は淡紅色の用紙を使っていたところからこの名まえが生まれたといわれる。➔イエロー-ジャーナリズム

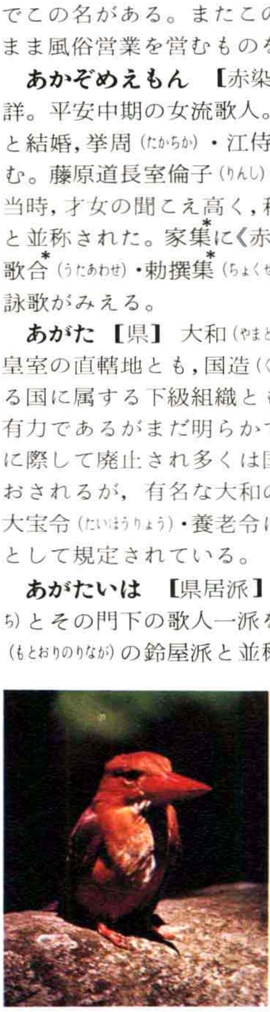
あかすじかめむし【赤条亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長10～12mm。真黒色の地に，前胸背に5条，小楯板(しょうじゅんばん)に3条の美しい赤色の縦条をもつ。日本各地に分布する普通種で，ニンジンなどセリ科植物の種子の部分に密集することが多い。

あかせんくいき【赤線区域】1946年(昭和21)GHQ(連合軍総司令部)が公娼(こうしょう)制度を廃止する覚え書きを出したが，政府は公私ともに売春を禁止する方針をとりながら，実際は，風致上支障のない地域にかぎり特殊飲食店として集団的売春を認めた。その際，当局がこの地域を地図に赤線で区割りをして特別の取り締まりを行なったのでこの名がある。またこの周辺で無許可のまま風俗営業を営むものを青線で区別した。

あかぞめえもん【赤染衛門】生没年未詳。平安中期の女流歌人。大江匡衡(まさひら)と結婚，挙周(たかちか)・江侍従(こうのじじゅう)を生む。藤原道長室倫子(りんし)や娘彰子に仕えた。当時，才女の聞こえ高く，和泉式部(いずみしきぶ)と並称された。家集に《赤染衛門集》があり，歌合(うたあわせ)・勅撰集(ちょくせんしゅう)にも多数の詠歌がみえる。

あがた【県】大和(やまと)朝廷の地方制度。皇室の直轄地とも，国造(くにのみやつこ)の支配する国に属する下級組織ともいわれ，後説が有力であるがまだ明らかでない。大化改新に際して廃止され多くは国郡制に編成しなおされるが，有名な大和の六県(むつのあがた)は大宝令(たいほうりょう)・養老令にも皇室の直轄領として規定されている。

あがたいは【県居派】賀茂真淵(かものまぶち)とその門下の歌人一派をさし，本居宣長(もとおりのりなが)の鈴屋派と並称される。真淵の号〈県居〉からの命名で，田安宗武(むねたけ)・村田春海(はるみ)・加藤千蔭(ちかげ)らが数えられる。中世以来の《古今和歌集》尊重の伝統を排し，《万葉集》を理想にその精神・用語を詠風に取り入れ，国学の盛行につれて多くの支持者を得た。



アカショウビン

あかだし【赤出し】白みそしるに対する赤みそ仕立てのみそしるで，関西の用語であったが最近は三州みそを用いたしるに限っていうようになった。三州みそは大豆みそで，風味・かおりがよいが，多少の渋みがあるので，別の赤みそを加えて渋みを消すことが行なわれている。

あかたち 硬骨魚類・アカタチ科。約50cmになる海産魚。本州中部にすむ。同類に，スミツキアカタチ・イッテンアカタチなどがあり，いずれも赤く美しい色をしている。大きさ・形も分布もほぼ同じで，漁業者はこれらを厳密には区別しない。タチウオに似た形で，赤いのでこの名がついたが，タチウオとは縁が遠い。

あかたては【赤蛺蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さは約65mm。前翅の地色は黒色で，中央部に幅広い不規則な雲形の横帯をもつ。後翅は暗かっ色で外縁部はだいだい色をおびた赤色で，その中に4個の黒紋をもつ。東アジアに広く分布し，幼虫はイラクサ科植物の葉を食べる。飛び方は活発で，樹液・花・腐敗物・獣糞(じゅうふん)などに集まる。本種に近縁のヒメアカタテハは，やや小形で赤色紋が多く，ほとんど全世界に分布し，しばしば大群をなして大洋を渡ることで有名である。幼虫はゴボウなどキク科植物の葉を食べる。　〔鈴木邦雄〕

あかだに【赤螨】ナス・スイカなどの農作物に寄生するハダニの別名。俗に植物に寄生する赤色ないし赤かっ色のダニを総称してアカダニともいう。これらのダニ類は，ふつう葉裏に寄生し，1世代を経過するのに必要な日数が短く(夏季で10日ぐらい)，次々繁殖をくり返すため防除しにくいものである。防除するには，パラチオンなどのリン製剤を散布するのが最も有効であるが，くり返し散布することが必要である。

あかたにこうざん【赤谷鉱山】新潟県新発田(しばた)市赤谷にあり，赤鉄鉱・亜鉛を産出したが，産額が減少したため1968年(昭和43)に廃鉱になった。

あがたぬし【県主】大和(やまと)朝廷の地方官で県の首長。服属した地方の族長が任ぜられる。皇室直轄領の長とも，国造(くにのみやつこ)に属する下級官ともいわれるが後説が有力である。のちには姓(かばね)にもなった。

あがたのいぬかいのみちよ【県犬養三千代】⇨橘(たちばな)三千代

あがためしのじもく【県召除目】地方官を任命する儀式。春の除目ともいう。正月11日から3日間行なわれ，年給・遷任・重任(ちょうにん)などを申請した申文(もうしぶみ)(願

書)が審議され，任否が定められる。朝儀中最も重大な儀式の一つで，平安時代には特に厳重に行なわれた。

あかチン　【赤チン】⇨マーキュロクロム液

あかつち　【赤土】主として酸化鉄の存在に起因する赤色ないし赤かっ色を呈する土をいう。土壌(どじょう)生成作用により生成された土壌体をさす場合と，土壌体の一部である土壌物質についてよぶ場合がある。関東地方でいう赤土は後者で，火山灰を母材とする表層土の黒土に対して，下層土をさす。土壌体全体をさして赤土という場合は，表層の黒色の部分が少なく，赤色の度合いが強い，東海道以南の地帯に分布するものをいい，生成過程で温暖な気候の影響を受けたものである。〔浜田龍之介〕

あがつま　【吾妻(町)】群馬県吾妻郡の町。1955年(昭和30)に原町とほか3村が合併して生まれた。人口17,000。榛名(はるな)山の北西のふもとに位置する。原町は吾妻川と温川(ぬるがわ)の合流点にある谷口集落で，六斎市が開かれ，東隣の中之条町と市場を争っていた。養蚕とコンニャクの栽培が行なわれている。関東三名城の一つといわれる岩櫃(いわびつ)城跡がある。渋川から長野原線が通じる。

あがつまがわ　【吾妻川】利根(とね)川の支流。群馬・長野県境の鳥居峠から発して東流し，渋川市で利根川に合流する。長さ74km。中流の長野原町付近の吾妻渓谷(けいこく)は関東の耶馬溪(やばけい)とよばれる奇勝で，長野原線の車窓からも展望できる。また，長野原で北から流れてくる須川(すがわ)を合わせるが，これは強酸性河川で，そのため合流点から下流は魚がすまず，農業用水にも使えなかった。1963年(昭和38)に，石灰質材料を須川に投入して中和する設備を草津町につくり，いまでは魚もすみ，灌漑(かんがい)にも使えるようになった。草津温泉から流れて須川に注ぐ湯川が，水を酸性にする最大の原因である。吾妻川は落差が急で，多くの水路式発電所がつくられている。〔浅井得一〕

あかつめくさ　⇨ムラサキツメクサ

アガディールじけん　【アガディール事件】⇨モロッコ事件

あかてがに　【赤手蟹】甲殻(こうかく)類・イワガニ科。分布は広く日本では東北以南。甲の幅4cmどまり。体は緑かっ色ではさみだけが赤いものが多いが，個体変異が多く，ほとんど全身赤いものもある。海岸に近い湿った草原・林中などに多く，よく目につく。似たものにベンケイガニがある。これは東京湾以南インド洋まで分布し，前種と同じく海べに近い草むらなどにいる。アカテガニに似るが黄色みが強く，やや小形，甲らの目の後ろに，切れ込みがあるので区別がつく。両種とも，海にはいることはほとんどなく，陸上生活をするが，えら呼吸を行なうため，えらがつねに湿っている必要があり，水けの多いところにしかいない。アカテガニ・ベンケイガニともに雌は腹部にかかえた卵がかえるころになると海べに行き，海の中に卵を放つ。かえったゾエア幼生は海で育ち，変態を終えると陸上生活にはいる。〔菅野　徹〕

アカデミー　［Academy］ルネサンス以降，18世紀ごろまでにヨーロッパ各地で設立されたおもに科学・文学の研究・普及を目的とする団体。プラトンのアカデメイア*に由来する。比較的人文主義的理念に支配されていた大学に対して，特に自然科学の保護育成に大きな役割を果たした。しかし，大学がしだいに自然科学を吸収していくに及んで，その歴史的使命は弱まり，現代では一般的に多大な功績をあげた学者・文学者などをたたえてその成員とする名誉団体の色彩が濃い。➔アカデミア-デル-チメント　➔アカデミー-フランセーズ　➔ロイヤル-アカデミー〔石井忠厚〕

アカデミア-デル-チメント　［Accademia del Cimento］17世紀イタリアの科学学士院。本格的な科学アカデミーの草分けとして，その多産的な活動とともに著名である。1657年，トスカナ大公，メディチ家のフェルディナンド2世およびレオポルドによって創設され，1667年まで存続した。チメントは〈試行〉〈実験〉などの意味で，その名の示すように，古い教義にとらわれず，自然を直接に観察し，実験に基礎を置くというルネサンスの精神を標榜(ひょうぼう)し，音速の測定，温度計・気圧計の製作，毛管現象などについて実験的研究を推進し，その後の科学の発展に重要な貢献をした。そのメンバーの主流はガリレイ*の流れをくむビビアニ・ボレリ・レディ・トリチェリ*らによって占められていた。しかし，組織体としては宮廷内のサロンにとどまっていたので，個人の庇護(ひご)を失うとともに解散するはめとなった。〔藤村　淳〕

アカデミー-フランセーズ　［Académie française］フランス絶対主義の成立期にあたる1635年，当時の宰相リシュリュー*が文学界の統制を図るために創設した組織。フランス語を純化・向上させて，これをヨーロッパの標準的言語の地位に高めることを目的に掲げ，そのために《アカデミー辞典》の編集にのりだし，17世紀末初版を刊行した。現在はフランス学士院の一部会をなしている。

アカデメイア　［Akademeia］BC 387年，アテナイの西郊にプラトン*が創設した学園。英雄アカデモスの社(やしろ)があったところからこの名がついた。プラトンの死後約100年が古アカデメイアとよばれ，その後，紀元前3～2世紀の中アカデメイア・新アカデメイアと学統が続いた。紀元2世紀にはプロチノス*・ユリアヌス・プロクロスらによって再び栄えたが，529年ローマ皇帝ユスチニアヌス1世の異教弾圧の際，解散を命じられて学園の歴史は終わった。〔本橋正義〕

あかでんわ　【赤電話】⇨公衆電話

あかとくろ　【赤と黒】スタンダール*の長編小説(1830)。貧しい家に生まれた主人公ジュリアン-ソレル*が，ナポレオン時代に

アカテガニ





ベンケイガニ

アカテガニ



アカデメイア　ラファエロ《アテナイの学堂》中央左はプラトン，右はアリストテレス

は軍服(赤)を，王制復古時代には僧服(黒)を身につけることで，出世しようとする物語。ジュリアンは，家庭教師として町長の家に住み，その夫人を誘惑し，また秘書としてはいりこんだ大貴族の家の令嬢の心を偽りの恋で奪い，世に出ようとするが，やがて死刑を前に真実の愛を知る。出版当時，その行動は道徳的無感覚とされ，非難を浴びたが，1864年テーヌ*が激賞するに及んで，衆人の感嘆するところとなった。鋭い心理描写と，〈1830年年代記〉と副題があるように当時の変動期の社会をあざやかにとらえていることによって，19世紀リアリズム文学の傑作とされる。〔古屋健三〕

あかとんぼ【赤蜻蛉】⇨アカネトンボ

アガナ［Agaña］アガーニャともいう。南太平洋，ミクロネシアに属するアメリカ合衆国領グアム島の首都。人口2,000(1966)。南太平洋諸島中有数の近代都市。スペインの植民者によって建設されたので，近代建築に混ざって，古いスペインふうの建物も残っている。アメリカ海空軍の基地であるとともに，民間海空交通の要地である。

あがない【贖い】⇨和解

あかなとうげ【赤名峠】中国山地の広島・島根県境をなす峠。標高580m。国道54号線が通り，広島～三次(みよし)～松江を結ぶ国鉄長距離バスが通ずる交通の要点である。

あかにし【赤螺】軟体動物・腹足類・アクキガイ科。殻(から)の高さは15cmに及ぶ大形の巻き貝で，北海道以南の約20mまでの泥底(でいてい)の海底にすむ。殻の表面は淡かっ色だが，内面は橙赤(とうせき)色。アクキガイ科に属し肉食の貝である。美味。卵袋はナギナタホオズキとよばれる。

あかね【茜】双子葉植物・アカネ科。つる性の多年草。本州から南の山地や野原に多く，根はひげ状で黄色，かわくと暗紫色となる。茎は断面が四角形で逆向きのとげがあり，他のものにからむ。葉は心臓形で先はとがり，4枚が輪生しているようにみえるが，そのうちの2枚は托葉(たくよう)である。夏から秋にかけて，茎の先に多数の淡黄緑色の小花を総状につける。根はあかね染めの染料に用いられた。また，根を干したものを茜草根(せんそうこん)といい，漢方では浄血薬・解熱薬として用いる。〔小清水義隆〕

あかね【茜】天然染料*の植物染料の一種。アカネ科に属する多年生つる草の根からとる黄赤色の色素。根を砕き湯で浸出させる。ふつう灰汁(あく)のアルカリを用いて発色させる染法で黄赤色に染める。セイヨウアカネの色素は赤色で，その成分のアリザリン*は灰汁で紫色，ミョウバン*(アルミニウム)で赤色となる。現在は人造染料*として合成され，植物染めの茜色の染色はほとんど絶え，わずかに無形文化財的な存在となっているにすぎない。〔小川安朗〕

あかねいろ【茜色】色名。深い赤色。本来は，アカネの根を灰汁(あく)媒染によって染めた色。わが国上代における茜色は，緋(ひ)すなわち黄赤色をさすといわれ，今日の茜色とは少しく違っている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈アカネ色〉は，色相4.0R，明度3.5，彩度10.5と規定されている。➔色

あかねずみ【赤鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。体長11cm，尾長9.5cmほど。日本全土に最も多い野ネズミで，体は橙赤(とうせき)色，腹面白色で美しい。疎林やその付近の畑，草原にすみ，地中に穴を掘り，シイ・ブナ・クルミなどの種実を食べるが，山間の畑ではマメ類などに多少の害を与えることがある。妊娠期間23～26日，1腹3～9子。

あかねとんぼ【茜蜻蛉】こん虫類・トンボ目・トンボ科の一群。全世界に多くの種類が分布しており，日本からも数十種が知られている。一般に，7～8月ごろは黄だいだい色であるが，老熟すると美しい紅赤色となる。ふつうアカトンボとよばれるものは，おもにナツアカネとアキアカネをさす場合が多い。以前は，夏にみられる黄だいだい色のものがナツアカネ，秋にみられる赤色のものがアキアカネと誤認されていたが，両者は別の種類で，ともに夏から秋までみられるので，季節だけで区別することはできない。アキアカネは平地の池や沼・水田などで発生し，冷涼な山地に移動し，秋になって老熟するとしだいに平地に下って産卵する。したがって夏，高山の頂上付近に群飛するのはアキアカネばかりでナツアカネではない。また，アキアカネには風に向かって群飛する習性があるが，ナツアカネにはそれらの習性はない。これらのほかに，老熟すると黒化して青白色の粉をつけるナニワトンボ，だいだい色をおびたかっ色で，翅(はね)がだいだい色のキトンボ，翅の先端に暗色の帯をもつノシメトンボなども同じ群に含まれる。〔鈴木邦雄〕



アカネ



ナツアカネ



アキアカネ



キトンボ

アカネトンボ

あがのがわ【阿賀野川】福島県・新潟県を流れる川。猪苗代湖(いなわしろこ)の北西隅(ぐう)から流れ出て日橋(にっぱし)川となり，会津盆地にはいって大川・只見(ただみ)川などの支流を合わせ，越後(えちご)山脈を峡谷をつくって横断し，新潟平野に出て日本海に注ぐ。流程210km。日橋川は，猪苗代湖と会津盆地の落差の大きいことに注目されて早くから電源開発が行なわれ，新しい電源開発が行なわれている只見川とともに東北地方水力発電の宝庫である。阿賀野川はもと加治川が合流し，海岸近くで信濃(しなの)川に合流していたが，たび重なる水害対策に河道をそれぞれ独立させて海に流すようにした。舟運が盛んであったので，信濃川との連絡のために旧河道を改修して通船川が設けられている。峡谷部は阿賀野川ラインとよばれ，訪れる客が多い。なお，1965年(昭和40)，下流の漁民間に第2の水俣病*(みなまたびょう)とよばれる有機水銀中毒事件が起こった。〔長津一郎〕

アカバ［Aqaba］シナイ半島東側，アカバ湾の奥にあるヨルダン王国唯一の港。人口6,000(1957)。石油を積み出す港として，現在アメリカ合衆国・イギリスの資本によって築港中である。古くから地中海と紅海を結ぶ隊商路の中間駅として知られる。軍事上・商業上アラブ諸国と対立するイスラエルにとっては重大な意義をもち，両者間には国際紛争がよく起きる。

あかはしこう【赤嘴鸛】⇨コウノトリ

あかはた【赤旗】1945年(昭和20)に創刊された日本共産党の中央機関紙。党の宣伝・扇動の媒体として発行されている日刊紙。1928年に非合法新聞《赤旗(せっき)》として発刊されたが，たびたびの弾圧で1935年発行不能となる。第2次世界大戦後も，1950年の朝鮮戦争勃発(ぼっぱつ)直後に連合軍総司令官から発行を停止された。しかし日米講和条約発効後の1952年に再刊され，1980年現在(第15回大会発表)の読者数は353万人といわれている。〔須藤泰秀〕

あかはたじけん【赤旗事件】社会主義者弾圧事件。1908年(明治41)6月22日東京神田(かんだ)の錦旗館(きんきかん)で，堺利彦*(さかいとしひこ)・大杉(おおすぎ)栄*・荒畑寒村*ら社会主義者が，同志山口義三(孤剣)の出獄歓迎会を開催。閉会後〈無政府共産〉の赤旗を掲げ街頭へ出ると，待機中の警官隊に大杉・荒畑らは逮捕され，治安警察法違反で禁錮に処せられた。

事件後，西園寺公望(さいおんじきんもち)内閣に代わった桂(かつら)太郎内閣の弾圧はいっそう強化された。➔大逆事件

あかはだやき 【赤膚焼】 奈良県大和郡山(やまとこおりやま)市付近に産する陶器。起源は江戸初期ともいわれるが，宝暦年間(1751～1763)に郡山藩主柳沢堯山(ぎょうざん)が窯(かま)を再興した。京焼系の作風で絵付けに巧みであり，天保(てんぽう)年間(1830～1843)に，名工奥田木白が生彩を放った。

あかばな 【柳葉菜】 双子葉植物・アカバナ科。山や野原のやや湿ったところにはえる多年草。茎は高さ15～90cmでよく枝分かれする。葉は下部は対生で上部は互生，卵形で鋸歯(きょし)がある。7～9月に茎の上部の葉のつけ根に紅紫色の花弁4枚からなる花をつける。果実は細長く3～8cm。その中に綿毛をもった種子が多数あり，風によって散布される。この仲間にはほかにケゴンアカバナ・ミヤマアカバナ・ヤナギランなどがある。 〔小清水義隆〕

あかばね 【赤羽】 東京都北区北端の町。荒川をはさんで川口市(埼玉県)と接する。その地名のもとは，赤埴(あかはに)(赤土)という。江戸時代は荒川に臨む岩槻(いわつき)街道の宿場町であった岩淵(いわぶち)本宿の渡河点として重要であった。1883年(明治16)，日本鉄道(のちの東北本線)が開通して赤羽駅が設けられ，1885年には池袋を経て品川へ通ずる現在の赤羽線も開通した。西側の台地に工兵隊の兵営や被服本廠(はんしょう)などの陸軍施設，東側の低地に金属工業・化学工業などの工場群ができて，駅付近に東京でいちばん北にある商店街が発達した。第2次世界大戦後，旧軍事施設は住宅・民間工場・学校などに転用され，一部は日本住宅公団の赤羽台および桐ケ丘(きりがおか)の二大団地となった。 〔浅井得一〕

あかはねむし 【赤翅虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・アカハネムシ科。体は平たく，多くのものは赤色または暗色。触角はふつう鋸歯(きょし)状またはくしの歯状。樹皮下や花上に見いだされる。幼虫は平たく，樹皮下に生活している。アカハネムシは，体長は12.5～17mm，体は黒色で，翅は赤色。日本全土に分布し，成虫は花に集まる。

あかはら 【赤腹】 鳥類・ツグミ科。全長23～24cmのツグミ類の一種。上面暗緑かっ色で胸と両わきは美しいきつね色。雄の頭部は黒色をおびる。中部地方の山地(特に高原)から北海道・サハリンの平地にかけて繁殖し，関東以南で越冬する。おもに地上でこん虫をとる。高原の別荘地などでは早朝非常によくさえずってうるさいくらいである。➔ツグミ

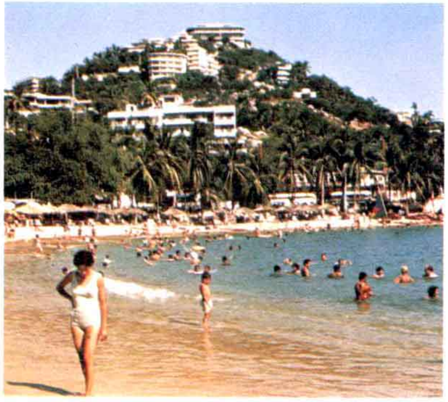
あかパンかび 【赤パン黴】 子嚢(しのう)菌類。焼け跡のくいやトウモロコシの食べかすによく観察される橙赤(とうせき)色のかび。雌雄異株のものと雌雄同株のものとある。特に雌雄異株の種類は遺伝学の実験に使われているので有名である。8個の子嚢胞子は子嚢に包まれ，10数個の子嚢は洋ナシ形の被子器に包まれている。成熟すると被子器の頂部より黒色の子嚢胞子が放出される。製パンの害菌の一つとされている。生産するカロチンは飼料用に利用される。 〔曾根田正己〕



アカヒトデ



赤不動　絹本着色不動明王像　明王院蔵



アカプルコ　濃紺の海と緑の丘に立ち並ぶ白亜のホテル。メキシコシチーから道路・鉄道の便よく，内外の航空路線も開かれ，メキシコ第一の保養地としてにぎわっている

アガパンサス 〔agapanthus〕 単子葉植物・ユリ科。南アフリカ原産。ムラサキクンシランともいう。6～7月に紫花を20～30傘形(さんけい)状につける。地下に塊茎があり，葉は根出葉。切り花・花壇・はち植えなどにする。白花や斑(ふ)入りなどもある。春に株分けしてふやす。数年間そのままにしておいてもよいが，適宜に株分けして肥培しないと，花立ちが少なくなる。日あたりのよい，水湿のあるやや粘重土によく生育する。アガパンサスはギリシア語の〈愛らしい花〉の意。 〔小杉　清〕

あかひげ 【赤鬚】 鳥類・ツグミ科。ツグミ類の一種で全長13cmの小鳥。コマドリ*に近縁で色も似ているが雄は顔から胸が黒い。種子島(たねがしま)から与那国(よなくに)島までの特産で，山地の森林の地上近くにすむ。捕獲は禁止されているにもかかわらずしばしば小鳥屋の店頭で見かける。➔ツグミ

あかひとで 【赤海星】 棘皮(きょくひ)動物・ヒトデ類・オフィディアステル科。5本の腕が細長く美しい橙紅(とうこう)色をしたヒトデで，本州から九州にかけての沿岸に普通。分布は広くジャワに及ぶ。腕の長さ10cmに達する。

あかびら 【赤平(市)】 北海道中西部の市。1891年(明治24)熊本・岡山の両県民が入植し，大正時代には炭鉱の開発が進んだ。1954年(昭和29)市制施行。人口27,000。市名はアイヌ語のアカピラ(山稜(さんりょう)の崖(がけ)の意)に由来し，北部にあるイルムケップ山(865m)の山すそが空知川に切られた断崖(だんがい)を表わすといわれる。

市域は空知川中流流域の氾濫原(はんらんげん)上にあり，山がちで耕地が少なく，石狩炭田北部の住友・茂尻(もろ)・赤間の3炭鉱を中心とする〈石炭の町〉であったが，最近は閉山が相次いで，深刻な不況に陥り，1960年には54,000あった人口が半減している。産業三大別人口比は7：49：44。根室本線・国道38号線に沿い，付近に赤平温泉がある。

あかふどう 【赤不動】 高野山明王院所蔵の不動明王画像の俗称。全身は紅色に彩色され，《青不動*》《黄不動*》とともに三不動の一つとされている。僧円珍が比叡(ひえい)山の葛河滝(くずかわだき)で感見し描かせたという。平安初期の様式を伝えてはいるが，後期の制作と考えられている。

アカプルコ 〔Acapulco〕 メキシコ太平洋岸の港市・観光都市。人口17万4,000(1970)。気候は年じゅう暑く避寒地となっている。天然の良港で，かつてメキシコとアジアを結ぶ港として栄えたが，いまでは海

水浴場・ホテルなどの施設がよく整った観光地として発展している。江戸時代初期，伊達政宗(だてまさむね)の使者支倉(はせくら)常長*は，ローマへ行く途中ここに上陸した。

アガペー ⇨愛

ア-カペラ [a Cappella] イタリア語で〈聖堂ふうに〉の意。合唱音楽が楽器による伴奏をまったくもたない場合をさす。ルネサンス音楽のミサ*やモテット*の代表的な形態であるため，19世紀になって，ア-カペラがキリスト教会の音楽の理想的なものと考えられるようになった。

あかぼう【赤帽】 駅構内で，旅客の依頼する手まわり品を運ぶことを仕事とする者のよび名。目印に赤い帽子を着用している。山陽鉄道が，イギリスにならい，1896年(明治29)主要駅に荷運夫(赤帽)を置いたのが最初で，現在国鉄で営業しているものは約300名である。

あかほしびょう【赤星病】 リンゴ・ナシの葉の表面に少しふくれた黄または橙黄(とうおう)色の病斑(びょうはん)を生じ，その表面に黄かっ色ないし黒色の小粒を形成する。葉の裏面には灰黄色または灰色の毛状の突起ができる。病原菌はかびの一種で，さび病菌に属し，冬季はビャクシン類に菌糸の形で潜伏して越年，4～5月ごろの降雨ののちに胞子がリンゴ・ナシに飛散して発病する。果樹園の近くのビャクシン類を伐採して，菌の生存場所を奪うことが重要であり，これが実行できない場合は4月中～下旬にビャクシン類に薬剤を散布すると，発病を減少させうる。リンゴ・ナシには5～6月の降雨前後に薬剤を散布する。〔渡辺 実〕

あかぼや 原索動物・尾索綱。体長10cmほどで，直立する。赤橙(せきとう)色を呈し，マボヤと同様にして生食される。北太平洋沿岸に広く分布する。➔ホヤ

あかほん【赤本】 草双紙*の一。朱色の表紙で江戸中期ごろから出版された。内容は《舌切雀(したきりすずめ)》《鉢(はち)かづき*》など今日に伝わる話が多く，さし絵にわずかの会話が添えてある。その末期には，歌舞伎*(かぶき)・浄瑠璃*(じょうるり)の筋をまとめた作品も現われ，黒本*・青本*に発展した。

あかまがせき【赤間ケ石】 紫金石ともいう。山口県厚狭(あさ)地方に産する石材。赤かっ色の凝灰岩*できめが細かく，紫のしま模様をもった美しいものも産した。主として，〈赤間石〉と称して，すずり材に用いられる。➔和硯(わけん)

あかまじんぐう【赤間神宮】 山口県下関(しものせき)市阿弥陀寺(あみだじ)町にある。祭神は安徳天皇。1185年(文治1)，壇の浦の戦い*で平家は全滅し，8歳の安徳天皇は平徳子に抱かれて入水した。《玉海》によると，1191年(建久2)12月29日，この地に若き天皇の霊を祭り，阿弥陀寺と称したのが，当社のはじめであるとしている。1875年(明治8)神社に改められて〈赤間ノ宮〉と称したが，1882年に神宮号を許された。社蔵の長門(ながと)本《平家物語》(全20巻，紙本墨書)および《懐古詩歌帖(じょう)》(たんざく88葉。うち4葉は補写)は重要文化財。例祭は10月7日。4月23～25日の先帝祭には遊女(現在は見立て遊女)の道中でにぎわう。〔佐野文哉〕

あかまつ【赤松】 裸子植物・マツ科。メマツともいう。日あたりのよい山地にはえる常緑高木。高さ40m，直径1.5mに達する。樹皮は赤ないし暗かっ色で亀甲(きっこう)状の裂け目ができる。葉は針状で2本ずつ出，基部がかっ色のさやに包まれる。材は建材・パルプに用いられる。

あかまつし【赤松氏】 村上源氏。播磨(はりま)(兵庫県)佐用荘(さようのしょう)から興り，荘内の赤松上村の地名をとって名字とした。則村(のりむら)ははじめ後醍醐(ごだいご)天皇に仕えたが，のち足利尊氏(あしかがたかうじ)につき，播磨守護となった。その後，備前・美作(みまさか)(ともに岡山県)などの守護職(しゅごしき)を兼帯し，四職家の一つになったが，1441年(嘉吉1)満祐(みつすけ)は将軍義教(よしのり)を謀殺し，幕府に攻められて一族は没落した。1458年(長禄2)政則(まさのり)が再興したが，また衰え，義祐のとき家臣浦上宗景(むねかげ)に領国を追われ，子の則房(のりふさ)が関ケ原の役で戦死し，一族は断絶した。〔村尾元忠〕



赤 本



赤 間 神 宮



ア カ マ ツ 冬芽

あかまつのりむら【赤松則村】(1277～1350) 南北朝時代の武将。法名円心。元弘(げんこう)の乱*に際しては後醍醐(ごだいご)天皇に忠誠を尽くしたが，建武中興政府に重要視されないことを不満として，足利尊氏(あしかがたかうじ)の反乱にはその一味となり，播磨(はりま)(兵庫県)で南軍を迎え討った。尊氏が幕府を建てると，功により播磨の守護に任ぜられ，赤松氏繁栄の第一歩を築いた。

あかまつみつすけ【赤松満祐】(1381～1441) 室町中期の武将。法名性具。兵部大輔(たゆう)・左京大夫(たいぶ)・大膳(だいぜん)大夫と称す。赤松則村(のりむら)のひまごで，四職*の1人として1411年(応永18)以来3度侍所の長官となり，大いに権勢をふるったが，将軍との不和がしだいに高まり，1441年(嘉吉1)将軍足利義教(あしかがよしのり)を謀殺して領国の播磨(はりま)(兵庫県)に下り，幕府軍に攻められて自殺した。➔嘉吉(かきつ)の乱

あかまぬま【赤麻沼】 栃木県の南端部，渡良瀬(わたらせ)川と利根(とね)川の合流点近くにあった沼。この付近は関東地方の内陸ではいちばん低く，洪水(こうずい)がたびたび起きるので，1918年(大正7)その防止のために面積35km^2の赤麻遊水池が完成して，沼はその中に含まれた。その後，遊水池は年々土砂の堆積(たいせき)が激しいため，最近では浚渫(しゅんせつ)を行なって，その肥えた土を沿岸の干拓地で利用している。

あかまるかいがらむし【赤円介殻虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・カイガラムシ科。ミカンの害虫。成虫雌の殻は直径約2mm，扁平(へんぺい)で丸く，淡黄色または淡かっ色。雄の殻はやや淡色で楕円(だえん)形。九州以西に分布し，受胎した雌の成虫と幼虫で越冬する。幼虫は母虫の殻の下に生まれ，のちにはいだして果実や枝・葉などに寄生する。

あかまんぼう 硬骨魚類・アカマンボウ科。長さ2mに及ぶ大形海産魚。円盤状で，マナガツオを大きくしたような形だが，背が銀色をおびた青，腹が紅で，毒々しい配色である。全世界の暖かい外洋の表層に漂ってクラゲを食べ，暮らし方はマンボウ*に似るが縁は遠い。美味。マンダイともよばれることも多い。

あかまんま ⇨イヌタデ

あかむし【赤虫】 こん虫類のユスリカ*の幼虫の俗称。普通はセスジユスリカの幼

虫で，体長10mmほど。熱帯魚の生き餌(え)として賞用される。これはアカボウフラともよばれ，ボウフラによく似る。オオユスリカの幼虫は，体長15mmほどでややかたく，つり餌に使われる。どちらもみぞなどにすむが，酸素の少ない水によく耐える。ヘモグロビンをもつ。

あかめがしわ　【赤芽柏】　双子葉植物・トウダイグサ科。雑木林中に生育する落葉高木。高さ８～10ｍ。初春の芽立ちがまっかなためにこの名がある。葉は長柄を有し浅く３裂する。葉裏の縁近くと葉柄上部に腺点(せんてん)がある。雌雄異株。雄花は多数のおしべをもち，枝の先に５cmぐらいの枝分かれした穂となる。雌花は葉腋(ようえき)に６cmぐらいの穂をなし，子房に３柱頭がある。果実は柔らかい突起があり，３個の黒い種子がある。

あかめのたき　【赤目ノ滝】　三重県名張(なばり)市の南部，名張川の支流丈六川にかかる大小いくつもの滝をいい，〈赤目四十八滝〉というが，実際には50以上の滝がある。丈六川に，赤目山の柱状節理の片麻岩の中を，峡谷をうがって流下し，岩と滝と淵(ふち)と桜・新緑・紅葉の組み合わせの美しい赤目峡谷を形成しており，赤目一志峡県立公園に指定されている。

あかめふぐ　【赤目河豚】　硬骨魚類・マフグ科。30cmほどになる海産魚。普通のフグ類とは色合いがやや異なり，全身美しい茶色に黒斑(こくはん)を散らす。三浦半島では普通だが，他の所には少なく，また本州中部の太平洋岸以外からはまったくとれたことがない。有毒。なお東京でアカメフグというのは，別種のヒガンフグのことである。

アガメムノン　［Agamemnon］　古代ギリシアの英雄。ミケーネの王。スパルタ王メネラオス*の兄，エレクトラ*・オレステス*らの父。ギリシア世界随一の権勢者としてトロヤ遠征軍の総帥となり，船出に順風を得るため娘イピゲネイアを犠牲にささげたといわれる。10年にわたるトロヤ戦争*に勝利を収め，トロヤ王女カッサンドラを伴って凱旋(がいせん)したが，その当日王妃クリュタイムネストラと情夫アイギストスに謀殺された。アイスキュロス*の三部作《オレステイア》の第１作《アガメムノン》は，アガメムノンとカッサンドラの不吉な予言，クリュタイムネストラの激しい気性などを配して，血塗られた王家の悲劇を力強く描いている。〔久保正彰〕

あかもく　【赤藻屑】　褐藻(かっそう)植物・ホンダワラ科の海藻。わが国各地の海岸に産し，干潮のとき海面に浮く藻体が赤かっ色にみえる。長さはふつう３～５ｍ，ときに10ｍを越す。円柱形の気胞があり，葉はへら形で羽状に切れ込む。卵と精子による有性生殖のみで，遊走子はない。わが国ではあまり利用されないが，中国南部では肥料にされる。



赤目ノ滝　滝と淵と奇岩の続く赤目四十八滝の渓谷美。深い滝つぼの水は，新緑にも紅葉にもその色を映し，多くの観光客を招いている



アカモク



アカモズ



赤門

あかもず　【赤鵙・赤百舌鳥】　鳥類・モズ科。全長20cm，上面赤かっ色，下面白色で，モズ*と同じく黒色過眼線が顕著。アジア北部で繁殖し，冬は南アジアへ渡る。わが国では本州中部以北で繁殖。習性はモズに似る。

あかもん　【赤門】　朱塗り・黒金具造りの御守殿門。御守殿門とは江戸時代，将軍の娘が三位以上の大名に嫁した場合，その居所につくる門のこと。将軍家斉(いえなり)の第24子溶姫が1826年(文政９)加賀(石川県)の前田斉泰(なりやす)に嫁した際，その上屋敷につくった門が現在の東京大学赤門である。

あかゆおんせん　【赤湯温泉】　山形県南陽市にある温泉で，泉温68℃の含硫化水素弱食塩泉。付近に白龍湖(はくりゅうこ)がある。

あかゆおんせん　【赤湯温泉】　新潟県南魚沼郡湯沢町にある温泉で，泉温43℃の含セッコウ食塩泉。苗場山の登山口にあたり，冬はスキー客でにぎわう。

あがりや　【揚屋】　江戸時代，江戸小伝馬町にあった牢屋(ろうや)の一。未決囚の御目見(おめみえ)以下の御家人・陪臣・僧侶(そうりょ)・医師を収容する雑居房。牢名主が同室の囚人中から任命されて牢役人との連絡をする。御目見以上の旗本(はたもと)を収容する独房の揚座敷とは別。

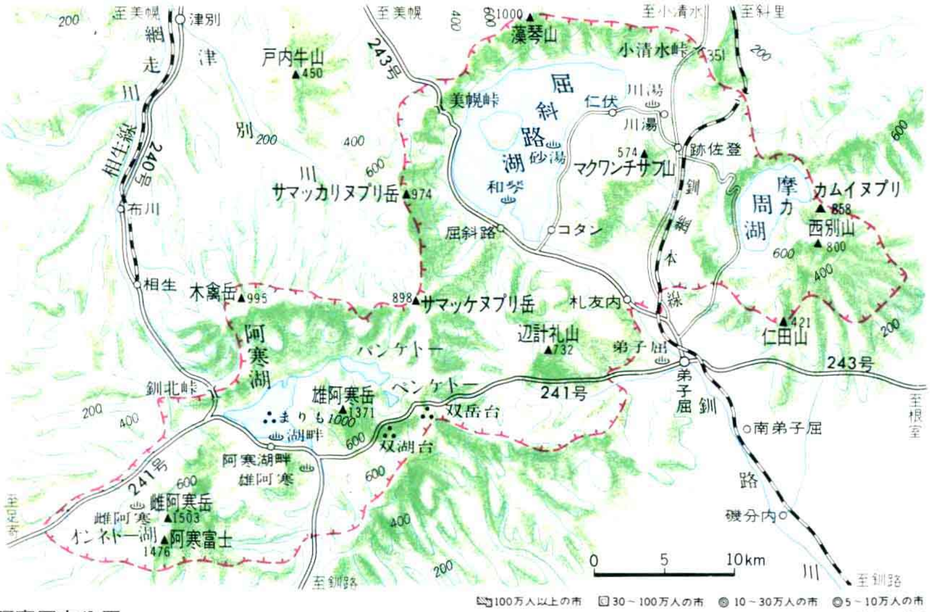
あかるさ　【明るさ】　光が目にはいって網膜を刺激した場合の視知覚の一種。光源の明るさ，場所の明るさ，物の明るさに大別することができる。これらの明るさを測光量で表わすとき，光源の明るさには光束*(光の量)・光度*(光の強さ)・輝度(輝き)，場所の明るさには照度*，物の明るさには光束発散度*なる術語を用いてそれぞれ定義と単位が定められている。明るさを感じる度合いは刺激光そのものはいうまでもなく，これが目にはいるときの瞳孔(どうこう)の広さ，網膜のどの部分にあたるか，またその面積や刺激時間などが関係し，目の順応状態や周囲の輝度分布，視野全体の照度水準などによっても影響を受ける。したがって，測光量は知覚された光の主観的な明るさに直ちに対応するものではない。〔中山忠巳〕

あかん　【阿寒(町)】　北海道釧路(くしろ)支庁の町。阿寒湖の南岸一帯の広い地域を占め，南は釧路市に接する。人口8,000。雄阿寒岳・雌阿寒岳が町内にそびえ観光客が多い。ダイズ・アズキ・ジャガイモ・テンサイなどの農業が行なわれている。釧路から阿寒湖畔までバスが通じ，その沿線に中心集落である阿寒市街がある。

あかんこ　【阿寒湖】　北海道東部，雄阿寒岳の西のふもとに位置する。面積13km²，水面高度419ｍ，最大水深38ｍ。水は阿寒川に流れて太平洋に注ぐ。阿寒カルデラ内の火口原湖が中央火口丘雄阿寒岳の溶岩にせきとめられて水位を高めたもので，水源にあたるペンケトウ・パンケトウの２湖も同様である。湖中に４島があり，四周の原始林や青藍(せいらん)色の水とあいまって幽邃(ゆうすい)の風景地で，阿寒国立公園の西の中心



阿寒湖　阿寒カルデラの原生林の底に，千古の静寂を秘めて鏡のように輝く阿寒湖。原生林はおもにエゾマツ・アカエゾマツ・トドマツなどからなり，雄阿寒岳西麓の樹林帯は特にすばらしい林相を示す



阿寒国立公園

となる。湖に生息するマリモ*は特別天然記念物に指定されている。　〔長津一郎〕

あかんこくりつこうえん　**【阿寒国立公園】**　北海道東部，釧路(くしろ)・十勝(とかち)・網走(あばしり)の3支庁にまたがり，屈斜路湖・阿寒湖・摩周湖と，雌阿寒岳(1,503 m)・雄阿寒岳(1,371 m)・カムイヌプリ(858 m)などを含み，また温泉に恵まれている。面積874.98km²。1934年(昭和9)国立公園に指定された。屈斜路湖は周囲が57kmにわたる北海道第2の大湖であり，阿寒湖は島も多くマリモを生じ(特別天然記念物)，摩周湖は湖岸が断崖(だんがい)のカルデラ湖で湖底(212 m)が深く，透明度が高い(41.6 m)など，それぞれ特色のある美しい火山湖である。活火山である雌阿寒岳は外輪山の西南部にあとでできた火山で，山腹にはミネズオウ・イワウメ・メアカンフスマ・メアカンキンバイ・アカンサスゲなどの高山植物がみられ，頂上からはオホーツク海を隔て太平洋を望むことができる。雄阿寒岳は大カルデラの中にできた火口丘で，その秀麗な姿から阿寒富士の名がある。公園内はエゾマツ・トドマツ・シラカンバなど，亜寒帯原生林の景観がみられ，阿寒湖付近には原生林の中を走る観光道路がある。　〔木村東一郎〕



アカンサス　アテネより出土のコリント式柱頭(ローマ時代)

アカンサス　[*Acanthus*]　双子葉植物・キツネノマゴ科・ハアザミ属。地中海沿岸・熱帯アジア・熱帯アフリカに広く分布し，トゲハアザミ・ハアザミ・ナガバハアザミなどの種類がある。いずれも大形の多年草で，葉はアザミのように切れ込みがあり，へりにとげがある。夏，茎を出して紫～赤色の唇形花(しんけいか)をつける。

なお，ギリシア・ローマ建築，ことにコリント式建築ではアカンサスの葉形を模した文様が用いられた。アカンサスの葉を主要な装飾要素にしたコリント式柱頭は，他の柱頭形式より一段と華麗なため，はで好みのローマ人の好みに合致して圧倒的に用いられ，植物文様における王座を占めるに至った。　〔小清水義隆・渡辺保忠〕

アーカンソー(州)　[Arkansas]　アメリカ合衆国中南部の州。面積13万6,000km²，人口188万6,000(1970)。州都リトルロック。1863年に合衆国第25番めの州となる。州名は〈南風の吹いてくるほうにいる人々〉を意味する〈カンサス〉のフランス語化したもの。アーカンザス川をはじめとするミシシッピ川の支流流域で，工業の発達しつつある農業州として，また石油生産の多い州として特色がある。綿花の生産は合衆国全州中第4位で，それによる農家の収入は全収入の48%を占める。地下資源は石油のほかに，ボーキサイトが全国産出の96%を占め，ダイヤモンドは合衆国唯一の生産地となっている。主要都市，リトルロック・フォートスミス。　〔相村大彬〕

あかんたい　**【亜寒帯】**　冷帯ともいい北半球にのみ存在する。ケッペン*の気候分類では亜寒帯夏雨気候と亜寒帯多雨気候に分けている。冬季の気温は，－30～－40℃にも下がり，夏季は短いけれども15～19℃ぐらいに上がって，樹木が生育する。また冬季には河川・湖が凍り，春・夏の融雪時や降雨時には洪水(こうずい)になることが珍しくない。表層に近い土層が1年じゅう凍結していることが多く，凍土とよばれている。この地域は，寒帯を取り巻いて広く分布し，タイガ(北地針葉樹林)を形成している。ヨーロッパ北部・シベリア・アラスカ・カナダがこれにあたり，わが国では北海道の一部にみられる。　〔小栗　宏〕

あき　**【飽き】**　心的飽和ともいい，変化の少ない行動，あるいは同じ行動のくり返しによって生ずる心理状態。カルステンによれば，単純なくり返し作業に飽きると，与えられた課題にさしさわりのない範囲で，変化を求めるようになる。さらに作業を続けようとすると，のがれようとする力との

葛藤(かっとう)のすえ，ついには意欲を失って作業を放棄する。

あき　【秋】　1年を四季に分けたときの，第3の季節。天文学上では秋分(9月23日ごろ)から冬至(12月22日ごろ)までをいい，二十四気では立秋(8月8日ごろ)から立冬(11月8日ごろ)の前日までをいうが，気象学上では9～11月を秋としている。秋は，太平洋高気圧が弱まって大陸から移動性高気圧が訪れはじめ，寒冷前線が日本付近まで南下してくる時期である。移動性高気圧と低気圧とが交互にやってくるので，天気は春に似た変化をし，またしばしば台風が来襲する。10月半ばまでは天気の悪いことが多く，このころの雨を秋の長雨という。10月半ばを過ぎるころから寒冷前線はずっと南へ下がり，移動性高気圧におおわれることが多くなるので，秋晴れの日が増す。11月になると，よく一時的な雨が通り過ぎるが，これを時雨(しぐれ)とよんでいる。このころになると，明け方に霧が現われやすくなり，北国や山岳部には初雪が降る。秋は，米をはじめとして種々の農作物やくだものが実り，草木の紅葉する季節で，収穫を喜ぶ秋祭りなどのにぎわしさがある。一方，昔から1年のうちで最も〈もののあわれ〉を感ずる季節ともいわれている。なお，南半球では半年ずれて，4～6月が秋である。

〔土屋　裕〕

あき　【安芸(国)】　広島県西半の旧国名。芸州。山陽道の一国で東は備後(びんご)(広島県)，西は周防(すおう)(山口県)，北は石見(いわみ)(島根県)に接し，南は瀬戸内海を隔てて伊予(いよ)(愛媛県)に対する。古代には沙田(ますた)・沼田・安芸・高宮・高田・賀茂(かも)・山県(やまがた)・佐伯(さいき)の8郡に分かれていたが，現今では広島・呉(くれ)・大竹など5市と7郡に分かれる。古く阿岐国造(あきのくにのみやつこ)の治下にあったが，大化改新後1国とし国府を安芸郡(府中町)に置いた。古代末期には平氏の知行国，のち，院の御領。承久(じょうきゅう)の乱後武田(たけだ)氏が守護，室町時代には今川・細川・渋川・武田・山名・大内の諸氏があいついで守護となり，戦国時代には毛利氏が支配した。関ケ原の役後，福島正則(まさのり)が入国したが，1619年(元和5)除封後は浅野氏が入封し明治に至り，1871年(明治4)備後と合わせて広島県となり今日に及ぶ。

〔黛　弘道〕

あき　【安芸(市)】　高知県南東部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口**25,000**。

市域は，安芸・伊尾木(いおき)両川下流部の安芸平野一帯を占め，土佐湾岸から徳島県境の山村地帯に及ぶ。産業三大別人口比は**34：19：47**。平野部ではキュウリ・トマト・ピーマンの促成栽培が行なわれ，タバコもつくられる。高知市から土佐電鉄が通じ，国道55号線は海岸線を走り，室戸岬(むろとざき)を経て牟岐(むぎ)(徳島県)へ通ずる。

あき　【安岐(町)】　大分県東国東(ひがしくにさき)郡の町。人口**11,000**。国東半島の南東部を占め，北部に両子(ふたご)山がそびえる。米・七島藺(しちとうい)・ミカンなどの農業が行なわれる。《和名類聚鈔(わみょうるいじゅうしょう)》にみえる安岐郷の地で，条里制の跡が残っている。

あきあみ　甲殻(こうかく)類・サクラエビ科。体長約4cm。本州中部以南の川口や，塩分の少ない浅い海に産する。干しえびや塩辛にする。

あきうおんせん　【秋保温泉】　宮城県名取郡秋保町にある飛鳥(あすか)時代から知られた温泉で，飯坂(いいざか)・鳴子とともに奥州三名湯の一つに数えられている。仙台(せんだい)市の南西10kmにあたり，泉温56℃の弱食塩泉。名取川の峡谷美がすぐれ，北西12kmに高さ55mの秋保大滝がある。付近は秋保石とよばれる大谷(おおや)石に似た凝灰岩の石材の産地である。

あきおちでん　【秋落ち田】　秋，稲穂が出るころになって，いままで普通の生育をしてきたイネの姿が急にみすぼらしくなり，収量が落ちてしまう現象を秋落ち現象という。この現象は一般に窒素肥料の追肥などによって回復することがなく，単なる肥切れとは異なるので，このような状態を示す田を秋落ち田といっている。秋落ち田はわが国の西南地方に広く分布し，全水田面積の20～30%(60～90万ヘクタール)に達するといわれる。その生成は土壌(どじょう)の母岩によってほぼ決定され，母岩がケイ酸に富んだ酸性岩系統の場合に多く，ケイ酸の少ない塩基性岩系の場合にはほとんど認められない。秋落ちの起こる原因については，土壌中鉄分の欠乏によって遊離の硫化水素または可溶性硫化物が発生し，これがイネの根を侵して一種の養分欠乏症状を起こすといわれる。水田は稲作期間中，つねに水をたたえているので，作土中の下部に還元層を生じ，鉄やマンガンが溶脱して，作土から心土へと流れ去る。したがって土壌の母岩に鉄・マンガンが少ないと，作土中にこれらの養分が不足してくる。すなわち，水田は老朽化して秋落ち現象を起こしやすい田となる。このような意味から秋落ち田を老朽化水田ともいう。

秋落ち田の改良対策をあげると，①客土：山の赤土，河川の泥土(でいど)など，鉄分や塩基の豊富ないわゆる若い粘土を水田に入れて，土壌の〈若返り〉を行なう。②天地返し・深耕：天地返しとは心土の一部を作土層にまで掘り上げることであり，深耕とは層を入れ替えることなしに，心土の一部まで耕すこと。③無硫酸根肥料の施用：硫安・過リン酸石灰・硫酸カリなどの施用を避けて，塩安・石灰窒素・尿素などの硫酸根の残らない肥料を用いる。④秋落ち抵抗性品種の栽培：穂重型品種は秋落ち抵抗性がかなり高いから，このような品種を選んで植えつける。⑤直播(じきまき)栽培：直播を行なうと秋落ちをある程度防ぐことができる。

〔金木良三〕



アキカラマツ



秋川渓谷　深緑の秋川渓谷。谷は浅いが滝や淵もあり，日本的な野趣に富む。キャンプ場などあって都民のレクリエーション地となっている

あきからまつ　【秋唐松】　双子葉植物・キンポウゲ科。山野に普通の多年生草本。高さ50～150cm。葉は羽状に細かく分かれ，全体緑白色。夏，茎の頂に黄白色の小花を円錐(えんすい)状に多数つける。

あきがわ　【秋川(市)】　東京都西部，五日市線に沿う市。西多摩郡秋多町が，1972年(昭和47)単独で市制を施行した。市名は市の南部を流れる多摩川の支流秋川による。中央を同じく多摩川の支流平井川，東端を多摩川本流が流れ，その間に秋留(あきる)台地がある。人口**43,000**。産業三大別人口比は5：42：53。畑作と養鶏が中心の純農村であったが，最近ベッドタウンとして人口が急増，〈自然を生かした緑の町づくり〉を目標とし，公害の危険のある工場などの設置などを断わっている。都立羽村草花丘陵・秋川丘陵の2自然公園の一部をなし，また全寮制の都立秋川高等学校がある。

〔浅井得一〕

あきがわけいこく　【秋川溪谷】　東京都西多摩郡檜原(ひのはら)村にあり，多摩川の支流秋川の溪谷で北秋川と南秋川が本宿付近で合流し秋川となり，さらに下流の五日市(いつかいち)町付近で養沢川が合流している。川は角岩・石灰岩・粘板岩などの岩石をうがって流れ，滝と淵(ふち)を形成し，神戸岩(かのといわ)・六枚屛風(びょうぶ)などの奇岩とあいまって溪谷美を誇り，秩父(ちちぶ)多摩国立公園


秋篠寺

に属している。

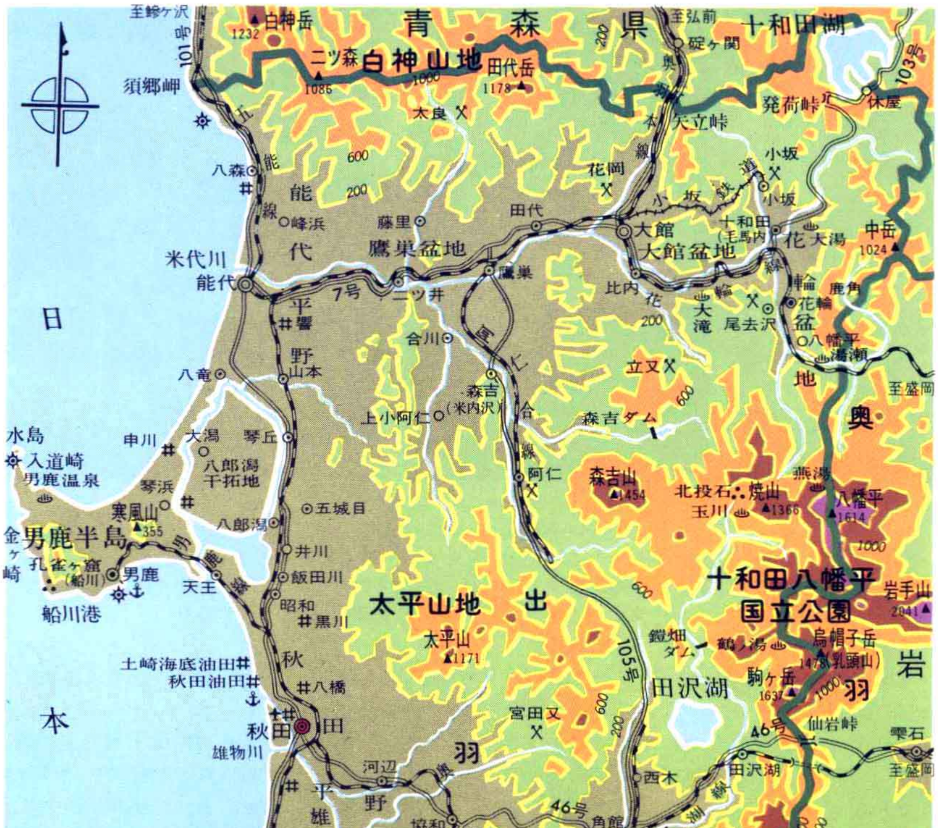
あきぐみ 【秋胡頽子】 双子葉植物・グミ科。山野にはえる落葉低木。高さ2～3m。葉は互生し，表面は緑色，裏面は白色。5月ごろ葉の基部に白色の花をつける。果実は長卵形で，10月ごろ赤熟し食べられる。

あきしのでら 【秋篠寺】 奈良市秋篠町にある浄土宗の寺。780年(宝亀11)善珠僧正が創建した奈良朝末期の官寺。現在の本堂(国宝)は開創当初の講堂で，1135年(保延1)他の堂塔が焼失以後本堂となったものであるが，鎌倉期と明治期に大修理された。仏像の名品が多く，特に伎芸天(ぎげいてん)像・梵天(ぼんてん)像(ともに重要文化財)は有名。大元堂の大元帥(たいげん)明王は秘仏で，5月5日に開扉(かいひ)。

あきしま 【昭島(市)】 東京都三多摩*地区ほぼ中央部の市。古くは養蚕地帯で，第2次世界大戦中，東隣の立川市と一体化して航空機工業が発達した。1954年(昭和29)昭和町と拝島町が合併して市制施行。人口88,000。市域は，多摩川の中流に沿い，武蔵野(むさしの)台地*の南縁に位置する。アメリカの空軍施設が置かれ，東部地区には機械修理などの大工場が多い。産業三大別人口比は1：41：58。特産は多摩川ナシ。

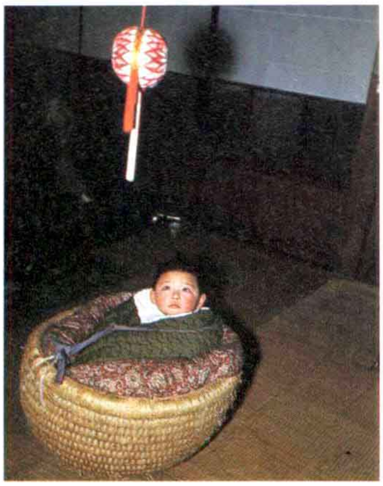
あきた 【秋田(県)】 東北地方北西部の県。西は日本海に面し，北は青森，東は岩手，南は宮城・山形の各県と境を接する。羽後の大半と陸中の一部を占める。面積11,609km²，人口127万4,000，人口密度1km²あたり110人，県花はフキのとう。県木は秋田スギ，県鳥はヤマドリである。県庁のある秋田以下9市と9郡(48町12村)に分かれる。

〔自然〕南北に長い長方形をなし，北・東・南の三方を山に囲まれ，西方の日本海沿岸には，男鹿(おが)半島が突き出して，海岸線の単調を破る。男鹿半島は海岸段丘*が発達し，海食地形が奇勝をつくり，鳥海火山帯に属する寒風山(354m)や，一ノ目潟(いちのめがた)・二ノ目潟・三ノ目潟の三つのマール*などの火山地帯に富み，すぐれた観光地となっている。半島基部にある八郎潟*は，1964年(昭和39)に干拓が完成して，3分の4が陸地化している。東の岩手県境には奥羽山脈が走り，那須(なす)火山帯が重なって，高原状のゆるやかな斜面をもつ焼山(1,366m)などの火山がある。八幡平(はちまんたい)(1,614m)を中心とする火山景観は十和田(とわだ)八幡平国立公園に指定され，付近にはホクトウ(北投)石で知られる玉川温泉*をはじめ多くの温泉が湧出(ゆうしゅつ)する。奥羽山脈の西側には，これと平行して出羽(でわ)山地が南北に走り，米代(よねしろ)川・雄物川・子吉(こよし)川によって，青森県境の白神山地，その南の太平山地，笹森(ささもり)丘陵，出羽丘陵の四つに分断される。米代川流域には，花輪・大館(おおだて)・鷹巣(たかのす)の3盆地と能代(のしろ)平野，雄物川流域には横手盆地と秋田平野，子吉川流域には本荘(ほんじょう)平野が開け，それぞれ県民の主要な生活舞台となる。山形県境には，東北一の高山，鳥海山(2,230m)がそびえ，その北西方には象潟(きさかた)海岸があり，鳥海山の泥流(でいりゅう)によって八十八潟・九十九島の風光美を誇っていたが，1804年(文化1)の地震で2.4mも隆起し，いまは陸地化している。



秋田県





秋田県　(左)秋田の郷土料理として知られる〈きりたんぽ〉づくりのようす。県内でも特に県北の大館地方が本場である。(右)東北地方に見られる幼児を入れておくかご(いずめ・えずめ・いずめこなどという)。木製や写真のようなわらで編んだものもある。このいづめこをかたどったいずめこ人形が，東北の風俗を生かした民芸品として売られている

気候は裏日本式気候*で，冬季は北西季節風が卓越し，11月下旬から３月にかけて内陸部に多くの降雪をもたらす。年平均気温は対馬(つしま)海流*の影響で，太平洋側の岩手県よりもやや高い。夏季は南東季節風が奥羽山脈にさえぎられて梅雨期の雨量が少なく，ひでりが続いて気温もかなり上がる。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は24：28：48で，経済基盤となる主産業は農業であるが，零細な水稲単作である。しかし，米の産出は多く，〈東北の米どころ〉といわれる。県民分配所得は１人あたり112万円で，全国36位と低く，人口の県外流出も多いので農業の構造改革や工場誘致の運動が進んでいる。《農林水産業》山がちのため，耕地は県の総面積の14％にすぎないが，水田率は84％で，冬季は積雪のため裏作はほとんど行なわれない。米の収穫は年産約63万ｔで，北海道・新潟に次いで全国第３位を占め，約２分の１は他府県に移出される。畑作はふるわず野菜類も自給できない。麦類はほとんど作っていない。最近は米作依存の傾向を改めて，リンゴ・ブドウ・ナシなどの果樹栽培の振興が進められ，北の鹿角(かづの)地方，南の平鹿(ひらか)地方を中心として，リンゴの年収穫量は約42,000ｔ，生産順位は全国第７位に達する。畜産は古くはウマが中心で，明治中期には80,000頭も飼育された。現在は馬はほとんど飼われておらず，1975年の調査ではわずか250頭にすぎない。代わって乳用牛(13,600頭)・肉用牛(43,900頭)・豚(119,000頭)に力が注がれているが，東北地方としては少ない方で，とくに乳用牛は最低であり，酪農の普及は今後の課題である。県の総面積の74％は森林で，林業は全県的に行なわれる。米代川中流には秋田スギを主体とする国有林が多く，日本三大美林の一つに数えられる。また，鳥海山・栗駒(くりこま)山付近には日本有数のブナ林がある。良港に乏しく，水産業は不振で，ハタハタ・サバ・イワシ・サメなどのわずかな漁獲があるにすぎない。《鉱工業》地下資源はきわめて豊富で，全国一の鉱業県である。鹿角・北秋田地方を中心に，銅・硫化鉄鉱・亜鉛・銀・金などが採掘され，特に最近では黒鉱*も各地であいついで発見されている。銅は，日本一の花岡，２位の小坂，５位の釈迦内(しゃかない)，６位の尾去沢(おさりさわ)などいくつもの鉱山があり，年産39,000ｔに達し，全国の48％を占めている。小坂はまた日本一の銀山で，小坂・花岡の２鉱山は鉛・亜鉛・硫化鉄鉱においても，日本有数の産出高をあげ，小坂は金も日本第４位である。石油の生産は秋田油田が一時は全国の80％を占めていたが，最近は全国比も21％に下がり，1962年以来，新潟県に追い抜かれており，現在では土崎沖の海底油田の開発が進められている。また，天然ガスの産出は全国第３位であるが，比率はわずか1.5％にすぎない。工業は県内に産する資源を利用したものが主で，木材・木製品・パルプ・金属・機械・石油化学・肥料・食料品などの工業があるが，工業出荷額は東北地方では青森県に次いで少なく，全国的に見ても下位に属する。しかし，1965年，秋田市周辺が新産業都市に指定され，秋田臨海工業地帯の造成が進み，今後の発展が期待されている。郷土産業としては，各地に清酒の醸造が盛んで，中でも横手盆地南部の湯沢は水と良質の米に恵まれて〈東北の灘(なだ)〉とよばれる酒造地である。能代には飛騨(ひだ)から伝えられた春慶塗*の漆器，角館(かくのだて)に樺(かば)細工，秋田に金銀細工などがある。

〔交通・都市〕陸上交通は，鉄道・道路ともまず南北交通が開発され，たちおくれた東西交通は今後の開発が期待されている。奥羽本線と羽越本線が南北の動脈で，前者は青森県から南下して大館・能代・秋田・横手と県下の主要都市と結び，後者は秋田から日本海岸を南下して，いずれも山形県にはいる。奥羽山脈を越える東西の鉄道には，花輪線(大館～好摩(こうま))・北上線(横手～北上)の２線のほか，1966年に田沢湖線(大曲～盛岡)が開通し，秋田～盛岡間が従来よりも著しく短縮された。私鉄は，横手盆地の羽後交通線が1973年に最終的に廃止されてバスに代わってからは，同和鉱業の小坂鉄道(花岡～大館～小坂)が県内唯一のものになった。おもな国道は，日本海沿いに青森と結ぶ７号線，奥羽山脈と平行して，山形～東京と結ぶ13号線がほぼ南北に走り，46号線が奥羽山脈を横断してほぼ東西に走っている。舗装率はまだ52％，積雪時の交通難もあり，これらの悪条件の解決は今後に残されている。観光開発の道路も最近整備され，男鹿半島の金ケ崎有料道路，寒風山有料道路，八幡平有料道路がそのおもなものである。航空路としては秋田空港がある。都市の発達は遅れており，９市があるにすぎないが，秋田以下，能代・横手・大館・本荘・湯沢・大曲の７市は，いずれも城下町・宿場町などを起源とする古い歴史をもつ。男鹿は，明治末期に築港された船川港を中心とする新興都市で最も新しい鹿角(かづの)は，南部藩の代官所の所在地，市場町・鉱山町などとしての歴史をもつ町村が合併したものである。

〔歴史〕縄文(じょうもん)式土器は県下各地で発見されているが，弥生(やよい)式土器は少ない。鹿角市大湯には，縄文時代の環状列石(ストーン-サークル)の遺跡がある。大和(やまと)朝廷の勢力が及んだのは，658年に阿倍比羅夫(あべのひらふ)が齶田(あきた)・渟代(ぬしろ)２郡の蝦夷(えぞ)を討伐したことに始まる。733年(天平５)出羽柵(でわのき)(のちの秋田城)が高清水(たかしみず)(いまの秋田市内)に築かれ，出羽の国府もここに設置された。11世紀になると，蝦夷の長安倍(あべ)氏の反乱によって前九年の役が起こり，清原氏はその戦功によって奥羽に威をふるった。のち清原氏の内紛によって源義家(よしいえ)が陸奥守(むつのかみ)兼鎮守府将軍となって統治した。その後は平泉の藤原氏が奥州を支配し，出羽にも勢力を伸ばした。1188年(文治４)，源頼朝(よりとも)が藤原氏を滅ぼし，出羽は鎌倉幕府の支配下にはいって，南部は小野寺氏・戸沢氏，北東部は浅利氏などが地頭として勢力を張った。室町時代には，安倍氏の子孫といわれる安東氏が津軽から南下し，土崎湊(つちざきみなと)を本拠として秋田氏を称し，勢威をふるった。関ケ原の役ののち，常陸(ひたち)の佐竹氏が転封されて，秋田３郡，仙北(せんぼく)３郡の領主となり，城下町久保田(いまの秋田市)をつくった。佐竹藩は，江戸時代を通じて農林業・鉱業の開発に努め，絹織物や醸造など郷土産業の発展にも力を注いだ。佐竹藩以外には，西南部の由利郡

に六郷氏・岩城(いわき)氏・生駒(いこま)氏・仁賀保(にかほ)氏などの小藩が分封されていた。1871年(明治4)の廃藩置県の際，秋田・本荘・亀田(かめだ)・矢島の各県が成立したが，1886年には統合されて秋田県となり，江刺県に含まれた陸中の鹿角郡(旧南部藩領)と酒田県に含まれた由利郡南部海岸地方の仁賀保もその際編入されて現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

あきた【秋田(市)】秋田県中西部に位置する県庁のある市。もと齶(飽)(あくた)とよばれ，奈良時代には蝦夷(えぞ)制圧のために秋田城が築かれた。江戸時代には佐竹氏二十万八千石の城下町で，土崎湊(つちざきみなと)とよばれ，北海道松前や北陸・山陰・瀬戸内の各地と交易をもつ日本海航路の要港であった。1889年(明治22)市制施行。人口28万1,000。

市域は，雄物川河口付近から背後の低地・山地一帯を占め，旧城跡の千秋公園一帯は城下町のおもかげをしのばせる。奥羽本線に沿い，国道7号線・13号線が集まる。産業三大別人口比は8：22：70。最近は，男鹿(おが)市とともに，秋田湾新産業都市に指定され，港の整備が進み，10,000トン級岸壁も完成した。雄物川放水路河口の低湿地を埋め立てた茨島(ばらじま)工業地帯には，パルプ・化学肥料・金属・機械・石油精製および石油化学・鉄鋼などの工場が立ち並び，旧雄物川の川筋を利用した秋田運河も開通した。秋田大学・秋田経済大学・秋田工業高等専門学校など文教施設も多い。年中行事〈竿燈(かんとう)〉(8月5～7日)は東北四大祭りの一つに数えられる。〔浅井得一〕

あきたいぬ【秋田犬】秋田県の大館(おおだて)や鹿角(かづの)地方を中心に発達した大形犬で，祖先は秋田マタギ(アイヌ語で猟師の意)という中形犬である。現在のタイプが完成されたのは明治から大正にかけてで番犬に用いられる。体高は雄66cm，雌60cmぐらい。→イヌ

あきたうじゃく【秋田雨雀】(1883～1962) 劇作家・社会運動家。青森県に生まれた。本名は徳三(とくぞう)。早稲田(わせだ)大学英文科を卒業，在学中に社会主義に関心をもった。はじめ感傷的な浪漫小説を発表，1909年(明治42)ごろから自然主義的戯曲に移った。島村抱月の芸術座，沢田正二郎(しょうじろう)の美術劇場に参加したが，1919年(大正8)以後社会主義思想を深め，1921年の訪ソ後は創作を離れた。戯曲集《仏陀(ぶっだ)と幼児の死》《三つの魂》などのほかに，《東の子供へ》などの童話，自伝がある。〔三浦　仁〕

あきたさきがけしんぽう【秋田魁新報】秋田市で発行されている地方新聞。1874年(明治7)2月に《遐邇(かじ)新聞》の名で秋田市で創刊，その後《秋田遐邇新聞》《秋田日報》《秋田新報》と改題された。1888年県会と衝突して発行停止となったが，翌年2月同社内で《秋田魁新報》第1号を発行した。



秋田市　秋田市の竿燈祭。豊作を祈って，毎年8月5～7日間に市内の千秋公園を中心に行なわれる

1925年(大正14)に夕刊を発行したが，1944年(昭和19)に休刊，1953年夕刊を復刊し，現在に至っている。朝刊・夕刊とも約21万7,000部(1980年10月現在)。

あきたじょう【秋田城】733年(天平5)蝦夷(えぞ)に備えるため，出羽柵(でわのさく)を秋田村高清水(たかしみず)に北進させて設置した古代城柵。830年(天長7)地震で崩壊。878年(元慶2)蝦夷の反乱で焼失，翌年再建されたが，停廃の時期は不明。城は雄物川の河口の丘陵上につくられ，東西約1.3km，南北約1kmの地を占める。内部と外部に分かれ，城内に官舎161，城櫓(じょうろう)28などのほか，付属寺院の四天王寺などもあった。内部の柵列跡・四天王寺跡・倉庫跡などの遺跡が現存する。〔仲野　浩〕

あきたじょうのすけのらん【秋田城介の乱】1285年(弘安8)11月，鎌倉幕府草創以来の有力御家人で北条(ほうじょう)氏と血縁関係のある安達泰盛(あだちやすもり)と，御内人(みうちびと)平頼綱(よりつな)との衝突事件。霜月騒動ともいう。幕府政治が得宗(執権北条氏の当主)専制に移行するとともに勢力を伸ばしてきた得宗被官(御内人)と，これに対抗する有名御家人との対立が背後にある。この事件で安達氏は敗北して一族滅亡し，得宗専制が確立した。

あきたすががき【秋田菅垣】尺八琴古流本曲の一。秋田の地方色，すなわち田園ののどかなふぜいを題材としたものともいわれるが，そのような具体的な表現対象のない純粋の音構成美をねらった曲とも考えられる。低音域・高音域・低音域をそれぞれ主とする部分からなっていて，古典尺八のおもな手法が駆使されている。高音域中心の部分ではリズムが明快で，箏(そう)の菅垣の手法の影響があるといわれる。

あきたは【秋田派】江戸後期，秋田藩に興った洋風画派。1773年(安永2)，銅山調査に招かれた平賀源内が伝えた西洋画法に，沈南蘋(しんなんぴん)の写生画風を加味したもので，藩主佐竹曙山(しょざん)，その弟義躬(よしみ)，藩士小田野直武(なおたけ)らを中心に特殊な地方画派を形成した。秋田蘭画(らんが)ともいう。

あきたはん【秋田藩】出羽(でわ)(秋田県)秋田郡に所在した藩。藩主佐竹氏。外様(とざま)大名。久保田(現在の秋田市)を居城とする。この地は古来秋田氏ほか数氏によって分割支配されていたが，関ヶ原の役の結果，1602年(慶長7)佐竹氏が常陸(ひたち)(茨城県)から入封した。石高二十万石。原則として地方(じかた)知行制をとり，藩制確立期には，梅津政景(まさかげ)らを登用して院内銀山の開発・経営，林政などに力を注いだが，耕地のほとんどは水田で典型的な米単作地域のため藩財政は不振であった。宝暦年間(1751～1763)にその打開策として銀札を発行したが，経済混乱をひき起こし失敗に終わった。9代義和(よしまさ)の代に藩政改革が図られ，藩校明徳館を設立して人材育成をめざし，秋田黄八丈などの国産を奨励した。佐藤信淵(のぶひろ)と平田篤胤(あつたね)はこの藩の出身で，藩内では平田に入門する者が数多く，幕末の尊攘(そんじょう)運動の素地がつくられた。明治維新の際には奥羽で孤立しながらも朝廷側に属し，幕府側連合軍に対抗した。〔善積美恵子〕

あきたぶき【秋田蕗】双子葉植物・キク科。フキの変種で，東北・北海道で栽培される多年草。茎は短く，葉柄は2m，葉の直径1.5mに達し食用にされる。

あきたへいや【秋田平野】秋田県中央部，雄物川の下流に発達した日本海に面する沖積(ちゅうせき)平野で，中心に県庁所在地の秋田市がある。日本海沿岸には数列の砂丘が発達し最も高い天王砂丘の最高点は45.9mである。1938年(昭和13)に秋田市内の新屋町の北部に放水路がつくられ，旧雄物川筋を利用して秋田港のある土崎地区と，茨島(ばらじま)地区を結ぶ臨海工業地帯の建設が進められている。また，秋田市から北西の男鹿(おが)市にかけた地域が新産業都市に指定されている。秋田平野は水田単作地域で，秋田米の産地であり，平野の背後は出羽山地に囲まれているが，山地や山地と平野の間にある丘陵にそれぞれ刻まれた谷も，平野部から続く水田でほとんど埋められている。平野の北部に接する八郎潟(はちろうがた)は1964年に干拓が完成して，一部はすでに水田化している。また，平野の中にはいくつかの油田があり，その中にはかつて日本最大の産油量を誇った八橋(やばせ)油田もあるが，最近産油量は減少している。〔味沢成吉〕

あきたゆでん【秋田油田】秋田県中西部一帯に分布する油田。秋田市西部に八橋(やばせ)，北部に黒川，南秋田郡に申川(さるかわ)と豊川，山本郡に八森などの油田がある。江戸時代に発見されたが，1869年(明治2)から本格的に開発され，大正時代以来わが国で最も重要な石油産地となった。中でも八橋油田は1933年(昭和8)に上総(かずさ)掘りによる試掘に成功して以来30年間秋田油田の中心であったが，1961年から男鹿(おが)半島で掘油を開始した申川油田も規模と産油能力ではこれに劣らない。また1958年以

来,白龍号(はくりゅうごう)とよぶ海上掘削装置でわが国最初の海上試掘が行なわれ，秋田市土崎沖の深度550mの位置に大油層を発見した。〔竹内淳彦〕

あきたわんしんさんぎょうとし【秋田湾新産業都市】秋田・男鹿(おが)の2市と隣接の3町2村を含む地域(826km²)で，1966年(昭和41)に指定された。秋田油田*を背景とする精油業，豊富な県内の森林資源による製材・パルプ・製紙業，その他化学肥料(硫安),食品工業に特色があり，船川港(男鹿)・土崎港(秋田)を中心とする臨海地域に工業地帯が展開する。最近は秋田市北西郊および南西郊地区への工場の進出が目だつ。また男鹿市では木材コンビナートの土地造成が進められ，1970年じゅうには，約10企業が工場を建設して操業にはいる予定である。〔高野　繁〕

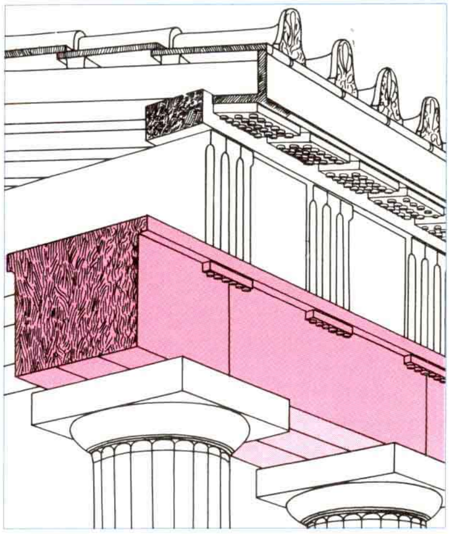
あきつ【安芸津(町)】広島県豊田(とよた)郡の三津湾奥に位置する町。人口14,100。もと三津とよばれ，旧藩時代には瀬戸内海の要津の一つであったが，呉(くれ)線開通後その機能を失った。近世以降酒造業が盛んであるが，ソーダ化学工業・れんが・かんづめの工場がある。

あきつかみ【現神】現御神・現為明神・明神・明御神とも書く。祝詞(のりと)・宣命(せんみょう)や《万葉集》などにみられる天皇の尊称。天皇はアマテラスオオミカミの直系の子孫であり，地上における神意の継承者であるとともに，信仰的には神そのものであるという見方から，〈明らかに現身をそなえた神〉の意とするが，ほかに〈あきつ〉を〈神威のさかんな〉の意にとって〈神威のさかんなすぐれた神〉とするなどの説も行なわれている。〔田上光治〕

あきづきのらん【秋月の乱】1876年(明治9)10月，筑前(ちくぜん)(福岡県)の旧秋月藩士宮崎車之助ら200余名が,時弊改革・国権拡張を唱えて熊本の神風連の乱*を機に挙兵した反政府暴動。宮崎らは豊前(ぶぜん)(福岡県)豊津(とよつ)に兵を進めて士族を勧誘したがかえってはかられ，失敗に終わった。宮崎らは英彦(ひこ)山で自刃した。旧長州藩士による萩(はぎ)の乱*とともに，翌1877年の西南戦争*の序幕となった。

アキテーヌ(盆地)［Aquitaine］フランス南西部にあるこの国第2の平地。南をピレネーの山地，北から東を中央高地に囲まれ，西はビスケー湾に面している。ガロンヌ川とその多くの支流によって潤されブドウなどの栽培がかなり粗放的に行なわれ,家禽(かきん)やウマをフランス全土に供給する農耕地帯である。鉱物資源には乏しいが，食品製造・加工を主とした工業が行なわれる。ぶどう酒で名高いボルドーとツールーズがこの地方の中心都市である。〔大石堪山〕

アーキトレーブ［architrave］ギリシア・ローマ建築におけるエンタブレチュア*の一部で，柱頭に直接載る梁(はり)に相当する角材。また，西洋古典建築様式における窓や出入り口のまわりの額縁をもいう。➔オーダー



アーキトレーブ



アキノキリンソウ



アキノノゲシ

あきなだ【安芸灘】瀬戸内海のうちで，灘とよばれている島の少ない部分の一。倉橋島・能美(のみ)島・周防(すおう)大島,四国の高縄(たかなわ)半島・芸予諸島などによって囲まれる海面で，北方は広島湾，南西方は伊予灘(いよなだ),東方は燧灘(ひうちなだ)である。呉(くれ)市の仁方(にがた)から松山市の堀江(ほりえ)に通ずる国鉄の仁堀連絡航路が，ちょうど安芸灘の中央を通っている。

あきのいろくさ【秋色種】長唄(ながうた)の曲名。1845年(弘化2)，10代め杵屋六左衛門*(きねやろくざえもん)が作曲。歌詞は作曲者の保護者であった南部侯佐竹利済(としなり)。芝居との関連がなく，ただ聞くための，いわゆるお座敷長唄の代表的な曲である。秋に咲く花や虫の描写を主としているが,〈変態繽紛(ひんぷん)たり，神なりまた神なり，新声婉転(えんてん)す〉といった歌詞にみられるように，長唄としては珍しく漢語・古語が多い。そのため,曲調は前弾(まえびき)に箏曲(そうきょく)《岡安砧(おかやすきぬた)》を取り入れているほか，途中に琴の合方*を入れて，山の手ふうの感じを出している。そのほか，虫の声を模した虫の合方も有名である。〔徳丸吉彦〕

あきのきょく【秋の曲】吉沢検校(よしざわけんぎょう)(1808〜1872)が作曲した生田流純箏曲(そうきょく)。《春の曲》《夏の曲》《冬の曲》とともに古今組*の一曲。歌詞は古今集からとった6首の歌。楽式は手事物。

あきのきりんそう【秋の麒麟草】双子葉植物・キク科。アワダチソウともいう。山野に普通の多年草。高さ30〜80cm。葉は細い卵形で鋸歯(きょし)がある。秋に茎の頂に1.2cmぐらいの黄色花を穂状につける。全草にサポニンを含み，民間で利尿薬として用いられる。

あきのことのは【秋の言の葉】西山徳茂都(とくもいち)が作曲した生田流箏曲(そうきょく)。手事物。作曲者みずから施した替手*がつけられる。砧(きぬた)・月・虫などの秋のふぜいが歌詞にうたわれている。

あきのたむらそう【秋の田村草】双子葉植物・シソ科。山や野原に普通の多年草。茎は高さ20〜80cmで断面は4角形。葉は羽状に切れ込む。7〜11月に葉のつけ根から出た枝に淡紫色の唇形花(しんけいか)を輪状につける。

あきのななくさ【秋の七草】ハギ・ススキ(オバナ)・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・アサガオの7種の秋の植物をいう。《万葉集》に山上憶良(やまのうえのおくら)がこれらをよみこんだ歌がある。アサガオはいまのヒルガオのことであるともいい，またアサガオの代わりにキキョウを入れることもある。

あきのななくさ【秋の七草】俗曲・箏曲(そうきょく)の曲名。端唄(はうた)で三味線(しゃみせん)の二上がりに乗せてつくられた細かい節の短い歌が，うた沢でも小唄でも多少変えてうたわれており，歌詞の変更も少しある。箏曲《六段の調*》と合わせて演奏できるようになっている。箏曲の《秋の七草》は山田流に3曲あり，初心者用の短い曲である。

あきののげし【秋の野芥子】双子葉植物・キク科。山野に育つ越年草。高さ150cm。葉は互生しアザミ*に似るが，茎を折ると乳液が出るので区別できる。直径2cmぐらいの花をつける。

あきのよのながものがたり【秋の夜の長物語】御伽(おとぎ)草子*。比叡山(ひえいざん)の律師桂海(けいかい)と三井寺の稚児(ちご)梅若との同性愛を描いた物語。室町時代初期の成立。作者不詳。桂海を慕って失踪(しっそう)した梅若をめぐって山門・寺門の対立は激化し，三井寺は焼き滅ぼされてしまう。悲しみのあまり梅若は投身自殺する。桂海は梅若のし

かばねを手厚く葬り，以後西山の庵室(あんしつ)で仏道修行に励んだ。人々は胆西上人(しょうにん)とよんで尊敬した。梅若は，実は石山観音の化身で，このような悲恋も実は桂海が真の悟りを得るための方便であったとするところに時代色が濃く現われている。僧と稚児との同性愛を描く稚児物語の代表作とされる。〔信太　周〕

あきはぎじょう【秋萩帖】《万葉集》《古今集》などの古歌48首を古雅な草(そう)の中で書写した巻子本(かんすぼん)1巻。巻末に王羲之(おうぎし)の手紙の臨書があり，裏(もとの表)に《淮南子*(えなんじ)》を書写している。料紙は色紙。第1紙の2首と第2紙以下の46首とは書風は同じであるが，筆者は違う。すべて小野道風*(とうふう)の筆跡といわれているが，書写年代は道風の時代より少しあとである。国宝。東京国立博物館蔵。

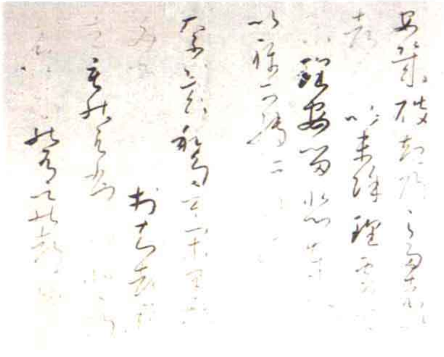
あきばさん【秋葉山】静岡県西部，赤石山脈南端にある山。天龍(てんりゅう)川の左岸に臨み，標高836m。山頂にある秋葉神社は鎮火・防火の神で，江戸時代から全国的に農民の間で秋葉信仰が広まった。毎年12月15～16日に火災防護の火祭りが行なわれ，参詣者(さんけいしゃ)が多く集まる。

あきはダム【秋葉ダム】静岡県磐田(いわた)郡龍山(たつやま)村にある重力ダム。1958年(昭和33)完成。高さ89m，総貯水量3,500万m^3で，天龍(てんりゅう)川上流の佐久間発電所で放流した水量を平均化する目的で，電源開発会社によってつくられた。ダム体内の秋葉第2発電所の出力は3億4,900万kW，下流の第1発電所は4億5,300万kWである。

アーキペンコ［Alexander Archipenko］(1887～1964) 現代彫刻の先駆的な役割を果たした彫刻家・画家。ロシアのキエフに生まれ，のちアメリカに帰化。キュービスムの影響の濃い新しい造形を追求し，着彩した鉄板やガラスなどを組み合わせた〈彫刻絵画〉も試みた。

アーキボルト［archivolt］アーチ*を視覚的に強調する目的で，その外縁に沿ってつけられた装飾用の縁どり。中世教会堂建築の開口部には，発達したアーキボルトの実例がみられる。

あきまつり【秋祭り】秋祭りは収穫祭であり，神饌(しんせん)として，新穀を散米*(さんまい)にして神前でまいたり，穂のままで供えたり，もちについたり，酒をかもして供えたりする。これらを神々と共食する直会(なおらい)が祭りの中心となることが多い。また，みこしが巡幸して，氏子区域の翌年の豊作を祈願することも多い。日本では春に水の神が里に降りて田の神となり，秋の収穫後再び山に帰っていくと信じられ，2月か4月に春祭りをして，秋祭りは11月に行なわれたが，現在では9月中に秋祭りをする所が多くなっている。収穫祭のまえの物忌みの始まる式が，独立して行なわれるようになったものと考えられる。〔紙谷威広〕



秋萩帖　巻首の1紙。第2紙以下より縦が長いが字つぶは小さい。第2紙以下は裏に淮南子を書いているが，この1紙の裏には文字はない



アキレウス　アキレウスとヘクトル　黒絵式アンフォラ(紀元前7世紀末)



秋吉台国定公園　秋吉台の台地上の地形。波状の地表には，一面に白い石灰岩が露出し，広い不毛地をつくっている。しかし，この特殊な景観は観光客には大きい魅力となっている

あきもとこ【秋元湖】福島県の磐梯(ばんだい)山北麓(ほくろく)，磐梯高原にある湖。磐梯朝日国立公園に属する。1888年(明治21)磐梯山噴火の際に噴出された泥流(でいりゅう)によってできた多数のせきとめ湖の一。面積4km^2，水面高度736m，最大水深35m。

アキャブ［Akyab］ビルマ南西部，ベンガル湾に臨む港市。人口40,000(1960)。米の主要な輸出港であるが，南西モンスーン季には海が荒れ，港は4月末までしか使えない。近年空港も完成した。

あキューせいでん【阿Q正伝】中国の中編小説。1921～1922年，魯迅*(ろじん)の作。1911年の辛亥(しんがい)革命*前後の農村社会を舞台にとり，阿Qという愚弱でからいばりのルンペン農民の生態と，ふとしたことから革命に巻き込まれ，ついに処刑される一部始終とを，皮肉な，だがあたたかい目でとらえている。阿Qは，半植民地的・半封建的中国社会の典型的人間像であるばかりか，人間の奴隷根性の化身として普遍性がある。

あきよしぞうざんりんね【秋吉造山輪廻】地質時代を通して日本列島には少なくとも3回の造山輪廻が，時と場所をことにして起こっている。その中で古生代末期から中生代初期に起こった一連の造山運動*について，小林貞一は山口県の秋吉地方の地質構造の調査結果をもとに，1941年(昭和16)この名を提唱した。

あきよしだい【秋吉台】⇨次項

あきよしだいこくていこうえん【秋吉台国定公園】山口県の長門(ながと)山地のほぼ中央部を占め，秋吉台・秋芳洞*(しゅうほうどう)を含み，全域が特別天然記念物に指定されている。面積45.3km^2。1955年(昭和30)国定公園に指定された。わが国の代表的なカルスト地形で，石灰岩の台地面には，雨水の溶食作用によってつくられた石灰岩柱が林立して珍しい景観を呈し，地下にはわが国第2の大鍾乳洞である秋芳洞をはじめ多くの鍾乳洞がある。海抜約200mから400mぐらいの台地は草原となり，石灰岩地特有のネザサ・オカルカヤ・ヤマハギ・サルトリイバラなどがはえ，高原の美を呈している。地下の洞内は1年じゅう，気温が17℃前後で，四季の変化がみられないといわれる。洞内には川や滝があって魚類もすみ，地上・地下の変化に富む地形だけではなく，洞内の動植物にも注目すべきものがある。〔木村東一郎〕

アキレウス［Achilleus］ホメロスの英雄叙事詩《イリアス*》の中心人物で，トロヤ伝説中最大の英雄。ペレウスと海の女神テティスとの子。子の不死を願って，母が三途(さんず)の川ステュクスにつけるが，そのとき母が握っていた踵(きびす)が英雄の唯一の急所となる(→アキレス腱(けん))。戦死の運命にある彼を両親はトロヤに行かせぬようくふうするが，オデュッセウス*に発見されギリシア方に参加する。攻防10年めに女をめぐって総大将アガメムノン*と仲たがいし参戦を拒否する。自軍の劣勢を見かねた親友パトロクロスは彼の武具を借りて戦うが深追いして討ち死にする。親友の死に復讐(ふくしゅう)を誓う彼はアガメムノンと和解し，母から新しい武具を得て敵将ヘクトル*を倒す。しかし，みずからはアポロン神またはその助けによってパリス*の射た矢が踵にあたり死ぬ。木馬の計略によるトロヤ陥落は彼の死後のことである。〔松田　治〕

アキレス⇨アキレウス

アキレスけん【アキレス腱】踵骨腱(し

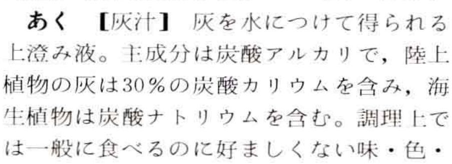
ょうこつけん)ともいう。ふくらはぎをつくる下腿(かたい)三頭筋(腓腹筋(ひふくきん)・ヒラメ筋)の腱。アキレウス*の神話によって名づけられた。非常に強大な腱で，かかとの骨である踵骨に付着する。下腿三頭筋が収縮すると，この腱とともにかかとが引き上げられ，足は足底側に曲げられ，歩行に重要な働きを果たす。スポーツ外傷などによって，この腱が切れたり，踵骨から離れたりすることがあり，これをアキレス腱断裂といい，この場合手術によって腱を縫合して，ギブスで固定する。

アキレスとかめ 【アキレスと亀】 ⇨ゼノンの逆理

あく 【悪】 原始時代においては，共同生活に害を及ぼすもの，天災・病気・習俗に反する行為などが悪とされた。悪に対する罰は，これらの悪を除き防ぐためで，そこに魔術とか呪術(じゅじゅつ)と悪が結びついた。キリスト教でいう悪は，アダム*の原罪に発し，悪と自由は根源的にかかわっている。古代ギリシアにおいては，ソクラテス*の場合，無知が一種の悪であった。また，エピクロス*は苦痛や恐怖を生むものを悪とする。だから不正そのものが悪なのではない。不正をするとき，それを見張り，罰する者の目をかすめるわけにはいくまい，という懸念から恐怖を生むゆえに悪なのである。近代の悪は，カント*の根本悪，すなわち，それをしてはいけないと知りながらそれをし，良心にもとる行為をしてしまうとし，人間の本性を悪とするところにみられる。シェリング*は，人間が神の秩序にそむき，自己中心になり，真実の生の根源を閉ざし，さまざまの力を利用して一つの虚妄(きょもう)の生を形成することを悪とする。また，リップスは，人間にあるべきものがないこと，なにかを選ぶべきときに選ばないこと，したがって，人間の意欲が悪なのではなくて，意欲しないことが悪なのであるという。唯物論やマルクス主義の立場では，悪を環境とか社会体制の産物とし，悪徳・貧乏・戦争・利己心・偽善などの根源を，階級的搾取と支配の中に見いだしている。儒教でいわれる悪は，孟子*(もうし)の〈性善〉，荀子*(じゅんし)の〈性悪〉，告子の〈性に善悪なし〉の中にみられる。悪の根源は，宇宙の陰と陽の〈気*〉が入り乱れ，からまりあうことにある。悪は〈気〉の清濁により，水にたとえれば，それの波立ち氾濫(はんらん)にほかならない。悪は天*の道に反し，分にそむき，公の秩序を私で乱すことなのである。朱子学でいう悪は欲のことであり，度の過ぎた情であり，またあることに過ぎても及ばなくても悪となる。陽明学においても，人間の欲は悪であるが，その原因を偶然的なものとし，それは良知といわれる道徳的直観力，すなわち生き生きとしてやむことのないハートによって克服されるとした。➔性悪説　〔中野幸次〕

仏教では悪を捨て善を修めるいわゆる道徳的実践規範を重んじた。〈いっさいの悪(pāpa)を行なわないで，善を身につけ，自己の心を清めること，これが諸仏の教えである〉というのが根本命題である。これは仏教倫理が一般の道徳倫理と重なる面をもち，人倫の秩序に裏づけられていることを示している。のちにこの規範を善・悪・無記(非善非悪)の3類型に分類するようになり，さらに因果応報の考えと結びついて解釈するようになった。また，悪を分類して殺生(せっしょう)・偸盗(ちゅうとう)・邪淫(じゃいん)の3種の身悪行，両舌・妄語(もうご)・悪口・綺語(きご)の4種の語悪行，貪欲(とんよく)・瞋恚(しんに)・邪見の3種の意悪行を十悪業とした。その基本には人間は迷いや欲望によって本来清らかである性質が汚れ，煩悩(ぼんのう)におおわれてしまうから，その迷いを断ち切って解脱に至るのだとし，そこから善悪不二の思想が生まれた。中国にはいって天台では性悪思想を説くに至った。この意識が日本にはいってさらに高められ，〈十悪の法然房，愚痴の法然房〉と自己のあり方を省察する立場が打ち出されてくる。親鸞*(しんらん)に至っては悪人こそ往生の正機であるとするが，ここでいう悪人は人間そのもののあり方の受け取りであり，実存的把握(はあく)がすでにあったことを示している。浄土教*では善悪の意識よりは罪悪意識が強調されている。この思想は明治になって新しい角度から脚光を浴びた。　〔石上善応〕

あく 【灰汁】 灰を水につけて得られる上澄み液。主成分は炭酸アルカリで，陸上植物の灰は30%の炭酸カリウムを含み，海生植物は炭酸ナトリウムを含む。調理上では一般に食べるのに好ましくない味・色・においなどを意味する。好ましくない味には，えぐみ・苦み・渋みがあり，えぐみの主成分はホモゲンチジン酸で，これにシュウ酸カルシウムが共存する。たけのこ・コンニャクイモ・サトイモ・アスパラガスなどの場合にはホモゲンチジン酸とブドウ糖の結合型が多く，遊離型よりもえぐみが強い。渋みは植物の場合はタンニン類，さかなの干物(身欠きニシンなど)の場合は不飽和脂肪酸の酸化分解物である。苦みとしてはアルカロイド・配糖体・ケトン類で，アルカロイド・配糖体は微量では薬理作用をもち，またソラニンのように有毒になる場合もある。色としてあくに関係あるのはフラボノイド系化合物で，また種々の酵素もあくの成分として考えられる。調理中褐変*(かっぺん)現象により食品固有の色を損じるのは酵素による酸化と考えられる。たとえばジャガイモを切って空気中にさらすと切り口が褐変するのは，チロシンヒチロシナーゼが作用してメラニン色素を形成するためである。これらの酵素は水や薄い食塩水によくとけるので，食品を切ってすぐ水につけると変色を防ぐ。これらのあくを抜く方法としては，あくの種類によって，①水浸して溶出する，②ゆでて溶出し，さらに水で洗う，③アルカリ・酸・ぬか・デンプン製溶液，木灰のしるなどによって抜く，などがある。　〔塩川ふみ〕



アクアマリン　朝鮮半島京畿道三山里産

アーク ［arc］ アークはコロナ*やグロー*とともに自続放電の一種であり，気中放電の最終段階である。陰極の熱電子放出による光と熱を伴う現象で，直流・交流の別，電圧，電極の形・種類などにより種々の形がある。電弧ともいう。アーク燈には炭素アーク燈・タングステンアーク燈などのようにその発光のほとんど全部が電極の温度放射によるものと，水銀アーク燈のようにアークのみの発光によるものと2種類ある。前者は交流でも発光を持続するが後者は直流を原則とする。アーク溶接はアーク熱によって金属を加熱しこれを溶融接合させるもので，アークは溶接すべき母材と金属電極棒(溶接棒)との間に発生させるものが最も普通である。適当なアーク長で溶接作業を行なっているときは，アーク電圧は20～35Vであるが，溶接電源の最高電圧は直流で50～70V，交流で70～80V程度である。交流溶接機の力率は40%内外ときわめて悪く効率は70～80%である。直流アークは交流アークに比べ本質的に安定なので，小電流の溶接には有利である。　〔田村康男〕

アクアトロン ［aquatrone］ 水生生物環境調節装置。温度・光・換水量・塩分濃度など，水生生物の生活環境条件を任意に調節設定するための装置である。一般的には，これらの環境条件は，それぞれあらかじめ設定された範囲内でいくつかの段階に分けて調節するようになっている。

アクアマリン ［aquamarine］ リョクチュウ石*のうち，水色透明なものの宝石名。海水を思わせる淡青色または青緑色を呈する。エメラルド*より産出量が多いため格は下。普通のリョクチュウ石の産地より産し，ブラジル・ソ連が主産地である。語源はラテン語のアクアマリナ(海水)に由来する。3月の誕生石(幸福・不老)。

アクアラング ［aqualung］ 水中で呼吸するための酸素補給器具。第2次世界大戦中，フランスのクストー大佐が戦争用具として考案，戦後この名で商品化された。他のメーカーの器具もある。アクアラングとは，水(aqua，ラテン語)の中で使う肺(lung，

英語)の意味。重圧ボンベに空気か酸素を満たし，これを背負って使う。潜水服(水上から送られる空気を呼吸する)と違って水中を自由に泳げるのが特徴。使用時間(1時間以内)が短いのが欠点だが，短時間の潜水作業にも使われ，レジャースポーツ用具としても脚光を浴びている。水中での活動をより迅速にするため，足ひれを同時に使う。〔浮田裕之〕

アクアリウム [aquarium] 水生動物を飼育する水槽(すいそう)，水族館。一般に水生動物は飼育中はときどき空気を吹き込むか空気を注入する装置を付けないと，長期間飼うことはむずかしい。また，水底にどろ・砂・小石などを入れ，水草などを植えるとよい。水質・温度・光・えさなどは種類によって好みが異なるので，十分注意しなければならない。

あくい 【悪意】 ⇨善意・悪意

アクィナス ⇨トマス-アクィナス

あくえきしつ 【悪液質】 全身衰弱と中毒症状のため，全身状態がきわめて悪くなった状態。極端にやせ細り，貧血などによって皮膚が特有の黄灰色を呈し，眼瞼(がんけん)や下肢(かし)に軽い浮腫(ふしゅ)を伴う。癌(がん)・梅毒・結核・血友病・バセドー病その他の内分泌性疾患，マラリア・カラ-アザールなどの伝染性疾患などでみられる。悪液質はカヘキシー(cachexy)の訳語で，これはもともと体液，特に血液の悪い混合状態を意味していた。〔国井乙彦〕

あくきがい 【悪鬼貝】 軟体動物・腹足類・アクキガイ科の巻き貝。長さ17cmほど。殻(から)に長いとげがはえている。淡黄色。本州中部以南の10〜50mの砂底の海にすむ。アクキガイの仲間は肉食性で他の貝に穴をあけて肉を食う。

あくげんた 【悪源太】 ⇨源義平(よしひら)

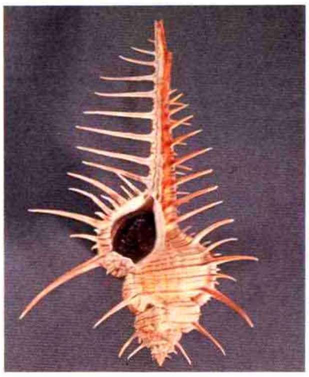
アクサーコフ [Sergey Timofeevich Aksakov] (1791〜1859) ロシアの小説家。ステップ東部のウファの貴族の家に生まれた。はじめ公務に従事しながら演劇批評で活躍し，晩年になって自伝的な長編《家族の記録》《孫バーグロフの少年時代》を書いた。この2作は，牧歌的魅力をもつリアリズム文学の傑作とされている。

あくさふ 【悪左府】 ⇨藤原頼長(よりなが)

アクシオン-フランセーズ [Action française] フランスの極右団体およびその機関紙(1899年創刊)。19世紀末，王党派・カトリック教徒・国家主義者などによって結成された。はじめは，ブルボン朝の復活を企図したが，ドレフェス事件やジャン-ジョレス*の暗殺などの過激な行動のため王家から敬遠されるようになった。1930年代の政治不安を利用して強勢となり，1936年人民戦線内閣の成立とともに解散を命じられたが，その残存勢力は第2次世界大戦中のペタン政府*の一支柱となった。〔浜岡政好〕



アクアラング ゴム製のウエットスーツをつけて装備したところ。足に刺しているのはダイバーナイフ



アクキガイ

あくしゅ 【悪趣】 悪道ともいい，仏教で悪行の者が堕(お)ちるとされる所。地獄・餓鬼・畜生の三悪趣に，修羅(しゅら)・人・天を含めた六道*が有名。六道輪廻(ろくどうりんね)というごとく，天は世間的には最上だが，まだ輪廻*の中にあり，結局悪趣である。仏教の清浄な境界はこの輪廻を越えた所にあるとされる。この現世そのものが六道と解されたときもある。

アクション-ペインティング [Action Painting] 第2次世界大戦後，アメリカの特にニューヨークを中心に興った抽象絵画の新しい傾向。抽象表現主義・ニューヨーク派・アメリカ型絵画などともいう。1940年代末から50年代にかけて，ヨーロッパの画家の〈カンバスとの静かな対話〉を否定した一群の画家は，激しい行為を直接カンバスにぶつけながら，そこから動的で開放的な空間の世界を創出した。美術批評家のローゼンバーグは〈あるとき，画家にとってのカンバスは，実際のあるいは想像上の対象を再生し再現し分析し，あるいは〔表現する〕空間であるよりも，むしろ行為する場としての闘技場にみえはじめた。カンバスの上に起こるべきものは絵(ピクチュア)ではなくて事件(イベンツ)であった〉といっている。描くという行為そのものを直接の手がかりとして，矛盾し破綻(はたん)した現実自体をあばこうという精神は，きわめてアメリカ的である。代表的な画家としてポロック*・デ-クーニング*らがいる。〔東野芳明〕

アクス [ACTH] adrenocorticotrophic hormonの略。➔副腎(ふくじん)皮質刺激ホルモン

アクスムおうこく 【アクスム王国】 紀元1世紀から10世紀ころまで，エチオピアに成立した奴隷制王国。1世紀末，高度の文化をもったアラビア南部(イエメン)のヒムヤル人(セム族)が移住し建国した。2世紀にソマリランド・アラビアまで勢力を広げ，中継ぎ貿易で繁栄した。4〜5世紀がその最盛期。西方との関係が深く，4世紀にはキリスト教(コプト派)が伝わり，住民の大半がキリスト教化した。7世紀以降イスラム教徒の侵入を受け，10世紀初めに滅び，以後群小国家に分裂した。アクスムは聖都として現存。〔喜多迅鷹〕

あくせいこくしょくしゅ 【悪性黒色腫】 悪性メラノームともいう。メラノサイト(メラニン色素をつくる細胞)に由来する黒色の悪性腫瘍(しゅよう)。黒あざやほくろ類の悪性化によってできる場合が多い。短時日のうちにリンパ腺(せん)・内臓・皮膚など全身に転移し，悪性腫瘍の中でも最も悪性のものとされている。黒あざやほくろ類が急に大きくなったり，表面がただれて出血しやすくなったときや，足底などの刺激の加わりやすい部分に生じたものは早期に皮膚科医の診療を受ける必要がある。〔田嶋公子〕

あくせいじゅうもうじょうひしゅ 【悪性絨毛上皮腫】 悪性脈絡膜上皮腫ともいう。胎盤の絨毛上皮の悪性腫瘍。⇨絨毛上皮腫

あくせいしゅよう 【悪性腫瘍】 正常な組織細胞が各種の物理的・化学的・生物学的発癌(はつがん)性物質の作用または要因により，局所的にかってな増殖・過剰形成を行なうもの。生体の正常構築と無関係に無制限な細胞分裂をくり返し，きわめて速く旺盛(おうせい)に増殖し，周囲組織を破壊・浸潤するだけでなく，血管およびリンパ管を通って他臓器に転移する。さらに全身の栄養が冒され，悪液質*の状態となり死亡する。上皮性のものは癌腫(がんしゅ)，非上皮性のものは肉腫といわれる。治療法は，第一に外科的全摘出で，隣接の一見正常な組織も，広く腫瘍塊とともに切除する。同時に可能なかぎり局所のリンパ腺(せん)も切除する。ほかに放射線療法や，化学療法*も試みられている。➔癌 ➔肉腫〔中原義行〕

あくせいひんけつ 【悪性貧血】 アジソン-ビールメル貧血ともいう。キャッスルなどが発見した胃液内の内因子(抗悪性貧血物質)の欠乏のためビタミンB_{12}が腸管から吸収されないため起こる。貧血・舌炎・脊髄(せきずい)神経症状・顔色亜黄疸(おうだん)色の症状があり，日本ではまれ，欧米では比較的多い。かつては原因不明のため予後悪く死亡する疾患であったが，現在ではビタミンB_{12}による治療で軽快する。同様の貧血は妊娠・胃腸疾患・胃全摘(ぜんてき)後・肝疾患・梅毒・裂頭条虫症・ビタミンC欠乏症などでもみ

られることがある。➔貧血　〔大橋辰哉〕

アクセサリー [accessory] 服飾用語。服装を整えたり，引き立たせる役目をする付属品。狭義にはイアリング・ネックレス・ブローチ・指輪・ブレスレット・くし・かんざし・造花などの装身具をさすが，広義には帽子・手袋・ベルト・ハンドバッグ・くつ・かさ・ボタン類などの実用的機能を兼ねたものを含む。装身の目的で身体になんらかの物を付加して装飾することは古くから行なわれた。原始時代の裸体生活者たちは，狩猟によって得られた獣のきばや角，また貝・石などをそのまま，あるいは加工して身を飾った。これらは装身具として裸体をより美しくみせたが，同時に呪術(じゅじゅつ)的護符でもあり，またその量や大きさによって社会的地位を表示した。やがて服装形式が整うようになるとともに，装身具は衣服の付属品となっていったが，古代エジプト時代にはすでにイアリング・ネックレス・指輪などにきわめて精巧・豪華なものがあり，ギリシア・ローマ時代には衣服との調和を保って使われた。その後装身具はしだいに迷信的なもの，社会的地位の象徴から離れ，装飾性が重視されていったが，さらに実用性を兼ねたアクセサリーも発達して今日に至っている。現代のアクセサリーは，材料・デザインともに多種多様である。材料としては貴金属・宝石など，財産ともみなされる高価で豪華なものもあるが，陶器・ガラス・プラスチック・皮革・リボン・木などの低廉なものも用いられている。そして，進んだデザインによって材質のいかんにかかわらず工芸的にすぐれたものもつくられているが，アクセサリーはあくまで衣服の付属品であるから，それのみが美しいだけでは意味がない。つねに服装との調和を保ち，それをひきたたせるものであることが必要である。一般に，礼装には輝きのあるものを，日常着には光らないものを用いるのがよい。　〔小池千枝〕

アークせつだん 【アーク切断】 金属をアークで切断する方法。アークエアガウジング法・プラズマジェット切断法があり，またレーザー光線*の熱による切断などが考えられる。アークエアガウジング法は，交流溶接機に炭素電極を使用して切断やみぞ彫りを行なう方法で，炭素鋼に使用する。プラズマジェット法は，アーク中に水素・窒素・アルゴンなどの混合ガスを送り込んでプラズマ流を起こさせ，これを使用して切断する方法で軽金属・ステンレス鋼などに使用する。　〔内田信邦〕

アクセプタンス [acceptance] 手形引き受けのこと。元来，手形の名あて人が手形債務を確認する行為を意味する。手形の名あて人が手形に署名して，支払い期日に手形金額を支払う意志表示をすることによって法律上の義務を負うことになり，手形の支払い人として確定する。また，引き受けられた手形そのものを意味することもある。たとえば，銀行によって引き受けられた手形をバンカーズ-アクセプタンスとよんでいる。一般にバンカーズ-アクセプタンスは信用度が高く，支払い期日以前にこれを金融市場で低い利率で割り引き現金化することができる。広い意味では，このような銀行その他の金融機関の行為もアクセプタンスとよばれる。ロンドンのような古くから発達した国際金融市場では，自己の信用をもとに，手形の引き受けを専業とする引き受け業社が発達している。　〔安井孝治〕

アクセル アクセレレーター-ペダルの略。原動機へ供給する燃料を増減させ自動車の速度を変えるペダル。普通は運転者の右足で操作し，踏み込むと速度が増し，離すと速度が落ちる。ガソリン自動車の場合はキャブレタのスロットルバルブに，またディーゼル自動車では燃料噴射ポンプにリンク機構で連結されている。

アクセント [accent] 単語について定まっている声の高低または強弱の型をいう。たとえば〈雨〔a⌉me〕〉は第1音節を第2音節より高く発音し，〈飴(あめ)〔a「me〕〉は反対に第2音節を第1音節より高く発音する。また，英語の名詞conduct(〔kάndəkt〕行為)は，第1音節を強く，動詞conduct(〔kəndʌ́kt〕行なう)は第2音節を強く発音するが，これらの高低・強弱の型がアクセントである。そして，日本語のような声の高低によるアクセントをピッチ-アクセントまたは音調といい，英語のような声の強弱によるアクセントをストレス-アクセント，または単にストレスという。アクセントの機能は，大きくみれば単語にまとまりを与え，その記憶や認識を助けることにあるといえるが，細かくみるといろいろあって，上の日本語の例では単語を区別することに役だっており，上の英語の例では品詞の区別に役だっている。また，世界の言語の中には，たとえば必ず第1音節を強く発音するといったぐあいに，すべてまたは大部分の単語のアクセントが一定しているもの(たとえばチェック語)などがあるが，そういうアクセントは，単語が文の中で使われたときの，単語と単語の境目を示すのに役だっている。日本語は方言によってアクセントが著しく違っており，さらに，たとえば仙台(せんだい)市・熊本市などの方言ではすべての単語を一様なアクセントによって発音し，アクセントの違いによって単語を区別することがない。このことは，日本語では単語を区別するためのアクセントの機能が小さいことを意味する。

東京式の標準語のアクセントは拍(音節がつくりだしている言語のリズムの単位で，短い音節，つまり，かな1字で表わされる単位が1拍をなす)を基礎にして成立しており，表のようにn拍の単語のアクセントの型はn＋1種類ある。表の中の○は1拍を，⌉は音の下がりめ(そのあとを低く発音する)を示す。下降型の(1)の型の単語は〈め⌉が〉〈やま⌉が〉などのようにあとに助詞がついたときにのみ下がりめが現われる。また，表で「のはいっている単語は，第1拍を，第2拍以降⌉の前までの拍よりも低く発音する。

〔上村幸雄〕

アクダ 【阿骨打】 (1068～1123) 中国，金(女真)の初代皇帝。中国名は完顔旻(かんがんびん)。アクダは女真名。死後は太祖とよぶ。1115年，遼(りょう)(契丹(きったん))の勢力下にあった南満州で女真人の民族国家を建設し，首長となった。猛安謀克制*や女真文字の制定など国政を整える一方，遼と政戦を続け，1122年その都燕京(えんけい)(北京(ペキン))を落とし入れたが，その滅亡をみず病死した。

あくたいまつり 【悪態祭り】 悪口祭りともいう。参詣人(さんけいにん)どうしが互いに悪口を言い合い，勝った者がその年の福運に恵まれるとされる。もとは年の境，節分などに，部落対抗の年占(としうら)神事として

標準語（東京）のアクセント

アクセントの型＼単語の拍数		1　拍	2　拍	3　拍	4　拍	5　拍
平板型（上り型）		○ け(毛)	○○ かぜ	○○○ からだ	○○○○ てぬぐい	○○○○○ みなみかぜ
下降型（下り型と上り下り型）	(1)	○ め(目)	○○ やま	○○○ おとこ	○○○○ おとうと	○○○○○ じゅうにがつ
	(2)		○○ うみ(海)	○○○ こころ	○○○○ からかさ	○○○○○ くもりぞら
	(3)			○○○ いのち	○○○○ あさがお	○○○○○ むぎばたけ
	(4)				○○○○ あいさつ	○○○○○ おひなさま
	(5)					○○○○○ はなこさん

行なわれたものと考えられる。茨城県西茨城郡岩間町の愛宕(あたご)神社では，旧暦11月14日の真夜中，参詣人が，神事の始まる直前まで，悪口雑言を言い合う。群馬県甘楽(かんら)郡の檜沢岳(ひさわだけ)神社でも，10月19日の祭礼に参詣者が互いにののしり合い，負けて沈黙する者，怒る者は養蚕が不良になるといわれる。〔紙谷威広〕

あくたがわしょう 【芥川賞】 芥川龍之介*(りゅうのすけ)を記念した文学賞。菊池寛*の発意で文芸春秋社によって設けられ，1935年(昭和10)から半年ごとに受賞者を出している。新進ないし無名作家の中・短編小説を対象とし，文壇の登龍門ともいえる。第1回石川達三*(たつぞう)《蒼氓(そうぼう)》に始まり，第5回尾崎一雄*(かずお)《暢気眼鏡(のんきめがね)》，第6回火野葦平*(あしへい)《糞尿譚(ふんにょうたん)》，第7回中山義秀*《厚物咲(あつものざき)》など，成熟した作品が選ばれたが，戦時色の濃くなった1940年以降は低調であった。第2次世界大戦後は1949年下半期から復活し，第25回安部公房*《壁―S.カルマ氏の犯罪》，第26回堀田善衛*(ほったよしえ)《広場の孤独》，第31回吉行淳之介(よしゆきじゅんのすけ)《驟雨(しゅうう)》などが新風を吹き込んだ。第34回石原慎太郎*《太陽の季節》のころから商業ジャーナリズムの影響が強まった。そうして，第38回開高健*《裸の王様》，第39回大江健三郎*(けんざぶろう)《飼育》，第51回柴田翔(しばたしょう)《されどわれらが日々―》，第61回庄司薫(しょうじか

芥　川　賞（受賞作品・作家名）

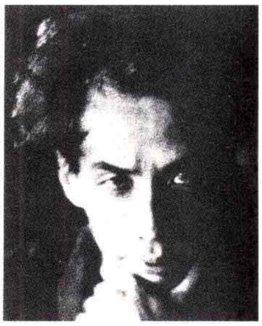
回	年度		作品名	作家名
1	昭和10年	上	蒼氓	石川達三
2	昭和10年	下	(該当作なし)	
3	昭和11年	上	コシャマイン記 城外	鶴田知也 小田嶽嶽夫
4	昭和11年	下	地中海 普賢	富沢有為男 石川淳
5	昭和12年	上	暢気眼鏡	尾崎一雄
6	昭和12年	下	糞尿譚	火野葦平
7	昭和13年	上	厚物咲	中山義秀
8	昭和13年	下	乗合馬車	中里恒子
9	昭和14年	上	鶏騒動 あさくさの子供	半田義之 長谷健
10	昭和14年	下	密猟者	寒川光太郎
11	昭和15年	上	(該当作なし)	
12	昭和15年	下	平賀源内	桜田常久
13	昭和16年	上	長江デルタ	多田裕計
14	昭和16年	下	青果の市	芝木好子
15	昭和17年	上	(該当作なし)	
16	昭和17年	下	連絡員	倉光俊夫
17	昭和18年	上	纏足の頃	石塚喜久三
18	昭和18年	下	和紙	東野辺薫
19	昭和19年	上	劉広福 登攀	八木義徳 小尾十三
20	昭和19年	下	雁立	清水基吉
21	昭和24年	上	本の話 確証	由起しげ子 小谷剛
22	昭和24年	下	闘牛	井上靖
23	昭和25年	上	異邦人	辻亮一
24	昭和25年	下	(該当作なし)	
25	昭和26年	上	春の草 壁――S.カルマ氏の犯罪	石川利光 安部公房
26	昭和26年	下	広場の孤独	堀田善衛
27	昭和27年	上	(該当作なし)	
28	昭和27年	下	或る《小倉日記》伝 喪神	松本清張 五味康祐
29	昭和28年	上	悪い仲間 陰気な愉しみ	安岡章太郎
30	昭和28年	下	(該当作なし)	
31	昭和29年	上	驟雨	吉行淳之介
32	昭和29年	下	アメリカン・スクール プールサイド小景	小島信夫 庄野潤三
33	昭和30年	上	白い人	遠藤周作
34	昭和30年	下	太陽の季節	石原慎太郎
35	昭和31年	上	海人舟	近藤啓太郎
36	昭和31年	下	(該当作なし)	
37	昭和32年	上	硫黄島	菊村到
38	昭和32年	下	裸の王様	開高健
39	昭和33年	上	飼育	大江健三郎
40	昭和33年	下	(該当作なし)	
41	昭和34年	上	山塔	斯波四郎
42	昭和34年	下	(該当作なし)	
43	昭和35年	上	夜と霧の隅で	北杜夫
44	昭和35年	下	忍ぶ川	三浦哲郎
45	昭和36年	上	(該当作なし)	
46	昭和36年	下	鯨神	宇野鴻一郎
47	昭和37年	上	美談の出発	川村晃
48	昭和37年	下	(該当作なし)	
49	昭和38年	上	少年の橋 蟹	後藤紀一 河野多恵子
50	昭和38年	下	感傷旅行(センチメンタルージャーニイ)	田辺聖子
51	昭和39年	上	されどわれらが日々――	柴田翔
52	昭和39年	下	(該当作なし)	
53	昭和40年	上	玩具	津村節子
54	昭和40年	下	北の河	高井有一
55	昭和41年	上	(該当作なし)	
56	昭和41年	下	夏の流れ	丸山健二
57	昭和42年	上	カクテル・パーティー	大城立裕
58	昭和42年	下	徳山道助の帰郷	柏原兵三
59	昭和43年	上	三匹の蟹 年の残り	大庭みな子 丸谷才一
60	昭和43年	下	(該当作なし)	
61	昭和44年	上	赤頭巾ちゃん気をつけて 深い河	庄司薫 田久保英夫
62	昭和44年	下	アカシヤの大連	清岡卓行
63	昭和45年	上	プレオー8の夜明け 無明長夜	古山高麗雄 吉田知子
64	昭和45年	下	杳子	古井由吉
65	昭和46年	上	(該当作なし)	
66	昭和46年	下	砧をうつ女 オキナワの少年	李恢成 東峰夫
67	昭和47年	上	誰かが触った いつか汽笛を鳴らして	宮原昭夫 畑山博
68	昭和47年	下	れくいえむ ベティさんの庭	畑静子 山本道子
69	昭和48年	上	鶸	三木卓
70	昭和48年	下	月山 草のつるぎ	森敦 野呂邦暢
71	昭和49年	上	(該当作なし)	
72	昭和49年	下	土の器 あの夕陽	阪田寛夫 日野啓三
73	昭和50年	上	祭りの場	林京子
74	昭和50年	下	志賀島 岬	岡松和夫 中上健次
75	昭和51年	上	限りなく透明に近いブルー	村上龍
76	昭和51年	下	(該当作なし)	
77	昭和52年	上	僕って何 エーゲ海に捧ぐ	三田誠広 池田満寿夫
78	昭和52年	下	螢川 榧の木祭り	宮本輝 高城修三
79	昭和53年	上	九月の空 伸予	高橋三千綱 高橋揆一郎
80	昭和53年	下	(該当作なし)	
81	昭和54年	上	やまあいの煙 愚者の夜	重兼芳子 青野聡
82	昭和54年	下	モッキングバードのいる町	森禮子
83	昭和55年	上	(該当作なし)	

おる)《赤頭巾(あかずきん)ちゃん気をつけて》などは社会的な関心の的となった。なお授賞は財団法人日本文学振興会の名で行なわれる。〔堀井謙一〕

あくたがわりゅうのすけ【芥川龍之介】(1892～1927) 小説家。東京の生まれ。東京大学英文科を卒業。生後7か月ごろ母が発狂し，その実家芥川家の養子となった。養母は幕末の通人細木香以(さいきこうい)のめいにあたり，養父は南画・俳句を好んだので，芥川家には遊芸に親しむ気風があった。東大在学中は菊池寛*・久米(くめ)正雄*らと親交をもち，第3次《新思潮*》を創刊し，《老年》《青年と死》などを載せ，すでに後年の資質を現わしたが文壇の反響はなかった。1915年(大正4)11月夏目漱石*(そうせき)の門にはいり，第4次《新思潮》の創刊号に《鼻》を書いて漱石の激賞を受け，続いて《芋粥(いもがゆ)》《孤独地獄》《煙草(たばこ)と悪魔》などで文壇に出た。以後数年間の作品は，王朝物・江戸物・開化物などの歴史小説がほとんどで，いずれも歴史事象の上に人間のエゴイズムなどを読み取る近代的な解釈を加え，理知的な作風を基調としていた。また，芸術観においては芸術至上主義を唱えた。しかし，大正期も後半になると民衆芸術論・労働文学の台頭がめざましく，芥川も自己や現実との対決をしいられざるをえず，《秋》《一塊の土》では写実的作風を示した。1922年ごろから神経衰弱に悩み，健康も衰え，加えてプロレタリア文学運動の新しい動きが始まり，この文学的・社会的な転形期に対処すべき態度を見いだしかね，しだいに閉鎖的・自虐的な精神状態に陥った。小説では《或阿呆(あるあほう)の一生》《河童*(かっぱ)》が書かれ，《文芸的な余りに文芸的な》においては心境小説への憧憬(どうけい)が語られ，文学観の分裂をあらわに示している。1927年(昭和2)7月24日，自殺。〔小泉浩一郎〕

アクターズ-スタジオ［Actors Studio］ ニューヨークにある俳優訓練所・劇団。1948年演出家ストラスバーグとカザン*を中心に設立され，特にスタニスラフスキー-システム*による中堅俳優の再訓練の場として知られてきた。1963年からは劇団活動も始めている。

あくたろう【悪太郎】 狂言の曲目。出家狂言。伯父(おじ)を長刀(なぎなた)でおどして，したたかに酒を飲んだ悪太郎(シテ)は，帰りの道ばたで寝てしまう。伯父は長刀を取り上げ，髪やひげをそり落とし，僧衣をまくらもとに置いて〈南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)〉と名づけると言い残して去る。目ざめた悪太郎は驚くが，仏の告げであったかと出家を決心する。そこへ念仏を唱えながら僧が来かかるので，悪太郎は自分が呼ばれるのだと思い込み，いちいち返事をする。おかしがって踊り念仏でからかう僧。結局僧から〈南無阿弥陀仏〉六字の名号の由来を聞いた悪太郎は，仏道修行を誓って別れる。


芥川龍之介

よろめく足で長刀をふるう酔狂ぶりと，後半の対照的に神妙なおかしさがねらいである。類曲に，酔った乱暴者が通りがかりの僧にからむ《悪坊》がある。〔増田正造〕

アクチウムのたたかい【アクチウムの戦い】 BC31年ギリシア西北岸アクチウムでオクタビアヌス(のちのアウグストゥス*)と，アントニウス*・クレオパトラ*の連合軍とが戦った海戦。オクタビアヌスは軽船で風に乗って動き回り，アントニウス軍を破った。クレオパトラは形勢不利とみるやエジプトに引き揚げた。翌年オクタビアヌスはエジプトも破り，この戦いは実質上の帝政成立の第一歩となった。

アクチニウム［actinium］ 周期律表第Ⅲ族に属する銀白色の金属元素。記号Ac，原子番号89。質量数223～228の6種の同位体が知られている。1899年フランスのドビエルヌによりピッチブレンド中から発見された。天然のアクチニウムは質量数227で，大部分はβ線を出して壊変しトリウム227となり，一部はα粒子を放射してフランシウム223となる。半減期は21.8年で，ピッチブレンド1t中に約0.15mg程度存在する。化学的性質は希土類元素特にランタン*に類似する。〔鈴木篁・西村文雄〕

アクチニウムけいれつ【アクチニウム系列】 ⇨崩壊系列

アクチニドげんそ【アクチニド元素】 原子番号89番のアクチニウム*から103番までの元素。希土類元素*(57番ランタン*から71番ルテニウムまでの元素でランタニド元素ともいう)に非常によく似た一群の元素で，第2の希土類元素ともいわれる。ランタニド元素においては4f軌道へ電子の充塡(じゅうてん)が行なわれるのに対し，アクチニド元素においては5f軌道への充塡が行なわれる。

アクチノマイシン［actinomycin］ 放線菌の培養濾液(ろえき)から1941年ワクスマンらにより抽出単離された抗生物質。化学的にはブロックマンらにより研究されており，弱塩基性の色素ペプチドで，赤色～かっ色の結晶である。このものは単一の物質ではなく，A・B・C・D・X_1・X_2など10数種の物質に分離される。アクチノマイシンCはさらにC_1・C_2・C_3に分離されている。

アクチノマイシンCは，はじめ制癌(せいがん)作用をもち，リンパ組織の悪性腫瘍(しゅよう)に効果があることが報告されたが，その後特にホジキン病(リンパ肉芽腫症)に著効があることがわかり，現在その治療に用いられている。副作用としては一定投与量に達すると口腔(こうこう)・食道・胃の粘膜の炎症や，発疹(はっしん)・脱毛などの皮膚障害が認められる。しかし，骨髄機能抑制作用については，ナイトロジェンマスタードなどの細胞毒や他の抗腫瘍性物質に比較してはるかに弱く，肝および腎(じん)機能に対しても障害は認めない。

アクチノマイシンDは1954年マナカーらによって発見され，制癌抗生物質として注目され，ホジキン病や小児のウィルムス腫瘍などに有効とされて臨床的に用いられている。これは毒性の比較的少ない赤色の結晶で，熱には安定であるが，酸・アルカリにより分解されて効力を失う。

その他のアクチノマイシン類は構造未知のものが多いが，アクチノマイシンAは毒性が強く臨床に用いられず，アクチノマイシンBは抗菌作用が弱い。〔鈴木郁生〕

アクチン［actin］ 筋収縮に関与しているアクトミオシンの構成成分の一。筋原繊維にみられるI帯の部分に相当する。分子量約60,000の球状タンパク質(G-アクチン)で，1モルあたり1モルのATPと結合している。ATPが無機リン酸とADPになる際に放出するエネルギーによって，G-アクチンは重合して繊維状のアクチン(F-アクチン)に変わる，F-アクチンが繊維状構造からせん構造へ変換するときにもATPを必要とするが，これらのエネルギーは，収縮には直接の関係をもたない。➔アクトミオシン ➔筋収縮〔原野友之〕

あくとう【悪党】 鎌倉末期，畿内(きない)を中心に反幕府・反荘園(しょうえん)制の行動をとった新興の領主層＝武士をいう。鎌倉中期以降の農村構造の変化に対応して成長した新興の在地領主は，直接農民を封建的関係によって支配すると同時に，在地領主制をさらに展開するのに障害となる幕府や荘園領主に反抗した。その行動は暴力的であり，乱行を事としたため支配者側から悪党とよばれた。

アークとう【アーク燈】 気中放電の一形態であるアーク放電を利用した光源。蛍光(けいこう)ランプ・水銀ランプ・ナトリウムランプ・キセノンランプのほか，ネオン管燈・ネオン電球がある。前三者はそれぞれ低圧水銀蒸気・高気圧水銀蒸気，およびナトリウム蒸気中の放電を利用している。また，キセノンランプは高圧キセノンガス中の放電を用いた光源である。高圧水銀ランプは効率がよく，小形で1燈あたりの光束が大きいので，一般照明用に広く使用されている。蒸気圧が高くなるにつれて可視線が増加し，20気圧以上になると輝線スペクトルから連続スペクトルの特性をもつようになり光色は白に近づく。ナトリウムランプの

分光エネルギー分布(各波長の光の含まれる度合を示すグラフ)は，D線とよばれる5,890〜5,896オングストロームの黄色のスペクトル線である。この波長は人間の視感度最大の点に近いため効率がよく，また単色光のためすぐれた光源であるが，演色性*はきわめて悪い。

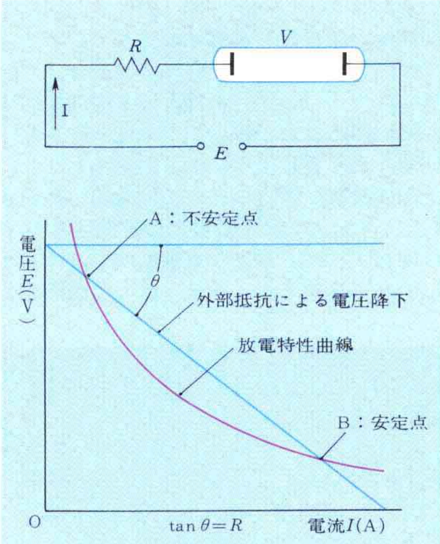
キセノンランプの光は，紫外線から可視光線まで，連続的に自然昼光にきわめて近い性質をもつ。電極のギャップが数ミリメートルで，石英バルブに封入された短アークキセノンランプは，150Wから5kWのものまでつくることができ，効率も20〜40ルーメン/Wと高いので，自然昼光に近いこともあって，標準白色光源・映写用光源などに用いられる。石英管に封じ込まれた長アークキセノンランプは，交流点燈空冷式で数十キロワットのものがあり，広場の照明などに用いられる。日本においては，アーク燈がはじめて用いられたのは1878年(明治11)で，白熱電燈は，その7年後から使用された。➔放電　〔田村寅男〕

アクトミオシン　[actomyosin]　筋肉の収縮性タンパク質。F-アクチン*とミオシン*を混合してもできるが(合成アクトミオシン)，筋肉からアクトミオシンのまま抽出されたタンパク質(ミオシンB様タンパク質)は，数種のタンパク質からなる複合タンパク質で，主成分であるアクチンとミオシンの比は1：3である。アクトミオシンはみずからATPを分解し，そのエネルギーで収縮する。このタンパク質は下等な生物にも存在し，変形菌の変形体にみられる活発な原形質流動をひき起こしているのもアクトミオシンと考えられる。➔筋収縮　〔原野友之〕

アグニ　[Agni]　インド神話の〈火の神〉。《リグ-ベーダ*》でもインドラ神(➔帝釈天(たいしゃくてん))に次ぐ重要な神とたたえられ，神と人との媒介者として活動する。太陽，電光，地上の火として現われ，暗黒を照破し不浄を焼き尽くす。〈降魔神(ごうましん)〉とも家庭の安寧・繁栄を増進する〈守護者〉ともよばれる。姿はのちに雄ヒツジに乗り多頭三脚七臂(しちひ)の神として表わされるようになった。

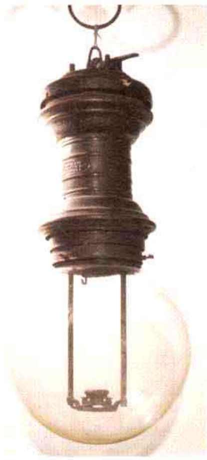
アグニュー　[Spiro Theodore Agnew]　(1918〜　)　アメリカ合衆国副大統領。ギリシア系移民の子としてメリーランド州ボルチモアに生まれる。ジョンズ-ホプキンス大学化学科からボルチモア大学の夜学で法律を学ぶ。第2次世界大戦ではヨーロッパ戦線に従軍，さらに朝鮮戦争にも参加。1962年ボルチモア郡長，1966年メリーランド州知事選挙で民主党候補を破り，ギリシア系移民初の知事となる。1968年8月共和党全国大会で，ニクソン大統領候補とともに副大統領候補に指名され11月当選。1969年1月就任。　〔吹浦忠正〕

あくにんしょうき　**【悪人正機】**　悪人こそ阿弥陀仏(あみだぶつ)の救いの対象であるとする立場。この立場は法然*の思想にも含まれているが，その弟子(でし)親鸞*(しんらん)の思想に最も明瞭(めいりょう)で，《歎異抄*(たんにしょう)》の〈善人なをもて往生をとぐ，いわんや悪人をや〉ということばに端的に表現されている。ここにいう善人とは〈自力作善の人〉つまりみずから善行をなし，修行を積むことによって，悟りに至りうると思っている人のことで，一方，悪人とは，なにものかに引きずられて知らず知らずのうちに悪を犯してしまうような〈煩悩(ぼんのう)具足のわれら〉を意味している。親鸞によると，人間はすべて悪人であり，自分の力で善をなしうるなどと考えるのは単なる迷いにすぎない。しかも阿弥陀仏*の本願は悪人を救いの対象としているのだから，みずから悪人であることを自覚し〈他力*を頼みたてまつる〉者こそが，真実の救いにあずかりうるという。　〔奈良博順〕



放電燈の点燈回路と放電特性曲線

アーク燈



1899年ごろ，東京市で使用された密閉形アーク燈。アメリカGE社製



アクバル

あくね　**【阿久根(市)】**　鹿児島県北西部の市。古くから南九州有数の漁業基地で，江戸時代には琉球(りゅうきゅう)・大阪・江戸と交易を行なった。1952年(昭和27)市制施行。人口30,000。

天草灘(あまくさなだ)に臨み，出水(いずみ)山地の主峰紫尾(しび)山の北西麓(ろく)を占め，阿久根大島も市域内に含まれる。産業三大別人口比は45：19：36。イワシ・アジ・サバなどの漁獲が多く，ブタの飼育も盛んで年間20,000頭を東京へ移出する。サツマイモを原料とする水あめ・デンプン・しょうちゅうなどの食料品工業も行なわれるが，いずれも規模が小さい。鹿児島本線・国道3号線に沿い，出水市へはフェリーボート，甑(こしき)島*・長島*・天草諸島*へは定期航路が通ずる。沿岸区は県立公園に指定され，ツルの渡来地，野生のシカの生息地(阿久根大島)として知られ，近くに阿久根温泉*もある。特産にしょうちゅう・ブンタン・海人草などがある。

あくねおんせん　**【阿久根温泉】**　鹿児島県阿久根市の海岸にある温泉で，1912年(大正1)に開かれた。泉温48℃の食塩泉で，皮膚病・胃腸病・婦人病などにきくといわれる。

あくのはな　**【悪の華】**　ボードレール*の詩集。初版1857年，再版1861年刊行。19世紀最大の詩集として，近代象徴主義*の世界を開いた。パリ生活を背景に，理想と憂愁との相剋(そうこく)に苦しむ魂の，生から死に至る遍歴を，官能・夢・自意識などの内面風景を通して描く。とりわけコレスポンダンス(万物照応)の思想は，詩人の美しい理想として，芸術論として名高い。

アクバル　[Akbar]　(1542〜1605)　インド，ムガール朝第3代の皇帝。在位1556〜1605年。ヒンズー教徒への融和政策と武力征服を兼用し，デカン方面を除くインドの大部分を領土とした。軍制と徴税制に基づくすぐれた地方行政で，ムガール帝国の繁栄を築いた。きびしいイスラム主義をきらい，

ヒンズー教を学び，折衷宗教を試みている。

あくび【欠伸】 眠いときや，退屈したときに起こる無意識的動作で，全身の伸筋の収縮を伴った変則呼吸運動として現われる。深い吸息をすることにより，体内の炭酸ガスを排泄(はいせつ)するとともに，酸素を取り入れそして短い呼気とともに終了する。その間に組織の代謝を活発にし，脳の働きをも盛んにし，意識を高めるという生物学的意義がある。しかし生理学的に詳細は不明である。

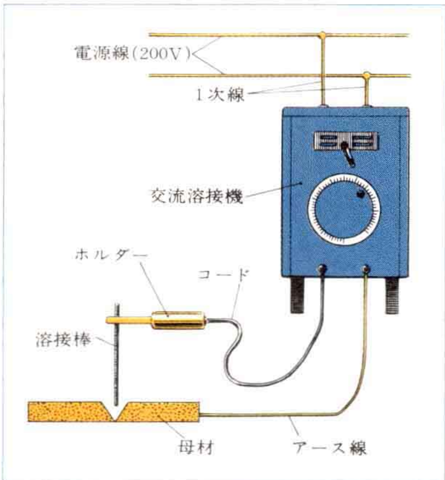
アークほうでん【アーク放電】 ⇨放電

あくま【悪魔】 キリスト教で悪魔を意味するデビル・ダイモン・ダイモニオン・サタンは，日本語訳の聖書では明確な区別がない。ダイモンは古代ギリシアでは善悪の区別のない下級神をさしていたが，《旧約聖書》では異教神もしくは悪霊とされ，《新約聖書》では悪魔の配下にあるもろもろの神として表わされている。またダイモニオンは《新約聖書》ではおもに〈悪魔に取りつかれている人〉を意味している。サタンは〈敵対する者〉，すなわち〈神および人間に敵対する者〉をさすが，人間にはその敵であることがはっきり把握(はあく)されることは少なく，むしろ味方の顔をもって現われる。この意味では，つねに人間を神にそむくようにそそのかす誘惑者である。たとえば，アダム*とイブに禁断の木の実を食べさせたヘビはサタンの象徴である。したがってサタンからの解放は原罪の贖罪(しょくざい)と同様，神の特別の恩恵なしには不可能であるとされる。《旧約聖書》ではサタンはだいたい普通名詞として扱われているが，《新約聖書》では堕落した天使の長として固有名詞化している。この神と悪魔の二元論的傾向を，ヘブライ本来の伝統にゾロアスター教的善悪二神の対立観が加わったためとする説もある。キリスト教ではサタンの被造性を強調して，サタンも神をたたえる道具であるとし，その対立を究極的には否定している。〔石井忠厚〕

仏教ではマーラ(māra，魔羅)といい，魔と略称する。マーラは〈殺す者〉を意味する語で，一般には人の生命を奪い，よいことをしようとすることを妨げる悪い鬼神をいう。しかし，《相応部経典》の〈マーラ相応〉〈ラーダ相応〉の諸経典の記述によれば，人間の識別・判断・感覚などが悪魔であるという。その理由は心のありようが，物事に執着し，先入観をもち，正しい判断が下せなくなりがちであるからで，悟り*には不必要として退けられている。また，仏伝によれば，ブッダが成道(じょうどう)するとき悪魔の大軍に襲われるという文学的表現があるが，これも初期の仏伝では魔女が現われ，のちに発展して魔の八軍とか大軍になっていく。これはブッダ自身の精神的葛藤(かっとう)の姿を，古代の文学的表現形式でしるしたものと思われる。したがって，異性への脱却と精神的な成長などが織りなされているとみてよい。《大智度論*(だいちどろん)》68には，煩悩魔(ぼんのうま)・五衆魔・死魔・天子魔の4種の悪魔が説かれている。ここでは生命を奪う死魔も心のもちようによって悪魔となり，正法の破壊，煩悩などの心の悪魔が列記されている。このことは仏教が悪魔を意味する場合，心のありようで悪魔になることを示すのが普通である。ブッダの成道の姿の降魔坐(ごうまざ)というのはここから出てくる。のちに俗に〈魔がさす〉とあやまって邪道に走ったり，〈邪魔する〉と妨害することをいうのも，この意味が転用された例である。〔石上善応〕



悪　魔　イタリアのアレッツォの町を逃げていく悪魔　アッシジ　聖フランチェスコ教会



アーク溶接　手アーク溶接



アグラ　ムガール帝国の栄光を物語るアグラ城はジャムナ川を背にして，市の中心部にあり，著名な観光地として訪れる人々が多い

あくま【悪魔】 レールモントフ*の叙事詩(1840)。楽園を追われた傲岸(ごうがん)な悪魔が清純な美姫(びき)タマーラを愛し，ふたりの間に愛が通ったとき，タマーラは神のもとに連れ去られ，デーモンは永劫(えいごう)の冷たい恨みをいだいて取り残され，永遠に彷徨(ほうこう)する。コーカサスの絢爛(けんらん)たる自然を織り込んだ，リアルで幻想的な傑作の長詩。

あくましゅぎ【悪魔主義】 ダイアボリズムの訳語で唯美主義*の一。人間の退廃的な暗黒面に美を見いだそうとする芸術思想で，19世紀末に起こった。科学文明による人間の物質化に反逆し，あらゆる道徳・良識に背を向け，醜悪さや陰惨さ，悪徳・変態などを賛美する態度であり，近代人の精神的苦悩の屈折した表現といえよう。ポー*・ボードレール*・ワイルド*，初期の谷崎潤一郎*らがその代表者である。

アクメイズム［akmeizm］ 20世紀ロシアの文学流派。象徴主義*の神秘的傾向に反抗し，明晰(めいせき)な古典的調和を追い求め，1912年以降に活躍した。運動自体は短命に終わるが，詩の技法にすぐれた3人の詩人，グミリョーフ*・アフマートワ*・マンデリシュタームを生んだ。

アークようせつ【アーク溶接】 交流または直流溶接機を用い，溶接機の1次側を200Vの電源につなぎ，2次側のアース線を母材とつなぎ，コード線の先のホルダーに溶接棒をはさみ，この溶接棒と母材との間にアークをとばして溶接を行なう方法である。軟鋼・ステンレス鋼などに用いられる最も一般的な方法である。

アクラ［Accra］ アフリカ大陸西部，ギニア湾に面するガーナ共和国の首都。人口73万8,000(1970)。ボルタ川の河口にあり，この国の動脈鉄道の起点であるとともに，この国最大の貿易港でもある。しかし港は遠浅で，船は沖に停泊し，はしけによる荷揚げ荷降ろしをしなければならない。カカオをはじめダイヤモンド・ボーキサイトが積み出される。また野口英世(ひでよ)が研究途上病没した地として知られる。

アグラ［Agra］ インド共和国北部の都市。人口59万2,000人(1971)。ニューデリーの南東176km，ジャムナ川右岸に位置する。16～17世紀間はここにムガール帝国の首都が置かれ，市域には多くの史跡がある。中でもシャジャハン帝が愛妃のために建設した廟(びょう)タージマハル*は世界的に有名で，多くの観光客を集めている。アグラ王城の遺跡も壮大である。古くからじゅうたんなどの美術工芸品で知られ，現在では綿工業が盛んに行なわれている。〔別技篤彦〕

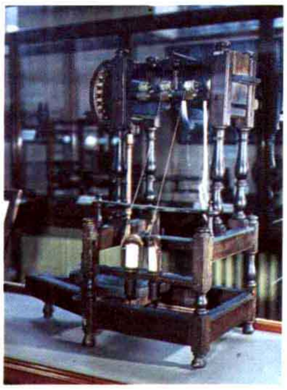
アークライト ［Richard Arkwright］(1732～1792) イギリスの紡績技術者。貧しい両親の7人兄弟の末子としてランカシャーに生まれ，理髪師やかつら職人として働いた。頭髪の染色で小資本を得，1769年にもめん紡績機に関する最初の特許を得て，ふたりの仲間とニード-ストラット-アンド-アークライト商会を創立。1771年にクロンフォードに水力を動力とする大紡績工場を建てた。1775年にスロッスルとよばれる紡機の第2の特許を得たが，彼の発明は他人の剽窃(ひょうせつ)にすぎないという理由で特許の訴訟を受け，1785年に敗訴の裁決が下された。しかし，彼の機械ははじめから水車動力を予定していたので，水力紡績機(ウォーター-フレーム)とよばれるほどであり，もめん工業に革命的役割を果たすことになった。したがって，特許の敗訴にもかかわらず，50万ポンドの遺産を残し，1786年にはナイトの爵位を受けた。〔山崎俊雄〕

あぐらなべ【安愚楽鍋】 戯作者仮名垣魯文*(かながきろぶん)作の滑稽本(こっけいぼん)。3編5冊。1871～1872年(明治4～5)刊。文明開化前期の混乱した時代の世相を反映した文芸作品で，当時の新商売牛肉屋を舞台に，そこに出入りする田舎(いなか)武士・茶屋女・西洋通などあらゆる階層の人々のひとり言に託して，当時の人心を庶民の哀感をもって写実している。

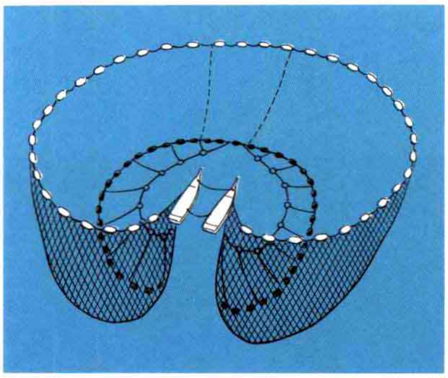
あぐりあみ【揚繰り網】 最も大規模な巻き網*の一。主として浮き魚群を対象として，1隻もしくは2隻の漁船で，その魚群を包囲するように網を繰り延べ，続いて網すそを締める。このように魚群の逃逸を防ぎながら，繰り延べた網地を順次漁船に繰り込み，魚取り部に魚群を集めて捕獲する。きんちゃく網*と似ているが，網地に〈吹き出し〉があるところが違った点である。

アグリコラ ［Gnaeus Julius Agricola］(40ごろ～93) ローマの政治家・将軍。歴史家タキトゥス*の義父。護民官・法務官を経て77年に執政官となった。78～85年の間はブリタニア総督となり，現在のスコットランド地方までローマの領域を拡大し，そこに長城をつくり，ブリタニアにおける新属州のローマ化を確保した。

アグリコラ ［Georgius Agricola］(1494～1555) ドイツの鉱山学者。本姓はバウアー。はじめ医者を開業していたが，1527年ヨアヒムスタールという銀鉱山の中心地の市医となった。ここで鉱山業に興味を覚え，鉱山・地質・鉱物について古代の文献から調査を始め，実地調査に移り，多数の書物を著わした。特に死後出版された鉱山書《デ-レ-メタリカ》12巻は有名である。本書は300以上の木版画を添えて当時の冶金(やきん)・試金術・鉱脈を明確に示している。これは長い間鉱山学の標準的ハンドブックとして用いられ，近代産業の勃興(ぼっこう)に貢献した。〔山下愛子〕

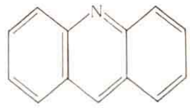


アークライト
水力紡績機



揚繰り網

アクリジン ［acridine］10-アザアントラセンともいう。コールタール中に含まれる。淡黄色の針状または板状結晶。特異のにおいがあり，溶液は紫色，その塩の溶液は緑色螢光(けいこう)を呈する。アクリジンは弱塩基性で赤色リトマス紙を青変させる。染料・殺菌剤・医薬品の合成原料として使われる。



アクリジンせんりょう【アクリジン染料】 アクリジンを骨格とする染料。構造的にはジフェニルメタン系・トリフェニルメタン系などのいわゆるカーボニウム染料*に属する。黄・だいだい色程度の塩基性染料*が若干実用化されているにすぎず，染料としてはあまり重要なものではない。しかし，アクリジン誘導体にキナクリドンと称する光に強い赤色顔料があり，現在多量に使われている。商品名の例としてはモナストラルレッドがある。また，医薬品として重要なものもある。アテブリン(抗マラリア剤)がその例である。〔稲田正作〕

アグリッパ ［Marcus Vipsanius Agrippa］(BC 62ごろ～BC 12) ローマのオクタビアヌス(のちのアウグストゥス*)下の部将。下層階級の出身。アクチウムの戦い*でオクタビアヌスに協力してアントニウス軍を破った。アウグストゥス帝政確立後，功によりアウグストゥスの娘ユリアを妻とし，軍事・外交を担当。またローマ市の美化にも努力し，地理書も著わした。

アグーリャス(岬) ［Agulhas］アフリカ大陸最南端の岬(みさき)。東西にインド洋と大西洋を分けている。付近の海域ではフォークランド海流*(寒流)とアグーリャス海流*(暖流)がぶつかり，霧が発生しやすく，航行の難所である。バスコ-ダ-ガマは，アフリカ大陸西岸に沿って南下し，この岬沖を通過してインド洋へ出た。

アグーリャス(海流) ［Agulhas］インド洋の南緯20°を中心に，10～30°付近を南赤道海流が環流しているが，アフリカ大陸東岸に達した流れは，大陸に沿ってマダガスカル島との間を南下し，大陸の南端に達する。これがアグーリャス海流で，別名，モザンビーク海流ともいう。

あくりょう【悪霊】 ドストエフスキー*の長編小説(1871～1872)。実際にあったネチャーエフ事件が構想の発端となった。作者は，そこからこの時代の世界観の展開を試み，博愛主義者的ジレッタントは幼稚で狂信的・陰謀家的な革命家気どりの青年たちの父であるという19世紀ロシアの知識人の世代論と，愛のない精神は観念を生み，その観念が人間を滅ぼすという永遠の問題とを結合させた。ここには作者の後期の反革命思想がはっきりと現われている。〔中村健之介〕

あくりょく【握力】 手で物を握る力。手や腕の多くの筋肉が作用するが，おもなものは深指屈筋と浅指屈筋である。握力の測定は，筋力テストの一つで，全身の筋力は握力と背筋力の総合されたものであり，体力測定に含まれる。握力は握力計を用いて，目盛り板を移動する針のさす数値(単位はkg)によって示される。スメドレー式とコラン式があり，一般にはスメドレー式が用いられる。

アクリルさん【アクリル酸】 $CH_2=CH-COOH$ アクリロニトリル*の加水分解，アクロレイン*の酸化，アセチレンのカルボニル化により得られる。刺激臭のある液体。酸素の存在で容易に重合し，透明なガラス状重合体を生成する。重合生成物は酸性高分子として重要で，アクリル酸メチル・メタクリル酸メチル・アクリロニトリルの重合体とともにアクリル樹脂と総称される。これらの樹脂は一般に耐水性・耐油性などを備えており，広く用いられている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

アクリルじゅし【アクリル樹脂】 熱可塑性樹脂*の一。一般には，ポリアクリル酸エステル(①)およびポリメタクリル酸エステル(②)の樹脂を総称するが，後者を特にメタクリル酸樹脂*とよぶこともある。

① $-\!\!\left[-CH_2CH-\right]_n\!\!-$ （CH の下に $O=COR$）

② $-\!\!\left[-CH_2C-\right]_n\!\!-$ （C の上に CH_3，下に $O=COR$）

ポリアクリル酸メチル(①, $R=CH_3$)は前者

の代表的なもので，粘稠(ねんちゅう)な液状，塗料・接着剤として，また，繊維などの加工に用いられる。いわゆるアクリル樹脂とよばれるもので最も一般的なのは，アセトンと青酸を原料としてつくられるメタクリル酸メチルをモノマーとして，そのラジカル重合で得られるポリメタクリル酸メチル(②, $R=C_2H_5$)である。堅牢(けんろう)・強靭(きょうじん)・耐候性・光透過性のすぐれた樹脂で，1930年代にはじめて有機ガラスとして登場，加工のしやすいこと，比重の小さいこと，安全性の高いことなど，無機ガラスよりすぐれた利点もあって航空機・自動車などの窓ガラスに利用されている。そのほか，光学用機器・照明器具・医療材料(たとえば義歯など)・看板標識・雑貨類など用途はきわめて広い。無機ガラスに比べて，表面に傷がつきやすいこと，耐熱性がよくないこと，変形しやすいこと，極性溶媒にとけやすいことなどが欠点といえる。ポリメタクリル酸エステル類の中で，成形材料として用いられるのは，このメチルエステルだけで，その他のブチルエステル・イソブチルエステルなどは，ポリアクリル酸エステル類と同様に，塗料・接着剤・繊維・紙などの樹脂加工に用いられる。これら成形用以外の目的には，他種のビニルモノマーを併用して重合させた，共重合体として実際の利用に供せられる場合が多い。➔高分子 ➔重合 ➔ビニルポリマー ➔プラスチック
〔伊藤　卓〕

アクリルじゅしとりょう【アクリル樹脂塗料】⇨合成樹脂塗料

アクリルせんい【アクリル繊維】アクリロニトリルを主成分とした合成繊維*。直接原料は青酸とアセチレンで，繊維の性質を改善するために少量の共重合*物を加える。一般に強く弾力があり，水を吸いにくく，軽いという合成繊維共通の性質があるほか，特にふくらみがあって保温性に富む製品をつくることが特色である。羊毛に近似の性質をもっているために，バルキーヤーン*(かさ高い糸)がつくられ，服地・メリヤス地などの用途に適している。〔小川安朗〕

アクリロニトリル［acrylonitrile］$CH_2=CHCN$　アクリル酸ニトリル・シアン化ビニル・シアンエチレンともいう。特異臭をもつ無色の液体。融点－83℃，沸点77.3℃。毒性がある。加水分解によりアクリルアミド・アクリル酸などを生成する。アセチレンとシアン化水素から製造される。また，エチレンオキシドとシアン化水素から合成されるエチレンシアンヒドリンを脱水しても得られる。合成繊維の原料として有用であり，ブタジエンとの共重合体は耐油性ゴムとして使われている。その他有機合成化学上，原料として広く使われている。
〔石戸良治・荒木洋之助〕

アクロテリオン［acroterion］ギリシア神殿の破風(はふ)の頂上や軒先にすえつける彫刻を施した台座，または装飾そのものをいう。

アクロバット［acrobat］アクロバットダンスともいう。肉体の柔軟性を極度に強調しながら空間にさまざまな姿態を描く舞踊の一種。曲芸・軽わざの部類にはいるべきもので芸術性は乏しい。古代ローマ時代に芸能の一分野として成立し，近代にはいり，第1次世界大戦後レビュー*全盛時代にミスタンゲットらの活躍によって一時期を画した。現在ではサーカスやナイトクラブなどにわずかに生命を保っているにすぎないが，その技巧はバレエにも影響を与えている。〔高橋孝一〕

アクロポリス［Akropolis］古代ギリシアのポリスにおいて，丘の上に築かれた城塞(じょうさい)。アゴラ*がポリスの生活の中心であるのに対し，アクロポリスは防衛の中心である。丘には城壁のほかに，ポリスの守護神を祭る神殿がつくられ，ポリスの聖域でもあった。アテネのアクロポリスは最も代表的なもので，紀元前5世紀半ばペリクレス*がデロス同盟の積立金を流用し，フェイディアスを総監督として建設した。ドーリアふうとイオニアふうが取り入れられ，パルテノン*やエレクテイオン*など名高い建物が多い。〔高山高雄〕



アクロバット　アクロバットを取り入れたモダンバレエ(国立スイスバレエ団)

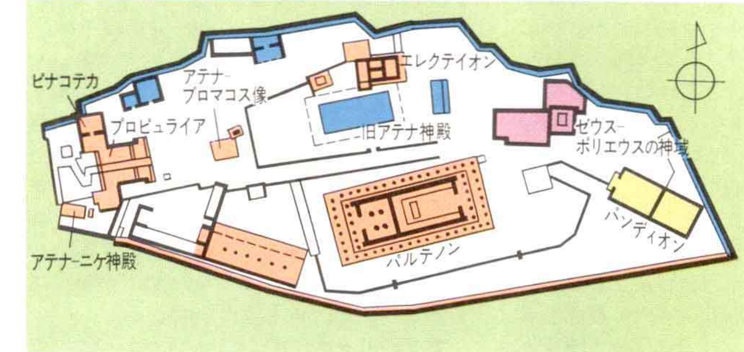
アクロマート［achromat］⇨色消し

アクロレイン［acrolein］$CH_2=CH\text{-}CHO$　アクリルアルデヒドともいう。刺激臭をもつ無色の液体。沸点52℃。空気中で容易に酸化されてアクリル酸になる。グリセリンを硫酸水素カリウム・硫酸マグネシウムなどの脱水剤で脱水して得られる。長期間保存しておくと重合して樹脂状物質を生じる。合成樹脂・香水など，有機合成化学上の原料として使われる。

アクロン［Akron］アメリカ合衆国オハイオ州北部の工業都市。人口27万5,000(1970)。グッドリッチ社・グッドイヤー社をはじめ，大きなゴム工場が集中しており，市街はこれらの工場とその従業員の住宅によって形成されている。アメリカ合衆国のゴム製品の大部分がこの都市で生産され，自動車タイヤなどのゴム製品工業では世界第1である。

アグン(山)［Agung］インドネシア，





アクロポリス　最も代表的なアテネのアクロポリスは東西約270m，南北約150mで三方をがけに囲まれている
(上)アテネのアクロポリス全景
(下)同平面図(復元)

バリ島北東部の活火山で，標高3,142m。山名は〈火神の宿る山〉の意で，ヒンズー教徒の信仰の対象となっている。1963年3月から5月にわたって数回の大爆発を起こし，約1,500人の死者を出した。

あげ　【揚げ】　和服のゆき・身たけの長すぎるのを縫い揚げること，およびその部分。ゆきにするのを肩揚げ，身たけにするのを腰揚げといい，1～10歳ぐらいまでの男女児の長着の表に縫う。羽織には肩揚げのみ。また男女の長着・長じゅばんの身たけには，内揚げといって布の裏に揚げる。

あげうた　【上歌】　能楽構成上の部分名。シテの出，地謡の出などに応用されるもので，通常2節からなり，第1節は上音で始まり中音で終わる。第2節は上音で始まり下音で終わる。七五調の韻文で，叙述的な部分である。

あげお　【上尾(市)】　埼玉県東部の市。江戸時代は中山道*(なかせんどう)の宿場町であった。1958年(昭和33)市制施行。人口164,000。大宮台地*の中央部を占め，西は荒川，東は綾瀬(あやせ)川にくぎられ，南は大宮市，北は桶川(おけがわ)市に連なる。産業三大別人口比は4：46：50。自動車・精密機械・レース・金属・ゴムなどの近代工業が発達し，周辺農業地帯の米・麦・野菜を集散する。高崎線と東北本線(市の南東端)・国道17号線が通る。

あけがらすゆめのあわゆき　【明烏夢泡雪】　新内節の曲名。初世鶴賀若狭掾(つるがわかさのじょう)作曲。遊女浦里と時次郎の心中を仕組んだもの。1851年(嘉永4)大阪筑後(ちくご)芝居で初演され，音楽的に新内の様式を決定した代表作である。好評のため常磐津(ときわず)・富本・清元・義太夫節(ぎだゆうぶし)にもつくられた。別に《明烏后真夢(のちのまさゆめ)》がある。

あげち　【上知】　⇒上知令(じょうちれい)

あけちみつひで　【明智光秀】　(1528～1582)　安土桃山時代の武将。美濃(みの)(岐阜県)の守護土岐氏の支族。通称十兵衛(じゅうべえ)。土岐氏滅亡後諸国を流浪。はじめ越前(えちぜん)(福井県)の朝倉義景(よしかげ)に仕え，のち織田信長*(のぶなが)に重用されて，京都の市政をつかさどった。1571年(元亀2)近江(おうみ)(滋賀県)坂本城主となり，1575年(天正3)惟任(これとう)の姓を与えられ日向守(ひゅうがのかみ)に任ぜられた。同年丹波(京都府)平定に功があり，丹波亀山(かめやま)城主となる。1582年6月2日羽柴秀吉(はしばひでよし)(のち豊臣(とよとみ)秀吉)の中国征伐救援に出陣の際，主君信長を京都本能寺に急襲して自殺させた。同月13日山崎の戦い*で秀吉に敗れ，敗走の途中小栗栖(おぐるす)で土民に殺された。光秀は武将として知略にすぐれ，また連歌・和歌・茶の湯にも通じていた。娘で細川忠興(ただおき)に嫁した玉(たま)(ガラシャ)は，篤信家として細川ガラシャ*の名で知られる。➔本能寺の変　〔松尾　涼〕

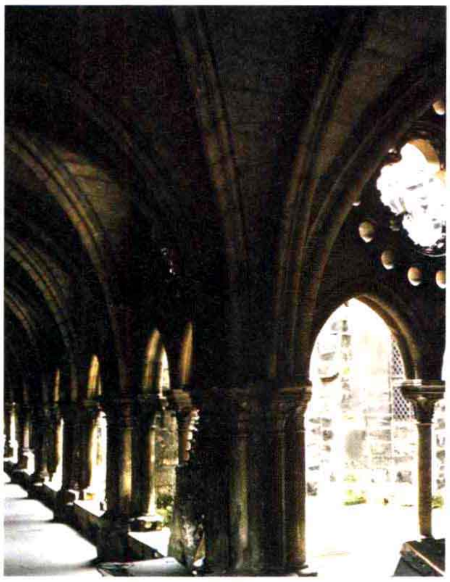
あげちょう　【揚げ超】　引き揚げ超過の略。財政資金の対民間収支じりが引き揚げ超過になることをいう。これは民間から政府への現金の受け入れ額が，政府から民間への現金の支払い額を上回ることで，逆に民間からの現金の受け入れ額が，政府の現金の支払い額を下回ることを散布超過，略して散超という。揚げ超・散超という現象は，財政資金の各項目別にも現われるし，また会計年度における各四半期別，あるいは月別にも現われる。こうした現象は，財政上のさまざまな制度に支配されて毎年かなり規則的な波動を描く。この波動が重要視されているのは，揚げ超・散超そのものが，流通する通貨量の増減に直接結びついて，金融市場に大きな影響を与えるという点からである。　〔西野義彦〕

アーケード　［arcade］　①屋根や壁をささえる連続した柱にささえられたアーチの列。転じて，そのようなアーチの列でささえられた屋根つきの歩廊や通路を意味するようになった。連続するアーチのつくりだす視覚的効果が，建築の記念性を高めるのに役だつところから，特にローマ時代では，広場や中庭を取り巻く回廊として愛用された。イタリア・スペインなどの中世教会堂や僧院の回廊にも実例が多く，拱廊(きょうろう)ともよばれる。②南欧ではきびしい日ざしを避け，雪国では雨雪を避けることができるため，実利的な目的から，近世都市の町屋にアーケードが取り入れられた例が多い。街路に面する建物の1階の外壁を2階より後退させ，そこにアーケードを設けて，街区全体がアーケードの歩道で連なっている。スイスのベルンの旧市，イタリアのボローニャの旧市など著名な実例である。インドネシアやフィリピンなど東南アジアの都市においても，メインストリートの建物には同様な構成をとっているものがあり，アーケードと称している。これは防暑のためで，植民地時代，スペインなどの南欧型都市のアーケードが伝播(でんぱ)したものである。台湾や中国南部にみられる亭仔脚(ていしきゃく)も同形態で，同じ機能のものである。③19世紀にはいって，都市の繁華街を鉄骨のアーチやドームでおおい，ガラス屋根をかけ，雨雪に妨げられない商店街とすることが流行した。ミラノのガレリアなどその好例である。そして今日では，アーチのあるなしにかかわらず，商店街にかけられた屋根つきの歩道や道路をいうようになった。

〔佐藤甚次郎・渡辺保忠〕



明智光秀



アーケード　寺院の回廊のアーケード

あけのかね　【明の鐘】　長唄(ながうた)の曲名。めりやす*物の一。歌いだしの一節から〈宵(よい)は待ち〉の名でも知られる。作詞・作曲・成立年代は不詳。歌も三味線(しゃみせん)も構造が単純であるため，手ほどき用として使われるが，朝がきて男と別れなければならない女の心情をうたったもので，歌詞が子どもには不向きなため，一部では〈梅桜，さてはかすみか…〉と改作されて用いられている。

あけのがはら　【明野ケ原】　三重県伊勢(いせ)平野南部にある洪積(こうせき)台地。櫛田(くしだ)川と宮川にはさまれた台地で，古くは水利が悪く耕地化が遅れ，第2次世界大戦までは，飛行場や陸軍用地として利用されていた。現在，畑地が広がっているが，一部は飛行場となっている。

あけのべこうざん　【明延鉱山】　兵庫県北西部の養父(やぶ)郡大屋町にある鉱山。平安時代初期に発見され，ここで産した銅が奈良東大寺の大仏の鋳造に用いられた。明延鉱床(銅・鉛・亜鉛・スズ・タングステン)・南谷鉱床(銅・硫化鉄)・神子畑鉱床(銀)などからなり，ここで産するスズは全国産出額の80％を占める。

あけのみょうじょう　【明けの明星】　太陽の西側にあって，日の出まえの東空に輝いているときの金星をいう。金星は太陽・月に次いで明るく，最大光度は－4.4等級にもなるのでこの名まえがついた。宵(よい)の明星*に対することばである。

あげはちょう　【揚羽蝶・鳳蝶】

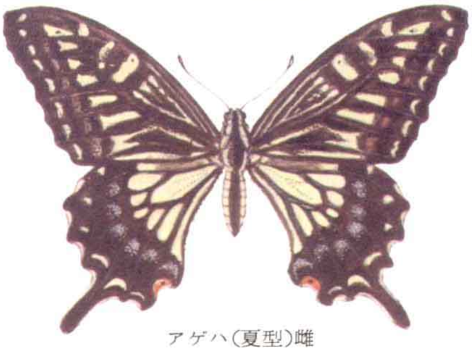
①こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。ナミアゲハともいう。体は緑色をおびた黄色で，背面に黒色の縦条がある。翅(はね)を広げた長さ80～120mm，出現する時期に



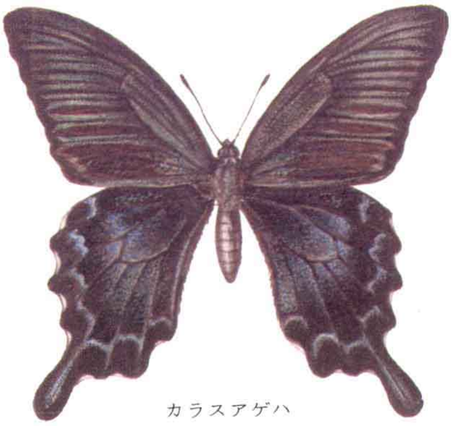
アゲハ(春型)雌



アオスジアゲハ



アゲハ(夏型)雌

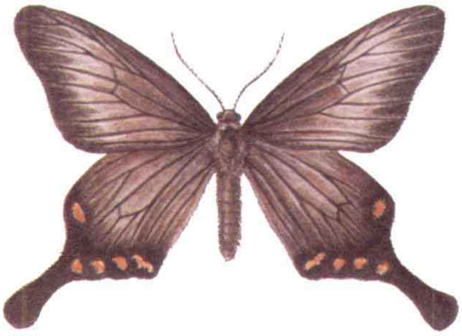


カラスアゲハ

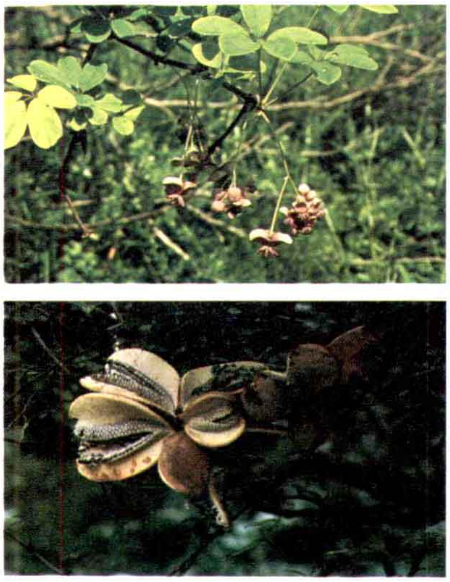
アゲハチョウ

よって多少色彩が異なる。春型は4月ごろから出現し，小形で緑色をおびた黄色，夏型は7月ごろから出現し，翅の色は暗黄色となり，特に雌では著しい。幼虫はカラタチ・サンショウなどミカン類の葉を食べる。さなぎで越冬する。本種のさなぎの色には緑色のものと茶かっ色のものと2型があり，蛹化(ようか)場所の背景の色によってそれが決定されるといわれている。日本全土のほか，朝鮮・中国・台湾・サハリン(樺太(からふと))など東部アジアに広く分布する。

2こん虫類・鱗翅目・アゲハチョウ科の総称。一般に大形で，翅は黒色・暗藍(あんらん)色または青色の地に，黄色・赤色・藍色(あいいろ)などの斑紋(はんもん)のあるものが多い。しかし，小形で，鱗粉が少なく翅が半透明の一群もある。後翅は，第3中脈の部分が延びた尾突起をもつものともたないものがある。雌と雄で色彩の異なるもの(性的多型)や，種類によって早春型・晩春型・夏型・秋型と季節により色彩の異なるもの(季節多型)も多い。また，しばしば雌雄両性型(ギナンドロモルフォ)の個体も発見される。アゲハチョウ類にみられるこのような多型現象は，特に鱗翅目にはかなり普遍的な現象である。いくつかの種については，その性的多型の遺伝のしくみが詳しく研究されている。たとえば，シロオビアゲハとナガサキアゲハは，ともに雄には1型しかないが雌には3型があり，交配実験の結果，2種類の対立遺伝子の組み合わせによって決定され，雄はどのような組み合わせによっても同じ型になることが知られている。特にシロオビアゲハの場合には，雌の多型は明らかに擬態*と関係があると考えられ，雌の3型のうち2型はまったく別の種類で，悪いにおいや味をもつチョウと非常に紛らわしい色彩をしている。そして，各型の比率は同一地域ではほぼ一定に保たれており，平衡多型現象の例としてもよく知られている。また，季節多型は光周性や温度と関係が深いことが知られている。



アゲハモドキ



ア ケ ビ (上)花 (下)実

アゲハチョウ科の卵は，ふつう球状で，表面はなめらかで，寄生植物の葉や茎に直接産みつけられる。幼虫は大形肉質で，表面には普通ほとんど毛がはえていない。胸部は大きく，しばしば2個の大きな眼状紋をもつものがあり，それらの種では，臭角とよばれるY字形の反転腺(はんてんせん)があり，刺激を与えるとそれを突き出して悪臭を放つ。ある種類の幼虫の色彩はしばしば多型的で3型以上の型を示す。さなぎは裸蛹(らよう)で，頭部を上方に向け，尾端にある尾鉤棘(びこうし)と吐糸で樹枝などに付着しているが，地上や塵芥(じんかい)中でさなぎになる群れもある。温帯産のものはさなぎで越冬することが多い。成虫は森林地帯に多く，特に熱帯地方には多くの種類が産する。世界の各地から約1,000種類が知られ日本には17種が分布している。〔鈴木邦雄〕

あげはひめばち【鳳蝶姫蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・ヒメバチ科。体長16mm内外。体は全体に黒かっ色であるが，腹部の第1～2背板は黄かっ色。翅(はね)は淡黄色で末端にかっ色の雲状紋をもつ。アゲハチョウ科の幼虫の体内に寄生し，寄主内でさなぎとなり，寄主がさなぎになったあとに体壁を破って羽化する。アゲハチョウ科の天敵として有名。日本全土からシベリアまで分布する。

あげはましきえんでん【揚浜式塩田】

⇨塩田

あげはもどき【擬鳳蝶蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハモドキ科。東アジア一帯にのみ数種が分布する。いずれもジャコウアゲハ類によく似ている。日本にはアゲハモドキ一種のみが知られている。翅(はね)を広げた長さは55～65mm。雄の触角はくしの歯状。後翅の外縁に近く赤色紋の列がある。成虫は8月ごろに出現する。捕えると，成虫・幼虫ともに悪臭のある液を分泌する。生活史の詳細はよくわかっていない。

あけび【木通】双子葉植物・アケビ科。山野に普通の落葉つる性低木で，他の樹木に左巻きにからみつく。葉は5小葉からなる掌状複葉で，各小葉は長さ3～5cm，幅1～2cmで長楕円(ちょうだえん)形，全縁，先端が少しへこむ。雌雄同株。4～5月に新葉が生ずるのとほとんど同時に淡紫色の花を総状花序につける。雄花には肉質のがく片3，おしべ6，雌花にはがく片3，めしべ5～6がある。花弁はない。果実は長卵形で長さ6cmぐらい，10月黒紫色に熟し，一

方が縦に裂ける。黒色の種子が多数あるが，果肉は半透明で甘く美味。これに近縁なものに葉が3小葉からなるミツバアケビがある。これらの茎を乾燥したものを木通(もくつう)といい，漢方では消炎性利尿薬として用いる。〔加藤僖重〕

あけびこのは【通草木葉蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科の大形種。翅(はね)を広げた長さは95～110mm。前翅は枯れ葉によく似ており，後翅にはだいだい色の地に2個のうず状の黒紋がある。静止の際は屋根形に止まり，前翅だけが見えるため保護色の好例として有名である。日本全土をはじめ東アジア一帯に広く分布し，8～9月ごろ出現する。成虫は燈火にも飛来する。幼虫はムベ・アケビなどを食害し，成虫は夜間活動して果実を吸汁(きゅうじゅう)し，ときにかなりの被害を与えることがある。

あけびざいく【あけび細工】ミツバアケビ(→アケビ)のつるを編んでつくる自家製または商品の背負いかごや物入れなどの農山村の生活用具。秋田地方の〈あけび通し〉や〈こだし〉はその代表的なものである。近年，商品として，都会ふうに皮をはいで漂白したつるでつくったものがあるが，これらには本来の美しさや力強さが失われている。

あけぼのじし【曙獅子】尺八琴古流本曲裏17曲の一。主として高音域を使って作曲されている。リズム・拍節感の明快な曲である。

あけぼのすみれ【曙菫】双子葉植物・スミレ科。日あたりのよい山地にはえる多年草。葉は長い柄をもち根もとより出る。高さ10cm前後。葉は心臓形で，はじめのうちは基部が巻き込みひし形である。早春，長い柄の上に淡紅紫色の花をつける。アケボノとは花の色を夜明けの空の色にたとえたもの。

あけぼのそう【曙草】双子葉植物・リンドウ科。山野の湿った所にはえる二年草。高さ80cm。葉は対生し，楕円(だえん)形で全縁，3主脈が目だつ。9～10月に白色の花をつける。合弁花であるが，花冠は深く5裂し，離弁花のように見える。

あげまい【上米】享保(きょうほう)の改革*の一政策。江戸幕府の財政窮乏を緩和するため，1722年(享保7)8代将軍徳川吉宗(よしむね)は諸大名に一万石につき百石の割合で米を献納することを命じ，この米で旗本(はたもと)・御家人へ切米(きりまい)・扶持米(ふちまい)を支給した。諸大名へはその代償として参勤交代*の制度を緩和した。1730年財政が好転したので廃止。江戸中期以降諸藩でも，藩士に無償で俸禄(ほうろく)の一部を上納させることがあった。

あげまき【総角】上代の髪形。おもに幼年期から少年期の男子が結うもので，童児の振り分け髪*が伸びたのを耳の上で小さく，二つの角のように結ぶ。成人男子の用いる美豆良*(みずら)の変形で，この時代の若い女性も結うことがあった。



アケビコノハ
(上)成　虫
(下)幼　虫

あげまく【揚げ幕】

1 切り幕ともいう。能舞台*で橋がかりと鏡の間の間にたらす幕。青・黄・赤・白・緑の5色を普通とする。登場の役者が〈おまあく〉と声を掛けると，すその左右につけた竹ざおでふたりの後見が上にはね上げる。なお，囃子方(はやしかた)・後見・間狂言(あいきょうげん)は幕の片方を絞って出入りする。

2 歌舞伎(かぶき)劇場で，花道の出入り口に掛けた幕。→幕

アケメネスちょう【アケメネス朝】紀元前7世紀，アケメネス(ペルシア名ハカマニシュ)が創始した古代ペルシア帝国の王朝。BC558～BC330年。はじめメディア王国の支配下にあったが，BC558年キュロス2世*のとき独立に成功，リディア・バビロニアを討って西南アジアを統一した。このとき，ユダの人々の〈バビロン捕囚*〉を解いた。その子カンビュセス王は領地をエジプト方面に広げ，次のダレイオス1世*のとき最盛期を迎えた。この王朝のもとで，ペルシアは各地との交易，各地からの徴税で潤い，ペルセポリス*のダレイオス1世やクセルクセス1世*の宮殿跡にみられるような大建造物を築き，また浮き彫りや彩釉(さいゆう)れんがにみるべきものを残した。しかしクセルクセス1世の再度にわたるギリシア遠征の失敗や，国内の反乱で衰退し，ダレイオス3世のとき，アレクサンドロス*に滅ぼされた。→ペルシア帝国〔高山高雄〕

あげもの【揚げ物】食品を高温の油で加熱する調理法。高温で短時間に調理するため，栄養素ことにビタミン類の損失が少なく，食品や衣の水分の一部が蒸発し油を吸収するため，油の香味とカロリーを高める。使用される油は動物性と植物性とあり，動物性油としてはラード・ヘッド，植物性油としてはごま油・大豆油・菜種油・落花生油・綿実油などがある。日本料理では主として植物性油を用い，2～3種の油を混ぜて使う。かおりの高いごま油とサラダ油を混ぜて使用すると油切れがよく，さらりと揚がる。油の温度は材料により，また揚げ物の種類により異なり，160～180℃の間にある。材料を入れるたびに油の温度は急速に下がり，特に水分の蒸発の多いもの，少量の油に多量の材料を入れた場合に温度低下が激しい。温度が低いと油が切れないでからっとせず，高すぎると表面が焦げて材料の中心に熱が通らないので，適温を保つには火かげんをつねに調節する。揚げなべは厚手の鉄なべがよく，温度の変動を少なくするため油をたっぷり入れる。揚げ物の種類は大きく分けて，から揚げと衣揚げに分けられる。

〔から揚げ〕①素揚げ：材料に衣をつけず直接油で揚げる。ジャガイモ・サツマイモ・クワイ・青ジソ・ミツバ・青トウガラシ・小ナスなどに適す。②から揚げ：材料に小麦粉・かたくり粉・上新粉・くず粉などをつけて揚げる。エビ・キス・ハゼ・イワシやキクの葉，青トウガラシに適す。

〔衣揚げ〕①てんぷら：衣揚げの代表的なもの。小麦粉を卵と水でといて衣をつくり，材料につけて揚げる。野菜だけを揚げたものを精進揚げといい，てんぷら種を2～3種小さく切って混ぜ合わせ，衣であえて一つにまとめて揚げるものをかき揚げという。②道明寺揚げ：小麦粉をまぶし，卵白をつけ，いった道明寺をつけて揚げる。エビ・イカ・キスなど。③春雨揚げ：小麦粉・卵白をつけ，その上から春雨をつけて揚げる。カニ・エビ・鶏肉・ヒラメなど。④龍田(たつた)揚げ：しょうゆとみりんを合わせた中に材料をしばらくつけて，くず粉またはかたくり粉をつけて揚げる。鶏肉・サバ・コイなど。その他うに衣揚げ・黄味揚げなどある。〔塩川ふみ〕

あげや【揚屋】遊郭にあって遊女をあげて遊興するための家。吉原*(よしわら)では，上流の客が直接娼家(しょうか)へ行くのをはばかったため，この揚屋ができた。それがしきたりとして，娼家は遊女をかかえておくだけとなり，揚屋は客の求めにより証文を入れて遊女を借りる形式をとった。その証文を〈揚屋証文〉といい，招かれて行く途中を太夫(たゆう)道中といった。道中は先導の若者，禿(かむろ)ふたり，太夫本人，新造ふたり，かさ持ち若者，それに遣手(やりて)までついた華麗な行列を組んで行った。揚屋に着くと酒宴があり，若者や幇間(ほうかん)が出て座を取り持つ。遊興のあと，今度は揚屋の亭主(ていしゅ)をはじめ女房・娘・下女までついて，一同を遊女屋まで送って行く。遊女屋ではまた形式ばった杯事があり，すべてに祝儀が必要であった。宝暦年間(1751～1763)に

高級遊女の太夫がいなくなると，揚屋も自然に消滅した。〔稲垣史生〕

あけらかんこう【朱楽菅江(漢江)】(1740～1800) 江戸中期の狂歌師。本名山崎景貫(かげつら)。江戸の生まれ。はじめ雑俳*・川柳*に親しみ，貫立と号した。のち唐衣橘洲*(からごろもきっしゅう)・四方赤良(よものあから)(蜀山人*(しょくさんじん))らの狂歌グループに加わり，赤良と《万載狂歌集*》を共選するなど活躍，狂歌三大家のひとりとなった。著作に狂歌《故混馬鹿集(こごんばかしゅう)》，川柳《川傍柳(かわぞいやなぎ)》，洒落本(しゃれぼん)《売花新駅》《大抵御覧》などがある。

アゲラータム［ageratum］双子葉植物・キク科。カッコウアザミともいう。園芸植物であるが，熱帯アメリカでは雑草である。明治の初めに日本にはいり，切り花・花壇によい。高さ50cm，花は白色または紫色。

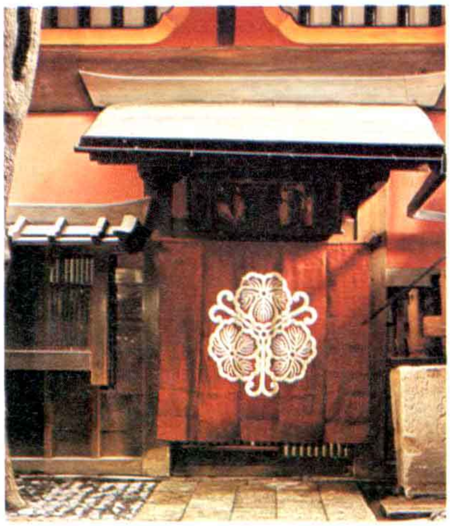
あご【顎】脊椎(せきつい)動物では上下に分かれる顎骨(がくこつ)を中心とした部分であり，哺乳(ほにゅう)類の多くの種類では顔の大部分を占める。ただし，類人猿や，特に人類では顔面であごの占める部分はさほど大きくない。無脊椎動物ではあごとよばれるものは種類によってさまざまである。軟体動物の頭足類にあるくちばし状で背腹1対の角質の構造はあごといわれる。また，環形動物の多毛類の咽頭壁(いんとうへき)には1対の大顎が，口腔壁(こうこうへき)には小形で多数の小顎(小歯)があり，ヒルでは口腔壁にあるキチン質の半円形板を顎板という。ウニ類の口部にあるアリストテレスのちょうちんは5個の顎板からできたもので，海藻(かいそう)などの食物をかみくだく。甲殻(こうかく)類の口も大顎・小顎とよばれる部分からでき，こん虫も同じような構造をもっている。〔蒲原春一〕

あご【阿児(町)】三重県志摩郡の町。志摩半島の南部にあり，1955年(昭和30)鵜方(うかた)町を中心に周囲の6村が合併してできた。人口19,700。集落は低地にあり，沿岸漁業を行なう半農半漁村が多いが，英虞(あご)湾に面した所では真珠養殖を行なっている。賢島(かしこじま)は英虞湾観光の基地で，近畿(きんき)日本鉄道志摩線の終点である。

あこう【雀榕】双子葉植物・クワ科のイチジクの仲間。暖地の海岸に分布する高木で高さ15mに達し，幹から多くの気根を出す。傷をつけると白汁(はくじゅう)を出す。葉は互生しなめらかで厚い。雌雄異株。枝や幹に1～3個ずつ固まってイチジク状の花序をつける。

あこう【赤穂(市)】兵庫県南西端の市。天正年間(1573～1591)宇喜多氏が築城し，江戸時代には浅野氏五万三千石，のち永井(ながい)氏，森氏二万五百石の城下町で，浅野藩の奨励によって製塩業が興った。1951年(昭和26)市制施行。人口51,400。

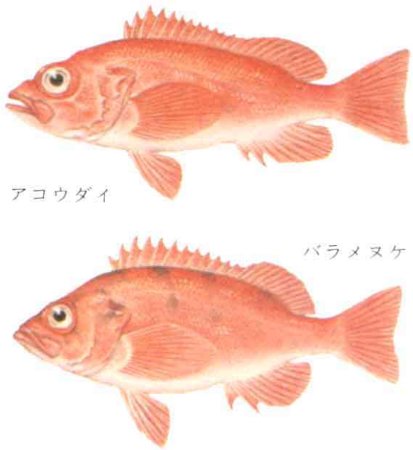
市域は，播磨灘*(はりまなだ)に注ぐ千種(ちくさ)川の三角州上に位置し，山陽本線は市域の北端をかすめるが，その支線赤穂線が播州(ばんしゅう)赤穂駅から相生(あいおい)と東岡山に通じ，山陽新幹線とも結ばれる。産業三大別人口比は6：52：42。播磨工業地域の西端を占め，紡績・化学・鉄鋼などの近代工業が盛んである。最近は塩田は全く廃止され，そのあとが工場敷地に転用された。赤穂城の石塁と堀(ほり)が残り，赤穂義士*の討ち入りにちなむ大石神社，浅野家の墓所花岳寺，瀬戸内海国立公園に属する赤穂御崎(あこうみさき)などがあって，史跡・景勝地に富んでいる。



揚　屋　京都島原の角屋入り口



ア コ ウ



アコウダイ

あこうぎし【赤穂義士】1702年(元禄15)12月，吉良上野介義央(きらこうずけのすけよしなか)を襲って旧主赤穂城主浅野内匠頭(たくみのかみ)長矩(ながのり)のあだを討った大石内蔵助(くらのすけ)良雄(よしお)ら元赤穂藩士47名のこと(討ち入り当夜，吉良邸門前より逃亡した足軽寺坂吉右衛門信行(きちえもんのぶゆき)を除いて46名とすることもある)。1701年3月14日，勅使の江戸下向に際し接待役となった長矩は，礼式指南の高家(こうけ)義央の侮辱を受けたため，江戸城中松の廊下で義央に刃傷(にんじょう)した。長矩は即日切腹，領地没収に処され，弟の大学長広も閉門に処されたが，義央にはなんのとがめもなかった。長矩の家臣(赤穂浪士)は城代家老大石良雄を首領として主君の復讐(ふくしゅう)を誓い，各地に離散して時期を待った。翌年7月浅野家再興の望みが絶たれると浪士は江戸に集結し，同年12月14日夜，江戸本所の吉良邸に討ち入り，義央の首級をあげ，大目付仙石久尚(せんごくひさなお)に自訴し，細川家以下4大名に預けられた。幕府は翌年2月全員に切腹を命じた。

この事件は民衆の間に浪士に対する同情を生み，《仮名手本忠臣蔵》など浄瑠璃(じょうるり)や歌舞伎(かぶき)に演じられ，民衆に愛好されている。四十七士の中で大石内蔵助・堀部安兵衛(ほりべやすべえ)・大高源吾・赤埴(あかはに)源蔵・前原伊助(いすけ)・神崎(かんざき)与五郎・岡野金右衛門(きんえもん)・大石主税(ちから)・矢頭右衛門七(えもしち)・武林唯七(たけばやしただしち)らが特に有名。なお，浪士らの墓のある泉岳寺*は東京名所の一つとなっている。➔浅野長矩(ながのり)〔松尾　涼〕

あこうざんたい【亜高山帯】山岳の山地帯の上限より森林限界*までの間をいい，日本の本州ではシラビソ・オオシラビソ・コメツガなどの常緑針葉樹林帯によって代表される。針葉樹が強く優占しているところでは森林内は暗く湿潤で，林床は強酸性の厚い腐植層をつくりだしており，このような条件に適応したゴゼンタチバナ・コミヤマカタバミなどの陰生植物が生育している。動物は一般に種類相が貧弱である。

あこうじけん【阿衡事件】藤原氏と姻戚(いんせき)関係のない天皇に，藤原基経*(もとつね)が勢力を誇示した事件。887年(仁和3)宇多天皇は即位にあたって基経を関白としたが，基経が辞退したため，あらためて橘広相(たちばなのひろみ)の起草した〈阿衡に任ず〉の勅を下した。ところが基経は，阿衡とは名目上の地位にすぎないから政治を行なう必要がないという藤原佐世(すけよ)の意見をいれて，半年も政務をみなかった。天皇はやむなく詔勅の非を認め，事件は解決した。〔菊地礼子〕

あこうだい【赤魚鯛】一般には北日本産のコウジンメヌケ・サンゴメヌケ・バラ

メヌケなど，赤いカサゴ科の魚の総称として用いられることが多い。いずれもよく似た赤い魚で，40cmほどになり，200～1,000mの深い海にすみ，針にかかって水面に上がると目が飛び出しやすいところからメヌケと称されている。北洋トロール船がとってくるアラスカメヌケ(アカウオともよばれる)も，アコウダイといって売られているようである。以上いずれも胎生魚。

なお，標準和名でアコウ(アコウダイ)とよぶものは，同じくカサゴ科の赤い胎生深海魚で，長さ60cmに及び，中部日本以南の太平洋岸，ことに相模(さがみ)湾・駿河(するが)湾に多いが，北の海のメヌケ類の産額には遠く及ばない。〔菅野　徹〕

あこぎうら【阿漕浦】 阿漕ケ浦ともいう。三重県津市の岩田川の河口より南の海岸をいい，白砂青松のけしきが美しく，遠浅でよい海水浴場となっている。幕末にここから観海流という泳法が生まれ，明治になって全国に普及した。阿漕塚(あこぎづか)や，〈月の夜を何を阿古木に啼(な)く千鳥〉の芭蕉(ばしょう)の句碑がある。阿漕塚は，病気の母に与えるために禁断の魚をとり，そのために刑死した漁師平治の霊をまつったものといい，謡曲の《阿漕》は，これを題材としている。〔浅井得一〕

アコーディオン ［accordion］ 手風琴ともいわれる楽器で，ハーモニカのように口で吹く代わりに手で風を送ってリードを鳴らす。19世紀前半，ブッシュマン・ダミアンらの改良以来，しだいに今日の形に近くなり，現在では，奏者の右手側にピアノのような鍵盤(けんばん)をもち，左手に低音や和音用の押しボタンがついている。アコーディオンのための曲は19世紀以来書かれており，今世紀になると特にオリジナル作品を書く動きがみられる。ヨーロッパでは，ポピュラー音楽や民俗音楽における楽器として広く愛用されている。〔徳丸吉彦〕

アーゴノミクス ⇨人間工学

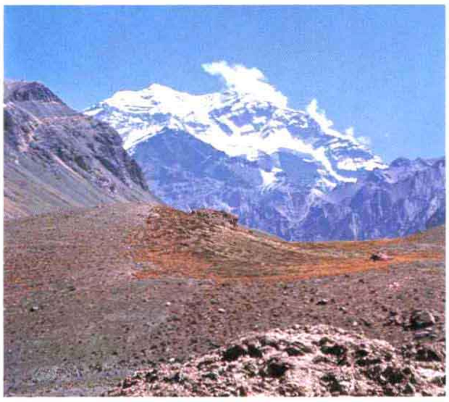
あごはぜ 魚類・ハゼ科。15cm余りになる海産魚。岩の多い海岸に最も普通なハゼで，全国の沿岸の浅い所にいる。たとえば三浦半島では，どの潮溜(しおだま)り(タイドプール)にも必ず1匹や2匹はいるといってよい。早春孵化(ふか)したばかりの稚魚は，群れをつくって浅瀬の中層に漂っているが，大きくなるにつれて，底につく時間が多くなる。じみな灰かっ色で，白斑(はくはん)や黒斑が散在している。生活力が強く，少しぐらい塩が薄くても平気である。食用魚としての価値はない。

あこめ【袙】 中国伝来の礼服の一部で，はだ近くに着た着物。王朝時代に始まり，束帯*・衣冠*・直衣*(のうし)・狩衣*(かりぎぬ)の下に着た。厳密には下襲(したがさね)の下，単(ひとえ)の上にはさんで，冬と春に着る。寒いときは2～3枚を重ね，夏はふつう着ない。たけは短く，地は表が有文(うもん)の綾(あや)，裏は平絹，色は多く紅で，壮年の者は萌黄(もえぎ)・うす色のものを用いた。古くは女房も装束用としてはだ近く着用したり，童女が汗衫*(かざみ)の下に着たりした。〔稲垣史生〕

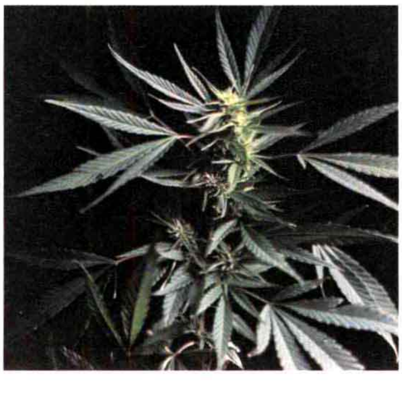
あこやがい【阿古屋貝】 軟体動物・二枚貝類・ウグイスガイ科。真珠*をとるのでシンジュガイともいう，長さ・幅とも約8cmになる。外形はほぼ四角，表面は茶かっ色だが固着生活をするため，殻(から)の外面には藻類(そうるい)その他の付着生物がついていることが多い。内面は青白く強い真珠光沢をもつ。野生のアコヤガイは，本州中部以南の波の静かな1～10mの浅い海底の石や岩に足糸でしっかりくっついて生活する。肉は食べられるがまずい。野生のアコヤガイにも真珠がはいっていることがあるが，真円形のものは少なく，かつてはよい天然真珠は非常に高価であった。しかし，1913年(大正2)御木本(みきもと)幸吉*が，アコヤガイに人為的に，真円真珠をつくらせることに成功，以来，市場の真珠はほとんどすべて養殖真珠となった。〔菅野　徹〕



袙



アコンカグア　オルコネス溪谷の標高約3,000m付近から見たアコンカグアの南面の威容。溪谷上部の谷頭には氷河がかかる



アサ

あこやのことぜめ【阿古屋琴責め】 ⇨壇浦兜軍記(だんのうらかぶとぐんき)

アゴラ ［Agora］ 古代ギリシアのポリスの中心市街の広場。アクロポリス*のふもとにあり，公共建造物・市場・娯楽場などが集中している。天候のよいギリシアでは自由人の男は1日じゅうほとんど戸外生活をするので，アゴラが政治・社交・娯楽の中心となった。イオニアのプリエネのように一定の都市計画によってつくられたアゴラは矩形(くけい)で，周囲に柱廊をもっていた。

あごわん【英虞湾】 三重県の志摩半島の南部にある湾で，先志摩半島によっていだかれている。湾内には樹枝状の複雑な出入りが多く，沈降によって生じた典型的なおぼれ谷をなしている。多徳島をはじめ，大小の島々が散在する。多徳島は1903年(明治36)に御木本(みきもと)幸吉*がはじめて真珠の養殖に成功した所で，湾内には多くの真珠養殖のいかだが浮かんでいる。湾口の北岸に浜島漁港があり，また，賢島(かしこじま)まで鳥羽(とば)から近畿(きんき)日本鉄道志摩線の電車が通じていて，ここに国立真珠研究所がある。〔浅井得一〕

アコンカグア(山) ［Aconcagua］ アンデス山脈中，アルゼンチンとチリとの国境付近にそびえる山。標高7,021mで，南半球の最高峰である。1897年にイギリスのフィッツジェラルド隊のサーブリゲンが初登頂した。1953年(昭和28)には早稲田(わせだ)大学登山隊も登頂に成功した。

あごんぎょう【阿含経】 阿含はパーリ語āgama(アーガマ)の音写で，〈来ること〉を意味し，初期仏教の経典またはジャイナ教*の聖典をいう。仏教で漢訳されたものに四阿含がある。《長(じょう)阿含経》は22巻で，長い経が30含まれている。《中阿含経》は60巻，222経を含む。《増一阿含経》は51巻で，1から11までの法数に従って分類してある。《雑(ぞう)阿含経》は50巻で，1,000以上の小経が含まれている。南方に伝わったものは五部とよび，長部・中部・相応部・増支部・小部の諸経典をいう。ブッダ*が述べられた言句を中心に編纂(へんさん)されているが，四阿含と五部では共通なものを多数含みながらも，かなりの相違もある。初期仏教を知るための必要不可欠の経典群である。〔石上善応〕

アサ ［ASA］ ⇨エーエスエー

アサ ［ASA］ ⇨東南アジア諸国連合

あさ【麻】 双子葉植物・クワ科の一年草。タイマ(大麻)ともいい，繊維作物として栽培される。高さは1.5～3m，まれには4～6mに達するものもある。茎は方形で外面に

縦みぞがある。茎色は品種によって異なり，黄緑・濃緑・紫緑色などである。密植により分枝は減少し，先端のみ分枝する。葉は掌状の複葉で，下部で対生し上部では互生する。雌雄異株。雄花は黄緑色で総状，雌花は緑色で先端に近い分枝の葉腋(ようえき)より生ずる。風媒花。子実は短卵形，灰かっ色，1 l重量560g，1 l粒数約22,000粒。熱帯から温帯の北部にまで栽培される。主要生産国はソ連の中南部，インド，イタリアなどで，イタリア産は良質である。わが国では栃木・長野県などで栽培され，特に栃木では野州大麻として優良品を産する。栽培期間は3月から8月上旬まで。保水力があり，排水良好の礫質(れきしつ)あるいは砂質の壌土(じょうど)に適する。播種(はしゅ)は3月中旬，撒播(さっぱ)あるいは条播とする。肥料は堆肥(たいひ)・硫安・過リン酸石灰・塩化カリウム・石灰などを施すが，3成分の比は窒素13kg，リン酸13kg，カリ11kgぐらいである。間引き・中耕除草は2～3回行なう。収穫は7月下旬から8月上旬，下部の葉が落ちて茎が黄ばみはじめたころがよい。

製繊は浸水して発酵させ靭皮部(じんぴぶ)と木質部を分離，靭皮部内の繊維を人力または機械で取り出す。この方法には皮麻を製する法と，精麻を取り出す法とがある。皮麻は熱湯，または蒸気で生茎を蒸煮して剝皮(はくひ)乾燥する。生茎に対する歩留まりは8％ぐらい。精麻は生茎を麻ぶろに1～2分浸し，2～3日晴天下に乾燥。得られた乾麻に水湿を与えて麻蒸床上で堆積発酵(30℃)，そのあと剝皮して再び水浸，汚物を除去して乾燥する。繊維のおもな用途に畳糸・ロープや洋服のしん地などがある。〔金木良三〕

あさ【麻】植物の長繊維で，アマ・タイマ(アサ)・ツナソ・カラムシ・ラミーなどの靭皮(じんぴ)繊維，マニラアサ・サイザルアサなどの葉脈繊維を総称する。一般に繊維は粗硬であるが強く，衣料その他の布や綱・網などに古代から用いられていた。

アーサー［Chester Alan Arthur］(1830～1886) アメリカ合衆国の政治家。第21代大統領。在任1881～1885年。南北戦争中はニューヨーク州の主計総監。戦後1871年ニューヨーク港税関長となるが，所内の不正行為を黙視したため，1877年解任。1880年ガーフィールドと組んで共和党から副大統領に当選し，1881年大統領の暗殺により大統領に昇格して，公正な政治と穏健な政策に努力した。1883年メリット-システム(公開試験による資格任用制度)を採用し，公務員制度に改革を加えたペンドルトン法を制定した。〔折井一彦〕

あざ【痣】皮膚色の異常を示す斑(まだら)の総称。母斑(ぼはん)とよばれる先天性のあざと後天性のあざに大別される。先天性のものには赤～暗赤色を呈する赤あざ(血管腫)・黒あざ(ほくろ・色素性母斑)がある。また白色斑としてみられるものに白斑性母斑，入浴や皮膚の摩擦で皮膚が激紅したときに白斑として現われる貧血母斑がある。特殊なものとして，病変が皮膚のみにとどまらず全身あるいは一局所の種々の器官に，一定の法則をもって生ずる母斑症とよばれるもの(ブルヌビー-プリングル母斑症・レックリングハウゼン母斑症・ポイツ-ジェガース症候群・眼上顎(がく)かっ青色母斑)や色素性蕁麻疹(じんましん)がある。後天性のものには，打撲による紫斑，固定薬疹(やくしん)があり，その他，皮膚病変後の色素沈着もあざとみなされる。〔田嶋公子〕

あざ【字】近世以来土地行政区画上の一単位で，〈あざな〉ともよばれる。数個の小字を併合して一つの大字とする。大字は江戸時代の村に相当し，1888年(明治21)制定の市町村制では大字数個をもって一つの町村を構成した。現代では市町村と違って自治体の単位ではなく，地域の区画としても消滅しつつあるが，郵便配達区や通学区などに便宜的に使用される場合もある。

あさいし【浅井氏】戦国大名。藤原姓。正親町(おおぎまち)三条公綱(きんつな)が嘉吉(かきつ)年間(1441～1443)に近江(おうみ)(滋賀県)浅井郡に流され，そこで生んだ子の重政(しげまさ)が土着し，京極氏に仕えて浅井氏を称した。応仁(おうにん)の乱後，京極氏に反し，越前(えちぜん)(福井県)の朝倉氏，美濃(みの)(岐阜県)の斎藤氏と結んで戦国大名として大いに発展した。亮政(すけまさ)，久政を経て長政の時，1573年(天正1)織田信長(のぶなが)に滅ぼされた。〔村尾元忠〕



朝　市　岐阜県高山市の朝市

あさいち【朝市】毎朝，生産者である農民・漁民が，みずからその日の新鮮な生産物を売るために開く市。全国に分布するが，特に日本海沿岸部に多い。石川県輪島市の朝市は最も広く知られているが，ほかに石川県七尾市・秋田県本荘(ほんじょう)市・山形県温海(あつみ)町・新潟市などでも行なわれている。内陸部では岐阜県高山市の朝市は伝統があり，古風な情緒を残している。

あさいちゅう【浅井忠】(1856～1907) 明治洋画界の代表的作家。江戸の生まれ。槐庭(かいてい)・木魚・黙語などと号した。はじめ日本画を学び，1876年(明治9)国沢新九郎の彰技堂にはいり洋画を学ぶ。続いて同年創設された工部美術学校でフォンタネージの指導を受けたが，翌々年に中退して十一字会を結成。1889年，明治美術会の創立に参画，《春畝(しゅんぽ)》次いで《収穫》などを発表，1898年に東京美術学校教授となる。その後1900年から2年にわたってフランスに留学，帰国後は京都高等工芸学校教授を勤めた。フォンタネージの画風を継承した情調豊かな作風で，水彩画にもすぐれていた。〔陰里鉄郎〕

あさいと【麻糸】麻のうち，主として靭皮(じんぴ)繊維を用いるものの繊維を紡いでつくる糸。各種の麻織物をつくるほか，一般に強靭で耐水性に富んでいるため，アマではくつの縫い糸，タイマ(アサ)・ツナソでは畳表の縦糸をつくり，またアマ・タイ



浅井　忠《グレーの橋》1902　ブリヂストン美術館蔵

マ・カラムシ*からつくる糸では漁網が編まれる。

あさいながまさ　【浅井長政】（1545～1573）戦国大名。父は久政。織田信長(のぶなが)の妹お市の方*をめとって信長と結び，近江(おうみ)（滋賀県)の南半にいた六角氏を討って勢力を伸長させたが，のち信長に敵対し，1570年(元亀1)姉川の戦い*に敗れ，1573年(天正1)には居城小谷城を攻められて自刃した。長女は豊臣秀吉(とよとみひでよし)の側室淀殿(よどどの)，次女は京極高次夫人，三女は徳川秀忠(ひでただ)夫人。

あさいりょうい　【浅井了意】（？～1691）江戸時代の仮名草子*作家。僧籍の家に生まれたが，父の代に寺を追われ浪人となった。万治～寛文(1658～1672)のころ，瓢水子(ひょうすいし)・松雲などと号し，仮名草子作家として活躍。のち僧籍にもどり，仏書の著作も多い。量質ともに仮名草子時代の代表的作家である。代表作に《伽婢子*(おとぎぼうこ)》《浮世物語》《堪忍記》などがある。

アーサーおうでんせつ　【アーサー王伝説】 アーサー王は，5世紀ごろ生存していたブリトン族の勇士といわれるが，その実在性は疑わしい。侵入してきたサクソン族と戦い続け，500年ごろ，ウェセックスにおける戦いで大勝したが，それから約20年後に，内乱で倒れたとされている。彼の伝説を伝えはじめたのは，ブルターニュに渡ったブリトン族の吟遊詩人であったらしく，大陸にも広く行き渡った。12世紀の末から，この伝説に別の伝承・説話が付加され，韻文・散文のロマンス*として，膨大なアーサー王物語群ができあがった。トリスタン物語群・ランスロット物語群・聖杯物語群などが有名だが，これらを集大成したものとして文学的にも価値の高い作品が，トマス-マロリー*の《アーサー王の死》である。〔五十嵐一〕

あさおりもの　【麻織物】 麻糸*を用いた織物。一般に平滑・粗硬で吸水性に富み，光沢があって接触冷感を伴うので，良質のものは夏の衣料・ハンカチ・テーブルクロスなどに用いられる。カラムシ*の繊維を用いる苧麻(ちょま)織物(ラミー織物)は，江戸時代にもめんが一般化するまでわが国の衣料のほとんどに用いられ，越後(えちご)上布*・薩摩(さつま)上布*などはその製品として名高い。アマは明治初年にわが国へ移入されたが，亜麻織物はヨーロッパでは石器時代から用いられた最も美しい麻織物で，リネン*は夏の衣料に適し，また水を吸うと織り目が詰まる性質があるところから消防ホースなどの材料となる。タイマ(アサ*)はズック・カンバス・かやの材料に適し，ツナソ*を用いるジュート織物は包装材料などになる。

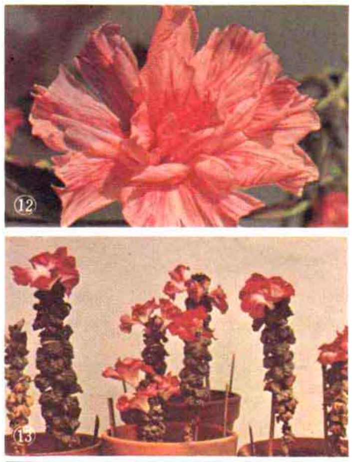


浅井長政

あさか　【朝霞(市)】 埼玉県の南端，東京都に接する市。江戸時代には膝折(ひざおり)とよばれ，川越街道の宿場町で，幕末に黒目川の水車を動力とする伸銅工業が興った。1941年(昭和16)には陸軍予科士官学校が，東京市ケ谷(いちがや)から移転，第2次世界大戦後はそのあとがアメリカ軍と陸上自衛隊の基地となっている。1967年(昭和42)市制施行。人口187,700。市域は，武蔵野(むさしの)の台地北東部縁辺と荒川右岸台地にまたがり，東武鉄道東上線と国道254号線(川越街道)が通ずる。産業三大別人口比は3：41：56。農村地帯では，米・サツマイモ・ニンジンを産するが，伸銅工業の伝統は電力を利用して残っており，また東京に近いので住宅地の進出が著しい。荒川沿岸には朝霞浄水場と朝霞水路がある。

あさがお　【朝顔】 双子葉植物・ヒルガオ科。熱帯アジア，ヒマラヤ山麓(さんろく)高原地帯原生のつる性植物で，茎は左巻きにからんで上昇する。ふつう一年草として扱われているが，熱帯では多年生の所もあるという。原種は薄青色であるが，改良されて種々の花色や変わり咲きの園芸品種が数





①燕
②並葉縞吹雪
③丸葉斑入洲浜爪覆輪
④乱菊葉紅筒白
⑤蔓無大輪
⑥南天葉(花はこれ以上開かない)
⑦立田葉切咲
⑧獅子葉並咲
⑨流星獅子咲
⑩糸柳葉采咲牡丹
⑪噴上車咲牡丹
⑫度咲牡丹
⑬渦木立

多く作出されている。かきねづくりやはち植えとして観賞する。秋に日が短くなるとよく開花する短日植物として知られ，植物の開花生理を研究する実験にもしばしば用いられた。

〔歴史〕 中国ではおよそ1,700年もまえから薬用として用いられていた。わが国へ渡来したのは奈良時代の末で，遣唐使によって薬用として種子が持ち帰られたものと考えられている。はじめ，けにごし(計仁呉氏)とよばれ(漢方では現在も種子を牽牛子(けんごし)といい，峻下(しゅんげ)・利尿薬として用いる)，のちに〈あさがほ(阿佐加保)〉という和名がつけられて歌や詩に盛んによまれた。観賞用として栽培されるようになったのは徳川時代以降で，まず白花が現われ，その後100年間に明色花が出そろい，さらに50年後に渋い色調の灰色花と黄花が現われた。またシボリアサガオや変わり咲きも現われ文化文政時代(1804～1830)には，はち植えアサガオの大流行となった。この流行は明治時代まで続いたが，大正時代にはいってやや衰え，昭和になっては品種保存がせいいっぱいの程度となったが，第2次世界大戦後ようやく復興の気運に向かってきた。

〔系統・種類〕 アサガオには数多くの系統や種類があるが，これらは多くの学者によって詳細に研究された結果，200ほどの遺伝子が組み合わされていることがわかった。これらの遺伝的な性質は，葉形や葉の色と斑(ふ)，花形や花色などで細かく分類整理され，遺伝的な優劣関係も調べられている。

〔栽培法〕 発芽には比較的高温が必要なので，種子まきは5月に行なう。種子はそのままま いてもよいが，種皮がかたいので，種子のへその部分をやすりで少しすり減らすか，小刀で傷をつけておくと，発芽しやすい。大輪種をはちづくりする場合には，砂を入れた平箱にまいて発芽させ，子葉が開いたときに小ばちに移す。用土は腐葉土4，田土2，砂4にわら灰少量を混ぜたものを用いる。約20日ほどして本葉4～5枚になったときに直径21cmくらいの大ばちに移す。用土は腐葉土4，田土4，砂2にわら灰を混ぜたもの。中心のつる1本を伸ばし，あんどん形支柱を立て肥培する。

〔小杉　清〕

あさがおがい　**【朝顔貝】**　軟体動物・腹足類・アサガオガイ科の巻き貝。殻(から)は高さ2cmほどでカタツムリのような形をしているが，薄くもろく美しい紫色である。足から分泌した粘液のあわにぶらさがって，大洋を漂う。インド・太平洋熱帯域に広く分布し，大風のあとで，日本の海岸に打ち上げられることがある。カツオノカムリやギンカクラゲを食べる。

あさかごんさい　**【安積艮斎】**　(1791ごろ～1860)　江戸後期の朱子学者。陸奥(むつ)(福島県)二本松の人。安積国造(くにのみやつこ)神社と八幡宮(はちまんぐう)の神官親重(ちかしげ)の子。江戸に出て佐藤一斎・林述斎らに学んだ。のち二本松藩校教授・昌平黌(しょうへいこう)教授となった。文章にすぐれ，その主著《艮斎間話》は朱子学・陽明学・古学の広い教養のもとに書かれた随筆で，実学のふうがある。学風は実証的である。

あさかしゃ　**【浅香社】**　1893年(明治26)に落合直文が結成した短歌結社。社友は大町桂月(けいげつ)・塩井雨江・与謝野(よさの)鉄幹・鮎貝槐園(あゆかいかいえん)・尾上柴舟(おのえさいしゅう)・金子薫園ら40名にも及び，活動期間は短かったが，その後の短歌革新運動に大きな貢献をした。

あさかそすい　**【安積疎水】**　福島県猪苗代(いなわしろ)湖を水源とし郡山盆地を灌漑(かんがい)する用水で，1882年(明治15)に士族授産事業として計画され，オランダ人技師ドールンの指導でつくられた。灌漑面積は約8,800ヘクタールに及び飲料水・工業用水にも利用されている。沼上で分水する新安積疎水は郡山盆地と岩瀬郡北東部を灌漑する。郡山市西部の熱海には落差を利用した水力発電所が設けられている。

あさかたんぱく　**【安積澹泊】**　(1656～1737)　江戸中期の朱子学者・歴史学者。水戸(みと)藩士の家に生まれ，若いころ朱舜水(しゅしゅんすい)に学び，特に歴史に精通していた。彰考館総裁として《大日本史》の編纂(へんさん)に尽くし，その論賛を執筆した。修史の生命は大義名分を明らかにすることであると考え，頼山陽らに深い影響を与えた。

あさがれい　**【朝餉】**　平安時代以後，天皇が食べる食事をいい，清涼殿の西庇(ひさし)にある朝餉の間でとった。〈朝〉は朝廷の意で，はじめは午前10時・午後4時，のちには1日3回となったが，鎌倉時代以後は形式的となり，節会(せちえ)などの儀式のとき以外には実際に食べることはなかった。



安積良斎



安積疎水　満々と水をたたえる猪苗代湖と安積疎水の取り入れ口。湖の東岸上戸にある山潟取り入れ口付近

あさかわかんいち　**【朝河貫一】**　(1873～1948)　歴史学者。福島県出身。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)卒業後，1895年(明治28)アメリカに留学，ダートマス大学およびエール大学に学び，のちエール大学で教授・名誉教授を歴任した。主著にわが国の封建制度を紹介した英文の《入来文書(いりきもんじょ)》がある。

あさぎいろ　**【浅葱色・浅黄色】**　色名。薄い藍(あい)色。浅い藍染めの色であり，浅い葱(ねぎ)色である。浅黄色とする場合には，浅い黄色，すなわち薄い黄色をさすことがあり，《延喜式(えんぎしき)》などの浅黄色は浅い黄色である。古くは薄い藍色を浅葱色とはいわずに，水縹(みはなだ)といったが，水色は水縹を略したともいう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈アサギ〉は，色相2.5B，明度5.0，彩度8.0の色と規定されている。➔色

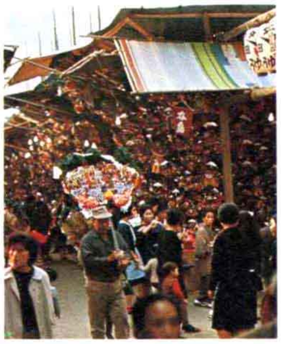
あさぎまだら　**【浅黄斑蝶】**　こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラチョウ科。日本に土着しているただ1種のマダラチョウである。翅(はね)を広げた長さは100mm内外で，淡い水色の斑紋(はんもん)がある。また雄の後翅の内縁部に沿ってやや大きい発香鱗部があり，特有の臭気を発散する。日本全土から東アジア一帯に広く分布し，いくつかの亜種が分化している。成虫は6～7月ごろから出現し，飛び方は緩慢で，山地の樹間や花などによく集まる。幼虫はカモメヅルなどの葉を食べる。成虫は捕えると悪臭を放つため，この種に擬態する種類が，アゲハチョウ科やタテハチョウ科に数種ずつみられる。

〔鈴木邦雄〕

あさくさ　**【浅草】**　東京都台東区東部の隅田(すみだ)川に臨む地区。広くは旧浅草区全域をさすが，浅草公園周辺の繁華街に限ることが多い。江戸初期までは隅田川河口にある寒村で，アサクサノリの主産地であった。江戸中期以降，浅草(せんそう)寺(浅草観音)の門前町として，また，観音裏の猿若(さるわか)町に集中する芝居小屋によって，参詣(さんけい)人を集めて発展した。1873年(明治6)に公園の指定を受け，1884年に6区に分けた。雷門(仁王門(におうもん))から本堂に至る仲見世と，これに直交して第2次世界大戦後にできた新仲見世の商店街が繁栄し，もと興行物の指定地とされた六区は映画館・劇場が集まって，下町の代表的な盛り場を形成している。国電からはずれて，一時は町勢が衰退したが，東武鉄道・営団地下鉄銀座線・都営地下鉄1号線のターミナルとなり，最近は復興しつつある。浅草神社の三社祭(5月17日～18日)は江戸三大祭りの一つで，ほおずき市(7月9日～10日)・羽子板市(歳末)とともに江戸の古いおもかげを今日に伝える。

〔浅井得一〕

あさくさオペラ　**【浅草オペラ】**　1917年


浅　草　(左)浅草寺の門前町仲見世通りと雷門の大ちょうちん　(中)毎年11月の浅草鷲神社の酉の市のにぎわい　(右)暮れの歳の市に開かれる羽子板市で，豪華なものも売られている

(大正６)ごろから1923年の関東大震災までの間，東京の浅草で盛んに上演されたミュージカル・オペレッタ・オペラなどの総称。明治以来しだいに盛んになった西洋音楽を舞台に結びつけ，比較的やさしい形で上演することによって，西洋音楽の大衆化の役割を果たし，のちのわが国のポピュラー音楽・クラシック音楽の両面に大きな影響を与えた。ここでは，伊庭孝*(いばたかし)の《女軍出征》に始まる和製ミュージカルのほか，オッフェンバックの《天国と地獄》に代表されるオペレッタ，さらに《カルメン》や《アイーダ》などのオペラも上演され，〈ペラゴロ〉とよばれる若いファンとともに，田谷力三(りきぞう)のようなスターも生まれた。また，ここで歌われた《フラ・ディアボロ》《ベアトリねえちゃん》などは広く流行した。震災後は，ここで活動していた人たちが別々になり，榎本(えのもと)健一*は喜劇で，藤原義江*(よしえ)はオペラで，石井漠*(ばく)はバレエで，それぞれ大きな役割を果たした。〔徳丸吉彦〕



アサクサノリ

あさくさのり　【浅草海苔】　紅藻(こうそう)植物・ウシケノリ科・アマノリ属。一般にササの葉状であるが，倒卵形・半円形など変化が著しく，縁辺ははなはだしく波縮することが多い。長さは通常10～20cmであるが，ひびについているものでは40～50cmに達するものもある。幅は狭いものが多いが，中にはかなり広いものもある。厚さはきわめて薄く，20～35μ。基部にはごく短い茎状部と小さな付着器があり，干満線間にある杭(くい)・岩石などに固着生活する。色彩は一般にはえているときは黒みをおびているが，生育の時期・場所によって変異が著しく，くり色になるものもある。普通は雌雄同株であるが，ときに雄性の生殖細胞だけを形成する雄性体もある。雌雄の生殖細胞は体の縁辺に沿って形成され，雌雄同株の体では雌雄の生殖細胞が混在して，それらの色彩の相違によってかすり模様を呈する。雌性生殖細胞の集団は濃いあめ色を呈し，雄性生殖細胞は黄白色を呈す。

有性生殖の結果，葉状のノリの体には，果胞子とよばれる胞子がつくられる。この胞子は，母体から脱落して発芽すると，貝殻(かいがら)などの石灰質中に穿孔(せんこう)侵入して生育し，顕微鏡的な糸状体(コンコセリス)となる。石灰質中で生長した糸状体は秋に成熟して殻(かく)胞子とよばれる無性の胞子をつくり，外に遊離して基物に付着し，発芽して葉状のいわゆるノリとなる。９月から11月ごろまでに発生した葉状体の微小な幼芽は無性的に単胞子とよばれる胞子を形成放出して，栄養繁殖をくり返し増殖する。その後，体が生長するにつれて有性生殖細胞の形成が始まる。春になるといっそう生殖細胞の形成が盛んになり，逆に体の生長が衰えて，ついには基物から離れて消失する。１個体の寿命はおよそ40～50日ぐらいでごく短いが，殻胞子による繁殖に続いて単胞子による繁殖が行なわれ，早く発芽したものから順次生長していき，生育期間は10月ごろから４月ごろまで続く。

アサクサノリは分布範囲が広いので，北海道から九州に至る全国各地のノリ養殖漁場に出現し，ノリの養殖対象種として代表的な種類の一つである。しかし，現在わが国で養殖されているノリのほとんどは，スサビノリ*に変わり，市販されている干しのりのほとんどはスサビノリの製品となっている。スサビノリは，元来，銚子(ちょうし)以北，北海道，日本海沿岸の外海水域に分布範囲をもち，ノリの主要な生産地帯である関東以西には分布していなかった。しかし，繁殖力が強く，色彩・光沢がよいなどの諸点でアサクサノリにまさるので，1952年(昭和27)ごろから各地へ移植導入され，東京湾・三河(みかわ)湾・伊勢(いせ)湾などでは完全に定着し，アサクサノリはほとんど認められなくなった。瀬戸内海・有明海・不知火(しらぬい)海などでは，地域的にアサクサノリが現在でもまだ保存されている。➔のり養殖

〔三浦昭雄〕



朝倉文夫
《墓守》1910
朝倉彫塑館蔵

あさくらし　【朝倉氏】　戦国大名。日下部(くさかべ)氏より出る。平安末期但馬(たじま)(兵庫県)養父(やぶ)郡朝倉に住し朝倉氏を称した。南北朝時代，足利(あしかが)氏の一族(斯波(しば))高経(たかつね)に従って越前(えちぜん)(福井県)に居を移し，守護斯波氏の被官となる。はじめ一条家領の東郷荘(しょう)・足羽(あすわ)御厨(みくりや)の荘官として勢力をたくわえていたが，敏景(としかげ)(孝景)の代に起こった応仁(おうにん)の乱*に際しては，斯波氏の家督争いに乗じて守護代甲斐常治(かいつねはる)と戦い，1471年(文明３)には斯波氏に代わり守護となって一国を領し，戦国大名に成長した。その後，居城一乗谷(いちじょうがたに)を中心に発展したが，1573年(天正１)義景(よしかげ)のとき，織田信長(のぶなが)に滅ぼされた。

〔村尾元忠〕

あさくらとしかげじゅうしちかじょう　【朝倉敏景十七箇条】　戦国大名朝倉氏の家法。応仁(おうにん)の乱に際して越前(えちぜん)(福井県)を領有した朝倉敏景(孝景)が1470年代に定めた法令集。内容は，家臣団の統制，世襲宿老*を置かないなどの人材登用制，あるいは領国民の統治に関するものなどを具体的に述べている。《群書類従》に収録。➔分国法

あさくらふみお　【朝倉文夫】　(1883～1964)　彫刻家。大分県竹田市の生まれ。

実兄の彫刻家渡辺長男(おさお)をたよって上京し，1907年(明治40)東京美術学校彫刻選科を卒業。翌年第2回文展に《闇》を出品，2等賞を受けて一躍注目され，文展・帝展に活躍，審査員となった。その後帝国美術院会員，東京美術学校教授をつとめ，穏和な自然主義的な官展彫塑の一典型をつくりだした。また，朝倉彫塑塾を設立主宰して後進を育成し，1927年(昭和2)から朝倉彫塑塾展を開催した。1937年帝国芸術院会員，1945年帝室技芸員，1948年には文化勲章を受けた。代表作としては《闇(やみ)》《墓守(はかもり)》《時の流れ》などがあり，その他多数の肖像彫刻や《太田道灌(おおたどうかん)像》などの記念像がある。〔陰里鉄郎〕

あさこぐんざん【朝来群山】兵庫県北東部の丘陵地域をいい，県立自然公園に指定されている。丘陵地域南部の栃原(とちはら)高原は関西の軽井沢とよばれてハイキング・キャンプ場・ゴルフ場が多く，主峰粟鹿(あわか)山の北麓(ほくろく)には立雲峡の名所がある。

あさざ【莕菜】双子葉植物・リンドウ科。暖かい地方の池や沼にはえる多年生の水草。地下茎は水底のどろの中を横にはい，長い茎を出す。葉は浅い鋸歯(きょし)があり，厚く，大きさは直径10cm，円形で基部に深い切れ込みがある。表面は緑色，裏面は紫色で水面に浮かぶ。夏に葉のつけ根から数本の茎を出し，黄色い花を水面に開く。大きさは3～4cm。

アザセリン［azaserine］放線菌から分離された抗生物質。化学名o-ジアゾアセチル-L-セリンで，合成によってつくることができる。淡黄色ないし緑色の結晶で水にとけやすい。急性白血病に効果があるとされているが，毒性が強く臨床的にはあまり用いられない。

あさだごうりゅう【麻田剛立】(1734～1799) 江戸時代の天文学者。豊後(ぶんご)(大分県)杵築(きつき)藩士，旧姓綾部(あやべ)。幼時より天文を好んだが，1767年(明和4)藩の侍医となり，2年後には脱藩して大阪に行き医を業とするかたわら暦学の研究をした。反射鏡・振子時計・象限儀などをつくり，天体を観測した。業績として有名なのは消長法を考えたこと，ケプラーの第3法則の独立発見などをあげられよう。太陽黒点の観測，それによる太陽自転速度の決定を行ない，月面や土星の環，各惑星の衛星などの観測もした。〔根本順吉〕

あさつき【浅葱】単子葉植物・ユリ科。北海道・本州・四国・シベリアに分布。山地に自生するがときに栽培される多年草。草たけ30cmくらいで茎・葉ともに円筒状。ラッキョウに似た鱗茎(りんけい)をもつ。6～7月に淡紅紫色の花を半球状につける。古く《延喜式》に食用とされたことが述べられており，いまでも早春にネギの代用などとして食用とする。鱗茎は薬味に使用する。

あさづけ【浅漬け】ダイコンのつけ物で，べったらづけと大阪づけの2種類がある。

1べったらづけ：女房詞(ことば)で〈あさあさ〉，京阪(けいはん)では〈あっさり〉，東京では〈べったら〉とよんだ。東京では江戸時代から毎年10月の蛭子講(夷子講)(えびすこう)の前夜につけ物の口開きをする習いで，俗に〈べったら市〉とよばれた。べったら市は蛭子講の道具を売る市であったが，もっぱら浅づけ大根を売る市となった。《本朝食鑑》によると〈大根100本に塩1升3～4合，塩と大根を交互につけ，ふたをして重石(おもし)をし，水が上がったらすぐにくみ捨て，30日ばかりで熟す。こうじ2～3升はいればことによい。〉とあり《四季漬物塩嘉言(しおかげん)》には〈太い大根を選び，よく洗って水気をかわかし，洒だるのあき立てへつけるのがよい。大根50本に花こうじ1枚，塩1升。こうじと塩をよくかき混ぜ，1段1段に振って，その間ごとに新わら15～16本ずつ敷き並べ，上の側に塩を二つかみほどまき，押しぶたをして，強い圧をかける。水が十分に上がって20日ばかりたつとつきかげんになる。〉とある。

2大阪づけ：①細いダイコンを葉つきのまま塩づけとし，こうじを用いない。重石をして20日ほどたったら取り出して刻み，しょうゆをかけて食べる。②ダイコンの切りづけともいう。根と葉を切って塩づけにしたもので，北陸より関西地方に古くから流行しているつけ物の一。ときにはカブラを代用し，あるいはダイコンとカブラを混用する。カブラを混ぜたほうが風味がある。ダイコンを洗い，水けを切ってから薄くたんざくに刻み，葉も長さ4cmぐらいに刻み根のほうと混ぜ合わせ，おけに野菜を入れ，塩を振り，これを交互にして重石をする。2～3週間で食用に供される。適量を取り出し，よく洗って水けを絞り，しょうゆをかけて用いる。〔塩川ふみ〕

あさづまぶね【浅妻船】長唄(ながうた)の曲名。本名題《浪枕月浅妻(なみまくらつきのあさづま)》。舞踊のための音楽で，2世桜田治助の作詞，2世杵屋(きねや)佐吉の作曲。1820年(文政3)に発表された。浅妻船は，慶長(1596～1614)のころ朝妻(滋賀県米原町)から大津へ渡る琵琶湖(びわこ)の渡し船であったが，のちこの地の遊女の乗る船をいい，これを描いた英一蝶(はなぶさいっちょう)の《浅妻船》に基づいて舞踊化されたのが本曲である。一蝶の《浅妻船》の画賛の小唄は大いに流行したが，これが長唄に取り入れられたためか，地歌的な性格が認められる。〔徳丸吉彦〕



浅沼稲次郎

あさどやゆんた【安里屋ゆんた】沖縄の八重山諸島の民謡の曲名。八重山古謡のゆんた*の一つで，クドキ*ふうに1組みの男女の半生をうたったものである。《鳩間節(はとまぶし)》などとともに有名で，第2次世界大戦前から標準語の歌詞をつけたものも歌われている。はやしことばの〈マタハーリヌ，チンダラ，カヌシャマ，ヨー〉はよく知られている。

あざな【字】中国で，男子が成年後，実名のほかにつける別名。たとえば，杜甫(とほ)の字は子美。日本でも中国のふうをまねて漢学者などの間で行なわれた。たとえば，菅原道真(すがわらのみちざね)の字は三・菅三，頼山陽の字は子成。

あさなぎ【朝なぎ】海岸地方で，陸風から海風に変わる朝の無風状態。夕方の海風から陸風に変わるときの無風状態を夕なぎという。晴天の日に現われやすく，わが国では日射の強い夏の瀬戸内海地方でみられる。➔海陸風

あさぬまいねじろう【浅沼稲次郎】(1898～1960) 政治家。三宅(みやけ)島に生まれる。早稲田(わせだ)大学卒業。一時共産党と関係したが，のち最初の無産政党である農民労働党の書記長となり，その中間派として活動した。投獄数回。第2次世界大戦後は社会党代議士となり，1951年(昭和26)社会党分裂時には右派に所属し，左派との調停役を勤め，1955年統一後は書記長となる。その独特な巨軀(きょく)と声とが庶民的な親しみを感じさせ広く国民大衆に人気があった。1960年安保闘争*のさなかに委員長に選ばれたが，同年10月12日，東京日比谷(ひびや)公会堂における三党首立会演説会の会場で演説中，右翼の一少年に刺殺された。〔溝口　潔〕

あさのし【浅野氏】清和源氏頼光(よりみつ)の後裔(こうえい)で美濃(みの)(岐阜県)の土岐氏の支流という。安土桃山時代，長勝の養子長政(ながまさ)が家を興し，豊臣(とよとみ)家五奉行*(ごぶぎょう)のひとりとなり，甲斐(かい)(山梨県)二十二万五千石を領した。子幸長(よしなが)は関ケ原の役で徳川方に属し，戦後和歌山四十万石に封ぜられた。その弟長晟(ながあきら)のとき，大阪の陣の功によって1619年(元和5)広島城主となり，安芸(あき)一国および備後(びんご)(ともに広島県)半国四十二万六千石を領した。明治になって侯爵。長晟の庶子長治(ながはる)を祖とする備後三次(みよし)の浅野氏，長政の三男長重(ながしげ)を祖とする播磨(はりま)(兵庫県)赤穂(あこう)の浅野氏の支藩があったが，ともに断絶した。〔善積美恵子〕

あさのそういちろう【浅野総一郎】(1848～1930) 浅野財閥の創始者。富山県出身。医者の子として生まれたが，若年より商才にたけ，24歳のとき上京，横浜で石炭販売

に従事する中で渋沢栄一*の知遇を得た。渋沢の尽力で1883年(明治16)休止中の工部省深川セメント工場の無償払い下げを受け，これが飛躍への足がかりとなった。その後，安田善次郎*の資金援助もあって，鉱山・埋め立て・電力・汽船・製鉄と次々に事業を拡大していった。〈金は山と地から掘り出し海からすくう以外にない〉を信条に，死ぬまで旺盛(おうせい)な知識欲を捨てずに生涯(しょうがい)事業に専念した。〔片岡一郎〕

あさのながこと 【浅野長勲】(1842～1937) 広島藩主。1856年(安政3)宗家長訓(ながみち)の養子となる。藩主に代わって国事に奔走し，薩長(さっちょう)両藩の討幕運動や土佐藩の大政奉還運動に加わり，3藩の連携に努めた。1869年(明治2)藩主，次いで藩知事となり，のち元老院議官・イタリア公使・宮内省華族局長官・貴族院議員などを歴任。

あさのながのり 【浅野長矩】(1665～1701) 播磨(はりま)(兵庫県)赤穂(あこう)藩主。長友の子。内匠頭(たくみのかみ)。1675年(延宝3)家督を継ぎ五万四千五百石を領した。1701年(元禄14)勅使の江戸下向に際して，接待役となったが，典礼指導の高家吉良義央*(きらよしなか)の侮辱を受け，3月13日江戸城中松の廊下で義央に刃傷(にんじょう)。即日切腹・改易に処された。➔赤穂義士

あさのながまさ 【浅野長政】(1544～1611) 安土桃山時代の武将。尾張(愛知県)の安井重継(しげつぐ)の子で長勝の養子となる。初名長吉。豊臣秀吉(とよとみひでよし)と相婿の関係で重用され，若狭(わかさ)(福井県)小浜城主となり，文禄(ぶんろく)の役には軍監として渡鮮。帰国後甲斐(かい)(山梨県)に封ぜられた。五奉行(ごぶぎょう)首座となり，秀吉の死後は隠居して，1606年(慶長11)常陸(ひたち)(茨城県)真壁に養老料五万石を与えられ，1609年近江(おうみ)(滋賀県)で五千石を加賜された。真壁五万石は三子長重が継ぎ，その子長直のとき赤穂(あこう)に移封された。〔善積美恵子〕

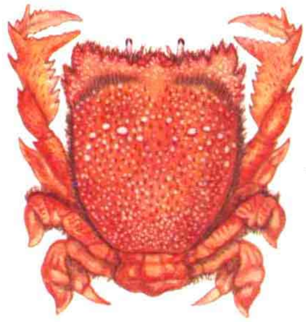
あさのはもん 【麻の葉文】 直線によって構成されたアサの葉形の文様。一つの正六角形を六つの三角形に細分化し，多くの場合は，これを四方連続文とした幾何学的文様*の一種。江戸時代には，歌舞伎(かぶき)の女形の衣装や浮世絵の女性の着物・帯に盛んに用いられたが，衣服の文様として用いることは現在にまで続いている。また，室内の欄間・脇障子(わきしょうじ)などに透かし彫りとしても用いられるなど，その用途は多方面にわたっていて，この文様に対する日本人の好尚(こうしょう)はなみなみではないことを示している。特に，アサのようにじょうぶにすくすくと成長してほしいという願いをこめて，うぶ着につける風習はよく行なわれている。〔毛利 登〕

アサバスカ(湖) [Athabasca] カナダ北西部，アルバータ・サスカチェワン両州の境界に位置する湖。面積7,400km²。氷河湖。湖水はスレーブ川となってグレートスレーブ湖に流れ，さらにマッケンジー川となって北極海に注ぐ。北岸には，カナダ第1といわれるウランの大鉱床がある。

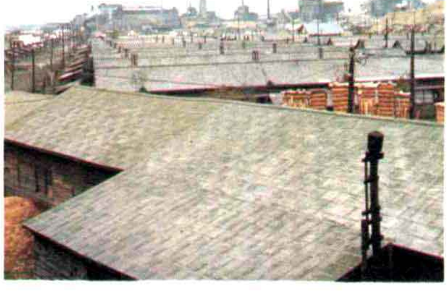
あさひ 【旭(市)】 千葉県北東部の市。1954年(昭和29)市制施行。人口36,000。九十九里浜平野の北部に位置し，産業三大別人口比は31：24：45。干潟(ひがた)八万石(椿海(つばきのうみ)の干拓地の通称)の米やサツマイモ・野菜などを集散し，三日市場・十日市場など，古くからの市場集落が地名として残る。最近は天然ガスを利用した工業も発達している。総武本線と国道126号線が通ずる。



麻の葉文　麻の葉橘文絞振袖部分



アサヒガニ



旭川市　旭川市内のパルプ工場。市の最大の産業であるパルプ・製紙業を象徴する近代的な大工場があり，貯木場や社宅が広大な敷地を取って広がっている(国策パルプ旭川工場)

あさひかせいこうぎょう 【旭化成工業(株)】 化学繊維・肥料・火薬・化学調味料などをつくる総合化学メーカー。会社設立は1931年(昭和6)。最近では総合石油化学メーカーとして地歩を固めつつあり，水島に旭化成グループの石油化学基地を建設し，石油への原料転換を着々と進めている。化学繊維ではベンベルグ，アメリカのダウ-ケミカル社と提携して設立した旭ダウがつくっている合成繊維サランなどが名を知られている。本社大阪，工場は宮崎県の延岡(のべおか)をはじめ富士・坂ノ市・和歌山・川崎・松戸など6工場。資本金509億1,500万円，年間売上高5,419億4,200万円，従業員数13,629(1980年9月)。

あさひがに 甲殻(こうかく)類・アサヒガニ科。この科のカニは甲が前後に長いのが大きな特徴である。アサヒガニの甲は幅9cm，長さ10cmほどで，濃い赤色。相模(さがみ)湾以南，南アフリカまで分布する。水深10～50mの砂の海底にすみ，横ばいはせず，もっぱらあとずさりで動く。食用になる。

あさひガラス 【旭硝子(株)】 板ガラスのトップメーカー。1907年(明治40)創立。当時わが国では不可能とされていた板ガラスの工業化に独力で成功，わが国で最大の板ガラスメーカーとして発展してきた。1944年(昭和19)三菱(みつびし)化成工業となったが，1950年同社の第2会社として旭硝子の社名に復した。その後の技術開発はめざましく，関連事業にも積極的に進出，総合経営に乗り出し，ガラス部門を中核としてソーダ肥料・炉材やテレビのブラウン管用ガラスバルブなどから化学製品にも手を広げている。わが国はアメリカ・ソ連に次ぐ世界第3位のガラス生産国であるが，旭硝子は住宅・自動車・鉄道車両・船舶・航空機用などあらゆる種類のガラスをつくる総合メーカーとして世界的にも有名である。本社東京。工場は鶴見(つるみ)・牧山・尼崎(あまがさき)・千葉・船橋・川崎など。資本金449億5,300万円，年間売上高3,929億7,200万円，従業員数9,140(1980年6月)。

あさひかわ 【旭川(市)】 北海道中西部，上川支庁のある市。駅名は〈あさいがわ〉である。1857年(安政4)，幕府御雇*の探検家松浦武四郎*(たけしろう)が足跡を残し，1890年(明治23)以来，上川盆地開発の中心となり，1900年第7師団が設置されて以来軍都として栄えた。内陸型の気候で，1902年の極寒期に－41℃の国内最低気温を記録した。1922年(大正11)市制施行。人口34万9,000。

市域は，上川盆地西部，石狩川本支流の合流点の氾濫原(はんらんげん)上に位置し，碁盤目形に区画された市街には，ナナカマドの並木通りを中心に，多数の行政機関・金融機関がある。産業三大別人口比は8：26：66。稚内(わっかない)から網走(あばしり)に及ぶ広い

商圏をもち，上川盆地の農産物を集散し，〈上川百万石の米どころ〉として知られ，また，〈北海の灘(なだ)〉とよばれる酒造地である。大雪山系の森林地帯を控えて，パルプ・家具製造などの工業が盛んで，東部の豊岡(とよおか)町には木工団地がある。旧陸軍施設には自衛隊第2師団司令部が駐屯(ちゅうとん)する。東郊の永山(ながやま)には，北日本学院大学や北海道農業試験場支所，西郊の近文にはアイヌ部落がある。函館(はこだて)本線・宗谷本線・石北本線・富良野(ふらの)本線の始終点にあたり，国道12号線・39号線・40号線・237号線も集まる交通の要地で，神楽(かぐら)の台地上には旭川空港がある。景勝地神居古潭(かむいこたん)を控えて，年中行事古潭祭り(10月上旬)がある。〔浅井得一〕

あさひがわ　【旭川】　朝日川とも書く。岡山県北部，中国山地に源を発し，勝山盆地を過ぎ南流して岡山平野に出，旧児島(こじま)湾口で瀬戸内海に注いでいる。流程150km。古来たびたび氾濫(はんらん)し，江戸初期熊沢蕃山(くまざわばんざん)によって百間川が放水路として掘られた。上流部には温泉が多く，特別天然記念物オオサンショウウオの生息地もある。岡山市にある名園後楽園は旭川の中の島に造成されたものである。

あさひしんぶん　【朝日新聞】　わが国の代表的日刊新聞。三大新聞とよばれているものの一。1879年(明治12)1月25日，大阪において木村騰(のぼる)の発意によって村山龍平(りゅうへい)を社主として創刊された。2年後，村山は木村家から社の所有権を譲り受け，上野理一とともに経営に専心した。村山の新聞経営方針は営利事業としての報道本位の新聞をつくるにあった。報道と販売の積極的な努力によって発展し，1888年《めざまし新聞》を買収し，《東京朝日新聞》と改題して東京に進出，大阪発行の新聞を《大阪朝日新聞》と改題した。第2次世界大戦時の言論統制の強化によって東西朝日の編集方針を一貫することになり，1940年(昭和15)題号を《朝日新聞》に統一，現在に至っている。1980年10月現在，発行部数は朝刊約750万2,000部，夕刊約470万2,000部。東京・大阪・名古屋・北九州に本社と称する印刷・発行所を置き，札幌(さっぽろ)に北海道支社を置いている。各発行所では同一題号の朝・夕刊を発行し，地方版は全国で約110版出している。北海道支社ではファクシミリ(遠隔写真電送装置)による印刷・発行をしている。このような大発行部数をもつ高級紙は，毎日新聞・読売新聞とともに世界でも例のないものである。〔美ノ和和雄〕

あさひしんぶんひっかじけん　【朝日新聞筆禍事件】　1918年(大正7年)8月，政府の米騒動記事掲載禁止に対して開かれた，寺内内閣弾劾記者大会に関する《大阪朝日》の記事中〈白虹(はっこう)日を貫けり〉の1句が朝憲紊乱(びんらん)など国体を傷つけたというかどで，新聞紙法違反に問われた事件。この事件で大阪朝日新聞社社長村山龍平，社員長谷川(はせがわ)如是閑らが辞職した。

あさひだけ　【旭岳】　⇨大雪山国立公園

あさひだけ　【朝日岳】　越後(えちご)山脈の北部を占め，山形・新潟両県にまたがる朝日山地の主峰群。最高峰は大朝日岳(1,870m)で，主脈はこれから北西へ西朝日岳・寒河江(さがえ)山・以東岳に延びる。おもにカコウ岩からなる壮年期の山地で，地形は雄大で険しく，東北アルプスの名がある。山地の西側は原生林でおおわれ，サル・クマ・リスなどの野生動物が多い。磐梯朝日国立公園に所属する。

あさひマラソン　【朝日マラソン】　国際マラソン選手権大会の通称。日本マラソンの父，金栗四三(かなくりしぞう)を記念し，同氏の故郷熊本で，1947年(昭和22)12月7日第1回大会を開催。以後高松・静岡・広島と全国で開催されている。第8回大会から国際陸上競技連盟の公認を得て〈朝日国際マラソン〉と名称が変わり，外国選手を招待。第13回から会場を福岡に固定し，第20回大会は再び名称を変えて第1回国際マラソン選手権大会となる。1967年の第2回大会でクレイトン(オーストラリア，25歳)が2時間9分36秒4と，マラソン史上初の2時間10分を切る世界最高記録をマーク。日本陸上競技連盟と朝日新聞社の共催。〔伊東春雄〕

あさひゆうひ　【朝日夕日】　長者の栄華と没落とを物語る伝説。その多くは金銀財宝を埋蔵しているという口碑を伴い，これに関連して〈朝日さす夕日かがやく木の下に黄金(こがね)千両漆万杯〉という歌が伝えられている所が多い。兵庫県加西市北条(ほうじょう)に伝わるものでは，権勢を誇る長者が扇をもって夕日を呼びもどすと，太陽は朝日のように輝いたので，目がくらんで死んだという筋になっている。また岩手県平泉町高館(たかだて)付近の金鶏山は，藤原秀衡(ひでひら)が雌雄の金鶏を埋めた所といい，やはり〈朝日さす〉の歌を伝えている。〔山路勝彦〕



朝日岳　朝日岳の積雪と残雪は豊かなお花畑を育て，ヒナウスユキソウをはじめとする各種の高山植物の大群落がある



浅間神社　(富士宮市)　拝殿(手前)および本殿

あざぶ　【麻布】　東京都港区南西部の地区で，旧麻布区。起伏の多い麻布台地に位置し，大半は山手(やまのて)の高級住宅地で，外国の大公使館が集まり，渋谷川流域の低地には機械・染色などの小工場も分布する。麻布十番は，第2次世界大戦まではこの地区唯一の繁華街であったが，戦後はかつての軍人の町六本木が特色ある盛り場となった。飯倉(いいくら)の台地上には三鷹(みたか)へ移転するまで東京天文台が置かれ，現在でも日本の経緯度原点(東経139°44′40″90，北緯35°39′16″0)が置かれ，国内各地の三角点の経緯度算定の基準となっている。〔浅井得一〕

あさまおんせん　【浅間温泉】　長野県松本市の北東方，東筑摩(ひがしちくま)郡本郷村にある温泉。長野県でも代表的な温泉で，泉温38～53℃の単純イオウ泉。松本駅から4kmで交通の便がよく，北アルプスの登山口にあたり，夏も冬も客が多い。犬飼山のふもとにあるので，古くは犬飼の湯といった。

あさまこうげん　【浅間高原】　浅間山の東側の浅間隠山・鼻曲山などに囲まれた標高1,200～1,300m内外の原野。軽井沢・北軽井沢を結ぶ国道が通じて交通が便利であり，高原の別荘地として開発されている。一帯のカラマツ林は美しい。

あさまじんじゃ　【浅間神社】　〈せんげんじんじゃ〉ともいう。富士山を神体と仰ぎ，木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)を祭神とする。

1本社は静岡県富士宮(ふじのみや)市桜ヶ丘にあり，富士山頂に奥院と久須志(くすし)神社を祭る。古くは浅間大菩薩(だいぼさつ)・浅間大明神・富士権現・富士浅間宮などとよばれ，大同年間(806～809)ごろ富士山よりこの地に移されたという。901年(延喜1)にいまの静岡市宮ヶ崎町に勧請(かんじょう)されて新宮と称して以来，当社を本宮と称するようになった。《詞林菜葉集》によると，信濃(しなの)(長野県)浅間大神と一体両部の垂迹(すいじゃく)であるところから，浅間大菩薩というとある。現在の社殿は1604年(慶長9)に徳川家康(いえやす)が建立(こんりゅう)したもので，浅間造りとして著名。境内の湧玉池(わくたまいけ)は富士山の地下水の湧出(ゆうしゅつ)で，この池に対する信仰は山の神・田の神・水の神信仰の一典型と考えられる。例祭は11月4日。7月11日には開山祭り，8月末日に閉山祭りが行

なわれる。

[2]山梨県東八代(ひがしやつしろ)郡一宮(いちのみや)町にある。865年(貞観7)12月9日の創建といわれ，山梨県側の富士山信仰をささえる神社として，甲斐(かい)浅間神社とよばれる。神宝に紺紙金泥(きんでい)の後奈良天皇宸翰(しんかん)，武田晴信(たけだはるのぶ)(信玄)奉納の《般若心経(はんにゃしんきょう)》1巻がある。例祭は4月15日。

[3]静岡市宮ケ崎町にある。富士宮市の本宮に対し富士新宮と称される。社殿の格天井(ごうてんじょう)には狩野法眼(かのうほうげん)筆の龍(りゅう)，狩野寛信(ひろのぶ)筆の天女像が描かれている。また1626年(寛永3)に山田長政(ながまさ)がタイから奉納したといわれる軍艦の画額がある。例祭は3月3日。〔佐野文哉〕

あさまもの 【浅間物】 浄瑠璃(じょうるり)・日本舞踊の系列の一。元禄(げんろく)期(1688～1703)にできた歌舞伎(かぶき)狂言《傾城浅間岳(あさまがだけ)》から派生したもの。殿が昔なじんだいまはなき傾城(けいせい)の起請を焼くと，煙の中から亡霊が現われてたたるという筋の舞踊化。一中節《夕霞(ゆうがすみ)浅間岳》《傾城浅間岳》《家桜傾城姿》，河東節《恋桜反魂香》，常磐津節(ときわずぶし)《初桜浅間岳》など。富本節(とみもとぶし)・清元節にもあり，現在では《高尾懺悔(さんげ)》《双面*(ふたおもて)》などがよく上演される。〔小沢靖一〕

あさまやま 【浅間山】 長野・群馬県境にそびえる三重式の活火山で，火山活動は活発である。北と南は裾野(すその)がよく発達し，北は六里ケ原で吾妻(あがつま)川の水源をなし，南は追分原で軽井沢・小諸(こもろ)の盆地に続く。外側の外輪山はその西側のみが残っており，内側の外輪山は中央火口丘を取り巻いている。直径約350mの噴火口をもつ中央火口丘の本山(2,452m)が浅間山の最高点である。また東麓(とうろく)と南東方に小浅間・離山などの寄生火山をもつ。浅間山噴火の最も古い記録は685年で，以後現在まで約50回が知られている。1783年(天明3)8月5日の大噴火は，頂上から北麓に約5.2kmの溶岩を流出し〈鬼押出し〉の奇景をつくり，また吾妻川をせきとめて大出水を起こし，多数の死者を出した。小浅間山麓に東大の火山観測所が設けられている。上信越高原国立公園に属する。〔高野 繁〕

あさまやま 【朝熊山】 三重県伊勢(いせ)市南東にそびえる標高553mの山。志摩付近の最高峰で，山頂からの眺望(ちょうぼう)はすぐれている。山上には金剛証寺がある。伊勢と鳥羽を結ぶ伊勢志摩スカイラインの自動車道路が通じ，伊勢参宮や鳥羽・二見・志摩などの観光ルートの一環をなしている。伊勢志摩国立公園に属する。

あざみ 【薊】 双子葉植物・キク科・アザミ属の総称。越年生または多年生の草本。種類が多く，海岸から高山まであらゆるところにみられる。葉は切れ込みが多く，その先がとげになっており，さわると痛い。ほとんどの種類の若葉はゆでて食用となる。また，根をゴボウと同じようにして食べる。この仲間にはノアザミ*・タイアザミ*・ハマアザミ*・フジアザミ*などがある。



浅間山 鬼押し出しから望んだ浅間山。鋭角に切り裂かれた溶岩塊が，爆発当時の壮絶さを伝えている。山の若い山はだは侵食を受けず，植被も少ない。白い建物は展望台



アザミ(上)フジアザミ(下左)ノハラアザミ(下右)ノアザミ



アザム兄弟 1733年に起工され，1746年に完成した聖ネポムクのヨハネ聖堂の，荘重な装飾空間を形成している内部

あざみうま 【薊馬】 ⇨スリップス

あさみけいさい 【浅見絅斎】 (1652～1711) 江戸中期の尊王思想家。近江(おうみ)(滋賀県)の人。山崎闇斎*(あんさい)の門人で崎門(きもん)三傑のひとり。志操堅固で一生関東の土を踏まず，また刀のはばきに〈赤心報国〉と彫り，尊皇の意を明らかにした。中国の忠臣義士の遺言を集めた《靖献遺言(せいけんいげん)》は代表的著作で，朱子学の大義名分思想を高揚し，竹内式部らに影響を与えた。晩年は，はじめ批判的であった垂加神道*(しんとう)にも関心を示した。〔熊谷保孝〕

アザムきょうだい 【アザム兄弟】 ドイツの画家・建築家。兄はC.D.アザム(1686～1739)，弟はE.Q.アザム(1692～1750)。18世紀前半にドイツ南部バイエルン地方に活躍。ともにローマに学び，イタリア後期バロック建築様式の影響を受けたが，帰国後は，躍動する激しい空間造形をもつドイツ・バロック建築様式へと発展させた。その独自性は，建築的構成を巧みに天井画の中に取り込んだ絵と建築の一体化に見いだされる。ミュンヘンの聖ネポムクのヨハネ聖堂はその代表作。〔前野 堯〕

あさむしおんせん 【浅虫温泉】 青森市の東端にある温泉で，東北本線浅虫駅のすぐ前にあり，交通が便利なので浴客が多い。泉温30～78℃の含セッコウ弱食塩泉・含食塩硫化水素泉。海岸の風光がすぐれ，夏は海水浴場としてにぎわう。東北大学臨海実験所と付属の水族館がある。

あさやけ 【朝焼け】 ⇨夕焼け

あざらし 【海豹】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・アザラシ科の総称。アシカ*と異なりひれ状の後肢(こうし)は前に曲げられず，耳介がない。北洋のアゴヒゲアザラシは体長3mほどで斑紋(はんもん)がなく，おもに甲殻(こうかく)類を食う。日本近海でもよくみられるゴマフアザラシは体長1.7mほど，3～5月に北海道にも出現するフイリアザラシは体長1.4mほどで，いずれも魚類を主食とする。あまり大きな群れをつくらないクラカケアザラシは体長1.5mほどで，美しい模様がある。北アメリカ南部や南極海にすむゾウアザラシは体長5mほどに達し，アザラシ類中最大。雄は鼻が長く，それをふくらませて大きな声を出す。北大西洋のズキンアザラシは体長3.5mほどで，雄の額には空気を入れてふくらませられる袋がある。このほか多くの種類がある。➔84ページ(写真)
〔今泉吉典〕

あざらしじょうきけい 【あざらし状奇形】 四肢(しし)またはその一部を欠く奇形。手や足が直接躯幹(くかん)につき，骨は小さく不規則な形を呈しており，外見がアザラシに似るのでこの名がある。原因は遺伝因子，羊






アザラシ
(上左)クラカケアザラシ
(上中)ゴマフアザラシ
(上右)アゴヒゲアザラシ
(下) ワモンアザラシ



アサリ

水や臍帯(さいたい)の異常などがあげられている。特に妊娠初期にサリドマイド*を服用した妊婦にこの奇形をみることが多い。治療としては，機能回復を目的とした手術が試みられ，電動義肢などの開発も行なわれている。〔三島好雄〕

あさり【浅蜊】軟体動物・二枚貝類・マルスダレガイ科。殻(から)の長さ4cmほどになる。殻の模様には変化が多いが，普通は，灰白色の地に青黒い斑紋(はんもん)を示す。朝鮮・台湾にも産し，日本では全国に分布する。内湾の砂底や泥底(でいてい)の10mまでの海底にもぐっている。産業上最も重要な貝の一つであることはいうまでもないが，潮干狩りの獲物としてもよく，みそしるの実としてよい。アサリと非常に似ているヒメアサリは，水のきれいな外洋にすむ。

アザレア［azalea］双子葉植物・ツツジ科。セイヨウツツジ・オランダツツジともよばれる園芸種。中国原産のツツジ属のある種を母種として，1800年代ベルギーで盛んに栽培され，日本には1902年(明治35)にはいる。現在は，新潟県新津(にいつ)市が主生産地となっている。

アサンガ［Asanga］(310ごろ～390ごろ) 漢名は無着(むじゃく)。インドの仏教思想家。北インド，ガンダーラ国の出身。小乗仏教に出家したが，のちにマイトレーヤ(弥勒(みろく))から大乗の〈空(くう)〉の教えを学び，これに転向した。弟のバスバンドゥ*(世親)とともに唯識思想を体系づけ，その学派を瑜伽(ゆが)唯識派という。著書に《摂大乗論*(しょうだいじょうろん)》などがある。

あさんかちっそ【亜酸化窒素】N_2O 無色のガスでわずかに特異臭があり，古くから吸入麻酔剤として用いられている。全身麻酔に際してはガス麻酔器を用い，酸素を一定の割合に混ぜて吸入させる。30～90秒吸入すると麻酔状態にはいるが，このとき精神高揚感と笑いが起こることがあるので笑気ともよばれている。➔麻酔

あさんかどう【亜酸化銅】Cu_2O 酸化第一銅ともいう。天然にはセキドウ鉱*として産出。フェーリング液(硫酸銅＋酒石酸カリウムナトリウム＋水酸化ナトリウム)をブドウ糖・ヒドロキシラミンで還元する際沈殿として得られる。酸化第二銅CuOを800℃以上に熱してもできる。

$$4CuO \longrightarrow 2Cu_2O + O_2$$

赤色粉末(等軸晶系)。比重は約5.9，融点は1,230℃。水に不溶。濃ハロゲン化水素酸やアンモニア水にとけて，$[CuX_2]^-$(Xはハロゲン)，$[Cu(NH_3)_2]^+$ などの錯イオンをつくる。酸素酸と反応して金属銅と第二銅塩となる。

$$Cu_2O + 2HNO_3 \longrightarrow Cu(NO_3)_2 + Cu + H_2O$$
$$Cu_2O + H_2SO_4 \longrightarrow CuSO_4 + Cu + H_2O$$

窯業の赤色着色剤や塗料および光電池や整流器の材料に用いられる。〔品田 登〕

あさんかなまり【亜酸化鉛】Pb_2O 次酸化鉛ともいう。暗灰色の粉末。溶融した鉛を空気にさらして表面酸化するとできる。比重8.3。赤熱すれば分解する。鉛Pbから一酸化鉛*PbOに至る過程の中間生成物とみられ，X線研究によればPbとPbOとの混合物と考えられる。

アサンソール［Asansol］インド共和国北東部，西ベンガル州の鉱工業都市。カルカッタの北西約200kmにあり，ダモダル川に沿う。人口115万6,000(1971)。近郊に豊富な炭田があり，第2次世界大戦後のダモダル川開発計画の進展に伴って，インド製鉄会社の工場が建設された。近くのドルガプールとともにインドの新しい重工業地帯の中心として発展している。

あし【蘆・葦】⇨ヨシ

あし【肢・脚・足】一般的には，動物のからだの一部で自由運動をするための器官をいい，肢という字を用いる。脊椎(せきつい)動物のあしは外肢(がいし)といい，魚類のひれから進化したものと考えられている。魚類の胸びれと哺乳(ほにゅう)類・爬虫(はちゅう)類・両生類の前肢とは相同*であり，腹びれとこれらの動物の後肢および鳥類のあし，哺乳類の後肢は相同である。あしのうちでも，地面につく部分を足，それ以外の部分を脚として区別する。人類では，前肢を上腕・前腕・手，後肢を大腿(だいたい)・脛(すね)・足に区別している。無脊椎動物のうち，環形動物のあるものでは体壁が左右に突出した疣足(いぼあし)とよばれるものがあり，遊泳・歩行の役にたつ。節足動物ではこの疣足がさらに発達して付属肢となっており，背側の上葉は外肢となり，腹側の下葉は内肢となるが，エビ・カニなどの歩脚は，この外肢が退化して内肢だけが発達したものである。棘皮(きょくひ)動物の管足も運動器官で，内部が液と筋肉の伸縮によって運動する。軟体動物のあしも運動器官としてよく発達していて，その形，ある場所，機能などから，斧足(ふそく)類・腹足類・頭足類・掘足(ほりあし)類のような名がつけられている。原生動物のアメーバ類は同じような意味で偽足*をもつが，これも一種のあしといえる。〔蒲原春一〕

あじ【鯵】マアジ*・ムロアジ*・シマアジ*・イトヒキアジ*など，マアジおよびそれに近い魚の総称でもあるが，普通はマアジ・ムロアジをさすことが多い。いずれも体後半の側線上に楯状鱗(じゅんじょうりん)(いわゆるゼンゴ，大きく，かたいので，調理の際に皮とそぎ取られる)があるのが特徴で，スズキ目・アジ亜目アジ科に属する。ブリ*・カンパチ*などもアジ科の魚であるが，楯状鱗が発達しておらずアジとはいわない。

あじ【味】物質の味は味覚が主となっているが，そのほかに臭覚・触覚・温覚，さらに視覚などとも緊密な関係があり，総合された感覚である。味覚は味覚神経の分布する味蕾(みらい)の存在する乳頭で感受される。乳頭は数種あり，糸状乳頭はおもに舌の全面特に前方に分布する。茸(きのこ)状乳頭は舌体・舌尖(ぜっせん)に多い。葉状乳頭はおもに舌縁にあり，有郭乳頭は舌分界溝(こう)の前にV字型に並んでいる。液状物のみが味覚神経を刺激する。酸味はおもに舌中央部，甘味は舌の前半部特に舌尖部，苦味は後方の口蓋(こうがい)，塩味は舌尖および舌側面で強く感じられる。味蕾は多数の支持細胞と有毛の味覚細胞とがたる状に組み合わさったもので，その上端は小孔をもった粘膜表面と交通している。味覚神経はその基底より入り込み感覚細胞を取り巻いている。舌にある神経

はその前方の大部分は舌神経につながり，後方は舌咽(ぜついん)神経につながり，舌以外の味蕾からの神経は迷走神経につながっている。

味には個人差が強く，いわゆる味盲といったものも知られている。たとえばフェニルチオカーバイド(PTC)は苦味の強い尿素の誘導体であるが，人によっては，少しも苦味を感じない。これは先天的なもので，ヨーロッパ人では30%，日本人では13%ある。味覚には干渉がある。つまり異なる味覚物質が同時に作用すると干渉を起こし，互いに打ち消し合いあるいはまったく別種の味を生ずる。酸と塩，酸と苦，甘と塩は互いに打ち消し合うものである。また塩味を味わったのちには甘味はいっそう甘く，蒸留水さえ甘味を感じる。〔平野修助〕

アジア [Asia] 北極海・太平洋・インド洋に面する世界最大の大陸と，それに近接する島々の地域をさす名称。北緯77°から南緯12°にわたり，面積は4,450万km²で，世界の陸地の32%，人口22億6,900万(1974)で世界の58%を占め，1km²あたりの人口密度は51人である。アジアおよびヨーロッパから，ソ連を別に取り出して扱うことがあり，国連統計ではこの方針を取っているが，ソ連領を除いたアジアは，面積2,758万km²(世界の22%)，人口21億(世界の57%)，1km²あたりの人口密度は80人である。アジアという名称は，もともと現在の小アジア*地方をさし，それがしだいにアジア全体の名称となった。これはシリア沿岸を根拠地として栄えていたフェニキア人が，それより東をアスすなわち日の出る地方，西をエレブすなわち日の没する地方としたのがもとで，それぞれアジアとヨーロッパの地名の起こりとなったという。



アジア 植林されたヤシ(ココヤシ)林。原住民の植えるものやプランテーションによるものなどがあり，これからとるコプラは日常の生活や経済の上で重要な地位を占めている

アジアとヨーロッパの境は，時代によって変わってきたが，現在はウラル山脈，カフカス山脈北方の低地，ボスポラスおよびダーダネルス海峡となっているが，この境界には特に意味はない。またアフリカとの境は，シナイ半島東部のイスラエルとエジプトの国境，さらにオセアニアとの境は，モルッカ諸島とニューギニア島の間の海である。北アメリカとはベーリング海峡を隔てている。

〔自然〕アジア大陸の平均高度は960mで，南極大陸を除けば世界で最も高く，高さ2,000m以上の山地は14%を占める。また世界最大の湖カスピ海があり，これにアラル海その他を加えた内陸水域は30.6%を占める。

中央部から南部にかけては，広い山地におおわれているが，これらは①第三紀以後の新しい褶曲(しゅうきょく)山地であるヒマラヤ-アルプス造山帯と環太平洋造山帯，②天山山脈や崑崙(こんろん)山脈，その間のモンゴルやチベットの高原，タリム盆地などの古生代・中生代の古い褶曲地帯，③デカン高原やアラビア半島などの，侵食によって平坦化(へいたんか)された最も古い楯状(たてじょう)地域の三つに分けられる。

大きな平野は，インドのインダス川・ガンジス川，中国の黄河・揚子江のそれぞれ下流に広がり，イラクのチグリス-ユーフラテス川，インドシナ半島のイラワジ・メナム・メコンの各川，中国の遼河(りょうが)および珠江(しゅこう)の下流の平野なども大きい。シベリアのオビ・エニセイ・レナの各川の下流にも大低地が開けているが，気候が寒冷なために，居住地としては利用されていない。

海岸線はヨーロッパに次いで複雑で，北極海にはタイミル，太平洋にはカムチャツカ・朝鮮・インドシナ，インド洋・地中海にはインド・アラビア・トルコなどの大半島が突き出し，オホーツク海・日本海・黄海・東シナ海・南シナ海・ベンガル海・アラビア海・紅海などの内海がある。インドシナ半島の先端はマライ半島とよばれ，この南東に展開するマライ諸島は，世界最大の島嶼(とうしょ)群であり，ボルネオ・スマトラ・セレベス・ジャワ・ミンダナオをはじめとする，大小無数の島々からなる。

アジアの気候を支配するのはモンスーン*で，その方向は夏には東アジアでは南東風，南アジアでは南西風，冬には東アジアでは北西風，南アジアでは北東風となり，東アジアでは温帯モンスーン，南アジアでは熱帯モンスーンとよばれている。モンスーンは夏には海岸地方に多くの雨をもたらし，暑熱とともに米作の好条件となる。赤道に近い地方は，1年じゅう高温で雨の多い熱帯雨林気候を示し，決まった方向の風もない，いわゆる赤道無風帯である。この地域にはジャングル*とよばれる密林が形成されている。いわゆる中緯度高圧帯にあたるモンゴルから中央アジア・西南アジアにかけては，東西に延びる乾燥地帯があり，ゴビ・タクラマカン・ネフド・ルブアルハリなどの砂漠(さばく)があり，そのまわりには草原も



ネパールの農村。ヒマラヤの南斜面に広がる山岳国ネパールの村落では，頭上運搬や家畜による運搬が普通である



マレーシア中部の農村風景。イネの収穫・脱穀をしているが，一般には農機具や機械の利用はほとんどなく，農耕の技術水準はきわめて低い



中国南部の沿岸には，古くからの水上生活民が多い。舟を家として漁業などを生業としている。珠江下流などの蛋民がその例

みられる。黒海・地中海の沿岸では地中海式気候がみられる。シベリアは冷帯気候で，その北極海沿岸は，夏の間だけ氷のとけるツンドラ気候である。アジアは広大なので，気象上のいろいろな記録をもつ土地がある。シベリア北東部のベルホヤンスクは，南極大陸を除く世界の寒極といわれ，インドのアッサム州のチェラプンジは世界の雨極とよばれている。

動植物も種類が多く，熱帯雨林にはラワンのようなフタバガキ科の巨木が目だち，インドゾウ・ヒョウをはじめ，イリエワニやニシキヘビもすむ。ボルネオ島・スマトラ島のオランウータンをはじめサルの仲間も多く，オウムやインコ・クジャクなど，鳥も種類が多い。モンスーン地帯には，広葉樹と針葉樹が入り混じり，クスノキ・シイ・ツゲ・ヒノキ・スギがあり，さらにその北には，エゾマツ・トドマツ・モミ・トウヒなどの針葉樹林が広がり，キツネやテンなどの毛皮獣がすむ。シベリアには大針葉樹林タイガ*がある。アジア特有の猛獣トラは，インド・東南アジアから，中国・朝鮮・東シベリアにかけて広く分布している。最北のツンドラには，苔(こけ)植物がみられるだけであるが，これを食べているトナカイがおり，家畜ともなっている。

〔住民〕人口の大半はモンスーン地帯に集中しており，人口８億の中国，６億のインド共和国，１億のインドネシア・日本というように，世界の人口１億以上の国７のうちソ連とアメリカ合衆国・ブラジルを除く４がここに集まっている。人口密度は日本・華北・華中・インド北部・ジャワに特に大きいが，寒冷なシベリアや，中央アジア・西南アジアの乾燥地帯はきわめて小さい。

住民はインドシナ半島より東のアジア人種(黄色人種)と，インドより西のヨーロッパ人種(白色人種)に大別することができるが，数からいえば大部分がアジア人種で，シベリア人種・モンゴル人種(狭義)・マライ人種などに大別される。中でもモンゴル人のほか，日本人や中国人・朝鮮人を含むモンゴル人種は，人類の集団として最大のものである。このほか有色人種としてはインド南部にドラビダ人が住むが，その人種系統ははっきりしない。また，インド北部から中央アジア・西南アジアにかけて住むインド人・イラン人・トルコ人・アラビア人などは，ヨーロッパ人種である。ソ連領アジアには，ロシア人が多く住む。

〔言語と宗教〕言語の分布はきわめて複雑であるが，最も多く使われているのは中国語で，８億の中国人のほとんどがこれを使い，その移住先である東南アジアにも広まっている。インド人およびパキスタン人の言語は複雑であるが，インド共和国ではヒンディー語，パキスタンではウルドゥー語を公用語とし，この二つは文字は異なるが会話は互いに通じる。マレーシアとインドネシアではインドネシア語が使われ，フィリピンでも同じ系統のことばが使われている。西南アジアでは，ペルシア語・トルコ語・アラビア語が使われ，トルコ語系統のことばは，中央アジアからシベリアにかけても広まっている。中国東北部からシベリア東部にかけて使われているツングース語は，モンゴル語・トルコ語とともに，アルタイ諸言語とよばれるグループにはいり，日本語や朝鮮語の構造もこれに似ているが，日本語や朝鮮語をアルタイ諸言語の中に含めることについては，まだ疑問がある。

アジアには近世以後多くのヨーロッパ人が進出してきたので，インド共和国・パキスタンでは英語，フィリピンでは英語とスペイン語が公用語として残されており，そのほかオランダ語・フランス語・ポルトガル語なども地域的に残っている。ソ連領においてロシア語が使われていることはいうまでもない。

アジアは，仏教・キリスト教・イスラム教などの世界の重要な宗教の発祥地である。仏教はインドシナ諸国・中国・日本に，イスラム教は西南アジア・インド・マレーシア・インドネシア・中央アジアにおもに普及し，新旧のキリスト教は移住したヨーロッパ人の間に信仰されているほか，ベトナム・フィリピンに旧教が広まっている。ヒンズー教はインド人だけの宗教であり，仏教の一派であるラマ教は，チベット・モンゴルで，政教両方面に勢力をもっていたが，現在ではその力は衰えている。一方，イスラム教やヒンズー教，インドシナ諸国の小乗仏教は，現在でも信徒の日常生活を大きく規制している。未開民族の間ではアニミズムやシャーマニズムが，いまだに残っている。

〔政治〕アジアの大部分には，16世紀のころから，ロシア・スペイン・ポルトガル・オランダ・イギリス・フランスなどの勢力がはいりこみ，多くの地域がこれらの国々の植民地となった。20世紀初めにおける独立国としては，日本・中国(清(しん))・タイの３国があるだけで，中国はヨーロッパ諸国や日本のために半植民地化されていた。一方，アメリカ合衆国は，19世紀末にスペインに替わってフィリピンを占領し，ここをアジア進出の拠点とした。また中国人はこの間に東南アジアに多く移住し，現在1,600万人を越える華僑(かきょう)として経済的に大きな力をもつに至っている。

第２次世界大戦後，日本の植民地であった朝鮮・台湾が解放され，インド・東南アジアでは，インド共和国・パキスタン・セイロン・ネパール・モルジブ・ビルマ・ラオス・カンボジア・ベトナム・マレーシア・インドネシア・フィリピン・シンガポールなど，多くの新興国が生まれ，西南アジアにも，イラク・サウジアラビア・シリア・レバノン・ヨルダン・イスラエル・キプロス・クウェートなどの国々ができた。アフガニスタン・イランは，すでに第１次世界大戦後に独立を回復し，トルコは共和制をしいて，首都をヨーロッパ地域にはいるイスタンブールから，アジア地域のアンカラに移した。最近になって，アラビア半島のイギリス領植民地や保護領も，イエメン人民民主共和国(南イエメン)・オーマン・

アラブ首長国連邦・カタール・バーレーンとして，次々と独立し，イエメン－アラブ共和国(北イエメン)も国際的に独立国として承認された。セイロンはスリランカと国名を改め，パキスタンのうち東パキスタンはバングラデシュとして独立した。

このように，アジアはほとんど先進国の植民地としての地位から脱し，現在植民地または自治領として残っているのは，イギリス領の香港(ホンコン)・ブルネイ，ポルトガル領のマカオなど，わずかな地域にすぎない。しかし，日本や中国・朝鮮をはじめとして，多くの国々が二つの世界の対立の影響を受けて，朝鮮やベトナムではそれが戦争にまで発展した。朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)と大韓民国(だいかんみんこく)およびアメリカ軍を主力とする国連軍との間の朝鮮戦争は，1953年に休戦協定が結ばれたが，それは戦闘行為の停止だけであって，法的にはまだ戦争継続中である。ベトナム戦争はアメリカ合衆国の介入によって拡大化する一方であったが，1975年にようやくベトナム民主共和国(北ベトナム)がアメリカの支援を受けていたベトナム共和国(南ベトナム)を制圧,1976年に北ベトナムの主導下に南北の統一が実現，ベトナム社会主義共和国が生まれた。中国では，中華人民共和国が大陸を制圧，中華民国は台湾に逃れたが，1971年に国連から追放されて，中華人民共和国がこれに代わった。しかし，アメリカ合衆国は中華人民共和国との国交樹立に誠意を示しながらも，まだ正式には中華民国と国交を結んでおり，このほか台湾政権を承認している国が世界にはまだ30か国近く残っている。

アジアの新興国の多くは，経済的には後進地域を形成しており，日本や欧米諸国の資本や技術面からの援助がなされてはいるが，その効果はまだまだ十分発揮されているとはいえない。また多くの国が食料不足に悩み，この方面の援助も必要となっている。1973年の1人あたりの国民所得は，日本の3,292ドルに対して，大韓民国は344ドル，フィリピンは230ドル，タイは210ドル，インドネシア(1972年)は112ドル,インドは1970年の資料しかないが93ドルにしかすぎない。ただし西南アジアの産油国の中には，クウェート(1971年)のように3,890ドルというような例もあり，産油国ではないが，イスラエル(1973年)は2,526ドルに達する。

新興国の多くは，内外にいろいろな問題をかかえている。インド共和国とパキスタンはカシミールの領有を争い，イスラエルとアラブ諸国の紛争は，数次にわたる中東戦争をまき起こした。前述したように，朝鮮ではまだ形式的に戦争継続中である。インドシナ半島では，ベトナムにおける北ベトナム側の勝利と前後して，カンボジアやラオスにおいても社会主義政権が誕生し，これは同時にインドシナ半島からのアメリカ合衆国の勢力の全面的後退を意味し，その最後のとりでであったタイからも，1976年にアメリカ軍が全部引き揚げた。ビルマ式社会主義をかかげるビルマは，反政府の運動と独立を求める少数民族や共産党の武力闘争に悩み，マレーシアでは政治的に主導権をもつマライ人と経済的実権を握る中国人との対立がある。フィリピンでは戒厳令下の独裁政治が続き，イスラム教徒のゲリラ活動もあとを絶たない。インドネシアでは全面積の7％のジャワ島に3分の2の人口が集中し，人口過剰のために衣食住の不足が深刻化しているが，政治的にはこのところやや安定している。事実上は中国人の国であるシンガポールは，東南アジアでは異例の経済的成長をとげ，対中国関係は政経分離の方針を維持しており，政治的には安定している。

人口6億の大国インドは食料の不足が深刻で，そのため暴動が起きたりしているが，反政府運動は強く弾圧されている。分離後のパキスタンとバングラデシュも，スリランカとともに経済的な安定を欠き，バングラデシュは政治的にも危機が続いている。イランをはじめとする西南アジアの産油国は，経済的には恵まれ，1973年の第4次中東戦争以来石油を武器として国際的発言力を増しているが，非産油国のレバノンでは，キリスト教徒(右派)とイスラム教徒(左派)の対立が内戦にまで発展，パレスチナ－ゲリラが左派に加わり，隣国のシリアが左右両派を引き離すためと称して軍事介入している。またこの国はパレスチナ－ゲリラの最大の基地となっているので，イスラエル軍の侵入もしばしば受けている。トルコは北大西洋条約機構の一員で，アメリカ合衆国を最大のたよりとしていたが，1974年のキプロス軍事介入をアメリカに非難されて以来，アメリカをはじめ西側諸国との関係が冷化，イランやアラブ諸国に接近しつつある。1974年以来のキプロスのギリシア系住民と，トルコ系住民との紛争はまだ解決せず，トルコ派遣軍・国連平和維持軍が駐とん中である。

〔産業〕 アジアのおもな産業は農業で，モンスーン地帯の米が最も重要な作物であり，世界の米の90％がここでつくられている。このほか中国・インドで小麦，インド・中国・日本で茶，中国・インドでワタ，中国・朝鮮・インドネシアでダイズがつくられ，熱帯アジアでは，プランテーション*作物として世界の90％以上に及ぶゴムをはじめ，サトウキビ・コーヒー・タバコ・ココヤシなどが栽培されている。熱帯の森林地帯では，原始的な焼畑耕作が広く行なわれている。近代的な牧畜はふるわず，北極海沿岸ではトナカイ，乾燥地帯ではヒツジ・ヤギ・ラクダ・ウマなどの遊牧が行なわれ，またインドのウシと中国のブタは，数はともに世界一であるが，企業的な飼育ではない。

林業としては，シベリアのタイガがパルプ資源として重要で，熱帯アジアには，ラワンをはじめ，チーク・マホガニー・シタン・コクタンなどの有用材がある。水産業は，主としてカムチャツカ半島から千島列島，日本・中国の近海にかけた北西太平洋漁場で行なわれている。熱帯ではふるわないが，最近は日本漁船による南太平洋やインド洋のマグロ漁，マリアナ諸島やフィリピン海域におけるカツオ漁が盛んになってきている。

地下資源として最も重要なものは，西南アジアの石油で，世界の埋蔵量の59％(1974)を占め，産出量は39％(1974)に達している。この地域の石油は，イギリス・アメリカ合衆国・フランス・オランダなどの資本によって採掘され，日本も参加しているが，国際間の勢力争いと，保有国の民族的自覚によって，政治的な問題をつねにひき起こしており，特に1973年の第4次中東戦争に際しては，アラブの産油諸国がイスラエルを支援しようとする国々はもとより，親アラブ政策を取らない国々に対して，石油の輸出を禁止または制限するという石油戦略をとり，これがいわゆる石油ショックで，日本はその最大の影響を受け，外交面ではこれまでのイスラエル寄りから一変して親アラブ政策を打ち出すという方針をとらざるを得なくされた。石油は中国・インドネシア・ビルマ，ソ連のカフカス・ウラル地方，サハリン(樺太(からふと))にも分布していて，特に最近は中国の大慶(東北)・勝利(華北)の両油田と，インドネシアのミナス油田(スマトラ)の産出高の増加がめだつ。このほか，中国の鉄鉱と石炭，インドの鉄鉱などは埋蔵量が多い。シベリアにも鉄鉱や石炭・石油(チュメニ油田)の存在が認められている。またマレーシア・インドネシア・タイ・中国のスズ，中国や朝鮮のタングステン，インドのマンガン，シベリア・インドネシア・マレーシアのボーキサイトも重要な存在である。ソ連を除くアジアの包蔵水力は約6億5,000万kWとみられているが，そのうち開発されているのは，日本の2,400万kWを主としてごく一部にすぎない。日本に次ぐのはインドで，中国も最近電力の開発が進み，特に農村の中小型水力発電所が激増している。

工業は，日本だけが欧米なみの水準に達しているが，インド・中国にも製鉄業をはじめ近代的な工業が興りつつある。またシベリアの工業化も進んでいて，クズネックやアンガラ－バイカルなど，いくつかのコンビナートができている。モンゴル人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)など社会主義国の工業建設には注目すべきものがあり，また香港の繊維などの軽工業の発展が著しい。このほかイランのじゅうたん，インドやジャワのさらさ，中国や日本の陶

器などをはじめ，伝統的な手工業が各地に残っている。

〔交通・貿易〕鉄道や道路はまだまだ発達の途上にある。鉄道網の密なのは，日本・インド北部・ジャワなどで，中国の辺境地方，西南アジアは鉄道の空白地帯である。ヨーロッパとの連絡にはシベリア鉄道があり，ウラジオストク～モスクワ間を世界最長の直通列車が走っている。大陸の南部では，ほとんどの鉄道が国境で切れているが，現在エスカップ*を中心としてアジア-ハイウエー*とよばれる国際道路網建設の構想が進められている。

海上では，欧亜航路と北太平洋航路，オーストラリア・アフリカへの航路があるが，重要なのは前2者で，横浜・神戸(こうべ)・上海(シャンハイ)・香港・シンガポール・カルカッタ・コロンボ・ボンベイ・アデンなどの国際的な港がある。また内陸水路としては，中国の揚子江，インドシナ半島のメコン・メナム・イラワジ，インドのガンジス・インダスなどの川がよく利用される。シベリアの川は凍結期間が長く，航行が制限されるのが欠点であるが，北極海航路は，原子力砕氷船レーニン号の就航によって冬季も開かれるようになった。

航空路は，ヨーロッパや北アメリカと結ばれるものが最も多く，また北極経由の亜欧航空路も盛んに利用されている。

貿易は，日本を除けば原料を輸出し製品を輸入する低開発地域型であるが，インドは近年繊維製品の輸出で重要な地位を占めてきており，中国も繊維製品を主として工業製品の輸出が増加している。第2次世界大戦後のアジアの諸民族の自覚は，それぞれの国の自給体制をめざすようになり，このために貿易はしだいに不活発となっていく傾向にある。〔浅井得一〕

アジア-アフリカかいぎ 【アジア-アフリカ会議】 ⇨バンドン会議

アジア-アフリカグループ ［Asian-African Group］ AAグループともいう。国際連合*内のアジア・アフリカ地域の諸国で構成されるグループ。最初はアジア-アラブグループとして独自の動きをしていたが，その後，アフリカ諸国の加盟増大に伴い，アジア-アフリカグループとなり，国連加盟国の2分の1を有する最大勢力となっている。1955年のバンドン会議*以来，反植民地主義と民族自決のいわゆるバンドン精神を打ち出して結集し，アジア-アフリカの連帯を基礎に国連の新しい動向をになっている。しかし，AAグループには，反西欧派・親西欧派・中立主義，あるいは急進派・穏健派などの相違があり，歩調は必ずしも一致しない。〔広部和也〕

アジア-アフリカしょこくみんかいぎ 【アジア-アフリカ諸国民会議】 1955年のバンドン会議*が政府代表の会議であったのに対し，1957年12月～1958年1月カイロで開かれたアジア・アフリカ諸国の民間代表者会議。1955年のアジア諸国民会議の拡大会議として，アジア・アフリカ諸国民の連帯と団結を目的とした。第1回会議には45か国，約500名の代表が参加。平和五原則*とバンドン十原則を承認する〈カイロ宣言〉を採択し，核実験中止・人種差別・帝国主義反対などを決議。第2回会議はギニアのコナクリで1960年4月開催され，ソ連を含む約50か国，270名が参加し，反帝国主義・反植民地主義の〈コナクリ宣言〉を採択した。1965年5月の第4回会議でラテンアメリカを加えてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの3大陸人民連帯会議に発展することを決議。その第1回会議が1966年1月キューバのハバナで，第2回会議は1968年7月カイロで開催された。〔折井一彦〕

アジア-アフリカじんみんれんたいきこう 【アジア-アフリカ人民連帯機構】 Afro-Asian Peoples' Solidarity Organization 略称AAPSO。アジア・アフリカ各国人民の反帝・反植民地主義連帯運動の国際組織。1955年4月のニューデリーで開かれた第1回アジア諸国民会議に引き続き，1957年12月26日～1958年1月1日までカイロで開かれた第1回アジア-アフリカ人民連帯会議において設置されたもの。各国のAA連帯委員会やその他独立の運動組織によって構成されている。約70か国，約80団体が加盟。アジア-アフリカ人民連帯会議(大会)・理事会・執行委員会・常設書記局の組織をもつ。常設書記局はカイロ。最近は中ソ対立の影響を受けて困難な状況になっている。〔広部和也〕

アジアかいはつぎんこう 【アジア開発銀行】 Asian Development Bank 略称ADB。アジアにおける後進諸国の経済開発を促進する目的で設立された銀行。1965年3月の第21回エカフェ*総会でその設立が決議され，翌1966年12月に開業した。本店所在地はフィリピンのマニラ。授権資本は11億ドルで，加盟国は32か国(域内国19か国・域外国13か国)である。わが国の出資額は2億ドル，アメリカと並び最も多い。アジア開発銀行の融資は，主として鉱工業・農業・運輸・通信などの部門に対して行なわれ，他方，技術援助，各国間の開発計画の調整なども行なうことになっている。また特別基金の設置が認められており，通常の貸し出しよりも長期・低利で運用される。特に域外先進国の参加を大幅に認めている点に特色がある。〔安井孝治〕

アジアきょうぎたいかい 【アジア競技大会】 国際オリンピック委員会(IOC)の後援を受けてオリンピック大会の中間年に開催される地域大会の一。アジア諸国・属領の国内オリンピック委員会が組織するアジア競技連盟主催。競技種目は陸上競技・水泳・芸術展示の3必須(ひっす)種目を含める6種目以上9種目以内とされ，必須種目以外はサッカー・バドミントン・ボクシング・自転車・野球・ホッケー・体操・射撃・テニス・卓球・バレーボール・レスリング・ウェートリフティングのうちから組織委員会が選定する。ほかにデモンストレーションとして，開催国の国技と外来競技各1種目を実施することができる。大会の開催を主唱し，実現させたのはインドのIOC委員であったソンディで，第2次世界大戦後にアジアに多くの新興国家が独立した機運をとらえて，地域的なオリンピック運動の興隆をめざしたものである。第1回大会は1951年(昭和26)ニューデリーで開かれた。

この大会は，フィリピン・日本・中国によって1913年(大正2)から1934年まで行なわれた極東選手権大会と，ソンディの推進によって1934年にニューデリーで開かれ，その1回で終わった西アジア競技大会が合流して，戦後に再発足したものとみることができる。

アジア諸国の復興あるいは独立後の発展の経過は，大会推進の途上に刻々移り変わる影を投じている。第1回大会への招待状の到着は，オリンピックへの復帰に苦慮していた日本スポーツ界の大きな喜びであったし，オリンピック競技大会の東京招致を目標としていた東京での第3回大会は空前の盛会であった。しかし，第4回ジャカルタ大会では，スカルノ政権下にあったインドネシアがイスラエル・台湾の参加を事実上拒否したため，連盟憲章に違反することとなり，大会直前に大混乱に陥った。IOCの記録にも本大会は記載されていない。また，第6回大会は1968年に大韓民国(だいかんみんこく)のソウルで開催を予定されていたが，国内事情によって開催不能となった。

アジアけいざいきょうりょくきこう 【アジア経済協力機構】 Organization for Asian Economic Cooperation 略称OAEC。世界経済の地域統合化傾向，地域経済協力の展開に対応し，かつアジア諸国の急速な経済発展を図るために，エカフェ*において検討されている地域経済協力機構。エカフェは1960年の第16回総会以来，地域経済協力問題に積極的に取り組み，1961年に専門家作業グループの報告書により設立が勧告されたもの。域内貿易の促進，開発計画の共同援助，開発計画の総合化・調整，開発の基礎・前提となる共同開発・共同整備などを主要内容とする。この構想に基づき，アジア開発銀行*が設立されたが，いまだ大きな進展はみられない。➔エカフェ

〔深海博明〕

アジアしょじんしゅ 【アジア諸人種】 アジア大陸には，多くの人種が住んでいて概して，ヒマラヤの西方にはコーカソイド*の影響を受けた人種が，東方にはモンゴロイド*の特徴の強い人種が住んでいる。インド-アフガン人種，ドラビダ人種，ベッダ人種などが前者であり，シベリア人種・北蒙

アジア


北極海
ノルウェー海
スバールバル諸島
ノルドアウストランド島
ベストスピッツベルゲン島
セーベルナヤゼムリャ
ノボシビルスク諸島
リャホフ
ラプテフ海
フランツヨセフランド
バレンツ海
ノバヤゼムリャ
カラ海
タイミル半島
北海
ビスケー湾
スカンジナビア半島
ボスニア湾
バルト海
コラ半島
白海
ヤマル半島
ダブリン
グラスゴー
ロンドン
パリ
ブリュッセル
ハンブルグ
コペンハーゲン
オスロ
ストックホルム
ヘルシンキ
ナルビク
ハンメルフェスト
ノース岬
ムルマンスク
リヨン
ベルン
ミュンヘン
ベルリン
ミラノ
プラハ
ウィーン
ワルシャワ
ブダペスト
ローマ
ナポリ
アドリア海
チラナ
ベオグラード
ブカレスト
ソフィア
アテネ
レニングラード
ラドガ湖
オネガ湖
ペトロザボーツク
アルハンゲリスク
ビテブスク
ミンスク
リボフ
キエフ
モスクワ
ゴーリキー
キーロフ
カザン
クルスク
ハリコフ
ボロネジ
ペンザ
オデッサ
ドニエプル川
セバストポリ
ケルチ
ロストフ
ボルゴグラード
サラトフ
クイビシェフ
ウファ
ペルミ
スベルドロフスク
チェリャビンスク
ウラル山脈
ソビエト連邦
黒海
イスタンブール
トルコ
アンカラ
エーゲ海
クレタ島
地中海
キプロス
ニコシア
トビリシ
エレバン
バクー
カスピ海
カフカス山脈
エルブルーズ山
アストラハン
アラル海
キジルクム砂漠
カラクム砂漠
タシケント
サマルカンド
キルギスステップ
カラガンダ
バルハシ湖
アルマアタ
天山山脈
タリム盆地
タクラマカン砂漠
パミール高原
ヒンズークシ山脈
オムスク
ノボシビルスク
バルナウル
トムスク
クラスノヤルスク
イルクーツク
バイカル湖
ハンガイ山脈
アルタイ山脈
モンゴル人民共和国
ゴビ砂漠
中央シベリア高原
エニセイ川
アンガラ川
ノリリスク
レバノン
イスラエル
シリアアラブ共和国
ダマスカス
ベイルート
エルサレム
アンマン
ヨルダン
イラク
バグダッド
カイロ
スエズ
ユーフラテス川
チグリス川
テヘラン
ザグロス山脈
イラン
イスファハン
アバダン
アルクウェート
クウェート
中立地帯
シラズ
ペルシア湾
アラビア半島
サウジアラビア
リヤド
ジッダ
メッカ
紅海
ルブアルハリ砂漠
イエメン
サヌア
南イエメン
アデン
アデン湾
マスカット＝オーマン
オーマン湾
アラビア海
ソコトラ島
ラッカジブ諸島
モルジブ諸島
モルジブ
アフガニスタン
カブール
ヘラート
カンダハル
パキスタン
イスラマバード
ラワルピンジー
ラホール
カラチ
中華人民共和国
チベット高原
ヒマラヤ山脈
エベレスト山 8848
ナンダデビ山 7817
マナスル山 8125
ネパール
カトマンズ
ブータン
デリー
ニューデリー
インド
デカン高原
ボンベイ
カルカッタ
バングラデシュ
ダッカ
ベンガル湾
マドラス
バンガロール
ハイデラバード
セイロン
コロンボ
ビズルタラガラ山 2524
ビルマ
ラングーン
マンダレー
アンダマン諸島
ニコバル諸島
十度海峡
マラッカ海峡
メルギー諸島
成都
昆明
蘭州
青海
敦煌
玉門
比高図例 (m)
1500 150 300 1500
1 : 37,000,000


300万人以上の都市
100～300万人の都市
50～100万人の都市
10～50万人の都市
5～10万人の都市
5万人未満の都市
首府
油田
東シベリア海
ウランゲル島
チュコト山脈
コリャク山脈
コリマ山脈（ギダン）
ベーリング海
アリューシャン列島
アリューシャン海溝
セントローレンス島
ダッチハーバー
プロビデニヤ
ナバリン岬
アッツ島
コマンドル諸島
カムチャツカ半島
ペトロパブロスク＝カムチャツキー
クリュチェフスカヤ山
シェレホフ湾
マガダン
チェルスク山脈
ベルホヤンスク山脈
オホーツク
ヤクーツク
オホーツク海
樺太（サハリン）
千島列島（クリル）
パラムシル島
スタノボイ山脈
ヤブロノイ山脈
ニコラエフスク
アレクサンドロフスク
間宮海峡
アムール川（黒龍江）
シホテアリン山脈
コムソモリスク
ハバロフスク
小興安嶺山脈
大興安嶺山脈
ウラジオストク
ナホトカ
伊春
チチハル
ハルビン
長春
吉林
清津
瀋陽
朝鮮民主主義人民共和国
元山
平壌
京城
旅大
大韓民国
釜山
木浦
北京
天津
青島
済南
石家荘
太原
包頭
張家口
フフホト
黄海
南京
上海
杭州
寧波
武漢
鄭州
徐州
西安
宝鶏
宜昌
万県
重慶
長沙
南昌
福州
廈門
台北
基隆
高雄
台湾
台湾海峡
バシー海峡
衡陽
桂林
貴陽
柳州
広州
香港
澳門
湛江
南寧
海口
海南島
ハノイ
ハイフォン
ダナン
ユエ
ベトナム社会主義共和国
カンボジア
ホーチミン
メコン川
南沙諸島
南シナ海
東シナ海
稚内
札幌
釧路
函館
青森
仙台
新潟
金沢
京都
名古屋
大阪
神戸
広島
北九州
鹿児島
高知
東京
横浜
日本
日本海
日本海溝
伊豆諸島
鳥島
ラマポ海淵
小笠原諸島
父島
母島
硫黄諸島
硫黄島
南西諸島
奄美大島
沖縄島
沖大東島
沖ノ鳥島
南鳥島
マリアナ諸島
サイパン島
グアム島
マリアナ海溝
ビチアス海淵
ミクロネシア
マーシャル諸島
ビキニ島
エニウェトク島
ウェーク島
ミッドウェー諸島
ポナペ島
トラック島
カロリン諸島
ヤップ島
パラウ諸島
アンガウル島
太平洋
ルソン島
バリンタン海峡
フィリピン
マニラ
ケソンシチー
サマル島
ミンドロ島
イロイロ
バコロド
パラワン島
ミンダナオ島
ダバオ
ケープジョンソン海淵
サンボアンガ
セレベス海
ハルマヘラ島
ニューギニア島
西イリアン
パプア・ニューギニア
ビクトリア山
ポートモレスビー
トレス海峡
サンゴ海
オーストラリア
インドネシア共和国
ブルネイ
マレーシア連邦
サバ
キナバル山
サラワク
ナツナ諸島
セレベス島
セラム島
ビスマーク諸島
ニューブリテン島
ニューアイルランド
ブーゲンビル島
ラバウル
ルイジャード諸島
メラネシア
1975

古(もうこ)人種・中央蒙古人種・南蒙古人種などが後者である。おもな人種とその特徴をあげておく。

インド-アフガン人種：インド北西部，アフガニスタン，イランに分布する。高～中身長(161～174cm)，広鼻，濃色な皮膚をもち，地中海人種と類縁関係がある。

ドラビダ人種(メラノ-ヒンズー・アジア黒色人種)：デカン高原とその周辺部に分布する。中身長(162cm)，中鼻，厚いくちびる，縮れ毛，長頭(76)，黒い皮膚を除いては，コーカソイドに近い特徴をもつ。

ベッダ人種：セイロン島山林地帯に分布する採集狩猟民。低身長(155cm)，広鼻，波状毛，長頭(75)，額が後退し，まゆ上弓が発達する。濃色の皮膚をもち，原始的特徴の強い主としてコーカソイドの形質をもつ人種。

シベリア人種(パレオシベリア人種)：シベリア森林地帯，ツンドラに分布する遊牧狩猟民。低身長(156cm)，黒色～くり色の波状毛，中頭(79)，黄みがかった白い皮膚をもち，コーカソイドとモンゴロイドの混血とされる。

北蒙古人種：中国東北部・東部シベリア・モンゴル・トルキスタンに分布する典型的モンゴロイド。中身長(163cm)，直毛，短頭(84～87)，低頭，突出したほお骨，高頻度(ひんど)で出現する蒙古皺襞(しゅうへき)。陥没した鼻根部をもつ，黄色の皮膚のモンゴロイド。

中央蒙古人種：中国・朝鮮・チベット・タイ・ビルマに分布する。高身長(168cm)，中鼻，中頭(78)。中国人の主要なタイプ。

南蒙古人種：中国南部・ビルマ・タイ・インドシナ・チベットに分布。低身長(159cm)，広鼻，短頭(80～85)，やや突顎(とつがく)。日本人の中にも，このような特徴をもつ個体がみられる。

アイヌ人種：北海道・サハリンに分布する。低身長(158cm)，長頭(76)，白い皮膚をもち，毛深く，発達した眉上弓，くぼんだ目，波状毛の白色人種であるが原始性が著しい。

インドネシア人種(プロトマライ人種)：中国南部・東部チベット・スンダ列島・ルソン島北部に分布する。低身長(157cm)，波状毛，中頭(77)，蒙古皺襞はない。〔鈴木　尚〕

アジアたいへいようかくりょうかいぎ【アジア太平洋閣僚会議】Ministerial Meetings of the Asian and Pacific Council 略称ASPAC(アスパック)。アジア太平洋協議会ともいう。反共的色彩の強いアジア太平洋地域諸国の常設的な準国際機構。タイのバンコクに常任委員会が設けられている。大韓民国(だいかんみんこく)・中華民国・日本・ベトナム共和国(南ベトナム)・タイ・マレーシア・フィリピン・オーストラリア・ニュージーランド・ラオス(オブザーバー)の10か国がメンバー。大韓民国が最初に提唱したときは(1964年9月)，反共的色彩の強い軍事的・政治的な国際機構をつくるのが目的であったが，日本などは国内世論もあって，これに強く反対，結局1966年(昭和41)6月ソウルで開かれた第1回会議においては，経済・文化面での連帯と協力を約束し，南ベトナムに同情を表明，国際管理下の自由選挙による南北朝鮮の統一を期待することなどを表明した。第2回は1967年7月バンコクで，第3回は1968年7月キャンベラで，第4回は1969年6月静岡県伊東(いとう)市で開催された。〔広部和也〕

アジアてきせいさんようしき【アジア的生産様式】古代アジアに現われた，奴隷制生産様式の初期の段階をいう。生産力はきわめて低く，土地・治水・灌漑(かんがい)を国家が専有して，剰余生産物をすべて取り立てていたため，停滞的な社会であった。マルクスがその著《経済学批判》(1859)の序言で，〈大づかみにいって，アジア的・古代的・封建的・近代ブルジョア的生産様式をもって，経済的社会構成の継起的諸時代と称することができる〉と述べたことに由来する。アジア的生産様式がアジアに特有の生産様式であるのか，それとも普遍的な歴史の段階的発展の一つとして位置づけられるべきものか，またその条件・本質はどのようなものかといった点をめぐって多くの論争がある。アメリカのウィットフォーゲルはこれを西洋社会とは異質なアジアの自然地理的条件に基づく停滞的な特殊生産様式だと主張した。この主張は，歴史的な発展段階としての生産様式を規定する主要な条件を，生産力よりも自然地理的条件に求めたという誤りを犯しており，アジア社会の停滞性を宿命的なものとみることになる，と批判された。〔常盤政治〕

アジアてきせんせい【アジア的専制】アジアでは中国をはじめとして，日本・インドなどいずれも古くから，専制的な権力をもつ君主を頂点とする，中央集権的統一国家が成立し，西洋と異なる権力形態を構成してきた。このような専制が成立した条件として，治水・灌漑(かんがい)のための強力な権力を必要とすること，君主は重層的な共同体の頂点に立つ唯一の土地所有者であるからなど，種々の説があるが，この権力の基盤ともいうべきアジア的生産様式*の解釈が一定しないため，今後に残された重要問題である。〔米田賢次郎〕

アジアンタム［*Adiantum*］シダ植物・ワラビ科・ハコネシダ属。世界に200種以上ある。葉柄は黒く光沢があり，葉身は羽状または鳥足状に羽片が並ぶが，ヒトツバホウライシダのように切れ込みのない種類もある。葉が鮮緑色で美しく観賞用として植えられる。鱗片(りんぺん)は小さくかっ色～黒色で根茎・葉柄基部につく。栽培品のおもなものに，ホウライクジャク・スキヤクジャク・オトメクジャク・ハンゲツクジャク・ヒロハクジャク・イワホウライシダなどがある。〔加藤僖重〕

あしいれこん【足入れ婚】婚姻形態の一。婚礼は婿方を主にして行なわれるが，結婚生活の場ははじめ嫁方に置かれ，ふつう長い年月を過ぎてのち，婿方へ引き移る。このため，足入れ婚は婚姻成立祝いと嫁の引き移り祝いの二つの儀礼からなっており，一般に後者がより盛大に行なわれる。今日では海女(あま)・女行商など，女性の労働力が重要視される地域にみられるにすぎない。➔婿入り婚　➔嫁入り婚

アジェナえいせい【アジェナ衛星】ジェミニ計画*におけるドッキング*の実験で，ジェミニの標的になった人工衛星。アジェナロケット(推力7t)をアトラスロケット*と組み合わせて打ち上げ，アジェナを切り離して衛星にした。次にジェミニが打ち上げられて軌道に乗り，たびたび軌道が修正されたのちアジェナの近くでその軌道に移り，アジェナとランデブーしてドッキングした。ジェミニの先端はアジェナの先端にはまりこみ掛け金がかかって連結するようになっていた。3回めのジェミニ10号が完全に成功した。〔原田三夫〕

あしおこうざん【足尾鉱山】栃木県上都賀郡足尾町にある金属鉱山。1610年(慶長15)に発見され幕府の直轄鉱山となり，17世紀中期には〈足尾千軒〉といわれるほど繁栄した。その後一時衰退したが，1877年(明治10)古河市兵衛(ふるかわいちべえ)が経営するようになり，坑内設備の改善，鉄索運搬の開始，水銅長方形溶鉱炉の完成，労働力の増強などを図った結果，産出量は飛躍的に増大し1888年には全国銅山の首位に立った。このころから鉱石処理による鉱毒が渡良瀬(わたらせ)川下流の農業に大きな害を与え，足尾銅山鉱毒事件*として社会問題になった。1973年(昭和48)閉山。〔竹内淳彦〕

あしおさんち【足尾山地】関東平野の北西方にある山地。西は赤城(あかぎ)山，北は中禅寺湖と大谷(だいや)川が境をなし，東と南は関東平野に臨む。北に高く南東に傾く傾動地塊状をなし，大部分は秩父(ちちぶ)古生層*からできている。山地北西隅(ぐう)の渡良瀬(わたらせ)川上流には足尾鉱山*がある。

あしおせん【足尾線】桐生(きりゅう)～間藤間，および間藤～足尾本山間の国鉄路線。営業キロ数46.0(うち貨物線1.9km)。1911～1914年(明治44～大正3)開業。足尾鉱山*の銅の鉱石積み出しに重要な働きをしていた。

あしおどうざんこうどくじけん【足尾銅山鉱毒事件】明治中期の社会問題。足尾鉱山*から鉱石処理で流出する鉱毒が，渡良瀬(わたらせ)川沿岸に浸透して，田畑・漁業・住民生活に損害を与えた。1880年(明治13)ごろから被害が出て，1890年以降数回の洪水で被害は増大した。沿岸農民は再三鉱毒除去を政府に訴え，地元代議士田中正造もまた議会に提議，1901年には天皇に直訴した。幸徳秋水らの社会主義者や内村鑑三らのキ

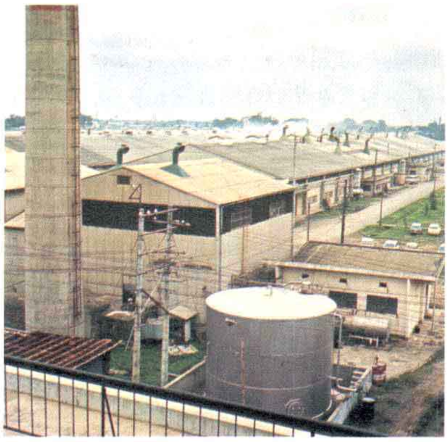
リスト教徒をはじめ，多くの学生や婦人が抗議に立ち上がり，1902年には内閣に鉱毒調査会が設けられたが，政府の弾圧に反対運動もやがて衰退した。〔千野境子〕

あしか【海馬】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・アシカ科。雄は体長2.4m，体重240kg，雌は2m，180kgほど。体は遊泳に適した紡錘形で黄かっ色～黒かっ色。北太平洋の暖海に群れですみ，ひれ状の四肢(しし)で泳ぎながらイカやタコなどを食う。昼間は海岸の岩の上で寝ていて，見張り番が危険を感ずると大きな声でないて群れに知らせ，群れは海の中へ逃げる。よく慣れ，サーカスや水族館でボールや人形を鼻の上に載せる芸をする。



ア シ カ

あしかが【足利(市)】栃木県南西端の市。古代の毛野(けぬ)の中心地で，中世には足利氏の発祥地となり，江戸時代には戸田氏一万一千石の小城下町，機業地として発展した。1921年(大正10)市制施行。人口16万6,000。市域は，足尾山地の南麓(なんろく)，渡良瀬(わたらせ)川北岸の低地にまたがり，市街は桐生(きりゅう)街道に沿って，東西方向へ発達している。産業三大別人口比は7：54：39。市街地の内外には，トリコットを中心とする繊維工業をはじめ，機械・金属・化学などの工場が多く，渡良瀬川の南岸にはトリコット工業団地・御厨(みくりや)工業団地があり，北東郊には袋川流域に助戸・大月工業団地がある。両毛線に沿い，東武鉄道伊勢崎(いせさき)線で東京と通ずる。足利工業大学などの教育施設や，足利学校跡，足利氏の居館跡である鑁阿寺(ばんなじ)などの史跡があり，市街地の北西には足利県立自然公園があって，その南端の織姫神社は機業地の特色をよく示している。年中行事〈渡良瀬川の花火大会〉が知られる。



足利市 中小工場のほか大工場もあり，足利ジャージー(トリコット)とよばれるたてメリヤスの生産が盛んである

あしかがうじみつ【足利氏満】(1359～1398) 南北朝時代の武将。基氏(もとうじ)の子。幼名は金王丸。1367年(正平22・貞治6)，父の死により9歳で2代め鎌倉公方*(くぼう)となる。1368年管領(かんれい)上杉憲顕*(うえすぎのりあき)に奉ぜられて川越一揆(いっき)と宇都宮の乱を平定。1378年(天授4・永和4)義満(よしみつ)を倒して将軍となろうとしたが，管領上杉憲春(のりはる)が諫死(かんし)したためとどまった。以後は関東の平定に努め，1392年(元中9・明徳3)分国10か国のほかに奥羽両国を加えられ，1396年(応永3)陸奥(むつ)(福島県)の小山・田村の反乱をしずめた。〔大三輪龍彦〕

あしかががっこう【足利学校】足利義兼(よしかね)が下野(しもつけ)(栃木県)足利荘(しょう)に創設したと伝えられる中世唯一の学校施設。創設者についてはほかに小野篁*(たかむら)・足利尊氏*(たかうじ)などとする説があるが，つまびらかではない。1439年(永享11)上杉憲実*(うえすぎのりざね)によって再興され，このとき禅僧快元を学頭として鎌倉から招いたり，閲覧規定がつくられたりした。戦国時代も北条(ほうじょう)・武田(たけだ)・上杉氏らの保護を受けてその機能を果たし，江戸時代も江戸幕府に重く用いられた。足利市昌平(しょうへい)町に残されている遺構は史跡，宋(そう)版の《文選*(もんぜん)》や経典は国宝に指定されている。〔大三輪龍彦〕

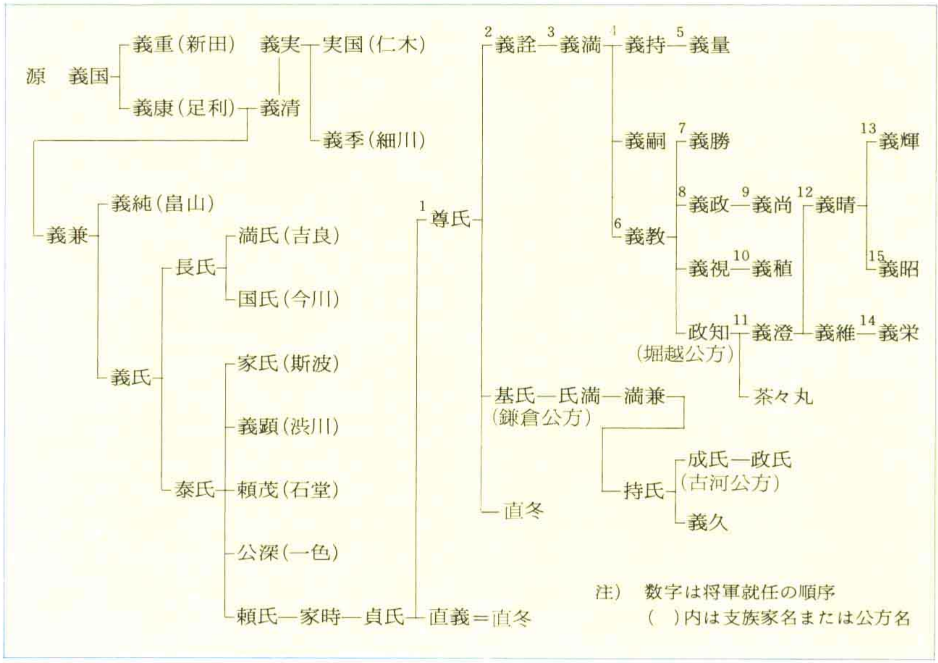
あしかがし【足利氏】中世武士の一族。室町幕府*の将軍家。清和源氏。源義家*(よしいえ)の孫義康(よしやす)を祖とする。義康は下野(しもつけ)足利荘(しょう)(栃木県足利市)にあって足利氏を称した。義康の子義兼は鎌倉御家人となり，北条時政(ほうじょうときまさ)の娘をめとって義氏を生む。以後泰氏(やすうじ)・頼氏(よりうじ)・家時・貞氏(さだうじ)と続き，すべて鎌倉御家人となり，貞氏の子尊氏(たかうじ)に至って室町幕府を開き初代将軍となる。その子孫は代々室町幕府の将軍となったが，15代義昭(よしあき)に至って織田信長(のぶなが)に滅ぼされた。尊氏の次子基氏(もとうじ)は鎌倉公方*(くぼう)となり，その子孫代々職を継いだが，京都の将軍家との不和が続き，4代持氏の代に至って永享の乱*が起こり滅ぼされた。乱後鎌倉公方家は成氏(しげうじ)の古河公方*，政知(まさとも)の堀越(ほりこし)公方*に分裂した。関東の足利氏も戦国時代を通じて衰微し，わずかに成氏の子孫が喜連川(きつれがわ)氏を称したが，明治維新後は再び足利氏に復した。〔大三輪龍彦〕

あしかがしげうじ【足利成氏】(1434～1497) 室町時代の武将。持氏の子。幼名永寿王丸。1439年(永享11)父持氏の自殺によって信濃(しなの)(長野県)の大井持光(もちみつ)のところにのがれたが，翌年結城氏朝(ゆうきうじとも)に迎えられ，兄の安王丸・春王丸らとともに下総(しもうさ)(茨城県)結城に挙兵し幕府に抗した。1440～1441年の結城合戦*に敗れて捕われ京都にあった。1449年(宝徳1)長尾昌賢(まさかた)らに迎えられ，5代の鎌倉公方*(くぼう)となった。1454年(享徳3)管領(かんれい)上杉憲忠(うえすぎのりただ)を殺したため，幕府の命を受けた今川範忠(のりただ)に鎌倉を追われ，1455年(康正1)下総の古河にのがれ古河公方*と称した。〔大三輪龍彦〕

あしかがじだい【足利時代】⇨室町時代

あしかがたかうじ【足利尊氏】(1305～1358) 室町幕府*の初代将軍。足利貞氏(さだう

足利氏略系図



じ)の子。初名は高氏。1333年(元弘3・正慶2)鎌倉幕府の命により西上したが，後醍醐(ごだいご)天皇に帰順し，六波羅(ろくはら)探題*を討って建武中興*の確立に寄与した。建武政府では参議・武蔵守(むさしのかみ)に任ぜられ，天皇の1字を賜わって高氏を尊氏と改めた。建武政府の施政に不満をもつ武士の信望*を集め，公家(くげ)の中心護良(もりなが)親王*を失脚させた。1335年(建武2)中先代の乱*に際し，弟直義(ただよし)救援のため，勅許を得ずに鎌倉へ下ったことから後醍醐天皇と不和となり，ついに天皇にそむいて上洛(じょうらく)。京都を占領したが，翌1336年北畠(きたばたけ)・楠木(くすのき)氏らの軍に敗れ九州にのがれた。しかし多々良(たたら)の浜に菊池氏を破り，東上して湊川(みなとがわ)で楠木・新田(にった)氏を破って入洛し，持明院統*の光明天皇を擁して室町幕府*を開いた。これに対して後醍醐天皇は吉野(よしの)にのがれて南朝を立て，光明天皇の北朝と対立し，南北朝の動乱*となった。動乱時代を通じて弟直義や尊氏の執事高師直(こうのもろなお)と争い，1352年(正平7・文和1)直義を毒殺したが，その与党や南朝との抗争のうちに没した。禅僧夢窓疎石に帰依し，後醍醐天皇の冥福を祈るため天龍(てんりゅう)寺のほか全国に安国寺利生塔*を建立(こんりゅう)した。〔大三輪龍彦〕

あしかがただふゆ 【足利直冬】(1327～1400) 南北朝時代の武将。尊氏*(たかうじ)の長子であったが，庶子のため尊氏と対面できなかったといわれる。東勝寺にあったが，叔父(おじ)直義(ただよし)の請いによって直冬と名のる。のち直義の養子となり，1349年(正平4・貞和5)長門(ながと)探題となったが，高師直(こうのもろなお)によって九州に追われる。少弐頼尚(よりひさ)らと結んで勢力を強めたが，1351年一色範氏(のりうじ)に攻められて長門(山口県)にのがれた。翌年，直義の死によって南朝に降り，1354年(文和3)には山名氏らと結んで京都に入り，尊氏を近江(おうみ)(滋賀県)に追ったが，翌年尊氏に破られ，石見(いわみ)(島根県)に走った。以後，諸国を転々とした。〔大三輪龍彦〕

あしかがただよし 【足利直義】(1306～1352) 南北朝時代の武将。尊氏(たかうじ)の同母弟。1333年(元弘3・正慶2)兄尊氏とともに後醍醐(ごだいご)天皇方につき，その功により相模守(さがみのかみ)となる。成良(なりなが)親王の関東下向について鎌倉に下り，1335年(建武2)中先代の乱*に際して護良(もりなが)親王を殺して鎌倉からのがれたが，尊氏の力を借りて北条(ほうじょう)時行を破った。1336年(延元1・建武3)尊氏とともに入京したが大敗し九州に走る。同年再び京都を回復し，尊氏が幕府を開くと補佐し諸政を行なったが，尊氏の執事高師直(こうのもろなお)のことで尊氏と争い，鎌倉で毒殺された。➔観応(かんのう)の擾乱(じょうらん)〔大三輪龍彦〕

あしかがばくふ 【足利幕府】⇨室町幕府



足利尊氏 木像 京都等持院蔵

あしかがまさとも 【足利政知】(1435～1491) 室町中期の武将。6代将軍義教(よしのり)の子。堀越公方*(ほりこしくぼう)。天龍(てんりゅう)寺で僧となったが，1457年(長禄1)足利成氏(しげうじ)が鎌倉から古河へ去るに及んで還俗(げんぞく)して関東に下り，伊豆(いず)(静岡県)堀越におり，古河公方*成氏と対抗した。

あしかがもちうじ 【足利持氏】(1398～1439) 4代の鎌倉公方(くぼう)。満兼の子。幼名は幸王丸。1409年(応永16)鎌倉公方となったが，1416年上杉(うえすぎ)禅秀(氏憲(うじのり))の乱*によって鎌倉をのがれ，駿河(するが)(静岡県)の今川範政(のりまさ)をたよる。翌年禅秀は佐竹義人(よしと)(上杉憲基の弟)に破られて自殺したため鎌倉にはいった。1428年(正長1)義持(よしもち)の死後，その相続をめぐって将軍となった義教(よしのり)と不和になり，1438年(永享10)永享の乱*によって永安寺で自殺した。〔大三輪龍彦〕

あしかがもとうじ 【足利基氏】(1340～1367) 南北朝時代の武将。尊氏(たかうじ)の子。1349年(正平4・貞和5)初代鎌倉公方(くぼう)となる。上杉憲顕(うえすぎのりあき)・高師冬(こうのもろふゆ)が執事となって補佐した。1358年(延文3)尊氏の死に乗じて南朝の新田義興(にったよしおき)が鎌倉を攻めようと図ったが逆にこれを討ち，1363年(貞治2)上杉憲顕を関東管領(かんれい)として，室町幕府の関東における基礎を固めた。

あしかがよしあき 【足利義昭】(1537～1597) 室町幕府15代将軍。父は12代将軍義晴(よしはる)。はじめ一乗院門跡となり覚慶と号したが，1565年(永禄8)兄将軍義輝(よしてる)が松永久秀(まつながひさひで)に殺されると，還俗(げんぞく)して義秋と名のり，のち義昭と改め，京都回復を図った。はじめ越前(えちぜん)(福井県)の朝倉義景(よしかげ)をたよって入京を図ったが果たさず，1568年織田信長(のぶなが)の助けを得て入京し将軍職を継いだ。信長と不和になり1573年(天正1)京都を追われ，室町幕府は滅びた。その後毛利氏らをたよって転々としたが，1587年豊臣秀吉(とよとみひでよし)によって一万石を給された。〔村尾元忠〕

あしかがよしあきら 【足利義詮】(1330～1367) 室町幕府2代将軍。尊氏(たかうじ)の子。1333年(元弘3・正慶2)尊氏が西上して後醍醐(ごだいご)天皇方についたため鎌倉をのがれ，下野(しもつけ)(栃木県)におもむく。新田義貞(にったよしさだ)の鎌倉攻めに尊氏の名代として参加，年4歳。1337年(延元2・建武4)北畠顕家(きたばたけあきいえ)に攻められ一時鎌倉を離れるが，顕家の西上によって再び鎌倉に住した。1358年(正平13・延文3)尊氏の死後将軍職を継いだ。細川清氏を執事としたが，清氏にそむかれ，一時近江(おうみ)(滋賀県)にのがれた。〔大三輪龍彦〕

あしかがよしかず 【足利義量】(1407～1425) 室町幕府5代将軍。父は4代将軍義持(よしもち)。1423年(応永30)将軍となったが，在職3年で病没した。

あしかがよしかつ 【足利義勝】(1434～1443) 室町幕府7代将軍。父は6代将軍義教(よしのり)。1441年(嘉吉1)義教が殺されると(➔嘉吉(かきつ)の乱)，細川持之(もちゆき)などに守られて将軍職を継いだが，2年後に病死した。

あしかがよしずみ 【足利義澄】(1480～1511) 室町幕府11代将軍。父は堀越公方(ほりこしくぼう)政知(まさとも)。伊豆(いず)(静岡県)に生まれる。幼名義遐(よしはる)・義高。義政の養子となり，1494年(明応3)細川政元に擁されて将軍となる。1508年(永正5)大内義興(よしおき)らに守られて入京した義稙(よしたね)に追われ，近江(おうみ)(滋賀県)にのがれ，同国岡山城で死んだ。

〔村尾元忠〕

あしかがよしたね 【足利義稙】(1466～1523) 室町幕府10代将軍。父は義視(よしみ)。幼名義材(よしき)・義尹(よしただ)。義政(よしまさ)の養子となる。将軍義尚(よしひさ)の死後，1490年(延徳2)将軍となる。1493年(明応2)，細川政元によって山城(京都府)の龍安(りょうあん)寺に幽閉されたが，越中(富山県)にのがれ，朝倉貞景(さだかげ)と近江(おうみ)(滋賀県)に進んだ。しかし六角高頼(たかより)に破れて河内(かわち)(大阪府)にのがれた。1508年(永正5)大内義興(よしおき)の力で復職したが，1521年(大永1)細川高国の専横を憤って阿波(あわ)(徳島県)に出奔し，将軍職を退いた。

あしかがよしてる 【足利義輝】(1536～1565) 室町幕府13代将軍。父は12代将軍義晴(よしはる)。幼名義藤。1546年(天文15)将軍となったが，管領(かんれい)細川氏，その臣三好長慶(みよしながよし)，その被官松永久秀(まつながひさひで)らが権力を握り，無力の将軍であった。1565年(永禄8)久秀らに殺された。

あしかがよしのり 【足利義教】(1394～1441) 室町幕府6代将軍。父は3代将軍義満。はじめ義円と号して青蓮院(しょうれんいん)にはいり天台座主(ざす)となった。1428年(正長1)兄将軍義持の死により後嗣となり，還俗(げんぞく)して義宣(よしのぶ)と名のった。翌1429年(永享1)義教と改名し将軍職を継いだ。幕威の高揚に努め，父義満にならって1432年駿河(するが)(静岡県)に遊び，1438年に

は鎌倉公方(くぼう)持氏を討たせて，翌年自殺させ(永享の乱*)，大いにその実をあげた。また将軍権の絶対化を策し，有力守護の家督を改替して勢力をそぐなど鋭意その歩を進めたが，あまりに過激なため諸人の不安を招き，1441年(嘉吉1)赤松満祐*(みつすけ)に殺された。➔嘉吉(かきつ)の乱　〔村尾元忠〕

あしかがよしはる　【足利義晴】(1511～1550)　室町幕府12代将軍。父は11代将軍義澄。1521年(大永1)義植(よしたね)出奔のあとを受けて細川高国に擁されて将軍となる。1546年(天文15)子の義輝(よしてる)に将軍職を譲って引退，近江(おうみ)(滋賀県)で没した。

あしかがよしひさ　【足利義尚】(1465～1489)　室町幕府9代将軍。父は8代将軍義政(よしまさ)。母は日野富子。のちに義煕(よしひろ)と改名。義視(よしみ)が後嗣と定められてのち誕生したため，応仁(おうにん)の乱*の家督争いの一因となる。1473年(文明5)将軍となる。近江(おうみ)(滋賀県)の六角高頼(たかより)討伐の陣中で没した。学問を好み，一条兼良(かねら)に《樵談治要*(しょうだんちよう)》を選ばせ，歌集に《常徳院殿御集》がある。　〔村尾元忠〕

あしかがよしひで　【足利義栄】(1540～1568)　室町幕府14代将軍。父は義維(よしつな)。阿波(あわ)(徳島県)に生まれ，1568年(永禄11)三好(みよし)長継・松永久秀(まつながひさひで)らに迎えられて将軍となり，同年織田信長(のぶなが)が義昭(よしあき)を奉じて入京すると，摂津(大阪府)富田にのがれ病死した。

あしかがよしまさ　【足利義政】(1436～1490)　室町幕府8代将軍。父は6代将軍義教(よしのり)。初名義成(よししげ)。1443年(嘉吉3)兄将軍義勝の死により将軍となる。はじめは政治に専心したが，のち無関心となり，徳政令*を頻発(ひんぱつ)するなど社会不安を増大させた。また，義尚(よしひさ)が誕生すると，妻の日野富子の意に任せて義視(よしみ)との間に後継者争いを起こし，応仁(おうにん)の乱*の一因をつくるなど失政が多かった。応仁の乱に際しては，京都東山の別荘で遊楽にふけり，社会不安をよそに銀閣*を造営した。しかし文化の方面では，その好みによって東山文化*とよばれる時代をつくりあげた。1473年(文明5)義尚に将軍職を譲る。　〔村尾元忠〕

あしかがよしみ　【足利義視】(1439～1491)　室町中期の武将。父は6代将軍義教(よしのり)。はじめ浄土寺に入り義尋と号したが，兄義政(よしまさ)の請いにより，1464(寛正5)還俗(げんぞく)して義政の継嗣となった。しかしその後日野富子*が実子義尚(よしひさ)を生んだため，義視を排斥しようとして応仁(おうにん)の乱*の一因をつくった。乱中は，伊勢(いせ)(三重県)の北畠教具(きたばたけのりとも)や美濃(みの)(岐阜県)の土岐成頼(しげより)をたよって転々とし，1489年(延徳1)義尚の死後入京した。　〔村尾元忠〕

あしかがよしみつ　【足利義満】(1358～1408)　室町幕府3代将軍。2代将軍義詮(よしあきら)の子。幼名は春王，剃髪(ていはつ)して道有・道義。10歳で家を継ぎ，管領(かんれい)細川頼之(よりゆき)の補佐を受ける。1379年(天授5・康暦1)美濃(みの)(岐阜県)・尾張(愛知県)の守護土岐頼康(よりやす)，1391年(元中8・明徳2)山名氏清，1399年(応永6)大内義弘(よしひろ)などの有力守護と戦い，これらを制圧して幕府権力を確立した。一方，1392年には南北両朝を合体させて南北朝の抗争を終結させている。以後，官位はしきりに進み，1394年ついには太政(だじょう)大臣となって将軍職を辞した。しかし政治の実権を依然掌中にして，1397年京都北山に別荘を営んで金閣*を造立した。1401年明(みん)に国書を送って国交を再開し，日明貿易*を盛んにした。彼の将軍時代，幕府は最盛期を迎えた。



足利義尚　画像　名古屋地蔵院蔵



足利義政　木像　京都慈昭寺蔵



足利義満　木像　京都等持院蔵



足　軽　《雑兵物語》に見える弓足軽

あしかがよしもち　【足利義持】(1386～1428)　室町幕府4代将軍。父は3代将軍義満。1394年(応永1)9歳のときに将軍職を譲られたが，1408年義満が死ぬまで実権はなかった。1423年将軍職を子の義量(よしかず)に譲ったが，夭逝(ようせい)したため引き続き政務をとった。斯波義将(しばよしまさ)らを補佐として，父義満への太上(だじょう)天皇の尊号辞退，明(みん)との貿易廃止など，比較的じみな政治をとった。

あじがさわ　【鰺ケ沢(町)】　青森県西津軽郡の町。人口18,500。津軽半島の基部にあり日本海に面する。1955年(昭和30)に4村を合併したので町域は南北に50kmも延び，南端は秋田県に接している。江戸時代は津軽藩の重要な港で，大阪方面との物資の取引でにぎわったが，明治にはいってからはすっかりさびれ，漁業もふるわず，斜陽の町となった。青森県水産試験場がある。五能線に沿う。

あしがらとうげ　【足柄峠】　箱根山の外輪山である金時山の北に延びる支脈の鞍(あん)部にある峠。標高759m。箱根山地を越える古代の官道が通っていたところで，9～10世紀ごろ関所が置かれた歴史をもつ。足柄峠越えは，いまの御殿場線足柄駅付近より峠を越え，酒匂(さかわ)川の谷の関本付近に出た。

あしかり　【芦刈】　地歌の曲名。作詞・作曲者不明。水辺のアシや海辺の松風などをうたった短い曲で，三味線(しゃみせん)は本調子，琴の手付けは半雲井の調子である。

あしがる　【足軽】　足軽く疾走する者の意味。平時には走り使い・雑役に従事し，戦時には歩卒となる者。《源平盛衰記》《太平記》にみえ，応仁(おうにん)の乱以降，著しく増加し活躍した。戦国末期には弓・鉄砲の訓練を受け，足軽大将に率いられて第一線に出動し，長篠(ながしの)の戦い*で武田(たけだ)軍を壊滅させた織田信長(のぶなが)の足軽銃隊は有名。江戸時代には武士の最下層に置かれ，明治維新後は卒とよばれ，廃藩のとき一部は士族に編入された。　〔善積美恵子〕

あじがわ　【安治川】　京都府の南部から大阪府に流れる淀(よど)川は，大阪市にはいってから曲流して多くの分流を生ずるが，その一つである大川は大阪市の中心地中之島の州で堂島川と土佐堀(とさぼり)川に分かれ，これが再び合流する地点でまた2分する。そのうち，西に流れて大阪港に注ぐ川が安治川である。この川は1684年(貞享1)淀川の治水と舟運の便を考慮して，河村瑞賢*(かわむらずいけん)が開いた放水路である。大阪港の

歴史はこの河口に始まり，安治川は大阪の繁栄を左右する水路であった。現在，両岸一帯は倉庫の立ち並ぶ工場地帯となっており，河口付近は8,000t級の船舶が停泊する内港となっている。〔長津一郎〕

あじかん【阿字観】 阿(a)というサンスクリット文字を観，すなわち心に念ずることによって悟り*を得ることをめざす密教の修行法。直径8寸の月の輪を描いた上に8葉の蓮華(れんげ)の上に悉曇*(しったん)文字で描いた阿字の画像を目の前に掲げ，朝夕絶え間なくこれを観じ念ずる。そしてついには，自分が阿字の中にはいり，阿字は自分を包み，さらには包み包まれる感覚さえなくなり，阿字こそすべてという真実の中に生きるようになるとされる。➔阿吽(あうん)〔金岡秀友〕

あじかん【阿字観】 尺八の曲名。普化宗(ふけしゅう)時代から伝えられた独奏による古典本曲の一つで，最もむずかしい曲といわれる。曲は，尺八曲の普通の型に従っている。密教の阿字観*とは直接関係がなく，曲名は後代につけられたものと考えられる。

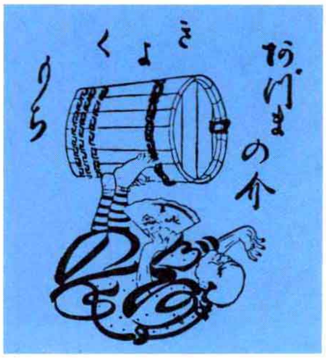
アしきしゅうきゅう【ア式蹴球】 ⇨サッカー

あしくび【足首】 下腿(かたい)の下端。下腿は内側にある脛骨(けいこつ)と外側にある腓骨(ひこつ)が支柱となり，脛骨下端の内側と腓骨下端の外側には結節状の隆起があり，内側のものを内果，外側のものを外果という。下腿の前側には伸筋群が，後ろ側には屈筋群が存在し足の運動にあたる。

あしげい【足芸】 大衆芸能の一種。曲持ちともいう。演者があおむけに寝て，両足を上げ，足底で開いたかさ・たる・たらい・まりなどを回したり，高くけり上げて受け止めたりする芸。

あじさい【紫陽花】 双子葉植物・ユキノシタ科。庭木として植えられる日本原産の落葉低木。高さ1～1.5m。茎は基部から多数出る。1年めの枝は緑色，茎の中心に太く白い髄がある。葉は楕円(だえん)形で先がとがり，葉の縁に鋸歯(きょし)があって表面に光沢がある。6～7月に枝の先にたくさんの花を球形につける。野生のアジサイの仲間では，かさ状に花をつけ，ほとんどの花が結実する花でまわりにわずかな修飾花があるが，栽培種ではほとんどの花が修飾花で，4～5枚の大形のがく片の中央に，退化した花弁4～5枚と，おしべ20本，2～3本の花柱がある。がく片の色は，最初は白色でしだいに青くなり，最後に淡紅色となるのが普通であるが，種々の色の園芸*品種がある。アジサイは古くヨーロッパに伝えられ，各地で観賞されたが，それが改良されあざやかな園芸品種(セイヨウアジサイ・ハイドランジア)として逆輸入されている。〔加藤僖重〕

あじさし【鰺刺】 鳥類・カモメ科・アジサシ亜科の総称。世界じゅうに広く分布し，10属42種。一般にアジサシ類はカモメ類より小形で，翼は細くとがり，尾は長めで，尾の先はクロアジサシのように紡錘形のものもあるが，他の多くのものはV字形に切れ込んでいる。くちばしは細くてとがり，水中に飛び込んで魚を捕えたり，水面の魚をはさんで捕えるのに適しており，ほとんどのものがおもに魚を食べる。全体の羽毛は，クロアジサシのように黒かっ色のものから，灰青色・灰かっ色のもの，シロアジサシのように純白のものまである。ほとんどが島・湖沼地帯・川原などの地上に営巣するが，樹上で営巣するものもある。いずれも集団で繁殖する。北極海沿岸で繁殖して南極海近くまで長距離の渡りをするキョクアジサシや，熱帯の島で繁殖し長い渡りをしないものもある。和名でのアジサシは，渡りの途中，わが国に春秋渡来する中形のアジサシの一種。〔安部直哉〕



足芸 享保版《文字絵尽》所載



アジサイ





アジサシ (上)アジサシ (下)コアジサシ



足摺国定公園 見残海岸の景勝。足摺崎の西方にあり，第三紀層の砂岩が海食や風食を受けて奇岩・奇景をつくっている

あじしま【網地島】 宮城県の牡鹿(おじか)半島の南西にあり，牡鹿(おしか)郡牡鹿町に属する。面積6.4km²，人口約3,000。沖合い・遠洋漁業を主とし，青壮年の男子はほとんど島内にいない。池ノ浜・網地・長渡(ふたわたし)の3部落がある。風光がよく，気候は比較的温暖で，石巻(いしのまき)および鮎川(あゆかわ)から，定期船が通じている。

アジスアベバ［Addis Abeba］ アフリカ大陸北東部，エチオピア帝国の首都。人口88万1,000(1972)。北緯10°付近で熱帯に属するが，海抜2,500mの高原上に位置するため，気温は年平均14℃でしのぎよい。この国の政治・経済・文化の中心であり，市街には病院・銀行・商店などの近代的な建物も立ち並ぶが，これらの多くは外国人の経営で，郊外では原住民が未開状態そのままの生活を行なっている。

あしずりこくていこうえん【足摺国定公園】 高知県の足摺崎(あしずりざき)を中心に，蟻崎(ありさき)から柏島(かしわじま)に至る海岸と，愛媛県の当木島から鹿島(かしま)までの海岸と沿岸の島々および宇和海岸を含む。面積94.26km²。1955年(昭和30)国定公園に指定され，宇和海岸は1964年に追加指定された。足摺崎の西方海岸は沈降海岸の特徴をよく表わし，断崖(だんがい)が多い。龍串(たつくし)の付近は第三紀層の露岩が海水に洗われて奇景を呈している。足摺崎はアコウ・クワズイモ・リュウビンタイなどの亜熱帯植物が自生している。豊後(ぶんご)水道に面する海岸は代表的なリアス式海岸で，宇和島付近の戸島・日振島など美しい島が多い。日振島の近くにはテングサが生育し，採集する海女(あま)の姿も見られる。〔木村東一郎〕

あしずりざき【足摺崎】 足摺岬(みさき)あるいは蹉跎(さだ)岬ともいう。高知県土佐清水(しみず)市南部，東南に突出している足摺半島の先端部で四国最南端にあたる。岬は3段の海岸段丘からなる隆起海岸で，岬の北方にある白皇(しらお)山(433m)の北を東西に走る線を境に，北は砂岩や泥(でい)岩の堆積(たいせき)岩，南は高知県では数少ないカコウ岩からなる。海に突出した約80mの断

崖(だんがい)をなす段丘は，これをおおうようにツバキが生い茂り，またヤシ科植物のビロウの北限となっている。そのほかアコウ・クワズイモなどが自生し，岬の先端には燈台・測候所があり，四国八十八か所の38番札所である金剛福寺がある。海岸一帯は足摺国定公園に指定されている。〔味沢成吉〕

アジソン ［Joseph Addison］ (1672～1719) イギリスのジャーナリスト・随筆家・政治家。オックスフォード大学に学び，ホイッグ党に属して1708年以後下院議員となった。また，親友スティール*の発刊した新聞《タトラー》や，のちにふたりで発刊した《スペクテーター》にスティールとともに健筆をふるい，機知とユーモアによって良俗と良識の範を示した。ジャーナリズムが独立的な地位を築く上で両紙の貢献度は高い。また，その名文はイギリス小説の発達に大きな影響を与えた。〔沢村　灌〕

アジソンびょう 【アジソン病】 副腎(ふくじん)皮質に病変があるため，糖質代謝にだいじなステロイドホルモンの分泌が少なくなる疾患。体重減少・低血圧・胃腸障害や皮膚粘膜の色素沈着をきたす。日本では結核が原因となることが多いが，癌(がん)の転移や原因不明のものもある。皮膚の色が黒くなってきて疲れやすいときには，本疾患を疑う必要がある。色素沈着の原因は，下垂体から副腎を刺激するホルモンが代償的に大量に増加しているからである。この患者はショックに陥りやすく，副腎皮質ステロイドを一生続けて服用する必要がある。1885年アジソンの記載によりこの名がある。〔清水直容〕

あしだ 【足駄】 ⇨げた

あしだかくも 【脚高蜘蛛】 クモ形類・アシダカクモ科。体長2～3cm。黄かっ色で細い毛がはえている。網を張らず，歩き回ってえさを捜す。全世界の温帯・熱帯に分布し，日本では本州以南。人家にはいりこむことが多く，夜間ゴキブリなどをとる。

あしたかやま 【愛鷹山】 富士山の南東にある火山。山頂部は南の愛鷹山(1,188m)，位牌岳(いはいだけ)など六つの峰に分かれてほぼ南東―北西方向に延び，北東端の越前(えちぜん)岳(1,505m)が最高。北西部は富士山の噴出物でおおわれ，南東方に広いすそ野をもつが，一般に放射状谷の侵食が進んでいる。

あしだがわ 【芦田川】 吉備(きび)高原西部山地に源を発し，広島県東部を流れ，瀬戸内海に注ぐ。流程40km余。流域一帯の低湿地と下流の福山平野はイグサの栽培が盛んで，備後表(びんごおもて)の産地である。

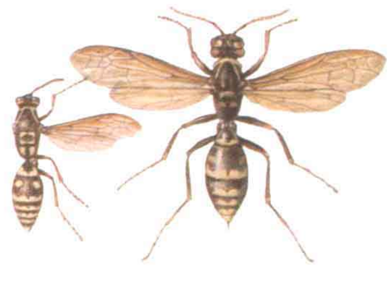
あしたば 【明日葉】 双子葉植物・セリ科。ハチジョウソウともいう。本州中部の太平洋岸の半島および伊豆(いず)七島にみられる大形多年草。茎は高さ1m。葉は大きく羽状に切れ込みがあり，無毛で柔らかく，冬でも枯れない。秋，枝の先に多数の淡黄色の花をつける。茎や葉を切ると橙黄(とうおう)色のしるが出る。一部の地域では畑に植えて若葉を食用とする。生長が速く，きょう摘み取っても翌日葉が出るというのでこの名がある。



足摺崎　海岸段丘の上にそばだつ白亜の燈台。岬付近には亜熱帯性の植物が繁茂し，南国的な情緒が豊かである



アシタバ



アシナガバチ　(左)フタモンアシナガバチ (右)セグロアシナガバチ

あしだひとし 【芦田均】 (1887～1959) 政治家。京都府に生まれる。東京大学卒業後外務省にはいり，退官後衆議院議員，当選10回。第2次世界大戦後幣原(しではら)内閣の厚相，次いで日本民主党に移って総裁となる。また片山内閣の外相を経て，1948年(昭和23)社会党と連立の〈中道内閣〉の首相に就任したが，同年10月昭和電工疑獄事件に連座して総辞職。言論界にも顔をみせ，再軍備・保守合同などを主張した。外交史関係の著書も多い。〔溝口　潔〕

あしつきのり 【葦付苔】 藍藻(らんそう)植物・ネンジュモ科。淡水藻で，各地の川などの流水中に生じ，岩や水草・アシの茎などに着生する。多数の糸状体が寒天質に包まれ，外観は藍色(あいいろ)ないし黄かっ色で，径10cmに達す。古くから食用とされ，《万葉集》に大伴家持(やかもち)の歌，〈雄神川紅にほふ乙女(おとめ)らし葦付とると瀬に立たすらし〉がある。加茂川のり(京都府)・姉川くらげ(滋賀県)ともいう。乾燥したものを水でもどし，吸い物の実，つまなどにする。

あしで 【葦手】 アシ・流水・水鳥などを簡略に描いて，その中に文字を書くもの。葦手絵ともいう。藤原時代には料紙の下絵などに描いたが，またししゅうにもした。のちには蒔絵(まきえ)などの絵の中に文字を書いたのも葦手というようになった。

アジテーション ［agitation］ 扇動。特定の政治的・社会的目的をめざす運動に動員するために指導者が不特定多数の大衆に直接訴えかけること。大衆の心情を揺り動かすことを目的としており，運動の初期段階に用いられる組織方法の一つである。

アシドーシス ［acidosis］ 酸血症。体液のpH(水素イオン濃度)は7.4付近で一定に保たれている。これより小さい場合をアシドーシスという。pHは血中の重炭酸塩と炭酸の比によって決められ，腎(じん)および肺よりの排泄(はいせつ)で調節されている。糖尿病・腎不全などでは酸が体液中に多くなって重炭酸塩が減少し代謝性酸血症，呼吸機能不全では炭酸ガスの排出が悪くなって体液中の炭酸が増加する呼吸性酸血症となる。pHを低くする代償作用があれば，血液pHは大きく変化しない。➔アルカローシス〔清水直容〕

あしなか 【足半】 足の前半しかはけない小形のぞうり。半ぞうり・とんぼぞうりなどの名もある。起源は古いようだが，初見は鎌倉時代の《蒙古襲来絵詞(もうこしゅうらいえことば)》である。雑色(ぞうしき)・牛飼いらがはき，中世には武士も使用した。ぞうりのように鼻緒を別にすげるのではなく，台部のしんわらを摘出して鼻緒としている。ぞうりや沓(くつ)は人前を通るとき脱ぐのが礼儀だが，足半だけはかまわないという慣例があった。

あしながぐも 【脚長蜘蛛】 クモ形類・アシナガグモ科。体長1cm内外。茶かっ色。ほっそりしたからだに，細長い足がついている。人家近くや樹林などに，水平の丸い網を張り，下側の中央に静止している。本州以南に分布。

あしながつのがに 甲殻(こうかく)類・クモガニ科。甲の幅2cmほど。三角形の甲らには鋭いとげがある。脚が細長く，甲の数倍に達する。淡かっ色。東京湾以南に広く分布し，30～150mの海底にすむ。

あしながばち 【脚長蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・スズメバチ科の一群。後脚を長くたれ下げて飛行するので著しく長脚に感

じられる。全世界に多数の種が分布しており，日本にも10数種が知られ，フタモンアシナガバチ・セグロアシナガバチなどが最も普通にみられる。巣は，枯れ木などから採集した繊維を唾液(だえき)で練ったもので，木陰や人家の軒下などに入り口を下に向けてつくられる。雌は貯精嚢(ちょせいのう)をもち，秋に発生した雄バチと交尾ののち，人家や木のほら穴などで越冬し，翌春巣をつくって産卵する。しかし，これから生まれる雌は栄養が不十分なため，いずれも卵巣が発達せず働きバチが多くなる。晩夏のころから栄養が十分になり，卵巣の発達した雌が出現する。雄バチは単為生殖*によって秋に生まれるが，交尾して精子を供給する以外重要な役割はもたない。〔鈴木邦雄〕

あしなし【葦名氏】 三浦義明(よしあき)の子佐原義連(よしつら)を祖とする鎌倉・室町時代の奥州会津地方(福島県)の豪族。義連が源頼朝(よりとも)の奥州征伐に参加して会津に所領を得，孫光盛(みつもり)のとき葦名氏を称した。1384年(元中1・至徳1)直盛のとき黒川城(現在の会津若松市の地)を築いた。その後，戦国大名に発展して，盛氏のときには伊達(だて)・佐竹氏と抗争して全盛となったが，1589年(天正17)伊達政宗(まさむね)に滅ぼされた。〔村尾元忠〕

あしなしいもり 両生類・アシナシイモリ科。東南アジア・アフリカ・南アメリカの熱帯地方に分布し，60種が知られている。四肢(しし)をまったく欠き，体は円筒形で細長く，ミミズの環状体節のように分かれている。頭部はかたく，地中に穴を掘るのに適している。左肺はなく右肺のみが発達している。

あしなしとかげ 爬虫(はちゅう)類・アシナシトカゲ科。ヨーロッパ南東部からアジア南西部，アフリカ北部に分布。体長1～1.2mで尾はその2分の1以上を占める。四肢(しし)を欠き，外形はヘビに似るが，まぶたと外耳孔をもち尾は自割する。小動物・こん虫を捕食。卵胎性。

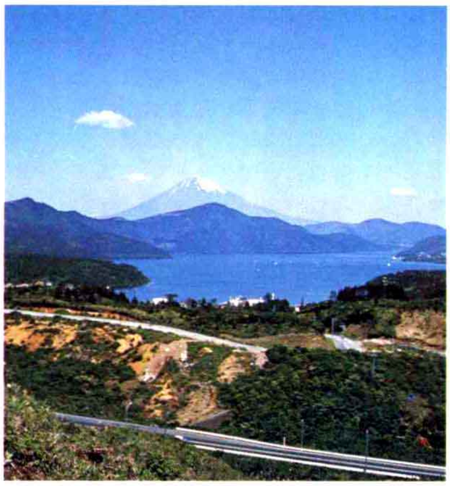
あしのこ【芦ノ湖】 神奈川県箱根山のカルデラの中にある火口原湖。面積6.9km²，水面高度723m，最大水深42m。水は，もと南から須雲(すくも)川に流れたが，中央火口丘噴出の際にせきとめられ，現在は北からあふれて早川となって相模(さがみ)湾に注ぐ。また，1670年(寛文10)に引かれた箱根用水*は西北端から取水されて，箱根山西麓(せいろく)を潤している。湖のながめは美しく，湖に姿を投げる逆富士(さかさふじ)は有名で，箱根観光の数多いルートの大部分はこの湖畔に集まっている。〔長津一郎〕

あじのもと【味の素(株)】 化学調味料グルタミン酸ナトリウム*の首位メーカー。会社の設立は1925年(大正14)。池田菊苗*のグルタミン酸ナトリウム分解の発明に基づく化学調味料〈味の素〉は，わが国独自の発明商品として広く世界に知られ，国内市場のほとんどを独占しているばかりでなく，国内生産の34％をおよそ90か国に輸出し，現在ではタイ・マレーシア・フィリピン・インドネシア・イタリア・ペルーなどに海外工場をもち，現地で製造・販売している。第2次世界大戦後はイノシン酸ナトリウムなどの工業化による複合調味料のほか，食用油・スープ・マヨネーズなどの製造に乗り出し，またすぐれた発酵技術やアミノ酸工業技術によって総合食品メーカーとして伸びている。本社は東京，工場は川崎・横浜・四日市・佐賀。資本金163億800万円，年間売上高3,526億5,800万円，従業員数5,504(1980年9月)。

あしのゆおんせん【芦ノ湯温泉】 神奈川県足柄下郡箱根町にある温泉。駒ケ岳(こまがたけ)の南のふもと，海抜850mの地点にあり，明治になって東海道(現在の国道1号線)がここを通るようになってから客が多くなった。泉温40～42℃の単純硫化水素泉。国道のわきに曽我(そが)兄弟の墓がある。1954年(昭和29)に箱根町に合併されるまで，芦之湯村は面積1.96km²，人口120(1950)の日本最小の村であった。

アシハバード［Ashkhabad］ ソビエト連邦，トルクメン共和国の首都。イラン国境山地の北麓(ほくろく)にあり，東部にはカラ砂漠(さばく)が広がる。人口26万6,000(1970)。主要産業は，綿・絹織物，食品加工，じゅうたんなどの工業のほか，特色あるものとして映画産業がみられる。隊商路に沿った古いオアシスの町で，現在でも，鉄道・道路交通上の要衝をなしている。

あしはらしこおのかみ【葦原醜男神】 日本神話の神。天孫降臨以前の国土の土着の神として，この神はオオクニヌシノミコト*の別名となって現われる。《古事記》ではアシハラシコオノカミはスサノオノミコトの娘スセリヒメと相婚する勇士である。《播磨風土記(はりまふどき)》では外来のアメノヒボコ*と土地を争っている。葦原中国(あしはらのなかつくに)，または豊葦原瑞穂国(とよあしはらみずほのくに)のように葦原を用いた国号が古典にはしばしば出てくるが，これは難波津(なにわづ)一帯が年々南方に延び，新生の陸地にアシが茂って〈葦が散る難波〉とよまれる状態だったことと関連するといわれる。すなわち，水田化以前の陸地が葦原で，《常陸(ひたち)風土記》には茨城県行方(なめかた)郡西谷の葦原を開いて耕地としたことが出ている。醜は勇猛を表わす。アシハラシコオノカミの名義は，水田化以前の葦原時代から国土を領する強い男神という意味と考えられる。なお，神代史ではニニギノミコト*がイネを高天原(たかまがはら)から大八州(おおやしま)にもたらしたことになっている。〔宮井義雄〕



芦ノ湖　富士山の手前の山々は箱根外輪山西部の山伏峠・三国山・湖尻峠などの尾根。近景の白い建物付近が箱根町で，国道1号線箱根新道のインターチェンジ付近からの眺望

あしび【馬酔木】 双子葉植物・ツツジ科のアセビの別名。➔アセビ

あしび【馬酔木】 誌名。①短歌雑誌。1903年(明治36)6月から1908年1月へかけての全32冊。伊藤左千夫*(いとうさちお)を中心に長塚節*(ながつかたかし)・香取秀真(ほずま)・岡麓*(ふもと)・蕨真(けっしん)ら根岸短歌会*同人で創刊。写生と万葉調を唱道した。②俳句雑誌。1928年(昭和3)7月《破魔弓(はまゆみ)》を改題，水原秋桜子*を中心にして創刊した。昭和初期の俳句革新に重要な位置を占め，石田波郷*・加藤楸邨*(しゅうそん)らを輩出。多くの傍系誌をもち今日に至る。

あしびょうし【足拍子】 日本芸能の技術の一。足で舞台をリズミカルに踏み鳴らすもの。古代の悪魔よけの呪術(じゅじゅつ)などから生まれたといわれる。舞楽・神楽(かぐら)・能楽・日本舞踊などに用いられる。能舞台では足拍子の音をきわだたせるために舞台下を空洞(くうどう)とし，定められた場所にかめを置いて共鳴させている。日本舞踊では舞台の上に置き舞台*を置き，舞台の床板との間にわずかにすきまをつくって足拍子の音を響かせる。舞楽・神楽などの足拍子は音楽的な効果と見た目のおもしろさを中心とした舞の手の一つだが，能楽・日本舞踊ではほかに感情表現などを表わす場合があり，ことに狂言では，怒り・おどしなどの意味にしばしば用いられる。また，能では留め拍子といって，曲の終わりのしるしに左，右と二つ踏むのが例になっている。〔長尾一雄〕

アジピンさん【アジピン酸】 $HOOC(CH_2)_4COOH$　1.4-ブタンジカルボン酸ともいう。シクロヘキサノールの硝酸による酸化，シクロヘキサンの酸化，アジポニトリルの加水分解などにより合成される。白色単斜柱状結晶。合成繊維，特に66-ナイロンやウレタンフォームの原料として重要である。そのほか潤滑油・添加剤などに使われている。

あしべおどり【芦辺踊】 大阪の花柳界の一つである南地の芸者による舞踊会。毎春行なわれる。京都の〈都踊〉をまねて1882

年(明治15)から始まる。第2次世界大戦中は中断，戦後4遊郭合同の〈大阪おどり〉を経て，南地だけの公演にもどし，1957年(昭和23)にもとの名を復活した。

あしべつ 【芦別(市)】 北海道中西部の市。1900年(明治33)富山・石川両県の団体移民が開拓に着手し，1914年(大正3)鉄道の開通と同時に炭鉱が開発されて発展した。1953年(昭和28)市制施行。人口33,800。面積869km²で，いわき・札幌(さっぽろ)の両市に次いで全国都市中3位の広さをもつ。市名はアイヌ語の〈パシュベツ〉(川底が深く険しい)に由来する。

市域は険しい空知山地が大半を占め，平地は空知川やその支流の芦別川などの谷にわずかに開けているにすぎない。産業三大別人口比は17：42：41。石狩炭田北部の重要鉱業地帯であるが，最近は石炭不況のため市勢がふるわず，木材コンビナート建設やコークス工場の誘致が進められている。根室本線・国道38号線が通じ，東部は富良野(ふらの)芦別道立自然公園に含まれ，人造湖野花南湖などの景勝地がある。特産は，ケイ石・合板など。

あしべつだけ 【芦別岳】 北海道夕張山地の最高峰。標高1,727m。古生層からなり，侵食がかなり進んでいるので，峰は鋭くそびえ立つ。東のふもとは断層による急斜面で富良野(ふらの)盆地に臨み，西側は芦別川の源流が北流して深い谷を刻む。冬のスキー，夏山登山に好適である。

あじまなおのぶ 【安島直円】 (1732～1798) 江戸時代の数学者。山路主住(1704～1772)の弟子(てい)。独創的な数学者で，二重積分・逆対数表など多くの研究がある。山路の暦の作製を手伝った。

アジミール [Ajmer] インド共和国北西部，ラジャスタン州の都市。人口26万3,000(1971)。タラガル山地に囲まれた歴史的な都市で，遠く紀元1世紀の中ごろに建設された。その後ヒンズー・イスラムなどの支配を受け，しばしば戦場ともなった。イギリスの植民地時代は，支配の要地として鉄道工業が発達した。市内にはインドのイスラム寺院の中で最も崇敬されるダルガ-サヒーブがあり，その祭りには多くの人が集まる。塩や綿布の取引も盛んである。 〔別技篤彦〕

あじむ 【安心院(町)】 大分県宇佐郡の町。1955年(昭和30)に安心院町ほか3村が合併して成立した。人口10,400。別府市の北西にあり，中心の安心院盆地では，米・麦のほかタバコ・ブドウがつくられ，養蚕や牧畜も行なわれている。山地ではシイタケを産する。鉄道はなく，バス交通にたよっている。町名は，律令(りつりょう)時代に院*(田租を収める倉庫)が置かれたことにちなむと考えられる。

あじめどじょう 硬骨魚類・ドジョウ科。10cmほどになる淡水魚。姿も色合いもシマドジョウに似ているが，筋肉の構造が違っている。本州中部，近畿(きんき)の特定の数河川の上・中流の澄んだ流れの小石の底にすんでいる。美味なことで知られ，飛騨(ひだ)(岐阜県)の名物。

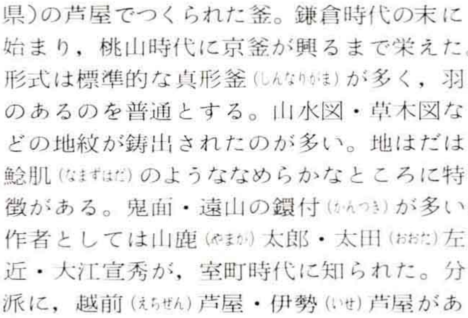
あじも 【味藻】 ⇨アマモ

あしや 【芦屋(市)】 兵庫県南東部の市。明治から大正にかけて阪神(はんしん)電鉄・京阪神急行電鉄など多くの私鉄が通じ，大阪および神戸(こうべ)の衛星住宅都市として発展した。1940年(昭和15)市制施行。人口78,200。

市域は大阪湾に臨み，背後に六甲山地を控えた芦屋川流域のゆるやかな傾斜地にあり，交通の便と風光美を兼備した高級住宅地としての適地条件をもつ。産業三大別人口比は1：26：73。住民は大阪や神戸に職場をもつ上・中流家庭が多く，電話の普及率は全国一である。1951年国際文化住宅都市に指定され，1961年アメリカ合衆国モンテベロ市と姉妹都市になり，〈花と緑〉の都市づくりが進んでいる。東海道本線は天井川である芦屋川の川底をトンネルで通ずる。〈阪神の軽井沢〉として知られる奥池遊園地，高座の滝，ロックガーデン，芦屋浜，打出浜などの行楽地が多い。

あしやがま 【芦屋釜】 筑前(ちくぜん)(福岡県)の芦屋でつくられた釜。鎌倉時代の末に始まり，桃山時代に京釜が興るまで栄えた。形式は標準的な真形釜(しんなりがま)が多く，羽のあるのを普通とする。山水図・草木図などの地紋が鋳出されたのが多い。地はだは鯰肌(なまずはだ)のようななめらかなところに特徴がある。鬼面・遠山の鐶付(かんつき)が多い。作者としては山鹿(やまが)太郎・太田(おおた)左近・大江宣秀が，室町時代に知られた。分派に，越前(えちぜん)芦屋・伊勢(いせ)芦屋がある。 ➔茶釜 〔桑田忠親〕

あしやどうまんおおうちかがみ 【芦屋道満大内鑑】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物。竹田出雲*(いずも)作。通称《葛(くず)の葉》。1734年(享保19)竹本座*初演。信太(しのだ)の森の葛の葉キツネが安倍保名(あべのやすな)と契って安倍晴明が生まれ，陰陽博士(おんみょうはかせ)となったという異類婚の伝説をもとにつくられたもの。人形の3人づかいの形式はこの作に始まった。歌舞伎(かぶき)に移されたのは1748年(寛延1)大阪角座(かどざ)初演である。 〔前田慎一〕



アジメドジョウ

あじゃり 【阿闍梨】 梵語(ぼんご) ācārya(アーチャーリヤ)の音写で，軌範師・正行・教授などと訳される。弟子(てい)を教え，その行為を正して弟子の模範となるべき高徳の僧。もと，バラモン教で弟子に教説する師を称したのを仏教教団が採用した。教団の発展とともに，剃髪(ていはつ)の阿闍梨や経典を教授する阿闍梨など，数種の別ができた。大乗仏教では特に秘法を授けられた高僧をいうことがあり，また，仏を称することもある。わが国では，僧職名の一つともなっている。 〔平井有慶〕

アジャール(自治共和国) [Adzharskaya A.S.S.R.] ソビエト連邦グルジア共和国内の自治共和国。西は黒海に臨み，南はトルコと接する。首都はバツーミ。面積3,000km²。人口31万(1970年推計)。温帯ないし亜熱帯性の気候で，年間の降水量は2,500mmに達する。住民はアジャール人(グルジア人で回教を信ずる者)55%，グルジア人15%のほか，ロシア人・アルメニア人など。主産業は農業であるが，山地が多いため耕地は国土の14%程度。茶・柑橘(かんきつ)類・ブドウなど樹木作物が農業生産の60%を占め，牧畜も肉用・乳用のウシを中心として行なわれる。バツーミには，バクーからの石油のパイプラインが敷設され，石油精製・造船・食品加工などの工業が興っている。海と山の風光に恵まれた避寒・保養地としても知られ，バツーミ・コブレチなどはその中心都市である。1878年にトルコ領からロシアに併合され，1921年ソビエト連邦を構成するグルジア共和国の自治共和国となった。 〔斎藤晨二〕

アジャンクールのたたかい 【アジャンクールの戦い】 1415年，百年戦争*後期の激戦。イギリス王ヘンリー5世*は，ブルゴーニュ公の中立の密約を得て北フランスのノルマンジーに上陸し，アジャンクールでフランス騎士軍を破り，北フランスを一挙に制圧した。このためフランス王シャルル6世*は王位を譲ることを約したトロワ条約を結んだ。

アジャンターせっくつ 【アジャンター石窟】 インド，デカン高原の北端にある石窟寺院。湾曲したワゴーラ川の断崖(だんがい)におよそ29個の仏教石窟が開削された。アジャンターは石窟の整然とした形式や，特に窟内に保存された美しい壁画でよく知られる。現存の石窟がすべていちどにつくられたのではなく，第8～13窟の番号でよばれているものが最も古く，紀元前後1世紀間のもの，ほかは5～6世紀のグプタ朝時代ないし7～8世紀のグプタ後期のものである。石窟は機能の上で2形式ある。仏塔を安置したチャイチャ窟(礼拝堂)と僧侶(そうりょ)の起居するビハーラ窟(僧院)で，はじめこの2種が組み合わさって一つの寺院(伽



アジャンター石窟　第1窟壁画の菩薩像

藍(がらん))をつくった。グプタ朝時代になると，僧院は奥壁に尊像が安置され，壁画による荘厳(しょうごん)も多くなり，仏殿に近くなる。壁画の題材はブッダの伝記や前生物語で，赤みがかったかっ色に黒・緑・白の絵の具を用い，巧みな輪郭線とくまどりで，屈曲した豊満な姿を表現する。これはインド絵画の特徴で，その影響は遠く法隆寺壁画にまで及ぶ。　〔小谷仲男〕

アシャンティ　［Ashanti］　アフリカ西部，ガーナ共和国中部の州。面積25,000km²，人口110万8,000(1960)。中心都市クマシ。19世紀初頭イギリス人によって征服され，1957年ガーナ共和国の独立によりその一州となった。サバナが広がり，この国最大の輸出作物であるカカオ栽培の中心地である。この地に住むアシャンティ族はこの経済力を背景とし国政に強い発言権をもっている。

あしゅ　**【亜種】**　生物分類の一単位。種(species)の下に置かれる段階であるが，実際には種と亜種の区別はむずかしい。一般には亜種の段階では生殖的隔離が不十分か，またはないとされている。➔隔離

あしゅくぶつ　**【阿閦仏】**　大乗仏教で重要な仏の一。〈あしくぶつ〉ともいう。阿閦とは不動・無瞋怒の意。東方のはるかかなたの妙喜世界という浄土で，大日如来が出現してから，ひとりの修行者がいっさいの怒りと淫欲(いんよく)を断つことを誓願し，無怒とよばれた。彼は修行ののちに悟りを得，いまも現にそこで説法しているという。西方極楽浄土の阿弥陀仏(あみだぶつ)は有名だが，この仏もきわめて古くから信仰されてきた仏で，蓮華台(れんげだい)上にすわり，右手を地にたれ左手に衣を握る姿で，黄金色をしている。　〔平井宥慶〕

アシュート　［Asyut］　アラブ連合共和国，ナイル川西岸の都市。人口17万6,000(1970)。象牙(ぞうげ)細工・綿織物・陶器・木製装飾品など，同国の伝統工芸の中心地として有名。19世紀半ばまでは，奴隷市が開かれた。



阿修羅　興福寺蔵

アシュバゴーシャ　［Aśvaghoṣa］　馬鳴(めみょう)と訳される。2世紀に出たインドの仏教詩人。はじめバラモンの学問を学んでいたが，のち仏教に帰依した。クシャーナ王朝のカニシカ王の厚遇を受け，また菩薩(ぼさつ)の称号を受けた。古典サンスクリット文学の先駆者として知られ，《ブッダチャリタ》《サウンダラナンダ》《シャーリプトラープラカラナ》など美しい詩を残した。

あしゅら　**【阿修羅】**　古代インドの文学に現われる悪神。修羅と略称される。梵語(ぼんご) asura(アスラ)の音写で，原意は呼吸すること。元来は呼吸・霊魂などから神・主の意味であったが，のちにはインドラ神(➔帝釈天(たいしゃくてん))と闘争する悪神をさす。仏典には，仏法を守護する八部衆の一つとして数えられ，また悟りに対する迷いの生存である六道・十界の一つとしておのおの説かれている。彫刻では三面六臂(ろっぴ)で表わされており，奈良興福寺の阿修羅像は天平(てんぴょう)時代の傑作として名高い。なお，俗に〈修羅場〉〈修羅のちまた〉〈修羅を燃やす〉などの語は，阿修羅の伝説やその闘争的性格から派生したといわれる。〔大南龍昇〕

あしょうさん　**【亜硝酸】**　HNO_2　弱い一塩基酸。硝酸HNO_3に比べて窒素の酸化状態が低いので，亜をつけてよばれる。薄い水溶液としてのみ存在する。亜硝酸塩に強酸を加えるか，硝酸に一酸化窒素NOを通じて得られる。加熱したり，濃厚になると次のように分解する。$3HNO_2 \rightarrow HNO_3 + 2NO$　また，酸化されれば硝酸に，還元されれば一酸化窒素になる。酸性下でアニリンをジアゾニウム塩に，脂肪族アミンをアルコールにする。使用時につくることが多い。　〔三輪 誠・玉野秀樹〕

あしょうさんえん　**【亜硝酸塩】**　亜硝酸HNO_2の水素原子を金属原子で置換した形の塩。硝酸塩の還元，または一酸化窒素と二酸化窒素を金属の酸化物か水酸化物に作用させて得られる。アルカリ金属塩は硝酸塩を熱分解して得られる。アルカリ金属塩・アルカリ土類金属塩は多くは淡黄色結晶で強酸により亜硝酸を生じる。反応は酸性下で行なうことが多いので亜硝酸の反応に類似している。亜硝酸イオンNO_2^-は硫酸により赤色の二酸化窒素NO_2を発生すること，グリース試薬(スルファニル酸とα-ナフチルアミンの酢酸溶液)で赤色を呈することで検出でき，また遷移金属原子に配位してニトロ・ニトリト錯体をつくる。染料・顔料・発泡材(はっぽうざい)として使用。

〔三輪 誠・玉野秀樹〕

あしょうさんきん　**【亜硝酸菌】**　アンモニア態の窒素を亜硝酸態の窒素にする細菌の総称である。ニトロゾモナス属に属する種類が多い。プセウドモナス科に属する。おもに土壌(どじょう)中に生息し，自然界の窒素の循環に重要な役割をもつ。➔硝化細菌

アショカ(王)　［Aśoka］　パーリ語でAsoka(アソーカ)といい，漢訳仏典に阿育(あいく)・無憂(むう)などと訳されている。インドのマウリア朝第3代の王。在位BC268年ごろ～BC232年ごろ。祖父チャンドラグプタの偉業を受け継いで，古代インドにおける最初の統一国家を完成した。その版図は西はアフガニスタン・アラコシアから，南はインド半島の南端近くに及んだ。彼は在位中の事業を詔勅として岩壁や石柱に銘刻して帝国の要衝に建てた。カリンガ征服の惨状が動機となって仏教に帰依し，法大官を設けてすべての宗教に寛容な政策をとった。内に行政機構の整備と経済の発展を図り，外には辺境地帯およびギリシア・エジプト諸国へ使節を派遣して，法による親善と平和な外交を樹立した。　〔塚本啓祥〕

アショカおうせきちゅう【アショカ王石柱】 マウリア朝のアショカ王*が仏教聖地などの要所に建立した石柱。柱身には仏教精神に基づいたアショカ王詔勅の一部が刻まれている。石柱はすべてベナレス産の淡黄色砂岩を用い，頂上に蓮弁台(れんべんだい)とライオン・ゾウ・ウシなどの影像を載せ，高さ13mに及ぶものもある。この石柱形式にはペルセポリスなどの古代ペルシア芸術の影響がある。

あしょろ【足寄(町)】 北海道の十勝(とかち)支庁の町で，池北線に沿う。人口13,000。1,400km²という広い町域は，全国の市町村中第1である。町域の80%は森林で木材の生産が多い。畑には主として豆類・ジャガイモ・燕麦(えんばく)・テンサイをつくり，また乳牛・肉牛を多く飼っている。阿寒(あかん)国立公園の一部にあたり，中心集落の足寄市街はその西の入り口である。

あしらい 日本音楽用語。三味線(しゃみせん)音楽などで，歌と伴奏楽器との拍子の取り方がずれるときに，一時的に故意に拍節感をはずし，それから新たに本来の拍節感に乗せるべく間*を合わせる手法をいう。また，合奏に際して即興的に演奏することをもさす。なお，能の囃子(はやし)のアシライは，自由リズムの謡に対する囃子の規定された型，あるいは能管が自由リズムで奏することをいう。

あじろ【網代】

1 霞ケ浦(かすみがうら)などにみられる網漁具の一。楕円(だえん)形の囲い網と垣網*(かきあみ)からなり，囲い網には4～5個の袋網がついている。この網を岸から湖の中央に向かって，多くの場合数個連結させて敷設する。コイやフナなどが漁獲のおもな対象となっている。

2 古く用いられた魚を取るしかけ。川瀬に網を引いたように竹や木を編み連ね，末端に簀(す)を置いた。

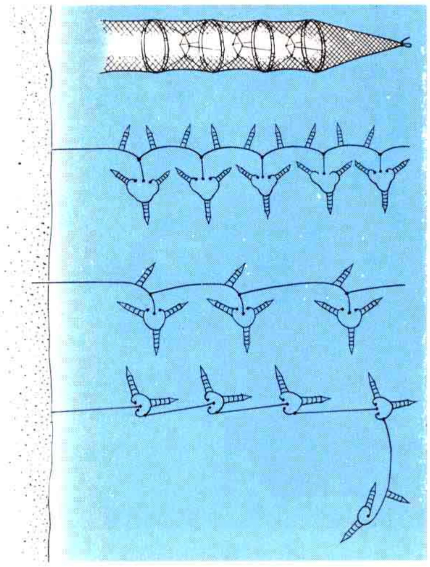
あじろ【網代】 薄く裂いた細長い木や竹を編んで網状にしたもの。本来は数寄屋(すきや)建築や茶室の天井・羽目などに用いられたが，現代では住宅の和室に茶室ふうの感じを出すために用いられる。編み方もいろいろあり，ひし形が多く，碁盤目・市松などに編む。材料としては，スギ・ヒノキ・キリがあり，意匠によって杉皮(すぎかわ)・煤竹(すすだけ)などの皮を用いる。天井・羽目のほか，網代戸・網代格子(ごうし)・網代垣(がき)・網代笠(がさ)として使う。〔神山幸弘〕

あじろおんせん【網代温泉】 静岡県熱海(あたみ)市の南部，網代湾に臨む温泉で，泉温50～70℃の食塩泉。1937年(昭和12)に開かれた新しい温泉で，多賀温泉とともに南熱海温泉ともいう。網代は漁港で，ブリ・イカ・サバなどの沿岸漁業が盛んである。旧網代町は，1957年熱海市に編入された。

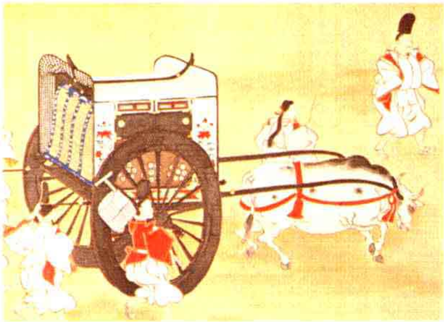
あじろぐるま【網代車】 牛に引かせる屋形車の一種。平安貴族の乗り物で，車箱をヒノキやタケで網代*に組んだ。身分・位階によって種別があった。→牛車(ぎっしゃ)



アショカ王石柱



網　代



網代車《春日権現験記》から　東京国立博物館蔵

あじろひろのり【足代弘訓】(1784～1856) 江戸末期の国学者。号は寛居(ゆたい)。伊勢(いせ)神宮の神官。荒木田久老*や本居宣長(もとおりのりなが)の長男春庭らに学び，古典の類聚(るいじゅ)・考証に力を入れた。大塩平八郎*と親しく，天保(てんぽう)の飢饉*(ききん)には私財を投じて難民救済にあたり，晩年には尊王を説いて志士と交遊した。《歌集類語》《万葉類語》などの著のほか，歌人としての才能を示す家集《海士(あま)の囀(さえずり)》がある。

あしわらがに【葦原蟹】 甲殻(こうかく)類・イワガニ科。甲の幅4cmどまり。全体あせたような青白い色をしている。名のとおり，海水のさす岸近くのアシ原の土中にすんでいることが多い。分布は広く，日本では青森以南。

アース［earth］ 電気機器のフレーム・シャーシあるいは金属性外箱と大地との間を電気の良導体で結び，フレームなどの電位を大地の電位に近づけること。接地ともいう。アースする目的は次のとおりである。①電気回路網における異常電圧発生時における機器の保護：避雷針とか三相交流回路の中性点接地などがその例で，遮断器(しゃだんき)と組み合わされて電力供給の信頼度を高めている。②回線配線の簡略化：電車のようにレールを接地線(帰線)として架線からの単線供給を可能にしたり，自動車の電気回路，ラジオ・テレビのように車体やシャーシを接地側にして配線を簡単にする例がある。③漏電事故の際の危険率低減(後述)。④通信機器のアンテナ特性の向上。

電気機器が故障して，通電部分が接地をしない外箱などに触れているとき，人体の一部が外箱に触れると，通電部分──→外箱──→人体──→大地の経路で電流が流れる。商用周波数(50または60ヘルツ)の交流電流を持続的に流した場合，電流の大きさによって，はだに痛みを覚えたり，激しい筋肉の収縮が起こったり，100mA程度になると致命的になるなどの危険を伴う。また，電圧が低いときは交流のほうが直流よりも危険である。100V級以下の直流ならびに40V程度以下の交流で感電死することはまれである。ヨーロッパなどで一般住宅の電燈線に200V級の交流を用いているが，感電に対する危険率はかなり大きく，機器の接地が重要になる。電線管としての金属管，モーターのフレーム，洗たく機の外箱のようなものは接地するのが普通であるが，理想的な接地は困難で，一般に接地抵抗が0にならない。したがって漏電によって電流が大地に流れると外箱の対地電圧が上がり，これを人体に安全な値(たとえば40V以下)に保つことは多くの場合不可能である。欧米では特殊な接地方式，漏電遮断器などの採用により安全性の向上を図っている所もある。電動きりのような可搬電気工具の漏電はその危険度が高いので，3心コード(通電線2本と接地線：3相では4心コード)と接地極付プラグやコンセントを用いてフレ

ームを接地したり，小形変圧器で電圧を40V以下に下げて工具に供給する国が多い。〔田村康男〕

アスエラ［Mariano Azuela］(1873～1952) メキシコの小説家。1910年代のメキシコ革命に参加した経験をもとに，革命に関与した農民たちの悲劇を描出した革命小説《敗北者》，および社会風刺的な小説《ほたる》などが代表的作品。

あすか【飛鳥】 奈良盆地の南部，大和(やまと)川の支流飛鳥川の流域一帯の古い地名。明日香とも書く。大和朝廷の時代には天武天皇の飛鳥浄御原宮*(あすかのきよみはらのみや)をはじめ，歴代の皇居の多くが置かれていた。現在，ここは高市郡明日香村と橿原(かしはら)市・桜井市の一部になっているが，橿原市と桜井市では最近住宅化が急速に進行中なので，明日香村では歴史的風土の保存運動が起こっている。

あすか【明日香(村)】 奈良県高市郡の村。1956年(昭和31)この地域の3村が合併してできた。人口7,100。奈良盆地南東部にあり，飛鳥(あすか)川が中央を北流する。この地は大和(やまと)朝廷の中心地であった飛鳥*の一部で，飛鳥寺・岡寺・橘(たちばな)寺・飛鳥神社などの古社寺や，石舞台古墳*のほか，歴代の皇居跡・御陵が多いが，1972年に村内の上平田に高松塚古墳が発見されて，全国的に有名になった。

あすかいまさあり【飛鳥井雅有】(1241～1301) 鎌倉時代の歌人。《新古今和歌集》選者のひとり藤原雅経(まさつね)の孫にあたり，父は教定(のりさだ)，母は北条実時(ほうじょうさねとき)の娘。父祖以来鎌倉武士と関係が深く，彼も京・鎌倉間をたびたび往還した。《春の深山路(みやまじ)》《もがみの河路(かわじ)》などは，そのおりおりの紀行である。当時有数の歌人であり，また《源氏物語*》学者でもあった。家集に《隣女和歌集》がある。

あすかがわ【飛鳥川】 奈良盆地南部の山地稲淵(いなぶち)山を水源とし，北流して古都の地飛鳥を過ぎ，畝傍(うねび)山と天香久(あまのかぐ)山の間を通って奈良盆地に出，大和(やまと)川に流入する。流程30km。飛鳥はこの川が山間の渓流部(けいりゅうぶ)を脱した地点にあたることもあって，増水のたびに川中の地形を変えるさまを，人の世に結びつけて歌枕(うたまくら)とされ，〈世の中は何か常なる飛鳥川昨日(きのう)の淵ぞ今日(きょう)は瀬となる〉(古今和歌集)など，多くの古歌に読まれた。沿岸は石舞台古墳・藤原宮跡をはじめとして古寺や史跡の多い静かな田園である。〔長津一郎〕

あすかじだい【飛鳥時代】 ⇨ 次ページ

あすかでら【飛鳥寺】 奈良県高市郡明日香(あすか)村飛鳥にある新義真言宗の寺院。法興寺*(のちの元興寺*)の後身で，江戸時代再興のとき安居院(あんごいん)と名づけられた。飛鳥大仏で知られる釈迦(しゃか)如来座像は法興寺の本尊で，606年(推古14)鞍作止利*(くらつくりのとり)の作，1196年(建久7)雷火のため損傷，わずかに顔と右手指3本に当初のなごりをとどめている。また，塔を中心に三つの金堂を有する飛鳥寺式伽藍(がらん)配置は，奈良国立文化財研究所の発掘調査(1956・1957)によって明らかになった。〔永井信一〕

あすかのいたぶきのみや【飛鳥板蓋宮】 皇極・斉明天皇の皇居(643～645)。大化改新のときの皇居で，この宮で外門を閉ざし蘇我入鹿(そがのいるか)を殺したという。655年斉明(さいめい)天皇がこの宮で重祚(ちょうそ)したが1年ほどで火災にあい廃絶した。宮は島大臣(蘇我馬子)の邸に接してつくられたといわれ，現在の奈良県高市郡明日香(あすか)村岡の地がそれと考えられている。1959年(昭和34)以降の発掘でこの付近一帯に石敷を伴う宮殿跡が発見され，それが一部板蓋宮にさかのぼるものもあると考えられている。〔坪井清足〕

あすかのきよみはらのみや【飛鳥浄御原宮】 天武・持統天皇の皇居。天武天皇は673年ここに即位し，皇后であとを継いだ持統天皇も，藤原京に移る694年までここを皇居とされた。その宮跡地は諸説あるが，現在の奈良県高市郡明日香(あすか)村飛鳥の集落の北，雷ノ丘(いかずちのおか)の東の地とする喜田貞吉説が有力とされ，飛鳥小学校の北端に出ている敷き石がその一部だとされている。

あすかのきよみはらりつりょう【飛鳥浄御原律令】 近江令*(おうみりょう)に次いで編纂(へんさん)された法律。681年(天武10)編纂に着手し，689年(持統3)令22巻が施行され，701年(大宝1)の大宝律令*施行まで実施された。律のほうは施行時・巻数などは明らかでない。浄御原律令の施行は，日本における律令制定史上一つの画期となり，これにより律令制度が基本的に確立された。大宝律令とは内容的に大差がないと考えられている。〔柳雄太郎〕

あすかのみやこ【飛鳥京】 古代，大和(やまと)盆地南部の飛鳥*に定められた皇居の総称。記録によればはじめてこの地方に都を置いたのは允恭(いんぎょう)天皇であり，その後は顕宗・継体・宣化・用明天皇，そして推古天皇の小墾田宮(おわりだのみや)，舒明(じょめい)天皇の岡本宮，皇極天皇の板蓋宮(いたぶきのみや)，斉明(さいめい)天皇の川原宮，天武天皇の浄御原宮(きよみはらのみや)，持統・文武・元明天皇の藤原京までである。遠く飛鳥を離れた孝徳天皇の難波長柄豊碕宮(なにわのながえとよさきのみや)，天智(てんち)天皇の近江大津宮(おうみのおおつのみや)などは例外である。飛鳥を中心とするこの時代は日本古代国家の成立期にあたった。〔柳雄太郎〕

あすかびじゅつ【飛鳥美術】 仏教公伝*(538)のころ以後，わが国は伝来した朝鮮半島や大陸の文化を盛んに摂取して，推古朝(592～628)を中心に仏教を基調とする文化の一様式が形成された。そうしてそのころ歴代の皇居が置かれた飛鳥*を中心とする狭い地域にこの文化が栄え，数々の美術品が生み出された。現在も法隆寺などにいくつかのすぐれた遺品がみられ，往時の生活感覚の一端がしのばれる。ことに，仏像は鞍作止利*(くらつくりのとり)というすぐれた仏師が出たこともあって，かなりの作品が残されている。法隆寺金堂の薬師如来座像，釈迦三尊(しゃかさんぞん)像，宝蔵殿の百済観音像，夢殿の救世観音(ぐぜかんのん)像，中宮寺および広隆寺の弥勒菩薩(みろくぼさつ)像，飛鳥寺の釈迦如来座像などであるが，これらはいずれも中国の六朝(りくちょう)，特に北魏(ほくぎ)の影響



飛鳥美術 (左)玉虫厨子台座絵《捨身飼虎図》法隆寺 (右)法隆寺金堂の釈迦三尊像(国宝)，623年鞍作止利の制作

飛鳥時代

推古朝(592～628)を中心とする前後の時代をいう。本来は美術史・文化史上の時代区分であるが，これを政治史にも用いることがある。美術史・文化史の分野でもそうであるが，政治史においてもその範囲について定説は必ずしも存在しない。ある場合には推古朝から大化改新*(645)までとし，またある場合には終末の時期をさらに下げて平城遷都*(710)までとする。ここでは大化改新以後について，飛鳥時代とは別に白鳳(はくほう)時代という一時期を立てる説が美術史家などの間に行なわれていること，および政治史上でも大化改新によって前後の時期を区別することは妥当であり，また必要でもあると考えられるので，前説すなわち推古朝から大化改新までの約半世紀を飛鳥時代とする説をとることとする。この時代，皇居は多く奈良盆地の南部にあたる飛鳥*にあった(推古天皇の豊浦宮(とゆらのみや)・小墾田宮(おわりだのみや)，舒明(じょめい)天皇の岡本宮・田中宮・廐坂宮(うまやさかのみや)，皇極天皇の板蓋宮(いたぶきのみや)など)ので飛鳥時代とよばれるが，考古学的には古墳時代の終末期にもかかる。

大和朝廷はおそくとも4世紀の中ごろまでに北九州地方を含む西日本の統一を達成したが，この段階では各地の豪族は従来の土地・人民の支配をそのまま認められながら，中央のゆるやかな統制下にはいっていたものらしい。しかし5世紀以降，大和(奈良県)・河内(かわち)(大阪府)地方の開発が急速に進み生産力が飛躍的に増大すると，王権は著しく強化され，中央と地方の格差が広がった。それと並行して中央では有力豪族による政権争奪が，皇族をも巻き込んで激しく展開され，やがて王権の衰退，皇室の衰微をもたらした。5～6世紀にかけて葛城(つつらき)・平群(へぐり)・大伴(おおとも)・物部(もののべ)の諸氏が盛衰興亡をくり返し，やがて蘇我(そが)氏専権の時代を迎えるのであった。その結果として国の内外において，大和朝廷の権威は低下を免れなかった。

朝鮮半島に目を転ずると，ここでは4世紀以来日本の支配下にあった任那(みまな)が，わが国策の動揺・矛盾，新羅(しらぎ)の勢力の伸長，任那諸国の離反によって562年まったくわが手を離れて新羅に帰し，日本の退勢はおおうべくもなかった。中国大陸では隋(ずい)が589年に南北両朝を統一し，次いで618年(推古26)には唐が起こり，周辺諸国に強い圧力を加えるに至った。かくて日本は6世紀末には内外ともに重大な局面にぶつかった。聖徳(しょうとく)太子が推古天皇の委託を受け摂政として万機を親裁するようになったのは，まさにこのような時期であった。太子の当面の課題は独走する蘇我氏や諸豪族の勢力と妥協しつつ，王権の強化と国力の拡充をいかにして実現するかにあった。太子の新政とはこの課題にこたえる試みであり，そこに飛鳥時代の特色が最もよくみられたのは当然である。以下，太子の政治・外交・文化など各方面にわたる治績を概述しよう。

5～6世紀にかけて朝廷内部で諸豪族が抗争を重ねたことはさきにも触れたが，欽明(きんめい)朝のはじめに大伴氏が衰えてからは，蘇我・物部両氏の間にいっそう熾烈(しれつ)な争いがくり返された。この対立は用明天皇没後の587年，諸皇子・諸豪族の支持を得た蘇我馬子が物部守屋を討ち滅ぼすことで解決した。ここに馬子は崇峻(すしゅん)天皇を擁立し政権をほしいままにしたが，やがてこれを不満とする天皇と鋭く対立し，ついに592年人をして天皇を暗殺させた。ここに皇室は重大危機を回避すべく女帝推古を立て，翌年おいの聖徳太子が天皇に代わって政治の衝にあたることとなった。これは天皇と大臣の直接の対決を避け，摂政に全権をゆだねることで天皇の地位の保全を図ったものと思われる。

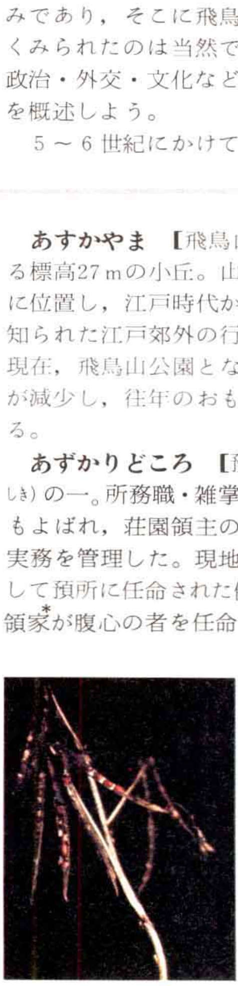
太子が政界にはじめて登場したのは，このような皇室の危急存亡のときであったといえる。そして，彼はその後約30年にわたり政治をとったが，内政面では馬子と協調しつつ改革を試みていく。603年冠位十二階*の制を定めて天皇による豪族の序列化，人材登用，忠良なる官僚の獲得を図り，翌年には十七条憲法*を制作して天皇の尊厳と臣道の実践を説き，天皇絶対の理念を打ち出している。こうした君主権強化の動きは太子よりさき，すでに6世紀の後半にはみられた。太子はこれを受け，さらに天皇を中心とする集権国家体制の整備を推し進めんと図ったのである。かかる動きは，①朝廷の政治機構の改革再編，②皇室内部の制度的改革，③天皇親衛軍の強化，④地方豪族の統制強化などの諸点に認めることができる。①は

を強く受けていて，杏仁(きょうにん)形の目と仰月形のくちびるをもち，口もとに古拙な微笑をたたえている。そこには図様化された衣紋(えもん)とともに，象徴的で簡明な飛鳥美術の特徴がうかがわれる。また，絵画や工芸においても文献や古墳の出土品から絵師の名や技法を知ることはできるが，それらは帰化人あるいは帰化系工人の名とその技法であり，著名なものでは法隆寺の玉虫厨子*(たまむしのずし)や中宮寺の天寿国繡帳*(てんじゅこくしゅうちょう)があげられる。総じて飛鳥時代の美術は，のちの白鳳美術がいくぶんか日本的な特色をみせはじめたのに比べて，まったく大陸の影響下にあり，その忠実な模倣であった。〔佐藤昭夫〕

あすかべつねのり【飛鳥部常則】 平安中期の絵師で生没年・伝記ともに不詳。954年(天暦8)に村上天皇筆の金字法華経(ほけきょう)の表紙絵，964年(康保1)には清涼殿に白沢王像を描いた。また972年(天禄3)には，賀茂祭御禊(かもさいみそぎ)の作り物に彩色している。巨勢公望(こせのきんもち)をしのぐ当時第1の名手であり，書の小野道風*(とうふう)と並称されていた。

あすかやま【飛鳥山】 東京都北区にある標高27mの小丘。山手台地の崖端(がいたん)に位置し，江戸時代からの桜の名所として知られた江戸郊外の行楽地の一つであった。現在，飛鳥山公園となっているが，桜の木が減少し，往年のおもかげはなくなっている。

あずかりどころ【預所】 荘官職(しょうかんしき)の一。所務職・雑掌職あるいは代官職ともよばれ，荘園領主の代理人として荘園の実務を管理した。現地の領主が荘園を寄進して預所に任命された例もあったが，普通は領家*が腹心の者を任命し，領家の利益を代表した。



アズキ

あずき【小豆】 双子葉植物・マメ科の一年生草本。ふつう，茎の高さは30～60cmで，数本の分枝が出るが，高さ2～3mに及ぶつる性の種類もある。葉は先のとがった円形の3小葉からなる複葉で，葉・茎ともに毛がある。花は黄色の蝶形(ちょうけい)で，2～3花群生し，午前中に開花受精する。さやは長さ9～12cm，幅5～8mmの円筒形で，3～10個の種子を包む。さやは成熟すると淡かっ色となり，種子は100粒重で10g前後の大きさのものが多く，種皮の色は赤かっ色をするのが普通であるが，異なった色の品種もある。大納言・中納言・小納言などはわが国に栽培される代表的な品種である。温暖多湿な気候を好み，全国各地でつくられるが，北海道での栽培が多い。4～5月にまいて夏収穫するか，6～7月にまいて秋収穫する。豆はデンプン・タンパク質ともに多く，古くから，赤飯に用いたり，あんにして菓子やしるこの原料としている。〔松本正雄〕

あずきあらい【小豆洗い】 ざくざくとアズキをとぐような音を川端(かわばた)でたて

中央における官司制の整備であり，朝廷所属の部(べ)を新方式でいっそう強く統制していったこと，②は皇室所有の部を数種類に統合し，后妃・皇子女の部をそれぞれ単一化して経済的・制度的な改革を実施したこと，③は東国国造(くにのみやつこ)の子弟よりなる舎人軍(とねりぐん)や伴造(とものみやつこ)らを徴して編成した親衛軍の強化，④は朝廷の直轄領たる屯倉(みやけ)を地方に設定し，国造など地方豪族をその管理者として地方官に編成していったことを示している。かかる動きは太子の時代にはいっそう顕著にみられたのである。

次に外交問題に目を向けてみると，太子は皇室の主導権を確立せんと図り，562年任那喪失以来歴代の懸案であった新羅征討を2度までも試みた。しかしこれが失敗に終わると，一転して大陸との国交開始を求め，隋に使者を派遣した。《隋書》によれば600年，《日本書紀》によれば607年である。いずれにせよ新羅征討を非現実的とし，国力強化・君主権確立のため大陸のすぐれた文物制度を導入することの必要を認識した結果であり，太子の外交家としての感覚を示している。太子は遣隋使*小野妹子*(いもこ)に持参させた国書に〈日出(い)づる処(ところ)の天子，書を日没する処の天子に致(いた)す。恙(つつが)なきや〉と対等の態度を示して煬帝(ようだい)の怒りを買ったが，隋は高句麗(こうくり)討伐準備中なので，まげてわが要求をいれ，ここに日隋外交が開始された。太子の手腕が示された事件であろう。さて608年妹子の再渡海にあたり，留学生・学問僧8人が随行し，30～40年の長期にわたり中国に学び，やがて次々に帰国した。これは太子の政治には間に合わなかったが，彼らのもたらした律令(りつりょう)に関する知識は，やがてきたるべき大化改新に具体的な方向を与えることとなった。

太子の政治は確かに当時において注目に値するものであったが，残念ながら氏姓制度*・部民制度*にはほとんど手をつけなかったため，政治の根本的変革は期待できなかった。太子が622年に没すると時世は蘇我氏専権時代に逆もどりしてしまった。628年推古女帝の崩御(ほうぎょ)後，蝦夷(えみし)は太子の子山背大兄王(やましろのおおえのおう)をおさえて舒明天皇を立て，さらにそのあとには皇后皇極を立てて山背の即位を妨げ，643年蝦夷の子入鹿(いるか)は王一家を襲殺した。この事件を契機に反蘇我勢力は急速に結集することとなり，645年中大兄皇子*(なかのおおえのおうじ)・中臣鎌足(なかとみのかまたり)らを中心とする一派のために蘇我大臣家は討滅され，ここに大化改新の開幕となるのである。



飛鳥(明日香)の里　甘樫の丘より飛鳥寺方面を望む。このあたりは飛鳥時代に都のあったところで，陵墓・古寺などの史跡が多い

さて，この時代の経済・社会のしくみをみると，豪族は氏上を中心に氏人がまとまり，部民・奴婢(ぬひ)を所有し，私有地を耕作させてその経済・軍事的基盤とし，また朝廷に一定の地位を占めて政治に参与していた。このような事情は皇室にあっても同様で，全国の土地・人民は皇室・豪族に分割支配され，君主権の確立は容易でなかった。氏姓制・私地私民制をとるかぎり天皇制中央集権国家の樹立は不可能であった。大化改新がこれらを否定することを標榜(ひょうぼう)したのは当然であろう。太子は文化面でも皇室の主導的地位を確立した。蘇我氏に代わって仏法興隆の主役となり，みずから《三経義疏*(さんぎょうぎしょ)》を著わして仏教教義に深い理解を示したばかりでなく，法隆寺*・四天王寺*などの諸寺を建立(こんりゅう)するなど仏教の興隆に努め，かねて人心教化のよりどころを仏法に求めようとした。この結果仏教に伴う諸芸術・文化が一時に花開き，前代の古墳文化は面目を一新した。これを飛鳥文化といい，貴族的・国際的かつ健康的であり，高度な内容をもつ点にその特長がある。〔黛　弘道〕

る妖怪*(ようかい)。同じような話は全国的に信じられている。出現の場所は水辺を主とするが，路傍や屋内の天井という話もある。怪しい音をたてる怪異の一種で小豆とぎ・小豆そぎともよばれ，その正体も怪しい老婆，ガマ・タヌキ・ムジナ・キツネが化けたとされるなど，地方によってさまざまに語られている。アズキをとぐような音というのは全国共通だが，なかには米とぎばばあ・洗たく狐(きつね)などの類話もある。特にアズキをとぐ音というのは，アズキが祝祭用の特別な食品だからとみられる。物音一つしない静かな夜中に，実在の小動物が水辺で土砂をせわしくかき動かすのを怪音とみなしたのがもとかとも思われる。〔今野円助〕

あずきいろ　【小豆色】　色名。アズキの実のような色。暗い赤色。普通は，①アズキの実の表皮の色，②アズキを煮た際の表皮の色よりもやや紫みが増した色をさす二つの場合がある。あずき色をおびたねずみ色*のあずき鼠(ねず)，あずき色をおびた茶色のあずき茶は，江戸後期に〈いき〉な色として人々に好まれ，流行した。日本工業規格(JIS)慣用色名〈アズキ色〉は，色相8.0R，明度4.5，彩度4.5の色と規定されている。〔武井邦彦〕
➔色

あずきがゆ　【小豆粥】　アズキを混ぜて煮たかゆ。小正月(1月15日)の朝あずきがゆで祝う風習があり，またやぶ入りで親もとへ帰って来る子どもたちを迎えるごちそうであったともいわれる。アズキを柔らかく煮ておき，別に白がゆをつくり，吹き上がってきたときにアズキを入れて煮，あられに切った水もちを入れて塩味で仕上げる。またアズキを柔らかく煮て，水を足し，白米と塩少々加えてかゆをたき，切りもちを入れる場合もある。天台宗では後者を紅かゆといって，11月23日の大師講に食べる風習もある。この縁起は中国に始まり，数種の説がある。《世諺(せげん)問答》には，〈唐に蚩尤(しゆう)という悪人があって，黄帝がこれを正月15日に平定したとき，蚩尤の魂はてんぐ，身は蛇霊(じゃれい)となり，人民を悩ました。黄帝が天に祈るとお告げがあり，魂魄(こんぱく)をあがめ幣身を滅せよ，とあったので，月ごとに幣を献じ，蚩尤の命日である正月15日にあずきがゆをもっててんぐを祭り，東に向かって再拝して，これを食すれば年中の疫気を除く〉としるされている。

わが国の起源は〈七草粥〉と同じく平安時代の寛平(かんぴょう)年間(889～897)からという。《日本歳時記》によるとあずきがゆのことをはじめは〈七種粥(ななくさがゆ)〉といって米・アワ・キビ・ヒエ・ゴマ・アズキを混ぜてかゆとした。《九条の右丞相(うじょうしょう)の記》には〈白穀・まめ・あずき・くり・あわ・かき・ささげなり。〉としるしてある。これがのちにアズキと米ともちでかゆをつくるようになった。これに関し《倭訓(わくん)の栞(しおり)》に〈正月15日のかゆを焼きたる木を削りて杖(つえ)とし，子を持たぬ女房の後ろを打てば男女を産むといへり。〉とある。この風習が，子を産むまじないとして，平安時代から江戸初期まであったことは《枕草子(まくらのそうし)》《狭衣(さごろも)物語》などにみえている。〔塩川ふみ〕

アスキス　［Herbert Henry Asquith］(1852～1928)　イギリスの政治家。オックスフォード大学卒業後弁護士となり，1886年自由党から下院にはいり，内相・蔵相を歴任。1908年首相となる。グラッドストン*の

後継者で，自由主義者として〈議会法〉を成立させ，上院の拒否権を制限し，老人年金など社会保障制度の確立に尽くした。1914年グレー*外相を支持して対独宣戦を決し，1915年自由党と保守党・労働党の連立内閣を組織したが，その戦時指導について国民から批判され，辞職してロイド-ジョージ*に代わった。〔松下京子〕

あずきぞうむし【小豆象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・マメゾウムシ科。体長2～3mm，体はほぼ卵形。体背面は赤かっ色で，鞘翅に黒かっ色または黒色の斑紋(はんもん)をもつ。触角はくしの歯状。東洋区*・旧北区などに広く分布し，アズキ・ササゲなど豆類の大害虫。貯蔵中の種子の表面に産卵し，幼虫は種子中にはいって食害し，その中でさなぎとなり，羽化すれば穴をあけて脱出する。畑では実のさやに産卵し，幼虫は種子中にはいったまま収穫され，翌春さなぎとなって羽化脱出する。飼育が簡単なので，種々の実験材料として用いられることが多い。〔鈴木邦雄〕

アスクレピオス〔Asklepios〕ギリシア神話の医神。アポロン*とテッサリア王女コロニスの子。冥府(めいふ)に通ずる三途(さんず)の川の渡し守ケイロン*に育てられ，彼から医術を学んだ。また，アテナ*から死者をよみがえらすゴルゴン*の血を授かったが，死者を生き返らせたためゼウスの怒りをかい，雷に打たれて死んだ。その崇拝の中心地はエピダウロス*で，ヘレニズム時代以降，特に栄えた。

あすけ【足助(町)】愛知県東加茂郡の町。人口11,500。矢作(やはぎ)川の支流巴(ともえ)川と足助川の合流点にあり，かつて飯田(いいだ)街道の宿場町として発達し，信州へ送られる塩がここで舟からウマの背に積み替えられた。現在は地方の行政・教育・商業の中心となり，林業が盛んで，キュウリ・トマトなどの高冷地野菜も栽培されている。

アスコルビンさん【アスコルビン酸】抗壊血病ビタミン。ビタミンCとよばれることが多い。水によくとけ，強い酸味がある。還元性の強い白色の結晶で，空気中でしだいに酸化され着色する。熱やアルカリにこわれやすいが，無酸素状態では熱には安定である。これの欠乏は皮下出血，紫斑(しはん)，筋肉関節痛，歯ぐきのはれや出血などの壊血病の症状を示す。このほか血管の強化，メラニン生成の抑制による色素の異常沈着防止などの作用があるといわれる。摂取されたアスコルビン酸は，すみやかに吸収され，血球・網膜・脳下垂体・肝・副腎(ふくじん)皮質・脳などの組織に移行し，過剰は尿により排泄(はいせつ)される。ナツミカン・レモンなどの新鮮な果汁(かじゅう)や緑茶・野菜などに多く含まれる。現在は合成により製造されている。大部分の哺乳(ほにゅう)類では体内で合成するが，ヒト・サルなど一部のものでは合成されないため摂取する必要がある。成人1日の必要量は75mg。〔谷村顕雄〕

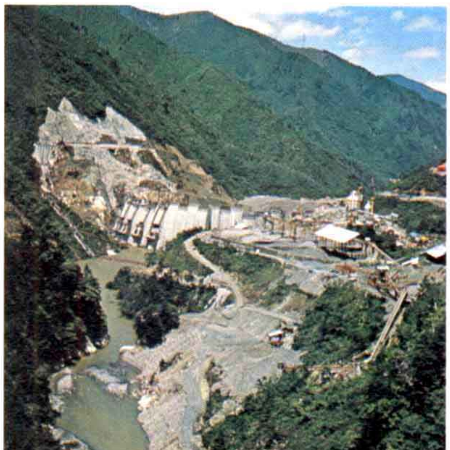
アスコルビンさんさんかこうそ【アスコルビン酸酸化酵素】酸素の存在のもとでアスコルビン酸*(ビタミンC)を酸化してデヒドロアスコルビン酸にする反応を触媒する酵素。銅を含むタンパク質で，キュウリ・カボチャ・ニンジンなどの高等植物組織や動物の副腎(ふくじん)皮質などに見いだされている。ダイコンとニンジンをいっしょにおろしたいわゆる〈もみじおろし〉は，ニンジン中に含まれるこの酵素によってダイコンのアスコルビン酸が破壊されるので，栄養上問題がある。〔吉田精一〕

あずさ【梓】双子葉植物・カバノキ科。ヨグソミネバリともいう。低山帯，平地の林中に自生する落葉高木。高さ20m，直径60cmに達す。樹皮は暗かっ色ではげやすい。枝を折るとサロメチールのような清涼な香気がある。葉は長さ5～10cm，卵形～長卵形，鋭先頭で重鋸歯(じゅうきょし)があり，葉裏の脈上に毛がある。雌雄同株で雄尾花序は枝の先端に下向きにつく。雌花穂は葉腋(ようえき)に上向きにつく。アカメガシワ，キササゲをアズサということもある。〔加藤僖重〕

あずさがわ【梓川】長野県西部，日本アルプスの槍ケ岳(やりがたけ)に源を発し，上高地から松本盆地に至るまでは峡谷を流れ，盆地に出て大扇状地をつくる。松本市の北西で，奈良井(ならい)川と合流して犀(さい)川となる。流程60km。清流と渓谷美(けいこくび)で名高い。最近電源開発工事が急ピッチで行なわれ，奈川渡(ながわど)・水殿(みどの)・稲核(いねこき)の3ダムが完成，発電所工事もほぼ完了した。総出力は90万kWである。

アスター〔aster〕双子葉植物・キク科。エゾギクともいう。中国原産の観賞用に栽培される一年草。高さ30～60cm。葉は卵形で鋸歯(きょし)がある。夏に枝の先に淡紅色・白色・紫色などの大きな花をつける。

アスタチン〔astatine〕周期律表第Ⅶ族に属するハロゲン族元素*の一。記号At，原子番号85。1940年にアメリカのセグレ・コーソンおよびマッケンジーがサイクロトロンを用いてビスマスにヘリウムイオンを当てて半減期7.5時間の^{211}Atを得た。1947年にギリシア語astatos(〈不安定な〉の意)から命名された。化学的性質はヨウ素に類似するが，これよりさらに金属性が強い。天然にも微量は存在するが，いずれも半減期1分以下の短寿命である。〔古屋　弘〕



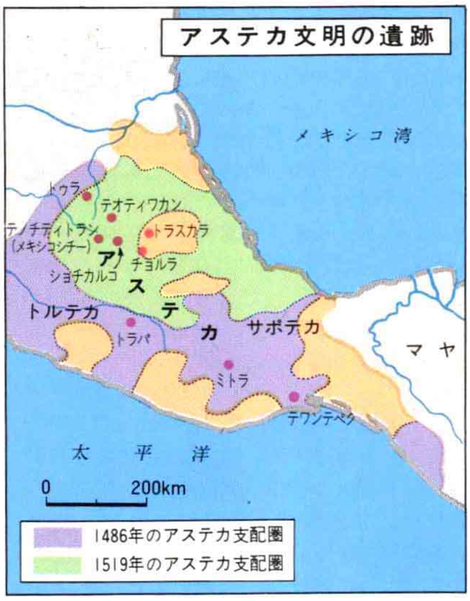
梓　川　梓川の豊富な水量と有効な落差を利用して奈川渡などのダムがつくられている

アースダム〔earth dam〕土を締め固めて台形に積み上げたダム*。昔はアースダムが灌漑(かんがい)用溜池(ためいけ)をつくる唯一のダムであって，奈良県および瀬戸内海に面した地方に多く現存している。近代式のダムは中心に粘土壁を入れ(粘土心壁式)，あるいは中央から外側に微・細・粗の順に土壌(どじょう)を配置して(ゾーン式)漏水を少なくしている。ダムの上流面はコンクリートを張って波浪による侵食を防ぎ，下流面は張り芝をして豪雨の洗掘から守る。高すぎると耐震性に欠けるので，わが国では相模(さがみ)川の大野ダム(高さ49.1m)が最高である。〔米屋秀三〕

アスツリアス(地方)〔Asturias〕スペイン北西部，ビスケー湾に沿う旧地方名。現在のオビエド地区。西はガリシア，南はレオン，東はカスチリア-ラ-ビエバ地方に接する。カンタブリア山脈が東西に走り，短い多くの急流がつくる深い谷は肥沃(ひよく)で，牧畜が盛んである。鉱物資源に恵まれ，瀝青炭(れきせいたん)はスペインの70%を占めるほか，鉄・亜鉛・銅・マンガンなどを産する。このため19世紀以来，首都オビエドに金属工業が発達した。海岸部では漁業と水産加工業が盛ん。ムーア人の支配時代にはキリスト教徒が最後の根拠地としたところで，のち，王国が建設され，長く独立国家として繁栄した。1838年から正式にはオビエドと改名された。〔梶川勇作〕

アステカ〔Azteca〕14世紀から16世紀初頭にかけてメキシコに栄えたインディオの帝国，およびその部族。英語でアズテック。アンデス地方のインカ*と並んで，アメリカ大陸にユニークな古代文明圏を形成した。メキシコ高原にはBC2000年ごろ，すでに農耕文明が成立しており，紀元後3～9世紀には，ピラミッドの遺跡で知られるテオチワカン*文明が栄えた。この文明は9世紀半ばに崩壊するが，10～11世紀にトルテカ族がこれを再興した。アステカ文明はこれらの文明を継承，発展したものといえる。メキシコ北部に居住したアステカ族は狩猟を主とする戦闘的部族として知られたが，13世紀にメキシコ高原に南下して定着すると農耕を営んだ。1325年にはテスココ湖の小島にテノチチトラン(現在のメキシコシチー)を建設し，15世紀後半の最盛期にはメキシコ高原一帯を制圧し，数百万人をその支配下に置いた。しかし，インカ帝国









アステカ
(左上)テオティワカンの太陽のピラミッドと住居跡。最盛時には80,000の人口を数えた
(右)アステカ王国の支配圏および主要遺跡
(下左)アステカ人の市場(復元) メキシコ国立人類学博物館蔵
(下右)太陽の暦石 アステカ人の宇宙観が示されている メキシコ国立人類学博物館蔵

のように被征服部族の同化政策に力を入れず，奴隷や神のいけにえにしたため，反乱が絶えなかった。

帝国の経済的基盤は共同体的土地所有(エヒド)による農業にあった。おもな農作物にトウモロコシ・タバコ・トマト・果実などがある。その社会構造は身分制社会で，貴族(王・軍人・神官・氏族長)・平民(農民・職人)・奴隷・商人に分かれていた。しかし，これらの身分は世襲ではなく，貴族となるためには特別な勲功をあげればよかったし，奴隷の子も自由民になれ，王は貴族の中で互選された。すなわち，家族が集まって氏族をつくり，氏族代表議会が地域代表を選び，そのひとりが王とされたので，王の権力も限定された。こうしたアステカの政治制度を貴族政治とよぶこともできよう。アステカ帝国の特色は，中央集権制と強力な軍隊にあり，神官階級の権限も強かった。教育制度・司法制度も整っており，また象形文字をもち，灌漑(かんがい)・水道などの土木事業や神殿建築にすぐれたものを残している。

文化面で最も特色あるのは宗教であろう。二元論的宇宙観に立ち，自然現象が神とされた。神々をなだめるため，人身御供(ひとみごくう)がしばしば行なわれた。特に太陽神のために，生きた人間から心臓が摘出され，献納された。人身御供のために捕虜を求めて他部族の征服を試みたことは，反アステカ感情を周辺諸部族に呼び起こさせた。トラクカラン族がコルテス*のアステカ征服に荷担したのは，こうした反アステカ感情によるものと解される。すでに衰退期を迎えていたモンテスマ2世統治のとき，コルテスと500人余りの騎兵・歩兵の侵入を受け，アステカ帝国は1521年，スペインの植民地となった。 〔松下 洋〕

アストラカン ［astrakhan］ ヒツジの毛皮用品種カラクールの胎児または生まれたての子からとる高価な毛皮。アストラハン*が集散地であるため，この名がある。毛は玉状または波状にちぢれ，光沢に富み，色は黒・茶・グレーなどあるが，おもに黒染めにして，防寒用帽子，がいとうのえり，婦人用コートなどに用いられる。なお，毛織物・化学繊維織物でそっくりにまねた布地も，アストラカンの名で一般に出回っている。 〔小池千枝〕

アストラハン ［Astrakhan］ ソビエト連邦，ボルガ川下流にあるアストラハン州の州都。人口42万7,000(1970)。ボルガ川とカスピ海を通り，ソ連の南部と北部を結ぶ水運の中継港で，木材・石油などを集散し，製材・精油・造船・水産加工などの工業が盛んである。漁港としても重要で，ニシン・チョウザメなどの漁獲が多い。

アースドリル ［earth drill］ 現場で大口径の基礎ぐいを打ち込むための垂直円筒掘削用機械。四角のシャフトの先端に歯のついた円筒バケットが取りつけられており，これが回転して掘削する。掘削径は通常1.0～1.5mであるが，土質により刃形を取り替えて，好む径の穴を掘ることができる。これを用いて機械的にピアを作成する工法をアースドリル工法といい，またカルウェルド工法ともいう。

アースドリル



アストリンゼントローション ［astringent lotion］ 収斂(しゅうれん)性の化粧水を

いう。アルコール・水・グリセリンの混合液に，ホウ酸・クエン酸・乳酸などの酸類を配し，少量の香料と色を添えてある。これらの酸類が汗腺(かんせん)や皮脂腺の開口部を引き締めて，分泌を適当におさえる効果があるので，多汗症や脂肪性はだの常用化粧水となっており，男性のひげそりあとにも用いられる。一般には夏季の整肌料(せいきりょう)として，はだの清浄化，化粧くずれを防ぐ目的で使われる。ただし酸度の強いものは常用するとはだをたるませるおそれがあるので，弱酸性であることが望ましい。
〔メイ－ウシヤマ〕

アストロノータス [astronotus] 硬骨魚類・シクリッド科。30cmほどになる淡水魚。ゲンゴロウブナを肥え太らせたような形だが，色彩は淡水魚離れして，一見海水魚ふうである。健康状態・年齢・原産地などで大いに違うが，だいたいオリーブ色を基調とした濃淡のまだらで，尾びれのつけ根にある赤で縁どられた目玉模様が目だつ。南アメリカ産だが日本でも観賞用によく飼われている。

アストロラーベ [astrolabe] 天体の高度を測定する器械。最も古いものは紀元前2～3世紀のころ，ギリシア人がつくったといわれている。垂直につり下げた円板の周囲に角度を目盛り，星をのぞく腕が目盛りに沿って回転するしくみになっている。持ち運びのできる天文器械として昔は重要な役割を占め，15世紀から18世紀初頭までは航海家の必携品であったが，以後六分儀*に取って代わられた。近代的なアストロラーベは，小望遠鏡にプリズムと水銀面あるいは水平に置いた平面鏡を組み合わせ，一定高度(たとえば60°とか45°)を通過する星を観測する装置で，現在経緯度の精密な測定に利用されている。
〔守山史生〕

アストン [Francis William Aston] (1877～1945) イギリスの実験物理学者。ケンブリッジ大学を終えてのち，キャベンディッシュ研究所でJ. J. トムソン*の指導のもとに陽極線分析によるネオンのアイソトープ分離を研究し，第1次世界大戦後，従来の拡散法に代わるものとして質量分析器を創案して，ネオンをはじめ数多くの元素のアイソトープ分離と質量の精密測定に成功。これは原子核反応の解析の出発点となった。1922年ノーベル化学賞を受けた。

アズナブール [Charles Aznavour] (1924～　) フランスのシャンソン歌手・作詞家・作曲家。アルメニア人の子としてパリで生まれた。家は代々歌手で，彼も幼ないころから舞台に立ち，子役を演じていた。1942年，シャンソン学校を開いたピエール-ロッシュと知り合い，作詞を手がけ，やがてロッシュと2重唱のチームを組んだ。1951年，ソロ歌手となり，ジャズのスタイルをシャンソンに取り入れて，最高の人気を獲得した。俳優として映画にもしばしば出演している。
〔永田文夫〕



アストロノータス



アスパラガス　果実

あすなろ 【翌檜】 裸子植物・ヒノキ科。日本特産の常緑高木。高さ20mに達する。幹は直立し，小枝は水平に出て互生する。葉はうろこ状で対生し，裏面の中央部は白色である。雌雄同株で4～5月に青緑色の雄花，淡紅緑色の雌花をつける。雄花は長楕円(ちょうだえん)形で鱗片(りんぺん)内に3～5個の葯(やく)がある。雌花は8～10個の厚い鱗片よりなり，5個の胚珠(はいしゅ)がある。果実は角のある球形で10月に熟す。建材・家具などに用いられる。和名は〈あすはヒノキになろう〉という意でつけられたという俗説がある。

アスパック ⇨アジア太平洋閣僚会議

アスパラガス [asparagus] 単子葉植物・ユリ科の宿根性草本。茎は春根株から多数発生し，生長すると2mぐらいの高さになり，多数の小枝をつける。葉は細い針状のいわゆる偽葉で，小枝に多数着生する。花は白色小花で，実は小球形で熟すると赤紅色を呈し，黒かっ色の種子を包む。雌雄異株。南ヨーロッパの原産といわれ，欧米での栽培が多いが，わが国では明治初年から，横浜や神戸(こうべ)の近郊や北海道で栽培が始まり，現在では北海道をはじめ岩手・長野・群馬・熊本県など畑の多い地方で栽培されている。

根株は実生か株分けにより養成されるが，年がたつにつれ根株が大きくなるので，春の茎の出も多くなる。若茎を食用に供するが，若茎を緑色のまま出荷する方法と軟白してかんづめ加工にする方法とがある。自然状態では4～6月に収穫するが，ビニルのトンネルを掛けたり，ビニルハウスで加温すれば，12～3月に収穫することもできる。なお，葉を観賞に供するための種類もある。
〔松本正雄〕

アスパラギンさん 【アスパラギン酸】 タンパク質を構成するアミノ酸の一つとして生物界に広く見いだされるα-アミノ酸で，必須(ひっす)アミノ酸*の一種。生体内ではプロリンなどの他のアミノ酸の合成にも用いられるほか，核酸塩基など生体基本物質の合成素材になっており，グルタミン酸とともに最も基本的なアミノ酸である。マメ科植物のもやしにはこの酸のアミドであるアスパラギンが特に多量に含まれている。

アズハリ [Ismail el Azhari] (1898～　) スーダンの政治家。スーダンは1954年1月自治政府を組織し，1956年1月独立したが，その前後首相を勤めた(1954～1957)。1958年11月アブード将軍指導の軍事クーデターが起こり軍事政権が成立したが，1964年9～10月の反政府暴動で再び民政に復帰，1955年の憲法が復活し，彼は1965年より国家最高評議会議長に就任した。

アズハルだいがく 【アズハル大学】 アラブ連合の首都カイロにあるアズハル寺院に付属する大学。世界最古の大学の一つで，特にイスラム世界の神学・法学研究の専門機関として知られ，創設は970年ごろ。その後，破壊・再建などの経緯はあったが，ナポレオンのエジプト遠征以後は，フランスの影響を受けて近代的な自然科学・地理学・史学などをも重視するようになった。イスラム法・アラビア学・医・工・農・商・神の7学部からなる。

アスピリン [aspirin] 化学名アセチルサリチル酸。サリチル酸系の代表的な解熱鎮痛薬。白色の板状または針状の結晶で無臭，わずかに酸味がある。服用後約1時間で小腸から吸収され，解熱鎮痛作用を現わす。解熱鎮痛薬としては1回0.5g，1日1～1.5gを内服する。このほか抗リウマチ作用があり，この目的には1日3～5gを用いることがある。大量に服用すると悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・耳鳴り・めまいなどの症状が現われ，特異体質の人では皮膚疹(ひふしん)や胃腸障害を起こす。
〔鈴木郁生〕

アスファルト [asphalt] 瀝青(れきせい)質ともいわれる。ギリシア語でかたくするという意味で，原油中の揮発分が蒸発して残留した半固体や固体状の物質。黒色または黒かっ色で粘着性があり，おもに二硫化炭素に完全に溶解する炭化水素混合物。天然に産出するほかコールタール・木タール・石油などの残留成分・熱分解生成物としても得られる。ペトローレンとよばれる石油可溶性の油状成分と，アスファルト樹脂とよばれる石油不溶性の保護質および微粒子状の炭素からなる。ペトローレンとアスファルト樹脂の存在割合によって数種類のアスファルトがある。天然産のアスファルト

には純粋な天然アスファルトもあるが，相当量の砂・砂岩・粘土などを含有するロックアスファルトもある。石油から得られるものは石油アスファルトとよばれ，石油蒸留の残留物として得られるストレートアスファルトと，残留物を加熱しながら空気を吹き込み酸化重合させて得られるブローンアスファルトがある。これらは防水・防湿・電気絶縁・道路舗装などに使用される。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

アスベスト　[asbestos]　石綿(いしわた・せきめん)ともいい，語源はいったん火に入れると冷えないとされたギリシア伝説の石の名に由来する。繊維状で柔らかく，燃えない繊維をつくることのできる鉱物をいい，鉱物学的にはジャモン石とカクセン石の二つに大別される。①クリソタイルまたは温石綿とよばれ，繊維状のジャモン石で，ジャモン岩中に緑色または黄緑色の脈状をなして産する。脈に直交して，ふつう長さ数センチメートルまでの繊維状結晶をなす。カナダのケベック，ソ連のウラル山脈地方が主産地。②カクセン石(クロシドライトなどいくつかの種類)。脈に平行に繊維状結晶が産する。産出量はクリソタイルより多いが質が劣る。アフリカ南部・オーストラリアが主産地。商業的には前者のほうが主で，耐熱繊維・石綿スレートなどに用いられる。　〔加藤敏郎〕

アスペルジラスしょう　【アスペルジラス症】　真菌*の一種アスペルジラス属の感染によって皮膚・外耳・副鼻腔(ふくびこう)・角膜・気管・胸膜・肺などが侵される疾患。全世界に分布しており，男女比は7：3で成人男子に多い。肺結核との鑑別上，肺アスペルジラス症が特に重視されている。深在性の本症は，重症疾患の末期，肺切除術後に合併しやすい。治療としてはアンフォテリシンBの静脈注入・気管内注入・点眼などの局所療法が最も有効であるが，限局性の場合には手術療法も行なう。〔国井乙彦〕

あずま　【吾妻】　⇨あづま

あずまあそび　【東遊】　雅楽の祭儀用歌舞の曲名。東舞ともいう。奈良時代以前から東国で行なわれていた風俗歌に基づいて，9世紀ごろ外来雅楽様式に即して編曲された。高麗(こま)調子という序の部分に一歌・二歌・駿河(するが)歌・求子歌・加太於呂志(かたおろし)・大広歌と続く。駿河歌と求子歌は舞を伴い，加太於呂志は短い間奏である。舞は4名または6名で舞われる。

あずまうた　【東歌】　《万葉集*》巻14の東国(遠江(とおとうみ)・信濃(しなの)以東)の，多くは農耕に従っていた歌人による短歌230首の総称。都の歌にあるのとは異質な土の香のするその叙情は，都の人々の活力ともなった。《万葉集》中の異彩として注目される。なお，《古今和歌集*》巻20には14首があり，わずかに当時の関心のありようをとどめている。

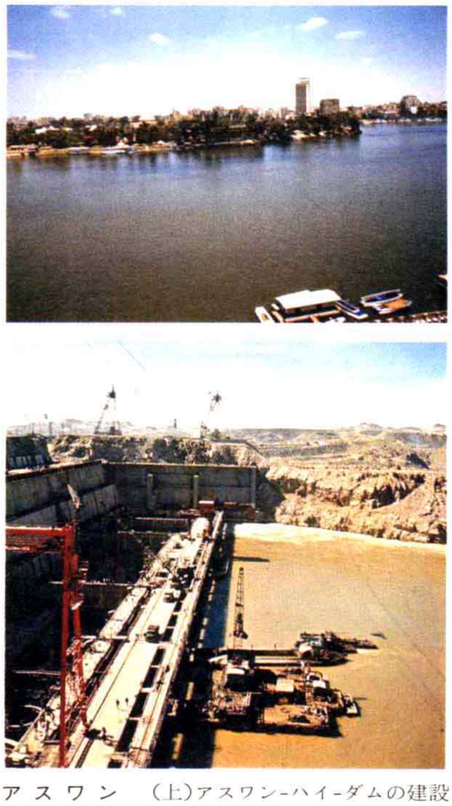
あずまおどり　【東をどり】　東京の花柳界の一つである新橋の芸者による舞踊会。新橋では芸者の芸の向上のために，1897年(明治30)から東会を開いたが，1925年(大正14)新橋演舞場の落成を機に定期の舞踊会として始められた。京都の都踊*にならって総踊りを主にし，古典・新作がにぎやかに並べられる。第2次世界大戦中は休会したが，1948年(昭和23)に復活し，いまは春に催される。



アスベスト　ジャモン石石綿(温石綿)
中国東北部産



アズマギク



アスワン　(上)アスワン-ハイ-ダムの建設によって，延長約500km，幅平均10kmの人造湖ナセル湖が出現し，有名な古代エジプト王朝の遺跡アブシンベル宮殿の移転も行なわれた。写真はナイル川に臨むアスワン市の遠望
(下)工事の進行中のアスワン-ハイ-ダム。堤防の高さは110mにも達し，その上にハイウエーが通る。ソ連から提供された巨大な土木用機械が動いている

あずまぎく　【東菊】　双子葉植物・キク科。山地のかわいた草原にはえる多年草。高さ10～30cm。葉は長い柄をもち，へら形で，茎の基部のほうに集まり，全体に毛がある。4～6月茎の先に直径3cmほど，中央の管状花が黄色，まわりの舌状花は淡紅紫色の花を一つつける。なお，花屋でいうアズマギクは，ミヤマヨメナの一品種であるノシュンギク(ミヤコワスレ)のことで，花が多く葉は長い。　〔小清水義隆〕

あずまやさん　【四阿山】　長野・群馬県境にそびえる標高2,333mの山。上信国境では浅間山に次いで高く，浅間山の北西に位置し，群馬県側では吾妻(あがつま)山ともよんでいる。臼状(きゅうじょう)の火山で山頂部が四阿の形をしているのでこの名がある。西と南はゆるい傾斜地で，この裾野(すその)に菅平(すがだいら)スキー場がある。上信越高原国立公園に属する。

アスマラ　[Asmara]　アフリカ大陸北東部，エチオピア帝国エリトリア地方の首都。人口24万1,000(1971)。熱帯にあるが高原に位置するのでしのぎよい。第2次世界大戦までイタリアの植民地エリトリアの首都であったが，エリトリアは戦時中からイギリスに占領され，1952年エチオピア領となって今日に至る。紅海沿岸のマサワとは道路と鉄道で結ばれ，定期航空便も発着している。

アスロック　[ASROC]　anti submarine rocketの略称。アメリカ海軍が開発した対潜水艦攻撃用ロケット。対潜艦の艦上から発射され，空中を突進して敵潜水艦の潜むあたりの上空でパラシュートにより海面に降下，海中にもぐり，音波による自動追尾攻撃を敵潜水艦に加える。対潜兵器の中では最強力なものに属し，日本の自衛艦数隻もその発射機を備える。

アスワン　[Aswan]　アラブ連合共和国の同名州の州都。人口202,000(1970)。スーダンとの国境に近いナイル川本流にかけられたダムのある土地として有名。古くから隊商の宿場として知られ，エジプト南部の警備の拠点でもあった。現在，豊富な電力を利用した工業化がなされつつある。

アスワン-ダム　[Aswan Dam]　エジプト-アラブ共和国のナイル川の上流，アスワン*の市街の南にあるダムで，1902年イギリスの手でつくられ，ナイル川の水の調節と耕地の拡大に役だってきた。高さ45m，長さ1,950m，貯水量55億m^3。また1960年以来，このダムの上流7kmの地点に，ナセル政権の運命をかけたアスワン-ハイ-ダムが

ソ連の資金と技術的援助を受けて建設され，1970年6月に完成，ナセル大統領はその直後の9月に死んだが，1971年1月ソ連のポドゴルヌイ最高幹部会議長を迎えて完工式が行なわれた。ダムの高さは111m，幅520m，長さ3,500mで，予定では人造湖(ナセル湖)の面積5,470km²，貯水量1,550億m³，発電所の最大出力210万kW，年間供給電力100億kWhとなっており，約50万ヘクタールの新しい農地が生まれることになっていた。しかし，ナセル湖の水の蒸発と浸透が予測された量よりはるかに多いために，なかなか満水にならず,現在では年間60億kWhの電力しか供給していない。またナセル湖内壁の補強が不十分なために，水が周囲の低地に浸出して，ワタやタマネギの畑を水浸しにし，約80万ヘクタールの農地が耕作不能となった。下流の地方では逆にいままではナイル川の水があふれて長期間冠水していたために，塩分が地中深く沈下していたが，それがなくなって，塩分が地表にとどまりやすくなり，使えない農地がふえてきた。またダム建設後はナイル川の水の流れとその運ぶ土砂が少なくなって，いままではデルタの大地が毎年数cmずつ海に進出していたのが，今度は地中海が逆にエジプトの土地を少しずつ削り取るようになった。その上，デルタの海岸にはイワシもエビもいなくなって，漁夫たちは失業している。

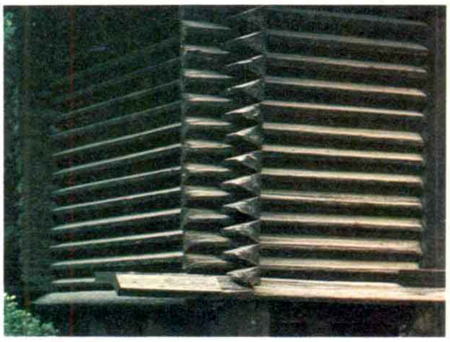
またナセル湖の水の蒸発のために，エジプトは全般的に湿度が高くなり，古代遺跡や美術品特にミイラの保存に悪い影響を与えつつある。もちろん新しい農地はふえ，電力も不十分ながらも供給されるようになったが，その農地は化学肥料を必要とし，従来のようなナイルの水の運ぶ自然の肥料は失われてしまった。また洪水と日照によって自然に浄化されていたクリークの水がよどみ，住血吸虫による風土病の大幅な増加が報告されている。人間が自然に挑戦するとき，よほど注意しないと手痛い報復を受けるわけで，1975年ごろからエジプトの新聞や週刊誌が，いっせいにこのダムによる公害を取り上げはじめ，なかには，解決策はダムの破壊以外はないと説くものもある。ダム建設前に，このようなことを予告して建設に反対していた学者もあった。なお，ダムの完成により，アブシンベル神殿*などの古代エジプトの遺跡が水没するので，ユネスコが中心となって，高い位置への移転・再建の工事が行なわれた。ハイ-ダムは，新アスワン-ダム，あるいはアラビア語で〈サッド-エル-アーリ〉(上流のダム)ともいう。〔浅井得一〕

アスワン-ハイ-ダム ⇨アスワン-ダム

アスンシオン [Asuncion] 南アメリカのパラグアイ共和国の首都で，同国最大の都市。人口42万(1975)。パラグアイ川の河港で施設もよく整い，満潮時には喫水4mの船が入港できる。海に面していないこの国の唯一の港で，輸出入の大半を扱う。農業・木材加工・皮革製造を行ない，この国の経済・政治の中心であるとともに，ブエノスアイレスまで鉄道が通じ，交通の中心でもある。町は1537年に建設され，16世紀中ごろから17世紀初期までは，南アメリカ南部スペイン領を統轄する首都であった。〔小栗　宏〕



アスンシオン　アスンシオンの下町の市場風景。野菜の朝市で地面にじかに品物を並べている。家々のたたずまいもそまつ



校 倉 造 り　唐招提寺(宝蔵，部分)

あせ 【汗】 皮膚に存在する汗腺*(かんせん)からの分泌物。触覚や視覚により感受されるので，可感蒸泄(じょうせつ)ともいわれる。汗腺には小汗腺(エクリン腺)と大汗腺(アポクリン腺)がある。大汗腺は腋窩(えきか)・乳頭および陰部の付近にあり，他はすべて小汗腺である。発汗には精神的興奮によって手掌・腋窩・足蹠(そくしょ)などだけに現われる精神性発汗と，外界温度の上昇に伴って普通にみられる温度性発汗とに区別され，体熱の放散，老廃物の排出の一助となる。汗1ccが蒸発されると体熱0.585Calを放散する。1日の発汗量は気温・運動量などで異なり，夏季座業者でほぼ1.5～2lである。汗の化学成分は99%が水分で，残りは塩化ナトリウム・カリウム・乳酸・ブドウ糖・アミノ酸・アンモニアなどで，pHは7～7.9である。〔平野修助〕

あぜ 【畦・畔】〈くろ〉ともいう。水田は水深を一定にする必要があるが，土地には多少の傾斜があるから，適度の面積に区分して平らにしなければならない。この場合に生ずる田と田，または田と水路との境界をあぜという。従来は土を盛り上げてつくり，毎年4月ごろ，田植えのまえに整備した。この作業をあぜ塗りという。しかし，あぜ塗りは大きな労働力を要し，また畦畔(けいはん)面積がかなりの面積を占めるので，最近は硬質塩化ビニルやスレートの波板を用いたり，永久畦畔としてコンクリートであぜをつくることもある。これらは除草の労力も必要としないので，今後ますます増加するものと思われる。〔金木良三〕

あぜくらづくり 【校倉造り】 木材を横に積み重ねて外壁をつくり，建物のかどの部分で材が井桁(いげた)状に組み合うようにくふうした構造形式。工具や加工が未熟でもがんじょうな建物がつくれるので，原始時代の末ごろから世界各地の木材豊富な地域で用いられた。材の断面によって，原始的な丸木造り(丸木)のほか板校倉(厚板)・井楼(せいろう)造り(角材)などの別がある。しかし，日本の古代では，東大寺の正倉院*にみられるような，三角形に近い不等辺六角形断面の材を用い，壁の内側は平らで，外側に凹凸(おうとつ)ができるような特異な形式のものだけを甲倉または校倉とよび，丸木倉などの他の形式と区別していた。〔渡辺保忠〕

あせたけ 担子菌類・フウセンタケ科。夏から秋にかけて広葉樹林内の地上や草原に発生するきのこ。茎の高さ3～7cm，かさの径2～5cmぐらいの大きさで，表面は黄かっ色で，繊維質であり，放射状に裂ける。ムスカリン*を含み，有毒菌である。

あぜち 【按察使】 719年(養老3)設置された地方行政の監督官。数か国のうちからひとりの国守を選んで任命し，管内国司の行政を監督させた。平安時代にはいると陸奥(むつ)・出羽(でわ)按察使だけが残り，それもしだいに納言(なごん)・参議らの兼任となって，実質的意義を失った。

アセチリド [acetylide] アセチレン化物ともいう。アセチレン結合をしている炭素についている水素が金属によって置換された塩類似炭化物の総称。通常カーバイドもアセチリドの一種である。第一銅の化合物が赤かっ色である以外は無色の結晶。水または希酸と反応し，アセチレンまたはアセチレン誘導体を生成する。銅や銀のアセチリドは乾燥時爆発性を有する。

アセチルか 【アセチル化】 有機化合物中の水酸基($-OH$)やアミノ基($-NH_2$)などの水素原子をアセチル基(CH_3CO-)で置換する反応。有機化合物はアセチル化により，結晶化しやすくなったり安定化したりする。アセチル化試薬としては氷酢酸・無水酢酸・塩化アセチル・ケテン・イソプロペニルアセテートなどが用いられる。

アセチルコリン [acetylcholine] 動植物界に広く存在し，潮解性のある塩基性物

質で，コリン*の酢酸エステル。動物では神経組織に，植物では麦角に，特に多くみられる。神経繊維の末端から分泌され，神経と神経または神経と筋肉の接合部であるシナプスで神経伝達物質として働くが，副交感神経系から分泌されるときはアドレナリン*と逆の作用を果たす。シナプスで作用するときには，神経繊維を伝わってきた興奮（インパルス）によりシナプス小胞からアセチルコリンが分泌され，神経の興奮を次の神経細胞に伝える。副交感神経から分泌されるときには，その興奮を末梢(まっしょう)の効果器に伝える働きをしているが，アセチルコリンを外部から血液中に与えても，副交感神経が興奮したのと同じ反応が末梢の効果器に起こる。〔平野修助〕

アセチルサリチルさん　**【**アセチルサリチル酸**】**　⇨アスピリン

アセチルセルロース　⇨酢酸繊維素

アセチレン　［acetylene］　$CH\equiv CH$　エチンともいう。カルシウムカーバイド*に水を作用させるか，天然ガスや石油化学で得られる低級炭化水素類を高温で分解して得られる。無色の気体で毒性がある。カーバイド法によるアセチレンは不快臭があるが，これは不純物のホスフィンPH_3によるものである。空気との混合物は爆発性があるので，珪藻土(けいそうど)にしませたアセトンに加圧して溶解し，ボンベで運搬する。アセチレンの三重結合は不安定で反応性に富んでおり，水素・ハロゲン・ハロゲン化水素・水その他の化合物を付加したり，重合を起こしやすい。またレッペ反応*によって多数の有機化合物に誘導され，一般工業薬品・合成樹脂・合成繊維・合成ゴムの原料として重要。また三重結合の炭素についた水素は金属と置換されやすく，金属アセチリドを与える。さらに，アセチレンは燃焼の際発熱量が大きく，酸素と混ぜて酸素アセチレン炎（約6,000℃）として金属の溶接および切断に使用されている。また，明るい炎を出して燃焼するので燈用にも使われる。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

アセチレンけいたんかすいそ　**【**アセチレン系炭化水素**】**炭素−炭素三重結合（$-C\equiv C-$）をもつ炭化水素化合物の総称。一般式はC_nH_{2n-2}で示される。三重結合は二重結合より反応性が大で，ハロゲンやハロゲン化水素が親電子的に付加するだけでなく，シアン化水素などの求核的な付加や陰性基付加も受ける。また三重結合を有する炭素についている水素原子は容易に金属と置換されてアセチリドをつくり，次いでアルキル基などで置換することができるので，合成化学の原料として重要である。

アセテートせんい　**【**アセテート繊維**】**半合成繊維*といわれる化学繊維の一種で，繊維素に酢酸の化合した酢酸繊維。木材パルプ・綿リンターなどを無水酢酸で酸化し，アセトンに溶解するか，レーヨンステープル*を酢化してつくる。フィラメント（連続繊維），ステープル（短繊維）ともに生産利用されている。強さはあまり大ではないが，比重1.3で羊毛・絹と同程度で軽く，弾力がすぐれているので，これを用いた布はしわがつきにくく，虫やかびに侵されることがない。耐熱性は低く，アイロンがけの適温は120℃ぐらいである。普通の染色では染まらないので，専用のアセテート染料を用いる。アセトンで溶解するので，アセトン系のしみ抜き剤は使えない。このような性質から耐久的な用途よりも装飾用に特性を発揮し，ドレス・和服・スカーフ・ふろしきなどの生地として利用されている。〔小川安朗〕

アセトアニリド　［acetanilide］　$C_6H_5NHCOCH_3$　アセチルアニリン・アンチフェブリンともいう。アニリンを塩化アセチルまたは無水酢酸でアセチル化して得られる。無色板状結晶，冷水に難溶。合成中間体として用いられるほか，解熱薬・鎮痛薬などの医薬，染料製造原料，過酸化水素溶液の安定剤などとして用いられる。また，ミクロ元素分析に窒素含有の標準物質として用いられる。



アセトアルデヒド　［acetaldehyde］　CH_3CHO　エタナールともいう。無色の液体。沸点21℃。アセチレンに水を付加してつくられる。またパラアルデヒドを希硫酸の存在下で熱すると留出してくる。アルカリ金属あるいはアルカリ土類金属のハロゲン化物の作用で重合し，固体のメタアルデヒドを与え，硫酸の作用でパラアルデヒドを与える。酢酸・無水酢酸など有機化学薬品の原料として使われる。染料・合成ゴム・プラスチック・香料・香水などの中間原料としても重要である。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

アセトン　［acetone］　CH_3COCH_3　沸点56.5℃。引火点−20℃。ジメチルケトン・プロパノンともいう。水に可溶，無色・揮発性でエーテル臭をもつ液体。やや爆発性がある。最も簡単で典型的なケトン*であり，亜硫酸水素ナトリウムと付加化合物をつくり，オキシムやヒドラゾンも容易に生成する。酢酸カルシウムの乾留やブタノール発酵の際の副生成物として得られるが，また，アセチレンに触媒の存在で水を付加させてもつくられる。石油化学工業ではプロピレンからイソプロピルアルコールを経てつくられる。一般に有機化合物をよくとかすので溶剤として広く用いられ，また，各種有機化合物の原料となる。熱分解によりケテンを生じ，ケテンはアセチル化剤として，無水酢酸の合成や各種化学薬品を合成する中間原料として重要である。

アセトンたい　**【**アセトン体**】**　⇨ケトン体

あせび　**【**馬酔木**】**　双子葉植物・ツツジ科。アセボ・アシビともいう。日あたりのよい山地にはえる常緑低木。庭園樹としても用いられる。高さ2〜3.5m。葉は倒披針(とうひしん)形で長さ3〜8cm，幅1〜2cm，上面に光沢があり，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。4〜5月枝の先に白色で小さなつぼ形の花を穂状につける。果実は蒴果(さくか)で，花のときは下を向いているが熟すと上を向く。茎や葉にアセボトキシン・グラヤノトキシンなどの有毒成分が含まれ，ウマやウシが食べると呼吸中枢が麻痺(まひ)するので馬酔木の名がある。葉・茎の煮しるはうじの殺虫剤，農作物の害虫駆除に用いられる。

あせも　**【**汗疹**】**　エクリン腺（➡汗腺(かんせん)）でつくられた汗が，汗口または汗管の閉塞(へいそく)により排出管の途中にとどまるために起こる皮膚病。内圧のために管壁が破れ，汗が表皮や真皮内ににじみ出ると炎症が起こり，皮膚が赤くなる。閉塞の原因には外因（温熱，紫外線，絆創膏(ばんそうこう)貼布(ちょうふ)，せっけんの過度の使用，汗口に対する細菌の作用）と内因（発汗量が多いこと，皮脂生成が少ないこと）がある。小児は，単位面積あたりの発汗量が成人の2倍以上あるため，あせもができやすい。汗管の閉塞の部位，汗の貯留部位および周囲の皮膚に炎症が起きたかいなかにより，水晶様汗疹(かんしん)（汗が角質内に貯留）・深在性汗疹（汗が真皮に貯留）・紅色汗疹の区別がある。ふつうみられるのは，表皮内に汗が貯留し周囲ににじみ出るために生ずる紅色汗疹で，湿疹に似た赤いぽつぽつした丘疹の形で現われ，かゆい。これに化膿(かのう)菌が感染したものを〈あせものより〉（膿疱(のうほう)・汗腺膿瘍(のうよう)・化膿性汗腺炎）とよんでいる。**〈予防と治療〉**夏季厚着をせず，涼しい環境にする。入浴や行水を行なって汗をよく洗い流す。乳幼児の場合，涼しい風通しのよい所に寝かせ，水まくらをする。薄着にしたほうがよいが，裸よりはむしろ，汗をよく吸い取るもめん製のはだ着を1枚着せたほうがよい。汗疹を生じた場合，せっけんは使ってよいが，ごしごしこすらないこと。軽いものは，チンク油や亜鉛華リニメントを薄く塗り，上から亜鉛化デンプンを散布する。これでなおらない場合や細菌感染を起こした場合は皮膚科医の治療を受ける必要がある。

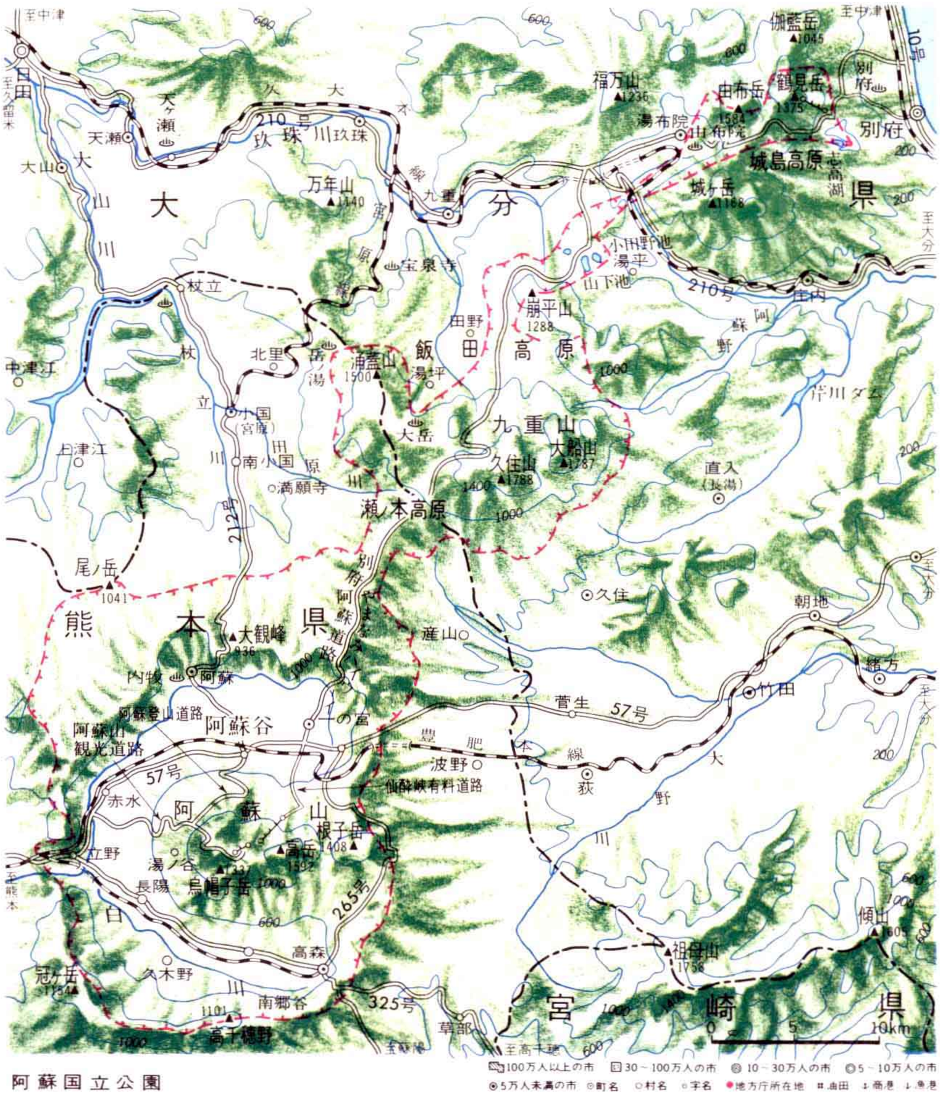
アゼルバイジャン（共和国）　［Azerbaydzhanskaya S.S.R.］ソビエト連邦を構成する共和国の一。カフカス山脈南東部にあって，東はカスピ海に面し，南はイランに接する。首都はバクー。面積86,000km²。人口560万6,000（1975年推計）。ナヒチェバニ自治共和国，ナゴルノ-カラバフ自治州が山岳地帯にある。**〈自然・住民〉**北西部に4,000m級の山をもつ大カフカス山脈，南西部に小カフカス山脈が走り，その間にカスピ海に臨む平野が広がり，中央をクラ川が流れる。両山脈からは多数の川がクラ

川に流入するが，イラン国境沿いを流れるアラクス川は最大の支流である。気候は，高山を除いて一般に乾燥し，ステップないし半砂漠(はんさばく)の温帯から亜熱帯を呈する。住民はアゼルバイジャン人が67.5％を占め，その他ロシア人(13.5％)・アルメニア人(11.9％)・ダゲスタン人(3.3％)などで構成される。〈産業・経済〉石油・鉄をはじめ，各種の地下資源に恵まれている。特にバクーの油田をはじめとする石油の産額は大きく，ソビエト連邦全域の産出量の50％以上を占める。この国の発展は石油開発によって促進されたといえる。農業では耕地の約70％が灌漑(かんがい)によっており，綿花・小麦・果実(ブドウ・ウリ)を産出する。特に綿花の産は多い。牧畜も山地放牧の形で行なわれ，おもにヒツジが飼われる。またカスピ海の漁業も重要で，ニシン・チョウザメなどの漁獲が多い。〈政治・歴史〉ロシア併合(1828)以前はトルコ・イランの争奪の地であり，さらに古くはアラブ・モンゴルなどの勢力も及んだ。1920年にソビエト政権ができてカフカス連邦に加入，1936年から現在の体制になった。〔斎藤晨二〕

アセンション(島)［Ascension］ アフリカ大陸の西方，南大西洋に浮かぶイギリス領の火山島。面積85km²。人口1,500(1968)。最高峰グリーンマウンテンは875m。熱帯の貿易風帯にあり，牧畜を行なう。主要集落はジョージタウン。ポルトガル人ジョアン＝デ＝ノバが1501年のキリスト昇天日(アセンションデー)に発見したのでこの名がある。C.ダーウィン*は，ビーグル号で航海の途中ここに立ち寄り，海岸にはう大ウミガメとその卵を観察した。〔大崎　晃〕

アセンブリーメーカー［assembly maker］ 多数の部品から製品を組み立てる製造業のことで，その代表的なものは自動車・家庭電器・造船などの産業部門にある。この部門の発展は関連産業，特に基礎的な機械工業の市場を拡大する効果をもつ。ただしそのためには，下請け業者の技術が一定の水準以上で，部品も規格化されていなければならないため，これらの産業では〈縦の系列化〉とよばれる下請け中小零細企業の利用形態を生み出している。〔加藤　寛〕

あそ【阿蘇(町)】 熊本県阿蘇郡の町。阿蘇火山の南北二つの火口原のうち，北の黒川が流れる阿蘇谷の西部を占めている。1954年(昭和29)に内牧(うちのまき)町ほか4村が合併して生まれた。人口21,300。内牧には，中世に内牧城があり，江戸時代に豊後(ぶんご)街道の宿場町として発達。ここはまた古くから知られた阿蘇第1の温泉郷であり，夏目漱石(そうせき)の《二百十日》の舞台ともなり，阿蘇五岳のながめが雄大である。米作のほか，牧牛が行なわれている。豊肥本線・九州横断道路が通じ，阿蘇山の登山口として観光客が多い。



阿蘇国立公園

アゾイックせんりょう【アゾイック染料】 独特な染色法を適用するアゾ染料*の一。不溶性アゾ染料・ナフトール染料・アイス染料・冷染染料などともよばれる。顕色剤のジアゾ成分(アゾイック-ベース類)と下づけ剤のカップリング成分(ナフトール類)を繊維(主としてもめん・人絹)上で反応・発色させ，水に不溶のアゾ染料とする。現在，市販品は顕色剤が50～60種，下づけ剤が約30種といわれ，これらの組み合わせにより黄色から黒色まで多彩な色調に染めることができる。日光や洗たくに対する堅牢度(けんろうど)が高く，コストも安い。ただし，緑色に堅牢で美麗なものがないのがこの種染料の欠点である。また，特定の顕色剤と下づけ剤とをあらかじめ混合したアゾイック組み合わせ染料も市販されており，捺染*(なっせん)染めに賞用されている。➔染料〔稲田正作〕

あそうひさし【麻生久】(1891～1940) 社会運動家。大分県出身。東京大学卒業。1919年(大正8)友愛会*にはいって多くの鉱山争議を指導した。日本労農党・社会大衆党の書記長などを勤め，代議士となったが，やがて軍部との提携を主張し，第2次世界大戦中近衛文麿(このえふみまろ)を中心に起こされた新体制運動*に協力した。

あそうゆたか【麻生豊】(1898～1960) 大分県の生まれ。わが国日刊新聞の連載漫画形式を創始した漫画家として知られる。1924年(大正13)から報知新聞に連載された《のんきなトウサン》は主役ののんきなトウサンとわき役の隣の大将がかもし出す庶民的なペーソスで読者の人気をさらった。1933年(昭和8)から約8年朝日新聞専属として活躍したが，特に《只野(ただの)凡児》は失業にあえぐ当時の世相や卒業はしたものの職のない大学卒業生の実態と心理をみごとに描出した歴史的作品として高く評価されている。〔伊藤逸平〕

アゾかごうぶつ【アゾ化合物】 分子内にアゾ基(－N＝N－)をもつ化合物の総称。シス型とトランス型の立体異性体*があるが，ほとんどトランス体として存在する。脂肪族アゾ化合物のうちR－N＝N－Hのものは不安定で，アルカン(メタン系炭化水素)と窒素に分解する。R－N＝N－Rのものははるかに安定で，相当するヒドラジン誘導体の酸化によって得られる。芳香族アゾ化合物はニトロ化合物を穏やかな条件下に



阿 蘇 山　阿蘇中央火口丘群の上空からの大観。手前右手が烏帽子岳で，その左が草千里。中景の上手は中岳で，その向こうに最高峰の高岳がそびえている。火山地形の雄大さが高空から手に取るように俯瞰される

おいてアルカリ溶液中で還元したり，ヒドラゾ化合物の酸化，あるいはカップリングなどにより得られる。アゾ基は染料の発色団の一つで，この基をもつ染料はアゾ染料*と称し，きわめて多くの種類が知られている。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

アゾがんりょう　【アゾ顔料】　アゾ基(−N＝N−)を有する有機顔料。ジアゾ化・カップリング(ジアゾ化合物をアミノ化合物またはオキシ化合物に結合させる反応)のみでつくられるカルボキシル基(−COOH)，スルホン酸基($-SO_3H$)を有しない不溶性アゾ顔料と，ジアゾ化・カップリングのあとにカルシウム・バリウム・マンガンなどの金属でレーキ化して得られる難溶性アゾ顔料とがある。あざやかな赤および黄色を呈する有機顔料で，価格が安いために広く使用されている。しかし，耐候性・耐溶剤性・耐薬品性などが劣っているものが多いので，置換基を導入したり，アゾ縮合物として分子量を増大したりして，この欠点を改良している。➔顔料　〔品田　登〕

あそこくりつこうえん　【阿蘇国立公園】　中九州の阿蘇山と，九重火山群を中心に，熊本県から大分県にまたがる。面積730.60km^2。1934年(昭和9)国立公園に指定され，その後，別府市背後の火山やニホンザルの生態がみられる高崎山*が追加指定された。阿蘇山の旧噴火口は世界一の大カルデラで，内域には再び噴火した高岳をはじめ数山がみられ，中央の中岳は現在も噴煙を上げている。雄大な阿蘇山*を背景に，すそ野の草千里をはじめ草原に放牧されている牛馬の群がる眺望(ちょうぼう)もよい。豊肥本線阿蘇駅からバスとロープウエーで中岳に容易に登山できるので，一般の観光客にも人気がある。中岳西方の山間には湯ノ谷・栃木(とちのき)・戸下などの透明な温泉がある。九重火山群中にある久住山(1,788m)は九州島第1の高峰で，山頂付近にはコケモモ・ミヤマキリシマなどの高山植物も多い。園内には別府阿蘇道路(九州横断道路)などの有料道路が通じている。　〔木村東一郎〕

あそさん　【阿蘇山】　熊本県北東部から大分・宮崎両県の一部にわたる広大な山域をもつ二重式活火山。外輪山の囲むカルデラの大きさは，東西約18km，南北約24kmで，世界最大といわれる。この中に五つの中央火口丘があり，そのうち中岳は現在も活動している。高岳(1,592m)が阿蘇山の最高峰。この中央火口丘群によって，カルデラ内は北の阿蘇谷*と南の南郷谷とに分けられ，耕地・牧場がひらけ，約70.000の人々が住んでいる。また雄大な景観と火山地形により，日本有数の観光地となっており，最近は九州横断道路(大分～阿蘇～熊本)が開通したため，ますます多くの人々が訪れている。阿蘇国立公園に属する。　〔高野　繁〕

アソシエーション　［association］　⇨星

あそじんじゃ　【阿蘇神社】　熊本県阿蘇郡一の宮町にある。祭神は，この地方を開拓したと伝えられる神武天皇の孫，健磐龍命(たけいわたつのみこと)と，その妃阿蘇比咩(あそひめ)および速瓶玉命(はやみかたまのみこと)で，阿蘇三社とも称せられる。古くは〈閼宗神宮〉とも書かれたが，のち鎮座の神を増して12神を祭るようになった。祭神健磐龍命は，阿蘇山火口にそびえ立つ大岩壁の形容と考えられ，火山活動への畏怖が阿蘇神を祭らせたものであろう。したがって，火山活動の変異とともに阿蘇神社の神位神階も昇格し，阿蘇神社大宮司の地位は領主的な権力者として保証されてきた。同時に，9～15世紀にわたって，阿蘇山上に37坊を営んできた西巌殿(さいがんでん)寺の衆徒山伏も，守護職(しゅごしき)的な権力をもつようになり，南北朝時代には南朝側に立って菊池氏とともに活躍した。例祭は7月28日の御田植(おたうえ)神幸式。特殊神事としては2月13日の踏歌節会(せちえ)，3月後の巳(み)の日の田作(たづくり)神事，3月後の申(さる)の日の火振神事，9月25日の田実(たのみ)神事，8月19日～10月18日に行なわれる火焚(ひたき)神事などがある。

境外摂社として山上の神霊池(かみのいけ)に山上神社がある。異変のあるごとにここで祈禱(きとう)が行なわれたが，このことは早く海外にも伝わって《北史倭国伝(ほくしわこくでん)》に，明(みん)の成祖が永楽年中(1403～1424)に阿蘇山を寿安鎮国の山としたことが《大明一統志》に記録されている。　〔佐野文哉〕

アゾせんりょう　【アゾ染料】　化学構造中に一つ以上のアゾ基(−N＝N−，発色団*)をもつ染料の総称。多種の性質の染料が得られ，染色法も種々くふうされているので応用範囲が広く，また黄色から黒色まで色相も多彩で，合成染料の過半数を占める最も重要な種属である。1858年ドイツの化学者P.グリースがアゾ染料中間体(ジアゾ化合物)の製造に必要なジアゾ化反応を発見，アゾ染料発展のきっかけをつくった。この反応は合成化学にも応用範囲が広く，また，以後の有機化学の発展を促す要因ともなった。染料分子中に含まれるアゾ基の数によってモノアゾ(アゾ基一つのもの)・ジスアゾ(二つのもの)・トリスアゾ(三つのもの)・テトラキスアゾ(四つのもの)のように分類される。また，応用の面からみても酸性染料*・直接染料*・金属錯塩染料*・酸性媒染染料*・塩基性染料*・反応染料*・分散染料*・アゾイック染料*・有機顔料*などほとんどすべての種属にわたって重用されている。　〔稲田正作〕

あそだに　【阿蘇谷】　熊本県阿蘇山の北部火口原で，南は中央火口丘に，北から西にかけては外輪山のカルデラ壁に囲まれ，黒川が西流している。カルデラ壁からは岬(みさき)状に火口原に向かって突出した地形が多く，そのうちの大観峰は展望台として有名である。面積約67km^2で，主として稲作が行なわれ，阿蘇町と一の宮町があり，また，古墳・神社・寺院が多く，歴史の古さを物語っている。豊肥本線や九州横断道路もここを走り，阿蘇国立公園に属している。

アゾフ(海)　［Azov］　ソビエト連邦，黒

海の東北部にある浅い湾入。面積37,750km²。底は浅く，深い所でも15m以下。ドン川とその支流ドネツ川が注ぐ。漁業が盛んで，チョウザメなどの漁獲が多い。

アソリン ［Azorín］（1874～1967） スペインの作家。本名ホセ-マルティーネス-ルイス。小説・随筆・評論の分野でスペインの魂を探求，古典の再評価は彼の功績の一つである。代表作は《意思》《田舎(いなか)の町町》《古典の余白に》など。

アゾレス(諸島) ［Azores］ポルトガル西方，北大西洋に浮かぶ火山群島。サンミゲル・フロレス・ファヤルなど，九つの島よりなる。ポルトガル領。総面積2,400km²。人口33万7,000(1960)。気候は温暖で，避寒地となる。住民はポルトガル人とフラマン人との混血が多い。オレンジ・レモン・バナナ・パイナップル・アンズを産し，おもに本国へ輸出する。発掘された貨幣から，紀元前4世紀にカルタゴ人が渡島したと推定される。最初のポルトガル人の渡来は1427年で，植民地の建設は1450年である。フロレス島は16世紀にイギリス艦隊の基地となり，スペイン艦隊と激戦の末に捕えられて死んだグレンビル提督はここから出撃した。現在は，ヨーロッパ・北アフリカを結ぶ航空・通信の中継地として重要。変化に富んだ風光に恵まれ，訪れる観光客も多い。

あそん 【朝臣】 古代の姓*(かばね)の一。684年(天武13)に制定された八色(やくさ)の姓*の第2位。主としてもと臣(おみ)姓の有力な氏に対して与えられたが，のちには出自に関係なく有力な氏に与えられるようになった。第1位の真人(まひと)姓の諸氏に比べ，藤原氏以下の朝臣姓の諸氏が優勢であったため，事実上の第1位の姓となり，ついには有力な氏のほとんどが朝臣姓を称するようになった。

あたい 【直】 古代の姓*(かばね)の一。主として大化改新以前の国造*(くにのみやつこ)に与えられた。直以外の姓をもつ国造もいたが，直姓の国造は大和(やまと)朝廷の地方官的色彩が強く，ややその性格を異にする。なお，わが国最古の金石文として知られる隅田八幡(すだはちまん)神社(和歌山県橋本市)所蔵の《人物画像鏡》(国宝)の銘文によって，おそくとも6世紀前半にこの姓が国造に与えられたことがわかる。

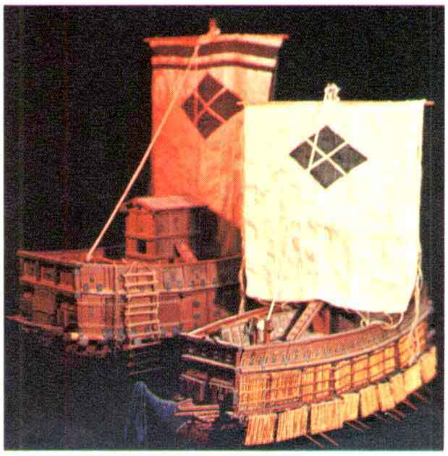
あたか 【安宅】 能の曲名。四番目物で現在物。観世信光*(のぶみつ)作。源義経(よしつね)が兄頼朝(よりとも)と不和になり，武蔵坊(むさしぼう)弁慶以下の従者とともに山伏姿となって奥州へ下る途中，加賀(石川県)安宅の関で，強力に変装した義経を弁慶がさんざんに打ちたたき，関所の役人富樫(とがし)の目をくらまして無事に関を通過するという筋。シテは弁慶，ワキは富樫，ほかに義経(子方)，従者(ツレ)多数。間狂言(あいきょうげん)は義経方に強力1人，富樫方に太刀(たち)持ち1人。シテは直面(ひためん)といって面をつけず，後半は関を離れた山中で，非礼をわびに来た富樫とともに酒宴となり，男舞を舞う。歌舞伎(かぶき)十八番《勧進帳*》はこの曲を原作とし，その他歌舞伎劇への影響が大きい。

〔長尾一雄〕

あたかのまつ 【安宅松】 長唄(ながうた)の曲名。正しくは《隈取(くまどり)安宅松》。江戸長唄の大成者富士田吉治の作といわれ，1769年(明和6)に発表された。能の《安宅*》をもとにした舞踊で，弁慶が奥州に下る途中の安宅で，草刈りわらべに道をきくという筋をもっている。笛を使ってのいなかの描写や二上がりの部分〈裏のなあ……〉の箇所にみられるような当時のはやり歌の使用でよく知られる。上調子*が活躍するのもこの曲の特徴である。

〔徳丸吉彦〕

アタカマ(砂漠) ［Atacama］ チリ北部，アンデス山脈西麓(せいろく)を，南北に長さ約1,000kmにわたって延びる幅平均30kmの細長い砂漠(さばく)。海岸山脈によって太平洋と隔てられ，降雨はほとんどなく，まったくの不毛地である。堆積層(たいせきそう)中にはホウ砂・岩塩・硝石・銅・コバルトなどを埋蔵する。特に硝石はチリ硝石として名高く，イキケ・アントファガスタなどから世界各地に輸出された。



安宅船 武田氏の安宅形軍船の模型。東京都八王子市の信松院蔵



安達太良山 安達太良山の山頂付近。かつての噴出した硫気で山はだは赤茶色に焼けただれている。古くは《万葉集》に，近くは高村光太郎の詩にうたわれた

アタカマこう 【アタカマ鉱】 緑色の銅の金属鉱石。$Cu_2(OH)_3Cl$ 斜方晶系。比重3.76，硬度3～3.5，{010}，{101}に劈開*(へきかい)がある。条痕(じょうこん)は淡灰緑。他の銅鉱石の酸化による二次鉱物である。チリ北部のアタカマ砂漠*(さばく)に砂状の結晶として最初に発見されたのでこの名がある。チリ・ペルー，アメリカのカルフォルニア州，南オーストラリアで産する。わが国では銅鉱石の二次鉱物は種類が少なく，アタカマ鉱も発見されていない。〔河原　昭〕

あたがわおんせん 【熱川温泉】 静岡県賀茂郡東伊豆(ひがしいず)町にある温泉で，伊豆半島の東海岸に臨む。泉温80℃の食塩泉・芒硝(ぼうしょう)泉。背後に天城(あまぎ)山を控え，前には大島を望み，けしきがよい。もとは交通不便のために，近くの人たちが利用するだけのひなびた湯治場であったが，昭和になってからバス交通の発達，伊東線に次いで伊豆急行電鉄の開通などにより，急に発展して歓楽地化している。

あたけぶね 【安宅船・阿武船】 古くは熊野(くまの)の安宅浦でつくられた諸手船(もろたぶね)(多くの櫂(かい)によってこぐ速船)の一種。のち，室町後期から江戸初期にかけてつくられた兵船をいった。片舷(へんげん)25丁立てで弾丸を防止する板で囲われ，狭間(はざま)から弓や鉄砲で撃ちかけるほか，前部に大鉄砲の装備がある。水夫50人，侍50人乗りぐらいのものが多い。1633年(寛永10)徳川家光(いえみつ)の命でつくられた安宅丸(天下丸)はこの船型で，徳川時代三大船の一つとされる。〔茂在寅男〕

あたごじんじゃ 【愛宕神社】 京都市右京区嵯峨(さが)愛宕町の愛宕山*山頂にある。祭神は本宮が伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・若産霊神(わかむすびのかみ)など，若宮が破无神(はむのかみ)と雷神(いかずちのかみ)。火よけの神として信仰され，全国の愛宕神社の総本社。もと北区鷹ケ峰(たかがみね)に祭られていた権現を，781年(天応1)僧慶俊がこの地に勧請して愛宕権現と称したのに始まる。また別に一堂宇を設け，地蔵菩薩(ぼさつ)を安置して勝軍地蔵と名づけてから，武家の信仰が厚く，やがて本社をしのぐ信仰対象として本宮となるに至った。明治の神仏分離後，権現の称を廃して現社名となった。例祭は9月28日。

〔佐野文哉〕

あたごやま 【愛宕山】 京都市の北西部にそびえる山で標高924m。東の比叡山と京都市街をはさんで相対する。山上には愛宕神社がある。山の東側は清滝川の谷で，ここに高尾の神護寺や栂尾(とがのお)の高山寺などがある。

アダージョ ［adagio］ 音楽の速度記号。〈ゆるやかな〉というイタリア語の形容詞から成立したもので，現在はアンダンテとラルゴの中間の〈ゆっくりした速さ〉として使われている。しかし，バロック時代にはゆるやかな気分があれば，速さはゆるや

かでない場合もあった。また，この速度をもつ楽章もアダージョとよばれる。

あだたらさん【安達太良山】 福島盆地，郡山盆地，猪苗代湖(いなわしろこ)の中間，二本松市の西方にそびえる標高1,700mの火山。成層火山で山頂に直径約500mのすりばち形の旧火口沼ノ平があり，その西部の火口壁の欠けた沼尻(ぬまじり)から硫黄(いおう)川が流れ出している。1900年(明治33)以来噴火をみていない。東麓(とうろく)には岳温泉がある。

あだち【足立(区)】 東京都北東端の特別区。北は埼玉県，東は葛飾(かつしか)区，西は北区,南は荒川区と接する。面積は53.25km²で,23区中第3位，人口61万7,000，人口密度は1km²あたり11,587人。荒川(隅田(すみだ)川)・綾瀬(あやせ)川・中川に囲まれた沖積(ちゅうせき)低地で,荒川放水路が南西部を貫いている。南部の千住(せんじゅ)は奥州街道の宿場町として繁栄し,〈江戸五宿〉の一つとされたが，明治以後は荒川および同放水路沿いに工場街が発達して，皮革加工・金属製品製造などが盛んである。北部では野菜や花などの近郊農業が行なわれているが，水田は全く姿を消してしまった。最近は住宅地化が進み，大規模な団地が形成されている。常磐(じょうばん)線・東武鉄道伊勢崎(いせさき)線・地下鉄日比谷(ひびや)線・京成電鉄上野線が集まり，国道4号線(日光街道)・旧奥州街道沿いの地区と北千住駅周辺は区の中心商店街を形成する。国道4号線は区域中央をほぼ南北に走り，中心部で環状7号線と交差する。年中行事に西新井(にしあらい)大師のだるま供養(2月節分の日)がある。

あだちがはら【安達原】⇨黒塚(くろづか)

あだちがはら【安達ヶ原】 福島県二本松市東方にあり，阿武隈(あぶくま)川本流の東に折れる右岸地区。川を隔てて二本松市街と相対する位置にあり，付近一帯は安達ヶ原公園となっている。この野に住んでいたという鬼婆(おにばば)伝説で有名。

あだちけんぞう【安達謙蔵】(1864～1948) 政治家。熊本県出身。済々黌(せいせいこう)に学び，東京・朝鮮などを流浪したのち熊本で国権党を創立し，1902年(明治35)以後衆議院議員。1913年(大正2)立憲同志会の成立に参加し，憲政会・立憲民政党の幹部として活躍した。1931年(昭和6)第2次若槻(わかつき)内閣内相のおり，挙国一致内閣を主張して若槻内閣崩壊の原因をつくった。民政党脱党後，1932年国民同盟を結成，1940年同盟解党にあたり政界を去った。〔千野境子〕

あだちこう【足立康】(1898～1941) 建築史学者。神奈川県の生まれ。東京大学工学部・文学部で建築史・美術史を学ぶ。日本古代の建築・彫刻に関する年代考証を行ない，薬師寺の研究，藤原京跡の発掘など美術史の基礎的研究にすぐれた業績を残す。1937年(昭和12)建築史研究会を興し，翌々年機関誌《建築史》を発刊，実証的な研究を深めた。《日本建築史》《日本彫刻史の研究》などの著書がある。

あだちしきそうか【安達式挿花】 いけ花流派の一。1912年(大正1),安達潮花(1887～1969)の創流。彼は池坊出身であるが，伝統的形式にあきたらず，自然の出生を尊重し，花を花らしく飾る盛り花投げ入れをくふう,これを飾花法と称した。1917年(大正6)，東京築地(つきじ)本願寺で第1回盛花花展を催し，人々の注目を引いた。その後学校組織を採用し，教授法の合理化，大衆化を試み，いけ花界に新風を吹き込んだ。

アタッシェ［attaché］ 大使館・公使館を構成する館員のひとり。外交官と異なり，外務省以外の各省から派遣されて情報収集その他の特定業務に従事する官吏をいう。科学情報アタッシェ，通商アタッシェなど。

アタッチメント［attachment］ 一般的には，各種器機の本体に取り付ける付属品,または付属装置。たとえば，旋盤でならい削り(加工品の輪郭に相当する型にならって,工具と加工材とを相対的に動かして切削する加工法)を行なうときに取り付けるならい装置とか，写真機で近接撮影をするときに用いる接写装置など。

アダナ［Adana］ トルコ中南部の同名県の首都。人口35万2,000(1971)。アダナ平野を南流するセイハン川に臨む。周辺地域は綿花・タバコの生産地であり，その集散と加工を行なっている。特に綿紡織工業は盛んである。ローマ時代にはアジアとヨーロッパを結ぶ中間駅として知られ，アラブの勃興(ぼっこう)期にはその領域にはいった。トルコ領になってからも一時エジプトの支配を受けたことがある。現在，北大西洋条約機構(NATO)に基づく北大西洋軍の空軍基地としてアメリカの空軍が常駐している。なお現在は，県・市ともセイハンと改名されている。〔今井留吉〕

あだな【綽名・渾名】 人の容貌(ようぼう)・動作・性質などの特徴をとらえて，本名のほかに他人がつけた，好意的または嘲笑(ちょうしょう)的なよび名。ニックネーム。日本に古くからあり，《徒然草(つれづれぐさ)》には〈きりくひの僧正，堀池(ほりけ)の僧正〉(45段)，〈しろうるり〉(60段)の例がみえる。先生のあだ名，生徒間のあだ名は，学校や学級の中というように，流通する範囲は狭い集団の中に限られるのが普通である。人の特徴のとらえ方や機知的な名づけ方に，思わず感心させられることが多い。〔西尾寅弥〕

アタナシウス［Athanasius］(295ごろ～373) キリスト教古代教会における最大の神学者のひとり。〈正統信仰の父〉といわれる。おそらくアレキサンドリアに生まれ，若いときはギリシア古典に親しんだらしい。30歳のときニカイア宗教会議に司教アレクサンドロスの従者として出席し，アリウス派を論破，その異端であることを弾劾して，名声を得た。若くしてアレキサンドリア司教となる。しかし，アリウス派との執拗(しつよう)な闘争のため，5度も追放されたが，屈しなかった。彼の思想は三位一体の教理とロゴス-キリスト論に集約されるが,思弁的・神学的というより，救済論的・倫理的であるところに特色があるとされる。著書《異教徒反駁論(はんばくろん)》《神のことばの受肉について》《アリウス派反駁論》ほか。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

アタナシウスしんじょう【アタナシウス信条】 使徒信条・ニカイア-コンスタンチノープル信条・カルケドン信条に次ぐキリスト教の基本信条。本文は40か条からなり，キリストの神人両性・三位一体が説かれている。あやまってアタナシウスの名がつけられているが，5～6世紀ごろにつくられたものである。➔信条

あたま【頭】 一定の方向に運動する性質をもつ動物では，からだの前端部に脳が発達しており，目などいろいろの感覚器官も集まっている部分があって，ここを頭という。口もこの部分に開くのが普通だが，扁形(へんけい)動物のプラナリアなどのように,からだの中央部に開く動物もある。また，必ずしも頭をからだの他の部分から区別することが容易ではない動物もある。脊椎(せきつい)動物を脊索動物に含めて取り扱う際に,有頭類とよぶことがあるが，これは頭の存在がはっきりしているからである。もっとも，魚類や両生類には頭に続く首がないので，けものや鳥ほどはっきりとからだの部分と頭と区別はできない。本来の頭と形態的に似ていることからと，ときには運動の点も考えて，頭ということばを使うこともある。たとえば，精子の頭部，条虫(サナダムシ)の頭節などである。〔蒲原春一〕

あたまじらみ ⇨シラミ

アダマール［Jacques Salomon Hadamard］(1865～1963) フランスの数学者。解析学・代数学に多くの業績を残した。中でも冪(べき)級数の収束半径に関するアダマールの定理は有名。ボルテラ(1860～1940)が開拓した積分方程式において，ボルテラは数を元とする解析学を拡張して関数を元とする関数を考えたが，アダマールはこの関数に汎(はん)関数と名づけた。

あたみ【熱海(市)】 静岡県東端の市。かつては海中からも熱湯がわき出したので，この名がある。温泉場が古くから開け，1934年(昭和9)丹那(たんな)トンネルの開通後，京浜地方に直結した保養地として発展した。1937年市制施行。人口52,000。女100について男84で，温泉都市の特色をよく現わしている。

市域は，相模(さがみ)湾岸から箱根山の西麓(せいろく)にわたり，北西部は険しい山地が迫り，南東部は古い火山の東半が海に沈んで，火口部にあたる海面に臨み，沖に初島が浮かぶ。気候が暖かく，海と山の風光美に恵

まれ,〈東洋のリビエラ〉とよばれるわが国の代表的な保養観光地である。産業三大別人口比は4：14：82で,典型的な第3次型を示す。東海道本線・同新幹線に沿い,伊東(いとう)線を分岐し,国道1号線や伊豆スカイライン・熱海ビーチラインなどの有料道路が集まる交通の要地である。富士箱根伊豆国立公園の観光基地となり,錦ケ浦(にしきがうら)・梅園・初島などの景勝地にも富む。

あたみおんせん【熱海温泉】 福島県郡山(こおりやま)市内の温泉で,磐梯(ばんだい)熱海温泉ともいう。泉温36～56℃の単純泉。

あたみおんせん【熱海温泉】 静岡県熱海市の海岸から山の手にかけて数百の泉源をもち,別府と並び称される日本の代表的な温泉。泉温60～110℃の食塩水・単純泉。歴史はきわめて古く,皇統譜24代仁賢(にんけん)天皇のとき,海中に熱湯がわき出して魚が死んだと伝えられ,地名もこれによったという。江戸時代には大湯以下の熱海六湯があり,湯を入れたおけを江戸城へ急送して,毎年将軍家へ献上した。明治になって,小田原からの交通が便利になり,1925年(大正14)には国鉄熱海線が開通し,1934年(昭和9)には丹那(たんな)トンネルが完成して東海道本線に沿うことになり,東京方面からの客が急増した。1964年の東海道新幹線の開通後は,名古屋や京阪神(けいはんしん)方面の客も目だって多くなっている。明治以来,多くの文化人に愛され,尾崎紅葉の小説《金色夜叉(こんじきやしゃ)》は熱海の名を全国に広め,それにちなんで海岸に植えられた〈お宮の松〉は,埋め立てによっていまは2代めになっている。坪内逍遙(しょうよう)が晩年を過ごした屋敷双柿舎(そうししゃ)が残っている。

気候が温暖で風光に恵まれ,箱根や伊豆(いず)の観光地を近くに控えて,年間1,500万人の観光客を集め,組合加盟の旅館だけで165(収容能力約24,000人,1976)あり,ほかに未加盟の旅館や会社の寮なども多い。ロープウエーなどの施設も完備し,海上12kmの初島にはバケーションランドがある。熱海市内にはこのほか,東部に伊豆山温泉・湯河原温泉,南西部に南熱海温泉(網代(あじろ)温泉・多賀温泉)があり,湧出(ゆうしゅつ)量は合わせて毎分23,000lである。熱海温泉の悩みは,このように湯量が多いのにもかかわらず,乱掘と大量のくみ上げのためにすでに発展の限界がみえていること,交通が便利になりすぎたために俗化し,熱海を通過して奥伊豆方面へ行ってしまう客がふえたこと,1964年のオリンピック東京大会を機に拡充した施設がやや重荷になっていることなどである。大湯の間欠泉は有名であったが,これも乱掘のために噴出が止まっている。〔浅井得一〕

アダム［Adam］《旧約聖書》で人類の祖。最初の男性。《創世記》第1章によれば,神は天地創造の6日めに,すでにつくった生き物すべてを支配させるため,みずからに似せて人をつくった。第2章第4節以下によると,ヤーウェ神は土くれ(アダーマー)から人(アーダーム)をつくり,鼻に息を吹き込んで生命を与えた。これをエデンの園に住まわせ,その肋骨(ろっこつ)を1本抜き取ってイブをつくった。ふたりは誘惑に負けて神に禁じられていた善悪の知恵の木の実を食べたため楽園を追われた(→原罪)。子はカイン・アベル・セツなど。神の戒めを破るアダムの罪の物語は人類の諸悪を説明する原因譚(げんいんたん)である。〔松田　治〕



アダム
アダムとイブ
マサッチオ
《楽園追放》
(部分)

アダム-シャール［Johann Adam Schall von Bell］(1591～1666) ドイツのイエズス会宣教師。中国名は湯若望(とうじゃくぼう)。1622年中国に渡来,徐光啓らの援助により明(みん)の毅宗(きそう)(崇禎(すうてい)帝)に重用され,暦法の改訂,大砲の鋳造などを指導,《崇禎暦書》を著わす。明が滅ぶと清(しん)に仕えて,《時憲暦》をつくり,天文台長に任命されたが,イスラム暦法学者のために失脚させられ,獄死した。

アダムズ［William Adams］(1564～1620) 日本にはじめて来たイギリス人。日本名三浦按針(あんじん)。1598年(慶長3)オランダのロッテルダム組合が東洋に派遣した船隊に航海長として参加。1600年船長ヤン-ヨーステンらとリーフデ号で豊後(ぶんご)(大分県)に漂着した。徳川家康(いえやす)の保護を受けて外交顧問となり,相模(さがみ)(神奈川県)三浦郡に二百五十石の領地,江戸に邸宅を与えられた。家康に海外事情を説くとともに,イギリス・オランダとの通商に尽力し,家康没後は平戸(長崎県)で南洋貿易に従事した。日本名の三浦は領地に由来し,按針は航海士を意味する。彼がイギリス式帆船をつくった静岡県伊東(いとう)市に記念碑が,また横須賀(よこすか)市にその墓がある。〔松尾　涼〕

アダムズ［Samuel Adams］(1722～1803) アメリカ独立革命の指導者。ジョン-アダムズのいとこ。イギリスの通貨政策のため破産し,政界にはいる。1763年以降イギリスの植民地課税に反対し,数多くの革命的文書を執筆,急進主義者として本国政府への抵抗運動を指導した。1765年革命結社〈自由の息子(むすこ)たち〉を組織,1772年通信委員会を創設して革命運動を推進,翌年のボストン茶会事件を指揮し,報復措置の強制的諸法にはボイコットを主唱した。1774～1781年大陸会議代表となり,アメリカを独立に導いたが,独立後の政治的保守化の中でその影響力は弱まった。〔折井一彦〕

アダムズ［John Adams］(1735～1826) アメリカ合衆国の政治家。第2代大統領。在任1797～1801年。マサチュセッツの農家に生まれる。ハーバード大学卒業後,弁護士となる。印紙条令撤回運動で政界にはいり,大陸会議では穏健派として活躍。〈独立宣言〉起草委員,1783年パリ講和条約全権使節,1785～1788年イギリス大使。1788年ワシントンのもとで副大統領に選出され,1796年第2代大統領に当選した。任期中はフランスとの戦争回避に成功したが,1798年外人法および治安法で政局を動揺させた。真の愛国者であったが,急進的民衆政治に反対し,ジェファソンの民主共和党の政策と対立したが,引退後はジェファソンとの旧交を回復し,その政策を支持した。彼をもってフェデラリストの時代は終わった。

アダムズ［John Quincy Adams］(1767～1848) アメリカ合衆国の政治家。第6代大統領。在任1825～1829年。ジョン-アダムズの長子。ハーバード大学卒業後,オランダ公使となり,以後,プロイセン・ロシア・イギリス各国公使を歴任した。1817年モンロー政府の国務長官となり,1819年スペインにフロリダを割譲させ,1823年モンロー宣言(→モンロー主義)を起草した。1824年大統領に選出され,ニューイングランドの産業資本家の利益を守り,保護関税や国内交通網の整備に尽くした。1828年再選を阻止され,1831年以来死ぬまで下院議員として奴隷制に反対した。〔折井一彦〕

アダムズ［Henry Brooks Adams］(1838～1918) アメリカの歴史家。ジョン-アダムズの曾孫(そうそん)。ボストンに生まれ,父の秘書としてロンドンに住み,のちハーバード大学で教えた。《北アメリカ評論》の編集者。その代表的な著作《合衆国史》は,ジェファソン・マディソン両大統領の治政16年間における,アメリカの内政・外交に関する詳細な研究史で,アメリカ初期の歴史についての名著とされている。また《モン-サン-ミシェルとシャルトル》は,中世文化の精神に関する興味ある著作である。

アダムズ［Jane Addams］(1860～1935) アメリカの婦人社会事業家。ヨーロッパでスラムを視察したのち,1889年シカゴの貧民街に合衆国最初のセツルメントであるハル-ハウスを設立。以後,46年間その理事長として衛生思想の普及や児童保護・住宅改善などに献身した。主著《ハル-ハウスの20年》はその経験をつづった記録。平和運動にも関心が深く,1931年ノーベル平和

賞を受賞した。

アダムズ-ストークスしょうこうぐん【アダムズ-ストークス症候群】 数秒以上にわたって心臓の拍動が停止したために起こる失神発作。洞調律(どうちょうりつ)が心室に伝達されない完全房室ブロックの際みられる。正常でも迷走神経の刺激によってみられることがある。

アダムズピーク(山) ［Adam's Peak］ セイロン島南部の山。標高2,246m。山頂の岩に足跡に似た深さ1.5mほどのくぼみがある。楽園を追放されたアダムが罰として立たされた跡だといい，この名がある。またブッダの足跡だともいい，ヒンズー教・仏教・イスラム教徒の巡礼地となっている。

アダムズブリッジ ［Adam's Bridge］ インドとセイロン島間のポーク海峡をさえぎる浅瀬。インド側のラメシュバラム島とセイロン側のマナール島の間約30kmにある七つの小島とそれをつなぐ砂州をいう。この砂州は隆起サンゴ礁の残骸(ざんがい)とみられる。インドとセイロンの双方から鉄道が両島まで延び，浅瀬の部分をフェリーボートでつないでいる。楽園を追放されたアダムがここを通ってセイロンに渡ったという伝説からこの名があるが，ビシュヌの化身とされる英雄ラーマ(➡ラーマーヤナ)が幽閉された妻のシーターを救出するために渡ったという伝説によって〈ラーマの橋〉ともよばれる。 〔野間三郎〕

アダム-スミス ⇨スミス

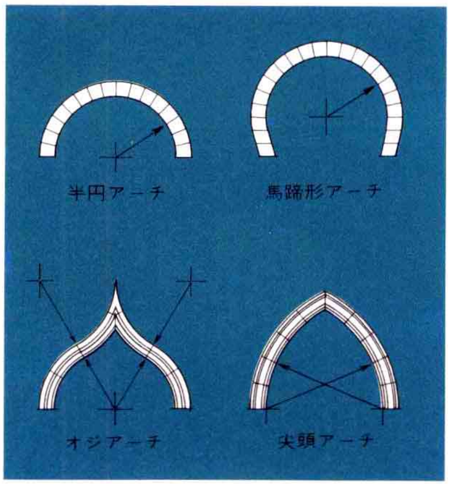
アダムソン ［Robert Adamson］ (1852〜1902) イギリスの哲学者。マンチェスター大学教授。イギリスにおけるカント学者として知られ，カント哲学の問題の発展に努めた。彼自身は当時のイギリスのヘーゲル的な観念論哲学に対し実在論*を唱えたが，未完に終わった。また哲学史家としてもすぐれ，その方面に関する著作がいくつかある。主著《カントの哲学について》《近代哲学の発展》など。

アダモ ［Salvatore Adamo］ (1943〜) シャンソン歌手・作詞家・作曲家。イタリアのシチリア島の生まれ。4歳のとき，一家はベルギーへ移住した。15歳で詩を書きはじめ，ギターをつまびきながらそれにメロディーをつけていた。彼がひとりで歌っているのを聞いた学友たちが，むりやりアマチュア-コンクールを受けさせ，1960年にコンクールに優勝し，歌手としてデビューした。1962年，自作の《サン-トワ-マミー》を歌って大成功を収め，その後も数多くのヒットを放っている。 〔永田文夫〕

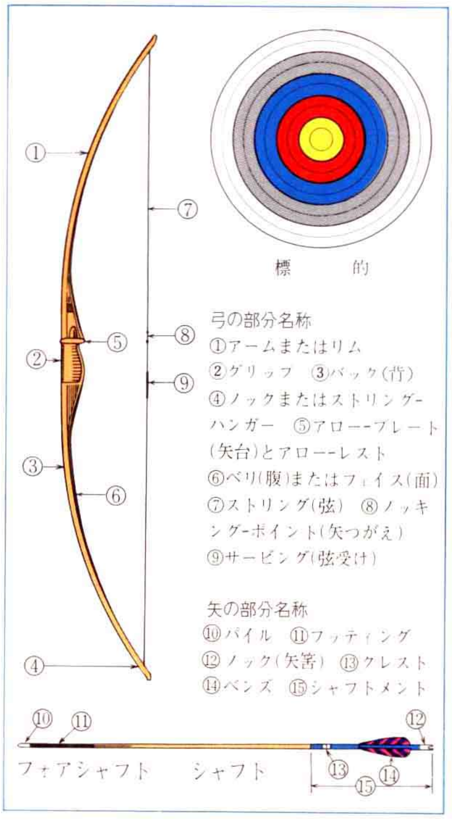
あたらしきむら【新しき村】 武者小路実篤*(むしゃのこうじさねあつ)が，1918年(大正7)同志をつどい宮崎県児湯(こゆ)郡木城村に，白樺(しらかば)派*の理想主義的文学思想を実践する場として建設した生活共同組織。人道主義に根ざしたこの運動は，第1次世界大戦後の民主主義・社会主義思想の高揚を背景として青年層に影響を与えた。機関誌《新しき村》を刊行。1939年(昭和14)埼玉県入間郡毛呂山(もろやま)町に第2の〈新しき村〉を建設，機関誌《この道》を発行している。

アタラ-ルネ シャトーブリアン*の小説。大著《キリスト教精髄》(1802)の一部をなす2編《アタラ》《ルネ》を総括した名。アメリカ旅行をもとにして書かれ，《アタラ》はインディアンの老人がルネに語る恋物語，《ルネ》はあてどない情熱にかられる青年のすさんだ心を描く。自然への愛，孤独と恋愛など，いわゆる世紀病の時代の深層を描いて，のちのロマン派に影響を与えた。

あたん【亜炭】 石炭の一種に属す褐炭(かったん)の中で，木質組織がより多く保存され，炭化度の低いもの。ときに褐炭・亜炭を総称して亜炭ということがある。日本では新生代の第三紀や第四紀の地層に属する砂岩やケツ岩などの堆積(たいせき)岩にはさまれて産出する。代表的な産地は宮城県・山形県・愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県などである。



ア ー チ



アーチェリー

アーチ ［arch］ 石やれんがなどの小単体を用いて壁体の開口部をささえるために築いた円弧状の構築物。迫持(せりもち)ともいう。アーチを構成する単体はくさび形で，幅の狭いほうを開口部に向けると，円弧が生まれる。原始的なあるいは粗雑なアーチでは，特別にくさび形にせず，普通のたんざく形のものを使って目地*の幅で調節して円弧をつくるが，じょうぶさでは劣る。構築中は仮枠(かりわく)などの支持が必要であるが，アーチの頂部のかなめ石がはめこまれれば，自立して荷重に耐える強さをもつ。アーチにおいては，上からの垂直な荷重が，横に押しのけようとする圧力に変化させられる。くさびを木に打ち込むと，左右に押し広げて木を引き裂くのと同じ原理である。この横へ押す力は，アーチ両わきの壁の重さや控え壁(積み石造りの壁体の強度を増すために間隔をおいて，特に厚くつくられた壁体の部分)などで吸収されるが，この押し返す力が足りないとアーチは崩壊する。アーチは石やれんがを積み上げて建築をつくる組み積み造りにとって最も重要な原理であり，ボールト*やドーム*もこの原理の応用発展である。アーチは造形上からも欠くことのできない要素であった。ローマやロマネスク-ルネサンスなどの半円アーチ，ゴシックの尖頭(せんとう)アーチ，イスラムの馬蹄(ばてい)形アーチや，反曲する曲線で構成されるオジアーチなど，時代や民族文化の象徴にさえなっている。 〔渡辺保忠〕

アチエ(州) ［Atjeh］ インドネシア，スマトラ島の北端部を占める州。面積55,000km^2。人口150万(1960)。州都クタラジャ。山がちであるが，東西交通の要点にあたるため沿岸には古くから多くの海港が発展した。熱心なイスラム教徒であるアチエ族*が住み，20世紀初めまでオランダに抵抗した地域として有名。米・コショウなどを産する。

アチエぞく【アチエ族】 インドネシアのアチエ州*に居住する人口約200万の種族。新マライ人に属し，アラビア人・インド人とも混血している。武勇にすぐれ勇敢で，1520年には独立国家を形成した。その後オランダに統治されたが，たびたび反乱をくり返した。主として農耕に従事し，女性の地位の高いことで知られている。婿入り婚を行ない，川沿いの杭上(こうじょう)部落に住む。

アーチェリー ［archery］ ヨーロッパで発達した弓。またそれを用いる競技。洋弓ともいう。元来狩猟用・武器として発達したもので，わが国の弓よりは射程・命中

率ともにはるかにすぐれて，遠距離の記録には普通射形で783 mがあり，矢の速度は52～66.7 m/秒 である。競技には標的・野外・狩猟の3種類があるが，オリンピック種目になっているのは標的競技だけである。

標的競技は，図のような標的の中心を130 cmの高さに固定し，表のような試技を2回行ない，合計点で勝負を争う。なお，得点は標的の中心に的中すれば10点，以下外側へ向かって1点ずつを減ずる。現在の世界記録は男子総合1,161点，女子総合1,102点。オリンピックでは1904年ロンドン，1920年アンベルスの両大会で正式種目として行なわれ，1972年ミュンヘン大会でも行なわれることになっている。なお，世界選手権大会は隔年(奇数年)に行なわれる。野外競技は，山野の一定地域に地形に応じた変化のある標的を配置し，順を追って一巡して得点を競うものである。狩猟は，文字どおりであるが，その威力は射撃にまさるとも劣らないといわれ，それぞれの目的に応じてくふうされた弓・矢や，精巧な照準器が用いられている。〔藤岡　端〕

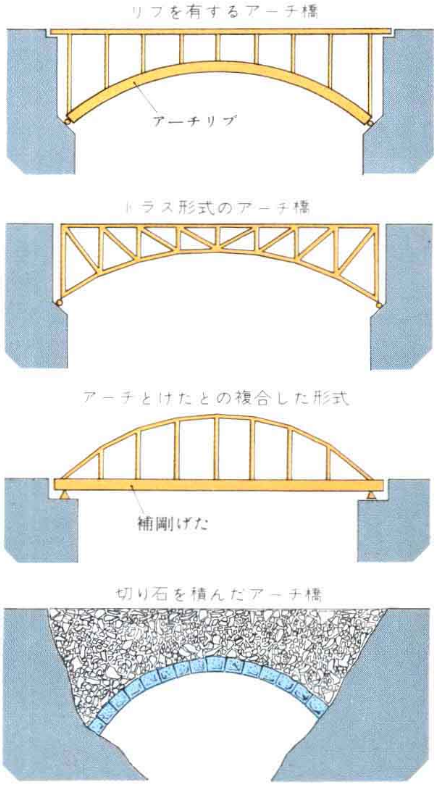
射距離と標的の大きさ

性別	直径122cm的		直径80cm的		各距離	合　計
女子	70m	60m	50m	30m	36射	144射
男子	90m	70m	50m	30m	36射	144射

あちき　【阿直岐】　古代伝承によれば，応神天皇のときの帰化人。百済王(くだらおう)の使者として良馬2頭を貢上し，また皇子菟道稚郎子*(うじのわきいらつこ)に経典を教授し，さらに博士王仁*(わに)を紹介したと伝えられる。

アーチきょう　【アーチ橋】　本体がアーチ構造*になっている橋。広義にはアーチとけたとの複合構造のものも含めてアーチ系橋梁(きょうりょう)とよんでいる。アーチはもともと部材の圧縮に耐える力を利用して荷重に抵抗しようとするものであるが，近代のアーチは曲げにも抵抗することができるのが普通で，けたの性質も合わせてもっている。アーチの特徴は垂直の荷重を受けても，支点から外部に水平の力が作用することであって，支点をささえる地盤がこれに耐えられなければならない。このため，アーチ橋は岩盤のような良好な地盤に適するのであるが，両支点を部材で連結して外部へ水平力を出さないようにすれば通常のけた橋と同じように架設することができる。

アーチは水平な路面をつくるための付属構造を必要とし，上路形式のときは支柱で，下路形式のときはハンガーで床組みを支持する。アーチ橋に用いられる材料は圧縮力に強いことが第1で，かつ重いことが必ずしも不利にはならないため，コンクリートがほかの形式よりも多く使われる。長大なスパン*になると架設上の問題もあって鋼材のほうが有利になる。なお岩国の錦帯(きんたい)橋*は世界でも珍しい木造りリブアーチである。〔堀井健一郎〕





ア　ー　チ　橋



アーチダム　梓川，奈川渡ダム(安曇発電所，62万3,000kW)

アーチこうぞう　【アーチ構造】　半円形あるいは放物線などの曲線形の部材によって空間をおおう建築・土木関係の構造骨組み。部材が曲線的になることによって，部材に生ずる応力は曲げモーメントの影響が少なくなり，軸方向力の影響が大きくなるから，講堂・体育館などのような大空間を必要とする建築の骨組みや橋などに利用される。材料としては，鋼・鉄筋コンクリートなどが用いられているが，最近は集成木材を利用する場合もある。この構造では，アーチの脚部が水平方向に開くと部材応力に曲げモーメントの影響がはいり，アーチとしての効果がなくなるので，開かないようにつくられる。〔谷　資信〕

アーチダム　［arch dam］　ダムの水平断面形が上流側にアーチ形に張り出しているコンクリートダム。ダム全体は水平アーチを積み上げた1枚の薄い壁からなっており，池水の水圧はその水平アーチの圧縮力として両岸に伝えられる。川幅が広すぎるとアーチ作用が弱まるので，ダム頂点と岸との距離が高さの3倍以下の狭い谷間に適している。わが国では地震に対する安全性について不安がもたれていたが，耐震工学の進歩により1954年(昭和29)に宮崎県の上椎葉(かみしいば)ダム(高さ110 m)がはじめてつくられた。それを契機としてアーチダムの経済性が大きく評価され，現在では工事中のダムの大半をアーチダムが占めるようになった。なお，ダムの鉛直断面形は最初のころは直立した柱状であったが，最近は下流側にそり返ったものが多くなった。したがってダム全体の形が半球状となるので，これをドーム形アーチダムとよぶ。わが国最高のダムである富山県の黒部川第4発電所ダム(高さ186 m)はこの種のダムである。➔ダム

〔米屋秀三〕

あちのおみ　【阿知使主】　5世紀ごろの帰化人。蘇我(そが)氏の部下として活躍した東漢直*(やまとのあやのあたい)の祖といわれる。後漢の霊帝の曾孫(そうそん)と伝え，応神天皇のときにその子都加使主(つかのおみ)とともに17県の民を率いて渡来し，大和(やまと)(奈良県)高市郡檜前(ひのくま)村に住んだという。坂上田村麻呂*(さかのうえたむらまろ)はその子孫と伝えられる。

アチーブメント-テスト　⇨学力検査

アーチャー-フィッシュ　⇨テッポウウオ

アチャラづけ　【阿茶羅漬け】　数種類の季節の野菜をトウガラシ入りの甘酢につけたつけ物の一種。〈アチャラ〉はペルシア語でつけ物の意で，ポルトガル人が伝えたといわれる。酢・しょうゆ(または塩)・砂糖を合わせてトウガラシを入れた甘酢を一度煮たてて用いる。材料はダイコン・ミョウガ・カブ・ナス・レンコン・ニンジン・コンブを用い，魚も用いる。

あついた　【厚板】　紋織物(➔紋織)の一つ。一般には平組織の地に各種の絵緯(えぬき)や金銀糸を地搦(がら)みでおさえた織物をさす。通常は経(たて)・地緯・絵緯ともに絹糸を用いたものをいうが，縮緬緯(ちりめんぬき)を使用した撚厚板(よりあついた)，経・地緯に綿糸を用いた綿厚板などもある。厚板というのは，本来は薄板に対してのことばであって，室町時代に中国から舶載された反物類が，緞子*(どんす)や綸子*(りんず)のような比較的薄手

で軽めのものは薄い板に巻き，錦(にしき)や唐織*(からおり)のような多くの絵緯を使って，地質のしっかりした重めのものは厚い板に巻いてあったことからそれらの総称となった。特定の織物をさすようになったのは江戸時代で，その後期から明治時代には女帯地に最も多く用いられたが，肩裏・袋物地にも利用された。京都西陣*・桐生*(きりゅう)が主生産地であったが，現在はほとんど生産されていない。なお，能装束の厚板は織物の厚板とは直接の関係はなく，主として男役あるいは荒神鬼畜の扮装(ふんそう)にあたって，水衣(みずごろも)や法被(はっぴ)・側次(そばつぎ)・長絹などの下に着る着付けのことで，用布には唐織・錦・綾織物・浮織物などがあり，意匠の上からは役柄にふさわしく強い感じの華麗な色調や文様を織り出したものと，格子柄(こうしがら)のものとがある。格子は，さらにその大小によって大格子・中格子・小格子厚板などとよばれている。

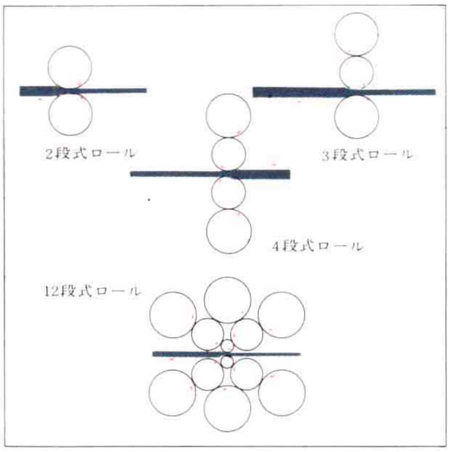
〔北村哲郎〕

あつえん【圧延】回転するロールで金属を板・棒・管・線・型材などに成形する加工方法。圧延された材料は不均質で，もろい鋳造組織が破壊され，鋳物の内部にあった気泡(きほう)も圧着されて，均質な展延性のよい材料になる。鍛造などに比べて短時間に多量の生産ができるため生産費は安い。加工温度によって熱間圧延と冷間圧延とに大別される。〈熱間圧延〉一般に，金属には室温で変形されるとかたくなり，変形しにくくなっていくが，ある温度以上で変形させるとかたくならず変形が容易になるという性質がある。これを利用した圧延が熱間圧延である。金属の圧延のうち最も一般的なものであるが，表面が酸化しやすく精度が悪いなどの欠点もあり，肉厚の薄いものは得られない。〈冷間圧延〉室温で圧延することをいい，熱間圧延に比べて熱的な影響が少ないので寸法精度がよく，はるかに均質なものが得られ，表面も光沢があって非常にきれいになる。したがって，冷間圧延は熱間圧延によって作製された板材や帯材の仕上げに用いられる。また，いったん冷間圧延した帯材を焼きなましたのち，形状の矯正(きょうせい)やかたさなどの機械的性質を均一にするために再び軽い冷間圧延をすることがある。これを調質圧延という。

〔草川隆次〕

あつえんはかい【圧延破壊】⇨破壊

あっかく【圧覚】感覚には皮膚感覚と深部感覚の2種があり，圧覚は後者の一つであり，抵抗や重量を感じる。その中枢は知覚領(大脳の中心溝(ちゅうしんこう)の後壁から中心後回の表面にかけて縦に細長く広がる領域)である。その神経の末梢(まっしょう)からの走行は，受容器(圧点)より脊髄(せきずい)後索にはいって同側の後柱に連なり，主路は延髄でノイロンを変え，延髄視床路を通ってまた内包でノイロンを変え知覚領に至る。





圧　延　圧延ロールの配列。ロールの直径は，圧延動力を小にするために小径となっている。そのため圧延時にロールにたわみができる。これを防止する方法として，3段式・4段式・12段式などいろいろの形式がある

アッカド［Akkad］古代オリエントの地方名・国名・民族名。メソポタミアの北部をアッシリア，南部をバビロニアまたはカルデアとよび，さらに後者の南半をシュメール*，北半をアッカドとよぶ。この名はサルゴン1世*が建設した都市アガデ(アッカド)に由来する。

アッカド人は，歴史上最も古いセム系の遊牧民であり，古くからメソポタミア南部に進出してシュメール文化を摂取していたが，BC2350年ごろサルゴン1世(シャルル・キン)が出て，弓矢を主要な武器とする5,400人からなる軽武装の常備軍を創設，首都アッカドを根拠にシュメールの覇者(はしゃ)(ウンマの王)ルーガルザグギシを破って，南メソポタミアに政治的統一をもたらした。この都市国家の分立抗争の時代から統一国家の時代への転換の背景には，農業生産力の上昇に応じて，広範な領域にわたる統制のとれた治水・灌漑(かんがい)施設の整備・管理の必要が生じたという事情があった。国家統一後，サルゴンは東方・北方・西方の3方に数度にわたる大遠征を行なったが，それにもまさる大遠征によってエラム・シリア・アッシリアを含む空前の大領域国家を建設したのは，彼の孫ナラムシン(在位BC2270ごろ～BC2243ごろ)である。大遠征のようすは，芸術的にもすぐれた〈戦勝碑〉に誇らしげに記されている。しかしBC2150年ごろから始まる蛮族グティ人の侵入によって，アッカド王国は滅亡した。

約2世紀にわたるアッカド王国の支配下で，シュメール・アッカド両民族は文化的にも融合し，すぐれた芸術作品を数多く残している。経済圏も西アジアに広く拡大され，のちのバビロニア・アッシリア時代の基礎が築かれた。

〔屋形禎亮〕

あっかどう【安家洞】岩手県下閉伊(しもへい)郡岩泉町で発見された鍾乳洞(しょうにゅうどう)群の一つで秋芳洞*(しゅうほうどう)をしのぐ規模といわれている。南部の龍泉洞(りゅうせんどう)は観光開発が進んでいるが，北部は未調査の所が多い。

あつぎ【厚木(市)】神奈川県のほぼ中央部の市。江戸時代は東海道から分岐する矢倉沢街道の宿場町，相模(さがみ)川水運の河港として，〈小江戸〉とよばれるほど繁栄した。1955年(昭和30)市制施行。人口13万9000。

市域は，相模川*とその支流中津川*・小鮎(こあゆ)川の合流点に位置する。産業三大別人口比は6：46：48で，電気機器・ゴムなどの近代工業が発達し，県央工業地帯の中心となり，周辺部の米・麦などの農産物も集散する。相模線や小田急電鉄・相模鉄道が通ずるほか，東名高速道路のインターチェンジや，小田原厚木有料道路などが開かれて，交通センター都市としての発展が期待される。市域西部には広沢寺・七沢(ななさわ)などの温泉があり，相模川の本支流では夏にアユ漁が行なわれ，中津川溪谷(けいこく)は景勝地として知られる。第2次世界大戦直後マッカーサーに率いられたアメリカ軍が進駐したので有名な旧海軍の厚木飛行場は，東隣りの綾瀬(あやせ)町と大和(やまと)市にまたがった地域にあり，厚木市とは関係がない。

あっきこうほう【圧気工法】トンネルを掘るとき，坑内へ圧縮空気を送り込み，その空気圧で地下水の湧出(ゆうしゅつ)をおさえて工事を安全に施工しようとする工法。軟弱地盤*におけるトンネル工法の一つであるシールド工法*では，この工法を用いる場合が多い。

あっけし【厚岸(町)】北海道釧路(くしろ)支庁の町で釧路市の東隣にある。人口16,100。厚岸湾に臨んで厚岸漁港があり，サケ・マス・ニシン・サンマ・イカなどの水揚げが多く，コンブもとれる。また厚岸湾の東に続く厚岸湖ではカキの養殖を行なっている。東北海道におけるアイヌ人の居住地の中心で，和人も早くから住み，1802年(享和2)創立の国泰寺がある。中心集落は，厚岸湾から厚岸湖に通ずる水路の南岸にある厚岸本町と，北岸の真龍(しんりゅう)町で，1917年(大正6)に根室本線が開通してからは繁栄が北岸に移った。南岸とはフェリーボートで結ばれているが，冬は海面が凍結して不通となるので，1969年(昭和45)から架橋工事を開始，1972年に長さ456.5mの厚岸大橋が完成した。北海道初の洋上橋である。

あっけしこ【厚岸湖】北海道東南部，釧路(くしろ)市の東方，厚岸湾に狭い水道で連なる塩水湖。面積32km²。最大水深は7mで

海面とほぼ同じ水位。貝類・魚類・コンブが豊富で，中でもカキの産が多い。湖中に数多く分布するかき島はかき殻(から)が堆積(たいせき)して生じたもので，その上に陸上植物の群落が発生しており，その過程研究の貴重な存在として天然記念物に指定されている。

あっけしそう　【厚岸草】　双子葉植物・アカザ科。ハママツ・ヤチサンゴともいう。海岸の砂地にまれにはえる一年草。茎は高さ15～20cmで多肉。多数の対生する枝を出す。葉は膜質で長さ1mmに満たない。夏，おのおのの節に3個の小花をつける。茎は秋になると紅紫色となり美しい。

アッサイ　[assai]　〈十分に〉〈非常に〉を意味するイタリア語。音楽での発想記号や速度記号と組み合わせて使われる。

アッサム(州)　[Assam]　インド共和国北東端を占める州。面積11万3,000km^2。人口1,187万2,000(1961)。州都シロン。北は世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈，東はビルマ国境のパトカイ山脈に囲まれて，ブータン・チベット・東パキスタンに接し，中央部をブラマプトラ川が貫流している。高温多湿で，夏の季節風がヒマラヤ山脈に突きあたることによって多量の雨となり，年降水量が5,000mmに達する世界有数の多雨地域となる。この気候と山地地形を利用して茶が栽培され，紅茶の世界的産地となっている。人口の90%が農業に従事し，養蚕や絹織物の家内工業もみられる。

あつし　【厚司】　アイヌ語のアットシの転訛(てんか)。北海道に多いニレ科の高木オヒョウやシナノキの樹皮繊維で織った厚地で粗剛な織物，さらにそれによって仕立てたアイヌの表着をさしている。衣服であるアットシすなわち厚司はひざ下ぐらいのたけで，衽(おくみ)はなく広そでで，えりにはもめんの裂(きれ)をつけ，そで口やすそ回り・胸・背にはたいてい紺もめんで特有の文様(→アイヌ文様)を切り付けしている。また，切り付けの上にはもめん糸で独特の幾何学的文様を縫っている。地色は染めず，通常は繊維の茶かっ色あるいは薄黄の天然の色をそのまま利用しているが，中には紺や白のもめん糸を経(たて)に加えて縞(しま)を織り出したものもある。なお，このアイヌの厚司をまねて，東北・北陸方面の漁師が着た麻や藤布(ふじぬの)あるいはアットシでつくった同じような形態のたもとそでの表着や，太い綿糸で厚地にじょうぶに織られた藍(あい)染めや縞もめんの生地の，商家のでっちなどが労働着として着せられた，筒そでや舟底そでの同形態の上っ張りも厚司と称された。現在，これらの厚司はほとんどみられなくなった。〔北村哲郎〕

あつしおおんせん　【熱塩温泉】　福島県耶麻(やま)郡熱塩加納村にある温泉。泉温40～70℃，泉質は塩化土類食塩泉で，熱塩の地名は温泉の性質を表わしたものである。胃腸病・リウマチなどにきく。阿賀野(あがの)川上流の押切川に臨み，古くから知られた山間の静かな温泉で療養地に適している。交通は国鉄日中線の終点熱塩駅下車，または喜多方からバスの便もある。

アッシジ　[Assisi]　イタリア中部，ウンブリア地方の小都市。人口26,000(1962)。アペニン山脈のふもとにあるローマ時代以来の市場町。町の中央にはミネルバの神殿があり，ジョット*の壁画で名高いサン-フランチェスコ教会堂*，聖キアーラ聖堂など多くの史跡がある。観光客が多い。

アッシニャ　[Assignat]　フランス革命時代の1789～1796年の間に発行された紙幣。1789年末，国民議会は財政危機を救うため，教会財産を国有化し，その売上金を担保として4億リーブルのアッシニャ公債を発行したが，翌年それに強制通用力が与えられて紙幣となったものである。その後しだいに乱発されてインフレーションを招いたため，1796年総裁政府*により廃止された。

アッシャーけのほうかい　【アッシャー家の崩壊】　ポー*の散文詩的短編小説(1839)。旧家アッシャー家の陰鬱(いんうつ)で荒涼とした邸宅で，精神分裂病質の兄と，すでに屍衣(しい)をまとった双生児の妹とが同時に死に，邸も月光の中でくずれ落ちて湖の中に沈む。怪奇な幻想と，凄絶(せいぜつ)な詩的効果とが恐怖を織り出し，その魔力が読者に迫る。

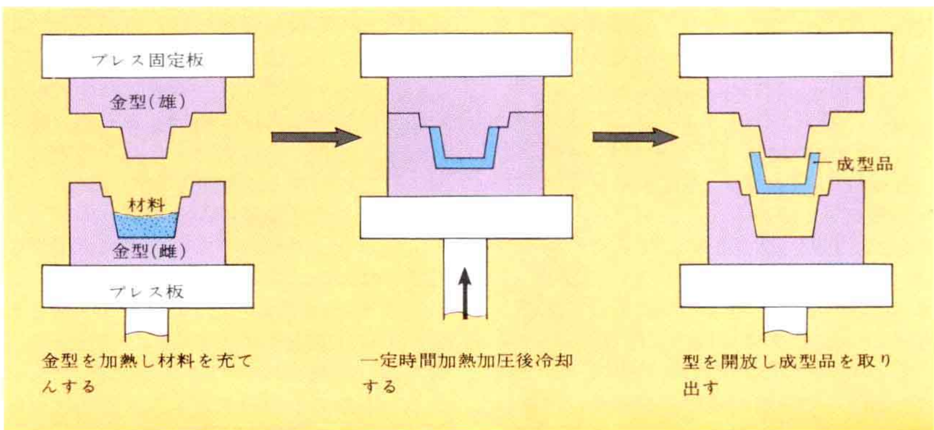


厚　　司　東京国立博物館蔵

あっしゅくき　【圧縮機】　空気その他の気体を圧縮して圧力を高める機械。コンプレッサーともいう。通常1kg/cm^{2}以上の圧力差を与えるものをいう。羽根車によって速度エネルギーを得た気体を減速して圧力を高めるターボ型と，一定容積内に気体を吸い込んで圧縮する容積型がある。

あっしゅくくうききかい　【圧縮空気機械】　圧縮された空気を動力あるいは動力を伝える媒体として利用した機械。圧縮された空気は液化しにくく，取り扱いが簡単であり，不燃性・不爆発性で安全度が高く，配管により動力を自由に伝えることができるから，使用場所に対する制限が少なくなるなどの利点がある。しかし，動力としての効率は低い。爆発性ガスのある坑内や化学工場内で保安上から空気を動力源として用いる圧縮空気機関(往復型・回転可動翼型・空気タービン)，坑道用削岩機などの圧縮空気ドリル，圧縮空気リベット打ち機，鍛造作業などに用いる圧縮空気ハンマー，車両用ブレーキやドア開閉装置，内燃機関の始動や過給装置，潜水艦の浮沈装置などは圧縮空気機械の例である。〔田島清灝〕

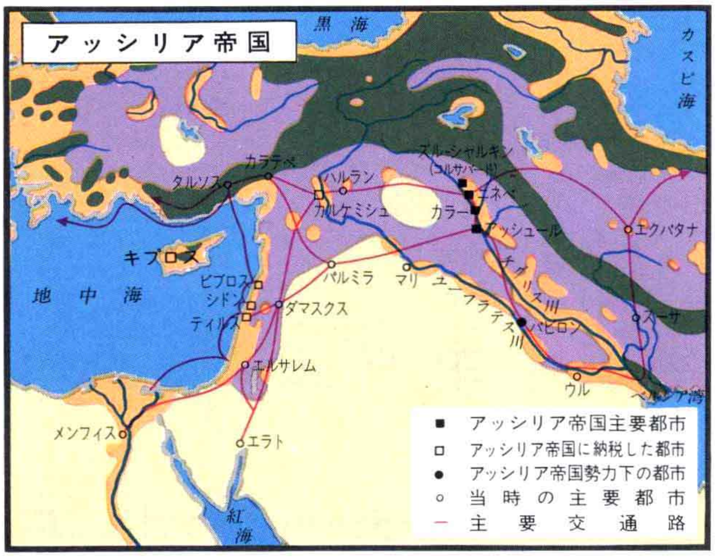
あっしゅくせいけい　【圧縮成型】　プラスチック*の成型法の一。最も簡単で，古くから行なわれている方法。現在でも熱硬化性樹脂の大部分がこの方法で成型されており，熱可塑性樹脂*についても一部用いられている。粉末状・粒状，または錠剤状の成型材料を鋼製の金型に仕込み，熱板の間に挿入(そうにゅう)して加熱しながら油圧によって圧縮すると，熱と圧力によって成型材料は可塑性流動を起こし，金型の細部まで充満される。熱硬化性樹脂*の場合にはこのまま固化してしまうので，圧力を下げるだけで成型品を取り出すことができるが，熱可塑性樹脂の場合には金型から成型品を取りはずすまえに冷却する必要がある。加熱温度・圧力・圧縮時間は，成型材料の種類および金型・成型品の形状によりそれぞれ異なるが，およそ130～200℃，150～200kg/cm^2，1～5分程度である。〔伊藤　卓〕



圧 縮 成 型







アッシリア　(左上)アッシュールバニパル王の獅子狩り浮き彫り　ニネベ出土　大英博物館蔵　(左下)アッシリア帝国発祥の地で，首都として栄えたアッシュール。王宮・ジッグラト・墳墓などが発掘されている　(右)シャルマネセル3世時代(BC858～BC828)の諸都市および主要交通路

あっしゅくひ　【圧縮比】　熱機関や圧縮機において，圧縮前のガスの体積を圧縮後のガスの体積で割った値。ピストン式機関では下死点におけるシリンダー内の体積と上死点における体積との比で示す。一般に圧縮比を高くすれば熱効率が増す。

あっしゅくりつ　【圧縮率】　⇨弾性

あっしゅくりょく　【圧縮力】　物体の任意断面に対して圧縮する方向に生じる断面力。断面力とは，物体に外力が作用するときに物体内の仮想的な任意断面に生じる内力と，任意断面の質量中心(重心)に関する内力のモーメントの総称である。

このうち特に断面に垂直な方向の成分を軸力とよんでいるが，この軸力が断面に対して圧縮する方向に生じるとき，これを圧縮力といい，また引っ張りの方向に生じるとき，これを引っ張り力という。〔山根雅巳〕

アッシュール　［Assur］　北イラク，チグリス川中流域の古代都市。シュメール時代は豪族の侵入を防ぐ屯田(とんでん)市であったが，のちアッシリアの首都として，また宗教の中心地として栄えた。1903～1914年のドイツ-オリエント協会による発掘で，新旧2市(旧市はBC3000年ごろ，新市はBC1500年ごろ建設)・城門・王宮・墳墓や40に近い神殿などが判明した。首都が移転したあとも宗教都市として栄えたが，BC614年メディア軍に破壊された。〔高山高雄〕

アッシュールバニパル　［Assurbanipal］　生没年不詳。紀元前7世紀のアッシリア末期の王。在位BC662～BC626年。遺言により即位したが兄と戦い，外には周辺国家が強まり多難であった。晩年の約10年は平和で，首都ニネベに新宮殿・神殿・図書館を建設。王宮の動物の浮き彫りと王によって図書館に収蔵された20,000枚にのぼる楔形(くさびがた)文字の粘土板は有名。

アッシリア　［Assyria］　北イラク，チグリス川上流，アッシュールを中心とする北メソポタミア地方の古代の地名，および ここを本拠として古代オリエントに活躍した強国の名。

【歴史】アッシリア地方にはBC3000年ごろからバビロニアの文化が及んでおり，アッシリア人の軍事的な都市国家アッシュールが形成されたが，BC2300年ごろよりアッカド王国・ウル第3王朝などバビロニアの勢力の支配下にはいった。紀元前20世紀中ごろに独立を回復して王国を形成してからの歴史は，①古王国時代，②中王国時代，③新王国時代の3期に分けられている。①古王国時代：BC1950年ごろのプズル-アッシュール1世のころから確実となる。以後200年ほどの間に，商業王国として勢威を確立し，遠く小アジアのカネシュにまで商業植民地を建設している。紀元前18世紀半ばのシャムシ-アダド1世やイシュメ-ダガン1世の時代には当時の最強国となったが，後者の死後混乱し，バビロンやマリの支配下にはいった。②中王国時代：BC1500年ごろアッシュール-ニラリ1世が現われて，カッシート朝のバビロニア王国から独立した。紀元前14世紀後半のアッシュール-ウバルリト1世は侵略を再開し，ミタンニの衰退に乗じてその領土を奪い，バビロニアを支配，エジプト王イクナートン(アメンヘテプ4世)と書簡を交換するなど，アマルナ時代の強国の一つとして地位を確立した。シャルマネセル1世をはじめとする紀元前13世紀の諸王は，エジプトとヒッタイトとの死闘に乗じて王国の地位を強化していき，紀元前12世紀末のティグラト-ピレセル1世に至って，地中海沿岸から小アジアにまで版図を広げた。王は法律を制定するなど，支配機構の整備に努めた。しかし，王の死後，北方のウラルトゥ，南方のアラム人の侵入によってアッシリアの領土も商業路も失われ，暗黒時代にはいった。しかし，この間に鉄製武器の採用，軍事組織の改良など，のちの強大な軍事国家の基礎が築かれていった。③新王国時代：紀元前9世紀にはいると，アッシュール-ナシルパル2世・シャルマネセル3世らは，地中海に向かって進軍し，領土の拡大と交易路の回復に努めている。こうしてティグラト-ピレセル3世からアッシュールバニパルまでの約1世紀間(BC745～BC626)に，オリエント全域を支配する最初の大統一国家が成立することになる。ティグラト-ピレセル3世は移民政策によって反抗的な住民を他の地方に移し，バビロニアを支配し，中央集権体制を整えて王国の基礎を固めた。クーデターによって即位したサルゴン2世によってイスラエル王国およびウラルトゥ王国は完全に征服された。次の王センナケリブは反乱に悩まされながらも，パレスチナ・フェニキアの経営に努力し，BC689年には王にそむいたバビロンを，ユーフラテス川の水をせきとめて徹底的に破壊した。エサルハドン(在位BC680～BC669)は首都バビロンを再建し，パレスチナ確保のため，エジプトに進軍して首都メンフィスを占領，総督を派遣してエジプトの統治にあたらせた。こうして全オリエン

ト世界の統一が完成した。最後の英主アッシュールバニパルは王位交替に乗じて各地に起こった反乱をすべて平定して首都ニネベに凱旋(がいせん)し，ここに王宮と大図書館を建築した。学識豊かな王は全国に命じて神話・伝説・占卜(せんぼく)・医術・天文・言語・数学など，あらゆる文献を収集整理させ，学術の振興にも努めた。しかし王の死とともに，王国の諸矛盾がいちどきに現われ，王国はまもなく崩壊した。

新王国時代のアッシリアの支配階級は，大奴隷所有者とこれと結ぶ神官層，および軍人層である。彼らは互いに対立抗争しながらも，一般の自由民やばくだいな数の被征服民(その大部分は奴隷として支配階級に分与された)を苛酷(かこく)に搾取していた。広大な領土とそこに居住する圧倒的多数の被支配階級を統治するために，一方では被征服民上層部を懐柔しつつ，特に戦車と騎兵とからなる強力な軍隊，組織化された官僚群，完備された交通制度を背景に，領土を大小の属州に分割して将軍を総督として派遣し，統治した。これらの総督たちは軍事独裁主義に基づいて専制支配を行なった。また被征服民の抵抗を分断するため，大規模な移民政策を実施した。しかしこれらの政策も，苛酷な搾取に耐えきれない被支配階級の絶え間ない反抗をおさえることができず，また支配者階級内部の対立とあいまって，強大な統一国家の支配体制は不安定であった。アッシュールバニパルの死後，BC612年，バビロンで独立したナボポラサルとメディアの同盟軍の攻撃を受けてニネベは陥落し，アッシリアは急激に衰退した。

〔文化〕アッシリア文化は独自性に乏しいが，従来の諸文化を融合し，辺境に伝えた功績は大きい。また，実用的な都市計画や築城には長じており，これらを飾る丸彫りや浮き彫りは，特に動物の描写において，現実に対する強い関心や権力の誇示への欲求のために，きわめて写実的な力強い表現となっている。アッシュールバニパル王の図書館には当時の学術のすべてが収集され，現代の古代オリエント史研究に大きく貢献した。〔屋形禎亮〕

アッシリアがく【アッシリア学】シュメール・アッカド・アッシリア・ヒッタイトなど，古代オリエント史に活躍した諸民族の歴史・文化・社会・言語を研究する学問。1802年，グローテフェントが楔形(くさびがた)文字で書かれたペルシア語碑文の解読に成功して以来，ローリンソン・オペール・ヒンクスらの学者によって基礎が定められた。エジプト学と並ぶ古代オリエント研究の専門学で，はじめアッシリアの研究が中心であったためこの名があるが，現在ではさらにシュメール学・ヒッタイト学などに細分されている。〔屋形禎亮〕

アッシリアびじゅつ【アッシリア美術】⇨メソポタミア美術

あっせん【斡旋】労働争議を調整する方法の一。労働争議は資本主義経済社会の必然的な産物である。それゆえ，迅速・円満な解決が必要とされる。元来，労働争議は労使間で納得ずくで自主的に解決されるのが基本であるが，労使双方で折り合いがつかない場合は第三者がはいって両者の主張の争点を確かめることによって争議が解決されることもある。これが斡旋である。だれに斡旋してもらうかは原則として当事者の自由であるが，労働関係調整法は労働委員会の調整機能の一つとして斡旋手続きを定めている。その斡旋は，当事者の申請に基づいて開始される場合と，労働委員会の会長の職権によって開始される場合とがあり(労調法12条)，労働委員会の委嘱する斡旋員によって行なわれる。しかし，当事者がその解決を欲しなければ，斡旋員は手を引かなければならない。このように，斡旋は拘束力をもたず，いざといえば拒否できることもあって，労使双方からよく利用される。しかし，実際は，労調法のそのようなたてまえにもかかわらず，斡旋案なるものが上から出され，あるいは強制斡旋が事実上行なわれることが多い。斡旋は，あくまで労使双方の交渉の場を取り持ち，意志の疎通を図ることによって，自主的解決のために援助すべきものである。公共企業体等労働関係法・地方公営企業労働関係法も，ほぼ同じ制度をとっている。〔木元錦哉〕

あつた【熱田(区)】名古屋市南部，旧熱田町を中心とした区。人口65,600。熱田町は熱田神宮の鳥居前町として名高く，江戸時代には宮とよばれ，東海道五十三次の中でも最大の宿場町で，桑名まで〈七里の渡し〉が通ずる水陸両路の要地として，また城下町名古屋への入り口，大垣(おおがき)へ向かう美濃路(みのじ)の分岐点，伊勢(いせ)湾の漁港として繁栄した。江戸時代初期から沿岸の埋め立てが進み，当時熱田新田とよばれた地域は，明治中期以降臨海工業地帯として，木材工業のほか金属・機械などの重工業が発達した。堀川(ほりかわ)沿いには白鳥貯木場があり，付近には木曽(きそ)ヒノキの製材工場が多い。しかし海岸沿いの工場の多くは0メートル地帯にあり，1959年(昭和34)の伊勢湾台風では大きな被害があった。東海道線熱田駅と名古屋鉄道神宮前駅があり，名古屋鉄道を通じて知多半島への門戸となる。北部の金山橋は都市計画による総合駅となり，地下鉄南北線が名古屋港へ通ずる。



熱 田 神 宮

あつたじんぐう【熱田神宮】名古屋市熱田区新宮坂にある。祭神は天照大神(あまてらすおおみかみ)・素盞嗚尊(すさのおのみこと)・日本武尊(やまとたけるのみこと)・宮簀媛命(みやずひめのみこと)・建稲種命(たけいなだねのみこと)。御神体として3種の神器の一，天叢草薙大御剣(あまつみしるしくさなぎのおおみつるぎ)を祭る。東征にあたって，日本武尊は伊勢(いせ)神宮で天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)を受けたが，この神剣によりいくたびかの危機を脱した。任務を果たして帰国の途次，妃に迎えた尾張(おわり)(愛知県)の国造(くにのみやつこ)の妹宮簀媛が，日本武尊の病没後に社(やしろ)を創建し，神剣を祭ったのが，当社のはじめである。例祭は6月5日。社蔵の熱田本《日本書紀》，平安・鎌倉時代の舞楽面6面，紙本着色の《法華経涌出品(ほけきょうゆうしゅつほん)》などは重要文化財。〔佐野文哉〕

アッチカ［Attica］ギリシア中部，首都アテネを含む県。パルナソス山(2,457 m)より南東のアッチカ半島を中心に，アルゴリス半島北東部とサラミス・マクロネソス・キテーラなどの島々からなる。面積3,400 km^2，人口200万3,000(1961)。地味はやせ，オリーブ・ブドウなど果樹の栽培のほかはあまり利用されない。小規模ではあるが鉄・大理石・鉛・亜鉛・カドミウムの鉱山があり，工業はアテネとその外港ピレウスにはみられる。県域は古代アッチカ地方の主要部を占め，紀元前5世紀からはアテネの支配下にはいった。〔梶川勇作〕

あづちしゅうろん【安土宗論】1579年(天正7)5月27日，織田信長(のぶなが)の命により安土城下の浄厳院で行なわれた浄土宗と日蓮宗(にちれんしゅう)の論争。同月中旬ごろ，浄土宗の僧玉念の法談に日蓮宗信者が問答をしかけたことに端を発する。南禅寺景秀らが判者となり，浄土宗の貞安・玉念と日蓮宗の日珖(にっこう)らが対決。日蓮宗は負け，日珖らは浄土宗に対し法難をしないというわび証文を出した。信長は日蓮宗の熱狂的な活動に対し，計画的に弾圧したもので，教義の優劣で決まったものではない。近世宗教政策の一例である。〔玉山成元〕

あづちじょう【安土城】美濃(みの)(岐阜県)・尾張(おわり)(愛知県)をおさえて京都に上がった織田信長(のぶなが)が，丹羽長秀(にわながひで)を普請奉行(ぶぎょう)として琵琶湖(びわこ)の南東岸，湖に突出する観音寺山の尾根の先端に築いた城。現在の滋賀県神崎(かんざき)郡能登川(のとがわ)町と蒲生(がもう)郡安土町との境にあたる。北・東・西は湖，南は沼湿地に限られた要害の地で，山麓(さんろく)南を大手

とし，山上に本丸・二ノ丸・三ノ丸などのほか，館邸・蔵屋敷などを構えた。1576年(天正4)着工，1579年落成。天守閣は5層7階，内部は華麗をきわめ，狩野(かのう)永徳が障壁画を仕上げたもので，本格的天守閣の最初のものである。1582年，本能寺の変ののち焼失。南に展開した城下町とともに，日本城郭史，城下町の発展史上画期的な城で，石がきなど各郭(くるわ)のなわ張りはよく保存され，特別史跡に指定されている。　〔仲野　浩〕

あづちももやまじだい　【安土桃山時代】 ⇨次ページ

あづちももやまじだいびじゅつ　【安土桃山時代美術】　国内の統一を実現し，新たに政治の実権を握った織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)らは，その絶対的な権威を象徴するにふさわしい豪壮華麗な居所，安土城(信長，1576)・大阪城(秀吉，1583)・二条城(家康，1602)などの城郭を築いた。これには建築家はもとより，絵画・彫刻・工芸の才能豊かな美術家が総動員され，黄金の豪奢(ごうしゃ)と好奇の異国趣味を盛った絢爛(けんらん)たる加飾が施されている。この城郭建築とそれに付随して発達した障壁画こそ，当代美術の動向を主導した美術様態である。そして，城内各室の荘厳に中心的な役割を果たした金碧(きんぺき)濃彩の障壁画が，精神的権威の凋落(ちょうらく)の中にも盛んな造営が行なわれた仏教寺院の装飾にそのまま援用されていることからもわかるように，この時代に美術はようやく宗教の隷属から解放されることができた。また，西洋との接触によるいわゆる南蛮文化の渡来は新たな活力を注入する外的刺激となり，内的には古典復興の盛り上がりをみせ，さらに中国美術への傾倒は依然として強かった。このように，和漢洋の雑多な要素を混然と包含しながら新興武家の手によってはなやかな開花をみせた世俗美術は，富を蓄積してきた市民階級にも享受され，美術のにない手を広く拡大したことも見のがせない。また一方では，現実社会の革命的な変化に容易に適応することのできない公家(くげ)層が，伝統への復古による王朝美術の蘇生(そせい)を求め，その運動が武家美術の卑俗な傾向を嫌悪する一部の洗練された上層市民〈町衆〉に共鳴され，調和と簡朴(かんぼく)を志向する対極的な美意識の追求が続けられた。千利休に指導された閑寂な茶の美術や，本阿弥(ほんあみ)光悦を中心とする王朝懐古の豊麗な美術は，そうした動きを代表するものとして注目される。〈建築〉信長の造営になる安土城は当代美術の記念碑的作品であり，以後城郭建築はこの期の美術全般に主導的な役割を果たした。しかし一方では，これと対照的な閑寂を追う茶室建築も発達し，神社建築に権現(ごんげん)造りの新様式が誕生した。〈彫刻〉建築装飾のための宮彫りの欄間彫刻が活況を呈し，肖像彫刻や能面が新たな展開をみせた。〈絵画〉建築空間を装飾する障壁画が主流をなしたが，画題としては花鳥画や風俗画などの平明なものが好まれ，さらに西洋文化との接触は欧風絵画という一分野を成立させた。豪快な大画面装飾画様式を完成した狩野(かのう)永徳をはじめ，長谷川(はせがわ)等伯・海北(かいほう)友松・狩野山楽・雲谷等顔らの活躍が顕著である。〈工芸〉金工は，はでな意匠の建築装飾金具や刀剣の鐔(つば)，力強い姿をつくる茶の湯釜(かま)の制作に活況をみせ，漆工は，日常の調度ばかりではなく建築装飾にも参加して豪華な文様と新技法を開発した。また，陶磁は，瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部(おりべ)・楽焼など日本独特の焼き物を焼いて茶陶に黄金時代を実現，染織では，辻ケ花(つじがはな)染めや縫箔(ぬいはく)などの新技法を駆使して小袖や能装束の発達を促した。　〔小林　忠〕

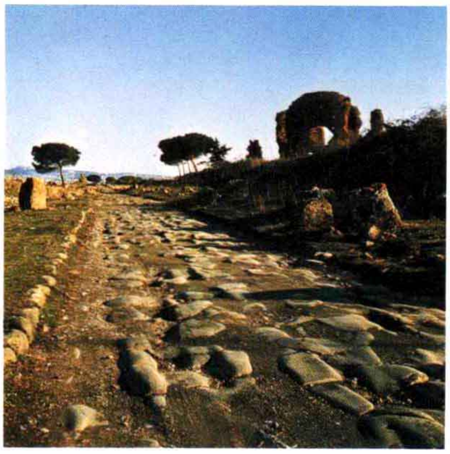
アッチラ　[Attila]　(406ごろ～453)　中央アジアの遊牧民フン族の王。在位433～453年。ゲルマン諸部族と戦いつつ，東ヨーロッパに大帝国を築いた。451年ガリアに侵入したが，カタラウヌムの戦いで西ローマ・西ゴートなどの連合軍に敗退した。452年北イタリアに侵入，翌年本拠地パンノニア(ハンガリー)で没した。

アッツ(島)　[Attu]　アリューシャン列島最西端の火山島。面積800km²。かつてアトカ-アリュート人の大集落があったが，現在の人口は少ない。第2次世界大戦中，1942年(昭和17)6月日本軍が占領，北方作戦の重要拠点として飛行場などを建設したが，1943年6月アメリカ軍に奪取されて2,600の将兵は全滅した。

あってん　【圧点】　⇨触点

あつでんき　【圧電気】　⇨圧電効果

あつでんこうか　【圧電効果】　ある種の結晶体，たとえば水晶・ロッシェル塩・リン酸カリ・デンキ石などにひずみ力を加えたり，あるいはひずみを生じさせると，結晶内に電気分極を生ずる現象。ピエゾ効果ともいう。逆に，電界中に先にあげた結晶体を置いたとき，ひずみ力やひずみが起こる現象を逆圧電効果という。また，圧電効果によって発生する電気を圧電気またはピエゾ電気という。　〔堀内和夫〕



アッピア街道　古代ローマの軍道の一部。石畳が敷かれており，ローマと南方のナポリとを結ぶ最古の道路の遺跡である

アットリビュート　[attribute]　美術に描かれた人物像の宗教的・神話的な意味や寓意(ぐうい)的な役割を示すために，その人物に添えられる表徴のこと。たとえばゼウスのワシと雷，ヘルメスのつえと羽のはえたくつなど。中世において，アットリビュートは特に聖人の図像的表現を中心として発達した。生涯(しょうがい)のできごと，奇跡，殉教などに関連するものなどが個人的表徴として表わされた。聖カタリナとこわれた車，聖エラスムスと紡ぎ車など。一般的表徴としては聖人を示す輪光，殉教者を示すシュロ，使徒や教会博士を示す書物や巻き物などがある。はじめ多義的であった表徴も，中世末にはほぼ一定した表現をとるようになった。　〔島田紀夫〕

アッパ　[appa]　一般にはPMP剤とよばれる有機リン殺虫剤。アメリカのスタウファーケミカル社が開発したものである。適用害虫の範囲は比較的広いが，特にハダニ類に有効で，残効性も数週間に及ぶ。➔殺ダニ剤

アッバス(1世)　⇨シャー-アッバス1世

アッバスちょう　【アッバス朝】　(750～1258)　アッバス家の建てたイスラム帝国。マホメットの叔父(おじ)アッバスの後裔(こうえい)にあたるアブル-アッバスが，クーファによってウマイヤ朝を倒し，これに代わった。第2代カリフのマンスールはバグダットに新都を建設し，行政組織・税制を整えて国家基礎を築いた。これにはイラン人バルマク家の貢献が大きい。次いで第5代カリフのハルン-アル-ラシッドやその子のマームーンの治世には文芸が盛んとなり，イスラム神学やギリシア・インドから摂取した自然科学の発達がめざましい。しかしすでに9世紀中ごろからアッバス朝の領内にイランやトルコの地方君主の独立があいつぎ，カリフの実権は失われていき，1258年モンゴルのフラグがバグダットを占領するに及んで，名実ともに滅んだ。〔小谷仲男〕

アッピア(街道)　[Via Appia]　ローマ最古の軍用道路。ローマからナポリに近いカプアまで，のちにはアドリア海に面するブリンディシまで延ばされた舗石道。幅8m，全長540km。BC312年にローマの監察官アッピウス-クラウディウスが着工したのでこの名がある。ローマと南イタリアを結び，沿道の数々の史跡と風景は名高い。

アップリケ　[appliqué]　布置きししゅうともいう。ししゅうが多彩の糸を用いるのに対し，布で模様を表わすもの。土台となる布地に他の布(皮革・レザー・プラスチック・金属なども用いる)を図案の形に切

安土桃山時代

時代区分の名称。政治上では織田信長(おだのぶなが)・豊臣秀吉*(とよとみひでよし)の権力を握った時代で，織豊(しょくほう)時代または織豊政権時代ともいう。安土は信長の居城の所在地。桃山は秀吉のいた伏見(ふしみ)城跡に，後世モモを植えて桃山と称したことによる。1568年(永禄(えいろく)11)に信長が足利義昭(あしかがよしあき)を奉じて入京してから1582年(天正10)本能寺で殺されるまで14年，そのあとを受けた秀吉が全国統一を果たして1598年(慶長3)に死ぬまで16年，合わせても30年にすぎないが，封建支配体制の確立，近世的全国掌握政策の樹立，近世文化の開花など，歴史的意義が大きい。

信長の家は尾張(おわり)(愛知県)の守護代(しゅごだい)織田氏の家老職で，清洲(きよす)を根拠としていたが，父の信秀時代より頭角を現わし，肥沃(ひよく)な濃尾平野を地盤に，東西交通の要地にあって，しだいに勢力を広げた。信長は1560年駿河(するが)(静岡県)の今川義元を桶狭間(おけはざま)に破り，1567年には美濃(みの)(岐阜県)の斎藤龍興(さいとうたつおき)を破って岐阜城に移り，1568年足利義昭を奉じて入京し，義昭を将軍としてみずからは後見となって全国に号令した。1570年(元亀(げんき)1)には浅井・朝倉連合軍を近江(おうみ)(滋賀県)の姉川に破り，1573年(天正1)には浅井・朝倉・武田(たけだ)氏や石山本願寺などと謀略をめぐらした義昭を追って室町幕府*を倒し，さらに朝倉義景(よしかげ)・浅井長政(ながまさ)を滅ぼし，大和(やまと)(奈良県)の松永(まつなが)久秀を下した。1576年信長は安土に築城して移り，1580年石山本願寺と和して紀州(和歌山県)に退去させ，その間に丹波(たんば)・播磨(はりま)(京都府・兵庫県)に進出した。いっぽう1575年には武田勝頼(かつより)を長篠(ながしの)に破り，1582年には勝頼を滅ぼしたが，同年本能寺で明智光秀(あけちみつひで)に襲われて死んだ。

信長は検地*に着手し，あるいは指出(さしだし)(土地台帳)を提出させるなど，秀吉の検地に先鞭(せんべん)をつけ，関所の撤廃，楽市・楽座*の制など，貴族や社寺と結んだ特権を打破して新興商工業者の台頭を促し，また延暦寺(えんりゃくじ)の焼き討ちにみられるごとく旧来の伝統や信仰を打破した。あとを受けた秀吉は光秀を山崎(やまざき)に破り，1583年には柴田勝家を滅ぼして北陸に勢力を伸ばし，1585年に関白となり，長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)を討って四国を平定し，1587年島津義久を下して九州を治め，1590年小田原の北条氏を滅ぼし，さらに奥羽を平定し，はじめて全国統一を果たした。1592年(文禄1)からは征明軍を編成して朝鮮に出兵し，1598年に死ぬまで続いた。その間国内では刀狩り*をして農民の武器を没収し，検地を全国に施行し，荘園(しょうえん)制下の土地に関する複雑な権利関係を，知行主と本百姓との関係に改めた。検地によって田畑・屋敷の測量をし，これに上・中・下の品等をつけて石盛(こくもり)をし，収穫高を示す石高をもって知行高を表示した。石高は貢租や軍役負担の基準となった。検地帳面に記された農民はその貢租の負担者であり，また耕作権を認められたものとして移動を禁止された。貢租は収穫の3分の2を標準とし，中間で収奪するものをなくした。荘園制下では名主(みょうしゅ)・作人・下作人などが存したのに対して，直接の耕作者に耕作権を与える政策をとった。これを小農民自立政策とよぶ人もある。秀吉は刀狩り令などで，士農工商の身分制を定め，武士や商工業者を都市に集住させ，農村は農民の住地とした。いっぽう，商工業者にも統制を加え，主要都市を直接支配し，外国貿易には朱印状付与による統制をし，自由な経済発展を抑制した。室町中期以来，権力の衰退に伴い，村落自治の発達，自由都市の発展の傾向があったが，それらもまた抑圧された。しかし，中央集権的な権力の成立は，全国を一つの経済圏にまとめ，文化を均一化する役目を果たした。

文化面で安土桃山時代というときには，江戸初期，慶長・元和より寛永期ごろまでをさすことが多い。古い秩序や社会がくずれて，地方の土豪あるいはそれ以下の階層から，あるものは農民や商人から新しい権力者が出た。権力の座は大きく，1国2国を領知する者，さらに朝鮮にまで兵を出す者，数十万の領民を動かし数万の軍勢を出動させる者もあった。さらに，ヨーロッパ人の渡来によって未知の文明に接し，キリスト教を受け入れた。室町期に一定の基礎ができた絵画・建築をはじめ，茶道・能など，有形無形の文化が，伝統を受け継ぎながら，新しい要素を存分につけ加えた。城郭建築はその代表的なもので，自然環境に合わせた巨大な石積みによる城壁と環壕(かんごう)，天守閣と櫓(やぐら)を連ねる門塀(もんぺい)，防塁と居館を兼ねた建造物など，これほど自由な設計はなく，これほど多くの手法が採用されたものはない。彫刻家や画家もすべて動員されて，欄間(らんま)や襖絵(ふすまえ)に十分の意匠を加えることができた。狩野(かのう)派が中心となった障壁画*は，安土・大阪・伏見などの諸城を飾ったほか，宮廷や寺院にも用いられた。狩野永徳の聚光院(じゅこういん)，南禅寺の襖絵，御物の唐獅子図屛風(からじしずびょうぶ)，山楽の大覚寺牡丹(ぼたん)図の襖絵をはじめ，海北友松(かいほうゆうしょう)・長谷川等伯(はせがわとうはく)らの作品はこの時代を代表するものである。朝鮮出兵の結果，多くの陶工が連れ帰られて，薩摩(さつま)・有田・平戸(ひらど)・高取・萩(はぎ)などの窯(かま)を発達させ，古くからあった唐津(からつ)や瀬戸の窯にも刺激を与えて，陶磁器史上では最も活発な時代となった。建築遺構としては京都の北野神社や仙台の大崎八幡宮などの神社建築，松本城・姫路城・二条城などの城郭建築*がある。また，西本願寺の書院・飛雲閣・唐門(からもん)，醍醐寺(だいごじ)の三宝院などは豪華な書院造*で知られ(それらのうちには伏見城の遺構を移したと伝えられるものもあるが，最近ではそれを否定する説が強い)，安土桃山期の豪壮さを残している。茶道の隆盛につれて完成した数寄屋(すきや)造*には，京都高台寺の時雨亭(しぐれてい)，大山崎町にある妙喜庵(みょうきあん)の待庵などがある。〔児玉幸多〕



安土桃山時代　秀吉の最後を飾るにふさわしい豪華な花見を描いた《醍醐花見図屛風》

って載せ，まわりを縫いつける。ヨーロッパで中世紀ごろ流行し，祭壇のかけ布や僧服に用いられ，その後しだいに服飾や室内装飾にまで用いられるようになった。わが国では，江戸時代に発達した押し絵がアップリケと表現内容を同じくし，また同時代の歌舞伎(かぶき)衣装にも繍(ぬい)の代わりにアップリケの手法が用いられている。ヨーロッパふうのアップリケは大正初期に取り入れられ，はじめは布地のいたんだ部分あるいは補強に使われることが多かったが，しだいに服飾(特に子ども用)・室内装飾・アクセサリーなどに用いられるようになり，大衆性をもった創作的・趣味的手芸として普及した。材料は染めが堅ろうでほつれにくいものを選ぶ。ほつれにくいものは裁ち目のままでよいが，ほつれやすいものは折りしろを内側に折って台布に重ねてつける。つけ方にはボタンホールステッチ*・コーチングステッチ*・ヘリングボーンステッチ*・まつりかがり・ミシンステッチ*などがある。〔田村彰三・山村あい子〕

アップルトン [Sir Edward Victor Appleton] (1892〜) イギリスの物理学者。ケンブリッジ大学に学びJ.J.トムソン*・ラザフォード*のもとで研究。1924年，大気の高層で電磁波が反射されることを確かめ，理論的に予想されていたヘビワイド層を実証し，さらに2年後にアップルトン層を発見した。ロンドン大学・ケンブリッジ大学教授を経て科学産業庁長官。1947年ノーベル賞を受賞。

アッベ [Ernst Abbe] (1840〜1905) ドイツの物理学者・光学技術者。イエナ大学教授・天文台長・気象台長を勤め，またツァイス*に協力して当時までの経験的光学技術を科学理論の上に再建し，光学ガラスおよび光学器械の進歩に大きく貢献した。ツァイスの死後カール-ツァイス*の支配人，のち社長となった。

アッベすう 【アッベ数】 フラウンホーファー線*の三つのスペクトル線，C(赤)，D(黄)，F(青)に対する光学ガラスの屈折率をn_C，n_D，n_Fとしたとき，次の式で与えられるν_Dをいい，ガラスの光の分散の度合いを示す。

$$\nu_D=\frac{n_D-1}{n_F-n_C}$$

あづまかがみ 【吾妻鏡】 鎌倉幕府が編集した日記形式の記録。1180年(治承4)源頼政*(よりまさ)の挙兵から1266年(文永3)前将軍宗尊(むねたか)親王*の帰京に至る87年間が記録されている。幕府の公の記録のほか，公卿(くぎょう)の日記や古文書・物語などを参考として，前半は13世紀半ば以後，後半は14世紀初めに編集された。鎌倉時代の代表的な史書であるが，厳密な史料批判が要求されている。

あづまさん 【吾妻山】 福島・山形両県にまたがる東西に延びる火山群で，北は米沢(よねざわ)盆地，西と南は裏磐梯(うらばんだい)，東は福島盆地に接する。西から西吾妻(2,024m，最高峰)・中吾妻・東吾妻・一切経・吾妻小富士などの山々が並び，東部の一切経と小富士は活火山である。五色沼・桶沼(おけぬま)などの火口湖があり，地形は複雑である。北側の五色，東側の土湯など温泉も多い。東部では福島から裏磐梯へ抜ける磐梯吾妻スカイラインが通じており，観光客が訪れる。また周辺にはスキー場も多い。磐梯朝日国立公園に属する。〔高野　繁〕

あづまじし 【吾妻獅子】 地歌の曲名。峰崎勾当(こうとう)が作曲した手事物。歌詞は一部《伊勢(いせ)物語*》によっている。本来は三味線(しゃみせん)の曲であるが，箏(そう)の手付けが施され，合奏，特に掛け合いのおもしろみがある。

あづまとくほ 【吾妻徳穂】 (1909〜) 日本舞踊吾妻流宗家。15世市村羽左衛門*(うざえもん)の娘。藤間流を学び，春藤会を興して活躍，1933年(昭和8)，元禄期(1688〜1703)の歌舞伎(かぶき)役者吾妻藤蔵を先祖とし，明治以後中絶して家名のみ市村家に伝えられていた吾妻流を再興した。野心的な新作舞踊に本領を示し，また一座を組織して1954年にアメリカ，翌年に欧米を巡演した〈アズマカブキ〉は話題を呼んだ。

あづまにしきがい 【吾妻錦貝】 軟体動物・二枚貝類・イタヤガイ科。長さ8cmほどのうちわ形。かっ色のものが多いが，赤・白・紫色などのものもあり，かなり美しい。分布は広く，日本全土の水深10mまでの海底に足糸で付着生活をする。食用になり，東北地方・北海道ではアカザラとよんで養殖もされている。

あづまはっけい 【吾妻八景】 長唄(ながうた)の曲名。1829年(文政12)4代目杵屋六三郎(きねやろくさぶろう)(のちの六翁)の作曲。芝居と無関係な，いわゆるお座敷長唄の代表曲とされる。歌詞は，江戸の名所を，季節や時の変化も織り込んで歌ったもので，それぞれの場所にかなった合方*が置かれていて，それが，またこの曲の愛好される理由になっている。隅田(すみだ)川の場面では〈佃(つくだ)の合方〉，秋の今戸の場面では箏曲(そうきょく)に由来する〈砧(きぬた)の合方〉，そして，不忍池(しのばずのいけ)では〈楽の合方〉が使われている。上調子の装飾的な旋律が，複雑な構成感を与えている。〔徳丸吉彦〕



吾妻山　紅葉の時期を迎えた秋の吾妻山。中央の噴煙をあげるのが一切経山で，この付近の山はだは噴煙の硫気によって荒れている

あづまもんどう 【吾妻問答】 宗祇*(そうぎ)が，関東在住中に連歌愛好者の求めに応じて与えた連歌論書。《隅田川(すみだがわ)》ともよばれる。1467年(文正2)か翌々年の成立。連歌の歴史や句作の段階論，用語などを26条にわたり問答形式で論述する。

あつみ 【渥美(町)】 愛知県渥美郡の町。人口24,900。渥美半島の西端の部分を占める。1955年(昭和30)に，福江町ほか2村が合併して生まれた。福江港は三河(みかわ)湾内の重要な港である。キャベツなどの野菜の栽培，酪農，キク・メロン・トマトなどの無加温式の温室園芸が盛んで，電照ギクの温室の夜景が美しい。けしきの雄大な伊良湖岬*(いらごみさき)をはじめ，観光資源にも恵まれている。

あつみおんせん 【温海温泉】 山形県西田川郡温海町にある温泉。泉温83℃，泉質は食塩含有硫化水素泉で，切り傷・胃腸病・婦人病・リウマチなどにきく。室町時代から存在した泉量豊富な温泉で，〈温海七色〉の名で知られている。日本海に臨む静かな温泉であったが，1952年(昭和27)の大火後は近代的な温泉町としてにぎわうようになった。交通は羽越本線温海駅下車。

あつみせいたろう 【渥美清太郎】 (1892〜1959) 演劇評論家。東京出身。雑誌《演芸画報》《演劇界》などで活躍。歌舞伎(かぶき)・邦楽・舞踊などの研究にも多くの業績を残した。著書に《歌舞伎狂言往来》《邦楽舞踊辞典》など多数。

あつみつちんかげんしょう 【圧密沈下現象】 地盤が圧力の増加のため徐々に圧縮されて，沈下が長期間にわたり継続する現象。水で飽和している地下水面以下の軟弱な粘土層・泥炭(でいたん)層に載荷圧力が加わると，土中の間隙(かんげき)中の水に過剰な水圧が生じ，隙水が上層または下層にある透水性のよい砂層などにゆっくりと排水され，その排水量だけ粘土層や泥炭層が圧縮されて沈下が生ずる。沈下は過剰水圧が消失するまで継続し，その期間は粘土層・泥炭層の厚さの2乗に比例して長くなり，数年に及ぶ場合もある。沈下量は載荷圧力の大きさ，土の強さおよび土の間隙の量などに影響される。軟弱地盤上に建造物をつくる場合は十分な対策を必要とする。〔森　麟〕

あつみはんとう 【渥美半島】 愛知県の南部を東西に延びる半島で，蔵王(ざおう)山(253m)・大山(328m)などの山は赤石山脈延長の古生層からなり，半島の先端にいくにしたがって低くなっている。山の周囲は洪積(こうせき)台地で，一般に南が高く北に傾斜している。南の太平洋岸は海食が進み，北の渥美湾岸は東部に田原湾，西部に福江湾があり，ともに湾口には砂嘴(さし)の発達

がみられる。先端の伊良湖岬*(いらこみさき)から北の立馬岬にかけての砂浜海岸には砂丘が形成されている。半島の海岸地帯は三河(みかわ)湾国定公園に指定されており，電照ギクをはじめ草花の栽培が盛んで，これが観光資源ともなっている。〔味沢成吉〕

あつみわん【渥美湾】愛知県の三河(みかわ)湾の東部をいい，伊良湖(いらこ)水道をはいって東側の部分である。渥美半島によって遠州灘(えんしゅうなだ)とくぎられており，豊橋(とよはし)市や蒲郡(がまごおり)市がこの湾に面し，豊川が流れ込んでいる。風光に恵まれ，三河湾国定公園の一部となっている。沿岸ではノリの養殖が盛んである。

あつもりそう【敦盛草】単子葉植物・ラン科。山中の草地や林内にはえる多年草。本州以北・朝鮮・南千島・樺太(からふと)(サハリン)・中国・カムチャツカ・東ヨーロッパに分布。5～7月に淡紅色～淡紫色の花を茎頂に1個つける。根茎は短く横にはい，地上茎に長楕円(ちょうだえん)形の3～5枚の葉が互生。外花被の側弁2枚は合着し，唇弁(しんべん)は袋状にふくれて上部が開口している。この形を平敦盛*の母衣(ほろ)にたとえて，アツモリソウという。〔横井朝子〕

あつよう【厚様】ガンピ*の樹皮を原料としてすいた斐紙(ひし)(雁皮紙*(がんぴし)・鳥の子紙*)の厚手のものをいう。白紙のほかに色紙もある。➔薄様

アッラー［Allāh］イスラム教の唯一神。その語源はアラム語の〈アラーハー〉に由来するとの説もあるが，神一般を表わす〈イラーフ〉に定冠詞〈アル〉が付与されたものという説が有力である。イスラム教以前からすでに最高神と見なされていたが，マホメット*はそれを①最後の審判の日をつかさどる創造主，②宇宙の調和を保つ全能者，③並ぶ者のない唯一者，に発展させた。イスラム教はさまざまな意味でユダヤ-キリスト教の伝統に立脚しており，その神観も当然これを継承しているが，③の唯一絶対者の強調はイスラム教の著しい特徴である。これは特にキリスト教の三位一体*の教義と鋭く対立するが，それはイスラム教がその成立過程で偶像崇拝との激しい争いを経てきたためと思われる。➔イスラム教〔牧野信也〕

あつりょく【圧力】二つの物体の接触面で互いに押し合うような力が作用しているとき，この力を圧力という(図-A)。また一つの物体の内部に任意の平面を考えるとその両側の部分が互いに押し合うような力が作用しているときも，この力を圧力という(図-B)。机の上に置いた物体は机の面に圧力を及ぼす。容器の中の流体はその内壁に圧力を及ぼしているし，またその内部のいたるところで圧力を考えることができる。圧力は物体の単位面積に垂直に働く力の大きさで表わす。これを圧力の強さという。固体や静止した流体は，圧力によって体積の弾性を示す。

〔気体の圧力〕あまり大きくない容器に入れた気体は容器いっぱいに広がって一様な密度となり，その圧力はどこでも等しい。この気体の圧力は気体分子が容器の内壁に衝突することによって生ずる。容器の高さが著しく高い場合や地球を取り囲む大気の圧力の場合には，下方の密度が大きくなっているので圧力も大きくなってくる。地上における大気圧*は水銀柱の高さ約76cmとつりあい，この圧力を1気圧(atm)とよんでいる。そして，$1\text{atm}=76\text{cmHg}=1033.6\text{g/cm}^2=1.013\times10^6\text{dyn/cm}^2=1.013\times10^5\text{N/m}^2=1.013\times10^5\text{N/m}^2=1,013\text{mbar}$なる関係がある。➔ボイル-シャルルの法則 ➔ドルトンの法則

〔静止流体内の圧力〕①静止流体が容器の内壁に及ぼす圧力は内壁に垂直であるが，内壁に限らず流体内の任意の面に互いに作用する圧力は面に垂直である。②同一水平面の各点に作用する圧力は等しい。③流体内の1点に作用する圧力の強さは方向によって変わらない。④流体内のある点からhだけ深い点における圧力は，密度をρとするとρghだけ大きくなる。⑤ピストンのように密閉された流体の一部に圧力を加えると，その強さは変わることなく各部に伝えられる。➔パスカルの原理〔有山正孝〕



渥美半島　半島先端部の伊良湖岬付近を南岸(太平洋岸)から望んだ写真。温暖な気候に恵まれた海岸には，暖地性の植物が茂り南国的な情趣が濃く，フラワーセンターなどがある

あつりょくけい【圧力計】流体の圧力を測定する計器。大気圧*を測定する気圧計(水銀気圧計・アネロイド気圧計・自記気圧計)，高い圧力を測定する高圧計(ブルドン管圧力計・U字管圧力計)，低い圧力を測定する低圧計(マクラウド真空計)などがある。

〔水銀気圧計〕原理的にはトリチェリーの実験*とまったく同じで，気圧の変化によって上下するガラス管内の水銀の高さで気圧を求める。精密測定には，温度による水銀の体膨張を気圧計についている目盛りによって0℃の値に換算(温度補正)するほか，毛管現象に対する補正，海面および緯度45°への換算などの補正が必要である。

〔アネロイド気圧計〕真空の金属箱の上面が大気圧の変化によってたわむ弾性を利用した気圧計である。金属箱はばねによって外力に対してささえられ，気圧の変化によって箱の中央部に生ずるくぼみがてこによって指針を回転するようになっている。これは自記気圧計としても利用される小形で簡便な気圧計である。なお，これに高度目盛りをつけると高度計*ともなる。

〔ブルドン管圧力計〕先端を閉じた中空の金属管の中に液体や気体がはいると，その圧力で管が外側へ広がろうとする金属の弾性を利用したものである。ボイラーや圧縮空気の圧力測定に用いられ，120気圧ぐらいまで測ることができる。なお低圧用もある。

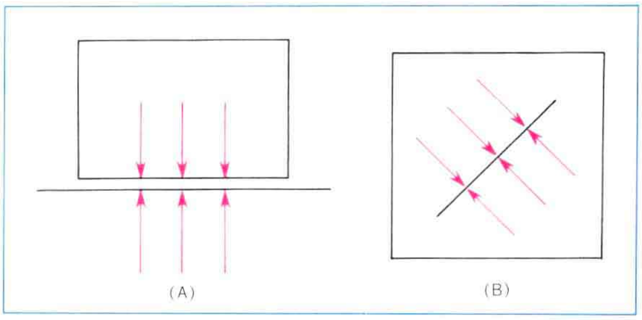
〔U字管圧力計〕マノメーターともいう。圧力を液体の重さとつりあわせる方式で，U字状のガラス管に液体を入れ，左右に圧力差を加えれば，液面の高さの差からその圧力差が求められる。液体には水銀・水・油・アルコールなどが用いられる。

〔マクラウド真空計〕10^{-1}～10^{-6}mmHg程度の低圧を測るのに使われ，ボイルの法則*を応用したものである。

このほか，気体の圧力が低くなると熱伝導率が小さくなることを利用したピラニ真空計，圧力によって気体の電離度が変わり，それを放電現象の形によって真空の度合いを決めることのできる電離真空計，ロッシェル塩や水晶などの圧電現象を応用した圧電式圧力計などもある。〔今淳治郎〕

あつりょくだんたい【圧力団体】⇨128ページ

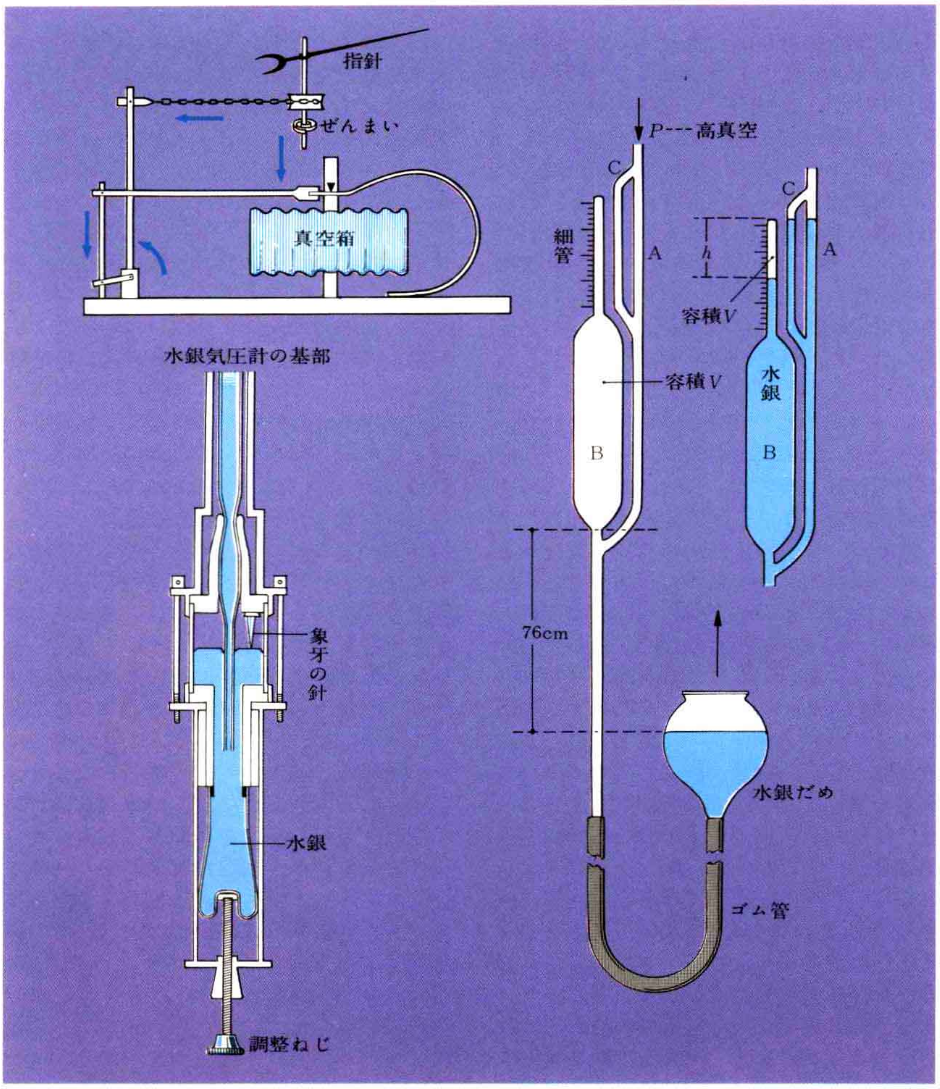
あつりょくなべ【圧力鍋】圧力をかけて煮るなべ。一般のなべが大気圧のもとで加熱されるのに対し，圧力なべは重いふたをしたり，密閉装置を用いたりして，内部の圧力が逃げないようにしたなべ。沸点



圧　力



アツモリソウ



圧力計　(上)アネロイド気圧計　(下)マクラウド真空計　(右)水銀気圧計

が高くなるので，短時間で調理することができるほか，かたい肉や魚の骨なども柔らかくすることができる。

アディ　[Ady Endre]　(1878～1919)　ハンガリーの詩人。青年時代にパリへ遊学してフランス象徴派の影響を受け，帰国後の詩集《新詩集》《血と金》などで名声を得た。やがて，文芸雑誌《西洋》(1908年発刊)によって若い文学者たちの中心的存在となり，盛んな文筆活動を通じてハンガリー文壇に革新的気運をもたらした。20世紀ハンガリーを代表する叙情詩人として国際的にも広く知られている。上記のほか，《死者を率いて》など10数編の詩集と，多数の短編小説やエッセイがある。　〔徳永康元〕

アティーシャ　[Atīśa]　(982ごろ～1054ごろ)　チベット仏教中興のインド僧。東インドのサホール国の第2王子に生まれ，幼名はチャンドラガルバ。29歳のとき出家してオタンタプリー寺学堂にはいる。僧名はディーパンカラシュリージュニャーナ。31歳まで顕教を学修したのち，セイロン・スマトラなどに遊学。帰国してビクラマシーラ寺学堂の長老となる。1042年，西部チベットのガリ地方の王チャンチュブオェの再三の懇請によって，チベットに入国し，吐蕃朝(とばんちょう)末期に行なわれた破仏によって衰退したチベット仏教の再興に尽力した。門下の僧団をカダンパ派という。著作《菩提(ぼだい)道燈論》は仏道修行の階程を解説したもので，後世の改革派仏教である黄帽派(→黄教)への影響は多大であり，その理論的よりどころとなった。　〔金子良太〕

アーティチョーク　[artichoke]　双子葉植物・キク科。チョウセンアザミともいう。地中海沿岸地方原産の越年草。茎は高さ150cm以上になる。葉はアザミに似て羽状に切れ込みがあり，縁はとげとなる。夏，茎の先に管状花からなる直径15cmぐらいの紫色の頭花をつける。つぼみの基部を食用とし，最近では切り花としても栽培される。

あてじ　【あて字】　漢字の本来の意味に関係なく，音や訓を借りてあてはめた漢字，または漢字のそういう使い方をいう。最も広義に解すれば，国語を表記するに用いるすべての漢字はあて字であって，これをうそ字・誤字と同じ意義に扱うこともある。あて字を大別すると，①字の意味を無視して，単にその音や訓をあてて使う漢字。例：丁度(ちょうど)・都合(つごう)・めった(滅多)・矢張(やはり)・浅墓(あさはか)・目出度(めでたい)・面倒臭(めんどうくさい)。②音訓を無視して意義をあてて使う漢字。例：土産(みやげ)・五月雨(さみだれ)・大人(おとな)。③音訓や意味を無視してあてて使う漢字。例：流石(さすが)，などがある。また，外国の地名・人名を亜米利加(アメリカ)・斯格的(スコット)，外来語を瓦斯(ガス)・燐寸(マッチ)・倶楽部(クラブ)などと，漢字をあてることも行なわれてきたが，当用漢字*やその音訓が制定されてからは，これに準拠してかな書きされるようになった。その反面，漢字制限のため，英知(叡智)・編集(編輯)・低回(低徊)・包丁(庖丁)など同音の漢字による書き換えが行なわれているが，これらをあて字とみることもできる。　〔石黒　修〕

あてつだい　【阿哲台】　岡山県の北西部，高梁(たかはし)川中流域の高度500 m内外の高原で，新見市の南に広がる。石灰岩からなり，集落は水を求めて立地している。

アテトーゼ　[Athetose]　おもに四肢(しし)に出現する不随意運動の一種。常人にまねできない緩慢で緊張性ある奇妙な運動が四肢の両側または片側にたえず出現する。しばしば首や顔面にも及び，おちつきなく，たえず顔をしかめ，口をとがらし首を振る。睡眠中には消失する。大脳基底核の障害によって起こり，脳性小児麻痺(まひ)・血管性障害・脳炎後遺症・錐体(すいたい)外路系変性疾患などでみられる，治療としては薬物で多少抑制ができることもあり，脳定位手術も研究されている。　〔井形昭弘〕

アテナ　[Athena]　ギリシア神話*の女神。主神ゼウス*の頭から生まれ，ギリシア歩兵のように武装している。海神ポセイドン*と競い，アテナイ市民にオリーブの木を与えたことで同市の守護神となる。好戦的な女神であるが，一方ではさまざまな技術工芸や医術・音楽などをつかさどり，さらに知恵の象徴となった。処女神であるが，ヘパイストス*の求愛を拒んで争ったとき，大地に落ちたヘパイストスの精液から伝説のアテナイ王エリクトニオスが生まれた。ローマ神話*のミネルバにあたる。〔松田　治〕

アテナイ　⇨アテネ

アテナイオス　[Athenaios]　生没年不詳。200年ごろ，ヘレニズム時代に活躍したギリシアの学者。エジプトのナウクラテスの生まれ。代表作《学者たちの饗宴(きょうえん)》30巻を192年ごろ完成した。うち15巻が現存。これは当時の一流の学者が数日にわたって饗宴を張り，その間哲学・文学・法律・医術など多岐にわたる主題を論じ合うという趣向である。文章技巧は拙劣であるが，諸作家の作品，特に新喜劇作品をふんだんに引用しているため，散逸した資料の宝庫としての価値が高い。　〔久保正彰〕

圧力団体

プレッシュア-グループの訳語で，利益団体という用語もほぼ同じ意味に使われている。ある社会集団が，自己の特殊利益を実現するため，政府・議会・政党・官僚などの政策決定過程に組織的な影響力を及ぼすとき，これを圧力団体という。このような機能を営む団体は，ギルド*・教会・弁護士会などの形で古くから存在していたが，圧力団体という名称で内政上注目されるようになったのは，第1次世界大戦後の〈集団の噴出〉という大衆民主主義状況の形成によるものである。日本では，第2次世界大戦後，特に政治活動の自由のみならず，政府の予算編成権が占領軍の拘束から解放された1952年(昭和27)以後に，その運動が活発になった。

一般に，圧力団体は，特殊な職業上の共通の利益の実現を目的とする職能団体と，特定の主義・主張を追求する促進団体とに分かれる。前者には，資本家団体・中小企業団体・労働組合・農業団体・婦人団体・在郷軍人団・宗教団体・教育団体・法曹(ほうそう)団体・医師団体・黒人団体・市民団体などが属する。後者には，動物愛護団体・死刑廃止団体・禁酒同盟などが属する。近代の圧力団体は，コブデン*の反穀物法同盟(1839)のように，特定の目的のために組織され，その目的が達成されると直ちに解散した。現代の圧力団体は，永続的組織を有しながら，他の社会集団と異なる組織部門の発達をみている。たとえば，政府や議会に働きかける突撃隊としてのロビイスト(圧力工作の専門家)や広報専門組織がそれであり，機動性を備えた私的官僚制が発達する。そして，当初の自発的結社としての性格は，しだいに強制加入団体へと変化し，団体内の政策決定権が，積極的に活動する少数のリーダーに集中する寡頭制の傾向が強くなる。

圧力団体の政治機能は，職能団体としての性格に制約されている。第1に，公職を選挙で争わず，国政の責任を負わない点で，政党と区別される。第2に，公職選挙の候補者に政治資金を提供するが，政党のようにみずから候補者を立てない。第3に，政党の掲げる政策は国民代表の立場から幅広く弾力的であるが，圧力団体の政策は職能的利益の実現に制約されて固定的である。しかし，圧力団体と政党の区別は固定的ではない。特に多党制のもとでは，圧力団体の政党化あるいは政党の圧力団体化の現象も生じやすい。

〔圧力団体の台頭〕 元来，近代民主政治には，圧力団体の問題が介入する余地がなかった。J.J.ルソーは，あらゆる形の特殊利益の代表を拒否し，J.マジソンも，派閥の存在は全体利益への脅威であるとこれを非難していた。したがって，今世紀における上・下両院に対する〈第三院〉としての圧力団体の台頭は，この伝統によって，民主政治の病理現象とさえ考えられていた。現在，圧力団体の花園といわれるアメリカにおいてさえ，1946年には連邦ロビイング規制法を制定し，圧力団体の登録義務，収支決算の報告義務およびその違反行為の処罰規定を設けて，活動を規制する方向を示した。しかし，この法律の制定により，圧力団体の存在は法制上の承認を得た結果になり，現在では，議会政治の欠陥を補う重要な構成要素となっている。現代における圧力団体の台頭の条件は，次の3点に要約される。

第1に，近代民主政治における国民代表制は，地理的区分に基づく代表制であった。しかし，資本主義的工業化の進展に伴い，複雑に分化する職能的利益の代表が不完全なものになる。ここに地域を越えて組織された職能団体が，政治活動を開始する理由がある。特にアメリカやイギリスなど二大政党制と小選挙区制が確立している国では，政党や議員を選択する範囲が限定されるため，特殊利益の実現を求める圧力団体の進出は著しいものがある。第2に，大衆民主主義状況のもとで，近代の名望家的政党は中央集権的な大衆政党に変化した。この政党構造の変化こそ，ロビイングの政治的有効性を保障するものであった。圧力団体は，党内の指導権を握った少数の政党幹部と取引をすることにより，議会内多数を獲得することができる。いわゆる政界の疑獄事件は，この過程から生じることが多い。第3に，国家独占資本主義の段階においては，各種の社会領域に対する政府の管理や統制が拡大する。財政・雇傭や各種の社会保障から公害問題に至るまで，政府の資金散布と統制が行なわれる。その結果，政治体制の中心に支配集団として位置する資本家団体のみならず，中小企業団体・農業団体などの職能団体も，自己の職能的利益のため，政策決定過程の動向を注目し，これに働きかけざるをえなくなっている。特に福祉国家政策が全面化している諸国では，労働組合など従来疎外されていた職能団体でさえ，利益誘導の結果，圧力団体化する傾向が著しい。また，東欧諸国においても，社会主義的工業化の進展は，スターリン体制の打破を不可避のものとしながら，社会的利益の多元化と組織化の傾向を示している。特に1968年のチェコ事件*に明らかなように，〈人民のあらゆる政治組織が国家権力に直接アプローチしなければならない〉と，一種の政治的多元主義を志向しているのは，工業化した社会主義社会における圧力政治の方向を示して興味深い。

〔圧力団体の活動〕 圧力団体が政策決定過程に影響を及ぼす方法は，ロビイングと広報活動による世論工作および陳情などの大衆動員に分かれる。アメリカの例についてみると，各種の圧力団体は，活動本部をワシントンや州政府の所在地に置き，ロビイストとよばれる圧力工作の専門家を常駐させている。ロビイストの身分は弁護士が最も多く，次に前国会議員が多いといわれるのも，〈同意を生み出す技術〉の熟練によるものといえよう。1939年にワシントン常駐のロビイストは6,000人,1944年には12,000人を数えたが，連邦ロビイング規制法が制定され，ロビイストの登録が義務づけられたことから,1950年には約2,000人に減少した。ロビイストが駆使する説得技術は，①議会控室などで国会議員と接触する個人的親交による方法，②出身選挙区の有力者を通じて行なう牽制(けんせい)など選挙民の側から圧力をかける方法，③手紙・電報・電話などを集中する方法，④質問状の発送や代表団の派遣など選挙時に行なう方法などがある。また，圧力団体は，存在の公共性を示すため，国民に対する啓蒙(けいもう)宣伝などの広報活動を行なっている。この世論工作の方法としては，新聞・テレビなどのマスコミの利用，展覧会・講演会の開催やパンフレット・ポスターの配布などがある。アメリカの禁酒同盟は，1909～1923年の14年間に禁酒運動の促進のため，1億5,700万枚以上の禁酒新聞，200万冊以上の単行本，500万部以上のパンフレット，200万枚以上のウインドー広告を行なった。

〔各国の圧力団体の特徴〕 圧力団体の働きはそれぞれの国の政治の違いから特徴をもっており，次のように大きく三つに分けることができる。

①アングロ-アメリカ型：政治を内面的に制約している経験的な信念・意味を表現するシンボル・価値を含む政治文化の同質性と世俗性，政治的役割構造の分化と安定性という点で共通性をもっているが，統治構造や政党制のあり方が，圧力団体の働きに相違をもたらしている。アメリカでは,連邦組織，平等な二院制，立法と行政の分離,二大政党の等質性と全国的党組織の欠如といった条件が，圧力団体の戦略的接近点を，議会，特に各種委員会・政府・政党・世論などに拡大させている。イギリスでは，集権化した政党制と議院内閣制による政府の存在は，〈準コーポラティズム〉を展開している。準コーポラティズムとは，政府が農業団体・労働組合などの職能団体の代表者と委員会を構成することをいう。たとえば,イギリス産業連合は70の政府委員会に，イギリス労働組合連合は60の政府委員会に,代表者を参加させ，予算編成にあたっても各職能団体の役員は大蔵大臣の召集を受け

る。したがって，圧力団体の活動は，主として政府に対して行なわれ，議会に対する活動は，政府と協議する補助手段として行なわれることが多い。

②大陸ヨーロッパ型：政治文化が，カトリック的・中産階級的・産業的に分裂し，不安定な多党制をもっているフランスやイタリアなどの国々では，共産党と労働総同盟，教会とカトリック政党および労働組合という形で，政党と圧力団体が密接に結合している。その結果，政策決定過程に，イデオロギー的対立や未分化の特殊利益が噴出し，効果的な政策決定はしばしば渋滞する。第1次世界大戦後のドイツがこの代表例であり，政党と圧力団体の多元主義が，議会政治の崩壊をもたらした一つの要因でもあった。第2次世界大戦後の西ドイツでは，ベルリンを除いて約3,600の圧力団体が出現し，1952年には227の団体がボンとその周辺に事務所を設けている。圧力団体は，強力な政党組織を通じて行政官僚と結合しており，この意味では，アングロ-アメリカ型への移行を示している。

③非西欧型：政治文化は，土着文化と西欧文化が混合しており，イスラム教や仏教などの宗教団体が有力な政治勢力であるように，政治的役割構造は未分化で，他の社会集団による代替性の度合いが大きい。このような政治体制では，近代化した大都市においてのみ，労働組合や商工会議所などの職能団体が存在する。また，地方では，特殊利益の表出と集約は，もっぱら親族・カースト・身分・宗教団体などを通じて行なわれる。したがって，政党は，近代的党組織を欠如するのみならず，代表能力も乏しいから，議会の立法機能も，国民の利益を反映するべく機能しない。これらの条件から，政治集団として官僚・軍人・宗教団体・大地主・実業家団体などが存在し，職能的な圧力団体が台頭する条件は未成熟である。

〔わが国の圧力団体〕 わが国における圧力団体の台頭は，天皇制権力体制の崩壊を前提としながら，1952年(昭和27)の対日平和条約の発効による戦後的状況の再編期においてであった。言論・出版・結社の自由に対する占領軍の制限の撤廃，特に内閣の予算編成権および国会の予算審議権の自主性の回復，次いで1955年の二大政党制の成立，これらの条件が，戦後的な反権力的な〈集団の噴出〉の再編成を促進し，このころには，日本経営者団体連盟*(日経連)をはじめ，日本労働組合総評議会*(総評)などの労働団体，日本中小企業政治連盟*(中政連)などの中小企業団体，農業協同組合を中心とする農業団体など，今日の有力な圧力団体の大部分が登場した。これをそれぞれの属する分野によって分類すると次のようになる。

①企業分野：日経連(創立1948年)・経済団体連合会*(経団連，創立1946年)・経済同友会*(創立1946年)・中政連(創立1956年)があるが，このうち，純粋に圧力団体と称しうるのは中政連のみである。いわゆる資本家3団体のうち，経団連は，日本のすべての独占企業を組織し，財界の指導者を役員として，組織内に，外交問題・産業政策・国際金融・経済協力・防衛生産など約30の常設委員会を置き，資本の総意を代表している。日経連は，経団連の労務部的役割を受け持ち，最近では〈産業平和〉を唱え，労使協調路線を打ち出している。経済同友会は，新資本主義のスローガンのもとに，若手財界人の育成など財界において革新的役割をになっている。これらの3団体は，わが国の立法過程において圧力団体以上の政策決定権を掌握し，支配集団としての地位を占めている。一方中政連は，大企業に圧迫されている中小企業の経済的地位の向上を目的として1956年に創立され，会員数約60万を擁するが，当初の運動目標は中小企業団体組織法の制定，事業税の廃止，中小企業融資の増額など，中小企業の利益の実現にあった。組織化の方法は，既存の商店会・商工会・工業会などの地域的・業種別の職能団体の丸がかえ方式であった。1956年の参議院選挙の候補者431名からアンケートをとり，また，1958～1959年の地方選挙・知事選挙・参議院選挙には，中政連推薦候補者の選定などを行ない，わが国でもはじめてのアメリカ流の圧力政治の戦術を行使した。

②労働分野：日本労働組合総評議会*(総評，創立1950年)・全日本労働組合総同盟*(同盟，創立1959年)・日本教職員組合*(日教組，創立1947年)・国際金属労連日本評議会(IMF-JC)がある。資本家3団体が保守党政権の権力中枢に位置しているのに反して，圧力団体としての労働組合は，政策決定への参加から疎外されている場合が多い。特に総評や日教組などの団体は，安保反対闘争や合理化反対闘争および勤評反対闘争などを通じて，反政府的な圧力団体としての性格を明らかにしている。これに対して，同盟およびIMF-JCの動きは，より穏やかな方向を示している。IMF-JCが，産業合理化への協力とその成果の分配，労使協調主義および無党派中立などを唱えて，国家的立場の労働運動を構想しているのは，その受益への志向性において，従来の革新系圧力団体とは異なる方向を示している。政党との関係では，社会党と総評，民社党と同盟の系列化が著しい。特に両党の議員政党としての体質は，集票組織や政治資金の獲得のため，各々の労働組合に依存せざるをえない。そして，組合幹部の登龍門(とうりゅうもん)として，両党議員のポストが与えられることが多い。このため，しばしば公党としての主体性がそこなわれる場合もある。また，総評内部での〈政党支持の自由〉の要求や加盟組合の脱退が，直ちに社会党の地盤沈下として表われてくる。同盟の場合，特に選挙時には，組合出身候補者を労使一体となって応援する傾向がみられる。

③農林分野：全国農業協同組合中央会(農協，創立1954年)・全国販売農業協同組合連合会(全販連，創立1948年)・全国購買農業協同組合連合会(全購連，創立1958年)・全国森林組合連合会(全森連，創立1951年)・全日本農民組合連合会(全日農，創立1958年)がある。農林分野の諸団体のうち，保守系圧力団体として屈指のものは，いわゆる500万農家を代表する農協である。農協が農民運動色を払拭(ふっしょく)して圧力団体としての性格を鮮明にしたのは，保守合同と保護農政の手直しの過程においてであった。ことに1958年の選挙では，はじめて推薦候補者の指定と積極的な得票活動を行ない，与党との強力なつながりを設けた。この農林議員あるいは農協議員を動員して行なう圧力活動の一つが，毎年の生産者米価の問題である。この活動が，毎年かなりの効果をもつのは，農村の過剰代表という選挙制度のもとで，農協が100％の農民票を握り，政党の下部組織の肩代わりをする点にある。しかし，近年における農業条件の変化は複雑であり，政府の打ち出す総合農政の方向と関連して，従来の交換条件方式の圧力活動に転機が訪れる可能性がある。また，全森連では，貿易の自由化による外国木材の輸入増加に対して，企業としての林業の保護を主張しているのは注目される。

④地方団体の分野：一般に地方自治6団体とよばれる全国知事会・全国市長会・全国町村長会・全国都道府県議会議長会・全国市議会議長会・全国町村会は，旧内務省以来の中央集権的な自治行政を前提として，補助金の獲得やその他の陳情的圧力活動を行なっている。

⑤その他の分野：日本医師会(創立1947年)・郷友連盟(創立1956年)・主婦連合会(主婦連，創立1948年)・日本薬剤師会(創立1948年)・日本遺族会・全国引揚者団体連合会・日本軍人恩給連盟・解放農地国家補償連合会・全国環境衛生同業組合などがある。このうち，日本遺族会・日本軍人恩給連盟・解放農地国家補償連合会・全国引揚者団体連合会などは，戦争犠牲者の圧力団体として岸内閣のときに簇生(そうせい)し，いずれも軍人恩給の復活や地主補償および在外資産の補償の要求を貫徹した。これに対し日本医師会や日本薬剤師協会などは，衆・参両院に推薦議員を有して，医薬問題についてかなり継続的な圧力活動を行なっている。

特に日本医師会長が兼任する政治結社の日本医師連盟は，選挙活動を担当し，全国を10ブロックに分けているほどである。これに対して，主婦連は，家庭の主婦あるいは消費者の立場を守るため，物価や交通費の値上がりに反対しながら，公害*問題や平和運動*など幅広い活動を展開している。また，1969年にはサラリーマンの税制上の不公平に反対してサラリーマン-ユニオンなどの団体が結成されたが，これは，わが国の圧力政治において疎外されていた階層の利益の組織化であり，今後の圧力活動の方向が注目される。

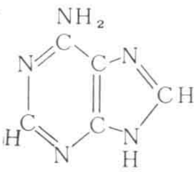
〔わが国の圧力団体の特質〕 第1に，組織の二重構造が問題になる。圧力団体の内部構造は，頂点では近代企業体に匹敵する組織をもつが，底辺では地域・職域の既成集団の丸がかえ方式をとる。したがって，仲間はずれをきらう感情から集団に対する成員の同調性が強いが，反面成員の自発的参加意識が乏しく，積極的な少数の指導者に権力が集中する。第2に，わが国の政治文化における同質性の欠如は，圧力団体の政党別の系列化を促進する。しかし，この系列化は，同時に，政党の組織上の未熟さを補充し，その役割を代替している。ことに参議院の全国区候補者の場合，地域を越えた職能団体の組織は必要条件でさえある。第3に，わが国の政策決定権の主要部分を官僚層が掌握しているため，圧力団体は〈お役所と親戚づきあい〉をする目的で，高級官僚の天下り人事や国会議員に転進する機会を与える。ここに，圧力団体・国会議員・行政機関との間で，密接な三角同盟が成立しているといわれる，わが国の圧力政治の特質が存するのである。　〔木暮正義〕

アデナウアー ［Konrad Adenauer］ (1876～1967) ドイツ連邦共和国(西ドイツ)の初代首相。1933年，ナチスによってケルン市長の地位を追われて投獄されたが，第2次世界大戦後，市長に復帰。その後再びイギリス占領軍に罷免されたが，占領下でキリスト教民主同盟*を組織し，1946年その党首となった。ドイツ連邦共和国の成立以来14年間，首相を勤め，奇跡とさえいわれる西ドイツの経済的復興に貢献した。大戦後の世界の指導者の中で有数の保守主義者で，パリ協定*の批准をはじめとして西ドイツの再軍備を推進し，アメリカと密接な関係の維持に努めた。　〔松　俊夫〕



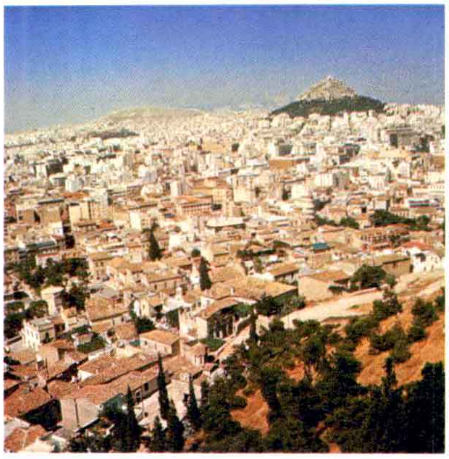
アデナウアー

アデニン ［adenine］ 6-アミノプリン。核酸*を構成する塩基の一。生物体内での種々の反応に関与する補酵素中にも含まれ，ATP・NAD・NADP・FADなどの一部でもある。



アテネ ［Athens］ ギリシアの首都。古代ギリシア文明の中心で都市国家(ポリス*)の一。古代ギリシアではアテナイとよんだ。人口86万7,000(1972)。三方を山で囲まれ，南西はサロニカ湾に面する平野の中央に位置する。パルテノンの遺跡のあるアクロポリス*など，歴史上有名な丘があり，外国からの観光客が多い。現在の市街は古代アテネの城壁の外側に広がり，南西8kmにある外港ピレウスも含んでいる。金属加工・繊維工業・醸造工業など，ギリシアの工業生産の大半が市周辺に集中している。交通の要地で，郊外のエリニコには国際空港がある。

〔歴史〕 はじめ原始的な王制を採っていたが，ポリスの形成に伴って貴族政治になり，紀元前6世紀の中ごろ，ペイシストラトス*の僭主(せんしゅ)権樹立などを経てしだいに民主化が進んだ。紀元前5世紀の初め，ギリシアはペルシアの侵略をたびたび受けたが，サラミスの海戦*をはじめとするアテナイの活躍でペルシアを破り，これによってアテナイはデロス同盟*の盟主になり，このときから黄金時代が始まった。ペリクレス*によって古代民主政治が完成され，ソクラテスやプラトンらによる哲学，詩，彫刻・絵画，パルテノン・エレクテイオンなどの神殿の建造など，古典文化が開花し，商業も大いに栄えた。しかし，ペロポネソス戦争*に敗れてからは勢力が弱まり，紀元前4世紀には北方の新興マケドニアに支配され，紀元前2世紀の中ごろはローマ帝国の領土となった。15世紀半ばからはオスマン-トルコの支配を受けたが，ギリシア王国独立後，1835年その首都となった。　〔野間三郎〕



アテネ　アクロポリスの丘を囲んで広がるアテネ市街の中心部。旧市内の道路は迷路状で，大理石の白い建築が目だつ

アデノイドひだいしょう 【アデノイド肥大症】 上咽頭(じょういんとう)の上壁に発達しているリンパ組織をアデノイド(咽頭扁桃(へんとう))という。これが増殖肥大するとアデノイド肥大症となる。リンパ性体質者が口蓋(こうがい)扁桃肥大(→扁桃腺(せん))となると，アデノイド肥大症を併発する。幼・小児期に発病し，6～7歳ごろに最も肥大し，その後小さくなる。症状としては，鼻閉塞(びへいそく)・閉鼻声・鼻汁(びじゅう)分泌過多・口呼吸があり，著しいいびきの原因ともなる。また，耳管カタルを起こして難聴となり，耳性注意不能症となって，学業の低下をきたすこともある。放置すると全身の発育に種々の障害を及ぼす。また，口腔(こうこう)の構造，歯列に異常をきたし，口をあけて締まりのない顔つきであるアデノイド顔貌(がんぼう)を示すようになり，行動にも落ち着きがなくなる。治療は手術で除去するが，このとき口蓋扁桃摘出を同時に行なうことが多い。〔石井哲夫〕

アデノウイルス ［adenovirus］ 1953年，小児から摘出培養されたアデノイド・扁桃腺(へんとうせん)中に新ウイルスの存在が証明され，その後，同じ群に属するものが逐時発見された。これらのウイルスを，その出所からアデノウイルスと総称する。ヒトのアデノウイルスは，免疫学的に31の型に分類され，他の哺乳(ほにゅう)動物にはそれらと異なるアデノウイルスの存在することが知られている。咽頭炎(いんとうえん)・気管支炎・肺炎・結膜炎・角膜炎・下痢・嘔吐(おうと)などの症状をひき起こすが，病原性の認められないものもある。矢部芳郎(やべよしろう)その他によってヒトアデノウイルス12型が実験的にハムスターに腫瘍(しゅよう)をつくることが発見され，その後18型をはじめとする多くの型も腫瘍を発生することがわかった。しかし，これらとヒト腫瘍との関係は不明である。なお，アデノウイルス群は直径70mμの正二十面体をしており，内部にDNA*をもつ。　〔石川　彬〕

アデノシンさんりんさん 【アデノシン三リン酸】 adenosine triphosphate。略称ATP。アデノシンに3個のリン酸がついたヌクレオチドで，エネルギー伝達体として多くの生化学的反応に関係している。→ATP

アデリーペンギン ［Adelie Penguin］

鳥類・ペンギン科。南極大陸に広く繁殖し，南極のペンギン類中最も数が多い。10月ごろ南極大陸に渡来し，ふつう2卵を産み，雄雌交代で約36日抱卵し，孵化(ふか)する。幼鳥は2月ごろ海洋へ移動していく。頭頸部(とうけいぶ)および背面は黒色，胸腹部は白色なので，イブニングドレスを着た人のような鳥として親しまれている。身長は約75cm。➔ペンギン

アデレード ［Adelaide］ オーストラリア南岸東部にある港市・工業都市。サウスオーストラリア州の州都。人口80万9,000(1971)。マレー川流域の農牧生産と，サウスオーストラリア山地の鉱業とを後背地にもち，農畜産加工や鉱山用機械生産の諸工業が発達している。第2次世界大戦後は，自動車工業も勃興(ぼっこう)してきた。サウスオーストラリア州は大部分が乾燥地域であり，人口も希薄であるが，この都市は地中海性気候の地域に属し，樹木も多く住みよい。したがって州人口の50％以上がここに集中している。1840年にオーストラリア最初の市制を施行した計画都市として，1901年にオーストラリア連邦政府が生まれた土地として知られている。 〔小栗　宏〕

アテローム ［atherom］ 粉瘤(ふんりゅう)・粥腫(かゆしゅ)ともいう。えんどう豆大から鶏卵大の半球状に隆起した腫瘍(しゅよう)。顔・頭・背部に多い。表皮が真皮内に迷入して生じた真性粉瘤と，毛穴がふさがって生じた仮性粉瘤とがあり，腫瘍中に悪臭のある粥状物がとどまっている。根治するには手術が必要。

アデン ［Aden］ アラビア半島の西南端，南イエメン人民共和国の都市。人口11万(1965)。アデン湾から紅海への入り口に位置する港市で，ローマ時代から東西貿易の主要な港として栄えた。しかし，15世紀の終わりにポルトガル人によりケープタウンを迂回(うかい)する航路が発見されて市勢は一時衰えた。1839年イギリス領となり，1869年スエズ運河が開通すると，再びその重要性を増した。市街は東側の旧市街と西側の新市街に分かれる。旧市街はアラビアふうの商店街，新市街はイギリス人がつくった政治・経済の中心地で，空港ユルマクサルは三大陸を結ぶ国際航路の要点である。市の経済は中継ぎ貿易と石油工業・漁業・製塩に依存している。 〔野間三郎〕

アーデン ［John Arden］ (1930～)イギリスの劇作家。〈怒れる若者たち*〉のひとりで，その作品《マスグレーブ軍曹(ぐんそう)の踊り》は，イギリスの新しい演劇〈ニュー-ドラマ〉の代表作といわれる。現在，ロイヤル-コート-シアターを中心に演劇活動を続けている。

ア-テンポ ［a tempo］ イタリア語で，〈もとの速さで〉を指示する音楽用語。楽曲の途中で，加速・減速，あるいは自由な演奏が行なわれる場合，その後最初の速さにもどすときに用いられる。

あど 【アド】 狂言*でシテ(主役)以外の役のこと。シテの相手役のような比較的に重い役を主(おも)アドといい，それ以下の軽い役を二のアド，三のアド，または総称して小アドという。なお，舞狂言という能形式に近い姿の狂言では，アドの名を使わず，ワキ・アイなどの能に準じたよび方をしている。

あとうた 【後歌】 地歌・箏曲(そうきょく)の楽式用語。中間部に器楽のみの手事*が置かれる手事物の最終部分をいい，曲のはじめに置かれる前歌*より歌詞が短く，テンポも速いことが多い。

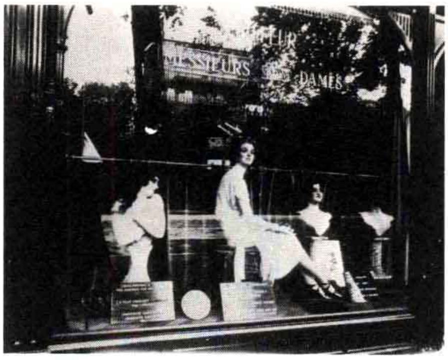
アトウッドのきかい 【アトウッドの機械】 ⇨重力加速度

あどがわ 【安曇川】 滋賀県西部，比良(ひら)山地を水源とし，中流の深い断層谷朽木渓谷(くつきけいこく)を過ぎるあたりで山地を出て東流，河口付近にデルタをつくって琵琶湖(びわこ)にはいる。流程40km余。河口の簗漁(やなぎょ)はいまも有名であるが，古くは下流沿岸は御厨(みくりや)として京都の賀茂別雷(かもわけいかずち)神社領とされ，この川でとれるアユ・マスがその祭祀(さいし)に使われたことで知られる。

あどがわ 【安曇川(町)】 滋賀県高島郡の町。琵琶湖(びわこ)の西岸にあり，安曇川*下流右岸を占める。人口12,800。近江(おうみ)聖人中江藤樹*の生地で，書院などの遺跡がある。また，この町と安曇川をはさむ新旭(しんあさひ)町は，昔から京扇の町として知られ，扇骨が農家の副業としてつくられている。

アトキンソン ［Robert William Atkinson］ (1850～1929) イギリスの化学者。ニューカッスルに生まれ，ロンドンで学んだのち，1874年(明治7年)東京開成学校(東京大学の前身)に招かれて化学科で教鞭(きょうべん)をとり，1881年に帰国するまで日本酒の醸造についてすぐれた実験的研究を行なった。日本に生化学を扶植した功績は大きい。

あとさく 【後作】 ある作物の収穫した跡に栽培される作物。たとえば，イネを収穫したあとの水田にムギを植えつけるとする。このような場合，ムギを後作といい，イネは前作とよばれる。



アトジェ　パリ-XIV-オプセルバトワール通り

アトサヌプリ 跡佐登とも書く。北海道東部，屈斜路湖の東側にある火山。屈斜路カルデラの中央火口丘にあたり，標高512m。全山は爆裂による数十の硫気孔でおおわれ，イオウが取れるので硫黄(いおう)山ともいう。山の東側を釧網(せんもう)本線が通り，北のふもとには川湯温泉，南へ下ると弟子屈(てしかが)温泉がある。阿寒(あかん)国立公園に含まれる。

あとざん 【後産】 〈こうざん〉〈のちざん〉ともいう。胎児分娩(ぶんべん)後に娩出される胎盤*および卵膜のこと。胎児娩出直後子宮は著しく小さくなり，しばらくして後産陣痛が起こり，胎盤が剝離(はくり)し，後産として排出される。胎盤剝離に際しては少量の出血を伴う。➔分娩

アートし 【アート紙】 従来木材繊維を主体とする原紙の表面に鉱物性の顔料*と接着剤の混合物を塗被した紙(コーテッドペーパー)を総称していたが，最近では塗被量が多い(片面15g/m²以上)ものをアート紙と称して，塗被量が少ないコート紙*と区別することが多い。通常表面を平滑にして強光沢に仕上げてあるが，つや消し加工をしたものもあり，また表裏両面に塗被したものと片面塗被のものとある。コーテッドペーパーのうちでも印刷効果が一段とすぐれており，美術書など写真版・原色版が多い高級印刷物に使われる。 〔角祐一郎〕

アートシアター ［art theater］ 芸術性の高い映画を主として上映する劇場。映画館で上映される映画は，通常，作品の有名性や興行性や配給上のつごうなどで決定されているが，アートシアターはあまりそれらにとらわれずに，真摯(しんし)な観客の要求に基づいて作品を選び，プログラムを組んでいる。わが国では，1962年(昭和37)のATG(日本アートシアター-ギルド)設立によって，アートシアター運動が始まった。

アトジェ ［Eugène Atget］ (1856～1927) フランスの写真家。絵画主義的写真が主流だった20世紀初頭に，ひとり隔絶して現代に通じる即物的な写真を残した。ボルドー付近に生まれ，船員や旅回りの役者を経て画家を志し，1899年にパリのモンパルナスに出，写真家に転じた。消失していくパリの歴史的建築物を記録することに始まり，文化遺産のたたずまいや庶民の姿態，市内外の風物の素顔を大形カメラ(18×24cm)のレンズを絞り込んで克明に描出した。その作品は博物館や少数の画家の資料として廉価で購入されたが，晩年に至ってレイなどのシュルレアリストに認められただけで，無名・極貧のうちに世を去った。近代写真の先駆者のひとりと認められたのは1930年以後で，主要作品の一部は《パリのビジョン》《アトジェの世界》に収録されている。 〔平野　久〕

アトス(山) ［Athos］ ギリシアの北東

部からエーゲ海の奥部に突出するアクテ半島の東端にある山。高さ2,033 m。BC 492年，第1次ギリシア遠征におもむいたペルシア艦隊が暴風雨にあってこの近くで難破し，そのために退却したことで有名である(→ペルシア戦争)。東ローマ帝国の時代以降，周辺に20余の修道院が建設され，ギリシア修道院制度の中心地となっており，ギリシア正教の〈聖山〉の別名が与えられている。〔大石堪山〕

あとぞめおりもの【後染め織物】 織ったあとで染色した織物。普通の無地染め・捺染*(なっせん)(プリント)・絞り染め・ろうけつ染めなどはすべてあと染めに属する。一般に織りおろした生織物を精練し，必要に応じて毛焼き・漂白・糊(のり)抜きなどの準備工程を経て染色する。染色を完全にしないものは，織り糸の内部あるいは織物の裏まで染料が十分に通らないことがある。あと染めに対応するものが先染め織物*である。➔染色 〔小川安朗〕

アート-ディレクター ⇨アート-ディレクティング

アート-ディレクティング [art directing] 広告・出版・演劇・映画などの企画・演出・制作におけるすべての造形表現を統轄し，目的にかなう作品を創出するための指揮をいう。また，企業体・催しなどにおいての造形美術についての視覚的統一をなすことも含まれ，アート-ディレクターがこれを行なう。たとえば，広告におけるアート-ディレクターは，制作の方向を決定し，アイディアを与え，デザイナー・イラストレーター・フォトグラファー・レイアウト-マン・コピー-ライターなどの個性を生かしながら，究極的に完成された一つの作品に導く。したがって，アート-ディレクティングを行なう場合には，企業の性格，テーマ，モチーフ，表現技法，製版・印刷方法，使用媒体などに対する総合的見地から，その表現を調整・監督する必要がある。〔武井邦彦〕

アトニー [atony] 筋の緊張力の低下した状態。最も代表的なものは胃のアトニーで，胃の緊張力も弱まって，蠕動(ぜんどう)運動も同時に多少減退する。➔胃アトニー症

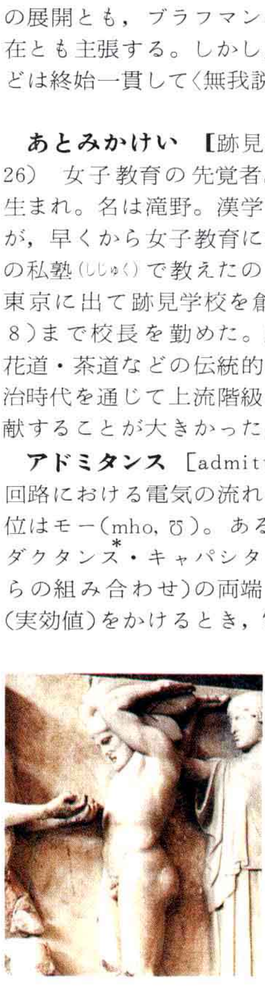
アドニス [Adonis] ギリシア神話の美少年。父子相姦(そうかん)により生まれ，アプロディテ*とハデス*の妻ペルセポネーに愛された。しかし，ゼウスの裁定で1年の3分の1ずつをそれぞれの女神のもとで過ごし，残る3分の1を自分の好きな所で暮らした。狩猟のとき，イノシシに突かれて死に，その血からアネモネが生じ，彼の死を悲しむアプロディテの涙からバラが生じたという。これは植物の生長の神話化であり，春になると彼の蘇生(そせい)を祝う祭儀が広く行なわれた。〔左中庸博〕

アトピーせいひふえん【アトピー性皮膚炎】 アトピー性湿疹(しっしん)ともいう。アトピー体質の人に生ずる湿疹様の皮膚変化で，普通の湿疹や皮膚炎とは異なり特異な症状と経過をとる。この体質は遺伝性のもので，皮膚が一般に乾燥してざらざらし，皮膚の毛細血管が収縮しやすく，種々の薬物に対する血管の異常を認める。家系内に同じ病気の人が多く，患者自身や家族内にぜんそく・じんましん・枯草熱などが高率にみられるなどの特徴がある。長期間にわたる病気であるから，皮膚科専門医の指導に従い気長に治療する必要がある。外用・内用療法とも湿疹の治療と同様。ふつう小児期を過ぎるとしだいにできなくなる。➔湿疹 〔田嶋公子〕

アートマン [ātman] 梵語(ぼんご)で〈我〉を意味する。インド哲学の中核をなす重要な概念で，《リグ-ベーダ*》ですでに自我・霊魂を表わし，《ブラーフマナ*》では宇宙の本位であるブラフマン*(梵)を明らかにするため，個別的に現われる普遍的なアートマンの本源が追求された。《ウパニシャッド*》では，この両原理の本質追求から〈梵我一如〉が説かれ，個人の本質であるアートマンの個人的状態を脱して本性に帰る解脱思想が重視されるとともに，アートマンを輪廻*(りんね)の主体とも考えた。以後インド哲学やバラモン教はいろいろに展開し，アートマンは多数なりとみ，それは唯一絶対な実体の展開とも，ブラフマンの部分としての存在とも主張する。しかし，仏教・唯物論などは終始一貫して〈無我説〉を説く。〔北条賢三〕

あとみかけい【跡見花蹊】 (1840〜1926) 女子教育の先覚者。摂津(大阪府)の生まれ。名は滝野。漢学・日本画を学んだが，早くから女子教育に志し，大阪・京都の私塾(しじゅく)で教えたのち1875年(明治8)東京に出て跡見学校を創立，1919年(大正8)まで校長を勤めた。国文・和歌や裁縫・花道・茶道などの伝統的教養を重んじ，明治時代を通じて上流階級の子女の教養に貢献することが大きかった。

アドミタンス [admittance] 交流電気回路における電気の流れやすさの尺度。単位はモー(mho, ℧)。ある素子(抵抗*・インダクタンス*・キャパシタンス*あるいはそれらの組み合わせ)の両端に電位差Eボルト(実効値)をかけるとき，電流Iアンペア(実効値)が流れたとすると，$\dot{I}/\dot{E}=Y$をアドミタンスといい，電流・電圧に位相のずれがあるので一般に複素数となる。インピーダンス*の逆数にあたる。アドミタンスを$Y=G+jB$と記すとき，実部Gをコンダクタンス，虚部Bをサセプタンスと名づける。〔田村康男〕



アトラス

アドミラルチー(諸島) [Admiralty] 南太平洋，ニューギニア島北方にあるビスマーク諸島*中の約16の島からなる火山島群。総面積2,700km²。人口21,000(1966)。熱帯雨林気候で，全島がジャングルにおおわれる。原住民はパプア人で，マヌス族・ウシアイ族が居住し，ココナツを栽培し，真珠採集を行なう。最大の島はマヌス島で，東端にあるロレンガウは政治の中心地。1616年オランダ人W.ショーテンによって発見され，1885年ドイツの保護領となった。1920年にはじまるオーストラリアの委任統治地となっている。〔大崎 晃〕

あとやま【後山】 鉱山では，2人以上数人が組みとなって共同作業をすることが多いが，その場合，先山*の指示に従って補助的な作業をする労働者のことをいう。したがって後山は若い未熟練労働者であることが多い。

アドラー [Guido Adler] (1855〜1941) オーストリアの音楽学者。プラハ大学，次いでウィーン大学で音楽史を講じ，音楽学の季刊誌をクリュゲンダーやシュピッタらと始めるとともに，通常DTÖの略称で知られる楽譜集《オーストリア音楽集成》を刊行するなど，音楽学で指導的な役割を果たした。1924年に発表された彼の編集になる音楽史のハンドブック《音楽史綱要》は，今日でも広く用いられている。

アドラー [Alfred Adler] (1870〜1937) オーストリアの精神科医。はじめフロイト*の精神分析学派に属していたが，1911年に個人心理学を創始した。彼によれば，神経症*および性格形成において中心的役割を占めるものは，ニーチェ*のいう〈権力への意志〉であり，幼児はおとなに対する依存・従属による劣等感を補償するために，この権力への意志にかりたてられる。また女性は，男性よりも身体的・社会的に劣等の地位に置かれる受身的立場を補償するために，男っぽくふるまういわゆる〈男性的抗議〉を試みる。アドラーによれば，フロイトが性欲論的に理解した心理的事象は，実はこのような優越・劣等，上位・下位といった権力関係の表現である。神経症的性格者は，このような権力への意志にかりたてられるあまり，自己の空想的な優越にとらわれ，またそのために社会的共同感情が未熟である。〔小此木啓吾〕

アトラス [Atlas] ギリシア神話の巨人神。イアペトスとクリュメネの子で，プロメテウス*とは兄弟。ティタン*神族とオリンポス*の神々との争いで，罰として天空

をささえる役を課された。黄金のリンゴを捜すヘラクレスをだまして重荷を肩代わりさせようとしたが，失敗した。一説に，彼の居所はアトラス山脈とされる。

アトラス(山脈) [Atlas] アフリカの北西海岸に沿って，モロッコからチュニジアまで2,400kmにわたって走る山脈。平均高度3,300m，最高点は4,500m。アルプス褶曲帯(しゅうきょくたい)の一部で，中生層，第三紀層よりなる。普通の山脈のように一系のものでなく，断続し，並列し，分岐している。地中海側はブドウ・オリーブ・小麦などを栽培する農耕地帯となっているが，南斜面はサハラ砂漠(さばく)が広がる。

アトラスロケット [Atlas rocket] アメリカ空軍が最初に開発したICBM。アメリカの最初の人間衛星マーキュリーのカプセルは，これで打ち上げられた。長さ25m，直径3m，重さ121tの液体ロケット。射程14,400km。下部中心に第2段に相当するサステナーロケット，両側に1基ずつブースターがあり，発射時は3基とも点火されて177tの推力を生じ，ブースターが燃え尽きると，サステナーが燃え続けて7.5km/秒になる。1962年に実戦配備が終了したが，1965年ごろ，新型のミニットマンと交代した。その後は，もっぱら宇宙開発用として活躍している。〔原田三夫〕

アトランタ [Atlanta] アメリカ合衆国南東部，アパラチア山脈東麓(とうろく)にあるジョージア州の州都。人口49万7,000(1970)。国内でも指折りの大空港をもち，道路・鉄道交通の要地。綿織物・清涼飲料・肥料・化学薬品などの工業が盛んである。清涼飲料のコカ-コーラは1866年にこの町で最初につくられた。南北戦争中はここに南軍の本部が置かれた。ジョージア大学や，黒人大学として有名なアトランタ大学などがある。〔相村大彬〕

アトランチス [Atlantis] かつて大西洋中にあったといわれる伝説の島で，アトランチス大陸ともいう。プラトンがその著《ティマイオス》と《クリティアス》の中で，この島を一種の理想郷として描いているが，それがプラトンの創作なのかどうかはっきりしない。アトランチスは大地震・大洪水(こうずい)のために，海中に沈んだというが，この島が実在していたとして，その位置を推定している学者もあり，アトランチスをめぐる論争は，ギリシア時代から現代まで，2,000年以上も続いていて，アトラントロギー(アトランチス学)という学問まで存在している。ユネスコは，1955年の国際会議で，軽率に扱ってはならない78のテーマの一つとして，アトランチスやムーのような伝説の大陸をあげて警告しているが，アトラントロギーに関する文献は，新旧取り混ぜて25,000点もあるといわれる。〔浅井得一〕

アトランチックシチー [Atlantic City] アメリカ合衆国ニュージャージー州の南東部，大西洋岸にある保養都市。人口48,000(1970)。北アメリカ大陸大西洋岸第1の海水浴場があり，ミス-アメリカのパレード開催地として知られる。

アトラント [atlant] 人像柱の一種。両の肩で天空をささえているというギリシア神話の巨人アトラスの伝説に由来し，男性または半獣の人物像がエンタブレチュアをささえているものをいう。➔カリアティード

あとり 【花鶏】

1 鳥類・アトリ科の一種で全長16cm。黒・白・淡かっ色・きつね色の組み合わせでじみだが美しい小鳥。ユーラシア大陸北部で繁殖し，ヨーロッパ側で繁殖するものは南部および北アフリカで越冬する。アジア側で繁殖するものはわが国には秋冬に渡来してしばしば大群をなす。

2 アトリ類の総称。アトリ類は1属3種からなる小グループで，ユーラシア大陸と北アフリカに分布。日本にはアトリ1種のみ冬鳥として渡来する。草や木の種子を主食とするが，夏にはかなりこん虫を食べる。

3 アトリ科の総称。アトリ類とヒワ類をまとめてアトリ科という。以前はこれにホオジロ類やコウカンチョウ類も含めていた。〔浦本昌紀〕

アトリー [Clement Richard Attlee] (1883〜1967) イギリスの政治家。オックスフォード大学に学び，弁護士となる。1908年，フェビアン協会に加入。1922年，労働党から下院議員に当選し，第1次・第2次労働党内閣ではマクドナルド首相のもとで閣僚を歴任。1935年，労働党党首となる。第2次世界大戦中はチャーチルの挙国一致内閣に入閣し，1942年には副首相をつとめた。1945年の総選挙では保守党に大勝して労働党内閣を組織し，基幹産業の国有化，社会保障制度の拡充などを行なった。1951年，保守党に敗れて下野し，1955年には労働党党首を辞し，伯爵位を受けた。〔松下京子〕



アトリ



アトリー

アドリア(海) [Adriatic Sea] 地中海の一湾入。西はイタリア半島，東はバルカン半島にはさまれ，オトラント海峡を経てイオニア海・地中海へと連なる。北部西側からポー川が注ぎ，大三角州をつくる。イタリア側には水の都ベネチア・トリエステ，ユーゴスラビア側にはリエーカ・スプリートの都市がある。

アドリアノープル ⇨エジルネ

アトリウム [atrium] ローマ住宅における接客部分の中央広間。ローマ住宅は，アウラ(中庭)を囲んで諸室が配置されるギリシア住宅の伝統を受け継いだが，その基準型を前後に二つ接続させ，奥はペリスタイルを囲む私生活空間とし，手前はアトリウムを囲む接客空間にあてた。ローマのアトリウムは，天井が四辺から中央に向かって庇状(ひさしじょう)に傾斜し，中央に四角い天窓を設け，天窓の真下の床には雨水ための小池が設けられているのが特徴的である。なお，初期キリスト教時代の教会堂正面に設けられた前庭もアトリウムというが，これは異教徒の侵入を規制する目的もあって，外側を閉ざし内側に開放された回廊を巡らしてある。〔渡辺保忠〕

アトリエ [atelier] ①画家・彫刻家・工芸家などの制作する場所，画室・工房をいう。普通は光線の変化の少ない北向きの窓などからの採光が多い。②アトリエ-リーブルをいう場合は，ある期間に自由に開かれ，ヌード-モデルなどを提供する有料の施設をさす。指導・教育は行なわれない。1825〜1830年ごろに，パリで〈スイス〉というモデルの開いたアトリエ-リーブルは，ドラクロア・クールベ・マネ・モネらが利用した。また，1860年にパリで開かれたアトリエ-ジュリアンは，ナビ派の画家やマチス・ドラン・レジエらが利用した。③ヨーロッパの著名な画家が死亡したのち，その画室に残された作品にサインをスタンプで入れることがある。この作品をたとえば〈アトリエ-ドガ〉などという。〔末吉雄二〕

アドリブ ⇨ 即興演奏

アドルノ [Theodor W. Adorno] (1903〜1969) 西ドイツの哲学者・批評家。フランクフルト大学の社会問題研究所長をつとめた。ヘーゲル・マルクス・フロイト・ベンヤミンらの思想に学び，人間の自由を圧殺する現代産業社会における弁証法の問題を批評活動の中心にすえた。おもな著作に，《キルケゴール》《ヘーゲル》《否定弁証法》《現代音楽の哲学》《ワーグナー試論》《文学論覚え書》などがあり，哲学・音楽・文学など広い分野で特異な批評活動を行なった。

アドルフ コンスタン*の小説(1815)。主人公アドルフが，エレノールという年上の女性との恋愛を通じて，繊細な心を翻弄(はんろう)され，いっさいの世上のできごとに興味を失って人生に失敗する姿を，極度に内省的な文体で回想ふうに描いたもの。イタリアのある旅館で発見されたという設定をもった一人称小説で，〈われわれの生活は絶えざるあらしであった〉と書かれているように，当時の青年が内面的な荒廃に導かれる姿を示す。〔井上輝夫〕

アドレナリン [adrenaline] エピレナミン，エピネフリンともよばれる。1910年(明治43)高峰譲吉*がウシの副腎(ふくじん)から分離した副腎髄質ホルモン。白色結晶性の粉末で空気中で徐々にかっ色となる。化学的にはカテコールアミンに属している。ヒトの副腎ではアドレナリンとノルアドレナリンが約9対1の割合で存在する。交感神経興奮作用をもち，心臓の拍動を強め，血管を収縮させて血圧を上げ，気管支・胃腸壁の平滑筋のけいれん性収縮をおさえる働きをする。また肝臓の糖原を分解して血糖を高め，体組織の血糖・酸素消費量を増加させる。ヒトでは少量のアドレナリンが絶えず分泌されているが，高度のストレス，酸素欠乏，著しい血圧降下，血糖の低下により分泌が増加する。医薬品としての適用は非常に広く，おもに塩酸アドレナリン(塩酸エピレナミン)として注射剤・液剤・座剤などの形で用いられ，強心，止血，ぜんそく発作の鎮静，ショックの緩解などのほか，瞳孔(どうこう)を散大させる作用があるので眼科診断に利用されるが，高血圧・動脈硬化・バセドウ病の患者には用いてはならない。劇薬。〔鈴木郁生〕

アトロピン [atropine] 双子葉植物・ナス科のマンダラ・ベラドンナ・ロートなどの葉や根に含まれるアルカロイド*の一種。副交感神経の作用をその末端で麻痺(まひ)させる。瞳孔(どうこう)を拡大し，唾液腺(だえきせん)・胃腺・汗腺などの分泌をおさえ，平滑筋をもつ臓器のけいれんを和らげる。医薬品としては硫酸塩を用い，百日ぜき・けいれん・気管支ぜんそく・虹彩炎(こうさいえん)などに有効で，また眼科診断，有機リン系農薬の中毒治療にも用いる。しかし副作用も強く，大量に服用すると幻覚・錯乱・狂騒状態を起こす。毒薬。〔中館正弘〕

アトン [Aton] 古代エジプトの太陽神。第18王朝のイクナートン*の宗教改革で，従来のアモン*信仰に代わってエジプトの唯一神とされた。しかし旧勢力の反対と王の早死にで，次の王ツタンカーメン*のときに廃された。ヘブライ一神教の先駆として旧約文学にも影響を与えた。

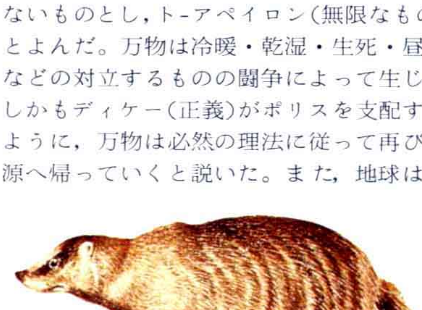
あなうさぎ【穴兎】 哺乳(ほにゅう)類・ウサギ科。体長40cm，尾長5.5cmほど。ヨーロッパ中部から北アフリカにかけて分布。草原や疎林に穴を掘って群れですむ。家畜化されたものは世界じゅうに広く飼われている飼いウサギで，肉用・毛用・毛皮用など多くの品種に分けられる。妊娠期間28～30日，1腹3～9子。➔ウサギ

アナウンサー [announcer] 一般には，ラジオ・テレビの放送に従事し，番組内容の紹介，スポーツ実況・ニュースなどを報道する者をいい，その職業名でもある。広義には，駅の案内放送者，競技会での種目や記録の告知係，また街頭宣伝放送者も含まれる。ラジオ放送の開始は1920年(大正9)アメリカが最初であるから(日本は1925年)，職業として社会的位置を占めるに至ったのもそのときからである。その資格として，発音の正確さ，アクセントの適切さは必須(ひっす)条件として要求される。近年テレビ放送の発達により，その職務は単なる内容紹介にとどまらず，座談会・討論会の司会者としての機能も果たすようになり，タレント(出演者)としてのパーソナリティーも重要視されている。アナウンサーは放送局内部の者が担当する雇用制が多いが，ニュースショー番組などでは外部の者を起用する契約制の場合もみられる。〔前納弘武〕

アナーキズム ⇨136ページ

アナクサゴラス [Anaxagoras] (BC500ごろ～BC428ごろ) 古代ギリシアの哲学者。小アジアのクラゾメナイに生まれた。BC480年以来30年間アテナイに住み，ペリクレス*の師であり友人であった。のち，不敬罪で追放されて小アジアのランプサコスに亡命，その地に学園を開いて名声のうちに没した。彼は，不変・不生・不滅の根源的物質として無数のスペルマ(種子)を考えた。万物はそれらの混合によって生じ，あるスペルマの優勢なものがその名でよばれると説明した。さらに原始的混沌(こんとん)(カオス*)の状態に運動を与えて秩序のあるコスモス(世界)をつくりだしたものがヌース(理性)であるとし，それはまたあらゆる生命の原理ともなっていると説いた。〔本橋正義〕

アナクシマンドロス [Anaximandros] (BC610ごろ～BC546ごろ) 古代ギリシアのミレトス派*の哲学者。タレス*以来探求されてきた万物の根源を，限定(ペラス)をもたないものとし，ト-アペイロン(無限なもの)とよんだ。万物は冷暖・乾湿・生死・昼夜などの対立するものの闘争によって生じ，しかもディケー(正義)がポリスを支配するように，万物は必然の理法に従って再び根源へ帰っていくと説いた。また，地球は円筒形で，球形の宇宙の中心に静止していると考えた。〔本橋正義〕



アナグマ

アナクシメネス [Anaximenes] (BC585ごろ～BC525ごろ) 古代ギリシアのミレトス派*の哲学者。アナクシマンドロス*の立てたト-アペイロン(無限なもの)に対して，万物の根源はアエール(空気)であると説いた。この空気が濃厚化すれば水・土・石となり，希薄化すれば火となるとし，万物の質的変化や相違を濃厚化・希薄化という量的変化によって説明している。また，地球を扁平(へんぺい)なものとみ，太陽や星は地球のまわりを回転すると考えた。

アナグノリシス [anagnorisis] ギリシアの哲学者アリストテレスが《詩学*》の中で用いたことばで〈発見〉の意。悲劇作品の構成上，ペリペテイア*(逆転)と並ぶ重要な要素。いままで知られなかった真相が突如として姿を現わし，発見されることによって劇の筋が展開し，観客に哀れみとか恐れの感情を呼び起こすこと。登場人物どうしの素性の発見が次の行為への重要なきっかけとなることもあるし，《オイディプス王》のように自分の素性の発見という過程が筋そのものになっていることもある。〔久保正彰〕

あなぐま【穴熊】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。体長50cm，尾長20cmほどでタヌキに似るが，四肢(しし)太く，手のつめは強大。体上面はかっ色だが，毛先が白いため霜降り状を呈し，目の周囲と四肢および体下面は黒かっ色。アジアからヨーロッパの森林に深い穴を掘ってすみ，夜出てきてネズミ・カエル・果実などを食う。寒くなると穴の奥で冬眠する。毛は毛筆・はけなどにされ，肉はときに食用とされる。近似のアメリカアナグマはアメリカの乾燥した草原にすむ。穴掘りが巧みなためアナホリマミともいわれる。〔今泉吉典〕

アナクレオン [Anakreon] (BC572ごろ～BC490ごろ) 古代ギリシアの叙情詩人。イオニアのテオスに生まれた。青年時代にペルシアの侵攻をのがれてトラキアのアブデラ市建設に貢献した。詩名の高揚とともにサモスの僭主(せんしゅ)ポリュクラテスの宮廷に招かれたが，僭主の没落後アテナイに移住し，詩人シモニデス*らと交遊した。彼の叙情詩はおおらかで楽しく，酒を愛(め)で，恋をうたい，美しいものを愛し，この世の快楽を謳歌(おうか)する。彼が創始した韻律は〈アナクレオンふう〉とよばれ，これをまねた多くの詩を生んだ。〔久保正彰〕

あなご【穴子】 ⇨マアナゴ

アナコンダ [anaconda] 爬虫(はちゅう)類・オオダ科。南アメリカの北部熱帯降雨林にすみ，ほとんど水中生活を行なう。ふつう体長9m，体重180kgに達するが，最大は12mになるといわれる。水辺に近づく鳥類や小哺乳(しょうほにゅう)類を捕え，ときにはカイマン*をも捕食する。卵胎生で1回に30～40頭を産出する。

アナコンダ [Anaconda] アメリカ合衆国モンタナ州南西部の鉱山都市。人口12,000(1960)。ロッキー山脈北部における銅産地として有名。アナコンダ*という爬虫(はちゅう)類の名をつけた金の一鉱区からはじまり，電話・電燈の発明で需要の増した銅鉱がきわめて高品位であったため，19世紀の終わりごろから急に発展した。

アナコンダ [The Anaconda Co.] 1895年，アメリカのモンタナ州アナコンダ*に設立された世界最大の産銅会社。国内のほか，チリ・メキシコ・カナダなどに子会社の銅山をもち，銅の精練のほか銅棒・電線などの加工製品をつくっている。亜鉛や鉛の採掘・精練も行ない，子会社のアナコンダ-アルミニウムがアルミニウムの精練加工をするなど，総合非鉄金属企業へと発展している。近年，オーストラリアに探査会社をつくって鉱区を調べているほか，チリでは酸化銅開発のための試掘，ペルーでは低品位の硫化銅の露天掘りを始めた。ネブラスカ州で大埋蔵が確認されたモリブデンとアリゾナ州の大銅鉱脈の将来が注目されている。本社ニューヨーク。年間売上高14億1,000万円，従業員数44,000(1969)。 〔氏家　尚〕

あなじゃこ 【穴蝦蛄】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・十脚目の異尾類，すなわちヤドカリの仲間に属している。体長10cmほど，シャコともエビともつかぬ姿である。北海道から九州の浅い海に分布し，砂泥(さでい)中に穴を掘ってすむ。食用となる。

アナスチグマート [anastigmat] 非点収差*のないレンズ。写真レンズでは，ほかの収差*もすべて補正されたものをいう。

アナタハン(島) [Anatahan] フィリピン東方約2,200kmの太平洋に浮かぶマリアナ諸島*中の小火山島。日本の委任統治時代には開拓村があったが，1945年(昭和20)アメリカが占領し，以後無人島となっている。第2次世界大戦の生き残り20人余の日本人が終戦後3年を経て奇跡的に救助された。

あなつばめ 【穴燕】 鳥類・アマツバメ科のアナツバメ類の総称。約20種からなる。全長9～16cmの小鳥。東南アジアから太平洋インド洋の島々にかけて分布し，洞穴(どうけつ)内壁に営巣する。一部の種は唾液(だえき)のみで巣をつくり，その巣は中国料理で燕窩(えんか)として珍重される。➔ アマツバメ



アナコンダ

アナトリア ⇨小アジア

アナトール-フランス ⇨フランス

アナナス [*Ananas*] 単子葉植物・パイナップル科。アナナスという名は南アメリカの土語〈ナナス〉に由来する。食用にされるパイナップルのほか，ナカフアナナス・ハカタアナナスなど観賞用として温室内に栽培されるものの総称。南アメリカ・中央アメリカ・メキシコに原生するが，特に南アメリカのアンデス山脈に沿う地方に多く，元来熱帯降雨林の木の枝などに着生するものが多い。葉は幅の広い線形で厚ぼったく，茎の先に集まってつく。花は穂状または総状で外花被片3枚，内花被片3枚，おしべ6本，めしべ1本よりなり，子房下位で多数の胚珠(はいしゅ)がある。高温多湿を好むが，冬でも5℃以上あれば枯れない。洋風建築の室内装飾用として近年盛んに用いられるようになった。パイナップル科植物は1,800種余り発見されているが，そのうち日本で栽培されているのは350種くらいといわれている。これらは着生種と地生種に大別され，それぞれ好乾性・好湿性のものがあるので，栽培方法はそれぞれの種類に合ったようにしなければならない。

アナバ [Annaba] アンナバともいう。アフリカ大陸北部，アルジェリア民主人民共和国東部の港市。人口15万2,000(1966)。アトラス山脈を越えてサハラ砂漠(さばく)のオアシス地帯にはいる基点であり，チュニジアのガフサを起点にチュニス・アルジェ・ラバト・カサブランカを結んでモロッコのマラッケシに至る鉄道交通の要地でもある。またチュニスからアルジェを経てカサブランカに至る国際空路も通り，海陸空の交通の要衝。近郊は平地が開けていてオリーブや小麦の農耕地がみられる。〔小栗　宏〕

アナーバー [Ann Arbor] アメリカ合衆国ミシガン州南東部，デトロイトの西方約50kmにある学園都市。人口99,797(1970)。アメリカ合衆国最大の州立大学として有名なミシガン大学*がある。

アナハイム [Anaheim] アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス南東郊外の都市。人口16万7,000(1970)。ディズニーランドの名で知られる遊園地の所在地で，果実のかんづめ加工が盛んである。

アナバシス [Anabasis] 古代ギリシアの歴史家クセノポン*の歴史書。《1万人の退却》ともいう。7巻。BC401～BC399年間の遠征記。総勢10,000人のギリシア人傭兵(ようへい)がペルシアの王子キュロスに率いられて兄王を倒さんとバビロンめざして小アジアのサルジスを出発する。しかし途中でキュロスは戦死し，目的は挫折(ざせつ)して総退却に移る。陰謀・裏切りなど次々に事件が起き，作者自身が指揮官となって苦心惨憺(さんたん)のすえ故郷に帰りつくまでを軽快で簡潔な筆致で描いている。 〔久保正彰〕

アナフィラキシー [anaphylaxie] 1902年，フランスのリシェーの発見した現象。微量の毒素を動物に注射すると，ふつう動物の耐毒力は上昇するが，下降することもあり，同じ免疫操作で免疫とはまったく逆の状態を生ずるため，フィラキシー(保護)の反対ということから名づけられた。免疫は血中の抗毒素のために毒素が捕捉(ほそく)中和されるが，アナフィラキシーでは，組織にある抗毒素へ毒素が運ばれて反応し，組織細胞に障害が起こると考えられる。

あなほり 【穴掘り】 墓穴を掘る役目の者，またその儀礼をいう。この役は講*や組*仲間の仕事となっている場合が多く，葬式組*と称して棺かつぎの集団と穴掘りの集団とを分けている所も多い。また，この仕事を専門職に任せている所もある。土葬が多く，縦穴埋葬の多い日本では，穴の深さも意味をもっており，深く掘るのをよしとする地方や，深い穴は深い地獄へ行くといってきらう地方もある。また，墓穴に魔物がはいったり，墓穴から死者が浮遊することを恐れる気持ちがあり，墓の上に石を載せてそれを防ぐ信仰がある。 〔渡辺欣雄〕

アナポリス [Annapolis] アメリカ合衆国メリーランド州の州都。チェサピーク湾奥西岸にある小漁港。人口28,000(1970)。古風な市街の小都市であるが，海軍兵学校の所在地として有名。

アナポリス [Annapolis] アメリカ海軍兵学校の通称。メリーランド州アナポリス*にある。1845年創立。同校の卒業生は，普通のカレッジ卒業と同等の資格を付与される。

あなみこれちか 【阿南惟幾】 (1887～1945) 陸軍大将。大分県出身。陸軍次官・軍事参議官を経て，第2次世界大戦終了時，鈴木貫太郎内閣の陸相。戦争継続を強硬に主張し，最後の御前会議で降伏反対を訴え，天皇になだめられた話は有名。終戦当日自殺。

あなみず 【穴水(町)】 石川県鳳至(ふげし)郡の町。人口15,200。能登(のと)半島の七尾湾北岸一帯の地域を占め，穴水町ほか3村が合併して1955年(昭和30)に現在の町域となった。穴水はアテ(アスナロ)・スギ・アカマツなどの木材の積み出しの多い港で，また七尾線から能登線が分岐する水陸交通の要地である。真珠やカキの養殖も行なわれている。

アナモフィックレンズ [anamorphic lens] 円筒状の正レンズブロックと負レンズブロックの組み合わせによって構成され，単独では望遠鏡光学系を形成するレンズ系。円筒レンズの性質から単独で使用されることはきわめてまれで，これを撮影レンズまたは映写レンズに組み合わせると映像がある方向に圧縮あるいは引き伸ばされるので，映画の分野に適用されて急速に普及した。すなわち，大形スクリーン映画の一種であ

→138ページ

アナーキズム

[anarchism]

〔定義〕 無政府主義と訳される重要な社会思想で，アナーキーは〈支配がない〉〈政府がない〉という意味である。アナーキスト（無政府主義者）は特に画一性をきらうので，主張する内容は人によってさまざまであり，実質的な定義はむずかしいが，ほぼ次のようにいえるだろう。①社会批判：人間は自由を求めるものであるが，権力による支配は個人の自由を抑圧する。最大の権力は国家権力であるから，いっさいの政府・国家を否定して，人間の自由の最大限を発揮しようとする主義がアナーキズムである。②改革手段：政治権力の獲得による改革は再び権力支配を生むものであるから，選挙や政党の活動によるのではなく，大衆の啓蒙（けいもう）や少数者の直接行動など，非政治的手段をとるべきであると説くのが，アナーキズムの特徴である。③理想社会：国家をなくしたのちには，各人がなんらの支配・拘束をも受けることなく，平等に，しかも各人の自由な合意によって調和を保つような共同社会をつくることが，一般にアナーキズムの理想である。

アナーキズムは，既存の社会をその根源において否定し，しかも最も高遠な理想の実現を求めるので，つねに急進主義の最左翼を形成し，それだけに激しい弾圧を受けてきた。しかも，無秩序・破壊・テロ・反動・小ブルジョア的イデオロギー・アナクロニズムなどの非難を社会主義者からも浴びせられる。アナーキズムには多くの種類があり，そのような非難があたる場合も多いが，アナーキズムの本質はそれにとどまるものではなく，その提起した問題は人間にとって永遠の課題であって，なお強烈な生命力をもち，未来においてますます重要な意味をもつであろう。

〔アナーキズムと他の思想との関係〕 アナーキズムは，古代・中世においては，現世の権力を否定する宗教や，自然主義的・虚無的人生観などと結びついていたが，近代においては，次のような特徴がみられる。①自由主義・個人主義を窮極にまで進めたものである。②権力支配のみならず経済的搾取をも否定するので，その意味では社会主義*・共産主義*の一部である。政治闘争・国有化・中央集権・プロレタリア独裁を主張するマルクス主義*とは，その次元では対立するが，マルクスの理想も，国家権力の消滅，民主主義の克服，自由の王国という一種のアナーキズムである。③議会主義を否定し，直接民主主義を越えて，窮極的には民主主義一般を否定する。④アナーキズムの大きな特徴は既成の権力秩序に対する反逆であり，そのためにニヒリズム*・テロリズム*と混同されるが，アナーキズムにとって反逆自体は目的ではなく，未来の自由な社会の展望をもち，テロリズムと結びついたのは一部にすぎない。

〔種類〕 まず，国家権力を消滅させる手段についてみると，おおまかに次のように分かれる。①啓蒙的手段に訴えるもの：ゴドウィン・プルードン・ウォーレン・モリス・ワイルド・ソロー・トルストイ・石川三四郎など。②破壊的手段に訴えるもの：バクーニン・クロポトキン・幸徳秋水・大杉（おおすぎ）栄など。次に，国家権力消滅後の経済組織計画についてみると，ほぼ次のように分かれる。①個人主義アナーキズム：ゴドウィン・シュティルナー・タッカーなど。②相互主義・連合主義アナーキズム：プルードンなど。③集産主義アナーキズム：バクーニン・ギヨームなど。④無政府共産主義：クロポトキン・ルクリュなど。⑤アナルコ-サンディカリズム：ペルティエ・CGT（フランス労働総同盟*）・CNT（全国労働連合）・CGIL（イタリア労働総同盟*）・ラブリオーラ・IWW（世界産業別労働者組合）・プージェ・ソレル・大杉栄など。

〔思想の歴史〕 アナーキズムの起源は古く，最古のアナーキストといわれるのは，古代ギリシアにおけるストア派のゼノンで，彼は，人種・民族・国家・階級を越え，家族・寺院・法廷・学校・貨幣を否定して，理性の支配に基づく超国家的な世界市民の社会を構想した。また中国の老荘（ろうそう）の思想などにも，ギリシアのソフィスト派やキニク派にも，ユダヤ教やキリスト教のある派にも，人為的な制度や法による支配を攻撃したり，平等な小社会を形成したり，個人の自由を強調したりするアナーキズムの要素がみられる。2世紀半ばにはグノーシス派のカルポクラテスが，私有財産の廃止と極端な自由主義を主張したし，あらゆる専制支配を攻撃したラ-ボエシ・フェヌロン・ラブレーなどの思想家，共同生活を実践した再洗礼派なども，アナーキズムの伝統の中に数えられている。このような古代・中世におけるアナーキズムが，一般に復古的で，個人主義の要素を欠いていたのに対して，ルネサンス以降，近代的な自我のめざめは，伝統的な国家および教会の権威に対する反抗をもたらした。そして，国家は個人の幸福の手段であるとし，宗教的寛容を主張したロック，自己の必然性のみに基づく自由を主張したスピノザ，自然人を礼賛したルソー，国家の地位を夜警にまで転落せしめて自由主義経済を唱えたスミスらを生んだ。彼らはアナーキストではないが，アナーキストのために国家を攻撃する武器を提供した。このような背景のもとに，近代的な国家権力に対する本質的な批判を行なう者として，近代的アナーキズムが形成されたのである。近代的アナーキズムの先駆は，イギリス革命におけるディガーズ派のウィンスタンリ，アメリカ革命におけるペイン，フランス革命における過激派などの思想にみられるが，これを最初に理論的に体系化したのは，ゴドウィン*であった。彼は，有名な《政治的正義》(1793)において，政府が不正・抑圧・専制・戦争・征服・略奪・詐欺を生み，個人の独立を侵し，理性をゆがめることを痛烈に批判し，政治権力と財産制度の密接な関連をみて，政府と私有財産の双方を否定したのである。彼は，各種の政治制度および法律を批判し，政府と財産のない社会へ到達するために，人々の理性が発達し，民主主義政府がしだいに小自治集団の連合に変わり，やがては，まったく政治機構がなくなることを期待した。彼の理想とする社会では，人間理性の無限の進歩が夢みられているところから，いっさいの利己心はなくなり，個人の主体的判断が尊重され，それをゆがめる政府はもちろん，協同の作業や食事や結婚生活までも否定される。次にヘーゲル左派に属したシュティルナー*は，《唯一者とその所有》(1845年)において，個人こそが唯一にして真に具体的な実在であるとして，自我と力に基づく所有を主張，自我に圧力を加えるいっさいの道徳や政治を否定した。特に国家はその最大のものであって，独裁的であろうと民主的であろうと，個人の意志を否定するものであると排撃されている。国家をなくしたあとでシュティルナーが提案するのは自発的な〈エゴイスト同盟〉であって，この同盟にはいかなる拘束力もなく，完全に個人が個人の利益のために利用するものだと説かれている。ゴドウィンやシュティルナーの思想が社会的に大きな影響力をもたなかったのに対し，アナーキズム運動の出発点となったのは，プルードン*の思想である。彼は，《財産とは何か？》(1840)において，〈財産とは盗みだ！〉と叫び，特に資本家の不労所得を非難して資本主義社会の経済的矛盾・搾取機構を暴露した。彼は，私有財産のいっさいを否定するのではなく，自己の労働に基づく財産を認め，搾取をなくすために無利子の信用供与と労働量に基づく商品の交換銀行を提唱し，貨幣と資本の暴力をなくすことによって，個人の自由・独立を確保しようとしたのである。彼は，歴史上はじめてアナーキストと自称し，個人の自由・独立を侵すものとして，国家活動とともに社会主義・共産主義をも否定する。そして，それに代わるものは，財産と共産主義の双方を止揚した，平等独立の生産者によって結ばれた自由契約制度，相互主義，協同組合の連合などであるとした。彼は，コンミューンや労働組合の連合が国家に取

って代わり，ヨーロッパ全体がやがてこのような連合からなる一つの連合に進むと考えた。プルードンの思想を受け継ぎ，それをさらに戦闘的なものとしたのがバクーニン*である。彼は自由の熱情に燃え，非常な行動力をもって革命運動を指導した。彼は，プルードンの個人所有是認や相互銀行の提唱を退け，その連合主義を積極的に進めて，相続権の廃止と，労働者・農民の職域・地域における自発的な連合組織が生産手段を所有する集産主義を唱えたのである。バクーニンは，自由を侵すものとして神と国家を激しく攻撃したが，その本領は実践活動であった。彼は革命のために秘密結社をつくり，ブルジョア制度を一掃するために，農民やルンペン-プロレタリアートの反乱によって総破壊を行なおうとした。第1インタナショナルにおけるマルクスとの対立は，革命運動史上における重要な事件であったが，マルクスの中央集権主義・権威主義・政治主義・国有化政策・プロレタリアート独裁の主張に対し，バクーニンは，連合主義・直接行動・国家破壊・労働者管理を主張した。バクーニンの破壊主義に対して，アナーキズムの建設的な面を発展させたのがクロポトキン*である。彼は崇高な義務意識から運動に献身して指導者になるとともに，フランス革命の歴史などを研究し，また進化論などの自然科学とアナーキズムを結びつけた。その結果，彼は歴史における権力支配と相互扶助の二つの流れを認め，資本主義における権力支配と利潤追求をなくして，自発的な協同による相互扶助の制度をつくろうとしたのである。彼は分業制度を批判して，経済的専制のない小規模工場を礼賛し，生産手段のみならず消費財をも社会化する無政府共産主義を，コンミューンの結合の上に築こうとした。文豪トルストイの思想も彼に近く，国家の否定，自然の賛美，兄弟愛の強調など，アナーキズムの特徴を備えていた。

その他のアナーキズムの思想は，観念的自由を求める文学者と，現実に社会変革を行なおうとする運動家に大別することができる。文学者の系譜としては，シェリ・エマーソン・ソロー・モリス・ワイルド・ホイットマン・カミュなどがおり，社会運動家としては，ウォーレン・トラン・グリーン・タッカー・ミシェル・フェレル・ギヨーム・チェルケゾフ・マラテスタ・カフィーロ・コスタ・ルクリュ・ブルス・モスト・マフノ・サパタ・バイトリング・幸徳・大杉などを数えることができる。また近年では，リード・カミュ・ウェーユ・ブーバーらが，個人の自由意志を強調する意味の〈リバテアリアン〉ということばでよばれることがあるが，これもアナーキストと同じ意味である。

〔運動の歴史〕アナーキズムの運動は，宗教運動や農民運動としては古代・中世を通じて存在し，イギリス革命におけるディガーズ，フランス革命における過激派の運動が近代的運動の序曲となり，プルードンに至って本格的に開始される。プルードンは，《人民の代表者》などの新聞を発行し，人民銀行を創設し，代議士ともなって，大きな影響力をもち，1848年の二月革命や六月事件で活躍，労働運動の中に相互主義者・連合主義者の数を増した。彼らの提唱によって1864年に第1インターナショナルが設立され，国際的な労働運動の中でプルードン主義者は大きな勢力をもつに至った。次いでバクーニンは，1864年にフィレンツェ同胞団を，翌年国際同胞団を結成して組織的なアナーキズム運動を開始し，1868年には国際社会民主同盟をつくってインターナショナル*に加盟を申請した。1869年，この同盟は表面上は解散したが，バクーニンの集産主義・反政治主義はインターナショナルの中で大きな勢力となった。1869年のインターナショナル-バーゼル大会で，バクーニン派とマルクス派は衝突し，1872年のハーグ大会でバクーニンらは除名された。しかし，前年にソンバリエ会議に結集していたアナーキストたちは，第1インターナショナルが分裂するや，直ちにサン-ディミエ-インターナショナルをつくって，マルクス派より大きな勢力を誇ったのである。1881年にはロンドンで国際アナーキスト会議が開かれ，黒色インターナショナルが結成されたが，1888年に創設された第2インターナショナルからはアナーキストは排除されてしまった。

このようなインターナショナルをめぐる争いとは別に，アナーキズム的な運動は各国でみられた。アメリカでは，1830年代からウォーレンがアナーキズム的な協同村の実験をくり返していたし，1840年代にはスペインで，1850年代にはイタリアで，プルードン主義の運動が始まっていた。ロシアにおけるゲルツェン*の運動にも，プルードンの影響がみられる。しかし，その後はバクーニンの影響が強まり，特にロシアでは，1870年からナロードニキ*の運動が起こり，1881年にはアレクサンドル2世の暗殺が行なわれた。フランスでは，パリ-コンミューンにプルードン主義者とバクーニン主義者が参加して弾圧を受けてのち，ブルスによってアナーキズム運動が復活，イタリアでは，アナーキストたちは〈行動による宣伝〉という旗印を掲げて一連の暴動事件を起こし，これはスペインその他にも影響を与えた。

アナーキズム運動に一時期を画したのは，アナルコ-サンディカリズム*の勢力である。新しい産業社会に対応して，アナーキズムは労働組合を中心とするサンジカリズムと結びついてアナルコ-サンジカリズムを生み，労働組合による階級闘争，ゼネストによる社会変革，組合を基礎単位とする新しい社会という考えを提起した。1887年にはフランスで労働取引所が設立されて，これが運動の拠点となり，さらにアナーキストはCGTの中でも勢力を得て，1902年から1908年に至る間，最盛期を迎えた。アミアン憲章はその象徴であって，ヨーロッパ各国やアメリカのIWWに影響を及ぼし，1923年には，革命的サンディカリスト-インターナショナルが結成されている。アナルコ-サンジカリストたちは，ロシア革命でも活躍したが，ボリシェビキ*により迫害され，クロンシュタット軍港における水兵の蜂起(ほうき)も鎮圧された。

ロシアでアナーキストが一時的ながらも大きな力をもったのは，マフノ運動であって，1818年から1819年にかけて，マフノの軍が掌握したウクライナでは，アナーキズム的な共産主義社会がつくられた。また支持者が多く，かつ政治上大きな勢力を得たのは，スペインにおいてであって，1873年には，プルードン主義者のピ-イ-マルガルが大統領となったし，農村においても労働運動においてもアナーキストの影響が強かった。CNTはアナーキストによって指導され，強大な力をもって闘争を行ない，それが弾圧されたのちも，FAI(イベリア-アナーキスト連合)が活動し，共和制下でも反乱を続けて，1936年の人民戦線内閣には4人のアナーキストが入閣，市民戦争中には，アナーキストたちの指導によって，カタロニア地方などで集産化が進み，クロポトキン的な自由共産主義が，市民戦争が終わるまで続いた。

〔日本におけるアナーキズム〕古くは安藤昌益*(しょうえき)が《自然真営道》(1753)において農業を基礎とするアナーキズムを説いており，明治期にロシアのナロードニキ運動が紹介され，その影響で1882年(明治15)に樽井(たるい)藤吉らが東洋社会党*という最初のアナーキズム団体をつくった。代表的な思想家となったのは幸徳秋水*で，自由民権運動からマルクス主義へ進み，クロポトキンを愛読し，日露開戦にあたっては反戦論を唱え，1905年にアメリカでIWWの労働運動に触れて，アナルコ-サンジカリストになり，ドイツ社会主義流の議会主義は幼稚であるとして，〈普通選挙や議会政策では真個の社会的革命を成し遂げることはとうていできない。社会主義の目的を達するには，一に団結せる労働者の直接行動によるのほかはない〉と述べた。この直接行動論は当時の社会主義者に大きな衝撃を与え，議会主義者との間に論争を招いたが，1911年に大逆事件*の首謀者として処刑された。クロポトキンの影響は岩佐作太郎・八太舟三らにもみられたが，これをアナルコ-サンジカリズムと結びつけて理論化したのは大

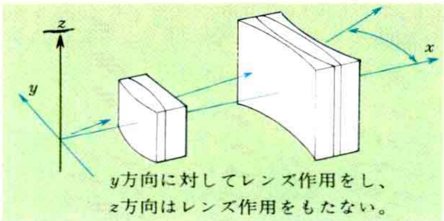
杉栄*であって，幸徳の直接行動論に共鳴，ロシア革命や米騒動*を背景に労働運動に参加，サンジカリズムの流行と，アナ-ボル論争を巻き起こし，関東大震災において憲兵に虐殺された。その他啓蒙的なアナーキストには石川三四郎*らがいるが，国家権力の弾圧が激化し，他方マルクス主義によって異端として退けられ，昭和期にはいるとその勢力はほとんど消滅した。

〔現代におけるアナーキズムの復活〕国家権力による抑圧，マルクス主義や社会民主主義のようなより実践的な思想の登場，その支持者を農民や職人やルンペン-プロレタリアートに求めていたこと，実践的な提案の弱さ，革命戦術の未熟さなどにより，1939年のスペイン市民戦争の終結をもってアナーキズムの運動は終わるかにみえた。だが今日アナーキズムの再生が語られ，その思想が注目されるのみならず，その運動が新たに起こりつつある。その理由としては，次の点が考えられよう。①国家独占資本主義の確立に伴う国家権力の増大，官僚制の強化，ファシズム化，政治の腐敗，民主主義のゆきづまり，階級対立の激化，大量殺人兵器の開発，戦争。②高度工業文明の発達に伴う管理の強化，科学技術と社会組織の不均衡な発達によるいわゆる人間疎外，人間の画一化・部品化・手段化，福祉国家に対する不信。③社会主義国におけるスターリン主義・官僚主義，1956年のハンガリー事件や1958年のチェコ事件などにみられる国家権力による自由の抑圧。④革新政党・労働組合などにみられる官僚制，動脈硬化，自発性の喪失，議会主義的手段に対する幻滅。⑤議会や大学などの伝統的権威に対する批判の激化。

そのために，ヨーロッパ各国においてアナーキズムの復活が叫ばれており，日本でも，学界においてアナーキズムが再評価されはじめ，日本アナーキスト連盟・学生アナーキスト連盟・ベトナム反戦直接行動委員会・自由連合派などが次々と組織されたが，解散したものもあって実態は流動的である。行動面においては，軍需工場襲撃などの直接行動もみられ，特に影響があるのは反日共系といわれる学生運動においてであって，アナーキストが参加しているばかりでなく，既成の体制や組織に対する批判，学生を起爆剤とする激しい行動，大学破壊論などは，バクーニンの着想を受け継ぐものといえよう。〔白井　厚〕

るシネマスコープ*の特殊付属レンズとして使用されている。この場合は，画面の横方向のみを圧縮して撮影し，映写のときこれを復元映写すると横方向のみが引き伸ばされて映写される。引き伸ばされる倍率は，8mm映画では約1.5倍，16mm・35mm映画では2倍である。〔加藤定雄〕

アナルコ-サンジカリズム　[anarcho-syndicalism]　アナーキズム*(無政府主義)と結びついたサンジカリズム*(労働組合運動)のことであるが，一般に，労働運動史上，サンジカリズムと別個な理論をさすものではなく，特に日本ではそうであった。19世紀末から20世紀初頭にかけて，フランス・イタリア・スペインなどのラテン系諸国では，労働運動の指導者たちが改良主義*的となり，内閣に加わって大衆の要求を裏切ったが，この事態に反発してゼネストなどの直接行動に訴えて資本主義制度を打倒しようとする革命的運動として発展した。それは資本主義体制の変革なくしては労働者は解放されないとする認識で，革命的なものであった。アナーキズムは，ブルジョア国家権力を悪として否認するだけでなく，権力*一般を否定するものであるから，もっぱら大衆の革命的情熱を直接行動で発現させようとする。マルクス-レーニン主義*に反対するのも，このためである(バクーニン・クロポトキンらがその理論的創始者)。このアナーキズムの革命理論が，ラテン系諸国の労働組合運動(サンジカリズム)を支配した。しかし，第1次世界大戦後の革命期にあたって，このような経済主義によるゼネスト・工場占領・生産管理などの方式だけでは，結局反革命*に抵抗することができないこと，そして大衆の政治的組織，権力闘争の重要性が立証されるにつれて，それ以降はもはや労働運動における指導力を失っている。日本の労働運動では，経済的利益だけに局限した体制内的な労働組合主義に対する批判として，アナーキズム・サンジカリズムが勢力をもったが，ヨーロッパにおけると同様に，大正期における一時的な発展以後は，マルクスの立場による組合運動に代わられている。古くは幸徳秋水ら，のち大杉(おおすぎ)栄らがこれを主張した。しかし，改良主義的・民主社会主義的労働運動が大きい力をもつかぎり，それに対する批判として，この傾向の勢力はなお発生する余地を残している。〔鈴木安蔵〕



アナモフィックレンズ

アナログけいさんき　【アナログ計算機】　相似型計算機ともいう。一般には，計算で取り扱う数値を回転角・長さ・電圧・電流などの物理量に変換し，変換された物理量の間に作用する物理的法則に従って，数値を連続量として取り扱い演算を行なわせる計算機械である。計算尺*もその一例であるが，多くは電子回路を演算装置に利用したアナログ電子計算機をさす。アナログ電子計算機は，演算増幅器を主体としたアナログ加算器・積分器・符号変換器のような線形演算装置やアナログ乗算器・割算器・リミッタ・ヒステリシスなどの非線形演算装置ならびに関数発生器などを組み合わせて，主として微分方程式に帰着するシステムのシミュレーション*や，動作原理が微分方程式に基づく装置の解析などに利用される。ディジタル計算機と比べて計算精度は落ちるが，計算速度が速く，パラメータの変化をさせやすい利点がある。〔小原啓義〕

アナワク(高原)　[Anahuac Plateau]　メキシコの東シエラ-マドレ山脈と西シエラ-マドレ山脈の間にある高原。狭義にはメキシコ高原の北半部をさし，平均高度1,000～1,500mであるが，広義にはリオグランデ川からテワンテペク地峡までのメキシコ高原をさす。平均高度1,000～3,000mで，北部および東へ行くほど低くなっている。河川は高原上の湖に流入する内陸河川が多いが，中には山脈を横断して大洋に注ぐものもある。降水量も低地ほど少なく，また北部では内陸性が強くて乾燥し，農業は振わず牧畜が盛んである。しかし近年は灌漑(かんがい)によりムギ・ワタの栽培が急速に伸びている。東部のメキシコ湾岸の斜面は降水も多く，果樹栽培が盛んである。〔大石堪山〕

あなん　【阿難】　⇨アーナンダ

あなん　【阿南(市)】　徳島県東部の市。中心市街の富岡は近世初期から富岡城(牛岐(うしき)城)の小城下町，水陸交通の要地として発達した。1958年(昭和33)市制施行。人口62,000。市名は阿波(あわ)の南方の意。市域は，那賀(なか)川の河口付近から下流流域に広がり，産業三大別人口比は28：31：41。米・木材などを集散し，南部の橘(たちばな)湾沿岸部では漁業が盛んである。製材・製紙・セメントなどの諸工業が行なわれる。最近は，築港，火力発電所の設置，工業用地の造成など那賀川総合開発計画が進んでいる。牟岐(むぎ)線・国道55号線が通じ，室戸阿南海岸国定公園*の東の玄関口にあたる。特産はたけのこ・ミカンなど。

アーナンダ　[Ānanda]　生没年不詳。阿難陀と音写し，阿難と略称する。ブッダ*の十大弟子(でし)のひとり。ブッダの従弟で，出家後20余年，ブッダのそばに仕え，教えを聞いたので，多聞(たもん)第1といわれた。ブッダの養母の願いを取りなしたのが原因で女性教団が成立した。ブッダの滅後すぐ

に聖典編纂(へんさん)の第1結集が行なわれたとき，経の朗誦役(ろうしょうやく)となって経蔵の編纂に努めた。〔石上善応〕

あにこうざん【阿仁鉱山】秋田県北部，阿仁町にある金と銅を産する鉱山。江戸時代初期に開発され，明治維新には政府の直営となり，のち古河(ふるかわ)鉱業が経営した。1931年(昭和6)から3年間一時休山したが，その後金山として再開され，銅鉱の採掘も行なわれている。

アニサキス［anisakis］海産の哺乳(ほにゅう)類(アザラシ・クジラ・イルカなど)の胃に寄生する回虫*に似た線虫*。卵は海水中で発育し，第1中間宿主(オキアミ類と推定されている)に取り込まれる。次に第1中間宿主を哺食する魚介類(アジ・サバ・スルメイカなどで第2中間宿主となる)に取り込まれ，その筋肉などで10～20mmの幼虫に発育する。ヒトがそのような魚介類を生食すると，幼虫が胃や腸管壁に侵入し，いろいろの病害を起こすことがある。人体内に侵入した幼虫は成虫に達することなく，やがて死滅する。治療法はいまのところ研究の段階である。〔山本　久〕

アニス［anise］双子葉植物・セリ科。エジプト原産の一年生の薬用植物。高さ約50cm，白色の小花をつける。果実はアニス油を含み，菓子・パン・せっけんなどの香料に用いられる。ヨーロッパの民間では，催乳薬に用いられるという。日本ではあまり栽培されていない。

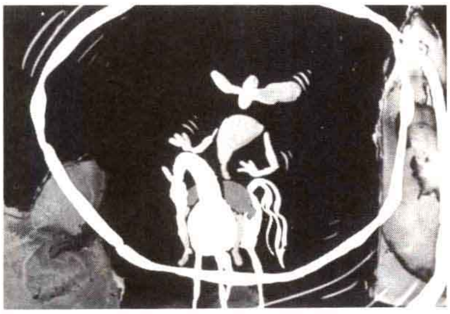
アニスゆ【アニス油】セリ科のウイキョウの実を水蒸気蒸留して得られる油。アネトールという芳香成分を主成分とし，淡黄色シロップ状でやや甘い特有の香味をもつ。食品・飲料・菓子・医薬(健胃剤)・歯みがきなどやせっけんの香料として用いられる。

アニマート［animato］〈元気な〉〈生き生きと〉を指示する音楽用語。元来は〈生気(アニマ)を吹き込まれた〉という意味のイタリア語で，コン-アニマ(con anima)ともいわれる。フランス語のアニメ(animé)も同義であるが，これは現在ではアレグロの意味で使われることが多い。

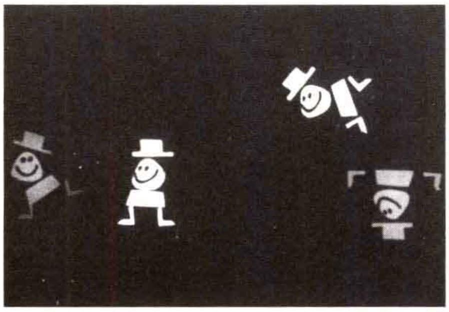
アニミズム［animism］精霊崇拝・有霊観・霊魂信仰などと訳される。語源は気息・霊魂を意味するラテン語〈アニマ(anima)〉に由来する。元来，哲学用語として物活論の意味で用いられたが，イギリスの人類学者タイラー*がその著《原始文化》(1871)で宗教の最小限の定義として規定して以来，霊的存在への信仰をさしていうようになった。タイラーは，原始民族が生者と死者の相違や睡眠・失神・夢などの現象を観察し反省することによって，人間には霊魂が存在すると信じ，次いで動植物・自然現象やその他の活動性のあるすべての事物にもこの推論を及ぼして，あらゆる現象・運動作用は霊的存在に起因すると考えるに至ったとみて，宗教起源論としてアニミズム説を唱えた。その後アニミズム説はさまざまな批判と修正が加えられ，1930年代から盛んに行なわれるようになった現地調査でアニミズムの普遍性が否定されてからは宗教起源論としては凋落(ちょうらく)したが，宗教における重要な概念の一つとして今日に継承されている。〔藤井正雄〕

アニメーション［animation］映画用語。網膜上の残像現象を応用して，絵や人形あるいはその他の物体の映像に動きを与えるもの。通常の映画は，一つの運動を1秒間に24こまの割合で，1こまごとに静止した写真に分解してとらえる。それがスクリーン上に映写されると残像現象によってその運動の印象が再現される。その1こまずつを絵(一連の運動を1秒間に24の段階に分解して描いた絵)に置き換えれば，同様に残像現象によって絵が動くという印象が生まれる。これを動画という。また，絵の代わりに物体を少しずつ位置を変えて置けば動く物体の印象がつくり出される。このような方法による映画をアニメーションといい，動画・人形映画・影絵映画その他を含んでいる。

アニメーションの歴史は，1833年ごろベルギーのプラトーがつくった〈フェナキステ

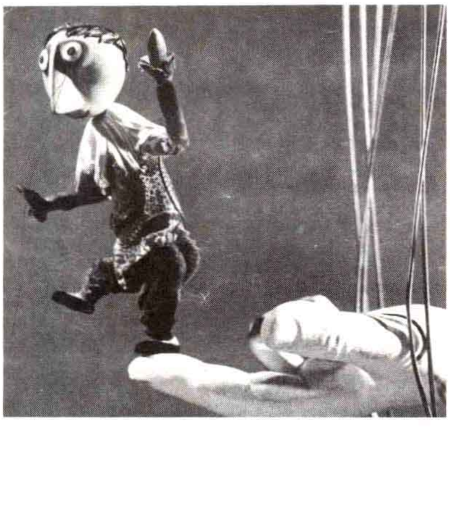


①



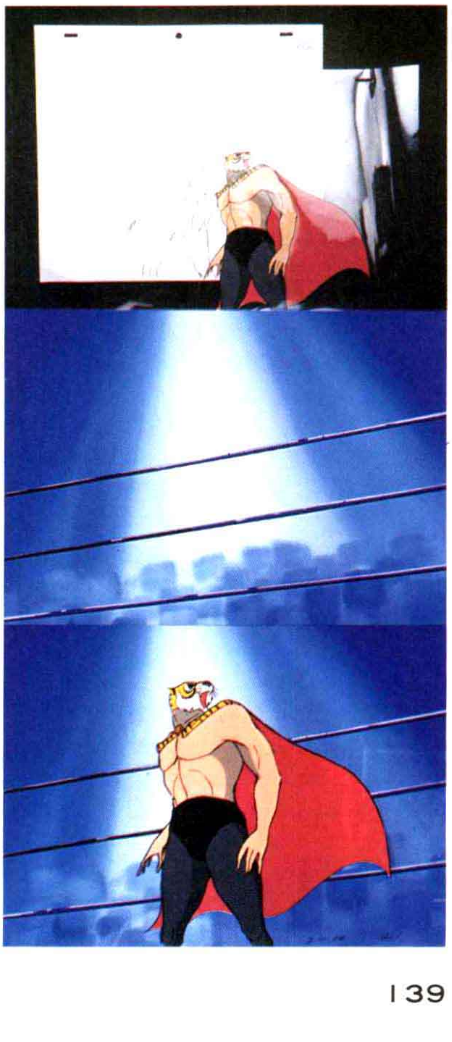
②

アニメーション



③

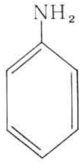
アニメーションのいろいろ　①絵の具によるアニメーション。ギェルシュの《小さなウェスタン》(ポーランド，1961)　②切り紙を使ったアニメーション。マクラレンの《Canon》(カナダ，1964)　③人形アニメーション。トルンカの《手》(チェコスロバキア，1965)



アニメーションの製作過程　(右上から)まず，人物像を紙に線で書き色指定したものを，透明なセルロイド板に写しとり彩色する。それとは別に，紙に背景が描かれていて，この背景画の上に，人物像を描いたセルロイドを重ね，1場面が完成，カメラで撮影する。人物に動きを与えるには，数段階に動きを分解・描写した人物像を次々に取り替え，順次それを撮影していく(東映動画の《タイガーマスク》)

ィスコープ〉にさかのぼることができる。その後普通の映画の発展によって忘れられていたが，1906年，アメリカのブラックトンによって現在のこまどりの方法が案出され，アニメーションは映画の一種類となった。1914年には，アメリカのハードが透明セルロイド板に描いた絵を背景の上に重ねていく方法を発明し，さらにディズニー*がマルチプレーン-カメラを開発して数枚の絵を合成して撮影するようになった。そのため画面は奥行きを増し，またいろいろなカメラ技法が可能となった。現在はさらに進歩し，多くの技法が試みられている。現実の動く対象を撮影するのではなく，すべてが人間の手でつくられ，動きを与えられることによって，アニメーションは全体として幻想的・超現実的傾向をもちやすい。話の展開においても，省略や飛躍，さらには強調が自由に行なわれ，描かれる形態も単純化・様式化・戯画化されることが多く，作品にも喜劇的・風刺的なものが多い。一方，アニメーションの技法は抽象映画*にも用いられ，造型芸術と結びついて新しい芸術現象を生み出している。〔浅沼圭司〕

アニリン　［aniline］　$C_6H_5NH_2$　アミノベンゼンともいう。コールタール中に含まれる。工業的にはニトロベンゼン$C_6H_5NO_2$の還元によりつくられる。特異臭があり，蒸留したては無色の液体であるが，空気中に放置したり光にさらすと黒化する。アルコール・ベンゼン・クロロホルムなどほとんどの有機溶剤と混合しうる。アゾ染料・アニリンブラック・アニリンブルーなどの染料の合成原料，医薬・樹脂・香水の製造に用いられる。金属の定量試薬としても使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕



アヌイ　［Jean Anouilh］（1910〜　）フランスの劇作家。醜悪な現実を拒否して純粋な生を求める若者たちと，俗事に慣れたおとなたちとの対立に，ドラマの基本的な構図を設定し，巧みな手法で人間の内面を描き独自の世界をつくりだす。代表作に《泥棒（どろぼう）たちの舞踏会》《野性の女》《アンチゴーヌ》《ひばり》などがある。

あねかとく　【姉家督】　長子相続制の一形態。初生子が女子である場合，弟があっても姉に家督相続を行ない，弟は婿養子に出すという形態である。これは初生子が男子である場合にはみられないのが普通である。姉家督が生じた要因としては多く経済的理由，すなわち早期労働力補給があげられている。弟が幼少で，一人まえの家業のにない手になりえない場合，家業を維持するためには一人まえの男手が必要であり，姉が家督を相続して婿を迎え入れる。しかし，実際には姉は相続者にならず，婿が次代の戸主*となる。したがって母系制*のような永続的な女子による相続ではない。姉家督は東北地方に濃厚であるが，関東地方・中部地方にも点在してる。〔渡辺欣雄〕

あねがわ　【姉川】　滋賀県東部，坂田郡・東浅井郡を流れて琵琶湖（びわこ）に注ぐ川。岐阜県との境をなす伊吹（いぶき）山地に源を発して南流し，平地に出てからは西流して琵琶湖にはいる。流程37km。沖積地（ちゅうせきち）は広く，田畑がよく開けている。下流から湖畔にかけては，姉川の戦い*の古戦場である。

あねがわのたたかい　【姉川の戦い】1570年（元亀１）6月28日，近江（おうみ）（滋賀県）姉川流域湯田村一帯における織田信長（のぶなが）・徳川家康（いえやす）連合軍と浅井長政（ながまさ）・朝倉景健（かげたけ）（朝倉義景（よしかげ）の臣）連合軍との戦い。はじめ浅井勢が織田勢を破るが，徳川勢が朝倉勢を撃破したため浅井勢が動揺し，織田・徳川連合軍の大勝となった。これが浅井・朝倉両氏滅亡の端緒となった。

アネクメーネ　⇨エクメーネ

あねさきまさはる　【姉崎正治】（1873〜1949）宗教学者。姉崎正盛の長男として京都に生まれた。1893年（明治26），東京帝国大学文科大学哲学科にはいり，宗教学を専攻した。1900年には助教授となってドイツに留学し，哲学の泰斗ドイッセンに師事した。1935年（昭和10），論文《現身仏と法身仏》により文学博士の称号を受け，1938年同大学宗教学講座の初代主任教授となった。その仏教研究における方法論的特質としては，いちはやくクリスチャン-バウル（1792〜1860）の聖書批判や富永仲基*（とみながなかもと）の仏教批判を範として，仏教学研究に歴史的批判的方法を導入した点があげられる。また，《現身仏と法身仏》や《仏教聖典史論》などには，仏教史全体の動きを，歴史的理性の発展においてみようとする態度が顕著である。帝国学士院会員・貴族院議員を歴任した。〔山折哲雄〕

あねさま　【姉様】　後ろ姿を見せるようにつくられている紙人形。和紙を縮らせたもので髪型をつくり，顔は略し手足はつけず，衣装には千代紙や色紙を使う。以前は手づくりで少女たちのままごと遊びに与えたものであったが，現在は商品としてつくられている。地方によって顔を描いてあるもの，髪を黒く染めたものがある。材料は紙のほかに布やきびがらなども使う。よび名も〈おやまはん〉〈ばんばさま〉〈たちこさん〉〈ぽんちこ〉〈あねっこ〉などさまざまである。〔牧野玩太郎〕



姉　様　（左から）東京都豊島区・和歌山県和歌山・熊本県宇土・島根県松江・山形県鶴岡

アーネスト-サトー　⇨サトー

あねったい　【亜熱帯】　気候学者ケッペンは，月平均気温20℃以上の月が1年に4〜11か月あるような地域を亜熱帯とよんだ。この地域は赤道を境に南北15〜30°の間に広がり，中緯度高圧帯に沿っているため一般に１年中乾燥して砂漠（さばく）となるか，やや降雨のあるステップとよばれる所では乾季と雨季がある。気温の日較差が大きく，風が強く，湿度が低い。北アフリカ・アラビア半島・中国南部・北アメリカ南部・ブラジル南部・アフリカ南部・オーストラリア内陸部などがこれにあたる。〔小栗　宏〕

あねったいこうきあつ　【亜熱帯高気圧】北緯30°付近を中心にして，ほぼ帯状に地球を取り巻くように存在している高気圧。中緯度高気圧ともいう。地上天気図では，大陸上でところどころ切れており，海洋上で顕著に現われている。太平洋上では，冬にはアメリカ寄りの東部にかたよっているが，夏には北太平洋を東西に広くおおうようになる。わが国では，その西側部分を小笠原（おがさわら）高気圧*とよび，１週間ぐらいの周期で日本付近に張り出したり後退したりして，わが国の夏の天気に支配的影響を及ぼす。日本がこの高気圧域内にはいると天気がよく気温が高くなる。なお，このところに発生することの多い台風は，小笠原高気圧の縁辺に沿って進んだり，この高気圧に進路をさえぎられたりするので，台風の進路予報にもだいじな役割をする。〔曲田光夫〕

あねにょうぼう　【姉女房】　年上の妻のことで，九州では〈いぎゃまし〉，関西では〈おひにょ〉〈おひにょうぼう〉，北陸地方では〈ばばかづき〉，東北地方では〈めまし〉などとよばれている。埼玉県秩父（ちちぶ）地方では〈姉女房は五穀の神〉といい，〈姉女房福の神〉とか〈いぎゃましは食うに困らぬ〉という地方もあり，妻が年上であることは家の中の切り回しがじょうずで，家が安定すると考えられたことがうかがえる。特に結婚年齢が低い時代，また女の労働価値が高い所では，姉女房が社会的にも重要視された。〔須藤健一〕

アネモネ　［*Anemone*］　双子葉植物・キンポウゲ科・オキナグサ属。世界じゅうに約120種分布しているが，一般に栽培されているアネモネは球根植物で，原種は南ヨーロッパから小アジアに分布している。かっ色塊状の根から20〜30cmの花茎を出し，白・桃・赤・紫・紫紅色などの花をつける。八重咲きもある。葉はフクジュソウのように細かく裂ける。球根は秋に排水のよい砂質

壌土(じょうど)に植えつける。この際，球根の上下をよく見て植えつけることがたいせつ。翌年６月上〜中旬に球根を掘り上げ，日陰でよくかわかす。アネモネという名は，ギリシア語のアネモス(風)からきていて，風のよくあたる所に生育するという意。日本の山野にみられるイチリンソウ・ニリンソウ・ハクサンイチゲ・オキナグサなどもアネモネの仲間である。〔小林清・加藤僖重〕

アネルギー ［anergy］ 与えられた抗原に対して反応を起こさない状態をいう。アレルギー*と対比され，絶対アネルギーともいう。なお，ある条件下では反応を起こしても，あらかじめ抗原を与えて感じやすい状態を除いた場合には，抗原に対して反応を示さなくなる。このような状態を陽性アネルギーといい，絶対アネルギーと区別する。

アネロイドきあつけい 【アネロイド気圧計】 ⇨圧力計

アノア ［anoa］ 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。体長1.6〜1.7ｍ，尾長28cm，肩の高さ１ｍほど。角は短く扁平(へんぺい)で30cm以下。体は暗かっ色。セレベスの下草の多い森林に１対ですみ，水辺を好む。水生植物やたけのこなどを食べる。妊娠期間267〜315日，１腹１子。肉は食用となる。

アノーサイト ⇨シャチョウ石 ⇨チョウ石

あのつ 【安濃津】 三重県津市周辺の古称。〈あののつ〉ともいう。古くから塩の集散地として知られたが，中世に伊勢(いせ)平氏水軍の根拠地となり，のち対明(みん)貿易で栄え，坊津(ぼうのつ)(鹿児島県)・花旭塔津(はかたつ)(福岡県)とともに日本三津の一つとされた。1494年(明応３)の地震で衰えたが，戦国時代に細野氏が築城，1608年(慶長13)以後藤堂氏の城下町となった。

アノード ⇨電極

アノラック ［anorak］ 防寒・防風用としてスキーや登山の際に用いられるフードつきの上着で，ウインドヤッケともいう。本来はグリーンランドに住むエスキモー人が着る，アザラシの皮製の防寒衣。素材は防水性・保温性が必要で，防水綿ギャバジン・ナイロン・テトロン，およびこれらの布地にキルティングしたものなどが多く用いられる。プルオーバー型で，すそやそで口をひもで絞るようになっているものもある。最近は装飾的要素が多くなり，色彩も美しいものが多い。〔小池千枝〕

アーノルド ［Matthew Arnold］ (1822〜1888) イギリスの文芸・社会評論家。清純な詩人，有能な教育者でもあった。批評は対象をあるがままにみ，観念の秩序を確立する機能を有し，創作の機運をつくるものだという論理のもとに，批評の自立性を主張。また産業革命後，新興資本家の利潤追求と労働者の暴走とから起こる無秩序を改良するため，ヘブライ思想の実践倫理とギリシア思想の明知と美的観念とを融合する教養の必要なことを力説した。主著は《文学試論集》《教養と無秩序》。



ア ネ モ ネ

アーノルド ［Eddy Arnold］ (1918〜　) アメリカのカントリー-アンド-ウエスタンの歌手。テネシー州ヘンダソンの生まれ。1940年，当時人気のあったピー-ウィ-キングのバンドにはいり，1943年に独立した。彼は〈テネシーの太陽〉といわれ，その歌は暖かな気分に包まれている。《知りたくないの》《テネシー-ワルツ》《モリー-ダーリン》などで知られ，最近はポピュラー歌手としても活躍している。

あば ⇨網漁具

アバカ ［abaca］ 単子葉植物・バショウ科のマニラアサのフィリピン名。➔マニラアサ

アパカ ［Alfred Apaka］ (1919〜1960) ハワイアン歌手。ホノルルの生まれ。ハワイ最大の歌手として人気を博した。上品なパーソナリーとオーソドックスな唱法で，格調高いハワイアンを聞かせ，また多くの歌をヒットさせた。彼の持ち歌として有名なものに《珊瑚礁(さんごしょう)のかなた》がある。いまなお，年１回，有名なミュージシャンが集まって追悼公演が開かれるほど，根強い人気をもっている。

アバークロンビー ［Sir Ralph Abercromby］ (1842〜1897) イギリスの気象学者。ロンドンの華族の家に生まれた。幼時から病弱で，1866年陸軍大学にはいったが発病し，その後軍人となる宿願をやめた。1877年に《天気》という本を著わしたが，この中で日々の天気図に現われる等圧線の形式を７種に分けた。これが等圧線を用いた現在の天気予報法の経験的な基礎となったのである。第３回めの世界周航の途中，シドニーで客死した。〔根本順吉〕

あばしり 【網走(市)】 北海道北東部，網走支庁がある市。北海道原住民の故郷といわれ，数千年の古い歴史をもち，網走川河口付近にはモヨロ貝塚*(かいづか)がある。江戸末期以降はオホーツク海の漁業基地として発展した。1947年(昭和22)市制施行。人口43,800。市名はアイヌ語のアパシリ(船の出入り口の陸地)に由来する。

市域は，網走川河口付近の海浜上にあり，東と北はオホーツク海，西は能取湖(のとろこ)，南は網走湖，南東は濤沸湖(とうふつこ)・藻琴湖(もことこ)と，四方を水に囲まれる。産業三大別人口比は17：22：61。水産加工業・製酪工業が発達。近年，水銀・石灰石などの地下資源が開発され，各種工場の誘致も進んでいる。網走港は，沿岸・沖合漁業の基地となり，農林鉱産物を移出する。石北本線・釧網(せんもう)本線・湧網(ゆうもう)線の起点となり，国道39号線・238号線・240号線・242号線・243号線・244号線が道内各地に通ずる。網走国定公園の中心で，南東海岸には原生花園があり，冬季の流氷の景観は名高い。モヨロ貝塚やアイヌのチャシ(祭場と城を兼ねたもの)などの遺跡・出土品が多い。網走番外地にある刑務所は，かつての重罪人の流刑地であった。年中行事として流氷祭り(２月第２金・土・日曜)，オロチョンの火祭り(７月第４土曜)が知られる。特産はホタテガイ・カニ・カキなど。〔浅井得一〕

あばしりがわ 【網走川】 北海道東部山地に源を発し，北流してオホーツク海に注ぐ。流程70km。平地に出ていったん網走湖に流入し，東北部の湖尻(こじり)から流出して海に注いでいる。



網 走 市 (左)網走刑務所の全景。手前の町並みとの間に網走川が流れ，川岸に沿って刑務所の茶色い高いれんが塀が続いている　(右)オホーツク海の流氷。オホーツク海沿岸は３月末に流氷が去るまで，白い氷原に閉ざされ，海の活動はまったく停止する(網走市鱒浦沖の流氷)

あばしりこ 【網走湖】 北海道北東部，網走市の西南方，オホーツク海岸に近い湖。台地の地盤沈下によって生じた凹所（おうしょ）に網走川の水が大きな水面をつくったもの。面積33km²，水面高度0.5m，最大水深17m。網走川・女満別（めまんべつ）川が注ぎ，東北部より網走川が再び流れ出してオホーツク海に注ぐ。淡水湖であるが，冬季は北風が海水を逆流させるので塩分をおびる。網走国定公園に所属する。

あばしりこくていこうえん 【網走国定公園】 北海道北東部，網走市を中心とする海岸とサロマ湖・能取湖（のとろこ）をはじめとする大小七つの湖を含む。面積374.12km²。1958年（昭和33）に国定公園に指定された。能取岬（のとろみさき）の海岸一帯は火山岩の露出する断崖（だんがい）で，数か所に滝が流れ落ちる景勝の地となっている。サロマ湖（177km²）は北海道第1の大湖で，わが国の代表的な潟湖（せきこ）である。能取湖は大河の流入がないために湖水の流動が静かで，野生のハマナス・アヤメが群落をなす。濤沸湖（とうふつこ）にはハクチョウが渡来し，その北岸の砂州には200種に近い原生草花が咲く，北浜原生花園がある。〔木村東一郎〕

あばしりしちょう 【網走支庁】 北海道庁管轄14支庁の一。道域の北東部を占めている。北はオホーツク海に面し，西境には北見山地，南は千島火山群があって，これらの山地から発する網走川や常呂（ところ）川などの小河川の下流に小平野が開けている。20町3村を管内とし，庁舎は網走市にある。面積8,960.85km²，人口19万2,000。第1次産業を主産業とする。十勝（とかち）と並ぶ道内の代表的畑作地域で，テンサイ・ハッカ・ジャガイモなどの耐冷作物がつくられ，酪農も興っている。水稲栽培は日本の北限地帯でしばしば冷害を受ける。林野面積は全北海道の約7分の1を占め，知床半島や網走川上流地域を中心にエゾマツ・トドマツ・カラマツなどの林業が盛んである。水産業は，網走市・紋別市などを基地としてオホーツク海に出漁し，サケ・マス・イカ・サンマ・カニの水揚げが多い。多数の潟湖（せきこ）では，零細漁家による内水面漁業が行なわれる。

アバジーン ［Aberdeen］ イギリスのスコットランド北東部，ディ川河口の都市。人口18万2,000（1971）。古くから漁港として栄え，イギリス第3の魚市場がある。商工業の中心地で羊毛・製紙・皮革・機械工業も盛ん。周辺は良質のカコウ岩の産地で，そのつや出しを行ない，〈カコウ岩の町〉の異名がある。1593年に建てられたアバジーン大学は世界最大のカコウ岩建築として名高い。

あばた 【痘痕】 本来は痘瘡（とうそう）の治癒（ちゆ）後，噴火口に似た小形のへこんだ瘢痕（はんこん）が顔にできているのをいうが，種痘が普及した今日，国内ではほとんどみられなくなった。しかし類似の瘢痕は，水痘・



網走国定公園 網走市内の天都山（207m）から見た網走湖（左手前）・能取湖（前方）で，その向こうはオホーツク海。3月ごろはまだ，見渡すかぎり一面の白い世界である



アバダン アバダンの中心部の市街風景。欧米の自動車に混じって日本製の自動車も見られる

顔面播種（はしゅ）状紅斑（こうはん）性狼瘡（ろうそう）・梅毒疹（ばいどくしん）など，点状に多発して真皮まで破壊されるような病変の治癒後に生ずるほか，最初から皮膚にへこみを生ずる虫食性皮膚萎縮（いしゅく）などの皮膚病もある。皮膚科医の診察を受けること。皮膚の表層を薄く削って目だたなくすることもできる。〔田嶋公子〕

アバダン ［Abadan］ イランの西南端，イラクとの国境に接するペルシア湾頭の同名島の都市。人口33万9,000（1966）。北方の油田地帯からくるパイプライン（油送管）の終点であり，イラン産石油の主要積み出し港である。また，近代設備が完備し，日産80,000*kl*を誇る世界最大の製油所がある。この製油所は，イギリス・アメリカ合衆国・オランダ・フランスの八大石油会社の参加する国際企業体が操業している。

アパッチぞく 【アパッチ族】 アメリカ合衆国南西部に居住するアサバスカン語族のインディアン。かつてはナバホ族*と同一文化をもつ狩猟採集民だったが，他民族と通婚せず，先住民の文化を吸収せず，つねに農耕定着民や都市の白人などからの略奪と山地での狩猟に携わった戦闘的な民族。ジェロニモなど白人文明に強く抵抗した指導者を生んだ。

アパート アパートメントハウスの略。
➔集合住宅

アバーナシー ［Ralph David Abernathy］（1926～ ） アメリカ南部キリスト者指導会議（SCLC）議長・黒人運動家・牧師。アラバマ州リンデン生まれ。1950年アラバマ州立黒人大学社会学部卒業。1951年アトランタ大学，1960年サウスカロライナ大学・コロンビア大学からそれぞれ法学博士の称号を得る。1951年から，アラバマ州モントゴメリー第1バプテスト教会牧師となり，1955年黒人を差別するバスのボイコット運動をキング*とともに展開した。1957年，自宅と教会をダイナマイトで爆破されたが，この年SCLCを設立。1965年同副議長，1968年キング牧師が暗殺されたため議長となり，同年5月ワシントン市への〈貧者の行進〉，また1969年7月アポロ11号打ち上げ抗議運動を指導した。〔吹浦忠正〕

アパラチア（山脈） ［Appalachians］ アメリカ合衆国東部を北東から南西に走る古い褶曲（しゅうきょく）山脈。長さ2,600km，幅600km。サバナ川・ポトマック川をはじめ多くの河川が山脈を東流し，山麓（さんろく）のピーモント台地を横切って大西洋に注ぐ。この台地の東側に瀑布線（ばくふせん）都市*が発達した。山地一帯は良質の石炭・鉄鉱などを包蔵し，アメリカ合衆国東部大工業地帯の生まれる基礎となった。また西側にはアレゲーニーとよばれる台地が続いて，石炭・石油・天然ガスの産地として名高い。〔大石堪山〕

アパラチア（炭田） アメリカ合衆国東部，アパラチア山脈一帯の大炭田。ペンシルベニア州・ウエストバージニア州にまたがる。瀝青炭（れきせいたん），良質の無煙炭を埋蔵する。ピッツバーグをはじめとする製鉄業の立地はこの炭田に基づく。

アバールじん 【アバール人】 フン族に近いモンゴル系の遊牧民。6世紀後半，ボルガのステップをトルコ人によって追われ，ウィグル族を従えて西へのがれたが，その全体がアバール人とよばれた。6世紀から7世紀にかけてビザンチン帝国と交渉をもちつつ勢力を拡大し，バヤン王の時代にはエルベ川・バルト海・黒海にわたる大帝国を築き，ヨーロッパ最強の勢力を誇った。王の死後，626年にコンスタンチノープルを包囲したりしたが，しだいに衰え，従属部族も離反した。7世紀から8世紀にかけてゲルマンやイタリアに遠征したが，791年カール大帝*に敗れ，796年その子ピピンによって壊滅的打撃を受けた。9世紀初めの反乱以後アバール人は歴史上姿を消したが，ヨーロッパに与えた民俗学的な影響は大きい。現在，同名のコーカサス山地民族が，ダゲスタン・アゼルバイジャンに住んでいる。〔山県弘志〕

アパルトヘイト ［apartheid］ 南アフリカ共和国の人口2,492万（1974）のうち，70%はバンツー系を主とする黒人，17%はオラ

ンダ系およびイギリス系を主とする白人，9％は混血人，3％はインド人を主とするアジア人である。1814年までここはオランダの植民地であったから，アフリカーナーと呼ばれるオランダ系白人は，白人の中でも最も多く，ブリトン人と呼ばれるイギリス系白人との比率は3：2である。アフリカーナーを基盤とする国民党は，1948年以来ずっと政権を握っており，アパルトヘイトと呼ぶ極端な原住民に対する人種差別政策を強行，またブリトン人との対立から反英政策をとり，1961年にはイギリス連邦から脱退し，南アフリカ連邦から南アフリカ共和国となった。アパルトヘイトは多くの法律によって実施されているが，最もきびしいのは，1949年に制定された背徳禁止法で，黒人が白人と結婚すれば8年の体刑に処せられる。黒人ばかりでなく，白人と他の有色人種との結婚も禁止されていて，たとえば白人が日本人を妻としてめとっても，その妻は南アフリカ共和国への入国を許されない。ただし日本は南アフリカ共和国の貿易のよい相手国なので，日本人は特に〈名誉白人〉とされ，旅客機の座席などでは白人なみに待遇されている。

第2次世界大戦後，アフリカにおける黒人の自覚が高まり，多くの植民地がイギリス・フランス・ベルギーなどの白人の支配を脱して独立国となった。南アフリカ共和国における国民党政権も，いずれはその波がこの国にもおよぶことを予測して，国内の黒人に対して自治権を与え，かれらをバンツースタン（黒人自治区）と称する一定の地域に集めて住まわせることを考えた。この法律はバンツー自治法といい，1959年に制定されたが，このような政策をニューアパルトヘイト（new apartheid）と呼ぶ。バンツースタンは8あり，1963年にまずケープ州内にトランスカイ自治区ができた。しかし人口の70％を占める黒人に与えられる土地は，国土の13％にすぎず，それも約100の飛び地に分かれている。8の自治区はすでにできているが，たとえばトランスカイ自治区では，6人の黒人の閣僚が実質的には白人秘書官によって指導されており，黒人議会も軍事，外交，治安維持に関しての立法権限をもっていない。ポルトガル領アンゴラやモザンビークなどの独立運動の激化は，国民党政権に恐怖を与え，1971年にバンツースタン憲法が制定されて，トランスカイ自治区をはじめ8の自治区は1974年までに自治政府に昇格した。これにより各バンツースタンは国旗をもつことを許されたが，軍隊をもつことはできず，外交権もない。政府はこれらのバンツースタンに対して，完全な独立を与えることを最終の目標とし，まずその障害となる飛び地の整理を始めた。1975年10月になって，トランスカイが，1976年10月26日には独立すると宣言，共和国政府はこれを助けるために，トランスカイ軍の訓練をはじめている。しかし，トランスカイが南アフリカ共和国の〈かいらい国家〉であることは疑いのないところであり，その独立予定の時期はあたかも国連総会の開会中であるので，トランスカイが加盟を申請した場合の総会の態度が注目される。トランスカイの面積は4万5,000km²，人口は175万である。トランスカイに続いて，ボフタツワンというバンツースタンも，1975年11月に独立の方針を打ち出している。アパルトヘイトに対する黒人の反対運動は国の内外で行なわれており，国内ではしだいに黒人の暴動がめだつようになり，黒人の政治犯を主として南アフリカの死刑執行数は年間100人前後におよんで，これはおそらく世界最高であろう。ポルトガル領から独立したモザンビークやアンゴラが，南アフリカ共和国から亡命してきた政治犯のゲリラ活動に対して，援助を与えるであろうことは，容易に想像される。〔浅井得一〕

アバンギャルド-アート ［avant-garde art］ 前衛芸術ともいう。アバンギャルドは本来は軍隊用語で，本隊の前方を護衛する少数精鋭の一隊を意味する。芸術においては，因襲的な観念によって権威づけられた古い芸術に対して，表現形式の急激な変革を求める反アカデミックな傾向をいう。美術の場合，キュービスム*・未来派*・構成主義*・ダダ*など反自然主義的な傾向を一括していうが，主としてシュルレアリスム*と抽象主義（→アブストラクト-アート）をさしている。なお，コミュニスム*においても，最も先鋭なものについてはアバンギャルドということばが使われるが，美術の場合はコミュニスムの意味は含まれない。シュルレアリスムと抽象主義は20世紀前半の美術における二大潮流であるが，いうまでもなく抽象主義は合理主義に立脚し，シュルレアリスムは非合理的な世界を展開する。まったく異なった系列のものとして発展した。それが，わが国においては前衛という名のもとに二つの主義が折衷されて現われた例が多い。シュルレアリスムや抽象美術が一般化し，美術が多方向性をもって急速に変貌（へんぼう）しつつある現代では，前衛美術ということばは実質的にも変化し，以前ほど多用されないが，アバンギャルド-アートはもともと一定の様式や流派をさすのではなく，意識や精神の状態についていわれるべきである。前衛書道・前衛いけ花など芸術の各ジャンルについて用いられるが，新しい運動でも復古的・自然主義的な傾向のものには使われない。〔三木多聞〕

アーバン-デザイン ［urban design］ 都市における道路や建物などの具体的形態を設計すること。都市計画*が都市の諸要素の量的・位置的計画であるのに対する。都市は道路・鉄道・上下水道・港湾・空港のような土木的規模の施設と，市役所・学校・商店・工場・住宅などの建築物からできているが，ヨーロッパでは，古代・中世を通して，土木と建築は分離した領域ではなく，シビルエンジニアといい，軍事的技術に対する分野であった。したがって古代・中世・ルネサンス・バロックを通して，ヨーロッパの都市は道路と建物が一体的に扱われ，美的にも統一されていた。しかしわが国では明治にはいってから西欧文明を取り入れ，技術を土木と建築という二つの分野に分けて導入したため，道路と建築の統一を欠くこととなった。関東大震災や第2次世界大戦後の復興計画においては，区画整理*により道路計画が独走してしまい，道路と建築を一体的に計画することが行なわれなかった。これは官僚のセクショナリズム性，日本人の土地所有観などにもよるが，一部には都市計画とは道路計画であるという印象を与えた。

第2次世界大戦後ル-コルビュジエ*によるシャディガール，オスカー-ニーマイヤーによるブラジリアと，道路と建築が一体的に計画された二つの都市が実現したのに刺激され，日本でも建築家によって，塔上都市・海上都市・新宿副都心計画・東京計画1960などの多くのアーバン-デザインの試案が提案された。また，都市における自動車交通問題や，都市の高密度利用問題を契機に，道路と建築を一体的に計画する必要がさらに高まり，その結果，地域的に自動車の乗り入れを遮断（しゃだん）し，建築を高層化し，人間のみの通れる遊歩道を設けるスーパーブロック方式や，車や人の動線をシステム化し，それらを軸に地区を有機的に構成していく方法などが提案された。各国の再開発やニュータウン*で部分的に実現されつつある。〔竹内泰夫〕

あび 【阿比】 鳥類・アビ目・アビ科。翼長28cmほどの海鳥。上面灰かっ色，下面白色。くちばしは上方に少しそっている。夏羽では前頸部（ぜんけいぶ）は赤かっ色になる。外洋にはまれで，沿岸海域・湾内などに普通。しきりに潜水して採食する。北極付近で繁殖し，日本には冬鳥として渡来する。

アビ目の鳥は約1億年以前の中生代に，北極周辺の大陸に発祥したと考えられる古い歴史をもつ鳥類である。現生する4種のうち，アビ・オオハム・ハシジロアビの3種が日本に渡来する。いずれの種も小魚を主食としており，潜水活動によく適した体をしている。〔安部直哉〕

アピア ［Apia］ 南太平洋サモア諸島中の小共和国西サモアの首都。人口26,000（1972）。ウポル島（面積1,113km²）の沈降海岸にある小さな入り江に臨む港市。アメリカ合衆国とオーストラリアを結ぶ航路の要点であり，西サモアの主産物で良質なことで知られるカカオの輸出港でもある。

アビケンナ ［Avicenna］ （980～1037） アラビア名イブン-シーナ。アラビアの学者。中世を通じ医学者としても高名。中央アジ

ア，ブハラ近くに生まれ，若くして学芸百般に通じ，波乱に富む生涯(しょうがい)を送りつつ夜間に著作し，100余の書を残した。彼はアル-ファーラービー*によってアリストテレス哲学への目を開かれ，それをアラビア思想に完全に同化して，新プラトン主義的な要素をもつ哲学体系をうちたてた。彼は普遍は同時に，神の悟性において事物に先行し，自然において事物の内にあり，人間の思惟(しい)において事物に後行するとする。その著作はラテン訳を通じて中世のヨーロッパの哲学・神学に多くの影響を与えた。主著《医学規範》《回復》ほか。　〔左中庸博〕

あびこ　【我孫子(市)】　千葉県北西部にあり，1970年(昭和45)7月市制を施行。人口99,700。市域は利根(とね)川と手賀沼にはさまれ，茨城県境沿いに東西に細長く延びる。産業三大別人口比は7：31：62。周辺地区の農産物を集散し，東京への野菜の行商で名高いが，日立精機などの近代工場の進出もみられる。常磐(じょうばん)線・成田線の分岐点で，地下鉄千代田線が常磐線を利用して綾瀬(あやせ)から東京の都心まで直通しており，国道6号線も通じ，最近は住宅地化が進んでいる。印旛(いんば)手賀沼県立自然公園に属し，手賀沼北岸にゴルフ場がある。江戸時代には陸前浜街道(水戸(みと)街道)の宿場町で，歌舞伎(かぶき)《一本刀土俵入*》の駒形茂兵衛(こまがたもへい)とお蔦(つた)の出会いの場として知られる。

あひさん　【亜砒酸】　①H_3AsO_3　三酸化ヒ素の水溶液中に存在すると考えられる酸。その塩は多く知られているが，遊離の酸は得られていない。弱酸。酸性下では還元されやすいが，アルカリ性下では空気酸化されてヒ酸となりやすい。②通常，三酸化ヒ素As_2O_3をさす。これは無水亜ヒ酸ともいう。式は正確にはAs_4O_6である。無色の固体で結晶形2種および無定形の3種があり，そのうち等軸晶系のものは135℃で昇華する。工業的には硫ヒ鉄鉱を焼いてつくる。非常に有毒で，医薬・農薬に使用する。解毒剤には活性炭が有効。〔三輪誠・玉野秀樹〕

あびじごく　【阿鼻地獄】　⇨地獄

アビシニア(高原)　［Abysinian Highlands］　アフリカ大陸北東部の高原。北は紅海南部のエリトリアから南はケニア国境に至る。またアビシニアはエチオピア帝国の別名でもある。海岸低地から急にそそり立つ卓状の台地で，平均高度は約2,000～2,300m。この台地上にさらに標高3,500～4,500mの山脈が分岐しながら走る。中央部を南北に走る大地溝帯*(だいちこうたい)にはビクトリア湖をはじめ，多数の湖沼が分布する。高原は北に傾いているので，この高原に源を発するダッカゼ・アツバイ・ソバフトなどの川はいずれもナイル川に注ぐ。北緯3°から17°にわたって緯度上では熱帯に属するが，気候は高山性で夜はかなり寒い。年降水量は中央部のアジスアベバで1,200mm。

アビジャン　［Abidjan］　アフリカ大陸西部，ギニア湾北岸のコートジボアール共和国の首都。人口28万2,000(1964)。同国の主産物コーヒー・カカオの積み出し港。内陸国オートボルタの首都ワガドーグーとの間に鉄道が通じ，同国の海への門戸の役も果たしている。

アビシュちょう　【アビシュ朝】　中世末期から近世初期まで続いたポルトガルの王朝(1385～1580)。1385年ブルゴーニュ家の断絶のあと，ジョアン1世*により創始された。その子がエンリケ*航海王で，彼の指導のもとでポルトガルは地理的発見の事業に乗り出した。はじめ，市民階級の広い支持もなく，王室の冒険的事業という性格の濃いものであったが，ジョアン2世・マヌエル1世がこれを継承して順調な成功を収め，西アフリカの金とインド航路の香料は巨大な利益を王室にもたらした。しかし繁栄は永続せず，貴金属は国外に流出して，国内ではブルジョアジーも育たなかった。ポルトガルはインド航路独占の保障を得ようとしてスペインに接近したが，1580年かえってスペインのフェリペ2世*に王位を奪われ，アビシュ朝の時代は終わった。

アビダルマ　【阿毘達磨】　梵語(ぼんご)abhidharma，パーリ語abhidhammaの音写。対法・論などと漢訳される。経典に説かれたブッダの教説が組織的に分析され整理されて組み立てられ，西暦紀元前後から5世紀ごろまでに集大成されたもので，仏教哲学の一体系。はじめは教法の要目をまとめた論母から発展し，内容的には宇宙論・人間論・心理論・物質論・修道論などの分野にわたる。現存の主要なものは，南伝セイロン上座部所伝・北伝説一切有部所伝のもので，思弁的煩瑣(はんさ)哲学といわれているが，豊富な内容をもち，特に北伝はのちに大乗思想を生み出す重要な役割をになった。阿毘達磨蔵は，経・律とともに三蔵とよばれ，上記仏教文献の集成をさす。



アビニョン　《アビニョンの橋の上で》の民謡で知られたサン-ベネゼ橋の遺跡。12世紀の末につくられ，イタリアからスペインに通ずる重要なルートにかけられていた



アヒル　中央は青首アヒル



ア　ブ　(左)ウシアブ (右)アカウシアブ

アーピッツ　［Bruno Apitz］(1900～　)　ドイツの小説家。ライプチヒの防水布職人の12番めの子として生まれる。洗たく女だった母に養われ，14歳で社会主義労働者同盟にはいる。その後ドイツ共産党に入党，1933年地下活動にはいって捕えられブーヘンワルト強制収容所に送られて反ナチ非合法闘争を続けた。戦後，東ドイツで文化活動に従い，国民賞を受けた長編《裸で狼(おおかみ)の群れのなかに》を書いた。

アビドス　［Abydos］　アラブ連合の上エジプト，ナイル川中流域にある古地名。テーベの下流で現在のギルガ付近。オシリス*信仰の聖地で神殿があり，古代エジプト王国の時代には特権が与えられていた。またその遺跡からはメネス*王からラムセス2世*までの王名を伝える《アビドスの王表》も発見されている。

アビニョン　［Avignon］　フランス南東部，ローヌ川に沿う都市。人口86,000(1968)。中世には商業都市として栄えた。今日ではぶどう酒・果実・野菜などの取引が行なわれるほか，金属・化学肥料・製紙などの工業が興りつつある。フランス王フィリップ4世*が，力の衰えたローマ教皇の座をここに移し，〈アビニョン幽囚〉とよばれる事件(1309～1376)を起こしたことで知られる。民謡《アビニョンの橋の上で》で知られる橋は，ローヌ川にかかるサン-ベネゼ橋である。

あひる　【家鴨・鶩】　鳥類・ガンカモ科。野生のマガモ*を家禽(かきん)化したもの。はじめは肉用をおもな目的として飼育されてきたので産卵数も少なかったが，現在では年間300個以上も産卵する卵用種もつくりだされた。日本におけるアヒルの導入は古く平安時代といわれるが，いわゆる実用種の輸入は明治維新以後である。まず卵用種としてはイギリスで改良されたカーキキャンベル*やインド原産のインディアンランナーなどがあり，特に前者は陸飼いができる特点がある。そのほかに卵肉兼用のものとしては，白色アヒル・ペキン種，古くから日本で飼育されているアオクビアヒルなどがあるが，日本で最も多いのは大阪地方を中心に飼育されている大阪アヒルである。これは日本の在来種にペキン種を交配してつくりだされたもので，その羽色は白色またはクリーム色を呈し，体重は雄2.2～2.6

kg，雌2.0～2.3kg，産卵数年間180～200個。肥育はペキン種に劣るが陸飼いができ，飼育は容易である。〔一戸健司〕

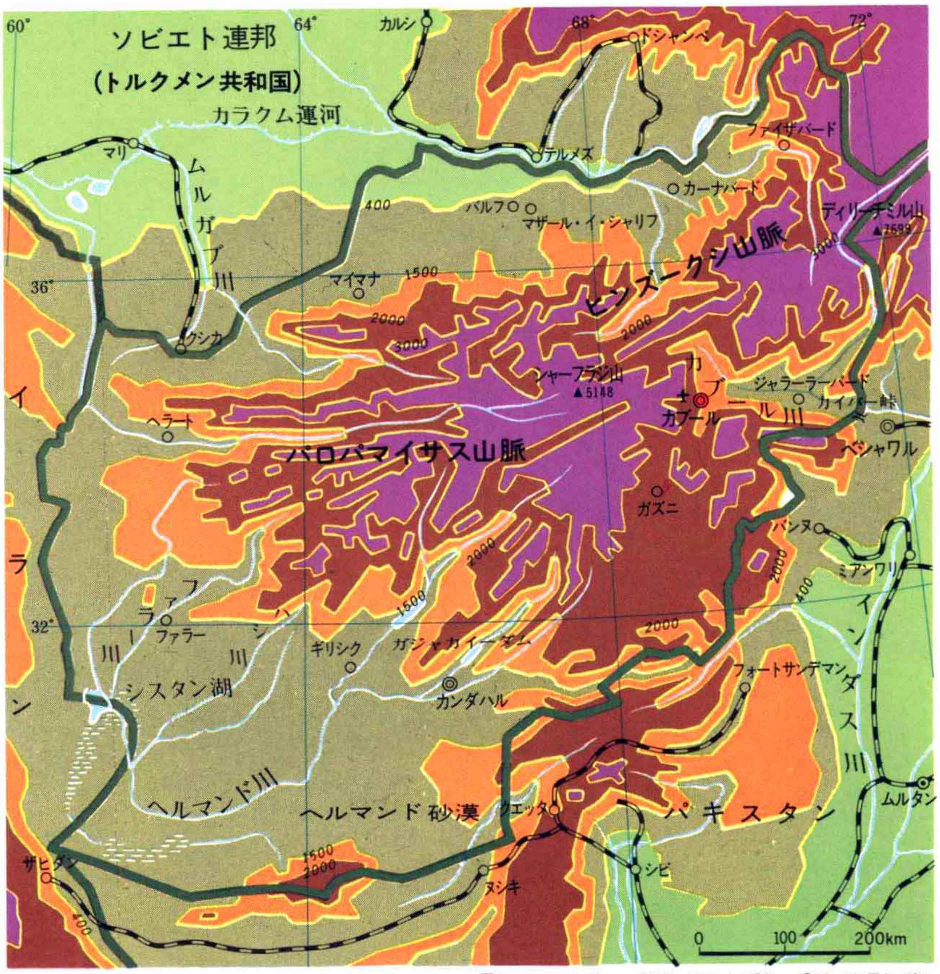
アービング〔Washington Irving〕（1783～1859） アメリカの小説家・随筆家。ニューヨークの商人の家に生まれ，弁護士を志したが，のち文学に転じた。アメリカの民間伝承やイギリスの風習を扱った短編集《スケッチブック*》によって，海外で認められた最初のアメリカ作家となった。のち，外交官としてスペインで活躍，晩年《コロンブス伝》《ワシントン伝》などの伝記を書いた。

アービング〔Henry Irving〕（1838～1905） 19世紀のイギリスの代表的な舞台俳優。1856年にデビューし，主としてロンドンのライシアム劇場で，名女優エレン-テリーとともに活躍。数々のシェークスピア劇の主役で名高い。

アヒンサー〔ahimsā〕 インドの諸宗教がひとしく強調する重要な徳目の一。この語はあらゆる生物を傷つけたり，殺したりしない（不傷害・不殺生）ことを意味する。日常生活では肉食を禁じ，菜食を要請する。この徳目はすでに紀元前7世紀ごろのバラモン教*の文献に現われるが，当時，バラモン教ではまだ動物の犠牲などを行なっていた。最初にアヒンサーを宗教的実践の中心的なものにしたのはジャイナ教*である。ジャイナ教はアヒンサーを五大戒の第1に置き，極端なまでにその実践を要求した。原始仏教もその戒律の中心である五戒*の中の第1の戒とし，その教義の中核をなす八正道（→四諦(したい)八正道）の第4正業(しょうごう)（正しい行為）の一つとして強調した。ヒンズー教*でも，これを最高の法といっている。インド独立の父ガンジー*はイギリス支配に反抗し，サティヤ-グラハ*（真理の把持(はじ)）運動を唱導し，彼の真理を実現するための手段をアヒンサー（非暴力）に求め，従来宗教上の実践徳目であったものを政治的・社会的闘争の手段へと展開させた。〔前田専学〕

あぶ【虻】 広義には双翅(そうし)目・直縫亜目・短角群のこん虫をさす。しかし，人畜を吸血するのは，このうちのアブ科に属するものに限られ，狭義にはこれをさす。日本に約60種を産し，アカアブ類・シロフアブ類・キンイロアブ・キイロアブ類・メクラアブ・ゴマフアブが重要種である。幼虫は湿地の泥土(でいど)中にすみ，ミミズや小動物を食べる。水田にすむアブの幼虫は人にかみつくことがある。幼虫の発育期間は長く，1年1回発生のものが多い。発生源が広いため，幼虫の駆除は困難である。

アフォリズム〔aphorism〕 簡潔な短文で，人間生活の全般にわたる真理を表現したもの。警句・箴言(しんげん)・金言・格言などに近いものであるが，一般的な見解を述べたものではなく，作者独自の観察・表現によるものをいう。ヒポクラテスの〈芸術は長く，人生は短い〉やパスカルの〈人間は考える葦(あし)である〉などが著名。文学的・哲学的なアフォリズム集として，ラ-ロシュフコーの《箴言集》，芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)の《侏儒(しゅじゅ)の言葉》，萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)の《虚妄(きょもう)の正義》などがある。



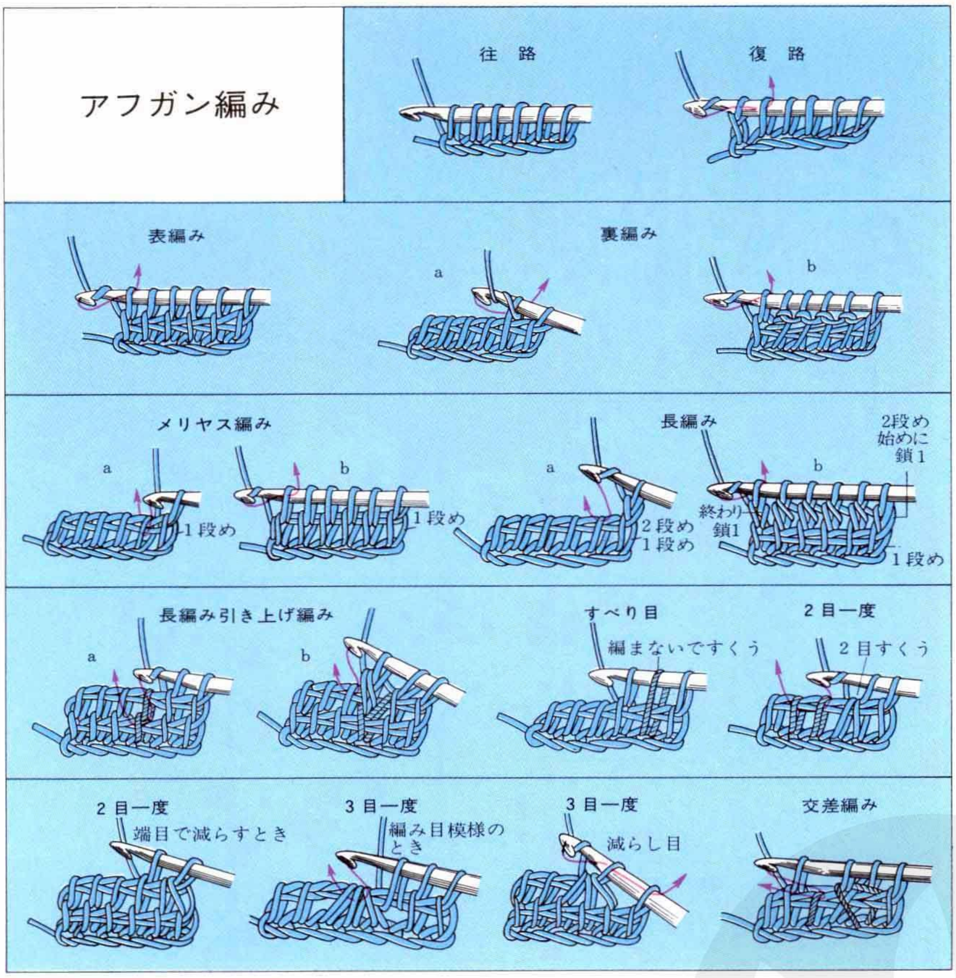
アフガニスタン


アフガニスタンの国旗 1978年4月末の新政権誕生後，赤一色内に紋章を配した国旗を制定。その後1980年4月に黒・赤・緑の三色の帯に国章を入れた新国旗が制定された。各色は繁栄・平和愛好の精神を表わし，麦の穂は農業と国民の和を象徴している。




アフガニスタン （上）荒涼とした高原の上には内陸湖もある。ラクダやロバはおもに運搬用に飼われている （下）村の子どもたち。植被のほとんどない山ははだと緑の薄い貧弱な畑地

アフガニスタン（民主共和国）〔Democratic Republic of Afghanistan〕 ユーラシア大陸中央部の山岳国。北はソ連，東南はパキスタン，西はイランに境し，細ま





アブキール湾の戦い
グロ
《アブキールの戦闘》

った東方の突端で，中国にも接する。1978年4月，軍事クーデターで民主共和国となった。首都はカブール。面積64万7,497km²，人口1,549万(1979年推)。

〔自然・住民〕東西に延びるヒンズークシ山脈とその支脈によって国土は南北に両断され，この山脈から流れ出る四つの水系によって4地域に分けられる。北東部はアムダリア水系によってマザリーシャリフ一帯に肥沃(ひよく)な農耕地帯が開け，西部のハリールッド水系の流域にはヘラット州がある。南側では中央部から西部にわたるヘルマンド水系がカンダハル地方を，また東部のカブール水系がカブールおよび東部低地帯を，それぞれ潤している。気候は寒暑の差が激しく，強風と乾燥で特徴づけられる。住民の構成は複雑で，支配民族であるアフガン人(900万)が中心をなし，ほかにウズベク人(80万)・タジク人(300万)・チハル-アイマック人らがいる。各民族はそれぞれ言語をことにするが，ペルシア語が共通語として使われている。宗教はイスラム教のみで，大半はスンニー派であるが，少数のシーア派も共存する。文盲率は高い。

〔産業・経済〕産業は牧畜が主で，ヒツジ・ヤギ・ウシ・ウマが放牧される。農耕地は国土の7.5％にすぎないが，砂糖・茶を除くほかは自給自足でき，果実の産も多い。羊毛・綿花も生産しているが，繊維工業が遅れているため，衣料を輸入している。重工業・軽工業ともに発達せず，日用の雑貨までも輸入にたより，マッチ・綿布・皮革などを生産する工場が少数あるにすぎない。輸出は，主としてアメリカ合衆国向けの高価なアストラカン*(子ヒツジの毛皮)が第1で，羊毛・皮革・綿花・果実がこれに次ぐ。内陸国であるため輸出入は他国の領土を通過して行なわれ，パキスタンのカラチ港などを利用する。鉄道は皆無。鉱産物は石炭・鉛・亜鉛・鉄・銅・マンガンのほか，石油の埋蔵も確認されているが，交通が不便なため開発には至っていない。

〔歴史・政治〕中央アジアからインドへの交通路にあるため，古くからペルシア・インドなどの勢力がこの国を支配した。また，ギリシア文化や仏教文化も伝わり，1世紀ごろにはガンダーラ仏教文化が栄えたが，7世紀からはイスラム勢力に，次いで13世紀初めからはムガール帝国の支配下に置かれた。外国勢力のもとにあったこの国は，1747年にアフマッド-シャーによってはじめて統一され，独立を成し遂げた。19世紀には南北から迫るイギリス・ロシアの勢力圏抗争に当面し，アブドウルラハマンの治世(1881～1901)中にはじめて近代的中央政府が出現した。第1次世界大戦中アマヌラーハンはカリフ*位を擁するトルコにくみしてイギリスに宣戦した。戦後の彼は近代化を急ぎすぎ，婦人の教育，プルダの廃止などを行なったため，保守的な諸部族の反乱にあい，国外に亡命した。近代化は失敗したが，アマヌラーハンの導入した二院制立憲君主政体は1973年まで存続した。〔今井留吉〕

アフガンあみ　**【アフガン編み】**　編み方の一種。アフガン(柔らかい毛布)を編むのにふさわしいのでこの名がある。編み地は厚手でざっくりした独特の感触をもち，糸の材質や配色の組み合わせにより織物の風合いを出すことができる。針は棒針(→編み物)の片端にかぎのついたアフガン針を用い，かぎ針編み*と棒針編み*の手法を合わせて編み，往路と復路の1往復で1段が完成する。まず土台となるくさり編み(→かぎ針編み)をつくり，往路は1目から1目ずつ全部引き出し，復路はその針のかぎでくさり編みを1目編むごとに，針にかかっている目を1目ずつ編み込みながらもどる。かぎ針・棒針編みに比べて伸縮性がやや小さく，棒針編みより型くずれが少ない。基本となる編み方にくさり編み・表編み・裏編み・長編みの4種類があり，模様の構成，成形上の増減に2目1度・3目1度・メリヤス編み・交差編み・すべり目・引き上げ編みなどの手法がある。《リバーシブルアフガン

編み〉アフガン編みが1本の糸を編むのに対し，2本の糸を用いてする編み方。針は棒針の両端に同じ号数のかぎのついたものを用いる。まず往路を普通のアフガン編みと同じに編んだら，その編み目を反対側のかぎのほうにずらし，ずらしたほうのかぎを用いて別の1本の糸で復路を編む。これで1段が完成し端に2本の糸が出る。2段めは復路を編んだかぎで往路を編み，復路は1段目と同じく編み目をずらして，ずらしたほうのかぎで編む。この操作をくり返す。2本の糸を用いるので，配色や材質の異なるものの組み合わせを研究すれば，変化のある美しい編み地ができる。また編針の長短に関係なく，はぎ目をつくらずに広い幅や長いたけのものが編めるのもその特長である。➔編み物　〔山村あい子〕

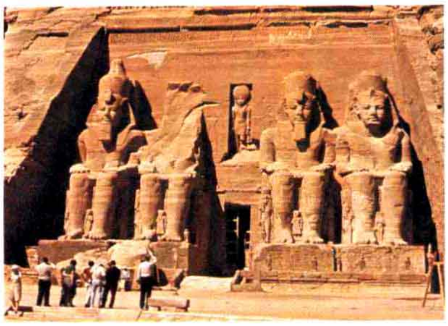
アフガンせんそう　【アフガン戦争】　イギリスとアフガニスタンとの3回にわたる戦争。ロシアの南下を封じ，インド支配の確保をめざしたイギリスの植民地政策に起因する。第1次(1838～1842)，第2次(1879～1881)ともイギリスが勝利を収め，アフガニスタンを保護領化した。しかし，1919年国王アマヌラーがイギリスに宣戦し，第3次戦争が起こった。その結果，同年8月両国の間に講和条約が結ばれ，アフガニスタンの独立が認められた。

アブキールわんのたたかい　【アブキール湾の戦い】　1798年8月，エジプトのアレキサンドリアに近いアブキール湾内で，ネルソンの率いるイギリス艦隊とフランス艦隊とが戦った戦闘。フランス艦隊はほとんど全滅し，イギリスは地中海の制海権を握った。このためエジプト遠征中のナポレオンは孤立した。

あぶくまがわ　【阿武隈川】　福島県から宮城県南部を東流して太平洋に注ぐ川。那須岳(なすだけ)を水源とし，阿武隈山地と奥羽山脈との間を北に流れ，郡山(こおりやま)盆地・福島盆地を過ぎて仙台(せんだい)平野の南部で海にはいる。流程225km。この川沿いは福島県の中通りとよばれて，県の産業経済の中心となっており，白河(しらかわ)・須賀川(すかがわ)・郡山・二本松・福島の諸都市が並んでいる。また二本松から福島に至る急流部には蓬莱(ほうらい)・信夫(しのぶ)の発電所が設けられている。　〔長津一郎〕

あぶくまさんち　【阿武隈山地】　茨城県北部から福島県東部を経て宮城県南部にわたる山地。東西約40km，南北約160kmの紡錘形の輪郭をもつ。地形は準平原といわれる高原状の山地で，平均高度は500m内外で，大滝根山(1,193m)・矢大臣山(965m)などの残丘が突き出している。山地から流れ出る河川は広い谷をつくり，水田も多く，500m前後の高度まで耕地に利用されている。交通も開け，山地中央部を磐越東(ばんえつとう)線・国道49号線などが横断する。〔高野　繁〕

アブサロム，アブサロム！　フォークナー*の中期の作品(1936)で，彼の最高作であるとの評判が高い。貧民の家に生まれたトマス-サトペンが，大農園を創立して子孫をつくり，不動の地位を築こうという野心をいだいて，着々とそれを実行に移していくが，中途にして近親相姦(そうかん)の問題がきっかけとなって破綻(はたん)が始まり，ついには悲劇的な結末に至る。フォークナーはこの物語を可能なかぎりの複雑多岐な手法によって描き，南部の悪とのろいを象徴的に表現しようとした。　〔大橋吉之輔〕



アブシンベル神殿　大神殿正面に並ぶラーメス2世座像，現在は移転されて同じ岩山の頂上にある

アブサン　［absinthe］　アルプスでとれるアブサンというニガヨモギを主成分とし，種々の香味料を加えたリキュール*の一種。甘口はアルコール度45，糖度7.5，辛口はアルコール度70，糖度9。アペリチフ*に供される。アルコールが強く性欲刺激性があるため，主産地のフランスやスイスでは禁じられている。

アブシンベルしんでん　【アブシンベル神殿】　エジプト第19王朝ラーメス2世(在位BC1290～BC1224)造営の王と王妃のための大小二つの神殿。ナイル川上流左岸の岩壁に高さ19.4mの巨大な座像が4体彫られ，その中央の小さな入り口から54mの内部の壁面や柱には王の業績がたたえられている。採光は入り口に限られているが，年2回(2月および10月の20日ごろ)のみは太陽の光が奥深く入り込み，神像を照らし出すなど太陽の運行に関する知識を科学的にしろ経験的にしろ有していたことが知られる。近年になってアスワン-ハイ-ダム建設のために神殿が水没することになり，ユネスコと各国の協力を得て，1968年に高所に移す大工事が終わったばかりである。　〔田島　学〕

アプス　［apse］　ローマ建築で長方形の壁面の一端が半円形に外側に張り出し，天井が半円ドームでおおわれた部分。のちのキリスト教教会堂では，祭壇を置く場所とされ，半円または多角形で，内陣後方に設けられるので後陣ともいう。一般には堂内身廊(ネイブ)の東端に設けられるが，礼拝対象が増すにつれ，祭壇の数を増すために身廊の東西両端に設けられ(二重内陣式)，さらには南北の袖廊(しゅうろう)(トランセプト)の端部や側廊(アイル)にも副祭壇を設けるようになった。かくしてゴシックの複雑な教会堂平面が生まれる。　〔渡辺保忠〕

アブストラクト-アート　⇨次ページ

あぶた　【虻田(町)】　北海道胆振(いぶり)支庁の町で，内浦湾と洞爺湖(とうやこ)にはさまれている。人口12,100。江戸時代からの交通の要地であったが，現在は支笏(しこつ)洞爺国立公園の一部として観光客が多く，洞爺湖温泉もある。北海道としては気候が温暖で，米・ジャガイモ・豆類などのほかアスパラガスを栽培する。また硫化鉄鉱を産する虻田鉱山がある。室蘭(むろらん)本線に沿い，中心集落は洞爺駅(旧虻田駅)のある虻田市街と洞爺湖温泉町である。

アプダイク　［John Updike］　(1932～　)アメリカの小説家・詩人。すぐれた文体の持ち主で，現代人の実存的な生活の中に潜む空洞(くうどう)を，ときには喜劇的に，ときには深刻に追求しようとしている。ギリシア神話など古典的なパターンを下敷きにして作品を構成することが多い。《走れ，ウサギ*》はその代表作。

アフターサービス　［after service］　販売の最終過程において，消費者の購買後の満足を高めることを目的としたサービスをいう。企業は，これにより消費者に自社と競争他社とを区別させ，自社のイメージアップを図り，愛顧へと結びつけることができる。アフターサービスには，修理サービス・品質保証・無料取り替え・無料配達などが含まれる。具体的には，家庭電気器具・ガス器具・時計・カメラ・自動車・オートバイ・事務器などのような商品に多く適用されている。　〔清水　晶〕

アフタヌーンドレス　［afternoon dress］　午後の訪問・観劇・パーティーなど，やや格式ばった社交の場合に着用する服で，和服の訪問着にあたる。一般的には冠婚葬祭その他の式服もこの種にはいる。ワンピースをはじめツーピース・アンサンブル*などが用いられ，布地は主として絹やソフトなウール，またこれに準じたものが使われる。デザインに規定はないが一般にスポーティーなものは避けられ，町着とは違った趣のソフトな感じのものが多く用いられる。

アフタバーナ　［after burner］　航空用ジェット-エンジンに用いる推力増大装置の一種。リヒート(再熱)ともいう。ターボジェットおよびターボファン-エンジン*の排気中には過剰の酸素が含まれているので，その中に燃料を吹き込んで燃焼させることが可能である。この方法を用いれば，比較的簡単な装置によって，離昇時や超音速ダッシュ時に推力を増すことができる。離昇時で比較すれば，燃料流量を3～4倍にすることにより，推力は1.5倍程度に増加する。

アフタリヨン　［Albert Aftalion］　(1874～1956)　フランスの経済学者。限界効用理論を貨幣理論・外国為替(かわせ)理論および景気変動理論に応用しようと試みて注

→150ページ

アブストラクト-アート

モンドリアン　〈木の連作〉▶
ハーグ市立美術館蔵



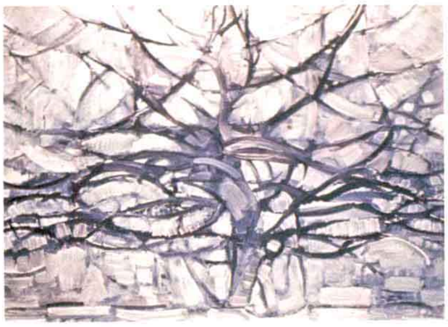
1　《木》 1909〜1910



2　《赤い木》 1908



カンジンスキー《コンポジション 嵐》 1913



3　《灰色の木》 1912



4　《花盛りのリンゴの木》 1912

アブストラクト-アート

[abstract art]

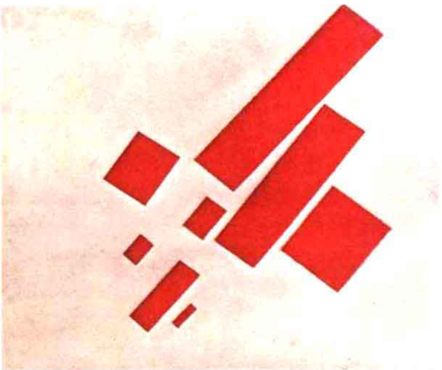
自然の具体的対象をまったく，あるいはほとんど再現せず，色彩・線・形などの抽象的形式によって作品を構成する美術を総称し，抽象美術ともいう。造形本能には，対象の客観性を合理的に把握(はあく)しようとする写実本能と同時に，自然とは離れた抽象衝動があることが知られている。そして抽象表現には，具体的な自然を単純化し変形して抽出したものと，自然とまったく無関係に純粋に合理的に，あるいは想像力によって生まれるものとがある。アブストラクト-アートは，シュルレアリスムとともに，20世紀美術の最も主要な潮流の一つを形成したが，シュルレアリスムの非合理主義に対して，近代の科学技術の発展に伴う機械工業時代の合理主義の反映として生まれ，さまざまな様式で展開し，第1次世界大戦から第2次世界大戦にかけては，幾何学的構成的抽象美術の運動が盛んであった。その主要なものとしては，まずドローネーのオルフィスムがあげられる。キュービスムは，その分析時代に視点を移動させ対象を解体したが，総合時代には再び写実的要素を導入した。それを不満とする一群の人びとは新しい方向を推進したが，ドローネーははなやかな色彩を音楽的律動感のうちに交錯させ，非具象の方向に向かい，1913年アポリネールによってオルフィスムと命名された。オザンファン・ジャンヌレ(ル-コルビュジエ)らを中心とするピューリスム(純粋主義)は，人間生活と芸術形式の密着を求め，その間の不純物を除いて純粋な秩序のための理論を展開したが，絵画に始まったこの運動は，しだいに建築・工芸に中心が移り，新造形主義や構成主義との関連が深い。

革命前後のロシアに興ったシュプレマティスムのマーレビッチは，1915年〈シュプレマティスム宣言〉を発表し，絵画から自然の形を暗示するいっさいの再現的要素や文学的なテーマなどを除き，簡潔な抽象的形態の構成による純粋に知的な画面を創造する〈無対象芸術〉を標榜(ひょうぼう)した。マーレビッチは1913年に白地に鉛筆で丹念に正方形を描いた《白い画面上における白》を発表し，それは〈中身のない正方形ではなく，無対象の感受性そのもの〉と述べている。その絵画理念は，むしろドイツのバウハウスやオランダの新造形主義に強い影響を与えた。

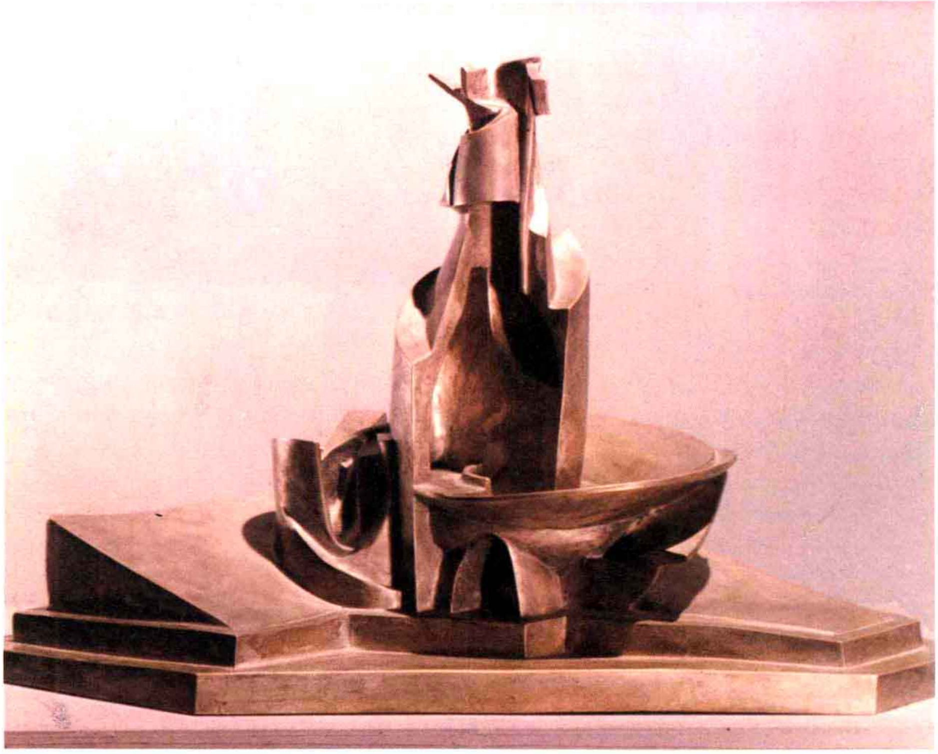
構成主義は，シュプレマティスムとともに革命前後のロシアの前衛運動として，タトリン・ロドチェンコ・ガボ・ペブスナーらによって推進された。構成主義は，キュービスムの既成品によるコラージュや抽象的造形と，未来派に似た機械美の追求を，観念的世界からより科学的・合目的な造形として目ざし，芸術と科学と技術的知識の総合を主張し，時代の要求と民衆の生活に密着した物質的素材が開発されるべきであり，〈現実の空間に現実の素材で構成する〉ことを標榜した。それと同時に，機械と科学の合理性とプロレタリア-イデオロギーの合目的性との統一を目標に，1918年タトリンの第3インターナショナル記念塔の計画などが試みられ，絵画ばかりではなく彫刻・建築・工芸・舞台・デザインなど広範囲にわたる革新運動を展開したが，イデオロギーと芸術の関係をめぐって分裂し，ガボ・ペブスナーらは国外に去り，その後ソビエトの文化理念が転換したため，構成主義はソビエトでは発展せず，むしろバウハウスや新造形主義に影響を与えた。

一方，オランダではモンドリアンらの新造形主義の運動が展開した。パリでキュービスムの洗礼を受けたモンドリアンは，有名な《木の連作》を続け，第1次世界大戦中からプラスとマイナスの記号が集まるような純粋造形に移行し，ドースブルグらと雑誌《デ-スティール》を刊行し，同誌を通じて新造形主義の理論を発表した。新造形主義の主張は，再現的要素はもちろん絵画上の偶然や感情の投影を排除しようとして，〈線と純粋な色彩との純粋な関係に基礎を置く新しい美学〉を要求した。モンドリアンは，個別的なものが偶然的な形から自由になり，均衡を通じて普遍的なものになると考えた。モンドリアンはドースブルグとともにヨーロッパ各地で講演し，バウハウスから著書を刊行したりして，バウハウスや各地の抽象美術運動に大きな影響を与えた。新造形主義の主張は構成主義とも交錯しながら，絵画・彫刻ばかりでなく，グラフィック-デザイン・工芸・建築の分野にも大きな刺激を与えた。

このような合理的・構成主義的抽象美術



マーレビッチ 《八つの赤い矩形》 1915年以前
アムステルダム市立美術館蔵



ボッチオーニ
《びんの空間への展開》 1912
ニューヨーク近代美術館蔵

に対して，カンジンスキー*は〈青騎士*〉などの運動を通じて，象徴的色彩とグラフィックな形のかもしだす交響楽によって，純粋な感情の世界を表現する表現主義的抽象美術を推進し，同じ〈青騎士〉のクレー*も，深い観想に基づく自由な造形により，宇宙的なエネルギーを結晶させた抽象的作風を展開した。彫刻における抽象主義のうち，構成主義についてはすでに述べたが，ブランクーシ*はいちはやく独自の立場から抽象彫刻の世界を開拓した。初期にはロダン*によって認められたブランクーシは，意識的にロダンから離別し，対象のもつ形態の個別的偶然的要素を省略して単純化し，簡潔な抽象形態に有機的な生命感を盛り込んだ。そして，大理石や金属の表面を鏡のように研磨して，彫刻における材質感に新しい概念を導入した。

キュービスムの運動は，彫刻の場合には絵画ほどの革新性をもたなかったが，初期のピカソ*をはじめ，ザッキン*・アーキペンコ*・ローランス*・リプシッツらが反自然主義的傾向に先鞭(せんべん)をつけた意味は大きいし，特にアーキペンコはさまざまな物体を組み合わせて色を塗った《彫刻絵画》をつくったが，この一種のコラージュは現代彫刻にとって先駆的な意味をもっている。近代機械文明のもたらしたダイナミズムを積極的に造形芸術に導入しようとしたイタリアの未来派では，ボッチオーニが彫刻を従来のそれ自体完結し自立した構成としてではなく，〈発展していく無限の多様性の連続〉の中に把握(はあく)しようとし，形態の限界づけを否定し，時間の契機を導入するとともに，周囲の彫刻的環境との関連を重視するダイナミックな表現を志向した。ボッチオーニが1912年に発表した《未来派彫刻の技術に関する宣言》の中で，彫刻が大理石やブロンズなど１種類の素材で形成される慣習を否定し，新しいフォルムを獲得するために必要とあれば，一つの作品のうちに20以上もの素材が使用される可能性を説き，その例としてガラス・木・ボール紙・鉄・セメント・布・鏡・皮革・電気の光などをあげているが，ボッチオーニの主張は，その後の彫刻の展開状況からみて，きわめて暗示に富んでいる。

また，ダダからシュルレアリスムにかけて展開したオブジェの概念は，抽象彫刻に対してもその素材観の変化に大きな影響を与えたが，抽象的構成主義とシュルレアリスムからそれぞれ流れをくみ，それらの融合のうちに有機的構成を志向する彫刻も広範囲に行なわれ，アルプ*・ムーア*・ヘップワース・アルトゥングらがその代表としてあげられる。このように急速な発展を遂げた抽象美術運動は，1932年には，非具象美術を包括的な共通目標とする〈アブストラクシオン-クレアシオン*〉の結成となり，カンジンスキー・ドローネー・ペブスナー・ガボ・ブランクーシ・ゴンザレス・カルダー*・モンドリアン*・モホリ-ナギ・岡本太郎*ら当時の抽象美術家のほとんどすべてを集めたが，第２次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)とともに解散した。そのほか純粋抽象を守ろうとするものとして〈サロン-デ-レアリテ-ヌーベール〉が1936年に創立され，同じ年にニューヨークでも〈アメリカン-アブストラクト-アーチスツ〉が結成された。

わが国でも1920年代にキュービスムや未来派の流れをくむ反自然主義的な傾向が現われたが，抽象美術運動が盛んになったのは1930年代の半ばごろであり，東郷青児*・広幡(ひろはた)憲・山口長男(たけお)・吉原治良*(よしわらじろう)・斎藤義重*(よしえ)らの二科会の九室会，大小グループが1937年(昭和12)に統合した自由美術家協会の長谷川三郎(はせがわさぶろう)・村井正誠・山口薫(かおる)・難波田龍起(りゅうき)・オノサト-トシノブ*・荒井龍男(たつお)・瑛九*(えいきゅう)ら，ほかにレジエ*に師事して帰国した坂田一男らが先駆として活躍したが，第２次世界大戦の進行とともに衰退を余儀なくされた。第２次世界大戦後，抽象美術運動は大きな飛躍を遂げ，新しい局面を展開している。戦前からの構成的・幾何学的抽象よりも感情表出的で，素材と描くという行為そのものを重視するアンフォルメル*やアクション-ペインティング*の抽象表現主義が急激に台頭し，前者は〈冷たい抽象〉，後者は〈熱い抽象〉とよばれた。1960年代にはいると〈アッサンブラージュ〉など反芸術的傾向が強まり，〈ポスト-ペインタリー-アブストラクション(絵画的抽象以後)〉とよばれるポップ-アート*・オプ-アート*・プライマリー-ストラクチャー*などが続々台頭し，すでに一般化したアブストラクト-アートということばは，特定の様式を示しえなくなっている。

〔三木多聞〕

目された。特に景気変動理論の分野では，1913年に発表した《過剰生産の周期的危機》で展開した，所得増加が投資増加をひき起こす関係の指摘は，現代景気変動理論の加速度原理*の先駆として高く評価されている。

あぶつに　【阿仏尼】（1222ごろ～1283）鎌倉時代の女流歌人。平度繁（のりしげ）の養女。早くから安嘉門院（あかもんいん）（後高倉院の皇女）に仕え，越前右衛門佐（えちぜんうえもんのすけ）・四条などとよばれた。30歳ごろ歌人藤原為家（ためいえ）の側室となった。冷泉為相*（ためすけ）の母。《十六夜（いざよい）日記*》は，為家の没後，所領の相続争いの訴訟のために鎌倉へ下向した際の紀行・日記。歌論書《夜の鶴（つる）》のほか《安嘉門院四条百首》などがある。

あぶと　【阿伏兎】　広島県東部，備後灘（びんごなだ）に突出した沼隈（ぬまくま）半島南端の岬（みさき）で，幅約500m隔てて田島と対し，この海峡を阿伏兎瀬戸とも口無瀬戸ともよんでいる。岬端（こうたん）は約20mの海食崖（かいしょくがい）がそそり立ち，岩上に建つ阿伏兎観音を安置した盤台寺の堂は航海の目標にされている。ここから東の鞆（とも）に至る海岸は景色にすぐれ，瀬戸内海国立公園に指定されている。

アプトしきてつどう　【アプト式鉄道】急勾配（きゅうこうばい）を登るために，歯形軌条と機関車の歯動輪がかみ合うようになっている鉄道。わが国には，1893年（明治26）に開業した信越本線横川・軽井沢間に66.7‰の急勾配区間があったが，1963年（昭和38）これに併行して，粘着運転による線路が新設され，アプト式鉄道70年の歴史を閉じた。

あぶのめ　【虻の眼】　双子葉植物・ゴマノハグサ科。水田や湿地によくはえる一年草。茎は柔らかく，基部は枝分かれし，高さ10～20cm。葉は対生で上部のものほど小さくなる。夏から秋にかけて葉のつけ根に淡紫色の唇形（しんけい）をした花をつける。茎をつぶすと音が出るのでパチパチグサともいう。

アブー-バクル　［Abū Bakr］（570ごろ～634）　イスラム初代正統カリフ。在位632～634年。クライシュ族のタノム家出身。イスラム教への最初期の改宗者であり，ヘジラ*（622）のころにはすでにイスラム共同体において，マホメット*に次ぐ地位を占めていた。カリフとしてのおもな業績にはマホメットの死後に起こったイスラム教国からの部族の離反を阻止したこと，およびマホメットの遺志を継いで，シリア・イラクへ遠征軍を派遣し，後代の大帝国設立の基礎を築いたことの2点である。　〔牧野信也〕

アブハズ（自治共和国）　［Abkhazskaya A.S.S.R.］　ソビエト連邦グルジア共和国の北西部を占め，黒海に面する自治共和国。首都はスフミ。面積8,600km²，人口48万7,000（1970年推）。住民はグルジア人が約4割を占め，カフカスの古い民族で回教徒のアブハズ人（15.1%）・ロシア人（21.4%）・アルメニア人（15.9%）などで構成される。



アプト式鉄道　スイスのローヌ氷河付近を走るアプト式鉄道

山地が多いため耕地は国土の9.5%程度であるが，茶・タバコ・柑橘（かんきつ）類やトウモロコシを産する。家畜はウシが多い。鉱工業では，グルジア共和国における石炭・コークスの産地として重要であり，食品加工・木材・皮革などの工業も盛んに行なわれる。黒海沿岸のガルガ・グルリプシャなどは背後を森林に囲まれた避寒・保養地として知られている。古代ギリシアの植民地であった紀元前6世紀以来，ローマ・ビザンチン・アラブ・トルコなどの勢力が及んだが，1810年にロシアの保護領となり，1930年からソビエト連邦を構成するグルジア共和国内の自治共和国となった。　〔斎藤晨二〕

あぶみ　【鐙】　鞍（くら）の両側にたれ，馬腹で騎乗者の足をささえる馬具。足を受ける部分は舌といい，足先を受けるあたりは踏込（ふんごみ），かかとのあたるところを舌先または小尻（こじり）という。最上部は鉸具頭（かこがしら）で，その先端に鉸具があり，鐙から下がる鐙靼（みずお）を受ける。踏込の外面のおおいがふっくらとふくらむあたりを鳩胸（はとむね）といい，胸の左右に縦につけられたくぼみを笑（えみ）という。鐙は古墳時代の末期からあり，当時は舌の短い，踏込の深い壺鐙（つぼあぶみ）だった。平安・鎌倉時代になると，騎馬戦に有利な舌長鐙を用いた。また近世の鐙は全体に舌は短く，素材や装飾に特色を出し，その製作によって武蔵（むさし）鐙・七条鐙・佐々木鐙・大和（やまと）鐙・加賀鐙など国名や氏名をつけて区別した。　〔稲垣史生〕

あぶら　【油】　動物の体内や植物の種子や果実からとれる水に不溶性の液体または固体状の物質。一般には，常温で液体のものを脂肪油，固体のものを脂肪というが，厳密には境界はなく，多くは習慣によっている。たとえば，パーム油*ややし油などは，日本における常温で脂肪に属するが，一般には油とよばれている。また鉱物油もあるが，もとは大昔の動植物が地中にうずもれ，長年月にわたっていろいろな作用を受けてできたものである。水にとけない性質や燃焼して多量の熱量を出すこと，中には芳香性のあるものもあり，これらを利用して，油紙・化粧品・頭髪油・せっけん・ペンキ・燈油・燃料・潤滑油および食用など用途は広い。　〔岡部平八郎〕

あぶらあげ　【油揚げ】　豆腐を薄く切って，大豆油・菜種油あるいはごま油で揚げたもの。普通の豆腐よりややかためにつくった豆腐をあく抜きしたのち，適当な大きさに切り，簀（す）のこの上に数段に並べ，上から重石（おもし）を載せ十分水を切る。水分が最初の半分ぐらいになったら油で揚げるが，最初110℃内外の低い温度で揚げ，次いで高温（200℃内外）で仕上げる。適当な色に揚がり，破れがなく，厚さが均一で，適当な柔らかさをもつものがよい。〔佐藤友太郎〕

アプライト　［aplite］　有色鉱物*をほとんど含まない細粒緻密（ちみつ）な火成岩*。普通はカコウ岩*に伴って産出する。岩脈状のことが多いが，カコウ岩からしだいに変わることもある。カリウムに富むチョウ石*，カリウムとナトリウムに富むチョウ石，およびセキエイが主成分である。チョウ石分が70%くらいに達し，しかも鉄分が1%以下のものは，陶磁器原料として用いられる。用途は主として融点を下げるための調合剤であって，釉*（うわぐすり）では特に20～40%も調合する。岐阜県産の釜戸（かまど）チョウ石と称するものは利用の歴史も古い。滋賀県の信楽（しがらき）地方でも大きなアプライト鉱床が開発されている。　〔片山信夫〕

アプラうんどう　【アプラ運動】　ラテンアメリカの政治運動。アプラ（APRA）はアメリカ人民革命同盟（Alianza Popular Revolucionaria Americana）の略称。1924年，アヤ-デ-ラ-トレ*により創設された。その基本的目標は，①アメリカ帝国主義反対，②ラテンアメリカの政治的統合，③土地および産業の漸進的国有化，④パナマ運河の国際化，⑤世界の被圧迫民族および階級の団結，の5点にある。また，原住民インディオを重視し，これの国民生活への統合を唱えている。ラテンアメリカの特殊性を強調するのが運動の特徴で，ラテンアメリカ全体に波及したが，アヤの生国ペルーで最も発展をみた。1931年創設のペリー-アプラ党は，現在もなお同国の政治に大きな影響を及ぼしている。　〔松下　洋〕

あぶらかす　【油粕】　油脂に富んだ植物種子から油分を除いた残りかす。原料はダイズ・菜種・棉実・落花生・亜麻仁（あまに）・ゴマ・ひまし・米ぬか・ヤシ・カポックなど多数がある。肥料用としては1967年（昭和42）現在で大豆油粕80,000t，菜種油粕160,000t，棉実油粕90,000tがおもなもので，他は合わせて約120,000tである。近年は原料種子が工業用・食用・飼料用に優先利用されるため，最高生産量をあげた1939年に比較すると肥料用としてははるかに少ない。油粕の窒素分はタンパク態であり，リン酸はフィチン態であるため，肥効は遅効性である。このため，タバコ栽培用，野菜の施設栽培用として多く用いられ，また配合肥料原料とする割合が高い。　〔早瀬達郎〕

あぶらがれい　硬骨魚類・カレイ科。目

のある側は暗かっ色，ない側は白く，ときに黄ばむこともある。70cmほどになり，茨城県以北の太平洋側の海に多い。身はまるであぶらのかたまりのようでまずい。魚油の原料。

あぶらぎく　**【油菊】**　双子葉植物・キク科。シマカンギクともいう。暖かい地方の山地にはえる多年草。高さ30～60cm。秋に直径2cmほどの黄色の頭花を茎の上部にたくさんつける。花は油につけて薬用とする。

あぶらぎり　**【油桐】**　双子葉植物・トウダイグサ科。中国原産の落葉高木で，高さ10～12m，太い枝が四方に伸びる。葉は互生し広卵形または3～5中裂する。葉柄は葉身と同じくらいの長さで10～20cm，葉柄上部に2個の腺(せん)がある。雌雄同株であるが，雄花・雌花は5～6月おのおの別の枝先に咲く。色は白でがく片は2深裂，花弁5，雄花のおしべ8～10，雌花にはめしべ1がある。果実は10月に熟し，球形で直径2～3cm。なめらかな種子が3個はいっている。種子からとる桐油*(とうゆ)は油紙・印刷インキ・リノリウムの原料などにする。　〔加藤僖重〕

あぶらこ　**【油蚕】**　幼虫の皮膚が透明な蚕。透明に見えるのは，真皮細胞中に尿酸塩が少ないためで，伴性遺伝をするものでは透明か不透明かで雌雄が区別できる。

あぶらこうもり　**【油蝙蝠】**　哺乳(ほにゅう)類・翼手目・ヒナコウモリ科。イエコウモリともいう。前腕長3.2～3.5cm。日本・朝鮮・台湾・中国に分布。体上面は暗灰茶色，下面は暗灰色。人家の屋根裏などにすみ，夕刻から飛び出してこん虫を食う。12月から3月ころまで冬眠する。1腹1～4子。

あぶらぜみ　**【油蟬】**　こん虫類・半翅(はんし)目・セミ科。体長35～40mm，翅端まで60mm内外。体は黒またはかっ色。翅(はね)は不透明な暗赤かっ色。日本全土および朝鮮に最も普通な種類で，7～8月ごろ日あたりのよい樹幹に多く，ときには10月ごろまでみられる。幼虫は土中で木の根より樹液を吸って生活し，成虫になるまで数年かかるが，成虫の寿命は1～2週間前後。羽化は，おもに夕刻から早朝にかけて行なわれる。幼虫は，しばしば庭木や果樹に被害を与える。鳴き声が揚げ物の音に似ていることからこの名がある。　〔鈴木邦雄〕

アブラチャン　[abrachan]　双子葉植物・クスノキ科。低山にはえる落葉低木。高さ3～5m。枝を折るとよいかおりがする。葉は有柄で長さ2～5cm，幅1～2cmで互生する。3～4月に葉が開くよりさきに黄色花を多数枝につける。雌雄異株。果実はかっ色球形。

あぶらつ　**【油津】**　宮崎県日南市の商漁業地区。油津港は太平洋の赤江灘(あかえなだ)に臨み，広渡(ひろと)川河口右岸から南へ突き出す岬(みさき)に囲まれる。日向(ひゅうが)市の細島とともに県下有数の良港である。江戸時代には船材用として有名な飫肥(おび)スギの集散地で，飫肥藩によって港と広渡川との間に堀川(ほりかわ)が開かれ，大いに繁栄した。いまはカツオ・マグロの漁業基地で，また日本パルプの日南工場がある。付近は日南海岸国定公園に属する景勝地である。

あぶらつのざめ　軟骨魚類・ツノザメ科。1.5mほどの小形のサメ。淡かっ色の地に背のほうに小白点を散らす。北太平洋・オホーツク海・日本海に分布し，深さ100～200mの所をアラスカから日本にかけて大回遊をする。産額多く，頭を取り皮をはいで出荷され，切り身になったり練製品の材料になったりする。ツノザメの名は，背びれ前縁にかたい棘(とげ)があるところからきている。胎生魚。



アブラギリ　シナアブラギリ



アブラチャン



アブラツノザメ

あぶらつぼわん　**【油壺湾】**　神奈川県三浦市の西岸の小湾で，北には小網代(こあじろ)湾があり，付近は典型的なリアス式海岸をなしている。京浜地方に近いので，レクリエーションの客が多く，ヨットハーバーもある。東京大学理学部の臨海実験所が置かれ，付属水族館が公開されており，国土地理院*の油壺験潮所も設けられている。

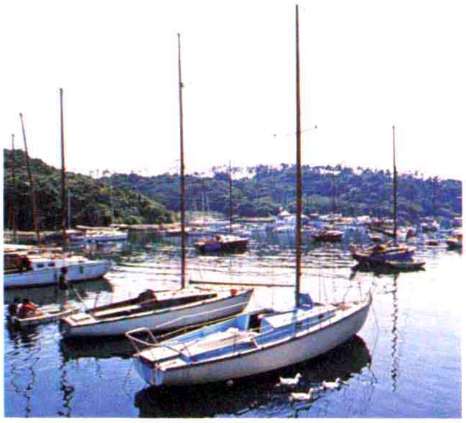
あぶらな　**【油菜】**　双子葉植物・アブラナ科。ナタネナともいう。花は一般にナノハナとよばれる。よく畑に栽培される越年草。日本には中国から非常に古い時代に渡来したと考えられる。高さは1m以上になり，先は枝分かれする。茎葉は無柄で基部で茎を抱く。3～4月に枝の先に黄色の十字花を総状につける。種子は油分を40％も含み，これから菜種油をとる。菜種油は食用にされ，精製したものを白絞(しらしめ)油という。また機械油・せっけん材料などとして広い用途がある。絞りかすは肥料に用いられる。中国で油をとるために栽培されているものはウンダイアブラナという変種で，日本でもこれのほうがふえている。アブラナはまた切り花用としても栽培される。

〔小清水義隆〕

アプラナート　[aplanat]　狭い意味の球面収差*がなく，コマ収差*をもたないレンズ。顕微鏡の対物レンズとして重要な働きをする。

アブラハム　[Abraham]　《旧約聖書》でイスラエル人の祖。〈信仰の父〉といわれる。はじめアブラムといい，カルデアに住んでいたが，神の命でカナンに行き，神からアブラハムの名を得てイスラエル人の祖となった。その子イサクはヘブライ人の祖，イシマエルはアラビア人の祖とされる。





油壺湾　典型的なリアス式海岸で，波静かな湾入はヨットハーバーに利用されて，その諸施設がある。また水族館やマリーンパークでは，珍奇な魚族が見られ，小中学生の見学や行楽客が多く訪れる。(左)東洋一といわれる水族館　(右)ヨットハーバー

あぶらはや　硬骨魚類・コイ科。20cmほどになる淡水魚。細長い形をしている。体色は茶かっ色の地に暗かっ色の斑点(はんてん)があり，体側中央に黒い水平の帯が走る。北海道以外の各地の山間の流れや湖沼に多い。体色がややあぶらぎった感じを与えるのが名の由来と考えられる。食べられるが美味ではない。

あぶらぶね【油船】　一般に本船まで燃料を運搬する小形の艀(はしけ)の称で，オイルバージともいう。軍用の給油船あるいはタンカーをいう場合もある。➔タンカー

あぶらペイント【油ペイント】　顔料をボイル油と混和した着色塗料の総称。ペイントまたはペンキともいう。堅練りペイント・種ペイント・調合ペイントがある。堅練りペイントは多量の亜鉛華・鉛白などの着色顔料や体質を少量のボイル油でかたく練ったペースト状のペイントで，ボイル油でとかして使用し，一般の色彩塗り・下地塗り・変わり塗りに用いる。種ペイントは着色顔料をボイル油でかたく練ったもので調色用に供する。調合ペイントははけで塗れる状態に調製したペイントで，耐候性が強く，塗装が簡単で安価なため，古くからよく用いられている。➔ペイント〔鈴木荘司〕

アフラ-マズダ　［Ahura Mazda］　古代ペルシアの神。アフラは〈主〉とか〈光〉，マズダは〈知恵〉の意味。紀元前8世紀ころ，すでに善神の一としてアーリア人に知られていた。ゾロアスターはそれまでの多神教を廃し，これを唯一最高神とした。彼の教義は光明・正義などをつかさどる善霊スペンタ-マイニュと暗黒・破壊をつかさどる悪霊アングラ-マイニュ(のちのアーリマン)の闘争の二元論であったが，のちにアフラ-マズダはスペンタ-マイニュと同一視された。
➔ゾロアスター教〔牧野信也〕

あぶらむし【蚜虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ上科に属する一群の総称。アリマキともいう。キジラミ・コナジラミ・カイガラムシの各上科とともに，腹吻(ふくふん)群を形成する。すなわち，腹吻群では，口吻が，セミ・ウンカ・ヨコバイなどのような頭部の基部から生じる頸吻(けいふん)群と異なり，前脚の基節間に存在している。アブラムシ上科は，カサアブラムシ・ネアブラムシ・ワタアブラムシ・アブラムシの4科から構成される。全世界にきわめて多くの種類が分布しており，農林業上・園芸上の害虫として著名なものも多い。しかし，中にはヌルデノミミフシのように，それのつくる虫こぶからタンニンのとれる益虫もある。いずれも体は小形で軟弱。脚の跗節(ふせつ)は2節または1節。触角は糸状，ときに退化している。翅(はね)は膜質透明でときに着色しており，脈は単純で数が少なく，後翅は前翅より小形で，静止の際は背面に屋根形にたたまれる。複雑な生活環をもち，世代交代を行ない，有性世代と無性世代が季節的に交互にくり返され，無翅のものも生ずる。生活環境も変化に富み，花・葉・茎・根と植物体のいたるところに寄生するが，種類により，また季節によって寄生場所は一定している。そのため，同一種類の植物に，数種類のアブラムシが寄生し，〈すみ分け〉を行なって生活していることもしばしば観察される。また，アブラムシ類は，腹端の蜜腺(みつせん)から蜜を分泌し，種種のこん虫がこれに集まる。特に，アリ類は好んで集まり，アブラムシの保護・運搬を行ない，しばしば共生の例にあげられる。アブラムシ類の防除には，マラソン・スミチオン・ホリドールなどのリン製剤がふつう用いられるが，葉を巻く種類には，浸透性の殺虫剤を用いる。天敵には，成虫・幼虫を捕食するテントウムシ類の成虫および幼虫，クサカゲロウ類の幼虫などのほか，内部寄生者として多くのコバチ類がある。なお，家屋害虫のゴキブリ類をも俗にアブラムシということがある。〔鈴木邦雄〕

あぶらや【油屋】　⇨伊勢音頭恋寝刃(いせおんどこいのねたば)

あぶらやけ【油焼け】　含油量の多い食品，すなわち，畜肉・魚肉などの乾製品・塩蔵品あるいは凍結乾燥食品などが，貯蔵中に黄赤色または赤かっ色となり，苦みや渋みをおびるようになる現象。原因は主として，油脂が酸化されてアルデヒド類を生ずることにある。苦みや渋みはこれによって生じ，着色はアルデヒド類と塩基性物質の反応によって起こると考えられている。油焼けを防ぐには，空気との接触をできるだけ避ける，酸化防止剤を使用するなどの方法がある。完全に防止することはなかなか困難である。〔佐藤友太郎〕

あぶらやし【油椰子】　単子葉植物・ヤシ科。西アフリカ原産であるが，熱帯地方で広く栽培される。20mの高さになり，葉は長大な羽状複葉で数多くの小葉に分かれ，雌花と雄花は別の円錐(えんすい)花序につく。果実は200個ぐらいの集合果で，4cm内外の大きさになり橙色(とうしょく)。内果皮はかたく黒色。中果皮は繊維質で油分に富み，圧搾してパーム油を取り，ろうそくやせっけんの原料，さび止めに用いる。種子の胚乳(はいにゅう)を圧搾して得た油はやし核油といい，マーガリンの原料とする。全世界の産額の30％はマライ諸島に産する。〔横井朝子〕

あぶらワニス【油ワニス】　樹脂と乾性油を加熱融合し，これを溶剤にとかし，金属せっけんを乾燥剤として加えてつくった透明な塗膜をつくる塗料。樹脂にはコーパル・エステルゴム・硬化ロジン・油溶性フェノール樹脂などを用い，乾性油には亜麻仁(あまに)油・桐油(とうゆ)・脱水ひまし油などを用いる。樹脂と油の比率によって短油性・中油性・長油性に区分され，用途により使い分けられるが，現在はスパーワニス(長油性)とゴールドサイズ(短油性)が実用に供せられている。このほか，結晶ワニスやちりめんワニスなどがある。➔ワニス〔鈴木荘司〕

ア-プリオーリ・ア-ポステリオーリ　［a priori・a posteriori］　ア-プリオーリは〈まえから〉，ア-ポステリオーリは〈あとから〉を意味し，それぞれ先天的，後天的と訳される。中世哲学以来，原因から結果へ下る推論をア-プリオーリ，結果から原因へさかのぼる推論をア-ポステリオーリとよんだが，近世になると時間的・心理的な意味に用いられ，生まれながらに(生得的に)あるものを先天的，経験から得られたものを後天的といった。さらにカントでは論理的・認識論的に用いられ，いっさいの経験にまったく依存せず，論理上経験に先だつ認識を先天的認識といい，経験に源泉をもち，経験的にのみ可能な認識を後天的認識という。したがって先天的認識は経験的認識がなりたつための前提条件であり，絶対に確実で普遍妥当な認識である。カントは数学・自然科学・道徳・芸術に先天的認識を認めた。〔中川　誠〕

アフリカ　［Africa］　地中海・大西洋・インド洋に囲まれた，アジアに次ぐ世界第2の州で，アジアとは北東部のシナイ半島でわずかに地続きとなっている。地域は北緯37°20′から南緯34°52′にわたり，ほぼ中央を赤道が走る。4分の3が熱帯に属し，地中海岸と南端部のみが温帯である。面積は3,024万km^2で世界の陸地の22％，人口は3億9,100万(1974)で，世界の10％を占めている。しかし面積に対して人口が少なく，人口密度は1km^2あたり13人にすぎない。アフリカが，まだその地中海岸しか知られていなかったころ，この地域はギリシア人によってリビアとよばれていた。ローマはBC146年に地中海岸のカルタゴを征服し，カルタゴ人のことをアフリとよんでいたので，ここをローマ帝国のアフリカ州とした。アフリカの呼称が大陸全体の名称として使われはじめたのは16～17世紀ごろからである。

【自然】アフリカは，インド・オーストラリア・南アメリカとともに，古生代から中生代にかけて存在していたゴンドワナ大陸の一部と考えられている。地形は比較的単調で，北方に低く，東および南に高い楯状地(たてじょうち)であり，大西洋側のギニア湾，インド洋側のソマリア半島を除けば，海岸線の屈曲も少なく，インド洋上のマダガスカルのほかは，めぼしい島もない。

北部にアトラス山脈とアハガル高原，サハラ砂漠(さばく)とリビア砂漠があり，東部には南北4,000km以上にわたる大地溝帯(ちこうたい)があって，世界第3の大きさをもつビクトリア湖をはじめいくつもの大きな湖があり，タンガニーカ湖の北東方を水源とする世界第1の長流ナイル川が北流して地中海に注いでいる。この大地溝帯を火山帯が走り，アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロ山(5,895m)をはじめ，多くの火山があって，高

さ5,000m以上の山は氷河をいだいている。

中央部には，赤道をはさんでコンゴ盆地があり，ザイール川が西流して大西洋に注いでいる。ギニア湾の北岸にはやや広い海岸平野があり，その産物によって，東から順に奴隷，黄金，象牙(ぞうげ)，胡椒(こしょう)の海岸名がつけられていた。胡椒海岸は穀物海岸ともいう。大陸の南端は，ドラケンスバーグ山脈とカプス山脈に縁どられ，内陸部は高原状で，その北部はカラハリ砂漠となり，ザンベジ川が東に，オレンジ川が西に流れている。

赤道をはさんだ地方は熱帯雨林気候であるが，これから北および南に，それぞれサバナ・熱帯ステップ・砂漠・温帯ステップ・地中海性の各気候区が，東部アフリカを除いて規則正しく帯状に並んでいる。東部アフリカはおもにサバナ気候で，その高原地帯は温帯寡雨気候区に属する。動植物の分布は気候に大きく左右され，熱帯雨林地帯には常緑の広葉樹が繁茂し，中でもマメ科に属する植物が最も多く，海岸にはマングローブが密生する。ゴリラやチンパンジーは，熱帯雨林の動物である。サバナ地帯には，アカシア・ミモザ・タマリンド，アフリカ特有のバオバブなどがみられ，ライオン・ジラフ・アフリカゾウ・ハイエナ・シマウマなどが生息する。また，人や家畜に眠り病を媒介するツェツェバエの害が大きい。ステップ地帯では樹木は少なく，草原が主となり，砂漠地帯では植物はほとんどみられなくなる。現生の鳥類の中で最大のダチョウは，ステップから砂漠にかけてすんでいる。地中海性気候の地域では，エリカやゲッケイジュが目だち，地中海岸では，オリーブや，コルクガシが栽培されている。マダガスカル島の動植物は独特のものが多く，タビビトヤシ・キツネザル・ユビザル（アイアイ）・ヤイロチョウなどはその例である。

〔住民〕 アフリカは，人種の分布の上から，サハラ以北の〈白いアフリカ〉と，それより南の〈黒いアフリカ〉の二つに大きく分けることができる。白いアフリカは，白色人種の住む地域であり，言語上はハム語族に属するエジプト人・エチオピア人と，アラブ人セム語族が主であるが，その皮膚の色は白からチョコレート色までさまざまである。またアラブ人というのはその故郷である北アラビアから移住してきた者のほかに，イスラム化されアラビア語を話す北アフリカの住民一般をもさしており，ハム系のエジプト人もイスラム化されて，みずからをアラブ人と信ずるようになっている。また，ベルベル人も，イスラム化された者と，イスラム化されない者の両方が含まれるが，前者はアラブ人の中に含まれ，後者のみをふつうベルベル人とよんでいる。

黒いアフリカは，黒色人種の住む地域で，住民は一般にネグロとよばれている。ネグロはスーダン・ギニア・コンゴ・ナイル・バンツーなどに大別される。皮膚の色は，スーダン-ネグロが最も黒く，ギニア-ネグロやバンツー-ネグロは明るい色の皮膚をもつ。身長は，ナイル-ネグロが最も高く180cm前後，コンゴ-ネグロが最も低く160～165cmである。このほか，チャド湖と大西洋の間に分布するネグリロ人種のピグミーは，身長が150cmに満たず，おもにカラハリ砂漠に住むコイサン人種のブッシュマンとホッテントットは，皮膚の色が黄かっ色で，身長が低く，臀部(でんぶ)が著しく突き出ている。また南アフリカ共和国にいるオランダ系およびイギリス系の約400万をはじめ，アフリカ全土に約500万のヨーロッパ人がいる。



アフリカ　(上左)千古の歴史を伝えるピラミッド。ピラミッドの見えるカイロ市南郊ギゼーの田園風景　(上右)モロッコ南部の中心都市マラケッシの町での所見。広場ではラクダの市場が開かれて，競売が行なわれる　(下左)北アフリカの原住民ベルベル人。町の広場での所見。民族特有の衣装をつけている（モロッコの町で）　(下右)路傍でヘビ(コブラ)に芸をさせるヘビ使い。観光客のために見せる

言語としては，北アフリカにアラビア語を主とするハム-セム語系，中部アフリカにスーダン-ネグロ系，南部アフリカにバンツー語系の言語が話されるほか，旧イギリス領および旧フランス領の地域では，それぞれ英語とフランス語が使われており，また南アフリカ共和国ではオランダ語の方言であるアフリカーンス語が用いられている。原住民の言語は，部族によってそれぞれ異なり，細かく分ければ千数百にもなり，中にはわずか数百名の部族しか使っていない言語もある。

宗教は，北アフリカにイスラム教，エジプトとエチオピアにキリスト単性説を奉ずるコプト派*のキリスト教が信仰されているほかは，アニミズムなどの原始宗教が主である。移住したヨーロッパ人の間では新旧のキリスト教が信仰される。南アフリカ共和国のオランダ系住民はオランダ改革派教会に属していて，この点で祖先の出身地オランダとわずかにつながっている。

〔政治〕 地中海岸には，世界の古代文明の発祥地の一つであるエジプトがあったが，サハラ以南のアフリカは長い間世界から切り放されて，暗黒大陸とよばれていた。しかし，ギニア湾岸には4～13世紀のころ黒人のガーナ帝国が栄えていたといわれている。15世紀にはいって，ポルトガル人がしだいにアフリカ西岸を南下しはじめ，1488年にはディアス*が南端の喜望峰に達した。16世紀にはいって，スペイン・イギリス・オランダも西部アフリカに進出し，オランダ人は1652年にケープタウン付近に植民地を建設した。一方，東部アフリカの海岸には，15世紀の初めに明(みん)の鄭和(ていわ)の船隊が来航したことがあったが，ヨーロッパ人の探検は遅れ，1840年以降のリビングストン*やスタンリー*の調査によって，ようやくその内部が明らかになりはじめた。19世紀にはいり，イギリス・フランス・スペイン・ポルトガル・ドイツ・イタリア・ベルギーなどのヨーロッパの国々によって，次次にアフリカの分割が行なわれ，オランダ人のケープ植民地はイギリスの奪うところとなった。こうして，アフリカ大陸のほとんどの地域が，ヨーロッパの国々の植民地となり，第2次世界大戦前の独立国としては，エジプト・エチオピア・リベリア・南アフリカ連邦の4国のみであったが，エジプトはイギリスの勢力下にあってその独立は形式的なものであり，エチオピアは1936

～1942年の間イタリアに占領され，リベリアはアメリカ合衆国と関係が深く，また南アフリカ連邦はイギリスの自治体で，完全な独立国ではなかった。

第２次世界大戦後民族的な自覚が高まって，各地で独立運動が起こり，リビアがイタリアから，モロッコとチュニジアがフランスから，ガーナがイギリスから，まず独立したのをはじめとして，現在では国際連合の加盟国は47に達し，国連内に一大勢力を築くに至っている。これらの国々の独立は，８年にわたってフランスと武力闘争をしたアルジェリアが100万人の死者を出したのをはじめとして，多くの原住民の血によってあがなわれたものであり，また独立後も旧ベルギー領のコンゴ(現在のザイール)や，ナイジェリアのように内戦による犠牲の大きな国もある。こうしてアフリカというよりも，世界における植民地らしい植民地として最後まで残っていたポルトガル領のモザンビークとアンゴラが，長年にわたる原住民のゲリラ活動と，本国のポルトガルの政変によって，1975年から1976年にかけてついに独立を達成し，モザンビークは1975年に国連にも加盟を許され，アフリカにおける植民地はスペイン領サハラ(26万7,000km²)を除けば，イギリス領セントヘレナ(122km²)，フランス領アファル-イッサ(２万2,000km²)など，小さな地域にすぎなくなった。スペイン領サハラも人口はわずか７万5,000しかないが，豊富なリン鉱石があり，周囲のモロッコとモーリタニアが領有を要求している。アンゴラは独立後も内戦が続き，はるばる大西洋を越えてキューバ軍がそれに参加するなど，問題がまだ残っている。一方，南アフリカ連邦を解消してイギリスから完全に離れた南アフリカ共和国では，オランダ系の白人が極端な有色人種の差別政策を強行してその地位の保全を図り，イギリスの自治体ローデシアでは，本国の反対を押しきって，一方的に白人国家としての独立を宣言するなど，時代に逆行して白人支配をあくまで維持しようとする動きもみられる。

新しく独立したアフリカの国々は，二つの世界の対立の影響を受けて，旧フランス領の国々や，ナイジェリア・エチオピアなどの親西欧的なグループと，エジプト・ガーナ・モロッコなどの親中ソ的なグループに分かれて，対立したこともあったが，1963年にアフリカ統一機構*(OAU)が結成されて，この対立はいちおう解消している。OAUはアルジェリアとモロッコの国境紛争の解決に成功するなど，大きな力を発揮した。しかしガーナのエンクルマ大統領，アルジェリアのベンベラ大統領などの指導者が失脚，OAUの設立に主導的役割を果たしたエチオピアのハイレ-セラシエ皇帝も廃位後死去して，OAUの活動も鈍り，1975年にウガンダの首都カンパラで開かれた第12回首脳会議は，ウガンダのアミン大統領に対する反感もあって，出席者が少なく，具体的な成果も乏しかった。

各国の内部においても，軍部の武力によるクーデターが続発して政権の交代がしきりに行なわれ，あたかも1950年代のアジアに似た状勢を呈しており，また経済的には自立が困難な国が多く，旧主権国が形だけの独立を与えて，実質的な支配を続けようとする新植民地主義の危険が指摘されるなど，アフリカ諸国の前途にはまだまだ問題が多い。

〔産業〕住民の大部分は農民で，その農業も北アフリカの大麦・小麦，西アフリカのトウモロコシ・キビ，東部および南部のサバナ地帯のトウモロコシ，熱帯雨林地帯のヤムイモ・バナナなどの主食をはじめ，自家消費のための食料生産が主であり，原始的な焼畑耕作が広く行なわれている。商品作物としては，エジプトの米とタマネギが輸出に向けられているほか，ガーナ・ナイジェリア・コートジボアールなどのギニア湾岸の国々を主として，世界の約70％を産するカカオをはじめ，コートジボアール・ウガンダ・エチオピアのコーヒー，ナイジェリア・セネガルのラッカセイ，コンゴ民主共和国・ナイジェリアのパーム核・パーム油，エジプト・スーダン・ウガンダの綿花，タンザニアのサイザルアサなどがあり，その多くは熱帯気候を利用してつくられている。また，これらの作物の中には，ガーナのカカオやウガンダの綿花のように，アフリカ人による小農経営のものと，タンザニアのサイザルアサのように白人経営のプランテーション*によるものとがあるが，全体としては原住民経営のものが多く，この点は東南アジアなどとは異なっている。また，エチオピアのコーヒーは栽培のものと野生のものがある。

牧畜はステップ地帯を主としてヤギ・ウシ・ヒツジなどが飼われているが，南アフリカ共和国の高原のヒツジを除けば，市場価値は少ない。砂漠地帯ではヒトコブラクダが有用な家畜となっている。

森林の多くは焼畑耕作がなされるために荒廃しており，残された熱帯雨林のうちで，海岸に近いものがわずかに森林資源として利用されている。中でも，ギニア湾岸の熱帯雨林からは，マホガニーなどの有用材を切り出しており，ガーナやコンゴ人民共和国では木材が重要な輸出品の一つである。

水産業は熱帯であるためにふるわないが，まわりの海からはイワシ・サバ・ニシン・マグロ・エビ・カニなどがとれ，南アフリカ共和国は世界有数の水産国である。ギニア湾やカナリア諸島近海には日本漁船が進出している。

地下資源は豊富であるが，南アフリカ共和国のほかはまだ十分開発されていない。南アフリカ共和国は，世界の金の約３分の２を生産し，黄金海岸の名があるガーナや，ローデシアにも金の産出が多い。また，ザイール・南アフリカ共和国・ガーナなどをはじめ，アフリカの中部から南部にかけては，世界のダイヤモンドの主産地であって，工業用のものをも含め世界の60％を生産している。このほか鉄鉱(南アフリカ共和国)・ボーキサイト(ギニア)・銅(ザンビア・コンゴ民主共和国)・スズ(ナイジェリア)・アンチモン(南アフリカ共和国)・クロム(ローデシア・南アフリカ共和国)・マンガン・ウラニウム(ともに南アフリカ共和国・ガボン)などの産出があり，石炭は南アフリカ共和国で採掘されている。石油の開発は，第２次世界大戦後，おもに米・英・仏系の資本と技術によって急速に進み，リビアではすでに年産8,800万kl(1974)，アルジェリアでは5,700万kl(1974)の原油が採掘されている。リビアの石油の埋蔵量はおよそ90億klで，クウェートのそれに匹敵している。エジプトでは，紅海沿岸のモルガン油田が有望で，チュニジアやモロッコでも，サハラ砂漠周辺の石油の開発が進んでいる。また，いままでサハラ砂漠以南には石油資源はないものとされていたが，最近はナイジェリア・ガボン・アンゴラでも油田が発見され，ナイジェリアの内戦は，その東部州の石油利権をめぐる利害の対立が原因の一つとなっていた。1974年のナイジェリアの石油産出高は，１億3,000万klで，アフリカ第１であり，日本の企業も参加している。このほかアフリカの地下資源としては，モロッコ・チュニジアなどのリン鉱石も重要である。

アフリカは大河川が多く，その包蔵水力は６億3,000万klでアジアに次いでいる。しかし開発されているのはほんの一部にすぎず，ナイル川上流のオーエン-ダム(ウガンダ)，ザンベジ川のカリバ-ダム(ザンビア・ローデシア国境にあり，両国に電力を供給しているが，ローデシアの一方的独立宣言で紛争中)，ボルタ川のアコソンボ-ダム(ガーナ)などがおもなものである。エジプトのアスワン-ハイ-ダムも1970年に完成したが，いろいろな問題を引き起こしている。

工業は未発達で，エジプトの紡績業その他の軽工業と，鉄鋼・化学肥料・石油精製などの重化学工業，南アフリカ共和国の鉄鋼・機械工業のほかは，めぼしいものはない。南アフリカ共和国の近代工業はアフリカ第１で，その鉄鋼の年産は563万t(1973)で，アフリカ第１であり，スウェーデン(565万t)にほぼ等しい。

〔交通・貿易〕暗黒大陸といわれた時代に比べれば，交通の近代化は著しいが，砂漠地帯ではいまだにラクダによる隊商がみられ，熱帯雨林では家畜の利用もむずかしいので，原始的な担夫交通が行なわれている。台地状の地形のために，多くの川は海岸の近くで急流や滝となり，水運は上・中流に限られる。コンゴ川はその典型で，急流部

は鉄道が連絡している。ナイル川では，小汽船がアスワンまで通っている。

鉄道の普及率は大陸の中では最低であるが，カイロとケープタウンを結ぶアフリカ縦貫のいわゆる〈CC鉄道〉の工事がかなり進んでいる。またコンゴ民主共和国のマタジから，コンゴ川やタンガニーカ湖の水路を取り入れて，タンザニアのダルエスサラームに出るルートや，アンゴラのロビトからモザンビークのベイラに至る鉄道のような東西両海岸の連絡路もある。1975年には，タンザニアとザンビアを結ぶタンザン鉄道が，中国の援助によって開通した。サハラ砂漠では，地中海岸からギニア湾岸に達する大形バスの定期便も開けている。

海上交通は旧本国との航路が主である。スエズ運河は，1967年の中東戦争以来封鎖されており，ケープタウン経由の航路がこれに代わっていたが，1975年6月に8年ぶりで再開された。定期航空路も，旧本国のロンドンやパリと結びつくBOACやエールーフランスの南北のルートが主であるが，ローカル線は鉄道や道路のない所にもよく発達している。

アフリカが世界貿易に占める割合はきわめて低く，輸出入とも5％程度であり，その約3分の2は西ヨーロッパ諸国が相手である。おもな輸出品は，綿花・羊毛・カカオ・コーヒーなどの農畜産品と，金・ダイヤモンド・銅・リン鉱石などの鉱産物で，輸入は工業製品が主であり，日本からも繊維品や機械類を輸入している。

イギリス・フランス・西ドイツなどの西ヨーロッパ諸国や，アメリカ合衆国・ソ連・中国などは，それぞれの立場からアフリカの国々に対して経済援助を与え，国際連合のアフリカ経済委員会(ECA)は，OAUと協力してこの援助を有効に受け入れ，アフリカの経済開発を促進するために活動している。エジプト・アルジェリア・ガーナをはじめ，米・ソ・中の3国から同時に援助を受けている国も多く，最近は政治と経済とを切り放して考えようとする傾向が，アフリカの国々に現われはじめている。

〔浅井得一〕

アフリカおうだんせいさく 【アフリカ横断政策】 19世紀末の列強によるアフリカ分割*の際，フランスのとった政策。フランスは，1890年代の初めまでに，アルジェリア，西アフリカの上ギニア，紅海沿岸のソマリランドの一部を領有していたが，第三共和制がやや安定するに及んで，スーダンを占領し，コンゴを植民地とし，これよりサハラ砂漠(さばく)を横断して，大西洋から紅海に至る植民帝国の建設を計画した。しかしこの計画は，イギリスのアフリカ縦断政策*と衝突し，1898年ファショダ事件*を起こしてフランスは敗北し，この計画は挫折(ざせつ)した。

〔広部和也〕

アフリカおんがく 【アフリカ音楽】 通常，サハラ砂漠(さばく)以南のアフリカ大陸の音楽をさしていう。ただし，マダガスカル島は東南アジア音楽文化領域に入れられることがある。また，地中海沿岸およびナイル川流域はアラビア音楽*文化の領域にはいる。アフリカ音楽の四大系統として，①ブッシュマンおよびホッテントットのコイサン地域，②東アフリカ，③西アフリカ(ギニア湾岸を中心とする地域)，④コンゴなどの中央アフリカに分けられる。①②においては狩猟・牧畜の関係から，動物のなき声を模倣する歌ないし動物に関する音楽が多い。しかし，最もアフリカ的な印象を与えるのは西アフリカ・中央アフリカのニグロの音楽である。その重要な特徴は同時にいくつかの異なるリズムを演奏するポリリズム，ことばのアクセントやイントネーションを模倣した太鼓語り，音頭とコーラスの交唱などにある。全般に音楽と社会共同生活とが密接に結びついていて，音楽なしでは社会の政治的・宗教的運営はなりたたない。また医術とも深く関連しているので，人間の生命のかぎを握る大きな存在でもある。他方，音楽は娯楽的ないし美的享受の対象となる場合もある。こうした音楽の多面的性格にのっとって，彼らなりの論理による音楽分類法が行なわれている。

楽器の種類は非常に多い。複雑なリズムの演奏のために多くの打楽器(膜鳴楽器と体鳴楽器)があり，いろいろな形のドラム・ガラガラ・木琴・サンザ(親指ピアノ)・鈴が盛んに用いられる。気鳴楽器では，指穴なしのフルート，指穴のあるフルート，パンの笛，角笛がある。弦楽器で最もよく知られているのは音楽弓で，ほかにハープの類・チターの類・リュートの類も多い。

〔山口　修〕

アフリカかいはつぎんこう 【アフリカ開発銀行】 African Development Bank 略称ADB。アフリカ低開発諸国の経済的・社会的開発の促進を目的として設立された金融機関。1963年7月アフリカ諸国蔵相会議で調印され，1964年11月発足。加盟国はアフリカ諸国30か国であり，授権資本は2億5,000万ドル，払い込み資本1億2,500万ドル。各加盟国の出資額は，それぞれの国民所得・輸出額・税収などを総合した経済力を基準として最低100万ドル，最高3,000万ドルのわく内で決定される。なお，運用資金を確保するために，債券の発行，加盟国からの借り入れなども認められており，さらにアフリカ域外諸国からの借入金や贈与などをも特別資金として利用することが認められている。主要業務は，加盟国の各種開発・プロジェクト，農業・電力・輸送などの基礎部門および工業部門に対する直接借款，株式投資・保証・再貸し付けのための開発金融機関に対する包括借款などであるが，このほかに技術援助，加盟国政府に対する財政援助をも考慮している。〔安井孝治〕

アフリカけいざいいいんかい 【アフリカ経済委員会】 Economic Commission for Africa 略称ECA。国連地域経済委員会*の一。1958年4月設立。本部はエチオピアのアジスアベバにある。加盟国39か国。アフリカ地域の経済発展のために経済・技術に関する基礎条件の調査・研究，情報収集ならびに種々の勧告を行ない，経済・社会水準の向上，問題の解決を図る。

アフリカけんしょう 【アフリカ憲章】 ガーナ・ギニア・マリ・アラブ連合・モロッコの5か国元首，およびリビア外相とコンゴ(レオポルドビル)のルムンバ政権の国際連合代表が，1961年モロッコのカサブランカにおいて，アフリカ進歩派グループ(カサブランカグループ)をつくった際に採択したもの。アフリカ憲章は，同グループがアフリカ未解放地域の解放，新植民地主義反対，アフリカ統一の促進を目的とし，これらの実現のために，諮問会議・各種委員会・事務局を設置することなどを規定している。

〔広部和也〕

アフリカじゅうだんせいさく 【アフリカ縦断政策】 19世紀末の列強によるアフリカ分割*の際イギリスのとった政策。イギリスは，その領有する植民地または勢力圏でアフリカ大陸を縦断しようとし，1876年ごろから，エジプトのカイロと南アフリカのケープタウンをつなぐアフリカ縦断鉄道の計画をもち，1890年代半ばまでに，中部アフリカのローデシア，東アフリカとウガンダを征服しこれを確保した。ところが，同じころ，アフリカ横断政策*をとったフランスとスーダンで衝突し，1898年ファショダ事件*をひき起こした。しかし，ドイツへの対抗上両国の妥協がなり，エジプト・スーダンはイギリスの支配下に置かれた。さらに，1899〜1902年のボーア戦争*の遂行によって，縦断政策はいちおう完成した。

〔広部和也〕

アフリカしゅのうかいぎ 【アフリカ首脳会議】 1963年，エチオピアの首都アジスアベバで開かれたアフリカの独立諸国首脳会議。1962年，アルジェリアの独立を契機に，当時の全独立国33か国中31か国の元首や政府首班が出席し，非独立属領の民族主義組織もオブザーバーを派遣し，500人を越える大会議となった。不参加はアパルトヘイト*政策のために招かれなかった南アフリカ共和国と，クーデター直後のトーゴ。それまで，ブラザビルグループを含む，親西欧派のモンロビアグループと積極的中立派カサブランカグループに分裂していた二つのアフリカが〈一つのアフリカ〉を旗印に大同団結し，〈全アフリカ憲章〉を採択。同時にアフリカ統一機構*の創設を決定した。➔アフリカ諸国会議

〔喜多迅鷹〕

アフリカしょご 【アフリカ諸語】 アフリカで行なわれる数百の言語の総称。単なる地理的命名で，形態的・系統的立場から

の命名ではない。アフリカ諸語自体の分類としては，従来，①ハム-セム語族*，②スーダン-ギニア諸語，③バンツー語族，④ブッシュマン-ホッテントット諸語に大別された。北部のハム-セム語族はアラビアから渡来したもので，今日では死語となった古代エジプト語やコプト語のほかに，現代エジプトのアラビア語*やエチオピア語・リビア語・ベルベル語・クシ語などを含む。スーダン-ギニア諸語はセネガルのベルデ岬(みさき)からエチオピアの高地に至るアフリカ大陸を横切って，不規則な地帯に広がる多くの言語で，ニジェールや北ナイジェリアを中心とするハウサ語，象牙(ぞうげ)海岸のエウェ語・ガーナのガ語，ギニアのフラニ語，タンザニアのマーサイ語などがおもなもの。語尾屈折がなく，接頭辞・接尾辞が発達し，アクセントの相違が語の意味や文法上の相違を示すことなどがその特徴である。

バンツー語族は南端の喜望峰を頂点とし，赤道を底辺とする三角形の地域内のほとんどすべての言語を含み，一大語族をなしている。最も重要な言語はスワヒリ語*で，ザンジバルやモンバサを中心に，中部東アフリカの広い地域で用いられ，アラビア語からの借用語に富み，数世紀にわたる文学作品すらもっている。さらにウガンダのガンダ語，南アフリカ共和国のズールー語，南ローデシアのショーナ語なども重要。バンツー語族は，すべての名詞が10種以上に分類され，その種類に応じて各名詞が特定の接頭辞をとり，さらに名詞を修飾する形容詞・数詞，あるいは名詞の補語や動詞にも同種の接頭辞がつき，名詞を中心とするみごとな呼応現象を示すのが特徴。ブッシュマン-ホッテントット諸語は，南アフリカ共和国・南西アフリカ・ボツワナなどに住むブッシュマン人やホッテントット人の言語。コイン語族ともよばれ，舌打ちの音に似た吸打音という特殊な音をもつことで知られる。

最近アメリカの言語学者J.H.グリーンバーグが発表した新しい4分類法によれば，アフロ-アジア諸語は従来のハム-セム語族に相当し，ナイル-サハラ諸語はスーダン-ギニア諸語の一部に相当し，コンゴ-コルドファン諸語はスーダン-ギニア諸語とバンツー語族を含み，コイサン諸語はブッシュマン-ホッテントット諸語にあたる。以上の言語のほかに，南アフリカ共和国では，オランダ語*とバンツー語と英語の混合語であるアフリカーンス語*が，英語とともに公用語として用いられ，マダガスカルでは異系のマライ-ポリネシア語族*の言語が行なわれている。〔五島忠久〕

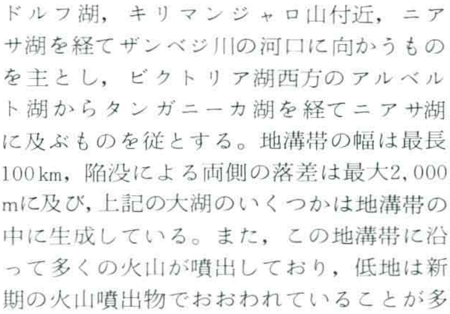
アフリカしょこくかいぎ【アフリカ諸国会議】1958年4月15～22日，ガーナの首都アクラで開かれた最初のアフリカ独立諸国の会議。アフリカ独立会議ともいう。1957年のガーナの独立を契機に，ガーナ首相エンクルマ*の招請で，南アフリカ共和国と中央アフリカ連邦の両白人国を除く全独立国8か国が参加。植民地主義に反対し，民族独立を支援し，人種差別を非難，核兵器の生産・実験の停止を勧告するなど，広範囲の問題を検討した。〔喜多迅鷹〕

アフリカすいぎゅう【アフリカ水牛】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。体長2.5m，尾長88cm，肩の高さ1.5mほど。体は黒色。アフリカの水辺付近の草原に群れですみ，草や木の芽などを食う。95cmに達する角をもち，性質が狂暴なので非常に危険な獣の一。妊娠期間約11か月，1腹1子。原住民などによって肉・皮用として乱獲され減少した。

アフリカぞう【アフリカ象】哺乳(ほにゅう)類・長鼻目・ゾウ科。肩の高さ3.5m，体重6t(世界最大は13t)に達する。現在，陸生動物中最大の獣。雌雄ともに長いきばがあり，雄のものは特に長大で長さ3m，重さ100kgに達する。サハラ以南のアフリカの樹林地帯に群れですみ，木の根や葉を食う。妊娠期間18～22か月，1腹1子。4年に1度出産する。→ゾウ

アフリカちこうたい【アフリカ地溝帯】アフリカ大陸の東部を南北方向に延びている地溝*帯。北方シリア地方から紅海に沿って南下し，エチオピアのアビシニア高原，ルドルフ湖，キリマンジャロ山付近，ニアサ湖を経てザンベジ川の河口に向かうものを主とし，ビクトリア湖西方のアルベルト湖からタンガニーカ湖を経てニアサ湖に及ぶものを従とする。地溝帯の幅は最長100km，陥没による両側の落差は最大2,000mに及び，上記の大湖のいくつかは地溝帯の中に生成している。また，この地溝帯に沿って多くの火山が噴出しており，低地は新期の火山噴出物でおおわれていることが多い。この地溝帯はアフリカ大陸の基盤が形成されたのち，白亜紀から第三紀にかけての地殻(ちかく)変動によって生じたと考えられている。〔平山　健〕

アフリカとういつきこう【アフリカ統一機構】Organization of African Unity 略称OAU。〈全アフリカ憲章*〉の趣旨に基づく機構。1963年5月アフリカ首脳会議で成立した。①アフリカ諸国の統一と団結の促進，②アフリカ人民の生活向上のための相互協力促進，③アフリカ諸国の主権・独立の擁護，④あらゆる植民地主義の絶滅，⑤国連憲章世界人権宣言に基づく国際協力の促進を目的とする。国家元首・政府首脳会議を最高機関として，閣僚会議・諸委員会などで構成される。事務局はエチオピアの首都アジスアベバ。加盟国は41か国(1970年2月現在)。〔広部和也〕



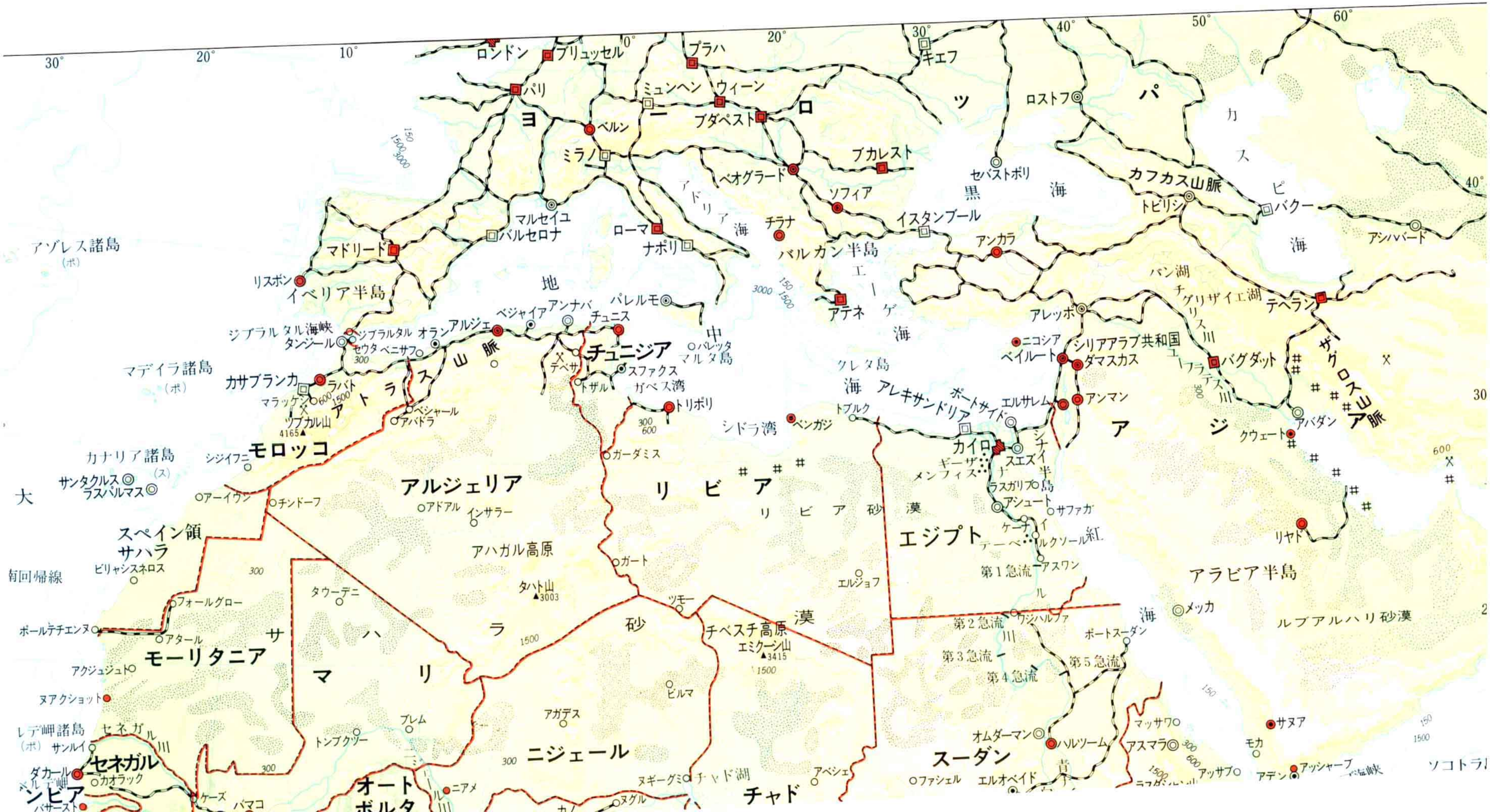
アフリカマイマイ

アフリカぶんがく【アフリカ文学】アフリカ文学が本格的に始まったのは20世紀であり，それ以前の伝承や民話などが文学の中に生き返っていく過程は，アフリカ諸国が外国の植民地支配から独立していく動きと見合っている。しかし文学者の多くは英語かフランス語の文学圏内にあり，たとえばセネガルの大統領にもなった詩人サンゴールは，フランスでの教養をもとに詩作を始め，黒人の民族性を強調するいわゆるネグリチュード運動を提唱した。アフリカ文学には現実社会の激動が刻印され，ガーナのコントンの小説《アフリカ人》はガーナ独立を主題とし，ナイジェリアのアチュベはイボ族における部族解体を小説《解体》などで描いた。また南アフリカ共和国のエイブラハムズは民族抗争を扱った小説《野蛮な征服》を書き，同国のムファレレやライブも人種差別を主題にした散文を書いている。一方，民話に取材したナイジェリアのチュツオーラの小説《やし酒飲み》，同国のクラークによる土着的な儀式劇《山羊(やぎ)の歌》もある。ほかにナイジェリアのイクェンシ，カメルーンのベティらの小説家。セネガルのディオプらの詩人がいる。〔田島　修〕

アフリカぶんかつ【アフリカ分割】19世紀末から20世紀初頭にかけて，西欧先進資本主義諸国のアフリカ大陸進出と植民地領有の過程をいう。資本主義の発展に伴い，暗黒大陸アフリカも，投資・商品および原料市場として列国の激しい分割競争の対象となり，その植民地化の度合いは，1876年の10.8%から1900年の90.4%となり，独立国としてエチオピアとリベリアを残すだけとなった。中心となった列強はイギリスとフランスで，ドイツが遅れて割り込みを図った。

1869年，スエズ運河が開通すると，アフリカは列強にとって大きな魅力を加えた。フランスに代わってエジプトに進出したイギリスはこれを保護国とし，さらにケープ植民地の拡大を図って，カイロとケープタウンをつなぐ縦断鉄道を計画し，フランスと衝突した(→ファショダ事件)。またボーア戦争*でトランスバール共和国とオレンジ自由国を併合して，南アフリカ連邦とし，南アフリカの支配権を確立した。一方，フランスはアルジェリアからチュニジアに進出し，さらにサハラ砂漠(さばく)・象牙(ぞうげ)海岸・コンゴおよびマダガスカル島を含む植民帝国建設を進めたが，スーダンでイギリスと衝突し譲歩した。競争にたちおくれたドイツは，カ

アフリカ



ロンドン
ブリュッセル
プラハ
キエフ
パリ
ミュンヘン
ウィーン
ブダペスト
ロストフ
ヨ
ー
ロ
ッ
パ
ベルン
ミラノ
ベオグラード
ブカレスト
セバストポリ
カフカス山脈
カ
ス
ピ
海
黒
海
マルセイユ
バルセロナ
マドリード
リスボン
イベリア半島
アゾレス諸島
（ポ）
ローマ
ナポリ
アドリア海
チラナ
ソフィア
イスタンブール
バルカン半島
アンカラ
トビリシ
バクー
アシハバード
パン湖
チグリス川
ザイ工湖
テヘラン
ザグロス山脈
地
中
海
パレルモ
アンナバ
ベジャイア
アルジェ
オラン
チュニス
チュニジア
パレッタ
マルタ島
スファクス
ガベス湾
トリポリ
シドラ湾
ベンガジ
トブルク
クレタ島
アテネ
エーゲ海
アレッポ
ニコシア
シリアアラブ共和国
ベイルート
ダマスカス
バグダット
ユーフラテス川
アンマン
エルサレム
ポートサイド
アレキサンドリア
カイロ
スエズ
ギーザ
メンフィス
シナイ半島
ラスガリブ
アシュート
サファガ
ケーナ
テーベ
ルクソール
アスワン
紅海
ア
ジ
ア
クウェート
アバダン
リヤド
アラビア半島
メッカ
ルブアルハリ砂漠
ジブラルタル海峡
ジブラルタル
タンジール
セウタ
ベニサフ
マデイラ諸島
（ポ）
カサブランカ
ラバト
マラッケシ
ツブカル山
4165
アトラス山脈
ベシャール
アバドラ
カナリア諸島
（ス）
サンタクルス
ラスパルマス
シジイフニ
モロッコ
大
アーイウン
チンドーフ
スペイン領
サハラ
ビリャシスネロス
回帰線
アルジェリア
アドアル
インサラー
アハガル高原
タハト山
3003
ガーダミス
ガート
リビア
リビア砂漠
エジプト
エルジョフ
ツモー
サハラ砂漠
チベスチ高原
エミクーシ山
3415
第1急流
第2急流
ワジハルファ
ポートスーダン
第3急流
第4急流
第5急流
タウーデニ
フォールグロー
ポールテチエンヌ
アタール
モーリタニア
アクジュジュト
ヌアクショット
マリ
ビルマ
アガデス
ブレム
トンブクツー
ニジェール
レデ岬諸島
（ポ）
サンルイ
セネガル川
ダカール
セネガル
カオラック
ガンビア
バサースト
ケーズ
バマコ
オートボルタ
ニアメ
ヌギーグミ
チャド湖
チャド
アベシェ
ヌグル
スーダン
オムダーマン
ハルツーム
ファシェル
エルオベイド
マッサワ
アスマラ
アッサブ
モカ
サヌア
アデン
アッシャーブ
ソコトラ
30°
20°
10°
0°
20°
30°
40°
50°
60°



ギニア
ギニア・ビサウ
シエラレオネ
リベリア
コートジボアール
ガーナ
トーゴ
ベニン
ナイジェリア
カメルーン
赤道ギニア
ガボン
コンゴ
(旧フランス)
中央アフリカ
ザイール
(旧ベルギー)
ウガンダ
ケニア
ルワンダ
ブルンジ
タンザニア
エチオピア
ジブチ
ソマリア
アンゴラ
(ポ)
カビンダ
(アンゴラ)
ザンビア
マラウイ
モザンビーク
ジンバブエ
(イ)
ボツワナ
南西アフリカ
(旧南ア委)
南アフリカ
スワジランド
レソト
マダガスカル
コナクリ
フリータウン
モンロビア
アビジャン
アクラ
ロメ
ポルトノボ
ラゴス
イバダン
カズナ
ヤウンデ
ドアラ
カメルーン山
4070
サンタイサベル
ポートハーコート
フェルナンドポー島
プリンシペ島(ポ)
サントーメ島
アンノボン島
(ス)
リーブルビル
バタ
フランスビル
ブラザビル
キンシャサ
ボアントノアール
カビンダ
マタジ
ボマ
バンギ
ボンド
ジュバ
キサンガニ
(スタンリービル)
ムバンダカ(コキヤビル)
コンゴ盆地
レオポルド2世湖
スタンリー滝
ルウェンゾリ山
5119
エドワード湖
アルバート湖
ムングベレ
キガリ
キンドボーカリシンビ山
4531
キブ湖
ブジュンブラ
カンパラ
エンテベ
ビクトリア湖
ナイロビ
ケニア山
5200
エルゴン山
4321
キリマンジャロ山
5895
メルー山
4568
モンバサ
タンガ
ザンジバル
ダルエスサラーム
タボラ
キーゴーマ
ムワンザ
シニャンガ
アルバートビル
タンガニーカ湖
ルクワ湖
ルングウエ山
3175
ニアサ湖
ムウェル湖
バングウェウル湖
ルアンダ
ロビト
ベンゲラ
モコ山
2610
モサメデス
アルビナ岬
フリア岬
ルブンバシ
ブロークンヒル
ルサカ
リビングストン
ビクトリア滝
ザンベジ川
カンザ川
クワンゴ川
カサイ川
ウバンギ川
コンゴ川
ソールズベリ
ブラワーヨ
ベイラ
テーテ
ゾンバ
ムランジェ山
ナムリ山
2880
モザンビーク
セロウェ
ハボローネ
プレトリア
ヨハネスバーグ
マプト(ロレンソマルケス)
ムババーネ
マセル
ダーバン
ブルームフォンテーン
キンバリー
ポートエリザベス
イーストロンドン
ケープタウン
喜望峰
アグーリャス岬
ドラケンスバーグ山脈
カプス山脈
コンパス山
2499
オレンジ川
カラハリ砂漠
ナミブ砂漠
ウォルビスベイ
リュデリッツ
グルートフォンテーン
ポートノロス
アジスアベバ
アビシニア高原
モガジシオ
ソマリア半島
アデン湾
ガルダフィ岬
ベルベラ
ハルゲイサ
ルドルフ湖
マルサビト
アンカラトラ山
2845
タナナリブ
タマタブ
マジュンガ
ツァラタナナ山
2886
アンバー岬
ジエゴスワレス
フィアナランツォア
アンツィラーベ
チュレアール
フォールドーファン
サンマリ岬
コモロ諸島
(フ)
アルダブラ諸島
コスモレド諸島
アミラント諸島
セイシェル諸島
レユニオン島
サンドニ
マスカリン諸島
モザンビーク海峡
インド洋
西洋
ギニア湾
奴隷海岸
黄金海岸
象牙海岸
穀物海岸
アセンション島
(イ)
セントヘレナ島
(イ)
300万人以上の都市
100～300万人の都市
50～100万人の都市
10～50万人の都市
5～10万人の都市
5万人未満の都市
首府
油田
比高図例(m)
3000 150 0 300 1500
6000 1500 海面 600 3000
0 400 800 1200 1600km

メルーン・トーゴランド・タンガニーカを領有，フランスの勢力圏モロッコをねらったが失敗した。このほか，イタリアはエチオピア侵入に失敗したが，ソマリランド・エリトレア・トリポリを，ベルギーはコンゴ自由国を，ポルトガルはアンゴラ・モザンビークを，スペインはモロッコ北部・リオデオーロなどを領有した。〔喜多迅鷹〕

アフリカまいまい 軟体動物・腹足綱の巻き貝。殻(から)の高さ10cmに及ぶ大形の陸貝で，マダガスカルが原産らしいが，19世紀初頭から熱帯地方に広くはびこり，野菜を食害するのできらわれている。日本では奄美(あまみ)・沖縄・小笠原(おがさわら)で被害を受けている。カタツムリの仲間だが形は細長い。アフリカでは食用にされる。茶かっ色に黄白色の縦じまがあり，かっ色の薄い皮をかむる。156ページ(写真)

アフリカーンスご【アフリカーンス語】 1925年以降南アフリカ連邦において英語とともに公用語となった言語。もとは17世紀中ごろからこの地に移住したオランダ人の言語であるが，文法は単純化されて語尾変化を失い，発音・つづり字も若干の変更をこうむり，また，英語・バンツー諸語から新しい借用語を取り入れて，独特の発達をした。しかし，オランダ語使用者と互いに理解し合うことは可能。現在はボーア人とよばれるオランダ人の子孫によっておもに用いられる。➔アフリカ諸語

アフリカントロプス ［Africanthropus］ 1935年と1938年に，東アフリカ，ジャラサ湖付近のエヤシで，コール-ラルセンによって発見された洪積世(こうせきせい)中期の化石人類の2〜3の頭骨の破片につけられた属名。ワイネルトによって復元された頭骨は，低頭，長頭，突出する眼窩(がんか)上隆起，頭蓋(とうがい)容積1,100cc以下といった原人に共通する形態学的特徴をもち，猿隙(えんげき)はない。第2次世界大戦中，キールで紛失。

あぶりだし【炙り出し】 あぶることにより絵や文字が現われてくること。遊びやくじ・秘密通信などに使われる。希硫酸，ミカンのしる，ソーダ水，ミョウバン水溶液，食塩水，日本酒などで紙に絵や字を書く。かわけば，見た目には普通の紙と同じである。が，あぶれば絵や字が黒く焦げて出る。これはさきにあげたものが，紙のセルロースが熱で炭化するのを促進するためである。塩化コバルトの薄い溶液を使うと青色が現われる。また，あぶり出しではないが撥水(はっすい)性や親水性のある薬液などを使って水に浮かべたとき，形が現われるようにしたものもある。〔三輪誠・玉野秀樹〕

アプレイウス ［Lucius Apuleius］ (123ごろ〜？) 古代ローマの小説家。2世紀後半に活躍した。魔術使いの嫌疑(けんぎ)を受けて《弁明》を著わした。《黄金のろば》11巻は現在完全な形で残っている，最も古く，かつ代表的なラテン語の小説である。

アプロディテ ［Aphrodite］ ギリシア神話の愛と美と豊穣(ほうじょう)の女神。ローマ神話のウェヌス(ビーナス)と同一視される。ゼウスの娘とも，またクロノスに切断されて海に投じられたウラノスの男根から生じたあわ(アプロス)から生まれたともいう。ギリシア全土で崇拝され，多くの異名と権能をもつが，本来は東方に起源をもつ豊穣多産の女神であった。鍛冶(かじ)神ヘパイストスの妻であったが，軍神アレスと情を通じ，エロス・アンテロス・デイモス(恐怖)・ポボス(逃走)・ハルモニアらを生んだという。また，トロヤ戦争ではアンキセスに生ませたむすこアイネイアスが属するトロヤ方に味方した。〔左中庸博〕

アフロユーラシア ［Afro-Eurasia］ アフリカ大陸とユーラシア大陸は，スエズ地峡によってわずかにつながっており，これを一つにしてアフロユーラシアという。アフリカ・ヨーロッパ・アジアの三大陸を合わせた呼称で，歴史的には旧大陸に相当する。面積8,520万km² で，世界の陸地の62%，人口28億で，世界の82%にあたる。

あべいそお【安部磯雄】 (1865〜1949) 社会運動家。福岡県出身。同志社大学卒業後，アメリカの神学校に学び，帰国後，母校と早稲田(わせだ)大学の教授としてキリスト教社会主義の啓蒙(けいもう)宣伝に努めた。1901年(明治34)幸徳秋水らと社会民主党を結成，日露戦争には非戦論を唱えた。1905年石川三四郎と雑誌《新紀元》を発刊。昭和初期，社会民衆党・社会大衆党の党首となり，代議士当選4回。早大野球部の創始者でもある。〔岸野淳子〕

あべいちぞく【阿部一族】 森鷗外(おうがい)の短編小説で，1913年(大正2)《中央公論》に発表。明治天皇に殉じた乃木希典(のぎまれすけ)の死を機に書かれた〈殉死小説〉の一編で，封建時代のモラルが形骸(けいがい)化し，いかに人間性を傷つけるかを描いたすぐれた歴史小説である。主の命により殉死を許されなかった武士が周囲の白眼に耐えられず自殺し，子孫一族も主家に反抗せざるをえず，ついに滅亡するという経緯をたどる。



アプロディテ　ルドビシの玉座側面浮き彫り《アプロディテの誕生》ローマ国立博物館蔵



安部磯雄

あべかわ【安倍川】 静岡県北部山地に源を発し，県の中央部を南下して駿河(するが)湾に注ぐ。流程55km。平時は水量が少なく，下流には礫(れき)の広い川原をみせているが，降雨時には増水が急速で，川原いっぱいに濁流が流れ，しばしば氾濫(はんらん)に悩まされる。東海道式荒れ川の一つである。江戸時代，東海道の渡河点付近の茶屋で売られた安倍川餅(もち)は，通行者に賞味された。

あべかわもち【安倍川餅】 静岡の銘菓。もちを焼いて湯に浸し，柔らかくしたものに，砂糖，きな粉，少量の塩を混ぜたものをまぶしてつくる。また，つきたてのもちをうすの中で小さくちぎり，砂糖蜜(みつ)を塗り，きな粉と砂糖を同量にし，塩少々加えたものをまぶしてさらに盛り，その上から白砂糖を振りかけて出す。江戸時代，東海道府中(静岡市)の南端安倍川付近の茶店で旅人相手に商われたもの。なお，〈静岡安倍川餅〉はきな粉をまぶしたものと，アズキのこしあんでくるんだものをさらの上に並べ，白砂糖をかけて勧める。〔塩川ふみ〕

あべこうぼう【安部公房】 (1924〜) 小説家。東京滝野川の生まれ。東京大学医学部在学中に詩・小説を発表，《壁−S.カルマ氏の犯罪》で芥川(あくたがわ)賞を，《赤い繭》で戦後文学賞を受賞した。資本主義下の人間疎外や現代社会の実存的なものを前衛的・実験的手法で追求，第2次世界大戦後の文壇に特異な地位を占めている。代表作に《バベルの塔の狸(たぬき)》《第四間氷期》《石の眼》《砂の女》《他人の顔》など。ほかに《制服》《どれい狩り》などの戯曲がある。

あべし【阿倍氏】 孝元天皇の子孫と伝え，皇別有力氏族。姓(かばね)は臣(おみ)。大和(やまと)(奈良県)十市郡安倍を発祥地とし，その勢力は東海・北陸・東北地方に広がった。大化改新の左大臣倉梯麻呂(くらはしまろ)，大宝年間(701〜703)の右大臣御主人(みうし)・将軍比羅夫(ひらふ)，遣唐留学生仲麻呂らはことに名高い。

あべし【安倍氏】 平安後期，いまの岩手県地方を中心に勢力をふるった地方豪族。中央の阿倍(あべ)氏の後裔(こうえい)と伝えるが信じがたい。もともと蝦夷(えぞ)の族長であろう。頼時(よりとき)・貞任(さだとう)父子は前九年の役を起こして源頼義(よりよし)・義家父子の追討を受けたが，子孫は中世の安東・秋田氏らである。

あべしげつぐ【阿部重次】 (1598〜1651) 江戸初期の老中。武蔵(むさし)(埼玉県)岩槻(い

(わつき)城主。正次の子。はじめ三浦重成の養子となったが，兄の死で阿部氏に復した。1632年(寛永9)小姓組番頭(ばんがしら)となり，1633年松平信綱(のぶつな)・阿部忠秋(ただあき)らとともに六人衆(若年寄)として幕政に参与。1638年老中となり，九万八千石を領した。1651年(慶安4)将軍家光(いえみつ)に殉死。子孫は宮津・宇津宮(うつのみや)を経て，1710年(宝永7)備後(びんご)(広島県)福山十万石を領して明治に及んだ。〔善積美恵子〕

あべしょうおう【阿部将翁】(?～1753) 名は照任，字(あざな)は亨，通称は友之進。江戸時代の本草学者。南部盛岡に生まれる。若いとき近海で遭難し，10数年中国の杭州(こうしゅう)で医学と本草学を学んだとする説もある。殖産興業政策を推進しつつあった幕府に登用され，1722年(享保7)採薬使に任ぜられ，さらに1728年には神田紺屋町の薬草置場の管理を命ぜられたほか，幕命により蝦夷(えぞ)を含め全国各地で薬草の採集にあたった。将翁の学風の特徴の第1は経験の重視である。彼は採集観察のほか，みずから栽培を試み，植物の生育を調べている。第2は，実用を重んじる態度が注目される。彼が特に重視したのは，殖産興業政策の対象として国産化が要請された薬用諸作物であった。〔中村禎里〕

あべじろう【阿部次郎】(1883～1959) 哲学者・美学者。山形県の生まれ。東京大学哲学科卒。夏目漱石(そうせき)の門下。慶応義塾(ぎじゅく)大学講師などを経て，東北大学教授(1921～1945)。この間1923～1924年(大正12～13)ドイツに留学。帰国後，新カント派の立場から哲学・倫理学・美学を講じ，同時に近松・西鶴(さいかく)・《万葉集》などの日本文化を研究。大正デモクラシーの代表的思想家で，個人主義的理想主義・教養主義はニーチェ・ゲーテ・ダンテの研究に現われ，《人格主義》はその哲学的立場を表明している。青春の魂の彷徨(ほうこう)をつづった《三太郎の日記》は広く読まれた。著書はほかに《彷徨(ほうこう)》《倫理学の根本問題》《美学》《ニイチェのツアラツストラ》《北郊雑記》《地獄の征服》《世界文化と日本文化》《秋窓記》《残照》など。また共著に《芭蕉(ばしょう)俳句研究》《芭蕉俳諧(はいかい)研究》その他がある。

あべしんのすけ【阿部真之助】(1884～1964) ジャーナリスト・評論家。群馬県に生まれる。東京大学卒業後，満州日日新聞にはいり，のち東京日日新聞・大阪毎日新聞で記者生活40年を送る。人物・社会・政治評論に活躍し，自由主義的評論家として定評があった。1955年(昭和30)第3回菊池寛賞，1956年新聞文化賞を受賞。日本エッセイストクラブ・国語審議会・NHK会長を歴任。

アベスタ［Avestā］ ゾロアスター教の聖典。ササン朝*時代に編纂(へんさん)されたものが現存する。開祖ゾロアスターの教義・祭儀・賛歌などからなる。古代東イラン方言で書かれ，インドの《ベーダ*》とともに，古代インド・イランの言語・宗教の研究に貴重な文献とされている。

あべただあき【阿部忠秋】(1602～1675) 江戸初期の老中。下野(しもつけ)(栃木県)壬生(みぶ)，次いで武蔵(むさし)(埼玉県)忍(おし)城主。忠吉(ただよし)の子。1633年(寛永10)松平信綱(のぶつな)・堀田正盛(ほったまさもり)らとともに六人衆(若年寄)として幕政に参与。1635年加判の列(老中)となる。家光(いえみつ)・家綱の2代に仕えて幕政の確立に尽力。忍八万石を領し，1666年(寛文6)辞任。孫の正武(まさたけ)のとき十万石となり，のち子孫は白河(しらかわ)に移り幕末には棚倉(たなくら)に移った。

あべともじ【阿部知二】(1903～1973) 小説家・評論家・英文学者。岡山県の生まれ。東京大学英文科卒。同人誌《朱門》《文芸都市》などに参加。《詩と詩論*》にも関係した。1930年(昭和5)《主知的文学論》で新興芸術派の新人として注目される。代表作《冬の宿》は1935年前後の知識人像を描いて肉体と精神の葛藤(かっとう)を象徴的にとらえた。ほかに《風雪》《日月の窓》など。

アベナテスト［avena test］ アベナ(マカラスムギ)の芽ばえの伸長帯が生長促進物質に対して敏感に反応することを利用したオーキシン生物定量法の一。子葉鞘(しようしょう)を用いた伸長測定法・屈曲度測定法，根毛の伸長度測定法などいくつかの定量法があるが，ふつう，アベナテストといえばアベナ屈曲試験法をさす。この方法は暗室内でアベナ種子をぬれた濾紙(ろし)上で発芽させ，根が約2mm伸びたときにおがくずなどの上に移し換えて暗所で2日間育てる。次に頂端部1mmを切り，3時間後に再び4mm切除してから第1葉を静かに引き出し，試験物質を溶解，または拡散させた寒天片をこの子葉鞘の片側に，第1葉に接して載せる。一定時間後の子葉鞘の屈曲角を測り，これと別にインドール酢酸の種々の濃度溶液を用いてその屈曲角を測って標準曲線をつくっておいたものと比較することによって定量する。測定前12～18時間にあらかじめ胚乳(はいにゅう)を切除しておくと感度が数倍に高まる。〔吉田精一〕

アベナリウス［Richard Avenarius］(1843～1896) ドイツの哲学者。チューリッヒ大学教授。実証主義者で，経験批判論*の主唱者として知られる。その中心思想は，感覚に直接与えられる〈純粋経験〉をもって世界を考える点にある。彼はそれを生物学的に説明するが，純粋経験の世界においては，精神と肉体というような通常行なわれる区別はなく，かかる形而上学(けいじじょうがく)的な概念を排し，純粋経験に基づいて世界の自然的概念をとらえるのが哲学の仕事であるとした。主著《純粋経験批判》。〔寺中平治〕

アペニン(山脈)［Apennines］ イタリア半島の脊稜(せきりょう)山脈。西はアルプス山系の延長である海岸アルプスから始まり，東はイタリア半島の東南端に及ぶ。ベスビオ山をはじめ火山が多い。全長約1,300km，幅約120km，平均高度1,000～1,500m，最高峰はモンテコルノ山(2,915m)。鉱産には乏しいが，リグリア海岸に近いカララからは大理石を産する。

あべの【阿倍野(区)】 大阪市南部の区。人口12万。上町台地南部一帯を占める住宅地域で，特に南部の北畠(きたばたけ)・帝塚山(てづかやま)は高級住宅街として名高い。台地西寄りに阿倍野筋(もと熊野(くまの)街道)が走り，沿道には金塚(かなづか)・柘榴塚(ざくろづか)・播磨塚(はりまづか)・松虫塚・聖天(しょうてん)山などの古墳群や，北畠親房(ちかふさ)・顕家(あきいえ)父子を祭る阿倍野神社がある。北端には天王寺駅があり，関西線・阪和(はんわ)線・大阪環状線が通ずるほか，近畿(きんき)日本鉄道南大阪線・南海電鉄上町線・地下鉄・市電・バスなどが集まり，大阪の南の玄関口となる。駅付近はデパート・映画館・飲食店の多い繁華街である。

あべのくらはしまろ【阿倍倉梯麻呂】(?～649) 内麻呂ともいう。645年(大化1)蘇我(そが)氏滅亡後，孝徳天皇が即位し大化改新が開始されるにあたり左大臣に迎えられ，右大臣蘇我石川麻呂，内大臣中臣鎌足(なかとみのかまたり)(藤原鎌足)らとともに国政の枢機にあずかった。娘小足媛(おたらしひめ)は孝徳天皇の妃で有間皇子の母。

あべのさだとう【安倍貞任】(1019～1062) 平安後期の奥州(東北地方)の豪族。父頼時(よりとき)から陸奥(むつ)岩手郡を譲られ，前九年の役*には父・弟らとともに源頼義(よりよし)と抗戦したが，1062年(康平5)ついに厨川柵(くりやがわのき)に敗死した。

あべのせいめい【阿倍晴明】(921～1005) 平安中期の陰陽家(おんみょうか)。土御門(つちみかど)家の祖。賀茂忠行(かもただゆき)・保憲(やすのり)父子に陰陽術を学び，天文の気色をみて事変を予見したと伝えられる。著書に《金烏玉兎集(きんうぎょくとしゅう)》がある。

あべのなかまろ【阿倍仲麻呂】(698～770) 奈良時代の学者・文人。717年(養老1)玄昉(げんぼう)・吉備真備(きびのまきび)らと入唐(にっとう)，玄宗皇帝に仕え，李白・王維らと交わり，唐において文名・学才をうたわれた。753年(天平勝宝5)帰国の途についたが難船し，唐にもどって翌年没した。

あべのひらふ【阿倍比羅夫】 生没年不詳。7世紀の武将。658年(斉明4)水軍を率いて秋田・津軽方面の蝦夷*(えぞ)を討ち，さらに粛慎*(みしはせ)をも討った。翌年再征し後方羊蹄(しりべし)(北海道後志(しりべし)支庁のあたり)に政庁を置き，郡領を任じて帰還。百済(くだら)救援の際にも将軍として出征した。のち大宰帥(だざいのそち)にもなったらしい。

あべのぶゆき【阿部信行】(1875～1953) 軍人・政治家。石川県出身。陸軍大学卒業，陸軍次官を経て1930年(昭和5)浜口内閣の陸相代理となり，軍事参議官などを歴任し，1936年の二・二六事件後大将で退

役。1939年8月独ソ不可侵条約で平沼内閣が瓦解(がかい)したあとを受けて組閣したが，貿易省設置の失敗，衆議院議員280名余の不信任決議などで5か月の短命に終わった。1942年翼賛政治体制協議会総裁となった。

あべのむねとう 【安倍宗任】 生没年不詳。平安後期の奥州の豪族。頼時(よりとき)の子，貞任(さだとう)の弟。鳥海(とりみ)三郎と称す。前九年の役*では鳥海柵(とりみのさく)によって源頼義(よりよし)の軍に抵抗したが，1062年(康平5)厨川(くりやがわ)の戦いで兄貞任敗死のあと降伏し，1064年京都へ連行され，次いで伊予(いよ)(愛媛県)，さらに太宰府(だざいふ)に移されたと伝えられる。

あべのよりとき 【安倍頼時】 (?～1057) 平安後期，陸奥(むつ)の北上川流域一帯の6郡(岩手県あたり)に勢力を張った豪族。貞任(さだとう)・宗任(むねとう)兄弟の父。国司に抵抗し年貢(ねんぐ)を抑留したため源頼義(よりよし)の討伐を受け(→前九年の役)，鳥海柵(とりみのさく)で抗戦中戦死した。

アベベ [Abebe Bikila](1932～1973) オリンピック史上初のマラソン連覇(れんぱ)を成し遂げたエチオピアの長距離選手。エチオピア皇帝親衛隊員。1960年の第17回オリンピック-ローマ大会のマラソンに2時間15分16秒2(世界最高記録)で優勝。はだしで走り，レース直後に〈もう1度走れる〉と言ってのけたことから〈はだしの王者〉として一躍有名になった。次回のオリンピック東京大会でも盲腸の手術後にもかかわらず，再び2時間12分11秒2(世界最高記録)で優勝した。1969年自動車事故で脊髄麻痺(せきずいまひ)となったが，同年のパラリンピック*に車いすに乗ってアーチェリー*に出場し，5位に入賞した。 〔伊東春雄〕

あべまき 【阿部槙】 双子葉植物・ブナ科。暖地の山地にはえる落葉高木。葉は細長くクリに似るが，針状の鋸歯(きょし)があり，裏面に白毛を密生させる。4～5月に雄花を枝の下部に，雌花を上部につける。果実は丸く，2年めに熟す。材は薪炭・家具材に用いられる。

あべまさひろ 【阿部正弘】 (1819～1857) 江戸幕府の老中。備後(びんご)(広島県)福山十万石の藩主。正精(まさきよ)の子。伊勢守(いせのかみ)。奏者番・寺社奉行(ぶぎょう)を歴任，1843年(天保14)老中。1845年(弘化2)水野忠邦に代わり老中首座となる。1853年(嘉永6)アメリカ使節ペリーが来朝したとき，その要求で開国*し，アメリカ・ロシア・イギリスなどと和親条約を締結した。内政面では協調政策を推進して徳川斉昭(なりあき)・島津斉彬(なりあきら)らと結び，政局の安定を図った。また，海軍や蕃書調所*(ばんしょしらべどころ)を創設した。→日米和親条約 〔松尾 涼〕

アベ-マリア [Ave Maria] ローマ-カトリック教会の祈禱文(きとうぶん)。〈天使祝詞〉と訳される。祈禱文は新約聖書《ルカ福音書》(第1章28節と42節)，および15世紀に付加された教会の祈りからなりたっている。カトリック信者が聖母マリアを賛美し，その取りなしを祈願するために用いる。→アンジェラス

あべよししげ 【安倍能成】 (1883～1966) 哲学者。愛媛県松山市の生まれ。東京大学哲学科卒。夏目漱石(そうせき)の門下。女子英学塾(じゅく)(現在の津田塾大学)・一高(現在の東京大学教養学部)講師，法政大学教授などを兼任。1924～1926年(大正13～15)西洋留学ののち京城帝大教授(1924～1940)，一高校長(1940～1946)，1946年(昭和21)文部大臣，1947年より逝去(せいきょ)するまで学習院院長。哲学的にはスピノザの自由論をカントの実践理性優位の思想と結びつけた。気骨ある自由主義者・平和論者で，文部大臣在任当時，日本の教育制度改革について戦勝国アメリカの方策に反対する意見を直言した。著書《西洋古代中世哲学史》《西洋近世哲学史》《カントの実践哲学》《西洋道徳思想史》《スピノザ倫理学》《山中雑記》《思想と文化》《青丘雑記》《巷塵抄(こうじんしょう)》《時代と文化》その他。《選集》5巻がある。 〔中川 誠〕



アベベ オリンピック東京大会のマラソンで，トラックにはいってきたところ



アベリア アベリア-グランディフロラ



アベル《母と子》 1952 大原美術館蔵

アベラール [Pierre Abélard] (1079～1142) フランスのスコラ哲学者。ラテン名アベラルドゥス。ナント近郊パレの生まれ。パリに出て師を論駁(ろんばく)することによって名声を得，哲学と神学の教師となった。尼僧エロイーズとの愛はこのころに始まる。以後，各地の修道院を放浪し，クリュニー修道院で死んだ。普遍論争*においては，唯名論と実念論をともに退け，普遍は個物の内にあるとする概念論の先駆となった。また意志のみが行為の善悪の基準となるとした。主著《汝自身を知れ》《然(しか)りと否》。

アベリー [Oswald Theodore Avery] (1877～1955) アメリカの細菌学者。1944年に肺炎双球菌の形質転換*因子がDNA*であることを発見し，遺伝子の実体がDNAであるという有力な証拠を提示した。→遺伝子

アベリア [*Abelia*] 双子葉植物・スイカズラ科。ツクバネウツギ属のこと。ヒマラヤ・東アジア・中央アメリカなどに分布する小木。葉は全縁または有鋸歯(ゆうきょし)の対生葉。2～5個の宿存性のがく片を有し，黄色状の花冠は5浅裂する。おしべ4本，子房3室。ツクバネウツギ・メツクバネウツギ・コツクバネウツギ・ハナツクバネウツギなどがある。

アペリチフ [apéritif] 食事のまえに食欲増進のために供する酒。味はふつう口あたりのさわやかな中くらいの辛口のもの，主としてシェリー・ベルモット・マディラ酒・マルサラ酒などが用いられる。

アベル [Abel] 《旧約聖書》でアダム*とイブ*の第2子で，信仰心のあつい人物。《創世記》第4章によれば，農耕を業とする兄カイン*と牧畜を業とするアベルが，ヤーウェ神に供物をささげた際，神がアベルのささげた子ヒツジだけを喜んで受け入れたため，カインのねたみにあって殺害された。《新約聖書》ではカインが罪人とされるのに対して，アベルは正義心の強い義人とされる。

アーベル [Niels Henrik Abel] (1802～1829) ノルウェーの数学者。首都クリスティアニア(現在のオスロ)のそばのフィンドエで生まれた。代数学や解析学にすぐれた業績を残したが，中でも五次方程式が代数的に解けないことの証明と楕円(だえん)関数の研究は有名である。収束の中に一様収束の考えを入れたのも彼である。彼は貧困の中に生活したが，多くのすぐれた論文を残した。結核により27歳の若さで死亡したが，彼の業績はその後の数学に大きな変革をもたらした。 〔下平和夫〕

アーベル [Ochenio Abel] (1875～1946) ドイツの古生物学者。ゲッチンゲン大学の教授。古生物学や進化論について多くの研究を公表しているが，特に化石脊椎(せきつい)動物とその古生態に関する研究がすぐ

れている。生物の生活の痕跡(こんせき)(生痕という)の化石の研究は，彼によって始められたということができる。

アペル [Karel Appel] (1921〜) オランダの画家。1948年に前衛芸術のグループである〈COBRAコブラ〉の創立に参加。その激情的な色彩といわゆる非定形の表現は強い独自性をうかがわせる。1952年〈アンフォルメルの意味するもの〉展に出品，1958年にはパリ-ユネスコ本部の壁画を描いた。➔前ページ(写)

アペルドールン [Apeldoorn] オランダ中部，ヘルダーランド県にある田園都市。人口12万7,000(1970)。鉄道・運河などの交通の要地であり，プール・キャンプセンター・レストランなどをもつレクリエーションの中心でもある。

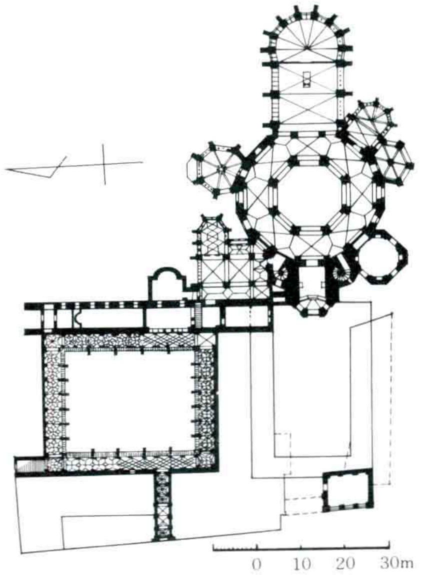
アベロエス [Averroes] (1126〜1198) スペインのアラビア哲学者。アラビア名イブン-ルシュド。アリストテレス哲学を最高の真理と考え，多くの注釈と義解を残した。そのため，中世ヨーロッパでは〈注釈家〉とよばれ，その影響のもとにラテン-アベロエス派が生まれた。彼は哲学と宗教の調停を企て，真理に対する3段階の認識を区別し，これがのちの〈二重真理説〉を生むことになった。また，全人間に共通の知性のみが不滅であり，各個人の霊魂は不滅ではないとした。〔左中庸博〕

あへん 【阿片】 未熟なケシの果実に傷をつけ，流れ出た乳液を集め乾燥したもの。あへんの採取はすでに紀元前に小アジア地方で行なわれ，その後ペルシア・インド・中国などに伝わっている。おもに薬用として用いられたが，17世紀ごろから中国で吸煙料として使用されだした。現在ユーゴスラビア・ギリシア・ブルガリア・ソ連・インド・パキスタン・トルコおよび日本で合法的に採取生産されている。あへんの成分で重要なものはアルカロイド*で，あへんアルカロイドと総称され，その数は20種以上に達する。このうちモルヒネ*の含量が最も多く7〜20%，ほかにコデイン・テバイン・パパベリン・ノスカピンなどを含んでいる。アルカロイド以外にメコン酸・メコニンなどの有機物，カリウム・カルシウムなどの無機物も含む。あへんではモルヒネばかりでなく，その他のアルカロイドにも薬理作用があり，これらが協同して薬効を発揮する。鎮痛・鎮咳(ちんがい)・催眠・麻酔補助などにあへん末・あへん散・あへんチンキとして適用される。ドーフル散はあへん末ととこん末(➔トコン)よりつくった散剤で上記の目的に使用する。あへんは乱用すると習慣性があり，あへん中毒となるので注意を要する。あへんの製造・販売などは麻薬取締法できびしく規制されている。➔阿片中毒 ➔麻薬 〔中館正弘〕

アーヘン [Aachen] ベルギーおよびオランダとの国境に近いドイツ連邦共和国(西ドイツ)の都市。人口17万3,000(1970)。鉄道交通の要地。炭田地帯にあり，商業の中心地であるとともに織物・機械類の工業も盛んである。ローマ時代から知られた温泉があり，観光保養地としても知られる。9世紀，カール1世*によって創建された古い都市で，市街にはアーヘン大聖堂*はじめ歴史的建造物が多い。



阿片戦争 イギリス船ネメシス号の広東砲撃



アーヘン大聖堂 平面図

あへんせんそう 【阿片戦争】 世界の資本主義体制確立期における，イギリスと清(しん)国の間のあへん密貿易をめぐる戦争。中国近代史の出発点ともなっている。19世紀にはいり，あへんはイギリス・清・インド三角貿易の重要な商品となったが，清朝は，多量の銀の国外流出とそれに伴う国内経済の崩壊を阻止するため，あへん禁輸令を下した。欽差(きんさ)大臣林則徐*がそれを厳格に実施したところ，イギリス商人の抵抗にあった。1840年4月，イギリス議会はあへん販売の利益を守るための政策を通過させた。開戦後，清朝は，林則徐を免職し，広東(カントン)省三元里の反英人民闘争をおさえるなどの失敗を重ね，1842年8月イギリス艦隊が南京(ナンキン)に迫るや降伏して南京条約を締結した。以後，中国は半植民地，半封建社会へと移行していく。〔狭間直樹〕

アーヘンだいせいどう 【アーヘン大聖堂】 796年から804年にかけてアーヘンに造営されたカール1世の宮殿付属の礼拝堂。原形は，サン-ビターレ聖堂*によく似た構成をとった円形平面の独立した教会で，中央の8本の柱の上にドームをのせ，その外側を16角形の周廊が取り巻く。後代の増築工事のためか外壁をそこなってはいるが，ロマネスク建築の特色である求心的な平面や内部の構成には，まだ初期のふんい気がうかがえる。〔田島 学〕

あへんちゅうどく 【阿片中毒】 あへん*による急性または慢性の中毒。急性中毒は通常自殺の目的で多量のあへんを服用したときにみられ，縮小した無反射性の瞳孔(どうこう)，めまい・意識障害・口渇(こうかつ)・発汗・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・便秘があり，チアノーゼ，呼吸・脈搏(みゃくはく)の異常，呼吸麻痺(まひ)を起こし死亡することもある。治療は胃洗浄，下剤の投与のほか，人工呼吸・酸素吸入・アトロピンの注射などを施す。慢性中毒は常習的なあへん喫煙や持続的な薬用使用などによって起き，使用をやめると禁断現象を起こす。中毒患者の皮膚は蒼白(そうはく)となり，弛緩(ちかん)し，眼光鈍く，瞳孔は縮小し，左右不同・複視の症状が現われる。恐怖・不安・不眠，ときに幻覚や手足のふるえを訴えたりする。常習者の治療は困難で精神病院に入院させて拘禁するほか，再使用を防止し，治癒(ちゆ)者の社会復帰策をはかるなどの対策が必要である。➔麻薬 〔朝倉 了〕

アーヘンのわやく 【アーヘンの和約】 ①1668年フランスとオランダ・イギリス・スウェーデンの間に結ばれた，ネーデルラント戦争終結の和約。

②1748年オーストリア・プロイセン・フランス・イギリスの間で結ばれた，オーストリア継承戦争*終結の和約。列国はオーストリアのマリア-テレジア*の帝位継承を認めたが，オーストリアはプロイセンのシュレジエン取得を承認した。

アポ(山) [Apo] フィリピンの最高峰。ミンダナオ島南部，ダバオの西南約30kmにある活火山で，標高2,955m。山形は大爆発によって頂部を失った円錐(えんすい)形を示し，盛んに硫気を噴出している。ふもと一帯は国立公園に指定され，探勝の客も多い。

あぼうきゅう 【阿房宮】 中国の秦(しん)の宮殿。始皇帝が渭水(いすい)の南につくったもので，前殿はすこぶる大きく，10,000人を収容できたという。始皇帝1代では完成せず，工事は2世皇帝に引き継がれたが，秦の滅亡のときに焼き払われた。

あほうどり 【信天翁】 鳥類・ミズナギドリ目・アホウドリ科の総称とその中の一種をいう。この科の鳥は大形の海鳥で，世界に13種を産する。そのうち北半球で繁殖するものは，アホウドリ・コアホウドリ・クロアシアホウドリの3種で，日本では鳥島・硫黄(いおう)列島でいずれも少数が繁殖している。その中の一種であるアホウドリは翼開長約2mで，滑空飛行に適し，外洋で生活する。羽毛採取のために乱獲され，現在世界じゅうで鳥島だけにわずか数十羽が繁殖しているだけにすぎず，絶滅の危機に瀕(ひん)している。そのため，1962年(昭和37)国際保護鳥に指定された。 〔安部直哉〕

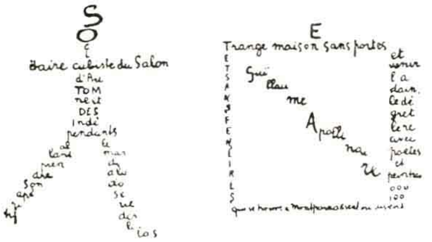
アボカド [avocado] 双子葉植物・クスノキ科。ワニナシともいう。メキシコ原産の常緑樹で高さ5〜10mに達する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で光沢があり，裏面は白色。花は黄白色で枝先に集まって咲く。果実は西洋ナシ状で，果皮は熟すと紫色になる。果肉は黄色でバターのように柔らかく，脂肪を多量に含み，生食するほか，トマトのサラダ，アイスクリームなどに用いられる。

アボガドロ [Amedeo Conte di Quaregna di Ceretto Avogadro] (1776〜1856) イタリアの物理学者。はじめ法律を勉強したが，のち物理に転じ，1820年トリノ大学でイタリア最初の理論物理学を担当した。電気・比熱・毛管現象など多方面の研究を行なったが，彼の名を不朽にしたのは，1811年の分子概念の提出であり，気体の膨張の研究から原子・分子を区別して，ドルトンの原子説を補い，ゲイ-リュサックの気体反応の法則を発展させた。この説は難解であったため，カニッツァロによって再発見され，1860年カールスルーエの世界化学者会議で公表されるまで認められなかった。
➔アボガドロの法則 〔山下愛子〕

アボガドロすう 【アボガドロ数】 アボガドロの法則に従って導き出された1モル(1グラム分子)の純物質中に存在する分子数，または1グラム原子中の原子数。現在最も信頼しうる値は$6.02380 \pm 0.0001 \times 10^{23}$(化学的原子量による計算値)，$6.02486 \pm 0.00016 \times 10^{23}$(物理的原子量による計算値)。この値は1865年J.ロシュミットが1cm^3の標準状態の気体中の分子数(ロシュミット数)として最初に求めて以来，多くの実験がな



アホウドリ



アポリネール 詩集《カリグラム》所収の文字(語)の配列による詩

されている。現在定量的に最も精度の高い測定法は，ダイヤモンドの単位格子(こうし)の格子定数および単位格子に属する原子数を決める方法である。〔三輪誠・野宮健司〕

アボガドロのほうそく 【アボガドロの法則】 1811年アボガドロによって，気体における分子の存在を予言する仮説(アボガドロの仮説)として発表されたが，分子の存在が証明されてからはアボガドロの法則とよばれるようになった。これは〈すべての気体は同温・同圧のもとでは同体積中に同数の分子を含む〉というもので，ドルトンの原子説の不備を補い，原子と分子をはっきり区別した。

アポクシュオメノス [Apoxyomenos] ギリシア彫刻。リュシッポス作のブロンズによるローマ時代の大理石模刻。原作は残っていない。競技を終えたのちに，左手のへらで右腕の汗を落としている青年の立像で，四肢(しし)や筋肉の動き，8頭身の比例が新鮮である。

あぼしんのう 【阿保親王】 (792〜842) 平城天皇の第1皇子。母は葛井道依(ふじいのみちより)の娘。在原(ありわら)行平・業平(なりひら)らの父。810年(弘仁1)薬子(くすこ)の変に連座して大宰権帥(だざいのごんのそち)に左遷された。いくばくもなく許され，826年(天長3)には子行平らに在原朝臣(あそん)の姓を賜わった。842年(承和9)の承和(じょうわ)の変は親王の密告によって起こったといわれる。

アポリネール [Guillaume Apollinaire] (1880〜1918) フランスの詩人。20世紀前半のさまざまな芸術上の新傾向(キュービスム・未来派・モダニズム)の中心人物として，熱情的に活動した。過去の芸術が因習化しているとして，その死を宣告する〈新精神(エスプリ-ヌーボー)〉は，《アルコール》を経て《カリグラム》に至り詩作として高度に結晶した。さらに夢や潜在意識など，人間の意識の深層を解明しようとする芸術的な試みは，ダダイスムやシュルレアリスムの芸術思潮の誕生を促した。〔森 英樹〕

アポロけいかく 【アポロ計画】 月着陸を目的としたアメリカの宇宙計画。1961年5月，大統領ケネディが，〈1960年代のうちに実現するということを国家目標としよう〉と宣言し，総費用も200億ドルを見込んだ。翌年には，3人乗りの宇宙船がいったん月の孫衛星となり，そこから2人乗りの着陸船を発進させてこの2人だけが月面に降り立ち，着陸船は月面離陸後母船である司令船とランデブー・ドッキングして，2人は母船にもどる方式が確立された。打ち上げ用ロケットはサターン5型。アポロ宇宙船は司令船・機械船・着陸船の3部からなり重さ43t。

1967年1月，アポロ宇宙船を地球のまわりの軌道でテストしようとする初の試みは，発射台上での船内の火災により，3宇宙飛行士の焼死という事故で中絶し，計画自体も一頓挫(いちとんざ)をきたした。しかし，事故対策も意外に急速に進み，1968年12月には，アポロ8号で月のそばを回って無事帰還するのに成功した。9号で着陸船とのランデブー・ドッキングに習熟し，10号でいま一度月面の近くまでの飛行を経験して，1969年7月に11号によって，ついに人類最初の月着陸が実現した。それは，日本時間の7月21日午前5時17分のことで，着陸地点は〈静かの海〉の予定地点のすぐそばである。はじめて月面におり立ったアームストロング船長の第一声は〈ひとりの人間にとって，これは小さな1歩だが，人類にとっては偉大な飛躍だ〉であった。地震計とレーザー反射鏡・太陽風観測幕の設置，岩石採取(22kg)，写真撮影など2時間余りの作業を終え，着陸船で睡眠をとってから離陸した。11号には，船長のほかにオルドリンとコリンズが乗っていた。同年11月には12号が発射され，11号以上に正確に〈あらしの大洋〉の東南端の予定地点に着陸した。それは，1967年4月に月面に軟着陸した無人の探査体サーベイヤ3号から北西わずかに180mの地点であった。12号は，原子力電池を持っていったので，地震計その他の観測装置の寿命は1年ぐらいと期待される。持ち帰った月の石は約33kg。1970年3月には13号が飛び立ったが，途中で機械船内の酸素タンクが爆発して月着陸の目的は達せられなかったが，地上管制室との懸命の努力で無事帰還できた。 〔新羅一郎〕

アホロートル [axolotl] 両生類・アンビストマ科。トラフサンショウウオの幼生のよび名で，北アメリカに分布。この幼生は体長20cmに成長し産卵する，いわゆる幼形成熟で，以前は別種と考えられていた。しかし池が干上がったり，実験的に甲状腺

(こうじょうせん)ホルモンを与えると，変態して成体となる。

アポロドロス［Apollodoros］（BC180～？） ヘレニズム時代の学者。BC146年ごろアレキサンドリア市を去り，ペルガモンを経てアテナイに永住した。彼は学識を傾けて多くの書物を著した。《年代記》はトロヤ落城（BC1184年ごろ）からBC144年までの歴史的事件・重要事項・哲学学派や著名な人物の生涯(しょうがい)と業績などをしるしたもの。彼の弟子(でし)はこれにBC119年までの記事を書き加えている。《神話目録》は古来の英雄伝説を無差別に集めたものであるが，真作かどうか疑わしい。〔久保正彰〕

アポロドロス［Apollodoros］ ローマ時代の１世紀末から２世紀初めにかけて活躍したダマスカスの建築家。ローマ建築にギリシア建築様式を取り入れた最初の建築家といわれる。トラヤヌス帝が興したフォーラム*を設計した。

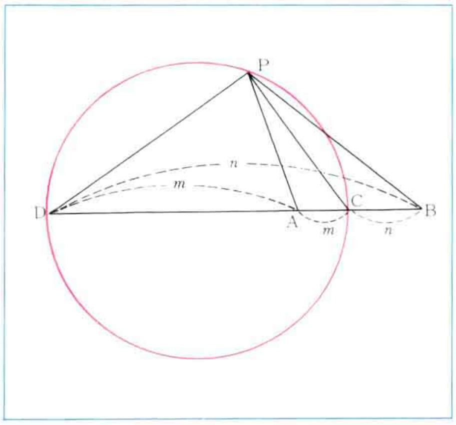
アポロニウスのえん【アポロニウスの円】 平面上の２定点A，Bからの距離の比が$m:n(m \neq n)$である点Pの軌跡は，線分ABを$m:n$に内分・外分する点をそれぞれC，Dとするとき，線分CDを直径とする円になる。この円をアポロニウス（アポロニオス*）の円という。

アポロニオス（ペルゲの）［Apollonios］（BC262？～BC200？） ギリシアの数学者。ペルゲに生まれ，アレキサンドリアで学んだ。彼の名を不朽のものとしたのは，その著《円錐(えんすい)曲線論》８巻による。この書はユークリッド*の《円錐曲線論》４巻を基本として，増補したものである。最後の第８巻は今日に伝わらないが，その他はギリシアやアラビアで写されたものが残っている。円錐の切断線を論じており，デカルトの幾何学への示唆となった。〔下平和夫〕

アポロニオス（ロドスの）［Apollonios Rhodios］（BC295～BC247ごろ） 紀元前３世紀に活躍したヘレニズム時代の詩人。アレキサンドリアの生まれ。詩人カリマコス*の後輩にあたるが，性格も詩風も異なっていたため不仲であったらしい。アレキサンドリアの図書館長に任ぜられたが，BC247年退官している。大作《アルゴナウチカ*》４巻を発表したが不評をかい，ロドス島にこもり改訂して発表したところ，その巧妙な技巧と広く豊かな知識は大かっさいをもって迎えられた。〔久保正彰〕

アポロン［Apollon］ ギリシア・ローマ神話の神。英語でアポロ。ゼウス*とレト*の子で，アルテミス*とは兄妹。芸術作品には理想的な男性美の青年として表現される。医術・音楽・弓・予言などをつかさどり，光の神としてときに太陽と同一視され，哲学など文化の発展にもかかわる。起源を小アジアまたは北方にもつ移入神であるが，神々の中で重要な地位を占め，最もギリシア的な神である。広くギリシア全土で崇拝され，その中心はデロス島とデルポイで，特にデルポイの神託は最高の権威をもっていた。神話では，レトはゼウスの妻ヘラ*の嫉妬(しっと)を避けるため，ロドス島にのがれてアポロンを生んだ。アポロンはデルポイに渡って龍(りゅう)ピュトンを退治したという。その愛は報われることが少なく，特にテッサリア王女コロニスの場合が有名。神は王女の不実を怒って彼女を矢で殺し，火葬の火の中から胎児を取り出した。これがアスクレピオス*である。古代ローマでも厚く信仰され，アウグストゥス*はパラチヌスの丘に大神殿を建てた。〔左中庸博〕

あま【亜麻】 双子葉植物・アマ科の一年草。85～100日の生育日数で，高さ70～110cmに達するが，茎の太さは２～３cmである。韌皮(じんぴ)からは亜麻繊維を採取する。亜麻繊維は開花直後に引き抜き，乾茎・浸水発酵・砕茎・櫛梳(くしけずり)などの工程で採取する。繊維の形状は単繊維の集束（20～30）で30～90cmの長さの長繊維である。断面は多角形で中央に小孔をもち，先端のとがっていることが特徴である。その性質の特色は，やや粗硬で強く光沢に富むこと，吸水して膨潤すること，表面が平滑で接触冷感が大であること，伸びは小で弾性が乏しくしわのつきやすいことである。強さを要する材料，夏の衣料，耐水性のホース・帆布，レース・ハンカチ・テーブルクロス・畳糸などに用いる。亜麻製品はリネンまたはリンネルとよばれる。その他，紙幣・たばこ巻き紙用紙の原料にし，また種子からは亜麻仁(あまに)油*を製する。ベルギー・ソ連・イギリスなどに多く産し，わが国では北海道が適地である。〔小川安朗・金木良三〕



アポロニウスの円



アポロン 音楽競技でキタラを奏し，マルシアスと技量を競うアポロン ルーブル美術館蔵



海　女 鳥羽市を中心に志摩には約2,500人の海女がおり，アワビ・サザエ・ワカメを採取している

あま【尼】 出家して仏門にはいった女性。梵語(ぼんご)bhikṣuṇī（ビクシュニー），パーリ語bhikkhunī（ビックニー）の音写語〈比丘尼(びくに)〉の略で，アマの和訓は母を意味する梵語ambā，パーリ語ammāの転化といわれる。男子の出家者である比丘よりも教団の戒律はきびしく，インドのある宗派では300以上の戒*があった。ブッダ*の養母マハーパジャパティーが最初の尼といわれる。日本では飛鳥(あすか)時代の善信尼*ら３人が最初の尼で，桜井寺に住した。天平時代には国分尼寺，鎌倉時代には鎌倉と京都に尼寺五山などが建立(こんりゅう)された。なお，在家のまま剃髪(ていはつ)し仏門にはいった女性を尼入道といい，正式な出家者とは区別された。〔小沢憲珠〕

あま【海女・海士・海人】 元来，漁労と航海に堪能(たんのう)な漁師の総称であったが，江戸以降，一般に潜水して海藻(かいそう)・貝類を採取する男女を意味し，のちに特に女性の方をさす用語となった。房総半島南部・伊豆(いず)半島東部・志摩半島・四国東南・北九州沿岸・福井県沿岸などに多く分布している。潜水作業を〈もぐる〉〈かづく〉〈すむ〉〈あまいり〉などといい，海女をもぐり，じょうずな海女を大かづきなどとよんでいる。海女は休息用の深樽(ふかだる)や潜水用眼鏡，船上と体を結びつけているいきづな（息綱）や沈下の速度を早める分銅などを用いて作業をしているところが多い。服装は昔は腰布だけだったが，いまは襦袢(じゅばん)や綿入れ・毛織物などを身につけている。

海女は，大形船の出はいりが少なく，しかも海藻や貝類に恵まれた荒磯(あらいそ)で活躍し，男子を養う立場にあって，いわゆるかかあ天下の社会を形成している。海女の歴史は《枕草子》その他の古文献にも書かれているほど古いが，現在でも重要な漁業の一つとなっている。〔渡辺欣雄〕

あま　**【海人・海女】**　能の曲名。五番目物。作者不明の古い能で，藤原房前*(ふささき)が淡海公(藤原不比等(ふひと))と讃岐(さぬき)(香川県)の海女との間に生まれた子であるという伝説に基づく。13歳の房前は讃岐の志度の浦に行き，来かかった女から次の物語を聞く。淡海公の妹が唐の帝の妃となり，3種の宝物が興福寺へ送られて来たとき，その一つ〈面向不背の玉〉が龍神(りゅうじん)に取られて海に沈んだ。淡海公は志度の海女と契りをかわし，その玉を取らせる。海女はわが子房前を大臣の位につけてくれるように頼んで水中にはいり，龍宮から奪った玉を乳の下を切って隠し，海上に浮かび出た。この物語をした者が母の亡霊であることを知って，房前が供養をすると，母は法華経(ほけきょう)の龍女成仏の話と同じ晴れやかな姿で再び現われて舞う。シテは母，ワキは房前の従者，房前は子方。間狂言(あいきょうげん)は所の者。前ジテは龍宮へ行って玉を取る〈玉の段〉が見せ場で，後ジテは龍の姿を頭に載せて早舞を舞うのが特色。〔長尾一雄〕

あまおぶねがい　軟体動物・腹足綱の巻き貝。殻(から)は厚くかたく，長さ3cmほどになり，黒地に黄白色斑(はん)を散らす。殻の内面は広く卵形で白い。殻口は半月形でこれに石灰質白色半月形のふたがかぶさる。房総以南，インド・太平洋地域に広く分布。磯(いそ)の岩近く，岩陰にぴったりつく。

あまがい　軟体動物・腹足綱の巻き貝。殻(から)は長さ2cmほどで，厚くかたい。黒地に黄白斑(はん)があるものが多いが，色彩には変化が多い。殻の内面は白く，殻口は半月形。これに白い石灰色のふたがかぶさる。本州中部以南に広く分布し，浅い磯(いそ)の岩陰に固まって，ぴったりついていることが多い。

あまがえる　**【雨蛙】**　両生類・アマガエル科。熱帯アジアとアフリカ以外の全世界に分布し，250種ほどが知られ，大半が樹上性。日本のアマガエルは，朝鮮・中国北部・沿海州にすむものの一亜種で，人家の植え込みや，低木・草むらにすむ。体長2.5〜4cm，体の背面は黄緑色から灰かっ色まで体色を変える。指先の吸盤が発達して，枝などにうまくつかまるが，ジャンプ力はない。雨が近づき気圧が下がると，盛んに鳴く。5〜6月ごろに，水田や水たまりに産卵する。〔松井孝爾〕

あまがさき　**【尼ケ崎】**　⇨絵本太功記

あまがさき　**【尼崎(市)】**　兵庫県南東端の市。古くは〈海士の幸(あまのさち)〉とよばれる。15世紀に細川氏がここに築城し，海港として栄えた。江戸時代は戸田・青山氏を経て，松平氏四万石の城下町であった。明治後期以降，阪神(はんしん)工業地帯の一環として重工業が発達し，1916年(大正5)市制施行。人口51万9,000。

市域は，神崎川と武庫川の間の低平な沖積地(ちゅうせきち)に位置し，東は大阪市と接する。産業三大別人口比は1：45：54。市域の40%が工業地に利用され，金属・鉄鋼・機械・化学・ガラス・紡績・食品など，各種工業が盛んである。関西電力の二大火力発電所をはじめ，工場数は1,000余を数え，おもに神崎川河口の三角州上に集まる。大阪湾沿岸部は海抜ゼロメートル地帯で，地盤沈下が著しく，巨大な防潮堤が巡らされている。また，近年はスモッグ・騒音などの公害も社会問題化している。

東海道本線・福知山線のほか，京阪神急行電鉄神戸(こうべ)線・阪神電鉄が走り，名神高速道路のインターチェンジもある。北部は，近年住宅地帯として発展し，周辺部では園芸作物の栽培が行なわれる。近松門左衛門(もんざえもん)の墓所広済寺があり，源義経(よしつね)が平家征討のために船出した大物浦(だいもつのうら)は，市中の繁華街の一部にその名をとどめる。〔浅井得一〕

あまがさへび　**【雨傘蛇】**　爬虫(はちゅう)類・コブラ科。クレイトとよばれる一群の毒蛇で熱帯アジアに広く分布する。どの種類も美しい斑紋(はんもん)をもち，すべてが強力な神経毒の持ち主。夜行性で致命率が高いのできわめて危険である。卵性。

あまかすじけん　**【甘粕事件】**　1923年(大正12)9月1日の関東大震災による混乱に乗じ，同月16日憲兵大尉甘粕正彦(まさひこ)らが，無政府主義者大杉(おおすぎ)栄*，妻伊藤(いとう)野枝，おい橘(たちばな)宗一(7歳)を大手町の憲兵隊に連行，虐殺した事件。甘粕らは大杉らの死体を同隊内の古井戸に投じ，遺品を焼き犯行の湮滅(いんめつ)を企てたが，すぐに発覚した。戒厳令*下に労働組合指導者や朝鮮人を不法に弾圧した諸事件の一つである。なお，甘粕は軍法会議で懲役10年の刑を受けたが，3年で出獄し，のち満州に渡り満州政界に活躍した。第2次世界大戦の終戦時に自決。〔松尾　涼〕



アマガエル



ア　マ　ギ

あまかわぶし　**【天川節】**　沖縄の民謡。〈島尻(しまじり)天川節〉ともいう。同名の古謡に現代風の三線(さんしん)の早いテンポの伴奏に乗り，川で戯れる男女を描写した男女一組みの踊りをつけたものが知られている。

あまぎ　硬骨魚類・アマギ科。20cm余りになる海産魚。フナ形で色もフナに似る。本州中部以南にすみ，夏，幼魚は岸近くに群れている。つつと進んでは立ち止まるという，クロダイに似た泳ぎ方をするのと，小さな口が，えをとるときはふいごのように伸び出すのがおもしろい。食用になるがとれる量は少ない。クロサギともいう。

あまぎ　**【甘木(市)】**　福岡県中南部の市。もと甘木山安長寺の門前町で，江戸時代には豊後(ぶんご)街道の宿場町・市場町として九斎市も開かれ，〈甘木千軒〉の繁栄を誇った。明治以降町勢は一時衰退したが，1920年(大正9)陸軍飛行隊の開設，1939年(昭和14)甘木線の開通などによって復興した。1954年市制施行。人口43,000。市域は，筑後(ちくご)平野の北部，佐田川扇状地と筑後川北岸の低湿な氾濫原(はんらんげん)にわたる。産業三大別人口比は27：29：44で，付近の農・林産物を集散し，染色・農薬・木工の諸工場もある。秋月城跡やサクラの名所丸山公園があり，特産は甘木絞り。

あまぎさん　**【天城山】**　伊豆(いず)半島中央東寄りにある火山。標高1,402mで伊豆半島の最高峰。天城火山群は東から箒木(ほうき)山・万二郎岳・万三郎岳(1,402m)・三筋山などの山々が連なり，これらが南東に口を開いた直径6〜7kmの外輪山をつくっている。八丁池などの小湖は外輪山の旧火口湖にあたる。外輪山の北東には遠笠(とおがさ)・矢筈(やはず)・大室などの寄生火山が噴出し，北麓(ほくろく)には湯ケ島，南麓には湯ケ野・峰などの温泉が湧出(ゆうしゅつ)する。外輪山の西に天城峠(標高800m)があり，伊豆半島中央部を縦断する道路が通じている。山麓はスギの美林におおわれ，また北麓の渓谷(けいこく)ではワサビの栽培が有名である。富士箱根伊豆国立公園に属する。〔高野　繁〕

あまぎとうげ　**【天城峠】**　伊豆(いず)半島のほぼ中央部，天城山の西南にある峠。標高800m。半島を北に流れる狩野(かの)川と南東流する河津(かわづ)川の分水界となっている。三島・下田間の伊豆半島中央部を縦断する道路がこれを越えている。

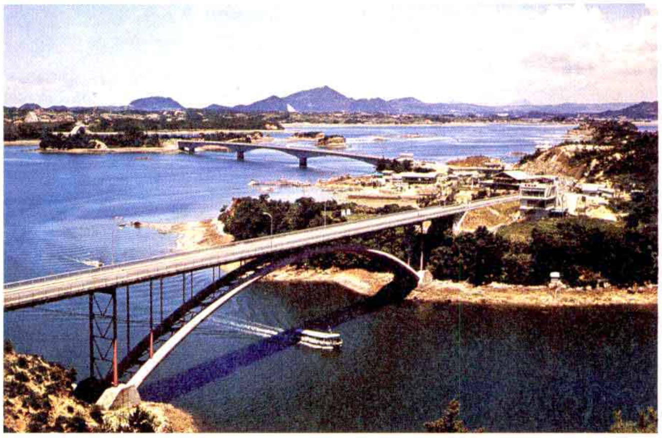
あまぎゆがしまおんせん　**【天城湯ケ島温泉】**　静岡県田方郡天城湯ケ島町にある温泉。天城山麓(さんろく)の狩野(かの)川と猫越(ねっこ)川の合流点にある山間の静かな湯量の多い温泉である。交通は伊豆(いず)箱根鉄道修善寺駅からバスの便がある。

あまくさ　**【天草(町)】**　熊本県天草郡の町で，天草下島の西岸にある。1956年(昭和31)高浜・下田・福連木(ふくれぎ)・大江の4村

が合併して生まれた。人口6,900。町の大部分は山地で，耕地は少ない。高浜は良質で知られる陶石天草石*の産地で，名古屋・京都・佐賀・長崎方面へ送られる。下田には温泉があり，大江は隠れキリシタン*で知られている。

あまくさいし　【天草石】　天草陶石ともいう。熊本県天草下島に産する良質の陶石*。流紋岩*の岩脈が変質したもので，数～数十ミクロンの微粒子のセキエイとセリサイトとが主体になっている。白色磁器*の原料としては最高。

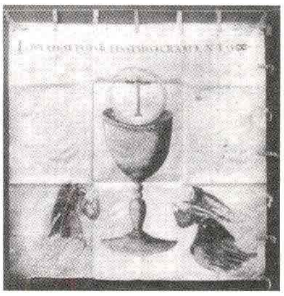
あまくさごきょう　【天草五橋】　熊本県の宇土半島から大矢野島を経て，天草上島に通じる橋で，天門橋・大矢野橋・中ノ橋・前島橋・松島橋の五つからなり，橋の長さは合わせて1,813 mで，その前後を合わせて4.2kmが有料道路となっている。宇土半島の西端の三角(みすみ)町から下島の牛深市に至る国道266号線(宇土牛深線)の一部で，上島と下島の間の本渡瀬戸には，開閉橋がある。日本道路公団が，1963年(昭和38)に着工して，1966年に完成し，〈天草パールライン〉とよばれる観光ルートとなっているが，天草のミカンや野菜・ウシ・ブタなどの輸送にもいままでの船便に代わって利用されている。〔浅井得一〕



天　草　天草諸島と九州本土とを結ぶ天草五橋。大矢野島・上島との間に五つの橋が架せられ，ここを通る国道266号線は天草の産業開発・観光の幹線ルートとなっている

あまくさしょとう　【天草諸島】　熊本県の南西部にあり，本土とは八代(やつしろ)海を隔て，西は天草灘(あまくさなだ)に面する大小110あまりの島をいい，本渡・牛深の2市と，天草郡の13町に分かれている。最大の天草下島で，面積570 km^2，わが国では佐渡から数えて4番めの大島であり，天草上島の247 km^2がこれに続き，大矢野島・永浦島・樋合(ひあい)島・御所浦(ごしょのうら)島・湯島などは，主島の下島や上島に比べると，ずっと小さい。総面積は875 km^2で，佐渡(857 km^2)よりもわずかに広く，人口は17万5,000で，佐渡(98,000)の倍に近い。島々は九州山地の続きで，八代海の陥没によって本土から離されたものである。全体として山がちで，高度約300～400 m，最高は上島の老岳(586 m)，下島では角山(526 m)である。海岸は主としてリアス式の沈降海岸である。気候は海洋性で温暖であり，亜熱帯植物の自生もみられる。古くから人が住み，縄文(じょうもん)時代や古墳時代の遺跡も多い。江戸時代には，はじめ唐津(からつ)藩の所領であったが，1637～1638年(寛永14～15)の島原の乱*後は，天領となった。耕地が乏しいのに人口が多いので，昔から〈長崎奉公人〉などの出かせぎが盛んで，明治以後は海外へ多くの移民を出し，特に東南アジアや中国・シベリアなどへ，〈東京よりも近いから〉という理由で働きにいった〈からゆき(唐行)さん〉とよばれる婦女子の群れは有名であった。現在も出かせぎが多く，人口は年々減少しつつある。水田は少なく，畑が主で，麦やサツマイモのほか，最近は野菜やミカンの栽培に力を入れており，抑制栽培のキュウリやエンドウ，促成栽培の同じくキュウリや，露地栽培によるグリンピースの早場ものは，天草の特産となっている。また大矢野島では，草花の栽培と酪農が行なわれている。漁業は，沿岸漁業が主であるが，熊本県の水揚げ高の大半を占めており，アジ・サバ・イワシのほか，真珠やクルマエビ・ハマチなどの養殖も行なわれている。地下資源としては，下島に無煙炭と陶石があり，良質の陶石は天草石*とよばれて名高く，名古屋・京都方面と佐賀・長崎方面へ，それぞれ半分ずつを移出している。工業は，木造船工業のほかは，農水産物の加工が主である。

1966年(昭和41)に，天草五橋*が開通して，観光客が急増しているが，各地のキリシタンの遺跡や，波の荒い西海岸の男性的な風光美，大矢野島と上島との間の〈天草松島〉とよばれる島と岬(みさき)と入り江の組み合わさった風景などは，多くの人をひきつけている。〔浅井得一〕



天草四郎　籠城軍が使用した旗

あまくさしろう　【天草四郎】　(1621～1638)　江戸初期のキリスト教徒で，島原の乱*の首領。肥後(熊本県)の人。本名益田時貞(ますだときさだ)，洗礼名はジェロニモという。父は小西行長の浪人益田甚兵衛好次(じんべえよしつぐ)と伝えられる。1637年(寛永14)16歳のとき，島原の乱が起こると，四郎は富岡城攻撃に参加したのち島原へ渡り，一揆(いっき)勢37,000の首領として原城(はらのじょう)跡によって幕府軍に抵抗，90日間籠城(ろうじょう)した。翌年2月敗死，細川家の神野佐左衛門(さざえもん)に首をとられた。四郎の指物(さしもの)という旗がいまも伝えられている。

あまくさたんでん　【天草炭田】　熊本県天草郡天草下島にあり，炭層は薄くて枚数も少ないが良質炭を産する。褶曲(しゅうきょく)や断層作用を受け機械の使用が困難である。南部に鬼貫(おにき)，北部には志岐，竹之迫(たけのさこ)の炭坑がある。

あまくさのらん　【天草の乱】　⇨島原の乱

あまくさばん　【天草版】　文禄～慶長(1592～1615)のころ西洋式印刷機で印刷されたキリシタン版*の一つで，熊本県の天草学林で刊行された本をいう。キリシタン版の代表的なもので，《ドチリナ-キリシタン》《平家物語》《伊曾保(いそほ)物語》などが特に有名。

あまくに　【天国】　日本刀の祖といわれ，鎌倉期の刀剣書は大同(806年)のころの大和鍛冶(やまとかじ)と伝え，現存する有銘作はみない。しかし，年代的に検討の余地はあるが，平家重代の名刀小烏丸(こがらすまる)(御物)がその作と伝わる。

あまぐも　【雨雲】　⇨乱層雲

あまぐり　【甘栗】　甘みの強い焼きぐり。鉄の平なべに小石混じりの砂を入れ，熱したところにクリを入れ，かき混ぜながら加熱する。このとき蜜(みつ)を加えて風味を増すとともに皮につやを与える。皮を指先で割って食べるので，皮が薄く割れやすく，小粒で甘みが強く，また渋皮の離れやすいクリでないと適当な原料とはいえない。この点シナグリが適し，日本のものは適当ではない。在日中国人が天津グリを輸入して売り出したのがはじめで，現在でも天津グリとして売り出されている。〔佐藤友太郎〕

あまごい　【雨乞い】　日照り続きで極端な水不足に悩むとき，神仏に降雨を祈り乞うこと。祈雨・請雨(しょうう)と同じ意味である。長雨の際に晴天を祈る天気祭りや風害をしずめるための風祭りと同様，集団による共同祈願の形式の臨時祭なので，雨乞祭りともいう。稲作中心の農耕社会では，過不足のない降雨は最大の恩恵であり，旱魃(かんばつ)は餓死につながった。雨乞いは人工の灌漑(かんがい)用水が普及しなかった時代だけでなく，今日においても全国的に行なわれている。雨乞いの方法には，お宮におこもりをするとか，流水の上にたなを設けて祈る川

瀬待(かわせまち)などのほか，神社や御岳から聖水をもらって種水にする〈もらい水法〉，また聖なる池沼を荒らしたりよごしたりして水神を怒らせ，水神にあばれてもらう方法がある。このほか，女角力(おんなずもう)をとるとか，雨乞い踊りを奉納するとか，野原や山頂で火を燃やす千駄焚(せんだた)きなど，地方によってさまざまな方法が行なわれている。

あまこし【尼子氏】 近江(おうみ)源氏佐々木氏の一族。京極高秀(たかひで)の三男高久が近江(滋賀県)犬上郡尼子荘(しょう)を領し尼子氏を称した。15世紀初め持久が出雲(いずも)(島根県)守護代となってから山陰に勢力を得，経久(つねひさ)のときは山陽地方まで勢力を張ったが，山陽の毛利氏に制圧されて降伏した。以後，一族勝久が毛利元就(もとなり)と転戦して回復を企てたが失敗し，播磨(はりま)(兵庫県)上月(こうづき)城で自殺，尼子氏は滅びた。〔村尾元忠〕

あまゴート【雨ゴート】 主として女性の和服の防雨用のコート。江戸時代から明治・大正の末まで〈雨合羽(あまがっぱ)〉〈合羽〉とよび，おもにもめんの合羽地(婦人は藍(あい)無地，少女は渋染めで木目の型染め)を用いた。明治中期に紺無地の綾(あや)やセルなどの洋服地で仕立て，東(あずま)コートの名で売り出されてから広く普及した。当時のものは，防寒・防雨・ちりよけ兼用の長ゴート(足首まである身たけ)である。大正のころから，以上の3種の目的別に分化した用布になり，東コートの名がすたれ，雨ゴートというようになった。生地には本絹朱子織り・紋朱子織り・レーヨンなども用いられ，えりも道行えり・へちまえり・変わりへちま・千代田えり・都えりなど洋風のえりがつけられるようになった。現今は既成品が多くイージーオーダーもある。第2次世界大戦後はアセテート・テトロン・ナイロンなどが，軽く，吸水性が少なく，しわになりにくいうえに堅牢(けんろう)で安価であるため，多く使われている。〔堀越すみ〕

あまさ【甘さ】 舌にある味覚芽を，ある種の有機物・鉛塩・ベリリウム塩で刺激すると甘さを感ずる。甘さは舌の前半部，特に舌先部で強く感じる。分子の化学構造と甘味との間に一義的な関係を見いだすことはむずかしい。たとえばアルコール・糖類では高級になると甘味を増すが，さらに高級になるとかえって甘味が失われて苦くなる。糖類の甘味の強さは果糖＞ショ糖＞ブドウ糖＞ガラクトース＞乳糖の順である。糖に対するイヌの鼓索神経の電気応答の実験記録では，二糖類が必ずしも単糖類より刺激効果が強くなく，また，二糖類が単糖類に分解して刺激するのではない。糖の刺激効果は構造が同じでも立体異性体は効果が異なる。果糖・ブドウ糖・ショ糖のα型はβ型より甘く，β-乳糖はα-乳糖より甘いという。➔味 〔平野修助〕

あまさぎ【黄毛鷺】 鳥類・サギ科。ショウジョウサギともいう。繁殖羽は頭頸(とうけい)・胸および背部が橙黄(とうおう)色，その他の部分が白色の小形のサギ。シラサギ類とともに樹上で集団繁殖する。こん虫を主食とし，東南アジアやアフリカでは大形獣のまわりに群れて，獣に追い出されるこん虫をとって食べることがよくある。➔サギ

あまざけ【甘酒】 白米と米こうじでつくる甘味飲料。こうじに繁殖するこうじかびのつくる糖化酵素〈アミラーゼ〉で，米のデンプンをデキストリンから麦芽糖・ブドウ糖に分解して甘みを出す。糖化酵素の最適温度60℃に保つと1晩でできる。

昔は醴酒(こしゅ)または一夜酒といわれた。神代以来の飲料といわれ，応神天皇の時代に吉野(よしの)(奈良県)の国栖(くず)から醴酒(あまざけ)を献上したとある。最初は自然発生的に自家用としてつくられていたが，室町時代ごろから行商もされるようになった。甘酒の銘に〈三国一〉とあるのは木華開耶姫(このはなさくやひめ)の伝説にちなんだもので，姫が富士浅間神社の祭神であるところから，富士山に由縁のある〈三国一〉を称するようになったのである。**〈作り方〉** 白米を飯にたくか，または柔らかいかゆにし，これに3～7割の米こうじを加え，ほぼ同量の温湯を加えてよく混合し，60℃前後の温度に保つ。1～2日で熟成する。これを沸かして飲用に供する。〔塩川ふみ〕

あましょうぐん【尼将軍】 ⇨北条政子(ほうじょうまさこ)

アマースト［William Pitt Amherst］(1773～1857) イギリスの政治家・外交官。1816年，イギリス東インド会社の命で広東(カントン)貿易改善のため全権大使として派遣されたが，清(しん)国皇帝に謁見の際，三跪叩頭(さんきこうとう)の礼を認めなかったために会見を拒否され，使命を果たせなかった。1823～1828年，インド総督を勤め，ビルマ王のベンガル侵入を撃退してベンガル地方にイギリスの勢力を拡大した。1835年，カナダ総督を任命されたが赴任せず，政界から引退した。〔松下京子〕



アマサギ

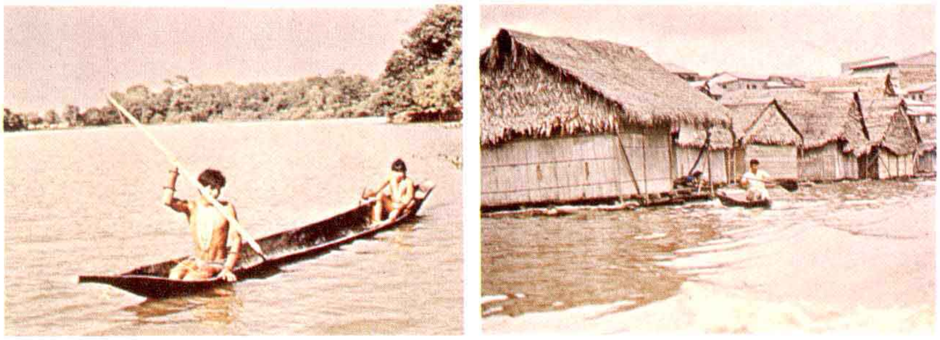


アマゾン　空から見たアマゾン川下流。無限に続くかと思われる広大な熱帯密林(セルバ)と，分流や蛇行をして複雑な流路をつくるアマゾン川

アマゾニア［Amazonia］ アマゾン川の流域一帯の地域の称。ブラジルのほか，コロンビア・エクアドル・ペルー・ボリビアの一部にまたがり，その面積は644万km²に及ぶ。アマゾニアの3分の2はブラジル領で，それはまたブラジル全土の2分の1にあたる。大部分は熱帯雨林におおわれているが，南と北には熱帯サバナが広がる。いずれも開発は進んでいないが，マンガン・ウラン・鉄鉱石・石油・金・銀などの資源があることが予想されており，開発のために2本の横断道路と4本の縦断道路を，1970年から建設中で，未舗装ではあるが，その大部分がすでに開通している。原住民のインディアンのほかポルトガル系を主とする白人や黒人が住み，混血も多い。日系人も入植していて，かつてはコウマを栽培していたが，第2次世界大戦後はコショウに転換している。1540年に，ゴンザーロ・ピサロ(インカ帝国の征服者F.ピサロ*の弟)がペルーからブラジルに遠征し，アマゾン川を下ったとき，副隊長のオレヤーナが，インディアンの女の戦士と交戦したことがあり，ギリシア神話の女人族アマゾン*にちなんで名づけたという。しかし，女の戦士と思ったのは，実は髪を長くした男であったらしい。〔浅井得一〕

アマゾン［Amazon］ ギリシア神話の女だけの種族。その祖は軍神アレス*。居住地については古来種々の説があり一定しないが，英雄時代には黒海の近くに住んでいたとされる。種族名は〈乳房(ちぶさ)のない〉という意味で，弓を扱いやすいように右の乳房を切除したことによる。狩りと戦闘を好み，一定期間他国の男子と生活し，生まれた子どものうち男児は捨て女児のみを育てたという。トロヤ戦争*のとき，女王ペンテシレイアはアキレウス*に討たれた。〔松田　治〕

アマゾン(川)［Amazon］ アンデス山脈に源を発し，ブラジル北部を東北に流れ大西洋に注ぐ，水量・流域面積ともに世界第1の大河。全長約6,200km。流域面積は約705万km²で南アメリカ大陸の3分の1以上を占めている。下流の川幅は13kmにも及び，水深も13～20mある。本流の長さはミシシッピ川に次いで第2位，支流は200以上にも及ぶ。一般に上流部はマラニョン川，中流はソリモンエス川，下流がアマゾン川とよばれる。勾配(こうばい)はゆるやかで，河口から3,100kmさかのぼっても高度82m，河口



アマゾン　(右)アマゾン川流域の水上部落。水上家屋は増水期に床面近くまで水位が上がっても冠水しないようにつくられている　(左)アマゾン流域の原住民インディオと丸木舟。川からとれる豊富な魚類は原住民の重要な食料となっている

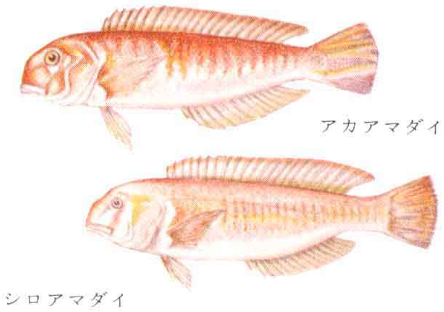
から800kmのサンタレンでも干満の差がみられる。河口から1,600kmのマナオスまで外洋航路の汽船が航行し，小汽船はさらに上流のイキトス(ペルー)まで航行可能である。支流の多くは，滝や急流で航行はむずかしい。1500年，スペインの探検家ピンソンが発見し，1540年ブラジル遠征隊が川を下ったとき，インディアン女戦士の攻撃を受けたので，ギリシア神話の女人族アマゾン*の名をとってその名とした。流域の人口は約500万人で，日本人移民が下流域に約7,600人入植している。　〔野間三郎〕

あまだい　【甘鯛】　硬骨魚類・アマダイ科の海産魚。アマダイとよばれるものに，キアマダイ・シロアマダイ・アカアマダイの3種がある。形はいずれも似て，おでこの張った姿だが，キアマダイは黄がかった赤で30cmどまり，シロアマダイは白っぽくて60cmほどになる。アカアマダイは赤みが強く45cmほどになる。いずれも美味で，特にシロアマダイは珍重される。本州中部以南のやや深い所にいる。

あまだぐあん　【天田愚庵】　(1854～1904)　歌人。磐城(いわき)(福島県)の生まれ。戊辰(ぼしん)戦争で父母と生別，半生を父母探求に過ごした。落合直亮(なおあき)に国学，山岡鉄舟に禅を学んだ。1887年(明治20)出家。丸山作楽(さくら)らと親しくし，万葉調の短歌をつくり，正岡子規*に影響を与えた。父母を慕う歌に特色がある。

あまちゃ　【甘茶】　双子葉植物・ユキノシタ科。アジサイの仲間のヤマアジサイ・コアマチャ・オオアマチャ・アマギアマチャなどの総称であるが，特にコアマチャだけをさすこともある。これらの葉を茶のように製したものが甘茶で，飲料とする。4月8日ブッダの誕生日にその像に甘茶を注ぐ風習がある。葉に多量のフィロズルチン・イソフィロズルチンが含まれているために甘い。糖尿病患者の甘味料，しょうゆの甘味つけに使われる。

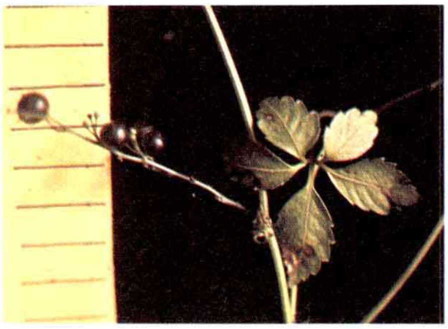
あまちゃづる　【甘茶蔓】　双子葉植物・ウリ科。やぶの縁に多い多年草。茎はつる状で巻きひげがある。葉は手のひら状。8～9月に黄緑色の小花をつける。雌雄異株。



アマダイ



アマチャ　コアマチャ



アマチャヅル

葉に甘みがあるのでこの名がある。

アマチュアむせん　【アマチュア無線】　営業としてではなく，個人的趣味で自宅などに無線装置を設けて，国内外のアマチュア間で交信する無線。アマチュア無線局およびアマチュア無線家を〈ハム(ham)〉というが，これはしろうとという意味の俗語。アマチュア無線は電波法およびこれに基づく法令の適用を受け，無線従事者は，第1級・第2級・電信級・電話級の区別により毎年4月・10月に行なわれる国家試験を受けて免許証をとらなければならない。

アマチュア無線は1902～1903年ごろアメリカに現われたのがはじめてで，以来短波帯通信の好適性の発見・開拓，災害時・非常時の通信など社会に対して大きく貢献している。

交信は，国籍・地域などを表わすコールサインで始まり，初交信の場合には交信証明書(QSLカード)を交換したりする。団体としては，わが国には1926年(大正15)結成の日本アマチュア無線連盟(JARL)，世界的には1925年結成の国際アマチュア無線連合(JARU)がある。　〔小原啓義〕

アマチュアリズム　[amateurism]　アマチュアはラテン語のamator(恋慕者)ということばから出たもので，アマチュアリズムはスポーツを職業的に利用するのではなく，純粋にスポーツそのものを愛する人の精神，またそのあり方をさす。18世紀の初め，イギリスでは競馬の一部が公営になったが，19世紀の初めごろ自馬を持つ騎手と雇用された騎手を区別するために〈ジェントルマン-アマチュア〉と〈プロフェショナル〉ということばが生まれた。同じころ，その他の競技会でも，賞金かせぎの競技者がしだいに仕事・学業の余暇に競技を行なうものを圧倒しはじめたため，アマチュアリズムの確立が必要とされるようになった。それは，スポーツを独占していた貴族の特権への労働者階級の挑戦(ちょうせん)に対する防衛ともいえる。こうして，1839年以来イギリスのテムズ川上流で行なわれる著名なボートレースのヘンリー-ロイヤル-レガッタに採用された参加規定は，筋肉労働者などを競技会から締め出した。一方アメリカでも，プロ野球の創設，競技の賞金や賭博(とばく)行為の増加などによって，職業的競技者との区別を成文化する必要に迫られ，1868年アマチュア競技への参加規定が採用されたが，これにはイギリスのように労働者を締め出す条文はなかった。イギリスでも第1次大戦終了後は労働者を締め出す規定は改正され，その後各国別あるいは競技別に変遷の歴史をたどった。

現在のアマチュアリズムは次のようなオリンピック憲章第26条の参加資格規定(1963年改正)によって代表されている。〈オリンピック競技大会に，選手として，選ばれる資格をもつためには，趣味・嗜好(しこう)からスポーツに専念し，それによってなんらの物質的利益を得ない者でなければならない。以下の場合には，この資格を享有することができる。(a)　現在および将来の生活を保証する基礎となる収入源をもっている場合。(b)　スポーツに参加することによって，かつて報酬を受けたことがない場合，または

現在これを受けていない場合。(c) それぞれの国際競技連盟の諸規定および本条の公式解釈に従っている場合。これらの条件に従っている者は，オリンピックの観点から，アマチュアと考えられる。〉なお，オリンピック憲章ではこのほかに名誉，フェアプレー，ルールの遵守などの倫理的意義が強調され，第3部の一般教程では社会的・教育的・審美的・倫理的・精神的なアマチュアリズムの高揚と，オリンピック精神の擁護を呼びかけている。

しかし，第2次世界大戦以降の世界状勢の変化などで，スポーツを政治的・物質的に利用しようという傾向が強くなり，また発達してきたプロスポーツの影響などでスポーツの本質は変化をきたしている。その結果，共産圏諸国のように国家で選手を養成するステート-アマチュアや，宣伝・広告など商業資本の庇護(ひご)を受けるシャマチュア(ごまかしのアマチュア)が出現し，アマチュアリズムは現在危機に立っている。

世界のアマチュア-スポーツを代表するオリンピックでの問題点の第1は，国際競技連盟(IF)の規定の中でオリンピック参加の根本原則とあいいれない団体が存在することである。サッカー・自転車のIFはアマチュア・プロフェッショナルを総轄しており，スキーのIFは選手が用具につけた商標を競技会で誇示することを黙認する傾向が強い。1968年のグルノーブル冬季大会においても，商標問題は地元フランスとブランデージ*国際オリンピック委員会(IOC)会長の間で論争され，レース終了後はスキーをはずして，商標が写真に写らないようにすることで妥協がなされたほどであった。しかし，実質的にはスキーのメーカーから金品を受けている一流選手がいることは明白な事実で，〈ミスター-アマチュア〉といわれているブランデージ会長は〈アルペン競技はオリンピック種目から除外されるかもしれない〉(1970年5月)と激しい警告を発している。そのほか，他国からの輸入選手をチームに組み入れたりしてアマ・プロの限界が明確でないサッカー・アイスホッケー・バスケットボールも，ブランデージ会長から攻撃されている。

こうしたアマチュア問題に口火を切ったのは，1968年にアマチュアとプロフェッショナルとの交流を認めることに踏み切った国際庭球連盟(テニスはオリンピック種目ではない)で，以後各国庭球協会が選定したオーソライズド-プレーヤー(認定選手)は，テニスを職業としない者でも，プロと交流して賞金を受け取ることができるようになった。これは各国の一流選手の中には旅費・滞在費のほかに各種の大会で実際には裏金が出されているものがあることから，それらを本来のアマチュアと区別してアマチュアを守護するためにイギリス庭球連盟から出された案が認められたものである。

現在，IOCでも，競技者の扶養家族が困窮する場合に限り，30日を限度として競技のために失われた給料・賃金をその国のオリンピック委員会(NOC)が補償することができるブロークンタイム-ペイメントの規定を採用している。こうした金銭面での難問題は，勝利を追求する傾向がますます強くなってきたスポーツ界にとって，今後ますます深刻化し，アマチュアリズムとのジレンマに悩むことになるであろう。

わが国ではじめてアマチュア-ルールが設けられたのは1911年(明治44)で，日本体育協会*が第5回オリンピック-ストックホルム大会の予選に参加する競技者の出場資格として〈年齢16歳以上，学生・紳士として恥ずかしくないもの〉と示したものである。また，1921年(大正10)には第5回極東選手権大会予選への出場資格として〈脚力を職業とする者，金銭・物品を賞とする競技会に出場した者を除く〉という条項も入れられ，人力車夫はマラソンに出られないという笑い話も出ている。その後，1950年(昭和25)に各国際競技団体のアマチュア規程を参考にして日本体育協会のアマチュア規定が誕生し，〈スポーツは人間が持つ文化の一つである。これをより高くより美しいものにするには，スポーツを行なう者の精神とそれを取りまく環境の清らかなことが必要である〉というスポーツマン綱領を掲げ，細則条文によってアマチュアリズムをきびしく規定した。しかし，スキー・スケートの賞品問題，サッカー・テニスなどにおけるアマ・プロ交流の波や技術向上のためのプロコーチの存在などの理由で改正論が多数を占め，1968年末から体協アマチュア委員会で改正案検討が始められた。その結果1970年委員会は現行の規定を緩和する改正原案を発表した。これは従来の綱領を〈スポーツマンのあり方〉と変え，その内容も簡潔な表現に改め，規定も大幅に簡略化して各競技団体に共通する原則的なアマチュアリズムを律する問題にとどめ，細部はそれぞれの競技団体・国際競技団体の規定を尊重するたてまえをとっている。この結果サッカー・テニスのアマ・プロ交流もそれらのIFの規定どおり体協理事会の承認を求めることなく許されることになり，スキーの賃金損失補償もIFの規定に準ずることになる。また従来プロとされていた柔剣道道場の経営者，水泳クラブのコーチも，品位があり競技者の模範であればアマチュア競技団体の役員になることもできる。このようにして，チャンピオンシップ競技の増大に伴い，プロの踏み台になるアマチュア競技とアマチュアの純粋性を守ろうという競技が同居することとなった体協の将来は，複雑多難ということがいえる。そして，いずれにしても，アマチュアリズムの変容は世界的な課題になるであろう。〔池口康雄〕

あまつかみ 【天神】 諸神の最上位にあって命令を下す神で地祇(くにつかみ)に対する。➜天神地祇(てんしんちぎ)

あまつこみなと 【天津小湊(町)】 千葉県安房(あわ)郡の町。太平洋に面した天津と小湊の二つの漁港町が，1955年(昭和30)に合併してできた。人口9,600。国鉄房総東線に沿う。小湊は日蓮(にちれん)が生まれた土地で，それを記念する誕生寺の門前町として栄え，また鯛(たい)ノ浦*の名勝がある。

あまつつみ・くにつつみ 【天津罪・国津罪】 古代日本の固有法における罪。天津罪には畔放(あはなち)・溝埋(みぞうめ)などの灌漑(かんがい)施設の破壊，頻蒔(しきまき)・串刺(くしさし)などの土地所有の侵害，また祭祀(さいし)に対する違反などがある。国津罪には殺人・傷害・近親相姦(そうかん)また疾病(しっぺい)や天災などが含まれている。天津罪はスサノオノミコトが高天原(たかまがはら)で犯し，国津罪は国津神たちが国土で犯したと伝えられる。いずれも神に違反する行為であり，罪によって生じた穢(けがれ)を払い落とすための儀式が祓*(はらえ)である。《延喜式*》の大祓詞(おおはらえのことば)に具体的に述べられてある。

あまつのりとのふとのりとこう 【天津祝詞太祝詞考】 大国隆正*の著。5巻。1900年(明治33)門人の福羽美静(よししず)が刊行。大祓詞*(おおはらえのことば)の中に〈天津祝詞の太祝詞事を宣(の)れ〉とあり，古来，この太祝詞とはなんであるかが問題となっていた。隆正はこの太祝詞を，ト・ホ・カミ・エミ・タメの五つの神言として考証し，祓の本義，大祓詞の詳解を試みた。この説に対し，太祝詞とは大祓詞そのものをさし，大祓詞以外の祝詞または神言をさすものではないという説があり，近世以来学者の説が分かれている。神秘説を敬遠する今日の学説では後者を取るほうが多く，隆正にみられる神言説は，教派神道(しんとう)の中に伝承されているといわれる。〔小笠原春夫〕

あまつばめ 【雨燕】 鳥類・アマツバメ科。アマドリともいう。ツバメ類と似た体をしているが，縁遠く，翼長も約18cmと大きい。わが国へは夏鳥として渡来し，山地のがけなどにすみ，飛びながらこん虫を食べる。近似種にハリオアマツバメ*がある。

あまつひつぎ 【天津日嗣】 《古事記》《日本書紀》などにみえる語で，天業・天位・鴻業・宝祚・皇統などの文字もあてられている。アマテラスオオミカミの委任を受けて，その系統，すなわち皇位を継承すること，または，天皇および天皇の地位それ自体を意味する。語源には，みつぎ物を受納する意の〈日給(つぎ)〉説，王の権威である聖なる火を絶やさぬように守り継承する意の〈火継〉説，天皇の威力の本源としての霊(ひ)を継承する意の〈霊継〉説がある。〔永藤　武〕

あまでら 【尼寺】 尼*(正式には比丘尼(びくに))の住する寺。590年(崇峻3)日本人で最初の尼僧善信尼*が住した，大和(やまと)(奈良県)の桜井寺が最初。741年(天平13)全国

に国分尼寺が置かれ，鎌倉時代には禅宗五山を模した〈尼寺五山〉の称ができた。鎌倉の東慶寺*は〈縁切り寺〉として有名である。

あまてらすおおみかみ　【天照大神】　日本神話の神。皇祖神として，伊勢(いせ)神宮の内宮(ないくう)に祭られている。はじめ皇居内にあって天皇と殿床をともにしたが，崇神(すじん)天皇の代に神威をかしこみ，大和(やまと)(奈良県)の笠縫邑(かさぬいのむら)に神殿を建てて祭られ，垂仁(すいにん)天皇の代に伊勢(三重県)の五十鈴(いすず)川のほとりにしずめ祭ったと伝えられる。はじめ皇居内にあったのは，この神が家の守護神であり，聖火によって象徴される存在だったことを示す。それが対象化されて天にまします神となったときに，笠縫邑に神殿を建てて祭られた。天神*(あまつかみ)は火をたいて祭られる。火の根源が太陽と考えられたときに，天津は日神(ひのかみ)として限定され，明確な認識となり，大和の皇都からみて東の方，すなわち日の出る方の陸地の果てにあたる五十鈴川のほとりにしずめ祭られたと考えられる。出雲国造*(いずものくにのみやつこ)が世を継ぐときには，火継(ひつぎ)の行事を行なった。天津日嗣(あまつひつぎ)・帝皇日継(すめらひつぎ)の〈ひつぎ〉は本来，〈火継〉だったと考えられ，のち，三種の聖器を皇位継承のしるしに定めたために，〈ひつぎ〉の語のみが残り，聖火相続の行事が失われたものと思われる。神代史では，アマテラスオオミカミが八咫鏡(やたのかがみ)・八尺瓊曲玉(やさかにのまがたま)・天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)を孫のニニギノミコト*に授けて天くだりさせたことになっている。大陸との修交が宝器を即位のしるしとする方法を学び取らせたのであろう。出雲国造家は直接大陸と修交することなく，古い慣習を守り続けられる環境にあったとみられる。〔宮井義雄〕

あまど　【雨戸】　建物の窓・出入り口などの外側に立て，風雨を防ぎ，戸締まりをするために用いられる和風板戸の一種。戸袋に納められていて，1本のみぞあるいはレール上を1枚ずつ繰り出される。わく組みの上にスギ・ヒノキの板を縦に並べて張るか，合板・繊維板を張る。亜鉛引き鉄板・石綿セメント板を用いたものは防火をも兼ねる。種類には，単なる板張りのもの，上部のほうに無双をつけたもの，よろい戸をはめこんだもの，板ガラスを入れたものなどがあり，最近ではアルミニウム製のものもある。

〔神山幸弘〕

あまどころ　【萎蕤】　単子葉植物・ユリ科。山地の草原に自生する多年草。日本全土・朝鮮・中国に分布。4～6月に筒形で先が6浅裂している白色花をつける。茎に稜角(りょうかく)があり30～60cmで上部が少し弓形に曲がる。葉は無毛で裏面白色。地下茎に甘みがありゆでてから冷水にさらしあく抜きして食べる。干したものを萎蕤(いずい)といい，漢方では強壮・消炎薬とする。

あまどり　【雨鳥】　⇨アマツバメ

あまな　【甘菜】　単子葉植物・ユリ科。ムギクワイともいう。日あたりのよい草原に自生する多年草。日本・朝鮮・中国に分布。卵形の鱗茎(りんけい)は地中深くに埋まっていて葉身が地上に開出。花は4～5月に咲き日があたると開く。鱗茎は苦みがなく良質のデンプンを含み食用となる。漢方では山慈姑(さんじこ)といい滋養強壮薬とする。

あまなっとう　【甘納豆】　アズキ・ウズラマメ・インゲンマメ・ソラマメなどを砂糖蜜(みつ)づけにして甘く煮つめ，白砂糖をまぶした菓子。遠州名物〈浜納豆〉をもじって名づけ，江戸末期江戸で創製された。**〈あずき甘納豆の製法〉**アズキ2，砂糖3の割合。アズキを1晩水につけ，よく洗って水煮する。煮たったら〈しわのばし水〉を加え，さらに沸騰したら渋を流し，水を加えて再び火にかける。これを1～2回して煮込む。火はとろ火にして，アズキの皮が裂けないようにする。アズキが煮えたら水に入れてさまし，水けを切る。これを砂糖でつくった蜜に1昼夜つけておく。翌日豆と蜜を分け，蜜は火にかけて濃く煮つめ，これに豆をつけて1昼夜おき，再び豆と蜜を分け，蜜を煮つめ，108～110℃のとき豆をつけ，蜜が沸騰してきたとき火を止め，そのまましばらく放置して，40～50℃になったとき，アズキの蜜をよく切っておく。別にさらさらした白砂糖を入れた器にアズキを少しずつ入れ，しゃくしで混ぜころがして砂糖をつけ，さましてかわかす。　〔塩川ふみ〕

あまにゆ　【亜麻仁油】　アマの種子を溶剤で抽出するか，または熱を加えて圧搾して得た脂肪油。代表的な乾性油。リノレン酸・リノール酸・オレイン酸などのグリセリンとのエステル*。空気中で酸化し，弾力性のある耐水性半透明の膜を生ずる。ペンキ・ワニス・印刷インキなどの原料として用いられる。純品は無色透明の液体であるが，市販品は琥珀(こはく)色をしている。



アマドコロ



天香久山　緑の樹木におおわれる天香久山。背後の山は龍門山地の山々

あまのかぐやま　【天香久山】　大和(やまと)三山の一つ。奈良盆地の南部，橿原(かしはら)市の南東にある小丘。その南に広がる龍門(りゅうもん)山地延長部の残丘で，標高は148 mにすぎず藤原京の跡はこの山の西側にある。

あまのかわ　【天の川】　天球を取り巻いて帯状に走る淡い光を放つ領域。銀河ともいう。英語ではミルキー-ウェー，中国では銀漢とよぶ。昔は土地から立ち上ったガスが空に浮かんでいる姿だとか，空の継ぎ目から漏れる天の白い炎だと考えられていたが，18世紀F.W.ハーシェル*によって，遠方にある無数の星の集団であることが確かめられた。古来詩歌の好題材となっている。

あまのそうふ　【天野宗歩】　(1816～1859)　将棋棋士。7段。江戸に生まれ，5歳で11世名人大橋宗桂(そうけい)の門にはいった。後代，棋聖とうたわれたように不世出の天才で，当時最も栄誉とした御城将棋をつとめた。また，定跡集《将棋精選》を著わし，近代将棋の基礎を築いた。実戦譜120番を収める《将棋手鑑(てかがみ)》は明治・大正の棋士たちに多大な影響を与えた。

あまのためゆき　【天野為之】　(1859～1938)　経済学者・教育者。唐津(からつ)(佐賀県)藩医の子。東京大学卒業後，改進党の創立に参加する一方，大隈重信(おおくましげのぶ)を助けて東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)開校に参与，講師を経てのち教授に就任。1886年(明治19)邦語経済学書としてユニークな《経済原論》を著述，1890年に第1回衆議院議員選挙に当選。1892年政界を去り，1898年《東洋経済新報》主筆となる。1901年には早稲田実業学校を創立，晩年は中等実業教育の充実に貢献した。　〔安達淑子〕

あまのていゆう　【天野貞祐】　(1884～1980)　哲学者。神奈川県生まれ。京都大学哲学科を卒業し，1914～1919年，第七高等学校講師・教授をつとめた。1919～1944年には京都大学助教授，さらに教授として倫理学を担当した。のち，甲南高等学校・第一高等学校校長。1950年，文部大臣となり，のちに独協大学学長。カント*の《純粋理性批判》《プロレゴーメナ》の訳者として知られる。また1937年に書かれた《道理の感覚》は〈時代の良心〉として広く迎えられた。《学生に与うる書》《道理への意志》《私の人生観》《信念と実践》など多数の啓蒙書(けいもうしょ)はカント倫理学者としての誠実な道徳的性格に貫かれている。　〔中川　誠〕

あまのはしだて　【天橋立】　京都府宮津市の北部，宮津湾とその西の阿蘇(あそ)海の間に発達した砂嘴(さし)。全長約3 km，幅40～100 mで，宮津湾西岸の江尻(えじり)から

南西に延び，その南端と対岸の文珠の間は〈切戸(きれと)の渡し〉とよばれる狭い水路になっていて回転橋がつけられ通航を可能にしている。砂嘴は松林でおおわれ，江尻の西国二十八番の札所成相寺のある成相山笠松(かさまつ)公園からの展望がすぐれており，〈またのぞき〉のながめは有名である。日本三景の一つで特別名勝に指定され，若狭(わかさ)湾国定公園に属している。　〔味沢成吉〕

あまのり　【甘海苔】　紅藻(こうそう)植物・ウシケノリ科・アマノリ属の総称。高潮線以下50〜90cmの所に多く生ずる。体は細胞1層の膜状で，円形からささ葉形まである。有性生殖の結果葉状体に生ずる果胞子は，貝殻(かいがら)について糸状体(コンコセリス)となり，これに生じた殻(かく)胞子が生長して葉状体となる。ほとんどの種類が，のり*の原藻となる。チシマクロノリは北海道で，クロノリは裏日本，マルバアマノリは表日本南部に自生し，岩のりとして採取される。アサクサノリ*は中部以西で，スサビノリ・ウップルイノリは各地で養殖されている。

あまは　【天羽】　⇨富津(市)

あまべ　【海部】　海人部とも書く。古代海産物を朝廷に貢納する漁民を中心とした部*(べ)。《日本書紀》の応神天皇5年の条に海人部および山守部(やまもりべ)を定めたことがみえ，また淡路・阿波(あわ)・吉備(きび)・紀伊(きい)の諸国に，海部を設定したことがみえる。各地の海部は海部直(あたい)に率いられ，さらに中央の阿曇連(あずみのむらじ)が伴造*(とものみやつこ)としてこれらを管理したものと考えられる。

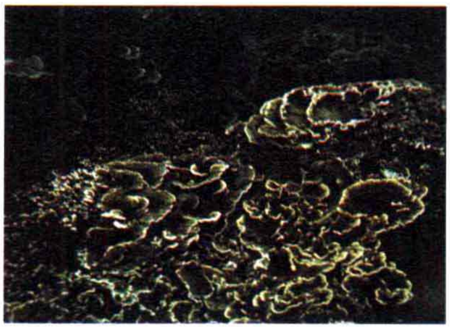
あまみおおしま　【奄美大島】　奄美諸島の北端にある諸島中最大の島で，また日本の属島の中では，沖縄(おきなわ)島・佐渡島に次いで大きい。面積709km²，人口185,000。鹿児島県に属し名瀬市のほか大島郡の3町3村に分かれる。ただし，南端の瀬戸内町は，付属の加計呂麻(かけろま)島・請(うけ)島・与路島にまたがっている。第2次世界大戦後は，1953年(昭和28)までアメリカ軍の統治下にあった。地形は山がちで，最高点は中央部の湯湾岳(694m)で，奄美諸島の最高峰でもある。沈降海岸が目だち，北部には裾礁(きょしょう)が発達している。気候は亜熱帯的で，ガジュマル・ソテツなどの亜熱帯植物が茂り，ハブ・ルリカケス・アマミノクロウサギ(特別天然記念物)などがすむ。サトウキビ・サツマイモ・パイナップルなどの農業や，林業・漁業が行なわれ，大島紬(つむぎ)の特産があるが，一般に経済的水準は低い。名瀬市は島の中心で，名瀬港からは沖縄・阪神(はんしん)・鹿児島へ直通航路がある。瀬戸内町は名瀬に次ぐ第2の都市で，古仁屋(こにや)港がある。名瀬空港は北端の笠利(かさり)町にあり，鹿児島へ定期便が出ている。　〔浅井得一〕

あまみしょとう　【奄美諸島】　奄美群島



天橋立　北岸の笠松公園付近から見降ろした天橋立。眼下は江尻，先端は文珠で，写真左の湾奥の遠景に宮津市が見える





奄美大島　(上)奄美大島北東端に近い笠利湾付近の海岸地形。海岸の隆起した段丘上には，波食による複雑な地形が見られる　(下)奄美大島の海岸周辺にはサンゴ礁の発達が見られる。写真は海底に見えるサンゴの群れで，海底約10mぐらい



アマミノクロウサギ

ともいう。薩南(さつなん)諸島のうち，南部にある島々をいう。北から奄美大島・徳之島・沖永良部(おきのえらぶ)島・与論島などがあり，与論島の南西20kmに沖縄島がある。鹿児島県に属し，名瀬市と大島郡から成り，名瀬に奄美支庁がある。第2次世界大戦後，1953年(昭和28)までアメリカ軍の統治下にあった。1市10町3村の面積は1,237km²，人口は15万6,000。気候は亜熱帯的で，台風の通路にあたっている。霜がみられず，雪もほとんど降らない。サンゴ礁が発達し，ビロウ・ガジュマル・アダン・ソテツなどの亜熱帯植物が茂り，猛毒をもつハブや，特別天然記念物のアマミノクロウサギなどがいる。農業はサトウキビ・サツマイモなどの畑作が主で，バナナやパイナップルもつくっている。大島紬(つむぎ)などの特産もあるが，経済的な水準はまだまだ低い。鹿児島から定期航路が奄美大島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島へ，定期航空路が，奄美大島・喜界島・徳之島へ出ており，観光地としても注目されはじめている。　〔浅井得一〕

あまみとげねずみ　【奄美刺鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。体長12〜16cm，尾長11cmほど。アカネズミに似るがはるかに大形で，尾は短い。全身に長さ2cmに達するとげを密生する。体背面は黒赤色で下面は黄白色。奄美大島と沖縄本島の特産で，現在では山地の一部に少数がすむのみ。

あまみのくろうさぎ　【奄美黒兎】　哺乳(ほにゅう)類・ウサギ科。体長43〜47cm，耳の長さ4〜4.5cm。前肢(ぜんし)のつめは発達し目は小さい。体毛はかたく黒かっ色。奄美大島・徳之島に分布。森林の樹洞(じゅどう)や岩穴などにすみ，ワラビや樹皮などを食べる。原始的な生きた化石ともいうべきウサギで，特別天然記念物。

あまも　【甘藻】　単子葉植物・アマモ科。アジモ・モシオグサともいう。内湾の静かな泥砂地(でいさち)の1〜10mの深さに自生する多年草。日本・中国・ヨーロッパに広く分布。地下茎は横にはい，節から根が出る。12月から翌年の2月に，葉だけをつける短い枝と，葉と花序をつける枝が出る。花は3〜4月に咲き，果実は7月ごろ熟する。花序はさやに包まれ，多数の雄花と雌花が交互に2列に並ぶ。雄花は1個の雄ずいで1個の葯(やく)からなり，雌花は1個の雌ずいで花被はない。昔はアマモを摘み，海水を掛け，かわかして焼き，その灰から塩をとったらしく，モシオグサの名はここから出ている。地下茎は甘みがあり食用になる。　〔横井朝子〕

あまもたい　【甘藻帯】　波の静かな浅い入り江は，たいてい底がどろか細かい砂であり，川の水や雨水の影響で海水が薄まりやすい。このような所には，アマモ類が一面にはえていることが多く，アマモ帯とよばれる。満潮時におとなのひざほどの水深には草たけも低く葉も小さいコアマモが，おとなの背が立つ範囲にはアマモが，それ

それすみ分けて群落をつくっていることが多い。アマモ帯には，アマモ類の根が張って，風波・潮流による海底のどろや砂の流動を防ぎ，有機物の堆積(たいせき)が多い。その結果，微生物も豊富であり，また，葉の茂みがかっこうの隠れがになるので，多くの魚介類が幼時を過ごす場となっている。アマモ類は，海産としては珍しい顕花植物で，多年性。地下茎を横に伸ばしてふえ，アマモ帯の海底には，陸上の芝生(しばふ)を思わせるように，アマモの根が縦横に走っている。アマモのことをアジモともいうので，アマモ帯をアジモ帯ともいう。また，アマモ場・アジモ場ということもある。〔菅野　徹〕

アマラーバティー ［Amarāvati］ 南インド，キストナ川中流に位置するアンドラ朝時代の仏教遺跡。遺構は19世紀中に大破したが，仏塔・欄楯(らんじゅん)・塔門を荘厳(しょうごん)した浮き彫り類が多数残った。石材は特色のある黄かっ色大理石で，細身のしなやかな図像を塡充(てんじゅう)式に収めている。仏伝図中にはブッダを象徴的に表現するものと，人間の姿に表現するものがある。同じキストナ川流域のナーガールジュナコンダ，その他の作品もこれに類し，紀元前後の南インド仏教美術の姿をうかがわせる。〔小谷仲男〕



アマラーバティー 欄楯の浮彫



アマリリス

あまりのていり 【余りの定理】 〈xの多項式$f(x)$を$x-a$で割ったとき，余りをrとすれば，$r=f(a)$である〉という定理。剰余の定理ともいう。この定理から直ちに因数定理〈xの多項式$f(x)$が$x-a$で割り切れるための必要かつ十分な条件は$f(a)=0$となることである〉が導かれる。因数定理は多項式の因数分解*や高次方程式*の解法に利用される。たとえば，$f(x)=x^3+x^2-5x-6$のとき，$f(1)=1+1-5-6=-9$，$f(-2)=-8+4+10-6=0$であるから，$f(x)$は$x-1$で割ると-9余り，$x+2$では割り切れる。したがって，$f(x)$は$x+2$を因数にもち，$f(x)=(x+2)\times(x^2-x-3)$と因数分解される。〔菊池兵一〕

あまりべ 【余戸】 〈あまるべ〉ともいう。律令(りつりょう)制下の村落制度。令制では50戸をもって1里とし，50戸を越えた戸を余戸といった。10戸以上の余戸は余戸里として独立させ，10戸以内の場合は大村里につけると規定されていた。余戸里を実際に設置したのは僻地(へきち)や特別の村落だけである。

アマリリス ［amaryllis］ 単子葉植物・ヒガンバナ科。アマリリスという名は，ギリシアの女性の名にちなんでつけられた。園芸上でアマリリスと称している植物は，昔はアマリリス属に入れられていたが，現在ではヒッピアストルム属に入れられることになった。熱帯アメリカ原産の球根植物。葉は幅広い線形で長さ20～30cm，幅3cm基部より多数出る。初夏，30～50cmの花茎を出し，その頂に通常，6弁のユリの花に似た赤色花を数個かさ状に開くが，白色花もある。剣弁と丸弁とあり，種々の園芸品種もつくりだされている。球根は春植えつけて，そのまま2～3年置くこともできる。はち植えや切り花用にもなる。〔小杉清・加藤僖重〕



アマルナ時代　アマルナ芸術の代表的な作品とされるイクナートン王妃ネフェルトイティの石灰岩彩色像 ベルリン博物館蔵

アマルガム ［amalgam］ 水銀と他の金属との合金。アマルガムになりやすい金属と，なりにくい金属がある。前者にはナトリウム・カリウム・亜鉛・カドミウム・スズ・鉛・金・銀・銅などがあり，後者には鉄・コバルト・ニッケル・白金・マンガンなどがある。合金の割合が水銀が多い場合は液状をなし，少ないときは固体状をしている。アマルガム法の利用例をあげれば，①金を水銀(液状)の中に浸漬(しんせき)すればアマルガムになる。これを加熱すると水銀だけ蒸発して金が残る。このような性質を利用して鉱石中から金を採取するのに応用されている。②食塩水を電気分解してナトリウムをつくる場合，陰極に水銀を使えば陰極に析出したナトリウムは直ちにアマルガムになる。これを応用して容易に水酸ナトリウムをつくる。③水銀8，銀スズ合金5の割合のアマルガムははじめは柔軟であるが，微温で急速に固まる。この性質を利用して歯科用充塡(じゅうてん)剤として用いられる。〔岩村齋郎〕

アマルナじだい 【アマルナ時代】 古代オリエント史の一時代で，紀元前14世紀にあたる。アマルナ文書*にちなんで名づけられた。エジプト王アメンヘテプ3世*および同4世(イクナートン*)の治世年間に相当する。アマルナ文書を中心に，ヒッタイトの首都ハットゥシャシュ出土文書(ボガズキョイ文書)，北シリアの都市国家ウガリット*出土文書などによって，当時のシリア・パレスチナをめぐる国際関係の動きを追うことができる。また，エジプト国内ではイクナートンの〈宗教改革〉に象徴される激動の時代である。

アメンヘテプ3世の治世は内外ともに平和な時代であった。シリア・パレスチナにおけるエジプトの植民地支配体制は安定しており，諸強国の国王とは外交書簡がとりかわされ，エジプト王からは黄金，諸国王からは宝石・馬・戦車・木材・銅などの贈り物が交換されている。国内では王権の威信が増し，専制君主制的傾向が強まるが，同時にアメン神官団との緊張関係も高まった。イクナートンはアメン神官団の勢力をおさえ，王権による一元支配を回復するため〈宗教改革〉を断行した。しかし，内外の政治情勢に対する配慮をまったく欠いたため，国内では新興官僚(旧軍人・軍属出身者)の専横による内政の乱れ，国外ではシリア・パレスチナ植民地の離反が進行した。ヒッタイト王シュピルリウマシュは，王の無関心に乗じてミタンニ王国を衛星国化し，アムル王アブディ-アシルタとその子のアジル，さらにカデシュ侯アイタカマなどを利用して，シリア・フェニキアの諸都市を支配下に収めていった。この間エジプト王に忠実なビブロス侯リブアッディはしきりに援軍をこうたが，まったく無視された。一方アッシュール-ウバルリト1世のもとにアッシリアの進出も始まる。パレスチナにおいても，遊牧民族ハビリ(ヘブライ人か？)の活動のもとに諸都市は離反していき，アジアにおけるエジプト植民地の回復は第19王朝にもちこされた。

なお，イクナートンの〈宗教改革〉がもたらした伝統との断絶を最も明確に表現している当時の新しい芸術を，〈アマルナ芸術〉の名でよんでいる。その特色は，恵み深き万物の創造主である太陽神アトンの御業をたたえ，自然をありのままに表現しようとする写実主義的作風にある。動物・植物が好んで壁画の主題とされ，動的な表現がなされている。異常に長い後頭部をはじめとする王の醜怪な身体的特徴がそのまま浮き彫り・影像に表現され，これが新しい美の規範となっている。しかし治世後半の彫刻

には，名高い王妃ネフェルトイティの胸像のように，この新しい規範が自由な写実主義的表現と調和した傑作が数多くみられる。〔屋形禎亮〕

アマルナもんじょ 【アマルナ文書】 アラブ連合のカイロから南へ約30km，ナイル川に沿うエル-アマルナ(イクナートン*の王都アケト-アテンの現在名)より出土したくさび形文字粘土板文書(タブレット)。1886年にはじめて発見されてより現在まで377通が知られている。エジプト王アメンヘテプ3世*および同4世(イクナートン)と，当時のオリエントの列強であるバビロニア・アッシリア・ミタンニ・アルザワ(小アジア西海岸)・アラシア(キプロス)・ヒッタイトの諸国王およびエジプトに服属していたシリア・パレスチナの小都市国家の支配者たちとの間に交換された外交書簡あるいはその写しで，ヒッタイト語の1通とミタンニ語の2通を除いては，当時の外交用語であったアッカド語で記されている。アマルナ時代*の国際関係を知る貴重な資料で，シリア・パレスチナの小都市国家がエジプトから離反し，ヒッタイトの支配下にはいっていく状況を知ることができる。また，これら小都市国家の政治・社会の研究にとっても，不十分ながら重要な資料である。〔屋形禎亮〕

あまるめ 【余目(町)】 山形県東田川郡の町。人口19,700。庄内(しょうない)平野のほぼ中央にあり，羽越本線から陸羽西線が分かれる交通の要地で，庄内米の集散と食料品工業などが行なわれている。日本有数の余目油田があるが，産出量は年々減少している。

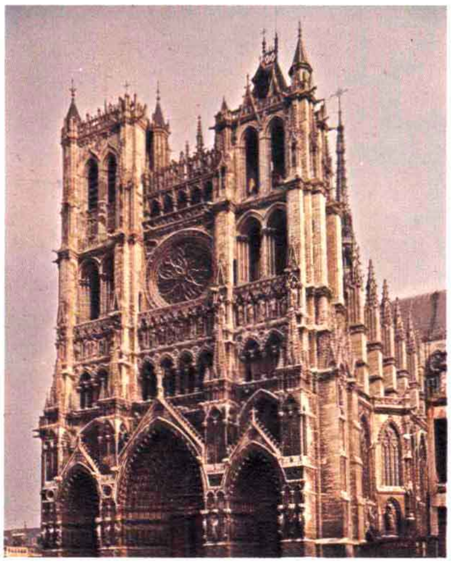
アマン-ジャン [Edmond-François Amon-Jean] (1860～1936) フランスの画家。アングルの弟子(でし)のレーマンに師事，友人に点描派(→点描 →印象派)のスーラ*がいる。印象派ふうのくすんだ，柔らかい色調の優美な婦人像などを描いたが，アカデミスムの革新にも努めた。

あみ 【醬蝦】 甲殻(こうかく)類・アミ目の総称。多くの種類があるが，いずれも10mm内外，淡色透明でエビに似た形をしている。魚類の天然のえさとして重要な役割を果たす。コマセアミ・サガミイソアミ・ミツクリイソアミ・ニホンアミ・イサザアミなどは塩分の少ない沿岸に多産し，つくだ煮や塩辛として食用にされる。アミ類を塩づけにしたものを一般にコマセと称し，つりの寄せ餌(え)として賞用される。

あみ 【阿見(町)】 茨城県稲敷郡の町で，北は霞ケ浦(かすみがうら)に面する。1955年(昭和30)に阿見町ほか3村が合併して生まれた。人口33,000。寂しい農村地帯であったが，1922年(大正11)に霞ケ浦海軍航空隊が置かれてから発展し，現在は航空自衛隊の基地となっている。その他，茨城大学農学部もあり，茨城県内では人口が増加している数



アマン-ジャン《髪》 大原美術館蔵



アミアン大聖堂 内部の動的空間にふさわしいゴシック建築の迫力ある正面



アミガサタケ

少ない町の一つである。

アミアン [Amiens] フランス北部，パリ北方の都市。人口11万8,000(1968)。古くから綿・麻など多種の繊維工業が行なわれ，近年，機械・化学工業も盛んになってきた。運河が多く，〈小ベニス〉ともいわれ，穀物・てんさい糖・羊毛などの交易の中心地。フランス最大のゴシック建築アミアン大聖堂*があり，ナポレオンがイギリスとの間に結んだアミアンの和約*の地としても有名。

アミアンだいせいどう 【アミアン大聖堂】 フランスの代表的なゴシック教会堂。東西の長さ140m，高さ43m，強調された効果的な上昇性のある壮大な規模をもち，1220年着工し，1270年ごろに内部を完成した。東側に内陣があり，その側廊は二重で放射状に七つの祭堂が配置される。西側には身廊・側廊のそれぞれに入り口があり，パリのノートル-ダム寺院*と同じように2本の塔が立ち，ばら窓(放射状の組子をもって壁面につくられる円窓)がその間にはさまっている。この当時の高度な石を積む技術に支えられて，柱間全体に窓がつくられ，ステンド-グラスがはめこまれた。このため，外部の明るさが内部よりいくらかでも明るいときは，キリストや聖人の物語を信者に印象づけることになる。西日を受けたばら窓から射し込む光・色の構成に非常にすぐれている。

アミアンのわやく 【アミアンの和約】 1802年，フランスの第1統領ナポレオンがイギリスと結んだ和約。ナポレオンは，さきにイタリアでオーストリアを破って，1801年リュネビルの和約*を結ばせており，ここでイギリスとも和約して，1792年以来の戦争をいちおう終結させた。彼は平和の到来によって高まった人気を利用して終身統領の地位についたが，平和は永続せず，翌年戦争は再開された。

アミエル [Henri-Frédéric Amiel] (1821～1881) スイスの哲学者・評論家。ジュネーブに生まれ，同地に没。1844～1848年ベルリンで哲学を研究。1849年ジュネーブ大学美学教授，1854年道徳哲学教授。生前，数冊の詩集，若干の論文を発表したが，彼の名を不朽にしたのは死後に出版された《日記抄》である。彼はその中で，鋭い眼をもって自己および他人の魂を分析している。それは内省的で不安に満ちているが，反面その透徹性のゆえに不思議な魅力を放つ書物として知られる。〔石井忠厚〕

あみがさたけ 【編笠茸】 子嚢(しのう)菌類・ノボリリュウ科。春から初夏にかけて林内や草原の地上に発生するきのこ。高さ10cmぐらいで頭部と茎とからなる。頭部は卵形またはいちご実形で，表面は黄かっ色，網目状で大きな凹凸(おうとつ)がある。食用にされる。

あみぎょぎょう 【網漁業】 網漁具*を用いて営む漁業の総称。多くの場合使用する網具名を冠して呼称される。この中には，定置網や刺し網漁業のように受動的漁労に属するものと，すくい網・引き網漁業のように能動的な漁労に属するものとがある。さらに細分すると，およそ次のようになる。①陥穽(かんせい)によるもの(魚の通路を遮断(しゃだん)し，これを一定の囲いの中に誘導して漁獲する)。マス網・大謀網・角網・落とし網など。②敷き網漁業(水中に網を広げておき，その上に集まった魚を漁獲する)。棒受け網・二そう張り網・四そう張り網・四つ手網など。③刺し網漁業(対象生物を網目に刺させるか，網地にそれらを纏絡(てんらく)させ

て取る)。流し網・底刺し網など。④すくい網漁業(対象生物を,能動的に用いてすくい取る方法)。⑤かぶせ網漁業(目的物を上方より急速に網でかぶせて取る方法)。投網(とあみ)・ちょうちん網など。⑥巻き網漁業(細長い網地で魚群を包囲して取る方法。揚繰り網・きんちゃく網など)。⑦引き網漁業(網具を綱で水平方向に引き,この中に目的物を取り込んで漁獲する)。地引き網・打瀬(うたせ)網・各種底引き網・トロール網など。ほかに表層引き網・中層引き網・底引き網にも区分される。〔石野　誠〕

あみぎょぐ【網漁具】 網地を構成主体とした漁具の総称。網地・綱類・浮子(あば)・沈子(ちんし)から構成されるのが普通で,大規模なものには,ブリ定置網や揚繰り網などがあり,また叉手(さで)網のように簡単な構成で小規模なものまである。漁具によっては,綱類・浮子・沈子の一部を欠くものもある。漁具の構造や漁法によって,刺し網類・敷き網類・引き網類・巻き網類・定置網類その他に分類される。使用する網地には,使用目的・構成部分などにより,材質や太さなどの異なった網糸が用いられるし,網目も任意の大きさに編網されて使用される。網糸の材質は,もとは麻やもめんなどの天然繊維が用いられていたが,現在ではほとんど,腐食しにくく,物理的にも強い合成繊維が用いられている。編網の方法により,本目網地・かえるまた網地・無結節網地・もじ網地・織り網地などの区別がある。漁獲対象とする水産生物の大きさや習性,漁場の特性などを考慮のうえ,種々の網地を結合して,一つの網漁具を形成するのが普通である。〔石野　誠〕

あみぎょせん【網漁船】 網漁具を使用して漁業に従事する漁船。底引き網漁船(トロール漁船・打瀬(うたせ)網漁船など)・巻き網漁船(揚繰り網漁船・きんちゃく網漁船など)・流し網漁船・棒受け網漁船などの総称。これらの漁船は,操業上特有な構造(広い作業甲板,スリップウエイなど),必要な装置(ターンテーブル・ネットホーラー・ギャロス・ウインチ・集魚装置など)を有していて,特に,すぐれた復元力・旋回性・凌波(りょうは)性をもつことが望ましい。〔石野　誠〕

あみじ【網地】 糸の結節によって網目を構成した製品。糸の結節には本目編み・かえるまた編みなどがある。漁網・スポーツ用網地などに用いる。近来網地と同様の網目をもったネットウエアがはだ着に利用されている。

あみじょうこうぶんし【網状高分子】 高分子化合物の分子鎖の形態の一。線状の高分子鎖内に,両末端以外に2個以上の官能基があるとき,それらが鎖相互で反応し合い,新たな化学結合をつくって,二次元・三次元の網目構造が形成される。この構造をもつ高分子化合物は,一般的に,溶剤にほとんどとけず,機械的強度も高くて耐熱性もよい。フェノール樹脂・尿素樹脂などの熱硬性樹脂,イオウで架橋された天然ゴムなどが代表的な例。2液配合型のエポキシ系接着剤は,2液を混合することによって高分子鎖を網目構造とし,接着力をより強固にさせることを意図したものである。➔高分子 ➔プラスチック〔伊藤　卓〕



阿弥陀仏　奈良法隆寺の阿弥陀三尊像(国宝)

あみだきょう【阿弥陀経】 浄土三部経の一。鳩摩羅什(くまらじゅう)が402年に訳したもの。成立は1世紀ごろ。小阿弥陀経・小経・諸仏所護念経ともいう。三部中最小であるが,読誦(どくじゅ)写経されることが多い。西方極楽浄土のようす,阿弥陀仏の存在,人々は阿弥陀仏の名号を一心に執持すると浄土に生まれること,それに対する諸仏の証明と護念のことなどを説いている。天台宗・浄土系諸宗では日常用いられ,時宗では特に重視されている。〔真野龍海〕

あみだくじ【阿弥陀籤】 金の分担や物の分配などを決める際に行なわれるくじ引きの一種。紙に放射線状の線を引き,中央に高低の金額や分配する物の名などを記入して各自に引かせる。阿弥陀くじという名称は,紙に記した放射線が阿弥陀仏の後光を連想させるところから名づけられた。阿弥陀くじには種々の変形のものもあるが,元来は神意卜定(ぼくてい)の方法に発したものである。

あみだどう【阿弥陀堂】 阿弥陀仏を本尊とする堂。平安中期,源信が《往生要集》を著わして以来,貴族社会では極楽浄土を現世に実現しようとして阿弥陀堂建築が流行した。その源流は円仁(えんにん)が建てた比叡(ひえい)山〈常行三昧堂(じょうぎょうさんまいどう)〉であり,その様式は多く方五間の宝形造りで,宇治の平等院鳳凰堂(ほうおうどう),平泉の中尊寺金色堂,大原の三千院本堂,日野の法界寺阿弥陀堂などが有名である。

あみだひじり【阿弥陀聖】 平安時代中期以降,一般庶民の間で念仏の普及と庶民教化に活躍した念仏行者。僧光勝(空也(くうや))がつねに阿弥陀仏を念じながら,道路・橋梁(きょうりょう)などの構築に努め,諸国の道場や市中を歴訪し,庶民教化の道を開いたことから,阿弥陀聖・市聖とよばれたのに始まるという。光勝以後,その影響を受けて阿弥陀聖を称する者が続々と現われ,当時の信仰風俗となっていたことが《今昔物語》など各種の文献によって知られる。〔大谷旭雄〕

あみだぶつ【阿弥陀仏】 西方極楽の主である仏の名。古代インド語のa-mitaの音訳で,無量の意。その寿命と光明とにおいて無量で,無量寿(amitāyus)仏・無量光(amitābha)仏ともいう。久遠の昔,世自在王仏のもとに,国王が出家して法蔵という修行僧となり,48の本願を立て,すべての人に大安心を与えるため最勝の仏土を建立(こんりゅう)するのでなければ仏にならないと誓った。その願の中でも中心となるのは,〈往生を一心に望んで仏を念ずる者はすべて救われる仏土としたい〉という第18の願である。法蔵は修行の結果,仏となり,阿弥陀仏といわれ,現に十万億土のかなたの西方極楽に説法し,その本願を信じ念仏する者を救うと信じられている。この信仰はインドで西暦紀元前後より起こり,中国・日本に広まった。

日本では伝来後まもなく流行をみ,特に平安時代から,末法思想の流行や源信の《往生要集》などによって盛んになった。法然に至って純粋に阿弥陀仏信仰が確立され,以後,浄土宗・浄土真宗・時宗などの浄土教諸派の本尊仏となっている。しかし,《法華経(ほけきょう)》《華厳経(けごんきょう)》など多くの経典にも阿弥陀仏の名は出ており,天台宗・真言宗などでも諸仏の一つとして拝され,広く信仰されている。その理由は,だれでも念仏すれば煩悩(ぼんのう)のあるままに救われるという願の本質によるものであろう。造像には種々の形式があり,左右に観音・勢至菩薩(ぼさつ)を配するのを弥陀三尊(➔三尊仏)という。真宗では阿弥陀仏のみを祭る。阿弥陀仏に関しては無数の芸術作品があり,像以外にも来迎図(らいごうず)・浄土曼荼羅(まんだら)などがつくられ,崇拝された。〔真野龍海〕

アミタールめんせつ【アミタール面接】 抑制が強すぎる患者にアミタール(バルビタール酸系のアモバルビタール)を静脈内に緩徐に注射しながら面接し,心理分析を行なう方法。一種の快い解放感を味わえることから隠された不安や緊張がとけ,覚醒(かくせい)時にはためらわれた心内の葛藤(かっとう)やコンプレックスを口外し,気持ちを解放することができる。精神浄化法の一つであるが,非常に被暗示性が高まるので,犯罪などにあっては証言として認められない。

アミーチス ⇨デ-アミーチス

アーミテージ [Kenneth Armitage] (1916〜　) イギリスの現代彫刻家。1958年ベネチア-ビエンナーレの受賞をはじめ,ドクメンタなど数多くの国際展に出品,ブ

ロンズを主としたこん虫のように変形した表現主義的な人間像で知られる。

アミド ［amide］ ①アミノと同じような意味で用いられることもあるが，あまり一般的ではない。②アミノ基（$-NH_2$）がカルボキシル基（$-COOH$）と脱水縮合して生じたCONH-型の残基のこと。③アンモニアやアミン*類のアミノ水素をアシル基（$-COOH$のOHを除いた残基）で置換したもの。酸アミドともいう。ペプチドもこの類に数えられる。④アンモニアの水素を金属原子で置換したもの。金属アミドともいう。

あみど 【網戸】 細目の網を張った夏用建具の一種。窓・出入り口などに取り付けられる。通風・換気はそこなわず，カ・ハエその他のこん虫などの屋内への侵入を阻止するために使用される。わく材は木製またはアルミニウム製，網は従来鉄網であったが，腐食するのでサラン・ビニルなどの合成樹脂繊維が多く用いられるようになり，ステンレス・真鍮(しんちゅう)・銅線の製品もある。取り付けは窓・出入り口などの既製のみぞにつける場合と固定する場合，別にわく組みをつくる場合などあり，開閉方法によって異なる。〔神山幸弘〕

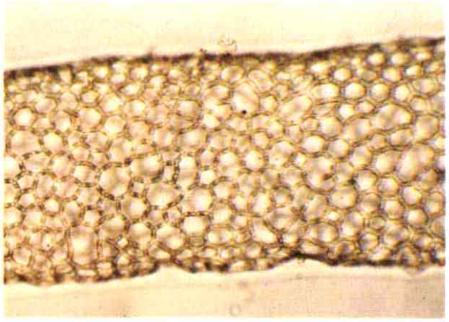
あみの 【網野(町)】 京都府竹野郡の町。人口19,000。日本海に面し，奥丹後半島の西のつけ根にあたり，宮津線が通じている。農業・水産業は零細経営でふるわないが，丹後ちりめんの中心的産地で，その比重は大きい。1927年(昭和２)奥丹後地震で生じた長さ18kmの郷村断層は天然記念物として保存されている。

アミノき 【アミノ基】 一価の残基$-NH_2$のこと。アミドということもあるが一般的ではない。ただし金属原子と結合している場合は金属アミドという。

アミノさん 【アミノ酸】 一つの分子内にカルボキシル基（$-COOH$）とアミノ基（$-NH_2$）とをもっている化合物をいうが，プロリン*などのイミノ酸*もこれに含める。アミノ基とカルボキシル基とが同じ炭素原子に結合しているものをα-アミノ酸とよび，タンパク質の主要成分となっている。タンパク質を構成するアミノ酸は約20種類で，立体構造からはすべてL-型に属する。このほか特殊な構造をもったアミノ酸が最近，遊離またはペプチドの形で高等植物に見いだされている。またD-型のアミノ酸も微生物の産生するポリペプチドの中に発見されている。生体内で重要な役割を果たしているのはタンパク質合成の素材となっているアミノ酸であるが，植物や微生物では，これら20種類のアミノ酸の大部分は基本的な糖代謝系の中間物質より生体内で合成される。植物は硝酸塩・アンモニウム塩などの無機窒素化合物と，糖類からつくられた有機酸の結合によりアミノ酸を合成できる。動物はこれらのアミノ酸のすべては体内で合成することができず，その約半数は外より食物として摂取しなければならない。これら体内で合成できないアミノ酸を必須(ひっす)アミノ酸という。〔吉田精一〕



アーミテージ《訪問者たち》1961



アミミドロ　顕微鏡写真

アミノさんしょうゆ 【アミノ酸醤油】 脱脂大豆を塩酸で分解したのち，中和してできるアミノ酸液を副原料として用いたしょうゆ。第２次世界大戦後アミノ酸液単独の製品もあったが，最近では姿を消している。アミノ酸液には特有のにおいがあるので，こうじを入れて発酵させたり，しょうゆもろみを加えたりして脱臭し，しょうゆの増量剤として現在でもかなり使用されている。

アミノさんはっこう 【アミノ酸発酵】 アミノ酸発酵の歴史はきわめて新しく，1956年にグルタミン酸発酵の工業化に成功してから急速な進歩をみた。この部門ではわが国において多くのすぐれた研究がなされている。アミノ酸発酵の主役である微生物は菌体の構成成分であるアミノ酸を菌体の外に多く蓄積する能力をもっており，細菌・酵母・放線菌・糸状菌のいずれにもみられる。アミノ酸発酵のうち工業的に最も重要なものはグルタミン酸発酵である。工業的製法を略記すると次のようになる。

培地→(殺菌)→(発酵)→(菌体分離)→
　　　　種菌─┘↑空気
(樹脂処理)→(濃縮)→(晶出，分離)→L－グルタミン酸

原料炭素源としてはグルコースなどの炭水化物，酢酸などの有機酸が用いられ，また窒素源としては一般にアンモニア・尿素などが用いられる。このほか工業的に生産されるものにL-アスパラギン・L-グルタミン・L-イソロイシン・L-リジン・L-スレオニン・L-バリン・L-プロリンなどがあり，それぞれの生産菌により生産が行なわれている。〔伊藤力雄〕

アミノじゅしとりょう 【アミノ樹脂塗料】 ⇨合成樹脂塗料

アミノピリン ［aminopyrine］ ピラゾロン系の解熱鎮痛薬で同系統のアンチピリン*に比べ毒性が低く，効力はその約３倍といわれている。白色の結晶性の粉末で，においはなく水にとけやすい。一般の熱性疾患・感冒などの解熱，頭痛・歯痛・神経痛などの疼痛(とうつう)に用いられる。１回0.1g，１日0.3gを内服する。特異体質の人に対してはピリン疹(しん)や無顆粒(むかりゅう)細胞症が起こることがある。鎮痛薬ピラビタールはアミノピリン２分子，バルビタール１分子からなる化合物である。〔鈴木郁生〕

アミノペプチダーゼ ［aminopeptidase］ ペプチド結合*を加水分解する酵素の一。末端のアミノ基から数えて次にあるペプチド結合を切る。動物組織にあるロイシンアミノペプチダーゼはよく知られている例である。

あみは 【阿弥派】 室町時代後半に絵画・茶道・連歌などの諸芸を行なった能阿弥*・芸阿弥*・相阿弥*の父子孫３代をさす。３者とも同朋衆*(どうぼうしゅう)として将軍に仕え，将軍家・有力大名・権門・寺社で盛んに行なわれた唐物(からもの)収集と寄合などに，装飾・鑑賞について指導的役割を果たしたが，水墨画に３者共通の画風があることから，一派をなすとして総称される。

あみみどろ 緑藻(りょくそう)植物・アミミドロ科。各地の水田・池に生ずる。多数の円柱形の細胞が六角の網目をつくり，長さ30cmに達する袋状の群体となる。２べん毛の遊走子・配偶子を生ずる。養魚池で魚にからみつき，水田で通水口をふさぐなどの害がある。

あみめ 【網目】 鳥類・カエデチョウ科。中国南部・台湾に産する小鳥。わが国には古くから輸入され，ジャガタラともよばれる。ジュウシマツ*にごく近縁の鳥で，ジュウシマツの成立に関係があったと考えられている。大きさはジュウシマツと同じ。色彩は頭・のどが赤かっ色で，のどのところが特に濃く，腰と尾は灰黄色，胸腹に灰色半円形のまだらがあり，これが網目のように見える。飼いやすくおとなしいので禽舎(きんしゃ)に放すのに最適。巣引きは巧みでジュウシマツとの雑種も容易。〔石島芳郎〕

あみめはぎ 【網目剝】 硬骨魚類・カワハギ科。海産でせいぜい７cmにしかならない。全体ひし形で，緑からかっ色までさまざまの色合いのものがいる。その名のゆえんである網目模様のまったくないものもある。泳いでいる場所の背景に合わせて，ほとんど瞬間的に色を変えることができる。本州

中部以南の浅い海にごく普通で，アマモ帯*に多い。カワハギによく似ているが，性質はまったく違っておとなしい。食用にはならない。

あみもと【網元】沿岸漁業にみられるような，封建的な生産・労働関係の中で用いられてきたことばで，定置網*や揚繰り網*などの網主，大形船の船主などの呼称。一方，労働力の提供者は網子とよばれる。近年ではこのような家族主義的な関係に基づく制度もくずれ，新しい雇用制度が確立されつつある。

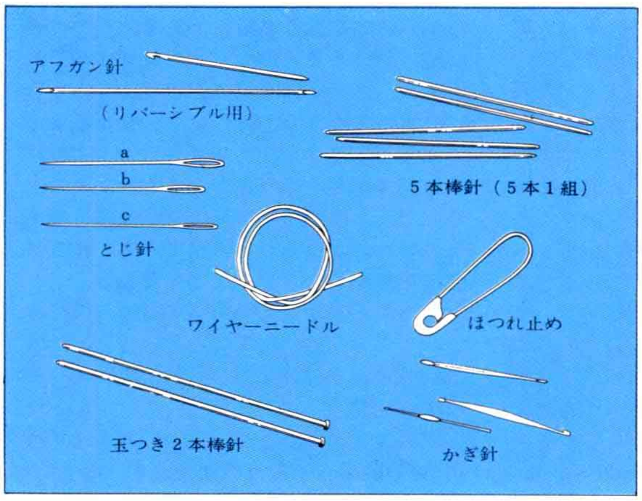
あみもの【編み物】糸またはひもなどで連続したループをつくり，個々のループを連結して編み地を編成しながら，目的の形に編成していくこと，およびその製品をいう。手編み・機械編み*に分類され，それぞれ多くの手法がある。手編みは手工的に編む方法で，かぎ針編み*・棒針編み*・アフガン編み*の３種がある。機械編みは機械力を応用し，多数の編み針を用いてこれに糸を連続供給して編むもので，この装置を備えたものを編み機といい，工業用と家庭用（手編み機*）とがある。編み物は伸縮性に富み，軽く，しわになりにくく，保温性が大で，手袋・くつした・下着・帽子・セーター・ショール・ベビー用品など広範囲に用いられている。特に，過去においてはそのほとんどが毛糸編みであったが，近年豊富な種類の編み糸の出現と性能のよい手編み機の普及により，その利用範囲が広くなった。糸や手法の組み合わせによってフォーマルな衣服やおしゃれ着・和服にまで，四季を通じて使用されるようになっている。また，クッション・テーブルクロス・テーブルセンター・壁飾り・ポットカバーなどの室内装飾品にも，手編みのものが好まれている。作品は用途に適した好みの糸をじょうずに使うことにより，既製品や織物にみられない個性的な美しさを生み出すことができる。

〔歴史〕ものを編むことは人類最古の技術の一つで，漁猟の網を編むことに始まったと思われ，その起源は織物より古いとされる。遺物からみて，BC5000年代のエジプトやBC2500年代のインカで，すでに編み物が行なわれていたと推察される。BC1500年代のスカンジナビアや，BC1000年ごろのエジプトでは，スプラングとよばれる布地が用いられたが，これは編み物から織物に移る中間的な技術を示すものといわれる。歴史時代にはいってからの編み物の遺物の多くはエジプトや西アジアから発見されている。紀元前２～３世紀のアラビアでは，ピンを差し込んだ円形の木わくを使い，シュロの葉やパピルスの繊維で筒編みのサンダル用くつしたがつくられた。また４世紀前後のエジプトの墳墓からは，コプト人の編みソックスが発掘されているが，これは毛糸のメリヤス編みのもので完全に原型をとどめている。７世紀にエジプトを征服したアラブ人の手編み技術は，いっそう精巧なものとなり，７～９世紀には，２本の棒針が用いられるようになり，８世紀のイベリア半島征服に伴ってスペインからヨーロッパ各地に広まっていった。十字軍運動やルネサンスはこの傾向をいっそう促し，14世紀末には，フランスのパリとイタリアのフィレンツェに手編み職人のギルド（同職組合）が結成され，宮廷の保護下に発達して各地に普及していった。イギリスに手編み技術が導入されたのはおそらく14～15世紀のころで，16世紀初頭チューダー朝のヘンリー８世がイギリスで最初に長くつしたを着用し，以後宮廷貴族の間で輸入物の絹のメリヤスの長くつしたが用いられるようになった。1588年ウイリアム-リーによってその機械化が発明されて国内生産が始まり，16世紀後半には，長くつしたはヨーロッパ各地に急速に広まった。

わが国には，16世紀後半から17世紀後半（室町末期から江戸初期）にかけて，南蛮貿易を通じてメリヤス編みが渡来した。メリヤスの語源はスペイン語のメジアスやポルトガル語のメイアス（いずれもくつしたの意）である。徳川光圀（みつくに）の遺品に精巧な模様編みを施した綿長くつしたがあることは有名である。現在日本で行なわれている毛糸編みは，幕末開港とともに外人宣教師によって伝えられて民間に広まり，1886年（明治19）には東京日本橋両替町に婦人編物会が設立された。一方同年設立された共立女子職業学校（共立女子大学）では，教科に編み物を取り入れ，かぎ針編み・棒針編み（２本棒針・金属製４本棒針）などをドイツ人が指導して生徒に学習させた。学校教育に編み物を取り入れ，文部省がこれを専門教育として認可した最初である。この前後から編み物は大阪方面にも普及し，以後全国的に家庭において盛んに行なわれるようになった。また手編み機の発展，また量産化された〈編んだ織物〉としてのジャージー*・ニット地の出現など，需要の伸びを背景に，日常生活における編み物の進出は著しいものがある。なお，レース編みは16世紀に南蛮人によって日本にもたらされ，当時は普及せずに終わったが，1903年ごろ，はじめて東京で普及をみ，しだいに地方へも移っていった。

〔素材と用具〕編み物のよい作品をつくるには，目的に合った素材（編み糸）を選び，用途と素材に調和した手法を考え，手法に適した用具を選ぶ。《編み糸》編み糸には，毛糸・綿糸・麻糸・絹糸などの天然繊維と合成繊維がある。いずれも性能上おのおの長短があるので，各種繊維の短所を補い，長所を生かすように，特徴や性能を異にした天然繊維と合成繊維，あるいは異種の合成繊維の混紡糸がつくられ，手芸用糸として商品化されている。手編み毛糸は，その太さによって極太・並太・中細・合細・極細の種類に分類されている。このほか，各種の変わり糸があり，超極太のバルキー糸，ツィード調の糸，モヘヤ入りの糸，モヘヤループ，ブークレ，カールヤーン，ビーズ糸，ストレッチ糸など実に多彩である。なお，羊毛は他のどの繊維に比べても保温性が高く，吸湿性にすぐれ，被服素材として理想的な条件を備えている。反面，虫に食われる，洗たくがむずかしいなどの欠点があるが，最近は手編み毛糸に防虫加工した製品が普及し安心して使えるようになった。

《用具》①棒針：玉付き２本針と５～６本１組みになったものの２種類がある。玉付き２本棒針は，編み地を往復に編み，平らにつくるときに使う。針先の反対側に玉がつき編み目が針から落ちないようになっている。針は細い順に０号・１号・２号と番号が大きくなるほど太くなる。また針の長さに長短があり，編むものの大きさによって使い分ける。５～６本１組みになっているものは両端がとがった棒針で，輪に編むときに使う。また，編み地を１段ごとに配色





編み物

を替えて編むときに1色で1段を編み，次に配色糸で同じ方向から編むことができる。針の太さの番号は，玉付き2本棒針と同じ。②アフガン針：棒針の一端がとがり，片端にかぎがついている。針の太さの種類はだいたい2本棒針と同じ。また両端にかぎのついた針もあり，リバーシブルアフガン編み(→アフガン編み)の場合に使用する。③かぎ針：両端にかぎのついている針。両端のかぎの大きさが異なっているので，1本の針で2種類の太さの糸を編むことができる。材質は竹製・金属製があり，またかぎが片端だけについた角製のものもある。金属製の場合，毛糸のようなふんわりとした糸を編むときは軽金属がよく，アンダリヤ糸のようなかたい繊維のものを編むときは，鉄製のクロームメッキをした重みのある針が適している。かぎの大きさ，針の形態はメーカーによって異なるので，実際に編んでみて編みよいものを選ぶようにする。④レース編み針：レース糸を編むためにつくられた金属製のかぎ針。針の太さの番号は棒針とは逆に太いものから順に0号～12号まである。⑤ワイヤーニードル：弾力のある金属製の長い針で両端がとがっている。〈比翼針〉ともいい，スカートのような大きな筒形のものを針を変えずに編むときに用いる。⑥ほつれ止め：安全ピンの大きなもので，編み目を一時編まずに休めておくとき，このピンに移しておく。⑦とじ針：2枚の編み地をとじ合わせるとき，糸端の始末をするとき，また編み地にししゅうをするときに使用する。太い糸には15番，細い糸には18番・20番を用い，3番はボタンをつけるときなどに用いる。針先のとがっていない針が使いよい。⑧起毛器：編み物の仕上げにけばを立てるときに用いる。果実(アザミの実)の熟した殻(から)を利用したものと金属ブラッシとナイロンブラッシが両面についたものとの2種類ある。起毛器を利用するときは，まず編み地を湿らせ，左手でおさえておき，起毛器を編み地につけ，ひっかくようにして上に持ち上げ，毛足を長くする。⑨手編み機：早く編みたいときに用いると便利である。　〔山村あい子〕

【デザインと色彩】かつて編み物はそのほとんどが毛糸編みで，一般に防寒という実用性を本位とする考えが強かった。したがってデザインについて総括的に考えることはなく，個々の編み方がすべてであった。しかし最近はその性能が好まれるとともに素材も多種類となり，四季を通じて広範囲に用いられ，単に実用のみならず個人的な好みを本位としたものになってきている。編み物には，糸を編むことによって必然的につくり出される，立体感のある独自の質感と感触がある。編み物をデザインする場合，この基本的な特性を無視して形や色彩を考えては，予期した効果をあげにくい。最近はすべての面で色彩が豊かになり，全体に明るい調子のものが多くなるとともに，プレーンな形を好む傾向がみられる。編み物の場合も同様であるが，特に形よりむしろ色彩を主体としたデザインがよい。細部にこだわらずに全体のシルエットをつかみ，編み物のもつ特性を色で着る，または色で引き立てるようにする。複雑な編み方や立体感の多いものは，特にその形をプレーンなものにすることが好ましい。このような場合，色彩の果たす役割は非常に大きい。思いきって明快な色彩を試みるのも一方法である。　〔宇賀神勝〕

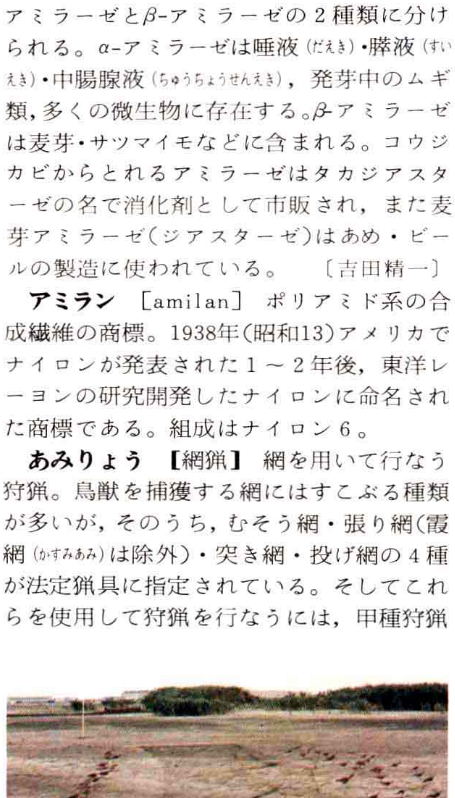
あみもようとうろうのきくきり　**【網模様燈籠菊桐】**　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《小猿(こざる)七之助》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1857年(安政4)市村座初演。きんちゃく切り小猿七之助と奥女中滝川(のちに遊女御守殿お熊(くま))の退廃的な情話を描いた世話物。七之助が滝川をくどき落とす〈洲崎堤(すさきづつみ)〉の大胆なぬれ場で知られる。

アミラーゼ　［amylase］　生物界に広く分布し，デンプンやグリコーゲンなどの多糖類を加水分解して，マルトースや低分子のデキストリンにする酵素。現在知られている酵素の中で最初に発見されたものである。アミラーゼはその性質・作用によりα-アミラーゼとβ-アミラーゼの2種類に分けられる。α-アミラーゼは唾液(だえき)・膵液(すいえき)・中腸腺液(ちゅうちょうせんえき)，発芽中のムギ類，多くの微生物に存在する。β-アミラーゼは麦芽・サツマイモなどに含まれる。コウジカビからとれるアミラーゼはタカジアスターゼの名で消化剤として市販され，また麦芽アミラーゼ(ジアスターゼ)はあめ・ビールの製造に使われている。　〔吉田精一〕

アミラン　［amilan］　ポリアミド系の合成繊維の商標。1938年(昭和13)アメリカでナイロンが発表された1～2年後，東洋レーヨンの研究開発したナイロンに命名された商標である。組成はナイロン6。

あみりょう　**【網猟】**　網を用いて行なう狩猟。鳥獣を捕獲する網にはすこぶる種類が多いが，そのうち，むそう網・張り網(霞網(かすみあみ)は除外)・突き網・投げ網の4種が法定猟具に指定されている。そしてこれらを使用して狩猟を行なうには，甲種狩猟免許が必要である。霞網は，張り網の一種であるが，農林業上に有益な小鳥類が多数かかる懸念があるため，狩猟としての使用が禁じられており，有害鳥獣駆除や学術研究その他公益上必要なとき，特別な許可を受けた場合に限って使用が許される。上記以外の網は自由猟具といわれ，狩猟期間中に可猟地域で狩猟鳥獣を取る限りでは，狩猟免許を必要としない。たとえば，鴨場(かもば)で使用する叉手網(さであみ)や，魚を取る網で臨機に鳥獣を取る場合などである。

網とは絹糸・ガス糸・もめん糸・麻糸その他の植物性繊維，または化学製品の糸などで編まれ，鳥獣捕獲の目的で地上や空間に張ったり，またはかぶせたり，すくったりできるようにつくられたものをいう。むそう網は，田畑・原野・川原・湖畔などの平坦(へいたん)な地上に仕掛け，おとりや餌(え)で鳥を呼び寄せてかぶせる網で，多くの種類があり，雁網(がんあみ)・鴨網・雉網(きじあみ)・千鳥網・小鳥網などがある。形状で区分すると，片むそうが原型で，これを複式にした双むそう，網の両端をそで状に伸ばしたそでむそうなどがある。張り網は地面に対して垂直に張って，飛んでくる鳥や走ってくる獣がかかるようにしたもので，鴨網・雉網・小鳥網・鴫網(しぎあみ)・兎網(うさぎあみ)などがあり，仕掛け方によって谷切網(やつきりあみ)・張り切り網・峰越網(おこしあみ)・霞網などともよばれる。突き網は，三角形の網に柄をつけて，草間に隠れているウズラやシギなどを，突き出してかぶせる網をいう。投げ網は，上の突き網を大形にした形状で，休息地の池から夕方採食に飛び立つカモをめがけて，垂直に高く投げ上げて取る網をいう。→狩猟　〔白井邦彦〕



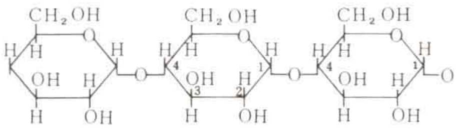
網　猟　シギやチドリ猟に使われている片むそう式むそう網

アミール　［'amīr］　アラビア語で〈軍事指揮官〉を意味する。のちにカリフ帝国の領土が拡大すると，これらの将軍が地方行政をもつかさどったので〈総督〉を意味するようにもなった。アッバス朝期になるとアラビア人以外の，イラン人やトルコ人が多くアミールに任命され，のちには反乱を起こし，独立王朝を建てるものもあった。

アミロイドーシス　［amyloidosis］　類デンプン症ともいう。組織にアミロイドというコンドロイチン硫酸を含むタンパクが沈着する病気。原因不明のものもあるが，多くは，結核・骨髄炎・気管支拡張症などの長期にわたる炎症が続くときにみられる。コンゴーレッドを注射するとアミロイドに結合し，急速に血液から消失するので診断がつく。尿にタンパクが大量に出る。原因不明のアミロイドーシスは心疾患で始まることが多い。原疾患の治療がたいせつである。　〔清水直容〕

アミロース　［amylose］　アミロペクチン*とともにデンプン粒を構成する主成分で，グルコースがα-1,4結合で鎖状に連なり，グルコース6分子が1単位となってらせん構

造をつくっている高分子化合物。うるちデンプンの約20%を占める。ヨウ素反応によって青藍(せいらん)色を呈する。分子量約50,000。



アミロプシン [amylopsin] 脊椎(せきつい)動物の膵臓(すいぞう)および膵液中に含まれるアミラーゼのことで,唾液(だえき)アミラーゼ(プチアリン)と性質がよく似ている。デンプンをマルトースに分解する作用があり,ヒト・ブタの膵臓から取られたものは結晶化されている。

アミロペクチン [amylopectin] アミロース*とともにデンプン粒を構成する主成分で,グルコースがα-1,4結合に数十個連なり,その末端グルコースがα-1,6結合によって分岐した樹枝状構造をしている。うるちデンプンの約80%,もちデンプンのほとんど100%はアミロペクチンからなりたっている。ヨウ素反応によって赤かっ色を呈する。分子量約30万といわれる。

アミン [amine] アンモニアNH_3の水素原子が炭化水素残基で置換された化合物の総称。その置換された数によって,第一アミン・第二アミン・第三アミンに分類される。なお第一アミンはアミノ化合物,第二アミンはイミノ化合物ともいわれる。

$R-NH_2$　　$R-NH-R'$　　$R-N\begin{matrix}R'\\R''\end{matrix}$
(第一アミン)(第二アミン)(第三アミン)

また,同一分子内に含まれるアミン窒素の数により,モノアミン・ジアミン・トリアミンというように分類される。ジアミン以上のものをポリアミンと総称する。第一アミンとしてはメチルアミン・エチルアミン・ベンジルアミン・アニリン・エチレンジアミンなど,第二アミンとしてはジメチルアミン・ジエチルアミン・ペピリジンなど,第三アミンとしてはトリメチルアミン・ピリジンなどが代表例としてあげられる。低分子のものはアンモニアに似た刺激臭をもつ。いわゆる魚のにおいはアミンによることが多く,ニシンを浸した塩水にはジメチルアミン・トリエチルアミンが含まれている。水にとけてアルカリ性を示し,有機塩基として動植物中に含まれ重要な役割を果たしている。製法は多数あるが,代表的な方法としては,ハロゲン化アルキルとアンモニアとを適当な溶媒を使って封管中で加熱するとか,ニトリル・オキシム・酸アミドあるいはニトロ化合物を適当な条件で還元するといったものがあげられる。アミン類は有機合成化学上種々の目的に広く使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

アーミン ⇨オコジョ

アム(川) ⇨アムダリア川

アームコ-スチール [Armco Steel Corp.] アメリカの大手鉄鋼会社。変型鋼管や特殊鋼材の製品が有名で,海外諸国に技術を輸出している。1900年にG.M.ベリティーによって設立。本社はオハイオ州のミドルタウンで,国内諸工場の設備投資にも熱心であるが,海外工場には特に力を入れている。メキシコシチーに溶接機工場を,ペルーのリマに製管設備の工場をといったように各地に進出しており,ヨーロッパとラテンアメリカに重点を置いて活動している。ピッツバーゲ-スチールとの合弁会社アームコ-ピッツバーグを1964年に設立,冷間圧延特殊製品の生産を始めた。技術開発の面では,露出部分に強い反射仕上げを行なう鋼板(ディファレンシャル亜鉛めっき)や,線材の純アルミめっきが最近の成果である。年間売上高15億7,000万ドル,従業員数50,000(1969)。〔氏家　尚〕

アムステルダム [Amsterdam] オランダの首都。アムステル川河口にあり,北海とは北海運河で結ばれるヨーロッパ有数の貿易港で,商工業も盛んである。人口80万(1975年推)。市街を数本の運河が扇形に走り,橋の多い都市として名高い。13世紀までは漁村であったが,アムステル川にダムが設けられた結果,14世紀以来ライン川貿易の中心となった。さらに17世紀初め,オランダがジャワに東インド会社をつくって東洋貿易に乗り出してからは急速に発展した。市街は水路に沿って発展し,王宮,アムステルダム王立美術館*,アムステルダム-コンセルトヘボウ管弦楽団*の音楽堂,熱帯博物館など,16世紀以降の有名な建造物や施設が立ち並ぶ。アムステルダム大学・アムステルダム自由大学の二つの大学をもち,学芸の中心でもある。

またフランス・ドイツ・イタリアなどと国際列車で結ばれる交通の要地であり,市街の南西スヒップホルに国際空港がある。東洋貿易の中心であった時代は去ったが,現在もヨーロッパ金融界の中心をなし,ユダヤ人が勢力を占めている。ダイヤモンド研磨・航空機・造船・化学などの工業がある。〔野間三郎〕

アムステルダムおうりつびじゅつかん 【アムステルダム王立美術館】 オランダの国立美術館。アムステルダムにあって1885年の開館。この国の歴史・芸術の記念碑ともいえる。所蔵品はオレンジ公家の収集品が基礎で,有名なレンブラントの《夜警》をはじめとして,ハルス・ロイスダール・フェルメールの傑作を含む17世紀の絵画を中心に,中世後期から19世紀までのオランダ絵画の流れが展望できる。ほかに,レンブラントの1,000点余の版画・素描,デューラーのほぼ全版画や彫刻,銀器・陶器・壁掛け,各時代の家具類,東洋貿易に活躍した商船の模型などの展示もある。なお,アムステルダム市立美術館は,ゴッホをはじめとする印象派・表現派の作品の収集で知られている。〔藤井久栄〕

アムステルダム-コンセルトヘボウかんげんがくだん 【アムステルダム-コンセルトヘボウ管弦楽団】 オランダが世界に誇るオーケストラ。1881年,アムステルダムに創立されたが,1888年にコンセルトヘボウすなわち演奏会場ができてから,その名をとったオーケストラとして,コンセルトヘボウ協会の所属となった。初代指揮者はケスであったが,1895年からメンゲルベルク*が常任となり,半世紀近くこの楽団を指導して世界的な存在に育てた。以後ベイヌム・ハイティンクなど,オランダ生まれの指揮者が常任となっている。1962年,1968年の2回来日している。〔向坂正久〕

アームストロング [William George Armstrong] (1810〜1900) イギリスの発明家で大企業家。ニューカッスルに生まれ,ロンドンで法律を学んだが,科学技術に興味をいだき,水力起重機をはじめ多くの機械装置を発明,1847年,エルスウィックに水力機械工場をつくった。クリミア戦争で大砲の改良を思いたち,1855年アームストロング砲を発明して有名になった。これは砲身の内側に鋼線をらせん状に巻くことによって発射時の衝撃をおさえ,砲弾の先をとがらせることによって精度・速度を飛躍的





アムステルダム　(左)水の都アムステルダムの運河沿いの街路。アムステルダムの風物に船は欠かせない。ガラス張りの快適な遊覧船が,準備を整えて観光客を待っている　(右)アムステルダムにある花市場の内部。せりが押しボタン式に自動化されており,車台の上の草花が職員によって処理される

に増大させたもので，その功績によって，1859年政府の兵器廠(へいきしょう)長官，さらに王立鋳造所長などを歴任，ナイトの称号を受けた。彼の会社はのちにビッカース-アームストロング社となり，ヨーロッパでクルップに次ぐ兵器の大総合企業となった。〔片岡一郎〕

アームストロング [Louis Armstrong] (1900～1971) アメリカのジャズ-トランペット奏者・歌手。サッチモ(大口の意)の名で知られ，〈生きたジャズ史〉といわれる。ジャズ形成期のニューオルリンズに生まれた。13歳のとき少年院に入れられ，ここではじめてコルネットを習った。以来，ジャズ初期の指導者キング-オリバー*の愛弟子(まなでし)となり，ニューオルリンズ・シカゴで人気を博した。独立後はニューヨーク，さらに舞台を全世界に広げて活躍している。即興性に富んだ力強いトランペット奏法はその歌にも通じ，ジャズ-ボーカル界の第一人者でもあり，スキャット唱法を生みだしたともいわれている。〔鈴木道子〕

アムダリア(川) [Amu-Dar'ya] アム川ともいう。パミール高原に源を発して西北に流れ，中央アジアのアラル海に注ぐ。全長2,500km。古くはオクスス川とよばれた。キジルクム砂漠(さばく)・カラクム砂漠中を流れるので古来しばしば流路を変え，カスピ海に注いでいたこともある。中・下流域にはオアシスが開け，メロン・ブドウなどが栽培されている。河口から1,000km上流まで小汽船の航行が可能であり，またカスピ海とカラクム運河で結ばれて，交通・運搬に大いに利用されている。〔野間三郎〕

アムッドどうじん 【アムッド洞人】 1961年，イスラエルのガリラヤ湖近くのアムッド洞窟(どうくつ)で，東京大学西アジア調査団(団長・鈴木尚(ひさし))が発見した旧人の化石。形態学的特徴からは，旧人の中でも，比較的新しいもので，旧人と新人との移行型とみなされる。中期旧石器から後期旧石器への移行型の石器を伴う。

アムネ-マチン 【阿尼瑪卿】 中国青海省南東部の山脈。崑崙(こんろん)山脈の支脈で全長約400km，平均高度5,000～6,000m。最高峰アムネ-マチン山(7,160m)は一時世界最高といわれた。南のバヤン-カラ山脈との間は，黄河の発源地帯となっている。

アムビュラトリー [ambulatory] 一般的には〈歩行する場所〉を意味し，回廊や遊歩廊をさす。特にその名でよばれる所としては，ゴシック教会堂の東端部において，放射状に配置されたアプス*を礼拝する巡路として，中央大祭壇の背後を一巡している通路用の側廊。

アムラン [Octave Hamelin] (1856～1907) フランスの哲学者。1884年ボルドー大学教授となり古代哲学および近代哲学を講じたが，晩年はパリにもどってソルボンヌ大学教授。死の数か月まえに公刊された主著《表象の主要要素についての試論》は，師ルヌービエ*の現象主義を受け継いだもので，実在が表象の要素からなりたつこと，およびこの要素の結合を直観によってではなく知性によって把握(はあく)するところに哲学的知識が成立することを主張している。〔飯塚勝久〕

アムリツァール [Amritsar] インド共和国北西部，パンジャブ州の都市。パキスタンとの国境近くに位置する。人口40万8,000(1971)。市内の〈不滅の池〉とよばれる聖池にはシーク教の大本山〈黄金寺院〉があり，参詣者(さんけいしゃ)でにぎわう。政治・交通上の中心であるとともに，北インド平原とヒマラヤ山地との産物の取引の中心でもある。インド独立史上に名高いアムリツァール事件*(1919)の発生地としても知られる。

アムリツァールじけん 【アムリツァール事件】 1919年4月に起こったイギリス・インド間の紛争。反英運動に従ったパンジャブ西北のアムリツァール*の市民は，イギリス軍の発砲で多数の死傷者を出した。この事件は全インドの民族運動を激化させたが，ガンジーの抑制でようやく治まった。

アムール(川) [Amur] モンゴルに源を発し，ソ連と中国の国境をなして東流し，間宮海峡に注ぐ川。全長4,480km，流域205万km²。中国では黒龍江(こくりゅうこう)，モンゴルではハラムレンとよぶ。ヤブノロイ山脈から発するシルカ川と，モンゴル高原から発するアルグン川が合流してアムール川となり，下流部で松花江(スンガリ川)やウスリー川なども合流し，河口は幅16kmに及ぶ。冬は結氷するが，夏は汽船の可航水域も長く，シベリア鉄道とともに極東・沿海州の動脈となっている。サケ・マスなどの漁獲も多く，沿岸は砂金を多く産し，下流部は豊かな農業地帯である。17世紀以来ロシアと中国との間にこの川の帰属をめぐる係争があり，1858年の愛琿(あいぐん)条約によって，左岸がロシア領と決まった。〔野間三郎〕

アムンゼン [amundzen] 梨地(なしじ)組織の梳毛(そもう)織物。薄地で手ざわりよく，婦人服地などに用いられる。無地・プリントなどがあり，綿・化繊などでもつくられる。名称は日本だけのものでノルウェーの南極探検家アムンゼン*にちなむ。

アムンゼン [Roald Amundzen] (1872～1928) ノルウェーの極地探検家。オスロ大学で医学を修めた。ベルギーの南極探検に参加，1903～1906年には小帆船で北極圏にはいり，西北航路初の周航に成功するとともに北磁極の標定を行なった。のち，フラム号による南極探検(1910～1912)で，イギリス人スコット*と極点到達を競い，1911年12月14日南極点にはじめて到達した。以後は航空機による極地探検を志し，1926年5月飛行船ノルゲ号によって，エルスワース*(アメリカ)・ノビレ*(イタリア)とともに北極点上空を通過，初の北極海横断に成功した。1928年6月北極飛行の帰途ゆくえ不明となったノビレの捜索に出たが，乗機はスバールバル(スピッツベルゲン)諸島付近で消息を断ち，そのまま帰らなかった。ノビレはのち救出された。〔野間三郎〕

あめ 【飴】

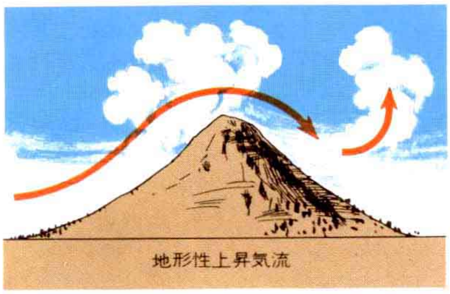
1 デンプン質を，酸または酵素で加水分解してつくった粘調な甘味物質。状態が液状なので水あめともよばれる。酸によるものを酸糖化あめ，酵素による場合は麦芽を利用するので麦芽あめという。この両者は外観は非常に似ているが，製造法・成分および性質がかなり違っており，したがって用途も異なる。**〈酸糖化あめ〉** デンプンを酸で加水分解すると，最初可溶性デンプン，デキストリン(糊精(こせい))となり，最後にはブドウ糖にまでなる。あまりブドウ糖をたくさん生成させようとすると，苦みが出たり特徴が失われるので，ブドウ糖が5%くらいになったときに分解をやめ，精製したのち，水分16%程度に煮つめると酸糖化あめとなる。したがって，ブドウ糖のほか，デキストリン，その他のものが共存している。菓子類(キャンデー・ドロップ・あめ玉など)・つくだ煮・ジャム類に用いられる。**〈麦芽あめ〉** 麦芽の場合は，その中に含まれているα-アミラーゼとβ-アミラーゼの作用によって，デキストリンと麦芽糖の混ざったものになる。以前は原料として穀類が使用されていたが，現在ではもっぱらデンプンが用いられる。独特の風味があるので，特にキャラメルなど風味を賞翫(しょうがん)する菓子類に使われる。

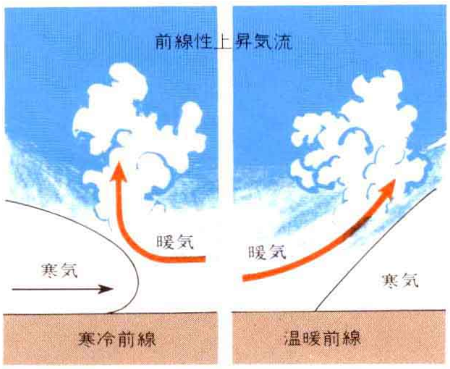
2 水あめを主原料とした菓子の一種。種類はいろいろあり，水あめを練ってかたくしたものを引き合って白くした白あめ(金太郎あめ*・千歳(ちとせ)あめ)，水あめに白玉粉を混ぜた朝鮮あめ，寒天を混ぜた翁(おきな)あめなどが有名である。砂糖を用いた洋風のあめはキャンデーと総称され区別される。➔キャンデー〔佐藤友太郎〕

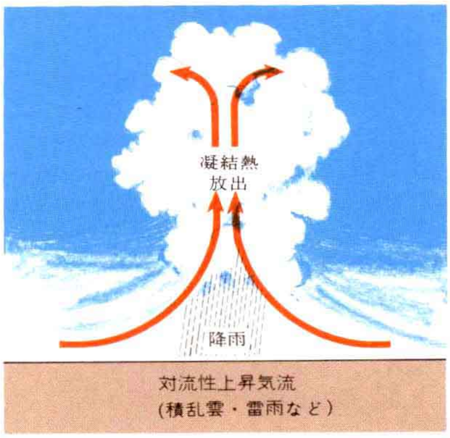
あめ 【雨】 大気中の水蒸気が凝結または昇華により，水または氷の粒からなる雲となり，複雑な過程を経て雨粒に成長し地上に落下してくるもの。雨は社会生活に密接な関係があり，降り過ぎると豪雨禍をもたらし，降り足りないと干害となる。気象現象の中でも最も複雑な現象で，風とともに最も重要な要素である。近年集中豪雨の被害が社会の関心事となり，気象学的にも集中豪雨の生因について多くの研究がなされているが，なお不明の点が残されている。

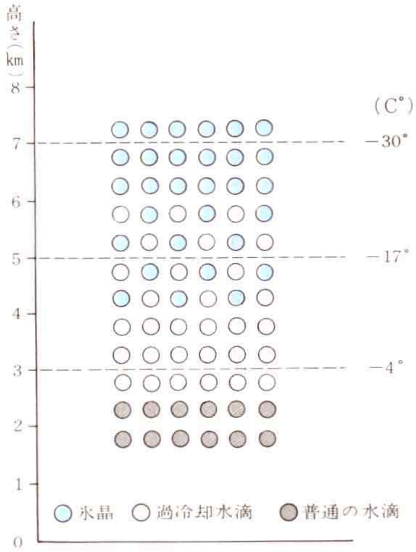
〔雨の観測〕 降水量の観測は，雨水が地中にしみこんだり，他所へ流れたりしないで地上に一様にたまったと仮定して，その深さで表わし，単位はミリメートルを用いる。雨量計は受水器で雨を受けて貯水器に送り，その深さを測るようになっている。雪・雹(ひょう)・霰(あられ)などの場合には，湯でとかしてそれが何ミリメートルあるかを測り，

雨



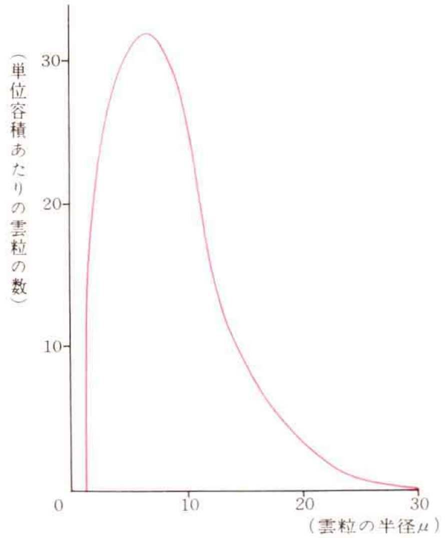






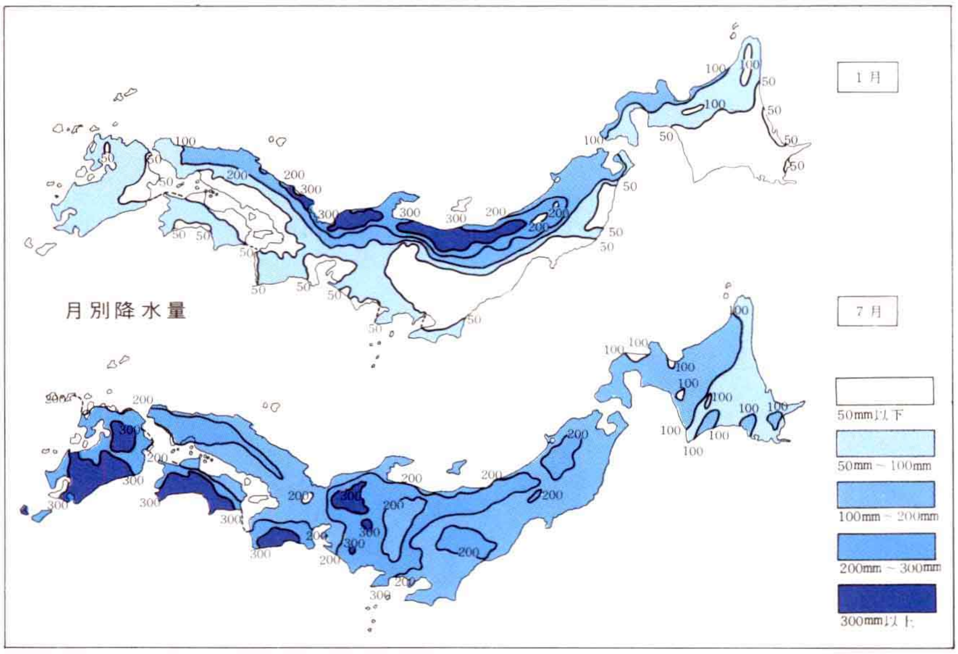
高度別雲粒の性質

氷晶と過冷却水滴の混在するところでは，水滴は蒸発し氷晶は昇華によって成長する。これが氷晶説の基本である



積雲中の雲粒の粒度分布

図に示すように，雲中の雲粒の大きさにはいろいろあり，空気が上昇運動する中で，それぞれ異なる速度をもち衝突して大きな雲粒を形成していく。これが併合補足説である

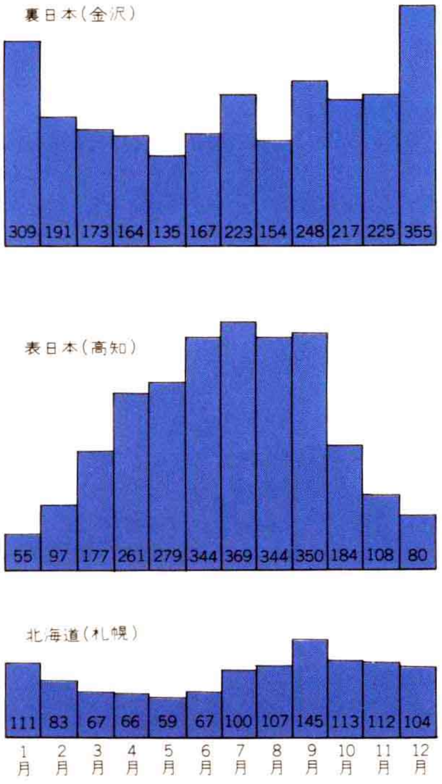


湯の量を差し引いて降水量としている。気象庁では，毎時間，3時間おき，6時間おき，24時間おきとそれぞれの観測所によって決められた時間に観測している。1日雨量の場合には前日の午前9時から当日の午前9時までの雨量を前日の雨量とする。また，自記雨量計では，雨量が自記紙に連続的に書き込まれるようになっているので，雨が降ったあと自記紙から1日の総雨量，各1時間おきの降水量，その日のうちの最大1時間降水量，10分間降水量など，いろいろ読み取ることができる。

雨量計は周囲の地形や建物から十分距離を取って置かないと，風の影響で実際より多めにはかったり少なめにはかったりすることがよく起こる。たとえば，がけの上や建物の屋上などでは上に上る気流の影響を受けて少なめの観測をしやすい。また，風が強いと雨量の観測を正確に行なうことが困難になる。雨量計は雨量を直接観測するわけであるが，レーダーや気象衛星は雲の観測から雨域の推定を行なう。

レーダーは電波の反射を利用して，雨雲の像(エコー)を写し出し，その動きを追跡して雨域の動きを推定するもので，集中豪雨のように狭い区域に多量の雨を降らすような場合の雨域の追跡には有力な武器となる。わが国では，大阪・福岡・東京・種子島(たねがしま)・名瀬・室戸岬(むろとざき)・名古屋・函館(はこだて)・新潟・仙台(せんだい)・札幌(さっぽろ)・富士山などにレーダーが設置され，だいたい国内をおおっているが，山陰などでレーダーの届かない地域もかなり残されている。

一方，気象衛星による雲の写真は雨雲の分布状態を大きく把握(はあく)する上できわめて有効である。天気図上の低気圧や前線に対応する雲の分布を調べ，それに降雨分布を対応させていけば，その利用価値は気象衛星の技術の向上とともに今後ますます増大すると思われる。降雨現象を解明する上で重要な観測としては，雨量とともに高層



月別降水量

観測によって大気の垂直構造を明らかにすることがあり，また雲粒や雨粒の大きさや成分を分析して成雨機構を明らかにすることがある。

〔雨の降り方と強さ〕雨は層状の雲からは，比較的一様な強さで降るが，積雲型の雲から降るものはにわか雨の性質が強く，急に強くなったり弱くなったりし，場所的にも狭い区域に限られることが多い。雨の降り方と雨量との関係は次の表のように考えられている。

雨の降り方	1時間雨量(mm)	24時間雨量(mm)
微　雨	1以下	5以下
小　雨	1～5	5～20
並　雨	5～10	20～50
大　雨	10～20	50～100
豪　雨	20以上	100以上

上の表からわかるように，同じ雨の降り方でも，その雨量は時間に比例しては多くならない。これは時間が長くなるほど，降ったりやんだりする回数が多くなるためである。また，1日5mm以下の微雨では地面はほとんどぬれないが，10mm以上になると遠足や運動会などは中止するような状態になる。30mm内外では1日じゅう雨らしい雨が降ったと感ずる程度であり，50mm以上になると1日じゅう強雨が降り続いたと感ずるようになる。100mm以上を豪雨とよぶが，150mm内外では山間部でも，洪水(こうずい)・鉄砲水が起こるおそれがある。1957年(昭和32) 7月25日長崎県諫早(いさはや)付近では1,109mmの豪雨を記録している。

〔雨を降らす気象条件〕大気は水蒸気を含んでおり，空気塊が上昇するときには断熱膨張によって温度が下がり，ついには露点以下になって凝結し雲をつくるが，上昇気流が強いときは雨を降らすようになる。すなわち，雨は上昇気流の強いところで降ることになるから，上昇気流が起こる気象条件を明らかにする必要がある。大気中に上昇気流の起こる場合として，大きく三つに分けることができる。それは，①気流が収束する場合，②対流性の上昇気流の場合，③山などに気流がぶつかって強制的な上昇気流が起こる場合，である。

①の気流が収束する場合というのは，台風のように気流が低圧部の中心に収束して上昇気流となる場合や，前線に沿って気流が収束する場合である。温暖前線の場合には暖気が寒気の上にはい上がるようにして上昇気流を生じ雲をつくる。寒冷前線の場合には寒気が暖気の下にくさび状にもぐりこみ，暖気を持ち上げ雲をつくる。寒暖両気流の勢力が伯仲している場合には停滞前線となり雲をつくる。梅雨前線や低気圧の前線に沿う雨はこの種のものであるが，強い雨を降らす場合には，単なる収束性の上昇気流のみならず，強い対流性の上昇気流が重なっているのが普通であり，さらに地形の影響が加わって強い雨となることが多い。

②の対流性の上昇気流は，大気の垂直不安定が原因で対流運動が起こるもので，雷雨がその代表的な例である。積雲・積乱雲は対流性のものであり，強い雨はおもに積乱雲から降ることが知られている。ある条件のもとでは，積雲・積乱雲は群をなして発生し，時間的にも次から次へと発生することがある。集中豪雨はこのようにして起こると考えられている。前線の気流の収束するところに対流性の積乱雲が重なり，南方の暖湿の空気が大量に送り込まれているところに集中豪雨が起きているわけである。

③の地形性の強制上昇は気流が山にぶつかって山腹を上昇するという機械的な効果だけでなく，地形性の上昇がさらに不安定な大気の対流運動を促進させる効果をもつのである。実際の降水量分布がかなり，地形の分布に対応していることが知られている。

実際の降雨は以上述べた三つの場合が混在していることが多く，純粋に収束性の雨は，弱い前線に沿う層状の雲の場合であり，純粋に対流性の雨は雷雨の場合である。また，冬季北陸地方に降る山雪は地形性降雨の代表例である。雨が降るためには上昇気流とともに水蒸気が重要な働きをする。雨水を補給するという意味ではもちろん重要であるが，水蒸気が凝結する際に，凝結熱を出してその部分を暖め，上昇運動を加速するのである。このことは対流性の上昇運動を持続させるうえで特に重要である。現在収束性の降雨については，その機構がよく知られているが，集中豪雨を起こすような対流性降雨についてはまだよくわかっていない。豪雨の区域が小さく，通常の気象観測網にはいりがたいのがその大きな原因である。

〔成雨機構〕雲があっても必ずしも雨は降らない。雲粒*や雨粒の大きさを比較してみると，次の表のようになっている。すな

雲・雨	直　径(mm)
雲	0.02
霧雨	0.15
細雨	0.5
並雨	1～2
雷雨	3

わち，雲粒は小さくて，これが雨粒の大きさに成長するにはなんらかの過程を必要とする。大気中の水蒸気は，露点温度以下になると，無数に浮遊している凝結核*に凝結を起こして雲粒となる。大気中で凝結核の働きをするのは，海水の飛沫(ひまつ)が蒸発して残った海塩粒子や煤煙(ばいえん)，火山からの噴出物などからできる微粒子などであり，これらの凝結核はつねに十分存在すると考えられている。しかし，凝結核への凝結のみでは雨粒の大きさにはなりえない。雲粒から雨粒への成長を説明する理論として，雲粒の併合補捉説と氷晶説がある。併合補捉説というのは簡単にいえば，二つの雲粒がいっしょになってより大きい雲粒をつくるというのである。なんらかの原因で大きくなった雲粒が落下したとすると，その途中でより小さい雲粒が付着してより大きな雲粒になり，落下距離が長いほど成長する可能性が大きいことになる。したがって厚い雲ほど雨粒に成長しやすいのである。一方，氷晶説というのは，気温が0℃以下の上空では，過冷却現象のために，水粒と氷晶(氷の粒)が共存しており，飽和水蒸気圧の差異のために水粒からは蒸発し，氷晶では昇華して大きな氷晶に成長し，落下途中の併合補捉でさらに大きくなり，下層に来るにつれてとけて雨になるというのである。氷晶説がなりたつのは，積乱雲のように雲頂が0℃以下の層まで上空に伸びている場合である。層状の雲のように比較的低い雲の場合には，併合補捉説で説明され，このような場合に降る雨を暖かい雨という。

〔雨に関する統計〕雨の降り方についてのいろいろの性質は，過去の雨の資料の統計からある程度知ることができる。また，河川の堤防の構築，ダムの制御，灌漑(かんがい)用水の整備なども過去の統計資料からその対策が講じられるわけである。ここでは日

本の雨の降り方について概括的な説明をし，統計結果を示すことにする。はじめに季節別の雨の降り方について述べると，春は移動性の低気圧が日本付近を通る際に雨を降らせるが，低気圧が南岸沖を通る場合は地雨*となり，日本海を通るときにはあまり降らない。6～7月の梅雨期には，オホーツク海からの冷たい北東気流と小笠原(おがさわら)高気圧*からの暖かい南西気流の衝突によってできる梅雨前線に沿って降雨が起こり，6月から7月にかけて，九州から始まって北日本に向かって雨域が北上し，7月中旬ごろに終わる。この時期に，ところによっては激しい集中豪雨に見舞われる。夏の雨のおもなものは雷雨によるものであるが，夏から秋にかけて台風が日本付近に接近するために，それに伴って強い降雨が起こりやすい。また，秋にも梅雨前線に似た前線が南岸に停滞し，連日雨を降らすことがあり，この前線を秋雨前線という。冬にはシベリア大陸からの北西季節風が日本列島に吹きつけて，日本海側一帯に雪を降らせるが，太平洋側の各地は雨が少ない。このような雨の降り方の季節的な特徴から，表日本・裏日本・北海道地域の月別降水量は図(182ページ)のようになっている。表日本は梅雨期から台風期にかけて多く，裏日本では冬の降雪量が多く，また北海道では比較的少ない降水量が一様に分布している。また，世界の雨の降り方をみると，年じゅう高温多雨のアマゾン川流域やマライ半島などの熱帯雨林気候，だいたい乾季と雨季に分かれるインドやインドシナなどの熱帯草原気候，日本などにみられる温帯多雨気候，温帯地方でも地中海沿岸のように冬は温和で夏よりやや雨が多い地中海性気候，西ヨーロッパ地方のように雨はあまり多くないが年じゅう平均して降る西岸海洋性気候，年じゅうほとんど雨の降らない砂漠(さばく)気候などがあり，平均月別降水量の代表例は下表のようになる。

日本の大雨の記録は6月から9月までの台風や梅雨期の前線によるものが多い。次表は時間別降水量の3位までのものを示す。また，世界的には1時間雨量250 mm以上，1日雨量1,800 mm以上の記録がある。

降雨時間	雨量 mm	観測地	観測年月日
10 分	55.9	潮岬	1944. 4.19
10 分	44.3	潮岬	1944. 9.23
10 分	40.0	清水	1944.10.17
1時間	157.0	清水	1944.10.17
1時間	145.6	箱根山	1938. 8. 3
1時間	144.0	西郷	1957. 7.25
1 日	1 109.2	西郷	1957.7.25～26
1 日	1 011.0	大台ヶ原	1923. 9.14
1 日	963.9	大台ヶ原	1946. 7.29
1 月	3 461.5	大台ヶ原	1938. 8
1 年	10 216.0	屋久島	1950

注) 潮ノ岬(和歌山県)，清水(高知県)，箱根山(神奈川県)，西郷(島根県)，大台ヶ原(三重県)，屋久島(鹿児島県)

〔雨の影響〕 雨と人間の生活とは密接な関係で結ばれていて，農業に与える影響が最も大きい。農作物の生育期に適当な雨が必要であり，多過ぎると病虫害にかかりやすく，少ないと枯れてしまい，また，豪雨によって流失する被害もしばしば起こっている。森林が形成されるためにも，熱帯では1,500 mm以上，冷温帯では600 mm以上の年雨量が必要で，夏の半年に雨量が少ないと成長が小さいといわれている。年輪の成長には高緯度地方では温度が，低緯度地方では雨量がおもに影響し，中緯度地方では両者の影響が混在してきいてくる。また，空気中の水蒸気が枝葉に凝結したり，霧粒が付着したりして，これがしずくとなって雨のように地面に落下する樹雨(きあめ)という現象があるが，近畿(きんき)地方の大台ヶ原などはそのために林内の雨量が林外より多くなっていて，林の成長を助けている。雨の第2の影響は用水ならびに水力発電に対するものである。これは河川の流域に沿う雨量の問題であり，最近では雨量観測の推進とともにその積極的な利用対策が講じられている。第3の影響は洪水・がけくずれなどの問題である。特に集中豪雨は局地的な狭い地域に起こるので，対策の遅れている地域が多数あり，毎年のように各所に災害を与えている。第4の影響として雨水による地表面の侵食がある。雨水中には二酸化炭素・硝酸・硫酸などが含まれており化学的侵食を受けるとともに，雨水の運動学的効果としてどろ水の流出のみならず，表層の肥料分などを流出する。第5の影響として，雨水による各種物質の運搬作用がある。その顕著な例は原水爆実験による人工放射性物質が雨水に含まれてくる場合である。同じように大気汚染物質が雨で洗い落とされて，大気が清浄化されるという現象もある。以上のように雨が社会生活に及ぼす影響はきわめて重大である。文明の進歩とともに雨の利用の促進，災害の縮小を進めていかねばならない。最近では降雨の人工制御の試験もなされているが，実用化するには至っていない。

〔雨の史料〕 旱魃(かんばつ)とか雨・洪水とかに関する記述は日本史上の多くの記録に残されている。旱魃や大雨の被害の現われ方は文明の進展の程度によって違ってくる。昔は旱魃の被害が多かったが，灌漑用水の整備によって旱魃の被害は少なくなり，大雨による災害が目だつようになってきている。次に1728年(享保13)の大風雨・洪水の記録を紹介しておく。河川の堤防や下水道の不備など，文明の遅れからくる惨禍の模様がよくわかる。

《江戸洪水記》〈八月二十九日夜八つ時分より雨降り出し段々強く夜中降り通し翌朔日(ついたち)朝まで降りつづき，朔日も一降り，さりながら朔日は雨間有りといへども降り方多し，朔日夜雨又強くなり，夜中雨間なく大雨降りつづく，二日四つ過ぎより北風おびただしくいで，家々の軒下まで風にてさながら横に吹き込み，風はげしきゆゑ，雨煙立て，南向きの家などはつよく降りこみ北の方は戸障子窓などしばらくもあかれさる位なり，世上の土蔵の壁，または家々の下見なき壁は微塵(みじん)になりたるなり，昼ころより雨いよいよ強くさながら洪水のごとし，しかるところに，小日向(こびなた)・目白下・関口水道町・古川町・改代町の方より大水いつくともなく急に押し来たり雨はやみ水は段々押し来る(中略)，数万の男女泣きさけぶ声北風に響き加賀屋敷・本村辺まで聞えたり，前代未聞の事なり(中略)，水二日夜に入り夜ふけより，そろそろと引き，夜明方には大方水引きたるよし，三日には天気快晴上がりたり。〉

《柳営日録》〈洪水に付き，翌三日より八日まで，江戸川口芝金杉(かなすぎ)深川六方坪辺より死骸(しがい)尋ね来候(そうら)ひて受け取り

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シンガポール 1951～1960 (熱帯雨林気候)	285	164	154	160	131	177	163	200	122	184	236	306
カルカッタ 1931～1960 (熱帯草原気候)	13	24	27	43	121	259	301	306	290	160	35	3
東京 1931～1960 (温帯多雨気候)	48	73	101	135	131	182	146	147	217	220	101	61
ローマ 1946～1955 (地中海性気候)	69	58	38	43	51	25	15	23	69	94	97	71
ロンドン 1931～1960 (西岸海洋性気候)	53	40	37	38	46	46	56	59	50	57	64	48
カイロ 1931～1960 (砂漠気候)	3	4	3	1	4	0	0	0	0	1	4	7

(単位 mm)

分，小石川水道町・牛込赤木下・古川町・改代町辺，

男八十人
女二百三十五人
男女子供ともに三百三人

目白下関口・中里村辺，

男八十五人
女百七十二人
男女子供とも二百三人

根津・下谷(したや)・金杉・箕輪(みのわ)・浅草幡随院(ばんずいいん)・鳥越新寺町辺，

男百四十七人　内出家十三人
女百七十六人
男女子供ともに三百七人

右は死体受け取り候ふ分，そのほか流れ来たり主無きの片付け候ふ，男女子供六百七十八人ほど，流れ通り候ふ分数知らず，牛馬数知らず，

芝新銭座・金杉辺，

男六十七人
女八人

右は材木屋真木屋等の由この分御船手より訴え

房州浦にて　三千五百四十人
伊豆浦　知らず
川流死人　千九百七十三人

右車善七方にて二十四日までに取り上ぐる分，

都合　七千九百八十八人ほど〉

〔曲田光夫〕

あめたいふう　【雨台風】　比較的多量の雨を降らせる台風。進行方向前面に不連続線を形成し，進行速度がおそい場合に，同じ場所に多量の雨を降らせることになる。
→風台風

アーメダバード　［Ahmedabad］　インド共和国西部，グジャラート州の州都。ボンベイの北約500kmに位置する。人口158万6,000(1971年推)。15世紀初めに建設され，インド-サラセン様式のイスラム寺院が多く残り，インドで最も美しい都市の一つといわれる。また付近にも史跡が多い。近代的綿工業が盛んで，ボンベイとともにインド綿工業の一大中心をなし，細番手の高級品を産する。1918年からインド独立運動の拠点となり，ガンジーもここから活動を始めた。
〔別技篤彦〕

あめに　【飴煮】　調理法の煮物の一つで，水あめを用いて煮込む方法。関東では甘露煮ともいい，フナ・コイ・モロコなどを煮るときに用いられる。砂糖やみりんを用いると材料の身が締まってかたくなるが，あめは身の内部までしみこまないので柔らかく煮え，煮あがったものは照りとつやがある。また砂糖を用いてしるけがなくなるまで煮つめ，あめ色に仕上げたものもあめ煮という。**〈作り方〉** 小魚(主として川魚)をいったん素焼きにし，1昼夜くらい風干ししたものをなべに入れ，水をたっぷりと番茶じるまたは酢を少々，酒を入れ，とろ火で骨が柔らかくなるまで煮る。柔らかくなったら砂糖としょうゆを加えて煮，さらに水あめを入れて煮つめる。　〔塩川ふみ〕

あめのいわと　【天岩戸】　天石窟(あめのいわや)・天岩屋戸(あめのいわやと)ともいう。日本神話で，アマテラスオオミカミ*はスサノオノミコト*の乱行を怒って，天岩戸を立ててさしこもり，そのため天上・地上ともに暗くなり，万(よろず)の妖(わざわい)が事ごとに起こった。八百万(やおよろず)の神は計略を巡らし，天岩戸前で祭儀を行ない，アメノウズメノミコト*が舞を舞った。アマテラスオオミカミがふしぎに思って天岩戸を細めに開いたのを機に，タヂカラオノミコトがその手を取って引き出した。これによって天上も地上も明るくなったという。岩屋は古墳を念頭においており，天岩戸は羨道(せんどう)の入り口をふさいだ石に類推してよいと考えられる。上代の〈石隠(いしかくし)〉が死を意味したことは，多くの古文献に残っている。アメノウズメノミコトの行為は日神(ひのかみ)の活力を回復させる呪術(じゅじゅつ)にほかならず，アマテラスオオミカミの天岩戸からの出現は復活であった。《神代紀》には天孫の降臨を〈天磐戸(あめのいわと)を引きあけ〉て天くだったと表現する一文がある。　〔宮井義雄〕

あめのうずめのみこと　【天鈿女命】　日本神話の女神。鈿のもとは髻華(うず)で，アメノウズメノミコトは聖木の枝葉をとって髻華として頭髪にさした女祭司を原始の姿とする。アマテラスオオミカミが天岩戸*(あめのいわと)内にこもったとき，岩戸の前に鏡・玉・和幣(にぎて)をかけた賢木(かしこぎ)を立て，この女神は聖木の枝葉を鬘(かずら)とし，小竹葉(ささ)を手草(たくさ)に結い，空槽(からうけ)を伏せて踏みとどろかし，神がかりして胸乳をあらわにして，裳紐(もひも)を陰(ほと)にたれた。これは鎮魂祭の起原を説明する神話と解され，後世，鎮魂祭にはこの女神の後裔(こうえい)である猿女君(さるめのきみ)が奉仕した。猿女君は代々，女子をもって後継者としたらしく，山城(京都府)の桂女(かつらめ)と同類の相続だったと考えられる。天孫降臨には五部神の一つとして従ったことになっている。　〔宮井義雄〕

あめのこやねのみこと　【天児屋根命】　カミムスビノミコトの子で中臣(なかとみ)氏・藤原氏の祖と伝えられる神。天孫降臨のときニニギノミコトに随従してこの国土に下ったと伝えられ，その子孫は代々朝廷の神祭に従事した。

あめのぬぼこ　【天沼矛】　《日本書紀》では天瓊矛。沼矛は，玉をもって飾った矛(ほこ)，または魂を表現する矛の意味で，天は天上の所属を表わす。イザナギノミコト*・イザナミノミコト*の2神は天神(あまつかみ)から天沼矛を受け，天浮橋(あめのうきはし)に立って沼矛を差し下してかきなすと，潮がしだいに固まりいき，引き上げると，その先端からしたたる潮が積もってオノコロ島となったという。天神は《古事記》ではアメノミナカヌシノカミ*とあり，太陽神とも考えられる。天沼矛を海中に差し下したのは，天の男性原理と水の女性原理の合一を意味し，その結果としてオノコロ島が生じたことを示す。天沼矛はまた天之日矛*(あめのひぼこ)と同義に考えてよい。　〔宮井義雄〕

あめのひぼこ　【天之日矛・天日槍】　名義はアメノヌボコ*と等しい。日矛は《古事記》ではアメノウズメノミコト*が天岩戸(あめのいわと)前で日神(ひのかみ)(→アマテラスオオミカミ)を招禱(しょうとう)するため手にした矛の名称となっている。しかし，《旧辞》ではアメノヒボコは新羅(しらぎ)の王子であり，妻を追って日本に来朝したという。妻はアカル姫で，難波(なにわ)の比売碁曾社(ひめこそのやしろ)にしずまる女神であった。つまり日矛は日神の表象であり，それを独立させると，アメノヒボコなる人格となるのである。日神に仕える巫女(みこ)は日矛を聖器とし，これによって日神を招いた。《播磨(はりま)風土記》ではアメノヒボコはアシハラシコオノカミおよびイワノオオカミと土地を争っている。これは但馬(たじま)(兵庫県)の出石君(いでいしきみ)がアメノヒボコの後裔(こうえい)であり，アメノヒボコははじめ播磨(兵庫県)に泊まったと伝えるのと関連する。出石君がアメノヒボコを新羅から将来した家伝をもち，出石神社に祭り，播磨に土地を求めて進出したことがあったのである。これらの事実がアメノヒボコなる神話的人物の事跡として結晶したと解せられる。　〔宮井義雄〕

あめのみなかぬしのかみ　【天御中主神】　日本神話でタカミムスビノカミ・カミムスビノカミとともに造化三神とされる。本居宣長*(もとおりのりなが)は《古事記伝》で，この神の名義について〈天のまん中に坐々(ましまし)て，世の中の宇斯(うし)たる神と申す意の御名なるべし〉と説いている。しかし古代人が天のまん中に座す神を抽象的に考えたとは思われない。むしろ天に中する太陽を位置においてとらえたと解釈するほうが妥当である。《古事記》は天地初発(あめつちのはじめ)の第一神としてアメノミナカヌシを示しており，クニトコタチノカミを第一神とする《日本書紀》とは，そこに構想上の大きな相違が認められる。アメノミナカヌシの実体は日神(ひのかみ)であると考えられる。　〔宮井義雄〕

あめのむらくものつるぎ　【天叢雲剣】
⇒草薙剣(くさなぎのつるぎ)

あめのもりほうしゅう　【雨森芳洲】　(1668～1755)　江戸中期の儒学者。朱子学派。名は誠清，また俊良。字(あざな)は伯陽。近江(おうみ)(滋賀県)の人。木下順庵*(じゅんあん)門の高弟で，師の推挙により対馬(つしま)藩に仕えて文教をつかさどり，また朝鮮との外交にあたった。朝鮮語・中国語を自由にあやつり，1712年(正徳2)山県(やまがた)周南とともに朝鮮からの使節と詩の応酬をし，名を内外に高めた。おもな著書は《橘窓(きっそう)文

集》《橘窓茶話》。

あめのわかひこ 【天稚彦】 日本神話の神。アマツクニタマの子とされている。アマテラスオオミカミ*・タカミムスビノカミによって高天原(たかまがはら)から出雲(いずも)(島根県)のオオクニヌシノカミのもとに国譲りの交渉のために派遣された。出雲におもむいてオオクニヌシノカミの娘シタテル姫をめとり，その国を得ようと図って8年になるまで命令を怠った。高天原からはキジをつかわしてようすをうかがわせたが，アメノワカヒコは天神(あまつかみ)から授けられた天羽羽矢(あめのははや)でこれを射殺した。天羽羽矢は高天原まで飛んだ。タカミムスビノカミは矢の血を見て，これを投げ返すと，新嘗(にいなめ)して臥(ふ)せるアメノワカヒコの胸にあたり，命を失ったという。〈返し矢おそれむべし〉という俗諺(ぞくげん)の由来と説明される。心おごった者が返し矢によって命を失ったことを説く返し矢型説話の好例として解釈され，国譲り神話とは本来無関係とみられる。 〔宮井義雄〕

アメーバ ［amoeba］ 原生動物・根足虫綱の単細胞動物のうち，アメーバ科に属するものの総称。アミーバともいう。体は原形質のかたまりで，皮膚も骨組みもなくきまった形がない。体の一部が伸び縮みして移動する。分裂してふえるが，条件が悪いと体を丸め，膜をかぶって休眠する。淡水中で自由生活をするものが多いが，人体に寄生してアメーバ赤痢*を起こすなど寄生性のものもある。きまった形をとらないため，おおよそではあるが，大きさはハツカネズミヤドリアメーバ15～30μ，バチアメーバ70～150μ，ヒドラヤドリアメーバ170～190μ，オオアメーバ450～600μと，ほとんどのものが光学顕微鏡的な存在である。

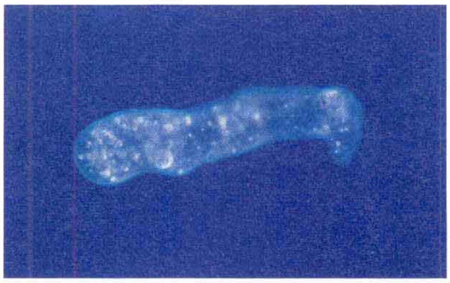
アメーバうんどう 【アメーバ運動】 原生動物のアメーバで典型的に示される運動の一様式。そのほか，変形菌の変形体，白血球などの変形細胞，発生過程における胚葉(はいよう)細胞にみられる。原形質流動*と密接な関係があるとみなされている。アメーバは流動性の内質(ゾル)と非流動性のかたい外質(ゲル)の2層からできているが，アメーバが移動するときには，内質が移動する方向に流れ出して，前端の外質を押しのける。そこで内質が外質の外側に突き出して，原形質の突起，すなわち仮足をつくる。その突き出た内質はかたい外質に変わり，また体の後方ではあとに残された外質が流動性の内質になって，仮足の方向に流れ出て行く。このため，アメーバは仮足が伸びる方向に移動すると考えられている。仮足には葉状突起・糸状突起・網状突起・有軸突起などがあるが，これらは電子顕微鏡レベルの微細構造についても，運動様式に関しても異なっている。 〔山崎博子〕

アメーバせきり 【アメーバ赤痢】 寄生性原生動物の赤痢アメーバによってひき起こされる伝染病。大腸や直腸に潰瘍(かいよう)ができ，粘血便を交えた下痢症状がある。熱帯に多いが温帯地方にもみられる。飲食物や汚染された水による経口感染が主で，潜伏期は数日～数か月である。症状は細菌性赤痢と似ているので鑑別が大事で，便に赤痢アメーバが検出されれば確実である。治療には塩酸エメチン・ヒ素剤・カルバミジン・オキシキノリン剤などが用いられる。また，テトラサイクリン系抗生物質も有効である。 〔国井乙彦〕

あめばち 【飴蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・ヒメバチ科。体長18mm前後。全体黄赤色。翅(はね)は透明で腹部は非常にほっそりとし，産卵管は長く突き出す。東アジアに広く分布し，山地に多く，燈火によく集まる。刺されるとかゆみを伴う鈍痛を覚える。類似種も多い。

あめふらし 【雨降】 軟体動物・腹足綱・後鰓(こうさい)亜綱(ウミウシ類)。全長30cmほど。茶かっ色の地に灰白色の斑点(はんてん)がある。日本全国の沿岸，台湾・アジア大陸沿岸に分布し，海岸の浅瀬にごく普通にみられる。体に触れると赤紫色の液を出す。巻き貝の仲間なので，薄い小さな殻(から)のなごりが体の中に埋まっている。春から夏にかけて，磯(いそ)のあちこちに落ちている中華そばのかたまりのようなものはアメフラシの卵塊で，ウミゾウメン(海のそうめんの意)とよばれる。

アメリカ ［America］ 南北アメリカ大陸の総称であるが，この場合はThe Americasと定冠詞をつけ複数にするのが普通である。アメリカ合衆国のことを略して，単にアメリカということも多い。パナマ地峡を境にして，パナマより北を北アメリカ*，コロンビアより南を南アメリカ*とするほか，カナダとアメリカ合衆国・グリーンランドをアングロアメリカ*，メキシコより南をラテンアメリカ*としたり，グアテマラからパナマまでを中央アメリカ*，これにメキシコと西インド諸島を加えて中部アメリカ*としたりする。日本では，中部アメリカと南アメリカをいっしょにして，中南米ともいうが，これはラテンアメリカと同じ地域である。



ア メ ー バ



アメフラシ

アメリカの面積は4,210万km^2で，アジアよりもやや小さく，人口は5億5,000万(1974)で，20世紀にはいってから3.7倍に増加しており，世界で最も人口増加率の高い大陸である。しかし，1km^2あたりの人口密度は13人で，世界の平均の29人に比べれば，まだまだ小さい。

原住民はアメリカ-インディアン*で，コロンブスがアメリカを発見した当時，約1,300万人いたと推定されているが，現在では3,000万人ぐらいと思われる。最も多いのはヨーロッパから移住した白人で，このほかアフリカから奴隷として渡ってきた黒人の子孫，アジアから移住した中国人や日本人などがおり，ラテンアメリカにはアメリカ-インディアン・白人・黒人のそれぞれの間の混血も多く，人種構成は複雑である。

アメリカは長い間ヨーロッパ人に知られていなかった。11世紀ごろ，北ヨーロッパからバイキング*がグリーンランドやカナダに到達したことがあったが，定着していない。1492年のコロンブスのサンサルバドル島，現在のワトリング島への到達によって，ヨーロッパ人の植民のいとぐちが開かれ，アングロアメリカはイギリス人・フランス人によって，ラテンアメリカはスペイン人・ポルトガル人によって，おもに開拓された。

アメリカという名称は，イタリアの航海者，アメリゴ-ベスプッチ*のラテン語名Americusからきている。この新大陸をアメリカと命名することを提唱したのは，ドイツの地理学者であり牧師でもあったワルトゼーミュラーで，彼はその著《世界地理入門》(1507)の中で新大陸をヨーロッパ・アフリカ・アジアに次ぐ第4の大陸として論ずるとともに，南アメリカ大陸の一角を発見したベスプッチが新大陸を最初に発見したものであるとして彼の業績を記念するためアメリカとよぶことを提案したのである。しかし，アメリゴ-ベスプッチについては，彼が実際に航海したかどうか疑問がもたれており，この命名は必ずしも妥当とはいえない。このために，実際の功績はないのに虚名を得た者に対して，〈あれはアメリゴ-ベスプッチみたいなやつだ〉ということばがあるほどである。

1783年，イギリスの植民地からのアメリカ合衆国の独立が承認され，ラテンアメリカの植民地も19世紀にはいってからあいついで独立し，現在は29の国際連合の加盟国

があり，植民地としてはイギリス領ホンジュラス，フランス領のギアナのほかは，めぼしいものは残っていない。グリーンランドは，デンマーク本国の一部，プエルトリコはアメリカ合衆国の自治領である。

アメリカの中には，世界で最も高度の文化が発達しているアメリカ合衆国やカナダと，後進地域であるラテンアメリカを含み，政治的にはアメリカ合衆国の勢力が強く，米州機構（OAS*）を通じてこの地域を支配しようとしているが，キューバはアメリカ合衆国と断交して共産圏に加わっており，その他のラテンアメリカ諸国にも最近は反米感情が高まってきている。なお，中央アメリカのグアテマラ・ホンジュラス・エルサルバドル・ニカラグア・コスタリカの5か国は，中米機構（ODECA），そのうちのコスタリカを除く4か国は，中米共同市場（CACM）を組織して，政治的・経済的な連帯を図っている。〔浅井得一〕

アメリカ（合衆国）［United States of America］**【領域の概観】**略式名合衆国，略称USA。北アメリカ大陸の胴帯部を占める本土とアラスカ・ハワイの50州からなる連邦制共和国。面積936万km²，人口2億2,010万（1978），首都ワシントン。面積・人口ともに世界第4位の大国。海外領としては，カリブ海域に1898年アメリカ-スペイン戦争*の結果属領となったプエルトリコ，1917年にデンマークから買収したバージン諸島，1903年以来管理権を委譲されて準領土となっているパナマ運河地帯があり，太平洋地域には合衆国領サモアのほか，グアム・ジョンストン・ミッドウェー・ウェークの島々がある。旧日本委任統治地の南洋諸島は信託統治地となっている。これら属領の面積は13,200km²，人口29万9,000（1966）。

アメリカ合衆国という国号は，イギリスの植民地東部13州が独立戦争を遂行するために，1781年3月に批准した連合規約第1条で定められたことによる。国旗はいわゆる星条旗*で，独立当時の13州を表わす赤と白の交互になった13の条帯と，青地に合衆国を構成する州の数を表わす50の白星からなる。主要部48州のある本土は，北はカナダとの国境を限る北緯49°線から，南はメキシコ国境とメキシコ湾に及ぶ北緯25°のあたりまで，南北約2,600kmにわたって，温帯気候の地域にあり，緯度的には日本とほぼ同じ位置を占めている。しかし経度的には，西経68°から125°までの約660kmの広がりをもっているので，東部・中部・山岳・太平洋の四つの標準時をもち，地形的な変化と，それに基づく気候の地域差，さらにこれに原因する森林・農業の地域的特色を有している。

ニューイングランドにおけるイギリス人の植民地を中核として，1783年に独立を認められた合衆国は，当時の13州時代からアパラチア山脈を越え，ミシシッピ川を渡り，ロッキー山脈を越え，西へ西へとその領域を拡大していった。1803年にはルイジアナを併合し，1821年にはスペインからフロリダを買収し，メキシコ戦争の結果，1845年にはテキサスを譲り受け，さらに1848年にはカリフォルニアを含む南西部を買収し，1853年にはアリゾナのジーラ川南部地域をも買収した。その後オレゴン地方の領有権についてイギリスと争った結果，北緯49°線をもって国境線に定めた。1830年までの合衆国はアパラチア以東の地域で，それより以西はインディアンの居住地域であった。西方への開拓移動の動機となったのは，1849年にカリフォルニアに始まったゴールドラッシュである。西部の開拓に伴い人口は急増していったが，このような人口増加は主として世界各地からの移住者によってもたらされたのであって，このことが合衆国の民族構成を〈人種のるつぼ〉と化した。その複雑さは同国の誇る点でもあり，また，悩みの種ともなっている。

【地形】広大な地域を占めるわりには地形の構造は簡単で，大きく，東部山地・中央低地・西部山地の三つの地域に分けて考えることができる。大西洋に面する海岸平野は，北部では非常に狭いが，南部では広くなり，幅600kmに達する。その西部は古い褶曲（しゅうきょく）山脈が侵食されて高原状になったアパラチア山脈と接する。この地域を総称してアパラチア-ニューイングランド海岸地方とよんでいる。北部海岸は沈降海岸で，出入りが多く良港に恵まれるが，南部海岸は隆起海岸で出入りが少ない。

ミシシッピ水系の流域は，北極海からメキシコ湾に抜ける低地の一部をなし，ミネソタ州北部から五大湖北部にわたる非常に低い分水界によってカナダの中央低地とくぎられている。このミシシッピ流域を占める中央低地の西部はプレーリーとよばれる温帯草地をなすが，その西端部はグレートプレーンズとよばれる高度750～1,700mの平原に移行してロッキー山脈と境を接している。

西部山地は環太平洋造山帯に属するコルジェラ山系の一環をなしている地域で，東側のロッキー山脈，西側の太平洋岸山系，中央の山間高地からなっている。ロッキー山脈はアラスカのブルックス山脈に始まって南下し，メキシコに及んでいるが，この西側の山あいの高地は，高い台地と大きな盆地の連続した地域である。その中には溶岩からなるコロンビア高原やスネーク台地，また水平な堆積層（たいせきそう）をなすコロラド高原などがある。コロラド高原は，多くのミシシッピ支流のほか，メキシコ湾に流れるリオグランデ川や，カリフォルニア湾に注ぐコロラド川の水源となり，アリゾナ州にはコロラド川が削った大峡谷グランドキャニオンがある。グレートベースン（大盆地）は合衆国西部における砂漠（さばく）ないし半砂漠の地域で，多くの短い平行した山脈によって，小さな盆地と谷に分かれている。西部高地の盆地地域における山地の多くは，断層によって形成された地塁をなしている。西海岸の太平洋岸山系は，連続した谷をはさんで二つの山脈が海岸に沿って南北に走っている。この山地は北はアラスカ山脈に始まり，アラスカの南東部からカナダにかけてはところによって沈水し，合衆国では東ではカスケード山脈とシエラネバダ山脈，西では海岸山脈となり，クラマス山地がこれら両山地を結んだH状の山系をつくって，南のメキシコまで続いている。海岸山脈は沿岸から急上昇しているために，太平洋岸には連続した海岸平野はみられない。アラスカからカナダにかけての海岸には，氷河の侵食によってできたフィヨルドが発達して複雑な海岸線がみられる。火山はアリューシャン列島からアラスカにかけての地帯，カスケード山脈に沿った地域に多い。

【気候】大部分が中緯度地方に位置しているが，垂直的な高度の変化によって，その気候は多様である。北西部海岸では温和な大陸西岸気候がみられる。この地域は黒潮（日本海流）の影響を受け，年間の気温較差（年較差）はわりあいに小さく，夏冬ともに温和である。また偏西風のために霧が多く，雨量も全年を通じて平均して多いが，冬に最も多い。この地域の南に続くカリフォルニアの地域は，夏に雨が少なく冬に多い地中海性亜熱帯気候である。この地域の沖合いでは北極海から黒潮の下をくぐって南流した寒流が深海底から上昇してカリフォルニア海流となっているので，サンフランシスコ以南の沿岸では，緯度のわりには気温が低く，夏の暑さが著しくやわらげられている。この地域では，冬には霜のために果樹園が大被害を受けることがある。メキシコ湾岸のジョージアからテキサス東部にわたる地域は，雨量は夏に最も多いとはいえ，ほぼ年間平均していて，湿潤な亜熱帯気候を示している。大西洋岸の気候は，暖かいメキシコ湾流の影響を受けることはわりあいに少なく，それよりも大陸内部からの影響を強く受け，大陸性気候の傾向を示している。フロリダ半島は冬は乾季，夏は雨季にあたる。半島の南端にある避寒地マイアミは，熱帯モンスーン気候の特色を示して夏に雨が多い。

降水量は，カリブ海沿岸地域と北西部海岸の年間2,000mm以上の多雨地域から，南西部の砂漠における250mm以下の乾燥地域にわたっていて，地域的相違が著しい。一般に西経100°線を境にして，東部は雨量がわりあいに多いが，西部は北西部海岸を除いては年間500mm以下の小雨地域をなしている。デス-バリー（死の谷*）・モハーベ谷・インピリアル谷は，太平洋岸から送られる水分がカスケード・シエラネバダの両山脈によって完全に遮断（しゃだん）されるために極度に雨

が少なく砂漠となって，熱帯乾燥気候の特色を示している。

また，合衆国の気候は，北極地域と熱帯地域に起源をもつ気団の影響を強く受ける。北極気団のうち，カナダ北部からツンドラ地域を横切り，海洋の影響を受けることなく，大陸内部に押し寄せる寒冷で乾燥した気団の勢力は最も強く，この寒波によってテキサスの農作物や果樹が凍害をこうむることがある。南西部の夏の気候が非常に暑くて乾燥しているのは，著しく乾燥した熱帯気団がこの地域に発達して停滞することによるものである。合衆国で破壊的な損害を与える代表的な風に，ハリケーン*とトルネード*がある。ハリケーンは熱帯低気圧の一種で，カリブ海の島々で8月末から9～10月にわたる期間に発達し，合衆国にあってはフロリダ州を中心とした地域が襲われることがある。トルネードは，南西部・南部および中央平原の南部地域で春に起こる大旋風である。

〔土壌(どじょう)〕ロッキー山麓(さんろく)の東部を南北に走るグレートプレーンズの地域はチェルノーゼムとよばれる黒土の地帯をなしている。チェルノーゼムは腐植質の乾性土壌で，地味は肥え作物栽培に適しているが，ここでは特に穀物の栽培に利用されている。この黒土帯の西はくり色土の地帯をなしているが，乾燥して気候も不安定なために，休閑法や灌漑(かんがい)によって種々の作物がつくられている。この土壌帯の西にあたるロッキー山地を越すと，砂漠土・半砂漠土がみられ，高い山地の雪どけの水を利用した灌漑による農業がところどころで行なわれている。太平洋沿岸では山地土・砂漠土など，種々の土壌がみられる。

チェルノーゼムの東部はプレーリー土が南北に配列した地帯をなしている。この土壌はグレートプレーンズよりもたけの高い草の下に発達したもので，地味はよく肥えているが，雨量が多いために可溶分の浸出が多い。その生産力は大きく，トウモロコシなどの穀物や牧草アルファルファ*の栽培に適する。プレーリー土の東部，北部諸州にかけては灰かっ色ポドゾル土壌の地域が広がり，この地域の北部，ウィスコンシンなどの五大湖北部地方は，アラスカのユーコン流域からカナダ南東部に延びるポドゾル土壌地域の南東端部にあたっている。ポドゾル土壌は酸性で，その可溶分は浸出され，地味は肥えてはいないが，石灰や肥料を使ったり，まぐさなどの飼料作物を栽培することによって，かなりの生産力のあるものに改良される。この地域ではおもに酪農や野菜栽培を行なっている。灰かっ色ポドゾル土壌は，ポドゾル土と同じく，酸性で可溶分の浸出もごく自然に行なわれ，ヨーロッパで多くみられる土壌と同じ性質のものである。南東部の諸州は赤かっ色ポドゾル土壌の地域である。この土壌はリン分が不足し，それに深部の土は粘土を多く含んで塊状を呈し，浸透性に欠けているので，多量の化学肥料を使って生産力を高める必要がある。また，この地方の降雨は激しいにわか雨の様相を呈し，土壌侵食が激しく行なわれるので，急傾斜地では家畜の飼育を行なったり，中間作物を等高線に沿って帯状に栽培することなどによって土壌侵食を防いでいる。以上，各地区の土壌の特色をみてきたが，合衆国の土壌も結局，他の地域と同じく，最も肥沃(ひよく)な土壌は，川の流域に沿った狭長な沖積土帯(ちゅうせきどたい)にみられる。

〔植物〕合衆国本土の自然植物景観は，①カナダの針葉樹林帯の南にあたり，東から西に向かって，針葉樹と広葉樹の混交林をなす東部森林地域，②プレーリーとグレートプレーンズの草地，③ロッキー・カスケード・シェラネバダ・海岸山脈の各森林地域を含む西部森林地域の3地域が，それぞれ南北の方向に延びている。東部森林地域は，カナダ南東部とともに北アメリカの温帯東部を占め，ニューイングランド地方，五大湖地方からアパラチア山地にわたる北部針葉樹林と，オハイオの谷から北はミネソタ南部，南はテキサス東部にわたり，またアパラチア南部からニューイングランド地方に広がる中央硬木森林と，ニュージャージーから南はフロリダ中央部に，西はテキサスの東部に広がり，多少の硬木を交えた南部針葉樹林との三つの地区からなっている。この東部森林地域の樹種は200種余りの広葉樹と30種ぐらいの針葉樹に及んでいる。この地域はかつては世界でも最大の森林地域をなしていたが，現在では開発が進んでその資源はほとんど枯渇の状態に近づいている。しかしこの地域は気候温和で，雨量も十分あるので，農業には恵まれている。

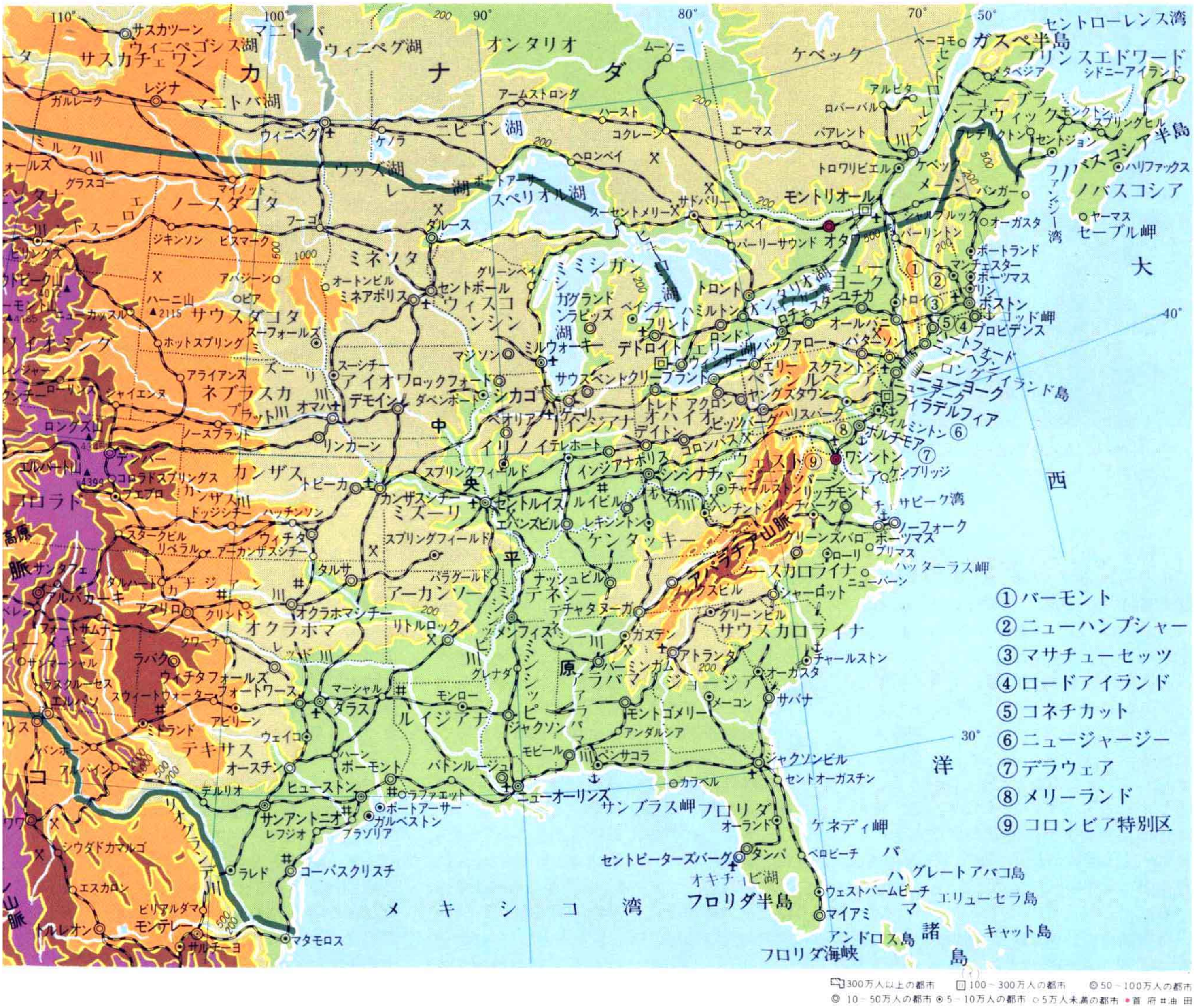
本土の中央部を南北に延びた波浪状の比較的平坦(へいたん)な地域は，暑い夏と冷涼な冬をもった大陸性気候の支配する，広大な草地をなしている。それは，この地域が作物の生育期には一般に表土は水分を保有するが，その水分は深層まで達しないために，樹木は河岸に沿った地域に限られてしまうからである。農業は乾燥地域を除けば，いたるところで行なわれているが，自然環境からいえば，一年生のトウモロコシ・小麦などの栽培に適している。中央低地の草地は，年間降水量からいえば500～900㎜の地域にあたるプレーリーと，西経100°線からロッキー東麓に至るまでの幅をもち，年降水量300～500㎜のグレートプレーンズとの2地区に分けられる。草地にはさらに，ワシントン州東部からオレゴン州を経てカリフォルニア州中部にわたる，ほぼグレートプレーンズと同じ降水量をもった太平洋岸草地がある。これらの地域は，放牧による適度利用のために，大部分は雑草地に変わっているが，灌漑地では大麦・小麦が栽培さ



アメリカ合衆国

れ，特にプレーリーは，世界的な小麦の大生産地域となっている。

西部森林地域は，約100種類の広葉樹と70種類の針葉樹からなる混交林である。この地域は，次の三つの特色ある地区に分かれる。カナダのブリチッシュコロンビア州の北部からメキシコの北回帰線付近にまで延びた森林地域の一環をなし，マツ・モミなどの針葉樹の多いロッキー森林地区，カスケード・シエラネバダの山地が主要地域で，ロッキー森林とほぼ同じ樹種からなるが，降雪量の多いために大木が多いカスケード-シエラネバダ森林地区，アラスカ南部からカリフォルニア中央部に帯状に細長く延びて，北較的温暖な冬と冷涼な夏をもち，年降水量が2,500㎜以上のために，非常に背の高い樹木(特にアメリカスギ・モミ・エゾマツ)のみられる太平洋海岸森林地区の三つがそれである。山間盆地などの乾燥地域や砂漠では，灌木のほかヤマヨモギ・サ



ボテンなどの植物がみられる。

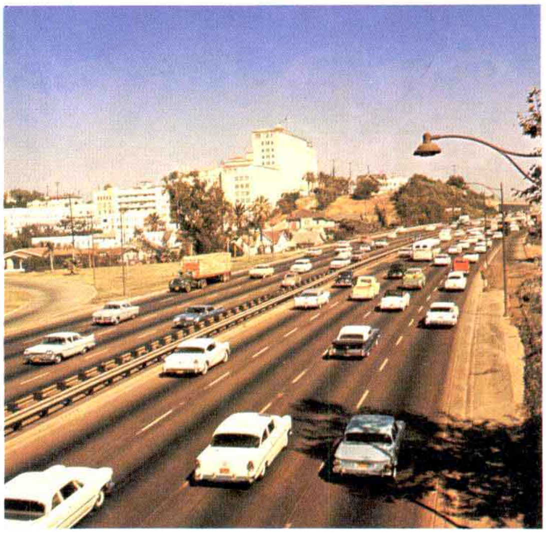
〔動物〕合衆国北部およびロッキー山地には，ユーラシア大陸北方と同じように，北方系の動物が分布し，数においては鳥獣が多く，両生類・爬虫(はちゅう)類は少ない。テキサス・ルイジアナ・アラバマ・フロリダの諸州を含んだ南部には，南方系の哺乳(ほにゅう)類・鳥類・両生類・爬虫類が分布し，西部のカリフォルニア州から，中南部のテキサス州にかけては，中央アメリカ諸国や南アメリカ大陸に共通する動物が分布している。東部の温暖で森林に富む地方の動物は，ユーラシア大陸の温帯区域の動物相とあまり変わらない。

野牛(バッファロー)はインディアンにとって主要な生活資源で，白人が渡来したころは6,000万頭と推定されていたが，その後の乱獲によって急減し，1885年には合衆国全土でわずか75頭と，絶滅寸前になり，保護せざるをえない状態である。ユーラシア大陸と共通する野獣としては，アラスカ，本土の北部およびロッキー山地に野生するヒツジ・シベリアオオカミ・クマ・キツネ・エゾイタチ・ミンク・リス・ノウサギ・ビーバー・スカンクなどがいる。南方から合衆国にはいったとみられる哺乳類としては，カリフォルニア南部・アリゾナ・テキサス地方にいるジャガー・ピューマ，アリゾナ地方のブタ，テキサス・ルイジアナ・フロリダ州に分布するアルマジロがある。有袋類のオポッサムはブラジルにもいるが，合衆国東部に広く分布し，西部には人工的に移されて野生となっている。

野生の鳥類の中で北アメリカ大陸独特のものにシチメンチョウがあるが，いまは家禽(かきん)となっている。外部から人工的に移されてすみついた鳥の中には，アジアからはいって，現在狩猟鳥として喜ばれているコウライキジと，1850年ごろに東部地方にはいり，その後各地で繁殖して現在では農作物の大敵となっているイギリススズメが顕著なものである。トカゲの類は南部に多く，特に砂漠地方ではその種類も多い。ヤモリ・ヘビの類も南部に多いが，有名なガラガラヘビは特にカリフォルニア南部・アリゾナ地方に多い。ノースカロライナからテキサスにわたって分布するミシシッピワニ，フロリダ半島南部に生息するクロコダイルは南方系のものである。内陸の淡水魚はユーラシア大陸の種類に近いものが多く，五大湖や各地の河川・湖沼にすむチョウザメもその一つである。サケ・マスは種類も数も多い。コイはアジアからヨーロッパに移され，そこから合衆国に移されて野生化したものである。このように合衆国の動物相は，ユーラシア・南アメリカ大陸に関係のあるものが多いが，コロンブスのアメリカ発見以来，外部から種々の動物が移入され，それが在来の姿に種々の変化を与えている。



アメリカ 20世紀アメリカ文明の象徴ニューヨーク。川はイーストリバーで，対岸はクイーンズ地区。ニューヨーク市の中枢部マンハッタン島のエンパイア-ステート-ビルからの俯瞰



ロサンゼルスのハイウエー。8車線の道路もあるが，最近は交通量が激増し，排気ガスなどによる世界的な公害都市となっている

〔住民と人口〕 合衆国の人口は1960年のセンサスでは1億7,932万，1969年の推計人口では2億160万である。1960年の人口では，非白人は2,050万で，そのうち黒人は1,890万，全人口の約10％を占め，インディアン52万，日本人46万，中国人24万，フィリピン人18万がこれに続いている。外国生まれおよびその2世の人口は白人2,380万，非白人53万である。外国生まれの白人はおもにイタリア人・ドイツ人・カナダ人・ポーランド人・イギリス人・スカンジナビア人で，その大部分は北部および西部諸州に住んでいる。ユダヤ人は世界の総人口が1,400万であるが，合衆国にはその40％にあたる570万が住んでいる。

合衆国は，その民族構成において〈人種のるつぼ〉といわれるほどに，人種・出身国の異なった多様の人間を含み，これを合衆国民族という同一の鋳型に帰化させていく運動に非常な力を注いでいる。しかし社会の階層では，白人の中でもアングロ系が右翼をなし，プエルトリコ人・黒人が左翼にあって，アジア原住民はその中間に位置づけられている。南部諸州では，奴隷解放後の今日でも，依然として黒人を〈カラード〉として社会的に差別し，黒人問題を中心とする人種問題はまだ解決のきざしもみられない。南部に居住していた黒人は，第2次世界大戦中より，人種的偏見のない北東部工業地域に移動する者がしだいに増加しはじめ，ことに大戦後は北東部ならびに南西部・極西部方面へ移動していく者が多くなってきている。原住民のインディアンはその数がしだいに減少していく傾向にあり，連邦政府は特別区に居住させて保護している。アジア系住民は太平洋岸諸州に多いが，この地域に移住しはじめたのはゴールドラッシュによって白人がこの西部に移動しはじめてきたころのことである。

合衆国は天然資源に恵まれ，大陸的な要素をもつとともに，海によってヨーロッパ・アジアなどの地域と隔てられた島国的な要素をももっているが，その資源を開発して，世界の指導的役割を演ずる地位を確立するに至ったのは，企業的才能に富んだアングロ人が，ユダヤ人の財力を有効に活用し，その資源を開発してきた結果にほかならない。開拓当時から燃やしてきたフロンティア精神は，第2次世界大戦後は宇宙開発の方向にも強く発揮されている。

合衆国の1967年における出生率は17.9％，死亡率は9.4％，自然増加率は8.5％で，人口増加率は10.1％である。海外からの移住者は，1960〜1967年には年平均39万を数え，同期間中の人口増加の14.7％を占めたが，1966年には46万，1967年には44万と最近増加しているのは1965年の移民法改正などが影響したものである。都市人口は農村人口に比べて急速に増加し，1940年には全人口の10.8％，1950年には64.3％，1960年には69.5％となり，中でもニューヨーク・シカゴ・ロサンゼルス・フィラデルフィア・デトロイトの五大都市の人口は1960年には1,700万に達し，全人口のほぼ1割を占めている。1966年における5〜24歳の年齢層の5,510万人は小学校から大学の学生として登録されているが，これは全人口の30％にあたる。

〔言語と宗教〕 国語は合衆国化された英語である。しかしメキシコとの国境付近の諸州では，住民は英語とともにスペイン語も話し，また，カナダから移住してきた五大湖付近の150万の住民や，ルイジアナ州の20万の住民の間ではフランス語が用いられている。

プロテスタント国家として発足した合衆国は，産業革命後はカトリック教徒を中心とする新移住者の流入によって，プロテスタント教を第1としながらもカトリック教・ユダヤ教の三つの宗教が共存する国家となっている。1966年には総人口1億9,000万のうち，プロテスタントが6,970万，カトリックが4,690万，ユダヤ教が560万を占め，ほかにギリシア正教410万，仏教10万がいる。また総人口の3分の1にあたる6,500万が無信仰者を含めて教会に所属していない事実は，キリスト教国としての合衆国の一側面を示している。合衆国の宗教はYMCA・YWCAなどの青少年の活動に深い関心をもち，社会的活動にすこぶる熱心で，ときには政治的活動にも力を入れる。

〔産業・経済〕 合衆国の農業が世界に占める地位は大きい。合衆国の農業の中心域は，東はオハイオ州西部から西はネブラスカ州東部に広がったコーンベルト*（トウモロコシ地帯）で，この地域は混合農業地域としてブタ・ウシを飼育する。コーンベルトの北西部はノースダコタ・サウスダコタ両州を中心とする春小麦地域，南西部はカンザス・オクラホマ両州を中心とする冬小麦地域，その北部にウィスコンシン州を中心として，西はミネソタから東は大西洋岸にわたる世界的な酪農地域に接している。また，冬小麦地域の東部には，北のコーンベルトと南のコットンベルト*（綿花地帯）にはさまれて，ミズーリ・ケンタッキー両州を中心としたトウモロコシ・冬小麦地域が続いている。コットンベルトはミシシッピ州を中心として，東はノースカロライナ州から西はテキサス州に広がっているが，東部のタバコ栽培地域はしだいに西に移行し，ワタ栽培もさらにニューメキシコ・アリゾナの西南諸州に広まっていく傾向をみせている。テキサス・ルイジアナ・フロリダ州など，メキシコ湾岸の地域は，米・サトウキビなどを栽培する湿潤亜熱帯作物地域となっている。小麦地域はプレーリーからグレートプレーンズに広がったが，グレートプレーンズの



アメリカ　テキサス州ヒューストン南部にあるアメリカ航空宇宙局(NASA)のヒューストン-センター。ここで宇宙飛行要員が養成される



グランドキャニオンの大観。コロラド川の本流・支流の侵食は，世界最大規模の峡谷をつくりあげた。谷底から地表までの地層は地球の歴史を物語る

西部から山間地域にかけては放牧を中心とする地域となり，灌漑の便のある所でのみ，ところどころで集約的な農業が営まれている。カリフォルニア州を中心とする太平洋岸の地域は地中海式農業地域で，ブドウ・オレンジ・レモンなどの果樹や，野菜を栽培する園芸農業が行なわれ，大西洋岸の地域はおもに近郊都市向けの農作物を栽培している。

合衆国農業の特色は，一般に，作物栽培と家畜飼育とが一体となって経営される有畜農業の形式をとり，機械化が進み，企業化の程度が高く，これに応じて地域的に専門化した農業地域が自然環境によく適応して成立し，１人あたりの労働生産力を著しく高めている点にある。しかし，機械化にもかかわらず，収穫期には各農業地域では一時的に労働力が不足する実情にあり，季節労働者としてメキシコ人が大量に入国する。

カリフォルニア北部からオレゴン・ワシントンにわたる太平洋岸の諸州は，世界的な林産地帯である。エゾマツ・モミ・スギなどの自然林の伐採が行なわれ，機械力による大規模な林業経営が行なわれている。これら諸州の太平洋沿岸水域は，世界の四大漁場の一つに数えられ，おもにサケ・タラ・イワシ・マグロ・ニシンなどの漁獲が多い。また，大西洋岸のチェサピーク湾・デラウエア湾のカキなどの貝類養殖，メキシコ湾のエビ漁などは特色ある漁業である。しかし，他産業に比べれば漁業は著しく低調で，年生産額10億ドル程度である。

合衆国は石炭・石油・鉄鉱などの鉱産資源に恵まれている。石炭は世界の埋蔵量の35％を占め，年額ほぼ世界の総産出高の４分の１に近い生産をあげている。炭田の最大のものはアパラチア炭田で，この炭田の東部地区(ペンシルベニア州)では無煙炭を産出する。北東部およびカナダの工業地域は，この炭田の石炭を利用している。このほかにシカゴ南方のイリノイ炭田，その西のアイオワ-ミズーリ炭田がある。これらの炭田はいずれも炭層が水平で厚く，採掘が容易であり，機械化によって採掘の能率をあげている。石油は世界の約４分の１を産出しているが，国内消費が大きいために，ベネズエラや西アジア諸国から輸入している。最大の油田地域は，テキサス・オクラホマ・ルイジアナ州などのメキシコ湾岸地域からロッキー山脈の東麓に及ぶ合衆国中部・南部油田で，この地域の産油量は全産油量の60％を占め，天然ガスとともにパイプラインで東部の工業地域に送られている。このほかでは，太平洋岸のロサンゼルスを中心としたカリフォルニア油田が大きい。アパラチア炭田は，工業地域に近く，早くから開発されたために老朽化している。鉄鉱石はミネソタ州の生産が最も多く，全国生産の65％以上を占めているが，アパラチア地域のニューヨーク州北部，ペンシルベニア州やアラバマ州のバーミンガム付近でも産出される。金・銀・銅・鉛・亜鉛などの非鉄金属はロッキー山地のモンタナ・ユタ・アリゾナなどの諸州に多い。ボーキサイトはアーカンソー州，ウラニウムはコロラド台地の諸州，イオウはテキサス・ルイジアナ州などで生産される。

合衆国の工業は，農林・鉱産・動力資源に恵まれ，その生産額は世界の35％を占めている。最大の工業地域は，北は五大湖，南は西流するオハイオ川，東流するポトマック川に限られて，東はニューイングランドの大西洋岸に及ぶ北東部工業地域である。この地域は，シカゴ・デトロイト・ピッツバーグ・ニューヨークなどの工業都市を含み，カナダの南東部とともに世界屈指の大工業地域を形成し，合衆国の工業生産額のほぼ３分の２をあげている。このほか，バーミンガム・アトランタを中心とするアパラチア南部工業地域，中央平原のミネアポリス-セントポール・オマハ・カンザスシチー・セントルイス・ダラス-フォートワース・ヒューストンの工業都市を含む中央平原工業地域，太平洋岸のピュージェット湾-ウィラメットの谷，サンフランシスコ湾岸・ロサンゼルス-サンジエゴの各工業地区を含んだ新興の太平洋岸工業地域がある。これらの工業地域は，相互作用の結果，その生産分野において地域的専門化を興している。合衆国における工業発祥地であるニューイングランド地方では，綿糸・紡績・毛織物などの繊維工業，皮革・製靴(せいか)工業，繊維・くつの製造機械の製造工業，時計・光学機械などの精密工業，航空機の製造工業においてすぐれ，ニューヨーク・フィラデルフィア・ボルチモアなどの大西洋岸中部巨大都市地区では，食料品・化学製品などの日常品を対象とした製造工業に特色をもっている。モホークの谷からオンタリオ湖南岸にかけての地区では，衣料・電気器具・化学製品・紙製品・印刷などの工業が顕著である。エリー湖・ミシガン湖南岸ならびにピッツバーグの地区では製鉄・製鋼を基盤とし，自動車・船舶・機関車などの交通機関の製造を中心とした重工業が発達し，中でもデトロイトの自動車工業は，生産規模と生産様式において世界的に有名である。中央平原のミシシッピ川の本支流に沿う工業地域では，農村を背景として製粉・皮革・農機具の製造工業が特に顕著で，南部のヒューストン・ガルベストン地区では石油を基盤とする化学工業が新しく興っている。太平洋岸工業地域では，果実・水産物の加工を中心とした食料品工業，航空機をはじめとする軍需産業，映画産業などに特色をもっている。

合衆国の産業構造を就業別人口割合からみると，農林水産業5.8％，鉱工業34.7％，運輸・通信業6.4％，商業23.6％，公務サービス業29.5％となり，生産額からみると，農林水産業3.3％，鉱工業35.3％，運輸・通信業8.6％，商業29.4％，公務サービス業23.4％となっている(1966)。国民総所得額は6,580億ドル，国民1人あたり所得額は3,305ドル(1967)と，いずれも世界第1で，断然他国を抜いた高水準にある。その経済の特色の一つとして軍需産業への依存度が高いことがあげられ，連邦総予算の60％が直接軍事費にあてられている。

〔交通・通信〕合衆国の道路網と鉄道網は西経100°線を境にして，密な東部から粗な西部に急激な変化を示している。合衆国は鉄道延長キロ数で世界の29％を占め，また道路・パイプライン・電話線の延長キロ数でも世界第1位で，自動車の保有数は世界の約50％を占めている。横断鉄道は西部の開拓に伴って太平洋岸に延びていったものであるが，現在は10線を数える。太平洋岸をアラスカまで通ずる自動車道路アラスカ-ハイウエーは，第2次世界大戦後完成した。大戦後の自動車交通・航空交通の発達は特にめざましく，その結果，鉄道はその延長キロ数をしだいに減少していく傾向にあり，その機能も貨物輸送を主としたものに転換してきている。合衆国は国内航空路の延長キロ数とその利用度において他国を抜いた地位にあるが，航空機旅行による空港と都心との所要時間のむだを省くために，特に中距離・近距離の航空交通にはヘリコプターの利用が高まってきた。内陸水路の交通では五大湖の水運が盛んである。五大湖はわりあいに水深が深く，物資の主流移動方向である東西の方向に排列しているので，利用度が高く，東方へは小麦・鉄鉱・木材が，西方へはおもにエリー湖岸からペンシルベニア炭が移動している。また，スペリオル・ヒューロン湖を結ぶスーセントメリー運河をはじめ，ヒューロン・エリー湖を結ぶ掘割(ほりわり)川のセントクレーア川，エリー・オンタリオ湖を結ぶウェランド運河があり，北東部はカナダのセントローレンス海路に連結し，南部はエリー運河でハドソン川に連結してニューヨークに通じている。冬の4か月は凍結するが，これら運河は北東部工業地域に多大の有利性をもたらした。北東部とヨーロッパを結ぶ北大西洋航路は，世界の総海運輸送量の5分の1を占めて，世界で最も輸送量の多い航路である。

合衆国の電話の普及率は100人につき50台で，そのほとんど100％が自動化されており，ラジオ・テレビ・無線電信機とともに，その利用度において断然他国を引き離している。海底電線の中で最も利用度の高いものは，1866年に開設された北大西洋海底電線である。1960年ころからラジオ・テレビ・国際通信などの中継に使う人工衛星(通信衛星)が打ち上げられ，実用化の段階にはいった。

〔貿易〕合衆国の輸出入額は国としては世界第1で，1967年の輸出は世界の総輸出額の14.6％を占めた。しかし，総生産額に占める比率は4％程度と低く，貿易依存度は著しく低い。輸出品として最も多いのは機械類で1967年には輸出総額の25.7％を占め，これに次いで自動車・航空機などの輸送機械が多く，さらに小麦・ダイズ・トウモロコシなどの食糧農産物，石炭・鉄鋼と金属製品，綿花や綿織物などの繊維原料とその製品，化学製品などがこれに次いでいる。輸入品としては機械類が11.6％と最も多く，自動車・鉄鋼・原油がこれに次ぎ，コーヒー・砂糖・肉類などの食料品も多い。貿易相手国はカナダ・日本・西ヨーロッパ諸国・ラテンアメリカ諸国などであり，近年，総取引高で日本はカナダに次いで第2位となった。対日貿易は輸出で6.2％，輸入で8.3％にすぎないが，日本からみた場合，輸出は29.3％，輸入は30％に達し(以上1965年)，わが国の経済に重要な地位を占めている。貿易収支では大幅な黒字を続けているが，海外軍事費の支出や対外援助などによって，総合収支では大幅な赤字を続けてきたため，1961年以降ドル防衛政策が強力に推進されてきている。

〔政治〕合衆国は50州と首都ワシントンのあるコロンビア特別区，および海外の属領や信託統治地からなる連邦共和国である。立法・行政・司法の三権分立主義を厳格に守り，国の権力は連邦政府と州政府に分割されている。大統領は元首であるとともに行政府の長，陸海空軍の最高司令官を兼ね，任期は4年であるが，1952年の憲法改正によって3選を禁止されている。大統領は各州が選出する上下両院議員と同数の一般から選出された大統領選挙人により指名選挙が行なわれる間接選挙制によって選ばれる。副大統領は上院議長を兼ね，大統領が任期中に死亡したり，事故があった場合には，その残りの任期を勤める。内閣は各省長官によって構成され，現在10省あるが，陸海空軍三省の長官は閣僚の中にはいっていない。大統領の直轄機関として，大統領行政府がある。連邦議会は，上院と下院の2院からなり，上院議員は各州から2名ずつ一般投票によって選び，定員100名，任期6年で，2年ごとにその3分の1を改選，下院議員は人口数に比例して各州から選出(定員，1968年現在438名)され，任期は2年で，2年ごとに全員を改選する。両院とも立法・予算審議の権限をもち，議案は両院を通過して成立するが，大統領には法案の拒否権がある。司法機関は連邦裁判所と州裁判所の2本立てで，その最高機関である連邦最高裁判所は，法律や政府の行政措置が憲法に違反するか否かを決める違憲立法審査権をもっている。各州には軍事・外交・最高裁判権・貨幣などを除く国家主権が連邦政府より自治権の形で認められている。各州は州憲法をもち，州政府と議会と裁判所をもつ。州の首長は知事で，任期は州によって異なるが，2～4年である。議会はネブラスカ州だけが一院制で，他は二院制である。州の下には郡・市・町などの自治体がある。合衆国の政治機構の特色は，厳格な三権分立と州権限の根強さにあるが，最近の傾向として，大統領権限の強化・拡大と，州権限の制約・制限が目だってきている。政党としては，民主党と共和党の進歩・保守二大政党が力をもち，その他の政党は微々たるもので問題にならない。

〔外交・軍事〕外交権は主として大統領と上院にゆだねられているのが現状である。第2次世界大戦後は，アメリカ大陸に対してはモンロー主義を固執するとともに，世界の他地域に対しては自由主義国の指導的立場に立って干渉主義をとっている。開拓時代からつちかわれてきたフロンティア精神は，最近ではアポロ計画にも現われ，1969年には人類最初の月着陸飛行を達成し，世界にその威信を高めた。大戦後の一貫した外交基本路線は反共主義にあり，西ヨーロッパ・南太平洋・東南アジアの国々と軍事同盟を結んで，共産主義国を封じ込めていく体制の確立に努力してきている。したがって国防体制の重点は共産主義国への布陣に注がれている。軍事行政は，陸海空三軍および州兵の最高司令官である大統領のもとで国防長官が統轄する。また国家の安全保障に関する外交・軍事の政策決定機関として国家安全保障会議があり，大統領を議長とし，副大統領・国防長官・緊急計画局長などを構成員として，国防政策の基本的な統合・調整を行なっている。兵役は2年の選抜徴兵制と志願兵制の2本立てである。陸軍の常備師団は17個師団，海兵隊4個師団，海軍の重要艦艇は戦闘艦・空母・ポラリス潜水艦などを含めて約860，空軍はICBM戦隊・B52戦略爆撃機戦隊・戦術空軍戦隊などからなっている。〔相村大彬〕

〔文化〕〈アメリカ文化の伝統と特質〉アメリカ文化は，ヨーロッパ文化の伝統から派生して新世界で成長したものであり，アメリカ人は，いかにしてヨーロッパとは異なった独自の文化をつくりだすかをたずねてきた。そして，ヨーロッパ文化のアメリカ化は，植民地建設のときからすでに始まったのである。宗教についていえば，〈丘の上の町〉であることをめざした初期のピューリタニズムはしだいに性格が変わり，18世紀以来いくたびか宗教復興の運動が起こり，福音主義的宗派が盛んとなった。一方，19世紀後半以後は，カトリック教徒およびユダヤ教徒の数がふえ，アメリカ社会と宗教の関係はきわめて密接なものとなっている。教育は植民地建設の最初から重要視され，植民地時代にすでに九つの大学が建てられたし，初等教育も早くから普及した。哲学

者ジョン-デューイは,個々の児童の自発性を伸ばす教育を提唱し,また民主主義における教育の重要性を説いて大きな影響を及ぼした。思想の面では,独立革命を経て建国に至る時代以来,民主主義ないし自由主義の思想が信奉され,アメリカは自由の帝国であるという自負や,アメリカ民主主義が広がっていくべきであるという使命感が生まれた。19世紀後半には,心理学者ウィリアム-ジェームズらによって,観念を行動のプランと考えるプラグマチズムが唱えられた。学問の世界では,植民地時代にフランクリンのようなすぐれた物理学の研究を行なう者も現われたが,アメリカの学問は全体として長い間ヨーロッパからは低くみられていた。

家庭生活においては,〈独立宣言〉で幸福の追求が自然権の一つに数えられ,アメリカに渡って来る移民は,豊かな生活を営むようになるという〈アメリカの夢〉を夢見てやって来た。社会的価値として平等と達成とが重んぜられ,貧しい少年から百万長者となった鉄鋼王カーネギーの生涯(しょうがい)が,典型的なアメリカの成功物語としてたたえられた。婦人解放運動は19世紀前半から起こり,アメリカ婦人は政治的に男性と平等になることをめざすばかりでなく,教育や職業の面でも進出していった。また,アメリカ社会には早くから子どもを大事にする傾向があり,近年はますます子ども中心の社会となって,消費生活や文化の享受においては,婦人や青少年の好みが大きな力をもつようになっている。

〈今日のアメリカ文化〉 第2次世界大戦後のアメリカにおいては,学問・技術・芸術のそれぞれにおいて大きな成果が生み出されてきている。アポロ計画の成功が象徴するように,アメリカは科学技術文明の先端を進んでおり,アメリカ社会はまっ先に知識社会ないしは超技術社会にはいりつつある。

自然科学のみならず社会科学や人文科学においても,アメリカの学問は第一級の学者を生み出している。これには,1930年代から第2次世界大戦にかけて,ヨーロッパから一流の学者や芸術家がアメリカに移って来たことも大きな刺激となった。研究のための設備もめざましく発達し,今日,海外からの学者の流入は激しい。思想の面では,ニューディール*以来社会思想の主流はリベラリズムであったが,1960年代にはいって,黒人公民権運動や反戦運動が激しくなり,大学生の間からリベラリズムに挑戦(ちょうせん)するラディカルらが現われた。他方,現在の体制から脱落した青年たちの間で,ヒッピーとよばれる独特の服装や行動をする人々が生まれ,中産階級中心のアメリカ式生活様式に対する挑戦を行なっている。教育は今日その社会的重要性をますます増しているが,1950年代には初等教育が,1960年代には高等教育が批判の対象となり,教育改革についての議論は社会問題にまで発展した。今日,教育の問題は黒人問題とからみ合って,大学紛争も激しく,解決は容易でない。芸術の分野では,絵画・彫刻における前衛運動が大衆化し,アクション-ペインティング・ポップ-アート・オプ-アートは,アメリカ国民の生活の一部となっている。文学・演劇・音楽・建築においても,大胆な実験が試みられており,アメリカにおける芸術の動きは,ヨーロッパをはじめ世界各国に影響を及ぼすようになった。マスメディアおよび他の技術の発達によって,今日のアメリカ国民は,文化の享受の機会を豊かに与えられており,テレビ放送は,最も高級な音楽の演奏から,最も庶民的な〈見るスポーツ〉(フットボール・野球など)に至る番組を提供し,アメリカ人は恵まれた〈文化の消費者〉となっている。今日のアメリカ文化の課題は,変化の激しい現代文明の中で,いかにして新しい価値を創造していくかということにある。〔本間長世〕

【歴史】 アメリカ合衆国は1776年イギリスの植民地的束縛を脱して独立した。しかし,同国の現在の版図は新大陸発見以来ずっとイギリスの植民地であったのではない。16世紀から17世紀にかけて国内統一を達成した西ヨーロッパ諸国は,競って北アメリカに進出した。スペインはメキシコから合衆国南西部テキサス・カリフォルニアに広がる領土を得,フランスはカナダから南下し,アパラチア山脈からロッキー山脈に至る広大なルイジアナを獲得した。またオランダ・スウェーデン・フィンランドも大西洋沿岸に入植した。

〈植民地時代〉 イギリスは1607年バージニアのジェームズタウン*に組織的植民を開始した。1620年にはニューイングランドのプリマスにピルグリム-ファーザーズ*が植民地を建設し,以後1733年までに独立革命当時の13植民地が建設された。出身国・宗教・移住の動機などでさまざまに異なる新大陸への移住者は,多様な経済構造・政治形態をもつ植民地を形成したが,本国政府は名誉革命後,重商主義政策強化のため植民地の王領化を進め,独立革命までに8植民地が王領植民地となった。

植民地の経済発展と人口の急増により,開拓地は西方に発展し,フランス領土と衝突を起こしたため,イギリスはフランスと数度にわたる植民地争奪戦を展開し,1763年のパリ条約*でカナダからフロリダに至るミシシッピ川以東の地を獲得した。しかし,この結果イギリスは財政難に悩み,砂糖条例*・印紙条例*・タウンゼント諸法*などの歳入法を植民地に課す一方,西部におけるインディアンと開拓民との摩擦を避けるため宣言条例を発布し,植民地人の西部進出をおさえた。自治の気運の強かったアメリカ植民地は,これら本国政府の重商主義的政策に強く抗議していたが,ボストン茶会事件*に対して本国議会が強制諸法を制定するや,アメリカ植民地人のイギリスに対する反感は高まった。

〈建国の時代〉 1775年4月19日レキシントン-コンコードの戦いで独立革命戦争が始まった。当時強かった対本国和解論はイギリス国王ジョージ3世の〈反乱宣言〉,ペインの《コモンセンス》などによりしだいに弱まり,代わって独立論が勢力を得て,1776年7月4日大陸会議*は〈独立宣言〉を発表した。独立革命戦争は,フランス・スペインの武力援助と他の列強の好意的中立により,アメリカの勝利に終わり,1783年のパリ条約で,アメリカはイギリスから独立とミシシッピ川以東の地の領有を認められた。

独立直後のアメリカは,地方分権の風潮が強く,政府は1781年に採択された最初の連邦憲法〈連合規約〉に基づいて行政活動に従ったが,実質的機能をほとんど果たしえなかった。このため1787年フェデラリスト*は制憲会議を召集し,民主主義・連邦制・三権分立を原則とする〈連邦憲法〉を提案した。この憲法は1788年発効し,翌年初代大統領ワシントンのもとに新連邦政府が発足した。以後1801年までのフェデラリストの時代は,ハミルトンの財政政策により国内経済は発展したが,対外的にはヨーロッパでの戦乱に対してワシントン・ジェファソンは中立維持を宣言したが,マディソンのときイギ



アメリカ 1776年7月2日,ジェファソンの起草した独立宣言が採択され,4日に公布された。書類を手にして立っているのがジェファソン エール大学アート-ギャラリー蔵





アメリカ　(左)黒人家族は離ればなれになって南部の大農園に奴隷として売られていった　シカゴ歴史協会蔵　(右)南北戦争で武器や物資の輸送に従う兵士たち　ベリーヒル-ギャラリー蔵

リスと1812年戦争*にはいった。また，対ヨーロッパ政策をめぐって親英的なハミルトン派と親仏的なジェファソン派との対立は，憲法起草者たちが予期しなかった政党を生み出した。

〈国家発展期〉 1801年のジェファソンの大統領就任から南北戦争までの時期は，合衆国が領土的にも政治的・経済的にも発展する一方，セクション*の対立が深まった時代である。アメリカの領土は1803年ジェファソンによるルイジアナ購入で一躍ロッキー山脈まで拡大し，1819年にはフロリダを購入・併合した。1823年の〈モンロー宣言〉はヨーロッパ諸国の新大陸進出を阻止し，アメリカ人の西部進出を促進し，イギリス領カナダ・メキシコとの衝突をひき起こしたが，〈マニフェスト-デスティニー*〉のかけ声のもとに1845年テキサス*を併合し，1846年オレゴン協定でカナダとの国境を画定した。また，メキシコ戦争により，1848年カリフォルニア・ニューメキシコを領有，1853年ガズデン購入，1867年アラスカ購入を待って，現在の国境線を画定した。この時代には白人男子の普通選挙権が拡大をみ，また官吏の公選や官職の交代，政党の民主化など，民主主義も発展し，19世紀初頭，1830年代にはいわゆる〈ジェファソニアン-デモクラシー〉〈ジャクソニアン-デモクラシー〉の実現をみた。

19世紀前半は，北東部・南部・西部が独自の経済発展を実現した結果，その利害対立を深めていった時代でもある。1812年戦争後の保護関税の制定と第2次合衆国銀行の設立は，北東部の工業化を促進したが，南部は自由貿易を，西部は安価な土地払い下げを要求して，北東部と対立した。1820年のミズーリ協定*はこの三つのセクションの対立をはじめて具体化させた事件であった。1830年代，北東部に奴隷制廃止運動が高まると，この対立はいっそう深まり，1840年代末，国土の拡大に伴う奴隷制の西方拡大には西部も反対した。1850年代，南部に好意的なピアース・ブキャナンの政策やカンザス-ネブラスカ法*・ドレッド-スコット判決*は，北部奴隷制廃止論者を激怒させ，共和党を結成させた。これは西部と北東部の対南部連合を意味し，1860年同党のリンカーンの大統領当選を契機に南部11州は合衆国から脱退し，南北戦争が始まった。

〈南北戦争〉 南北戦争の原因は複雑多様であるが，その戦争目的が連邦制の維持から奴隷制の廃止へと変化したことは一般に認められている。1861年，連邦から分離独立してアメリカ連合*を樹立した南部諸州は，連邦憲法は州の間の契約であるゆえ，全国政治においてその利益を保証されない州は連邦より脱退しうると考えていた。これに対し，北部は憲法は国民の間の契約であり，州の連邦脱退は不可能との立場をとっていた。かくて，1861年4月，チャールストン港サムター砦(とりで)の攻撃で，南部・北部は武力抗争にはいった。

戦況は，初期には有能な軍人と軍事的伝統をもつ南軍が北軍を圧倒したが，戦争が長期戦となるにつれ，人的・物的資源に富む北部が戦況を有利に展開した。ことにアンチタムの戦い(1862年9月)ののち発表されたリンカーンの〈奴隷解放宣言*〉は，合衆国の国際関係を改善するとともに，北部世論を結束させ，南北戦争を奴隷制に対する〈聖戦〉へ転化させた。以後南部はもっぱら防衛戦に回り，1865年4月南軍は北軍グラント将軍に降伏し，南北戦争は終結した。

南北戦争における北部の勝利により，南部がこれまで主張してきた州権論は否定され，合衆国は近代的統一国家へ成長した。奴隷制は廃止され，約350万人の黒人が解放され，戦後成立した憲法修正第13条(1865)・第14条(1867)・第15条(1870)は，黒人の市民権を法的に保証したものである。また，南北戦争は北部の工業化と西部の発展を促進するなど，アメリカ社会に大きな影響を与え，〈第2次アメリカ革命〉と評価する学者もいる。

〈独立資本主義の成立〉 南部議員が去った南北戦争中の連邦議会で，北部共和党はモリル関税法・国立銀行法などを制定した。これら産業保護立法に合わせて，無限の天然資源，人口増加と鉄道の発達による国内市場の存在，移民の急増，北東部の工業技術などにより，戦後のアメリカ工業は飛躍的に発展し，アメリカ資本主義は産業資本主義から金融資本主義の段階へ移行した。1894年，アメリカの工業総生産額が世界第1位となったことは，フロンティア*の消滅と考え合わせて，農業国から工業国へのアメリカの変化を物語る象徴的事件といえよう。

急速な工業の発展は鉄道をはじめとする企業の合同・独占を著しく促進し，プール・トラスト・持株会社などの形態をとって価格・市場・品質などが統制された。経済界の指導者は保守的政党と化した共和党に結集し，クリーブランドを例外として，1913年までの約半世紀，連邦政府を支配した。また，北部の工業化は労働者の運動を発展させ，労働騎士団・AFL(→AFL-CIO)が結成された。各地に労働争議・ストライキも発生したが，これは政府により弾圧された。都市労働者の主体となった移民は，北欧・西欧出身者から東欧・南欧系の〈新移民〉に変わったが，彼らは低賃金に甘んじたた





アメリカ　(左)キング牧師の暗殺に抗議し，差別に反対するデモ。多くの黒人が〈豊かな社会〉に仲間入りできず，〈もう一つの社会〉を形造っている　(右)1969年8月，ニューヨーク郊外ベゼルの丘で開かれたロック-フェスティバル〈ウッドストック〉に集まった若者たち

め，アメリカ生まれの労働者や労働組合と反目し，移民制限運動をひき起こした。1924年の移民法は大幅に移民を制限し世界の難民に対して門戸を開いていた〈自由の国〉アメリカの性格を一変させるものであった。

西部も大きく発展した。インディアンの征服，ゴールドラッシュ，それに南北戦争中の自営農地法や大陸横断鉄道の完成は，大平原以西の広大な西部の開拓を促進した。アメリカ農業はこれにより耕地面積・生産高を飛躍的に増大させたが，1880年代にはいると，過剰生産，鉄道による独占，共和党のデフレ政策などが農民の生活を圧迫した。グレンジャー運動*・グリーンバック党・農民連合・人民党などの農民運動はその不満を組織化したものであったが，十分な成果をあげえなかった。1896年の選挙における共和党マッキンリーの勝利は農民や労働者に対する巨大資本の勝利であった。

1901年，大統領となったT.ルーズベルトは炭鉱ストで労働者側に立って調停するとともに，粗悪食品・薬品の製造規制，鉄道・トラストの規制，天然資源の保護などに努め，いわゆる〈革新主義の時代〉をもたらした。この改革はタフト・ウィルソンにも受け継がれ，ウィルソンの時代には関税率の引き下げ，連邦準備銀行の設立，クレイトン反トラスト法*の制定のほか，長年にわたる禁酒・婦人参政権運動の憲法修正条項の採択が実現した。

〈世界的大国への道〉 1898年，アメリカはスペイン戦争によりはじめて海外に領土を獲得した。以後，合衆国は国内経済の急速な発展に伴う原料供給地，製品・資本の市場とを求めて海外に進出し，カリブ海政策*により中南米諸国を支配するとともに，他の列強に比べて進出の遅れた中国に対しては門戸開放を主張して積極的な外交を展開し，日本との利害対立を強めた。

第1次世界大戦には，合衆国ははじめ中立を維持したが，1917年ドイツの無制限潜水艦攻撃を機に民主主義擁護のため連合国側に立って参戦した。ウィルソンは戦争中から〈勝利なき平和〉演説や〈14か条平和原則〉で和平に努力し，パリ講和会議では国際連盟設立に成功したが，戦後アメリカ国内に孤立主義的風潮が高まり，ベルサイユ条約*は議会で拒否された。そのためアメリカは国際連盟には参加しなかったが，1920年代以降世界第1の大国として国際政治からの孤立はもはや不可能となった。

1920年代のアメリカはいわゆる〈クーリッジ景気〉を享受したが，産業部門間の大きなひずみと投機の過熱は，1929年10月大恐慌を発生させた。恐慌が最悪の状態にあった1933年，大統領に就任したF.ルーズベルトは，銀行法・証券取引法・全国産業復興法・農業調整法・TVA法・社会保障法・ワグナー法などのニューディール*立法を制定し，アメリカ経済と国民生活の救済・回復・改革に尽力した。ニューディールはこれまでの自由放任主義的資本主義経済を修正し，政府の経済活動への大幅な参加・規制を認める計画経済への移行を達成したが，このほかにもアメリカ社会に与えた影響は大きく，独立革命・南北戦争に続く〈第3のアメリカ革命〉とも評価されている。

ニューディールにより立ちなおりつつあった経済は，1937年の景気後退で再び悪化し，ニューディールの効果が明らかにならないまま，アメリカは1941年第2次世界大戦に突入した。アメリカは連合国として戦闘し，大きな役割を果たしたが，戦時中に期待された米・ソ協調の〈一つの世界〉構想は，戦争直後のきびしい現実のまえにくずれ去り，アメリカはソ連との冷たい戦争を展開せざるをえなかった。自由主義陣営の指導国として，アメリカは北大西洋条約機構(NATO)をはじめとする集団安全保障体制を確立し，ソ連圏を封じ込める反共強硬外交を展開し，朝鮮とベトナムでは〈熱い戦争〉をも戦った。しかし，1953年スターリン死後のソ連の〈雪どけ〉とともに平和共存外交に転じ，現在は米・ソ間に〈冷たい戦争〉は存在しないといってよい。

戦後，国内ではトルーマンのフェアディール，ケネディのニュー-フロンティアなど，ニューディール精神の復興が叫ばれ，経済の高度成長と社会福祉の拡充を図る政策がとられ，〈豊かな社会〉が実現したかにみえる。しかし，この豊かな社会は全所帯の5分の1に達する貧困層があること，法的差別は解消されながら事実上の差別に苦しむ黒人の存在，ベトナム戦争や宇宙開発をめぐる国民世論の分裂，第2次世界大戦・冷戦・技術革新などによるアメリカのイメージと価値の再検討など，多くの深刻な問題をかかえている。いまアメリカはあらためて〈独立宣言〉に掲げられた〈生命・自由・幸福の追求〉の意味を問い，それを実現していかねばならない時期に到達している。

〔折井一彦〕

アメリカ-インディアン ［American Indian］ 白人が新大陸を発見する以前から新大陸に居住していた人種のうち，エスキモー以外の総称。アメリンド・レッド-マン・インディオなどともよばれる。ベーリング海峡が新旧両大陸をつなぐ陸橋であったころ，何回かの波をなしアジアから渡ったと考えられている。初期の移民の子孫は古層インディアン（フエゴ島人，ラゴア-サンタ人）で，旧大陸での人種文化が進行していない時代のものらしく蒙古(もうこ)人種との身体的共通点が薄い。次に古いのが南太平洋インディアン，パンパ-インディアン（パタゴニア人種）で，それから南大西洋インディアン，北大西洋インディアンと続き，最も新しく，蒙古人種との類似が強いのが北太平洋インディアンである。

文化的にみると，新大陸への移住者たちは，

アメリカ-インディアン

(左)現代北アメリカ-インディアンの一部族の民族衣装

(右)アメリカ-インディアンのお祭りの踊り





家畜としてイヌのみを連れた狩猟民であったが，移住後，旧大陸の文化とは独立にトウモロコシなどの農耕，土器，織物，ヤマ-アルパカの家畜化，神殿，暦，青銅器などの文化要素を生み，言語的にも独自の諸語族に分化した。白人の新大陸発見当時には，採集狩猟文化からマヤ-インカの文明に至る各種段階の文化がみられ，地域的には次の文化領域に分類されていた。①北太平洋岸文化領域，②カリフォルニア文化領域，③マッケンジー文化領域，④西部高原文化領域，⑤平原地方文化領域，⑥東部森林地方文化領域，⑦南東地方文化領域，⑧南西地方文化領域，⑨カリブ海周辺文化領域，⑩中部アンデス文化領域，⑪熱帯雨林文化領域，⑫辺境文化領域。〔原ひろ子〕

〔音楽〕南北アメリカ大陸全域に散在する原住民アメリカ-インディアンの音楽は地域によって多様ではあるが，一般的特徴としては次のことがいえる。舞踊と宗教儀式・社会儀礼において重要な役割を果たし，鑑賞用というよりはむしろ機能的であるといえる。音としては声楽中心であり，音域は比較的広く，オクターブを越えることが多い。下行旋律が多く，膜鳴・体鳴楽器の安定したリズムとテンポに乗って楽器と異なるリズムが声楽に施される。演奏者の主体は成年男子である。歌詞は意味のないシラブルの集合である場合が多い。しかし，インディアンは非常に広大な地域に分布しているので，区域によって，人種によって，かなり違った音楽をもつ。アラスカやカナダに住むエスキモーの音楽は，全体に舞踊歌・呪文歌（じゅもんか）・風刺歌・遊戯歌が多く，楽器は枠（わく）太鼓のほかにはあまりない。

北アメリカ-インディアンの音楽は，その様式から大別すれば，①北西海岸インディアン：狭い音域，音程，無節形式，②カリフォルニア・ユマン：広い音域，微小音程，無節形式，③砂漠（さばく）地帯のインディアン：狭い音域，旋律反復，④アサバスカン（ナバホ・アパッチ）：広い音域・音程，ファルセット，無節形式，⑤プレインズ（平原地方）・プエブロ：緊張を伴う発声，下行旋律，イソリズム*，⑥東部森林地帯インディアン：応唱，旋律反復，となる。楽器は種類が少なく，フルート・ガラガラ・太鼓が大部分を占める。

中南米インディアンについては詳細は知られていないが，楽器は北アメリカよりもはるかに多様で，フルート・ガラガラ・太鼓・パンの笛・音楽弓などが用いられ，それぞれの種類の内部で多様の変形がみられる。また，声楽には多声性がしばしばみられる。〔山口　修〕

アメリカ-インディアンしょご【アメリカ-インディアン諸語】南北アメリカ大陸原住民の言語。種類が多く，また，各言語間の構造・語彙（ごい）の相違が大きいため系統的分類を行なうのを困難にしているが，北アメリカの言語については次の6分類が試みられ，その使用者は数十万人と推定される。①アルゴンキン-ワカシ語族，②エスキモー-アレウト語族，③ホカ-スー語族，④ナ-デネ語族，⑤ペヌティア語族，⑥ウト-アズテク-タノ語族。南アメリカの言語については研究が遅れているが，南アメリカ中部・北部から西インド諸島にかけて最も広い分布範囲をもつアラワク語族が代表的なものである。〔崎山　理〕

アメリカえいが【アメリカ映画】

〔起原〕19世紀末にエジソン*によって映画の原理が発見されたが，真の意味でアメリカ映画がスタートしたのは，エドウィン-ポーターの出現からである。彼は現実の社会生活を写し出すことから始め，1903年《大列車強盗》という西部劇をつくりあげた。1908年ごろ大規模な映画製作に乗り出したグリフィス*は，本拠を大西洋岸に定め，これが一大映画都市ハリウッドの創設となった。やがて，ハリウッド映画は社会的に大きな影響力をもちはじめ，スター*とよばれる俳優も登場しはじめた。まもなくセネットが現われて〈スラップスティック-コメディー*〉を数多く製作した。これは，映画に軽快な動きとアクションの魅力を取り入れたもので，のちの映画に多くの影響を与えた。チャップリン*もセネットに見いだされたひとりで，彼独特のパントマイム*喜劇の基礎を築きあげた。

〔無声映画の時代〕第1次世界大戦の始まるころから，毎週の連続もので，スピードとスリルを売りものにしたいわゆる連続活劇が多くつくられはじめた。その後，映画芸術としてすぐれたものがどんどん製作されるようになり，グリフィスは，1915年《国民の創生》，1916年《イントレランス》を世に送って，映画の文法・表現技術の確立に大きな役割を演じた。俳優では，ハート・フェアバンクスなどがアクションスターとして活躍した。1920年代にはいると，チャップリンは《キッド》《黄金狂時代》などの名作を発表し，また，シュトロハイム・ルビッチ・ビダー*らの監督が活躍した。スターには，キートン・バレンチノ・スワンソンらがいる。

〔トーキー*時代〕アメリカでトーキーをはじめて採用したのは，ワーナー映画である。オールトーキーの第1作は1927年の《ジャズシンガー》。音の出る映画が珍しい時代には，音楽とダンスといった作品が多くつくられた。当時の代表作は，ルビッチの《ラブパレード》，スタンバーグの《モロッコ》，マイルストンの《犯罪都市》など。チャップリンは音楽と音だけで《街（まち）の灯（ひ）》《モダンタイムス》などをつくったのち，1940年《独裁者》によって映画を社会・政治の風刺という点にまで高めた。

やがてトーキーは技術的に改良された。そして，1930年代にはいると，キャプラ*を代表的な監督とするアメリカ映画独特の軽快なコメディーが現われた。一方，《駅馬車》のフォード*など，映画特有の技法を駆使した正統派も活躍した。1932年にディズニーがつくったアニメーション色彩映画《森の朝》の成功によって，色彩映画が実用化され，



アメリカ映画
①《イントレランス》（グリフィス監督，1916）アメリカ長編劇映画の創成期の代表作
②《キッド》（チャップリン監督，1921）山高帽子にだぶだぶズボンのスタイルを確立した
③《風と共に去りぬ》（フレミング監督，1939）ハリウッド大作映画の頂点をなす作品
④《シェーン》（スティーブンズ監督，1953）西部劇の成熟期における代表作
⑤《十二人の怒れる男》（ルメット監督，1957）アメリカ映画の新機軸を示したリアリズム作品

1935年にはいると《虚栄の市》をはじめとした本格的な色彩劇映画が登場。ハリウッド映画は，パラマウント・MGM・ワーナー・フォックス・RKO・ユニバーサル・ユナイト・コロンビアといった大手の映画会社が牛耳るようになった。

〔戦中・戦後のアメリカ映画〕第2次世界大戦にはいると，《市民ケーン》のウエルズ*，《マルタの鷹(たか)》のヒューストンなどの新しい映画思想をもった作家が現われた。一方，戦争の影響を受けて記録映画*の要素もかなり取り入れられた。また，《断崖(だんがい)》のヒッチコック*，《心の旅路》のルロイ，《ローラ殺人事件》のプレミンジャーなどが現われ，心理的な作品もつくられるようになった。

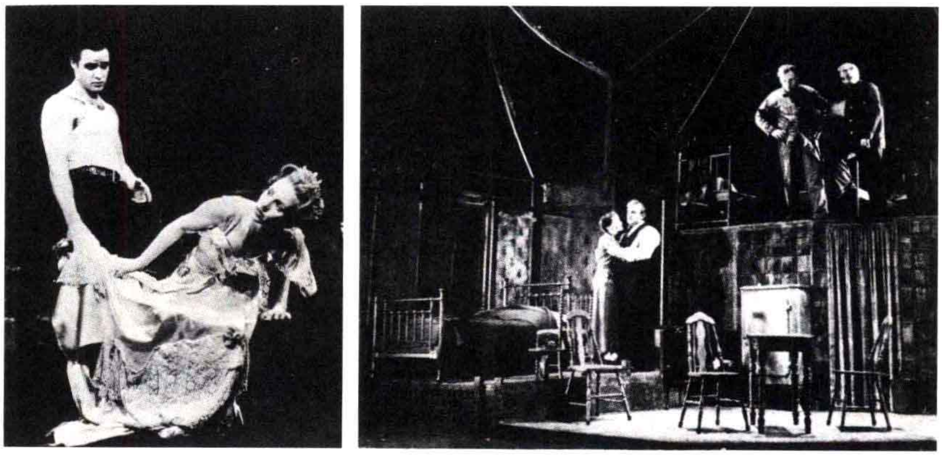
戦後，進歩派といわれた映画人が進出，アメリカ映画の名作といわれるものが数多くつくられた。ワイラー*の《われらの生涯(しょうがい)の最良の年》，ダッシンの《裸の町》など。やがて赤狩りの波がハリウッドに押し寄せ，多くの良心的作家は締め出された。テレビが出現したのち，映画はそれに対抗して，ビスタビジョン，シネマスコープ，立体映画，シネラマ，70ミリと画面を大きくしたワイド-スクリーン*によって見せ物的要素を取り入れ，新しい映画表現を開拓した。

1950年代後半にはいると，ハリウッドに対抗してニューヨークなどを中心に非商業主義的なオフ-ハリウッド映画の作家たちが台頭し，既成の映画配給のルートに乗らず自主的に製作・上映する，いわゆるアンダーグラウンド映画をつくった。さらにテレビ出身の作家たちなどの活躍もめざましい。彼らは，いままでタブーとされてきた人種問題・セックスなどを映画のテーマとし，アメリカ映画の新しい世代として登場した。また，ハリウッドの大映画会社の資本は，保険会社やメーカーなどに肩代わりされていく。このような映画製作事情の変化の中で，独立プロの作品が9割以上も配給されるようになった。また，ヨーロッパから多くの有能な作家たちが移動して来て，アメリカ映画は，新しい形で隆盛期を迎えつつある。〔高沢瑛一〕

アメリカえいご【アメリカ英語】アメリカ合衆国の国語は英語であって，アメリカ語(The American Language)といったのはメンケンであるが，これは誤解を生む。ただ，イギリス英語(British English)に対してアメリカ英語(American English)ということは可能である。両者とも英語の方言であり，前者が本家で後者が分家であるというのは，歴史的には事実であるが，現在では国力の関係上価値の高下はむしろ逆転している。というより，両者は大きな意味で〈共通英語〉を構成するものとみるべきであろう。その差異よりも共通する面が圧倒的であるからである。方言としては，東部・南部に対して広大な地域を占める西部方言が標準語とされている。歴史的にいえば，初期近代英語が始まる1600年代の冒頭に，イギリス移民がバージニアに植民地を建設したのがその口火であった。その後メイフラワー号に乗って，清教徒たちがニューイングランドに渡来し，さらに1790年合衆国の独立によって，アメリカ英語が本格的に成立する。しだいにイギリス本国とは一致しない方言的発達がみられたが，文法面ではわずかな相違しかない。語彙(ごい)面では特に土着のインディアン語やオランダ語・スペイン語などが取り入れられ，また新しい土地での新造語も多い。つづり字も簡略化されている。発音面ではイギリス英語に比べ，一般に鼻音化し平板音調でスローテンポであるほか，若干の母音の相違やr音のひびきが特徴的である。第2次世界大戦後わが国ではアメリカ英語の比重が増している。〔林 栄一〕

アメリカえんげき【アメリカ演劇】アメリカにおける演劇の台頭は厳格な清教徒が多く住む北部より農業中心の南部においてより早く発展した。1730年代には，チャールストンに劇場が建てられ，以来1798年ニューヨークにパーク劇場が開かれるまで娯楽としての演劇の中心は南部諸都市やフィラデルフィアであった。演目はほとんどがシェークスピア劇か王政復古期の喜劇(レストレイション-コメディ)で，たまたまアメリカ人の書いた作品が上演されることがあってもそれらの影響の色濃いものであった。ようやくニューヨークが演劇の中心としての地位を確立し，劇場も激増するのは19世紀にはいってからである。しかし19世紀の演劇はしょせん，俳優と興行者が中心の娯楽と慰安のための芝居でしかなく，かつイギリスの劇壇とアメリカの劇壇は混然として一体の状態にあった。キーン*・ケンブル・マクレディー・アービング*などイギリスの名優はつねにアメリカ巡行を予定に組み，アメリカからもペインなどがロンドンに進出する，といったぐあいで真に芸術性豊かなアメリカ演劇はまだ生まれるに至っていない。1900年にニューヨークの劇場は43を数え，なお増加の途上にあったが，このころから従来の商業主義演劇に反発し，ヨーロッパ近代劇に匹敵する新しいアメリカ演劇を志向する動きが始まる。1911年ダブリンのアベイ座*(→アイルランド演劇)のアメリカ巡行が一つの契機となって国民演劇運動が起こされ，アメリカ各地に，小劇場が創設され，新しい演劇への機運が全国にみなぎった。こうした中から1915年にワシントン-スクエア劇団，1916年にプロビンスタウン劇団が誕生，これらを母胎として新しい劇作家が登場する。前者はシアター-ギルド*の前身として，後者はオニール*の初期の活躍の場としてアメリカ演劇に画期的な意味をもっている。オニールはアメリカが生んだ最初の世界的な劇作家である。いくつかの海を扱った一幕物を発表したのち1920年，最初の多幕劇《地平線のかなた》がブロードウェイで成功，ピュリッツァー賞を受けている。以来《楡(にれ)の木陰の欲望》《奇妙な幕間狂言》《喪服の似合うエレクトラ》《氷人来る》など人間の内面的探求の表現を求めて数々の実験的手法を試みたが，1941年に書かれ，死後初演された写実的な自伝劇《夜への長い旅路》が最もすぐれているとされている。オニールとともに1920年代に登場した劇作家としては，ほかに《街(まち)の風景》でピュリッツァー賞を受けたライス，戦争の無意味さをうたった《栄光なにするものぞ》や《ウィンターセット》など，すぐれた詩劇を残したアンダースン，《アブラハムの胸に》のグリーン，《彼らは欲するものを知っていた》でハイ-コメディーの道を開いたハワードらがいる。

1920年代の演劇が人間の内面への探究に向けられていたとすれば，大恐慌に続く不況の1930年代の劇作家たちの目は必然的に社会の機構や，さまざまの矛盾へと向けられた。30年代の演劇を中心的に担ったのは1931年シアター-ギルドを脱退した若手俳優が演出家のクラーマン・ストラスバーグ*



アメリカ演劇 (左)テネシー-ウィリアムズ作《欲望という名の電車》(1947年上演) (右)アーサー-ミラー作《セールスマンの死》(1948年上演)

を中心に結成した劇団グループ-シアターである。はじめてスタニスラフスキー-システム*を基礎とし，グリーンの《コンネリー家》を第１回公演に，以下キングスリーの《白衣の人々》，ローソンの《成功物語》，サローヤン*の《わが心高原に》など，次々とすぐれた新作を紹介した。この劇団から育った劇作家としては，《レフティを待ちつつ》《醒(さ)めて歌え》などで鋭い社会意識とすぐれた人物描写の結晶した作品を残したオデッツ，《子どもの時間》のヘルマン，黒人作家のヒューズ，喜劇のバリー・ベアマンらが記憶される。

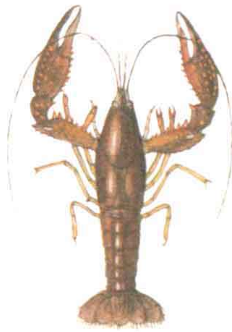
第２次世界大戦後におけるアメリカ演劇の二つの世界的なビッグネームはウィリアムズ*とミラー*である。ウィリアムズは1945年《ガラスの動物園》のブロードウェイでの成功以来《欲望という名の電車》《夏と煙》《熱いトタン屋根の猫》《地獄のオルフェ》《イグアナの夜》など南部貴族社会の崩壊と人間内部の霊肉の葛藤(かっとう)とを主題に独特のふんい気をもつ作品を発表した。一方，ミラーは1947年の《みんなわが子》以来，代表作《セールスマンの死》をはじめ，赤狩りを扱った《るつぼ》から《ヴィシーでのできごと》に至るまで，社会と人間の問題に焦点を当て続けてきた。その他，戦後を代表するすぐれた作品としてはインジの《ピクニック》，マッカラーズの《結婚の仲間》，ヘルマンの《秋の園》，ギブスンの《シーソーのふたり》などがある。一方，50年代の中ごろから，商業主義的なブロードウェイの演劇に反発する若い劇作家や演出家たちがオフ-ブロードウェイで新しい演劇の創造に熱意を傾けはじめる。1958年，オールビーの《動物園物語》が反響をよんで以来，オフ-ブロードウェイの演劇は，ゲルバー・リチャードソン・イタリー・コピット・シスガル・リロイ-ジョーンズなどすぐれた前衛劇作家を世に出している。オールビーの《バージニア-ウルフなんかこわくない》はブロードウェイでもヒットし，フランスのイヨネスコ*やイギリスのピンター*と並ぶ不条理劇の旗手として騒がれたが，まだその作風が定まったとは言いがたい。〔岡崎涼子〕

アメリカぎんこう　【アメリカ銀行】 Bank of America, National Trust and Savings Association　世界最大の商業銀行。カリフォルニアの大衆向け貯蓄銀行として1930年代にスタートし，第２次世界大戦中にアメリカの太平洋岸に重工業が集中した影響もあって，たちまち世界一の預金高を誇るまでに成長した。支店網はアメリカ国内に約900，日本４，イギリス・オランダ・グアテマラ・香港(ホンコン)各２など世界58か国に進出し，これらの支店を通じて世界じゅうの金融機関に投資している。海外活動のうち，特に旅行用小切手は，世界的な旅行ブームに乗って急上昇している。創立者はイタリア出身のジャニーニで，第２次世界大戦後新興財閥として急速に勢力を伸ばし，ジャニーニ財閥*を形成した。総資産255億7,000万ドル(1969年12月)。〔氏家　尚〕

アメリカくろくま　【アメリカ黒熊】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。体長1.5～1.8m，肩高90cmほどで，森林にすむ。毛色は変化に富み，アカグマ・シナモングマなどのよび名もある。植物やザリガニなどを食う。性質は比較的おとなしく，北アメリカの国立公園などでよくみられる。

アメリカざりがに　【アメリカ蜊蛄】 甲殻(こうかく)類・ザリガニ科。エビガニともいう。また単にザリガニということもある。体長10cm内外。多少イセエビに似る。若い個体は茶かっ色で，老成すると暗赤色になる。1930年(昭和５)神奈川県大船に，アメリカから食用ガエルのえさとして輸入されたのが逃げ出して野生化したもの。本州・四国・九州の水田・河川などに分布。生活力旺盛(おうせい)で，汚水・農薬に耐える力が強い。水田のあぜに穴をあけたり，イネをかみ切ったり，有用な他の動物を食べたりするので評判が悪い。

アメリカじがばち　【アメリカ似我蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・ジガバチ科。体長20～25mm。体は黒色で，橙黄(とうおう)色ないし橙赤色の斑紋(はんもん)がある。北アメリカ原産で，屋内にどろで巣をつくる性質がある。第２次世界大戦後船舶および航空機によって太平洋の島々に分布を広げ，日本へも1945年(昭和20)に侵入して土着し，東京付近にみられるようになった。同属の他の種類と同様クモ類を狩り，成虫は夏から初秋にかけて種々の花の上にみられる。



アメリカザリガニ

アメリカしろひとり　【アメリカ白火取】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヒトリガ科。小形のガで，翅(はね)を広げた大きさは約３cm。全体は白色で，ときには前翅に黒斑(こくはん)がある。幼虫はほっそりした毛虫で，ふつう淡黄色，背面に黒い条がある。毛は長く白色から黒色。卵はサクラ・プラタナス・ミズキなどの葉裏に産みつけられる。若い幼虫は糸を張って群生し，これらの葉の表面だけを食う。成長すると分散し，いろいろな植物の葉を食害する。年２回発生。原産地はアメリカで，第２次世界大戦後，日本・ヨーロッパに侵入し，街路樹・庭園樹に大害を与えている。防除法は若い幼虫の集団を見つけて焼き殺すのが最も効果的である。〔日高敏隆〕

アメリカ-スペインせんそう　【アメリカ-スペイン戦争】 1898年，キューバをめぐってアメリカ・スペイン間に起こった戦争。1895年以来，スペイン領キューバの独立運動に合衆国世論は同情していたが，クリーブランド政権と議会は厳正中立を維持していた。しかし，スペイン大使デ-ローメのマッキンリー*大統領侮蔑(ぶべつ)の書簡やハバナ停泊中の合衆国軍艦メイン号の爆破をきっかけに世論は新聞の論調にあおられたこともあって干渉に傾き，外交的に両国間に合意が成立していたにもかかわらず，マッキンリー政府はこの問題への介入を決意し1898年４月宣戦した。アメリカ軍はたやすくスペイン軍を破り，７月までにキューバ・プエルトリコ，８月フィリピンを占領し，８月12日休戦が成立した。12月のパリ条約で，スペインはキューバの独立を承認し，プエルトリコ・フィリピン・グアムをアメリカへ割譲し，それに対しアメリカは2,000万ドルを支払うことが決められた。東洋領土の獲得はアメリカ国内に賛否両論を巻き起こしたが，合衆国はこれを契機に世界的強国として登場し，伝統的孤立主義は修正され，海外へ進出することとなった。〔折井一彦〕

アメリカたいりくだなぎょぎょうきせいほう　【アメリカ大陸棚漁業規制法】 バートレット法ともいう。アメリカの領海*および大陸棚*における外国漁船の操業を禁止す



幼　虫　　　　成　虫

アメリカシロヒトリ　幼虫の初期には群れをつくっているので，枝ごとの焼却などによって駆除できるが，中央のような幼虫となると群れをつくらず１ぴきずつになるので駆除は困難となる

る法律(1964年5月2日成立)，および，漁業専管水域設置法(1966年10月5日成立，同14日発効)。後者は，領海3海里の外側に9海里の漁業専管水域を設け，この沿岸12海里までは外国漁船の操業を認めない法律。日本の漁業に重大な影響をもつ。いずれも，上院議員バートレットが提案者。〔広部和也〕

アメリカだちょう【アメリカ駝鳥】⇨レア

アメリカちちゅうかい【アメリカ地中海】海洋学的にいう地中海の一つで，北アメリカ・南アメリカの2大陸と，西インド諸島に囲まれたメキシコ湾およびカリブ海をいう。面積431万km^2。最深点はカリブ海のオリエント海淵(かいえん)で7,238m，平均深度は2,216mである。

アメリカでんしんでんわがいしゃ【アメリカ電信電話会社】American Telephone & Telegraph Co. 略称AT&T。全米の電話の9割以上を傘下(さんか)にもつ電話会社。ベル*が発明した電話機のメーカーとして1885年にニューヨークに設立され，その後地方のベル電話会社を統合してベル-システムの親会社となった。実際の事業はベル-システムの子会社が行なう。子会社には3種類あり，第1は23の地域別の電話会社で，第2は電話設備・通信装置を製造するウェスタン-エレクトリック*，第3はAT&Tとウェスタン-エレクトリックの合弁で研究活動を進めているベル研究所である。AT&Tは民間企業として年間投資額・総資産・従業員数ともに世界最大。アメリカ政府の原子力委員会に関係し軍需向けに力を入れているほか，宇宙通信へも進出している。総資産439億ドル，年間営業収入156億8,000万ドル(1969年12月)。〔氏家 尚〕

アメリカどくりつせんげん【アメリカ独立宣言】⇨独立宣言

アメリカどくりつせんそう【アメリカ独立戦争】16世紀以来イギリスはフランスと争って北アメリカ大陸に植民地を建設し，数多くの植民地戦争で覇権(はけん)を確立した。しかし，この結果イギリスは財政難に悩み，これを植民地に肩代わりさせるため，フレンチ-インディアン戦争直後から1764年砂糖条令*・1765年印紙条令*・1767年タウンゼント諸法*などの重商主義政策を施行し，他方で住民の西部への進出を禁止する国王宣言令を発布するなど，政治的・社会的規制を植民地に加えていた。これらに加えて1770年のボストン虐殺事件によって本国に対する植民地人の反感は強まり，1773年茶条令が施行されるに及んで，急進的植民地人はボストン茶会事件*で怒りを爆発させた。イギリスは強制的諸法・ケベック法*を翌年制定し，植民地の支配強化をねらったが，植民地人は各地に〈通信委員会〉を設立してその連帯を図り，1774年にはフィラデルフィアで第1回大陸会議*を開催，植民地の自治と自由の回復を要求した。

1775年春レキシントンとコンコードの戦いで独立戦争にはいる。5月第2回大陸会議が開催され，〈武力行動宣言〉を採択して，13植民地の中央政府として革命を指揮することが決定された。当時まで強かった対英和解論は，イギリスが植民地武力闘争を反乱と宣言する一方，S.アダムズやT.ペインが分離独立を主張するうちに消え，1776年7月4日ジェファソンらの起草になる《独立宣言*》が公布されるに至った。アメリカ軍は開戦当初バンカーヒルの戦いに大敗して以来，苦戦を続けたが，フランス・スペインの参戦やロシア・北欧諸国の武装中立による側面援助でしだいに優位に立ち，1781年ヨークタウンの戦いに大勝利を収め，大勢を決した。1783年パリ条約で休戦にはいり，イギリスはアメリカの独立を正式に承認した。1787年アメリカは連邦制・三権分立制・民主主義を基本とする合衆国憲法を制定し，1789年ワシントン初代大統領のもとに新政府が発足した。

アメリカ独立戦争は，王党派の土地・財産の没収と小農民への分与，長子・限嗣相続制，免役地代，十分の一税など封建制度を廃止し，政教分離と信仰の自由の確立，北部における奴隷制の廃止，無料公立学校制度の確立，西漸運動の進展と自営農民層の形成，商工業の発達など，広く社会改革をひき起こした点で，民主主義革命・市民革命の一つとして重要な意味をもつ。〔折井一彦〕

アメリカとら【アメリカ虎】⇨ジャガー

アメリカのひげき【アメリカの悲劇】ドライサー*の小説(1925)。貧しい伝道師のむすこクライドが，女工ロバータと富豪の令嬢ソンドラとの板ばさみになって，ロバータを湖で溺死(できし)させ，一方，政治のうずに巻き込まれ，みずからも死刑に処せられる物語である。死刑宣告の裁判の模様が詳しく描かれ，そこに，立身出世の野心にとりつかれた一青年の悲劇が同時にアメリカ社会の悲劇ではないか，という作者の問いが投げかけられている。〔後藤昭次〕



アメリカ村 〈紀州のアメリカ村〉和歌山県御坊市の西，美浜町三尾の風景。村の家々に洋風が目だち，村の人々の会話にも英語が混じったりする

アメリカばく【アメリカ貘】哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・バク科。ブラジルバクともいう。体長1.8m，尾長10cm，肩の高さ90cmほど。全身かっ色で耳の縁だけが白。ベネズエラからパラグアイ・アルゼンチンに分布。水辺の密林にすみ，水にはいるのを好み，樹葉や種子などを食う。妊娠期間392～405日，1腹1子。サトウキビや果実を食い荒らし，農園に害を与える。

アメリカはちだいざいばつ【アメリカ八大財閥】1939年，アメリカ政府資源調査委員会が実施した経済力調査の発表によって明らかになった，金融部門を中心に当時のアメリカの産業を支配していた八つの財閥をいう。支配資産額の大きい順に，モルガン-ファースト-ナショナル財閥*，クーン-ローブ財閥*，ロックフェラー財閥*，シカゴ財閥*，メロン財閥*，デュポン財閥*，ボストン財閥，クリーブランド財閥*をさす。第2次世界大戦後は，クーン-ローブ・ボストン財閥の代わりに，ファースト-ナショナルシティ・ジャニーニ財閥*を加える場合がある。〔片岡一郎〕

アメリカぶんがく【アメリカ文学】⇨次ページ

アメリカむしくい【アメリカ虫喰】鳥類・アメリカムシクイ科の総称。全長10～18cmの小鳥。南アメリカ南部を除くアメリカ大陸全域に約115種を産する。おもに森林にすみ，樹上でこん虫を食べるが，中には地上性のものや草地にすむものなどもある。多くはあざやかな色をしている。北アメリカ産のものは冬は中南米へ渡る。

アメリカむら【アメリカ村】和歌山県日高郡美浜(みはま)町三尾部落の別称。紀伊(きい)水道に突出する日ノ御埼(ひのみさき)の基部にある。背後に山が迫っているため耕地は少なく，住民は半農半漁の生活を営む。このよび名は，明治中期以降，カナダへ多数の漁業移民を出し，その帰国者がアメリカふうの文明生活を営んだことにちなむ。周辺は煙樹海岸県立公園の区域内で，道路は舗装され，色とりどりの洋風住宅が目だち，観光客を集めている。ここに本籍をもつ約3,300人のうち半数がカナダに居住し，バンクーバー付近のステブストンにも三尾村をつくっている。なお，潮岬(しおのみさき)北東方の太地町*にもアメリカ村とよばれる地区がある。〔浅井得一〕

アメリカ-メキシコせんそう【アメリカ-メキシコ戦争】アメリカ西部領土をめぐるアメリカ・メキシコ間の戦争。〈マニフェスト-デスティニー(明らかな神意)〉を合いことばに，1840年代を通じて合衆国は西部へ進出し続け，1845年にはテキサスを併合，さらにメキシコ領カリフォルニア・ニューメキシコ地方の領有とメキシコ・テキサス国境線の変更を要求していた。領土拡張

→202ページ

アメリカ文学

〔特色〕アメリカ文学とは，アメリカの国籍をもつものが，英語（これはいまではアメリカ語といってもいいかもしれない）で書いた文学作品のことである。このことは，一見わかりきったことのように思えるが，重要である。なぜなら，アメリカという社会ないし国家の特殊な成立事情や状況から考えてみても，英語というアメリカ社会での共通語が，国語として絶対唯一の表現手段であったと一概にいえない。アメリカの国籍をもつアメリカ人でありながら，ユダヤ語やフランス語などで作品を書いている人もいるのである。それらの作品は，たとえアメリカ人が書いたものであっても，一応アメリカ文学から除外してもいいと思われる。また他方，アメリカ人として生まれながら，のちに他の国籍を取得したり，逆に，他国に生まれて，のちにアメリカ人となった人たちの英語で書かれた作品はどうなのか，という問題もある。概していえば，アメリカのもつコスモポリタン的な受容性から，なんらかの意味で文学的な新風を注入するものであれば，アメリカ人としての国籍をもつようになった人が英語で書いたものは，アメリカ文学の中に組み入れられるといってもいい。これと関連して，アメリカの学者や批評家の一部には，アメリカ文学を白人以前のインディアンたち原住民の民間伝承その他から説き起こそうとする動きがあるが，常識的にはアメリカの文学は白人が渡来してから始まったとみるべきであろう。ただし，その白人がアメリカ国籍をもつに至るまでは，上陸以来独立まで150年以上の年月の経過があり，その期間の文学作品は，上述の定義からすると，厳密にはアメリカ文学ではないことになるが，アメリカという新しい風土を背景に生まれたものとして，アメリカ文学史の当初に組み込まれるのが普通である。

このように，アメリカ文学とはなにか，という問題一つを考えてみても，アメリカ文学のもついくつかの特色がうかがえるが，それらに関連してさらにいくつかの特質に注意しなければならない。その第1は，アメリカ文学の若さである。アメリカ文学の始まりをかりに17世紀初頭，白人が新大陸に上陸したときとしても，アメリカの文学はまだ350年あまりの歴史しかもっていないことになる。現在，世界の文明国といわれている国の文学で，これほどの若い歴史しかもっていないものはほかにはないだろう。この若さは，アメリカ文学に一つの決定的な特色を与えている。すなわち，他の国の文学はいずれも民俗的な伝承や詩歌から始まっているのに，アメリカの文学にはそのような始まりがなかったということである。いいかえれば，アメリカの文学は散文から始まっているのである。

したがって，アメリカ文学史における詩の歴史を概観すると，19世紀中葉からのホイットマン*らアメリカ詩人の努力は，真にアメリカ的な詩歌の伝統をアメリカ文学の中に定着させようとする動きとしてとらえることができるし，そのような詩歌の素朴（そぼく）な運動は，世界の近代文学史中では稀有（けう）のことであろう。もちろん，20世紀にはいってからのアメリカ詩は，そのような伝統的な動きと流れの中に，普遍的な現代状況を投入することを要求されて，複雑な様相を示しているが，それもまた，散文から始まったアメリカ文学の背負っている一つの宿命といってもいいだろう。

さらに，散文から始まったということは，新大陸に上陸以来アメリカ人がたどってきた開拓の歴史とあいまって，小説がその主流であり，しかもその小説はなんらかの意味で〈社会性〉の濃いものであるという一般的な特色をアメリカ文学に与えている。新大陸は，一言にしていえば，未開の荒野であった。したがって，新大陸の開拓ということは，暴虐な自然との闘いであったといってもいいだろう。その自然には，賞味すべき〈花鳥風月〉といったものはほとんどなく，荒野である自然を征服し，そこになんらかの形の文明社会を建設していくというアメリカ人の開拓の歴史は，アメリカ文学に強く反映しないはずはなかった。文明社会を荒野に切り開いていくことが，アメリカ文学の最大の素材であり，しかもその文明社会は，19世紀後半からは自然との闘いばかりでなく，ヨーロッパから流入してきた近代的なメカニズムとの衝突とその克服をも強いられるようになった。アメリカ文学には人間的なキメの細かさが不足しているとか，荒削りだなどとよくいわれるが，他国の文学に比べて確かにそうであるとしても，それはむしろアメリカ文学の特色として注目すべきことであり，けっして非難するにはあたらない。現在，世界文学の中で果たしているアメリカ文学の役割りをみても，それは自明であろう。

次に，アメリカ文学をみるときに忘れてならないことに，地域と人種の問題がある。まず地域についていえば，アメリカ大陸はおおざっぱにいって，東部・南部・中西部・西部の四つの地域に分けられる。ただし，これはむしろ歴史的な区分であって，厳密に地理的な区分ではない。たとえば，東部とよばれる地域は，実際には大陸の北東部にあたる小さな地域をさしているにすぎないし，中西部とよばれている地域をみると，大陸の中心部よりずっと東よりの北の部分であって，19世紀末までは東部の人たちから西部とよばれていた地域である。このように，むしろ歴史的な区分が地域別を示すのに用いられているということは，等しくアメリカといっても地域によって大きな差異があることを示唆するもので，アメリカ文学を考えるときにも，けっして無視できない要因となっている。一例をあげれば，東部ニューイングランドの開拓発展と南部のそれには，そもそもの始まりから大きな差異があって，それぞれ独特の精神的風土をつくりだしているのである。このように，東部の文学，南部の文学，あるいは中西部の文学，西部の文学というとき，それらの間には基本的に大きな差異がある。たとえば南部には，黒人や貧乏白人（プアー-ホワイト）を底辺とし，いわゆる南部貴族を頂点とする整然とした一見封建的な独特の世界があり，それは，南北戦争という国家的な大事件によっても一朝一夕には消し去ることのできない強固な基盤を築きあげていたのである。そういった風土で生まれた文学と他の地域で生まれた文学との間に，深い差異があるのは当然であろう。ただ，ここで留意しなければならないのは，そのような差異は，単なるローカルカラー（地域色）の違いといったものではなく，もっと基本的な特質にかかわるものだということがある。

そのような差異は，ある程度，アメリカに移住した人たちの人種についてもいえる。アメリカは人種のるつぼなどとよくいわれるが，少なくとも現在までのところ，平均的な〈アメリカ人〉とよびうる新しい人種を生みだしてはいない。作家や詩人の名まえをみても，黒人を除いては，そのほとんどがアメリカ渡来以前の旧大陸での名まえを保持している。それは名まえばかりではない。名まえの底にあるもの，すなわちそれぞれの〈血〉がもっている古い伝統的な資質も，まだ残っていることは確かである。ラテン系の資質，ゲルマン系の資質，さらにはアイルランド系・フランス系といったように，さまざまな〈血〉がアメリカの文学に大きな幅を与えているともいえよう。だが一方では，その幅を集約して，そこにアメリカ独特のものを生み出そうという苦悩があることを忘れてはならない。それは，アメリカ人とはなにか？というアメリカ当初からの執拗（しつよう）な問いかけとなって現われているし，この問いはアメリカ文学がその最初からかかえている最大の命題であるといっても過言ではなかろう。先に述べたアメリカ文学の〈社会性〉という特質は，この点からも明らかである。

これに関連して，アメリカ文学史に現われる作家や詩人たちの名まえをみるとき，時代によって著しい特色があることがわかる。19世紀末までの作家や詩人たちの名ま

えは，そのほとんど全部がアングロ-サクソン系であるのに対して，20世紀にはいってからは，その他の系統の名まえが急に多くなっているのである。このことは，アメリカ文学がその最初の300年近くの間は，多かれ少なかれアングロ-サクソン的であったことを意味するとみていいだろう。しかし，それはアメリカ文学がイギリス文学の支配下にあったということではない。英語という共通の表現手段を用いながら，19世紀末までのアメリカ文学は，イギリス文学から独立してアメリカ的な新しい文学をつくりだそうとする激しい動きをもっていた。そして，アメリカ文学の独立は，アメリカ合衆国の独立から約100年も遅れて達成され，20世紀にはいってからは完全に独立独歩の体制にはいったのである。これもまた，アメリカ文学の歴史のもつ一つの顕著な特色である。

以上のほかに，アメリカ発展の大きな精神的支柱となったピューリタニズム(清教徒主義)やフロンティア-スピリット(開拓者精神)，また，その両者の微妙な混合であるとも思われるヤンキーイズムなどが，アメリカ文学のさまざまな特質を生み出している。

〔概観〕 上記のような特色を踏まえたうえで，アメリカ文学の流れを概観してみると，次のようなおおざっぱな時代区分ができる。①イギリス人が新大陸に上陸した1607年ないしは1620年ごろからアメリカの文学が始まったとして，それから1780年前後，すなわちアメリカ独立のころまで(植民地時代)。②それから1890年前後まで。つまり，全大陸の開拓もようやく終わり，それと同時に農本主義から産業中心の近代資本主義への移行という大きな変貌(へんぼう)を遂げはじめたころまで(ロマンティシズム時代)。③それから現在まで(リアリズム時代)。

以上のような大きな時代区分は，さらにいくつかの小区分によって細分されなければならないことはもちろんだが，以下各時代の動向を概観してみよう。ここでは主として小説の動向に注目することにするが，詩や戯曲などもほぼ類似した傾向をたどっている。

①植民地時代(1607～1780年前後)：大別して，ピューリタニズムを基調としてニューイングランドの文学と，即物的で冒険的な植民精神を基調とした南部の文学と，この二つに分けられる。前者は主として宗教的なもので，日常生活の反省記録としての日記や，神学論・説教・歴史的記録・書簡などがその大部分を占め，後者には植民地建設の記録や冒険譚(ぼうけんたん)が多い。ウィリアム-ブラッドフォードの《プリマス植民史》，神秘思想家ジョナサン-エドワーズの《意志自由論》，牧師であり詩人であったテイラー*の詩などは，この時代の最もすぐれたものである。

②ロマンティシズム時代(1780年前後～1890年前後)：この時代の冒頭には，革命時代とよばれている時期がある。1760年前後から始まり1810年前後に至るもので，政治的には独立戦争を終えて新国家建設が端緒につき，アメリカ民主主義の基盤が固まっていった時期で，ニューイングランドを中心としたピューリタン的体制は衰退して，その代わりに理性に基づいたヤンキーイズムが台頭し，西へ西へと拡大しはじめていた国土の開発とあいまって，文学的にもようやく国民的な自覚にめざめたロマンティシズムが開花しはじめたのである。この時代の典型的な人物として，文学のうえでも，フランクリン*を忘れてはならない。このころ，小説の方でもようやく，イギリスのゴシック小説*をなぞらえたチャールズ-ブロックデン-ブラウンなどの作品が現われはじめた。

革命時代を経て19世紀へとはいっていったアメリカは，西へ向かう開拓線の急激な伸展と，豊富な天然資源のあいつぐ発見などとあいまって，新国家建設の気運が高揚し，この世紀前半のヨーロッパ思想の影響も受けて，一般思想はきわめて楽天的・理想主義的なものとなり，それが文学にも大きく反映した。しかし，19世紀も半ばをすぎ，南北戦争を経ていわゆる〈鍍金(ときん)時代〉(Gilded Age)にはいると，開拓線はしだいにその幅を縮めていき，物質文化の興隆とともに，産業の資本化・機械化などが推進されて，国民の目はしだいに足もとの現実に向けられるようになり，それまでのロマンティシズムはようやく影をひそめるにいたった。さらに，その傾向に拍車をかけたのは，科学の進展によって19世紀後半のヨーロッパを風靡(ふうび)した自然主義的な世界観や人生観で，それらがこの新大陸にも移入されて，決定論的なペシミズムの哲学などが広がりはじめ，開拓線が完全に消滅した1890年前後には，もはや次にくるリアリズムが決定的な主潮として浮かび上がってくるのである。このように，1861～1865年の南北戦争を境として，このロマンティシズムの時代も，その前半は高揚期，後半は衰退期であったということができる。アービング*・クーパー*・エマソン*・ソロー*・ホーソーン*・ポー*・メルビル*・ホイットマン*などは前半期に属し，マーク-トウェーン*・ハウエルズ*・ガーランド*・ディキンソン*などは後半期の人たちである。

③リアリズム時代(1890年以降)：19世紀末の10年を経て1920年前後にまで至る時期は，リアリズム成長のいわば青年期であって，クレイン*・ノリス*からドライサー*に引き継がれた自然主義とその亜流である暴露主義的な宣伝文学(シンクレア*など)とが主流となったが，第1次世界大戦が終結した1920年前後，すなわちアメリカが名実ともに世界の最強国となりはじめた時期に至って，文学の上でも，シカゴなどを中心として新しい解放的な文学運動が起こり，アンダーソン*やルイス*などの作家が出現して，リアリズムはドライサー的な自然主義以外の局面を示しはじめるようになった。

次いで，第1次世界大戦に直接的・間接的に参加し，近代的な世界観と人間観に対する絶望をいだいて帰還した若者たちは，いわゆる〈失われた世代*〉のグループとして，従来の価値体系の再編成を志向するような作品を発表しはじめた。ヘミングウェー*・フィッツジェラルド*・ドス-パソス*・フォークナー*などは，少なくともそれぞれのある時期において，このグループに属した作家たちである。これらは，多少の差こそあれ，いずれもヨーロッパ文化の洗礼を直接的に受けた人びとであり，その芸術性の高さによって，アメリカ-リアリズムを世界的な水準にまで押し上げた功労者であった。

1930年代になると，アメリカ-リアリズムは，社会主義リアリズム*の色彩が濃厚になってくる。これはもちろん，1929年秋の経済大恐慌を契機として起こった不況による社会不安を反映したもので，1930年代の前半は社会主義的なプロレタリア文学や演劇などが盛んとなり，それが後半にはいると，ニューディール政策に象徴されるような形で，多少ともヒューマニスティックな傾向をたどりはじめ，やがて第2次世界大戦へと突進していった。1920年代のいわば前衛的なはなやかさに比べて，1930年代は危機の時代であったともいえよう。ファレル*・コールドウェル*・サロイアン*・スタインベック*などはこの時代の代表的な人たちである。

1945年，第2次世界大戦が終わったころから現在までに至るアメリカの文学は，その顕著な特色として，ユダヤ系作家・黒人作家・南部作家の活躍をあげることができる。いわゆる〈ビート-ゼネレーション*〉の文学運動も，もちろん忘れることはできないが，その反体制的な動きは，ユダヤ系作家・黒人作家・南部作家の活躍とけっして無縁ではない。なぜなら，ユダヤ系アメリカ人・黒人・南部人の三者は，なんらかの意味において，それぞれアメリカ社会の現実に負いめをもっている人たちであり，彼らの活動が非常に顕著であるということは，行きづまりをみせはじめているアメリカの現体制への，積極的あるいは消極的な批判を反映していると考えられるからである。メイラー*・ベロー*・ボールドウィン*・エリソン*・オコナー*・スタイロン*・ケラワック*・アプダイク*などは，すでに名声を確立した人たちである。〔大橋吉之輔〕

論者である大統領ポーク*は1846年1月メキシコと交渉したが失敗し，5月紛争地でメキシコ兵によるアメリカ人銃撃事件が発生して，戦争に発展した。戦闘は1年半にわたったが，アメリカ軍のメキシコ市占領で終わり，1848年の平和条約で，メキシコは前記領域を1,500万ドルでアメリカに割譲し，テキサス・メキシコ国境はリオグランデと決められた。1853年メキシコからのガズデン購入と合わせて，合衆国はここに現在の本土国境線を画定し，一大大陸国家に成長し，19世紀末期，東洋進出の基礎をつくった。反面，新領土の獲得は，その地を奴隷州にするか自由州にするかという問題を提起することになり，ついに南北戦争*をひきおこすことになった。〔折井一彦〕

あめりかものがたり　【あめりか物語】永井(ながい)荷風*の短編小説集で1908年(明治41)に出版された。大半は作者の在米中に書かれ，ほかにフランスでの作品3編を合わせて24編が収録されている。理想に燃えて渡米した日本人が挫折(ざせつ)していく姿や，日本の封建性への憤りが語られる。作者荷風が渡米前のゾラ*への傾倒からモーパッサン*の作風に傾いていく過程もうかがわれる作品である。

アメリカやぎゅう　【アメリカ野牛】⇨バイソン

アメリカよたくしょうけん　【アメリカ預託証券】⇨ADR

アメリカライオン　⇨ピューマ

アメリカらくだ　【アメリカ駱駝】⇨ラマ

アメリカれんごう　【アメリカ連合】南北戦争*の際，連邦から分離した南部11州が結成した連邦国。リンカーンの大統領当選直後，サウス-カロライナほか6州が連邦脱退を宣言し，1861年事実上の連邦政府を組織した。南北戦争開始後さらにバージニアなど4州が参加。大統領はデービス*，首都はバージニア州リッチモンドと定め，その憲法は州権主義，個人の自由尊重，黒人奴隷制擁護を原則とした。だが，南部は人口・資源・工業力などの点で北部に劣り，1865年4月には南軍が北軍に降伏し，この連合も解体した。〔折井一彦〕

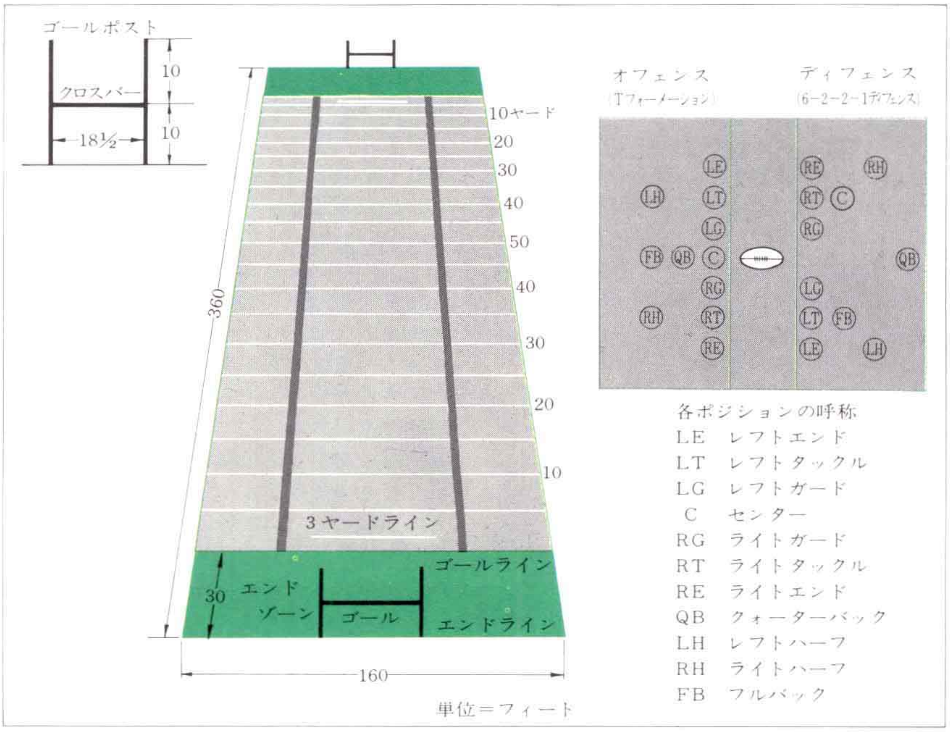
アメリカろうどうそうどうめい　【アメリカ労働総同盟】⇨AFL-CIO

アメリカン-オルガン　［American organ］ハーモニウム*と並ぶリード-オルガンの代表的な種類で，日本における小形の足踏みオルガンは多くこの型であった。ハーモニウムが圧縮された空気を送って弁を鳴らすのに対して，アメリカン-オルガンは真空状態をつくってそこに流れる空気で弁を鳴らすため，音質が均等になる長所がある。この原理は本来は1835年にパリで考え出されたものであるが，製作者がアメリカに移住したためこの名称があり，しばしば，キャビネット-オルガンの名称も用いられる。今日では足踏みして風を送る代わりに電気的な装置を組み込んでこれに代えるものが多くみられる。〔徳丸吉彦〕

アメリカン-バレエ-シアター　［American Ballet Theatre］アメリカのバレエ団。ロシアの舞踊家モードキン，その女弟子(でし)ルシア-チェイズ，舞台装置家オリバー-スミスらを中心に，1940年ニューヨークでデビュー。創立時にはバレエ-シアターといったが，1957年に改称した。世界的な振付師・舞踊家を集め，多彩な演目を誇り，ニューヨーク-シチー-バレエ団とともに現在アメリカの最も有名なバレエ団。代表的演目は《ライラック-ガーデン》《ペーターと狼(おおかみ)》。〔高橋孝一〕

アメリカン-フットボール　［American Football］野球と並んでアメリカの国技といわれるほど国民に人気のある球技。毎年，数十人の死者を出すほど危険を伴うスポーツだが，科学的・合理的なルールとアメリカ人の開拓者精神によくあった野性みと勇壮さを備えている。ラグビー*とサッカー*にヒントを得て生まれたというが，攻撃と防御がはっきり分かれ，野球がスリー-アウトになると攻守が変わるように，4回のダウンで攻守交代となる点は，むしろ野球によく似ている。

《競技方法》グラウンドはタテ360フィート，ヨコ160フィートの長方形で，5ヤード刻みで横に白線が引かれる。ボールはラグビーボールより小さい楕円体(だえんたい)で，長軸17.1～17.4cm，短軸28～28.6cm，重さは397～425g。1チームのメンバーは11人。うち7人がラインメン(ラグビーのフォワード)，4人がバックスとなっている。各ポジションの名称および構成は，現在最も普通に用いられるオフェンス(攻撃)とディフェンス(防御)の陣容を向かい合わせると図のとおりである。プレーヤーは身体の危険やケガを防ぐため頭にヘルメット，肩にショールダー-プロテクター，腰にヒップパッドをつける。試合は攻撃権を持ったチームが自陣40ヤードラインからのキックオフで始まり，攻撃チームは4回の攻撃権が与えられる。その4回の間に10ヤード前進すれば，フレッシュダウンとなり，さらに4回の攻撃権が与えられる。10ヤード前進できなかった場合は，4回めのダウンが終了した地点で，攻撃権が相手チームにわたる。各ダウンのはじめには，それぞれ30秒間の作戦タイムが与えられ，円陣をつくって攻撃陣容(フォーメーション)を練る。これをハドルとよぶが，これはアメリカン-フットボール固有のルールで，スタンドの観客は，チームといっしょに次のフォーメーションを予想し




アメリカン-フットボール

て楽しむ。フォーメーションには200〜300の型があり，各チームはそのうちから得意とする，またその場に適した型を選ぶ。攻撃の方法を大別すると，クォーターバックが前に出たラインメンあるいはハーフに前投してゲイン(陣地を取る)するパスプレー，スクリメージ(ラグビーのスクラム)の中央を体あたりで突破する方法，エンドやハーフに足の早いプレーヤーをおき，クォーターバックからのパスや手渡しで左右のサイドゾーンを走らせてゲインするオープンプレー，第4ダウンによく使われるパントキックなどがある。得点は相手のエンドゾーンにボールを持ち込むとタッチダウン(ラグビーのトライ)といって6点になる。その際，さらにトライ-フォアーポイント(ラグビーのゴール)のチャンスが与えられ，相手のゴールライン手前3ヤードのスクリメンジからパスあるいはライン突破でエンドゾーンにはいると2点が追加される。プレー中にキックしてボールが相手側のゴールバーを越えた場合には3点が与えられる。防御側が相手の攻撃をのがれ最小被得点におさえるため，自陣エンド-ゾーンでボールを地につけ，自陣40ヤードからのキックオフを選んだ場合は，攻撃側に2点が与えられる。試合時間は60分で15分ずつの第1〜第4クォーターに分かれ，クォーターごとにサイドを変え，第2と第3クォーターの間に15分のハーフタイムをおく。プレーはプレーヤーがタックルされてレフェリーから前進不能と判断されたとき，または手・足以外を地面につけたときはボールデッドとなり，1回のダウンに数えられる。最近はプロの出現でプレーにスピードと見せるおもしろみを盛り込むため，1チームの中に，攻撃専門のメンバーと防御専門のメンバーを別に用意してプレーする2プラトン-システムを採用するケースが多くなっている。

〈歴史〉 1869年にニューブランズウィックでラトガース大学とプリンストン大学がサッカー-ルールで試合をしたのが，アメリカン-フットボール(アメリカでは単にフットボールという)の始まりだといわれている。その後，1880年にアメリカン-フットボールの父といわれたウォールター-キャンプが1チーム11人とし，スクリメージラインやクォーターバック，4回のダウン制を決め，今日の原型ができあがった。1875年に始まったエール大学対ハーバード大学の定期戦，1890年に発足した陸海軍対抗戦はいまだに続き，広い人気を博している。なお1920年に誕生したプロフットボールは9〜11月をシーズンとし，2大リーグに分かれた試合で多くの観衆を集めている。このスポーツでは，競技会をボウルといい，上に地名や名産品の名を冠してよんでいるが，ローズ-ボウル，オレンジ-ボウル，シュガー-ボウル，コットン-ボウルなどの名が日本でもよく知られている。

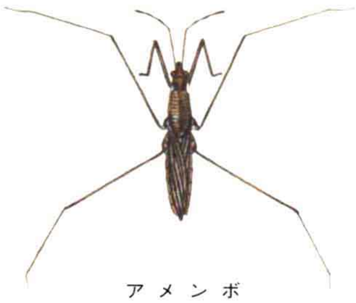
〈日本の歴史〉 立教大学教授ポール-ラッシュと体育主事のジョージ-マーシャルの世話で，1934年(昭和9)に早稲田(わせだ)大学・明治大学・立教大学の3校で東京学生米式蹴球(しゅうきゅう)連盟が生まれ，3大学選抜チームをつくって横浜外人クラブと試合をしたのがはじまり。1939年には日本米式蹴球協会が生まれ，第2次世界大戦で中断したが終戦とともに復活した。主として関東と関西の学生を中心に行なわれているが，1968年ごろから学生チーム数がめざましくふえ，リーグ戦の日程消化に苦しむような成長をみせている。関東では日本大学・明治大学・法政大学が強く，関西では関西学院大学が長年首位の座を守っている。おもな定期戦では1月15日に国立競技場で行なわれるライス-ボウル(関東学生オールスター対関西学生オールスター)のほか，西宮(にしのみや)ボウル(全関東対全関西)・甲子園ボウル(学生王座決定戦)などが知られている。〔伊東春雄〕

アメリカン-リーグ［American League］アメリカのプロ野球連盟の一。ナショナル-リーグ*とともに，メジャー-リーグ*を構成するが，ナショナル-リーグよりは歴史が浅いのでジュニア-リーグともよばれる。1901年，シカゴ・ボストン・デトロイト・フィラデルフィア・ボルチモア・ワシントン・クリーブランド・ミルウォーキーの8都市のチームで結成された。1920年代から，ホームラン王ベーブ-ルース*を中心にニューヨーク-ヤンキースが台頭してリーグは黄金時代を迎え，ナショナル-リーグの人気を圧倒したが，1960年代からヤンキースの衰退とともにやや下火となった。1961年以後10球団制，1969年以後12球団制となって今日に至る。優勝回数がいちばん多いのはニューヨーク-ヤンキース(29回)である。現在の所属球団は次のとおり。

ボルチモア-オリオンズ・ボストン-レッドソックス・カリフォルニア-エンゼルス・シカゴ-ホワイトソックス・クリーブランド-インディアンズ・デトロイト-タイガース・カンザスシチー-ローヤルズ・ミネソタ-ツインズ・ニューヨーク-ヤンキース・オークランド-アスレティックス・シアトル-パイロッツ・ワシントン-セネターズ。〔鈴木美嶺〕



アメンヘテプ3世　同王の葬祭殿塔門前に置かれた像。のちにギリシア人によってメムノンの巨像とよばれた



アメンボ

アメリシウム［americium］超ウラン元素の一。記号Am，原子番号95。1944年にアメリカの物理学者シーボーグ・ジェームス・モーガンにより存在を確認され，アメリカの名にちなんで命名された。天然には存在しない。最も安定な同位体は質量数241，半減期458年である。比重11.7。展性・延性に富む銀白色の金属で，乾燥した空気中で徐々に表面が酸化される。希塩酸にとける。

アーメン［amen］キリスト教会で礼拝式・信仰告白・祈り・賛美歌などの中で用いられ，賛意，願望の確信の意を表わす語。本来はヘブライ語で，〈まことに〉〈確かに〉の意である。《新約聖書》で，イエスの重大な発言の前置きとして〈よくよく……〉と訳されているのはこれである。また〈アーメンたる者〉という言い方でイエス自身をさす場合にも使われている。音楽ではヘンデルの《メサイア》中の〈アーメン-コーラス〉が特に有名である。〔五十嵐誠〕

アメンヘテプ［Amenhetep］古代エジプト第18王朝の王。アメンホテプ・アメノフィスともいう。

1 3世（？〜BC1364ごろ）在位BC1402〜BC1364年ごろ。トトメス4世の子。即位当時のエジプトはシリア・パレスチナ・ヌビア(ナイル川第4急流まで)を支配して繁栄の頂点にあり，王位継承につきものの植民地の反乱も起こらぬほど支配体制は安定していた。王はミタンニ*・バビロニア*の王女を後宮に迎えて同盟関係の強化に努めた。安定した王権を背景に専制君主的傾向を強め，皇后は王族とする当時の慣習に反して平民の娘ティエを皇后とし，文官優越の原則を無視して軍人・軍属を重用した。またアモン*神官団に対抗してアトン*信仰を育成しカルナク神殿・ルクソール神殿をはじめとする大規模な建築活動を行なうなど，旧来の慣習を無視した政治を行ない，〈宗教改革〉の遠因をつくった。〔屋形禎亮〕

2 4世 ⇨イクナートン

あめんぼ【飴坊・水黽】こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・アメンボ科。水生で水面を巧みに滑走する。体は棒状で中・後脚はきわめて長く，体の下面は銀白色の微毛でおおわれる。この仲間は，日本には約

20種が分布し，ふつう，淡水に生活するが，塩水に生活する種類もある。後者は小形で翅(はね)のないものが多く，一般に岩礁の多い海浜に見いだされる。淡水生の種類は一般に大形で翅があり，静水に多く見いだされる。

アモイ 【**厦門**】 中国福建省南東部の港市。人口130万(推定)。同名島の南西岸にあり，対岸の鼓浪嶼(ころうしょ)と一市街をなしている。もと嘉禾嶼(かかしょ)または鷺嶼(ろしょ)ともいったが，明(みん)代14世紀末から現名となった。宋(そう)・元以来，外国貿易の一根拠地で，明末からはイギリスやオランダの商船も来航し，1842年の南京(ナンキン)条約で5港の一つとして開港された。特に東南アジアとの関係は密接で，華僑(かきょう)の故郷として知られる。1956年鷹厦(ようか)鉄道が開通して，大陸と直通できるようになった。 〔日比野丈夫〕

あもりごと 【**天降言**】 田安宗武(むねたけ)の詠歌のうち，2首の旋頭歌(せどうか)を含む309首を収録した歌集。編者や近侍の臣の記憶をもとにした書きつけ4類を編綴(へんてつ)したもの。その詠作年代が明示されているので，新古今ふうの歌風からしだいに万葉調へと移った宗武の歌風の変遷が跡づけられる。
➔県居派(あがたいは)

アーモリー-ショー ［Armory Show］ 1913年にニューヨーク，レキシントンの第69連隊兵器庫で開かれた，アメリカ現代美術の発展の契機となった展覧会。アングル・ドラクロアから，フォービスム・キュービスムに至るフランス美術中心の1,100点の展示があり，シカゴ・ボストンへの巡回も含めて25万人の観衆を集めた。しかし，デュシアンの《階段を降りる花嫁》などをはじめとする現代美術は，激しい嘲笑(ちょうしょう)を浴びた。 〔酒井忠康〕

アモン ［Amon］ 古代エジプトの神。アメンともいう。テーベの市神だったが，テーベ出身の第12王朝が全エジプトを統一したので，太陽神ラーと結び，アモン-ラーとして全エジプトの主神となる。イクナートン(アメンヘテプ4世)の宗教改革も一時的に終わり，第21王朝では祭司長が王となるほど盛んであった。古代ギリシア人はこの神をゼウスと同視した。

アーモンド ［almond］ 双子葉植物・バラ科。サクラの仲間でペルシア原産の落葉高木。高さ7～10m。ヘントウ(扁桃)・アメンドウともいう。ギリシア・ローマなどの地中海沿岸で古くから栽培。モモに非常に近い種類で，早春，葉に先だって花をつけ，5～6月に実をつけるが，果肉は薄く果汁(かじゅう)がなく食用とならない。種子を食用とする。種子が苦い品種と甘い品種がある。前者の種子からは苦扁桃油をとり，絞りかすは良質の洗剤となる。後者からは甘扁桃油をとるほか，食用・菓子原料とされる。 〔加藤僖重〕

あやおり 【**綾織**】 平織・繻子織(しゅすおり)とともに織物の三原組織の一。3本以上の経緯糸を一単位として組織され，経緯糸の交点が織物の表面に斜線となって現われるところから，斜文織ともいう。経糸(たていと)(あるいは緯糸(ぬきいと))が緯糸(あるいは経糸)2本の上にまたがり1本沈む1単位がくり返される織りを2/1(にいち)斜文といい，綜絖(そうこう)の数から3枚綾組織という。これに準じて3/1斜文・5/1斜文は，それぞれ三浮一沈・五浮一沈の4枚・6枚の綾組織である。ただし，経緯糸4本・6本で組織する場合，2/2・3/3のように経緯の浮数を同じにすると，織物の表裏に同じ斜文が現われる。これをさきの片面綾に対し両面綾という。綾目の流れには，左下から右上に走る右流れと右下から左上に流れる左流れの2種がある。しかし，ときには7枚・9枚の綾組織を加えて，斜文の方向を中途で変えたり，綾目をずらしたり，表裏の組織を組み合わせたりして種々の変化斜文がつくられる。

綾織は平織よりやや地質が柔らかく，しかも繻子に次いで光沢があるため，絹織物の綾羽二重・綾甲斐絹(あやかいき)，毛織物のサージ・ギャバジン，このほか錦(にしき)・金襴(きんらん)など各種の織物に広く応用されている。綾織の歴史は古い。正倉院に伝承された奈良時代の裂類(きれるい)には4枚綾組織が多くみられる。また，中世以降には3枚・6枚の綾組織が多く，歴史的な変遷がうかがわれる。なお，上代では，綾といえば組織としての斜文織をいうばかりではなく，地経あるいは地緯の一部を斜文組織として文様を織りだした紋織物をさしていた。しかし，今日では，紋織物としての綾はあまりみかけられなくなった。 〔勝呂小枝〕

あやし 【**漢氏**】 秦(はた)氏と並び称せられる古代の有力帰化氏族。楽浪(らくろう)の漢人が南鮮を経て5世紀ごろに帰化したものか。その大和(やまと)(奈良県)に住んだ者を東漢(やまとのあや)，河内(かわち)(大阪府)にいた者を西漢(かわちのあや)という。姓(かばね)は直(あたい)。特に東漢氏は多くの部(べ)を従え，文筆・新技術をもって朝廷に仕え，やがて蘇我(そが)氏に結びついて政界にも活躍した。一族は7世紀ごろから多くの氏に分かれたが，そのうち8～9世紀には坂上(さかのうえ)氏が最も有名となった。 〔黛　弘道〕



アヤ-ソフヤ

あやせ 【**綾瀬(市)**】 神奈川県の中央部東寄り，元高座郡の町。南は藤沢市である。人口は63,200で，昭和53年市制施行。相模原台地南部の畑作地帯で，養蚕も盛んであったが，最近は急に京浜のベッドタウン化して，1970(昭和45)～75年の人口増加率は102％で，神奈川県の市町村中第1であり，養豚・養鶏や野菜栽培などの近郊農業も行なわれている。北を東名高速道路，南を東海道新幹線が通っているが，市外への交通はもっぱらバスによって，相模鉄道と小田急電鉄に連絡している。北東部から大和市にかけて厚木飛行場がある。〔浅井得一〕

アヤ-ソフヤ ［Aya Sophia］ イスタンブールにある初期ビザンチン建築で，ハギア-ソフィア・聖ソフィアの名で知られるビザンチン諸皇帝の廟所(びょうしょ)。建築家はトラレスのアンテミオスとミレトスのイシドロス。ユスチニアヌス帝によって537年に献堂されたが，地震によってドームが落ち，563年に再び献堂されている。現在は回教寺院として用いられているが，当初はキリスト教寺院として建造された。中央の大ドームは直径31m，高さ54m，周囲の部分や大バットレスはこの大ドームが力学的に広がろうとするのを抑える働きをなしている。内部は全面がモザイクで飾られ，巨大な構造物であることを感じさせないほどの装飾空間がつくりあげられ，人工の特殊な宗教空間を体験させる。 〔田島　学〕

あやつりさんば 【**操三番**】 日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。本名題《柳糸引御摂(やなぎのいとひくやごひいき)》。篠田瑳助(しのだささすけ)作詞，4世杵屋弥十郎(きねややじゅうろう)作曲，1853年(嘉永6)初演。三番叟(さんばそう)を糸操り人形として見せるのが特色。後見は人形箱から出したり，糸が切れたのをつなぐなど，一役かう。古くは翁(おきな)・千歳もぜんまい人形仕立てであったが，5世尾上(おのえ)菊五郎の改訂以後は普通に踊る。➔三番叟物

アヤ-デ-ラ-トレ ［Víctor Raúl Haya de la Torre］ (1895～　) アプラ運動の創始者・指導者。ペルーのトルヒーヨに生まれる。学生時代ゴンサーレス-プラドの社会主義とメキシコ革命に影響され，社会運動に身を投じた。1924年メキシコでアプラ党を創立。以後，ペルー内外で運動の普及に尽くした。アプラ運動はペルー保守派の強い反対を受け，アヤ自身も迫害にあって亡命を余儀なくされた。1949～1954年にかけてリマのコロンビア大使館にとどまって，政府の弾圧に抵抗したことは彼の名を

世界的にした。〔松下　洋〕

あやとり　【綾とり】　児童遊戯の一。1mほどのひも，あるいは糸の端を結んで輪をつくり，左右の指・手首に巻いたり，引っ掛けたりして，さまざまな形をつくっていく。平安時代から行なわれていたが，江戸の元禄(げんろく)時代ごろから盛んになり，あやとり用の豪華なひもも現われた。やり方にはひとりで形をつくる方法と，ふたりで別の形に移し取っていく方法とがある。形には小川・舟・魚・はしご・鼓などがあり，ほうきをつくると他の形に移せない。〔渡辺欣雄〕

あやべ　【綾部(市)】　京都府北部の市。江戸時代は九鬼(くき)氏四万石の城下町で，1950年(昭和25)市制施行。人口43,600。市域は由良(ゆら)川中流流域の河岸段丘上に開ける。産業三大別人口比は28：37：35で，養蚕・製糸が盛んであるが，最近では生糸の輸出不振のため，繊維工業の大工場が設置され，1963年低開発地域工業開発地区に指定された。山陰本線と舞鶴(まいづる)線の分岐点で，国道9号線・27号線が通じ，大本教*の総本苑(そうほんえん)がある。

あやめ　【菖蒲】　単子葉植物・アヤメ科。山間の草地に自生する多年草。日本・朝鮮・中国・シベリアに広く分布。地下茎は横にはい，多数の暗かっ色の繊維でおおわれる。花茎は30～60cmで，5～6月に径8cmくらいの紫色花を2～3個つける。栽培品種には白色やごくうすい紫紅色のものがある。文学作品にもよく現われるが，カキツバタ*・ハナショウブ*との区別がむずかしく，混同されている場合が多い。

あやめいけ　【菖蒲池】　奈良市西大寺町にある池。二つに分かれている。奈良盆地北部丘陵中の自然の谷を利用してつくった農業用水池であったが，いまはアヤメが植えられ，池を含んであやめ池遊園地となっている。近畿(きんき)日本鉄道奈良線沿いの行楽地として，四季を通じてにぎわう。

あゆ　【鮎】　硬骨魚類・アユ科。30cmに達する。イワシに似た形だが口が大きい。背は暗オリーブ色，腹は白い。うろこは小さい。1年で成熟し，秋に川の中・下流で産卵，ほとんどの親魚はやがて生命を終わる。孵化(ふか)した稚魚は海へ下って冬を越し，翌春5cmほどになって川を上る。幼魚期には動物質のもの，大きくなると川底の珪藻(けいそう)・藍藻(らんそう)を食う。川の中流域で成長するが，えさ場を独占しようとする性質が強く，他の魚がこのなわ張りにはいると，体あたりして激しくこれを追い払う。友づりはこの性質を利用したつりの方法。姿が美しく，かおり・味がよいので，日本では，古来，海のタイと並んで珍重され，前記の友づりのほかに，どぶづり・ころがし，訓練したウミウを使う鵜飼(うかい)，産卵のために川を下るのを捕える簗(やな)など，独特の漁法が発達している。日本全国に産し，朝鮮・台湾，中国大陸の一部にも分布する。琵琶湖(びわこ)には海に下らず全長10cmほどにしかならないコアユがいるが，種類としてはアユとまったく異ならず，川に移すと普通のアユと同じ大きさに成長する。これを利用して各地の川に放流されている。ほとんど1年で死ぬので年魚，また，かおりがよいところから香魚などとよばれる。尾びれに近い背のところに小さなひれ状のあぶらびれがあり，サケやワカサギに近い魚であることがわかる。〔菅野　徹〕



アヤメ



アユ　直接法による魚拓



アユモドキ



アラ

アユイ　［Abbé René Just Haüy］（1743～1822）　フランスの鉱物学者。結晶学の創設者。パリ自然科学博物館およびパリ大学教授。ホウカイ石の劈開(へきかい)から，結晶の対称に注目し，結晶形は固有な単位体の集合としてさまざまな形をとると考え，いわゆる有理指数の法則を出し，結晶学の基本法則を立てた。アユナイト(ランポウ石)は，彼の名に因む。

あゆかわよしすけ　【鮎川義介】（1880～1967）　実業家・政治家。山口県出身。東京大学卒業後，芝浦製作所に入社し，アメリカに留学。帰国後，義兄久原房之助*(ふさのすけ)より久原鉱業を引き継ぎ，1927年(昭和2)久原鉱業社長に就任。その後日産コンツェルンを組織し，1937年日本産業株式会社を満州に移して満州重工業開発株式会社とし，初代総裁となる。1943年貴族院議員。第2次世界大戦後追放となり，1952年に解除され，翌年参議院議員に当選。中小企業の育成を唱え，1956年日本中小企業政治連盟を結成し総裁として活躍した。〔岸野淳子〕

アユタヤ　［Ayutthaya］　タイ中央部，メナム川下流に臨む都市。水路に囲まれた島に位置する。人口50,000(1965)。1350年に建設され，1767年まではアユタヤ王国の首都であった。王城・寺院をはじめ歴史的建造物が多い。かつては山田長政*(ながまさ)が活躍し，日本人町もあった。

アユタヤちょう　【アユタヤ朝】　メナム川の下流アユタヤ*に都したタイ族の王朝。1349年ラマティボディ1世によって開かれ，1767年ビルマ軍の侵入を受けて滅ぶ。14世紀以来中国の明朝(みんちょう)をはじめ琉球(りゅうきゅう)・日本と，のちポルトガルその他ヨーロッパ諸国と盛んに交易した。日本人町の指導者山田長政*(ながまさ)の活躍は有名。

アユブ-カーン　［Mohammed Ayub Khan］（1907～1974）　パキスタンの政治家。アルガル回教大学，イギリス・サンドハースト陸軍士官学校卒業。第2次世界大戦中ビルマ戦線で活躍し，パキスタン独立後の1948年陸軍少将，同年東パキスタン軍司令官となる。1951年陸軍総司令官，1954年国防相，1958年10月大統領となり，同時に元帥に昇進。1963年12月回教連盟総裁，翌年11月軍務を退く。1968年11月以来，全国的な反アユブ運動の矢面に立ち，その激化に伴って翌年3月25日，ヤヒア-カーン*戒厳司令官に政権を移譲した。〔吹浦忠正〕

あゆもどき　【鮎擬】　硬骨魚類・ドジョウ科。淡水産で10cmどまり。ハヤなどに似た外形をしているが，よく見ればやはりドジョウの一族らしく，ずん胴である。淡黄色の地に幅広い黒かっ色の横じまがはいる。分布が狭くほぼ琵琶湖(びわこ)に限られていて数も少ない。味がアユに似ているといわれる。底生性。

あら　【鯍】　硬骨魚類・スズキ科。1m近くになる海産魚。スズキに形が似るが，淡かっ色で目先が長く，幼魚には縦のはっきりした黒いしまがある。かなり深い海にすみ，食用になる。

アラー　⇨アッラー

あらい　【洗】　さしみの一種。活魚(いけうお)を冷水で洗ったもので，夏季に賞味される。タイ・コイ・スズキ(フッコ)・ボラ・コチ・カレイなど白身の魚を材料とする。〈作り方〉魚を三枚におろし皮を引き，そぎづくりまたは糸づくり*などにして，冷水で振り洗いすると身が締まり縮む。これを氷の上に盛り，つま・わさびじょうゆを添える。淡水魚の場合は酢みそまたはからし酢みそのほうがよい。なお，簡単な作り方として〈湯洗い〉の方法がある。これはそぎ切りにした魚を，65℃の湯にいちどに入れ，

さっとかき混ぜ，身が縮まったらすぐ氷水に取って十分に冷やす。癖のある魚は多く湯洗いにする。

肉が縮むのは，魚肉中のATP*(アデノシン三リン酸)の分解エネルギーによってタンパク質に変化が起きるためで，収縮度は筋肉のpHが中性であるほど多く，酸性になるほど少なくなる。死直後の魚はpHが7.2前後のため収縮度が最も多い。白身の魚を用いるのは，グリコーゲン量が少なく解糖作用がおそいので，pHが中性に保たれているためである。〔塩川ふみ〕

あらい【新井(市)】新潟県南部の市。江戸時代は北国・飯山(いいやま)両街道の分岐点にあたる宿場町・市場町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口129,000。市域は，高田平野南端，関川とその支流矢代(やしろ)川の合流点に位置し，産業三大別人口比は34：31：35。米作をはじめ，タバコの栽培や養鶏も盛んである。また，関川水系の電力を利用して，1935年大日本セルロイドの新井工場が設置され，カーバイド・酢酸・アセテートなど化学原料の重要な産地となった。信越本線・国道18号線に沿う。斐太(ひだ)の古墳群，鳥坂(とさか)城跡がある。

あらい【新居(町)】静岡県浜名郡の町。人口16,600。浜名湖の今切れ湖口の西側にあり，もと東海道の重要な宿場町・渡船場で，関所が置かれていた。新居関跡は特別史跡に指定されており，1855年(安政2)建設の建物は，江戸時代の関所で残っている唯一の建物である。東海道本線に沿い，紡績・楽器・モーターボートの工場があるほかに，ノリ・カキ・ウナギの養殖が行なわれている。

あらいかんぽう【荒井寛方】(1878～1945) 日本画家。栃木県の生まれ。本名寛次郎。水野年方に学び，1899年(明治32)，安田靫彦*(ゆきひこ)らと紅児会を興し，初期文展に出品したが，再興院展に加わって第2回展に《乳糜供養(にゅうびくよう)》で才を認められ同人となった。その後，1916年から1918年にかけて，タゴール*に招かれてインドに渡り，絵画指導やアジャンター石窟(せっくつ)の壁画模写などを行なった。また，1940年(昭和15)以来は仏画制作や法隆寺金堂の壁画模写に従事している。〔陰里鉄郎〕

あらいぐま【洗熊】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・アライグマ科。体長40～55cm，尾長19～40cmでタヌキに似る。体は暗かっ色で毛先は灰色。顔に目を横ぎる黒帯があり，尾には5～7本の輪状の黒帯がある。中央・北アメリカの森林の水辺にすみ，水にはいるのを好み，木登りも巧みで高い木のほら穴に巣をつくる。おもに夜行性でザリガニ・カエル・貝などを，ふつう，洗ってから食う。ネズミ・果実なども食う。寒い地方では冬眠する。妊娠期間60～73日，1腹4～8子。子は春に生まれ，翌年春まで親とともに生活する。毛皮は優良で，タヌキはその代用とされる。〔今泉吉典〕

アライト(島)［Alaid，阿頼度］千島(クリル)列島の北端，パラムシル(幌筵)島の北西にある火山島。面積124km²。オヤコバケ山(2,339m)は休火山で，千島列島の最高峰。セイウチ*が集まる島として有名。➔千島列島

あらいはくせき【新井白石】(1657～1725) 江戸中期の政治家・儒学者。名は君美(きみよし)，初名は璵(よ)，通称は勘解由(かげゆ)，白石は号。父は久留里藩(土屋家)藩士の正済(まさなり)。浪人ののち堀田正俊(ほったまさとし)に仕え，木下順庵(じゅんあん)に朱子学を学び，堀田家を辞したのち順庵の推挙で甲府藩主徳川綱豊(つなとよ)(家宣(いえのぶ))の侍講となり，1709年(宝永6)家宣が将軍となったのに従い幕臣となる。家宣・家継の2代にわたって側用人(そばようにん)間部詮房*(まなべあきふさ)とともに幕政に関与し，儒教的・道徳的政治を理想として政治を行なった。おもな施策として朝鮮使節の待遇改正，貨幣改鋳，武家諸法度(しょはっと)改訂，長崎貿易の制限強化(海舶互市新令の施行)，閑院宮家の創設，儀礼の整備などがある。1716年(享保1)吉宗(よしむね)が将軍になると引退し学問研究の道を歩んだ。学者としては実証と合理性を重んじ，史学・地理学・国語学など広い範囲を研究した。おもな著書として，史学では《古史通》《読史余論*》《藩翰譜*(はんかんふ)》，地理学では《西洋紀聞*》《采覧異言(さいらんいげん)》，国語学では《東雅》があり，また自叙伝として《折たく柴(しば)の記*》がある。➔正徳の治

あらいはり【洗い張り】和服を洗たくするとき解いて洗い，平らにのして仕上げること。古くから家庭で行なわれてきたが，染物と兼業で行なう専門業者もあり，関東では洗張染物屋，関西では悉皆屋(しっかいや)という。この解き洗いは奈良時代の文献《正倉院文書(しょうそういんもんじょ)》にもみることができる。現在は明治以後洋服とともに移入された丸洗い(解かずに洗う)のドライクリーニング*が振りそで*にまで盛んに行なわれ，洗い張りはすたれる傾向にある。これは広い場所を必要とすること，技術がむずかしいこと，解いた衣類の仕立てなおしが困難でありかつ高価となったなどの理由による。

〈方法〉和服を解き離し，予洗(➔洗たく)・洗たく・すすぎ・乾燥したのち仕上げをするが，方法は布の性質によって次のように異なる。〈綿布・麻布〉解いたままの形でする。洗たくはアルカリ洗剤の溶液でもみ洗い，特によごれがはなはだしく，布がじょうぶな場合は洗たく板でもみ，仕上げは板張りにする。張り板はホウの節のない板で幅45cm，たけ180cm，厚さ1.2cm，4枚の両面を使って1反分を張ることができる。方法は布の裏に糊液をつけ，張り板の上に平らに置いてしわを伸ばし，布目を正しく張って天日に干す。〈絹布〉解いたものを裁つまえの形に幅・たけを仮に縫い合わせて並幅1反とし(端縫(はぬ)いという)てから洗う。よごれは中性洗剤の溶液でつかみ洗い・振り出し洗い・はけ洗い(板の上に布を平らに置き刷毛で洗う)などの方法で落とす。仕上げは紬・羽二重など平物(➔平織物)は伸子張りとする。これはたけの両端を棒(張り手)にはさみ止めて引っ張り，伸子(両端に針を植えた細い竹の棒で，長さは並幅より少し長い)を布の表に4cmぐらいの間隔で両耳に刺して布幅を張り，糊液をはけで裏から塗って干し，伸子をとって端縫いを解く。縮緬(ちりめん)などしぼのある絹物の仕上げは湯のしでする。これは布のたけを輪に縫い合わせ，2本の丸棒に通し，ふたりでたけの両方に引っ張り，湯のしがまの蒸気を当てながら洗たくして縮んだ布幅を丸棒に添って引き伸ばして整えるもので，専門業者によって行なわれる。

そのほかアイロン仕上げ(多くウールにする)・手のし仕上げ(綿布・麻布)などもある。なお部分的にしみ抜き*をすることも広い意味の洗いになる。〔堀越すみ〕



アライグマ



新井白石

あらうみのそうじ【荒海障子】清涼殿*の東側広廂(ひろびさし)の北端にあった布張りのついたて障子。表裏には土佐守(とさのかみ)の作と伝わる墨絵があり，表に手長人・足長人が荒海で魚を手で捕える図が描かれている。画題は中国古代の地理書《山海経*》の長臂(ちょうひ)国・長股(ちょうこ)国の記事に基づいている。なお，裏には宇治川の網代(あじろ)の図が描かれている。同じ東側広廂の南端には昆明池障子*(こんめいちのそうじ)がある。

アラウンパヤちょう【アラウンパヤ朝】ビルマ最後の王朝。コンバウン朝ともいう。1752年アラウンパヤ(1714～1760)が創立。5代ボドパヤ(在位1782～1819年)のとき，領土は最大となり，仏教文化が栄えた。このころはまたインドに本拠を置くイギリスの勢力伸張期であったため，ビルマ戦争は3次に及び，王朝は1885年に滅んだ。

あらお【荒尾(市)】熊本県北西端の市。

1901年(明治34)三池炭田*万田坑が開かれ，1923年(大正12)の四山(よつやま)開坑，1940年(昭和15)の陸軍火薬工場の新設などにより，〈石炭の町〉に軍需産業の性格も取り入れて発展した。1942年市制施行。人口62,000。

市域は，福岡県大牟田(おおむた)市と隣接し，大牟田への通勤者も多く，両市の機能は一体化している面が多い。産業三大別人口比は12：43：45で，有明(ありあけ)臨海工業地帯*の一部を形成し，産炭地振興地域に指定されている。大炭鉱や化学・製鋼などの大工場があるが，火薬工場は第2次世界大戦後，炭鉱住宅街に変わった。周辺部の台地・丘陵部はナシの産地として知られるが，最近はミカンの栽培がこれを上回っている。有明海沿岸ではノリの養殖が行なわれる。

鹿児島本線・国道208号線に沿い，東郊に弥生(やよい)式土器の発掘で知られる小岱(しょうだい)山県立公園がある。

あらかし【粗樫】 双子葉植物・ブナ科。暖地の低山に多い常緑高木。高さ15〜20m。葉は光沢のある暗緑色で厚く，葉の上半分に鋸歯(きょし)がある。4〜5月，雄花序が枝先に，雌花序が葉腋(ようえき)につく。材は器具材や薪炭材(しんたんざい)にされる。

アラカルト［à la carte］〈献立表によって〉の意で，料理店の献立表により客が自分の好きな料理を注文して食事をすることであるが，転じてその料理の意味にも用い，一品料理をさす。しかし一品だけ食べるという意味でなく，料理を何品か選んで注文する，お好み料理というところである。フランス料理店の営業方法はこの方法によるところが多く，あらかじめ定められた献立によって料理の運ばれる定食(ターブル-ドート)の形式は少ない。〔泉 敬子〕

あらかわ【荒川】 関東山地，三国山から甲武信岳(こぶしがだけ)の東斜面を水源とし，山間を流れて秩父(ちちぶ)盆地に至り，北東に向かって関東平野西部に出，東南流して東京湾に注ぐ。流程144km。秩父盆地から関東平野に出る間は峡谷をつくり，長瀞(ながとろ)の奇勝があるが，結晶片麻岩の露出や岩石段丘・甌穴(おうけつ)など，自然の地質博物館としても有名である。平野部に出てから高麗(こま)川・入間川などの支流を合わせて東京都にはいる。出水のたびに東京は江東地区に浸水するので，1930年(昭和5)北区に岩淵(いわぶち)水門をつくり，分水路をつくって東京東部を東京湾に導いた。増水時には5分の4の水量がこれを流れる。荒川放水路がこれであり，河川法上では現在は本流とされる。もとの本流は千住から隅田(すみだ)川と名を変えて，東京港に流れ出る。なお，この川は古くは山間を出ると東流していまの元荒川の河道を流れ，古利根(ふるとね)川に合流して江戸東方に注いでいたが，1629年(寛永6)に下流の水害対策のため流路を入間川に結び，今日に至ったものである。〔長津一郎〕

あらかわ(区)【荒川】 東京都北部の特別区。北は足立区，南西から南東へかけては北区・文京区・台東区・墨田区と接する。面積は10.34km²で23区のうち第1位。人口19万3,000。人口密度は1km²あたり18,665で第4位である。荒川南岸の低湿な沖積地(ちゅうせきち)一帯を占め，南部に道灌(どうかん)山・諏訪台(すわだい)の丘陵がある。江戸時代には水田を主とする農作地帯であったが，1879年(明治12)官営工業*千住製絨所(せんじゅせいじゅうしょ)の設立を契機として，南部の南千住・日暮里(にっぽり)を中心に中小工場・商店・住宅の密集混合地区となった。工業の種類としては，セルロイド製品・自転車部品・鉛筆・家具・皮革などの消費財が多い。東北本線・常磐(じょうばん)線が通じ，尾久操車場・墨田川貨物駅・日暮里駅・南千住駅などがあり，京成電鉄上野線・地下鉄日比谷(ひびや)線・同千代田線も主要交通路となり，国道4号線が南北に縦貫する。道灌山は江戸時代に虫聞きの名所として知られた。また，三河島(みかわしま)下水処理場・町屋火葬場などの施設があり，東京都の裏口の役割を果たしている。

あらかん【阿羅漢】 梵語(ぼんご)arhat(アルハト)の音写。羅漢とも略される。原義は〈尊敬を受けるに足る〉の意であるが，仏教では，殺賊・応受供養・不生などと解されてきた。いっさいの煩悩(ぼんのう)(賊)を断ちつくし，学問・修行をすべて完成して，世間の人々の供養(尊敬)を受けるに値する最高の理想像をいう。本来，仏の異称の一つであるが，仏教の発展とともに，特に小乗仏教では最高の位に達した聖者を称するようになり，仏と区別した。わが国では，十六羅漢や五百羅漢*の像や絵で親しまれている。〔平井有慶〕

アラカン(山脈)［Arakan］ アラカン-ヨマともいう。ビルマ西部ベンガル湾岸を南北に走り，インドとの境界をなす褶曲(しゅうきょく)山脈。北部はヒマラヤ山系に続くパトカイ山脈に連なり，南はベンガル湾に落ち込む。最高峰はビクトリア山(3,050m)。東側は乾燥し草原となるが，西側は夏のモンスーンの影響により世界でも有数の多雨地域である。

あらきかんぽ【荒木寛畝】(1831〜1915) 日本画家。江戸に生まれ，文晁派(ぶんちょうは)(→谷文晁)の荒木寛快に師事してその嗣子となる。旧姓田中。1856年(安政3)山内容堂の知遇を得て土佐藩絵師となり，維新後は独立して画塾(がじゅく)を開いた。一時期は洋画を志して川上冬崖*(とうがい)に学び，旧来の日本画に洋風技法を加味して花鳥画を刷新。1873年(明治6)ウィーン万国博覧会に《菊花図》を出品して受賞，1887年の明治宮殿造営に際しては杉戸絵を製作した。1899年帝室技芸員となり，私塾読画塾のほか東京美術学校・東京高等女子師範学校などで後進を指導した。代表作に《孔雀(くじゃく)図》(御物)《雨中双鶏図》などがある。

あらきこどう【荒木古童】 琴古流尺八家の芸名。初代荒木古童(1823〜1908)は，古童の名を師の豊田(とよだ)古童から受けたので，2世古童ともいわれる。彼の活動は明治維新の変革期にあたっていたため，普化(ふけ)尺八*が禁止されてのちの混乱した尺八界に抗して，尺八音楽の復興に努め，地歌の尺八譜をつくるなど，今日の琴古流の活動のあり方を基礎づけた。

あらきさだお【荒木貞夫】(1877〜1966)陸軍軍人。東京都出身。陸軍大学校卒業。軍令系統の要職を歴任後，1931年(昭和6)犬養(いぬかい)内閣の陸相。陸軍皇道派将校の指導的地位にあったが，退役後，第1次近衛(このえ)内閣・平沼内閣の文相として，教育・文化の軍国主義化を行なった。第2次世界大戦後，極東国際軍事裁判*で終身刑の判決を受け，1955年病気のため仮釈放された。

あらきだ【荒木田】 土の名称。関東地方の多摩川や荒川の流域一帯にある沖積土(ちゅうせきど)で，粘土質に多少の砂が含まれている。肥もちや水もちがよく，温室の培養土として多く用いられる。粘土分が多いので，腐葉や堆肥(たいひ)を混ぜ，さらに魚かすや油かす・くん炭・過リン酸石灰などを混ぜて積み込んでおき，数回切り返しを行なったものを用いるとよい。また建築の荒壁材料としても用いる。

あらきだし【荒木田氏】 古代からの伊勢(いせ)神宮の内宮(ないくう)神主家。伊己呂比命(いころひのみこと)の後裔(こうえい)と伝え，成務天皇のときに荒木田の姓をはじめて賜わったという。1871年(明治4)の神宮制度廃止まで，代々伊勢神宮の禰宜*(ねぎ)を世襲した。俳諧(はいかい)・連歌の守武(もりたけ)，国学の雅経(まさつね)・久老(ひさおゆ)・末寿(すえほぎ)などを輩出した。明治になり泰圀(やすくに)が男爵となる。

あらきだひさおゆ【荒木田久老】(1746〜1804) 江戸後期の国学者。伊勢(いせ)神宮内宮(ないくう)の権禰宜(ごんのねぎ)。伊勢神宮外宮祠官(しかん)度会正身(わたらいまさのぶ)の子で，荒木田久世の養子。号は五十槻園(いつきのその)。賀茂真淵*(かものまぶち)の門にはいり，広く古典を学ぶ。古典を読むことによって，儒仏に惑わされない古意，すなわち古代の精神を知る必要性を強調し，神道(しんとう)とは古意そのものであると説いた。晩年には本居宣長*(もとおりのりなが)と対立した。主著《万葉考槻落葉》。〔熊谷保孝〕

あらきだもりたけ【荒木田守武】(1473〜1549) 室町後期の神官，連歌・俳諧(はいかい)の作者。伊勢(いせ)神宮内宮(ないくう)の神官守季(もりすえ)の子。晩年長官位に至る。宗祇*(そうぎ)ら中央の連歌師に教えを受け，早く《新撰菟玖波集*(しんせんつくばしゅう)》に入集した。《宗長追善千句》《合点之句(がてんのく)》など作品も多いが，特に1540年(天文9)に完成した《俳諧独吟千句》は，従来余興的な詠(よ)み捨てとして行なわれていた俳諧を，正式な千句形

式の連歌として単独で吟詠し神前に奉納したものであり，俳諧の価値を高めたものとされ，文学史上に著名である。〔奥野純一〕

あらきだれいじょ 【荒木田麗女】（1732～1806） 江戸時代後期の物語作者。伊勢(いせ)神宮内宮(ないくう)の禰宜(ねぎ)荒木田武遠の子。のちに叔父(おじ)荒木田武遇の養女となり，22歳で慶滋家雅(よししげいえまさ)と結婚。少女時代から和漢の古典を耽読(たんどく)し，連歌を学んだが，長じて流麗な文章で王朝ふうの優雅な物語を書くようになった。代表作は歴史物語《池の藻屑(もくず)》《月の行方(ゆくえ)》。その他紀行文・物語・句集がある。

あらきまたえもん 【荒木又右衛門】（1599～1638ごろ） 江戸前期の剣客。通称保和(やすかず)。伊賀(いが)（三重県）荒木村の人。柳生十兵衛(やぎゅうじゅうべえ)らに師事して剣術を学び，郡山(こおりやま)城主松平家の剣術師範となった。妻は岡山城主池田家の臣渡辺数馬(わたなべかずま)の姉。1630年（寛永7）7月，数馬の弟源太夫が同藩士河合(かわい)又五郎に殺されたため，すけだちとしてあだ討ちの旅に出た。1634年（寛永11）11月7日，又五郎が一党20余人とともに奈良から江戸への途中を，伊賀上野の鍵屋(かぎや)の辻(つじ)に待ち受けて戦った。激闘のすえ又右衛門は河合甚左衛門(じんざえもん)・桜井半兵衛を斬(き)り，数馬は敵又五郎を斬ってあだ討ち本懐を遂げた。あだ討ちのあと又右衛門は池田家へ招かれ，1638年没したとも，あるいはその前年，伊賀の藤堂家に滞在中死んだともいわれる。

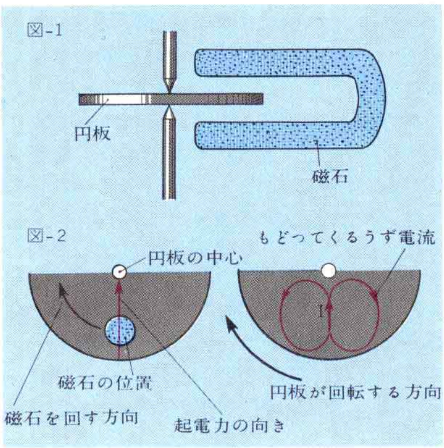
あらくれ 徳田秋声*の長編小説，1915年（大正4）1月から7月まで読売新聞に連載された。養父母の勧める結婚をきらったお島は婚礼の夜に家を出て，その後は男から男へと渡り歩き，湯泉場で女中働きをしたり，洋服屋小野田と同棲(どうせい)もする。しかし，ついには小野田の店の若い職人に心を移す。奔放な性のみではなく，生活力あるひとりの女の流転を描き，わが国の自然主義文学の一つの頂点を示した。

アラゴ ［Dominique François Jean Arago］（1786～1853） フランスの物理学者。光学では波動説の推進者として，特に偏光の研究，光が横波であることの提示，回転鏡による光速測定法の提唱で知られ，電磁気学では電流の磁気作用の研究や，特にうず電流の現象の発見（アラゴの円板*）で知られる。エコール-ポリテクニク教授，パリ天文台長にもなった。熱烈な共和主義者でもあり，下院議員・陸海軍大臣なども勤めた。〔藤村 淳〕

あらごと 【荒事】 歌舞伎(かぶき)の演技・演出法の一。強者の超人的な力を表わすため，扮装(ふんそう)・動作・発声など，すべて誇張した様式で演じることをいう。1673年（延宝1）初世市川団十郎*が金平浄瑠璃(きんぴらじょうるり)に暗示を得て創始したといわれる。《暫*(しばらく)》《矢の根*》などが代表的演目。荒事を得意とする俳優を〈荒事師〉とよぶ。



荒 事 《矢の根》の荒事役曾我五郎を演ずる9世市川団十郎の錦絵。車鬢・筋隈，黒繻子にアゲハチョウの着付けという扮装が特徴的である 早稲田大学演劇博物館蔵



アラゴの円板

アラゴのえんばん 【アラゴの円板】 うず電流*を示す実験装置。銅製円板をなめらかに回転できるように中心でささえる。馬蹄(ばてい)形磁石の両極で，接触しないように円板をはさみ，円板の周辺に沿って磁石を移動すると，引っ張られるように円板も回転する。この事実は円板と磁石間の電磁気的力によるもので，1926年アラゴ*によって発見された。アラゴの円板は，誘導型電動機・計器継電器・制動機などに使用される。磁石のN極が上になるようにはさむとすれば，磁束は円板を上から下へ貫く。いま，磁石を右から左へ動かせば，円板は相対的に左から右へ磁束を切りながら動くことになる。そのため，電磁誘導の法則により起電力が円の中心へ向かって生じ，そこにうず電流Iが流れる。この電流Iは磁束Bと作用して，右から左へ引っ張る力が円板に働く。それゆえ，円板は磁石を追って回転することになるのである。〔堀内和夫〕

アラゴン（地方） ［Aragon］ スペイン北東部，現在のサラゴサ・ウェスカ・テルエルを合わせた旧地方名。北はピレネー山脈，東と西も山地に囲まれていて雨量が少なく，サラゴサの年降水量は315mmである。灌漑(かんがい)設備の整った河谷平野ではトウモロコシ・オリーブ・ブドウ・小麦を栽培する零細な農業が営まれる。主要都市はサラゴサ。

アラゴン ［Louis Aragon］（1897～ ） フランスの小説家・詩人。ダダイスム*・シュルレアリスム*の文学運動に加わったのち，この文学体験を否定し，共産党に身を投じ，小説《レ-コミュニスト*》などで政治と文学の両立をめざした。1937年，共産党機関紙《ス-ソワール》の編集長となり，反ファシズム運動に参加し，詩集《フランスの起床ラッパ》によって反ナチのレジスタンスを国民に訴えた。ほかに，《お屋敷町》《オーレリアン》などの小説がある。〔池田公麿〕

アラゴンおうこく 【アラゴン王国】 中世スペインの王国。スペイン北東部はかつてフランク王国の一辺境領であったが，当時はナバラ王国の支配を受けていた。11世紀アラゴン王国が独立して封建国家を形成し，国土回復運動*を開始してその一中心となった。12世紀サラゴサ・カタロニアを併合し，一時南フランスにも勢力を伸張した。13世紀にはいると半島西部を回復し，同世紀後半から地中海上に発展し，シチリア・コルシカ・サルジニアを得て，ジェノバ市に対抗した。1469年フェルナンド5世*はカスチリア王の妹イサベル*と結婚したため，1479年両国は合併してスペイン王国を形成し，1792年グラナダを占領して国土回復運動を完了した。〔大野慎一郎〕

あらさ 【粗さ】 固体の表面のでこぼこのうちで，周期的なうねりを別にした小さい凹凸(おうとつ)の程度。表面に垂直な切り口が示すあらさ曲線の最も高い所から最も低い所までの距離を最大高さあらさとするとJIS（日本工業規格）に規定している。中心線平均あらさ・自乗平均あらさで表わすことも多く，これらを直接指示できる測定器

がある。

あらし　シェークスピア*最後の作品である伝奇的喜劇(1611年の作と推定される)。孤島に島流しにされたミラノ伯プロスペローと娘ミランダが，島に住む妖精(ようせい)たちを手なずけ，彼らを追放したアントニオとむすこフェルディナンドの船を魔力で島に引き寄せて苦しめるという物語。当時のドイツ演劇に種本があるといわれ，また1609年のバミューダ島での遭難事件をふまえているともいわれる。5幕でプロスペローが，笏(しゃく)を折って地中に埋めてしまおうというせりふや，彼がエピローグで魔法の尽きたことを語る部分などは，シェークスピア自身が劇作の筆を断つことの表明でもあるとして，よく引用される。〔五十嵐一〕

あらしがおか【嵐が丘】　エミリ-ブロンテ*の唯一の作品。1847年出版。当時は彼女の姉シャーロットの創作と考えられた。暗く激しい情熱において姉の《ジェーン-エア*》にまさる作品。北イングランドのヒースの荒野にある〈嵐が丘〉とよばれるいなか家のあるじに拾われたヒースクリフは虐待と冷笑のうちに育つ。彼の情熱的で残忍な心はこの家の娘キャサリンに慰められるが，彼の恋も彼女と隣家の青年紳士エドガー-リントンとの結婚によって破れる。傷心の彼は雨の夜嵐が丘を去るが，3年後金持ちになってもどる。キャサリンに対する彼の思慕は変わらず，彼女は2世キャサリンを産んだまま死ぬが，ヒースクリフは彼女の墓をあばくなど異常な愛と復讐(ふくしゅう)の鬼となる。その後彼は嵐が丘のあるじとなり，2世キャサリンと自分の子を結婚させることに成功する。しかし彼の無気味な熱情的な恋はいやされることなく彼は死ぬ。ヒースの茂る荒野の自然描写を背景にしたヒースクリフの悪魔的性格の創造は読者の心をとらえるに十分な迫力を有し，傑作といわれている。〔橋本槇雄〕

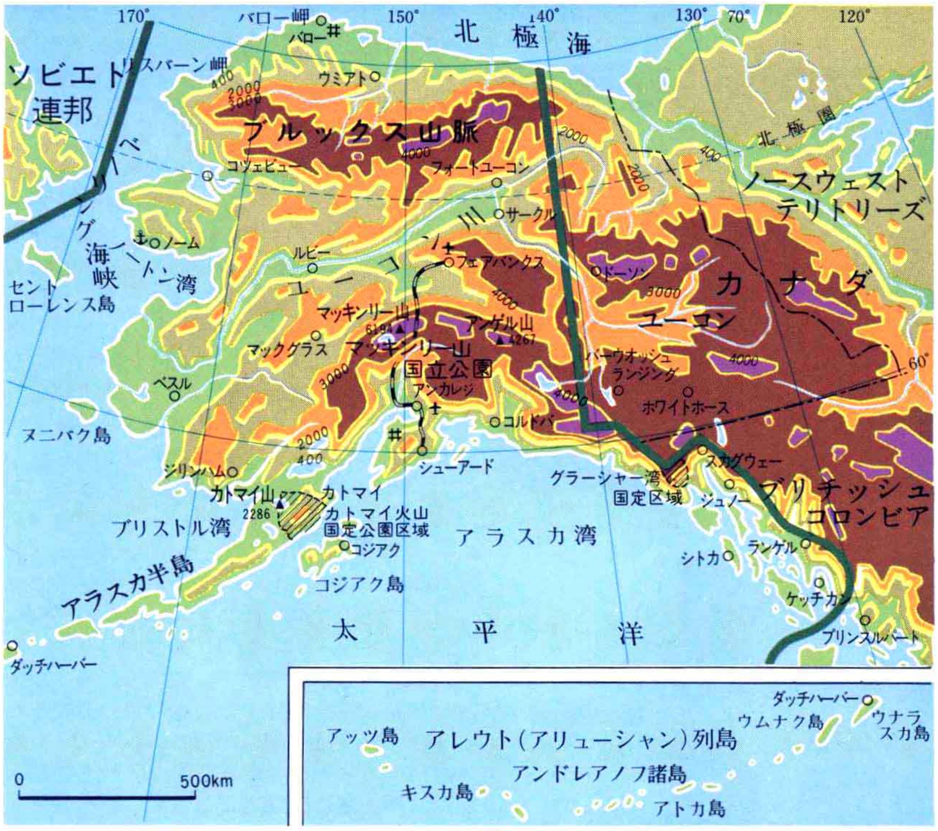


嵐　山　保津川右岸の嵐山と渡月橋。対岸は嵐山公園で，秋色の深まるにつれて紅葉が一段とあざやかになろうとしている

あらしは【嵐派】　ドイツ表現派(→表現主義)の発展に画期的な役割を果たした週刊美術誌・画廊および芸術家のグループ。1910年，評論家ヘルバルト-バルデンはベルリンで雑誌《デル-シュトルム(嵐)》を編集・発行して，はじめはココシュカ*の肖像画，キルヒナー*の版画などを紹介し，のちには芸術理念に関する諸論文も掲載，表現主義運動を強力に推進した。また，1912年には画廊を開設，1913年この画廊で〈第1回ドイツ秋の展覧会〉が開かれ，カンジンスキー*・マルク*・ヤウレンスキー*・クレー*・マッケ*・ファイニンガー*・カンペンドンク*らの青騎士派*と孤立していたドイツ・オーストリアの表現主義作家たちが合体，いわゆる嵐派が生まれた。その後第1次世界大戦後にはこれへの参加者はそれぞれ独自の道を歩むようになるが，バルデンらは美術学校の設置，巡回展・出版・講演会・演劇を通じて精力的な活動を繰り広げ，1920年にはムッヘ・シュライヤーら有力メンバーがバウハウス*に招かれた。しかし，1932年に至ってナチスの圧力を受けて，この多彩な運動は幕を閉じた。〔子安三喜男〕

あらしやま【嵐山】　京都市西郊嵯峨(さが)にある名勝地。古くは紅葉の名所であったが，後嵯峨上皇のときヨシノザクラを移植してから春秋の行楽の地となった。ここを流れる保津川は渡月橋から上流を大堰(おおい)川ともよばれ，平安時代には龍頭鷁首(りゅうとうげきしゅ)の船を浮かべた舟遊びの名所で，いまはシーズンには舟遊びとボートでにぎわう。京都府立公園に指定されている。

アラスカ(州)［Alaska］北アメリカ大陸の北西突出部を占めるアメリカ合衆国最



アラスカ





アラスカ　(上)アラスカとカナダの南部国境にそびえるフェアウェザー山。山麓は深い峡湾に臨む　(下)対岸のダグラス島から望んだアラスカ州の州都ジュノー。左手の橋が島と結んでいる

大面積の州。面積152万km^2，人口33万7,000(1974)。州都ジュノー。1959年1月，合衆国第49番めの州となる。州名はアラスカ半島をさしてよんだアリューシャン-エスキモー語の〈国〉を意味するalaskからきたものとも，半島を意味するalakshokのロシア語化したものともいわれる。本土とはカナダのブリチッシュコロンビア州によって遮断(しゃだん)される。ユーコン川は，カナダとの国境付近から流れ出てほぼ中央部を西流し，ベーリング海に注ぐ。海岸線にはフィヨルドが目だち，島も多い。三つの山脈が東西に走り，中央のアラスカ山脈にはマッキンリー山がある。全土の60%以上がツンドラであるが，太平洋に面する南部はアラスカ海流(暖流)の影響で比較的温暖である。1867年10月，アメリカ合衆国が720万ドルでロシアより購入。主産業は漁業・鉱業・林業・毛皮業で，シトカには日本のアラスカパルプ会社の工場がある。サケ・マス・ニシンなどの漁獲高は全国第1位で，かんづめを主とする水産加工業も盛んである。金の生産はしだいに衰微したが，石油・天然ガスの将来が有望視され，日本企業の石油開発への進出が現在進行中である。プラチナの生産は全国第1位で，スズの生産はコロラド州に次いで第2位である。ソ連に隣接するために第2次世界大戦後，軍事的重要性が急増し，アンカレジは陸・空軍の軍都である。航空路は本土を結ぶ12の国内線と北アメリカ大陸とユーラシア大陸を結ぶ国際線が通る。物資の輸送の90%は海運による。アラスカをたずねる観光客は毎年約10万人。主要都市，アンカレジ・フェアバンクス・ジュノー。　〔相村大彬〕

あらせいとう　⇨ストック

アラタたい　【アラタ体】　こん虫の内分泌器官の一つで，鱗翅(りんし)目こん虫では脳の近くに1対存在し，脳とは神経索によって連絡している。また半翅目・双翅目こん虫などではそれと相同的なものが変形して存在する。いずれにしてもアラタ体は幼若ホルモンの分泌中枢としてこん虫の脱皮，卵黄の形成，翅型の決定，色彩の発現などに関与する。また脳ホルモンは神経の軸索を伝わってアラタ体に貯留され，ここから放出されるものと考えられる。➔アラタ体ホルモン　〔深谷昌次〕

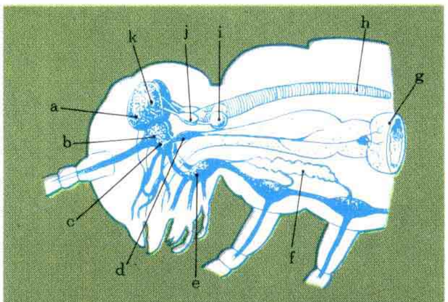
アラタたいホルモン　【アラタ体ホルモン】　こん虫のアラタ体*から放出されるホルモンのことで，幼虫形質を保持するために必要なホルモンであり，幼若ホルモンともよばれる。アラタ体ホルモンはその他卵黄形成，翅型(しけい)の決定，色彩の発現あるいは幼虫休眠の保持などにも関係するが，こん虫の脱皮時には決定的な役割を果たすことが明らかにされている。すなわちアラタ体ホルモンは前胸腺(ぜんきょうせん)ホルモン*と協同的に働くと幼虫脱皮をひき起こすが，その量が少ないかあるいはまったく欠如するときにはそれぞれ蛹化(ようか)・成虫化が起こるといわれる。したがってアラタ体ホルモンにはいくつかの種類があるとの説もあったが，最近その化学構造が明らかにされ，多くの実験が行なわれた結果，いろいろな生理的現象は単一ホルモンの多面作用であることがわかった。なおアラタ体ホルモンと同じような生理活性物質も数多く知られていて，この方面の研究は今後新しい農薬の探究という面からもますます盛んになるものと思われる。　〔深谷昌次〕

あらたま　【荒魂】　⇨和魂・荒魂(にぎみたま・あらみたま)

あらためいん　【改印】　浮世絵版画の検閲印。寛政の改革以後，錦絵(にしきえ)の出版は届け出制となり，許可されると画面に検閲の改印が刷り込まれた。改印の形式から版画の制作(出版)年代が知られる。

あらちのせき　【愛発関】　北陸道の越前(えちぜん)(福井県)と近江(おうみ)(滋賀県)の境にあった古代の関所*。伊勢(いせ)(三重県)の鈴鹿(すずか)，美濃(みの)(岐阜県)の不破(ふわ)とともに日本三関といわれる。764年(天平宝字8)恵美押勝*(えみのおしかつ)が謀叛(むほん)を起こし，この関に拠(よ)ろうとしたが，佐伯伊多智(さえきのいたち)らにはばまれた。789年(延暦8)交通の便を失って廃止され，近江の逢坂関(おうさかのせき)が代わって三関に加えられた。

アラック　[arrack]　東南アジア地方でつくられる蒸留酒をヨーロッパでよぶ名。アラキともいう。原料は地方により異なり，ヤシじる，ナツメヤシの実，米などが用いられる。これらの原料を発酵させたのちに，蒸留してつくる。アルコール分は70～80度。



a 前大脳　b 中大脳　c 後大脳
d 脳下神経節　e 食道下神経節　f 前胸線
g 中腸　h 大動脈　i アラタ体　j 側心体
k 神経分泌細胞群

アラタ体



荒畑寒村

アラド　[Arad]　ルーマニア西部，ハンガリー国境近くの都市。ドナウ川支流マロス川に臨む。人口13万9,000(1971)。11世紀トルコの要塞(ようさい)として，近世以降は周辺農業地域の穀物・家畜・酒類の集散地として発達した。絹織物・電気機具・製糖などの工業も盛んである。1848～1849年のハンガリー独立運動の拠点であったが，第1次世界大戦後，ハンガリーからルーマニアに割譲された。住民の40%はマジャール人。

アラトス　[Aratos]　(BC315～BC240ごろ)　ヘレニズム時代の学者・詩人。キリキアに生まれ，アテナイに遊学し，ストア派の哲学者ゼノン*に教えを受けた。アテナイでマケドニアの王子アンチゴノスの知遇を得て，マケドニア王宮に招かれ，王のために《祝婚歌》をつくった。のちシリアで《オデュッセイア*》の校訂を完成し，マケドニアに帰って死亡。叙事詩《星座物語》は星や星座の運行，気象など天然自然現象を詩にしたもので，ラテン文学に深い影響を与えた。　〔久保正彰〕

アラニュ　[Arany János]　(1817～1882)　ハンガリーの詩人。叙事詩における第一人者で，代表作には，14世紀のハンガリー騎士を主人公とした三部作《トルディ》(1847～1879)がある。

アラニン　[alanine]　アミノ酸の一種で，構造上α-アラニン(CH_3CHNH_2COOH)とβ-アラニン($NH_2CH_2CH_2COOH$)の2種類がある。α-アラニンはすべてのタンパク質に含まれており，ことに絹糸中に20%存在する。β-アラニンはタンパク質中には見いだされないが，パントテン酸*の構成成分として代謝上に重要な役割を果たしている。

あらはたかんそん　【荒畑寒村】　(1887～1981)　社会運動家。神奈川県出身。高等小学校卒業。内村鑑三*(かんぞう)・幸徳秋水*らの影響を受け社会主義思想に共鳴，1904年(明治37)社会主義協会にはいった。1920年(大正9)日本社会主義同盟創立，1922年日本共産党創立に参画，1928年(昭和3)党を除名され，以後労農党の中心として活躍し，数回入獄。第2次世界大戦後，日本社会党結成に加わり，のち衆議院議員となったが，1948年芦田(あしだ)内閣に反対して脱党。その後は文筆活動に従事。　〔岸野淳子〕

アラハバード　[Allahabad]　インド共和国北部，ウッタル-プラデシ州の都市。ガンジス川とその支流ジャムナ川との合流点に位置する。人口49万1,000(1971)。古くからヒンズー教の聖地として知られる。19世紀には名高いセポイの反乱*の舞台となった。毎年1・2月に河岸で行なわれるメラの祭りはヒンズー教の最大行事の一つで，数百万人が集まる。鉄道交通の中心であるとともに，この地方の行政の中心都市で，綿・製糖などの工業も盛んである。〔別技篤彦〕

アラバマ(州) [Alabama] アメリカ合衆国南部，コットンベルト*(綿花地帯)にある州。面積13万2,000km²，人口357万7,000(1974)。州都モントゴメリ。1819年12月，合衆国第22番めの州となる。州名はインディアン語で〈種族〉の意。近年工業が成長してきたが，州経済はなお農業生産に依存している。綿花の生産はその中心がテキサスに移ってからは衰えはじめ，1967年の生産高はトウモロコシ・ダイズに次いで第3位となった。アパラチア北部から産出する瀝青炭(れきせいたん)は鉱産物全生産額の40%を占める。その他，ボーキサイトはアーカンソー州に次いで第2位，アスファルトの生産は全国第3位。パルプ材の生産では全国第2位で，製材・家具工業が盛ん。住民の3分の1は黒人。主要都市，バーミンガム・モビール・モントゴメリ。〔相村大彬〕

アラビア [Arabia] アジア南西部のアラビア半島の地域で，原住民はアラビア人*であるが，7世紀以後イスラム教の発展に伴って半島外にその勢力を拡大し，周辺の住民をアラブ化するに及んで，アラビアという名をかぶせた地名・民族・文化の内容は，半島の概念と必ずしも一致しなくなってきている。半島はインド半島をしのぐ世界最大の広さをもち，その形は太めのL字形で，北西は地中海，西は紅海，南はインド洋，南東はアラビア海*とペルシア湾に面し，地中海と紅海の間のスエズ地峡で，わずかにアフリカ大陸とつながり，また北東はチグリス-ユーフラテス川の谷を隔てて，小アジア・イランに接している。半島全体が，大きな台地をなしていて，北東にゆるやかに傾斜しており，最高点は南西端のイエメンにあるフール山(3,760m)である。インド洋と地中海のそれぞれの季節風の影響を受ける南部と北部を除いては，極度に乾燥しており，気温も高く，半島の中央部やや東寄りにあるサウジアラビアの首都リヤドの年降水量は81mm，年平均気温は24.7℃である。したがって，内陸部の大部分は砂漠(さばく)で，北部のはネジド砂漠，南部のはルブアルハリ砂漠とよばれている。住民はアラビア人が主で，ラクダ・ヒツジ・ヤギの遊牧とオアシスにおけるナツメヤシ・大麦・小麦などの栽培に従事しているが，近代的な産業はほとんど発達していない。ただ半島のおよそ5分の4を占めるサウジアラビアと，その北東に接するイラク・クウェートでは，アメリカ合衆国・イギリス・オランダ・フランス・日本などの外国資本による石油の開発が行なわれていて，その利権料がこれらの国々の経済の大きなささえとなっている。このほか，サウジアラビアの北西に接してヨルダン・イスラエル，半島の南西部にイエメン-アラブ共和国(北イエメン)・イエメン民主人民共和国(南イエメン)，南東部にはオーマン・アラブ首長国連邦・カタール・バーレーンなどの国々がある。このうちアラブ首長国連邦に属するドバイ・アブダビ・シャルジャ，カタールとバーレーンには石油を産し，外国資本による採掘が行なわれ，日本企業が参加している国もある。

アラビアで，最も早く開けたのはイエメン地方で，BC1000年のころすでにここに王国があった。7世紀にイスラム教が興こると，アラビア全土は，イスラム帝国により統一され，12世紀からはエジプトの，16世紀からはオスマン-トルコ帝国の支配下にはいり，第1次世界大戦後はイギリスの勢力が強くなったが，1927年のサウジアラビアの独立を最初に，第2次世界大戦後は全部が独立を達成している。〔浅井得一〕

アラビア(海) [Arabian] インド半島とアラビア半島に囲まれた，インド洋北部の海域。北にはオーマン湾・ペルシア湾が支湾としてあり，西にはアデン湾・紅海が続いている。海水の塩分濃度は36.5‰と高く，ペルシア湾は40‰に達する。欧亜連絡航路の要衝で，ボンベイ・カラチ・アデンなどの港市がある。

アラビアおんがく 【アラビア音楽】 西アジア・北アフリカ諸国の音楽は，地域的な差異があるにしても，汎(はん)イスラム的ともいうべき文化的共通性をもち，音楽的にはアラビア民俗音楽ないし芸術音楽という形で総括することができる。以下に述べることは，東はフィリピン・インドネシア，南は東アフリカ，北は東ヨーロッパに至るイスラム教浸透圏ないし影響圏の音楽にも，当然共通なものがいくつかある。

アラビア民俗音楽の大部分は楽器の伴奏をほとんど伴わない声楽である。形態は独唱，あるいは独唱・斉唱の応答のどちらかであることが多い。伴奏がつくとすれば，手拍子かタンバリンである。タンバリンは円形・角形などいろいろな形のものがあり，名称もドゥフ・タール・ベンダイルなどと地域によって異なるが，結婚式の歌や舞踊歌などに使われる点で共通である。また，声楽が中心とはいえ地域的に広いので，さまざまな民俗楽器が見うけられる。膜鳴楽器には，タンバリンのほかにタブル(円筒形あるいはやかん形)，2個ずつ対になっているナッカラ(やかん形)，片面太鼓ダルブカなどがある。吹奏楽器には，二重リード(オーボエ系)のスルナイ・ズルナ・ズルカ，1枚リード(クラリネット系)で2管ずつ対になっているアルグル・ザマルなどがある。弦楽器には，撥弦(はつげん)楽器のルタール(リュート系)・グンブリ・タンブール・ブズク・サーズ・バグラマなど，ヨーロッパで見られるものと明らかに関係のあるものがあり，擦弦楽器もバイオリンと共通の起源をもつといわれるケマンチェがある。最近では，ヨーロッパのバイオリンが逆輸入されて一般に使われることがある。

また，アラビア民俗音楽で重要なものに宗教歌がある。イスラム教の聖典《コーラン*》では音楽は禁止されているにもかかわらず，人人がしいて音楽とは認めない種々の歌唱形態があり，メッカ巡礼に関するもの，聖人をたたえるものなどがある。また，祈禱(きとう)の時を知らせるアザーンや，《コーラン》の朗読は異文化の者にとってはきわめて音楽的である。

アラビア芸術音楽は大きく四つの系統に分けることができる。すなわち，イランを中心とするペルシア音楽，エジプトを中心とするアラブ音楽，北アフリカのアンダルシア系音楽，トルコのトルコ音楽である。それらは音楽用語など細かい点では異なることもあるが，共通点が多い。なぜなら，それらはすべてアル-キンディ*(9世紀)やアル-ファーラービー*(10世紀)らによって築きあげられた音楽理論に根本的に依拠しているからである。最も特徴的なのは音階・旋法の理論マカーム*である。これは単に音階の理論ではなく，旋律法，とりわけ終止法をも規定し，美学的な音楽の意味をも与えるものである。いわばインド音楽のラーガ*と並ぶ理論である。系統によって用語は異なるが，最も代表的なペルシア音楽を例にとるならば，七つの旋法音ダストガーと五つの音階音アバーズに基づいて微小音程を含む種々の音程による作曲基盤を構成することである。たとえば2度音程に4種類があり，短2度・中立2度(短・長の中間)・長2度・増2度(長2度より¼音広い)を区別する。短3度と長3度のほぼ中間の中立3度も特徴的である。ヨーロッパ音楽などに使われる他の音程ももちろん使われるが，厳密には同じではなく微妙な差がある。リズムの理論についても，各系統が異なる名称でリズム型を規定している。ペルシアではダルブ，アラブではイカアト，エジプトではドゥルブ，トルコではウッスルなどがその理論である。

アラビア芸術音楽の代表的な楽器としてはナイ(フルート)，ズルナ(オーボエ)，カマンジャ(4弦擦弦)，タール(リュート)，ウード*(リュート)，サントゥール*(ダルシマー，ピアノの類)，カーヌーン*(チター)，ラバーブ(二弦擦弦)，ナッカラ(太鼓)，ダルブカ(太鼓)などがある。

全般に，音楽を感情表現の手段として応用する傾向が強いが，一部の器楽曲の中には純粋に音の構成美を追求するものもある。いろいろな意味でアラビア音楽は東西両洋の音楽の起源・交流を探るにあたって最も重要なかぎを含んでいる。〔山口 修〕

アラビアかがく 【アラビア科学】 サラセン帝国(7世紀半ば～15世紀末)，すなわちイスラム教のカリフ(教主)の支配下に行なわれた科学の総称で，イスラム科学ともいう。その建設者はアラビア人に限らず，イラン人・トルコ人・ユダヤ人なども多く，また必ずしもイスラム教徒ではなかった。

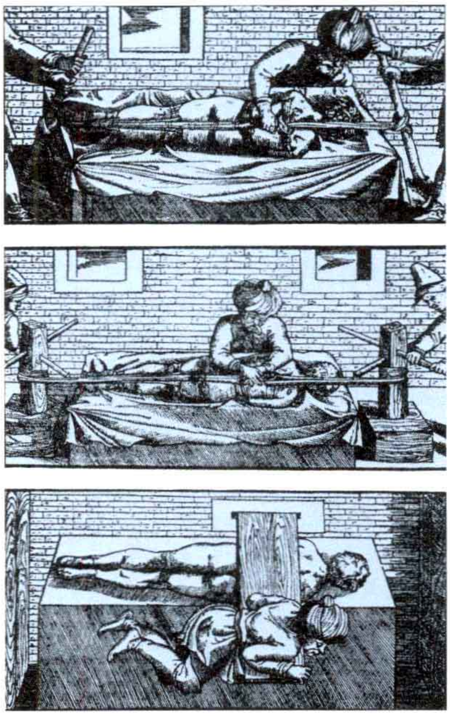
地域的には中央アジアからスペイン，さらにアフリカ北岸にわたっている。科学史の上では，古代ギリシア科学の古典を収集・翻訳・保存し，これを中世末期のヨーロッパに伝えて，ルネサンス科学の基礎となった。

7世紀半ば，マホメット*は唯一神アッラーの信仰を説いてイスラム教を確立し，アラビア全土をはじめて宗教的にも政治的にも統一した。その後，シリア・ペルシア・エジプト・西ゴート王国などを征服し，8世紀初頭にはインド西部からイベリア半島にまたがる大帝国を築いた。これを達成したウマイヤ朝は750年まで続き，次いでアッバス朝にとって代わり，中央集権的な国家機構と盛んな商工業を基礎にして13世紀半ばまで続いた。この間，カリフは各国の文化を吸収するために人種・宗教の差別を排し，被征服国の学者をたいせつにして学問の発展を図った。また，アラビア語を公用語に定めて，多種民族の統一を進めた。アッバス朝においてはギリシア・ペルシア・インドなどの科学に関する古典がアラビア語に翻訳され，9世紀末にはほとんどのギリシア古典が訳出された。

【数学】アラビア数学はインドとギリシアの数学を土台にして出発した。ユークリッド*の《幾何学原論》をはじめ，アポロニオスの《円錐(えんすい)曲線論》，ディオパントスの《算数論》などの著書の翻訳に始まって，より高い展開をみせた。アラビア最大の数学者であるアル-クワリズミ*は，インドのラマダプタの数学書を基礎にした代数学の大著《ヒサブ-アルジャブル-ウ-アル-ムカバラ(方程式を解く方法として断片をつなぎ合わせることと要素に分解すること)》を書き，さらにアラビアで最初の三角表をつくった。また，ウマル-ハイヤーム*は，幾何学的方法を使って正根だけを扱った3次方程式の解法を導入した。さらに，現在使われているアラビア数字はもとインド数字であったが，8世紀後半にインドの天文学書とともにアラビアに伝わり，アラビア科学とともに西ヨーロッパに伝えられた。

【物理学】アルハーゼン*のラテン名をもつイブヌル-ハイサムは球面鏡や放物面鏡における光の反射，光の屈折，レンズの拡大力など，光学の分野で貢献した。また彼は目の構造をローマのガレノス*の著書に基づいて研究し，眼球の構造を解剖学的に明らかにした。彼の論文は西ヨーロッパの科学に深く影響を与え，西ヨーロッパの光学研究の先駆者であるR.ベーコン*も，アルハーゼンの成果から出発したといわれている。

【医学】アラビアでは医学が高く評価されていたが，独創的な発展は少なく，ギリシアのヒッポクラテス*やガレノスの医学，ディオスコリデスの薬物学などの翻訳の域をでなかった。しかし，当時知られていた医学の知識を体系化した点は高く評価できる。



アラビア科学　16世紀半ばに刊行されたアビケンナの《医学規範》から　外科手術のさし絵

また，ダマスクスとカイロには立派な病院もあった。代表的な医学者としてアル-ラージーとイブン-シーナ(アビケンナ*)をあげることができる。特にシーナが1000年ごろに書いた《医学規範》はラテン語に訳され，西ヨーロッパの大学で17世紀末まで医学教科書として用いられた。

【天文学・占星術】プトレマイオス*の天文学から出発したが，理論的にはプトレマイオスの域をでなかった。アラビア天文学の特徴は観測の正確さと入念さにあった。古代では天文学と占星術*は一体であったが，アラビア天文学もその伝統を継いで，天文学者は占星術師を兼ねていた。天体の運行が地上の現象や人間の運命につながるという観念から星占いが生まれたのはメソポタミア地方であるが，その星占いが天文学とともにギリシアに伝わり，シリア・ペルシアを経てアラビア世界に広がったとみられる。さらにアラビアの占星術が12世紀に西ヨーロッパに伝わり，大学の教科目に数えられるほど占星術は盛んであった。

【化学】アラビアの化学者は，同時に錬金術師であった。8世紀後半に活躍したジャービル-イブン-ハイヤーンや，9世紀から10世紀のアル-ラージーも錬金術師であった。錬金術*の背景には，古代ギリシアの元素観や原子論にまで及ぶ物質理論があり，その実験が錬金術という名でよばれた。錬金術を実験的に追求したアラビア化学は，金属を次のように規定していた。金属の成分はイオウと水銀であり，それらはギリシア人が提唱した土・水・気・火の4元素からできているとした。そして，この4元素を人工的に変えることで金属の成分を変え，それによって金属の性質が変わるというものであった。だが，この人工転換には一つの媒薬(エリクシル，賢者の石)を必要としたが，それを発見できないで鉛を金に変えることは夢物語に終わった。しかし，この錬金術的実験から化学実験の実際的技術と知識が発展したことは注目しなければならない。アラビア化学がつくりだした化学思想の体系は，18世紀の化学革命の基礎となった。〔吉羽和夫〕

アラビアご　【アラビア語】　セム語族の代表的な言語の一。古典アラビア語(北アラビア語)と南アラビア語に二大別される。今日，アラブ諸国を中心に使用されているアラビア語は前者をさす。アラブ諸国の約1億3,000万人に使用されるほか，その他の国のイスラム教徒(約3億人)の共通語としても重要。古典アラビア語は，イスラム以前のアラブの詩人たちが好んで用いたころから今日まで，文章語的正則語として生命を保ち，イスラム文化をささえてきたが，その文法的模範は，7世紀に編集されたイスラム教徒の経典《コーラン*》のアラビア語である。この言語が記録として最初に現われるのは，268年であり，それはアラム文字で書かれている。アラビア文字*で書かれた最古のものは，アレッポの南東ザバドで発見されたシリア語・ギリシア語*，およびアラビア語併記の碑文(512年または513年)，ハッラーンで発見されたギリシア語とアラビア語併記の碑文(568)など。今日のようにこの言語が広範に用いられ，国際的にも重要な地位を占めるに至ったのは，7世紀におけるコーランの編集と，アラブの大征服，イスラム帝国の拡充などに負っている。以上は，文学的共通語としてのアラビア語であり，アラブ人はこれを正則語とよぶ。これに対し日常の話しことばには，方言的地域差が生じており，通俗語とよばれる。これには，ヒジャーズ・ネジド・イラク・シリア-パレスチナ・エジプト・北アフリカ・マルタ・ハドラマウト・オマーンなどの方言がある。アラビア語は，3子音根システムをとり，性には男性と女性があって中性がなく，単数・双数・複数があ

アラビア語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

トラザーナタ	シミウヤ	ィテーザ	ーイフ
تناظرت	يوم	ذات	فى
たっ争い言にい互	日	るあ	に
スムャシッワ		リーマャシ	ッフーヤリ
والشمس		الشمال	رياح
が陽太　と		北	風
ーワクア		ーマヒイイア	ーイフ
أقوى		أيهما	فى
かい強うそっい		がらちどの者両	ていつに
		ーラフウル	ナミ
		الأخرى	من
		者の他のそ	もりよ

り，語末の格表示母音を保存しているなど原セム語の姿を今日も伝えている。➔ハム-セム語族　〔池田　修〕

アラビアゴムのき　【アラビアゴムの木】　双子葉植物・マメ科。高さ7mほどの常緑樹でアカシアの仲間。アフリカ原産。2回羽状複葉で，葉基部に3個のとげがある。葉腋(ようえき)に白色球状の花穂をつける。木の分泌液からは，生薬のアラビアゴムがつくられる。良品は無色または淡黄色で無定形の透明または白色塊。その粘着性を利用して錠剤製造の際の結合剤として，また，接着剤*として広く用いられている。郵便切手の裏面に塗布されているのりがその顕著な例。　〔伊藤卓・加藤僖重〕

アラビアじん　【アラビア人】　アラブともいう。中近東やアフリカに住み，アラビア語*を話す人たちをさし，あまり明確に定義できない。だが，人類学・民族学的には，本来はアラビア半島に住んでいたセム系の民族に限定されるべきである。言語・習慣の違いによって，北アラビア人(ガイシ)・南アラビア人(ヤマニ)の二つに分けられ，ふつう後者がより純粋なアラビア人であるといわれている。大部分がイスラム教徒であり，イスラム教*自体がアラビア人のつくった宗教である。かつてイスラム教を紐帯(ちゅうたい)としてイスラム文化*が栄え，すぐれた詩人・音楽家・哲学者・天文学者・医学者・歴史家・地理学者が輩出した。近世に至り，オスマン-トルコ帝国*によって政治的に支配されたが，第1次世界大戦後ようやく独立の機会が与えられはじめ，第2次世界大戦後，今日成立しているアラブ諸国家が独立した。国際政治の過程でアラブ諸国は一定の役割を果たしているが，イスラエル*に対するときは堅く団結するのに反して，利害のかかわる問題ではむしろ対立的であり，アラブの統一はけっして容易ではない。　〔松谷敏雄〕

アラビアすうじ　【アラビア数字】　⇨数字

アラビアせきゆ　【アラビア石油(株)】　海外に石油開発利権をもつ産油会社。おもな事業内容は，アラビアにおける石油その他関連地下資源の試掘および採掘と原油の販売。1958年(昭和33)2月，サウジ-アラビア・クウェート中立地帯沖合い区域に有する石油利権の獲得に成功し，設立された。当初の資本金は35億円，その後の増資で現在の資本金は250億円。株主はサウジ-アラビア政府・クウェート政府がそれぞれ500万株(10%)をもち，日本側は東京電力・関西電力・野村証券・日興証券・日本鋼管などの大企業が名を連ねている。日本にもってきた原油はほとんどの石油精製会社に販売，高収益をあげている。本社東京。資本金250億円，年間売上高5,169億7,500万円，従業員数2,143(1980年6月)。

アラビアてつがく　【アラビア哲学】　イスラム教教義とギリシア哲学とりわけアリストテレス哲学，および新プラトン派の哲学との結合により成立し，イスラム哲学ともいう。7世紀中ごろから，アラビア人の勢力が伸張し，イスラム教とアラビア語を共通とする大帝国を建設し，ここにアラビア哲学展開の基礎が置かれた。アラビア語で哲学をfalsafa，哲学者をfailasūfというのもギリシア語に基づいている。アラビア哲学の史的展開の理解のためには，バグダットを中心とする東方のものと，スペインにおける西方のものを区別するのが有効である。

東方における学者の系列として，まずアル-キンディ*・アル-ファーラービー*があげられる。彼らはアリストテレス主義者としてアリストテレスの論理学的著作について綿密な注釈を書き，後者の著《知性論》は12～13世紀の西欧中世世界に大きな影響を与え，アラビア哲学の真の始祖といわれた。この系列は，彼らのあと，アビケンナ*(イブン-シーナ)に至って頂点に達する。その著《治療の書》は18巻からなる大哲学的百科全書であり，のちのキリスト教・スコラ哲学の発展に深い影響を与えた。

西方の系列はスペイン生まれのイブン-バジャ(12世紀)に始まり，アベロエス*(イブン-ルシュド)において頂点に達する。彼は従来のあまりにも新プラトン派的解釈を退け，アリストテレスの学説に復帰することを説いた。彼は哲学と宗教のそれぞれに本来の役割を認め，真理への二つの道として両者をともに肯定した。

〔広川洋一・黒田杏子〕

アラビアぶんがく　【アラビア文学】　アラビア語による文学のはじまりは，ジャーヒリーヤ時代(無明時代の意で，イスラム以前の500年ごろから622年まで)にアラビア半島の中北部で発達した詩に求められる。この詩は，6世紀にはいって洗練され，特にカシーダという詩形によって完成の域に達した。イスラム時代(622年以後)に詩は一時衰えるかにみえたが，ウマイヤ朝時代(661～750)には大詩人が輩出し，イスラム教徒の大征服によって出現した広大なイスラム世界に広まった。アッバス朝時代(750～1258)の初期には，アブー-ヌワース(762ごろ～810ごろ)やアブー-タンマーム(804～846ごろ)などのネオ-クラシック派とよばれる大詩人が現われ，さらにムタナッビー(915～965)やアブール-アラー-アル-マアッリー(979～1058)などが詩界の巨峰と仰がれた。こうして，詩がアラビア文学の主流として現代に至り，19世紀以降はヨーロッパ文学の影響も受けつつ，現代はいわば文芸復興期とみなすことができる。

一方，アラビア文学における散文は，イスラム教の聖典《コーラン*》を淵源(えんげん)として発達し，コーラン注釈・説教書や伝承学・史学・地理学などさまざまな分野において，ニュアンスに富むアラビア語の長所を発揮したので，これらを広義のアラビア文学と考えることができる。その活動分野は，ある時代には西はイベリア半島から東はインドにまで及んだが，現在では，西はモロッコから東はイラクまでがアラビア文学圏とされる。散文の中でも純文学とよびうるジャンルは，〈アダブ〉と総称され，8世紀中ごろから盛んとなり，特にジャーヒズ(776～868)が傑出していた。また高い教養と繊細な技巧を条件とする文学として〈マカーマート〉(集会の意)というジャンルが流行したこともあり，ハリーリー(1054～1122)の作品がもてはやされた。これらの作品とともに一般民衆を対象とする説話や歴史物語も数多くあり，《千夜一夜物語*》や《アンタル物語》などが著名である。なお，散文も19世紀以後フランスを中心とするヨーロッパ諸国の文学の影響を受け，新時代にはいっていった。　〔前嶋信次〕

アラビアもじ　【アラビア文字】　アラム・ヘブライ文字から発展した文字で，すべての文字は1個の子音を表わす。アルファベットは28字からなる。文字名の最初の子音がその文字の音価を示す。文字は右から左へ向かって書かれる。母音はa，i，uの3種があるが，これを示す文字はなく，特別の符号で示す。ただ長母音のā，ī，ūおよび二重母音のau(aw)，ai(ay)を示すのに，'alif，wāwおよびyā'の三つの子音文字が用いられる。アラビア文字には，書体としてスルシー・ナスフィー・ファーリシー・リハーニー・ラクイー・ディーワーニー・ディーワーニー-アルジャリー・クーフィーなど各種あるが，特にファーリシー体・クーフィー体は，その特徴ある書体で有名。クルド語*・現代ペルシア語*・ウルドゥー語*などは今日もアラビア文字を使用し，インドネシア語*やトルコ語*なども文字改革によってローマ字化を図るまえはアラビア文字を使用していた。ローマ字で音写すると下記のとおりである。　〔池田　修〕

'alif	bā'	tā'	thā'
jīm	ḥā'	khā'	dāl
dhāl	rā'	zāy	sīn
shīn	ṣād	ḍād	ṭā'
ẓā'	'ain	ghain	fā'
qāf	kāf	lām	mīm
nūn	hā'	wāw	yā'

アラビアン-ナイト　⇨千夜一夜物語

アラビ-パシャ　['Arābī Pasha]　(1839～1911)　エジプトの民族独立運動指導者。農家に生まれ，軍人となり，反トルコ秘密結社に加わる。1870年代のイギリス・フランス勢力のエジプト進出に対抗。1881年軍事反乱を起こし，翌年陸軍大臣となり，次いで独裁権を獲得して，副王に対し種々の改革を行なわせた。イギリス・フランスはアラビの辞任を要求したが，結果はかえってその独立運動を促した。しかし，結局アラビはイギ



アラブ連合（エジプト－アラブ共和国）





アラブ連合 (左)カイロ市内の市場(バザール)の風景。カイロ最大のハン－ハリール－バザールの一角で，日本から輸入した繊維製品も多く売られている。遠景にはモスクの塔が見える (右)広大なナイルデルタの西側に迫っている砂漠地区では，ナイル川の水を導いて緑地化する開発が行なわれ，砂漠の縁辺部が綿花・小麦の畑地や緑の牧場地に変えられている。写真は改良地区のヒツジの牧場風景



エジプト－アラブ共和国の国旗 1971年9月，エジプト，シリア，リビアの3国はアラブ共和国連邦を結成。同時に，赤・白・黒の三色旗の白条中央に紋章を描いた共通の連邦統一旗を制定した。その後，リビアは1977年より暫定的な新国旗を，シリアも1980年より1958年当時制定された赤・白・黒の横三色旗を使用している

リスの軍事力に敗れ，捕われて18年間セイロン島に流された。1901年，許されてエジプトにもどって死去。〈エジプト独立運動の父〉といわれる。〔喜多迅鷹〕

アラブ ⇨アラビア人

アラブ(連合共和国)［United Arab Republic］ アフリカ東北岸，ナイル川の下流域に国土を占める共和国。1971年，エジプト－アラブ共和国と国号改称。旧国名エジプト*は古代文明を築いた王朝以来のものである。面積100万1,449km²。人口4,098万(1978年推)。首都カイロ。

〔自然・住民〕国土の大部分は古い岩石を基盤とする台地で，年間を通じて雨が少なく，砂漠(さばく)または半砂漠である。西隣のリビアとは東径25°線，南のスーダンとは北緯22°線を国境線としている。ビクトリア湖から流れ出すナイル川は砂漠地帯を貫流して流域を潤し，地中海に注いで河口に大きな三角州(デルタ)をつくる。ナイル川の河谷は幅3～25kmで，上流の雨季には増水して下流は周期的に洪水(こうずい)を起こす。これが雨の少ない砂漠に自然灌漑(かんがい)の役割を果たし，古代の文明をはぐくみ，今日も農耕に適した条件を与えている。気温の上では季節があり，カイロの8月の平均気温は27.7℃とかなり暑く，1月は12.7℃である。しかし，地中海沿岸部の限られた地方では地中海性気候を示し，冬季100mm程度の雨があり樹木がよく育つ。

住民は一般にアラビア人といわれているが，セム語族とハム語族の混血とみられている。農民はコプト族でナイルの谷に住み，遊牧民はベドウィン族でステップに住む。人口はナイル川の河谷に集中し，河谷の人口密度は1km²あたり約1,400に達する。

〔産業・経済〕ナイル川の河谷はこの国第1の農耕地帯で，米・ワタ・小麦・野菜類の栽培が盛んである。特にワタは国際市場での地位も高く，その輸出はこの国の輸出額の約70%を占め，これに次いで米があるが，その額は約5%ときわめて少ない。ナセル大統領による共和制樹立後，農地改革で大地主制は廃されることになったがまだ不完全である。また，これらの農地はナイル川のスーダン国境寄りに建設されたアスワン－ダムとアスワン－ハイ－ダムは流域の農地を自然灌漑からダム灌漑に改めるのに効果があった。アスワン－ハイ－ダムは単に灌漑のみに利用するのではなく，発電による工業化も計画されつつある。従来の綿織物工業のほかに，近年石油工業・冶金(やきん)工業も発達してアフリカ有数の工業国になったが，まだ工業製品を輸出するまでには至っていない。石油資源はシナイ半島にあって，かつて主要な地位を占めていたが，ア

ルジェリアの豊富な油田の開発が進むとともに，その主要性は低下した。原油を輸出しているがその量は少ない。

　鉄道はカイロを中心とするデルタで発達し，国有鉄道の延長は5,000kmを越える。また，アレキサンドリア・ポートサイド・スエズの3港を有している。国際空港もカイロ・アレキサンドリア・ルクソル・マルサーマトルーにあり，ヨーロッパとアジアを結ぶ中継地の役割を果たす。〔小栗　宏〕

〔歴史〕 1956年7月のスエズ運河会社の国有化を契機に，10月エジプト*はイギリス・フランス・イスラエルの侵入(→スエズ動乱)を受けたが，これを失敗に終らせたのち，ナセル*大統領とアラブ連合はアラブ諸国の指導的地位を確立した。1958年2月，アラブ世界の統一をめざすナセルは，エジプトとシリアを統合してアラブ連合共和国を成立させ，3月にはイエメン王国ともアラブ諸国連合を形成してその第一歩を踏み出した。そして国内では農地改革を行ない，対外的には非同盟・積極的中立政策をとり，またアラブ連盟*の強化や，1961年のアフリカ独立諸国首相会議(カサブランカ会議)などめざましい動きを示した。しかし1961年7月にナセルがアラブ社会主義宣言を発すると，9月シリアでクーデターが起こり，シリアはアラブ連合から離脱した。ついで12月，イエメンにも連合関係を解消されて，エジプトだけがアラブ連合の名称を継続することになった。アラブ連合(エジプト)ではその後社会主義化が進められたが，1962年9月のイエメン革命に際してサウジアラビアと対立し，また政情不安なイラクやシリアとの関係も流動し続けた。一方イスラエルに反発しつつもアラブ諸国は対立を続けていたが，1966年2月のシリア革命を契機に反イスラエルの機運が高まり，1967年5月，アラブ連合がアカバ湾を封鎖したことから，6月に中東戦争*が始まった。6日間で敗北したアラブ連合は，シナイ半島を占領され，その責を負ってナセルは辞任を宣言したが，国民の支持のもとに留任し，イスラエルとの和平のための交渉条件の整備や国際世論の工作を進めた。この間アラブゲリラを交えて情勢は緊迫を続けたが，1970年7月，ようやく停戦交渉にこぎつけた。しかし停戦をめぐってヨルダンで内戦が起こり，その和平が成立した直後の9月28日にナセルが死去した。サダトが後任の大統領に選ばれたが，1981年に暗殺され，ムバラクが大統領に就任。また82年4月，15年ぶりにイスラエルが占領していたシナイ半島が全面返還された。〔吹浦忠正〕

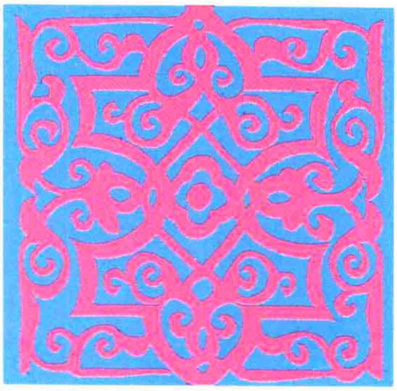
アラブ(首長国連邦)　アラビア半島南東部，ペルシア湾岸のイギリス保護下にあったアブダビ，ドバイ，アジマン，ジャルジャ，フジャイラ，ウムアルカイワインの6土侯国が，1971年12月連邦として独立。その後，1972年，ラスアルカイマも加わった。面積8万3,600km²，人口75万(1979年推)。首都はアブダビで大統領はザイド・ビン・スルタン(アブダビ首長)。アブダビ，ドバイとも石油資源に恵まれている。大部分の住民はベドウィンを主体としたアラブ人で，スンニ派のイスラム教徒。近年，防衛強化をめざす。〔梶川勇作〕

アラブきょうどうしじょう【アラブ共同市場】 Arab Common Market 略称ACM。1964年8月，アラブ連合・イラク・クウェート・シリア・ヨルダンの5か国が設立協定に調印，1965年1月1日に発足。設立の目的は，①労働・資本の移動および居住・雇用・経済活動の自由，②域内産品流通の自由，③輸送設備利用の自由，④財産所有および相続権の平等などであり，関税同盟*の創設(一次産品*の関税については年20%，工業製品では年10%ずつの引き下げと対外共通関税の設定)を計画している。

アラブしゅうだんあんぜんほしょうじょうやく【アラブ集団安全保障条約】 Arab Collective Security Treaty 1950年6月，アラブ連盟会議でエジプト(アラブ連合*)の提唱によって採択された条約。1952年8月に発効。アラブ共同防衛条約ともいう。条約はアラブ連盟規約と一体をなし，連盟国中の1国に対する攻撃は，全加盟国に対する攻撃とみなして共同防衛にあたる。加盟国はアラブ連合・レバノン・イラク・ヨルダン・サウジアラビア・イエメン・モロッコの7か国。合同防衛理事会・経済理事会・常設軍事委員会などが設置されている。

アラブぞく【アラブ族】 単一の種族名ではなく，東はペルシア湾・イラン高原西辺から西はモロッコ西端にわたる地域に住み，アラビア語を使用しイスラム教および共通の文化をもつ民族。約4,500～5,000万人。アラビア人を中心とするセム系の諸民族であるが，それ以外のアラブ化した諸民族もアラブ族とよばれる。都市の定住民と荒野の遊牧民が大部分を占める。

あらふねやま【荒船山】 群馬・長野県境にある山。妙義山のほぼ南西方に位置する。標高1,423m。古い火山で，傾斜のゆるい山体が侵食されて溶岩台地状に残ったもの。玄武岩でできた溶岩流の絶壁の威容は壮観である。荒船山の北の物見山の一部に，神津(こうづ)牧場がある。



アラベスク

アラフラ(海)［Arafura］　オーストラリア大陸北岸とニューギニア島南岸にはさまれた海域。オーストラリア大陸から延びた大陸棚(たいりくだな)上に位置し，古くからシンジュガイ・シロチョウガイの産地として知られ，第2次世界大戦前は日本人漁夫も多数出漁していた。1953年オーストラリア政府は大陸棚主権宣言をしたため，日本は採算の面から出漁を中止している。アジアとオーストラリアの連絡航路はこの海を通過している。〔長津一郎〕

あらぶるかみ【荒振神】 神威・神力のきわめて高い神というのが原義である。風はほどほどに吹くと快適であるが，少し強く，さらに一段と吹きすさぶとあらしとなって人畜を害し自然を破壊する。《古事記》《日本書紀》によると，暴神・悪神・荒神・鬼神などの漢字をもってしるしてあるから，〈あらぶる〉を暴・悪・荒の漢字の意味から説いているが，ほかに神功(じんぐう)皇后*の大陸遠征のおり，神が〈和魂(にきみたま)は皇后の御体に付いて寿命を守らん，荒魂は先鋒(せんぽう)となって師船(ふないくさ)を導きます〉と教えた記事によっても神威の非常に著しい神という点がわかる。〔坂本和子〕

アラブれんめい【アラブ連盟】 1945年3月，アラブ7か国，すなわちアラブ連合(エジプト)・イラク・サウジアラビア・シリア・レバノン・ヨルダン・イエメンの代表がカイロで《アラブ連盟条約》に調印し，結成したアラブ民族主義の国際機構。本部はカイロ。のち，リビア・スーダン・チュニジア・モロッコ・クウェート・アルジェリア・南イエメンが加盟。中東の安全と平和，アラブ諸国民の独立と主権擁護，相互理解と協力を目的とし，中東の豊富な石油を通じてアラブ共同体の建設をめざす。最高機関はアラブ連盟会議で，毎年2回開かれる。その下に政治・経済・社会・文化などの委員会がある。パレスチナ戦争でイスラエルに敗北したのち，連盟と一体のものとして，1952年〈アラブ共同防衛条約機構〉を設立した。対外的にはイスラエルと対立し，スエズ動乱やイラク革命の際のアメリカ・イギリスの干渉に対しては威力を発揮したが，外部勢力の介入とからみ，内紛の解決に悩まされている。〔喜多迅鷹〕

アラベスク［arabesque］　イスラム美術における装飾文様。〈アラビアふう〉の意で，様式化した植物文を唐草(からくさ)ふうにあるいは対称的にとぎれなくつないだ意匠。イスラム教では人や動物を装飾に使うことがきらわれたため，平面をうずめるこのような文様が発達した。なお，音楽では楽曲の華麗な装飾的な展開をいい，また古典バレーでは，片足で立って片手を前にして，

他の手足を後ろに伸ばすポーズをいう。

あらぼん　【阿羅本】　ネストリウス派の宣教師。生没年不詳。はじめて中国に景教*を伝えた。635年長安に至り，唐の太宗に謁見(えっけん)，勅命により大秦(たいしん)寺を建立(こんりゅう)し，以後布教活動に従った。高宗のとき鎮国大法主の号を賜わり，景教流行の基礎を築いた。

あらまき　【新巻】　サケの塩蔵品の一種。元来，北海道その他でその年新たに川を上ってきたサケを，薄塩でていねいに処理して塩蔵したので新巻の名がある。現在では川でとれたサケのみではなく，海でとれたサケを冷蔵庫などを用いて薄塩で塩蔵したものも新巻の名でよばれている。普通の塩ザケに比べて使用する食塩量が少ないため，風味はよいが，貯蔵はあまりきかない。

あらまさひと　【荒正人】　(1913～1979)　評論家。福島県の生まれ。東京大学英文科卒。第2次世界大戦前，同人誌《現代文学》に参加。1945年(昭和20)《近代文学*》に創刊同人として参加。マルクス主義運動の挫折(ざせつ)と戦争の〈暗い谷間〉の体験から市民文学の必要を説いた。また，中野重治*(しげはる)らマルクス主義者と〈政治と文学〉論争を展開したが，その評論は《負け犬》《主体的知識人》《市民文学論》などに収められている。

アラムご　【アラム語】　セム語族のうち西北セム語は，比較言語学的にヘブライ語*を中心とするカナーン諸語とアラム語に二大別される。BC1000年ごろから用いられはじめたが，アラム人*が商業民族としてオリエントの陸上貿易に活躍したことに伴い，西アジア一帯の共通語として発展した。古アラム語は紀元前10～紀元前8世紀に用いられ，旧約聖書の一部にも用いられているが，アレキサンドル大帝の侵入以後は東西のアラム語に分かれた。西アラム語は紀元前1～3世紀に用いられ，キリストが用いたユダヤパレスチナ-アラム語はこれに属する。東アラム語は3～13世紀に用いられ，そのうちのシリア語はキリスト教徒の文学用語として発展し，アラビア語に取って代わられるまでは有力であった。ギリシア文化がイスラム世界に紹介されたのはこの言語を通じてであった。なお，東アラム語は今日でもシリア・アルメニア・メソポタミアで部分的に用いられている。文字は，だいたい，ヘブライ語と同じであるが，シリア語だけは独特の文字を用いる。

➔ハム-セム語族　〔池田　修〕

アラムじん　【アラム人】　セム系遊牧民で，BC1300年ごろアラビア方面から北シリアにはいり，いくつかの都市国家を建設した。特にダマスカス王国はヒッタイトやエジプトの影響を受けて強大な商業国家となって活躍し，オリエントの陸上貿易を支配した。紀元前8世紀後半，アッシリア*に滅ぼされたが，その後もアラム語*は国際商業用語として広く用いられた。

あらめ　【荒布】　褐藻(かっそう)植物・コンブ科の海藻。北海道以外の日本各地で，低潮線(干潮のときの水面)より深さ10mぐらいまでの間に大きな群落をつくる。高さ2mに達し，太い茎の上端が二またになり，しわのある葉が多数生ずる。遊走子で繁殖し，これは糸状の配偶体を生ずる。昔は食用とし，粉にしたものをかじめ(搗布)といった。なお静岡県ではアラメをカジメというが，植物学上のカジメは別属である。現在はアルギン酸製造の原藻とし，また肥料にも利用される。食用にされることもあるが，生食には向かず，つくだ煮などにされる。

あらやしき　【阿頼耶識】　仏教の唯識説で説く8種類の識の一。ālayavijñāna(アーラヤ-ビジュニャーナ)の音写語。阿頼耶識は玄奘*(げんじょう)の訳語で，真諦三蔵(しんたいさんぞう)は阿梨耶識(ありやしき)と訳した。宇宙万有の根本識で，すべてのものは阿頼耶識から縁起したものという。阿頼耶識がはじめて説かれたのは，《解深密経*(げじんみっきょう)》においてである。その後，アサンガ*(無着)の《摂大乗論*(しょうだいじょうろん)》やバスバンドゥ*(世親)の《唯識三十頌*(ゆいしきさんじゅうじゅ)》において思想的に深められ，ダルマパーラ*(護法)の《成唯識論*(じょうゆいしきろん)》において体系的に完成した。玄奘によって中国に伝えられて法相宗(ほっそうしゅう)が成立し，法相教学の中心概念として研究された。仏教の唯心論として最も深い学説であり，意識の背後にある生命の主体そのものを意味し，現代の深層心理学で取り扱う潜在意識と類似した面もあるが，根本的に異なるのは仏教の阿頼耶識はどこまでも解脱(げだつ)のために必要な人間存在の根本を説き明かしたものである点にある。中国仏教において，阿頼耶識が清浄無垢(むく)な真識か，汚れた妄識(もうしき)かという論議が起こるのも，阿頼耶識に対する価値観の相違に由来する。阿頼耶識が修行の結果，宗教的主体としての理想的存在になったとき，大円鏡智(きょうち)とよばれる。〔鎌田茂雄〕



アラメ　(左)アラメ　(右)カジメ　茎の先が二又に分かれているので区別できる



アララギ創刊号の表紙

あららぎ　【アララギ】　短歌雑誌。1908年(明治41)10月に根岸短歌会の《馬酔木*(あしび)》廃刊を受けて，伊藤左千夫*(いとうさちお)を中心に島木赤彦*(あかひこ)・斎藤茂吉*・中村憲吉*・土屋文明*・古泉千樫*(ちかし)らが集まり，写実的な歌風を展開した。その後，島木らは新傾向に転じて左千夫との間に対立が生じたりしたが，左千夫の死後，赤彦が編集に従事するに至って，着実に歌壇の主流を形成，茂吉らの万葉調の客観的態度による対象把握(はあく)をめざす〈写生の説〉が確立していった。赤彦の死後は，茂吉・文明らが編集にあたり，一貫して写生を主張し，第2次世界大戦後には多くの個人誌・地方誌を生み出した。この派によった歌人には，土田耕平・今井邦子(くにこ)・結城(ゆうき)哀草果・高田浪吉(なみきち)らをはじめ，五味保義(やすよし)・山口茂吉・佐藤佐太郎・近藤芳美*(よしみ)らがいる。〔金子　博〕

アララット(山)　[Ararat]　トルコのアルメニア高原にある火山。トルコ・イラン・ソ連3国にまたがり，大アララット(5,143m)と小アララット(3,890m)の2峰がある。大アララットの初登頂は1829年，ドイツ人J.J.パロットによって成し遂げられた。《旧約聖書 創世記》にアララテの山とみえる山がこれで，ノアの箱舟*が漂着したという伝説が残っている。

あらりえき　【荒利益】　⇨期間における商品・製品などの売上高からその売上品の仕入れ原価または製造原価を差し引いたものであり，売上総利益ともいわれる。荒利益は企業の主たる営業活動の成果を示し，その経営成績を判定するうえできわめて重要な数値となる。

アラリック　[Alaric]　(370ごろ～410)　初代西ゴート王。在位395～410年。はじめローマ帝国の傭兵(ようへい)隊長。テオドシウス帝*の死後，3度にわたりイタリアに侵入し，410年にはローマ市を略奪した。さらにアフリカ遠征の途上，南イタリアで死んだ。なお，彼はアリウス派のキリスト教徒だったといわれる。

アラル(海)　[Aral]　ソビエト連邦，カザフ・ウズベク両共和国の境にある塩湖。高度50m，面積62,000km^2。水深は平均22m。東からシルダリア，南からアムダリアの両川が注ぐが，内陸湖であるためしだいに塩分濃度が高くなった。アラルは島の意で，湖中には多くの島が浮かぶ。漁業が盛んで，年間20,000tほどの漁獲をあげている。

アラルコン ［Pedro Antonio de Alarcón］（1833～1891） スペインの作家。ユーモアのある地方色濃厚な中・短編小説を得意とし，旅行記もよくした。代表作は《三角帽子》《割符帳》《醜聞》など。

あられ 【霰】 米菓の一種。奈良時代，あられもちの名があったが，現在のとは製法をことにしている。平安時代にかきもちの一種としてつくられ，あられもち・玉あられと称したことが《山城風土記(ふどき)》にみえ，江戸時代には商品として多量に製造された。かきもちは正月の供えもちを処理するとき，刃物で切ることをきらい，手で欠き割ったため名づけられたもので，もとは鏡開きのもちのことであった。のちには，特にかきもちとして別につくふうが起こり，寒中についてなまこ形または方形に伸ばして薄く切り，陰干しにして貯蔵した。《山名録》に〈粰霰(はっぴょう)といい，ねばれるしとぎ(もちのこと)を剪(けず)り切り，乾(ほ)して糒(ほしい)をつくり，なべに燋(い)るに翻り，ふくるること雹や霰のごとくなるがゆゑに名づけたり。〉とある。《作り方》 もち米を水洗いし，一定時間水に浸して軟化させたのち，水切りして蒸し，うすに入れてもちつき機械でよくつく。これを手粉を使いながらまとめて，手粉を敷いた木箱にのしこめ固める。また棒状・なまこ状に伸ばし，そのまま固めるものもあり，生地に黒ゴマ・青ノリなどを混ぜたものもある。これを大中小の角・長方形・細棒状，抜き型で抜いたり，形を整えて乾燥したものをあられあぶり・焼きかまどで焼き，しょうゆたれをかけて乾燥し仕上げる。 〔塩川ふみ〕

あられ 【霰】 雪あられと氷あられの2種類がある。雪あられは白色不透明の氷の粒の降水で，直径約2～5mmの球状または円錐(えんすい)状をなしている。粒はつぶれやすく，固い地面に落ちるとはずんで割れることが多い。一般に地上の気温が0℃前後のとき，普通の雨や雪といっしょに，驟雨(しゅうう)性の降り方をする。氷あられは雪あられの表面がとけて，その水が氷結し薄い氷の層ができたもので，気温が0℃以上のときに降るので一部とけていることもある。氷あられは雪あられがしんとなり，これに衝突した水滴がそのまま薄く氷結してできる場合もある。 〔曲田光夫〕

あられいし 【霰石】 無色透明の美しい柱状結晶をした鉱物。ホウカイ石・大理石と同じ成分の$CaCO_3$。斜方晶系。比重2.95，硬度3.5～4。{010}に明瞭(めいりょう)な劈開*(へきかい)があり，もろい。双晶として産する場合が多い。ホウカイ石・大理石ほど多量に産しないが，学問的・標本的価値が高い。ドイツのバーデン地方の玄武岩の空孔中，フランスのセッコウ・岩塩・粘土鉱床，アメリカでは種々の鉱床・岩石中に産する。わが国でも少量ずつではあるが種々の鉱床・岩石中に広く産する。

アラワクごぞく 【アラワク語族】 ⇨アメリカ-インディアン諸語

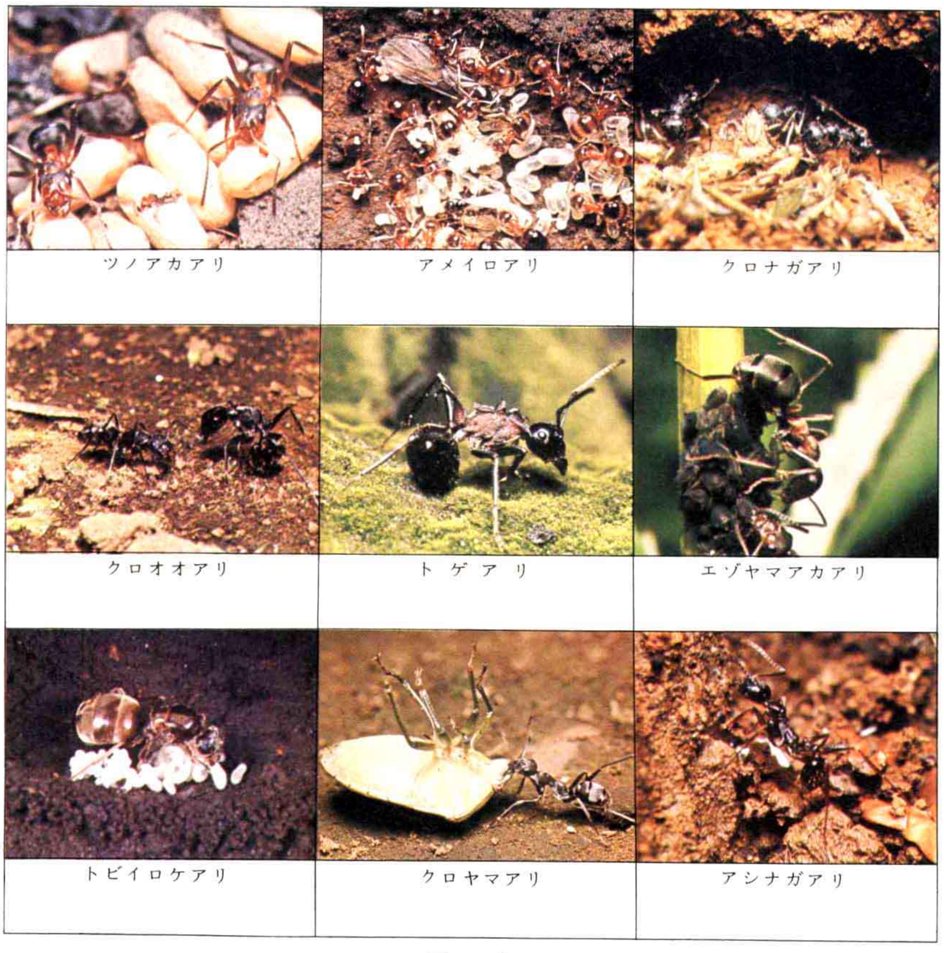
アラン(諸島) ［Aran］ アイルランドの大西洋岸，ガルウェイ湾口にあるイニュシモア・イニシューマン・イニシーアの3島からなる諸島で，最大のイニュシモアはアランモアともいう。面積46.2km²，人口1,500(1963)。石灰岩からなる小島で，きびしい生活環境のために，人口は減少の一途をたどり，老人の漁夫ばかりが残っている。この島の生活を題材としたシング*の《海へ騎(の)りゆく人々》や，紀行《アラン島》は有名である。また，この諸島は〈聖なるアラン〉という雅名でよばれ，かつて世捨て人や修道者が集まっていた。イニュシモア島には集落キルロナンがある。 〔浅井得一〕

アラン(島) ［Aran］ スコットランドの南西部，クライド湾上にある島。面積430km²，人口5,000(1963)。住民はおもにヒツジとウシの放牧で生活している。巨石文化やバイキングの遺跡があり，観光地・保養地ともなっている。東岸にブロジック港がある。

アラン ［Alain］（1868～1951） フランスの哲学者・評論家。モラリスト*。本名エミール-シャルティエ。フランス各地の高等学校(リセ)の哲学教授を歴任し，その間，広範囲に論評の筆をふるった。抽象的な理論を侮蔑(ぶべつ)して身近な問題を根本的に考えなおすことから，情念に打ち勝つ実践的知恵を引き出そうとする態度には，人間の〈判断〉に重きを置くデカルト*流のきびしい自覚がある。権威と体系を憎み，ドレフュス事件*では急進主義者の一面を示し，第1次世界大戦では，戦争の愚劣さを体験するために好んで危険な前線行きを志願した。幸福に生きるためには不屈の意志によって機敏で正しい判断力を養わねばならないとする〈現代のソクラテス〉としての彼の思想は，プロポというきびきびした短文に躍如としている。おもな著書は，《精神と情熱に関する81章》《幸福論》《芸術論集》《文学語録》など。

アラン-フルニエ ［Alain-Fournier］（1886～1914） フランスの小説家。本名アンリ-アルバン-フルニエ。青春の恋愛がかもし出す甘美で夢幻的な世界を描く作風と明澄な描写で知られ，《モーヌの大将*》はその代表作。批評家リビエール*は義兄で，ふたりの《往復書簡》がある。第1次世界大戦に出征，戦場で行くえ不明となった。

あり 【蟻】 こん虫類・膜翅(まくし)目・アリ科の総称。ハチ(膜翅目に属している)のツチバチ科に近縁で，特に雄アリの形態はハチの特徴を示す。シロアリは等翅目に属し分類学上では縁遠いが，通称アリ社会(実は家族集団)をつくる点で共通する面もある。世界のアリは5,000種ともいわれ，10亜科に



ツノアカアリ　アメイロアリ　クロナガアリ
クロオオアリ　トゲアリ　エゾヤマアカアリ
トビイロケアリ　クロヤマアリ　アシナガアリ

ア　リ

分けて扱われているが，日本では6亜科約150種が生息しているといわれる。

アリの祖先はツチバチの仲間であるとする説があるが，中生代の地層にはほとんど化石がなく，約6,000万年まえ(新生代・暁新世)の地層からすでに現存する形のアリとして発見されている。アリは胸と腹との間に一つの鱗状(りんじょう)または二つのこぶ状の腹柄節があるので，他のアリに似た形態の動物，たとえばアリグモ・アリバチ・アリガタハネカクシ・アリヅカムシ・シロアリなどと区別できる。

アリのメスは多形現象がみられ，ほとんどの種類には雄アリ・雌アリ・働きアリの3形がある。雄アリ・雌アリには羽があり，空中で交尾したのち(結婚飛行という)雌アリのみ羽を落とし産卵を始める。雄アリは地上に降りて死ぬ。この羽アリが出る時期は4月下旬から11月にわたり，種によって時期・時刻がほぼ決まっている。夏の夜，燈火に飛んで来るのは主としてケアリ属の羽アリである。働きアリは，栄養不良で育ったために生殖能力をほとんど失った雌で，羽がなく，巣内の作業やえさ集めを担当する。働きアリに大小の差を生ずる種類があり，その場合大形の働きアリを兵隊アリということもある。アリの雄・雌は染色体数の違いで決定され，雄アリは受精しない卵から発生するため染色体は半数(n)で，雌アリと働きアリは受精卵から発生するため全数(2n)である。

アリの巣は1匹(種類によっては数匹)の雌アリと働きアリ(種類によっては兵隊アリ)と卵・幼虫・さなぎ(季節によっては雄・雌の羽アリ)から構成され，雌アリは産卵だけ，働きアリは労働と役割が区分されている。さなぎからかえったばかりの働きアリは巣の中で雌アリや幼虫の世話をしたり，外から運ばれた蜜(みつ)を嗉嚢(そのう)にたくわえたりする。嗉嚢は社会性の胃袋ともいわれ，食道と胃の間にあって，群全体の共有の蜜をたくわえる。日数がたった働きアリは，巣の浅い部分にいて，巣の防衛や外働きに出るようになる。幼虫が育つ季節にはいくら働いてもえさの供給がまにあわないのでせっせと活動をするが，秋になって幼虫が発育しなくなると働きアリは太りはじめ，嗉嚢が圧迫されて蜜が吸えなくなる。アリの家族集団が成立しているのは雌アリや幼虫が働きアリが好む物質を分泌するためといわれている。また群行動は主としてフェロモン*を介した情報伝達によるものといわれ，数種の分泌腺(ぶんぴつせん)とフェロモンが知られている。これらはえさ場からの道筋に滴下してくる足跡物質として，また警報物質としての働きをもっている。

アリは主として甘露や動物質を食べるが，イネ科植物の実を巣内にたくわえ，発酵させて食べるクロナガアリ，草の実を集めるトビイロシワアリ，特別なカイガラムシ(アリノタカラカイガラムシ)を飼育するミツバアリ，中央アメリカを中心とした木の葉を摘んできて巣内できのこをつくるハキリアリ類など，その生活様式は多様である。また生息場所も多様で，地中に営巣するアリ，地上に落ち葉を積み上げて蟻塚*(ありづか)をつくりその中で生活するアリ，樹上に球状，クモの巣状の巣をつくるアリ，枯れ枝や樹皮下に営巣するアリが知られている。蟻塚をつくるアリは北ヨーロッパ・北アジア・北アメリカ北部に数種が分布しているが，日本ではエゾアカヤマアリの塚が最もよく知られている。また，巣をつくらずに石の下や材木の下などに仮の宿をとって移動するアリもある。アフリカのサスライアリや熱帯アメリカのグンタイアリなどはこのようなアリとして有名であるが，日本のアミメアリもこのような生活をしている。アリの生息場所は北方では地中または地表近くの切り株などに限られるが，南方になるにしたがいタケや木の幹や枯れ枝を利用する種がふえ，台湾まで南下すると樹上を巣に構築するアリがすんでいる。アリの量は草地・畑地・林縁には多いが，暗い林では少なく，農耕地では深い巣をつくる種類だけが生き残っている。巣の形はさまざまで，深くはいりこむ種類や浅く横に広がる巣があるが，いずれもへやと通路の組み合わせでできている。ヤマアリ属ではへやとへやをぬって通路ができるが，他のアリでは通路のわきにへやがついている。最も深いアリの巣としてクロナガアリで3.5mが記録されている。羽がない雌アリ(女王アリともいう)の近くのへやでは卵や小さい幼虫が育てられ，地表近くのへやには終齢幼虫やさなぎ，羽アリが出る季節には若い雄アリと雌アリが集まっている。日本のアリで最も小さいアリはムカシアリで働きアリの生体重が0.02mg，最も大きいものはムネアカオオアリの雌アリで体長が18mm，生体重が150mg程度である。世界で最も大きいアリはサスライアリの雌アリで体長が45mmといわれている。〔近藤正樹〕



有明海　潮の引いた有明海の干潟。〈のろ〉とよばれる泥土の遠浅海岸では雑魚や貝類の零細漁業が行なわれている。有名なムツゴロウもこの干潟の漁でとれる

アリア　［aria］　音楽用語。これはイタリア語で，ドイツ語ではアリエ，フランス語ではエール，英語ではエアとよばれる。いろいろな意味で使われている。①歌曲ふうの器楽曲，②器楽伴奏つきの独唱歌曲，③オペラやカンタータなどに現われる独唱曲。この種のアリアは，オペラの発展とともにさまざまな形式をとる。17世紀中ごろまでは，アリオーゾ*ふうのもの，有節形式のもの，オスチナート-バス(固執反復低音)をもつものなど多様であったが，レシタチーボ*との分化が進むにつれて，多くはA－B－Aのダ-カーポ形式をとるようになる。ナポリ楽派のオペラではほとんどがこの形式で，作曲者はただ細部についてのみくふうをこらした。また，バッハ・ヘンデルやJ.A.ハッセのものもこの時代のアリアを代表している。古典派以降，アリアはしだいに形式を多様化し，ベルディの晩年のオペラやワーグナーの作品ではまったく自由な形で書かれるようになった。〔吉田泰輔〕

ありあけかい　【有明海】　古くは〈ありあけのうみ〉といった。九州の北西部にあり，その胴体部と肥前・島原・宇土の諸半島にいだかれた島原湾の一部で，長崎県国見町と熊本県長洲(ながす)町を結んだ線より北をさす。最深部でも20m前後の浅海で，面積は約1,600km² である。三池港が閘門(こうもん)式となっていることからもわかるように，潮汐(ちょうせき)の干満の差の大きいことは日本一で，湾奥部で最大6mに及ぶ。このため筑後(ちくご)川・矢部(やべ)川などの流入河川の土砂が，干潮時には沖合いに遠く押し流され，満潮時には逆にもどされて海岸に堆積(たいせき)し，〈のろ〉とよばれる泥土(でいど)によって年々陸化が進んできた。その速度は，筑後川河口の右岸にあたる川副(かわそえ)町(福岡県)付近が最大で，1年に幅10m，高さ7cmの割合である。

干潮時には，全地域にわたって5～6km，最大9kmもの幅をもつ広大な干潟(ひがた)が現われるが，奈良時代からすでにこの干潟の干拓が始まり，江戸時代までに127km²，明治以後に64km² の干拓地が生まれ，現在も佐賀県杵島(きしま)郡沿岸の国営による〈有明干拓〉をはじめとする工事が続けられている。最近は，オランダの方式にならって，宇土半島の三角(みすみ)と大矢野島・湯島，さらに島原半島の浦田を結ぶ締め切り堤防を築き，一挙に有明海を淡水化して530km² の陸地をつくり，農業のほか工業用地の造成や海底炭田の開発にも寄与しようとする計画が，有明海を巡る熊本・福岡・佐賀・長崎の各県と，筑後川の上流を占める大分県を加えた5県によって調査研究がなされているが，漁民の補償問題などもあり，その実現にはなお年月を要するものと思われる。

有明海には，アサリ・カキ・ハマグリな

どの貝類の養殖や，ノリの養殖が盛んで，特に最近はノリの生産が伸び，東京へも移出している。また干潟をはいまわる珍奇なムツゴロウをはじめ，ボラ・ウナギ・エビ・カニなどの漁獲がある。〔浅井得一〕

アーリアじん【アーリア人】インド・イランに住むインド-ヨーロッパ語族の支族。中央アジア高原地帯(パミール高原付近)を原住地とする遊牧民族。自然神を崇拝し父権制が支配的だった。BC1500年ごろインダス川流域に侵入したアーリア人をインド-アーリア人，イラン高原に下ったのをイラン人(ペルシア人)とよぶ。

アリアドネ［Ariadne］ギリシア英雄伝説上の女性。クレタ島の王ミノスの娘。テセウスが怪物ミノタウロスを退治しにクレタ島に来たとき，彼女は彼を恋し，ミノタウロスのいる迷宮にはいるテセウスに糸玉を与える。彼は糸を引きながら中へ進んで怪物を退治し，帰りにはその糸をたぐって外に出た。彼女はテセウスに連れられてアテナイへと船出したが，途中ナクソス島に置き去りにされ，のちに酒神ディオニュソスの妻になったといわれる。〔黒田杏子〕

アリアノス［Arrianos］(2世紀ごろ)ハドリアヌス帝治下のローマの哲学者・歴史家。ストア派の哲学者エピクテトスに教えを受け，師の《講義集》の記録を全8巻にまとめた。このうち4巻のみが現存する。また，プトレマイオス1世の残した資料をもとにアレクサンドロス大王の偉業を書いた《アレクサンドロス出征記》がある。文章は素朴(そぼく)で簡潔であり，美辞麗句や誇張を避けているが，ときに中傷的な記事や荒唐無稽(こうとうむけい)な話も混入していて，おもしろい対照をみせている。〔久保正彰〕

アリウス［Arius］(250ごろ～336ごろ)キリスト教の異端者。アリウス派の主唱者。アレキサンドリア教会の長老であったが，神とキリストの同一性を否定したため，321年破門され，325年のニカイア公会議で正式に異端とされ，追放された。

アリウスは【アリウス派】4世紀のキリスト教の異端派。主唱者はアリウスであるが，彼以前にもその説に近い説はみられた。父なる神とその子キリストは同一の本性をもたず，したがってキリストの神性・永遠性を否定して，真の神ではないとした。325年，コンスタンチヌス1世の提唱によって開かれた最初の宗教会議，ニカイア公会議で，三位一体説を主張するアタナシウス派と争い，異端とされた。

アリオスト［Ludovico Ariosto］(1474～1533) イタリアの詩人。フェラーラの貴族に仕え，多忙な生活の中で叙情詩・風刺詩・喜劇などを書いた。その代表作《狂気のオルランド》は，ボイアルドの《恋するオルランド》の続編ともいうべきもので，キリスト教徒と異教徒の戦い，勇者の武勲と恋と狂気を歌った46歌からなり，イタリア-ルネサンス最大の叙事詩の一つである。

アリオーソ［arioso］〈アリアのような〉の意のイタリア語で，アリアとレシタチーボの中間の性格をもつ楽曲をさす。旋律はアリアに比べて単純であるが，歌詞の意味を力強く表現するのに適している。ベネチア派，特にモンテベルディやチェスチらのオペラ，バッハのカンタータ・受難曲などに使われたものが好例といえる。また，〈アリアふうに演奏せよ〉という意味で，器楽曲にこの指示を使うこともある。

アリカ［Arica］チリ共和国北部，ペルーとの国境に近い港市。人口59,000(1965)。付近にチリ硝石の産地を控え，同国のイキケに次ぐチリ硝石の輸出港として知られる。また，ペルー・ボリビアとは鉄道で結ばれており，内陸国ボリビアの海への門戸としての役割も果たしている。長い間ペルーとの間に帰属が決定しなかったが，1929年協定が成立してチリ領となった。

アリガール［Aligarh］インド共和国北部，ウッタル-プラデシ州の都市。デリーの東南約150kmに位置する。人口211万2,000(1971)。18世紀につくられたマラータ王国の城塞(じょうさい)と，それに接する古いコルの町とが一体となって発達した。12世紀以来イスラムの基地として重要な地位を占めている。19世紀後半に設立されたアリガール-ムスリム大学はインドにおけるイスラム文化の一中心となっている。この地方における物資の集散地でもある。〔別技篤彦〕

アリカンテ［Alicante］スペイン東部，地中海に面した港市。人口18万5,000(1970)。周辺地域で生産される赤ぶどう酒・果実などの輸出港として栄え，綿織物・陶器なども産する。ギリシア・ローマ時代以来の古い町で，8世紀ころムーア人に占領された歴史をもつ。温暖で快適な気候のため，冬の観光保養都市として有名。

ありくい【蟻食】哺乳(ほにゅう)類・貧歯目・アリクイ科の総称。歯がなく，舌は細長くミミズ状で，口の外に長く突き出すことができる。唾腺(だせん)が非常に大きく胸にまで達し，その出口の一つは口の先端付近に開き，舌を口から出すとき，ねばねばした液をつける。その長い舌でアリやシロアリをなめて食う。体には毛を密生し耳介がある。中央・南アメリカの特産。全長1.5m以上のオオアリクイ，全長1.2mほどで木登りのうまいコアリクイ，尾が体長の2倍近くもあり珍種のオナガコアリクイ，全長40cmほどでナマケモノのように動作がのろく木の上にすむヒメアリクイの4種がある。〔今泉吉典〕

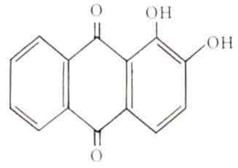


アリクイ

ありぐも【蟻蜘蛛】クモ形類・ハエトリグモ科。体長1cm内外。アリに似た姿と色をしている。網は張らず，植物の葉の上を歩き回る。本州・四国・九州に分布。

アリゲーター［alligator］爬虫(はちゅう)類・ワニ科・アリゲーター亜科。ミシシッピワニが代表種。下あごの歯は上あごの内側にかみ合わされるので，口を閉じたとき外側から見えない。第4上顎(じょうがく)歯が最大。吻端(ふんたん)は丸みをおび，性質はおとなしい。卵性。

アリザリンせんりょう【アリザリン染料】アントラキノン系媒染染料。この種の染料のうちアリザリンが天然染料として最も古くから知られ，構造的にも基本骨格をなすためこの名がある。



アリザリン

アリザリンは古代からエジプト・ペルシア・インドなどの地方に知られていた植物性染料で，アカネの根を酸で処理して得ていた。1868年化学構造が確認され，翌年合成に成功した。天然染料中最も早く合成されたことで有名。もめん・羊毛・絹などを堅牢(けんろう)に染める。媒染剤には鉄・クロム・スズ・アルミニウムなどの金属塩を用いるが，金属の種類によって多様の色調に染まるので多色性染料の名もある。しかし，染色法がめんどうなため現在ではほとんど使用されていない。
➔アントラキノン染料 ➔媒染染料〔稲田正作〕

ありさん【阿里山】アーリー山 台湾中部，玉山(新高(にいたか)山)の西にある山群。標高約2,000～2,500m。最高峰は大塔山(2,663m)。2,000m以上の山地は，ヒノキ・ツガ・シイなどにおおわれ，日本の台湾領有以来有名になった。木材の産地で，材木は約40km西方の嘉義(かぎ)市まで森林鉄道で運ばれる。

ありじごく【蟻地獄】ウスバカゲロウ科に属するこん虫の幼虫の総称。一般に乾燥した砂地などの地面に，すりばち状の穴をつくってその底に潜んでいる。木造の建築物の縁の下などにしばしば多数の個体がみられる。自身は食物を得るために歩きまわることはせず，穴の底の土中に体を隠し，大あごを広げて，生きた小動物が落ちてくる

のを待ち，その体液を吸う。成長してさなぎとなり，さらに成虫のウスバカゲロウ*となる。穴を掘らない種類もある。

ありしまいくま【有島生馬】（1882～1974）洋画家・小説家。横浜市の生まれ。本名壬生馬（みぶま）。作家の有島武郎*（たけお）の弟，里見弴*（とん）の兄。東京外国語学校を卒業後，藤島武二（たけじ）に油絵を学び，1905年（明治38）から1907年にかけてヨーロッパに留学。1914年（大正3）の二科会創設に参加したが，1935年（昭和10）に脱会して一水会*を創立した。《白樺*（しらかば）》の創刊に参加し，小説・評論などの発表も多い。

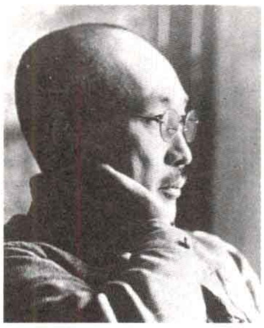
ありしまたけお【有島武郎】（1878～1923）小説家。大蔵省の官吏有島武（たけし）の長男として東京に生まれた。洋画家・小説家の有島生馬*（いくま），小説家の里見弴*（とん）はその弟。幼時，横浜のミッションスクールで洋風教育を受け，学習院に学び，札幌（さっぽろ）農学校（北海道大学の前身）を卒業，26歳でアメリカに留学した。農学校時代にクリスチャンになったが，2年半にわたる遊学中に信仰への懐疑を深め，社会主義思想に共鳴し文学にも親しむようになった。エマソン・ホイットマン・イプセンなどを読み，1906年（明治39）処女作《かんかん虫》（1910年発表）を書いた。1907年ヨーロッパを巡って帰朝，札幌の母校で教壇に立つかたわら武者小路実篤*（むしゃのこうじさねあつ）・志賀直哉*（なおや）らと1910年に同人誌《白樺*（しらかば）》を創刊，文筆活動にはいった。妻と父の死（1916）を転機に東京で作家生活一筋に進み，《カインの末裔（まつえい）》《生れ出（い）づる悩み》《或（あ）る女》などの小説，評論《惜しみなく愛は奪ふ》などを発表，作家としての地位を確立した。晩年には社会主義に関心を強めながら，知識人としての自己の立場に苦悩し，1922（大正11）年には《宣言一つ》を発表したり，北海道の農場を小作人に解放したりしたが，翌年軽井沢の別荘で婦人記者波多野秋子と情死した。45歳であった。白樺派の代表的作家のひとりに数えられるが，他の作家にはみられない思想的骨格のしっかりしたリアリズムの文学を築いた。ほかに長編小説《星座》（第1部で中絶），戯曲《ドモ又（また）の死》，童話《一房（ひとふさ）の葡萄（ぶどう）》などがある。　〔木村幸雄〕

ありしょくぶつ【蟻植物】　熱帯地方に多く，体の一部にアリが巣をつくって共生している植物。アカネ科・タデ科・マメ科などの植物の茎や芽などにアリが共生する。アリは植物により巣を提供され，一方その植物を他の害虫から保護する。アリ植物以外でも，アリが植物の実を運ぶ例としてイカリソウ・タケニグサなどがあり，その実にアリの好きな栄養物がついていて，それにひかれてアリが実を運ぶ。アリが植物の分布を広げる例として有名。

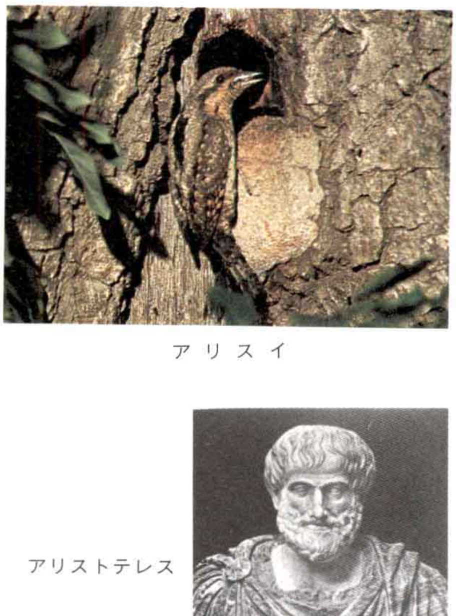
ありすい【蟻吸】　鳥類・キツツキ科。全長17cmの小鳥で，黒かっ色と白のまだらのじみな色。ユーラシア大陸に広く分布する。樹上性だが，他のキツツキと異なり幹に縦に止まることはまれ。主食はこん虫でアリをよく食べる。

ありすがわのみや【有栖川宮】　旧四親王家の一。後陽成天皇の皇子好仁（よしひと）親王が1625年（寛永2）高松宮（たかまつのみや）と称したのに始まる。のち一時絶えたが，後西天皇の皇子幸仁（ゆきひと）親王が1667年（寛文7）継承して，有栖川宮と改称。以後10代300余年に及んだが威仁（たけひと）親王で継嗣（けいし）が絶えた。明治維新には熾仁（たるひと）親王*が活躍した。現在は高松宮宣仁（のぶひと）親王が祭祀（さいし）を継承している。

アリスタルコス（サモスの）［Aristarchos］（BC310ごろ～BC250ごろ）紀元前3世紀の前半にアレキサンドリアで活躍した天文学者。数多くの天体観測を行なったが，現在ではそのうちのわずかしか知られていない。また地球からの太陽と月の相対的な距離を算出した。これを計算するための彼の考えは正しかったが，算出された値は正確ではなかった。地球が太陽のまわりを公転することを信じていたといわれ，地動説の先駆者である。　〔根本順吉〕



有島武郎



アリスイ



アリストテレス

アリスタルコス（サモトラケの）［Aristarchos］（BC217～BC145，またはBC215～BC143）ヘレニズム時代のギリシアの学者。サモトラケ島の生まれ。学問研究の科学的方法を確立した最初の人とされる。BC153年ごろアレキサンドリアの図書館長に任ぜられたが，プトレマイオス6世の権力争いの犠牲となり，追放されてキプロス島で死んだ。彼は文法学・語源学・正字法・文学研究・テキスト校訂学を確立。その厳密な学風はローマ末期まで維持され，すぐれた学者を輩出した。現存のギリシア古典文学のうち，ホメロスをはじめ叙事詩・叙情詩は彼の校訂本による。　〔久保正彰〕

アリスチッポス［Aristippos］（BC435ごろ～BC355ごろ）古代ギリシアの哲学者。北アフリカのキュレネに生まれた。はじめソクラテス*の弟子（でし）となり，のち郷里で学校を開き，キュレネ派*の創始者となった。プロタゴラス*の感覚論を取り入れ，個々の感覚の確実性を重んじた。また，人生の目的は快楽であり，しかも感覚的快楽でなければならないとして快楽主義を説いた。さらに，この快楽を最も十分に生み出すものは識見であるとして，魂の自由を特に重視した。　〔本橋正義〕

アリステイデス［Aristeides］（BC530ごろ～BC468ごろ）古代ギリシアのアテナイの政治家・将軍。マラトンの戦い*の軍司令官のひとり。のち建艦問題でテミストクレス*と対立し，BC483年オストラキスモスにより追放された。2年後特赦され，サラミスの海戦*ではテミストクレスに協力し，プラタイアイの戦い*では最高司令官として勝利を収めた。BC478年デロス同盟*を組織し，厳正公平に負担金を決定した。

アリストクセノス［Aristoxenos］（BC354ごろ～BC300ごろ）古代ギリシアの音楽理論家。アリストテレス*の高弟。著書は多いが，《ハルモニア論》と《リズム論》が現存する。彼の音楽論はピタゴラスの数理的なものとは反対に人間による聴経験を基礎にしたもので，音楽的聴における知覚と記憶の働きを重視している。一方，音楽進行における規則性の存在を主張するなど，今日のパターン認知に近い考えも認められる。

アリストクラシー　⇨貴族制

アリストクレス［Aristokles］ギリシアの彫刻家。BC510年ごろの制作と推定される，アッチカ出土の〈アリスティオンの墓碑〉の台座に署名されているが，紀元前6世紀の様式的表現に自然主義的な描写を加えた当時一流の制作者であった。

アリストテレス［Aristoteles］（BC384～BC322）古代ギリシアの哲学者。イオニア人の植民都市スタゲイロスの生まれ。父はマケドニア王アミンタスの侍医で，アリストテレスも王子フィリッポスの幼友だちとして宮廷に育った。早く父母を失う。

BC367年アテナイに上京し，プラトン*のアカデメイア*に入学。以後師が死ぬまで20年にわたり学園にとどまって研究を積み，学生の指導にもあたった。大の読書家で，学園の〈ヌース(理性)〉と評判された。医家に育ち，イオニア自然学を学んだ彼の本性には科学的な実証精神が脈打っているが，プラトンの薫陶のもとに，まず忠実なプラトニスト(イデア主義者)として学的活動を始めた。そしてアカデメイア時代には，プラトンの対話編をまねて《エウデモス(霊魂論)》や《プロトレプチコス(哲学のすすめ)》その他多くの対話編を書いた。このころすでに《自然学》《天文学》《政治学*》の一部も書きだされた。プラトンの死後，トロヤに近いアソスの僭主(せんしゅ)に招かれ，その地でアカデメイアの学僚とともに3年間を講義や研究に過ごした。この間に，イデア論批判を含む《哲学について》が書かれた。また《形而上学*(けいじじょうがく)》の一部，《エウデモス倫理学》(未完)も書かれた。この後，彼の後継者テオプラストス*の誘いでレスボス島に移り，特に生物学の研究を進めた。

BC342年フィリッポス2世の依頼で王子アレクサンドロスの師となった。王子のためにホメロス*を講じたり，《君主政治論》《植民地論》を書いたりした。かたわらギリシア人の諸国制の資料を収集記録した。アリストテレスは，ポリスと帝国の統合によるヘラス(ギリシア全体)の統一を願う熱烈な愛国者ではあったが，のちのアレクサンドロス大王の東西融合政策にはついていけなかった。

BC336年フィリッポス2世が暗殺され，王子が即位したので，翌年アリストテレスはアテナイにもどった。マケドニアの総督の援助でアテナイ東郊のアポロン-リュケイオンの聖域に学校を開設し，以後12年にわたり講義と研究に没頭した。彼はペリパトス(屋根つき歩廊)で講義したこともあって，その学統はペリパトス派*とよばれる。BC323年，大王の死によってアテナイに反マケドニア運動が再燃したので，彼は母の故郷カルキスに難を避けたが，翌年病没した。

アリストテレスの学説は，リュケイオンでの講義録によって体系的に知りうるが，彼独自の思想が形成される過程を初期の著作(断片)に照らしてたどることも興味あることである。彼の学的活動はその後発展する学問のいわば全領域にわたっており，その原理的究明の意義ははかりしれないが，同時に実証精神を十分に働かせて生まれた動物学の諸著作も看過しえない。ストア派*によって形式化されたその論理学(三段論法)，コペルニクスの批判まで学界に長く支配的だった唯一永遠で階層的な世界像(アイテール仮説と天動説)，個を尊重し現実性と可能性の概念を使って存在をとらえようとする存在論，さらに倫理学における友愛論や中庸論などは，今日もなお多くの示唆を与えている。〔村治能就〕

アリストテレスがくは 【アリストテレス学派】 ⇨ペリパトス派

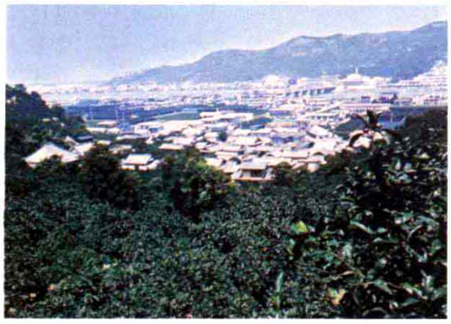
アリストパネス [Aristophanes] (BC445ごろ～BC385ごろ) 古代ギリシアの喜劇詩人。アテナイの有産階級の出身。民主派の行き過ぎに批判的な保守貴族派に属す。その立場から，民主派のひき起こしたペロポネソス戦争*には反対で，戦争遂行者を痛罵(つうば)し，スパルタとの和平を唱えた。この主張をテーマにして多くの喜劇を書いた。また当時の新思潮にも反対で，ソフィスト*らの合理主義・啓蒙(けいもう)主義を痛烈に批判し，悲劇作家エウリピデス*や哲学者ソクラテス*を新思潮の旗手に見立ててやり玉にあげた。

当時の喜劇作品全体にみられるように，彼も好んで時事問題や政治問題を取り上げた。臨機応変の機知とユーモアで登場人物に小気味よく痛罵を浴びせ，観衆の哄笑(こうしょう)をほしいままにした。俗語と詩語を混ぜ合わせ，悪口雑言と淫猥(いんわい)な表現を惜しみなく用いている。しかしときには甘美で繊細な歌をも随所に組み込み，作品全体に美しさを添えている。登場人物は無知で欲張りで下品であり，人間の愚かさを誇張した形で表現しているが，その底には普遍的な人間性と健全さとが潜んでいる。

BC427年に処女作《宴(うたげ)の人々》を上演し，翌年に《バビロニア人》を発表，毎年のように作品を上演し，その作品は全部で44編にのぼるといわれているが，現在《アルカナイの人々》《騎士》《雲》《蜂(はち)》《平和》《鳥》《女の平和*》《女だけの祭り》《蛙(かえる)》《女の議会》《福の神》の11編のみが伝わっている。「久保正彰」



アリストパネス



有田市 有田川の下流，特にその右岸南斜面のミカン畑は紀州ミカン栽培の中心の一つとなっている。写真は有田川沿岸のミカン畑と河口の有田市街

アリゾナ(州) [Arizona] アメリカ合衆国最南西部の州。面積29万4,000km²，人口215万3,000(1974)。州都フェニックス。1912年2月，合衆国で48番めの州となる。州名は〈小泉地〉を意味するピマ-インディアン語がスペイン語に転化したもの。気候は乾燥し，大部分が山地と砂漠(さばく)で，多くのダムを建設して灌漑(かんがい)農業を行なっている。ワタ・小麦を栽培する。コロラド川に建設したネバダ州境のフーバー-ダムは大きさにおいて世界屈指である。金・銀・銅・軽石などの鉱産物に富み，中でも銅は全国生産の55%を占める。州の北西部にあるコロラド川の大峡谷グランドキャニオン*をはじめ，雄大な風光に恵まれている。もとは1848年にメキシコから合衆国に移譲されたニューメキシコの一部で，国内ではインディアンの最も多く居住する地域である。主要都市，フェニックス・ツーソン。〔相村大彬〕

ありた 【有田(町)】 佐賀県西松浦郡の町。県の西端にあり，長崎県の佐世保市と境を接している。人口15,000。江戸時代初期から有田焼(→伊万里焼(いまりやき))の町として知られ，現在も酒井田柿右衛門*(かきえもん)の子孫の経営するものをはじめとする美術工芸品をつくる中小工場があり，建築用タイル・電気碍子(がいし)などの大工場もある。毎年5月には，4kmにも及ぶ中央大通りに陶器市が開かれ，全国から客が集まる。窯業試験場・陶器博物館がある。ここで生産される陶器は，アメリカ合衆国向けをはじめとして，輸出されるものも多い。佐世保線に沿い，松浦線が分岐する。

ありだ 【有田(市)】 和歌山県西部の市。江戸時代，ミカンの積み出し港であった箕島(みのしま)町が周辺3村を合併して1956年(昭和31)市制施行。人口36,000。市域は，紀伊(きい)水道に注ぐ有田川河口の周辺部に中心街があり，下流流域の谷底平野をはさんで南北に山地が連なる。産業三大別人口比は22：39：39。平野部には水田地帯が発達し，山地斜面にはミカンの段段畑が広がり，紀州ミカンの主産地となる。有田川河口の南側にある辰ケ浜(たつがはま)は打瀬網*(うたせあみ)漁業の本拠で，伝統的工業としては，蚊取り線香の製造が行なわれ，原料のジョチュウギクはかつては周辺農村地帯の生産にたよっていたが，最近では瀬戸内海の島々や北海道からの供給を受け，その工業生産額は全国の80～90%を占める。初島には東亜燃料工業の石油工場があり，さらに河口の埋め立て地に工場を拡張する計画も進められており，海南市・下津町と連なる紀北石油工業地帯が形成されている。紀勢本線・国道42号線が通ずる。

ありだがわ　【有田川】　和歌山県中部を西流して紀伊(きい)水道に注ぐ川。水源は高野山で，流程95km。沿岸の傾斜面はミカン畑に切り開かれ，紀州ミカンの本場である。また沿岸の畑ではジョチュウギクの栽培が盛んで，蚊取り線香の製造も行なわれる。夏のジョチュウギクの白，冬のミカンの黄が独特の農村風景をつくりだして有名である。

ありたそう　【有田草】　双子葉植物・アカザ科。中央アメリカの原産で17世紀ごろ茎や葉を駆虫薬とするため輸入したが，いまではいたるところにみられる帰化植物の一年草。全体に強い臭みがあり，高さ70cmくらいでよく枝分かれする。葉は互生で両端のとがった長い楕円(だえん)形。夏から秋にかけて茎の上部に粒状をした緑色の小花を多数つける。しかし現在都会地でよく見かけるものの多くは，近年日本にはいってきたケアリタソウ(アメリカ大陸原産)のほうで前者に比べ全体に毛が多く，葉の鋸歯(きょし)が小さく鋭いので区別できる。また同属に駆虫作用がさらに強く，栽培されるアメリカアリタソウがある。なおシソ科の一年草で薬用植物として栽培されるアリタソウは別名ケイガイといい，まったく別の植物である。〔小清水義隆〕

ありたやき　【有田焼】　⇨伊万里焼(いまりやき)

ありづか　【蟻塚】　アリ類のなかには，落葉・落枝・草・土などを積み上げて日あたりのよい巣を増築する種類があり，この小山状の巣を蟻塚という。塚の中は複雑な孔道とへやが縦横にあり，そこが生活の場所となっている。北半球の大陸の北部に分布しているアカヤマアリ類の蟻塚は有名で，高さ1m，直径3mに達するものがある。日本のエゾアカヤマアリは長野県以北の山地や北海道でよく知られている。

熱帯産のシロアリには，地上や木のまわりに巨大な塔を築くものがいる。塔は土のかけらと唾液(だえき)，または土と消化液などでつくられ，きわめて堅固であり，塔の中は通風・湿度・気温などが巧妙に調節されている。

ありづかむし　【蟻塚虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・アリヅカムシ科の総称。3mm以下の微小な種類が多く，体は赤かっ色または黄かっ色。前翅は腹部の前半部のみをおおっている。おもに熱帯地方の湿潤な地方に多く，わが国には約200種が知られている。土壌(どじょう)中，落ち葉や石の下，朽ち木の中などに生活する。種類によってはアリの巣の中に共生し，分泌毛からアリの好む蜜(みつ)を分泌するものがある。

アリッサム　〔*Alyssum*〕　双子葉植物・アブラナ科・イワナズナ属。小アジア・コーカサス・ペルシア・シベリア・北アフリカなどに80種ばかり分布する一年草，宿根草，半低木である。日本には野生種はない



アリタソウ　(左)アメリカアリタソウ　(右)ケアリタソウ



アリッサム

が，東京付近に帰化植物として一年草のアレチナズナ，栽培植物として多年草のサクサティレ(和名イワナズナ)がある。後者は高さ30cm余り，葉は線形またはへら形で全縁，白色軟毛におおわれる。花は黄色，小形の四弁花で枝の先に総状につく。花は株全体に多数つくので，ロックガーデンに植えつけるのに適する。南ヨーロッパ・クレタ島に自生する。アリッサムという名は，この植物が怒りを静めたという寓話(ぐうわ)から由来したものである。〔小杉清・加藤倍重〕

ありどうぶつ　【蟻動物】　アリの巣内外でアリと密接な関係をもって生活している動物。おもにこん虫に多いが，クモ類やダニ類，哺乳(ほにゅう)類にもいる。アリの巣内にはアリツカハネカクシ・アリツカムシ・アリツカエンマムシなどの甲虫類，アリスアブその他多くのこん虫が寄生的・共生的に生息している。共生的生活をするものでは，アリからえさを口移しにもらって養われつつ，アリには蜜腺(みつせん)から蜜を提供するクロシジミの幼虫などのように栄養交換をするものが多い。アリを捕食するものとして哺乳類のアリクイ*は有名。またこん虫のアリジゴク*はアリにとって恐るべき天敵である。

ありのとうぐさ　【蟻の塔草】　双子葉植物・アリノトウグサ科。山や野原のやや湿った所に普通の多年草。茎は10～30cmで細く，下部は横に地をはう。葉は卵円形で鋸歯(きょし)がある。夏から秋にかけて茎の上部に黄かっ色の小さな花を点々とつける。南半球に多い。

アリバイ　〔alibi〕　不在証明。犯行時に犯行現場にいなかったことが確実であったこと，または，いることが不可能であったことの証明をいう。問題点①その前提として，犯行の場所および時間の特定が必要であるが，犯行状況を現認した証人がいないかぎり，犯行時間には狂いがあるのが常識である。犯行時間の推定には幅をもつ必要があるが，その幅の大きさによっては，アリバイの効果が薄れる。②アリバイを申し立てる者は，犯行時に犯行現場以外の場所にいたことを証明する必要があるが，証明する資料が全然ない場合や忘れてしまった場合は，アリバイがないこととされ，疑われる原因になる。しかしそれだけでは犯人と断定はできない。③完全犯罪を夢見る犯罪者は，アリバイを逆に利用，近親者・情婦・友人などにアリバイを証明させる場合がある。英米法では，近親者などからのアリバイ証明は証拠として認められないが，わが国の法制では両者を区別していない。〔井上公耳〕

ありばち　【蟻蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・アリバチ科。雄には翅(はね)があるが，雌には翅がなく，アリによく似ているが産卵管で刺すためにこの名がある。日本には数種が産し，ツチバチ*類に最も近縁な関係にある。幼虫はいずれも他のこん虫類の幼虫に寄生する。

アーリーバード　〔Early Bird〕　インテルサット*が打ち上げた最初の商業通信衛星。インテルサット1号ともいう。1965年4月6日に推力増強型デルタロケットで打ち上げられ，1週間後に大西洋上で静止衛星*になった。重さ39kg。アメリカとヨーロッパとの間のテレビや電話の宇宙中継で活躍している。

ありまおんせん　【有馬温泉】　兵庫県神戸(こうべ)市兵庫区にある温泉。泉温がたえず変動するのが特色で，現在の泉温は45℃，泉質はベントナイトを含む塩類泉(金泉)と，鉄砲水とよばれる炭酸泉(銀泉)とが別の場所から湧出(ゆうしゅつ)する。胃腸病・神経痛などにきく。六甲山の北側360mの衝上断層線にわき，開湯の歴史は古い。伝説では神代時代にオオナムチ・スクナヒコナの二神によって発見されたといわれ，欽明(きんめい)・孝徳天皇の行幸以来有名になり，仁西上人(にんさいしょうにん)が浴舎を修築し，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が入湯して金・銀二泉の名がつけられたといわれている。〔木村東一郎〕

ありまき　【蚜虫】　⇨アブラムシ

ありまし　【有馬氏】

1肥前(長崎県)有馬氏　高来(たかく)郡有馬荘(しょう)に興る。室町・戦国時代に勢力拡大し，晴信*(はるのぶ)のときキリシタン大名*として豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属した。子直純(なおずみ)は徳川家康(いえやす)に仕え，日向(ひゅうが)(宮崎県)延岡(のべおか)(五万石)に封ぜられ，のち子孫は越前(えちぜん)(福井県)丸岡に転封された。明治に至り子爵。

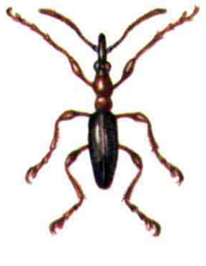
②摂津(兵庫県)有馬氏　赤松則村*(のりむら)の孫義祐(よしすけ)が有馬郡有馬荘の地頭職*(じとうしき)に補任されたのに始まる。則村のとき豊臣秀吉・徳川家康に属し，その子豊氏は大阪の陣の功により，筑後(ちくご)(福岡県)久留米(くるめ)(二十一万石)に封ぜられた。明治に至り伯爵。〔善積美恵子〕

ありまそうどう【有馬騒動】江戸中期，筑後(ちくご)(福岡県)久留米(くるめ)藩主有馬氏*の領内に起こった百姓一揆(いっき)を含むお家騒動*。家老の執権を廃して藩主親政のもとに財政立てなおしを図ったが，6代則維(のりふさ)の年貢(ねんぐ)増徴を目的とする藩政改革の失敗に端を発し，百姓一揆・世子廃立問題をめぐって藩内騒擾(そうじょう)，さらに7代頼徸(よりゆき)の奢侈(しゃし)，側近政治の腐敗，打ち続く天災により激しい動揺が続き，1754年(宝暦4)には増税に反対して，領内8郡の百姓10万人が蜂起(ほうき)した。〔善積美恵子〕

ありまのおうじ【有間皇子】(640～658)　孝徳天皇の皇子。母は左大臣阿倍倉梯麻呂(あべのくらはしまろ)の娘，小足媛(おたらしひめ)。斉明(さいめい)天皇の治世に批判的であったが，身の危険を恐れて狂気を装ったという。しかし658年(斉明4)天皇と皇太子中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)が紀州の温泉に出かけた際，蘇我赤兄(そがのあかえ)にそそのかされて謀叛(むほん)を企て，次いで赤兄に捕えられて紀州に護送された。中大兄皇子はこれを糾問し，藤白(ふじしろ)坂で絞殺させた。《万葉集》に載せる皇子の歌2首は名高い。〔黛　弘道〕

ありまはるのぶ【有馬晴信】(1567～1612)　肥前(長崎県)有馬城主。キリシタン大名*。父は義貞(よしさだ)。1579年(天正7)洗礼を受けキリスト教徒となる。1582年大友義鎮(よししげ)(宗麟(そうりん))・大村純忠(すみただ)とともにローマへ少年使節を派遣した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え軍功があり，のち徳川家康(いえやす)に仕え，1606年(慶長11)長崎でポルトガル船マードレ-デ-デウス号を撃沈する功をあげたが，1612年(慶長17)岡本大八(本多正純(まさずみ)の与力)に謀られて甲斐(かい)(山梨県)に流され同年切腹させられた。〔松尾　涼〕

ありまよりやす【有馬頼寧】(1884～1957)　農林官僚。元伯爵。旧久留米(くるめ)藩主の長男。1910年(明治43)東京大学卒業後，部落解放運動*を主宰，農村相談所を開設するなど，華族界の反逆児を自称していた。1924年(大正13)衆議院議員となったが，伯爵家を継いだため失格，1929年(昭和4)貴族院議員となる。産業組合中央会会頭・同中央金庫理事長・農林政務次官から，1937年第1次近衛(このえ)内閣の農相となり，興亜同盟総裁・大政翼賛会事務総長となる。第2次世界大戦後戦犯容疑者として8か月拘禁された。釈放後，1955年中央競馬会理事長に推された。〔安達淑子〕



アリモドキゾウムシ

アーリマン［Ahriman］ゾロアスター教*の神。ゾロアスター自身によれば，アングラ-マイニュといい，暗黒・虚偽・死などをつかさどる悪霊で，この世のもろもろの悪の源泉であるが，ついには最高神アフラ-マズダ*に滅ぼされる。ゾロアスター教がその後古い民族宗教と妥協し，アフラ-マズダが善神の一つになったとき，ゾロアスター教に本来的に顕著であった善悪二元論はいっそう徹底され，アーリマンはアフラ-マズダと永久に絶え間ない闘争をくり返す悪神となった。〔牧野信也〕

ありみねダム【有峰ダム】富山県の常願寺川水系和田川に，1961年(昭和36)に完成した重力式ダムで，高さ140m，総貯水量2億1,800万m^3。水力発電を目的として北陸電力がつくった。下流にある発電所の合計発電量は36万7,400kWである。

ありもどきぞうむし【擬蟻象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長6mm内外。体形がアリに似るところからこの名がある。翅(はね)の表面は，つやのある藍黒(らんこく)色，前胸と脚は赤かっ色，頭部は黒色。奄美(あまみ)大島以南の東南アジアに広く分布し，幼虫はサツマイモの害虫として知られている。卵は塊根の表皮下に産みつけられ，幼虫は塊根の内部を潜行して食害する。その食痕(しょくこん)はかっ色で，被害を受けた根は悪臭を放つため食用とならない。殺虫にはガス薫蒸を行なうとよい。本種が侵入するとサツマイモ栽培上非常に大きい打撃を受けるため，その侵入防止は植物防疫上重要な問題となっている。〔鈴木邦雄〕

ありゅうさん【亜硫酸】H_2SO_3　二塩基酸。硫酸H_2SO_4に比してイオウの酸化状態が低いのでこの名がある。遊離の酸は得られず，水溶液としてしか知られていない。二酸化イオウSO_2を水にとかして得られるが，煮つめると逆にSO_2を放つ。刺激臭をもつ弱酸。強い還元剤で空気中の酸素でも徐々に酸化され硫酸となる。しかし，塩化第一鉄や硫化水素には還元されてイオウになる。繊維・食品の漂白，食品の防腐，亜硫酸パルプの製造などに使用する。

ありゅうさんえん【亜硫酸塩】亜硫酸H_2SO_3の水素原子を金属原子で置き換えた形の塩。正塩$M^I_2SO_3$と酸性塩M^IHSO_3がある。金属の水酸化物か炭酸塩にイオウを作用させて得られる。ふつう，無色の結晶でアルカリ金属塩は水にとけやすい。水溶液や湿った状態では酸化されて硫酸塩になりやすい。強い還元剤。アルカリ金属塩の水溶液は加水分解のためアルカリ性を示す。イオウと煮沸するとチオ硫酸塩になる。還元剤として写真用・染料工業用に，また亜硫酸パルプ製造時の蒸解剤に用いられる。〔三輪誠・玉野秀樹〕

ありゅうさんガス【亜硫酸ガス】SO_2　二酸化イオウのこと。無水亜硫酸ともいう。刺激臭をもつ気体で，イオウまたは硫化鉄鉱を焼いて得られる。このガスを触媒を使って酸化し，水に吸収させると硫酸が得られる。重油中には1～3％のイオウが含まれるので，これを燃焼すると炭酸ガスや水とともに亜硫酸ガスが出る。これが大気汚染の大きな原因となるといわれ，各工場は濃い亜硫酸ガスを出さないよう法で規制されている。大気汚染を防ぐために重油中のイオウを取ることや，排出ガス中の亜硫酸ガスを除去することが研究され，一部では実施されている。これらの操作を脱硫といい，特に後者を排煙脱硫という。〔鈴木　篁〕

ありゅうさんソーダ【亜硫酸ソーダ】Na_2SO_3　化学上の正式名は亜硫酸ナトリウム。炭酸ナトリウム水溶液に二酸化イオウを通じて亜硫酸水素塩溶液とし，これを炭酸ナトリウムで中和後，加熱濃縮すれば無水塩が，37℃以下で濃縮すれば七水塩が析出する。いずれも無色で水にとけ，強い還元性を示す。写真・染料工業で還元剤に，また亜硫酸パルプ製造に使用される。

ありゅうさんパルプ【亜硫酸パルプ】
⇨化学パルプ

アリューシャン(列島)［Aleutian］アレウト列島ともいう。アラスカ半島とカムチャツカ半島との間の海域を，70の島で連ねる火山列島。延長約2,000kmで，北太平洋とベーリング海を分ける。人口1,300(1950)。気候は寒冷で多雨。また，近海で暖流と寒流がぶつかるため，春から夏にかけてしばしば濃霧がたちこめる。原住民はアレウト人であるが，現在はエスキモー・アメリカ-インディアン・白人の混血が多い。主産業は漁業・毛皮採取。フォックス諸島(アナラスカ・ウニスク島を含む)・アンドレアノフ諸島・ラット諸島・ニアー諸島(アッツ・キスカ島を含む)の四つに分かれる。1741年ベーリングとチリコフが発見，1867年アメリカ合衆国がアラスカとともにロシアより買い取る。第2次世界大戦中，アッツ・キスカ両島は日本が占領した(1942年7月)が，1943年(昭和18)5月アメリカ軍が奪回した。現在，アメリカ合衆国の海軍基地がある。主要都市はアナラスカ島のダッチハーバー。〔大崎　晃〕

アリューロンそう【アリューロン層】糊粉層(こふんそう)ともいう。貯蔵物としてタンパク質を多量に含んだ細胞の層。多くの植物の種子にみられるが，特にイネやコムギなどイネ科植物の種子に多い。イネやコムギの種皮のすぐ下の層で，デンプンは含まれ

ていない。米ぬかやコムギのふすまは，種皮とこの層がはがれたものからなる。

アリラン［A-li-rang］朝鮮の代表的な民謡。〈アリラン　アリラン　アラリヨ　アリラン　コケロル　ノモカンダ(アリラン峠を越えて行く)〉と歌いだし，その後はいろいろの歌詞で歌われる。内容は失恋を主題とするが，かつては時代に対する反感や怨情(えんじょう)が歌われ，旋律は哀調をおびている。わが国で知られている旋律は半島中央部の系統のものであるが，半島南部・半島北部で歌われるものは，節もだいぶ違い，即興性が強い。〔山口　修〕

アリルアルコール［allyl alcohol］$CH_2=CHCH_2OH$　ビニルカルビノールともいう。二重結合をもったアルコールの代表的なもの。無色で刺激臭のある液体。水と任意の割合で混和。プロピレンから塩化アリルをつくりアルカリで加水分解してつくられる。酸化するとアクロレイン・グリセリンさらにギ酸・シュウ酸に変わる。合成樹脂・香料・化学薬品の原料として重要である。

ありわらし【在原氏】嵯峨(さが)天皇のとき，廃太子高岳親王*の子女に在原朝臣(あそん)の姓を賜わったことがある。次いで淳和(じゅんな)天皇のとき，826年(天長3)阿保(あぼ)親王の上表を入れ，その子行平・業平*(なりひら)・仲平・守平(もりひら)らにも同姓を賜わった。藤原氏におされて，一族はふるわなかったが，業平の子孫が後世まで栄えた。

ありわらでら【在原寺】⇨石上寺(いそのかみでら)

ありわらのなりひら【在原業平】(825～880)　平安初期の歌人。在五中将・在中将ともよばれ，六歌仙*(ろっかせん)のひとりとして名高い。平城(へいぜい)天皇の皇子阿保(あぼ)親王の第5子で，母は桓武(かんむ)天皇の皇女伊登(いと)内親王。826年(天長3)在原姓を賜わって臣籍に下り，晩年には要職蔵人頭(くろうどのとう)の地位についた。《三代実録*》に，体貌(たいぼう)がすぐれ，気ままにふるまい，漢学よりも和歌の道にすぐれていたとされていることから，資質的には，政治に不向きの芸術家はだであったらしい。和歌は《古今和歌集*》に30首，《後撰(ごせん)和歌集*》以下の勅撰集に57首があり，《古今和歌集》仮名序で，紀貫之*(つらゆき)に〈心余りて詞(ことば)足らず〉と評されたように，あふれる感情・情熱が一首をおおいつくす作風をとる。家集に《業平集》がある。《伊勢(いせ)物語*》は業平の歌を中心に構成した虚構の歌物語であるが，かつて実伝と考えられたところから，多くの伝説の主人公となっている。〔平田喜信〕

アーリントン［Arlington］アメリカ合衆国バージニア州，ポトマック川右岸にある都市。人口16万3,000(1960)。首都ワシントン市の対岸にあたる。アーリントン-メモリアル橋でワシントンと連結され，アーリントン墓地*の所在地として知られる。

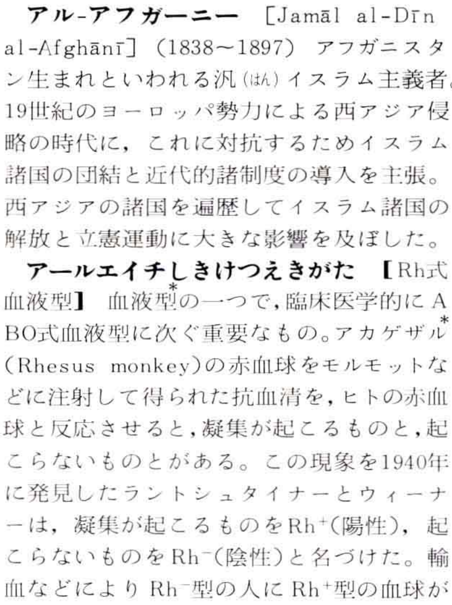
アーリントンぼち【アーリントン墓地】アメリカ合衆国，バージニア州アーリントン*にある国立墓地。1864年の設立。面積1.6 km²。約60,000の無名戦士やケネディ大統領など，殉国者の墓がある。

アール［are］メートル法の面積の単位。記号a　100m²，すなわち1辺が10mの正方形の面積にあたる。アールの100倍にあたる面積の単位をヘクタールといい，記号haで表わす。

アル-アシュアリー［Abū'l-Ḥasan 'Alī b. Ismāʻīl al-Ashʻarī］(873～935)　イスラム思弁神学の創始者。バスラに生まれ，その生涯(しょうがい)の大部分をバグダットで過ごした。40歳まではムータジラ派*の神学者ジュッバーイーの弟子(でし)であったが，以後イスラム正統派に転じた。彼の神学はムータジラ派と正統派の中間をいくものとされる。すなわち彼はカラム(推論の方法あるいは論義の術)を正統派に導入することにより，正統派教義の発展の端緒を開いた。彼の著書は300冊があげられるが，現存するのはムータジラ派をはじめとする当時の合理主義的傾向を否定し，《コーラン*》に帰るべきであると主張した《宗教の根底について》および正統派の教義をうちたてた《イスラム教徒の確言》など数冊にすぎない。〔牧野信也〕

アル-アフガーニー［Jamāl al-Dīn al-Afghānī］(1838～1897)　アフガニスタン生まれといわれる汎(はん)イスラム主義者。19世紀のヨーロッパ勢力による西アジア侵略の時代に，これに対抗するためイスラム諸国の団結と近代的諸制度の導入を主張。西アジアの諸国を遍歴してイスラム諸国の解放と立憲運動に大きな影響を及ぼした。

アールエイチしきけつえきがた【Rh式血液型】血液型*の一つで，臨床医学的にABO式血液型に次ぐ重要なもの。アカゲザル*(Rhesus monkey)の赤血球をモルモットなどに注射して得られた抗血清を，ヒトの赤血球と反応させると，凝集が起こるものと，起こらないものとがある。この現象を1940年に発見したラントシュタイナーとウィーナーは，凝集が起こるものをRh^+(陽性)，起こらないものをRh^-(陰性)と名づけた。輸血などによりRh^-型の人にRh^+型の血球がはいったり，Rh^-型の妊婦の胎児がRh^+型であった場合などにRh陽性赤血球と反応する抗体が受血者や妊婦に発生することが明らかになった。Rh型には多数の亜型がある。なお，ラントシュタイナーとウィーナーの発見したものと，ヒトに発生した抗Rh_0抗体で分類される型とは異なるものであることがわかって，前者をLW型とよんでいる。



在原業平　《三十六歌仙絵巻》(佐竹本)より

アールエヌエー［RNA］ribonucleic acidの略称。➔リボ核酸

あるおんな【或る女】有島武郎*(たけお)の長編小説。前編は《或る女のグリンプス》として，1911年(明治44)から1913年(大正2)にかけて《白樺*(しらかば)》に連載，のち改稿して後編とともに1919年に刊行された。女主人公早月(さつき)葉子は，日清(にっしん)戦争前後の高揚期に自我に目ざめた新しい型の女性。両親や周囲の上流社会に反抗しながら，自主的に生きることを求めるが，結局は野人的な男倉地との愛欲生活の中で破滅する。明治期の社会において自我を貫こうとした女性の悲劇を本格的リアリズムで描いた傑作である。〔木村幸雄〕

アルカイオス［Alkaios］(BC620ごろ～？)　紀元前7世紀ごろ活躍した古代ギリシアの叙情詩人。レスボス島の生まれ。少年時代から政治運動に興味をもち，独裁政治を倒すために奔走し，いくたびも亡命した。独裁政治が倒れたのちも政情は激しく動揺し，エジプトやトラキアでの亡命生活を余儀なくされた。BC580年ごろ追放が解除され，彼は祖国に復帰したが，その後のことは不詳。政治闘争や亡命生活，戦争のさなかにあって，彼は酒にうさを紛らわし，酒をたたえて酒宴歌をうたい，豪放に盾(たて)の歌をうたった。また，ときには敬虔(けいけん)な調子で神々をたたえた。寓話(ぐうわ)ふうな詩も散見されるが，彼の真価は，祖国のアイオリス方言で単純な感情を一気に力強くうたいあげたところにあった。〔久保正彰〕

アルカイックびじゅつ【アルカイック美術】ギリシア語の〈古い〉を意味するアルカイオスからきた様式概念。その表現は，自然の忠実な写実ではなく，様式固有の理想に基づいて，一定の図式の中で，数少ない表現形式に制限しながら完全を目ざすものであった。広義には，ギリシア-アルカイック美術のほかに，エジプト・メソポタミアの美術や中世美術をも含む。ギリシア-アルカイック美術は紀元前8世紀から紀元前6世紀にわたる時代で，一般にBC480年のペルシア軍のアクロポリス寇掠(こうりゃく)を下限とする。この時代初期にはギリシア文字が発見され，BC776年のオリンピック競技祭の開催をはじめとする種々の記録が現われ，伝説を脱した歴史の意識が生まれた。各方面への植民地開拓，特にオリエント(古代西アジア圏)との接触は，アルカイック美術に刺激を与えた。紀元前8世紀初頭，神殿は木構造から石造に変わってドリス式・イオ

ニア式のオーダー*が形成され，それに伴って紀元前7世紀半ば，大理石大型彫刻の制作が始まった。絵画の遺品はほとんど残っていないが，陶器画によって推定すれば，紀元前7世紀末の黒絵式陶器は簡明直截(ちょくせつ)な表現ですぐれ，その頂点はBC550年ごろで，BC530年ごろには赤絵式が開始された。アルカイック美術は，ギリシア世界各地で並行した芸術展開をみせるが，やがて進展とともに統一完成に向かい，正面性・シンメトリー・くり返しなどの様式的特徴を示し，きびしいエネルギーと新鮮な美しさをもつ。〔穴沢一夫〕

アル-ガザーリー ［Abū Ḥāmid b. Muḥammad at-Ṭūṣī al-Ghazālī］ (1051～1111) イスラムの神学者・哲学者。ペルシアのトゥースに生まれ，アシュアリー学派の神学，アリストテレス派の哲学を学び，1091年にはバグダットのニザーム学園の教授に任命され，その声望が高かった。しかし，1095年には信仰と理性の矛盾から職を辞し，メッカ巡礼を振り出しに諸方を遍歴し，晩年は故郷で隠者として日を送った。彼の神学は思弁神学と哲学とスーフィズム*の調和を図るものである。一方，イスマイル派*の宣教活動とアビケンナ*の新プラトン派のイスラム哲学に対して正統派を擁護したことから〈イスラムのあかし〉とよばれた。多数の著書のうち69種が現存するが，《宗教諸学のよみがえり》は特に著名である。〔牧野信也〕

アルカディア ［Arcadia］ ギリシア，ペロポネソス半島中央部の県。面積4,400km²。人口13万5,000(1961)。北はアロアニア山(2,320m)・エリマントス山(2,224m)とアルフィオス川に限られ，南東はアルゴリス湾に臨む。県域の大半が山地で占められているので牧畜を主としている。古代のアルカディアは海岸部を含まず，周囲から孤立した後進地域であった。紀元前6世紀スパルタの支配下にあったが，紀元前4世紀諸都市が同盟してメガロポリスを建設し，これを脱した。8世紀にはスラブに侵略され，13～15世紀間はフランスの支配下にあった。以後ギリシア独立までトルコ領であった。〔梶川勇作〕

アルカディウス ［Arcadius］ (377～408) 東ローマ帝国初代皇帝。在位395～408年。テオドシウス1世*の子。父の死後，弟のホノリウスと帝国を共同統治し，その東半分を統治したので，このときから東ローマ帝国が始まったとされる。政治の実権は宰相のルフィヌスらが握っていた。

アルカプトンにょうしょう 【アルカプトン尿症】 黒尿症ともいう。その本態はチロジンの代謝物の一つであるホモゲンチジン酸，一名アルカプトンからフマリルアセト酢酸への変化に必要な酵素を欠き，アルカプトンが尿中に排出される疾患である。この患者の尿を空中に放置すると，酸化されて尿を黒変させるので生後まもなく発見される。しばしば遺伝的(劣性遺伝型)に発現する。症状としては眼球角膜の外側強膜の両側に，かっ色沈着を認める。また青春期になると軟骨に吸収され慢性関節炎症の変化すなわち組織黒変症を起こす。ただし生命に対してはほとんど影響はない。〔平野修助〕



アルカイック美術 《コレ立像》 アクロポリス出土の大理石の少女像 紀元前6世紀末

アルカメネス ［Alkamenes］ 紀元前5世紀前半に活動したギリシアの彫刻家。アテナイで生まれたと推定され，フェイディアス*の弟子(でし)とも後継者とも伝わる。ローマ時代の有名な《豊饒(ほうじょう)のウェヌス》《ヘルメ柱》などはその原作によると考えられている。

アルカリ ［alkali］ 元来はアラビア語で，alは物を，kaliは灰を意味する。現在，狭義には水にとける水酸化物を，広義には酸を中和する水溶性物質(アルカリ金属*・アルカリ土類金属*の水酸化物・炭酸塩およびアンモニア)をさす。代表的なものである水酸化ナトリウム・水酸化カリウムをさすこともある。アルカリの示す性質をアルカリ性といい，水溶液はあくのような苦い味がし，赤色リトマス紙を青変させ，油脂をとかしたり，皮膚を侵す。これらの性質は水溶液のpHが7より大きいことと関連しており，酸を加えるとこの性質はなくなる。塩基の一部はアルカリに属する。➔塩基 〔三輪誠・玉野秀樹〕

アルカリがん 【アルカリ岩】 火成岩*の中で，シリカ分(SiO_2)やアルミナ分(Al_2O_3)がアルカリ分(Na_2O+K_2O)に比べて比較的少なく，したがって造岩鉱物としてジュンチョウ石*やナトリウムに富むキ石*を含むような岩石をいう。アルカリ岩の代表はカンラン石玄武岩で，しばしば大きな楯状(たてじょう)火山*をつくり，少量の粗面岩*などを伴うことがある。深成岩*ではカスミ石・センチョウ岩*などが代表的なアルカリ岩である。日本では主として日本海沿岸地方にアルカリ岩が分布している。〔片山信夫〕

アルカリきんぞく 【アルカリ金属】 周期律表第Ⅰ族に属するリチウム・ナトリウム・カリウム・ルビジウム・セシウム・フランシウムの6元素をいう。ナトリウム・カリウム以外は希元素で，最も重いフランシウムは短寿命の放射性同位体として，ごく微量存在するにすぎない。原子容がほかの元素に比べて大きいこと，柔らかく，比重・融点・沸点・昇華熱などが低いのが特徴である。ナトリウム・カリウムは還元剤・伝熱媒体その他工業上に多くの用途がある。〔鈴木 篁〕

アルカリせいしょくひん・さんせいしょくひん 【アルカリ性食品・酸性食品】 食品を焼いて得た灰分が，酸性またはアルカリ性である食品をおのおの〈酸性食品〉または〈アルカリ性食品〉という。炭水化物や脂肪は体内で燃焼すると二酸化炭素と水とになるが，タンパク質は含硫アミノ酸のイオウが酸化されて硫酸イオン(SO_4^{--})になるため酸性に傾く。また食品には微量であるがいろいろな無機質が含まれており，リン酸イオン(PO_4^{---})や塩素イオン(Cl^-)など陰イオンが多い場合を〈酸性食品〉といい，くだものの酸味のような，食品そのものの酸度を示すものではない。肉類・卵など動物タンパク質食品や，リン酸を多く含む穀類などは酸性食品である。一方くだもの・野菜・いも類などはナトリウムイオン・カリウムイオン・カルシウムイオン・マグネシウムイオン(Na^+・K^+・Ca^{++}・Mg^{++})のような陽イオンが多く含まれ，体内ではアルカリ性を与えるので〈アルカリ性食品〉である。酸性食品を食するとアンモニウム塩の形で，またアルカリ性食品を食する場合は炭酸塩として尿中に排泄(はいせつ)し，血液をつねに中性に保つような人体の調節作用があるので，偏食を避けて中性になるよう食物をとることが好ましい。このような食品の酸度・アルカリ度を表わすには，食品100gを焼いて得た灰分を中和するに必要な1規定の酸・アルカリ溶液のcc数で示す。**〈食品の酸度〉** 牛肉12.0，魚肉16.0，卵11.0，米9.0，パン6.0。**〈食品のアルカリ度〉** リンゴ3.7，オレンジ5.6，トマト5.0，ニンジン10.8，キャベツ6.0，ダイコン9.0，ジャガイモ10.0。〔岡本治良〕

アルカリせいひりょう 【アルカリ性肥料】 酸性肥料*・中性肥料*に対する語で塩基性肥料ともいう。化学的アルカリ性と生理的アルカリ性とがあり，前者は草木灰・石灰窒素のようにその肥料自身がアルカリ性の場合，後者は硝酸石灰・石灰窒素のように作物に吸収されないで残った部分がアルカリ性の場合である。

アルカリセルロース ［alkali cellulose］ レーヨンを製造する工程で，原料のパルプを苛性(かせい)ソーダ液に浸漬(しんせき)して生成されるアルカリ繊維素。これを二硫化炭素で溶解してビスコースとして，

ノズルから圧出，凝固させてレーヨンをつくる。

アルカリせんいそ　【アルカリ繊維素】
⇨アルカリセルロース

アルカリどじょう　【アルカリ土壌】　排水が悪く，乾燥条件下で多量の塩類を表層に含む土壌の総称。チエルノーゼム*やくり色土*・かっ色土*などの生成する地帯にみられる。大別するとソロンチャク(アルカリ白土)・ソロネッツ(アルカリ黒土)に分けられる。ソロンチャクは塩類土壌ともよばれ，ナトリウム・カルシウム・マグネシウム・カリの可溶性塩類が上層部に集積し，それらは大部分塩化物・硫酸塩で，一部には炭酸塩の形態で存在する。表面には白色の殻(かく)を形成する。pHは8程度。ソロネッツは狭義のアルカリ土壌で，主としてナトリウムの炭酸塩が集積しpHは高く，アルカリ性を示す。有機物含量はソロンチャクより高く，これを含んだ塩類が表面に黒色の殻を形成する。　〔浜田龍之介〕

アルカリどるいきんぞく　【アルカリ土類金属】　周期律表第II族の元素のうち，ベリリウム・マグネシウム・カルシウム・ストロンチウム・バリウムおよびラジウムの6元素の総称。カルシウム以下の4元素をさすこともある。このうちマグネシウム・カルシウムは多量に産出する。いずれも銀白色ないし灰色(あるいは黄色)の金属で，アルカリ金属についで柔らかく，融点・沸点も比較的低い。

アルカリゆうかい　【アルカリ融解】
①有機化合物を固体の水酸化ナトリウム・水酸化カリウムとともに300℃ぐらいの温度に加熱融解して変化させる操作。この一例として，ベンゼンスルホン酸ナトリウムからフェノールが生成する反応がある。
②不溶性物質を固体の水酸化ナトリウム・水酸化カリウムと加熱融解して可溶性物質に変化させる操作。酸にとけにくい金属酸化物・硫化物・硫酸塩・ケイ酸塩などを分解して可溶性の化合物に変えることができる。特に両性元素の酸化物を可溶性のアルカリ塩に変えるのに使われる。融解にはニッケルるつぼがおもに用いられるが，鉄・金・銀製でもよく，白金はよくない。500℃以下で30分間ぐらい融解すればよい。
〔竹下三吉〕

アルカロイド　［alkaloid］　植物中に含まれている窒素をもつ塩基性の化合物の総称。アルカリ様のものという意味でアルカロイドといわれ，植物塩基ともいう。一般に特殊な生理作用をもつ。アルカロイドは広く植物界に分布し，特に双子葉植物中に豊富に含まれ，単子葉植物・裸子植物，さらに菌類にも見いだされる。一般に同じ種類の植物には化学的構造の類似するアルカロイドが含まれている。たとえばキナ属植物中にはキニーネ*をはじめとするキノリン骨格をもったアルカロイドが種々含まれている。したがってアルカロイドは母体となる化学構造によって分類されている。アルカロイドの検出には沈殿試薬と呈色試薬があり，アルカロイド試薬といわれる。
〔鈴木郁生・中館正弘〕

アルカロージス　［alkalosis］　アルカリ血症。血液pHは7.4付近で一定に保たれているが，これより大きい場合をアルカロージスという。重炭酸塩の増加，炭酸の減少は，いずれもpHを増加させる。重炭酸塩の増加は酸喪失・重曹(じゅうそう)大量服用でみられ，これを代謝性アルカロージスとよぶ。また，換気過剰により炭酸ガス濃度が少なくなるときは炭酸の濃度も減少し，呼吸性アルカロージスといわれる。代償作用があれば，呼吸抑制によって炭酸を増加させ，pHに大きな変化をきたさない。➔アシドーシス

アルキドじゅし　【アルキド樹脂】　多価アルコールと多塩基酸との縮合*反応で得られる合成樹脂。この名称はアルコール(alcohol)と酸(acid)の組み合わせによる。アルコール成分としてはグリセリン・エチレングリコールなどが，また，酸成分としてはフタル酸・マレイン酸などがよく使われる。特に，グリセリンのような三価アルコールを用いた場合には，重縮合反応を行なうだけで網状高分子*が生成する。上述の酸はそれ自体二重結合をもっており，重合後もそれが高分子鎖内に残る。この二重結合の重合性を利用して架橋，強化させたものが不飽和ポリエステル*である。アルコール・酸の組み合わせでさまざまな性質のものができるが，大部分は塗料として利用されている。➔ポリエステル　〔伊藤　卓〕

アルキドじゅしとりょう　【アルキド樹脂塗料】　⇨合成樹脂塗料

アルギナーゼ　［arginase］　アミノ酸の一種アルギニンを尿素とオルニチンに加水分解する酵素。哺乳(ほにゅう)動物の組織に広く存在する。オルニチン回路*に含まれる重要な酵素の一。➔酵素

アルギニン　［arginine］　塩基性アミノ酸の一種で，タンパク質の構成アミノ酸である。特に魚類の白子のタンパク質プロタ

おもなアルカロイド

名称	含まれる植物	薬理作用	薬効その他
アトロピン	ベラドンナ(ナス科)	副交感神経遮断(しゃだん)，散瞳(さんどう)	鎮痙(ちんけい)剤
エフェドリン	シナマオウ(マオウ科)	交感神経興奮，縮瞳	鎮咳(ちんがい)，ぜんそく治療剤
エメチン	トコン(アカネ科)	アメーバー赤痢菌の殺菌	アメーバー赤痢治療剤
エルゴタミン	麦角(ライムギの菌核)	交感神経遮断	子宮収縮剤
カフェイン	チャ(ツバキ科)	中枢神経興奮	利尿・強心剤
キニーネ	アカキナノキ(アカネ科)	抗マラリア作用，体温調節，中枢の鎮静	抗マラリア剤・解熱剤
コカイン	コカノキ(コカノキ科)	局所麻酔，中枢神経興奮	局所麻酔剤
コデイン	ケシ(ケシ科)	呼吸中枢の鎮静	鎮咳剤
コルヒチン	イヌサフラン(ユリ科)	中枢神経抑制，細胞有糸核分裂抑制	痛風治療剤，制癌(せいがん)剤，染色体の倍数化薬
ジギトキシン	ジギタリス(ゴマノハグサ科)	心筋収縮力の強化，利尿	強心剤
スコポラミン	ヒヨス(ナス科)	副交感神経遮断，散瞳	鎮痙剤
ストリキニーネ	イグナチウス(フジウツギ科)	脊髄(せきずい)反射機能亢進(こうしん)	手術時のショック，出血による虚脱治療剤
ツボクラリン	クラーレノキ(フジウツギ科)	運動神経末梢(まっしょう)麻痺(まひ)	筋弛緩(きんしかん)剤
ニコチン	タバコ(ナス科)	中枢神経興奮	殺虫剤
ノスカピン	ケシ(ケシ科)	呼吸中枢神経抑制	鎮咳剤
ムスカリン	ベニテングダケ(テングダケ科)	副交感神経遮断	
モルヒネ	ケシ(ケシ科)	中枢神経抑制，延髄の各中枢の抑制	鎮痛，麻酔，止瀉(ししゃ)剤
ヨヒンビン	ヨヒンベノキ(アカネ科)	交感神経遮断	催淫(さいいん)剤
ルチン	エンジュ(マメ科)	毛細血管の強化，血圧降下	毛細管性出血の予防剤
レセルピン	インドジャボク(キョウチクトウ科)	中枢神経鎮静，血圧降下	血圧降下，精神安定剤

ミン中に多い。生体内では尿素形成に重要な役割を果たしている。アルギニンは動物の体内で合成されるが，幼い動物は成長に必要な十分量を合成することができず，成長期の動物は外部より摂取する必要がある。無脊椎(むせきつい)動物の筋肉中ではアルギニンリン酸の形で筋肉の収縮に重要な役割を果たしている。

アルギニンリンさん 【アルギニンリン酸】 アミノ酸の一種アルギニンに，リン酸基の結合した化合物で，無脊椎(むせきつい)動物の筋肉などに多く見いだされる。下等動物において，ATPのリン酸基を一時的にアルギニンに転移して，エネルギーを保存するための，一種のリン原質と考えられている。

$NH-PO_3H_2$
|
$C=NH$
|
NH
|
$(CH_2)_3$
|
$CHNH_2$
|
$COOH$

アルキビアデス [Alkibiades] (BC450ごろ〜BC404) 古代ギリシアのアテナイの政治家・将軍。名門の出で，母の親族のペリクレス*のもとで育ち，ソクラテス*の弟子(でし)になった。ペロポネソス戦争*のとき，シラクサ遠征を強行し失敗。アテナイを追放されるとスパルタに走ったが，やがてスパルタと対立し，ペルシアにのがれた。のちアテナイに帰国を許され，スパルタ艦隊を破って名誉を回復したが，部下の失敗で再び追放され，亡命中メリッサで暗殺された。

アルキメデス [Archimedes] (BC287ごろ〜BC212) ギリシアの数学者・物理学者・技術者。シチリア島のシラクサに生まれ，アレキサンドリアに留学。帰郷後はヒエロン王の庇護(ひご)のもとに天分を発揮した。ヒエロン王に，金の王冠に混ぜものがあるかどうか調べよと命ぜられ，ある日ふろの中でその方法を考えつき，〈ユーレカ(われ発見せり)〉と歓声をあげながら裸のまま町の中へ飛び出したという逸話がある。これがアルキメデスの原理*発見のきっかけとなった。物理学においては，滑車・歯車などの機械的発明がある。数学においては，円の面積は底辺が円周に等しく高さが半径に等しい直角三角形の面積に等しいこと，円に内外接する正六角形，正十二角形，……の周を計算して$3\frac{1}{7}>\pi>3\frac{10}{71}$ $(3.142\cdots>\pi>3.140\cdots)$を得た。また，曲線や曲面で囲まれた図形の面積・体積を算出したり，アルキメデスのらせん(→曲線)を考え出したりした。第2次ポエニ戦争に際して，シラクサはローマ軍の攻撃を受けたが，アルキメデスは彼の発明した種々の新兵器によってシラクサを守り，大いにローマ軍を悩ませた。しかし，ついにシラクサは陥落した。ある邸宅の庭で，砂の上に幾何図形を書いて研究していたアルキメデスは，近づいてきたローマ兵士に，〈私の円をこわすな〉ととがめ，これを聞いて怒った兵士に殺された。アルキメデスは，当時最も独創的かつ多面的な研究をした天才であった。〔下平和夫〕

アルキメデスごう 【アルキメデス号】 ①1839年イギリス人F.P.スミスが完成した世界最初のスクリュープロペラ船。80馬力の蒸気機関をもつ240tの船である。それまでは外輪船全盛であったが，この船がロンドンからドーバー・ポーツマス・プリマスを経てブリストルへの航海に成功し，スクリュープロペラ船の優秀性を示した。

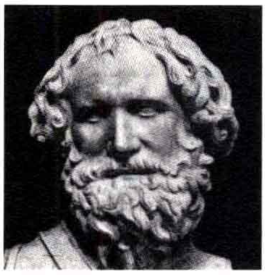
②フランスの深海潜水艇。1961年に進水，翌年5月に来日し，千島のウルップ島の南南東でおよそ10,000mの潜水を試みた。排水量191.3t，3人乗り。〔茂在寅男〕

アルキメデスのげんり 【アルキメデスの原理】 〈流体中の物体は，それが押しのけた流体の重さに等しい浮力*を鉛直上方に受ける〉という原理。BC250年ごろアルキメデス*が発見した。水中の物体が，空気中より軽く感じられるのはこのためである。断面積S，高さhの物体が密度ρの流体の中にあるとき，この物体の左右からの圧力はつりあっている。上面に働く全圧力は$(p_0+\rho g h_1)S$，下面に働く全圧力は$\{p_0+\rho g(h_1+h)\}S$で，その差$\rho g h S$が浮力として上向きに作用する。〔今淳治郎〕

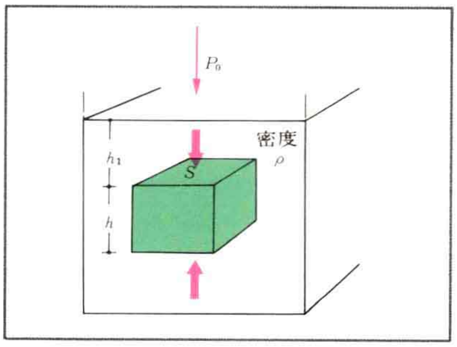
アルキメデスのらせん 【アルキメデスの螺旋】 ⇨曲線

アールキュー [RQ] respiratory quotientの略。➔呼吸商

アルキルき 【アルキル基】 脂肪族飽和炭化水素から水素原子1個を除いた残りの原子団のことで，一般式はC_nH_{2n+1} また しばしば略号Rで表わされる。ベンゼンにハロゲン化アルキルを無水塩化アルミニウムの触媒で作用させると，核の水素がアルキル基で置換されて，アルキルベンゼンを生成する。このようなアルキル化をフリーデル-クラフツ反応という。



アルキメデス



アルキメデスの原理

アルキロコス [Archilochos] 生没年不詳。古代ギリシアの叙情詩人。紀元前7世紀ごろ活躍した。パロス島で生まれ，未開地タソス島への植民に加わって，土着のトラキア人と戦った。勇敢な武人で豪放な気質をもち，のち戦死したといわれる。かなりのエレゲイア詩*およびイアンボス詩*が残っている。イオニア方言の口語体を使用し，韻律にくふうを加え，テーマも斬新(ざんしん)であるなど独創的な詩人であったが，激情のおもむくままにおのれを語るきらいがある。その他動物になぞらえて身辺をうたった詩を残した。〔久保正彰〕

アルギンさん 【アルギン酸】 β-D-マンヌロン酸とα-L-グルロン酸が1，4-結合で連鎖状に連なった酸性多糖類の一種。マンヌロン酸とグルロン酸の含有量の比は抽出源の種類によって著しく異なり，普通は1：2から5：2の間にあるが，5：1に近いものもある。ナガコンブ・ワカメ・アラメなどの褐藻(かっそう)類に特有の成分で多量に含まれており，マコンブでは乾燥重量の60%に相当する。セルロースとともに褐藻類の重要な構造多糖類であり，乾燥海藻のアルカリ抽出液を酸処理して得られる。水に不溶であるが，ナトリウム塩は可溶で，その溶液は非常に粘性が大きい。医薬品・化粧品・食品などの乳化剤・粘滑剤，および紙・皮革・織物の仕上げなどに使われている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

アル-キンディ [Abū Yūsuf Ya'qūb b.Ishāq al-Kindī] (？〜870ごろ) イスラムの哲学者・神学者。イスラム哲学の創始者で，〈アラブの哲学者〉とよばれた。バスラ(一説にはクーファ)に生まれ，バスラおよびバグダットに学び，当時のカリフ，アル-マムーン(813〜833)とアル-ムゥタシム(833〜842)に仕えた。哲学者としては新ピタゴラス派の思想(四分法)の影響を受けた新プラトン派*の学風で，神学者としてはムータジラ的色彩が濃く，その思想は全体としてはギリシア哲学とイスラム教の調和を図るものである。博学多才で，その学識は哲学・歴史学・医学・数学・天文学などの諸学に及び，著書は270冊以上があげられるが，現存するのはわずかの小論文のみである。また，彼のギリシア哲学の翻訳は中世西洋哲学に多大の貢献をなした。〔牧野信也〕

アルクイン [Alcuin] (735ごろ〜804) カロリング-ルネサンス*期の代表的人物。中世前期のヨーロッパにおける重要な神学者・教育家。イギリスのヨーク聖堂学校の出身で，エグバード*の弟子(でし)。781年，フランク王国のカール(のちの大帝)に招かれて大陸に渡り，教育・文化行政に大きく貢献し，キリスト教で濾過(ろか)した古代文化を当時な

お未開の地であった大陸に伝えた。ラテン語聖書《ウルガタ》改訳のほか,《魂の本質について》などの著作があり,それらには中世盛期の神学・哲学の原型がみられるといわれる。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

アルクトゥルス［Arcturus］うしかい座*のα星。初夏の夜，南天高く望まれる。日本名をむぎ星，中国名を大角とよぶ。実視等級0.1等,36光年の距離にあるK型巨星。視直径は0.″02，実際の直径は太陽の24倍である。

アルクマイオン（クロトンの）［Alkmaion］生没年不詳。最盛期はBC500年ごろ。南イタリアのクロトンで活躍した古代ギリシアの医師。動物解剖に基づいて実証的な医学の研究を始めた人のひとりであり，特に視神経および中耳と咽頭(いんとう)を結ぶエウスタキオ管の発見者として知られている。

アルクマン［Alkman］（BC654～BC611ごろ）古代ギリシアの叙情詩人。小アジアに生まれ，紀元前7世紀後半にスパルタで活躍した。さきに征服した隣国メッセニアの反乱をおさえた第2次メッセニア戦争後の平和時代を享受したらしく，祭りや饗宴(きょうえん)のための詩が多い。ドーリス方言を用いて自然のたたずまい，生き物や食べ物をすなおにおおらかにうたい，愛に満ち調和のとれた世界を表現している。

アル-クワリズミ［Mohàmed ibn Musa al-Kwarizmi］（780？～850？）アラビアの数学者・天文学者。プトレマイオス*の著《アルマゲスト*》の表を修正した。バグダットやダマスカスで天文観測を行ない，地球の子午線の1°の長さを測定した。彼の著わした代数書は新しいものではないが，インドやギリシアで数学の普及に役だち，その中には四則計算・二次方程式の解法などが説明されている。代数学(algebra)の語源はこの書にあるとされている。〔下平和夫〕

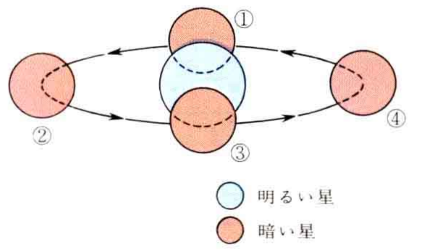
アルケサスちょう【アルケサス朝】⇨パルチア

アルコア［ALCOA］Aluminum Company of Americaの略称。世界最大のアルミニウム会社。メロン財閥*系企業の一。1886年に発見されたアルミニウムの製造法を企業化するために,1888年にピッツバーグ-レダクションとして設立,その後1907年にアルコアに改名した。第2次世界大戦まではアメリカのアルミニウム製造の100％独占体として市場を支配し，ボーキサイト鉱床・水力発電資源をも独占していた。海外進出に積極的で，国際アルミニウムカルテル結成の推進者であり，1928年にはカナダ法人のアルミニウム-リミッテッド(現在のアルキャン)を設立したが,1950年に反トラスト法違反判決が出され，両社の完全分離が命ぜられた。アルコアはわが国の古河アルミニウムに3分の1の出資を行なっており，アルキャンは日本軽金属に50％出資している。アルコアの在外組織は16か国，25か所に及び，このほか多数の国に子会社をもつ。年間売上高15億5,000万ドル，従業員数48,600(1969)。〔氏家　尚〕

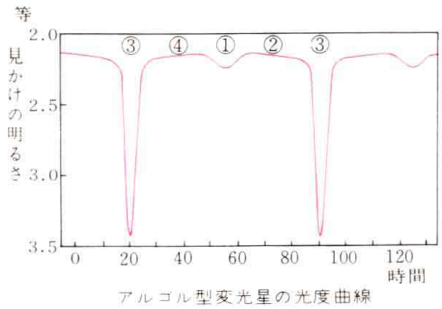
アルゴス［Argos］ギリシア，ペロポネソス半島北東部を占める地方名であり，都市の名でもある。アルゴス市は鉄道・道路交通の中心で，穀物・野菜・たばこの取引が多く，農産物加工も盛ん。青銅器*時代に起源をもつといわれるギリシア最古の都市。山に囲まれた沃野(よくや)アルゴスが古代ギリシアに占めた地位は高く，紀元前9～紀元前8世紀にはペロポネソスの大部分を支配した。スパルタが強力になって以後はアテナイ陣営にはいった。ギリシアがトルコ支配を脱する独立戦争(1821～1829)時には,独立運動の拠点となった。〔梶川勇作〕

アルゴナウチカ［Argonautika］〈アルゴ号遠征物語〉の意。ギリシアの古い民話の一。イオルコスの王子イアソン*が黄金の羊皮を取りにコルキスめざして出航する。もの言う船アルゴ号に当代の名だたる英雄，オルペウス*やヘラクレス*らも乗り込み，いくたの冒険を重ねつつコルキスに至る。コルキスの王女で魔女でもあるメディアの助けで黄金の羊皮を手に入れたイアソンは，さらに冒険を重ねて帰国する。アポロニオス*をはじめとする多くの詩人によって同名の詩編が書かれている。〔久保正彰〕

アルコーブ［alcove］へやや廊下やホールなどの一隅(いちぐう)に，間仕切りを設けず，壁を引き込ませてつくったへこんだ小空間。ときとしては屋内ばかりでなく，西洋庭園の石がきや生けがきのへこみ部分をもいう。人が出入りできないようなへこみはアルコーブとはいわない。➔ニッチェ



変光星アルゴル



アルゴル型変光星の光度曲線

アルゴル型変光星　光度曲線の①②③④は，変光星アルゴルの図の①②③④の位置に対応する

アルコール［alcohol］①狭い意味ではエチルアルコール*のことをいう。②広い意味ではアルコール類の総称として用いられる。炭化水素の水素原子を水酸基で置換して得られる化合物で，その水酸基の数により一価アルコール・二価アルコール・三価アルコール・…と分類される。また，水酸基のついている炭素についているアルキル基の数が0または1個ならば一級アルコール，2個ならば二級アルコール，3個ならば三級アルコールという。なお，芳香族炭素に水酸基が結合しているものは酸性のフェノール類であり，アルコールとは性質を異にする。メチルアルコール・エチルアルコール・ブチルアルコール・アミルアルコール・アリルアルコール・ベンジルアルコール・フルフリルアルコールなどがある。

天然には多くエステル*として存在し，低級の一価アルコールは植物精油中に，高級の一価アルコールは動植物のロウ中に存在する。三価アルコールであるグリセリンは高級脂肪酸とのエステルとして動植物の脂肪油中に広く分布している。その他の多価アルコールも多種のものが動植物界に存在する。また，不飽和アルコールはテルペン類として天然に見いだされている。製造法としては，エステルの加水分解，ハロゲン化アルキルの酸化銀による分解，オレフィンへの水付加，第一アミンの亜硝酸酸化，脂肪酸またはエステルの還元，グリニャール反応などがあり，ことに低級の飽和一価アルコールは発酵によってもつくることができる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

アルコール アポリネール*の第1詩集(1913)。愛情の悔恨，青春の感傷といった古くからある主題を，文字を模様のように並べて書いた新しい手法や，従来の文章法を破った句読点のない自由な韻律によって奔放にうたい，現代詩のとびらを開いた画期的な詩集。シャンソンとしても有名な《ミラボー橋》などを収める。

アルゴル［Algol］ペルセウス座*のβ星。冬の北天に輝く代表的な食変光星*。B型の主星*とG型の伴星*が2.9日の周期で共通重心のまわりを公転している。主星*が伴星の向こう側に回るときには，数時間の間に光度が2.5等から3.5等に減り，その変化は肉眼でも認められる。

アルコールいんりょう【アルコール飲料】⇨酒

アルコールおんどけい【アルコール温度計】⇨液体温度計

アルゴルがたへんこうせい【アルゴル型変光星】アルゴル*と同じような光度変化を示す食変光星*。アルゴルのほかにおうし座のλ星，てんびん座のδ星，ぎょしゃ座のWW星などがその代表的な例である。

アルコールだっすいそこうそ【アルコール脱水素酵素】脱水素酵素の一種。エチルアルコールをアセトアルデヒドに酸化す

る。補酵素としてNADを必要とし，

$$\begin{array}{l} R\cdot CH_2OH \\ R\cdot CHO \end{array} \; \begin{array}{l} NAD \\ NADH+H \end{array}$$

反応に際しNADは還元される。この酵素はさらに亜鉛Zn^{++}が加わらないと反応が進まない。この金属は補酵素・基質・タンパク質の間に橋をかけて，互いに反応を起こりやすくしていると考えられている。

アルコールちゅうどく【アルコール中毒】 エチルアルコール(酒類)飲用により起こる急性および慢性の中毒。急性中毒はアルコール分を一時に多量に摂取するとき起こるが，身心に及ぼす影響は個人差があり，また同一人でも状態・状況により差異が大きい。通常，呼気中・血液中・尿中などの含有量を検査し，酩酊度(めいていど)を判断する。酩酊の程度は必ずしも体内に摂取された酒量と一致しないが，一般には吸収された血中アルコール濃度と急性症状との間に次のような関係があるといわれている。①弱度酩酊(微酔)：濃度0.05～0.1％ 顔面潮紅，発汗，尿量増加，血圧と体温の軽度上昇。②軽度酩酊(発揚期)：濃度0.1～0.15％ 顔面潮紅の増強，多弁・爽快感(そうかいかん)・手指振顫(しんせん)，人格はほぼ正常に保持。③中等度酩酊(興奮期)：濃度0.15～0.25％ 興奮麻痺(まひ)症状の出現，運動・歩行失調，言語不明瞭(ふめいりょう)，気分動揺刺激性。④強度酩酊(麻痺期)：濃度0.25～0.35％ 冷汗・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・歩行不能・意識混濁，反射の鈍麻。⑤死の危険：濃度0.35～0.5％ 昏睡(こんすい)・呼吸麻痺・急性心衰弱で死に至る。

慢性アルコール中毒は飲酒が習慣性となり，つねに身体的・精神的障害を伴うような状態のもの。治療は絶対禁酒が必要であるが容易ではない。最近は抗酒剤アンタビュース*が効果をあげている。〔朝倉 了〕

アルコールていりょう【アルコール定量】 酒精定量ともいう。液体中に含まれるエチルアルコールの含有量をはかること。物理的定量法と化学的定量法とがある。物理的定量法には，①比重法(浮きばかりなどを使う)，②屈折率法，③ガスクロマトグラフィー法などがあり，化学的定量法には①比色法，②エステル化法などがある。また，厳密な意味での定量ではないが，血液中のアルコール濃度を推定するため，呼気中のアルコールの還元力によってクロム酸塩を変色させる通称酔っぱらいメーターがある。〔三輪誠・宇山裕〕

アルコールはっこう【アルコール発酵】 糖類を嫌気(けんき)的に分解して，アルコールと炭酸ガスにする発酵で，呼吸の一種(無気呼吸)である。この発酵を行なう微生物は，かび・細菌・酵母であるが，工業的に重要性をもつものは酵母だけである。微生物の作用によって生じるアルコールには，エチルアルコール・n-ブチルアルコール・イソプロピルアルコール・グリセリンなどがある。エチルアルコールの生成は酵母の場合，ブドウ糖を基質とし，そのリン酸化に始まり，エムデン-マイヤーホーフ-パルナス図式として知られている解糖過程で分解が行なわれ，ピルビン酸に至り，酵母の有するピルビン酸脱炭酸酵素によってアセトアルデヒドを生ずる。これにアルコール脱水素酵素の作用でエチルアルコールとなる(→発酵 →解糖)。

$$\underset{\text{ピルビン酸}}{CH_3COCOOH} \xrightarrow{CO_2} \underset{\text{アセトアルデヒド}}{CH_3CHO} \xrightarrow{NADH_2} \underset{\text{エチルアルコール}}{CH_3CH_2OH}$$

アルコール発酵は，昔から酒類の醸造に利用され，発酵の中でも古い歴史をもつものである。エチルアルコールの製造は，主原料として糖質原料(廃糖みつなど)・デンプン質原料(サツマイモ・トウモロコシなど)・セルロース系原料(木材・亜硫酸パルプ廃液など)が用いられる。酵母により発酵が終了した熟成もろみの中には，アルコール以外に種々の物質が混在しているので，濾過(ろか)により繊維・菌体などの固形分を除き，蒸留装置により沸点の差を利用して，酸・高級アルコール・アルデヒド・エステルなどを分離して純粋なアルコールが得られる。

日本酒の製造は，白米のデンプンがこうじ菌の酵素で糖化され，さらに清酒酵母の発酵作用でアルコールが生産される工程を取る。日本酒発酵の場合，発酵原料として蒸し米を用い，そのうえ，醸造過程で種々のかび・細菌・酵母などが混入するので複雑な化学変化が行なわれ，主産物のアルコールのほかに，副産物として日本酒独特の香味成分ができ，これが特有の風味となる。ビール発酵の場合は麦芽を発酵原料とし，ビール酵母で発酵させて製造する。ビール発酵は，わが国で生産されている他の醸造物とは異なり，単一種の微生物により生産されることを特徴とする。ビールには，特有な芳香とさわやかな苦みを与え，さらにあわもち・防腐性を与えるためにホップが添加される。ぶどう酒はブドウをつぶし発酵させてつくる。赤ぶどう酒・白ぶどう酒・生ぶどう酒・甘味ぶどう酒の別がある。ブドウ果には酵母をはじめ，糸状菌・細菌などが多数付着しており，これが絞りじるに移行し，また空気中からも各種微生物が混入してぶどう酒生産の上に種々の利害を及ぼす。このほかしょうちゅうはサツマイモを原料とし，泡盛(あわもり)はアワまたは砕け米を原料として発酵させ，それぞれの発酵物を蒸留したもので，ウイスキー・ブランデーなどとともに蒸留酒ともよばれる。〔伊藤力雄〕

アルコン［Archon］ 古代ギリシアのポリス*の最高統治者の称。アテナイでは終身のアルコンが9人おり，祭司をつかさどる者を王(バシリウス)とよんだ。私有財産保護の任にあたるアルコンはエポニモスとよばれて最も重視され，その名は年号に用いられた。ソロンの改革*では第1階級のみが選挙権をもってアルコンを選出したが，のち志望者中からくじ引きで選び，その任期も1年となった。

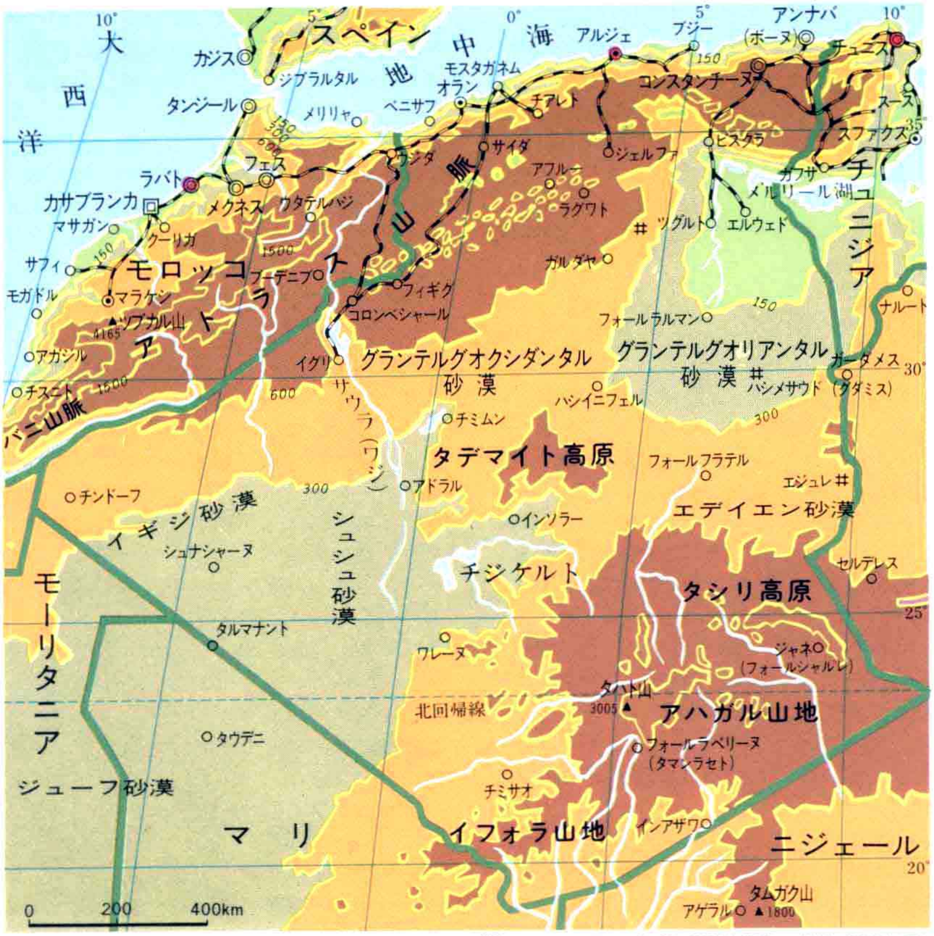
アルゴン［argon］ 周期律表第0族に属する希ガス元素の一。記号Ar，原子番号18，原子量39.948。1894年にイギリスの物理学者レーリーと化学者ラムゼーにより空気中から発見された無色・無味・無臭の不活性気体。窒素・酸素以外の空気の成分のうちで最初に発見されたものである。空気中には体積で0.93％，重量で1.29％含まれ，希ガス元素のうちで最も多い。密度は0℃，1気圧において1.784g/lで空気の1.38倍である。沸点が窒素と酸素の中間にあるので，空気を液化しこれを分留して得られる。化学的にきわめて不活発で，どんな状態でも他との反応性を示さない。アルゴンという名称はギリシア語のauergon(怠け者)に由来する。電球内に封入してフィラメントの消耗を防ぐほか，アルミニウムの溶接，チタン・ジルコン・ウランなどの金属の精練などの際，保護ガスとして用いられる。また螢光燈(けいこうとう)などの放電管に用いられる。〔西村文雄〕

アルゴンヌ［Argonne］ フランス北東部，ミューズ左岸，ミューズ・アルダンヌ・マルヌの3県にまたがる丘陵森林地帯。東辺はベルギーとの国境に近い。〈アルゴンヌの森〉ともいう。標高は350m程度であるが，深い谷が刻まれ，交通はきわめて困難である。ロレーヌとシャンパーニュ両地域の天然の障壁であり，古来，戦略上の要地とされ，第1次世界大戦中，幾度か激戦場となった。

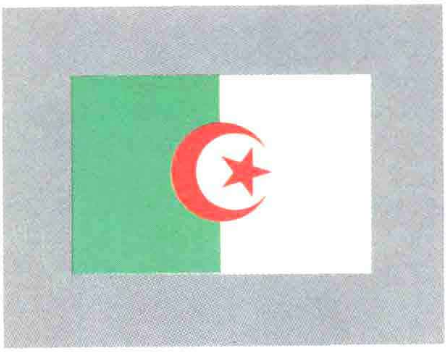
アルザス ⇨アルザス-ロレーヌ

アルザス-ロレーヌ［Alsace-Lorraine］ フランス北東部，ライン川西岸の地方。アルザスはライン川とボージュ山地にはさまれた平地で，ぶどう酒などの農産物を産し，ロレーヌはボージュ山地を越えて北西に広がる平地で，ヨーロッパ第1の鉄鉱産地であり，石炭も産する。この豊富な地下資源をめぐってドイツとの間に争奪がくり返され，所属がたびたび変わり，〈アルザス-ロレーヌの振り子〉とよばれた。アルザス-ロレーヌとよばれるのは，プロイセン-フランス戦争*後のフランクフルト条約(1871)によって，フランスがこの地方をドイツに割譲してからのことである。その後ドイツ化政策が強く行なわれたが，第1次世界大戦後のベルサイユ条約*によってフランスに帰属した(1919)。第2次世界大戦中も一時(1940～1944)ドイツ軍の占領下にあった。現在，フランスの上ライン・下ライン・モーゼルの3県に属する。〔梶川勇作〕

アルザマス［Arzamas］ ロシアの文学者サークル(1815～1818)。カラムジーン*の新しい文章語を支持するロマン主義的傾向の詩人たちが，保守的な国語純正主義者の

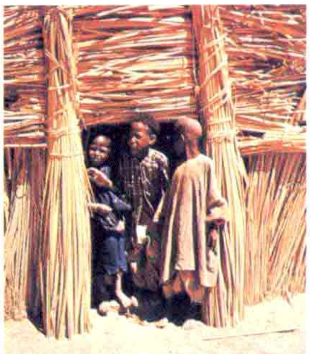


アルジェリア



アルジェリアの国旗　激しい独立戦争を象徴して，デザインがきびしいものになったといわれている。色を波長の値で指定している珍しい旗で，月と星はイスラム教徒の国であることを示している





アルジェリア　(左)市街の北端にあるカスバ地区。海岸に臨む高台の斜面に沿って迷路の多い屋並みが続き，ここに40,000～50,000の人々が住む　(右)アルジェリア南部，サハラ砂漠のホガル(アハガール)台地地方の住民の民家。家屋材料はパピルスなどの草が使われている

ロシア語愛好者協会に対抗してペテルブルク(現在のレニングラード)に結成。会員はジュコーフスキー*・プーシキン*ら約20名。

アールシーエー　［RCA］　ラジオ・テレビ・無線機器・コンピューターなどの生産のほか，ラジオ・テレビの放送網を全米にもつ電子工業メーカー。1919年にゼネラル-エレクトリック*の資本によって設立され，1930年に反トラスト法の適用を受け独立した。技術開発に特に力を入れており，1942年にプリンストン研究所を設立，1967年にはファクシミリ新聞の開発に成功し，世界の注目を浴びた。宇宙開発や軍事面で，アメリカ政府と巨額の契約を結び，数多くの製品を提供している。輸出では放送設備やトランジスター-テレビ・カラーテレビ・テープレコーダーを中心に伸びている。カナダ・イギリス・イタリアなどに進出し，カラーテレビの工場を建設，わが国では，日立・東芝・日本電気など数社が技術提携している。本社ニューヨーク。1969年5月，旧社名Radio Corporation of Americaを変更。年間売上高31億9,000万ドル，従業員数12万8,000(1969)。　〔氏家　尚〕

アルジェ　［Alger］　アフリカ大陸北部，アルジェリア民主人民共和国の首都。地中海に面する同国の海岸地帯のほぼ中央に位置する。人口90万4,000(1972)。農産物の集散地であるとともに，ぶどう酒・たばこなどの農産加工工業も発達し，果実・小麦・羊毛などがこの港から輸出される。フランス植民地時代の伝統もあってフランス人がかなり多く，原住民ベルベル人と混在している。市内の丘の傾斜地にあるカスバ(城の意)は原住民の古い街区で，迷路のような狭い路地が縦横に走り，独立戦争時，ゲリラの潜む場所に使われた。　〔小栗　宏〕

アルジェけんしょう　【アルジェ憲章】　1967年10月，アルジェリアの首都アルジェで開催された低開発国閣僚会議(77か国グループ)で採択された，低開発国側の経済・社会開発促進に関する統一要求。1968年2月に開催の第2回国連貿易開発会議に備えて，低開発国側が先進国に対する諸要求を盛り込んだものである。一次産品*，製品・半製品，援助，貿易外取引，貿易原則などに関し，国際商品協定*・貿易自由化・関税特恵や援助費の増大と条件緩和などを含む網羅(もうら)的・徹底的要求が掲げられており，低開発国全体の援助に関する最大公約数的考えを示している。　〔深海博明〕

アルジェシラスかいぎ　【アルジェシラス会議】　第1次モロッコ事件*(タンジール事件)解決のため，1906年，スペインのアルジェシラスで開催された国際会議。モロッコにおけるフランスの優越的地位を認めた1904年のイギリス-フランス協商*に対して，ドイツは1880年モロッコ協定調印国による国際会議の開催をアメリカに呼びかけた。T.ローズベルト大統領は問題の平和的解決を希望し，イギリス・フランスを説得して会議に出席したが，フランスの勢力圏をおさえようとするドイツの非妥協的態度に反発し，フランスを支持した。このためドイツの目的は挫折(ざせつ)し，フランス・スペインは列強の支持を得て，モロッコの警察権と国立銀行を支配下に収め，優越的地位を確立した。　〔折井一彦〕

アルジェリア(民主人民共和国)　［Democratic People's Republic of Algeria, Republique Algérienne］　アフリカ大陸の北部にあり，国土はアトラス山脈とサハラ砂漠(さばく)が大部分を占めている。西はモロッコ，東はチュニジア・リビアと接し，南はモーリタニア・マリ・ニジェールと境す

る。面積238万km²，人口1,913万(1978年推)。首都アルジェ。

〔自然・住民〕アトラス山脈は高度2,400m程度で西から東に低くなり，山脈の南部は台地状で，そこから流出する河川はすべて*ワジ(枯れ谷)である。山脈の北側は地中海性気候で雨が少なく，温暖な気温である。雨量は東部にいくほど多くなり，アルジェの年降水量は691mmである。

住民の約90%はアラブ人とベルベル人で，ヨーロッパ人は10%に満たず，その3分の2はフランス人，ほかに少数のイタリア人・スペイン人などがいる。アラブ人とベルベル人は混血してほとんど区別がつかず，いずれもイスラム教を信じ，アラビア語を話す。フランス人はおもにコルシカ系の者が多く，イタリア語も通ずる。フランス人の多くは地中海岸地方に住み農業を経営していたが，アルジェリア独立戦争後はほとんど本国へ去った。

〔産業・経済〕主産業は農業と牧畜で，アトラス山脈の南側から砂漠にかけては遊牧を中心とし，オアシスで小規模なナツメヤシの栽培がみられ，地中海沿岸ではオレンジ・ブドウ・オリーブなどをはじめ，小麦・野菜類が栽培される。都市および近郊では，ぶどう酒醸造・製粉・たばこなどの農産加工業が発展している。この地域での家畜はヒツジが多く，フランス人から接収した牧場で放牧している。鉱産資源には恵まれ，鉄鉱・マンガン・石油が有望で，特に石油はサハラ砂漠中のハシメサウドを中心とする油田から産出し，推定埋蔵量は30億tといわれ，石油資源をもたないヨーロッパにとって最も近い産出地となっている。また天然ガスの埋蔵もあり，石油とともに開発が急速に進んでいる。地中海沿岸をモロッコとチュニジアを結ぶ，若干の支線をもった主要幹線鉄道が走るほかには鉄道はあまり発達せず，道路情況も悪い。

〔歴史・政治〕11世紀に原住民ベルベル人の土地にアラブ人が侵入し，アルジェリアはイスラム教化した。16世紀にはトルコ，19世紀以後はフランスの勢力下に置かれ，以来コロンといわれるフランス人移民が来住して開拓を行なうようになり，原住民の土地は次々に失われていった。これに反発して，1925年から組織的な独立運動が始まり，ゲリラ活動がくり返され，1962年ついにフランスから独立し，大統領をもって共和制の国となった。独立後の経済開発は必ずしも十分とはいえず，アラブ人とベルベル人との人種対立問題をかかえている。〔小栗　宏〕

アルジェリアみんぞくかいほうせんせん〔アルジェリア民族解放戦線〕 ⇨FLN

アールシーディー〔RCD〕 ⇨地域協力開発機構

アルジャー〔Horatio Alger〕(1834～1899)　アメリカの少年読み物の作者。《運と勇気》《ぼろぎのディック》など数多くの作品がある。いずれも貧しい少年が努力と忍耐によって成功する物語で，19世紀末のアメリカ都市生活者の成功への夢を描いた。

アルス-アンティクア　〔ars antiqua〕ラテン語で，古い技法または古い理論の意。14世紀初頭のフランスで，*アルス-ノバに対することばとして使用された。1300年以前の3分割りを主体とする*定量記譜法およびこの記譜法にかかわる音楽技法一般をさす。転じて現在の音楽史学では，フランス音楽史の一時代区分または時代様式を表わす述語として用いられる。この際，ノートルダム*楽派の時代を除いて1230～1240年から1315～1325年とする場合と，これを含めて1150～1160年から1315～1325年とする2説がある。〔吉田泰輔〕

アルス-ノバ　〔ars nova〕　ラテン語で，新技法または新理論の意。14世紀初頭のフランスで，*アルス-アンティクアに対することばとして使用された。3分割りのほかに2分割りを導入した*定量記譜法，およびこの記譜法にかかわる音楽技法一般をさす。転じて現在の音楽史学では，フランス音楽史の1315～1325年から1370～1380年の時代様式または時代区分を表わす述語として用いられている。また，ほぼ同時代のイタリア音楽史の様式・区分に適用されることもある。アルス-ノバの音楽は，一般に世俗化・表現化・感覚化の傾向がみられる。〔吉田泰輔〕

アルゼンチン(共和国)〔Argentine Republic, República Argentina〕　南アメリカ大陸南部の大西洋岸に臨む共和国。西はチリ，北はブラジル・パラグアイ・ウルグアイと接する。面積276万7,000km²。人口2,673万(1978年推)。首都ブエノスアイレス。ブラジルとともに南アメリカの大国で文化水準も高く，鉄道延長は南アメリカ諸国中最も長い。経済の主軸をなすものは農牧業で，鉱産資源の埋蔵も豊富であるが現在のところ工業に十分利用されているとはいえない。

〔自然・住民〕《地形》地形は大別して草原地帯であるラプラタ川流域平野，その南に連なるパタゴニア高原，西部国境を形づくるアンデス山地の三つに分けられる。ラプラタ平野は延長4,700kmに及ぶラプラタ川によって潤され，平野の南部はパンパ(平原の意)とよばれる約60万km²の草原で，この国で最も開発の進んだ地域である。北部の草原はグランチャコ(大狩場の意)とよばれ，古くは野牛の狩猟が盛んな地域であった。パタゴニアは300～1,000mの高原で，氷河の侵食による地形が卓越している。アンデス山地は北部に高くアコンカグア山(7,021m)のような火山がそびえ，南はしだいに低くなって高原となり氷河もみられる。

《気候》ラプラタ川下流は温帯湿潤気候で，海岸寄りの地域は日本西南部の気候と似ていて湿潤パンパとよばれ，土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)で農・牧とともに好適な地域である。パンパの内陸部(乾燥パンパとよばれる)とグランチャコは雨の少ない草原地帯で，農業には適さない。アンデス山地は高山気候を呈し，特に南部の高原からパタゴニアにかけては1年じゅう冷涼で風が強く，土壌がやせており，樹木は育たずわずかに草がはえているにすぎない。



アルゼンチンの国旗　薄い青は，青空とともに，国名の起源である〈銀〉を表わしている。中央に描かれている太陽は〈五月の太陽〉とよばれ，独立戦争当時，連日の悪天候が最後の戦勝の日に晴れわたったことからきている





アルゼンチン　(左)広大なパンパの小麦畑の収穫風景。コンバインやトラクターが使われて，袋詰めにされる　(右)パンパの牧牛地で働く牧夫(ガウチョ)は乗馬・投げなわなどが特技で，ウシの暴走を監視する

〈住民〉かつてスペイン人が南アメリカに求めたものは貴金属を中心とする鉱産資源を得ることにあった。気候の上ではヨーロッパ人にとって住みよい土地ではあるが，鉱産資源がなかったため長い間インディオの天地であった。しかし，19世紀にはいり，ヨーロッパ人の農牧移民が行なわれるようになってから状勢は一変し，今日では住民の90％以上がヨーロッパ人で，スペイン人が最も多く，ドイツ人・イタリア人・フランス人・イギリス人がこれに次ぐ。ヨーロッパ人は農牧場の所有者か自営農民で，インディオや混血（メスチゾとよばれる）は農牧場の労働者になっている。

〔産業・経済〕ラプラタ平野はほとんど農牧地として開拓され，首都ブエノスアイレスの周辺はかなり集多的にトウモロコシと小麦の栽培が行なわれ，近年はアメリカ式の農業機械も普及している。トウモロコシと小麦の全生産量の約50％以上は輸出され，市場である北半球諸国とは収穫期がずれるので有利な貿易を行なっている。内陸部は羊毛用のヒツジ，皮革用のウシの牧場となっているが，最近は食肉用のヒツジとウシの飼育も増加している。ウシとヒツジはブエノスアイレス・ロサリオ・バイアブランカなどの集散地に鉄道で送られ加工して輸出される。グランチャコではウシの放牧と綿作地，その東部の森林地帯では牛皮をなめすタンニンをとり，また草原地帯では用材としても利用されるケブラチョの伐採が行なわれる。南部のパタゴニアはイギリス人・ドイツ人の入植者が牧羊を営むが，それほど発展していない。アンデス山地には銅・鉄・金・銀・タングステン・マンガン・スズなどが埋蔵されているが，工・鉱業とは結びつかず，生産量も少ない。

農牧業偏重の経済から脱却するために工業化を急いでいるが，資本の蓄積が不十分なため，ブラジルに一歩遅れをとっている。鉄道は国有で，総延長は50,000kmに達している。1940年チリとの間を隔てているアンデス山腹を貫くトンネルが完成し，同国との間は1年じゅう交通可能である。

〔歴史・政治〕18世紀当時この地を植民地としていたスペインはアンデス山中の鉱産資源にのみ関心をもち，鉱産物を大西洋岸に送り出す輸送路としてラプラタ川の舟運が役だち，ブエノスアイレスはその積み出し港として栄えた。やがてパンパが野牛狩りの狩場として開発され，ウシの皮革がブエノスアイレスからヨーロッパへ送られた。19世紀には大陸全体が農牧的開発の対象になると，最も気候のよいこの国はヨーロッパから移民が続々とはいりこみ，原住民であるインディオを圧倒してしまった。やがてヨーロッパ人たちはスペインから離れて，1816年独立を宣言，1819年憲法を施行した。その後，連邦制支持派と中央集権制支持派との対立がつづいたが，53年連邦制憲法を制定し連邦国家となった。1982年4月，アルゼンチン軍がフォークランド諸島に上陸，ポートスタンリーを占領，同諸島の領有を宣言したことから，イギリスとの間に紛争が生じた。　〔小栗　宏〕



アルゼンチン

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　井油田

アルゼンチン-タンゴ　⇨タンゴ

アルタイ(山脈) [Altai] 中華人民共和国西部の新疆(しんきょう)ウイグル自治区からモンゴル人民共和国とソ連のカザフ共和国にかけて連なる大山脈群。全長1,600km,平均高度3,000m。褶曲(しゅうきょく)した古生代の地層からなり,いったん準平原化したものが再隆起したものである。モンゴルアルタイ・南アルタイ・中央アルタイ・東アルタイ・北アルタイと五つの雁行(がんこう)する山脈に分けられる。中央アルタイのバルーハ山(4,506m)が最高峰。金・銀・銅をはじめ鉱産資源が多く,オビ・イルチシ川の上流は電源地帯となっている。山上はシベリアカラマツなどの茂る森林であるが,山谷は牧草が豊富で,コサック人・キルギス人などが牧畜を営んでいる。 〔野間三郎〕

アルタイけいしょぞく 【アルタイ系諸族】 トルコ系・モンゴル系・ツングース系などの諸言語を母語とする民族の総称。さらに朝鮮族もここに加えようとし,日本語の中にアルタイ的特徴を指摘する人もある。この説は各言語の類型的特徴の共通性による分類に基づいており,それは①母音調和の現象がある,②文法的性の区別がない,③膠着語(こうちゃくご)である,④前置詞によらず後置詞を用いる,⑤主語＋目的語(補語)＋動詞のような語順をとる,などである。アルタイという名は,これら諸族の分布の中心に位するアルタイ山脈の名にちなんでいる。起源的にシャーマニズム*を共通の宗教とし,天に関する観念を発達させ,多くは狩猟・遊牧民である。ウラル語族*とともに,いわゆるウラル-アルタイ語族を形成するという仮説が出され,日本語の起源を求める試みに大きな影響を与えた。〔田中克彦〕

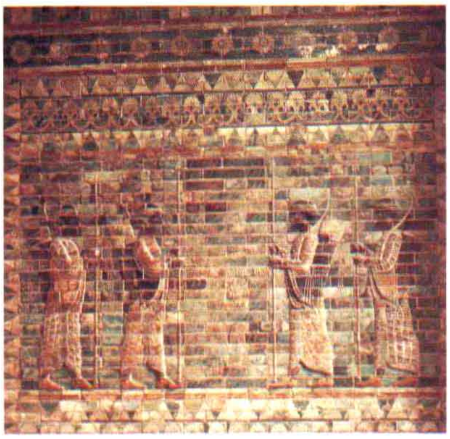
アルタイル [Altair] わし座のα星。中国名を牽牛(けんぎゅう),日本では彦星(ひこぼし)とよぶ。実視等級0.8等,A型主系列星,距離17光年。夏,南の空高く輝き,銀河をはさんでベガ*(織女星)と向かい合っている。

アルタクセルクセス [Artaxerxes]

1 1世 (?～BC424) アケメネス朝ペルシアの第5代国王。在位BC465～BC424年。祖父ダレイオス1世*や父クセルクセス1世*の対ギリシア戦争の失敗を受け継ぎ,エジプトの反乱を制圧,アテナイと講和した。王の治世にはギリシアの文物の交流が多く,ヘロドトス*も当時のペルシア世界を見聞している。

2 2世 (?～BC358) アケメネス朝ペルシアの国王。在位BC404～BC358年。ダレイオス2世の長子。ギリシア人と結託した弟キュロスの反乱を平定した。このときのギリシア兵の撤退のようすはクセノポンの《アナバシス*》に描かれた。その後もスパルタ王の侵入,エジプト遠征の失敗など多難であった。 〔高山高雄〕

アルダシール(1世) [Ardashir I] ササン朝ペルシアの創立者。在位226～241年。アケメネス王朝の故地であるファールス地方の貴族出身。ヘレニズム尊重のパルティアに代わり,伝統的ゾロアスター教を国教とするペルシア王朝を復興した。



アルタクセルクセス2世 スーサの同王王宮を飾った彩釉れんが《武人行列図》 ルーブル美術館蔵



アルタミラ洞窟 内部に描かれた野牛



アルチンボルド 《夏》 1563

アルタミラどうくつ 【アルタミラ洞窟】 スペイン北部のサンタンデル県にある洞窟で,旧石器時代後期の岩壁画がある。1879年に発見され,激しい真偽論争を経て1902年に確定した。この洞窟は不規則に長い270mのギャラリーで,壁画が集中しているのは入り口から30mはいった左側の低い天井の半円の室である。天井はかなり凹凸(おうとつ)が著しいが,その岩の隆起をうまく利用して,ビゾン(野牛)・イノシシ・シカ・ウマなどがさまざまな姿態で重ねがきされている。最上層には赤・黒・かっ色で描かれた多色画があり,色彩の並列や濃淡などの高度な技法が用いられている。その下層に,黒一色で巧みに明暗を整えた動物像があり,最下層には黒で素描ふうに描かれた動物像がある。いずれもマドレーヌ期に属する。洞窟の他の箇所には,オーリニャック期の彩画や刻画がある。顔料は酸化鉄・酸化マンガン・木炭などで,指または筆によって描かれた。 〔木村重信〕

アルタン-カン 【アルタン汗】 (1507～1581) 内モンゴルトメト部の酋長(しゅうちょう)。ダヤン-カン*の孫。内モンゴルの統一を達成し,西モンゴルのオイラート*を討った。明(みん)に対しては,毎年侵入をくり返したが,1570年に和議がなり,明から順義王に封ぜられ,以後,友好関係を保った。フフホト(帰化城)に都を置き,ラマ教のモンゴルへの拡大に貢献した。

アルチンボルド [Giuseppe Arcimboldo] (1527?～1593) イタリアの画家。ミラノに生まれ,1549～1558年ミラノ本寺のためにステンドグラスの下絵を制作,1562年プラハへ行き,1565年ハプスブルグ家*の宮廷画家となった。その後ルドルフ2世によって伯爵に任ぜられ,室内装飾・造園などに多彩な才能をみせた。果実・花・書物・野菜・風景などを寄せ集めて幻想的な頭部を描く〈複合された頭部〉は,その幻想性によってシュルレアリスムの先駆とみなされ,高く評価されている。 〔三木多聞〕

アルツィバーシェフ [Mikhail Petrovich Artsybashev] (1878～1927) ロシアの作家。ロシア写実主義の伝統に立ちながらも1905年の第1次革命の挫折(ざせつ)と反動という時代状況のもとで,きわめて虚無的な個人主義の色彩の強い作品を残した。ロシアで従来タブー視されてきた性の問題を大胆に取り上げ,この時期の青年たちに多大の影響を与えた。代表作に《サーニン*》《最後の一線》《血痕(けっこん)》など。

アールティーエフ [RTF] Radiodiffusion-Télévision Française の略称。フランスの公共放送機関。第2次世界大戦時から,1964年ORTF(フランス放送協会)に改組されるまで,フランスのラジオとテレ

ビ放送事業を独占的に運営していた国営放送。商業放送的な性格はもっていたが，政府の強い行政上・財政上の権限によって，その自主性は阻害されていた。

アルデバラン　［Aldebaran］　おうし座α星。冬の南天にすばる*と並んで輝く。実視等級0.9等，距離は70光年。視直径の実測された恒星の一つで，太陽の45倍の直径をもつK型巨星。

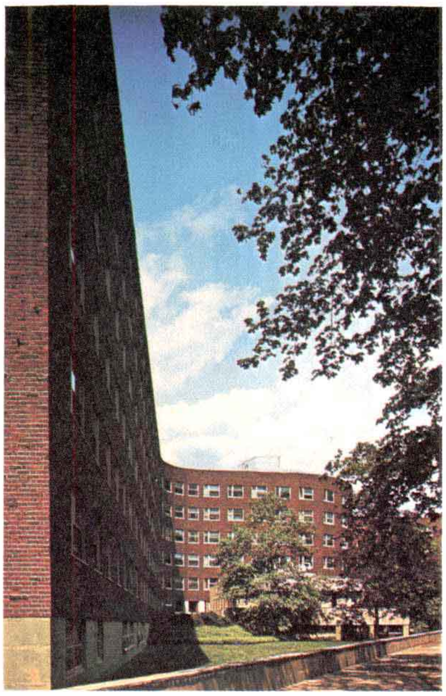
アルデヒド　［aldehyde］　アルデヒド基（－CHO）をもつ化合物の総称。R-CHOの一般式で表わされる。カルボニル化合物の一種で，もう一つのカルボニル化合物であるケトン*と性質・製法など似ている点が多い。しかし，アルデヒドはケトンと異なり非常に酸化されやすく，酸化されるとカルボン酸*を与える。したがって還元作用を有し，フェーリング液を還元して赤かっ色沈殿を生じ，アンモニア性硝酸銀溶液により銀鏡をつくる。また還元されると第一アルコールを与える。逆に第一アルコールを酸化するとアルデヒドが得られる。その他，カルボン酸のカルシウム塩をギ酸カルシウムと乾留したり，酸塩化物の還元，オレフィンのカルボニル化によってアルデヒドが得られる。高級アルデヒドは植物精油中に存在し，ベンズアルデヒドは苦扁桃(くへんとう)・ウメ・モモなどの種子中に配糖体（グリコシド）として存在する。桂皮(けいひ)アルデヒド・サリチルアルデヒド・バニリンなども植物精油中に存在し，香料として利用される。いちばん簡単なアルデヒドであるホルムアルデヒドH-CHOは，その水溶液がホルマリンとして消毒用に用いられている。その他アセトアルデヒド*・アクロレイン*などが代表的な例である。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

アルテミス　［Artemis］　ギリシア神話の女神。ローマ神話のディアナ（ダイアナ）と同一視される。ゼウス*とレト*の子で，アポロン*とは兄妹。本来，未開の大地をつかさどる女神で，したがって狩りの女神，野獣を育てる女神，さらには出産と幼児の生命の守護神でもある。また，うら若い処女神として貞潔と青春の神でもある。後代，ヘカテ*やセレネ*と混同された。

アルデンヌ(高原)　［Ardenne］　ベルギー南東部からフランス・ルクセンブルクに及ぶ高原。森林におおわれた沼沢の多い波浪状の地形である。北西部は高度400ｍ内外であるが，南東部に向かって高くなり，高度700mに達する。古生代の山地が準平原化したもので，砂岩と粘板岩からなる。北西部は石炭・鉄・大理石などを産出する。

アルト　［alto］　コントラルトともいう。女声を音域で区分する場合のその最低域。音域はふつうトからへ。なお，18世紀以前の音楽では，男性の最も高い音域をもつ声部をいい，またフランス・イタリアでは，ビオラの意にも用いられる。

アールト　［Hugo Henrik Alver Aalto］（1898～　）　フィンランドの現代建築家。1921年ヘルシンキ工科大学を卒業，のち中部ヨーロッパに学ぶ。1922年にタムペレ工業展の建築で世に認められた。近代建築の理念を北欧の伝統・自然条件に適合させるべく追求し，機能主義的近代建築に新しい方向を開いたとされる。代表作にパイミオのサナトリウム，パリ万国博のフィンランド館，マサチューセッツ工科大学寄宿舎などがある。　〔前野　嶤〕



アールト　外壁にうねりを見せるマサチューセッツ工科大学学寮（ベーカー－ハウス）　1947～1948

アルトー　［Antonin Artaud］（1896～1948）　フランスの詩人。幼少時に脳を病み，のちに麻薬常用者となり，その生涯(しょうがい)の多くを精神病院で過ごした。その狂気の中で，詩的な美を圧殺した特異な詩を書き，一時シュルレアリスム*の運動に加わった。また，早くから新しい演劇への模索(もさく)を続け，前衛的な戯曲や演劇論を発表，俳優としてもすぐれ，アンチ-テアトル*の前駆となった。おもな作品は，散文詩《神経の秤(はかり)》，評論《バン-ゴッホ》，演劇論《演劇とその形而上学(けいじじょうがく)》。〔森　英樹〕

アルトサックス　⇨サクソフォーン

アルドステロン　［aldosterone］　副腎(ふくじん)皮質の網状帯より分泌されるホルモンで，作用面よりミネラルコルチコイドとよび，腎臓の尿細管の細胞に働いてナトリウムイオンの再吸収を促す。この働きによって，血液・細胞外液のナトリウム・塩素・重炭酸イオンの量が増し浸透圧が高くなり，二次的に尿細管の水の再吸収が盛んになり，血圧を上昇させる。下垂体の副腎皮質刺激



アルトドルファー《イッソスの戦い》1529

ホルモンの分泌，血中ナトリウムの低下，腎血液流量の低下などにより，アルドステロンの分泌が促進される。

アルドステロンしょう 【アルドステロン症】 コーン症候群ともいう。副腎(ふくじん)皮質からのアルドステロン分泌が増加した病気。体内にナトリウムがたまるとともにカリウムが失われる。副腎腫瘍(しゅよう)によるときは高血圧と筋麻痺(きんまひ)などが主症状で手術によって完治する。また，腫瘍によらないものは，浮腫性疾患にみられる。診断には血中レニン測定が必要である。

アルトドルファー [Albrecht Altdorfer] (1480？～1538) ドイツ-ルネサンスの画家・建築家・版画家。父のウルリヒ-アルトドルファーも画家で，その工房に学ぶ。祭壇画・風景画にすぐれ，ことに光と空気とに注目したその風景画は深い心情を表わしている。16世紀前半のドナウ派の代表的画家とされる。

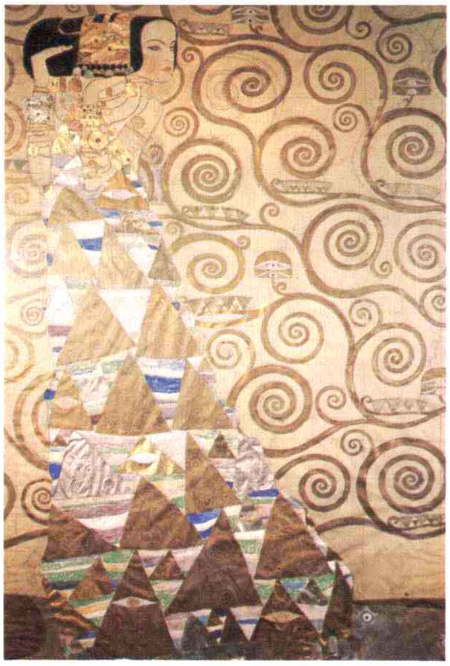
アルト-ハイデルベルク [Alt-Heidelberg] マイヤー-フェルスター*の5幕の戯曲(1901)。自作小説《カール-ハインリヒ》の劇化で，主人公カール公子と下宿屋のかれんな娘ケーティーとの巡り会い，恋，別れの物語が，青春を享受する学生群像をわき役とし，古くて美しい大学町ハイデルベルクを背景として，ユーモアと感傷と明るさと哀愁をこめて描かれている。感傷的通俗劇として当時から異常な人気があり，上演回数も多い。

アルドロバンディ [Ulisse Aldrovandi] (1522～1605) イタリアの動物学者。ボロニアに生まれ，パドバとローマに学んだのち，ボロニア大学の教授をつとめた。動物学におけるルネサンスの功労者で，特に鳥類の解剖学と発生学においてすぐれた業績を残した。

アルニム [Achim von Arnim] (1781～1831) ドイツの詩人・小説家。貴族の家に生まれ，大学で自然科学を学ぶ。イギリスやフランスに遊学し，ロマン主義的な立場から民俗的な研究を行なった。ブレンターノ*に協力して，ドイツの古い民謡を収集，後期ロマン派の最もすぐれた業績として知られる民謡集《少年の魔法の角笛》を完成した。小説には《王冠をまもる人々》《エジプトのイザベラ》などがある。

アルニム [Bettina von Arnim] (1785～1859) ドイツ後期ロマン派の女流作家。ブレンターノ*の妹で，アヒム-フォン-アルニム*の妻。ゲーテ*の熱烈な崇拝者で，その熱情的な書簡小説《ゲーテとある子どもとの文通》は 若いころ彼女がゲーテとの間に取りかわした書簡を骨子としたもので，ゲーテ研究のための貴重な興味ある文献である。彼女の家は，詩人・芸術家のサロンとなった。





アール-ヌーボー (上)オルタ ブリュッセル，ルイーズ通り，ソルベイ邸の階段の手すり 1895～1900 (下)クリムト《期待》 1905～1909



アルパカ

アール-ヌーボー [Art Noubeau] おもに工芸・建築に現われた19世紀末ヨーロッパの装飾美術の一様式*。〈新芸術〉の意。イギリスの工芸家モリス*の影響によって，ベルギー・フランスを中心にして興り，やがてはドイツ・スペイン・アメリカに及び，ドイツでは〈ユーゲント-シュティール〉，イギリス・アメリカでは〈モダン-スタイル〉とよばれた。その特徴は，植物の形態によった柔軟な，しかも流動的な曲線・曲面を多用し，セメント・鉄・ガラスなどの新材料を好んで用いたことにある。これは，当時のビアズレー*・ムンク*らによる絵画の傾向とも関連があり，彼らの幻想的な曲線による構成は大きくデザイナーに影響を与え，壁面・家具・装丁・さし絵などはたちまちアール-ヌーボーによって風靡(ふうび)された。ベルギーのオルタ*・バン-デ-ベルデ*，フランスのガレ・ラリック，オーストリアのホフマン・クリムトらは，この様式の作家としてよく知られている。 〔末吉雄二〕

アルバイト ⇨チョウ石

アルパカ [alpaca] 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ラクダ科。南アメリカのチリ・ペルー・ボリビアの海抜4,200～4,800mほどのアンデス山岳地帯で飼われている家畜。ラマより小さく体長2m，肩高0.9mほどで，四肢(しし)が短い。ふつう1年じゅう放牧されるが，毛を刈り取るときだけ町に運ばれる。毛は長く地面近くまでたれ下がる品種と，さほど長くないものとがある。毛およびその織物地もアルパカとよばれる。毛は長く光沢に富み，色は白色・かっ色などで，天然色で用いられることもある。織物としてはたて糸に綿糸，よこ糸にアルパカ糸を用いて交織したものが普通で，洋服の裏地に使われる。この外観を模倣した化繊織物もある。

アルバカルケ [Albuquerque] アメリカ合衆国ニューメキシコ州中部の地方中心都市。人口24万4,000(1970)。リオグランデ川上流域の農林業・鉱業地域を背景にした近代都市で，州立大学がある。

アルハーゼン [Ibn Alhazen] (965ごろ～1038ごろ) アラビアの物理学者。本名イブン-アル-ハイサム。ファティマ朝に招かれ，ナイル川の水利工事に従事したが失敗し，シリアにのがれた。また，数学・天文・医学・哲学に関する著述があるが，中でも《光学大全》は有名。この中で，目の構造を説明し，光の反射と屈折についての研究成果がまとめられている。その他，球面鏡・放物面鏡・凹面鏡(おうめんきょう)などの原理を明らかにした。 〔根本順吉〕

アルバータ(州) [Alberta] カナダ西部の州。面積64万4,000km²。人口162万8,000(1971)。州都エドモントン。州名はカナダの総督をしていたL.C.アルバータの名にちなんで命名された。平原3州の最西端部を占め，南西境はカナディアン-ロッキーで，州の大半はその東側に展開する。小麦をはじめオート麦・大麦・ライ麦の生産が多く，肉牛の飼育も盛んである。石炭の生産は全国の3分の1以上を占め，石油・天然ガス・瀝青砂(れきせいさ)などの鉱産もある。最近は特に，石油の産出が急増している。主要都市は，エドモントン・カルガリーなど。

〔相村大彬〕

アルバータ(山) [Alberta] カナダ北西部にある高山。ロッキー山脈中，カナディアン-ロッキーに属し，アルバータ州とブリチッシュコロンビア州との境界付近にそびえる。高度3,619m。氷河・峡谷・湖があってけしきがすぐれ，ジャスパー国立公園に含まれる。1925年，槇有恒*(まきありつね)が初



アルバニア


アルバニアの国旗　1945年制定。〈双頭のワシ〉はアルバニアが，東洋と西洋の中間にあることを示し，星は社会主義国家を理想としていることを表わしている


アルバニア　アルバニアは古代ローマ帝国の一部であったため，国内に当時の遺跡が多く残されている(アポロニアの遺跡)

登頂した。

アルバニア(人民共和国)［People's Republic of Albania, Republika Popullóre e Shqipërisë］バルカン半島南西部の共和国。北東はユーゴスラビアに，東南はギリシアにはさまれ，西はアドリア海に面している。面積29,000km²。人口267万(1978年推)。首都はチラナ。

【自然】国土の大部分が山地で，狭長で低湿な海岸平野からすぐ丘陵(500～1,000 m)になり，ジナルアルプス山脈に続く。山地は一帯に白亜紀の石灰岩からなり，カルスト地形がみられる。海岸平野は地中海式気候で，温暖で乾・雨季がはっきり分かれるが，山間部は中部ヨーロッパの気候に近く，この別ははっきりしない。気温は緯度のわりに低い。

【住民・歴史】古代アーリア人の流れをくみ，バルカン最古の民族といわれるアルバニア人の単一民族国家。ゲグ族・トスク族など部族結合が強く，統一国家を形成することなく，長くゴート人・ブルガリア人・ノルマン人など他民族の征服と侵略下にあった。15世紀にはトルコ領となったが，1921年，バルカン戦争の際にイタリア・オーストリアの協力を得て独立を宣言した。1946年，人民共和国となり，以来社会主義国家をめざしている。1961年以来，ソ連と国交を断ち，中国を唯一の友好国としたが，その後，国交断絶状態となった。言語はアルバニア語。宗教はイスラム教が65％を占め，ほかにギリシア正教・カトリック教徒がいる。

【産業・文化】主産業は牧畜で，ヒツジ・ヤギ・ウシ・ラバを飼うが，農業は耕作面積が国土の11％にすぎず，自給もむずかしい。人民共和国になってから工業化が進み，クローム・石炭・石油の採掘と木材・皮革製造・農業機械・自動車部品・石油化学工業などが興った。大学は1957年に一つでき，病院もしだいに増加しつつある。国家権力の最高機関は，任期4年，定員134名の人民議会である。元首は幹部会議長。政党は勤労者党のみ。〔野間三郎〕

アルバレス［W. Lowis Alvarez］(1911～　) サンフランシスコに生まれ，シカゴ大学を終えて1945年カリフォルニア大学教授。ローレンス放射線研究所副所長。水素泡箱(あわばこ)を用いる素粒子の観測と解析に貢献し，1959年の反λ粒子をはじめ多数の新しい素粒子(およびその共鳴状態)を発見した。1968年度ノーベル賞を受賞。第2次世界大戦中はマサチューセッツ工科大学でレーダーの研究に従事，ロスアラモスの原爆計画にも参加した。〔藤村　淳〕


アルハンブラ宮殿

アルバレス-キンテーロきょうだい【アルバレス-キンテーロ兄弟】兄セラフィン Serafín Álvarez Quintero(1871～1938)・弟ホアキンJoaquín Álvarez Quintero(1873～1944)。終始合作したスペインの劇作家。おもに故郷アンダルシアの庶民生活を題材とし，陽気で暖かみと機知に富む200編近い喜劇を書いた。代表作は《徒刑囚》《中庭》《過ぎゆく恋》など。

アルハンゲリスク［Arkhangelsk］ソビエト連邦西北部の同名州の州都。白海に注ぐ北ドビナ川河口付近に位置する。人口35万5,000(1972)。市の創建は16世紀で，現在は同国における北極航路最大の港市となり，モスクワへ鉄道も通じて，陸・海交通の要衝である。港は冬季には凍結するが，砕氷船を使って利用期間を延ばし，木材・パルプ・皮革などを積み出している。

アルハンブラきゅうでん【アルハンブラ宮殿】スペイン南部グラナダにあり，最後のイスラム王朝のナスル朝歴代の王が造営した宮殿。アルハンブラとは，グラナダ東部のサビカ丘陵上にあった王都全体をさし，この地方に特有の赤い土で家々が塗られていたところからの〈赤い城〉という意味である。宮殿は，その王都の中で約130×180 mの敷地を占め，中庭(パテオ)の獅子(しし)の噴水は，人々に清涼さと時の経過を知覚させる。また，建物の内部は大理石やモザイク-タイルなどで装飾されているが，ことにその天井は天空や宇宙を想起させる。〔田島　学〕

アルピニア［*Alpinia*］単子葉植物・ショウガ科・アルピニア属。南部・東アジアに約150種が分布。➔ゲットウ

アルピニズム［Alpinism］広い意味では登山のことであるが，特に近代的なスポーツとしての登山をさす。山は中世の暗黒時代，ヨーロッパ西部では神秘のシンボルとされていた。とりわけ，氷河と針峰群をいただき，奇怪で奥深い変化に富むアルプスは，サタン伝説の魔性にのろわれた山として人々に宗教的な恐怖感を与えていた。こうしたアルプスに人間復興の光をあてたのは，ルネサンス期の一部の芸術家や科学者だった。さらに18世紀，ヨーロッパ市民社会の啓蒙(けいもう)思想を時代背景として，地理上・文化上の障壁であったアルプスが，冒険科学の対象となる。未知なるもの，処女的なるものへの開拓意欲から，冒険科学はやがて科学を離れてそれ自体を目的とするスポーツ登山と発展し，アルプスで生まれ育ったアルピニズムは，近代登山の正統

的な様式となった。→登山　〔大島幸夫〕

アルビノーニ　[Tommaso Albinoni]（1671～1750）イタリアの作曲家。裕福な商人のむすことして生まれ，生涯(しょうがい)恵まれた生活を送った。1694年から1740年にかけて，ベニスで約50曲のオペラを作曲し，オペラ-ブッファの初期の代表者とされている。また器楽の作曲家としてもすぐれており，多くの室内楽団・協奏曲などを残した。J.S.バッハは，彼の作品から主題をとり，クラビアのためにフーガを作曲したといわれている。〔寺田兼文〕

アルビは　[アルビ派]　中世におけるキリスト教のヨーロッパ西部の最大の異端的部派。11～13世紀に南フランス，アルビ地方に勢力をもったのでその名がある。東方の二元論と禁欲主義思想に立ち，カトリック教会の権威とその教義を否定(キリストの人性の否認など)，政治的には反国家的思想(所有権の否定など)をとった。しだいに社会的勢力において侮りがたくなったので，ローマ教会は3回にわたる十字軍の派遣と異端審問を行なう一方，ドミニコ会・フランシスコ会の教化力も積極的に利用，ようやく1250年ごろから衰弱の途を歩み，1330年ごろには根絶した。なおこの派はカタリ派の一分派と考えられている。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

アル-ビルニ　[Abual Rayhan Muhammad ibn Ahmad Al Biruni]（973～1048）アラビア時代のペルシア人で中世科学における多方面の開拓者。医学者・天文学者・数学者・物理学者・地理学者・歴史家として《古代諸国民の年代学》《インド誌》《天文全書》など多彩な著述を残している。インド哲学や数学をイスラム世界に伝え，また，18種の宝石と金属の比重をアルキメデスの方法を用いて正確に決めた。地球自転の有無についても論じたが，結論には達していない。〔山下愛子〕

アルプ　[Hans(Jean)Arp]（1887～1966）フランスの彫刻家・画家。ミュンヘンで青騎士派に加わり，チューリッヒをはじめ各地のダダの運動に参加，のちパリでシュルレアリスム運動を推進した。単純化した形態に独自の有機的生命感を表現している。



アルプ《卵の板》1917

アルファーせん　[α線]　⇨放射線

アルファーでんぷん　[α澱粉]　生のデンプンに水を加え熱すると70～75℃の温度で糊化(こか)しはじめ，粘りが強くなる。これはデンプン分子の鎖の一部がある程度規則正しく配列して，束になっているミセル(微結晶構造)がほぐれるためで，このような状態のものをαデンプンといい，味も消化もたいへんよくなる。しかし冷却すると，またもとのミセル構造にもどり，生デンプンに近いβデンプンになる。この現象を老化とよび，一般に水分が多く，温度が低いとその反応は早く進み，食品の品質は急速に悪くなる。水分が15%以下になるように加熱乾燥すると，ビスケット・せんべいのような老化しないαデンプン食品ができる。〔岡本治良〕

アルファベット　[alphabet]　字母ともいう。言語の音声を書き表わすための記号の体系。表音文字のうち音節を表わす音節文字(たとえば日本語の〈いろは〉[i, ro, ha])に対して単音を表わす単音文字をアルファベットという。狭義ではABC，すなわちローマ字字母のことをさす。ギリシア字母の最初の2字，アルファ(α)・ベータ(β)に由来するラテン語のアルファベトゥム(alphabetum)がその語源。アルファベットの歴史は，中近東において紀元前19世紀ごろに使用されていたセム系文字にまでさかのぼる。これは東西に伝えられたが，東ではインド系諸文字，すなわちカロシュティ文字・ブラフミ文字となり，デーバナーガリー文字・パーリ文字を生み出し，さらにビルマ文字・タイ文字などの源となった。中国の唐のころ，日本にはいった悉曇(しったん)もこの系統の文字である。また，中近東ではアラム文字からヘブライ文字・アラビア文字などにも至る。西のヨーロッパではフェニキア文字を経て，ギリシア文字ができ，ここにはじめてまだ音節文字的であったセム系文字が母音文字の導入とともに単音方式のアルファベットとして完成した。ギリシア文字はキリル文字・ロシア文字，またエジプトのコプト文字を生んだのみならず，紀元前6世紀にはエトルリア人の手を経てローマ字，北欧のルーン文字などがつくられた。現在，ヨーロッパの諸言語はローマ字を，スラブ系の諸言語はロシア文字を，アルファベットとして用いるが，それ以外の言語でもローマ字・ロシア文字をアルファベットとした例が多い。しかし言語により，その文字・字数には若干の相違がある。また，アルファベットのそれぞれが一つの母音，一つの子音を表わせば理想的であるが，実際には，その最もはなはだしい例として現代英語のように1字に対していくつもの音がある場合もあり，そのような文字と音声との不一致は，正書法・つづり字の問題を起こすことが多い。〔崎山　理〕

アルファーほうかい　[α崩壊]　⇨放射能

アル-ファーラービー　[Abū Naṣr Muḥammad b. Muḥammad b. Tarkhān b. Uzlagh al-Fārābī]（870ごろ～950）イスラムのトルコ系哲学者。中央アジアのファーラーブに生まれ，バグダットで医学その他を学んだ。その後ハムダーン朝のサイフ-ウッダウラの宮廷に仕え，約80歳で没したという。その哲学の特色はアリストテレス派とピタゴラス派の妥協を図っている点にある。また，アリストテレスの注釈者として名高く，その百科事典的教養とも合わせて，〈第2の師〉とよばれた。多数の著作があったが，《理想国家論》などごくわずかが現存する。〔牧野信也〕

アルファーりゅうし　[α粒子]　α崩壊のとき放射される粒子で，実はヘリウム(^{4}He)の原子核。陽子・中性子2個ずつからなる安定した粒子。1911年α粒子の散乱からラザフォードは原子核の存在を想定し，原子核物理学へ第一歩をしるした。1948年にはカリフォルニア大学で380MeVに加速したα粒子を原子核にあて，はじめてπ中間子を人工的につくりだし，加速器による素粒子物理学のはじまりとなった。

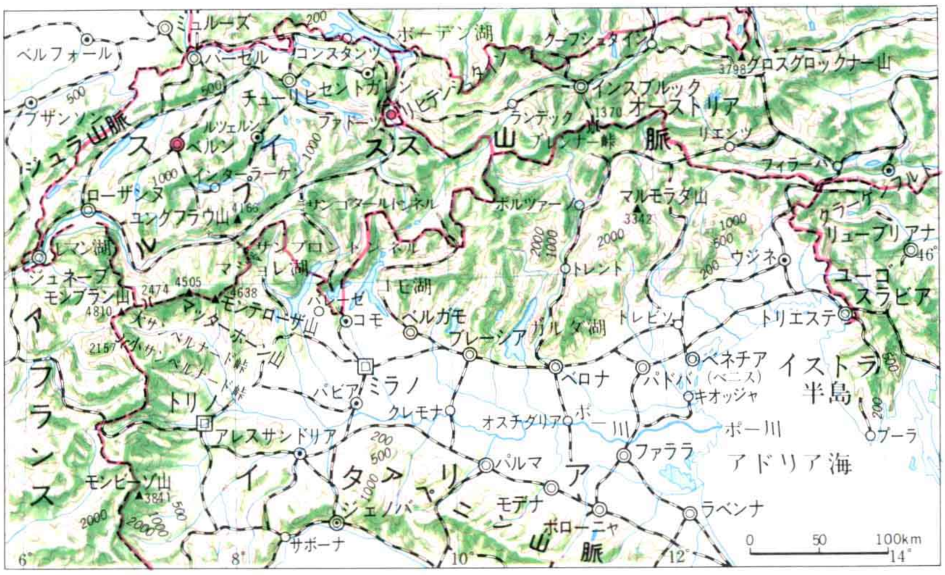
アルプ-アルスラン　[Alp Arslān]（1029？～1072）セルジュク朝第2代のスルタン。在位1063～1072年。創設者トゥグリル-ベクのあとを受けて，ファティマ朝からシリア北部を奪い，ビザンチン軍に戦勝して小アジアの大半を征服した。この西方進出は小アジアのイスラム化・トルコ化のさきがけをなし，ヨーロッパ世界に恐慌を与え，十字軍遠征をひき起こすこととなる。

アルファルファ　[alfalfa]　双子葉植物・マメ科の多年生草本。ムラサキウマゴヤシ・ルーサンともいわれる。高さ30～90cmでよく枝分かれし，葉は互生し，3小葉からなる。夏，茎の上部の葉のつけ根から枝を出し，大きさ8mmほどの淡紫色の蝶形花(ちょうけいか)を多数つける。根は深く5～10mにも達し，干害によく耐える。原産地はアジア西部で，明治初期，牧草として日本に渡来したが，いまでは道ばたにも見られる帰化植物。ヨーロッパやアメリカにおいては広大な牧場一面に植えられ，ウマ・ウシのよい飼料となっている。根に根粒があり，肥料分の少ない所でもよく育ち，上部を刈り取ってもすぐ伸びる。果実にはとげがなく軟毛を有し，一般に2～3回巻いて，中に多数の腎形(じんけい)の粒子を入れる。〔小清水義隆〕

アルフィエーリ　[Vittorio Alfieri]（1749～1803）イタリアの悲劇詩人。処女作《クレオパトラ》以降，《サウル》《ミルラ》など19編の悲劇を次々に発表，イタリア悲劇の道を開いた。圧制を排撃する熱烈な自由主義者で，作品はイタリアの政治的覚醒(かくせい)に貢献した。論文《圧制について》，詩集《フランスぎらい》，《自伝》がある。

アルフォンソ　⇨アフォンソ10世

アルブケルケ　[Affonso d' Albuquerque]（1453～1515）ポルトガルの航海







アルプス　(左)ヨーロッパの屋根アルプスの西部を占めるモンブラン山群のエギーユ-デュ-ミディの展望台より見たシャモニー針峰群の峰々。氷河の侵食による壮年期の山々は文字どおり鋭い針の山をつくっている　(右)残雪をその岩はだにまとった峰々のふもとの斜面には，森林と緑の牧場・耕地が展開する

者。インド総督。1508年2度めのインド行きで，アルメイダから総督の地位を譲り受け，1510年ゴアを占領し，ここをポルトガルの東洋経営の根拠地とした。翌年セイロン・マラッカを占領し，紅海方面の経略を企てたが，競争相手に退けられ，失意のうちに病死した。

アルプス(山脈)　[Alps]　ヨーロッパの中部と南部とを隔てる大山脈。アルプス造山運動*で生じた褶曲(しゅうきょく)山脈で，長さ1,100km，幅125～275kmに及び，面積は約20万km²。最高峰はモンブラン(4,810m)。平均高度は2,500mでヒマラヤほど高くはないが，氷河が発達し，その氷食を受けた針峰群(エギーユ)が著しい風景をつくっている。またドナウ・ライン・ローヌ・ポーなどの河川はここに源を発して諸方向に流れる。

この広い複雑な山脈は南部(フランス)アルプス・西部(スイス)アルプス・東部(オーストリア)アルプスに分けて考えられる。南部アルプスで名高いのはモンブランで，その山麓(さんろく)にシャモニーの町がある。西部アルプスにはモンテローザ・マッターホーン・ユングフラウ・アイガーなど有名な山が多く，ツェルマットやグリンデルワルトが登山根拠地として名高い。東部アルプスは幅も広く，多くの雁行(がんこう)する山脈に分かれていて，高度もあまり高くない。

この大山脈に隔てられた南北は，北が大平原，南が降水量の少ない地中海式気候と分かれるように，文化も民族も隔てられ，それぞれに違った生活が営まれるようになった。鉄道が敷設されるまでは，ナポレオンが越えたというサンプルナール(高度2,472m)やシンプロン(2,009m)・ブレンネル(1,370m)・サンゴタール(2,110m)などの峠がわずかに交流を許していたのみであった。したがって言語も，ドイツ語・フランス語・イタリア語のほかクロアチア語の用いられているところもある。

アルプスの人々は，夏はヒツジとともに山の牧場で過ごし，冬は谷間で農業に従事する移牧*(トランスヒューマンス)の形をとり，バター・チーズや麦・ジャガイモ・ブドウをつくっている。しかし，主産業は観光で，登山・避暑・スキーのために多くの施設がつくられている。　〔大石堪山〕

アルプスじんしゅ　【アルプス人種】　⇨コーカソイド

アルプスぞうざんうんどう　【アルプス造山運動】　新生代第三紀に，当時のテーチス海の地域を陸化させて，アルプス・ヒマラヤ・マライ・インドネシアなどに及ぶ大褶曲(だいしゅうきょく)山脈をつくった造山運動*。この時期の造山運動は世界各地に起こり，ロッキー山脈・カスケード山脈・アンデス山脈などの褶曲山脈をつくったカスケード変革もその一部にあたるとみられ，日本でも地殻(ちかく)変動*が激しく，小林貞一の提唱した大八州(おおやしま)造山輪廻*(りんね)がほぼこれにあたる。その影響で糸魚川(いといがわ)-静岡構造線*や大地溝帯(だいちこうたい)が生じ，古生層から第三紀層までの岩石でできた陸地は各所で地塊*に分かれた。　〔平山　健〕

アルプスのやまのしょうじょ　【アルプスの山の少女】　シュピーリ*が子どものために書いた物語(1881)。アルプスの山のアルムおじさんのもとに住む健康で清純な山の娘ハイジは，お金持ちの病身のひとり娘クララの遊び相手として町に住むことになる。しかしハイジは山の生活が忘れられず，結局山へもどる。印象的な山のけしきの中に展開するこの物語は映画にもなり，世界じゅうの子どもに親しまれている。

アルプス-ヒマラヤぞうざんたい　【アルプス-ヒマラヤ造山帯】　アルプスからカフカスを経てヒマラヤに続き，さらにインドシナ半島からインドネシアの島々に続く，地殻(ちかく)の不安定な地帯。この地帯は，新生代の激しい隆起を伴う造山運動によって生じたと考えられ，いまなお地震・火山活動と結びついている所が多い。

アルブミン　[albumin]　タンパク質を溶解性の立場から分類したときの名称の一つで，一般に水および薄い塩類溶液に可溶なタンパク質をいう。アミノ酸*だけからなる単純タンパク質*の一。動物性アルブミンとして，卵アルブミン・血清アルブミンなど，植物性アルブミンにはロイコシン(コムギ)・レグメリン(エンドウ)・リシン(ヒマ)などがある。植物性アルブミンの多くは動物体に注射すると，毒性を示す。

アルフレッド(大王)　[Alfred]　(849～899)　イングランド王。在位871～899年。ウェセックス王エセルウルフの第5子。その治世年間はデーン人の侵入期にあたっており，彼はアングロ-サクソン人の臣従を得て騎士軍を編成し，デーン人との戦いを指揮してこれを破り，878年ウェドモアの和約を結んで，ロンドンを含む南イングランドを獲得した。彼はあいつぐデーン人の侵入に対抗して海軍を増強し，またアングロ-サクソンの古法を集大成し，地方行政を州(シャイア)単位に整備した。多くのラテン書を英訳させるとともに，彼自身もベーダ*の教会史やボエチウスの《哲学の慰め》などを訳したといわれる。　〔松下京子〕

あるへいとう　【有平糖】　室町末期に輸

人された南蛮菓子の一種。ポルトガル語のalfeloa(アルフェロアー糖菓)からなまったもので，アルヘールともよばれた。《古今名物御前菓子秘伝抄》によれば，上等の氷砂糖を一度水で洗って，その水を捨て，砂糖1升に水2升を入れて砂糖のとけるまで煮る。絹ごしでこしてから煮つめてさじで少しすくって水に冷やし，薄く延ばし，ばらばらと折れるようになったとき，平鍋なべにごま油を塗り，その中に移し，なべごしに水で手につかなくなるまで冷やして，赤・青・黄などに着色したり，引き延ばして白くし，小さく切っていろいろにつくる。花・くだもの・鳥・さかなの形に細工し，昔から祝い物や供物などの飾り菓子としてつくられたが，最近では少なくなった。〔塩川ふみ〕

アルペジオ [arpeggio] 〈アルパ(ハープ)をひく〉という意味のイタリア語に由来し，和音を同時に鳴らさずに，上からまたは下から1音ずつ順々に鳴らしていくことをいう。ハープやギターだけでなく，ハープシコードやピアノでも行なわれ，合奏音楽でもこの効果を意図したものがある。なお，三味線(しゃみせん)音楽にも，〈押し重ね〉といわれる一種のアルペジオ奏法がある。

アルペジオーネ [Arpeggione] 1823年にウィーンのシュタウファーによって作製された弦楽器。チェロほどの大きさの楽器で，弦はギターと同じく6本。シューベルトは有名な《アルペジオーネ-ソナタ イ短調》をこの楽器のために書いたが，楽器そのものは不評のため10年間で姿を消した。

アルベニス [Isaac Manuel Francisco Albéniz] (1860～1909) スペインの作曲家・ピアニスト。グラナドス*とともにスペインの民族音楽の伝統を生かしながら，19世紀後半のスペイン国民音楽を築き上げた。幼少よりピアノを学び，7歳でマドリード音楽院に入学，12歳で同校を首席で卒業した。以後ヨーロッパやアメリカ各地ではなばなしい演奏活動を続けるかたわら，自分のリサイタルのために250曲にものぼるピアノ小品を作曲した。しかし，これらの作品は彼の当時作曲したオペラやオペレッタと同様，習作の域を出ていない。1893年，パリに定住してから本格的な創作が始まり，スペインの風景を原始的な色彩とリズムで描いたピアノ曲《スペイン組曲》や《イベリア組曲》などの傑作が書き上げられた。〔船山　隆〕

アルベラのたたかい 【アルベラの戦い】 BC331年，アレクサンドロス*大王がペルシアのダレイオス3世*を破った戦い。チグリス川上流のガウガメラ(アルベラ付近)で開戦され，アルベラで終わったので，〈ガウガメラの戦い〉ともいう。この勝利によってアレクサンドロス大王はペルシアの支配者となり，ヘレニズム世界形成の基を築いた。

アールベルク(峠) [Arlberg] オーストリア西部，チロルとフォル-アールベルクを結ぶアルプスの峠。標高1,802m。1884年に鉄道ができ，ザンクト-アントンとランゲン間のトンネル(最高点1,310m，長さ10,240m)により冬季も通過できるようになってから，中世以来のこの峠も特に重要性を増した。積雪期間が長く(ランゲン174日，ザンクト-アントン146日)，ウインタースポーツの中心である。

アルベルティ [Leon Battista Alberti] (1404～1472) イタリア，ルネサンス期の劇作家・音楽家・画家・数学者・建築家・建築理論家として知られる万能人。ジェノバに生まれ，ボローニア大学などに学ぶ。1431年ローマ教皇エウゲニウス4世に仕え，芸術の理論的研究を行なって1436年《彫刻論》および《絵画論》を著わす。その後，古代ローマ建築の理論をきわめ，1450年ビトルビウス*の《建築書》にならった大部の《建築論》を著わしている。また，古代ローマ建築の要素をルネサンス建築の壁面に加えた方式，いわゆる古典様式を創出し，16～17世紀を通じて，特にイタリアの寺院建築に影響を与えた。代表作に，古典様式をとった最初の作品であるルチェライ宮(1446～1451)，後代にルネサンス建築の比例と調和の好例とされているサンタ-マリア-ノベルラ聖堂*，ギリシア十字形平面を取り入れた聖セバスチアーノ聖堂(1460)などがある。〔前野　嶤〕

アルベルトゥス-マグヌス [Albertus Magnus] (1207/8～1280) ドイツのスコラ哲学者・神学者・自然科学者。ドミニコ会員。シュワーベンに生まれ，生涯(しょうがい)の大部分をケルンで過ごした。アリストテレス哲学がキリスト教義に対して有益であることを知り，アリストテレスやその注釈家たちによって蓄積された学問をラテン世界にもたらすことを意図し，多くの注解を残した。彼は哲学と宗教の領域を定め，理性は自然の領域において知識を得，信仰の真理は天啓によるとした。彼の仕事は弟子(でし)トマス-アクィナス*に引き継がれて完成した。主著《知性について》《アリストテレス注解》。〔左中庸博〕

アルペンきょうぎ 【アルペン競技】 スキーの競技種目を大きく二つに分けるとアルペン競技とノルディック競技*になるが，アルペンはアルプスの山岳地帯で発達したものである。山岳地帯のきこりや羊飼いは，生活の中で自然に高所から樹間を縫いながら滑降するスキー術を身につけた。この高所から滑降する，回転するという技術を中心として発達したのがアルペン競技である。アルペン競技は次の3種目からなり，男女ともに行なわれる。①滑降競技*：高速滑降を競うもの。②回転競技*：鋭角ターンの連続わざを競うもの。③大回転競技*：①②をミックスさせたもの。なお，以上3種目を適当に組み合わせたアルペン複合競技を行なう競技会もある。

アルペン競技がオリンピック種目に採用されたのは，1936年のガルミッシュ-パルテンキルヘン(ドイツ)冬季大会のときからである。〔堀　浩〕



アルヘンチーナ

アルヘンチーナ [Antonia Argentina] (1890～1936) スペインの女流舞踊家。アルゼンチン生まれ。本名アントニア-メルセ。4歳でバレエを学び，11歳でスペイン王立劇場のプリマ-バレリーナ，14歳からスペイン舞踊を始める。スペイン民族舞踊に芸術性を与え，1918～1936年まで世界各地を公演，その普及に努めた。〈カスタネットの女王〉とよばれ，1929年(昭和4)には来日している。

アルペンホルン [Alpenhorn] アルプホルンともいう。構造の簡単な大きなトランペットで，多く山岳地方で使われているが，スイスのものが同国の代表的な楽器として名高いため，この名称でよばれている。普通の金管楽器とは違い，管を巻いていないので，4mにも及ぶ管がまっすぐ伸びているものもある。材質が木であることと，管の中の状態が近代的な楽器と異なるため，独特な音色をもつ。スイスのヨーデル*はこの楽器に深い関係がある。ブラームスの第1交響曲第4楽章には，この楽器の音色を生かした部分がある。〔徳丸吉彦〕

アルボウイルス [arbovirus] 哺乳(ほにゅう)類や鳥類の体内，またはある種の吸血性節足動物(カ・ダニなど)の体内で増殖するウイルス。吸血によって節足動物の体内にはいったウイルスは，増殖して唾腺(だせん)に至り，次の吸血に際して，唾液に運ばれて被吸血動物内に移行する。媒介節足動物は発病しない。この群のウイルスは一般に小形で，直径20～50mμのものが多く，含む核酸はRNA(リボ核酸)である。熱に対する抵抗力は弱い。日本脳炎ウイルス・黄熱ウイルス・デング熱ウイルスなどがこの群に属する。〔石川　彬〕

アルマアタ [Alma-Ata] ソビエト連邦カザフ共和国の首都。天山(テンシャン)山脈の支脈アラタウ山脈北麓(ほくろく)にあり，海抜約800m。陸・空交通の要衝であり，カザフ共和国の政治・経済・文化の中心である。人口77万6,000(1972)。機械・食品加工(果

実・肉のかんづめ)・紡績(綿・ラシャ)などの工業が盛んであり，大学・博物館・科学アカデミーなどの文化施設も置かれる。郊外には灌漑(かんがい)による広大な果樹園(特にリンゴ)がみられ，地名は〈リンゴの父〉の意である。1921年まではベールヌイとよばれていた。〔斎藤晨二〕

アルマアタてんもんだい【アルマアタ天文台】 アルマアタ*にあるソ連の天文台。50cm反射望遠鏡やコロナグラフ*を備え，銀河系の研究，太陽面の観測などで有名。

アルマイト［alumite］ アルミニウムの表面に耐食性の酸化皮膜をつくった製品。方法はアルミニウム製品を陽極としてシュウ酸・硫酸などの水溶液中で電解し，さらに水蒸気処理をする。できた皮膜は，赤・青・緑などに染色できる。また，アルミニウム素材の組成，電解条件により皮膜自体に美しく発色させることもできる。アルミニウム器物・アルミサッシなどに広く利用されている。

アルマグロ［Diego de Almagro］（1475ごろ～1538） スペインのコンキスタドーレス*(新大陸征服者)のひとり。スペインのカスチリア地方アルマグロ市の孤児だった。文盲だが活動力に富み，1533年ピサロ*のインカ帝国征服に加わり，征服完了の翌年，スペイン王カルロス1世から軍事司令官(アデランタード)の称号を得た。チリ探検後，ラス-サリーナスの戦いでピサロ兄弟に敗れ，クスコで処刑された。

アルマゲスト［Almagest］ プトレマイオス*が140年ごろ著わした古代天文学の大著。はじめは《マセマティケ-シンタキシス(数学大集成)》と題されたが，800年ごろアラビア人がアラビア語に訳したとき，〈最大のもの〉という意味の〈アルマゲス〉とよんだので以後この名でよばれるようになった。13巻よりなり，地球・月・太陽・惑星の軌道などに関する当時の問題が網羅されており，天動説の立場から天文学全体を論じたものである。天文学の大宝典として16世紀末まで学界を支配した。〔根本順吉〕

アルマジロ［armadillo］ 哺乳(ほにゅう)類・貧歯目・アルマジロ科の総称。ヨロイネズミともいう。肩と腰に甲があり，その間に何本かの帯(横帯)がある。歯は発達が悪くエナメル質を欠く。アメリカの暖かい乾燥地帯に分布し，こん虫を食う。帯が3本のミツオビアルマジロは，危険なときボールのように丸くなり身を守る。このほか帯がふつう6本のムツオビアルマジロ，帯が9本ぐらいで泳ぎの巧みなココノオビアルマジロなどがあり，体長は40cmほど。穴掘りの巧みなオオアルマジロは体長90cm，ほとんど地下生活するヒメアルマジロは15cmほどでモグラに似る。〔今泉吉典〕

アル-マームーン［Abul-Abbas Al-Māmūn］（786～833） アッバス朝7代めの回教君主で，文芸と科学の保護者。キリスト教国とも友好を保ち，プトレマイオス*の天文学書《アルマゲスト*》をはじめ，ギリシア文献をアラビア訳させた。ユーフラテスの平原で緯度の測定も試み，バグダットに図書館と天文台をつくるなど，ギリシア・ローマの学術をアラビアに発展させた。



アルマジロ　ムツオビアルマジロ

アルマンド［allemande］〈ドイツふう〉を意味するフランス語であるが，ルネサンス以来，舞曲名として用いられている。すでに1550年ごろの舞曲集にこの名称が用いられているが，17世紀にはいるといっそう盛んに作曲される一方，もはや踊られることのない様式化した舞曲となった。中くらいの速さの2拍子系の舞曲で，しばしば同じ旋律をもった速い3拍子のクーラント*をあとに従えており，バロック時代の独奏・合奏の組曲の最初の舞曲として，18世紀中ごろまで最もポピュラーな舞曲の一つであった。〔徳丸吉彦〕

アルミナ［alumina］ Al_2O_3 酸化アルミニウムのこと。一般には白色の粉末である。ふつうボーキサイト*を原料とし，まず水酸化アルミニウムをつくり，これを焼いてアルミナとする。アルミナの形態にはγ-アルミナとα-アルミナがよく知られているが，最近ではそのほか多くの形態が知られている。γ-アルミナはアルミナ水和物を500℃前後に焼いて得られ，さらに1,200℃以上に焼成するとα-アルミナが得られる。アルミナの用途として最も大きいものは，金属アルミニウムの製造である。アルミニウム1tをつくるにはアルミナ約2tを要する。アルミナは耐火度が高いために耐火物用に供せられ，また融解してルビー・サファイアなど合成宝石をつくることができる。合成宝石用のアルミナは，特に高純度でアルカリ分の少ないものが要求される。そのほかアルミナは触媒・吸着材などにも使われるが，その要求される性質が異なるため，それぞれ独自の作り方をする。〔鈴木　篁〕

アルミナすいわぶつ【アルミナ水和物】 アルミナに結合水のついた形態の化合物で$Al_2O_3 \cdot nH_2O$で表わされる。ギブサイト(α-$Al_2O_3 \cdot 3H_2O$)・バイエライト(β-$Al_2O_3 \cdot 3H_2O$)・ベーマイト(α-$Al_2O_3 \cdot H_2O$)・ダイアスポア(β-$Al_2O_3 \cdot H_2O$)の4種類がよく知られている。アルミナの原鉱であるボーキサイトには，ベーマイトを主成分とするものと，ギブサイトを主成分とするものがある。

アルミナセメント ⇨セメント

アルミナホワイト［alumina white］ アルミナともよばれるが，通常，顔料でアルミナと称するものは純粋なアルミナAl_2O_3ではなく，$Al_2O_3 \cdot xH_2O$または$Al(OH)_3$で表わされるもので，その組成は製造条件によって異なる。白い粉末で屈折率は体質顔料中最も小さく，約1.5で被覆力は小さい。比重は約2.4で，水にはとけないが，酸およびアルカリにはよくとける。鉄分の多いものは色が悪い。レーキの体質に用いるとあざやかな色相と着色力の大きいレーキ顔料が得られ，または印刷用インキ・絵の具などに用いられる。〔品田　登〕

アルミニウム［aluminium］ 周期律表第III族に属する金属元素。記号Al，原子番号13，原子量26.98。粘土など複雑な化合物となって地球上に広く多量に存在し，地殻(ちかく)中には，重量比で約8％と金属元素中第1位である。化合物は古くから知られていたが，その分離・抽出の困難さから，1827年ドイツのウェーラーによってはじめて金属が得られ，1886年アメリカのホールおよびフランスのエルーによってヒョウショウ石浴による電解製錬法が発明されてから急激に実用的金属になった。比較的新しい金属といえるが，その軽量・加工性・耐食性・美観など多くの長所により，現代生活のあらゆる分野に進出し，世界の生産量においても鉄鋼に次ぐ第2位の金属となった。

【性質】銀白色を呈し，比重2.7，展性・延性に富み，電気の良導体である。空気中では酸化物の薄膜でおおわれ，内部まで侵されることはない。熱濃硫酸を作用させると，二酸化イオウを発生してとけ，硫酸アルミニウムとなる。塩酸には容易にとけて水素を発生し，塩化アルミニウムとなる。水酸化ナトリウム(またはカリウム)溶液に水素を発生してとけ，アルミン酸ナトリウム(またはカリウム)を生ずる。

【生産】おもな原鉱石はボーキサイト(ベーマイト型$Al_2O_3 \cdot H_2O$，ギブサイト型$Al_2O_3 \cdot 3H_2O$)で，塊状・岩状・粒状として産し，黄白色・灰色・かっ色・赤色などの色を呈する。不純物としては，鉄・ケイ素・チタンの酸化物などを含有するが，一般には分離の困難なケイ酸SiO_2の少ないアルミナ$Al_2O_3$55％前後のものを標準とする。わが国には産出しない。

アルミニウム製錬法は，原鉱石から純度の高いアルミナの製造，溶融塩電解の2工程に大別される。アルミナの製造法は，原鉱石の品質により種々の方法があり，乾式法・湿式法・半乾半湿法に区別されるが，工業的標準法は，1888年オーストラリアのバイヤーにより考案されたバイヤー法である。バイヤー法の要点は図に示すように，

ボーキサイトを粉砕し，これに苛性(かせい)ソーダを混合し，加圧がま中で加熱処理すると，アルミナはアルカリ液に溶解してアルミン酸ナトリウム$NaAlO_2$となり，不純物の酸化鉄はとけずに残渣(ざんさ)(赤泥(せきでい))となる。ケイ酸はアルカリに反応して難溶性のケイバン酸ナトリウムとなり沈殿する。抽出液は希釈して沈殿を分離し，種子として水酸化アルミニウムの結晶を加え，攪拌(かくはん)すると加水分解して水酸化アルミニウム$Al(OH)_3$の結晶が析出する。これを濾過(ろか)・洗浄・焼成して高純度のアルミナ粉とする。なお，母液は濃縮してくり返しアルミナの抽出に使用する。

溶融塩電解は，ホールとフランスのエルーが単独にほとんど同時に発明したもので，現在の近代化・大形化された製錬技術も基本的には同じ要領である。その原理は溶融ヒョウショウ石$Na_3 \cdot AlF_6$にアルミナを5〜10%溶解し融点を下げ電解浴とし，約950℃で，横形または立形の電解槽(でんかいそう)中で，焼成炭素電極または，ゼーダーベルグ

世界アルミニウム新地金生産量　単位1,000t

国名＼年度	1977	1978	1979
アメリカ	4,117.5	4,357.9	4,556.9
ソ連*	2,200.0	2,300.0	2,400.0
日本	1,188.2	1,057.7	1,010.4
カナダ	973.1	1,048.5	863.6
西ドイツ	741.8	739.6	741.9
ノルウェー	637.0	656.9	672.5
フランス	398.8	391.4	395.1
世界合計	14,339.1	14,754.2	15,217.3

注）＊推定
World Metal Statistics. 1980年6月

電極(自己焼成連続電極)を陽極とし，炭素を陰極として電気分解すると，溶融状態のアルミニウムが陰極に析出する。なお，ヒョウショウ石は天然のもののほか，ケイ石から合成した人造物を使用する。これで得られるアルミニウムの純度は99.9%以下で，さらに高純度のものを望む場合には，さらに電解精製(三層式溶融塩電解法など)すると99.99%以上の純度となる。おもな不純物

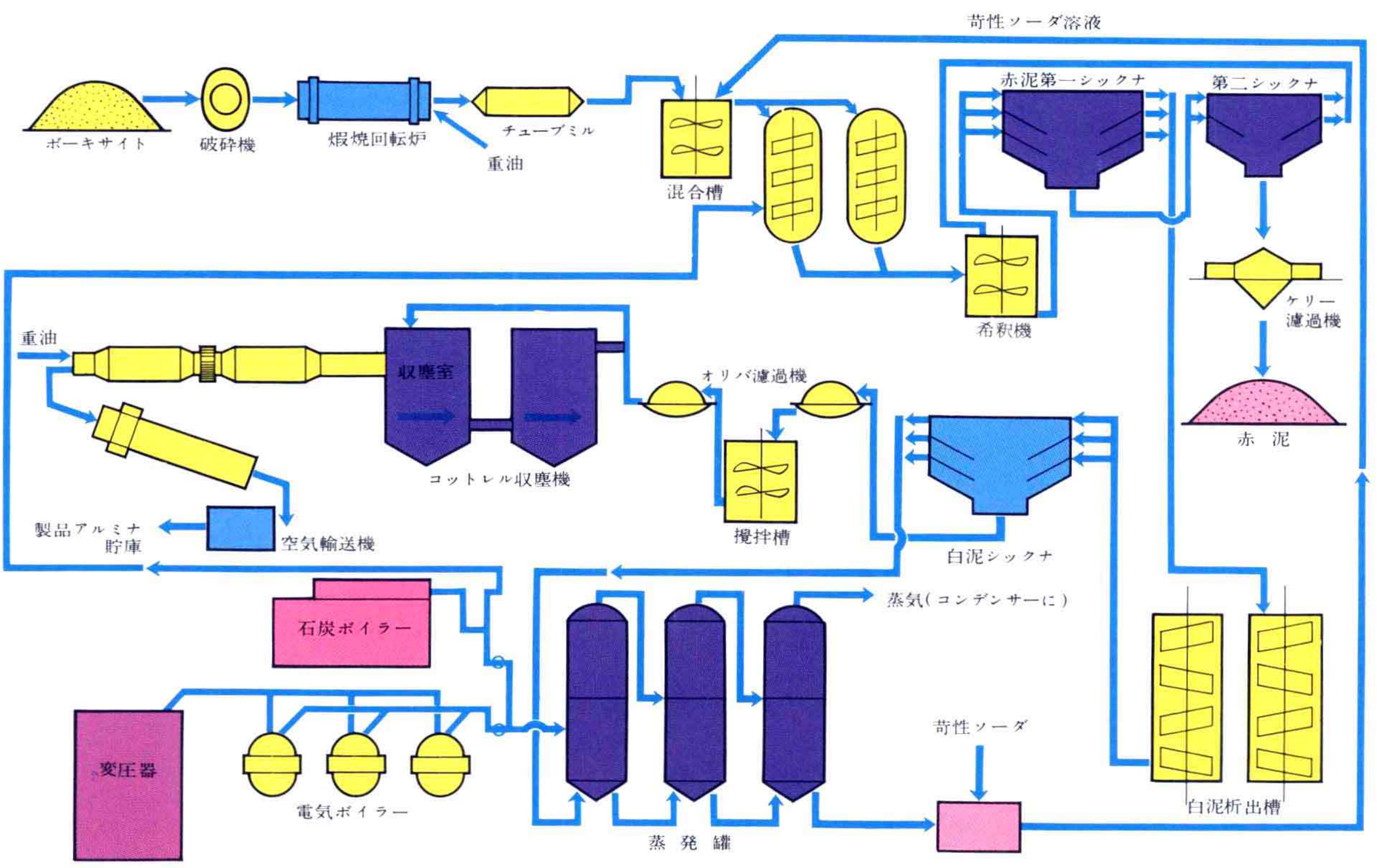
世界ボーキサイト生産量　単位1,000t

国名＼年度	1977	1978	1979
ギニア	10,871	11,648	12,199
ジャマイカ**	11,434	11,736	11,505
ソ連*	6,700	6,700	6,500
スリナム	4,951	5,113	4,741
ガイアナ**	3,344	3,479	3,354
ユーゴスラビア	2,044	2,566	3,012
ハンガリー	2,949	2,900	2,976
世界合計	84,612	83,959	87,918

注）＊推定　＊＊乾燥重量
World Metal Statistics. 1980年8月

はケイ素Si・鉄Fe・銅Cu・チタンTiなどである。アルミニウム1tあたりの製造原単位は，アルミナ約2t，ヒョウショウ石0.1t，炭素電極0.5〜0.8t，電力1.3〜1.8万kWhを要する。なお，近年溶鉱炉による製錬法，塩化アルミニウム浴の電解などが研究されているが，いずれもまだ開発の段階である。

〔用途〕アルミニウムは比重が2.7で鉄や銅の約3分の1にすぎず，表面は銀白色でさ



アルミニウム　バイヤー法によるアルミナ製造工程

びにくく，薄板・線材などの加工も容易で，電気・熱の良導体でもある。そのまま，または合金(ジュラルミン・ラウタル・シルミンなど)が，圧延・押し出しなどの加工材，および鋳造材として建設・電気・機械・車両・船舶・航空機・包装用・日用品などに広く用いられている。

〔生産〕 世界生産量は表に示すが，製錬費の約半分が電力費となるので，石油高騰以来，日本は極めて不利となり，かつて年産164万tの設備能力が1981年には111万tに削減されたが，さらに安い輸入地金に押されて，大幅な生産制限を余儀なくされている。〔西村文雄・藤瀬直正〕

アルミニウムがんりょう 【アルミニウム顔料】 アルミ箔(はく)を粉砕した鱗片(りんぺん)状の銀色粉末の顔料。銀粉ともいう。油や樹脂溶液と混ぜると粉末は表面に浮かび上がり，膜を形成する。このような性質を有するものをリーフィング形，そうでないものをノンリーフィング形という。リーフィング形のアルミニウム粉末は銀色光沢を有し，赤外線・可視光線および紫外線に対して反射性がきわめてすぐれているので，油や樹脂の劣化を防ぐ。また，鱗片状の粉末が重なり合うので，ガス・水分などの被塗面への侵入を防止する働きをもつ。ノンリーフィング形のアルミニウム粉末はメタリックエナメルとして自動車に塗装され，特有な美観を与えるのに用いられている。➔顔料 〔品田　登〕

アルミニウムこう 【アルミニウム鉱】 アルミニウムは地殻(ちかく)中に約8％含有されているが，この金属は酸素との結合が強く，ケイ酸塩を形成しており，これを工業的に取り出すことはいまのところ困難である。一般にボーキサイト($Al_2O_3 \cdot nH_2O$)より抽出している。熱帯地方の気候のもとに岩石が風化すると岩石中のケイ酸はとかし流され，アルミニウムおよび鉄が水酸化物として残る。この風化により残留したアルミニウムおよび鉄に富む土壌(どじょう)(ラテライト)中の水酸化アルミニウムが集合してボーキサイトを生成する。ボーキサイトはギブサイト($Al_2O_3 \cdot 3H_2O$)・ベーマイト($Al_2O_3 \cdot H_2O$)などの諸鉱物の集合したものである。〔今井秀喜〕

アルミニウムこうぎょう 【アルミニウム工業】 ⇨軽金属工業

アルミニウムごうきん 【アルミニウム合金】 アルミニウムを主成分とする合金。軽いことが特長。純アルミニウムは柔らかく，機械的強度が小さいのでケイ素・銅・マグネシウムなどを加えてその性質を改善したものである。加える元素の種類・量により多数の合金があり，鋳造用合金と加工用合金に大別される。シルミン・ジュラルミンはそれぞれの代表的合金である。航空機用・自動車用・建材用などに広く用いられている。



アルメリア

アルミニウムぞくげんそ 【アルミニウム族元素】 周期律表第Ⅲ族に属する元素のうち，アルミニウム・ガリウム・インジウム・タリウムの4元素の総称。アルミニウム以外は産出量が少ない。アルミニウムはわずかに非金属性をもち，原子量が増加するに伴って金属性が増す。いずれも＋3価に働いて化合物をつくる。

アルミはく 【アルミ箔】 アルミニウム箔のこと。アルミニウムの大きな展性を利用し，厚さ0.005～0.15mm程度に薄く圧延加工したもの。銀白色で柔軟性に富み，水蒸気・ガスを透過しにくく，はり合わせ・印刷・型付加工が容易。たばこ・食料品などの包装材料，検電器の荷電箔，電解コンデンサー陽極用などに用いられる。➔アルミニウム

家庭用のアルミ箔は〈アルミホイル〉の名で市販され，さかな・肉・野菜などに調味料を加えてこれに包み，そのまま天火・蒸し器・フライパンまたはじか火で調理したり，食料品を包んで冷蔵庫に入れて保存し移り香を防いだりする。またおにぎり・サンドイッチなどを包めば水分の蒸散を防ぎ，衛生的である。〔岡村志郎・前田一枝〕

アルムクビスト ［Carl Jonas Love Almqvist］ (1793～1866) スウェーデンの小説家。ストリンドベルイ*以前のスウェーデンの作家中，最も注目すべきひとり。小説のほか詩・劇・評論と多彩な活躍をしたが，分裂的二重性格者で，殺人未遂の罪を犯し，58歳からは変名で北アメリカを放浪，ドイツでみじめに死んだ。《礼拝堂》は，スウェーデン文学に写実主義*の方向を決定した傑作。《それもよい》は，因習的結婚を地獄の試練と痛罵(つうば)する女性を描き，自由主義時代を迎えた当時の世論を沸騰させた。《野ばらの書》14巻は彼の代表作をまとめたもの。〔鈴木徹郎〕

アルメイダ ［Pua Almeida］ (1922～) ハワイアン歌手・スチールギター奏者。ホノルルの生まれ。彼自身アイランド-スタイルと名づけている，ネイティブな感覚とジャズふうな感覚の中間をいくモダン-スタイルの歌手。ラジオ番組〈ハワイ-コールズ〉のスターでもあり，高い人気をもつ。1962年・1965年の2度来日。

アルメニア(共和国) ［Armyanskaya S.S.R］ ソビエト連邦を構成する共和国の一。カフカス山脈南部にあり，トルコ・イランと境を接する内陸国である。首都はエレバン。面積29,800km²。人口279万(1975年推)。

〔自然・住民〕 平均海抜1,800mの山国で，険しい褶曲(しゅうきょく)山脈と火山・溶岩台地に囲まれるが，中央部には平地も開け，セバン湖などの湖もみられる。トルコとの国境を流れるクラ川支流アラクス川沿いのアララット平原がこの国の経済活動の中心で，人口もここに集中している。気候は乾燥した大陸性の気候で，谷の部分は年間降水量300mm以下の半砂漠(はんさばく)，山腹は600～800mmの雑木林となる。住民の88％はアルメニア人で，その他アゼルバイジャン人・ロシア人・ウクライナ人・白ロシア人なども居住する。3世紀以来のキリスト教国で，アルメニア教会*派に属している者が多い。

〔産業・経済〕 古来，農業・牧畜業を営んできたが，アラクス川が開発されるとともに，その水力発電を利用して工業も行なわれはじめた。農業では，コルホーズ*・ソフホーズ*によって，ブドウ・野菜・果樹・ワタを栽培し，特にブドウの産は多い。鉱工業では銅・亜鉛・アルミニウムなどの鉱業のほか，エレバンでは，冶金(やきん)・ゴム・繊維(特に綿)工業が，レニナカンでは食品加工・肥料工業が特に盛んである。

〔政治・歴史〕 アッシリア・ペルシア・マケドニアに侵略された歴史をもち，長くローマ帝国に支配された。1828年，イラン領からロシア領になったが，その後もイラン・トルコなどに侵略され，アルメニア人は受難の歴史をたどった。1922年，カフカス連邦に加入，1936年より現在の姿となった。第2次世界大戦後，海外からのアルメニア人の呼びもどしが盛んである。〔斎藤晨二〕

アルメニアきょうかい 【アルメニア教会】 カスピ海と黒海との間にある地域の東方教会*の一。この地には2世紀にキリスト教が伝えられていたが，4世紀初め〈アルメニアの使徒〉といわれる宣教者グレゴリウスによって創設された。この教会はキリスト単性説(キリストの人性は神性に吸収されるという説)を採用し，527年の宗教会議後，正統的教会と分離した。その後，イスラム教徒の支配下に置かれて衰退し，ローマ-カトリックに教義的に接近した合同派と，従来のままの非合同派に分裂した。前者はあまりふるわず，後者もバルカン・小アジア・エジプト，またヨーロッパ・アメリカに信者をもつが，少数である。しかし，いずれも民族的結合と純粋性において依然独特な特色を有している。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

アルメリア ［armeria］ 双子葉植物・イソマツ科の多年草。ハマカンザシともいう。茎は根ぎわでよく分かれ株となる。イネ科のような線形の茎が密に伸び，春に葉の間から15cmぐらいの茎を出し，先に淡紅

色の小花を多数つける。ヨーロッパ・北アメリカ・千島に自生するが，花壇の縁とり，はち植えとして栽培される。寒さに強く，9月ごろ株分けをするとよくふえるが，水はけのよい所を好む。

アルラン ［Marcel Arland］（1899～　）フランスの批評家・小説家。《NRF(エヌ-エル-エフ)》誌の編集に携わり，多くのエッセーを発表。密度の高い心理分析によって人間性の深淵(しんえん)に迫る作品を書き，小説《秩序》は1929年度ゴンクール賞を受けた。ほかに《新批評集》など。

アルル ［Arles］ フランス南東部，ローヌ川左岸の町。人口46,000(1968)。ギリシア人の植民によって建設され，ローマ時代にはゴール地方の首都であった。ローマ時代の円形劇場の跡をはじめ史跡が多い。農産物の集散地で，ぶどう酒・オリーブ油を産し，船舶・機械などの工業も行なわれている。

アルルカン ［Arlequin］ コメディアー-デラルテの登場人物で，イタリア語ではアルレッキーノ。北イタリアのベルガモの低地出身で粗野・好色・まぬけな召使を表わし，黒の仮面に継ぎはぎの衣装をつける。その起源については，古代ローマの道化，あるいはフランス中世の悪魔などの諸説がある。

アルルのおんな 【アルルの女】 ドーデの戯曲にビゼーが作曲した付帯音楽。27曲の小品からなるが，現在では二つの管弦楽用組曲が名高い。第1組曲は《前奏曲》《メヌエット》《アダージェット》《カリヨン》からなり，1872年の作曲。第2組曲はビゼーの死後ギローによってまとめられ，1879年に発表された。《パストラール》《間奏曲》《メヌエット》《ファランドール》からなる。第3曲《メヌエット》は《美しきペルトの娘》から転用された。〔向坂正久〕

アルンヘム ［Arnhem］ オランダ東部，ライン川下流の都市・港市。人口13万2,000(1972)。金属・精密機械(数理・自然科学用具)・紡績・織物・造船などの工業が盛んである。国立屋外民族博物館や同国最大の動物園がある。

アレー ［Rewi Alley］（1897～　）ニュージーランドの社会活動家。1926年29歳で中国に渡り，10年間上海(シャンハイ)共同租界工部局に勤務，水害・飢饉(ききん)などの救済事業にあたった。日中戦争の初期，奥地の工業開発を指導(工業合作社運動)したが，1942年以後，国民党に弾圧された。1945年甘粛省山丹で技術訓練学校を開設，青年労働者を養成した。1955年以後，ニュージーランド平和代表として北京(ペキン)に常駐。

アレウト(列島) ⇨アリューシャン列島

アレウトぞく 【アレウト族】 アレウト列島およびアラスカ半島西部の原住民。人口は3,892人(1950)。言語はエスキモー語と同系で，身体形質もアメリカ-インディ



アルル アルルの町とローマ時代の円形野外競技場。現在もここで闘牛が行なわれる。競技場の右上手に見えるのは同じ時代の野外劇場の遺跡



アレキサンドライト ブラジルのミナス-ゲーレス産

アンよりはシベリア諸民族に近い。アザラシ・アシカ・セイウチなどの海上狩猟民として少なくとも3,000年の歴史をもつ。18世紀以後ロシアの支配下にはいり，正教徒化が進むとともに，毛皮商人の搾取を受けて人口も激減した。

アレオパゴスかいぎ 【アレオパゴス会議】 古代ギリシアのアテナイで，貴族政期に行なわれていた会議。ローマ帝国の元老院にあたる。軍神アレスを祭る丘に議場があった。アルコン経験者が終身議員となり，裁判と官吏の取り締まりとを任務とした。保守勢力の牙城(がじょう)とされたが，ペリクレス時代に殺人罪の裁判以外は権限が民衆裁判所・評議会・民会などに移され，またアルコンが抽選になったので権力を失い，アテナイの民主政を促進することになった。

アレキサンダーだいおう 【アレキサンダー大王】 ⇨アレクサンドロス(大王)

アレキサンドライト ［alexandrite］ キンリョク石の一変種で宝石名。多色性が強く，日光のもとでは暗青緑色であるが，透かして見るか，または電燈光で見ると紅色に見えるため，宝石のうち貴石にはいる。1833年，ロシアのウラル地方で発見され，当時の皇帝アレクサンドル2世にちなんで命名された。ウラル地方とセイロンが主産地であるが，産出量は少ない。

アレキサンドリア ［Alexandria］ エジプト-アラブ共和国第2の都市。ナイル川の三角州の西端に位置する，アフリカ大陸最大の貿易港である。人口203万2,000(1972)。建設者はマケドニアのアレクサンドロス大王で，市名は彼の名にちなむ。当時はエジプトの首都であり，地中海文化圏における中心都市の一つであった。今日でもこの国のみならず，アフリカにおける海・陸・空の交通の要衝である。

中世以降はイスラム文化の中心都市の一つとして発展し，市街にはイスラム的な伝統をもつ旧市街と，ヨーロッパふうの新市街とが混ざっている。主産物としては，たばこ・せっけん・紙などの伝統的な加工工業が行なわれるほか，自動車・機械・セメントなどの工業も盛んで，すでに工業生産では首都カイロをしのいでいる。カイロとは鉄道で結ばれる。アレキサンドリア大学・博物館など，文化教育機関も整っている。〔小栗　宏〕

アレキサンドリアがくは 【アレキサンドリア学派】 3～5世紀に北アフリカのアレキサンドリアに出現した神学学派。キリスト教とギリシア哲学の総合を企て，聖書に比喩(ひゆ)的解釈を行なった。しかし，究極の目的は一貫してグノーシス派・アリウス派・ネストリウス派などの異端から，正統信仰を擁護することにあった。前期にクレメンス・オリゲネス，後期にアポロニウス・アタナシウス・キュリルスらがいる。

アレキサンドリア-カルテット ダレルの大河小説(1957～1960)。それぞれ独立した長編の四部作で，《ジュスティーヌ》《バルタザール》《マウントオリーブ》《クレア》からなる。ジョイスやプルーストの作品と比較される実験的な小説で，表面の主題は〈現代の愛の探究〉でありながら真のテーマは芸術であり，また作品そのものが芸術論をなしている。相対性原理に基づいた形式が用いられ，年代記的な序列を無視した個々の部分画が，読者の中で再構成されたとき，はじめて一つの完成された小世界が浮かび上がるという構成。アレキサンドリアのエキゾチックな風光を背景に，キリスト教的結社にからむ政治的陰謀と，複雑な男女の結びつきを，はなやかな詩的散文で描いた壮大なドラマで，イギリスにおける戦後最高の小説と評される。〔栗原行雄〕

アレキパ ［Arequipa］ ペルー南部，同名州の州都。アンデス山脈西麓(せいろく)に位置する同国第3の都市。人口19万5,000(1970)。インカの都であったが，ピサロにより1540年に征服・建設された。市街には，白い火山岩のれんがでつくられた当時の建物が多く残り，〈白い町〉の名がある。インカの都クスコとは鉄道で通じ，パンアメリカン-ハイウエーもこの市を通過している。付近の物産，特に羊毛・アルパカなど，また金・銀・銅などの取引の中心地で，近年はそれらの加工工業も行なわれる。〔小栗　宏〕

アレクサンダー(諸島) ［Alexander］

アラスカ南東岸にある群島。約1,100の島からなる。面積33,000km^2。人口20,000(1960)。シアトルからアラスカに至る北西航路は，海が荒れているときはこの島々の間を通り，荒天の多い北太平洋で安全な〈内陸航路〉としての役を果たす。海岸には，フィヨルドがみられ，山地はマツなどの針葉樹林におおわれる。プリンスオブウェールズ・アドミラリチ・バラノフ・シカゴノフ・クプリアノフ・クイフ・ミトコフ・ウランゲル・レビラジゲドなどの島がある。農業，漁業，金鉱の採掘も行なわれるが，とりわけパルプ工業が盛んで，シトカ(バラノフ島)は随一のパルプ工業都市である。1741年ロシア人により発見された。〔大崎　晃〕

アレグザンダー　[Samuel Alexander]　(1859～1938)　オーストラリア生まれのイギリスの哲学者。マンチェスター大学教授。進化の考えを形而上学(けいじじょうがく)的原理とする新実在論を唱えた。彼は根源的な実在として，ミンコフスキーの四次元時空連続体としての〈世界〉を取り上げ，それをあらゆる実在の母体(マトリックス)とした。この母体から予測不可能な突然進化により純粋運動・物質・生命・精神などが出てくるが，それらの間には質的な段階があるとし，その最高の段階は神性であろうと説いた。主著《空間・時間・神性》。〔寺中平治〕

アレグザンダーソン　[Ernst Frederik Werner Alexanderson]　(1878～　)　スウェーデン生まれのアメリカの電気工学者。ストックホルム・ベルリンに学んでのち渡米，GE社にはいり，その研究所で高周波交流機・電子増幅器・複同調空中線など持続波送受信方式をもたらした。その他電気工学上多くの業績がある。

アレクサンデル(1世)　[Aleksander]　(1888～1934)　ユーゴスラビア王。在位1921～1934年。セルビア王ペタル1世の次男。第1次世界大戦ではほとんど全土を侵略されて亡命した。1918年，クロアチア・スロベニア・ボスニア・ヘルツェゴビナなどを合わせてセルブ-クロアト-スロベーヌ国を創立(のちのユーゴスラビア)，1921年正式に国王となった。セルビアの急進派とクロアチアの農民派との対立など，民族問題に悩まされた。1934年，マルセイユを訪れた際，クロアチア人に暗殺された。〔山県弘志〕

アレクサンドル　[Aleksandr]　ロシアのロマノフ王朝の皇帝。

1 1世　Pavlovich Romanov　(1777～1825)　在位1801～1825年。パベル1世の長子で，エカテリナ2世*の孫。ロシア資本主義の発展の中で，農奴制が崩壊しつつある時期に，農奴制支持者の利益を守りつつ，資本主義的関係に適応しようとする貴族階級の意思を代弁した。父帝の暗殺を黙認して即位し，直ちに貴族と都市に対する特許状と低関税を復活し，貴族以外の自由民の土地所有許可などの措置をとり，1802年省制を実施した。1803年地主の自発的な農奴解放を承認して資本主義に譲歩し，専制を強化した。しかし2度の対仏戦争に敗れてティルジット条約*を結び，イギリスに対する封鎖に加わって貴族の不満を呼んだため，ブルジョア階級の支持を得るように改革案を練ったが中途で挫折(ざせつ)した。ナポレオンの没落でヨーロッパにおける発言権を増し，神聖同盟*を創設して封建制と絶対主義を擁護した。治世の最後の10年間は自然発生的な反抗運動が続発し，農奴制の解体を反映して，デカブリスト*のような進歩的貴族の運動も発生するようになった。



アレクサンドロス
ルーブル美術館蔵

2 2世　Nikolaevich Romanov　(1818～1881)　在位1855～1881年。ニコライ1世*の長子で，〈解放皇帝〉とよばれた。母方の祖父プロイセン王ウィルヘルムの軍国主義に共鳴。1861年農奴解放令*を発布したが，これは農奴解放を〈下からよりも上から〉行なうものだった。これによって農民は質のよい土地から追われ，ロシアの資本主義化は促進した。1860年代から1870年代にかけて，1864年のゼムストボ*改革をはじめとし，司法・教育制度の改革，都市ドゥーマ*，一般徴兵制と一連のブルジョア的改革が行なわれ，ロシア産業革命，農民層の分解，貴族の没落が進行したが，国家権力は地主階級によって保持された。1870年代以降ナロードニキ*の革命運動が激化し，治世の後半は反動化した。1881年テロリストによって暗殺された。

3 3世　Aleksandrovich Romanov　(1845～1894)　在位1881～1894年。アレクサンドル2世*の次子で軍人出身。ロマノフ朝皇帝中最も反動的なひとり。保安条令(1881)で警察力を強化し，地方自治における貴族の特権を強化するなど，アレクサンドル2世の行なったブルジョア的改革を抑制し，〈反改革〉と称される専制政治を行なった。貴族を擁護し，人頭税の廃止などによって農民の支持を得ようとし，また大学の自治を奪い，教育制度を改悪して専制維持に努めた。対外的にはフランスに対し接近政策をとった。〔山県弘志〕

アレクサンドル-ネフスキー　[Aleksandr Yaroslavich Nevski]　(1220～1263)　ロシアのノブゴロド公。ローマ教皇の後援を受けたリボニア騎士団が，スウェーデン・デンマークと同盟を結んでロシアに侵入した際，1240年夏のネバ川の会戦ではスウェーデンを破り，1242年4月のチュド湖上の〈氷上の激戦〉ではチュートン騎士団を破った。1252年ウラジーミル大公となり，外交的手腕によってタタールの侵入を防いだ。1262年にはタタールへの貢納をやめて，しだいにロシアの独立を獲得した。〔山県弘志〕

アレクサンドロス(大王)　[Alexandros]　(BC356～BC323)　マケドニア王。在位BC336～BC323年。ギリシアとオリエント世界にまたがる大帝国の創建者。ローマ人によって大王とよばれた。父マケドニア王フィリッポス2世から将軍・政治家としての強い意志と実行力を，母エピルス王女オリュンピアスから美しい容姿と奔放な性格を受け継いだ。少年のころ宮廷に迎えられたアリストテレス*の教育を受け，ギリシア的教養を修得した。BC338年，カイロネイアの戦い*に父王に従って初陣の功をたてたが，父王がギリシアを統一し，ギリシア連盟の盟主となったのち，BC336年に暗殺されたので，同年20歳で即位し，直ちにギリシアの反乱を鎮定し，BC334年ギリシア連盟とマケドニアの連合軍を率いてペルシア帝国への遠征に出発した。まずヘレスポントス(ダーダネルス)海峡を渡り，グラニコスの戦いに勝って小アジアを平定，BC333年にはイッソスの戦い*にダレイオス3世*の率いる大軍を撃破し，ペルシア海軍の基地であるフェニキアのティルスを陥落させて，BC332年エジプトにはいった。この地のナイル川デルタ地帯の西端にアレキサンドリア市を建設し，また西方のリビア砂漠(さばく)中のシワでアモン*の神託を問い，〈神の子〉というお告げを受けたと伝えられる。

BC331年，彼はイラン方面に向かって進軍し，アルベラの戦い*でダレイオス3世の軍を決定的に破った。ダレイオス3世は逃走したが，まもなく家臣に殺され，BC330年ペルシア帝国は滅亡した。アレクサンドロスはバビロンを経てペルシア本国にはいり，スーサ・ペルセポリスの両首都に入城して，ばくだいな金銀を得た。エクバタナでペルシア遠征の終了を宣言してギリシア連盟軍を解散し，新たに徴募した傭兵とマケドニア兵の混成軍を率いて東進を続けた。彼はバクトリアなどイラン高原東北部の平定に約3年を費したが，この間，しだいにイラン人を重用したので，これに反抗した軍功のあるマケドニア人将軍があいついで処刑されるという悲劇が生じた。BC327年インダス川上流を渡ってインドのパンジャブ地方にはいり，その地の王ポロスに苦戦ののち勝った。さらに東進を志したが，熱病・豪雨と長途の遠征に疲れた部下の反対にあってやむなくインダス川を下り，その河口から陸路西に向かい，別軍を海路でインド洋・ペルシア湾を航行させ，BC324年スーサに帰還した。彼はさきにバクトリア

の王女をめとったが，ここでダレイオスの王女を妃とし，またマケドニアの将兵10,000人あまりとイラン婦人との集団結婚を行なわせた。しかし，ペルシア青年の近衛軍起用，ペルシアふうの拝跪礼(はいきれい)や服装の採用はマケドニア将兵の反抗を招いた。しかし，やがて和解が成功し，両民族の和合を祈る大祝宴が開かれた。翌BC323年バビロンに帰り，アラビア周航の準備中，熱病のため急死し，32歳余りの短いが波乱に富んだ生涯(しょうがい)を終わった。

彼は古今の名将のひとりに数えられるが，政治的業績は未完成に終わり，その大帝国は彼の死後まもなく分裂した。しかし彼の東方遠征が単に略奪・征服を目的とせず，その軍中に多くの学者を同行させ，各地の探検や調査を行なわせていることは注目に値する。また彼の東西の民族・文化和合の精神はその死と帝国解体ののちにも存続発展してヘレニズム*を生み出し，政治的にはローマ帝国，宗教的にはキリスト教の成立の基盤となった。〔秀村欣二〕

アレクサンドロスしゅっせいき【アレクサンドロス出征記】 アリアノス*の作品。彼は先輩のクセノポン*に傾倒していたところから，《アナバシス*》になぞらえて，この書を著わした。アレクサンドロス大王の小アジア遠征に著者自身が参加したわけではないが，信頼すべきプトレマイオス1世の資料をもとにして，真偽を取捨選択しつつ書いた大王の遠征記。かなり達者な文章(アッチカ方言)で書かれている。

アレクサンドロフスク-サハリンスキー [Aleksandrovsk Sakhalinskii] ソビエト連邦，サハリン(樺太(からふと))の中部西岸，間宮海峡に臨む都市。人口22,000(1959)。北サハリンの玄関口にあたり，石炭・木材の積み出しや漁業が盛んである。1881年に帝政ロシアが囚人監置所を設けたのがこの都市の起源である。1947年までは，サハリン州の州都であった。文豪チェーホフは1890年にこの地を訪れ，のちに《サハリン島》を書いた。〔斎藤晨二〕

アレグレット [allegretto] 音楽の速度標語で，アレグロ*の縮小形。アレグロと同様，快活で明るい気分をもちながら，その度合いが減ったものとされ，楽曲の速さとしては，アレグロよりおそく，アンダンテ*より速い。

アレグロ [allegro] 音楽の速度標語。元来は楽曲が〈快活で明るい〉ことを示し，音楽の発想記号であった。しかし，18世紀には〈速い〉を示す速度記号として使われる傾向が強くなった。現在では一般に，プレスト*よりはおそく，なお，歌うような性格を保ちうる速さとされる。また，古典派の交響曲や協奏曲の第1楽章は多くアレグロを用い，アレグロ楽章，単にアレグロという表現も用いられる。

アレゲーニ(台地) ⇨アパラチア山脈

アレシンスキー [Pierre Alechinsky] (1927～) ベルギーの画家。1951年からパリに住み，1955年に日本を訪れた。1949年から1951年までアペル*らと〈コブラ〉に属し，抽象表現主義的な作風を示している。

アレス [Ares] ギリシア神話の軍神。ゼウスを父，ヘラを母とする。オリンポスの神々の中で最も粗野な性格をもち，人間でいえば無頼漢にあたる。トロヤ戦争で人間を相手に戦って負けるとか，アプロディテの情人となって失敗するなど，こっけいな面も多い。またアマゾン・トロヤなど異民族の味方である。子どもが多く，男子はすべて暴虐を行なう。ローマ神話の軍神マルスと同一視される。

あれち【荒地】 詩誌。1947年(昭和22)9月から1948年6月まで通刊6号，1951年から《荒地詩集》8冊(最終刊は1958年12月)を出した。主要同人は鮎川信夫(あゆかわのぶお)・田村隆一・中桐雅夫(なかぎりまさお)・北村太郎・疋田寛吉・加島祥三・木原孝一ら戦前のモダニズム系の詩誌に属していた詩人であった。のちに吉本隆明(よしもとたかあき)らが加わり，戦後の荒廃した〈荒地〉的現実の中で人間性の回復と文明批評としての詩の確立をめざし，戦後詩壇の主流を形成した。

あれち【荒地】 エリオット*の代表的な長詩(1922)。第1次世界大戦後の荒廃したヨーロッパ文明の実相をみごとにうたっている。哲学や文学の深い教養が反映して，難解なところもあるが，斬新(ざんしん)なテーマと象徴的手法は，現代詩の代表的作品とされる。

あれちのぎく【荒地野菊】 双子葉植物・キク科。各地の道ばたや荒地にみられる一年生または越年生草本。南アメリカの原産で，日本には明治の中ごろ帰化し，一時非常にはびこったが，現在では他の雑草におされて，少なくなってきている。茎の高さ30～60cm，上部は枝分かれし，夏，黄色をおびた白緑色の頭花を穂のようにつける。葉は細長く，あらい鋸歯(きょし)があり，全体に白い毛がある。

アレッチ(氷河) ⇨アレッチホーン

アレッチホーン [Aletschhorn] スイス中南部，中部アルプスに属するベルニーズアルプス中の高峰(4,182m)。この谷を埋めるアレッチ氷河はアルプス中最大の氷河で，雪原を含めると全長27kmにも達し，面積も約115km²に及んでいる。この氷河の末端に位置するベルアルプとリーデルアルプは避暑地として名高い。

アレッポ [Aleppo] シリアアラブ共和国北部の同名州の州都。人口63万9,000(1970)。西のオロンテス，東のユーフラテス両川にはさまれた台地にあり，かつてヨーロッパとアジアをペルシア湾経由で結ぶ通商路上の要駅として繁栄したが，ケープ回り航路の発見，スエズ運河の開通でその地理的価値は半減した。しかしバグダット鉄道，ダマス-オムス鉄道の分岐点にあって，シリア西部農産物の集散地として，またセメント・織布・じゅうたんなどを生産する工業地として現在なお重要な地位を占める。住民の大部分は回教徒であるが，アルメニア人，キリスト教を信ずるシリア人も珍しくない。〔今井留吉〕

アレナ [arena] ラテン語で砂を意味するが，転じて，古代ローマ時代の円形劇場(闘技場)の中央平坦部(へいたんぶ)。闘技が行ないやすいように，通常砂が一面に敷きつめられていた。

アレニウス [Svante Auguste Arrhenius] (1859～1927) スウェーデンの物理化学者。1884年溶液の電気伝導度の研究から電離説を提唱したが理解されなかった。オストワルト*に認められて，リガ大学で研究したのち，コールラウシュ*・ボルツマン*・ファント-ホッフ*らと研究した。オストワルト・ファントホッフと物理化学年報を創刊し，3人の画期的論文を収録，新しい領域を開拓した。1895年ようやくストックホルム大学教授に迎えられ，1903年ノーベル化学賞を受けた。1905年創設のノーベル研究所長。のち宇宙の構造について史的考察を試み，また免疫化学の分野にも広く豊かな着想で独特の学説を発表している。〔山下愛子〕

アレニウスのしき【アレニウスの式】 1889年アレニウスにより提出された。反応速度定数と絶対温度との関係を表わす実験式で，$k=A\times e^{-E/RT}$で表わされる。ここでkは反応速度定数，Rは気体定数，Tは絶対温度，Eは反応に固有の定数で見かけの活性化エネルギー(活性化熱)を，定数Aは頻度(ひんど)因子を表わす。アレニウスはこの式を用いて分子の化学反応に対して熱力学的解釈を与えた。この式は均一系反応・不均一系反応にもあてはまることがわかっている。〔三輪誠・野宮健司〕

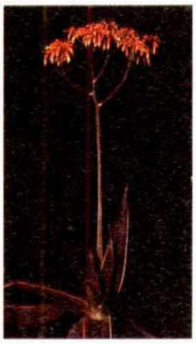
アレフ [Abdul Rahman Aref] (1916～) イラクの政治家。1936年バグダット陸軍士官学校卒業。1941年ガイラニ将軍の反英クーデターおよび1958年7月14日の王政打倒クーデターにカセム*とともに主導権を握って参加。その後，首相となったカセムとの権力争いに敗れたが，1963年2月，反カセムクーデターで実弟のモハメッド-アレフ現大統領とともに返り咲き，参謀総長となる。1966年4月，実弟(大統領)の事故死により大統領となったが，1968年7月，クーデターに会い亡命。〔吹浦忠正〕

アレマン [Mateo Alemán] (1547～1614？) スペインの作家。セビリア生まれ。その作品の主人公を地で行くような放蕩(ほうとう)生活を送り，そのために2度も投獄された。生活に窮し，60歳でメキシコに渡り，そこで没した。代表作《グスマン-デ-アルファラーチェ》により，ピカレスク小説*のジャンルを確立した。

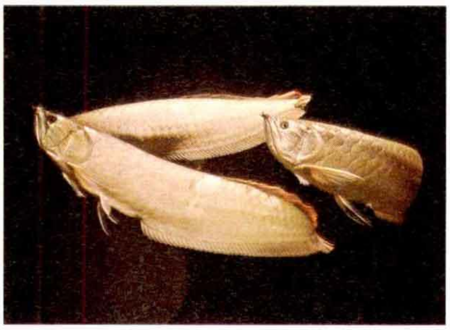
アレルギー [allergy] 生体の反応能力は，ある疾病(しっぺい)を経過したり，細菌性の産物や体に対して異種の物質を与えると変化するもので，この反応能力の変化を1906年オーストリアのピルケーがアレルギーとよんだ。結核菌に感染すると，ツベルクリン反応が陽転することはアレルギーの好例である。ペニシリンをある期間をおいて何回かくり返して注射すると，それまで異常のなかった人に蕁麻疹(じんましん)がでたり，喘息(ぜんそく)発作が起こったり，重いときにはショックが起こることさえある。

このような事実はいずれも生体の反応能力が強められて過敏になった結果で，これを過敏症とか狭義のアレルギーと称している。これに対して1度はしかに感染した人は，再感染しないというように，生体の反応能力が減弱または消失することもある。これは免疫*といわれている。生体側からいうと，免疫は好つごうな現象であり，過敏症は不つごうな現象であるが，いずれも正常状態からずれた現象で，このように変化した反応能力がアレルギーである。この異常な反応の原因を完全に説明することは困難であるが，原因の一部は明らかにされた。たとえば，ペニシリンにアレルギーのある人は，ペニシリンに結合しやすい特別なタンパク分子(抗体)ができて，それが皮膚に付着したり，同時に血中を回る。この抗体はペニシリンだけに見いだされる化学的分子(これを抗原とか，アレルゲンという)と特異的に結合する。抗体は抗原と接触した結果つくられ，抗原と抗体との関係は特異的で，合うものが決まっている。抗体というと細菌などの感染による発病を妨げる免疫抗体が想像されるが，アレルギーの結果できた抗体は気管支喘息・蕁麻疹・湿疹・アレルギー性鼻炎などのアレルギー症状を起こす。つまり，アレルゲンとこのアレルギー抗体が細胞の中で結合すると，ヒスタミンなどのアレルギー毒がつくられ，ヒスタミンによって血管は強く拡張され，血清が血管から組織中へにじみ出して，その部分がはれる。そしてアレルギー反応が皮膚で起これば蕁麻疹になり，鼻に起こればアレルギー性鼻炎になる。ヒスタミンはさらに気管支や胃腸管などの内臓の筋肉を収縮して，喘息発作や胃腸管アレルギーの腹痛を起こす。

アレルギー反応はその経過から即時型反応と遅延型反応とに分けられる。この反応型の相違は抗体の相違によるもので，即時型では液性抗体が主体をなし，遅延型では細胞性抗体が主体と考えられる。このような抗体をつくる細胞の種類も異なり，液性抗体を産生するものは形質細胞であり，細胞性抗体を産生するものはリンパ球である。アレルギー疾患といわれるものは即時型のアレルギー反応によるものであり，遅延型のアレルギー反応による疾患は接触性皮膚炎*(皮膚のかぶれ)や結核アレルギーなどの感染による病状，自己免疫疾患などがあげられる。いずれにしてもアレルギー反応が起こるためには，抗原との接触によりつくられた抗体性素因があるところへ抗原が再接触して，抗原抗体反応が起こって発症するのである。



アロエ (左)アロエーペリ(薬用) (右)キダチロカイの花


アロワナ

しかし今日ではアレルギーという語はさらに広く用いられて，抗原抗体反応に基づいた症状または病変であるかどうかについてはあまり顧慮せずに使用されている。心因性アレルギーとか，寒冷アレルギー・光線アレルギーなどの物理的アレルギーといわれるものの中には，必ずしも抗原抗体反応を経ずに生体側の過敏性素因に基づく反応として発症する場合が少なくない。いわばアレルギー様疾患というものである。➔抗原抗体反応 〔北原静夫〕

アレンタウン [Allentown] アメリカ合衆国ペンシルベニア州東部，リーハイ川岸の商工業都市。人口10万9,500(1970)。絹・綿布・セメント・くつ・金属・機械工業が盛んである。

アロエ [*Aloe*] 単子葉植物・ユリ科・アロエ属。ロカイともいう。南部アフリカ原産の多年草。多肉植物で約170種が知られる。暖地で老熟すると，高さ80cmぐらいで，冬に花柄をつけ，朱橙(しゅとう)色の小花を多数穂状につける。葉肉は厚く，多汁(たじゅう)で枯れにくく，腋芽(えきが)をかき取り日陰干しにして砂地にさすと，たやすく発根する。日本で知られているものにキダチロカイがあり，これは別名〈医者いらず〉といわれ，民間薬として有名。切り花にも需要があり，伊豆(いず)(静岡県)や房州(千葉県)で栽培し，はち植えにもしている。 〔横井朝子〕

アロカシア [*Alocasia*] 単子葉植物・サトイモ科・クワズイモ属。熱帯アジア・熱帯アメリカに約60種分布する常緑多年草。日本には四国・九州にクワズイモ，奄美(あまみ)大島・琉球(りゅうきゅう)にシマクワズイモの2種がある。茎は太く，下部は横に倒れてじょうぶな根が出る。葉はサトイモによく似た楯形(たてがた)・卵心形で葉柄は60～90cmある。肉穂花序は太く，直立し，下部に雌花，上部に雄花がつく。苞(ほう)は淡緑色である。観葉植物として温室に栽培され，洋風建物の装飾に用いられる。高温多湿を好み，冬期20℃以上で栽培するのがよい。年間を通じて温室内のあまり風のあたらない半日陰に置き，周辺に散水する。アロカシアという名は，コロカシア(サトイモ属)に似ているが，そうでないという意。 〔小杉清・加藤僖重〕

アロザウルス [Allosaurus] 北アメリカや東アフリカのタンガニーカのテンダグル層から発見されるジュラ紀後期に栄えた肉食性の爬虫(はちゅう)類。全長は5～8m，頸部(けいぶ)に強大な筋肉があったようである。前足は短く，後ろ足と尾は強大で速く走ることができた。ジュラ紀における陸上動物の王者と考えられている。東京国立科学博物館には標本がある。

アローせんそう 【アロー戦争】 アロー号事件に始まる中国とイギリス・フランスの戦争。第2次阿片(あへん)戦争ともいう。1856年，広東(カントン)港で，清(しん)国の官憲がイギリス籍船アロー号の中国人船員を逮捕した際，イギリス領事は同船がイギリス国旗を掲げていたとして抗議，逮捕者の釈放を要求し拒絶された。そこでイギリスは軍艦を珠江に進め，広州を砲撃，フランスも，広西における宣教師殺害を口実に，この侵略戦争に加わった。イギリス・フランス連合軍は，広州をおとしいれ，さらに北上して大沽(タークー)砲台を陥落させた。かくて1858年，イギリス・フランスは清朝を脅迫し，天津(てんしん)条約*を締結したが，この条約の批准に際して再び開戦，1860年，連合軍は北京(ペキン)を占領し，天津条約を批准，北京条約*を締結した。この条約によって中国の植民地化はいっそう深まった。〔小野和子〕

アロハシャツ [aloha shirt] 夏のリゾートウエアやホームウエアとして着られる男子用シャツ。さらさふうのはでなプリント模様の布でつくられ，上着ふうのゆったりとしたスタイルで，すそをズボンの外側に出して着る。ハワイ諸島の人々や観光客に愛用され，ハワイでは非公式のパーティにも着用される。

アロワナ [arowana] 硬骨魚類・オステオグロッサ科。2mほどになる熱帯性淡水魚。薄く長く海のタチウオにやや似る。しかし，うろこはかたく大きい。口も大きく，鼻先に水平に突き出た1対の長いひげがある。

銀白の体がにじ色に輝く。熱帯南アメリカの湖沼の水草の多いよどみにすむが，最近日本でもよく飼われている。

アロン ［Yigal Allon］（1918～　）イスラエル副首相兼教育文化相。エルサレム大学農学部，オックスフォード大学卒業。1931年ハガナ（ユダヤ情報機関）に加盟，反英運動を行なう。1947年ガリラヤ湖，エルサレム回廊，ネゲブおよびシナイ半島北部司令官，1961年労働相，1968年8月副首相兼占領区相，1970年1月教育文化相に就任。イスラエル内タカ派寄りの指導者のひとりとされている。

あわ【粟】 単子葉植物・イネ科。もとエノコログサから中国で育成された栽培種とされ，わが国でも五穀の一つとして古くから栽培されている一年草。全国で栽培され，産額は九州が多い。一般にムギの後作（あとさく）として植えられ，九州では7月中旬にダイズの間作としてつくられる。根は種子から1本生じ，茎節から多数のひげ根を出し地中浅く広がる。茎には節があり，根もとに近い節からは気根を生ずる。高さ125～150cm。種子は小粒で，ふつう黄色。穂が大きく，たれ下がるオオアワと，穂が小さく直立するコアワとがある。ともにもち種とうるち種がある。アワは，生育日数が短く耐旱（たいかん）性が強いうえ，吸肥力が強いので，山間地や傾斜地の乾燥した所にもよく育ち，無肥料でも十分な収穫をあげられる。そのため昔はイネが天災などで壊滅したとき，代用として植えられ，種子が貯蔵しやすいこともあって，飢饉（ききん）の年に備えるほどで救荒作物として重要であった。種子は食用とし，また，菓子・あめ・酒・しょうちゅうの原料とするほか，もち種はもちに，うるち種は鳥のえさとする。〔横井朝子〕

あわ【泡】 液体または固体の中にできた気体のかたまりを気泡（きほう）といい，それが多数集まって，互いに液体または固体の薄い膜で隔てられた無数の空間の集合体になったものを泡沫（ほうまつ）という。あわということばはこれらを総称して用いられ，あわを生成させることを発泡という。せっけん水や合成洗剤の水溶液などはかき混ぜるだけで容易に発泡することはよく経験するところだが，水道水のようにきれいな水は一時的な発泡はあっても，できたあわの寿命は非常に短くてすぐに消えてしまう。このように同じ液体でも発泡しやすいものとしにくいものがある。一般に単一な純液体よりも，なにか第2成分が溶解している溶液のほうが発泡は容易であり，また表面張力の小さい液体に発泡しやすいものが多い。さらに，あわを形成する膜の強さや，その膜を液が流下する速度などで支配されるあわの安定度も大きな因子となっている。われわれの身のまわりにあわの関係しているものはきわめて多い。液状のものにはビール・各種洗剤液など，弾性をもった固体状のものにはパン・はんぺん・スポンジ・フォームラバーなど，そしてかたいものとしてはビスケット・せんべい・泡沫ガラス・泡沫コンクリート・軽石・木炭などと限りなくある。泡沫消火器・浮遊選鉱*などもあわを巧みに利用したもので工業的な重要度も高い。工業的にはあわを消すこともときとして重要な課題であり，脂肪酸からなる破泡剤，シリコーン油などの抑泡剤などがある。さらに整泡剤という，あわの大きさを適度に整えるために用いられるものもある。〔伊藤　卓〕

あわ【安房(国)】 房総半島（千葉県）の南端を占める旧国名。房州。北は上総（かずさ），東・西・南は海に面する小国で東海道に属した。《古語拾遺》にアメノトミノミコトが阿波（あわ）（徳島県）より移住してアサを播殖（はしょく）したので総（ふさ）（アサの古名）の国といったとあるが，奈良時代に至り718年（養老2）上総の4郡（平郡（へぐり）・安房・長狭（ながさ）・朝夷（あさひな））をさいてはじめて安房を置いた。741年（天平13）旧に復したが757年（天平宝字1）再置。国府を平群郡（現在の安房郡三芳（みよし）村）に置く。鎌倉時代の守護は不明。室町時代には斯波（しば）・結城（ゆうき）・上杉（うえすぎ）の諸氏が守護となったが，戦国時代から里見氏の支配下にはいった。1614年（慶長19）里見氏除封後は内藤・稲葉・西尾ら譜代小大名の分領するところとなる。明治維新後，館山（たてやま）・加知山・長尾・花房の4県となり，1871年（明治4）諸他の県と合して木更津県，さらに1873年印旛（いんば）県と合併して千葉県となった。〔黛　弘道〕

あわ【阿波(国)】 四国の東部徳島県の旧国名。阿州。阿波はアワ（粟）の義。南海道に属し，東は紀伊（きい）水道を隔てて紀伊と，東北は鳴門（なると）海峡をもって淡路と相対し，北は讃岐（さぬき），西は伊予，南は土佐に接する。大化改新以前の粟国・長国の両国造（くにのみやつこ）の地を合わせて阿波とし，国府を名方郡（現在の名東郡国府町）に置いた。もと阿波・麻殖（おえ）・板野・名東・名西・美馬（みま）・三好（みよし）・勝浦・那賀（なか）の9郡であった。のち海部郡が加わって10郡となり，現在は徳島・鳴門など4市と10郡からなる。鎌倉時代には佐々木・小笠原（おがさわら），室町時代には細川の諸氏が守護となったが，戦国時代に至り三好長慶（ながよし）は主君細川氏に代わり京畿（けいき）に威権をふるった。その後は長宗我部元親（ちょうそかべもとちか）の侵略を受けて衰えた。1585年（天正13）豊臣秀吉（とよとみひでよし）はこれを討ち，蜂須賀家政（はちすかいえまさ）を阿波に封じた。関ケ原の役後も変わらず明治に至る。その後徳島県・名東県・高知県を経て，1880年（明治13）再び徳島県となり現在に至る。〔黛　弘道〕

あわおこし【粟糕】 大阪名産の菓子。江戸時代，大阪道頓堀（どうとんぼり）の津の国屋清兵衛（せいべえ）が創製した〈津の清〉は特に有名であった。1752年（宝暦2），初代の清兵衛が，アワを蒸して天日にさらし，適度のかたさになったとき黒砂糖を和し，のち乾燥してかたくしたものであった。1802年（享和2）にはアワを糒（ほしい）に改めた。

あわおどり【阿波踊り】 徳島市を中心に行なわれる盆踊り。急調の三味線（しゃみせん）・笛・太鼓・鉦（かね）に乗り，一団の縦列となって町筋を激しく踊り歩く。歌は，江戸時代に流行したよしこの節*。〈踊るあほうに見るあほう，同じあほなら踊らな損じゃ〉の囃子（はやし）ことばは有名。旧暦7月13～16日に行なわれ，近年は観光の対象となってますます盛んである。

アワクーム ［Petrovich Avvakum］（1621～1682）ロシア分離派教徒の指導者，主教，小説家。総主教ニコンの教会典礼の改革に反対してシベリア追放・破門などの迫害を受け，プストジョルスクの土牢（つちろう）に15年間幽閉されたうえ，火刑に処せられた。《自伝》その他の著作は独創的な内容と個性的な文体で文学史上重要な位置を占めている。

あわじ【淡路(国)】 淡路島*全島の旧国名。四面海に囲まれ，北は播磨（はりま），東南は紀伊（きい），西南は阿波（あわ）に対す。南海道に属し津名・三原の2郡に分かれ，国府を三原郡（三原町国衙（こくが））に置いた。764年（天平宝字8）淳仁（じゅんにん）天皇がここに流され翌年崩じた。鎌倉時代の守護は佐々木・和田・長沼氏。室町時代には，長沼・大内・細川氏を守護に任じた。戦国時代は三好（みよし）氏の有に帰したが，1581年（天正9）織田信長（のぶなが）に下る。豊臣秀吉（とよとみひでよし）は翌々年仙石（せんごく）秀久を，さらに翌々年脇坂安治（わきさかやすはる）・加藤嘉明（よしあき）を封じたが，1609年（慶長14）代わって池田輝政（てるまさ）の三男忠雄（ただお）を封じ，次いで1615年（元和1）全島を阿波の蜂須賀（はちすか）氏に加えた。明治以後は徳島県・名東県を経て，1876年（明治9）兵庫県に編入。〔黛　弘道〕

あわじしま【淡路島】 兵庫県に属し，面積590km^2のわが国第3の大島で，人口17万6,000。瀬戸内海の東端を扼（やく）し，本州とは明石（あかし）海峡と友ケ島水道（紀淡海峡），四国とは鳴門（なると）海峡を隔てて相対しており，東は大阪湾である。淡路国として1国1島をなし，島名は四国の阿波（あわ）へ渡る道という意味で，〈阿波路〉とも書いた。東岸に洲本（すもと）市があって，淡路支庁が置かれ，島の中心となり，北に津名郡の6町，南に三原郡の4町がある。島はもともと断層海岸に囲まれた地塁山地で，津名丘陵が北に，諭鶴羽（ゆづるは）山地が南にあり，その中間に洲本川と三原川の流れる淡路平野が開けている。最高点は，海抜609mの諭鶴羽山である。農業は，米・麦のほかは，阪神（はんしん）地方を市場とする近郊農業的な色彩をおびており，ビワ・ミカン・ネーブル・ブドウなどのくだもの，促成栽培の野菜や草花などが主で，淡路平野のタマネギ栽培は，兵庫県を日本一のタマネギ産地たらしめている。乳牛も



淡路島

淡路平野を主として，盛んに飼育され，兵庫県の酪農の一中心となっており，漁業は沿岸漁業が主である。近代工業はふるわないが，洲本に紡績工業があり，また西淡町と南淡町に淡路がわら，一宮(いちのみや)町に線香などの特産がある。

島は，《古事記》に出てくる〈オノコロ島〉といわれ，その歴史は古く，江戸時代には，徳島の蜂須賀(はちすか)藩の所領で，洲本に重臣の稲田氏を置いて，統治させていた。1871年(明治4)の廃藩置県で，島は名東県(いまの徳島県)にはいったが，1876年に兵庫県に編入された。瀬戸内海国立公園の一部として，鳴門のうず潮をはじめ景勝地に富み，洲本城跡などの史跡も多く，郷土芸能の淡路人形*も残っていて，観光資源に恵まれており，特に阪神方面からの客が多い。明石港，神戸(こうべ)市の長田港，大阪府の深日(ふけ)港，徳島県の鳴門港とフェリーボートで結ばれており，また本州・四国連絡架橋計画の一つとしての淡路島経由の明石～鳴門のルートが実現すれば，大きなプラスとなることはいうまでもないが，一時中断していた計画も1976年(昭和51)6月，大鳴門(おおなると)橋の下部工事の開始によって，一歩が進められつつある。〔浅井得一〕

あわしじら【阿波縮】 阿波地方(徳島県下)に産するもめん着尺地。この地方特産の藍(あい)によって染めた糸を用いての本藍染である点と，布面が平滑でなく，凹凸(おうとつ)を呈しているところに特徴がある。布面の皺(しぼ)は張力の異なる2種の経糸(たていと)を用いることによって生ずる。つまり，ある一定の張力を有する地糸と，それより張力をゆるくした波糸とをある本数ずつ交互に経糸にそろえて織ると，波糸の部分にたるみができる。そこで，製織後に熱湯に浸してもみ，屋外の竹ざおに引っ張らないようにして掛け，日光乾燥をすると独特の波状の皺が生ずる。また，平織りと経畦(たてうね)織りとを組み合せた混合組織をつくり，畦織りのほうの張力を弱くして布面に縮(ちぢみ)状のしまを表わしたものもある。布面に皺があるので，はだにつかず，さらっとした風合いが夏着尺として好まれる理由である。江戸時代から織られていた混合組織による〈たたへ織〉に，明治初年徳島の海部ハナがくふうを加えて創始したもので，大正年間を頂点に年間200～300万反の生産を誇っていたが，第2次世界大戦を境に生産は低下し，現在は民芸織物として年間30,000～40,000反が生産されている程度である。1963年(昭和38)徳島県の無形文化財に指定された。〔北村哲郎〕

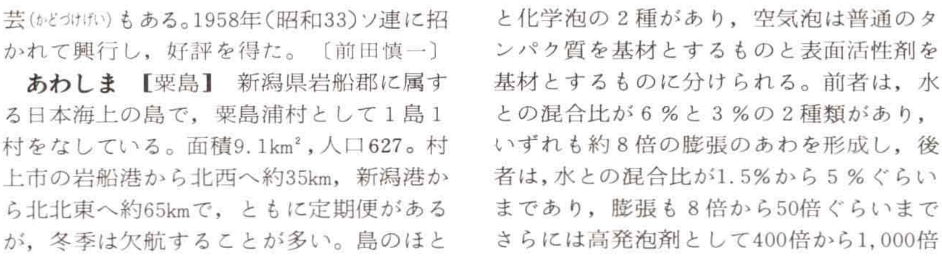
あわじにんぎょう【淡路人形】* 淡路島に残っている人形劇。その歴史は現在の文楽よりも古く，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の全盛時に始まり，上村源之丞(げんのじょう)家を中心に40以上の座(劇団)があったが，現在は3座が残るのみである。義太夫節(ぎだゆうぶし)による3人づかいで，演出は古風，文楽に見られない出し物もあり，小屋掛け興行なので，人形の頭(かしら)も文楽の人形より大きい。現在はマイクロフォンを用いて演じている。また，劇団を組織せず，1人づかいの門付芸(かどづけげい)もある。1958年(昭和33)ソ連に招かれて興行し，好評を得た。〔前田慎一〕

あわしま【粟島】 新潟県岩船郡に属する日本海上の島で，粟島浦村として1島1村をなしている。面積9.1km²，人口627。村上市の岩船港から北西へ約35km，新潟港から北北東へ約65kmで，ともに定期便があるが，冬季は欠航することが多い。島のほとんどが山地と丘陵で，最高点の海抜265mの小柴(こしば)山の頂上には，燈台がある。平地は，東岸の内浦部落の付近にわずかにあるだけで，島の表玄関となっている内浦のほか，西岸に釜谷(かまや)の部落がある。島の経済はおもに漁業に依存しており，その中心は毎年4月から7月にかけて行なわれる大謀網漁業である。麦・ダイズ・アズキ・サツマイモ・ジャガイモ・ナタネなどをつくっている畑のほか，水田が内浦にわずかにあるが，1964年(昭和39)の新潟地震による隆起のために，水利が悪くなって，いまは米をつくっていない。竹材の特産があるが，最近は多くの竹林が枯れてしまった。9月から3月までの漁閑期・農閑期における出かせぎが盛んで，対岸の燕(つばめ)・白根両市および西蒲原(にしかんばら)郡方面の稲刈りの手伝いが主となっている。診療所はあるが，医師が来島せず，無医村である。西海岸は沈降海岸で風光がすぐれ，最近は観光客も多い。〔浅井得一〕

あわしましんこう【淡島信仰】 和歌山県海草郡加太町の淡島明神(加太神社)に対する民間信仰。祭神は住吉神(すみよしのかみ)の女房神とされる淡島様。婦人病に効験があると信じられた。女子が形代(かたしろ)の人形をつくって納める風習は古くからあったが，17世紀末，元禄(げんろく)ごろの乞食(こじき)願人が，淡島明神を安置した紅紫などの小ぎれを結びつけた神だなを持って，声高に淡島様の縁起を唱えて諸国を巡回し，信仰を広めて歩いたらしい。関東の農村では，3月3日に婦人たちが淡島講ないし三日月講を行なう風習がある。〔紙谷威広〕

あわしょうかそうち【泡消火装置】 2種類の薬剤の化合によって生ずる化学泡(ほう)，または表面張力の低い液で空気を包んだ空気泡を放射し，空気を遮断(しゃだん)することによって消火する装置。あわは空気泡と化学泡の2種があり，空気泡は普通のタンパク質を基材とするものと表面活性剤を基材とするものに分けられる。前者は，水との混合比が6%と3%の2種類があり，いずれも約8倍の膨張のあわを形成し，後者は，水との混合比が1.5%から5%ぐらいまであり，膨張も8倍から50倍ぐらいまで，さらには高発泡剤として400倍から1,000倍ぐらいまで膨張するものがある。高発泡のものはあわを再び金網などを通して膨張させる。油類の引火性液体の消火に適している。〔矢筈野義郎〕

あわじんじゃ【安房神社】 千葉県館山(たてやま)市大神宮にある。大井明神・安東明神ともいう。《古語拾遺》によると，神武天皇東征のとき，アメノトミノミコトは阿波(あわ)(徳島県)の斎部(いんべ)氏を率いて東上し，沃野(よくや)を求めてこの地に麻穀(あさゆう)を植えた。そのときアサの生じた所を総(ふさ)の国(のちの上総(かずさ)・下総(しもうさ))，



淡路人形 (左)《賤ケ嶽七本槍》にみられる淡路人形独特のはなやかな舞台。7頭のウマが勢ぞろいする演出は他に類がない (右)姫からキツネへの首の早替わり。淡路人形に残る珍しい演出の一

木綿(ゆう)の生じた所を結城(ゆうき)郡と称し，斎部(いんべ)氏の居所を安房郡と称した。その安房郡に斎部氏の祖である天太玉命(あまのふとだまのみこと)を祭る社を創建したのが当社である。安房の一の宮として里見氏の崇敬を受け，歴代の里見氏の寄進状が残されている。例祭は8月10日。　〔佐野文哉〕

あわせ【袷】 表布と裏布とを縫い合わせた衣服の総称で，おもにあわせ長着をさす。奈良時代，朝廷を中心に取り入れられた唐風衣服には，絹にあわせ仕立てがあって，公家(くげ)装束としては江戸時代の末まで引き続いたが，現在のあわせ長着は近世初期新興の武士・町人の富裕階級から発達したもの。初期は通し裏で男女とも紅色の平絹が縫いつけられ，毛抜き仕立てであったのが，江戸中期からよごれに応じるために，そで口布・すそまわし・胴裏と分けてつけることも始められた。春秋の防寒用であるが，昭和にはいってから綿入れがすたれはじめ，現在は春秋冬を通して防寒用となった。しかしそれも1955年(昭和30)ごろからウール地のひとえが流行し，あわせは晴れ着以外は冬でも用いられることが少なくなった。　〔堀越すみ〕

あわせぐも クモ形類・アワセグモ科。体長1cmほど。黄色地に濃色の模様がある。網を張らず，人家の壁，木の幹などを歩きまわってえさをとる。本州以南，朝鮮・台湾に分布。

あわせじょうゆ【合わせ醤油】 しょうゆ・みりん(または砂糖と酒)・煮出しじるを合わせたもの。てんぷらや精進揚げのつけじる(天つゆ)，そばのつけじる(そばつゆ)，うどんのかけじるなどに用いられる。

あわせず【合わせ酢】 調味酢ともいい，食酢に塩またはしょうゆ，砂糖，その他の材料を合わせたもの。加える調味料や材料により，二杯酢・三杯酢・黄味酢・吉野(よしの)酢・ごま酢・土佐酢・みぞれ酢・からし酢・ポン酢・梅肉酢・うに酢・松前酢・たで酢などがある。酢の物の味付けに用いられ，材料の上からかけたり，あえたりして材料の持ち味を生かす。そのため材料に適した合わせ酢をつくることがたいせつで，酢は良質のものを選ぶ。　〔塩川ふみ〕

あわたぐち【粟田口】 京都市東山区の町名。三条白川橋の東にあり，東海道の京都への出入り口にあたる。〈粟田焼〉と称する粘土質陶器の産地であり，平安末期以来刀工の名家粟田口氏も代々ここに居住していた。また，延暦(えんりゃく)寺三門跡の一つである青蓮院*(しょうれんいん)は，皇室とも関係が深く，親鸞(しんらん)がここで剃髪(ていはつ)したことがよく知られており，多くの観光客を集めている。

あわだちそう【泡立草】 ⇨アキノキリンソウ

あわたてき【泡立て器】 卵や生クリームなどをかき混ぜてあわ立てたり，ソースなどを混ぜ合わす器具。形は茶せん状のものが最も多く，大小数種類ある。このほか，細針金で編んだ網あわ立て，太めの針金でつくった車つきのもの，らせん形のものがあり，いずれも卵を激しく打ってあわを立てる。このため先端は弾力が必要なのでピアノ線を使うが，ステンレススチール針金製もある。

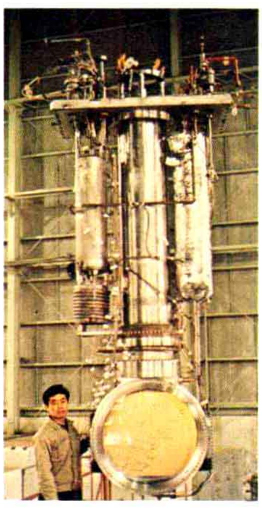
あわづ【粟津】 滋賀県大津市の南東地区。瀬田・橋本から膳所*(ぜぜ)に至る旧東海道の松並み木があり，近江(おうみ)八景の一つ〈粟津の晴嵐(せいらん)〉の景勝地となっている。1184年(寿永3)に，源義仲(よしなか)が源範頼(のりより)・義経(よしつね)の軍に敗死した地で，義仲を葬った義仲(ぎちゅう)寺(無名庵(むみょうあん))は，松尾芭蕉(ばしょう)を葬った芭蕉塚(ばしょうづか)のあることでも知られる。

あわづおんせん【粟津温泉】 石川県小松市粟津町にある温泉。泉温は50～59℃，泉質は単純硫化水素泉で，胃腸・貧血症・皮膚病・リウマチなどにきく。開湯以来1,300余年たつといわれる北陸地方最古の温泉である。養老山を中心とする丘陵に囲まれた場所で，古風な旅館が多く，温泉街の中ほどには共同浴場がある。交通は北陸本線粟津駅と小松駅からバスの便がある。

あわづけ【粟漬け】 魚介類の酢づけの一種。イワシ・コハダ・ハマグリ・小ダイ・アサリなどを酢づけにして，蒸したアワとショウガ・トウガラシを混ぜてつけこむ。正月料理としてコハダのあわづけが使われる。〈イワシのあわづけの作り方〉イワシの頭・腸を取り，洗って三枚におろし，食塩で半日ぐらいあらづけにし，1～2時間陰干しにする。アワを洗ってせいろで蒸し，さましておく。酢に砂糖またはみりんを混ぜ煮沸かしてさまし，赤トウガラシの種を取って輪切りにし，以上をよく混ぜ合わせ，魚をつけこむ。　〔塩川ふみ〕



アワノメイガ



泡　箱
東京大学原子核研究所

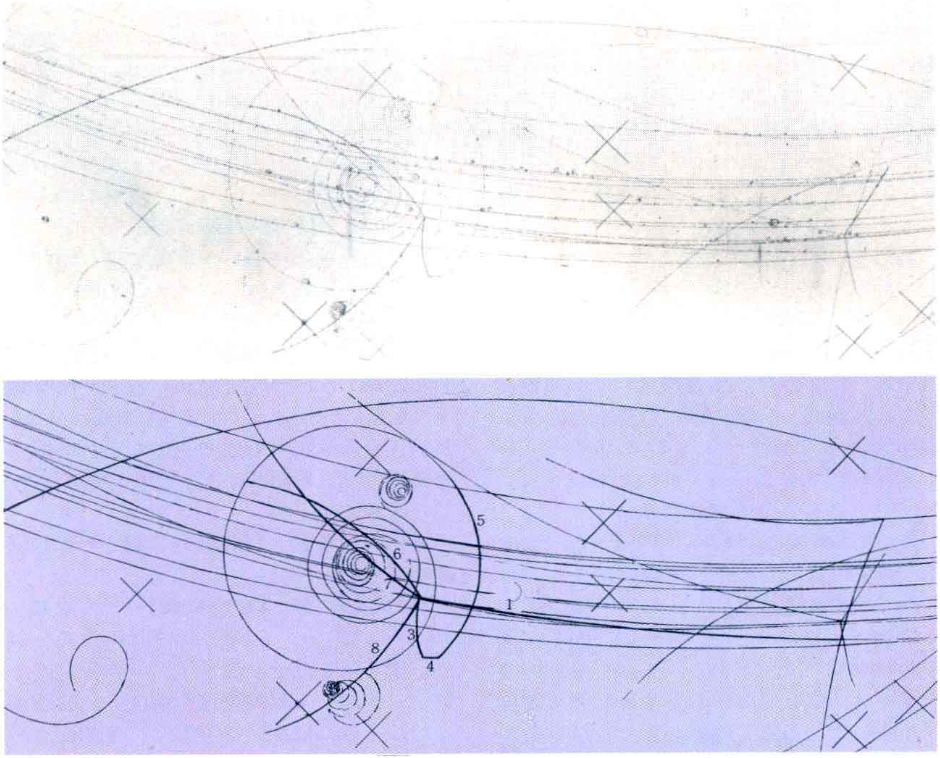
あわのせいほ【阿波野青畝】(1899～　)俳人。奈良県の生まれ。本名敏雄(としお)，もと橋本姓。はじめ《ホトトギス*》の原田浜人に学び，その主観尊重に影響されたが，のち高浜虚子*に師事して客観描写を学んだ。昭和初期，水原秋桜子*・山口誓子*・高野素十*らと〈4S〉とよばれ，《ホトトギス》の黄金時代を築いた。1929年(昭和4)《かつらぎ》を創刊，主宰。《万両》《国原》《定本青畝句集》などがある。

あわのなると【阿波の鳴門】 ⇨傾城阿波鳴門(けいせいあわのなると)

あわのめいが【粟野螟蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。成虫は体長25～30mm，翅(はね)を広げた長さは25～30mm。雄は頭部・胸部および前翅はかっ色で，前翅には暗かっ色の帯状の紋があり，後翅は淡かっ色で，外縁に近く淡い黄色の帯がある。雌は雄に比べ色が薄い。老熟した幼虫は体長25mm内外で，アワやトウモロコシなど多数の植物の茎中に食い入り大害を与える。発生は年1～3回で，幼虫で越冬する。

あわばこ【泡箱】 荷電粒子の飛跡を観測する装置。バッブルチェンバー(bubble chamber)の訳。液体をうまく操作し発生するあわの列で粒子の飛跡をとらえるので泡箱と名づけられた。1952年ミシガン大学のD.A.グレーサーが発明した。ビールのあわにヒントを得たといわれ，1960年度ノーベル物理学賞が与えられた。はじめは数立方センチメートルの小さなものだったがカリフォルニア大学のL.アルバレス*らは直ちに改良を試みさしわたし2mの大きなあわ箱を製作，原子核乾板・放電箱とともに素粒子研究の重要な実験装置とした。実験の目的により液体としてプロパン・フレオン・ゼノン・ヘリウム・水素など単一成分のものや，2種類以上の混合液も適宜使われる。アルバレスはあわ箱で行なった素粒子*の研究で1968年度ノーベル物理学賞を受賞した。

〔原理〕 液体を沸騰させずに沸騰点以上に熱すると熱力学的に不安定な過熱状態となる。液体の過熱については古く1922年ごろに研究されていた。不純物や容器壁に吸着しているガスを十分に除去したきれいな液体を沸騰点より少し高く熱し，沸騰しないように圧力を加えておく。これを急に膨張(断熱膨張)すると液体は過熱状態となる。過熱液体中を高速荷電粒子が通ると電離作用によって液中にイオンがつくられるが，同じ符号の電荷をもっているイオンが数個集まって小さなかたまりになっているとする。熱的に不安定状態の液体が，これらの



液体水素泡箱で反陽子による反応を撮影した例

① ② ③ ⑥ ⑦ ⑧

$\bar{p} + p \longrightarrow \pi^- + \pi^- + \pi^+ + \pi^+$

└④ $\mu^- + \nu$

└⑤ $e + \nu + \bar{\nu}$

$\bar{p}$ ：反陽子　p ：陽子(水素原子核)

π^-：負 π 中間子　π^+：正 π 中間子
μ^-：負 μ 中間子　ν：ニュートリノ(中性微子)
$\bar{\nu}$：反ニュートリノ　e：電子
反陽子が水素原子核と結合消滅し，二つの負 π 中間子と二つの正 π 中間子が発生している。③→④→⑤は，$\pi \rightarrow \mu \rightarrow e$ と連続に崩壊したもの。荷電粒子の軌道は，磁場の中であるから曲がっている

泡　箱

イオンのかたまりの影響で変化するのが再結合で，イオンが消滅するより早いなら，イオンのかたまりは静電気圧力となって，その場所の液体の温度を高め気泡(きほう)となる核を形成する。いま，液体に加えてある圧力がその温度における液体の飽和蒸気圧より低いときは，核は成長してあわとなる。荷電粒子が通った道筋にイオンのかたまりがいくつもつくられ，発生するあわもその道筋に沿った列となるから，あわが大きく成長して移動するまでに観測すれば粒子の飛跡になっている。

〔実例〕素粒子の研究にいちばんよく使われているのは液体水素泡箱である。液体水素の沸騰点は−249℃だから，泡箱の温度を少し高く−246℃とし約5気圧の圧力を加えておく。断熱膨張はピストンで行なうから，粒子が通るまえに膨張の操作を開始する。ふつう，加速器のサイクルに同期して行なう。あわができる最良の状態になるまでの時間は，泡箱の大きさや構造によるが，だいたい数百分の1秒かかり，このときに粒子が通るように操作する。そしてあわがくずれるまえに，つまり粒子通過後数千分の1秒以内にフラッシュランプを数十万分の1秒間照らしてあわの列を写真撮影する。



アワビ

粒子の運動量を知るために泡箱と一体となった電磁石で静磁界を加えてある。飛跡が写されたフィルムは特殊なプロジェクターによって解析され，大形電子計算機によって計算処理し，素粒子についての種々の知識を得る。〔福井崇時〕

あわはん【阿波藩】阿波(徳島県)名東郡徳島に所在した藩。徳島藩ともいう。藩主蜂須賀(はちすか)氏*。阿波・淡路(兵庫県)の2か国を領有。1585年(天正13)蜂須賀家政(いえまさ)が豊臣秀吉(とよとみひでよし)から阿波を与えられ，さらに3代至鎮(よししげ)のとき，大阪の陣の功によって淡路を加えられ，計二十五万七千石。藩政初期より藍作(あいさく)を中心とする殖産興業政策を強力に推進。1733年(享保18)より専売制を実施し，藩が葉藍を一手に買い占めて，指定藍玉生産者に払い下げた。1756年(宝暦6)藍玉一揆(いっき)によって専売は廃止されたが，その後も統制を続け，塩とともに藩の有力財源をなした。1870年(明治3)淡路洲本(すもと)城代稲田氏が本藩からの独立を企て，本藩藩士の襲撃を受けた。これを庚午(こうご)事変稲田騒動といい，明治政府によって処分された。

あわび【鮑】軟体動物・腹足綱の巻き貝。クロアワビ・エゾアワビ・マダカ・メカイなどに分けられるが，いずれもよく似る。長さ20cmほどになり，全国沿岸の水深20mくらいまでの岩礁地帯にすみ，褐藻(かっそう)類を食べる。非常に美味で高価である。

クロアワビ・エゾアワビは，アオガイ・オガイ(雄の貝の意)などとよんで，生食(さいの目に切って水に浮かべるいわゆる水貝という料理法など)するのに適し，メカイ・マダカはビワガイ・メガイ(雌の貝の意)とよんで，塩蒸し・酒蒸しなど加熱して食べるのに向く。中国では干製品を賞味する。祝いに用いる熨斗(のし)も，本来はアワビを薄く切って干したものである。ふつう，海女(あま)が潜水して取るが，資源保護のため小形のものは取らないことにしている所が多い。

古人は，本来2枚あるべき殻(から)の片方を失ったのだとして，〈いそのあわびの片思い〉ということばを残したが，所属が示すように巻き貝であり，殻が1枚なのはあたりまえである。〔菅野　徹〕

あわぶき【泡吹】双子葉植物・アワブキ科。低山性の落葉高木。高さ7〜8m。葉は互生し，倒卵形で長さ10〜25cm，幅5〜20cm，多数の平行脈は葉縁に達し，針状の鋸歯(きょし)となる。5〜6月に枝の先端に小白花の円錐(えんすい)花序をつける。がく片5，花弁5，おしべ5，めしべ1。9〜10月に赤色の小液果をつける。

あわふきむし【泡吹虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アワフキムシ科。分類学上セミ*に最も近縁で，世界にきわめて多くの種が分布し，日本にもシロオビアワフキ・ホシアワフキなど多数の種が知られる。幼虫は，樹木の枝幹や草木の茎に白色のあわを分泌し，その中で吸汁(きゅうじゅう)する。アブラムシと同様，植物の種類によって寄生する種類が異なるが，雑食性の種も多い。形態の類似した種類が多く，同一種でも産地や発生時期によってその色彩に著しい変異を示すものが多い。

あわもり【泡盛】沖縄のしょうちゅう*である。アワまたは米を原料として泡盛こうじをつくり，かめに仕込む。発酵が終わ

れば銅製の簡単な蒸留機で蒸留する。アルコール分は40～50度。

あわもりしょうま【泡盛升麻】双子葉植物・ユキノシタ科の多年草。アワモリソウともいう。暖地の谷川の岩の上などに自生するが，花壇にも植えられる。高さ50cm。夏の初め，多数の白い小花をあわのようにつける。

あわゆき【泡雪】卵白をあわ立て，雪のようにしたもので，これを利用したものに泡雪羹(かん)・泡雪そば・泡雪蒸しがある。卵白は攪拌(かくはん)すると起泡(きほう)する性質があり，これにはタンパク質のうちグロブリンが関与する。攪拌するとき30℃前後がよく，油や水分がはいるとあわ立ちにくくなる。泡雪羹は，寒天を水に浸し，柔らかくして水を絞り，定量の水を入れて煮とかし，砂糖を入れてとかす。これをこして少し煮つめ，よくあわ立てた卵白にかき混ぜながら注ぎ，香料を入れ，38℃ぐらいにさめたとき，型に流し固める。〔塩川ふみ〕

あわよとう【粟夜盗蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。成虫は体長18mm内外，翅(はね)を広げた長さは40mm内外。体・翅ともに淡かっ色。前翅の先端はとがる。卵はまんじゅう形で黄白色。老熟した幼虫は体長35mmで，灰黒色で黒色と灰黄色の縦条をもつ。世界各地に広く分布し，幼虫はイネ・麦類・アワなどのイネ科作物に大害を与える。発生は年数回。幼虫は葉を食するが，成長すると昼間は根ぎわなどに潜み，夜間活動する。しばしば大発生をする。幼虫は高密度で飼育すると，いわゆる密度効果によって体色の著しく黒化した個体が生ずる。〔鈴木邦雄〕

あわらおんせん【芦原温泉】福井県坂井郡芦原町にある温泉。泉温56℃，泉質は無色透明の食塩泉で，神経系統病・胃腸病・火傷・関節炎・呼吸器病・消化器病などにきくといわれる。1883年(明治16)に発見され，1956年(昭和31)の大火後近代的な温泉町となる。日本海に臨み，近くに東尋坊・越前松島(えちぜんまつしま)・吉崎御坊(よしざきごぼう)・北潟湖(きたがたこ)などの越前加賀海岸国定公園の景勝地があり観光客でにぎわう。交通は国鉄三国線・京福電鉄三国芦原線やバスの便がある。〔木村東一郎〕

あわれなつじおんがくし【哀れな辻音楽師】グリルパルツァー*の小説(1848)。主人公は権勢家の子として生まれたが，頭が弱く人を疑うことを知らない純真な人がらのために，財産を奪われ，恋を失い，辻音楽師に身を落とし，ついには，洪水(こうずい)のとき子どもを救い，かぜをひいて死んでしまう。この万事に無器用な主人公のふるまいに魂の純潔が輝き出ている。また，作者自身が観察者として登場する手法をとったいわゆる枠(わく)小説の典型的な傑作。

あん【餡】アズキ・インゲンマメなどの豆類を煮て押しつぶし，水さらししたものをあんと総称する。製造上から生あんとさらしあんに分けられ，前者は乾燥しないままのもの，後者は乾燥して粉末状にしたもの。また原料によってあずきあんと白あんに大別される。あずきあんはアズキ・ダイナゴン・ササゲなどを原料としたもの，白あんはインゲンマメ・ビルママメ・アオエンドウ・イモ類などを原料としたものである。以上の原料のほか，ナガイモ・ゆり根・クリのようなものもあんになる。

これらの原料が独特のあん状を呈するのは，デンプンが細胞の中にある細胞デンプンで細胞膜に包まれたうえ，その外側をさらに熱凝固したタンパク質で包まれているからである。したがってデンプン粒そのものからはあんはできず，また細胞デンプンを有する原料も，すりつぶしてしまうとあんにはならないでのり状になってしまう。

生あんはふつう，アズキを煮たのち，こして皮を取り水に沈殿してくる部分を絞って水分を取ってつくる。生あんの水分は60～65%。これを火力乾燥してさらしあんとする。いずれも砂糖と合わせ用い，練って和菓子類の材料とする。このようにして練ったものをあんということもある。これをつくるには生あんと同量の白ざらと70%くらいの水あめを加えて焦げつかぬように練りあげる。光沢があり，色沢・風味が良好のものがよい。〔佐藤友太郎〕


幼　虫

アワヨトウ


成　虫

アン(女王)［Anne］(1665～1714) イギリスの女王。在位1702～1714年。スチュアート朝最後の君主。ジェームズ2世の末娘で，メアリ2世*とは姉妹である。新教徒として教育され，デンマーク王子と結婚。名誉革命*では父王側を離れて，姉メアリとその夫(のちのウィリアム3世*)側についた。ウィリアム3世の死後，王位についたが，国政には関心が薄かった。しかし，その治世中にスペイン継承戦争*に勝ち，1707年にはイングランド・スコットランドを併合して大ブリテン王国を達成。また，政党政治・責任内閣制が発展し，デフォー*・スウィフト*らが活躍して，イギリス文学史上の黄金時代をもたらした。〔松下京子〕

あんえい【晏嬰】(?～BC500) 春秋時代の斉(せい)の政治家。下級貴族の出身であったが，霊公・荘公・景公に仕え，内政外交に活躍した。斉の実力者であった崔(さい)氏・慶氏・陳氏らをおさえ，斉室の再建に努めた。当時の鄭(てい)の子産とともに賢相として著名。彼の言行録《晏子春秋》は，戦国から漢にかけて作成され，後世の思想も含む。

あんか【行火】家庭暖房用具の一。行火炉の略。江戸時代には木製のものが用いられたが，明治以降には土製のものが一般的となった。立方形で上部は丸く，前面だけをあけて火の出し入れをする。従来は木炭・豆炭を火入れにいけてあんかに入れ，ふとんなどをかけて手足を暖めた。近年は薄形の電気あんかが普及し，おもに睡眠時に足を暖めるために広く用いられている。

アンガウル(島)［Angaur］ミクロネシアに属する，パラオ諸島最南の島。面積8km^2のサンゴ礁。人口450(1962)。リン鉱はその埋蔵300万tと推定され，1909年より採掘している。住民はミクロネシア人のカナカ族。気候は高温多雨で，タロイモ・パパイヤをつくる。第1次世界大戦後日本の委任統治地になったが，1944年10月アメリカ合衆国が占領。現在，アメリカ合衆国の信託統治地。

あんかけ【餡掛け】くず粉またはかたくり粉を水どきし，調味したしるに入れて煮て濃度をつけたあんを掛けた料理。ダイコン・カブ・豆腐・魚・めん類などをゆでたもの，煮て下味をつけたもの，または蒸し物などに掛ける。さめにくいので冬の料理，集団給食用に適している。あんの濃度は材料や好みにより随意である。あん掛け豆腐・空也(くうや)豆腐あん掛け・魚かぶら蒸しあんかけ・あん掛けうどんなどがある。

アンガージュマン［engagement］本来は義務とか契約とか約束を意味したフランス語だが，現代の思想や文学において特別な意味をもつようになった。つまり，現代の政治的・社会的・イデオロギー的闘争から生じてくるさまざまな問題を自分自身の問題としてとらえ，それに対し態度決定を行なって一定の立場に参加すること，あるいは自己拘束することをいう。また実存主義，特にサルトル*がこのことばを標榜(ひょうぼう)したために哲学的意味を獲得するに至り，自由や選択の観念と結びついた。→実存主義〔飯塚勝久〕

アンカーボルト［anchor bolt］木造土台や鉄骨柱脚をコンクリート基礎などに定着させるための鋼製ボルト。引き抜きに抵抗するために端部がかぎ状に折り曲げられたり，アンカープレートが取り付けられたりしてコンクリート中に十分埋め込まれ

る。各種機械設備の床へのすえ付けに用いるものもいう。

アンカラ ［Ankara］ トルコ共和国の首都。人口199万(1975)。旧名アンゴラ。山城を思わせる旧市街の歴史は古く，ヒッタイトの時代にさかのぼることができるが，それに連なる新市街はケマル-アタチュルク*が旧都イスタンブールから首都をここへ移して共和国を発足させた1923年以降に建設されたものである。アンゴラ*とその毛織物を産するほかには特別の工業はなく，政治的理由だけから首都となった町で，きわめて官公色が濃かったが，近年は人口も急激に増加し，果実・穀物の集散が行なわれ，また鉄道・空路によってヨーロッパとアジアを結ぶ交通上の要地となっている。〔今井留吉〕

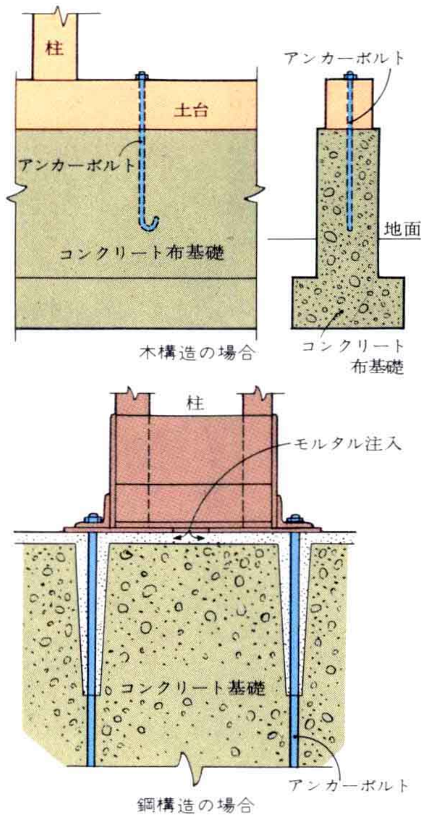
アンガラ(川) ［Angara］ シベリア東部，バイカル湖の西端に発し，エニセイ川に注ぐ川。長さ1,850km。流域105万km²。上ツングスカ川ともいう。この川の豊富な水力資源とイルクーツク周辺の石炭や鉄鉱資源とを結びつける総合工業地帯化が計画されている。急流であるため大形船の航行はできないが，東シベリアと西シベリアを結ぶ重要な航路になっている。

アンガラたいりく ［アンガラ大陸］ 先カンブリア紀層が広く分布した楯状地*(たてじょうち)の一。アンガラ楯状地ともいう。レナ川とエニセイ川にはさまれた中央シベリアのやや南部にあたり，エニセイ川の一支流アンガラ川の流域，イルクーツクを中心としている。この楯状地のところどころには古生代後期と中生代の植物化石を含む地層が発達しているのが特徴で，中生代の古地理の一区分としてもアンガラ大陸の名称で使われる。ゴンドワナ大陸*に対して使われることが多い。〔平山　健〕

アンカラのたたかい ［アンカラの戦い］ 1402年，新興のオスマン国家軍とチムール軍の間にアンカラ*で行なわれた戦い。この戦いののち，オスマン国家は小アジアの領土の大半を失い，スルタンのバヤジド1世*は捕虜となって，後継者の定まらないまま12年に及ぶ混乱期にはいった。

アンカレジ ［Anchorage］ アメリカ合衆国アラスカ州中南部，クック湾奥にある港湾・軍事都市。人口46,000(1970)。アメリカ合衆国の陸・空軍の基地があり，空港はヨーロッパ・アジア・アメリカを結ぶ欧亜航空路の要地。アラスカ州第1の都市として，この地域における経済・文化の中心をなし，東郊にはアラスカ-メソジスト総合大学がある。

あんかんてんのう ［安閑天皇］ 継体天皇の皇子。名は勾大兄(まがりのおおえ)。母は尾張(おわり)氏。《日本書紀》によれば継体天皇の死後，2年間の空位の後即位し，在位531～532年とある。皇居は大和(やまと)(奈良県)高市郡の曲金橋宮(まがりのかなはしのみや)，陵墓は大阪



アンカーボルト



アンカラ　アタチュルク霊廟の壁画。トルコ共和国建国の父ケマル-アタチュルクの霊廟はアンカラ市西方の台地にあり，広い敷地をとって大理石で築かれている

府柏原(かしわばら)市の高屋丘陵(たかやのおかのみささぎ)と伝える。

あんき ［暗記］ ある材料を記憶する場合に，内容の意味や相互関係の把握(はあく)を前提とせず材料そのままを記憶し，想起するときにも表現や順序を変えない原形どおりの再生が要求されることをいう。こうした機械的記憶の能力は，幼児期に急速に発達しはじめ，児童後期(10～12歳)で最高に達する。年号や外国語の単語など，本来無意味な材料の記憶は暗記によるほかないが，それも意味のある語に置き換えることによって容易になされる。たとえば詩や文章の暗記では，分習法(一句ごとにくぎっての学習)より全習法(全体の把握をさきにして，それをくり返すことによる学習)が有効であることなども研究されている。いずれにしても，反復することを基本とする学習は，その教材の限界をわきまえて，暗記の領域を拡大しないように考えるべきである。〔石原静子〕

あんきしょう ［安徽省］ アンホイ省　中国揚子江下流部の省。面積139,900km²。人口3,500万(1967年推)。省都は合肥。6省轄市(合肥・淮南(わいなん)・濉溪(すいけい)・蚌埠(ぼうふ)・馬鞍山(ばあんざん)・銅陵)，9専区，70県に分かれる。

省のほぼ中央を東西に大別山脈が走り，北の淮河流域と南の揚子江流域を分ける。おもに淮河流域は畑作地帯，揚子江流域は水田地帯となっている。米・麦・アワ・コウリャンなどを産し，祁門(しもん)・屯溪(とんけい)・六安・霍山(かくざん)などの茶は名産とされている。鉱業では石炭(淮南)・銅(銅陵)，工業では製紙(宣城)，墨・すずり(歙県(しょうけん))などの伝統工業が行なわれるほか，合肥を中心に紡織・製粉・農具・コルク・日用品などの工業が盛んである。交通は，津浦(しんぽ)(天津～浦口)，淮南(淮南～裕溪口)，寧蕪(ねいぶ)(南京(ナンキン)～蕪湖)などの諸鉄道が通じ，揚子江・淮河の汽船交通も利用度が大きい。安徽の名は，1667年の江南省の分割の際，江北の安慶府と江南の徽州府の名を取ったもの。〔船越昭生〕

あんぎゃ ［行脚］ 僧侶(そうりょ)が一つの場所にとどまらず各地を遍歴すること。遍歴の目的は自己の仏道修行を完成させるために，各地の名僧や善知識をたずねることにある。一所不住の思想は，仏教の空*・無執着の考え方に一致するもので，のちには旅そのものが仏道を信奉する心の修練に役だつとされるようになった。

あんぎょう ［安行］ 埼玉県川口市北東部にあたる植木・苗木の産地。大宮台地の南端と低地を占め，江戸時代から切り花・苗木・植木・盆栽などの栽培地として発展した。安行武南県立自然公園に指定され，県立植物見本園がある。

アンギラ(島) ⇨セントキッツ島

アンクタード ⇨国連貿易開発会議

アングリカン-チャーチ ⇨イギリス国教会

アングル ［Jean Auguste Dominique Ingres］ (1780～1867) フランス古典主義の代表的画家。ダビッド*の弟子(でし)。1806年から1824年までイタリアに留学，ラファエロ*に傾倒してその作品を研究，人物，ことに裸体表現の技法を習得し，正確な観察と素描，対象の線的把握(はあく)を特色とした。代表作として《座せる浴女》《グラン-オダリスク》《ルイ13世の奉献》《泉》などがあ

げられる。

アンクル-トムのこや 【アンクル-トムの小屋】 アメリカの奴隷制廃止論誌《国民時代》に連載(1851～1852)された誠実な老黒人奴隷の殉教死物語。逃亡奴隷法の強化で世論がわいているとき発表され，10数か国語に翻訳され，戯曲版も出された。作者のストー夫人は奴隷州ケンタッキーに隣接する自由州オハイオのシンシナチに4年間暮らして，この時局問題のいぶきに触れた。リンカーンは彼女に，〈なるほど，このかわいいご婦人が南北戦争*をひき起こす書物を書かれたのですね〉と言ったという。

〔越智道雄〕

アングロアメリカ ［Anglo-America］ 北アメリカ大陸中・北部で，アメリカ合衆国・カナダ・グリーンランドを含む。アングロ-サクソン系のヨーロッパ人，すなわちイギリス人が主として開拓した地域であるためにこのようによばれるが，フランス人やオランダ人も早くから植民し，ドイツ人・スウェーデン人・アイルランド人・ロシア人・イタリア人・ユダヤ人などものちに移住，黒人奴隷の子孫も多いのでラテンアメリカほどその性格は明確でない。また原住民のアメリカ-インディアンやその白人との混血は，ラテンアメリカに比べると少ない。面積2,151万km²。人口23,500万(1974)。

〔浅井得一〕

アングロ-サクソン ［Anglo-Saxon］ インド-ヨーロッパ語族に属するゲルマン民族の一派で，今日イギリス国民の主要部分を構成するアングル人・サクソン人・ユート人からなる。ヨーロッパ大陸のエルベ川・ウェーザー川周辺に居住していたが，5世紀中ごろから6世紀末にかけてブリタニアに移住し，先住民のブリトン人をイングランド北西部および南西部の辺地に追いやり，7王国*を形成し，1066年のノルマン征服*までに，ほぼ後世のイングランド王国の基礎を築いた。9世紀初期エグバート*が一応他の諸国王を支配下に置いて，孫アルフレッド大王*が北東部を除くイングランド全土をほぼ統一した。しかし，伝統的な旧氏族制的関係にのっとる地域団体(州)の自治が認められていて，中央の支配は不完全で未熟な国家だった。固有の宗教が存していたが，8世紀ごろまでにキリスト教に改宗した。

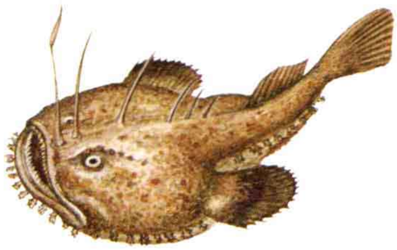
〔松下京子〕

あんけい 【安慶】 アンチン 中国安徽(あんき)省南部，揚子江北岸の河港都市。人口15万(推定)。古くからこの地方の政治・軍事の中心であった。清朝(しんちょう)になって安徽省が成立するとともにその省都となり，中華民国時代まで続いた。1902年イギリスとの通商条約で開港地とされたが，交通条件が悪いため，産業は未発達である。

あんご 【安居】 梵語(ぼんご) vārṣa(バルシャ)の訳で雨季の意。古代インドの出家修行者は一定の場所に住まない遊行(ゆぎょう)の



アングル 《バルパンソンの浴女》1808



アンコウ

生活をしたが，雨季3か月間は，遊行に不便であることと，繁殖期にある虫類を踏み殺すことを避けて，一定の場所で研修する慣習となった。これが仏教教団にも採用されて，仏教の伝播地(でんぱち)で重要な行事となった。安居の期間は4月16日から7月15日まで。初期のころは小屋や岩窟(がんくつ)内で少数の出家者が，後世には僧院内で多数の出家者が共同生活を行ない，在家の信者が食事を運んで教えを受けた。初期の仏典編集はこの期間に行なわれた。7月16日以後は安居の制が解かれ，出家者は再び遊行の生活にはいるが，それに先だって安居中の行為を反省する自恣(じし)の儀式が行なわれた。

〔塚本啓祥〕

あんごいん 【安居院】 ⇨飛鳥(あすか)寺

あんこう 【鮟鱇】 硬骨魚類・アンコウ科。大きいものは1.5mに及ぶ海産魚。琵琶(びわ)のような形をしているが，頭部は全部口といってもよいほど口が大きい。全身黒かっ色。海藻(かいそう)のように見える皮膚の突起が体全体に散在し，鼻先には，えさのように見える突起がある。北海道以南の海底にすむ。冬のなべものとして喜ばれ，肝臓が特に美味だが，骨以外のあらゆる部分が食べられる。皮膚がぐにゃぐにゃしていて，まな板の上では扱いにくく，あごにかぎを掛けてつるして切り分ける。これをアンコウのつるし切りといっている。

〔菅野 徹〕

あんごう 【暗号】 通信文を，第三者には意味のわからない文字または符号で書き表わし，その内容を秘匿する方法・技術。また，このように変形された文を暗号(暗号文)ということも少なくない。暗号のおもな働きは組み立て(原文を変形させる作業)と解読(暗号文を原文に還元し判読できるようにする作業)である。

暗号は外交・軍事・商業上などの連絡や指令を伝達する際，秘密保持上重要な役割を果たす。単純な暗号はスパルタやローマの昔から使用され，人知の進歩とともに巧妙複雑となった。特に20世紀にはいって無線通信が利用されるようになると暗号も大いに発達し，言語の特性上，各国独特の精密な暗号がくふうされた。しかし，通信内容は当事者間で確実容易に伝達し理解されねばならぬから，暗号は簡単なほうが望ましい。一方，秘密保持のためには高度の暗号を必要とする。どのような暗号を用いるかは，通信の緊急性，伝達機関の秘密保持の程度，第三者の解読能力などを考慮して定める。

暗号は基本的にはコード法とサイファー法に分類される。コード法は換字法・隠語暗号法ともいわれ，通信文の語句・音節・文字を当事者間の協定(キーまたはかぎ)に従い他の語句・音節・文字または数字・記号に置き換える方法である。たとえば，アルファベット26字のおのおのに，順位はそのままで少しずらしたアルファベットをあてはめる。A→D，B→E，C→F……とすれば，ARMY＝DUPBという意味不明のつづり(暗語)となる。換字表をつくればもっと複雑な暗語ができる。第2次世界大戦で日本海軍が発した電報〈ニイタカヤマノボレ〉は〈開戦日は12月8日とする。予定どおり真珠湾攻撃を決行せよ〉という意味の隠語であった。

サイファー法は，各文字・語句の配列順序を変更する方法で，転字法ともいう。たとえば何行かに分けて横書きした文の各字を縦に読めば意味不明の文となろう。

もちろん上記2方法は併用される。そして，暗語や隠語だけでは第三者による解読が容易なので，現在では乱数方式によるのが一般である。乱数は数字を任意無作為の順序に並べたもので，通常4数字または5数字組成である。発信者は暗号書(コードブック)により各文字や語句を数字に換え，乱数表の指定された箇所(ページおよび座標。乱数開始符という)からの数字を，事前の約束によってこれに加算・減算などをして暗語をつくり，受信者はその逆の方法によって解く(表参照)。暗号書・乱数表・乱数開始符がこの暗号のキーである。

最近では計算機と発受信機を連動させ作

4 数字組成乱数使用例

〔組み立て〕			〔解読〕
連合艦隊──→	7531	……第 1 次暗語(暗号書)	6165
(原語)	+2890	……乱　数(乱数表)	+3266
	9321	……第 2 次暗語	9321
	−3266	……乱　数	−2890
	6165	……暗　語	7531

注)
1. 〈連合艦隊〉の語は〈6165〉として発信され，受信者はこれを逆の計算により原語〈7531〉を導き出す。
2. 乱数計算は非算数の一般計算方式による。

業能率と秘匿性を著しく向上させた。しかし固定施設や複雑な装置はどこでも使えるというものではない。また，作戦部隊間のように急を要する場合は高度の暗号は間に合わないし，暗号書は第三者の手に渡る危険性がある。第 2 次世界大戦でアメリカ軍が山本五十六(いそろく)元帥搭乗機(とうじょうき)を撃墜したとか，日中戦争で日本陸軍が中国軍の作戦行動を常に詳知していたのは，暗号書の秘密を探知していたためといわれる。第三者の暗号解読技術も暗号の進歩とともに向上していて，現在のところ絶対に安全な暗号はないといわれている。〔森田　哲〕

あんこうてんのう　【安康天皇】　允恭(いんぎょう)天皇の第 2 皇子。名は穴穂。母は皇后忍坂大中姫(おしさかのおおなかつひめ)。5 世紀中ごろの天皇で，大和(やまと)(奈良県)の石上(いそのかみ)に皇居を定めたが，義子眉輪王(まゆわのきみ)に暗殺された。陵墓は奈良市の菅原伏見西陵(すがわらふしみにしのみささぎ)という。《宋書(そうしょ)》にみえる倭(わ)の五王*のうち，興はこの天皇をさすといわれる。

あんこくじえけい　【安国寺恵瓊】　(？〜1600)　臨済宗の僧。瑶甫(ようほ)と号す。安芸(あき)(広島県)沼田郡に生まれる。11歳で京都に行き，東福寺に出家して，順蔵主(じゅんぞうす)と称した。弁才・奇知に富み，南禅寺に移り，のち紫衣(しえ)を許されて，安芸の安国寺に住した。本能寺の変後，和議使となり，豊臣(とよとみ)・毛利両氏の軍に入って和戦を講じ，秀吉(ひでよし)に信任されて伊予(いよ)(愛媛県)六万石を与えられ，仏を捨てて武に帰した。関ケ原の役には西軍に属し，敗れて京都できられた。〔田中良昭〕

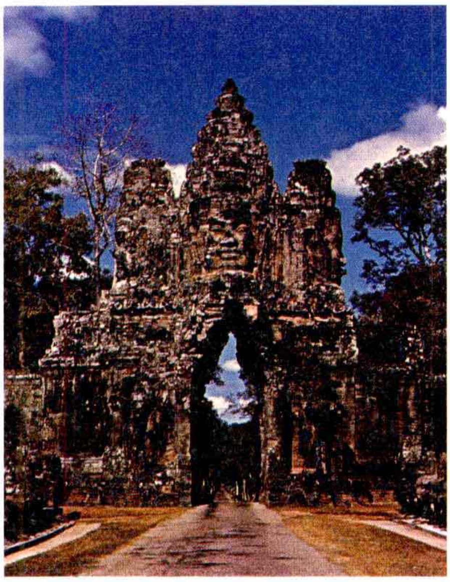
あんこくしょうせつ　【暗黒小説】　犯罪・悪徳などに題材を取り，異常なふんい気のうちに筋が進行する小説に対して付せられた総称。恐怖小説ともいわれる。18世紀フランスの《堕落百姓または人生の危険》(レチフ-ド-ラ-ブルトンヌ*作)《悪徳の栄え》(サド*作)などがあり，イギリスでは暗黒小説の祖といわれるウォルポールの《オトラントの城》がある。

あんこくじりしょうとう　【安国寺利生塔】　足利尊氏*(あしかがたかうじ)・直義*(ただよし)が無窓疎石*の勧めによって，建立した寺塔。国ごとに 1 寺 1 塔を建てる計画を立て，1345年(興国6・貞和1)光厳院の院旨を得て，寺を安国，塔を利生と称した。後醍醐(ごだいご)天皇や戦死者の冥福(めいふく)を祈るとともに，奈良時代の国分寺建立にならって，足利氏の天下統一の抱負を示す目的であった。1338年(延元 3・暦応 1)に和泉(いずみ)(大阪府)久米田(くめた)寺が建てられたのが最も早く，14世紀中ごろにはだいたい完成した。経済的理由により，費用を寄進して在来の寺塔を修理してあてたものが多く，新造は少ない。禅宗の地方発展，禅宗以外の宗教統制など意義が大きいが，室町幕府とともに衰えた。〔藤本昌子〕

あんこくせいうん　【暗黒星雲】　星間物質のかたまりの近傍に温度の高い恒星がないときに生じる光の吸収領域をいう。銀河系内星雲の一種。オリオン座の馬頭星雲のように散光星雲*の光の分布に著しい異常のある場合や，へびつかい座の暗黒路のように天球上の星の密度がまわりの領域に比べて著しく低い場合に，暗黒星雲*の存在が認められる。いままでに約200個の暗黒星雲が発見されているが，背景に発光天体がなければ見つからないことから，銀河系内での実際の数は非常に多いと想像されている。暗黒星雲の一種にグロビュールとよばれるものがある。直径0.1〜1.5光年，質量は太陽の数倍から数分の 1，散光星雲の中にあって星が生まれるもとになるものだと考えられている。➔星雲　〔守山史生〕



暗 黒 星 雲　オリオン座馬頭星雲



アンコール-トム　南門

アンゴラ　[angora]　トルコのアンカラ原産のアンゴラヤギの毛。モヘアといわれ，光沢があり強く，弾力に富み，夏服地・裏地・コート地・ドレス地などに用いられる。またアンゴラウサギ*の毛をさすこともあり，これは白く長い毛で保温的な編み物地などに用いる。

アンゴラ(人民共和国)　アフリカ大陸南西部にある人民共和国。旧ポルトガル植民地で1975年独立した。独立後も内戦状態がつづき国土の復興が急がれている。面積124万6,700km²，人口690万(1978年推)。首都ルアンダ。北部は熱帯雨林，南部にサバナと砂漠(さばく)が発達している。農産物はコーヒーが主で，ほかにダイヤモンド・銅・マンガン・石油などの鉱産物を出す。首都ルアンダは，ベンゲラと並びアフリカ大陸南部大西洋岸の主要貿易港である。大部分がバンツー系部族で，ポルトガル人は30万人ほど。〔小栗　宏〕

アンゴラうさぎ　【アンゴラ兎】　哺乳(ほにゅう)類・ウサギ科。体重2.7kgほど。カイウサギの一品種で，毛用とされる。原産地はトルコのアンカラといわれ，フランスおよびイギリスで改良された。年に 3 〜 4 回毛を刈り，年間500gほどの毛量がある。毛はヒツジよりも軽くて暖かいので，織物やフェルトの原料とされる。

アンコール　[encore]　フランス語で〈もう一度〉の意味の副詞から生まれた音楽用語。公開の演奏会やオペラで，聴衆の称賛にこたえて，演奏家がもう一度同じ曲を演奏することをいう。今日では，予定のプログラムのあとに別な小品をつけ加えることが多い。この習慣は17世紀のオペラの盛んな時代に生まれたが，アンコールは，オペラではとりわけ全体の流れをそこなうので，ハイドンをはじめ反対する者もあった。

アンコール-トム　[Angkor Thom]　カンボジア，シエムレアップの北部にあるクメール王国の都城跡。19世紀中ごろフランス人学者によって再発見されるまでジャングルの中に忘れられていた。9 世紀末ヤソバルマン王がアンコール-トム(大きな都)を創建し，12〜13世紀のジャヤバルマン 7 世の時代に現在みられる規模となり，15世紀中タイ族の侵入によって放棄された。都城は 1 辺 3 kmの城壁で囲まれた正方形のもので，四方の城門とそれをつなぐ大路が走り，王宮は西北にある。都城の中心にバイヨン寺院があり，四方に人面の彫刻をもった多

数の塔をピラミッド状に配する。ブッダの顔であるとともに建立者ジャヤバルマン王の顔でもあるといわれ，強大な王権がうかがわれる。城外には乾季に備えて二つの大きな貯水池がある。〔小谷仲男〕

アンコール-ワット［Angkor Vat］カンボジア，アンコール-トム(都城)の南方1.5kmにあるクメール-ヒンズー寺院。〈首都の寺院〉の意をもつ。12世紀前半にスールヤバルマン２世によって建立(こんりゅう)された。寺院は幅200ｍの堀(ほり)で取り囲まれ，西側につけられた長い参道によって主殿に達する。参道西側にはクメール人の崇拝する水神・コブラの彫像が並べられる。本殿は３層からなる石造建築で，最下層は東西215m，南北187mの回廊からなり，２層はこれを縮小し，最上層に五つの塔を建てる。回廊の内側壁面には《マハーバーラタ》や《ラーマーヤナ》などのインド神話やクメール軍勢に主題をとった浮き彫りが豊富で，建築様式とともにクメール芸術の粋を集めている。〔小谷仲男〕

アンコロン［angklong］ジャワ・スマトラなど，東インド諸島の民俗楽器。竹製のわくに，オクターブ関係で調整した２～３本の竹筒をつりさげ，全体を揺り動かして筒を鳴らす。１～２個ずつ持った人が数人並んで，旋律を共同で奏する。音階はスレンドロのことが多い。

あんざいふゆえ【安西冬衛】(1898～1965) 詩人。奈良県の生まれ。本名勝。1924年(大正13)北川冬彦(ふゆひこ)・滝口武士(たけし)らと詩誌《亜》を創刊。1928年(昭和３)《詩と詩論》同人。第１詩集《軍艦茉莉(まり)》の《春》が豊かなイメージで注目された。その詩業は，博識による豊かな語彙(ごい)を駆使しての特異な幻想的世界の形成ということに尽きる。死後，歴程賞を受賞。詩集に《亜細亜(アジア)の鹹湖(かんこ)》など。

アンザスじょうやく【アンザス条約】1951年９月，オーストラリア・ニュージーランド・アメリカの間で調印され，1952年４月に発効した条約。正式には太平洋安全保障条約(Pacific Security Pact)。それぞれの国のかしら文字をとってアンザス(ANZUS)といわれる。米比相互防衛条約・日米安全保障条約・東南アジア条約機構(SEATO)とともに，アメリカを中心とする太平洋反共軍事体制を形成する。

あんさつ【暗殺】ある政治的な動機に基づいて政治的影響力をもつ人物を非合法的に殺害することをいう。その政治的動機は敵対勢力へ打撃を与え，また自派勢力を安定させたり，伸ばすことにある。暗殺は政治不安や政治危機の高まりの中で非常手段として行なわれるのが普通であるが，その加害者が右翼である場合には白色テロ，左翼である場合には赤色テロと区別されている。しかしその加害者は右翼である場合が圧倒的に多く，その対象には保守党政治家から左翼の指導的政治家まで含まれる。日本では1960年(昭和35)に当時の日本社会党委員長浅沼稲次郎が白色テロに倒れた。浅沼は安保闘争が一段落し，総選挙を目前にした緊迫した政治情勢の中で革命危機感をもった右翼青年によって刺殺された。アメリカでは，1963年にジョン-ケネディ大統領が，1968年には弟ロバート-ケネディ上院議員があいついで凶弾に倒れ，1968年４月にもノーベル平和賞受賞者で黒人運動の指導者であった牧師キングが暗殺されている。暗殺は最も安直な方法で敵対勢力に大きな打撃を与えることができるものであるが，それは最も反人間的・反民主的な政治手段であり，許されてはならないものである。➔テロリズム〔西尾孝司〕



アンコール-ワット　全景



安山岩　箱根峠北部産

あんさつし【按察使】中国の官職名。唐代以後，各王朝に置かれ，地方行政の監察を主要な職務とした。唐・宋(そう)・遼(りょう)・金では名称の変更や存廃がくり返された。元では司法・監察のほか勧農教化をも職務とし提刑按察使と称され，明(みん)代にもこれが受け継がれたが，清(しん)代では，布政使とともに地方の各省の政務を分掌し，按察使と称せられた。

あんざん【暗算】筆算や珠算などによらず，頭の中で行なう計算の方法。胸算・心算ともいう。筆算や珠算の際にも暗算が必ず行なわれている。口頭で与えられた問題を耳で聞き取ってすぐ計算する聞き取り暗算と，数字を見て計算する見取り暗算とがある。**〈加法〉**基数(１から９までの数)どうしの加法81通り，たとえば，〈３たす２は５〉などを加法九九といい，これを基礎として行なう。けた数の多い数は上の位から加えるのが原則である。**〈減法〉**基数を引いて基数の残る減法81通りが基礎で，〈８ひく５は３〉などの減法九九がある。**〈乗法〉**掛け算九九が基礎である。➔九九　➔珠算〔青柳雅計〕

あんざん【鞍山】アンシャン　中国遼寧(りょうねい)省中部，長大鉄道に沿った鉱工業都市。人口80万(推定)。町の起源は明(みん)代14世紀にさかのぼるが，今日の都市は，1917年(大正６)日本の南満州鉄道株式会社(満鉄)の製鉄所を中心として建設された。付近の鉄鉱石埋蔵量は全国第１で，1945年以後中華人民共和国の手で製鉄所の復興・拡張が進められ，多くの関連工場が設けられて，中国屈指の工業地帯となっている。

あんざんがん【安山岩】中性の火山岩。シリカ分(SiO_2)は52～66%，造岩鉱物としてはシャチョウ石が最も多い。有色鉱物の斑晶(はんしょう)としては，キ石族が最も普通で，カクセン石やクロウンモが主になっていることもある。造山帯に広く分布し，日本の火山の大部分を構成している。石材としての強度は平均してカコウ岩・大理石に次ぎ，耐火性はそれらにまさる。板状の節理がよく発達したものは，鉄平石のように張りつけ用の建築石材として用いられる。一般にはクラッシャーで砕き，砕石として土木工事に用いる量が圧倒的に多い。特にコンクリート骨材として用いられてきた川じゃりが枯渇(こかつ)してきたので，年間約３億ｔにのぼる骨材需要をまかなうためには，砕石にたよるほかない。骨材用砕石としては，安山岩が質・量の両面から考えて，最も期待されている。〔片山信夫〕

アンサンブル［ensemble］〈いっしょ

に〉の意味のフランス語から生まれた音楽用語で，歌手や器楽奏者のグループをさす。オペラの場合には，2人以上の歌手が歌う重唱(2重唱・3重唱・4重唱など)をさす。また，合奏や合唱などがよく合っているかどうかを問題にして，アンサンブルがよいとか悪いとかいう使い方もされる。

アンサンブル [ensemble] 服飾用語。〈いっしょに〉の意味のフランス語。

〔洋装〕アンサンブル-コスチュームといい，材質・色・デザインなどで統一した一組みのそろいの服をいう。ワンピースとジャケット，ワンピースとコート，スカートとコートなどの組み合わせを共布地で仕立てたり，同質で色違いにしたり，質は違っても色をそろえたり，また縁どりや切り替えなどのデザインをくり返したりして対にする。そろえて着用するだけでなく，別々に着ても，いずれか一方を他の服と組み合わせて着てもよく，目的に合わせて着分ける楽しさと便利さがあり，スピーディーな現代生活にふさわしい服種である。素材とデザインによりフォーマルウエアからスポーツウエアまで，あらゆる服装に考えられる。なおドレスと共布で帽子やバッグをそろえたり，帽子とバッグとくつ，マフラーと手袋などのがらや色をそろえる場合にも使われる。〔小池千枝〕

〔和装〕羽織・長着に対の布を使ったものをいう。男物で大島紬(つむぎ)・めいせん・紺がすりもめんなどは，一疋*(いっぴき)として売られ，羽織・長着に仕立てる風習が，明治から1963年(昭和38)ごろまで続いた。その後ウール地でアンサンブルと称し，並幅1反と3分の2の長さ(20m内外)の反物が売り出され，ひとえの長着と羽織を対に仕立てることが流行している。1967年ごろからは，大島紬などもアンサンブル地として，この長さに売られ，あわせ長着・あわせ羽織に仕立てる傾向となっている。すべりのよい羽裏が，身ごろに多くつけられるので従来の表1反で仕立てるあわせ羽織より着やすく，かつ経済的である。〔堀越すみ〕

あんじ 【暗示】 暗に示すという字のとおり，ある観念や意図がことばやその他のシンボルによって伝えられる際，それが受け手(被暗示者)の理性に訴えることなく無批判にそのまま受け入れられる現象をさす。被暗示者は個人のことも集団のこともあるが(集団暗示)，他人(暗示者)の考えや意図を知らず知らず自分自身のものと思い込むようになり，そういうふうにふるまってしまう。暗示者はふつう自分以外の他人で，これは他者暗示であるが，自分自身が暗示者となる自己暗示もある。効果のはっきりしない保健薬でも，きくと思って飲めば，元気が出たと感じられるのはその一例である。一般に，おとなより子どもが，男性より女性が，知能の高い者より低い者が，意志の強い者より弱い者のほうが暗示にかか



アンジェリコ 《聖告》 1430ごろ



暗　室

りやすく，被暗示性が高いといわれるが，ヒステリー性格者のように素質的に被暗示性の高い場合もある。そのほか，暗示者が被暗示者より権威や威光の点で上位にある場合(威光暗示)，冷静な合理的判断のできない状況にある場合，意識野の極度にせばまった催眠状態にある場合，暗示者と被暗示者との間に親密な関係のある場合などには，暗示の効果は高い。

暗示という現象はもともと群集心理を説明するものとして考えられたように，今日でもマスコミや情報・宣伝活動，職場や学校の人間関係など社会生活のさまざまの面に作用している。

〔暗示療法〕暗示の効果を利用して治療面にも役だてようとするもので，精神療法の一種ではあるが，暗示の要素はあらゆる治療法に多少とも含まれているとみてよい。ふつう，神経症(ノイローゼ*)・精神身体症(心身症*)のほか，不眠・不安・夜尿などが対象となり，被暗示性の高い場合ほど効果を発揮する。自己暗示を利用した自律訓練法も暗示療法の一つとしてかなり広く用いられている。〔宮本忠雄〕

アンジェー [Angers] フランス西部，メーヌ川に沿う河港都市。人口12万9,000(1968)。発泡(はっぽう)ぶどう酒(→ぶどう酒)とスレート*の産地として有名。鉄線・農業機械・化学肥料などの工場がある。ローマ時代以来の古い町で，中世の遺跡も多い。

アンジェイェフスキ [Jerzy Andrzejewski] (1909～　) ポーランドの小説家。カトリック作家としてデビューし，第2次世界大戦中の抵抗運動を経て共産主義者となる。〈雪どけ〉以後は自由化要求の急先鋒(きゅうせんぽう)となった。代表作は《灰とダイヤモンド》《金いろの狐(きつね)》《天国の門》など。

アンジェラー [Jean Tomi Ungerer] (1931～　) 世界的に知られた風刺漫画家。フランス北部ストラスブールの生まれ。現在はアメリカにあって童画・イラストレーション*の分野に特異な活動を続けている。

アンジェラス [angelus] ローマ-カトリック教会で行なわれる祈り。〈アンジェラス　ドミニ(主の御使)〉の語で始まるのでこの名がある。キリストの受胎を感謝する祈りで，〈お告げの祈り〉ともいわれる。信者は，朝6時・正午・夕6時に教会堂で鳴らされる〈お告げの鐘〉の合い図で〈アベ-マリア*〉と短い聖句とともにこれを唱える。ミレー*の《晩鐘》はこのうちの夕禱(ゆうとう)の図である。

アンジェリコ [Beato Angelico] (1387～1455) イタリア初期ルネサンスの偉大な画家。ドミニコ派の修道僧で，本名はフラ-ジョバンニ-ダ-フィエゾーレ。愛称のアンジェリコ(天使のような)が示すように，純潔・敬虔(けいけん)・簡潔さに芸術を求め，しかもそれを教化の目的として，神秘性・慈悲心にあふれた聖母や天使を好んで描いた。その様式は，ゴシック的な性格，特に画僧ロレンツォ-モナコの影響から，しだいに独自性を強めていったといえる。また，中部イタリアのいくつかの僧院に勤めながら，修道僧としての活動も活発で，1449年にはフィエゾーレの修道院長に選ばれもした。その間，1436年には，有名な《聖告》を含む50点余りのフレスコ壁画で，フィレンツェのサン-マルコ尼僧院を飾り，1445年には法王エウゲニウス4世に招かれ，バチカンのニコラウス礼拝堂を装飾する聖人の伝記画を残している。フィレンツェのサン-マルコ美術館は彼の作品の収集で有名。〔井関正昭〕

あんしつ 【暗室】 光を完全にさえぎったへや。一般には写真感光材料を処理するへやをいう。給・排水，流し台，作業台，感光材料が感光しにくい安全光(セーフライト)，換気口，たななどの基本的な設備を備え，これに，必要な機器を置いて，フィルム現像や引き伸ばしの作業をする。十分な作業には，最小限12m³ぐらいのへやが必要である。

あんしのらん 【安史の乱】 唐の玄宗末年(755)から代宗の初年(763)にわたる大反乱。開元・天宝のはなやかな時代も表面的なものにすぎず，政治・社会・経済など全般に深刻な矛盾が累積していた。加うるに玄宗は晩年政治に飽き，李林甫(りりんぽ)や楊国忠(ようこくちゅう)ら奸臣(かんしん)に政務をゆだね

た。当時范陽(はんよう)など東北境の3節度使を兼ねていた安禄山*(あんろくざん)は政敵であった楊国忠を除く名目で兵をあげ，東都洛陽(らくよう)をおとしいれ，帝位につき国号を大燕(だいえん)と称した。次いで長安を攻略したため玄宗は蜀(しょく)にのがれたが，安禄山はむすこ慶緒に，慶緒は部将の史思明に殺された。以後，史思明により反乱は継続されたので安史の乱とよばれる。史思明もむすこ朝義の手にかかり，やがて763年ウイグルの援兵を仰いだ唐軍に平定された。中国社会の発展に重大な意味をもつ戦乱である。
〔藤善真澄〕

あんしやけんびきょう　【暗視野顕微鏡】⇨限外顕微鏡

アンシャン-レジーム　［ancien régime］〈旧制度〉の意であるが歴史上では1789年のフランス革命*前の絶対王政末期の社会制度をさす。当時フランスの社会は第1身分の僧侶(そうりょ)，第2身分の貴族，第3身分の平民からなっていたが，支配身分をなす第1・第2身分は大土地所有者として封建地代を徴収し，高級官職を独占したうえ，免税その他の特権をもっていた。これに反し第3身分は政治・社会上なんの権利も与えられず，その大部分を占める農民は重い地代を払わされるなど，なお多くの封建的束縛を課せられていた。特に市民階級は資本主義の発展とともに経済的実力を向上させていたので，第3身分を無視するアンシャン-レジームの矛盾をいちばん強く感じていた。しかもルイ16世*に代表される絶対王政はこのような矛盾を解決する意志と能力に欠け，やがてフランス革命*がひき起こされることになった。〔大野真一郎〕

アンジュー(家)　［Anjou］　西フランスの貴族の家系。9世紀後半アンジュー伯として始まる。12世紀にはいり，当主がイギリス王ヘンリー1世の娘と結婚したため，ノルマン朝*の断絶とともにその子ヘンリー2世*がイギリス王位について，プランタジネット朝*を創始した。その後イギリス王がアンジュー伯を兼ねたが，ジョン王*のときフランスに奪回され，その後フランス王家に編入された。

あんじゅうこん　【安重根】(1878〜1910)　朝鮮李朝(りちょう)末期の民族主義者。日本の朝鮮併合の動きに憤激して国権回復を志し，伊藤博文*(いとうひろぶみ)の脅迫によって国王李太王が退位すると，義兵運動に参加した。以後，各地の同志と独立運動を展開，1909年(明治42)10月26日ハルビン駅で伊藤博文を射殺し，翌年旅順の監獄で死刑に処せられた。

あんじゅんのう　【暗順応】　明るみから暗いへやにはいると，はじめは物が見にくいが，しだいによく見えるようになる。これは暗やみにはいると網膜の光に対する感受性が時間とともに増加することによるもので，この現象を暗順応とよび，約1,000倍



暗　条



安城市　安城市の養鶏場。愛知県の養鶏数・鶏卵生産量はわが国第1で，養鶏業は愛知県東部，特に安城市付近がその中心である



アンズ

の閾値(いきち)の差が生ずる。網膜の視細胞のうち円錐(えんすい)細胞の暗順応は早く起こり，棒細胞は開始は遅れるが，感受性のふえ方は円錐細胞とは比べものにならぬほど大きく，約45分で完全に順応が起こる。メカニズムとしては，網膜におけるロドプシンの再生による濃度増大が視細胞に影響を与えているものと考えられる。中心窩(ちゅうしんか)では円錐細胞のみが存在するので，暗順応した状態ではその周辺より閾値が高い。また暗順応に影響を与えるものとしては，暗順応にはいるまえに目に照射されていた光の強さおよび照射時間，ビタミンA欠乏，酸素欠乏，血糖減少，先天性夜盲症などが考えられる。➔明順応　〔平野修助〕

あんしょう　【暗礁】　海面下に隠れていて，しかも，船の航行に危険を及ぼす程度の深さにある岩礁。岩石などのかたさにより，海食に対して残り海面上に高く現われているときは，顕礁という。暗礁は，その付近の海面に生ずる波によって知ることができることがある。

あんじょう　【暗条】　太陽面現象の一。水素原子の放つHα線(波長6,563オングストローム)の光だけで撮影した太陽像上に見られる細長く黒い筋。暗条は太陽の自転につれて，少しずつ形を変えながら太陽面上を東から西へ移動し，太陽の縁を過ぎると太陽から噴出する炎のような紅炎*として観測される。➔太陽

あんじょう　【安城(市)】　愛知県東部の市。1952年(昭和27)市制施行。人口122,000。市域は，矢作(やはぎ)川右岸に広がる碧海(へきかい)台地の中央部にあり，産業三大別人口比は11：53：36で，東三河(ひがしみかわ)臨海工業地域*の内陸部として，機械・繊維・金属などの諸工業が発達している。かつては水利に乏しかったが，明治用水*の開通後，米作・野菜栽培・養鶏・酪農・果樹栽培などの多角的な農業経営が行なわれ，〈日本のデンマーク〉といわれる。特に養鶏は，名古屋コーチン・白色レグホンなどを主として，日本一の産地である。県立農事試験所・農林学校・明治用水事務所などがあり，農業都市の性格も強い。東海道本線・国道1号線に沿い，三河花火(おもちゃ花火)の産地，〈三河万歳*〉の発祥地として知られる。

アンじょおうせんそう　【アン女王戦争】イギリスのアン*女王治世下の1702〜1713年に，スペイン継承戦争*の一環として，北アメリカ大陸で戦われたイギリス・フランス間の植民地争奪戦。フランス軍はインディアンを使ってニューイングランド北境を，またスペインと組んでサウスカロライナを襲撃したが，一方，イギリス軍は1710年フランス領アカディアを占領した。1713年ユトレヒト条約*で，イギリスはフランスからアカディア半島全域(ノバスコシア)とハドソン湾地方，ニューファンドランドを譲り受け，スペインからは同国植民地への奴隷貿易独占権を承認された。〔折井一彦〕

あんじりょうほう　【暗示療法】　⇨暗示

あんじん　【安心】　仏教で，修行による体験や，教えを深く理解することによって，心を安定させること，またそれによって得た境地をいう。宗派によって説明は異なる。特にこのことばを多く用いるのは浄土門で，阿弥陀仏*(あみだぶつ)の救いを信じ，浄土への往生を願う心を意味し，起行(きぎょう)と並んで念仏者には不可欠の要素とされている。《観無量寿経*》に出る至誠心(しじょうしん)・深心・回向発願心(えこうほつがんしん)の三心(さんじん)が，安心として重要視されている。〔奈良博順〕

あんず　【杏】　双子葉植物・バラ科・サクラ属。アジア東部の原産で，高さ7〜10mの落葉高木。紀元前中央アジアに伝わり，ヨーロッパへ伝播(でんぱ)したヨーロッパ系と，中国や日本で改良された東アジア系がある。温帯北部の気候に適し，降雨は少ないほうがよく，産地はリンゴとほぼ一致，ウメよ

りやや北。長野県が主産地。山梨・東北地方にも局地的・散在的に栽培される。品種には平和・新潟大実・甲州大実などがある。花は淡紅色で美しい。果実は酸味が強く，ジャム・シロップづけ・かんづめ・干しあんずなどに加工。青森では梅干し様に加工，シソ葉に包んで用いる。甘みの多いアンズもある。種子は杏仁(きょうにん)といい鎮咳(ちんがい)薬として用いられる。また杏仁水・杏仁油の原料とする。〔岩垣駛夫〕

あんずいろ【杏色】 色名。アンズの実のような色。鈍い黄赤。日本工業規格(JIS)慣用色名〈アンズ色〉は，色相5.5YR，明度7.0，彩度6.0の色と規定されている。➔色

アンスラキノンがんりょう【アンスラキノン顔料】 ⇨バット顔料

アンスリューム〔*Anthurium*〕 単子葉植物・サトイモ科。アンスリュームという名は，肉穂花序が尾状をしていることからつけられた。熱帯アメリカに約500種産し，日本ではベニウチワ・オオベニウチワ・イガバオオベニウチワなど20～30種栽培されている。はち植えまたは切り花に用いられ，多数の園芸品種がある。仏炎苞(ほう)と葉に種々の形・色があって美しい。熱帯産の植物であるので，年間を通じて高温多湿で栽培する必要がある。植え替えの適期は5～8月で，2年に1回行なえばよい。培養には水苔(みずごけ)単用でも，おがくずにヘゴ材の破片を入れたものでもよい。油かすなどで肥培する。〔小杉清・加藤僖重〕

あんせい【安西】 アンシー　中国甘粛省の北西部にある都市で，敦煌(とんこう)の北東約120km，玉門市の北西約170kmに位置する。疏勒河(そろくが)に沿う大きなオアシスで，穀物・家畜を産し，また甘草・肉蓯蓉(にくじゅよう)などの生薬がつくられる。

あんせいきんぎん【安政金銀】 江戸幕府が財政窮乏の救済策として安政年間(1854～1859)発行した，江戸時代を通じて最悪質の金銀貨6種の総称。金貨には安政二分判と正字金(安政小判・一分判)，銀貨には金貨の補助銀貨として新一朱銀・新二朱銀・新一分銀があり，通常の銀貨として政字銀(安政丁銀・豆板銀)があった。

あんせいど【安静度】 主として肺結核症の安静療法の場合，具体的な程度を表わしたもの。身体的・精神的安静は，全身の代謝を低下させ，エネルギー消費を節約するとともに病巣部を安静にし，疾病(しっぺい)の自然治癒(ちゆ)を促す。特に肺結核の治療では化学療法と同時に安静療法が行なわれている。個々の患者についての安静度は病期，病型，病変の新鮮度，活動性，X線所見，結核菌排出の有無，臨床症状，合併症の有無など全般にわたって考慮して決められる。安静の重要なことに変わりはないが，近年化学療法の進歩によりこれが緩和・短縮されつつある。〔国井乙彦〕

安静度（結核予防会の基準）

1度	絶対安静
2度	終日横になっている
3度	短時間離床してよいがおもに横になっている
4度	午前・午後にそれぞれ安静時間をとる
5度	午後に安静時間をとる
6度	普通人の半人まえの生活
7度	普通人の7～8分めの生活
8度	無理をしない普通生活

あんせいのごかこくじょうやく【安政の五か国条約】 1858年(安政5)に江戸幕府が欧米5か国と結んだ通商条約の総称。6月に日米修好通商条約*と貿易章程を調印，7月にロシア・オランダ・イギリスと，8月にフランスと調印。翌年7月より施行。条約批准書交換のため，1860年(万延1)新見正興(しんみまさおき)らが訪米し，勝海舟らが咸臨丸(かんりんまる)でサンフランシスコまで随行した。条約の内容は五か国とも大同小異で，領事の駐在，神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港，箱館(はこだて)の開港継続と下田の閉港，江戸・大阪の開市，自由貿易などを規定した。また領事裁判権・協定関税率制度など不平等条項があり，明治時代の条約改正*の中心課題となった。この条約調印に幕府は勅許を求めたが攘夷(じょうい)派の反対で得られなかったため，一名安政の仮条約ともよばれる。大老井伊直弼(いいなおすけ)は調印を強行し，激化した尊王攘夷運動を弾圧して安政の大獄*をひき起こした。また和親条約で認めなかった自由貿易を許したため国内経済が混乱し，物価騰貴のため一揆(いっき)や打ちこわしが頻発(ひんぱつ)した。〔松尾　涼〕

あんせいのたいごく【安政の大獄】 1858年(安政5)から翌年にかけて，大老井伊直弼*(いいなおすけ)を中心とする江戸幕府が尊王攘夷(じょうい)運動*に対して行なった大弾圧。原因として直弼が将軍継嗣に紀州藩主徳川慶福(よしとみ)(14代将軍家茂(いえもち))を擁立したことに対する，一橋家の徳川慶喜(よしのぶ)を推す一橋派(水戸(みと)派)の反対運動，および日米修好通商条約*の無勅許調印の断行に対する強い非難と尊王攘夷運動の激化とがある。弾圧は一橋派・尊攘派の広範囲に及び，処罰も厳重で連座者は総計100余名にのぼり，皇族では青蓮院宮(しょうれんいんのみや)，公卿(くぎょう)では左大臣近衛忠煕(このえただひろ)・前関白鷹司政通(たかつかさまさみち)ら，大名では徳川慶喜・前水戸藩主徳川斉昭(なりあき)・水戸藩主徳川慶篤(よしあつ)ら，志士では梅田雲浜らがいた。死刑は橋本左内・吉田(よしだ)松陰・頼三樹三郎(みきさぶろう)ら8名であった。直弼はこの弾圧でほぼ反対派を一掃したが，1860年(万延1)3月桜田門外で水戸藩の浪士らに暗殺された。➔桜田門外の変〔松尾　涼〕



アンスリューム

あんせいのだいじしん【安政の大地震】 1855年(安政2)10月2日夜，江戸とその東隣を襲った烈震。震源地は江戸川下流。江戸城は大破し，市中数十か所より出火した。焼死者は約7,000名，藤田東湖は水戸(みと)藩の江戸藩邸で死んだ。なお，前年11月4日に東海道，5日に南海道で地震があり，それぞれ死者約600名，3,000名を数えた。

アンゼリカ〔angelica〕

[1] カリフォルニアで市販されているアメリカン-ワインの一種。白ぶどうじるにブランデーを加えて20～21%のアルコール分としたもの。

[2] ヨロイグサの茎や葉柄を蜜(みつ)で煮たもの。小さく薄く切り，デコレーションケーキの飾りに用いられる。わが国ではヨロイグサの生産量が少ないのでフキが代用として使用されている。

アンセルムス〔Anselmus〕(1033～1109) 教会博士・聖人(祝日4月21日)。北イタリア，アオスタの貴族の家に生まれた。ベネディクト会にはいり，ノルマンジーのベク修道院長となり，1093年以後は，イングランド王に追放されたこともあったが，だいたいカンタベリーの大司教位にあった。彼はアウグスチヌス*の思想をスコラ哲学*へ仲介する役割を果たし，〈スコラ哲学の父〉とよばれる。信仰と理性とについて〈理解するために信ずる〉と説き，真理探究の順序についてもまず信じ，次いで信ずることを理解しようと努めることであるとした。また，神の存在を聖書の権威によらず理性によって証明しようとして〈本体論的証明〉を立てた。主著《モノロギオン》《プロスロギオン》《真理論》など。〔左中庸博〕

アンセルメ〔Ernest Ansermet〕(1883～1969) スイスの指揮者。パリ大学で数学を修めたが，指揮者を志してエルネスト-ブロッホに師事。1910年にモントルーで指揮者としてデビューした。1918年にジュネーブにスイス-ロマンド管弦楽団を創立し，半世紀にわたる指導で第1級の管弦楽団に育てあげた。また1915～1930年間は，ディアギレフ*のバレエ団の指揮者として，数々の初演を行ない，現代音楽の発展に寄与した。1964年・1968年に来日。〔向坂正久〕

あんぜんガラス　【安全ガラス】　有機質の膜を中間にはさんで2枚の板ガラス*をサンドイッチ状に張り合わせたガラス。合わせガラスともいう。自動車の前面ガラスなどに多く用いられる。ごく新しいものでは2枚の薄い板ガラスに化学的強化が施されているものがあり，これは特に強度が大きく，割れた場合にも，ガラスはアズキ大の無数の小片になるが飛び散らず，全体が中間膜に張りついたまま，柔らかい網のようになって，人体を傷つけない。強化ガラス*をいうこともある。　〔境野照雄〕



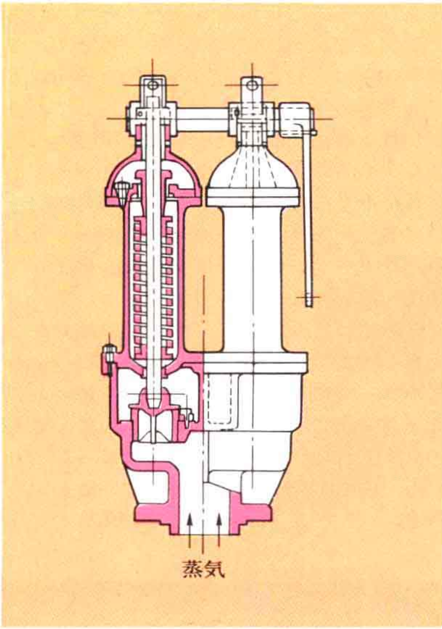
安全ガラス　(上左)合わせガラスの破砕模様　(上右)部分強化ガラスの破砕模様　(下左)化学強化ガラスの曲げ試験　(下右)強化合わせガラス(水槽への利用)

あんぜんかんり・えいせいかんり　【安全管理・衛生管理】　工場・事業所において，安全で衛生的な環境を考慮した労働条件をつくり，災害や疾病(しっぺい)などのマイナスの影響要因から労働者を保護し，作業能率を高め，企業損失の防止を意図して行なわれる管理。安全管理を具体的に考察すれば，作業場における足場などの整備，機械装置・用具の定期的検査，安全のための防護用具の着用，さらには，適正配置・安全教育などがある。一般に人目を引く安全色を機械・作業用具に塗るのも，一方法である。衛生管理の面からは，労働者の健康保持のため，疾病の早期発見・治療が考慮される。そのためには，生理休暇や産前産後の休暇，排気・排水の処理，騒音防止，休憩室*・医務室の設置などがある。職業病の対策も重要な問題である。

労働基準法に基づいて制定された労働安全衛生規則では，安全管理・衛生管理のために必要な最低の諸基準を規定している。また，労働基準法では特定の事業所に対し一定の資格をもった安全管理者と衛生管理者の設置を規定している。　〔清水　晶〕

あんぜんき　【安全器】　安全開閉器・ベビースイッチともいう。電燈需要家の引き込み開閉器や分岐開閉器として多く用いられる磁器製の箱に納められたスイッチで，ふたの内側につめ付きヒューズを取り付け，ふたの開閉で電路を開閉する構造となっている。2極のものが多く，定格電圧は250V，定格電流は15Aと30Aが標準である。➔スイッチ

あんぜんきょういく　【安全教育】　防災訓練や各種事故を未然に防ぐための教育活動をいう。その範囲は広く，安全教育それ自身が独立した領域ではない。わが国の教育に正式に位置づけられたのは第2次世界大戦後で，〈健康・安全で幸福な生活のための必要な習慣を養い，心身の調和的発達を図ること〉(学校教育法18条)を基に全校で計画・指導される。特に交通安全について，文部省は1967年(昭和42)に〈交通安全の指導手びき〉を発表し，児童・生徒に歩行・道路横断・集団歩行・乗物利用・踏切・自転車利用・信号・交通規則などの指導を行なうよう通達している。そのほか学習活動中の実験・実習・運動競技・水泳・登山・校外見学などの事故，変質者による被害，自然災害などについては，実際の条件の中で具体的・科学的に指導されねばならない。　〔福井幸雄〕



安全弁

あんぜんそくせん　【安全側線】　停車場構内で，列車が衝突をするおそれが生じた場合に，いずれか一方の列車を他方へ走らせるために設けてある短い行き止まりの線路。ふつう，安全側線の先端には，列車を停止させるじゃりが盛られている。

あんぜんでんりゅう　【安全電流】　送配電線や電気器具などの絶縁その他の電気的特性を害さずに流しうる最大電流。送配電線や電気器具に電流が流れると，その電気抵抗のためにそこに熱を生じて温度が上昇する。したがって，電線や器具の本来のもつべき性質がそこなわれないようにするためには，最高許容温度以上になるような電流が流れないようにしなければならない。

あんぜんとう　【安全燈】　広い意味では，炭鉱の坑内で空気中にメタンガスが混入している所で使用しても，ガス爆発を起こす危険のない照明燈。狭い意味では，このような照明燈のうちでも，特にウルフの安全燈とよばれる揮発油安全燈をさす。

あんぜんばくやく　【安全爆薬】　炭鉱のような危険度の高い鉱山でも使用できる安全性の高い爆薬*で，爆発時に高温あるいは大きな炎を出さないようにしたもの。①ニトログリセリン*に減温剤および消炎剤として塩化ナトリウム・ホウ砂などを配合したもの。②爆発温度の低い硝安爆薬*(ニトログリセリン*・カーリット*などを混合したもの)などがある。

あんぜんピン　【安全ピン】　布・衣服などを簡単に留めはずしするために用いるピン(留め針)で，留めると針先が隠れて危険性がなくなるようにつくられている。アメリカで発明され，日本には明治初年に輸入された。古くはしんちゅう製であったが，現在は鋼鉄にクロムめっきしたものでつくられている。また，大形のもの(おむつを留めるのに用いたりする)には，受け金が合成樹脂でつくられているのもある。

あんぜんべん　【安全弁】　ボイラーなどの圧力容器の爆発事故を防ぐために，安全限度以上に内圧が高くなったときに中の気体を吹き出して内圧が異状に高くならないようにする装置。ばね式・おもり式・てこ式があるが，普通に用いられるものはばね安全弁で，弁をおさえるばねの力が，規定の内圧でばねを開こうとする力とつりあうようになっている。

あんぜんほしょう　【安全保障】　国家の

安全を対外的に保つこと。他国からの攻撃や侵略を未然に防ぎ，ひとたびそれがあればこれを鎮圧しうる状態に置くことである。戦争の防止といってもよい。安全保障は，経済的・社会的・文化的な国際協力，および，軍備縮小，国際紛争の平和的処理と密接な関係をもち，これらの問題とともに，世界平和維持の中心的課題である。安全保障には個別的安全保障と集団的安全保障がある。前者は，個々の国家を基礎にそれのみの安全の保障を考える立場であり，後者は，国家の集団を基礎にそれに属する国家相互の安全を統一的に考える立場である。個別的安全保障は，国家の絶対的主権あるいは個別的自由を基礎に，軍備の自由，同盟政策，戦争を自由に行なう権利，中立を自由にとる権利をその要点としてなりたつが，その典型的な形は19世紀末から20世紀にかけて三国同盟*や三国協商*などにみられる。このような同盟政策を通じて，個別的安全保障は破綻(はたん)し，第１次世界大戦が勃発(ぼっぱつ)した。そして，第１次世界大戦後の国際連盟*において，はじめて集団的安全保障が成立した。それは，国際関係が緊密になり，戦争が大量破壊的となって，国家の安全が個別的には処理できなくなった今日の国際社会においては，最も理想的な安全保障の形である。集団的安全保障は安全保障条約を基礎に，その下では，①国家は相互に攻撃や侵略を行なわない義務を有し，戦争その他の武力行使を禁じられる。②そのような禁止にもかかわらず，国家間に戦争その他の武力衝突が生ずる場合には，各国が集団的・組織的に共同して，平和に対する脅威や平和の破壊を防止しあるいは鎮圧する。したがって，その性質上，全世界の国家が参加する一般的集団保障が望ましく，また必要でもある。第２次世界大戦後の国際連合*は，そのような安全保障を意図したものであり，これをめざしている。➔集団安全保障　〔広部和也〕

あんぜんほしょうじょうやく　【安全保障条約】　⇨日米安全保障条約

あんぜんほしょうりじかい　【安全保障理事会】　国際連合*の主要機関の一。総会とともに国連で最高の位置にある機関で，信託統治理事会や経済社会理事会のように総会に従属するものではない。国際の平和および安全の維持に関して第一義的責任を負い，この点については総会の機能に優越する。紛争の平和的解決と，平和に対する脅威，平和の破壊および侵略行為を防止し，鎮圧することをその任務とし，特に後者については，国連の集団的安全保障を維持するために，経済的制裁とともに，軍事的措置(国連軍)をとることができる。構成は15か国。米・英・ソ・仏・中の５常任理事国と，総会から選出される10の非常任理事国からなり，これは，アフリカ３，アジア・ラテンアメリカ・ヨーロッパ西部が各２，ヨーロッパ東部１と，地理的に配分されている。国連発足当時は，６非常任理事国であったが，アジア・アフリカ諸国の加盟増加に伴い，1965年に憲章が改正された。非常任理事国の任期は２年，５か国ずつ交互に改選されるが，引き続き再選されることはできない。日本は，1958(昭和33)～1959年，1966～1967年および1971～1972年の任期で選ばれた。安全保障理事会の決議は，手続き事項については９か国の賛成で，これ以外の事項については５常任理事国を含む９か国の賛成で成立する。後者については，５大国の１国でも反対があれば，他が賛成しても決議は成立しない。これを５大国の拒否権*といい，国連の安全保障にとって重大な障害となっている。➔国際連合　〔広部和也〕

あんぜんりつ　【安全率】　機械・構造物の使用材料の適当な基準強さと許容応力との比。安全係数ともいう。すなわち，各部材を安全に使用するために，設計で予想される応力の限度以下に使用されるときの許されうる応力の限度を選び，それによって安全な寸法を決定するということである。基準強さは一般には引っ張り強さ*を用いるが，材料の性質，荷重の形態に応じて，予想される破損形式に適応する基準強さを正しく決めることが重要である。〔山根雅巳〕

あんそくこうさん　【安息香酸】　C_6H_5COOH　天然樹脂の一種安息香やバルサム中，ウマやウシの尿中にその誘導体として存在する。天然物から分離するか，トルエンを酸化して得られる。無色の鱗片(りんぺん)状あるいは針状結晶。水にやや可溶，熱水・アルコールに可溶。防腐剤として使われ，食品衛生法で飲食料の防腐剤として使うことを許されている。医薬としても一部使用され，染色の際の媒染剤としても使われている。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

あんそくこうさんナトリウム-カフェイン　【安息香酸ナトリウム-カフェイン】　安息香酸ナトリウムとカフェイン*の等量混合物。通常，略して安ナカという。白色の粉末，無臭でわずかに苦い。カフェイン同様，興奮・強心・利尿作用を示すが，カフェインに比べ胃粘膜の刺激は少ない。水に可溶性なので，10～20％液を通常１回１～２ *ml*，１日数回注射剤として用いる。症状により皮下または静脈注射を行なう。

あんそくこうのき　【安息香木】　双子葉植物・エゴノキ科。アサガラの仲間でスマトラ・ジャワなどに分布する落葉高木。高さ７～10m。葉は互生し，卵形で先がとがる。葉裏には白色の星状毛がある。夏季，枝先に赤かっ色の花を穂状につける。樹幹に傷をつけ，にじみ出た樹液の固まったものが生薬の安息香で，よいかおりがあり，香料・医薬品などに用いられる。

アンソール　［James Ensor］（1860～1949）ベルギーの画家・版画家。オステンデに生まれ，ブリュッセルに学んだほかはその地で制作した。作品には人間の苦痛・醜悪・悲惨が思いきった色彩に描かれ，しばしば用いられている仮面は不安や不条理，ゆがめられた人間性の象徴としてある。表現主義*に与えた影響は大きい。

アンソロジー　⇨詞華集

アンダーウエアー　［underwear］洋服の下に着用する下着類の総称。男子用では保温など生理上の目的のために用いられるはだシャツ・ブリーフ・ズボン下などがある。幼児・子ども用も男子用と同様と考えてよい。婦人用では，はだシャツ・シュミーズ・スリップ・パンティー・タイツなどのほかに，上着の形を整えるために用いられるブラジャー・ガードル類を含む。

アンタキア　［Antakya］　トルコ，アナトリア高原東南端にあるハタイ地方南部の



アンソール《キリストのブリュッセル入り》1888

都市。人口57,000(1965)。シリアから北流するオロンテス川に臨む。ハタイ地方は第1次世界大戦後フランス委任統治下のシリアに編入されていたが，シリアの独立を契機にトルコ領として回復した。古代名アンチオキアで知られるこの都市は，アレッポに近く，北シリアを制圧するのに便利なため，紀元前4世紀に軍事拠点がつくられ，のちに拡大して都市となったものである。ローマ時代には〈黄金〉と形容されるほど繁栄した。キリスト教の普及とともに東方伝道の中心として主教が置かれ，シリアの各教区を監督していた。しかし，6世紀ごろから衰えはじめ，15世紀ケープ航路が発見されると，アレッポからペルシア湾経由で東方に至る通商路がさびれ，この市の衰えは決定的となった。現在，シリアがハタイ地方のトルコ帰属を認めないため，トルコは道路交通上，経済・産業上大きな打撃を受けている。アルメニア系住民はトルコ復帰をきらってアレッポに逃避した。〔今井留吉〕

アンダーグラウンドえんげき【アンダーグラウンド演劇】 アメリカのアンダーグラウンド映画から転用された名称で，わが国では主として，1966年(昭和41)以来の小劇場運動をさしていう。地下室などを観客数50人内外の劇場に改造して拠点としているものが多い。大劇団の商業的妥協に対抗しつつ，独自の実験劇・前衛劇を上演している。おもな劇団に自由劇場・状況劇場・早稲田(わせだ)小劇場などがある。

アンダーソン [Sherwood Anderson] (1876～1941) アメリカの小説家。はじめ実業家を志し，いちおうの成功を収めたが，作家に転向。《ウィンディ-マクファーソンのむすこ》で文壇にデビューした。今世紀初頭のシカゴを中心とした新文学運動に加わり，機械工業中心の資本主義的画一主義に反抗して，現代人の心のひずみを心理主義的に追求しようとした。いろいろな実験的作風を示し，また多くのすぐれた短編も発表した。《ワインズバーグ-オハイオ*》はその代表作。〔大橋吉之輔〕

アンダーソン [Maxwell Anderson] (1888～1959) アメリカの劇作家。生涯(しょうがい)一貫して社会性の強い作品を書き続けた。おもな作品にサッコ・バンゼッティ事件*を扱った《雷神たち》，議会政治の腐敗をついた《両院ともに》，ニュー-ディール*を風刺した《ニッカーボッカー-ホリデー》などがある。

アンダーソン [Marian Anderson] (1902～) アメリカのアルト歌手。黒人の歌手として最初に国際的に認められた。6歳ごろから教会の合唱団で歌い，1925年にニューヨーク-フィルハーモニーの新人コンクールで300人中の第1位となって，同オーケストラの独唱者として世に出た。1933年に渡欧し，ザルツブルクで歌った際に指揮者トスカニーニ*に認められ，以後すぐれたアルト歌手として国際的に演奏活動を行なった。黒人霊歌*を最も得意とした。1953年来日，1965年引退した。〔向坂正久〕

アンダーソン [Carl David Anderson] (1905～) アメリカの物理学者。カリフォルニア工科大学教授。ミリカンのもとでγ線・宇宙線の研究に従事し，1932年，陽電子を発見，ディラックの理論を裏づけ，ヘスとともにノーベル賞を受賞(1936)。さらに翌年には〈重い電子〉すなわち中間子(宇宙線中間子)を発見，湯川理論進展のきっかけをつくった。

アンタビュース [antabuse] ジスルフィラムともいう。化学名テトラエチルチウラムジスルフィド。白色の粉末で水によくとける。嫌酒(けんしゅ)剤で，これを服用して飲酒すると頭痛・発汗などの中毒症状が現われるため，酒類を敬遠するようになる。これはアルデヒド酸化酵素が阻害されるため，アルコールの体内酸化が妨げられ，アセトアルデヒドが蓄積することによる。医師の指示により1日0.5g，2～3週間内服する。このほかゴム加硫剤・抗かび剤などにも用いられる。〔鈴木郁生〕

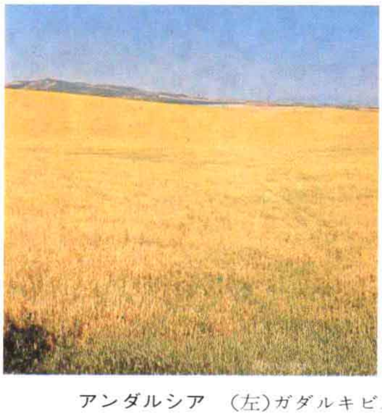
アンダマン(諸島) [Andaman] インド洋，ベンガル湾に浮かぶインド領の列島。面積6,520km²。人口20,000(1960)。南に続くニコバル諸島と同じく，ビルマのアカランヨマ山脈からインドネシアに至る山脈が沈降してできたものといわれる。北アンダマン・中部アンダマン・バラタング・南アンダマン・ルットランドの五つの主要島と200余の小島からなる。最高峰サドルピークは732m。気温は年平均28℃で雨も多く，全島がジャングルにおおわれ，沿岸にはマングローブが密生する。主産物は合板やマッチの軸などの林産品であり，ほかに茶・コーヒー・カカオ・マニラ麻を産する。原住民はネグリート人で，文化程度は石器時代の段階にあり，狩猟を中心とした生活をしている。現在多数を占める住民はインドからの移住者で，ヒンディ語を話す。19世紀にはイギリス領インドの流刑地であったが，インド共和国独立後は，パキスタンやビルマの避難民を収容している。〔大崎　晃〕

アンタルキダスじょうやく【アンタルキダス条約】 BC386年，ペルシア・スパルタ間に結ばれた条約。〈大王の和約〉ともいう。スパルタはペロポネソス戦争*に勝利し，ギリシアの覇権(はけん)を握ったが，アテナイなどが加担してテーベが優勢になると，スパルタの外交官アンタルキダスはペルシアと密約し，小アジア地方をペルシアの支配にゆだね，ギリシア諸都市はすべて独立自治とした。この売国的条約により，スパルタはBC371年まで覇権を維持し得た。

アンダルシア(地方) [Andalucia, Andalusia] スペイン最南部の地方。北はシエラモレーナ山脈によって中央部のメセタ(イベリア高原)と隔てられ，南はシエラネバダ山脈を越えて地中海，ジブラルタル海峡に，南西は大西洋に面し，西はポルトガルに接している。8州からなるが，南北の両山脈の間を流れるガダルキビル川流域を含む北の4州を低地アンダルシア，南の4州を高地アンダルシアとよぶ。ガダルキビル川の流域は肥沃(ひよく)で，小麦・大麦・オレンジ・ブドウなどを産し，スペインの穀倉といわれる。山地ではウシ・ウマ・ヒツジなどの飼育が行なわれ，農産加工がみられる。また，銅・鉛・石炭など地下資源にも富み，カルタゴ時代から開発されている。ローマ帝国の支配後，8世紀にムーア人(イスラム化したモロッコ人)が侵入して4王国をつくった。その一つであるグラナダ王朝は1492年まで続き，アルハンブラ宮殿*がいまも残っている。〔梶川勇作〕

アンタレス [Antares] さそり座のα星。中国名を大火という。夏の南天にかかるM型超巨星。視直径は0.″04，距離は約200光年，太陽の200倍の実直径をもつ。約1,700日の周期で，実視等級が0.9等から1.8等まで変化する半規則型変光星。

アンダンテ [andante] 〈行く・歩む〉





アンダルシア　(左)ガダルキビル川流域のアンダルシア地方の広大な小麦畑。収穫期は5～6月ごろである　(右)アンダルシア地方の農村の農耕風景。耕作・除草・収穫など手で行なわれることが多い。樹木の少ない景色は地中海性気候の乾燥の強さを物語っている

の意味のイタリア語の動詞アンダーレに由来する音楽用語で，アレグロとアダージョの間の〈中くらいの速さ〉を示す。しかしアンダンテが速さとして速いほう，あるいはおそいほうのどちらに分類されるかがあいまいなため，その度合いを示すために〈ピウ(もっと・いっそう)〉や〈メノ(より少なく)〉をつけて用いられるが，その度合いも作曲者によって一様ではない。なお，アンダンティーノは，多くの場合アンダンテよりも速いとされる。〔徳丸吉彦〕

アンチ-キリスト [antichrist] 〈反キリスト〉〈キリストの敵〉を意味する聖書用語。《新約聖書》《ヨハネ書簡》にのみ，この語は用いられている。それによると〈反キリスト〉は終末時，キリスト再臨前に現われ，偽りの奇跡などを行なって，信者を動揺させるという。その前兆としての〈反キリスト〉的霊はすでににせ教師・にせ弟子(でし)の形で現われているという。近い用法はイエスの〈にせキリスト〉，パウロの〈不法の人〉，《黙示録》13章の〈獣〉などにみられる。なおニーチェが逆説的に〈アンチ-キリスト〉を自称したことは有名。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

アンチグア-バーブダ ⇨ウィンドワード(諸島)

アンチコスチ(島) [Anticosti] カナダ東部，セントローレンス川の河口にある島。ケベック州に属す。面積7,881km²。森林におおわれ，製材業を主としているが，漁業と粗放的な農業も行なう。南西部のポートマニエは造船工業が盛ん。1534年，フランス人J.カーターが発見。1673年ルイ14世はミシシッピ川を探検したL.ジョレに与えた。1895年フランスのチョコレート製造者H.マニエが買い取り，1926年にマニエの子孫はそれをカナダ製紙会社に売った。

アンチゴネー [Antigone] ギリシアの英雄伝説上の女性。テーバイの王オイディプスとその母であり王妃でもあるイオカステとの娘。盲目になった父を助けて諸国をさまよう。父の死後テーバイの王権をめぐってふたりの兄が骨肉をはむ争いをする。兄ポリュネイケスが祖国テーバイを攻めたが激戦のすえ失敗，兄ふたりは相討ちで死ぬ。ポリュネイケスは反逆罪の汚名をきせられ，埋葬にも付されない。妹のアンチゴネーはこれを見るに忍びず，国法を犯して兄を埋葬し，人道を貫こうとする。悲劇詩人ソポクレスは悲劇《アンチゴネー》の発端をここに置き，国法に触れたことをたてに彼女を捕える叔父(おじ)のクレオン王と神の法に生きる彼女との対立が多くの死と破滅をもたらす悲劇が，緊迫感をもって描かれている。

アンチゴノス(2世) [Antigonos] (BC320ごろ～BC239) アンチゴノス-ゴナタス。マケドニア王。在位BC276～BC239年。デメトリオスの子でギリシアの遺領を根拠地とし，ゴール人を破ってマケドニアを回復し，100年にわたる王朝の基礎を確立した。ストア派の哲学者ゼノンの弟子(でし)でもあり，宮廷には多くの学者が集まった。

アンチゴノスちょう 【アンチゴノス朝】 ヘレニズム時代のマケドニアの王朝。アレクサンドロス大王の死後，後継者たち(ディアドコイ)が争い合ったが，アンチゴノス1世が最も優勢で小アジア・シリア・北メソポタミアを支配し，BC306年に王を名のった。だが，王はBC301年のイプソスの戦いで戦死し，王国は分割され，王朝は終わったかにみえた。しかし，マケドニアを根拠地としたカッサンドロスがBC298年に死ぬと，アンチゴノス1世の子デメトリオスがマケドニア王とされた。彼はまもなくセレウコス朝シリアに捕えられ殺されるが，その子アンチゴノス-ゴナタスは大軍を率いてギリシアを征し，アンチゴノス2世としてマケドニア王を称した。これ以後約100年間，BC168年ローマに支配されるまで，マケドニアの安定した王朝として続いた。〔高山高雄〕

アンチステネス [Antisthenes] (BC455ごろ～BC360ごろ) 古代ギリシアの哲学者。アテナイの生まれ。はじめゴルギアスに弁論術を学び，のちにソクラテスの熱心な弟子(でし)となった。アテナイ近郊のキュノサルゲス(白犬)の体育場で問答をしたと伝えられることから，キュニコス(犬儒)派の創始者といわれる。幸福は徳に基づき，徳は知に基づくというソクラテスの教えを禁欲主義的な方向に発展させた。彼の思想はシノペのディオゲネスやストア派に大きな影響を与えた。〔本橋正義〕

アンチ-テアトル [anti-théâtre] 反演劇。第2次世界大戦後のフランスの前衛劇運動の中から生まれた演劇の呼称。アルトーの演劇実験やシュルレアリスム演劇などに源流がたどれるが，1950年イヨネスコが処女戯曲《禿(はげ)の女歌手》に〈反戯曲〉と副題をつけたことに始まるとされる。イヨネスコのほか，ベケット・アダモフらが代表的な作家。〈不条理の演劇〉ともよばれるように，世界の不条理に直面した人間の孤独な状態を，古典的な行動(筋)のドラマツルギーを否定し，作家の内的直観により具体的な舞台イメージを通して提示しようとする。ブレヒトの演劇理論と並んで，現代演劇に大きな影響を与えている。〔大島　勉〕

アンチテーゼ [antithese] テーゼの反対命題。反定立・反措定・対立などと訳される。

①ある主張を表現する命題(テーゼ)に対し，これと同等の根拠をもちながら矛盾する命題である。カントの純粋理性の二律背反におけるそれは代表的な例である。その一つをあげると，〈定立……世界は時間上はじまりを有し，空間上も限界の内に閉ざされている〉〈反定立……世界は時間上はじまりをもたず，空間上限界をもたぬ〉。

②ヘーゲルの弁証法では，概念の自己展開の第2段階をさす。概念は，第1段階(テーゼ)では自己同一的で，直接的に肯定される。第2段階では，テーゼにおいて潜在していた矛盾が反省によって露見され，自己が分裂する。第3段階(ジンテーゼ)で対立する立場は越えられ，矛盾する二つの契機はより高い次元において統一される。➔弁証法〔石倉恒之〕

アンチトラストほう 【アンチトラスト法】 ⇨クレイトン反トラスト法

アンチノックざい 【アンチノック剤】 オクタン価向上剤ともいう。ガソリンのオクタン価を上昇させる添加剤で，四エチル鉛(沸点約200℃)・四メチル鉛(沸点約110℃)が代表的。これらをガソリンに微量(約0.05%以下)添加すると，オクタン価が5～10程度上昇する。これらのアンチノック剤はいずれも猛毒性物質で，加鉛ガソリンは染料で着色(自動車用は赤色)して毒性を表示している。しかし排気ガス公害を低下させるために，将来世界的にガソリンは無鉛化する傾向にある。➔アンチノック性〔原　伸宜〕

アンチノックせい 【アンチノック性】 燃料用ガソリンとして最も重要な性質の一。ガソリンは機関内でノッキングという異常燃焼を起こすことがあり，この現象を起こしにくいガソリンの特性をいう。ノッキングが起こると機関の出力が低下し，過度に起こる場合は故障の原因となる。出力の高いガソリン機関ほどノッキングが発生しやすく，したがってアンチノック性の高いガソリンを使用する必要がある。この性質を数量的に表わすには，オクタン価が用いられる。

アンチパトロス [Antipatros] (BC397～BC319) アレクサンドロス大王の後継者のひとり。王の東征中，マケドニアのるすを任され，スパルタやアテナイの反乱を平定した。死に臨み後継者にむすこのカッサンドロスでなく大王の功臣を任命したので，権力争いが起こったが，結局カッサンドロスがマケドニア王として覇権(はけん)を握った。

アンチピリン [antipyrine] ピラゾロン系の解熱鎮痛薬。白色の結晶性粉末で味はやや苦く，水にとけやすい。用途はアミノピリンとほぼ同様であるが，やや毒性が強い。呼吸系発熱性疾患の解熱に用いられるほか，頭痛・片頭痛・関節炎・リウマチ・月経痛などにも，単独または他剤と併用して用いられる。1回0.3g，1日0.6gを主として内服により用いる。アミノピリン同様特異体質の人には発疹(はっしん)や血液の変化を生じるので注意が必要。〔鈴木郁生〕

アンチフェブリン ⇨アセトアニリド

アンチフォナ [antiphona] 二つに分かれた合唱が交替して曲を歌う演奏法。この演奏法は，歴史的には，すでに古代ギリ

シアでアンチフォノスの名で知られていた。カトリック典礼では，2世紀以降この唱法が盛んとなり，特に《詩編》を歌うのに用いられた。のちには，この詩編歌唱とかかわる特定のグレゴリオ聖歌のジャンルをさすようになった。

アンチプロトン ⇨反陽子

アンチマコス ［Antimachos］（BC444ごろ～BC395ごろ） 古代ギリシアの詩人・学者。小アジアのコロポン生まれ。リュデという婦人を愛したが失い，その悲しみを2巻のエレゲイア詩《リュデ》に託し，悲運の英雄を主人公にしてうたった。しかし現存していない。ほかに英雄伝説・神話をテーマとする《テーバイ物語》《アルテミス女神》《デルトイ》の詩がある。彼は重々しい文体で物語ふうエレゲイア詩を創始した。またホメロスの原本を注解し，流布本をつくった功績は大きい。 〔久保正彰〕

アンチ-ミサイル-ミサイル ［anti-missile missile］ 略称AMMまたはABM（anti ballistic missile）。ミサイルを迎撃するミサイル。米ソとも困難な開発を経て，ある程度の実戦配備もしくはその準備を行なっている。アメリカは1962年7月のナイキ-ジュースの実験成功に引き続き，より有効なナイキX計画に移行した。ナイキXには，低高度でICBMを迎撃するスプリントと，高度数百キロメートルで迎撃するスパルタンがある。これに探知・識別・追跡レーダーおよびABM誘導用レーダーが組み合わされて使用される。ただしアメリカ国防総省は，ABM配備がソ連に対しては無効であり，近い将来に配備をみる中国のICBMに対してのみ相当有効という結論を出している（1967年1月）。1968年中はABM配備に進んでいない。 〔藤井冬木〕

アンチミスム ［Intimism］ 絵画などの心情表現の一傾向。ありふれた日常の生活に取材して，その情景を親しみをこめて描くことをいう。よく知られている画家にナビ派のボナールやビュイヤールらがいる。

アンチモン ［Antimon］ 周期律表第Ⅴ族に属する金属元素。記号Sb，原子番号51，原子量121.75。天然には主としてキアン鉱Sb_2S_3として産出する。銀白色で金属光沢をもち，硬度3，融点630℃，沸点1640℃，比重6.7でもろい。黄色アンチモン・黒色アンチモンなどの同素体がある。空気中で燃えて酸化物となり，塩素中では自発的に発火する。多くの非金属と容易に化合し，他の金属とよく合金をつくる。希塩酸にはとけにくいが，酸化性の酸にはとけやすい。鉛・スズなどと混ぜて活字金・軸承(じくうけ)用合金などをつくるのに用いられる。金属自体には毒性はないが，化合物にはしばしば有毒なものがある。 〔鈴木　篁〕

アンチモンこう 【アンチモン鉱】 アンチモンの鉱石鉱物として普通のものはキアン鉱Sb_2S_3で，セキエイ・ホウカイ石などの脈石鉱物と共生する。キアン鉱とともにベルチエ鉱$FeS \cdot Sb_2S_3$を伴うことがある。一般に低温性の熱水鉱脈に産する。アンチモン鉱の世界的に有名な産地は中国の湖南省である。日本での生産量は少ない。明治初期に愛媛県市ノ川鉱山は，美しい大きなキアン鉱の結晶を産するので有名であった。世界どこの博物館にも，キアン鉱として市ノ川鉱山産のものが陳列されている。 〔今井秀喜〕



アンチロープ
セーブルアンチロープ

あんちょくせんそう 【安直戦争】 袁世凱(えんせいがい)がつくった北洋軍閥内部における安徽(あんき)派と直隷派との武力による派閥争い。1920年袁世凱の死後，南方革命派に対する政策の相違から，段祺瑞(だんきずい)ら安徽派と馮国璋(ふうこくしょう)・呉佩孚(ごはいふ)ら直隷派とが武力抗争に突入。奉天軍閥張作霖(ちょうさくりん)と結んだ直隷派が天津(てんしん)付近で安徽派を破り，直隷派全盛時代を迎えた。背後には直隷派は英米と，安徽派は日本と深いつながりがあった。 〔衣川　強〕

アンチョビー ［anchovy］ 硬骨魚類・カタクチイワシ科。大西洋産のカタクチイワシで，太平洋産のものとよく似ている。ヨーロッパ・アメリカでオリーブ油づけのかんづめにして珍重される。

アンチル（諸島） ［Antilles］ 西インド諸島中の火山列島。面積約26万km²。大アンチル諸島（キューバ・ヒスパニオラ・ジャマイカ・プエルト-リコなどの島を含む）と小アンチル諸島（バージン・リーワード・ウィンドワードの諸島と，トバゴ・トリニダード・ボネール・キュラソー・アルバ・サンマルチンの島々を含む）に分けられる。熱帯気候でハリケーンによく襲われる。バナナ・サトウキビ・タバコ・コーヒー・カカオ・綿・サイザル麻を産する。住民は移民のスペイン人・インド人・ネグロ，およびその混血。 〔大崎　晃〕

アンチル（海流） ［Antilles］ 北緯20°付近の大西洋より北流してアンチル諸島沖を流れる暖流。北赤道海流と合流してメキシコ湾流となる。

アンチロープ ［antelope］ 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科の獣のうち，ウシ類・ヤギ類・ヒツジ類・カモシカ類を除く類の総称。旧世界に分布し，多くはアフリカの草原や砂漠(さばく)・森林にすむ。大きさはさまざまで，肩の高さ1.7m以上に達するジャイアントイランドから25cmほどのローヤルアンチロープまである。短毛で美しく，体は走るのに適し胴とあしが細い。きわめて種類が多く，100種以上ある。レイヨウともいう。カモシカとよぶこともあるが正しくない。

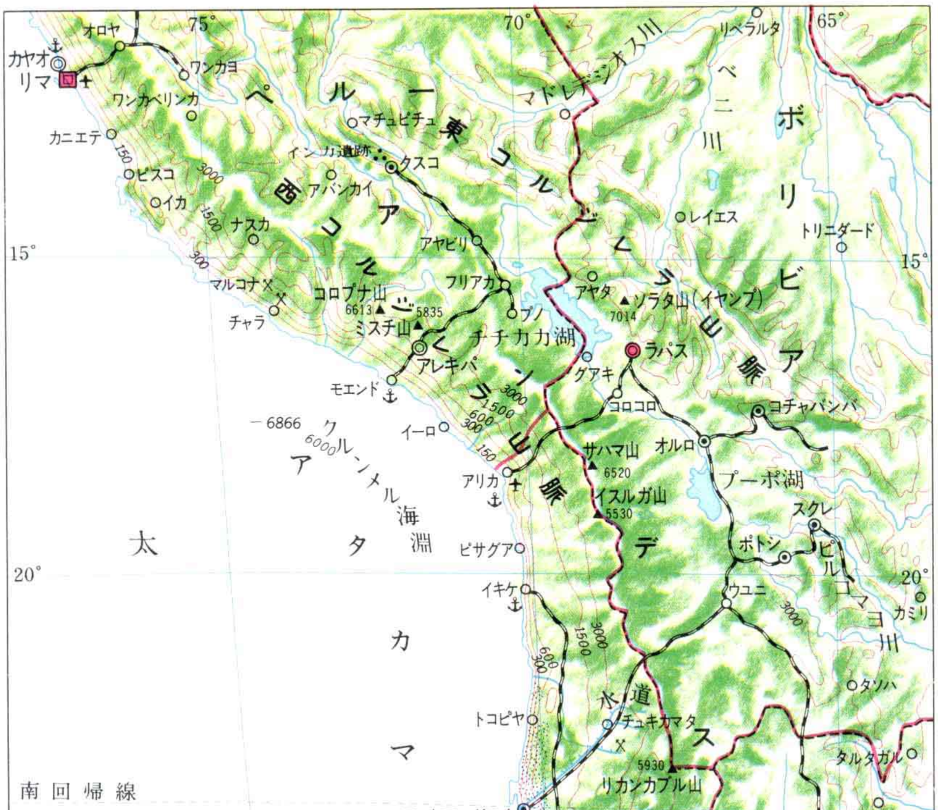
アンチ-ロマン ［anti-roman］ 反小説。19世紀的な伝統的形式を乗り越える小説作法を実験的に駆使した，フランスの新しい小説をさす。サルトルが1947年，サロートの小説《見知らぬ男の肖像》の序文ではじめて使った名称で，以後，ロブ-グリエ・ビュトール・シモン・サロート・パンジェら一群の作家の作品をさす。主観を排し，対象の完全な客体化をめざす。最近では〈ヌーボー-ロマン（新しい小説）〉とよばれることが多い。 〔池田公麿〕

アンツー ［ANTU］ α-naphtyl thioureaの略名。第2次世界大戦中リヒターによって発見された殺鼠(さっそ)剤で，人畜に対する毒性は低いが，ドブネズミに対し特異的に強い毒作用を呈する。

アンツーカー ［en-tout-cas］ フランス語で，どんな天候でも使用できるという意。クレー（粘土）やシンダー（石炭がら）とともにテニスコートや競技場に用いる表土。1928年アムステルダムのオリンピック競技場に施工されてから，急速に世界に普及した。混和土を焼き，ケイ酸礬土(はんど)・苦土などを混ぜた赤かっ色多孔性の人造土で，排水のよい点が特長。メキシコ-オリンピック大会のトラックには，さらに進んだ全天候用表土として一種のゴムを混ぜたものが使用され，その高い弾性が好評であった。 〔伊東春雄〕

あんていき 【安定器】 螢光燈(けいこうとう)を保護する装置。螢光燈は一般の放電燈と同様に負特性をもっている。つまり，ランプ電流が増加するにつれてランプ電圧が減少する（ランプの電圧降下）。したがって，適当な電流制限装置をつけて点燈しないとランプ電流が増大し続け，ついにランプを破壊することになる。この電流制限装置を安定器といい，交流電源用としてはチョークコイルまたはコイルとコンデンサーを直列に接続したもの，直流電源用には抵抗が用いられる。→螢光燈 〔田村康男〕

あんていきょうこう 【安定恐慌】 インフレーション収束政策によって起こる経済の恐慌的状態をいう。増税などによる超均衡財政，通貨発行額の縮小，貨幣の凍結（モラトリアム），通貨の切り替え（デノミネーション）などを強行するときに生ずる。インフレーションを収束して経済を安定させるためにこれらの政策が行なわれるのだが，



アンデス

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

購買力の急激な減少によって企業の倒産，失業者の発生が大規模に生ずる。これが周期的恐慌と現象的に似ていることから，〈安定恐慌〉とよぶ。第1次世界大戦後のドイツのレンテンマルクの発行(一種の通貨切り替え)によるインフレ収束政策後の恐慌的状態，第2次世界大戦後のドッジ-ライン*による日本経済の恐慌的状態などがその事例としてあげられる。〔常盤政治〕

あんていせいちょう【安定成長】物価・失業者数などの経済指標に大きな変動がなく，国際収支にも大幅な赤字がみられないまま経済成長が続くことをいう。現実の資本主義経済は毎年一様な率で成長を遂げてきたわけではなく，過去において幾度となくくり返されたような恐慌*を含む景気変動を通じて，いわゆる循環的成長を遂げてきた。したがって好況時には往々にして物価の上昇が生じ，また不況時には雇用の減少，失業の増大が現われ，また分配のひずみなどが生ずるわけであるが，現代の資本主義では物価の持続的な上昇や失業者の増大を抑制することが可能になった，という主張や，現代資本主義そのものの中に，景気変動を自動的に調節する機能がある，といった主張が新古典学派*のハロッド・ドーマーらによって展開されている。〔富田重夫〕





アンデス　(上)南アメリカ大陸の骨格をつくって，南極大陸からパナマ地峡に連なるアンデスの山並み(ペルー-アンデス)　(下)リャマはアンデス山地には欠くことのできない運搬用家畜である。ラパス付近のアンデス高原にラマを追うインディオたち

アンデス(山脈)［Andes］南アメリカ大陸の太平洋岸を南北に走る褶曲(しゅうきょく)山脈。北はパナマ地峡から南はホーン岬(みさき)まで延長7,000kmに達し，世界最長。中央部では7,000mの高さをもつが，南北は低くなり，北端では5,000m，南端では2,000m程度になる。南部では沈降してフィヨルドや多くの島をつくり，北部では二つに分かれて，一つは北アメリカ大陸のロッキー山系に，一つは小アンチル諸島に続く環太平洋造山帯の一部を形成する。最高峰アコンカグア山(7,035m)をはじめ，チンボラソ(6,272m)・コトパクシ(5,978m)など多くの高山があるが，それらはほとんど円錐(えんすい)火山である。地盤が不安定で地震活動も多い。

南北に長い山脈のため，雪線高度もはなはだしく高低があり，南端では750m程度であるが，北部のコロンビアでは5,300mとなる。またこの山脈の熱帯・亜熱帯部では高度に従って気候と植物の変化が特に明瞭(めいりょう)にみられる。すなわち，高さ1,000m以下の所では年平均気温20～25℃で，高温多湿の熱帯密林がみられ，マラリアなどの多い不衛生地となり，1,000～2,300mの所

は，年平均気温15～20℃で，コーヒー・バナナ・トウモロコシなどの栽培される温暖な農業地帯となる。3,000mまでの所は気候に恵まれて古くはインカ文明の栄えた地として知られ，標高2,610mのボゴタ(コロンビア)や2,850mのキト(エクアドル)などの都市が発達して，農業や牧畜も行なわれている。3,000m以上は寒冷，4,000m以上はツンドラ地帯となり，4,500mで雪線が現われる。

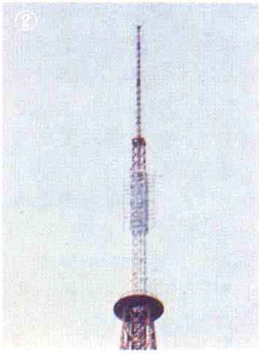
4本の鉄道がこの山脈を横断しているが，サンチアゴ(チリ)からブエノスアイレス(アルゼンチン)に至るものが名高い。しかしアンデス山中の交通はラマにたよることが多く，海岸地方との連絡は著しく不便である。コロンビアの金，ペルー・チリ・ボリビアの銀，アタカマ砂漠(さばく)の硝石など鉱産物が多く，標高3,632mのラパス(ボリビア)をはじめ，世界でも有数の高山都市が発達している。〔野間三郎〕

アンデスぶんめい【アンデス文明】⇨インカ

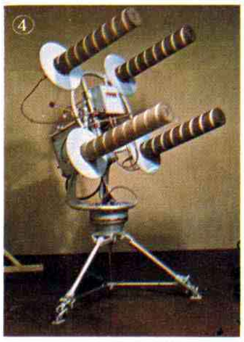
アンテナ［antenna］電波を放射し，あるいは吸収する装置の総称。空中線ともいう。導体に交流が流れていると導体から空間に電波*が放射される。放射エネルギーの大きさは，電流の振幅および周波数の2乗に比例する。したがって，強い電波の放射を得るためには，導体を適当な構造にしてできるだけ多量の高周波電流を与えうるものとしなければならない。このような目的をもった導体を送信アンテナ，または送信空中線という。一方，電波のエネルギーを効率よく吸収して電気エネルギーに変換する働きをする導体を，受信アンテナまたは受信空中線とよぶが，送信アンテナを受信アンテナとして使用してもその特性は変わらないことが証明されている。したがって，ここでは送信アンテナに限って説明する。多量の高周波電流を与えるために，ふつう，導体は高周波電流に対して共振状態を形成する構造にしてある。図はアンテナの基準ともなる半波長ダブレットを示している。約4分の1波長の導体を2本直線上に並べると，二つの導体間の静電容量*Cと，導体自身のもっている自己インダクタンス*Lとで，LC共振器を形成する。アンテナの中央からアンテナの長さの2倍の波長をもつ高周波電圧を印加すると，導体上に図のような分布をした同調電流が流れる。

アンテナはその用途に応じて無指向性と指向性との二つに分かれる。ラジオやテレビの放送用アンテナは無指向性でなければならず，垂直アンテナおよびスーパー-ターンスタイルアンテナが使用されている。一方，電離層反射による海外との交信，および中継所間の通信などでは指向性アンテナが使用され，ビームアンテナ・八木アンテナ・パラボラアンテナがある。テレビの受信用アンテナとして広く普及している八木



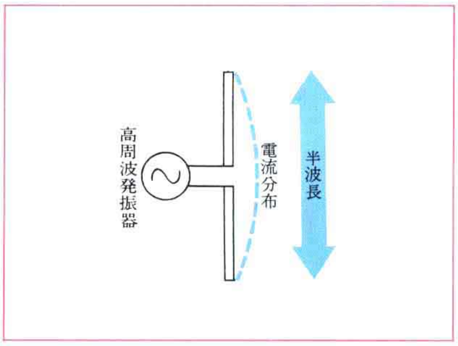








①中波アンテナ(ラジオ送信アンテナ)
②VHFアンテナ(テレビ送信アンテナ，スーパーターン形)
③SHFアンテナ(レーダーアンテナ，パラボラ形)
④UHFアンテナ(放送局移動中継用テレビ受信アンテナ，ヘリカル形)
⑤SHFアンテナ(テレビ送受信アンテナ，パラボラ形)



アンテナ

アンテナは，1926年(大正15)八木秀次・宇田新太郎によって発明されたもので，主空中線の前後に導波器・反射器を設けて指向性アンテナとしたものである。〔小原啓義〕

アンデパンダン［Indépendants］本来は，独立を意味するフランス語であるが，美術の展覧会の名称として使われる。つまり，審査や選定という規制なしに，だれでも自由に出品できる展覧会をいう。歴史的には，1884年にパリで〈志を同じくする者は，だれでも出品できる〉という趣旨で開かれた〈サロン-デザルティスト-アンデパンダン〉(独立美術家協会)を最初とする。この第1回展には，《水浴》を官展サロンに拒否されたスーラ*をはじめルドン*・シニャック*らが集まり，その後大戦中を除いて毎年開かれた同展には，ゴッホ*・ルソー*・セザンヌ*をはじめシャガール*・ルオー*・マチス*らが出品して官展の権威に反逆し，自由な表現を守り続けた。しかし，第2次世界大戦後はあまり活発ではない。わが国では，1948年(昭和23)に日本美術会主催の〈日本アンデパンダン展〉が，翌年に読売新聞社主催の〈アンデパンダン展〉が発足し，画壇の公募団体組織に批判的な若い新人らの強力な運動の場となった。前者が政治主義的な傾向を示したのに対して，後者はその後〈ネオ-ダダ〉的傾向の新人が主流を占め，荒川修作・工藤哲巳(てつみ)・三木富雄らを送り出した。しかし同展は，新聞社の商業的見地から1964年に中止になった。〔東野芳明〕

アンテフィクサ［antefixa］ギリシア・ローマの建築で，軒がわらや榱(たるき)の先端を化粧するためにつけた装飾。大理石やテラコッタでつくられ，通常アンテミオンとよばれる植物文様で装飾されている。

アンデルシュ［Alfred Andersch］(1914～　)ドイツの小説家。若くして共産主義運動に参加したが，ナチ政権下に半年の強制収容所生活ののち転向した。のち第2次世界大戦中にイタリア戦線で脱走。1946年リヒターらと雑誌《叫び》を創刊，占領軍によるその発禁後〈グルッペ47〉結成に参加，秩序や組織に反逆し実存主義的自由を主張した。自伝的報告《自由のさくらんぼ》や小説《ザンジバル》，西独社会の内的病患をあばく《赤毛の女》《エフライム》などの長編のほか，評論や放送劇も書いている。イタリア在住。〔藤本淳雄〕

アンデルセン［Hans Christian Andersen］(1805～1875)デンマークの作家。オーデンセの貧しいくつ屋のひとりむすこに生まれ，父の死後，15歳で俳優を志願，単身首都コペンハーゲンに上り，苦難の中を知名人の恩顧にすがりながら，やがて大作家となった。その生涯(しょうがい)は，さながら〈おとぎ話のようだった〉と，《自伝》

の中で回顧している。処女作は自費出版の《アマーゲル島の徒歩旅行》(1828)で，それから７年めに２か年の国費旅行から帰国して《即興詩人*》を発表，一躍文名を全ヨーロッパに確立した。しかし，彼は童心に満ちている反面，虚栄と野望を露骨に示して敵も多く，晩年に至るまで故国では不遇で，通算29回の海外旅行という放浪の生涯を送った。一方，海外ではディッケンズと親交があったのをはじめ，ユーゴー・デュマ・グリム兄弟・メンデルスゾーン・リストとも交わり，識見を深める上に大いに役だった。劇作の失敗が童話への開眼となり，1835年，作品４編を収めた最初の童話集を発表して以来，文壇の不評にめげず創作を続け，やがて近代童話の確立者として不朽の名声を得るに至った。生涯に約150編の童話を書いたが，《人魚姫》《マッチ売りの少女》《みにくいアヒルの子》はわけても名高い。ほかに連作短編集《絵のない絵本》もある。なお，彼は三たび悲恋を味わい，生涯を独身で終わった。〔鈴木徹郎〕

アンデルセンじでん　**【アンデルセン自伝】**　２種ある自伝のうち一つは，《わが生涯(しょうがい)の物語》(２巻)で，第１巻は誕生から1846年７月までで，第２巻はこれに続く1855年４月まで。もう一つの自伝《身の上話》は，誕生から25歳まで。これは初恋に破れたアンデルセンが失意を紛らすために，少女ルイーズ-コリン(恩人ヨナス-コリンの娘)に書き送ったもので，彼の死後1925年に発見され，翌年出版された。これは前者の自伝に比較して，より率直な青春の記録とされている。なお，アンデルセンのよき理解者ブランデスは，童話《みにくいアヒルの子》は，《自伝》にまさる自伝と評している。〔鈴木徹郎〕

あんてん　**【暗転】**　演劇における場面転換法の一。幕をおろさずに，舞台を暗くして場面を転換すること。場内を暗くしてから，暗転幕とよぶ黒幕を引くこともある。なお，明るいまま転換することを俗に明転(めいてん・あかてん)という。

あんてん　**【暗点】**　視野の一部が病的に島状に欠損しているもの。視野の中心部が見えなくなった状態を中心暗点といい，暗点の中で最も多い。網膜または視神経の障害が原因となる。

あんど　**【安堵】**　本来の語義は安心させることであるが，鎌倉・室町時代には，所領の所有権・領有権・知行権などの権利を認めることをいった。主君の従者に対する御恩*として行なわれ，一般にはこれを契機として封建的主従関係が成立する。すでに知行している所領の安堵を本領安堵といい，その他沽却地(こきゃくち)(買得地)安堵・和与地安堵などがある。

あんとう　**【安東】**　アントン　中国遼寧(りょうねい)省東部の都市。人口40万(推定)。鴨緑江(おうりょっこう)河口から30kmの右岸にあり，朝鮮の新義州と相対する。満州・朝鮮間の交通の要衝で，19世紀の中ごろから開拓が進み，日清(にっしん)・日露戦争後，急速に発展した。木材とダイズの集散地であり，商業も盛んである。現在丹東と改名されている。

あんどうこう　**【安藤こう】**　(1878〜1963)　女流バイオリニスト。1896年，東京音楽学校を卒業し，ドイツに留学して，ヨアヒムに師事した。帰国後は最高の技術を備えた奏者として演奏活動を行なう一方，母校での教育に従事した。千島の開拓者郡司成忠*(しげただ)，文学者幸田露伴*の妹。

あんどうしょうえき　**【安藤昌益】**　生没年不詳。江戸中期の医者・社会思想家。出羽(でわ)(秋田県)に生まれ，1746年(延享３)ごろ八戸(はちのへ)で町医を開業していたことが知られるが，詳細は不明。忘れられた思想家であったが，封建社会にあって階層制度を否定した特異な著作《自然(じねん)真営道》《統道真伝》により，近年にわかに注目されるに至った。儒・仏の教えは，働かずに食うだけの口舌の徒を生んだとして非難し，すべての人が生産に従事する〈自然世〉こそが理想社会と説いた。〔永藤　武〕

あんどうのぶまさ　**【安藤信正】**　(1819〜1871)　江戸幕府の老中。陸奥(むつ)(福島県)磐城平(いわきたいら)藩主。初名信睦(のぶゆき)・信行。対馬守(つしまのかみ)と称した。寺社奉行(ぎょう)・若年寄を経て，1860年(万延１)老中に進む。大老井伊直弼(いいなおすけ)が暗殺されたのち，老中筆頭として政務をとり，公武合体*政策を推進して，皇女和宮(かずのみや)の降嫁を図った。ために1862年(文久２)１月，坂下門外で尊攘(そんじょう)派の志士に襲撃され負傷，４月に老中を辞職した。戊辰(ぼしん)戦争には奥羽諸藩と同盟して新政府に反抗したため永蟄居(えいちっきょ)を命ぜられた。〔善積美恵子〕



アンデルセン

あんどうひろしげ　**【安藤広重】**　(1797〜1858)　江戸末期の浮世絵師。別名ははじめ一遊斎，のち一幽斎・一立斎などと改めた。歌川豊広(とよひろ)の門下で美人画を描いていたが，葛飾北斎*(かつしかほくさい)の活躍に刺激され風景版画に転向，《東海道五拾三次》〈雪月花〉などの連作を発表して世に認められた。広重の風景画は北斎とは異なり，季節の推移や微妙な気候の変化を詩的に表現したとされ，また花鳥画においても対照的な作風を示している。なお２代広重は，横浜で輸出用の茶箱を飾る木版画に特異な活躍を示し，３代広重は文明開化ににぎわう東京の新風俗を描いて，広重の画系を明治につないだ。〔小林　忠〕

あんとくてんのう　**【安徳天皇】**　(1178〜1185)　在位1180〜1185年。名は言仁(ことひと)。高倉天皇の第１皇子。母は平清盛*の娘建礼門院徳子。1183年(寿永２)７月源義仲(よしなか)の入京に際し，平宗盛(むねもり)に奉ぜられて西海におもむき，太宰府(だざいふ)・屋島を経て，1185年(文治１)壇ノ浦で平氏一門とともに入水。陵墓は下関(しものせき)市の阿弥陀(あみだ)寺にある。

アントシアン　［anthocyan］　顕花植物*の花・果実・葉・茎・根などに含まれている赤・青・紫などの一群の植物色素の総称で，花青素ともよばれる。フェノール性の色素本体(アントシアニジン)とその配糖体*(アントシアニン)の両者を総称してアントシアンという。通常，アントシアニンの形

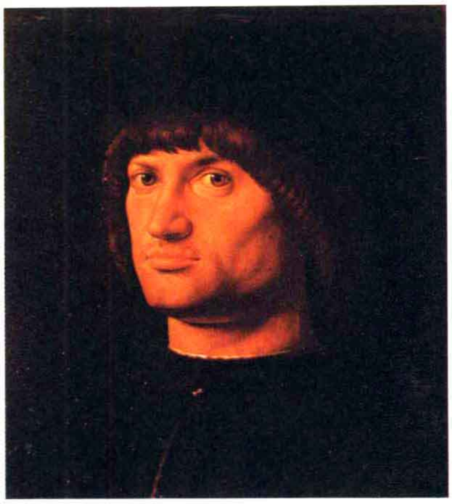


安藤広重　《木曾路之山川》　1857　広重晩年の３枚続きの錦絵三部作〈雪月花〉の雪にあたる。月は《武陽金沢八勝夜景》，花は波を花に見立てた《阿波鳴門之風景》

で細胞液中にとけている。この色素は酸性溶液中では赤色となり，アルカリ性溶液中では青色を呈するが，生細胞中に存在するときに固有の安定な色調を保つのは金属や有機化合物と複雑な錯化合物をつくるためと考えられている。〔吉田精一〕

アントニウス ［Marcus Antonius］（BC82ごろ～BC30） 古代ローマの政治家・将軍。若くして放蕩(ほうとう)で名を知られ，のちパレスチナ・エジプトで武名をあげてから，カエサル*のガリア遠征に加わってその部将として信頼を受け，BC49年護民官*としてローマ市にあって遠征中のカエサルの政治的立場のために奔走した。カエサルとポンペイウス*との内乱ではカエサル方に立って戦い，BC44年執政官*(コンスル)となった。同年3月15日のカエサルの暗殺後の事態収拾にあたっては穏健策をとり，暗殺者(共和主義者)と妥協しながら彼らの実権掌握を封じ，ローマ市民衆や兵士などカエサルの支持者を自己に結びつけた。やがてカエサルの養子オクタビアヌス(アウグストゥス*)が台頭すると，BC43年オクタビアヌスとレピドゥス*とともにいわゆる第2次三頭政治*を結び，BC42年フィリッピの戦いでブルトゥス*ら共和主義者を破った。続いて彼は東進し，エジプト女王クレオパトラ*と結ばれて東方の経営に専心したため，一時オクタビアヌスと不和になったが，BC40年その姉オクタビアをめとって和解し，BC37年には三頭政治を更新した。その後数年，彼は東方でクレオパトラのほか5人の王のパトロンとなり，東部諸州に対する実権を握り，パルチアにも兵を進めた。こうした彼の東方政策は西部，特にイタリアの経済に打撃となったばかりか，クレオパトラと正式結婚するなど故国の同情を失うことが多く，この西部の世論を背景にしたオクタビアヌスの東征を受け，BC31年アクチウムの戦い*で彼とクレオパトラの連合艦隊はオクタビアヌス軍に敗れた。翌年アレキサンドリアに攻囲されて自殺し，クレオパトラもあとを追って自殺した。彼の東方経営は，地中海世界を支配下に置いた当時のローマ帝国にとって不可避の課題にこたえるものであったが，彼とクレオパトラとの情事をはじめその行動はローマ人の伝統的感覚にそぐわず，当時の大弁論家キケロ*の論難を受けたことなどが失脚の原因となった。彼は4回結婚し，2男3女を残したが，クレオパトラとの間にも2男1女をもうけた。〔弓削　達〕

アントニウス ［Antonius Eremitus］（251ごろ～356） キリスト教修道院の最古の創始者のひとり。エジプトに生まれ，285年ごろ全財産を人に施して隠遁(いんとん)し，禁欲生活にはいる。355年ごろ彼を慕い集まる人々を組織して修道院を創立したと伝えられる。隠者とはいうもののきわめて活動的で，アタナシウス*にくみしてアリウス派*と論戦を交えたり，異教徒によって迫害される信者を守るため戦うという面もあった。著作は残っていないが，アタナシウスの書いた伝記がある。この伝記がアウグスチヌス*の回心に大きな役割を演じたことは有名。〔五十嵐 誠・石井忠厚〕



アントネロ-ダ-メッシーナ 〈傭兵隊長〉という通称の男子の肖像 1475



300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



アンドラ　ピレネーの山間に開けたアンドラの村落。孤立的な生活が営まれ，制度や風俗習慣にも古いものが残されている

アントニオーニ ［Michelangelo Antonioni］（1912～　） 現代イタリアの代表的な映画監督。ボロニア大学卒業後，ジャーナリスト・シナリオライターなどを経て，短編記録映画の監督となったが，のち《さすらい》《情事》で脚光を浴びる。ネオレアリスモ*の特徴である人間の意識の映像化によって，錯綜(さくそう)した現代社会に住む人間の不安や心理の微妙な揺れ動きをリアリスティックなカメラでとらえ，空洞(くうどう)化する人間の内部状況を新鮮な映像で表現することに成功した。ほかに《夜》《欲望》などの作品がある。〔波多野哲朗〕

アントニーとクレオパトラ シェークスピア*中期の悲劇。1607年の作と推定される。《ジュリアス-シーザー*》や《コリオレーナス》とともに，プルタルコスの《英雄伝*》をもとにした〈ローマ史劇〉の一。ローマ帝国の三頭政治の時代を背景に，〈三頭〉のひとりアントニーとエジプト女王クレオパトラが，恋を実らせることなく，それぞれ歴史的人物としてみずから命を絶つという悲劇が，雄大な文体の中に描かれている。

アントニヌス-ピウス ［Titus Aurelius Antoninus Pius］（86～161） 古代ローマの五賢帝*のひとり。在位138～161年。元老院議員，アジア総督などを歴任し，ハドリアヌス*帝の養子となり，帝位を継いだ。救貧制度の拡充，キリスト教徒迫害の禁止，学者の優遇など，穏やかな政策を実施し，ブリタニアでは，アグリコラ*の築いた長城のさらに北に新たに長城を築き，国境を拡大した。

アントネロ-ダ-メッシーナ ［Antonello da Messina］（1430？～1479） イタリアの画家。フランドル派*の影響を受けた画家コラントニオの工房で修業。また，バン-アイク*の油彩画技法から多くを学び，生地メッシーナ・ベネチアで活躍した。作品には《聖セバスチアノ》などがあり，静的な構図，繊細な色彩，色調の統一に特徴がある。

アントファガスタ ［Anto fagasta］ チリ共和国北部の港市。人口13万8,000（1970）。市の背後に産するチリ硝石の輸出港。アルゼンチン・ボリビアとは鉄道で結ばれ，東隣の内陸国ボリビアの海への門戸でもある。銅・銀・スズの原鉱や粗鋼も積み出されるが，港湾設備はあまり整っていない。近年，鉱産物の処理をはじめ，食料品・繊維製品の製造も行なっている。

アンドラ(共和国) ［Andorra, Valla d'Andorro］ フランス・スペインの国境，ピレネー山脈中の小共和国。面積453km²。人口30,000(1975年推)。首都はアンドラ。

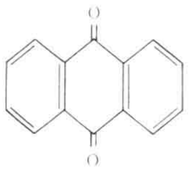
［自然・住民］ 2,000m以上の山々に囲まれた険しい地形で，北部のフランス側は高山が迫っているが，南部のスペイン側は開けている。冬は雪におおわれるきびしい気候である。住民の大半はスペイン系のカタロニア人であり，文化的にもスペインに近く，カトリック教徒が多い。言語はカタラン語。

［産業・経済］ わずかな低地で放牧を行なっているが，穀物は不足し，フランスから食料の大部分を輸入する。また鉄を産出する。温泉のある保養地で，冬はスキー場としてにぎわい，観光収入は重要な収入源である。首都とフランス・スペインを，コルデンバリラ山(2,400m)を横切る道路が結んでいる。政治的には，1728年以来，フランス大統領とスペインのウルヘル司教との共同主権下にあるが，現在はフランスが実権

を握っている。第2次世界大戦中は両国からの亡命者が多かった。〔梶川勇作〕

アンドラおうこく 【アンドラ王国】 紀元前3世紀末から紀元3世紀初めまで，4世紀半にわたってデカン高原を中心に南インドに勢力をふるい，北インドのクシャン朝*と対峙(たいじ)した王国。サータバーハナ朝ともいう。1世紀末の王ガウタミープトラのころ最盛期となり，西海岸の諸港市を通じて対ローマ貿易が行なわれて経済繁栄があり，学問・芸術も発達した。キストナ川流域のアマラーバティー*などの仏教芸術はアンドラ美術*とよばれ，また偉大な仏教哲学者ナーガールジュナ*(龍樹)を生んだ。

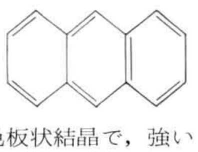
アントラキノン ［anthraquinone］ 9,10-アントラキノンともいう。アントラセンを重クロム酸カリウムと希硫酸で酸化して得られる。黄色針状結晶。亜鉛と熱するとアントラセンに還元される。アルカリで溶融すると安息香酸*を生じる。染料合成の中間体として重要である。なお，酸素のついている位置の違いにより，1,2-アントラキノンや1,4-アントラキノンなどの異性体が存在する。



アントラキノンせんりょう 【アントラキノン染料】 アントラキノン*を骨核構造とする染料の総称であるが，類似の多環式キノン染料も含む。色相豊富かつ美麗で堅牢度(けんろうど)も一般にすぐれ，合成染料中アゾ染料*とともに重要な地位を占めている。酸性染料*・媒染染料*・酸性媒染染料*・塩基性染料*・建て染め染料*・分散染料*，および反応染料*など用途も多岐にわたり，特にアゾ染料に乏しい青～緑色の領域をよく補っている。アゾ染料に比べて一般に高価である。〔稲田正作〕

アンドラーシ ［Gyula Andrassy］(1823～1890) ハンガリーの政治家。伯爵。1848～1849年の独立戦争敗戦後，オーストリア政府により死刑を宣告され，パリに亡命。特赦で帰国し，オーストリアとの妥協に尽力した。1867年初代ハンガリー首相。プロイセンへの報復に反対してプロイセン-フランス戦争*には中立を主張した。オーストリア-ハンガリー帝国の外相として汎(はん)スラブ主義に対抗，1872年三帝会盟を成立させ,1879年ドイツ-オーストリア同盟を結んだ。同名のむすこ(1860～1929)も政治家。〔山県弘志〕

アントラセン ［anthracene］ $C_{14}H_{10}$ コールタールの蒸留によって得られるアントラセン油から分離したり，アントラキノン*を還元して得られる。無色板状結晶で，強い蛍光(けいこう)を有し，水にとけず,ベンゼン・トルエン・アルコールなどにとける。酸化すればアントラキノンを生じ，還元すれば9,10-ジヒドロアントラセンを生じる。アリザリン*やインダスレンなどのアントラキノン染料*の原料として重要であり，ポリエチレンやガソリンの安定剤，防虫剤としても使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕





アンドリッチ

アントラセンゆ 【アントラセン油】 ⇨緑油

アンドラびじゅつ 【アンドラ美術】 アンドラ王国の美術は，サンチー・アマラーバティー*・ナーガールジュナコンダ・ゴリなどのストゥーパ(卒塔婆(そとば))や西インド地方に遺存する石窟(せっくつ)寺院などに集約される。中でも前二者がことに著名であり，代表作とみなされる。サンチー大塔*はアショカ王の創建といわれ，シュンガ朝当時に現在の大きさに拡張・復築された。塔の四方に立つ門と欄楯(らんじゅん)はこの時期に付加され，南門が最も早く，北・東・西の順につくられた。銘文にはビルサの象牙彫(ぞうげぼり)師が奉献したとある。牙彫(きばぼり)作品は，現在のアフガニスタンにあるベグラム遺跡*から出土していて，この時代における諸国の美術活動の交流を研究するうえに興味ある問題を提起している。アマラーバティー大塔は紀元前2～3世紀ごろに原型がつくられ，紀元2世紀に拡大・装飾された。発掘された遺品は，現在マドラス博物館・大英博物館に分散して収蔵陳列されている。この派の様式は初期マトゥーラ*の様式を摂取しているが，一方ではローマ帝国との貿易に関連してその文化から影響をこうむった面もみられる。いずれにせよ，アンドラ朝美術の影響は広く渡り，セイロンをはじめチャンパ(インドシナ)のドン-ドゥオンやセレベス島のセムパガにまで及んでいる。石窟寺院では，カーンヘリーやナーシク，アジャンターの石窟の第9窟・第10窟などがあげられる。〔西岡康宏〕

アンドリッチ ［Ivo Andrić］(1892～1975) ユーゴスラビアの小説家。ボスニアのトラーブニクの生まれで,若年には民族革命組織〈若いボスニア〉に属し，オーストリア-ハンガリーの官憲に捕えられた。第1次世界大戦後は1941年まで外交官として活躍。作家としては短編にすぐれたものが多く，中編・長編小説では主としてボスニアの生活を描いている。散文詩《エクス-ポント》(1918)で注目され，1920～1930年代の叙情的な散文を経て，1945年に《ドリナの橋》《トラブニーク年代記》《お嬢さん》を発表した。中でも《ドリナの橋》は有名で，数多くの外国語に訳され邦訳もある。1954年には中編《のろわれた庭》を発表，1961年にノーベル文学賞を得て，一躍，世界的に有名となった。〔千野栄一〕

アンドール ⇨アンドラ(共和国)

アントルメ ［entremets］ 西洋料理で食後に出される甘い生菓子の総称で，ケーキやクッキー類とは区別して用いている。温菓と冷菓に分けられ,温菓はプディング・スフレ・焼きりんごなど，冷菓はアイスクリーム・シャーベット・ゼリー・ブラマンジェ・ババロアなど。

アントレ ［entrée］ 西洋料理の魚料理とロースト料理の間に出される料理。主として鳥獣肉およびその臓物が材料として用いられるが，ロースト料理とは材料が重ならないようにする。献立の中央にあたるので，特に外観もよく美味で実質的に考えられる。調理法も種々あり，技術的にも非常にくふうされる料理である。なお，アントレ-レジェール(軽いアントレ)は，あつものまたは冷前菜のあとに，または昼食などでそれらを用いないときに常の料理として出される，小形のパイ料理などをさす。〔泉　敬子〕

アンドレーエフ ［Leonid Nikolaevich Andreev］(1871～1919) ロシアの小説家・劇作家。初期の作品《沈黙》《むかしむかし》などでは，しいたげられた下層民に対する同情が感じられるが,しだいに作品にペシミズムの影が広がり，《血笑記(赤い笑い)》では戦争の悲惨を，《7死刑囚物語》では絞首刑を受けた革命家の心理を描き，一見ドストエフスキーに似た虚無主義的作品を書くようになった。一時は流行作家としてもてはやされたが，革命後はフィンランドに亡命した。〔中村健之介〕

アンドロゲン ［androgen］ 主として男性生殖器の精巣のライディッヒ間質細胞より分泌されるホルモンで，一部副腎(ふくじん)皮質・卵巣・胎盤からも分泌される。別名テストステロンと称されて，その構造中核にコレステロール核がある。その作用は男性化を表わし,欠如・減少によって雄のニワトリなどはとさかが小さくなってしまう。またヒトにおいても男性化(第2次性徴)が退行する。そのほかに精子の運動性と受精能を維持したりその形成をも促す。〔平野修助〕

アンドロマケ ［Andromache］ ギリシア英雄伝説で小アジアのテーベ王の娘。ヘクトル*の妻となり男児アスチュアナクスを生むが，夫の死とトロヤの滅亡ののち，子どもは殺され，自身はアキレウス*の子ネオプトレモスの奴隷としてエペイロスへ行った。ネオプトレモスとの間にモロッソス・ピエロス・ペルガモスの3子を生んだ。彼の死後は王位を継いだヘクトルの弟ヘレノ

スの妻となり，ヘレノスの死後ペルガモスとともに，ミュシアにペルガモン市を建設した。　〔黒田杏子〕

アンドロメダざ　【アンドロメダ座】　北天の星座で，秋から冬にかけて天頂近くに望まれる。この星座の3個の2等星と，西南に位するペガスス座の3個の3等星とで，大きなひしゃく型をつくる。アンドロメダ星雲が存在するので有名であるが，散開星団や二重星など，小望遠鏡の対象となるものも多い。➔星座

アンドロメダせいうん　【アンドロメダ星雲】　アンドロメダ座に見える銀河系外星雲。大・小マゼラン雲とともに肉眼で見える銀河系外星雲として有名である。典型的なうず状構造をもっており，30′×15′くらいの中心核のまわりに3°×1°あたりまでうずまきの腕が広がっている。距離は約200万光年，銀河系を含む局部星雲群に属している。実直径が約10万光年の円盤状に恒星が集まり，中心のまわりに回転している。質量は太陽の3,000億倍程度。球状星団・散開星団・ガス星雲を含み，新星も多数発見されている。NGC 221およびNGC 205の伴星雲を伴っている。　〔磯部琇三〕

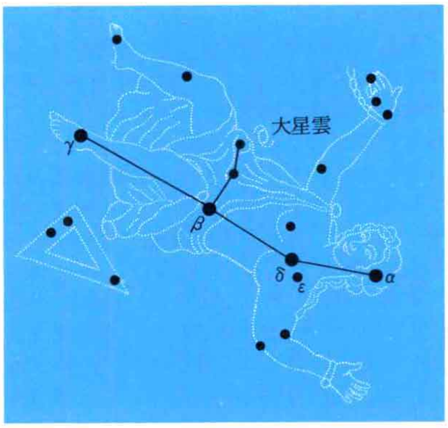
アントワーヌ　［André Antoine］（1858～1943）　フランスの俳優・演出家。1887年にパリのガス会社に勤めるかたわら，しろうと俳優たちによる《自由劇場》を結成し，新しい自然主義演劇の上演をめざした。《自由劇場》は数年にして経済的に失敗したが，各国に及ぼした影響には絶大なものがある。

アントワープ　⇨アンベルス

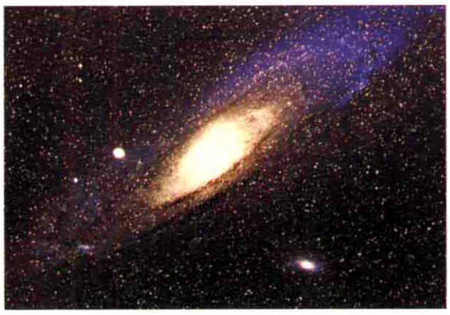
あんどん　【行燈】　油ざらの周囲に立方形か円筒形のわくをつくり，これに紙をはり，風を防ぐように火袋を装置した油用燈火具の総称。室町時代に禅家によって広められた語で，携行用燈火の意。江戸時代にはいると携行用としての使用はなくなり，屋内にすえて用いられ，それぞれの用途に応じて，形も分化した。油を燃やして燈火とする場合，当初は油そのものに点火していたが，のちに燈心を用いた。これをトウスミ・トウシミなどという。燈心には麻布・綿糸・イグサが使われ，江戸時代には申(さる)の日にこれを買うと家が栄えるという俗信もあった。行燈は電燈・ランプの普及する明治半ばまで用いられた。　〔渡辺欣雄〕

あんどんくらげ　【行燈水母】　腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ綱。かさは立方形をなし，形があんどんに似ることからこの名がある。かさの幅は3cm，高さは4cmほど。立方体の四すみに触手があり，泳ぐときは60cmほどに伸びる。ほとんど無色透明。北海道から台湾までの沿岸に現われる。

あんなか　【安中(市)】　群馬県西部の市。江戸時代には板倉氏三万石の城下町，中山道(なかせんどう)の宿場町・市場町であった。1955年(昭和30)市制施行。人口43,700。市域は，碓氷(うすい)川流域の河岸段丘上の街村型集落を中心とし，周辺は米作や養蚕の純農村地帯である。産業三大別人口比は28：34：38であるが，東邦亜鉛安中製錬所のカドミウム公害で問題になった。信越本線・国道17号線に沿い，磯部(いそべ)温泉・妙義山，中山道(なかせんどう)のすぎ並み木などの観光地もある。同志社の創立者，新島襄(じょう)は江戸生まれであるが，安中藩士の子で，市内にその育った家が残っている。



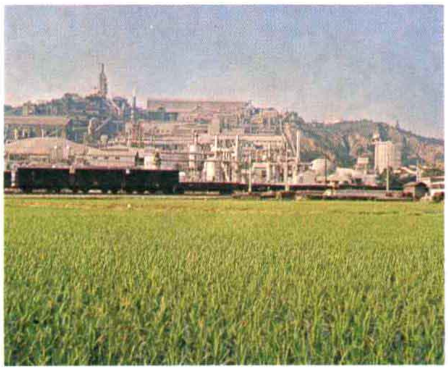
アンドロメダ座



アンドロメダ星雲



アントワープ　スヘルデ川に臨むアントワープ港の埠頭。巨船が川をさかのぼって入港し，貨物の積み卸しや旅客の発着で活気をおびている



安中市　安中市にある亜鉛精錬工場。精錬に伴って工場から排出されるカドミウムが水田に流れ込み，これによる公害が最近重大な社会問題となっている

アンナ-カレーニナ　レフ-トルストイの長編小説(1875～1877)。愛なくしてとついだ情熱の女アンナと美貌(びぼう)の青年将校ウロンスキーとの不倫の恋，その破綻(はたん)によるアンナの自殺をたどり，それに対置して，まじめで素朴(そぼく)な若い地主レービンとキティーとの農村における結婚生活を語る。これら二つの物語が比類ないリアリズムと鋭い心理描写のうちに展開される

あんなのへん　【安和の変】　969年(安和2)藤原氏が他氏の排斥を企てた隠謀事件。村上天皇の没後，憲平(のりひら)・為平(ためひら)・守平の3親王のうち，憲平親王が冷泉(れいぜい)天皇になると，為平親王は左大臣源高明(たかあきら)の娘を妃としたことで藤原氏の反対を受け，弟の守平親王が皇太子となった。当時右大臣藤原師尹(もろただ)は藤原氏に対抗する源高明を排斥する機会をねらっていた。藤原派の源満仲(みつなか)らは，為平派の橘繁延(たちばなのしげのぶ)らに為平親王擁立の謀叛(むほん)があると密告したため，橘繁延は流罪に，源高明も連坐して大宰帥(だざいのそち)に左遷された。変後は藤原師尹が左大臣となり，以後藤原氏全盛の摂関政治の時代を迎えた。

アンナプルナ(山)　［Annapurna］　ヒマラヤ山脈の中央部にある連峰。東西40kmにわたり，7,500～8,000ｍの高峰が連なる。その第1峰は標高8,078ｍで世界第10位にあたるが，1950年フランスのM.エルゾーグが初登頂，これが8,000ｍ級の登山の世界最初の記録となり，登山界に大きな刺激を与えた。ほかに第2峰(7,937ｍ)・第3峰(7,576ｍ)・第4峰(7,525ｍ)とあるが，第2峰は1960年イギリス隊に，第3峰は1961年インド隊に，第4峰は1955年ドイツ隊によって征服された。日本からも，1952年(昭和27)に第4峰，1953年に第2峰にいどんだが失敗した。　〔野間三郎〕

アンナン　［Annam］　インドシナ半島東岸，現在の北ベトナム南部から南ベトナム北半部にわたる地域。北はトンキン，南はコーチシナ，西はラオスに接する。西側のアンナン山脈と東側の南シナ海にはさまれた狭長な地帯。アンナンの北部はすでに紀元前3世紀のころ中国に支配されたが，トンキンデルタを中心に発展したベトナム民族がしだいにこの地域に南下進出して，1428年にはついに，ユエを首都として安南王国が成立した。王国はさらに先住のチャム人を追って南下したが，19世紀半ば以後フランスの侵略を受けてその保護国となった。海岸

は出入りが多く，ダナン・カムランなどの良港がある。米・サトウキビ・絹・紙などを産する。現在は北緯17°線を境に，ベトナム共和国・ベトナム民主共和国に分割されている。〔別技篤彦〕

あんなんご【安南語】⇨ベトナム語

あんなんやき【安南焼】アンナン*で焼かれた焼き物の総称。アンナンはたえず中国文化の影響を受け，陶芸では漢時代にその先例があるとする説もある。しかし，明確に製品を残しているのは13世紀ごろからで，いずれも中国陶磁にならった鉄絵・青磁・青花・赤絵・金彩・白磁など広い範囲にわたっている。これらは中国のそれに比して，作調が粗厚で絵付けも稚拙，焼き上がりも低調であるが親しみある作品となっている。さらの高台の内側に，鉄質の渋釉(しぶぐすり)をらせん状に施してあるのが特徴の一つである。〔矢部良明〕

あんね【安慧】(470ごろ～550ごろ)インドの大乗仏教思想家。インド名はスティラマティ。南西インド，バラビー国(現在のバローダ)の人。すべての存在や現象は心の本質である阿頼耶識*(あらやしき)によるという唯識思想を説いた。アサンガ*の系統を引き，唯識十大論師のひとりで，無相唯識派といわれる。また〈空(くう)〉の教えにも深い理解を示した。著書《大乗中観釈論》，バスバンドゥ*の《唯識三十頌(ゆいしきさんじゅうじゅ)》を解釈した《唯識三十頌釈論》など。

あんねいてんのう【安寧天皇】綏靖(すいぜい)天皇の皇子。名は磯城津彦玉手看(しきつひこたまてみ)，母は五十鈴依媛(いすずよりひめ)。片塩浮穴宮(かたしおのうきあなのみや)を皇居とし，畝傍(うねび)山の西南御蔭井上陵(みほとのいのえのみささぎ)を墓所とする。実証史学からはこの天皇の実在性は薄い。

あんば【鞍馬】⇨体操競技

アンバー［invar］インバールともいう。低膨張係数をもつ強磁性の鉄・ニッケル合金であり，ニッケル36％を含んでいる。比重8.3，融点1,300℃で，100℃以下での熱膨張係数が0.3～2.5×10^{-6}(一般に鋼は0.9×10^{-6})である。これは温度上昇により自発磁化が減少するために，体積が収縮する現象を利用して，格子(こうし)振動によるプラスの熱膨張係数を打ち消したものである。用途としては精密計器，光学機械，ものさし，時計の振り子，バイメタル*などに使われる。〔長谷川正義〕

アンバー［umber］酸化鉄Fe_2O_3および酸化マンガンMnO_2，Mn_3O_4を着色成分とする天然のかっ色顔料。天然産のものを粉砕・水洗・水簸(すいひ)・乾燥しただけのものを生のアンバー(raw umber)といい，これを焼いた赤茶色のものを焼きアンバー(burnt umber)という。黄土よりも酸に安定で，アルカリにも強い。比重は2.5～3.3で，粒子の大きさは約0.2～3.0μである。

あんはつがしゅし【暗発芽種子】⇨光発芽種子

あんはんのう【暗反応】光合成は光の関与する明反応と，光とは無関係で温度や炭酸ガス濃度に支配される暗反応に分けられる。暗反応は，明反応によってつくられた化学エネルギーを用いて炭酸固定と還元を行ない，炭水化物を生成する化学反応段階である。この段階の代謝経路は発見者の名をとりカルビン回路*とよばれる。➔光合成

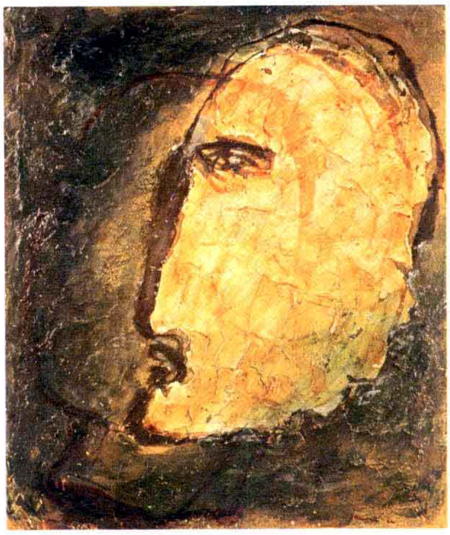
アンビバレンス［ambivalence］両向性または両面価値と訳される心理学用語。同一の対象に対して，愛情と憎悪，高慢と卑下など，感情・欲求・行動において相反するものを同時にいだくことをいう。だれの心にもこのような対立はあるが，フロイト*の精神分析*によれば，通常は一方が無視または抑圧されて意識に上らない。ところが，そのどちらにも割り切れずにいる葛藤(かっとう)状態が長く続くと，悩みや不安が起こり，不適応状態に陥る。一般に神経症者ではアンビバレンスが解決されていず，親しい者に乱暴をしたり，愛する者に憎しみを強く意識し，そのために正反対の態度をとって感情を不安定に向け，対人関係で混乱を招いたりする。〔馬場謙一〕

アンピールようしき【アンピール様式】19世紀初めのフランス建築や室内装飾・家具調度から服装にまで現われた古典主義的な装飾様式。ナポレオン1世の帝政時代(1804～1815)を中心に流行したので，アンピール(帝国)の名がある。すでに，ルイ16世時代から始まっていた軽快優雅な古典主義的要素が，この時期にナポレオンの古代ローマ趣味によって，いっそう豪壮華麗な古典様式へと発展したもの。

その表現はギリシア・ローマ，さらにはエジプトの要素を引き継いで，古代ふうの神像・動植物，異国ふうの人物や怪獣を多用しながら，家具工芸類にも直線的な形態を重んじ，厳正荘重な作風をめざしたところに特色がある。この様式は，フランスから起こってヨーロッパ諸国の宮廷にまで普及したが，建築の分野ではシャルグラン*設計の《エトアール凱旋門*(がいせんもん)》，ビニオン設計の《サン-マドレーヌ聖堂*》などに，また室内装飾ではパリ西方の《マルメゾン宮》の内装などにその典型がみられる。〔富山秀男〕

アンフィクチオニア［Amphiktionia］〈隣保同盟〉〈宗教同盟〉ともいう。古代ギリシアのポリスは互いに対立抗争することが多かったので，親善と安全保障のため，同じ神を信仰する種族やポリスが同盟した。アポロン神を中心とするデルフォイ同盟，ポセイドン神を中心とするオルコメノス同盟などがあった。安全保障の面では不十分だったが，親善面では定期的な大会や競技会などを行なった。

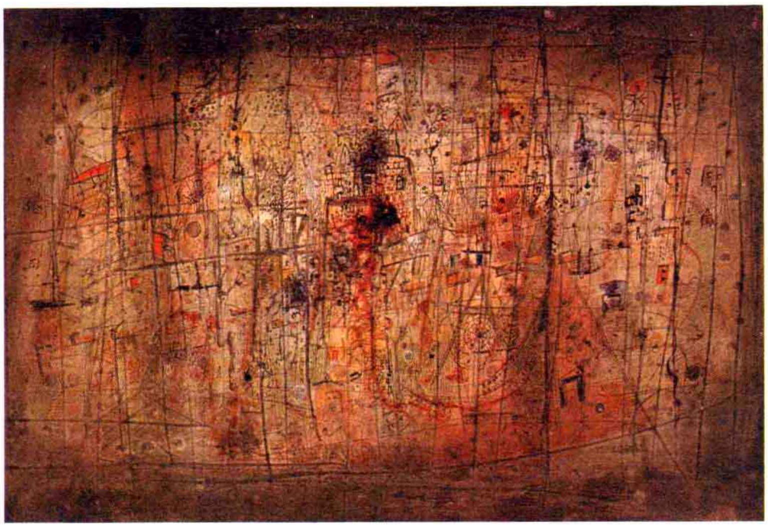
アンフォルメル［informel］第2次世界大戦後の，おもにヨーロッパを中心とする新しい抽象絵画の傾向。formel(はっきりした形をもった)に対して，批評家ミシェル-タピエが用いた新しい概念のことばで〈不定形・未定形〉などと訳される。1940年代末から1950年代初めにヨーロッパの画家たちは，当時流行の明確な形態のうちに伝統的な秩序を保とうとする幾何学的抽象に疑問をもち，あらゆる形態が発生する混沌(こんとん)とした根源そのもの，つまりは〈不定形〉の世界を身ぶりと粗暴なマチエール*を通して絵画化しようとした。それは，幾何学的精神だけではとらえられなくなった現代世界への新しい認識の苦渋であった。フランスの美術批評家タピエは〈いまこそ，現実(レール)の全面的な無秩序にみずからのいっさいの機会を投げ込まねばならぬ〉と言っている。フォートリエ*の連作《人質》(1942～1944)，デュビュッフェ*の《ミロボリュス-マカダン商会――厚盛り》展(1946)，ボルス*の最初の個展(1945)がアンフォルメルの源流をつくったといわれ，その後にマチュー*・ミショー*・リオペール・タピエス*・フォンタナ*をはじめ多くの作家がこの領域に身を挺(てい)した。〔東野芳明〕



アンフォルメル　フォートリエ《人質》1944　大原美術館蔵

アンプリダイン［amplidyne］電力増幅を目的とする直流発電機。増幅発電機ともいう。出力10kW程度までのものがつくられており，増幅率は2,000～10,000倍に達する。直流機の電圧・電流・速度の制御，交流機の電圧・力率制御などに用いられる。

アンプリダインは主界磁巻き線(制御巻き線)，四つのブラッシをもった電機子巻き線，向かい合う二つのブラッシを結ぶ互いに直交する2種の巻き線A，Bよりなる。制御巻き線にわずかな電力を加えて磁束ϕ_1をつくると，短絡巻き線Aに電圧が誘起されて大きな電流が流れ磁束ϕ_2をつくる。ϕ_2によって巻き線Bに電圧が誘起されると，Bは外部の負荷に接続されているので，増幅された電力を供給することができる。このよう



アンフォルメル
ボルス 《作品》 1946 大原美術館蔵

に2段増幅が行なわれ，同一電機子内の電磁誘導を利用しているので速応度も高い。〔田村康男〕

アンプリファイア ⇨増幅器

アン-ブーリン [Anne Boleyn] (1507〜1536) イングランド王ヘンリー8世*の2度めの妃。駐フランス大使をつとめたサー-トマス-ブーリンの娘。王妃キャサリンの侍女となり，王の目にとまった。キャサリンに男子が生まれなかったため，王は妃を離婚し，アン-ブーリンとの結婚を決意した。しかし，教皇クレメンス7世*はこの結婚を認めなかったため，王と教皇は対立し，イギリス宗教改革の発端となった。1533年，アン-ブーリンはひそかにヘンリー8世と結婚し，王女(のちのエリザベス1世*)を生んだが，やがて王の愛を失い，王によって不義の罪名をもって処刑された。〔松下京子〕

アンプル [ampoule] 主として注射薬液を封入し，滅菌したうえで保存する良質のガラス製容器。通例，一端を細くして火炎で閉じるようになっている。材質は気泡(きほう)のない無色の硬化ガラスで，医薬品と化学変化を起こさず，異物を検査できることが条件である。光により変化する医薬品には着色したものを用いる。内服液剤・香水・揮発性薬品の貯蔵にも用いられる。

アンブロシウス [Ambrosius] (340ごろ〜397) 教会博士・聖人(祝日12月7日)。ローマのガリア管区の貴族として，トリールに生まれた。若くして総督としてミラノを治め，市民の尊敬を受けて受洗前にミラノ司教となった。彼は皇帝や貴族に対し卓越した行政的手腕をふるって異教や異端を排撃し，世俗国家からの教会の独立を図り，教会権力の強化，拡大に努めた。アウグスチヌス*が彼の説教によって回心したことは有名である。著書《聖職者の義務について》《信仰について》などのほか，書簡が残っている。また，彼によって確立されたアンブロシウス聖歌はその後のグレゴリオ聖歌*と並んで，今日もカトリック教会で用いられている。〔左中庸博〕

アンブロース [August Wilhelm Ambros] (1816〜1876) オーストリアの音楽学者。未完の著《音楽史》において，ルネサンスやバロック音楽にも注目して，音楽史研究に新しい傾向を与えた。音楽美学の領域ではハンスリック*の《音楽美論》における形式主義的立場に反対し，《音楽と詩の境界》を著わした。

アンプロンプチュ [impromptu] 〈準備ができている〉という意味のフランス語で，17世紀には劇作家モリエール*の《ベルサイユのアンプロンプチュ》の題にみられるように，幕あいの即興劇に対して用いられた。音楽では，特に19世紀に即興性を感じさせるピアノの小品にこの名が使われた。シューベルト・シューマン・ショパン・リストらの作品にその例がみられる。有名な旋律を主題にする場合も，まったく独自に作曲する場合もあるが，比較的明解なリート形式やロンド形式を使った性格的な小品である点は変わらない。〔徳丸吉彦〕

アンペア [ampere] 電流の強さを表わす実用単位。記号A 物理学者アンペール*の業績を記念して名づけられたもの。その大きさは理論的にはC.G.S.電磁アンペアの10分の1で，国際的な申し合わせにより，1948年以後は，真空中に1mの間隔で平行に置かれた無限に小さい円形断面の無限遠まで続いている直線状導線の，1mあたりに2×10^{-7}ニュートンの力を及ぼし合う電流の強さを1Aと決められている。また，この単位を実用上十分な正確さで表わすものとして，硝酸銀溶液が電気分解して析出する銀の量によって定義することも行なわれたが，1948年以後は一部の工業で使われているのみである。〔堀内和夫〕

アンペアかいすう 【アンペア回数】 ⇨磁場

アンペアじ 【アンペア時】 電気量を表わす単位で，1Aの電流が1時間流れたときに通る電気の量。これは別の単位で3,600クーロンに相当する。その測定はアンペア時計で行なう。

アンベドカール [Bhimarao Ramji Ambedkar] (1891〜1956) インドの宗教家・政治家。マハーラシュトラ州ムホウの生まれ。不可触賤民(せんみん)出身で，種々の困難と闘いつつアメリカ・イギリスに留学した。帰国後は一生をインド下層階級民の解放，向上運動にささげた。1950年以降，ネオ-ブディスト運動の指導者としてみずからも仏教に改宗し，政治的にも共和党を組織して活躍し，インド共和国の初代法務大臣，憲法起草委員長をつとめた。〔佐藤良純〕

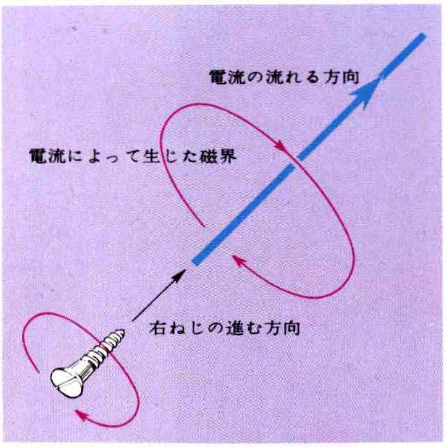
アンペラそう 【アンペラ草】 単子葉植物・カヤツリグサ科。マレーシアを中心とした熱帯地方に自生する多年草。中国南部では水田で繊維作物として栽培される。沼沢に自生し，茎は2mぐらい。葉は退化して鱗片(りんぺん)状となり，茎の基部を包む。茎をたたいて平たくし，むしろをつくったり，中国では砂糖・茶・塩の包装用の袋をつくる。アンペライは同科の植物であるが別種で，フトイに似ている。

アンペール [André Marie Ampère] (1775〜1836) フランスの物理学者・数学者。電磁気学の研究で知られ，今日電流の実用単位(アンペア)にその名が残されている。1793年の革命の際には，治安判事をしていた父が投獄されて刑死するなど，初期の私生活は不幸であった。のちエコール-ポリテクニクの教授を経てコレージュ-ド-フランスの教授となり，二つの電流間の力に関するアンペールの法則*や分子磁石の仮説など電気力学の建設に貢献した。《電気力学実験報告集》(1822)のほか，晩年の《科学哲学試論》などの著書も知られている。〔藤村 淳〕

アンベルス [Anvers] 英語名はアントワープ。ベルギー北部，スヘルデ川右岸にある国内第2の都市。人口22万3,000(1971)。ベルギー最大，世界でも第3の商港といわれる。石炭・薬品・綿織物・鉄鋼などを輸出し，綿花・穀物・銅鉱などを輸入して，ベルギーの経済の中心であるのみでなく，ドイツのルール工業地帯の輸出入港でもある。近年工業用地造成が進み，石油・化学・自動車工業が興っている。1315年ハンザ同盟都市，15〜16世紀にはスペイン・ポルトガルの海外植民地との貿易の中心地となり，ヨーロッパ有数の商業都市となった。世界的に名高いダイヤモンド工業は15世紀に興り，ポルトガルを追われたユダヤ人職人の技術で発展した。ベルギー最大のゴシック建築といわれるノートルダム寺院は1518年に建てられ，この町の生んだルーベンス*の名作が飾られている。ルーベンスの生家，美術館・動物園も有名である。〔野間三郎〕

アンペールのほうそく 【アンペールの法則】 1820年にエルステッド*の実験により発見された法則。アンペールの右ねじの法則

ともいわれる。電流によって生ずる磁界は，ベクトル的に電流に直角な平面にでき，特に直線状に電流が流れるときには，磁界はその電流を軸とする同心円を描き，その方向は電流の流れる方向に右ねじを押し進めるときにねじを回す方向である。



アンペールの法則

アンボイナじけん　【アンボイナ事件】 イギリス・オランダ両国の香料貿易独占をめぐる紛争。アンボン事件ともいう。両国はインドネシア東部のアンボン島*に商館を置き激しい競争を行なった。1623年オランダ側は使用人の日本人七蔵の不審な行動を追求し，オランダ商館攻撃の陰謀を企てたという自白を得て，彼とイギリス人多数を処刑した。これによりオランダの香料貿易支配権は確立したが，長く両国間に外交上の対立を生じた。〔勝村哲也〕

あんぽう　【罨法】 からだの一部を布などでおおって，温熱または寒冷刺激を適用する治療法。①温あん法：温湯や薬液を入れた温湯で湿布したり，カオリン*や薬剤を塗布した布を張ったりなどして，局部に充血を起こし，けいれんを和らげたり，不要産物の吸収を促す。②冷あん法：冷湿布をしたり氷のうをあてたりして，局部の血管を収縮させ，鎮痛・消炎の効果を得る。③プリースニッツあん法：ドイツの農夫プリースニッツ(1790～1851)の創意によるといわれるもので，冷湿布をあてた上を密包する方法で，はじめ冷刺激のため冷あん法の役目をなし，のちに湿布が暖められて二次的に温あん法の役目をする。つまり，冷あん法と温あん法の利点を巧みに利用した方法である。〔国井乙彦〕

あんぽとうそう　【安保闘争】 日米安全保障条約*(日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約，1951年〔昭和26〕調印)が岸内閣の手で，いわゆる日米新時代にふさわしく対等・双務的なものに改めようとされたとき，この改定は，かえって日本をアメリカに対する積極的な軍事協力者にし，日本の軍国主義を推し進めることになるとして，安保改定阻止を叫んで戦われた闘争。1959年から1960年にかけて，社会党・総評・共産党を中心に，多くの学者・文化人・学生など広い国民諸層から組織された安保改定阻止国民会議は，全国的に大きい支持を得て，国会に対する請願，抗議のデモ，ストライキが，あいついで行なわれた。その頂点は，1960年５月19日夜から20日にかけて，衆議院で警官導入のもとに，野党および自民党反主流派の議員をおさえて一挙に改定案を強行可決したときである。いまや新安保条約反対のみでなく，この議会制民主主義の破壊そのものに対する怒りが，さらに広範な国民層を立ち上がらせ，この前後ほとんど連日，10万～20万の抗議デモが国会や首相官邸を包囲する事態となった。６月15日には，全学連の学生たちの一部は，国民会議の指導方針は弱いと反対し，抗議の意思表示は国会導入の形で現われた。樺美智子(かんばみちこ)(東大生)が警官との抗争の中で死亡する事態も生じた。すでに６月10日，アイゼンハワーの訪日打ち合わせに来朝したハガチー秘書が，学生たちのデモに阻止されて羽田空港からアメリカ軍のヘリコプターで脱出する騒ぎがあり，アイゼンハワーの来日は中止され，岸内閣も最後には総辞職するに至った(６月23日)。このような状態を巻き起こした新安保条約に対する反対理由は，およそ次のようなものであった。すなわち，この条約は，日本国憲法の非武装中立の規定に反するし，また，これによって，単に日本国自身の安全のためだけではなく，アメリカ側が〈極東における国際的平和〉のためにも，日本の国土に駐留して，その強大な軍事行動ができることによって，かえって日本自身が戦争の危機に巻き込まれるおそれがあり，アメリカのアジアにおける反社会主義・反民族解放闘争という外交政策に，日本が加わることになるということにあった。新条約(日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力および安全保障条約，1960年６月23日批准書交換により発効)は，10年間効力をもち，10年後には，日・米どちらかから廃棄の申し出があれば，その１年後には廃止される定めがある。めまぐるしく変わる国際情勢のもとで，当時10年間くぎづけにされるような条約を結ぶことは，日本の将来にとってマイナスであるというのも，反対する一つの理由であったが，すでにその10年が過ぎ，これを支持する側には，この条約のゆえに，日本国の安全は保たれたとしている。反対する側からは，この条約のために，その後のベトナム戦争の展開に際して，日本は事実上最も有力なアメリカの対ベトナム基地として使われたし，また自衛隊の増強，アジア諸国民からの不信，いわゆる基地公害の続出が指摘され，あらためてその廃棄通告をめざす闘争が企てられてきている。安保闘争は，この意味で，今日の問題として展開されているわけであるが，1969年12月の総選挙で衆議院に300名を越える議席を確保した自由民主党政府は，当然この条約の継続を主張し，廃棄ないし改定の通告を行なわないこととし，いわゆる自動延長の方針である。そのかぎり安保闘争は，まさに1970年代における重要問題となろう。〔鈴木安蔵〕

アンボン(島)　［Ambon］ アンボイナ島ともいう。インドネシア東部，モルッカ諸島中の島。面積760km²，人口10万(1963)。最高点はサルハツ山(924 m)。住民はメラネシア系のアンボン人でキリスト教徒が多い。米・コーヒー・サゴヤシを産し，コプラを輸出する。1512年以来ポルトガル人によるチョウジ(丁字)貿易で栄えた。1814年オランダ領となり，インドネシアの独立によって1949年インドネシア領となる。アンボン市は17世紀に建設された美しい都市である。〔大崎　晃〕

あんま　【按摩】 からだを，なでたり，もんだり，押したり，ふるわせたり，たたいたりして，疲れや肩こり，腰痛や便秘など軽い苦痛を除く日本古来の手技療法。あんまの語源は，抑按(よくあん)調摩の術。按は押すこと，摩はなでることで，押したりもんだりすることによって，からだの機能の高ぶりをおさえ，なでることによって，からだの機能の衰えを補い整える術である。漢方医術の一分科で，漢方の原典といわれる古代中国の古医書《素問》《霊枢(れいすう)》に鍼(はり)・灸(きゅう)とともに解説されている。あんま法の文献が鍼・灸とともに中国から日本に渡ったのは527年ごろで，仏教伝来より11年後である。飛鳥(あすか)時代後期の大宝律令(りつりょう)(701)の医事制度には按摩師・按摩生・按摩博士などの官職があり，今日の外傷・骨折・包帯法・マッサージなどを学び，治療した事実がある。現在広く行なわれている手技は，江戸時代の宝暦から寛政年間(1751～1800)に体系化されたものをもとにして，明治の中ごろ，フランスからはいった西欧式のマッサージの方法を取り入れた和洋折衷式のやりかたのものである。古来のあんま法は，鍼・灸治療と同じ臓腑(ぞうふ)を中心に経穴(ツボ)や，経絡(ツボを連ねるすじみち)を対象に，ときにはなで，もみ，ときには押し，たたきして，からだの失調を整えた治療法である。按摩師になるには，現行の制度では，中学校または高等学校を卒業した者を入学資格とする文部大臣の認定した学校か，または厚生大臣の認定した養成所で，２か年間業務に必要な医学の知識と実技を学び，卒業して都道府県知事が行なう検定試験に合格して免許が得られる。この種の学校が全国に約100校(うち60校が盲学校)あり，免許有資格者が約61,000名(うち視力障害者が35,000名)である。〔芹沢勝助〕

アンマン　［Amman］ ヨルダン王国の首都。人口58万(1975)。ヨルダン川河口から東方30kmの地点にあり，周辺は高原地帯と

なっている。市街には石灰岩または大理石を用いた家屋が多い。市の東南では色大理石を産出し，リン鉱・果実・野菜の取引も盛んである。町の歴史は古く，《旧約聖書》にラバト-アンモンの名がみえ，ヘレニズム・ローマ文化の古跡も多い。

アンメーター ⇨電流計

アンモナイト ［ammonite］ 軟体動物・頭足類に属する化石動物。アンモンガイ・キクイシともいう。古生代・シルリア紀にはじめて出現し，中生代にはいって種属もふえ，ジュラ紀から白亜紀に栄え，白亜紀末に絶滅した海生動物である。大きさは，ふつう数～数十センチメートルで，中には数メートルのものも発見されている。一般に，円板状に巻いた殻(から)をもち，内部は隔壁によって多くの室に分かれている。軟体部が成長するにつれて殻も大きくなり，軟体部は殻口(かくこう)のほうに移り，後方に隔壁がつくられ，室が増加する。隔壁と殻との交線を縫合線といって，その形は時代とともに変化し，アンモナイトの系統や進化を明らかにする上できわめて重要である。アンモナイトは，地質時代の決定と地層の対比において重要な示準化石である。わが国では，北海道・北上地方・阿武隈(あぶくま)地方をはじめ，四国・九州地方の各地から産出する。 〔神戸信和〕

アンモニア ［ammonia］ NH_3 分子量17.03。無色の刺激臭ある気体で，1 m³にわずかに17mg存在しても感知できるという。融点－77.7℃，沸点－33.4℃。水によくとけ，0℃の水100 gに89.9 g，20℃の水に52.0 g，すなわち容積ではおよそ1,000倍ほどのものがとける。

実験室的にはアンモニウム塩にアルカリを加えると得られるが，工業的には窒素N_2と水素H_2とから次のような反応によって直接合成してつくる。

$$3H_2 + N_2 \rightleftarrows NH_3 + 22,000\text{cal}\ (18℃)$$

圧力を加えると反応は右へ進み平衡濃度が大きくなる。一方温度を上げると平衡への到達速度は大となるので，合成は高温高圧で行なわれる。ハーバー*は触媒を用いること，ガスを循環することを考え，続いてボッシュが1913年にこれを工業化することに成功したため，ハーバー-ボッシュ法とよばれている。これはドイツが第1次世界大戦を決意する大きな原動力となったといわれている。この方法は鉄系統の触媒を用い，200～350気圧，500℃前後で合成反応を行なう。このほかアンモニア合成法には，触媒・温度・圧力などの操作の違いにより多くの方法が知られている。わが国では，1923年(大正12)カザレの方法による工場が九州延岡に建設されたのがはじめで，その後各地に各種の方法による工場が建設され，いまではアンモニアの有力な生産国になっている。アンモニア合成原料としては水素源が最も大事とされ，はじめは水の電気分解によるものが多かったが，しだいにコークス・石炭などを原料とするものに変わり，いまでは天然ガス・重油・原油などを原料とするものが多くなっている。これらの原料から，合成用の窒素1容・水素3容のガスをつくる工程は，アンモニア合成工業の最も重要な工程となっている。

合成されたアンモニアを硫酸に吸収させると，硫安*の結晶が得られ，これを遠心分離器で分離して肥料とする。またアンモニアと炭酸ガスを化合させると窒素含有量が硫安より高い尿素が得られる。これは最近では窒素肥料として硫安よりも多く使われるようになっている。さらにアンモニアは塩安ソーダ法によるソーダ灰*製造の原料となり，塩安*が副生する。この塩安も窒素肥料として使われる。アンモニアを白金触媒などを使って酸化すると硝酸が得られる。硝酸は爆薬の重要な原料であるから，ドイツがアンモニア合成の成功により，第1次世界大戦を決意したといわれるわけがここにあることがわかる。 〔鈴木 篁〕



アンマン アンマン市の郊外には東ローマ帝国(ビザンチン帝国)時代の遺跡が多い。良質の石材を産する地方には石造建築も見られるが，ビザンチン遺跡の特色はれんが建築で，れんがを用いる建築技法にすぐれている



アンモナイト
白亜紀

アンモニアさんかほう ［アンモニア酸化法］ 硝酸の工業的製法の一。➔オストワルド法

アンモニアすい ［アンモニア水］ アンモニアを水にとかした液。市販濃アンモニア水は28％のアンモニアを含む。局方のものは10％である。アンモニア臭と刺激性の味をもつ無色透明の液体で，アルカリ性を呈する。化学薬品・工業薬品として各種の用途に供せられる。なお，温度が上昇するとアンモニア分圧が著しく増大し，爆発することもあるので，冷所に保存する必要がある。

アンモニアソーダほう ［アンモニアソーダ法］ 食塩と石灰石を主原料，アンモニアを副原料としてソーダ灰(無水炭酸ナトリウム)を製造する方法。➔ソルベー法

アンモニアれいとうほう ［アンモニア冷凍法］ アンモニア*を冷媒として用いた冷凍機による冷凍法。圧縮式冷凍機を用いることが多いが，吸収式冷凍機によるものもある。➔冷媒 ➔冷凍機

アンモニウムえん ［アンモニウム塩］ アンモニアNH_3と酸との中和でできる塩。化学式NH_4X(Xは1価の陰性基)。一般に無色の結晶。アンモニウムイオンNH_4^+を含む。強酸との塩が加水分解して酸性を示すほかはカリウム塩に似ている。ネスラー試薬*でかっ色の沈殿を生じる。窒素肥料(硫安・塩安)・化学工業原料に使用。

あんもん ［案文］ 古文書学上の用語。文書作製にあたってつくられた下書きを草・案・草案などと称し，文書として成立したものを正文(しょうもん)あるいは原本・本書とよぶ。これに対し，正文の写しを案文という。単に案とよばれることもある。

アンモンがい ［アンモン貝］ ⇨アンモナイト

あんやこうろ ［暗夜行路］ 志賀直哉*(なおや)の長編小説。前編は1921年(大正10)1月から8月まで《改造*》に連載され，後編は1922年から1933年(昭和12)にかけて断続的に発表された。作者のただ一つの長編で，自伝的要素を含んだ主人公時任(ときとう)謙作の自己確立の物語，精神の発展史である。祖父と母との過失から生まれた謙作は，出生の秘密がからんで暗い苦悩の人生をたどる。直子との結婚によって，青年期の放蕩(ほうとう)無頼の生活から立ちなおり前途に光明を見いだそうとするが，その妻がいとこと過失を犯してしまい，運命の皮肉ないたずらに苦悩する。その果てに伯耆(ほうき)(鳥取県)の大山(だいせん)に登り，大自然の中で愛と平和の心境に超脱して，妻の過失を許せるようになる。主人公の内面の発展と細部の克明な描写は作者の強い個性と実感にゆるぎなく裏打ちされ，わが国近代小説の代表的名作とされる。 〔木村幸雄〕

あんよう ［安陽］ アンヤン 中国河南省北部の都市。人口15万(推定)。古くから地方行政の中心で，彰徳府といわれた。市街の北西にある殷墟*(いんきょ)は，世界的な遺跡として有名。付近は綿花の産地で，その集散が行なわれるほか，近年は繊維工業の中心となっている。

あんようしょ ［晏陽初］ イエンヤンチュー (1894～) 現代中国の教育運動家。四川省出身。第1次世界大戦中，フランスで中国人労働者の教育にあたった経験を生かし，1921年帰国後，主要都市で青年・成人の基礎教育運動を指導した。これを平民教育運

動といい，重点は識字教育で，友人と共同編集した《平民千字課》が基本テキストに使用された。1927年以後，河北省定県に実験区を設けて農民教育を推進，1930年代に入り蔣介石(しょうかいせき)の信任を得てから反共農民組織の指導者となった。現在，台湾に在住。ジミー-イエンの名で欧米にも知られている。➜識字運動　〔斎藤秋男〕

あんらくあんさくでん　【安楽庵策伝】(1554～1642)　話芸家。落語家の祖とされる。飛驒(ひだ)(岐阜県)高山城主金森法印長近の弟。幼少にして出家し，京都誓願寺の甫叔(ほしゅく)に師事，晩年は同寺の塔頭(たっちゅう)竹林院に住んだ。茶人・歌人としても名高く，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の御伽衆(おとぎしゅう)でもあった。《醒睡笑(せいすいしょう)》は，京都所司代板倉重宗(しげむね)の前で話した小咄(こばなし)を集めて刊行したもの。

あんらくし　【安楽死】　安死術ともいう。助かる見込みのまったくない不治の病人または瀕死(ひんし)の重症者がひどい苦痛を訴えている場合，本人がその肉体的苦痛を軽減するために死の嘱託をし，またその家族もこれを推知して同じく死の嘱託をした場合に，自然の死を待たずに苦痛のない方法で安楽に死に至らしめることをいう。ふつうあへんの吸煙や麻酔薬・催眠薬などを使用する。殺人あるいは嘱託殺人になるか否かが問題であり，一部の外国では安楽死を肯定しようとする考え方も起こっているが，わが国では自然の死期に先だって生命を絶つことは，たとえ本人の希望があっても合法的とは認められず，安楽死として容認された判例は1例もなく，殺人罪の一種として扱われる。これは行為者が医師であっても同じである。なお，①現代医学上不治の病者で死期が確実に切迫していること，②激しい肉体的苦痛に悩んで死以外にそれを除く手段がないこと，③本人の真意に基づく同意があること，④手段が適当であることを条件として犯罪の成立を否定するという立場と，刑を軽くされるにしても犯罪は成立するとする立場がある。〔朝倉　了〕

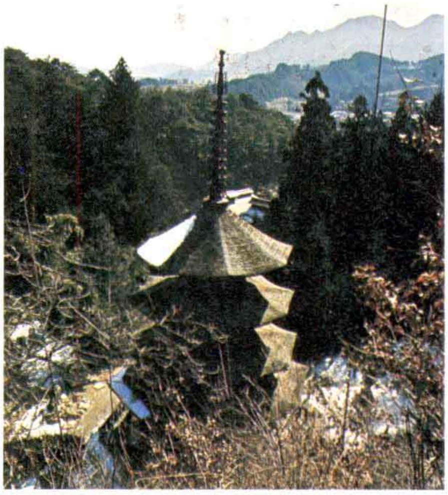
あんらくじ　【安楽寺】　長野県小県(ちいさがた)郡別所温泉にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。円仁(えんにん)が別所に建てた安楽・長楽・常楽の三楽寺の一つで，1288年(正応1)鎌倉幕府の執権北条貞時(ほうじょうさだとき)が樵谷惟仙(しょうこくいせん)を開山に再興し，以後禅刹(ぜんさつ)として栄えた。八角三重塔(国宝)は安楽寺塔婆ともいわれ，わが国では珍しい禅宗様塔婆で，鎌倉末期または室町初期の建立(こんりゅう)とされている。惟仙と恵仁の肖像彫刻(重要文化財)は，ともに1329年(嘉暦4)の造像銘を有する。　〔永井信一〕

あんらくしゅう　【安楽集】　中国，隋(ずい)代の道綽(どうしゃく)の著書。当時の混乱した世相から受ける危機感に基づいて，浄土教の思想と信仰を説き，仏道実践の方法として念仏の重要性を強調した。仏教全体を，浄土に関する教え(浄土門)とそれ以外の教え(聖道門)とに2分する仏教分類の方法は，本書が創唱したものである。

アンリ　［Henri］　フランス国王。

1 2世(1519～1559)　バロア朝の王。在位1547～1559年。父王フランソア1世の政策を受け継ぎ，ハプスブルク家とイタリア支配を争ったが，成功しなかった。内政でも，王権強化の努力は側近に左右されて，効果をあげることができなかった。前代に引き続いてフランス-ルネサンスの時代にあたり，王も文学・芸術の保護に努めた。その妃はカトリーヌ-ド-メディシスである。

2 3世(1551～1589)　バロア朝の王。在位1574～1589年。アンリ2世の第3子としてユグノー戦争のさいちゅうに即位したが，内治・外征ともにふるわなかった。王位をうかがう旧教派の首領ギーズ公(➜ギーズ家)を殺したが，王も旧教派に暗殺されて，バロア朝は断絶した。



安楽寺　八角三重塔

3 4世(1553～1610)　ブルボン朝の創始者。在位1589～1610年。はじめユグノー戦争においてユグノー派の首領として，アンリ3世・ギーズ公と争ったが，和解が成立すると，1572年シャルル9世の妹で，カトリーヌ-ド-メディシスの娘マルグリットと政略的な結婚をした。この結婚式に集まった新教徒に対して行なわれたのが聖バルテルミーの虐殺である。のちアンリ3世に接近して，その死とともに王位を継ぎ，ブルボン朝を創始した。1593年，フランスの安全と王位の正統を守るためカトリックに改宗し，さらに1598年ナントの勅令を発して，個人の信仰の自由と新旧両教徒の同権を認めた。ここにユグノー戦争もようやく終結し，フランスの統一が回復されて，絶対主義確立の第一歩が踏み出された。その後，王は国内秩序の回復に努め，また重商主義政策をとって国内産業を育成するとともに，1604年東インド会社を創設し，カナダ植民にも着手した。王はフランスの安全を図るため，ハプスブルク家の干渉を排除しようとしたが，狂信的カトリック教徒によりその意図を疑われて暗殺された。〔大野慎一郎〕

あんろくざん　【安禄山】(705?～757)本姓は康，名は軋犖山(れきらくさん)。ソグド人と突厥(とっくつ)人の間に生まれた雑胡(ざっこ)。唐の玄宗のときに中国へ亡命。范陽(はんよう)節度使の部下となり軍功と才覚によって玄宗の信任を得，平盧(へいろ)・范陽・河東の3節度使を兼ねた。時の宰相楊国忠(ようこくちゅう)との反目を直接の原因とし，政治・軍事の紊乱(びんらん)に乗じて独立を企てた。755年20万の軍を率いて洛陽(らくよう)を占領，帝位につき国を大燕(だいえん)と号した。のち長安を奪い玄宗を蜀(しょく)に追いやったが，実子慶緒の手にかかって最期を遂げた。〔藤善真澄〕



アンリ4世　新教徒でのちのアンリ4世と旧教徒マルグリットとの結婚により，新旧両教徒の和解が成立するかにみえたが，彼の結婚式を祝ってパリに集まった新教徒約3,000人が虐殺された　デュボア《聖バルテルミーの虐殺》

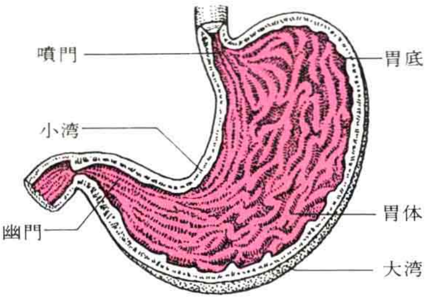
い

い【藺】 単子葉植物・イグサ科。イグサ・トウシンソウ(燈心草)ともいう。水湿地に自生する多年草。茎は高さ25～100cm，直径1～2.5mm。数枚の小さい葉が茎の下部をさや状に包む。花は6～9月ごろに茎の上部に集散花序になってつくが，総包葉が茎頂に直立するため側生にみえる。改良種は草たけが1.5mにもなり，日本・朝鮮・中国などで栽培され，日本のものは特に上質である。日本では永正年間(1504～1521)に玉庵(ぎょくあん)という僧が，岡山県でつくったのに始まるという記録がある。現在，岡山県・広島県・熊本県で多くつくられ，田の裏作にもなっている。定植は11月から翌年1月，収穫は7月中旬で，そのあとにイネをつくる。花を咲かせてしまうと質が落ちるといわれている。刈り取ったイは乾燥を早め緑色を長く保たせるためにすぐに粘土をとかしたどろ水につける(どろ染め)。畳表・ござ・ぞうり表にするほか，近年は花むしろにも多く使われ海外にも輸出されている。茎の皮を裂いて，中の白い髄を取り出したものが燈心で，よく油を吸い上げるので，昔は燈心として用いた。現在でも日本ろうそくのしんに用いられている。

〔横井朝子〕



イ



胃

い【胃】 脊椎(せきつい)動物の消化管のうち食道と腸の中間部をいう。食物はしばらく胃にとどまり，消化される。食道との境を噴門，腸との境を幽門といい，胃腺(いせん)が開口する。多くの脊椎動物では胃は1室であるが，鳥類は前胃と砂囊(さのう)の2室に分かれ，哺乳(ほにゅう)類の反芻(はんすう)類の胃は反芻胃といい，4室または3室に分かれている。無脊椎動物では胃とよばれるものは脊椎動物のそれと形態的・機能的に似ているものをいうが，種類によりまちまちである。たとえば，原生動物の細胞内消化のための器官である食胞を仮性胃ともよぶ。海綿のからだの内腔(ないこう)を胃腔といい，その壁が胃層である。腔腸動物の胃水管系のうち，口と放射水管の間にあるふくれた部分が胃である。紐形(ひもがた)動物の胃には胃盲囊という前の方に伸びた囊状物がある。線虫類の食道と腸の間は腺胃といい，輪虫類の胃には胃腺といわれるものがあって，大きな細胞からできている。環形動物では胃といったものは発達していないが，貧毛類の砂囊を筋胃とよんでいる。ヒル類には消化管の主部に胃とよばれる部分があり，胃盲囊が付属している。

軟体動物のうち，斧足(ふそく)類や腹足類の多くには胃に桿晶体(かんしょうたい)が付属していて，消化酵素も供給している。二枚貝のフナクイムシには大きな胃盲囊があって，セルラーゼによって消化を行なう。節足動物の消化器は種類によってさまざまで，甲殻(こうかく)類は胃の内面に胃歯という咀嚼器(そしゃくき)をもち，吸血性こん虫は吸胃をもつ。これはカ・ハエ・チョウなど液状の食物を吸うこん虫にみられ，真の胃とは直接連なっていないが，嗉(そ)囊の変形したもので食物を一時的にたくわえる働きがある。ウニ類の消化管は単純な構造であるが，胃は前胃と後胃に分けられている。〔蒲原春一〕

〔ヒトの胃〕消化管中最大の広さをもった前後に圧平された囊状のもの(成人の容量約1.5 *l*)で，上腹部に位し，その上端すなわち噴門は食道につながり，下端すなわち幽門は十二指腸に続く。食物を一時たくわえ機械的・化学的に消化*する。胃は横隔膜直下，第11胸椎の左側で噴門をもって始まり，急に膨大して胃体をつくる。胃体の上部は横隔膜を隔てて心臓に接し，ここを胃底といい噴門の左側にあたる。胃底の左端は脾臓(ひぞう)に接する。胃の下端は第1腰椎の右側で幽門となる。右上縁は肝臓に接し，ここを小湾といい右上方に小さく凹湾(おうわん)している。左下縁は膵臓(すいぞう)と左の腎臓(じんぞう)に接しており，大湾といい左下方に大きく凸湾(とつわん)する。小湾には肝臓との間に小網を張り大湾からは大網がたれ下がり，腸全体をおおったのちひるがえって横行結腸に付く。小網・大網はともに腹膜よりなる。胃壁の最外層は腹膜により包まれる。

胃の内面にはたくさんの縦に走るひだがある。内面をおおう粘膜は単層の円柱上皮で，この表面に小さな穴が無数にあり，この中を胃小窩(いしょうか)といってこれが胃腺をつくり胃液を分泌する。胃腺には固有胃腺と幽門腺がある。前者をつくる細胞に3種類あり，主細胞は胃液の消化酵素であるペプシンを，旁細胞(ぼうさいぼう)は塩酸を，副細胞は粘液を分泌する。幽門腺は粘液を分泌する腺細胞のみからなる。ペプシンはタンパク質をペプトンに分解し，塩酸は不活性のペプシノーゲンを活性のペプシンにし，粘液はペプシンや塩酸から上皮を守る働きをする。塩酸が食道に上がってくると胸やけがする。胃の上皮からはアルコール分が吸収される。胃液の分泌は胃にはいった食物の機械的刺激，化学的刺激および胃壁より分泌されるガストリンというホルモンの作用による(→胃液)。

粘膜の下にはよく発達した平滑筋よりなる3層の筋層があり，これらの筋の収縮によって蠕動(ぜんどう)運動が起こる。幽門部では輪筋層が幽門括約筋をつくる。胃が空虚なときは蠕動もゆるやかであるが，非常に空腹なときには強い収縮が起こる。これを飢

餓(きが)収縮という。これらの筋を支配する神経は自律神経で筋層の間に筋間神経叢(しんけいそう)(アウエルバッハの神経叢)をつくる。粘膜の下層にも粘膜下神経叢(マイスネル神経叢)がある。胃の働きは大脳皮質の影響を受け，不快感や疲労感は胃の運動ならびに胃腺の分泌を減少させる。〔蟠井　勉〕

い【意】 仏教用語。広義の知的作用で思量の意。梵語(ぼんご)manas(マナス)の訳で末那(まな)と音写。仏教の六識(眼・耳・鼻・舌・身・意)説では心と意と識とは同義語であるとするが，八識説では，心を阿頼耶識(あらやしき)，意を末那識，識を意識および眼識などの五識に配当する。また大乗仏教では，物質界・現象界は心の現われであるとし，これらすべてが実体をもたないもの(無自性)と説いている。

い【移】 律令(りつりょう)時代の公文書の一つで，直属関係のない諸役所間で取りかわされた文書。諸司から寺院へ送る場合にも移が用いられた。平安時代以後は一般に移に代わって牒(ちょう)が用いられるようになったが，室町時代までも使用された実例がある。

いあいぬき【居合い抜き】 武芸としての居合い術(抜刀術・抜剣・居相(いあい)などともいう)が，江戸時代初期に見せ物化して大道芸となったもの。居合い術とは，すわったまま気合いで抜刀して一瞬に敵を切り倒す刀術で，戦国時代に出羽(でわ)(山形県)の林崎甚助重信(じんすけしげのぶ)が始めたものといわれる。居合い抜きははじめ浪人者によって行なわれ，元禄(げんろく)(1688～1703)ごろには富山の薬売りが江戸で客寄せにこれを演ずるようになった。特に，長井兵助が浅草奥山で歯みがき売りの客寄せに演じたものが名高く，その両刀のうち1本は4～5尺(120～150cm)，もう1本は1丈(約3m)ほどであった。〔呉　政男〕

いあくじょうそうけん【帷幄上奏権】 1878年(明治11)参謀本部設置以来，統帥権の独立による軍令・軍政の分離に基づき，陸海軍軍令機関もしくは陸海軍大臣が統帥事項を天皇に直接上奏し，許可を受けうる権限をいう。明治憲法11条に明文化された。1930年(昭和5)浜口内閣がロンドン海軍軍縮条約に調印したとき，海軍軍令部部長加藤寛治(大将)が条約に反対し，帷幄上奏したことは有名。

イアシ ⇨ヤーシ

イアソン [Iason] ギリシア神話の英雄。イオルコス王アイソンの子。ケイロンのもとで成人したのち，異父兄弟ペリアスに奪われていた王位の返還を求めた。ペリアスは王位と引き換えに黄金の羊皮を要求したので，イアソンは巨船アルゴ号に50人の英雄たちと乗り込み，コルキスへ向かった。そしてコルキス王女メデイアの助けで黄金の羊皮を手にし，メデイアとともにイオルコスに帰国する。のちにイアソンは自殺した父の復讐(ふくしゅう)のためにメデイアにペリアスの娘らをだまさせ，その父親を切り刻んで煮殺させた。➜アルゴナウテチカ〔左中庸博〕

いアトニーしょう【胃アトニー症】 胃壁の筋緊張が弱まった状態。先天性筋肉薄弱者に多く，同時に蠕動(ぜんどう)運動も多少減退するのが常である。また過度の飲食物摂取の習慣のある者や，下剤・モルヒネ・アトロピンなどの薬剤を乱用する者に起こることがある。その他，神経衰弱・ヒステリーなどの神経症の一症候として，胃下垂・慢性胃炎・消化不良症などの胃腸疾患の続発症として起こる場合もある。自覚症状としては，食後の胃部重圧感・膨満感・体重減少・便秘などがあり，おくびや嘔吐(おうと)を訴えることも多い。他覚的には，食後胃部を指で軽打すると潜在性拍水音を発し，胃内容物の排泄(はいせつ)遅延をみる。これと見分けるべき疾患として，幽門狭窄(きょうさく)・胃下垂症・慢性胃炎・消化不良症などがあげられる。

治療は食事療法を第一とし，合わせて強壮療法などを行なう。〔後藤義隆〕

いあんじん【異安心】 宗祖の教えた正統な安心とは異なる私説を主張する安心。特に浄土真宗では阿弥陀仏(あみだぶつ)への〈信〉を強調するので，この問題がやかましい。親鸞(しんらん)の在世中すでに一念か多念かをめぐって論争があったが，蓮如(れんにょ)のころになって，最も多くの異端が現われている。1763年(宝暦13)西本願寺が三業(さんごう)惑乱を異安心と決定した事件は特に有名である。

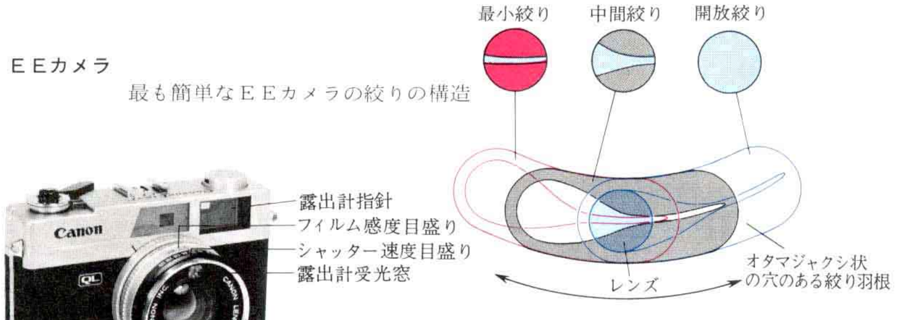
イアンボスし【イアンボス詩】 古代ギリシア文学・ラテン文学における詩型の一。最も口語に近く，ギリシア悲劇の対話の部分にも用いられた韻律。最初のイアンボス詩人アルキロコスが他人を激しく誹謗(ひぼう)したところから，世相批判・非難中傷・風刺専用のものとなった。しかし，ヘレニズム時代には内容がやや温和となり，カリマコスはユーモアを交えつつ寓話(ぐうわ)や時事問題をテーマにして後代の文学に影響を与えた。〔久保正彰〕

いいおか【飯岡(町)】 千葉県東部，海上郡にある町。**人口11,500。** 太平洋に臨む九十九里浜平野の北端に位置し，東は下総(しもうさ)台地が迫る海食崖(かいしょくがい)，西は海水浴に適する砂浜である。江戸時代には地引き網，明治以後は揚繰り網によるイワシ漁業で栄え，水産加工も行なわれたが，第2次世界大戦後はイワシ漁業は衰え，代わって周辺台地のサツマイモを原料とする水あめ製造が行なわれている。また，飯岡鉱山では砂鉄を産する。総武本線が町の北部を通り，海岸線を国道126号線が走る。なお，行部岬(ぎょうぶみさき)一帯は九十九里県立自然公園に属する。

いいおかこうざん【飯岡鉱山】 千葉県東部の飯岡町にある鉄山。汀線(ていせん)付近の漂砂鉱床で，ジテッ鉱・チタンテッ鉱からなり，鉱石にはバナジウムが含まれている。

いいおそうぎ【飯尾宗祇】 ⇨宗祇

イーイーカメラ【EEカメラ】 Electric eye cameraの略称。カメラに組み込まれた露光計が絞りやシャッター速度を制御して自動的に適正な露出が得られるようになっているカメラ。その機構・方式には多くの種類がある。①シャッター速度が一定で露出計の指針の動きをそのまま絞り羽根の



ＥＥカメラの構成要素

①露出計受光窓：被写体からくる光量を受光し，測定する部分。カメラによってセレン光電池を使用する方式，CdSやシリコンなどの半導体を使用する方式などの違いがある

②電源：半導体の光による電気抵抗の変化で露光量を調節する。ふつう1.3Ｖ水銀電池を使うが，6Ｖ銀電池もふえてきている。セレン光電池を使う場合は不要

③フィルム感度目盛り：この目盛りに連動して受光窓の面積や回路内の電気抵抗が変化する

④シャッター速度目盛り：これも電気抵抗に連動し，使用シャッター速度に応じて絞り込み量が調節される。プログラム方式の場合はない

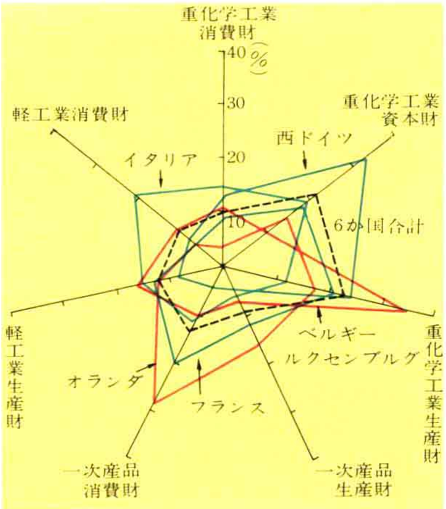
⑤露出計指針：適正な露出を確認するため，ファインダーに内蔵される指針。警告マークや色光ランプで代用するカメラもある

動きに連動したもの。8ミリ撮影機や低価格のカメラに多く用いられる。②レリーズボタンを押す動作を利用して絞り羽根を動かし，露出計の指針の振れる角度が絞り羽根の開きの度合いを制御する方式。多くの場合，シャッター速度は使用者が選び，そのシャッター速度に対応して絞りが制御される(シャッター速度優先式)。③シャッター速度と絞りが，あらかじめ一定に組み合わされていて，外光に対応して自動的に選択されるもの(プログラム式)。④シャッターの動作・速度を電気的に制御し，一定の絞りに対し適正な露光になるようにシャッターを開放する方式(電子シャッター)などに分かれる。このほか，光を電流に変えるため，露出計の受光部に光によって電力を発生するセレン光電池を使うものと，硫化カドミウムやシリコンを電池と組み合わせて使うものなどの方式上の違いがある。➔カメラ ➔シャッター 〔河合玲二〕

いいぎり 【飯桐】 双子葉植物・イイギリ科。暖地にはえる落葉高木。高さ10～15m。本州以南の東アジアに分布する。街路樹・庭木として用いられる。枝は太く樹皮は灰白色。葉は大形心形，葉裏は白色。長い葉柄の先に2個，葉の基部に1個の蜜腺(みっせん)がある。5月，枝先に緑色の花穂を下垂させる。雌雄異株。がく片5，花弁0，雌花には1個のめしべ，雄花には多数のおしべがある。初冬に赤色の果実を垂下させる。



イイギリ



ＥＥＣ各国の域内向け輸出の商品構造
《通商白書》(1970)

いいざかおんせん 【飯坂温泉】 福島県福島市飯坂町にある温泉。泉温92℃。泉質は芒硝(ぼうしょう)性硫酸塩泉で，神経痛・皮膚病・かっけ・リウマチなどにきくといわれる。ヤマトタケルノミコトが東征のおり入浴したという伝説がある。古くは鯖湖(さばこ)ノ湯とよばれ，玉造・名取などとともに東北三名湯の一つに数えられた。温泉街は摺上(すりかみ)川の両岸に並び，右岸を飯坂，左岸を湯野とよぶ。芭蕉(ばしょう)が旅宿したといわれる鯖湖ノ湯はいまも残っている。交通は東北本線福島駅から福島電鉄が通じている。 〔木村東一郎〕

いいざさちょういさい 【飯篠長威斎】 (？～1488) はじめ山城守(やましろのかみ)家直，のちに伊賀守(いがのかみ)を名のる。下総(しもうさ)(千葉県)香取郡飯篠村(現在の多古町)に生まれ，幼時から刀槍術(とうそうじゅつ)を学んで非凡の才をみせた。鹿島(かしま)・香取両神宮に祈るうち，一夜，神が夢まくらに立ち，伝書を授かるとみて目ざめた。以来，上達が早く，ついに刀槍の奥義をきわめた。よって流名を天真正伝神道流とし，広く天下に流布した。多くの門弟中，松本尚勝(ひさかつ)に秘術を授け，三伝して塚原卜伝*(つかはらぼくでん)に至る。 〔稲垣史生〕

いいざわただす 【飯沢匡】 (1909～) 劇作家。和歌山県の生まれ。本名伊沢紀(いざわただす)。文化学院美術科を卒業，朝日新聞社に入社，1954年(昭和29)退社。演劇誌《劇作》に発表した在学中の《藤原閣下の燕尾服(えんびふく)》で注目され，以後一時筆を絶ったが，現在まで旺盛(おうせい)な創作活動を続けている。代表作に《崑崙山(こんろんざん)の人々》《二号》《ヤン坊ニン坊トン坊》《ブーフーウー》などがある。

イーイーシー [EEC] European Economic Communityの略称。ヨーロッパ経済共同体。ヨーロッパ共同市場(European Common Market)ともよばれる。1952年8月に発足したヨーロッパ石炭鉄鋼共同体*(ECSC)により，経済統合への基礎づくりはすでに行なわれていたが，1956年4月のECSC会議でEEC条約案が発表され，1957年3月，ローマで，EEC設立条約(通称ローマ条約)が調印され，1958年1月1日に成立した。加盟国はフランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクの6か国。

〈共同体の構想〉 EECの目的は，共同市場*の設立および加盟国の経済政策の漸進的接近により共同体全体の経済活動の調和した発展，持続的かつ均衡的な拡大・安定強化，生活水準のいっそうすみやかな向上および加盟国間の関係の緊密化を促進することである(第2条)。具体的な内容としては，①1969年末までの12年の過渡期間中に域内関税を全廃する，②域外からの輸入に対し共通関税を設定する，③域内の量的貿易制限その他の保護措置を段階的に撤廃し，域内自由貿易を実現する(この①～③により，関税同盟*が設立される)，④域内の労働力の移住，資本移動，企業設立などの自由化(④により共同市場が成立)，⑤通商・農業・運輸・独占禁止・国際収支・社会政策等々に関する共通政策を樹立する，⑥共同体運営上必要な各国の国内法の調整を行なう(⑤と⑥により経済同盟*ないしさらに進んだ経済統合の段階をめざす)，⑦ヨーロッパ投資銀行(域内後進地域の開発，産業の近代化ないし転換，域内資源の完全利用のための融資機関)，ヨーロッパ社会基金(労働者の職業上の再教育，移転就職手当，所得援助などにより雇用の可能性を増進し，労働者の地理的・職業的な移動性を増大させるための基金)，ヨーロッパ開発基金(海外の連合関係をもつ国および領土に対する開発・援助のための基金)などを設立する，⑧海外の国および領土と連合関係を結ぶ，である。

現在加盟国は，6か国のほかに，準加盟国としてギリシアとトルコの2国がある。また，ヤウンデ協定*によりアフリカ18か国および海外領土(フランス海外県・海外領土，オランダ領など)と連合関係にある。連合国は，ブルンジ・カメルーン・中央アフリカ・チャド・コンゴ(キンシャサ)・コンゴ(ブラザビル)・ダオメー・ガボン・コートジボアール・マダガスカル・マリ・モーリタニア・ニジェール・ルワンダ・セネガル・ソマリア・トーゴ・オートボルタである。

〈共同市場の進展〉 EEC計画の進捗(しんちょく)状況をみると，商品・生産要素の域内自由移動は完全に実現されているが，各国の利害の対立が深刻な共通政策の樹立，さらには経済面を越えての政治・社会等々の面における協力・統合がからんでくる部門での計画は，種々の問題に直面している。関税同盟の完成は，過渡期間の12年を要さず，1968年7月1日に域内関税の全廃が実現し，共通域外関税が実施されるようになった。また同じ年労働力移動の完全自由化も達成され，いわゆる共同市場が成立した。しかし，共通政策の樹立(特に農業政策，対外通商政策，通貨・金融政策など)とそれに伴う諸措置については問題が残されており，解決は容易ではない。

根本的には，EECの政治統合，その超国家的性格をめぐるフランスとその他の国々との根深い対立があると考えられ，フランスはあくまでも各国が主権を保持するヨーロッパ国家連合をめざしているのに対し，他の国々は，超国家的なヨーロッパ合衆国ないしヨーロッパ連邦を目標としているようである。

EEC全体として，人口1億8,000万人強，国民総生産*(GNP)はアメリカの約半分で，全外貨準備ではアメリカを抜き，世界貿易に占める比率も第1位で，米・ソに次ぐ第3の規模となっており，その動向は大いに今後

とも注目せざるをえないであろう。EECに対して他のヨーロッパ諸国も，正式に加盟・準加盟の交渉を行なっており，それらが実現すれば，EECは全ヨーロッパに拡大される可能性をもつ。中心はイギリスの加盟交渉であり，かつてドゴールの拒否により失敗したが，1970年代前半には，加盟が実現するという予測が強い。イギリスは，これまでのイギリス連邦からEECへとその政策の重点を転換し，他のスカンジナビア3国も加盟申請を行なっており，スイス・オーストリアも準加盟国になることも予想され，そうなるとヨーロッパ自由貿易連合*(EFTA)が解消して，EECを中心とする大ヨーロッパ連合が進められていき，これがアメリカ・カナダ，さらには日本をも含めての先進国協力・統合に発展する可能性も考えられる。しかし，当面EECが域外に対してより開放的になり，世界経済全体の自由化実現をめざす方向づけが必要であろう。〔深海博明〕

いいじまいさお　【飯島魁】　(1861～1921)　東京大学生物学科第1回卒業生のひとり。浜松の出身。東大卒業後，ドイツのロイカルトについて学び，帰国後，東京大学理学部教授に任ぜられ，以後日本動物学界の指導者となった。扁形(へんけい)動物・海綿動物および鳥類の分類・生活史が専攻である。特に広節裂頭条虫の中間宿主がマスであることを突き止めた研究は有名である。

いいずし　【飯鮓】　すしの一種。すしはもと魚介類だけ発酵させたものであったが，慶長のころ(1596～1614)，押しずし(早ずし)がくふうされ，魚・貝だけでなく飯にも酢で味をつけて，飯も魚もともに食べるようになった。この押しずしははじめ飯鮓または食鮓とよばれ，なれずしと区別されていたらしい。《毛吹草》に〈山城の名産に六条飯鮓，大和(やまと)に奈良飯酢〉とあり，其角(きかく)の句に〈飯鮓の鱧(はも)なつかしき都かな〉がある。すし飯の上にハモを載せたもので，今日の大阪の押しずし，各地の魚ずしに似たものである。〔塩川ふみ〕

いいずな　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。コエゾイタチともいう。食肉類中最小の種で，体長は雄17cm，雌15cmほど。オコジョ*に似るが尾が短く，先端まで同色。夏毛は腹面を除き全身かっ色，冬毛は白色。北アメリカ・ヨーロッパおよびアジア北部に，日本では北海道・青森に分布。おもにネズミを食う。

いいだ　【飯田(市)】　長野県南部の市。中世末，京極氏が碁盤形の町割りをもつ城下町を築いて〈小京都〉とよばれ，江戸時代は堀(ほり)氏二万石の所領であった。製糸業が発達し，1947年(昭和22)の大火後，防火都市のモデル地区となった。1937年市制施行。人口79,000。伊那(いな)盆地の南部，天龍(てんりゅう)川右岸の段丘上にある。産業三大別人口比は24：32：44。周辺の農産物を集散し，第2次世界大戦後は，時計・モーター・光学レンズなどの精密機械工業が発展した。飯田線に沿い，市街の中央部を走る国道151号線(遠州街道)や152号線・153号線で豊橋(とよはし)・浜松・名古屋・塩尻(しおじり)の各市と通じ，中央自動車道*も開通している。駅前の広い防火道路の両側に，中学生たちが植樹したリンゴの並み木が名高い。特産は水引・凍り豆腐など。



イイダコ

いいだこ　【飯蛸】　軟体動物・頭足類。長さ30cmほどになる。体は灰かっ色。左右の第2～3腕の基部に，大きくはっきり目だつ金色の環紋があり，まるで目のようにみえる。北海道南部からシナ海に分布し，浅い海にすむ。冬から春さきにかけて，成熟した雌の胴(ふつう頭といっている部分)には，米粒に似た卵が充満しており，煮ると，蒸したもち米のようになって美味。奇妙なことに，ラッキョウのえさでつれる。

いいだじけん　【飯田事件】　1884年(明治17)愛知県下田原の自由党幹部村松愛蔵，長野県飯田の愛国正理社桜井平吉らが，明治政府の専制に反抗して，農民らと組織をつくり，名古屋鎮台を襲撃，政府の打倒を企図した事件。計画は事前に発覚して村松ら27名が逮捕され，7名が軽禁獄に処せられた。1881年に始まる松方財政によるデフレが極度の不況を招いたため，自由党左派の党員を指導者として各地に農民・地主・商工業者らの暴動が発生し，政府の弾圧により一連の流血事件を生んだ。〔千野境子〕

いいだせん　【飯田線】　豊橋(とよはし)～辰野(たつの)間の国鉄路線。営業キロ数196.0。1897～1937年(明治30～昭和12)開業。豊川・天龍(てんりゅう)川流域を通過して東海道本線と中央本線を結ぶ。沿線に伊那(いな)・飯田・豊川などの都市がある。全線が電化されている。

いいだたけさと　【飯田武郷】　(1827～1900)　江戸末期・明治時代の国学者。江戸，高島藩邸で生まれた。幼少より漢学に親しむ。その後国学を志し，平田篤胤*(あつたね)没後の門人となる。尊王攘夷(じょうい)の論が起こると王事に奔走し，維新政府の政治に参画した。気比神宮*をはじめ，各地の大社の宮司を歴任した。加えて，修史館御用掛，次いで東京大学・国学院大学・慶応義塾(ぎじゅく)大学・神宮皇学館で教鞭(きょうべん)を取った。著書に48年間を費やした大著《日本書紀通釈》70巻がある。〔田上光治〕

いいだだこつ　【飯田蛇笏】　(1885～1962)　俳人。山梨県生まれ。本名は武治(たけじ)，別号は山廬(さんろ)。ホトトギス句会への参加によって高浜虚子*の指導を受けた。のち，1909年(明治42)早稲田(わせだ)大学を中退して帰郷し，虚子の花鳥諷詠(ふうえい)の提唱とともに再出発，ホトトギス派の俊秀とされた。1918年(大正7)以後，俳誌《雲母(うんも)》を主宰。山梨県の山中にこもり，とぎすまされた感覚と鋭い気魄(きはく)に満ちた句をつくった。句集《山廬集》《山響集》など。〔小泉浩一郎〕

いいづか　【飯塚(市)】　福岡県中部の市。明治中期から筑豊(ちくほう)炭田が開発されて発展した。1932年(昭和7)市制施行。人口81,000。市域は，遠賀(おんが)川中流に沿い，麻生(あそう)鉱業の芳雄(よしお)炭鉱，もと三菱(みつびし)鉱業所属の鯰田(なまずだ)炭鉱をはじめ大小の炭鉱が密集し，年間の出炭量は全国の約10％にあたる500万tに及んだ。産業三大別人口比は5：27：68で，筑豊炭田地帯最大の商圏をもつが，最近の石炭不況で閉山が続出し，ついに炭田は全く姿を消し，人口も減少する一方である。筑豊本線に沿い，飯塚駅から上山田線，新飯塚駅から漆生(うるしお)・後藤寺の両線が分かれ，国道200号線・201号線・211号線が集まる。最近，陸上自衛隊が移駐し，近畿(きんき)大学分校(工学部)も開校した。

いいづなやま　【飯繩山】　長野県北部，長野市の北方にある，妙高火山群の山。標高1,917m。山頂は数峰に分かれ，開析が進んでいる。南麓(なんろく)は湖沼・湿原の多い飯繩高原で，長野から戸隠有料道路バードラインが通じている。スキー場・ユースホステルなどの施設もあって訪れる人が多い。

いいでさん　【飯豊山】　越後(えちご)山脈の北部を占める山群。新潟・山形・福島の3県にまたがり，阿賀野(あがの)川と荒川とにはさまれ，西側は新潟平野に臨む。主峰飯豊山(2,105m)は3県の県境にあり，その西に最高峰大日岳(2,128m)があり，その他多くの峰々に分かれている。地形は急峻(きゅうしゅん)ではないが，山は奥深く，重厚雄大な山地を形成している。クマ・カモシカ・サルなどがすみ，積雪量が多く，雪渓(せっけい)・雪田・雪堤などもみられる。磐梯(ばんだい)朝日国立公園に所属する。〔高野　繁〕

いいなおすけ　【井伊直弼】　(1815～1860)　江戸末期の政治家。近江(おうみ)(滋賀県)彦根(ひこね)藩主。直中の14子。長兄直亮(なおあき)の養嗣。掃部頭(かもんのかみ)。号は埋木舎(うもれぎのや)など。1850年(嘉永3)藩主となり，藩政を改革。開国後の政治的混乱の中で保守勢力の代表的存在となった。1858年(安政5)4月大老に就任し幕府の政務を担当，一橋派など尊攘派(そんじょうは)と対立したが，勅許を得ずに日米修好通商条約*など安政の五か国条約*に調印し，13代将軍家定の継嗣

問題では，一橋慶喜(よしのぶ)を推す一橋派をおさえて紀州藩主徳川慶福(よしとみ)(のちの14代将軍家茂(いえもち))を継嗣に決定した。また反対派(尊攘派)の公家(くげ)・大名・志士を弾圧し安政の大獄を起こしたが，1860年(万延１)江戸城桜田門外で水戸(みと)・薩摩(さつま)浪士らに暗殺された。➔将軍継嗣問題 ➔桜田門外の変　〔松尾　涼〕

いいなずけ【許婚】 子どもが生まれてまもなく，その子が成人してからの結婚相手を親たちの間で取り決めておく風習。古くは平安時代から行なわれ，《伊勢(いせ)物語》にもみえている。江戸時代の武家の間では，家筋を重要視し，政治的に自分の地位を有利にするために，この種の許婚が盛んに行なわれた。現在でも，家と家の結びつきを重視するところでは，家の格や互いの家庭の事情がわかっているので安心だという。なお一般に婚姻を約束した者についてもいわれる。　〔須藤健一〕

いいぬまよくさい【飯沼慾斎】(1783～1864) 名は長順，字(あざな)は龍夫(たつお)，通称は真吾。伊勢(いせ)(三重県)に生まれ，大垣(おおがき)で研究生活を送り，当地で没。はじめは医学を志したが，のち小野蘭山(らんざん)・山本亡羊に本草学を学び，さらに西洋植物学に目を開いて，リンネの分類法に基づき日本の植物を分類記載した。その成果が《草木図説》(1856)である。

いいのやま【飯ノ山】 香川県の讃岐(さぬき)平野の中に突出する山。飯野山とも書く。標高422 mの円錐(えんすい)状の山で，その形から讃岐富士ともよばれる。山体は安山岩やカコウ岩から構成されているが，火山ではなく，残丘であるといわれている。

いいもりやま【飯盛山】 福島県会津若松市にある小丘。若松市街の北東郊に位置し，旧城下町時代の要害の地。1868年(明治１)の会津戦争のとき，会津落城に際して白虎隊(びゃっこたい)の生き残り16名が自害した地として知られ，その墓はいまに残っている。

いいやま【飯山(市)】 長野県北東部の市。1579年(天正７)に上杉(うえすぎ)謙信が築城，江戸時代は飯山街道の宿場町，本多氏二万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。人口32,000。長野盆地北端，千曲(ちくま)川流域の飯山盆地の中心部を占め，飯山線・国道117号線が通ずる。産業三大別人口比は43：22：35。米作のほか，ゴボウなどの根菜類やホップ・リンゴなどが栽培される。豪雪地帯で，商店街にがんぎがみられ，北郊の野沢温泉とともにスキー場として名高い。特産物に，仏壇・仏具・和紙・畳表などがある。

いいやません【飯山線】 豊野(とよの)～越後川口(えちごかわぐち)間の国鉄路線。営業キロ数96.7。1921～1929年(大正10～昭和４)開業。信越本線(長野盆地)と上越線(長岡地方)を結ぶが，沿線は豪雪地帯で雪害が多い。飯山・十日町などの都市が沿線にある。



井伊直弼

いいようほう【伊井蓉峰】(1871～1932) 新派俳優。本名申三郎(しんざぶろう)。東京出身。はじめ川上音二郎(おとじろう)一座にはいったが，すぐ退座し，男女合同改良演劇〈済美館(せいびかん)〉，さらに〈伊佐美(いさみ)演劇〉を組織するなど，新しい演劇をめざして苦しい道を歩んだ。やがて〈いい容貌(ようぼう)〉の芸名のとおり，人気を集め，新派を盛大にした功労者。

いいんかいせい【委員会制】 国または地方公共団体に設けられた合議機関を委員会といい，複雑な社会問題を処理する目的で設けられた制度。委員会の種類は多いが，おもなものとして国会に設けられ，議員がいずれか一つに属さなければならない常任委員会(予算委員会・外務委員会・懲罰委員会など16)，必要に応じて設置される特別委員会は，ともに国会での討議のまえに議案や法案の審議および作成にあたる。このほか行政委員会といわれるものに国家公安委員会などがある。いずれも立法・行政を円滑にすることを目的としている。➔行政委員会　〔寺尾方孝〕

いいんかいせいど【委員会制度】 企業内部組織の調整と補強を図り，よりよき意志決定を志向して設置される制度。設置の意義は，各委員の間の意思の疎通，各部門間の意見調整を図ることにあり，種々の目的に応じて設けられる。しかし，時間と経費がかかること，委員の間の責任の所在が不明確であること，妥協が生じやすいことなどの欠点がある。

いえ【家】 日常生活を共同にする血縁関係を中心とした人々の集団。欧米の〈ファミリー〉はその成員たちの１代限りのものであるが，日本の伝統的な家は，遠い祖先から代々血統を通して受け継がれ，かつ子孫に伝えられる，いわば超世代的に永続が望まれてきた存在である。

家は結婚した夫婦を中核とするが，日本の民俗慣行としては，その間に生まれた子女がその家にどのように残るかによって，さまざまな類型が認められる。①１子のみが相続者として残る形態の中でも，近世以降は特に長男に限定され，その他の子女は分家独立あるいは婚姻によって家を離れる傾向が顕著になった。②しかし長男相続とは限らず，第１子が女子の場合，その長女が家督を継ぐ慣行が東北地方にあり，これを姉家督とよんでいる。また，長女に婿養子をとって分家させる慣行も全国的に点々と分布している。これは姉家督から長男家督への中間的形態を示すものではないかと考えられる。③末男子が家を継ぐ末子相続の慣行もある。長男が結婚すると分家独立し，順次次男・三男もそれにならい，結局は末子が親の家を相続することになる。④隠居制とよばれる形態は，長男が結婚すると母屋(おもや)と相当の家産を長男夫婦に渡し，親夫婦が次男以下の子女を連れて別棟(むね)に移り住み，世帯を別にする慣行も各地に点々と認められる。⑤親が後継者を選ぶ，いわば選定相続の伝承も一部の地方に残っている。

以上は家の相続をめぐる諸類型であるが，歴史的にみて①のタイプが最も新しいことは確実である。他の四つの類型の歴史的展開の順序については，まだよくわからない。また，相続人以外の子女が家にとどまり，その婚姻によりさらに子女を設けて，しだいに家族員がふえ，代を重ねることによって大家族を形成する場合もある。その際，東北地方にみられるように，女子は他家に嫁入りさせて男子のみが家に残る型と，岐阜県飛驒(ひだ)の白川村にみられるように，他家の長男にとつぐ女子を除いて，他の女子はすべて家に残る型とがある。

長男相続にあっては，必然的に一つの家に２人の主婦が存在し，したがってしばしば姑(しゅうと)と嫁とのトラブルを惹起(じゃっき)する。これが隠居制などでは回避されている。婚姻方式のうちで古いタイプが妻問い婚であることは，すでに定説となっているが，この場合男性の側で主婦が必要となったときに嫁の身がらが男方に引き移るわけである。つまり１軒の家にひとりの主婦ということが，古い家制度の原則であったと考えられる。

家は超世代的な存在と観念されてきたところから，家名・家風・家がらなどといった観念がこれに結びつき，また祖先祭祀(さいし)が伝統的な信仰として強固に維持されてきた。しかしその反面，家の成員が家の永続・繁栄の名のもとに自己犠牲をしいられてきたといった側面も見のがすことはできない。第２次世界大戦後の新民法は，家を１代限りのものとする原則に立っているが，実際の生活面で，伝統的な家永続の観念がこれによって完全に変わってしまったとみるわけにはいかない。　〔直江広治〕

いえ【家】 島崎藤村の長編小説。前編は1910年(明治43)１月から《読売新聞》に連載，後編は《犠牲》と題して1911年《中央公論》に２度分載，さらに書き足してその年の11月に自費出版された。作者自身でもある小泉三吉の生家小泉家と，三吉の長姉お種の嫁した橋本家という信州の２旧家の没落

史である。作者の視点を家の内部にのみ限定する手法によっているため，外部の社会状況とのかかわりで〈家〉の問題を追求する点では限界があるが，わが国の家父長制封建制度の構造に迫りえた随一の作品である。〔小泉浩一郎〕

イエイツ [William Butler Yeats] (1865～1939) アイルランドの詩人・劇作家。はじめ画家の父に影響されて美術学校に学んだが，シェリー*・ブレイク*らの詩を愛読して叙情詩を書きはじめた。その詩は，詩集《アシーンの放浪》などにみられるように，祖国の神話・伝説を背景に，霊的な愛や美を追求し，憧憬(どうけい)・夢幻・挫折(ざせつ)などに悩みゆらぐ心を象徴的にうたい，世紀末思潮*の流れに立ったものである。やがて1890年代にはいって，心霊術への深い関心をもつとともに，アイルランド文芸協会の創設に参加するなど，アイルランド文芸復興*の代表的存在として活躍，詩劇《カスリーン伯爵夫人》など劇作に力を注ぎ，ダブリンのアベー座を中心にグレゴリー夫人やシング*とともに国民劇創造の原動力となった。これらの活動は1921年のアイルランド独立に大きく貢献した。詩人としての活動も，社会的・政治的問題に触発された詩や，時空と永遠，感覚と精神，自我と無我などの対立といった哲学的な詩を，明晰(めいせき)できびしい文体で書くようになっていく。詩集《責任》《幻想》などがあり，エリオット*らの詩人に影響を与えた。1923年ノーベル文学賞を受賞。ほかに，詩集《葦間(あしま)の風》《塔》《最後の詩集》，日本の能に影響された戯曲《鷹(たか)の泉》など。〔星野恒彦〕


イエイツ

いえうさぎ【家兎】⇨ウサギ

いえき【胃液】 噴門腺(ふんもんせん)・幽門腺・胃底腺から分泌される無色透明で粘りけのある酸性の強い(pH1.0～1.5)消化液。1日に2～3 l 分泌されるが，その大部分は腸で再び吸収される。胃液中には塩酸・ペプシン，少量のリパーゼが含まれる。塩酸は胃底腺の壁細胞から分泌されて胃液を酸性に保ち，殺菌作用がある。ペプシンはタンパク質をペプトンに変える酵素であるが，ペプシノゲンとして幽門腺・胃底腺の主細胞から分泌され，塩酸により活性化されてペプシンになる。リパーゼは脂肪を消化する酵素であるが，胃液の酸性が強いため消化力は弱い。胃液の分泌は，最初は胃に食物がはいった刺激や食物のことを連想したりすることで反射的に起こり，反射相とよばれる。次いで食物が胃内にはいると，これが胃壁を刺激して胃液を分泌させる。これは化学相または胃相とよばれる。最後に胃内容物が十二指腸にはいるとこれが刺激となり胃液が分泌される。この相を腸相という。胃液は絶食時や睡眠中でもきわめてわずかであるが分泌されているが，豊富な胃液分泌は上述のような食物摂取のときに起こる。胃液の分泌は精神状態によって支配されることが多く，怒りや心配事によって分泌が抑制される。〔平野修助〕

いえきけんさ【胃液検査】 胃液酸度・分泌機能を調べる検査法。一回採取法と分画採取法があり，実際には後者が多く採用されている。分画採取法は早朝空腹時に胃管を胃内に挿入(そうにゅう)し，胃液を採取する。その後基礎分泌を測定，刺激剤を投与してから分画採取を行ない，胃液酸度・分泌機能を検査する。刺激剤としては，カフェイン(カッチュ-カルク法)・ヒスタミン・インシュリン・アセチルコリンなどがあるが，最近では，ヒスタローグ・ガストリンなどが用いられる。採取胃液につき，総酸度・遊離塩酸を測定してその酸度曲線を描き，分泌胃液量や血液などの混入物の有無を合わせて調べ，胃疾患診断の補助とする。最高遊離塩酸60mEq/l以上を過酸，30～60mEq/lを正酸，0～30mEq/lを低酸，0以下を無酸とすれば，十二指腸潰瘍(かいよう)では圧倒的に過酸が多く，進行胃癌(いがん)，高度の慢性萎縮(いしゅく)性胃炎では低酸・無酸が多い。なおmEq/lは濃度の単位で，1 l中に1/1000当量がとけていることを表わす。〔後藤義隆〕

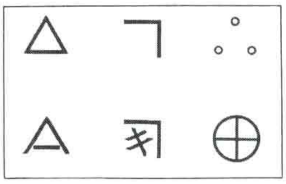
いえこうもり【家蝙蝠】⇨アブラコウモリ

いえじま【伊江島】 沖縄本島の本部半島北西方に，伊江水道を隔てて望まれる低平な島で，1島1村(伊江村)をなしている。面積24km²，人口15,000。第2次世界大戦の沖縄戦の激戦地で，島のおよそ3分の2がアメリカ軍の軍用地となっている。おもにサトウキビがつくられ，アメリカ軍報道班員アニー-パイルの戦死を記念した〈アニー-パイル碑〉がある。

いえじましょとう【家島諸島】〈いえしましょとう〉または〈えじましょとう〉ともいう。兵庫県南西部，相生(あいおい)市の沖合い10kmに散在する大小26の島をいい，飾磨(しかま)郡家島町となっている。面積19.69km²，人口9,800。中央に家島，東に男鹿(たんが)島，西に西島があって，ほかに坊勢(ぼうぜ)島・太(ふとん)島・鞍掛(くらかけ)島の3島に住民がおり，そのほかは無人島である。院家(いんげ)島・松島・黒島などは，鞍掛島よりも大きいが，飲料水がないので住民がいない。山がちで，カコウ岩の採掘と漁業によって生活しており，人口の70%は，本島とよばれる家島に集まっている。町の中心集落は家島の石材を運ぶ機帆船の基地真浦と漁港で町役場のある宮浦とである。瀬戸内海国立公園の区域内にはいっており，真浦や宮浦には観光客が集まり，夏には海水浴やキャンプの客も多い。家島は，神武天皇が東征の際に，〈波が静かで家の内にいるようだ〉といったことから名づけられたといわれ，中世には海賊の根拠地であった。最近はタイ網などの漁業が不振で，石材も島の形が変わるほどとってしまったので，1 km²あたり500人を越える人口を養うことができず，青少年層の離島による人口の減少が目だっている。家島汽船の定期船が，姫路市の外港飾磨と男鹿島・家島・西島を結び，阪急(はんきゅう)内海汽船の定期船が，赤穂(あこう)から西島に通じている。〔浅井得一〕

イエーシュ [Illyés Gyula] (1902～) ハンガリーの小説家。農民の出身で，1919年の社会主義革命に参加，フランスへ亡命した。はじめ詩人として知られたが，のち小説・戯曲の分野に転じた。代表作に自叙的長編《プスタの民》，国民的詩人ペテーフィの《評伝》などがある。

いえじるし【家印】 村の家々で，その所有物であることを明示するために，農具や器具などにつけられる刻印・焼印の類をいう。図示したように，簡単な図形および



それに文字を添えたものが多い。本家・分家の間では，若干の変型を加えながら同じ系統の印を用いるふうがある。なお，神奈川県の北部山村では，家紋を表紋とよぶのに対して，家印のほうを裏紋とよんでいる。伐木・農具・船具・漁具・げたなどに家印をつけることは，現在でも広く各地に認められる。伐木におので簡単な刻みをつけて所有を表わす木印のほうが家印よりも原初的な形態であるが，一方家印は商人の間で商標として固定し，商品銘柄の源流ともなった。〔直江広治〕

いえしろあり【家白蟻】 こん虫類・シロアリ目・シロアリ科。主として東海地方以西台湾まで分布し，土中または土に接した木材を食害する。しばしば木造建築物に大きな被害を与える。翅(はね)のある雌雄は5～7月の高温高湿の日に群飛する。➔シロアリ

イエス-キリスト ⇨キリスト

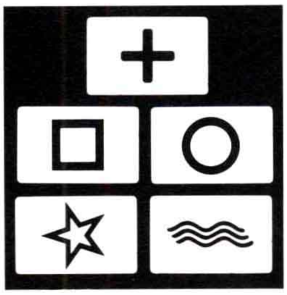
イエズスかい【イエズス会】 耶蘇(やそ)会・ジェスイット会・ゼズス会ともいう。1534年イスパニア貴族イグナチウス-デ-ロヨラ*ら7人の同志で結成されたローマ-カトリックの男子修道会。1540年ローマ法皇パウロ3世によって公認された。宗教改革・

プロテスタントの進展に刺激されたカトリックの失地回復運動の一つで，〈より大いなる天主の光栄のために〉をモットーに，清貧・禁欲・服従の誓いを立て，厳格な軍隊的規律・組織をもち，強力な宣教活動を行なった。アメリカ大陸・東洋への伝道活動を積極的に行ない，開拓と宣教に従事し，反宗教改革の支柱となった。当時東洋に進出していたポルトガルと結んで東洋に布教し，日本にも1549年(天文18)フランシスコ-ザビエルが鹿児島に渡来。以後この会が中心となって日本に布教した。〔松尾　涼〕

イーエスピー　[ESP]　Extrasensory Perceptionの略称。超感覚的知覚あるいは感官外知覚。アメリカの超心理学者J.B.ラインは，既知の感受器官を媒介としないと思われる条件下で，生物は情報の授受ができることを実験的に証明し，これをESPと名づけた。これは精神的な心霊現象に相当するが，実験の条件を変えることにより，透視・テレパシー・GESP(General ESP)・予知に区別される。ラインはこの実験のため〈ESPカード〉をつくった。円・四角・波形・星・十字の五つの図形のいずれかが描かれたカードを，通常25枚1組みとして順序不同に提示し，被験者にカードを見ないで出されている図形をあてさせる。得点が偶然期待値より統計的に有意なかたよりを示せばESPの効果とされる。その結果，①少数ではあるが高得点をつねにあげることのできる人がいること，②普通の人でも条件が満たされると高得点があげられること，を証明した。この能力は被験者の心理的および生理的条件によって促進されたり抑制されたりする。またテストの進行に伴って得点が変わる〈位置効果〉，ねらった目標の隣にあたる〈ずれの効果〉などが見いだされている。➔超心理学　➔透視〔大谷宗司〕

イェスペルセン　[Otto Jespersen]　(1860～1943)　デンマークの言語学者。コペンハーゲン大学ではじめ法律学を学んだが，言語学に転じ，ロマンス語学次いで英語学を専攻，1893年，恩師ウィルヘルム-トムセンの推薦で母校最初の英語学教授となった。イギリスのヘンリー-スウィートらの影響を受けたが，独創的な理論と実証的研究法を発展させ，英語史・英文法・文法理論・音声学・外国語教授法などについてすぐれた論著を発表した。また，国際語にも関心を示し，ノビアルという新国際語を考案した。わが国の言語学，特に英語学にも大きな影響を与えた。主著に《音声学入門》(1904)，《近代英文法》7巻(1909～1949)，《言語》(1922)，《文法の哲学(原理)》(1924)がある。〔北村　甫〕

いえたなぐも　【家棚蜘蛛】　クモ形類・タナゲモ科。タナゲモともいう。1cm内外で，ほぼかっ色。新旧両世界の温帯に広く分布し，日本でも北海道から九州までにいる。家屋のすみなどにたな状の網を張る。



ESP　ラインによる〈ESP実験〉用のカード

いえだに　【家壁蝨】　クモ形類・ダニ目・中気門亜目・ワクモ科。もとの宿主はネズミであるが，ヒト・イヌ・ネコをも吸血する。駆除には，殺虫剤の粉剤や油剤を，ネズミの生息ないし行動する場所に散布する。しかし，ネズミを駆除することが先決である。➔ダニ

いエックスせんけんさ　【胃X線検査】　胃の形や運動を見たり粘膜表面の変化を調べるために行なう胃のX線検査。造影剤はふつう硫酸バリウムを使用する。胃の正常な形状は牛角胃と鉤状胃(こうじょうい)が代表的な2形で，疾患があれば形態が変わってくる。最近ではカラーで胃の内部をすべて観察できる内視鏡検査と併用することにより，非常に微細な病巣も正確に診断がされるようになった。

いえで　【家出】　家族の構成員が家族の意志に反して，また無断でその家族から離脱する行為。一時的なものから永続的なものまであり，すぐ発見されて家族復帰する場合もあれば，新たな家族を創造したり，逃避的な自殺に走ることもある。その実態は，1969年(昭和44)に警察に捜索願いが出されたものが94,895人，25日たって家出人票に登録されたものが17,052人，うち60%が解決しており，未解決のまま翌年に繰り越されるのは全体の一割弱である。これに未届けのものを合わせると，年間概数は約15万人前後に達すると推計されている。これをさらに年齢別にみると25日以内に発見される者は20歳未満が多く，25日以後では20歳代が多い。これは届け出の数が多いためである。動機や原因は老人・夫婦・青少年などによってさまざまなケースがあるが，まず家族員相互間の葛藤(かっとう)・緊張があげられる。その中でも夫婦の性的結合を基底とした共同生活の不和・破綻(はたん)は結婚した成人の家出の要因として重要であり，両親との意見対立やコミュニケーションの不在からくる欲求不満などは青少年の家出の要因ともされている。性別からこの動機をみると，男性では動機不明がいちばん多いのに対し，女性では家族不和が最高である。最近の特徴としては，年ごろの女性の家出が多くなったこと，1967年を境に男性より女性のほうが多くなったこと，また動機不明の蒸発人間の増加などである。〔松島　浄〕

イエナ　[Jena]　東ドイツ，チューリンゲンの盆地東部，ザール川左岸の河岸段丘上にある大学都市・工業都市。人口87,000(1969)。カール-ツァイスのガラス工場が1846年に創設され，以後光学レンズ・光学機械の生産は世界的に有名である。イエナ大学は1558年に創設され，18世紀後半にはシラー・フィヒテ・ヘーゲル・シェリングら多くの学者・芸術家が集まり，ドイツ精神文化の中心となった。市街には，世界最初のプラネタリウム，地震観測所，天文台などがある。〔野間三郎〕

いえなきこ　【家なき子】　フランスの小説家エクトル-マロの少年小説(1878)。孤児の少年レミが，旅芸人の一座に売られ，各地を放浪のすえに生母に巡り会うまでの，波乱に富んだ物語。マロは多くの写実的小説を書いたが，この作品は，アラン-フルニエの《モーヌの大将》の先駆をなす少年冒険小説として，いまなお多くの読者を得ている。

イエナのたたかい　【イエナの戦い】　1806年，ナポレオン1世のフランス軍がプロイセン軍を破った戦い。プロイセンは，ライン同盟成立後のナポレオンの圧力に対抗してフランスに宣戦したが，結局イエナおよびアウエルシュテットの決戦に敗れ，ベルリンも占領された。➔ティルジット条約

イェニチェリ　[Yeniceri]　オスマン帝国に存在した近衛(このえ)軍団の一。創設期は第3代スルタンのムラト1世のころと考えられ，戦争捕虜あるいは領内のキリスト教徒の子弟を徴集して改宗させ，厳格な訓練を施して軍団に編成した。第6代ムラト2世のときに徴集方法が明確に定められたが，この方法は兵士のみならず，高級官僚候補者をも合わせ徴集したので，のちになるとトルコ人たちも志願するようになって軍団は変質した。初期にはヨーロッパでの征服戦に勇名をはせたが，16世紀以降はその勢力を乱用してスルタンの廃立に関与するなど専横なふるまいが多く有害となったため，1826年に廃止された。〔斎藤淑子〕

いえねずみ　【家鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。山野にすむノネズミに対し，人家にすむネズミをさす。住家性のハツカネズミ・クマネズミ・ドブネズミが含まれる。世界じゅうに分布し，人間に依存して生活。ハツカネズミは小形(体長5.5～10cm)で，原産地はヨーロッパ・アフリカ・アジアの数か所といわれる。クマネズミは大形(体長15～23cm)で，原産地は東南アジアといわれ，木登りが巧みで，おもに天井裏などにすむ。ドブネズミはさらに大きく(体長22～26cm)，原産地はアジア中央部で，水を好み下水に多い。➔ネズミ〔今泉吉典〕

いえのころうとう　【家の子郎等】　武家社会において首長の一族・従者を総称した語。家の子は一族の首長である惣領(そうりょう)

からみて，他の一族庶子の家長をいう。郎等は郎党とも書き，従者の中のおもなものを意味したが，のち一族以外のものの総称となり，また家の子郎等と合わせて大名・将軍家の家臣をさすようになった。

いえばえ　**【家蠅】**　こん虫類・双翅(そうし)目・イエバエ科。家屋内に侵入する代表的なハエ。黒色小形で胸部背面に4本の明瞭(めいりょう)な黒い縦条がある。幼虫はごみ，畜舎の寝わら，堆肥(たいひ)に発生する。駆除には有機リン殺虫剤を発生源に定期的に散布する。成虫にはピレトリンを含むエアゾールも有効である。

イエメン(人民民主共和国)　⇨南イエメン

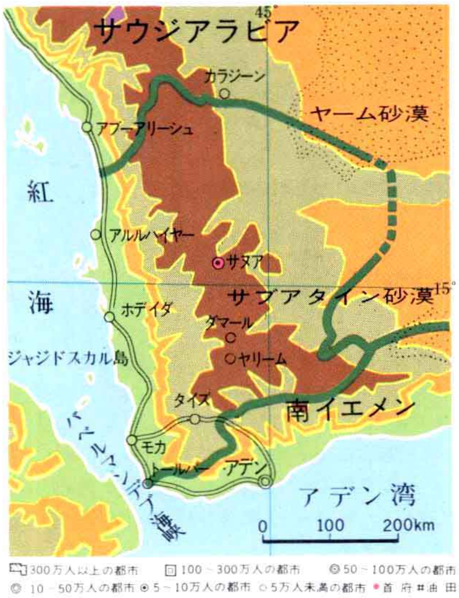
イエメン-アラブ(共和国)［Yemen Arab Republic, Al-Jamhuriya al-Arabiya al Yamaniya］　北イエメンともいう。アラビア半島西南部，紅海に面した共和国。面積19万5,000km²，人口579万(1978年推)。首都サヌア。

〔自然・住民〕国土は，紅海に沿って南北に走る海岸平野地域と，高原地域に分かれる。平野部は高温で乾燥するが，高地は気温もあまり高くなく，気候に恵まれている。住民の大半はアラビア人で，アラブ語を話し，イスラム教を信仰するが，平野部ではスンニー派，高地ではシーア派が多い。

〔産業・経済〕主産業は農業・牧畜で，高地では大麦・小麦・キビ・アンズ・ブドウ・コーヒーなどを産し，平野部ではヒツジ・ヤギ・ラクダなどを飼育している。工業はほとんど発達していなかったが，1962年の革命後，中華人民共和国の援助によって綿布工場ができた。輸出品には，積み出し港モカの名を冠したモカ-コーヒーのほか羊牛皮・塩などがあり，繊維製品・砂糖・ガラスなどを輸入している。なお，サウジアラビアが経済援助をしている。鉄道はないが，空港がサヌア・タイズ・ホデイダにある。

〔歴史・政治〕1546年からオスマン-トルコ領となり，19世紀にはイギリスの侵略も受けた。1918年トルコの撤兵後王国となったが，北のサウジアラビア，南のイギリス保護領アデンとの間に境界紛争が続いた。1962年アハマッド-バドルが王位についた直後に軍部のクーデターが起こり，以後共和制を敷き，アラブ連合共和国と軍事援助協定を結んでイエメン-アラブ連合共和国と称し，大統領を議長とする共和国評議会による政治が行なわれている。　〔今井留吉〕

いえもと　**【家元】**　芸道などで，その流派の正統としての権威を伝え，流派を統率する家筋またはその当主。そのおもなものに，香道・華道・茶道・書道・雅楽・能楽・歌舞伎(かぶき)・音曲・舞踊などがあるが，有職故実(ゆうそくこじつ)・武家礼式・絵画・料理・武道などのほか，万歳・曲芸・太神楽(だいかぐら)などの民間の雑芸にも及んでいる。家元制度が庶民層の中に深く浸透して独自の文



イ　エ　メ　ン



イエメン-アラブの国旗　1962年制定。赤は革命とそのために流された血，白は革命の達成と目標，黒は革命前の暗黒時代，緑は国土を表わす

化的機能を果たすようになったのは江戸中期以降で，家元を頂点として師範家・准師範(じゅんしはん)家，あるいは名取りなど家元を助けてその流派の芸を伝授する機関が生まれ，多数の弟子(でし)を教授するようになった。しかし，流派を統率・管理するのはあくまで家元で，一定の水準を習得した者に免許状(初伝・中伝・奥伝など)を下付する権限も家元が独占した。家元はときに宗家*とよばれることもあり，また宗家が家元を統率する場合もあった。現代においても各種各流の家元が継承されているが，その世襲制や他派との隔絶など，近代社会に適合しない，いろいろな問題をかかえている。　〔岡山泰四〕

イエリネック　［George Jellinek］(1851～1911)　ドイツ国法学の完成者。ウィーン・バーゼル・ハイデルベルク大学教授を歴任。国法学・憲法学を，法律的および社会的の両面から研究すべきことを説き，体系的な論著を多く出し，日本の憲法学に大きい影響を与えた。主著《一般国家学》《公権体系論》《法・不法および刑罰の社会倫理的意義》。

イェーリング　［Rudolf von Jhering］(1818～1892)　ドイツの法学者。ローマ法の発展現象の中に貫流する歴史の内的動因と精神文化的関連を探求して，《ローマ法の精神》を完成させた。歴史法学派の子として出発したイェーリングは，のちに社会的実利主義に立って，いわゆる目的法学を確立するに至った。これがのちの利益法学などの先駆ともなったことはよく知られている。主著《権利のための闘争》《法の目的》。

イェルマク　⇨エルマク

イエロージャーナリズム［yellow journalism］　人間の不健全な感情に訴えかける犯罪，性的醜聞，怪奇な事件などを扇情的に報道したり編集をする新聞のこと。1889年にピュリッツァー*が《ニューヨーク-ワールド》の日曜版に黄色の服を着た少年の漫画を掲載し，それをまねたハースト*の《ニューヨーク-ジャーナル》と扇情的な紙面での激しい競争を展開したことからこの呼称が生まれた。イエローペーパーともいう。➔赤新聞

いえん　**【胃炎】**　主として胃粘膜固有の腺(せん)組織の炎症であるが，腺組織のみでなく，粘膜下層・筋層漿膜(しょうまく)にまで炎症が及ぶことがあり，これらも含めて胃炎と称している。胃炎の場合の炎症性変化は一般の炎症*とは異なり，組織学的に炎症像が認められれば胃炎とよばれている。特に問題とされるのは，固有胃腺の萎縮(いしゅく)が認められる慢性萎縮性胃炎で，これが炎症による変化なのか，炎症に付随しない別個の問題なのかもいまだ解決されていない。胃炎は，急性胃炎と慢性胃炎とに分類するのが便利で，急性胃炎はさらに，急性外因性胃炎・急性腐食性胃炎・急性伝染性胃炎・急性蜂巣織(ほうそうしき)性胃炎の四つに分類される。また，慢性胃炎は胃カメラ像により，表層性胃炎・萎縮性胃炎・肥厚性胃炎に分類されるのが一般である。また，パルマーが肉芽腫(にくがしゅ)性胃炎と名づけたものの中には，結核性胃炎・梅毒性胃炎・アクチノミコーゼ・ヒストプラズマ症・ザルコイドージズ，および異物によるものが含まれる。

〔急性胃炎〕急性外因性胃炎は，一般に急性胃カタルともいい，食餌(しょくじ)の不摂生によって起こる。アルコール・コーヒー・紅茶・香辛(こうしん)料・サリチル酸剤・キニーネ・抗結核剤・水銀・ヨード・抗生物質などの化学的刺激や，過冷・過熱の飲食物による温熱的刺激，牛乳・卵・魚介類などに対するアレルギー反応として，胃粘膜に炎症をきたす疾患である。急性腐食性胃炎は，腐食剤の誤飲や，自殺の目的で飲用された硫酸・硝酸・塩酸・クローム酸・石炭酸・酢酸・シュウ酸・クエン酸などの酸，苛性(かせい)ソーダ・苛性カリ・炭酸アンモンなどの塩基，その他，昇汞(しょうこう)・塩化

鉄・硝酸銀・ヒ素化合物などの重金属塩，フォルマリン・リンなどによってもひき起こされる。軽度のものは粘膜の充血・浮腫，中等度のものでは出血・びらん・潰瘍(かいよう)形成，重症では粘膜の壊死(えし)から穿孔(せんこう)することもある。急性伝染性胃炎は，腸チフス・猩紅熱(しょうこうねつ)・流行性感冒・ジフテリア・肺炎などの急性感染症の際に発生し，胃粘膜に炎症性変化をきたすものをいう。急性蜂巣織性胃炎は連鎖球菌などの化膿(かのう)菌の感染によって，粘膜下層の蜂巣織炎を起こすもので，日本ではまれな疾患であるとされている。

〔慢性胃炎〕わが国に開発された胃カメラ*が広く臨床に応用されるようになって，表層性胃炎・萎縮性胃炎・肥厚性胃炎の3型の分類が広く臨床的に用いられている。また，原発性胃炎と消化性潰瘍，胃癌(いがん)，肝・胆道疾患，膵(すい)疾患などと随伴または共存する随伴性胃炎とにも分けられるが，この両者には症候的・胃内視鏡的・組織学的に本質的な差異はないとされている。慢性胃炎の病因として，種々の刺激性食物・アルコール・コーヒー・たばこなどや遺伝的負荷などがあげられているが，単純な発生機序で説明されるほど簡単なものではない。近年とみにわが国で盛んになった胃カメラ・胃ファイバースコープ・胃生検*などや，臨床像・胃レントゲン検査・胃液検査*・病現解剖所見などによって，相互間の関係を明らかにし未解決の分野の多いこの疾患についての解明がなされようとしている段階である。〔後藤義隆〕

イェンセン〔Johannes Vilhelm Jensen〕(1873～1955) デンマークの小説家。氷河時代前期を扱った《失われた大陸》に始まって《コロンブス》に至る6巻の文化史小説において，数百万年の人類の旅を描き，これはのちに再編され《長い旅》(3巻)となった。この作品の意図は，ダーウィンの《進化論》に基づく新しい聖書をつくることにあった。1944年ノーベル文学賞受賞。

イオ〔Io〕ギリシア神話に登場する人物。アルゴスの王イナコスの娘。ゼウスに愛され，その妻ヘラの目をのがれるため雌ウシに姿を変えるが，ヘラの放ったアブに苦しんだあげく，諸国を放浪してエジプトに到着，そこで娘の姿にもどり，エパポスを生む。

いおう【硫黄】周期律表第Ⅵ族に属する非金属元素。記号S 原子番号16，原子量32.066。

〈性質〉種々の同素体*をもち，固体では斜方イオウ$S\alpha$，単斜イオウ$S\beta$，無定形イオウ，液状ではλイオウ$S\lambda$，μイオウ$S\mu$がある。斜方イオウはふつうのイオウで，無味・無臭・淡黄色の斜方晶系*の結晶。熱および電気の不良導体である。水・アルコールには不溶，二硫化炭素に可溶。急熱すると114.5℃で溶融し，淡黄色・流動性のλイ



イ オ ウ 鉱　福島県沼尻鉱山産

世界のイオウ生産高　単位：1,000トン

	1970	1975	1976
世界	不詳	不詳	不詳
ソ連*	2,100*	5,700	5,900
カナダ	4,019	4,774	4,744
アメリカ	1,824	3,258	3,479
フランス	1,775	1,877	1,868
日本	2,131	1,488	1,563
中国	1,020	1,020	1,225
スペイン	1,280	1,373	1,212
西ドイツ	418	740	839

注)※印は副産物として回収された硫黄を含まない。《国連：統計年鑑》(1980)による

〔参考〕わが国のイオウ生産量(1969)

精製イオウ	20万4,000t
回収イオウ	14万3,000t
合計	34万7,000t

オウとなり，160℃で暗かっ色・粘性のμイオウとなる。さらに加熱すると444.6℃で沸騰する。単斜イオウは光沢に富む淡黄色の単斜晶系*の針状結晶。95.6～119.5℃の間で安定で，95.6℃以下では斜方イオウに変わり，119.5℃で溶融する。無定形イオウは高温度で溶融したイオウを水中で急冷して得られる黄かっ色ゴム状の物質。大部分が過冷のμイオウからなる。またイオウは陰性元素として2価の原子価をもち，水素・金属と直接化合して硫化物をつくる。しかしまた4,6価の陽性元素としても働く。空気中では360℃で発火する。

〈産状〉天然にはシゼンイオウのほか，鉄・銅・鉛・亜鉛などの硫化物として産出する。また種々の硫酸物としても存在する。そのほか鉱泉や温泉中にも混在し，タンパク質などの有機物の成分でもある。わが国のイオウ鉱床はすべて火山性で，関東以北に偏在する。

〈製錬〉処理方法によって分類すれば，溶出法・塩化カルシウム法・オートクレーブ法・蒸留法および溶剤法があるが，主として利用されているのは溶出法・オートクレーブ法および蒸留法である。溶出法は鉱石を加熱してイオウを残渣(ざんさ)から溶出分離する方法で，脈石*を分離しやすい鉱石に適するが，わが国の鉱石には適さない。アメリカのフラッシュ法，イタリアのカルカロニ法・ギル法はこれである。オートクレーブ法は鉱石を浮遊選鉱*して品位を高め，その精鉱を高圧熱水で処理してイオウを分離する方法である。蒸留法は鉱石をイオウの沸点以上に加熱してイオウを蒸留採取する方法で，わが国で古くから行なわれている焼き取り製錬法はこれである。最近，焼き取りがまの代わりにれんが炉を使用した連続式のものも採用されている。また，大気汚染防止のうえから重油の低イオウ化が強く求められ，その脱硫による二次製品のイオウが多量に生産され，イオウ工業を圧迫している。

〈用途〉パルプ・二硫化炭素・合成繊維・農薬・染料に使用される。二硫化炭素はさらに化学繊維・セロファンの製造に利用される。そのほか，医薬品，ゴムの加硫，火薬・充填(じゅうてん)剤などにも用いられる。〔中井　弘〕

いおうか【硫黄華】局方では昇華イオウという。粗製イオウを鉄製のレトルト中で熱して沸騰させ，その蒸気を凝縮室に導いて融点以下の低温に保ち固化させたもの。黄色の結晶状粉末で，約70％のα-イオウと無定形イオウとからなる。温泉華(湯の花)の一種であるイオウ華は，温泉水中にとけている硫化水素が空気中の酸素で酸化されたり，イオウ細菌の作用でイオウが遊離沈殿したものである。

いおうこう【硫黄鉱】イオウの鉱石はいわゆるシゼンイオウでイオウそのものである。イオウの鉱床には三つの型がある。①石油鉱床と関係ある岩塩ドームの上のすきまの多い石灰岩中にあるもの(アメリカのテキサス地方)。②石灰岩層中にセッコウ層を伴って層状の鉱床となるもの(イタリアのシチリア島)。③火山作用と関係し，亜硫酸ガス・硫化水素が岩石の中に吹き込みイオウが沈殿したもの，または火口湖などの水中に吹き込み，湖底にイオウが沈殿したもの。日本のイオウ鉱はこの型である。最近は石油の精製過程において，石油中に含まれる有機源のイオウが回収され，イオウ鉱業に与える影響は非常に大きい。〔今井秀喜〕

いおうさいきん【硫黄細菌】イオウやイオウ化合物の酸化還元によって二酸化炭素を同化し生育する細菌の総称。無色と有色のものがある。有色には紅色と緑色とがある。無色イオウ細菌は化学合成により，有色イオウ細菌は光合成によって炭素を同化する。イオウ粒を体内にもつもの，体外につくるもの，孤立して生活するもの，群生するもの，土壌(どじょう)中に生息するもの，水中で生息するものと，多くの種類がある。

いおうじま　【伊王島】　長崎市の南西方にあり，長さ36mの橋によって結ばれている南東方の沖之島とともに西彼杵(にしそのぎ)郡伊王島町を形成する。伊王島町の面積1.86km²(うち伊王島1.09km²)，人口1,770。もとは半農半漁の生活であったが，1941年(昭和16)に開鉱したいまは日鉄鉱業に属する弱粘結原料炭の炭鉱があり，町民の3分の2が炭鉱に関係していたが，1972年に閉山して人口が激減した。カトリック教徒が多い。最高点の遠見岳には，かつて長崎港にはいるオランダ船や唐船(からふね)の見張り所があった。〔浅井得一〕

いおうじま　【硫黄島】　鹿児島県の薩摩(さつま)半島と屋久島の中間にあり，鹿児島郡三島村に属する。面積8.3km²，人口300。活火山の硫黄岳(716m)があり，1964年(昭和39)まではイオウを採掘していたが，いまは中止され，人口が半減した。零細な農漁業が行なわれ，和牛を飼育している。昔は鬼界島といい，この島に流された僧俊寛の墓がある。なお，硫黄列島*の中硫黄島も単に硫黄島とよばれることがある。

いおうせん　【硫黄泉】　⇨温泉

いおうびょう　【萎黄病】　思春期の女子に起こる原因不明の鉄欠乏による貧血。貧血のうちで最も多い。発生機転は，成長や月経などによる鉄欠乏のためで，また年齢的にホルモンの代謝が不安定ということにも関連があると考えられている。顔色が白い，動悸(どうき)・息切れがしやすいなどの症状が現われる。1～2か月以上の鉄剤の服用で全治するが，再発しやすい。➔貧血

いおうれっとう　【硫黄列島】　小笠原(おがさわら)諸島の南西約180kmの海上にある火山列島で，小笠原諸島の一部として東京都に属していたが，第2次世界大戦後はアメリカ軍が施政権を行使し，1968年(昭和43)6月，小笠原諸島とともに返還されて東京都へもどった。火山列島ともいう。北硫黄島・中硫黄島(単に硫黄島ともいう)・南硫黄島の3島からなり，中硫黄島は最も大きく(20.1km²)，平坦(へいたん)な台地状をなし，無人島であったが，1891年(明治24)に日本の領土になり，1904年から北・中硫黄島には定住者ができ，イオウの採取のほか，サトウキビ・デリス球根・コカなどの栽培も行なわれ，人口も一時は1,300に達した。第2次世界大戦末期の1944年に，住民はすべて引き揚げ，1945年2月，アメリカの第3・第4・第5海兵師団が上陸して守備のわが栗林(くりばやし)兵団と激突，双方合わせて30,000の戦死者を出した。第2次世界大戦における最激戦地の一つで，中でも最高点の摺鉢(すりばち)山(167m)の攻防戦は有名である。日本軍約2.1万人のうち，2万人が戦死，そのうち遺体が収容されたのは約5,000体にすぎないといわれる。返還後は小笠原村に属したが，少数の海上自衛隊員とアメリカ軍沿岸警備隊員がいるほかは一般の住民はまだはいっていない。最近になって旧島民は帰島の促進と，強制疎開による損失に対する補償を国や都に要求している。都は帰島が困難な理由として，不発弾の未処理や火山活動の活発化などによる危険をあげている。〔浅井得一〕



硫黄列島　中硫黄島(硫黄島)西南端の摺鉢山から見た南海岸。最近の測量で島が隆起傾向にあり，太平洋戦争当時と比べ，海岸線が大幅に前進しているところが見られる。

イオニア　［Ionia］　小アジアの両海岸および近海の諸島を含む地方。BC800年ごろギリシア本土からギリシア人の一種族イオニア人が移住し，ポリスを形成した。オリエントとの通商路にあたるため経済的に繁栄し，12のポリスを中心にイオニア同盟も結成された。オリエント文化の影響でギリシア本土より早く文化が栄え，特に自然哲学とイオニア式列柱にみられる建築様式は本土にも影響を与えた。その後，リュディアに征服され，次いでペルシアに統一されたが，これをきらってBC500年〈イオニア人の反乱〉が起こり，ペルシア戦争*の発端となった。ペルシア戦争に勝利してからはデロス同盟*に加わり，一時再びペルシアの支配下にはいったが，アレクサンドロス大王*により統一された。紀元前2世紀にはローマの属領となったが，商業は依然として盛んであった。〔高山高雄〕

イオニアは　【イオニア派】　古代ギリシアの植民地であった小アジアのイオニア地方に興ったギリシア最初の哲学学派。この地方は早くからエジプト・バビロニア・アッシリアなどの古代先進文明に接して経済や文化の発達もめざましく，哲学も本土より早く興った。この派を代表するのはイオニア地方のミレトス生まれで〈最初の哲学者〉といわれるタレス*のほか，アナクシマンドロス*・アナクシメネス*，エペソス生まれのヘラクレイトス*などである。これらの人々は自然の〈アルケー(原理・根源)〉を探求したところから，自然哲学者ともよばれている。

タレスは〈水〉を，アナクシマンドロスは〈ト-アペイロン(無限定なもの)〉を，アナクシメネスは〈空気〉を，それぞれ万物の〈アルケー〉と説いた。一方，ヘラクレイトスは〈火〉を〈アルケー〉と説くとともに，〈パンタ-レイ(万物は流転する)〉として運動と生成を重視する独自な思想を展開した。〔本橋正義〕

イオン　［ion］　荷電した原子・分子あるいは原子団・分子団。ファラデー*は電気分解*を行なった際に溶液中に生ずる分解生成物のうちに電極に向かって移動するものがあることを見いだし，ギリシア語の〈行く〉という意味でイオンと名づけた。陰極(カソード)に向かうものを陽イオン(カチオン)，陽極(アノード)へ向かうものを陰イオン(アニオン)という。原子は原子核とこれを取り巻くいくつかの電子からなっており，原子核のもつ陽電気の総量と電子のもつ陰電気の総量が等しく，全体として電気的中性となっている。この原子から電子を取り除くと原子は正に荷電し，取り除いた電子数により1価，2価……の陽イオンとなる。また，原子に電子がつくと原子は負に荷電し，ついた電子数により1価，2価……の陰イオンとなる。また，気体中で放電したり放射線などがあたれば気体分子が正または負の電気をおび，気体のイオンが生成する。〔三輪誠・野宮健司〕

イオンかけいこう　【イオン化傾向】　金属が電子を放出してイオンになろうとする傾向。おもな金属元素のイオン化傾向の序列は次のようである。$K > Ca > Na > Mg > Al > Zn > Cr > Fe_{II} > Cd > Co > Ni > Sn > Pb > Fe_{III} > (H) > Cu > Hg > Ag > Pt > Au$

イオン化傾向の上位の金属を下位の金属のイオンを含む水溶液に入れれば，下位金属を析出して上位金属はイオンとなる。一般的には水素よりイオン化傾向の大きな金属を酸の水溶液の中に入れると，金属はとけ，水素を発生する。水素よりもイオン化傾向の小さい銅・銀などは塩酸・希硫酸などにはとけない。みがいた鉄くぎを硫酸銅溶液に浸すと銅が付着し，酢酸鉛水溶液中に亜鉛粒を糸で結んでつるすと亜鉛はとけこみ，鉛が樹状をなして亜鉛表面に析出付着していわゆる鉛樹ができる。これらはいずれもイオン化傾向の大小から説明できる。このイオン化傾向の序列は酸化還元反応などを解明するのに便利で，一般にイオン化傾向の大きい金属ほど酸化されやすく，したがって還元作用が強い。上記の序列は定性的なものであるが，定量的には，電池の原理を利用し，電圧(標準電極電位)を測定することによって得られる。

イオンかれつ　【イオン化列】　電気化学列ともいう。金属のイオン化傾向*を比較し，その大きさの順に金属元素を並べたもの。この序列は金属の標準電極電位の大きさと関係している。

イオンけつごう　【イオン結合】　化学結合*の一様式。陰陽両イオン間の静電気的引力により形成される結合。共有結合*と異なり方向性はない。イオン結合をつくる化合

物は，陽イオンになりやすい金属原子と陰イオンになりやすい非金属原子，または原子団との組み合わせからなる。しかし，実際には，純粋なイオン結合とみなされる化合物は少なく，多くは部分的な共有結合性をもっている。

イオンけっしょう 【イオン結晶】 陰陽両イオンが静電気的引力によって結合している結晶。ハロゲン化アルカリの結晶は，その典型的な例である。結晶中の各イオンは反対に荷電したイオンに取り囲まれている。中心イオンに最も近くに接しているイオンの数は，一般に結晶を構成する異種イオンの半径比によって決まる。塩化ナトリウム（NaCl）の結晶では，1個のNa^+イオンは6個のCl^-イオンに囲まれ，1個のCl^-イオンは6個のNa^+イオンに囲まれている。イオン結晶は一般にかたく，高融点・高沸点をもつ。多くは電気的に絶縁体であるが，格子(こうし)欠陥などで伝導性をもつものもあり，半導体などに使われている。

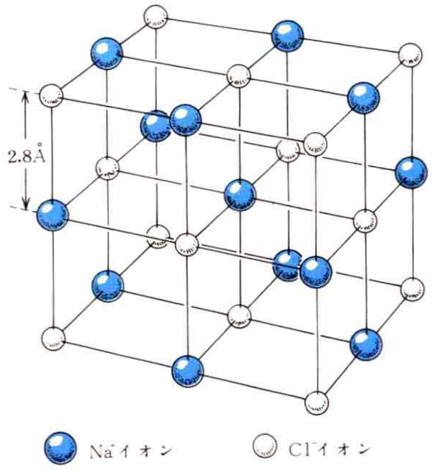
〔三輪誠・清水正幸〕

イオンこうかん 【イオン交換】 溶液中のある陽イオンまたは陰イオンを，異種のそれぞれ陽イオンまたは陰イオンで置き換えること。その働きをもった物質をイオン交換体という。原理的には，たとえば陽イオンX^+を含む溶液に，陽イオンY^+で満されたイオン交換体（A－Y）を加えるとA－YとX^+との間で交換反応が進行し，やがて次式で示す平衡に達する。この結果，溶液中

$$X^+ + A-Y \rightleftarrows Y^+ + A-X$$

のX^+濃度は減少し，その分だけY^+が生じることになる。イオン交換体としてはゼオライト・フッ石・カイリョク石などの無機質交換体と炭質交換体・イオン交換樹脂*などの有機質のものとがあるが，最後のものが今日では最も一般的である。イオン交換は，液中に含まれる微量金属の回収，核分裂生成物からの希土類元素の分別，超ウラン元素の分離・濃縮，純水の製造，海水の真水化ならびに海水からの製塩など，工業的にも学問的にもきわめて広範囲に応用されている。

〔伊藤　卓〕



イオン結晶
塩化ナトリウム結晶の原子配置図

イオンこうかんじゅし 【イオン交換樹脂】 イオン交換*できるイオンをもった置換基を有する不溶性高分子物質の総称。交換できるイオンの種類によりカチオン（陽イオン）交換樹脂とアニオン（陰イオン）交換樹脂とがある。前者はスルホン酸基またはカルボン酸基が，後者はアミノ基類が置換基として導入された三次元網状構造の高分子である。幹となる高分子物質は多くはポリスチレンで，これを不溶性にするために，重合*時にジビニルベンゼンを少量添加して架橋させたものが用いられる。最も一般的な用途は物質に含まれる不純物イオンの除去で，たとえば硬水の軟化，純水の製造などには工業的にも大きな役割を果たしている。また，貴重なイオンの分離回収や化学反応の触媒など，さまざまな用途がある。

なお，イオン交換樹脂を膜状に成型したものはイオン交換膜とよばれ，カチオンまたはアニオンのみを選択的に透過するので，この性質を利用して，最近海水からの食塩の製造に利用されている。〔伊藤　卓〕

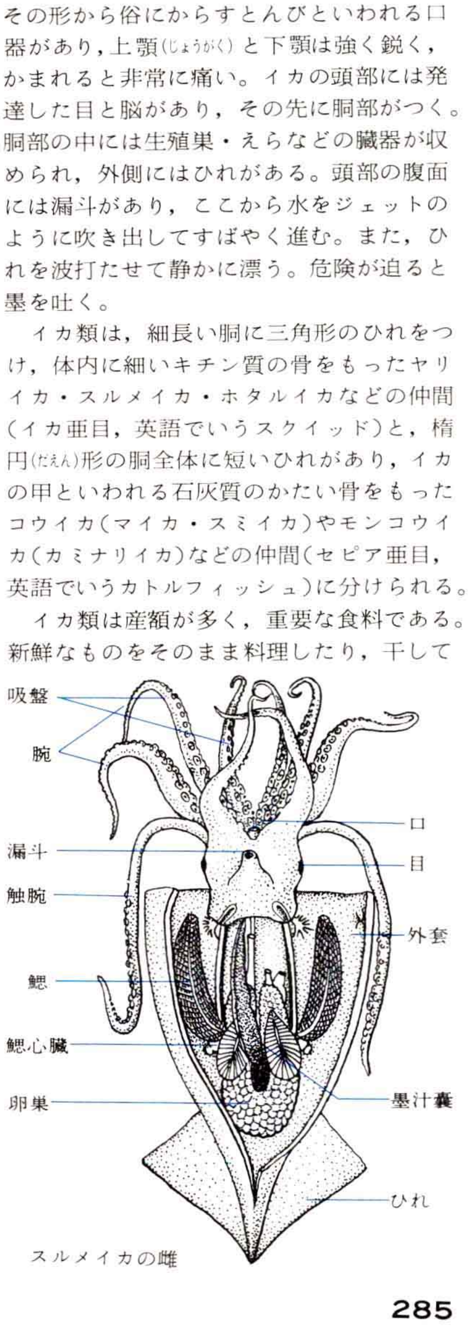
イオンロケット ［ion rocket］ 電気推進ロケットの一種。原子をイオンにし，高圧の電場で高速に加速して噴射させ，その反作用で推進する。イオン化の起こりやすいアルカリ金属セシウムのガスを用い，電場は約1,000Vの電圧でつくる。イオンの速度は毎秒100km以上で，比推力*は10,000秒以上である。噴射量が微小だから推力はきわめて小さいが，長時間噴射させてロケットの速度を毎秒数百キロメートルにすることができる。発電には原子力を用いるから，原子力ロケットの一種でもある。

〔原田三夫〕

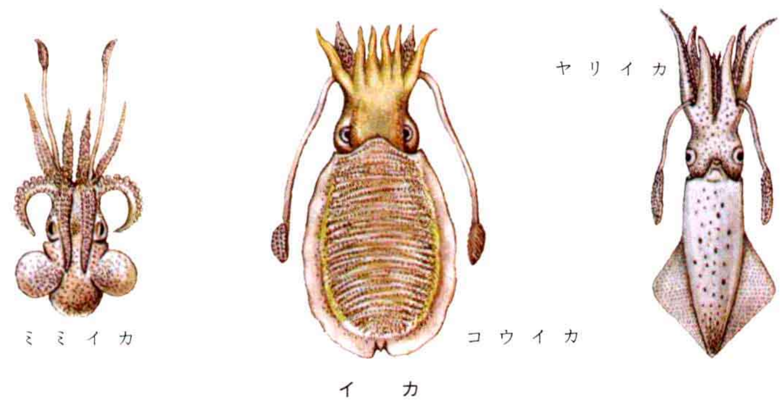
いか 【烏賊】 軟体動物・頭足綱・十腕目の総称。すべての種類が海産である。塩分の少ない海域にはいない。一般には足とよばれている腕が10本あり，そのうち8本はほぼ同長で内側に吸盤がある。他の2本（触腕という）は伸縮が可能で，伸ばすと他の腕よりもずっと長くなり，先のほうは多少広くなってそこに吸盤がある。この触腕によって捕食する。腕に囲まれた中央には，その形から俗にからすとんびといわれる口器があり，上顎(じょうがく)と下顎は強く鋭く，かまれると非常に痛い。イカの頭部には発達した目と脳があり，その先に胴部がつく。胴部の中には生殖巣・えらなどの臓器が収められ，外側にはひれがある。頭部の腹面には漏斗があり，ここから水をジェットのように吹き出してすばやく進む。また，ひれを波打たせて静かに漂う。危険が迫ると墨を吐く。

イカ類は，細長い胴に三角形のひれをつけ，体内に細いキチン質の骨をもったヤリイカ・スルメイカ・ホタルイカなどの仲間（イカ亜目，英語でいうスクイッド）と，楕円(だえん)形の胴全体に短いひれがあり，イカの甲といわれる石灰質のかたい骨をもったコウイカ（マイカ・スミイカ）やモンコウイカ（カミナリイカ）などの仲間（セピア亜目，英語でいうカトルフィッシュ）に分けられる。

イカ類は産額が多く，重要な食料である。新鮮なものをそのまま料理したり，干して



スルメイカの雌



するめにしたり，薫製加工や塩辛などにする。また，コウイカ類の墨は顔料になり，絵の具のセピアに利用され，甲は鳥のえさにされる。産業上では最も重要なものはスルメイカで，ヤリイカ・コウイカ・アオリイカがこれに次ぐ。すし種やさしみには肉が厚くねっとりとしたうまみのあるセピア亜目のイカが適しているが，近海産の産額は少なく，近年は需要のほとんどを西アフリカ産のものでまかなっている。このイカは胴の長さ40～50cmに達し，近海産のモンコウイカに近縁のものである。外洋性のツメイカには触腕につめがある。外洋のダイオウイカは胴長1.8m，全長6mという大物が知られている。まれに捕獲されるソデイカには胴の長さ80cm，重さ19kgという記録がある。最も小さいイカはヒメイカで，胴長15mmにしかならず，北海道以南の内湾のアマモの間などにすむ。ヒメイカの分布は広く，近縁のものを含めると，ボルネオ・オーストラリアにまで達する。ダンゴイカは胴長20mmほどで，ひれが丸くて大きく，子ゾウを思わせる。ミミイカはダンゴイカに似るが少し大形で50mmくらい。ダンゴイカ・ミミイカは発光バクテリアを共生し，生時は発光する。また発光するイカで有名なホタルイカは体の表面の発光器によって光り，富山湾の群遊海面は特別天然記念物に指定されている。〔菅野　徹〕

いか【異化】 物質交代*において複雑な物質を化学的に分解してより簡単な物質にする反応。同化*の対語として用いられる。異化は自由エネルギーの放出を伴うが，このエネルギーを利用して生物は生活活動に必要な種々の仕事を行なう。

イカ［Ica］ ペルー共和国南西部の都市。人口66,000(1966)。市街はイカ川に沿って開け，市周辺は独立前からブドウの産地として知られた。市外はワタの栽培とヒツジの飼育が盛んで，この都市はそれらの集散・加工地として発展している。外港ピスコとは鉄道で結ばれている。

いが【衣蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヒロズコガ科。体色は灰かっ色，翅(はね)を広げた長さは10～15mm。翅には縁毛が発達し，前翅(ぜんし)は灰黄色の地に暗かっ色の斑紋(はんもん)があり，後翅はつやのある淡灰色。幼虫は白色で，頭部のみ淡かっ色，背面には赤かっ色の縦条がある。成虫は毛皮や衣類に産卵し，幼虫はその中で筒状の巣をつくり食害する。熱帯を除く世界各地に広く分布。防除法としては，衣類の保管にパラジクロルベンゼン系の殺虫剤を用いるか，ディルドリンなどをしみこませる防虫加工をするとよい。〔鈴木邦雄〕



イ　ガ

いが【伊賀(国)】 三重県北西部の旧国名。東は伊勢(いせ)(三重県)，南は大和(やまと)(奈良県)，西は大和・山城(京都府)，北は近江(おうみ)(滋賀県)に接する山間の小国。東海道に属す。伊勢の一部であったのを分離独立させたといわれるが年代は不明である。一時伊勢に合わせたが，680年(天武9)再置。阿拝(あえ)・山田・伊賀・名張の4郡に分け，阿拝郡(上野市)に国府を置いた。明治になって阿山・名賀の2郡(いまは名張・上野2市と2郡)。鎌倉時代には大内・山内・首藤(すどう)・平賀・千葉の諸氏，室町時代には千葉・桃井，次いで仁木(にき)氏が守護となったが，戦国時代に仁木氏は衰え，織田氏の臣滝川氏，次いで豊臣(とよとみ)氏の臣筒井氏が支配し，1608年(慶長13)には徳川氏より藤堂高虎(たかとら)に与えられ，子孫世襲して明治維新に至り，安濃津(あのつ)県を経て1872年(明治5)三重県となった。〔黛　弘道〕

いかい【位階】 律令(りつりょう)制で官人の序列を示す制度。位階を与えられてはじめて，それに相当する官職につくことができたので(官位相当制)，位階は律令官人たる必須(ひっす)条件として重要視された。位階制の源流は603年聖徳(しょうとく)太子の制定した冠位十二階の制*にあり，以後数次の改訂を経て大宝令*に至り，冠位をやめて位記を与えることとして位階制は確立した。それによれば親王・内親王は一品(いっぽん)から四品までの4階，諸王は正一位から従五位下までの14階，諸臣は正一位から少初位下(しょうそいのげ)までの30階。一位から三位までは正・従各2階，四位から八位までは正・従に各上・下があって各4階，初位は大少に上下があって4階。このうち五位以上は勅によって授けられるもので，特に重視された。〔黛　弘道〕

いかい【威海】 ウェイハイ　中国，山東省北東端の海港。もとは威海衛といい，明(みん)代初期には倭寇(わこう)防衛のため城塞(じょうさい)が築かれた。清(しん)末に北洋艦隊の根拠地となり，日清戦争で威海衛の戦い*が行なわれた。戦後は一時日本が占領したが，1898年イギリス領となり，1923年中国に返還された。

いがい【貽貝】 軟体動物・二枚貝類。殻長(かくちょう)13cmほどになり，殻表は黒～黒かっ色でつやがある。内面は強い真珠光沢がある。北海道西部から東シナ海の，潮間帯から20mほどの深さの潮通しのよい岩に，足糸でしっかりついている。ときに足糸を更新して多少移動する。肉は色が美しく，美味。ムラサキイガイとよく似るが，殻(から)が厚く，先のほうがワシのくちばしのように曲がっているので区別できる。東海夫人・ヒメガイ・ニタリガイ・カラスガイなどの名もある。



イガイ　ムラサキイガイ

いかいえいのたたかい【威海衛の戦い】 日清(にっしん)戦争の勝敗を決した最後の海戦。1895年(明治28)1～2月，日本軍は丁汝昌(ていじょしょう)の率いる北洋艦隊の基地威海衛(現在の威海*)を攻撃，北洋艦隊は全滅して清軍は降伏し，丁汝昌は自殺した。これにより清国は戦意を失い，まもなく下関(しものせき)条約*が調印された。日本の連合艦隊司令長官は伊東祐亨*(いとうすけゆき)。

いがいけいしょ【猪飼敬所】 (1761～1845) 江戸後期の儒学者。京都の糸商の家に生まれ，手島堵庵*(とあん)に心学を，巌垣龍渓(いわがきりゅうけい)に儒学を学んだ。学風は考証的に古義を明らかにするとともに，経典の主観的解釈にかたよらず，広く諸説を折衷して経典の趣旨を究明した。また実践すること，すなわち〈真知実践〉を学問の本領とした。

いかいよう【胃潰瘍】 胃壁の粘膜下組織が部分的に損傷する疾患。粘膜だけが損傷しているものを糜爛(びらん)という。現在，わが国でみられる胃部疾患のうち最も多い。

〔原因〕次のような説が述べられている。①消化性胃潰瘍といわれるものは胃液の作用しうる範囲にのみみられるので，胃液中の塩酸・ペプシンがなんらかの作用を及ぼして潰瘍をつくるという説。②胃炎*のために糜爛が生じ，それが潰瘍にまで進行するという説。③胃壁の血行障害によって胃粘膜への酸素の供給不足や栄養障害が起こり，そのため組織の損傷が起こるという説。この説は，自律神経が不安定状態にある者は血管の収縮を起こしやすく，このためにストレス潰瘍を起こすという説も含む。④血液内には抗ペプシン作用を有する物質が存在し，これが欠如すると発生するという説。⑤その他に細菌感染説，全身疾患による栄養障害によって起こるという説，内分泌障害によるという説などがある。吻合部(ふんごうぶ)潰瘍やゾリンガー-エリソン症候群では①の説が考えられ，愛酒家にやや多いことから急性胃炎のくり返しに原因があるとして②の説が考えられる。また，ストレスの加わる者にも多いことからは③の説が生まれ，特定の疾患に潰瘍が多く発生することからは⑤の説も考えられる。以上のことから胃潰瘍の原因は単純ではなく，さまざまの原因によって発生するのではないかと考えられる。

〔症状〕患者によってまちまちで一定していないが，心窩部(しんかぶ)痛・心窩部圧痛を

訴えることが多く，背部痛・腰痛が起こることもある。嘔吐(おうと)することもよくあるが，嘔吐によって心窩部痛が軽減することが多い。また，嘔気とともに血液を吐いたり，タール様の便を排出することもある。そのほか舌苔(ぜったい)を示すことも多く，胸やけ・げっぷも多い症状である。しかし，これらの症状もなく，急激に出血したり胃穿孔*(いせんこう)を起こしたりすることが多い。合併症としては大出血・胃穿孔・幽門狭窄(きょうさく)・癌化(がんか)などがある。大出血は突然起こることが多く，吐血・下血があり，ショック状態に陥る。胃穿孔の場合，完全穿孔はまれであるが穿通性潰瘍は多い。幽門狭窄は潰瘍部が治癒(ちゆ)して瘢痕(はんこん)化するために起こる。癌化の問題については，良性の潰瘍からは癌化しないという説と癌化するという説とがあるが，現在でも結論が出されていない。

〔対策〕自覚症状がなくとも胃潰瘍になっていることがあり，30歳以後は定期的に精密検査を受ける必要がある。診断には胃X線検査と胃内視検査がある。この二つは車の両輪のようなもので，どちらを欠いても正しい診断はむずかしく，また癌の発見をも期待するならば，必ず二つの検査を受けるべきである。治療は原則として医師に任すべきであるが，精神的・肉体的安静を保ち，アルコール・たばこ・コーヒーなどを中止し，栄養を十分に摂取するようにしなければならない。これらのことを基礎的条件として医師は薬剤を用いるが，症状や潰瘍の状態によって薬剤も異なる。大部分のものは内科的に管理しうるが，ときには外科的治療も必要である。〔吉田　彰〕

イカオ ⇨国際民間航空機関

いかがく　【医化学】　炭水化物・脂質・タンパク質・核酸・生体色素・無機質・水などの生体を構成している各成分がどのような化学的性質をもっているかを明らかにし，生体内における酸化還元反応・エネルギー代謝・酵素との関連や新しい生化学的意義が見いだされたビタミン・ホルモンなどを研究する学問。物質として理解するとともに，生物全体としてどのように相互に関連しながらその作用を発揮しているかを認識するものといえる。〔平野修助〕

いかがくけんきゅうじょ　【医科学研究所】　感染症・癌(がん)・アレルギーなど，現在問題になっている病気の原因を研究するための研究所で，東京大学に所属している。医科学研究所の前身は1892年(明治25)に創立され，北里柴三郎(しばさぶろう)が初代所長となった大日本私立衛生会付属研究所である。のちに内務省の所属を得て，1916年(大正5)東京大学の付属伝染病研究所となり，主として伝染病の原因や予防・治療に関する学理の応用の研究を行なった。しかし，公衆衛生の向上や抗生物質のあいつぐ発見により伝染病が減少し，医学の研究の方向も変化するにしたがい，1967年(昭和42)現在のように名称が変更された。〔松橋　直〕

いがく　【医学】　病気の予防，健康の保持・増進，あるいは人を精神的・肉体的に不健康な状態や苦痛から回復させるに必要な科学と技術。世界保健機構では，〈The art and science of the prevention and treatment of disease〉と定義され，疾病(しっぺい)の予防と治療を行なう学問といわれる。最終の目的は人類の幸福に役だつという他の科学の目的と同じであるが，特徴的なことは対象が人間ということである。つまり，疾病という一つの現象をみているが，それをもつのは人間であり，どんなに精巧な機械ができ，手術法が進歩したとしても医学に携わる者は，疾病そのものが問題であるかの錯覚に陥ってはならない。

医学の内容は定義にみられるごとく，一つは疾病になった人の回復を図るものが治療医学であり，一般には内科学・外科学・小児科学・産科学・婦人科学・眼科学・耳鼻科学・皮膚科学・泌尿器科学・放射線医学などに分けられ，各器官や疾病の性質によりその研究・治療が行なわれる。また，疾病にかかってからよりも病気にかからない努力が必要であるとの観点に立つものが予防医学であり，衛生学・公衆衛生学が含まれ，治療医学が個人の疾病の治療を扱うのに対して集団社会の病気を扱っている。さらに治療・予防を問わず，これらの学問の基礎となる人体の生理・解剖・生化学，あるいは病理・薬理・細菌など疾病と切り離せない分野の研究も医学にはあり，基礎医学とよばれる。近年ではさらに，病気が回復したということは一般の社会人としての機能が果たせて完全であるという考えのもとに，第三の医学といわれるリハビリテーション*(社会復帰)医学が活発に取り上げられ，心身障害者・脳卒中後遺症患者・結核回復者などに積極的に働きかけられている。

医学の起源は古く，人が地球上に住むようになって以来，各種の創傷・疾病に対して経験的に対処してきた方法を医学の父といわれるギリシアのヒッポクラテス*が科学的色彩をもつ医学として後世に伝えたといわれる。彼は《ヒッポクラテス全集》の中で健康に関して論じている。その疾病に対する考え方は，血液・粘液・黄胆汁(おうたんじゅう)・黒胆汁のバランスの破壊を原因とする体液説を示している。また，ギリシア時代には疾病の原因を空気に求める〈ミアズマ〉説も存在している。ローマ時代には，排水施設に代表されるごとく，予防医学的な面に力が入れられており，病院組織もこの時代につくられた。中世には医学の発展にはみるべきものがない。16～17世紀は，医学の更生期といわれ，それまで用いられていた体液説は取り残され，多くの新発見がなされた時代で，また多くの学説も生まれた。18～19世紀にはさらに種々の科学が互いに融合・発展し，医学においても生態統計学の発展がみられるほか，環境衛生の改善，種痘(しゅとう)法の発見など防疫上に輝かしい跡を残している。現代のように専門分科した近代医学は19世紀に始まり，化学的方法を用いての疾病の解析，消毒法の進歩，免疫学の出現などがある。20世紀に至っては化学療法剤の出現，X線診断・治療法の進歩により不治とされていた疾病がなおるようになっている。したがって，現在では先天性の疾病あるいは癌(がん)などのように，原因の明確でない疾病の予防，あるいは早期発見の手段という予防医学にその力が向けられるようになってくるのは当然であろう。また，身体的疾病にとどまらず，複雑化する社会から生まれる精神的疾患に対しても，社会学的要素を取り入れた研究が要求されている。〔金子義徳〕

いがくかん　【医学館】　漢方医学を教授した江戸幕府の医学校。1765年(明和2)医官多紀元孝(もとたか)が私財をもって，江戸神田佐久間町に設立。1786年(天明6)教育仕法を制定。1791年(寛政3)官立となり，幕府から町屋敷1か所，毎年金200両の寄付を受ける。1806年(文化3)火災により下谷(したや)新橋(あたらしばし)通りに移転。1868年(明治1)種痘館と改称し，医学所*の管轄となった。

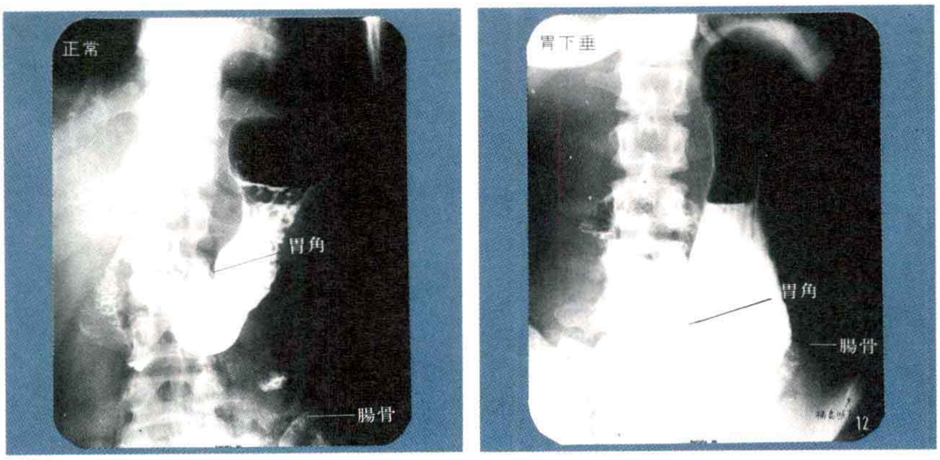
いがくしょ　【医学所】　江戸幕府の西洋医学校。1858年(安政5)伊東玄朴(いとうげんぼく)・大槻(おおつき)俊斎らが神田お玉ケ池に種痘館を設けたのがはじまり。1860年(万延1)幕府の直轄となり，1861年(文久1)西洋医学所と改め，教授・解剖*・種痘の3科を置く。1862年には緒方洪庵(こうあん)を頭取として迎え，1863年医学所と改称。1868年(明治1)明治政府が接収ののち数次の変遷を経て，今日の東京大学医学部となった。

いかくちょう　【胃拡張】　胃の病的拡張をいう。消化不良を訴え，口がかわき，皮膚乾燥がみられ，全身がやせてくる。胃部に拍水音を発することが特徴で，胃運動機能は低下する。原因としては，十二指腸潰瘍(かいよう)・胃潰瘍・胃癌(いがん)などがあるが，胃拡張の症状が現われた際，これらを鑑別することはかなり困難で，外科的手術によらねばならぬことが多い。

いがくのきん　【異学の禁】　⇨寛政異学の禁

いがごえどうちゅうすごろく　【伊賀越道中双六】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。近松半二*・近松加助の合作。荒木又右衛門*(またえもん)の伊賀のあだ討ちに取材した，いわゆる伊賀物の系統に立つ浄瑠璃(じょうるり)で，10段からなる時代物。1783年(天明3)竹本座*初演。きわめて好評であったため歌舞伎(かぶき)にも移された。〈沼津の段〉〈岡崎の段〉は特に名高く，いまもたびたび上演される。

いかすい　【胃下垂】　胃が正常な位置よりも下方にある状態であり，胃角が左右の腸骨を結ぶ線よりも下にある状態をいう。



胃下垂 (左)正常胃 (右)胃下垂(胃角が左右の腸骨を結ぶ線よりも下にある)

胃の位置・形態の異常のうち最も多いものである。大部分は他の内臓の下垂をも伴う。胃下垂そのものはけっして病気ではないが，胃アトニー症*との合併がしばしばみられ，移動性盲腸*を合併するものも少なくない。大部分のものは無症状であるが，症状が出現する場合は，便通不整・心窩部(しんかぶ)(みぞおち)の不快感・膨満感・吐きけ・食欲不振を訴える。ときには心窩部痛・胸やけなどを訴えることもある。やせていることが原因で，肥えていれば胃下垂はない。治療としては，胃下垂は病気ではないと思い込むことがたいせつ。次いでタンパク質を豊富にとり，カロリーも十分に摂取して栄養状態をよくすること。食欲のない場合は1日に5～6回摂食するとよい。また，食後すぐに右を下にして30分間ほど横になって，食物を自動的に胃から排出させるのもよい。過労・睡眠不足を避け，精神の平静を保つこともたいせつである。 〔吉田 彰〕

いかだ 【筏】

[1]木や竹，草の茎などを束にして連結し，水に浮かべて物を運搬したり(これをいかだ船という)，いかだ材そのものの運搬に用いるものである。最も簡単な水上運搬法であるから，船が出現する以前の太古から用いられた。草の茎ではイ(藺)(南アメリカのチチカカ湖)，パピルス(アフリカのチャド湖)などが用いられ，わが国ではこれを葦船(あしぶね)とよんでいる。木材のものは世界各地でみられ，竹のものは台湾や中国四川省などで用いられている。またその規模も大小さまざまで，中国の揚子江などでは非常に大形のいかだを組み，その上に家を建て家畜を飼い，畑までつくってあり，途中の都市で原材の商売を行ないながら，いかだを徐々に解体して下流へと流して行くという珍しいものもある。欧米では大規模のいかだを組み，船でこれを曳航(えいこう)する海洋いかだといわれるものもある。

[2]船舶には救命設備として，救命艇とともにまたはその代わりにいかだが用いられる。救命用のいかだは水密空気箱をもつ木製の固型式のものと，ゴムボートといわれる膨張式のものとがあり，最近では後者がよく用いられるようになった。膨張式では炭酸ガスボンベをもっており，使用時にこれをゴム環内に注入してふくらませ，ボートのようにするものであり，最近のものはほとんど自動膨張型になりつつある。 〔飯島幸人〕



イカナゴ



胃カメラ a. カメラ部 b. 連結部 c. 操作部

いがた 【鋳型】 鋳造*において，溶融金属を注入する型。鋳物砂でつくった鋳型を砂型，金属でつくった鋳型を金型という。精密な鋳物をつくるために，特殊な砂を用いて鋳型をつくることもある。金型は，同一製品を数多くつくる場合に用い，くり返し使用される。鋳型の寸法は，溶融金属の凝固収縮や仕上げ代(しろ)の分だけ製品の寸法より大きくする。

いかなご 【玉筋魚】 硬骨魚類・イカナゴ科。25cmほどになる海産魚。体は細長く，銀白色で背が青い。腹びれを欠く。体の横断面は円に近く，うろこは極端に小さい。日本全国の沿岸にすみ漁獲量も多い。産地近くでは生食されるが，鮮度がすぐに落ちるので，一般には，幼魚はつくだ煮原料に，大きいものは目刺しにされている。東京では，小さいものをコウナゴ，大形のものをメロドとよぶことが多い。

いかほおんせん 【伊香保温泉】 群馬県北群馬郡伊香保町にある温泉。泉温42～52℃。泉質は茶かっ色の塩類性鉄泉で，皮膚病・貧血症・胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。上毛三山の一つ榛名(はるな)山の中腹，標高700mの斜面に階段状に旅館が並び，赤城(あかぎ)山を窓外に望む。徳富芦花*(ろか)の《不如帰(ほととぎす)》の舞台となってから特に有名になった。榛名湖・榛名神社なども近く，観光客の湯治が多い。上越線渋川駅からバスの便がある。

いがぼんち 【伊賀盆地】 ⇨上野盆地

いカメラ 【胃カメラ】 わが国で開発された胃内撮影用の器具。ガストロカメラともいう。カメラ部・連結部・操作部より構成される。カメラ部には，レンズ・フラッシュランプ・フィルムが収められ，連結部は曲げることができ，送気管・フィルム巻き取りリード，電源に通ずるコード，カメラ先端部の俯仰角(ふぎょうかく)をつける針金がはいっている。カメラ部を胃内に挿入(そうにゅう)後，操作部にて空気を送入し，先端部の俯仰をつけつつ部位を変えて盲目撮影する。カラーフィルムを使用し，現像ののち拡大して，所見を読影診断に供する。標準型のほかに，噴門部を中心にとるカメラ(Vb型)，先端部の曲がりを大きくして噴門部・幽門部の撮影をさらに容易としたカメラ(Va型)，俯仰角はつかないが連結部を細くして一時に多くの患者を撮影するに適したカメラ(集団検診用P型)などもある。さらにグラスファイバー*の全反射を利用して，直視下に胃内を観察・撮影も可能なガストロファイバーカメラ(GTF-A)も開発されている。胃カメラの開発により胃疾患診断能力の向上はめざましく，早期胃癌(いがん)の発見能力はこの10年間に非常な進歩を遂げた。➔胃生検 〔後藤義隆〕

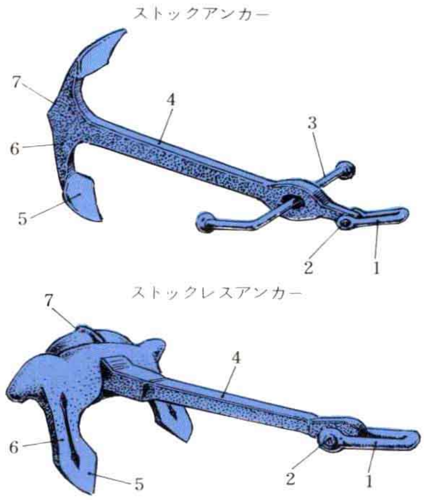
いがもの 【伊賀者】 伊賀衆ともいう。江戸幕府の下級の職名。伊賀(三重県)の郷士(土民兵)を用いた。本能寺の変が起こったとき，上方巡遊中であった徳川家康(いえやす)の危急を服部(はっとり)半蔵*ら伊賀者が救ったことから幕府に仕えたという。小普請方・明屋敷番・御広敷(おひろしき)・山里の各伊賀者があり，江戸城内外のことを勤めた。総計約200名。これとは別に忍びの者として甲賀者*とともに間諜(かんちょう)や斥候などに用いられる者もあった。 〔松尾 涼〕

いがやき 【伊賀焼】 三重県上野市近傍で焼かれた陶器をいう。その開窯は平安末期から鎌倉初期と考えられ，特に桃山期に至って多くの茶陶を焼いている。釉(うわぐすり)に灰釉(はいぐすり)を用い，器面に割れ目をつくり，黒い焦げを表わすなど，不整の美を求め，力強く重厚な作風を示している。

いがらしちから 【五十嵐力】 (1874～1947) 国文学者。山形県米沢(よねざわ)市生まれ。早稲田(わせだ)大学卒業。早稲田大学教授。国



伊賀焼
古伊賀花生《からたち》



1 シャックル　2 シャックルピン
3 錨銲　4 錨柄　5 錨爪
6 錨腕　7 冠頂

いかり

文学の文芸学的研究の先駆者。特に文章様式研究の点で，文章を美しく書く技術を学問的に基礎づけようとした。1909年(明治42)《新文章講話》で連想心理学的方法による創作現象の8原理という独創的見解を打ち出した。著書に《新国文学史》《平安朝文学史》《軍記物語研究》などがある。

いがらしどうほ　【五十嵐道甫】（？～1678）足利義政(あしかがよしまさ)に仕えた蒔絵師(まきえし)五十嵐信斎の孫。寛永年間(1624～1643)加賀の藩主前田利常(としつね)に招かれ，京都から金沢に行き，東山蒔絵の伝統を土台に加賀蒔絵の基礎をつくった。俗名を喜三郎とよぶ養子も2世道甫を名のり，前田家に仕えた。

いかり　【錨・碇】　船・ブイ・浮きドックなどを海上の一定の場所に止めておくため，綱または鎖につないで海底に投ずる重量物。昔は石や木が用いられたが，現在では鋳鉄が多く，形の種類も多い。つめを海底に食い込ませて抵抗を大きくし，把駐力(はちゅうりょく)を強化してある。用途によって船舶用とかブイ係留用などがある。また，形によってストックアンカーとストックレスアンカーに大別され，それぞれ多くの変形がある。大形船では，錨鎖(びょうさ)も大きな重量となり，いかりと錨鎖とあいまって把駐力を増している。〔茂在寅男〕

いかりがせきおんせん　【碇ヶ関温泉】　青森県南津軽郡碇ヶ関村にある温泉。泉温58～60℃。泉質は弱食塩泉で，胃腸病・婦人病・かっけ・リウマチなどにきくといわれる。岩木川の支流平川に沿う閑静な湯場で，江戸時代には関所が置かれて，一般人の入浴は禁じられていた。かつては《瞋(いかり)ノ関》と書かれ，古懸(こがけ)の不動尊が祭られ参詣者(さんけいしゃ)でにぎわった。奥羽本線碇ヶ関駅下車。

いかりそう　【碇草】　双子葉植物・メギ科。山の木陰に自生するが栽培もされる多年草。高さ20cmぐらい。葉は複葉で小葉は左右不同のハート形。4月ごろ茎の先に淡紫色の花を総状につける。花びらのもとが



五十里ダム　五十里湖にかかる国道121号線の海尻橋。国道は栃木・福島県境の山王峠を越えて，田島から会津若松へ出る



イカリソウ

距(内部に蜜腺(みつせん)のある突出物)となり，四つあるので船のいかりに似る。茎葉を干したものを淫羊藿(いんようかく)といい，漢方では補精・強壮薬とする。

いかりダム　【五十里ダム】　栃木県塩谷(しおや)郡藤原町にある重力式ダム。利根(とね)川水系の鬼怒(きぬ)川に1956年(昭和31)完成した。高さ112m，総貯水量5,500万m³で貯水池は五十里湖とよばれる。洪水(こうずい)調節・灌漑(かんがい)・水力発電などを目的として建設省が建設した。このダムを利用した川治第1発電所は最大出力13万kWで，五十里湖にかかる海尻(うみじり)橋(117.25m)は有名。

いかりのぶどう　【怒りの葡萄】　スタインベック*の小説(1939)。オクラホマの農民が，砂あらしと大資本の圧迫によって土地を追われ，職を求めてカリフォルニアに移住するが，そこでもまた苦難に満ちた生活に直面するという，聖書的主題をふまえて，たくましい人間の姿を，ジョード一家を中心に描いた長編。人道主義的な立場から民衆の団結を説き，ニューディール期の古典的作品である。1939年に発表され，ベストセラーになり，ピュリッツァー賞を受賞した。

いかりむし　【錨虫】　甲殻(こうかく)類・橈脚(とうきゃく)亜綱・イカリムシ科。体は細長く棒状で9mmほど，黄緑がかって透明。淡水魚，特にウナギに寄生し，口腔(こうこう)やえらに体を半ば挿入(そうにゅう)して体液を吸い，ついには宿主を殺す。ヨーロッパ・アジアに分布し養魚に大害を与える。頭部がいかり形になっているのでこの名がある。幼生は自由生活をし，交尾ののち雄は死亡，雌だけが寄生生活にはいり，産卵する。

いかりもんが　【錨紋蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・イカリモンガ科。体長12mm内外。翅(はね)を広げた長さは30～35mm。体・翅ともに暗かっ色。前翅にほぼいかり状の朱色の紋がある。日本全土から東アジアに広く分布する。幼虫は緑色で，シダ類を食し，年に2～3回発生する。成虫は林間に多く，昼間に飛び回り，翅をチョウのように上方にたたんで静止するのでしばしばチョウと見誤られる。

いかりをこめてふりかえれ　【怒りをこめて振り返れ】　オズボーン*の戯曲。1956年ロンドンのロイヤルコート劇場で初演，続いてソ連・アメリカ・フランス・日本などで上演され，演劇界に旋風を巻き起こした。下層階級出身で，大学中退後，職を転転と変え，いまはきたない屋根裏べやに住んで菓子屋を営んでいる青年ジミーの，妻への八つ当たりや友人との悪ふざけ・怒号などを通して，単調で無為な生活のくり返しに対するいらだちと，偽りの安逸をむさぼる社会への怒りが描かれている。舞台いっぱいに繰り広げられる主人公の狂躁(きょうそう)と，社会への反抗的な姿勢は，第2次世界大戦後の世代の焦燥感を鋭く表わしていて，〈怒れる若者たち〉の名称を生み出すきっかけをつくった。〔栗原行雄〕

いかる　【桑鳲・斑鳩】　鳥類・アトリ科。東アジア特産の全長23cmほどの小鳥。太く短い黄色のくちばしをもつ太った鳥で，頭・翼・尾は黒く，残りの部分は灰かっ色。森林性で，おもに木の実を食べるが，こん

虫や豆なども食べる。鳴き声が〈月星日〉と聞こえるというところからサンコウチョウ(三光鳥)の名もある。また，マメマワシともいわれる。

いかるが【斑鳩(町)】奈良県生駒(いこま)郡の町。人口25,000。奈良盆地西部にあり，1947年(昭和22)龍田(たつた)・法隆寺・富郷(とみさと)の町村が合併してできた。町名はこの地に多い斑鳩(→イカル)にちなんだ古い地名による。法隆寺*は世界最古の木造建築物として名高く，観光客が絶えることがない。中宮寺*・法起(ほっき)寺*・法輪寺*など，飛鳥(あすか)時代に建立(こんりゅう)された古寺が多い。近時，国道25号線沿いに工場の進出が目だち，宅地化も進んできた。

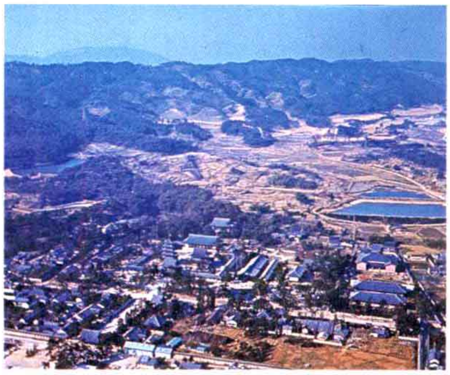
イガルカ［Igarka］ソビエト連邦，西シベリアの北極圏，エニセイ川下流の都市。人口15,000(1959)。カラ海沿岸からはかなり奥にはいるが，ここまで外洋船がさかのぼる。1929年タイガの森林資源開発のために建設された。木材の積み出しを行なうほか，木材コンビナート・漁業コンビナートなどが興っている。

いかるがのみや【斑鳩宮】鵤宮とも書く。601年(推古9)聖徳太子が造営した宮室。現在の奈良県生駒(いこま)郡斑鳩町に所在し，法隆寺東院の地。太子は上宮(うえのみや)から移り622年病死するまでこの宮で居住した。その間摂政としてここから飛鳥(あすか)の都へ通い，新政を進めた。643年(皇極2)太子の子山背大兄王(やましろのおおえのおう)が，蘇我入鹿(そがのいるか)のつかわした巨勢徳太臣(こせのとくだのおみ)・土師娑婆連(はじのさばのむらじ)に攻められて自殺したとき焼失した。739年(天平11)僧行信(ぎょうしん)が太子一族の冥福(めいふく)を祈るため宮跡に伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)，これを上宮王院といったという。1939年(昭和14)法隆寺の修理工事中，東院伝法堂の下から宮跡の柱穴が発掘され遺跡として明らかになった。太子がこの地に宮室を造営したことから法隆寺・中宮寺・法起寺など大寺が創建され，飛鳥文化の一中心となった。

〔高崎徳次〕



イカル



斑鳩町　法隆寺とその背後の丘陵。聖徳太子にゆかりの深い建物や遺跡が多く，民家も古い伝統を残している



衣　冠

いかるちどり【桑鳲千鳥】⇨コチドリ

いかれるわかものたち【怒れる若者たち】1950年代に輩出したイギリスの新進作家たちの総称。この呼称は，レズリー=ポールの小説《怒れる若者》(1951)に由来するが，オズボーン*の戯曲《怒りをこめて振り返れ*》(1956)の登場をきっかけに生まれた。その姿勢を示すものとして，ウェイン*の小説《急いで降りろ*》やウィルソン*の評論集《アウトサイダー*》などが代表的である。それらに共通するのは，周囲のとりすました上品さへの反発，既成社会(エスタブリッシュメント)への順応の拒否，人間疎外をもたらす文明の告発の姿勢である。主人公たちは否定と破壊の情熱につき動かされるが，その衝動はしばしば自分自身にまで向けられることになり，そのため無力感・虚脱感にとらわれ，自嘲(じちょう)・自虐にさいなまれる。〈怒れる若者たち〉とよばれるのは，ほかに，小説家としてはエーミス*・マードック*・ブレイン*・シリトー*など，劇作家ではベーハン*・デラニー*・ピンター*・ウェスカー*・アーデン*など，映画監督のトニー=リチャードソンなど。彼らは一時期〈怒れる若者たち〉として一括されたが，思想的・方法的に一つの流派を形造っていたわけではなく，オズボーンやウェスカーは，やがて年をとるとともに〈新しい社会主義〉による社会的連帯感の回復をめざすようになり，またウィルソンは宗教に向かう姿勢を示しているなど，さまざまに異なる方向へと歩んでいる。

イカロス［Ikaros］ギリシアの伝説上の工匠ダイダロス*の子。彼の父はクレタ王ミノスのためにラビュリントス*(迷宮)をつくったが，王によってその中に父とともに幽閉されてしまう。ダイダロスは翼をつくって脱出を図り，父は無事にシチリア島まで飛んだが，イカロスは父の忠告を忘れて高く飛びすぎたため，太陽の熱で翼のロウがとけ，海に落ちて死んだ。

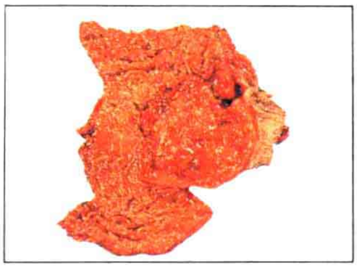
いかわダム【井川ダム】静岡県安倍(あべ)郡井川村にあるわが国初の中空重力式のダム。大井川に1957年(昭和32)に完成した。高さ104 m，総貯水量1億5,000万m³で，水力発電を主要な目的として中部電力が建設した。井川発電所の最大出力は62万kWで，大井川下流の約1,120ヘクタールの灌漑(かんがい)用水にも使用される。

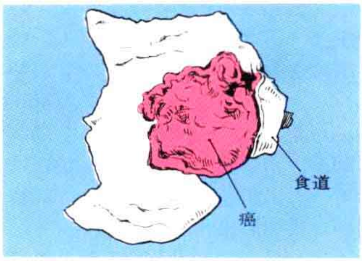
いかん【衣冠】平安時代以後，宮中で用いられた束帯*に次ぐ装束。冠・袍(ほう)・単(ひとえ)・衣(きぬ)・指貫(さしぬき)・下袴(したばかま)・檜扇(ひおうぎ)・帖紙(たとうがみ)・浅沓(あさぐつ)・襪(しとうず)からなる。束帯との著しい相違は，窮屈な表袴・大口袴を指貫と下袴に替えたこと，石帯を略して，特別の場合のほか剣を帯びないことである。冠と袍の色によって位階*を表わした。宿直(とのい)にも着用するので宿直装束ともいわれた。

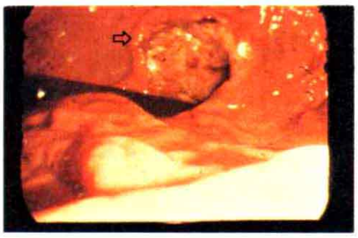
いがん【胃癌】胃の粘膜より発生する悪性新生物。わが国では，その発生頻度(ひんど)は非常に高く，悪性新生物の約半数を胃癌が占めている。胃癌になる年齢は50歳から60歳が最も多く，男子のほうが女子より罹患率(りかんりつ)が高い。最近，胃内視鏡・胃レントゲン検査・胃細胞診・胃生検*が急速な進歩を遂げるとともに，早期発見のための胃集団検診も広く行なわれるようになってきた。

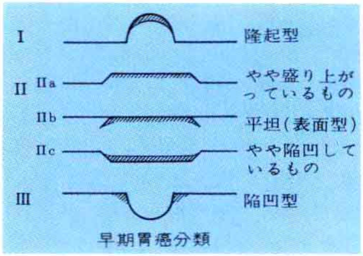
〔病理〕他の癌腫(がんしゅ)と同様原因はいまだ明らかではないが，刺激説・胎生説・先天性迷芽説・細菌感染説・寄生虫説・ウイルス説などの学説がある。山極(やまぎわ)勝三郎*によるイエウサギの耳殻(じかく)のタール癌*をはじめ，発癌物質も多く発見されているが，いまだ実験的段階であり，真の病因は解明されていない。ドイツの病理学者アショフは病理組織学的に，①ポリープ様・乳頭様癌，②髄様癌，③膠様癌(こうようがん)，④硬性癌の四つに分類している。臨床的には，ボールマン分類の第Ｉ型(局限性・孤在性のポリープ様癌)，第II型(平皿(ひらざら)状癌)，第III型(悪性平皿状癌)，第Ⅳ型(広汎(こうはん)性癌)が広く用いられている。しかし近年では，いわゆる早期癌(転移の有無にかかわらず，癌浸潤が粘膜内にとどまる粘膜内癌と粘膜下層までに浸潤が限られているもの)が多く発見されるようになり，図のような早期胃癌分類が広く用いられ，ボールマン分類は進行癌に適用されている。

〔症状〕初発症状は一定でなく，早期癌においては，胃部の疼痛(とうつう)・膨満感・重圧感・食欲不振・嘔吐(おうと)・全身倦怠感(けんたいかん)などを訴えるが，なんら症状のないこともある。進行した状態では，貧血が目









胃　癌　左下は胃ファイバースコープによる撮影(⇨は癌化している部分)

だち，全身が衰えやせる，脱水・腹水貯留などの症状があり，いわゆる悪液質に陥る。

〔診断〕主として胃レントゲン検査・胃内視鏡細胞診・胃生検などによって行なう。その他，胃液検査・糞便(ふんべん)潜血反応などがあり，また血清反応や，KIK反応・松原反応などの特殊診断法もある。胃レントゲン検査は，硫酸バリウムを十分に飲ませたときにできる胃の充満像のみでなく，圧迫法・二重造影法・粘膜法などが導入され，その診断能力は飛躍的に向上している。また内視鏡では，グラスファイバーを使用した胃ファイバースコープの開発により，直視下に病変部を観察・記録が可能となり，早期胃癌発見に大いに役だっている。さらに直視下で胃生検も可能となり，手術前に正確な診断がなされるようになっている。

鑑別を要する疾患として，胃潰瘍(いかいよう)・胃炎・肉腫・良性腫瘍などがあげられる。その他まれな疾患ではあるが，過形成性胃炎・胃蜂巣織炎(いほうそうしきえん)・胃結核・胃梅毒・胃内異物・好酸球浸潤症などもある。

〔合併症〕胃穿孔(いせんこう)・出血・幽門狭窄(きょうさく)・転移などがある。転移は予後判定や治療に際し重要な意味をもつといえる。転移は所属リンパ腺(せん)・網膜・腹膜・肝・左鎖骨上窩(じょうか)リンパ腺・直腸・卵巣・肺・骨・副腎(ふくじん)などに起こり，原発巣が胃であることが不明で，転移病巣の症状により，逆に胃癌が疑われることもしばしばある。

〔治療〕癌の治療は大別して，外科的療法・放射線療法・化学療法の三つである。外科的療法には根治的除去手術と対症的手術とがあり，放射線療法にはレントゲン照射・ラジウム照射やコバルト60などのアイソトープ療法がある。化学療法には制癌剤・抗生物質・ホルモン療法などがあるが，現在の段階では，放射線療法・化学療法ともに単独で根治を望むことは不可能である。胃癌の治療法としては外科的根治剔除術(てきじょじゅつ)が主流であり，そのためにも早期発見が最も重要なことなのである。手術の適応としては，腫瘤(しゅりゅう)に可動性があり，他臓器との癒着(ゆちゃく)がなく，患者の一般状態がよくて転移のない場合である。もちろん，心・肺・肝・腎などに合併症のある場合，転移を認めた場合は，手術は禁忌であり，対症療法・化学療法の適応となる。抗癌剤として特に胃癌に対して有効なものはいまだ発見されておらず，カルチノフィリン・マイトマイシン・トヨマイシン・5FUなどが臨床的に用いられているが，副作用が強いため，使用に際しては細心の注意が必要である。放射線療法も一部では行なわれているが，胃癌の場合には特にすぐれた療法とはいえない。

〔予後〕癌細胞の浸潤が粘膜下層筋層，さらに漿膜(しょうまく)に及ぶほどその予後は悪い。また転移病巣が広範であればあるほどその予後は悪いといえる。転移は血行性・リンパ行性・播種(はしゅ)様の3様で起こるが，そのどれかが証明されれば，外科的治療は行なわないのが目下の原則である。〔後藤義隆〕

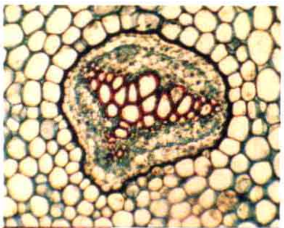
いかんそく【維管束】　植物体内の養分・水分の通路となる組織で，体を保持するのにも役だつ。被子植物・裸子植物・シダ植物では根・茎・葉でよく発達しており，これらの植物を総称して維管束植物ということがある。維管束はふつう道管・仮道管・木部繊維・木部柔組織からなる木部と，篩管(しかん)・伴細胞・篩部繊維・篩部柔組織からなる篩部とに分けられる。

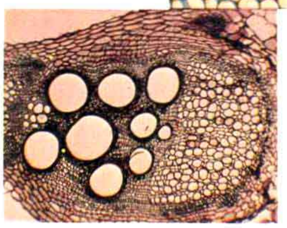
道管・仮道管は根から吸収した水分が上昇する通路で，木部繊維は機械組織をなしている。裸子植物・シダ植物には道管・木部繊維がなく，木部のほとんどは仮道管からなる。篩管は葉でつくられた同化物質の通路となっている。被子植物では篩管に沿って伴細胞があり，その働きを助けている。

維管束は木部と篩部の配列によって次のように分類できる。①並立維管束：木部が内側に，篩部がその外側に並ぶ(裸子植物・被子植物の茎に最も普通)。②両立維管束：複並立維管束ともいい，木部・篩部のいずれか一方が他のものに両側をはさまれる形をいい，普通は木部の両側を篩部がはさんでいる(ナス科・ウリ科など)。③包囲維管束：木部・篩部のいずれか一方が他方を包囲した形のもので，篩部が木部を包囲維管外篩包囲維管束(シダ植物の茎に普通)と，木部が篩部を包囲した外木包囲維管束(単子葉類の地下茎にみられる)がある。④放射維管束：篩部と木部が交互に放射状に配列しているもの(すべての維管束植物の根にみられる)。

維管束は単子葉類の茎では散在していて一定の配列を示さないが，双子葉類・裸子植物では髄のまわりに環状一列に並んでいる。➔中心柱　〔高島文三〕

外篩包囲維管束
（ヒトツバ）





両立維管束
（カボチャ）

維管束

いき【粋】　近世後期の美的理念。いくじ・心意気が原義。〈意気〉の字をあてることもある。気概があって頑迷(がんめい)でなく，諦念(ていねん)があって卑屈でなく，洗練されていてきざでない態度から生まれるなまめかしさをいう。人情本*で，町家の娘が義理や世間体などの制約のもとで恋心を貫くことができず，恋をあきらめていくじと侠気(きょうき)に生きようとするところに発するとされる。上方語の〈粋*(すい)〉に対する江戸語。

いき【閾】　生体に感覚や反応を起こさせうる最小の刺激量を閾あるいは閾値という。一般に刺激効果の場合は刺激閾，感覚に関しては感覚閾，反応については反応閾のように，取り扱う対象によって区別される。また，二つの刺激を弁別するとき，その量的な差があまりに小さいと弁別できず，ある程度以上になってはじめて刺激の差が感じられる。このような場合の最小の刺激差異を弁別閾(識別閾)という。閾(値)は，刺激の強度ばかりでなく持続時間にも左右され，生体の条件によってもたえず狭い範囲で変化するので，厳密に一定してはいない。〔大田垣瑞一郎〕

いき【壱岐(国)】　西海道に属する一国。壱州。玄界灘(げんかいなだ)に浮かぶ島壱岐全域の旧国名。壱岐・石田の2郡からなる。国府は石田郡に置かれた。早く《魏志倭人伝

(ぎしわじんでん)》に〈一支島〉とみえ，大化改新後664年(天智３)防人(さきもり)と烽(とぶひ)を置き，９世紀初頭にも守備兵を置いて新羅(しらぎ)に備えた。1019年(寛仁３)刀伊*(とい)の来寇(らいこう)には国守藤原理忠(まさただ)が戦死している。鎌倉時代には少弐氏が守護となり，元寇(文永・弘安の役*)には大きな被害を受けた。室町時代には志佐氏，次いで波多氏が治めていたが，戦国末期に至り松浦(まつら)氏の支配するところとなり，江戸時代を経て1871年(明治４)平戸県，次いで長崎県に編入された。〔黛　弘道〕

いき【壱岐】 長崎県に属し，九州本土とは壱岐海峡で隔てられている。面積139km^2，人口42,000。長崎県壱岐郡郷ノ浦・勝本・芦辺(あしべ)・石田の４町に分かれ，中心の郷ノ浦町に壱岐支庁がある。玄武岩台地からなる低平な島で，最高点岳ノ辻(たけのつじ)でも213ｍにすぎず，全島がよく開墾され70％が耕地となり，米・麦・サツマイモ・ダイズ・スイカ・ミカンを産する。またイカを主とする沿岸漁業が行なわれている。台地の上の農業集落は〈在〉，在を統合した小字を〈触(ふれ)〉といい，また海岸の漁業集落は〈浦〉と昔からよばれる。壱岐はもとは一国をなして壱州ともいい，いまも国分寺跡が残る。朝鮮に近いので，対馬(つしま)とともに，対外交渉の拠点となり，また元寇(げんこう)(文永・弘安の役*)のときは，まっ先に蒙古兵(もうこへい)の襲来を受けた。江戸時代には平戸の松浦氏の支配下にあり，幕末の藩主松浦詮(あきら)は，壱岐に軍用米をたくわえて，非常のときに備えたりした。多くの史跡と海岸の風光美に恵まれ，観光客も多く，福岡市博多(はかた)・唐津(からつ)・対馬との間に定期航路が開けているほか，南東の石田町に壱岐空港があって，全日空の定期便により，福岡と25分で結ばれている。位置の関係で，長崎県に属するが，福岡県の経済圏にはいっている。南西に大島・長島・原島，北に若宮島などの属島がある。〔浅井得一〕

いきかいきょう【壱岐海峡】 壱岐水道ともいう。長崎県の壱岐と九州本土との間の海峡。玄界灘(げんかいなだ)海域の中では比較的波が穏やかで，古くから朝鮮と日本を結ぶ要路となった。現在は壱岐の郷ノ浦町から佐賀県の呼子(よぶこ)町まで27kmの海峡をつないで唐津(からつ)市，ならびに福岡市に至る定期航路が就航している。南部に馬渡(まだら)島・加唐(かから)島などの島があり，佐賀県に属する。

いきかがくしゅう【閾下学習】 意識されずに進行する学習*・記憶*。注意の焦点外，知覚の閾下，あるいは睡眠中のために，意識に上らない刺激が，記憶・学習の痕跡(こんせき)をつくる。睡眠中のテープレコーダーからくり返し受け入れたものは，意識的経験にはないが，覚醒(かくせい)時の学習速度に影響する。意識されない経験が潜在的記憶を残し，のちに同じ事がらを意識的に経験するとき，その経験を強化する。しかし，意識下の経験は明瞭(めいりょう)性を欠くものであるから，内容を誤る危険もある。〔金子秀彬〕

イキケ [Iquique] チリ共和国北部の港市。人口46,000(1964)。市の背後で産するチリ硝石の輸出港で，その積み出し量は同国最大である。しかし港湾設備は悪く，大形船は沖に停泊し，はしけか帆船を利用している。市街はアタカマ砂漠(さばく)の中にあり，飲料水・工業用水ともにアンデス山麓(さんろく)から240kmの距離を水道で給水している。

いきざい【遺棄罪】 だれかの保護がなければ生存もおぼつかない老人・幼児・不具者・病人を，保護されない状況において，これらの者の生命を危険にさらす犯罪。保護責任のない者(行きずりの通行人など)は，要保護者を積極的に危険な場所に移転したときにだけ処罰されるが(刑法217条，単純遺棄罪)，保護責任のある者(親権者・配偶者・看護婦など)は置き去りの場合も処罰される(刑法218条，加重遺棄罪)。単純遺棄罪は１年以下の懲役，加重遺棄罪は３月以上５年以下の懲役に処せられる。また，遺棄の結果死傷を生じた場合は，重い傷害*の罪の刑で処罰される。〔野口恵三〕

イキシア [*Ixia*] 単子葉植物・アヤメ科の多年草。イキシア類は約25種があり，ほとんどが南アフリカに産する。このうちの数種が園芸品種の原種となっている。花色はだいだい・淡黄・青・桃・赤などがあり，４～５月に開花する。耐寒性が弱く日本では育ちにくいものもある。

いぎす 紅藻(こうそう)植物・イギス科の海藻。本州以北に分布し，潮間帯の岩や他の海藻上にはえる。体は細く，細かく分枝し，高さ50cmに達する。雌雄異株で有性生殖の結果生じた果胞子が四分胞子体となり，四分胞子が配偶体*を生ずる。寒天原藻とされ，またのりにも利用される。同属のアミクサも寒天原藻とされる。



壱　岐　等高線状につくられた段々畑の中に，林(ひゅあし)とよばれる屋敷森に囲まれた散村が展開する

いきそう【遺棄葬】 ⇨葬制

いきち【閾値】 ⇨閾

いきつきじま【生月島】 長崎県の北部，平戸島北西方にあり，北松浦郡に属し，全島が生月町となっている。面積16.5km^2，人口10,000。南北に細長い島で，最高所は玄武岩火山の番岳(286ｍ)である。漁業が盛んで，設備の整った館浦(たてうら)と一部浦の２漁港があり，東シナ海・黄海・日本海方面へアジ・サバ漁に出漁する。江戸時代には，日本最大の捕鯨基地でもあった。農業は棚田(たなだ)の米作と牧牛を主とし，地すべりが激しく，また農村部では，隠れキリシタンが多い。〔浅井得一〕

いきつしまこくていこうえん【壱岐対馬国定公園】 長崎県に属し，壱岐・対馬２島にわたり面積126.25km^2を占める。1968年(昭和43)国定公園に指定された。両島は古くから日本と大陸の文化の中継地としての役割を果たしてきた。壱岐島は玄武岩の噴出した平坦(へいたん)な台地で，沈降海岸による高さ数十メートルの急崖(きゅうがい)と湾や半島の複雑な海岸線には，壱岐八ヶ浦をはじめ景勝地が多い。近海はウニ・スルメイカ・アワビの名産地で，つり場にも恵まれている。島内には原ノ辻(はらのつじ)の弥生(やよい)式遺跡，鬼ノ岩屋の古墳群や国分寺跡などの旧跡がある。対馬島には矢立山(649ｍ)や御岳(490ｍ)などの山があり，浅茅(あそう)湾は規模の大きいリアス式海岸で，深い入り江と岬(みさき)に富み，景勝地となっている。両島とも福岡および唐津との間に航路が通じ，対馬は下関(しものせき)とも船で連絡している。〔木村東一郎〕

いきているかせき【生きている化石】 生きた化石ともいう。太古の地質時代*に生存していた祖先の生物以来，あまり形態を変えずに現在まで系統を保ってきた生物の俗称。ある生物の形態は，その系統が進化するにつれて生活様式とともに変化するのが普通だが，生きている化石の場合はその変化の速さ，つまり進化速度が異常に緩慢であり，一つの種としての寿命が長いといえる。その結果，これらの生物は原始的な構造を維持していると考えられ，太古の生物がもっていた特色を推察するための参考資料になる。進化とともに形態が著しく変化したかどうかは，祖先とみられる生物の化石が得られている場合にのみ，それとの比較から知ることができる。海産無脊椎(むせきつい)動物に多く，シャミセンガイ・チョウジャガイ・カブトガニなど多数が知られる。脊椎動物では，ラブカ・シーラカンス・ハイギョ・ムカシトカゲ・オポッサムなど，植物ではイチョウ・メタセコイアなどが代表的なもの。〔田隅本生〕

イキトス [Iquitos] ペルー共和国北東部の都市。人口10万(1966)。アマゾン川最上流の港市で，この川をさかのぼる汽船の終着点であり，またパンアメリカン航空

の航路も開けている。かつて天然ゴムの汁液(じゅうえき)採集集荷の基地として栄えたが，ゴム採集の不振とともに，今日では林業を中心とし，製材・木造船建造などを行なっている。

いきないぼうえき 【域内貿易】 域外貿易に対する語。域内・域外の基礎をなす地域の意味と範囲に関して，二つの解釈がある。一つは古くから使用されてきたもので，地域とは１国よりも狭い範囲の１国内の地域を意味する。したがって，この場合，その狭い地域(たとえば１地方，１地方自治体等々)を越えて他の地域との間に成立する取引は域外貿易を意味する。二つには特に第２次世界大戦後，地域経済統合の進展とともに盛んに使用されるようになったもので，地域とは，いくつかの国々が結合したより広い範囲をいい，特に国々の経済協力体・経済統合を対象とする。この場合，具体例をあげれば，EEC*(ヨーロッパ経済共同体)・ヨーロッパ自由貿易連合*(EFTA)・ラテンアメリカ自由貿易連合*(LAFTA)等等の経済統合を地域と解し，この統合参加国間の貿易を域内貿易といい，統合外の国々との貿易を域外貿易とよぶ。特に最近問題となっているのは，統合の結果，この意味での域内貿易は自由化されてきたが，域外貿易に対しては差別・保護が依然として存在するために域内貿易が急速に増大し，それに比し域外貿易が相対的に伸び悩む傾向がみられることである。さらに，域外から域内への貿易の転換が生ずるおそれも十分に考えられる。もちろん，経済統合のみに限らず，地域を広く解し，先進国地域・低開発地域とする場合もあれば，また流通通貨・国際決済通貨によるドル地域・スターリング地域等々を地域とする場合もあり，域内・域外貿易はそれぞれの地域概念に応じて成立する。〔深海博明〕

いきにんぎょう 【生人形】 顔かたち・大きさなどを実在の人間のようにつくった人形をいうが，一般的にはむしろ，そうした人形の見世物の名として知られている。活人形とも書く。この名称は，生人形製作の名人ともいわれた松本喜三郎が，1854年(安政１)大阪の難波新地で興業した異国人物の張り子人形の見世物に使ったことがはじまりとされている。喜三郎は翌年江戸に出て，浅草奥山にこの興行をして大当たりをとり，以後は《忠臣蔵》や《鎮西八郎嶋回(しまめぐ)り》《水滸伝(すいこでん)》《久米(くめ)の仙人(せんにん)》などを大好評のうちに興行，明治になって製作興行した《西国三十三箇所観世音霊験記》は彼一代の名作といわれた。彼の協力者に松本平十郎がいるが，喜三郎に次いで名人といわれたのは安本亀八(かめはち)である。亀八もはじめは大阪で興行していたが，その子二代目亀八は東京に移住し，喜三郎のあとを継いで第三代目亀八とともに東京の生人形を主導した。二代目亀八のつくった風俗人形の数体は，東京国立博物館に現存している。その後，生人形の流れはマネキン人形に受け継がれた。〔北村哲郎〕

いきのはかとこ 【伊吉博徳】 生没年不詳。７～８世紀の学者・官人。659年(斉明５)遣唐使に従って入唐(にっとう)し，たまたま唐の百済(くだら)征討にあたったため抑留生活を経て661年帰国。686年(天武15)大津皇子の変に座したがまもなく許され，695年(持統９)遣新羅使(けんしらぎし)となる。のち大宝律令(りつりょう)の選定に功があり，功田10町・功封50戸を賜わった。

いぎのもうしたて 【異議の申し立て】 一般的には，法律上認められている手続きで異議を主張し，自分の正しいことを申し立てること。民事訴訟法および刑事訴訟法上のもののほか，行政法上のものがある。すなわち行政官庁の処分に対し，その不当なことを申し立てて変更または取り消しの再審査を求めることである。また行政官庁が当然なすべきことをなさない(不作為)ことに対して，それを促すことを申し立てることである。不服の申し立て，裁決の具申などともいう。〔内田剛弘〕

いきょう 【胃鏡】 胃粘膜を直接観察する器械の一。ガストロスコープともいう。最近はガラス繊維を用いた胃ファイバースコープなどが進歩・普及したため，わが国ではほとんど使用されていない。1879年非屈曲性の管を用いたものが使用されはじめたが，患者の苦痛が大きく普及しなかった。1932年ウォルフとシンドラーが柔軟で曲げることのできる胃鏡を考案し，胃鏡検査は一大飛躍を遂げた。最近まで使用されていた胃鏡は，前半部は曲げることのできるゴム管，後半部はかたい管からなり，ゴム管中に焦点距離の短い多数のレンズを納め，先端に鏡と光源とを備えた構造のものである。〔吉田 彰〕

いきょうじんかんたい 【異郷人歓待】 自己の属する地域集団以外の他所から来た者(異郷人)を歓迎し，尊重する態度をいう。未開社会では一般に異郷人は災禍をもたらす者，幸福を授ける者という両極の心理をもっている。農耕民はそれを歓待し幸いを招こうとするふうがあり，《常陸風土記(ひたちふどき)》にみえる福慈(ふじ)・筑波(つくば)の物語は訪れる神に宿を拒んだために害をこうむり，宿を提供して幸福を得たことをモチーフとする説話である。なお主人が客をもてなすために妻を提供するふうをさすこともある。〔依田千百子〕

いぎょうどう・なんぎょうどう 【易行道・難行道】 悟り*の境地に至る難・易二つの道。難行道は悟りに至るために困難な宗教的実践を自分の力で積み重ねていくこと，易行道とは仏の慈悲*(他力)に導かれつつ容易な宗教的行為によって悟りに至ろうとする。この区分はナーガールジュナ*(龍樹)に始まる。彼は《十住毘婆沙論(じゅうじゅうびばしゃろん)》の中で，難行道は陸路を歩いて行くように苦しく長い時間と多くの苦労を必要とするが，易行道は水上を船で行くように楽でかつ早く目的地に行けるとしている。この説はのちの浄土思想の展開に大きな影響を与え，特に経典や教理の価値づけに用いられて，難行道は自力・聖道門(しょうどうもん)，易行道は他力・浄土門であるとされている。〔奈良博順〕

いきょくこう 【異極鉱】 亜鉛鉱の一種。亜鉛の含水ケイ酸塩。$Zn_4Si_2O_7(OH)_2 \cdot H_2O$ 斜方晶系。比重3.4～3.5，硬度４～５，劈開*(へきかい)完全，屈折率1.61～1.63。ふつう，白色の透明または半透明で，板状または柱状の結晶として産出する。結晶の端面が上下異なり，それにちなんで名まえがつけられた。この極性の相違のために，結晶を加熱すると上下違った極性に帯電する(→焦電気)。センアエン鉱の分解物として，または石灰岩中に他の亜鉛鉱物とともに産する。〔加藤敏郎〕

イギリス 正しくはグレートブリテン・北アイルランド連合王国(United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)という。

〔概観〕 ヨーロッパ北西部，アイルランド共和国領を除くイギリス諸島を本土とする独立国。わが国では英吉利という文字をあて，単にイギリスまたは英国とよぶ場合が多い。17世紀以来世界の海に雄飛し，諸方に植民地をもって大英帝国といわれた。第１次および第２次世界大戦後は独立運動により植民地を多数失ったが，それでも海外領土は本国面積の12倍に達する。面積24万4,046km²，人口5,582万(1978年推)，首都ロンドン。国旗はいわゆるユニオン－ジャック*である。国花はバラ，国歌《神よ国王（女王)を救いたまえ》はあまねく知られている。

〔地形〕 グレートブリテン島の地形は北西部の高地と南東部の低地に大別できる。北海沿岸のチーズ川河口と西海岸のブリストル湾奥を結ぶ線の東側にあたる低地部は，イギリス低地とよばれてイングランドの主要部を占め，この低地はウェールズの東側を占めるミッドランド低地からさらに西のアイリッシュ海につながっている。ここは高度300ｍ以下でゆるくなだらかな起伏をみせ，中生代と第三紀の硬軟の地層に選択浸食が働いたケスタ*をつくる。イギリス高地はスコットランド高地・ペニン山脈・湖沼地方・ウェールズ・コーンウォール半島などを含み，高度400～900ｍ程度の低平な丘陵と山地からなり，最高峰ベンネビス山でも1,343ｍにすぎない。片麻岩・結晶片岩・砂岩・石灰岩・カコウ岩などからなり，フィヨルドや氷食谷などの氷河地形が見られる。低地イギリスと高地イギリスの境界付近には古生代石炭紀の良質の石炭層が広く分布している。地質構造は地形の単純なのに比べて複雑である。アイルランド・ウェ



イギリス

ールズの大部分とスコットランド高地はカレドニア山系の一部でおもに片麻岩からなり，古生代シルリア紀・デボン紀に生じた褶曲(しゅうきょく)山地である。アイルランド南部・ウェールズ南部・コーンウォール半島は古生代末期に生じた褶曲山地でヘルシニア山系の一部をなし，グレート-ブリテン島の背骨にあたるペニン山脈は古生代の地層からなり，背斜構造を示している。またカレドニア山系はノルウェーに，ヘルシニア山系はフランスのブルターニュ半島・中央山地につながるもので，イギリス諸島は本来ヨーロッパ大陸の一部であって洪積世(こうせきせい)の最後の氷期にはまだ大陸とつながっていたと考えられている。

〔気候・生物〕西岸海洋性気候で，降雨は1年じゅう平均しており，明らかな乾季がない。この降雨は西方の大西洋気団がもたらすもので，降水量は西方に多く，また高度とともに増加する。スコットランド西部の高地では年2,500mmの降水量があるが，東岸では625mmになり，イングランドでも西部の山地では2,000～3,500mmであるが東岸では625mmに減ずる。また，比較的高緯度（北緯50°～60°）に位置するのに気温が比較的穏やかなのも，暖流の北大西洋海流と偏西風の影響である。1月の平均気温は南部イングランドで6℃，東部イングランドでは4℃であり，また7月の平均気温は南西イングランドでは17℃で最も高く，最低値を示すのは北西スコットランドの13℃である。

かつてはカシ・トネリコ・ブナなどの広葉樹林や混合林でおおわれていたが，森林は農牧業の進展と薪炭(しんたん)用に伐採されて，今日では南西イングランドの砂礫地(されきち)に荒野や針葉樹林として残っているほかはほとんど姿を消してしまった。しかし，温暖な気温のため緑の草地とヒースなどのはえる荒地でおおわれている。

〔住民と言語・宗教〕イギリス諸島の原住民であるケルト人はインド-ヨーロッパ人の一種族で，イングランドに住んだブリトン人とスコットランドやウェールズに住んだゲール人に二大別される。5，6世紀，ゲルマン系のアングロ-サクソン人が大陸から渡来し先住のブリトン人を駆逐し，イギリス諸島を支配した。スコットランド人・ウェールズ人・アイルランド人の対立関係は，このときから発している。英語はアングロ-サクソン語の系統を引くものであるが，11世紀にフランスのノルマンジー地方から移住したノルマン人の用いるフランス語がこれに融合したものである。先住民のケルト語・ウェールズ語・アイルランド語は英語に圧迫されてしだいに用いる人が少なくなり，コーンウォール語は18世紀末に死滅した。キリスト教は紀元前1世紀から約400年間続いたローマ人の占領時代に伝えられたが，アングロ-サクソン人の侵入によって一時駆逐された。6世紀末にローマ教会から派遣されたアウグスチヌスがカンタベリー教会を建て，ローマ-カトリックは8世紀末にはイギリス諸島に広まった。15世紀の末にチューダー朝のヘンリー7世が王権

を伸張し，いわゆる絶対主義の基礎を築いたあと，1534年ヘンリー８世はローマ教会と分離してイギリス国教会*を開いた。これは国王を宗教上の首長としてローマ法王から独立させたもので，この宗教上の激動は17世紀のピューリタン革命*まで続いた。今日のイギリスではイギリス国教会(聖公会)に属する人が大部分で，約2,400万人を数える。カンタベリー・ヨークの二大僧正管区の下に43の僧正管区があり，その下が15,000の教区に分かれている。その他の宗派では，ローマ-カトリックを信奉する者502万，スコットランド国教会(長老派)に属する者128万，メソジスト教会93万，バプテスト教会31万などがある。

人口は5,582万人，人口密度は１km² あたり229で，ほとんどがイングランドに集中している。人口増加が著しくなったのは1750～1880年の産業革命時代のことであり，この間急速にイギリスの人口は約800万人から３倍の2,400万人になったといわれる。増加の傾向はその後も続き，1880～1930年に人口は再び倍増したが，出生率の低下によって増加率は下向しはじめ，1930年には3,700万人にとどまった。その後の増加率はきわめて小さく，出生率と死亡率はほとんど等しくなってきている。しかし第２次世界大戦後には出生率は再び高くなった。スコットランド・ウェールズ・北アイルランドでも同様の傾向があったが，ここではイングランドへの移動と都市部への移動が大きかった。また，海外移住は19世紀以来アメリカ合衆国とカナダに向けて多くみられ，今日ではオーストラリアやニュージーランドへの移住者が増加し，年々15万人を数える。その一方では属領や旧属領，特に西インド諸島からの有色人種の流入が多く，社会問題となりつつある。

人口増加につれて都市の数とその膨張が急激に進行した。今日では全人口の80％が都市人口であり，人口50,000以上の都市に居住するものは全人口の57％を占める。これらの都市は海岸・炭鉱地帯・ミッドランドに多く分布し，コナーベーションとよばれる都市域の連続現象はタイン川流域・クライド川流域・マージー川流域や西部ミッドランド・南西ランカシャー・西部ヨークシャー・ノッチンガム・南ウェールズ・ミドルスバラなどにみられる。ロンドン盆地には1,075万人の人口が集まり，グレーター-ロンドンは一大コナーベーションでその人口は817万人，その周辺にある七つの都市が55万7,000人，さらにその外側にある八つの都市が57万2,000人，そしてさらに55万9,000人の収容を目標にした八つのニュータウンが建設されている。ニュータウンは巨大都市の人口緩和の方策でもあるが，また職住接近の一つの理想都市あるいは田園都市計画としてロンドン周辺に建設が始まったが，バーミンガム・リバプール・グラスゴーの



イギリス　テムズ河畔の国会議事堂。後期ゴシック式の建物で1860年に完成した。右手に有名な時計塔〈ビッグ-ベン〉が見える。その右に見える橋はウェストミンスター橋

周辺にもしだいに波及するとともに，アメリカ・オランダ・ドイツ・フランスなどに広がり，今では世界各地に普及しつつある。

【産業・貿易】産業革命を世界で最も早く経過し，19世紀から20世紀初頭にかけては世界の工業生産の半ばを占める情勢であった。しかし，第１次世界大戦後のヨーロッパ諸国の進出やアメリカ合衆国の成長と，第２次世界大戦後の植民地や属領の減少は，経済的立場を苦しいものにした。かつての自由貿易制度は保護貿易制度に移り，第２次世界大戦後は多くの基幹産業を国営化(1945～1951年の間)するまでになった。それでもなお国際収支は悪化し，経済成長率は平均３％と低く，国際通貨としてのポンドは不安定な状態を続けている。国民総生産額は265億ポンドで資本主義国第５位，工業と貿易でのかつての王座は失われたが，高い所得水準や完備された社会保障制度に一流国としての内容を認めることができる。

主産業は工業で，その産額は国民総生産の35％(1965)，その雇用人口は38.2％(1965)を占める。その基礎をつくったものは石炭と鉄を中心とする地下資源の存在である。石炭はリーズからノッチンガムに至るペニン山脈の東麓(とうろく)に沿う地帯をはじめ，デュラム・ノーザンバーランド・南ウェールズ・ミッドランド西部・ランカシャー・カムバーランド・スコットランド地峡部などに埋蔵されている。鉄鉱石はオックスフォードシャーからリンコルンシャーに至るジュラ紀層中に見いだされるものが中心である。石炭の埋蔵量は1,700億t，鉄鉱石は埋蔵量23億tとされている。18世紀から19世紀にかけて製鉄業が発達したのは，比較的貧鉱であるにもかかわらず，鉄鉱石が海岸の石炭産地に産出したためだとされている。輸送費の大きい石炭が多量にしかも運河や港湾の近くに存在したことが，ニューカッスルとカージフさらにはバーミンガムやマンチェスターを石炭産業の中心とし，イギリスの工業化をささえた。かくして工業製品を輸出し，食糧と原料を輸入するという産業の基本構造を築いた。

しかしようやく炭田も老朽化して，1913年の３億tの出炭から1966年の１億7,000万tに生産は落ちた。鉄鉱石は1966年には1,400万tを産出し，1,300万tを輸入に仰ぐようになり，製鉄業の中心地はウェールズの南岸，イングランドの北東岸やリンコルンシャー・シェフィールド・ランカシャーに位置することになった。

ほかに重工業として自動車工業はミッドランドとロンドン周辺に，造船業はクライド川河口のグラスゴー，イングランド北東海岸の諸地，マージー川河口のリバプール，イングランド西岸のバローなどが中心になっている。機械工業は炭田の工業都市を中心として各地に散在し，化学工業はイングランド南部のバーミンガムを中心とした地域，ランカシャー・ヨークシャー・ミッドランドに広がる。

繊維工業は19世紀には中心産業で綿製品は総輸出額の３分の１を占めた。しかし，各国に繊維工業が成長して輸入を制限したために打撃を受けた。今日綿工業はランカシャーに中心があり，リバプールが原料輸入港である。羊毛工業は世界第１で，中世以来の伝統をもつヨークシャーのリーズが中心で，スコットランドやイングランド西部も高級な織物を産出する。

農業は生産部門に占める重要性は失われつつあり，政府はその維持振興をはかり機械化の促進に努めている。農業従事者は全労働人口の3.5％にすぎず，その生産額は需要をはるかに下回った。農産物の大量輸入は国際収支悪化の一因となるので，政府は生産技術の改善，農業の近代化，農産物価格の支持に努めた結果，1957年には農業生産が戦前の水準から60％上昇し，食糧の



イ ギ リ ス　ウィンザー城。ロンドン西方約30kmのテムズ河畔にあり，ウィリアム１世以来の古い城。いまもイギリス王室の居城として使われている



スコットランド西岸の海沿いのヒツジの牧場。北大西洋の灰色の海は霧深く，船もかすんで見える(イオナ島の風景)

輸入も２分の１にまで減じ，さらに1966年には1957年当時に比して生産額で33％上昇した。しかし農業問題は依然として大きな課題で，EEC*加盟への希望をはばむ一因になっている。全農地面積は2,300万ヘクタール，そのうち耕地は440万ヘクタール,森林140万ヘクタールであとは牧草地である。農家数は48万，その60％以上が経営面積50エーカー以下で，また40％は兼業農家である。1965年の生産額約18億5,000万ポンドのうち，畜産物は68.4％を占めた。牧畜は農業の最重要部門で,3,000万頭のヒツジはおもに西部および北部の山地で飼育され,120万頭のウシは山地で飼われるが，肉牛はミッドランドや南部の牧草豊富な地方に集中し，養豚はヨークシャーが盛んである。農作物はカラスムギ・ジャガイモ・小麦・大麦・テンサイなどで，園芸・蔬菜(そさい)農業はロンドン・ランカシャーの周辺に盛んである。水産業は北海のドッガーバンク*でニシン・サケ・タラが漁獲され，スコットランドの経済では漁業，特にタラ漁業が大きな意義をもっている。全漁獲高は1966年に90万ｔ,5,800万ポンド,そのうちタラは金額で43％を占めている。漁港で名高いのはアバジーン・グラントン(スコットランド)・ハル(イングランド)・シェトランド島などである。

19世紀には工業・商業・運輸・銀行・海外投資などで世界の経済をリードしていたが，第１次世界大戦と第２次世界大戦を経過して経済状態は諸外国の進出によって侵食され，昔日のおもかげを失ってきた。１人あたり国民所得はアメリカ合衆国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・スウェーデン・スイスよりも低く11位である。世界貿易は，原料の５分の１を輸入し，工業製品の７分の１を輸出している。主要輸出品は航空機・自動車・電気機械・化学工業製品・繊維製品および機械類である。19世紀末期には工業製品の輸出で世界の33％を占めたが，1913年には30％，1929年には22％，1937年には21％に落ち，1950年には25％まで回復したが，1966年には13％まで落ちた。物価の上昇とインフレーションを抑制することが大きな課題で，国際収支の危機を乗り越えるために1967年にはポンドの切り下げを断行せざるをえなかった。

〔交通〕鉄道の母国といわれ，総延長３万1,912km,電化されている部分は2,224km,鉄道密度は100km²あたり14kmで，これはベルギーに次ぎ世界第２位である。しかし施設の老化と自動車の発達により経営は苦しく，1947年主要鉄道が国有になった。都市の路面電車も1954年ロンドンから姿を消し，この傾向は全国に広がっている。ただしロンドンの地下鉄と近郊鉄道は自動車の発達と道路の混雑によってかえって発展をみつつある。ロンドンの地下鉄は総延長346kmに及び四通八達の観がある。

道路はパブリック-ハイウエーの総延長約32万2,000km(1967)，100％舗装であるが，道路網の発達という点では必ずしも進んでいない。公路延長のうち,幹線道路は約15,000km(1967)にすぎず，高速自動車道については約720km(1967)にとどまり,ドイツに比してもかなり遅れている。1955年以来道路建設案が進められており，1970年には16,000kmの高速自動車道の建設を目標にしているが，実際に完成するのはその７割ぐらいとみられている。現在の高速道はロンドンからヨークシャー・南ウェールズ・ドーバーへ向かう３本と，バーミンガムからブリストル・カーリイルに向かう２本，ランカシャーとヨークシャーを結ぶものがある。なおイギリス～フランス間を海峡トンネルか架橋で結ぶ計画が進められている。

海運業は世界第１の座を18世紀以来保ち続けてきたが，第２次世界大戦後にその席をアメリカ合衆国に譲った。船舶保有量は19世紀末には世界の約半分を占め，第２次世界大戦前はなお３分の１を占めたが，今日では2,150万tで世界の14％，造船量も日本に追い越されて第２位になった。主要貿易港はロンドン・サザンプトン・リバプールで，そのうち最大のロンドン港の外国貿易は2,200万ｔに達する。サザンプトンの外国貿易は1,400万ｔであるが,ここは客船の港としても重要である。

航空路は1930年代から国内定期航空が始まり，第２次世界大戦後民間航空が急増した。1963年には総飛行距離1,350km,乗客725万人そのうち400万人は国外便の乗客であった。国内航空網はロンドン・バーミンガム・マンチェスター・リバプール・ベルファスト・グラスゴー・エジンバラ・アバジーンなども互いに結んでいる。ロンドンのほかマンチェスター・バーミンガムもヨーロッパ諸国との外国便が直接発着する。

〔文化・社会〕イギリス人の生活と考え方を特徴づけるものは伝統を重んじることである。保守・堅実とともに現実的であり，合理的であることが特質である。17世紀のフランシス-ベーコン,18世紀のロック，19世紀のベンサム，20世紀のラッセルなどに代表されるイギリス思想家の一般的特徴は経験論的・自然主義的・個人主義的・実践哲学的などということばでその傾向が示されている。ベンサムのいわゆる功利主義哲学とよばれるものは，結局最大多数者に最大量の幸福を保証する政治組織を求めるものであるが，これは科学的知識による社会の進歩への信頼に裏打ちされている。観察と実験を強調したベーコンは中世のスコラ哲学を脱却するものであるが,これは神秘的・観念的でないイギリス人の考え方を代表し,またそれをささえるものだということができる。産業革命と資本主義の発達を先進者として経験し，絶対主義を打ち破ったイギリス人は，そこから宗教・経済・政治上の自由主義を確立し，同時に政治・経済において国家社会の統制・干渉を少なくし，個人の利益追求を自由に放任することを主張する個人主義と同時に，人間が権利において平等であるとする民主主義を生んだ。イギリス人は近代におけるこれらの主義を最も早く確立し，それを根強く育ててきた。その一方では彼らの生活はきわめて保守的・現実的・常識的である。お茶と食事の時間と形式が一定していることや，山高帽とステッキという古い形式を捨てようとしないオフィス街の人々や，一般に古いものをみだりに変えないことに誇りをもつ風習は随所にみられる。

科学におけるイギリス人の寄与もまた開拓的である。ワットの蒸気機関や種痘(しゅとう)のジェンナーやベッセマー鋼のベッセマーのように技術の開発に関連した人々だけでなく，引力の法則のニュートンや進化論のダーウィンのように画期的な世界観の支柱を打ち立てた人々をはじめとして，科学の各分野に先駆的な業績を無数に残してきている。それにもかかわらず，イギリスでは19世紀以来工業教育に重点が置かれ科学教育はあまりかえりみられなかった。大学

ではなしに，地方にアマチュアの科学に関する協会が数多く設立され，そこで科学が実質的に推進されたことは，イギリス人の自然主義的気質と日常的・経験的である習慣と資質を物語るものである。

　イギリスは立憲政治・議会制度を早くから確立した民主主義国家であるが，王室を頂点とし，貴族を含む上流階級（ジェントルマン），中流階級，下流階級と階層の区別が厳然と維持されている。それぞれの階層には多くのクラブがあって，会員制度が堅く守られ階層間の移動を困難にしている。〈パブ〉とよばれる公衆酒場ですら，階層に従って別々の入り口が設けられていることさえある。上流に属するのは公・侯・伯・子・男の爵位をもつ世襲の貴族とサーとよばれる准男爵と騎士，それにジェントリーとよばれる大地主が含まれる。中流階級に属するのはジェントリーに次ぐ地主のヨーマンと都市に在住する資産と名誉をもつ人々で，その上層には教授・医師・法律家・芸術家・役人などがいる。下流階級は一般に労働者とよばれる人々である。社交だけでなく教育にも階級の別があり，上流と中流の一部は私立学校に，その他は公立学校にはいる。イートン・ハロー・ウィンチェスターなどで中等教育を受け，オックスフォード・ケンブリッジ大学にはいるのがエリートコースである。

　労働者は農業5％弱，鉱工業約40％であるが，失業率は1％程度で完全雇用がほぼ実現されており，社会保障制度が進んでいる。20世紀の初めから打ち出されたこれらの制度は第2次世界大戦後，所得保障制度と医療保障制度の完備となって現われ，〈ゆりかごから墓場まで〉の社会保障制度の実現となった。　〔野間三郎〕

〔歴史〕〈先史時代〉 先史時代のイギリスについては，わからない点が多い。約5,000年まえ，グレートブリテン島にはじめて人類が住んだが，やがて氷河が島をおおうとこの地を去った。新石器時代には地中海系の民族が住み，農耕・牧畜を営んだ。青銅器時代の末期，鉄器を用いるケルト人が東南低地地方に侵入し，先住民を征服してアイルランドにまで進んだ。ケルト人は大きく二つに分けられる。BC250年以前に侵入した種族はゲール人とよばれ，北スコットランド・アイルランドに住んで牧畜を主とし，農耕をも営んだ。BC250年以後に侵入した種族はブリトン人とよばれ，東部低地域に住んでおもに農耕を営んだ。

〈ローマ時代〉 BC55年とBC54年の2度，当時ローマ帝国の属州ガリアの総督だったカエサルは，ブリトン人を撃つために侵攻した。しかし，ローマのブリテン征服が本格的に行なわれたのはAD43年のクラウディウス帝の遠征以後で，80年代にはアグリコラが現在のスコットランドにまで兵を進めた。また，ハドリアヌス帝はタイン川からソルウェー湾に至るグレート-ブリテン島を横断する長城を築いて要所に軍団を配し，以後約4世紀の間ローマの属州ブリタニアとして支配した。



イギリス ローマのブリタニア支配を維持した約120kmに及ぶハドリアヌスの長城

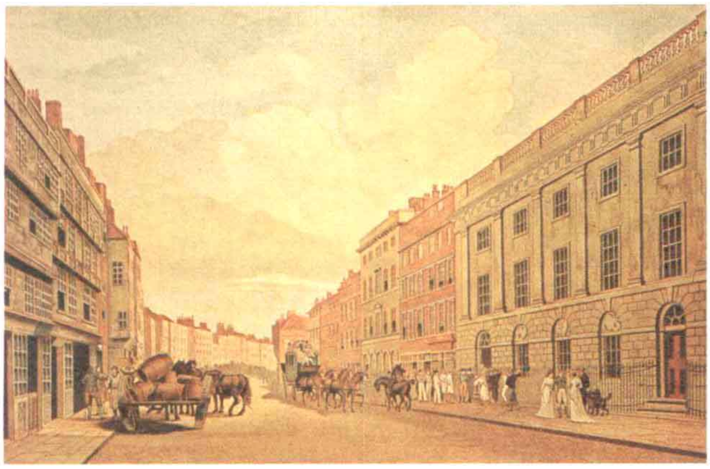
　4世紀半ば，大陸ではゲルマン民族の移動が活発になり，特にゴート人がローマに侵入したため，ブリタニアのローマ軍団は大陸にもどり，430年には完全に撤退し，代わって3世紀末から侵入していたゲルマン民族の一派アングロ-サクソン人がこの島の新たな支配者となった。

〈七王国時代〉 アングロ-サクソン人は先住のケルト人を西部に追いやり，肥沃(ひよく)な東南低地地方に住んでいたが，6世紀末から8世紀にかけて七王国（ケント・エセックス・サセックス・イーストアングリア・マーシア・ウェセックス・ノーサンブリア）が分立し，互いに覇(は)を競った。しかし，8世紀末から北方デーン人（ノルマン人）のグレートブリテン島東部への侵入がたび重なり，一部地域はその支配下に落ちたため，その対抗上ウェセックス王エグバート*を中心に七王国は統一の方向に向かい，825年南イングランドに統一王国を形成した。エグバートの孫アルフレッド大王は878年エディントンの戦いでデーン人を敗ったが，彼らを全面的に撃退することはできず，ウェセックスへの不侵入を条件に北東部デーンロー地方の占拠を認めた。しかし，その後デーン人の侵入は組織的に行なわれ，1016年にはデーン人のクヌート1世がイングランドを支配し，デンマーク・ノルウェー・スウェーデンの一部を合わせる海上帝国を築いた。彼は七王国時代にカンタベリーの聖アウグスチヌスの布教によって広まっていたキリスト教教会を保護した。しかし彼の死後，王権はふるわず，エドワード（懺悔王(ざんげおう)）が亡命地ノルマンジーからもどって，再びアングロ-サクソンの王家が復活した。

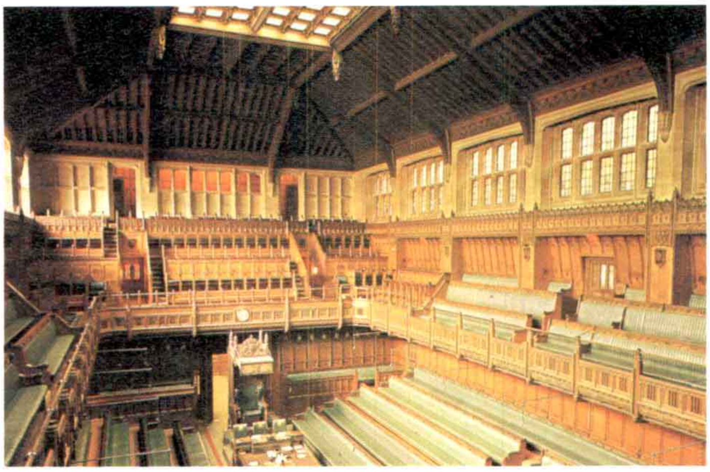
〈ノルマン征服〉 1066年，エドワードが没して義弟ハロルド2世が王位についたが，ノルマンジー公ギョームが王位継承権を主張してイングランドに侵入し，ヘースチングスの戦いでハロルドを敗死させてウィリアム1世（征服王，在位1066～1087）を名のった。ここに約100年にわたるノルマン朝*が開かれた。

　彼はアングロ-サクソン人の土地を没収して部下に与え，〈ドムズデー-ブック*〉をつくって支配関係と課税を明確にした。また，巡回裁判制度を設けて諸侯の力をおさえ，中央集権的封建制を確立した。彼の子ヘンリー1世（在位1100～1135）が没すると，一時内乱状態が続いたが，1154年ヘンリー1世の孫ヘンリー2世（在位1154～1189）が王位につき，プランタジネット朝*を開いた。ヘンリー2世はイングランドを領するとともに，父母や妻の関係でフランス西半部をも領有し，その豊かな財力を背景にウェールズ・スコットランドを征服，さらにアイルランド東南部をも手中に収めた。彼は同時に裁判権を諸侯の手から回収して国王の司法権を強化し，また傭兵(ようへい)制などを整えて強力な王権を確立した。彼のあと，リチャード1世を経て失地王ジョン（在位1199～1216）が即位した。ジョンは大陸の戦争に介入してフランスに敗れ，大陸領ノルマンジー・ツーレーヌ・アンジューを失った。これに加えて，戦費として重税を課したため，1215年諸侯は王にマグナ-カルタ*を承認させて，王権をきびしく制限した。やがて1265年の身分制議会の召集，1295年の模範議会ではじめて都市代表も召集され，他国に先んじて議会制度の基礎を固めていった。1339年，フランスとの百年戦争*が始まるとともに，国内にペストが流行して全人口の約25％を失い，農民・都市民が地方の治安判事を襲い，ワット-タイラーの乱*などの農民一揆(いっき)が発生した。リチャード2世（在位1377～1399）はこれらの農民一揆をおさえたが，賦役の廃止や地代の引き下げをもたらしたために諸侯の反感を買い，退位した。次いでエドワード3世の第4子ヘンリー4世（在位1399～1413）が王位について，ランカスター朝*を開いた。ヘンリー4世・同5世は百年戦争を有利に戦ったが，ヘンリー6世（在位1422～1461）のとき，ジャンヌ-ダルクの活躍もあってイギリスは敗退を重ね，1453年カレーのみを残して全大陸領を失い，百年戦争は終結した。

　百年戦争が終わって2年後，王位継承権を争ってランカスター派とヨーク派との間でバラ戦争*が始まり，ヨーク派が勝ってエドワード4世（在位1461～1483）がヨーク朝*を開いた。しかし，2代あとのリチャード3世（在位1483～1485）は，ランカスター家の唯一の王位継承権者であるウェールズのヘンリーに敗れた。ヘンリーは王位についてヘンリー7世（在位1485～1509）となり，チューダー朝*を開いた。彼は封建貴族の衰退に乗じて家臣団を解散させ，絶対主義の



イギリス 18世紀初頭のロンドン。左は植民地経営の中枢となったイギリス東インド会社　千代田区立図書館蔵



議会政治の模範となったイギリスの下院議場。中央が議長席，左右が議員席

基礎を固めた。

〈絶対主義時代〉次王ヘンリー8世(在位1509～1547)は王妃との離婚問題でローマ教皇と対立し，ローマ教会から分離してイギリス国教会をたて，その首長となった。彼と第2妃アン-ブーリンとの間に生まれたエリザベス1世(在位1558～1608)は，内政面では名実ともにイギリス国教会を確立し，またヘンリー7世・同8世の時代に進展したエンクロージャーの結果生じた貧民の対策として救貧法を制定した。また，外政面ではスペインの無敵艦隊を敗って海上帝国への第一歩を踏み出し，1600年には東インド会社を設立して重商主義政策を推進し，〈栄光の世紀〉とよばれるイギリス絶対主義の最盛期をもたらした。しかし，エリザベスが後継者のないまま没すると，スコットランド王ジェームズがイングランド王を兼ね，スチュアート朝を開いた。

〈市民革命の時代〉ジェームズ1世(在位1603～1625)は王権神授説を信奉して議会の権威を否定し，また，カトリック教徒を弾圧し，ピューリタン(清教徒)にも迫害を加えた。国王に対する議会の反感は大きく，あとを継いだチャールズ1世(在位1625～1649)のとき，議会は国王の権限を制約する権利請願を提出した。1640年に短期議会，次いで長期議会が召集されると，国王と議会の対立は頂点に達し，ついにピューリタン革命が起こり，1649年チャールズは処刑されてクロムウェルのもとに共和政がとられた。しかし，クロムウェルは極端な宗教政策をとり，議会を開かず軍事独裁政治を行なったため，国民の不満が高まった。彼の死後，チャールズ1世の子チャールズ2世(在位1660～1685)が亡命地オランダから迎え入れられ，王政復古がなり，スチュアート朝が復活した。カトリック教徒である次王ジェームズ2世(在位1685～1688)の即位については，議会内でも支持派のトーリー党と反対派のホイッグ党が対立した。しかし，ジェームズ2世は審査律に従わないでカトリック教徒を官職につけ，また絶対主義的専制を強化したので，ホイッグ・トーリー両党は協定を結んでオランダからジェームズ2世の王女メアリとその夫ウィリアムを迎え，ここに名誉革命が成立した。ウィリアムは3世を名のり，権利章典を公布してトーリー党・ホイッグ党による政党政治の原則が立てられた。

ウィリアム3世の義妹アン女王(在位1702～1714)の治世中，イングランドとスコットランドは議会を合同して大ブリテン王国となった。また，スペイン継承戦争の結果，イギリスはスペインからジブラルタル・ミノルカを，フランスからニューファンドランド・ハドソン湾地方などを得た。アン女王の死後，ドイツのハノーバー家のゲオルクがジョージ1世(在位1714～1724)として即位し，ハノーバー朝を開いた。しかし，国王はイギリスの政治に関心をもたず，政治をホイッグ党にまかせたのでホイッグ党の全盛時代をもたらし，ウォルポールのもとで責任内閣制が確立された。1760年，ジョージ3世(在位1760～1820)が即位するとフランスとの和平論が高まり，1763年のパリ条約でフランスからカナダ・ミシシッピ川以東を獲得して，大英帝国の基礎を固めた。

〈産業革命の時代〉ジョージ3世の治世年間，外にはアメリカ独立戦争・フランス革命・ナポレオン戦争と激動があいついだが，内では産業革命によっていちはやく近代的資本主義の成立をみた。18世紀後半から19世紀前半にかけて，農村では農業革命(第2次エンクロージャー)が進展した。同じころ，ハーグリーブズ・アークライト・クロンプトンの紡績機，カートライトの力織機，ワットの蒸気機関の発明などがあいつぎ，それまで蓄積されていた個人資本，豊富な労働力，石炭・鉄の存在もあって産業革命は急速に進み，イギリスはいわゆる〈世界の工場〉となっていった。しかし，産業資本家層の力の伸長にもかかわらず，議会は相変わらず地主貴族に占められていた。1832年に選挙法改正が行なわれ，ビクトリア女王時代(1837～1901)には，さらに工場法・労働組合法などの社会立法，穀物法や航海条令の廃止など，自由主義的改革が行なわれた。この時代にはまたディズレーリの率いる保守党とグラッドストンの率いる自由党の二大政党による典型的な議会政治が行なわれるとともに，対外的には中国・インド・アフリカに植民地を拡大した。

〈帝国主義時代から第1次世界大戦へ〉19世紀末，大陸ではドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟とロシア-フランス同盟とが対立していたが，イギリスは〈光栄ある孤立〉を堅持していた。しかし，アフリカ・西アジアなどで植民地争奪戦が激しくなると孤立政策を捨て，日英同盟を結んでロシアを牽制(けんせい)し，次いでイギリス-フランス協商・イギリス-ロシア協商を結んで三国同盟に対抗した。やがて，イギリスとドイツの関係は第2次モロッコ事件で最悪の事態に直面し，ついに第1次世界大戦に突入した。

第1次世界大戦が終わると，イギリスはベルサイユ条約によってかつてのドイツ領植民地を委任統治領として獲得したが，産業は大きな打撃を受け，150万の失業者をかかえて，保守党内閣も，はじめて成立した労働党内閣も苦悩した。やがて起こった世界恐慌を，アメリカは社会資本を拡充することによって克服し，イギリスはオタワ会議でイギリス連邦内の経済ブロック化によって切り抜けた。しかし，ドイツ・イタリア・日本などは軍国主義化を強め，対外侵略に活路を求めようとし，ドイツのナチス政権はポーランドに侵入して第2次世界大戦が始まった。

〈第2次世界大戦と戦後の世界〉はじめチェンバレン首相が戦争を指導したが，チャーチルが首相になると国防相をも兼ねて強力な戦時内閣を組織し，ドイツに対抗した。しかし，オランダ・ベルギー・フランスが

占領され，イギリスはナポレオン以来最大の危機に陥った。しかし，アメリカ・ソ連・中国による連合国の結成後は，1943年にイタリアを降伏させ，1945年にはドイツ，次いで日本を降伏させて，世界大戦を終結させた。

第２次世界大戦後の世界では，イギリスは戦いに勝ったにもかかわらずその地位は低下し，代わってアメリカとソ連が国際情勢を大きく支配した。1945年アトリーは労働党内閣を組織して〈ゆりかごから墓場まで〉をスローガンに社会福祉政策を推進し，また基幹産業を国有化して戦後の復興をはかろうとした。しかし，インド・エジプト・ガーナなどの植民地があいついで独立し，かつての大英帝国は解体した。しかし，1956年のスエズ事件にみられるように植民地主義的政策を全面的に放棄したわけではない。多額の軍事費，投資家のための海外投資は国内の生産的投資を鈍化させ，それが経済成長率の低下をもたらし，今日のイギリス社会に多くの困難と問題を投げかけている。

1982年４月，アルゼンチン軍がフォークランド諸島に上陸，中心都市ポートスタンリーを占領して同諸島の領有を宣言したが，イギリス軍が再上陸反撃して，これを奪回した。同諸島の主権をめぐる係争は，現在なお解決にいたっていない。

イギリス(諸島)　グレートブリテン島・アイルランド島，および近接する小島からなる諸島。面積31万km²。二つの大島のほかに，マン島・チャネル諸島・ワイト島・ヘブリジーズ諸島・オークニー諸島・シェトランド諸島がある。住民は先住民族のケルト人，のちに移住してきたアングロ人・サクソン人・ノルマン人からなる。イギリスとアイルランド共和国の２独立国がある。

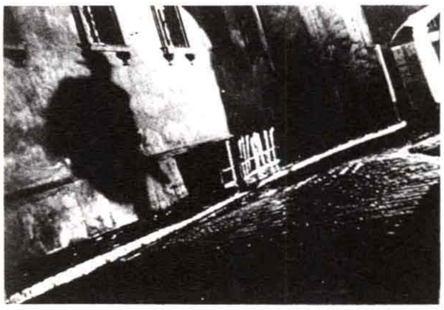
イギリス(海峡)　グレートブリテン島とフランス北岸との間の海峡。東はドーバー海峡から北海へ，西は大西洋に通ずる。第三紀の海侵によってできたといわれ，海底は浅く，両岸の地質・地形はよく似ている。両岸ともに天然の良港に恵まれ，漁業が盛んである。

イギリス-インドえんたくかいぎ　[イギリス-インド円卓会議]　インドの独立運動が盛んになったのに対して，1930年・1931年・1932年の３回，イギリス政府がイギリス領インドおよび藩王国の代表をロンドンに招いて，インド統治法の改革を討議した会議。

イギリス政府は，インドの独立・排英運動を緩和しようとして若干の譲歩を与えるためこの会議を提案したが，国民会議派は第１回をボイコットした。第２回には会議派からただひとりガンジーが出席して完全独立を要求したが，成果はなかった。第３回には会議派は弾圧されて欠席。３回とも収穫は少なく，問題の深刻さを暴露しただけ



《ヘンリー５世》(オリビエ監督，1945)　第２次世界大戦直後の興隆期における色彩大作



《第三の男》(リード監督，1949)　グリーン原作の推理小説の映画化作品



《マダムと泥棒》(マッケンドリック監督，1955)　イギリス人独特のユーモアに満ちた映画



《長距離ランナーの孤独》(リチャードソン監督，1962)　新しいイギリス映画の代表作

イギリス映画

で終わった。きわめて不完全な形で進められたこの会議の結果は，1933年白書として発表され，さらに1935年インド統治法として制定された。　〔松下京子〕

イギリスえいが　[イギリス映画]　イギリス映画の歴史は，1889年のフリーズ-グリーンによる撮影機の発明から始まる。初期サイレント映画時代には，〈ブライトン派〉とのちによばれる写真家出身の作家たちが，1900年前後に，実写を中心としたリアリズムの手法で社会生活を描き，のちの記録映画の源流となった。第１次世界大戦直後，イギリス映画は外国映画に押されて不振をきわめたが，1920年代末，トーキー時代にはいってからは国際的に名を高めた。ハンガリー人のコルダが1932年ロンドン-フィルムを設立，みずから《ヘンリー８世の私生活》などをつくるほか，海外にイギリス映画を送り出した。また，フェデの《鎧(よろい)なき騎士》やクレールの《幽霊西へ行く》など，外国の監督にも秀作をつくらせた。一方ヒッチコックは《脅迫》に続いて《三十九夜》をつくり，スリラー映画の原型をつくりあげた。

第２次世界大戦中，戦争に取材した記録映画が多くつくられ，のちの映画に深い影響を与えた。虚構よりも現実の記録を重んじ，商業主義的な映画を排するこの記録映画の運動は，1929年《流網船》をつくったグリアースンの提唱に始まり，ローサらの理論活動とともに多くの傑作を生んだ。このころの代表的作品は，フラハティーの《アラン》，リードの《最後の突撃》，ボールティングの《砂漠(さばく)の勝利》などである。また色彩映画の製作も始まり，リーンの《幸福なる種族》，オリビエの《ヘンリー５世》などが戦中から戦後にかけてつくられ，イギリス映画興隆の先駆となった。

やがて第２次世界大戦が終わると，1940年代の後半には，イギリス映画はその名を世界じゅうにとどろかせた。リードの《邪魔者は殺せ》《落ちた偶像》《第三の男》，リーンの《逢(あい)びき》，パウエルとプレスバーガーの《天国への階段》《赤い靴(くつ)》《ホフマン物語》などの大作が，コルダや，新しい有力な製作者ランクのもとでつぎつぎとつくられ，イギリス映画の海外進出を大いに推進した。

しかし，1948年ごろから，外国映画に対する関税強化，国内での多作，無計画な大作主義などで，イギリス映画は行きづまりに陥ることになる。そのような危機の時代において，製作者の名をとって〈バルコン-タッチ〉とよばれる風刺をイギリス人特有の機知とユーモアに包んだ映画がつくられた。クライトンの《乱闘街》《ラベンダー-ヒル-モブ》，マッケンドリックの《白服の男》《マダムと泥棒(どろぼう)》などである。

1950年代の後半になると，イギリス映画は国際的な舞台から大幅に後退する。コル

ダの死，リーン・リード・マッケンドリックなどの名監督がアメリカへ渡っていったこと，さらに観客数の減少，テレビの攻勢などによって，イギリス映画界は不況時代にはいり，リーンの《戦場にかける橋》など外国との合作映画や，オリビエら名優の存在によって，わずかにイギリス映画界の力を示した。そうした中から，オズボーン*の《怒りをこめて振り返れ*》などの演劇の分野から台頭しはじめた〈怒れる若者たち*〉の映画活動が，映画評論家アンダーソンを中心とした〈フリー-シネマ〉とよばれる若い映画作家グループによって始められる。社会の下積みとなって生きる若者の怒りを生な形で激しく描き出すために，1930年代の記録映画の手法が用いられ，平凡な労働者や庶民の日常に目が向けられた。その代表的な作品は，リチャードソンの《怒りをこめて振り返れ》《蜜(みつ)の味》《長距離ランナーの孤独》，クレイトンの《年上の女》，ライスの《土曜の夜と日曜の朝》，シュレジンガーの《ある種の愛情》など。これらはいずれも，オズボーン・デラニー*・シリトー*・ブレイン*らの戯曲や小説を原作とし，〈怒れる若者たち〉が，広い芸術運動ともいえるものであることを示している。

しかし，〈怒れる若者たち〉はそれぞれに変貌(へんぼう)を遂げていく。純粋な怒りは風俗的反抗へと変わり，リチャードソンの《トム-ジョーンズの華麗な冒険》などのように，アメリカ資本による映画製作に移る場合が多くなっていく。一方，テレビの分野から映画に進出してくる新人監督が登場し，テレビ-コマーシャルの監督レスターの《HELP!(ヘルプ)》《ナック》などの風俗映画，〈007シリーズ〉のような活劇映画が多く製作される。あるいはまた，外国人の監督がイギリスで活躍，アメリカ人のロージー，ポーランド人のポランスキー，イタリアのアントニオーニ*らが秀作をつくり，イギリス映画界は現在，独自のものを打ち出せないままに，国内・国外のさまざまな才能の交流の場となっているといえる。

〔高沢瑛一〕

イギリス-エジプトじょうやく 【イギリス-エジプト条約】 1936年にイギリス軍のエジプト駐屯(ちゅうとん)を定めた条約。エジプト王国は1922年の独立以降もイギリスの干渉を受けたが，1935年イタリアのエチオピア侵略により，イギリスはスエズ運河の安全を，エジプトは自国の安全を，それぞれ脅かされたので両国は条約を結んだ。この条約で，エジプトは完全な主権を承認されたが，イギリス空軍のスエズ駐屯を認め，その撤退は20年後と約束された。

イギリスえんげき 【イギリス演劇】 他のヨーロッパ諸国同様，イギリス演劇は中世期の宗教劇*に始まる。教会内部の行事としてラテン語によって行なわれていた聖史劇が，職人組合によって町の広場で上演されるようになり，特に山車(だし)による独特のページェント*様式をつくりだした。聖史劇上演の規模が増し，世俗的要素を強めるにつれて，善悪の争闘をさらに教訓的・寓意(ぐうい)的に表わしたモラリティ(道徳劇)が生まれ，半職業的な俳優も出現して，15～16世紀に盛んに上演された。《エブリマン》は今日に残るその代表的作品である。また，ヘイウッドの《四つのP》などに代表されるインターリュード(間狂言(あいきょうげん))は，道徳劇のこっけい風刺をさらに深め，知的に洗練されたジャンルである。

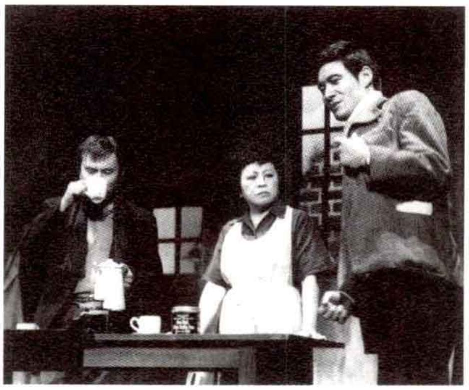
イギリス-ルネサンスは，ギリシア-ローマ劇の模倣作品を輩出させたが，16世紀後半のエリザベス朝時代は，王侯おかかえ劇団の競合と市内劇場の急増もあって，演劇の黄金時代を出現させた。《フォースタス博士》のマーロー*は，ブランク-バース(無韻詩形)という奔放で陰影に富む詩形を駆使して数々の史劇の傑作を残し，《スペインの悲劇》のキッドは，セネカ*に学んだ流血悲劇をつくって観客の嗜好(しこう)にこたえ，ジョンソン*は，今日に通ずるリアリスティックな喜劇《錬金術師》を書いて，シェークスピア*の出現を準備した。シェークスピアは，エリザベス朝演劇*の頂点であると同時に，不世出の世界的作家である。《ハムレット*》《リア王*》などの四大悲劇のほか，《真夏の夜の夢》などの喜劇，《ヘンリー4世*》などの史劇など，さまざまのジャンルの戯曲37編を残し，不朽の名をとどめている。エリザベス朝演劇は，1603年の女王の死以来，社会の不安を反映して，悲喜劇のジャンルを定着させる一方では，退廃趣味が広がって，流血や倒錯などの官能扇動の演劇が流行したが，1642年の清教徒革命*によって，劇場は閉鎖され，イギリス演劇の黄金時代は幕を閉じた。

共和制末期から王政復古期にかけて，漸次劇場が再開され，これまでの中庭式の三方舞台(エリザベス朝舞台)に代わって額縁式のプロセニアム舞台となり，また，少年俳優に代わって女優がはじめて登場した。チャールズ2世によって許可された二つの劇場は，コングリーブやドライデン*などのいわゆる風習喜劇や英雄悲劇を盛んに上演し，上流人士たちのきげんを取り結び，劇場は民衆から遠ざかっていった。18世紀にはいるとこの風潮はますます拍車を掛けられ，イタリア-オペラの流行とともに感傷的な道徳悲劇が盛んに迎えられた。《悪口学校》のシェリンダン，《負けるが勝ち》のゴールドスミス*がわずかに残る作家にすぎない。ただ，俳優デービッド-ガリックによる写実的な演技の創始は，後世に多大の影響を与えている。

19世紀前半は，前世紀に引き続くメロドラマやスペクタクルショーの流行の一方では，シェリー*・キーツ*らの高踏的な詩劇の試みがあったが，1843年に二大劇場の独占が解かれると，劇界に新風が吹きはじめた。ピネロやジョーンズの写実的な戯曲が取り上げられ，イプセン*が紹介されて，イギリス近代劇の素地が固まってきた。ワイルド*は，世紀末の知性と風習喜劇の伝統を生かして才気にあふれた喜劇《まじめが肝心》を書き，ショー*は，ワイルド的機知とイプセン的問題意識をふまえて，《聖ジョン》《人と超人*》などの傑作を次々に発表した。イプセンの影響は今世紀初頭にかけてさらに広がり，ゴールズワージー*・バーカーなどの問題劇が，知識階級を新しい観客として獲得しはじめた。1891年，フランスの自由劇場*に刺激を受けてグライン*が独立劇場を設立し，イプセンやショーを上演して近代劇運動を推進する一方，アイルランド独立運動と関連した国民演劇運動の中から，ダブリンにアベー座が生まれ，グレゴリー夫人・シング*・オケーシー*などのアイルランド戯曲が世界の注目を集めた。しかし，第1次世界大戦後は，不安と倦怠(けんたい)の世相を反映して風習喜劇の伝統が復活し，モーム*・カワード*・バリなどのしゃれたサロン劇が迎えられ，また，エリオット*やクリストフライなどによって，詩劇*の復興が試みられた。



イギリス演劇 シェークスピア作《ウィンザーの陽気な女房たち》(1970年1月，ロイヤル-シェークスピア劇団上演)



ウェスカー作《大麦入りのチキンスープ》(1964，文学座上演)

第２次世界大戦後に現われた最も顕著な動きは，オズボーン*の《怒りをこめて振り返れ*》以来旋風を巻き起こした〈怒れる若者たち*〉の登場である。既成の権威と秩序に対する反抗は，ウェスカー*・アーデン*・ピンター*と続き，不条理の演劇とともに世界の演劇の一大潮流を形づくっている。演技・演出面でも，イギリス演劇はいま世界の最高水準にあり，劇作界の活況と合わせて，第２の黄金時代を迎えている。〔大島　勉〕

イギリス-オランダせんそう　**【**イギリス-オランダ戦争**】**　17世紀後半イギリスとオランダの間で３回にわたって戦われた戦争。**〈第１回〉** 1652～1654年。イギリスの貿易・海運業からオランダ人とオランダ船を排除する目的で制定された航海条令*が契機となり，両国の海軍が衝突し，イギリスの勝利に終わった。**〈第２回〉** 1665～1667年。イギリスはアムステルダム商人の支配するオランダ植民地ニューアムステルダムを攻撃し，1664年これを占領してニューヨークと改称したため，戦端が開かれた。オランダは終始優位に立ち，イギリスにブレダの和約を結ばせたが，このときフランスのルイ14世*の侵攻にあってイギリスとの同盟を余儀なくされ，イギリスに譲歩した。**〈第３回〉** 1672～1674年。フランスのルイ14世が行なった侵略戦争の一つであるオランダ戦争に相当する。➜オランダ戦争

イギリスけいけんろん　**【**イギリス経験論**】**　17～18世紀にイギリス哲学の主流となった哲学説の総称。認識の源泉を感覚的経験にあるとする。いわゆる大陸合理論*と対立。17世紀にケプラー・ガリレオ・ニュートンが現われて自然科学が創立され発展したが，その発展の理由を問うことで哲学は二つに分かれた。17世紀のイギリスの哲学者F.ベーコン*・ホッブズ*・ロック*はヨーロッパ大陸の哲学者(大陸合理論)に対立して，自然科学の発展の理由を対象の経験的観察にあるとし，そこから認識源泉を感覚的経験にあるとする理論を形成した。また，自然科学の発展の理由を神学的・伝統的先入観の排除にあるとし，同時に社会哲学の性格をもった。18世紀にはバークリー*とヒューム*が現われて，特に経験的観察という点を重視して，それぞれの哲学理論を形成した。➜経験　➜経験論　➜合理論　〔仲村計美〕

イギリスこっきょうかい　**【**イギリス国教会**】**　アングリカン-チャーチ・イギリス聖公会ともいう。イングランド王ヘンリー８世*は離婚問題を直接の原因として1534年に首長令*を発布し，ローマ教会から分離してイギリス国教会をたて，みずからその首長となった。さらに修道院を解散して土地・財産を没収し，カトリックの勢力をおさえた。その子エドワード６世*は統一令*を出し，カルビニズムを取り入れた一般祈禱書(きとうしょ)を制定した。一時，メアリー女王はカトリックの復活をはかったが，次いでエリザベス１世*は首長令・統一令を再発布してイギリス国教会の再興をはかり，39の信仰個条を定めて国教会を確立した。しかし，これら一連の宗教改革は政治的な面から行なわれたため，教義・儀式・制度面の改革は不徹底であり，国教会内の親ローマ派はアングロ-カトリック派を，福音主義者の一部はピューリタンとしてアメリカなどに渡った。➜聖公会　〔松下京子〕

イギリスしょくみんちかいぎ　**【**イギリス植民地会議**】**　イギリス本国と諸自治領とを結びつける会議で，いまのイギリス連邦*の前身。1887年ビクトリア女王の即位50年祭のときはじめて代表者会議を開き，1897年・1902年の会議では国防および特恵関税の問題が討議された。４回めの1907年からはイギリス帝国会議と改称された。1923年の会議は自治領に外交上の自主権を認め，1926年の会議はバルフォア宣言を発表し，イギリス連邦の構成員たる本国と自治領とが〈地位平等な自治的共同体〉であることを明らかにし，1931年イギリス議会によってウェストミンスター条令*として立法化された。1937年帝国会議はイギリス連邦首相会議と改称された。➜オタワ会議　〔松下京子〕

イギリスていこくかいぎ　**【**イギリス帝国会議**】**　⇨イギリス植民地会議

イギリス-フランスきょうしょう　**【**イギリス-フランス協商**】**　1904年イギリス・フランス間の植民地利害の調整を図った協定。両国は植民地分割で利害が対立していたが，ドイツの進出をはばむため合意に達した。この結果，フランスはニューファンドランドの漁業権をほとんど放棄，イギリスがマダガスカル島・ニューヘブリデス諸島におけるフランスの勢力圏を承認，シャム(タイ)における両国の勢力圏を画定した。特に重要なのは〈エジプトおよびモロッコに関する宣言〉で，イギリスはモロッコにおけるフランスの特殊権益を，フランスはエジプトでのイギリスの優位を認めた。ロシア-フランス同盟*・イギリス-ロシア協商*とともに三国協商を形成し三国同盟*と対立，ドイツ包囲網を確立した。〔折井一彦〕

イギリスぶんがく　**【**イギリス文学**】**　⇨ *次ページ*

イギリス-ペルシアせんそう　**【**イギリス-ペルシア戦争**】**　1856～1857年，イギリス・ペルシア(現在のイラン)両国のアフガニスタンをめぐっての戦争。イギリスは18世紀末以来，ロシアの南下政策を警戒して，インド防衛の立場からアフガニスタンを緩衝地帯とする政策をとってきた。ところがロシアの支援を受けたペルシアがアフガニスタンの要衝ヘラートの失地回復を企てたので，イギリスはペルシアと協定を結んで中止させようとしたが，1856年ペルシアはヘラート占領の挙に出た。そこでイギリスは宣戦して勝利をにぎりペルシアはヘラートより撤退し，アフガニスタン独立を認めた。

イギリスりょうホンジュラス　**【**イギリス領ホンジュラス**】**　中央アメリカのユカタン半島南東岸にあるイギリスの植民地だったが，1981年ベリセとして独立，同時に国連にも加盟した。面積22,965km²。人口12万0,936(1970)。未開拓地が多く高温多湿で夏が雨季となり南部で年降水量3.000mmを越える。海岸の低地で小規模なバナナ・サトウキビのプランテーションが営まれる。首都ベリーズは海港でバナナ・砂糖・マホガニー・チクルを輸出する。〔小栗　宏〕

イギリスれんぽう　**【**イギリス連邦**】**　イギリス本国を中心とし，かつての植民地で現在は独立している諸国や，現在も植民地である領域などで構成される一種の共同体。連邦首相会議が最高の機関。イギリス植民地会議(帝国会議)の後身で，1949年のインド独立までは，イギリスの王に忠誠を誓うか，あるいはイギリスの王を共同体の象徴として認めている独立国およびその属領からなっていた。大英帝国の植民地が次々に自治権を獲得し，特に第１次世界大戦後内政・外交上の独立が実質的なものになると，イギリスはバルフォア宣言(1926)やウェストミンスター条令*(1931)により，本国と自治領とは平等な地位で，〈王に対する共通の忠誠によって結ばれ，イギリス連邦の構成国として，自由に結合している〉ことを認め，自治領の議会に立法上の完全な自主権を譲るに至った。経済面でも1932年オタワ会議*で大英帝国経済ブロックを形成した。第２次世界大戦後インドをはじめアジアやアフリカにおける植民地が次々に独立し，1979年末現在，イギリス連邦は次の44か国である。イギリス・マルタ・キプロス・オーストラリア・バングラデシュ・フィジー・インド・マレーシア・ニュージーランド・シンガポール・スリランカ・トンガ・西サモア・パプア-ニューギニア・ナウル・ソロモン諸島・ツバル・キリバス・バヌアツ・ボツワナ・ガンビア・ガーナ・ケニア・レソト・マラウイ・ナイジェリア・シエラレオネ・スワジランド・タンザニア・ウガンダ・ザンビア・セーシェル・モーリシャス・ジンバブエ・バハマ・バルバドス・カナダ・ジャマイカ・トリニダードトバゴ・グレナダ・ガイアナ・ドミニカ・セントルシア・セントビンセント。〔松下京子〕

イギリスれんぽうとっけいかんぜいせいど　**【**イギリス連邦特恵関税制度**】**　イギリス連邦参加諸国間の貿易については，相互に関税を撤廃したりまたは低くし，域外諸国に対しては保護関税*を課する関税制度。1932年７月にカナダのオタワで開かれた大英帝国経済会議の成果として設置され，第２次世界大戦後も維持されてきている。しかし，世界的にガット*を中心とする関税引き下げが進んで，特恵幅が減少し，さらに，イギリスのEEC*加盟申請により，今後この特恵制度は根本的に再編成されること

→304ページ

イギリス文学

〔ふたりの女王〕イギリスの歴史において，ふたりの女王の長い治世の時代があった。1558年から1603年にわたるエリザベス１世と，1837年から1901年に及ぶビクトリア女王の時代である。この二つの時代は，イギリスが最も栄え，国力の充実したときであったが，同時に文学においても一時代を画している。むろんこれらの間にも，ミルトン*・バニヤン*らの活躍した宗教文学の時代や，キーツ*・シェリー*らのロマン派の動きがあった。そして中世にはチョーサー*・ラングランド*，現代にはロレンス*やエリオット*らの詩人や小説家が輩出している。さらに，エリザベス朝にあっても，ダン*やロバート-ヘリックらのように宮廷ふうに染まらない，知的諧謔味(かいぎゃくみ)に満ちた独特の作風をもつ詩人がいたし，ワイルド*やハーディ*のように，ビクトリア朝にあって，形骸(けいがい)化したブルジョア道徳に反発した作家も登場した。

しかしながら，そういった異質分子をも含めて，エリザベス朝はイギリス-ルネサンス文学の最盛期であったし，大英帝国の夢が実現したビクトリア朝では，ディケンズ*の小説や，テニソン*・ブラウニング*の詩が，イギリス国民の心情を表現しつくしていたといえるのである。

〔時代と文学〕エリザベス朝とビクトリア朝という二つの時代は，ともにイギリスの名が全ヨーロッパにとどろいたときであったが，その内実においてかなりの相違がみられる。1588年，スペインの無敵艦隊を破ったイギリスは，まさに新世界へ乗り出そうとする生命力にあふれた青春時代にあった。そこには，それ以前の遅れを取りもどすことによってある余裕が生じ，国家意識と国際感覚とがみごとに調和していた。《ファウスト博士》をはじめとするマーロー*の劇作には，生命力の流出と，ほとんど異教的ともいえる現世の肯定がみられる。しかし，あふれ出る叙情を現実の重みでおさえ，真に人間性の悲劇にまで到達したシェークスピアにこそ，イギリス-ルネサンスのすべての特色が現われているといえるであろう。

だが，ルネサンス期には若々しい生命力に満ちたイギリスも，一方でピューリタン革命という内乱の時代を経，他方で着々と大英帝国が実現するにつれて，経験や常識を重んじる現実主義の色彩が濃くなっていく。また，世界一の領土と国力を備えた19世紀のイギリスにとっては，体制の維持発展こそなにより肝要であり，そのための倫理道徳が整えられ，いわゆる紳士道も，この時代に完成される。まさにブルジョアジーの時代であり，文学のほうでも，中流から下層階級までの生活を余すところなくとらえ，実践道徳に独特な感傷を裏打ちして，数々のベストセラーを生んだディケンズをはじめ，桂冠(けいかん)詩人テニソンやブラウニングらが，ビクトリア朝を代表する作家といえよう。しかし，実証科学の方面では進歩革新を尊ぶが，精神面ではしだいに形骸化したのがこの時代の特色であった。アーノルド*は教養と文化の質的深さを求め，物質文明の弊害を力説した。さらに《テス*》を著わしたハーディが，お題目的な宗教道徳批判をくり返したのもこの当時である。いわば，開かれた世界に開かれた文学があった幸福なルネサンスの時代に比べて，閉じられた世界においていかにして文学創造を営むかが，近代以降のテーマとなったといえるであろう。

〔夢と現実〕ビクトリア朝末期は，物質文明のみ栄え，精神面が衰弱していく世紀末の現象が現われたが，1832年をはじめ数回にわたる選挙法の改正などで，社会は改良しうるものであるというイギリス人の信念は変わらず，そして現実に社会は変化していった。ブレイク*やディケンズらが下層階級の貧困や中流階級の偽善と悪を描くことは，同時にそれらの否定につながっていた。イギリスでは，社会の現実と文学とは深く結びついていたのである。作家たちは，書くべき内容をどのような形式に盛り込むかを考慮することはあっても，形式のための文学，芸術至上主義的な文学は，本来イギリス的ではなかった。まず，確固たる現実と誇るべき生活体験があった。中世以来，これはイギリス文学の中心を貫流している作家の態度なのである。このような現実生活へのあくなき関心は，イギリス文学のみならず，イギリス人気質の底にも流れている。ここからイギリス的ユーモアも，宗教より広い実践道徳的倫理も生まれてくる。作家たちは，この共通の土壌(どじょう)の上で，それぞれの個性の花を咲かせたといえよう。生身の人間への寛容と愛の精神にあふれたチョーサーの《カンタベリー物語*》，現世への糾弾で読む者を圧倒するラングランドの《農夫ピアスの夢》，あるいは，現実的な視点に満ちたモア*の《ユートピア*》，これらは立場こそ異なれ，いずれもイギリス的なものである。そして，夢と現実との不即不離の境地を開いたのがシェークスピアであった。つまり，シェークスピアはすでにロマン派の素質を備えていたといえるわけで，現にキーツは，シェークスピアを中心とするエリザベス朝文学を模範と仰いだのである。

現実が夢を追いかけるというより，むしろ夢が現実を追いかけていたようなイギリス文学にあって，ロマン派の詩人たちも他ときわだった相違を示すわけではない。むろん，バイロン*・シェリー・キーツの３人はいずれも短命で，反社会的な点で共通してはいた。しかしその作風においては，ルネサンス期の詩風や，バイロンではさらに古典期のそれを模そうと試み，シェークスピア以来の叙情詩の伝統をよく受け継いでいる。その点からいえば，彼らの生きていた時代を問わないなら，けっして異端者たちではなかった。だが，19世紀前半こそが，産業革命の進展に伴う悲惨と，大陸でのナポレオン戦争に対する自衛とによって，イギリスでも歴史上最も非ロマン的な時代であったことを思い合わせれば，彼らの天才ぶりは納得できるといえよう。たとえば，かつてロマン派運動の先輩たちであったワーズワース*・スコット*・コールリッジ*の３人は，いずれもその夢は破れ，それぞれ自伝・小説・評論へと，進むべき道を変えていったのである。

〔散文的精神〕文学の対象とする現実が，冒険に満ちて劇的なものであるかぎり，それを写す手段も，悲劇・喜劇・叙情詩という，いわば参加の精神をもつものであった。その自由奔放な精神によって，たとえばエリザベス朝では，街頭で真剣勝負をしたり，犬と鎖につながれた熊との格闘に喝采(かっさい)したりしたその足で，シェークスピアの芝居に聞きほれるというようなことがまれではなかった。しかし，そういった時代もエリザベス１世の死とともに幕を閉じ，絢爛(けんらん)としたエリザベス朝演劇も，風習喜劇*へ空中分解してしまうと，次に取って代わる文学の有力な手段は，持ちまえの散文的精神を本来最も発揮しやすい領域に見いだされたのである。小説と評論がそれである。

1768年，ジョージ３世により建立(こんりゅう)されたロイヤル-アカデミー(王立科学院)は，実証科学の興隆を促し，イギリス人たちをより経験的な方へとかりたてていく風潮があった。しかしフランスの自然主義，たとえばゾラ*にみられるように，切り取られた現実を顕微鏡的手法で観察するようなことは，イギリスの小説家たちのよくするところではなかった。人々が求めたのは，健全な生活を築くための教訓であり，ルネサンス期以来の娯楽であった。かくしてイギリスの小説は18世紀に至って，フィールディング*とスターン*においてみごとに開花したのである。むろんそれ以前にも，バニヤンの《天路歴程*》のような寓意(ぐうい)的物語がきわめて平易な散文で書かれていた。また，初期資本主義の成立過程を反映しているといわれるデフォー*の《ロビンソン-クルーソー*》や，スウィフト*の《ガリバー旅行記*》における風刺の鋭さなどは，イギリス小説史において忘れられてはなるまい。だがしかし，ひとりのまぎれもない近代人を主人

公に仕立て，その行動のおもむくがままを描ききって，当時の風俗と精神をまざまざと示すフィールディングの《トム・ジョーンズ》，また脱線に脱線を重ねながらも，いわば人生の裏面を諧謔や苦笑や感傷を交えながら浮き彫りにしたスターンの《トリストラム・シャンディ》，これらにおいてイギリス散文精神の精髄が結晶したといえるのである。

さらにその散文精神は，サミュエル・ジョンソン*という奇才に，評論の花を咲かせた。およそ観念的なるものからは縁遠い，強靭(きょうじん)な常識論を背景にしたジョンソンの批評こそ，きわめてイギリス的なものである。文学史的には〈古典主義の時代〉として，ドライデン*・ポープ*などの詩人たちの動きが代表的に扱われることの多い18世紀であるが，その実状は彼らの詩をも圧倒するばかりに散文の咲き誇った時代であった。大陸のフランスでは，ラシーヌ*以来の古典劇がその均衡と典雅さによって一世を風靡(ふうび)していたときに，ジョンソンはその批評に，自然児シェークスピアの生命力を散文としてとらえた。そこに，イギリス気質を感じることができよう。そして，この散文の時代は，ロマン派の詩人たちが登場するまで続くのである。

〔シェークスピアとミルトン〕 イギリス文学における散文の占める位置は大きく，小説や評論以外にも，ラム*からチェスタートン*に至る，随筆文学という独自のものを生んだ。また18世紀古典主義時代の散文として，ギボン*の《ローマ帝国滅亡史》は，イギリス人にとって記憶すべき作品であろう。それら多くの文学の中でも，世界的視野からみた場合，他に冠絶しているのはシェークスピアとミルトンのふたりであろう。比類なき叙情詩の世界を演劇に織り込んだシェークスピア，劇的展開を叙事詩の中に組み込んだミルトン，このふたりの天才こそ，最もイギリス的であると同時に，世界的な作家であった。そして，詩と劇の二つこそ，イギリス人がなによりも愛好し，誇りにするものなのである。

シェークスピアはルネサンス期に活躍し，人間の可能性を極限まで描ききった詩人・劇作家であり，またそれに続くピューリタン革命の時代に人間の弱さや悪を徹底して見つめ，堕天使サタンを通じて神の偉大をうたいあげたのはミルトンであった。この両者は，一方が現世を肯定的に，他方は否定的にとらえているようにみえ，宗教的情熱や真摯(しんし)の点においてはミルトンがまさるとされる場合もある。しかし，たとえば《リア王*》において，あくまで人間の側に立ちつつ悲劇を刻むことによって，かえって絶対者としての神を彷彿(ほうふつ)させるシェークスピアの世界は，新約聖書的な世界に慣れた近代人に，旧約聖書的な広がりを感じさせるであろう。その意味でミルトンとシェークスピアの距離は遠くない。なぜなら，《失楽園》の宇宙は，みずからの悪や偽善をそこに発見して敗れ去っていくサタンの姿において，無限なる神を示し，《創世記》や《ヨブ記》の旧約的世界を受け継ぐものなのだからである。現実の世界を肯定するにせよ否定するにせよ，恩寵(おんちょう)によって神の国が現世に実現するという考え方をとらないのが，イギリス的な精神なのである。さらに，ミルトンの話の中に，人生経験や古典の教養がどのように吸収されているかを知るとき，シェークスピアとミルトンは，イギリス・ルネサンスの表裏一体の二つの精華であることを，改めて認識させられるであろう。

〔過去から未来へ〕 シェークスピアとミルトンが中軸となっているイギリスの文学においては，伝統を受け継ぐとはよい意味で彼らに続くことに等しかった。特にシェークスピアの場合，それ以後のイギリスの演劇や詩は，彼の周囲を巡っているといっても過言ではない。現代に至っても，第2次世界大戦後の〈怒れる若者たち*〉の代表ともいうべきオズボーン*の《怒りをこめて振り返れ*》は〈現代版ハムレット〉と評されている。そして新しい演劇運動はすべて，シェークスピアの新解釈から出発してなんらかの風習喜劇に落ち着くのが，決まったコースといえよう。

むろん，それ以前に文学の伝統がなかったわけではない。ドライデンによって〈イギリス詩の父〉と評されたチョーサーは，意識的にロンドンの英語を作品に取り入れ，それ以後の近代英語の成立発展に貢献し，11世紀のノルマン人の征服によって約3世紀続いたフランス語の支配を打ち破って，イギリス文学発展の基礎を築いた。その流れの上に，豊かな感覚を異教的題材にこめて《妖精(ようせい)の女王》をうたいあげたスペンサー*が位置し，ルネサンスを迎える橋渡しとなっている。さらに，チョーサー以前にも，8世紀に完成したといわれる叙事詩《ベーオウルフ》があり，ゲルマン的な色彩の濃い点でイギリス人の祖先の特色を出している。しかもなお，なによりもまず仰がれるものは，ルネサンス文学であった。

イギリス人にとってルネサンスとは国家意識の高揚であったが，大英帝国実現とともに，かつての若さと生命力とは失われていった。世界に向かって開かれていた時代が過ぎて，世界をみずからの内に閉じ込めていく過程が近代イギリスの歩みであったといえよう。それだけに第1次世界大戦の衝撃は大きかった。エリオット*の《荒地*》は，挫折感(ざせつかん)と倦怠感(けんたいかん)に満ちた当時の心象風景を端的かつ巧妙に物語り，また，ヨーロッパの没落を目のあたりにして生まれたのがトインビー*の歴史学である。そうした危機感とともに，ヨーロッパ的視点が開け，再び目を世界へ向けざるをえなくなったのは皮肉といえよう。そして，イギリスというより西洋のわくを越えて，耳目に触れた新しい世界をみずみずしい感覚でもって筆にしたのが，《インドへの道*》を頂点とするフォースター*である。

現代のイギリス文学は世界的視野から論じなければならない。そうした事情は，アイルランド出身の3人の作家の場合を考えてみれば，なおさら明瞭(めいりょう)である。後期ロマン派の流れをくみ，独特な悲劇論と宇宙観を展開し，シェークスピアの域に迫った詩人イェイツ，ドストエフスキー*・モーパッサン*らの華麗な19世紀小説に対抗するように，〈意識の流れの文学*〉の手法により大胆な実験小説《ユリシーズ*》をつくりあげたジョイス*，芝居は芝居であると演劇の世界に居なおり，〈アンチ・テアトル*〉の先駆者となったベケット，これら現代文学を語るうえで欠くことのできない3人が，アイルランドという大英帝国の体制外から現われたのはゆえなきことではないであろう。現代では，世界に対して開かれた地平で，いかにしてイギリス文学の伝統を受け継いでいくかが問題なのである。

また，ロレンスはかつてタブーとされていた性の問題を真正面から取り上げることによって，人間性の解放を追究した。そして，彼の作品《息子(むすこ)と恋人*》や《虹(にじ)》が現代文学の古典となりつつある一方で，小説の分野でもさらに模索が続いている。寓意的世界を開拓するゴールディング*，多様な時間を小説に盛り込んで叙事的効果をねらうダレル*，サルトル*らを背景に，人間の実存の深みに食い込んでいくマードック*，これらはいずれも現在活躍中の作家たちである。

現代において，政治と文学のかかわりあいがますます先鋭化していく一方，1930年代のスペイン内乱をはさんで共産主義の栄光と悲惨を味わったのは，小説家・評論家であるオーウェル*，小説家イシャウッド*，そして詩人のオーデン*・スペンダー*・ルイス*らのグループであった。そして，文学が政治色をおびていくかたわら，昔ながらに自然を好んでうたった詩人たち——ホプキンズ・ハウスマン・トマス*らに人々は深い共感を覚えるのである。伝統はつねに現代の中で再発見され，生かされていかなければならないが，真の意味でのルネサンス(再生)こそ，現代のイギリス文学が希求しているところであるといえよう。〈シェークスピアに続け！〉は，イギリス文学の永遠のモットーであるのかもしれないのである。

〔日高八郎〕

になろう。イギリス連邦はイギリスとかつて大英帝国に属し，その後独立した国々で構成され(1970年3月現在28か国)，そのほかに植民地・保護領・信託統治領が世界各地に存在している。〔深海博明〕

イギリスろうどうくみあいかいぎ　【イギリス労働組合会議】 ⇨TUC

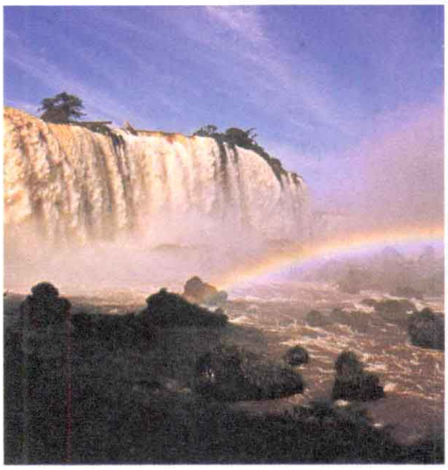
イギリス-ロシアきょうしょう　【イギリス-ロシア協商】 1907年ペルシア・アフガニスタン・チベットに関するイギリス・ロシア間の利害対立を調整し，両国の勢力範囲を画定した協定。イギリスはペルシア北部のロシアの勢力圏を認める代わり，ペルシア東南部とアフガニスタンをその勢力範囲として認めさせた。ペルシア中部は緩衝地帯とされ，チベットに関しては両国は中国の宗主権を認め，内政不干渉を約した。この協商でドイツを包囲する三国協商*が完成し，日露協約とともにそれまでの日本・イギリス対フランス・ロシアの対立は解消し，第1次世界大戦前の国際関係に大きな影響を与えた。〔折井一彦〕

イグアス(滝)　[Iguaçu]　ブラジルとアルゼンチンの国境にある大滝。イグアス川がパラナ川に注ぐ地点から25km上流にある。幅4.5km，平均落差70mで，ともにナイアガラよりも大きい。付近は未開の森林でおおわれ，かっ色に近い豊富な水量が落下する。ブラジル・アルゼンチン両国はここに国立公園を設定，その瀑水(ばくすい)と渓谷(けいこく)と森林の雄大な美しさに訪れる観光客は多い。

イグアナ　[iguana]　爬虫(はちゅう)類・イグアナ(タテガミトカゲ)科の代表的なトカゲ。中央アメリカから南アメリカのアルゼンチンまで分布。体長1.5～2mで尾はその5分の3に達する。体は黄緑色で黒かっ色または黒紫色の横斑(おうはん)がある。頸部(けいぶ)から背中線上に刃状のうろこが並び，あごの下には大きな飾りの皮膚がたれる。熱帯ジャングルで樹上生活を営み，危険が迫ると水中に飛び込み隠れる。植物質・こん虫・カタツムリなどを好む。卵性。〔松井孝爾〕

イグアノドン　[iguanodon]　ヨーロッパの白亜紀初期の地層から最もよく発見される爬虫(はちゅう)類。禽龍(きんりゅう)ともいう。中生代のジュラ紀から白亜紀にかけて栄えた恐龍の一種。全長は6～10m，森林の中で若葉を食べ，2本の足と長い尾で立ち，カンガルーのように走ることができたようである。後ろ足は指が機能的で，前足は5指からなる。ベルギーのベルニサールの石炭紀層から発見された23頭のうち，8頭の骨格が組み立てられブリュッセル博物館に陳列されて有名である。コリトザウルス・エドモンドザウルス・トラコドンは仲間。〔神戸信和〕

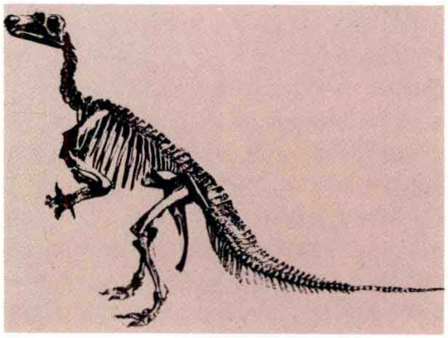
いくえいせいど　【育英制度】 優秀な能力があっても経済的・社会的条件などから修学困難な人々に学資などを提供し，その



イグアス滝　滝の周囲は千古おのを知らないジャングルで，滝つぼから立ち上る水煙で常時虹がかかる。滝は20余に分かれて落ち，雨期には幅5km以上になる



イグアナ



イグアノドン

能力にふさわしい教育機会を与えるために援助する制度。

〔沿革〕近代的育英制度の端緒は，旧藩が選んだ貢進生に対して旧藩の負担で学資金を支給する1870年(明治3)の貢進生制度，1872年の学制*，1873年の貸費生規則などに示されている構想の中に求められる。その後，短期間で廃止された貢進生制度に代わって，わが国ではまず1877年ごろから国立の教育機関に設けられた給費生制度と，旧大藩が自藩出身の学生に学資または寄宿の便を与える制度が普及し，これら二つの形をとって育英制度が成立するようになった。1897年ごろからは地方公共団体・民間団体の奨学制度，個人や会社が著名な大学・専門学校に学資を委託する学校委託奨学制度が広くみられるようになり，体制維持のための人材育成という役割を果たした。しかしその規模はいまだ小さく，1927年(昭和2)においての対象者は中学生1,504人，高等諸学校学生・生徒4,901人であった。1943年に至ると，戦時人材養成計画の一環として国家的育英制度が成立した。国家資金による大日本育英会(現在の日本育英会*)の成立がそれである。この制度は当初〈育英〉に重点を置く〈少数者厳選〉〈多額の奨学金〉というたてまえをとったが，まもなく戦後の経済混乱期にはいると，中流階級の子弟が経済的に困窮学生化したため，学資の補助程度の少額の奨学金をこれらの学生に貸与したので，中流階級の知識階級再生産能力を援助する結果となった。1958年になると日本育英会は，育英制度の社会階層的基盤を下層階級にまで拡大し，〈育英〉と〈教育の機会均等〉の調和を目標に，新たな特別奨学金制度を発足させた。以後これがわが国の育英制度の中心となりつつある。

〔現状と問題点〕わが国の育英制度は，次のような特徴をもっている。①奨学金の支給範囲は広いがその金額が少ないので真の貧困層が疎外され，中間層の子弟に対する学資援助の傾向が強い。②給費制をとっている国が多いのに比し，わが国では貸与制が主である。③日本育英会の1968年度の貸与(資金約165億円を約31万人の学生・生徒に貸与)からみても，国家的育英制度としての役割が大きい。④奨学金の貸与という活動に限られ，英才の組織的発見・養成という活動などがきわめて低調である。〔麻生　誠〕

いぐさ　【藺草】 ⇨イ

いくさぶぎょう　【軍奉行】 鎌倉・室町両幕府の職名。軍事全般の総指揮官で臨時の所職。保元(ほうげん)の乱に源為朝(ためとも)がなったのをはじめとし，鎌倉時代には侍所の別当・所司がその任についた。室町幕府も先例にならったが，応仁(おうにん)の乱後は所司以外の者も任ぜられた。諸大名でも軍奉行を置いた例が多い。

いぐされいぼ　【萱草鈴慕】 琴古流*尺八の古典本曲の曲名。旧来の伝承曲，表(おもて)18曲のうちの一。萱草という村に残されていた尺八曲を黒沢琴古が習得し，編曲したものといわれている。

いくじ　【育児】 子どもを育てることをいうが，単に乳や食事を与え，身体の発育を図るだけでなく，一人まえの成人として，社会でひとり立ちできるまで，精神や知能の発達を促し，教育をして，生活自立の実力を身につけさせることである。古く育児のことを〈子やらい〉といったが，これは育て，教育して社会に押しやることの意であった。育児の責任は乳幼児期では直接には家庭の保育者特に母親にある。そして母の

愛情が乳幼児の発育上最もたいせつであるが，父もその協力者として大きな責任をもたねばならない。さらに父母以外では社会の責任も大きい。隣人あるいは学校の教師・友人，そして政府・地方公共団体の責任である。政府としては児童福祉法*・母子保健法*などの法律をつくり，施設として保育所*・保健所*・母子センター・児童相談所*などを設けている。

ヨーロッパ諸国においても日本においても，古代には小児はあまりたいせつに扱われなかった。人口制限の理由もあって，嬰児(えいじ)殺し・捨て子などが非常に多かった。しかしヨーロッパではキリスト教，東洋では仏教の布教につれて小児の人権も認められるようになり，それらの団体により養護施設がつくられはじめた。しかし小児が国の宝としてたいせつにされはじめたのは，ヨーロッパでは19世紀半ば，日本では昭和時代にはいってからである。そのころから小児保護の法律や規則がつくられはじめた。

育児の方法は以前は経験からきた原始的な方法で行なわれていたが，最近は科学的根拠をもって体系づけた一つの学問となっている。これを育児学という。育児の一般的傾向も時代とともに変わり，古くは身体ならびに精神を親の意のままに厳格に教育鍛練する方針がとられてきたが，最近は小児自身の自律を尊重しつつ，正しい発育発達を促すように努められている。しかしややもすると小児自身の意志を尊重するあまり，過保護やわがままに陥りやすいので注意しなければならない。〔宇留野勝正〕

イクシオン [Ixion] ギリシア神話のテッサリア地方の王。妻ディアの父が約束の結納を求めたとき，彼を炭火の詰まった穴へ落として殺し，最初の親族殺しとなった。ゼウス*がこの罪を清めたが，その恩を忘れてヘラ*を犯そうとしたので，ゼウスは雲でヘラの似姿をつくった。しかし，彼はこれと交わってケンタウロス*をもうけたため，ゼウスは火を吹いて休みなく回転している車輪に結びつけて罰し，同時に彼を不死としたので，彼の罰は永遠にやむことがないという。〔黒田杏子〕

いくじかぐ 【育児家具】 小児の身体ならびに精神の完全な発達を促すための家具をいう。一般家庭においても，乳児院*・保育所*などの乳幼児施設においても広く用いられている。一般的な育児家具の選択条件としては，①危険性のないこと，②取り扱いやすいこと，③便利なこと，④じょうぶで耐久性のあること，などがあげられる。見た目ばかり美しかったり，よけいな飾りなどの目だつものは適当とはいえない。色は明るいものがよく，塗料は鉛分を含まないものであること。鉛中毒を起こす危険性があるからである。

【種類】①小児用寝台：木製・鉄製・籐製(とうせい)などいろいろあるが，しっかりしたじょうぶなものがよい。乳児用には高い手すりのついたものがよい。②ベビーサークル：乳児を安全に遊ばせるためのさくの囲いである。これもじょうぶなものでないと役にたたない。ベッドと兼用になっているものもあるが，安全性や組み立てのめんどうさなどに問題がある。③ベビーコーナー：ベビーサークルの半分のさくでへやの一隅(いちぐう)につける。2方が壁であるので，さくは2面だけでよいことになる。④食卓付きいす：すわれるようになった乳児を掛けさせながら食事をさせるいす。テーブルのまわりを，遊びながら食事をするような乳児に，しつけのためにも望ましい。⑤幼児用小テーブルといす：幼児が食事をしたり遊んだりするのに用いる。⑥腰掛け式便器：すわり板の中央に穴があり，その下に取りはずし自由な便器がついている。動物の首などのついているものが小児に喜ばれる。⑦歩行補助器：乳児がささえ立ちやささえ歩きを始めるころから，ひとり歩きの練習をさせるために用いる。2種類あり，丸いわくの中央に小さい腰掛けと車つき脚がついていて足でこぐ式のものと，押し車形(いわゆるカタカタ)とがある。前者は車が5個ついているものが安定がよく，ころぶ心配が少ない。後者は押して歩くときに足がつまずくと，手を掛ける横棒にあごをぶつける危険性があるので注意を要する。⑧洋服たんす・整理たんす・取り付け鏡・げた箱・帽子掛け・本箱・本だな・おもちゃ箱・おもちゃだななど：小児のしつけのためにできるだけ準備したい。⑨うば車とベビーカー：乳幼児を連れて外出するときに便利である。いずれも床・壁・背あて・スプリングなどのしっかりしたものがよい。日本で現在市販されているものはその条件に合ったものが少ない。車はなるべく大きいものが押しやすい。車のブレーキのついたものはひとりで動き出すのが防げるので安全である。⑩ぶらんことすべり台：庭さきでの運動のために備えてやりたい遊具である。事故の予防のためにそれ自身はもちろん，周囲も整えておく注意が必要である。

【民族性】育児家具には各国・各民族ごとにいろいろな特徴がみられる。たとえばイギリスの育児家具は一般にしっかりした堅牢(けんろう)そのものの感じのものが多く，数代にわたって使用できそうにみえる。イギリスの乳児用ベッドは木製でもしっかりしていてじょうぶである。それに対し，日本のは，サークル兼用などの，見た目にはきれいであるがこわれやすいものが多い。うば車も同様でイギリス製は車輪も大きく，前と後ろの輪が重なり合っているくらいであり，かつ，箱もしっかりしている。これに対しフランス・ドイツ・日本などのは，見た目には美しいが実用的でないものが多い。イギリスでは使用目的にも細かい配慮がなされ，双生児用や乳児と幼児の兄弟2人同時に乗れる2階建てうば車なども考えられている。

揺りかごやハンモックなども各国それぞれにくふうされている。鹿児島県の南の島では〈いさ〉という木製の揺りかごを天井からつるしているし，北海道のアイヌは〈シンタ〉というそりのような形の揺りかごを同様に天井からつるして乳児を入れている。フィリピンや東パキスタンなどではフジのつるでつくった揺りかごやハンモック，ヤシの木の多いインドネシアの島ではヤシの葉で編んだ揺りかごを使っている。フィリピンなどの海岸部では魚をとる網をハンモック代わりに木の間につっている。日本で農村各地に用いられていたいずめ*も民族的育児家具である。いろいろな材料で編んだ大きなかごは南方の島々でもよく使われている。イギリスのストラットフォード-オン-エーボンのシェークスピアの生家には，ベビーマインダーが保存されている。これはいろりの前に床から天井まで1本の棒が立ち，その下端近く腕が出ていて，そこに子どもをくくりつけるようになっている保育具で，子どもはこの棒のまわりを回りながら遊んだわけである。

以上のほか最近はいろいろな便利な家具も考えられ，ヨーロッパでは携帯用乳児ベッドを自動車や列車の中までも持ち運びしている。また小さい乳幼児用いすを両側からバンドをつけて下げ，両親が左右から持って歩くペアレンツケースなどもみられる。〔宇留野勝正〕

いくじじかん 【育児時間】 生後満1年に達しない生児(親子関係にある子)を育てる婦人労働者に与えられる育児のための時間。労働基準法34条の休憩時間のほか，1日2回おのおの少なくとも30分請求することができる(同法66条)。使用者は，請求があっても育児時間を与えなかったり，または育児時間中の婦人を働かせると罰せられる。育児時間をいつ与えるかについて規定はないが，請求のあるときに随時与えるべきである。なお，育児時間中の賃金については定めがない。〔木元錦哉〕

いくしましんごろう 【生島新五郎】 (1671～1743) 元禄(げんろく)期の江戸の歌舞伎(かぶき)俳優。1689年(元禄2)立ち役*となる。特にぬれ事・やつし事を得意とした。1714年(正徳4)江戸城大奥の女中絵島と密通したとがで，三宅(みやけ)島に流された。➔江島生島

いくしゅ 【育種】 生物の遺伝形質を人為的に改善して，人間にとってさらに利用しやすい品種をつくりだしていく操作をいう。対象は農作物や林木などの植物，家畜や魚類などの動物，さらに近年は有用微生物の育種も重要な問題になっている。既存の品種の欠点を改良して新しい品種とする場合が多いので，品種改良ともよばれる。育種の大きな成果の一例として北海道の稲

作の普及があげられる。明治初年には道南の一部にしか栽培できなかったイネが，現在は北海道のほとんど全域で栽培可能となったのは，主として早生耐冷性品種の育成によるものである。育種の操作は，変異を含む集団を集めたりつくりだす操作と，この集団から優良な変異を選び出して増殖・維持する操作の二つに大別され，変異を含む集団をつくりだす手段によって純系育種・交雑育種・突然変異育種などに分けられる。〔山川邦夫〕

いくしゅんべつ【幾春別】⇨三笠(みかさ)市

いくじようひん【育児用品】乳幼児を育てるために必要な品をいう。身につける被服や室内外の用品があげられる。ただベッドやうば車のような大形のものは特に育児家具*といっている。

【種類】①被服：はだ着・胴着・上着・ベビー服・おくるみ・サックコート・よだれかけ・エプロン・スモック・寝巻き・おむつ・おむつカバー・帽子・手袋・くつした・はきものなどがある。はだ着や下着は汗や皮膚の分泌物・脱落物などを吸収しやすい地質がよく，そのために幼若乳児にはガーゼ地，そのほかにはもめん地(さらし・ネル)が適する。寒い季節に着る胴着・中着は保温性のよいメリヤスや毛織り・綿入れなどがよく，上着や乳幼児服は同様に寒い季節では保温性のある地質で，よごれにくいものがよい。すべて地質はじょうぶなものがよいことはもちろんで，上着や乳幼児服は合成繊維も適宜用いられる。衣服の形はすべて着せやすく，運動しやすくしかも脱げにくいものがよい。そのために運動の盛んな時代にはオーバーオール形のものが適当である。帽子は防寒用と日よけ用との2種がある。寒い季節には手袋やくつしたを用いる。だいたい気温が15℃以下になったらくつしたやたびをはかせる。寝巻きはころげても脱げず，腹部が出ないコンビネーション形やパジャマがよい。乳幼児のはきものは，2歳まではひもを用いた編み上げ短ぐつ，3歳以上ならベルト形で尾錠やスナップで留める形の短ぐつがよい。はきものは足の発育や歩行・走行の発達のためにたいせつなものであるから，選択には十分注意しなければならない。②寝具：小児用のマットレス・敷きぶとん・毛布・掛けぶとん・シーツ・まくら，さらに季節によってかや*などが必要である。敷きぶとんは小児のからだが沈むほど柔らかいものはよくない。まくらは生後まもない間はタオルを4枚だたみにしたものでよい。なお頭の形の変形を予防・治療するための特別な乳児用まくら(ドーナツ形など)もできている。③外出用品：おんぶひも・だっこバンド・ねんねこ・おくるみ・トレーニングベルトや育児かばんなどがある。乳児を連れて外出するときはおんぶ*をしたり，だっこバンドを用いてだっこすると，母の両方の手が使えるのでつごうがよい。歩きはじめの子どもを歩かせて連れていくときは，トレーニングベルトを用いると事故予防のために有効である。④入浴用品：出生後まもない乳児の室内での入浴にはたらい・洗面器・温湯計・バスタオルなどを準備する。たらいは以前は木製を用いたが，最近はプラスチックやハイゼックスなどの合成品がつくられている。せっけんは良質の乳児用せっけんか乳児用入浴用洗剤を選ぶ。⑤保健衛生用品：乳児用体重計・室内温度計・湿度計・便器・救急用品などがある。乳児用体重計は感度5gくらいの乳児用台ばかりや時計目盛り形のはかりがよい。便器は腰掛け形やつぼ形が適当である。救急用品としては体温計・脱脂綿・ガーゼ・包帯・マーキュロクローム液・ばんそうこう・亜鉛華オリーブ油などが必要で，箱に入れて救急箱としておくとよい。以上のほか氷まくらや氷嚢(ひょうのう)も用意しておく。保温用としては湯たんぽも必要で，乳児用にはゴム製が最もよい。⑥保育用品：揺りかご・ハンモックなどのほかに遊具を兼ねたジョーリージャンパー・歩行器・トットトッター・ぶらんこなどがある。それぞれの特徴を生かして保育の合理化に役だてるとよいが，過度に用いるとかえって身体の発達の障害となることがあるので注意しなければならない。⑦調乳および食事用品：人工栄養*や混合栄養*のときの哺乳(ほにゅう)びん・乳首・計量カップ・魔法びんなどの調乳用品や，離乳期食・幼児食をつくる用具や与えるときの食器(盆・茶わん・さら・コップ・乳児用スプーンやフォークなど)である。形や質・色などは乳幼児の好みに合うようなものを選ぶ。

【民族的相違】世界各国の育児用品は各生活習慣，気候，文化の水準，民族的性格などによっていろいろ違っている。民族衣装からくる小児の衣服が違っていることはもちろんであるが，気候や文化による相違も著しい。南方の暑い諸島の小児はほとんど裸であり，腰ひも1本だけの民族もある。国民性の違いとして，イギリスでは歩きはじめの乳幼児はほとんどすべて外出時はトレーニングベルトをつけている。外見よりも幼児の安全を考えているからである。乳児を連れて歩く用具も民族的に特徴がみられ，日本ではおんぶ帯を用いておんぶをしているが，ヨーロッパではカンバスベッドのような小さいベビーベッドを肩に掛けたり，または汽車や電車の中まで持っていく。フィンランドのラップ族は箕形(みがた)の皮製かごに乳児を入れて肩に掛けて歩き，アメリカのインディアンは皮製サックに乳児を入れて背負って歩く。〔宇留野勝正〕

いくせいかんぜい【育成関税】後進国が自国の特定の産業を保護・育成するために，その産業の外国商品に対し，一定期間に限って課す関税*。これを課するのは，その産業が，まだ外国商品との競争に耐ええないが，一定期間後には十分競争できるまでに発展する可能性をもっていることが前提となる。➔保護関税　➔幼稚産業保護論

いくた【生田】神戸(こうべ)市の中央部にある区。区名は生田神社があることにちなむ。人口47,000。東は旧生田川筋を隔てて葺合(ふきあい)区，西は旧湊(みなと)川筋を隔てて兵庫区の商工業地区に接し，南は神戸港に臨む。元町通り一帯には，兵庫県庁をはじめ，貿易関係の商社や銀行が立ち並び，東部の三宮*(さんのみや)駅付近には，市役所その他の公共機関や百貨店・映画館・劇場・飲食店などが集まり，神戸市の政治・経済・娯楽の中心地となっている。三宮駅北方の生田神社は稚日女尊(わかひるめのみこと)を祭神とし，風雨・災害の守護神として古来皇室の崇敬を集めた。境内の生田の森は源平時代や南北朝時代にしばしば戦場となった所である。北部には六甲山地が迫り，瀬戸内海国立公園の区域内に含まれる。〔浅井得一〕

いくたけんぎょう【生田検校】(1655～1715) 生田流箏曲(そうきょく)の始祖。作曲家。三味線(しゃみせん)と箏の合奏を進め，そのためにふさわしい雲井調子や中空(なかぞら)調子など箏の調弦法をくふうしたり，三味線と同じようにスクイづめを使い，それにかなった角形の琴づめを考案したといわれる。また，曲の練習法に順序をつけるなど，社会制度としての流派の形成を方向づけた。作品《五段の調べ》など。➔生田流

いくたしゅんげつ【生田春月】(1892～1930) 詩人。鳥取県生まれ。本名は清平。家貧しく朝鮮・本土を放浪した。のち上京して生田長江*の知遇を受け，独学でドイツ語を習得した。その詩は純粋な魂の苦悩を甘美に歌いあげている。詩集《霊魂の秋》《感傷の春》《象徴の烏賊(いか)》のほか，ゲーテ・ハイネの翻訳で有名。1930年(昭和5)5月，芸術と思想に行きづまり瀬戸内海に投身自殺を遂げた。

イクタせい【イクタ制】イスラム世界の土地分封制度。イスラム教アラブ人が聖戦によって獲得した土地は，国家からアラブ人に貸し与えられ(イクター)，これを受けた者(ムクター)は10分の1税(オシュル)を国家に納めた。土地は世襲が認められ，また自由に処分できた。これによって農耕を奨励し，国家の増収が意図された。アッバス朝以降になると，イクターは兵士に与えられる領地となり，給与の代わりにその徴税権が譲与された。やがてこの制度は地方分権化を助長させる結果となった。〔小谷仲男〕

いくたちょうこう【生田長江】(1882～1936) 評論家。鳥取県生まれ。本名は弘治(こうじ)。東京大学哲学科を卒業。はじめは自然主義の同調者であったが，やがてこれを批判して社会主義に接近した。大正末期(1920年ごろ)からは超近代主義を宣言し，

近代の唯物的人間観の克服を宗教に求めた。著書に《最近の小説家》《最近の文芸思潮》《超近代派宣言》などがあり，ニーチェ全集・ダンテの翻訳の業績は大きい。

いくたっぷ【郁達夫】 ユーターフー (1896～1945) 中国現代の作家。日本留学生出身。1921年，同じ留学生の郭沫若*(かくまつじゃく)らと文学団体の創造社を結成，作家生活にはいった。処女作の《沈淪(ちんりん)》は，留学中に体験した被圧迫民族としての悲哀と抑圧された性のもだえを表現したもので，問題作となった。中国最初の私小説作家で，日記や自伝などがその意味で代表作。第2次世界大戦の終結直後，スマトラ島で日本軍憲兵に拉致(らち)されて殺されたという。

いくたまじんじゃ【生玉神社】 大阪市天王寺区生玉町にあり，正しくは生国魂(いくくにたま)神社という。祭神は生島神と足島神(たるしまのかみ)で，ともにわが国土の霊(みたま)，守護神として信仰されてきた。神武天皇の東征時に2神を祭り，応神天皇の代に社殿を建立(こんりゅう)したと伝えられる。《延喜式神名帳》には〈摂津国(兵庫県・大阪府)東生郡難波(なにわ)ニ生国咲国魂(いくくにさきくにたま)神社ノ二座アリ〉とある。社殿は生国魂造りといわれる特殊で複雑な構造の屋根をもつ。例祭は9月9日。〔佐野文哉〕

いくたよろず【生田万】 (1801～1837) 江戸後期の国学者。平田篤胤*(あつたね)門下。名は国秀(くにひで)，のち道満(みちみつ)。万は通称。上野(こうずけ)(群馬県)館林(たてばやし)藩士。藩政改革を唱えて追放され，のち越後(えちご)(新潟県)柏崎(かしわざき)で塾(じゅく)を開いた。大塩平八郎の乱*に応じ，1837年(天保8)5月柏崎の本陣を襲って敗死した。《古易大象経伝》《岩にむす苔(こけ)》など，著書も多い。

いくたりゅう【生田流】 元禄(げんろく)年間(1688～1704)に生田検校*(けんぎょう)によって始められた箏曲(そうきょく)と地歌の伝承のための組織。それ以前の箏曲にはない新しさを三味線(しゃみせん)音楽と結びつけることによって形成した。この組織は一つの家元によって統轄されているものではなく，諸流派の集まりであるが，のちに江戸を中心に浄瑠璃(じょうるり)と結びついて成立した山田流*とは全体的に異なる特色をもっている。それは楽器を中心にしたもので，歌の旋律そのものは簡素で技巧をこらさないことである。また琴づめは山田流の丸形に対して角形を使用するのもこの流派の共通の特色である。しかし，音楽への態度や演奏の好みについては，地歌の場合はもちろん箏曲の場合ですら，この中にはかなり違う傾向があって一様に論じられない。〔徳丸吉彦〕

いぐち【猪口】 担子菌類・アミタケ科(イグチ科ともいう)ならびにオニイグチ科のきのこに対する一般的なよび名である。イノシシの口に似ているのでこの名があるという。かさの裏側は通常管孔となっていて，外見は網のように見える。多くのものは林の中の地上に発生して，高等植物との間に菌根*をつくる。胞子紋ならびに胞子の形態についてはさまざまであり，子実体(きのこ)の大きさもまた大小さまざまな種類がある。この科のものはほとんどの種類が食用になる。ヌメリイグチ・ハナイグチ・アミタケ・ヤマドリタケ・イロガワリ・オニイグチなどが有名である。最も代表的な種類としてはヤマイグチがあげられる。ヤマドリタケはヨーロッパにおいては非常に珍重され食用菌中の王とされている。イグチの類はわが国においても一般に種類も多く，採集量も多いきのこであるから，形態上の特徴を知って観別ができるようになると便利である。➔きのこ 〔曾根田正己〕



イグチ
ヌメリイグチ

イクチオザウルス ⇨魚龍(ぎょりゅう)類

いくちじま【生口島】 瀬戸内海の芸予諸島中の1島で，広島県に属し，三原市の南方にあり，島の大半は瀬戸田町に属し南東部は東隣の因島(いんのしま)市の一部になっている。面積30.6km^2，人口15,000。瀬戸田町は，生口島の大部分と北西の高根島を含み，豊田(とよた)郡に属している。ミカンとジョチュウギクの栽培が盛んで，また因島の造船所への通勤者も多い。瀬戸田町にある耕三(こうさん)寺は，1936年(昭和11)から金本耕三(かねもとこうぞう)によってつくられ，わが国の代表的な仏教建造物のイミテーションであるが，〈西の日光〉とよばれて，バラ園や動物園とともに，観光客を集めている。瀬戸内海汽船の定期便が，尾道(おのみち)と今治(いまばり)へ通じているほか，船便が多い。〔浅井得一〕

イクチノス［Iktinos］ 紀元前5世紀後半に活躍した古代ギリシアの建築家。カリクラテスとともにアテネのパルテノン神殿*の設計者として知られている。

イグナイトロン［ignitron］ イグナイターとよばれる点弧電極を備え，水銀だめ陰極をもつ単陽極水銀アーク整流器。高い電気抵抗をもつ炭化ホウ素などの半導体でつくられた棒状のイグナイターの先端が，陰極となる水銀だめの中に浸してある。200V程度の補助電源によって，イグナイターから水銀だめにパルス状の電流を流すと，水銀だめの表面に陰極点が形成される。このとき，陽極が正電位にあれば，陰極と陽極間に点弧が起こり，アーク放電を開始する。イグナイトロンは逆弧が起こりにくく，安定した整流ができるため，大形の整流器やインバーターに広く用いられている。〔伊藤糾次〕

イグナチウス-デ-ロヨラ［Ignatius de Loyola］ (1491～1556) イエズス会*の創立者。スペインのバスク州，ロヨラ城に生まれた貴族。軍人となって負傷し療養中，イエスをいただくマリアの幻を見て回心し，キリストの兵士となることを誓ったという。聖地を巡礼し，スペインの各大学で学んだのち，1534年パリ大学で6名の同志によりイエズス会を創設。教皇パウルス3世に謁して設立認可状を授かり，1541年初代総会長となった。1551年にはローマ学院を設立し，学問・教育を重視する一方，反宗教改革の中心として活躍した。組織力においてカルバン*に，宗教体験の深さにおいてルター*に比されている。主著《心霊修行》はイエズス会の魂ともいうべきもの。〔石井忠厚〕

イクナートン［Ikhenaten］ (？～BC1347ごろ) イクン-アトン・イク-エン-アテンともいう。前名はアメンヘテプ4世またはアメノフィス4世。古代エジプト第18王朝の王。在位BC1364～BC1347年ごろ。父王アメンヘテプ3世*より繁栄した帝国を受け継いだ。当時，帝国の守護神として尊崇されたアモン*が，歴代のファラオ*による戦利品，土地の寄進を受けて富を蓄積し，これを背景としてその神官団は政治上の発言力を強めていた。王とアモン神官団との対立はついに専制君主である王をして〈宗教改革〉に踏み切らせた。王は軍人・軍属の支持のもとに，太陽神アトン*のみを唯一神とする信仰を強制し，アモン神やその他の伝統的な多神教の神々の祭祀(さいし)を禁じた。改革の徹底化のため，王都はそれまでいかなる神にもささげられたことのない中エジプトのアケト-アテン(アトンの地平線の意。現在のアマルナ)へと移され，王名もアメンヘテプからイクナートン(アトンに有用なる者の意)と改名された。改革の影響は文化面にも及び，王の指導のもとに，太陽神の恵み深い自然をありのままに表現するアマルナ芸術が生まれ，公式用語には，文語である中エジプト語(中王国時代の言語)に代わって，口語である新エジプト語が採用された。しかし，王は政治を忘れて信仰に熱中し，しかもその唯一神信仰も，臣民に対しては神の預言者である王を礼拝することのみを要求したため，王の私的信仰にとどまり，急激な伝統との断絶は保守的なエジプト人の不評を買い，対外領土の喪失は官僚・軍人階級を失望させ，改革は一代限りで終わった。➔アマルナ時代 〔屋形禎亮〕

いくの【生野(町)】 兵庫県朝来(あさご)郡にあり，県のほぼ中央部の鉱山町。人口6,300。生野鉱山*の開発は古く，807年(大同2)に銀鉱が発見されたと伝えられ，以来江戸時代に入ってからは，幕府の天領とな

って栄え，鉱山町が形成されてきた。明治維新後は宮内省の直轄になり，のちに三菱(みつびし)鉱業に払い下げられた。生野鉱山の鉱質は多数の鉱脈群からなり，産出される鉱物も銀をはじめ，銅・亜鉛・スズ・金・鉛など多種にわたっているが，最近は銅・亜鉛・スズが主となって，1973年(昭和48)ついに閉山した。〔浅井得一〕

いくののへん【生野の変】1863年(文久3)但馬(たじま)(兵庫県)生野で起こった討幕の挙兵事件。福岡藩士平野国臣*(くにおみ)らが天誅組*(てんちゅうぐみ)の乱に応じて挙兵。七卿(しちきょう)落ち*のひとり沢宣嘉(のぶよし)を擁し，近隣の尊攘派(そんじょうは)地主層の支援を得て農兵2,000名を動員して10月生野の代官所を襲い占拠した。幕府は近隣の諸藩に命じて3日間で鎮圧した。首領の薩摩(さつま)藩士美玉(みたま)三平，長州藩士河上弥市(かわかみやいち)は戦死，国臣は捕えられて京都で切られた。この挙兵は討幕運動に刺激を与え討幕機運を助成した。〔松尾　涼〕

いくびょう【育苗】作物の栽培には，はじめから畑や田に種子をまいてそのまま育てる直播(じきまき)栽培と，小さな畑や特別なところに種子をまいて一定期間周到な管理をして苗を育て，苗がある程度育ってから畑や田に植えつける移植栽培がある。移植栽培で植えつけるまえの苗を育てることを育苗という。育苗の利点は抵抗力の弱い苗の幼少期に周到な管理ができることで，植えつけの手間はかかるが，きめ細かな育苗技術によってよい苗をつくることができ，ひいては良質の生産物を得ることができる。育苗は野菜類・タバコ・イネに用いられることが多く，育苗する場所を苗床という。苗床の種類はいろいろあり，イネの苗床は特に苗代(なわしろ)といわれ，また育苗中ビニルなどでおおって保温する苗代を保温苗代という。野菜では電熱などで加温することがあり，これを温床といい，冬は温床育苗することが多く，夏は加温しない冷床で育苗する。〔松本正雄〕

イクラ［ikra］サケ・マスの腹子を，新鮮なうちに魚卵分離器にかけて粒々に分離し，これを塩蔵したもの。すじこ*と違って常温での貯蔵性はきわめて短く，夏季では1～2日，冬季で5～6日くらい。大粒で茶色・黄色または金色を呈するものがよく，中でも金色のものが最上。酒のさかなやオードブルに用いられる。イクラはロシア語で〈魚卵〉の意。

イグルー［igloo］エスキモーの冬の住居。エスキモー語の〈家〉の意で，氷状の四角い雪を半球形に積み上げてつくる。カナダ北端のマッケンジー川河口からラブラドル半島にかけてみられたが，最近では少なくなっている。入り口までトンネルを築いて通路・物置きに使う。風が吹き込まないので比較的暖かいが，湿度が高いため長期の居住には適さない。また夏はとけるため，



生け簀 イワシの生け簀。後方はカツオ漁船

皮製のツピク*に住む。〔佐藤甚次郎〕

いけいさいせい【異形再生】動物がからだの一部を失ったとき，もとのようになろうとする現象，すなわち再生をする働きがあるが，失ったものとは異質のものが再生することがあり，異形再生または異質形成という。エビの目の代わりに触角が再生したり，プラナリアの尾の代わりに頭ができたりする。

いけいしつ【異形質】原形質*と後形質*との中間のものという意味で，A.マイヤーはべん毛・繊毛・原形質連絡など，細胞の中の特に分化した要素を異形質と名づけた(1896)。また小倉謙は，細胞が分裂するとき，細胞質中に一時的に現われ特殊な働きをする，中心体・星状体・紡錘体などの総称とした(1951)。

いけいしょうこうねつ【異型猩紅熱】⇨泉熱

いけいてっきん【異形鉄筋】鉄筋とコンクリートの付着強度を高めるために，鉄筋の表面に節や突起をつけたもの。異形鉄筋にはコンクリートとの付着性，施工時のコンクリートの回りのよさなどを考えて，いろいろの形状がくふうされている。高張力の異形鉄筋もある。

いけいはいぐうし【異形配偶子】形または大きさが異なる配偶子*。大きさが異なるとき大配偶子・小配偶子というが，同時に形も異なっているのが普通で，一般に大形で球状不動のものを卵，小形でべん毛があり運動をするものを精子という。多くの生物は異形配偶子をもつ。

いけいれん【胃痙攣】胃部に発する仙痛(せんつう)様発作。胃けいれんとよばれているものの原疾患には，胃以外のものも含まれ，胃癌(いがん)・胃潰瘍(いかいよう)・十二指腸潰瘍の場合よりも，胆石症・腎(じん)結石・急性膵炎(すいえん)が考えられる。腸閉塞(ちょうへいそく)・腸重積・ヘルニア嵌頓(かんとん)・胃癌・胃潰瘍・十二指腸潰瘍の穿孔(せんこう)でも激痛があり，ショック状態となる。その他，腹痛をきたす疾患としては急性虫垂炎，腸間膜静脈血栓(けっせん)，胃腸管の軸捻転(じくねんてん)，胆道ジスキネジー，脾臓(ひぞう)疾患，子宮外妊娠，卵巣径捻転，女性付属器炎，腎盂(じんう)・尿管・膀胱(ぼうこう)結石などがある。また胸郭内疾患で，心筋硬塞・急性心囊炎(しんのうえん)・鬱血肝(うっけつかん)・胸部大動脈瘤(りゅう)・結節性動脈周囲炎・急性肺炎・気胸・肺血栓・急性肋膜炎(ろくまくえん)などの際にも上腹部痛を訴える場合がある。鉛・ヒ素中毒の際の腹部痛も激しいもので，胃けいれんと総称する場合，上記のいずれの疾患によって起こったものか鑑別し，その原因を除くことがたいせつである。〔後藤義隆〕

いけいれんが【異形煉瓦】⇨れんが

いけがいしょうたろう【池貝庄太郎】(1869～1934) 実業家。田中製作所(芝浦機械製作所の前身)で旋盤の修理技術を習い，1889年(明治22)東京に池貝工場(池貝鉄工)を開業，その年国産第1号の旋盤を2台製造した。1897年国産第1号の石油機関を完成，これを漁船用に試用，1919年(大正8)ディーゼル機関，1924年無気噴油ディーゼル，1928年(昭和3)高速度軽重量無気噴油ディーゼルを完成，さらにディーゼル自動車の創製，超高速度旋盤の製造に成功した。〔安達淑子〕

いけがき【生け垣】⇨かきね

いけす【生け簀】漁獲した魚介類を生かしておく場所，または器物。かご生け簀・箱生け簀・船生け簀・網生け簀・堀(ほり)生け簀などがある。いずれも海水のみ出入りでき，魚介類は出られないようになっている。アワビ・イセエビなどの生け簀で，小規模で蓄養期間の比較的短いものもある。これに比して，近年の栽培漁業*の発展により，小湾の一部を網などでくぎった，大規模なハマチ養殖の生け簀もある。館山(たてやま)湾などには，カツオ一本づり用のイワシの生け簀があって，東京湾付近で漁獲されたイワシが多量に蓄養されている。〔石野　誠〕

いけだ【池田(市)】大阪府北西端の市。開発の歴史が古く，大陸から渡来した呉織(くれはとり)・穴織(あなはとり)の工人の居住地であったことから，《日本書紀》では，呉服里(くれはのさと)と記されている。江戸時代は能勢(のせ)街道の宿場町，十二斎市の立つ市場町であった。1939年(昭和14)市制施行。人口10万。猪名(いな)川が武庫平野に出る谷口に位置し，東西に狭く南北に長い。阪急(はんきゅう)電鉄宝塚(たからづか)線・国道173号線・176号線が通じ，大阪の衛星都市として五月山(さつきやま)団地をはじめ住宅団地が多く，すべての市立小学校に付属幼稚園をもつ教育都市として知られる。産業三大別人口比は2：31：67で，発動機・オート三輪などの製造工業が発達している。猪名川の伏流水を利用した酒の醸造が盛んで，江戸時代から灘(なだ)と並称され，また，苗木・植木・ボタン栽培などの全国的に名の知られた園芸農業も行なわれる。

いけだ【池田(町)】徳島県三好(みよし)郡の町。人口22,000。県の北西部，吉野(よしの)川が大きく屈曲する地点にある。徳島本線

に沿い，国道192号線（伊予（いよ）街道）と国道32号線（土佐街道）の分岐点。北の琴平，東の徳島，南の高知，西の川之江へ通ずる要地にあって，舟運・鉄道・自動車交通時代を通じて交通集落の性格をもつ。たばこの製造も有名で，日本専売公社の近代工場がある。

いけだきくなえ【池田菊苗】（1864～1936） 化学者。1889年（明治22）東京大学卒業。1889年ドイツに留学してライプチヒ大学でオストワルド*に学ぶ。1901年に東京大学教授となり，物理化学を教える。速度論・溶液論・多相平衡について研究し，蒸気密度測定法・沸点法についての考案がある。理化学研究所の設立にも参画した。しかし，最も有名なものは，1908年の化学調味料〈味の素〉の発明である。このほか，製塩問題などわが国独特の化学工業の育成にも貢献しており，多数の特許を得た。〔山下愛子〕

いけだこ【池田湖】 鹿児島県薩摩（さつま）半島の南東端，開聞岳の北のふもとにある，ほぼ円形をしたカルデラ湖。面積は11km² で九州第1。水面高度66m，最大深度233m。湖岸の大部分は絶壁で水に臨み，開聞岳を映して美しい。湖中水面下に中央火口丘に相当する円錐丘（えんすいきゅう）がある。1960年（昭和35）から指宿（いぶすき）市の上水道として利用され，アユやコイなどの養魚なども行なわれている。東方にある鰻池（うなぎいけ）（面積1.2km²，水面高度126m，最大水深61m）とともに霧島屋久国立公園に所属する。〔長津一郎〕

いけだしげあき【池田成彬】（1867～1950） 三井財閥の大番頭として，昭和前半の財界の指導的存在。政治家。山形県出身。慶応義塾（ぎじゅく）大学・ハーバード大学卒業後，三井銀行に入社。1923年以降常務取締役をつとめ，その間金解禁に際してドル買い政策をとって失敗するなど，その強行策は世の非難を浴びたが，金融資本による産業支配をめざして積極的な銀行経営を敢行。三井本社の代表となるや財閥への風あたりを恐れて，大幅な財閥改革を断行しようとし，これがもとで三井一族と衝突し退社した。その後日銀総裁・第1次近衛（このえ）内閣蔵相・枢密顧問官を歴任し，第2次世界大戦後はA級戦犯容疑者に指定されたが，のち解除された。〔片岡一郎〕

いけだしょうえん【池田蕉園】（1888～1917） 日本画家。東京の生まれ。本名ゆり子。池田輝方*（てるかた）の夫人で，はじめ水野年方，のち川合（かわい）玉堂に師事し，初期の文展に活躍。美人画にひいでていた。

いけだてるかた【池田輝方】（1883～1921） 浮世絵の系統を継ぐ日本画家。東京の生まれ。本名正四郎。水野年方，次いで川合（かわい）玉堂に師事し，院展・文展に出品，1919年（大正8）に至って如水会を結成した。妻の池田蕉園（しょうえん）とともに風俗画家として知られたが，夭折（ようせつ）した。



池田湖　高空から見た池田湖と開聞岳。湖の周囲は傾斜をつくって落ち込んでおり，カルデラ湖の地形的特色がわかる



池田成彬



池田満寿夫《センチメンタル-ジャーニー》1970



池田光政

いけだてるまさ【池田輝政】（1564～1613） 安土桃山時代の武将。信輝（のぶてる）の次男。1584年（天正12）長久手の戦いで父・兄ともに豊臣（とよとみ）方に属して戦死したあとを継いで岐阜城主となり，羽柴三左衛門尉（はしばさんざえもんのじょう）と称した。1590年小田原攻めの功により三河（みかわ）（愛知県）の吉田城に移され十五万石余を領し，1594年（文禄3）徳川家康（いえやす）の娘をめとる。関ケ原の役では徳川方に属し，功により播磨（はりま）（兵庫県）五十二万石を与えられ姫路城*を築いた。その後備前（岡山県）三十一万石余，淡路（兵庫県）六万石余を加増され，参議に上り，松平の姓を名のることを許された。その家がらは輝政の子，利隆（としたか）が岡山に，忠継（ただつぐ）が姫路（のち鳥取）に分封された。〔善積美恵子〕

いけだはやと【池田勇人】（1899～1965） 政治家。広島県に生まれる。京都大学卒業。大蔵省で税務畑を歩き，大蔵次官を経て1948年（昭和23）民主自由党から衆議院議員に当選。吉田（よしだ）茂*に重んぜられ蔵相・通産相として吉田内閣の経済面を担当した。第4次吉田内閣のとき，議会答弁中の失言により通産相を辞職した話題がある。石橋・岸内閣にも入閣したが，岸信介（のぶすけ）に対する反主流派の中心となり，1960年岸辞任後の自民党総裁となり，3次にわたり首相をつとめた。所得倍増を標語に経済成長政策を進めた。〔岸野淳子〕

いけだますお【池田満寿夫】（1934～ ） 版画家。満州奉天の生まれ。はじめ油絵を描いていたが，瑛九*（えいきゅう）の影響によって版画を始め，1965年のベニス-ビエンナーレで受賞，国際的な評価を受けた。

いけだみつまさ【池田光政】（1609～1682） 備前（岡山県）岡山藩主。輝政（てるまさ）の孫。利隆（としたか）の子。通称新太郎。1632年（寛永9）因幡（いなば）（鳥取県）より入封。儒教主義に基づいて確立期の藩政を強力に主導した。特に陽明学者熊沢蕃山*（くまざわばんざん）を登用し，藩学花畠（はなばたけ）教場・郷学閑谷（しずたに）学校*を設立して学問・文化の興隆に貢献した功績は大きい。また新田開発・殖産興業に努めるなど，民政の上にも多くの治績をあげた。江戸初期の代表的な名君のひとりである。〔善積美恵子〕

いけだやそうどう【池田屋騒動】 池田屋事件ともいう。1864年（元治1）6月，尊攘派（そんじょうは）志士を新撰組*（しんせんぐみ）が襲撃した事件。1863年（文久3）8月18日の政変で京都を追われた尊攘派は勢力回復をめざし，公武合体派（佐幕派）の中川宮・京都守護職松平容保（かたもり）らの暗殺を計画した。近藤勇（いさみ）・土方歳三（ひじかたとしぞう）ら新撰組はこれを探知し，京都三条小橋の旅宿池田屋で集会中の尊攘派志士20余名を襲撃した。宮部鼎蔵（みやべていぞう）ら志士のほとんどすべては切られ，または捕えられた。この事件によって新撰組の威名が京都に高まった。〔松尾　涼〕

いけちょうがい【池蝶貝】 軟体動物・二枚貝類・イシガイ科。淡水産で琵琶湖（びわこ）の特産種。全体にほぼひし形で，殻長（かく

ちょう)20cmほど，殻(から)は厚くかたい。殻表は白色であるが，黄色ないし黒色の殻皮におおわれる。殻の内面は白色で真珠光沢がある。淡水真珠の母貝として養殖され，貝殻は貝細工の材料などにされる。

いけづくり【生けづくり】 さしみのつくり方の名で，生きた魚でつくったさしみを生きていたときの姿に盛って供するもの。コイなどを生きたまま内臓を取り去り，頭と尾はつけておき，三枚におろすとき背筋の皮を切り離さずに肉だけ取って薄切りにし，冷水でざっと洗いにする(洗いにしないときは細づくりにする)。尾頭(おかしら)付きの骨を大ばちに横たえて，中骨を埋めるように洗いを盛り，皮をもとのようにかぶせる。これにつまと，わさびじょうゆまたはからし酢みそを添える。コイは活力の強い魚で，親骨を傷つけなければ相当時間口を動かしているから，客前で頸部(けいぶ)に包丁のみね打ちを加えるとぴちりとはねて身がばらばらになるのを盛り分ける。打つ代わりに酢またはしょうゆを目に1滴注いでもよい。コイの産地の郷土料理になっている。コイのほか，タイ・スズキ・ヒラメ・イセエビなども用いられる。 〔塩川ふみ〕

いけのせいいちろう【池野成一郎】(1866～1943) 江戸に生まれ，1890年(明治23)東京大学植物学科を卒業。以後，東京大学農学部において研究と教育にあたった。池野の業績のうちで最も有名なのは，ソテツの精子の発見(1896)である。この発見は，平瀬作五郎のイチョウ精子の発見とともに，顕花・隠花両植物のつながりを明らかにし，植物系統学に大きな貢献をもたらした。

いけのぜんに【池禅尼】 生没年不詳。平安末期の人。藤原宗兼(むねかね)の娘。平忠盛(ただもり)の後室。家盛・頼盛(よりもり)の母で，清盛には継母にあたる。忠盛の死後，六波羅(ろくはら)の池殿に住んだ。平治の乱で捕えられた源頼朝(よりとも)の助命を清盛に請い，その生命を救ったので，平氏滅亡後も頼朝に優遇された。

いけのたいが【池大雅】(1723～1776) 江戸後期の南画家。姓は池野，名は勤，字(あざな)を公敏または貸成といい，大雅・霞樵(かしょう)などと号した。はじめ絵を土佐光芳(みつよし)に学んだが，のち中国から伝来した《八種画譜》などを通じて中国の南宋画を独習，さらに日本の伝統絵画や西洋画の表現法をも加えて，伸び伸びと走る描線と明るく澄んだ色彩，奥深い空間把握(はあく)を特色とする独自の新鮮な画風を創造した。わが国の自然を詩情豊かに写した《陸奥(むつ)奇勝図巻》《日本名所十二景図》，中国的主題による《山水人物図襖絵(ふすまえ)》《楼閣山水図屏風(びょうぶ)》などの障屛画(しょうへいが)，文人画家の本領を発揮した《十便十宜帖*(じゅうべんじゅうぎじょう)》のうちの〈十便図〉や《洞庭(どうてい)赤壁図巻》の小品など品格の高い名作が多い。心暖まる逸話も多く，雄渾(ゆうこん)な筆致の書にもすぐれていた。篆刻家(てんこくか)の高芙蓉*(こうふよう)，書家の韓天寿(かんてんじゅ)を親友とし，門下から木村蒹葭堂(けんかどう)・野呂(のろ)介石・桑山玉州らを出した。妻の玉瀾(ぎょくらん)も山水画を描いた。 〔小林 忠〕

いけのぼう【池坊】 生け花流派の一。最も古い伝統をもつ流派。室町時代，京都頂法寺六角堂の司僧，池坊専慶が立花*の名手として名高く，池坊生け花の開祖とされている。以来，専応・専栄が現われ，《池坊専応口伝》《池坊専栄伝書》を残す。江戸初期，池坊中興の祖といわれる専好に至って立花の形が大成され池坊の地位が定まり，さらに江戸末期，専正のとき立花および生花様式を整備し，〈家元制度〉が確立された。明治中期に東京進出を試み，生け花界における最大の組織をもつ。戦後，京都に池坊学園短期大学を，東京に池坊お茶の水学園を設立し，池坊の近代化に努め，現在の家元専永に至る。 〔大井ミノブ〕

いけばな【生け花】 ⇨次ページ

いけはらダム【池原ダム】 奈良県吉野(よしの)郡上北山村にあるアーチ式のダム。熊野(くまの)川水系の北山川に，1964年(昭和39)に完成した。高さ111m，総貯水量3億3,800万m^3で，水力発電を目的として電源開発会社がつくった。池原発電所の最大出力は35万kWである。

イーゲーファルベン［I.G.Farben］ Interessengemeinschaft Farbenindustrie Aktiengesellschaftの略称。利益共同体染料株式会社。ドイツの世界的化学工業トラスト。1925年，利益共同体契約を結んでいた六大化学会社が合同して生まれた巨大トラストで，薬品・染料・窒素肥料・フィルムを中心にあらゆる化学工業製品をもって世界市場に進出し，1930年までにドイツ化学工業の3分の2を支配するようになった。さらに人造石油・合成ゴム・合成アンモニアの開発・大量生産に成功し，ナチス-ドイツの自給政策の基盤となり，その戦争準備に財政的援助を与えた。ドイツ戦争国家の発展とともに破竹の発展を遂げ，1943年には国内で380社，国外で500社を支配するに至った。第2次世界大戦後，東ドイツの工場を失い，西ドイツでは財閥解体で5分割されたが，現在ではバイエル・ヘキスト・BASF(バーディッシェ-アニリン-ウント-ソーダ-ファブリーク)の三大後継会社が共同して驚異的な発展を遂げ，1960年には西ドイツ化学工業の90%を支配するようになった。プルトニウム・重水の生産，原子力開発にも力を注ぎ，世界の化学工業をリードしている。 〔片岡一郎〕

いけぶくろ【池袋】 東京都豊島(としま)区のほぼ中央にある副都心地区。地名は，かつて多くの池があったことにちなみ，いまは池袋駅西方の小池にそのなごりをとどめる。もとは豊島郡池袋村とよばれた小部落で，キツネやタヌキのすむ森ややぶの多い土地であった。1889年(明治22)町村制の施行により巣鴨(すがも)村字池袋となり，さらに西巣鴨町の域内に編入されたが，1932年(昭和7)東京都豊島区にはいった。1903年に山手線が開通して池袋駅が設けられ，さらに東武鉄道東上線・西武鉄道池袋線などの開通につれて，しだいにその沿線部の人口が増加し，1923年(大正12)の関東大震災以後急速に発展した。特に第2次世界大戦後の発展はめざましい。駅付近にはデパート・銀行・商店・飲食店・映画館などが集まり，

→315ページ



イケチョウガイ



池大雅 《楼閣山水図屏風》酔翁図 東京国立博物館蔵

生け花

花道ともいう。草花を器にいけることによって花の美しさを生かす，日本特有の伝統芸術。生け花の成立した室町時代には，まずたてはな(立花(りっか))が現われ，安土桃山時代には茶花抛入(なげいれ)が，江戸時代前期には投げ入れが，江戸時代中期には生花(せいか)が，明治時代には盛り花が，大正時代には自由花が，昭和にはいってからは前衛生け花・造形生け花が現われた。

〔たてはな以前〕古代人は，自然に対して畏敬(いけい)の念をもつとともに親しみをいだいていた。《日本書紀》に〈草木みなよく物いふことあり〉とあるように，人々は草木に人間と同じような生命力を感じていた。女性の名にもコノハナサクヤヒメ(木花咲耶比売)・コノハナチルヒメ(木花知流比売)などという名を好んで用いている。また，イザナミノミコトが葬られたとき，土地の人々が神魂を慰めるために時節の花を折り取って供えたことが書かれているが，これは魂(たま)祭りと花との密接な関係を示している。

〔供花(くげ)〕供花は，供養のために仏前に供える花である。仏教とともにわが国へもたらされた供花が人々に受け入れられたのは，すでにそれを受け入れる素地が人々の心の中にあったからである。供花の代表的なものは，752年(天平勝宝4)に行なわれた東大寺大仏開眼(かいげん)供養会にみられる。聖武(しょうむ)天皇の発願によって完成した毘盧舎那仏(びるしゃなぶつ)の落慶供養に，花盤(けばん)に盛ったり花籠(けこ)に入れたりしたハスの花が供えられた。供花は，10世紀に始まる浄土信仰の流行によってさらに盛んとなり，極楽浄土を眼前に彷彿(ほうふつ)させるためにいっそうはなやかになった。それは11世紀の来迎図(らいごうず)に見ることができる。また，平安時代末期に成立した《今昔物語》には，農山村に住む信仰厚い女性が阿弥陀仏(あみだぶつ)にハスの花を供える話や，老婆が山野に行って折り取った時節の花を香とともに仏に供える話がみえる。12世紀後期の作である《平家納経》の〈安楽行品(あんらくぎょうほん)〉の見返しには金銅の花びんに茎高く立てられている草花が描かれている。このように茎高に立てられた花の形は引き続き鎌倉時代の絵巻物にも見ることができ，さらに関東地方の民間に流布した板碑にもしばしば現われてくる。

〔たてはなの成立〕15世紀の中期になると，これまでの挿花(そうか)は宗教的な性格を離れて観賞のための花となった。この変化の機縁となったのは，公家(くげ)・武家・僧侶(そうりょ)の間で行なわれた七夕花合(たなばたはなあわせ)である。これは，七夕祭りの日に，ナデシコ科の美しい花であるセンノウを花びんに立てて牽牛(けんぎゅう)・織女に供えるもので，花器は主として胡銅(こどう)が，次いで茶垸(ちゃわん)(陶器)・鍮石(ちゅうじゃく)(真鍮)，ごくまれには瑠璃(るり)(ガラス)が用いられた。そして，室町時代の床の間の発生によって，たてはなは座敷飾りとなった。

〔たてはなの創始者〕たてはなの技術にすぐれた人々は同朋衆(どうぼうしゅう)，公家の雑掌，僧侶の間にみることができる。同朋衆では足利義政(あしかがよしまさ)に仕えた立阿弥(りゅうあみ)・相阿弥・文阿弥，雑掌では山科言国(やましなときくに)に仕えた大沢久守(ひさもり)，僧侶では頂法寺(六角堂)の執行である池坊(いけのぼう)の住僧たちがいる。同朋衆のたてはなは，おもに《君台観左右帳記》に書かれているような胡銅・青磁の唐物(からもの)の花器を用い，花は1～3種類のものを数茎一度に立てた。雑掌の立花の特徴は4～5種類の多彩な草花を用いたことで，飯筒の花器や馬盥(ばだらい)のような平盤な木製花器を用いることが多かった。その花形は，久守の日記によれば，心を中心として右・左・中・左前・左後・右前・右下・下草という名でよばれた。久守は言国の供をして禁裏に上り，小御所，黒戸御所などに立花をしたが，小規模な障壁画の役割をしたと思われる立花に飾られたはなやかな室内で，和歌・連歌の会や香合わせが，また歌舞・酒宴が催されたのであった。久守は管領家(かんれいけ)にも出はいりし，特に斯波義敏(しばよしとし)との立花交流は頻繁(ひんぱん)であった。義敏は足利義政の立花愛好にならってしばしば花会を設けているが，義敏への立花の手ほどきは久守が行なったようである。僧侶の立花で代表的なものは池坊にみることができる。特に専慶は花道の一流派池坊の元祖とされ，専慶が数十枝の草花を花びんにさすと，洛中(らくちゅう)の好事家(こうずか)は競って見物したといわれる。そうして，現在の中京区六角通烏丸(からすま)東入ルにある六角堂が好適な場所であったこともあって，池坊はその後いっそう盛んになった。このように，多くの人々が立花に親しみ，その花が普及するにつれて，人々の求めに応じて花を立てる約束を書いた伝書が現われてくる。

〔たてはなの伝書〕最も古いものとされている《仙伝抄(せんでんしょう)》は，奥書きによれば三条家の秘本を1445年(文安2)富阿弥(ふうあみ)が相伝し，7人を経て1536年(天文5)池坊恵慈に相伝されているが，この90年間にいくつかの箇条が寄せ集められて今日の全容をなしたものであろう。内容は全体を通して系統だってはいないが，本文とみられる部分，谷川流，奥輝之別紙(おくてるのべっし)の3部分からなっている。そうして，元服の花，出陣の花，婿嫁取りの花，三具足の花などという表現であげられている53個のうちには，たとえば心を本尊と見立てるように立花を仏教教理から説く面が強く出ているものがあるが，同時に四季の景観に添って自然に立てることを述べた部分もあり，このようなふぜいのある花を立てるには修練・けいこが第一であると述べている。《仙伝抄》を体系づけ，また理論的に発展させたものが《文阿弥伝書》である。文阿弥は義政に仕えた同朋衆のうち，立阿弥に次いでたてはなの技術にすぐれていた。この伝書の内容は奥輝之別紙とほとんど同じであるが，その序文では仏教的な説明をしながら生け花を独自の芸能として意味づけている。そして，《仙伝抄》よりは体裁も整っているが，それとともに秘伝の傾向をおびてきている。このような傾向を飛躍的に助長し，また奥輝之別紙の内容を再編成して集大成させたのが《池坊専応口伝》である。これは奥書きによれば，1542年(天文11)近江(おうみ)(滋賀県)の岩蔵寺円林坊賢盛の所望によって専応が筆をとったものである。序文の書き出しには〈瓶(びん)に花をさす事いにしへよりあるとはきき侍(はべ)れどそれはうつくしき花をのみ賞して草木の風興をわきまへず只(ただ)さし生けたるばかりなり。この一流は野山水辺をのづからなる姿を居上にあらはし花葉をかざりよろしき面かげをもととして先祖さし初(そめ)しより一道世に広まりて都鄙(とひ)のもてあそびとなれるなり〉とあって，美しさを楽しむ生け花を一歩進めて，〈この一流〉とその立場をはっきりと主張している。さらに，〈こまやかに水ぎはほそくすぐやかにさしたる花をよき風体とは申すなり〉といって，風体あるいは風興ある花に重きを置き，花の命についての造詣(ぞうけい)を示している。花形には真・副(そえ)・真隠・見越・流枝(ながしのえだ)・前置・体・用の各称をしるしている。池坊では恵応の次に恵栄が出るが，《池坊専応口伝》はほとんどそのままの体裁・内容で受け継がれた。しかし専栄は花形に一段とくふうをこらし，真・副・副請・真隠・見越・前置・流枝という名称を用いたが，これは江戸時代に出る立花の七つ道具・九つ道具の基礎となるものである。

〔池坊立花の地方普及〕専栄は1563年(永禄6)およびその翌年に常陸(ひたち)(茨城県)の江戸通直へ，さらに1582年(天正10)に陸奥(福島県)相馬の宗竹斎へ伝書を相伝している。また，九州の島津氏にも伝えられており，島津義久(よしひさ)の家臣上井(うわい)覚兼はその著《伊勢守(いせのかみ)心得書》の中に《池坊専応口伝》の一節を引いている。覚兼は1585年(天正13)池坊の系統の寿嚳(じゅかん)を京都から宮崎城に招き，立花・砂物(すなのもの)を子弟にけいこさせている。島津氏に池坊立花を推挙したのは細川藤孝(ふじたか)(幽斎)で，池坊が当代比類のない名人であるといっている。古今伝授で有名なうえに武家故実の心得の十分にあった幽斎が，池坊とも昵懇

(じっこん)であったことがわかる。このほか，地方武将で立花に関心をもっていた者に毛利元就(もとなり)がある。鍋島(なべしま)直茂はみずから立花するとともに家臣たちに立花に託して武芸を説いている。

〔茶花抛入の出現〕安土桃山時代にはいると，茶の湯の流行とともに茶席を飾るにふさわしい茶花が現われた。千利休*は〈茶の湯とはただ湯を沸かし茶をたてて飲むばかりなるを知るべし〉といって，できるだけ煩瑣(はんさ)な形式を避けることに努めた。これは，格式や装飾に重きを置いて名物道具を中心とした書院の茶の湯に対して，草庵(そうあん)ふうの茶の湯を理想としたためであった。そうして，〈花は野にあるやうに〉といい，1種類か2種類の草花を自然のままの姿にいけることに努めた。簡素な表現のうちに深い味わいをたたえる花の姿を求めたのである。花器も，花を入れるところから〈花入れ〉とよび，最初のころは茶の湯が唐物装飾を重んじたところから唐物の銅器や青磁のものが用いられていたが，利休のころからは侘茶*(わびちゃ)の好みから備前焼*・信楽焼*(しがらきやき)のような和物が用いられるようになり，また竹やかごの花入れもよく用いられた。茶花にはツバキ・カキツバタ・モモ(白)・ヤナギ・ウメ・キク・スイセン・ボタン・アサガオがよく用いられ，ジンチョウゲ・シキミ・ケイトウなどのにおいの強いもの，色の濃いものは禁花とされている。しかし，〈花ノ上手(じょうず)ハ何(いずれ)ノ花ニテモ心次第ナリ〉(《山上宗二記*》)というように，花を生ける人の心持ちが大事とされ，古田織部*(おりべ)はケイトウも茶花として用いている。いずれにしても，茶花抛入は軽くいけた軽々とした花で，しかも個性的なものでなければならなかった。人々の関心はこうした花にあったが，それはあくまでも茶の湯の席という制限があった。そうして，一般民家に床の間や書院造りの住宅様式が採用されると，それにふさわしい生け花が要求されてくる。こうして，茶花抛入を基本にしながら，そのような場所に調和する投げ入れがくふうされるようになった。

〔投げ入れ〕1686年(貞享3)刊行の《諸芸小鏡》に，〈なげ入れはつねの花なり。花入れは竹・ひゃうたん・籠(かご)・徳利さまざまあるべし。指様(さしよう)さして定式なし。只(ただ)もやうよく生くるなり〉といい，定まった形式のないことを指摘している。1684年刊行の《抛入花伝書》によれば，〈或曰(いわ)ヶなげ入れ花は何種生くること定まりなるや。答，大むね2種をよしとす。1種入ることもあり〉といい，さらに座敷の広さ，床の間の掛け物とのつりあいで花入れも大きくなり，草花も3種類，5種類取り合わせて姿よくいけるのがよいと述べている。一方投げ入れについては，〈もと立花を略したるものなり〉(《抛入花伝書》)という見解もあり，また1773年(安永2)刊行の《百瓶追加生花枝折抄(ひゃくへいついかせいかしおりしょう)》では〈抛入花は即興の翫物(がんぶつ)なり〉といっており，この時期においては定式がないというのが投げ入れの特徴であった。しかし，生活の中に生け花が浸透してくるにつれて生活に密着し，床の間に飾る花として定式のあるものが求められた。その結果として18世紀の後半に現われたのが生花である。

〔生花への道〕1798年(寛政10)刊行の《挿花秘伝図式》には〈立花はものうく，抛入はあまり閑情なればとて，抛入・立花のあひをとり挿花こそは行なはる〉と，その成立について述べている。なお当時は，挿花・生花・活花(いけばな)の呼称が並んで用いられていた。床の間を背景としていけられる生花には一定の形式が求められた。それは，《百瓶追加生花枝折抄》に〈生花は法式なくては床粧(とこかざり)とはなりがたし〉とあることによっても明らかである。その方式とは〈天・地・人，真・行・草の三つとしれ〉(《挿花秘伝図式》)というものであった。同書にはこれを〈三歳のことはりなり〉と説いている。究極は三角形の花形である。このように生花の形式は立花の煩瑣な形式に比べるとは


①


②


③


④

生け花

①《池坊専栄立花伝書》 16世紀後半のもの。池坊専応のあとを継いだ専栄は，立花構成の上に努力・くふうをしている

②《大住院以信立花図》 1678年版。池坊専好の門人大住院以信は，立花を京都から江戸へ普及させた人物として有名である。その立花は大名たちの間に愛好された

③《絵合八景》 吉祥院の晩鐘と題して，お七・吉三が描かれ，吉三がアヤメをいける場面である。一般に流布した絵である

④《むらさきの巻》 江戸時代の風俗を示すものであるが，床の間には遠州流を思わせる生花が飾ってある

⑤《絵本藻塩草》(《日本風俗図絵》収録)1768年北尾重政筆。一般女性の生け花けいこの場面

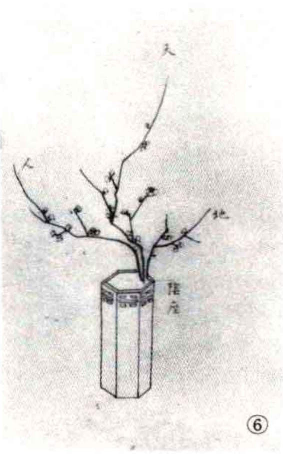

⑤

るかに容易で，簡単にいけられるところから，一般町人の間に普及して大衆化した。やがて十流・百家と流派が分かれ，それぞれの流儀花を生ずるようになり，家元の出現を促した。流派によって多少異なるが，生け花に家元制度が整備するのは18世紀後期で，おもなものに源氏流・遠州流・石州流・古流・宏道(こうどう)流・美笑(みしょう)流・千家流などがある。生花の流行に伴って，寺院や料理屋で生花会が行なわれるようになったが，生花会は富裕な町人たちの金力のはけ口ともなり，花器に贅(ぜい)をこらしたり珍花に高金を出したりして妍(けん)を競った。このため，寛政年間(1789～1800)，文政・天保(てんぽう)年間(1818～1843)には生花会が町ぶれとして取り締まりを受けたほどである。しかし一方では，生花は一般女性のたしなむもの，近づきやすいものとして普及するのである。

〔女性のけいこごと〕女性の日常のしつけについてしるした《女重宝記》は，女性のたしなむ芸として生け花をあげている。また，式亭(しきてい)三馬*の《浮世風呂(うきよぶろ)》にも娘の生花のけいこについての母親の会話が出ており，浮世絵にも生け花を楽しむ女性がしばしば描かれている。生け花のけいこはのち礼儀にも結びつき，花礼とよばれて嫁入りまえの娘の心得ともなるのである。しかし，生け花することの真髄は《美笑流活花四季百瓶図》に説く〈ただ心を生けて花を忘れず〉という精神にあったのである。明治維新後，文明開化の風潮は各方面にわたって繰り広げられた。生け花にも一時輸入された洋花が取り上げられたが，1887年(明治20)を前後して西洋心酔の欧化主義の反動として国家主義が台頭するに及び，再び伝統芸術として再認識された。こうして生け花は女性の欠くべからざる教養となり，花嫁道具の一つとしていっそう普及した。当時の生け花は各流派によって細かな趣向がこらされたが，本質的には旧来の天・地・人の形を出なかった。しかし，生活様式の変化につれて，徐々にではあったが色彩豊かな新しい生け花の芽ばえがあった。それが盛り花である。

〔盛り花の台頭〕明治時代に現われた盛り花は盆栽*の形式を生け花に取り入れたものである。それは小原流*の基礎を築いた小原雲心の創作によるもので，彼は花器に水盤形式のものを用いることも考案した。盛り花は手軽で，しかも色彩が美しいところから一般に好まれ，家庭花としても流行をみて，生花に対抗しうるほど普及したのである。このような状況の中に，大正初期に安達(あだち)式飾花法(→安達式挿花)が現われた。これは，花を花らしく飾る心を主眼とした盛り花の一種である。一方，このような盛り花の流行・普及に対して，西川一草亭による文人生けが現われた。これは，従来の拋入に比べて自由であり，気品のあるうちに変化をもち，色彩も豊かなことを特徴とした。盛り花・文人生けに貫かれたこのような創造的な自由さを求める傾向は，さらに自由花の出現を促した。

〔自由花〕大正時代にみられるこの様式は，いわゆる文化住宅に代表される建築にふさわしい花として隆盛におもむいた。それは自然を省みてみずからの心情を創造的に表現したものであったが，簡略・実用を旨としたために飛躍的な発展をみた。やがて大正末期に美術界に興ったアバンギャルド運動の影響を受けて，昭和初期には伝統否定を主張する運動が生け花界にも胎動するに至り，1930年(昭和5)に〈新興いけばな宣言〉が発表された。それは，従来の生け花が床の間の装飾に傾いていたことの反省から，近代的な生活にふさわしい生け花に高めようという主張に基づくものであった。それと同時に，造形芸術の手法を取り入れ，花材も植物とは限らずに身近にあるいろいろのものを用いる試みがなされ，花器も制限を破って自由に採用したのである。しかし，このような前衛生け花運動も家元制度についてはなんらの反省も批判もみられず，そ



⑥《生花図》 1812年描かれたもの。天・地・人の花型を示すものであるが，文化・文政ごろは生花が盛んで多くの流儀花がでた時期でもある



⑦《風流挿花会》 18世紀後期，天明年間の人，栄松斎長喜の画。つり花いけや柱掛け，水くぐりのウメなどが陳列されている花会で，3人の女性がそれを楽しんでいる場面



⑧《女重宝記》 1847年版。初版は元禄年間からある。床の間の生花に事寄せて女性のしな・形を説いたもの



⑨《婦人諸礼式図》 1896年(明治29)版。当時女性のしつけの一環としてこのような絵が普及した。これは生花をいける用意をしている場面

こにおのずからこの運動の限界があった。第2次世界大戦後，めざましい民主主義の台頭に伴う人間解放の動向は，生け花の近代化を促進した。戦後の解放感とともに，伝統否定の空気を反映してアバンギャルド運動の再興をみた。これは花をいける人間の心情に重点を置き，抽象とか，超現実主義(→シュルレアリスム*)といった表現形式を借りて自由な創造を試みたものであった。それは異質素材による新鮮な感覚をもち造形的魅力があったため，造形生け花ともよばれるようになった。その先鞭(せんべん)をつけたのが草月流*である。やがて生け花は国際進出の機運を迎え，広く世界に舞台を展開していった。〈いけばな〉ということばがほとんどの国でそのまま用いられ，訳語を必要としないくらいになった。諸外国の人々の生け花への関心を中軸として，1956年にはついにイケバナ-インターナショナルの結成をみるに至った。これは生け花の海外普及にいっそうの拍車をかけた。一方，生け花は建築の多様化に対応するかのごとくその様式に種々の変化をみせつつ，ショーウインドーや舞台にも使用されてきた。また家庭花としても暮らしの中にはいり，小品ものにもくふうがこらされて，床の間の花から茶の間を楽しむ花へと脱皮して，植物を素材とした親しまれる花になってきた。

この傾向は，さらに多くの人々に求められている。しかし，このように新しい生け花の展開はみたものの，家元制度の旧態は依然として温存されたままである。ここに生け花がになう将来への問題が残されている。 〔大井ミノブ〕

【生け花の基礎技術】まず花材を選んだら，その特徴や個性を十分観察し，その美しさを表現できるようなさし方を決め，花器*を選ぶ。一方，一つの花器をもとにして，それに適する花材を選ぶ方法もある。いずれの場合も，花を美しく見せることが，いけ花の根本である。挿花の基本となるよりどころの形を花型という。現在生け花の流儀は数千といわれるが，代表的流儀では花型はだいたい3本の役枝が中心となってつくる不等辺3角形でなりたっている。この3本の役枝は池坊では真・副・体，小原流では主・副・客，草月流では第1・第2・第3主枝とよぶなど，その名称，基準寸法の割り出し方，方向の決め方は各流儀によって異なっている。花材を整えるために余分の枝や葉を切り落としたり，花留め(花材を花器に定着させること)のために根もとを切る道具にはおもにはさみを用い，枝の太さによってはのこぎり・小刀なども使用する。枝の切り方は一般に斜め切りとして吸水面を広くし，枝の太い場合はその切り口をさらに縦に二つ割り・四つ割りにする。草木は水平に切る。花留めには，生花の場合は樹枝を用い，池坊では自然の股木(またぎ)を，古流*ではV字やY字形に割り込みを入れたものを花器にはめ込み，花材の根もとを一つにまとめてその枝の間に定着させる。盛り花の花留めには剣山・七宝(→剣山)があるが，現在は剣山が多く用いられる傾向になっている。投げ入れは，花器のさし口に細い小枝かまた太すぎる場合は二つ割りにしたものを留め木として用いる。なお，花材を花型に適応させるために撓(た)める(自然のままの枝を曲げたり，曲がったものをなおしたりする)には，両手の親指や手のひらでする方法，はさみやのこぎりで切り込みを入れてする方法などがある。

いけた花を長もちさせるには，いける前に水揚げをする。水揚げの最も一般的な方法は水切りといい，花材の根もとを水につけたまま切りなおすことによって，気泡(きほう)が導管をふさいで水の吸い上げを妨げることを防ぐ。なお，切り口はなるべく広くなるように斜めに切る。そのほか，花材によっては切り口を熱湯につけたり，焼いたり，食塩や酸・ミョウバン・アルカリ・アルコールなどを使用する方法がある。 〔平 光波〕







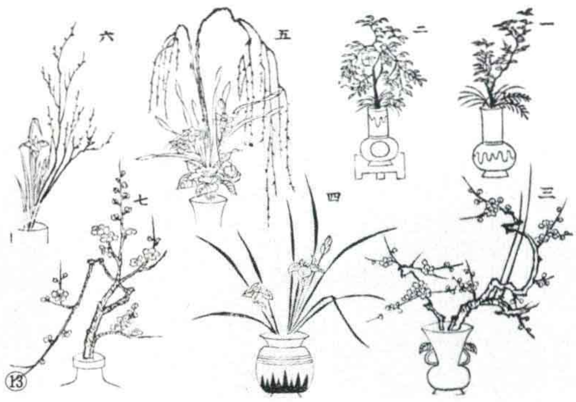
⑩《女礼式之図》 1887年版。茶の湯・生け花は一般女性のしつけとして欠くことのできないものであった

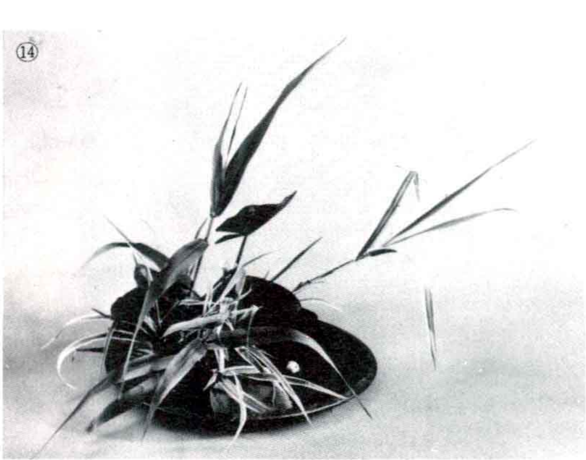
⑪《佳人音曲之図》 1888年のもの。洋髪の女性の後ろにキクの投げ入れがいけてある

⑫《旧暦五節句の図》 1888年版。明治時代にはいっても，流儀花は女性の礼法と関連して一般女性の間にたしなまれた。

⑬《風俗画報》さし絵 明治20年代このような絵がしばしば同書に掲載され，風俗としての生け花に人々の関心があったことを示している

⑭平光波作品 1970





立教大学や雑司ヶ谷(ぞうしがや)墓地なども近い。第2次世界大戦後，多くの戦犯が収容され，またその処刑場ともなった東京拘置所(巣鴨プリズン)は移転し，その跡に日本一の60階建てビル(高さ約240m)をを含む高層ビル街が建設されつつある。地下鉄丸ノ内線・有楽町線が都心へ向かい，都心・郊外を結ぶバス路線も多い。国鉄池袋駅の乗降客数は山手線とその支線の赤羽線を合わせて1日平均45万5,000人で，新宿駅に次いで全国第2位である(1976)。〔浅井得一〕

いけべさんざん【池辺三山】(1864～1912) 新聞記者。名は吉太郎。熊本県に生まれる。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退後，大阪の《経世評論》で活躍。1893年(明治26)にパリに留学，その間の《巴里(パリ)通信》は好評を博した。帰国後，大阪朝日新聞の主筆となり，1897年東京朝日新聞に転じた。明治の新聞をリードした。

いけま【生馬】 双子葉植物・ガガイモ科。山地にはえるつる性の多年草で切ると白い乳汁(にゅうじゅう)を出す。根は太く，茎は細く他の植物などに巻きつく。葉は対生で長さ8～15cm，心臓形。7～8月，葉のつけ根から柄が伸びて多数の白い小花をつける。果実は細長く，先がとがり長さ8～10cm。種子に絹糸状の毛があり，風で飛ばされる。根を乾燥させたものを牛皮消根といい，漢方では利尿薬とする。なお，イケマとはアイヌ語で〈巨大なる根〉という意味である。〔小清水義隆〕

いけまじま【池間島】 沖縄の宮古島北方に接している平坦(へいたん)な小島で，面積2.7km²，人口2,600。宮古島の平良(ひらら)市に属し，サツマイモ・サトウキビの栽培と，北西方にある好漁業の八重干瀬(やえびせ)でカツオ漁業が行なわれている。

いげんせいしっかん【医原性疾患】 医原病ともいい，医療関係の中で2次的につくられるノイローゼ的な状態。医師の不注意な態度や言動に起因し，これに患者の自己暗示が働いて起こる(ハースト)とされ，近年医学界で話題になってきている。たとえば，同一患者に対する各医師の不統一な診断や治療方針の説明などは，患者に不安感を与え，症状の悪化や慢性固定を促す要因(医原性因子)となる。

いけんちょうさ【意見調査】 モラール-サーベー(morale survey 士気調査)・態度調査・態度測定ともいう。産業社会学および経営学上の用語。モラールとは行動の根底にある内面的・心理的な傾向，つまり一定の態度のあり方を示すものである。ここからモラール-サーベイとは，職場や企業のような一定の集団における意識的・無意識的な志向の調査，理論の樹立を意味する。モラールの項目としては，①仕事への満足，②仕事の意義の自覚，③集団への帰属意識，④集団の団結力がある。企業の巨大化，仕事の専門化・分業化など社会環境の組織化の



イケマ

現象は，個人を原子化・画一化に導きやすい。しかし社会環境の秩序化は，必ずしも個人の安定化を意味するものではなく，意見調査はそれらの実情を把握(はあく)するうえで有効である。〔米山美久〕

いけんふうじ【意見封事】 古代において臣下が天皇の命により密封して提出した政治上の意見書。914年(延喜14)三善清行(みよしきよつら)が醍醐(だいご)天皇に提出した意見12か条は特に名高く，律令(りつりょう)政治が衰退した結果生じた諸現象の原因，および対策が具体的に述べられており，特に地方行政について論じた部分は精彩に富む。

いけんりっぽうしんさけん【違憲立法審査権】 憲法に反する法律や行政が無効であることを決定する裁判所の権限をいう。最高法規である憲法に反する法律が出されたり，行政が行なわれるようでは，憲法の定める統一的な国家体制・法秩序が保たれないし，また憲法の保障する国民の基本権も侵されるようになる。これをなくするためのものである。裁判所のこのような法令や行政に対する審査・決定権を，ふつう，違憲審査権とか違憲立法審査権という。アメリカの最高裁で確立された法理であるが，日本国憲法ではこれを明文をもって定めている(憲法81条)。なお，西ドイツ・イタリアなどでは，直接に，憲法違反を理由として法律や条約などについて，いろいろ判断を求めうる憲法裁判所*が設けられている。〔鈴木安蔵〕

いご【囲碁】 碁・棋(き)・囲棋・棋道ともいい，碁盤と碁石(黒と白)を用いて2人で行なう遊戯の一つである。日本棋院囲碁規約は〈囲碁は，甲および乙を対局者として，碁盤および碁石を用い，手合割を定め，この規約に定める着手禁止制限の場合を除くほか，盤面における彼我の占める地の多少を争うことを目的として，交互に盤面任意の点に着手し，終局に至り彼我の地を計算して勝敗を決定する〉と定めている。

〔歴史〕囲碁は約3,000年前に中国で起こり，わが国へは三韓(さんかん)時代の朝鮮を経て伝わってきたといわれている。その後，わが国においては，大和朝(やまとちょう)時代に支配階級の間に行なわれ，奈良時代になると碁師という職業も生じ，宮中に出入りしていたようである。《万葉集》に，碁師の歌が2首収録されていることからも，それは明らかな事実である。また，平安時代にすでに流行していたことは，紫式部の《源氏物語 竹河(たけかわ)》からも知られるが現在用いられているその術語の多くが散見されるのは，紫式部自身がかなりの程度に囲碁の知識を有していたことの証左にほかならない。

鎌倉時代になると，日蓮上人(にちれんしょうにん)とその弟子(でし)吉祥丸との対局がわが国最古の棋譜として伝わっている。しかし，この当時にあっては，その技量などについては想像はなされても真相は不明である。これを専門の域までに高めたのは，京都寂光(じゃっこう)寺の僧の日海上人，戦国時代末期の織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)らの武将が師事したという，のちの初代本因坊(寂光寺の堂宇の名)算砂である。その挿話(そうわ)に，信長の御前で三劫(さんこう)無勝負の碁ができて，あまりの奇に首をひねりながらの帰途，深夜の静寂を破った喊声(かんせい)と陣馬のいななきは，本能寺の変のそれであったとある。辞してきたばかりの本能寺の炎上を振り返って，三劫は不吉の前兆と算砂が思ったともいう。また，秀吉は碁会をしばしば催したが，算砂は戦えば必ず勝ち，ついには算砂に二十石十人扶持(ぶち)の朱印を与えるに至った。秀吉没後は家康が算砂を江戸に招いて名人碁所に任じ，五十石五人扶持を支給した。碁所とは将軍の指南，免状発行権，その他囲碁に関するすべての権限を有した権力の座であった。やがて御城碁制度が設けられ，扶持を与えている本因坊・安井・井上・林の4家元に，徳川幕府は実力第一主義をとるとして，碁所の権力の地位を争わせる。4家元が必死の争闘を展開したのは当然であり，徳川幕府の歴史にあって囲碁は将軍家の保護によって隆盛一途にあった。1840年代(天保11～嘉永2)の碁所の登録者は430名余が数えられている。現在の棋士総数300名余から比べれば，大衆の支持のないこの時代にしてのこの数は，その隆盛さのほどがしのばれよう。こうして，わが国囲碁界の水準はこの時代に急速に高められた。

しかし，幕末から明治維新の動乱の世となるや，御城碁の中止，碁所制度の廃止，各家元が扶持を離れるに及んで，棋士の生活はにわかに困窮し，碁界の衰微ははなはだしかった。1879年(明治12)に至って，村瀬秀甫(しゅうほ)は中川亀三郎(かめさぶろう)らと方円社を結成したが，これはわが国最初の囲碁結社であった。その後にいくつかの団体の興亡はあったが，これは碁界隆盛への過渡期の現象ともいえよう。1924年(大正13)に，男爵大倉喜七郎は全碁界を統一した日本棋院*を創立するに至るが，創立後まもなく雁金(かりがね)準一は数名の棋士とともに脱退，棋正社を結成して日本棋院に挑戦(ちょうせん)した。しかし，棋院の若手棋士木谷実*らによって棋正社は完敗し，本因坊秀哉(しゅうさ

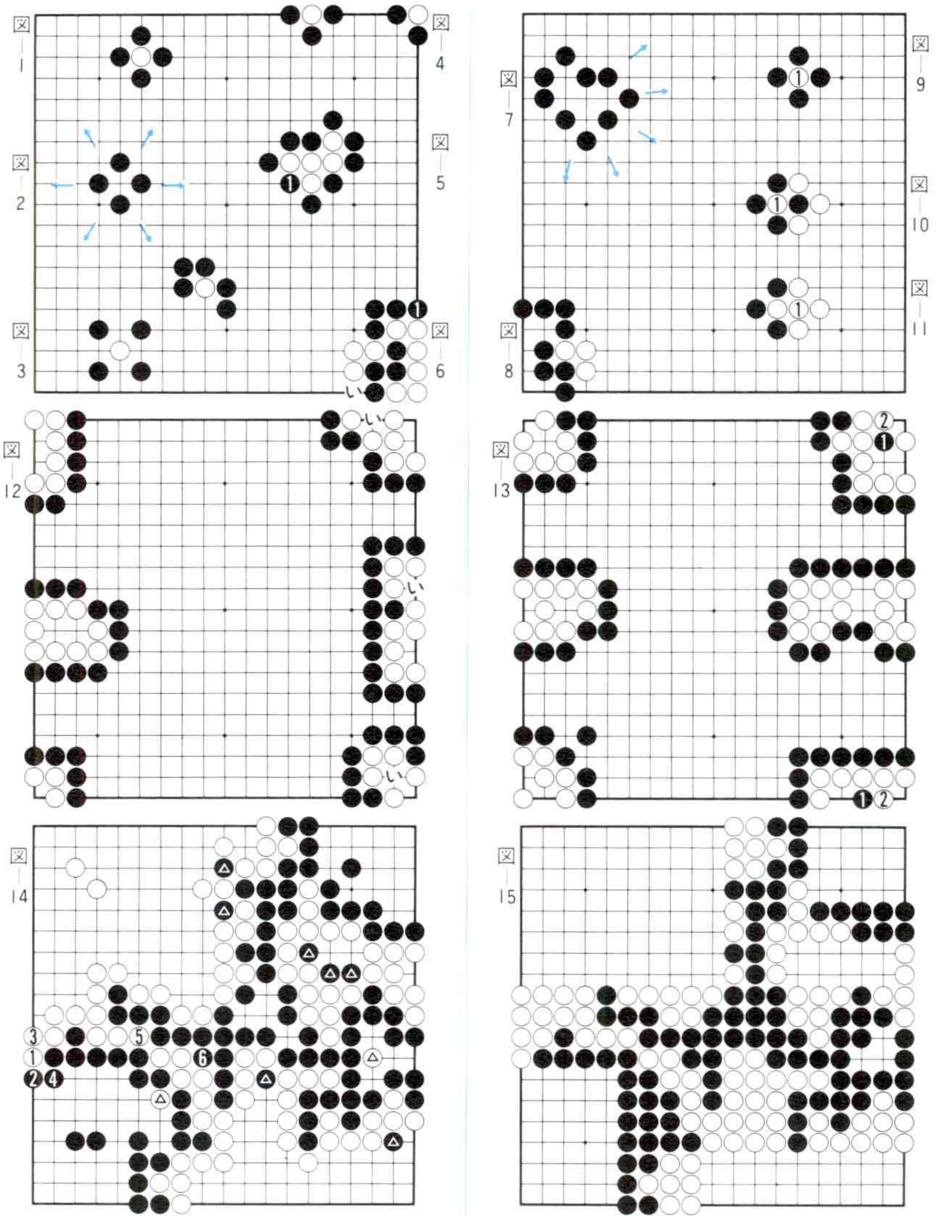
い)・雁金準一の決勝も名局を残しはしたが，本因坊の勝利に終わる。以後，日本棋院は碁界の大勢を掌中におさめ，中国から呉清源*が来日して木谷実とともに新布石の発表を迎えるに及んで，囲碁はようやく大衆の中に浸透していった。1937年(昭和12)碁界の黄金期に秀哉名人は引退し，本因坊の名跡をタイトル戦とした。専門棋士であれば，だれであっても本因坊への機会を与えられるようになった。

第2次世界大戦後，わが国はその多くの人々が苦難の時代を経たが，棋士にあってもその困苦はひとかたではなかった。それにしても戦後の囲碁人口の増大は，囲碁が大衆娯楽の一つとして欠かせぬことを示していた。新聞碁の復活，大衆基盤の上に立つ専門碁界，それは戦前にもいやまして黄金時代を築いた。橋本宇太郎*は日本棋院を脱退して関西棋院*を大阪に創立したが，かつての棋正社創立当時の悲壮感はなく，これも年とともに栄え，一方では呉清源・高川格*・坂田栄男*がそれぞれの時代を築き，それに続いて現在にあっては，林海峰*と石田芳夫がいまだ20代の若さにありながら，早くも林・石田時代を築こうとしている。

〔アマチュア碁界その他〕最大の行事に，毎日新聞のアマチュア本因坊戦と朝日新聞のアマチュア十傑戦がある。毎日のアマ本因坊戦は，全国的な催しとして1936年に始まったが，戦争のために中止となり，戦後1948年に全日本素人(しろうと)囲碁選手権戦として行なわれ，影山利郎(としろう)が優勝した。この棋戦は1回だけで中断したが，のち影山はプロに転向，初段より順次6段へ昇段，高松宮賞を受賞するに至った。アマ本因坊戦として復活したのは1955年からである。一方，朝日新聞のアマ十傑戦は1961年から始まっている。現在，つねにこれらの優勝戦線に活躍し実力抜群と認められているのは，菊池康郎(やすお)・村上文祥・原田実・平田博則(ひろのり)らで，一口にアマ四強といわれ，プロの中堅級の力を備えているといわれている。そのほか女流アマ選手権戦，全日本学生団体戦・同個人戦・同十傑戦，高校選手権など，囲碁行事はいろいろとあって盛況を呈している。

なお，つけ加えて海外の状況にふれると，日本棋院はカナダ・アメリカをはじめとする20数か国の主要都市に各支部を置き，普及活動を行なっているが，ゲーム〈ゴ〉に対しての世界の目は，ようやく向けられつつある。

〔用具と競技方法〕囲碁は碁盤と碁石，石をいれる器(碁笥(ごけ))があればできる。盤のカヤ，白石のハマグリ，黒石の那智石(なちいし)とあれば最高級品，盤はカツラあるいは板盤，石はガラスあるいはプラスチック製品とあれば，大衆向きである。とにかく，縦横19本の線と361の交点があれば紙に線を引き，鉛筆で丸を書いても楽しめる。



囲　碁　競技の方法

囲碁は他のゲームとは異なって，なにかしらむずかしい遊びとみられている。入門書で独学といっても，その入門書はことさらに理解しにくい。碁のむずかしさは技術その他の面にあって，入門は非常にやさしい。その基本的なルールは，

①互いに一手ずつ交互に打つ(黒はつねにさきに打つ，これを先手という)
②勝負は地の多いほうが勝ち
③ゲームの進行中に石をとるとられる
④劫はすぐ取り返せない

などである。この4原則のうち，②の地とは？③のとる，とられるとは？④の劫とは？の？を明らかにするとすぐにも打てることになる。まず，③の石をとる，とられるということは，初歩のうちは興味の中心である。自分の石がとられずに，相手の石をとることがじょうずになると，地とか勢力とか，厚味とか薄味とか，手筋とか定石とか，なにも知らなくとも強い打ち手になる。

図-1，4個の黒石で白石をすきまなく囲む，すると白石一つをとることができる。このときは直ちに白石をとり，盤上は図-2のようになる。とった石は，終局の際に相手の地所を埋めるのに役だつ。盤上はとり跡が囲った黒の1目(いちもく)の地(1眼)となる。また，重要なことは，矢印に示した黒の勢力が周囲に威力を示し，この周辺に起こる戦いにおいて，地の構築によいことになる。図-3，これは黒が手数をかけてはいるが，白石をとることができない2例を示す。石をとり上げるにはすきまなく囲む，この要領を会得することが先決である。図-4，盤端(碁盤のはし)にあってはこの状態で白石をとれる。なぜかというと，白の逃げ道は碁盤から落ちてしまうところしかなく，必然的にとられることを納得してほしい。はじめは1石をとってもうれしいが，図-5(黒❶と打って一挙にとる)のように少しまとまった石がとれたら，思わずこお

どりしてしまう。相手がいてとられまいと抵抗しているにもかかわらず，強引にとってしまうのであるから。図-6，スリルある場面，❶を放任して白から〈い〉と打たれれば，4個の黒石はとられる。それ以前に黒❶と打てば，まさに6個の白石がとれる。〈先んずれば敵を制す〉の謂(いい)である。図-7，図-5のとった図，黒のとり跡が黒の確定地である。②の地とは？　の疑問が解ける第一歩である。図-8，これは図-6の黒がとったあとの図。6目の黒の確定地が明瞭(めいりょう)に示されている。このように石をとると，その快感もさることながら，相手の石の50～60をとれば，こちらの地は知らずにふえているし，相手の地への埋め立て用にとった石は持っているしで，当然勝てなければならない。図-7で矢印に示したが，この黒から発する威力は図-2に示した効果を上回っている。

囲碁は文字どおりに囲む碁である。相手の石を囲むということは，地所を囲むということよりはきびしい意味をもつ。そこで，①相手の石を囲もう，②自分の石は囲まれまい，③相手の地の囲みを破れ，④自分の地は囲もう，というように，争いに終始するのが囲碁である。

図-9のように白①と入れたらどうしたらよいか。このときは，黒石を盤上におくことなく白①をとってよい。正確にいうなら〈着手禁止〉の規定にあてはまることであるが，規定ばかりに縛られるよりは，とれる必然性を悟っていただきたい。しかし，このような場合はいつも入れないのかというと，周囲の状況によってそうしない場合もある。

図-10，白①が成立する。白①と打って黒石1個がとれる。しかし，黒も負けじと白①の右へ打って白石をとったらどうなるか。白もまた白①と打つことをくり返すと，永久に続くようなことになりかねない。そのためにやむをえず④の劫はすぐ取り返せない，を設けたともいえる。図-10白①こそ劫そのものである(白①を劫とるという)。黒次いで他へ打ち，白劫をつげば(白①のつぎ)図-11のように劫戦はやむ。

図-12各図，白は黒に包囲されて白石のすべては死んでいる。左側各図は1眼の死。右側各図は〈い〉が欠眼(かけめ)で，白からその点に打っても眼はない。黒からは，その点に打って白をとれる黒石がある。いずれも白1眼の死に型である。

図-13，白は黒に包囲されたがそのすべてはいきている。このように，包囲されても石が死なない場合もある。左側各図2眼の活(いき)。右側各図の白は活型で，黒❶と打っても白②と応じていきる。以上，死活にしても規則でこうなっているというのではなく，死ぬ必然性，いきる必然性に注意されたい。

図-14は終盤の局面である。白①以下黒❻までで終わり，互いに終わりを確認し合ってから，必ず黒は白を，白は黒をつくる(このままで計算を行なうと数えにくいから，数えやすくするために互いに石を整理して地をつくる)。まず，黒側は黒の囲みの中の白の死石白◬の2石，白側は白の囲みの中の黒の死石黒▲の7石をとり上げる。これらの死石は，いずれもにらみ殺しの石であって，完全にとれる状態(図-1)に導かなくてもよい。とった石は地を埋めるために用いる。図-15は整理の終了した図である。数えやすく，一見して白地・黒地を見分けられるような地のつくり方が望ましい。図-14から図-15への石の移動に注意されたい。黒地は右上隅(すみ)5×4＝20，左下隅5×7＝35，右辺3である。白地は，左上隅10×8＝80，右下方10×3＝30，中は5×2＝10である。これを合計すれば，黒地58目，白地120目で，勝敗は120－58＝62で白62目勝となる。とかく終盤は初歩の者にとってはわかりにくいのではあるが，当初は上級者に教えを請うのがよい。その後は，上達のためには，ともかく実戦の経験を積むことである。

〔段位と作法〕 プロには初段から九段までの段位がある。十段あるいは名人はタイトルである。アマチュアには初段から六段までが認められている。アマチュアの初段は，プロの初段に五子か六子を置いて打たれる場合が標準とみられる。なお，いずれの遊戯の場合にあっても，作法・儀礼はあるが，碁の場合は〈待った〉をしないこと，打ちなおし(はがし)をしないこと，アゲハマ(とった石)は必ず碁笥のふたに入れる，その他相手に不快の念を与える言語・挙動を慎むことなどがある。また，他人の打っている碁を見て助言をしたり，よけいな口出しは無用である。〔影山利郎〕

いこう　【衣桁】 着物を掛けておくついたて様の家具。平安時代から用いられて，特に晴れのときに衣装を掛けて飾ることが行なわれた。上段・下段に横棒を取り付け，下段には黒漆塗りや蒔絵(まきえ)や透かし彫りを施した腰板のついたものも現われた。直線形のものと，へやのコーナーなどに置く折りたたみ形のものがあり，直線形のものが幅2m前後，折りたたみ形が幅85～94cm，高さは121～151cmである。

いこう　【胃腔】 海綿動物のからだの中央部にある腔所のこと。胃層とよばれる扁平(へんぺい)な細胞の層で包まれている。体面に無数に開口する小さな穴からはいった水はこの胃腔に集まり，からだの上部に開口する大穴から体外に排出される。後生動物では胃の内腔のことを胃腔という。また腔腸動物の腔腸をもこの名でよぶ。

いこう　【移項】 等式や不等式において等号や不等号の一方の側にある項*を，符号を変えて他の側に移すこと。たとえば，移項によって，$x+5=8$ は $x=8-5=3$，$x-3>7$ は $x>7+3=10$ となり，これらの方程式や不等式が解かれる。

いごう　【韋后】 (？～710) 中国，唐の第4代皇帝中宗の皇后。則天武后*により中宗とともに房州に流されたが，中宗の復位に努力した。中宗親政後，武后の一族と提携して権勢をふるい，ついに中宗を毒殺した。第2の武后となることを志したが，李隆基(りりゅうき)(玄宗*)らのクーデターで誅(ちゅう)された。

いこくけいごばんやく　【異国警固番役】 鎌倉幕府が御家人役に課した沿岸警備の軍役。蒙古(もうこ)襲来*に備えて特に西国の御家人を九州沿岸の防備にあずからせた。この役をつとめた者は京都大番役*・鎌倉大番役が免除されたが，蒙古に対する臨戦体制は幕末まで続いたため，異国警固番役の負担は重く，御家人の窮乏をもたらした。

いこくせんうちはらいれい　【異国船打払令】 無二念打払令ともいう。1825年(文政8)江戸幕府が発令した外国船追放令。18世紀末以降，ロシア・イギリスなど外国船の来航が増加し，1808年(文化5)のフェートン号事件*のあと，1824年(文政7)イギリス船員の常陸(ひたち)(茨城県)および薩摩(さつま)(鹿児島県)宝島への上陸事件が起こり，1825年江戸幕府は日本沿岸に接近する外国船は見つけしだい打ち払うように命じた。この令により1837年(天保8)モリソン号事件*が起こった。阿片(あへん)戦争*での清(しん)の敗北に驚いた幕府は，1842年打払令を廃止した。〔松尾　涼〕

いこくとかいきんしれい　【異国渡海禁止令】 江戸幕府の鎖国令の一。江戸初期に出された日本人の海外渡航禁止令の総称。幕府はキリスト教の禁止と貿易統制のため鎖国政策をとり，日本人の海外渡航を制限・禁止した。1633年(寛永10)と1634年に幕府は奉書船*以外の日本船の海外渡航，5年以上海外に居住する日本人の帰国を禁止したが，さらに1635年日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を全面的に禁止した。このため日本の海外発展が中止し，南洋日本町*は衰滅した。➔鎖国　〔松尾　涼〕

いこくとかいごしゅいんちょう　【異国渡海御朱印帳】 江戸初期，貿易船(朱印船)に下付された朱印(渡海免許状)の記録。1612年(慶長17)以降金地院崇伝の出した朱印の控え。同様のものに1604～1611年(慶長9～16)の間に豊光寺承兌(じょうだ)・円光寺元佶(げんきつ)の出した朱印の控え《異国御朱印帳》がある。

いこくにっき　【異国日記】 金地院崇伝*著。2巻。寛永年間(1624～1643)ごろに成立したと推定される。江戸初期の外交交渉に関する崇伝の控え書。崇伝は江戸初期の僧侶(そうりょ)で，幕府諸政策の顧問的存在として外交交渉にも参加した。第1巻は1608～1629年(慶長13～寛永6)，第2巻はそれ以後の幕府と諸外国との交渉を記している。

いこま　【生駒(市)】 奈良県の生駒山*の

東斜面を占め，県の北西端にある。1971年(昭和46)市制。人口68,000。もと，生駒山中腹にある宝山寺(生駒聖天(しょうてん))の門前町で，大阪と奈良が近畿(きんき)日本鉄道奈良線で結ばれて以後急速に発展した。近時は自動車道路も整備され，宅地造成が進んで，大阪のベッドタウンとして急激に変貌(へんぼう)しつつある。

いこまさんち　【生駒山地】　奈良県と大阪府との境をなす山地で，南端は大和(やまと)川の谷を隔てて金剛山地に連なる。大阪平野に臨む山地の西側は急傾斜をなすが，東側はゆるやかに奈良盆地に接する。カコウ岩を基盤とし，生駒山(642m)・高安山(488m)・信貴(しぎ)山が並び，山稜(さんりょう)を信貴生駒スカイラインが走っている。宝山寺は大阪方面の信仰者が多く，ケーブルカーでふもとの門前町である生駒町*と連絡している。

いこまやま　【生駒山】　奈良県・大阪府境にある生駒山地*の主峰。標高642m。大阪平野側には急崖(きゅうがい)で臨み，奈良盆地側は比較的緩傾斜である。江戸初期，中腹に生駒聖天(しょうてん)(宝山寺)が創建され，大阪商人の信仰を集めてきた。最近は生駒山地上を縦走する信貴(しぎ)生駒スカイラインなどの観光道路の開通によって，付近一帯は遊園地化し，行楽客でにぎわう。山頂には生駒天文台がある。

イーゴリ　[Igor]　(877ごろ〜945)　キエフ大公。在位912〜945年。リューリック*の子。東スラブ人の間で政治権力を強化し，ドニエストル川とドナウ川との間に東スラブ人の種族的統一を広げた。913年・943年にコーカサスに遠征し，941年と944年(または945年)にはビザンチン帝国に侵入，商取引・軍事同盟などについての条約を結んだ。

イーゴリぐんき　【イーゴリ軍記】　12世紀末に書かれたロシアの叙事詩*。1795年に唯一の写本が発見され，はじめて知られた。ノブゴロド公イーゴリによるポーロベツ(トルコ系遊牧民族)討伐の遠征(1187)を高い芸術性をもってうたい，諸公の一致団結を呼びかけている。古代ロシア文学の最高傑作。



イーゴリ公　第1幕第1場〈出陣の場〉　ボリショイ-オペラ公演から

イーゴリこう　【イーゴリ公】　ボロディン*作曲のオペラ。台本も作曲者自身の手になる。プロローグと4幕からなる。1890年10月23日にペテルブルク(現在のレニングラード)で初演。登場人物はイーゴリ公(ロシアの大公，バリトン)・ウラジーミル(イーゴリ公のむすこ，テノール)・コンチャク汗(ダッタンの勇将，バス)・コンチャコバナ(コンチャク汗の娘，ソプラノ)などで，12世紀のロシアとシベリアを舞台にして展開される。第2幕の《ダッタン人の踊り》は有名で，単独の管弦楽曲としても，独立したバレエとしても上演される。〔向坂正久〕

イゴロトぞく　【イゴロト族】　フィリピン，ルソン島北部山岳地帯のインドネシア系諸民族。おもにナバロイ族(12,891人，以下1938年)・カンカナイ族(91,462人)・ボントウ族(20,938人)をさす。灌漑(かんがい)設備を伴うひな段水田で稲作農耕を営む。昔は首狩りで知られた。



イコン　ルブリョフ《三位一体》1410ごろ　ロシア式イコンの典型とされ，アブラハムの供応を受ける3天使を描く

イコン　[icon]　似姿・肖像を意味するギリシア語エイコーンに由来し，ギリシア正教*においては壁画と区別して，キリストおよび聖者の肖像を描いた板絵を意味する。東方教会では，ローマ-カトリック教会のように立像は用いられず，ときに金属板上に印刻または彫刻されるにしても，それは絵画的な表現に終始している。イコンは初期キリスト教時代に古代の蠟画(ろうが)の技法から発生し，その題材にも描き方の形式・手法にも厳密な規定が存在している。中世を通じてその規定が守られてきたために，長い歴史を通じてその技法・形式はほとんど差異が認められない。現存する最古の作例は6〜7世紀にまでさかのぼることができる。イコンが本格的に形成されたのは，8世紀の聖画像論争によるイコノクラスム(偶像破壊)の終了以降のビザンチン美術においてであるが，13世紀以前の作例は乏しく，14世紀以後の作品が多い。ロシア教会のイコンは14世紀以後独特の様相を示し，15世紀初頭ノブゴロドで活躍したアンドレイ-ルブリョフは，その叙情的な作風で著名なイコン作家である。16世紀以後はヨーロッパ的な要素と結びつき，大量生産が始まるとともに美術的な価値は低下した。〔末吉雄二〕

いごん　【遺言】　人が自分の死亡によって効力を発生させる目的で，一定の方式に従ってなす相手方のない単独の意思表示*をいう。遺言内容は，財産の死後処分のみに限らないが，財産の私的所有の自由はしだいに財産の死後処分の自由を伴い，遺言の自由として認められるようになった。満15歳に達した者はすべて遺言をする能力(遺言能力)があるが，禁治産者*の遺言については，意思能力*を必要とするため，ふたり以上の医師が立ち会ったうえでしなければならない(民法961・973条)。遺言の範囲は法律で認められた一定のものに限られる。たとえば，身分上の事項としては，認知*，後見*人および後見監督人の指定などであり，相続に関する事項としては，相続人の廃除*，相続分の指定およびその指定の委託，遺産分割*の指定およびその指定の委託などであり，財産の処分に関する事項としては，遺贈*および寄付行為などである。〈あとはよろしく頼む〉とか〈仲よく暮らせ〉とかの道徳的訓戒の遺言は法律上の遺言ではない。遺言が効力を生ずるためには民法の定める方式(遺言の方式)に従わなければならない(民法960条)。遺言者の真意を確保し，また，それをめぐって利害関係人の間で紛争が発生することを避けるためであり，普通方式と特別方式による厳重な遺言の方式がとられる。前者は普通の場合に用いられるもので，これには自筆証書・公正証書・秘密証書による遺言の3種がある。後者は，前者の方式によってはなしがたいか，またはなしえない特別の事情がある場合に用いられるもので，これには危急時遺言(これはさらに，一般危急時遺言と難波船危急時遺言に分かれる)と隔絶地遺言(これはさらに，伝染病隔離者遺言と在船者遺言に分かれる)の計4種がある。遺言はまた，本人の最終意思に効

力を認めようとするものであるから，いつでも取り消すことができるが，その場合でも遺言の方式によってなされなければ効力を生じない(民法1022条)。遺言内容の実現(遺言の執行)は，遺言者の指定した，もしくは家庭裁判所の選任した遺言執行者によって執行される。なお，遺言の保管者は，遺言者の死亡を知ったのち，遅滞なくこれを家庭裁判所に提出し，遺言執行前に検認を受けなければならない(民法1004条)。〔黒木三郎〕

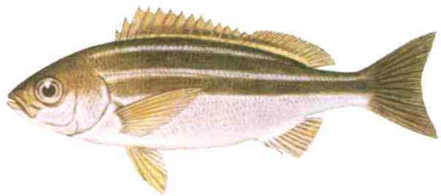
いざかや【居酒屋】ゾラの小説(1877)，《ルーゴン-マッカール叢書(そうしょ)》中の1巻。洗たく女ジェルベーズとその愛人の帽子づくり職人ランチエとが，悲惨な生活を送る中で，遺伝のアルコール中毒による狂死，餓死といった破滅に至るまでを，写実的な筆致で描く。

いさき【伊佐木】硬骨魚類・イサキ科。40cmほどになる海産魚。マアジに似た形で，ごく大きくなるとほとんど無地の灰緑かっ色だが，小さいうちは，はっきりした縦の濃色帯がある。本州中部以南の沿岸にすみ，夏に多くとれる。癖がなく美味で，よく店頭で見かける。

イサク［Isaac］《旧約聖書》でヤーウェ神が老齢のアブラハムとサラに約束して与えた子。イスラエル民族の2代目族長。神はイサクとその子孫に対して永遠の契約をたてた。彼は神にためされた父の手にかかって燔祭(はんさい)としてささげられる寸前に救われた。個性の強い父と子に比べて温和な人物だが，燔祭，妻リベカとの出会いの場面は劇的である。子にエサウとヤコブがある。

いさざ【魦】硬骨魚類・ハゼ科。8cmほどになる淡水ハゼ。琵琶湖(びわこ)の特産でじみな淡かっ色の普通の姿のハゼだが，美味で有名。滋賀・京都などで賞味される。

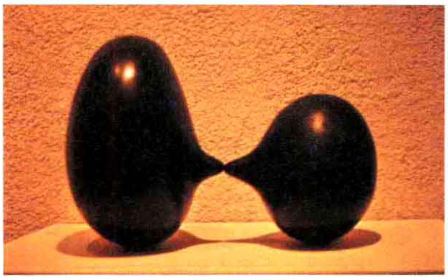
いざなぎのみこと【伊弉諾尊・伊邪那岐命】日本神話の神。イザナギノミコトはイザナミノミコトとともにオノコロ島にあまくだり，天御柱(あめのみはしら)を行き巡り会って婚媾(こんこう)し，大八州(おおやしま)を生み，天下の主神としてアマテラスオオミカミ・スサノオノミコトをもうけた。これが《日本書紀》の所伝である。《古事記》では，イザナミノミコトの死後，黄泉国(よもつくに)にイザナミノミコトを訪ね，そこから帰って筑紫日向(つくしひゅうが)(宮崎県)の橘(たちばな)の小戸の杆原(あはぎはら)に至り，禊祓(みそぎはらい)し，左の目を洗ったときにアマテラスオオミカミ，右の目を洗ったときにツキヨミノミコト，鼻を洗ったときにスサノオノミコトが生まれたという。3神の分治を定め，近江(おうみ)(滋賀県)の多賀にしずまった。これが多賀神社の縁起である。イザナギの名義については，〈イザ〉は神聖の意味を示し，〈ギ〉はカムロギ・カムロミ，アワナギ・アワナミの〈ギ〉と同じく，〈ミ〉と相対して男性を表わし，



イサキ



イサベル



イサム-ノグチ《マイトシス》1962

全体として〈聖なる男君〉と解せられている。呪術(じゅじゅつ)的王者の投影と解すれば，国生みや三貴神化生(けしょう)などに基づく行事も，集団社会のための生産の行事だったことが想察される。〔宮井義雄〕

いざなみのみこと【伊弉冉尊・伊邪那美命】日本神話の神。イザナギノミコトと相対して〈聖なる女君〉の意味を示す名まえと解されている。この神が大八州(おおやしま)を生んだというのは，おそらく石器時代以来の母なる大地の信仰の流れをくむ女神だからであろう。もとは地母神の生産力は父なる神を必要としなかった。生殖の知識の進歩と呪術(じゅじゅつ)信仰の合理化が配偶を必要とするに至った。地母神の生産は山川草木すべてに及んだ。この神は死して黄泉(よもつ)大神となったと伝えられ，また紀伊(きい)(三重県)の有馬村に葬られ，この神の魂を祭るに花のときは花をもってし，鼓・笛・幡旗(はんき)を用い歌舞して祭ったといわれる。地母神のおもかげはこのあたりにとどめられている。邪馬台(やまたい)国女王卑弥呼(ひみこ)のような呪術的女王を本来の姿とすると考えられる。〔宮井義雄〕

いさはや【諫早(市)】長崎県東部の市。1940年(昭和15)市制施行。人口82,000。本明川の三角州上，有明海と千々石(ちぢわ)(橘(たちばな))・大村の2湾にはさまれた諫早平野の中心部を占める。産業三大別人口は20：21：59で，良質な諫早米を集散し，県立農事試験場・イグサ検定所・デンプン工場・農機具工場など，農業関係の施設が多い。有明海沿岸は，干拓の歴史が古く，1965年から東部に大規模な干拓工事が進んでいる。長崎本線・大村線の分岐点で，島原鉄道が島原方面へ加津佐まで通じ，国道34号線・57号線・207号線・251号線が集まる。雲仙(うんぜん)天草国立公園・多良岳(たらだけ)県立公園の観光基地で，重要文化財の眼鏡橋(めがねばし)などがある。

イサベラ(島)［Isabela］エクアドル西方海上に浮かぶ，ガラパゴス諸島最大の島。火山島。アルベマール島ともよばれる。面積4,273km^2。人口1300。五つの火山があり，最高点は1,524m。ゾウガメ・ウミイグアナが生息し，1835年，C.ダーウィンの探検以来知られる。サトウキビ・トウモロコシを産し，タグスコーブ港を中心に漁業も行なわれる。

イサベル［Isabel］(1451～1504) カスチリア女王。在位1474～1504年。1469年アラゴン太子フェルナンドと結婚し，彼が1479年アラゴン王となったので両国は合体し，ふたりの共同統治のもとでスペイン王国の基礎が築かれた。1492年グラナダを占領して国土回復運動を完了し，中央集権体制の確立に努めた。フェルナンドは主としてイタリア支配に専念し，イサベルは内政に意を用い，貴族をおさえて市民階級の発展を助けた。また，コロンブスを援助してアメリカ発見に成功し，大航海時代のスペイン繁栄の基礎を築いた。→大航海時代

イサム-ノグチ［Isamu Noguchi］(1904～) アメリカの彫刻家。詩人野口米次郎(よねじろう)の長男としてロサンゼルスに生まれ，2歳から14歳までは日本で育った。のちコロンビア大学医学部に学び，途中から美術を志し，1927年(昭和2)からしばらくブランクーシの助手を勤めた。単純化した抽象形態で，彫刻と庭園・建築との総合をめざし，舞台装置や家具も手がけ，世界各地に活躍している。

イザヤしょ【イザヤ書】《旧約聖書》の預言書の一。紀元前8～紀元前5世紀ごろの預言の集成で3部からなる。第1部の多くがユダ王国の預言者イザヤの預言なのでこの名がある。第1部ではアッシリアの侵入などの国難に際して，歴史の決定者であるヤーウェ神の栄光が地に満ちること，その信仰による救い，救主たる王の出現などが語られる。第2部は〈第2イザヤ〉と仮称され，バビロンの捕囚となったユダヤ人にヤーウェ神が万物の創造主，選民イスラエ

ルの救主であると説いて慰める。第３部は〈第３イザヤ〉とよばれ，解放されてエルサレムに帰った人々に聖都復興をすすめ，新時代の希望を与える。〔松田　治〕

いざよいせいしん【十六夜清心】⇨小袖曾我薊色縫(こそでそがあざみのいろぬい)

いざよいにっき【十六夜日記】阿仏尼*(あぶつに)作の日記・紀行。藤原為家(ためいえ)の後妻である阿仏尼が，夫の死後に起こった継子為氏と実子為相(ためすけ)の領地相続の争いについて，幼い為相の代わりに鎌倉幕府へ訴え出たときの記録である。その出立の事情，旅日記，鎌倉滞在日記，贈答歌と勝訴立願の長歌とからなる。為相を必死に守ろうとする母性愛が優雅な文章でつづられている。1280年(弘安３)の成立。

いざりうお【躄魚】硬骨魚類・イザリウオ科。15cmほどになる海産魚。淡かっ色の地に黒斑(こくはん)をつける。本州中部以南の沿岸にすむ。海底にじっとしていることが多く，ときどき胸びれと腹びれを四つ足のように使ってはって歩き，そのようすはまるでガマのようである。アンコウに近い種類で，鼻先にえさのようにみえる突起をもち，他の魚を誘い寄せ，大口をあけてまるのみにする。怪物じみた姿だが，イセエビ網などによくかかり，海べではそれほど珍しくはない。



イザリウオ



居坐機

いざりばた【居坐機】原始型の手織り機の一種。地上に水平にたて糸を張り渡し，手前を織り手の腰に縛りつけて，織るにしたがって前方へいざり進む方式のもの。地機(じばた)・下機・神代機ともいう。原始型が改良されて，たて糸巻きを機台に取り付け，低く腰を掛け，足で綱を引いて綜絖*(そうこう)でたて糸を開口してよこ糸を打ち込む形式のものもいざり機といわれている。日本では結城紬(ゆうきつむぎ)・小千谷縮(おじやちぢみ)を織るのに使われてきた。➔織機〔小川安朗〕

いざわしゅうじ【伊沢修二】(1851～1917) 明治時代の教育家。信濃(しなの)(長野県)高遠の生まれ。1874年(明治７)愛知師範学校長となり，翌年アメリカに留学。帰国後，東京師範学校長を経て文部省に転じ，その後は東京音楽学校・東京盲啞(もうあ)学校・東京高等師範学校の校長を歴任し，音楽教育・盲啞教育・吃音矯正(きつおんきょうせい)・教科書編纂(へんさん)などに業績を残した。

いざわじょう【胆沢城】岩手県水沢市にある史跡。802年(延暦21)，征夷(せいい)大将軍坂上田村麻呂*(さかのうえのたむらまろ)が蝦夷(えぞ)征伐の際に築いた平城。城域は方８町で，ほぼその中心に，方形状の内城を置き，その内部に正殿などの建物を設け，804年，鎮守府(蝦夷鎮圧のため東北に置かれた最高の軍政府)を多賀城*から北進させて東北経営の拠点とした。

いさん【胃酸】胃液中に含まれる酸。主として胃の壁細胞から分泌される塩酸と乳酸・酪酸・酢酸などの有機酸からなる。このため胃液*はpH1.0～2.0と強酸性を呈する。胃液の酸度が低下あるいは消失したものは無酸症*といわれる。

いさん【胃散】健胃散ともいい，健胃剤*のうち粉末状のものをいう。

いさん【遺産】死後に残された相続*の対象となる財産をいう。相続財産と類似の観念であるが，より厳密には，遺産が被相続人の立場からみた観念であるのに対し，相続財産は相続人の立場からみた観念である。遺産は，被相続人の財産に属したいっさいの権利義務であるが，具体的には，所有権・債権などの積極財産(プラスの財産)とともに債務などの消極財産(マイナスの財産)，その他財産法上の法律関係(たとえば，売り主の担保責任，不法行為や債務不履行に基づく損害賠償責任など)をも含む。しかし，祖先祭祀(さいし)や一身専属権*は含まない。なお，民法旧規定では，戸主の地位の相続を家督相続*というのに対して，戸主でない家族の死亡による遺産の相続を遺産相続といったが，これは戸主が死亡した場合，その遺産は家督相続の内容となり，このほか遺産だけの相続についての規定はなかった。なお戸主でない家族の死亡した場合はその特有財産が遺産となり，遺産相続が行なわれた。〔黒木三郎〕

いさんかたしょう【胃酸過多症】胃液検査*をして胃液遊離塩酸がヒスタミン・ヒスタローグ・ガストリンなどの刺激剤を投与後60mEq/l以上の値を示す場合をいう。胃腸疾患では十二指腸潰瘍(かいよう)の場合に最も多く，次いで胃潰瘍に多い。症状としては，胸やけ・げっぷなどが起こり，また重圧感・胃痛・嘔吐(おうと)も訴える。胃液中には，遊離塩酸・結合塩酸・有機酸(主として乳酸)および酸性塩(主として酸性リン酸塩)が酸として存在する(これらの合計を総酸度という)。塩酸は胃壁の壁細胞より分泌されることが，19世紀にハイデンハイン・ラングレイらによって唱えられ，タベンポートにより壁細胞中の炭酸脱水素酵素が，塩酸分泌のしくみに関与していることが明らかにされた。胃酸過多症に対する治療は原疾患に対して行なうのを原則とするが，対症療法としてアルカリ剤(重曹(じゅうそう)・酸化マグネシウムなど)を与え，食餌(しょくじ)としては刺激の少ないものをとらせる。〔後藤義隆〕

いさんそうぞく【遺産相続】⇨相続

いさんぶんかつ【遺産分割】遺産*を共同で相続*した場合，相続人の間で，その相続分の割合に従って遺産を分配する手続きのことをいう。民法は，遺産を分割することを原則としているから，共同相続人はだれでも，いつでも遺産の分割を請求することができる。ただし，被相続人は遺言で５年間は分割を禁ずることができるし，家庭裁判所も特別の事情がある場合には期間を定めて分割を禁ずることができる(民法907条)。共同相続人もまた全員の協議で，５年を越えない期間内で分割をしないという契約をすることができる(民法256条)。遺産の分割は，遺産に属する物または権利の種類および性質，各相続人の職業その他いっさいの事情を考慮して適正に行なわれなければならないが(民法906条)，その分割方法は３通りある。①被相続人が遺産の分割方法を定めるか，もしくはこれを第三者に委託した場合，②共同相続人の協議によってなされる場合，③共同相続人の協議が整わないか協議ができないときに家庭裁判所に分割を請求する場合である。遺産の分割の効力については，分割のときではなくて相続開始のときにさかのぼって生ずる。ただし，それがために分割前の取引によって得た第三者の権利が害されることはない(民法909条)。〔黒木三郎〕

いし【意思】⇨意思表示

いし【医師】文部大臣の認定した大学において正規の医学教育を受けた者(例外，医師法11条２・３号)が，国家試験に合格し，厚生大臣の免許を受けて医師とされる。身分その他は医師法(1948年法律201)に規定される。未成年者・禁治産者・準禁治産者，つんぼ・おし・盲の者には絶対に免許が与えられない(医師法３条)。また，精神病者などや罰金以上の刑に処せられた者などには免許が与えられないことがある。その任務は，医療および保健指導を行なうことによって公衆衛生の向上および増進に寄与し，国民の健康な生活を確保することにある(医師法１条)。医師でなければ，上述の業務を行なうことはできないし，医師またはこれに類似する名称を用いることはできない。

医師は，診療治療の求めがあった場合には，正当な事由がなければ，これを拒んで

はならないし，みずから診察しないで治療したり，診断書・処方箋(しょほうせん)の交付をしたりすることができないなど，診療上の種々の義務や制約がある(医師法17～24条2号)。また技能・治療方法・経歴・学位に関する事項は原則として広告することができず(医療法69条)，職務上知りえた秘密を守る義務がある(刑法134条)。

1966年(昭和41)末におけるわが国の医師数は11万759人，そのうち約94％は診療に従事している医師であり，診療科目別にみると延べ人数では内科を担当する医師が臨床医の半数を占める。医師のうち女医の占める割合は9.3％。全国的な分布では医師は大都市に集中し，一般に東京以西の西日本では多く，東関東以北の県では人口のわりに少ないなど地域による格差が大きい。現在，成人病，不慮の事故など医療需要が増大し，一方，医療技術の分化など，医療行政上の問題も多い。また，臨床医の増加は目だっているが，保健衛生あるいは衛生行政関係の医師の数は減少の傾向にある。

〔金子義徳・松本治雄〕

いし　【胃歯】　軟体動物のアメフラシ・タツナミガイなどの胃にある消化器官の一種。胃壁の上に10数個並んでいるかたい粒状のもので，これで食物をすりつぶすほか，消化酵素を含んでいて，消化に役だっている。なお，甲殻(こうかく)類の十脚目に属する動物の胃の内面にあるキチン質の突起も胃歯の一種で，食物を摩砕する働きがある。

いし　【意志】　広い意味では生物の生存目的に沿った活動を含む，目的実現への志向性であるが，一般には人間が欲求し，欲求に対して行動の方向を選択・決定し，それに向かう心身の統一的自我体系をさす。意志の発生を欲望とするもの，感情の中断とするもの，反射の発達とするものなどの諸説がある。ふつう意志活動には努力感が伴い，衝動的行動や反射運動と区別される。

いし　【縊死】　索条(ロープ・腰ひも・へこ帯・バンド・荷造りひもなど)を頸部(けいぶ)に巻きつけその端を固定し，自己の体重の全部あるいは一部によって頸部を圧迫することを縊頸といい，縊頸による死を縊死(俗に首つり)という。ひもを首に巻いたまま結ばずに固定したときは開放係蹄(けいてい)といい，首に巻いたひもを一度結んでから懸垂したときは結節係蹄という。縊頸の機転には，①頸動静脈や椎骨(ついこつ)動脈の圧迫・閉鎖(脳への血液供給が完全に断たれ，脳の無酸素症が起こり意識が消失する)，②気道閉鎖のための窒息(索条により舌根部を咽頭壁(いんとうへき)に密着させるための気道閉塞(へいそく))，③頸部神経の圧迫・刺激，頸動脈洞(どう)の圧迫・牽引(けんいん)による反射的心臓停止などがある。この三つがほぼ同時に起こるために容易に死亡する。定型的縊死では顔面蒼白(そうはく)で溢血点(いっけつてん)などもないことが多いが，索条のかかり方が普通と異なったり，足が地についていたりして一気に体重がかからないような姿勢では非定型的縊死とよばれ，変則的死体所見を示すこともある。すなわち，この場合には顔面の鬱血(うっけつ)，溢血点の散在などが認められて絞死*の所見と似てくるが，索条痕(さくじょうこん)などで区別される。自殺の手段としては毒物服用に次いで多い。〔朝倉　了〕



石井鶴三《俊寛(頭部試作)》1930



石井柏亭《巴里の宿にて》1911

イーシー　［EC］European Community の略称。ヨーロッパ共同体。EEC*(ヨーロッパ経済共同体)・ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体*(ECSC)・ヨーロッパ原子力共同体*(ユーラトム)の総称であったが，1967年6月のEEC理事会で採択された〈3共同体単一理事会および単一委員会設立条約〉に基づき，1967年7月1日から上記三つの機関を統合し発足した。加盟国は，フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクの6か国。共通の機構としては，ヨーロッパ議会・司法裁判所・ヨーロッパ閣僚理事会・ヨーロッパ委員会がある。ヨーロッパ議会は加盟国議員142名により構成され，各機関の活動や決定を監督・助言する権限を有する。司法裁判所は，条約の解釈と適用状況を審査する機構である。理事会は，最高決定機関で，加盟国の一般経済政策の調整にあたる。委員会は政策の執行・計画・実施監督の機関である。〔深海博明〕

イーシーイー　［ECE］ ⇒ヨーロッパ経済委員会

いしいきくじろう　【石井菊次郎】(1866～1945)　外交官。千葉県に生まれる。東京大学卒業。外務省にはいり，フランス大使を経て1915年(大正4)第2次大隈(おおくま)内閣の外相となり，対華二十一か条要求*後の対中国積極外交を推進，1917年全権大使としてワシントンに行き，日本の在中国の特殊権益を承認させる石井-ランシング協定*を結んだ。1927年(昭和2)ジュネーブ軍縮会議全権委員，1929年枢密顧問官。東京空襲で戦災死。子爵。〔岸野淳子〕

いしいじゅうじ　【石井十次】(1865～1914)　社会事業家。宮崎県の生まれ。岡山県医学校に在学中キリスト教に入信したことが，その生涯(しょうがい)の活動のささえとなった。1887年(明治20)岡山孤児院を創立して孤児救済事業を始め，学校・農場を開いて孤児のために尽くした。

いしいつるぞう　【石井鶴三】(1887～1973)彫刻家・版画家。東京の生まれ。柏亭(はくてい)の弟。小山正太郎に絵，加藤景雲に木彫を学ぶ。1910年(明治43)東京美術学校彫刻科を卒業。院展同人として独自の風格ある彫刻を発表したほか，版画・さし絵でも知られている。

いしいばく　【石井漠】(1890～1962)舞踊家。本名は石井忠純(ただずみ)。秋田県生まれ。帝劇歌劇部1期生。ローシーに学ぶ。1916年(大正5)山田耕筰*(こうさく)らと新舞踊運動を起こし，創作舞踊の先駆者となる。1922年から4年間ヨーロッパに遊学，帰国後1928年(昭和3)石井舞踊研究所を開設，後進を指導した。他方，地方への舞踊の普及に努め，その〈舞踊詩〉の主張はわが国のモダンダンス運動に刺激を与えるものとなった。代表作《明暗》《人間釈迦(しゃか)》。

〔高橋孝一〕

いしいはくてい　【石井柏亭】(1882～1958)　洋画家。東京の生まれ。本名満吉。父石井鼎湖(ていこ)に日本画を学び，父の没後は浅井忠らに師事。1904年(明治37)東京美術学校を中退，のち1910年から1912年にかけて渡欧，1913年(大正2)には二科会の創立に参加した。しかし，1935年(昭和10)には脱会して一水会を興し，日展にも活躍，水彩画もよくした。

いしいももこ　【石井桃子】(1907～　)

児童文学者。埼玉県生まれ。日本女子大英文科卒業。第2次世界大戦中に書かれた《ノンちゃん雲に乗る》により，1951年(昭和26)第1回文部大臣賞受賞。訳書に《クマのプーさん》《児童文学論》など多数。

いしい-ランシングきょうてい 【石井-ランシング協定】 アメリカ国務長官ロバート-ランシングと日本全権使節石井菊次郎との間に1917年(大正6)締結された中国に関する共同宣言。第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)後日本は対華二十一か条要求を発表して，中国進出を強化し，アメリカに承認を求めた。アメリカも中国市場の経済的独占を図り，その保証を日本に求めていた。両者の協議で，アメリカは満州における日本の特殊権益を承認し，両国は中国の門戸開放・機会均等・領土保全の諸原則の尊重を約束した。また，非公開付属文書で，日本は中国に武力進出をしないと約束した。1908年(明治41)の高平-ルート協定を一歩進めたが，第1次世界大戦後は日米の勢力関係が逆転し，1921～1922年のワシントン会議および九か国条約で日本の特殊権益は否定され，1923年，協定は廃止された。〔折井一彦〕

いしいりょういち 【石井亮一】 (1867～1937) 佐賀県佐賀市の生まれ。築地(つきじ)立教学校(立教大学の前身)在学中にキリスト教信者となり，1887年(明治20)同校卒業後は一生を精神薄弱児教育にささげ，1906年には，わが国最初の精薄児施設(滝野川学園)を現在の巣鴨(すがも)に創設した。

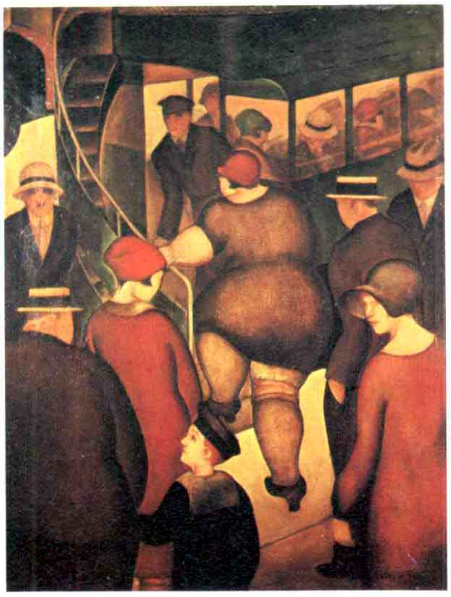
いしいろげつ 【石井露月】 (1873～1928) 俳人。秋田県に生まれた。本名は祐治(ゆうじ)。正岡子規に作句指導を受け，警抜な作風をもって河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)・高浜虚子と並称された。かたわら医学を学び，1899年(明治32)帰郷して開業。翌年俳誌《俳星》を創刊，奥羽調の振興を唱えた。東北地方の農村文化の指導に果たした役割は大きい。没後《露月句集》，文集《蜩(ひぐらし)を聴(き)きつつ》が刊行された。

イーシーエー [ECA] ⇨アフリカ経済委員会

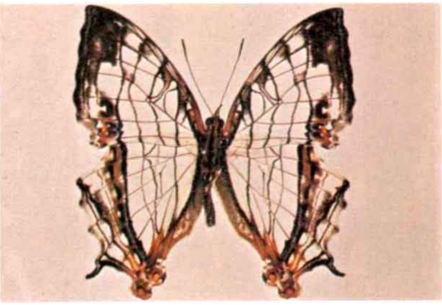
イーシーエスシー [ECSC] ⇨ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体

イジェフスク [Izhevsk] ソビエト連邦，ウラル山脈の西麓(せいろく)，ウドムルト自治共和国の首都。人口139万1,000(1968)。カマ川の支流イジ川に臨む鉄道の要地。市は1760年に建設され，ウラル西方の最も古い金属工業都市の一つである。機械・金属・製材・パルプなどの工業が盛ん。

いしおか 【石岡(市)】 茨城県中央部の市。1954年(昭和29)，古代に常陸(ひたち)の国府が置かれ，また江戸時代には松平氏の小城下町であった石岡町と，霞ケ浦(かすみがうら)の湖港として栄えた高浜町が合併して市制を施行。人口48,000。市域は霞ケ浦西岸，高浜入に接し，恋瀬川流域に開ける。産業三大別人口比は20：32：48で，北茨城



石垣栄太郎《二階つきバス》1926



イシガケチョウ

一帯に伝統的な卸商圏をもつ。〈関東の灘(なだ)〉とよばれる酒造地で，桐(きり)げた・桐だんすの生産も多い。近年首都圏衛星都市に指定され，乳製品・アルコール・製糸をはじめ，時計・機械・電線などの近代工業が発達した。常磐(じょうばん)線から関東鉄道鉾田(ほこた)線を分岐し，国道6号線が通じる。国分寺・国分尼寺跡は特別史跡に指定され，そのほか舟塚山(ふなつかやま)古墳，府中城址(じょうし)，都々逸坊(どどいつぼう)扇歌の墓など名所・史跡に富む。特産物はクリで，高浜一帯はつり場として名高い。

イージーオーダー [easy order] イージーは〈簡単な・たやすい〉，オーダーは〈注文・あつらえ〉の意味で，普通のオーダーメイドに対して〈簡単なあつらえ〉をいう。おもにデパートなどで使われている日本独特の衣服販売の一方法で，オーダーより安く，仕上がりの早い利点が好まれている。あらかじめその店にそろえられている型見本の服の中から，用途・目的・好みに合った型と布地を選び，仕立てを依頼する。製作工程は既製服と同じで，仮縫いはしないが，そのときの採寸法で仕立てるので，体形的に既製服が合わない人にも適する。型見本の注文なのでデザイン変更はできないが，可能な範囲内での訂正はできる。第2次世界大戦後，既製服が一時粗悪品とみられた時代に，オーダーを簡素化したシステムとして生まれたもので，既製服のデザインやサイズが多くなりその品質も改良されてきた今日，やや，意味が薄れてきている。〔小池千枝〕

いしがき 【石垣】 平地に城を築くときや土盛りして道路などをつくる場合，土盛りの法面(のりめん)の保護や土留めとして，また堤防の護岸として古くから用いられてきたもので，石と石との間をモルタルやコンクリートなどで充塡(じゅうてん)する練積と，石と石とをかみ合わせるだけで特別にモルタルやコンクリートを充塡しない空積の二つの方式がある。石がきに用いる石はその加工程度によって間知石・割石・雑割石・玉石の名称がある。〔村上博智〕

いしがき 【石垣(市)】 沖縄，八重山諸島の石垣島全島を占める市。1964年(昭和39)市制施行。人口40,000。島の中央にある於茂登岳(おもとだけ)(526m)から北方は山がちで，南方に平地が開ける。もとは地域の大半がマラリアの流行地で，市街地は島の南西端だけに発達し，住民は水田を出作りしていた。第2次世界大戦後，マラリアが撲滅(ぼくめつ)されると，沖縄本島や宮古島から多くの開拓団が入植し，開発が急速に進み，全島の約4分の1が耕地化した。沖縄本島の那覇(なは)とは航路・航空路で，宮古島とは航空路で結ばれている。

いしがきいちご 【石垣苺】 ⇨イチゴ

いしがきえいたろう 【石垣栄太郎】 (1893～1958) アメリカで活躍した画家。評論家石垣綾子(あやこ)の夫。和歌山県に生まれ，1909年渡米してカリフォルニア美術学校などに学び，1915年以降はニューヨークでA.スメドレー・片山潜らと親交を結んだ。1925年からはアメリカ民衆の生活情景を社会的主題のもとに描いた作品を発表，ニュー=ディール政策下の壁画運動にも参加した。その後第2次世界大戦中をアメリカで過ごし，1951年に帰国したが健康にすぐれず，活動の間もなく逝去(せいきょ)した。代表作に《鞭(むち)打つ》《二階つきバス》などがある。〔陰里鉄郎〕

いしがきさいばい 【石垣栽培】 おもにイチゴに使われる栽培法で，南面の傾斜地にコンクリートの板を張り，板の間に株を植え，冬季はさらにビニルでおおい，保温することによって早出しをする方法をいう。もともと静岡県清水(しみず)市久能山で，イチゴの福羽という品種を早出しするために始まった栽培法であるが，近年はその他の暖かい地方でも平地の水田などに人工的に土手をつくって，この原理を利用した栽培が普及した。〔松本正雄〕

いしがきじま 【石垣島】 沖縄の八重山諸島の主島で，面積256km^2。全島が石垣市となっている。➔石垣市

いしがきだい 【石垣鯛】 ⇨イシダイ

いしがけちょう　【石崖蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ50～60mm，翅の地色は白色で，墨流しのような斑紋(はんもん)がある。本州の近畿(きんき)地方以南～東南アジア一帯まで広く分布する。年に3～4回の発生で，5～9月に夏型が発生し，9～10月に色彩の淡い秋型が発生し，成虫で越冬する。幼虫は，イヌビワ・イチジク・イタビなどの葉を食べる。成虫は山地の樹林帯に多く，路上や湿地，葉上に翅を開いたまま静止するが，飛び去っては幾度も同一場所へ舞いもどる習性がみられる。また驚いて飛び立ち，翅を開いたまま葉裏に密着して止まり，一見白いシャクガのように体を隠す習性があるという。　〔鈴木邦雄〕

いしがっせん　【石合戦】　児童遊戯の一。小石を打ち合う民俗から転じたと思われる。平安時代から行なわれた遊びで，古くは《年中行事絵巻》に描かれている。また《平家物語》にも，〈公卿(くぎょう)・殿上人(てんじょうびと)の召さるるところの軍兵といへば，向ひ礫(つぶて)いんち〉としるされている。〈いんち〉は，実戦における石撃(いんじ)のなごりで，かつては鳥獣を打ち取る手段として始まったものが，源平時代には，印地打ちのものとして実戦に使用された。5月5日の印地打ちは，尚武(しょうぶ)のなごりをとどめた民俗的行事である。　〔渡辺欣雄〕

いしがに　【石蟹】　甲殻(こうかく)類・ワタリガニ科。甲らの幅が9cmほどになる。背面は暗緑色。はさみに濃かっ色の不規則な紋があり，腹面は淡色。東京湾以南，朝鮮，中国の沿岸に分布。内湾のアマモ帯*や岩場・岩壁などに最も普通で，棒などでつつくと，はさみを振り上げて威嚇する。はさみの力は非常に強く，はさまれると痛い。最後の脚1対は，平らなオール形になっていて，ガザミほどじょうずではないが，泳ぐことができる。肉は少ないが食べられる。

いしがま　【石鎌】　⇨石器

いしがみ　【石神】　⇨しゃくじん

いしがめ　【石亀】　爬虫(はちゅう)類・イシガメ科。日本固有のカメで，本州・四国・九州に分布。甲長は18cmほどで後縁には切れ込みがある。淡水産で池や流れのゆるやかな川にすみ，陸にもよく上る。主として魚介類を捕食。陸に産卵する。ごく小さいものをゼニガメといい愛玩(あいがん)されている。なお，近ごろではクサガメの子もゼニガメとして売られている。

いしかり　【石狩(支庁)】　北海道庁管轄14支庁の一。石狩川河口を中心とする日本海寄りの地域を管内とし，3町3村を域内に含む。庁舎所在地は札幌(さっぽろ)市。面積1,356km²，人口94,000。石狩川本支流の沖積地(ちゅうせきち)は水田が広く開け，タマネギ・ダイコンを特産し，石狩川河口付近は漁業が盛んである。札幌市の発展とともに都市化・工業化が進んで道央地区新産業都市*の指定地域の半ばを占める。人口は都市化の進む地域で増加する一方，純農村地域では減少している。



イシガニ



イシガメ



石狩川　海上から見た石狩川の河口付近。河口左岸の集落は石狩町の一部で，中景右手には以前の蛇行流路旧石狩川とそれをつなぐ人工水路も見える。遠景には広い石狩平野が広がる

いしかりがわ　【石狩川】　北海道中央部の石狩山地に発し，西流して石狩平野北部に出，南下して平野中心部から西北に向かって石狩湾に注ぐ。北海道第1，わが国では信濃(しなの)川・利根(とね)川に次ぐ第3の長流で，流域面積の広いことも利根川に次いでわが国第2である。流程262km，流域面積14,330km²。水源から上川盆地に至るまでは峡谷が多く，層雲峡*は峡谷美の最高位にあげられる。上川盆地で美瑛(びえい)川などを合わせ，夕張山地を横切る地点に再び神居古潭*(かむいこたん)の峡谷をつくる。石狩平野に出ると，雨龍(うりゅう)川・空知川などの支流がはいり，下流では夕張川・江別川が合流して低湿地を広く蛇行(だこう)していたるところに三日月湖*を残す。川名はアイヌ語で，蛇行して流れる川の意である。下流の石狩平野はこの川の沖積地(ちゅうせきち)で，低湿地も多いが，北海道一の沃野(よくや)で農・牧畜が盛んである。河口には橋がなく，国道231号線(札幌～留萌(るもい))は渡船を利用していたが，1967年(昭和42)に着工した石狩河口橋の第1期工事分664mが，1972年に完成して開通した。最終的には1,413mと道内最長の橋になる。　〔長津一郎〕

いしかりだけ　【石狩岳】　北海道中央部，大雪山国立公園の最奥部に位置する。標高は1,980mであるがその山体は大きく，北東の三国山・武利岳へと連なる石狩山地の主峰をなす。石狩・十勝(とかち)の二大河川の水源となっており，中腹以下は深い針葉樹林帯でおおわれ，ヒグマの群生地でもある。

いしかりたんでん　【石狩炭田】　北海道の石狩平野*の東方，夕張・空知山地一帯にある日本第1の炭田。北は空知郡から夕張郡を経て南は勇払(ゆうふつ)郡に及ぶ，東西25km，南北100kmの広い範囲にわたるが，大きく北の空地地区，南の夕張地区に分けられる。埋蔵量は約65億tと推定され，第三紀の夕張夾炭(きょうたん)層，幾春別夾炭層は最高10数枚の炭層をもっている。現在，夕張・大夕張・美唄(びばい)・砂川・赤平・芦別(あしべつ)など43の大小炭鉱がある。1967年の出炭量は1,650万tで，揮発性の高いものが多く，原料用・ガス用に向けられている。採掘された石炭の多くは鉄道で小樽(おたる)港や室蘭(むろらん)港に運ばれ，船で京浜・阪神(はんしん)地方に輸送されている。　〔竹内淳彦〕

いしかりへいや　【石狩平野】　北海道の中央部，石狩川によってつくられた面積約4,000km²の日本海に面する沖積(ちゅうせき)平野。北は増毛山地，東は夕張山地，西は後志(しりべし)・胆振(いぶり)の山地に囲まれ，南は標高約20mの分水界で勇払(ゆうふつ)平野に接している。これらの山地と平野の間には馬追丘陵・野幌(のっぽろ)丘陵などがある。北から東にかけての山地の前面には段丘が，西の山地の前面には海食崖(かいしょくがい)がみられ，古石狩湾の海岸線は現在の海岸線から20km以上も離れた江別付近まではいりこんでいる。石狩川*の運搬する土砂の堆積(たいせき)などにより現在のような海岸線がつくられたもので，海岸には砂丘が形成されている。平野では当別川・幾春別川・夕張川・豊平(とよひら)川などの支流が石狩川に合流しており，本流は江別付近まで南西に向かって流れているが，ここで北西に向きを変え，石狩湾に注いでいる。平野ではこれらの川は蛇行(だこう)し，三日月湖*や自然堤防をつくり，その背後は広い後背湿地になっている場合が多く，この湿地は寒冷地のため泥炭地(でいたんち)になっている。泥炭層には西部の火山による火山炭層が含まれており，この傾向は平野の南へ行くほど著しく，農業には不向きである。最近この泥炭地に排水・客土などの土地改良が進められ，米作をはじめ，園芸農業・酪農などが行なわれるようになり北海道第1の農業地域になった。平野の西に道庁所在地の札幌市がある。　〔味沢成吉〕

いしかりゆでん　【石狩油田】　北海道の石狩川*河口一帯にある油田。1903年(明治



イシガレイ

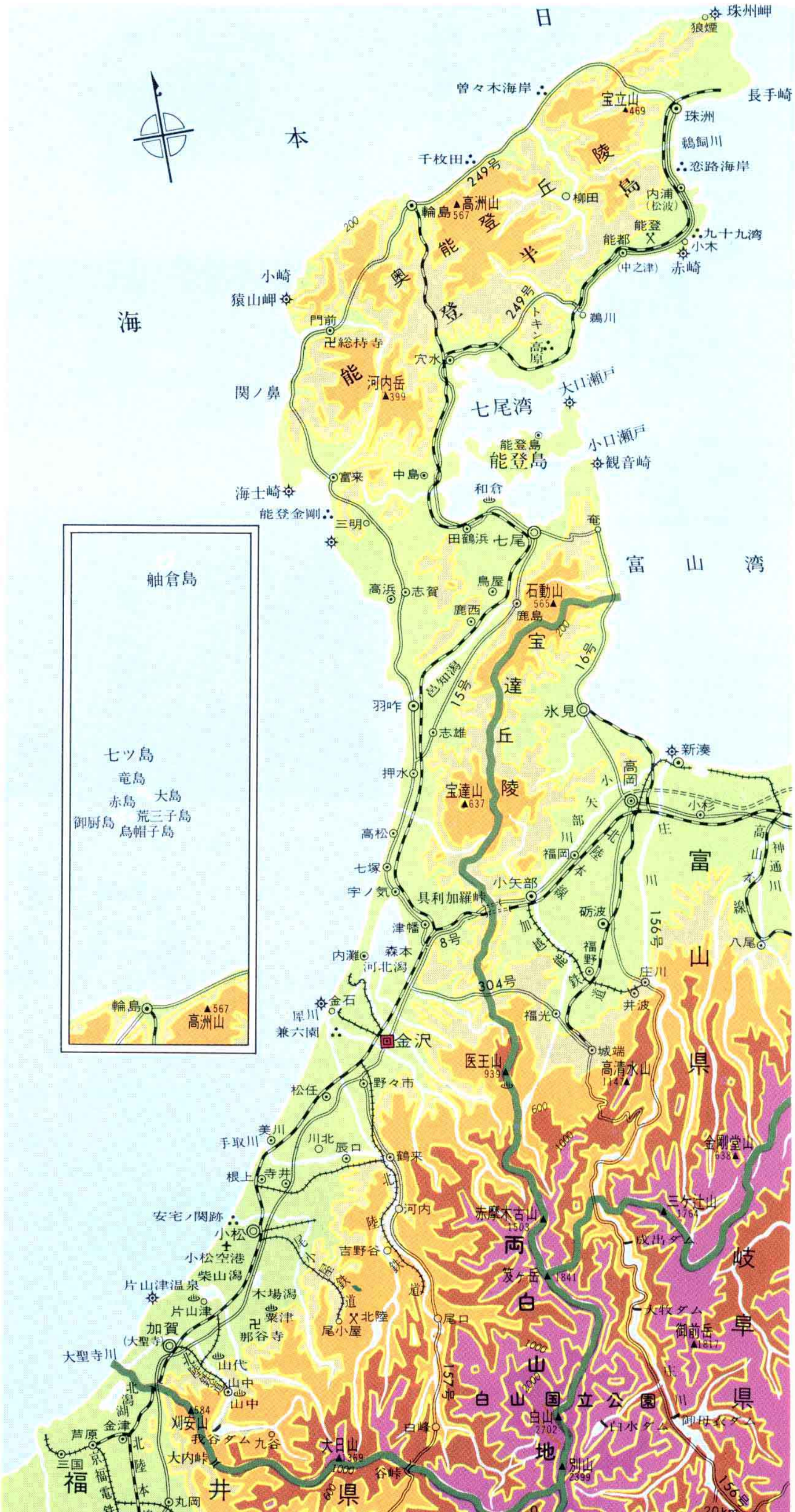
36）から採油が行なわれ，1930年ごろが全盛期であった。現在年間約7,000klを産し，道内で最大の産油量を誇る。原油は秋田県の土崎港に送られ製油されている。

いしがれい　**【石鰈】**　硬骨魚類・カレイ科。全長40cmほどになる普通の形のカレイで，表面（目のついているほう）は黒かっ色，裏面は白色。両面ともにうろこを欠くが，表の面に，うろこが変形した石のような，かたいかたまりが３列ばかり並んでいるのでこの名がある。日本各地の海に普通に見られる。美味で，ときに生きたまま売られる。

いしかわ　**【石川（県）】**　中部地方，日本海に面する県。北に能登（のと）半島が突き出し，東は富山，南東は岐阜，南は福井の各県に接する。加賀・能登２国の全域を占め，面積4,196km²，人口111万4,500，人口密度１km²あたり266人。県庁のある金沢以下８市と，８郡（27町６村）に分かれる。

〔自然〕県域は，南北約200kmにわたる細長い蝶（ちょう）ネクタイ形を呈し，南半の海岸沿いには金沢平野があり，南部は岐阜県境の白山（2,702ｍ）を主峰とする両白山地である。白山火山帯は，山地と重なって西に延び，〈加賀温泉郷〉とよばれる山中・山代（やましろ）・片山津などの温泉を湧出（ゆうしゅつ）させる。白山一帯は風光美にすぐれ，越前（えちぜん）加賀海岸国定公園に指定されている。県境は山地で限られ，海岸線は延長600kmに及ぶ。能登半島は丘陵性山地で，安山岩・集塊岩の噴出もみられる。その海岸線は，日本海に面した外浦が断崖（だんがい）を連ねた男性的な隆起海岸，富山湾に面した内浦が出入りに富む女性的な沈水海岸で，最近では外浦の曽々木（そそぎ）海岸を中心とした奥能登探勝が観光客を集める。半島基部には宝達山（637ｍ）がそびえ，その北方を邑知潟地溝帯（おうちがたちこうたい）が北東から南西の方向に走る。金沢平野の海岸部には，70kmにわたる砂丘が連なり，その内側には河北潟（かほくがた）・柴山潟（しばやまがた）などの潟湖（せきこ）がある。犀（さい）川・手取川・梯（かけはし）川などの各河川は，両白山地に源を発して北流し，金沢平野を潤す。

気候は典型的な裏日本式気候*で，晴天日数が少なく，降水量が多く，年平均気温も低い。特に冬季は多湿で，全国でも有数の深雪地帯となる。また，日照時間が短く，冬３か月平均月間日照時間は金沢で70時間



石川県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

前後，輪島は64時間にすぎない。春さきには特有の*フェーン現象がみられ，梅雨はやや弱く，台風の害を受けることは少ない。金沢市の年間平均降水量は2,662mm，年平均気温は13.5℃である。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は10：37：53。農業と繊維工業を主産業とし，近年は繊維工業に関連した機械工業の発展が注目されている。北陸経済圏の中心地域にあたり，流通活動も活発で，県民分配所得は1人あたり131万円(1977年度)で，全国10位と上位にある。《農林水産業》農業は米作が主体で，耕地面積は県域の約14％にすぎないが，金沢平野一帯は古くから〈加賀百万石〉の名がある米作地帯が広がり，水田率は84％に達する。大半は一毛作田で，手取川扇状地一帯は有数の早場米産地である。砂丘地のブドウ，金沢市周辺の野菜・ナシ・リンゴ，小松市周辺のイグサ・茶などの商品作物もあるが，いずれも地方的需要を満たすにすぎない。能登半島は耕地に乏しく，タバコの栽培がやや目だつ程度である。山林面積は28万ヘクタールで県域の67％に及び，林業は白山周辺地域と能登半島一帯が特に盛んである。近年，木炭生産は衰え，製材用やパルプ用の木材の生産が多い。加賀のスギ，能登のアテ(能登ヒバ)が特産で，アテは建築材料として使われるほか，*輪島塗の木地としての利用価値が高い。また白山山麓(さんろく)にはブナの天然林があり，家具・玩具(がんぐ)用に伐採されている。水産業は能登が主体で，暖流(対馬(つしま)海流)と寒流(千島海流)の接する海域に広い大陸棚(だな)が発達し，刺し網・定置網でイワシ・タイ・サバ・ブリ・タラなどを漁獲する。七尾湾ではカキ・真珠の養殖も行なわれる。輪島の北方に浮かぶ舳倉(へぐら)島では，海女(あま)の集団渡島によるアワビの採取という特色ある漁業形態もみられる。北海道や九州海域への出漁も盛んで，県漁獲量の30％を占めている。《鉱工業》南部に尾小屋銅山があるほかは金属資源にはあまり恵まれず，非金属資源では，能登で珪藻土(けいそうど)・セッコウ，加賀でパーライト・陶石・石灰岩などを産出する。工業は〈能登上布〉〈加賀友禅〉〈加賀羽二重〉などの伝統をもつ繊維工業が中心で，絹および絹交織・人絹交織・合成繊維・スフ織物などの繊維製品の出荷額は，全国第7位で，加賀市から七尾市にかけての金沢平野一帯に発達している。そのほか，漆器(輪島塗・山中塗)・九谷焼・金属箔(はく)などの伝統的な工芸品がある。また，機械工業では，電気冶金(やきん)・自動車部品・農機具などの工場が，小松市を中心に分布している。

〔交通・都市〕陸上交通では，北陸本線が日本海沿岸を走り，七尾線が津幡(つばた)から分かれて能登半島の輪島まで通ずる。能登線は七尾線の穴水から蛸島(たこしま)(珠洲(すず)市内)まで延びているが，赤字線で経営が苦しい。私鉄では，北陸鉄道がバス網を伴い，金沢・小松両市を中心に発達している。能登にも，北陸鉄道や国鉄のバス網がある。国道は，北陸本線沿いに国道8号線が走り，159号線・249号線(輪島経由)が金沢と七尾を結ぶ。また，国道157号線は金沢から南下し岐阜市へ通ずる。空港は小松にあって，定期便が東京・大阪・名古屋と連絡する。



石 川 県　金沢の九谷焼。江戸時代初期からの伝統をもち，その重厚なはだ色と特色ある上絵の意匠は他の追随を許さない。花びんや置き物など美術工芸品的なものがつくられる



石 川 光 明　《観音菩薩倚像》 1893

金沢・小松・七尾などの主要都市は，いずれも江戸時代の城下町から引き続き発展したもので，輪島・加賀・珠洲・羽咋は，1953年(昭和28)10月の町村合併促進法，松任(まっとう)は1970年の〈市町村の合併の特例に関する法律〉によって市制が施行された新興都市である。

〔歴史〕県域は古代の高志(こし)国の一部で，7世紀ごろ越前(えちぜん)・越中・越後の3国に分かれ，越前から718年(養老2)に能登，823年(弘仁14)に加賀の両国が分立した。鎌倉時代には，加賀は守護職(しゅごしき)富樫(とがし)氏，能登は守護職畠山(はたけやま)氏に統治されたが，富樫氏は*一向一揆(いっこういっき)に，畠山氏は上杉(うえすぎ)謙信に，それぞれ滅ぼされた。1488年(長享2)富樫政親(まさちか)を倒した一向一揆は，その後約100年間加賀を支配し，〈百姓のもちたる国〉といわれたが，織田信長(のぶなが)に平定された。金沢は，門徒のたてこもった〈尾山御坊〉に起源するが，信長の家臣佐久間盛政(もりまさ)に攻略された。能登も，信長に従えられて，その家臣前田利家(としいえ)が七尾城を本拠として統治した。信長の死後，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が佐久間盛政を破って所領を利家に与え，利家の子利長は，関ケ原の役や大阪の陣で徳川方に味方し，戦功によって所領が加賀全域に広がり，江戸時代最大の大名となった。前田藩は，14代260余年にわたり，産業・経済を発展させ，特に工芸を奨励した。金沢の*兼六園は前田氏の庭園で，日本三名園の一つとして名高い。1871年(明治4)の廃藩置県によって，加賀は金沢県，能登は七尾県となったが，翌年合併して石川県と改称した。その後，多少の変動を経て，1883年に現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

いしかわ　【石川(市)】 沖縄本島中東部の市。第2次世界大戦前は小村落にすぎなかったが，戦争直後，避難民が集まり，アメリカ軍政府と民政府が置かれて発展し，海岸が美しく，アメリカ軍専用海水浴場などもあった。1946年(昭和21)市制施行。人口18,000。太平洋に臨む本島東岸の砂浜上に碁盤形の町割りを形成し，米・茶・ブタを産する。また，沖縄最大の石川ダム，考古学上重要な〈伊波貝塚(いなみかいづか)〉がある。

いしかわ　【石川(町)】 福島県石川郡の町。人口18,600。阿武隈(あぶくま)山地の南部にあり，水郡線に沿う。室町時代には石川氏の城下町で，石川氏が豊臣秀吉(とよとみひでよし)にとりつぶされたのち，江戸時代には市場町として残った。現在は地方行政・商業の中心となっている。野木沢地区からは陶磁器の原料となるケイ石・チョウ石を産し，またこの地区の石川山は放射性鉱物や希土類の鉱物を産するので世界的に知られる。

いしかわこうめい　【石川光明】(1852～1913) 明治の彫刻家。江戸浅草の代々宮彫師(みやぼりし)の家に生まれた。幼名藤太郎。日本画・牙彫(げちょう)を学んで特に牙彫にすぐれ，1881年(明治14)第2回内国勧業博覧会に《魚籃(ぎょらん)観音像》を出品して2等賞に入賞。1890年東京美術学校創設の際に教授に迎えられ，洋風彫塑に対抗して伝統技術の保持に尽くした。木彫もよくし，代表作に《観音菩薩倚像(かんのんぼさついぞう)》などがある。

いしかわごえもん　【石川五右衛門】 安土桃山時代の大盗といわれるが，不詳。三好(みよし)氏の家臣石川明石(あかし)の子とも，遠州(静岡県)浜松に生まれて真田(さなだ)八郎と称し，のち河内(かわち)(大阪府)石川郡の医家に寄って石川五右衛門と改めたともいう。盗賊となって諸国を流れ，1594年(文禄3)捕えられ，京都三条河原(かわら)で一子とともに釜煎(かまいり)の刑に処せられた。ときに39歳。

また，五右衛門を義賊に仕立てた芝居が多く，中でも並木五瓶(ごへい)作《金門五三桐(きんもんごさんのきり)》が有名である。〔稲垣史生〕

いしかわさんしろう【石川三四郎】(1876～1956) 社会主義者。埼玉県に生まれる。東京法学院(中央大学の前身)卒業。1903年(明治36)週刊《平民新聞》を編集，1905年安部磯雄*(あべいそお)らとキリスト教社会主義*による《新紀元》を創刊，1908年福田英子*の《世界婦人》の編集を助けた。その間筆禍事件で2度入獄，大逆事件*後日本を脱出してヨーロッパに渡り，無政府主義思想を深めて1920年(大正9)帰国。その後著述に従事して無政府主義思想を広めた。主著《日本社会主義史》《西洋社会運動史》など。〔岸野淳子〕

いしかわじまはりまじゅうこうぎょう【石川島播磨重工業(株)】 日本最古の伝統をもつ造船会社。1853年(嘉永6)ペリーの来日を機に，江戸幕府の命によって東京隅田(すみだ)川河口の石川島に創設，1876年(明治9)民間に移管され，1889年石川島造船所となる。1945年(昭和20)石川島重工業と改称，1960年に播磨造船所，1964年に名古屋造船所，1967年には呉(くれ)造船所をあいついで合併し，急成長を遂げた。超大形タンカーの建造に先鞭(せんべん)をつけるなど，積極策をとり，将来の成長商品とみられている工業用ロボットの分野に独自の技術開発を進めている。本社東京，工場は佃島(つくだじま)(東京都)・相生(あいおい)(兵庫県)。資本金636億4,500万円，年間売上高6,913億3,700万円，従業員数26,307(1980年9月)。

いしかわじゅん【石川淳】(1899～) 小説家。東京浅草に生まれた。東京外国語学校卒。号は夷斎(いさい)。1935年(昭和10)処女作《佳人》を発表，1936年《普賢》で芥川賞*(あくたがわしょう)を受賞した。その作品は，精神の運動の持続が小説の全現実態を形成するという，特異な小説論の上に展開されている。おもな作品は，小説の《白描》《黄金伝説》《無尽燈》《焼跡のイエス》《処女懐胎》《鷹(たか)》《紫苑(しおん)物語》《至福千年》，評論の《森鷗外(おうがい)》《文学大概》など。〔小泉浩一郎〕

いしかわじょうざん【石川丈山】(1583～1672) 江戸初期の儒学者・文人。名は重之(しげゆき)。三河(みかわ)(愛知県)の生まれ。徳川家康(いえやす)に仕えたが，大阪夏の陣で軍律に反し，退けられてのちは朱子学を藤原惺窩*(せいか)に学び，比叡山麓(ひえいさんろく)の一乗寺に詩仙堂(しせんどう)を建て，林羅山(らざん)・堀杏庵(ほりきょうあん)・野間三竹らと交わった。また，彼は書道や茶道にもひいでて，書は後光明天皇に献上，茶は詩仙堂に煎茶(せんちゃ)法に基づいた3店(酒店・茶店・飯店)を設け，本邦煎茶の元祖といわれる。著書《覆醤集(ふしょうしゅう)》ほか。〔熊谷保孝〕



石川啄木

いしかわたくぼく【石川啄木】(1885～1912) 歌人・詩人。岩手県に生まれる。本名は一(はじめ)。盛岡中学在学中に新詩社*の社友となって《明星*》を愛読，与謝野晶子*(よさのあきこ)の《みだれ髪*》の影響下に文学的開眼を行なった。やがて与謝野鉄幹*の知遇を得て新詩社同人となり，詩作に専念。1905年(明治38)処女詩集《あこがれ》を出版，同年結婚したが生活に困窮して，故郷の渋民村(岩手郡玉山村)で小学校の代用教員となり，小説《雲は天才である》などを書いた。生活はなお苦しく，1907年北海道に渡り，地方新聞の記者をしながら1年を過ごしたが，やはり作家として立つ志が強く，上京して自然主義ふうの小説を書いた。しかし小説では認められず，1910年歌集《一握の砂*》を刊行して，はじめてその地位を確立したが，他方，この年に起きた大逆事件*の影響で急速に社会主義に接近，文学的にも新しい展開をみせた。評論《時代閉塞(へいそく)の現状》では自然主義批判・国家権力批判を行ない，あすの社会に対する組織的な考察をした。また，歌集《悲しき玩具*(がんぐ)》にはきびしい生活感情がうたわれ，詩集《呼子と口笛》には明治期社会主義詩の代表的作品が収められている。だが，こうした方向を徹底的に追求するまえに，肺結核のためわずか27歳で没した。〔小泉浩一郎〕

いしかわたつぞう【石川達三】(1905～) 秋田県の生まれ。1935年(昭和10)《蒼氓(そうぼう)》により第1回芥川賞*(あくたがわしょう)を受賞。1938年の《生きている兵隊》は発禁処分となった。続く《結婚の生態》《転落の詩集》などでは人生論的作風を展開。第2次世界大戦後は小市民的良識・社会的正義感に裏づけられた問題意識によって，《望みなきに非(あら)ず》《風にそよぐ葦(あし)》《人間の壁》《愛の終りの時》などの新聞小説を発表し続けている。〔飛高隆夫〕

いしかわちよまつ【石川千代松】(1861～1935) 旧幕臣の家に生まれ，東京大学卒業後，ドイツのワイスマン*について学び，帰国後東京大学農学部教授となった。彼の功績の第1は進化論の普及である。彼は，モース*の講演を筆記整理翻訳し，1883年(明治16)に《動物進化論》と題して公刊したほか，1892年には，日本ではじめて本格的な進化論書《進化新論》を著わして，生物学の普及に貢献した。第2に実験生物学においては，日本での細胞学の創始者となったほか，裏返しヒドラにおける内外層の位置復旧の実証(1890)，陸封アユの放流による大形化の実証(1895)など，すぐれた業績をあげた。

いしかわまさもち【石川雅望】(1753～1830) 江戸後期の国学者・狂歌師・読本(よみほん)作者。独学で和漢の古典を学び，《源氏物語*》の注釈書《源注余滴》，いろは引きの古語辞典《雅言集覧》などの平安朝文学研究の成果を著わすとともに，宿屋飯盛と号して狂歌をつくり，蜀山人*(しょくさんじん)門下の四天王のひとりとされた。

いしかわりきのすけ【石川理紀之助】(1845～1915) 農村指導者。秋田県に生まれる。21歳で石川家の養子となり，勤倹力行して家運を立てなおし，村の農事改良を図った。1872年(明治5)から10年間，秋田県勧業部に勤め，イネの品種試験・種苗交換会を設け，以来種苗交換は秋田県の年中行事となった。その後も自村の復興を指導，負債整理組合のさきがけといえる経済会をつくった。さらに全国農村を調査して《適産調》731冊をつくり，明治の二宮(にのみや)尊徳といわれた。〔岸野淳子〕

いしき【意識】 われわれが自己の行為や状態などについてもつ直観または感情。この段階では知るものと知られるものとは未分化なので，自発的意識あるいは原初的意識といわれる。しかし，そこに明白な対立が生じてくれば，反省的意識となる。この段階では意識主体・意識対象・意識事実が区別される。そして，特に意識主体だけをさして意識ということがあり，また自己意識，すなわち自覚を意識という場合もある。また，意識は個人の意識としてだけでなく，個人の総体もしくは集団の意識としても存在すると考えられる。子どもの意識とか階級意識などといわれる場合がそれにあたる。意識と物質との関係は哲学の中心問題とされてきたが，哲学史的にみれば，デカルト*は意識と思考とを同一のものと考え，明晰(めいせき)・判明に思考されたものを真理とみなして，近代的な自我意識を確立した。カント*は経験の統一の論理的根拠として〈意識一般〉を要請したが，この方向は新カント派によって徹底され，意識は精神的でも物質的でもなく，論理的価値をもつものとされた。現代の現象学*と実存主義*は意識の本質を〈志向性〉としてとらえ，その構造を綿密に分析している。➔唯心論 ➔唯物論〔飯塚勝久〕

仏教においては，対象を全体的・総括的に把握(はあく)する精神作用をいう。狭義には眼識(げんしき)・耳識(にしき)・鼻識・舌識・身識を前五識といい，第6番めが意識であり，普通に第六識という。深い禅定や睡眠・悶絶(もんぜつ)の場合を除いて，いつでも働く心である。西洋哲学にみられるような意識と物質との関係に基づく唯心論や唯物論の立場は，仏教の意識の問題には起こらない。仏教では物心一如であり，心を具体的現実から抽象して一つの実体として把握せず，心といっても実体をもたないもの，すなわち無自性・空*なるものであるとする。

〔鎌田茂雄〕

いしきあて【居敷当て】ひとえの長着・長じゅばんの腰にあたる部分の裏に，補強のために縫い付けるあて布。

いしきしょうがい【意識障害】精神医学的にみると，人間の意識活動は大脳皮質を含む脳全体の作用の総和で，この現象は無数の電燈の輝きにたとえられる。意識障害は，この無数の電燈の一部または全部が消えた状態である。判定の標識としては，注意力の低下，物事の理解の困難，時・所など見当識の障害，さらに思考過程の緩慢・不能，覚醒後(かくせいご)の記憶消失(健忘症*)などがあげられる。最近では，脳波が判定に重要な指針を与えている。臨床的には意識の混濁の程度によって次のように分類される。①昏蒙(こんもう)：応答が悪くなり，外部からの刺激に対する反応の低下がみられるが，強く注意を喚起すると清明さを取りもどす。②嗜眠(しみん)：強い刺激に対して反射的な運動，叫び声などで反応するほか，眠り続ける。③昏睡(こんすい)：精神活動が停止し，深く眠り続ける。ほかに病的な意識混濁として，意識の混濁はそれほどひどくないにもかかわらず，意識野が極端にせばまり，批判的な判断力を欠くもうろう状態，意識の混濁に興奮が加わった譫妄(せんぼう)状態などがある。もうろう状態はてんかん・ヒステリーのある種の状態にみられ，目的のない徘徊(はいかい)行為を伴うことがある。譫妄状態はアルコール中毒やてんかんにみられる。〔松田健身〕

いしきのながれのぶんがく【意識の流れの文学】刻々と流れ変化する人間の意識をたどって，人間の内的生命をとらえ描写しようとする現代文学の手法。〈意識の流れ〉という用語は，アメリカの心理学者ジェームズ*が人間の心理活動の無定形な流れにあてたもので，精神分析がにわかに注目を浴びた1920年代以降，個人の内奥，自我への探究が深まるとともに，特に小説の重要な手法となった。この手法の源流は，18世紀におけるロックの観念連合説を援用したスターン*の《トリストラム-シャンディ*》に求められるが，意識的にこの手法が用いられたのは，現代の英米小説においてである。その代表的な試みは，ドロシー-リチャードソンの《とがった屋根》，ジョイス*の《ユリシーズ*》，ウルフ*の《ダロウェー夫人*》，フォークナー*の多くの作品，さらにプルースト*の作品など。いずれも，論理や抽象に先行する不条理な裸のイメージを追い，輪郭の明らかな言語に抽出される以前の思考のプロセスを丹念に記述して，人間の心理をより直接的に描出しようとする。〔沢村　灌〕

いしきりかじわら【石切梶原】⇨梶原平三誉石切(かじわらへいざほまれのいしきり)

いしく【石工】石屋・石切り・石作りともいう。土木建築の石工と，石塔・石像・石具の製作工とに2分される。古くから建築物の礎石や石像の製作を職業とする者はあったが，ことにその隆盛をみるのは戦国末期で，築城や城下町の建設には欠かせない技術者であった。諸大名は領内の石工を保護し，一方，石工は株仲間をつくって発達した。しかし近世初期以降，大土木建築に従う石工は需要の減少とともに減り，代わって石細工を行なう石工が，一般庶民の需要の増大にこたえてふえていった。明治以降，洋風建築の普及に伴い石材の需要は増大したが，石工は大企業の一部門として組織されるようになり，伝統的な石工の技術は，おもに石材産出地にみられるにすぎない。〔合田　濤〕

いしくしろ【石釧】⇨古墳　⇨石器

いしけってい【意思決定】経営上の諸問題の解決にあたって，各種の情報の収集・分析の結果や経験・勘などに基づき，経営計画・経営活動の決定を下すこと。企業における意思決定は，管理者のみならず作業者によっても行なわれる。しかし，管理職能の意思決定は，執行職能の意思決定とは比較にならないほど，その比重は高く，その重要性は大きい。ことに，経営計画における意思決定は，管理者の重大な責任である。経営計画における意思決定の過程を列挙すると，①問題を診断してこれを明確化すること，②よい解決案を考えること，③一つ一つの解決案の結果を予測すること，④予測結果を評価し選択を行なうこと，の四つがあげられる。これまでの経営は，ほとんどの意思決定を，意思決定者の経験と勘による判断や伝統的なルールによって行なってきた。ところが，近年におけるコンピューターの導入は，意思決定に必要な情報の収集・処理・伝達を機械化し自動化することによって，意思決定のための科学的な分析を可能にしている。➔EDPS　➔経営情報システム〔清水　晶〕

いしけり【石蹴り】児童遊戯の一。地面に仕切りを描いて，いくつかの区画を設け，なるべく平らな石(のちには石けりめんこ・石けりガラスなど)を，定めの一区画内に投げ入れ，次に片足飛びではねながら，目的の線内に小石をけって入れ，早くあがりの区画に達した者を勝ちとする。×線のあるものは，両足を地につけて，それから次にけり入れる。ギリシア神話のラビュリントス*の話に，その原形がみられる。日本には明治初期にヨーロッパから伝わり，練成的な性格をもつ遊戯として流行した。

いしこづめ【石子詰め】昔行なわれた刑罰の一。穴の中に罪人を入れ，小石を投げ入れて生き埋めとするもの。本来は荒行中の山伏が，ひとりの落伍者(らくごしゃ)で他の者までが犠牲になることを避け，石に魂がとどまるとする考えから，脱落者を成仏させようとする葬法であった。現在でも山嶺(さんれい)などにみられるケルン*(積み石)は，その遺風と考えられる。のち，山伏の，さらに下っては一般人の刑罰となったとされる。記録としては1553年(天文22)の《上杉下知文(うえすぎげちぶみ)》に〈強奸(ごうかん)・盗賊・穢多(えた)と交はりし男女双方とも，以上石子詰〉とあるのが最も古い。山形県羽黒山山麓(さんろく)手向(とうげ)部落で発掘された2例では，地下2mほどの場所に，約3m四方ほどの広さにわたって多量の小石が詰められ，その底から人骨と穴あき銭が出土している。《羽州羽黒山中興覚書》によると，一つは温海(あつみ)で盗みをはたらいた山伏文珠坊の処刑跡，一つは秋田でふたりの山伏を殺害した大乗院という山伏の処刑跡らしい。

イシコフ［Alexander Akimovich Ishkov］(1905～　)ソ連漁業相。1930年から水産業を行なう。第2次世界大戦中は人民委員(閣僚)漁業省長官，以後1951～1953年を除いて1957年まで漁業相，1957年ゴスプラン*(国家計画委員会)漁業部長官など一貫してソ連漁業を指導，1965年現職に就任，日本との漁業交渉の代表を数回つとめた。

いしごろも【石衣】半がわきのあん玉に砂糖蜜(みつ)をからませた半生菓子。製法が簡単で保存に耐えるので一時は雑菓子として普及したが，最近は高級菓子の仲間入りをしている。つくり方はアズキの中割あん(普通のあんより約1割くらい多めに砂糖を加え，水あめを少量混ぜて練りあげたもの)に多少多めの水あめを加え，適当なかたさに練って火からおろす。冷やしてから小さくちぎって丸め，繭玉・碁石などの形に整え，みじん粉をまぶし，油を塗ったすのこの上に並べ，とろ火のほいろに載せてかわかす。これを薄くといた糖蜜(すり蜜7・生砂糖3程度の割合で混合したものを少々薄めて弱火で人はだくらいに暖め，いつも同温度に保つよう湯煎(ゆせん)にしておく)の中につけ，蜜を十分きってから紙の上に並べて固め，乾燥したら取ってばらばらにする。なお，すり蜜とは白砂糖に水を加えて煮つめ，冷えてからすりばちですってまっ白の粘稠(ねんちゅう)半固体としたものである。〔塩川ふみ〕

いしざかようじろう【石坂洋次郎】(1900～　)小説家。青森県弘前(ひろさき)市の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学国文科卒業後，女学校の教員をしながら《三田文学》に1927年(昭和2)処女作《海を見にゆく》《炉辺夜話》を発表，つづいて市民的センスにあふれた長編《若い人》を連載して文壇に出た。のち教職を辞して上京，《何処(いずこ)へ》などを発表。第2次世界大戦後は《青い山脈》《丘は花ざかり》《石中先生行状記》など，甘美で健康な明るさに満ちたいわゆる中間小説*を書いて人気を得た。

いしさんご【石珊瑚】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・六放亜綱・イシサンゴ目の総称。イソギンチャクに似たポリプと共肉をもち，石灰質を分泌して強固な骨格をつくり，海底に着生する。生涯(しょうがい)一匹の

動物(単体)のまま過ごすものと群体をつくるものとがある。単体サンゴは深海の冷たい水にも生きることができ，南極海にさえすんでいる。単体サンゴは，深海サンゴ・非造礁サンゴともよばれる。日本近海に種類が多く，浅海産のものもある。イボヤギ・クサビライシ・チョウジガイ・フリージアサンゴ・タケノコサンゴ・センスガイなどがこれに属する。一方，群体をつくるものは，サンゴ礁をつくる主役で，造礁サンゴとよばれる。強い太陽光線，澄んだ海水，高い水温を要求し，日本本土では黒潮が直接洗う沿岸にだけ生息し，その東限および北限は館山(たてやま)湾である。イボサンゴ・キクメイシ・ノウサンゴ・テーブルサンゴ・ミドリイシなどが普通種。〔菅野　徹〕

いしせい　【異歯性】　動物の歯の形態が一様でなくいくつかの種類に分けられるもの。脊椎(せきつい)動物の爬虫(はちゅう)類・哺乳(ほにゅう)類にこのような異歯性がみられる。哺乳類では門歯・犬歯・臼歯(きゅうし)などに分かれ，それぞれ用途も異なっている。

いしだい　【石鯛】　硬骨魚類・イシダイ科。50cmほどになる海産魚。うろこは細かく，皮がかたい。約10cmまでの幼魚は，黄色地に7本のあざやかな黒のしま模様がはいって美しく，流れ藻(も)についたり，岸壁のあたりに群れている。しかし，成長につれ地の黄色は青灰色になり，黒いしまもぼんやりしてきて，大形のものでは，口先が黒いマスクを掛けたように黒いほかは，全体灰黒色になってしまう。しまのはっきりしているころは，シマダイとよばれることが多い。ごく近縁のイシガキダイは，姿も大きさもイシダイとほぼ同じだが，横じまはなく，黒いひょう紋模様がある。いずれも本州中部以南の岩の多い沿岸にすみ，磯(いそ)づりの対象として最も歓迎され，味もよい。イシダイ科の歯は，互いにくっつき合ってくちばしのようになり，あごの力も強く，ウニなどのかたいえさをかみ砕いて食べる。〔菅野　徹〕

いしたたき　【石叩き】　⇨セキレイ

いしだたみ　【石畳】　軟体動物・腹足類。殻(から)の高さ2.5cmほどのタニシ形の巻き貝。北海道南部以南，インド・太平洋区域の潮間帯に普通。殻表(かくひょう)が古い町の石畳か，れんが積みを思わせるような構造になっているので，この名がある。個々の長方形の部分が，緑・黒・茶・紅・黄などにいろどられて，じみな美しさがある。

いしだばいがん　【石田梅岩】（1685〜1744）　江戸中期の思想家。心学*の祖。名は勘平，諱(いみな)は興長(おきなが)。梅岩は号。丹波(京都府)桑田郡東県(とうげ)村の生まれ。若くして京都の商家に仕え，神道(しんとう)を信仰し，これを説き広むべくひとり学んだ。のち，小栗(おぐり)了雲に師事し，45歳のとき京都車屋町に講席を開いたのを心学の創始とする。神道を心とし，儒仏を交えて，実践





イシダイ　(上)イシダイ　(下)イシガキダイ



イシダタミ



石鎚国定公園　第三紀キ石安山岩からなり侵食がかなり進んで鋸歯状の地貌を示す。高所にはシコクシラベ・モミ・コメツガの高山性植物が生育する

倫理の多岐にわたり平易懇切に説き，庶民を感化すること大であった。没後には門弟の活躍により，心学は近世思想界の一大勢力となるまで発展した。門弟では手島堵庵*(とあん)が名高い。著作に《都鄙(とひ)問答*》《斉家論(せいかろん)》《石田先生語録》などがある。〔坂本和子〕

いしだはきょう　【石田波郷】（1913〜1969）　俳人。松山市の生まれ。本名哲大(てつお)。明治大学に学ぶかたわら水原秋桜子*の指導を受け，《馬酔木*(あしび)》を編集，1937年(昭和12)《鶴(つる)》を創刊した。その句風は，初期には叙情を特色とし，のちには元禄俳諧*(げんろくはいかい)の影響を受けた。第2次世界大戦後は胸部疾患のため病床にあり，個人生活を俳句に表現することに努めている。句集《鶴の眼(め)》《惜命(しゃくみょう)》など。

いしだみつなり　【石田三成】（1560〜1600）　安土桃山時代の武将。豊臣(とよとみ)氏五奉行*(ぶぎょう)のひとり。治部少輔(じぶしょうゆう)。通称左吉。幼少から豊臣秀吉(ひでよし)に仕え重用され，九州征伐，小田原征伐，文禄(ぶんろく)・慶長の役に従軍し，軍需輸送・占領行政に活躍した。1595年(文禄4)近江(おうみ)(滋賀県)佐和山城主となる。つねに秀吉の側近にあり政治の中心に位置した。秀吉没後，豊臣大名の文治派を代表し，加藤清正(きよまさ)ら武将派と対立した。1600年(慶長5)9月徳川家康(いえやす)と美濃(みの)(岐阜県)関ケ原に戦って大敗，捕えられて京都で切られた。➔関ケ原の役　〔松尾　涼〕

いしづかたつまろ　【石塚龍麿】（1764〜1823）　江戸後期の国語学者。本居宣長*(もとおりのりなが)の門人。広く古典にあたり，音標がなを精査して《古語清濁考》を著わし，《古事記》《日本書紀》《万葉集》の清音濁音を実証した。また，〈エキケコソトヌヒヘミメヨロ〉の13音が2類に分かれることを知り，語源訳釈の研究に貢献。これは橋本進吉*らによって発展させられた。ほかに《仮名遣奥山路(かなづかいおくのやまみち)》がある。

いしづちこくていこうえん　【石鎚国定公園】　愛媛県と高知県にまたがり，石鎚山を中心に，瓶ケ森(かめがもり)山・伊予(いよ)富士などと面河渓(おもごけい)を含む一帯で，面積106.83km²。1955年(昭和30)国定公園に指定された。石鎚山*(1,981 m)は，第三紀層からなる四国第1の高山で，山頂は黒色のキ石安山岩からなり，各所に岩壁がある。山のまわりは深い谷が刻まれ，急流の谷川が渓谷美をみせている。古くから山岳信仰の霊山で，頂上に石鎚神社があり，水の祓所(はらいどころ)・のぞき岩・鉄鎖登山の場所もある。石鎚山の南に仁淀(によど)川の上流峡谷である面河渓があり，風光明媚(めいび)の地として知られる。予讃本線の小松から登山道がある。

いしづちさん　【石鎚山】　愛媛県東部にある四国山地中の最高峰。標高1,981 mは，近畿(きんき)以西の最高でもある。山地の主脈はほぼ東西に連なり，北側は石鎚断層崖(だんそうがい)で急傾斜して西条平野に下り，南側は仁淀(によど)川上流の面河(おもご)川の刻む面河渓(おもごけい)に臨む。古くからの名山で，石鎚山参りの行者によって昔から登られてきた。山頂近くの参道には，露岩に一ノ鎖・二ノ鎖・三ノ鎖がかけられ，これを伝って登る。最高点は天狗岳(てんぐだけ)の岩峰である。山頂からは，瀬戸内海・四国一円・太平洋(土佐湾)も望まれる。石鎚国定公園に属する。

いしつばめ　【石燕】　古生代デボン紀の地層に多産する腕足類の化石。ヒマラヤ地方や中国から多くの種類を産し，わが国では飛驒(ひだ)山地・北上山地などから発見されている。形体がツバメが羽を広げて飛ん

でいるのによく似ている。海に栄えた。

いしつぶつ【遺失物】 占有者の意思によらず，また他人に奪われたのではなくしてその者の所持から離れた動産をいう。遺失物を拾得した者は，その物をすみやかに遺失主または所有者へ返還するか警察署長に届け出なければならない(遺失物法１条・10条)。警察署長は，遺失主の氏名や居所がわからない場合には公告する。遺失物の返還を受けた者は，拾得者に対してその物の価格の５分ないし２割の報労金を支払わなければならない。公告後，６か月以内にその所有者が現われないときは，拾得者はその遺失物の所有権を原始的に取得する(民法240条)。ただし，所有権取得後，２か月以内に警察署から引き取らなければその所有権は国庫に帰属する。遺失物法はこのほか，誤って占有した物，犯罪者または他人の置き去った物，逸走家畜などについても遺失物に準じて扱っている(同法12条)。もっとも，漂流物や沈没品に対する拾得に関しては，水難救護法の特別規定が適用される。〔黒木三郎〕

いしどうまる【石童丸】 琵琶楽(びわがく)の曲名。説教浄瑠璃(じょうるり)の同名の曲に基づいて，薩摩(さつま)琵琶では明治中期につくられた。大正期に永田錦心(ながたきんしん)が改作してから，世に流行し，錦心流の名曲となった。筑前(ちくぜん)琵琶では橘(たちばな)流の奥伝の一。

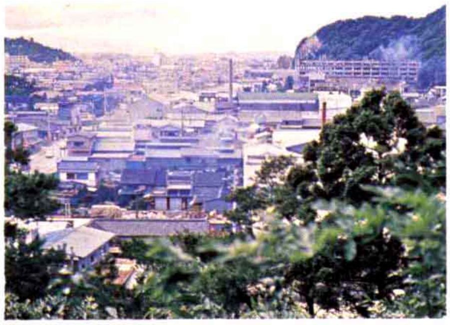
いしとひょうしょうとしてのせかい【意志と表象としての世界】 ショーペンハウアーの主著。1819年刊。われわれが客観的対象として知るのは表象としての世界であり，真の世界の本質は意志である。この意志は本源的意志としてそれ自体〈盲目的な生存意志〉である。人間もまたこの〈盲目的な生存意志〉にとらわれ，苦悩の中に沈んでいる。ここからの解脱は芸術的無垢(むく)観照と宗教的な意志否定によってのみ可能であるという。この厭世(えんせい)的な世界観は19世紀後半，ドイツに流行した。〔豊福英利〕

イシドルス［Isidorus］(560ごろ～636) スペインのセビリアの大司教。アリウス派に反対し，カトリックの信仰の拡大に努めた。修道院・学校を建て，ユダヤ人の改宗にも尽くした。主著《エチモロジー(語源考)》は百科事典の性格をもち，古代ギリシア・ローマ文化のゲルマン世界への移植という文化史的意義をもつものとして重要である。ほかに《命題集》《教会の礼拝について》などがある。

イシドルスぎぶんしょ【イシドルス偽文書】 イシドルスの盛名を利用して，西方におけるローマ教皇権支配を基礎づけようとした教会法令集。９世紀半ば，北フランスのランス大司教区で偽造されたと思われる。俗権の介入を排除し，僧職身分を最上位に置くことを法的に確定し，教会ヒエラルキーを確立する意図をもってつくられた。11世紀半ば，教皇レオ９世は教皇権拡大のため，この文書を大いに活用した。1628年，フランスのカルバン派教会史家ブロンデルが最終的にこの文書が偽作であることを証明した。〔高山高雄〕



イシナギ



石巻市　石巻の市街地。北上川の河口の両岸，町の背後に丘陵や台地があり，そこからの眺望はすぐれている

いしなぎ【石投】 硬骨魚類・スズキ科。２ｍ余りになる海産魚。灰かっ色で，体側に輪郭のはっきりしない白条が４～６本水平に走る。日本全土に分布するが，北海道に多い。400～500ｍの岩底にすみ，夏季150ｍほどのところに移動し，そのころつり針にかかる。イシナギづりは大物づりとして有名。肝臓のビタミンＡ含有量が魚類中最大であり，肝油をとる。また，膵臓(すいぞう)にインシュリンが多いことでも知られている。

いしのうりょく【意思能力】 自己の行為の意味や結果を判断しうる精神能力。民法は，不法行為については意思能力がなければ責任の生じないことを規定しているが(民法712・713条)，法律行為についてはなにも規定していない。しかし，意思能力のない幼児や白痴，あるいは通常人でも泥酔(でいすい)中や失神中になした行為は無効である。なぜなら，近代市民法は，すべての人に権利能力を認めて自主独立の人格者としての地位を保障し，その自由な意思に基づいてのみ権利を取得し，義務を負うという私的自治の原則をとっているからである。ところで，ある人が法律行為をした場合，それに必要な意思能力を備えているかどうかを個々の場合において審査することは容易ではないし，取引の敏速を妨げる。そこで民法は，年齢や精神的障害などを基準として形式的・画一的に一定種類の無能力者を確定し，この種の者の単独でなした法律行為についてはその効力を制限し，その保護を図っている。〔黒木三郎〕

いしのまき【石巻(市)】 宮城県中部の市。中世以降は葛西(かさい)氏の城下町，江戸時代は米の積み出し港，明治以降は水産業都市として発展した。1933年(昭和８)市制施行。人口11万8,000。石巻港は北上川河口の数条の砂州と牡鹿(おじか)半島北西岸を占め，産業三大別人口比は17：30：53で，第１次産業の半ばは漁業従事者である。北洋のサケ・マス漁業や仙台(せんだい)湾の底引き漁業，三陸沖の近海漁業の基地で，サンマ・イワシ・カツオの水揚げが多い。牡鹿半島沿岸ではカキ・ノリの養殖が行なわれる。仙台湾新産業都市に指定されて，東北パルプなどの工場が多く，工業港の建設が進み，10,000ｔ級船舶の岩壁がある。仙石線・石巻線の分岐点で，国道45号線・108号線が通ずる。

いしのみ【石蚤】 こん虫類・総尾目・イシノミ科。体長雄11㎜，雌14㎜内外。触角は体長よりやや長く，尾毛は体長とほぼ等長。背面は一様に灰色のうろこを装い，灰白色および黒かっ色のうろこによる斑紋(はんもん)をもつ。日本各地に普通な種で，コケにおおわれた石の上や大木の樹幹などにみられる。

いしばしたんざん【石橋湛山】(1884～1973) 政治家。東京に生まれる。早稲田(わせだ)大学哲学科卒業後，東洋経済新報社にはいり，1939年(昭和14)同社社長。第２次世界大戦中は，雑誌などを通じて自由主義的経済評論家として活躍した。戦後は第１次吉田(よしだ)内閣(1946)の蔵相としてインフレ政策をとったが，1947年占領軍により追放。復帰後第１次・第２次鳩山(はとやま)内閣の通産相となり，1956年自由民主党総裁・首相についたが病のため２か月で引退した。〔溝口　潔〕

いしばしにんげつ【石橋忍月】(1865～1926) 明治の小説家・評論家。福岡県の生まれ。本名友吉。東京大学独法科卒業。大学在学中からレッシング・ゲーテ・シラーなどを読み，理想派的・浪漫派的立場に立ち，《女学雑誌》《国民之友》などを舞台に活躍，森鷗外(おうがい)との論争は有名である。《想実論》を代表とする評論は《石橋忍月評論集》にまとめられているが，小説にはみるべきものは少ない。

いしばしやまのたたかい【石橋山の戦い】 源頼朝(よりとも)と平氏の大庭景親(おおばかげちか)との戦い。石橋山(神奈川県小田原市)は現在の東海道本線，早川駅と根府川駅との中間の海岸沿いにある。1180年(治承４)８月，伊豆(いず)(静岡県)に挙兵し，山木判官兼隆(かねたか)を討って緒戦を飾った頼朝は，父祖の本拠地である相模(さがみ)(神奈川県)を経略しようとしたが，途中で景親らの平氏

軍にはばまれ，この石橋山で戦った。結局頼朝は景親らの大軍に敗れ，海路安房(あわ)(千葉県)にのがれた。〔飯田悠紀子〕

いしはらあつし【石原純】(1881〜1947) 物理学者。東京の生まれ。東京大学卒業。陸軍の学校の教官を経て東北大学助教授。次いでドイツ・スイスに学び，アインシュタインの指導を受け，帰国後教授となる。相対性理論の研究者・紹介者として，前期量子論の研究と合わせて日本の理論物理学の開拓者となった。1919年(大正８)学士院恩賜賞を受賞。その後女流歌人原阿佐緒(あさお)との恋愛事件がもとで大学を去り，科学論および科学の啓蒙(けいもう)運動に努力，科学思想家として知られる。反面アララギ派の歌人として新短歌運動に参加している。自動車事故がもとで病没。医学者石原忍の弟。〔藤村　淳〕

いしはらかんじ【石原莞爾】(1886〜1949) 陸軍軍人。山形県に生まれる。陸軍士官学校・陸軍大学を経てドイツに留学。満州事変では関東軍作戦主任参謀として，満州国建設の中心人物として活躍。日中戦争時は対ソ戦本位の立場から戦争不拡大を主張した。のち関東軍参謀副長となり，東亜連盟を組織。彼の満蒙(まんもう)に対する政治的見解は，民間人にも影響力をもったが，東条英機(ひでき)陸相らと対立し，1941年(昭和16)中将で現役を追われた。〔岸野淳子〕

いしはらしのぶ【石原忍】(1879〜1963) 医学者。東京の生まれ。1905年(明治38)東京大学を卒業。1910年陸軍軍医学校教官となる。1912年(大正１)ドイツへ留学。眼科学，ことに色盲に関するすぐれた研究を発表し，世界的声価のある〈色盲検査表〉を公にした。1922年東京大学教授となり，1941年(昭和16)帝国学士院賞を授けられる。1961年文化功労者に推された。物理学者石原純(あつし)の兄。

いしはらしんたろう【石原慎太郎】(1932〜) 戦後世代を代表する小説家。一橋大学卒業。1955年(昭和30)《太陽の季節》で第34回芥川賞(あくたがわしょう)を受賞，〈太陽族〉なる流行語を生む因となった。以後も，充溢(じゅういつ)する生命感のままに行動する青年の姿を通して，人間の回復をもくろむ観念的な作品を書き，演劇にも活躍。1968年参議院議員となった。《処刑の部屋(へや)》《亀裂(きれつ)》《行為と死》などの作品がある。

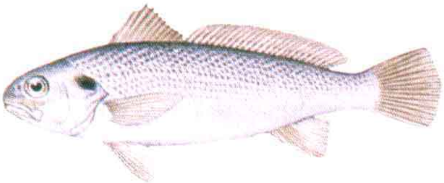
いしびや【石火矢】大砲の一種。1551年(天文20)南蛮より渡来したといわれる。大友宗麟(そうりん)はその威力により〈国崩(くにくずし)〉と名づけた。はじめ弾丸に石を用いたが，のち，金属弾になっても旧称を用いた。ふつう前装・滑腔(かっこう)の鋳鉄製で，簡単な砲架に載せて撃った。石火矢は弾丸の重量１貫目以上のものをいい，それ以下は大筒・中筒・小筒といい分けた。



石舞台古墳　巨石で築かれた横穴式石室が露出している



イシマテガイ



イシモチ

いしひょうじ【意思表示】一定の法律上の効果の発生を欲して，その意思を外部に表示する行為をいう。たとえば，契約の申し込み・承諾・解除，あるいは遺言などである。意思表示は，そのなされる心理的経過からして，効果を欲する意思(効果意思)，効果意思を外部に発表する意思(表示意思)，表示意思を外部に発表する行為(表示行為)の３要素を含むが，重要なのは効果意思と表示行為の２要素である。この２要素のいずれを欠いても法律効果は生じないし，またこの２要素のいずれかに瑕疵(かし)があるときはその効果は完全には生じない。これには意思の欠缺(けんけつ)といわれる場合と瑕疵ある意思表示といわれる場合がある。前者は，意思と表示が不一致の場合で，これはさらに心裡(しんり)留保(不一致を表意者が知っているとき)，虚偽表示(相手方と通謀して不一致の表示をなすとき)，錯誤(不一致を表意者が知らないとき)によるものとがある。後者は意思と表示は一致するけれども，それが他人の干渉によってなされた場合で，これには詐欺と強迫によるものとがある。これらの場合には，意思表示は原則として無効または取り消しうるものとなる(民法93〜96条)。この場合，意思表示で効果意思の表示であるから，効果意思の欠缺は原則として意思表示の無効だとする意思主義の立場からの主張と，これとは反対に，効果意思は表示行為上これに対応して存在するものだから，内心的な効果意思の欠缺の主張は許さないとする表示主義の立場からの主張がある。しかし，取引の安全のために後者の主張が有力となっている。意思表示は，言語・文字ばかりでなく，取引慣行や協定によるその他の方法によってもなされるが，ある事情のもとでは沈黙によってもなされうる。また，遺言・認知・婚姻などの表示に一定方式を必要とする場合には，その定められた方式に従ってなされなければ意思表示は効力を生じない。〔黒木三郎〕

いしぶたいこふん【石舞台古墳】奈良市南方約30kmの高市郡明日香(あすか)村にある特別史跡指定の大古墳。巨石の露出からつけられた名称で，石も規模も特に大きく周囲に堀(ほり)さえもつ上円下方墳と推定されている。昔から蘇我(そが)馬子の墓といわれてきたが，現状は1933年(昭和８)発掘調査の結果明らかになったものである。

いしぼう【石棒】⇨石器

いしぼうちょう【石包丁】磨製(ませい)石器の一種。形は長方形・楕円(だえん)形・半月形があり，一辺に刃がつき，中心部付近に１〜２個の穿孔(せんこう)があり，これにひもを通し作物の穂を刈るのに使う。分布は中国・朝鮮・台湾・日本に認められ，日本では弥生(やよい)時代の稲作との関係が深く，九州・近畿(きんき)地方は特に分布が密である。

いしま【伊島】徳島県の蒲生田崎(かもうだざき)東方，紀伊(きい)水道中にある小島で，阿南(あなん)市に属する。面積1.58km²。165戸の家があり，その80％は小規模な漁業を営んでいる。潜水によりアワビをとっており，また潜水夫として島外へ出ている者も多い。島内結婚が多く，神野(かんの)という同姓が目だつ。

いしまてがい　軟体動物・二枚貝類・イガイ科。殻長(かくちょう)５cm内外，円筒形で，殻表はかっ色，ところどころに石灰が沈着してよごれている。本州から台湾の潮間帯の柔らかい砂岩やサンゴ塊に，体から酸を分泌して穴をあけてすむ。食用にする。名は石の中にすむマテガイの意。

いしもち【石持】硬骨魚類・ニベ科。40cmほどになる海産魚。魚屋で見かけるものは，20cm内外のものが多い。マアジと同じような形をしている。うろこははがれやすい。全身銀色だが，目の後ろのえらぶたのところの黒斑(こくはん)が目だつ。本州中部以南に分布し，漁獲量が多い。鮮度のよいものは，から揚げなどにして美味だが，多くはかまぼこの原料にされる。頭の中の耳石が大きいのが名の由来。

いしもちそう【石持草】双子葉植物・モウセンゴケ科。多年生の食虫植物。葉の腺毛(せんもう)から粘りけのある液を出して，止まった虫を捕える。葉の粘液によって小

石を持ち上げることができるのでこの名がある。→モウセンゴケ

いしもとみしお【石本巳四雄】(1893～1940) 地震学者。東京の生まれ。1917年(大正6)東京大学物理学科を卒業し,東京大学教授・地震研究所第2代所長となる。地震の振動とその振幅に関連する〈石本・飯田(いいだ)の統計式〉や,地震の原因に関する〈マグマ貫入説〉を立てたり,また加速度地震計・シリカ傾斜計・高倍率高位地震計などをつくった。著書に《地震とその研究》《科学への道》がある。

イシャウッド[Christopher Isherwood](1904～) イギリスの小説家。のちにアメリカに帰化した。1930年代に活躍したいわゆる〈オーデン-グループ*〉のひとりで,オーデン*と合作した詩劇がある。代表作は,ヒットラーの政権奪取直前のベルリンの裏街(うらまち)を点描した長編小説《山師》《救いなき人々(さらばベルリン)》,自伝《ライオンと影》など。

いしやき【石焼き】焼き物の一種。原始的な即席料理で,川原で平面な石を選びほだ火で熱し,そこへつりたての淡水魚(アユ・ヤマメなど)を載せて焼き,みそまたはしょうゆなどで調味して食べる。このように石を焼いてその熱を利用する方法のほか,ほうろくに焼いた小石をたくさん入れてその上へ材料を並べ,ふたをしてその上にも炭火を載せ,火にかけて焼く方法もある。材料としてはエビ・ハマグリ・魚・ぎんなん・マツタケなどを用いる。なお,熱した小石といっしょにかき回しながら焼く甘ぐりや,小石の中に埋めて焼く石焼きいもなども石焼きとよばれる。〔塩川ふみ〕

いしやまがっせん【石山合戦】摂津(大阪府)の石山本願寺*門徒と織田信長(のぶなが)との間で行なわれた戦い。戦国時代に発生した最大・最後の一向一揆*(いっこういっき)。石山本願寺一揆ともいわれる。全国統一をめざす信長は,1570年(元亀1)顕如に率いられる本願寺と衝突し,以後11年間両者は武力で攻防を続けた。しかし勝敗がつかず,信長は武力討滅の不利を悟り,1580年(天正8)正親町(おおぎまち)天皇に奏請して和平の勅使を顕如に派遣した。本願寺内部は退城派と死守派に分裂したが,結局紀伊(きい)(和歌山県)に退去し合戦は終結した。この本願寺の戦闘的宗教性・団結性は豊臣(とよとみ)・徳川両氏の宗教政策に強い影響を与えた。〔松尾 涼〕

いしやまぎれ【石山切】《西本願寺本三十六人集》の《貫之集(つらゆきしゅう)下》および《伊勢集(いせしゅう)》の断簡。《西本願寺本三十六人集》は本願寺が大阪の石山にあった1549年(天文18)後奈良天皇から拝領したので《石山切》という。書跡としてもすぐれているし,また料紙が優美華麗である。書写年代は12世紀の初めで,《貫之集下》の筆者は藤原定信(さだのぶ),《伊勢集》の筆者は不明。

いしやまでら【石山寺】滋賀県大津市石山にある真言宗御室(おむろ)派の寺。西国三十三か所第13番札所。762年(天平宝字6)ごろの建立(こんりゅう)。東大寺の大仏鋳造にあたり,聖武(しょうむ)天皇が良弁*(ろうべん)に命じて如意輪観音像を安置し祈らせたところ,陸奥(むつ)(宮城県)から黄金が献ぜられたので,寺としたと伝えられる。はじめ東大寺に属したが,平安中期に真言宗に改宗。天皇・公家(くげ)の信仰が厚かった。1078年(承暦2)全焼のあと,源頼朝(よりとも)によって再建されたが,1573年(天正1)織田信長(のぶなが)が将軍足利義昭(あしかがよしあき)と争ったとき兵火にかかり,また信長に寺領を没収されて衰退した。のち淀殿(よどどの)によって修復され,徳川氏によって寺領五百七十九石余が与えられた。藤原様式を残す本堂と多宝塔のほか,多くの書跡が国宝に指定され,寺宝に《石山寺縁起絵巻*》がある。なお,石山の風景は近江(おうみ)八景の一つに数えられている。〔藤本昌子〕

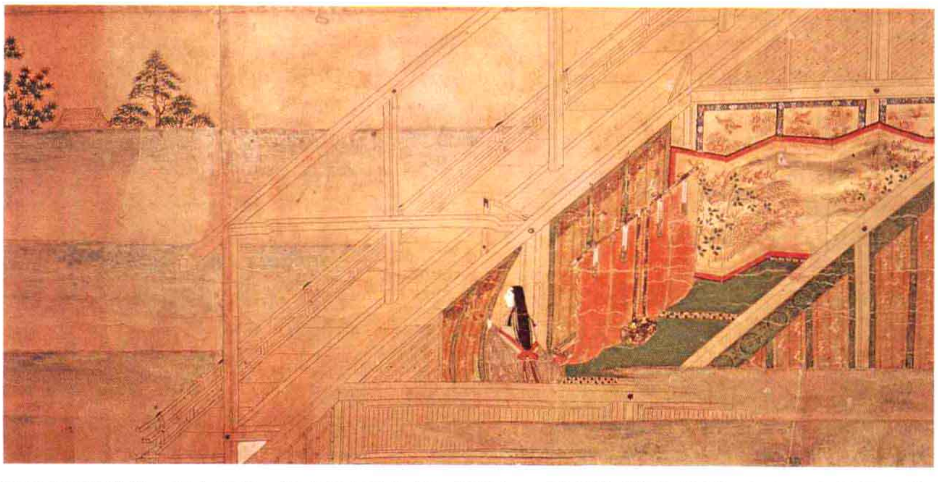

イシモチソウ


石山切 《西本願寺本三十六人集》のうちの《伊勢集》の断簡。右上すみに薄様5枚の重ね継ぎがあり,左下すみに色紙6枚の破り継ぎがあり,中間にウリの図様のある唐紙がある


石山寺 本堂

いしやまでらえんぎえまき【石山寺縁起絵巻】石山寺*の建立(こんりゅう)の由来,同寺に関する事跡・霊験譚(れいげんたん)などを説いた絵巻。7巻からなっているが筆者・制作時期はさまざまである。第1～3巻は原初のもので,詞書(ことばがき)は座主杲主(こうしゅ),絵は高階隆兼*(たかしなたかかね)と伝えられ,鎌倉期大和絵(やまとえ)の典型とされる。第4巻は土佐光信*(みつのぶ),第5巻は粟田口隆光(あわたぐちたかみつ)の絵で室町時代のもの。第6巻・第7巻は江戸時代に谷文晁*(ぶんちょう)が新写した。〔村重 寧〕

いしやまほんがんじ【石山本願寺】摂津(大阪府)石山(現在の大阪城本丸付近)にあった浄土真宗の寺。1496年(明応5)本願寺8世蓮如*(れんにょ)が,本願寺別院(石山御坊)を建立(こんりゅう)したのに始まる。1532年(天文1)法華(ほっけ)宗徒との争いで山科(やましな)本願寺が焼失したため,10世証如がここに移住して本寺とした。以後寺域を広げ,坊舎を中心にした寺内町*(じないちょう)に新興の商工業者を集め,防備を固めて戦国大名に


石山寺縁起絵巻 石山寺蔵 紫式部が石山寺に参籠し,《源氏物語》を構想したという情景を描く(第4巻部分)

対抗した。1564年(永禄7)焼失したが，翌年には以前にまさる盛観を呈した。1570年(元亀1)から天下統一をめざす織田信長(のぶなが)と石山合戦*を続けたが，1580年(天正8)正親町(おおぎまち)天皇の勅命によって開城し，11世顕如は紀伊(きい)(和歌山県)に退いた。その際焼失。〔藤本昌子〕

いしやまほんがんじいっき【石山本願寺一揆】⇨石山合戦

いしゃりょう【慰謝料】精神的苦痛に対する損害賠償*。民法は不法行為による損害賠償については，財産的損害ばかりでなく精神的損害についても明文をもって認めているが，明文のない債務不履行についても解釈上これを認めることができる(民法710・711条)。慰謝料はまた，人格的利益の侵害の場合に主として問題となるが，財産的利益の侵害の場合にも問題となりうる。慰謝料は金銭に評価して金銭賠償にするのが原則であるが(民法722・417条)，不法行為による精神的損害の賠償については，例外として謝罪文の掲載など，適当な方法をとることも認められている(民法723条)。慰謝料の額は，当該事件の具体的事情に応じて算定することになるが，それはきわめて困難であり，結局は諸般の事情を考慮し，社会観念上，妥当な金額を原告の請求額の範囲内において裁判所が決定する。慰謝料を請求しうるのは，債務不履行の場合なら債権者，不法行為の場合なら被害者であるが，不法行為の場合，直接的被害者以外の者にも慰謝料請求権が認められる場合がある。たとえば，生命侵害の場合には被害者の父母・配偶者・子(民法711条)，負傷の場合にはその近親者，有責配偶者からの離婚請求に対しては当事者または同時に不貞行為を行なった相手方から他方の配偶者へ，また強姦(ごうかん)された婦女の場合にはその夫や親などに対して認められる。なお，慰謝料請求権については，それが一身専属的な法益の侵害に基づいて生ずるため，相続性の有無が問題とされてきた。通説は，当然に相続されるとの立場をとってきたが，近時，判例もこの傾向を強くしている。〔黒木三郎〕

いじゅういん【伊集院(町)】鹿児島県日置郡の町。人口17,000。鹿児島市の北西に接する。町域一帯はシラス台地で，生産性の低い農業が行なわれているが，野菜や酪農などの近郊農業が盛んになりつつある。また鹿児島市に近いことから，通勤者も多い。

鹿児島本線から鹿児島交通線が分かれて，枕崎(まくらざき)へ通じている。町名は古代に田租を収める院*の所在地であったことに由来し，10～15世紀のころは伊集院氏の領地で，西方に居城宇治城跡が残っている。旧暦9月14日の関ケ原敗戦記念日に行なわれる〈妙円寺参り〉は有名である。

いしゅく【萎縮】生体の組織や臓器の容積が肉眼的に減少する状態。細胞の縮小や死滅，細胞間物質などの減少により起こり，その機能の衰弱も伴う生理的萎縮・老人性萎縮のほか，圧迫萎縮，神経性萎縮，ホルモンの変調，放射線の影響などによる萎縮がある。

いしゅくじん【萎縮腎】腎が形態学的に萎縮して小さくかたくなり，多くは表面が平滑でなくなった状態。臨床的には尿毒症*を示すことが多い。糸球体腎炎*・腎盂(じんう)腎炎*・アミロイドーシス*・腎硬化症・腎血管閉塞(へいそく)など，腎疾患の末期にみられる。

いしゅくびょう【萎縮病】一般に農作物がウイルスによって茎・葉が不規則に縮み，奇形となる病気をいう。イネ萎縮病は草たけが短く，葉は緑色が濃くなって，小さな黄白色斑点(はんてん)を葉脈に沿って多数生ずる。病原ウイルスはこん虫のツマグロヨコバイ・イナズマヨコバイによって媒介され，さらにそれらの卵を通じて子孫にまで伝えられる(経卵伝染)。媒介こん虫を駆除して防除する。ムギ萎縮病は葉が厚く濃緑となり，ねじれて淡黄色の短い条を生じ，草たけが非常に低く，穂の実りが悪い。ウイルスは土中に残り，ムギの根から侵入する。ムギしま萎縮病は葉が黄色となり，淡黄色またはかっ色の線状の斑点がかすり状にはいる。分蘖(ぶんけつ)少なく，穂は小さくて実入りが悪い。ウイルスは土壌(どじょう)伝染性で，ムギの根から侵入するらしい。連作を避け，播種(はしゅ)期をおそくし，抵抗性品種を栽培して予防する。温州(うんしゅう)ミカン萎縮病は春葉の罹病葉(りびょうよう)が小さくなり，外側にそり返った舟形の葉を群生する。罹病株の除去，病徴の出にくい品種を高つぎして防ぐ。〔渡辺 実〕

イシュタル［Ishtar］バビロニア・アッシリアの神話の女神。愛・生命・再生の神。シンボルは獅子(しし)。アッシリアのメソポタミア大統一で各地に信仰が伝わった。フェニキアのアシュタルテ，ギリシアのアプロディテ*と同一視される。

いしゅっけつ【胃出血】胃からの出血をいう。上部消化管からの出血のおもなものは，食道の癌(がん)および静脈瘤(りゅう)，胃潰瘍(いかいよう)・胃癌・胃炎・憩室・十二指腸潰瘍・胆嚢炎(たんのうえん)などによる出血である。症状は吐血・下血(タール便)・貧血がおもなもので，強い腹痛を伴うこともある。出血が多量であるとショック状態になる場合もある。癌・静脈瘤からの出血以外は体力の状態などをみて，原因となる疾患を検索し，内科的に治療するか外科的に治療するか決定するが，原則としては内科的に治療を行なう。〔吉田 彰〕

いしゆみ【弩】古代中国で使われた大弓。矢もまた大きく，発射に機具を用いたらしいが，出土品が少なく形は不明。《和漢三才図会》には100人がかりで引くとも，また矢の先端に毒を塗って敵を殺すともある。この弩が同じ形で日本に用いられたのかはわからないが，《日本書紀》天武天皇元年の条に〈列レ弩乱発，矢下如レ雨〉とあって，機械的な大弓を思わせる。しかし中世の弩は，《倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)》に〈いしはじき〉とあるように，城内から石を投げる兵器となり，中国の弩とは異なる。《奥州後三年記》に〈遠きものをば，矢を以てこれを射，近きものをば，石弓をはっしてこれをうつ。死するもの数をしらず〉とあるのをみれば，石は城内から投げ落とす式のものと思われる。〔稲垣史生〕

いしゅん【伊春】イーチュン 中国黒龍江(こくりゅうこう)省の県で，松花江の支流である伊春河と湯旺(とうおう)河の合流点に位置する。小興安嶺(しょうこうあんれい)で産する木材の集散地で，発電・製粉・製材関係の工場があり，この地方の政治・経済・文化・交通の中心でもある。

いじょうきしょう【異常気象】過去の気象状態から特にかけ離れた気象状態。異常気象は冷害・水害・風害・干害などの災害と結びつくことが多いが，暖冬異変(冬の気温が特に高い異常気象)のように，きわだった災害という形では現われない場合もある。一定の場所での異常気象は，北半球を取り巻く広範な大気の状態が変動することによって起こることが多く，狭い範囲では原因がつかみにくい。わが国では，異常高低温・異常多雨や異常に台風が多い，異常に乾燥しているなど，いろいろの異常気象が起こる。〔曲田光夫〕

いじょうけっしきそしょう【異常血色素症】赤血球の中にある血色素はヘムとグロビンとからなる色素タンパク体であるが，このグロビンのアミノ酸組成が異常になったものを異常血色素といい，異常血色素の生成が遺伝的に認められるとき，これを異常血色素症という。比較的最近注目されはじめた遺伝的疾患で，タラセミア(地中海貧血)・ヘモグロビンS病(鎌形(かまがた)赤血球貧血)のほかD・E・H・M・L・K・N・O・P・Q病などがある。赤道地方・熱帯地方に多くみられるが，最近は日本でもときに発見されることがある。溶血性貧血*の一種であるが，これらの過半数は無症状である。〔大橋辰哉〕

いじょうこうせん【異常光線】⇨複屈折

いじょうじ【異常児】普通児に比べ著しく変わっているとみられる子どものこと。この著しいかたよりは精神的・身体的・社会生活的側面にみられ，これらがさまざまに結びついている場合が多い。精神的側面では知能がことさらに低い(精神薄弱*)，高い(天才*)，学校へ行けない(学校恐怖症)，黙りこくってしまう(緘黙児(かんもくじ))などの情緒障害児，またおかしな行動をする子ども(性格異常・精神病質*・自閉症*)がみられ

る。身体的側面では筋肉運動や感覚器官に障害のある子ども(肢体(したい)不自由児・盲・聾(ろう))や虚弱児などがみられる。社会生活的側面では家庭・学校・地域社会への適応のできない子ども，虞犯(ぐはん)少年*・非行少年*などがみられる。異常児は正常児の範囲からひどく逸脱しているので，取り扱いがむずかしく，その教育には特別な施設や配慮が必要である。これを特殊教育*といい，異常児は特殊児童とよばれる。また，教育上の諸問題をもつ子どもであることから問題児と表現される場合もある。これらは，多少のニュアンスの違いはあるが，ほぼ同一内容の概念と考えてよい。しかし，特殊児童が特殊教育の対象としてよばれるのに対し，異常児(問題児も同じ)という概念は必ずしも内容が一定しておらず，まただれがなにを基準にして異常と判断するかが問題で，時代や人によって変わる可能性の多いあいまいな概念である。実際は正常で健康な子どもも，親や教師の見方・考え方の誤りやかたよりのために異常児とされることもあれば，逆に医学的・心理学的に明白に異常な状態を示しても，その異常性に気づかない場合がある。したがって，教育上取り扱いに困る，わけがわからない，無気味だということで異常児にしてしまうことなく，原因を診断し，取り扱い方法を明確にする必要がある。〔小菅茂雄〕

いじょうしんりがく　【異常心理学】　精神異常者の病的な心理状態，または正常者の一時的異常状態における行動と，その発現機構・心理構造などを研究する心理学の一分野。病態心理学ともいう。その研究対象・方法・領域は，臨床心理学*・精神病理学*とも一部重複する。具体的には，神経症*など心因性の異常，精神分裂病*・躁鬱病(そううつびょう)などの主として内因性と考えられる異常，失語症などの脳障害に基づく異常，精神薄弱*・精神病質*人格(異常性格)・異常性欲*などが研究対象となる。〔岡山　超〕

いじょうせいよく　【異常性欲】　正常でない性欲，あるいは性行動のこと。大別すると次のようになる。①性欲の異常な高揚，②性欲の異常な減退または消失，③性欲の対象の異常，④性欲の満足のさせ方および目標の異常。ふつう異常性欲として問題にされるのは③と④で，性的倒錯あるいは変態性欲などとよばれるものである。③の性対象の異常には，性愛の対象に性的に成熟した異性を選べず，同性を対象とする同性愛*，幼児を対象とする幼児姦*(ようじかん)(ペドフィリア)，ニワトリ・ヤギなど動物を対象とする獣姦*，死体を犯す屍姦*(しかん)(ネクロフィリア)などがある。④の性行為の異常には相手に苦痛を与えることで快感を得るサディズム*(加虐愛)，苦痛を与えられて快感を得るマゾヒズム*(被虐愛)，自分の肉体・性器を露出する露出症，他人の性器・性交をのぞくことに興味をもつ窃視症，異性の



衣装人形　《童子立姿扇持衣笠》　衣笠童子ともいわれ，江戸時代中期末の作

身につけるものを集め，玩弄(がんろう)するフェチシズム*，異性の衣類を身に着ける服装倒錯などがある。これらの性的倒錯は，正常な性対象の得られない環境(たとえば刑務所・軍隊)で起こる一時的なものと，恒久的なものとに分かれる。精神病や神経症の一兆候として現われることもあるが，性的倒錯行動だけを示すケースに限って，異常性欲者・倒錯者とよぶ。原因については，先天性素質を重視する学派，正常な性欲の発達が停滞・固着したと考える精神分析の立場などがある。そのほか，異常に性的欲求の高進したもの(淫乱症(いんらんしょう))を男子の場合にはサティリアシス，女子の場合はニンフォマニアとよんでいるが，これも発生の原因は，ホルモンの分泌過多をもってする説など，諸説あって一致しない。これら性行動の異常は，社会・文化・時代によって，異常視する度合いにはかなりの違い・変遷があり，その禁止・罪悪感の程度もさまざまである。〔小此木啓吾〕

いしょうにほんでん　【異称日本伝】　わが国と中国・朝鮮との外交史料集。江戸中期の儒医・国学者松下見林(1637〜1703)の著。3巻15冊。1688年(元禄1)完成，1693年刊行。見林の蔵書は10万余にのぼるといわれるが，中国・朝鮮の諸書127部から日本に関する記事を抄出し，これに考証・訂正を加えたもので，この書の著述には30余年を費やしたといわれる。

いしょうにんぎょう　【衣装人形】　裂地(きれじ)で仕立てをした衣装を着せた人形の総称で，ひな人形*や五月人形*などは除かれる。上等なものは頭・胴・手足をともに木彫胡粉(ごふん)仕上げにして衣装を着せているが，多くのものは木やわらなどをしんにした胴に衣装を着つけ，あとから頭や手足を差し込んで仕上げている。頭と衣装がこの人形の本命であるから，頭は人形師，衣装は着つけ師という分業によって行なわれてきた。人形のテーマはさまざまであるが，婦人や児童の風俗を写したもの，歌舞伎(かぶき)や舞踊に取材したものなどが多い。江戸時代には，女性や若衆の風俗人形は浮世人形などともよばれた。また，歌舞伎に主題を求めた独特の様式の人形には竹田人形の別称がある。衣装人形の歴史はかなり古いと考えられるが，現存品には元禄(げんろく)期(1688〜1703)をさかのぼるものはないようである。

なお，現在，さくら人形をはじめ，創作人形にもこの種の人形は盛んにつくられている。〔北村哲郎〕

いじょうひだいせいちょう　【異常肥大成長】　肥大成長が異常に促進または遅延している状態。多くは身長に関して用いられるが，これは成長ホルモンの過不足によるもので，巨人症*・末端巨大症*などがこれに属する。また，下垂体性の小人症や肥満，極端なやせに対しても，また局所的であるが思春期早発症に対してもこのことばが用いられる。

いじょうぶんべん　【異常分娩】　妊娠第39〜42週の間に，体重3,000g前後の成熟児を正常な胎児の位置で，初産では陣痛開始から約12〜15時間，経産では約6〜8時間を要して分娩し，後産*も順調に排出するのを正常分娩といい，このような経過をとらない出産を異常分娩という。原因としては，①陣痛が弱い場合，②骨盤が小さかったり形が悪かったり，軟産道がかたい場合，③骨盤位*の異常，巨大児*，前置胎盤*，臍帯(さいたい)の下垂または脱出など，胎児および胎盤や臍帯に異常のある場合，④胎盤が癒着(ゆちゃく)していたり，胎盤娩出後の子宮の収縮が悪い場合，などがあげられる。異常分娩のときには，帝王切開*・鉗子(かんし)分娩・吸引遂娩などの産科手術が行なわれる。→分娩〔木川源則〕

いしょうほう　【意匠法】　意匠の保護および利用を図ることにより，意匠の創作を奨励，産業の発達に寄与することを目的とした法律。この法律でいう意匠とは，物品の外観的形態(平面的・立体的いずれのものも含まれる)，模様もしくは色彩またはこれらの結合であって，視覚を通じて美観を起こさせるものをいう。この意匠が，新規のものであり，かつ考案として進歩性があり，工業上利用できるものであれば，特許庁*に出願申請をすると登録が許可される(意匠法3条以下)。登録が許可されると，意匠権が発生し，権利者はこの意匠を独占的に使用することもできるし，無体財産権の一種として譲渡・相続の対象ともなる。1959年(昭和34)公布，1960年施行。〔松本治雄〕

いしょく　【移植】

1植物の若いものや成体またはその一部を別の場所に移し植えることをいい，農学では直播(じきま)きに対する語として用いられる。作物の栽培法には直播き法と移植法があり，種々の条件からどちらかの方法が選ばれることとなる。移植は苗床あるいは苗代

(なわしろ)で育てられた苗が本圃(ほんぽ)に定植されることであり，手労働で行なわれることが多い。すなわち，移植ごてやくわなどの農具を用いて移植するか，あるいは水稲苗のように直接手でもって苗を本田に植えつける。移植が行なわれるのは，そろった無病のよい苗を選んで植えつけることができるからである。この利益は移植の労力を上回るものがあって，集約栽培の特徴ともいうことができる。一作物について1回の移植が普通であるが，アブラナやタバコなど，苗の生育の進行につれて，2～3回移植(この場合仮植ともいう)したあとで，定植することもある。〔金本良三〕

[2]動物学・医学の面では，ある個体の一部分を同一個体または他個体の一定部位に移し植え，その部位に固着させ，しかも新しい環境で生活を続けさせることをいう。実験発生学の研究方法として広く用いられているが，医学的にも治療法の一つとして，特に近年研究が盛んである。移植される部分を移植体または移植片，移植を受ける個体を宿主といい，移植の給与者と宿主の関係によってもいろいろに分けられる。たとえば，同じ個体どうしでの移植を自家移植，異なる個体間での場合は他家移植という。その中でも，同種間移植・異種間移植・異属間移植・異目間移植などがある。移植の効果の点からは，給与者と宿主はなるべく近縁のものが望ましく，自家移植が最もよい。一卵性の双生児や同胞の子がこれに次ぎ，親子，近縁のものなどがよく，縁が離れるほど移植はむずかしくなることが多い。動物の実験発生学の分野では，胚域(はいいき)の決定，自主分化能の存在，誘導の能力などのほか，ホルモンの作用，組織の形成能力などの研究や，核移植による機能の研究などが行なわれている。ヒトの場合，目の角膜や皮膚・骨・毛髪などの移植はよく用いられているが，腎臓(じんぞう)・心臓など臓器の移植も近年実用化されている。〔蒲原春一〕

いしょくき 【移植機】 作物苗を移植するために使う機械をいうが，イネを対象とするものは田植え機*といって，一般の場合と区別される。対象作物や植えつけ様式・作業様式によっていろいろな種類があるが，通常畑用である。移植といっても，機能としては，植えみぞ掘り・挿苗(そうびょう)・埋めもどし作用のほか，ときには灌水(かんすい)まで行なうこともある。そして，これらの作用をすべて自動で行なうものもあるし，一部人手を補助する程度で済むものもある。〔田原虎次〕

いしょくしょう 【異食症】 異味症ともいう。常人では通常食べないもの(強い酸味，紙，卵の殻(から)，生米，炭など)を好んで食べる状態。手に触れるものをなんでも口に入れる乳幼児の状態が，精神薄弱などのために成長しても残っていたり，高齢者で高度の脳動脈硬化・大脳萎縮症(いしゅくしょう)など痴呆(ちほう)を伴ったりする場合などに起こる。妊娠時にも軽度な異食症を示すことがある。

イージーリスニング ［Easy Listening］〈聞きやすい音楽〉の意味で，ロック*に相対するものとして，広く鑑賞に耐えるポピュラー音楽全般をさす。1960年代ころからヒット曲が完全にロックに支配されるようになったのに対し，それ以外の音楽の重要性を考えて，アメリカの音楽雑誌《ビルボード》がムード音楽・ソロ－ボーカルを中心としたヒット曲番付表〈トップ40 イージーリスニング〉欄を設けたことから，一般化するようになったといわれる。〔鈴木道子〕

いしわた 【石綿】 ⇨アスベスト

いしんけいしょう 【胃神経症】 胃になんら器質的疾患を認めないが，食欲不振・吐き気・嘔吐(おうと)・心窩部痛(しんかぶつう)・反芻(はんすう)などの症状を呈するもの。神経症的性格をもつ者に多く，環境の不適，過労などにより症状が悪化する。胃神経症の診断は，胃疾患をはじめ他の臓器疾患がない場合になされるべきものである。治療は，神経症を取り除くように努めるのが第1である。➔神経症

いしんこう 【囲心腔】 心臓とこれを包む心外膜と囲心嚢(いしんのう)の間にある空所のことで体腔の一部。この中には体液が満たされている。

いしんしりょうへんさんかい 【維新史料編纂会】 明治維新に関する史料の編纂にあたった官立機関。1910年(明治43)山県有朋(やまがたありとも)・井上馨(かおる)・金子堅太郎らにより設立された彰明会が前身。1911年の官制公布において文部省所管として設置された。孝明天皇即位から廃藩置県までの史料を収集している《大日本維新史料》《大日本維新史料綱要》《維新史》《概観維新史》などを刊行していたが，1959年(昭和34)史料編纂所*に併合された。〔千野境子〕

いしんぼう 【医心方】 現存する日本最古の医書。丹波康頼(やすより)(912～995)が当時日本にあった中国の医書より疾病(しっぺい)別に抜粋集録し，984年(永観2)に完成した全30巻の書。平安時代の医学の代表であるとともに，中国ですでに散逸してしまった医書の記述がしるされているため，隋(ずい)・唐時代の医学を研究する上に貴重な文献である。

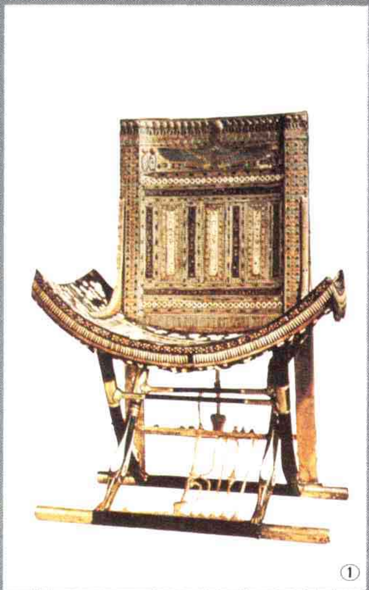
いす 【椅子】 人間のさまざまな姿勢に応じてからだをささえる道具。古くは富や権力を象徴する働きの強いものだったが，近代になって一般に普及すると，すわりごこちのよさが主要なテーマとして追求されるようになった。その形や色は空間の美を構成する大事な要素である。

〈歴史〉 古代エジプト，ツタンカーメン*王の玉座を見ると，BC1500年の当時すでに，機能・形態の両面において，現代のいすの原形ができあがっていたことがわかる。ギリシア時代には高い寝台様のものや湾曲したあしをもつもの，ローマ時代には青銅のいす，劇場用の石造りのいすなどが現われている。宗教的ふんい気に支配された中世では背もたれの高い直線的ないすが主流をなしていた。16世紀にはいり，イタリアを中心に人間復興を叫ぶルネサンスの運動が起こると，いすの形態も再び曲線をとりもどすようになるが，それが洗練された形にまで高められたのは17世紀から18世紀にかけてである。さまざまな様式が生まれたが，それぞれがときの王侯の名まえでよばれていたことからもうかがえるように，これらはみな貴族社会を中心に用いられたものであった。一般の手により多くのいすを行き渡らせるきっかけをつくったのは，機械による量産を促した19世紀の産業革命である。以来，新しい材料，加工法の急速な発達，人間工学*の裏づけや生活様式の多様化などにより，いすのデザインはかつてないはなやかな展開をみせている。

わが国では，弥生(やよい)時代の遺跡からきわめて素朴(そぼく)な形の腰掛けが出土したこともあるが，それらが引き続いて十分な機能をもつ日本独自のいすに発展していった形跡はない。正倉院御物の中にある胡床(こしょう)とよばれる腰掛けを見ると，奈良時代にはすでに完成された形でのいすが大陸から伝来していたと考えられるのだが，ほぼ同時期に伝来した畳のほうが一般的になった。その原因は高温多湿の風土によるともいわれるが明らかではない。鎌倉時代あたりから武士が簡便な腰掛けとして床几(しょうぎ)を用いたとはいえ，いすの形式は江戸時代に至っても一部の寺院や宮中の儀式に用いられる程度であった。積極的に取り入れられるようになったのは明治以後のことで，公共的な場所からしだいに生活の中にはいりこみ今日に至っている。

〈デザイン〉 いすには人体をささえる働きと同時に，人が腰を掛けていなくとも，室内を美しく構成するという働きが要求されている。どちらが欠けていても魅力あるいすとはいいがたい。デザイナーが腐心するのはこの二つの働きを調和させる点にある。いすは使用目的によって人体のささえ方が異なる。人体をささえる部分の面積が大きく，上体をささえる面の傾斜が床に対して水平に近いほど休息の度合いは高い。人体の姿勢と疲労との関係は人間工学とよばれる学問分野の研究によって明らかにされてきた。その成果は，いすをデザインするにあたっての，寸法の誤りのない範囲を示しているが，これをそのまま形の発想の出発点に置いたのではかえって人間をわくの中にはめこむことになりかねない。魅力的ないすを生み出すために，最近では，すわりごこちのよさということが，心理学なども取り入れながら広い解釈で追求されはじめている。〔剣持　勇〕

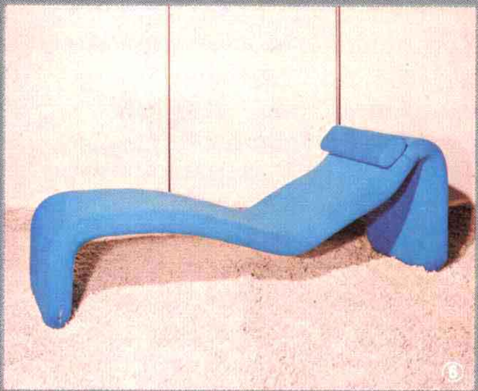
い す













①**ツタンカーメン王のいす** ＢＣ1500年ごろ,当時すでにいすの原形ができあがっていたことがうかがわれる。
②**レッド-ブルー-チェア** モダンデザインの出発点に位置する。デザインはゲーリッヒ-リートフェルト(1917)
③**曲げ木ロッキングチェア** 曲げ木は産業革命期に生み出され，独特のカーブは現在でも愛好される。デザインはミハエル-トーネ(1860年代)
④**バルセロナチェア** はじめて工業技術を最大限に駆使したいすとして知られる。デザインはミース-ファン-デル-ローエ(1929)
⑤**籐 い す** ニューヨーク近代美術館の永久コレクションに選ばれた日本を代表するいす。デザインは剣持勇(1961)
⑥**デイ-ベッド** プラスチック時代を反映した新しいフォルムのいす。デザインはオリビエ-ムング(1965)

いず 【伊豆(国)】 静岡県の伊豆半島と東京都下の伊豆諸島を含む旧国名。豆州。東海道に属す。680年(天武９)駿河(するが)(静岡県)の２郡をさいて伊豆国を建て,国府を田方(たがた)郡(三島市)に置いた。はじめ田方・賀茂(かも)の２郡。のちに那賀(なか)・君沢２郡を分出,現在は三島・熱海(あたみ)・伊東など４市と２郡。律令(りつりょう)時代から重罪人の遠流(おんる)の地とされ,伴善男(とものよしお)・源為朝(ためとも)・源頼朝(よりとも)らがこの地に流された。鎌倉時代には山名善範(よしのり)が守護となったが,のち頼朝の知行国となり,以後，北条(ほうじょう)・畠山(はたけやま)・上杉(うえすぎ)の諸氏が守護となった。戦国時代には小田原北条氏の支配するところとなり，その滅亡後は徳川氏に帰した。江戸時代にはすべて幕府の直轄領となり，韮山(にらやま)の江川氏が代官となった。幕末,1854年(安政１)の日米和親条約によって下田港を開き，やがてアメリカ総領事館が置かれた。明治維新後は韮山県・足柄県を経て,1876年(明治９)静岡県に属し,今日に至っている。 〔黛　弘道〕

いすい 【渭水】 ウェイショイ 中国，黄河最大の支流。甘粛省中部の鳥鼠(ちょうそ)山から発し，陝西(せんせい)省にはいって西安市の北を通り，河南省との境界付近で黄河に流入する。この流域に開けた関中平野は，中国古代文明の発生地の一つで，西安は周代から唐代まで続く歴代の国都であった。早くから水利建設が行なわれて農業が発達し，今日では麦や綿花の産出が多い。舟運も盛んで華北の水路幹線をなし，またこれに沿った陸路はシルクロード*の一部をなしている。 〔日比野丈夫〕

いすいかんけい 【胃水管系】 腔腸(こうちょう)動物のうちクラゲ形の種類に特有なもので，胃とそれから出る管の系統のこと。口→胃腔→放射水管→環状水管などの系統があり，食物の消化・吸収のほかに呼吸・排出も行なう。

いすうせい 【異数性】 染色体がゲノム*単位で倍加せず，１本またはそれ以上の染色体が過不足であること。この変化が安定したものであればその種にとって固有の染色体数になる。自然にはこのようにして進化してできた種が多数知られている。

いすか 【交喙】 鳥類・アトリ科。全長18cmの小鳥。雄は暗紅色，雌は暗黄緑色。嘴端(したん)が上下交差していることでよく知



イ ス カ

られる。これから，物事が食い違って思うようにいかないことを，〈いすかの嘴(はし)の食い違い〉という。北半球北部に広く分布し，何年かごとの秋に多数南下することでも有名。その一部は南方に残って繁殖することがあり，わが国でも長野県などで繁殖した記録がある。針葉樹林にすみ，針葉樹の種子を主食とする。わが国に渡来したときにはマツやカラマツの植林地に群れをなして生活している。〔浦本昌紀〕

いずきゅうこう【伊豆急行】伊東線伊東と伊豆急下田間を結ぶ地方鉄道を営業する交通企業。1959年(昭和34)東京急行電鉄の系列会社として設立され，1961年開業。鉄道営業キロ数45.7。全線電化され，伊豆半島東岸を走る鉄道で，沿線には伊豆高原・熱川(あたがわ)・河津(かわづ)・蓮台寺(れんだいじ)などの別荘保養地や温泉地があり，南伊豆の観光開発に重要な役割を果たしている。

いずきんざん【伊豆金山】近世の初めから採掘された伊豆半島西海岸の土肥(とい)，東海岸の縄地(なわじ)などにある金銀鉱山の総称。1606年(慶長11)大久保長安が奉行(ぶぎょう)となって開発にあたり，一時はわが国有数の金銀鉱山となったが，その後はわき水などのために衰えた。現在は中外鉱業により小規模に採掘されているにすぎない。

イスクラ［Iskra］ロシア社会民主労働党の機関紙。1900年ロシア革命のとき，スイスに亡命していたレーニンらによって創刊された。1903年の第2回党大会直後，メンシェビキ*が同紙の編集陣を占めたが，レーニンらボリシェビキ*は他の機関紙を創刊したためまもなく消滅した。

いずさんおんせん【伊豆山温泉】静岡県熱海(あたみ)市伊豆山町にある温泉。泉温68℃。泉質は無色透明の塩類泉で，胃腸病・リウマチなどにきくといわれる。温泉は海面の集塊岩の間から湧出(ゆうしゅつ)し，かつては走湯あるいは滝ノ湯といわれた。背後に伊豆御山を控え，相模(さがみ)湾に面する斜面に旅館が散在する。東海道本線熱海駅下車が便利。

いずさんじんじゃ【伊豆山神社】静岡県熱海(あたみ)市伊豆山にある。祭神は伊豆山神。古くは走湯権現または伊豆山権現といわれた。もとは十国峠*にあって，《延喜式》にみえる火牟須比命(ほむすびのみこと)神社だと考えられている。別当寺(→神宮寺)般若院(はんにゃいん)は天台・真言の2宗を兼ねる密教寺で，源氏・北条(ほうじょう)氏の尊崇を受け，源頼朝(よりとも)が伊豆に流されたとき，源氏再興の祈願をささげて妻政子(まさこ)を預託した話は有名である。当社境内(けいだい)にある神木ナギ(梛)の葉は，古くから護符とされている。般若院蔵の伊豆山権現像(室町時代の作)は重要文化財。例祭は4月15日。箱根神社と合わせて二所権現，さらに三島神社を加えて三所権現とよぶ。〔佐野文哉〕

いずしちとう【伊豆七島】⇨伊豆諸島

いずしょとう【伊豆諸島】東京都南方の太平洋上に南北に連なる富士火山帯に属する火山島で，もとは豆南諸島ともいった。東京都に属し，大島・八丈・三宅(みやけ)の3支庁のもとに，2町6村がある。面積297km²，人口3万2,700。北から数えて，大島・利島(としま)・新島(にいじま)・神津(こうづ)島・三宅島・御蔵(みくら)島・八丈島の七つのおもな島を〈伊豆七島〉というが，このうち大島が91km²で最大で，八丈島の69km²がこれに次ぐ。ほかに，新島南西方に式根島，八丈島南方に青ケ島があり，以上の9島に住民がみられる。八丈島北西の八丈小島は，23戸74人の住民が1968年(昭和43)に島を離れて無人島となり，青ケ島南方の鳥島もいまは無人島である。最初からの無人島や岩礁としては，利島南方の鵜渡根(うとね)島*，新島西方の地内島と南方の早島，神津島南西の恩馳(おんばせ)島と東方の祇苗(ただなえ)島，三宅島南西の大野原島，青ケ島の南方の須美寿(すみす)島やベヨネーズ列島などがある。

大島・利島・三宅島・八丈島・青ケ島などの黒みがかった玄武岩からなる円錐(えんすい)状火山形の島と，新島・神津島のような白っぽい流紋岩からなる鐘状火山形の島の二つの系統に分かれ，御蔵島だけは安山岩からなる成層火山である。いずれも海底からみれば，比高3,000～4,000mの大火山で，大島の三原山(755m)は，いまも活動を続けており，最近では三宅島の雄山(814m)が，1962年に大噴火したほか，御蔵島を除くすべての火山が歴史時代の噴火を記録している。例外として，御蔵島だけは有史以来，噴火の記録がない。気候は海洋性で，近くを黒潮が流れているので，冬も暖かくて雨が多く，ツバキやツゲの原生林がある。大島の年平均気温は15.0℃で，東京の15.0℃と等しいが，1月の平均気温では6.2℃で，東京の4.1℃よりもかなり暖かい。また年降水量は3,002mmで，東京の1,503mmのほぼ2倍である。八丈島の年平均気温は18.1℃，年降水量は3,284mmである。雪は，大島では年に平均して4回，八丈島では1回降る程度である。風が強いので，家々は石がきを巡らし，ツバキなどを防風林としている。鳥島のアホウドリは，特別天然記念物で，国際保護鳥であるが，そのほか世界の90%を占める大野原島のカンムリウミスズメ，御蔵島のオオミズナギドリなど珍しい鳥類がおり，いずれも天然記念物となっている。八丈島のヘゴをはじめ，亜熱帯植物の自生も多くみられる。

江戸時代には，幕府の直轄地で，島奉行(ぶぎょう)や伊豆韮山(にらやま)代官の支配下にあり，三宅島や八丈島は流刑地となっていた。現在は，農業・林業・水産業のほか，観光地としても多くの客を集め，1964年富士箱根伊豆国立公園に編入された。農業は，麦やサツマイモなどが主で，水田は八丈島にわずかにあるだけである。最近は，フェニックスなどをはじめとする観葉植物の栽培が盛んで，特に八丈島ではこれが大きな収入源となっている。またセロリーやレタスなどの洋菜もつくられている。酪農は，市場に遠いためにいまでは低調である。木炭の出荷も，需要が減少したために，激減した。水産業は，漁港設備の不十分なこと，資本の乏しいことなどのために，近海に豊かな漁場を控えながら不振で，他地方からの漁船に漁場を任せている状態であるが，テングサは冬島の沿岸で採取されている。地下資源としては，新島に，流紋岩のガラス質の部分で天然ブロックとして利用の範囲の広い坑火石(こうかせき)がある。工業はほとんどみるべきものがなく，すべての物資を移入に仰いでいる状態である。特産物としては，つばき油・ツゲ細工，くさやの干物，八丈島の黄八丈などがある。

八丈島と御蔵島を除けば，水が不足し，天水にたよっているところが多く，大島や八丈島では，簡易水道が普及している。かすりの筒そでに紅だすき，手甲(てっこう)・脚絆(きゃはん)の大島のあんこ姿をはじめ，伊豆諸島特有の風俗や言語も，いまではだんだんすたれ，八丈島の高倉のような特殊な建築物も，しだいに失われつつある。人口は流出する一方で，青少年の姿は，大島や八丈島を除けばほとんどみられなくなった。しかし，観光客の増加に伴って交通はしだいに便利になり，東京・江の島・熱海(あたみ)・伊東・下田から各島へ東海汽船の定期便が通じ，全日空の定期便も大島・三宅島・八丈島へ出ている。〔浅井得一〕

いすずがわ【五十鈴川】三重県伊勢(いせ)市南部の神路山・逢坂(おうさか)山に発し，伊勢神宮の後背をなす神宮宮域林中を流れて，二見浦(ふたみがうら)付近で伊勢湾に注ぐ。流程16km。清流をもって知られ，内宮(ないくう)のかたわらでは参拝者の御手洗(みたらし)となり，古くから聖なる川とされている。

いすずみ 硬骨魚類・イスズミ科。60cmほどになる海産魚。タイ形をしている。成長すると全身フナ色のじみな魚になってしまうが，真夏のころ，流れ藻(も)について本州中部に現われる1～2cmの稚魚から，20cm余りまでの間は，灰青色の地に大きな白紋を散らしていて美しい。本州中部以南の沿岸の岩礁地帯にすみ，南へ行くほど数も多く，近い種類も多くなる。鳥島以南には全身黄白色のものがいる。草食性。食用にされ，磯(いそ)づりの対象として喜ばれる。

いずせんりょう【伊豆千両】双子葉植物・ヤブコウジ科。日本(関東南部以西)・朝鮮・中国・台湾など暖地の山林の下にはえる常緑低木。高さ1～1.5m。葉は有柄で互生し，あらい鋸歯(きょし)がある。雌雄異株，3～5月，葉腋(ようえき)に長さ2cmの淡黄色の花穂をつける。花冠は筒状で浅く5裂する。10～12月，白色の果実をつけるが，熟すまでは花冠が果実を包んでいる。

イースター ⇨復活祭

イースター(島) [Easter] 南太平洋，チリ西方3,750kmの孤島。チリ領の火山島。面積117km^2。人口250。原住民はポリネシア人。スペイン人はパスキア，原住民はラパヌイとよぶ。オランダの航海者ヤコブ-ロジベンが，1722年の復活祭日(イースターデー)に発見したのでこの名がある。600余りの巨大な石像のほか，考古学的に貴重な数々の遺跡があるので有名。石像は凝灰岩を彫刻したもので，低い額，狭い顔，長い鼻，大きい口をもつ半身像で，5～10mの高さ，10tの重さがある。考古学者S.ハイエルダールは，コンチキ号とよぶいかだで渡島(この間の記録を《コンチキ号漂流記》にまとめた)し，この文化がアメリカ大陸のものとは別種であることを発見したが，その創造者と時代はいまもなぞとされる。〔大崎　晃〕

イスタンブール [Istanbul] トルコ北西部，ボスポラス海峡西岸にあって，東岸のユスキュダル(ウスクダル)・カデキョイを市域に含む同国最大の都市。人口224万8,000(1972年推)。この国最大の貿易港で，輸入の大半を扱っている。旧名コンスタンチノープルといったこの都市は1923年までは首都であった。首都はアンカラに移ったが大学3校をもち，金融・海運・造船・製紙・出版その他の企業を集めて，いまなおトルコの文化・経済の中心である。トルコ人のほかに20余りの異人種が住み，中でもギリシア人・アルメニア人・ユダヤ人などは，各自国語の日刊新聞を発行するほどである。町の歴史は古く，紀元前7世紀に古代ギリシア(メガラ)人によって開かれたといわれる。1391年からくり返された攻防戦のすえ，1453年トルコ人の手に落ちるまでは，東ローマ帝国の首都であった。旧城壁の一部はいまも残っており，ビザンチンのドーム建築はアヤ-ソフヤに，また15世紀のトルコ人の築城術はボスポラス海峡の両側にみられる。〔今井留吉〕

イースト ⇨酵母

イーストエンド [East End] ロンドン市の東部にあるテムズ川北岸の下町。居住状態が悪く，富裕階級の居住区であるウエストエンドに対して用いられ，またロンドン以外でも貧民街の意味に用いられる。産業革命による急激な労働人口の吸収とともに生じたもので，19世紀末から改善が問題にされてきたが，第2次世界大戦で被爆したのを機に新しいプランに基づいて編成しなおされつつある。

イーストマン-コダック [Eastman Kodak Co.] アメリカ最大の写真材料・カメラの製造会社。1880年にジョージ-イーストマンがニュージャージー州のロチェスターで写真乾板の製造を始めたのがはじまりで，1892年にイーストマン-コダックとして設立された。販売網は全世界に及んでおり，西ドイツ・カナダ・イギリス・フランス・オーストラリア・ブラジルに海外工場をもつ。インスタマチック-カメラやコダック-カートリッジ，高い鮮度と高速性をもつフィルム，自動制御のカラー引き伸ばし機などが主力製品である。写真関係のほかにも，事務用コピー製品・化学薬品・殺虫剤やポリエステル・モードアクリルなどの合成繊維を製造している。年間売上高27億5,000万ドル，従業員数11万(1969)。〔氏家　尚〕



イースター島　イースター島に残る石人(人面石像)群の遺跡。石像は高さ5～10m，重さ10tもある



イスタンブール　ボスポラス海峡に臨む旧市内の公園にいこう人々と，アヤ-ソフヤ(セント-ソフィア)寺院。(現在博物館になっている)

イストリア(半島) [Istria] イタリア半島の北側，アドリア海奥のトリエステ湾に突き出た半島。大部分はジナル-アルプスに連なる石灰岩台地で，土壌(どじょう)はあまり肥えていないが，地中海式農業を行ない，特にオリーブ・ブドウの栽培が盛んである。また石灰の産がある。現在ユーゴスラビア領となっているが，ローマ時代からイタリア人が居住し，長くベネチアの所領であった。1797年オーストリア-ハンガリー帝国に帰属，第1次世界大戦によってイタリア領となり，第2次世界大戦後に現在の所属となった。〔野間三郎〕

イーストロンドン [East London] 南アフリカ共和国，インド洋に臨むケープ州の港市。人口11万8,000(1970)。内陸へ向かう鉄道の起点であり，海陸交通の要衝である。羊毛・農産物の輸出港，漁港として栄え，船舶・機械・皮革・農産物加工などの工業も発達している。美術館・博物館・専門学校などの文化施設があるが，これは白人のためのものである。

いずながおかおんせん 【伊豆長岡温泉】 静岡県田方郡伊豆長岡町にある温泉。泉温46～70℃。泉質は単純泉・芒硝(ぼうしょう)含有重曹(じゅうそう)泉で皮膚病・婦人病・胃腸病・神経病などにきくといわれる。まわりは丘陵に囲まれ，北方に富士山が望まれる。1907年(明治40)に発見された新湯であるが，近代的経営により急速に発展した。丘陵を隔てた古奈(こな)温泉は《吾妻鏡(あづまかがみ)》にその名がみえる古い温泉で，近くには北条時頼(ほうじょうときより)の墓や，駒形(こまがた)古墳をはじめ名所・史跡が多い。伊豆箱根鉄道伊豆長岡駅下車。〔木村東一郎〕

イズバ [izba] シベリア地方の，丸太を積み上げて壁体とした造り(せいろ組み，校倉(あぜくら)造り)の住家。イズバとはヨーロッパ-ロシアにおける〈百姓家〉の意で，シベリアへの移民によってこの形式がもたらされたことから，この名称が用いられている。

いずはら 【厳原(町)】 長崎県対馬(つしま)島の町。人口18,000。対馬南部一帯の広い地域を占める。中心の厳原地区は東岸にあり，対馬第1の港で古くから朝鮮との関係が深く，現在も対韓(かん)貿易が行なわれている。博多(はかた)(福岡市)まで130kmの間を定期船が通い，またイカづり漁船が集まる。宗氏十万石の旧城下町で，いまも武家屋敷の石がきなどが残り，長崎県対馬支庁があって，島の行政の中心である。北東岸の曲(まがり)は海女(あま)の集落として名高い。西岸に近い所に，鉛・亜鉛・銀の産出では日本有数の対州鉱山があったが，1973年に閉山，閉山後カドミウム公害の問題が起きている。南端の豆酘(つつ)海岸は絶景で知られている。

いすばりじ 【椅子張り地】 いすの表面に張りつける材料。身体の接触を快適にし保温的な効果を与える目的で用いられる。材料は織物・皮革・人造革などを使う。織物としては一般にモケットを用いる場合が多い。短いパイル(添毛)織物で，パイルには羊毛・合成繊維などを用い，弾性に富むものが望ましい。厚地の紋織りの絹，化繊織物も用いられる。皮革としては柔軟なやぎ皮などを黒ないし濃色に染めて用いることが多い。近年は人造革も使われる。染色が堅牢(けんろう)でよごれにくく，摩擦に耐える性能が必要である。装飾ならびに防汚のために，白麻布・白綿布・白レース地などを部分的におおう。〔小川安朗〕

いずはんとう 【伊豆半島】 静岡県の東部，太平洋に突出した富士火山帯に属する火山性の東西約35km，南北約60kmの半島で，東は相模(さがみ)湾，西は駿河(するが)湾である。駿河湾北部に流れ込んでいる狩野(かの)川流

域を取り囲むように天城(あまぎ)山(1407m)・達磨(だるま)山(982m)・大室山(581m)などの山々が馬蹄(ばてい)形に北に開いて並んでいる。東側は700m余の山々が北へ延び，十国峠の鞍部(あんぶ)を経て箱根の山々へ続いている。これらの山々の東斜面は山脚が海に迫って急崖(きゅうがい)が発達しており，中でも熱海(あたみ)の錦ケ浦(にしきがうら)，網代(あじろ)の外ケ浦は高い断崖をつくっている。半島は火山作用が盛んで，地質構造も複雑をきわめ，そのため熱海・伊東・修善寺(しゅぜんじ)・湯ケ島・土肥(とい)など各種の温泉をはじめ，金銀などの鉱脈が走っており，鉱山もみられる。北東部には溶岩台地もみられ，大室山はその中にできた比較的新しい円錐(えんすい)形の火山で小規模ではあるが形も整っており，この付近は最近観光開発が急速に進められている。西海岸の内浦湾に注いでいる狩野川の下流域は田方平野で，湾奥の三津(みと)海岸は，島や小さな岬(みさき)に囲まれた入り江をなす沈降海岸で，南の土肥海岸とともに海水浴場としてにぎわう。南端の海岸線は出入りが多く，湾の奥には漁村があり，石廊崎*(いろうざき)付近は無霜地帯で草花の栽培が盛んである。西海岸は海食崖が発達し，海食洞(かいしょくどう)や奇岩がみられる。このように海岸線や半島の内部はいたるところ自然美に恵まれ，富士箱根伊豆国立公園に指定されている。〔浅井得一〕

イスファハン［Esfahan］イラン高原西部の山間にある，イラン第2の都市。人口54万6,000(1971)。鉄道交通の要所にあたり，じゅうたん・織物・香料バラ・あへんは世界市場でも有名。現在，ソ連の援助による年産60万tの製鉄所が建設されつつある。16世紀末から17世紀にかけては，ペルシアの首都として栄え，人口100万を数える西アジア最大の都市であった。

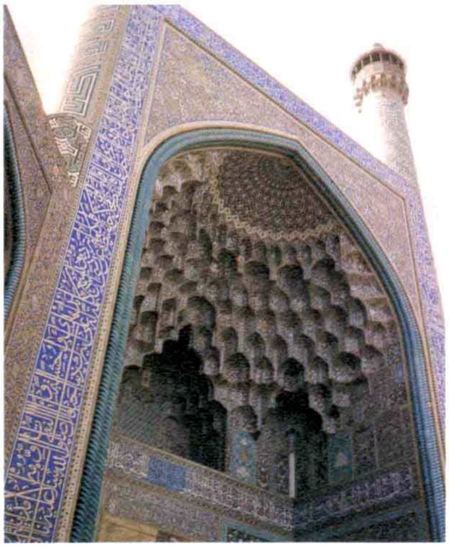
イズベスチア［Izvestiya］ソ連最高会議幹部会より発行され，政府機関紙的性格をもつ《プラウダ*》と並ぶ代表的新聞。1917年創刊。1938年から現在の〈ソ連勤労者代議員会議イズベスチア〉で発行されている。朝刊は867万部(1969)といわれ，モスクワ版は夕刊の発行形式をとっている。現在38都市で印刷している。

イスマイリア［Ismailia］アラブ連合共和国，スエズ運河に臨む港市。人口16万7,000(1970)。地中海側と紅海側とからほぼ等距離にあり，運河工事の基地の一つとして建設された。カイロからナイル川の水を引く運河は，ここでスエズ運河と合流している。船舶関係の工業が盛ん。軍事的要衝とされ，第1次世界大戦中は連合軍の基地であった。

イスマイル［Shāh Ismāīl］(1487～1524) イラン，サファビー朝の初代君主。在位1502～1524年。イスラム教のシーア派*教主の子孫，サファビー家の生まれ。出身地であるアゼルバイジャンのトルコ族の推戴(すいたい)を受けて，アム川からユーフラテス川に至る大国家を創設した。みずからシャーと称し，シーア派を国教とするなど，長年異民族の支配にあったイラン民族の独立を促進させた。



伊豆半島　半島東岸の白浜海岸。テングサの村として全国的に知られており，シーズンになると砂浜は一面にテングサの干し場と変わる。ホテルもあって観光客も多い



イスファハン　イスファハンのモスク〈マスジド-イ-シャー〉の正面入り口。青いタイルで飾られた壮麗さは，ペルシア建築の粋である

イスマイルは【イスマイル派】イスラム教シーア派*の一分派。7代めイマーム(教主)をめぐり，主流がムーサーアル-カージムを認めたのに対立し，その兄イスマイルをマハディ(救世主)とみなした。主流がその後12代まであいついだことから〈十二イマーム派〉とよばれたのに対し，イスマイルの子ムハンマッドこそ7代めであると主張したことから〈七イマーム派〉とよばれた。この派は，宗教上の真理は《コーラン*》の比喩(ひゆ)的解釈による内面的意義の発見によって会得されると主張し，特有の宇宙形成論・輪廻(りんね)転生論・救世主論を秘伝として伝えた。正統派とはその趣をまったく異にする特徴的な教義はギリシア哲学・キリスト教の強い影響によるものであろう。カルマット派・ファーティマ派・ニザーム派などの分派があげられる。〔牧野信也〕

イスマイル-パシャ［Ismāīl Pasha］(1830～1895) エジプトにイギリス勢力発展のいとぐちをつくった時期のエジプト藩王(ケディブ)。在位1863～1879年。カイロに生まれ，パリで学ぶ。レセップスのスエズ運河建設を支持し，運河株40万株中17万6,000株を所有。アメリカ南北戦争のとき，綿花栽培からの利益を得て，ヨーロッパにならった近代化を推進した。しかし，その気まぐれな開明主義とぜいたくな生活で財政は破綻(はたん)し，運河株をイギリスに売却して，1878年以後イギリス・フランスの財産管理を受け，外国への従属を深めた。民衆の不満と外国の圧力の中で退位し，イスタンブールで死んだ。〔喜多迅鷹〕

いずみ【泉(市)】宮城県中部の市。1971年(昭和46)，宮城郡泉町が単独で市制。人口194,000。仙台市の北東部に接し，米・野菜などを栽培する近郊農村から住宅地に変化しつつある。国道4号線に沿っているが，鉄道は通じていない。おもな集落は七北田(ななきた)で，陸羽街道の宿場町であった。産業三大別人口比は9：24：67。

いずみ【和泉(国)】大阪府南部の大阪湾沿い一帯の旧国名。泉州。畿内(きない)に属す。古くは茅沼県(ちぬのあがた)。大化改新後河内(かわち)(大阪府)に属し，716年(霊亀2)大島・和泉・日根の3郡をさいて和泉監を置いたが，740年(天平12)再び河内に合わせ，757年(天平宝字1)改めて和泉国を置いた。国府は和泉郡(和泉市)。現在は堺(さかい)・岸和田・貝塚(かいづか)など7市と2郡(泉北・泉南)。鎌倉時代には佐原・北条(ほうじょう)の諸氏，南北朝時代には楠木(くすのき)氏，室町時代には畠山(はたけやま)・大内・細川の諸氏，戦国末期には細川の臣三好(みよし)氏，次いで織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)が支配した。江戸時代にはその大部分が堺奉行(ぶぎょう)管下の幕府直轄領となったが，明治に至り堺県を経て，1881年(明治14)大阪府に属し，今日に及んでいる。〔黛　弘道〕

いずみ【和泉(市)】大阪府南西部の市。もと和泉の国府が置かれた。1956年(昭和31)市制施行。人口123,000。市域は，和泉海岸平野にあり，泉大津市の東に接する。産業三大別人口比は4：49：47で，和泉もめんの伝統をもつ繊維工業が発達し，大阪市内の業者を集めた婦人・子ども服企業490団地がある。近郊農業が発達し，北部の桑原ではスイセンの切り花栽培が行なわれる。

いずみ【出水(市)】鹿児島県北西端の市。江戸時代は島津藩北辺の要地で，地頭*が置かれた。1954年(昭和29)市制施行。人口39,300。出水平野の中心部を占め，産業三大別人口比は32：24：44で，農林業が発達し，サツマイモ・米・麦・苗木・木材などを産する。沿岸漁業も盛んで，クルマエ

ビの特産があり，最近はアルコール・パルプ・製紙などの工場が進出し，工業都市の芽ばえもみられる。鹿児島本線・国道3号線に沿い，米ノ津港からは天草・長島への航路が通ずる。西海岸の荒崎はツルの渡来地として名高く，10～2月にシベリアから最近は3,600羽もやってきて，特別天然記念物に指定されている。

いずみおおつ 【泉大津(市)】 大阪府南部の市。古くは府中ノ浜とよばれ，江戸時代には紀州街道の宿駅として，また〈大津織物〉の特産地として知られた。1942年(昭和17)市制施行。人口66,000。大阪湾に臨み，大津川の三角州の右岸を占め，北は堺(さかい)と接し，南海電鉄本線・国道26号線によって大阪と結ばれる。産業三大別人口比は1：52：47で，繊維関係の中小工業が多く，綿毛布は全国生産高の約95%を占め，メリヤス・ラシャ服地・さらし・ゴム製品などの生産も多い。

いずみきょうか 【泉鏡花】 (1873～1939) 小説家。金沢市の生まれ。本名鏡太郎。父は彫金師，母は能楽師の妹という芸道に関係深い家庭に育ったが，幼くして母を失った。これらが鏡花の文学に大きな影響を与えたといわれる。17歳のとき上京し，3年間ほど尾崎紅葉家の玄関番をして創作に励んだ。この間に発表した紅葉補筆の《義血侠血(きょうけつ)》(《滝の白糸》の外題で上演)《夜行巡査》《外科室》により，観念小説の新進作家とみなされた。以後，鏡花文学の原型ともいうべき《照葉(てりは)狂言》，花柳物の《湯島詣(ゆしまもうで)》，浪漫的・神秘的な《高野聖(こうやひじり)》，自身の結婚をめぐる師紅葉との軋轢(あつれき)を反映した《婦系図(おんなけいず)》，名作《歌行燈(うたあんどん)》などにより，浪漫主義文学の代表作家とされた。〔池内輝雄〕

いずみさの 【泉佐野(市)】 大阪府南部の市。江戸時代は和泉(いずみ)もめん・黒砂糖の集散地，イワシ漁業の基地として栄えた。1948年(昭和23)市制施行。人口91,000。西は大阪湾に臨み，南は和泉山脈にさえぎられた海岸平野部を占める。産業三大別人口比は6：50：44で，繊維関係の工場が多く，タオルの生産地として知られる。東部の農村地帯は日本有数のタマネギの産地で，泉佐野港は，古くから大阪湾沿岸漁業の基地となり，北部の埋め立て造成地には，水揚げから加工までを一貫作業で処理する水産コンビナートと遠洋漁業基地がある。南海電鉄本線と国道26号線が海岸部を，阪和(はんわ)線が山手を南北に走る。犬鳴山やそのふもとの七宝滝(しっぽうりゅう)寺などの名所があり，特産は紡織用のシャトル(梭(ひ))・木管など。

いずみさんみゃく 【和泉山脈】 大阪府と和歌山県の境をなす山脈。長さ約50kmで東西に延び，東から西に低くなって西端の田倉崎で友ケ島水道(紀淡海峡)に没する。南側は紀ノ川の断層谷に面し，北側はゆるい傾斜で大阪平野に達している。山脈の主体は中生代白亜紀の和泉砂岩層からなり，岩湧(いわき)山(898m)・三国山(886m)・葛城(かつらぎ)山(857 m)が並んでいる。山脈の北斜面にはブドウ畑，南斜面にはミカン畑が多い。〔高野　繁〕



泉　鏡花

いずみしきぶ 【和泉式部】 (979？～1033？) 平安中期の女流歌人。越前守(えちぜんのかみ)大江雅致(まさむね)の娘。20歳前後で橘道貞(たちばなのみちさだ)と結婚し，娘の小式部をもうけながら，まもなく離婚して冷泉(れいぜい)天皇の第3皇子為尊(ためたか)親王，その弟宮敦道(あつみち)親王との恋愛に陥る。為尊親王の死後，敦道親王と結ばれていく経過は《和泉式部日記》に記されているが，敦道親王にも先だたれてしまう。式部はその悲しみを122首の哀傷歌に託している。その後式部は，小式部とともに一条天皇の中宮藤原彰子(あきこ)の女房として仕え，やがて藤原道長の家司(けいし)藤原保昌(やすまさ)と結婚したという。なお，その和歌には最高の評価が与えられ，勅撰集(ちょくせんしゅう)への数多くの入集がある。また，《和泉式部集》に約1,000首の歌が収められている。〔伊藤　博〕

平安時代の女流歌人和泉式部に関する伝説はほとんど全国的に分布し，生誕地とか墓とか伝えるものの数も多い。類例の多いのは式部の歌を伴うものである。宮崎県西都市鹿野田(かのだ)には式部塚(しきぶづか)があり，式部が難病平癒(へいゆ)祈願のためにこの地に来て，〈南無(なむ)薬師諸病疾除の願立てて身より仏の名こそ惜しけれ〉とよみ，仏と歌問答をしたところ，病はたちまち平癒したという霊験譚(れいげんたん)が伝わっている。この種の歌問答は地域によっては小野小町や西行らと結びついており，静御前や虎御前(とらごぜん)などの場合と同じく，中世においてはこうした説話を語り物として運搬した女性群があったと考えられる。その中でも式部はよく知られていた。〔山路勝彦〕

いずみしきぶにっき 【和泉式部日記】 平安中期の日記文学。他作説もあるが，和泉式部自身の作と考えられている。式部が冷泉(れいぜい)天皇の第4皇子敦道(あつみち)親王とはじめて出会った1003年(長保5)初夏に始まり，以後深まりゆく愛の過程が式部と宮との贈答歌約150首を中核にすえた日記として10か月間にわたって記され，式部が宮邸に引き取られるくだりで終わる。この作品は〈日記〉とも〈物語〉ともよばれている。式部自身を第三者的に〈女〉として扱い，物語的叙述の色が濃いが，内面的にはやはり〈女〉側からの視点である。さきの愛人為尊(ためたか)親王を失い，やるせない孤独感にさいなまれる式部の前に現われた宮，互いに孤独の心をいたわるふたりの愛のためらい・いらだち・こがれ・迷いなどが心理的に写し出されている。和歌，地の文，消息文が巧みに融合し，微妙な心理のくまぐまが意識の流れに沿って記される。敦道親王との巡り会いは，多感な式部の生涯(しょうがい)で最も幸福な4年間であったと思われ，最初の出会いからそこに上りつめるまでが，〈愛のかたみ〉であったであろう。〔伊藤　博〕

いずみねつ 【泉熱】 異型猩紅熱(しょうこうねつ)ともいう。猩紅熱に類似はするが，これとは明らかに異なった伝染性疾患。はっきりした原因は不明。おもにウイルスによって伝染するが，しばしば咽頭(いんとう)から溶血性連鎖球菌を証明する。猩紅熱に似た軽度の発疹(はっしん)があるが，口囲周蒼(しゅうそう)やいちご舌はみられないときが多い。熱型は猩紅熱ではみられない2峰型・3峰型を示すものが多い。下痢・腹痛・吐きけなどの消化器症状は，猩紅熱よりやや高率にみられる。また中耳炎・腎炎(じんえん)などの合併症は少なく，本症で死亡することはない。ディック反応は陰性のものが多く，猩紅熱のようにはじめ陽性で，のちに陰性となるようなことはない。疫学的には猩紅熱は散発的発生が多いが，本症は流行性・集団的発生がやや多い。一般症状が猩紅熱に似てはいるが異なるというところから異型猩紅熱といわれ，また1929年(昭和4)に本症をはじめて独立疾患として記載した泉仙助(せんすけ)の名から泉熱ともよばれる。〔高橋悦二郎〕

いずみりゅう 【和泉流】 狂言の流儀の一。室町中期の佐々木岳楽軒を流祖とするが，京都付近にあった群小猿楽(さるがく)狂言方の集合流派と思われる。流儀の確立者は江戸初期の山脇和泉守元宜(やまわきいずみのかみもとのぶ)。宗家山脇和泉家は流内名家の野村又三郎(またさぶろう)家などと尾張(おわり)徳川藩に仕え，別派の三宅(みやけ)藤九郎家は加賀前田藩の禄(ろく)を受けて京都に住み，禁裡(きんり)御能をつとめることを誇りとした。現在は，東京で19世家元和泉保之(やすゆき)・野村万蔵・三宅藤九郎・野村万之丞(まんのじょう)・野村万作ら，名古屋で野村又三郎・井上松次郎らが活躍。芸風は写実味が濃く近代的であるが，格調も正しい。〔小林　責〕

イズミル ［Izmir］ トルコ西端エーゲ海に面する港市。人口52万1,000(1970)。農産物，特にたばこ・綿花を主とするトルコの輸出の大半はこの港から積み出される。古くからギリシア人が土着していたため，第1次世界大戦でトルコが敗れると，ギリシアはこの地方の領有を宣言して1919年占

領したが，1922年トルコ国民軍に駆逐された。現在，NATO*(北大西洋条約機構)に基づく北大西洋軍の南東部司令部と，第6戦術空軍司令部が置かれている。また，ギリシア正教・ローマカトリックおよびアルメニア教会の大司教がここに所在している。

いずめ　わらを浅い筒形に編み上げたかご。農作業などで多忙なとき，足手まといになる乳児を毛布などに包んでこの中に入れ，家の中や田の側に置いたり，梁(はり)から綱でつるしたりする。冬季に飯の保温用に使うものと同じつくりであるところから，飯詰めが語源であろうといわれるが不詳。いじこ・えずめ・すっこ・つぶら・つぐらなどという地方もある。これを1日で編み上げないと子にたたるとか，よそから借りてくるときは小石を一つ入れてこなければならないなどの俗信がある。できあがるとあずきがゆを煮て供える地方もある。生後3日めまたは7日めに，はじめていずめに入れる地方が多い。ほとんど1日じゅう入れておくので，尿便によごれて不潔であり，さらに内部は温度や湿度が高いため，臀部(でんぶ)や股部(こぶ)がただれやすく，衛生的にはよくない。また，乳児の運動機能の発達も阻害する。　〔中山和芳・宇留野勝正〕

いずも　【出雲(国)】　島根県の東半部を占める旧国名。雲州。山陰道に属す。古く出雲国造(くにのみやつこ)の領域で，この地方には政権が早くから先進文化を摂取して政治的・文化的に発達していたことは，オオクニヌシノミコトの国土経営や国譲りの神話などでうかがうことができる。律令(りつりょう)時代には島根・意宇(おう)・秋鹿(あいか)・楯縫(たてぬい)・神門(かんど)・出雲・大原・仁多(にた)・飯石(いいし)・能義(のぎ)の10郡に分かれていたが，今日では松江・出雲など4市と6郡になる。国府は意宇郡(松江市)。鎌倉時代には佐々木義清(よしきよ)の子孫が守護職を世襲し，のち塩冶(えんや)氏と称したが，その滅亡後，室町時代には佐々木・山名・京極の諸氏が守護となった。戦国時代に至り京極氏の臣尼子氏が自立して守護と自称し近隣を合わせて威を張ったが，1566年(永禄9)毛利元就(もとなり)に滅ぼされた。関ケ原の役後，徳川氏は当国を毛利氏から削って堀尾(ほりお)氏，次いで京極氏に与え，1638年(寛永15)以降は松平直政(なおまさ)を封じた。維新後，1871年(明治4)松江・広瀬・母里(もり)の3県を合わせて島根県とし，1876年さらに浜田県を合わせて今日に及んでいる。　〔黛　弘道〕

いずも　【出雲(市)】　島根県東部の市。もと今市とよばれ，ウシの売買や農産物の集散が盛んな市場町であった。1941年(昭和16)市制施行。人口77,000。斐伊(ひい)川・神戸川流域の出雲平野*中央部を占め，産業三大別人口比は21：29：50。商業が盛んで，綿紡績・木材・醸造などの諸工業も行なわれる。山陰本線・大社線の分岐点で，一畑電鉄で松江と結ばれ，国道9号線が通ずる。北西部に出雲大社*がある。



出雲大社　拝殿

いずもけいしんわ　【出雲系神話】　日本神話において出雲(島根県)地方を中心とする物語で，高天原(たかまがはら)系神話*と並ぶ。神代史では，スサノオノミコト*の八岐大蛇(やまたのおろち)退治，オオクニヌシノミコト*の国づくり，出雲の国譲りを主要な神話とする。高天原系の神々が人格神であるのに対し，出雲系の神々は，大蛇(だいじゃ)・イノシシ・シカ，あるいはハクチョウというように，しばしば獣形をとる。これらは農民・狩猟民・漁民など地上に生活する人民の祭る神に根をもち，中でも，その多くは農民の祭る神である。水田耕作を行なう日本では，土地の神に先だって水の神が現われたが，出雲系の神々はしばしば水神となっている。土地の主としての出雲系の神々は，高天原から天くだる天孫に土地の主としての地位を追われる運命を定められている。ここで神話に政治性がはいりこみ，出雲系の神々はこれによって敗北の神々となり，天神に対して地祇(ちぎ)の名称で統括される。三輪のオオモノヌシノカミ，葛城(かつらぎ)のコトシロヌシノカミ，諏訪(すわ)のタケミナカタノカミが出雲系の神となり，それぞれ降伏の神話をもつのは，政治的理由に基づいていると思われる。　〔宮井義雄〕

いずもざき　【出雲崎(町)】　新潟県三島(さんとう)郡にある日本海岸の町。人口7,100。かつては寺泊とともに佐渡に渡る重要な港で，佐渡鉱山の金がここに陸揚げされたが，いまは漁港となっている。北国街道の宿場町として，6kmも伸びる街村を形成しているので名高い。いまは越後(えちご)線・国道116号線に沿っている。良寛*は，出雲崎の名主の家に生まれ，その屋敷跡に良寛堂が建てられ，また良寛研究室がある。芭蕉(ばしょう)の名句〈荒海や佐渡に横たふ天の河(がわ)〉は，この地でよまれた。

いずもしんこう　【出雲信仰】　出雲大社*，特にその祭神大国主命(おおくにぬしのみこと)に対する民間信仰。オオクニヌシノカミ*は天地を創造して農作物の栽培などを教えたとされるところから，農耕神として尊崇を受けていたが，のちに大黒天*と習合して福の神・縁結びの神としても信仰された。特に室町時代以降には御師*が関東から九州まで福徳を招くとされる大黒札を配るなどの活動があって，広く民間に定着した。出雲信仰を基礎に，出雲大社教*が成立した。

いずもたいしゃ　【出雲大社】　島根県簸川(ひかわ)郡大社町にある。古くは石坰之曾宮(いわくまのそのみや)・天日隅宮(あめのひすみのみや)・厳神之宮(いつかしのみや)・天日栖宮(あめのひすのみや)・出雲宮(いずものみや)・杵築宮(きづきのみや)などといわれた。祭神は大国主命*(おおくにぬしのみこと)とも素戔嗚命*(すさのおのみこと)ともいわれ，また中世以後に素戔嗚命を合祭したともいう。天孫降臨に際して，オオクニヌシノミコトが葦原(あしはら)の中津国を天孫に奉ったことに報い，宮を築いてアメノホヒノミコトをつかわして奉仕させたことに始まるという。以来，アメノホヒノミコトの子孫が代々宮司をつとめ，現在はその83代の千家氏がつとめている。

単純かつきわめて壮大な気宇の社殿は大社造り*といわれる様式で，現在のものは1744年(延享1)の造営にかかり，高さほぼ24mに達するが，鎌倉時代までその高さは約2倍以上であったと伝えられる。5月14日の例祭のほか，全国各地の氏神がすべて出雲に集まるため神無月(かんなづき)と称される旧暦10月を，出雲大社では逆に神在月(かみありづき)と称して祭る神在祭(10月11～17日)など，46の祭礼が行なわれる。

祭神大国主命は豊穣(ほうじょう)の神として信仰されるほか，男女縁結びの神としても信仰される。《神路事触》によると，〈この御神は，八くもたついづも八重垣(やえがき)の神詠ありて，この国土で婚礼の初なれば，頼(たよ)り奉る何の憚(はばか)りあらん〉とあり，スサノオノミコトが八岐大蛇(やまたのおろち)を退治して救出したクシナダヒメと結婚し，オオクニヌシノミコトを生んだという伝説に基づくものとしている。➔出雲信仰　➔出雲系神話　〔佐野文哉〕

いずもたいしゃきょう　【出雲大社教】　元教派神道(しんとう)13派の一。1873年(明治6)出雲大社宮司の長子千家尊福*(たかとみ)が，古代からの出雲大社信仰を出雲大社敬神講として組織化したのに始まる。1876年出雲大社教会と改称，1882年大社教として独立を認められ，出雲大社と別立した。第2次世界大戦後，出雲大社教(おおやしろきょう)と改めて，管長は出雲大社の教統を兼ね，宮司とともに教化にあたっている。主神は大国主神で，その大国主神を出雲大社に奉祀(ほうし)し，唯神(かんながら)の大道を宣揚したアメノホヒノミコトを教祖と仰ぎ，君臣の道，父子の道，夫婦の道を〈三綱〉とし，これを大社信仰の根本義とする。公称信者148万，山陰地方を中心として山陽・四国・九州に分布する。

いずものおくに　【出雲の阿国】　生没年不明。一般に歌舞伎(かぶき)の始祖に擬され

ている女性。俗説によれば，出雲（島根県）の鍛冶（かじ）職の娘で，出雲大社の巫女（みこ）だったという。慶長年間（1596～1614）のころ京都に現われ，大社修復の勧進と名のって芸能を興行した。四条河原（がわら）や北野に小屋を掛け，はじめは〈ややこ踊り〉〈念仏踊り〉などを踊っていたが，やがて男装して歌舞伎者に扮（ふん）し，やや筋のある歌舞伎踊り・阿国歌舞伎*を演じた。〔服部幸雄〕

いずものくにのみやつこのかんよごと【出雲国造神賀詞】 出雲の国造が新任したときに都に上り，朝廷から贈り物を受けて帰国，1年間神を祭ってのち，再び上京して天皇の大御世を祝う詞（ことば）。古典神代の伝承によれば，天孫降臨に先だち，オオクニヌシノミコトが国譲りを決行されたことからオオクニヌシノミコトの子孫である国造が出雲の祭祀（さいし）を担当することになったという。古来国家的な大任で，神賀詞（神事として朝廷に奏上する祝いの詞）も，この点で一般の祝詞（のりと）とは異なる。内容ははじめ，天皇の御世を祈るために1年間出雲の神々に奉仕したことを報告し，次に神々の功績と朝廷守護の事がらを述べ，最後に献上物のことと天皇に対する祝いの詞をもって結ぶ。《延喜式 巻8 祝詞》の中にある。〔小笠原春夫〕

いずもふどき【出雲風土記】 奈良時代に朝廷の命によってつくられた出雲国（島根県東部）の古地誌。733年（天平5）2月30日に，国造（くにのみやつこ）の出雲臣（おみ）広島らが，各郡ごとに筆録されてあった記事を整理して編纂（へんさん）した。内容ははじめに国の総体を叙し，次に9郡の郡郷名やその由来，郷の所在や伝説，神社名・地勢・物産などを載せる。常陸（ひたち）（茨城県）・播磨（はりま）（兵庫県）・豊後（ぶんご）（大分県）・肥前（佐賀・長崎県）と合わせて五風土記とよぶが，そのうち現在する唯一の完本である。〔山野清二郎〕

いずもへいや【出雲平野】 簸川（ひのかわ）平野ともいう。島根県の北東部にあり，西の日本海と東の宍道湖（しんじこ）にはさまれ，北に島根半島，南に中国山地を控えた沖積（ちゅうせき）平野で，主として中国山地から流れ出している神戸（かんど）川と斐伊（ひい）川の堆積（たいせき）作用により形成された。斐伊川ははじめ日本海に注いでいたが，寛永年間（1624～1643）の洪水（こうずい）で流路を変え，現在のように宍道湖に注ぐようになった。平野は粘土層を含んだ地質で，地下水が浅く，湿田地域をなし，水田単作地であったが，第2次世界大戦後，急速に乾田化が進められ，いまでは裏作に緑肥をつくる高うねも減少している。平野の中央に出雲市*がある。



出雲平野 宍道湖に注ぐ斐伊川の三角州上に，強い西風に対してつくられた築地マツの屋敷森に囲まれた散村が展開する

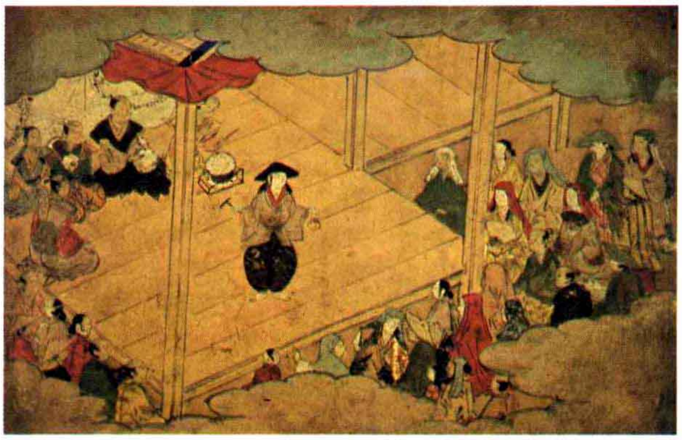
いずら【五浦】 茨城県の北東部，北茨城市大津町にある半島で，第三紀層の砂岩・ケツ岩よりなる高さ約40mの海食崖（かいしょくがい）が海に突出している。半島の中央部には五つの湾入が形成され，付近にはいたるところに岩礁がみられ，この一帯は北茨城県立公園に指定されている。ここは1906年（明治39）に岡倉天心*が日本美術院を一時東京から移したところで天心が建立（こんりゅう）し，現在は天心の別荘とともに茨城大学美術研究所となっている赤い六角堂があり，六角堂の構内には彼によってその画才を育てられた横山大観*が天心の〈亜細亜（アジア）は一つなり〉ということばを刻んだ碑がある。インドの詩人タゴール*も1916年（大正5）にここを尋ねている。〔味沢成吉〕

イスラエル（共和国）［State of Israel, Medinat Israel］ 西アジア，地中海東端に面する共和国。第1次世界大戦後旧オスマントルコ領シリアの一部であったパレスチナに建てられたユダヤ人の国。面積21,000km²。人口378万（1978年推）。首都エルサレム。

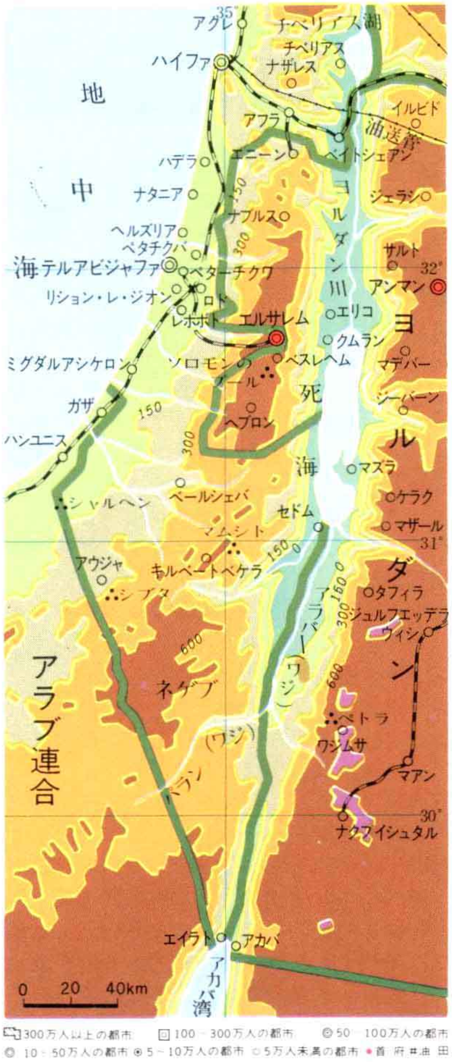
〔自然・住民〕北端はレバノンから延びるレバノン山地の末端であるガリラヤ高地が占め，高地の南部にはエスドレロン平野の穀倉地域が開け，ここは地中海性気候を示している。南部は雨が少なく，砂漠（さばく）および半砂漠が広がり，ネゲブ砂漠が著名。東を流れるヨルダン川は深い渓谷（けいこく）を刻み，シリアのフラ湖を水源にガリラヤ湖を通って死海に注ぐ。西には地中海沿岸に狭長な平野があるが雨量は少ない。住民は，かつてはアラブ人が80％近くを占めていたが，第1次世界大戦後世界各地のユダヤ人が来住して急増し，反面，アラブ住民の生活圏は急縮して多数の難民を生じた。1966年現在では，住民の86％がユダヤ人でユダヤ教を信じ，残りの大部分はアラブ人でイスラム教を信じている。首都エルサレムは，ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地とされ，このため宗教上の対立が根強く残っている。文盲率はきわめて低い。

〔産業・経済〕急速に増加した来住者のため未開地の開拓に努力する一方，工業化も進められ，1964年の雇用統計では農業12.9％，工業25.3％となり，いまや西アジア第1の工業国となった。しかし，食品加工・繊維などの軽工業が主で，重工業はまだ発展途上にある。また，キブツ*とよばれる完備した協同組合組織の農村建設は世界の注目を集めている。おもに麦類・柑橘（かんきつ）類（オレンジ）・オリーブなどを栽培しているが，主食の麦類は自給できない。輸出は，工業部門ではここ数年研摩ダイヤモンドが首位にあって，繊維がこれに次ぎ，農業部門では〈ヤファのオレンジ〉の名で知られる柑橘類（57万t，1966）と，オリーブが特に多い。輸出入ともアメリカ合衆国が最大の相手国で，イギリスがこれに次ぎ，1966年の輸出総額は4億7,600万ドル，輸入総額8億1,000万ドルであった。鉄道が地中海岸を走り，自動車道路も整備されて，ハイファとテルアビブジャファは重要な港である。

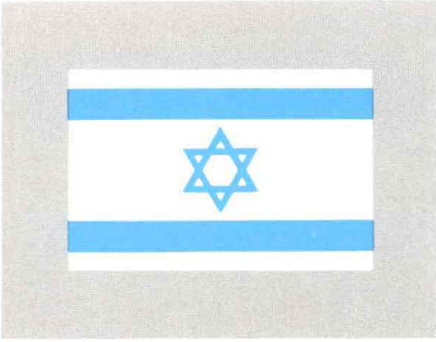
〔政治〕建国の日は浅いが，その歴史はアラブ人との争いの連続であった。イギリスは第1次世界大戦中，トルコを倒す目的から，当時トルコ領であった各地のアラブ人に将来の独立を約束して反乱を起こさせる一方，ユダヤ人にも，1917年のバルフォア宣言をもってユダヤ人の故郷パレスチナをアラブ人の手から取りもどすと約束した。この矛盾が，その後の混乱と対立を招いている。1967年のイスラエルとアラブの紛争ではイスラエル軍が圧倒的な勝利を収め，ヨルダン川右岸のヨルダン領全域を占領してスエズ運河の東岸まで占領した（→中東戦争）。成文憲法はまだ制定されていない



出雲の阿国 お国念仏踊りの図《国女歌舞伎絵詞》から 京都大学付属図書館蔵



イスラエル


イスラエルの国旗　1897年，ユダヤ人国家の建設をめざすシオニズムを政治運動として推進しようとした第1回シオニスト会議で決定された。青と白はユダヤ教の祈禱のとき用いる肩掛けの色で，中央の〈ダビデの星〉はユダヤのシンボル


イスラエル　ナザレの街頭風景。道ばたで観光客用の絵はがきや書籍や民芸品などを売っている

が，クネセットとよばれる議会(120名)が大統領の任免を議決する。首相は大統領によって任免され，閣員は議席があってもなくてもよいことになっている。〔今井留吉〕

【歴史】BC3000年ごろから，カナン(現在のエルサレム)にセム系のカナン人が定住していたらしい。しかし，BC1700年ごろ，アラビア半島北辺の遊牧民であるセム系アラム人が侵入し，他種族と融合してイスラエル人となったと考えられる。カナンにはいったイスラエル人は飢饉(ききん)にあい，一部はエジプトに移住した。しかし，エジプト新王国時代の奴隷酷使に耐えかねて，BC1230年ごろイスラエル人はモー*ゼを指導者としてエジプトを脱出した。このとき，モーゼは神に祈り，十*戒を受け，唯一神ヤーウェの信仰が定まった。BC1200年ごろ，再びカナンにもどったイスラエル人の前に，エーゲからフィリステ人(ペリシテ人)とよばれる海上民族の侵入があり，BC1050年ごろから約50年間はその支配下にあった。この時代に民族的自覚が高まり，BC995年，サウルを王として部族連合国家ヘブライ王国(イスラエル王国)が形成された。第2代ダビデ*王のとき，都をエルサレムに定め，第3代ソロモン*王は国制を整え，〈ソロモンの栄華〉とよばれる繁栄を築いた。彼は強力な常備軍を組織し，ヤーウェ神殿や大宮殿を建設した。また，紅海の沿岸貿易にも乗り出して，その勢力はアラビア半島の南の端にあるシバの女王が朝貢するほど強大であった。しかし，国民は重税に苦しんだ。ダビデの死後，王国の北部はイスラエル王*国，南部はユダ王*国に分裂した。ユダ王国はアラムと組んでイスラエル王国と対抗したが，イスラエル王国に敗れた。このころ，貧富の差は拡大し，道徳の退廃やバアル神などの異神崇拝が著しくなった。これに対し，紀元前8世紀半ばのアモス・ホセアのような予言者が現われ，神の名で社会正義を主張した。しかし，国家間の対立はやまず，さらにそれぞれの国家は外国勢力と結びついて混乱は増大した。当時アッシリアではサルゴン王の全盛期で，BC722年イスラエル王国は滅ぼされ，一部の人々はユダ王国にのがれた。

ユダ王国は紀元前7世紀半ばのマナセ王が異教を入れ，バアル神教をつくり，アシュタルテ(→イシュタル)を祭った。このころ新バビロニアが優勢になり，ユダ王国はしばらく朝貢したが，のちこれをとりやめたため，ネブカドネザル2*世の攻略にあい，首都エルサレムを占領された。BC597年，ネブカドネザル2世は約10,000人を捕虜としてバビロンに連れ去った。残された人々の王となったゼデキアは，新バビロニアに反抗したが破れた。ネブカドネザル2世はエルサレムの城壁を破壊し，ヤーウェ神殿を焼き，再び王以下の住民をニップー*ルに移した。いわゆるバビロン捕*囚である。イスラエル人は困苦の中でヤーウェ信仰を強め，民族の団結を強めた。BC538年，アケメネス朝ペルシアのキュロス2*世が新バビロニアを滅ぼし，イスラエル人は幽囚を解かれて故地に帰ることを許された。ユダの人々は王国を再建し，ユダヤ教を確立した。BC63年，イスラエルがローマに征服されると，ローマの支配下にユダヤ王国を建てた。ローマに対しては数回にわたって反乱を企てたが，いずれも失敗し，かえってローマの弾圧を招いて，彼らの多くはローマ帝国内の各地に散った。その後，故国を失ったユダヤ人は世界各地に移り住み，長い苦難の生活を送ったが，その宗教的紐帯(ちゅうたい)はいっそう強まった。

1880年ごろ，ユダヤ人の一部はパレスチナに移住しはじめた。当時は移住者の数も少なく，すでに6世紀から1,000年以上もパレスチナに住みついたアラブ人との対立はさほど激しくなかった。しかし，故国パレスチナにもどり国家を再建したいという願いはしだいに高まり，1897年スイスのバーゼルで開かれた第1回シオニスト会議では，パレスチナに民族的郷土を建設することを決議した。第1次世界大戦中の1915年，イギリスはアラブ人に対してパレスチナの地を与えるというマクマホン宣言をする一方，1917年，ユダヤ人の経済援助を得るため復帰運動を支持するバルフォア宣*言を出すという，矛盾した外交政策をとった。第1次世界大戦後，国際連盟はユダヤ人を支持したが，パレスチナは1922年イギリスの委任統治下にはいった。ユダヤ人の移住が急増し，多額の資金をもとにしてアラブ人の中小企業を圧迫し，アラブ人労働者を搾取したので，対立は激化した。1920年最初のユダヤ人虐殺事件が起こり，1929年には〈嘆きの壁〉事件となっている。その後もユダヤ人移住は続き，1938年にはパレスチナ総人口の30％をユダヤ人が占めた。

第2次世界大戦後，国際連合は1947年にパレスチナ分割案を提示，ユダヤは受諾しアラブは拒否した。未解決のうちに1948年イギリス軍が撤兵した。直ちに戦いとなったが，その中で1948年5月14日イスラエル共和国宣言がなされた。初代大統領にはワイズマン，首相にベン-グリオ*ンが推された。パレスチナ戦争は1年間続き，90万のアラブ人難民がヨルダン王国などに流入し大きな社会問題となった。この間，アメリカ，ソ連に続きイギリス・フランス・イタリアも共和国を承認し，紛争も国際連合の調停で一応は収まった。だが1956年のスエズ事

件*をきっかけにイスラエル軍はエジプトに侵入し，67年にはシナイ半島全域を支配した。しかし，1982年4月，78年のアメリカをふくむキャンプ・デービッドでの3国首脳会談の合意事項どおり，シナイ半島はエジプトに全面返還された。〔高山高雄〕

イスラエルおうこく【イスラエル王国】BC 926ごろ～BC 722年，パレスチナに成立した王国。ソロモンの栄華で知られるヘブライ王国が分裂し，北半部がイスラエル王国，南半部がユダ王国となった。イスラエル王国は都をサマリアに定め，ヘブライ12支族中10支族を含み，領域はユダ王国より大きかった。土地は肥えていて農業を中心としたが，エジプト・ダマスカス・フェニキアなどとも通商し，経済的に繁栄した。しかし，貧富の差の拡大と異教の侵入で国内は混乱し，何度も王朝が変わり，BC 722年アッシリアのサルゴン2世に滅ぼされた。〔高山高雄〕

イスラエルじん【イスラエル人】⇨ヘブライ人

イスラマバード［Islamabad］パキスタンの首都。西パキスタンの北部にあり，旧都ラワルピンジの近郊に，ギリシアの都市計画者ドキシアデスの設計により建設され，1967年1月正式に首都となった。市街の面積は900km²に及び，この区画の中には旧ラワルピンジ市が全部組み込まれる。マルガラ丘陵のふもとには大統領官邸をはじめ新しい官庁が集まり，ラワルピンジ地区は商・工業地区としての役割を果たす。人口34万9,000(1968)。〔別技篤彦〕

イスラムおんがく【イスラム音楽】⇨アラビア音楽

イスラムきょう【イスラム教】⇨次ページ

イスラムきょうしゅこく【イスラム教主国】⇨サラセン帝国

イスラムびじゅつ【イスラム美術】イスラム教*の支配下につくられた美術をいう。地域的には北アジア・日本などを除くアジアのほぼ全域からスペイン・北アフリカに及び，時代的には622年のヘジラ*から現代に及んでいる。したがって，その現われ方はきわめて多様であるが，アラビア人の性格とイスラム教の教義がその基調をなし，シリア地方のヘレニズム美術とササン朝イラン・東ローマ美術の影響のもとに成立した。教義によって，植物以外の生物や人間の姿を絵画・彫刻に表現することを禁じられていたため，いわゆる偶像の礼拝を行なう宗教画は存在せず，この美術の中心は建築および装飾美術である。地域によって異なるが，モスク*を主とする建築の様式的な完成はほぼ13～14世紀である。装飾美術では幾何学文・植物文・装飾文字などが複雑にからみあった抽象的形式が驚くべき発達を遂げた。また《コーラン*》の書写を尊ぶことから装本の芸術が発達した。人間および生物の表現の禁止は，世俗的美術の場合には終始厳格に守られたわけではなく，ことにペルシアにおいては装飾本のさし絵のミニアチュール*として15～17世紀に大いに盛んになり，イスラム美術の中でも独自な魅力のある部門を実現している。また，工芸の水晶細工・陶器・織物・絨毯(じゅうたん)などの工芸も独自な発達を遂げた。なお，中世スペインでもマウル美術とよばれるアルハンブラ宮殿*は，その独自の発展をみせた遺例である。〔末吉雄二〕

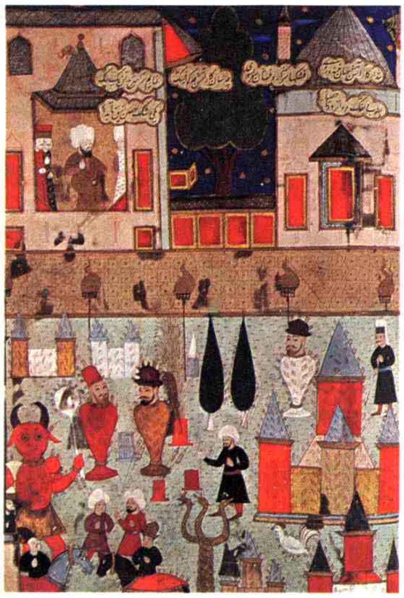
イスラムぶんか【イスラム文化】イスラム教とアラビア語を基調に生まれた文化。サラセン文化ともよばれるが，アラビア人によってのみ築かれたのでなく，古い伝統文化をもったイラン人・シリア人・ユダヤ人の貢献するところが多い。西アジアの伝統文化だけでなく，インド文化やビザンチン帝国を通じて古代ギリシアの科学が摂取され，水準の高い文化が育った。世界史上からみると，イスラム文化はヨーロッパや東洋の文芸復興(ルネサンス)のさきがけをなすもので，重要な意義をもつ。アラビア人の政治勢力は9世紀中ごろからすでに弱まりつつあったが，イスラム文化は8～9世紀のウマイヤ朝・アッバス朝に始まり，10～12世紀に最盛期となる。13世紀中，モンゴル人の世界制覇(せいは)をこうむり，中断したが，一方ではモンゴル人によってイスラム文化が広く東西世界に広まった。

イスラムの学問には〈アラビアの学問〉と〈非アラビアの学問〉の区別がある。前者は聖典《コーラン*》を中心としたアラビア固有の学問で，イスラム神学・法学，それに歴史学・地理学が加わる。後者はギリシアやインドから導入された外来の学問で，哲学や自然科学が主である。

神学や法学は，《コーラン》やマホメットの言行《スンナ》を解釈・研究することに始まり，重点の置き方，見解の違いで多くの学派を生んだ。その体系化にはキリスト教・ユダヤ教，さらにはギリシア・インドの哲学の影響がみられる。イスラムでは，《コーラン》や《スンナ》に説かれる教えが人間の行為に関して神の定める絶対的なもので，人間の自由な意志・活動はありえないとするのが一般的で，正統派であるスンニー派の考え方でもある。これに対しムタジラ派のように，ある程度の人間の理知・自由思想を認めようとする合理主義の主張があり，アッバス朝カリフのマームーン*に擁護されて栄えたが，永続しなかった。また，歴史・地理学ではマホメットや教友の伝記を編纂(へんさん)することに始まり，次いで一般的な歴史・地理学の著述に発達した。自然科学では主としてインドやギリシアの外来の学問によって啓発された。アッバス朝マームーンの治世中，バグダットに〈バイト-アル-ヒクマ(知恵の家)〉という研究機関がつくられ，多くの文献が収集され，そこでアラビア語への翻訳・研究がなされた。翻訳だけでなく，独自の著作もなされ，特に数学・医学・天文学・物理学・錬金術などの自然科学の発達がめざましかった。ヨーロッパ人は12世紀ごろから，これらのイスラム科学を学びはじめ，ラテン語に翻訳して取り入れた。われわれになじみのalcohol（アルコール)・alkali（アルカリ)・algebra(代数)などの用語はアラビア起源である。また，文学では《千夜一夜物語*》のほか，近世にはペルシア文学が栄えた。➔イスラム美術 ➔アラビア音楽〔小谷仲男〕

イスラムれき【イスラム暦】現在広く中近東諸国で使用されている太陰暦*。回教暦・マホメット暦ともいう。古アラビア暦(太陰太陽暦*)から発達したものである。

→346ページ





イスラム美術 (左)ムハマッド5世の観覧の日に科学者が花火の打ち上げを行なう情景 紙本着色 トルコ 1597 (右)ダマスカスの大モスク祝祭殿 シリア 705

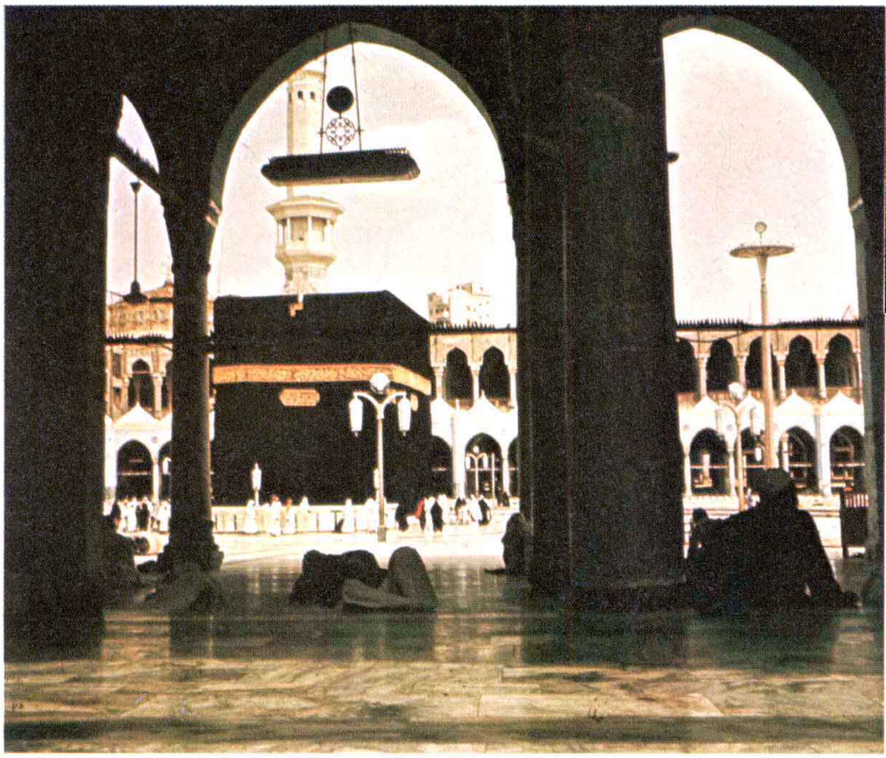
イスラム教

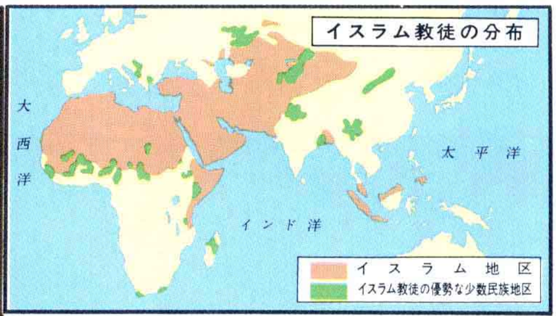
7世紀前半，アラビア半島のメッカ・メディナを中心に，マホメット*によって開かれた宗教。以後，仏教・キリスト教とともに世界の三大宗教の一つに発展した。《コーラン*》をその聖典とする。〈イスラム〉とは〈(神に)身をささげること〉を意味する。

〔起源と発展〕 6世紀後半，当時の二大帝国であったビザンチン帝国とササン朝ペルシアの拮抗(きっこう)は慢性的戦闘状態に陥り，ビザンチン帝国による紅海貿易も衰えていたことも合わせ，東西貿易はアラビア半島にその中継地を求めた。この要求に応じたのは5世紀末ごろメッカを征服し，そこに定住していたクライシュ族であった。彼らはアデンに陸揚げされたインドの香料や奢侈品(しゃしひん)，イエメンの乳香などをシリア・イラクに運んだ。こうしてメッカは6世紀末ごろにはすでにアラビア半島の隊商貿易を独占的に支配する商業の中心地として繁栄していた。メッカの社会は基本的には砂漠(さばく)の遊牧社会と同様に部族組織に基づいて構成されていた。人々の安全はおのおのの部族・氏族の保護によって保障され，部族組織と結合した諸観念は拘束力をもってはいたが，それらが商業利益の障害となる場合は，無視されることも多かった。すなわち，商業の発達は旧来の部族主義とあいいれない個人主義をもたらしていたといえよう。そのため，氏族の有力者たちは寡婦・孤児などの貧しい成員の救済など，従来の義務を十分に果たそうとはしなかった。換言すれば，部族社会は生産関係の変化に伴って，崩壊の途上にあったのである。

部族社会の信仰形態は一般的にアニミズム*に基づいた一種の多神教であり，メッカのカーバ神殿には各部族が持ち寄った多数の偶像が安置され，アッラー*を主神とするアッラート・ウッザー・マナートの三女神が崇拝されていた。また，ばく然とした一神教を奉ずる者もおり，《コーラン》では彼らを〈ハニーフ〉とよんでいる。これはメッカの国際貿易，とりわけシリアとの交易に帰因するキリスト教(ネストリウス派*)の影響によるものであろう。旧来の道徳律の崩壊とそれに基づく社会不安，それに加えてユダヤ教・キリスト教の影響(63年のエルサレム陥落後，ユダヤ人は半島を南下し，ヘジャーズ地方を中心に定住していた)，こうした状況に鋭敏に反応したのがマホメットであった。彼は時おり，都市の喧噪(けんそう)を避けて瞑想(めいそう)生活を送るうちに不思議な体験をしはじめたが，それを全能の神アッラーの召命と解し，クライシュ族の人々に伝道を開始した(610ごろ)。このころ彼が強調したのは神の恩寵(おんちょう)とそれにこたえるべき人々のつとめについてであった。これは富を最大の理想とし，貧しい成員の救済という義務を怠っていた氏族の有力者に対する鋭い批判を含んでいた。この意味において彼の興した新宗教運動は社会改革的色彩を強く帯びていたといえよう。最初はこの批判を無視していた大商人たちも，彼の新運動が彼らの政治上のメッカ支配に対する脅威であることを悟ると，直ちに激しい対抗運動を開始し，それを旧来の宗教思想に依拠して行なった。ここに至って本質的にはメッカの政治的支配権の争奪戦であったマホメットと大商人の争いは，唯一神か多神かを争う様相を呈することとなった。《コーラン》において神の唯一性と終末論の教義が強調されるようになったのはこれ以後のことである。

当時メッカの人々はすべて商業のみによって生計を得ており，大商人の商業操作と密接に結合していた。したがって大商人の迫害はイスラム教への改宗の決定的な障害となった。政治的な動機から敵対する大商人たちを宗教思想のみで教化することの不毛性を悟り，布教の拠点を他に求めていたマホメットは，同胞相争う内部分裂に疲弊し，不偏不党の〈調停者〉を求めていたヤスリブの人々に迎えられた。622年，マホメットはヤスリブに遷行し(ヘジラ*)，この町は以後，預言者のマディーナ(町)，すなわちメディナとよばれた。ヘジラはマホメットにウンマ(宗教共同体)建設の場を与えただけでなく，メッカ征服の基地を提供した。彼はメディナに政治・宗教組織体としてのウンマの確立をあらゆる面で推進する一方，メッカの弱体化をその目的として，メッカの隊商の略奪を開始した。また彼はそれと並行して，あるいはそれを達成するために，メッカ・メディナ周辺，さらには北方の遊牧部族との同盟の締結に力を注ぎ，彼がメッカの無血征服(630)に成功したころから急速に広がり





イスラム教　イスラム教の第一の聖地であるメッカのカーバ神殿(中央の黒い布でおおわれている建物)。すべてのイスラム教徒はこの神殿に向かって礼拝する。また，イスラム教徒は一生に一度はメッカに巡礼することを義務づけられており，世界各地から多くの巡礼者が訪れる

はじめた同盟の輪は，彼の死(632)のころまでにはアラビア半島全域を包んでいた。マホメットはその同盟を通して全アラブをイスラムに召喚することに成功していたのであった。

マホメットの死後，その遺志を継いだ彼のカリフ(代理人)は半島を北に向かって拡大する政策をとった。大征服は第２代カリフのウマルのとき最も精力的に行なわれ，第３代カリフのウスマーン(在位644～656年)の治世のころまでには，東はペルシアの大部分，北はシリア全域，西は北アフリカの領域がカリフ政権の支配に帰していた。以後イスラム帝国は拡大を続け，ウマイヤ朝*・アッバス朝*はその最盛期には，東はインダス川，北はカスピ海，南はスーダンにまで及んでいた。この時期のカリフは預言者の代理人としての性格を失い，一般の専制君主と異なるところはなかった。イスラム帝国の拡大に伴い，イスラム教は広く人々に受け入れられ，世界宗教へと発展したが，それがいわゆる〈右手にコーラン，左手に剣〉ということばが示すように強圧的に行なわれたとするのは，その歴史過程にイスラム圏と長く激しい戦いを経てきたキリスト教圏の偏見にすぎない。イスラム圏拡大の過程で多神教徒・偶像崇拝者はイスラム教への改宗かさもなければ死かの二者択一を迫られたが，キリスト教徒・ユダヤ教徒は〈啓典の民〉として厚遇され，一般にはイスラム教への改宗を強要されることはなかった。イスラム教が広く人々に受け入れられた原因は，外的には〈イスラムの支配による平和〉の下でイスラム教徒たることの利点，内的にはイスラム教の宗教としての優越性に求められねばならない。

〔教義と風習〕 イスラム教はそれがユダヤ教・キリスト教の影響下に形成されたことから，基本的な教義(唯一神・創造・終末などの諸観念)をそれらに負っているが，独自の発展過程のゆえにそれらは変形され，さらに特有の教義・風習も形成されたが，これらのうちには旧来の宗教思想を新しい意義づけの下にイスラム教に組み込んだものも多い(巡礼など)。教義・風習の源である《コーラン》は生活一般に関してさまざまな規定を設けており，後代の法学者・神学者はそれらをシャリーア(聖法)として確立した。これはイスラム文化の一大特色である。またイスラム教徒として，信じ行なわなければならないものとしては，〈六信〉〈五柱〉がその代表的なものとされた。

〈六信〉 ①アッラー：創造・終末をつかさどり，この世のできごとのすべてに通暁する。アッラー以外のものを崇拝することを〈シルク〉といい，最大の罪とされる。②天使：ジブリール(ガブリエル)・ミーカール(ミカエル)・イズラーイール・イスラーフィールを四大天使とする。《コーラン》はこのジブリールを介してマホメットに降されたとされる。天使に対立する存在は悪魔であり，これは人々を滅びの道に誘い込む。《コーラン》には悪魔としてイドリースの名がみえる。③啓示：《コーラン》はそれ以前のさまざまの預言者によって語られた啓示を確証し，封印するものであるとされる。《コーラン》をもって神の啓示は完了する。④預言者：《コーラン》には《新約聖書》《旧約聖書》に由来する預言者(アダム・ノア・アブラハム・モーゼ・イエス)とアラブの民間伝承に由来する預言者(フード・サムード)が言及されているが，マホメットは最後にして最大の預言者であるとされる。⑤来世：《コーラン》における来世はその描写がきわめて具体的であり，アラブの生活に即していることにその特徴がある。天国は清らかな水の流れる楽園で，人々は美酒を楽しみ，清浄無垢(むく)の妻にかしずかれて生活する。一方，灼熱(しゃくねつ)の地獄では人々はかまでゆでられ，煮え湯を飲まされるとされる。⑥定命：アッラーの決定ないし決定力を意味する。イスラム神学はまずこの観念をめぐって展開され，自由意志論と宿命論を生んだ。

〈五柱〉 ①信仰告白：〈アッラーのほかに神なく，マホメットは神の使徒なり〉と唱えること。この条定は《コーラン》にはみられず，これがイスラム教徒の重要なつとめの一つとみなされるようになったのはキリスト教徒のイスラム教への改宗が著しくなった７世紀末のことである。②礼拝：１日５回，日の出前・正午・午後・日没直後・就寝前に，メッカの方角に向かい，立礼・座礼・跪礼(きれい)を一定の順序で行なうこと。毎週金曜日にはモスク(礼拝堂)で，イマーム(導師)の指揮のもとに集団礼拝が行なわれる。また礼拝に臨む前に小浄(頭・両手・両足を洗う)か大浄(全身を洗う)を行なわなければならない。③断食：マホメットは最初，ユダヤ教のアーシューラーの断食を制度化したが，ユダヤ教徒との決別が決定されるや，これは新しい意義づけのもとにラマダーン(イスラム暦９月)に改められた。この間，健康な成年男女は夜明けから日没までいっさいの飲食物・香料・性行為を断たねばならない。病人・老衰者・妊婦・旅人などはこれを免ぜられるが，旅人・妊婦はのちに埋め合わせの断食をしなければならない。④喜捨：一定額の財産に対して課せられる一種の宗教税である。課税率は煩雑で時と地域により多少の差異はあるが，だいたいにおいて金・銀・商品は2.5％，農作物は10％である。また任意に行なうものを〈サダカ〉とよんで区別する。⑤巡礼：経済的にその能力がある者は一生に一度はメッカ巡礼を行なわなければならない。女性の場合は夫か他の信頼できる人物の同伴が要求される。成年男女がこの義務を果たすとハーッジとよばれて尊敬される(→巡礼)。

〈五柱〉に次いで重要なつとめとしては〈聖戦〉への参加があげられる。この〈聖戦〉という観念はヘジラ以後，イスラム共同体がメッカと対決したことの必然的帰結であったが，これはアラブの略奪的性格と結合し，以後のイスラム圏の飛躍的な拡大に決定的な役割を果たした。イスラム教に特異な規定としてはその他に食物(豚肉・死獣の肉・血)の禁忌，賭博(とばく)・高利貸し・養子の禁止などがあげられる。サウジアラビアでは禁酒がきびしく守られているが，これは同国が最も厳格な戒律を有するワッハーブ派を奉じているためである。《コーラン》は酔って礼拝に参加することを禁じているだけであり，以後の禁酒の戒律はこの規定の拡大解釈に基づいている。またイスラム世界に特有の一夫多妻制は《コーラン》第４章３節の規定によっているが，この啓示の直接の動機に対メッカのウフドの戦いにおいて，多数のイスラム教徒の戦死者が出，その妻子の生活の保障の必要に迫られたことにあったと考えられる。こうした起源を有する一夫多妻制は以後の対外発展の要求から維持され，現在に至っている。

〔分布と現代史的意義〕 現在のイスラム教徒の分布は地図にみるとおりであり，地表面積の３分の１を占めている。また信徒の総数は約４～５億と推定される。イスラム教徒が集中している国家はアラブ諸国(8,000万)のほかには，パキスタン(8,000万)，インドネシア(8,000万)，トルコ(2,500万)，イラン(2,000万)がおもなものであり，少数民族としてのイスラム教徒居住国としてはインド(3,000万)，中国(1,000万)，ソ連(2,000万)などがあげられる。アラブ諸国はその人々の大多数がイスラム教徒であるが，レバノンはその人々の過半数がキリスト教徒であり，アラブ諸国の中で特異な位置を占めている。

アフリカにおけるイスラム教とキリスト教の戦いは諸宗教の出会いという観点において，現在，世界史的にきわめて興味ある問題を提起しているが，このアフリカ民族争奪戦をイスラム教が有利に展開している理由としては，イスラム教が社会倫理的宗教であり，未開人に明解な生活の規範を示すことができること，イスラム教が人種問題をもたないことがあげられる。またイスラム圏の目下の急務は立ち遅れた〈近代化〉の問題であるが，イスラム教は現在，民族主義運動の基礎理念として作用する一方，近代化の重大な障害となっている。イスラム教の将来は，イスラム教がいかに近代化という歴史的動向に取り組むかにかかっているといえよう。〔牧野信也〕

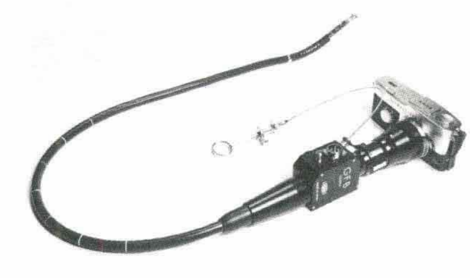
イスラム暦の元期は，西暦622年7月15日(ユリウス暦)で，この日を紀元1年1月1日としている。ユリウス暦のたとえば，現在われわれが用いているグレゴリオ暦1958年7月17日はイスラム暦1378年1月1日にあたる。この暦法では，1日は夕方から始まる。これは月の初日は，夕方西の空に見える新月を観測して決めるためである。1日は24時に分けられ，もとは昼と夜をそれぞれ12等分したが，季節によって昼夜の長さが違うので1時間の長さも季節によって伸縮した。しかし最近は1日を24等分する時制が採用されている。1年の最初の月は1月であるが，太陰暦であるため，この1月は季節とは全然関係なく，33.6年の周期で全季節を1周する。➔暦　〔木下　宙〕

いするぎ　【石動】　⇨小矢部市

いずれいぼ　【伊豆鈴慕】　琴古流尺八の古典本曲の曲名。旧来の伝承曲表(おもて)18曲のうちの一。伊豆の虚無僧が吹いていた曲を黒沢琴古が習得・編曲したものといわれている。

いせ　【伊勢(国)】　三重県の過半を占める旧国名。勢州。北は尾張(おわり)(愛知県)・美濃(みの)(岐阜県)・近江(おうみ)(滋賀県)，西は伊賀(三重県)・大和(やまと)(奈良県)，南は志摩(三重県)・紀伊(和歌山・三重県)に接し，東は伊勢湾を隔てて尾張の知多半島，三河(みかわ)(愛知県)の渥美(あつみ)半島に相対する。もと桑名・員弁(いなべ)・朝明(あさけ)・三重・鈴鹿(すずか)・河曲(かわわ)・奄芸(あんき)・安濃(あの)・壱志・飯高(いいたか)・飯野・多気・度会(わたらい)の13郡。現在は桑名・四日市・津・鈴鹿・松阪(まつさか)・伊勢などの7市と9郡。国府は鈴鹿郡(鈴鹿市)にあった。平安時代には平氏の根拠地となり，鎌倉時代には山内首藤(やまのうちすどう)・平賀・大内・北条(ほうじょう)・金沢の諸氏が，室町時代には畠山(はたけやま)・高・仁木(にき)・石堂・一色・土岐の諸氏が守護となったが，南北朝から室町時代を通じて国司北畠氏が勢力をふるった。戦国末期，織田信長(のぶなが)は北畠氏を滅ぼして伊勢を奪ったが，徳川氏が覇権(はけん)を握ると本国をさいて桑名・亀山(かめやま)・神戸(かんべ)・安濃津・長嶋(ながしま)などの諸藩に分け，別に山田奉行(ぶぎょう)を置いて伊勢神宮の地を支配した。廃藩置県後，度会・安濃津の2県を経て，1876年(明治9)三重県となった。　〔黛　弘道〕

いせ　【伊勢(市)】　三重県南部にある市。伊勢神宮の鳥居前町として繁栄し，1906年(明治39)宇治山田の名で市制施行。1954年(昭和29)周辺4村を合併して現市名に改称。人口10万6,000。伊勢平野南端，宮川河口付近を占め，参宮線と大阪・名古屋から直通する近畿(きんき)日本鉄道・国道23号線・167号線が集まる。伊勢神宮の参拝者は年間600万人を越える。また，東方海岸の二見ケ浦(ふたみがうら)，伊勢志摩スカイラインが通ずる朝熊ケ岳(あさまがだけ)(553m)の景勝地があり，



胃生検　ガストロファイバースコープ



イセエビ

伊勢志摩国立公園の観光基地となる。産業三大別人口比は9：34：57で，みやげ物の製造・販売などの中小企業が多いが，近年は繊維工業も興っている。

いせ　【伊勢】(？～878？)　平安初期の女流歌人。藤原継蔭の子で，宇多天皇の皇子敦慶親王の寵を受け，女流歌人中務(なかつかさ)を生む。三十六歌仙(かせん)のひとりで，《古今集》では小野小町に次ぐ女流と称せられる。作品は情熱を内に秘めた典雅なものが多い。《古今集》(22首)・《後撰集(ごせんしゅう)》(70首)をはじめ，勅撰集所収の歌は約180首。家集に《伊勢集》がある。

いせいげり　【胃性下痢】　胃に原因があって起こる急性および慢性の下痢。狭義には強い慢性萎縮(いしゅく)性胃炎のため無酸症となり，消化酵素の分泌が十分でなくなるために起こる下痢をいう。消化酵素は主として膵液(すいえき)・胆汁(たんじゅう)・腸液に含まれている。これらが分泌されるには，胃液の酸度を十二指腸壁が感じることによって，ガストリンというホルモンが血中に遊出されることによる。無酸症ではこの機構が働かなくなるので，消化酵素が十分に分泌されず消化不良を起こして下痢となる。慢性萎縮性胃炎は胃の老化現象の一種で20歳以上の人は程度の差こそあれほとんどの人に認められるが，無酸症自体は非常に少ない。症状は下痢・口臭・悪心(おしん)・心窩部痛(しんかぶつう)・もたれ感などがあるが，医師の治療により症状は改善される。なお，広義の胃性下痢にはアレルゲンが胃にはいった場合(アレルギー性下痢)，胃切除により消化不良を起こした場合，胃液が多く分泌されすぎる病気〈ゾリンガー-エリソン症候群〉の場合などがある。治療はいずれも医師に相談しなければならない。　〔吉田　彰〕

いせいけん　【胃生検】　胃内に鉗子(かんし)を挿入(そうにゅう)して採取した胃粘膜(粘膜筋板まで採取可能)を顕微鏡検査し，診断に供することをいう。胃生検法は大別して吸引式胃生検法と，直視式胃生検法とに分けられる。前者はウッドらにより始められた方法であるが，盲目的であるため，病変部からの生検が困難である。現在は，直視下に病変部を観察して生検を行なう後者のほうが広く一般化している。従来，胃鏡による直視下生検が行なわれていたが，術式の困難なこと，採取部位に限度があること，患者の苦痛が多いことなどが欠点であった。近年，グラスファイバーを用いたガストロファイバースコープの導入によって，生検用のファイバースコープが製作され，臨床的に用いられて多大の成果をあげている。胃レントゲン検査・胃内視鏡検査などで確診を得ない際にも，胃生検法により直接癌(がん)細胞を証明できるので，胃細胞診とともに，特に早期胃癌に対して有力な診断方法ということができよう。➔ファイバースコープ　〔後藤義隆〕

いせいたい　【異性体】　同じ組成式をもつが，原子の結びつき方など構造が異なるために物理的または化学的性質の異なる物質が2種以上存在するとき，これらの化合物を互いに異性体といい，このような現象を異性という。炭素化合物には異性体がきわめて多い。配位化合物の化学が発展するにしたがって有機および無機の分野に広く認められてきた。構造異性・光学異性・幾何異性・互変異性などがある。➔構造異性体　➔立体異性体　➔互変異性体

いせえび　【伊勢蝦・伊勢海老】　甲殻(こうかく)類・イセエビ科。体長30cmくらい，まれに35cmに達する。外骨格はかたく，頭胸部は円筒形，腹部はやや平らで，長いひげ(第2触角)をもつ。このひげは体長をわずかに越え，動かすと〈ギイー〉というきしみ音が出る。ひげ・頭胸部には鋭いとげがはえていていかめしいが，おくびょうで昼は岩の間に潜み，夜間活動して，貝，ウニ，小形の甲殻類などを捕食する。夕方，岩の間に長い刺し網を張りめぐらして，網にかかったのを，早朝引き揚げる。繁殖力が弱く，禁漁期を設けたり，小形のものをとるのを制限したりして，資源保護をしているが，産額は少ない。美味で高価である。努力はなされているが，養殖は成功していない。インド・太平洋水域に広く分布し，日本ではほぼ茨城県以南の太平洋岸と，九州の西岸に多く，日本海側にはほとんどいない。岩の多い数メートルから10数メートルの所にすむ。最大の敵はタコで，イセエビはこれを非常に恐れる。名の起こりである三重県よりも，長崎県の漁獲高のほうが多い。イセエビの体色は黒みがかった赤色だが，南の海に多いイセエビの仲間のゴシキエビ・ニシキエビは，はでな色彩をしてい

る。〔菅野　徹〕

いせおおはし【伊勢大橋】三重県の北部にあり，揖斐(いび)川と長良(ながら)川にかかっている国道1号線の橋で，現在の橋は1934年(昭和9)に完成した。長さは1,111mで，道路橋としては琵琶湖(びわこ)大橋・銚子(ちょうし)大橋に次いで第3位の長さである。東岸は桑名郡長島町，西岸は桑名市。ここは江戸時代には東海道の〈七里の渡し〉とよばれ尾張の宮(熱田)から桑名まで海上7里を渡船によった所で1870年(明治3)にはじめて橋ができた。〔浅井得一〕

いせおんど【伊勢音頭】民謡の曲名。広くは江戸時代に伊勢神宮近くの川崎や古市の遊女が客のために歌ったものや，神宮を建て替えるための材木をひくときの木遣歌(きやりうた)も含まれるが，今日ではふつう，これらを融合してできた〈伊勢は津で持つ，津は伊勢で持つ〉の歌詞で始まるものをさし，これは〈ヤートコセーヨンヤナ〉で始まる長い囃詞(はやしことば)をもっている。

いせおんどこいのねたば【伊勢音頭恋寝刃】歌舞伎(かぶき)の脚本。4幕7場の世話物*。近松徳三(とくぞう)作。1796年(寛政8)大阪角(かど)の芝居初演。伊勢古市での殺傷事件を脚色した一夜づけ狂言で，話の筋はありふれているが，演出のおもしろさで名高い。郷土色が豊かで〈あいそづかし〉の典型をみせ，〈油屋〉と〈奥庭〉の場の夏姿もあざやかで，浄瑠璃(じょうるり)にも移されている。

いせき【遺跡】過去の人類生活になんらかのかかわりをもち，形が大きくて位置を変更することの困難なものをいう。遺跡をその性格によって分類すれば，村落・都城・墳墓・祭祀(さいし)・記念物などに分かれ，ほかに立地による分類，現状による分類なども可能である。いずれも，考古学の研究対象として重要な存在である。

いせこう【伊勢講】伊勢参宮や伊勢神宮崇拝を目的に組織された信仰上の団体。室町末期から江戸時代を通じて盛んだった。伊勢参りの路銀(講銭)を積み立て，その共同出資のもとに代表者を順番に派遣するので，代参講ともいう。出発に際しては全講員は宿に集まって宴を張り，村境まで見送る。帰参のときも〈サカムカエ(坂迎え)〉といって村境まで出迎え，宿で神札が講員一同に贈られ，酒宴を催すというのが一般的慣習であった。講への参加は任意というところが多いが，部落じゅうの加入を強制しているところもあって，その信仰圏が村組織と重なり合っている場合も多い。これは伊勢信仰の強く，かつ深いことを示すもので，他の代参講・遊山講(ゆさんこう)などと性格をことにする。〔直江広治・山路勝彦〕

いせごよみ【伊勢暦】地方暦の一。日本での暦の使用は欽明(きんめい)天皇15年(554)百済(くだら)からの暦博士の来朝に始まる。奈良朝以前には具注暦*・七曜暦・中星暦の3種があった。七曜暦は1684年(貞享1)改暦されてのち明治に至るまで用いられ，また具注暦は貞享(1684〜1687)以後各地でかな暦として普及した。このような頒暦はその普及の結果，伊勢暦・京暦・丹生暦(にふごよみ)・奈良暦・三島暦・会津暦など，地方に独特なものをもたらしたが，内容は一致しており，いずれも京都から原稿を受けて，頒暦の許可を受けたものである。他に仙台暦(せんだいごよみ)・金沢暦・泉州暦・出雲暦(いずもごよみ)などあるが，内容は前者に及ばない。1872年(明治5)太陰暦が廃止されてからは，頒暦は伊勢神宮の手に統一されたが，1947年(昭和22)以降，正暦の作成は東京天文台に移り，伊勢暦もこれを基に編集・発行されている。



伊勢志摩国立公園

100万人以上の市　30〜100万人の市　10〜30万人の市　5〜10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

いせさき【伊勢崎(市)】群馬県南東部の市。江戸時代は酒井氏二万石の城下町で，六斎市が立つ市場町であった。1940年(昭和15)市制施行。人口105,500。粕(かす)川・広瀬川に沿う平野部を占める。産業三大別人口比は11：46：43。伝統的な伊勢崎銘仙(めいせん)の産地で，機業関係の諸工場が分布し，関連工場は農村地帯にまで広がる。最近は，ウール地着尺の生産が盛んで，輸送機械器具・機械・電気器具などの近代工業も盛んである。両毛線・東武鉄道伊勢崎線に沿い，赤城(あかぎ)山の南登山口にあたる。

いせざきちょう【伊勢佐木町】横浜市中区にあり，海岸通りからほぼ垂直に1〜7丁目まで，デパートや商店・飲食店が軒を連ねる横浜一の繁華街である。この土地は江戸末期に吉田勘兵衛(よしだかんべえ)が埋め立てた吉田新田の一部で，横浜開港以来，海岸寄りの元町が外人向きの商店街となったのに対して，日本人向きの商店街として発達し，〈ザキ〉の愛称で浜っ子(横浜市民)に親しまれている。日本最初の西洋式公園である横浜公園や横浜港を中心とする関内ビジネスセンターに近く，関内駅から国電で東京方面と直結する。〔浅井得一〕

いせし【伊勢氏】桓武(かんむ)平氏を称し，鎌倉末期，俊継(としつぐ)が伊勢守(いせのかみ)となってから伊勢氏を称した。貞継(さだつぐ)が室町幕府政所(まんどころ)執事となってより代々世襲し，幕政に隠然たる勢力をふるった。貞親(さだちか)は応仁(おうにん)の乱の一因をなした人物として有名だが，足利(あしかが)氏衰亡とともに衰えた。のち江戸幕府に礼法の家として仕え，貞丈(さだたけ)は故実家として有名。伊勢新九郎(北条(ほうじょう)早雲)もここの出という。〔村尾元忠〕

いせしまこくりつこうえん【伊勢志摩国立公園】三重県，志摩半島の二見ヶ浦*(ふたみがうら)から五ヶ所湾西岸付近までの一帯を占める。面積520.36km²。1946年(昭和21)，戦後はじめての国立公園に指定された。海岸は典型的なリアス式海岸で，鳥羽(とば)湾・的



伊勢志摩国立公園 (左)二見ケ浦。二見ケ浦の夫婦岩で，海岸から約100mのところにある。最近，大波で頂部が転落し，補修復旧された (右)志摩半島真珠養殖の中心英虞湾の鳥瞰写真。複雑な海岸線を描くおぼれ谷と養殖いかだの織りなす模様が美しい。写真は英虞湾奥の神明付近の上空から望んだもの

矢湾・英虞(あご)湾・五ケ所湾の澄んだ入り江が美しい。二見ケ浦は海面に突起する夫婦岩(めおといわ)の奇岩で知られ，半島先端の大王崎は切り立った岩崖(がんがい)に太平洋の荒波がぶつかり豪快なながめである。入り江や島のある，波の静かな英虞湾や五ケ所湾は真珠の養殖が盛んで，外洋で働く海女(あま)の姿も見ることができる。五ケ所湾奥の南勢町は五ケ所ミカンを産し，西岸は暖地性植物のシダの群落地で，海岸一帯にハマユウが咲き温暖である。国鉄と近鉄が通じている観光基地の伊勢市には伊勢神宮*があり，五十鈴(いすず)川上流の一帯には，アカガシ・アラカシ・シラカシ・クスなどの常緑広葉樹や，スギ・モミ・アカマツなどの針葉樹が茂る伊勢神宮林がある。伊勢志摩スカイラインは朝熊ケ岳(あさまがだけ)から鳥羽方面を展望でき，観光客が多い。〔木村東一郎〕

いせしょうにん【伊勢商人】 江戸時代，近江(おうみ)商人*とともに活躍した伊勢(三重県)出身の商人の総称。中でも松阪の出身が多い。江戸に多く進出し，〈江戸に多きものは伊勢屋・稲荷(いなり)に犬のくそ〉といわれた。商才に長じ，戦国時代から関東に進出し，さらに安土桃山時代には近江の日野商人の移住により，近江商人の商法の影響を受けた。江戸・大阪に出た伊勢商人は多く〈伊勢屋〉の屋号を用い，幕府や諸藩の御用商人*になる者も多かった。代表的伊勢商人に三井・殿村・富山・伊豆蔵(いずくら)・竹川などがあった。〔松尾 涼〕

いせじんぐう【伊勢神宮】 三重県伊勢市にある。皇大神宮(内宮(ないくう))と豊受(とゆけ)大神宮(外宮(げくう))の2宮の総称で，古くは〈二神大神宮〉〈内外宮(うちとのみや)〉ともよばれた。内宮の祭神は天照大神*(あまてらすおおみかみ)，神体は三種の神器の一つである八咫鏡*(やたのかがみ)。崇神(すじん)天皇のとき，豊鍬入姫(とよすきいりひめ)に命じて，これを大和(やまと)(奈良県)の笠縫(かさぬい)村に移し，さらに垂仁(すいにん)天皇の代に，皇女倭姫(やまとひめ)に命じて宇治山田の五十鈴(いすず)川のほとりに鎮座の地を求め，創建したのが内宮であるという。外宮の祭神は豊穣(ほうじょう)と食物の神豊受大神(とゆけのおおかみ)で，雄略天皇のとき丹波(京都府)から移祭したと伝えられる。内宮・外宮を合わせて本宮または正宮といい，その下に14の別宮，41の摂社，21の末社，22の所管社がある。

社殿は神明造りで，千木と堅魚木(かつおぎ)を載せた切妻平入りのかやぶき屋根は，古代の建築様式をいまによく伝えている。内外宮の造営は天武天皇のとき，20年ごとに新しく造営する式年造営制度が定められ，その費用は，奈良・平安朝までは神宮所領地からの収益でまかなわれた。式年遷宮*は戦国のころ中断したが，安土桃山時代に復活され，以後江戸末期の第55回までは幕府の費用で，明治以降1929年(昭和4)の第58回までは国庫負担で行なわれた。第2次世界大戦後の1949年に行なわれるはずであった第59回は戦後の荒廃で中止となり，1953年に寄付金を募って行なわれた。60回式年遷宮は1973年(昭和48)10月2日初めての民営で行なわれた。総工費45億円のうち，募金は34億1,484万に達している。

本宮の祭典としては，10月(昔は9月)の神嘗(かんなめ)祭(内宮は17日，外宮は16日)と，6月・12月の17日に行なわれる月次(つきなみ)祭とを三節祭りと称して最も重んじている。ほかに2月の祈年祭，5月と10月の14日に行なわれる神衣(かんみそ)祭りなどがある。

➔伊勢信仰 ➔伊勢講 〔佐野文哉〕

いせしんくろう【伊勢新九郎】 ⇨北条(ほうじょう)早雲

いせしんこう【伊勢信仰】 伊勢神宮に対する民間信仰。元来，伊勢神宮は国家の管理下に置かれていて，その参拝は皇族でもきびしく制限されていた。しかし中世以降，神宮に対する国家の統制がゆるみ，近世には御師*の活動もあって全国で伊勢講*やお蔭参り*が盛んに組織された。明治以降，皇大神宮札の発行によって伊勢信仰は国民的な信仰となったが，一方しだいに国家神道的色彩を強めていった。第2次世界大戦後，伊勢神宮は宗教法人となりその信仰は一部に強く残っている。

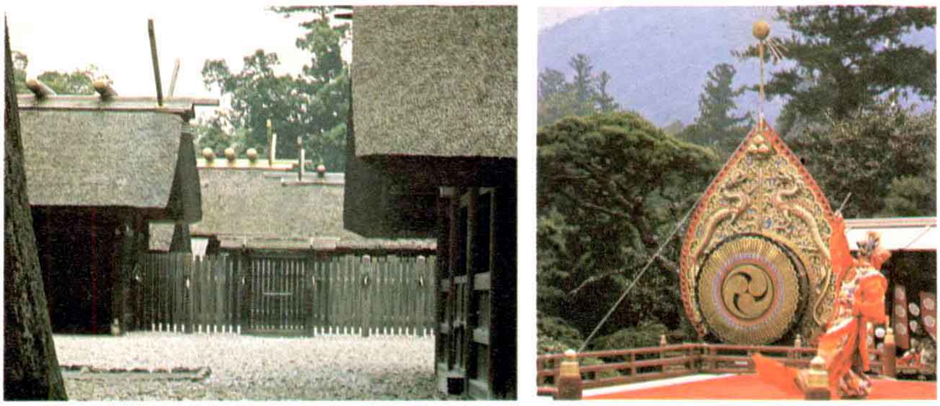
いせしんとう【伊勢神道】 ⇨度会(わたらい)神道

いせのうみ【伊勢の海】 雅楽の歌曲の一種である催馬楽*(さいばら)の曲名。1626年(寛永3)四辻大納言季嗣(よつじだいなごんすえつぐ)が古譜によって復活したもの。〈伊勢の海の清き渚(なぎさ)に，潮間(しおがい)に神馬藻(なのりそ)や摘まん，貝や拾はむ玉や拾はむ〉の歌詞によって，広く親しまれている。

いせのたゆう【伊勢大輔】 生没年未詳。平安中期の女流歌人，三十六歌仙*(かせん)のひとり。著名な歌人の多い大中臣(おおなかとみ)家に生まれ，藤原道長の娘彰子(あきこ)に仕えて紫式部*・和泉式部*(いずみしきぶ)らと親交があった。家集《伊勢大輔集》があり，歌合(うたあわせ)・勅撰集(ちょくせんしゅう)にも多数の詠歌が残っている。

いせは【伊勢派】 伊勢(三重県)の涼菟*(りょうと)・乙由*(おつゆう)らを中心にした蕉門(しょうもん)の一流派。麦林派ともいう。平易・低俗の句風により世間に流行し，その勢力は北陸地方・江戸にまで及んだ。しかし，俳諧(はいかい)の堕落をもたらしたとして美濃(みの)派*とともに非難を浴びた。

いせはら【伊勢原(市)】 神奈川県中央

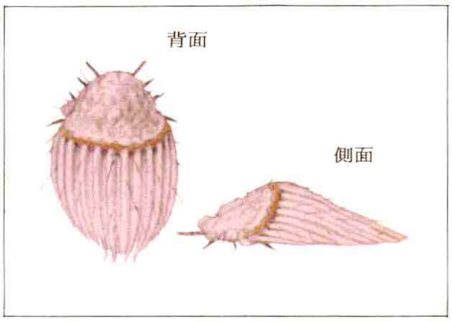


伊勢神宮 (左)右は四丈殿，左は内玉垣南御門，中央の金色の棟の建物が正殿 (右)毎年4月5～7日および秋分の日の前後3日間，神宮舞楽が奉納される

の市。1620年(元和6)に伊勢の人がきて，この付近の原野を開いたのが，地名のもとと伝えられる。1971年(昭和46)市制施行。大山の南東のふもとにあり，小田急電鉄小田原線に沿う。1954年(昭和29)に大山町ほか4村を合併。人口68,000。産業三大別人口比は11：40：49。伊勢原は市場町から発達した商業集落で，大山は大山参り*で知られる阿夫利(あふり)神社の門前町である。東京に近いので，最近は住宅地としての発展がめざましく，また1975年に東海大学付属病院が新設された。

いせへいや【伊勢平野】 三重県の北東部，鈴鹿(すずか)山脈・布引山地と伊勢湾*の間に発達した平野で，その中央に県庁所在地の津市がある。北は養老山地に，南は志摩半島の山地に限られる。鈴鹿山脈や布引山地東麓(とうろく)は断層で，急傾斜をなしており，その前面には丘陵が分布して，丘陵の東側は海岸平野になっている。鈴鹿川・安濃(あのう)川・雲出(くもず)川・櫛田(くしだ)川などには数段の河岸段丘がみられ，段階的な地盤の隆起があったことを物語っている。海岸線は，一般に単調な隆起海岸であるが，松阪(まつざか)市の付近は入り組んでいて，沈降海岸のような特色をみせている。

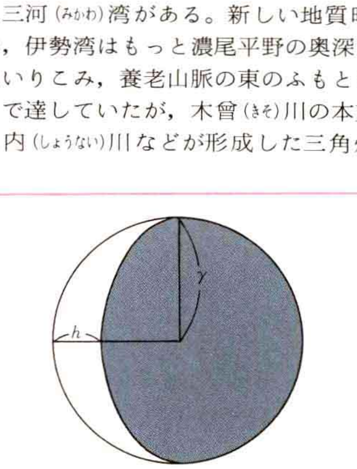
いせものがたり【伊勢物語】 平安前期の歌物語。作者不詳。その成立は，現存の流布本(定家本)の形になるまで次々に増補されたらしいところから，《古今和歌集*》と《後撰(ごせん)和歌集*》の間と思われる。構成は〈昔男ありけり〉〈昔男〉で始まり，和歌を中心とした小文125の集成で，内容は在原業平*(ありわらのなりひら)らしい主人公の〈初冠(ういこうぶり)〉から〈辞世の歌〉までの半生を物語っている。ここから，業平の手記や歌のメモなどを材料として，後人が編纂(へんさん)したものといわれる。しかし，すべてが業平の歌というわけではなく，当時の説話からの歌や《万葉集》の変形なども含まれ，それらがこの歌物語にはいって，いよいよ〈業平らしさ〉を高める役割を果たしている。なお，男女の愛情を中心としたこの物語の歌は，すぐれたものが多く，文章もまた簡素ながら美しい。しかも文・歌がよく映り合っている。《源氏物語*》をはじめとする多くの物語類に影を落としているばかりでなく，謡曲・浄瑠璃(じょうるり)にも素材を提供しているように後世への影響は大きい。〔木越 隆〕



イセリアカイガラムシ

イセリアかいがらむし【イセリア介殻虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・カイガラムシ科。ワタフキカイガラムシともいう。ミカン類その他の果樹・樹木の害虫。成虫の雌は楕円(だえん)形で暗いだいだい色，背面は著しく隆起し，黄白色のロウ物質を厚くおおう。卵嚢(らんのう)は長さ5～13mm，白色綿状で10数本の縦条がある。オーストラリア原産で，熱帯・亜熱帯に広く分布する。日本へは1911年(明治44)に台湾から苗木について侵入したといわれ，一時はその被害が心配されたが，天敵のベダリアテントウムシをオーストラリアから輸入して好結果を得た。これは生物的防除*の好例として知られる。

いせわん【伊勢湾】 本州の太平洋側のほぼ中央部にある大きな湾。日本海側の敦賀(つるが)湾とを結んだ線が，本州の最も狭い部分にあたり，ここに運河をつくることが話題となることがある。志摩(しま)半島と渥美(あつみ)半島によって太平洋と隔てられ，また，湾の東部に知多半島と渥美半島に囲まれた三河(みかわ)湾がある。新しい地質時代には，伊勢湾はもっと濃尾平野の奥深くまではいりこみ，養老山脈の東のふもとあたりまで達していたが，木曽(きそ)川の本支流や庄内(しょうない)川などが形成した三角州によって現在のようになったと考えられている。西側には，雲出(くもず)川や櫛田(くしだ)川などがつくった伊勢平野*がある。湾の北部は遠浅で，中央部では水深30m内外であるが，湾口付近には深さ100mに達する地点がある。ノリやハマグリの養殖が盛んで，イワシ・カレイ・ボラ・ヒラメ・タイがとれる。沿岸では名古屋と四日市の二つの港を中心として，工業地帯が形成されている。伊良湖岬(いらこみさき)から鳥羽(とば)まで，水中翼船・フェリーボートが通じている。〔浅井得一〕



位相＝h/γ

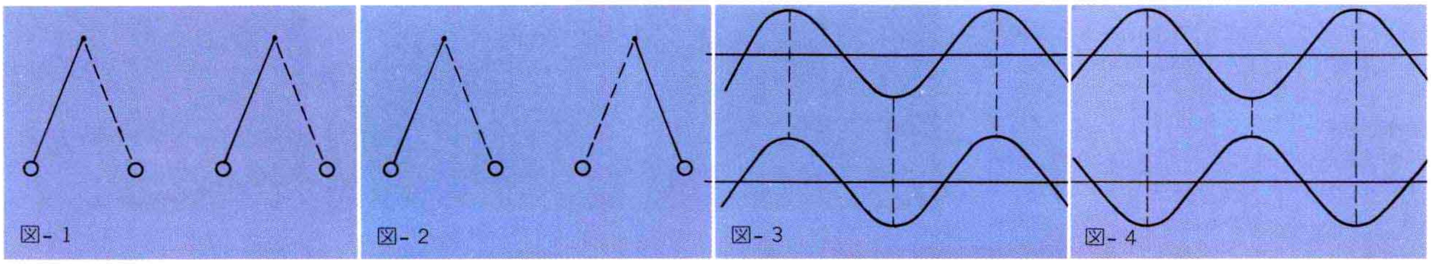
いぜん【惟然】 (1650ごろ～1711) 江戸前期の俳人。姓は広瀬，初号は素牛。美濃(みの)(岐阜県)関の生まれ。1688年(元禄1)東下する芭蕉*(ばしょう)に会い入門した。各地を放浪し，最晩年は故郷に隠棲(いんせい)。生来の天真爛漫(らんまん)の性質のままに軽妙な句風を展開し，惟然ふうとよばれる口語調俳諧(はいかい)を普及させた。《惟然坊句集》がある。

いせんこう【胃穿孔】 胃壁に穴があく現象で，胃潰瘍(いかいよう)・胃癌(いがん)・胃肉腫(いにくしゅ)などが原因で起こる。穿孔には完全穿孔・被覆性穿孔・穿通の3種がある。完全穿孔は腹腔(ふくこう)内に穿孔し，穿孔性腹膜炎を起こし，急激な痛みがあり重病となる急性汎発(はんぱつ)性腹膜炎の形をとる。被覆性穿孔は胃壁が完全には穴があいていない不完全穿孔で，穿孔部が直ちに隣接臓器によって被覆される場合もある。穿通は潰瘍が全胃壁を貫いているにもかかわらず，胃漿膜(しょうまく)面が隣接臓器と癒着(ゆちゃく)を起こしているもので，穿孔のうちで最も多い。胃穿孔は激烈な心窩部(しんかぶ)(みぞおち)痛の症状がある。〔吉田 彰〕

いせんじょう【胃洗浄】 急性薬物中毒などの際，すみやかに薬物などを体外に排除する目的で，早期に胃内容を洗浄する方法。太めのチューブを胃内に挿入(そうにゅう)し，微温湯や過マンガン酸液などの洗浄液を用い，くり返し十分行なう。なお，慢性胃炎治療の目的や炎症性変化の強い場合，収斂(しゅうれん)剤，石灰水，5％人工カルルス泉塩を用いて，胃内を洗浄することがある。

イーゼンハイムさいだんが【イーゼンハイム祭壇画】 ⇨祭壇画

いそいでおりろ【急いで降りろ】 ウェイン*の長編小説(1953)。閉鎖的な社会に反抗し，大学卒業後，窓ふき人夫や運転手な



位　相

どの職を転々とする主人公チャールズの冒険を，ピカレスク小説（悪漢小説）ふうに描いた痛快な作品。エーミスの《ラッキー・ジム》とともに〈怒れる若者たち〉の代表的な作品とみなされている。

いそう　【位相】

①天文学で，月・惑星の満ち欠けの度合いを表わす量。月か惑星は太陽の光を反射して輝いているので，月（惑星）と太陽および地球の相対位置が変化することによって満ち欠けが起こる。図の影の部分が欠けているところとすれば，位相はh/γで定義される。一方，月（惑星）の中心から見た太陽と地球の間の角距離をθとすると$\frac{h}{\gamma}=\frac{1}{2}(1+\cos\theta)$なる関係がある。$\theta=180°$のとき，すなわち太陽・月（惑星）・地球がこの順序に一直線に並んだとき位相は0となる。これを朔（さく）という。$\theta=0°$，すなわち月（惑星）から見て太陽と地球が同じ方向にきたとき位相は1となる。これを望という。月や内惑星ではθが0°から180°まで変化するから望にも朔にもなりうるが，外惑星ではθが0°から180°まで変化しないので朔にはなりえない。したがって，外惑星には新月のような現象は起こらない。〔木下　宙〕

②物理学で，単振動$x=a\sin(\omega t+\alpha)$において$\omega t+\alpha$を位相という。また，正弦波$y=a\sin2\pi(\nu t-\frac{x}{\lambda})$において$2\pi(\nu t-\frac{x}{\lambda})$を位相という。周期の等しい単振動をする二つの単振り子を同時に振動させるとき，両方の振動の位相が等しいときは二つの振り子は同じ向きにそろって振れ（図-1），位相がπだけ違うときは互いに反対の向きに振れる（図-2）。また周期・波長の等しい二つの正弦波の位相が等しいときは二つの波の山と山，谷と谷がそろい（図-3），位相がπだけ違うときは一方の山と他方の谷がそろう（図-4）。➔前ページ（図）

③数学用語。➔トポロジー

イーそう　【E層】　⇨大気　⇨電離層

いぞう　【遺贈】　遺言による財産の処分をいい，遺留分を害さないかぎり自由に認められている。遺贈によって財産を受ける者を受遺者といい，遺贈を履行する相続人を遺贈義務者という。遺贈には，包括遺贈と特定遺贈の2種類がある。前者は，遺産の全部あるいは一部など，その割合を指定して行なう遺贈であり，積極財産（プラスの財産）だけでなく消極財産（マイナスの財産）もまた受遺者に引き継がれる。それゆえ，包括受遺者については，相続人と同視して，相続人に関する規定が準用される（民法990条）。後者は，特定の具体的な財産的利益を与えることをその内容とするものである。受遺者には一定の負担を負わせること（負担付き遺贈）もできるが，受遺者はまた，遺言者の死亡後，遺贈を放棄することができる（民法986条）。遺贈は，遺言者の死亡以前に受遺者が死亡したときはその効力は生じない（民法994条）。なお，受遺者には，自然人のほか法人もなることができる。〔黒木三郎〕

いそうさけんびきょう　【位相差顕微鏡】　生物の細胞などのような無色透明な標本中の屈折率の相違を，明暗の像に変換して観察することができるようにした特殊光学顕微鏡。1935年オランダのゼルニケにより考案された。環状の絞りをもつ集光レンズと，環状の位相板をもつ対物レンズで構成される。標本を通る光は直接光と回折光に分かれ，直接光は位相板で4分の1波長位相変換と吸収が行なわれ，回折光と干渉させて屈折率の相違による明暗の像をつくる。細胞などを生態のまま観察できるので，生物学・医学方面で広く使われる。〔加藤定雄〕

いそうそくど　【位相速度】　一定の波形を保ちながら進む波において，その波形が空間を進んでいく速さ。➔波動



イソカイメン　クロイソカイメン



イソギク

いそうへんちょう　【位相変調】　⇨変調

いそうろう　【居候】　同居人，無能な食客，やっかい者をいう。語義は〈おります〉で，ただ世話になるという意味。地方によっては宿かり・かかりうどなどともいう。近世農村では，大家・旧家への労働力提供者として有用であったが，農業経営の縮小，小家の分立に伴って，その存在意義は薄れていった。

イソオクタン　［isooctane］　$CH_3C(CH_3)_2CH_2CH(CH_3)CH_3$　命名法からいうと2メチルヘプタンのことをいうが，慣用的には2,2,4-トリメチルペンタンのことをいう。天然の石油中に微量含まれる。工業的にはイソブチレンおよびイソブタンを原料として合成される。無色の液体で，典型的なパラフィン系炭化水素である。ガソリンの性能を上げるためにガソリンに混合される。なお，純粋なイソオクタンをオクタン価100としアンチノック性の標準として用いられている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

いそかいめん　【磯海綿】　海綿動物・イソカイメン科の総称。わが国には，オレンジ色のダイダイイソカイメン，黒いクロイソカイメンが，浅い磯にごく普通で，岩を平らにおおっているのがみられる。大きさは不定だが，普通は1 m²どまり。マットレスのような感触があるが，利用価値はまったくない。

いそがに　【磯蟹】　甲殻（こうかく）類・イワガニ科。甲の幅3cmほど。北海道以南・オーストラリア・ニュージーランドに分布する。内湾や磯の浅い所に普通。甲は緑かっ色，足に紫黒色の横じまがある。よくタコをとる際のえさに使われる。

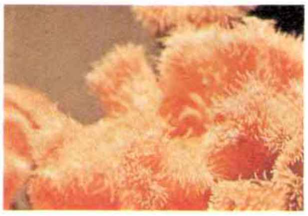
いそぎく　【磯菊】　双子葉植物・キク科。本州中部の海岸のがけにはえる多年草で，栽培もされる。茎は下部が曲がり，高さ30cm。葉は倒卵形であらい鋸歯（きょし）をもち，裏面



ミドリイソギンチャク



タテジマイソギンチャク



ヒダベリイソギンチャク



ヒオドシイソギンチャク



オオイボイソギンチャク



オヨギイソギンチャク

イソギンチャク

に白色の毛がある。秋に茎の上部に多くの枝を出し，黄色い頭花を多数つける。

いそぎんちゃく【磯巾着】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・六放亜綱・イソギンチャク目の総称。すべて海産で，岩や他の動物に着生したり，砂に埋まっている。一般に円筒形の体の中央に口があり，口のまわりに触手がはえている。触手には刺胞があって，えさの動物をしびれさせ，それをからめとって口に運ぶ。水から出したり，指で触れると，触手を縮めて全体が袋のようになるのでこの名があるが，英語では触手を広げたところをアネモネの花に見立てて，シーアネモネという。体壁の筋肉を収縮させてゆっくり移動するものが多いが，オヨギイソギンチャクのように，泳ぐものもある。マキガイイソギンチャク・ヤドカリイソギンチャク・カニイソギンチャクは，それぞれの相手動物に着生している。〔菅野　徹〕

いぞくねんきん【遺族年金】社会保険*などにおいて被保険者が死亡した場合，一定の要件に該当する遺族に支給される年金。一時金ではなく継続的に年金として所得保障をするもので，厚生年金保険法・船員保険法・各種共済組合法・戦傷病者戦没者遺族等援護法などにより対象者に支給される。

イソクラテス［Isokrates］（BC436〜BC338）古代ギリシアのアテナイの修辞家・弁論家。アッチカ散文の大成者といわれ，文体は技巧的で華麗。ゴルギアス*に学んだのちアテナイに学校を開き，弁論術・修辞学を中心に政治的才能の教育を行なった。彼自身は演説が不得手であったが，演説形式の政治論が残っている。アテナイとスパルタが和解共同してペルシアを討つべきであると勧めたBC380年の《パネーギュリコス（オリュンピア大祭演説）》は特に有名である。

いそご【磯子】横浜市の南部，東京湾に面する区。人口15万6,000。中心の磯子地区はかつては遠浅の海岸で，アサクサノリや貝の養殖が盛んに行なわれ，海水浴場としても知られていた。明治末期から昭和初期にかけて埋め立て工事が引き続き行なわれ，最近では根岸湾臨海工業地帯が形成され，日本石油・石川島播磨(はりま)造船をはじめ，機械・電力などの大企業が続々と進出した。埋め立て地に新磯子町が生まれ，国電根岸線は1964年(昭和39)に桜木町駅から磯子駅まで開通，さらに住宅団地として開発された洋光台をへて，1972年に東海道本線大船まで通じている。

いそごかい【磯砂蚕】環形動物・多毛綱・ゴカイ科。体長10cm内外，幅7〜8mm，淡かっ色。日本各地の干潮線付近の砂礫(されき)中に普通で，キスムシとかスナムシとよび，つりのえさとする。インド洋・オーストラリアにまで分布する。ゴカイに似るが，頭部の両側に4本ずつのひげがはえている。

いそしぎ【磯鷸】鳥類・シギ科。アジア・アフリカ・ヨーロッパで繁殖する。上



イ ソ シ ギ



イソニナ



石 上 神 宮

面は灰かっ色，下面は白色の小形のシギ。日本では本州中部以北・北海道の川原や海岸で繁殖する。秋にはほとんどのものが南方に渡り去るが，少数は本州中部以南で越冬する。おもに水辺で微小な水生生物を食べる。尾・体後部をはずむように振る動作や，水面近くを翼を震わせるようにして飛ぶ特徴があり，〈ツィツィツィツィ〉とさわやかな声で鳴く。➔シギ　〔安部直哉〕

イソップ　⇨アイソポス

イソップものがたり【イソップ物語】動物寓話集(ぐうわしゅう)。古代ギリシアのアイソポス*の作と伝えられるが，その原作については不明で，のちに付加された話が多い。BC300年ごろ，アレキサンドリアで集成されていたが，今日広く知られているものは14世紀にコンスタンチノープルの修道僧プラヌデスが編集したものである。そのほとんどが動物を主人公にして，そのことば・行動・性格に託して道徳や人生訓・処世訓などを説いている。日本では《伊曽保(いそほ)物語》の名で知られ，1593年に天草版ローマ字本・古活字国文体本・絵入り製版本があいついで訳され，国語学上貴重な資料になっている。〔斎藤高夫〕

いそなみ【磯波】海岸近くの砕け波。風浪やうねりが海岸に進んでくると，速度を減じ，高さを増し，波長が短くなって，波の前面の勾配(こうばい)が急になって砕ける。ふつう，砕け方によって2種類に大別される。波の前面が十分に切り立って，いっせいに巻きながら砕ける巻き波と，風や海底の状態によって波の前面が十分に切り立たぬうちに砕けるくずれ波である。特に，巻き波は海岸近くだけで見られる。

イソニアジド［isoniazid］化学名イソニコチン酸ヒドラジド。略称INAH(アイナー)。合成抗結核剤で，結核菌内に侵入して，その呼吸に必要な酵素の活動を阻害し，結核菌の発育を阻止する。結核菌発育阻止濃度は試験管内でストレプトマイシン*やパラアミノサリチル酸*より低い。単独またはほかの抗結核剤と併用して用いられ，一般に長期にわたり投与される。通常1週2回，1回0.15〜0.3gを内服するが，症状により連日使用する。副作用は少ないが耐性菌を生じやすい。〔鈴木郁生〕

イソニコチンさんヒドラジド【イソニコチン酸ヒドラジド】⇨イソニアジド

いそにな【磯蜷】軟体動物・腹足類・エゾバイ科の巻き貝。殻(から)の高さ4cmほど。殻表(かくひょう)は灰緑色，殻の口は濃い紫色，革質のふたがつく。房総以南の磯の潮間帯にきわめて普通である。

いそのかみささめごと【石上私淑言】本居宣長*(もとおりのりなが)の歌論書。問答形式で歌の定義・起原・原理・特質や歌と恋愛などを豊かな学殖による考証をもって論じた。歌は深い感動のおのずからなる発露で，道徳より〈もののあはれ*〉に密着するものとし，幽玄・余情を旨とすると結論されている。

いそのかみじんぐう【石上神宮】奈良県天理市布留(ふる)にある。布都御魂剣(ふつみたまのつるぎ)を祭り，これを神格化して布都御魂神，また佐士布都神(さじふつのかみ)，甕布都神(みかふつのかみ)ともいう。社伝によれば，布都御魂剣は，神武天皇が東征にあたってタケミカズチノカミから賜わった剣であるとし，社殿の創建は物部(もののべ)氏の祖，イカシウミノミコトが崇神(すじん)天皇の勅を奉じてこの地(石上)に建立(こんりゅう)したとしている。垂仁(すいにん)天皇の代に神刀1,000振りが奉納され，以来多くの刀剣が献納されてきたが，南北朝時代には節刀(武運を念じて出陣する武将に賜わる神刀)として散失し，くだって室町時代にはしばしば盗賊に襲われたりしたため，神剣を本殿裏に埋めて禁足の地とした。1874年(明治7)，これを発掘して神剣《七支刀》(国宝)1振り，鈴1，鉾(ほこ)の破片，勾玉(まがたま)類200余を得，本殿・宝庫に収蔵した。なお，拝殿は鎌倉時代初期の建造で，国宝に指定されている。祭礼は9月15日。〔佐野文哉〕

いそのかみでら【石上寺】石上神宮*の

神宮寺。《三代実録》貞観(じょうがん)8年(866)正月25日の記述からそのころの創建と考えられる。寺跡は,《大和(やまと)名所図会》によれば,奈良県天理市布留にあるという説と,同市石上にあるという説とがあるが,種々の理由から布留説が妥当である。この寺は,ほかに良因寺・良峯(りょうほう)寺・在原(ありわら)寺ともよばれていたらしい。

いそのかみのやかつぐ【石上宅嗣】(729～781) 奈良後期の文人。漢学者・万葉歌人の乙麻呂(おとまろ)(？～750)の子。参議・大宰帥(だざいのそち)などを経て,大納言に進む。淡海三船(おうみのみふね)とともに〈文人の首(おびと)〉とうたわれ,《経国集》《懐風藻(かいふうそう)》に漢詩を残すほか,《万葉集》にも和歌がみえる。また,芸亭(うんてい)を建て,その蔵書を好学の士の閲覧に供したと伝わる。

いそのくちあけ【磯の口明け】一定の期間に限って,海藻(かいそう)や貝類の採取を許し,一方では採取禁止期間を設けて資源の保護をはかるもので,口明けは採取禁止を解く時期をいう。ことに明治以降盛んになった。口明けの方法・時期,口明け期間の制限,口明けを許す住民の範囲,口明け・口止めを管理する者など,地方によってさまざまな形態がみられる。口明け制度の発達したところでは,共有山をもつ山村と同じように,なんらかの強い共同体規制があって,村民の生活統制にも及ぶ場合が多い。磯の口明けには,初漁を神に献じて口明け祭りをする地方もある。〔渡辺欣雄〕

いそばな【磯華】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・イソバナ科。群体は扇状に広がり,各枝は叉状(さじょう)に枝分かれするが,つねにほぼ一平面内に収まっている。群体の色は,変化に富み,黄・オレンジ・赤色などで,あざやかな色調はその名に恥じぬ美しさを誇るが,同類のサンゴとは違って,かわくと色つやを失い,しかも,もろくなるので装飾用にはならない。相模(さがみ)湾以南の浅い岩場に普通で,潮通しのよい壁面に群生する。水中では,花のように小さなポリプが開いているのを見ることができる。

いそはら【磯原】茨城県北東部,北茨城市の中心市街地で,市役所その他の公共施設が集まる。磯原駅には常磐(じょうばん)線が通じ,1896年(明治29)に常磐炭田が開発されて以来,石炭の積み出し駅として発展し,1968年(昭和43)には,駅北方に産炭地域振興事業団による磯原工業団地(20万坪)が完成した。しかし,常磐炭田そのものは1976年限りで全面的に閉山している。付近は北茨城県立自然公園の区域内で,白砂青松の海岸は海水浴場としてにぎわう。詩人野口雨情の生家がある。

いそひよどり【磯鵯】鳥類・ツグミ科。全長23～24cm。雄は胸腹部が濃いくり色,その他が暗青色で,じみだが美しい。旧北区南部に広く分布し,海岸から山地まであらゆる岩地にすむが,日本周辺では海岸の



イソバナ



イソヒヨドリ

岩地でしかみられない。主として地上でこん虫や小甲殻(こうかく)類をとり,岩頭や樹頂に止まって美しい声でさえずる。

いそぶし【磯節】民謡の曲名。明治中期ごろから三味線(しゃみせん)の伴奏で全国的に歌われた俗謡ともいうべきもの。発生は茨城県那珂湊(なかみなと)市祝町であるが,大洗の海岸のほうが宣伝に尽くしたため,その地を歌い込んだ〈磯で名所は大洗さまよ〉で始まる歌詞のほうがよく知られている。

イソフタルさん【イソフタル酸】m-フタル酸・ベンゼン-m-ジカルボン酸ともいう。m-キシレンあるいはm-ジアルキルベンゼンを酸化して得られる。無色の針状結晶。フタル酸のように無水物をつくらない。アルキド樹脂・ポリエステル樹脂・ポリアミド樹脂など各種合成樹脂の原料として重要。可塑剤の原料としても使われる。

イソプレン〔isoprene〕$CH_2{=}C(CH_3)CH{=}CH_2$ 2-メチル-1,3-ブタジエンともいう。天然ゴムの成分。天然ゴム・テレピン油などを熱分解すると得られる。石油化学工業的にもいくつかの製法があり,イソペンタンの脱水素やプロピレンの二量化生成物の熱分解などによってつくられる。また石油の熱分解副生成物としても得られる。無色,やや刺激臭のある液体。ブチルゴム・合成樹脂などの合成原料。特に単独で重合させて天然ゴムの合成も可能になっている。

いそべおんせん【磯部温泉】群馬県安中市にある温泉地。泉温15℃。泉質は炭酸含有泉で,胃腸病にきくといわれる。1783年(天明3)の浅間山の大噴火以後湧出(ゆうしゅつ)量が増したと伝えられる。名物磯部せんべいは明治初年に温泉熱を利用して焼いたのがはじまりという。奇岩と紅葉で知られる妙義山山麓(さんろく)の温泉地として観光客でにぎわう。信越線磯部駅下車。

いそまつ【磯松】双子葉植物・イソマツ科。暖地の海岸にはえる低木状の多年草。古い茎の皮は黒色鱗片(りんぺん)状となり,クロマツの幹のようになる。葉は長さ3～5cm,幅1cmで厚く,枝の先に多数つく。9月,茎の先端に1～2本の花序を直立させる。小穂は無柄で1～2花よりなり,膜質の大きな苞(ほう)に包まれる。おしべ5,めしべ1(花柱5本)。細長い果実をつける。

いそめ【磯蚯蚓】環形動物・多毛類・イソメ科の総称。オニイソメ・イワムシ・キボシイソメなど,つりのえさとして役にたつ種類が含まれている。すべて岸近くの浅い海底にすみ,体は細長く,多くの環節からなり,ミミズやゴカイに似たものである。地方によってはイワムシ・キボシイソメなどを単にイソメとよんでいる。

いそやけ【磯焼け】沿岸域の海藻(かいそう)や,移動性の少ない貝類などが,環境が急変した結果,枯死したり死滅したりする現象。豪雨などのため,大量の陸水が海にはいりこんだり,沖合い水が急に沿岸域に流れ込んで,塩分が激減したり激増したりした結果起こることが多い。そのため,磯が白変したり黄変したりして,あたかも火事の焼け跡のような景観を呈するので,この名があるといわれる。

イソリズム〔Isorhythmie〕ドイツ語で〈同一のリズム〉を意味する音楽用語。14世紀のモテットの音楽構造を示すために近代になってつくられた用語である。当時のモテットでは楽曲の統一を図る手段として,一定の長さで,一定の順序でくり返される音価の組み合わせが使われ,当時タレアとよばれた。このようなタレアの存在がイソリズムをつくるのである。なお,民族音楽学の領域では,同じリズム形の反復もこの名でよんでいる。〔徳丸吉彦〕

イソロイシン〔isoleucine〕α-アミノ酸の一種。分子内に2個の不斉(ふせい)炭素原子があるから,4個の光学異性体と2個のラセミ体が考えられる。自然界にはL-イソロイシンが存在し,これは苦みがある。必須(ひっす)アミノ酸の一つで,成人男子1日に1.4gが適量といわれている。

いそろくじょう【異素六帖】洒落本(しゃれぼん)の代表作の一。沢田東江の作。1757年(宝暦7)の刊。書名は宋(そう)代の仏教書《義楚(ぎそ)六帖》をもじったもの。国学者・儒者・僧侶(そうりょ)が集まり,遊里について〈太夫(たゆう)の揚屋入り〉など55題を出し,これにふさわしい《唐詩選》の名句に〈百人一首〉の下の句を取り合わせ,簡単な注を添えたもの。機知とうがちに富んでいる。

いぞんこうか【依存効果】〈欲望は欲望を満足させる過程に依存する〉とガルブレイスが《ゆたかな社会》(1958)で主張し,これを依存効果とよんだ。すなわち,欲望を満足させるための生産が増大すれば,これに

対応して消費が増大し，その中で示唆やみえを通じて新たな欲望がつくりだされるし，さらには広告や販売術を通じて積極的に欲望がつくりだされることもある，というのである。

いたいいたいびょう　【いたいいたい病】1968年(昭和43)年に認定された公害病。症状としては大腿痛(だいたいつう)・腰痛で始まり，やがて全身的に痛みが広がる。わずかなことで骨折を起こし，骨の変形も進行する。日夜の疼痛(とうつう)のため睡眠は妨げられ，呼吸運動も制限されるようになり，患者は〈痛い痛い〉とたえず訴えるためこの名がついたといわれる。1968年末現在で富山県神通川流域には患者57，濃厚容疑者34，容疑者24と報告されている。調査の初期にみられたのはすべて更年期後の女性であったが，男性にも認められる。しかし，男性では骨の症状を呈する者はきわめてまれである。骨症状のみならず腎臓(じんぞう)所見なども加わっているためと慢性に進行するので，発病年齢は正確にはわかりがたいが50歳前後といわれる。

本病が重金属カドミウムの慢性中毒であることを最初に発表したのは萩野(はぎの)・小林・吉岡(よしおか)で1962年のことである。神通川水系のみに患者が発生していること，職業・労働・貧富にあまり関係がないこと，上流の鉱山の生産の増大に伴って患者が多発していること，患者の骨その他にカドミウムが多量に見いだされ，この地区の米・豆・川魚・土・用水中にも他に比べて多いこと，さらに動物実験に基づいてカドミウムと本症の関係を主張した。本病だけで死亡することは少ないが，余病を併発する者が多い。ビタミンD療法が行なわれるようになってから重症者は少なくなった。予防対策としては公害病として認知された現在，工場廃液の衛生処理が根本的なものであり，さらに上水道の普及も重要である。

〔金子義徳〕

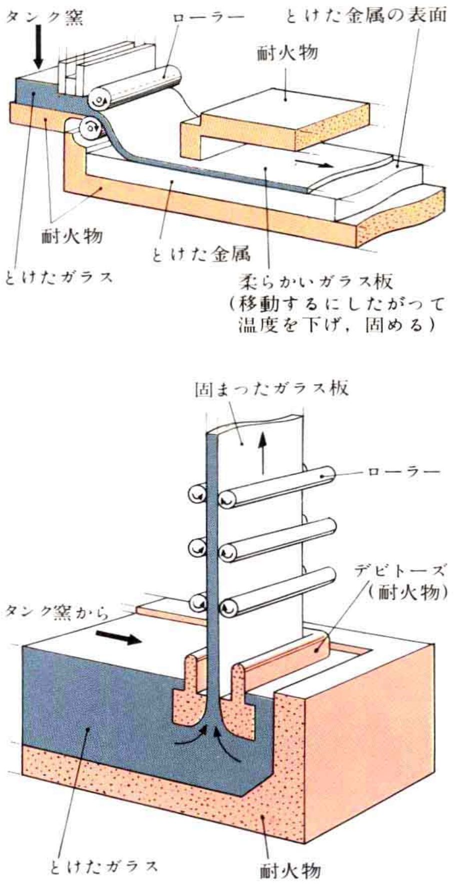
いだいけいしょう　【遺題継承】江戸時代の数学書にある出題解答の方法。《塵劫記*(じんこうき)》の1641年(寛永18)版の巻末には，読者に解かせる問題(遺題)12問がある。これは12年後に榎並和澄(えなみともすみ)著《参両録》で解答されるとともに，榎並もまた《参両録》に遺題を提出した。それ以後前者の問題を解き，自分のくふうになる問題を載せるというリレー式の出題解答が流行し，江戸初期の数学は急速に高度な内容となり，関孝和*(たかかず)をはじめ多くの数学者を生むきっかけとなった。〔下平和夫〕

いだいなギャツビー　【偉大なギャツビー】　フイッツジェラルド*の小説(1925)。第1次世界大戦後の若い世代の生き方を描いた代表作の一。酒の密売によって成金となったギャツビーが，かつて貧しさのゆえに奪われた恋人を金の力で取りもどそうとするが，かえって射殺されてしまうという悲劇が，ニック-キャラウェイという語り手を通じて語られる。洗練された文体と緻密(ちみつ)な構成をもち，個人の悲劇の中にアメリカの東部と中西部の対比を描き出している。

〔井上謙治〕



板垣退助



板ガラス　(上)フロート式
(下)フルコール式

いたがきせいしろう　【板垣征四郎】(1885〜1948)　陸軍軍人。岩手県に生まれる。佐官時代から陸軍部内の革新将校として知られ，1931年(昭和6)関東軍高級参謀在任中，満州事変勃発(ぼっぱつ)の中心人物となる。1938年第1次近衛(このえ)内閣の陸相，平沼内閣にも留任した。その後，中国派遣軍参謀長・朝鮮軍司令官を歴任し，降伏時はシンガポール第7方面軍司令官。極東国際軍事裁判*で処刑された。

いたがきたいすけ　【板垣退助】(1837〜1919)　政治家。土佐藩出身。幕末には倒幕派に投じ，戊辰(ぼしん)戦争に参加して会津戦争に功があった。明治政府の参議となったが，征韓論(せいかんろん)をめぐる対立から後藤象二郎*(しょうじろう)らと野に下り，1874年(明治7)日本最初の政党である愛国公党*を結成し，民選議院設立建白書*を提出，その後一貫して自由民権運動*の先頭に立って，高知で立志社*を興した。1881年国会開設の詔勅が発布されたのち自由党*を結成して党首となった。1882年岐阜において凶漢に刺された。同年の外遊費用の出所が三井家*であったのを非難され，翌1883年帰国。民権運動が激化して，あいつぐ地方暴動事件となったのを恐れて自由党を解党した。1887年一代華族論を主張して再度辞退したすえ伯爵となり，1890年帝国議会が開かれると，立憲自由党を組織して総理となった。1896年第2次伊藤(いとう)内閣の内相。1898年最初の政党内閣である隈板(わいはん)内閣の内相となったが，これを最後に政界を去った。

いたがみ　【板紙】　紙類は厚さまたは単位面積あたりの重量で紙と板紙に大別され，厚くて重いものを板紙とよぶ。しかし紙と板紙の境界は明瞭(めいりょう)でなく，アメリカでもいちおう厚さ0.3mm以上を板紙と区分しながら，むしろ用途による分類のほうが適切という意見が強い。わが国でも商習慣に従って，次の種類の総称と考えたほうがよい。**〈種類〉**①段ボール原紙：段ボール*の製造原料で，ライナーと中芯(なかしん)原紙に分類される。②白板紙：表層に白色の紙料をすき合わせた板紙で，食料品・化粧品などに用いる高級紙器その他に使われ，マニラボール*と白ボール*に分類される。③黄板紙：わらパルプ*を主原料にしてつくった黄色の下級板紙で，紙箱・びんせんの裏表紙などに用いる。④チップボール：下級故紙および新聞故紙を主原料とした板紙。用途は紙箱その他で，玩具(がんぐ)用の箱に多い。⑤色板紙・建材厚紙：屋根の下ぶきなどに用いるルーフィングの厚紙その他。**〈製法〉**クラフトパルプ*・セミケミカルパルプ*・わらパルプ・ぼろ・故紙などを原料とする。クラフトパルプあるいはセミケミカルパルプのみで単層の紙をつくる場合もあるが，たとえば表裏層にさらしクラフトパルプ，中層に故紙というように，湿紙を2～数層すき合わせてつくる場合が多い。➔紙　➔抄紙機

いたガラス　【板ガラス】普通板ガラス・みがき板ガラス・フロート板ガラス・型板ガラス・網入り板ガラス・特殊板ガラスなどをいう。普通板ガラスは最も普通にみられるもので，厚さ2～5mmぐらい。とけたガラスを図のように引き上げてつくるが，平面性はよくない。みがき板ガラスは，2本のローラーの間から高温の柔らかいガラスを引き出し，冷却後みがいたもので，平面性がよく，ショーウインドー・高級窓ガラス・とびら・鏡などに用いられる。厚さは2.5～20mmぐらい。フロート板ガラスは，

柔らかいガラスを溶融金属の表面に浮かしながら引っ張って仕上げたもので，みがかないので製造の速度が速く，しかもよい平面性をもっているので，最近ではみがき板ガラスに代わりつつある。型板ガラスは模様を浮き彫りしたローラーで，ガラスの表面に好みの型をつけたもの。網入り板ガラスはガラス板の中に金網を入れたもので，割れても飛び散らない特徴があり，防火の作用もある。特殊板ガラスには安全ガラス*・強化ガラス*・複層ガラス・熱線吸収ガラス*などがある。複層ガラスは2枚の板ガラスの間に減圧乾燥空気を封じたもので，断熱・防音の効果があり，東海道新幹線の車両にも使われている。種類は軟質ガラス*にはいる。➔ガラス　〔境野照雄〕

いたくはんばい　**【委託販売】**　メーカーが流通業者に製品を出荷する場合，所有権はメーカーがそのまま保持し，流通業者に販売のみを委託する方法をいう。販売が実現したとき，委託者は売上金額の中から一定割合を手数料として流通業者に支払う。この方法では，流通業者の側からすると，販売が実現するまでは代金を支払う必要がなく金融面で有利であること，また，メーカーにとっては，手数料制であるためある程度の価格維持がなされると同時に適正在庫の維持およびよりよい販売記録の作成が可能となるという利点がある。しかし，メーカーにとっては，製品の代金回収が販売完了まで不可能なこと，販売店の在庫品管理の費用，製品の損害の費用などいっさいを引き受けねばならない，などの欠点がある。この方法が採用されるのは，委託者が市場状況に不案内な遠隔地での販売の場合や，流通業者が信用力および販売能力をもち，委託品の販売が有利に行なわれると判断する場合である。　〔清水　晶〕

いたくぼうえき　**【委託貿易】**　外国の仲介業者に物品の販売・買い付けを委託して行なう貿易。この貿易の中心は輸出で，新たな市場に販路を開拓するにあたって，その地の有力商人と結んで，その信用を利用するとともに，直輸出のきっかけをつかもうとする。委託を受ける者は，多く国際問屋業を営み，販売または買い付け手数料をおもな収入としているので，コミッション-マーチャントとよばれる。

いたくらかつしげ　**【板倉勝重】**（1545～1624）　江戸初期の幕臣。伊賀守(いがのかみ)。三河(みかわ)（愛知県）に生まれ，はじめ僧となり，のち還俗(げんぞく)して家を継ぎ，徳川氏に仕える。1586年（天正14）駿府町奉行(すんぷまちぶぎょう)となり，1590年徳川氏の関東入国に際して江戸町奉行に任ぜられ，1601年（慶長6）京都所司代*に起用された。たびたび加増されて山城（京都府）などに一万六千石余を領した。豊臣(とよとみ)氏の勢力下にあった京都の新政確立に尽力し，徳川家康(いえやす)の信任が厚かった。　〔善積美恵子〕



いたこ　死者の口寄せを行なういたこ（左）。青森県下北半島恐山



潮来町　潮来十二橋。潮来町の対岸加藤洲部落の中央水路で，一枚板をかけた橋をくぐる。観光地となったため，水郷の昔の風情が失われつつある



イタチ

いたくらしげまさ　**【板倉重昌】**（1588～1638）　江戸初期の武将。勝重の二男。重宗(しげむね)の弟。内膳正(ないぜんのしょう)。近習出頭人として徳川家康(いえやす)に近侍。大阪冬の陣に講和の軍使をつとめた。三河(みかわ)（愛知県）深溝(ふこうず)の領主（一万五千石）。1637年（寛永14）島原の乱*には征討軍の大将として九州の諸大名を率いて戦ったが鎮圧できず，幕府が松平信綱(のぶつな)を派遣したのを知り，非力を恥じて，1638年元旦(がんたん)原城総攻撃を行ない戦死。〔善積美恵子〕

いたくらしげむね　**【板倉重宗】**（1586～1656）　江戸初期の武将。勝重の長子。周防守(すおうのかみ)。徳川秀忠(ひでただ)に近侍し，1620年（元和6）父のあとを継いで京都所司代*となる。職にあること30年。父とともに名所司代の名が高く，私心を去るため障子を隔てて茶をひきながら訴訟を聞き，公平を旨としたという。1656年（明暦2）下総(しもうさ)（千葉県）関宿城主，五万石を領した。

いたこ　巫女(みこ)の一。巫女の名は地域によって異なり，東北地方では〈いたこ〉とよばれている。盲目の巫女で，一定の修行ののち神がかりして，特定の神仏を守り本尊とする。人の依頼を受けて口寄せ*を行なうが，生霊(いきりょう)を寄せる生口，死霊を呼び出す死口，吉凶を示す神口などがある。

いたこ　**【潮来(町)】**　茨城県行方(なめかた)郡の町。北浦と北利根(きたとね)川にはさまれている。水郷筑波(つくば)国定公園*の中心で，潮来十二橋や水雲橋があり，潮来節*に〈潮来出島のまこもの中で，あやめ咲くとはしおらしや〉とあるように，アヤメ・ハナショウブ・カキツバタの名所である。また，早場米の産地で，水田の往来に舟を利用しているのがみられる。古くは板来(いたく)といい，江戸時代を通じて東北地方と江戸を結ぶ水運の要地であった。人口21,000。

いたこでじまの　**【潮来出島の】**　端唄(はうた)の曲名。うた沢*でも歌われている。幕末に江戸で作曲された。〈潮来出島のまこもの中で，あやめ咲くとはしおらしや〉のうたいだしから，この名がある。常陸(ひたち)（茨城県）潮来の舟唄の歌詞をとって，江戸遊里のはやり唄ふうにつくられ，流行歌となった。

いたこぶし　**【潮来節】**　茨城県潮来地域（北利根(きたとね)川北岸）起源の民謡であるが，歌詞のみが端唄(はうた)・うた沢の《潮来出島の*》に残されていて，旋律は残っていない。18世紀末日本全国に流行したといわれている。同じ地域の民謡《あやめ踊り》《潮来甚句(じんく)》《潮来音頭(おんど)》にも歌詞の影響がみられる。

いたち　**【鼬】**　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。雄は体長30～37cm，尾長12～22cmだが，雌は著しく小さい。手足の指の間には水かきがあり，つめは引っ込めることができない。シベリア・中国・朝鮮・日本（北海道を除く）などに分布し，平地ないし低山の水辺に多く，しばしば人家内にもすむ。夜行性で多くは地上で単独で生活し，性は残忍で獲物を殺すのを好み，血を吸い脳を食うだけで捨てることが多い。ネズミ・小鳥・ヘビ・トカゲなどを生食する。毒ヘビ・ノネズミの天敵としてきわめて有効で，毛皮はミンクの代用とされる。〔今泉吉典〕

いたづけ　**【板付】**　福岡市東郊の地区。御笠(みかさ)川流域の沖積地(ちゅうせきち)で，古くから博多(はかた)・太宰府(だざいふ)などの文化中枢地と接して，農地が開発された。周辺部は〈倭奴国*(わのなのくに)〉の中心部にあたると推定され，考古学上重要な板付遺跡*から弥生(やよい)式土器・磨製石斧(ませいせきふ)・磨製石剣などが発掘されている。1944年（昭和19）に陸軍の飛行場がつくられ，第2次世界大戦後，アメリカ軍が接収して拡張を重ね，板付飛行場と改称した。福岡市の中心部から車で約10分の近距離にあり，福岡空港とし

て，東京・大阪および九州各地への国内線をはじめ，沖縄・朝鮮・香港(ホンコン)などへの国際定期便がある。アメリカ軍基地と併用されているため，運営上不便なことが問題視されており，また，1968年九州大学構内にアメリカ軍ジェット機が墜落したことから板付基地の移転が具体化しつつある。近年は国道３号線の沿線に工場が立ち並び，水田地帯には住宅地が進出して，都市化傾向が著しく進んでいる。〔浅井得一〕

いたづけいせき【板付遺跡】 福岡市板付に所在する遺跡。遺跡は低台地上にある弥生(やよい)時代の代表的遺跡で，九州地方における土器編年の標式遺跡として知られる。1916年(大正５)発見されて以来，数回の発掘調査が行なわれ，集落を巡る周溝(しゅうこう)，竪穴(たてあな)群，井戸などとともに弥生時代の最古の土器・磨製石斧(ませいせきふ)・磨製石剣・石包丁・焼米などが検出されている。

いだてん【韋駄天】 インドの天神の名。梵語(ぼんご)skanda(スカンダ)の音写〈私建陀(しけんだ)〉の建を韋に誤写したと思われる。元来はバラモン教の神で，のち仏教の僧または伽藍(がらん)の守護神となった。増長天の八将の一つで，魔王が仏舎利を奪って逃走したのをすみやかに追跡し，奪回したと伝えられる。俗に疾走することを〈韋駄天走り〉というのは，これに由来する。

いたどり【虎杖】 双子葉植物・タデ科。山や野のいたるところにはえる大形多年草。茎は斜めに伸びて，高さ50～150cm。芽の出たてはたけのこに似て中空で酸味があり，塩をつけたり，ゆでたりして食べる。葉は広卵形で先がとがり10cmくらい。夏，葉のつけ根に出た茎に多数の白色の小花をつける。雌雄異株。花が赤いものをメイゲツソウという。根茎を干したものを虎杖根(こじょうこん)といい，漢方では緩下薬とする。

いたどりはむし【虎杖金花虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長８～10mm。日本各地から朝鮮・中国まで分布する普通種。体はつやのある黒色で，鞘翅にはふつう３本の黄色の帯があるが，いくぶん変異に富み，黒化した個体もみられる。成虫・幼虫ともにイタドリの葉を食べる。成虫で越冬し，翌春交尾産卵する。

いたの【板野(町)】 徳島県板野郡にある町。人口13,000。吉野(よしの)川下流部北岸の低地から阿讃(あさん)山地を越えて讃岐(さぬき)の低地へ出る入り口にあたり，古くから交通上重視された町で，現在は高徳本線と鍛冶屋原(かじやばら)線の分岐点にあたる。農業人口が多い。

いたばし【板橋(区)】 東京都23特別区北西部の区。北は埼玉県，南西は練馬，南は豊島(としま)，東は北の各区と接する。面積31.9km²，人口48万3,000。武蔵野(むさしの)台地の一部，豊島台と徳丸台上にあり，南部は石神井(しゃくじい)川の谷が台地を刻み，北部は荒川の沖積地(ちゅうせきち)に臨む。江戸時代には中山道(なかせんどう)が東部を南北に貫き，その宿場町板橋を中心に発展した。昭和初期以来，南東部からしだいに宅地化が進み，荒川沿岸から背後の小豆沢(あずさわ)・志村の台地にかけては，光学機械・製薬・電気機械・化学工業などの工業地帯が形成された。1932年(昭和７)に，東京市に新しく20区ができて計35区となったときに板橋区として成立，1947年３月15日にそれが22区に再編成されたときも，板橋区はそのままであったが，８月１日に練馬区を分離して，区域を縮小した。これは第２次世界大戦以後は，東武鉄道東上線・国道254号線(川越街道)に沿う地域の宅地化が急速に進み，人口が急増したためである。国電山手線支線(赤羽線)・東上線・都営地下鉄６号線が通じ，バス路線網も整備されている。





イタドリ
(上)花
(下)若芽



イタボガキ

いたばね【板ばね】 薄板ばねと重ね板ばねがある。両者とも緩衝装置など，反復するくり返し応力下で使われる。一般に保安部品として確実な耐久性が要求されるため，材質的に欠陥の少ないことが要求される。用途としては古くから鉄道車両の懸架用に広く使われているし，また自動車への需要も多い。➔ばね鋼

いたび【板碑】 板石塔婆ともいわれる。鎌倉・室町両時代に流行した供養塔の一種。頭部を三角形にし，その下に２条の横線を刻み，碑面に種子(仏・菩薩(ぼさつ)や水・火などを表わす梵字(ぼんじ))・仏像・造立年月日などを彫る。リョクデイヘン岩(秩父(ちちぶ)石)のほか，根府川石・カコウ岩・安山岩などが用いられ，関東・奥羽・阿波(あわ)(徳島県)地方に多い。

いたびかずら 双子葉植物・クワ科。暖地の山野に分布する常緑のつる性植物。イチジクの仲間で茎は気根を出して岩や他の樹の上をはう。葉は有柄，披針(ひしん)形，全縁で長さ７～12cm，幅２～３cmあり，互生する。表面は暗緑色，裏面は白色で脈が目だつ。雌雄異株。なかなか花をつけないが，古株の葉腋(ようえき)に直径1～1.5cmの無柄球形の花序を１～２個つける。

いたびきあみぎょほう【板引き網漁法】 一隻引き網漁業・機船底引き網漁業*などで，網口を開くために開口板を用いる漁法。

イタビラ(鉱山)［Itabira］ ブラジル南東部，ミナスゼラエス州中央部のベロオリゾンテ北東部にある鉄山。その埋蔵量は50億ｔといわれ，世界有数の鉄山である。純粋のセキテッ鉱を産出し，鉱石はビトリア港から輸出される。

いたぼがき【板甫牡蠣】 軟体動物・二枚貝類・イタボガキ科。殻長(かくちょう)10cm内外。殻表を，波状鱗片(りんぺん)がかわら状におおっている。かっ色。本州以南，朝鮮・中国に分布し，干潮時に露出しない浅海底に，左殻で付着する。マガキと異なり卵胎生。美味であるが養殖は行なわれていない。

いたまえ【板前】 日本料理の料理人。俎板場(まないたば)の板場が板と略され，板を前に仕事をするところから板前とよんだといわれる。関西では板場。板前の語は江戸時代に現われたもので，それ以前は包丁者といわれた。板前には厳格な階層制度が存在しており，一人まえの板前となるまでには，洗い方・焼き方・煮方・炊(た)き方などを経なければならず，長い年季を必要とした。所持する包丁によってその腕まえを示すしきたりが守られている。〔渡辺欣雄〕

いたみ【痛み】 痛みには心理的な原因や中枢神経自体の異常によって起こる心因性の痛みや中枢性の痛みなどもあるが，一般には末梢(まっしょう)性の痛みをいう。皮膚に分布する痛点に刺激が加わると，刺激は末梢神経を伝わって脊髄(せきずい)にはいり，ここから視床を通って大脳皮質に達し，刺激の性質のいかんにかかわらず痛みとして知覚される。末梢性の痛みには，このほかこむらがえり・狭心症の痛み，小腸などの内臓の痛みなどの体の深部からの痛みや，関連痛とよばれる痛みがある。関連痛は，たとえば虫垂炎のときにへそのまわりが痛くなったりするもののことである。なお，痛みは大脳皮質の働きにより強くなったり弱くなったり

する。〔平野修助〕

いたみ【伊丹(市)】兵庫県南東端の市。1940年(昭和15)市制施行。人口17万4,000。市域は，北は川西・池田，東は豊中(とよなか)，南は尼崎(あまがさき)の各市と接する。福知山線・阪神(はんしん)電鉄伊丹線が通じ，住宅化・工業化の面で，大阪市の衛星都市的色彩が強い。産業三大別人口比は2：46：52で，江戸以来の伝統ある酒造りのほか，機械・化学・食品などの近代工業が発達し，大工場が多い。大阪国際空港があって関西の空の玄関口となり，住宅地帯も発達している。古くは猪名野(いなの)とよばれた周辺部では果樹・イチゴ・草花などの近郊農業が盛んである。水田灌漑(かんがい)はため池にたよることが多く，行基*がつくったといわれる昆陽池(こやのいけ)がある。

いたみくうこう【伊丹空港】⇨大阪国際空港

いたみまんさく【伊丹万作】(1900〜1946) 映画監督・シナリオ作家。松山中学卒業後，画家を志し，のち日活に入社，片岡千恵蔵プロダクションでシナリオ作家兼監督として活躍した。知的で風刺的な作風にすぐれ，代表作に《国士無双》《赤西蠣太(かきた)》などがある。シナリオ作品では《無法松の一生》が著名で，また評論家としてもすぐれ，死後その著作を集めた《伊丹万作全集》3巻が公刊された。

いたやがい【板屋貝】軟体動物・二枚貝類・イタヤガイ科。殻長(かくちょう)10cm内外。右殻は大いにふくらみ，暗灰色かかっ色，左殻は平らで，やや内側にへこみ，暗赤かっ色，ときに電光折線状に模様がある。右殻には10本内外の放射状のみぞがあり，左殻にも8本の放射状のみぞがある。北海道南部以南の10〜30mの砂泥(さでい)底に右殻を下にしてすみ，両殻を激しく開閉してはねるように泳ぐことができる。美味。右殻に竹の柄をつけてしゃくしに使うことがあるので，シャクシガイともよぶ。ときに大発生して，沿岸漁民を喜ばす。

いたやかえで【板屋楓】双子葉植物・カエデ科。ツタモミジともいう。暖温帯の山地にはえる落葉高木。高さ20mほど。葉は対生し5〜7浅裂するが，鋸歯(きょし)がない。4月，緑黄色の花をつける。果実の2枚の羽は直角または鋭角に開く。多数の変種がある。家具・スキー材として用いる。

いたやとうげ【板谷峠】福島・山形の県境を越える峠。標高755m。古い峠道は室町時代末ごろから通じ，奥羽本線は1899年(明治32)通じた。道路は1881年北方の栗子(くりこ)峠(旧栗子トンネル)道に切り替えられたが，1967年(昭和42)新道(栗子第1・第2トンネル)が開通した。福島・秋田を結ぶ国道13号線がこれを通っている。もみじの名所として知られる。

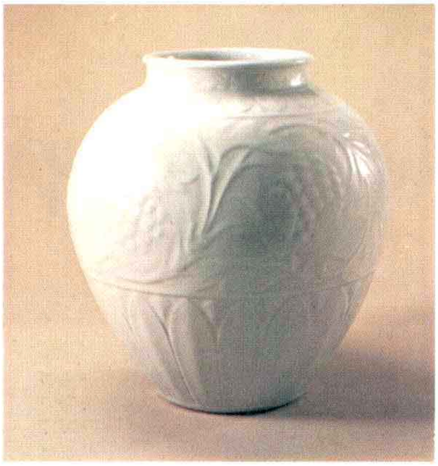
いたやなぎ【板柳(町)】青森県北津軽郡の町。人口19,500。津軽平野のほぼ中心にあり，北は五所川原市，南は弘前(ひろさき)市に接する。付近は青森県でも米とリンゴを最も多く産する地方で，それらは五能線板柳駅から発送される。



イタヤガイ



イタヤカエデ



板谷波山《葆光白磁葡萄文花瓶》東京国立博物館蔵

いたやはざん【板谷波山】(1872〜1963) 明治から大正にかけての代表的な陶工。茨城県下館(しもだて)市の生まれ。1894年(明治27)東京美術学校彫刻科を卒業し，石川県の工業学校に勤務。1899年陶工を志し，1906年東京田端(たばた)に初窯(はつがま)を築いて焼造に成功した。その技法はまったく創始にかかるもので，精巧な薄肉文様とマット釉(ゆう)に特色があり，陶芸界に多大の影響を及ぼした。1953年(昭和28)に文化勲章を受けた。

いたやめいげつ ⇨コハウチワカエデ

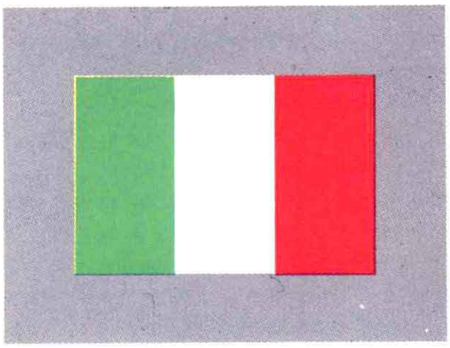
イタリア(共和国)［Republic of Italy, Republica Italiana］古代ローマ帝国や近世のあけぼのとなったルネサンスなど，数多くの文化遺産と豊かな観光資源に恵まれたイタリアは，観光王国として世界の人人に親しまれている。ヨーロッパ大陸から地中海に細長く突き出したイタリア半島は，南北に長さ1,200km，幅が広いところで250kmというその特徴的な形から，よく長ぐつにたとえられる。古代には大帝国を築きながら他の西ヨーロッパ諸国に比べて小国家の分立時代が長く続き，ようやく1861年に近代国家としての成立をみた。第2次世界大戦後王政が廃止され，1948年に共和政が敷かれた。

古来ギリシア・ローマ・アラブなど東西文化のかけ橋的役割を果たしてきたが，現在でも北では先進ヨーロッパ諸国と接し，南ではわずか150km余でアフリカと対し，さらに東西地中海諸国の中央に位置して，ヨーロッパ先進国と低開発国との統一的任務を負っている。同時に国内でも，この南北の相違はあらゆる面で二元的な性格を現わし，大陸的気候と景観をもち工業化が進んで北西ヨーロッパ先進国とすべてにおいて同等の水準にある北イタリアと，地中海的な自然条件をもち工業化も遅れ，人口の増加が著しく低開発国的状況を呈している南イタリアとの対照は著しい。

国土範囲は，北をアルプス山脈によって，フランス・スイス・オーストリア・ユーゴスラビアの諸国と国境を接し，半島部は東のアドリア海とイオニア海，西のリグリア海とチレニア海に囲まれている。半島部とシチリア・サルジニアに代表される島嶼(とうしょ)を合わせ面積30万1,225km²，人口5,691万(1978年推)，首都はローマ。

【地形】北および北西部は高峻(こうしゅん)なアルプス山脈が一大障壁をなしている。フランスとの国境にあるモンブラン(4,807m)やモンテローザ(4,634m)など4,000m級の峰峰が，結晶質岩の中央山塊をなし，ロンバルジア平原と直接に接している。東にゆくと高度は低くなり，石灰岩質のドロマイト山脈が幅広くオーストリアとの間を分ける。スイスとの国境には多くの氷河湖があり，マジョレ湖・ルガノ湖・コモ湖などは世界的な景勝地となっている。

フランスとの国境を走るアルプス山脈は，南走してリベエラ海岸に出，高度を減じながら東走するとアペニン山脈に連なる。アペニン山脈はイタリア半島の脊梁(せきりょう)をなし，半島先端のカラブリア地方まで東南に走り，次いで向きを西に変えシチリアを通ってアフリカに達している。リグリア地方ではさして高度はなく，ジェノバの北方ではおよそ700mであるが海岸に迫って自然障壁をなし，内陸との交通を不便にしている。中部トスカナ地方では，高度をやや増し，岩質も石灰岩質・砂岩質から片岩質のものに変わる。半島の中央では3,000m近くまで達し，アブリュツィ山塊は大部分が石灰岩となる。南部は石灰岩に加えて有名な



イタリアの国旗　1796年当時イタリアを支配していたナポレオン1世によってフランス国旗の青を緑に変えて制定された。3色は自由・平等・博愛を表わす。以来イタリア王国成立まではイタリア統一の旗じるしとされ，統一後はサボイ家の紋章が描かれていたが，1945年王制の廃止とともに除かれた



イタリア

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

ベスビオに代表される火山，さらにカラブリア地方には結晶質岩の山塊があって多様性に富むが，高度は2,000m前後であまり高くない。

平野は，アルプス山脈と北部アペニン山脈の間にポー川流域の平野が展開し，そこは漸近生から鮮生の終わりまで続いた長い間の沈降作用によってできたもので，アルプス山脈やアペニン山脈から運ばれた物質におおわれている。現在でもポー川およびその支流による堆積(たいせき)作用は著しく，河床は上昇し，洪水(こうずい)の危険に見舞われている。河口にはヨーロッパでも代表的な大きな三角州が形成されている。そのほかローマを貫流するテベレ川，フィレンツェを洗うアルノ川などは，下流や山間地に平野や盆地をもっている。

海岸の沼沢地はマラリアのため開発が遅れているところが多いが，フランスのコート-ダ-ジュールにつながるリビエラ海岸は，国際的観光地となっている。

シチリア島はアペニン山脈がカラブリア地方から延び，西部は高い台地性の山地からなり，東部にはヨーロッパ最大の活火山エトナ山(3,340m)がある。サルジニア島はたくさんの断層によって断たれた古い山塊で，東は結晶質岩，北西は火山岩などからなり，シチリア島よりは平地が多い。

〔気候と植生〕一般に温暖で，夏季乾燥，冬季湿潤の地中海式気候をもって代表される。しかし南北の差はかなり著しい。北イタリアは大陸的気候のため夏と冬の温度差が大きく，ミラノの1月の平均気温は2.1℃，7月は22.2℃である。南イタリアでは夏冬の差はそれほど大きくなく，シチリア島のパレルモの年較差は12.2℃である。北イタリアでは夏に多くの降雨をみ，ミラノの年降水量は1,000mmを越えるのに対して，南イタリアでは雨は夏に集中し，パレルモの年降水量は488mmである。曇天日数も北イタリアでは100日以上あるのに対して，ローマは30日，ナポリでは20日，パレルモではわずか1日にすぎない。

気候の差は明確に植物景観の差となって現われる。ポー川の平野は北西ヨーロッパと同じような植生を示し，小麦・トウモロコシ・米などの穀物と牧草が栽培され，ブナ・カシ・マツなどの樹林が多くみられ，クワの栽培も行なわれている。南イタリアはアペニン山脈の高所を除いて，典型的な地中海性の植物景観が展開する。ブドウは北イタリアにもみられるが，オリーブはアペニン山脈を越えると姿をみせはじめ，そのほかオレンジ・レモンなどの柑橘(かんきつ)類が栽培されている。古代に存在していた多くの森林地帯は農業・牧畜あるいは建築・船材料・燃料として伐採されて山は荒廃し，小灌木(しょうかんぼく)が密生した〈マキ〉の景観，〈ガリーク〉と称される小灌木の粗な，石灰岩の露出した土地，〈フラネ〉とよばれる激しい斜面の侵食によってかき裂かれた景観などが顕著で，農業開発のむずかしさを物語っている。

〔住民・言語・宗教〕イタリア人ははじめBC1000年ごろ北方から移動し，中部イタリアのラティウム地方に定着した。そのころイタリア半島はエトルリア人・ギリシア人・フェニキア人が覇(は)を競っており，ラテン人が占拠したラティウム地方はなおエトルリア人の支配下にあった。ローマ帝国がこれらを従えるようになったのは，紀元前4世紀にはいってからであるが，その間に人種的融合があったに相違ない。中世にはアラブ人との接触，ノルマン人などの侵入があった。ラテン人の特色は比較的小柄で，黒色の毛髪・ひとみをもち，熱情的な性格の持ち主である。

人口密度は1km²あたり189(1979)，人口増加率1963～1967年で0.8％は，今世紀の初めの1.3％に比べればかなり減少しているが，北イタリアに比べて南イタリアはおよそ2倍の増加率をもち，産業の後進性と合わせて北イタリアへの移住および海外移民が続いている。宗教はローマン-カトリックが99％を占め，ローマ市内のバチカン市





イタリア　(左)町の広場のマーケット。野菜や肉類・魚や日用品がところ狭しと並べられ，客をよんでいる　(右)イタリア南部のヒツジの牧場。南イタリアは地中海性気候で，降水量が多くないが，山地斜面を利用する移牧もみられ，ヒツジ・ヤギなどが飼育されている

国*にはローマ-カトリックの本山バチカン教皇庁がある。

〔産業・経済〕《農業》古代ローマ帝国を建設したラテン人は農耕・牧畜を営む民族であったし，現在工業の発達がめざましいとはいえ，農業はなおイタリアの基本的産業の一つである。農業人口は24％(1967)，そのうち南イタリアでは40％を占めている。土地利用の点からみれば，農林業地は国土の約90％に相当し，その内訳は輪作地46％(穀物21％・飼料作物12％・その他)，牧草地18％，果樹園10％，森林22％，非生産地4％である。輪作地・牧地ともロンバルジア平原を中心とした北イタリアに広く分布し，小麦とトウモロコシはポー川流域の低地，米はポー川上流のロメリーナ地方がそれぞれ中心である。アルファルファやクローバーなど主要な飼料作物も雨の多い北イタリア，特にロンバルジア地方を中心に栽培される。したがってウシは北イタリアのピエモンテ・ロンバルジア地方に多い。これに対し，乾燥した南イタリアと島嶼部(とうしょぶ)ではヒツジが放牧され，サルジニアのヒツジは全国の3分の1近いといわれる。

南イタリアでは温暖な気候を利用した蔬菜(そさい)や果樹の栽培が主で，カンパニア地方はその中心で新鮮な野菜を国外へ輸出している。ブドウ・オリーブ・オレンジ・レモンなども南イタリアのカラブリア・プーリア・シチリア地方が主産地である。なお北イタリアのピエモンテでも良質のブドウを産する。また近年，モモ・ナシ・リンゴなど果実の生産が急激に伸び，ドイツをはじめ海外に輸出されている。これらはカンパーニア地方を除けば，エミーリア・ベネト・ピエモンテ地方などの北イタリアが中心である。工芸作物の栽培も盛んで，テンサイはベネト・エミーリアの干拓地，タバコはカンパーニア・ウムブリア地方，シチリアではワタが栽培されている。ポー川流域を中心とした北イタリアの農業地帯を除いて，イタリアの農業は後進的であるといわれる。耕地を直接に経営する農家は全体の80％以上だが，面積では全耕作地の50％相当である。3～8ヘクタールの所有が最も平均的な農家で，その収益も場所によって異なるが，多角経営を行なうピエモンテ・ロンバルジア・ベネト地方の丘陵地が最も生産性が高く豊かである。しかし南イタリアでは後進的な分益小作制が存在し，土地所有者は都市の居住者であることが多く，農業の進歩はみられない。そのほか，全耕地・森林のうちの3分の1が50ヘクタール以上を所有する大地主によって占められている。ここでは機械化が進み，販売組織が行き届き，ロンバルジア・エミーリア・ベネト地方の大農場では穀物・ビート・タイマなどを生産している。

《鉱工業》第2次世界大戦の打撃と混乱から立ち直ったイタリアは，1950年代以降かつて経験したことのない工業発展を迎えたが，これには豊富な労働力の存在，電力・天然ガスなどのエネルギー資源の開発，経済活動への国家の参加，EECの成功によるヨーロッパ経済の好転など，いろいろな理由があげられている。イタリアの工業界は，日本と同じく少数の大企業とほかに多数の小企業が存在する二重構造によって特色づけられる。自動車のフィアット，化学のモンテカチーニ，計算機のオリベッティなどの世界的な企業が生産と輸出の大部分を占め，近年のイタリア経済繁栄のもとを築いた。また経済活動への国家の積極的な参加があり，税制・政府支出・金融政策による援助のほか，鉄道や電力は国有化されている。

アルプス・トスカナ・ウムブリア地方で若干の石炭，シチリア・アブルツィーで石油を産するが，国内需要をまかなうことはできない。水力発電はアルプス地方が中心で，すでに開発可能地域の80％が開発され，しだいに火力発電の比重が増しており，1964年には総発電量の43％が火力によっている。火力発電所は南部にも多く建設され，開発の起動力となっている。天然ガスは全エネルギー消費の10％を占めるにすぎないが，南ロンバルジア・エミーリア地方を中心に，近年は中部イタリアのアブルツィーや南部のバアジリカータやシチリアでも開発されている。北部ではトリエステからジェノバまで大部分の都市，南部ではバーリやナポリが，バアジリカータやアブルツィーのガス田から供給を受けている。イタリアの銑鉄業(せんてつぎょう)は，コークス用炭および鉄鉄石が少ないことが原因でアルプスのアオスタ，南部海岸のピオンビオとバアニョリー，北イタリアのトリエステなどに立地している。他方，鉄鋼業はスクラップを使う電気炉によるものが大部分で，動力源と消費地に近いトルノ・ベルガモなど北イタリアを中心としているが，近年は国家の援助によって新しい工場が南イタリアのコクグリアノやタラントにもつくられた。また，イタリアの工業発展の上で最も貢献したものに機械工業がある。トリノにはフィアットを中心とする自動車工場があり，ドイツのフォルクスワーゲンを抜いてヨーロッパ第1の生産台数を誇っている(131万台，1967)。そのうちの3割は国外に輸出されている。ミシン・編み物機械はミラノ・パビア・ベトーなど北イタリアにあり，ミラノの近隣イビラエにあるオリベッティはタイプライター・計算機のメーカーとして世界にその名を知られている。

イオウ・水銀・アンチモニ・カリ・塩・亜鉛・鉛・ボーキサイトなど鉱物資源には比較的恵まれ，これらを基礎とした化学工業もまた盛んである。また近来著しい発展を示したものに化学工業があり，消費地に近い北イタリアに大部分が集中しているが，近来は石油精製工場が南イタリアにもできはじめた。イタリアの繊維工業は古くから名声を博し，電力と豊富な労働力によって今世紀の初めから大量生産が行なわれ，すぐれた製品がヨーロッパ市場に広まった。50万人以上の労働者が従事しているといわれ，機械工業に次いで第2の輸出額を誇っている。綿工業はアメリカに原料を仰いでいるが，おもにピエモンテやロンバルジア平原に分布し，南イタリアのカンパニア・カラブリアでもみられる。毛織物工業は繊維労働者の約半数を占め，おもに北イタリアのトスカナ地方に集中している。また新技術の発明などですぐれる化学繊維工業もシニア-ビコーサ・モンテカチーニの二大企業があり，北イタリアのバレド・トルビスコーサが中心で，最近では南イタリアのカゼルタ・モンフレドーニアにも新工場が建設された。そのほか，全国的に分布する食料品工業などもあるが，上記のように大企業はおもに北イタリアに集中し，特にミラノ・トリノ・ジェノバを結ぶ線はイタリ

アで最も工業の集中した地帯で，工業三角形とよばれる。しかし最近は南部の工業開発によってバーリ・ブリンデジー・タラントの三つの拠点も，南の工業三角形になりつつある。

貿易では農産物・鉱石・自動車・繊維・機械を輸出し，鉄鉱石・石油などの原料を輸入している。貿易じりは入超であるが，海外移民からの送金と観光収入によってその赤字を補っている。

〔交通〕鉄道網は延長21,000kmに達するが，北西ヨーロッパ諸国に比べるとそれほど密ではなく，イギリスの3分の2，フランスよりやや低い。全体の77.5%が国営であり，その大部分は標準軌道で約半分は電化されている。最近は自動車交通の発達によって，鉄道経営の赤字は大きく，その解決策として，ローカル線の拡張よりも長距離幹線の整備に力を入れている。鉄道の不振に比べると道路輸送は急激に伸び，1968年現在800万台の自動車を有し，所有台数では日本に次いで世界第6位である。道路延長距離20万km，舗装率70.3%は日本よりはるかに事情がよい。自動車専用道路は早くから建設され，ミラノを中心にジェノバ・トリノ・コモ・ベニスと北イタリアの主要都市間を連絡している。また南部に向かって産業・観光道路としての〈太陽道路〉がローマ・ナポリを経てサレルモまで通じている。またこれまではアルプス山脈が障壁となって隣国との交通は十分なものでなかったが，モンブラントンネルが開通した結果，アオスタの谷を通って容易にフランスに行けるようになった。コモから北方へも高速道路が完成しつつあり，将来はスイスさらにはドイツへの連絡も密接になろう。河川では，ポー川以外の川はあまり大きな役割は果たしていない。ポー川はミラノの南30kmのところにあるパビアまで600tの船が航行可能である。

〔文化・社会・政治〕イタリア史は不連続と分割の歴史だといわれる。南・北の差異に顕著にみられる地方主義，また現代都市の中に併存している古代の遺跡，ルネサンスの偉大な美術も，そこに現代とのつながりを見いだすことはむずかしい。しかし現代のイタリアを考えるにあたって，この偉大なる過去を抜き去っては考えられない。2,000年の長い不連続と分割の歴史の中で，キリスト教の果たしてきた統一的要素は，現在その勢力が弱まりつつあるとはいえ，なお大きなものがある。映画・芸術・服装などの流行はローマ・ミラノが世界の中心といわれ，自動車をはじめ工業デザインでもイタリア人のすぐれた感覚が生かされている。しかしイタリア文化のはなやかさの陰に，厳然とした生活の二重構造が存在する。それは都市の中に，また都市と農村の間に，さらに広く南・北の差となって現われている。最も国民所得の高い北のロンバルジア地方と最低の南のカラブリア地方との間には実に3倍の違いがある。



イタリア　古代ローマ共和政時代に政治・経済・市民生活の中心であったフォロ-ロマーノ

イタリアは第2次世界大戦前のファシズムから戦後急激に左傾化し，現在の与党はキリスト教民主党であるが，西ヨーロッパ最大の力をもつイタリア共産党は第2党にあってその影響力は大きい。現在の民主共和国憲法は1948年から施行され，2院制の議会が大統領を任命する。〔野沢秀樹〕

〔歴史〕〈古代〉イタリアの歴史はBC2000年ごろのイタリア人の半島南下から始まる。彼らの一派であるラテン人がやがて都市国家ローマを建設し，ローマはまずイタリア半島を征服し，次いでポエニ戦争*(BC264〜BC146)に勝って地中海世界の征服に乗り出した。その間の領土拡大に伴って共和政社会は崩壊し，武将間の権力闘争の結果，ローマのすべての権力はアウグストゥス*に集中した。彼はまた地中海世界の統一を完了して，帝政を開始した。皇帝は，はじめローマの共和政の伝統と妥協しながら〈ローマの平和〉を維持し，約2世紀間の最盛期を保持したが，軍人皇帝の時代に至って帝権の動揺が始まり，ディオクレチアヌス*とコンスタンチヌス*は専制君主政をとって，一時帝権を回復したが永続せず，またコンスタンチヌスのコンスタンチノポリス遷都によって，帝国の中心はイタリアから東方へ移った。その後395年，帝国は東西に分裂したが，西ローマ帝国は西ゴート・バンダルの侵入を受け，476年ゲルマンの傭兵隊長オドアケルにより西ローマ帝国は滅亡して，イタリアの古代史は終わりを告げた。

〈中世〉西ローマ帝国滅亡後約3世紀の間に，イタリアの支配者はオドアケルから東ゴート王国，さらに東ローマ帝国を経てランゴバルド王国へと変わった。この間古代ローマ的要素はしだいに消滅し，イタリアの中世が開始された。8世紀の後半にはいり，フランクのカール大帝*はランゴバルド王国を滅ぼして，イタリアの大部分を支配下に入れ，800年ローマ教皇から帝冠を受けて西ローマ帝国の復活を宣言した。このことはまた，フランクと結んだローマ教皇権が西ヨーロッパにおいて確立されたことを意味している。しかし，ベルダン条約(843)・メルセン条約(870)によりフランク王国が分裂し，分立したイタリアのカロリング朝がまもなく断絶すると，これを継ぐ統一権力が現われず，イタリアは大諸侯による封建的分裂状態の中で混乱に陥った。

まず北からマジャール人，南からサラセン人の侵入を受け，次いでドイツ王オットー1世*がイタリアに進出し，ローマで教皇から冠を受けてローマ皇帝を称したが，この神聖ローマ帝国の進出は，以後イタリアに多くの混乱をもたらすことになった。一方，南イタリアは東ローマ帝国・サラセン人・神聖ローマ帝国・ローマ教皇などの諸勢力の対立・抗争の場となっていたが，やがてノルマン人が進出して，1130年両シチリア王国を建ててここを統一した。しかし，ノルマン人の支配は永続せず，同世紀末神聖ローマ皇帝に王位を奪われ，次いでフランス王・アラゴン王が進出し，南イタリアのナポリ王国とシチリア王国とに分裂した。その間ローマ教皇グレゴリウス7世*は神聖ローマ皇帝と叙任権闘争を開始して，一時その権威を誇示したが，これはイタリアにゲルフ(教皇党)とギベリン(皇帝党)の抗争をもちこむことになった。教皇権がインノケンチウス3世の時代に絶頂に達したあとは，ボニファチウス8世のころから衰退期にはいり，アビニョン幽囚によって，フランス王の支配下に置かれることになった。

このような政治的混乱の中でコムーネ(自治都市)の成立・発展がみられた。これは神聖ローマ皇帝とそれに追随する教会諸侯に対抗する自治共同体の結成を意味する。その背景には，十字軍遠征で飛躍的発展を遂げた東方貿易による北イタリアの経済的活況がある。海港都市としてのベネチア・ジ

ェノバ，内陸都市としてのフィレンツェ・ミラノなどが特に発展した。これらの都市はやがて周囲の封建領主領を合わせて都市共和国を形成し，ミラノを中心とするロンバルジア同盟*が神聖ローマ皇帝に対抗し，あるいはベネチアが第4回十字軍を利用して地中海貿易の競争相手である東ローマ帝国を打倒するなど，さまざまの活躍を示した。都市内部でははじめ大商人が支配権を握っていたが，やがて中小市民が台頭して自己の利益を野心的有力者に託したので，ミラノのビスコンチ家やフィレンツェのメディチ家のような僭主(せんしゅ)が現われた。

〈ルネサンス時代〉中世末期から神聖ローマ皇帝の衰退，ローマ教皇権の失墜と都市国家間の抗争で，イタリアの政治的混乱はいっそう激しくなったが，北イタリア諸都市の繁栄を地盤にルネサンス文化が開花した。その先駆をなし，また最初の絶頂期の中心となったのはフィレンツェである。ここには毛織物工業と金融業が栄えて，メディチ家がチオンピの乱*を契機に台頭し，ロレンツォ-デ-メディチの保護のもとにルネサンスの絶頂期がもたらされた。ミラノは内陸貿易で栄え，ビスコンチ家・スフォルツァ家の支配下にルネサンスの一中心となり，ローマは教皇ユリウス2世・レオ10世の保護下で16世紀初頭のルネサンスの中心となり，ベネチアは地中海貿易の覇者(はしゃ)として大商人の共和政治のもとで，ルネサンスの最後を飾った。ダンテの《神曲》に先駆的に現われたヒューマニズムの思想は，14世紀のペトラルカ・ボッカチオに受け継がれて発展し，ジョットー・マサッチオによって開かれたルネサンス芸術はレオナルド-ダ-ビンチ・ミケランジェロ・ラファエロの三大巨匠においてその頂点に達し，また，サボナローラやマキアベリも特異な面でルネサンス精神を代表した。しかし，イタリア-ルネサンスは16世紀の初期を過ぎるとたちまち没落した。僭主・商人・貴族・教皇の保護下に発展した文化は，真の市民文化として成長するには限界があった。つまり，当時のイタリアは大市民の支配権が強大で，中小市民の成長はおさえられ，農村に封建的土地所有が残っていたため，近代社会として発展することができなかった。しかも，周囲に近代国家が成立して分裂混乱を続けるイタリアに侵入し，特にドイツ・フランス間のイタリア戦争はルネサンス文化を破壊した。一方，地理上の発見がもたらした地中海貿易の衰退は，ルネサンスの基盤となった都市に活力を失わせていった(→ルネサンス)。

〈沈滞期〉ルネサンス時代を過ぎたイタリアは，19世紀初頭までの沈滞期にはいった。16世紀前半のイタリア戦争がもたらした破壊と，反宗教改革運動によるヒューマニズム弾圧で始まるこの時代は，ドイツ・フランス・スペイン勢力のあいつぐ侵入によって混乱を続けた。しかし，その間にサルジニア王国が17世紀後半フランスの拘束から自立して，しだいに成長していったことが注目される。次いで，フランス革命時代にはいると，イタリアはフランス革命軍・ナポレオン軍などに占領された。しかし，そのもとでイタリアに近代的改革が行なわれて統一の萌芽(ほうが)が現われたことと国民意識が発生したことで，のちのリソルジメント*の出発点として注目に値する。ナポレオン没落後，ウィーン体制下に置かれたイタリアは再び分裂状態にもどり，オーストリアがベネチア・ロンバルジア地方をおさえたばかりでなく，割拠する反動君主を通じて全イタリアに支配権をふるった。しかし，フランス革命の刺激を受けた国民主義は，この時代すでにカルボナリ党の運動として現われている。

〈リソルジメント〉1830年フランスで七月革命が起こり，ウィーン体制が崩壊への道を歩むと，イタリアでもリソルジメントの中核体が成立した。1831年マッチーニが結成した青年イタリア党と，同年カルロ-アルベルトの即位で近代化の歩みをはじめたサルジニア王国がそれである。1848年フランスに二月革命が起こると，その刺激を受けて行動が開始された。イタリア統一のためにはオーストリア勢力の排除が先決と考えたカルロ-アルベルトはこれに宣戦し，マッチーニはローマで共和革命を起こした。しかし，サルジニア王国はいまだオーストリアの敵ではなく，またローマ共和国もフランス軍に倒された。だが，サルジニア王国はオーストリアに屈せず，カルロ-アルベルトのあとを継いだビットリオ-エマヌエレ2世は宰相カブールの協力のもとで王国の近代化に努め，また，クリミア戦争に参加してイギリス・フランスの好意を得た。1858年ナポレオン3世と密約を結んで力を得たサルジニア王国は，再びオーストリアに挑戦(ちょうせん)した(→イタリア統一戦争)。戦争はナポレオン3世の違約がもとで中断されたが，これを契機としてイタリアの大部分の統一に成功し，1861年イタリア王国の成立を宣言した。その後，プロイセン-オーストリア戦争に乗じてベネチア地方を獲得し，プロイセン-フランス戦争ではローマを得てここに都を移した。

〈現代〉リソルジメント後のイタリアは再び不振に陥った。アフリカに侵攻してエリトリア・ソマリランド・リビアを得たがエチオピアで敗退し，1882年ビスマルクの策略で三国同盟を結んだが，〈未回収のイタリア*〉をめぐってオーストリアと対立した。第1次世界大戦ではオーストリアに対する反感と地中海の安全のため協商側について参戦したが，パリ講和会議でトリエステ地方取得の要求は無視された。ベルサイユ体制*に対する不満と戦争がひき起こした経済の崩壊は，大戦後の国内情勢を悪化させ，共産主義運動の伸張がもとで生じた社会の動揺に乗じ，ファシスタ党は武力で政権を握り，1922年ムッソリーニ*内閣が成立した。ムッソリーニは経済復興とフィウメ併合などの強硬外交で人気を高め，ファシスタ党独裁体制を樹立した。1929年アメリカに始まる世界恐慌はイタリアにも波及し，ムッソリーニは危機打開の方策を侵略に求めてエチオピア戦争*を起こした。これまでナチス-ドイツを警戒してイギリス・フランスに接近していたイタリアは，これを契機にドイツに接近し，第2次世界大戦にあたってドイツと協力して戦い，敗れた。敗戦と同時にファシスタ政権は崩壊し，1946年人民投票で王政を廃止してイタリア共和国となった。1947年パリ講和会議が結ばれ，その後の東西の冷戦に対してはNATO参加の道をとり，戦後の復興に努めたが，政局の不安定，南北の格差など今日もなお多くの問題をかかえている。

〔大野慎一郎〕

イタリア-イレンデンタ ⇒未回収のイタリア

イタリアえいが【イタリア映画】

〔歴史〕イタリアで本格的な映画製作が開始されたのは1905年である。初期のイタリア映画は，古代ローマ時代に取材した大規模な史劇映画によって国際的に知られた。《ポンペイ最後の日》や《カビリア》などがその代表的作品である。一方，純情可憐(かれん)な青春映画《さらば青春》のような小品の秀作もあった。しかし1920年代の後半になると，大がかりなスペクタクル映画*はアメリカ映画におさえられ，イタリア映画は国際的な市場から後退した。

1930年代のファシズム時代にはいると，政府の映画統制のため，他愛ない娯楽映画と国策宣伝映画に，イタリア映画は低迷することになった。ただし，ムッソリーニ政府の映画政策は，のちのイタリア映画の新しい動向に結びついていく事業をも残した。映画理論の研究と実験を行なう映画実験センターの開設，映画都市チネチッタの設立，ベネチア映画祭の開始(1937)などである。

1945年，第2次世界大戦の敗戦のさなか，イタリアの映画人たちは，自分たちが体験しつつある悲惨な状況そのものを力強く写しだす仕事を始めた。ロッセリーニ*は，レジスタンスの人々の行動を描いた《無防備都市》を，まだ戦争が終わらないまえからつくり始めて，戦火のあともなまなましい1945年ローマで完成。この作品は，第2次世界大戦後の世界映画の最初の傑作として，また新しい映画のリアリズムの方向を示すものとして，世界映画史の一つの里程標となった。引き続き，ロッセリーニの《戦火のかなた》《ドイツ零年(ぜろねん)》，デ-シーカ*の《靴(くつ)みがき》《自転車泥棒(どろぼう)》《ミラノの奇跡》，ビスコンティ*の《大地は揺れる》など，傑作が次々につくられた。これらがいずれも敗戦と貧困のイタリアの現実を，なまな



《ポンペイ最後の日》(アンブロジオ監督，1908) スペクタクル史劇の代表的作品



《戦火のかなた》(ロッセリーニ監督，1946) ネオレアリスモの代表作として多大の影響を与えた



《情　事》(アントニオーニ監督，1960) 新鮮な映像美によって現代人の内面に迫った作品



《サテリコン》(フェリーニ監督，1969) 過去に舞台をとりながら現代の諸相を描く力作

イタリア映画

ましく，しかも力強く描き出したものであったから，その手法は，イタリアン-リアリズム，またはネオレアリスモとよばれた。

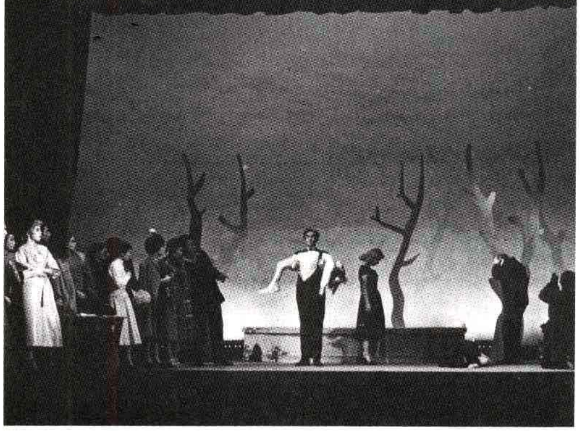
やがてイタリアの社会が復興の方向に歩み始めると，ネオレアリスモの傾向は下火になり，それに代わって，より心理主義的な，心の内面の渇望を探究する作品がつくられるようになった。フェリーニ*の《甘い生活》やアントニオーニ*の《情事》などが，1950年代の末から1960年にかけての新しい映画の代表的作品である。しかし，ネオレアリスモの直系ともいうべき社会的抗議の映画も伝統的に受け継がれていき，ロージの《シシリーの黒い霧》のようなリアリズムの傑作もつくられた。また，そういったリアリズムの手法を古代に向けることによって，パゾリーニは《アポロンの地獄》をつくった。

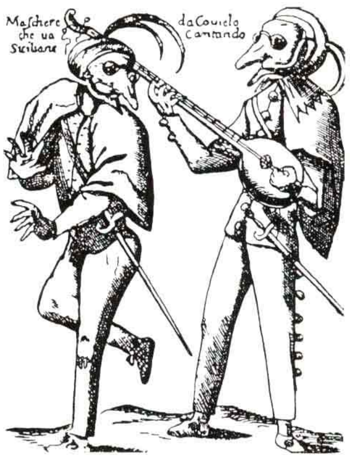
〔特色〕イタリア映画の特色は，その国民性を反映して，激情的であること，芝居気が豊かであること，女性崇拝的であることなどである。その激情性が現実探究の方へ向かったときには，上品ぶった体裁などはかなぐり捨てられ，ネオレアリスモにみられるような大胆率直な表現になり，その芝居気の豊かさは，ナポリを中心とする南部に取材した作品では特に，ときには猥雑(わいざつ)さに近い庶民生活の陽気さとなって表現され，しばしば解放的な屈託のないエロチシズムの謳歌(おうか)となる。またその女性崇拝は，多くの女性の大スターを生み，野性的な伸び伸びとした女優を中心とする映画が多くつくられる。ローレン・マニアーニ・ロロブリジータなどが，その代表的な女優である。

イタリア映画の魅力の一つには，また，都会中心ではなく，地方の風俗や社会問題を好んで取り上げ，大都市の洗練された風俗を中心とする映画にはみられない，独得の粗野なバイタリティーを描き出すものもある。とりわけ，イタリア南端のシチリア島に取材した映画は，この地方がイタリアの中でも特に封建的な気風の強い後進地帯であるために，特異な粗野なおもしろみをもっている。さらに，世界のカトリック教徒にとってのいわば総本山のあるところであるから，イタリア映画には宗教的情操の強い作品が多い。一見，反宗教的な享楽生活を描いているようなフェリーニの《甘い生活》《8½》においても，その底にあるものはカトリックの信仰であり，いわば，迷いぬくことによって真の信仰に至るという宗教的情操に根ざしたものであるといえよう。

〔佐藤忠男〕

イタリアえんげき　**【イタリア演劇】**　古来，イタリア演劇は古代ローマの古典劇*の伝統と物まねを中心とする民衆的な笑劇の伝統とがあったが，イタリア演劇史は一般に，中世後半の宗教劇*の出現をもって始まりとされる。中世ヨーロッパの復活祭劇やキリスト生誕劇の流行はイタリアにも及び，特に12～13世紀，自由都市国家の発生に伴う国民文学の誕生に呼応して，せりふもラテン語のほか俗語(イタリア語)が用いられるようになり，場所も教会内部から広場へと移って，世俗的要素を強めていった。賛歌から発達した聖史劇ラウディや民衆教化的なアダム劇などが迎えられ，特にキリスト受難を劇化した受難劇が隆盛をきわめて，ゴンファローネなど各地で大規模な上演が行なわれた。その後，ルネサンスとともにギリシア・ローマ劇に対する憧憬(どうけい)から模倣作品が続出し，いわゆるコメディア-ソステヌータ(正統喜劇)が生まれたが，16世紀初めには民衆的な即興仮面喜劇コメディア-デラルテ*に取って代わられた。これは，パドバの方言喜劇の作者ルツアンテ(アンジェロ-ベオルコ)に始まるとされるが，簡単な筋書きをもとに職業俳優が即興的な技芸をみせるもので，16～18世紀を通じて全ヨーロッパに風靡(ふうび)し，今日の大衆喜劇の原型となったが，技芸のマンネリ化と文芸熱の急昇から衰退した。《一度にふたり





イタリア演劇　(左)ピランデッロ作《作者を探す6人の登場人物》(1955，文学座上演)　(右)コメディア-デラルテの演技風景を描いた絵

の主人をもつと》などの作者ゴルドーニ*は，これを革新し，近代的な性格劇を準備した作家である。

18～19世紀におけるヨーロッパのロマン主義*の運動は，イタリアでは国家統一運動と合体して，マンゾーニ*の悲劇《アデルキ》をはじめとする数多くの愛国的な史劇を生み出した。国家統一後はロマン主義は衰退し，デカダンス気分の厭世劇(えんせいげき)が登場したが，シチリアに起こったベリズモ*(真実主義)の文学は，フランスからはいった写実主義と結びついて，ベルガ*などのリアリズム戯曲を生んだ。

19世紀末から20世紀にかけて最大の劇作家はダヌンチオ*であり，《ラ-ジオコンダ》など雄大な構想の神秘史劇を書いたが，マリネッティ*の未来主義運動や，グロテスク派の祖キアレルリの《仮面と顔》を含めて演劇思潮を集大成したのはピランデッロ*である。《作者を探す6人の登場人物》をはじめとする彼の戯曲は，冷徹な現実直視と意表をつく二重構造によって，古典ドラマツルギーを根底からゆすぶり，今世紀の前衛劇運動の規範となった。その後に輩出した劇作家たちは，ピランデッロの巨大な存在の前に影が薄いが，《牝山羊(めすやぎ)島の犯罪》などで知られるベッティ*は実存主義的な特異な作家として評価されており，独特のナポリ喜劇から出発したデ-フィリッポ*も，演劇世界を拡大して注目を浴びている。しかし，現代イタリア演劇は，劇作面よりも，ミラノのピッコロ-テアトロなどの舞台革新によって世界的であり，技芸的な伝統を示している。〔大島　勉〕

イタリアご　【イタリア語】　イタリア半島，シチリア・サルジニアの両島など，主としてイタリアの国土で話される言語。そのほかスイスの南部，ユーゴスラビアの一部などにもイタリア語圏があり，北米・中南米などの移民地で家庭ではイタリア語が用いられている。イタリア語人口は，国内で約5,200万，国外では総数1,000万をはるかに上回るといわれている。

イタリア語の発音は，だいたい日本人のローマ字式に読めばよい。ほとんどすべての単語は母音で終わる。2音節以上の単語は，通常最後から2番めの音節にアクセントが置かれる。名詞には，ラテン語*のように格変化はないが，男性と女性の文法上の区別があり，単数形を複数形にするには語尾の母音を変える。形容詞も，名詞の性・数に合わせて変化する。動詞は，主語の人称と数，法と時制と態の五つの範疇(はんちゅう)に従って幾十通りにも変化する。

イタリア語は，俗ラテン語(民衆の話したラテン語)から徐々に形成された新ラテン語(ロマン語群*)に属する。イタリア語による最古の記録は，モンテカシーノ僧院の宣誓書(960～963)である。13世紀にはフィレンツェを中心とするトスカーナ地方の方言が文章語として確立され，14世紀にはいってダンテ・ペトラルカ・ボッカチオの三大詩人がすぐれた文学作品を残し，さらにダンテは言語問題の先駆ともいうべき《俗語論》を書いて，トスカナ語をあらゆる方言にまさる洗練された言語にみがきあげるべきことを主張した。この問題は16世紀にも再び取り上げられ，ピエトロ-ベムボの《俗語散文論》においてトスカナ語法の厳格な理論が提起され，フィレンツェのクルスカ学会の支持を得て，学会編の辞書にも採用された。18世紀と19世紀にも言語問題が再燃した。古典派の詩人モンティが国語純化論者たちの14世紀フィレンツェ語崇拝を批判したのに対して，ロマン派の文学者マンゾーニは教養ある人々によって話されているフィレンツェ語という意味で，トスカナ語法への復帰を主張した。19世紀半ばには政治的統一も行なわれ，近代的伝達手段も普及したために，トスカナ語が国民的規模を有する近代的標準語としての地位を確立した。〔荒谷次郎〕

イタリア語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。　《イソップ物語》から

ウーナ	ボルタ	イル	ベント	ノルド	エ
Una	**volta**	**il**	**vento**	**nordo**	**e**
あるとき			風	北の	と

イル	ソーレ	スィ	ビスティッチャーバノ
il	**sole**	**si**	**bisticciavano:**
	太陽(が)		言い争っていた

クァーレ	エ	ピュ	フォルテ	デイ
quale	**è**	**più**	**forte**	**dei**
どちらが	ある(かを)	より	強く	のうちで

ドゥーエ
due.
両者

イタリアしょう　【イタリア賞】　1948年イタリア放送協会(RAI*)の提唱により，ヨーロッパ各国放送団体によって創設。世界最高の権威をもつ放送番組の国際コンクールにおける賞。放送番組の向上と世界各国間の相互理解を深めることを目的とし，テレビは，劇・ドキュメンタリー・音楽の3部門に，ラジオとステレオ放送もおのおの劇・ドキュメンタリー・音楽の3部門に分かれ，合計9部門。賞は，各部門の第1位に与えられ，毎年9月，イタリア各市で開催されている。わが国では，NHKが1956年(昭和31)，民間放送が1963年から参加している。〔須藤泰秀〕

イタリアせいさく　【イタリア政策】　10世紀半ばから13世紀半ばにわたる神聖ローマ帝国のイタリア支配政策。オットー1世*(大帝)は962年教皇から神聖ローマ皇帝の冠を受け，古代ローマ帝国の継承者と自認した。このため歴代皇帝はイタリア支配に熱中し，そのことがドイツの統一を遅らせた。イタリアにおいても，10世紀のサラセン人やマジャール人の侵入，11世紀以降の皇帝派と教皇派の対立，また12世紀にはノルマン人の南部イタリア侵入など混乱が続き，統一が遅れた。しかし，神聖ローマ帝国のイタリア支配政策も，大空位時代*によって終わった。

イタリアせんそう　【イタリア戦争】　1521～1544年の間に4回にわたって行なわれた，フランス王フランソア1世*と神聖ローマ皇帝カール5世*のイタリア支配権争奪の戦争。この両国のイタリア争奪戦は，すでに15世紀末よりフランス王シャルル8世・ルイ12世と神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世との間に始められていたが，カール5世の即位によるドイツ・スペインの合体に脅威を受けたフランソア1世により再開され，戦争はイタリアからネーデルラント・ピレネー国境にも拡大された。フランスはオスマン-トルコとも同盟して戦ったが敗北し，ミラノはドイツに，ナポリはスペインに帰属した。この結果フランスの国際的地位は低下し，戦場となって荒らされたイタリアではルネサンスのあかりが消され，その分裂が決定的となった。〔大野慎一郎〕

イタリアとういつせんそう　【イタリア統一戦争】　小国分裂の状態にあったイタリアが19世紀，近代国家として統一していく上でオーストリアと行なった戦争。大きく2回に分けられる。〈第1回〉1848～1849年。1848年，フランスの二月革命*でイタリアの国民主義運動は大きな刺激を受け，オーストリア領のベネチア・ロンバルジアに反乱が起こり，サルジニア王カルロ-アルベルト*はオーストリアに宣戦し，ローマではマッチーニ*が共和革命を起こした。しかし，国内の動揺をおさえたオーストリアは直ちに反撃に出，アルベルトは敗れて退位し，ローマの共和国もフランスの出兵で崩壊した。〈第2回〉1859～1860年。アルベルトのあとを継いだビットリオ-エマヌエレ2世*は宰相カブールの協力を得て統一実現の準備を進め，1858年ナポレオン3世と密約を結んで，1859年オーストリアに宣戦した。イタリアの強大化を恐れたナポレオン3世が途中単独講和を結んだので，サルジニアもやむなく休戦し，ロンバルジアを得たにとどまった。しかし，中部イタリアはみずから併合を求め，ガリバルディ*はシチリア・ナポリを征服して献上し，1861年イタリア王国の樹立に成功した。➔リソルジメント

〔大野慎一郎〕

イタリア-トルコせんそう　【イタリア-トルコ戦争】　⇨トリポリ戦争

イタリア-フランスきょうしょう　【イタリア-フランス協商】　植民地分割をめぐるイタリア・フランス間の利害対立を調整した1900年の秘密協定。イタリアはモロッコでのフランスの優越を認める代償として，トリポリ・キレナイカにおける優越的地位をフランスに承認させた。この結果，両国の関係は強化される反面，イタリアが脱退した三国同盟*は弱体化した。

イタリアぶんがく【イタリア文学】13世紀のイタリア各地に方言による宗教詩・教育詩が多く現われ，これ以前の断片とともにイタリア文学の起源と考えられる。中では聖フランチェスコ-ダッシージの《被造物賛歌》がよく知られている。しかしこのころ，シチリア島パレルモの宮廷に集まった詩人たちが，南フランスのプロバンスの伝統的な叙情詩をまねてイタリア語による恋愛詩を書きはじめており，シチリア詩派とよばれる。これは，はじめて実用以外の美的立場から詩作したものと考えられるが，やがて，形骸(けいがい)化して空疎なものとなった。この愛の主題に心の高貴さの理想を吹き込んで，叙情詩を新たな高みに到達させたのは，トスカーナ地方を中心とする〈清新体〉派の詩人たちであり，ダンテの《新生》はこの派の最大の傑作である。

ダンテは《神曲》の中で中世的世界の理想と現実と，高貴と悲惨とを余すところなく描き出して，みずから中世のとびらを閉ざす人となり，一方，ペトラルカはこのような危機の時代に生きる不安と孤独を美女ラウラへの追憶に託してうたい，ルネサンスの先駆者と評される。そしてボッカチオは《デカメロン》によって巧みに世情を描いて近代小説の祖といわれ，また同時に後世のイタリア語散文文学に範を残した。しかしこの3巨星によって一挙に史上まれにみる輝きを得るに至った〈俗語文学〉も，続く15世紀には人文主義者たちの俗語蔑視(べっし)に押されて，わずかにロレンツォ-デ-メディチ，ボイアルドらの名が注意をひく。特に後者は中世の騎士物語の伝承を自由に発展させ，のちにアリオストがさらにこれを引き継いで《狂乱のオルランド》を書いた。またタッソの《解放されたエルサレム》は十字軍遠征に主題を求めた歌曲であり，ルネサンス的理想の極致であるといえる。

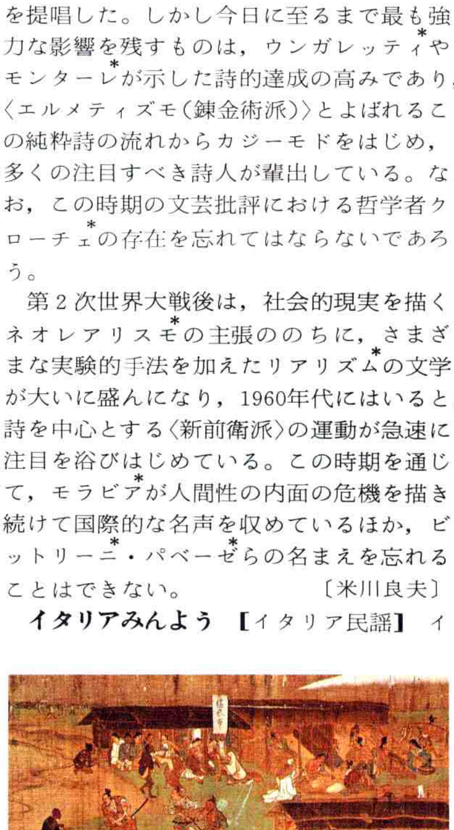
他方，ルネサンスは，マキアベリやジョルダーノ-ブルーノ，ガリレオ-ガリレイのような思想家・科学者などによる注目すべき科学的・思想的著述，史誌・伝記などを生み，これは18世紀の啓蒙(けいもう)主義の時代にまで引き継がれる。これに対して17～18世紀の詩はむしろふるわず，わずかにきわめて技巧的な詩によって新風を開いたマリーノと，啓蒙主義の影響下に社会批判のテーマを大胆に取り入れたパリーニの名があげられる。他方，演劇では，16世紀に多くのすぐれた文人が喜劇を書いたが，やがてコメディア-デラルテと称する即興的演技の芝居が大流行し，ゴルドーニによる改革まで続いた。またメタスタジオが歌劇で詩と音楽のみごとな結合を示し，アルフィエーリがイタリアにはじめて古典的悲劇を誕生させた。

イタリアのロマン主義は，ナポレオンの軍隊とともに戦った熱血児フォスコロにその最初のおおしいいぶきを示し，やがて薄幸の天才詩人レオパルディの厭世(えんせい)的な叙情，カトリックの詩人マンゾーニの歴史小説《婚約者》にその最高の表現を生む。イタリアのロマン主義はその国情のために愛国主義的であり，祖国統一戦争に参加した詩人・作家の作品や回想記も多い。しかし祖国統一ののちは，理想の堕落に反抗して蓬髪(ほうはつ)無頼の生活に自由の主張を試みた詩人たち，あるいはカルドゥッチが標榜(ひょうぼう)する新古典主義の詩に従う者も多かった。19世紀後半で最も注目されるのはイタリアにおける自然主義，〈ベリズモ(真実主義)〉の文学であり，シチリア出身の作家ベルガによって代表される。この影響下に地方主義の小説も多く現われた。中でも，サルジニア出身の女流作家デレッダの名が特にあげられよう。

19世紀末から現在までのさまざまな文学革新の努力の中で，まず今世紀初頭の詩人に最も影響を残したのは象徴主義の詩人パスコリであり，またダヌンチオはみずからさまざまな前衛運動に飛び込んで，多彩な活動を展開した。演劇ではピランデッロが今日のアンチ-テアトルを思わせる演劇形式の破壊を行ない，またマリネッティらの未来派は機械工学的な美を主張し，〈自由語〉を提唱した。しかし今日に至るまで最も強力な影響を残すものは，ウンガレッティやモンターレが示した詩的達成の高みであり，〈エルメティズモ(錬金術派)〉とよばれるこの純粋詩の流れからカジーモドをはじめ，多くの注目すべき詩人が輩出している。なお，この時期の文芸批評における哲学者クローチェの存在を忘れてはならないであろう。

第2次世界大戦後は，社会的現実を描くネオレアリスモの主張ののちに，さまざまな実験的手法を加えたリアリズムの文学が大いに盛んになり，1960年代にはいると，詩を中心とする〈新前衛派〉の運動が急速に注目を浴びはじめている。この時期を通じて，モラビアが人間性の内面の危機を描き続けて国際的な名声を収めているほか，ビットリーニ・パベーゼらの名まえを忘れることはできない。〔米川良夫〕

イタリアみんよう【イタリア民謡】イタリアの民謡は，作曲家不詳の土くさい民俗音楽というよりは，芸術音楽の発展にささえられた，いわばつくられた民謡が大部分である。しかし，そこにも地域的な特徴が現われており，ナポリ・ベネチア・シチリアのものは特に有名である。歌唱はベル-カントといわれて，朗々として開放的な発声が多い。コンクールによって新しい民謡の創作を促すことが長く行なわれていて，最近カンツォーネとして知られる大衆歌曲もその流れをくむものである。〔山口 修〕



市　筑前福岡の市のありさま《一遍上人絵伝》(部分)

イタリアろうどうそうどうめい【イタリア労働総同盟】Confederazione Generale Italiana del Laboro。略称CGIL。イタリア最大の労働組合全国中央組織。組合員約340万。第2次世界大戦末期，ファシズム反対運動の中心となってたたかう中で，1944年6月，共産党・社会党・キリスト教民主党の三派協定によって成立。戦後イタリアの経済復興，民主主義的改革と結びつけて労働計画を提起し，労働者階級のまわりに広範な諸階層の人々を結集して，統一闘争を展開している。フランス労働総同盟(CGT)とともに世界労働組合連盟(世界労連)の中心となっている。〔木元錦哉〕

イタリアンクロス［Italian cloth］綿または綿毛交織の繻子(しゅす)織物。光沢に富む織物で，黒色などに染色し，服裏地・そで口地・かさ地・婦人服地などに用いられる。

いたわさ【板わさ】板わさびの略。板かまぼこを適宜に切って盛り，おろしわさびをつけて出し，しょうゆを添える。明治の中期ごろから小飲食店などで酒肴(しゅこう)として用いたのに始まる。

いたん【異端】〈異端〉の語源であるギリシア語のhairesis(ハイレシス)は〈説の固執〉を意味したが，しだいに〈分派〉を意味するようになった。〈正統〉に対立する概念。主として宗教において同一宗派の正統的立場・教説に反対して，異説・謬説(びゅうせつ)を主張する者に付せられる名称で，他宗派に対しては〈異教〉とよぶ。この意味ではキリスト教の歴史は正統と異端の絶え間ない闘争の歴史と解することも可能である。一般に〈正統〉と〈異端〉の問題はむずかしく，〈正統〉も，みずからを〈正統〉と考える〈異端〉の側からみれば〈異端〉であるという，やっかいな問題がある。それゆえ〈正統〉〈異端〉の別は教理・理論・思想の次元での区別に加えて，多数派・少数派という力関係，すなわち政治的次元での視点が加えられている。〔石井忠厚〕

いち【市】物資の交換取引の行なわれる場所をいう。大化改新以前，すでに河内(かわち)(大阪府)の餌香市(えかのいち)や大和(やまと)(奈良県)の海石榴市(つばのいち)・軽市など交通の要路に市があった。大化改新以後には藤原京に東西の市があり，平城京・平

安京には官設の東西の市が設けられて，市司*の管理のもとで，15日以前は東市，16日以後は西市が毎日開かれた。平安末期になると京の市は衰退して，しだいに常設の店舗商業に移行し，地方の市が発達した。鎌倉時代には地方荘園(しょうえん)の市は著しく増大し，寺社の門前や港津などにも市が立つようになった。市はその開かれる日の一定した定期市となり，度数も多くなって，月に3回開かれる三斎市*が全国的に普及し，市場間には開市日の協定が行なわれた。また室町時代には月6回開かれる六斎市*が一般化した。市場商人たちは市座を組織して領主の保護を受け，しだいに独占的傾向をみせたが，戦国大名は領国経済の繁栄を図って市座や市場税を撤廃する楽市*の政策を行なった。その後定期市は経済の発展，商品の需給に応じえず，やがて店舗商業に移行し，市は地方の農村や年数回の大市や歳(とし)の市としてみられるにすぎなくなった。また中世には京都・奈良などに米・魚・塩などの専門的な卸売市場が発達し，近世では江戸・大阪などの大都市に米・青物・魚介などの卸売市場が発達した。現代では社寺の祭礼・法会や縁日などに境内(けいだい)で開かれるものが存し，酉(とり)の市，羽子板市・朝顔市のような特殊の商品を扱う市もあるが，青果市場・魚市場のような規模の大きなものも引き続いて存続している。〔鈴木英雄〕

いちあくのすな 【一握の砂】 石川啄木*(たくぼく)の処女歌集。1910年(明治43)刊。1901～1910年の短歌551首を収めている。歌は3行書きに特徴があり，概して新詩社*ふうの象徴的な歌風をもつが，他方，生活の苦闘の中からつかんだ切実な感情も多くうたわれ，近代短歌に生活派の道を開いた。

いちい 【一位】 裸子植物・イチイ科。オンコ・アララギともいう。深山にはえ，庭にも植えられる常緑針葉高木。高さ20m直径70cmに達す。樹皮は赤かっ色で浅く裂ける。枝は互生し，葉を2列に密につける。葉は線形で長さ1.5～2.5cm，幅1.5～2mmで表面は暗緑色，裏面は中央脈と縁が緑色，それ以外の部分は気孔線で黄緑色である。雌雄異株。3～4月，淡黄色の雄花穂，緑色の雌花を葉の基部につける。9～10月熟して赤色の仮種皮が緑色の種子を包む。仮種皮は食べられる。材は建築に用いられる。民間では葉を利尿薬として用いることがある。〔加藤僖重〕

いちいせいたい 【位置異性体】 ⇨構造異性体

いちいでんしいちこうそせつ 【一遺伝子一酵素説】 1940年代にアメリカのビードルとテータムがアカパンカビを材料として，トリプトファン*の合成経路と遺伝子支配について研究した結果提唱した説で，〈1個の遺伝子が一つの酵素の合成を支配する〉という考え。彼らはこの業績によって1956年度のノーベル医学生理学賞を得た。この学



イチイ

説は，さらにイングラムの鎌状(かまじょう)赤血球のヘモグロビンの研究以来，《一遺伝子一ペプチド説》ともいわれている。

いちいんせい 【一院制】 二院制に対することばで，国会がただ一つの院からなっている制度をいう。理論的には，国民を代表する機関は，ただ一つであるのが当然で，国民の意志が二つの機関で別々に表明されるのは，かえって混乱を招くとする。一院制はフランス革命のときの国民議会や今日の人民共和国における人民議会などにみられる。ただし連邦国家では，一般人民代表(アメリカの下院)と各州代表(上院)，あるいは多民族国家では，人民代表(ソ連の人民ソビエト)と民族代表(民族ソビエト)というような二院制も合理性はあるが，貴族代表(イギリスの上院)と国民代表(下院)を区別するのは，今日ではもはや認められないとする。したがってイギリスをはじめ諸国の二院制でも，上院の権限は弱く，下院が優越的な地位にあるのを普通としている。日本の衆議院の優越性も，その一例である。➔議会〔鈴木安蔵〕

いちエネルギー 【位置エネルギー】 高い所にたくわえられた水を落下させると，水車を回して発電機などの機械を動かすことができる。土木工事や建築工事の際には，高く持ち上げたおもりを落下させて大きな杭(くい)を地中深く打ち込む機械が使われる。このように高い場所にある物体は低い位置に落下する際に仕事*をすることができる。いいかえると物体は高い位置にあることによって仕事をする能力をもつ。これを位置エネルギー，またはポテンシャル-エネルギーという。高い所にある物体が位置エネルギーをもつのは，重力が働いているためである。重力以外の力，たとえば万有引力*・クーロン力*・核力*，ばねやゴムひもなどによる弾性の力によっても物体は位置エネルギーをもつ。しかし摩擦力や空気の抵抗力のような性質の力によっては位置エネルギーをもたない。位置エネルギーは場所によって決まるもので，厳密にはある場所Pから基準点Aまで移動する間に他になしうる仕事によって定義される。この仕事がPからAに至る経路に無関係であることが位置エネルギーを考えることのできる条件で，重力をはじめ上にあげた力はすべてこの条件を満たしている。このような力を〈保存力〉という。基準点Aの選び方は自由である。したがって位置エネルギーの絶対的な値にはあまり意味がなく，2点での位置エネルギーの差のみが意味をもつ。たとえば重力の場合，基準点を地面にとり，物体の高さをh，質量をm，重力加速度をgとすると，位置エネルギーはmghで与えられる。〔有山正孝〕

いちえんちぎょう 【一円知行】 一定の土地について他の領主の支配を交えずに単一の領主が領有することをいい，そのような土地を一円地という。中世の荘園(しょうえん)制のもとでは本所*・領家*とか地頭*・下司*などさまざまな権利関係が一つの土地に重層していた。これらの分割された権利関係がしだいに整理されて，武家の一元的支配を実現していくのが中世であり，太閤(たいこう)検地*によって複雑な関係は一掃された。

いちがみ 【市神】 市場に祭られ，人々に市*の幸を与えると信じられる神。795年(延暦14)藤原冬嗣(ふゆつぐ)によって東西の市に3女神が祭られたことが文献にある。そのほか蛭子神(ひるこがみ)・大市姫・市杵島姫(いちきしまひめ)などが祭神とされているが，これらは後世に名づけられたものであろう。神体は円形の自然石が多く，球形・卵形・六角などの石柱で，傘石(かさいし)のあるもの，市神という文字のあるものもある。往来の障害になるような所に建てられる。市神の祭りは正月10日ごろが最も多く，青年が市神をかついで回ったり，子どもが中心になって祭ったりする。〔紙谷威広〕

いちかわ 【市川(市)】 千葉県西端の市。1934年(昭和9)市制施行。人口35万。市域は，両総台地の末端，国府台(こうのだい)の台地上にあり，江戸川を隔てて東京都と接する。総武本線・京成電鉄・国道14号線に沿い，松戸市から市川有料道路が通ずる。1935年に国鉄が電化されてから住宅化・工業化が著しく進んだ。産業三大別人口比は2：36：62で，第2次世界大戦ごろから，紡織・金属・機械・食品などの近代工業が発達し，京葉工業地帯西部の中心地区となった。宮内庁新浜(にいはま)御猟場や，真間の手児奈*(てこな)を祭る手児奈堂，日蓮上人*(にちれんしょうにん)直筆の《立正安国論》《観心本尊抄》(ともに国宝)を保存する法華経(ほけきょう)寺，姥山貝塚*(うばやまかいづか)・堀之内(ほりのうち)貝塚などの名所・史跡に富む。

いちかわえんのすけ 【市川猿之助】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号沢瀉屋(おもだかや)。

1 初世(1855～1922) 9世市川団十郎*の門弟。下級俳優から大幹部に出世し，のち2世市川段四郎を襲名。

2 2世(1888～1963) 初世の長男。若年から歌舞伎界の新人として，新劇運動・新作歌舞伎・新舞踊で活躍した。晩年，初世猿翁と改名後，すぐに死去。芸術院会員。

3 3世(1939～　) 2世の孫。

いちかわかんさい 【市川寛斎】 (1749～1820) 江戸末期の儒学者・詩人。上野(こうず

け)(群馬県)甘楽(かんら)郡の出身。名は世寧・字(あざな)は子静,通称は小左衛門(こざえもん)・半江・江湖詩老などと称す。昌平黌(しょうへいこう)に朱子学を学び,のちその学頭となる。富山侯に仕え,藩校の教授として20余年在職。特に詩に長じ,門下生も多く,彼の詩は江戸の詩風を一変するに至ったともいわれた。おもな編著に《日本詩紀》《全唐詩逸》《上毛志》などがある。〔坂本和子〕

いちかわこだんじ【市川小団次】歌舞伎(かぶき)俳優。5世まであるが4世が最も有名。屋号高島屋。4世小団次(1812～1866)は7世市川団十郎の門下。京阪(けいはん)で修業後,江戸へ帰り,河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)と組んで生世話物を開拓した。幕末の代表的名優。

いちかわこん【市川崑】(1915～) 映画監督。伊勢(いせ)市に生まれ,市岡商業高校卒業。風刺喜劇や心理的なドラマにすぐれ,斬新(ざんしん)な映像感覚をもち,国際的にも高く評価されている。代表作は,《プーサン》《野火》《東京オリンピック》など。

いちかわさだんじ【市川左団次】歌舞伎(かぶき)俳優。屋号高島屋。

[1]初世(1842～1904) 4世市川小団次の養子。新作史劇に活躍,9世市川団十郎・5世尾上(おのえ)菊五郎とともに〈団菊左〉と称された。明治座を経営。

[2]2世(1880～1940) 初世の長男。小山内薫(おさないかおる)と組んで〈自由劇場〉を創設し,新劇運動を推進,岡本綺堂(きどう)らの新歌舞伎を確立,また古劇の復活にも努めた。

[3]3世(1898～1970) 6世市川門之助の子。芸術院会員。重要無形文化財保持者。

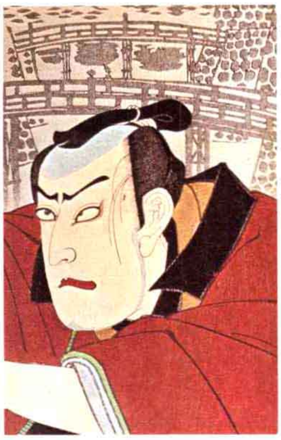
いちかわさんき【市河三喜】(1886～1970) 英語学者・学士院会員。東京下谷(したや)生まれ。第一高等学校・東京大学卒。1916年(大正5)から東大に教鞭(きょうべん)をとり,1946年(昭和21)退官。英語研究では科学的研究法を実践し,わが国における英語研究の発展に大きい影響を与えた。外来語についての関心も深く,1933年《ことばの講座》(日本放送協会)の中で,欧米語を中心として,外来語を国語の語彙(ごい)構成上の一要素として考える方向への論を述べた。著書《英文法研究》《聖書の英語》《英語学―研究と文献》など,編著《英語学辞典》《世界言語概説》があり,随筆家としてもまた有名。〔寒河江実〕

いちかわじゅかい【市川寿海】(1886～1971) 歌舞伎(かぶき)俳優。名義は3世。屋号成田屋。前名6世市川寿美蔵(すみぞう)から1949年(昭和24)7世市川団十郎の俳名だった寿海を襲名。現劇界の最高位にあった。芸術院会員。重要無形文化財保持者。

いちかわしょういち【市川正一】(1892～1945) 日本共産党指導者。山口県の生まれ。早稲田(わせだ)大学卒業後,読売新聞社記者を経て社会主義の研究に傾き,1921年(大正10)雑誌《無産階級》を創刊,1922年日本共産党結党に参加し,機関紙《赤旗》の編集に従事。1923年第1次共産党検挙事件の際逮捕されたが,山川均(ひとし)らの解党論に反対して,1926年(昭和1)再建組織の書記長となった。1928年の三・一五事件の際の大検挙をのがれたのち,党の再建,労働者組織の拡大に指導的役割を果たした。同年8月にはコミンテルン(共産主義インターナショナル)第6回大会に日本代表としてモスクワにおもむいた。1929年の四・一六事件で検挙され,あくまで転向せず,獄中生活のまま第2次世界大戦終結の直前獄死した。公判廷での陳述は《日本共産党闘争小史》として知られる。〔安達淑子〕



市川猿之助 《黒塚》の鬼女を演ずる2世





市川左団次 (左)丸橋忠弥を演ずる初世 (右)《鳥辺山心中》の菊池半九郎を演ずる2世と市川松蔦のお染





市川団十郎 (左)初世 菱川師宣筆 (右)加藤清正を演ずる9世

いちかわだいもん【市川大門(町)】山梨県西八代(にしやつしろ)郡の町。人口13,000。町名は1900年(明治33)に町制を敷いたとき,かつて代官の陣屋があった市川と,平塩寺の門前町が合併してつくられたものである。釜無(かまなし)川と笛吹川との合流点の東側にあり,国鉄身延(みのぶ)線に沿う。笛吹川の支流芦(あし)川の水を利用して,中世のころから盛んに手すきの和紙がつくられてきたが,現在ではほとんど機械すきとなって,おもに障子紙(全国の20%)を生産している。製糸業も行なわれ,また市川花火として知られる花火の産地である。

いちかわだんじゅうろう【市川団十郎】歌舞伎(かぶき)俳優。江戸劇壇随一の名家で,11世まである。屋号成田屋。

[1]初世(1660～1704) はじめ段十郎。荒事を創始。江戸の代表的俳優として上方の坂田藤十郎と並び称された。三升屋(みますや)兵庫の名で脚本も執筆。

[2]2世(1688～1758) 初世の子。父譲りの荒事に和事を加えて洗練させ,市川家の基礎を固めた。

[3]4世(1711～1778) 初世松本幸四郎の養子で2世幸四郎の名を経て団十郎を襲名。松王丸・由良助(ゆらのすけ)などを得意とした。

[4]5世(1741～1806) 4世の子。3世松本幸四郎の名を経て団十郎を襲名。荒事のほか,女方や舞踊にもすぐれた。

[5]7世(1791～1859) 5世の次女の子。荒事・時代物・世話物・舞踊の各方面に活躍,能を取り入れた《勧進帳》を創演し,家の芸〈歌舞伎十八番〉を制定した。

[6]9世(1838～1903) 7世の五男。多方面の役にすぐれ,文明開化の動向に応じ活歴物とよばれる新史劇を創始,また〈新歌舞伎十八番〉を制定。俳優の社会的地位の向上にも努め,〈劇聖〉とよばれた。養子三升に死後10世を追贈。

[7]11世(1909～1965) 7世松本幸四郎の長男。10世の養子。近年随一の人気俳優だった。〔松井俊諭〕

いちかわだんぞう【市川団蔵】歌舞伎(かぶき)俳優。屋号三河屋(みかわや)。

[1]7世(1836～1911) 幕末の名優7世市

川団十郎の門弟。〈光秀(みつひで)〉〈仁木(にき)〉など，実事・敵(かたき)役にすぐれ，堅実な芸風の実力者として人気があった。

[2] 8世(1882～1966)　7世の子。初世中村吉右衛門(きちえもん)と共演することが多く，じみな脇役(わきやく)として認められたが，劇界引退ののち自殺した。

いちかわちゅうしゃ　【市川中車】　歌舞伎(かぶき)俳優。屋号立花屋。

[1] 7世(1860～1936)　名脇役(わきやく)として，またのちには立ち役の名優として人気を得た。もと八百蔵(やおぞう)といったが，1918年(大正7)《馬盥(ばだらい)の光秀(みつひで)》で日本一と激賞されたのを機に，代々の八百蔵の俳名中車を芸名にした。

[2] 8世(1896～1971)　7世の養子。2世市川猿之助(えんのすけ)の弟。東宝劇団に所属。

いちかわべいあん　【市河米庵】(1779～1858)江戸時代末期の書家。〈幕末の三筆〉のひとり。名は三亥(さんがい)，寛斎の子，江戸の人。儒学を父および柴野栗山(しばのりつざん)に学んだ。宋(そう)の米元章の書風を好み，米庵と号した。書はじょうずで筆力は強いが平凡である。当時書家として最も尊重され，門人が3,000人もいた。書に関する著述が多い。

いちき　【市来(町)】　鹿児島県日置郡の町。人口7,500。串木野(くしきの)市の南隣にある。大部分はシラス台地，吹上浜北端の砂丘地帯で，農業の生産性は低いが，酪農やミカン栽培が行なわれ，しょうちゅうを産する。江戸時代から明治時代にかけて港が栄えたが，鹿児島本線の開通でさびれた。

いちぎょう　【一行】　(683～727)　中国真言宗の僧。一行阿闍梨(あじゃり)・大慧(だいえ)禅師。鉅鹿(きょろく)の生まれで，俗名を張遂という。20歳で出家して，はじめ禅を学び，のちに律・算数・暦法を学んだ。唐の玄宗がその学名を聞いて長安に招き，インドからシュバカラシンハ(善無畏(ぜんむい))が来朝するや，そのもとで密教を学ばせ，《大日経》の翻訳を助け，その注釈を筆記編纂(へんさん)した。中国仏教史上の弘法(こうぼう)大師ともいうべき人で，注釈書《大日経疏(だいにちきょうしょ)》は不朽の価値をもつ。また《大衍暦(たいえんれき)》で従来の暦の計算法を訂正した。〔金岡秀友〕

いちげんきん　【一弦琴】　須磨琴(すまごと)・板琴(はんきん)ともいう。1m余の長さのキリの板に絹製の弦を1本張り，板の表面にはめこまれた12個の徽(き)という勘所に合わせて，左手の中指にはめた象牙(ぞうげ)あるいは竹製の管をあて，さらに右手食指にはめた義爪(ぎそう)で弦をはじいて演奏する。伝説には在原業平(ありわらのなりひら)のころからあったといわれるが，実際には江戸初期，中国大陸から伝えられたものである。曲目にはもともとこの楽器のためにつくられた本曲と，他の楽器のための曲をこの楽器に向くように編曲した外曲とがある。現在ではこの楽器の演奏者はきわめて少ない。〔山口　修〕



イ チ ゴ

いちげんびょうしゃ　【一元描写】　小説の描写法で，日本では1918年(大正7)岩野泡鳴(ほうめい)がはじめて提唱した。作者の主観を作中の一人物に付託して，その人物の視点から，人生を描きだす方法。泡鳴は，これによって作者は注釈的説明に陥らず，作中の人生に対して客観的な位置をもちうると主張，田山花袋の傍観的な平面描写論と対立して，その後10年，文壇の論争題目の一つになり，また，〈私小説〉の発想基盤にもなった。ヨーロッパ近代文学では，アメリカの作家(のちにイギリスに帰化)ヘンリー-ジェームズの一元視点論に部分的な類似点がある。〔長崎勇一〕

いちげんろん　【一元論】　C.ウォルフの造語で，〈存在〉をすべて〈精神〉であるとするか，あるいは〈物質〉であるとする説をさした。この意味では唯心論も唯物論も一元論である。のちにもっと広く実在のさまざまな面ないしは全体を説明するのに，なんらかの意味で一つのもの，統一を強調する考えを意味するようになり，二元論・多元論にみられる複数の原理はすべて一つのものの特殊な現われ方だとする。主としてパルメニデスの〈有〉の説，ヘーゲルの〈絶対精神〉の説，シェリングの同一哲学，特にスピノザの汎神論(はんしんろん)をさす。T.T.C.スマートやH.ファイグルなどの精神と物質の対立を第3の原理で統一しようとする同一性理論があるが，物質主義に終わっている。マルクス主義は世界が唯一の現実であり，神は存在しないとし，世界の原理は本質的に等質(唯物論)だとする点で，二重の意味で一元論だとされる。〔玉井　治〕

いちこ　【市子】　神に仕える女性。神子・巫女(みこ)ともいう。狭義には神からの託宣を伝えることを任とする。日本の信仰の中には，神が特定の人の口を借りて神の意志を伝えるものがある。この特定者が市子である。《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》に伝えられる耶馬台国(やまたいこく)の女王卑弥呼(ひみこ)は，〈鬼道に仕えてよく衆を惑わす〉とあるように巫女でもあった。また神功(じんぐう)皇后は軍を起こすにあたってみずから神主となり，神の教えを受けている。歴代の天皇は皇女・皇妹の中から皇祖神である伊勢(いせ)の大神に奉仕する女性を選んで，長く御杖代(みつえしろ)として仕えしめた。これを斎宮(さいぐう)という。近来では市子・巫女は女性の神職をささず，青森県下北半島恐山のいたこやオカミサマによって代表される口寄せの類をさす語となっている。〔坂本和子〕

いちご　【苺】　双子葉植物・バラ科の多年生，宿根性草本。茎は非常に短く冠部とよばれ，年数がたつと少しずつ伸びてワサビの根のようになる。冠部から長い葉柄をもち，3小葉からなる複葉をつけた葉を出す。秋涼しくなると花芽ができ，秋から冬にかけて発育し，春開花するのが普通である。花は5～15個の花房を形成し，1花には白色の小さな5個の花弁を有するいわゆる集合花で，多くのめしべとおしべをもっている。果実といわれているものは花托(かたく)の発達したもので，果実の表面についている黄かっ色の小粒が種子である。高温期の夏から秋にかけて葉腋(ようえき)からランナー(匍匐枝(ほふくし))が出て，先端が冠部となり新しい株をつくり，次々にランナーを出して30～100くらいの子株をつくる。繁殖はランナーによってできた子株を用いるが，品種改良には種子を用いる。

イチゴの野生種を栽培したのは14世紀ごろといわれている。現在われわれが食用に供している種類は，18世紀の中ごろ，オランダで，北アメリカ東部に自生していたバージニア種と南アメリカのチリ地方に自生していたチリ種の雑種をつくってできたもので，その後欧米で盛んな品種改良が試みられ多くの品種ができた。わが国には徳川時代にオランダから導入されたため，オランダイチゴともいわれるが，現在の品種は明治以後に欧米から導入されたもので，わが国でも品種改良が行なわれた。〈福羽〉品種はわが国で1900年(明治33)に，フランスの品種〈ゼネラル-シャンジー〉からつくられ，〈ダナー〉はアメリカでつくられた品種である。

10～11月に畑に株を植え，4～5月に収穫する栽培が普通であるが，近年は高冷地で苗をつくり，花芽形成を促進させ，ビニルを被覆して早出し栽培をしたり，春から夏の間は株を冷蔵庫で冷蔵して，9月に畑に植えて秋の終わりに収穫するおそ出し栽培なども盛んになってきた。このような方法の始まるまえは，静岡県久能山で行なわれていた南面の暖かい石がきを利用して栽培されていた石がきイチゴが早出しイチゴとして有名であった。

イチゴはビタミンCが豊富で，特有の芳香があるので，生で食べることが多いが，ジャム類やゼリー・ジュースなどにも加工される。〔松本正雄〕

いちごいちえ　【一期一会】　茶道用語の一。茶の湯のつどいを一生にたった一度の会合と思い，亭主(ていしゅ)も招客も互いに誠心誠意をもって所作すること。利休流茶道の秘伝書である《山上宗二記(やまのうえそうじき)》

に〈一期に一度の会〉とあるのを初見とする。その後石州流の茶人井伊(いい)宗観(直弼(なおすけ))によって，《茶の湯一会集》が著わされ，茶道の基本として普及した。

いちごじた【苺舌】 猩紅熱(しょうこうねつ)性アンギーナでは，咽頭(いんとう)および扁桃(へんとう)が鮮紅色に腫脹(しゅちょう)するが，舌も赤くはれ，表面が顆粒(かりゅう)状になるため，イチゴに似るのでこのようによばれる。猩紅熱診断の一助となる。➔猩紅熱

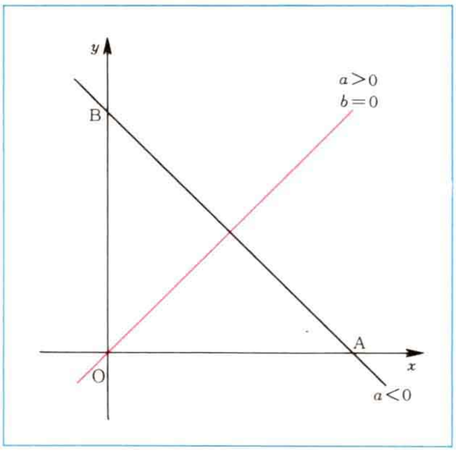
いちこつ【壱越】 日本の伝統音楽で使う12律の第1音(基準音)で，ほぼ西洋音楽のニ音に該当する。これは固定した音名であって，ドレミ……のような階名ではない。三味線(しゃみせん)音楽の分野においては，これを関西では〈1本〉，関東では〈6本〉とよんでいる。

いちごんほうだん【一言芳談】 14世紀初頭ごろに成立したかな法語集。編者は不明。法然*(源空)をはじめとする30余人の中世の念仏行者や遁世者(とんせいしゃ)の言行を聞き書きにしたもの。特に浄土宗鎮西派の僧のものが中心になっている。《徒然草(つれづれぐさ)》に引用されて有名である。短文で金言的文句が多く，現代でも代表的宗教書として引用されている。

いちじうちゅうせん【一次宇宙線】 ⇨宇宙線

いちじかいこ【一時解雇】 ⇨一時帰休制

いちじかんすう【一次関数】 xを変数とするとき，xの一次式で表わされる関数$f(x)=ax+b$(a，bは定数，$a\neq 0$)をいう。グラフは直線で，$a>0$のとき$f(x)$は単調増加，$a<0$のとき単調減少である。座標軸との交点は$A(-\frac{b}{a},\ 0)$，$B(0,\ b)$。特に$b=0$の場合には$f(x)=ax$となり，正比例*の関係を表わす。



一次関数

いちじききゅうせい【一時帰休制】 操業短縮*や事業の一時的な縮小の際，労働者を一時故郷に帰し，操短期間が過ぎ縮小がとかれれば，再び呼びもどす制度をいう。不況期には，合理化による人員整理がいろいろな形で行なわれるが，この制度も，人員整理・大量解雇の一歩手まえの手段として活用される。帰休者は，帰休期間中，従業員としての地位を失わないし，平均賃金の60％にあたる休業手当が支給されることから，厳密には解雇*ではない。しかし，いつ呼びもどされるかわからないので，労働者に与える不安は大きく，解雇と同じ機能を果たす。1952年(昭和27)ごろ，化繊・綿紡・羊毛関係でこの制度が実施され，一時帰休者に失業保険が支給されたこともあった(1954)が，これは失業保険制度の悪用であり，人件費の肩代わりを国にさせようとするもので不当である。〔木元錦哉〕

いちじく【無花果】 双子葉植物・クワ科・イチジク属。小アジア原産の落葉低木。高さ3～6m。葉は互生し，長さ・幅とも10～20cmで3～5裂して，表面はざらつく。



イチジク

葉や枝を傷つけると白い乳液を出す。5～6月，葉腋(ようえき)に表面がなめらかな果実のようなものをつける。これは花托(かたく)が肉質化したもので，その内壁に白色の小花を多数つける。このため花をつけないで果実ができるように感じる。くだものとして食べる部分は花托の部分と発達した花の部分である。雌雄同株であるが，栽培されているものでは雌花のみのことが多い。〔加藤僖重〕

イチジクはすでにエジプト第12王朝時代(BC2000ごろ～BC1800ごろ)の墓の壁画に描かれている古い果樹で，日本へは中国から(年代不詳)と，寛永年間(1624～1643)に南方からはいった。大正から昭和にかけて家庭果樹として普及。温暖な地方に産地があり，経済栽培の北限は新潟県北蒲原(きたかんばら)郡まで。湿気のある土の所に適するが，根の耐水性は強くない。通常は受粉を要さず結実し，さし木・とり木などでふやす。成熟近くにオリーブ油を1滴，果実先端の穴に注入すると熟期を促進できる。果実は生食のほか，ジャム・砂糖づけ・かんづめなどにされる。〔岩垣駛夫〕

いちじさんぴん【一次産品】 農業・林業・畜産業・水産業・鉱業部門の加工されていない生産物をいう。主として，米・小麦・砂糖・コーヒー・ココア・綿花・羊毛・ゴム・木材・スズ・石油など，東南アジア・中近東・アフリカ・中南米の低開発国で生産される。この一次産品は，それらの国の主要な輸出品であるが，先進工業国でこれらの代替品の開発が進んできたこと，また，食糧などでは世界的に需要が伸び悩んでいることから輸出量・価格ともに停滞し，低開発国で大きな経済問題をひき起こしている。〔高山隆三〕

いちじじしゃく【一次磁石】 ⇨磁石

いちじでんち【一次電池】 ⇨電池

いちじふさいぎ【一事不再議】 一度議決した事項は再び審議しないという原則。旧憲法は，否決された法律案は同会期中に再提出できないと明示していた。現行憲法は別段これを明示していないが，合議体の議事運営上，当然の原則として国会・地方議会においてもこの原則に立っていると解されている。

いちじふさいり【一事不再理】 一度判決によって確定した事犯については，再度の起訴*を許さない原則をいう。判決の確定力の効果(既判力*)として，一事不再理の効力が生ずるものとされる。憲法39条は〈何人も……既に無罪とされた行為については，刑事上の責任を問われない。また，同一の犯罪について重ねて刑事上の責任を問われない〉と規定し，一事不再理の採用を明らかにした。すなわち国家権力による二重危険を禁止して，国民の人権を保護し，訴訟の合理性を維持するためである。一事不再理が適用された事犯について，公訴が提起された場合，審理を行なわず，免訴の判決を行なう(刑事訴訟法337条1項)。確定判決の事犯の範囲については，特に包括一罪とか継続犯などが判決の前後に行なわれた場合に問題となり，また判決内容の犯罪事実の範囲についても問題となる。前者については，判決言い渡し時をもって基準とし，判決言い渡し後の事犯には一事不再理の適用がないものとされ，後者については，犯罪事実と単一・同一の関係にある全事実を含むとされる。なお一事不再理が適用されるのは刑事手続きのみで，民事手続きには適用されない。〔井上公耳〕

いちじほうていしき【一次方程式】 $3x+2=8$，$x+2y=4$などのように，いくつかの変数(未知数)についての一次の項と定数項だけを含む方程式。変数の個数によって，一元一次方程式・二元一次方程式などと区別する。

いちじまきせん【一次巻き線】 ⇨変圧器

いちじょう【一乗】 仏教用語で，梵語(ぼんご)eka-yāna(エーカヤーナ)の訳。〈一つの乗り物〉の意。一仏乗ともいう。大乗仏教の教えで，《法華経*(ほけきょう)》《勝鬘経*(しょうまんぎょう)》《華厳経*(けごんきょう)》などに説かれている。仏教の真実の教えはただ一つで，それによってすべてのものが等しく仏になれると説く。すなわち，真実の教法に導く手段として声聞*(しょうもん)・縁覚*・菩薩*(ぼさつ)という宗教態度(三乗)を示しながら，あらゆるものの根底にある唯一の立場を説くのである。

また二乗三乗に対して《法華経》をさしていう。〔京戸慈光〕

いちじょうおおくらものがたり【一条大蔵譚】 ⇨鬼一法眼三略巻(きいちほうげんさんりゃくのまき)

いちじょうかねら【一条兼良】(1402～1481) 室町時代中ごろの公卿(くぎょう)。父は関白経嗣(つねつぐ)。官位は太政(だじょう)大臣従一位に上り，2度関白となる。博学で，歴史・有職故実(ゆうそくこじつ)・神儒仏・文学に通じ，室町時代随一の学者といわれる。《文明一統記》《小夜(さよ)のねざめ》《樵談治要(しょうだんちよう)》《公事根源(くじこんげん)》《花鳥余情》《日本書紀纂疏(さんしょ)》《江次第抄(ごうしだいしょう)》など多数の著書がある。

いちじょうし【一条氏】

[1]藤原北家流の九条家*の分流で実経(さねつね)より一条を称した。五摂家*の一。兼良(かねら)・冬良の学者も出した。維新後，公爵となる。

[2]土佐(高知県)の国司家。室町時代，兼良の子教房(のりふさ)は応仁(おうにん)の乱を避けて所領のあった土佐に下り，土着して国司となり領国を形成した。その後，同国の長宗我部(ちょうそかべ)氏と争ったが，国人たちにそむかれ領国を追われた。〔村尾元忠〕

いちじょうじ【一乗寺】 兵庫県加西市にある天台宗の古刹(こさつ)。寺のある山の名から法華(ほっけ)山ともよばれる。7世紀中葉法道仙人(せんにん)の開基と伝えられ，三重塔(国宝)は露盤の銘によると1171年(承安1)に建立(こんりゅう)，本堂は江戸時代の再建，妙見堂・弁天堂・護法堂は鎌倉時代の建立。寺宝には飛鳥(あすか)時代の金銅仏，平安後期絵画の名品天台高僧像10幅(国宝)，聖徳(しょうとく)太子像(国宝)などがある。

いちじょうてんのう【一条天皇】(980～1011) 在位986～1011年。名は懐仁(かねひと)。円融天皇の第1皇子。母は藤原兼家の娘詮子(せんし)。在位中は藤原道長の最盛時代で，実権はほとんどなかったが，天皇みずからも文才に富んだため，紫式部・清少納言(なごん)らの文才を輩出した。陵墓は京都市北区の円融寺北陵。

いちじょうのりふさ【一条教房】(1423～1480) 室町時代の公卿(くぎょう)。兼良(かねら)の長子。1457年(長禄1)左大臣に進んだ。応仁の乱が起こると京の戦乱を避け，奈良，さらに家領回復のため土佐(高知県)幡多(はた)郡中村に下向し，現地諸豪族に推されて土着。このため京都文化がこの地に及び，中村御所で土佐一国を支配した。その後衰え，兼家の代に長宗我部(ちょうそかべ)氏のため領国を奪われた。

いちじょうふゆら【一条冬良】(1464～1514) 室町時代の公卿(くぎょう)。兼良(かねら)の次子。〈ふゆよし〉とも読む。1488年(長享2)関白氏長者(うじのちょうじゃ)となる。1493年(明応2)太政(だじょう)大臣。辞してのち妙華寺殿と称した。学者としても知られ，その文才は父の兼良とともに称せられた。宗祇*(そうぎ)が上撰(じょうせん)した《新撰菟玖波集*(つくばしゅう)》の撰集に参加した。



一乗寺　太い木割りと深い軒に特色のある三重塔の部分



一の谷の戦い　《一ノ谷合戦図屏風》(部分)　平敦盛と熊谷直実

いちじょうべんぽう【一条鞭法】 中国，明(みん)代の後期から清(しん)代の初めにかけて行なわれた税制。明代の租税は田地に課せられる田賦と人丁に課せられる力役が主であった。田賦は唐末以来の両税法*によっており，また力役も多くの項目に分かれていた。そのために徴税事務の煩雑なのに伴って，種々の不正行為や負担の不公平が著しくなった。そこでその解決策として徴税方法を簡便化し租税収入を確保するために，田賦・力役の各項目を合併し銀で一括納入させることにしたのが一条鞭法である。これは銀経済の進展という当時の社会経済的変化に即応した税制改革であり，16世紀の中ごろ，まず江南地方を中心に施行され，のちしだいに華北にも普及していった。〔谷口規矩雄〕

いちだいざっしゅ【一代雑種】 雑種第1代が親よりもすぐれた性質を示すもの。多くの栽培植物や家畜では，自家受粉または同系交配を続けるとしばしば収量や生活力の劣るものが生じてくる。しかし，これら同系交配を続けた系統間の交配から得られる雑種第1代は，原種に比べて著しく発育のよい場合がある。この現象はヘテロシス(雑種強勢)とよばれ，1代かぎりで消えてしまうものが多いが，この特長を生かして育種に応用されている。一代雑種は，トウモロコシ・コムギ・オオムギ・そ菜類・ニワトリ・ブタ・ウシなどで利用されている。〔北川　修〕

いちにんかいしゃ【一人会社】 会社の社員(株主)がひとりとなってしまった会社のこと。会社設立のときは，数人の社員がいたが，その後社員の持ち分譲渡や株式の譲渡によって，持ち分あるいは株式が，ひとりの手に全部帰属してしまった場合，合名会社・合資会社・有限会社は，解散しなければならない(商法94条4号，147条，有限会社法69条1項5号)。ただし株式会社は設立のとき，少なくとも7人の株主が必要であるが，他の会社とは異なり，一人会社となっても会社解散の原因とはならない(商法404条)というのが通説である。〔松本治雄〕

いちねんさんぜん【一念三千】 天台宗の重要な教義で，智顗*(ちぎ)の《摩訶止観*(まかしかん)》などに説かれている。われわれの迷いの心の一瞬一瞬のうちに，三千の数に表現された全宇宙の事象が備わっているということ。その際に一念を実在とするのも，三千を実在とするのも，かたよった考えで，一念が三千であり，三千が一念であるという相依相関の中道によるべきことを強調する。これを最も切実な自己体験として体得することが天台止観の極致とされる。〔京戸慈光〕

いちねんせいしょくぶつ【一年生植物】 植物をその生育期間の長さによって分類する方法で，二年生植物*・多年生植物*に対応する。1年以内に，発芽・生長・開花・結実をし，植物体は1年で枯死する。繁殖は種子で行なわれる。

いちのせき【一関(市)】 岩手県南部の市。1682年(天和2)以来，伊達(だて)氏の一族田村氏三万石の城下町であった。1948年(昭和23)市制施行。人口59,000。地名は平安末期に関所が置かれたことにちなむ。北上盆地南端，北上川と磐井(いわい)川の合流点に位置する。産業三大別人口比は27：24：49。農作物や木炭を集散し，食品・紡織と木材・セメントなどの工業も興っている。北は中尊寺で名高い平泉町と接し，東北本線と大船渡線の分岐点で，国道4号線が通ずる。近郊には，厳美渓(げんびけい)・猊鼻渓(げいびけい)などの景勝地，国民温泉の須川(すかわ)温泉などがある。

いちのたにのたたかい【一の谷の戦い】 現在の神戸市須磨(すま)区一の谷で，1184年(寿永3・元暦1)2月に交えた源平の雌雄を

決した戦い。1183年7月に都落ちしたのち西海地方の勢力を整えながら京都に迫る平氏*を，東国を平定して全国的制覇(せいは)に進もうとする源氏*軍が攻撃した。この戦いで平氏は，源義経(よしつね)・範頼(のりより)を将とする源氏軍によって大敗し，平氏は通盛(みちもり)・忠度(ただのり)・敦盛(あつもり)・重衡(しげひら)ら多くの部将を失って，海上を屋島にのがれた。義経の奇襲攻撃〈鵯越(ひよどりごえ)の坂落とし〉と範頼方の生田(いくた)の森の戦いが有名である。〔飯田悠紀子〕

いちのたにふたばぐんき【一谷嫩軍記】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で並木宗輔*(そうすけ)・並木正三*・浅田一鳥らの合作。1751年(宝暦1)豊竹座*(とよたけざ)初演。源平合戦における熊谷直実(くまがいなおざね)・平敦盛(あつもり)ら源平の武士にまつわる物語に材を得ている。複雑きわまる構成で武士社会の犠牲精神を描き，ことに3段目の切(きり)は〈熊谷陣屋〉で名高い。歌舞伎(かぶき)化は1732年で江戸中村・森田両座で上演。

いちのつかさ【市司】 大宝令*制(りょうせい)における官司。京職*(きょうしき)の下に属し，財物の交易，器物の真偽，度量の軽重，売買の価値などの非違を調べて正す官司をいい，左京職に属するものを東市司，右京職に属するのを西市司といった。西市司は早くに衰え，東市司も鎌倉時代にはいって有名無実化した。

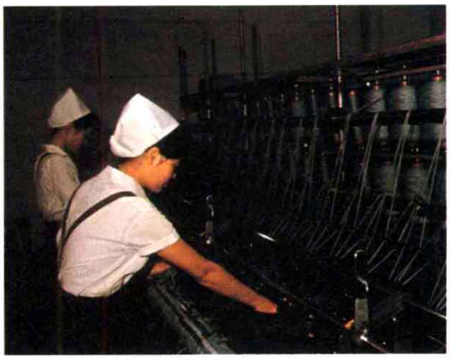
いちのへ【一戸(町)】 岩手県二戸(にのへ)郡の町。人口22,000。東北本線に沿う。古くから名馬の産地として知られたが，現在は米やリンゴをつくり，酪農・養豚を行なっている。竹細工の特産がある。特別天然記念物の根反(ねそり)の珪化木(けいかぼく)があり，北隣の福岡町との境にある浪打(なみうち)峠は，付近の岩に波形がみられ，《新古今和歌集》に〈霞(かすみ)たつすゑの松山ほのぼのと浪(なみ)にはなるるよこ雲の空〉(藤原家隆(いえたか))とよまれた歌枕(うたまくら)〈末の松山〉の地とされている。

いちのみや【一宮】 平安時代以後，諸国で行なわれた神社の社格の首位。以下二宮・三宮……があったが，これは新任国司の巡拝の順位を示すものともいい，あるいは由緒(ゆいしょ)が深く，神威の重い社から順に序列ができたものともいう。なお，時代によって一宮・二宮……の順位が変わったこともあり，また1郡中で定められたこともあった。

いちのみや【一宮(市)】 愛知県北西端に近い市。古くから尾張(おわり)の一ノ宮，真清田(ますみだ)神社の門前町として発達し，江戸時代には岐阜街道に沿う宿場町・市場町であった。1921年(大正10)市制施行。人口24万3,000。濃尾平野の一角，犬山扇状地の末端にあり，古くから絹・もめんの産が多く，明治末から毛織物機業地として発展し，全国の毛織物生産の45%を占める。産業三大別人口比は5：49：46で，市内には約4,500の繊維関係の事業所があるが，中小企業が多い。東海道本線に沿い，名神高速道路のインターチェンジ，名岐国道のバイパスが造成され，国道22号線・155号線が集まる。じゃりの海の中に植樹帯で日本列島を形どり，全国から集まる若い勤労者にふるさとをしのばせる大平島公園があり，また，織物の町にふさわしい七夕(たなばた)祭りが行なわれる。



一谷嫩軍記〈熊谷陣屋の場〉身替わりにたてたわが子の首と対面する熊谷直実(片岡孝夫)と妻の相模(沢村田之助)



一宮市 市内の織物工場の内部。毛織り王国一宮市には，一般に中小規模の工場が多いが，近代的な大工場も少なくない



イチハツ

いちのみや【一の宮(町)】 熊本県阿蘇(あそ)郡の町。人口11,000。阿蘇火山の火口原である阿蘇谷の東部を占め，豊肥本線が通じている。1954年(昭和29)に，宮地町ほか3村が合併して生まれた。宮地には肥後一ノ宮である阿蘇神社があり，大宮司の阿蘇氏は祭神建磐龍命(たけいわたつのみこと)の子孫と称する名家である。米をつくり，和牛を飼う農家が多い。巨大な長目塚(ながめつか)など多くの古墳がある。

いちば【市場】 ⇨市

いちはつ【一八・鳶尾】 単子葉植物・アヤメ科。中国南西部からビルマ地方に自生する多年草。日本には，中国から薬用植物として古くから渡来した。乾燥に強く，農家のわら屋根にも育ち，防風用に棟(むね)に植えるところもある。水湿地には育たない。花は4～5月に咲き，ふじ紫色で，外花被にニワトリのとさかのようなものがあるのが特徴。葉は幅広く薄色軟質で弓状にたれ下がり，地下茎は少なく，繊維質である。花ののちに株分けをしたり，秋に種をまいてふやす。3年めに開花。根茎を採取しかわかしたものを鳶尾根(えんびこん)といい，民間では吐剤・下剤として用いられる。〔横井朝子〕

いちばまち【市場町】 定期的に開催される市*を中心に成立した集落。一定の日に，一定の場所で市を開き，生産物の交換や売買を行なった。中世末ごろから発達し，その地方の商業の中心地となり町が形成された。市場町の名称は各地に残っており，四日市・五日市・今市などがある。

いちはら【市原(市)】 千葉県中部の市。江戸時代に木更津街道の宿場町であった五井・姉崎(あねがさき)や，港町として栄えた八幡(やわた)などの地区が統合されて，1963年(昭和38)市制施行。人口21万6,000。東京湾に注ぐ養老川河口付近の低湿地に位置する。産業三大別人口比は13：47：40で，広大な海岸埋め立て地には，全国有数の各種企業が集まる鉄鋼・石油コンビナートがあり，京葉工業地帯の中心地として，近代的なモデル工業都市が建設されている。房総西線・国道16号線が海岸線を走る。特産は養老川流域のナシ・モモなど。

いちび【莔麻】 双子葉植物・アオイ科。インド原産の一年草。キリアサともいう。高さ1.5m。全体に密生する軟毛がある。葉は互生し，長い葉柄があり，心形で鈍鋸歯(きょし)がある。8～9月，葉腋(ようえき)に小さな黄花をつける。なお，シナノキ科のツナソ*をイチビということがある。

いちぶぎん【一分銀】 1837年(天保8)より1868年(明治1)まで鋳造された銀貨をいい，天保一分銀・安政一分銀・貨幣一分銀がある。それまでの銀貨は秤量(ひょうりょう)貨幣*であったが，金貨が不足したため定量貨幣として発行され，一分銀4枚で金一両にあてられた。

いちぶついっかのほうそく【一物一価の法則】 完全な自由競争の行なわれている市場では同一の時期に，同質の商品についてただ一つの価格が成立するという経済法則。あらゆる買い手が自由に自分の欲するだけのものを買い入れることができ，あらゆる売り手がそれぞれの商品を自由に欲するだけ売ることができる市場では，同じ品質の商品に対し二つ以上の価格が一時的にはつけられたとしても，競争の中で必然的に単

一の価格に落ち着いていく。その価格は個人の需要と供給を合計した社会全体の需要量と供給量が合致したところに成立する価格にほかならない。〔藤枝省人〕

いちベクトル【位置ベクトル】⇨ベクトル

いちぼくぼり【一木彫り】一木造りともいい，おもに仏像彫刻の技法を示す名称。頭部や胴部など像の主要部分を一つの木から刻み出したもの。座像の場合，腕やひざなどは別木にして継ぎ合わせることが多いが，小像の場合には腕なども一木でつくることがある。11世紀の半ば寄せ木造りが興ったところから，それ以前の技法をさしてこの呼称が用いられる。

いちまいきしょうもん【一枚起請文】浄土宗の開祖，法然(源空)の述作。一枚消息・一枚誓文ともいう。1212年(建暦2年)1月，病床にあった法然が弟子(でし)源智(げんち)の要請に答えて，滅後に起こる異議邪説を防ぐため記されたもの。彼の力説した専修(せんじゅ)念仏による阿弥陀仏(あみだぶつ)の救済，およびその信仰のあり方を最も簡潔に記している。全文をわずか1枚の紙にまとめ，その確信を二尊(釈迦(しゃか)と阿弥陀)に起請して明らかにしていることからこの名がある。〔大谷旭雄〕

いちまつもん【市松文】方形を四方に連続させた幾何学的文様の一種。古くは霰文(あられもん)・瓦文(かわらもん)・石畳文などの名称でよばれ，多くは装束類の文様として用いられた。これが市松文とよばれるのは，上方の佐野川市松という歌舞伎(かぶき)役者が舞台衣装に好んで用いたことに由来している。なお，桂(かつら)離宮の松琴亭(しょうきんてい)の床の間やふすまを飾っている市松文は，異色あるものとして代表的な作例である。

いちまんにんのたいきゃく【一万人の退却】⇨アナバシス

いちむらうざえもん【市村羽(宇)左衛門】歌舞伎(かぶき)俳優。屋号橘屋(たちばなや)。市村座の前身である村山座の開祖村山又三郎(またさぶろう)を初世とし，現羽左衛門まで17世を数える。7世までは主として市村座の座元として宇左衛門と称した。8世以後は俳優として活躍した。

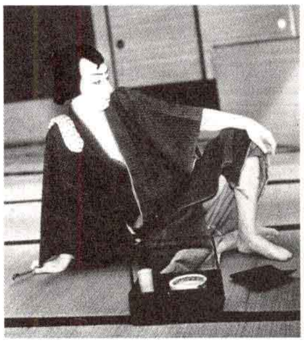
①13世(1844～1903) のちに5世尾上菊五郎となった名優。

②15世(1874～1945) 天性の美貌(びぼう)とさわやかなせりふ回し，はなやかな芸風によって，大正から昭和にかけての歌舞伎を代表した名優。《助六》《切られ与三》《直侍》などの得意芸は近代歌舞伎の典型として記憶されている。

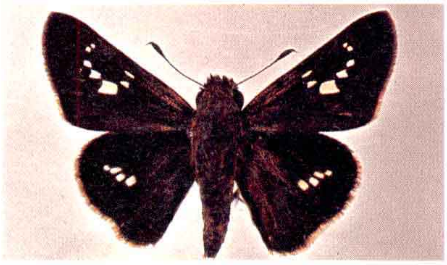
③17世(1916～　) 6世坂東彦三郎(ばんどうひこさぶろう)の子。1955年(昭和30)7世彦三郎から17世羽左衛門を襲名。立ち役として活躍している。〔服部幸雄〕



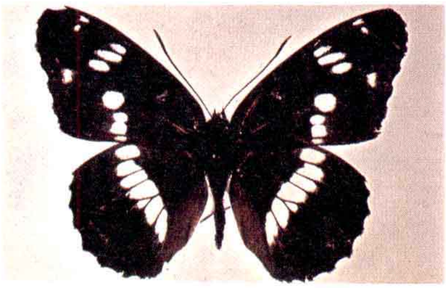
市松文　桂離宮松琴亭の襖と床の間の文様



市村羽左衛門　《与話情浮名横櫛》の与三郎を演ずる15世



イチモンジセセリ



イチモンジチョウ

いちむらざ【市村座】歌舞伎(かぶき)劇場の名。中村座に次ぐ古い劇場で，江戸三座の一。葺屋(ふきや)町にあった。寛文(1661～1673年)のころ，初世市村宇左衛門(うざもん)が養子の市村竹之丞(たけのじょう)の名で市村座のやぐらを上げさせたのに始まる。代々の羽左衛門が座元となった。途中休座したこともあるが，明治末には6世尾上(おのえ)菊五郎・中村吉右衛門(きちえもん)などが活躍，1932年(昭和7)に焼失して，絶えた。

いちめがさ【市女笠】⇨笠

いちもうさく【一毛作】1年に1回だけ，同一の畑が一作物のために使用されることをいう。したがって同一の畑で1年の間に作物が2度栽培されれば二毛作である。三毛作・四毛作以上は多毛作といわれる。耕地の利用度が高く，日本のように耕地面積の狭いところでは二毛作以上が普通に行なわれている。水田などでイネを栽培するとき，裏作をしない場合は，一毛作田とよばれる。1年に1回の作付けであるから単作ともいわれる。混同しやすいことばに，一期作・二期作などのことばがあるが，これは，作期を異にして稲作を行なう場合，早作りのイネが一期作で，おそ作りのイネが二期作とよばれる。二毛作以上の場合は同種作物が栽培されることはほとんどない。〔金木良三〕

いちもんじがわら【一文字瓦】和風建築で軒端(のきば)に使う桟瓦(さんがわら)の一種。ふきあげられたときの屋根勾配(こうばい)下端のかわら当てが一直線の断面となって現われるのでこの名がある。軒がわらとして一般に用いられる唐草(からくさ)がわらの場合は，重ね合わせが唐草部分で隠れるので，寸法精度が悪くてもうまく納まるが，一文字がわらの場合は継ぎ目は軒端で露出しており，装飾的に高い精度を要求される。したがって，その品位・外観からも高級品とされ，高価である。➔瓦〔難波蓮太郎〕

いちもんじせせり【一文字挵蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科。翅(はね)を広げた長さは35mm内外。黒かっ色で，前翅に大小の半透明の白色紋が環状に並び，後翅のほぼ中央部に4個の白色紋が斜めにほぼ1列に並んでいる。幼虫はハムグリムシ・イネツトムシとよばれ，イネの害虫。イヌムギ・エノコログサ・ススキなどをも食べる。日本全土からインドに至る地域に広く分布。成虫は夏から秋にかけて種々の花上にみられ，初秋のころしばしば大群をなして南下するのが観察される。類似の種類が多いが，オオチャバネセセリは本種よりやや大きく，後翅の斑紋(はんもん)が1列に並んでいないことで区別でき，チャバネセセリは後翅に斑紋をもたず，またコチャバネセセリは後翅にはふつう斑紋がなく，翅の裏面が翅脈以外は黄色の鱗粉(りんぷん)でおおわれていることで区別することができる。〔鈴木邦雄〕

いちもんじちょう【一文字蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mm内外。黒かっ色で，白紋の連続からなる明瞭(めいりょう)な1本の帯が，前翅中央から後翅中央にかけて走る。日本全土および朝鮮に分布し，平地・山地ともに普通にみられる。年に2～3回発生し，幼虫で越冬する。幼虫はスイカズラ・ヒョウタンボクなどの葉を食べる。成虫は5月ごろより出現。

いちやくそう【一薬草】双子葉植物・イチヤクソウ科。山林内にはえる常緑の多年草。ときに観賞用に植えられる。根ぎわより，長い柄のある楕円(だえん)形深緑色の葉を数枚出す。6～7月に葉の間から約20cm

の茎を出し，直径1.5cmくらいのウメに似た白色の花を総状につける。花期の全草を鹿蹄草(ろくていそう)といい，民間では切り傷や虫刺されに葉をもんでつける。また，煎(せん)じて脚気(かっけ)の治療薬とする。

いちやづけ　【一夜漬け】 浅づけの一種。ダイコン・カブは刻み，その葉も細かく刻んでいっしょに塩もみし，軽く押しをしてつける。1晩おけば翌日から食べられる。ビタミンの損失が少ないのが利点。

いちゅう　【惟中】（1639～1711）江戸前期の歌人・俳人・医師。因幡(いなば)（鳥取県）の生まれ。姓は松永(まつなが)，のちに岡西，別号は一時軒。1669年（寛文9）ごろ西山宗因に入門，寓言説(ぐうげんせつ)を唱え，談林陣営の論客として活躍したが，談林俳諧(はいかい)の退潮とともに古典の注釈などに転じ，博識の文筆家として多くの随筆類を著わした。俳論書《俳諧蒙求(もうぎゅう)》《破邪顕正返答》，随筆《一時随筆》《消閑雑記》などがある。

いちょう　【公孫樹・銀杏】 裸子植物・イチョウ科。神社や寺院の境内などに植えられる落葉高木。高さ30m以上になる。中国原産で，現世では1科1種であるが，中生代にはこの仲間が繁栄しており，各地から化石が出る。幹の表面に縦の深い裂け目ができる。枝に長枝と短枝があり，通常，葉は短枝の上に5～6枚ずつ密生する。葉は扇形で中央の部分で大きく二つに裂けるが，若木では多数の切れ込みのある葉をつける。葉脈は二叉(にさ)分枝し，密に並ぶ。秋には，あざやかに黄葉し，葉を落とす。雌雄異株で4～5月短枝の葉腋(ようえき)に淡黄色の花をつける。雌花は長さ3～4cmの柄の先に2個ずつ胚珠(はいしゅ)をつけ，雄花は長さ3cmの軸に多数の葯(やく)をつける。1896年（明治29）平瀬作五郎により精子がつくられることが発見され，シダ植物と被子植物を結ぶ植物としてソテツとともに注目されるようになった。種子は10月熟し，肉質の外種皮がいわゆるぎんなんを包む。材は加工が容易で，質が均一であるので碁盤・そろばん玉・彫刻材などに用いられる。ぎんなんは食用とするほか，民間では鎮咳(ちんがい)薬として用いられることがある。〔加藤僖重〕

いちょう　【移調】 西洋音楽の用語で，曲全体を相互の音程関係を変えずに上方または下方に平行移動することをいう。たとえば，ハ長調の曲を長2度上方のニ長調に移すのが移調である。これは，声楽では歌手の音域に合わせて，器楽では楽器の音域や楽器の奏しやすさに応じてしばしば行なわれる。また，クラリネットやホルンのように実際に出る音（実音）とは異なる音を見やすくするために楽譜に記す楽器を移調楽器とよんでいる。なお，移調の語は，長調や短調を必ずしも前提とせず，無調音楽や12音音楽でも上下の平行移動を示すのに使われている。〔徳丸吉彦〕

いちょうえん　【胃腸炎】 胃炎と腸炎が



イチヤクソウ



イチョウ 実



銀杏返し

同時に起こり，一つの症状を呈するときにいう。大部分はウイルス感染と細菌感染によるものである。ウイルス感染の多くのものは感染に伴って起こり，発熱・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)，激烈な腹痛，下痢があり，同時に頭痛・全身倦怠(けんたい)も起こる。おとなは数日から1週間ほどでなおる。しかし，幼児の場合は脱水状態となり輸液などの治療をしなければならない。細菌の場合はブドウ状球菌・赤痢菌・サルモネラ菌などによる。またアルコールの過飲によっても同様の症状を呈する。〔吉田　彰〕

いちようかい　【一陽会】 美術団体。1955年（昭和30）7月創立。絵画・彫刻の2部からなる。二科会を脱退した鈴木信太郎・高岡徳太郎・野間仁根(ひとね)を中心に，同じく二科会を脱退した会員19名と会友7名によって結成され，同年の9月に，日本橋高島屋で第1回公募展を開催して現在に至る。

いちょうがえし　【銀杏返し】 日本髪の一種。幕末から明治に結われたまげ。はじめ少女の結う〈蝶々(ちょうちょう)まげ〉より起こる。まげの毛を2分して，根の左右に輪をつくり，毛先を元結いでまげの根に結ぶ。この根を低く取ったのを〈根下がり銀杏〉といい，いき筋の女性が好んだ。明治時代は広く流行し，一般庶民の未婚・既婚女性の間でも好んで結われている。

いちょうざい　【胃腸剤】 経口的に適用し，胃腸の機能を調整する薬剤の総称。ジアスターゼ・ペプシンなどの消化薬，胃酸過多症などに用いられる炭酸水素ナトリウム（重曹(じゅうそう)）・水酸化アルミニウムなどの制酸薬，クロルプロマジンなどの鎮吐薬，吐根などの催吐薬，硫酸マグネシウム・ヒマシ油などの下剤，タルク・タンニン酸製剤などの止瀉(ししゃ)薬，ゲンチアナ末・オウバクなどの苦味健胃剤やウイキョウなどの芳香健胃剤などが含まれる。〔伊藤隆太〕

いちょうびょう　【萎凋病】 根または茎の地表近くの道管が侵されて水分の上昇が不良となり，茎や葉がしおれる病害。トマト・キュウリ・スイカなどに発生。病気の茎を切断すると維管束は褐変(かっぺん)しているがかわいており，青枯れ病のような汚白色の汁液(じゅうえき)は出ない。病原体はフザリウムという一種のかびで，土中で長期間生存し，防除困難な病害である。輪作，抵抗性品種の栽培，クロールピクリンなどによる土壌(どじょう)消毒で予防する。〔渡辺　実〕

いちらくおり　【市楽織】 一楽ともいい，変化斜文組織になる絹織物。つやがあり，腰はあるが手ざわりの柔らかな風合いを特色とする。無地のほか縞(しま)や菱(ひし)，市松・崩紗綾形(くずれさやがた)・星形などの文様を織り出したもの，強撚糸(きょうねんし)の御召緯(おめしぬき)や1本の絹糸を軸にして，それに太めの糸が波状に巻きついた状態になる壁糸を緯に用いた一楽御召・壁一楽とよばれるものもある。一楽の名は，幕末の堺(さかい)の籠細工(かごさいく)の名人土屋一楽の始めた籐(とう)編み物の市楽編みに，その組織が似ているところからつけられたといわれている。創始の時期は明らかでないが，1887年（明治20）ごろにはかなりの流行をみた結果，西陣ばかりでなく，米沢(よねざわ)・八王子・桐生(きりう)・足利(あしかが)・十日町・熊本などでも製織された。しなやかで軽く，絹つやもあるところから，男女の着尺・羽織・コートなどに広く用いられたが，現在はまったく見かけられない。大正・昭和初期には綾糸織(あやいとおり)とも称され，また高貴織の名で総称されてきた。〔北村哲郎〕

いちらんせいそうせいじ　【一卵性双生児】 本来ならば1個の個体になるはずの受精卵が，発生初期になにかの原因で二つに分離し，別々の個体になったもの。一卵生双生児の性は一致しているうえ，遺伝的にも等しい。この点を利用して，発育過程における遺伝と環境の役割を研究している。一方2個の卵が同時に排卵され，2個の受精卵が胎内で同時に育ったのが二卵性双生児である。この場合は双生児であっても兄

弟姉妹の関係により近い。一卵性双生児を生ずる割合はどの人種でも大差なく0.33〜0.45%くらいである(日本人では約0.4%)。しかし二卵性双生児は人種によっていろいろで，日本人では0.27%で比較的低いが，ナイジェリアの黒人では2%にも達している。一卵性・二卵性合わせて，一般に日本人では0.6〜0.7%(144〜170回の出産に1組)の割合で生ずる。〔北川　修〕

いちらんばらいてがた【一覧払い手形】 手形の名あて人に手形が呈示された日が支払い期日となるような為替(かわせ)手形をいう。手形の名あて人は，手形の受取人または正当な所持人から手形の呈示を受けたならば，直ちに手形金額を支払わなければならない(手形法33条第1項・34条1項)。➔手形

いちりづか【一里塚】 1里(約4km)ごとに設けられた路程標。豊臣秀吉(とよとみひでよし)が文禄・慶長の役のときに山陽道や九州に設けたが，江戸幕府になって全国的となり，1604年(慶長9)，江戸の日本橋を起点に36町(1里)ごとに塚を築き，エノキまたはマツを植え，旅行者が人馬賃銭を払うめやすとした。いまも残存して史跡に指定されたものもある。

いちりゅうさいていざん【一龍斎貞山】 講談師。

1 初世(?〜1855)《伊達(だて)評定》が得意で伊達政宗*(まさむね)と同じく片目なので，政宗の法名貞山院から貞山と称した。

2 2世(1839〜1874)　世話物の名手。

3 3世(1835〜1889)　本名，内山孝吉。《義士伝》《伊賀(いが)の水月》を得意とした。

4 4世(生没未詳)　本名，住江勝太郎。3世の門下。

5 5世(1863〜1935)　本名，青山岳次郎。のち3代錦城斎(きんじょうさい)貞山となる。時代物・世話物にひいでていた。

6 6世(1876〜1945)　本名，桝井(ますい)長四郎。気品ある名調子の《義士伝》は絶品。

7 7世(1907〜1967)　本名，佐藤貞之助。怪談物を得意とした。〔興津　要〕

いちりんそう【一輪草】 双子葉植物・キンポウゲ科。イチゲソウともいう。山地の木陰にはえる多年草。横にはった地下茎のところどころから20cmほどの茎を出し，羽状に切れ込みのある複葉を3枚輪生する。4月ごろ，上部に4cmぐらいの白ないし淡紫色の花を一つつける。5枚の花弁状のものはがくで，花弁はない。山草として栽培され，はち植えに適する。

いちわいちげん【一話一言】 江戸時代の随筆集。蜀山人*(しょくさんじん)の著。1779年(安永8)から1820年(文政3)まで約40年間にわたって書き続けられ，随筆のほか古今の書籍の抄録を含む。この形式は江戸時代随筆の一典型といえる。その見聞・考察・備忘的メモなどは豊かな学殖にささえられ，文明批評的なものもあって，知識人間に愛



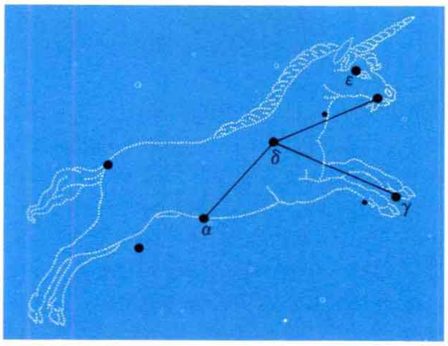
一 里 塚　長野県十曲峠



イチリンソウ



イ ッ カ ク



いっかくじゅう座

読・書写されたので，異本が多い。

いっかいぎょにん【一堺漁人】 ⇨曾我廼家五郎(そがのやごろう)

いつかいち【五日市(町)】 東京都西多摩郡の町。現在の町域は1955年(昭和30)にまわりの3村を合併してできたものである。人口20,000。多摩川の支流秋川に沿う溪口(けいこう)集落。古くから五・十の日の六斎市が開かれ，地名のもととなった。特に木炭の取引が盛んで，炭問屋が多かった。いまも五日市街道をはさむ両側の民家の前面に市が開かれたあき地が残っている。農業のほか林業が行なわれ，スギ材をおもに出している。かつては五日市織(黒八丈*)が農家で織られていたが，いまはふるわない。北隣の日の出村にセメント工場がある。五日市線に沿い，秋川の上流は秩父(ちちぶ)多摩国立公園の一部である。

いつかいち【五日市(町)】 広島県佐伯(さいき)郡の町。人口83,000。全国の町の中で一番人口が多い。広島市の西に接し，広島湾に面している。古くは定期市が開かれたと伝えられるが，現在は広島市の発展に伴って，ベッドタウンの性格を強めている。沿岸部には，山陽本線・広島電鉄宮島線・国道2号線が通り，各種工場が進出している。

いっかく【一角】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・イッカク科。ウニコールともいう。体長3.6〜5m。雄はふつう1本，ごくまれに2本の2.5〜2.9mに達する長い大きなきば(上顎(じょうがく)の門歯)がある。北氷洋に数頭〜10数頭の群れですみ，おもにイカを食い，魚類・甲殻(こうかく)類などをも食う。きばは氷を割るために使われるというが疑わしい。漢方ではきばを粉にして解熱薬とする。

いっかくじゅう【一角獣】 伝説上の怪獣。頭部はシカ，足はゾウ，尾はイノシシ，他の部分はウマに類似し，額の中央に1本の黒い角をもち，すさまじい声でほえるとされた。古代ギリシアでは，これをインドに産するサイと考える者もいた。星座に名をとどめ，中世ヨーロッパでさまざまな想像をよび起こした。モノケロス・ユニコーンなどともいう。

いっかくじゅうざ【一角獣座】 オリオン座・こいぬ座・ふたご座・おおいぬ座に囲まれ，4等以下の暗い星の集まった星座*。冬の南天にかかる。銀河の中に浸っているので，散開星団*・三重星などが存在し，小望遠鏡でながめることができる。

いっかくせんにん【一角仙人】 能の曲名。五番目物。金春(こんぱる)禅竹の孫禅鳳(ぜんぽう)(1454〜?)の作。波羅奈(はらな)国の一角仙人が龍神(りゅうじん)を封じ込めて雨を降らさないので，帝の命令で旋陀夫人(せんだぶにん)がやってきて酒を勧める。仙人が夫人の色香と酒に酔って眠りこけると，龍神を封じ込めた岩が二つに割れて2体の龍神が現われ，仙人は通力を奪われたまま敗北する。シテは一角仙人，シテヅレは旋陀夫人，ワキは夫人を伴ってきた帝の臣下，龍神は子方。仙人のはいるわら屋と，龍神のはいる岩と，二つの作り物が出るショー的な舞台で，岩はきれいに二つに割れる。ただし，岩は略して龍神が揚げ幕から出ることもある。旋陀夫人は楽を舞い，一角仙人がこれをまねて舞うところが見せ場で，各流に演出のくふうがある。龍神は勇壮な舞働きを演ずる。シテは一角仙人というこの曲専用の怪異な面をつける。歌舞伎(かぶき)十八番の《鳴神*》はこの曲を原作としたものである。

いっかん　【一管】　能の特種演奏の一。多く，番組の間に独立して演奏される。笛の独奏で，能の囃子(はやし)の一部などを演奏する。〈一調一管〉といって小鼓または大鼓，または太鼓の打ち手ひとりを伴う場合が多い。《下り端(は)》《獅子(しし)》《五葉阑曲(ごようらんきょく)》などの曲がある。

いっかんばり　【一閑張】　紙胎漆器の通称。寛永年間(1624～1643)，明(みん)末の戦乱を避けてわが国に帰化した飛来一閑の創案になるといわれる。製法は，木型にじょうぶな和紙を張り合わせて器胎をつくり，木型を抜いたのちに紙の味を生かして漆を塗り重ねて仕上げる。軽量で変形しないのが特徴で，小形器物に名品が多い。

いっかんメーカー　【一貫メーカー】　粗原料から製品材料をつくり，その材料を用いて完成品をつくるという一貫作業を行なうメーカーのこと。製鉄・製鋼から圧延までの全工程を一貫して行なっている鉄鋼メーカーはその典型である。

いっき　【一揆】　揆(方法や法則)を一にすることで，中世・近世におけるある種の集団行動をさす。鎌倉時代には，白旗一揆・平一揆など武士の血縁的つながりを中心にしたものであったが，室町時代にはしだいに地縁的なものが多くなった。また，その集団の構成も国人層から馬借・車借まで含む広い層にわたり，一般に土一揆とよばれた。中でも，徳政令の発布を要求したものを徳政一揆とよび，国人層の一揆を国一揆，馬借を中心にしたものを馬借一揆，宗教によって団結したものを一向一揆・法華(ほっけ)一揆などとよんでいる。土一揆の多くは資本の集中に抵抗したもので，経済発展の進んだ畿内(きない)や近国(京都に近い地方)に多くみられる。近世には，領主に対して年貢(ねんぐ)の減免などを要求した農民の一揆が行なわれ，百姓一揆とよばれている。〔村尾元忠〕

いつき　【五木(村)】　熊本県球磨(くま)郡の村。人口3,400。球磨川の支流川辺(かわべ)川の谷にある山村で，さらに上流の五家荘(ごかのしょう)(泉村)とともに，秘境として知られている。中心集落は頭地である。生計はおもに山林にたより，雑穀などの焼き畑を行なっているが，最近は水力発電所の建設や道路の整備によって，近代化が進んでいる。かつては地頭とよばれる33人の大地主が村の生活を支配し，親方と子方の関係が強く，哀調を帯びた《五木の子守歌》が生まれた。五木五家荘県立自然公園の区域内である。

いっききとくろう　【一木喜徳郎】　(1867～1944)　法学者出身の政治家。静岡県出身。東京大学卒業後，ドイツ留学，帰国後東大教授，法学博士。1900年(明治33)貴族院議員に選ばれ，法制局長官。第2次大隈(おおくま)内閣の文相，次いで内相・宮内(くない)大臣を歴任後，1934年(昭和9)枢密院議長をつとめた。在任中天皇機関説の同調者とみられ，右翼テロにねらわれたこともあった。

いっきしゅぎ　【一揆主義】　フランスの革命家ブランキによって主張された革命戦術論をいう。労働者の武装蜂起(ほうき)によって支配権力を打倒し，軍事革命政権を樹立しようとするものであり，暴力的手段に訴えて目的を実現しようとするものである。わが国の土一揆や百姓一揆にみられるように，その運動の見通しやその実現のための組織をもたない点で，現代では成功の可能性はまったくないといえる。➔ブランキズム〔西尾孝司〕

いつきのこもりうた　【五木の子守歌】



五木村　秋色深まろうとする五木村の部落。家の前でひっそりと遊んでいる子どもたちの姿にも，ほのかな哀愁が感じられる



一休　酬恩庵一休寺蔵

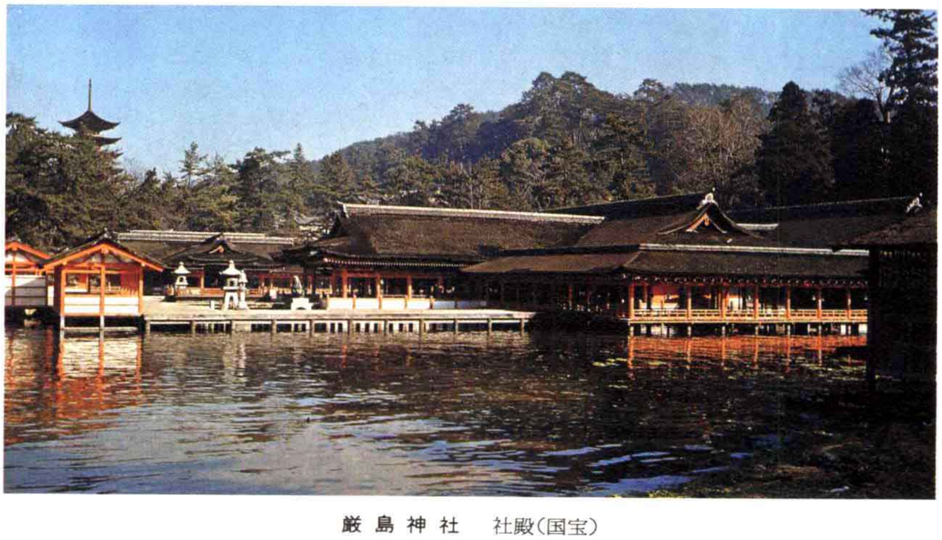
民謡の曲名。熊本県球磨(くま)郡五木村に由来する子守歌。歌詞・旋律ともに多少変えられたものが日本全国に知られている。歌詞には，子守りの厭世(えんせい)的なあきらめの気持ちがこめられており，特に第2次世界大戦後の混乱時代に流行した。音楽的には通常の日本民謡と異なって，《刈干切唄(かりぼしきりうた)》と同様に角音終止の旋律をとっている。

いつきのみや　【斎宮】　⇨さいぐう

いっきゅう　【一休】　(1394～1481)　室町中期の臨済宗の僧。大徳寺第48世。後小松天皇の落胤(らくいん)といわれ，幼名を周建，諱(いみな)を宗純，号を狂雲子という。6歳で安国寺に出家し，建仁(けんにん)寺で詩文を学んだが，のち関山慧玄(かんざんえげん)の法孫(はっそん)，謙翁無為(けんのうむい)に参じ，その死後大徳寺派の華叟宗曇(けそうしゅうどん)について印可を与えられ，一休の名を賜わった。その後は京都・堺(さかい)・奈良など各地を遊歴し，武士や庶民を教化し，当時の貴族化した禅風を一般化する役割を果たした。1474年(文明6)勅により大徳寺住持となり，茶の湯を導入して独特の家風をつくり上げ，当時の文化に大きな影響を与えた。詩集《狂雲集》(後人の編)のほか《仏鬼軍》《一休法語》の著がある。〔田中良昭〕

いつくしま　【厳島】　⇨宮島町

いつくしまじんじゃ　【厳島神社】　広島県佐伯(さいき)郡宮島町厳島の海べにあり，市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)を主神として田心(たごり)姫命・湍津姫命(たぎつひめのみこと)を合祀(ごうし)する。平安初期より航海の守護神としてあがめられたらしい。安芸守(あきのかみ)となった平清盛は特に当社を崇敬し，格別の保護を加え，以後当社は平氏一門の氏神のようになった。清盛らは，たびたび厳島詣(もうで)をし，1161年(長寛2)善美を尽くした写経を奉納したのが平家納経である。のち大内氏・毛利氏・浅野氏に崇敬された。社殿・平家納経・武具などに多くの国宝がある。



厳島神社　社殿(国宝)

いつくしまのたたかい【厳島の戦い】 1555年(弘治1)毛利元就*(もとなり)が陶晴賢*(すえはるかた)を安芸(あき)(広島県)厳島に破った戦い。両者はともに大内義隆(よしたか)の家臣であったが，晴賢は1551年(天文20)主君義隆を自刃させ，豊後(ぶんご)(大分県)の大友氏より義長を立てた。元就はこれを逆用して晴賢を孤立させ，厳島に陣するのを攻め滅ぼし，中国地方に支配勢力を確立した。

いっけつ【溢血】 血管から出血すること。動脈からのことが多いが，静脈毛細管からのこともある。脳溢血は脳に起こる出血で，脳卒中症状を起こす。毛細管がもろくなったり，血液の凝固性が低下すると，点状の溢血斑(はん)が皮膚や粘膜の表面から見られ，大きな範囲の溢血では紫斑が現われる。

いっこ【一鼓】 雅楽のうち舞楽で使われる小さな鼓。左方の舞で舞人が首からかけて用い，左右両手に持ったばちで奏する。これが変形し，つくりなおされたのが小鼓であるともいわれる。

いっこういっき【一向一揆】 室町時代後半から戦国時代に起こった浄土真宗*(一向宗)教団の一揆*。特に戦国時代には近畿(きんき)・北陸地方を中心に猛威をふるい，中でも1488年(長享2)加賀(石川県)に起こった一揆は，守護の富樫(とがし)氏を追い出し，土豪・坊主を中心とする教団勢力により約100年の間加賀一国を支配した。そのほか織田信長(のぶなが)と争った伊勢(いせ)(三重県)長島の一揆，徳川家康(いえやす)に反抗した三河(みかわ)(愛知県)の一揆などがあるが，1580年(天正8)本山の石山本願寺が信長に攻められた(→石山合戦)のを最後に，一向宗の一揆は消滅した。 〔村尾元忠〕

いっこうしゅう【一向宗】 ⇨浄土真宗

いっこうちょう【一紅鳥】 鳥類・カエデチョウ科。アフリカ原産の小鳥の中では繁殖が容易な種類。わが国への渡来は古く，徳川時代に輸入された記録がある。雄ののどに鮮紅色の帯がある。じみな色彩で一般受けしないがじょうぶな飼いよい鳥である。

いっこくいちじょうれい【一国一城令】 1615年(元和1)大阪夏の陣終了後，江戸幕府が諸大名の軍事力を制限するため，居城以外の城郭を破却するよう命じた政令。このため400の城郭が破壊されたといわれている。特に畿内(きない)以西に厳重に適用された。

いっこくしゃかいしゅぎ【一国社会主義】 社会主義*の建設は一国だけでも可能であるとする理論およびその路線。一国社会主義は，ドイツ革命の失敗ののちにソビエト社会主義革命の勝利の見通しを与えるためにレーニンによって理論づけされ，スターリンによって受け継がれた。トロツキーは世界同時革命を主張してそれに反対した。一国社会主義は歴史的には正しかったことがすでに明らかになっているが，今日では社会主義国家は一国だけではないので実際には，無意味である。→永久革命論　→世界革命 〔西尾孝司〕



一向一揆　石山合戦のとき善福寺門徒が用いたと伝えられる旗　善福寺蔵



一　茶

いっさ【一茶】(1763～1827) 江戸後期の俳人。姓は小林，通称弥太郎(やたろう)，俳諧(はいかい)寺と号した。信濃(しなの)(長野県)の農民の子。3歳で生母に死別し，継母に冷遇されて不幸な少年期を過ごした。有名な〈我と来て遊べや親のない雀(すずめ)〉はそのころの追想吟である。15歳で江戸に出て奉公生活に辛酸をなめ，25歳のころ葛飾(かつしか)派*に入門，6年に及ぶ西国旅行ののち，軽妙な人間臭い俳風で江戸俳壇に異彩を放ったが，宗匠として一家をなすに至らず，江戸とその周辺に流寓(りゅうぐう)生活を送った。父の死後，遺産分配をめぐる継母・義弟との長い紛争のあげく，51歳で郷里に帰住，結婚して3男1女を設けたが子は次々に死に，火災に家をも失い，焼け残りの土蔵で不遇の生涯(しょうがい)を終えた。作品には，その人間と生活とが赤裸々に表現され，しかも江戸で流民同然の窮乏生活を体験しただけに，人の世の惨苦・矛盾が鋭くとらえられている。また，伝統的な風雅観にとらわれず，俗語・方言を大胆に使用し，そのたくましい野性は，芭蕉*(ばしょう)・蕪村*(ぶそん)なきあとの沈滞した俳壇に生気を吹き込んだ。総数20,000に近い句は《七番日記》などの句日記に克明に筆録されている。そのほか父の死を描いた《父の終焉(しゅうえん)日記》，晩年の円熟期を代表する《おらが春*》など多数の撰集(せんじゅう)・紀行・随筆・雑録がある。 〔丸山一彦〕

いっさいきょう【一切経】 仏教の経典，すなわち経・律・論書を集大成した叢書(そうしょ)の総称。→大蔵経

いっさいきょうやま【一切経山】 福島・山形県境にまたがる吾妻(あづま)山群中の一峰。標高1,949m。吾妻山のうち，この山と吾妻小富士は活動中の火山である。一帯は植被が少なく裸地が広がり，多くの噴気孔がみられる。磐梯(ばんだい)朝日国立公園に属する。

いっさいしゅじょうしつうぶっしょう【一切衆生悉有仏性】 ⇨仏性

いっさんいちねい【一山一寧】(1248～1317) 中国，宋(そう)代の臨済宗の僧。俗姓は胡(こ)氏。台州に生まれた。幼時に出家し，諸方の知識人を訪れ，のち補陀(ふだ)山に住した。1299年(正安1)元の成祖の命によってわが太宰府(だざいふ)に至り，幕府に警戒されたが，疑い晴れて建長寺に請ぜられた。さらに円覚寺・浄智(じょうち)寺・南禅寺に転住して，弟子(でし)の雪村友梅とともに，五山文学*発展の基礎を確立した。門弟に虎関師錬*(こかんしれん)がある。その法流は一山派といい，日本禅宗二十四流の一つとされる。 〔田中良昭〕

いっさんかたんそ【一酸化炭素】 CO 気体。実験室的にはギ酸に濃硫酸を加えて得られる。工業的には高温に熱せられた石炭・コークス・重油などと，空気または加熱水蒸気を反応させ，これを精製してつくる。多くの工業的用途には，窒素や水素との混合物のまま用いられる。発生炉ガス*・水性ガス*・都市ガス*などの気体燃料の重要成分。毒性が強く，無味・無臭であるから注意を要する。工場の排ガス，自動車の排気ガス中には一酸化炭素が少量含まれており，これが大気汚染の一つの原因となっている。 〔鈴木　篁〕

いっさんかたんそちゅうどく【一酸化炭素中毒】 一酸化炭素を吸入することによって起こる中毒*。一酸化炭素が体内に吸入されると，血液中のヘモグロビンと結合して一酸化炭素ヘモグロビンを形成して解離しにくくなり，血液の酸素運搬能力が失われ，内部呼吸障害を起こす。一酸化炭素のヘモグロビンに対する親和力は酸素に比して約200～300倍という。急性中毒は炭火・燃料ガス(都市ガス)の不完全燃焼によるものが多い。人によって一酸化炭素に対する感受性は異なるが，空気中に0.001%含んでいても中毒を起こしうる。0.06%では1時間で頭痛を起こし，2時間に及ぶと失神する。0.1%では1時間以内に失神し，4時間で死亡するといわれている。中毒の経過が緩慢な場合，初期にはまず，顔面の潮紅，頭痛・心悸亢進(しんきこうしん)，側頭部動脈の搏動(はくどう)，耳鳴り・めまい・苦悶(くもん)感・悪心(おしん)などが起こり，嘔吐(おうと)することも多く，四肢(しし)の運動が不可能となり，急に人事不省に陥り死に至る。生命を取り留めた場合にも頭痛・めまい・筋無力症・不眠・悪心，記憶力・視力・聴力・言語の障害，不随意運動麻痺(まひ)などの後遺症を残す。

治療としては，できるだけ早く，人工呼吸・酸素吸入(酸素95%，炭酸ガス5%)を行ない絶対安静にする。その他呼吸刺激剤・補液・強心剤の投与がある。慢性中毒はごく微量の吸入が反復して行なわれるときにみられ，急性中毒の後遺症と同様の症状を呈する。炭鉱の爆発による多数の急性中毒事故や，自動車普及による排気ガスの一酸化炭素などの中毒は労働災害や公害として社会問題となっている。都市ガス中には10%内外の一酸化炭素が含まれており，服毒自殺の手段としても上位を占めている。〔朝倉　了〕



イッソスの戦い　ダレイオス3世(右)を追撃するアレクサンドロス(左)　ナポリ国立美術館蔵

いっしきし　【一色氏】　清和源氏に属し，足利(あしかが)氏の一族。泰氏(やすうじ)の子公深(きみふか)が，三河(みかわ)(愛知県)の吉良荘(きらのしょう)一色に住んでから一色を称した。室町幕府に重きをなし範氏(のりうじ)は鎮西探題となり，子孫は四職(ししき)家の一つとなる。のち丹後(京都府)・若狭(わかさ)(福井県)・出雲(いずも)(島根県)などの守護となったが，義貫(よしつら)が将軍義教(よしのり)に罪せられてより勢力は衰え，のち江戸幕府に仕えたが，範永(のりなが)が早世して改易された。➔三管・四職

いっしんせんぞくけん　【一身専属権】　ある人のみが，その人たる資格において享有し，または行使しうる権利をいう。一身専属権はこの享有上の専属権(または帰属上の専属権)と行使上の専属権の二つの場合がある。前者には，譲渡も相続も禁止されたもの(親権・扶養請求権など)と譲渡は禁止されるが相続の対象となるもの(譲渡禁止の債権・賃借権など)がある。慰謝料請求権は，従来，被害者が請求の意思表示をするまでは相続の目的とならないとするのが判例の立場であったが，近時，これが改められる傾向が強くなっている。後者は，債権者が債務者に代わって行使することのできないもの(親権・離婚請求権，夫婦間の契約取消権)である。享有・行使双方上のもの(親権などの身分権)や，一方のみのもの(終身定期金債権・相続回復請求権など)もある。〔黒木三郎〕

いっすいかい　【一水会】　美術団体。1936年(昭和11)12月創立。1935年5月の帝国美術院改組により，美術院会員に新任された二科会会員石井柏亭(はくてい)・山下新太郎・有島生馬(いくま)・安井曾太郎(そうたろう)・藤川勇造の5名は，反官展を唱えた二科会創立の規約に従って退会し，同じく二科会を離れた硲伊之助(はざまいのすけ)・小山敬三(けいぞう)・木下孝則(きのしたたかのり)・木下義謙(よしかね)・安宅虎雄(あたかとらお)らと〈会場芸術を非とし，技術を重んじ，高雅なる芸術を尊重する〉ことを設立の趣旨としてこの会を結成した。1937年12月，東京都美術館で第1回展を開催し，発展して現在に至る。洋画・陶芸の2部からなる。〔匠　秀夫〕

いっすんぼうし　【一寸法師】　御伽草子(おとぎぞうし)の一。室町後期の成立。都に出た一寸法師が，宰相の娘を妻にして立身出世を遂げるという物語。お椀(わん)の舟にはしの櫂(かい)，鬼を退治して打ち出の小づちを手に入れるなどの挿話(そうわ)により，長い命脈を保っている。その名は背の高さが1寸(3cm)であることによる。これに似た小人説話は，ヨーロッパの親指小僧・親指姫，アイヌのコロポックルなど民間伝承や庶民的小説として各国にみられる。

いっせいしか　【一斉賜暇】　⇨休暇闘争

いっせいちげんのせい　【一世一元の制】　天皇1代には年号(元号)一つを用い在位中は改めない制度。1868年(明治1)の改元の詔で確立。1889年皇室典範にも規定された。過去には，改元は1代で数回にも及び複雑をきわめた。第2次世界大戦後，条文は廃止された。

いっせんぎり　【一銭切】　戦国・安土桃山時代における刑罰の一。戦国大名が戦時の略奪を防止するために家臣と領民に課した。内容については異論もあるが，戦陣において1銭に相当するものでも人民のものを盗めば死刑に処することと解されている。

いっせんだい　【一闡提】　仏教用語で，梵語(ぼんご) icchantika(イッチャンチカ)の音写。〈欲望をいだく人〉の意より転じて，善根を断って信仰をもたない人，成仏の因をもたない者をいう。ブッダの悟りの普遍化と慈悲の拡大とに伴って，すべての人に成仏の可能性が認められてきたが，一闡提のみが除外されていた。しかし大乗の《涅槃経(ねはんぎょう)》に至って，すべての人は仏性(ぶっしょう)すなわち仏の本性を備えているとして，一闡提をも救済の対象となると説かれた。〔塚本啓祥〕

イッソスのたたかい　【イッソスの戦い】　BC333年マケドニアのアレクサンドロス大王がペルシアのダレイオス3世の軍60万を破った戦い。イッソスはシリア西北部の海岸。この結果，マケドニアは小アジアの支配を決定的にした。

いっちゅうぶし　【一中節】　江戸時代に成立した日本音楽のジャンルの一。浄瑠璃(じょうるり)の一種。成立は元禄(げんろく)時代(1700年ごろ)に京都で活動していた都太夫(みやこだゆう)一中による。一中は僧侶(そうりょ)の出で，20歳を過ぎてから還俗(げんぞく)して京都の都越後掾(みやこえちごのじょう)に師事し，さらに当時盛んであった文弥節(ぶんやぶし)の影響も受けて，浄瑠璃としては旋律性のまさった節を形成した。一中節の中心はすぐに江戸に移ったが，のちにこの派に学んだ宮古路豊後掾(ぶんごのじょう)が性格のはっきりした豊後節をつくりあげたため，一時的にすたれてしまったが，文化年間になって，河東節から出た菅野(すがの)序遊が5世一中と組んで古曲の伝承と新曲の発表とに努力したため勢いを盛り返した。また，明治・大正時代には名人の4世序遊が現われたため，高い水準の芸が保たれた。今日では，都派・菅野派・宇治派の3派に分かれて活動しており，歴史の古い都派を例とすれば60曲以上の曲目が残されており，戦後になっても，谷崎潤一郎や吉井(よしい)勇らの作詞で新曲がつくられている。

一中節は舞台との結びつきが弱かったため，また，教養人を対象としたためか，歌詞や題材は上品なものが選択されている。三味線(しゃみせん)は中棹(なかざお)を使い，はなやかさや技巧的な演奏法をおさえている。歌のほうは，母音を延ばしながら音高を変えていく，いわゆるユリをよく用いるのが特徴である。同じ浄瑠璃でも時代の新しい清元節に比べると，表現が古く控えめなため，かえってこうした新しいジャンルが上品な箇所をつくるときには一中節の旋律を用いている。代表的な曲には，《助六心中道行》《傾城(けいせい)浅間岳》《辰巳(たつみ)の四季》《根曳(ねびき)の門松》などがあげられる。〔徳丸吉彦〕

いっちょう　【一調】　能の特種演奏の一。多くは番組の間に独立して演奏される。小鼓または大鼓または太鼓の打ち手ひとりに謡手ひとりで能の曲の一部分を演奏する。他の鼓の担当するリズムも加え，はなやかな特別の譜となり，相当の力量がないと勤められない。変形に〈一調一声〉(鼓の独奏がはいる)，〈一調一管〉(笛の独奏がはいる)，〈無謡一調〉(鼓のみ)などがある。

いづつ　【井筒】　能の曲名。三番目物。世阿弥(ぜあみ)の代表作。《伊勢(いせ)物語》の〈筒井筒井筒にかけしまろがたけおひにけらしな妹(いも)見ざる間に〉の歌を題材にしたもので，能では在原業平(ありわらのなりひら)と紀有常の娘との恋物語になっている。大和(やまと)(奈良県)の在原寺で，旅僧の前に女が現われ，

業平と有常の娘が井戸のまわりで遊び戯れた幼いころのことや，のちにふたりが夫婦となったことなどを語り，消えうせる。女は有常の娘の亡霊であった。僧があとを弔っていると，女は業平の衣装で現われて舞う。シテはこの女，ワキは僧，間狂言(あいきょうげん)は所の者，舞は序之舞。女面の上に貴人の男の冠や老懸(おいかけ)をつけた男装の舞が見せ場で，井筒の作り物の中を見やって水鏡をすると，女自身の顔か業平の顔か見分けがつかぬという，倒錯的な感覚が表現されている。　〔長尾一雄〕

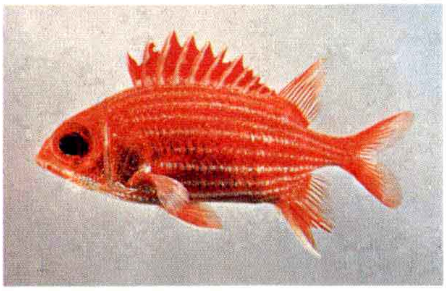
イッテルビウム　［ytterbium］　ランタニド族元素の一。記号Yb，原子番号70，原子量173.04。通常３価に働くが，２価のものも知られている。２価イオンは緑色，３価イオンは無色で，酸化物は白色である。

イッテン　［Johannes Itten］（1883～　）　スイスの造形教育家・デザイナー・彫刻家。1919年，グロピウスのバウハウス*創設と同時に招かれて同校にはいって基礎コースの指導にあたり，実技・知識の両面にわたって学生の自由な芸術的個性と創造力を養成した。しかし，グロピウスとの間にデザイン観の相違をきたし，1923年にバウハウスを去り，1925年にベルリンにおいてイッテン-シューレを開いた。その後，スイスに帰って，1953年までチューリッヒ工芸学校校長として活躍し，造形教育界に大きな影響を与えた。　〔武井邦彦〕

いっとうだい　硬骨魚類・イットウダイ科。25cmほどになる海産魚。体形はタイなどに似て普通だが，うろこがかたく，かど張っていて大きく，全身よろいを着たように見える。色は美しい赤，目がまっ黒で大きい。本州中部以南のやや深い岩場にすみ，よく水族館で飼われている。

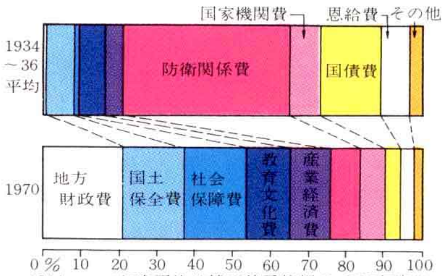
いっとうどくさい　【一党独裁】　一般にプロレタリアート独裁*が共産党独裁として現われたもので，ソ連やその他いくつかの社会主義国の重要な政治原理の一つである。そこでは共産党以外のいっさいの政党は禁止される。しかしそれはひとりの独裁*ではなく，立憲主義*に基づいている点で専制政治*とは区別される。イタリアのファシスト党やドイツのナチスは一党独裁である点で，形の上では社会主義国の一党独裁と酷似しているが，前者は反革命*を目的とした反人民権力であるのに対して，後者は人民権力である点で異なる。　〔西尾孝司〕

イットリウム　［yttrium］　周期律表第Ⅲ族に属する元素。記号Y，原子番号39，原子量88.905。ランタニド族元素に似ている。クラーク数*は少ないが，鉛より多く産出する。鉱石はユークセン石・フェルグソン石・サマルスキー石・ゼノタイムなどで，複雑な分離工程・還元工程を経て得られる。テックロム合金に１％ぐらい加え，高温における耐食性を著しく改善するなどの用途がある。近時は電子工学材料として新しい用途が開発されつつあり，また酸化物は耐火物・研摩材などに用いられるようになった。　〔鈴木　篁〕



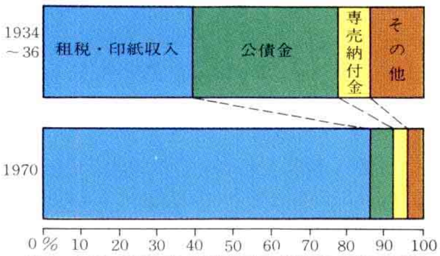
イットウダイ

図-1　一般会計歳出の戦前と戦後の比較



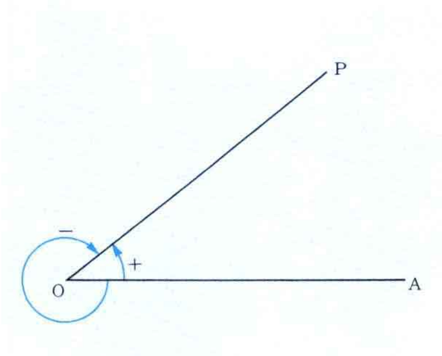
1934～1936年度平均は補正後予算額で，1970年度は当初予算額

図-2　一般会計歳入の戦前と戦後の比較



1934～1936年度平均は補正後予算額で，1970年度は当初予算額

一般会計



一般角

いっぱんかいけい　【一般会計】　国の基本的活動に伴う収入・支出を，総合的に管理している会計。現在，これと並んで数多くの特別会計*がある。国の財政活動は地方財政・防衛・公共事業・教育・社会保障などさまざまな領域に及んでおり，そのために必要とされる支出の規模はきわめて大きい。また，それをまかなう収入は，租税として国民から調達される。こうした国の一般的収支は総合的・統一的に管理することが，予算運営上望ましいことであり，近代国家において強く要求される。これを〈予算統一の原則〉という。こうして，国の主要な収支をすべて含み，その意味で中心的地位を与えられるような会計が設けられるようになったのであるが，これが一般会計とよばれるものにあたる。しかし，実際問題としては，国の収支を原則どおり単一の会計によって経理することは，かえって明確さを欠き，能率を阻害する場合があり，結局いくつかの独立した会計をそこに併存するという形となった。これらが特別会計や政府関係機関の諸会計である。現在わが国では，一般会計予算の規模に比べて，これら特別会計予算や政府関係機関予算の規模がかなり大きくなっているのが特徴である。➔特別会計　➔予算　〔西野義彦〕

いっぱんかく　【一般角】　角AOPは，動径OPが始線OAの位置から頂点Oのまわりを回転してできたものと考え，その回転の量で角の大きさを表わす。OPの回転の向きは二つあり，時計の針の回転と反対の向きに回転してできた角を正の角，同じ向きに回転してできた角を負の角という。OPは何度かの回転を経てその位置まできたともみられることから，図の角AOPを表わす大きさは無数に考えられる。その一つを α° で表わせば，角AOPは $360^\circ \times n + \alpha^\circ$（$n$ は任意の整数）で表わされる。このように拡張された角を一般角という。　〔青柳雅計〕

いっぱんこくどう　【一般国道】　⇨国道

いっぱんしょく　【一般職】　⇨公務員

いっぱんそうたいせいりろん　【一般相対性理論】　⇨相対性理論

いっぱんほう　【一般法】　一定の事項について，広く適用される法規。人・事物・場所の関係においてその効力が一般的なものをいい，特別法は，これに対し，限られた事項・人・物について特別に決めた法規である。この区別はけっして絶対的なものではない。たとえば，商法は民法に対して特別法であるが，銀行法に対しては一般法の関係に置かれる。そして〈特別法は一般法に優先する〉のが原則となっている。

いっぷいっぷせい　【一夫一婦制】　一夫と一婦の婚姻制度で，一夫一妻制ともいう。今日ほとんどの文明国が認めるところの最も合理的な婚姻制度である。わが国においても明治初年，重婚を禁止してから制度上は一夫一婦婚である。しかし，それ以前は，妾(めかけ)制度を法律上も認めていたから一夫多婦制であったともいえる。しかし今日，法律婚主義*を採用するため事実上の重婚である妾関係は法律上の問題とならず，実際には法律上の重婚の生ずる余地はきわめて少ない。重婚は刑法上は処罰され（刑法184

条)，民法上は取り消しうるものとされる(民法744条)。また事実上の重婚は当然不貞行為として離婚原因となる(民法770条)。〔黒木三郎〕

いっぷたさい【一夫多妻】 単婚(一夫一妻)に対して複婚といわれるものの一つであり，同時にふたり以上の妻をもつことを認めた婚姻形態。一夫多妻婚成立の条件は一様ではないが，女子数の過剰，女子の労働力利用，男子の性的要求，子孫存続の種族的要求が考えられる。このような一夫多妻婚が明確な制度になっている例は珍しく，王とか首長とか特別の階層に認められるのが一般的であり，そこでは多くの妻をもつことが社会的・経済的威信に結びつくのである。〔大岩 碩〕

いっぺきこ【一碧湖】 静岡県伊東(いとう)市南西部の山中にあるひょうたん形の火口湖。周囲4km，水面高度152m。魚族に恵まれるつり場として，またハイキング・キャンプ地として訪れる客が多い。富士箱根伊豆国立公園に所属する。

いっぺん【一遍】 (1239～1289) 鎌倉時代の僧。時宗の開祖。諡号(しごう)を円照大師という。伊予(いよ)(愛媛県)の豪族河野通広(こうのみちひろ)の次男で，幼名は松寿丸。祖父通信らが承久の乱*で上皇方についたため一族は離散し，父は出家した。一遍は10歳で母をなくし，やがて父の命により出家し，随縁と称した。のち太宰府(だざいふ)に，浄土宗西山派を開いた証空*の弟子(でし)聖達(しょうたつ)を訪ね，名を智真と改め，25歳まで学問修行に努めたが，父の訃報(ふほう)を聞いて帰郷。1271年(文永8)信濃(しなの)(長野県)の善光寺に参詣(さんけい)，そこで感得した善導*の《二河白道図*(にがびゃくどうず)》を本尊とし，伊予の山中で称名念仏を修すること3年，念仏について新しい境地を開いた。さらに1274年紀伊(三重県)の熊野(くまの)神社に百日参籠(さんろう)の結果〈六字の名号は一遍法，十界の依正は一遍体，万行離念せば一遍証，人中上上の妙好華〉という頌(じゅ)を授けられ，これにより名を一遍と改めた。以後51歳で没するまで念仏を説いて全国各地を巡歴したが，勧進帳を携え，〈南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)決定往生六十万人〉と書いた念仏札を配り，踊り念仏を勧める彼の周囲には，多くの民衆が集まった。16年間に勧進帳に記名した人の数は25万を越えたといわれる。一遍は同行の念仏信者の団体を〈時衆〉とよび，善悪の判断も，貴賤(きせん)上下の差別も越え〈捨家棄欲〉に徹することを要求し，みずから捨聖(すてひじり)と称していた。また諸国を巡歴したことから遊行上人(ゆぎょうしょうにん)とよばれた。→時宗〔奈良博順〕



一遍上人絵伝 〈太子の御陵に参籠す〉の場面

いっぺんしょうにんえでん【一遍上人絵伝】 時宗の開祖一遍上人の生涯(しょうがい)を描いたもの。現在，歓喜光寺*・真光寺・金蓮寺などに数作が伝わるが，歓喜光寺本12巻(第7巻のみ東京国立博物館蔵)は弟子(でし)の聖戒(しょうかい)が記した伝記をもとに，1299年(正安1)に法眼円伊(ほうげんえんい)が描き，その行状を忠実に描出している。上人の遍歴に従って各地の社寺や自然景が写実的に描かれ，画風も大和絵(やまとえ)の頂点を示すとみられるが，宋元画(そうげんが)の影響もわずかに認められる。国宝。〔村重 寧〕

イッポリトフ-イワーノフ [Mikhail Mikhailovich Ippolitov-Ivanov] (1859～1935) 帝政期から革命後にわたって活躍したソビエト-ロシアの作曲家。ペテルブルク音楽院でリムスキー-コルサコフ*の教室に学び，1882年に卒業後，序曲《ヤルーフメリ》で認められた。1893年から死ぬまでモスクワ音楽院の教授で，その間1906～1922年には院長を勤めた。指揮者としても高い評価を受けたが，1894年に発表した組曲《コーカサスの風景》によって広く知られている。〔向坂正久〕

いっぽんがたなどひょういり【一本刀土俵入】 戯曲。2幕5場。長谷川(はせがわ)伸*作。1931年(昭和6)東京劇場で，6世尾上(おのえ)菊五郎が初演。相撲(すもう)取りになる夢に破れ，遊び人になった駒形茂兵衛(こまがたもへえ)は，10年前に助けてくれたお蔦(つた)の難儀を救ったのち，〈せめて見てもらう駒形のしがねえ姿の横綱の土俵入りでござんす〉と，なごりを惜しんで別れる。作者得意の股旅物(またたびもの)の代表作。

いっぽんしめじ【一本湿地】 担子菌類・イッポンシメジ科。晩夏から秋にかけて雑木林内の地上に発生する代表的な毒きのこ。茎の高さ8～15cm，茎の径1～3cm，かさ5～15cm。標準的なきのこの形をしている。かさの表面は平滑，黄白色から灰白色である。かさの裏面が桃色となるのが特徴である。地方名としてのイッポンシメジは他のきのこをよぶ場合があり注意を必要とする。

いっぽんづり【一本釣り】 一本のつり糸を，手もしくはつりざおで，鉛直方向に操作して漁獲を行なう漁業。沿岸沖合い漁業の中では重要な漁法の一つであって，一般的には漁業形態は大きくはない。しかしながら，わが国における多獲魚であるカツオ・スルメイカなどは，一本づり漁業によって主として得られているほどに，この漁業は重要な漁業形態である。立延縄(たてはえなわ)やてんびんづりもこの中に含まれ，天然餌料(じりょう)だけではなく，しばしば擬餌鉤(ぎじばり)が用いられる。〔石野 誠〕

イデア [idea] 〈姿〉〈形〉を意味するギリシア語で，エイドス(eidos)といわれる場合もある。特にプラトン*において重要な意味が与えられた。彼は，感覚的に知覚される経験的存在に対して，超感覚的な〈事物の本質〉ともいうべきものをイデアとよんだ。三角形を三角形たらしめているもの，美しいものを美しいものたらしめているものなどを，それぞれ〈三角形そのもの〉〈美そのもの〉としてイデアの実在性を説明した。イデアは不生不滅・永遠不変の真実在であり，感性的認識を越えた理性的認識(エピステーメー)によってのみとらえることができるとされた。これに対し感覚的世界はたえず変化生成する不完全な存在で，イデアの影またはイデア界を範型とする模像にすぎないとされた。このような二世界説はその後の西洋思想に長く影響を与えた。近世以後，イデアはデカルト*やホッブズ*らにより，心理的な観念や意識内容を意味する語となった。また，ドイツ観念論においては，イデーはカント*の〈純粋理性概念〉とかヘーゲル*の〈絶対的な世界理性〉のような意味に用いられた。〔本橋正義〕

いであけみ【井手曙覧】 ⇨橘曙覧(たちばなのあけみ)

イーディーアール [EDR] ⇨ADR

イディオム ⇨慣用句

イーディーシー [EDC] ⇨ヨーロッパ防衛共同体

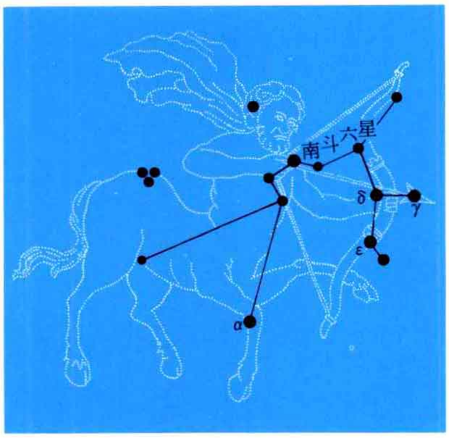
イディッシュ [Yiddish] 15世紀の終わりから16世紀の初めに，高地ドイツ語の一方言が孤立してできたユダヤ人の言語で，ヘブライ文字*で書かれる。ヘブライ語をはじめ，ヨーロッパ諸語からの借用が多く，現在もスラブ圏や中部ヨーロッパのユダヤ人によって用いられている。ドイツ語のウムラウトの発展を研究するうえで特に注目されている。

イーディーピーエス [EDPS] elec-

tronic data processing systemの略称。電子式資料処理組織。コンピューター*を活用して経営管理に関する科学的なデータを提供する方式。単なる数値計算にとどまらず，データを自動的・総合的に処理・判断する点に特徴がある。作業としてはすべてのデータをカードや紙テープの形にしてコンピューターの処理機構に入れると，その記憶装置などによって自動的に処理されるが，この間の判断・指示はあらかじめ作成されたプログラムに従って行なわれるので，プログラムの作成が非常に重要な意味をもつ。今日の企業はオートメーションの発展に呼応して，経営管理に関する各種の膨大な資料を正確・迅速に処理しなければならない。この要請にこたえたのがEDPSであり，科学的な情報の提供に効果的であるだけでなく，シミュレーション*やOR*(オペレーションズ-リサーチ)などの手法を経営に導入することを可能にした。さらにある程度の意志決定機能を果たすため，経営管理機能を高めることに大いに貢献している。➔経営情報システム　〔清水　晶〕

イデオロギー　[Ideologie]　〈観念形態〉または〈社会的意識諸形態〉と訳される。意識形態をすべての時代に普遍的・超越的に存するものととらえるのではなく，歴史的・時代的に下部構造によって規定されるものとしてとらえる唯物史観(➔史的唯物論)の用語。各自の世界観および行動を規定する認識的・価値的・実践的統一体系をいう。それゆえ階級社会においては，イデオロギーは階級的・党派的利害をもった認識的・価値的・実践的体系を意味し，また，いかなる人も必然的にこのような体系をもっていることを意味する。資本主義社会では，ブルジョアジーの矛盾隠蔽(いんぺい)の暴露として，プロレタリアートからのイデオロギー論が展開されている。なお，マンハイム*らの知識社会学の立場では，イデオロギーは超党派的・非階級的な世代・宗教・職業団体といったものによって規定される思想も含んで考えられており，社会心理学の立場では，イデオロギーはパーソナリティとの相関でとらえられている。イデオロギーの語を最初に使用したのは18世紀のフランスの哲学者デステュット-ド-トラシーである。〔仲村計美〕

いてき　【夷狄】　中華に対する語で，漢文化になじまない周辺の蛮族の総称。東方の野蛮人を夷といい，北方のそれを狄という(南方は蛮，西方は戎(じゅう))。漢文化の拡大とともに，夷狄をさす地域も広がり，周代には夷は主として山東地方の異民族，狄は山西・河北省の北部の文化の低い民族をさすにすぎなかったが，《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》が《東夷伝》中に含まれているように，統一国家の成立後は通常夷は東方海外の国を，狄は北方の遊牧民族をさすようになった。〔米田賢次郎〕



い て 座

いてざ　【射手座】　黄道第9星座。夏，銀河が南の地平線に注ぐ所に位置している。冬至点があり，黄道星座の中では最も南にかたよっている。6個の星がつくるひしゃく形が目印で，これらは南斗六星とよばれる。銀河系の中心の方向にあたり，星団・星雲が多い。➔星座

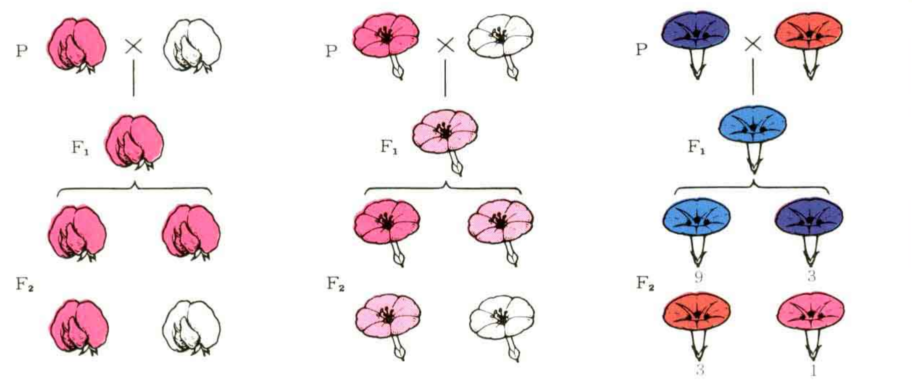
いでみつこうさん　【出光興産(株)】　わが国の石油業界の中にあって民族資本を誇る石油精製・販売会社。1911年(明治44)創業，1940年(昭和15)に株式会社組織になり，以後過少資本で積極的に事業の拡大を図っている。売り上げ比率は重油56%，ガソリン10.5%，軽油6.3%，燈油5.3%。1966年に世界ではじめて20万tを越すタンカー〈出光丸〉を建造，これが刺激となって30万t級の大形タンカーが世界の海に出現するようになった。本社東京，製油所は徳山・千葉・姫路にある。資本金10億円，年間売上高3,375億円，従業員数7,500(1970年3月)。

いでん　【遺伝】　子が親に似る現象をいう。1865年メンデル*がエンドウの交配実験で，親の形質が子に伝わっていくのにある一定の法則があるのを発見した。この法則も当時は理解されぬまま見捨てられていたが，1900年になって，オランダのド-フリース，ドイツのコレンス，オーストリアのチェルマクの3人によってそれぞれ独立に再発見され，はじめてその真価が認められた。メンデルの法則の基本は，体細胞における遺伝子の二重性，すなわち減数分裂によって半減した染色体が受精によってもとの数にもどり，染色体の数，いいかえれば遺伝子の数を一定に保っているということであるが，その法則は次の3点に要約される。

《優性の法則》　1対の形質のうち一つは優性で，他は劣性であるとすれば，両方の遺伝子をヘテロにもつ個体(たとえば雑種第1代)では優性の形質が現われる。エンドウの赤い花ばかりをつける系統と，白い花ばかりをつける系統とを交配した雑種第1代(F_1)では，すべての花は優性の赤い花をつける。メンデルは赤色の形質を優性，白色の形質を劣性とよんだ。メンデルによって研究されたエンドウの七つの形質は，すべてこのように一つは優性で他方は劣性であるというものであった。もっとも，その後いろいろの材料を使った他の研究者の実験によって，この優性の法則にも多くの例外のあることがわかった。たとえば，オシロイバナでは，赤色のものと白色のものをかけ合わせるとF_1はすべて中間色の桃色になった。しかし多くの場合，この優性の法則は現在でもそのまま適用できる。

《分離の法則》　F_1で優性の形質を現わしたものどうしを交配してF_2をつくると，優性の形質を示す個体と劣性の形質を示す個体とが分離する。たとえば，優性形質を〔A〕，劣性形質を〔a〕で表わすと，F_2では〔A〕と〔a〕がほぼ3：1の割合で現われる。このように，F_1でみられなかった劣性の形質が，F_2に分離して現われることを分離の法則とよんでいる。この法則を説明するものとして，体細胞では遺伝子が2重になっていて(優性のものはAA，劣性のものはaa)，生殖細胞では減数分裂によってAまたはaとなる。これが受精によってAaとなりF_1をつくる。Aaではaは Aに押えられて現われず，すべての個体がAの形質を示す。次にAaどうしの交配でF_2を得るときには，Aとaの2種類の配偶子がほぼ1：1の割合で生じ，それらが同一の確立によって結びつく。したがってAA：Aa：aaの個体が1：2：1の割合でできる。AAとAaは外見上区別されず，すべて〔A〕となるので〔A〕：〔a〕がほぼ3：1の割合で現われる。ここでAA，Aa，aaのように，体細胞を構成する遺伝子の型を表わすものを遺伝子型とよび，〔A〕や〔a〕のように個体の形質を表わすものを表現型という。表現型は一般に〔 〕で囲む。

《独立の法則》　メンデルはさらに2対の違った形質を同時にもつものをかけ合わせた。たとえば，AABBという遺伝子型をもった個体(表現型は〔AB〕)とaabbという遺伝子型をもった個体(表現型は〔ab〕)を交配すると，そのF_1の遺伝子型はすべてAaBbで，表現型は〔AB〕となる。次にF_1どうしを同系交配してF_2をつくると，〔AB〕：〔Ab〕：〔aB〕：〔ab〕がほぼ9：3：3：1に分離する。このF_2の分離はAとaだけについてみると，〔A〕：〔a〕＝3：1となる。すなわち，A-aについての形質と，B-bについての形質とがお互いに独立に分離している。これを独立の法則とよぶ。もし3対の形質を同時に調べると，F_2での分離は27：9：9：9：3：3：3：1となる。メンデル法則再発見ののち，モルガン*一派のショウジョウバエを材料とした研究が進められ，遺伝子が染色体上に線状に配列されていることが明らかとなった。したがって，キイロショウジョウバエでは4対の染色体があるので，どの突然変異遺伝子も四つの連鎖*群(リンケージ・グループ)のどれかに属する。そのほか特別な働きをもつ遺伝子として，ト



エンドウの遺伝(左)：紅色遺伝子は白色に対して優性のため，F_1ではすべて紅色となる。オシロイバナの遺伝(中央)：紅色遺伝子は白色に対して不完全優性のため，ヘテロのものは桃色となり，F_2で紅色：桃色：白色が１：２：１の割合で出現する。アサガオの遺伝(右)：花色に藍色〔ＢＭ〕・紫色〔Ｂｍ〕・暗紅色〔ｂＭ〕・紅色〔ｂｍ〕の４系統があり，それらが両性雑種の関係にあることを示す。紫色(ＢＢｍｍ)と暗紅色(ｂｂＭＭ)を交配するとF_1は(ＢｂＭｍ)となり藍色を呈する。F_1は表のような卵細胞と花粉ができるため，F_2では藍色：紫色：暗紅色：紅色が９：３：３：１の割合で生ずる

卵細胞

花粉	BM	Bm	bM	bm
BM	〔BM〕(BBMM)	〔BM〕(BBMm)	〔BM〕(BbMM)	〔BM〕(BbMm)
Bm	〔BM〕(BBMm)	〔Bm〕(BBmm)	〔BM〕(BbMm)	〔Bm〕(Bbmm)
bM	〔BM〕(BbMM)	〔BM〕(BbMm)	〔bM〕(bbMM)	〔bM〕(bbMm)
bm	〔BM〕(BbMm)	〔Bm〕(Bbmm)	〔bM〕(bbMm)	〔bm〕(bbmm)

遺　伝

ウモロコシの粒色に関する補足遺伝子，ニワトリの鶏冠(とさか)に関する遺伝子の相互作用，スイートピーにおける劣性上位，量的形質を支配する量遺伝子(ポリジーン)などは，いずれもメンデルの上記三つの法則とは根本的な概念には変わりなく，ただ部分的補足ともいうべきものである。現在では，染色体上の遺伝子に関係する遺伝様式のすべてが，広くメンデルの法則として理解されている。〔北川　修〕

いでん【位田】律令(りつりょう)制において有品(ゆうほん)の親王と五位以上の官人に支給された田地。すべて輸租(租税を官に輸納する)の義務を負う。大宝令では一品(いっぽん)および正一位の80町から，従(じゅ)五位の８町まで等差をつけ支給額を規定し，女は男の３分の２と定められた。すべて死後は即日収公する規定であったが，位田の制はしだいにゆるみ，９世紀以後は私有化の傾向をたどり荘園*(しょうえん)の一源流となった。

イーデン［Robert Anthony Eden］(1897～1977) イギリスの政治家。オックスフォード大学卒業。1923年保守党の下院議員となり，以後国璽尚書(こくじしょうしょ)・外相・陸相を歴任。1940～1945年には戦時内閣の外相として声望が高かった。1951年副首相兼外相としてイギリス外交の自主性回復に努めた。1955年チャーチル*の引退により保守党党首・首相となる。1956年10月のスエズ出兵を非難され，1957年１月引責辞職した。

いでんがく【遺伝学】遺伝子*とその中に含まれる遺伝情報の伝達方式，その変化と所在，遺伝子と環境との関係などを明らかにする生物学の一分野。現在の遺伝学はメンデルの法則を基本とし，遺伝子の本体を追究する分子遺伝学，生物進化の要因を探る集団遺伝学のほか，細胞・応用・放射線・人類・微生物・免疫・生理・生化遺伝学など数多くの分野に分かれている。

いでんし【遺伝子】生物のもっているそれぞれの形質を遺伝する根元となっている単位をいう。はじめメンデル*によって認められたもので，遺伝要素といわれたが，のちにヨハンセン*によって遺伝子とよばれた。その後T.H.モガン*らはショウジョウバエの実験を通じて，遺伝子は染色体上に一定の順序で配列していることを明らかにし，遺伝子間の相対的な距離も推定できるようになった。1925年モーガンは遺伝子とは交叉*(こうさ)・突然変異または生理的作用によって区別することができる染色体上の粒子であると考えた。染色体が増殖するとき，この粒子は正しく複製され，染色体とともに子孫に受け継がれていく。

遺伝子の働きについては，1941年ビードルとテイタムのアカパンカビに関する研究が最初の成果である。彼らは遺伝子とは特定の化学変化をひき起こす酵素を生産するものであることを明らかにした。1955年ベンザーはモーガンのいう交叉の単位，突然変異の単位および生理作用の単位は必ずしも同一ではなく，それぞれレコン・ムトンおよびシストロンとよんで区別すべきであると考えた。いままで一つの遺伝子と考えられていたものが，いくつかのシストロンによって構成されていることが多い。

遺伝子がいかなる物質からなるかは最近の研究から明らかになった。染色体はデオキシリボ核酸(DNA)とタンパク質とからなっているから，遺伝子はDNAであるか，タンパク質であるか，あるいは両者の複合体であるかである。はじめはDNAのような単純な物質では遺伝子のような複雑な形質を代表するには不適当であろうと考えられていた。1944年アベリらが肺炎菌の遺伝的性質を，純粋に取り出したDNAを作用させて変化させる実験を行なって，遺伝子はＤＮＡではなかろうかと考えられるようになった。1953年ワトソンとクリックによって発表されたDNAの構造模型から見て，DNAを遺伝子と考えると遺伝子がきわめて安定な物質であること，同一のものを複製する性質を有することなどをよく説明することができる。

遺伝子は酵素だけでなく，その他のすべてのタンパク質をつくるもとになっている。これらを構造遺伝子とよぶが，このほかに，これらの構造遺伝子の発現する時期を定める調節遺伝子が存在することを1961年ジャコブとモノーが大腸菌の研究で見いだした。これにより，すべての核は同一の遺伝子の組をもっているのに異なる形や作用をもつ細胞ができる原因が説明されるようになった。

現在では遺伝子とはタンパク質合成に必要なリボ核酸(RNA)の鋳型になるものと考えてよいであろう。このRNAにはタンパク質合成の場を与えるリボゾームのRNA，アミノ酸をリボゾームのところに運ぶ運搬ＲNAのような一般的な働きをするRNAと，特定のタンパク質やその生成の時期を定めるタンパク質に対応する情報を伝える伝令ＲNAとがある。➔核酸　➔タンパク質〔小野記彦〕

いてんとりひき【移転取引】国際収支*の中で，資金の一方的な支払いになる取引をいう。寄付・贈与・税金，本国への送金，賠償金，経済援助のための贈与などが含まれる。記録では政府と民間に分けられる。アメリカ合衆国などの国際収支を分析する際には重要な項目である。

いと【糸】短繊維*を紡績し，あるいは連続繊維*を合わせて撚(よ)ったものの総称。

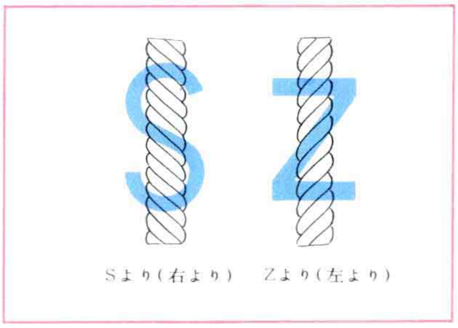
原料繊維の種類によって，綿糸・麻糸・羊毛糸・絹糸・化繊糸・金属糸などがある。撚り合わせ本数により単糸*・二子撚糸(ねんし)（双糸）などの区分，撚りの方向によって右撚り（S撚り，時計の針の回る方向に撚られたもの）・左撚り（Z撚り，右撚りの反対）の種別，異質異色の糸を撚り合わせた交撚糸・飾り撚糸（ファンシーヤーン）などの種別がある。加工糸として，シルケット糸・ガス糸・テクスチュアードヤーン・バルキーヤーンなどがつくられる。用途別には織り糸・編み糸・縫い糸・しつけ糸などに区分される。糸の太さは紡績糸は番手*，連続繊維糸はデニール*で表示する。糸を多数撚り合わせたものをコード，さらに太く撚り合わせたものをケーブルという。　〔小川安朗〕

イド　[Id]　フロイトによって用いられた精神分析*の基本概念。精神の奥底にある本能的なエネルギー（リビドー*）の源泉をさし，快を求め不快を避ける〈快原則*〉に支配される。本来無意識*の段階にとどまり，非論理的・非倫理的性質をもつ。また，抑圧した観念や人類が系統発生的に獲得した性質を含むと考えられる。フロイトは，イドの内容をはじめは自己保存本能と性本能，次いでエロス（生の本能）とサトス（死の本能）に分類した。わが国では邦訳がなく，ドイツ語の〈エス〉またはラテン語から英語に転じた〈イド〉ということばが用いられている。　〔川上伸二〕

いど　【井戸】　地層に穴を掘って地下水をくみ上げられるようにした施設。

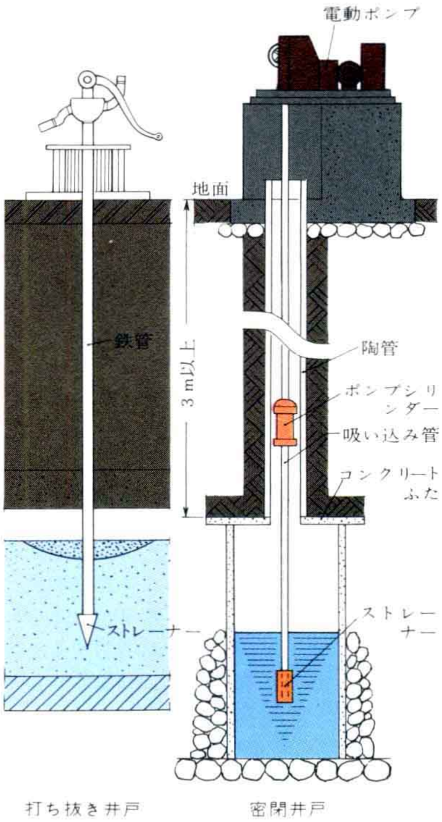
〔種類〕浅井戸と深井戸の2種類があり，深さ10mぐらいを境として，それより浅いものを浅井戸，深いものを深井戸と称している。また，その構造上から筒井戸と管井戸に分けられ，前者には開放井戸と密閉井戸が，後者には掘り抜き井戸（打ち抜き井戸）と鑿井(さくせい)がある。筒井戸は一般的に井戸と俗称されているもので，そのほとんどは浅井戸である。すなわち，滞水層まで深さ7～10mくらい掘り下げ，比較的浅い地層の水を採水するもので，井戸を掘ったのち，陶管やコンクリート管などの不浸透質の管を井戸側として，井戸の中に挿入(そうにゅう)する。井戸側を，地上までそのまま延長したものが開放井戸であり，井戸側の中間を板状のものでふさぐようにしたものが密閉井戸である。他方，掘り抜き井戸や鑿井は深井戸である。通常多量の水を得るためには地中の深い所まで掘らなければならないが，そのために，鋼管を地中深く打ち込むのが掘り抜き井戸であり，深い所まで機械で掘って，そのあとにケーシングという鋼管を挿入するのが鑿井である。

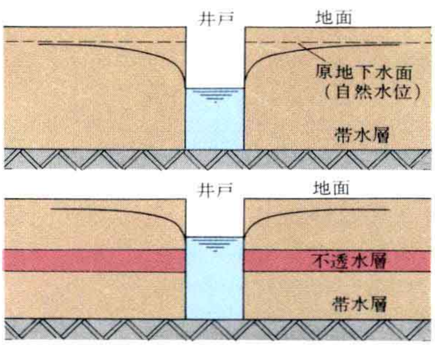
〔井戸水〕浅井戸は一般に地表水の影響によって汚染されやすいので，①くみ取り便所・屎尿(しにょう)浄化槽(そう)・肥料だめあるいは下水だめなど，地下水の汚染源となりやすいものからは，できるだけ離すようにしなければならない。建築基準法ではこの距離を5mとしているが，それ以上離すことができれば，なお望ましい。②井戸側は，ただ積み重ねるのではなく，井戸側相互の継ぎ目は，厳重に密封して，井戸の外部より雨水その他汚染された水が浸入しないようにする。井戸水は深い地層から得たほうが水質がよいとされているが，さりとて，深く掘りすぎると水質が悪くなり，水温も上昇するということがある。水質検査は，保健所・衛生研究所でやっている。➔地下水　〔森村武雄〕



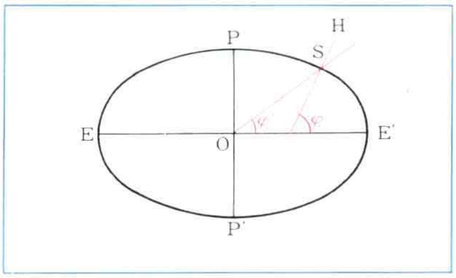
糸

井　戸





自由面地下水（上）と被圧地下水



緯　度

いど　【緯度】　天文緯度・地理緯度（測地緯度）・地心緯度の総称。地球が完全な球であり，地球内部の物質の密度分布が球対称であれば，上記の三つの緯度は一致する。地球の形を回転楕円(だえん)体（地球回転楕円体*）PEP'E'で置き換える。地球表面のある地点Sと地球中心Oを結んだ直線が赤道面EE'となす角度を地心緯度，Sにおいて地球回転楕円体に立てた法線SHが赤道面となす角度を地理緯度という。地理緯度はつねに地心緯度よりも大きく，その差は緯度45°で最大11.6'にも達する。天文緯度とはS点における鉛直線が赤道面となす角度である。地球の表面には凹凸(おうとつ)があり，また地球内部の物質の密度分布は一様でないので鉛直線とSHは一致せず，その差を鉛直線偏差*という。　〔木下　宙〕

いとい　【糸藺】　単子葉植物・イグサ科。深山のがけや岩上によくみられる多年草。長さ10～20cm，幅1mmの非常に細長い糸状の葉が基部より多数集まって出る。葉は淡緑色で柔らかく，葉脈が3～5本ある。7～8月，長さ7～14cmの花茎を伸ばし，先端に通常淡緑白色の2～3個の小花よりなる頭状花穂をつける。

いといがわ　【糸魚川（市）】　新潟県西端の市。江戸時代は北陸街道と松本街道（糸魚川街道）が集まる宿場町，松平氏一万二千石の城下町であった。1954年（昭和29）市制施行。人口36,000。日本海に注ぐ姫川下流に沿い，中心市街は河口付近にあり，冬は積雪が深いので雁木*(がんぎ)のある民家がみられる。本州の中央を横断する糸魚川-静岡構造線*の北端にあたり，この地溝*(ちこう)帯の東側を走る松本街道は，かつて上杉(うえすぎ)謙信が武田(たけだ)信玄に塩を送った道と伝えられる。産業三大別人口比は30：28：42で，近年，姫川の電源開発が進み，化学・セメントなどの近代工業なども興っている。県境の小滝地区は石灰石・メノウ・ヒスイな

どの地下資源に富む。蓮華(れんげ)地区は中部山岳国立公園，笹倉(ささくら)地区は上信越高原国立公園の区域内に含まれ，平岩温泉郷やスキー場がある。北陸本線から大糸線が分岐し，国道8号線・148号線が集まる。相馬(そうま)御風*の邸宅・遺品が保存され，天津(あまつ)神社のけんか祭りが名高い。

いといがわ-しずおかこうぞうせん　【糸魚川-静岡構造線】 本州中部を新潟県糸魚川市に始まって姫川に沿い南下して松本盆地・諏訪湖(すわこ)を過ぎ，韮崎(にらさき)から富士川に沿って静岡に至る大地溝(ちこう)帯(フォッサ-マグナ*)の西縁となっている断層。この断層で本州は地質学的に東北日本と西南日本とに分かれている。形成の時期は第三紀末と考えられている。

いとう　【伊東(市)】 静岡県東部の市。古くからの温泉郷で，中世には豪族伊東氏・宇佐美(うさみ)氏の居住地であった。1947年(昭和22)市制施行。人口71,000。伊豆半島の東岸，天城(あまぎ)山系のすそ野上に位置し，産業三大別人口比は7：18：75で，多くの温泉旅館やみやげ品店が立ち並ぶ。伊東温泉*は湯量が豊富で，国際観光温泉文化都市に指定されている。周辺部には，一碧湖(いっぺきこ)・先原湖・川奈(かわな)ゴルフ場・大室山などの景勝地があり，大室山南東麓(ろく)にはサボテンセンターがある。熱海(あたみ)から伊東線が通じ，伊豆急行電鉄が伊豆半島南端の下田へ延びる。また国道135号線が走り，西部稜線(りょうせん)の伊豆スカイラインとを結ぶ東伊豆道路・遠笠(とおがさ)山道路などの有料道路も発達し，奥伊豆観光の玄関口となっている。伊東港は，カツオ・サバなどの近海漁業の基地で，南東海上の大島へ汽船が通ずる。源頼朝(よりとも)と伊東氏の娘八重姫とのロマンスを伝える音無森があり，年中行事としては，シャボテン祭り(3月21～23日)，日本最初の洋式帆船の建造者ウィリアム-アダムス(三浦按針*(あんじん))をたたえる按針祭り(8月8～10日)，音無神社の尻(しり)摘み祭り(11月10日)がある。〔浅井得一〕

いどう　【移動】 生物が生活場所を移すこと。移住ともいう。鳥の渡り，魚の回遊*，バッタの群飛*などはその顕著な例。渡り・回遊などは一定の場所に再び帰ってくる回帰移動であり，バッタの群飛やレミングの大移動などは再び帰ってくることのない非回帰移動である。移動の原因としては次のようなものがある。①受動的な移動。風・水流・海流あるいは他の生物などによって運ばれる。②繁殖のための移動。③敵からの逃避。④集団の密度が過密となって，集団の一部が移動する場合。〔松本忠夫〕

いとういっとうさい　【伊藤一刀斎】 生没年不詳。安土桃山時代の剣客。元亀(げんき)・天正(1573～1591)ごろに活躍した。名は影久(かげひさ)，通称弥五郎(やごろう)。伊豆伊東の生まれといわれ，鐘巻自斎を師とし中条流の小太刀(こだち)・中太刀を学んだ。のちに一刀流を創始し，武者修行のため諸国を歩いた。途中，他流と試合すること33回，一度も負けたことがなかった。1591年(天正19)，高弟神子上典膳*(みこがみてんぜん)(小野次郎右衛門(じろうえもん))に一刀流の秘術を授けたあと，仏道修行のため旅に出た。老後は下総(しもうさ)(千葉県)小金が原に隠棲(いんせい)したともいう。〔稲垣史生〕

いとうえいのすけ　【伊藤永之介】(1903～1959) 小説家。本名は栄之助。秋田市の生まれ。はじめ《文芸戦線*》に属し，《泥溝(どぶ)》《万宝山》などを執筆，評論家としても活躍して注目された。1936年(昭和11)以後は，東北地方の無知で貧しい農民の生活を独特の情感とユーモアを交えた説話体で描いた《梟(ふくろう)》《鶯(うぐいす)》《鴉(からす)》などを発表，農民文学の代表的作家と目された。第2次世界大戦後の作品に《警察日記》がある。

いとうおんせん　【伊東温泉】 静岡県伊東市にある温泉。泉温27～57℃。泉質は単純泉・弱食塩泉で，胃腸病・婦人病・神経痛・打撲傷・リウマチなどにきくといわれる。湯量が豊富なことで名高く，市内を流れる松川河口付近に温泉街が密集している。近くには東洋一を誇る川奈(かわな)ゴルフ場，15万km^2の高原に展開する伊東サボテンセンター，天城(あまぎ)キャンプ場などもあり，また，つりや海水浴なども楽しめる。観光と保養を合わせた温泉地で，交通の便もよい。伊東線伊東駅下車。〔木村東一郎〕

いとうきさく　【伊藤熹朔】(1899～1967) 舞台美術家。東京生まれ。長兄は舞踊家伊藤道郎*(みちお)，次弟は俳優の千田是也(これや)。東京美術学校洋画科卒業後，築地小劇場で舞台装置を担当，《役(えん)の行者》などによって近代舞台美術の開拓者となった。その後新・旧演劇，オペラ，舞踊など活躍した分野は幅広く，写実性を基調とする多くの傑作舞台を残した。また，後進の養成にも力を注ぎ，日本の演劇の発展に功績を残した。著書に《舞台装置の研究》《舞台装置三十年》などがある。〔西尾邦夫〕

いとうけいすけ　【伊藤圭介】(1803～1901) 号は錦窠(きんか)。本草学者。名古屋に生まれる。山本亡羊*・宇田川榕庵*(ようあん)と交わったほか，シーボルト*からも教えを受けている。1861年(文久1)，幕府の蕃書(ばんしょ)調所に出仕し，維新後は東京大学に登用された。その著《泰西本草名疏(そ)》(1829)は，日本でリンネ式分類法を採用した最初の著書である。1882年(明治15)，日本学士院会員に選ばれた。

いとうげんぼく　【伊東玄朴】(1800～1871) 江戸時代末期の医学者。肥前(佐賀県)の人。医学を志し，はじめ漢方を修めたが，1822年(文政5)佐賀に出て蘭学(らんがく)を学び，さらに長崎へ行きオランダ語を修めた。たまたま来日したシーボルト*に師事して西洋医学を学ぶ。1826年江戸に出て蘭書を講じ，また医業を開いた。1841年(天保12)佐賀藩主鍋島閑叟*(なべしまかんそう)の侍医となり，1845年(弘化2)蘭医モーニケ*のもたらした牛痘苗を用いて閑叟の子女に実施して成功し，牛痘法の普及のきっかけをつくった。1858年(安政5)江戸在住の蘭医とともに神田お玉ケ池に種痘所を開く。1859年幕府の奥医師，1862年(文久2)西洋医学所頭取となる。著訳書に《医療正始》がある。〔大鳥蘭三郎〕

いどうこうさく　【移動耕作】 自然の地力を利用して耕作し，地力がなくなると新しい土地に移動する粗放的・原始的な農法で，遊農ともいう。熱帯や亜熱帯の森林地帯では，樹木を切り倒して乾燥させ，乾季の終わりに火をつける。雨季になって火が消えると，その草木灰を肥料として作物を栽培する。地力が衰えたり，土壌(どじょう)が流出したり，雑草が茂ると別の土地で同じ方法をくり返す。しだいに耕地が遠くなるので数年すると居を移す。古くから世界各地にあった農法で，よび方もさまざまである。日本の焼き畑*もこの一つである。〔大石堪山〕

いとうさちお　【伊藤左千夫】(1864～1913) 歌人・小説家。本名幸次郎。千葉県成東町の農家の四男に生まれ，独力で乳業に関する知識を修得し，東京で牛乳搾取業を経営。1900年(明治33)正岡子規*の《歌よみに与ふる書*》に啓発され，その門人となった。子規の没後は，根岸短歌会*の代表的歌人として雑誌《馬酔木*(あしび)》《アララギ*》を創刊，同派を隆盛に導くとともに，島木赤彦*(あかひこ)・斎藤茂吉*など多数の歌人を育成した。小説《野菊の墓》以外には生前に刊行された著作はないが，1920年(大正9)に出された《左千夫歌集》は1900年以降没年までの短歌1,879首を収録している。〔池内輝雄〕

いどうさつえい　【移動撮影】 映画の撮影用語。移動車やクレーンなどにカメラを載せて，移動しながら撮影すること。平行移動・垂直移動など移動の形はいろいろあるが，主として動く対象物を克明に撮影する目的で行なわれてきた。しかし，カメラの動きが，対象物を見る人間の意識を表現するものとも考えられるようになってから，移動撮影は人間の意識の軌跡を表現する重要な表現形式となった。レネ*の《夜と霧》は，動かぬ対象物を移動撮影することだけで一つのドラマをつくりあげている例である。〔波多野哲朗〕

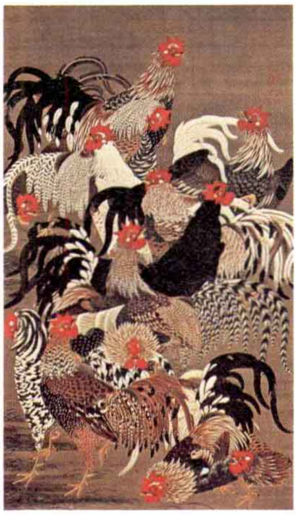
いとうしずお　【伊東静雄】(1906～1953) 詩人。長崎県諫早(いさはや)市の生まれ。京都大学を卒業後，大阪の中学校に勤務しながら詩作を続けた。孤高で純粋な精神を，独特な美しい叙情詩として結晶させた《わがひとに与ふる哀歌》《夏花》《春のいそぎ》《反響》などの詩集がある。保田(やすだ)与重郎*に招かれて《コギト*》に加わり，のち《四季*》《日本浪曼派*(ろうまんは)》の同人となる。

いとうじゃくちゅう【伊藤若冲】(1716～1800) 江戸後期の画家。名は春教，字(あざな)を景和，若冲・斗米庵(とべいあん)などと号した。京都の青物問屋に生まれたが，家業を弟に譲って画業に専心，精細な描写と特異な形態把握(はあく)をみせる写生的装飾画に一家をなした。代表作《動植綵絵(さいえ)》などの華麗な着色画のほかに，水墨による即興的な小品も数多く描いている。

いとうじんさい【伊藤仁斎】(1627～1705) 江戸初期の儒学者。古学派の一派〈古義学派〉を樹立。京都堀川(ほりかわ)通りの商家伊藤七右衛門(しちうえもん)の長子。名は維楨(これえだ)。11歳で師について《大学》を学び，16歳ごろより〈聖賢の道〉を志して朱子学に傾倒，27～28歳ごろその奥義を得たと確信したが，29歳松下町に隠棲(いんせい)後，仏教や老子の教えに迷うなどしだいに懐疑的となった。32歳で書いた《仁説》に朱子学と別れる転機を見いだし，36歳京都の大地震を機に堀川へ帰って塾を開いた。やがて《論語古義》《孟子(もうし)古義》《中庸発揮》を著わして地歩を固め，《論孟字義》《童子問*》によって自己の学問を完成させた。《論語》《孟子》の2書を〈熟読精思〉して孔孟の〈意味血脈〉を理解し，私見を去ってその〈字義〉を求めることが仁斎学の方法である。〈天地の間は一元気のみ〉と考えて実践道徳を重んじ，また〈仁は愛なり〉と説く独自の人間学を形成した。➔古学派 ➔古義堂 〔小田 博〕

いとうしんすい【伊東深水】(1898～1972) 日本画家。東京の生まれ。本名一(はじめ)。14歳で鏑木(かぶらぎ)清方*につき，17歳で早くも文展に入選。堅実な表現力，甘美な情景描写で文展・帝展に台頭，審査員を経て1958年(昭和33)日本芸術院会員となる。現代風俗・美人画に秀作が多い。

いとうすけちか【伊東祐親】(？～1182) 平安末期の武将。伊豆(静岡県)の住人。河津荘(かわづのしょう)を領し，河津二郎と称した。伊豆伊東荘をめぐって叔父(おじ)祐次(すけつぐ)およびその子祐経(すけつね)としばしば争って訴訟を起こした。伊豆に流された源頼朝(よりとも)を監視したが，娘が頼朝の子を生むに及び平氏をはばかって殺そうとしたため頼朝は北条時政(ほうじょうときまさ)のもとにのがれた。富士川の戦い*に平家方として参加する途中捕えられ，のち女婿の三浦義澄(よしずみ)の仲介で恩赦にあったが恥じて自殺。孫が曾我(そが)兄弟*である。〔鹿野賀代子〕



伊藤若冲《群鶏図》 宮内庁蔵

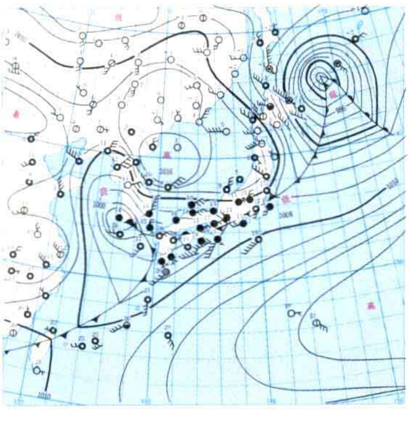


伊東深水《聞香》 1950 東京国立近代美術館蔵

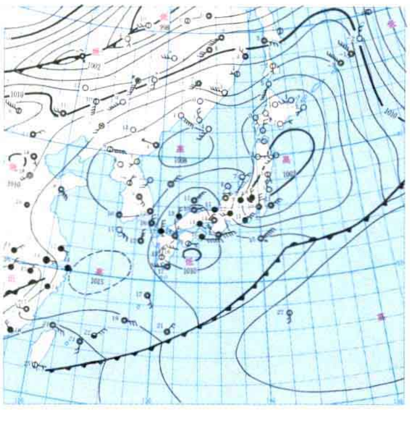
いとうすけゆき【伊東祐亨】(1843～1914) 海軍軍人。薩摩(さつま)藩の出身。勝海舟から航海術を学び，明治維新後，創設期にあった海軍の中心人物として要職を歴任し，日清(にっしん)戦争には連合艦隊司令長官として黄海の海戦*，威海衛の戦い*に武名をあげ，日露戦争には大本営海軍幕僚長として参加した。元帥。伯爵。

いとうせい【伊藤整】(1905～1969) 詩人・小説家・評論家。北海道に生まれた。本名は整(ひとし)。東京商科大学を中退。小樽(おたる)で中学校の教師をつとめ，詩集《雪明りの路(みち)》を自費出版。1928年(昭和3)上京，フロイト*やジョイス*に傾倒し新心理主義を標榜(ひょうぼう)，小説《幽鬼の街(まち)》でその定着をみた。1941年にはさらにこれに私小説の方法を融和させた《得能五郎の生活と意見》を書き，作家としての自己を確立した。第2次世界大戦後は小説のほかに《小説の方法》《日本文壇史》などの評論活動があり，また《チャタレイ夫人の恋人*》の完訳刊行をめぐって猥褻罪(わいせつざい)に問われ，8年間にわたる法廷闘争を行なった。ほかに《火の鳥》《氾濫(はんらん)》《発掘》などの長編小説や自伝小説《若い詩人の肖像》などがある。〔江種満子〕

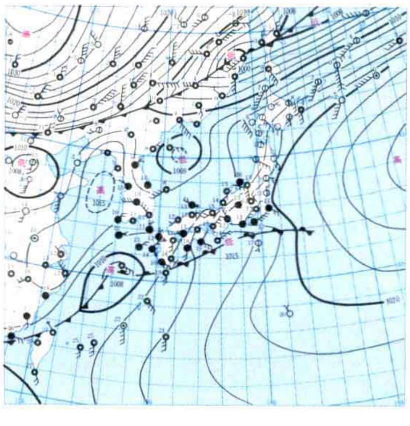
いどうせいこうきあつ【移動性高気圧】大きな風系に流されることなどによって移動する高気圧。移動性高気圧には，低気圧系内のものと，寒気の吹き出しに伴うものの二つの種類がある。前者は低気圧と低気圧の間に現われるくさび状の高気圧で，後者は寒気の吹き出しとともに停滞性の高気圧からちぎれるようにしてできるものである。日本付近に現われる移動性高気圧は，シベリア大陸の寒冷高気圧からの寒気の吹き出しによるという見方もできようが，実際には上記二つの性格が混在していて，公式どおりにあてはめることはむずかしい。そして，春秋に多く，毎時40km程度の速さで西から東に移動することが多い。移動性高気圧の形はだいたい円に近く，シベリア高気圧や小笠原(おがさわら)高気圧などの停滞性の高気圧と比べるとはるかに小さく，平均直径1,000kmぐらいである。移動性高気圧の後面では



1970年4月18日15時



1970年4月19日15時



1970年4月20日15時

移動性高気圧

天気があまりよくないのが普通である。〔曲田光夫〕

いどうせいもうちょう【移動性盲腸】 正常でも，盲腸部はわずかに移動性を示すが，この部の腸間膜が病的に長く，移動性を呈することをいう。しばしば，腹部膨満感・下腹部痛・便秘などの症状を伴う。適度の運動，緩下剤の投与などで症状改善をみないときは，固定・縫合などの外科的手術を行なう場合がある。

いとうそこびきあみぎょぎょう【以東底引き網漁業】 ⇨底引き網漁業

いとうだいすけ【伊藤大輔】（1898～1981） 映画監督。松山中学卒。《酒中日記》（1923）でデビューし，《忠次旅日記（三部作）》《下郎》《丹下左膳》で注目された。封建制下でしいられる非人間的な生き方に反抗する人間像を描いて，昭和初期の鬱屈(うっくつ)した状況の中で，インテリと一般大衆観客の双方から共感をもって迎えられた。戦後の代表作に《王将》《春琴物語》などがある。

いとうちゆう【伊藤痴遊】（1867～1938） 講談師。本名仁太郎。星亨(とおる)のもとで政治活動の手段として講談を読むうち，政治講談・新講談で大成した。明治維新の偉人伝，自由党史などを得意の演目とする。生涯(しょうがい)政治と関係を保ち，国会議員ともなった。現在は，2世(1910～)が時事・政治講談に活躍している。

いとうちゅうしょうじ【伊藤忠商事(株)】 繊維品を中心とした総合商社。1858年(安政5)の創業で1872年(明治5)紅忠,1893年伊藤糸店，1924年(大正13)伊藤忠を名のる。1944年(昭和19)に,呉羽(くれは)紡績・大同貿易を合併して大建産業を設立,1949年集中排除法の指定を受けて，分離独立して再出発する。取扱高は繊維40%，機械・金属30%，食糧・化学品30%。ほかにリース事業への進出を図っている。また，海洋開発に意欲的で，川崎重工業・川崎製鉄などの川崎グループや富士電機製造・富士通信工業などの古河(ふるかわ)グループと提携し，連絡情報交換会を設けている。本社大阪市東区。資本金372億5,100万円,年間取扱高8兆8,620億円，従業員数7,830(1980年9月)。

いとうちゅうた【伊東忠太】（1867～1954） 建築家。山形県米沢(よねざわ)市の生まれ。東京帝国大学工科大学卒業後，法隆寺の建築学的研究で世に知られた。わが国の仏教建築の淵源(えんげん)を実証的に研究し，古社寺・国宝の保護に尽力，重要文化財保存の基礎を築いた。建築作品は，東洋的様式に基づく独自の折衷主義を特色とするが，東京の築地(つきじ)本願寺が代表作。

いとうとうがい【伊藤東涯】（1670～1736） 江戸前期の儒学者。古学派(古義学派)。伊藤仁斎の長子で，字(あざな)は源蔵。父に伴って古義堂内外で講義を行なう一方，著作の整理も手伝い，父の死後はその稿本の校訂と出版に努力，仁斎学の完成に功績



伊藤博文

を残した。紀伊(きい)侯の招きもあったが辞退し，門弟の教育と著述に専念。博学多識で，《論孟(ろんもう)古義標注》《古学指要》《弁疑録》《制度通》《唐官抄》《助辞考》などの著書がある。〔小田　博〕

いとうのえ【伊藤野枝】（1895～1923） 無政府主義者。福岡県に生まれる。東京上野高等女学校卒業。辻(つじ)潤と結婚。1913年(大正2)平塚雷鳥(ひらつからいちょう)らの青鞜社(せいとうしゃ)に加わって婦人解放運動に活躍。大杉(おおすぎ)栄の影響で無政府主義者となり，1916年大杉と結婚，1923年関東大震災のとき大杉とともに甘粕(あまかす)憲兵大尉に惨殺された。➔甘粕事件

いとうひろぶみ【伊藤博文】（1841～1909） 政治家。幼名利助，のち俊輔(しゅんすけ)。号は春畝(しゅんぽ)。百姓から軽士の格を継いだ長州藩士伊藤十蔵の子。吉田(よしだ)松陰の松下村塾に学んで尊王攘夷(じょうい)の思想をいだき，1862年(文久2)京都に出て倒幕運動に加わり，高杉晋作(たかすぎしんさく)・久坂玄瑞(げんずい)らと品川御殿山のイギリス公使館を焼き討ちした。1863年井上馨(かおる)らとひそかに渡英,四国連合艦隊下関(しものせき)攻撃事件に際して帰国し講和に尽力した。以後開国討幕を唱えて国事に奔走，明治の新政府では参与・外国事務係・大蔵兼民部少輔(しょうゆう)から工部大輔に進んだ。1871年(明治4)岩倉全権大使の副使として欧米を視察。征韓論(せいかんろん)で西郷らが下野したあとは参議兼工部卿(きょう)となり，大久保利通(としみち)の死後内務卿として政府の中心的地位に立った。1882年憲法調査のため渡欧，プロシア憲法を学び帰国。以降，華族制度・内閣制度の創設，憲法，皇室典範の制定，皇室財産の確定，枢密院の設置など天皇制権力の完成に努力し，初代の首相・枢密院議長となった。1890年議会が開設されると貴族院議長となり，4度内閣を組織し，その間日清(にっしん)戦争を指導し，講和全権にもなった。1900年政党の必要を感じ，立憲政友会を組織し総裁となった。日露戦争の時期から韓国との交渉に力を入れ，1906年日韓協約を結びみずから統監となって日韓合併の基礎をつくった。1909年満州視察の際，ハルビン駅頭で韓国の民族主義者安重根に狙撃(そげき)され死んだ。公爵。〔岸野淳子〕

いとうマンショ【伊東マンショ】（1570？～1612） 安土桃山時代のキリスト教徒。祐益(すけます)の子。大友宗麟(そうりん)の甥(おい)。ドン-マンショ(鈍満所)は洗礼名。名は不詳。1582年(天正10)天正遣欧使節の首席として，ポルトガル・イスパニア・イタリアを歴遊，1585年6月ローマへはいり，教皇グレゴリウス13世に謁見した。1590年帰国し耶蘇会(やそかい)にはいり，イエズス会士(イルマン)となり，司祭(バテレン)に叙階された。

いとうみちお【伊藤道郎】（1893～1961） 舞踊家。東京生まれ。1912年(明治45)渡欧，ダルクローズにリトミック-ダンスを学ぶ。以後第2次世界大戦直前に帰国するまでほとんど欧米各国で活躍。イギリスではイェイツ作《鷹(たか)の井戸》を上演，ニューヨークでは俳優学校を経営するかたわら《武道》(寺子屋)を上演するなど，ミチオ-イトウの名はむしろ海外で知られた。戦後は一時日劇ダンシングチームの振り付け師になるなどして，演劇・舞踊・ミュージカルに幅広く活躍した。〔高橋孝一〕

いとうみよじ【伊東巳代治】（1857～1934） 政治家。長崎県に生まれる。郷里で蘭学(らんがく)・英仏語を学ぶ。1873年(明治6)兵庫県庁の訳官となり，県令伊藤博文(ひろぶみ)に認められ，以後博文の側近として内閣制度の改正，憲法の起草などに参画した。第3次伊藤内閣の農商務相，1891年東京日日新聞社長，1899年枢密顧問官となり，政界に隠然たる勢力を有した。1927年(昭和2)金融恐慌に際し,枢密院の会議で若槻(わかつき)内閣が上呈した緊急勅令案を攻撃し，倒閣に至らしめた。伯爵。〔岸野淳子〕

いとおり【糸織】 絹糸織をいい，経緯ともに精練・染色した絹糸で織った縞(しま)・絣(かすり)または無地の着尺地を総称した。特に，片撚(かたよ)りの撚り染め絹糸で平織りにした平糸織のみをさして糸織という場合もあるが，広くは組織・撚り方，原糸などのちがう諸糸織(もろいとおり)・節糸織・綾糸織(あやいとおり)・市楽織・壁糸織・高貴織なども糸織に属する。幕末から明治にかけては，庶民の着物として流行し，大正に至って衰退したが，八王子・米沢(よねざわ)を主産地とした。〔北村哲郎〕

いとかけがい【糸掛貝】 軟体動物・腹足綱・イトカケガイ科の巻き貝の総称。世界じゅうに分布し，約200種が知られ，日本には約60種。殻(から)は普通白色で，塔状円錐(えんすい)形。縦にひれのような張り出しが10本以上走っていて美しい。オオイトカケは，中でも最も美しい種類として有名で，熱帯太平洋に広く分布し，日本でも房総以南に発見される。

いどかんそくじょ【緯度観測所】 緯度変化の観測所。日本をはじめ世界の6か所にあり，すべて北緯39°8′上にある。これらの観測所は1898～1899年(明治31～32)にかけて設けられ，日本では，岩手県水沢市に，1900年から共同観測を開始し今日に至って

いる。水沢市にある国立の水沢緯度観測所は，1899年に水沢緯度臨時観測所として創立，初代所長はZ項を発見した木村栄*(ひさし)であった。1920年(大正9)に水沢緯度観測所と改称され，1922～1936年(昭和11)の間と，1962年以降，国際緯度観測事業の中央局をつとめている。〔木下　宙〕

イドキシウリジン［idoxyuridine］化学名5-ヨード-2-デオキシウリジン。略称IDU。抗ウィルス剤で，白色結晶性の粉末。アデノウイルス・水痘ウィルスなど種々のウィルス性疾患に有効であるとされている。特にヘルペスウイルス(単純疱瘡(ほうそう)ウィルス)に対し有効で，角膜細胞内のウィルス合成を阻害するので，角膜炎に対する局所治療に用いられる。

いときりば【糸切り歯】犬歯の俗称。切り歯(門歯)の外側で第1臼歯(きゅうし)の内側にある。上下顎(がく)に各1対ずつで，合計4本ある。➔歯

いとくてんのう【懿徳天皇】名は大日本彦耜友(おおやまとひこすきとも)，安寧天皇の皇子。実証史学からは実存性は薄い。母は渟名底仲媛(ぬなそこなかつひめ)。大和(やまと)(奈良県)の軽曲峡宮(かるのまがりおのみや)を皇居とし，在位34年と伝える。陵墓は奈良県橿原(かしはら)市の畝傍(うねび)山南繊沙渓上陵(みなみのまさごのたにのえのみさぎ)。

いどこうか【緯度効果】地球上の宇宙線*強度が，測定する地点の緯度により異なること。高緯度より低緯度のほうが強度が小さく，その差は測定される宇宙線の成分によるが，中間子成分については10％程度である。緯度効果は地球のもつ磁場が外界からの宇宙線の地球表面への入射を妨げるために起こるもので，一般に宇宙線のような帯電粒子は磁場の磁力線に沿って運動しやすいから，磁力線が鉛直に近い極地方のほうが磁力線が水平に近い赤道地方より入射しやすくなる。したがって宇宙線の緯度効果を論ずるには地理的緯度より地磁気緯度を用いるほうが適切である。〔村山　喬〕

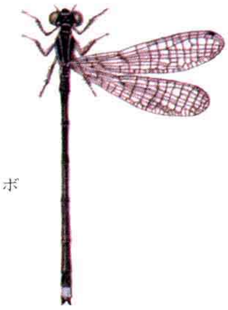
いとこく【伊都国】3世紀のころ邪馬台国*(やまたいこく)に服属していた諸小国の一。位置は福岡県糸島付近と推定されている。《魏志倭人伝*(ぎしわじんでん)》によると〈世々王あり，皆女王国に統属される。人口は千余戸で，邪馬台国は一大率をこの国において検察にあたらせた〉とある。

いとこベット【従妹ベット】バルザック*の小説(1846)。主人公リズベット(ベット)が，いとこのアドリーヌの一家を自尊心のゆえに憎み，復讐(ふくしゅう)しようとする物語で，ベットの手引きによってアドリーヌの夫ユロ男爵が女狂いに陥り，一家は悲惨のどん底に突き落とされる。暗い情熱にとりつかれた女が，いとこの家庭を破壊していくさまを，自然主義的な力強い筆致で描いた長編小説。➔従兄(いとこ)ポンス

いとこポンス【従兄ポンス】バルザック*の小説(1847)。《従妹(いとこ)ベット*》と姉妹編をなす作品で，親戚(しんせき)の醜悪な欲望によって破滅へと追いやられる男の物語。貧しい音楽家ポンスは美術品の収集狂でもあり，周囲の人々ははじめ彼をきらっていたが，ポンスの収集品の財産的価値を知るや，それを奪おうと画策する。いっさいを奪われたポンスは絶望のうちに世を去る。バルザック後期の代表的長編小説。



井戸茶碗　銘喜左衛門　大徳寺孤蓬庵蔵



イトトンボ
アジアイトトンボ

いとしまはんとう【糸島半島】福岡県の北西部，玄界灘(げんかいなだ)に突出し，博多(はかた)湾と唐津(からつ)湾を分けている半島で，怡土(いと)郡と志摩郡の合併によって糸島の名が生まれた。かつて半島は島であったが，背振山地からの河川の堆積(たいせき)作用により陸続きとなった。海岸はいくつもの海食崖(かいしょくがい)とその間は砂浜で結ばれ，砂浜海岸には砂丘が発達し，磯(いそ)の松原とあいまって美しさを高めている。芥屋ノ大門(けやのおおと)・元寇(げんこう)防塁跡などの名所・史跡も多く，玄海国定公園に指定されている。〔味沢成吉〕

いとじょう【怡土城】756年(天平勝宝8)，福岡県糸島郡前原町の高祖(たかす)山に築いた古代の山城。新羅*(しらぎ)との関係が悪化したため，大宰大弐(だざいのだいに)吉備真備*(きびのまきび)が建議して築城にあたった。完成は768年(神護景雲2)。城域は広大で，西麓(せいろく)は石がきで固め，城門・水門を設け，東は高祖山稜線(りょうせん)，北は尾根，南は谷で限っている。城門・望楼跡などの礎石が遺存して国の史跡に指定されている。

いとすぎ【糸杉】裸子植物・ヒノキ科。コノテガシワの一変種。コノテガシワが多数の幹を出し，ふつうあまり高くならないのに対し，直立して高さ15～20mになり，枝が長くたれ下がる。イトヒバともよばれる。➔コノテガシワ。

いどちゃわん【井戸茶碗】朝鮮各地で李朝*(りちょう)(1392～1910)初期に焼かれたと推測される陶器。もとは日用の雑器であったらしい。わが国では室町後期の侘茶*(わびちゃ)の茶人が愛用した。その作風により大井戸・古井戸・青井戸・井戸脇(いどわき)などに分類され，古美術品として珍重されている。

いとづくり【糸作り】さしみの切り方の一法で細づくりともいう。魚を小口からまたはやや斜めに細長く切る方法で，サヨリ・キス・コチなどの小魚に用いられる。また，イカ・タイ・ヒラメ・ハマグリなど身の厚いものは2～3枚にそいでから切る。

いととんぼ【糸蜻蛉】こん虫類・トンボ目・均翅(きんし)亜目のイトトンボ科・アオイトトンボ科・ヤマイトトンボ科などの総称。イトトンボ科は，日本には2亜科11属20数種が分布しており，アジアイトトンボ・キイトトンボ・アオモンイトトンボ・セスジイトトンボなどが代表的な種である。普通は池沼の水草上や水辺に多いが，水辺から遠く離れた草原や林間にみられる種もある。単にイトトンボという場合はアジアイトトンボだけをさすこともある。

いとないしんのう【伊登内親王】(?～861)桓武(かんむ)天皇の第7皇女。母は藤原乙叡(おとえい)の娘平子。平城天皇の皇子阿保(あぼ)親王に嫁し在原(ありわら)行平・守平(もりひら)・仲平・業平(なりひら)らを生む。生母平子の遺言により興福寺に墾田などを奉納した際の願文の署名と朱の手形は，内親王のものであるといわれる。

いとにしき【糸錦】紋織物*の一。地組織を経(たて)3枚綾(あや)とし，通常，絵緯(えぬき)は表裏とも3枚・6枚綾の地搦(じがら)み，または別搦みにおさえた錦をいう。ふつう，絵緯は地緯と同じように通緯(とおしぬき)にする場合が多い。ふっくらとした柔らかい風合いを特色としている。3枚綾地・絵緯6枚綾地搦みの錦は正倉院裂(ぎれ)の中にもみられるが，この茶地鳥獣花卉文(かきもん)錦では裏面に回った絵緯は経糸で押えられずに，全部が浮き糸となって遊んでいる。その点，表面は同様であっても，裏浮きの絵緯を地搦みや別搦みで押えている近世のものとはようすが違っている。近世のそれは主として女帯や袱紗(ふくさ)・袋物地として使用されてきた。〔北村哲郎〕

いとのこばん【糸鋸盤】細い針金状ののこ刃を上下運動させて，金属や木材を手送りして曲線状に切るのに用いるのこ盤。金属用には歯の細かいのこ刃を，木工用には歯のあらいのこ刃を用いる。

いとひきあじ【糸引鯵】硬骨魚類・アジ科。90cmほどになる海産魚。わが国では20cmほどのものが多い。体形は肉の薄いひし形で，他のアジ類とは大いに違っている。背びれと，しりびれの条が，体の長さの2倍余りにも伸びているので，この名を得た。

イ　ヌ

日本犬



秋田犬



柴犬



紀州犬



土佐闘犬

使役犬



シェパード



セントバーナード



ボクサー



ドーベルマン



コリー

鳥猟犬



セッター



ポインター



A. コッカースパニエル

愛玩犬


狆


ペキニーズ


チワワ


日本テリア


ポメラニアン

獣猟犬


ダックスフント


ボルゾィ

テリア


エアデールテリア


ワイヤーヘアード-フォックステリア

非猟犬


プードル


ブルドッグ


スピッツ

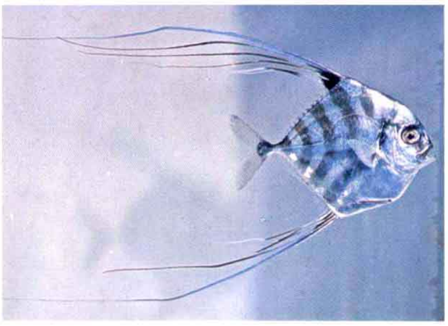
本州中部以南にすみ，食用になる。

いどへんか　【緯度変化】　地球上の天文緯度*が，わずかながらたえず変動している現象。緯度変化は極運動*に起因するものとそれ以外の原因によるものとがある。後者には1902年(明治35)に木村栄*(ひさし)が発見したZ項が含まれている。前者はおもに約12月周期と約14月周期の変動からなっている。約12月周期の変動は，地球の密度分布が変化することにより慣性モーメントが変化し慣性主軸の方向が移動するために起こる。また，約14月周期(チャンドラー周期)の変動は，地球を弾性体と考えたときの自由章動(→章動)に対応している。Z項の原因については種々の説があるが，まだ定説はない。➔緯度観測所　〔木下　宙〕

いとまきえい　【糸巻鱝】　軟骨魚類・イトマキエイ科。全長2.5m，体重500kg以上に達する海産魚。前後につまったひし形の体に，長いむち状の尾がつき，頭の先端には，ウサギの耳のような1対の突起がある。背側は青黒く，腹は白い。歯は小さい。南日本各地の沿岸にすむ。胎生。肉はうまくない。

いとまきひとで　【糸巻海星】　棘皮(きょくひ)動物・ヒトデ類。ほぼ正五角形に近いヒトデで，昔の糸巻きに似ているのでこの名がある。全体の幅10cmほどになる。背面は黒みがかった藍(あい)色に，橙赤(とうせき)色の不規則斑(まだら)があり，毒々しい。腹面は橙黄色。日本各地・樺太(からふと)・朝鮮の沿岸に分布し，磯(いそ)の浅い所にきわめて普通である。

いとまん　【糸満(市)】　沖縄県南西部の市。漁港として琉球(りゅうきゅう)王国の古い歴史をもち，独特の〈くり船〉でインド洋から遠く地中海まで出漁した糸満漁夫の活躍が知られ，また久米(くめ)島や石垣(いしがき)島，沖縄本島の具志頭(ぐしかみ)村に子村をつくっている。1961年(昭和36)糸満町が兼城(かねぐすく)村・高嶺(たかみね)村・三和村を合併して町域を拡大，1971年(昭和46)市制施行。三和村は第2次世界大戦時までの真壁・摩文仁(まぶに)・喜屋武(きゃん)の3村で，第2次世界大戦の沖縄戦によって多くの死者を出したために，それぞれ独立した村を維持できず，1946年に合併したものである。人口43,000。市名は，ヨーロッパで糸満漁夫をイーストマン(東洋人)とよんだことにちなむといわれる。島尻(しまじり)地方の南に突き出した小半島を占め，旧糸満町は半島南西部の砂浜にあり，その他のおもな集落も水利のよい南斜面に立地する。糸満港を基地とする漁業活動は今日では沖縄近海に限られており，その他は純農村集落で，サトウキビをつくり，旧三和村では葉タバコ，旧高嶺村は野菜栽培，旧兼城村は古くから，海岸低地でイグサの栽培が行なわれた。南部は沖縄戦最終の戦場で，沖縄戦跡県立公園に指定され，各府県の戦没者の慰霊塔や〈ひめゆりの塔〉などがある摩文仁の丘(87m)は風光の美しさとあいまって訪問客があとを絶たない。旧暦5月4日に豊漁を祈願して行なわれる爬龍(ハーリー)競走が名高い。〔浅井得一〕



イトヒキアジ



イトマキエイ



イトマキヒトデ



イトヨリ

いとみみず　【糸蚯蚓】　環形動物・貧毛綱・イトミミズ科。体長10cmほどで，名のようにきわめて細い。全体淡紅色。日本各地に広く分布し，人家に近い下水などの泥中(でいちゅう)に群生する。尾部を水中に出して，揺り動かしていることが多く，刺激を受けるとらせん形に体を巻く性質がある。熱帯魚や，キンギョのえさとして喜ばれる。

イトムカこうざん　【イトムカ鉱山】　北海道東部，網走(あばしり)支庁，留辺蘂(るべしべ)町にある水銀鉱山。常呂(ところ)川水系の無加川上流に位置する。日本の水銀の大部分は北海道で産出されるが，その約80%をここで産する。鉱石は自然水銀・シンシャで，オウテツ鉱・オウドウ鉱などを伴う。1939年(昭和14)以来，野村鉱業会社が経営している。

いとめ　【糸目】　環形動物・多毛綱・ゴカイ科。長さ25cm，幅4mmほど。背面の前半は緑かっ色，後半は淡紅色，腹面も淡紅色で，北海道からジャワに至る海水のさす淡水域の砂泥(さでい)に普通。成熟すると，体の前半が生殖巣で肥大し，目にレンズを生じ，体後半は萎縮(いしゅく)・脱落して，砂泥から脱け出て群泳をする。こうなったものを，バチ・ウキコまたは日本パロロとよび，雄は白っぽい淡紅色，雌は黄緑色を呈する。バチの群泳は，旧暦10月から11月の大潮の日，日没後の満潮時に限られ(つまり，年に4回ほど)，おりからの引き潮に乗って，塩分の濃い水域に流されながら，雌雄相会し，それぞれ体に充満している卵と精子を放出，受精せしめる。群泳の初期には体前半が十分肥大せず，後半部をつけたままのものが泳ぎ出ることがあり，これはヤバチ・ユウレイなどとよばれている。イトメも，ヤバチも，バチも，つりのよいえさである。なお，パロロまたは太平洋パロロとよばれるものは，サモア・フィジーなどのサンゴ礁にすみ，わが国のオニイソメに近い約1mの大形多毛類で，卵・精子がぎっしり詰まった体後半が，10～11月の下弦月のころ群泳し，島民はこれを待ち望んで，天与の美味として珍重する。パロロもバチと同じように，海面に卵と精子を放出，受精せしめる。　〔菅野　徹〕

いとも　【糸藻】　単子葉植物・ヒルムシロ科。イトヤナギモともいう。温帯から熱帯に分布する多年草。日本でも全土に広く分布し，池・流水中に普通にみられる。浮上葉はない。水中茎はよく分枝し，枝の先が不完全な殖芽となる。6～8月に茎の先端の葉腋(ようえき)から花梗(かこう)を伸ばし，少数の小花を穂状につける。

いとよ　【糸魚】　⇨トゲウオ

いとより　【糸撚】　硬骨魚類・イトヨリ科。40cmほどになる海産魚。タイをほっそりさせたような形。尾びれの上から2番めの条が長く伸びているので，この名がついた。赤色の地に，金筋のような黄色の水平線が数本通っていて美しい。本州中部以南の深さ40mほどのどろの海底にすむ。白身の魚で，冬季は特に美味。店頭によくみかける。

イドラ　［Idola］　正しい知識を得る際に

妨げとなる先入見。デモクリトス*は事物から流出してわれわれの感覚をなりたたせる小片をイドラとよんだが，有名なのはF.ベーコン*の用法。彼は《ノブム-オルガヌム*》で自然研究者の避けるべき四つのイドラを比喩(ひゆ)的に表現した。①〈種族のイドラ〉は人間の本性そのものに潜む自己を万物の尺度とする傾向を，②〈洞窟(どうくつ)のイドラ〉は環境の所産としての人間がもつ誤った観念を，③〈市場のイドラ〉は主としてことばを物神化することの危険性を，④〈劇場のイドラ〉は既存の哲学の諸体系に盲目的に動かされる危険性をさす。〔石井忠厚〕

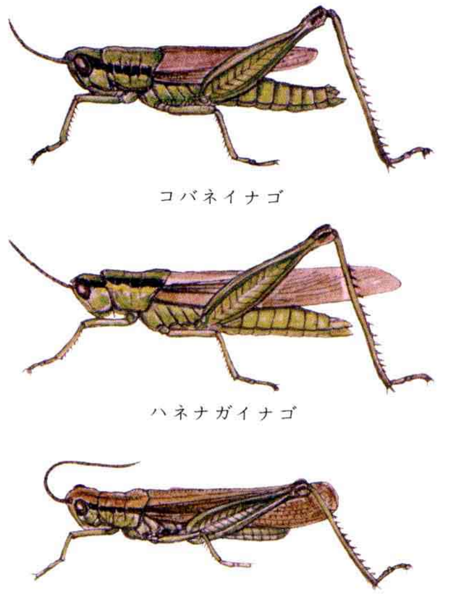
イドリーシ ［Abū 'Abdallāh Muhammad al-Idrisi］（1100〜1166） 北アフリカ，モロッコのセウタに生まれた地理学者。スペインのコルドバで学び，スペインをはじめ北アフリカ・小アジア(トルコ)・西ヨーロッパ各地を旅行した。シチリア島の王ロジェール２世に仕え，《ロジェールの書》とよばれる，詳しい注釈書つきの世界地図を著わした。当時のイスラムの地理学者の中で，最もヨーロッパについての知識をもっていた人とされている。〔野間三郎〕

いとわっぷ 【糸割符】 白糸割符ともいう。江戸時代の白糸(国産生糸を和糸と称するのに対して輸入生糸をいう)の輸入形式。江戸初期，清(しん)(中国)との貿易が盛んに行なわれ，特に生糸が多く輸入された。この貿易の利益はそれまでは外国船(清・ポルトガル・オランダなど)が独占していたが，それを排するため幕府は，1604年(慶長９)京都・堺(さかい)・長崎の３か所の特定商人(のち江戸・大阪の商人を加えて５か所となる)に糸割符仲間をつくらせ白糸輸入の独占権を与え，外国船から白糸を一括購入させた(低廉価となる)。糸割符商人はそれを全国の商人へ販売した。のち1655年(明暦１)から市法売買(相対で売買)となり，一時解散した。1685年(貞享２)に復活したが，江戸後期には白糸の輸入は減少し，幕末には和糸の輸出が増加して，糸割符制度は有名無実となった。〔松尾　涼〕

イートン ［Eton］ イギリス，イングランド南東部，ロンドン西郊にあたるテムズ川沿いの町。人口約3,900(1961)。1440年ヘンリー６世によって設立されたイートン-カレッジは，著名なパブリック-スクール*(私立高校)で，上流階級の男子子弟に全寮制による教育を施し，指導者にふさわしい人格に育てることを目標としており，スポーツの盛んなことでも知られる。

いな 【鯔】 ⇨ボラ

いな 【伊那(市)】 長野県中部の市。江戸時代には伊那盆地を南北に通ずる三州街道と諏訪(すわ)盆地から木曾谷(きそだに)へ抜ける権兵衛(ごんべえ)街道が交わる交通の要地であった。1954年(昭和29)市制施行。人口56,000。伊那盆地北部，天龍(てんりゅう)川右岸に開け，東西を南アルプス・中央アルプスに



コバネイナゴ　ハネナガイナゴ　イナゴモドキ

イナゴ

囲まれる。産業三大別人口比は23：37：40。林業が盛んで，家具などの木工業が発達し，また時計・光学機械などの精密工業も興っている。飯田(いいだ)線・国道153号線(三州街道)・中央自動車道が通じ，夏はアルプス登山の客でにぎわう。

いな 【伊奈(町)】 埼玉県東部，北足立(きたあだち)郡の町。人口20,000。南は上尾(あげお)市である。関東郡代伊奈忠次*の陣屋があった。鉄道の便もない純農村地帯であるが，現在工事中の上越新幹線と東北新幹線が町内を通過し，町の東の丸山地区で合流することになっているので，騒音のほかは何の利益も受けない町民の間で，強い反対運動が起きている。〔浅井得一〕

いながきたるほ 【稲垣足穂】（1900〜1977） 小説家。大正中期の前衛芸術運動に強い関心をいだき，《文芸時代*》の同人になったほかは，ほとんど孤立した状況の中で宗教・天文学への興味を深め，独自の魔術的な認識世界を展開した。《星を売る店》《天体嗜好症(しこうしょう)》《キタ-マキニカリス》などの作品があり，現代文学に特異な位置を占めた文学者といえる。

いながきひろし 【稲垣浩】（1905〜1980） 映画監督。本名浩二郎(こうじろう)。子役として映画界にはいり，のち監督となる。片岡千恵蔵プロダクションで《天下太平記》(1928)をつくってデビュー，《瞼(まぶた)の母》《一本刀土俵入》など人情味豊かな時代劇映画*を得意とする。現代劇では《無法松の一生》を1948年(昭和23)・1958年と２度映画化し，後者によってベニス映画祭グランプリを獲得した。

いなかきょうし 【田舎教師】 田山花袋*作の長編小説。1909年(明治42)刊。実在した羽生(はにゅう)(埼玉県)の青年教師小林秀三(しゅうぞう)の日記を素材に，才能がありながら田舎教師に終わった主人公林清三の短い生涯(しょうがい)を客観的に描いた。作者の平面描写論を具現した傑作の一。ゾラ*ふうの実験小説をめざし，ゴンクール*の手法を模倣したといわれる。単調で平板な筆致が主題とよく合い，全体に豊かな叙情性を漂わせている。

いなかぶし 【田舎節】 ⇨民謡音階 ⇨律

いなかま 【田舎間】 柱の中心から中心までの長さが１間(1.8m)の倍数にあてはまるように設計されているへやの広さのはかり方。柱間は，尺単位で端数(はすう)のない数値になるが，畳の寸法は縦・横がそれぞれ６尺(１間)，３尺より小さくなり，へやの広さによっても異なってくる。関東地方の民家に多い。➔京間

いなぎ 【稲置】 大化改新以前の地方官の一。どのような地方官であったかについては諸説があり，国造*(くにのみやつこ)の下級機関としての県*(あがた)の官職とする説と，皇室領の経営支配を担当する地方官とする説とがある。また684年(天武13)に制定された八色(やくさ)の姓*(かばね)の第８位に同名の姓があるが，施行された形跡はない。

いなぎ 【稲城(市)】 東京都の多摩川南岸の市。1957年(昭和32)に村から町となり，1971年(昭和46)市制施行。人口47,000。多摩川の氾濫原(はんらんげん)を利用するナシの栽培が盛んで，観光ナシ園が多い。南武線に沿う。多摩ニュータウン計画に含まれており，最近は住宅地化が目だち，人口が急増している。アメリカ軍の弾薬庫がある。

いなご 【蝗】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科に属し，普通はコバネイナゴとハネナガイナゴをさす。ともにイネやトウモロコシなどの葉を食害し，しばしば収穫に大きな影響を与える。コバネイナゴは本州以南から中国まで分布し，体は黄緑色，体長30〜40mm，翅(はね)は腹端よりやや短い。ハネナガイナゴは本州中部以南・台湾・中国に分布し，体長はコバネイナゴよりやや大きく35〜45mm，翅は腹端を越える。また北海道や本州の寒冷地には，ハネナガイナゴに似てやや小形で頭部が比較的とがるエゾイナゴが分布する。さらに水田付近でみられ，旧北区に広く分布するイナゴモドキもハネナガイナゴに似るが，やや小形(翅端までの長さ25〜30mm)で，全体に黄色が強い。これらイナゴ類の駆除にはマラソン*またはスミチオン*を散布する。なお，いわゆる飛蝗(ひこう)はイナゴではなくトノサマバッタである。また，日本の古い文献にしばしばみられる蝗害はイネの害虫の意味で，その多くはウンカ類の害である。イナゴ類は食料や飼料としても用いられる。

いなざわ 【稲沢(市)】 愛知県西部の市。古代には尾張(おわり)の国府が置かれ，江戸

時代は美濃路(みのじ)の宿場町であった。1958年(昭和33)市制施行。人口90,000。濃尾平野西部に位置し，東海道本線・名古屋鉄道・国道22号線・155号線に沿い，国鉄の大操車場がある。産業三大別人口比は14：45：41。果樹・苗木の産地として名高く，ホウレンソウ・宮重(みやしげ)ダイコンなどの蔬菜(そさい)栽培も盛んである。最近は名古屋市の衛星都市的色彩が強く，住宅団地をはじめ，繊維・機械・金属などの大工場が田園中に点在して，名古屋市北部内陸工業地帯として発展している。国府宮(こうのみや)（大国霊(おおくにたま)神社）の年中行事儺追(なおい)祭り（旧1月13日）は裸祭りの俗称で知られる。

いなずまよこばい【稲妻横這】 こん虫類・半翅(はんし)目・ヨコバイ科。翅端までの体長3.2～4.5mm。体は淡黄白色の地に淡かっ色の模様がある。前翅は黄色で，中央にきわめて顕著な電光形の淡かっ色条紋をもつ。本州以南～東南アジアに広く分布するイネの害虫。卵は乳白色長楕円(ちょうだえん)形で1mm内外，のちに淡かっ色になる。幼虫は黄かっ色で，胸部の背面が濃色である。年に4～5回発生し，卵はイネの葉鞘(ようしょう)や中央脈付近に1粒ずつ産みつけられる。本種は局所的に集団加害し，イネを白化枯死させる。防除には，マラソンまたはスミチオン・カーバメイト系殺虫剤などが有効。

いなだ ⇨ブリ

いなだいし【稲田石】 茨城県笠間(かさま)市稲田町を中心に筑波(つくば)山にかける一帯から産出するカコウ岩の一種。稲田御影(みかげ)ともよばれる。主成分はセキエイ・チョウ石・ウンモなどで，構成有色鉱物によって色が異なるが，稲田石は粗粒のはだで色調は白色である。建築・土木用石材として有名。

いなだごぼう【稲田御坊】 ⇨西念寺

いなただつぐ【伊奈忠次】 (1550～1610) 江戸初期の幕臣・民政家。備前守(びぜんのかみ)。通称熊蔵(くまぞう)。はじめは徳川家康(いえやす)の近習。1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐には道・橋の普請，兵糧(ひょうろう)のことを担当。徳川氏の関東入国に際しては，初代関東郡代*となって，市川・松戸・房川(ふさかわ)の関を守り，のち甲斐(かい)（山梨県）の代官を兼任して，治水・開墾・諸産業の振興に貢献した。忠次の行なった検地を備前検地*といい，忠次を祖とする関東郡代伊奈氏の地方(じかた)支配方式を伊奈流という。〔善積美恵子〕

いなだに【伊那谷】 ⇨伊那盆地

イナートガスアークようせつ【イナートガスアーク溶接】 シールドガスとしてアルゴンガスを用いた溶接法。1930年，アメリカのオバートによって発明された。通俗名アルゴン溶接。ティグ法とミグ法とがある。ティグ法は，電極にタングステンを用い，これと母材との間にアークを出し溶接棒を添加して溶接を行なう。ミグ法は，電極にワイヤを用いた半自動または全自動溶接法である。軽金属・ステンレス鋼など非鉄金属の溶接に適している。〔内田信邦〕

いなとみなおいえ【稲富直家】 (?～1611) 安土桃山・江戸初期の砲術家。一夢と号する。稲富流砲術の祖。丹後（京都府）の人。祖父直時から砲術を伝授され，創意を加えて一派をなした。一色・細川両氏に仕え，徳川家康(いえやす)・秀忠(ひでただ)父子にも教授し，のち尾張(おわり)徳川家に仕えた。

いなば【因幡(国)】 鳥取県東部の旧国名。因州。山陰道に属する。律令(りつりょう)時代，巨濃(この)・法美(ほうみ)・邑美(おうみ)・高草・気多(けた)・八上(やかみ)・知頭(ちず)の7郡であったが，現在は鳥取市と3郡からなる。国府は法美郡（岩美郡国府町）。建武年間(1334～1335)には，名和長年が国守兼守護となったが，南北朝以降は吉良(きら)・今川，次いで山名氏が守護となった。戦国末期には山名氏は臣下の謀叛(むほん)があり，毛利氏の侵攻を受けて，その勢いを保持することができず豊臣秀吉(とよとみひでよし)に投じて保護を受けた。秀吉は毛利氏を討って当国を平定し諸将を分封したが，江戸時代に至り池田氏が当国と伯耆*(ほうき)（鳥取県西部）2国に封ぜられ，鳥取城を居城として支配した。明治維新に至り1871年(明治4)鳥取県となり，1876年島根県と合併したが，1881年には分離して鳥取県に復した。〔篠　弘道〕

いなばのしろうさぎ【因幡の白兎】《古事記》に伝わる神話伝承。オオクニヌシノミコトが兄神や八十神(やそがみ)と因幡（鳥取県）気多崎(けたさき)を通ったとき，赤裸の白ウサギに出会った。八十神は潮を浴びて風にあたり，高山の頂上に伏せよと教えたので，白ウサギはそのとおりにすると，さらに痛みを増した。これを見て，オオクニヌシノミコトは水門(みなと)の清水で身を洗い，蒲黄(がまのはな)をとって敷き散らし，その上に身を横たえることを教えた。白ウサギはそのとおりにすると身はもとのごとくなった。白ウサギはもと隠岐(おき)島にあり，ワニをあざむいて同族の多少を比べようといい，ワニを気多崎まで並べ，その上を数え渡り，まさに地に降りるとき，あざむいたことを口走ったため，最後のワニに毛皮をはがれたという。オオクニヌシノミコトは未来を祝福する予言を白ウサギから得，予言のとおり成功した。この白ウサギの説話は南洋およびインドに同類のものが存在し，相互の関係がいろいろに推論されている。

いなぶし【伊那節】 民謡の曲名。長野県木曾谷(きそだに)・伊那谷一帯で広く歌われている盆踊り歌である。現地では《御岳山(おんたけさん)》あるいは《御岳節》とよばれているが，お座敷唄(うた)として有名になったとき，《伊那節》という名がつけられた。歴史的にみると，古謡が馬子の歌い方に変容し，さらに天龍(てんりゅう)下りの宣伝用の歌に変えられていったものである。

いなぼんち【伊那盆地】 伊那谷ともいう。長野県の南部，東は赤石山脈の前山である伊那山地に，西は木曾(きそ)山脈にはさまれた天龍(てんりゅう)川沿いの細長い盆地で，北は辰野(たつの)町から伊那・飯田(いいだ)・駒ケ根(こまがね)の諸市を経て，南は天龍峡までの約70kmにわたり，南へ行くほど幅が広くなっており，国鉄飯田線が通じている。天龍川の両岸には数段の河岸段丘が発達し，段丘上を流れる支流は，段丘を侵食し，いわゆる田切(たぎり)の地形をつくっている。特に，木曾山脈の山麓(さんろく)には太田切(おおたぎり)川・中田切川・与田切川などの形成した扇状地が上位段丘の上に発達している。これらの川は扇状地上では主として末無川になっている。天龍川上流より灌漑(かんがい)用水路を引くなどして米作が盛んである。

いなむらがさき【稲村ケ崎】 神奈川県鎌倉(かまくら)市の南部，相模(さがみ)湾に突出した岬(みさき)で，ここを境に相模湾岸を東の由比ケ浜(ゆいがはま)と西の七里ケ浜に分けている。現在，先端のがけは海からそそり立っていて通行できないが，かつては干潮時には徒渉でき，1333年(元弘3)新田義貞(にったよしさだ)がここで海神に刀をささげ，干潮を利用して鎌倉に攻め入った史話がある。

いなりしんこう【稲荷信仰】 京都市の伏見稲荷大社をはじめ，全国約30,000の稲荷社に対する信仰。祭神は倉稲魂(うかのみたま)神・猿田彦命(さるたひこのみこと)・大宮売命(おおみやのめのみこと)。これらの神は山と里との間を往来して豊作をもたらす田の神の民間信仰から導かれたものと考えられ，農耕，特に稲作との関連が強い。また，この信仰ではキツネが神の使者として重視され，のちにはキツネが神自身ともみなされるようになった。稲荷神を奉ずる巫女(みこ)や呪術者(じゅじゅつしゃ)が〈稲荷下げ〉〈稲荷おろし〉とよぶ託宣を行なう。近世には，この呪術的な信仰が都会地にもたらされ，武家・商家の屋敷神として稲荷を祭ることが流行し，俗信と結びついた太郎稲荷・瘡守(かさもり)稲荷などが流行神となった。現在でも，農村では屋敷神として稲荷神を祭ることが多い。➔伏見稲荷大社〔紙谷威広〕

いなりずし【稲荷鮨】 すしの一種。信田(しのだ)ずしともいう。天保(てんぽう)のころ(1830年代)名古屋で発明されたといわれる。江戸では嘉永(かえい)年間(1850年代)日本橋十軒店(じっけんだな)の次郎吉という行商人が，赤鳥居を書いたあんどんをつけて行商してから一般に広まったという。砂糖・酒・しょうゆで煮た油揚げにすし飯を詰めたもので，油揚げはキツネの好物とされ，キツネは稲荷神社の使いとされているのでいなりずしの名が起こったといわれる。油揚げは普通の長四角のものを用いるが，場所によっては専用の真四角のものがつくられている。形は関東と関西では異なり，関東では油揚げを半分に切り開いて（または一方のすみから包丁

を入れて開く)すし飯を俵形に詰める。関西では三角に切り富士山形に詰める。また，すし飯も関東では普通のすし飯，もしくはアサの実，ゴマを混ぜたすし飯を詰め，関西ではシイタケ・ニンジン・ゴボウ・れんこん・かんぴょうなどを煮て，すし飯に混ぜたものを用いる。一般には詰めたのちかんぴょうを帯にするが，切り口を曲げるだけのもあり，また，油揚げを裏返して白い部分を出す場合もある。〔塩川ふみ〕



猪苗代湖　猪苗代湖と磐梯山。南側から望んだ磐梯山と行楽客でにぎわう猪苗代湖畔

いなわしろ【猪苗代(町)】福島県耶麻(やま)郡の町。人口20,000。北に磐梯(ばんだい)山，南に猪苗代湖を控えている。水稲の単作地帯で，中心集落は旧城下町の亀ケ城(かめがじょう)であるが，鉄道を忌避したので磐越西線の猪苗代駅から3kmも離れている。猪苗代湖を訪れる観光客が多く集まり，磐梯山のふもとにはスキー場もある。野口英世*(ひでよ)の出身地として知られ，旧翁島(おきなじま)村三城潟(さんじょうがた)の生家は野口記念館となっている。

いなわしろこ【猪苗代湖】福島県中央部，磐梯(ばんだい)山の南麓(なんろく)にある湖。面積104.8km^2，水面高度514m，水深94.6m。湖の生成時期は比較的新しく，成因は陥没地形に水がたまり，さらに磐梯山と猫魔ケ岳(ねこまがたけ)の噴出物が排水口をせき止めて面積が拡大したものと考えられている。水は阿賀(あが)川の支流日橋川となって会津盆地に落ちるが，落差が300mあるので，電源開発に着目され，発電の歴史は古い。また，水は東方の郡山(こおりやま)盆地にも導かれ，水不足に悩まされた郡山盆地西部の田畑を潤して農業を振興し，発電にも利用されている。1881年(明治14)に引かれた安積(あさか)疏水*がこれである。湖畔には志田浜・天神浜など景勝地が多く，夏季は水泳やキャンプでにぎわう。磐梯朝日国立公園に所属する。〔長津一郎〕

いなんかいがん【渭南海岸】高知県の南西部，土佐湾と宿毛(すくも)湾にはさまれた東は土佐清水(とさしみず)市の北部下ノ加江より，足摺岬(あしずりみさき)を回って，西は幡多(はた)郡大月町南西部の柏島(かしわじま)の間の海岸をいう。龍串(たつくし)・見残などには波の化石ともいえる連痕(れんこん)がみられ，海食台地，海食・風食による奇岩も多く，足摺岬の亜熱帯植物のビロウやツバキ林などとあいまって足摺国定公園に指定されている。

いにくしゅ【胃肉腫】胃に生じる悪性腫瘍(しゅよう)の一種。症状は胃癌*(いがん)とまったく同様でX線検査でも区別がつかないが，胃内視検査である程度の鑑別は可能である。治療は外科手術と照射療法とあるが，手術が可能の場合，癌よりも予後がよい。

イニシアチブ［initiative］国民発案といわれるもの。憲法改正や一般立法について，国民自身が直接に発議すること。一定数の国民の要求によって直接の国民投票*が行なわれる。それは直接民主制*の今日における一形態である。

イニシアル［initial］頭(かしら)文字のこと。ふつう大文字で表わす。語源はラテン語のinitialis(入り口，はじまりの意)で，本来は姓名や文・文章の最初の文字をいう。一般には団体名・商品名などの略記・略称もさし，NHK(日本放送協会)・JIS(Japanese Industrial Standard，日本工業規格)などきわめて広範囲に使用されている。これは，情報の多量化につれて必然的に生ずる一種の表意文字的用法であるといえる。また，印刷関係では装飾頭文字(花文字)をいい，一連の文字の最初に置かれる特殊体の活字をさす。西欧では古代・中世を通じて，筆写体などに花や葉をあしらったイニシアルが盛んに用いられ，印刷術の発達に伴って装飾体活字となった。わが国でもハンカチ・ワイシャツのネームなどにかなり用いられている。〔土屋　裕〕

いにょうしょう【遺尿症】尿意を意識しないで排尿してしまう現象。夜間，就寝中に限って遺尿する場合は夜間遺尿症(略して夜尿症)，昼間の場合には昼間遺尿症，夜も昼もあるときには全日性遺尿症といっている。この現象では，膀胱(ぼうこう)内の尿の全量が出てしまうのが特徴で，尿の一部が滴下して出るのは尿失禁といわれ，遺尿症とは区別されている。➔夜尿症　➔尿失禁

いにん【委任】当事者の一方(委任者)が，法律行為*をすることを相手方(受任者)に依頼し，相手方がこれを引き受けることによって成立する契約をいう(民法643条)。委任する事がらが法律行為(たとえば，訴訟や財産管理)であるものを委任といい，その他の事務(たとえば，医療)であるものを準委任というが，すべて委任の規定が準用されるから区別する実益はない(民法656条)。委任した事項を記載した文書が委任状である。委任は無償契約*であるから，受任者は特別の約束や慣習がないかぎり報酬を請求することはできない(民法648条)。もっとも，今日では特約や慣習によって報酬が支払われる場合が多い。受任者には善管注意義務*が課せられている。また，当事者は，いずれからでも，いつでも契約を解除することができるが，相手方に不利益な時期に解約した場合は，それによって生じた損害を賠償しなければならない(民法651条)。ただし，自分のほうにやむをえない事由があれば賠償責任はない(民法651条2項)。〔黒木三郎〕

いにんぎょうせい【委任行政】国または公共団体が他の公共団体や機関または私人に委託して，一定の行政事務を処理させること。次の3種である。①都道府県・市町村などの地方公共団体，その他の公共団体(たとえば国民健康保険組合・農業共済組合および日本国有鉄道・日本電信電話公社・各種公団・公庫など)に対する委任。②都道府県知事・市町村長などの地方公共団体の機関に対する委任。③国庫金取り扱い，金庫事務の取り扱い，所得税・住民税・通行税などの徴収事務などのごとく，私法人または個人に対する委任。国または公共団体が本来自己の機関によってその行政事務を行なうのが原則であるが，以上のごとき方法で処理されている。〔鍋沢幸雄〕

いにんとうち【委任統治】第1次世界大戦の戦敗国ドイツとトルコの植民地について，国際連盟の監督のもとに施政国(受任国)が行なった国際的統治制度。植民地住民の発達の程度に応じて，A・B・Cの3方式に分けられ，それらの地域の住民の福祉と発展を図ることを主旨としていた(A式は旧トルコ領中東植民地，B式は中央アフリカの旧ドイツ領植民地，C式は南西アフリカと太平洋諸島の植民地)。第2次世界大戦後は，信託統治*として国際連合に引き継がれた。〔広部和也〕

いにんりっぽう【委任立法】国会の制定する法律の委任(授権)により，立法府(国会)以外の国家機関(特に行政府)が国民の権利・義務に関係する法規範を定めること。行政府が法律によって特定の権限を授けられて立法するのであるから，用語の正確さからいえば授権立法というべきであろうが，習慣上このようにいう。法律の具体的な内容の委任によらず一般的(包括的)授権(委

任)に基づくものを白紙委任立法(命令)といい，これは立法府の使命放棄に通ずる。明治憲法下には政府が国会と独立して定めた独立命令や緊急勅令などがあり，またナチス-ドイツのいわゆる〈授権法〉があった。これらは行政府による立法府無視に通ずるものであって，今日では認められない。
〔鍋沢幸雄〕

いぬ 【犬】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。世界各地に広く分布している。元来食肉獣で，歯(歯式 I $\frac{3}{3}$ C $\frac{1}{1}$ P $\frac{4}{4}$ M $\frac{2}{3}$)は鋭利強壮であるが，最古の家畜として人類に長い間飼われてきたため，いまは動植物性の混合食をとる雑食動物となった。そのため草食動物に似て腸がやや長く発達している。指先で歩く指行動物であるが，前肢(ぜんし)の5本の指のうち親指は上にあがり，後肢のそれは退化消失して歩行の用を果たすことができない。

【起源】野生のイヌが人類に馴化(じゅんか)されたのは，所により異なるが，ヨーロッパでは中石器時代の中期か新石器時代になってからであるらしく，最古のイヌの遺骨はデンマークの中石器時代の貝塚(かいづか)から発掘されている。また新石器時代のスイスの湖上集落生活の遺跡から，飼いイヌとみなされるスピッツタイプの遺骨がたくさん発掘され，日本では縄文(じょうもん)式文化のころの遺跡から発見されている。形態がイヌに似ており，イヌと雑種のできるオオカミがイヌの祖先であるという説があるが，両者は同じイヌ科のジャッカル・コヨテなどと共通の祖先から進化発生したもので，オオカミが飼育されてイヌになったのではない。古代のイヌの形態は地域的変異があってもだいたい中形の大きさで，オオカミのようであったが，家畜になってから著しく変化した。すなわち極端に大きいものと小さいものが現われ，極小形犬チワワと巨大犬セント-バーナードの体重比は約200倍にも及んでいる。また吻(ふん)や胴および肢の長さ，耳や尾の形状が変化し，被毛に長短を生じ，毛色は多彩になったが，これらはいずれも家畜化現象である。そしてイヌの利用価値を助長するため選択が行なわれた結果，非常に多くの品種が生まれ，変種を含めて850種以上もあるといわれる。このように形態はさまざまであるが，体の構成や骨格は基本的には同じである。

【種類と用途】おもなイヌの種類を用途別に分けると，次のようになる。①鳥猟犬：セッター・ポインター・ドイツ-ポインター・アイリッシュ-セッター・ゴードン-セッター・ラブラドール-レトリーバー・コッカー-スパニエル・ワイマラナー・ビズラ。②獣猟犬：アフガン-ハウンド・バゼット-ハウンド・ビーグル・ボルゾイ・ダックスフント・グレーハウンド・ホイペット・フォックスハウンド・柴(しば)犬・紀州犬・四国犬・北海道犬・甲斐(かい)犬。③使役犬：シェパード・ボクサー・マスチフ・ブルマスチフ・コリー・ドーベルマン-ピンシェル・グレートデン・セント-バーナード・シエットランド-シープドッグ・シュナウッア・ピレニアン-マウンテンドッグ・樺太(からふと)犬。④テリア(小害獣狩りの小形犬)：エアデール-テリア・ベドリントン-テリア・ブル-テリア・ケアン-テリア・ワイヤヘアード-フォックス-テリア・ケリー-ブルー-テリア・スコティッシュ-テリア・シルキー-テリア・シーリハム-テリア・ウエストハイランド-ホワイト-テリア。⑤愛玩(あいがん)犬：チワワ，イタリアン-グレーハウンド・トーイ-マンチェスター-テリア・ペキニーズ・ミニアチュア-ピンシェル・ポメラニアン・マルチーズ・トーイ-プードル・パグ・ヨークシャー-テリア・日本テリア・狆(ちん)・パピヨン。⑥非猟犬：ボストン-テリア・ブルドッグ・チャウ-チャウ・ダルメシアン・フレンチ-ブルドッグ・プードル・スピッツ・土佐闘犬・秋田犬。

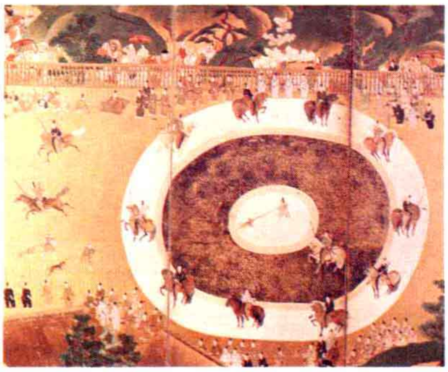
【イヌの飼い方】食餌(しょくじ)：ふつう米飯かパンに，煮ざかなか獣肉のような動物タンパク質を混ぜたものを主体に，野菜じるなどで適当な湿りけを加えてやる。基本的には動物性食品50～70%，植物性食品50～30%ぐらいの配合がよく，その内容はおよそタンパク質20～25%(最低18%)，炭水化物45～60%，脂肪5～9%ぐらい。タンパク質のうち動物性タンパク質が70%ぐらいが理想的とされる。動物性食品は魚や鯨肉・ウシ・ウマ・ヒツジ・ブタのくず肉や内臓肉・鶏卵・ミルク・乳製品などで，植物性食品はパンが最も消化がよく，80%が消化される。ビタミンCは体内で合成されるので，ほとんどとる必要はない。食物は消化しやすいよう調理して与えるが，イヌは汗腺(かんせん)が退化しているので，塩味はごく薄くし，からし・こしょうの類は禁物である。イヌの1日の必要カロリーは，成犬で体重1kgあたり約100Calであるが，発育期の子イヌはこの倍量が必要である。食餌量は内容とイヌの大小により一定しないが，与える回数は，子イヌは消化力が弱いので，量を減らして回数を多く与える。生後2～3か月は1日に4～5回，4～6か月は3～4回，7か月～1年は2～3回，1年以上は1～2回でよい。発育期にはカルシウムとビタミンA・Dを補給してやらねばならない。また，ドッグフードはイヌに必要な栄養素を合理的に配合・製造したもので，これを用いると調理の手間が省けて便利である。

犬舎：室内で飼う小形愛玩犬を除き，犬舎で飼育するが，犬舎は風雨が吹き込まぬようにしてやり，その前面を金網を張り，できるだけ広い運動場をつくる。

運動：運動不足は健康をそこねるので，ときどき戸外に連れ出して運動を補ってやらねばならない。中形以上のイヌは，自転車に乗って運動させると短時間で運動量が多くなり，有利である。

繁殖：雌イヌの発情周期は年2回で，生後9～12か月で最初の発情期がくる。このころはまだ体が完成されていないので，交配を見送り次の発情期に交配したほうがよい。雄には発情期はなく，成熟すればいつでも発情した雌と交配できる。イヌの妊娠期間はほぼ63日である。

病気：日あたりのよい場所で飼い，栄養食を与えて伝染病を予防し，寄生虫を駆除してやれば健康に育つ。死亡率の高いジステンパーは，生後2～3か月に必ず予防注射をするのが常識で，カイチュウの駆除にはピペラジン剤を用いる。カが媒介するフィラリア症の予防には，犬舎にカよけの網を張ってやる。なお，生後3か月以上のイヌを飼う場合は，市区役所か町村役場に畜犬届を出し，狂犬病の予防注射を受ける。
➔385ページ(図) 〔大野淳一〕



犬追物 《犬追物図屏風》(部分) 東京国立博物館蔵

いぬえんじゅ 【穠槐】 双子葉植物・マメ科。山野にはえる落葉高木で，高さ10～15m。葉は互生し，長さ20～30cmの羽状複葉で7～11枚の小葉からなる。葉柄や葉裏に白毛がある。花は黄白色で，枝先に太い穂となって7～9月に咲く。豆果はかっ色で平たく9～10月に熟す。

いぬおうもの 【犬追物】 武技の一。円形の馬場の周囲を騎乗して走りながら，中央の縄(なわ)囲いの中に入れられたイヌを射て，その騎乗法と射法の優劣を競う。矢はイヌを傷つけないように蟇目(ひきめ)の矢(やじりを中空にした矢)を各4本だけ用いることが許される。最初はイヌではなく，シカ・イノシシが用いられた。流鏑馬(やぶさめ)と並ぶ武家の騎射技芸で，平安末期から鎌倉時代にかけて盛んに行なわれたが，室町時代に廃絶された。江戸時代に一時再興されたが，まもなくすたれた。

いぬかいつよし 【犬養毅】 (1855～1932) 政治家。号は木堂。岡山県に生まれる。慶応義塾(ぎじゅく)に学び，西南戦争には従軍記者として活躍。1880年(明治13)岩崎家の支援を受けて《東海経済新報》を発刊。1881

年統計局権少書記官になったが，明治十四年の政変*で大隈重信(おおくましげのぶ)に従って退官，立憲改進党結成に参画した。第1回衆議院議員総選挙に当選。以後没年まで連続17回当選。1896年進歩党を経て憲政党にはいり，1898年隈板(わいはん)内閣では尾崎行雄のあとを受けて文相となった。大正の政変には憲政擁護運動*の先頭に立ち，尾崎とともに〈憲政の神様〉といわれた。1922年(大正11)革新倶楽部(くらぶ)を組織し，清浦内閣のときは憲正会・政友会とともに護憲三派の一つとなり，三派内閣を成立させ，みずから加藤内閣の逓相となった。普選成立後は革新倶楽部を政友会に合同させて引退したが，1929年(昭和4)招請されて政友会総裁に就任した。1931年最後の政党内閣を組織したが，1932年五・一五事件*で殺害された。書にすぐれ，また孫文など中国の政治家と交友が多く，中国に対し深い関心と見識をもっていた。〔岸野淳子〕

いぬがし　【犬樫】　双子葉植物・クスノキ科。暖地の山地にはえる常緑樹。高さ4～5m。葉は有柄で互生し，3本の主脈が目だつ。雌雄異株。3～4月に赤紫色の花序を葉脈につける。10月ごろ，果実は黒熟する。なお，ウバメガシ*をイヌガシの別名でよぶことがある。

いぬがみ　【犬神】　九州・四国・中国地方に多くみられる憑物*(つきもの)の一種。沖縄のインガメや広島県下の外道も同じ迷信で，イヌに似た想像上の動物の霊が人間にとりつくと信じられている。ネズミくらいの目に見えない小動物だといわれ，代々女性につき，またこれがつく特定の家筋があるという。つかれるとからだが痛み，発作を起こして精神病のようになる。近代医薬では効果がなく，民間の祈禱師(きとうし)・呪術師(じゅじゅつし)につきを落としてもらうほかないといわれている。もとは民間呪術者の守護霊だったのが一般に普及したのであろう。犬神つきの家は一般から縁組みの相手として避けられる風習がある。逆に貧しい家が急に金持ちになったりすると，犬神のせいではないかとうわさされることもある。→俗信　〔今野円助〕

いぬがみのみたすき　【犬上御田鍬】　生没年不詳。飛鳥(あすか)時代の官人。三田耜(みたすき)とも書く。614年(推古22)遣隋使*(けんずいし)として隋におもむき，翌年帰朝。630年(舒明(じょめい)2)第1回遣唐使*として唐に渡った。632年唐の使者高表仁・僧旻(みん)らを伴って帰国した。

いぬがや　【犬榧】　裸子植物・イヌガヤ科。山野に自生する常緑低木ないし小高木。高さ10mに達するものがある。葉は深緑色で無柄，長さ2～5cm，幅3～4mm，互生し，ふつう2列に並ぶ。雌雄異株。3～4月に開花し，黄色の雄花を若枝の下側に，緑色の雌花を枝の先につける。種子は楕円(だえん)形紅紫色で，外種皮は甘みがある。



イヌガヤ



イヌシデ　雄花



イヌタデ



イヌツゲ

いぬがらし　【犬芥】　双子葉植物・アブラナ科。田のあぜや道ばたに多い多年草。高さ30～50cm。根出葉は羽状に裂ける。春から夏にかけて茎の上部に黄色の十字花を穂のようにつける。

いぬこりやなぎ　【犬行李柳】　双子葉植物・ヤナギ科。原野の小川・池沼・湿地の縁にはえる高さ1～2mの落葉低木。枝は細く，無毛でつやがある。葉は対生し，無柄，長円形。葉裏は白色。雌雄異株。3～4月，葉に先だって花穂を出す。雄花は暗かっ色，雌花は灰白色である。

いぬサフラン　【犬サフラン】　単子葉植物・ユリ科。ヨーロッパ・アフリカ原産の球根植物。わが国では秋の彼岸ごろに開花する。球根は径6～8cmでかたい茶かっ色の皮に包まれている。内部は白い多肉質で基部の両側から花鞘(かしょう)を生じ，6花被からなる漏斗形の花を3～5個つける。花色は白・ふじ・淡桃色など。種子や球根にコルヒチン*を含有する。

いぬざんしょう　【犬山椒】　双子葉植物・ミカン科。山野に普通の落葉低木で高さ2mほど。枝の上のとげが互生する。葉は複葉で15～19枚の小葉からなり，悪臭がある。雌雄異株。花は淡緑色，がく片5，花弁5，おしべ5，めしべ1，果実は3個ずつ集まる。中に黒い種子が1個あるがサンショウの代用にはならない。民間では粉にしたものを酢で練り，乳房の腫痛(しゅつう)に用いることがある。

いぬしで　【犬四手】　双子葉植物・カバノキ科。温帯に分布する落葉高木。高さ15mに達する。葉は卵形で先がとがり，側脈は7～15対ある。葉の表裏に毛がある。雌雄同株，雄花は前年の枝先に，雌花は今年の枝先につく。

いぬじらみ　【犬虱】　こん虫類・シラミ目・ケモノジラミ科。体長1.5～2.0mm，体幅0.8～1.1mm。頭胸部はきわめて小さい。一般にはイヌに寄生するシラミ類を総称してイヌジラミとよぶことが多い。本種のほかに，ハジラミ目・ケモノハジラミ科のイヌハジラミ，タンカクハジラミ科のワラビーハジラミなどがイヌに寄生する。

いぬすぎな　【犬杉菜】　シダ植物・トクサ科。山地や野原の沼の縁にはえる多年生のシダ。地下茎は黒色。長く横にはう。茎は直立して60cm以上に達することがある。スギナによく似ているが，胞子嚢(ほうしのう)穂を茎の先端につける点がスギナと異なる。

いぬたで　【犬蓼】　双子葉植物・タデ科。アカマンマともいう。野原・路傍に普通の一年草。高さ20～50cm。葉は細い楕円(だえん)形で先がとがり，6cmぐらい。葉のつけ根に托葉(たくよう)の変化したさやがあり，先はひげ状となる。6～10月，茎の上部に紅色の小さな花を穂のようにつける。花を赤飯に見立ててままごとによく使われる。一般にタデの仲間は辛みがあり，さしみのつまなどに使われるが，本種には味がなく役にたたないタデという意味からこの名がある。

いぬつくばしゅう　【犬筑波集】　山崎宗鑑*編の俳諧撰集(はいかいせんしゅう)。刊本は《新撰(しんせん)犬筑波集》。俳諧*の発句・付句を四季・恋・雑に分類・編集するが，配列・句数に異本が多い。天文年間(1532～1554)の成立とされ，荒木田守武*(もりたけ)らの句もあるが作者名はない。古来《守武千句》とともに俳諧の源流と目されている。

いぬつげ　【犬黄楊】　双子葉植物・モチ

ノキ科。低山帯に分布する高さ1.5～3m の常緑低木。庭木としても用いられる。密に分枝し，葉は長さ1.5～3cm，幅0.6～2cm，暗緑色で光沢がある。葉縁に4～6対の鋸歯(きょし)がある。黒色鱗片(りんぺん)状の托葉(たくよう)があるが脱落していることが多い。雌雄異株。6～7月小白花をつけ，雄花は葉腋(ようえき)に7～9個集まり，雌花は葉腋に1個つく。10～11月，黒色の液果をつける。

いぬのひ【戌の日】⇨岩田帯

いぬのふぐり【犬の陰嚢】双子葉植物・ゴマノハグサ科。田のあぜや道ばたで春いちばん早く淡紅紫色の花をつける越年草。茎は根ぎわから枝分かれし，横に地をはい，先が立つ。葉は円形で8mmぐらい，花は直径4mmぐらいでさわるとすぐ落ちる。果実がイヌの陰嚢(いんのう)に似るのでこの名がある。この仲間で大形のオオイヌノフグリはヨーロッパ原産で明治の初期に日本にはいり，いまでは各地の道ばたに普通にみられる。茎は前者と同様に地にはい，長さ10～30cmで全体に毛が多く，3～5月ごろに直径8mmほどのるり色で濃色の条のある花をつける。また同じくタチイヌノフグリは5～7月に4mmほどのるり色の花をつけ，茎は細くて直立する。〔小清水義隆〕

いぬのみ【犬蚤】こん虫類・隠翅(いんし)目・ノミ科。全世界に分布し，主としてイヌに寄生するが，ヒト・ネコ・ヒツジ・キツネ・ネズミ類などにも寄生することがある。本種に酷似するネコノミもネコをはじめ種々の哺乳(ほにゅう)類に寄生するが，ほお部の剛毛の第1とげが第2とげと等長(イヌノミでは第2とげのほうが長い)であることなどで区別できる。➔ノミ

いぬはりこ【犬張り子】イヌの形をした張り子細工で，郷土玩具(がんぐ)の一。関西では東犬(あずまいぬ)という。イヌの形の木型に紙を張り，木型を抜き取って張り子をつくり，これに彩色する。立ち形で一匹ものである。かつて嫁入り道具やひな祭りに使われた犬箱のなごりで，現在では子どもが生まれたとき，近親者から祝いに贈られる。イヌがじょうぶに育つことに縁起をもたせたもの。東京の浅草では，かごに伏せた犬張り子を子育て犬として売っており，泣く子の虫おさえに効があると信じられている。➔郷土玩具〔渡辺欣雄〕

いぬびえ【犬稗】単子葉植物・イネ科。荒れ地に普通の一年草。農民にきらわれる雑草の一。茎は基部で分枝し高さ30～100cm，葉は細長い披針(ひしん)形で，縁に細鋸歯(さいきょし)があり，基部は葉を包む。8～10月，茎頂に長さ5～25cmの円錐(えんすい)形の花穂を出し緑色の小穂が密につく。小穂は長さ3～4mmの花1個からなり，のげをもつ。

いぬびゆ【犬莧】双子葉植物・ヒユ科。いたるところにはえる一年生草木で，世界に広く分布する。茎は根もとから枝分かれ



イヌノフグリ　(左)オオイヌノフグリ　(右)イヌノフグリ



犬吠埼　燈台直下は太平洋の怒濤の砕ける海食崖で，約20mの断崖をなす。内部は公開され(有料)，らせん階段を上って頂上へ出ることができる



犬山城

し，斜めに伸びて，高さ30cm内外。全体が柔らかく，緑色，ときにかっ紫色をおびる。葉は互生で，柄があり，1～5cm。形は丸いひし形で，先がへこむ。夏から秋にかけて，葉のつけ根や茎の先に多数の緑色の花を穂のようにつける。雑草であるが，ヒユと同様に，若葉は浸し物や油いためにして食べる。同じ仲間のホナガイヌビユ・ハイビユなどの帰化植物も同様に食用となる。

いぬびわ【犬枇杷】双子葉植物・クワ科。コイチジクともいう。イチジクの仲間で暖地の海岸や丘などにはえる落葉樹で，高さ4～5m。樹皮はなめらかで灰白色，傷をつけると白色の乳液を出す。葉は互生し，全緑，倒卵形で先がとがる。雌雄異株で葉腋(ようえき)にイチジクに似た2cmぐらいの有柄の花序をつける。果実は熟すと黒紫色になり，食べられる。

いぬぶな【犬橅】双子葉植物・ブナ科。高さ20～30mに達する。ブナによく似た種であるが，成葉でも裏面に白色軟毛が残り，側脈が10～14対であること，果柄が長く下向きであること，総苞片(そうほうへん)が短く堅果を完全に包むことができないことなどで区別できる。樹皮は黒かっ色でクロブナともいわれる。ブナより低い所に生育する。

いぬぼうさき【犬吠埼】千葉県の東部，銚子(ちょうし)市のある銚子半島の東端にある岬(みさき)で，約20mの海食崖(かいしょくがい)が海からそそり立ち，中生代の砂岩により形成されており，ここが関東地方の東端である。岬の北は君ケ浜が続き，南は酉明浦(とりあけうら)が続いている。燈台は約50mの高さの180万燭光(しょっこう)の1等燈台で，最初は1866年(慶応2)に建設され，現在の燈台は1894年(明治27)に完成し，洋式燈台として当時は最大のものであった。岬とその西へ続く屏風ケ浦(びょうぶがうら)を含めたこの付近一帯の海岸は，その雄大な風景とともに水郷筑波(つくば)国定公園に指定されており，愛宕(あたご)山に設けられた〈地球展望台〉からのながめは，特に雄大である。〔味沢成吉〕

いぬほおずき【犬酸漿】双子葉植物・ナス科。畑や道ばたにはえる一年草。よく枝分かれし，高さ20～90cm。葉は卵形で8cmぐらい。8～10月に葉と葉の中間から枝を出し，白色の花を数個つける。全草にソラニン*というアルカロイドを含む有毒植物。

いぬまき【犬槇】裸子植物・マキ科。マキともいう。暖地の山林にはえ，高さ20mに達する常緑高木。幹は直立し，葉は互生してかたく，淡緑色で先は鈍頭である。雌雄異株で5～6月に雄花は穂状に，雌花は単生でおのおの葉腋(ようえき)につく。9～10月ごろ結実し，楕円(だえん)形の種子を赤紫色肉質の花托(かたく)の上につける。

いぬやま【犬山(市)】愛知県北部の市。江戸時代は尾張(おわり)徳川家の家老成瀬氏三万九千石の城下町であった。1959年(昭和34)市制施行。人口64,000。市域は，木曽(きそ)川中流が濃尾平野に出る犬山扇状地上にあり，産業三大別人口比は8：46：46。繊維・金属・機械・化学などの近代的工場が立地する。高山本線・名鉄犬山線・名鉄各務原(かかみはら)線・国道41号線が通ずる。犬山城*・日本ライン*などの名勝に富み，明治村*や鵜飼(うかい)も名高い。飛騨(ひだ)木曽川国定公園の基地となる。

いぬやまじょう【犬山城】愛知県犬山市にある城。1469年(文明1)，斯波義郷(しばよしさと)の家臣織田氏が木下邑(むら)に築城したのに始まるといわれ，織田信康(のぶやす)が1537年(天文6)に現在地に城を移した。織田・豊臣(とよとみ)両氏の将があいついで守ったが，関ケ原の役後，小笠原(おがさわら)氏，

次いで平岩氏が入封，1618年(元和4)以降は成瀬氏が入封して明治に至った。3層の望楼ふう天守(国宝)は天守閣の発展成立過程を考える上で貴重な建物である。ほかに本丸の石がきなどが現存する。〔仲野　浩〕

イヌリン　［inulin］　多糖類の一。キクイモ・ダリアなどおもにキク科植物の根に含まれる。果糖が30個ほど重合し，その末端にブドウ糖一つついた構造と考えられ，デンプンと異なりヨウ素反応を呈さない。イヌラーゼによって加水分解されてほとんどが果糖に分解されるが，ヒトの消化酵素にはこれが含まれないため利用できない。

いぬわし　【狗鷲・犬鷲】　鳥類・ワシタカ科。全長80〜90cm，翼開長1.6〜2.1mの大きな鳥で，わが国の山地でみられる最大の鳥。全身黒かっ色だが，後頭部は黄色にみえることがあり，英名ではGolden Eagleという。全北区*に広く分布し，わが国では本州以北の山地で繁殖するが，その数は非上に少ない。ウサギ・キジ・ライチョウなどを主食とし，近寄りがたい岩壁の岩棚(いわだな)に営巣するのが普通。→ワシタカ



イヌワシ

いぬわらび　【犬蕨】　シダ植物・オシダ科。山野に普通の多年生のシダ。地下茎上に40〜80cmの2回羽状葉がつく。葉柄は全体の2分の1で淡かっ色の鱗片(りんぺん)がまばらにつく。葉身は倒卵形，草質で上端が急尖(きゅうせん)する。羽片は6〜10対互生する。子嚢(しのう)群は縁辺と中肋(ちゅうろく)の間につく。包膜は半月状。

いね　【稲】　単子葉植物・イネ科。主として水田で栽培される一年草。高さ50〜100cm。葉は細長い披針(ひしん)形で長さ30cm，幅7〜13mm，多数の平行脈があり，表面がざらつく。葉舌は披針形で2裂し，その上に短毛がある。7〜9月，茎の先に円錐(えんすい)花序に花穂をつける。花穂は多数の小穂が密についたものである。各小穂は1花よりなり，包えい2枚，花えい2枚，おしべ6本，めしべ1本があり，柱頭は2裂して羽状である。果実は長さ4.5〜6mm，幅2〜3mm。〔加藤僖重〕

わが国では600万ヘクタールの耕地のうち，300万ヘクタール以上イネが栽培され，主要食糧であるとともにわが国農業の主体でもある。原産地は，インドおよび中国南部ともいわれる。イネはその栽培の場より水稲と陸稲に区別されるが，本質的には変わりなく，植物分類上は同じイネ科・イネ属・イネ種である。品種はきわめて多く，わが国だけで1,400余種といわれるが，世界的には10,000種を数える。大部分はインド型品種で，わが国で栽培されるのは日本型である。インド型と日本型のイネの相違は稈(かん)・葉・子実の形，感光性・耐肥性の差にあり，生産力は日本型がはるかに高い。日本型品種は，日本・朝鮮・中国・カリフォルニアなどで栽培され，インド型はインド・ビルマ・中国・台湾・フィリピン・タイなどで多く作付けされる。





(上)イネの花　(下)収穫期のイネ



米のできるまで
①苗しろ
②線付け
③田植え
④除草
⑤薬剤散布
⑥収穫
⑦架掛け
⑧脱穀

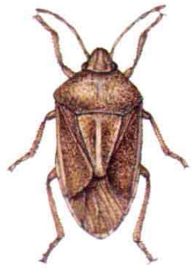
イ　ネ

また，イネには，デンプンの性質によって粳(うるち)と糯(もち)の区別があり，粳は食糧として常用され，糯はもち(餅)として特別のとき(祭日や儀式)用いられるほか，菓子の原料ともなる。そのほか粳は，酒・みそ・しょうゆ・酢などの原料となる。副産物のぬかは，搾油原料・飼料・肥料などに用いられる。もみがらは薫炭肥料の原料となるほか，くだもの・鶏卵の輸送における充塡(じゅうてん)材料として用いられる。わらは家畜の飼料・敷きわら，そのほか畳床・俵・かます・むしろ・なわの原料となる。したがって，子実・わらともにすべて余すところなく利用される。

〔歴史〕わが国の稲作は，揚子江南岸，江南地方の南方民族が北九州に伝えたとされている。稲作の渡来は，考古学上弥生(やよい)式土器の時代(紀元前1世紀ごろ)とされる。1～2世紀ごろ，九州にはすでに稲作が行なわれ，鎌倉時代(1190年ごろ)には津軽海峡に達し，江戸時代末期には北海道にも伝わっている。

〔生産〕イネの栽培は，北緯51°，沿海州沿岸まで，また南緯35°，アルゼンチンのブエノスアイレスの付近まで広く栽培されるが，特に東南アジアに集中して栽培されるのは，元来が熱帯性作物であるからである。世界における栽培面積はおよそ1億2,150万ヘクタール，生産量は2億6,690万tに達する(1966)。うち7,950万ヘクタール，1億5,869万tはアジア(ビルマ・インド・インドネシア・日本・朝鮮・パキスタン・フィリピン・タイ・台湾など)で生産される。ヨーロッパではフランス・イタリア，ソ連の一部，アメリカ大陸ではアメリカ・ブラジル，アフリカではアラブ連合，大洋州ではオーストラリアでわずかながら栽培される。統計上の反収は，スペイン・イタリア・アラブ連合・オーストラリアがわが国よりも高い。その理由は，日本では山間部の棚田(たなだ)・湿田などの条件の悪い所も平均反収に加わるからであり，諸外国では生産条件のよい所しか作付けしないためである。わが国のイネ収量は，1959年(昭和34)以来1,200万t以上の生産をあげ，特に1967年・1968年は1,400万tの生産量に達した。これは品種の改良，苗しろの改良・普及，農薬の進歩，土地基盤整備などの諸条件がそろったためであり，生産過剰の声さえ聞かれるようになったが，反あたり収量は平均して450kgであり，まだ技術的に向上させる余地がありそうである。栽培条件の不良な地域の作付け転換を図り，耕種以外の農業発展を図るためには，反収の向上をますます高める必要がある。

〔栽培〕イネ(水稲)の栽培法には，移植法と直播(じきまき)法とがある。わが国ではほとんどが移植法により，直播法は埼玉県などごく一部，20,000～30,000ヘクタールが行なわれるにすぎない。移植法では苗がつくられる。苗は苗しろ*でつくられるが，早期栽培では保護苗しろが，普通期または晩期栽培では普通苗しろが用いられる。また常時水を入れてつくる水苗しろ，水を入れずにつくられる陸苗しろ，その中間の折衷苗しろがある。3.3m^2 あたり，精選・消毒・浸種した種もみを300～500ccまきつける。育苗期間35～50日で本田に移植する。本田はあらかじめ耕起・整地し，移植しやすいよう浅く水を張っておく。この作業はしろかきとよばれる。3.3m^2 あたり50～70株，1株2～3本の苗が植えつけられる。この労力はかなり大きく，生産性を上げるため最近では各種の田植え機が開発され，実用化の段階にはいっている。肥料はしろかき以前の耕起作業で土層の深くまで施す様式が普通に行なわれるようになった。玄米150kg中に含まれる窒素・リン酸・カリの量はそれぞれ3.75kg・1.1kg・2.2kgくらいであるから，土地の生産性・土質，その他の条件とにらみあわせて施肥量を決定する。450kgの収穫を目標とすれば，前記3要素の3倍量を施すことになる。全量基肥(もとごえ)で施すことは少なく，3分の1が基肥，残り3分の2を2回に分けて施すような方法がとられる。品種・作季などによって追肥の時期は異なってくる。収穫まで，除草，水の掛け引き，防除薬の散布などしばしば行なわれる。除草は除草剤*が多く用いられ，能率はきわめて高くなった。普通期栽培では，5月上旬苗しろ播種(はしゅ)，6月中旬移植，10月上～下旬収穫が多い。



イネカメムシ

播種から収穫までの期間の大小，すなわち生育日数の差により早稲・中稲・晩稲の区別がつけられている。地域によって若干の差があるが，一般に早稲の生育日数は，苗しろ期間を含めて120～200日，中稲は150～180日，晩稲は170～200日くらいである。早期栽培では短稈・穂数型の早生系統が多く用いられる。労力・危険の分散から，生育日数を異にする品種がいくつか組み合わされた形での栽培が普通である。収穫は完熟に達すればなるべく早く行なう。刈り取りの状態は穂が黄色くなり，葉の緑が薄くなったころ行なう。根ぎわよりかまで刈り取り，地干し，またはかけ干しをしたのち脱穀。さらにもみを2～3日日干しし，もみすりして玄米とする。刈り取りの労力を省くため，最近，人力用刈り取り機・自脱コンバインなどの利用が多くなった。➔機械化農業　〔金木良三〕

いねあざみうま ⇨イネノスリップス

いねい【伊寧】イーニン　中国北西部，新疆(しんきょう)ウイグル自治区の都市。人口約20万(1960年推)。イリ(伊犂)川流域平原の中心をなし，周囲は農業が発達して，同自治区最大の食糧生産地となっている。同市は，これら産物の集散のほか，鉄工・木工・陶器などの手工業を行なっている。また，イリ川は小汽船の航行ができ，ソ連のイリ市と結ばれる。

いねか【稲科】単子葉植物の一科。一年草・二年草・多年草が多く，タケのように木質のものもある。茎は中空で節があり，葉は線形。基部は鞘(さや)状に茎を包む。花は小穂をつくり，花被は退化したものが多い。分布は広く，約5,000種がこの科に属し，日本では800種が知られている。イネ・コムギ・オオムギ・ヒエなど多くの穀類が含まれる。

いねかめむし【稲亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長13mm内外。成虫は長い楯(たて)形，淡黄かっ色。体および翅(はね)の周縁には黄白色の細線がある。日本全国に分布し，地方的に多く発生してイネを加害する。卵は黄かっ色，直径1mm内外，つぼ状で葉鞘(ようしょう)や葉裏に10数粒ずつ産みつけられる。幼虫は，はじめは円形黄白色であるが，成長とともに成虫に似てくる。発生は年1～2回，成虫で越冬する。防除にはマラソンまたはスミチオンやパラチオン剤が効果的。

いねからばえ【稲稈蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・キモグリバエ科。イネキモグリバエ(稲黄潜蠅)ともいう。体長3mm内外，体は黄色，胸背に3本の黒い縦線がある。日本特産で，日本全国に分布し，特に東北地方の日本海沿岸や西日本の山地帯に多く発生してイネを加害する。卵は白色で，長径0.7mm内外，イネの葉裏に1粒ずつ産みつけられる。幼虫は体長1mm内外で淡黄色。年に2～3回発生し，冬季は幼虫態でイネ科の雑草中で越す。防除には，耐久性の品種の栽培や，早植えを行なったり，窒素肥料が過多にならないように注意する。また，パラチオン・ディルドリンなどを散布する。

いねくびほそはむし【稲首細葉虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。イネドロオイムシともいう。体長5mm内外で，鞘翅は金属光沢のある青藍(せいらん)色。卵は黄色の長卵形で長径0.8mm内外，のちに黒かっ色になる。幼虫は，肛門(こうもん)が背面に開口しており，排泄物(はいせつぶつ)が胸部および腹部の背面をおおい，一見どろをつけているように見える。老熟した幼虫は体長5mm内外，紡錘形で頭部は黒色，胸腹部は乳白色～黄かっ色。日本全国に分布し，発生は年1回，成虫態で越冬する。成虫・幼虫ともにイネの葉の表面の葉肉部分を食害し，加害がはなはだしい場合には，葉が先端から裂け，生育が遅れ，穂数も減る。特に寒冷地帯に

被害が大きい。防除にはカーバメイト系殺虫剤，マラソンまたはスミチオン，ヒ酸石灰などを散布。〔鈴木邦雄〕

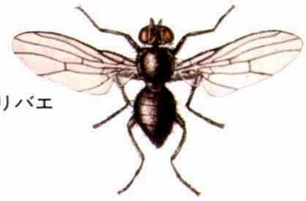
いねくろかめむし【稲黒亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。単にクロカメムシともいう。成虫は体長10mm内外，楯(たて)形で全体黒色。本州以南～東南アジアに広く分布し，イネ・サトウキビなどイネ科植物を加害する。年1回の発生で，秋から翌年の夏までは成虫態で石や枯れ葉の下，雑草の株もとなどに隠れている。北陸・山陰および九州地方では特にイネの被害が大きく，一般に早生種で生育のよいものほど被害の大きい傾向がある。防除には，晩生品種の栽培や，マラソンまたはスミチオン，パラチオン剤などを散布する。

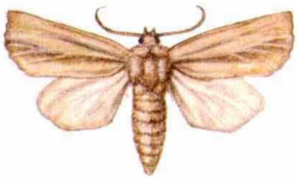
いねこうじびょう【稲麹病】イネの乳熟期ごろからもみに発生する病気で，緑かっ色・ビロード状・楕円(だえん)形のかたまりがつく。これは病原のかびの菌糸が密に集まり，その表面に胞子を生じたもの。このかたまりの両側に黒く平たい角状の菌核を生ずることがある。菌核は菌糸のかたまりで，地表に落ちて越冬し，翌年に発芽すると一種のきのこをつくり，これから胞子を飛散させる。予防法は抵抗性品種の栽培，窒素肥料を過用しない，おそ植えを避けることなどである。〔渡辺　実〕

いねぞうむし【稲象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。成虫は体長5mm内外。体は暗かっ色～黒色，全体に灰色～灰かっ色の鱗片(りんぺん)を密につける。鞘翅の後方に1対の白色の小斑紋(はんもん)がある。卵は楕円(だえん)形で淡黄色，長径1mm内外。幼虫はうじ状であしはなく，白色，体長9mm内外。さなぎは白色で5mm内外。発生は年1回で，成虫または幼虫で越冬する。日本全国・台湾・ジャワまで分布し，成虫はイネの葉を食害する。本種に加害されると生育が遅れ，減収を招く。防除にはマラソンまたはスミチオン，カーバメイト系殺虫剤，除虫菊セッケン液などの散布，糖蜜(とうみつ)による成虫の誘殺などが効果的である。〔鈴木邦雄〕

いねたてはまき【稲縦葉捲蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。単にタテハマキともいう。体は黄かっ色，翅(はね)を広げた長さ15mm内外，翅は黄かっ色で，前翅に3本，後翅に2本の灰色の横線がある。老熟した幼虫は細長く，体長15mm内外，だいだい色。さなぎは体長6mmで淡黄色。発生は年3回前後で，成虫は7月ごろから出現する。冬季は幼虫態でわらや刈り株内で越す。幼虫は1枚の葉を数か所でつづって縦に巻き，その中で葉肉のみを食害する。日本全国に広く分布し，特に出穂期における第3化期の幼虫の加害は，出穂不足や結実障害を生じ，減収が大きい。防除には，カーバメイト系殺虫剤，マラソンまたはスミチオンなどを散布する。〔鈴木邦雄〕


イネクロカメムシ


イネハモグリバエ


イネヨトウ

いねつとむし【稲苞虫】イネの害虫。イチモンジセセリ*の幼虫の俗称。

いねどろおいむし【稲泥負虫】イネの害虫。イネクビホソハムシ*の幼虫の俗称。

いねねくいはむし【稲根食葉虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。日本全国に分布し，成虫の体は細長く，体長5.0～9.0mm，金属光沢のあるかっ色ないし黄かっ色。卵は乳白色長楕円(ちょうだえん)形で，長径0.5mm内外，水草の葉裏に一塊になって産みつけられ，白色の寒天様物質でおおわれる。老熟した幼虫は白色のうじ状で体長9mm内外，頭部は小さくかっ色で，胸脚はきわめて短い。老熟幼虫は繭をつくりその中でさなぎになる。冬は幼虫態で越し，越冬幼虫はイネの根に多数集まって食害するので，根の発育が阻害され，生育が遅れ減収を招く。一般に山間部や寒冷地の排水の悪い一毛作田に発生が多い。防除には，晩植を行なう，本種の産卵期にウキクサやヒルムシロなどの産卵植物を排除する，田植えまえに石灰窒素やマラソンまたはスミチオンなどをすきこむなどの方法がある。〔鈴木邦雄〕

いねのスリップス　こん虫類・総翅(そうし)目・アザミウマ科。イネアザミウマともいう。成虫は体長1.5mm内外，体は濃かっ色，前翅・後翅ともに棒状で，斜めに長毛を密生する。卵は乳白色，楕円(だえん)形で長径0.3mm内外。幼虫は翅(はね)がなく淡黄色。本州・四国・九州に分布し，イネを加害する。幼虫・成虫ともに苗しろ期ごろよりイネに寄生し，葉から吸汁(きゅうじゅう)して加害する。このため葉に微小な白点が生じ，加害の著しいときは，葉が黄変したり，しおれたりして生育が妨げられる。出穂後に穂が加害されると結実不良となり減収を招く。防除には，カーバメイト系殺虫剤，マラソンまたはスミチオン，硫酸ニコチンなどを散布する。イネを加害するアザミウマ類には，本種のほかイネクダアザミウマ(クダアザミウマ科)など数種が知られているが，加害状況はいずれも同じである。〔鈴木邦雄〕

いねはもぐりばえ【稲葉潜蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・ハモグリバエ科。体長2.5～3.0mm。体はつやのある黒色，複眼は赤かっ色。卵は乳白色長楕円(ちょうだえん)形で長径1mm内外。雌成虫は産卵管でイネの葉の表面を傷つけ，そこに産卵する。幼虫ははじめ白色，のちに淡い青緑色となり，老熟すると体長6mmぐらいになる。さなぎは黒色またはかっ色，紡錘形で体長3mm内外，尾端に気門が突出している。北海道から本州の東北・北陸地方およびシベリアに分布し，発生は年2回でさなぎで越冬する。幼虫は苗しろ期より現われ，葉肉中に食い入り，やや太い蛇行(だこう)線状の潜孔をつくる。そのため，イネの生育は遅れ，葉は白化枯死し，穂数も減り減収となる。防除にはマラソンまたはスミチオン，カーバメイト系殺虫剤などを散布する。〔鈴木邦雄〕

いねよとう【稲夜盗蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。体長13～14mm，翅(はね)を広げた長さは27～30mm。口吻(こうふん)は退化。前翅は暗かっ色，後翅は白色。本州以南～東南アジアに広く分布。幼虫はダイメイチュウともいわれ，イネ・ムギ・トウモロコシ・アワなどの害虫。卵は乳白色まんじゅう形で，直径0.7mm内外，加害植物の葉鞘(ようしょう)の内側に卵塊として産みつけられる。老熟した幼虫は淡い紫紅色で，体長25mm内外。さなぎは赤かっ色紡錘形で，体長15mm内外。年に2～3回発生し，成虫は5月ごろおよび9月ごろにみられる。冬は，わらや刈り株中で幼虫のまま越す。幼虫は，はじめ葉鞘の内部を食害し，さらに茎の中にはいって食害するので，いわゆる心枯茎や白穂などが生ずる。防除には，パラチオン，マラソンまたはスミチオン，カーバメイト系殺虫剤などを散布し，被害茎を早期に摘み取る。〔鈴木邦雄〕

いねんごう【異年号】私年号ともいう。朝廷で公式に定めた年号に対し，民間で私的に使用されたものをいう。公式の年号が継続して制定されなかった時代に用いられ，〈法興〉〈白鳳(はくほう)〉などがある。また，南北朝・戦国時代に中央の命が全国に及ばなくなったときに，一地域の社会不安打開のため地方豪族らが使用したことがある。

いの【伊野(町)】高知県吾川(あがわ)郡，仁淀(によど)川の中流左岸にある町。人口23,000。藩政時代から土佐和紙製造の中心地であり，

現在でも製紙業が盛んであるが，大部分は家内工業式の手漉(てすき)工場で，薄葉紙・謄写原紙・ちり紙などを産し，各地に輸移出している。土讃(どさん)本線が通じている。

イノウエ ［Ken Daniel Inoue］（1924～　）ハワイ州選出アメリカ合衆国上院議員(民主党)。ホノルル生まれ。ハワイ大学・ジョージ-ワシントン大学卒業。ハワイ大学在学中，第442連隊(日系二世部隊)の一員としてイタリア戦線で活躍，片腕をなくした。1954年ハワイで弁護士を開業，1959年ハワイ州選出下院議員。1963年ハワイ州から初の日系上院議員となる。1968年大統領選挙のための民主党全国大会で基調演説を行なった。

いのうええんりょう　【井上円了】（1858～1919）仏教哲学者。越後(えちご)(新潟県)の真宗の寺に生まれる。東本願寺留学生として東京に学び，1885年(明治18)東大哲学科を卒業。当時の欧化に偏した風潮の中で，東洋思想，ことに科学的・哲学的仏教を強調して《仏教活論序論》などを著わし，哲学の民衆化，仏教の近代化に努めた。哲学書院を創始して哲学・宗教書を出版，また哲学館(のちの東洋大学)を創立。晩年には中野に哲学堂を建て，妖怪(ようかい)研究なども行ない，迷信打破に努めた。巡遊中，大連で客死。〔坂東性純〕

いのうえかおる　【井上馨】（1835～1915）明治の政治家。長州藩出身。初名は聞多(もんた)。1863年(文久3)伊藤博文(いとうひろぶみ)らと渡英したが，四国連合艦隊の下関(しものせき)攻撃事件の報を受けて帰国。講和に尽くし，藩論を倒幕に向かわせた。明治政府では大阪造幣頭を経て，1871年(明治4)大蔵大輔(たゆう)となり財政の実権を握った。次いで廃藩置県の事にあたり，1873年各省政費の増加に反対して辞職，実業界で活躍した。1875年江華島事件の全権大使となって政界に返り咲き，1879年外務卿(きょう)，1885年内閣制度が成立すると最初の外相となって条約改正に努めた。その促進のため欧化政策をとり，いわゆる鹿鳴館(ろくめいかん)時代を現出させた。しかし外国人裁判官の任用を含んだその改正案に強い反対を受け辞職した。その後，農商務相・内相・蔵相などを歴任，元老となり，また財界では三井家などと関係深く，大御所的存在であった。侯爵。〔岸野淳子〕

いのうえきよなお　【井上清直】（1809～1867）江戸末期の幕臣。信濃守(しなののかみ)。川路聖謨(としあきら)の弟。1855年(安政2)阿部正弘(あべまさひろ)に抜擢(ばってき)されて下田奉行(ぶぎょう)となり，アメリカ総領事ハリスと折衝。1858年日米修好通商条約に全権として調印。次いで外国奉行を兼任。その後軍艦奉行・町奉行・勘定奉行・関東郡代などを歴任。外交事情に通じ開国に貢献した。



井上馨



井上準之助

いのうえこわし　【井上毅】（1843～1895）官僚・政治家。熊本藩出身。江戸に遊学し，戊辰(ぼしん)戦争にも従軍。1870年(明治3)再び上京して司法省にはいり，江藤新平の渡欧に随行，帰国後，大久保利通(としみち)に才を認められて太政官(だじょうかん)大書記官・参事院議官を歴任。引き続き岩倉具視(ともみ)・伊藤博文(いとうひろぶみ)のもとで絶対主義的官僚として活躍，大日本帝国憲法制定に参画して起草にあたり，教育勅語その他の詔勅，諸法令の起草にもあずかった。法制局長官・枢密院書記官長・同顧問官となり，第2次伊藤内閣の文相もつとめた。著訳書も多い。子爵。〔岸野淳子〕

いのうえじゅんのすけ　【井上準之助】（1869～1932）財政家。大分県出身。東京大学卒業後日本銀行に入社。横浜正金銀行頭取・日本銀行総裁をつとめ，第2次山本内閣の蔵相として関東大震災の処理にあたる。浜口内閣・第2次若槻(わかつき)内閣の蔵相として金解禁に踏み切り，いわゆる〈井上財政〉とよばれる緊縮政策を展開した。しかし，おりからの世界大恐慌のあおりで，貿易停滞・物価下落・金流出に悩まされる一方，財閥のドル買いにあい，かえって不況は深刻化し失敗に終わった。1932年(昭和7)2月9日民政党選挙対策委員長として活躍中，東京駒込(こまごめ)で，血盟団員小沼正の凶弾に倒れた。〔片岡一郎〕

いのうえてつじろう　【井上哲次郎】（1855～1944）哲学者。号は巽軒(そんけん)。福岡県の生まれ。東京大学哲学科卒業。1882年(明治15)東大助教授，同年外山正一(とやままさかず)らと《新体詩抄》を刊行して，文壇に新風を送った。1884～1890年ドイツに留学し，1890～1923年東大教授として哲学界に君臨し，ドイツ観念論を紹介した。彼の説く〈現象即実在〉は西洋哲学・仏教・儒教のそれぞれの精神的基盤を無視した混合物である。1893年の《教育ト宗教ノ衝突》ではキリスト教を排撃し，国家主義的な国民道徳論を提唱した。また，江戸時代の儒教哲学の研究にも貢献した。他の著書・論文に《勅語衍義(えんぎ)》《宗教と教育に就(つ)いて》《現象即実在論の要領》《日本陽明学派之哲学》《日本古学派之哲学》《日本朱子学派之哲学》《明治哲学界之回顧》ほかがある。〔中川　誠〕

いのうえにっしょう　【井上日召】（1886～1967）国家主義者。群馬県に生まれる。満州に渡り，帰国後，日蓮宗(にちれんしゅう)に帰依。この間国家主義運動に参加，右翼の思想結社立正護国堂で育成した青年らに武力による国家改革を説いた。1932年(昭和7)青年13名と血盟団を組織し，政財界の巨頭，井上準之助・団琢磨(たくま)を殺害させ逮捕された。首謀者として無期懲役を宣告されたが，1940年恩赦により出獄，第2次世界大戦後も右翼の一中心として活躍した。
→血盟団事件〔岸野淳子〕

いのうえまさお　【井上正夫】（1881～1950）俳優。本名小坂勇一。愛媛県に生まれ，はじめ伊井蓉峰(いいようほう)の一座に参加して新派の俳優として活躍。のち，映画に出演し，海外公演を試み，さらに新派と新劇の〈中間演劇〉を提唱して〈井上演劇道場〉を開くなど，革新的な活動をした。

いのうえまさる　【井上勝】（1843～1910）一生をわが国の鉄道の創業と発展にささげ，鉄道の父といわれる。長州藩出身。21歳のとき伊藤博文(いとうひろぶみ)らとイギリスに渡り，ロンドン大学で鉄道・鉱山学を学んで帰国，29歳で初代鉄道頭に就任。のち鉄道局長・鉄道庁長官などを歴任し，その間東京～横浜間をはじめとして，東海道線その他の幹線敷設に貢献，特に京都～大津間の鉄道敷設に際しては，従来の外人依存をやめ，みずから技師長となって工事の指揮にあたり，日本人だけの手でこれを完成させた。1910年(明治43)鉄道院顧問として欧米視察の途上，ロンドンで客死した。〔片岡一郎〕

いのうえやすし　【井上靖】（1907～　）詩人・小説家。北海道に生まれた。京都大学哲学科卒業。1936年(昭和11)《サンデー毎日》の懸賞小説に応募し千葉亀雄(かめお)賞を受け，これによって毎日新聞社に入社した。1950年《闘牛》により芥川(あくたがわ)賞を受賞してのち，作家活動に専念。《黯(くろ)い潮》《氷壁》などで現代人の行動の底に潜む虚無感を描くとともに，《天平(てんぴょう)の甍(いらか)》《風濤(ふうとう)》などにおいて西域への夢想を描いて独自の領域を開いた。詩集《北国》《地中海》などもある。〔江種満子〕

いのうえやちよ　【井上八千代】（1905～　）文化・文政期に興った京舞井上流の4世家元。本名片山愛子。1947年(昭和22)に襲名。京都を中心に，品格のある端正な上方舞の伝統をよく伝えている。1955年重要無形文化財〈京舞〉保持者，1957年日本芸術院会員となった。

いのうえよりくに　【井上頼圀】（1839～

1914）　国学者。井上民造の長子として江戸に生まれる。22歳のとき，平田鉄胤*（かねたね）の門下となり，国学を修めるとともに日本古医道を学び，私塾（しじゅく）神習会を設立し子弟を教育。維新政府の政治に参画。皇道・古典・有職（ゆうそく）に通じ，《古事類苑（るいえん）》《六国（りっこく）史》の校訂に従事し，多大の貢献をした。また松野勇雄（いさお）とともに皇典講究所（国学院大学の前身）を設立し教授に就任。博学多識をもって知られ，主著に《古事記考》《皇統略記》がある。〔田上光治〕

いのうじゃくすい【稲生若水】（1655または1667～1715）　名は宣義，字（あざな）は彰信，通称は正助，姓は稲（とう）ともよばれる。出生は江戸であるが，大阪で福山徳潤に本草学を学び，1693年（元禄６）以後，加賀侯前田綱紀（つなのり）に仕え，《庶物類纂（るいさん）》（死後1735年完）の編集に力を尽くした。《庶物類纂》は174点の中国の典籍から，本草に関する記録を整理抄録したもので，若水自身の見解はほとんどみられない。広く山野を歩き，採集を試み，実物の観察に努めた点で，彼の学風に経験的な要素を見いだすことができるが，反面，それらの要素も，書物の上での考察の補助手段にすぎなかったともいえる。〔中村禎里〕

いのうただたか【伊能忠敬】（1745～1818）　江戸時代の測量家で，全国を実測して《大日本沿海輿地（よち）全図》をつくった。この地図は，経緯線のはいった，海岸線の正確な，わが国でははじめての本格的な日本全図である。大・中・小の３種があり，中図（21万6,000分の１）は，現在の国土地理院*の20万分の１地勢図が，明治の初めに輯成図（しゅうせいず）と称してつくられたときのもとになり，また86万4,000分の１の日本図として３枚続きに編集されたものが，1840年（天保11）ジーボルト*によってドイツで印刷出版された。しかし，日本ではこのいわゆる《伊能図》は印刷されず，いまはその断片しか残っていない。忠敬は，上総（かずさ）（千葉県）の神保家に生まれ，下総（しもうさ）（千葉県）の佐原の伊能家の養子となった。米の取引や，酒の醸造をしていた伊能家は，そのころ家運が傾いていたが，努力してこれを盛り返した。1794年（寛政６）に隠居，1795年江戸へ出て，幕府の天文方高橋至時（よしとき）の門にはいり，天文学・測量術を学び，1800年から，はじめは自費で，のちには幕府の費用で北海道から九州まで測量して歩いた。《大日本沿海輿地全図》が完成したのは，彼の死後３年たった1821年（文政４）である。〔浅井得一〕

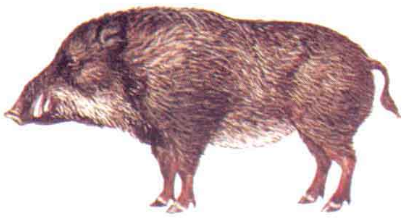
いのかしらこうえん【井の頭公園】　東京西郊の武蔵野（むさしの）市の自然文化園，三鷹（みたか）市の井の頭恩賜公園を合わせた約30ヘクタールの緑地地域をいう。中心にある井の頭池は，かつて武蔵野三大湧水池（ゆうすいち）の一つに数えられ，７か所のわき口があって〈七井の池〉といわれ，神田上水*の水源であった。江戸時代には徳川家の林地，



井の頭公園　国電吉祥寺駅近くの車窓から緑濃い木立ちが望まれる。スギ林に囲まれた池にはボートが浮かべられ，行楽客で終日にぎわう



イノコズチ



イノシシ

明治時代には皇室の御耕地であったが，1913年（大正２）に東京に下賜された。池の周囲には，水生植物園・水族館・野外音楽堂・水泳場の施設と，神田上水の水門跡，弁天堂・野口雨情歌碑などがある。御殿山とよばれる台地上にある自然文化園には，動物園・植物園・資料館があり，新しく〈童話の国〉もできた。〔菊池万雄〕

いのくちありや【井口在屋】（1856～1923）　機械工学の元老。金沢に生まれ，1882年（明治15）工部大学校機械工学校を卒業した。のち帝国大学工科大学教授となり，蒸気ボイラー・蒸気機関・歯車・ねじなど，機械工学のすべての分野にわたって教育と研究に尽力した。特に国際的に知られた業績は，1905年のうずまきポンプの理論と実験で，この理論によって試作したポンプは当時比類のないよい効率の記録をつくった。機械学会の創立と機械用語の選定にも功労がある。〔山崎俊雄〕

いのくまかんぱくき【猪隈関白記】　鎌倉初期の公家（くげ）近衛家実（このえいえざね）の日記。その居住地（猪隈町）から猪隈関白とよばれていたことによりこの名がある。《続御暦》ともいう。1197年（建久８）から1211年（建暦１）までの記録であったが，現存するのは1201年（建仁１）から1208年（承元２）までの写本４冊である。

いのこ【亥の子】　旧暦10月の亥の日に行なわれる農村の行事。特に関西方面で盛んである。亥の子もちといって，新米でもちをついて贈り合うのが普通であるが，所によっては，この夜子どもたちが，新わらをなわやツタで巻いて棒のようにしたもの（亥の子という）を手に持ち，家々を訪れ地面をたたいて回る風習がある。家々では，このわら鉄砲の音を喜んで，ほうびにもちや菓子をくれる。瀬戸内の西の地方では，わらでなくて丸い石に綱をたくさんつけたものを使っている。亥の子行事は，刈り上げ後の田の神祭りであり，亥の子のわら束や石はともに田の神の依代*（よりしろ）と考えられる。なお，亥の子と同じ行事を，東日本では十日夜（とおかんや）とよんでいる。〔直江広治〕

いのこずち【牛膝】　双子葉植物・ヒユ科。各地の山野に自生する多年草。茎の断面は四角で，かたく，高さ１ｍ。節が太く，そこから対生の枝を出す。葉は大きく，対生し，長さ５～15cmの楕円（だえん）形で先はとがる。夏の終わりに葉のつけ根から枝を出し，緑色の小さな花を穂のようにつける。果実になると下を向き，小包葉がとげ状になって衣服などにつきやすくなり，種子の散布に役だつ。根を乾燥したものを牛膝（ごしつ）といい，生薬原料。また，漢方では利尿・浄血薬とする。若葉はゆでたり油いためにして食べられる。

いのしし【猪】　哺乳（ほにゅう）類・偶蹄（ぐうてい）目・イノシシ科。ブタの祖先で，体長1.5ｍ，尾長30cm，肩高45～110cm，体重50～350kgほど。上顎（じょうがく）犬歯は外方に，下顎犬歯は上方に終生伸び続け，上下の犬歯はすり合ってその後縁はナイフの刃のように鋭く，有力な武器となる。成獣の体は黒～黄かっ色だが，子には背に数本の淡黄かっ色の縦じまがあり，俗に〈うり坊〉といわれる。ヨーロッパからアジアの中・南部，北アフリカに広く分布し，多くの種類がある。日本では本州・四国・九州・琉球（りゅうきゅう）諸島の山地に分布。夜行性・雑食性で樹根・イモ類・穀類・カニ・カエル・ヘビなどを食べる。気が荒く，走るのが速い。しばしば人里に現われ，米やイモなどを食い荒らし，人間にも危害を及ぼす。ノタ（またはヌタ）を打つといって，どろの中にころがり，体中にどろを塗る奇習があるが，これは寄生するダニなどを落とすためらしい。肉は〈山鯨〉と称し食用にし，きばは印材・パイプに加工し，胆嚢（たんのう）は熊胆（くまのい）の代用とされる。〔今泉吉典〕

イノシトール [inositol] $C_6H_{12}O_6$ イノシットともいう。

[1]$(CHOH)_6$で表わされる六員環状六価アルコール。9個の立体異性体があるが，天然にはメゾイノシトール・D-イノシトール・L-イノシトール・シロイノシトール(シリット)の4種が見いだされている。一般に融点が高く，甘みを有する。

[2]メゾイノシトールはミオイノシトールともいわれ，また，単にイノシトールともよばれる。筋肉・心臓・肝臓，その他動物体に，また，植物界にも遊離のまま，あるいはリン酸エステルとして広く分布している。ビタミンB複合体の一つで，肝脂肪沈着防止剤として使われている。また，ハツカネズミの抗脱毛因子としても知られる。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

イノシンさん 【イノシン酸】 $C_{10}H_{13}N_4O_8P$ プリンヌクレオチドの一種。ヒポキサンチン，D-リボースからなるイノシンのリン酸エステルの名称である。リン酸の結合位置によって2′-,3′-および5′-イノシン酸の3種の異性体がある。そのうち重要なのは5′-イノシン酸で肉類中に広く分布しており，かつお節のうまみのもととみられ，ナトリウム塩として各種化学調味料に配合して使用されている。*核酸の構成成分の一つであるアデニル酸から自己消化によりイノシン酸ができるので，馬肉などを放置しておいてから希酢酸で抽出し，タンパクを除去すると得られる。また発酵法により得られるイノシンを化学的にリン酸化して合成する方法もある。〔石戸良治・荒木洋之助〕

イノセラムス [Inoceramus] 軟体動物の二枚貝類に属する化石。殻(から)の形は一般に縦に長いがやや円形に近いものもあり，殻の表面には同心円状に調和のとれた起伏状の模様がある。さらに放射肋(ほうしゃろく)が発達することがある。歯はない。殻の前後は非対称で，殻の大きなものは60cm前後にも及ぶが一般には5cm前後のものが多い。種類も多く地層中に多産するので，地質時代の示準*化石としてアンモ*ナイトとともに重要である。世界的にジュラ紀および白亜紀に，ことに上部および中部白亜紀に栄え，日本では北海道・熊本県天草島・大分県大野川盆地・愛媛県宇和島などに多産する。

〔神戸信和〕

いのはなこ 【猪鼻湖】 ⇨浜名湖

いのはなとうげ 【猪鼻峠】 香川・徳島県境の讃岐(さぬき)山脈を越える峠。標高544m。琴平から徳島県の吉野(よしの)川の谷に出る国道32号線が通ずる。また高松～高知を結ぶ土讃(どさん)線が長いトンネル(猪鼻トンネル)でここを越えている。

イノベーション ⇨技術革新

いのまたつなお 【猪俣津南雄】 (1889～1942) マルクス主義理論家。新潟市に生まれる。早稲田(わせだ)大学卒業後，留学生として渡米，ウィスコンシン大学で学位をとり，



イノモトソウ

1921年(大正10)帰国して早大講師となる。1923年第1次共産党事件に連座して逮捕され，禁錮(きんこ)4月。1926年(昭和1)以降は労農派の論客として活躍したが，1937年人民戦線*事件で再び検挙され，死期を早めた。

いのもとそう 【鳳尾草】 シダ植物・イノモトソウ科。関東以西の石がけ・石がきにはえる常緑多年生のシダ。根茎は短く，光沢のある黒かっ色の鱗片(りんぺん)が葉基部につく。栄養葉は長さ5～15cm，幅6～12mmで，3～5裂する羽片2～3対よりなる。中軸に翼がある。胞子葉は栄養葉よりも細く，葉縁が裏に巻き，胞子嚢(ほうしのう)群を包む。

いはい 【位牌】 死者の霊を祭るために法名を書いて仏壇や寺院に安置するもの。もと儒教で祖先や両親の官位姓名を書いて神霊に託させた風習を禅僧が日本にもたらし，神道(しんとう)でいう霊代(たましろ)と習合して，笏(しゃく)形から塔形となり，江戸時代のころに一般化したものである。死亡のときには白木を，のちに黒塗り・金箔(きんぱく)塗りなどを用いる。表に法名と没年月日，裏に俗名や年齢などを書くのが普通である。

〔藤井正雄〕

イバシュキェービッチ [Jarosław Iwaszkiewicz] (1894～) ポーランドの小説家。第1・第2次世界大戦間の主要な詩の結社《スカマンデル》の創立同人。詩・エッセイ・小説・戯曲に多面的な才能を発揮しているが，特にその叙情詩と短編小説は当代第一流のものといえる。きめの細かい彫琢(ちょうたく)された文体と，人生観照の深さによってきわだっている。代表作は，大河小説《栄光と賞賛》，短編《尼僧ヨアンナ》，詩集《1932年夏》，評伝《ショパン》など。

〔米川和夫〕

いばたかし 【伊庭孝】 (1887～1937) 音楽評論家。東京の生まれ。同志社大学中退後，新劇とオペラの運動に加わり，脚本や作詞，また演出をして浅草オペ*ラの形成に努めた。音楽放送や音楽雑誌《白眉(はくび)》の編集にも腕をふるい，著書に《日本音楽概論》など，日本音楽に関するものがある。1948年(昭和23)，そのオペラへの業績を記念して，伊庭歌劇賞が制定された。

イバダン [Ibadan] アフリカ大陸ギニア湾岸，ナイジェリア共和国第1の都市。人口75万8,000(1971)。首都ラゴスの北東100kmにあり，アフリカ最大の黒人都市として知られる。カカオ・たばこの集散地。ロンドン大学と提携した，近代的設備をもつイバダン大学がある。

イパチェフ [Vladimir Nikolaevich Ipatieff] (1867～1952) アメリカの化学者。ロシア生まれ。バイ*ヤーのもとで有機化学を学ぶ。ノースウェスタン大学教授・石油会社技師。イソプレンの構造および合成について研究。アルコールの熱分解に際して器壁の影響の著しいことに着目して触媒の研究にはいり，1904～1905年ペテルブルグで高温高圧下の水素添加に成功。1927年レニングラードに高圧研究所を設立，炭化水素の接触化学を研究。1929年来日。

〔山下愛子〕

いばないこ 【伊庭内湖】 中ノ湖(なかのうみ)ともいう。滋賀県琵琶湖(びわこ)東岸にあり，琵琶湖に連なる。もと琵琶湖の水面であったが，東方を流れる愛知(えち)川の沖積(ちゅうせき)によって陸内に閉じ込められ，潟湖(せきこ)となった。かつての面積は15.4km²，水深は3mに満たなかったので，古くから干拓が進められてきた。東部・西部・南部に承水口をつくり，その内部を大中之湖(おおなかのうみ)・小中之湖・西之湖に3分し，すでに小中之湖の干拓が完了して298ヘクタールの水田となり，次いで大中之湖の干拓が進行中である。この干拓工事が完成すればさらに1,000ヘクタールの水田が開かれるという。

〔長津一郎〕

イバーニェス ⇨ブラスコ-イバーニェス

いばべついん 【井波別院】 ⇨瑞泉寺(ずいせんじ)

いばら 【茨・荊棘】 双子葉植物・バラ科，バラ属全体をさす名称。バラ属は北半球全体に分布し，100種以上知られている。古くから観賞用として栽培され，多数の園芸品種がある。日本にみられる野生種はノイバラ・モリイバラ・ハマナスなど，約10種が知られる。

いばら 【井原(市)】 岡山県南西部の市。江戸時代は山陽道の宿場町で，付近で栽培されるツタとアイを原料とする〈備中織物〉の産地として知られた。1953年(昭和28)市制施行。人口38,000。高梁(たかはし)川の支流小田川の谷口に位置し，産業三大別人口比は13：52：35。岡山県南新産業都市の後背地にあたる備後(びんご)工業整備特別地域に指定され，綿・スフ織物を主体とした中小織物業が盛んである。井笠(いかさ)鉄道によって山陽本線笠岡に通じていたが，廃止されバスに代わった。国道2号線のバイパス井原線が市を南北に縦貫している。

いばらき 【茨木】 日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。河竹黙阿*弥(かわたけもくあみ)作詞，3世杵屋(きねや)正次郎作曲。1883年(明治16)初演。羅生門(らしょうもん)で渡辺*綱に腕を切り落とさ

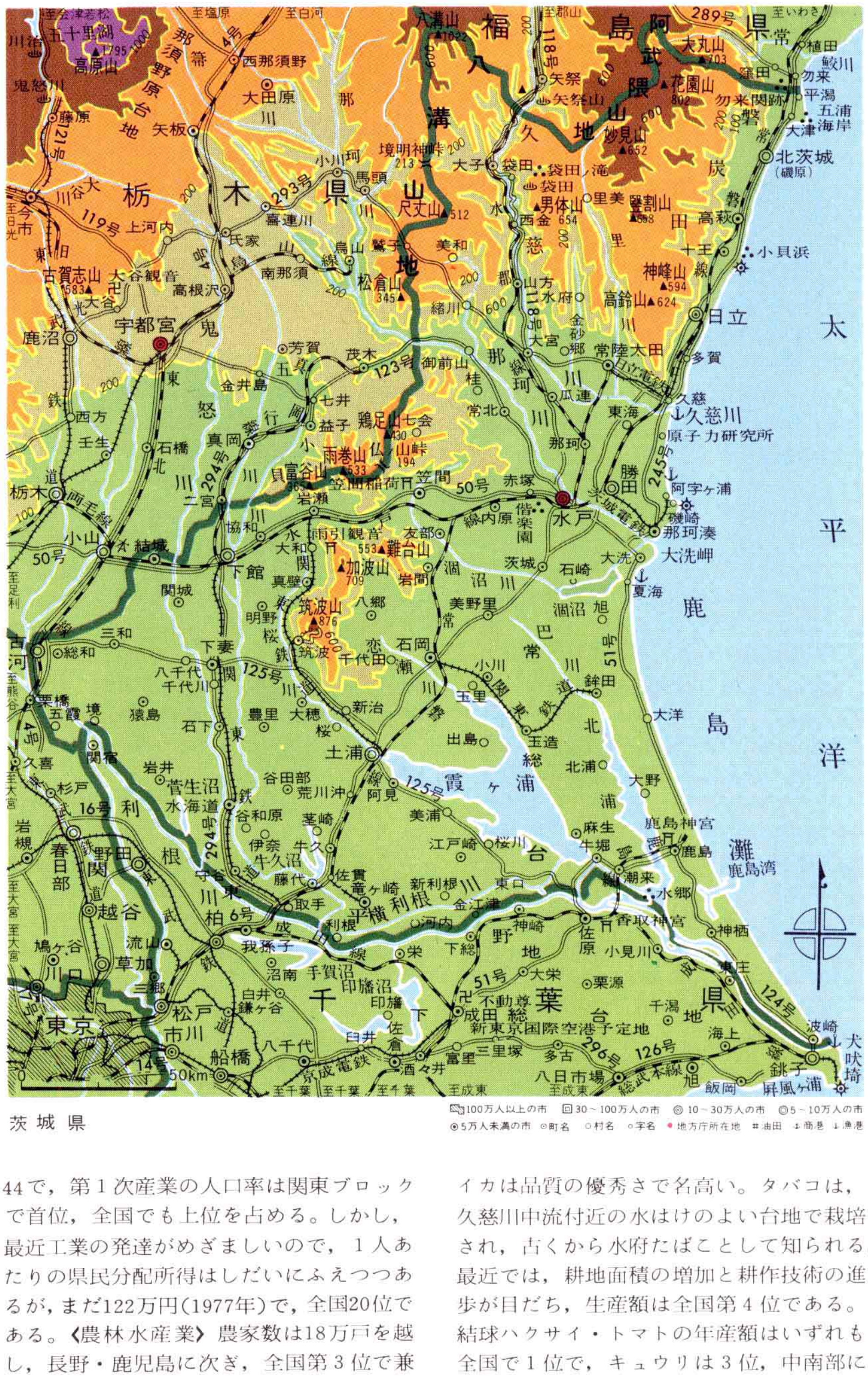
れた鬼神茨木童子が，綱の伯母(おば)に化けてその館を訪れ，すきをねらって腕を奪い去る。後半は片腕の鬼の姿で，綱と立回りになる。松羽目物*だが，能に原典はない。新古演劇十種*の一。

いばらき　【茨城(県)】　関東地方北東部の県。東は太平洋に面し，北は福島，北西は栃木，西は埼玉，南は千葉の各県と接する。常陸(ひたち)全域と下総(しもうさ)の北西部にあたる。面積6,087km²，人口255万4000，人口密度1km²あたり420人。県花はバラ，県木はウメ，県鳥はヒバリである。県庁のある水戸(みと)以下18市と，14郡(44町30村)に分かれる。

〔自然〕県域は北部の山地，中央の台地，南部の低地に3分される。北部には，阿武隈(あぶくま)山地・八溝(やみぞ)山地が平行して南北に走り，八溝山地南端には筑波(つくば)山(876m)が関東平野に孤立してそびえる。阿武隈山地は，古生層の高原状準平原で，東側の第三紀丘陵には石炭層があり，常磐(じょうばん)炭田が茨城・福島両県にまたがっていたが，採掘し尽くして1976年(昭和51)までにすべての炭田が閉山してしまった。那珂(なか)川・久慈川などが，これらの山地を横断して太平洋に注いでいるが，久慈川の上流部，福島県境付近には大子(だいご)・袋田・湯沢などの温泉群があり，奥久慈グリーンランドの行楽地を形成する。中央部は，武蔵野(むさしの)台地と同様に関東ローム層をもつ洪積(こうせき)台地である。南西部の古河市や境町付近は海抜15～16mで最も低く，周辺に向かってしだいに高さを増し，盆地状となっている。南部は，関東平野の一部で，利根(とね)・那珂・久慈3川の下流流域はよく肥えた沖積地(ちゅうせきち)である。利根川は，鬼怒(きぬ)川や小貝川などの支流を合わせて南東端の銚子(ちょうし)市(千葉県)で太平洋へ注ぐ。下流流域には霞ケ浦(かすみがうら)・北浦の二大湖があるが，付近の水郷地帯は潮来(いたこ)を中心として独特の風光美をもち，水郷国定公園に指定されている。太平洋に臨む海岸線は，単調な弧状をなし，大洗岬(おおあらいみさき)を境に南部は砂浜海岸で，北部は山地が海に迫り，やや屈曲した岩石海岸である。北部には海食崖(がい)がみられ，平潟(ひらかた)・大津などの漁港や五浦(いずら)海岸などの名勝地がある。

沿岸には，夏は黒潮，冬は親潮が流れて，気候は，東北日本と西南日本の中間型を示している。北部山地では，冬は東北日本の内陸気候型，夏は東北日本の表日本気候型で，年平均気温12℃，南部低地は年間を通じて西南日本の気候型で，年平均気温14℃である。気温の年較差は海岸より内陸部ほど大きく，年平均降水量は1,200mm内外で，北部山地では1,600mm以上の多雨地帯がある。水戸の年平均気温は13.0℃，年平均降水量は1,377mmである。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は23：33：44で，第1次産業の人口率は関東ブロックで首位，全国でも上位を占める。しかし，最近工業の発達がめざましいので，1人あたりの県民分配所得はしだいにふえつつあるが，まだ122万円(1977年)で，全国20位である。〈農林水産業〉農家数は18万戸を越し，長野・鹿児島に次ぎ，全国第3位で兼業農家率86.3％，水田率53.0％である(1974)。低地には一毛作田が多く，水郷では秋の洪水(こうずい)を避けて，古くから早場米をつくっている。米の平年収量は44万tで，自給量にはやや不足する。台地は，冬はおもに麦をつくり，夏はサツマイモ・陸稲・ダイズなどをつくる。小麦・大麦・裸麦などの麦類の収穫は北海道に次いで多く，サツマイモ・ダイズなどの収穫も多い。近年は，ラッカセイ・スイカ・タバコ，野菜類の栽培が特に盛んである。ラッカセイとスイカは，南東部でおもにつくられ，ラッカセイの生産は千葉県に次ぎ全国第2位，鹿島(かしま)スイカは品質の優秀さで名高い。タバコは，久慈川中流付近の水はけのよい台地で栽培され，古くから水府たばことして知られる。最近では，耕地面積の増加と耕作技術の進歩が目だち，生産額は全国第4位である。結球ハクサイ・トマトの年産額はいずれも全国で1位で，キュウリは3位，中南部には茶園が多い。果樹では，クリ・日本ナシが代表的産物で，クリは中央部の石岡付近を主産地として，京浜地方へ出荷される。畜産業は，サツマイモ地域でブタが多く飼われ，ウシはおもに南部で飼育される。乳牛は近年増加の傾向にあり，役肉用牛は減少している。そのほか，ニワトリ・メンヨウ・ヤギ・ウマ・ウサギなどが県下各地で飼育されている。林業は，一般にふるわず，素材の年間生産高は41万m³で，県内消費量の半分にもならない。樹種は北東部でマツ・スギ，中央部はクリが多い。寒・暖両流が流れる太平洋海域に好漁場をもち，那珂湊



茨城県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市　5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港



茨城県　北茨城の工業地域(日立市)。鉱山のある丘陵地と海岸の間の低地に電気機械器具の大工場が散在し，また大小の下請け工場も多い

(なかみなと)・波崎の両港を基地として，カツオの一本づり漁業をはじめ，サンマ・シラス・貝類などの沖合い漁業が行なわれる。霞ケ浦・北浦では，ワカサギをとる帆引き網漁業が古くから知られていたが，最近はトロール漁業に代わり，シラウオも養殖される。漁獲物は土浦や麻生(あそう)付近でつくだ煮や煮干しなどに加工され，関東各地に移出される。《鉱業》北東部の常磐炭田は，1976年に100年に近い歴史を閉じてしまった。その南方にはかつては四大銅山の一つといわれた日立銅山があり，銅のほかに石灰石・金・銀を産する。栃木県境に近い鶏足(とりあし)山(430m)付近にはタングステン鉱がある。これらの鉱産物は京浜工業地帯に移出されるほか，最近は県下の近代工業の育成に役だつようになった。水戸から北の13市町村にまたがる常陸工業地域は，那珂川・久慈川などの工業用水に恵まれて，明治後期以来順調な成長を遂げている。日立製作所のマンモス7工場をはじめ，日立鉱業所・日立工機などの大企業が集中し，重要港湾の日立港も建設されて，電気機械器具・非鉄金属・機械・化学などの近代工業が発展している。新興の鹿島臨海工業地帯は，鹿島灘(かしまなだ)に面する鹿島港(重要港湾)を中核として，1963年(昭和38)工業整備特別地域に指定され，〈砂丘に咲いた工業の花〉といわれるように，沿岸一帯を埋め立てて200万m²を越える工場敷地の造成が進み，一大石油コンビナートが建設されつつあり，1976年現在35社が操業し，年間出荷額は1兆円に達しているが，最終的には62社，2兆円になる見込みである。鉄鋼コンビナート・重化学コンビナートも建設中である。勝田・下館(しもだて)・古河にも，車両・機械・電気機器などの近代工業が興り，那珂郡東海村には，わが国唯一の原子力センター，多賀郡十王町と鹿島郡鹿島町には宇宙通信センターがある。伝統的な家内工業は，結城(ゆうき)を中心とする結城つむぎが室町時代からの古い歴史をもち，いざり機*(ばた)は国と県の重要文化財である。そのほか石下(いしげ)つむぎ・笠間焼(かさまやき)や南西部のきり細工，石岡の酒，サツマイモ地域のデンプン・蒸し切り干しや，サンマ加工業などの郷土産業がある。

〔交通・都市〕陸上交通では，国道4号線・6号線，これに沿う東北本線・常磐線がいずれも南北方向に走って大動脈となるが，東西方向を結ぶ横の交通路は水戸線を除き発達が遅れている。そのほか，真岡(もおか)線・水郡線や関東鉄道，また国鉄・私鉄バスが県下の主要地域を結んでいる。1962年12月には，鹿島郡波崎町と千葉県銚子市を結ぶ全長1,203mの道路橋，銚子大橋が利根川河口にかけられ，県南地方の陸運の便が著しく強化された。海上交通にはほとんどみるべきものはないが，霞ケ浦や利根川下流の水郷地帯は，古くは運輸・交通の重要水路で，今日では観光用の汽船が定期的に運航している。市は18を数えるが，その分布は分散的で，県庁のある水戸と工業都市日立，それに土浦以外には人口10万以上の都市はない。水戸・土浦・石岡・下館・結城・下妻・笠間は城下町から発達し，古河・那珂湊・水海道は利根川の本支流や那珂川などの河港から発展した。東部太平洋岸には，鉱工業に立脚した北茨城・高萩・日立・勝田など諸都市が北から南へ並ぶ。石岡・下館・結城・龍ケ崎(りゅうがさき)・那珂湊・下妻・水海道・常陸太田(ひたちおおた)・勝田・高萩・北茨城・笠間・取手は，1953年10月の町村合併促進法施行以降の新市。龍ケ崎市や取手市は新興住宅地として発展しつつある。また筑波山麓(さんろく)の南の丘陵地(約4,000万m²)には，筑波大学をはじめ各種研究機関を集めて，筑波研究学園都市の建設が進んでいる。

〔歴史〕古くは蝦夷(えぞ)の居住地であったが，鹿島・香取の両祖神を仰ぐ一部族が原住民を征服し，農耕生活の開拓が始められた。大和(やまと)朝廷の統一後は六つの国府が置かれ，大化改新に際して，常陸・下総の2国が成立し，府中(現在の石岡)に常陸の国府が置かれて，奈良・平安時代を通じて，この時代の政治・文化の中心となった。鎌倉時代には各地に豪族が興り，戦国時代には佐竹氏が水戸に築城して，城下町としての基礎を築いた。江戸時代には，北半は水戸藩領，南半は多くの小藩が分立した。水戸藩は徳川御三家のうちでも特に副将軍として重きをなし，徳川光圀(みつくに)や徳川斉昭(なりあき)などが名君として知られ，水戸学の発祥地となった。幕末には勤王の士が数多く出て，明治維新に活躍した。1871年(明治4)の廃藩置県に際して，江戸時代の16藩がそのまま県となったが，その後一部が千葉県に移され，その他が茨城県に統合されて，1878年現在の県域がほぼ確立した。

〔浅井得一〕

いばらき【茨木(市)】 大阪府北東部の市。慶長年間，片桐且元(かたぎりかつもと)の城下町となり，江戸時代は西国街道に沿う物資の交易地として栄えた。1948年(昭和23)市制施行。人口22万4,000。市域は南北に細長く広がり，北部は老ノ坂山脈に属する低山性の山地，南部は安威(あい)川・茨木川のつくる平地である。産業三大別人口比は2：39：59。産業道路に沿って松下電器・東京芝浦電気・日本専売公社・日本ビール・東洋製罐(せいかん)・神戸(こうべ)製鋼などの大工場が集まり，近代工業が発達している。大阪・京都両市中間の住宅地帯にあたり，また，大阪体育大学その他の学校施設も多いので，公害予防のために〈煙突のない工業都市〉の建設が進んでいる。東海道本線・京阪神(けいはんしん)急行京都線・国道171号線(西国街道)に沿い，千里山丘陵沿いに名神高速道路のインターチェンジがある。西国三十三所の一つである総持寺や片桐且元の茨木城跡，継体天皇陵・藤原鎌足(かまたり)の古廟(こびょう)など史跡に富む。特産は北郊太田(おおた)のウド，南部淀(よど)川付近のコリヤナギなど。

いばらき【茨城(町)】 茨城県東茨城郡の町。水戸(みと)市の南隣にあたる。東に涸沼(ひぬま)があり，涸沼川が東流してこれに注いでいる。1955年(昭和30)に，もと水戸街道の宿場町であった長岡町ほか3村が合併して生まれた。人口33,000。畑が広く，サツマイモ・タバコを栽培し，またクリも多い。

いはらせいせいえん【井原青々園】(1870〜1941) 演劇評論家・劇作家・小説家。島根県松江市に生まれた。本名は敏郎(としろう)。第一高等学校中退。1894年(明治27)坪内逍遙*(しょうよう)の招きで《早稲田(わせだ)文学*》にはいり，演劇・社会部門を担当。以後，歌舞伎(かぶき)研究をはじめとする日本演劇史の研究に生涯(しょうがい)をささげた。その成果は《日本演劇史》《近世日本演劇史》《明治演劇史》《歌舞伎年表》などに示されている。

イーピーエヌざい【EPN剤】 1949年にアメリカで創製された有機リン剤*。いちはやくわが国に導入され，ニカメイチュウをはじめとする水稲害虫，あるいは果樹・蔬菜(そさい)害虫の防除に使用されている。

いびがわ【揖斐川】 岐阜県西北部，伊吹(いぶき)山地の水を集めて南下，濃尾平野西部の沖積地(ちゅうせきち)をつくり，伊勢(いせ)湾に注ぐ。流程107km。伊勢湾頭に近い低湿地では，この川に加えて木曾(きそ)川・長良(ながら)川の流れが集まり，氾濫(はんらん)をつねとした。古くから三川分流が治水の根本に考えられ，江戸時代以来大工事がしばしば行なわれたが，1892年(明治25)から10年を費やした工事で分流が確立し，水害が減少した。下流には氾濫の被害を防ぐために輪中*(わじゅう)が発達している。〔長津一郎〕

いびがわ【揖斐川(町)】 岐阜県揖斐郡の町。人口19,000。1955年(昭和30)に揖斐町ほか4村が合併して生まれた。揖斐川の

渓口(けいこう)集落で，峡谷が美しい。良質の米を産し，また簗(やな)によるアユ漁が行なわれる。近畿(きんき)日本鉄道が大垣(おおがき)市へ，名古屋鉄道揖斐線が岐阜市へ通じており，通勤者も多い。〔浅井得一〕

いびき【鼾】睡眠中に軟口蓋(なんこうがい)などが呼吸にともなって振動するために生ずる音で，病的なものが多い。睡眠中は筋肉の緊張が低下するため口は多少とも開き，口蓋弓・口蓋垂・軟口蓋がゆるみ，同時に舌が奥に落ち込むために気道が狭くなる。そのため呼吸とともに軟口蓋・口蓋弓・口蓋垂が振動して音を発する。これは眠りが深いほど振動しやすい。病的ないびきは種種の鼻疾患に起因する。子どもではアデノイドのため後鼻腔(こうびこう)がせばめられて起こる。〔平野修助〕

イピゲネイア［Iphigeneia］ギリシア英雄伝説に現われる女。ミケーネ王アガメムノン*と妃クリュタイムネストラの子。トロヤ遠征の際，アルテミス*の犠牲にされようとしたが，女神は彼女をあわれんで彼女をタウロス人の国へ連れ去り，自身の神官とした。後年，弟オレステス*がタウロス人に捕えられて犠牲にささげられようとしたとき，姉弟はアッチカにのがれた。エウリピデス*の悲劇に《アウリスのイピゲネイア》《タウリスのイピゲネイア》があり，またラシーヌ*・ゲーテ*らもすぐれた戯曲を残している。〔左中庸博〕

イーピーシー［EPC］⇨ヨーロッパ政治共同体

イヒチオール［ichthyol］イクタモールともいう。イヒチオールスルホン酸アンモニウムを主成分とする赤かっ色または黒かっ色の特異臭がある粘稠(ねんちゅう)な液。魚類の化石を含む岩石を乾留して得られるイヒチオール油を原料とし，水溶性としたものである。一時は万能薬として内服剤にも用いたが，現在では主として，慢性湿疹(しっしん)・凍瘡(とうそう)・火傷・関節炎・リウマチなどに塗布剤として用いる。

いびながらがわおおはし【揖斐長良川大橋】名古屋市から四日市市までの29.1kmを伊勢(いせ)湾沿いに走る国道1号線のバイパス名四国道が，揖斐川と長良川を横断する所にかけられた橋で，道路とともに1963年(昭和38)長さ1,032mの道路橋が完成した。名四国道が，木曽(きそ)・長良・揖斐の木曽3川を渡る部分5.45kmは有料になっている。

イーピーホルモン【EPホルモン】卵胞ホルモンのエストロゲンと黄体ホルモンのプロゲステロンの頭(かしら)文字を取って称したもの。卵胞から分泌されるエストロゲンは子宮内膜の増殖，膣(ちつ)上皮粘膜の増殖，脳下垂体ゴナドトロピンの分泌調節の機能をもち，黄体から分泌されるプロゲステロンは子宮内膜を分泌期に変え，この状態を維持しまた排卵を抑制する作用をもつ。正常婦人では血液中のプロゲステロンが増加することにより，脳下垂体からの黄体形成ホルモンの分泌が抑制され，その減少とともに黄体は退行して月経が始まる。しかしEPホルモンを投与すると分泌期が持続され，月経周期が遅延する。このためおもに避妊薬として使用される。➔月経〔平野修助〕



イブキジャコウソウ

イーピーユー［EPU］⇨ヨーロッパ支払い同盟

イビュコス［Ibykos］生没年不詳。古代ギリシアの叙情詩人。紀元前6世紀ごろ活躍した。イタリア半島南端のレギウムの人。ペリアスの葬典競技，トロヤの略奪，カリドニアのイノシシ狩りやシチリア物語などをテーマにして，叙情詩ふうの物語をつくった。のちサモスの宮廷に招かれ，多くの愛の詩をつくった。文体は華麗で想像力に富み，ことに恋愛の表現の細やかさにすぐれている。

イヒ-ロマン［Ich-Roman］ドイツの文芸用語。直訳すると〈私-小説〉であるが，日本の私小説の多くが三人称形式をとって，内容が作者の身辺雑記的心境小説であるのに対して，イヒ-ロマンは主人公が自己の運命を語るという一人称形式をとる。内容的には作者の体験がこめられている場合が多く，その点で自叙伝*と似ている。教養小説*的なものが多い点でドイツ特有のもの。代表的な例として，ケラー*の《緑のハインリヒ*》，ヘッセ*の《ペーター=カーメンツィント*》などがある。➔私小説〔北条元一〕

いふ【位封】律令(りつりょう)制で，親王・諸王・諸臣に対しその位階に応じて与えられた封戸*(ふこ)。令制では租の半分と庸・調の全部を封主に与えた。親王は一品(いっぽん)800戸，諸臣は正一位300戸。有品(ゆうほん)の親王には品階により支給されたので品封(ほんぷ)という。位封の給付は大化改新に始まり，大宝令では三位(さんみ)以上に限られていたが，まもなく四位にも給せられた。令制では四位以下には位禄布を支給したが，次いで五位以下に限った。いずれも平安末期には事実上行なわれなくなった。〔星野良子〕

イブ［Eve］《旧約聖書》にみえる人類最初の女性。アダム*の妻。エバともいう。ヤーウェ神はエデンの園ですべての獣・鳥を土でつくり，最初の人間アダムに名づけさせるが，彼にふさわしい助け手がないのでアダムを眠らせてその間に彼の肋骨(ろっこつ)を1本抜き取ってイブをつくり，これを妻として添わせた。イブは，楽園にすむヘビの誘惑に負けてアダムとともに禁断の木の実を食べたため神に楽園を追われ，イブは分娩(ぶんべん)の苦痛と夫への服従を罰として課された。アダムとの間にカイン・アベル・セトをもうけた。〔松田 治〕

イーブイ［EV］⇨露光

イフガオぞく【イフガオ族】フィリピン，ルソン島北部山岳地帯のインドネシア系種族。深い渓谷(けいこく)の山腹に大規模なひな段水田を営むことで名高い。土地その他の財産をめぐり私有観念が発達し，複雑な慣習法規定がある。父方・母方双方をたどる双系親族の互助と連帯性が強調される。人口69,654(1939)。

いぶき【伊吹】裸子植物・ヒノキ科。海岸・山地などに自生し，10mほどの高さになる常緑樹。庭園・寺社などにも植えられる。葉はうろこ状に対生するものと，スギの葉に似て対生または3輪生するものの2型がある。雌雄異株。4月。枝先に花を生じ，10月，黒色の球果をつける。園芸品種が多い。材は建材・彫刻材などに用いられる。

いぶきさんち【伊吹山地】本州の最狭部，岐阜・滋賀県境にほぼ北西〜南東に延びる山地。北の一部は福井県に達する。西側は断層のため急傾斜して近江(おうみ)盆地に臨み，南は関ヶ原の谷をはさんで鈴鹿(すずか)山脈に続く。高度は1,000m内外で低いが，日本海側と太平洋側の気象の交接点で，天気の変わりやすい所である。最高点は南端に近い伊吹山*(1,377m)。

いぶきじゃこうそう【伊吹麝香草】双子葉植物・シソ科。山地〜高山帯の日のあたる岩地にはえる高さ3〜15cmの低木で香気がある。葉は有柄で長さ5〜10mm，幅3〜8mm，長卵形。6〜7月，枝の先端に淡紅色の花穂をつける。

いぶきとらのお【伊吹虎尾】双子葉植物・タデ科。山の草原にはえる多年草。高さ50〜80cm。葉は細長く，先がとがる。托葉(たくよう)は長いさやとなる。夏〜秋に淡紅色の小花を茎の先に穂のようにつける。地下茎を乾燥したものを拳参(けんじん)といい，タンニンを含み，漢方では収斂(しゅうれん)薬として用いる。

いぶきやま【伊吹山】岐阜・滋賀県境，関ヶ原の北にそびえる標高1,377mの山。山容はおもに石灰岩からなる塊状を呈し，山頂は平坦(へいたん)である。気象の関係で冬の積雪が多く，リフト・ホテルなどの施設をもつ関西の代表的なスキー場として知られる。頂上までバスが通じる。また古来，薬草の多い山として有名。

いふきゅう【伊孚九】生没年不詳。中国，清(しん)代の画家。姓は伊，名は海，字(あざな)を孚九といい，莘野(しんや)耕夫と号した。

1720年(享保5)長崎へ来航,以後宝暦年間(1750～1763)まで貿易商として日中間を往来した。当時中国で流行の南宗画を伝えた功績は大きい。その絵は瀟洒(しょうしゃ)な風韻をもつ小品が多く,池大雅*に多大な影響を与えた。

いふく【衣服】人体をおおい包んで保護し,外形を整え,装飾する生活資材。

〔歴史〕人類は哺乳(ほにゅう)類の一種として霊長類の中から特に進化して地球上に現われてから,きわめて長い年月の間は裸体で生活していた。いまから約5～10万年前にヨーロッパの中央部に住んでいたネアンデルタール人が,当時の第4氷河期の寒さに耐えるために,洞窟(どうくつ)の中に住み,火を用いて採暖したほかに,食料として狩り取った野獣の毛皮を身にまといつけて保温方法を講じたことが,衣服のはじまりとされている。毛皮を衣料として着用したほか,熱帯地方では樹皮や草葉なども人体をおおう衣料として用いられた。繊維を衣料として利用することが発明されたのは10,000年近くまえからで,以来織物などが衣服として用いられ,寒暑の地域差や社会文化の進展に応じて種々の形式に発達し変遷して今日に至っている。世界の民族や人種の差異によっても,独自の服飾が発達してきた。

〔目的・種類〕衣服の目的を大別すると,人体の機能を補助し肉体を防護し,生活活動を推進することと,社会生活の中で各人が個性を表わし,秩序を維持し,社交親和することとなる。これを細分すると,次の6項目となる。①生理衛生上の目的:暑さ・寒さ・雨風などを避けて身体を快適な状態に保ち,外界の諸作用から肉体を防護するために衣服を着る場合で,防寒服(冬服)・防暑服(夏服)・雨着・防風衣などや,防火・防毒・防虫など,各種の保護衣服がこれにあたる。②装飾審美上の目的:各人がその趣味や好みなど個性を表示し,美観を整えたり優越を示したり,他人の注意をひいたりするために着るもの。すべてのおしゃれ服はその目的であって,個人が自由に着られる性質の服である。③道徳儀礼上の目的:社会生活の中で互いに社交し親和する目的で服装を整える場合である。相手を尊敬し,自分の品位を示し,礼節を保ち,風儀を正しくするためのもので,社交服*・訪問服・儀式服などがこれである。これらは風俗や慣習に従わなければならない。④標識類別上の目的:社会秩序を維持する目的で,衣服によって所属を示し職業を表わし,あるいは身分・階級・役目・行動を標識する場合である。制服*や各種の職業服はそれである。⑤生活活動上の目的:活動・作業・休養・レクリエーションなどの生活で能率を向上させるためのもので,事務服・作業服・寝巻き・ラウンジウエア・スポーツ服*などがこれである。⑥扮装(ふんそう)擬態上の目的:特殊の場合に扮装・変装・仮装・擬装などの手段で別の人間らしくみせるために服装を変える場合である。日常の衣服は種々の目的のうち,二つ以上を合わせて着装されることが多い。

〔形態・着装〕衣服は人体をおおい包むものであるから,その形状は人体の形に適応するのが原則である。しかし寒暑の気候や文化の高低などによって,世界各民族の各時代の衣服の形態は種々の差異がある。最も原始的で熱帯ふうの衣服形式は腰衣形で,古代のエジプトの腰衣(ロインクロス)や現代熱帯原住民の腰みのなどがこれである。長方形の布を身体に巻きたらす方式の掛布形(袈裟(けさ)形)は,古代ローマ人のトガ,現代のインド婦人のサリー*などの形式に示されている。また貫頭形と称して,頭を通して着る形式の衣服が世界各地で用いられている。中南米原住民のポンチョ,古代ギリシアのキトン,現代文化人のプルオーバーの形式のものは,すべて貫頭衣である。現代の洋服の形式は体形形といわれ,人体の形態に従って形づくられている。現代の文化人の衣服は,その着装の上から,上衣(上半身用)と下衣(下半身用)との二部式(ツーピース)のもの,上下一体となったワンピースのものとに区分することができる。前者はブラウス*とスカート*,ジャケット*とズボン*などの組み合わせ,後者はガウン・ローブ・続き服・和服*などの類である。また重ね合わせによって,外着・上着・下着*・はだ着*などの区分もある。衣服は主として肩と腰でささえられるが,一般に男子服は肩のほうが腰に比べてやや重く,婦人服は腰のほうが肩より重くかかっている傾向がある。衣服の重量は,成年男子用冬の洋服3,000g(和服2,800g),夏の洋服1,000g(和服950)g,成年婦人用冬の洋服2,200g(和服3,000g),夏の洋服500g(和服1,200g)ぐらい。成人に比して,少年・幼児・乳児と年齢の少なくなるにしたがって,体重に対する衣服重量の割合は大となる傾向がある。

〔機能〕衣服の機能は,人体の衛生的機能と社会的機能とに大別され,これを細分すると,保健性・装身性・適応性・耐久性の4種別とすることができる。①保健性:対候性と防護性に分ける。前者は防寒・防暑・防雨などの気候に対する機能,後者は防傷・防火・防毒などの身体保護の機能。防寒性は,含気量の大きい材料を用いること,重ね着によって空気層を数多くつくること,難通気性の材料を表面に用いること,衣服の窓(えり・そで口・すそ)を閉じる手段を講ずること,などによって確保することができる。防暑性は防寒の場合と反対に体熱を放散させ,外からの熱線を防ぎさえぎる手段で発揮される。すなわち,易通気性の材料を利用し,衣服の窓を大きくあけ,できるだけ裸出部を多くして体熱や汗の放散を十分にすること,外からの熱線をさえぎるために日がさやつばの広い帽子などを併用することなどが効果をあげる。防雨には,雨がさを用いる場合には通気性防水布のレインコートを用い,野外作業で直接降雨にあたる場合には完全耐水性の不通気性防水布を用いる。なお外界からの作用による人体傷害を防ぐためには,安全帽・マスク・手袋,その他のスポーツ用プロテクターなどの保護衣服を用いる。②装身性:衣服が人体に形よく合うための適合性,衣服の形状をよく保つための保形性,形・色彩・材質などを区別して,着用者の所属や職業や身分階級などを表示する識別性,美観を示すための審美性,品位や格式や威容を現わす容儀性などを含む。③適応性:人体の運動動作に応じて衣服が適応し抵抗少なく疲労せずに動作能率をあげるような機能。そのためには,裸出部を拡大し,離体部(衣服の人体から離れている部位)を削除し,軽装で身体に密着した衣服であることが必要。また,生活の場や気候に応じた服装をすることも必要で,特に日本では和式住居と洋服着用との不合理を調整するくふうがたいせつ。④耐久性:材質の耐久性のほかに,保健・装身・適応などの機能の減退しないこと,衣服の形状や構造の耐久性であることなどが必要。

〔変遷〕衣服は服装史に示されるように,日本でも西洋でも,時代や文化に順応して種々に変化してきている。一般に,古代の素朴(そぼく)な機能的な衣服から,社会文化の発達,材料の進歩などに伴ってしだいに装飾的な複雑な衣服へと進展し,中世から近世へかけて膨大な種類の服装が流行したが,近代の生活の急速化・複雑化などに伴って,近年は軽装で機能的な服飾に変わり,各民族固有の民族服*が,いわゆる洋服という国際服に統一されてきている。また,これまでの衣服の変遷を吟味してみると,共通する変化の原則を見いだすことができる。

変化の原則は,次のようである。①自然環境・社会環境へ順応する変化(環境順応の原則),②外的強制よりも内的欲求の優越



伊吹山　冬の伊吹山。滋賀県の湖東平野から望む。湖東平野北部は裏日本に近く,気象の変わりやすいところで,雪も早くやってくる

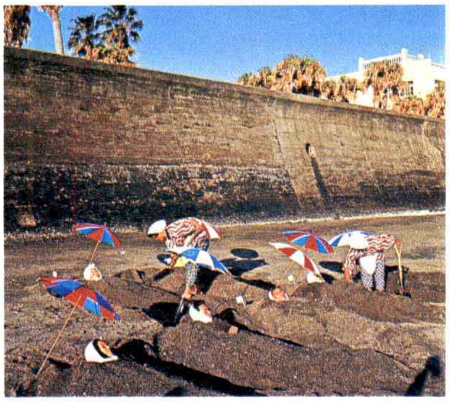
支配する変化(内因優越の原則)，③徐々に変化することによって慣れの現象が現われ，その結果大きい変化が行なわれること(漸変慣化の原則)，④複雑装飾化と簡素機能化との二つの逆方向へ変化が進むこと(逆行変化の原則)，⑤激しい伝染性をもって伝播(でんぱ)し伝承されること(模倣流動の原則)，⑥それぞれの服飾の特徴が，極端な点にまで進展したすえ，消滅または反転するという変化(競進反転の原則)，⑦表衣が衰えて下着が表衣化し，それがまた脱皮されてさらに下着が表着となるという変化をくり返すこと(表衣脱皮の原則)，⑧下級の衣服が上級の衣服に昇格し，常用衣服が礼装に昇格するという変化(形式昇格の原則)，⑨同じ形式の衣服から多くの同形式の衣服が分化する変化(系列分化の原則)，⑩衣服の不用の部分が退化・消滅し，あるいは装飾として残存すること(不用退化の原則)，⑪衣服の形式用法が特定地域において停滞し残存して民俗服を形成する変化(停滞残存の原則)，⑫性別による衣服の差がつねに対立する傾向(性別対立の原理)，⑬人体の形態に即した生活適応の形，すなわち礎形へ復帰しようとする力が働いている傾向(礎形復帰の原則)。

これらの原則は，これまでの変化を律してきたと同時に，将来の変遷をも示唆するものである。〔小川安朗〕

【管理】 各人がつねに快適な衣生活を営むために，衣服計画・整備・供用・整理・保管・処分などの衣服管理を実行する。生活全体と衣生活との均衡を保ちながら，衣服費予算の範囲内で，環境や目的に適した衣服を清潔に着用するには，その管理に深い思慮と技術が必要とされる。管理はまず衣服計画に始まり，永年計画・年間計画・月間計画・週間計画・１日の計画などを適切に立てる。それには各家庭で家族各人に必要な衣服の種類や数量を決め，予算の範囲内で新調・修理・更生についてその時期や家族間の順位などを決定する。各人が必要とする種類や数量は年齢・性別・職業・生活環境や好みによつて異なるから，まず各自手持ちの衣服について調べ，その必要度を把握(はあく)する。次にこれらの調査をもとにしてその過不足を検討し，必要数・種類を決めるのがよい。目新しい衣料の続出やマスコミの影響などによって購買意欲をそそられがちだが，家計の中での適正な衣服費の範囲内で経営していくように考えたい。衣服整備は，自家製作・注文製作・既製品購入などの方法がある。近年既製品のサイズが多くなって適合性がよくなり，品種も増加し，品質も向上して利用価値が大きくなってきている。衣服の供用すなわち着用には，用途・場合に応じて，個性を発揮し集団生活に対応するようにする。また，直列用法(一つのものを着つぶして次のものを着る方式)よりも並列用法(二つのものを用意して交互に着る方式)のほうが耐久的である。また，衣服の整理は，洗たくやしみ抜き*・手入れなどによって，つねに清潔に保ち形を整える方法を講ずる。発達した洗たく機*や進歩した洗剤*・漂白剤などの利用，適温表示のアイロン・保形器などの活用で衣服整理を効果的に行なう。衣服の保管には防湿*・防虫*・かび防止・保形などの手段を講ずる。防湿にはよく乾燥して湿気の少ない場所に保管し，虫干し*・風乾をときどき行なう。毛製品の防虫には，日乾のあと防虫剤(ナフタリン・しょうのう・パラジクロールベンゾールなどのいずれか)を入れて紙・フィルム・茶箱などに密閉しておく。かびの防止には乾燥としみ抜きを十分に行なう。保形のためにはたたみ方を適切にし，あまりたくさん重ねて押しつけないようにする。まれに着る衣類は，ときどき出して点検する注意も必要。最後に衣服の処分については，近来不用死蔵する衣料が増加する傾向にあるので，適切な処分の方法を講ずる。最近は衣料品が量産され価格が低下してきて，補修再生などに手数と経費がかかるのを避け使い捨てる傾向が生じているので，よく考えて処分することが必要である。

これらの知識や技術を養って，よりよい衣生活を創造し発展させていくためには，学校教育・社会教育・講習会・展示会，その他の機会や諸機関を利用する。なお，家族全員の衣服管理を主婦ひとりで受け持つことは，その負担がきわめて大であるから，他の家族の協力や分担が望まれる。

〔小川安朗・大道寺純子〕



指宿温泉　指宿の砂ぶろ。砂浜に沿って長く湧泉区域があり，湯治客を喜ばせている。温泉熱を利用する野菜の促成栽培も有名

イプシランチ　［Alexander Ypsilanti］(1792～1828)　ギリシア独立運動の闘士。コンスタンチノープルに生まれる。ロシアで軍人となり，ナポレオン戦争に功績があった。ギリシア独立運動の結社ヘタエリアーフィリケ*の指導者となり，1821年モルダビアにおいてトルコに対する反乱を起こしたが，ルーマニア人の支持を得られず敗北。オーストリアで捕えられ，ウィーンで没。弟のデメトリオスもギリシア独立運動に活躍した。〔山県弘志〕

いぶすき　**【指宿(市)】**　鹿児島県薩摩(さつま)半島南東端の市。指宿温泉*の名で古くから温泉郷として知られ，地名は〈湯豊宿(ゆぶすき)〉にちなむといわれる。1954年(昭和29)市制施行。人口33,000。鹿児島湾に臨む海岸地区に開け，平均気温18℃の温暖な気候で，亜熱帯植物が茂る。産業三大別人口比は31：14：55で，製塩や野菜・くだものの冬季栽培などが行なわれ，温泉熱を利用した鹿児島大学付属熱帯植物園がある。指宿枕崎(まくらざき)線*・国道226号線が通じ，1969年には有料道路〈指宿スカイライン〉も開通した。長崎鼻・開聞岳(かいもんだけ)・池田湖を含む一帯は霧島屋久国立公園に所属し，風光の美で知られる。

いぶすきおんせん　**【指宿温泉】**　鹿児島県指宿市にある温泉。泉温42～81℃。泉質は塩化土類含有塩泉で，神経痛・婦人病にきくといわれる。泉源が多く，湧出量(ゆうしゅつりょう)は１日12万ｔに及び，海浜の砂湯や砂蒸しは有名。潟口(かたくち)川に沿って，柴立(しばたて)・河原(こら)・道下・二月田・弥次(やじ)ケ湯・永井(ながい)ノ湯・村ノ湯・湯口・湊(みなと)などの温泉が並び，南の摺ケ浜(すりがはま)温泉には天然砂湯がある。指宿枕崎(まくらざき)線*が西鹿児島駅から通じている。

〔木村東一郎〕

いぶすきまくらざきせん　**【指宿枕崎線】**　西鹿児島～枕崎間の国鉄路線。営業キロ数87.9。1930～1963年(昭和５～38)開業。薩摩(さつま)半島の東岸および南岸を走る観光線で，沿線には指宿温泉*や開聞岳(かいもんだけ)などの名勝がある。全通するまでは西鹿児島～山川間で指宿線とよんでいた。

イプステギイ　［Jean-Robert Ipoustegy］(1920～　)　フランスの彫刻家。フレスコなどの画家として知られていたが，1954年からアダムの影響を受けて彫刻に転じ，1956年以降はサロン-ド-メ・レアリテ-ヌーベールなどに出品，プリミチブな要素をもつ独自の抽象彫刻を制作している。

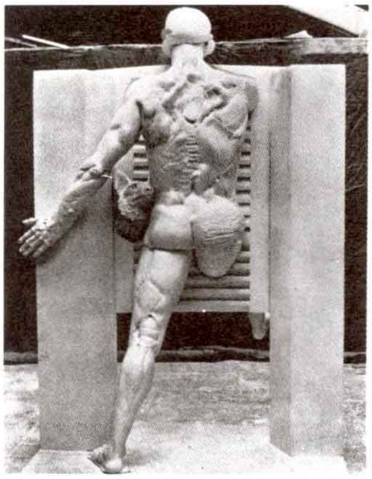
いぶせますじ　**【井伏鱒二】**　(1898～　)　小説家。広島県に生まれた。本名は満寿二(ますじ)。早稲田(わせだ)大学仏文科・日本美術学校を中退。1929年(昭和４)《文芸都市》に発表した《山椒魚(さんしょううお)》が出世作。1930年，作品集《夜ふけと梅の花》《なつかしき現実》を出し，新興芸術派のひとりと目された。以後は庶民的ヒューマニズムを表わした《集金旅行》《多甚古村(たじんこむら)》など，また《ジョン万次郎漂流記》《漂民宇三郎》などの歴史物を発表した。さらに戦争や原爆に対する特異な批判を示した《遙拝(ようはい)隊長》《黒い雨》などの作品もある。〔江種満子〕

イプセン　［Henrik Ibsen］(1828～1906)ノルウェーの詩人・劇作家。富裕な商人の子に生まれたが，８歳のとき父が破産，苦境の幼年時代を過ごし，薬剤師の徒弟奉

公を経たのち，ベルゲン劇場やノルウェー劇場などの舞台監督・劇場付き詩人として，歴史や伝説に題材をとった詩劇*を数多く書いた。問題劇の先駆となった《恋の喜劇》(1862)が恋愛と結婚に対する冒瀆(ぼうとく)として誹謗(ひぼう)され，1864年より海外に旅行，ローマや南ドイツを転々とし，その間，数々の名作を発表して名声を獲得していった。処女戯曲《カティリーナ》(1849)から晩年の《死者の目ざめるとき》(1898)に至るまで，その作風は浪漫的なものから自然主義へ，やがて象徴的神秘主義へと，さまざまに推移した。しかし，出世作《ブラン》の主人公の牧師に示されているような〈一切か無か〉の情熱に燃え，近代劇*の源となった新しい演劇様式の創造と，社会の封建的因習や虚偽を打破する主題の表現とに全身で取り組んだ気魄(きはく)は生涯(しょうがい)を通じて変わっていない。《人形の家*》はその端的な現われであり，女権を主張し結婚生活における純愛を説いて全ヨーロッパに論争をひき起こした。また，彼の作品はわが国に明治の中ごろ紹介され，新劇*の誕生や，自然主義文学・女性解放運動などに大きな影響を与えた。おもな作品にはほかに《野鴨(のがも)》《民衆の敵*》《ヘッダ-ガブラー*》《ペール-ギュント》などがある。〔鈴木徹郎〕

イプソスのたたかい　【イプソスの戦い】　BC301年，アレクサンドロス大王のディアドコイ*(後継者たち)の戦い。イプソスは小アジアのフリュギアの町。最も優勢だったフリュギア総督アンチゴノスとその子デメトリオスに対し，他の後継者が連合して戦いをいどみ，アンチゴノスは戦死した。この結果ヘレニズム世界はカッサンドロス朝マケドニア・セレウコス朝シリア・リュシマコス朝トラキア・プトレマイオス朝エジプトに分裂した。〔高山高雄〕

いぶつ　【遺物】　過去に人類の残した物質の総称。通常，形が小さく容易に移動・運搬が可能であり，しかも空間的位置が変わってもそれ自体に意味をもつものをさす。



イプステギイ　《扉を押しあける男》　1966



井伏鱒二



イプセン

遺物には大別して自然遺物と人工遺物とがあるが，これを材質によって分類すれば，石器・骨角器・木器・土器・金属器などに分けることができる。また，遺物を用途や機能別に分ける分類方法もあり，さらに細分が必要な場合は形態的に分けることもある。〔田辺征夫〕

いふつきょうしょう　【伊仏協商】　⇨イタリア-フランス協商

イフニ　[Ifni]　アフリカ大陸北西部，モロッコの一角を占め，大西洋に面したスペイン領の土地。面積1,920km²，人口50,000(1966)。主都イフニ。アトラス山脈の西端にあたり，大部分が半砂漠(さばく)である。ヒツジ・ヤギの遊牧と小麦の栽培をわずかに行なっている。1958年，モロッコはこの土地を接収しようとしたが失敗した。

イブニングドレス　[evening dress]　夜間の観劇・舞踏会・晩餐会(ばんさんかい)などに着用する男女の正式の礼服の総称であるが，一般には婦人の夜会服をさす。あまり格式ばらない場合には略式のセミイブニングドレスがある。正式・略式ともにワンピース形式が原則で胸・背などはだの露出部分が多く，そでなしでスカートは長くゆったり床までかかる。帽子はかぶらず，くつは共布かエナメルのパンプス形，外出にはコート・ストール・ケープなどを羽織る。衣服の中で最も装飾的なものなのでデザイン・材料・アクセサリーともに豪華なものが用いられる。仏語でローブ-デコルテとよぶ。〔小池千枝〕

いぶり　【胆振(支庁)】　北海道庁管轄14支庁の一。道南太平洋岸の室蘭(むろらん)・苫小牧(とまこまい)両市の周辺地域で，8町2村を含み，庁舎所在地は室蘭市。面積3,059km²，人口7万7,000。江戸時代から日本人が移住して農業を営み，明治以後は室蘭・苫小牧を中心に近代工業が発達し，1964年(昭和39)道央新産業都市の指定を受けた地域に含まれる。東部は苫小牧付近の低地帯，西部は支笏洞爺(しこつとうや)国立公園を背後に控えた火山地形で，火山灰堆積物(たいせきぶつ)が多い。白老町*から登別市*へかけての海岸地帯では，夏季に海霧(ガス)が発生することが多い。

いぶりせん　【胆振線】　伊達紋別(だてもんべつ)～京極～倶知安(くっちゃん)間および京極～脇方(わきかた)間の国鉄路線。営業キロ数90.5。1919～1941年(大正8～昭和16)開業。脇方・徳舜瞥(とくしゅんべつ)などの鉄鉱石輸送のために建設された。羊蹄(ようてい)山・洞爺湖(とうやこ)の東側を通過する。

いぶりばし　【動橋】　⇨加賀市

イブン-アル-ハイサム　⇨アルハーゼン

イブン-サウド　[Ibn Saūd]　(1880～1953)　サウジアラビアの建国者。リアドを中心とするナジド高原に勢力をはる宗家サウド家に生まれ，のちシャンマル地方のイヴン-ラシードらを破り，アラビア半島の中・東部に勢力を拡大した。第1次世界大戦に際してはイギリス側についた。1924年メッカを占領，1927年にはアラビア半島における統一国家ヒジャーズ・ナジド王国を建設し，1932年に国名をサウジアラビアと改めた。アメリカ資本と組んで石油の採掘にあたる一方，ヨーロッパから技術や社会制度を導入して近代化をはかり，アラブ世界に強力な指導力を発揮した。〔吹浦忠正〕

イブン-シーナ　⇨アビケンナ

イブン-バツータ　[Ibn Battūta]　(1304～1378)　イスラム教徒の大旅行家。モロッコに生まれ，アジア・アフリカの2大陸にかけて旅行した。北アフリカからはじめてエジプト・アラビア・イラン・インドを歴訪，さらに海路，ジャワを経て元朝末期の中国を見聞してモロッコに帰った。帰国後，モロッコ国王の命令でその旅行記が集録された。

イブン-ハルドゥーン　[Ibn Khaldūn]　(1332～1406)　イスラムの生んだ偉大な歴史家。チュニス生まれのアラビア人で，イスラム世界の歴史について《実例の書》を書いた。特にその《序説》には独特の歴史哲学が語られ，都市住民の文明社会に対し，遊牧民の素朴(そぼく)主義を高く評価する。チムール遠征軍の捕虜となったが，優遇され，まもなく送還された。

イブン-フルダードベ　[Ibn Khurdādhbeh]　(？～882ごろ)　820年ごろ生まれ，913年ごろ没したとする説もある。イランの地理学者。バグダットで文学・音楽などを学んだが，地方に出て駅逓長官などをつとめ，イスラムの地理書のうち現存最古のものとされる《諸道および諸国志》(884年ごろ)を著わした。この書物には，バグダットから各地に通ずる街道の駅名や駅間の距離，各地の租税収入などがおもに記されている

が，中国やインドとの通商の事実も伝え，当時の東西交通の事情を知る貴重な文献とされている。〔野間三郎〕

イブン-マイムーン［Abū 'Imrān Mūsā b. Maimūn b. 'Abd allāh al-Qurtūbī al-Islāīlī］（1135～1204）スペイン系ユダヤの神学者・哲学者。ユダヤ名はモーゼ-ベン-マイモン，ラテン名はマイモニデス。コルドバに生まれ，教会裁判所の裁判官であった父からユダヤ律法学を，イスラム教徒の学者からアラビア科学を学んだ。13歳のときイスラム教徒の迫害をのがれて故郷を離れ，諸所を遍歴したのち，カイロのフォスタットに定住し，のちにサラディン*と彼のむすこに侍医として仕えた。彼の著作は1点を除いてすべてアラビア語で著わされ，アリストテレス哲学と啓示宗教の調停を図る彼の主著《迷える者への導き》も，原典はアラビア語である。彼の思想は中世ヨーロッパのスコラ哲学に影響を及ぼした。彼のイスラム教への改宗は諸説があり，明らかでない。〔牧野信也〕

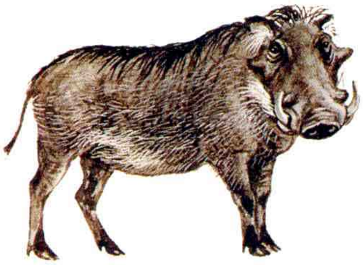
イブン-ルシュド ⇨アベロエス

いへやしょとう【伊平屋諸島】沖縄島北西方にある沖縄最北端の島々で，おもなものは伊平屋島（面積19.3km²，伊平屋村の人口1,586）と伊是名(いぜな)島（面積11.4km²，伊是名村の人口2,165）で，伊平屋島は鹿児島県の与論島と，北緯27°の線上に並んでいる。このほか野甫(のほ)島と具志川島には住民がいるが，屋ノ下島と屋那覇(やなは)島は無人島で，屋ノ下島は墓地島となっている。伊平屋・伊是名の2村に分かれ，米・サトウキビがつくられる。伊平屋島は第2次世界大戦の沖縄戦で，アメリカ軍の艦砲射撃を受けたのち，上陸占領されて，48名の島民の死者を出した。〔浅井得一〕

イベリア（半島）［Iberia］ヨーロッパ大陸から南西に突き出す半島で，西は大西洋，南は地中海に面する。ふつうフランスとスペインの国境をなすピレネー山脈以西をよぶ。面積60万km²。半島一帯は山がちの高原状をなし，東西に走る地塁の列もみられる。地中海側は，いわゆる地中海性の気候で，果樹をはじめ小麦・ワタの栽培も行なわれるが，他の地域は農業は不振である。

政治的には，スペインが半島の大部分を占め，西にポルトガル，ピレネー山中に小国アンドラ，南端にイギリス領直轄植民地ジブラルタルがある。住民はラテン系であるが，古くからヨーロッパの各種の民族が混血して独特のものを形づくっている。スペイン・ポルトガル両国ともに，新大陸の発見以後飛躍的に国力が伸び，植民帝国として栄えたが，教会・貴族の大土地所有や農奴制が工業化をはばみ，今日では後進国の域を出ない。〔長津一郎〕

イベール［Jacques Ibert］（1890～1962）フランスの作曲家。1910年パリ音楽院に入学。1919年ローマ大賞を受賞してローマに留学し，留学後の第1作《レディングの監獄》で本格的な作曲家の道を歩きはじめた。生来の精妙な音感覚と古典的な音楽書法によって，管弦楽曲・ピアノ曲・オペラ・室内楽・バレエ音楽と，多分野にすぐれた作品を残した。オペラ《アンジェリーク》，管弦楽曲《寄港地》や《エリザベス女王の時代》，ピアノ曲《物語》などが有名。〔船山 隆〕



イボイノシシ

いぼ【疣】疣贅(ゆうぜい)ともいう。日常よくみられるのは，ウイルス性の尋常性疣贅・青年性扁平(へんぺい)疣贅，伝染性軟属腫(なんぞくしゅ)（水いぼ），尖圭(せんけい)コンジローム，腫瘍(しゅよう)性の老人性疣贅などの種類である。そのほか，小さな良性腫瘍（繊維腫・神経繊維腫・脂肪腫など）や悪性腫瘍（皮膚癌(がん)・肉腫・悪性黒色腫の初期および内臓癌の転移）の場合もある。したがって自分で薬をつけたり，削ったりするのは危険で，皮膚科医の診療を受ける。①尋常性疣贅：ウイルス性のもので，日常最も多くみられる。米粒大から爪甲(そうこう)大の台地状に隆起し，表面が灰白色でざらざらしている。手足に多い。治療は電気凝固・切除・精製痘苗の注射など。②青年性扁平疣贅：米粒大で皮膚からわずかに隆起し，表面が平らで，周囲の皮膚と同色またはかっ色の丘疹(きゅうしん)が多発するもので顔面に多い。おもに精製痘苗の注射を行なう。③伝染性軟属腫：米粒大からエンドウ大で丸くて中心にへこみのある柔らかいいぼで，中にかゆ状物を入れ，子どもに多い。数の少ないうちに治療を受ける。〔田嶋公子〕

イポー［Ipoh］マレーシア連邦マライ半島西岸の都市。人口24万8,000（1970）。ペラク州にあり，キンタ川流域のスズ鉱地帯の中心をなす。半島縦貫鉄道の要地で，商業が盛ん。金箔(きんぱく)を張った巨大な寝仏の像がある所としても有名である。

いぼあし【疣足】環形動物のある種類では各体節ごとに1対の葉状物が体の側面に突き出していて，これをいぼ足または側脚という。いぼ足は背枝と腹枝に分かれ，さらにそれぞれが上下の2葉に分かれている。この種類の動物には肢(し)がなく，いぼ足が匍匐(ほふく)・遊泳などのために運動器官として働く。また，糸状の突起となっていて感覚器官として働いているものや，血管が分布していて呼吸の目的で一種のえらとなるものもある。〔蒲原春一〕

いぼいのしし【疣猪】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・イノシシ科。体長1.3m，尾長42cm，肩高70cmほど。頭は大きく，耳の下から犬歯の後方に大きないぼがある。雄の上顎(がく)犬歯は上方に曲がり，長さ20～27.5cmに達する。アフリカのサバンナにすみ，きばで土を掘り，木の根，たけのこ，果実などを食う。

いぼいもり【疣蠑螈】両生類・イモリ科。琉球(りゅうきゅう)列島に固有の種で，同属は中国の南西部，ヒマラヤ東部から5種が知られるのみ。体長約18cmで尾はその2分の1を占める。体は黒かっ色で，頭部は扁平(へんぺい)，体背面には7～9本の斜めの隆条があり，末端は側方に突出する。イモリ科のうち最も原始的なグループで，山地の森林にすみ，数は少ない。

いほう【移封】⇨国替(くにがえ)

いほう【胃泡】胃X線検査*の際に横隔膜直下の胃底部にみられる空気泡。これは嚥下(えんげ)された空気からなるが，空虚な胃にバリウムを飲むにしたがって徐々にその形がみられるようになる。

いほうじん【異邦人】カミュ*の小説（1942）。主人公ムルソーは母親の死にも悲しまず人生の享楽にふけり，ある日，友人レーモンの恋人に関連して，真夏の砂浜でアラビア人を射殺する。裁判で死刑を宣告されるが，神による魂の救済をあくまで拒絶し，みずから進んで孤独のうちに死刑台に向かい，自然と合体することに喜びを見いだす。人生の不条理を，ムルソーの行為を通じて描き出したカミュの出世作。

いほうせい【異方性】結晶*のもつ特有の性質で，結晶が方向により種々の物理的性質が異なる場合，この結晶はその特有の性質に対し異方性をもつという。たとえば，電気伝導度が結晶の方向により異なるときは，その結晶は電気的異方性があるという。同様に，熱的異方性・光学的異方性・磁気的異方性など，種々の場合がある。

いほうせい【違法性】犯罪の成立要件の一。行為が法の見地からみて許されないこと。具体的に刑法の規定に違反するということ（形式的違法）はもちろん，法全体の見地，公の秩序，善良の風俗に対する違反（実質的違法）をも含む。刑法は直接〈違法性とはなにか〉ということを規定せず，刑法の各条文に違反する行為は一応違法であるという前提に立っている。正当行為*・正当防衛*・緊急避難*などの違法性阻却事由*にあたる行為は違法性がないということを定めているから，ある人の行為が刑法の定める条項に違反していれば，違法性阻却事由にあたらないかぎり違法であるということになる。〔野口恵三〕

いほうせいそきゃく【違法性阻却】刑法の規定に違反する行為は原則として違法である。しかし，刑法の規定には違反しても特別の事情によって違法性*がないという

判断を受けることがある。その特別の事情を違法性阻却事由という。これには，①法令による行為，たとえば，人を逮捕すれば逮捕罪の条文には触れるが，司法警察職員が刑事訴訟法に基づき，逮捕状により犯人を逮捕する場合は違法性が阻却される（刑法35条前段），②正当行為*（刑法35条後段），③正当防衛*（刑法36条），④緊急避難*（刑法37条）があげられる。〔野口恵三〕

いぼがわ　【揖保川】　兵庫県南西部を流れて瀬戸内海に注ぐ。流程68km。水源は中国山地で，下流には姫路平野が開ける。上流では，引原川の引原ダムをはじめ電源開発が活発で，発電所が多く，また，林業開発も活気をみせている。

いぼく　【移牧】　牧畜の形態の一つで，夏季に家畜を山腹高地に移し，冬季に再び平地に移すやり方をいう。北半球の地中海沿岸から西南アジア・チベットにかけて各所にみられる。地中海沿岸をはじめ夏季に乾燥する地方は，平地では牧草が不足するが，高地では気温が上がり雪どけ水や降雨によって家畜の飼育や農耕が可能になる。そこで高地の草地に放牧し，ところによってはそこで牧畜を営むかたわら自給作物や飼料作物をつくることが行なわれる。しかし，冬季には積雪のため高地の放牧ができなくなるので，家畜を平地にもどし牧場や畜舎内で干し草・飼料によって飼育する。スイスのウシ（乳牛），地中海地方のヒツジ・ウシ（乳牛），西南アジアのヒツジ，チベット地方のヤクなどはこの方法で飼われている。〔小栗　宏〕

いぼだい　【疣鯛】　硬骨魚類・イボダイ科。30cmに達する海産魚。魚屋で見かけるのは20cm内外のものが多い。アジに似た形だが，全体に丸みをおび，銀灰色で表面から粘液を出しぬるぬるしている。うろこははがれやすい。本州中部以南のやや深いところにいる。漁獲量はかなり多く美味。

いぼたが　【水蠟蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・イボタガ科。体長30～45mm，翅(はね)を広げた長さは85～110mm。触角は雌雄ともにくしの歯状。体は黒かっ色。前翅はかっ色がかった灰色で，基部および外縁部には多数の黒かっ色の波状線が走り，中央には黒かっ色の小さな環状紋が散在し，後縁部中央に1個の大きな黒かっ色の環状紋がある。後翅は，基部が幅広く黒かっ色で，外側には多数の黒かっ色の波状線がある。幼虫はイボタノキ・ネズミモチ・トネリコなどの葉を食べ，6月ごろ付近の土中でさなぎになり，そのまま冬を越し，翌春羽化する。成虫は燈火にもよく飛来する。日本全土および中国に分布する。イボタガ科はわずか10数種よりなる小さな科で，アフリカからインド・中国を経て日本に至る地域にのみ分布し，日本には本種のみが産する。〔鈴木邦雄〕

いぼたのき　【水蠟樹】　双子葉植物・モ



イボダイ



イボタガ



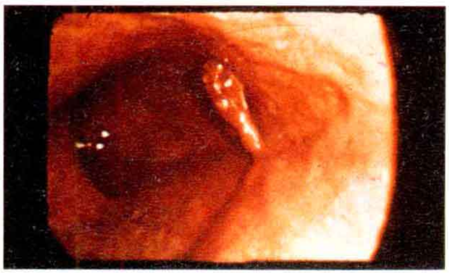
イボタノキ　（左）花　（右）いぼたロウにおおわれた枝



イボニシ



イボヤギ



胃ポリープ　胃ファイバースコープにより撮影

クセイ科。山野に普通の落葉低木。高さ1～2m。枝は灰白色でよく分枝する。葉は対生し，有柄で長卵形。長さ2～5cm，幅0.7～2cm。6月，枝の先に白色花穂をつけ，冬季に長卵形の黒熟果をつける。枝に寄生するイボタロウムシの体表から分泌される〈いぼたロウ〉は，つや出し・ろうそくの原料などに用いられ，また民間ではいぼ取りに用いられる。

いぼたろうむし　【水蠟樹蠟虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・カタカイガラムシ科。イボタカタカイガラムシの俗称。イボタカイガラムシともいう。雌成虫は受精後著しく膨大して半球状となり，光沢のある暗赤かっ色を呈する。直径11mm内外，高さ9mm内外。雄成虫は細長く透明な翅(はね)をもち，体長3mm内外。雄虫は白色のロウ物質を分泌しその中でさなぎとなり，秋に羽化するが，このときロウ塊を樹皮に残していく。これを〈いぼたロウ〉といい，古くから工業用および医薬用に用いられる。日本・中国に分布し，イボタノキのほか，ネズミモチやトネリコなどにも寄生する。

いぼにし　【疣螺】　軟体動物・腹足綱・アクキガイ科。殻(から)の高さ4cmぐらい，殻の厚いごつごつした両錐(りょうすい)形の巻き貝で，殻表(かくひょう)は灰青色。殻の口は黒い。よく似たものに殻の口が黄色のレイシガイがある。北海道南部以南，西太平洋までの磯(いそ)にごく普通。鋭い歯舌で他の貝に穴をあけて食べ，レイシガイとともにカキ養殖業者に非常にきらわれる。

いぼやぎ　【疣海楊】　腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・イシサンゴ目。外洋に面した岩場の壁に群生する。ポリプ*はオレンジ色で，非常に美しい。ポリプの直径は1cm内外で，共同の基部から群がって出る。相模(さがみ)湾以南の太平洋に広く分布し，浅い水の澄んだ所に多い。

いポリープ　【胃ポリープ】　胃粘膜より発生する良性上皮性腫瘍(しゅよう)の総称。半球状で無茎のものから，有茎できのこ状のものなど，種々の形態がある。大きさは，径1cm内外のものが多いが，こぶし大の大きなものの報告もみられる。近年ポリープの癌化(がんか)ということが唱えられ，径2cm以上の場合は外科的に取り除くことが多い。

いまいくにこ　【今井邦子】（1890～1948）歌人。徳島県徳島市に生まれた。本名くにえ。早くから文学に親しみ，《女子文壇》に投稿。1916年（大正5）島木赤彦*(あかひこ)に認められ《アララギ*》に参加，写実的作風を示し，赤彦門下としての地歩を固めた。1931年（昭和6）の歌集《紫草》で作風を確立した。ほかに《明日香路(あすかじ)》《こぼれ梅》など。

いまいけ　【今池】　名古屋市の北東部，千種(ちくさ)区にある新興繁華街で，南は国道153号線を隔てて昭和区と接する。かつては千種村を中心とする水田地帯で，地名は当時の灌漑(かんがい)用ため池の馬池から転じたといわれる。中央本線が西側を走り，千種駅が近い。第2次世界大戦後，東山住宅地の開発に伴う市域の拡張によって急激な

発展を遂げ，地下鉄東西線と市電の交差する周辺部は地上・地下ともに商店街・映画館・飲食店などが集まる。東方に東山公園がある。〔浅井得一〕

いまいけいしょう【今井慶松】(1871～1947) 山田流箏曲(そうきょく)家。本名新太郎。横浜市の生まれ。4歳で失明し，7歳から箏を学び，3世山勢松韻(やませしょういん)に師事し，すぐれた技巧の持ち主であった。1898年(明治31)に東京音楽学校教授となり，1942年(昭和17)に芸術院会員となる。代表的な作品に《新晒(しんさらし)》や洋楽の影響がある《四季の調べ》などがある。

いまいずみかいちろう【今泉嘉一郎】(1867～1941) 鉄鋼技術者。群馬県南勢多(みなみせた)郡東村字花輪に生まれ，16歳のとき上京して，1892年(明治25)帝国大学工科大学を卒業。農商務大臣榎本武揚(えのもとたけあき)の知遇を得て，1894～1896年製鉄事業研究のため欧米に留学。帰国後，八幡(やはた)製鉄所の作業開始にあたり，製鋼部長に任命されて同所の拡充にあたった。1912年日本鋼管創立とともに同社取締役技師長に転じ，同社で継ぎ目なし鋼管・トーマス製鋼などの新技術を開発した。〔山崎俊雄〕

いまいただし【今井正】(1912～) 映画監督。東京に生まれ，東京大学文学部中退。1934年JOスタジオに助監督として入社，PCL・東宝を経て，《沼津兵学校》(1939)や《望楼の決死隊》などで脚光を浴びた。戦後は《青い山脈》など大衆的な作品もつくるとともに，《また逢(あ)う日まで》《ひめゆりの塔》《米》など反戦思想を基軸にした多くの作品を発表している。

いまいち【今市(市)】 栃木県中西部の市。江戸時代は，日光・例幣使・会津の3街道が集まる宿場町，穀市で有名な市場町として栄え，東照宮の参拝客でにぎわった。1954年(昭和29)市制施行。人口51,000。足尾山地の北東，鬼怒(きぬ)川の支流大谷(だいや)川のつくる扇状地上に位置し，大谷川南岸に沿う街村形態を残している。産業三大別人口比は23：32：45で，製材・木工業や観光みやげ品の製造が盛んである。日光線・東武鉄道日光線・鬼怒川線・国道119号線・121号線が集まる交通の要地で，福島県の田島と結ぶ野岩線の起点に予定されている。二宮尊徳の墓や報徳三宮神社があり，日光杉並木(すぎなみき)街道は特別史跡・特別天然記念物に指定されている。特産はスギの葉を原料とする線香。

いまいはまおんせん【今井浜温泉】 静岡県賀茂(かも)郡河津(かわづ)町にある温泉。泉温45℃。泉質は弱食塩泉で，神経痛・切り傷などにきくといわれる。伊豆(いず)半島東海岸の明るい白砂青松の景勝地で，静かな温泉地として名高く，海水浴やキャンプでにぎわう。交通は伊豆急行電鉄河津駅下車。

いまかがみ【今鏡】 平安後期の歴史物語。10巻。さきの《大鏡》およびのちの《水鏡》《増鏡》とともに〈四鏡〉といわれる。1025年(万寿2)から1170年(嘉応2)までを紀伝体で描いている。作者は不詳，成立は1170年と考えられる。《大鏡》の系統に立ちながらも，《栄花物語》の優美な文体を模し，政治的には白河院(しらかわいん)への追慕，文化史的には《源氏物語》評論，思想的には中世芸道思想の芽ばえなどを叙したのが，平板な中にも特徴とみなされる。

いまかね【今金(町)】 北海道檜山(ひやま)支庁の町で，渡島(おしま)半島の中央部にある。人口9,200。町名は，1893年(明治26)に15戸の移民を率いてこの地に入植した今村藤次郎・金森石郎両名の姓からきている。住民の大半は農業に従事し，米・ジャガイモ・テンサイのほか，アスパラガスの産が多く，酪農も盛んで，明治乳業の工場がある。メノウ・大理石・マンガンなども産する。

いまがわかなもくろく【今川仮名目録】 戦国大名今川氏の家法。氏親(うじちか)が1526年(大永6)に定めた32条と，その子義元(よしもと)が1553年(天文22)に追加した21条とを総称していう。東国において最も古い家法として有名であり，所務関係・借銭関係の訴訟に関するものが比較的多い。《続群書類従》《史籍集覧》《中世法制史料集》に収録。➔分国法

いまがわさだよ【今川貞世】(？～1420？) 南北朝時代の北朝の武士。父は範国(のりくに)。出家して了俊と号す。1371年(建徳2・応安4)鎮西探題として九州におもむき，少弐(しょうに)・大友氏などの諸豪族を味方に引き入れながら南朝方の菊池・島津諸氏などと連戦し，室町幕府の勢力を広げた。1395年(応永2)京都に帰り，一時将軍足利義満(あしかがよしみつ)と不和になったが，のち許された。和歌・連歌にたんのうで《難太平記》《落書露顕》など著書が多い。〔村尾元忠〕

いまがわし【今川氏】 清和源氏に属し，足利(あしかが)氏の一族。国氏が三河(みかわ)(愛知県)今川荘(しょう)に住してより今川を称した。室町幕府では遠江(とおとうみ)・駿河(するが)(静岡県)の守護となり，のち戦国大名として成長し，義元(よしもと)のとき三河も攻略したが，1560年(永禄3)織田信長(のぶなが)のために桶狭間(おけはざま)で敗死した。その後，子の氏真(うじざね)は武田(たけだ)信玄・徳川家康(いえやす)に領土を奪われて伊豆(いず)(静岡県)にのがれ，子孫は江戸幕府に高家(こうけ)として仕え，礼式に携わった。〔村尾元忠〕

いまがわやき【今川焼き】 焼き菓子の一種。焼きながら売る庶民的な菓子。円形の型を熱し，油を塗っておき，小麦粉を水ときした種を流し入れ，ちょっとおいてあんを載せ，あんの上にも種を少し載せ，焼き色がついたら裏返して焼く。江戸時代，神田今川橋辺の小店で売り出したのでこの名がある。明治年間に流行し，現在もなお売られている。どんどん焼き・たいこ焼きなどともいう。

いまがわよしもと【今川義元】(1519～1560) 戦国時代の武将。駿河(するが)・遠江(とおとうみ)(ともに静岡県)の守護今川氏親(うじちか)の三子。はじめ僧侶(そうりょ)となったが，長兄氏輝(うじてる)没後の1537年(天文6)還俗(げんぞく)して家督を継いだ。僧雪斎を用いて国政・軍事の顧問とした。尾張(おわり)(愛知県)の織田氏と争いながら三河(みかわ)(愛知県)をも掌握し，東海地方に勢力をふるった。1560年(永禄3)西上を企てて尾張に侵入したが，桶狭間(おけはざま)で織田信長(のぶなが)に急襲されて戦死した。➔桶狭間の戦い

〔松尾 涼〕

いまがわりょうしゅん【今川了俊】 ⇨今川貞世(さだよ)

いまぎれ【今切】 静岡県浜名湖の湖口部で，遠州灘(えんしゅうなだ)と通ずる。江戸時代には東海道の舞坂宿から新居(あらい)の関所の船着き場まで約5kmが海路で，渡船の発着場を今切の渡し，または荒井(新居)の渡しとよんだ。今切の開口部は，1498年(明応7)の東海道大地震の際に，浜名湖南岸の砂州が津波によって切れたためにできたもので，1958年(昭和33)護岸工事によって幅200m，深さ3mに固定された。

イマジズム [imagism] 1909年ごろから1917年ごろにかけてイギリスとアメリカで展開された現代詩の運動。ビクトリア朝およびジョージ王朝詩の過度のロマンティシズム，感傷的ことばの乱用，形式主義などに対する反抗として起こった。ヒュームを理論的指導者としE.パウンドを最大の実践家とする。ホイットマンの作品やシュルレアリスムの詩，ギリシア・ローマおよび中国・日本などの詩に範をとって，用語の正確・簡潔・平明・客観性・集中性を重んじ，日常語の使用，新しいリアリズム，自由な形式によって，広い題材を対象に明確なイメージを喚起する詩をつくる運動であった。代表的な詩人は，エリオット・ロレンス・オルディントン・ローエル・フレッチャー・フリント・モンローなど。

〔奥山康治〕

イマジネーション ⇨想像

いまにしりゅう【今西龍】(1875～1932) 朝鮮史学者。岐阜県に生まれる。東京大学卒業。1913年(大正2)京都大学講師から教授，のち京城大学教授に転じて，朝鮮史を講じた。著書に《朝鮮古史の研究》《新羅(しらぎ)史研究》《百済(くだら)史研究》《朝鮮史の栞(しおり)》などがある。

いまばり【今治(市)】 愛媛県北東部の市。古代には伊予(いよ)(愛媛県)の国府が置かれ，江戸時代は久松氏三万五千石の城下町，明治以後は四国最初の開港場となり，綿工業が発展した。古くは今張と書き，〈いまはる〉〈いまはり〉ともよばれた。1920年(大正9)市制施行。人口12万4,000。瀬戸内海の来島(くるしま)海峡に面し，綿ネルの工場街が海岸に並ぶ。〈四国の大阪〉とよばれる商

工業都市で，産業三大別人口比は8：41：51。タオルの生産は全国の60％に達し，外国にも輸出され，織布・縫製などの関連企業が多い。また，波止浜は造船業で知られる。瀬戸内海航路や予讃(よさん)本線・国道196号線が通ずる海陸交通の要地で，尾道や大島とフェリーボートが連絡する。来島海峡を展望する近見山や白砂青松の桜井海岸など，瀬戸内海国立公園に属する景勝地に富む。

いまむらあきつね【今村明恒】(1870～1947) 日本地震学界の指導者。鹿児島県に生まれ，1894年(明治27)東京理科大学物理学科を卒業。在学中，濃尾地震に遭遇して地震学研究を志した。関東大震災(1923)後，新設された東京大学地震学科の教授となる。地震学会初代会長・学士院会員。今村式地震計の考案をはじめ，津波の原因の研究，地震波速度の測定などに業績を残した。東京大震災を統計上から予言し，その発生で卓見が認められたといわれる。《地震学》(1905)など，著書が多い。〔野間三郎〕

いまむらしこう【今村紫紅】(1880～1916) 日本画家。横浜の生まれ。本名寿三郎(じゅさぶろう)。松本楓湖(ふうこ)の門にはいり，のち安田靫彦*(ゆきひこ)らと紅児会を起こし，歴史画の開拓に努め，再興日本美術院の同人となる。後期印象派を摂取した独創的な作風で有名。

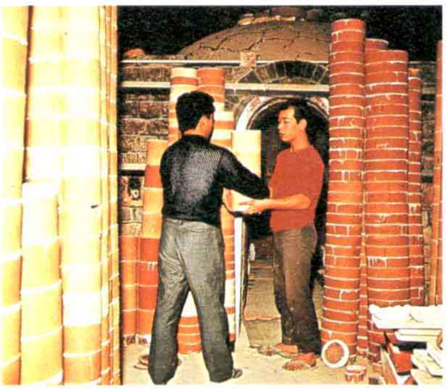
いまむらひとし【今村均】(1886～1968) 陸軍大将。宮城県出身。上海(シャンハイ)事変には参謀本部付として現地に渡り，日中戦争では師団長として活躍，太平洋戦争ではジャワの攻略戦を指揮し，のちラバウル方面軍司令官として苦闘した。第2次世界大戦後戦犯に問われると，進んで現地マヌス島収容所におもむき，部下と苦労を分かち合った。

いまよう【今様】 平安時代中期に始まった，当時としては新しい感覚の声楽の一種。 主として遊女(あそびめ)・巫子(みこ)・傀儡子(くぐつ)・白拍子(しらびょうし)などの職業的芸能人によって歌われたが，のちに上流階級にも流行した。典型的な詩型は七五調4句である。歌詞は《梁塵秘抄*(りょうじんひしょう)》に集成されている。旋律は律調(律旋法)によるものが大部分で，1句1息ではじめはゆっくりと，しだいに速く歌われる。《体源抄》に記述がある。〔山口　修〕

いまようへただんぎ【当世下手談義】江戸中期の談義本。静観坊好阿(じょうかんぼうこうあ)作。5巻。1752年(宝暦2)刊。街頭や講席で盛行した談義の口調を借り，当時の江戸の爛熟(らんじゅく)した社会風潮を批判し，心学的な教訓を滑稽(こっけい)の筆に託した書で，のちの滑稽本*の先駆をなした。続編・反駁作(はんばくさく)・模倣作が続出し，その評判記《千石篩(せんごくふるい)》が発表されるという熱狂的な好評を江戸市民から受け，上方に対抗する江戸中心の文芸が興隆する素地をつくった。〔渡辺宇邦〕



今村紫紅《熱国の巻》朝の巻部分 1914 東京国立博物館蔵



伊万里市 伊万里焼の窯。寛永・元和以来の古い伝統をもち，その名声は遠くヨーロッパにも聞こえた。現在製陶法は大いに進んで大量生産されているが，一方優秀な作品も焼かれている



伊万里焼《色絵琴高仙人大平鉢》東京国立博物館蔵

いまり【伊万里(市)】 佐賀県西部の市。中世には松浦(まつら)党*水軍の根拠地，江戸時代は伊万里焼*など有田周辺の磁器の積み出し港として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口62,000。市街は，伊万里湾の湾奥部，伊万里川河口付近に広がり，本町沿岸にはかつての繁栄をしのばせる商家の土蔵が立ち並ぶ。産業三大別人口比は24：35：41。佐世保炭田を控えて，久原を中心とする臨海工業地帯が形成され，港湾整備・石油コンビナート造成などの計画が進んでいる。筑肥(ちくひ)線・松浦線の分岐点で，国道202号線・204号線が通じ，付近には景勝地が多い。年中行事とんてんとん祭り(10月22～24日)は俗称けんか祭りで広く知られる。

いまりやき【伊万里焼】 江戸初期，佐賀県の有田地方に興った磁器の窯芸。伊万里港から各地に転送したのでこの称がある。文禄(ぶんろく)・慶長の役*の際に朝鮮から帰化した陶工李参平(りさんぺい)が，1616年(元和2)有田の上白川に窯(かま)を築き，染付白磁を焼成したのに始まる。その後17世紀半ばに，初代酒井田柿右衛門*(かきえもん)が赤絵*の創始に成功し，有田一円の製陶家が競って赤絵に転じ，1672年(寛文12)には鍋島(なべしま)藩の命で赤絵業者が決められ，有田に赤絵町が生まれた。なお，初期のそれは朝鮮・中国の影響があり，素朴(そぼく)・粗奔な文様・器形であるが，赤絵になると中国様・和様の文様や町人文化を象徴する意匠などが創案され，はなやかな磁器を産した。一般に17世紀半ばから末にかけての作品は古伊万里とよばれ，最も声価が高い。〔矢部良明〕

いみ【意味】 言語形式またはその他の表現形式によって伝達される内容。言語の意味については，その単位に応じて，単語の意味，文の意味，文章の意味が考えられる。単語の意味は，一般的・抽象的なものであり，それが具体的になにをさし示すかは，文脈や場面によって決まる。単語は，それが客観的になにをさすかという知的意味のほかに，その物事に対する話し手の種種の気持ち・態度など，感情的な意味を含んでいるものもある(例：死ぬ/なくなる/くたばる)。言語の意味はその社会の慣習として定まっているが，時代とともに変化することもある。単語の意味は，ふつう，辞書に個別的に記載されているようなものと考えられているが，最近はその体系性や構造が注目されはじめている。〔西尾寅弥〕

いみ【忌み・斎】物忌み・斎戒・潔斎ともいう。神事に奉仕する者が一定の期間，心身を清浄にして汚穢(おわい)に触れず，精神の統一をはかることをいう。現在では一般に，大祭・中祭には当日と前日に，小祭には当日に斎戒する。斎戒中は沐浴(もくよく)して身体を潔(きよ)め，衣服を改め，居室を別にし，忌み火で調理した食事をとり，思念・言語・動作を正し，汚穢不浄などに触れてはならない。太宝令には散斎と致斎の別があり，大祀(たいし)には散斎1か月，致斎3日，中祀には散斎3日，致斎1日，小祀には致斎1日と厳重に定められている。そして，散斎中は諸事常のごとく行なうが，喪(も)を弔い，病を問い，宍(しし)をくらい，刑殺を判じ，罪人を決罰し，音楽をなすことを禁じ，致斎にはいっては祭祀のことのみに専念せしめた。今日でも古社にはそれぞれの斎戒規程があって，厳重な潔斎が行なわれている。〔小野和輝〕

いみき【忌寸】古代の姓*(かばね)の一。684年(天武13)制定の八色(やくさ)の姓の第4位。制定当初はもと直(あたい)・造(みやつこ)姓*の有力な氏に与えられたが，のちには特に帰化人系の諸氏に多く与えられるようになった。律令(りつりょう)官制の中級以上の官職は，ほとんどが忌寸以上の姓の諸氏によって占められた。

いみくら【斎蔵】大和(やまと)朝廷の蔵の一。《古語拾遺》の伝えるところによると，神武天皇のとき，宮中に蔵を建て斎蔵と称して斎部(いんべ)氏に管理させたとある。のち履中天皇のとき，内蔵が設けられ，神物は斎蔵に，官物は内蔵に納められた。雄略天皇のとき，さらに大蔵*が建てられた。これらを合わせて三蔵という。このような三蔵の成立事件は実証することはむずかしいが，朝廷財務の発達段階が示されているとみることはできる。〔柳雄太郎〕

いみことば【忌み詞】不吉な語などを口にすることをきらって，その代わりに用いる語。タブー*の一種。古くは伊勢(いせ)神宮の斎宮の忌み詞が有名。一般人の忌み詞として，神・死に関するもの，正月ことば・夜ことばなどがあるほかに，きこりやかりゅうどの山ことば，漁民や船乗りの沖ことばなどがある。現代でもすずり箱をあたり箱，ナシの実を〈ありの実〉ということがあるが，このように縁起をかつぐ表現も忌み詞の一種ということができる。〔西尾寅弥〕

イミノき【イミノ基】アンモニアから水素原子2個を取り除いた残基(＞NH)のこと。エチレンイミンやピロリジンのように二価の炭化水素置換基と結合したものや，ベンズアルドイミン(C_6H_5-CH=NH)のようにカルボニル化合物と脱水縮合したものがあり，イミン類と総称されるが，そのほかコハク酸イミドのように2個のカルボキシル基と脱水閉環したものも知られている。

イミノさん【イミノ酸】
1 イミノカルボン酸・イミドヒドリンともいう。カルボン酸のカルボニル基の酸素の代わりにイミノ基がはいったもの。不安定で誘導体としてしか知られていない。
2 α-イミノカルボン酸。各種アミノ酸の生合成，あるいは代謝過程の中間体と考えられている。

1
```
R －C －OH
    ‖
    NH
```
2
```
R －COOH
    ‖
    NH
```

いみろん【意味論】⇨記号論

いみん【移民】ある一国の国民が，永住するつもりで他の国へ移ること。一時的な出かせぎとは区別する。移住をした人そのものをも移民とよぶ。人口の国際的なまた永久的な移動であり，移民を出す側から出移民(エミグレーション)，受け入れる側から入移民(イミグレーション)とよんで区別し，移住した人はそれぞれ，エミグラント・イミグラントとよばれる。

〔世界の移民〕移民は人類の歴史とともに始まったといってよい。ヨーロッパにおける4～10世紀のゲルマン民族の大移動もローマ帝国領内への侵入という形をとった移民の一種である。移民は人口過剰の地域から，人口過少の地域に対して行なわれるのがいちばん自然である。16世紀以降のヨーロッパ人の新大陸への移住は，この線に沿って行なわれた有史以来最大の人口移動であり，20世紀の初めごろ頂点に達し，その数は現在までにおよそ6,000万人以上にのぼると推計されている。その移民の理由は経済的なものが主で，1846～1847年の凶作によって大量にアメリカ合衆国に渡航したアイルランド人たちは，その代表的なものである。しかし，新大陸への移民の中には，政治的あるいは宗教的理由によるものもあって，1620年に信仰の自由を求めてイギリスからニューイングランド(のちのアメリカ合衆国北東部)へ移民した清教徒の一団は有名な例である。また，オーストラリアは，1778年にシドニーに上陸した700人の流刑囚によって開かれた流刑植民地であった。

第1次および第2次の世界大戦やロシア革命，ナチスの圧迫などのために，ヨーロッパから多数のロシア人・ポーランド人・ドイツ人・ユダヤ人などが，アメリカ合衆国をはじめとする新大陸の国々へ安住の地を求めて亡命したが，これらの人々は特に難民とよばれており，国際連盟や国際連合がその救済のために尽くし，受け入れ国でも難民に対しては一般の移民のような制限を設けていない。一方，16世紀から19世紀の中ごろまでの間に約2,000万人の黒人がアフリカから奴隷として南北アメリカに送られ，そのうちの約1,500万人はアメリカ合衆国に向けられている。これは流刑囚と同じようにみずからの意志によるものではないが，その子孫が定着している点において，移民の中に加えてもよいであろう。また，中国人の移民が東南アジアを主として，全世界に約1,700万人も分布しており，華僑*(かきょう)とよばれている。インドからも，ビルマやマレーシア・シンガポール・南アフリカ共和国などに約600万人の移民を出している。

〔日本の移民〕日本人は，17～18世紀のころ，タイ・カンボジア・安南(ベトナム)・フィリピン・ビルマなどの各地に移住し，いわゆる南洋日本町*を建設した。しかし，これはまったく一時的なもので，徳川幕府の鎖国政策によって消滅，明治になるまで移民はまったくとだえた。1868年(明治1)に，ハワイへ最初の移民153名が送られたが，これがいわゆる〈元年者〉で，その後オーストラリア・ニューカレドニアなどにも移民がはいり，1898年，ハワイがアメリカ合衆国に併合されると，アメリカ本土への移民が始まった。

1901年に，オーストラリアは白豪主義*に従って日本人・中国人などの移民を締め出し，さらに1924年(大正13)からは，アメリカ合衆国でも排日移民法*が実施されて日本人移民をいっさい入れず，カナダもきびしい制限を設けたので，日本人の移民は一転して中米・南米やアジアに向かうようになった。中南米への移民は，1897年のメキシコ，1899年のペルー，1908年のブラジルの順に始まり，アジアへの移民は，中国・東南アジアを主とし，フィリピンのダバオにはマニラアサの栽培に従事する25,000人の日本人が，新しい南洋日本町をつくった。1931年(昭和6)に満州事変が始まり，1932年満州国が成立すると，政府の手で20か年100万戸500万人の開拓移民が送られることになったが，中南米方面への移民は国際情勢の悪化もあって，しだいに困難になってきた。第2次世界大戦の始まる直前には，アメリカ合衆国本土に11万5,000人，ハワイに15万1,000人，カナダに23,000人，南アメリカに20万人(うちブラジル17万人)の日本人がおり，またアジアの各地に75万人の移民がいたが，そのうちの45万人は満州国への移民であった。

第2次世界大戦後の移民は，まず日本進駐軍の将兵と結婚したいわゆる〈戦争花嫁〉や養子縁組みによって始まり，その大部分はアメリカ合衆国に向かった者で，戦争花嫁の数ははっきりしないが，アメリカ人と結婚したものだけで8～9万人はあると思われる。1946年(昭和21)から1972年までの移民数は18万1,000人で，うち9万6,000人がアメリカ合衆国向け，5万8,000人がブラジル向けであった。ブラジル向けをはじめとして，中南米へ移民した人たちは，ほとんど日本政府から渡航費の貸与または支給を受けた者であるが，その数は年々減少する一方で，1960年度の8,386人をピークとして，1965年度にはついに1,000人を割って818人となった。1966年度からは渡航費

の貸与をやめて全額支給となったが，この年には1,059人が渡航している。その後は年間だいたい600人台にすぎず，1971年には移民の渡航前に準備教育を行なっていた〈神戸移住センター〉を廃止，その後，移民専用船として戦後新しく建造された〈ブラジル丸〉や〈アルゼンチナ丸〉は，用途を変えてしまった。政府からの渡航費支給による中南米向けの移民は，1971年度674人，72年度763人，73年度419人，74年度354人，75年度447人(うちブラジル285人)であるが，このほかに北アメリカ向けの自費渡航者があり，1975年(暦年)に永住という目的で外務省が旅券を発行した者は，アメリカ合衆国2,485人，カナダ434人であったが，このうちには若干の再渡航者も含まれている。移民法の改正によってカナダでは1962年から，アメリカ合衆国では1965年から，ヨーロッパ諸国の人たちとまったく同じ条件で移民を受け入れるようになったため，現在では中南米よりも北アメリカへの移民の方が多くなっているが，それは農業移民のほか技術移民がめだってきている。

1973年における海外在留邦人(永住者)は外務省の調査では158万人で，そのうちの71万人はブラジル，63万人はアメリカ合衆国で，合わせて84％を占めており，ペルーとカナダがこれに続いている。

〔移民問題〕海外への移住は，程度の差はあっても，どの国でも政府の援助によって行なわれてきた。日本の満州国への開拓移民の送り出しは当時の国策であったが，このような政策によって大規模な移民をした例は，歴史上ほとんどない。しかし，1945年(昭和20)8月9日，ソ連軍の侵入による移民団の最期は悲惨であった。ヨーロッパでは，人間は世界じゅうのどこでも生活の本拠として選ぶ自由をもつという移住自由の原則が19世紀になって確立され，また最近では開発途上にあって人的資源の少ない地域へ移住者を送ることは，世界の人口の適正配置という点からみて，先進国の義務であるという考え方が生まれている。このため自由主義諸国29か国が，〈ヨーロッパ移住政府間委員会〉を組織して，移民の積極的な送り出しに努めており，日本もオブザーバーとして参加している。しかし，入移民国では，無条件で移民を受け入れることはまずなく，人種的あるいは経済的な理由から制限または禁止しようとすることが多い。これは移住の自由があれば，入移民国にも移民選択の自由があるという考え方であり，アメリカ合衆国やカナダ・オーストラリアで，かつて有色人種の移民を原則として拒んできたのは，その例である。第2次世界大戦後は，アメリカ合衆国でもカナダでも，移民の制限を大幅にゆるめ，アメリカ合衆国では1968年に移民割り当て法*を廃止し，オーストラリアでは1963年から非ヨーロッパ人の帰化権取得までの滞在年数をヨーロッパ人なみの5年に引き下げるなど(従来は15年であった)移民の受け入れ態勢を改めつつある。しかし，すでに移住してきた者に対する人種差別は，アメリカ合衆国における例のように根強いものがあり，きわめて解決の困難な問題となっている。〔浅井得一〕



イ-ムジチ



イームズ　ラウンジ=チェアーとオットマン

いみんわりあてほう【移民割り当て法】アメリカの外国移民制限法。1924年制定。アメリカははじめ無制限に移民を認めていたが，19世紀後半労働者の強い反対で，1882年，法律で中国人移民の禁止と個人的選択制度を定め，以後1907年日本との紳士協定や1917年教育試験などで移民制限を強化した。特に第1次世界大戦後南・東ヨーロッパからの移民(新移民)の急増を考慮し，1921年緊急移民割り当て法を制定，ヨーロッパ・近東・アフリカ・オーストラリアからの移民を1910年現在アメリカ在住移民(外国生まれのアメリカ人)の3％に制限する地域別割り当て制度を採用した。さらに，1924年の移民法で国籍別割り当て制に移行し，1927年以降は年間移民総数を15万人以内におさえ，配分基準も1920年の人口によることにした。この結果，北・西ヨーロッパが80％，南・東ヨーロッパが20％と，新移民は大幅に制限され，東洋人の移民は禁止された。以後同法はアメリカ移民政策の根幹となり，第1次世界大戦まで毎年100万人前後あった移民が激減した。このことは，アメリカ史上重要な事件の一つで，国内市場の縮小，大恐慌の一因ともなった。

この法律は人道主義の立場から1968年6月30日をもって廃止され，これ以後アメリカ市民あるいは永住者と血縁関係にある者の移住は容易になった。〔折井一彦〕

イムコ［IMCO］⇨政府間海事協議機関

イ-ムジチ［I Musici］イタリアの弦楽合奏団。1951年，ローマのサンタ-チェチリア音楽院の卒業生によって組織され，1952年まず音楽院で発表会をもち，その成功でベネチア音楽祭に出演して，高い評価を得た。以後世界的な音楽祭に招かれ，レコード録音も活発に行なって，その名声を高めている。メンバーは弦楽器11名にチェンバロを加えたバロック合奏団であるが，レパートリーが広く，現代音楽も積極的に取り上げている。1963・1969年に来日した。

イームズ［Charles Eames］(1907〜　)アメリカの家具デザイナー。セントルイスの生まれ。ワシントン大学建築学科を中退，のちエーロ-サーリネンの建築事務所に働き，レイ夫人とともに玩具(がんぐ)・舞台装置・住宅などのデザインを幅広く手がけた。また，1946年にはニューヨーク近代美術館でイームズ新作家具展を開いたが，その際の細い鋼線で構成したいすはイームズ-チェアーの名を広めた。

いめいどうおん【異名同音】西洋音楽の用語で，12平均律における嬰(えい)ハ音と変ニ音のように，名称は異なっても実際の音高は同じであるような関係に置かれた音をさす。この考えによって，ある音や和音を他の音や和音として読み替えることが異名同音的(エンハーモニック)転換で，転調の重要な手段である。

イメージ［image］心に思い浮かべた感覚的映像。イマージュともいう。われわれは外界からの刺激がなくとも，対象についての表象を再生的に思い浮かべることができる。イメージは表象する作用ではなく，その内容たる具体的・直観的な像をさす。心理学上の記憶心像は過去に知覚された刺激物の思い出されたものであり，想像心像はかつて知覚されたことのないものを想像して思い浮かべたもの。広義には外的な刺激が存在する場合も含む(知覚心像)。一般に，イメージは知覚に比べると感覚的であり，観念に比べると直観的性質をもつ。

イメージオルシコン　⇨撮像管

いも【薯・藷・芋・蕷】植物体の地下部が養分を貯蔵して著しく肥大したものをいい，次のように分けられる。①塊根：根が肥大したもの(サツマイモ・ダリア・ダイコンなど)，②塊茎：多年性草本の休眠器官の一種で，地下茎が部分的に肥大したもの(ジャガイモ・キクイモなど)，③球茎：塊茎と同様に地下茎の一種で，茎の基部が肥大したもの(グラジオラス・コンニャクなど)，④側枝が生長したもの(ヤマノイモなど)。

農業ではいもを薯(しょ)類と薯蕷(しょよ)類に大別する。薯類は塊根・塊茎などに多量のデンプンやその他の種類を蓄積し，米・麦などの禾穀(かこく)類に代わる主要食料として扱われる。主要なものにサツマイモ・ジャ

ガイモがあり，このほかにサトイモ類・キャッサバ・キクイモなどがあげられる。このうちサトイモ類は芋類と書かれ，サトイモ・ヤツガシラ・エグイモなどがある。薯蕷類はヤマノイモ科に属する作物の総称で，ナガイモ・ジネンジョ(ヤマノイモ)などがあり，やはりデンプンが主成分であるが，薯類に比べてタンパク質含有量が高い。

いもがい【芋貝】軟体動物・腹足綱・イモガイ科の巻き貝の総称。殻(から)は先がとがって肩が張った紡錘形で，生きているときはこれに厚い皮をかぶっていてサトイモそっくりに見え，この名がある。殻口(かくこう)は狭く，からだが殻の中にしまわれると，ほとんど見えなくなるので，ミナシガイ(身無し貝)ともよばれる。厚い殻皮の下の貝殻には，美しい模様があるものが多く，収集家に喜ばれる。フィリピン近海でとれるウミノサカエ(海の栄え)というイモガイなどは，世界でも数が非常に少なく，高価に取引される。イモガイ類は，矢のような形をした歯で，えさの動物を刺し，毒腺(どくせん)から毒を注入して殺して食べる。沖縄でハブガイといって恐れられるアンボイナや，タガヤサンミナシなどの毒は強く，誤って刺された人が生命を失うこともある。イモガイ類は，南太平洋に種類が多いが，日本沿岸にもクロミナシ・ハルシャガイ・ベッコウイモなど約100種を数える。〔菅野　徹〕

いもこが【芋小蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・キバガ科。成虫は暗かっ色で，翅(はね)を広げた長さ14mm内外。前翅の中央部に2個の小紋があり，後翅は一様に灰白色。老熟した幼虫は体長20mm内外，細長い円筒状で体の前半は黒色，後半は白色に近い淡色。日本全土・台湾・インドなどに分布。幼虫はサツマイモの葉を折り曲げてつづり，その中で食害する。年に数回発生し，成虫態で越冬する。

いもせやまおんなていきん【妹背山婦女庭訓】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物で近松半二*・三好松洛(みよししょうらく)らの合作。1771年(明和8)竹本座*初演。藤原鎌足(かまたり)の蘇我入鹿(そがのいるか)討伐の史実に材を得た王朝物の代表作。構想は雄大，趣向・詞章に妙を得ており，ことにお三輪が恋人淡海を苧環(おだまき)の糸をたぐって入鹿御殿まで追っていく4段目の〈道行〉は名文として知られる。歌舞伎(かぶき)初演は，同年大阪小川座。〔前田慎一〕

いもちびょう【稲熱病】古くからあるイネの最も重要な病害の一つで，苗しろ期から出穂後までのイネの全生育期間に発生する。侵されるイネの時期または部位により，苗いもち・葉いもち・穂首いもち・節いもち・枝梗(しこう)いもち・もみいもちなどとよばれる。葉の病斑(びょうはん)はふつう，紡錘形，色は中心部が灰白色，その周囲は赤かっ色，外側の健全部との境界は黄色である。激しく蔓延(まんえん)するときは，病斑は暗緑色のまま急速に拡大し，病斑の裏面に胞子が無数にできて周囲に飛散する。穂首が侵されると淡かっ色または暗かっ色となり，重症のときは白穂となってまったく実らない。節いもちでは節が黒変し，折れやすくなる。もみにも暗灰色または灰白色の病斑ができ，実入りが不良となる。イネの分蘖(ぶんけつ)期ごろに激しく発生すると，葉・葉鞘(ようしょう)が赤く焼けたように枯れ，根も腐って，株全体が枯死し，いわゆる〈ずりこみいもち〉の症状を呈する。いもち病菌は一種のかび(ピクラリア-オリゼ)で，被害わらに菌糸または胞子の形で越冬し，翌年の伝染源となる。本病は多雨・冷涼，窒素肥料の過用，冷水灌漑(かんがい)などで多発する。防除薬剤として有機水銀剤が特効薬的に用いられてきたが，水銀の残留・蓄積の毒性が問題となって散布使用が禁止され，代わって抗生物質のブラストサイジンS・カスガマイシンなどが用いられつつある。〔渡辺　実〕







イモガイ　(上左)アンボイナ　(上右)ベニツボイモ　(下)ベッコウイモ



妹背山婦女庭訓　〈御殿〉の場　求女(藤原淡海)の跡を追って入鹿御殿へはいりこんだお三輪(中村歌右衛門)

いもの【鋳物】とけた金属を鋳型*に流し込んで凝固させたもの。凝固させただけで，鍛造品や圧延品のようないわゆる鍛練が施されていないから，それらの製品に比して材質があらくて弱い。しかし，どんなに形状複雑なものでも，また大きなものでも，楽に安くつくることができるので，近代の機械類の主要な部分に鋳物が広く使われるようになった。その一例として，鋳物部品は，ポンプ類には約90%，工作機械には約75%，農耕用トラクターには約45%(いずれも重量比)の割合を占め，自動車・航空機・船舶などに使われるエンジンも大部分が鋳物である。またなべ・かまやガスコンロ・水道バルブなどの台所用品から，扇風機・電気アイロン・ミシン・カメラなどの日用品にも鋳物が多く使われている。鋳物を用途によって分類すると，機械用鋳物・建築用鋳物・日用品鋳物・美術鋳物などになり，また使用されている金属の材質によって分類すれば，鋳鉄鋳物・可鍛鋳鉄鋳物(マリアブル)・鋼鋳物・銅合金鋳物・軽合金鋳物などになる。

鋳物の歴史は古く，中国大陸ではBC2000年ごろ，すでに精巧で芸術的な青銅鋳物がつくられており，700年代につくられた奈良の大仏は，今日なお世界最大の青銅鋳物の像といわれている。鋳物をつくる技術は近年著しく発達した。まず鋳物にする金属の材質や溶解方法の改善が目ざましく，特に球状黒鉛鋳鉄の開発は，鋳物の利用範囲を大きく拡大した。また精密な鋳物をつくる方法として，ダイカスト法・インベストメント法・シェルモールド法*・ショー法などの特殊鋳造法が開発された。これらの方法によれば，機械仕上げの工程をほとんど省いて，直ちに組み立てることのできる精密な鋳物の製造が可能である。特にダイカス➡法は1時間に数百個の鋳物をつくることができるので大量生産にも向いている。〔加山延太郎〕

いものじゃく【鋳物尺】鋳造*において，鋳型に注入した溶融金属は，一般に凝固するときに収縮するので，鋳型はその分だけ寸法を大きくしてつくられる。鋳物尺は鋳型製作に便利なように，あらかじめ寸法差を見込んで，実際の寸法より長くつくったものさしである。伸び尺・縮み尺ともいう。

いもぼう【芋棒】棒だらとエビイモのうま煮。京都料理として有名である。棒だらは水を取り替えながら2〜3日水につけて柔らかくし，熱湯に通して水にさらして臭みを抜く。エビイモは皮をむき，水に放し，棒だらといっしょになべに入れ，煮出しじるで煮て，柔らかくなったら砂糖・しょうゆ・みりんで煮上げる。

いもむし【芋虫】こん虫類・鱗翅(りんし)目の幼虫のうち，体に毛が少なく緑色でないものをいう。体に毛がはえているものは毛虫，またモンシロチョウなどの幼虫のように毛がほとんどはえていなくとも緑色のものはふつう青虫とよばれる。これはすべて分類学的な群と関係なくいわれる俗称である。ただし，シャクガ科の幼虫は，その歩行の動作が尺を取るのに似ていることからシャクトリムシとよばれて区別されてい

るようである。

いもようかん　【芋羊羹】　サツマイモのデンプン質を利用してつくったようかん。サツマイモの皮をむいて蒸し，つぶして裏ごしにし，砂糖を加えて火にかけてよく練り，型に詰めて固める。サツマイモは水けの少ない種類がよく，砂糖は材料の甘さを補う程度とする。

いもり　【井守・蠑螈】　両生類・イモリ科。本州・四国・九州に分布。体長10～12cmで尾はその２分の１を占める。アカハラの別名でよばれるように，腹面はあざやかな赤色で，黒色斑紋(はんもん)がある。発達した耳腺(じせん)から有毒物質を出して身を守る。春から夏にかけて，池・水田やゆるやかな流れなどに多数現われる。４～７月ごろ，直径２mmぐらいの卵を水草に１個ずつ産みつける。冬は上陸して石の下や土の中で冬眠するが，ときには水底でも過ごす。動物質ならなんでも食べ，飼育しやすい。

いもりざけ　【守宮酒】　⇨苅萱桑門筑紫轢(かるかやどうしんつくしのいえづと)

いもんぶくろ　【慰問袋】　出征軍人や被災者を慰問する品物を入れた袋。多くさらしもめんや手ぬぐいでつくり，日用品・雑誌類のほか，千人針・お守りや児童の作品などが入れられ，特に手紙が喜ばれた。個人・団体を問わず善意ある人々から贈られ，相互の心のきずなとして親しまれた。日露戦争後から第２次世界大戦末までの風習。

いや　【祖谷】　徳島県の西部，野川の支流祖谷川の上流流域の深山幽谷に囲まれた集落で，行政上は三好郡西祖谷山村・東祖谷山村の両村に分かれる。人口は約6,400で，住民は800～900mの高地に段々畑を切り開き，麦・タバコ・ミツマタなどを栽培している。他地域との隔絶度が高く，〈日本三大秘境〉の一つに数えられ，平家の落人(おちうど)部落としての伝説に富み，みやびやかなことばづかいや風俗に特色がある。神代踊りという昔ながらの盆踊りも残っている。最近は阿波池田(あわいけだ)からバスが通じ，水力発電所も完成して，秘境のおもかげは薄れているが，祖谷温泉や，祖谷渓谷(けいこく)にかかる奇橋〈かずら橋〉があり，今後の観光開発が期待されている。しかし，人口は激減する一方である。〔浅井得一〕

いやくきん　【違約金】　債務不履行*の場合に，債務者が債権者に支払うべきことをあらかじめ約した金銭をいう。違約金の目的とする趣旨は，その契約内容により種々あるが，民法はこれを一律に債務不履行による損害賠償額の予定であると推定している(民法420条３項)。したがって違約金が損害賠償の予定でないと主張する者は，その挙証責任*を負い，債権者は，債務不履行の発生の事実を証明するだけで，その損害の有無およびその損害額の多少にかかわらず，違約金を請求することができる。裁



イモリ



祖　谷　祖谷渓谷第１の奇景といわれるかずら橋。近年観光地として知られ訪れる人々が多い

医薬品工業　医薬品生産金額　(単位100万円)

	1970	1975	1979
総　　数	1,025,319	1,792,406	3,042,302
抗生物質製剤	157,020	363,392	658,009
その他の代謝性医薬品	114,351	211,107	315,601
中枢神経系用薬	139,756	226,299	304,503
循環器官用薬	88,055	156,627	309,332
消化器官用薬	90,119	146,648	240,960
ビタミン剤	128,105	140,947	210,813
外皮用薬	59,533	117,218	189,942
腫瘍用薬	517	9,898	93,782
末梢神経系用薬	26,601	45,067	81,944
滋養強壮変質剤	37,446	60,648	82,684
そ　の　他	183,816	314,555	—

《厚生省：薬事工業生産動態統計年報》による

判所はその額を変更することができない。➔賠償額の予定　〔黒木三郎〕

いやくひん　【医薬品】　人または動物の病気の予防・治療(診断を含む)の目的で用いる薬物で，生体に作用して効果を現わすもの。薬物は比較的少量で薬理作用を及ぼすものが多いことや，人命に影響を与える危険があるため，専門の知識を有する医師・歯科医師・獣医師・薬剤師などによって，直接に取り扱われるか，または指示に従って取り扱われる性質のものである。正確には薬事法*によって，次のように定義がなされている。①日本薬局方*に収められているもの。②人または動物の疾病(しっぺい)の診断・治療または予防に使用されることが目的とされているものであって，器具器械(歯科材料・医療用品および衛生用品を含む。以下同じ)でないもの(医薬部外品を除く)。③人または動物の身体の構造または機能に影響を及ぼすことが目的とされているものであって，器具器械でないもの(医薬部外品および化粧品を除く)。

診断に使うものとはX線造影剤など，治療に使うものとはペニシリン・アスピリンなど，予防に使うものとはインフルエンザワクチン・痘苗などのことである。医薬部外品というのは，本質的には医薬品の範囲にはいるもののうち，①吐きけその他の不快感または口臭もしくは体臭の防止，②あせも・ただれなどの防止，③脱毛の防止，育毛または除毛，④人または動物の保健のためにするネズミ・ハエ・カ・ノミなどの駆除または防止を目的とするもので，人体に対する作用が緩和なものについて医薬品とは別に法律上では区別して取り扱っているもののことである。また，病気とは関係ない薬物，すなわち嫌酒(けんしゅ)剤・催乳剤・麻酔剤・避妊剤なども薬事法では医薬品としている。　〔江本龍雄〕

いやくひんこうぎょう　【医薬品工業】　化学工業のうち，医薬品をつくる部門。わが国では化学療法の発達，医療知識の普及のほか，医療保険制度の拡充によって医薬品需要の伸び率が年２～３割に達し，成長産業の一つとなっている。生産額はアメリカに次いで世界第２位(ただしアメリカの３分の１)。高度成長の大きな要因は国民皆保険の達成によって患者の薬代の全額または一部負担が広く行なわれるようになり，医師向け医薬品の需要が急速に拡大されたこと，マスコミによる大衆保健薬の宣伝がビタミン剤・滋養強壮剤などの大衆保健薬ブームをひき起こしたことにある。業界では上位10社の生産額が全体の48.9％(1967)を占めているが，その反面，中小・零細企業が多く，大衆保健薬を中心として販売競争が激しい。大企業は独占的なブランド製品が少なくなく，一部品目は再販売価格維持制度*の適用を受けているため，そうした製品を数多くかかえている上位企業の収益性はかなり高い。また，海外技術の導入が盛んで，外資との提携企業が多いこともこの部門の特徴である。今後外資攻勢の激化が予想され，新薬の開発，販売網の整備・強化の必要に迫られている。　〔原　　豊〕

いやくぶんぎょう　【医薬分業】　薬剤の投与に関し，処方は医師・歯科医師が，その処方に基づく調剤は薬剤師が，それぞれ分担して行なうこと。欧米先進国では，医学および薬学の歴史が古く，その学問の権威を相互に認識していたことなどもあって，早くから医薬分業は制度化している。現在，ヨーロッパ諸国では法律で，イギリス・アメリカでは実際慣行として，厳格に行なわれている。一方，日本においても，1874年(明治

7)に制定されたわが国最初の医事薬事制度である〈医制〉以来，医薬分業の考えは底流をなしていた。しかし医師•歯科医師が薬を投与することによる利益で生計を立て，一般国民もその体制を便利とする慣行もあって，自己の診察した患者に対する医師・歯科医師の調剤を認める措置を講じていた。第2次世界大戦後，国民医療の近代化•合理化を図るため，医薬分業が再び論議の的となり，医師・歯科医師の調剤を行ないうる場合を，患者が特に希望する場合および診療上必要がある場合に限定した。すなわち，原則的には，医師・歯科医師の処方箋(しょほうせん)に基づいて，調剤は薬剤師が行なうこととするとともに，医師・歯科医師の患者に対する処方箋交付を義務づけることとする法律の改正を行なった。これは1956年(昭和31)4月から実施に移され，わが国においてもようやく医薬分業は制度化されたが，事実上は一部の地域・医療機関を除き，おおむね未実施である。〔江本龍雄〕

いやち【忌地】 同じ土地に同じ作物を続けて栽培すると，その生育ははなはだしく不良となり，収量も減少する現象をいう。その原因は，①同一可給態養分(微量成分を含む)の欠乏，②病害虫の増加，③根から分泌する有害酸の集積，④土中有効微生物の減少などがあげられている。また作物の種類によって忌地の程度に差異があり，エンドウ・ナス・アマなどは忌地がはなはだしい。水田では夏季水を張り，秋冬落水するので忌地は起こりにくい。〔金木良三〕

イヤホン [earphone] 電気的入力信号の波形に応じて変化する音圧を，空中に放射せずに鼓膜に与えるようにした電気音響機器のうち，耳穴に差し込むものをいう。軽くて安価な圧電形(クリスタル形)が多く用いられる。

イヤリング [earring] 耳輪・耳飾り。古くから用いられ，エジプトのピラミッドからも精巧な技術によるものが発掘されている。古代では男女ともに用い，お守りや階級の印とされたこともある。もとは耳たぶに穴をあけて金属の輪を通していたが，17世紀ごろからクリップやねじで留める方法も出てきた。いまはいろいろの材料でつくられ，一般に光るもの，長く下がるものは夜会用，耳にぴったりつくものは昼用とされる。〔小池千枝〕

いゆうごうきん【易融合金】 比較的溶融温度の低い合金の中でもスズの融点(232℃)以下の溶融温度をもつ合金の総称。この種の合金には必ずビスマスが含まれ，その主成分はスズ・鉛・ビスマス・カドミウムである。これらの成分金属を3成分系あるいは4成分系の共晶組成に近い合金に配合すれば，70～140℃の融点をもつ合金が得られ，さらに少量の水銀を加えればより融点の低い合金がつくられる。易融合金にはウッド合金(融点68℃)・リポビッツ合金(68℃)・ニュートン合金(94℃)・ローゼ合金(100℃)・ダルセ合金(94℃)・ビスマスろう(113℃)などがあり，消火せん，電気用ヒューズ，スズ器類のろう付け，ガラス器類の接合剤などに用いられる。〔藤井康次〕

いよ【伊予(国)】 愛媛県の旧国名。予州。南海道に属する。伊予・久味(くめ)・小市(おち)・怒麻(ぬま)・風速(かざはや)の5国造(くにのみやつこ)の治下を大化改新後に一国としたもので，律令(りつりょう)制下では宇摩・新居(にいい)・周敷(すふ)・桑村・越智(おち)・野間・風早・和気・温泉(ゆ)・久米(くめ)・伊予・浮穴(うけな)・喜多・宇和の14郡が置かれたが，今日では松山・新居浜(にいはま)・宇和島・大洲(おおず)・八幡浜(やはたはま)・今治(いまばり)などの11市と11郡となる。国府の所在地は越智郡(今治市桜井町)。鎌倉時代には河野(こうの)・佐々木・宇都宮の諸氏，室町時代には岩松・細川・河野の諸氏が守護に補せられた。天正年間(1573～1591)土佐の長宗我部元親(ちょうそかべもとちか)が勢いを強め，伊予を併呑(へいどん)したが，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の四国征伐を受けて伊予を奪われた。江戸時代には松山(久松松平氏)・宇和島(伊達(だて)氏)・大洲(加藤氏)など8藩が分立したが，明治に至り宇和島県・松山県の2県とし，1873年(明治6)愛媛県に統一した。〔篠　弘道〕

いよ【伊予(市)】 愛媛県北西部の市。1955年(昭和30)に郡中町を中心として市制施行。人口30,000。伊予灘(いよなだ)に臨む道後平野南西部にあり，西は重信(しげのぶ)川を隔てて松山市と接する。産業三大別人口比は27：30：43。花がつおの生産は全国一で，背後山地の木材を集散して製材業も盛んである。山麓(さんろく)地帯ではビワ・ミカンなどの果樹栽培が行なわれ，伊予港は木材やミカンの積み出し港である。予讃(よさん)本線・国道56号線に沿う。

いようでんしこうがく【医用電子工学】 医学の分野に工学(特に電子工学)の考え方や手法を用いて，医学の研究や臨床に役だたせようとするもの。医学の研究にはすでに今世紀の初期から電子工学が応用されていたが，臨床医学に電子工学が使われだしたのは主として1940年代以降であり，本格的な医用電子工学が発展したのは最近になってからである。今日の医学の研究において電子工学は不可欠のものとなっており，光電装置・オシロスコープ・コンピューターをはじめ数多くの機器が使用され，臨床医学では診断・治療に大きな貢献をしつつある。

診断用として，心電計・脳波計・筋電計・精神感応電流計(いわゆるうそ発見器)のような生体の電気現象を記録する装置や，心音計・電気血圧計・血流量計・聴力測定装置・肺機能検査装置・エコーエンセファグラフなどのように生体の物理的現象を計測する装置がある。このうち心電計が最もよく普及しており，日本では心臓疾患の診断に活躍している。最近では消化管内の状態を知るために無線装置をもったカプセルが考案され，消化管内部の温度・酸性度・出血などを外から知ることができる。また，コンピューターを用いて診察や検査の所見を総合して診断する電子診断機も医用電子工学の一分野である。治療用としては超音波治療器•電気刺激装置•補聴器がある。最近ではある種の心臓病に用いられるペースメーカー(心臓刺激装置)がつくられ，心拍数を自由に調節することのできるものもあり，人体の失われた機能を補う働きをしている。〔平野修助〕

いよがすり【伊予絣】 もめん絣の一。愛媛県松山市を中心として産出される。享和年間(1801～1803)，愛媛県今出(いまず)村の鍵谷(かぎや)カナ女の創案によると伝わる。すべて藍染(あいぞ)めで，幅に柄(がら)一つの絵絣から，幅に柄50～60の蚊絣まで及ぶ。その模様には十字・井げた・つなぎなどがある。特に，幅に柄四つのものを全勝，幅に柄14のものを八重紅梅，幅に柄18～20のものを紅梅と称する。絣糸はもとは括絣(くくりがすり)のみであったが，明治末年には織締絣の技術が併用され，今日では括絣も機械括に変わった。現在では機械織りで染料も化学染料を用い，赤・黄の色を交え，一般向きの安価な絣織となっている。〔勝呂小枝〕

いよしんのう【伊予親王】(？～807) 桓武(かんむ)天皇の第2皇子。母は藤原是公(これきみ)(南家)の娘吉子。兄平城(へいぜい)天皇が即位した翌807年(大同2)，謀叛(むほん)の疑いで母とともに飛鳥(あすか)の川原寺に幽閉され，毒を飲んで自殺した。この事件は藤原仲成(式家)が自家の勢力拡大のためにしくんだ陰謀かと思われ，以後南家はしだいに衰退したが，犠牲者である親王に対する同情は深く，のちに一品(いっぽん)を追贈され，京都の下御霊社(しもごりょうしゃ)に祭られた。

いよなだ【伊予灘】 瀬戸内海のうちで，灘とよばれる島の少ない部分の一つで，愛媛県の松山付近から佐田岬(さだみさき)半島にかけての海岸の西方の海面をいう。南西には豊予海峡と別府湾があり，北西は姫島・祝島•長島などによって周防灘(すおうなだ)と，北東は周防大島や中島・興居(ごご)島によって安芸灘(あきなだ)と隔てられている。瀬戸内海の中では比較的深い海で大部分は50～60mであるが，速吸(はやすい)瀬戸(豊予海峡)に近い所には400mの地点がある。イワシやタコがとれ，速吸瀬戸からゴンドウクジラが子を産みにはいってくる。〔浅井得一〕

イヨネスコ [Eugène Ionesco] (1912～　) フランスの劇作家。ルーマニアの生まれ。〈反戯曲〉と副題された処女戯曲《禿(はげ)の女歌手》(1950)以来，アンチ-テアトル*(反演劇)の代表的作家で，ユーモアの中に，現代の人間が直面している不条理への鋭い感覚を秘め，現代演劇に新しい次元を切り開いた。代表作《椅子(いす)》《犀(さい)》がある。

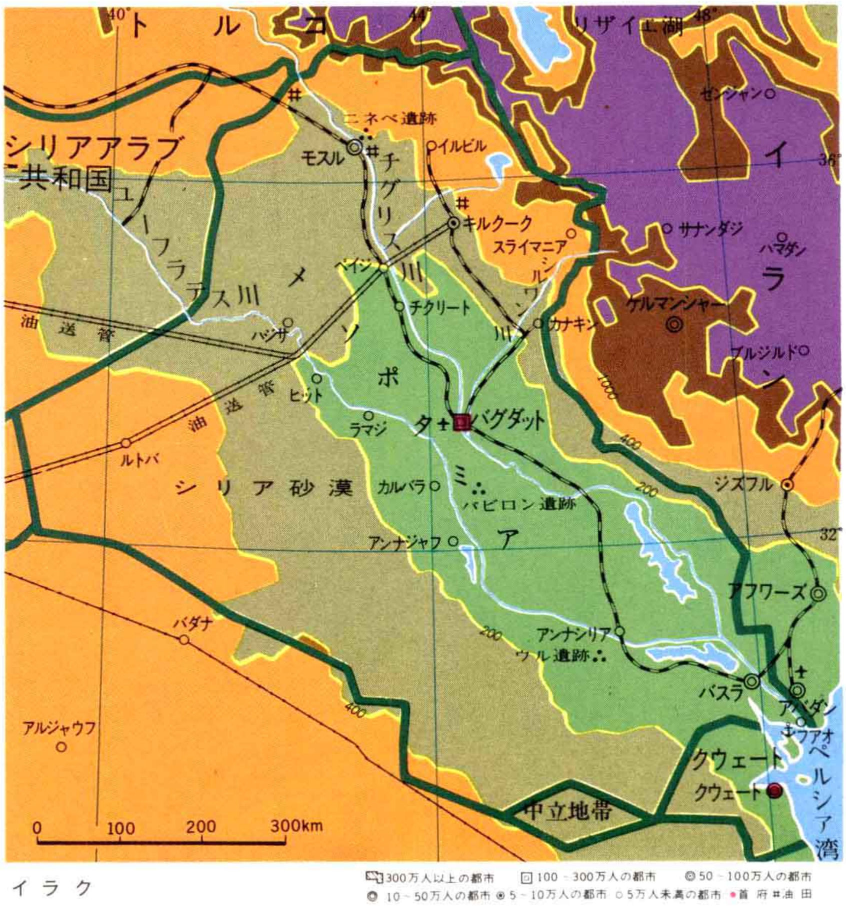
いよみしま【伊予三島(市)】 愛媛県東







イラガ
(上左)幼　虫
(上右)繭(スズメノショウベンタゴ)
(下)成　虫



イ ラ ク

部の市。古くから和紙の産地として知られた。1954年(昭和29)市制施行。人口39,600。瀬戸内海の燧灘(ひうちなだ)に臨んで東西に細長く延び，西は川之江市と接する。産業三大別人口比は10：45：45。製紙工業が発達し，水引きの特産がある。南郊を流れる銅山川は発電・灌漑(かんがい)のほか，工業用水に利用される。予讃(よさん)本線・国道11号線に沿い，弥生(やよい)式遺跡や古墳が多く，南郊に金砂湖県立自然公園がある。

いらが【刺蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・イラガ科。成虫は体長16mm内外，翅(はね)を広げた長さは33mm内外，雌雄ともに触角は糸状。体は黄色で，前翅の外半はかっ色をおび，翅頂から外縁に向かって2本のかっ色の線状紋が走り，後翅は一様に淡かっ色。日本全土・東アジアおよび北アメリカに分布。成虫は6～7月ごろに発生する。幼虫はイラムシとよばれ，短太でナメクジ状，体表面に多数の刺毛をもち，触れると激しい痛みを感じる。カキ・ナシ・サクラなど，おもにバラ科植物の葉を食害する。老熟した幼虫は，おもに枝の分岐点にきわめて堅固な繭をつくり，その中でさなぎになって冬を越し翌年羽化する。本種の繭はきわめて特徴的で，数条の暗かっ色の紋があり，俗にスズメノショウベンタゴとよばれる。駆除にはマラソンまたはスミチオン，カーバメイト系殺虫剤などを散布する。

イラク(共和国)［Republic of Iraq, Al-Jumhouriya al-Iraqia］西アジア，メソポタミア平野を主要部とする共和国。首都はバグダット。面積43万5,000km²，人口1,277万(1978年推)。

【自然・住民】チグリス-ユーフラテス川の流域を主要地とし，その北から東へ走るザグロス山脈が天然の障壁となってイランと境を接する。北はアルメニア山塊によってトルコと分かたれ，西はシリア・ヨルダンに至る砂漠(さばく)で，南はクウェートおよびサウジアラビアに接する。国土の大部分は砂漠もしくは半砂漠で，バグダットの年降水量は156mmである。チグリス-ユーフラテス川は，水源のトルコ東部山岳の雪解けにより，毎年春に氾濫(はんらん)するので，洪水(こうずい)回避と農地の灌漑(かんがい)が古くからくふうされてきた。しかし，この川は流路を変えることも珍しくなく，現在でも洪水に悩まされている。住民はアラブ人とクルド人が5対1の割合で大部分を占め，ほかに少数のアルメニア人がいる。アラブ人の中にはベドウィンのような遊牧民もいるが，大半はチグリス-ユーフラテス川流域の定着農民である。クルド人はクルジスタン山地に住んでクルド語を話し，独自の部族社会をつくっているが，宗教はアラブ人と同じイスラム教である。両者とも文盲率は高い。

【産業・経済】産業の主柱はその埋蔵33億t以上といわれる石油で，国家財政の60%は石油収入である。石油操業はイラク石油会社(イギリス・アメリカ・フランス・オランダ資本の共同所有)と，その傍系のバスラ・モスルの両石油会社，カナキン石油会社(イギリス資本)の4社によって独占的に採掘・販売が行なわれていたが，1958年の革命後，未開発利権地域が政府に接収されてイラク



イラクの国旗　1963年の革命後に制定されたものでエジプト-アラブ，シリア-アラブ，イエメン-アラブとは同じ系統で，アラブ民族統一の悲願をこめたものといわれている



イ ラ ク　荒涼とした草原と砂漠の国では水は貴重である。部落のほとりを流れる川は飲料・炊事・洗たくなど生活のすべてに使われる

国有石油会社ができ，操業を始めている。農業は人口の80％を占め，おもに北部では小麦・南部では米を生産しているが，技術が遅れているので生産性は低い。1958年土地制度改革が行なわれたが，封建的土地所有関係は根本的には解決されず，農業生産が伸びない一因となっている。果実特にデーツ(ナツメヤシの実)は同国の代表的な商品である。工業は開発の緒についたばかりで，資本財・消費財ともほとんど輸入に依存している。主要相手国はイギリス・アメリカ合衆国・日本・西ドイツであるが，貿易収支は恒常的に赤字である。交通は，国土をほぼ縦断してシリアに至る鉄道があり，バグダット・モスル・バスラには空港もあって，アジアとヨーロッパを結んでいる。

【歴史・政治】メソポタミアは，世界の四大文明発祥地の一つであり，シュメールをはじめ古来多くの民族の盛衰をみてきたが，7世紀以来，アラブの国として今日に至っている。特にアッバス朝がバグダットを都としてからはアラブ世界の中心となった。16世紀からはトルコ領となり，第1次世界大戦後イギリスの委任統治領となったが，1930年ハシム家のファイサルを国王として独立した。しかし，1958年のクーデターで王制は倒され，革命政府が樹立された。だがこれも1963年民族主義派に倒され，以来アラブの連合・統一をめぐって親ナセル派・国粋派・親西欧派・バース党の対立をみる一方，クルド民族問題もからんで政情は安定しない。1968年のクーデター以来バクル政権が国政をにぎっていたが，1979年，フセイン副大統領への政権交代が行なわれた。イラン革命後，1980年，空軍によるテヘラン攻撃でイランとの本格的戦争に突入した。

いらくさ【刺草】 双子葉植物・イラクサ科。イタイイタイグサともいう。日本特産の多年生草本。本州(関東以西)・四国・九州に分布する。茎は群がってはえ，高さ50～100cm。葉は対生で広い卵形，先はとがり荒い鋸歯(きょし)がある。茎・葉ともに鋭いとげがあり，ギ酸を含み，刺さると激しい痛みを感じる。秋に葉のつけ根から茎を出し，根に近いほうの茎には雄花を，上方の茎には雌花を穂のようにつける。色はともに淡緑色。若苗はゆでて食用とする。

いらこせいはく【伊良子清白】(1877～1946) 詩人。鳥取県の生まれ。本名は暉造(てるぞう)，別号はすずしろのや。京都府立医学校卒業。在学中から《文庫*》に寄稿した。医業に従うかたわら詩作に努め，1906年(明治39)詩集《孔雀船(くじゃくぶね)》を出版。以後詩作をやめ東京を去った。その詩風は，日本古典の伝統をふまえながらも鮮麗で，彫刻的技法に特色がある。

いらごみさき【伊良湖岬】 いらござきともよび，愛知県の南部，渥美(あつみ)半島西端にある。岬の端は赤石山脈の延長である古生層の岩石からなる海食崖(かいしょくがい)をなし，伊良湖岬燈台が約4km隔てた対岸，三重県の神島の燈台と相対している。海浜にはハマユウをはじめ暖帯植物が自生し，柳田国男が波に打ち上げられたヤシの実を見つけ，これが島崎藤村の詩《椰子(やし)の実》のヒントとなったといわれている。付近一帯は三河(みかわ)湾国定公園に指定され，伊良湖国民休暇村などがある。〔味沢成吉〕

イラジェーション ⇨フィルム

イラストレーション［illustration］主題をより的確に表現するための絵の部分，一般にはさし絵と解されている。新聞・雑誌の広告，ポスターなどにおいては，その広告の概念を明確にし，広告に特質を与え，広告文案とともに強い訴求効果をあげるために用いられる。小説・随筆などには，その内容の視覚的な説明・解説・補足などの意味をもつことが多いが，単なる言語伝達の補助であってはならないと思われる。表現形式には，写実・象徴・抽象・漫画・図表などがあるが，いずれにしても表現の内容・技法，製版・印刷の方法，発表媒体などと相関した適性を考慮して制作される必要がある。〔武井邦彦〕

イラーセック［Alois Jirásek］(1851～1930) チェコスロバキアの小説家。チェコ民族の歴史をテーマに，民主的な思想を芸術的なファンタジーとみごとに結びつけた数多くの歴史小説で知られる。代表作に《すべてに逆らって》《昔のチェコの物語》がある。

いらぶじま【伊良部島】 沖縄の宮古島北西方にあり，面積28km²，人口9,500。南西に接する無人島の下地島とともに，伊良部村をつくる。石灰岩におおわれた低平な台地で，水田はなく，サトウキビを主とする農業と漁業が行なわれる。

いらぼぢゃわん【伊羅保茶碗】 高麗(こうらい)茶碗*の一。あらい素地に薄い釉(うわぐすり)がかかり，はだが焦げていらいらした感じがするところからいう。窯跡は慶尚(けいしょう)南道の昌基(しょうき)に発見され，その作風から古伊羅保・黄伊羅保・釘(くぎ)伊羅保・いえ手伊羅保・千種伊羅保・黒伊羅保・片身替などに分かれる。わが国でも江戸時代に模倣が行なわれている。

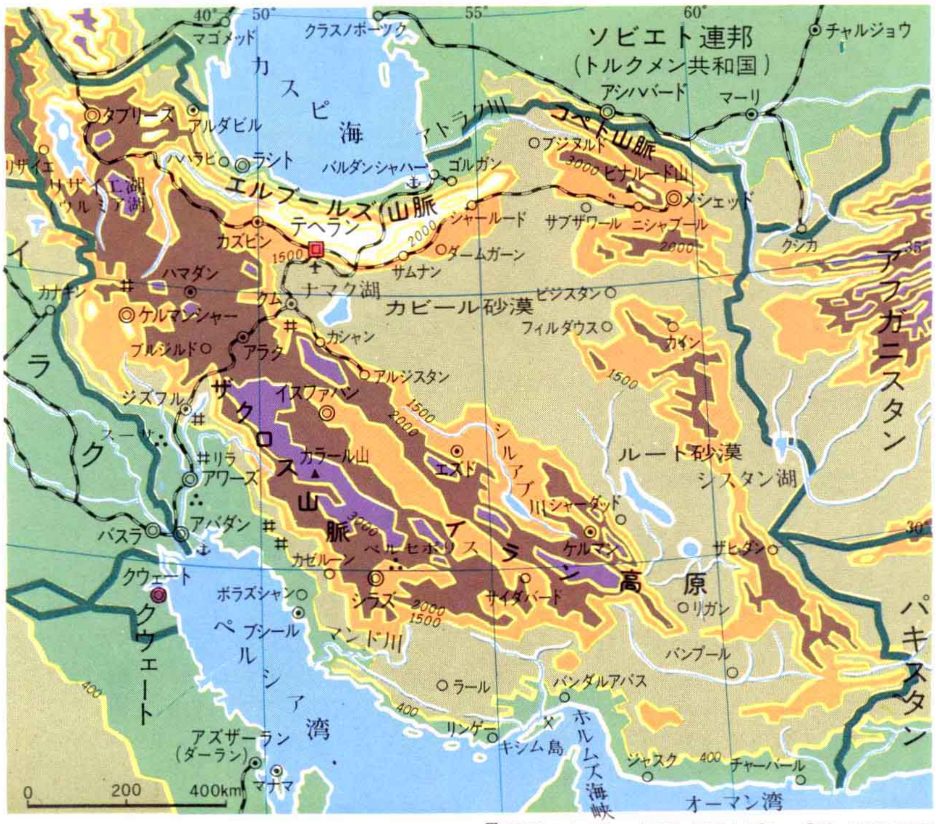
イラワジ(川)［Irrawaddy］ ビルマ中央部を南北に貫流しベンガル湾に注ぐ川。全長2,000km，流域面積43万km²。中国との国境付近に源を発し，チンドウィン川となってパトカイ山脈東麓(とうろく)に沿って流れ，中流域のチュウク付近で支流を合流してイラワジ川となる。首都ラングーン付近で川はいくつにも分流し，広大なデルタを形成する。デルタは非常に低平で，雨量が多く，世界的な米産地となっている。ラングーンから1,400km上流のバーモまで小汽船が航行でき，米のほか，チーク材や石油を搬出している。〔梶川勇作〕

イラン(王国)［Kingdom of Iran, Késhvaré Shahanshahiyé Iran］ アジア西南部のイラン高原*を中心とする王国。旧名ペルシア。北はカスピ海，南はアラビア海，西はペルシア湾に面してトルコ・イラクと隣接し，東はトルクメン共和国・アフガニスタン・パキスタンに接している。1979年，イスラム共和国に移行。面積164万8,000km²，人口3,551万(1978年推)。首都テヘラン。

【自然・住民】中央部は1,000～1,700mのイラン高原であり，北はエルブールズ，東はフラサーン，西はザグロスの各山脈によってほぼ三角形に囲まれている。高原のところどころに低地帯があるが，それらの多くは太古の出口のない湖の跡で，塩分を含み不毛の地である。また，東部にはルート砂漠(さばく)・カビール砂漠があって，これら砂漠の占める面積も大きい。温帯に属するが，中央部の高原，東部の砂漠は乾燥して寒暑の差が激しく，夏季の気温54℃という記録がある反面，冬は－28℃にも下がる大陸的な気候である。ペルシア湾・アラビア海沿岸は，熱帯性気候で農耕には適さないが，北部のカスピ海沿岸は年平均750mmの雨に恵まれ，肥沃(ひよく)な農耕地帯となっている。住民の4分の3はアーリア系のイラン人で，ほかにアゼルバイジャン人・クルド人・アルメニア人などがいる。アラブの支配下にあったことから，イスラム文化が伝わり，国語であるペルシア語もアラビア文字と多数のアラビア語によってなっている。住民の98％はイスラム教徒で，シーア派に属している。

【産業・経済】全人口の70％が農業に従事しているが，農耕地は国土の10％に満たない。小麦・米が主産物で，ほかに同国の農業部門輸出の首位を占める綿花を栽培している。しかしこの国の産業の中心は石油で，1963年の原油産出量は7,000万tに達して，外貨収入の3分の2を占めている。石油操業は，イギリス・アメリカ・フランス・オランダの八大石油会社が国際企業体を組織して行ない，純益は政府と折半する。伝統的なペルシア織の絨毯(じゅうたん)のほか，綿製品・セメント・ガラスなどの工業が興っているが，近代的な大工場は少ない。重工業は皆無であったが，現在ソ連の援助による年産60万tの製鉄所の建設が進められている。鉄道は総延長3,500km，自動車道路は3,000kmができているが，国土の広大なことからみて，まだまだ未発達といえる。テヘランは国際航空の重要な中継地である。

【歴史・政治】紀元前6世紀にメジア人を倒してアケメネス朝ペルシア帝国を建てたが，BC331年アレクサンドロス大王*の東征を受けて滅びた。次いで3世紀にはササン朝ペルシア帝国を再興したが，7世紀中ごろに滅亡した。その後，アラブ・トルコなどに侵略され，16世紀になって独立国家の地位を回復したが，第1次世界大戦後までは実質上イギリスの勢力下にあった。1925年，パーレビ*が王位につき，遅れた生活



イ ラ ン

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田



イランの国旗　1979年3月に回教共和制が確定し，国民投票の結果新憲法が承認された。それに基づき国旗も，中央白帯に描かれていたライオンと太陽の図柄が除かれ新しいものになった

様式を改善し，1935年，国号をイランと改めた。1951年，国会は石油の国有化を可決し，急進派のモサデック内閣がそれを実行に移したが，イギリス・アメリカ合衆国の経済圧迫により失敗した。1954年，政策の妥協によりアングロ-イラニアン石油の利権権益を国際企業体に移した。1963年ごろから農地改革・婦人参政権・国有工場払い下げなどの政策が進められるとともに，内政は安定し，経済も成長を続けている。憲法は1960年に制定された。政体は立憲君主制で，国王は憲法の執行権をもっているが，立法権は国会にある。議会は上院・下院の二院制。1980年，イラク軍がテヘランへ空爆を加えたのをきっかけに，イラクとの全面戦争に突入した。➔ペルシア帝国 ➔アケメネス朝　➔ササン朝〔今井留吉〕

イラン(高原)　[Iran]　イランの東半を占める高原。面積は260万km^2に及び，高度は約1,000～1,500 mである。北はエルブールズ山脈，南はザグロス山脈に限られ，乾燥した大陸性気候に支配される。雨量は年300 mm以下で，カビール・ルートなどの砂漠(さばく)が広がり，塩湖やワジがいたるところにみられる。遊牧民が牧畜を営むほか，大部分が未開発の状態にあり，農耕は高山の雪解け水の利用できるわずかな地域にみられるにすぎない。〔大石堪山〕

イランイラン　[ilang-ilang]　双子葉植物・バンレイシ科。フィリピン原産の熱帯性常緑高木で高さ10 mに達す。幹や枝はなめらかで，葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，互生する。黄緑色のかおりのよい花をつける。この花から高級香水用のイランイラン油をとる。

イランおんがく　【イラン音楽】　⇨ペルシア音楽

イランド　[eland]　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。大形のアンチロープ*で，エランド・オオカモシカともいう。肩高1.7 mほどで，角は雌雄ともにあり，長さ88cmに達する。のどにはウシにみられるような肉だれがあり，尾は長く先端に毛総がある。南アフリカや東アフリカのサバンナによくみられ，50～100頭の大群ですむ。体の重いわりに軽快で，よく跳躍する。性質は温和でよくなれる。近似種にアンチロープ中最大のジャイアントイランドがある。

イリ　[IRI]　Istituto per la Ricostruzione Industrialeの略称。産業復興公社。ムッソリーニ政府が1933年金融危機に際して，諸銀行の保有する持ち株を国家が肩代わりすることによって発足させた投融資機関。はじめは世界恐慌*のあおりで倒産した企業の救済や生産会社の株式買い取りなどをしていたが，しだいに国家持ち株会社としての性格を強めた。現在は傘下に持ち株会社*およびその傘下企業をもち，航空・放送・道路建設・海運・鉄鋼・造船・機械など基幹産業に進出。それぞれの企業が民間企業と同じく自主的な経営活動をしている。国家資本参加企業としてENI*(炭化水素公社)などと同じ性格をもつ。いちおう，国家持株省の下にあるが，その干渉はあまり強くない。〔氏家　尚〕

いりあい　【入会】　一定地域(一部落または数部落)の住民が一定の山林原野(入会地)に立ち入り，共同して使用収益することで，古くから慣行として行なわれてきた。使用収益の内容は，肥料用の落葉・草，飼料用の草，自家用建築材，屋根用のカヤ，燃料用の落枝・薪炭原木およびきのこ類の採取であり，ときとして放牧も行なわれる。入会において管理処分の権能は部落(共同体)に帰属し，使用収益の権能は部落の個々の構成員に帰属すると考えられる。したがって部落の規制のもとで個々の構成員が使用収益をすることになる。入会の原基的形態としては，部落から他へ移住する場合は部落の構成員でなくなるので，当然使用収益の権利を失うし，また使用収益の権利は各構成員とも平等であり，かつその質入れ・譲渡は禁止されている。しかし，新規に構成員となる分家または他からの移住者に対しては制約のある場合が少なくない。社会経済の進展とともに入会の原基的形態はしだいにくずれつつあり，使用収益の権利の売買なども行なわれてきている例も少なくない。入会権*については民法で規定する物権ではあるが，近代的個人主義的権利ではなく慣習により成立し，かつ効力を有する権利であるところに特徴がある。

封建経済のもとで自給的農業と関連して自給的天然物採取を軸として形成されてきた入会は，農山村の商品経済の浸透ととも



イ ラ ン ド

にその存在意義を後退させてきている。明治以降，国有林形成時における国有林内の入会権の収奪，公有林野整理統一事業を通じての入会権の整理，あるいは入会地の売買などによって，入会地は減少の一途をたどってきている。現在，入会地およびこれに準ずるものが合わせて約160万ヘクタール存在するといわれているが，林野利用の高度化を図るための措置が進められている。また入会は漁業・狩猟・温泉などについても村落共同体の慣習によって一定地域を一定の部落集団が利用する場合にも考えられる。〔野々村豊〕

いりあいけん【入会権】 元来は一定地域の住民が，一定条件(彼らの合意した明文もしくは暗黙の規約)のもとに，山林原野に立ち入って，木材・薪炭(しんたん)・まぐさなどを採取する権利をいい，農山漁村の住民にとっては，いまなお生活上重要な権利である。しかし，経済社会の変遷に伴い，入会の方法や形態が多様化し，権利関係も複雑化してきたため，現在では必ずしも従来のように天然の毛上(けじょう)を共同で採取する場合に限らない。入会集団で直轄して造林する場合もあるし，また地方公共団体や公団または公社に造林を委託して分収する場合もある。さらに，入会地を分割して入会権者が各自に一定区域を占有して利用することを認めたり，入会地を貸与して貸料を集団に帰属させる場合などもある。しかし，近時は入会慣習が弛緩(しかん)したり，登記名義人と入会権者とが異なったりしているために紛争の生ずることも多い。また，国有地や公有地については特に入会権者と公権力との間に入会権の存否をめぐる見解の対立することなどもあって訴訟も少なくない。

そこで，1966年(昭和41)には〈入会林野等に係(かかわ)る権利関係の近代化の助長に関する法律〉が定められ，入会林野の農林業上の利用を増進するために，これらの土地に関する入会権を所有権や地上権・賃借権などの近代的権利に転化することを図っている。民法は入会権についてはわずか2か条(民法263・294条)の規定しか設けておらず，共有の性質を有する入会権と共有の性質を有しない入会権とに分けているのみである。前者は入会権者が集団として入会地を地盤・毛上ともに共有(総有)している場合であり，地盤所有権が入会集団以外の者にあり，その利用権のみが共同体的集団に帰属する場合が後者である。そのいずれも民法は各地方の慣習に従うとしている。入会権の得喪は，その部落に居住する住民に限られ，かつ慣習上の規約によって定められるが，一般には離村失権の慣習があり，収益の使途も入会権者に配当される場合もあり，また，部落の共益費になる場合もある。入会権の法律的性質は入会集団の総有にあり，共同所有のうち最も団体的色彩の強いものである。したがって，入会権は一戸一権の原則をとるから相続の対象にはならない。しかし，集団のメンバーには持ち分があり，慣習によっては譲渡を認める場合もある。また，入会権は物権ではあるが登記することができないため，入会権の行使によって第三者に対抗することができる。入会権の消滅は全員の合意を必要とするほかは，単に不行使の継続のみをもって放棄したとはいえない。〔黒木三郎〕



イリアス　傷ついた親友パトロクロスの手当てをするアキレウス

イリアス［Ilias］ 古代ギリシアの詩人ホメロスの作とされる英雄叙事詩。24巻。題名は〈イリオン(トロヤ)の歌〉の意。紀元前8世紀末の作品とされ，紀元前12世紀ごろのトロヤ戦争に取材している。スパルタの王妃ヘレネがトロヤの王子パリスに連れ去られたので，その奪回のためヘレネの夫メネラオスの兄で，ミケーネの王アガメムノンが総帥となって，ギリシア方の軍を糾合し，トロヤの城を攻めようと船出する。この遠征隊に名だたる英雄諸侯がはせ参じる。ネストル・アイアス・ディオメデス・オデュッセウス，ひときわ武勇のほまれ高いアキレウスなどである。このアキレウスが英雄の誇りを傷つけられて怒り，戦列から身を退くところから，《イリアス》は始まる。

ギリシア軍はトロヤ軍と互角に戦っていたが，しだいに押されはじめる。アガメムノンはアキレウスを戦列に復帰させるため，和解を申し出るが拒絶される。トロヤ軍に攻撃をかけられ，ギリシア軍はついに船隊のかたわらまで追いつめられる。英雄たちもほとんどみな手傷を負う。アキレウスの親友パトロクロスは見かねてアキレウスの武具を借りて出陣するが，トロヤ第一の武将ヘクトルに殺される。アキレウスは親友の死を深く悲しみ，みずからの死を決意して出陣し，ヘクトルを討ち取り死体を引き回す。ヘクトルの老父王プリアモスの懇請に応じ，ヘクトルの死体を父の手に返す。そして，敵味方おのおのの葬儀がしめやかに行なわれて詩は終わる。この作品は怒りをテーマにして人間の価値を創造し，後代の叙事詩の指針となった。〔久保正彰〕

いりおもてじま【西表島】 沖縄の八重山諸島中最大の島で，面積292km²，人口3,494。山がちで，谷が深く，島の97％は，亜熱帯樹の密林におおわれている。かつてマラリアがはびこり，開発が遅れ，ほかの島からの強制植民によってつくられた村落も，多くは絶滅してしまった。第2次世界大戦後は，アメリカ軍の指導によってマラリアが撲滅され，開発が進み人口も増加しつつある。海岸段丘にある耕地ではおもに米作のほか，サトウキビ・パイナップルがつくられている。東海岸に古見，西海岸に祖納(そない)などの部落があり，西海岸の舟浮は，自然の良港である。東方にある竹富島や南方の波照間島をはじめ，12の小島を加えて竹富町を形成し，町役場はもとは竹富島にあったが，現在は石垣(いしがき)市内に移っている。動物小説作家戸川幸夫(ゆきお)によって，最近西表島で発見されたイリオモテヤマネコは，1967年(昭和42)に新属新種として認められたが，哺乳(ほにゅう)動物の新種の発見はきわめて珍しいことである。〔浅井得一〕

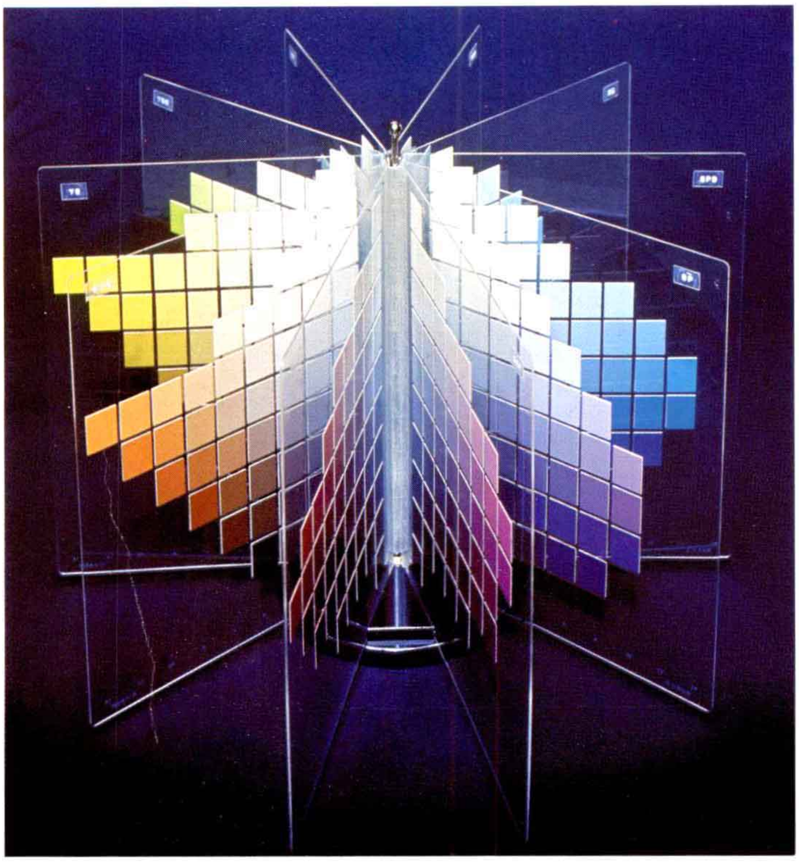
いりこ【海参】 ナマコの内臓を除き，適度に煮たのち乾燥したもの。栄養価値が陸のニンジン(人参)に劣らぬとの意からこの名がある。昔から薬として珍重されていたことは，《食物和歌本草》などに明らかである。製品にとげのあるものを刺参，とげのないものを無刺参(光参)という。刺参には黒色と白色の2種がある。本州・北海道では，ナマコ・クロホシナマコ・クロナマコなどを原料として刺参をつくり，南九州・沖縄では，キンコを用いて無刺参をつくる。中国料理の材料。〔佐藤友太郎〕

イリジウム［iridium］ 周期律表第Ⅷ族に属する元素。記号Ir，原子番号77，原子量192.2。比重22.4，融点2,450℃。白金の同族元素である。かたく化学的に安定である。このためオスミウムとの合金は万年筆のペン先などに，白金との合金は理化学器具・医療用器具に用いられる。度量衡の国際原器は白金90％・イリジウム10％の合金である。

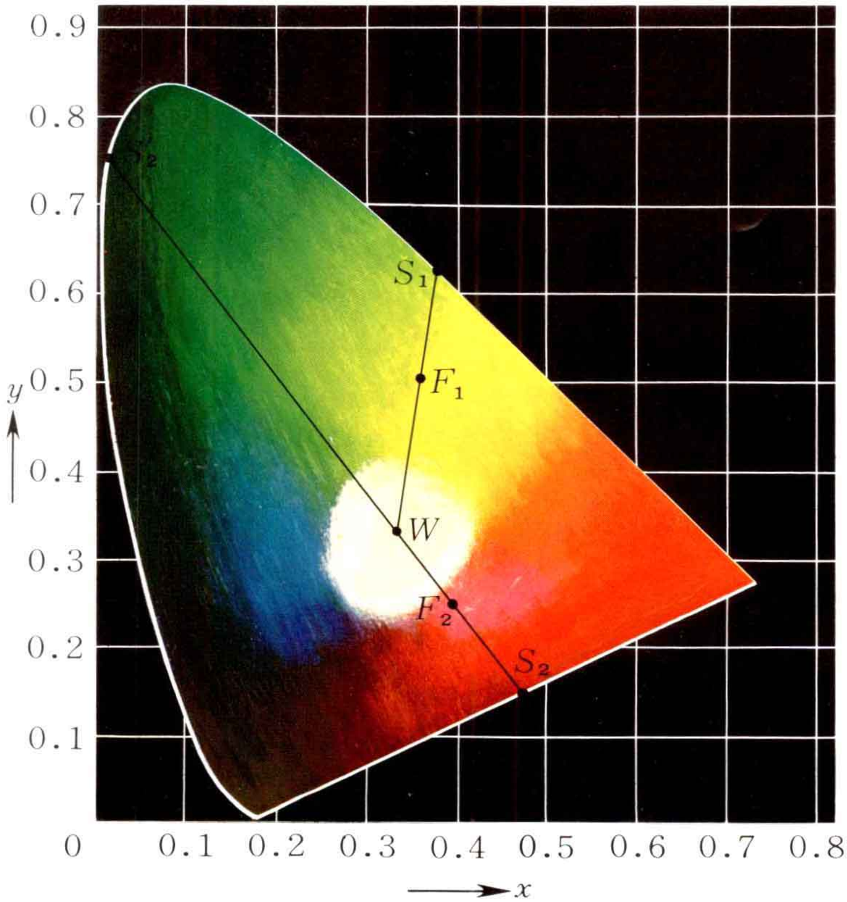
イリじょうやく【イリ条約】 正式にはサンクト-ペテルブルク条約。1881年に新疆(しんきょう)イリ地方をめぐるロシアと清(しん)との国境問題を解決した条約。1864年ごろ中国新疆地方にイスラム教徒の反乱が起こったが，清朝は太平天国の乱のため余力がなく，反乱軍はイリ地方を攻略する形勢にあった。このような情勢に乗じて，1871年ロシアはイリを占領した。その後，イギリス・フランスの仲介により清朝とロシアはいわゆるイリ条約を結んで国境問題は一応解決した。これにより，清朝はイリの一部を失ったうえに賠償金を課せられ，ロシアは逆に新疆に勢力を伸ばした。〔山県弘志〕

イリス［Iris］ ギリシア神話のにじの女神。タウマスを父，オケアノスの娘エレ

色

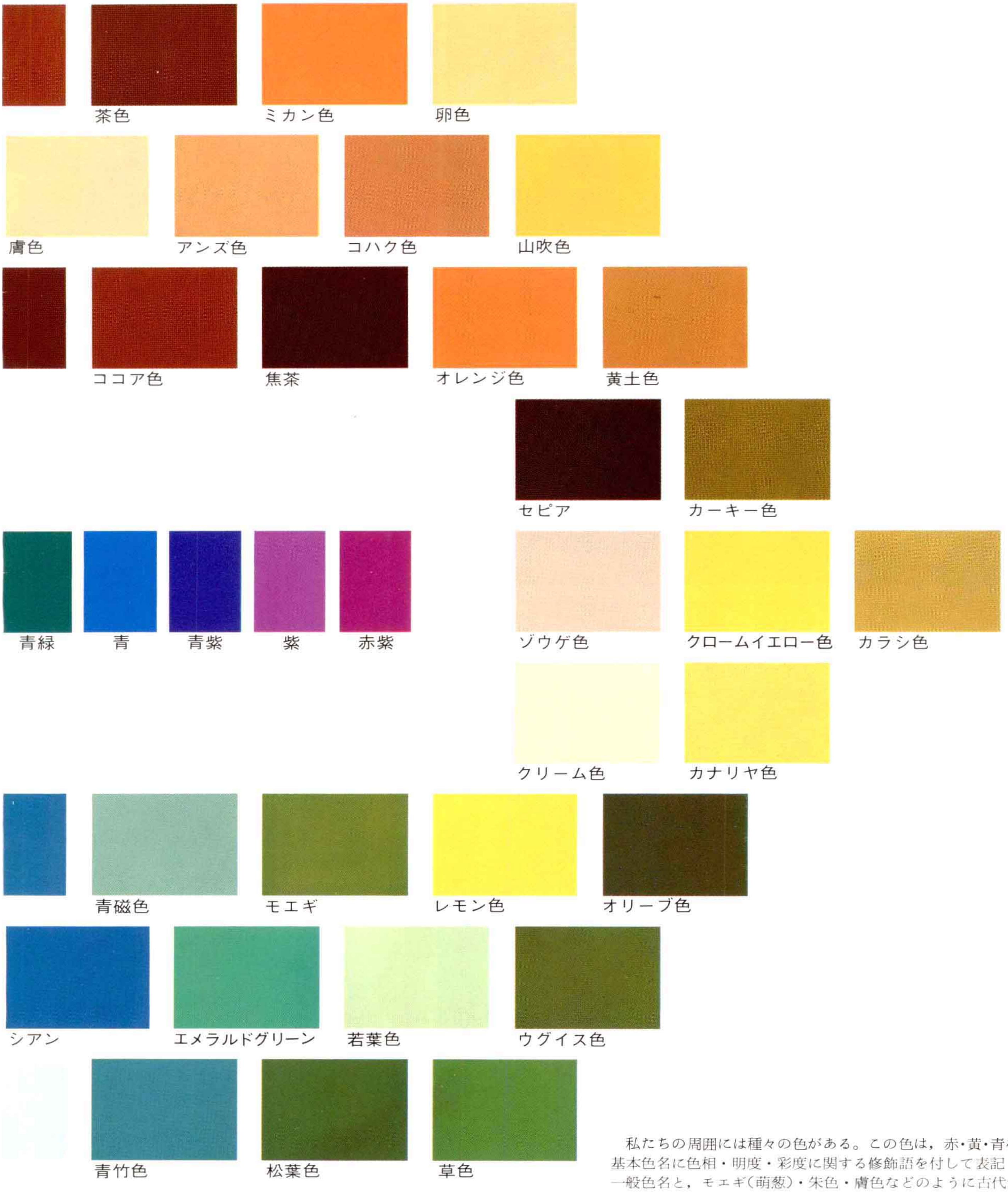


色 立 体　ある色相をとり，明度を縦軸，彩度を横軸方向にとれば，その色相に含まれる色はすべて直角座標内にあり，彩度０の縦軸は白－灰－黒の無彩色となる。そこで色相を色相環にしたがって配列し，無彩色の白黒軸を共通軸として組み立てると一つの立体ができあがる。これを色立体という。つまり色感覚の三属性を三次元的に組み合わせるもので，多くの学者がそれぞれの考えのもとに各種の色立体を発表している。マンセル（アメリカ）の発表した色立体は有名で，色相（Ｈ）には赤（Ｒ）・黄（Ｙ）・緑（Ｇ）・青（Ｂ）・紫（Ｐ）の基本色とそれらの中間色（ＹＲ，GY，BG，PB，RP）をとり，さらにそれぞれ十分割して100色相とし，明度（Ｖ）は10段階，彩度（Ｃ）を等感覚に広げたものである。彩度は色相および明度段階で異なるので一様でなく，あたかも１本の樹木のように見えるものでカラーツリーとよばれる。日本色彩研究所のものはマンセルの構造によく似ているが色相は24色である

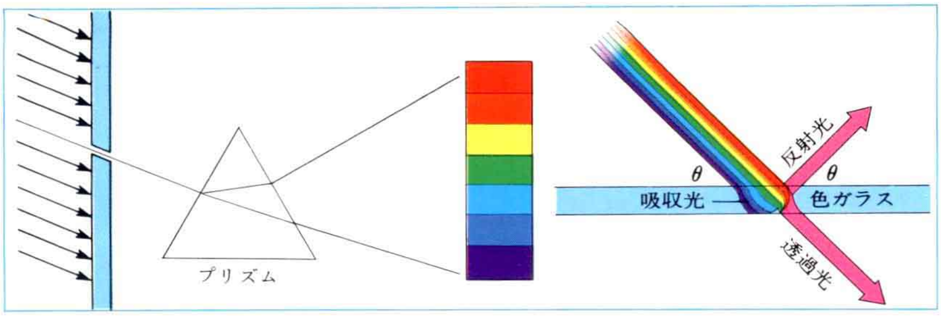


色 度 図　色を表示するとき，その色に等色するために必要な３種類の原刺激の量（XYZ）で表示する方法がある（XYZ系）。この３刺激値のおのおのとその和の比を色度座標（xyz）といい，色をYxyで表示することもできる。xyはYが目で見た場合の明るさに合わせてあるので切り離して直角座標上に図示し，これを色度図という。すべての色の色度は図の馬蹄形の中に納まり，曲線部は鮮明なスペクトルの色で印刷では出せないが，右下から上の方へ赤➔黄➔緑，それより下へ青➔紫と色相環の順に変化する。これをスペクトル軌跡とよび，下の直線部はスペクトルにない紫や赤紫の部分で純紫軌跡という。周辺より中央に向かってあざやかさを失い，中央は白（W），灰色または黒（Ｂ）の無彩色になる。色度図より別の色の表示方法が考えられる。すなわち白色の色度座標Ｗとある色の点F_1を結び，延長してスペクトル軌跡との交点S_1のスペクトル波長をF_1色の主波長（λ_d）とし，F_1ＷとS_1Ｗとの比の百分率を刺激純度（P_e）と名づけて，主波長と刺激純度で表示する。交点が純紫軌跡上にくるF_2の場合は，逆に延長したS_2'の波長を補色主波長（λ_c）とよび同様に表わせばよい

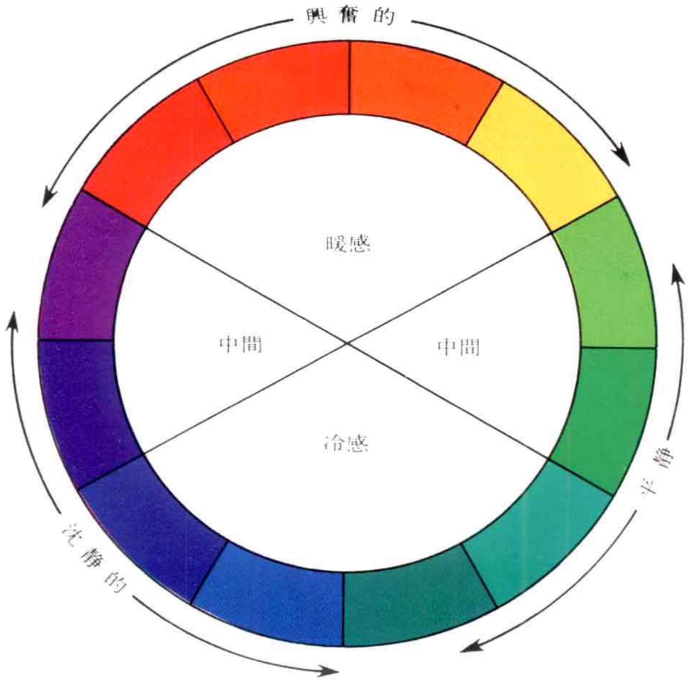

慣用色名
一般色名
〈有彩色の基本色名〉
慣用色名
アカネ色
スカーレット
赤サビ色
クリ色
紅色
朱色
トビ色
チョコレート色
桃色
紅梅色
エンジ色
アズキ色
サビ色
ピンク
サンゴ色
ネズミ色
銀ネズ
ローズピンク
赤
黄赤
黄
黄緑
緑
桜色
トキ色
ボタン色
フジ色
紺
空色
アサギ
柴紺
スミレ色
コバルトブルー
アイ色
ナス紺
群ジョウ色
紺ジョウ色
水色

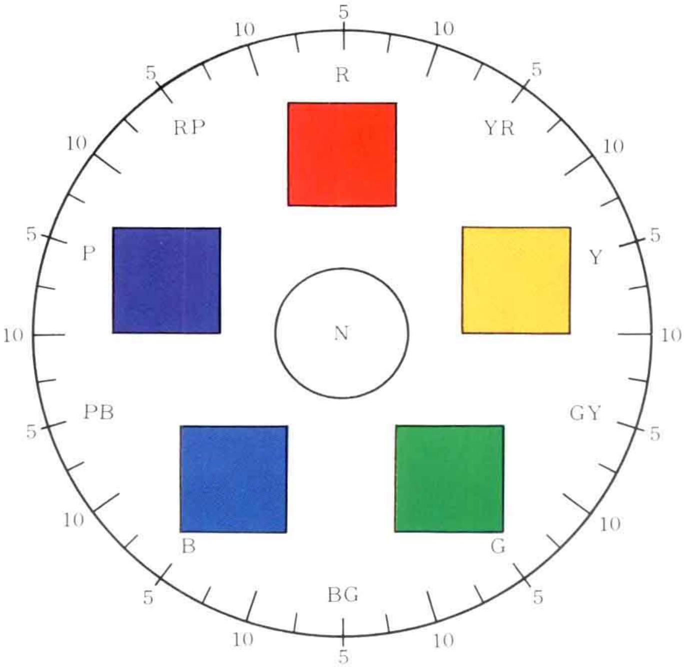


私たちの周囲には種々の色がある。この色は，赤・黄・青などの基本色名に色相・明度・彩度に関する修飾語を付して表記される一般色名と，モエギ(萌葱)・朱色・膚色などのように古代から人人に習慣的に用いられてきた慣用色名によって表示されている。ここには，日本工業規格(JIS)に規定されている慣用色名のうち，特に一般に普及している62種(金色・銀色を除く)と，一般色名のうちの有彩色の基本色名10種をあげた。なお，このほかに，一般色名に関しては無彩色の基本色名が定められている。



スペクトル　1666年ニュートンはスリットから漏れる太陽光(白色光)がプリズムを通すことにより赤・橙・黄・緑・青・藍・菫の色帯に分かれることを実験した。今日では光が電磁波であり，波長によって屈折の度合いが異なりこのように順序よく並ぶこと，波長成分に分解したものをスペクトルとよび波長により特有の色を出すこと，その数も130種ほどあり，紫と赤紫が欠けていることなどがわかっている

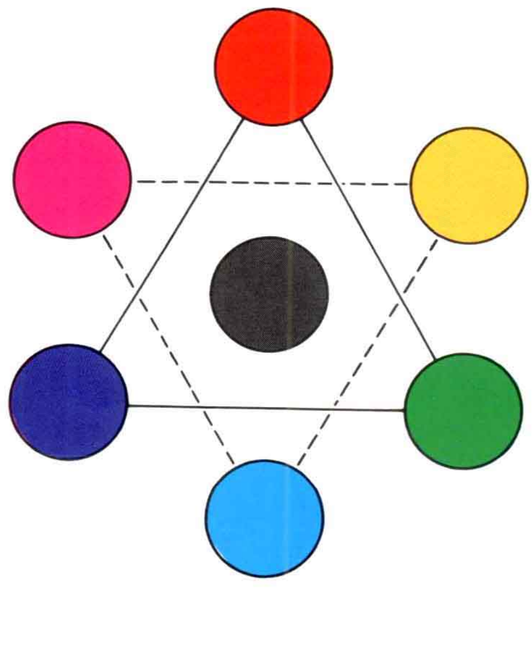




色の働き　色を見たときその色によって心理的にいろいろな影響を受けるもので，暖・寒，軽・重，硬・軟，強・弱，遠・近，膨張・収縮，陽気・陰気，興奮・沈静などの感情的なものと好みや調和の美的な効果に分けられよう。これらは色そのものの色相・明度・彩度にもよるが，その色の占める面積や存在する場所のふんい気にも影響を受けやすい。このような色の働きを効果的に用いたり安全化をはかることが色彩調節である

色相環　色の三属性のうち，色相(色あい)には循環移行性がある。すなわち多くの色相をとり近いものの順に一定方向に並べてゆくと反対方向から出発点へもどって形は円になる。これを色相環とよび，色相の基本色の選び方により多くの色相環が発表されている。ここに掲げたのはマンセルの色相環で主色は赤(R)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・紫(P)とその中間色の10種を主要色相とし，各色相をさらに十分割している

混　色　二つの色光を混ぜるとまったく別の色ができて明るくなる。このような混色を加法混色といい，三原色として赤・緑・青紫をとり適当に混色すると白色になる。これに反し，絵の具や印刷インキなどの三原色はマゼンタ(赤紫)・黄・シアン(青緑)で混合すると黒になる。混合して暗くなる混色を減法混色という。図は両者の三原色の関係を示したもので，一方の２色を混合するとその間にある他方の１色ができる



色　　名	波長範囲 (μm)
青紫	380～450
青	450～490
緑	490～560
黄	560～590
橙	590～630
赤	630～700
深赤	700～780

クトラを母とする。ハルピュイアイとは姉妹である。翼をもち，神々，特にヘラ*の使者である。西風の神ゼピュロスの妻であったともされる。

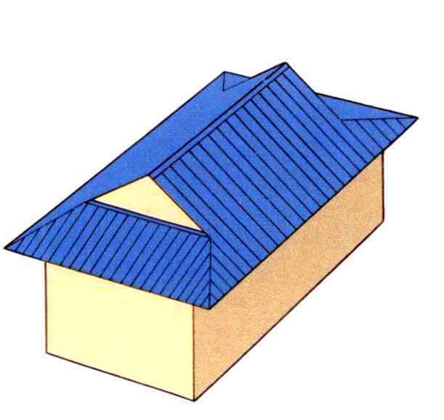
いりどうふ【煎り豆腐】 豆腐のいため煮料理。豆腐をゆでて水を切っておき，千切りのシイタケ・ニンジンを煮出しじるで煮てしょうゆ・砂糖で味をつけ，煮つめてから豆腐を入れ，はし3～4本でかき混ぜながらばらばらにいり，おろしぎわに卵を割り入れる。また，油を敷いたなべに鶏のひき肉を入れて強火でいり，みりん・しょうゆを加えてよくいり，ゆでて水を切った豆腐を細かくほぐして入れ，しょうゆ・砂糖少々加えて味をつける方法もある。〔塩川ふみ〕

イリドスミン［iridosmine］ いずれも白金の同族元素であるイリジウム*とオスミウム*の合金鉱物。オスミリジウムともいう。三方晶系。比重19.3～21.12，硬度6～7。金属光沢を有し，スズ白色ないし淡鋼灰色。わが国では北海道の雨龍(うりゅう)川の流域，世界ではソ連のウラル地方，アメリカのカリフォルニア州・オレゴン州，イギリス領コロンビア，ニュージーランドなどに産する。非常にかたいので，摩耗(まもう)を防ぐために万年筆のペンの先端につけて使用する。〔河原　昭〕

イリニウム ⇨プロメチウム

イリノイ(州)［Illinois］ アメリカ合衆国中北部の州。面積14万5,000km²。人口1,097万8,000(1970)。州都スプリングフィールド。1818年に合衆国第21番めの州となる。州名はアルゴンキア-インディアン語で〈男〉あるいは〈戦士〉を意味するIlliniに由来する。地域の大部分がプレーリー*のコーンベルト*に含まれ，大規模な炭田・油田も多い。ブタの頭数はアイオワ州に次いで全国第2位，穀物生産は全国第2位。また，食肉加工・製鉄・製油・農業機械などの工業が盛んで，全州中でも，農業・工業生産ともに多い州である。主要都市はシカゴ・ペオリア・ロックフォード・ピオリア・スプリングフィールド。〔相村大彬〕

いりのよしろう【入野義郎】(1921～) 作曲家。1943年(昭和18)，東京大学経済学部を卒業。在学中，1942年から1943年にかけて，諸井三郎(もろいさぶろう)のもとで和声学・対位法・楽式などを学ぶ。1946年2月，柴田南雄(しばたみなお)らと作曲家グループ〈新声会〉を結成し，第1回の演奏会で作品1の《チェロソナタ》を発表して作曲家の道を歩きはじめた。1948年第17回音楽コンクールに作品4の《ピアノ三重奏曲》で入賞し，以後数々の音楽賞を受賞している。初期には後期ロマン派ふうの作風をとっていたが，シェーンベルク*の12音技法を知り，1951年の《七つの楽器のための室内協奏曲》によって，日本における最初の12音主義の作曲家となり，以後作品と評論を通して，この技法を日本に定着させた。主要作品に《小管弦楽のためのシンフォニエッタ》《合奏協奏曲》《バイオリンとチェロのための音楽》《交響曲》《交響曲第2番》やオペラ《綾(あや)の鼓》などがある。〔船山　隆〕



入母屋造り

イリマニ(山)［Illimani］ ボリビア西部，アンデス山脈中の高山。北峰(6,480 m)と南峰(6,450 m)の2峰よりなる。首都ラパスの南東方にあたり，雪と氷河におおわれた風景を求めて観光客が多い。南峰は1898年に初登頂されたが，北峰の登頂は1950年にドイツのH.エルトルによって果たされた。

いりもやづくり【入母屋造り】 屋根の一形式。切り妻と寄せ棟(むね)が合成されたものとみられ，切り妻屋根の妻部分の下方に勾配(こうばい)屋根を付したもの。切り妻になっている部分を入母屋破風(はふ)といい，破風が強調されるので別名破風造りともいう。この形式は玉虫厨子*(たまむしのずし)にみられるばかりでなく，飛鳥(あすか)時代の寺院建築にも用いられている。現代ではかやぶき屋根に多く用いられ，寺院・城郭建築では古くからの形式として踏襲され，かわらぶき屋根にあっては高級な工事に採用されている。〔神山幸弘〕

いりゅうぎり【移流霧】 水蒸気を含んだ空気が冷たい地面または海面上を流れるときに，下方から冷やされて水蒸気が凝結してできる霧。夏季，海面上にできるものに多い。

いりゅうぶん【遺留分】 一定の相続人に対して，法律上必ず残しておかなければならない相続財産の一定割合をいう。遺言自由の原則は，遺言によって自分の財産を自由に処分しうるという原則として認められてきた。けれども，それがために，死者の財産に依存してきた配偶者・子・父母などの生活が困難になることは避けなければならない。そこで，遺留分を侵害する贈与*および遺贈*があるときには，遺留分権利者にその範囲内で減殺(げんさい)(相続財産に対する受贈請求権の拒否およびすでに給付した財産の返還を求めること)することを認めたのである(民法1031条)。遺留分算定の基礎となる財産は，相続開始のときの被相続人の財産額に生前贈与(相続開始前1年間のもの，およびそれ以前でも当事者双方が遺留分を害することを知りながらしたもの)の財産額を加え，それから債務を差し引いたものである(民法1029条)。遺留分の権利者およびその割合は，直系卑属のみまたは直系卑属と配偶者が相続人であるときは相続財産の2分の1，その他の場合は3分の1であるが，兄弟姉妹には遺留分は存しない。したがって相続人が兄弟姉妹のみの場合は，全財産の遺贈もできる(民法1028条)。遺留分権利者相互間では，その相続分の割合に応じて遺留分が算定されることになる(民法1044条)。なお，遺留分権利者は，相続開始前に遺留分を放棄する場合は家庭裁判所の許可を受けなければならない(民法1043条)。相続開始後の放棄は自由である。〔黒木三郎〕

イリュージョン ⇨錯覚

イリュミナシオン ランボー*の散文詩集(1875？)。詩人の非情な目に映った外部世界が，鋭い言語感覚により，変幻多彩な形象として重層的に定着されていて，その鮮烈さは類例がない。発表年代が不詳で，論議をよび起こしたが，筆跡鑑定による証明もあって，《地獄の季節*》以後の作とみられている。

いりょうきんゆうこうこ【医療金融公庫】 1960年(昭和35)に医療金融公庫法に基づいて設立された金融機関。私立の病院・診療所・薬局・助産所などを開設・改良するために個人および法人が必要とする資金で，一般の金融機関から調達することが困難なものを長期低利に融資する。資金源は政府の出資金および借入金である。

いりょうしょうねんいん【医療少年院】 家庭裁判所から保護処分として送られる少年のうち，心身の著しい故障のある14歳以上26歳未満の者を収容する国立の施設。養護学校*その他の特殊教育を行なう学校と同じような教科を教え，疾患に対する矯正(きょうせい)教育を行なっている。

いりょうせいど【医療制度】 ⇨次ページ

いりょうほけん【医療保険】 社会保険*のうち，傷病を保険事故とし，傷病による賃金の喪失に対しての傷病手当金ないし休業手当金を支給し，傷病そのものの治療に対しての医療ないし医療費を支給する保険をいう。わが国では，健康保険*・日雇労働者健康保険*・船員保険*および国家公務員共済組合その他各種共済組合の傷病給付部門，国民健康保険*がこれに属する。傷病手当金ないし休業手当金を支給するのが疾病(しっぺい)保険*であり，医療ないし医療費を支給するのが健康保険*とそれぞれよばれるが，これらを総称し，ときとしては後者を強調する意味で，最近では医療保険とするようになった。医療が単に傷病の治癒(ちゆ)にとどまらず，その概念を拡大し，予防や予後の医療をも含むことによって，医療保険の範囲と機能も著しく拡大してきた。それにつ

→426ページ

医療制度

医療制度とは，医療を提供する側(医療従業者・医療施設)の活動に対する社会的な規範様式である。この制度は，その時代，その社会における医学・医療技術を背景とし，社会の医療に対する欲求を満たすことを目的として，医療を提供する側を規制し，さらに医療を確保するためにつくられる。このため国の政策との関連で改変される。

それなら，わが国の医療制度は現在どのような状況のもとにあるのだろうか。

〔医療従業者〕現在の医療従事者の職種はきわめて多様である。身分に関する法律を有するものに医師・歯科医師・看護婦(士)・歯科技工士・診療放射線技師・薬剤師などがあるが，まだ法律を有していない臨床心理指導員・医療ケースワーカーなど，多くの専門技術者も実際の業務についている。

これら専門技術者の業務は，もと医師の業務の一部，または補助的業務であったものが発達分化したもので，現在は医師・歯科医師の指導のもとに業務を行なうと規定されているが，医療がますます科学的水準を高めていくにつれて，これらの専門技術者は互いに責任と権限を明確にしつつ協力して，医師をもその一員とする医療チームをつくっていく必要があるのではなかろうか。

医療関係者数を表-1に示すが，その他にも多くの専門職が従事している。表-2にみられるように，医師1人あたりの患者数は，近年ほぼ同じであるが，図に示すように，医師の分布に隔たりがある。現在1県1医科大学が完成し，医師数は増加傾向にある。

〔医療施設〕医療施設には病院*・診療所*・助産所・薬局などがあり，それぞれ構造設備・物品管理などが法規によって定められている。しかし，医療の概念の拡大とともに，健康増進・疾病(しっぺい)予防のための保健衛生施設，社会復帰のためのリハビリテーション施設などの中間施設，衛生検査所・歯科技工所などの間接施設も含めなければなるまい。現在，医療施設の計画的整備とくに休日夜間診療，救急医療体制が整備されてきている。しかし，個々の医療施設の連携を促進する制度が不十分であり，表-3に示すように，個人・医療法人の病院，病床が多く，医療計画の策定が困難である。

次ぎに医療制度の発展の経過を示す。

〔〈医制〉の公布〕今日の医療制度は，わが国が明治維新によって近代国家として出発するにあたり，従来の漢方(→東洋医学)を背景としたものから西洋医学を背景とする新制度として生まれ変わったところに始まる。1549年(天文18)ザビエル*の渡来を契機として導入された西洋医学は，1774年(安永3)《解体新書*》の刊行のころから技術的優位を明らかにしていったが，明治にはいってからは政府の西欧化政策の一環として1874年(明治7)今日の公衆衛生・医療・医学教育を含む総括的な衛生法典として〈医制〉が発布された。その内容は，衛生行政機構と西洋医学に基づく医学教育機構を確立し，その上に医師開業免許制度・医薬分業制度を確立したものであるが，その性格は法令というよりは衛生行政の方針を示した訓令であった。その後その内容は徐々に実施されていったが，本格的な医薬分業には今日に至るまで踏み切っていない。当初は漢方による開業医が大勢を占め，1874年の調査では西洋医は28,261人中5,247人(19%)にすぎなかった。西洋医養成のための医学校は急速につくられていったが，なお，医術開業試験の受験者の多くは系統的な医学教育を経ずに開業医のもとで勉学した者であった。このことは，単に技術水準の低劣ばかりでなく，医学・医療の分野で医師の経験による技能が特に尊重され，客観的法則性の適用という科学技術への発展が阻害されてきた一因となった。また，予防軽視・治療偏重・薬剤重視というわが国の医療の特殊性は，新しい医療制度が国民の健康の保持・増進に直接結びついてできたというよりも，むしろ西欧化のみを急いだために，江戸時代以前からの薬師(くすし)の伝統が生き残ったものであるということができよう。

〔医療と営利性〕〈医制〉の第2条には，その目的として，〈人民の健康を保護し，疾病を治療し，その学を興隆すること〉をあげているが，第41条には〈医師は自ら調剤することを禁じ，処方箋(しょほうせん)を交付し，相当の診察料を受くる〉，第48条には〈病家が診察料を送らないときは，医師の申し立てにより医務取り締まりおよび区戸長がこれを取り立てる〉と規定している。このことは，医療制度が営利主義を基調として組み立てられたことを示すということができる。政府は病院の設立にも意を用い，1877年にはほとんどの府県に近代的国公立病院がつくられ，その数は124を数えるに至った。これらの病院の多くは医学校を併置して医学教育を行なうとともに，慈恵的ではあったが施療をも行なった。しかし，これらの病院にはすぐれた医師が招聘(しょうへい)されたこともあって上層階級の患者が集中し，病院の目的の一つである施療はしだいに放棄されていった。一方，開業医も営利の立場から貧困者の医療を希望せず，国公立病院に対して施療機関への復帰を要求した。

しかし開業医は，漢方医の衰退や1906年の医師法の公布によって身分・地位が安定し，やがて黄金時代を招いた。その背景には資本主義の発達による経済の膨張や，交通の発達によって患者数が増加したこともあった。このような医療の商品化・営利化は，資本主義社会の落とし子である貧困者に対して医療を受ける機会を取り上げる結果となり，やがてこのような医療制度に対する批判が生じてきた。なお，医療の営利性・商品化には，一般商品における需要・供給の関係とは異なる以下のような特徴がある。①需要予知が不可能である。救急の場合が典型的であるが，疾病の発生は突発的で，しかも緊急性がある。②医療の適不適や良否の判断が需要者にはできない。必要とする医療の質・量の判断を行なうのは医師であって患者ではない。③医療の買い替えはできない。誤った医療を受けても，もとに復することは多くの場合不可能であり，またはきわめて困難である。そうして，明白な過失でなければそれに対しても対価を支払わなければならない。以上の特徴から，医師は，その企業体が小さくても，また数多く存在しても，独占または寡占(かせん)に近い状態で医療を提供することになる。

〔医療の社会化〕そもそも国立病院は貧困患者の施療事業を設立目的の一つとしていた。そして，いくつかの民間団体でも施療

表-1 医療関係者数 1979年末現在

	実数	人口10万あたり
医師	150,229	129.4
歯科医師	50,821	43.8
薬剤師	110,774	95.4
保健婦	17,583	15.1
助産婦	26,267	22.6
看護婦	458,362	394.7
歯科技工士	19,684	16.9
歯科衛生士	18,775	16.1
あん摩・マッサージ指圧師	80,123	69.0
はり師・きゅう師	91,157	78.5
柔道整復師	12,313	10.6

厚生省〈医師・歯科医師・薬剤師調査〉〈衛生行政業務報告〉

表-2 医師1人あたり患者数(1日間)

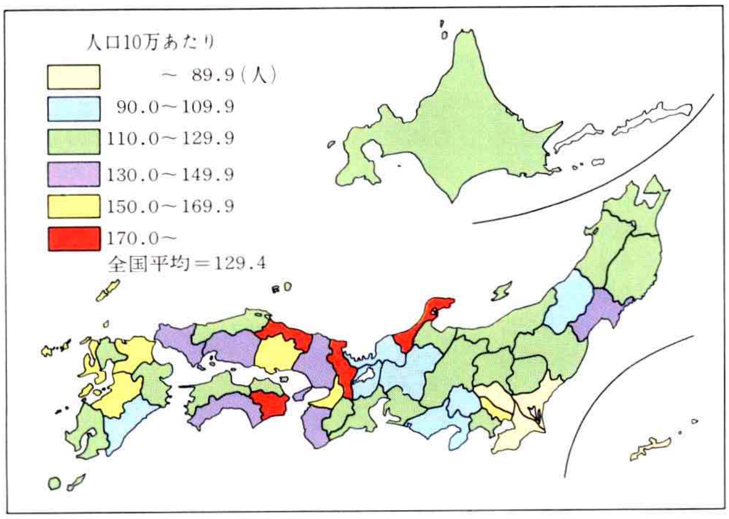
	一般病院	一般診療所
1955	18.3	24.3
1965	28.3	42.6
1975	18.3	59.6
1979	21.8	54.7

厚生省〈患者調査〉

表-3 開設者別病院数・病床数 1979年末現在

	病院数	病床数
国立	450	166,288
公的医療機関	1,366	311,055
社会保険関係団体	141	36,693
個人・医療法人	6,089	591,112
公益法人・その他	754	163,933
総数	8,800	1,269,081

厚生省〈医療施設調査〉



都道府県別医師数 1979年末現在厚生省 医師・歯科医師・薬剤師調査

事業が行なわれてはいたが，必ずしも十分に目的を達していなかった。日露戦争後の恐慌や不景気の中で社会主義運動が高まりをみせると，1911年(明治44)政府は社会不安を緩和するため済生会*を設立した。一方，鈴木梅四郎・加藤時次郎らは，このような慈恵医療よりは防貧対策こそ緊急であるとして実費診療所をつくり，医療の薄利多売によって医療利用を容易にしようとした。

医療の社会化は，その発展過程に応じて，①医療普及の社会化，②医療費負担の社会化，③医療業務の社会化，④医療経営主体の社会化，⑤医療運営の社会化に分けることができよう。なお，医療の社会化は，医療が本質的に社会性のあるものであるから必然であるとしてとらえる場合と，貧困と疾病との密接な関係から貧困対策・失業対策などの社会政策としてとらえ，その合理的運営として医療の社会化を唱える場合とがある。イギリスなどにみられる国民保健事業は前者の例であり，後述するわが国の医療統制においてその方法論として採用されたものは，後者の例である。

医療普及の社会化の段階にあたる実費診療所設立の運動は，医師会から各種の抵抗があったが，地方自治体の援助や簡易保険積立金の貸し付けなどもあってしだいに拡大されていった。これに遅れること12年，1922年(大正11)には産業組合が医療利用事業を開始し，昭和初期には農村恐慌のもとで農村部に医療利用組合が広まっていった。そして，1927年(昭和2)には医療費負担の社会化として重要な役割を果たす健康保険*が，1938年には国民健康保険*が成立した。健康保険設立の動きは明治中期からあったが，治安維持法の成立とほとんど同時に，あたかも左手に〈あめ〉，右手に〈むち〉の政策を思わせるようにして生まれたのである。なお，国民皆保険の実施は，第2次世界大戦後の1958年にようやく実現した。医療業務の社会化とは，医療業務の組織化，すなわち従来医師個人によって行なわれてきた医療を看護婦・検査技師・理学療法士などの専門技術者とのチームワークによって行なうための病院・診療所の機能分化，試験検査機関の充実，リハビリテーションなどの施設の新設によって実現されるものであるが，わが国ではまだ制度として確立していない。なお，医療経営・医療運営の社会化については，次項で述べる。

〔国民医療法の成立〕 第2次世界大戦が始まり，戦時体制が強化されるとともに，医療制度においても健民・健兵政策を遂行するための官僚統制を強化する方策がとられた。そして，従来医師法以下の医事法令によって規定されていたものが，1942年新たな構想のもとに国民医療法として総括された。同法は，次のような顕著な内容をもっていた。①医師・歯科医師の任務を明らかにし，本分として国民体力の向上に寄与すべきことを明示した。これは戦後の医療において最も重視されるべき公衆衛生の向上につながり，憲法25条の生存権と結びつけられている。②医療普及のために日本医療団を設置して全国的な医療組織体系の整備をはかり，また医療関係者に対する勤務指定制度を設けた。③医療内容の向上のため，専門医制度・実地修練制度の導入をはかった。これらは実施をみないうちに終戦となったが，実地修練制度は戦後に実現した。④医師会を改組し，医師の強制加入，会長の任命などによって行政監督を強化した。

同法は，以上のようにまったく官僚統制的な方法でではあったが，わが国の医療制度の根幹をなす開業医制度に対して医療の社会化を推進しようとする意図を持つものであった。そして，開業医の抵抗と戦争の推移に伴う物資の不足や財政の窮乏によって，当初の目的に沿う整備が行なわれなかったとはいえ，その構想は，医療経営主体の社会化の一つのありかたとして戦後多くの論議の的となった。しかし，医療需要者の民主的な意見の反映があってはじめて実現されるべき医療運営の社会化は，この構想とはまったく異なるものである。

〔第2次世界大戦後の医療制度と問題点〕 1948年，国民医療法は廃止されて医療法が制定され，また医師法・歯科医師法など医療従業者の身分に関する法律が制定されてその資格の向上がはかられた。そして医師に関しては，実地修練(インターン制度)・国家試験によって基礎学科に関する知識よりも業務の遂行に必要な総合的能力がためされることになった。インターン制度は，医師の技術水準向上にはある面で役だったが，不十分な指導体制，修練生の身分や経済問題など，その運営には多くの問題を含んでいた。そして，医学生の長年にわたる反対運動の結果1968年に改正され，国家試験合格後2年以上の臨床研修を行なうように努めるという報告医制度となった。しかし，現代の汚染された環境の中で複雑な社会を生き抜いていかなければならない人間に対して高度に分科した医学を駆使すべき医師が，それに十分な科学的技術を習得するためには，技能を主体としたともいえる現在の医局制度・医学博士制度，さらには医学教育そのものの根本的改善が要請されるのではなかろうか。さらに広く，各種の医療従事者についても同様で，医療業務・医療経営主体・医療運営の社会化なくしては，真に国民のための医療を提供する技術者となりえないのではなかろうか。

医療法は医療施設に関して，①病院・診療所を区別し，②総合病院を設けてメディカルセンターとし，③公的医療機関の制度を設けて医療の普及をはかり，④医療監視制度を設け，⑤医療機関整備審議会・診療報酬審議会・公的医療機関審議会を設けることを規定している。そして，1960年には医療金融公庫*が設けられ，長期低利資金の貸し付けによって私的医療機関の整備拡大を援助し，また1962年には公的病院の病床規制に関して医療法の改正がなされるなど，ますます私的資本による病院の拡大が促進されている。このように，戦後の医療制度は私的資本による開業医制度を基盤とし，その拡大の方向に向かっているが，社会保険の充実など，医療費負担の社会化による医療需要の量的向上にもかかわらず，支払い報酬に固定資産の原価償却が含まれず，医療従事者の技術が低く評価されているなどのため，その経営は健全でない。

医療従事者における医師中心主義，技術向上のための制度の欠如，医療施設における私的資本中心主義，医療報酬の不適当な評価など，医療制度に内在する諸問題は最近ますますその矛盾を深め，それが提供される医療そのものにまで影響を及ぼしているということができよう。〔西　三郎〕

れて医療そのものないし医療費の保障に重点が置かれるようになってきたが，しかしその場合といえども賃金喪失への保障は忘れられてはならない。

社会保障が，その出発点において労働者のみを対象としていたように，はじめは疾病保険としてあった医療保険も，その対象を労働者から漸次その家族にまで拡大し，さらに国民一般に対する傷病の保障へと進みつつある。また，傷病の治癒にとどまらず，今後は健康の保障そのものへと向かう傾向にある。このことは国民の生存権に根ざすものであって，わが国憲法の第25条においても〈すべて国民は，健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する〉との規定において確認されている。

医療保険が医療を給付内容とするときに，医療の現物給付か医療費の現金給付かということに，医療保険の複雑性の一端が示され，さらに医療保険の傷病に対する給付が，医療機関の介在することによってはじめて可能となるところにも，同じく複雑性がうかがえる。現物給付として医療そのものが給付内容となるときは，受診を必要とする被保険者すなわち保険加入者またはその家族は，患者として医師の診療を受けるが，その際は医療保険と契約している医療機関において受診ができ，そしてそこでの診療が保険給付となる。その費用は保険者すなわち保険経営主体から医療機関へ支払われる。この際患者は給付内容の一部を自己負担したり，また給付内容の制限なども行なわれるが，これは保険財政の維持と安定のためとされている。

医療保険が被用者中心にしくまれている場合には，現金給付では早急な受診がはばまれて，労働力の回復が遅れるからとして，多くの場合に現物給付が採用されている。しかし保険の理論からいえば，保険財政維持のため，給付形態は現金給付であるほうが合理的とされる。そこでは患者は，医療機関で受診し，請求された費用を患者が支払い，あとで保険者からその費用の払いもどしを受ける方式で給付がなされることになる。しかし現物給付であれ現金給付であれ，給付が開始されるためには，傷病が個人に発生しなくてはならないが，それは客観的に認知されることは少ない。そして多くの場合，この給付の開始が，個人の主観的かつ恣意(しい)的な判断に基づき，さらに給付内容の決定もまた，医師にすべてがゆだねられていることから，ここにいわゆる乱診乱療の現象が発生して，医療保険はたえず膨大な赤字の発生に苦しむことが多い。

わが国における医療保険は，各制度が乱立しており，それぞれに負担と給付が異なっているが，国民がいずれかの制度に属しているという意味で，医療保険における国民皆保険は達成されている。しかし，わが国の医療保険制度は，多くの問題点を内蔵し，その改正をめぐって長期間紛糾が続けられてきた。そしてその抜本改正は遅々として進まなかったが，1969年(昭和44) 8月5日斎藤厚相が社会保険審議会などに医療保険制度の抜本改正につき諮問し，医療保険改革要綱試案を提出したことによって新局面を迎えることとなった。これは医療保険制度を健康管理体制と有機的な連携のもとに国民保険と勤労者保険に再編成し，別に老齢医療制度を創設せんとするものである。もう一つの大きな問題点は財政調整についてである。これは結局のところ大企業が経営する豊かな組合健保の財源で政府管掌健康保険の赤字を補おうとするもので，これまで保険料の安かった組合健康保険は保険料がかなり上がり，大きな財政負担をしいられることになる。〔庭田範秋〕

医療保険の普及状況(単位 1,000人)

	被用者	家　族	一　般
健康保険 政府管掌	12 854	12 554	
健康保険 組合管掌	8 513	10 207	
日雇労働者健康保険	1 086	1 303	
船員保険	258	484	
国家公務員共済組合	1 142	1 823	
地方公務員共済組合	2 126	3 315	
公共企業体職員等共済組合	787	1 471	
私立学校教職員共済組合	175	142	
国民健康保険	――	――	42 638
計	26 941	31 299	42 638

1969年3月末現在

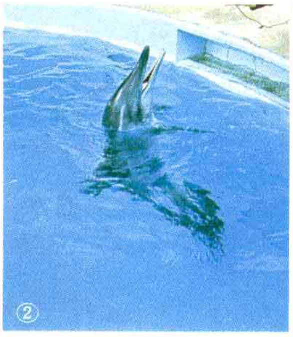
いりょうほしょう　【医療保障】　すべての国民が傷病の予防や早期発見，治療や社会復帰などを目的とする医学的行為を国家によって保障されること。この中には健康保険*などの医療保険*，地方自治体の一般的な保健サービス，生活困窮者に対する医療扶助などが含まれる。

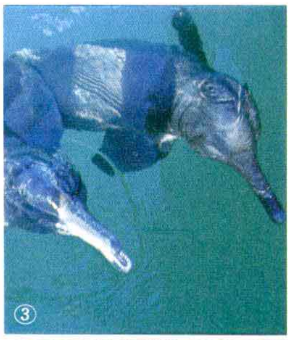
いるか　【海豚】　哺乳(ほにゅう)類・クジラ目の小形の歯クジラ類の総称。ふつう体長3～5m以上のものをクジラ*といい，以下のものをイルカという。世界じゅうに広く分布し，イカ類や魚類を主食とする。日本近海にもみられ，おもなものはマイルカ(体長2mほど，暖海を好む)・スジイルカ(体長2.5mほど，日本近海に最も多い)・カマイルカ(体長2mほど，スピードが速く数も多い)・バンドウイルカ(体長3.8mほど，水族館でよくみられる)・セミイルカ・ハナゴンドウ・シワハイルカなど。またカワイルカの仲間は淡水にすむ。イルカは知能が高く，ゴリラ*やチンパンジー*などと同程度といわれる。超音波で互いに連絡をとって行動する。〔今泉吉典〕

イルかんこく　【イル汗国】　イランを支配したモンゴル帝国(1259～1411)。創設者はジンギス汗の孫，フラグ。西アジアの征服を遂行し，アッバス朝の領土を引き継ぎ，タブリズに都を置いて支配した。イル汗国と西欧キリスト教国との間には，同盟してシリアのマムルーク朝を攻撃する企てが起こったが実現しなかった。第7代君主のガザン汗はイスラム教を国教としたので，領内の蒙古(もうこ)人のイスラム化が進み，イラン文化が復興した。イル汗国の最後は，政権分裂状態のまま，チムール帝国に併合された。〔小谷仲男〕

イルクーツク　［Irkutsk］　ソビエト連邦，バイカル湖南端近くの都市。人口47万3,000(1968)。シベリア鉄道に沿い，ウランバートル(モンゴル人民共和国の首府)を経て大同・北京(ペキン)方面へ向かう鉄道の分岐点である。東シベリアにおける工業の中心都市であり，大学・研究所・科学アカデミー＝シベリア支部などをもつ学術・文化の中心地でもある。1652年に建設され，江戸時代


①


②


③


④

イルカ
①ハナゴンドウ
②シワハイルカ
③アマゾンカワイルカ
④バンドウイルカ

に日本人漂流民が訪れた歴史がある。

イルチシュ(川) ⇨オビ川

イール-ド-フランス [Ile de France] パリ盆地を中心とした地方，旧州名。フランク王国時代，この地方を領有していたカペー家が王位について以来，フランスの中心となった。地名は〈フランスの島〉の意で，セーヌ川とマルヌ-オアーズ川にはさまれているところからこの名がある。森林の多い豊かな農業地帯であるが，19世紀ごろからは，紡績などの工業も行なわれている。

イルフォード [Ilford] イギリス，イングランド南東部，エセックス州の都市。人口18万5,000(1965)。ロンドンの北東方11kmにあり，大ロンドン市に含まれる。製紙・写真材料・通信機械などの工業が盛ん。

いるま 【入間(市)】 埼玉県南西部の市。もと入間郡豊岡(とよおか)町(のちに武蔵(むさし)町)が中心となって，1966年(昭和41)市制を施行，1967年には西武町を編入した。人口10万2,000。武蔵野台地の北西部，狭山(さやま)丘陵上にあり，産業三大別人口比は6：42：52。〈狭山茶〉の集散地として知られ，県茶業研究所や茶原種農場がある。西武地区には繊維関係の工場が多く，レース工場は東洋一といわれる設備と生産を誇り，輸出量も全国一である。西に八高線，東から北にかけては西武鉄道が通じ，国道16号線が市街を南北に貫く。航空自衛隊基地や，狭山湖・多摩湖・ユネスコ村などの観光地がある。

いるまがわ 【入間川】 埼玉県西部，秩父(ちちぶ)山地東面の水を集めて飯能市に出，平野部を東北に流れ，川越市の東で荒川にはいる。水源から荒川合流点まで52km。飯能より上流は名栗(なぐり)川とよばれ，清流をもって知られている。もとは秩父木材の運搬水路でもあった。古い時代の荒川は古利根(ふるとね)川に合流していたが，下流の水害対策から1629年(寛永6)に大治水工事が行なわれ，入間川の流路と連結して元入間川の流路を本流とするに至った。〔長津一郎〕

イルマン 【伊留満】 切支丹*(キリシタン)の布教を行なう修道士。入満・由婁漫とも書く。ポルトガル語のirmão(兄弟の意)から出た語で，キリスト教では法兄弟を意味し，布教の際に伴天連*(バテレン)に次ぐ布教者の教職名となった。イルマンには多くの日本人がなっている。

イレク-カンちょう 【イレク-カン朝】 ⇨カラ-カン朝

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。皮膚内および皮下組織に色素を沈着させて，絵・文様あるいはなんらかの印を刻印すること。

わが国における入れ墨の歴史はきわめて古く，縄文(じょうもん)・弥生(やよい)時代の土器・土偶の中にもそのあとがみられ，《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》に〈男子は大小なく，みな黥面(げいめん)文身す〉とある。また《日本書紀》にも数多くの記事がみられ，履中天皇の条に〈死(ころすつみ)を免して墨(ひたいきざむつみ)に科〉して，目の縁に入れ墨を入れたという記事がみられるが，その後は刑罰としての入れ墨は行なわれなかった。江戸時代に至って，1720年(享保5)に法制化され，主として盗犯に科せられた。これは犯罪が重ねて行なわれた場合に発見を容易ならしめること，また当人が危険な人物であることを世に知らせるためなどであろう。江戸での入れ墨は腕に幅3分(約1cm)ほど2筋入れられたが，諸藩では額に彫るのが多く，その入れ場所と形によって，どこで入れ墨されたかがわかるようになっていた。また累犯人には何度でも1筋ずつ入れ墨を増加して入れられた。婦人については原則として入れ墨は行なわれなかった。本来，刑罰としての入れ墨は名誉刑的性質のもので，犯罪者がそのあやまちを改めようとするためにはならず，かえって犯罪者をして犯罪を重ねさせる原因をなしたと思われるので，1870年(明治3)には墨刑廃止の法令が出され禁ぜられた。〔岡山泰四〕



入れ墨
(左) 彫よし作〈不動明王〉。今日めずらしい総身彫りで，伝統的な色を用いている
(右上) 彫錦作〈大日如来〉。色彩豊かな現代の入れ墨の代表的なもの
(右下) 左から機械彫りの針・手彫りの針・染料

江戸時代には刑罰として行なわれる入れ墨とは別に，伊達(だて)・風流から行なわれる入れ墨が発展し，美術的にも価値の高い華麗な入れ墨を生み出し，今日にも受け継がれている。これは江戸初期の遊里で男女間の相愛の不変を表わすものとして親指の付け根の甲の中間に彫られた〈付けぼくろ〉に始まる。これを〈起請(きしょう)彫り〉という。明和(1764～1771)ごろには全身に絵を彫ることが流行し，侠客(きょうかく)・鳶人足(とびにんそく)・職人・船頭などの間で，その規模やデザインの秀抜さが競われた。このころには職業として専門の彫り師が現われ，キク・ボタン・モミジ・唐草(からくさ)や近江(おうみ)八景などが好んで彫られた。こうした装飾的な入れ墨をするには，まず皮膚に墨で下絵を描き，筆状にした裁縫針の束で下絵どおりに彫っていく。針先には墨や朱や紅殻(べにがら)などの色素液を含ませ，皮下組織に浸透させる。また，さらに刺し傷にこれらの色素液をすりこんだりする。これには激しい苦痛が伴うが，その苦痛に耐えてりっぱに彫らせることで気概を示したので，江戸の職人たちは入れ墨を競い合い，急速に大規模で華麗なものに発展させた。文化・文政(1804～1829)時代には，入れ墨は全盛期を迎えた。芝居絵の〈景清牢破(かげきよろうやぶり)〉や〈雨乞(あまごい)小町〉，また歌川国芳(くによし)らの錦絵(にしきえ)〈水滸伝(すいこでん)〉を下絵にした華麗な彫り物が現われた。一方，時代の退廃的な風潮とあいまって，怪奇なものや淫猥(いんわい)なものも氾濫(はんらん)したため，幕府は1811年(文化8)に禁令を出して入れ墨をいっさい禁止し，彫り師をも罰することとした。しかし，この風潮は急には改まらず，ロウや油に顔料を混ぜて入れ墨らしく描くことが行なわれ，また天保(1830～1843)ごろには再び盛んになった。その後，1872年(明治5)入れ墨は太政官(だじょうかん)令によって禁止され，関東大震災後に一時大流行をみたもののやがて退潮した。今日では一部職人・好事家(こうずか)の間で行なわれており，顔料も豊富で，手彫り以外に機械彫りも行なわれている。〔稲垣史生〕

また，入れ墨は未開民族の習俗として世界各地に広くみられ，その方法や位置や意味はさまざまである。➔身体変工

イレーヌ-キュリー ⇨ジョリオ-キュリー夫妻

いれば 【入れ歯】 ⇨義歯

いろ 【色】 光によって人間の目が刺激されたときに生ずる感覚の一種。主観的に感ぜられる色を色彩，客観的に捕えた色を色刺激として区別する場合もあり，物理学

の対象としては後者を取り扱う。光はその分光組成によって一義的に決定される物理量であり，物理学の進歩により光の量や性質は非常に正確に測定することができる。しかし，あくまでも人間の感覚であるため，その受け止め方は各人の生理的・心理的状態で異なり，必ずしも分光分布とは１対１の対応が得られるものではない。光の刺激によって色感覚を生ずる生理的な過程，これを大脳において知覚する心理的な分野と，定量的に取り扱うことはむずかしい。

〔光と色〕1666年，ニュートンはプリズムによる実験によって，太陽光には赤～紫の７色が含まれていることを確かめた。太陽の光は白っぽく見えるが，そのスペクトル*を見るといろいろな色の光の集まりであることがわかり，可視光線*の波長はおよそ380～780ナノメートル($nm=m\mu=10^{-9}m$)で，この間の単色光*はだいたい図(→420ページ図)に示すような色の感じを与える。色の種類は無数で，人間の識別しうる色の総数は750万を越えるといわれる。

〔物体色・表面色〕色の現われ方にはいろいろな原因があるが，最も自然界に多いのは物体の反射光・透過光のぐあいによって現われる色である。物体色とは，みずからは光を発しないで太陽光や照明光などを受けて，反射したり透過したりする光によって発する色のことをいう。特にごく薄い表面層で起こる選択反射による色を表面色という。選択反射をしないふつうの物質は，白色光を入射すると反射もほぼ白色光となり光沢*とかつや*とよばれる。つやは光沢がおもな原因で物体の表面が目に訴える作用であり，光沢と色に関係があるが，色の属性であるとはいえない。

〔色の三属性〕多くの色の中で，白──→灰──→黒の系統に属するいろどりのない色を無彩色といい，無彩色以外のいろどりのあるすべての色を有彩色という。これらの目に対する色の感覚すなわち色の状態は，色相・明度・彩度の三つの要素によって決定される。これを色の三属性という。

①色相：赤・だいだい・黄・緑・青・藍(あい)・紫のような色の質の区別で，いわゆる色合いといわれるもの。相互の間に循環性をもっている。

②明度：色のもつ明るさで，色の強度の表現であり，明るい，暗いのよび方がされる。明度は段階的な性質をもち，無彩色の場合には白──→灰──→黒とはっきりわかる。

③彩度：色のあざやかさの度合いをいうもので，色の純粋さを表わし，あざやかな赤とか鈍い赤などとよばれるもの。同じ明度のところで横に広がる性質をもつ。

これらの属性は互いに立体的な関係があるので，この三属性を基にして種々の色立体が考えられ，マンセルの考案した色立体が有名である。ほかにオストワルトおよび日本色彩研究所によるものなどがある。

〔色の表わし方(表色系)〕数多くの色を表わすのにいろいろな方法が考えられている。古くから行なわれているものに，赤・黄・青などのようにその名称でいうことがあるが，人によって感じ方，想像のしかたも異なり科学的でないので，測色学を基礎とした混色系と心理的属性に従った顕色系とに大別している。前者の代表的なものはCIE(Commission Internationale d'Eclairageの略称，国際照明委員会)標準表色系であり，後者にはマンセル表色系およびオストワルト表色系その他がある。

①CIE標準表色系(*XYZ*表色系)：国際照明委員会で決めた方法で，わが国でもこれを採用しJIS*(日本工業規格)-Z8701で制定している。ある色は，互いに独立な３種類の原色を一定の比率の混合で表わすことができる。目の中には，これらの原色を人間の目の視感度により変換したスペクトル三刺激値と名づける分光感度をもつ３種類の感光機構がある。そして，ある色に対して３種の刺激量を感ずると考え，これの刺激量を*XYZ*で表わし三刺激値とよんで，表色の基本とする。さらに$x=X/S$，$y=Y/S$，$z=Z/S$($S=X+Y+Z$) をとり，xyzを色度座標といい，このxyおよびY値で色を表わすこともでき，xを縦軸，yを横軸とする直角座標上の点として色を表わしたものを色度図という。図の外周はスペクトル軌跡，その両端を結ぶ直線部分を純紫軌跡という。すべての色はこの中に含まれ，色度図上にある色Fは，これと中心Wを結び，その延長がスペクトル軌跡と交わった点Sの波長をその色の主波長，$\overline{FW}$と$\overline{SW}$との比を百分率で表わし純度と名づけ，主波長と純度を用いて色を表わすこともできる。Sが純紫軌跡にかかる場合はこれを逆に延長して補色主波長とよび負号をつけて表わすが，この表示を単色記法という。

②マンセル表色系：アメリカのマンセルが創始したもので，色票を色の三属性に基づいて系統的に配列したもの。世界的に重要視され，いちばん広く使われている。三属性をマンセル色相(ヒュー，Hue，H)・マンセル明度(バリュー，Value，V)・マンセル彩度(クロマ，Chroma，C)とし，Hは赤(R)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・紫(P)の５色相を基本とし，それらの中間色をはさんで10色相をとり，そのおのおのをさらに10分割して番号をつける。したがって，色相環は100分割されたことになる。Vは，白を10，黒を０としてこの間を等歩度に分割する。Cは，無彩軸上の点を０とし，各色相とも等歩度に彩度区分をする。ただし，最大値は色相によって異なる。色の表示はHV/Cと数字と記号の組み合わせで書く。たとえば，5R4/14と書き，5R4の14とよんでさえた赤を表示する。CIE系と正確に関連づけて修正マンセル系が出ている。これを立体化したものがマンセル色立体であり，色票集には《Munsell Book of Color》が市販されている。

③オストワルト表色系：アメリカのオストワルトによる表色系で，色相の数は24，白色量・黒色量・純色量で色を表わし，配列が対称的なのが特徴である。これらによって立体的に構成され，色票集には《Color Harmony Manual》がある。アメリカではよく使われている。

④日本色彩研究所方式：ほぼマンセルと同じであるが，色相を24色環で表わす。

⑤その他：以上のほかに日本規格協会から《標準色票(修正マンセル系)》のものが出されており，ドイツにはDIN色票がある。

〔色差〕わずかの色違いを色差とよぶ。色の許容差として工業的には非常に重要なもので，数量的表示が心理的感覚の差異と一致しないので各国で懸命な努力が重ねられているがまだ十分でない。マック-アダム・ジュード・ハンターらの計算式が有名で，わが国ではまだ統一されていないが，アメリカの色差表示法〈NBS単位(National Bureau of Standard Unit)〉が暫定的に多く用いられている。測定には色差計が用いられる。

〔混色〕何種類かの色を適当な方法で混合すると，混ぜ合わせたどの色とも異なる新しい色ができる。混色は加法混色と減法混色とに大別できる。加法混色*とは二つ以上の色電球で照らしたものを見るときのように肉眼の網膜上の同じ箇所に同時にまたは継時的に(きわめて速く)，２種類以上の色刺激が入射して別な色の感覚を生ずることで，この場合の混合する色の数が多くなるほど，混合結果の色が明るくなる。色光の混合はその代表的なもの。加法混色に用いる基本の色刺激を加法混色の原色といい，通常，赤・緑・青緑(色光の三原色)を用いる。また，加法混色によって，特定の白色刺激をつくることができる２個の光の色を互いに補色*であるという。網膜の同一部位にいくつかの色光を順次継時的にくり返し照射する場合(たとえば，色こま)や，目が解像できないくらい小さい色点を空間的に隣接して配置したパターンを見るような場合(カラーテレビ・織物の色)を特に中間混合ということもある。さらにカラーテレビや織物の色の場合を並置混合ともいう。この場合混合色は平均の明るさになる。減法混色*とは色フィルターまたはその他の吸収媒質(たとえば，絵の具などの色料)の重ね合わせによって別の色が生ずることをいう。その基本の色を減法混色の原色といい，通常シアン・マゼンタ・黄(色料の三原色)を用いる。減法混色はどの色よりも暗くなる。また，２色を混合して無彩色になる場合，その２個の吸収媒質を減法混色の補色*という。

〔色合わせ・等色〕一つの色を他の色と等しくなるようにすること。等色は主として測色などの場合に用い，色合わせ(あるいは

調色)は主として印刷・染色・塗料などの場合に用いる。古くから勘と経験によって行なってきたが，最近塗料や染色にはクベルカ・ムンクの吸収および散乱係数を用いる二定数理論で複雑な計算をコンピューターにやらせて混合の結果を予測することも開発されつつある。

【演色(性)】物体色は光源によって見え方が変わる。このような照明による物体色の見え方および物体色の見え方を決定する光源の性質を演色(性)という。光源を変えるとその分光分布が変わるために物体色の色度が変わることと，目がそれに順応して(その光色が白に見える方向に)感度を変えることによる。光源の場合その評価数が問題にされ，JIS-Z8726に制定されている。

【色の働き】見かけの判断に及ぼす感情効果と美的効果の二つに大別される。感情効果としては次のようなものが考えられる。①暖寒感：色を見たとき暖かい感じを与え，火を連想させるような色(赤・赤紫・だいだい・黄)を暖色といい，色を見たとき涼しい感じを与え水を連想させるような色(青・青緑・青紫)を寒色という。②軽重感：明度によるもので中明度の色を境として明度が高くなるほど軽く，明度が低くなると重く感じられる色(軽い色，重い色)。③硬軟感：明度が高く，彩度がやや低い色(パステルカラー)が柔らかく感じ，明度が低く彩度がやや高い色(純色や黒のはいった暗色)がかたく感じる(かたい色，柔らかい色)。④強弱感：明度が低く，彩度の高い色は物が大きく見え(膨張色)，または実際の位置よりも近くにあるように見える(進出色)。また逆に明度が高く彩度の低い色は物を小さく見せ(収縮色)，または実際の位置よりも遠くにあるように見える(後退色)。⑤陽気・陰気感：明度・彩度ともに高い色は陽気な気分を起こし(暖色・純色・明色，……陽気な色)，明度・彩度ともに低い色は陰気な気分を起こす(寒色，……陰気な色)。⑥興奮・沈静感：暖色系で明度が高く彩度が高い色は興奮作用をもち，寒色系で明度が低く彩度が低い色は沈静作用をもつ。

美的効果には好み・調和などがあげられる。色彩感情とも関連があると考えられ，形・材質なども考慮して色彩の交互作用も検討されねばならない。〈好み〉好みは年齢・性別・人種・連想などに関連するといわれるが定説はない。調査方法には一対比較法・順位法・絶対判断などがある。日本人の最嗜好(しこう)色はだいたい青，最嫌悪(けんお)色はだいたい黄またはだいだいという報告がある。〈色彩の調和〉二つ以上の色彩が隣接して存在する場合，その組み合わせによって快感情をもたらすことをさす。すなわち，色の心理効果や配色の美を考慮して，建築物の壁面や器物に色彩を機能的に活用し，有益な効果をあげることであり，その手段を色彩調節という。色彩調節は実施面



石廊崎　黒潮流れる太平洋に臨んで，展望雄大。白波のかむ海崖は伊豆半島第1の海岸美をつくっている

から環境色と安全色に分けられる。①環境色を設定するにはムーン-スペンサーの色調和理論が参考にされる。この理論では同等・類似・対比の調和域があってその中間に第1・第2の不調和域があるとしている。また，調和の程度を示すものとして美度を算出する式を提案している。②安全色：日常作業を行なう場合，視覚による監視のもとで行なわれ色が大きな要素を占めている。そのため安全色彩使用通則がJIS-Z9101に示され，産業安全標識がJIS-Z9103に示され事故防止に大きな効果をあげつつある。➔419ページ(図)　〔中山忠巳〕

イロイロ　[Iloilo]　フィリピン中部，パナイ島南岸の都市。イロイロ海峡に臨む。人口22万5,000(1972)。17世紀以来スペイン統治下に発達した。マニラに次ぐ商業都市で，グアノ・燐(りん)鉱石を集散するほか，砂糖・米・木材などの取引が盛んである。

いろうざき　【石廊崎】　石室岬とも書く。静岡県伊豆(いず)半島南端の岬(みさき)で，海抜100mに及ぶ海食台地とそれを取り巻く海食による入り江や断崖(だんがい)がそそり立ち，これに食い込むような小湾と海に突出した岬角(こうかく)が交錯している。海食崖のくぼみには千石船の帆柱を土台とした石廊権現のほこらがある。岬端の高さ約60mの台地には1871年(明治4)に完成した燈台があり，背後に無線方位信号所・測候所などがある。岬付近は安山岩質集塊岩で岩脈が多く，侵食の違いで〈みのかけ岩〉などの奇岩や岩礁が錯綜(さくそう)して変化の多い地形をなし，富士箱根伊豆国立公園に指定されている。　〔味沢成吉〕

いろえんぴつ　【色鉛筆】　⇨鉛筆

いろおんど　【色温度】　光源の色を表示する数値。その光と等しいか，またはきわめて近似の色度をもつ黒体の温度で求め，絶対温度あるいはその逆数の10^6倍の数値(単位ミレッド，略記号μrd)で表わす。色温度は見かけの色を表わすだけで，一般に相当異なる分光エネルギー分布をもっているので，照明された物体色に著しい差がみられる場合がある。なお，ある光源にフィルターをかけて色温度を変化させる場合，その変化量をミレッドで表わすと，同じフィルターを色温度の異なる別の光源にかけても変化のミレッド数はほぼ同じであることから，そのような色温度転換フィルターやカラーフィルムの性質を表わす場合によくミレッドが用いられる。また，星の等級を表わす場合にもその星の色指数に等しい色指数を与えるような黒体放射の温度を色温度という。　〔中山忠巳〕

イロカノぞく　【イロカノ族】　フィリピン，北部ルソン島の西海岸のインドネシア系の一種族。北部ルソンではイロカノ語が幅をきかせ，イロカノ族は勤勉で貯蓄心があるので知られている。長期間のスペイン人の支配下にあって文化は変容し，早くから社会文化が進み，イフガオ族と対比される。人口約250万人(1948年)でフィリピン第3位の民族。

いろがみ　【色紙】　いろいろな色に染めた紙。染め紙ともいう。かな書きの料紙として用いられ，また折り紙用にも用いられる。染め方には，①紙をすく原料を染めておく，②紙を染料に浸す，③はけで紙に染料を塗る，の3種の方法がある。

いろガラス　【色ガラス】　塗ったものでなく，ガラス自体に着色させたものをいう。ガラスに放射線をあてたり，ガラス原料に着色剤を添加してとかしたりすると，色ガラスが得られる。着色剤としては，クロム・ニッケル・鉄・コバルトなどのように，ガラス中でイオン状となるものと，銅・銀・金・硫セレン化カドミウム・硫化カドミウム・硫化鉄などのように，コロイド状となるものとがある。クロムの緑色，コバルトの青色，金やセレンの赤，ビールびんで代表される硫化鉄の色などは典型的なものである。色ガラスは工芸や装飾のほかに，サングラス，特に信号燈や光学器械に用いられ，これらの場合には，それぞれ定められた分光透過率曲線が要求される。　〔境野照雄〕

いろけし　【色消し】　異なる材料のレンズを組み合わせて，光学系の色収差を除くこと。最も簡単なのは，クラウンガラスの凸(とつ)レンズとフリントガラスの凹(おう)レンズとの組み合わせで，これにより青と赤の二つの波長の光に対して焦点距離を等しくすることができる。このようなレンズをアクロマートという。アクロマートよりさらにていねいに色収差を除いたものがアポクロマートで，たとえば3種類のレンズを組み合わせて，三つの波長の光に対して焦点距離が等しくなるようにしたものがそれである。　〔吉原邦夫〕

イロコアぞく　【イロコア族】　カナダ南東部，アメリカ合衆国北東部森林地域に居住するアルゴンキン語族の農耕民インディアン。母系氏族連合体としての部族，さら

にその連合としての連邦という発達した政治組織をもつ。好戦的で，他族の捕虜を奴隷とし，自族の男女と混血させた。モルガンの《古代社会》は，この部族の観察に基づいて書かれた。

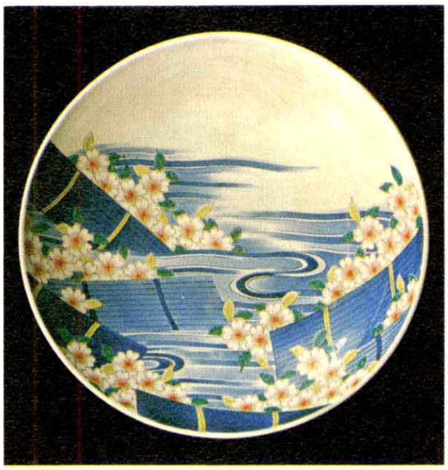
いろしゅうさ【色収差】ガラスの屈折率は，光の波長によって異なるので，レンズの焦点距離，したがってそれによって生ずる像の位置も波長によって異なる。この現象を色収差という。この収差のため，像に色がつき，鮮明さが失われる。なお，球面鏡など，鏡だけを用いた光学系では，反射の法則が波長によらずなりたつため，色収差がない。

いろなおし【色直し】結婚式で三々九度の杯をすませてのち，花嫁が席をはずして式服を改めること。三々九度までの厳粛なふんい気から解放的なそれへ移る際のけじめであり，聖的なものから俗的なものへの移行のけじめでもある。室町時代までは，式後2日間は白無垢(しろむく)の着物をつけ，清浄神聖な気持ちでおり，3日めの色直しがすんでから両親に初対面した。この風習は時代が下るにつれて簡略化し，江戸時代からは式当日に行なわれるようになった。現在は披露宴(ひろうえん)の途中で行なわれるものも多い。〔須藤健一〕

いろなべしま【色鍋島】江戸時代，佐賀鍋島藩の御用窯(ごようがま)で焼かれた磁器のうち，色絵磁器をいう。正しくは色絵鍋島。そのほとんどは日用の器皿(きざら)(深いさら)で，径の規格の一定したものが多い。絵付けは染め付けの細線で輪郭をとり，その上を赤・黄・緑の3色で塗る技法が基本である。優美で洗練された文様を描いている。

いろはうた【いろは歌】〈色は匂(にほ)へど散りぬるを　我が世誰(たれ)ぞ常ならむ　有為(うゐ)の奥山今日(けふ)越えて　浅き夢みじ酔(ゑ)ひもせず〉のように，同じかなを重複させずに47文字を七五調*4句につくったもの。《涅槃経*(ねはんきょう)》の〈諸行無常　是生滅法　生滅滅已(めつい)　寂滅為楽〉の意をよんだともいう。手習い歌，事物の順序の表示として用いられてきた。成立時期は，ア行とヤ行のエの区別がない，七五調である，1079年(承暦3)の《金光明最勝王経音義》にみえるのが最古のものである，などの理由で平安中期と考えられる。作者は俗に空海といわれるが，成立時期から考えてこの説は否定される。しかし学僧の手になったことは動かしがたい。なお製作目的について仏典研究に必要な漢字音のアクセントを習得するためとする説がある。〔信太　周〕

いろはかえで 双子葉植物・カエデ科。山地にはえる落葉高木。高さ10〜15m。庭木としても用いられる。葉は2〜5cmの柄があり，掌状に5〜7裂する。裂片は卵形で先がとがり，重鋸歯(じゅうきょし)がある。4〜5月，枝の先に10個の花からなる花穂が



色鍋島　色絵花筏文大皿，鍋島焼　17世紀初頭

下向する。翼果は無毛である。紅葉の名所として名高い京都の高雄山に多いので，タカオモミジともいわれる。園芸品種も多い。

いろはかるた【以呂波歌留多】かるたの一種。〈いろは〉47文字と〈京〉の字を1字ずつ文頭にすえてことわざなどを書いた読み札と，文頭の文字と絵のある取り札の96枚を一組みとしている。江戸と上方では文句が違う。嘉永(かえい)年間(1848〜1853)から始まったとされる。➔次ページ(表)

いろはざか【いろは坂】栃木県日光市にある坂。大谷(だいや)川峡谷北岸の馬返(うまがえし)から，男体(なんたい)山の斜面を，中禅寺湖畔へ上る標高差約400mの急坂で，道が〈いろは〉48ほど曲がっているため名づけられた。昭和の初めに改修して自動車が通れるようになり，1954年(昭和29)に30のU字形カーブをもつ有料自動車道路(第1いろは坂)が開通した。1965年，馬返から明智平(あけちだいら)まで，上り専用の第2いろは坂が開通し，第1いろは坂は下り専用となった。両方とも国道120号線の一部で，正式には〈日光道路〉という。〔浅井得一〕

いろはじるいしょう【色葉字類抄】国語辞書。橘忠兼(たちばなのただかね)著。1144年(天養1)から1181年(養和1)ごろまでにつねに加筆補訂を加え3巻本として成立。そのころの日常生活に必要な事彙(じい)を，漢字を用いて書き表わすためのもので，頭音によっていろは47部に分け，さらに各部内を語の意義によって天象・地儀・植物・動物など21部門に分けてある。本書は，変体漢文の訓法研究，説話文学・軍記物語などの読解にことに役だつ。いろは順に語を分類した現存最古の辞書として注目される。《伊呂波字類抄》とも書く。〔寒河江実〕

いろむじ【色無地】白・黒を除く無地の色物の長着*をいう。紋綸子(もんりんず)・縮緬(ちりめん)・絽縮緬(ろちりめん)・平絽などを好みの色に染める。女子の略礼装となり訪問着と同様に用いられる。紋を白く染め抜くのが正式，次いで縫い紋*，紋をつけないこともある。黒の喪の帯を合わせれば喪の略礼装にもなり，用途が広い。祝儀には好みのはでな色，不祝儀には若向きはふじ色・紫紺色・水色，中年以上はさび青磁色・藍(あい)ねずみ色・茶色・黒緑色など落ち着いた色を用いる。〔堀越すみ〕

いろめ【色目】衣服や調度の色合いおよび色の濃淡・混合・匂(にお)いなどによる複雑な色名をいう。そのくふうは奈良時代に始まり，原色のほか緋(ひ)・紺・蘇芳(すおう)・縹(はなだ)・黄丹(おうに)などが加えられ，さらに色の混合による中間色も生まれかけていた。しかし，それを無限に豊かにし，美しい色調を生み出したのは平安時代である。デリケートな中間色が多数案出され，梅や山吹など，優雅な花の色で表現された。梅は白と蘇芳との付き合わせによってほんのりした紅梅の色調を出し，山吹は白と濃い黄の対照で鮮明さを生んだ。これら微妙な色調は，平安貴族の奢侈(しゃし)と風流心の所産にほかならない。色数は100種以上にも上った。この色目を衣服に取り入れる際，織物の場合はたて糸とよこ糸で混合させる。また，男女とも重ね着の場合は表裏の取り合わせで色調を出し，これを〈重(かさね)の色目〉といった。すなわち男子が束帯・直衣(のうし)・狩衣(かりぎぬ)を着，女子が唐衣(からぎぬ)や袿(うちぎ)を着るとき，その季節の花や木に付け合わせた色のものを着る。桜の直衣は表白・裏赤，紅梅の唐衣は表赤・裏紫という類である。季節に合わせるばかりでなく，桜は1〜3月で若・壮年者，紅梅は1月で若年者のみというように，年齢に合わせて着ることも定められていた。さらに五衣(いつつぎぬ)などの合わせ着では，1枚1枚に色の配合があり，また同色で深浅の差のあるものを重ねて，いわゆる〈匂い〉を出した。衣服のほか調度では，打敷(うちしき)や懐紙に色目のくふうがなされた。〔稲垣史生〕

いろり【囲炉裏】床を方形に切って火を入れ，炊事および防寒に用いた炉。一般に台所に近い土間寄りに設ける。縄文(じょうもん)時代には土間につくられた地炉があったが，高床式住居が発達するにつれ，地炉が板の間や座敷の床面に設けられた囲炉裏に発展した。〈いろり〉の語義は，人のいる場所を意味するものであり，火を中心にして家族のくつろぐ場所であったことを物語る。囲炉裏が家庭生活の中心になる場所であったため，炉をめぐる禁忌作法がきわめて多い。火種の管理は重要であり，主婦がその責任を負った。火の神は家の神ともなり，囲炉裏の自在かぎは火の神の依代*(よりしろ)と考えられた。囲炉裏の周囲にはきちんと家人の席順が定まっており，家長のすわる横座の権威が大きかった。これによって日本の家長中心の家族制度，客人への応対のしかたをうかがい知ることができる。

イロリン［Ilorin］アフリカ大陸ギニア湾岸，ナイジェリア共和国北部の都市。人口20万8,000(1963)。ニジェール川沿いの

原住民農耕地の中心として発展した。東西および南北に走る鉄道の交差点で，内陸交通の要地でもある。病院・学校など文化施設も比較的整っているが，まだ電燈も普及しておらず，住民の多くはどろの平屋建て家屋に住む。

いわい 【岩井(市)】 茨城県南西部の市。1955年(昭和30)に，岩井町ほか7村が合併，72年(昭和47)市制施行。人口41,000。産業三大別人口比は，38：32：30。利根(とね)川を隔てて千葉県野田市と相対し，1957年に芽吹大橋がかけられてから東京との交通が便利になり，工場誘致政策によって電気関係の中小工場が進出してきている。いわゆる猿島(さしま)茶やたばこがつくられ，野菜・園芸などの近郊農業が盛んで，ウシ・ブタ・ニワトリなどの家畜飼育農家も少なくない。旧岩井町は平将門*(まさかど)が承平・天慶(てんきょう)の乱*を起こした故地で，猿島の偽宮などの史跡がある。

いわいしま 【祝島】 山口県南東部，周防灘(すおうなだ)の東の端にある面積7.5km^2，人口12,000の小島で，熊毛(くまげ)郡上関(かみのせき)町に属している。安山岩におおわれた高台状の島で，古くから開拓され，もとは岩屋島といい，宮戸八幡宮(はちまんぐう)の神舞(かんまい)は800年の伝統をもつといわれる。ミカンの栽培と牛，タイやイワシの沿岸漁業が主産業である。北西に属島の小祝島がある。

いわいずみ 【岩泉(町)】 岩手県下閉伊(しもへい)郡の町。人口19,000。北上山地の中央部を占め，旧岩泉町と5村の合併によって，1957年(昭和32)に現在の町域となったが，その面積は989km^2で，北海道の足寄(あしょろ)・標茶(しべちゃ)・新得・上川の4町に次いで，第5位の広さをもつ。旧岩泉町は小本川に沿い，山田線の茂市駅から岩泉線が通じている。町域の95%は森林で，林業と酪農がおもな産業となり，明治乳業の工場がある。安家洞*(あっかどう)・龍泉洞*(りゅうせんどう)の大きな鍾乳洞がある。

いわいのらん 【磐井の乱】 継体朝(6世紀前半)における筑紫(つくし)(北九州)国造(くにのみやつこ)の反乱。北九州は従来朝廷の朝鮮経営の根拠地として，軍事的・経済的負担を課せられてきたが，527年(継体21)新羅(しらぎ)の侵略により危機に陥っていた任那(みまな)の勢力挽回(ばんかい)のため，朝廷が近江(お

いろはかるた

	江戸	大阪	京都
い	犬も歩けば棒にあたる	一を聞いて十を知る	一寸先は闇(やみ)
ろ	論より証拠	六十の三つ子	論語読みの論語知らず
は	花よりだんご	花よりだんご	針の穴から天井
に	憎まれっ子世にはばかる	憎まれっ子神直し	二階から目薬
ほ	骨折り損のくたびれもうけ	ほれたが因果	仏の顔も三度
へ	屁(へ)をひって尻(しり)つぼめ	へたの長談義	へたの長談義
と	年寄りの冷や水	遠い一家より近い隣	豆腐に鎹(かすがい)
ち	ちりも積もれば山となる	地獄の沙汰(さた)も金しだい	地獄の沙汰も金しだい
り	律義者(りちぎもの)の子だくさん	綸言(りんげん)汗のごとし	綸言汗のごとし
ぬ	盗人の昼寝	盗人の昼寝	糠(ぬか)に釘(くぎ)
る	瑠璃(るり)も玻璃(はり)も照らせば光る	類をもって集まる	類をもって集まる
を	老いては子に従え	鬼の女房(にょうぼう)に鬼神	鬼も十八
わ	割れ鍋(なべ)にとじ蓋(ふた)	若いときは二度ない	笑う門(かど)には福きたる
か	癩(かったい)の瘡(かさ)うらみ	かげ裏の豆もはじけどき	蛙(かえる)のつらに水
よ	葦(よし)の髄から天井のぞく	よこ槌(づち)で庭を掃く	夜目遠目笠(かさ)の内
た	旅は道連れ世は情け	大食上戸の餅(もち)くらい	立て板に水
れ	良薬は口に苦し	連木で腹を切る	連木で腹を切る
そ	総領の甚六	袖(そで)振り合うも他生の縁	そで振り合うも他生の縁
つ	月夜に釜(かま)を抜く	爪(つめ)に火をともす	月夜に釜を抜く
ね	念には念を入れ	寝耳に水	猫(ねこ)に小判
な	泣きっつらに蜂(はち)	習わぬ経は読めぬ	なすときの閻魔顔(えんまがお)
ら	楽あれば苦あり	楽して楽知らず	来年のことを言えば鬼が笑う
む	無理が通れば道理ひっこむ	無芸大食	馬の耳に風
う	嘘(うそ)から出た実(まこと)	牛を馬にする	氏より育ち
ゐ	いもの煮えたもご存じないか	いり豆に花が咲く	鰯(いわし)の頭も信心から
の	のどもと過ぎれば熱さ忘るる	野良(のら)の節句働き	鑿(のみ)といえば小槌(こづち)
お	鬼に金棒	陰陽師(おんようじ)身の上知らず	負うた子に教えられて浅瀬を渡る
く	臭いものには蓋	果報は寝て待て	臭いものには蠅(はえ)がたかる
や	安物買いの銭失い	闇(やみ)に鉄砲	闇夜(やみよ)に鉄砲
ま	負けるが勝ち	待てば甘露の日和(ひより)あり	まかぬ種ははえぬ
け	芸は身を助ける	下戸(げこ)の建てた倉はない	下駄(げた)に焼き味噌(みそ)
ふ	文(ふみ)はやりたし書く手はもたず	武士は食わねど高楊枝(たかようじ)	武士は食わねど高楊枝
こ	子は三界の首っかせ	志は松の葉	これに懲りよ道斎坊(どうさいぼう)
え	得手に帆をあげ	閻魔(えんま)の色事	縁の下の力持ち
て	亭主(ていしゅ)の好きな赤烏帽子(あかえぼし)	天道人を殺さず	寺から里へ
あ	頭隠して尻隠さず	阿呆(あほう)につける薬がない	足もとから鳥が立つ
さ	三べん回ってたばこにしょ	さわらぬ神にたたりなし	竿(さお)の先に鈴
き	聞いて極楽見て地獄	義理と褌(ふんどし)	義理と褌かかねばならぬ
ゆ	油断大敵	油断大敵	幽霊の浜風
め	目の上のたんこぶ	目の上のこぶ	盲の垣(かき)のぞき
み	身から出たさび	身うちが古み	身は身で通る裸ん坊
し	知らぬが仏	尻くらえ観音	吝(しわ)ん坊の柿(かき)の種
ゑ	縁は異なもの味なもの	縁の下の力持ち	縁と月日
ひ	貧乏暇なし	貧相の重ね食い	瓢簞(ひょうたん)から駒(こま)
も	門前の小僧習わぬ経を読む	桃栗(ももくり)三年柿(かき)八年	餅屋(もちや)は餅屋
せ	背に腹は替えられぬ	背戸の馬も相口(あいくち)	聖は道によりて賢し
す	粋は身を食う	墨に染まれば黒くなる	雀(すずめ)百まで踊り忘れず
京	京の夢大阪の夢	(なし)	京に田舎(いなか)あり

うみ)毛野の率いる60,000の兵を送ると，筑紫国造磐井は遠征軍の派遣をさえぎって反抗したため，1年余にわたる大規模な内乱となった。磐井は新羅に通じていたともいわれる。物部麁鹿火*(もののべのあらかい)の追討によって乱は鎮圧されたが，朝鮮経営はさらに悪化した。この乱は地方豪族の成長と朝廷の内訌(ないこう)による中央政府の統制力の喪失，そして北九州に対する朝鮮の影響力の強化とを示している。福岡県八女(やめ)市にある岩戸山古墳*は石像で有名だが，磐井の墓と伝えられている。〔柳雄太郎〕

いわいはんしろう　【岩井半四郎】　歌舞伎(かぶき)俳優。現在10世。元禄(げんろく)時代(1688～1703)の初世から3世までは大阪の立ち役*だったが，4世から江戸へ移り，8世まで代々女方*の名家として栄えた。屋号大和屋(やまとや)。

1　4世(1747～1800)　技芸すぐれ，写実的な世話物*を開拓。

2　5世(1776～1847)　美貌(びぼう)で，目に魅力があったため〈眼千両(めせんりょう)〉とよばれ，時代物・世話物の数多い女方の役に，すぐれた形を残した。〔松井俊諭〕

いわいべどき　【祝部土器】　⇨須恵器(すえき)

いわいぼう　【祝い棒】　正月15日の小正月行事に用いられる神聖な棒。ヌルデやツゲでつくり，火焚(ほた)き棒・鳥打ち棒・はらめん棒などともよばれた。この祝い棒を子どもたちが手に持って，さまざまな呪言(じゅげん)を唱えながら，門口をたたいたり，人を打ったりする。はらめん棒は，これで新嫁のしりを打つと，早く子を生むというもの。15日の朝，祝い棒で小豆粥(あずきがゆ)をかき回して年占(としうら)をしたり，成木責め*といってこの棒で果樹を打ち豊熟を約束させたりする土地もある。〔直江広治〕

いわうめ　【岩梅】　双子葉植物・イワウメ科。高山帯の岩石地にはえる高さ数cmの常緑低木。枝の上部に葉を密生させる。葉は倒卵形をなし，葉の先端はへこむ。7月，枝の先端に白色のウメの花によく似た合弁花を1個つける。

いわえのぐ　【岩絵の具】　東洋画に用いる顔料*の総称。鉱石からとる。水に溶解しないので，にかわを用いて画面に付着させる。その濃淡・発色の差は粒子の粗密によって生じ，代表的なものとして緑青(ろくしょう)・群青(ぐんじょう)・代赭(たいしゃ)などがある。なお，藍(あい)・紅などは植物性の絵の具である。

いわかがみ　【岩鏡】　双子葉植物・イワウメ科。高山の岩場にはえる常緑の多年草。茎は短く，長い柄をもつ円形の葉が根ぎわから出る。葉の表面は光沢があるのでこの名がある。初夏，10cmほどの茎を出し，淡紅色で花弁の先が細かく裂けた花を5個ぐらいつける。

いわがき　【岩牡蠣】　軟体動物・二枚貝類・イタボガキ科。殻長(かくちょう)10cmほど。



イワウメ



イワカガミ



イワガニ

一般のカキ類と同様，右殻を上にして岩に固着する。本州～九州の岸近くにすむ。殻(から)は灰かっ色，表面に薄くてもろい板を多数重ねて，檜皮(ひわだ)ぶきのようになっている。食用。

いわがに　【岩蟹】　甲殻(こうかく)類・イワガニ科。甲の幅3cmほど，はさみは赤かっ色。甲には黒い斜めのしまがはいっている。磯(いそ)の浅いところに普通にいる。函館(はこだて)以南の日本各地，アメリカ西海岸・ハワイ・ガラパゴスに分布。

いわがねそう　【岩根草・鳳了草】　シダ植物・ワラビ科。山野の林内に普通に見られる常緑多年生のシダ。根茎が長く伸びる。葉柄は50cm前後あり，無毛，基部にかっ色披針(ひしん)形の鱗片(りんぺん)がある。葉身は卵形で40～70cmあり，1～3回羽状複生し，羽片はしだいに細くなり，先端がとがり，小脈は網目状に癒合(ゆごう)する。胞子嚢(ほうしのう)群は淡かっ色で小脈に沿ってできる。

いわがらみ　双子葉植物・ユキノシタ科。山地の岩や他の樹木に気根ではい上る落葉つる植物。葉は長さも幅も5～12cmの卵型であらい鋸歯(きょし)があり，対生する。6～7月，一年枝の先に多数の花がアジサイのように咲く，外側の花は修飾花で大形，白色のがく片が1枚あり，花弁はない。両性花は中央部にあって小形の5弁花である。

いわき　【磐城(国)】　宮城県南部と福島県東部にまたがる旧国名。磐州(ばんしゅう)東山道に属す。古く石城国造(いわきのくにのみやつこ)が置かれ，大化改新後は陸奥(むつ)に編入。718年(養老2)陸奥の5郡と常陸(ひたち)(茨城県)の菊多郡を合わせて石城を置いたが，まもなく廃して陸奥に編入した。その後は地域名としてのみ存続したが，1868年(明治1)陸奥を5分するに及び再び磐城を置き，刈田・亘理(わたり)・伊具(いぐ)・行方(なめかた)・宇太・標葉(しねは)・菊多・磐城・白河(しらかわ)の9郡に分けた。現在はいわき・相馬・白河など4市・6郡(福島県)と，白石・角田の2市・3郡(宮城県)とに分かれる。
➔陸奥　〔黛　弘道〕

いわき　【いわき(市)】　福島県南東部の市。もと安藤(あんどう)氏三万石の城下町で商業都市の平，小名浜港と臨海工業地帯をもつ磐城(いわき)，常磐(じょうばん)炭田地区の常磐，勿来(なこそ)，内郷の5市と周辺4町5村が合併して，1966年(昭和41)に新市が発足した。面積1,229km²で，日本最大の市である。人口34万5,000，東北地方では仙台(せんだい)市に次ぐ。浜通りの常磐地方一帯を占め，産業三大別人口比は14：36：50で，太平洋岸の漁業地区，内陸の農村部・山間部など，さまざまな集落を合わせもつ多角的な都市である。常磐線・磐越東線が通じ，国道6号線・49号線が集まる。平地区は常磐地方の文化・行政の中心地で，小名浜地区は小名浜港を中心にして臨海工業地帯を形成し，常磐・内郷両地区は常磐炭田の中心地で，大小の炭坑が多かったが，1976年(昭和51)限りで，すべて閉山してしまった。勿来地区には，もと常磐炭田の低品位炭を利用した常磐共同火力発電所がある。市域は，1964年，北の郡山(こおりやま)地区と一体化した常磐・郡山地区新産業都市に指定され，常磐臨海工業地帯を中心とする近代工業が発展している。観光地には，松ケ岡公園・新舞子公園・夏井川渓谷(けいこく)(平地区)，常磐湯本温泉・白鳥温泉・ハワイアンセンター(常磐地区)，勿来関跡，天然記念物のウが生息する照島，松川磯(まつかわいそ)海水浴場(勿来地区)などがある。70余kmに及ぶ海岸線は〈いわき七浜〉とよばれる好漁場で，風光がすぐれ，磐城海岸県立公園に指定されている。年中行事は，平地区のじゃんがら念仏(8月14～16日)が名高い。
〔浅井得一〕

いわきがわ　【岩木川】　青森県南西部，秋田県との境をなす白神山地の水を集め，この川の沖積(ちゅうせき)平野である津軽平野に出てからは北上して津軽半島西部の十三湖に注ぎ，日本海に通ずる。流程106km。流域には水田が広く開け，南部ではリンゴの栽培が盛んである。



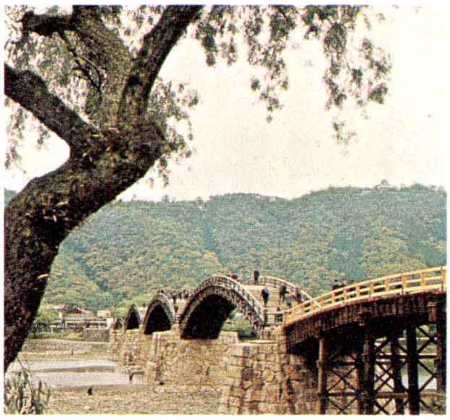
イワギキョウ

いわぎきょう 【岩桔梗】 双子葉植物・キキョウ科。千島・北海道・本州中南部の高山の砂礫地(されきち)にはえる多年草。高さ10～15cm。根出葉を多数もち，茎葉は互生し，披針(ひしん)形であらい鋸歯(きょし)をもつ。初夏，茎上に漏斗状つり鐘形の碧紫(へきし)色の花を1個あるいは2～3個つける。

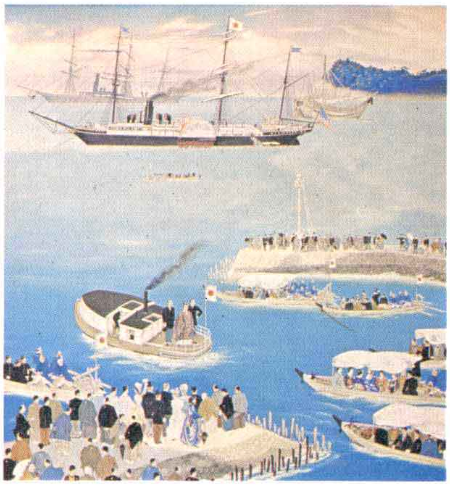
いわきさん 【岩木山】 青森県西部，弘前(ひろさき)市北西にそびえる成層火山。標高1,625mで，津軽富士ともよばれる。記録では1863年(文久3)以後活動していない。山頂部には外輪山と最高点をなす鐘状の中央火口丘がある。岩木山の秀麗な姿は津軽地方の各地からながめられ，古くから農民の信仰を集めており，ふもとの岩木神社の旧暦8月1日の例祭には多くの参詣者(さんけいしゃ)が集まる。すそ野は広く発達し，その北と東側にはリンゴ畑が分布する。

いわきひろゆき 【岩城宏之】 (1930～) 指揮者。東京芸術大学器楽科を中退，近衛(このえ)管弦楽団の打楽器(ティンパニー)奏者となった。一方，NHK交響楽団の研究員として指揮を研修し，1960年(昭和35)の同オーケストラの世界旅行に指揮者として参加し，多くのコンサートを指揮した。1969年N響の正指揮者に就任。1970年からはオランダのハーグ-フィルハーモニーの常任指揮者に迎えられた。

いわくに 【岩国(市)】 山口県東部の市。1600年(慶長5)から毛利氏の一族吉川(きっかわ)氏六万石(陪臣としては最高の禄高(ろくだか))の城下町であった。1940年(昭和15)市制施行。人口11万3,000。広島湾に臨み，岩国川(錦(にしき)川)の三角州上に位置する。産業三大別人口比は7：39：54。大正末期，帝人(当時は帝国人絹)の工場設置以来，豊富な工業用水，広い干拓地，近くに産する林産物を利用して，製紙・紡績，石油その他の化学工業が興り，県下一の工業都市に発展，陸軍燃料廠(ねんりょうしょう)・海軍航空隊も置かれた。現在，備後(びんご)地区工業整備特別地域に指定され，北隣の大竹(広島県)にまたがる石油コンビナート地帯が造成されている。海軍航空隊跡は，岩国空港・海上自衛隊航空基地・アメリカ軍基地となったが，アメリカ軍の第一線機は朝鮮の38度線まで，20分前後で到達可能である。しかし，アメリカ軍基地の存在は，市民との間につねに



岩国市　錦川にかかる錦帯橋。五連のアーチ橋で，凌雲橋・五龍橋など多くの異名をもつ天下の名橋。最初の架橋は1673年(延宝1)といわれている。総延長193.3m



岩倉遣外使節 《岩倉遣外使節》 山口蓬春　東京聖徳記念絵画館蔵

問題を起こしている。山陽本線・山陽新幹線(新岩国駅)・岩徳線・岩日線・国道2号線・187号線・188号線が集まり，岩国空港や基地とは189号線で結ばれる。錦帯(きんたい)橋*・吉季(よしき)公園・岩国城跡などの景勝地があり，岩国川の鵜(う)飼いも名高い。東郊の麻里府に天然記念物のシロヘビが生息する。日本のマルクス主義経済学の先覚者河上肇*(かわかみはじめ)はこの地の出身である。

いわくにがわ 【岩国川】 ⇨錦(にしき)川

いわぐみ 【石組】 庭石の組み合わせをさし，日本庭園の骨格ともいえる造形で，〈いしぐみ〉ともいう。古くは石をすえるともいい，伝統的な石組には，①道教的石組(蓬莱(ほうらい)石組・鶴亀(つるかめ)石組・夜泊(よどまり)石組・七五三石組)，②仏教的石組(須弥山(しゅみせん)石組・三尊石組)，③景致的石組(滝石組・流石組・築山石組・護岸石組・岩島石組・橋石組・捨て石)，④実用的石組(飛び石・敷き石・蹲踞(つくばい))など16種類があげられるが，現代においては抽象的な構成が多い。〔重森完途〕

いわくら 【岩倉(市)】 愛知県北西部，名古屋市北方の市。人口42,600。1970(昭和45)～75年の人口増加率は24％と高く，名古屋鉄道岩倉駅付近の住宅団地化が進み，名古屋市のベッドタウンとなっている。1971年丹羽(にわ)郡岩倉町が単独で市制。旧岩倉町は歴史が古く，弥生式住居址，条里制の遺構，岩倉城址があり，18世紀の初めからは市場町として発達した。現在，繊維・衣服・食料品などの工業があり，五月幟(こがつのぼり)を特産する。全国初の〈環境保全都市宣言〉をしている。〔浅井得一〕

いわくらけんがいしせつ 【岩倉遣外使節】 1871年(明治4)欧米に派遣された使節団。廃藩置県断行により，国内の中央集権体制の基礎を確立した政府は，開国以来の懸案であった安政不平等条約改正の下準備に着手し，同年11月12日右大臣岩倉具視*(ともみ)を特命全権大使，木戸孝允*(たかよし)・大久保利通*(としみち)・伊藤博文*(いとうひろぶみ)らを副使とした総勢48名の使節団を欧米に派遣し，改正交渉と諸国の事情視察にあたらせた。一行はアメリカをはじめ，イギリス・フランス・ベルギー・オランダ・ドイツ・ロシア・オーストリア・イタリアの各国を歴訪し，1873年帰国した。各地で手厚い歓迎を受けたが，条約改正*については各国とも時期尚早(しょうそう)として応じなかった。しかし欧米の先進性，国力の強大さ，特にプロシアの存在は一行に国力の充実の必要を痛感させ，西郷隆盛*(たかもり)らの征韓論*(せいかんろん)をおさえる結果となった。〔千野境子〕

いわくらともみ 【岩倉具視】 (1825～1883) 明治維新の代表的政治家。中納言堀川康親(ほりかわやすちか)の次子に生まれ岩倉家の養子となる。関白鷹司政道(たかつかさまさみち)に認められて1854年(安政1)孝明天皇の侍従となった。少壮公卿(くぎょう)の中の野心家として西南雄藩の志士と結び，幕末維新期の政局を動かした。もと攘夷論者*(じょういろんじゃ)であったが，その後公武合体の運動に同調して皇妹和宮*(かずのみや)の降嫁に努めたため，尊王攘夷派から排撃されて洛外(らくがい)岩倉村に蟄居(ちっきょ)した。その間尊攘派と近づいて倒幕を画策し，王政復古*の実現には彼の卓越した政治工作が大きい役割を演じた。1867年(慶応3)勅勘を許され，明治新政府成立後は参与・議定などとして，大久保利通(としみち)・西郷隆盛(たかもり)・木戸孝允(たかよし)らと実権を握った。1871年(明治4)右大臣に進み，次いで特命全権大使として欧米を回って帰国後，西郷らの征韓論者(せいかんろんじゃ)を下野させ，富国強兵政策に没頭した。明治10年代の自由民権運動*の拡大に対しては脅威を感じ，1881年井上毅*(こわし)の意見を用いて欽定(きんてい)憲法の諸原則を定め，皇室制度の整備に特に力を尽くし，華族*の繁栄のために，第十五銀行・日本鉄道会社を創立した。没後，太政(だじょう)大臣・正一位を贈られた。子具定(ともさだ)が具視の功で公爵となる。

いわさか 【磐境】 神として石を信仰し，



岩崎弥太郎

あるいは神のいます場所として，円形または列状に石を置いてつくった祭祀(さいし)の座。このほかに，石を神として祭り，高山の巨石群などを神として信仰の対象とした磐座(いわくら)がある。兵庫県芦屋(あしや)市の保久良神社などが有名。

いわさきこやた【岩崎小弥太】(1879～1945) 三菱(みつびし)財閥4代めの指導者。東京都出身。三菱一族岩崎弥之助(やのすけ)の子。28歳で三菱合資会社の副社長に就任。1916年(大正5)以降，財閥解体に至るまで三菱財閥全盛期の代表者として，造船・鉱業・航空機・化学など重工業を中心に三菱の発展を図る一方，商業金融部門を充実させ，さらに軍需工業の育成にも努めた。また，成蹊(せいけい)学園・静嘉堂(せいかどう)文庫・三菱経済研究所などの設立発展を通じて，学術・文化面にも寄与するところが大であった。戦後自主的財閥解体を拒否したが，1945年(昭和20)11月ついに解体を表明。その1か月のちに病没した。〔片岡一郎〕

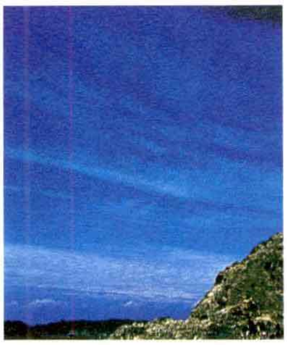
いわさきやたろう【岩崎弥太郎】(1834～1885) 三菱(みつびし)財閥*の創始者。土佐(高知県)出身。郷士の長男として生まれる。33歳のとき土佐藩営の土佐商会(開成館)の責任者となり，坂本龍馬(りょうま)らと交わり，維新後はこれを譲り受け，1870年(明治3)土佐開成商社を設立，1873年に三菱商会と改称した。おもに海運業に従事し，台湾出兵・西南戦争では政府の保護のもとに軍事輸送を独占し巨富を築き，内外の競争会社を退け，日本海運界に独占的地位を占めた。その後も大久保利通(としみち)・大隈重信(おおくましげのぶ)・松方正義(まさよし)ら政府要人と深く結びつき，政商の名をいかんなく発揮して三菱財閥の基礎を固めた。大隈重信が政界を退いてのち，長州閥の政治家と結んだ三井系の共同運輸会社が出現し，運賃などをめぐる激烈な競争が展開されたが，そのさなかに病死し，事業は弟弥之助に継承された。〔片岡一郎〕

いわさばく【岩砂漠】⇨砂漠

いわさまたべえ【岩佐又兵衛】(1578～1650) 江戸初期の画家。荒木村重(むらしげ)の遺児で名は勝以(かつもち)。習画期を京都に過ごし，のち福井・江戸で活躍。その画風は，土佐派を根幹に諸派の技法を加え，古典的主題によりながら情念の表出を意図した特異なものである。また風俗画にも筆を染め，



岩佐又兵衛《官女観菊図》山種美術館蔵



鰯　雲



石清水八幡宮

菱川師宣*(ひしかわもろのぶ)を創始者とする浮世絵の端緒を開いた。

いわし【鰯・鰮】マイワシ*・ウルメイワシ*・カタクチイワシ*などをまとめてイワシとよぶこともあるが，普通はマイワシをさす。3種とも小形の魚で，細長く，背が青く腹が白く，味も似ており，よく店頭に現われてなじみ深い。みな同じニシン目に属するが，それぞれの種は，異なった科に属するので，分類学的には互いにかなり縁遠いということができる。

いわしくじら【鰯鯨】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ナガスクジラ科。雌は全長17～18mで，雄はやや小さい。北太平洋・北大西洋・南氷洋などに広く分布し，おもにイワシなどの魚類を食う。日本沿岸において最も多くとれるヒゲクジラ*で，年間500～1,000頭が捕獲されている。➔クジラ

いわしぐも【鰯雲】小さな魚の群れやさざ波を思わせる薄い白い雲。秋の代表的な雲の一つで，鱗雲(うろこぐも)・鯖雲(さばぐも)などともよばれ，絹積雲の一種である。高積雲の中に，これと似た雲があるが，鰯雲の現われる位置はもっと高く，氷の粒からできており，水と氷の両方の粒からできている高積雲とは異なる。

いわしさん【鰯酸】$C_{22}H_{34}O_2$ 5個の二重結合をもつ直鎖の高級の不飽和カルボン酸。グリセリンエステルとしていわし油・にしん油に含まれている。その他爬虫(はちゅう)類・両生類などの油にも含まれている。黄色の液体。空気で酸化され，魚油臭を発する。$CH_3CH_2CH=CH-(CH_2)_2-CH=CHCH_2(CH=CH(CH_2)_2)_3-COOH$

いわしたそういち【岩下壮一】(1889～1940) カトリック司祭・神学者・哲学者。東京の生まれ。父は関西の財閥岩下清周。東京大学哲学科を卒業し，第七高等学校教授となる。1925年(大正14)ヨーロッパに留学し，イタリアで司祭になった。帰国後はカトリック研究社・聖フィリッポ寮を創設して青年知識層にカトリシズムを広め，また1930年(昭和5)には静岡県神山復生病院の院長となり，救癩(きゅうらい)に尽くした。著書《中世哲学思想史研究》《カトリックの信仰》《信仰の遺産》など。〔五十嵐誠〕

いわしみず【岩清水】都山流(とざんりゅう)本曲の尺八独奏曲の代表的な作品。中尾都山が1904年(明治37)に作曲したもので，石清水八幡宮*(いわしみずはちまんぐう)の秋と清水の流れを描写したものといわれている。

いわしみずはちまんぐう【石清水八幡宮】京都府綴喜(つづき)郡八幡町の男山にあり，男山八幡宮ともいう。祭神は誉田別命(ほんだわけのみこと)・息長帯比売命(おきながたらしひめのみこと)(神功(じんぐう)皇后)・比咩大神(ひめおおかみ)。859年(貞観1)の創建。僧行教の奏請によって，清和天皇が木工権允(もくごんのじょう)橘良基(たちばなのよしもと)に勅し，宇佐八幡に準じて六宇の神殿をつくって，860年に鎮祭した。以後代々天皇の尊信厚く，伊勢(いせ)に次ぐ宗廟(そうびょう)として崇敬された。中世以後は源氏の氏神として代々の将軍をはじめとする武家に尊崇されている。朝廷や武将から多くの神領の寄進を受け，広大な所領を有した。戦国時

代には神領の多くを押領されたが，江戸時代に至って幕府から六千七百五十七石の朱印地を寄進されている。明治初年の神仏分離までは神仏習合で神宮寺があり，社内には祠官（しかん）・神官・僧官がある。宮寺に属する諸座の神人（じにん）は大山崎神人とよばれ活躍した。1863年（文久3）には孝明天皇の攘夷（じょうい）祈願があり，明治には官幣大社となる。社殿・神宝をはじめとする文化財や古文書多数がある。〔大三輪龍彦〕

いわしみずものがたり【石清水物語】擬古物語の一。作者は不明。鎌倉中期に成立した。東国の武士と関白の娘との恋物語で，題名は武士が恋の成就を祈願した石清水八幡宮（はちまんぐう）の社名にちなんだもの。

いわしゃこ 鳥類・キジ科。ヨーロッパ・アジア北部に分布し，アメリカでは猟鳥として高く評価されている。体形はかなり大きくチャボ程度。羽色は雌雄ほぼ同色で，くちばし・脚は紅色。両腹側には黒・くり・白色の順に並んだ横斑（おうはん）があり，頭頂・頸（くび）・胸部は紅色をおびたかっ色で美しい。日本における繁殖は良好でない。

いわじゅく【岩宿】群馬県新田（にった）郡笠懸（かさかけ）村の南東部の集落。渡良瀬（わたらせ）川扇状地の一部で，古くは〈笠懸野〉とよばれ，江戸時代には岡上用水によって開発されて桑園地域となった。両毛線が通じ，山田郡大間々町へ至る県道と国道50号線に沿う。鹿田（しかだ）丘陵の東へ続く小丘陵の鞍部（あんぶ）にある岩宿遺跡は，無土器文化の遺跡として知られる。

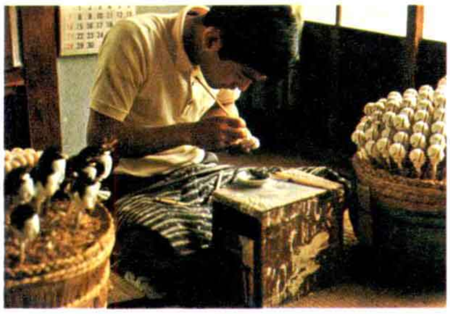
いわじゅくいせき【岩宿遺跡】群馬県新田（にった）郡笠懸（かさかけ）村岩宿にある無土器文化の遺跡。1946年（昭和21）相沢忠洋（ただひろ）によって発見され，わが国における無土器文化研究の端緒となった。遺跡は関東ローム層中にあり，上下二つの文化層に分かれ，上部からは切り出し状の石器と尖頭器（せんとうき）（岩宿文化II），下部からは握斧（あくふ）や剝片（はくへん）様の石器（岩宿文化I）を出土した。従来，関東ローム層中には遺物はないものと考えられていたが，この事実により以後各地の発掘調査が活発となった。〔三輪嘉六〕

いわしろ【岩代（国）】福島県の西部，会津および中通り地方を主とする地域の旧国名。東山道に属する。古くは陸奥（むつ）の一部であったが，718年（養老2）白河（しらかわ）・石背（いわせ）・会津・安積（あさか）・信夫（しのぶ）の5郡をさいて石背国を置いたが，数年にしてこれを廃して，再び陸奥に編入した。1868年（明治1）陸奥を分割して5国とした際，会津・耶麻（やま）・磐瀬（いわせ）・安積・安達（あだち）・信夫の6郡をもってはじめて岩代を置いた。現在は福島・郡山（こおりやま）・会津若松・二本松など6市と9郡よりなる。

いわすごやま【岩菅山】〈いわすげやま〉ともよばれる。長野県の北東部にあり，白根山（草津白根）のほぼ北に位置する。南西〜北東に連なるいくつかの峰に分かれ，ふつう南の西ノ岳（2,295m）を岩菅山とよぶが，その北の裏岩菅山（2,329m）が最高峰である。西麓（せいろく）に発哺（ほっぽ）温泉がある。

イワタバコ





岩槻市　人形づくりは城下町時代からの伝統をもち，桐細工などとともに家内工業による町の特産となっている

いわせ【岩瀬】富山県，富山市の北部，神通川河口部にあり，富山湾に面する地域。江戸初期に加賀藩の積みおろし港に指定されて以来，北海道や瀬戸内海方面へ回漕船（かいそうせん）が通ずる港町として栄えた。最近は，1939年（昭和14）に富山港が開設されて，富山市の海の玄関口となり，日曹（にっそう）製鋼・鉄興社・東京タングステン・新日本化学・三菱（みつびし）アセテート・不二越鋼材などの大工場が集まり，富山高岡工業地帯の中心地となる。富山港線が富山駅へ通じ，富岩運河がある。〔浅井得一〕

いわせただなり【岩瀬忠震】（1818〜1861）江戸末期の幕臣。肥後守（ひごのかみ）・伊賀守（いがのかみ）。老中阿部正弘（あべまさひろ）の知遇を受け，抜擢（ばってき）されて目付となり，外交・海防を担当し，講武所・蕃書（ばんしょ）調所・海軍伝習所の開設に尽力した。1858年（安政5）京都におもむき，日米修好通商条約の勅許を得るため奔走し，井上清直とともにハリスと折衝して，井伊直弼（なおすけ）の命で勅許を待たず日米修好通商条約に調印した。続いて外国奉行（ぶぎょう）となったが，将軍継嗣問題で一橋慶喜（よしのぶ）を推したため，安政の大獄で処罰された。〔善積美恵子〕

いわた【磐田（市）】静岡県西部の市。古くは遠江（とおとうみ）の国府の所在地で，江戸時代に東海道の宿駅見付と天領代官の所在地中泉を中心として発展した。1940年（昭和15）見付町・中泉町と周辺2村が合併して磐田町となり，1948年市制施行。人口75,000。天龍（てんりゅう）川の東，磐田原台地の末端に位置する。産業三大別人口比は13：45：42。別珍・ポプリン・コール天・ブロードなどの織物と染色工業が発達し，最近は東洋ベアリング・鈴木自動車などの大工場が進出して，機械工業も発展している。周辺部は農業地帯で，南部は水田が遠州灘（えんしゅうなだ）まで続き，北部は米・サツマイモ・野菜類をつくり，メロン・スイカなどの促成栽培も行なわれる。東海道本線・国道1号線に沿う。周辺には古墳が多く，矢奈比売（やなひめ）神社（俗称見付天神）の天神祭（旧暦8月10日）は有名。

いわたおび【岩田帯】妊婦が妊娠5か月めの戌（いぬ）の日につける腹帯。白または紅白のもめんか絹でつくられ，長さは約3mのものである。特に戌の日を選ぶのはイヌのお産が軽いのにあやかるためと説明されている。この腹帯は里方から贈られ，〈帯祝い〉と称して里親がとつぎ先へあいさつに行き，親戚（しんせき）・近所の人を招いてふるまいをするならわしがある。これは女がはじめて母になることを示す象徴的な儀式であり，生児の生存権が承認される機会でもあった。語源は〈斎肌帯（いわだおび）〉とか，肌（はだ）に結ぶところから〈結肌帯〉にあるといわれている。医学的にも，妊婦の下腹部を保温し，胎児を正常な位置に保ち，急激なショックを防ぐのに役だつ。〔須藤健一〕

いわたけ【岩茸】地衣植物・イワタケ科。岩石上にはえる葉状地衣で，ほぼ円形に広がり，直径5〜10cm，まれに35cmに達する。表面は乾燥するとかっ色で，湿ったときには暗緑色となり，辺縁部は波曲し裂ける。裏面は黒色で，中央にある1個の臍状体（さいじょうたい）で基物につく。古くから食用とし，三杯酢は有名であるが，みそしるの実や，てんぷらにすることもある。

いわたせんたろう【岩田専太郎】（1901〜1974）さし絵画家。東京の生まれ。一時は伊東深水についたが，ほとんど独学で一家をなす。大仏（おさらぎ）次郎の《赤穂浪士（あこうろうし）》のさし絵で独自の個性を認められ，さし絵界の第一人者となる。

いわたばこ【岩煙草】双子葉植物・イワタバコ科。山の湿った岩壁にはえる多年草。根もとより長さ10〜30cmでつやのある，しわの多い葉を2枚ほど出す。夏に約10cmの茎を出し，紅紫色の美しい花をつける。民間では葉を胃腸薬として用いることがある。また若葉はゆでて食べられる。

いわたはらだいち【磐田原台地】静岡県西部の天龍（てんりゅう）川左岸地域で，天龍市から磐田市までにほぼ南北に広がる洪積（こうせき）台地。開析の進んだ隆起扇状地で，平坦（へいたん）面が少ない。乏水性の台地で天水を利用する集落もある。台地上は林地と耕地とが入り交り，麦類・イモ類・タバコ・茶が栽培されている。

いわつき【岩槻(市)】 埼玉県南東部の市。1457年(長禄1)太田道灌*(おおたどうかん)が岩槻城を築き，江戸時代には大岡氏二万石の城下町で，ひな人形や桐(きり)だんすの特産で繁栄した。1954年(昭和29)市制施行。人口94,000。大宮台地東部の台地と南東部の沖積地(ちゅうせきち)を含み，綾瀬(あやせ)川・元荒川のつくる多くの侵食谷によって台地にも水田地帯が入り込んでいる。産業三大別人口比は11：44：45。人形づくりは伝統的な家内工業で全国一の生産をあげ，海外へも輸出される。東武鉄道野田線・国道16号線・122号線が通ずる。台地周辺には貝塚(かいづか)など縄文(じょうもん)式文化の遺跡が多く，慈恩寺は三蔵法師の霊骨塔で有名である。また，西郊には電電公社岩槻受信所がある。➔前ページ(写)

いわづた【岩蔦】 緑藻(りょくそう)植物・イワヅタ科・イワヅタ属の総称。関東以南の暖海に生ずる海藻。仮根のある岩上をはう茎に種々の形の直立部がつく。同形または異形配偶子を生じ遊走子はない。食用とすることがある。日本には，へら状の直立部をもつヘライワヅタ，ブドウの房状のフサイワヅタ，隠岐(おき)諸島に産する天然記念物クロキヅタなど10数種がある。

いわつばめ【岩燕】 鳥類・ツバメ科。全長約15cmの小鳥。ツバメより尾が短くて腰が白い。旧北区*に広く分布し，わが国では海岸や山地の岩壁に集団で営巣するのが普通だが，近年大きな建物の軒下や橋桁(はしげた)の下に営巣するものが多くなり，内陸の平野部でもみられるようになった。主として森林上の空中を飛びながらこん虫をとる。冬には南アジアやアフリカに渡る。➔ツバメ

いわて【岩手(県)】 東北地方北東部の県。東は太平洋に面し，北は青森，西は秋田，南は宮城の各県と境を接する。陸中の大半と陸奥(むつ)・陸前の一部を占め，面積15,277km²，人口143万8,000，人口密度1km²あたり94人で，北海道を除けば広さは全国一，人口密度は最低である。県花は南部地方名産のキリ，県木はアカマツ，県鳥は県下全域に生息するキジである。行政上は，県庁のある盛岡以下の13市と，12郡(31町18村)に分かれる。

〔自然〕県域の84％を山地が占め，平地は北上盆地と海岸部に小平野があるにすぎない。山地は県中央部を北から南へ流れる北上川によって東西に2分され，それぞれ異なる様相を示す。東部にあるのは隆起準平原の北上山地で，その東の縁は太平洋に臨んで，いわゆる三陸海岸を形成しており，宮古を境として，南部はリアス式の沈降海岸，北部は5段の海岸段丘をもつ直線状の隆起海岸で，ともに陸中海岸国立公園に指定されている。西部には奥羽山脈が南北に走り，那須(なす)火山帯がこれに重なって，栗駒(くりこま)山・七時雨(ななしぐれ)山・八幡



イワツバメ

平(はちまんたい)・岩手山などの火山を形成し，秋田県にまたがる広い地域は，十和田(とわだ)八幡平国立公園に指定されている。南東部には花巻(はなのまき)温泉群がある。北上川は，わが国第4の大河で，川筋に北上盆地が開け，奥羽山脈の山麓部(さんろくぶ)に大小の扇状地をつくる。水系一帯はしばしば洪水(こうずい)にみまわれ，北上特定地域総合開発計画によって，治水・干害・発電を兼ねた多目的ダムが多数建設されている。

気候は，中央日本の山岳地帯や北海道と類似し，北上山地は春から夏にかけて吹く低温の偏東風〈やませ*〉のために，しばしば冷害に襲われる。北上川下流地域は，比較的高温で，米作に適している。盛岡の年平均気温は9.7℃，1月が－2.6℃，8月が23.2℃，年平均降水量は1,279mmである。奥羽山脈北部の山間部の年平均降水量は2,000mmを越え，積雪も多い。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は，27：26：47で，第1次産業の就業率は青森県に次いで高い。農業が主産業であるが，零細農業が多く，商工業がふるわないので，県民分配所得は1人あたり103万円(1977年度)にすぎず，全国45位である。**〈農林水産業〉**耕地面積は県域の11％にすぎず，自給自足的な色彩が強い。水田は耕地面積の66％を占め，その大部分は北上川沿いに分布している。米の年平均収量は43万t余で東北6県中最も低く，約20％を移出する。畑作は，雑穀・麦類・ダイズなどを主体とし，冷害に強いヒエは，北上山地北部でおもにつくられる。ダイズは北海道に次ぎ全国第2位，リンゴは全国第4位の収穫をあげており，最近ではタバコなどの商品作物の作付けも南部に広まっている。畜産業では，古くからウマの産地として全国に知られてきたが，最近ではウマからウシへの転換が行なわれ，特に乳牛は著しく増加して一時は8万頭を越え，北海道に次いで全国第2位を誇っていたが，1975年(昭和50)には，6万9,800頭と7万頭を割り，群馬・千葉両県に追い抜かれて，全国第4位となっている。広い牧野をもつ二戸(にのへ)高原・種山高原・岩手山や早池峰(はやちね)山の山麓などは集約酪農地域に指定され，中でも青森・秋田両県境に近い二戸高原では，1959年(昭和34)から大規模な機械開拓が行なわれている。小岩井農場*は，日本最大の民間農場として知られる。林野面積は119万ヘクタールで，県域の78％を占め，北海道に次ぐ広さをもつ。そのうち，民有林は51％を占めるが，蓄積量は国有林のほうが多い。ナラ・クヌギなどの広葉樹が多く，針葉樹は少ない。木炭の生産は少なくなったが，これは全国的な傾向であり，岩手県としてはなお約1万tを産して全国一となっている。木材チップ工場が200余，製材工場が700余ある。江戸時代，南部藩の奨励によって漆の生産が盛んとなり，現在も全国一の生産をあげ，〈南部漆〉の声価が高い。三陸沖の豊富な漁場を控え，宮古・釜石(かまいし)・大船渡などの良港があるが，漁獲量が毎年一定しないことや輸送難のためにしばしば大漁貧乏となることなどが障害となり，漁獲高は東北地方で最低である。宮古以北ではワカメ・コンブ・アワビなどの磯(いそ)漁業が行なわれ，宮古以南ではアサクサノリ・カキの養殖も行なわれ，ワカメの採取量は全国の約50％を占める。**〈鉱工業〉**地下資源は豊富で，鉄(釜石鉱山・仙人鉱山)やリュウカテッ鉱・銅(釜石鉱山)・鉛・亜鉛(田老鉱山)などを採掘し，北部海岸では砂鉄，北上山地では石灰岩も産出する。イオウの産出の多かった松尾鉱山は1970年に閉山した。釜石鉱山の鉄は日本一の産額をあげ，新日本製鉄釜石製鉄所，川崎製鉄久慈工場(砂鉄)，大船渡の小野田セメント工場などの関連工場がある。近代工業は未発達で，製材・酪農製品・水産加工などの中小工場が各地に散在するにすぎない。近年は北上特定地域総合開発の一環として，精密機械・パルプ・化学工業などが花巻・北上の内陸部に立地し，大船渡には臨海工業地帯の造成が進んでいる。なお，郷土産業としては，南部鉄びんが古くから知られている。

〔交通・都市〕陸上交通は幅の広い北上山地に妨げられて，他府県に比べて発達が遅れている。東北本線が北上川に沿う低地を南北に縦貫し，山田線・釜石線・大船渡線が県域をほぼ東西に走り，田沢湖線・花輪線は奥羽山脈を横断して秋田県へ通じ，八戸線・久慈線は三陸海岸を南下して，普代(ふだい)(下閉伊(しもへい)郡普代村)に達する。私鉄は，大船渡(おおふなと)市内の盛(さかり)から岩手石橋に至る9.5kmの岩手開発鉄道が残っているだけで，花巻電鉄や松尾鉱業鉄道は廃線となってしまった。道路は，国道4号線が東北本線とほぼ平行して県域を南北に縦断するほか，国道45号線が太平洋岸を走り，東西交通には国道46号線・106号線・107号線などが利用されている。バス交通は，特に鉄道の不便な山間部の交通に利用され，北上山地には国鉄バスの路線が多い。13市のうち，新興工業都市の釜石や温泉郷の花巻以外はいずれも古い歴史をもち，城下町盛岡をはじめ宮古・花巻・北上・久慈・遠野・二戸(にのへ)などは南部藩の要地，一





岩 手 県 (上)南部の曲屋。中央の突出部分が馬屋になっており，左へかぎの手に母屋がある。曲屋は最近はだんだん減少しつつある (下)盛岡の名産南部鉄びん。室町時代からの伝統をもち，鉄びんのほか，花びん・花器・灰ざらなどもつくられる。品質は優秀で意匠・技術などもすぐれている



岩 手 県

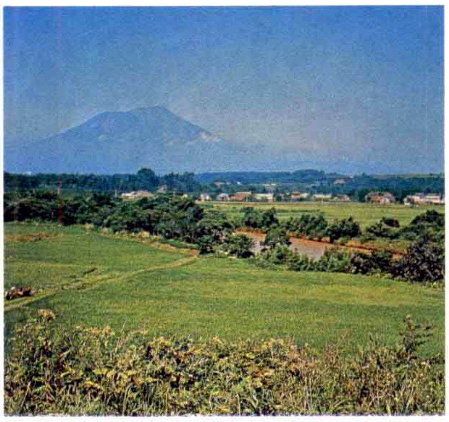
関・水沢・江刺・陸前高田は伊達(だて)藩の要地であった。しかし，市制施行の歴史は新しく，盛岡・釜石・宮古の3市以外はいずれも第2次世界大戦以後に市となったものである。

〔歴史〕 縄文(じょうもん)式文化の遺跡は県内各地にみられるが，弥生(やよい)式文化の遺跡は乏しい。古墳も数が少なく，前方後円墳は胆沢(いさわ)郡胆沢村の角塚(つのづか)古墳が唯一のものである。古くは蝦夷(えぞ)の住む辺境であったが，5世紀ごろから大和(やまと)朝廷の勢力がしだいに伸長し，大化改新*に際して陸奥の国が設けられ，多賀城*(宮城県)に国府が置かれたが，奈良時代から平安初期にかけて蝦夷の討伐が進むとともに，この地方も陸奥に編入された。749(天正21)年に陸奥の金が朝廷に献納されてから黄金の山のあることが知られ，9世紀初頭に坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)は胆沢城*を築いて，蝦夷を北へ後退させた。以後，関東・中部地方からの移住民が増加してしだいに辺境が開拓され，前九年の役*(1051〜1062)で源頼義(よりよし)が安倍(あべ)氏の反乱をおさえて朝廷の勢力を確立した。平安末期からは藤原清衡*(きよひら)が県南部の平泉を本拠とし，基衡(もとひら)・秀衡(ひでひら)と3代約100年間にわたって奥州藤原氏の繁栄を誇った。藤原氏の滅亡後は，1191年(建久2)南部光行(みつゆき)が糠部(ぬかのぶ)(青森県東部)の地頭職に任ぜられ，奥羽九牧(領地を九つの戸(へ)に分け，戸ごとに軍馬を育成した)を開いて馬産を興した。南部氏は，1591年(天正19)，一族九戸氏の反乱を機として，本拠を不来方(こずかた)(いまの盛岡市)に移した。江戸時代には，県域は黒沢尻(くろさわじり)(現在の北上市)から釜石を結ぶ線で，伊達・南部の両藩に2分され，南部藩は北で境を接する津軽藩と対立状態にあった。南部藩の所領ははじめ十万石で，1629年(寛永6)石巻港を改修して北上川舟運を開き，盛岡は南部藩の城下町として栄えたが，領地には山間不毛の地が多く，冷害に悩まされ，天明の飢饉(ききん)の際には30数万の人口のうち60,000余の餓死者が生じた。江戸後期に二十万石に加増されて，蝦夷地警備の任にあたったが，財政は苦しく，百姓一揆(いっき)の発生率は全国一を示している。明治維新に際して，南部藩は奥州列藩同盟に加盟し，官軍に反抗したために，宮城県白石十三万石に転封された。1871年(明治4)の廃藩置県によって盛岡・江刺・一関の3県が置かれ，翌1872年に盛岡県は江刺県と合併して岩手県が成立した。一関県は水沢県・磐井(いわい)県と改称したのち，1876年に岩手県に編入され，次いで宮城県から気仙(けせん)郡，青森県から二戸郡も編入されて，今日の県域が成立した。

〔浅井得一〕

いわて【岩手(町)】 岩手県岩手郡の町。人口21,000。1955年(昭和30)に，沼宮内(ぬまくない)町ほか3村が合併して生まれた。旧沼宮内町は北上川の上流部に沿い，奥州街道の宿場町として発達したが，現在も東北本線・国道4号線に沿う交通の要地，バス交通の中心であり，木材を集散している。付近はタバコ・リンゴ・アスパラガスや，岩手甘藍(かんらん)とよばれるキャベツなどの畑作地帯である。

いわてさん【岩手山】 盛岡市の北西方にそびえる標高2,041mの円錐(えんすい)火山。東と南・北に長いすそ野を引き，南部富士の別名がある。頂上部には東西に長い楕円(だえん)形をなす旧噴火口をもち，その中に二つの火口湖があり，その東部の壁上に二重式火山妙高岳が噴出するなど，地形は複雑である。狭義の岩手山はこの東部に噴出した東岩手の山をさす。南の山麓(さんろく)には有名な小岩井農場*や県立種畜場がある。十和田八幡平(とわだはちまんたい)国立公園に属する。



岩 手 山　北上平野から見た岩手山。石川啄木・宮沢賢治らの作品にうたわれた岩手山は，南部の土地の人たちの〈心のかて〉となっている



イ ワ ナ

いわでやま【岩出山(町)】 宮城県玉造(たまつくり)郡の町。人口17,000。古川市の北西に接し，陸羽東線に沿う。1591年(天正19)に米沢(よねざわ)から転封した伊達政宗*(だてまさむね)が，仙台(せんだい)に移るまでの13年間ここに居城を構えたことで知られ，その後も伊達氏の一門一万四千石の城下町であった。荒雄川(北上川の支流江合川の上流部)の渓口(けいこう)集落で，凍(し)み豆腐や寒天・納豆・竹細工の特産，また片倉工業の工場がある。

いわとけいき【岩戸景気】 1959～1961年(昭和34～36)と3年続いた好景気を，1955年後半から1956年にかけての神武景気*をしのぐ意味で岩戸景気という。神武景気は景気の過熱から行きづまりをきたし，1957年の金融引き締めによって下降に転じ，いわゆるなべ底不況にはいったが，1958年の下半期以来，景気は再び上昇し，経済成長率は1959年の10.3％，1960年の15.4％，1961年の15.5％と高水準に達した。この好景気も内外需要の好調によるものであったが，とりわけ設備投資ブームがその決定的な原因であった。特に1960年末に池田内閣が国民所得倍増計画*を発表したことを契機に，需要増大への期待から民間設備投資が急増し，1960年を境にそれまでの3兆円ベースから一挙に5兆円ベースに上昇して景気の過熱化現象をひき起こした。しかし，原材料などの輸入が増大したため，1961年後半には国際収支が悪化し，1962年の金融引き締めを迎えることになった。〔原　豊〕

いわとやまこふん【岩戸山古墳】 福岡県八女(やめ)市にある古墳。九州最大の前方後円墳*で石人のある古墳として著名。墳丘は長さ約220m，前方部の幅約140mあり，後円部に横穴式石室があったと伝える。墳丘は埴輪(はにわ)・葺石(しゅうせき)・石人で飾られている。《筑後風土記(ちくごふどき)》に筑紫国造(つくしのくにのみやつこ)の墓があるとしるされているのが，この古墳だという。→磐井の乱

いわな【岩魚】 硬骨魚類・サケ科。40cmほどになる淡水魚。ほっそりした姿で，かっ色の地に白や赤の丸い斑紋(はんもん)を散らす。本州中部の川の上流にすむ。日本では，最も標高の大きい所にいる魚で，夏の水温が13～15℃以上になる所にはすまない。動物食で，川を渡るヘビを丸飲みにしたりする。渓流(けいりゅう)づりの対象魚とされ，美味。イワナには一般に降海性はみられないが，本州北部と北海道にすむエゾイワナの中にはアメマスという降海型がある。北海道以北には，このほか，オショロコマ(カラフトイワナ)がおり，これも降海型である。中国地方でゴギとよばれるイワナにごく近い魚がいる。これらは，いずれもよく似ていて，区別をつけにくい。

いわない【岩内(町)】 北海道後志(しりべし)支庁の町で，日本海に面し，函館(はこだて)本線の小沢駅から岩内線が通じている。人口24,000。江戸時代からの漁港で，大正のころまではニシン漁で栄えたが，1933年(昭和8)ごろからニシンはまったくとれなくなり，現在ではスケソウダラ・ホッケ・サケ・マスの漁獲と，その加工を主としている。背後の岩内平野では，米・ジャガイモなどをつくっている。なお，ここは日本最初のアスパラガスの栽培地である。

いわなし【岩梨】 双子葉植物・ツツジ科。山地の岩や砂地の間に自生する常緑低木。茎は地面をはい，高さ12～15cm。葉は長さ3～6cmの卵状披針(ひしん)形で縁にかっ色の細毛があり，質は非常に厚くかたい。5～6月，枝先に淡紅色の筒状花を数個つけ，7～8月，偏球形で直径1cmほどの紅色の漿果(しょうか)をつけ，甘く食べられる。

いわなみしょてん【岩波書店】 1913年(大正2)岩波茂雄(1881～1946)によって東京神田神保(かんだじんぼう)町の一角に開業。古本販売から出発し，処女出版は夏目漱石(そうせき)の《こころ》であった。岩波が東京大学哲学科卒業後，教員生活を経て転身し，親友安倍能成*(あべよししげ)・阿部(あべ)次郎*などの協力のもとに1915年創刊した《哲学叢書(そうしょ)》は出版業の礎石となった。1927年(昭和2)にはドイツのレクラム文庫にならって古今東西の名著を集めた〈岩波文庫〉を発刊し，日本の出版文化に多大の影響を及ぼしながら今日に至っている。〔前納弘武〕

いわなんてん【岩南天】 双子葉植物・ツツジ科。山地の谷間の湿地にはえる常緑低木で，高さ30～150cm。枝はたれ下がり，葉は卵形ないし披針(ひしん)形で有柄，互生し，表面につやがあり，2列に並ぶ。7～8月，枝の先に白色の花穂をつける。花冠は1.5～2cmの筒状で浅く5裂し，下を向く。果実は9～10月，かっ色に熟し上を向く。

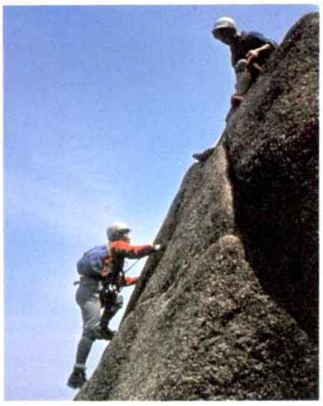
いわぬま【岩沼(市)】 宮城県中部の市。人口34,000。1971年(昭和46)市制施行。仙台(せんだい)市の南方20kmにある。奥州街道と陸前浜街道の分岐点にあたる宿場町として発達し，現在も東北本線と常磐(じょうばん)線，国道4号線と6号線の分岐点として交通の要地となっている。市の北東部の矢ノ目地区に仙台空港がある。仙台湾新産業都市の一部で，工場の進出が著しい。

イワネンコ［Dmitrii Dmitrievich Ivanenko］(1904～　) ソ連の理論物理学者。原子核論・素粒子論の形成期にすぐれた見通しを示した。原子核の中性子-陽子模型を提唱(1932)し，中性微子仮説によるβ崩壊の理論を立て(1933)，さらに核力の計算を試みるなどの業績をもつ。スターリン賞を受賞(1950)。

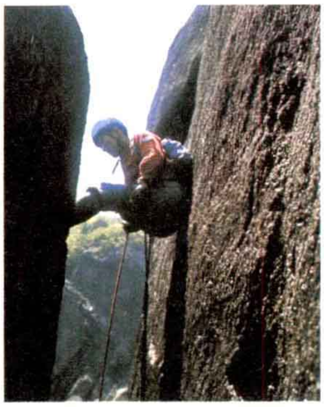
イワノビッチ［Iosif Ivanovici］(1845～1902) ルーマニアの作曲家。《ドナウ川のさざなみ》で知られる。彼は軍楽隊でその生涯(しょうがい)を送り，最後には軍楽隊総監督の地位にまでなった。作品はかなり多いが，《ドナウ川のさざなみ》に次いでは《カルメン-シルバー》など，ワルツが特に有名である。ワルツ王J.シュトラウスのワルツと異なって，どこか哀愁が漂っているところに魅力がある。

いわのひめこうごう【磐之媛皇后】 生没年不詳。5世紀の仁徳(にんとく)天皇*の皇后。履中・反正(はんぜい)・允恭(いんぎょう)天皇らの生母。父は大和(やまと)(奈良県)の世襲豪族葛城襲津彦(かつらぎのそつひこ)。生家の強い勢力を背景として権威をふるい，天皇もその嫉妬(しっと)にはしばしば悩まされたという。臣下の娘で皇后になった例は，このあと8世紀の光明皇后まで見あたらない。

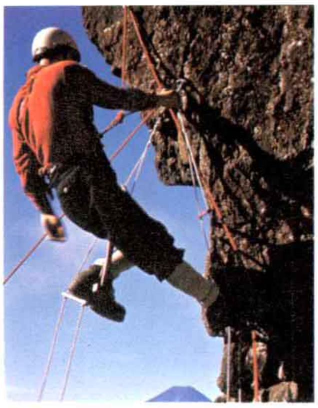
イワーノフ［Vyacheslav Ivanovich



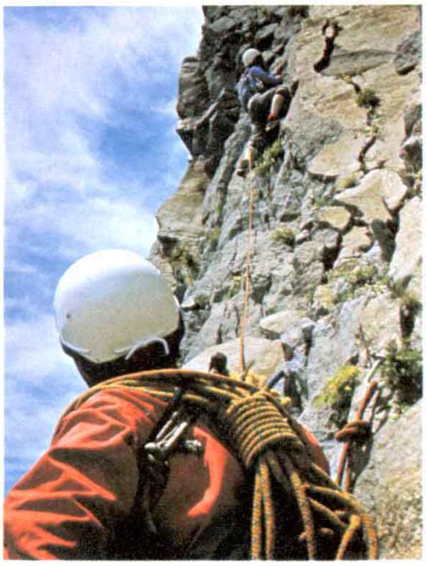
スラブ 手をかけられない一枚岩。ハーケンを打ち込み，それを足場にして登る



チムニー 煙突状の岩の割れ目。岩の両面を手・足・ひざ・背でささえて登降する



オーバーハング ひさし状に張り出した岩をハーケン・あぶみなどを用いて登る



確　保 互いにザイルで結び合い，ひとりが登降すれば，他のひとりが確保して安全に登降する基本的な技術



チロリアン-ブリッジ 両岩にザイルを張り渡し，宙づりになって渡る方法で，高度の技術が要求される



クラック 手足がはいる程度の岩の割れ目。これに手足をこじ入れて登る



アプザイレン 懸垂下降。ふつうに下降できないときに用いる下降法



登山用具 左から懸垂下降器・埋め込みボルト用ドリル・あぶみ・ロックハンマー・カラビナ・ハーケン

岩登り

Ivanov］（1866～1949） ロシアの詩人。後期象徴派の代表的詩人で，ギリシア・ローマの古典やニーチェ*の哲学に通じ，荘重なスタイルの詩が特徴的である。ロシア革命後，イタリアに亡命し，カトリックに改宗した。詩集《透明》《燃える心》がある。

イワーノフ ［Vsevolod Vyacheslavovich Ivanov］（1895～1963） ソビエトの小説家。放浪生活の中で文学を修業した。ゴーリキー*に認められ，のち〈セラピオン兄弟*〉の一員となる。国内戦時代の地方での数奇な事件や風俗を描き，ソビエトにおける散文学の先駆者となった。代表作は《装甲列車14－69》，第2次世界大戦に取材した《ベルリン攻略》など。

イワノボ ［Ivanovo］ ソビエト連邦，モスクワ北東方の都市。人口43万4,000(1972)。18世紀半ばごろからの古い綿工業中心地で，現在は綿紡績・綿織物などの繊維工業のほか，各種の機械工業も行なわれている。古くから労働運動が盛んであったことでも知られている。

いわのほうめい 【岩野泡鳴】（1873～1920） 詩人・小説家・評論家。兵庫県に生まれた。本名は美衛(よしえ)。人間の存在は盲目で無目的であるから，刹那(せつな)を燃焼させて生きるべきだと主張。〈文学即人生〉の立場から波乱に満ちた人生を送り，自然主義文学上特異な〈一元描写*〉を確立した。代表作は評論に《神秘的半獣主義》，小説に《耽溺(たんでき)》や《放浪》《断橋》《発展》《毒薬を飲む女》《憑(つ)き物》の五部作など。

いわのぼり 【岩登り】 登山で，岩場を登降する技術。英語ではロッククライミング。アルピニズム*は，その必然的な技術としての岩登りを伴うが，10世紀中期の〈アルプス黄金時代〉を経てアルプス未踏峰がほとんど登り尽くされると，バリエーションルートの岩登りや登頂と直接関係のない大岩壁の登攀(とうはん)が試みられ，岩登りはそれ自体独立した登山部門として発達した。アルプスでは，マッターホーン・グランドジョラス・アイガーの〈三大北壁〉をはじめとする岩壁が，日本では北アルプスの穂高連峰や剣岳(つるぎだけ)，上越の谷川岳の岩場が有名。ハーケン・カラビナ・ロックハンマーは岩登りの〈三つ道具〉で，これにザイル*が組み合わせられる。あぶみ・懸垂金具・埋め込みボルトなど高度な特殊用具の開発は，これまで不可能とされた岩壁の登攀も可能とし，曲芸的なクライミングを生み出した。西欧の岩壁には，登攀の難易により等級もつけられている。　〔大島幸夫〕

いわはね 【岩はね】 ⇨山はね

いわひげ 【岩髭】

1 双子葉植物・ツツジ科。常緑小木で高山植物の一。茎は太さ約2mmのひも状で分枝し，細かい鱗片(りんぺん)状の葉を密生させる。7月ごろ葉の間に長さ3～5cmの花柄を出し淡紅色の鐘状花を下向きにつける。

2 褐藻(かっそう)植物・コモンブクロ科。表日本の浅い磯(いそ)の岩上に叢生(そうせい)する。長さ6～15cm，幅1mmの線形で淡茶色。質は比較的かたく，乾燥すると黒かっ色に変化する。潮間帯中位に帯状に群落をなす。

いわひば 【岩檜葉】 シダ植物・イワヒバ科。小葉類の一つで山地の湿地にはえる常緑多年草。茎は多数集まって束生し，根が密にからみ合って太い茎状となる。枝は一平面状に展開し，直径10cm以上となる。葉は1.5～2mmで，大小2形あり，枝上に4列に並ぶ。乾燥すると枝は内側に巻き，湿

るともとにもどる。胞子嚢穂(ほうしのうすい)は枝の先につくが，その枝は他の枝より幅が狭い。おもに関東以南の樹上・岩壁などにみられる。多数の園芸品種がある。

いわひばり【岩鷚・岩雲雀】①鳥類・イワヒバリ科の総称。1属12種が旧北区の高山に分布。全長13～18cmのじみな小鳥で，主として高山の岩地・草地・低木帯にすみ，地上で採餌(さいじ)する。夏はおもにこん虫を食べ，冬は草の種子や低木の実を食べる。日本にはイワヒバリ・カヤクグリ・ヤマヒバリの3種が分布するが，ヤマヒバリはごくまれにしかみられぬ迷鳥である。②イワヒバリ科の一種で全長18cm。茶かっ色のじみな鳥で，ヨーロッパから日本にかけての高山の岩地にすみ，冬にはやや下方に降りて越冬する。〔浦本昌紀〕



イワヒバリ

いわふねのき【磐舟柵】〈いわふねのさく〉ともいう。648年(大化4)現在の新潟県村上市岩船町付近に蝦夷(えぞ)に備えて置かれた城柵。遺跡は残っていないが，当時は北辺の海岸線の展望できる要地であったろう。647年建てられた渟足(ぬたり)柵とともに，大化改新後政府が蝦夷地を経営する裏日本の前進基地となった。柵戸(きべ)として越(こし)(北陸地方)・信濃(しなの)(長野県)の民を移した。698年(文武2)越後(えちご)国(新潟県)に命じて修理，700年さらに越後・佐渡(新潟県)の2国に命じて修理させたが，712年(和銅5)出羽国(山形県・秋田県)が設置されるに及び，和銅年間(708～714)に廃された。〔高崎徳次〕

いわまでら【岩間寺】⇨正法寺

いわみ【石見(国)】島根県西半部の旧国名。石州。山陰道に属する。もと石見国造(くにのみやつこ)の治下で，大化改新後一国となる。平安時代以降は安濃(あの)・邇摩(にま)・邑知(おうち)・那賀(なか)・美濃(みの)・鹿足(かのあし)の6郡であったが，いまは浜田・益田(ますだ)・津和野などの4市と5郡に分かれている。国府は那賀郡(国府町)にあった。鎌倉時代の守護は佐々木・伊東(いとう)・北条(ほうじょう)，室町時代は京極・山名・大内らの諸氏であったが，戦国末期には毛利氏の制覇(せいは)するところとなった。関ヶ原の役後徳川氏は本国を毛利氏から奪い，浜田(松平氏)・津和野(亀井(かめい)氏)の領邑(りょうゆう)以外はことごとく幕府領とし，大森に代官を置いてこれを支配した。明治維新後浜田県を経て，1876年(明治9)島根県に編入され今日に至っている。〔黛　弘道〕

いわみ【岩美(町)】鳥取県岩美郡の町。人口16,000。日本海に面する浦富(うらどめ)と温泉で知られる岩井の両町が中心となり，付近の村々を合わせて，1954年(昭和29)に発足。浦富海岸は山陰海岸国立公園の一部で，特に西部の岩石海岸は景勝地として，東部の砂浜海岸は海水浴場として訪れる人が多い。岩井温泉は蒲生(がもう)川上流左岸にあり，平安期以来の古湯で，因幡(いなば)(鳥取県)～但馬(たじま)(兵庫県)間の交通の要所として開け，にぎわった。

いわみぎんざん【石見銀山】島根県大田市に所在した銀山。14世紀はじめころ発見され，室町中期に足利直冬(あしかがただふゆ)が領有して露出鉱を採取。戦国時代には大内氏が開発した。1533年(天文2)銀吹法を導入してから産出量はさらに増加した。大内・尼子・毛利氏らの間で争奪され，のち豊臣(とよとみ)氏の直轄となった。1601年(慶長6)江戸幕府は，大久保長安を銀山奉行(ぶぎょう)に任じて直轄とした。17世紀末には衰微し，明治中期には大阪の藤田組により一時復活されたが，今日では廃坑。〔松尾　涼〕

いわみけんち【石見検地】慶長・元和(げんな)年間(1596～1623)に大久保石見守(いわみのかみ)長安が，江戸幕府の命により伊奈忠次(いなただつぐ)とともに全国的に行なった検地。備前検地と併称される。測量の基準となる1間を従来の6尺3寸(約191cm)から6尺1分(約182cm)に改め，300歩を1反とした。

いわみこうげん【石見高原】中国山地北西部の日本海寄りの地域で，山口県の北東部から島根県の大部分にわたる山地。標高400～500mからなる侵食の進んだ古い山地で，三瓶(さんべ)山・青野山などの火山がこれに連なる。牧牛・石見半紙・木炭などの産業がみられる。

いわみざわ【岩見沢(市)】正確には〈岩見澤〉と書く。北海道南西部の，空知支庁のある市。1882年(明治15)に鉄道が通じ，1884年以来，山口・鳥取など各県の士族団体の入植が進み，北海道有数の交通の要地，米産地として発展した。1943年(昭和18)市制施行。人口81,000。石狩平野の東端を流れる幾春別川の氾濫原(はんらんげん)上に位置する。産業三大別人口比は13：19：68。米をはじめ，農産物の生産が多いが，木工団地の建設や軽工業関係の工場誘致も進んでいる。最近は札幌(さっぽろ)の衛星都市的色彩が濃い。函館(はこだて)本線・室蘭(むろらん)本線が通じ，炭田地帯を結ぶ幌内線・万字線を分岐する交通の要地で，広大な操車場がある。国道12号線(中央国道)は市街中央部を東西に貫通し，234号線は南の栗山(くりやま)方面へ向かい，これらを中心にバス網が四方に延びている。北海道教育大学岩見沢分校をはじめ教育施設も多い。

いわみじゅうたろう【岩見重太郎】(？～1615) 安土桃山時代の剣豪。名は兼相(かねすけ)。筑前(ちくぜん)(福岡県)の小早川家の臣，岩見重兵衛(じゅうべえ)の子。父のかたき広瀬軍蔵を捜して諸国を遍歴し，めでたく討ち果たしたとも，また武者修行の途中天の橋立で，かたき討ちのすけだちをして大橋八佐衛門(はちざえもん)・成瀬万太夫・広瀬郷右衛門を討ったともいう。のちに豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え五千石を領した。1614年(慶長19)大阪冬の陣で活躍。1615年の夏の陣では，河内路(かわちじ)を防いで伊達政宗(だてまさむね)の部将片倉重綱(しげつな)の軍勢と戦って死んだ。講談や読本では，怪物を退治したり，山賊と戦う豪傑として描かれた。講談で大阪夏の陣において活躍する薄田隼人(すすきだはやと)と同一人とするのは誤りである。〔稲垣史生〕

いわむし【岩虫】環形動物・多毛綱・イソメ科。体長35cm，幅1cm内外で，赤かっ色。世界的に分布しており，日本でも全土の海岸の，柔らかい岩の割れ目や転石下にすんでいる。つりのえさとして喜ばれ，イワメ・イワイソメ・ホンムシなどともよばれる。

いわもとかおる【岩本薫】(1902～　)囲碁棋士九段。島根県の生まれ。1913年(大正2)上京して広瀬平治郎八段に入門。1929年(昭和4)ブラジルに渡り，3年後に帰国し，1948年から第3期・第4期に本因坊を継承，薫和と号した。

いわもとよしはる【巌本善治】(1863～1943) 女子教育の先覚者。兵庫県出身。中村正直(まさなお)・津田仙(せん)に学び，早くからキリスト教に入信，キリスト教による女子教育，婦人解放に関心をもち，1885年(明治18)《女学雑誌》を創刊主宰。1887年明治女学校の教頭として教壇に立ち，当時の女性に強い影響を与えた。野上弥生子(やえこ)・羽仁(はに)もと子らもここに学んだ。また雑誌《文学界》の創刊にも寄与するところが多い。

いわやさざなみ【巌谷小波】(1870～1933) 児童文学作家・小説家。本名季雄(すえお)。別号に大江小波・漣山人(さざなみさんじん)。書道家一六居士(いちろくこじ)の子として東京麹(こうじ)町に生まれる。独逸学(ドイツがく)協会学校・川田甕江(おうこう)塾に学んだが，文学創作に魅せられ，硯友社(けんゆうしゃ)同人となって《我楽多文庫》に《五月鯉(さつきごい)》《妹背貝(いもせがい)》など少年主人公の小説を執筆した。1891年(明治24)に博文館発行の《少年文学叢書(そうしょ)》の第1巻に《こがね丸》を書いたのがきっかけで，博文館の《幼年雑誌》《少年世界》の主筆としてお伽噺(とぎばなし)創作，外国名作の移植，昔話の再話と，児童文学創成期の開拓者の道を歩んでいく。また口演童話家として全国を歩き，同時に後進育成のための木曜会を開くなど多面的な活躍をした。代表作に《日本昔噺》《世界お伽噺》《小波叢書》などがある。〔岡田純也〕

いわれのいけ【磐余池】磐余は大和(やまと)(奈良県)の地名で，しばしば皇居が置か

れ大和朝廷の起源にゆかりの深い伝承をもった要地である。《日本書紀》に履中天皇のとき，ここに磐余池を築造し船を浮かべて遊宴したことがみえる。また大津皇子(天武天皇の皇子)が謀叛(むほん)の罪により686年(天武15)この池の堤上で処刑されたときの辞世の歌が《万葉集》に載っている。奈良県桜井市の，天香久山(あまのかぐやま)の東北麓(ろく)にあった池かと想定される。〔北条秀樹〕

イワン [Ivan] ロシアのモスクワ大公。

[1] 1世。Ivan Danilovich(1301ごろ～1341) 在位1325～1341年。モスクワ公ダニイル-アレクサンドロビッチの子で，公国の領土拡大とその地位上昇に貢献。キプチャク汗国を利用して近隣のトベリ公国の力を弱めるなど，北東ロシアに影響力を広げた。モスクワを手工業の中心地とし，ギリシア正教の府主教をウラジーミルからモスクワへ移して教会の影響力を強めた。イワン1世に与えられた〈カリタ(銭袋の意)〉という呼称からもモスクワ公国の繁栄がうかがえる。

[2] 3世。Ivan Vasil'evich(1440～1505) 在位1462～1505年。ワシーリー2世の長男でイワン4世の祖父。ロシアの統一をほぼ完成し，キプチャク汗国から独立した。内政面では封建貴族の力をおさえ，中央権力機関を整備。また，ビザンチン帝国最後の皇帝のめいと結婚して双頭のワシの紋章とツァーリの称号を取り入れ，対外的にも独立君主たることを示そうとした。

[3] 4世。Ivan Vasil'evich(1530～1584) 在位1533～1584年。〈雷帝〉と称される。1547年はじめて全ロシア人のツァーリと称して親政を開始。貴族に対しては専制的な恐怖政治をしいたが，士族とは手を結び，彼らのためにモスクワ近郊に封地を与え，農民の移動を制限し，士族中心の地方自治を認めるなどの措置をとった。1552年カザン汗国，1556年アストラハン汗国を併合。これによるボルガ川の確保は，北方水路開始(1553)とともに，外国交易の要求に答えるものだった。バルト湾に港を求めてリボニア騎士団領に侵入したが，貴族の裏切りもあって目的を達成できなかったため，戦後貴族に対して大弾圧を行なった。士族や商人の支持を背景に専制権力を確立したとはいえ，他方で商品経済の浸透や戦争，タタールの侵入などによって，農民の辺境流出を招いた失敗もある。傑出した皇帝として英雄叙事詩・民謡に多く扱われ，文芸作品にもしばしば登場する。〔山県弘志〕

イワンのばか [イワンの馬鹿] レフ-トルストイ*の民話(1885)。無欲で勤勉で純真でばかなイワンが，軍人の兄と商人の兄の意地悪や悪魔の妨害を制して成功するという物語で，作者の，純朴(じゅんぼく)さへの賛美や，反軍国主義・無抵抗主義・無政府主義などの思想が盛り込まれている。

いん [院] 一区画をなす建物の称。四方を築地(ついじ)・へいなどで囲まれた一画の建物群をさし，別宅・寺院などにこの名をつけた。転じて天皇退位後の住居を後院といい，また，そこに住む上皇*・法皇*をも院とよんだ。院が複数いるときは一院(本院)・中院・新院などと区別をした。

いん [韻] 漢字の字音のうち語頭の子音を省いた部分をいう。これによって漢字は分類され，隋(ずい)・唐時代206，元・明(みん)以後106を区別する。さらに，文中に同音あるいは類音を一定位置に反復使用することをいい，詩歌では，頭韻*・脚韻*などの押韻*により音律を整えて表現効果を高めようとする。➔韻律

いん [殷]

[1]実在が確認される，中国最古の王朝。始祖の契が商の地に封ぜられて国を建てたとされ，みずからは〈商〉と称する。BC1600年ごろ，湯王(天乙)が夏の桀王(けつおう)を破って殷王朝を開いた。以後幾度か黄河中流域を中心に都が移されたが，盤庚(ばんこう)が殷(河南省安陽)に最後の遷都を行なってからのちは，長く安定した国家経営が行なわれた。特に盤庚以後を殷王朝とよび，以前を商王朝とよんで区別することもある。紂王(ちゅうおう)(帝辛)の代に至って，酒池肉林の乱行を行ない，東方征伐に国力を傾けたため，西から侵入した周の武王に破れて殷王朝は滅んだ。一説にBC1028年のこととされる。殷王朝の経済的な基盤は奴隷制的な農業生産にあり，いくつかの都市国家の上に宗教的な性格の強い王権が乗っていた。今世紀になってから進められた安陽の殷墟*(いんきょ)や，殷遷都以前の都の跡とされる鄭州(ていしゅう)の発掘から，その文化の様相が詳しく知られるようになった。特に精巧な青銅製の食器・酒器は，中国の青銅器文化の頂点がこの王朝にあったことを示す。また殷墟から多数出土した亀甲(きっこう)や牛骨に刻された占いの記録，いわゆる甲骨文は，中国最古のまとまった文字資料であり，董作賓(とうさくひん)の研究により，殷王朝の祭祀(さいし)の形態，王室の構造，周辺の異民族との関係などがしだいに明らかになった。

[2]中国の秦(しん)代の末に，趙(ちょう)の将軍の司馬卬が河内(かだい)の朝歌で建てた国。

[3]中国の五代のときに，閩(びん)国の建州の長官であった王延政が，建州で建てた国。〔小南一郎〕

イン(川) ⇨ドナウ川

いんい [陰萎] ⇨インポテンツ

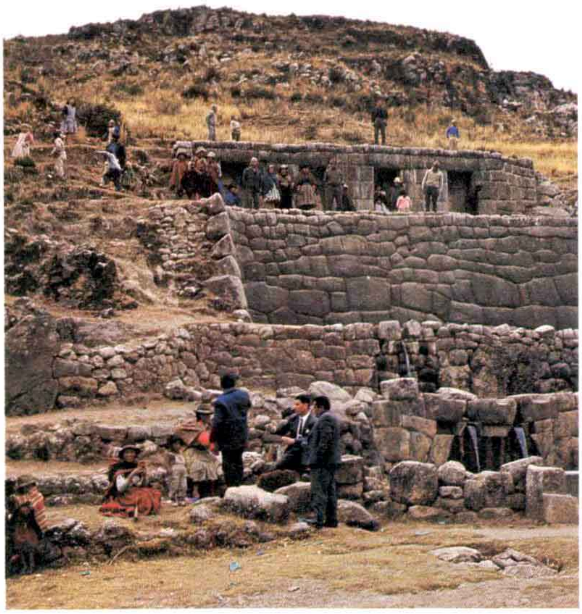
いんおうごぞく [印欧語族] ⇨インド-ヨーロッパ語族

インカ [Inca] 南アメリカのアンデス地方に栄えた帝国，およびこれを建設した部族。また，〈皇帝〉を意味することもある。アメリカの古代文明は，中部アメリカとアンデス山地の2地域を中心に展開した。前者からマヤ*およびアステカ*の文明が，後者からインカ文明が生まれた。インカ帝国の成立年代は不詳であるが，1200年ごろ，クスコを中心に興ったと推定される。これよりさき，BC1000年ごろよりアンデス地方には，中部アメリカの農耕文明の影響を受け，いくつもの文化が栄えた。チャビン・モチカ・ナスカ・チアワナコ・アイアラなどの各文化がそれである。インカ帝国はこれら文化のにない手である諸部族を次々に征服していった。インカの初代皇帝はマンコ-カパックといわれるが，彼は伝説中の人物で，その実在は定かでない。彼から第8代皇帝ビラコチャに至る200年間は，信憑(しんぴょう)性のある資料に乏しく，帝国の実態は不明である。当時のインカ族は帝国というより地方の一部族にすぎなかったと推定される。しかし，第9代パチャクチャ-インカ-ユパンキおよびそのむすこトパ-インカの領土拡張政策は，インカ族を一躍大帝国たらしめた。16世紀初頭，その版図は，北はコロンビア・エクアドルからペルー・ボリビアを経て南はチリにまで及び，総面積は約90万km²，人口は600万を数えた。インカ帝国はこの広大な地域を東西南北の4県に分けて統治した。中央クスコには皇



インカ
アンデス山脈中央部，標高2,060mにある城塞都市マチュピチュ





インカ　(右)クスコ近郊タンプマチャイの遺跡

帝が君臨し，各県には知事を任命した。しかし，インカ帝国は被征服民族に対し比較的寛容な態度をとり，自己の言語であるケチャア語を強制することもなく，被征服民族の風俗・習慣の存続も許した。

インカ社会は厳格な身分制をもって特徴づけられる。皇帝・貴族・神官・平民よりなる社会階層はそれぞれ世襲制とされ，階級差は歴然としていた。奴隷が存在しなかったこともインカ社会の特色といえる。経済の中心は農業で，トウモロコシをはじめとして，ジャガイモ・トマト・コカ・綿花などが栽培された。土地は国有とされ，生産はアイユと称する村落共同体を中心に行なわれた。アイユにはさらに国家の土地，神の土地が託され，部族民は一定期間これらの土地を耕すことを義務づけられた。神の土地の産物は，宗教的儀式あるいは神官の用に供出された。国家の土地の産物は皇帝に献納され，その一部は恵まれぬ人々にあてがわれた。インカ帝国は一種の福祉国家でもあったわけである。インカの宗教は創造神ビラコチャを最高位とし，太陽神が次位を占めた。創造神は海上に消えたと伝えられるはだの白い神で，のちに大陸に侵入してきたスペイン人の姿を見て，その再来と信じた。皇帝が太陽の化身と考えられたため，太陽神に対する崇拝も盛んで，太陽神に対する信仰を，インカ帝国は被征服民を含めすべての人民に強制した。インカ帝国は，政治社会組織においてはマヤ文明・アステカ文明よりすぐれていたが，抽象的学問や科学の面で遅れていた。現在も残る文化的遺産としては，土木灌漑(かんがい)工事・織物・金銀細工などがある。インカ文明は象形文字をもたなかったが，キップとよぶ結縄(けつじょう)記録があった。1532年，ピサロ*の率いるコンキスタドレス*がペルーに到着したころ，インカ帝国は内紛から分裂状態にあった。これに乗じ，ピサロは難なくインカ帝国を征服した。〔松下　洋〕

いんか【印可】仏教用語で，師匠が弟子(でし)に対して〈これでよろしい〉という証明を与えること。すなわち印信認可すること。印可の語は，《維摩経*(ゆいまきょう)》や《大日経*》などの大乗経典にもあるが，禅宗や密教の人々が盛んに用いた。禅宗では師家(しけ)が学人(がくにん)の境界(きょうがい)をおしはかって，その悟り*に証明を与えることをいう。密教では印法灌頂(かんじょう)(→灌頂)をいう。〔岡部和雄〕

いんが【因果】仏教用語で，梵語(ぼんご) hetu-phala(ヘーツパラ)の訳。現象の原因と結果，および両者の関係をいう。〈因〉は生ずること，〈果〉は生ぜられたものである。時間的な因果関係では，〈因〉がさきにあって〈果〉があとに生ずる。また3本の野球のバットが互いにささえ合って立つような場合は空間的因果関係で，因・果が同時に生ずる。ブッダ*における因果説の特色は，行為(業)因果で，心が原因となって身体または言語の行為を生ずるとする。善因楽果・悪因苦果のごときは，これを価値の方面からみたもので，このような場合，行為の直接的結果を業果という。小乗仏教では，過去・現在・未来の三世にわたって因果の法則が支配するという〈三世因果〉説や，〈六因五果〉という複雑な理論組織が説かれたが，大乗仏教では小乗的因果説を越えることが自覚されている。俗語の〈因果を含める〉とか〈因果物〉などは，因果を暗く宿命論的に受け取ったものであるが，本来は，ブッダの根本の教えである縁起*説の一面である。→因果関係〔大南龍昇〕

いんが【院画】中国絵画の一系統。宮廷内に設けられた画院で制作された絵画で，在野の画人による文人画などに対する。ふつう，画風概念としては院体画という。画院制度の確立は五代～宋(そう)以後で，謹厳な勾勒(こうろく)法をもつ山水画(北宗画*という)および濃麗な彩色をもつ楷体(かいたい)の黄筌*(こうせん)ふう花鳥画などがその伝統の底流をなした。

いんがいだん【院外団】国会議員以外の政党員の団体ないしはその組織をいう。第2次世界大戦前のわが国の保守政党は，近代的な党組織をもっていなかったので，議員以外の活動家もボスと子分との関係が多く，これらが院外団といわれた。院外団は院外での政党の日常活動を分担したが，特に倒閣運動や選挙などにおいては重要な役割を果たした。なお，政党組織の近代化がめざされている今日では，院外団は存在していない。〔鈴木安蔵〕

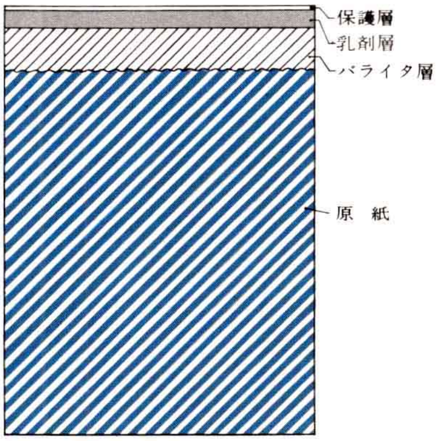
いんがかんけい【因果関係】原因と結果の関係をいい，ある事象から他の事象が必然的に生起するとき，前者を原因，後者を結果とよび，そこに因果律(因果法則)が成立するという。その際原因は時間的に結果に先行し，しかもその関係は必然的・普遍的でなければならない。科学の法則はこの原理の上に成立しているとされる。哲学史の上では，ヒューム*が経験論の立場から因果律を単なる習慣に基づくものにすぎず，原因と結果の間には必然的な結びつきはないとしてこれを否定したのに対し，カント*が因果律を先天的(→アープリオーリ・アーポステリオーリ)な形式とすることによってその普遍・妥当性を示そうとした。

原因と結果の関係を事実の間における関係ではなく，数学的・論理的・説明的な関係の中に求めた場合，それは理由と帰結の関係になるし，また目的をもった人間の行動の場合には，原因は手段となり，結果は目的となり，手段と目的の関係になる。→因果　→因果律〔寺中平治〕

いんがきょう【因果経】⇒過去現在因果経

いんがし【印画紙】写真印画をつくるため紙の表面に感光乳剤を塗付したもの。乳剤の種類・用途・現像方式などにより多くの種別があるが，銀塩を使用し湿式の現像法をとる，いわゆる写真焼き付けに用いるものが一般的に印画紙とよばれる。その構造は，原紙・バライタ層(硫酸バリウム・ゼラチン混用)・乳剤層・保護膜層からなり，バライタ層は，乳剤が原紙にしみこむのを防ぐ役割のほかに画像の階調に大きな影響をもつ。画像を構成する乳剤層は，これに使用する銀塩の種類により，①ガスライト紙(塩化銀主体，低感度密着焼き付け用)，②ブロマイド紙(臭化銀主体，高感度引き伸

ばし写真用)，③クロロブロマイド紙(塩・臭化銀混用中感度)に分けられる。また紙の厚さによる薄手・中厚手・厚手，表面状態による滑面・無光沢・粗面・布状面，色調による冷調・暖調(温調)など，非常に多くの種類があり，それぞれ表現目的に従って使用される。また同一銘柄のものでもネガから再現できる露光量の比によって0号から5号までの段階があり，数字の若いものは濃度差の大きい，コントラストの強いネガから，また，数字の大きいものはコントラストの少ないネガから，正常な階調の印画を得られるように調製されている。このほか，銀塩印画紙を列記するとカラー印画紙(→カラー写真)，カラーネガから黒白プリントを取るパンクロ印画紙，フィルターを変えることによりコントラストを加減できるポリコニトラスト印画紙，陽画から陽画(主としてカラー)を印画できるもの，支持体を紙だけでなく，布・陶器・金属などに替えたもの，複写などに用いる特殊な薄手のドキュメントペーパーとよばれるものなどがおもなものといえる。銀塩以外の方式による印画紙で実用化されているものは大部分が工業用のものであるが，これも列記すると，①鉄塩使用(いわゆる青写真)，②色素使用(陽画感光紙)，③静電気利用(エレクトロファックス)などが現在行なわれているおもなものといえる。→感光材料 〔河合玲二〕



印画紙 印画紙の構造

いんかしょくぶつ【隠花植物】 顕花植物に対する分類群で，花が咲くか否かで植物を二つに分ける場合の花をつけない一群の総称。胞子形成により増殖をし，植物体は維管束をもたぬ簡単な体制である。以前は高等植物に対する語としてよく用いられたが，この群はさらに細分化されており，顕花植物はむしろこの細分群と同じ位置に置かれるようになった。細分群の分け方はいろいろあるが，一例をあげると，①ウイルス群，②分裂菌群(バクテリア)，③藍藻(らんそう)類，④緑色鞭毛藻(べんもうそう)類，⑤かっ色鞭毛藻類，⑥黄色鞭毛藻類，⑦変形菌類，⑧藻菌類，⑨子嚢菌(しのうきん)類，⑩担子菌類，⑪地衣類，⑫緑藻類，⑬褐藻(かっそう)類，⑭紅藻類，⑮蘚苔(せんたい)類，⑯シダ類。〔横井朝子〕

いんかてん【引火点】 液体を加熱したときに発生する蒸気の量が，液体上部の空気と可燃混合気体をつくるのにちょうど十分となり，これに火炎を近づけると瞬間的に燃焼しうる液体の最低温度。引火点試験器によって測定するが，これには密閉式と開放式とがあり，測定値に多少の差異がある。液体の引火性を判断するのにたいせつな数値である。たとえば，アセトン－17℃，ベンゼン－8℃，エタノール14℃，テレピン油30℃，ガソリン－46℃，燈油38～74℃などである。〔寺沢誠司〕

インカびじゅつ【インカ美術】 南アメリカのアンデス地方(ペルー・ボリビア)を支配したインカ族の美術をいう。インカ族は，BC25世紀ごろにはまだ土器の製作も知らぬ未開の少数民族であったが，BC10世紀ごろには文化も進み，トウモロコシの栽培を行ない，それにまつわる宗教を興し，特殊な巨石建築を行なう技術を知っていた。このころがインカ文化の形成期初期，いわゆるチャビン文化期であるが，その特徴は宗教的な象徴物である動物ピューマや植物の果実などをかたどったあぶみ形つぼや注口つきつぼ，また金・銀・銅などの薄片を打ち出した精巧な装飾品をつくったことにある。これに続くサリナール期，パラカス・カベルナス期には，インカ族の人口は飛躍的に増加し，山岳地帯から海岸地方に進出し，BC3世紀ごろには海岸地方一帯に集団部落がつくられ，灌漑(かんがい)開拓工事が盛んに行なわれ，地方的色彩をおびた文化が興った。その主要なものに，北部海岸地方のモチカ文化があり，かっ色にいろどった風俗人物，鳥獣の形態を模したあぶみ形つぼ，1本注口形つぼ，広口つぼなど，きわめてユーモラスな土器に富む。また，同地方にあったチムー文化は，鉄を思わせる黒色研摩土器のすぐれた双胴つぼ・取っ手つき注口つぼ・あぶみ形つぼなど，装飾には奇抜な風俗人物・鳥獣魚具・家屋形などの豊富なモチーフを利用して独特の趣向を示している。さらに，南部海岸地方のナズカ文化は，明快な色彩と象徴的な図案を用いて千差万別の彩画と浮き彫りを施した，双注口つぼ・取っ手つきつぼなどの優品をつくると同時に，この豊かな色彩とデザイン感覚を用いて美しい織物を仕上げている。また，ペルーの首都リマに近いアンデス山岳地帯には白地黒彩の特異な素焼き人形をつくったチャンカイ文化，精巧かつ色彩豊富な注口土器類や青銅製の装飾品をつくる一方，巨石建築物を各所にのこした偉大なチアワナコ文化がある。特に，この文化は長期にわたって全アンデス文化高揚に大きな影響を与えた。当時，各地のインカ族は小王国的に割拠していたが，1200年ごろインカ帝国が興るに及んでその勢力下に統一された。このインカ帝国は，先インカ期の文化遺産の大部分を受け継ぎはしたが，1532年スペイン人ピサロとその軍隊によって国土を攻略され，惜しくも輝かしい古来の文化はスペイン人に異教の産物とみなされて破壊されるに至った。〔市川 清〕

インカム-ゲイン [income gain] 利子・配当による収入のこと。これに対する語がキャピタル-ゲイン(capital gain)で，元本の値上がりによる収益をいう。たとえば，株式投資の場合，株式配当はインカム-ゲインであり，株式の値上がりによる収益はキャピタル-ゲインである。債券投資は利子収入が比較的安定しているので，インカム-ゲインを目的として行なわれ，キャピタル-ゲインはほとんどない。

いんがりつ【因果律】 ある事がら(結果)が，時間的に先行する事がら(原因)によってのみ決定され，未来に属するものには関係しない，ということ。特に原因と結果が時間について連続的な関係にある場合には，ある瞬間におけるその物理系の知識が，過去および未来のすべての瞬間の系の状態を決定する。古典力学では，このような強い意味での因果律がなりたつが，量子力学においては，系の状態を表わす波動関数は同様な因果律に従うけれども，物理量の測定については，一般には確率的にのみ測定結果が予言できるだけなので，強い意味での因果律はなりたたない。→力学 →量子力学 →因果関係 〔高林武彦〕

いんかん【印鑑】 ⇨印章

いんかんしょうめい【印鑑証明】 ある印章を押印した跡の形すなわち印影が，さきにその人の印鑑として届け出たものと同一であることを証明することで，公的な制度である。個人の場合には市(区)町村が，法人の場合には登記所が証明する。俗にいう実印とは，この印鑑証明制度によって印鑑証明書のもらえる印のことである。このほかの印章は認印にすぎないから，後日に印の盗用や偽造などの紛争を避けるために，手形や借用証書には実印を押させ，さらに印鑑証明書をもらっておけば不安は少ない。また不動産において登記名義人が登記義務者として登記を申請する場合や，公証人に公正証書の作成などを嘱託する場合などについては印鑑証明書の提出が義務づけられている。手続きとしては各市町村の条例で定められているために，統一的な様式や手続きになっていないが，最近東京都の印鑑条例が他の市町村の取り扱い上のモデルになり，統一されていく傾向にある。〔黒木三郎〕

インキ [ink] 筆記や印刷などに用いられる色のついた液体。歴史は古く，BC2000年ごろの中国では，油を燃やしてつくったすすとアラビアゴムとを練り合わせたものを用いた。古代ローマでもイカの墨を用いていた。筆記用インキは印刷インキよ

りも古いが，現在のブルーブラックインキが使われはじめたのは11～14世紀で，現在では主として万年筆用に高級な品質のものが用いられている。印刷インキがはじめて用いられたのは15世紀，グーテンベルク*による印刷機の発明以後で，当初のインキは筆記用インキに似た水性であったが，今日の油性のインキに変わってきた。インキには筆記用インキ・印刷インキ・マーキングペンインキ・ボールペンインキなどのほか，記録計用・複写用・投影フィルム用など用途に応じた特殊インキがある。

〔筆記用インキ〕パーマネントインキとウォッシャブルインキがある。パーマネントインキは水や光に対して強く，ブルーブラックインキやカーボンブラックインキがある。ウォッシャブルインキは赤・青・緑・紫・茶などの色インキで，染料を水にとかしたもので，水に弱く消えやすい。ブルーブラックインキの主成分は，タンニン酸・没食子(もっしょくし)酸などの有機酸と硫酸第一鉄，水溶性染料で，これらを水にとかしたものである。ほかに添加剤として硫酸・アラビアゴム・グリセリン・石炭酸が加えられている。硫酸第一鉄が酸化されてタンニン酸と反応すると，タンニン酸第二鉄ができて青みをおびた黒色の液となり，水にとけない。この化学変化を利用したものである。インキ液中では第二鉄塩の沈殿ができないように硫酸を加えてある。紙に書いたあと鉄分が空気中の酸素などによって酸化され，黒色の第二鉄塩をつくるので，このインキの筆跡は鮮明な青色がしだいに黒ずみ，光や水に対して強い筆跡が得られる。グリセリンは乾燥して染料が固まるのを防ぎ，アラビアゴムはインキの流れを調節する。石炭酸はかびの発生を防ぐ。カーボンブラックインキは，カーボンブラックをアラビアゴムなどと練って水に分散させたもので，ブルーブラックインキと同様に添加剤を加えてある。日光や水に対して強いので，製図用・証券用にも使われている。色インキは水に流れやすいウォッシャブルであるが，鮮明な色をしている。赤色のエオシン，青色のメチルバイオレット，緑色のマラカイトグリーンという水溶性染料が用いられている。これらの染料を水にとかし，添加剤を加えてつくる。ウォッシャブルの黒インキもある。これは赤・青・黄の三原色の染料を適当に組み合わせて黒色を出すもので，水には流れやすいがインキのかすが出ないので万年筆用として使われている。

〔マーキングペンインキ〕サインペンといわれている水性のものと，速乾性の油性のものとがある。水性のものは筆記用の色インキと成分はほとんど同じであるが，繊維のペン先に通すために，特殊の薬品が混ぜてある。油性のものはアルコールやトルオールなどの溶剤に油溶性染料・樹脂をとかしたもので，いろいろの物体に筆記できる。

〔ボールペンインキ〕アルコールのような溶剤やオレイン酸などの脂肪酸に染料・樹脂をとかしたもので，印刷インキに似た粘りのあるインキである。

〔印刷インキ〕顔料・ベヒクル(媒質)・補助剤からなる色のついた液体である。顔料はインキの色を出すもので水にとけない粉末状の物質，カーボンブラック・レーキレッド・フタロシアニンブルー・ハンザイエローなどが使われる。ベヒクルはインキに適当な粘りを与え，印刷性能の向上に役だつもので，植物性ワニス・鉱物油などに樹脂をとかしたものである。補助剤はインキの乾燥を助ける乾燥剤や印刷物につやを与える光沢剤などである。一般には溶解釜(がま)でとかしたベヒクルに補助剤を加え，ロールミルを使って顔料を練り合わせてつくる。印刷インキの種類は印刷の方式・用途・性質などによって分けられいろいろある。版形式からは凸版(とっぱん)・平版・凹版(おうはん)・孔版の各インキがある。また，インキの乾燥性からは浸透型・重合型・溶剤蒸発型のインキがある。新聞用インキは凸版インキの中で最も多く使われ，鉱油・樹脂・カーボンブラックからできている。鉱油が紙の中に浸透して乾燥する浸透乾燥型インキで粘りも小さい。プロセスインキは，3色または4色の多色の凸版・平版印刷に用いられる。一般には黄・赤・藍(あい)・黒の4色でさまざまの色を出す。ベヒクルは印刷ワニス・合成樹脂ワニスを用い，ワニスの酸化重合による重合乾燥型インキである。オフセットインキは，平版オフセット印刷に広く用いられているインキで，油と水の反発を利用した特異の印刷方式で，印刷ワニスを用いた重合乾燥型インキである。グラビアインキは凹版インキで，顔料または染料と樹脂を揮発性溶剤にとかした溶剤蒸発型インキである。溶剤の種類により，油性・水性・アルコール性などに分かれる。これらのほかに印刷インキには螢光(けいこう)色を出す螢光インキ，包装材料の印刷用にフレキソグラフィックインキ，電子部品工業に用いられているスクリーンインキなどがあり，カラフルなものを求める時代の要求，新しい印刷材料の出現などによってさらに各種の新しいインキがつくられている。〔伊藤　耀〕

インキけし　【インキ消し】　インキで書かれたものを消す液。ブルーブラックインキのインキ消しは2液からなり，一つはシュウ酸の5％溶液，他は次亜塩素酸ナトリウムの水溶液。シュウ酸は還元性をもち，インキ中のタンニン酸第二鉄(青色)を還元して無色の第一鉄とし，次亜塩素酸ナトリウム溶液は，インキ中の青色染料を酸化して無色にする。色インキは有機染料で着色してあるので，酸化性の次亜塩素酸ナトリウム溶液だけでも色が消える。

インキュナブラ　［Incunabula］　本来はラテン語で揺籃(ようらん)期(in cradle)の意であるが，今日では〈初期刊本〉(特に15世紀中に刊行された本)の意に用いられている。ドイツのグーテンベルク*による活版印刷術発明以来，印刷所の設けられた都市は250か所，1,000軒を越え，その間に刊行された書物はおよそ38,000点，大略1,000万部にのぼる。これを称して，一般にインキュナブラといい，稀覯本*(きこうぼん)として，海外の愛書家の間で大いに珍重されている。所蔵数ではイギリスの大英博物館が最も多く，約9,600点を数える。わが国では天理図書館の20数点を含め，全体で50点を出ないであろう。〔庄司浅水〕

いんきょ　【隠居】　戸主*が生存中に戸主権を譲り渡すこと。家長の地位・家名・家産の譲渡行為であり，村などにおいては公生活に関する代表者の地位から退くことでもある。その場合，隠居者が戸主とは別の所帯を構成し，別居・別食・別財の暮らしをすることをたてまえとし，少なくともこれらの条件の一つを備えていることが必要である。しかし，隠居者の所帯は戸主の所帯と同一屋敷内にあることが多く，隠居者が有能な後継者，すなわち新しい戸主の家の統率の力を弱めまいとする特色がある。日本の隠居制にはさまざまなものがあり，婚姻形式からすれば婿入り婚隠居・嫁入り婚隠居，戸主権の確立程度によって完全隠居・不完全隠居，居住形式によって別居隠居・同居隠居など見受けられる。隠居は旧民法では制度化されていたが，今日それとは異なる各種の形で行なわれ，だいたい北関東地方から西南日本にかけて多く分布する。〔渡辺欣雄〕

いんきょ　【殷墟】　中国，殷代の都跡。現在の河南省安陽県西北の洹水(えんすい)流域にあり，1928年から1937年まで15次にわたり董作賓(とうさくひん)・李済(りさい)らによって発掘調査が進められ，殷代晩期の盤庚(ばんこう)から紂(ちゅう)に至る12代約270年間の都跡であったことが判明した。洹水南岸の小屯(しょうとん)には，南北約700m，東西約300mの区域に53基の建物の基壇が確認され，これらは殷王の宮殿跡と推定されている。この周辺地区には，排水溝(はいすいこう)とともに無数の中小の竪穴(たてあな)住居跡および穴倉が分布し，さらに青銅器の鋳造所，骨角器・陶器の製造所が発見された。洹水北岸の侯家荘・西北岡・武官村には14基の大規模な地下墓が発掘され，盤庚から紂に至る殷王の王墓と推定されている。このうち，1001号墓とよばれているものは，墓室が亞字形をなし，四方に墓道がある。その大きさは，墓口で南北19m，東西14m，深さ11mもあり，底面に槨墓(かくぼ)がつくられ，多くの殉葬者と動物の犠牲が副葬されていた。殷墟からの発掘品には，青銅製の祭器・武器のほか，灰陶(かいとう)・黒陶・白陶などの陶器類，骨角器，

玉器，象牙(ぞうげ)細工，貝製品，文字を刻んだ亀甲(きっこう)・獣骨，戦車など多数にのぼっている。殷墟の発掘調査は，殷王朝の実在を証明した点できわめて重要である。
〔上田早苗〕

いんきょう　【韻鏡】　唐末の漢語の音韻体系を示した音韻表。作者は不明だが悉曇学(しったんがく)（サンスクリット*の言語学）に通じた僧であろう。その原型は敦煌(とんこう)（甘粛省）出土の守温（唐末の僧）作《音学残巻》にみられる。また，《韻鏡》と同類の書に，北宋(ほくそう)の鄭樵(ていしょう)編の《通志》の中に含まれた〈七音略〉がある。韻鏡の表は〈寒 ān〉〈山 ăn〉〈仙 ien〉〈先 en(ien)〉のように韻母を4等に分けて縦の欄に示し，声母を右から左へと〈p p' b m〉〈t t' d n〉以下の順に配列し，縦と横を組み合わせて〈単 tan〉〈坛 dan〉〈難 nan〉のような字音を表わすように組んである。すべて43図で，これを43転図とよぶ。中国ではつとに散逸したようだが，日本では院政期に奈良の寺で信範が《韻鏡》を読んで重視し，江戸時代には，漢音・呉音を体系的に理解するために珍重せられて多くの和刻本が出た。隋(ずい)・唐の中古漢語を知るためには必読の書。
〔藤堂明保〕

いんぎょうてんのう　【允恭天皇】　仁徳(にんとく)天皇の第4皇子。母は磐之媛(いわのひめ)皇后*。履中・反正(はんぜい)天皇の同母弟。安康・雄略天皇らの父。兄反正のあとを受けて即位。盟神探湯*(くがたち)を行なって氏姓の混乱を正したといわれる。《宋書(そうじょ)》にみえる倭王済(わのおうせい)は允恭のことと考えられることから，5世紀中ごろに在位した天皇と推定されている。

いんきょく　【陰極】　⇨電極

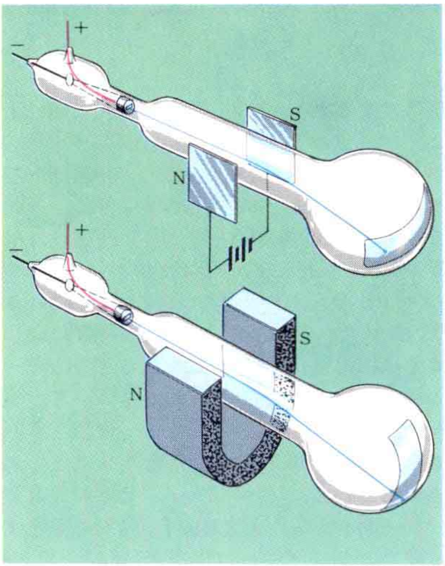
いんきょくせん　【陰極線】　真空放電時に陰極*から出る高速な電子の流れ。陰極線は電離した残留ガスの陽イオンが電極間の電界に加速され，陰極に衝突し，陰極から放出された電子が電界で加速されたものである。10^{-3}～10^{-4}mmHg程度の真空放電では放電管のガラス壁に緑色の螢光(けいこう)が見られる。この現象はドイツの物理学者プリュッカー*が発見し，その後ゴルドスタイン*は螢光が陽極の後ろには現われなかったため，陰極から陽極へ粒子が流れていると考え，陰極線と名づけた。イギリスの実験物理学者J.J.トムソン*は，陰極線に電界および磁界をかける実験を行ない，負の電荷とある質量をもった粒子の流れであることを発見し，その粒子を電子と名づけた。
〔伊藤糾次〕

いんきょくせんオシログラフ　【陰極線オシログラフ】　⇨オシログラフ

いんきんたむし　【陰金田虫】　外陰部から臀部(でんぶ)・内股(うちまた)にかけて白癬*(はくせん)菌によって生じる頑癬*(がんせん)のことで，かゆみが強い。同部に生じた湿疹*(しっしん)・皮膚炎，まれにはページェット病*との見分けがたいせつである。湿疹や白癬*の治療で思わしくない場合は皮膚科専門医の診療を受ける必要がある。必要に応じて鱗屑(りんせつ)や皮膚の一部を取って顕微鏡で検査し，適した治療を行なう。



殷墟　殷墟出土の古代青銅製酒器



陰極線

インクライン　［incline］　一般語としては傾斜路，技術方面では傾斜運搬路をいう。高差ある2地点間の地面上に斜路を設け，レールを敷き，レール上をケーブルによって台車を上下させる。工事場の材料運搬，採掘場の鉱石運搬などに施設されている。琵琶湖(びわこ)疎水で京都の蹴上(けあげ)に設けられたのは運河の舟を上下させる例であり，人を運ぶいわゆるケーブルカーもこの一種である。

イングランド　［England］　イギリス，グレートブリテン島南東部。面積13万1,000km²。人口4,610万2,000(1969)。イングランドというのは，サクソン族とともにブリタニアに侵入したアングル族の名にちなむもので（アングル-ランド），アングロサクソンの占居した土地はアングリアとよばれた。ウェールズとの境界は8世紀に，スコットランドとの境界は12世紀に確立された。行政上は38州と大ロンドンとに分かれるが，州はデボンシャー・ハンプシャー・ヘレフォードシャーなどシャー（shire）の語尾をもつものが多い。一般に平地とゆるやかな波状の丘陵地からなり，面積の約40%が可耕地で，約40%が牧地として利用できる。グレートブリテン島の人口の約80%がここに集中し，生産活動の中心となっている。気温の年較差が小さく，比較的温暖である。雨は年間平均して降るが，ペニン山脈の西側は降水量が多い。

北のスコットランドとはチェビオット丘陵，西のウェールズとはカンブリア山地が境界をなし，北部に標高400～600mのペニン山脈が走って，東西の対照的な二つの地方に分けている。東側のヨークシャーは炭鉱が多く，西側のランカシャーは繊維産業が盛んである。南部は起伏が多く，東西両岸に流れる多くの河川は，運河で互いに結ばれている。
〔野間三郎〕

イングランドぎんこう　【イングランド銀行】　Bank of England　イギリスの中央銀行。1694年，国王から銀行券発行の特許権を与えられ，私立銀行として発足。その後，イギリス産業資本の世界制覇(せいは)に金融面から大いに手を貸し，イギリスが〈世界の工場〉といわれたころには，国際通貨としてのポンドを背景に，イングランド銀行は〈世界の銀行〉の役割を果たしていた。今世紀にはいってイギリスの国力の衰退とともに，その機能はしだいに弱まったが，公開市場操作*・公定歩合*操作などを中心とする金融政策の元祖として，その政策は各国の中央銀行の模範にされた。特に大蔵省証券の売買による公開市場操作は，今日でも世界じゅうのポンド所有者によって注目されている。1946年労働党政権のもとに国有化された。
〔氏家　尚〕

イングリッシュ-ホルン　［English horn］　バロック時代のオーボエ-ダ-カッチャ（狩のオーボー）から発展したオーボエ属の木管楽器。ダブル-リードをはじめとする機構はオーボエと同じであるが，リードを挿入(そうにゅう)する管が長くて屈曲しており，朝顔の部分がナシ形にふくらんでいるのが特徴。音域はオーボエよりも5度低く，楽譜はト音記号で実音より5度高く記される。

音色はオーボエよりはなやかさを欠く。有名な使用例としては，ドボルザークの交響曲第９番《新世界より》の第２楽章の有名な旋律があげられる。なお，この楽器をなぜイギリスのホルン（フランス語のコーラングレも同じ意味）とよぶようになったのかは不明である。〔徳丸吉彦〕

いんげ【院家】寺院の境内にあって，本寺とは別の本尊・伽藍（がらん）・院号をもち，経済的にも独立している小寺，あるいはその住持をいう。680年（天武９）私僧房の設立が許可され，平安時代になるとその増加をみたが，特に平安末期になると貴族階級の寺院への進出が著しくなった。有力な貴族の子弟で出家した者は大寺院の中に院家を構えて門跡となり，やがて本寺の住持を独占するようになった。大乗院などはその一例である。〔玉山成元〕

いんけい【陰茎】ペニス。動物の雄体から雌体に挿入（そうにゅう）され，精液を輸送する器官。無脊椎（むせきつい）動物にもみられるが，哺乳（ほにゅう）類では一般的にみられる。霊長類・コウモリ類など陰茎は体外に出ているが，単孔類・有袋類・海獣類やゾウなどでは腹壁にある袋の中にはいっており，勃起（ぼっき）時にのみ現われる。霊長類では，ヒト以外のものには先端に陰茎骨がある。ヒトの陰茎は男性生殖器に属し，発生的に女性の陰核と相同である。陰茎は基部の陰茎根，その先の陰茎体，先端の陰茎亀頭（きとう）の３部に分かれる。陰茎の表面は脂肪組織を伴わない薄い皮膚によって包まれ，先端は包皮となって亀頭を包む。亀頭の表層には多数の陰部神経小体があり，性感覚を知覚する。陰茎の内部には，左右１対の陰茎海綿体とその下に尿道海綿体があり，尿道海綿体の中心を尿道が通り亀頭先端の外尿道口に開く。尿道は精子を体外に導く通路ともなる。海綿体は網状の構造をした結合組織で，網目の中に静脈腔（じょうみゃくこう）が広がり，ここに動脈血が充血すると陰茎は膨張しかたくなる。これが勃起である。➔生殖器

いんげい【印契】手指などをさまざまに結んで表わす仏の境地。仏であることを表わす印（しるし）であるため，印（いん）ともいい，それが仏の誓いと願いを表わすため印契ともいい，その形をとって印相（いんぞう）ともいう。梵語（ぼんご）でmudrā（ムドラー）といい，もともとは神話の神々の持つ道具や，それを持つときの手の形をいうが，さらにそれらの神神を表わして演ずる舞踏の手の形をもいうようになった。今日のインド舞踊でも，踊りの際の手の形をムドラーといっている。仏教においては，仏・菩薩（ぼさつ）の境地を表わすのに，つねに一定の手の形が定められるようになった。二つの手のひらを合わせて上に向け，臍下（せいか）に安んずる〈法界定印（ほっかいじょういん）〉は座禅の際の印契，右手を下げ左手を顔の下で内向けに立てる〈施無畏印（せむいいん）〉は説法の印契として，早くから



印　契

仏像にも現われている。進んで密教においては，すべての仏・菩薩にはこの印契が定められ，曼荼羅*（まんだら）に描かれた仏・菩薩は印契によってどの仏かを判定できるようになった。このように，手や道具（剣・枚（ひら）・ハスなど）によって表わす印契は有相（うそう）の印契といわれ，なんら外に手や道具の形を表わさない無相の印契と対比される。修行者ははじめ手に結んだ印や道具によって内心の統一を図り，煩悩（ぼんのう）を静め，そののち，無相の印契にはいっていくことが理想とされ，この完成は，修行者が仏と合体したときにあるとされる。〔金岡秀友〕

いんけいがん【陰茎癌】陰茎に発生する癌で，組織学的には皮膚癌（重層扁平（へんぺい）上皮癌）である。陰茎の先端（亀頭部（きとうぶ））に生ずることが多い。陰茎内部には海綿体があり，体の中に深くはいっているので，癌が骨盤腔内（こうない）のリンパ腺（せん）に転移しやすい。また，鼠蹊部（そけいぶ）のリンパ腺転移も生じやすいので，それぞれのリンパ腺を除去する根治手術が必要となる。真性包茎に発生する率が高い。最近，特効的にきく抗性物質のブレオマイシンが発見され，予後成績が改善されてきている。〔大田黒和生〕

いんけいけっかく【陰茎結核】陰茎結核疹（けっかくしん）ともいう。亀頭部（きとうぶ）に生じる結核性潰瘍（かいよう）。癌（がん）・梅毒・軟性下疳（げかん）などとまちがえやすい。はじめはあずき大程度の結節が生じ，そのうちにくずれて潰瘍となる。自然にかわき，瘢痕（はんこん）となるが，潰瘍がいくつもできるため，亀頭の形がくずれてしまうことがまれでない。一般に痛みなどの自覚症状に乏しく，青壮年に多い。抗結核療法を初期に行なえば亀頭の破壊が生ずる以前に治癒（ちゆ）することができる。〔大田黒和生〕

いんけいせっしょう【陰茎折症】陰茎の内部にはかたい白膜で包まれた陰茎海綿体があり，その中に血液が充満して勃起（ぼっき）した状態にあるとき，強く打撲されたり，むりに屈曲されたりすると，白膜の一部が裂け，外観上，陰茎が折れたようになる現象をいう。海綿体内の血液が裂けた部分より流出し，大きい血腫（けっしゅ）をつくる。至急に切開・縫合する必要がある。〔大田黒和生〕

いんげん【隠元】（1592～1673）日本黄檗宗（おうばくしゅう）の開祖。いみ名を隆琦（りゅうき），おくり名を大光普照国師・真空大師という。明（みん）の福建省福清に生まれ，21歳で南海の補陀落山（ふだらくさん）に観音を拝して仏道にはいり，のち黄檗山の鑑源に師事した。その死後，法嗣の費隠に参じて印可を受け，翌年黄檗山の住持に請せられ，大いに宗風を宣揚した。1654年（承応３），わが興福寺の逸然（いつねん）の請いにより来朝し，長崎の諸寺にとどまり，さらに江戸に出て麟祥院（りんしょういん）に住した。のち将軍綱吉（つなよし）の帰依を受け，山城（京都府）宇治の地を賜わり，黄檗山万福寺*を建立（こんりゅう）し，日本黄檗宗の基をなした。著には《黄檗語録》《普照国師広録》などがある。〔田中良昭〕

インゲンハウス［Jan Ingenhousz］（1730～1799）医師・植物生理学者。オランダのブレダに生まれ，ライデンとロンドンで医学を学ぶ。イギリスで植物のガス交換を研究し，植物の緑色部分が日光の存在下で空気を清浄化する事実を発見した。しかし彼は，誤った燃焼理論であるフロギストン説*の影響下にあったので，この清浄化の実体を明らかにすることができなかった。

いんげんまめ【隠元豆】双子葉植物・マメ科の一年生草本。サイトウ（菜豆）・サンドマメ（三度豆）ともいう。茎はつる性のものとつるにならないものとある。葉は心臓形の３小葉からなる複葉で，花は白・紫・紅色などの小さな蝶形（ちょうがた）で２～８個群生する。さやは細長く，未熟なうちに食用に供せられるものと，完熟した種実だけを食用にするものがある。品種は多種多様で，ドジョウインゲンやウズラマメは有名な品種になっている。隠元*禅師が中国から持ち帰ったということからインゲンマメというが，わが国の気候に適し，早春より初夏にかけて播種（はしゅ）され，さや用・種実用ともに利用が多い。さやは野菜として調理され，

種実はアズキと同じく菓子やしるこの原料にされることがある。なお，関西でインゲンマメとよぶのはフジマメ*のことである。

いんこ【鸚哥】オウム科に属する鳥のうち，色彩に富むものを大小問わずインコと名づけている。インコの仲間は熱帯・亜熱帯に分布し，その数は700種にも及び，わが国には100種ほど紹介されている。代表的なものには，小形インコにセキセイインコ*・コザクラインコ*・ボタンインコ*・カルカヤインコ*など，中形インコにオカメインコ*・ダルマインコ*・ビセイインコ*など，大形インコにコンゴウインコ*・ベニコンゴウインコなどがある。〔石島芳郎〕

いんご【隠語】特定の社会集団の中だけで通用するようにつくられたことば。エンコ(公園)・ガチャ(巡査)・シャリ(米・飯・食事)などは香具師(やし)・盗賊などの間の隠語であった。隠語はそのような反社会的集団に多く発達してきたが，商人が使う数を表わす符牒(ふちょう)や，医者が患者の前で使うドイツ語なども，隠語の一種だといえよう。隠語を使うことは，仲間の連帯意識を強め，仲間の秘密・利益を守る作用をする。隠語が一般語化してしまって，隠語としての機能が弱くなることもある。〔西尾寅弥〕

いんこう【咽喉】咽頭*と喉頭*の総称。咽頭は鼻腔(びこう)・口腔の後ろに位置し，鼻腔とは後鼻孔，口腔とは口峡によって連絡する。咽頭の上壁は外頭蓋底(がいとうがいてい)より始まり，下端は前では喉頭に後ろでは食道につながる。咽頭壁をつくる筋は嚥下(えんげ)時に働く。喉頭は咽頭を気管につなぐ部分で，俗に〈のどぼとけ〉とよばれる。甲状軟骨・披裂(ひれつ)軟骨・輪状軟骨・喉頭蓋軟骨がこの骨子をつくり，筋や靭帯(じんたい)がこれらをつなぎとめる。喉頭の中には声帯があり発声器官となっている。〔幡井　勉〕

インゴット ⇨鋼塊

いんごのうよう【咽後膿瘍】咽頭後間隙(こうかんげき)に膿汁(のうじゅう)が貯留する状態をいい，1歳未満の乳幼児に多い。発熱し，呼吸および嚥下(えんげ)障害，摂食困難をきたし，頸部(けいぶ)リンパ節の腫脹(しゅちょう)などの症状がある。咽頭後壁に，表面がなめらかな赤い腫脹がみられ，試験穿刺(せんし)によって確定する。口腔(こうこう)より切開して排膿するが，膿汁の気管内流入を予防するため注意が必要である。

いんざいしきょう【因材施教】もと《論語》にある孔子のことば。中華人民共和国で社会主義教育理論，特にマルクス主義のいわゆる〈全面発達〉の人間養成をめぐる討論の過程で，〈全面発達〉を労働者階級の教育任務ととらえ，その教育方法として学習者の個性・能力に即して教授すること，すなわち〈材に因(よ)りて教えを施すこと〉が強調された。これは，また，注入式ではなく〈啓発式教授法〉によるべし，との議論に発展し，同時に，学習者が自分の頭脳で考え，外国の経験の模倣でなく，民族にふさわしい思索と学習を奨励する〈独立思考の能力〉が尊重されている。文化大革命*の中の教育革命は，これらのことばで語られる学習者の主体性尊重を一つの特徴としている。〔斎藤秋男〕

インサイドベルト［inside belt］主として婦人服のスカートやワンピースドレスのウエスト周辺の内側に縫いつけたり止めつけたりするしん。スカートをささえたり形くずれを防ぐために用い，もめん・麻・化繊などで織られ，幅は1.5cmくらいの細いものから4～5cmくらいのものまである。男子のズボンの内側に用いることもある。

いんさつ【印刷】⇨次ページ

いんさつきょく【印刷局】大蔵省*の外局として設けられた付属機関。官報・法令全書・広報宣伝資料などの政府刊行物の編集・発行，日本銀行券・国債・印紙・郵便切手・はがきなどの印刷物の製造・印刷を主たる業務としている。

いんさつでんしんき【印刷電信機】⇨テレタイプ

いんさつはいせん【印刷配線】従来の配線が導線のはんだづけによって行なわれていたのに代わって，絶縁板に直接導体物質を化学的処理によって印刷する配線方法。プリント配線ともいう。印刷配線の技術は1945年ごろから開発されたもので，現在テレビやラジオセットをはじめ，コンピューターに至るほとんどの電子装置に使われている。ガラス-エポキシ・テトロン-エポキシまたはベークライト板に銅箔(どうはく)を接着し，この上を感光材料でおおう。他方，配線の図面を写したネガを用意し，これを通して焼き付けを行なう。その後，酸化処理をすることにより，配線部分の銅箔が残る。このように焼き付けによって不要な部分を除去する方法をフォト-エッチングという。印刷配線は次のような長所をもっている。①同一の配線板を大量生産することができ，その後は所定の箇所に部品をはんだづけするのみでよいから誤配線もなくなり，配線の自動化もしやすい。②装置の小形化および軽量化が可能である。③装置の特性を均一化でき，信頼性が高まる。基板の片面に印刷配線したもののほか，両面または多層のものもつくられている。〔内山明彦〕

いんざんさんみゃく【陰山山脈】インシャン山脈　中国本土と内モンゴルとの間を東西に走る山脈。アルタイ山脈が東に延びたもので，全長約400km。海抜約2,500～3,000m。北側はゆるやかな斜面をなしてモンゴル高原に連なるが，南側は険しい断層をなしている。古くから北の遊牧民族と南の農耕民族の住地を区別する自然の境界をなし，漢民族国家は北からの侵入を防ぐため，この山脈に沿って万里の長城*を築いた。しかし，今日では漢民族はこれを越えてずっと北まで進出している。〔日比野丈夫〕

いんし【印紙】国の特定の歳入金または租税を収納する場合の手段として，国が発行する金銭上の価値を表わす証票。国が発行を独占し，その売りさばきを通じてあらかじめ証票面に表示された金額の金銭を収納するもので，特定の歳入金などを納付すべき場合には，その印紙をもって納付させることとする。現在，国の発行している印紙は，収入印紙・失業保険印紙・健康保険印紙・国民年金印紙・農産物検査印紙・自動車検査登録印紙の6種である。

なお，地方公共団体が特定の地方税を収納するため発行する証票に〈証紙〉といわれるものがあるが，これは国の場合における印紙と同様の機能を有するものとみられる。

➔収入印紙　〔西野義彦〕

インジアナ(州)［Indiana］アメリカ合衆国中北部の州。面積94,000km^2。人口514万3,000(1970)。州都インジアナポリス。1816年に合衆国第21番めの州となる。州名は〈インディアンの居住地〉の意。中部平原のコーンベルト*にあたり，ブタ・ウシの飼育が盛んである。工業はこの地域の農産物や，石炭・石油の生産を背景として興った。ポップコーンは合衆国全州中第1位，トウモロコシと鉄鋼の生産は第2位。主要都市は，インジアナポリス・ゲーリ・フォートウェーン・エバンスビル。〔相村大彬〕

インジアナポリス［Indianapolis］アメリカ合衆国インジアナ州の州都。人口74万3,000(1970)。州中央部にあり，周辺地域から産出される石炭・ガスを基盤として航空機・金属・薬品などの工業が行なわれ，また，コーンベルト*を背景として農産物・日用品を集散する商工業都市である。インジアナ大学医学部がある。フォードがはじめて自動車をつくったところで，毎年5月に〈500マイルの祭典〉とよばれる大自動車レースが行なわれる。〔相村大彬〕

インジウム［indium］周期律表第Ⅲ族に属する金属元素。記号In，原子番号49，原子量114.82。融点156℃，比重7.28。銀白色で柔らかくナイフで切ることができる。乾燥空気中では安定で，水にも侵されにくいが，酸素を含む水には侵される。空気中で強熱すれば酸化インジウム In_2O_3 となる。ハロゲンやイオウとも直接に化合する。通常3価でアルミニウムに似た化合物をつくる。硫酸インジウムまたは塩化インジウム水溶液を電解するか，亜鉛・アルミニウムを投入して置換析出させてつくる。他の金属と低融点の合金をつくり，金属間化合物半導体の成分としてInP・InSbの製造に用いられる。〔鈴木　篁〕

インジケーター［indicator］広義には，測定値を針・数字などで指示する機器をインジケーター(指示器)というが，狭義には，ガソリン-エンジンのようなピストン

→450ページ

印刷

文字や絵画を版面上に画線部と非画線部として表わし，画線部だけにインキをつけ，これを紙などに転写し複製する技術。はじめはもっぱら文書を複製するのに用いられたが，のちには絵画や写真にも及び，文化の進歩に伴ってその需要も増大し，それとともに技術的にも進歩発達を遂げて今日に及んでいる。今日では，印刷技術の発達と普及がその国の文化の水準を示すといってもよい。印刷は，原稿・版面・インキ・紙（被印刷体）・加圧装置の５要素からなるが，このうち，版面の製作と加圧装置とが特に重要な位置を占める。

〔歴史〕現存する世界最古の印刷物と認められているのは，日本でつくられた百万塔陀羅尼（ひゃくまんとうだらに）である。これは764年（天平宝字８）孝謙上皇の勅願によって着手され，770年（神護景雲４）４月に完成したもので，現在は国宝に指定され法隆寺に保存されている。塔は木製ろくろ細工の三重の塔で，高さが13cm，基部の径10cm，相輪の高さは6.7cm。この塔身の中心に深さ9.1cm，径2.4cmの丸い穴をあけ，陀羅尼の経文を印刷にしたもの１巻を納めてある。経文は，上下約5.5cm，左右約30～50cm（経文の種類によって長短がある）の和紙に，各行５字を配して印刷されている。印刷版については，鋳銅凸版（とっぱん）説と木版説とがあってまだ確定していない。一方，中国においてはかなり古くから木版印刷が行なわれていたと考えられるが，現存する資料としては敦煌（とんこう）で発見された金剛般若経（こんごうはんにゃきょう）（868）が最古のものである。この木版印刷の技術は中国からヨーロッパに伝えられ，ブロックプリントとしてかるたや聖像の印刷に用いられたが，15世紀の中ごろに発明された活版印刷*に押されて，その後見るべき発達を示していない。ただ，絵画製作の一部門として，独自の発達を遂げたにとどまっている。

今日の印刷文化の発祥といわれるのは，1440年代にドイツ人ゲーテンベルク*が発明した活版印刷である。彼は鉛を主成分とする活字を発明して活字組版をつくり，ぶどう酒醸造用の木製の紋り機を用いて印刷した。これは凸版印刷*の起こりで，たちまちヨーロッパ各地に広まり，日本にも16世紀末に宣教師によって伝えられたが，キリスト教の禁令とともに中止された。わが国に凸版印刷が本格的に起こったのは，1869年（明治２）長崎のオランダ語通詞本木昌造*（もときしょうぞう）が外国人から伝習を受けて研究し，和文の活版刷りを始めたのがもとといわれる。

ヨーロッパでは凸版に続いて15世紀の中ごろ凹版（おうはん）印刷*が登場した。これは当時イタリアで流行していたニエロ細工から考案されたと伝えられる。ニエロ細工とは金工術の一種で，銀板または金板に絵模様を凹刻し，刻線にニエロとよぶ黒色物質（銅・銀・鉛などの粉末とイオウをとかしたもの）を刷り込み，加熱してニエロ物質を融着させ，板面をとぎ出して美しい黒線模様をつくる工芸である。また，1793年ドイツ人ゼネフェルダーが，石灰石の表面を親油性の部分と親水性の部分とに分けることを発明して石版*印刷を完成し，平版印刷*の基礎を開いた。こうして今日の印刷の基本原理である３種類の版は18世紀末までに出そろったのである。のち，凹版からはグラビア印刷*が，平版からはオフセット印刷*がそれぞれ考案された。このうちグラビア印刷はチェコスロバキアのカールクリッテが1890年から1893年にかけて完成したもので，写真技術を取り入れた凹版印刷である。また，オフセット印刷は1905年アメリカのルーベルの発明にかかるもので，平版面のインキをいったんゴム布に転移させて紙面に印刷する。印刷面が鮮明で，版面の耐刷力が大という特長があるため急速に普及した。現在金属平版の印刷はそのほとんどがオフセット方式によるものである。

版面の製作も18世紀までは，活版・石版・彫刻凹版など，もっぱら手工法によっていたが，19世紀に写真術が発明されると，それを取り入れて次々に新しい技術が開発された。すなわち前記のグラビアをはじめとして，コロタイプ*が1860年に，網目凸版が1880年代に，原色版*が1890年代に，それぞれ実用化されるに至った。また，活版においても，最初は活字組版から直接印刷する原版刷りであったのが，しだいに鉛版・亜鉛版・電鋳版などの複製凸版が使用されるようになった。なお，これらの技術の日本への移入は，明治初年に下岡蓮杖（れんじょう）らによって平版印刷の技術が取り入れられたのをはじめ，1889年にコロタイプ，1890年に写真版，1896年に原色版，1916年にオフセット印刷，1916～1920年にグラビア印刷が，それぞれ取り入れられて印刷を開始している。

印刷技術のもう一つのポイントである加圧装置も，当初はもっぱら平らな版面に平らな盤を押しつける平圧式であったが，しだいに円圧式（加圧盤を円胴にしたもの）を用いて印刷効果と能率をあげるようになり，さらには版面と加圧盤の双方を円胴状にした輪転方式へと発展した。最近では，電子光学の技術を取り入れた無圧方式の印刷も出現している。

被印刷体には当初もっぱら紙が用いられた。現在も紙が主体ではあるが，科学技術の発達につれて，金属・セルロイド・セロファン・木材・合成樹脂・布地・ガラス・陶器など，種々のものが被印刷体として用いられるようになった。また，これに関連して印刷インキの改良進歩も著しいものがある。

〔印刷の種類〕印刷を分類する基準としては，方式・目的・用途・被印刷体などいろいろあるが，最も普通なのは版面の形式によるもので，凸版・凹版・平版の三つが代表的なものとされる。このほかに孔版形式（謄写印刷・シルクスクリーン印刷）もあり，最近は静電気を利用する静電印刷も起こっているが，いずれも規模は小さい。

凸版印刷は歴史も古く，また鮮明な印刷物を大量に生産することが可能なので，現在でも最も一般的な方式となっている。凸版はさらに活版（文字の印刷用）・線画凸版（画や図の印刷用）・網目版（写真版）・電鋳版などに分かれるが，いずれも凸起した画線部にインキをつけて印刷する。小形のもの，部数の少ない印刷物には原版から直接印刷する原版刷りが用いられるが，部数の多いものや大形の印刷物には複製版を使用する。特に大量の印刷には，版面や加圧装置を円筒形にした円胴式・輪転式の印刷方式が用いられ，きわめて大きな効果をあげている。

凹版は彫刻凹版と写真凹版（グラビア）とに分かれる。彫刻凹版は豊富な調子をもつ精巧な版模様が得られるので，紙幣や有価証券，あるいは絵画の複製などに利用され，グラビア印刷は写真の複雑な濃淡の調子をよく表わす長所を生かして，雑誌・書籍の口絵や，インキの吸収性の少ない被印刷体への印刷に多く用いられる。凹版印刷の原理は凸版と逆に画線部を彫り下げたり薬品で腐食させたりして版面をつくり，版面全体にインキをつけたのち，非画線部のインキを除いて画線部のインキのみが紙面に付着するようにする。したがって，彫りの深浅によって色調の濃淡を表現することができ，また，版面の摩耗が少ないという長所がある。

平版印刷は版材の非画線部を化学処理によって親水性とし，画線部を親油性として，この版面に水と油性インキとを交互に与え，水と油とが互いに反発することを利用して印刷する。つまり，物理的な力を利用する凸版や凹版と違って平版は化学的な印刷方式であるといえよう。現在，平版印刷は原版に着いたインキをいったんゴム布に転移してから紙に印刷するオフセット方式が多く用いられる。この特長は，精密な画線やつぶし模様の版からあらい紙面にも鮮明に刷れることで，雑誌・週刊誌などの口絵や表紙，ポスター・カレンダー・商業美術印刷などに広く用いられる。平版は版材により石版・亜鉛版・アルミニウム版・ステン



グーテンベルクの聖書(1455年版)　活版印刷では世界最初のものであり，印刷技術の発明と彩画の熟練が結びついてこの美しいページをつくった



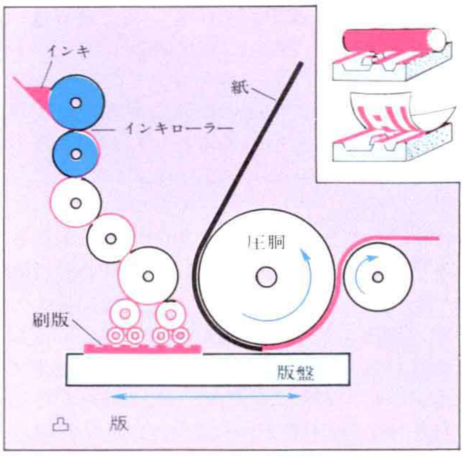
グーテンベルク発明になる印刷機を用いた活版印刷所

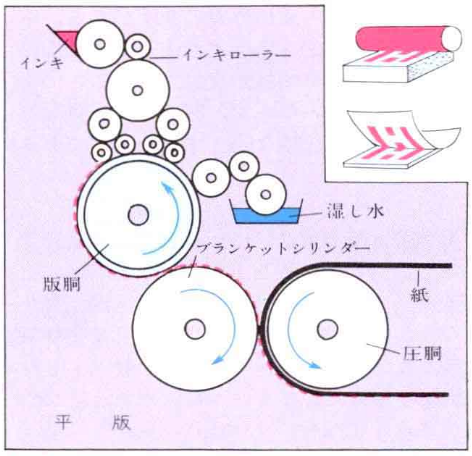
印　刷

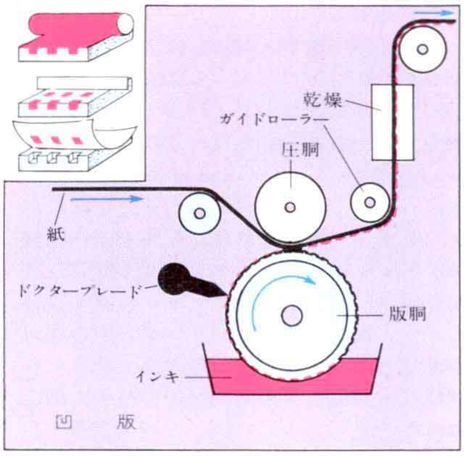


百万塔陀羅尼　世界最古の印刷物である陀羅尼とそれを納めた百万塔

印刷の３方式

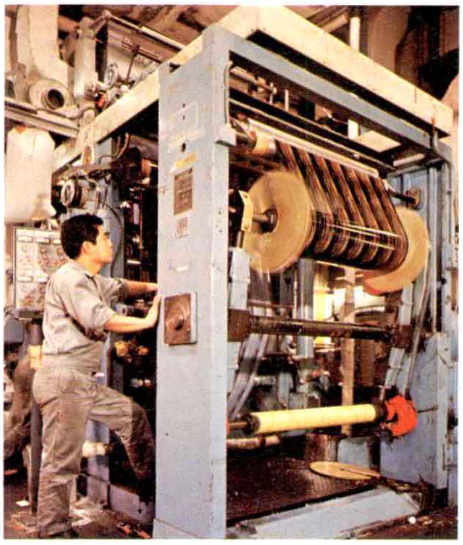












レススチール版・プラスチック版などに，製版手段によって描き版・転写版・じか焼き版・卵白版・プロセス版・PS版・ワイポン版などに，また版面の構造によって平版・平凸版・平凹版・多層平版などに分かれる。

これらのほか，孔版印刷(謄写印刷・シルクスクリーン印刷)・コロタイプ印刷などもある。孔版は画線部のみをインキの浸透するように連続した小穴でつづって版面をつくるもので手軽な印刷によく用いられるが，大量印刷には適しない。シルクスクリーンは布地の印刷に，コロタイプは少数の絵はがきなどに用いられる。

【印刷機】印刷を行なうには，版面につけたインキが紙その他の被印刷体に順序よくなめらかに移転することが必要である。このための装置が印刷機械である。インキだめ装置のインキがインキよび出しロールで運び出され，幾本かのロールや盤でよく練られて版面に塗布される。次にその版面が被印刷体に接し，加圧装置によって加圧されて被印刷体にインキが移り，そのインキが固着乾燥すれば印刷は完了する。このうち版面と加圧装置との組み合わせによって，印刷機械は平圧式・円圧式・輪転式の三つに分類される。

①平圧式：版面・加圧装置ともに平面の組み合わせからなるもの。印刷の速度はおそいが装置が簡便なので，凸版で少部数の印刷をするとき，名刺・はがきなど小形の印刷物をつくるときなどに用いられる。②円圧式：版面は平面で，加圧装置が円筒形になっているもの。平圧式よりも能率がよく，大形の紙に精巧な印刷をすることができるので，やや部数の多い書籍・カタログ・パンフレットなどの枚葉凸版印刷機として用いられる。③輪転式：円胴状の版面に同じく円胴状の加圧装置を組み合わせたもの。両者が回転しつつ接触して印刷が行なわれる。印刷能力が最大で，凸版・オフセット・グラビアのいずれにも用いられる。新聞・書籍・雑誌・週刊誌・ポスター・カレンダーなど，大量部数のものや大形印刷物などにもっぱら使用される。

【印刷文化】印刷の技術ははじめ文字文化の伝達の手段として発達した。手書きによって書物などが複製されていた時代に，短時間にしかも正確な複製が多数つくられるようになったことは，人類の文化史上に新時代を画したといってよい。したがって印刷技術が開発されるとそれは非常な速さで各地に普及し，それはまた文化の普及発達を急速に促進することにもなった。その意味で，印刷技術の開発が人類に貢献したことははかり知れないほど大きい。こうして印刷文化は広く普及したが，その飛躍的な発展を促したものに写真の発明がある。それまで手工芸的な方法にたよっていた版面の製作が，写真の技術を導入することによって，文字のみならず，図や絵・写真などまで短時間に正確な版にすることができることとなった。それはまた印刷が美術などの面でも大きな役割を果たすようになったことでもある。

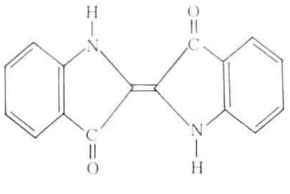
現代においても印刷の基本原理はその開発された当初とあまり変わらない。今日大量に発行されている新聞や雑誌の大部分は活字を組んだ活版で印刷されたものである。しかし，この活字組版や写真植字にも最近はコンピューターが導入されるようになった。

一般に，印刷の分野には最新の科学技術がいちはやく取り入れられる。これは印刷や出版がマスプロダクションに不可欠のものである以上当然なことともいえよう。特に近年写真科学・電子工学の進出が著しい。たとえば，版面の製作においては，ダイクリル版・ラップアラウンド版・マスキング法(特殊フィルターを使って写真的に色を分解するもの)・電子色分解法・電子彫刻製版など新しいものが現われ，印刷技術の面でもファクシミリ印刷や無圧式の電子印刷，インキ不要印刷などの新しい技術が開発された。

特に，ファクシミリ印刷は，中央の都市で製版した新聞の紙面を電送写真で遠隔の都市へ短時間に送る装置として大きな新聞社が全国的に採用している。また最近は，印刷がラジオ・テレビの印刷配線*(プリント配線)やテレビのシャドウマスクの製作などにも用いられ，従来の印刷の概念を越えた分野にも進出しつつある。　〔長野昌隆〕

シリンダーで構成された原動機で，作動流体がピストンに対して行なう仕事(図示馬力)を記録する機器をインジケーター(指圧器)という。図示馬力は，シリンダー内の圧力の変化とピストン行程との関係で求められ，機械式・光電式・電気式などの方法で測定される。　〔土屋喜一〕

インジゴ　[indigo]　青色の建て染め染料*。$C_{16}H_{10}O_2N_2$　天然藍(あい)の一成分。



天然藍の原産地は，名の示すとおりインドとされているが，世界の主として熱帯・亜熱帯地方で広く栽培されていた。日本では四国吉野(よしの)川流域の阿波(あわ)藍が歴史的に有名。原料植物には多くの種類があるが，マメ科ユマツナギ属のものやタイセイが重要であり，これらの葉や根から天然藍は採取される。1880年バイエルがインジゴの合成に成功して以来，工業化が企てられ，19世紀末ドイツのBASF (Babishe Anilin und Soda Fabrik)社が合成インジゴの市販を開始，以来急速に天然藍は圧迫され，ついに市場から駆逐された。当時天然藍を大きな財源としていたイギリスは，そのため財政的に窮地に立たされたが，逆に合成インジゴの工業化は染料工業のみならず化学工業界一般に大きな刺激を与えた。インジゴは，水にとけないがアルカリ性ハイドロサルファイトで還元すると脱色と同時に水溶性となり，この水溶液にもめんを浸したのちとり出して空気酸化すると，再びこの不溶性の藍色を再生する。インジゴの誘導体(主としてハロゲン誘導体)および類似構造のチオインジゴ類が多数実用化されている(インジゴイド染料)。前者は色調の変化が少なく発展性に乏しいが，後者は変化に富みかつ鮮明でその重要性は増大する傾向にある。　〔稲田正作〕

インジゴイドせんりょう　**【インジゴイド染料】**　⇒建て染め染料

いんしじょうれい　**【印紙条例】**　1765年，イギリスが北アメリカ植民地に対して印紙税を課した法律。フレンチ-インディアン戦争*後，フランス人・インディアンの襲撃に対する10,000人の守備隊駐屯(ちゅうとん)費の約3分の1を植民地から徴収するため，イギリスは各種証書・証券類・新聞・パンフレット・暦・かるた・さいころなどに半ペニーから10ポンドの印紙をはることを要求した。植民地側では，最初の直接税であること，印紙貼付(てんぷ)物品数が多いこと，違反に対する刑罰が重いことから反対の声が強く，〈印紙条例一揆(いっき)〉が各地に発生した。また9植民地の代表による最初の非合法の〈印紙条例会議〉が10月に開催され，〈アメリカにおける植民地人の権利と不満に関する宣言〉を採択し，その廃止を要求し，〈代表なくして課税なし〉の理論を展開して反抗した。そのため，わずか半年で条例は廃止された。植民地全土に反英・アメリカ独立の気運をひき起こした条例として重要。　〔折井一彦〕

いんしぜい　**【印紙税】**　財産権の創設・移転・変更・消滅を証明すべき証書・帳簿，および財産権に関する追認もしくは承認を証明する証書に対して，その作成のときに課される税。この納税義務者は帳簿または証書の作成者で，納税方法は，一般に証書・帳簿に政府の発行する印紙*をはり，消印することによって行なわれる。

いんしぶんせき　**【因子分析】**　心理学的検査法。知能検査や性格検査ではかられたものは人がもっている種々の能力や性向の程度を純粋に示しているのではなく，それら

の合成の結果と考えられる。そこで多くの人に幾種類もの検査を実施し，得られた資料をもとにして，統計的な技法によって，各検査には各因子がそれぞれどの程度(因子負荷量)に関与しているか，さらに，知能や性格が，いくつの，どのような因子からなりたっているか，などを突き止めていくのが因子分析法である。〔斎藤幸一郎〕

いんじゃぶんがく　【隠者文学】　俗世間から離れて出家生活を行なった人々が自己の内面告白・自然観照を中心につづった文学をさし，草庵(そうあん)文学ともいう。いわゆる中世文学の主流をなした。西行*・鴨(かも)長明*・兼好*などがその作者で，和歌や随筆の名作を生んだ。

いんじゅ　【陰樹】　陰生植物*のうちの樹種。幼樹は強い光にさらされると害を受けやすく，陰地でのみ生育できる。しばらく生長したのちは十分な陽光のもとで生育する。陰樹林は葉を密生させるため，林内が暗く林床植物はまばらにはえる。陰樹にはヒノキ・モミ・ブナなどがある。➔陽性植物

インシュリン　[insulin]　膵臓(すいぞう)のランゲルハンス島β細胞から分泌されるホルモン。アミノ酸だけからなる単純タンパク質で，タンパク質のうち最初に構造式が明らかにされた。ブドウ糖の酸化やグリコーゲン・脂肪への転化を促進し，アミノ酸・脂肪から糖が生成されるのを抑制し，血糖量を下げる働きがある。このため，インシュリンの分泌障害が起こると糖尿病*になり，尿中に糖が排出される。正常の動物ではインシュリンは必要量だけ分泌され，多すぎることも少なすぎることもないような状態になっている。この動物にインシュリン注射を行なうと，インシュリン過多の状態となり，低血糖となって全身的なけいれんが起こる。インシュリンの分泌調節の主因子は膵臓を流れる血液中の糖の量であるが，このほかに神経による分泌調節もあると考えられている。〔平野修助〕

インシュリンりょうほう　【インシュリン療法】　ザーケルが1935年にはじめて精神疾患に用いた治療法。精神分裂病*の発病初期，特に緊張型・妄想(もうそう)型に有効で，インシュリンを注射して低血糖状態にするものである。定型的な経過は，①浅眠期，②昏蒙(こんもう)期，③もうろう期，④前昏睡期，⑤昏睡期で，同時に軽い意識障害，原始運動・筋れん縮などを伴う。ときとして昏睡が遷延して数か月に及ぶことがあり，そのため精神荒廃を招いたり，はなはだしいときは，けいれんを起こして死亡する(遷延ショック)。そのため，近年，簡単で比較的危険が少なく，同程度の効果が期待できる薬物療法に取って代わられてきている。別に，昏睡に至らない時期(昏蒙期)で止めるサブショック療法を行なう場合があり，この方法は分裂病だけでなく神経症*・嗜癖*(しへき)の治療に用いられている。〔松田健身〕



印　章

いんしょう　【印章】　印材に文字や絵をまとめて刻み，押印して，国家・君主をはじめ組織・団体や個人の真意を象徴したり，契約を確証したりするもの。印材には，金・銀・銅などの金属や玉(ぎょく)・水晶その他の石材，牙(きば)(象牙(ぞうげ))，水牛の角，木・竹などが用いられる。印章は書き判(サイン)に対して印判・印形(いんぎょう)ともいい，古くは〈おしで〉ともいった。その刻法には陽刻(朱文)と陰刻(白文)とがある。

【起源】古代西アジアのメソポタミア地方で，円や楕円(だえん)の泥土(でいど)に鳥獣の模様を型押ししたものをいくつか連ねて首にかけ，護符とする風習があった。これが印章のはじまりで，いまから約5,000年前に国家をつくったシュメール人は文字も発明し，ついに管玉式円筒に文字や文様を刻んで粘土に一回転すれば押印ができるという円筒印章を発案した。そして，これがその周辺から，エジプトやインドにまで流行した。その研究は，モルガンによるスーサ*の発掘に始まったが，現代では考古学者による遺跡の調査が広く進み，アッシリア・バビロニアの広域に及んでいる。一方，エジプトでは，シュメール系以外の形のものも用いられ，わけてスカラベ*では，カブトムシの形(楕円形)で，ひもを通す穴をあけ，印面には史的記述，王・庶民の名，神への願いを刻み，護符として胸に飾り，また，環をさして指輪にもした。その材質は金・玉・宝石・ガラス・陶製もあって，善美を尽くしている。そして，パピルス文書では印章もインキ様のもので押された。

エーゲ文化の先駆クレタ*では，その初期には，円筒印章，あるいは三稜(さんりょう)形エジプト文字の印章が用いられた。やがてエジプトの絵画文字は線形に改造されて，ギリシア文字の発明となり，ギリシアでは印刻術が精巧になって，塑像様式(半肉浮き彫り)の印章となった。のちのメダル・勲章はこの系統に属する。スタイン*によってニヤ(中央アジア)でパラス-アテネやエロス-アテネなどの神話の人物像が泥土で封印されたのが発見され，古代の大陸交通を立証する資料となった。紀元前7～紀元前6世紀ごろ，ローマを建国したラテン人はギリシア文化を改造してヨーロッパ文化の源流を導いたが，ここではエジプト系指輪印章が流行した。結婚指輪の風習も当時からのもので，また家財を保護するための封印も流布した。ローマ時代以後，イギリス・フランス・ドイツなどの各国においても，国璽はじめ一般に浮き彫りでメダル様のシールという印章が用いられたほか，一般にも封蠟(ふうろう)押印の風習も行なわれてきたが，近世になってサインが行なわれだしてから印章の使用はきわめてまれになった。古印*についての研究は，1910年に万国銭貨学会によって，次いでオランダやドイツでも始められ，現代では各国で考古学上の重要な課題となっている。

【中国の印章】中国の古代では，いまから5,000年前，黄帝の時代に封禅の儀式があって，玉の詔版を金泥で押して銀縄(ぎんじょう)で縛り印封したことが《史記》にしるされている。また，《尚書大伝(しょうしょたいでん)》には，

殷(いん)の湯王が即位のときに璽(印章)が天子の第1の象徴であったと伝えられている。また,《周礼(しゅらい)》には,璽節(印章)について触れた箇所で,役所の出納や物資の取引,門関の開閉などが印章によってなされたことがしるされている。《春秋左氏伝》には,襄公(じょうこう)が璽書を持たせて公冶(こうや)をつかわしたこと,《戦国策》には六国の宰相となった蘇秦(そしん)が印綬(いんじゅ)をかけて郷里ににしきを飾ったことがしるされている。このころまで印章は鉨(じ)といい,独特の文字が刻まれた。材料は多種にわたり,金(青銅)・鉛・鉄・玉などの出土品がみられる。秦の始皇帝が天下を統一し,白玉で天子の璽をつくらせた。その文は〈受命于天,既永昌(えいしょう)(命を天に受けて,すでに永昌)〉であった。それから〈璽〉の呼称は帝王の独占となり,臣下はすべて〈印〉ということになった。秦では文字も小篆(しょうてん)はじめ秦書八体が制せられ,印章にはそのうちの模印篆が用いられた。秦印は精巧で秀麗なものである。漢時代には印制が整備され,国家制度の表章として用いられるに至った。皇帝は白玉螭虎鈕(ちこちゅう)(〈鈕〉はつまみ)で,その文は,〈皇帝行璽〉〈皇帝之璽〉〈皇帝信璽〉〈天子行璽〉〈天子之璽〉〈天子信璽〉の6種,皇太子は金璽亀鈕(きちゅう),諸侯王は金印橐駝鈕(たくだちゅう)で,その文は〈某王之璽〉,列侯は金印亀鈕で,その文は〈某侯之章〉などとなっていた。印章はおもに正方形で,印文は秦の模印篆にならい,その書きぶりは渾厚(こんこう)で布字には一定の法式があり,両面印や大小を組み合わせた子母印も用いられた。なお,印章には,古代から通じて吉祥語や画像が入れられた。制作には鋳法にロウ型と砂型,刻法には刀刻と鑿(さく)(たが彫り)との別があって,軍中など早急な任官には急就章という刻法でつくられた。後世の印章の作法はこれら秦・漢の印章が基本となっている。次に,魏(ぎ)・晋(しん)の時代までの印制は漢にならった。

印章の押し方は,三国のころまではメソポタミアのようにどろに押していたが,後漢に紙が発明されて以後は,印を押すのに朱を練って塗ることになった。このために,陰刻よりも陽刻,小さいものよりも大きなものほどつごうがよくなり,制作にも変形が現われた。

隋(ずい)では作法が一変して,それをまねたのがわが国の大和(やまと)古印である。唐の官制では,任官印綬が魚袋となり,官印は秦篆文字を取り入れて鼻鈕・大形であった。中唐になって則天武后のときには,〈璽〉の字音を忌避して〈宝〉と改められた。また,西夏・遼(りょう)・金などの国々でもそれぞれの文字をつくり,印章にもそれを用いた。宋(そう)になって古篆の研究が始まり,文学趣味の印も行なわれるようになった。また,官印では畳篆といって,印篆の筆画をさらに屈折して印面をにぎやかにすることが始まった。鈕は鼻鈕や直鈕で,おしなべて銅印が多い。文雅の印には玉・銅・牙・木などでつくられた。印肉を油で練るのは当時からであった。元になって,唐・宋以来東漸してきたウイグル系独特の文化が印章にも及び,公私ともにパスパ系のモンゴル文字が用いられるに至ったが,これを元押という。一方,牙や木よりも刻みやすい凍石(カッ石の一種)が見つかり,文人の間では篆刻芸術が流行しはじめた。それが明朝(みんちょう)に継承されていよいよ盛んとなり,今日に及んでいる。明朝の官印は,官の等差によって九畳・八畳・七畳と重なった篆字を使用する制がしかれた。清朝(しんちょう)の官印には畳篆と満州文字とがある。そして,文人の篆刻趣味の間に実用印章の風潮も起こった。

〔朝鮮の印章〕 朝鮮にも古くから印章の流布を見た。高麗(こうらい)時代のあざやかな青緑色の銅印や青磁の印の出土品には,特に珍重すべきものがある。李朝(りちょう)の印は銅・木ともにきわめて深く刻まれ,文禄(ぶんろく)・慶長の役以来日本の印判師がこれにならったように思われる。

〔日本の印章〕 日本に印章が伝わったのは〈漢委奴国王(かんのわのなのこくおう)〉の金印あたりで,1世紀前後であろう。そして8世紀初頭までは一般に使用されなかったが,大宝律令(りつりょう)によって国の制度として実施された。〈天皇御璽〉〈太政官印(だじょうかんいん)〉をはじめ,国・郡・郷・社寺の印が設けられるようになり,平安時代末期にはまれに私印も見いだされ,いまこれらを大和古印とよぶ。制作も隋・唐の制にならった銅印(鉄印もある)が流布された。奈良時代や平安時代初期では文書一面に押印することが例になっており,朱をにかわ液で浸して押した。鎌倉時代になってからは,宋との交通で僧侶(そうりょ)たちが文雅の用に木印や銅印をもたらし,当時有名な墨跡にもこれを見ることができる。次いで元・明の文化も移入され,元押にならって花押(かおう)も始められた。戦国時代の末期には,ポルトガル人が白糸を舶載しきたって,それに銅印を添えて割符の用にした糸印もみられるに至った。江戸時代は上下の差別があって,上は朱,下は墨で押し,《徳川禁令考》で実印の制度が置かれた。4代将軍徳川家綱のころには明代篆刻の技法も伝えられて,以来文人墨客の間に流行している。明治になって〈天皇御璽〉〈大日本国璽〉はともに黄金,阿部櫟堂(あべれきどう)の布篆で秦蔵六(はたぞうろく)が彫り,官庁の印も整備された。近代における印章の使用はわが国で特に多くなり,また今日に及んで篆刻の風潮もきたしている。➔篆刻

〔長曾我部木人〕

いんしょうぎぞうざい【印章偽造罪】 印章および印影(印章によって押された跡)を偽造する罪。行使の目的で,①御璽・国璽または御名,②公務所・公務員の印章もしくは署名,③他人の印章もしくは署名を偽造する罪があり,その行使も罰せられる(刑法164~168条)。印章の偽造は,他人名義の文書を偽造するとき,その手段として行なわれることが多い。この場合,文書偽造が既遂に達すれば,印章偽造は文書偽造罪に吸収され,独立して処罰されない。

〔野口恵三〕

いんしょうしゅぎ【印象主義】 ⇨印象派

いんしょうしゅぎおんがく【印象主義音楽】 1900年前後にドビュッシーが確立した音楽様式。この用語は絵画の印象主義から導入されたものである。音楽上の特徴としては,それまで支配的であった長調・短調による機能和声法からの解放がまずあげられる。そのため,教会旋法・5音音階・全音音階など新しい音組織が使われ,ある構成の和音を独立させて平行に動かすなどの試みが行なわれている。これらの新しい響きは,過去の音楽形式からの解放をも可能にし,拍子やリズムの組織にも大きな自由を与えた。この様式は,マラルメの詩に基づいたドビュッシーの管弦楽曲《牧神の午後への前奏曲》によって確立されたが,この作品に典型的に現われているように,音色が大きな意味を与えられている。この種の音楽は現代音楽への道を切り開いた点で大きな意味をもち,ドビュッシー以外にも,フランスのラベル,スペインのファリャ,イタリアのレスピーギ,イギリスのデリアスらによっても取り入れられたが,感覚的な点では,フランスの象徴詩から大きな影響を受けたことからもわかるように,きわめてフランス的な音楽ということができる。

〔徳丸吉彦〕

いんしょうは【印象派】 アンプレッショニスムの訳語。19世紀後半,フランスからヨーロッパ全域に広がった,絵画を中心とした近代の最も主要な芸術運動。名称の由来は,1874年の第1回印象派展覧会にモネが出品した《印象・日の出》をもじった《シャリヴァリ紙》の美術記者ルイ-ルロワの嘲笑(ちょうしょう)的記事にあるが,1877年の第3回展からは正式の名称として採用された。1863年,官展の不公正な審査に対する少壮芸術家たちの憤慨・抗議の対策として,ナポレオン3世が命じて開催された〈落選展覧会〉が運動勃発(ぼっぱつ)の契機となる。ここに出品された有名な《草上の食事》《オランピア》の悪評が結果的にマネに中心人物としての地位を与え,彼を中心にしたいわゆる〈カフェ-ゲルボア〉の集まりとなる。これが印象派運動の母胎である。1874年のナダール写真館での〈匿名画家・彫刻家・版画家協会展〉つまり第1回印象派展には,モネ・シスレー・ピサロ・セザンヌ・ルノアール・ドガ・ベルト-モリゾーらが参加。以後,1886年の第8回展まで,参加メンバーに変動はあっても運動は続いた。

印象派は,遠くハルス・ベラスケス,19世紀前半のゴヤ・カンスタブル・ターナー・

印象派



シスレー《樹木と家のある風景》



マ　ネ《草上の食事》1863



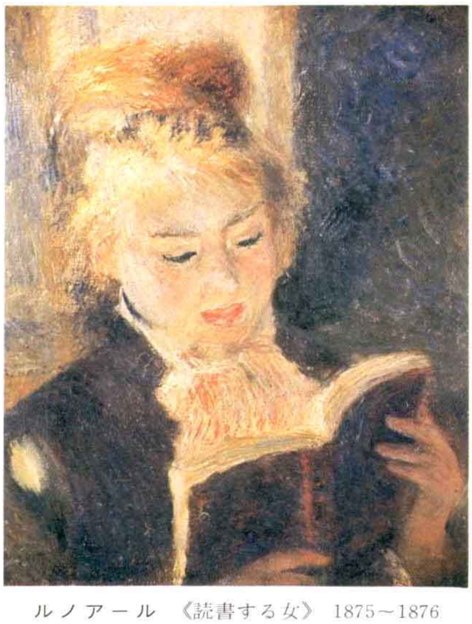
セザンヌ《首吊りの家》1873



モ　ネ《印象，日の出》1874



スーラー《グランド-ジャッドの日曜の午後》1884～1886



ルノアール《読書する女》1875～1876

ドラクロワらの画法を踏襲，それに徹底してもいる。この運動はアカデミーに対する反抗運動であり，因襲的形式主義の破棄，黒ずんだ色調の排除をめざし，光と色彩に注目し，画家の目に映じた自然の姿を瞬間的印象として表現しようとすることにあった。ドラクロワ*の色彩論，シュヴルールの色彩光学理論がその根拠となっていた。固有色を否定し，太陽の下に微妙に変化する物象の表面上の色彩現象を捕えることに専念する。アトリエを出て，戸外にイーゼルをすえ，直接に自然を描いたことから〈外光派〉の名称が与えられる。パレットは明るくなり，黒・かっ色などの影の色が追放される。絵の具の混合による輝きや明るさの減少を避けるために，原色の色彩斑片(はんぺん)をカンバス上に並置し，観者の網膜上での色彩混合をねらう色調分割が主要な手法となる。この画法に適合した題材として，緑の草原に散在する赤い花，水面に戯れる光が好んで取り上げられた。印象派の著名画家にマネ・モネ・ルノアール・ドガらがいるが，中でもモネ・ピサロ・シスレーは生涯(しょうがい)を通じて印象派に忠実であった。なお，他の領域ではロダン*・ドビュッシー*らを印象派とよぶ。印象派は1880年代には世間に認められ，ついにはヨーロッパ絵画の主流となる。スーラー*・シニャック*らの〈新印象派〉は，印象派の色彩理論に科学的正確さを与え，印象派のなおざりにした絵画の造形的堅牢(けんろう)さの回復をめざした。1886年最後の印象派展の際に生まれたこの運動は，特に色調分割の手法を徹底させ，大きさの等しい原色の色点の網で画面を包み込む点描*による純度の高い色彩効果をねらう。ロジャー-フライは，セザンヌ・ゴッホ*・ゴーガン*らを〈後期印象派〉と命名したが，彼らは特別な運動を創始したのではなく，総括的な名称にすぎない。〔古川俊英〕

いんすう【因数】⇨約数

いんすうていり【因数定理】⇨余りの定理

いんすうぶんかい【因数分解】 整数や多項式を二つ以上の数あるいは式の積の形に表わすこと。A＝P・Q・R……と書けるとき，P, Q, R, ……をA の因数*または因子という。ある多項式がそれ以上因数分解できるかどうかということは，因数に用いる数の範囲によって変わる場合がある。たとえば，$(x^2+1)(x^2-5)$は，有理数の範囲ではそれ以上因数分解することはできないが，実数の範囲なら$(x^2+1)(x-\sqrt{5})(x+\sqrt{5})$，複素数の範囲なら，さらに$(x-i)(x+i)(x-\sqrt{5})(x+\sqrt{5})$と因数分解できる。どの範囲の数で因数分解するかは目的に応じて決められるが，一般には有理数の範囲で行なう。このとき，因数の順序を度外視すれば，因数分解をした結果は1通りに決まる。因数分解は，いくつかの多項式の最大公約数や最小公倍数を求めたり，高次方程式*を解いたり，分数式を通分・約分したりするのに用いられる。因数分解をするには，次の公式のほか，因数定理(余りの定理*)や対称式*・交替式の考えを利用する。

$$ax+ay=a(x+y)$$

$$a^2\pm 2ab+b^2=(a\pm b)^2$$ （以下，複号は同順）

$$a^2-b^2=(a+b)(a-b)$$

$$x^2+(a+b)x+ab=(x+a)(x+b)$$

$$acx^2+(ad+bc)x+bd=(ax+b)(cx+d)$$

$$a^3\pm 3a^2b+3ab^2\pm b^3=(a\pm b)^3$$

$$a^3\pm b^3=(a\pm b)(a^2\mp ab+b^2)$$

〔菊池兵一〕



インスブルック　インスブルック郊外の風景。イン川の渓谷をはさむオーストリア-アルプスの白銀の山々が美しく光っている

インスタントしょくひん【インスタント食品】 もと，即席食品などによばれていた食品群の総称。家庭で，加温・加熱・冷却などの処理，または熱湯や牛乳を注ぐだけで食卓に供すればよいというぐあいに，複雑な調理を必要とせず，かつ簡単に貯蔵できるような食品をいい，かんづめ類や干物類などはインスタント食品とはよばない。明治時代にすでに，懐中じるこ・コーヒー糖などがあったが，第2次世界大戦後，アメリカから携行食品が導入されたこと，および生活特に食生活の簡易化などのため，最近急速に消費が伸びている。

インスタント食品は多種多様なので，分類を正しく行なうことはむずかしいが，形や加工技術の面から次のように分けられる。①粉末食品：原料を最終的に粉末状にして湯または水にとけやすくしたもの。湯や水を注ぐだけで食卓に供される。スキムミルク・コーヒー・ココア・紅茶・クリーム・粉末ジュース，スープの素(もと)などがある。インスタントコーヒーの需要がいちばん多い。②アルファ化食品：デンプンをアルファ化して乾燥したもので，水や湯を注ぐだけで食べられるもの。もち・ラーメン・マッシュポテト・しるこなど。インスタントラーメンの消費はばくだいで日産平均700万食に達している。③濃縮食品：液状の食品をペースト状にしたもの。混合調味料・スープ。④冷凍食品：半分調理した食品を急速凍結したもの。冷凍庫に貯蔵し，食べるとき凍結したまま調理すればよい。フライ・てんぷら・茶わん蒸し・ピザ・ハンバーグ・シュウマイなどがある。最近冷凍庫や冷凍庫つき冷蔵庫の普及が盛んになったので，この種のインスタント食品の消費が進むであろう。なお，冷凍食品はインスタント性がやや薄れるので，インスタント食品に入れずに，コンビネンス食品(便利食品)に分類することもある。

インスタント食品は非常に便利であり，また最近の製品は味も改良されているのでちょうほうな食品である。反面価格がやや高く，かつ長期貯蔵性がない欠点もあるが，今後ますます需要が増すものと考えられる。〔佐藤友太郎〕

インストルメンタリズム［instrumentalism］ デューイ*の説くプラグマチズム*。道具(器具)主義。デューイによれば，人間は環境との相互作用によって成立する一つの場であり，その内部に起こってくる欠乏を補充し，葛藤(かっとう)を解決しながらこれを押し広げ充実させていく過程である。人間は人間の行動としてとらえられる。このような行動を統御し，未来に向かって方向づけるのが知性の働きであるが，認識も思惟(しい)もそれ自身行動の一様相であり，しかも行動を方向づけるための道具としての性質をもつ。そして観念・知識・思想は未来を洞察(どうさつ)し，予想してとるべき行動を決定し，かつそれが導いた行動の結果によってためされ，確定され，あるいは改良される知的道具とされる。これらは固定された究極的なものではなく，行動の中で実験されテストされる仮説的性質のものである。〔石倉恒之〕

インスピレーション［inspiration］ 啓示・霊感などの宗教的体験や，いわゆる第六感・勘なども含めた意味をもつ俗言。学術的な定義はむずかしいが，忽然(こつぜん)と宗教的な悟りに到達したり，芸術創造や科学的な発明・発見の過程で，努力しても解決できずにいたことが不意に自分でも説明できない内部衝動からすぐれた着想を得，問題の創造的解決ができた場合，その発想のもととなった不意の力をさしていう。これらが生じた心的機制を，精神病理的に躁病(そうびょう)・分裂病・ヒステリー性格などによって説明しようとする見解もあるが，十分ではない。創造過程にみられるインスピレーションについては，それまでの知識の集積とそれが体系化されるまでの醸成期が考慮されなければならないが，この醸成期を経てのちの急転に伴う主観的体験をもインスピレーションとみる人もいる。〔太田垣瑞一郎〕

インスブルック［Innsbruck］ オーストリア西部，チロル州の州都。人口11万5,000(1971)。イン川に臨む工業都市で，恵まれた水力を利用して毛織物・金属・薬品の生

産が盛んである。ローマ時代から北イタリアと南ドイツを結ぶ交通の要地として発展した。東部アルプスの景勝地に位置し，南隣にアルプスの峰々のながめを誇るイゼルがあり，観光客が絶えない。1677年創立の大学，16世紀の聖フランシスコ会の教会，フェルディナンド博物館，アルプスの植物を集めた高山植物園などがある。1970年にはこの地で冬季オリンピックが開催された。〔梶川勇作〕

いんせい【院政】 天皇が譲位後も太上(だじょう)天皇(上皇*)・太上法皇(法皇*)として，上皇の居所である院*の中に院庁を開いて政務をとる政治形態をいう。白河(しらかわ)上皇の1086年(応徳３)から光格天皇崩御の1840年(天保11)まで断続して行なわれた。政治史上院政が特に重要な意味をもったのは，白河・鳥羽(とば)・後白河の３上皇の時期であったので，この３代院政のみを特に院政とよぶこともあり，またその時期をさして院政時代ともよぶ。この狭義の院政の特色としては，院政の当事者である院(上皇・法皇)が専制君主であり，行なうところの政治が恣意(しい)的であるということがあげられる。院政時代に多くみられる院庁下文*(くだしぶみ)や院宣*は，院庁の役人である院司が院の命令を奉じて出した文書であったが，これらは詔勅・宣旨以上に重視された。院政の私法的傾向は，財物を寄進して官職を得ようとする成功*(じょうごう)や売官のふうを盛行させ，武力による権力抗争を生んだので，武士勢力の中央進出を招いた。院政の成因については諸説あるが，そのいずれの立場をとるにせよ，その社会的基盤が，院政に先行する政治形態である摂関政治*のもとで，抑圧されていた諸国の受領層(ずりょうそう)をはじめとする中・下級の貴族層にあったということは，事実として認めねばならないであろう。彼ら中・下級貴族層のうち，特に院の信任恩寵(おんちょう)を受けた者は，当時院の近臣とよばれ，受領を歴任して巨万の富を蓄積し，権勢をほしいままにした。藤原顕隆(あきたか)・藤原顕季(あきすえ)・高階為章(たかしなためあき)らはその代表的なものである。〔飯田悠紀子〕

いんぜい【印税】 著作権*者あるいは版権所有者(著作物を複製発売する権利をもっている者)が出版業者と出版契約を結び，この契約に基づいて，著作権者あるいは版権所有者が出版業者から出版物の売価・出版部数に応じて受領する著作権の使用料をいう。印税はふつう出版物売価の10〜20％程度である。また，レコード製造業者がレコード発行枚数に応じて音楽著作権者に支払う報酬も印税といわれる。

いんせいしょくぶつ【陰生植物】 照度1,000ルックス以下の弱光のもとで，陽生植物*よりも大きな純同化量(同化器官の全同化量とその間の呼吸量の差)をもつ一群の植物。比較的弱い光で純同化量の最大値に達し，



隕　石



隕石孔 アメリカ，アリゾナ州

強い光のもとでは逆に低下する傾向をもつ(→陰葉)。陰樹・陰性植物プランクトン・シダ・コケなどがこれに含まれる。陽生植物も弱光のもとで生育させると，陰生植物的な傾向をもつなど，植物の生活条件に対する適応の好例である。

いんせき【隕石】 惑星間に漂う固体物質が，地球大気を通って地表上に落下してきたもの。地球を取り巻く空間の情報を伝える試料として貴重な存在である。隕石は鉄・ニッケルの含有率によって，隕鉄・石鉄隕石・石質隕石の３種類に大別される。隕石に含まれている放射性元素の量をはかる方法によって，隕石の年齢を求めると，石質隕石→石鉄隕石→隕鉄の順に古くなっていて，数百万年から数億年の間に分布している。隕石は，①彗星(すいせい)に起源をもつ流星群との関係が少なく散発流星より生じること，②地表に落下するまえの軌道を推定すると小惑星の軌道に似ていること，③成分元素の比が地殻(ちかく)の平均組成に似ていることなどから，その起源は多分小惑星と同じもの，つまり大昔に小惑星が爆発したなごりのかけらがたまたま地球大気に突入したものであると考えられている。隕石の落下は全世界で約1,500個，日本では30個程度知られている。しかし，人目の届かない所では発見されないので，実際はもっと多いと考えられる。日本では1688年(元禄１)に静岡県の浜松市外，笹ケ瀬(ささがせ)の増福寺というお寺の門前に落ちた小さな隕石は今日まで保存され，最も古い隕石である。アメリカのアリゾナ州バリンジャー隕石孔をつくった隕石は100万tにも達したと見積もられている。→流星〔磯部琇三〕

いんせきこう【隕石孔】 巨大な隕石が地上に落下して，地表につくった大穴。大きな隕石になると，重さは数十トン以上，速度は30km/秒にも達し，地面に衝突するとばくだいな運動エネルギーが瞬時に熱エネルギーに変わって爆発を起こし，土や岩石を吹き飛ばして大きな穴をあける。有名なのはアメリカのアリゾナ州のバリンジャー隕石孔で，直径1.3km，深さ180mにも及び，周辺から多くの隕石の破片が発見された。

インセクタリウム［insectarium］ こん虫を飼育する装置。またはこん虫館。多くのこん虫は特定のえさとすみ場所を要求するため飼育はむずかしいが，それぞれの種類に適した環境を人工的につくってやれば，世代をくり返して飼えるものもある。インセクタリウムでは人工的に虫に好適な環境を用意するわけである。こん虫館は各種こん虫を飼育・展覧・研究するところであるが，東京都多摩動物公園のこん虫園は世界一の規模をもっているところとして有名である。〔松本忠夫〕

いんぜん【院宣】 院司が上皇*・法皇*の命令を奉じて発する文書。院政*時代には天下の大事はことごとく院宣をもって決し，天皇はわずかに元日・叙位・節会(せちえ)などの儀式を挙行するのみとなったから，院宣は詔勅よりも重んじられた。院庁下文(くだしぶみ)(→下文)が内容・形式ともに純然たる公文書であるのに対して，院宣は内容はともかく形式的には私文書であり，通常日付のみで年号を欠く。荘園*(しょうえん)関係の事件に多く用いられ，したがって院政が朝廷内部に限定されるようになった中世には，院庁下文よりも重視された。〔黛　弘道〕

いんせんぽう【陰旋法】 ⇨都節(みやこぶし)音階

いんせんりょうほう【飲泉療法】 温泉または鉱泉水を飲むことによる温泉療法の一種。わが国ではあまり行なわれないが，ヨーロッパなどでは泉質・温度の関係もあって，温泉浴よりも広く行なわれている。原則として湧泉口(ゆうせんこう)に近い所からそのまま飲むが，成分によっては薄めて飲み，少量よりはじめ，しだいに量をふやす。適応症として，慢性消化器疾患，肝・胆道疾患，貧血・慢性便秘・痛風などがある。心臓病・腎臓病(じんぞうびょう)などで浮腫(ふしゅ)がある場合は避けたほうがよい。→温泉療法〔増田武弘〕

いんぞく【姻族】 配偶者の一方と他方の血族，および自己と自己の血族の配偶者を相互に姻族という。たとえば，夫からみて妻の親・おじ・兄弟姉妹は姻族であり，自分の兄弟姉妹の配偶者も姻族である。しかし，配偶者の一方の血族と他方の血族とは相互に姻族関係はなく，親族ではない(民法725条)。生活慣習上の親戚(しんせき)関係とは異なる。姻族関係は婚姻*の解消によって消滅する(民法728条１項)。ただし夫婦の一方の死亡による婚姻の解消は，生存配偶者

の意思による戸籍上の届け出によってのみ姻族関係を終了させることができる(民法728条2項)。➔親族　〔黒木三郎〕

インダクタンス ［inductance］ 電流回路における電磁誘導の大きさを表わす量。電流の流れている回路のまわりには磁場が発生する。ある回路に電流 I が流れていて，その回路を貫く磁束が Φ であるとき，この回路の自己インダクタンス L を $L=\Phi/I$ で定義する。また，回路 C_1 に電流 I_1 が流れていて，I_1 によって生じた磁束の一部 Φ_{21} が回路 C_2 を貫くとき，回路 $C_1 C_2$ 間の相互インダクタンス M を $M=\Phi_{21}/I_1$ で定義する。インダクタンスの単位はMKS単位系*でヘンリー*(H)である。自己インダクタンス素子としてはコイル，相互インダクタンス素子としては変成器がある。インダクタンス L の素子の両端に発生する逆起電力は，$e=-\frac{d\phi}{dt}=-L\frac{dI}{dt}$ で与えられ，外部からの電流をふやそうとすると電流の減る方向に，減らそうとすると電流の増す方向に逆起電力が生じ，つねに電流変化を妨げようとする性質を示す。この性質は，自己インダクタンスとしては電源の平滑回路に用いられている。また，磁束変化が起電力を与える性質は変成器に用いられ，相互インダクタンスを適当に選ぶことによって，一次側と二次側の交流電圧を自由に変えることができる。変成器を変圧器とよぶのはこのためである。ただし，直流電源の電圧は変圧器によっては変えることができない。これは，直流電源では磁束を変化させることができないためである。　〔堀内和夫〕

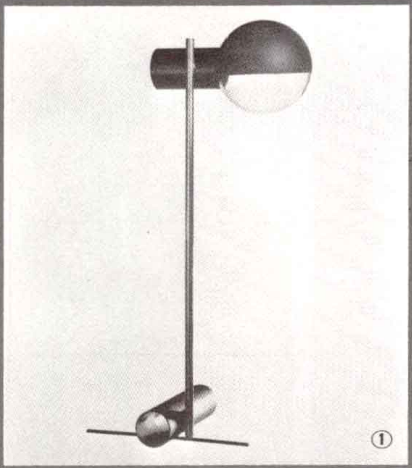
インダス(川) ［Indus］ チベット南西部から西パキスタンを流れてアラビア海に注ぐ大河。全長3,180km，流域面積98万km^2。ヒマラヤ山脈のカイラス山(5,700m)に源を発し，上流はカシミール，中流はパンジャブ(五河地方)，下流はシンド平野を流下する。中流のパンジャブでは川幅が16〜40kmもある。ハイデラバード付近から分流して，大デルタを形成している。小汽船は河口から200kmのハイデラバードまで，小船はカブール川との合流点まで航行できる。上流は古くはインドと中国を結ぶ隊商路であった。流域はBC2500年ごろインダス文明*が栄えたことで名高く，モヘンジョ-ダロ*・ハラッパーはその遺跡である。〈インダス流域計画〉という総合開発計画が進行しつつあり，雨量が少なく，亜熱帯的乾燥気候の半砂漠(はんさばく)的なこの地方に可耕地を広げる努力が続けられている。　〔梶川勇作〕

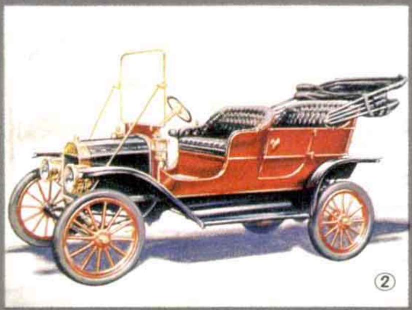
インダストリアル-エンジニアリング ［industrial engineering］ 略称ＩＥ。アメリカＩＥ協会はインダストリアル-エンジニアリングを，〈人・資材・設備の総合的システムの設計・改善・実施に関する問題を扱い，これらのシステムから得られる結果を明確化し，予測するために，工学的な解析と設計に関する原則および方法とともに，数学・自然科学・社会科学における専門知識や熟練した技術を使用するものである〉と定義している。インダストリアル-エンジニアリングを直訳すると工業技術ということになるが，上述の定義のようにまったく意味の違うもので非常に広範囲の技術を包含している。扱う対象も，初期には工場の現場作業の分析・改善・能率化を目的としていたが，現在は工業のみならず鉄道・運送・役所また病院などのシステム全体に及んでいる。ＩＥ活動の実際の内容をしいてあげると，作業標準・生産設計・賃金制度・生産管理・品質管理・原価管理などの管理システムの設計および改善，工場立地・工場配置・設備配置・運搬計画などの立案，さらに各種の制度・組織の改革立案などがある。そして，これらの活動に用いる技術としては，動作時間研究・統計手法・経済学・オペレーションズリサーチ・コンピューターシステムおよびテクニックなどである。わが国でのＩＥに関する月刊雑誌としては，日本インダストリアル-エンジニアリング協会の《ＩＥ review》，日本能率協会の《ＩＥ》などがある。　〔十代田三知男〕

インダストリアル-デザイン ［industrial design］ 産業デザインあるいは工業デザインと訳される。インダストリアル-デザインとは，人間とその生活環境の中で要求される用具や機器類，またはそれらの複合した装置や人工物といった広い意味での道具が，工業生産の対象となるときに，道具の発想から生産までのプロセスに関与し，生産されるものの適切な質を決定することを目的とした一つの創造的活動である。それは，人間と道具との相互関係の中に形式を与えながら，生産と消費の構造に適応させて，製品としての統一的具体化を図る行為であり，方法である。

【歴史】インダストリアル-デザインの行為が，一つの職能として確立されたのは，1920年代末のアメリカにおいてである。1928年，世界最初のデザイン事務所が，アメリカのノーマン-ベル-ゲデスによってつくられ，続いてワルター-D-ティーグ，レイモンド-ローウィ*などの人々によって次々とデザイン事務所が開設された。このころのアメリカは，機械文明が広く浸透し，市民社会から産業社会へ転換していく時代であった。アメリカ経済の基調が生産財から消費財の生産に移行していくにつれて，生活環境の中に工業製品が一般化され，さらに累積されてくる状況の中で，インダストリアル-デザインの活動が定着していった。これ以前にヨーロッパでは，産業革命後，機械生産による造形の理論的な運動が行なわれた。イギリスの美術工芸家W.モリス*のアーツ-アンド-クラフト-ムーブメントによる，手工芸の尊重と機械の排斥にみられる，造形の質と生産の有機的な形態への指向を契機として，ベルギー・フランスを中心としたアール-ヌーボーの装飾様式や，ドイツのH.ムテジウスらのドイツ工作連盟による機械生産の肯定に基づく，装飾を否定する機械様式の運動を生み出した。これらの造形思想は，その理論と実践において，ドイツの建築家グロピウス*によるバウハウスの運動に総合される。バウハウスに示された，機械生産を通じてつくられる物の合理的で普遍的な造形の方法論と，それから導き出される造形様式は，機能主義とよばれ，デザインの造形理念として，各国に多大な影響を与えた。インダストリアル-デザインの活動は，第2次世界大戦後，生産体制の建て直しとともに，一般化に進み，イギリスにおけるCOID(council of Industrial Design)や，スウェーデン・デンマーク・フィンランドなど北欧諸国の工芸協会など，デザインの普及が行なわれ，それぞれの国で状況に応じて独自な発展をみせた。1957年には，英・仏・米のデザイナー協会の発意から，国際活動の組織討議が行なわれ，1961年に国際インダストリアル-デザイン協議会の設立を遂げ，日本を含む各国の参加による国際間の研究活動が行なわれている。日本においては，戦前の先達の努力を受け継いで，1950年以後からようやく活発になり，1952年(昭和27)には日本工業デザイン協会(JIDA)が設立され，さらに通産省産業工芸試験所や毎日新聞工業デザイン振興事業などの働きで，企業に浸透しはじめ，現在に至って急速に発展してきている。

【活動】主として企業に属し，自社製品のデザインにあたっている人たちと，企業に属さず，自由な立場から活動している人たちによって行なわれている。インダストリアル-デザインの対象となるものは，日常生活に使用される用具・器具や電気製品などの機器といった道具類や，仕事の場や屋外など，種々の環境で使われる生産品が含まれ，単体としての道具類の拡大と多様化から，さらに道具群の集合，あるいは複合化されたものへと対象の範囲は拡大している。それは人間生活における，道具的適応の拡大と多様化とその質的変化の過程に対応している。インダストリアル-デザインのプロセスは，与える生産品の生活環境に対する位置づけと効果を計画することから始まり，生産上の技術的・経済的制約を満足させながら，最終的な形をつくりだすことであり，大きく構想と造形の段階に分けられる。構想の段階においては，要求されるものの分析や調査を通して，最終製品の質的条件を提示する段階であり，造形の段階においては，前段階で得られたものをあらゆる可能性の中で，具体的に展開し，さらに諸条件と相応させて収束させながら，与えるイメージの造形的表現を求め，モデルあるいは試作を通して，生産の最終的なひな型を提示する段階である。これら一連の





インダストリアル-デザイン

①卓上ランプ　オランダの国際的造形運動〈デ-スチール〉の作品。円と直線によって構成されている

②T型フォード　自動車の本格的な量産化を図り，大衆化に成功した

③スタッキングチェア　細いスチールの脚と軽快なプラスチックの組み合わせにより軽量化されている

④ポータブル-タイプライター　ABS樹脂製で，本体をケースから引き出して使用する

⑤金属製品　なべ類や水差しなどの一連の金属を共通な方針でシリーズ化している

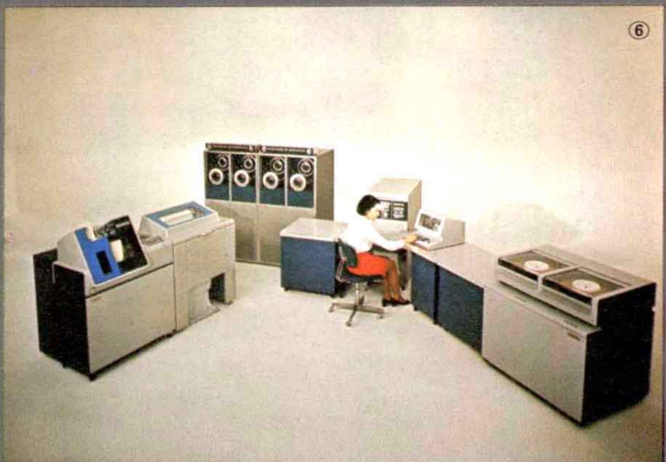
⑥コンピューター　入出力および制御装置群の人間のかかわる部分と，情報処理装置群とが形態・色彩などにより分離されて配置される

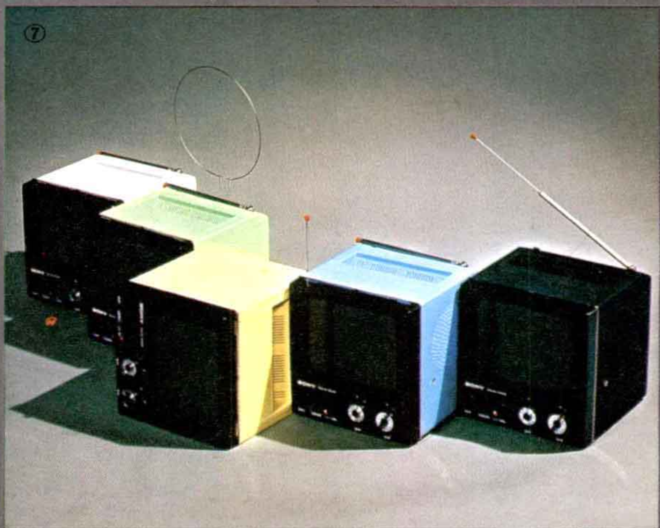
⑦テレビ　プラスチックで包まれた手軽に持ち運びできる形態は，室内の装飾的な性格をつくりあげている

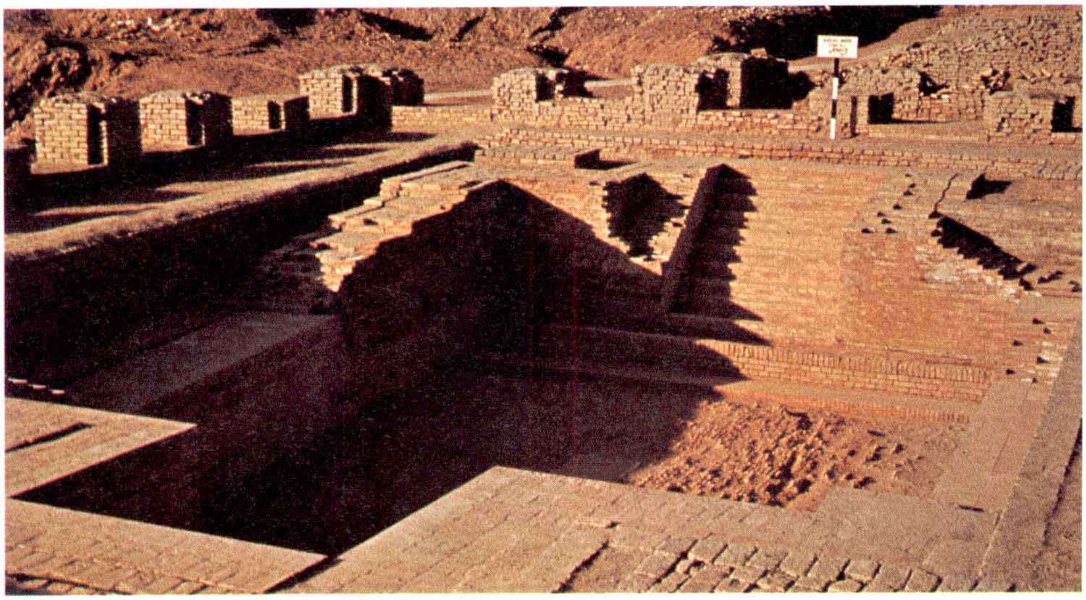














インダス文明　(左)モヘンジョ-ダロの大浴場遺跡　(右)モヘンジョ-ダロ出土の踊り子像

プロセスは，提起される問題の複雑化，計画期間の短縮化の要求や，デザイン組織の拡大などから細分化が進められ，それに伴い人間工学*や価値工学などの専門分野の参加を含めた総合化の方法論の必要が認識されはじめている。

【将来への問題点】工業化社会の生産と消費の構造からの要求から出発したインダストリアル-デザインは，情報化社会とよばれる時代に移行していくにつれて，変容の必要を生じてきている。工業化社会にあっては，生産と消費の系が生み出したものに，人間が従属していく社会であった。それは人間の生活環境において，道具の無作為の集積を伴いはじめ，人間と環境との相互関係がもたらす有機的な生活の形態を混乱させる一面の要因となった。インダストリアル-デザインの行為が生産と消費の系から脱却して，生活環境の中から対象を見いだして，生産体制の系を従属させていくこと，すなわち人間と道具との関係と，道具の生産と消費の系の中に，高度な人間的コントロールを介在させていくことの必要に迫られている。　〔剣持　勇〕

インダスぶんめい　【インダス文明】BC3000年～BC1500年ごろ，インダス川流域に興った古代都市文明。最初に発見された遺跡によりハラッパー文明ともよばれる。はじめ丘陵縁辺に生まれた原始農耕民が，インダス川の流域平野に集まり，肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)のもとに大規模な灌漑(かんがい)・治水農業に成功した。その十分な余剰生産力が，高度の都市文明を生みだした。インダス文明は，エジプトやメソポタミアよりは数世紀遅れて，BC 2500年ごろに成立した。先進文明の影響やそれとの交渉も一部に認められるが，むしろインダス文明の独自性のほうが強い。ハラッパ(パンジャブ地方)とモヘンジョ-ダロ*(シンド地方)はともに高い城塞(じょうさい)(アクロポリス)を備え，周辺に市街地・共同墓地を設けている。特にモヘンジョ-ダロの発掘で明らかになった公衆浴場・穀物倉庫・井戸・排水溝(はいすいこう)などの設備，大きな城壁と整然とした街路はよく統制された都市生活をうかがわせる。これらの遺跡にはエジプトやメソポタミアのような王墓や神殿が見あたらないが，アクロポリスの存在が政治・祭祀(さいし)の中心になっただろうことは推測がつく。インダス文明はなお鉄器を知らず，武器や工具は石器か銅ないし青銅であった。栽培された農作物は小麦・大麦・ゴマ・ナツメヤシ・ワタなどであり，川や沼沢の魚類も食用となったと思われる。工器の装飾や印章を見ると，イヌ・コブウシ・イノシシ・スイギュウ・トラ・サイ・ワニ・ゾウの動物が知られている。

滑石でつくられた方形印章はインダス独特のものである。表面に想像上の動物や神像を描き，インダス文字を刻んでいる。背面には瘤形(りゅうけい)をつけ穴をあけてひもを通す。形状の点からメソポタミアの円筒形印章とよく対照されるが，用途はともに封泥(ふうでい)の捺印(なついん)である。インダス文字は字数が396種知られ，アルファベットでなくて絵画記号的な象形文字であるが，まだ解読のいとぐちが見つからない。彫刻は多数のテラコッタ類を除けば，わずか10数点しか残っていない。ハラッパ出土の黄色滑石の男性胸像は，瞑想(めいそう)的な顔つきや服装から神像か神官と思える。ブロンズの〈踊り子〉の小像は姿や表情がきわめて異色的である。インダス文明の遺跡はモヘンジョ-ダロやハラッパのほか，最近ではアムリやコト-ディジに重要な発見があり，インダス文明の成立過程がしだいに詳細に研究できるようになった。またインダス流域を越えて，バルチスタン地方やカチアワル半島にもその関連・影響の遺跡が発見されている。インダス流域の都市文明はBC1800年ごろからしだいに発展の力を失いはじめるが，その原因は確かでない。次いでBC 1500年ごろのアーリア人侵入が，この文明の終焉(しゅうえん)を決定的にしたようである。パンジャブに侵入したときの彼らの敵は，《リグ-ベーダ*》の中にダーサ・ダスユの名でよばれ，黒色の皮膚をもつ城郭の民であった。これらの先住民がインダス文明のにない手であった。➔古代文明　〔小谷仲男〕

インダスレンせんりょう　【インダスレン染料】　⇨建て染め染料

インターセックス　［intersex］　インターセクシュアリティーともいう。半陰陽，ふたなりなどともいわれる奇形。男でも女でもない中間的な性的特徴がある。男女の区別は外陰部の形だけでは決められず，女性形の外陰形態をしていても実際は男であることもあるし，逆に陰茎と陰嚢(いんのう)を有しているのに内性器はまったくの女性形で，子宮や卵管を有している場合もある。このように性を決める規準の間に食い違いがあるときにインターセックスと名づけている。男女の区別をする規準として，次の7項目が医学上整理されている。

①性染色体：男はXY，女はXX。これは受精と同時に決定される。

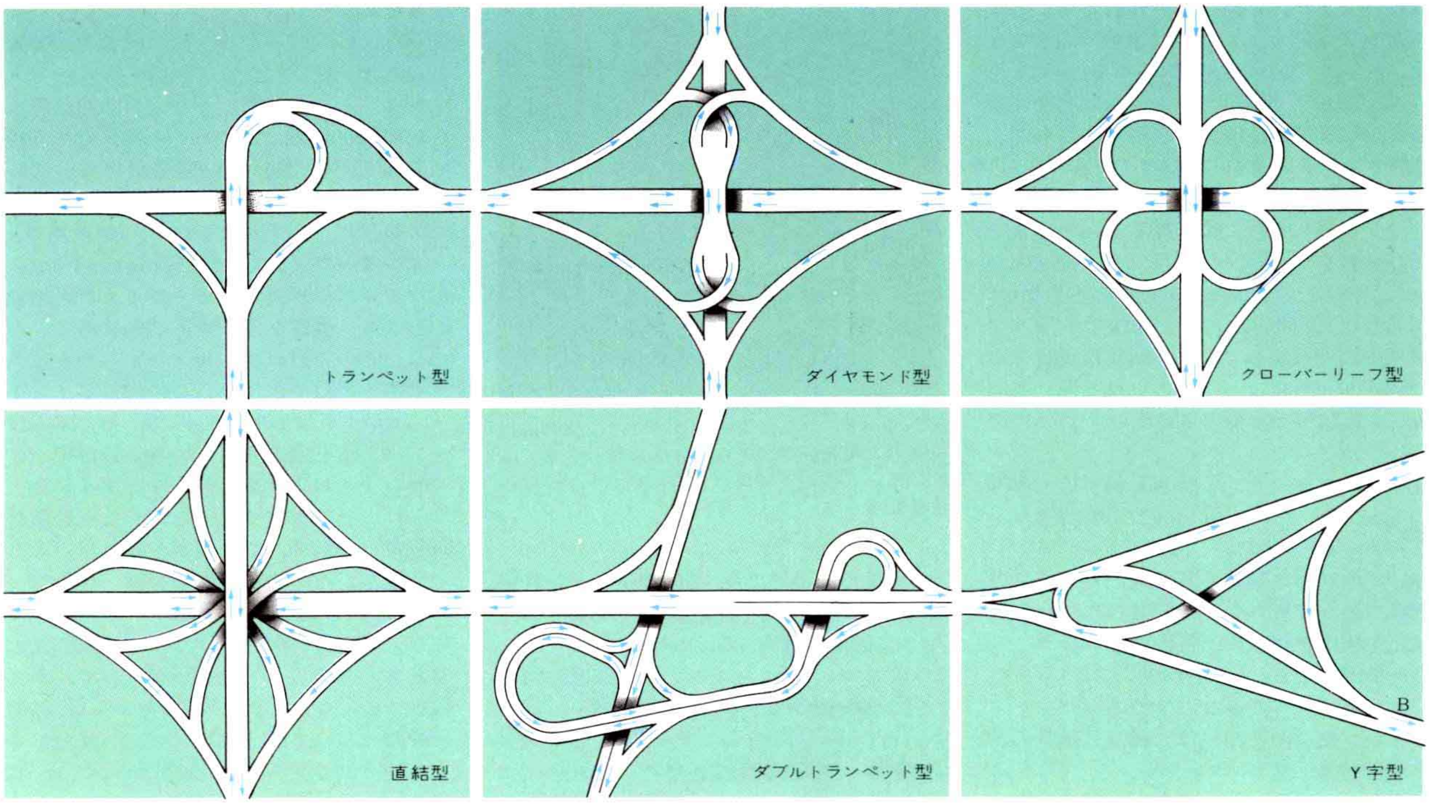
②性腺(せいせん)：男は睾丸(こうがん)，女は卵巣を有する。

③内性器：男は輸精管・前立腺・精嚢腺，女は輸卵管・子宮，および膣(ちつ)の一部。

④外性器：男は陰茎・陰嚢，女は陰核・大小陰唇(いんしん)・陰門・膣など。

⑤性ホルモン：男は男性ホルモン，女は女性ホルモンによって，それぞれ男らしさ・女らしさの2次性徴がつくりだされる。

⑥社会・心理的性：一般社会的に決められている性差の規準。



⑦法的性：誕生後1か月以内に登録される戸籍上の性。

以上のうち，奇形として問題になるのは1～5項目間の食い違い，および性染色体自身の先天的異常である。これらのインターセックスは現在，次のように分類されている。

①性染色体が正常であるインターセックス　㋑真性半陰陽：性腺が睾丸と卵巣の両方の組織を有するもの。片方の性腺が睾丸であるのに他方が卵巣である場合もある。外陰形態は男または女，あるいはその中間形など種々であり，2次性徴も一定していない。㋺男性(仮性)半陰陽：性染色体・性腺が男性形なのに2次性徴が完全な女性形であったり，外陰部や内性器が女性形である場合。㋩女性(仮性)半陰陽：性染体・性腺・内性器は女性形であるが，外陰形態が男性形である場合。妊娠初期に母親が受けた合成黄体ホルモン剤(その代謝中に男性化作用を有するものがつくられる)や，母親の卵巣自体から男性ホルモンが腫瘍(しゅよう)のため分泌されていたり，胎児自身の副腎(ふくじん)から男性化作用のあるステロイドホルモンが分泌された場合に発症する。

②性染色体の異常なインターセックス　㋑性染色体がXXYのとき(クラインフェルター症候という)：外観上は男であるが，睾丸は先天的に萎縮(いしゅく)し，乳房も女性的である。㋺性染色体がXOのとき(ターナー症候という)：背が低く，翼状の首，大きい胸郭を有する。外観は女性形であるが，性腺・内性器は発育不全である。㋩その他にXXX(超女性)，XX/XOやXX/XY(モザイク)の異常が知られている。　〔大田黒和生〕



インターチェンジ

インターチェンジ　[interchange]　交差する二つの道路の交通を互いに連結させるための接続路をもつ立体交差部。立体接続部ともいう。インターチェンジには高速道路相互間，高速道路と一般道路，一般道路相互間を接続連絡する3種の場合があるが，普通の社会的通念では高速道路と一般道路との接続部すなわち高速道路の出入り口を意味している。インターチェンジは，交差部における一時停止や速度低下をなくして，交通容量の増加を図り，安全性を高めて，道路機能を向上させる。型式にはトランペット型・ダイヤモンド型・クローバーリーフ型・Y字型などがあり，地形・用途に応じて選択する。東名・名神高速道路ではトランペット型が用いられている。インターチェンジには二つの本線道路を相互に結ぶ連絡路が数本あり，これをランプまたはランプウエーという。　〔森　　麟〕

インターナショナル　[International]　プロレタリア国際主義に基づいて，世界各国の革命運動を指導するために設置された国際的指導機関をいう。プロレタリア国際主義は，〈共産党宣言*〉における〈万国の労働者団結せよ〉とのマルクス*の訴えに基づいたものであり，労働者階級はいずれの国に属していようとも，自己の解放のためには同じく被抑圧階級として国家を乗り越えて団結しなければならないことを強調し，労働者階級の国際連帯をその解放の不可欠の条件として強調する。それは世界革命*運動の基本理念であり，また反戦・平和の基本理念でもあった。レーニンはさらに，帝国主義の段階において，〈万国の労働者階級と被抑圧民族，団結せよ〉と訴え，被抑圧民族の民族自決権の擁護が，プロレタリア国際主義の重要な一環であることを明らかにした。今日においてチェコ事件*(1968)，中ソ国境紛争*(1969)など，その理念に反する事実が目だつことはプロレタリア国際主義の困難性を示している。プロレタリア国際主義に基づいて結成されたおもな国際的指導機関には，次のようなものがある。

〔第1インターナショナル〕(1864～1876)　1864年にロンドンで創立されたもので，公式名称は〈国際労働者協会〉。その創立宣言と暫定規約はマルクスの手になるものであり，マルクスは第1インターにおいて指導的役割を果たしている。しかし第1インターにはプルードン*主義者やバクーニン*主義者らがおり，思想的には無政府主義*的傾向が強く，内部では激しい論争がくり返さ

れた。マルクスと無政府主義者とのこのような論争は第1インター崩壊の一因となった。第1インターは1871年のパリ-コンミューンを熱烈に支持したが，その敗北は反動のあらしを呼び，解散を余儀なくされた。

〔第2インターナショナル〕(1889〜1914) マルクスの没後，エンゲルスの指導によってパリで創立され，彼の没する1895年までその指導を受けた。しかし，その後は中心勢力であったドイツ社会民主党の右傾化(体制埋没化)に伴い，しだいにプロレタリア国際主義を逸脱していき，第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によってその一部を除いては帝国主義戦争を支持するに至り，ついに壊滅した。

〔第3インターナショナル〕(1919〜1943) Communist International 共産主義インターナショナルの略称。通称コミンテルン。1917年のロシア革命の成功後，レーニンの指導によってモスクワで創立された。それは民主集中制に基づく各国共産党の単一の統一指導部である点で，それ以前のインターよりはいっそう強固なものであった。コミンテルンはその初期にはソ同盟共産党の世界革命戦略に基づいて，主としてドイツ革命に全力を集中したが，その失敗後は一方では一国社会主義ソビエトの擁護，他方では台頭しつつあったファシズムと戦うために統一戦線や人民戦線の結成を指導した。しかし第2次世界大戦開始後は，コミンテルンによる単一指導が困難となったため，プロレタリア国際主義を各国共産党の自主独立路線にゆだねて，1943年に解散した。

〔コミンフォルム〕(1947〜1956) Information Bureau of the Communist and Worker's Parties 共産党・労働者党情報局の略称。1947年に東欧の人民民主主義諸国を中心とした欧州9か国の共産党によって設立された。コミンテルンと違って各国共産党の上部機関ではなく，情報活動を主たる目的としたものであった。コミンフォルムがユーゴスラビア共産党を修正主義であるとして除名したことは有名。フルシチョフのスターリン批判が行なわれたソ連共産党第20回大会の直後，1956年に解散した。〔西尾孝司〕

インターナショナル-ニッケル [International Nickel Company of Canada Ltd] 世界最大のニッケル精錬会社。1877年，カナダのケベックのニッケル鉱山を買収して会社を設立したのがはじまりで，おもにカナダの鉱石をカナダ・アメリカ・イギリスの精錬所で精錬・圧延して，各種の合金をつくっている。ニューヨーク・ロンドンにすぐれた研究所をもち，ニッケルの電解精錬法など，つねに時代の先端をいく新技術の開発で知られてきたが，1948年に開発した鋳鉄製造法で特に有名になった。この製法は自社では使わず，子会社のカナダ-ニッケルを通じて特許を世界各国に与えており，現在30か国に及ぶ620の企業が特許料を支払っている。年間売上高6億8,400万ドル，従業員数34,300(1969)。〔氏家　尚〕



インターラーケン ツン湖とブリエンツ湖にはさまれた町は，典型的なスイスの美しさをもっている。この入り江にはヨットやボートが浮かんでいる

インターナショナル-ハーベスター [International Harvester Co.] 世界最大の農業・建設機械製造会社。1830年代にサイラス-マッコーミックが刈り取り機の製造を始めたのが起源で，1902年に現在名の会社として設立された。マッコーミックはすでに1850年代に農業機械の輸出を始めており，早くから海外進出をめざしていた。カナダ・ヨーロッパ・アフリカ・太平洋岸・ラテンアメリカなどの地域にそれぞれ工場を設置し，世界的な販売網をもつ。企業の吸収合併や買収にも意欲的で，主力製品のトラクター・ブルドーザー・重量トラックに加え，鉄鋼・タービン機械類，さらに戦車・輸送車などの軍需製品にも進出している。本社シカゴ。年間売上高26億5,300万ドル，従業員数10万4,200(1969)。

インターナショナル-ペーパー [International Paper Co.] アメリカにある世界最大の製紙会社。1898年にアメリカ北西部の紙・パルプメーカー18社が合併して設立されたもので，原木の切り出しから合板・パルプの製造・販売を手がけ，新聞用紙をはじめとする各種の紙類・板紙・紙容器類など，紙についてのあらゆる生産分野に進出，多くの子会社をもつ。近年，出荷用容器・牛乳容器・一般包装製品・特殊塗装紙などの紙加工が注目を浴びている。年間売上高17億7,700万ドル，従業員数54,600(1969)。〔氏家　尚〕

インターバルれんしゅうほう【インターバル練習法】 ランニングの間にインターバル(休止期)を入れた中・長距離練習法。この方法で練習したザトペック(チェコスロバキア)が1952年のヘルシンキ-オリンピック大会で5,000m・10,000m・マラソンの3種目に優勝して以来，世界的に普及した。実際に走る距離より短い距離をくり返し走るがその間を休まずにジョッグ(歩幅・速度を落として軽く走ること)でつなぐ。練習者の能力・種目によって距離・スピード・インターバルの時間，くり返し回数は違う。心肺機能を高め，スピードと持久力を同時に養成する上で著しい効果がある。この練習法は，陸上競技のほか水泳をはじめ多くの競技に，応用されている。〔伊東春雄〕

インターフェロン [interferon] 細胞がウイルスに感染すると，ウイルスの増殖をおさえる物質を産生することがある。ただし，この物質はウイルスそのものを不活化することはできない。この物質がインターフェロンとよばれるもので，その本態はタンパク質と考えられている。1957年，アイザックスおよびリンデンマンがインターフェロンと名づけて発表し，かなり詳細な研究をしたため，この名が一般に用いられているが，この物質そのものは，長野泰一および小島保彦(やすひこ)により，1954年(昭和29)にすでに報告し，ウイルス増殖抑制因子とよんでいる。一般的傾向として，ある細胞でつくられたインターフェロンは，同種の細胞においては，異なるウイルスに対しても有効であるが，他種の細胞においては，同じウイルスに対しても効果がない。インターフェロンは，ウイルスのみならず，異種RNAの侵入によっても産生される。➔ウイルス〔石川　彬〕

インターポール ⇨国際刑事警察機構

インターホン [interphone] 室内用の有線通話装置。親子式と相互通話式とがある。親子式は数台以上の子通話器が1台の親通話器とだけ通話できる。相互通話式は各通話器がそれぞれ自由に相手を選択できる。工場・病院・学校・事務所など，規模の大きな建物で構内連絡用に用い，最近では一般家庭でも呼び鈴代わりに盛んに利用されている。

インターラーケン [Interlaken] スイス中部，ベルンの南東約40kmにある町。人口5,000(1958)。ベルニーズ-アルプスのふもとのツン・ブリエンツ両湖をつなぐライン川の支流アーレ川沿いに位置し，毛織物をはじめ酒類(特にリキュール)・木材などの工業がある。グリンデルワルト・ユングフラウ山へ登山鉄道が通じ，避暑・避寒地，スキー・登山の根拠地として名高い。

インターン [intern] 専門的職業につく場合，資格試験を受ける条件として，特定の施設で，一定期間実地修練をする制度をインターン制度といい，これに従う者をインターンという。わが国でも医師・理容師・美容師あるいは公認会計士などで行なわれている。しかし医師については1968年(昭和43)度卒業生から廃止され，それに代わって，大学卒業後直ちに国家試験を受けさせ，その後2年間のいわゆる研修期間に実地修練をさせることとしたが，実地については強い反対がありまだ軌道に乗っていない。

インチ　［inch］　ヤード-ポンド法の長さの単位。12分の１フートに相当し，2.54cmにあたる。記号in。

いんちゅうはっせんか　【飲中八仙歌】　中国唐代の詩人，杜甫(とほ)のつくった詩。天宝年間(742〜755)，都の長安での作。酒飲み仲間の８人，すなわち賀知章，汝陽王(じょようおう)の李璡(りしん)，左丞相(さじょうしょう)の李適之(りせきし)，崔宗之(さいそうし)・蘇晋(そしん)・李白・張旭(ちょうきょく)・焦遂のことを述べたもの。日本でよく知られている漢詩の一。

インチン　【影青】　中国で主として唐宋(とうそう)時代につくられた一種の白色磁器。青白磁ともいわれるように，釉薬(うわぐすり)が青みをおびていて独特のふぜいがある。宋代のものは多く景徳鎮でつくられ，国外にも盛んに輸出されたようで，日本では平安・鎌倉時代の各地の経塚(きょうづか)などから発見されている。

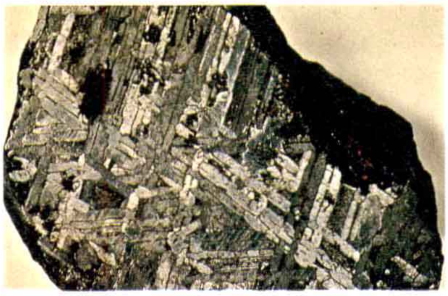
インディアペーパー　［India paper］　辞書・聖書などに用いるきわめて薄手の紙。昔イギリスで中国の唐紙にまねてつくったのがはじまりである。原料は主として化学パルプで，上質のものにはぼろ・麻を使う。製造にあたっては，白土・チタン白などを多量に配合して不透明度を高くし，また地合いを均一にし，紙力も強いように配慮する。標準重量は20〜30g/m²。

インディアンじんしゅ　【インディアン人種】　プロトモンゴロイドともいわれ，モンゴロイドとしての特殊化の程度が低い，南北アメリカ大陸に分布する人種。黒い直毛，中〜短頭，黄かっ色の皮膚，濃色の目，無毛，O型頻度(ひんど)が高いなどの特徴をもつ。ミクロネシア・ポリネシアに住む人種は，モンゴロイドとコーカソイドの種々の程度の混血によるとされている。

インディアンヘッド　［Indian head］　やや太い綿糸の平織物。ふつう，さらし・プリントなどを施し，ざっくりした触感に仕上げ，あるいは絹のような光沢を与えて，夏の婦人・子ども服，ブラウス・シャツ・カーテン・ナプキンなどに使う。

インテグレーテッド-サーキット　⇨集積回路

いんてつ　【隕鉄】　鉄・ニッケルを主成分とする隕石。比重は７〜８程度。発見された隕石のうちの約60%を占める。特に隕石孔を伴うような大きな隕石は，すべて隕鉄である。隕鉄の表面をみがいて希ショウ酸などで侵すと格子(こうし)状の模様が見える。これをウィドマンステッテン組織といい，高温の物体が高圧のもとで徐々に冷却したことを示す証拠とされている。



隕　鉄

インテリア-デザイン　［interior design］　建築・船舶・車両・航空機など人間のあらゆる居住空間は，その働きかける対象から大きく二つの面に分けられる。一つは自然から一定の広がりを獲得し，自然に直接対応する面で，建築軀体(くたい)などがこれにあたる。他方はその広がりの中で人間と直接対応する面で，これがインテリア-スペース(内部空間)である。インテリア-スペースを対象とし，そこに繰り広げられる人間生活のさまざまな現われに対して質的解決をめざすものである。すなわち，次の二つの価値を創造することによって人間により密着した環境づくりを行なう。一つは，好ましい色彩・音響・照明効果・温湿度・物どうしの調和のとれた関係によってもたらされる精神的価値，他方は，好ましい使い勝手，維持管理の容易さ，低価格といった物理的・物質的・測定可能な価値である。これらは単にデザイナー個人の感覚によってのみ生み出されるものではない。人間生活を明確に把握(はあく)し，よりよい人間環境の未来像を指針としながら，現代技術の成果を的確に駆使することによって可能となるのである。この点が，従来の内部空間を，生活の必然要求とは無関係に付加的に処理する室内装飾(インテリア-デコレーション)と異なる。

内部空間には壁・天井・床などの仕上げ材，家具・照明器具・カーテン・衛生設備など，さまざまな構成要素がある。インテリア-デザインと関連して，これらの要素をデザインする分野がなりたっているが，これらはしだいに，受注による一品生産的なものと，多品種多量生産的なものとに分かれ，後者はその方法論からインダストリアル-デザインとして総称される場合が多い。デザイン史が総じて装飾的魔術をぬぐい去ろうとする苦闘の跡であったように，インテリア-デザインもまた，機能との矛盾を起こす過度の装飾を否定する歩みの中から生まれてきた。19世紀中葉のウィリアム-モリスの美術工芸運動やワルター-グロピウスを中心としたバウハウスの運動はその推進力となった。ただ，本来保守的な性格をもつ住まい方そのものを対象とするだけに，その確立は他のデザイン諸分野に対しておそく，また，内部空間における装飾が人間性や民族や時代を反映して生活からにじみ出る一つの表現であることも事実なので，いまだ装飾の否定に徹しきれない。最近ではかえって，装飾をも生活の一機能としてとらえるべきだとする動きもある。一般的に，インテリア-デザインが居住空間の創造に参加する時機や形態は定まってはおらず，今日までその働きを十分発揮してきたとはいえないが，人間性の回復が叫ばれている今日，より身近な環境づくりを行なうものとして，再び新しい目で見直されはじめている。インテリア-デザインがこの期待に答えるためには，表現手法の洗練にのみ寄りかかることなく，生活の多様性と変化を認め，環境の総体的な視野から，これに有効な解決を与えていくことが必要である。

〔剣持　勇〕

インテリゲンチア　⇨次ページ

インテルサット　［INTELSAT］　International Telecommunications Satellite Consortiumの略称。国際商業通信衛星機構。1964年８月に世界諸国が協力して商業通信に中継衛星を利用することを目的として設けられた国際共同事業組織。日本を含む世界の56か国が加入している。この機関が打ち上げた静止衛星もインテルサットとよぶ。インテルサット衛星は1965年に半ば試験用のものが大西洋上空に，1967年に本格的のものが太平洋上空に打ち上げられ，その後さらに一つずつ両洋に追加され，1969年にインド洋上空に打ち上げられて全世界の衛星通信網が完成した。➔通信衛星

〔原田三夫〕

インテルメッツォ　［intermezzo］　間奏曲。17〜18世紀，ナポリ楽派のオペラの幕間に演じられた音楽劇。正規のオペラは３幕であったため，インテルメッツォは二つ挿入(そうにゅう)されるのが習慣であった。初期にはこれら二つは個々につくられていたが，のちには独立して演奏されたり，あるいは共通のものとしてつくられるようになった。インテルメッツォはオペラ-ブッファ誕生の一要因であり，歴史的意義は大きい。代表作にはペルゴレージの《奥様女中》がある。➔オペラ

〔吉田泰輔〕

いんでんき　【陰電気】　⇨静電気

いんでんし　【陰電子】　⇨電子

インド　［India］　アジア大陸からインド洋に向かって突き出した逆三角形のインド半島と，セイロン島をはじめとするそのまわりの島々を含む広大な地域。独立国であるインド共和国・パキスタン・スリランカ・バングラデシュ・ネパール・ブータン・モルジブが含まれる。旧イギリス領インドに相当し，面積450万km²，人口17億6,000万。

インドという地名は〈インダス川の国〉という意味でインド人みずからは古くから叙事詩《マハーバーラタ》になぞらえてバーラットといい，これがインド共和国の正式の国号として使われている。

【地形】北から大きく，①ヒマラヤ・カラコルム・ヒンズークシなどの大山脈が連なる北部山岳地帯，②ヒンドスタン平原，③デカン高原と東ゴーツ・西ゴーツ山脈の三つの地形区に分けることができる。

新生代第三紀の激しい造山運動によって

→464ページ

インテリゲンチア

[intelligentsia]

ふつう知識階級と訳される。語源的にはラテン語から出ている。現在この語はきわめて広い意味に用いられており，高等教育を受けた人すべてをさしている場合が多い。非肉体的労働，特に知的労働に従事する者で，具体的には科学者・技術者・教師・法律家・医師・芸術家・ジャーナリストなどである。このように広い意味で用いるならば，インテリゲンチアはきわめて古い時代から存在していたということになるし，またインテリゲンチアのもっている現代的意味や，悲劇性や，矛盾が明らかにならない。それゆえ，より厳密に規定しようとする考え方も少なくない。

ボットモアは単なる知識をもつ人としての知識人と真の意味でのインテリゲンチアを区別しようとし，サルトル*も技術者的知識人と真の意味のインテリゲンチアを区別しようとしている。大学において知識を身につけたということは，インテリゲンチアになりうる条件の一つを備えたということで，それらの者の若干がインテリゲンチアになることができるというのである。ガイガーは，大学出身者と教養人とインテリゲンチアを区別し，単に大学を出た者を俗称インテリとよび，その中の少数の者のみがインテリゲンチアになりうるのであって，インテリゲンチアとしての資格は代表的文化を創造することであり，教養人はこうしてつくりだされた文化を所有し，消費しうる存在であると考えた。それゆえ，インテリゲンチアはエリート*の中のエリートとされる。具体的には，創造的美術家・詩人・小説家・作曲家・学者，および発見家などをさす。おおむねインテリゲンチアは，単に知識をもつ者ではなくて，創造的世界にかかわりをもつ者という点において一致している。ボットモアも，知識を受容し，所有しているというだけの知識人と，インテリゲンチアが区別されるのは，後者が思想の創造・伝達・批判に直接的に貢献するからであるとしている。アロンもまた，作家・学者・科学者・芸術家の中で最も創造的な部分をインテリゲンチアと考えた。教師や批評家は二流の知識人であり，ジャーナリストなどは三流の知識人で，医師・弁護士・技術者などの多くは，知識の適用にのみ心を奪われているものであるから知識階級からは除くとしている。創造的世界を共有し，その創造に貢献する者というのを別のいい方をするならば，リプセットのいうように，文化すなわち人間の象徴的世界を創造し，散布し，また用いる人々ということになる。より主体的表現をするならば，サルトルがいうように，歴史的・文化的・社会的現実が知識人そのものを形成したのであるから，その現実との対応において，自己を相対的・主体的に認識することができ，かつ実践することができるということになる。

インテリゲンチアが現実社会を認識するには，自己自身の存在をも含めて客観的認識がなされねばならない。すなわち，自己をも距離化し，イデオロギー的見方をしなければならないということ，別のいい方をするならば，自己の意識自体をも批判的認識の対象にしなければならないということである。客体化され，離陸した象徴の世界が人々の共有文化として現われてくるとき，一方の極にはリアルな現実の反映が，他方の極には本来かくあるべきであるという理想像，ないしは願望としての世界が分離した形において現われてくる。理想が現実認識と遊離することなく，論理的にも深く結びつくときには，単なる白昼夢ではなくて，人々の到達すべき具体的目標となる。このような世界を人々にさし示すことが，インテリゲンチアの役割であるとするならば，単に知ることの楽しみに満足するだけではなくて，自己の全存在をかけて，リーダーとして人々になすべきことがらと，そのゆくべき方向とをつねに明晰(めいせき)な論理において明らかにしてゆく存在でなければならない。また，自己自身の社会的存在をも相対化し，客観化するということは，当然のことではあるが，意識的に自己の階級*から距離をもち，超越するということになる。マンハイムのいうように浮遊する階級としてのインテリゲンチアは，このようなところからも生まれてくる。超階級的ということがインテリゲンチアの一つの性格を表わす。

以上のようなところから，インテリゲンチアを単に知識をもつ者としてではなくて，より厳密な意味において規定するならば，おおよそ以下のような者をいうべきであろう。すなわち，超階級的性格をもち，厳格な知的訓練を受けて，現実をなにものにもとらわれないで鋭く洞察(どうさつ)しうる能力をもち，しかもそのような能力はきわめて専門的に深い学問的業績によって裏づけされたものであることなどの条件をそれぞれ備えた者ということになろう。このように考えるならば，狭義の意味でのインテリゲンチアは，近代社会においてはじめて現われてきたものであって，特に19世紀の資本主義社会の発展の中にその典型的なものが現われてくると考えてよい。インテリゲンチアということばが，19世紀のロシアの特定の人々をさし示すものとして用いられたという歴史的事実からみても，このことは明らかであろう。

【インテリゲンチアの萌芽(ほうが)】 インテリゲンチアの萌芽は啓蒙(けいもう)思想の中に見いだすことができる。その中でも，いち早く現われたのが，ピューリタン革命(1649)と名誉革命(1688)ののち，着実に発展してゆく市民社会に対応し，ベーコン・ホッブス以来の経験主義的伝統を踏まえて，18世紀思想の基礎を築いたロック*を代表とするイギリス経験論の人々である。彼らは，旧体制のもつ矛盾を根底から批判し，きたるべき社会の展望を与えようとした点においては，インテリゲンチアとよぶべきであろう。しかし，彼らの批判も自己の帰属する階級社会に立脚してのものであり，むしろその階級社会を論理的に正当づけようとしたもので，さらに自己の帰属する階級社会をも対象化し，批判的に認識しようとはしていないという意味で，インテリゲンチアとしては十分でなかった。しかし，このような批判的思考は18世紀の啓蒙思想に強い影響を及ぼした。

フランスにおいては，いわゆる啓蒙思想の前期を代表するモンテスキュー・ボルテールに対して，後期を代表するのはディドロを中心とする〈百科全書派*〉たちである。市民社会の成熟が遅れていただけに，イギリスにおいては政治・経済的現実認識の理論であったものが，いっそう激しい現実批判と実践の武器として用いられた。フランス知識人たちの思想が〈百科全書〉に結実し，フランス革命を越えて〈光明の世紀〉に向かう指導標となったのである。ルソーの《社会契約》理論もまたフランス革命，特にジャコバン党の指導的理論とされた。イギリス・フランスに比べていっそう立ち遅れていたドイツにおいては，このような思想も現実認識と実践の理論としてよりは，むしろアカデミックな哲学として，ドイツ観念論に結実した。その典型とされるものがボルフであり，このような抑圧された社会意識が屈折して，思想的により精緻(せいち)なものに完成されたものがカント*の批判哲学である。

【過渡期のインテリゲンチア】 イギリスに遅れてフランス・ドイツが産業革命の段階に到達した1840年代には，はやブルジョアジーに対立する労働者の運動が未熟ながら現われてくる。階級対立が明確化してくると，資本主義社会それ自体の内在的矛盾を意識化させることになり，ここにおいて，初期的社会主義思想が現われてくるのである。この段階になると，特定の階級社会的立場から批判や理論化が行なわれるのではなくて，全社会的・全人類的立場に立っての認識が可能になってきたわけである。意識的に帰属する階級社会の拘束を越えることができるようになってきたという点においては，本来のインテリゲンチアの成立しうる条件は満たされかけてはいるけれども，十分な科学的・専門的知識によって基礎づ

けられていないという点において，過渡的と考えられよう。この時期の社会主義が〈空想社会主義*〉とよばれるのはこの意味においてである。このような人々の典型的存在は，サン-シモン*・オーエン*・フーリエ*である。

【インテリゲンチアの成立】19世紀も半ばになるとブルジョア階級に対抗しうるぐらいにプロレタリア階級も成長し，特定の階級の立場から理論化するというよりはむしろ，そのような階級対立を止揚しようとする考え方が支配的となってくる。その一つの理論的成果が社会主義思想，なかんずく科学的社会主義思想といわれるものである。そこにおいては，類的存在としての人間の解放が求められているのである。自己の帰属する階級に無媒介に拘束されるのではなくて，それ自体をも十分に科学的に，客観的に認識することができ，しかも実践的行動綱領を明白に示しうる状況が成立してきたのである。かくて，本来の意味のインテリゲンチアが出現してくるのである。その最も典型的なものは，マルクス*やエンゲルス*において見いだされる。

インテリゲンチアという語の意味的故郷であるロシアにおいては，産業革命も19世紀の最後になってようやく行なわれたという，きわめて政治・経済的に遅れた状況であった。その中世的な社会は，官憲の野蛮な抑圧によってようやく秩序が保たれていたが，盛り上がる農民の反抗のエネルギーはつねに暴動という形で噴出していた。しかし，古い体制を否定的媒介として，内在的に発展してくる新興階級が成熟していないので，知識人たちは，西欧先進諸国の社社思想をそのまま受け入れて，反抗のエネルギーを組織する原理とする以外に方法がなかった。依拠すべき新しい階級社会が見あたらないままに，知識人たちは変革の唯一のエネルギー源である民衆に直接的に結びついていった。このようにして，ナロードニキ*の運動，つまりヴ-ナロード(民衆の中へ)を合いことばとする革命運動が1860年から20世紀初頭にかけて行なわれた。ゲルツェン*・バクーニン*・チェルヌイシェフスキーなどはこの期のインテリゲンチアの代表である。のちにマルクス主義*によって指導された革命運動が主流を占めるようになり，その代表的リーダーはレーニン*である。またイギリスにおいても，1884年にバーナード-ショー*・ウェッブ夫妻*らによってフェビアン協会*が創立され，インテリゲンチアがここに結集し，彼らの主導権のもとに漸進的にせよ，思想と実践とを科学的に統一させて社会変革を行なおうとした。

【現代のインテリゲンチア】かつてのインテリゲンチアは意識のない大衆の先頭に立って，彼らの巨大なエネルギーを組織し，理想を実現してゆく，語の正しい意味において前衛であった。その後大衆はしだいに意識しはじめ，インテリゲンチアの前衛としての性格が希薄になってきた。そればかりではなくて，インテリゲンチアそれ自体が大きく質的にも量的にも変化してしまった。このことの原因は社会構造の変化に求められよう。なによりもまず資本主義社会が高度に進展し，大衆社会*的状況が生みだされたということである。生活水準の向上は労働者をも受益層化し，国家資本主義的福祉国家の傾向をおびてくると，急速に階級意識が希薄化する。また教育の普及特に高等教育の拡充は大量の新中産階級*を生みだし，ホワイトカラー*の急速な増大を表わす。このことは産業の発達により，専門的技術者ないしは専門的管理者の需要の増大に対応して現われてくるものである。また他方においては，このような状況の中で普通選挙権が獲得されたことによって，基本的民主主義が浸透する。このことによって，合法的改革が形式的にせよ可能になった。もはやかつてのような根底からの革命による変革ではなくて，議会主義的に，漸進的に，確実に改革しうると思われるようになってきた。

このような状況の中で，社会組織はますます専門化されたものの緻密な統合体として現われてくる。官僚制*化の傾向である。インテリゲンチアもこのような中で彼らのもつ本質的性格を二極分解させることになる。つまり，インテリゲンチアは本来洞察力をもち，それが専門的知識によって裏づけられており，それによって象徴の世界をつくりうるし，実践への起動力になりうるが，高度に技術的に発達した社会では，インテリゲンチアのもつ知識，特に専門的知識という側面でのみ彼らを必要とする。しかも，象徴の世界をつくりだしうる能力と，それを操作することによって大衆をより効率的に操作しうる能力はきわめて高く評価されて，その能力を発揮させるために巨大組織にインテリを組み込む。マンハイム*のいう計画と自由のアンチノミー(二律背反)はここから生みだされる。巨大組織の林立する不可避的計画社会において，いかにして人間の，特にインテリの自由を留保しうるかは，容易に解答を出しえない難問である。インテリゲンチアはこのような状況の中で，まったく孤立的な態度をとることによってわずかに自由を留保しうるかもしれない。しかし，そのときは体制の圧力の前にまったく無力な存在となる。1930年代のドイツにおいて，ナチスに粉砕されたインテリゲンチアがそのよい例であろう。しかし，他方福祉国家的幻想のもとで，官僚的政策決定に参画してゆくインテリゲンチアも同様に，しだいに洞察力と実践力を失った，まったく専門人化したインテリに転化していくのもまた事実である。ウェーバー*のいう魂のない専門人である。かつては，より客観性を確保するために意識的に超階級的であったインテリゲンチアは，ここにおいては階級から脱落した者として否定的に存在しはじめる。マンハイムが希望するように，本来のインテリゲンチアの資格を備えたまま計画社会の管理機構に参画しうれば，たしかに計画と自由の二律背反は克服しうるかもしれない。しかし，組織人となること自体が二極分解を必然化するとしたら，そのことはインテリゲンチアを悲劇的にする以外のなにものでもないであろう。

【日本のインテリゲンチア】日本のインテリゲンチアの萌芽は，やはり18世紀に中世社会の批判者として現われてくる。一つの流れは海保青陵*・山片蟠桃*(ばんとう)・三浦梅園*などのような内在的体制批判であり，他の流れは青木昆陽(こんよう)・前野良沢・杉田(すぎた)玄白・華岡(はなおか)青州らの蘭学*(らんがく)を通してのヨーロッパ文明輸入による合理化である。このような知識を手がかりとして，外的には遅れた日本を世界史的に位置づけ，内的には崩壊しつつあった根強い封建社会を変革するエネルギーを組織し，ついに明治の維新が遂行されたのである。

明治政府成立後は遅れた日本を近代化することに心奪われ，知識人たちもおおむね官僚化し，天皇制というシンボルのもとでの専門人となった。他方野党的知識人たちは，先進諸国の政治理論の吸収に基づいて自由民権運動*を指導していったが，変革のエネルギーをささえる階級社会の方は未熟であった。1895年(明治28)日清(にっしん)戦争終結を契機として，日本資本主義も飛躍的に発展しはじめ，それに伴いプロレタリアが意識化し，ようやく社会主義が労働運動指導理論として登場してくる。その指導者が片山潜*・高野房太郎(ふさたろう)・安部磯雄*(あべいそお)・幸徳秋水*らである。

1910年代になると中産階級も成熟しはじめ，議会デモクラシー的運動が盛り上がってくる。民主的改良主義の理論的指導者吉野(よしの)作造*らが現われてくる。しかし，いずれも日本知識人の指導理念は社会の内在的批判からではなくて，ヨーロッパの先進的理論に導かれて築き上げられたという傾向が強い。それゆえ，1930年代の暗い谷間においては，簡単に粉砕されたり，転向したりした。すなわち，近代市民社会的成熟が不十分なままに，インテリゲンチアも十分な形で定着しえなかったのである。第2次世界大戦後は，高度資本主義の段階において，ヨーロッパと同様二極分解を示している。それゆえ日本のインテリゲンチアは自己の歴史的特殊性の論理化とそれの世界史的位置づけとをあわせて行なわなければならないという困難性をもつ。〔樺　俊雄〕

形成されたヒマラヤ山脈は，世界最高のエベレスト山(8,848 m)をはじめ，その北西に並走するカラコルム山脈とともに，世界の他の地域ではみられない8,000 m級の高山を多く含み，インドとその北の中国や中央アジアの諸地域をはっきり分けている。東のビルマとの間にはパトカイ山脈とアラカン山脈，西のアフガニスタンとの間にはヒンズークシ山脈とスライマン山脈がある。

ガンジス川とインダス川の流域のヒンドスタン平原は，土壌(どじょう)も比較的肥えていて，インドで最も重要な生活の舞台となっている。インドの人口の40%がここに集まり，中でもガンジス川とその支流ブラマプトラ川がベンガル湾岸につくったデルタ地帯は，1 km² あたりの人口密度が400人を越えている。

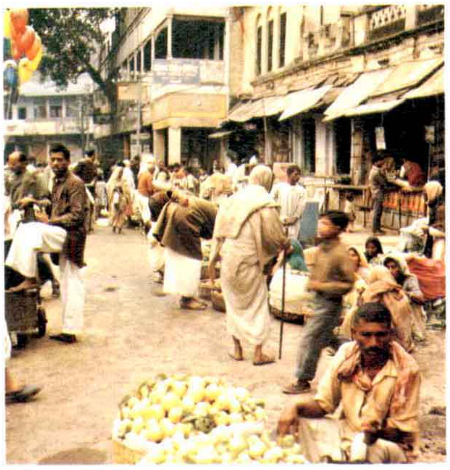
ヒンドスタン平原の南に広がるデカン高原は，カコウ岩や片麻岩を基盤とする広大な高原で，西の縁は西ゴーツ山脈，東の縁は東ゴーツ山脈が走る。また高原の北部にはサトプラ山脈とビンジア山脈があってヒンドスタン平原との境をなし，歴史的にインドの北部の勢力が南部に進出するのを妨げてきた。

海岸線はきわめて単調である。ベンガル湾岸をコロマンデル海岸，アラビア海沿岸をマラバル海岸といい，帯状の地味豊かな平野があるが，マラバル海岸のグジェラート半島とその北および南のカッチ・ガンベイ両湾のほかはほとんど出入りがなく，天然の良港に乏しい。

〔気候〕インドの気候を支配しているのは，モンスーン*である。雨をもたらす南西モンスーンは6月はじめにセイロン島で吹きはじめ，7月には全インドに及ぶが，北になるほど吹きはじめるのがおそく，終わるのが早くなる。

ケッペンの気候区分によれば，マラバル海岸南部・セイロン島南部，北東部のアッサム地方が熱帯雨林気候，ガンジス川の中流部が温帯夏雨気候，デリー付近とデカン高原の内部がステップ気候，インダス川の流域が砂漠気候，北部の山岳地帯が高山気候となっているほかは，デカン高原の大部分とセイロン島の北部，ガンジス-デルタが熱帯サバナ気候となっていて，この気候区がいちばん広い。アッサムは世界で最も雨の多い地域で，北西部のカシー丘陵の南端にあるチェラプンジ村の年降水量は，11,153 mm(1931～1940年平均)に達し，1860年8月から1861年7月までの1年間には，26,467 mmという降水量を記録し，世界の雨極といわれている。

〔生物〕北インドの代表的な樹木は，フタバタキ科の常緑高木であるサラソウジュであり，ヒマラヤ地方では，サラソウジュを主とする亜熱帯林から，マツの多い温帯林，カシを主とする冷温帯林，モミやシラカンバを主とする亜寒帯林まで，森林の垂直的な分布がみられる。ガンジス川の中流域からデカン高原の北部は，北半はサラソウジュ，南半はチークを主とする熱帯乾燥落葉樹林，東部は熱帯湿潤落葉樹林となる。パンジャブやタール砂漠の周辺，デカン高原の内部のステップ気候の地域では，アカシア・ミモザ・サボテンなどのとげの多い熱帯多刺林が分布し，アッサムや西ゴーツ山脈の西斜面，セイロン島のような熱帯雨林気候の地域では，熱帯湿潤常緑樹林がみられ，リュウノウ科の植物などが多い。



インド　ベナレスのバザール(市場)の一角。野菜・くだものの露天市で，はだしで歩いている人々も多い

動物分布の上では，インドは東南アジアとともに東洋区に属する。北西部の乾燥地帯にはかつてライオンがいたが，いまではグジェラート半島のガー森林で保護されてアジアにおける唯一の野生ライオンとして残っているほかは，すべて絶滅した。トラやヒョウは，熱帯常緑樹林から湿潤落葉樹林にかけてまだまだ多く，北東部の熱帯常緑樹林にはインドゾウやサイも局部的に残っている。各種のサルは，鳥類や爬虫(はちゅう)類などとともにきわめて多い。

〔住民と言語・宗教〕人種構成はきわめて複雑であるが，その基本になっているのは，ドラビダ型とインド-アーリア型で，また地域によってモンゴロイド型やイラン型・トルコ型・インドネシア型などの血が加わっている。ドラビダ人はインドの先住民であったが，アーリア人に追われて南インドに移り，ここに主として分布している。アーリア人は系統からいえば白色人種である。モンゴロイド型の代表的なものとしてはネパール人がある。

言語も複雑で，1951年のインド共和国の国勢調査によれば，方言をも含めて845種の言語があることになっている。しかし大きくまとめると，北インドから中インドにかけて使われているインド-アーリアン語，南インドのドラビダ語，デカン高原北東部のムンダ語の三つの系統となり，このほかヒマラヤ山麓(さんろく)地方やアッサム地方では，チベット-ビルマ系の言語も使われている。言語の統一はインドの大きな問題であって，インド共和国では公用語としてヒンディー語，地方公用語としてヒンディー・ウルドゥー・タミールなどの14種を定め，英語は1965年までに廃止することを決めたが，反対が多く，補助公用語として残している。パキスタンではウルドゥー語を憲法上の国語とし，バングラデシュではベンガル語を公用語としているが，両国とも英語がまだまだ使われている。スリランカの公用語はシンハリ語である。

ヒンズー教とイスラム教の二大宗教は，インドがインド共和国とパキスタンに分かれて独立する大きな原因となり，またセイロン(現在のスリランカ)の分離独立も，そのおもな宗教が仏教であることからきている。インド共和国では，ヒンズー教徒が人口の83%を占め，イスラム教徒が11%，キリスト教・シーク教*・仏教・ジャイナ教*の信者は残り6%にすぎない。パキスタンではイスラム教徒が人口の97%を占め，ヒンズー教徒はわずかであるが，バングラデシュでは人口の80%がイスラム教徒で，ヒンズー教徒が17%もいる。ヒンズー教の教義からきているカースト*という一種の階級制度は，インドの社会に深く根をおろし，近代化を妨げている。スリランカは小乗仏教徒が54%と過半数を占め，ほかにヒンズー教徒(15%)・キリスト教徒(7%)・イスラム教徒(6%)などがいる。

〔産業・経済〕人口の70%は農民で，インド共和国は中国に次ぐ世界第2の米産国であり，バングラデシュもインドネシアに次いで世界の4位を占めている。しかし単位面積あたりの収量は低く，食糧は不足している。インド共和国のサトウキビの生産は，ブラジル・キューバに次ぎ第3位であるが，ほとんど国内で消費される。輸出される農産物としては，バングラデシュのコウマ(黄麻)，スリランカ・インド共和国の茶，パキスタンの綿，スリランカの生ゴムなどがある。近代的な牧畜業は発達せず，ウシの数はインド共和国だけで1億8,000万頭に達して世界一であるが，ヒンズー教の教義によって肉用とはならず，役畜として使われるだけである。

地下資源はまだ開発途上にあるが，デカン高原の北東部を主とするインド共和国の鉄鉱の埋蔵量は，ソビエト連邦に次いで世界第2位と推定され，また石炭やマンガンも豊富なので，鉄鉱産地の近くに近代的な製鉄業が興っている。インド共和国では伝統的に綿工業が盛んで，綿織物の生産高は世界の16%を占めて第1位で，綿織物はジュート製品は，インド共和国の重要な輸出品である。

〔交通〕鉄道はガンジス-デルタを第1に北インドに密であるが，西のアフガニスタンやイラン，東のビルマと連絡する鉄道はな

く，国際的に孤立している。国外との連絡は，コロンボ・カルカッタ・マドラス・ボンベイ・カラチなどを起点とする海上交通と，カラチ・ニューデリー・カルカッタ・ボンベイなどを基地とする航空路にたよっている。道路は幹線のほかは不良で，雨季には不通になることが多い。〔浅井得一〕

【歴史】〈インダス文明とアーリア人〉インド最古の文明は青銅器時代のインダス都市文明にさかのぼる。これはメソポタミア文明より遅れて，BC2500年ころに成立した。この文明はインダス川流域のモヘンジョ-ダロ*とハラッパ*の2地点に集約的に発達し，ほかのインダス文明遺跡は広く分布するが規模は小さい。モヘンジョ-ダロとハラッパにみられる都市生活は早くに発達の限界に到達し，新しい展開を示さずに滅んだ。ちょうどBC1500年ころから戦車を使ってパンジャブ地方に侵入しはじめたアーリア人が住民の城砦(じょうさい)を攻撃し，灌漑(かんがい)農業の施設を破壊したことがその主たる原因と考えられる。インダス川流域に定着したアーリア人は遺物の上でなんらの足跡をも残さず，文化的には貧弱な時代が続く。しかし，BC1000年ころになると，アーリア人はガンジス川・ジャムナ川の流域に進出し，土着の原始社会を吸収しながら都市を形成しはじめた。都市は互いに抗争し，一つの政治単位の都市国家に成長し，内部では部族社会が解体して僧侶(そうりょ)階級（バラモン）や王をはじめとする武士階級(武士・貴族)の地位が上昇し，それに庶民(バイシャ)，隷属民(シュードラ)を加えた身分制度(カースト*)が形成された。アケメネス朝ペルシア文化の流入や鉄器の普及などによって社会の発達はめざましく，それに応じてバラモン教の呪術(じゅじゅつ)・祭式を批判し，新しい人間の生き方を追究する哲学思想が起こった。仏教やジャイナ教*がそれである。

〈古代統一国家マウリア朝〉紀元前4世紀末にアレクサンドロス大王がインド西北境に侵入すると，インド国内ではにわかに統一の気運が生じた。マガダ国出身のチャンドラグプタ1世はガンジス川・ジャムナ川流域の諸国を統合し，インド最初の統一国家マウリア朝*を創始した。第3代アショカ王*は南インドへ領土拡大を企てたが，このときの戦争の悲惨さから，不殺生・慈悲を主義とする仏教に深く帰依し，仏教の布教と民衆の慰撫をはかったことは有名である。王の死後マウリア王朝の中央集権制はくずれ，北インドではシュンガ朝，南インドではドラビダ系のアンドラ朝が栄えた。

〈クシャン朝*とグプタ朝*〉紀元1世紀になると西からローマ帝国，東から漢帝国の勢力が拡大し，交易圏をインドまで伸ばした。インド内部には統一勢力がなく，西北インドにクシャン朝が東西交易の仲介者として勃興(ぼっこう)した。クシャン朝はかつてのギリシア・バクトリア王国の遺産を継ぎ，インド内部へも勢力を拡大して，中国・ローマ・インドの文物交流を促進し，みずからも国際的性格を発揮して繁栄した。ギリシア・ローマ美術と仏教が融合したガンダーラ美術*が誕生したのも，クシャン朝のもとであった。クシャン朝の繁栄も漢・ローマ帝国の衰退とともにさびれ，4世紀の初め，これに代わって北インドに伝統文化の復興をめざすグプタ朝が興隆した。この王朝の下でヒンズー教が仏教をしのぐ勢いとなり，サンスクリット文学の発達や純インド風の美しい彫刻や絵画(アジャンター石窟(せっくつ)の壁画など)の展開があった。グプタ朝の統一も長く続かず，7世紀前半のハルシャ・バルダナ王の北インド統一も一時的で，その後は北インドにラージプートを称するヒンズー諸王国，ベンガル地方ではパーラ朝，南インドではパッラバ朝に次いでチョーラ朝・チャールキヤ朝などが興亡した。

〈初期イスラム諸王朝〉インドが分裂混乱状態にあった8世紀初頭，イスラム遠征軍はすでに海上からシンド地方に進出していたが，勢力は弱く，インド内部に対してはまだ深刻な影響を与えることがなかった。しかし，11，12世紀になると，アッバス朝の衰退に乗じて東イランに独立したガズニ朝やゴール朝があいついで北インドに侵略を重ね，ゴール朝の部将クトゥブ・ウッディーンはついにデリーに首都を置いてインドのイスラム支配を始めた。このクトゥビー朝(奴隷王朝)に次いで，16世紀半ばまでにトルコ・アフガン系の四つのイスラム王朝(ハルジー朝・トゥグルク朝・サイイド朝・ロディー朝)がデリーを中心に交替した。この期間におけるイスラム体制の流入はインドの行政・通貨・税制面に及んだが，伝統的ヒンズー文化に同化されることが多く，イスラム文化は次のムガール朝によって最も効果的に発展させられる。

〈ムガール帝国〉16世紀前半，ロディー朝の内紛に乗じて，チムールの子孫バーブルがアフガニスタンからデリーに侵入し，新しいイスラム政権のムガール朝を樹立した。ムガール朝*の支配者たちはイスラム・イラン文化の教養を備え，当時インドに知られなかった火薬砲を使用したので，ムガール朝の優勢が確定した。第3代皇帝アクバル*は領土を拡大するかたわら，ヒンズー教徒とイスラム教徒の融和に意を用い，また統治組織を整備して強力な中央集権官僚体制を築き上げた。こうしてもたらされたムガール帝国の繁栄はイランのサファビー朝，トルコのオスマン朝と並び称せられ，地理上の発見を経たヨーロッパ諸国も進んでインドと交渉をもつようになった。第6代皇帝アウランゼーブ*の治世になると，宮廷の出費がかさんで政権がゆらぎ始めた。皇帝はイスラム教の厳格質朴(しつぼく)さにたちもどることを企てたが，ヒンズー教徒の反感を招いて，帝国崩壊の糸口をつくった。

〈英領インド帝国〉17世紀以来，ボンベイ・マドラス・カルカッタなどを拠点にフランスとインド貿易の利を争っていたイギリスは，1757年のプラッシーの戦い*で宿敵フランスを敗り，独占的インド経営にのり出した。分裂と内乱の激しくなったインド国政に干渉し，マイソール戦争・マラータ戦争・シク戦争などをひき起こして，次々と領土を獲得していった。イギリス本国の産業革命の進展に伴い，原料資源の供給や市場としてのインドの役割がますます重要となった。イギリスはインドに対し，交通・通信網の整備，土地改革，英語の公用語化などの植民地政策を実施した。しかし，これは伝統的なインドの社会に混乱と不安をひき起こし，1857年のセポイの反乱*を契機に大規模な反英運動に広がった。組織を欠いたこの運動はイギリスの熾烈(しれつ)な手段で静められ，余命を保っていたムガール皇帝が廃位されて，インドは完全にイギリスの直接統治下にはいった。イギリス領となってからのイギリスの支配方針は，インドの伝統的宗教・習慣に不干渉の態度をとり，ときには宗教の対立やカーストを利用して植民地経営を強化した。また，インド人に教育を施して行政・産業面に参加させた。こうした中で育ったインドの知識人や民族資本家の間には，インドの近代化と自治を要求する運動が強まり，イギリスはこれに対して譲歩と圧迫をくり返した。

〈独立〉1885年になってインド国民会議の結成が認められ，インド人の利益を守ることになった。1909年にはイスラム教徒のためにインド-ムスリム連盟が結成されたが，これはヒンズー教徒とイスラム教徒を分割して反英運動を抑制するイギリス人の政策でもあった。第1次世界大戦にはインドはイギリスに協力して参戦したが，独立自治は認められず，ガンジーを指導者とする大規模な独立運動が広がった。この問題は第2次世界大戦に持ち越され，1947年にようやく独立が承認されて，ヒンズー教のインド連邦(のちのインド共和国*)と，そしてイスラム教のパキスタン*が誕生した。

〔小谷仲男〕

インド(共和国)［Republic of India］インド*のおよそ70％を占める国で，面積は329万km^2。人口は6億5,098万(1979推計)で，インドの全人口の80％に近い。食糧不足が慢性化しているが，1980年10月政府は，穀物の自給達成，ソ連・ベトナムに輸出と発表，また1981年4月には，核兵器生産可能なプルトニウムを生産すると発表し，1日1人あたり2,000カロリーの栄養しかとっていない大衆を背後にしてインドは大きな無理をしている。この国は，1947年にパキスタンとともに，イギリス連邦の自治領として，インド連邦の名で独立，1950年の新憲法でイギリス国王任命の総督に代えて大統領を置き，インド共和国となった。



イ ン ド

〔政治組織〕大統領・副大統領は上下両院議員，各州下院議員による選挙人団により選挙，任期５年。国会は上下２院制，上院は定員250人以下，大統領指名の12人の学識者を除き，各州下院議員により選出，任期６年，２年ごとに３分の１を改選。下院は各州の21歳以上の男女の直接選挙による542人と，大統領指名のアングロサクソン代表で構成されて，任期は６年。連邦（中央）政府と州政府があるが，連邦政府の首相は大統領が任命する形式をとり，独立直前の臨時政府時代を含めて，1964年に死去するまでの18年間，ネルー*がその職にあった。その後シャストリを経て，1966年以来ネルーの娘インディラ-ガンジー*が首相をつとめていたが，1977年の総選挙で大敗，デサイ，チャラン・シンの2人の首相ののち，1980年の総選挙でガンジーが復活した。国民会議派は独立運動でマハトマ-ガンジー*やネルーの指導のもとに，主役を演じてきた団体であり，独立以来ずっと政権の座についていたが，議会民主主



インドの国旗　1947年制定。独立を推進した国民会議派の党旗に由来する。中央の法輪はアショカ王石柱からとったもの。サフラン色はヒンズー教徒，緑はイスラム教徒，白はその他の教徒を表わし，それらの調和と団結を図ったものであったが，制定直後にイスラム教のパキスタンと仏教のセイロンは分離して独立した



綿花の収穫・選別・袋詰め作業。インド半島中央部マディア-プラデシュ州の農村風景



農村の耕作風景。収穫の終わったあとのすき返し。牛耕による手労働が主で，農業技術は一般に遅れている

州　　　名	面積 (1,000 km²)	人口 (100万) (1978)	州　　都
アンドラ-プラデシュ	277	49.3	ハイデラバード
アッサム	78	17.9	シロン
ビハール	174	63.6	パトナ
グジャラート	195	31.6	アーメダバード
ジャム-カシミール	222	5.3	スリナガル
ケララ	39	24.8	トリバンドラム
マディア-プラデシュ	443	49.3	ボパール
タミール-ナド	130	46.7	マドラス
マハラシュトラ	307	58.5	ボンベイ
カルナタカ	191	33.6	バンガロール
オリッサ	155	25.4	ブバネスワール
ラジャスタン	342	30.2	ジャイプール
ウッタル-プラデシュ	294	98.6	ラックナウ
西ベンガル	87	52.0	カルカッタ
ナガランド	16	0.6	コヒマ
パンジャブ	50	15.5	チャンジガル
ハリアナ	44	11.8	チャンジガル
ヒマチャル-プラデシュ	55	3.8	シムラ
メガラヤ	22	1.2	シロン
マニプール	22	1.2	インパール
トリプラ	10	1.8	アガルタラ
シッキム	7	0.7	ガントク

〔注1〕パンジャブ・ハリアナ両州は連邦直轄地のチャンジガルを共通の州都としている。

〔注2〕連邦直轄地は，アンダマン-ニコバル諸島・タドラ-ナガルハベリ・デリー・ゴア-ダマン-ジウ・ラッカジブ諸島・ポンジシェリー・チャンジガル・アルナチャル-プラデシュ・ミゾラムである。

議にもとづく社会主義国家の建設をその目標としており，1969年左右両派に分裂し，左派の方が優勢である。このほか，共産党(右派・左派・マルクス-レーニン主義インド共産党・インド共産主義センターに分かれる)・インド人民党・ジャンサン派・社会党・革命社会党・ドラビダ進歩同盟などがあり，ドラビダ進歩同盟は南インドの地方政党であったが，南インドに多いドラビダ系民族の勢力を強めることを目標として，最近は中央政界にも大幅に進出している。

ガンジー政権は，第一党である会議派左派を基盤とし，右派共産党の協力を得ており，たびたびの食糧危機による反政府暴動なども，〈治安維持法〉の強行や，非常事態宣言などによって切り抜け，1974年には核実験を実施して，内外にその勢力を誇示するなど，政権維持のためには手段を選ばない方針をとっていたが,一時その力を失った。

〔地方行政〕 連邦制がとられていて，22州と９の連邦直轄地があり，州には大統領が任命する州知事と，州首相の率いる州政府があるが，州知事と州首相の権限の範囲については，憲法上も論議がある。州議会は１院制または２院制である。連邦直轄地は，弁務官または副知事を通じて大統領が直接統治している。また大統領は，州情勢が混乱した場合に,中間選挙の実施まで州政府・議会を解散させて，直接統治下に置く権限をもっている。たとえば共産勢力の強いケララ州では，1957年に共産党の州政府が生まれ，新教育法を実施しようとして問題をひき起こし，1959年に大統領が施政権を接収し，1960年に選挙の結果，国民会議派などの反共連合による新しい政府ができたが，1965年には再び共産党が州議会で第１党となったために，連邦政府が共産党による州政府の樹立を阻止しようとして，またもや同州の施政権を接収したのをはじめとして，このような事態は各地でたびたび起きている。ケララ州では1967年の総選挙で，会議派がまた敗れ，左右両派共産党など７党の統一戦線州政府ができたが，1970年の州議会選挙では，会議派左派と右派共産党が共同戦線をしいて過半数を獲得，翌1971年に両派の連立政権が生まれている。1980年1月に州議会選挙が行われ，左派共産党を中心の左翼統一戦線が,140議席のうち93議席を占め，再び共産党政権が成立した。1980年２月ガンジーは反ガンジー派の９つの州議会の解散を公布したが，ケララ州は除かれている。

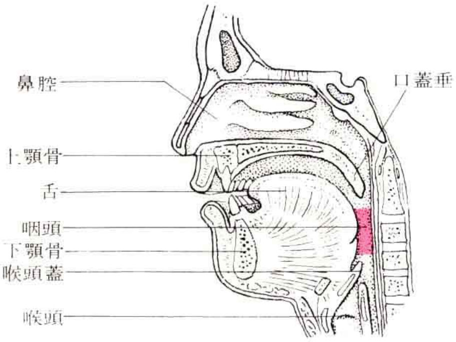
〔経済〕 インドは19世紀の後半以来イギリスの植民地として，茶・ワタ・コウマ(ジュート)・小麦などの食糧や原料の安価な供給地，イギリスの工業製品の市場として，イギリスに奉仕してきた。20世紀にはいって，その豊富な原料をもとにして，綿工業やジュート工業が興り，第１次世界大戦後は製鉄などの近代工業もしだいに盛んになってきたが，主産業は農業で，しかもその生産の形態は，封建的な土地制度のもとにあって，前近代的な段階にとどまっていた。独立後は，1950年代にはいって各州ごとに土地制度の改革が行なわれ，いままでのザミーンダーリー制やジャーギールダーリー制などの封建的な土地所有制度は廃止されて，約2,000万の小作農に土地が配分されたが，地主の中には，自己耕作の名のもとに，かなり広い耕地をまだ保有している者も多く，また40～50％という高率の小作料を認めている州や，地主の土地保有の限度を最大300エーカー(121ヘクタール)まで認めている州もあり，改革は徹底していない。

総合的な経済開発のためには，数次にわたって５か年計画が実施されてきたが，第１次計画(1951～1956年)では農業に，第２次計画(1956～1961年)では重工業に重点が置かれ，第３次計画(1961～1967年)は，国民所得の年間成長率５％以上(５年間で30％増，１人あたり17％増)，食糧の自給自足化などを目標として出発したが，1962年の中国，1965年のパキスタンとの国境紛争のための国防費の増大や，1965年・1966年と２年連続の大干害によって，食糧の自給自足どころか飢餓状態に追いこまれるという最悪の事情が発生したために，当初の目的が達せられなかったばかりでなく，国民所得の増加は５年間で12.68％にとどまり，１人あたりの所得では人口増加のためにかえって0.31％減るという結果を招いている。その後1967年４月から第４次５か年計画にはいる予定であったが，食糧の不足や年間16.5％という物価の急騰に対する応急対策のために，２年間実施を延期し，1969年４

月から新しい計画にはいった。第4次5か年計画は国民所得の年間成長率を5.7％(1人あたりでは3％)とすることを目標とし，農業の振興に最大の重点を置き，工業の成長と輸出の増加をその次に置いていた。しかし，1971～74年は連続して大凶作で，国内各地で飢饉に見舞われたばかりでなく，工業生産も大きく後退し，計画は大きく狂った。国民所得の年間成長率も，平均して2.8％と計画の半分も達成できず，1974年4月からは第5次5か年計画に入ったが，78年3月で中止，毎年度の経済情勢によって政策を調整するローリング・プラン方式による第6次5か年計画に切り替えた。

5か年計画の実施にあたっては，外国から贈与を含む多くの援助を受けているが，その総額は1978年3月末現在で外貨債務のみで240億ドルに達し，アメリカ合衆国を第1とし，イギリス・西ドイツ・カナダ・ソ連・日本など計13か国から借り入れている。このほかインド共和国は世界銀行の最大の借り入れ国でもある。このようなインドが，1974年に核実験を行なったことは，この国を援助している国々に対してよい印象を与えず，〈核爆発に巨費を投じられるようなぜいたくな国に援助をする必要があるだろうか〉という声が高まった。インド共和国の輸出(1977年)は，茶・ダイヤモンド・鉄鋼・衣類・綿織物・鉄鉱石・革類の順で，輸入は，原油(21％)・機械・ダイヤモンド・石油製品・鉄鋼・綿花・化学肥料の順である。おもな相手国は輸出ではアメリカ合衆国(12％)ソ連(11％)イギリス(10％)日本(10％)，輸入ではアメリカ合衆国(13％)西ドイツ(9％)イギリス(8％)日本(7％)となっている。輸出は59.9億ドル，輸入は64.2億ドルで，最近は大幅な入超を続けており，1980年に再登場したガンジー政権は，インフレと赤字財政に直面している。1981年5月には，全国的な物価デモが1週間にわたって行なわれ，ニューデリーではリーダーのパジパイ元外相をはじめ2,500人が逮捕された。インドにとって日本は輸出入とも第4位の重要な貿易相手国であるが，日本側からは輸出入とも0.7％を占める国に過ぎない。1980年のインドの日本への輸出は10.1億ドル，日本からの輸入は9.2億ドルで，インド側の出超であり，日本への輸出で多いのは鉄鉱石で，日本側からいえば，インドはオーストラリア，ブラジルに次ぐ鉄鉱石輸入国である。

インド共和国の外貨の不足，インフレ，食糧の不足などの背後には，この国の急激な人口増加がある。1948年の独立当時にはちょうど3億の人口であったが，現在は6億となり，30年余りの間に2倍に増加し，少しばかりの経済成長も人口の増加に追いつかない状態である。政府は家族計画について熱心な宣伝と指導を行なっており，1,000人について43人の出生率(1965～70平均)を23



咽　頭

人にすることを当面の目標にしている。政府発行のパンフレットは，〈われわれの収入は世界最低である。3分の2は文盲だ。失業は20年前350万人だったのが，1,000万人に達している。それなのに毎年1,300万人が増加しており，もしこのままでいけば，今世紀末には10億人に達しよう。〉と述べてインドの人口危機を警告している。

〔浅井得一〕

【歴史】1951年に成立し現在に至る。ムガール帝国滅亡(1858)のあと，インドはイギリスの領土となったが，第1次・第2次世界大戦の間に民族資本の成長があり，民族意識が高まって，1947年ついにイギリスから自治独立を獲得した。しかし，イギリス統治時代に，イギリスの分割支配政策に利用されたヒンズー教徒とイスラム教徒との宗教対立が激化したため，インド連邦とパキスタンの二つの国家への分離を招くことになった。インド連邦は1950年にネルー*を指導者として憲法を発布して民主共和国となり，中立主義を掲げて国内の近代化に励んだ。しかし，1959年以来の中華人民共和国との国境紛争や1965年のカシミール帰属をめぐるパキスタンとの武力衝突は，国内の経済発展に大きな障害をなげかけ，アメリカなどの経済援助にたよらざるをえなくしている。1964年のネルー首相の死後，シャストリ(1964～1966)，インディラ-ガンジー(1966～　)が首相の地位を継いで今日に至る。 ➔インド　〔小谷仲男〕

インド-アーリアン　［Indo-aryan］　現代インド文化の主流を形成した民族。ヨーロッパ主要諸国民と親縁関係をもつインド-ヨーロッパ語族*に属する。原住地のコーカサスから中央アジア平原の遊牧生活を経て，BC1500年ごろから西北インドに侵入して先住民族を征服し，全インドに勢力を張った。人種的には北方人種(➔コーカソイド)に属し，高身長，長頭，ブロンドの波状毛，白色の皮膚をもつ。その比較的な純粋型は現在でも北西部インドの諸族，諸カースト*にみられる。現在インド-アーリアン諸語を使用する諸族・諸カーストは，約2億5,000万人を数えるが，これらはアーリアンと原住民との混血や文化的な相互影響によって形成されたものである。多神教的な宗教・思想を有し，カースト確立に強く影響した。

インド-イランごは　【インド-イラン語派】　インド-ヨーロッパ語族の一分派で，インド語派とイラン語派に分かれる。インド語派に属する諸言語はインド-アーリアン語とよばれることもある。BC4000年，祖語*から分離し，BC2000年，インド語派はインドのパンジャブ地方に，イラン語派はイランの西北部と東北部に侵入した。インドのベーダのサンスクリット*とイランのアベスタのガーサーの言語はきわめて類似している。サンスクリットはパンジャブ地方から東と南に広がり，古典サンスクリットとなった。ベーダ語・サンスクリットと並行して，口語的なプラークリット語が存在したが，中期になって，宗教語・口語として文献に現われる。セイロンには仏教語として，パーリ語*があった。各地方にはアパブランシャという独立した方言が発達し，現代インド諸言語のもとになった。代表的な現代の文学語はウルドゥー語*とヒンディー語*とベンガル語などである。イラン語派は東西の2方言群に分かれる。古ペルシア語はイランの西南地方で，アベスタ語は東北地方で用いられた。南ロシアのステップにはスキタイ語があった。中期イラン語の代表として西部方言ではパフラビ語(中期ペルシア語)・パルティア語，東部方言ではソグド語のほかコータンのサカ語がある。近代語の文学語は，中期ペルシア語から発展したペルシア語である。西部のクルド語，カスピ海沿岸の方言，東部のパシュトゥ語・バルーチー語が有力な方言である。パミール地方にもイラン方言がある。　〔井本英一〕

いんとう　【咽頭】　鼻腔(びこう)と口腔*の奥にあたる部位で，その上壁は外頭蓋底(がいとうがいてい)より始まり第6頸椎(けいつい)の高さで食道に移行する，約12cmの前後に圧平された管である。これを次の3部に分ける。①鼻部：最上部で後鼻孔をもって鼻腔につながる。ここには中耳に連絡する耳管の開口部すなわち耳管咽頭孔がある。この管を通して鼓膜の内外の空気の圧力を調節する。またこの部の後壁に咽頭扁桃(へんとう)がある。②口部：口腔の後ろにある部分で口峡によって口腔につながる。③喉頭*(こうとう)部：咽頭の最下部にあたる部分で，喉頭の後ろにあたり，ここから食道につながる。この前上部に喉頭がありここから気管が始まる。咽頭は食物・空気の両者を通すが，食物の嚥下(えんか)時には喉頭があがり喉頭のふたである喉頭蓋がその入り口をふさぐので，食物は食道にはいり気管にはいらない。咽頭の内面は重層の扁平(へんぺい)上皮からなる粘膜上皮によりおおわれる。このうち鼻部には鼻腔または気管と同様に繊毛があり，口部と喉頭部は口腔と同様の構造をもつ。咽頭外層に横紋筋よりなる筋層があり，食物の嚥下の際にはこの筋が蠕動(ぜんどう)運動を行なう。最外層は結合組織よりなる外層によりおおわれる。

〔幡井　勉〕

いんどう【引導】仏教用語で，原義は衆生*(しゅじょう)を導いて仏道に引き入れること，または迷いの世界から悟り*の世界に導くこと。このことから死んだ人が迷わずに成仏できるように導く意味に転じ，普通には葬式のとき棺の前で僧侶(そうりょ)が死者に法語を与えること，または法語そのものをいう。この法語は正しくは引導法語といい，法語を与える僧侶を導師という。宗派によって引導の作法や法語が異なる。法語の最後に〈カーッ〉と一喝(いっかつ)するのは，禅宗でのみ行なわれる。〔岡部和雄〕

いんとうえん【咽頭炎】鼻腔(びこう)・口腔に続き，下方は喉頭(こうとう)・食道に至る管腔を咽頭といい，この部に起こる炎症を咽頭炎という。急性咽頭炎と慢性咽頭炎とに分けられる。急性咽頭炎はかぜや伝染性の細菌疾患，寒気やほこりの吸いすぎなどの刺激によって起こり，発熱・咽頭の不快感・咽頭痛を伴い，全身の違和感がある。咽頭粘膜は赤くはれ，舌にはコケ状のもの(舌苔(ぜったい))ができ，呼気には悪臭がある。治療は安静・うがい，消炎薬・抗生物質の投与，口内錠の使用などがある。慢性咽頭炎は急性咽頭炎がくり返されることによって慢性化したもので，つねに咽頭の不快感・熱感・せき・頭痛などがある。治療としては咽頭への薬剤塗布・うがい・吸入療法などが有効である。〔石井哲夫〕

インドおんがく【インド音楽】〈古代インドの音楽〉現存の声楽伝統の中で世界最古のものといわれているベーダ賛歌は，クシャトリヤの聖典に基づき，その朗唱は《リグ-ベーダ*》にあっては歌詞のシラブルごとに1音ずつあて，アクセントを強調する3音旋律で，《サーマ-ベーダ》では反対に装飾音が多く，アクセントをほとんど無視する音域の広い声楽である。ベーダのほかには，《マハーバーラタ*》と《ラーマーヤナ*》の二大叙事詩が演劇・舞踊と結びついて現存しているばかりでなく，ヒンズー教の伝播(でんぱ)に伴って東南アジアにまで広がっている。仏教音楽は既存の音楽文化にのっとってつくりあげられ，各地に伝えられて，その変形したものが日本の声明*(しょうみょう)にまでつながっている。〈芸術音楽の成立〉仏教はインド半島から外へ伝わり，内部では13世紀ごろまでヒンズー教が圧倒的に強かった。しかし，イスラム教の強い影響が始まると，北インドでは古来の音楽伝統が変容して15〜16世紀までにはヒンドスターニー音楽文化の基盤が築かれ，他方，南インドではイスラム教の影響が弱く，ヒンズー文化の中心地としてとどまり，カルナータカ音楽文化が成立した。インドにおけるこの二大音楽文化圏は，その後も，ヨーロッパ文化との接触があったり，パキスタンが政治的に独立するということがあってもそのまま続いてきた。これら二つの間では，



インド音楽　右からビーナ・タンブーラ・バイオリン・ムリダンガムを奏する国立インド-ラジオ-オーケストラの楽員。中央の女性は歌い手で，演奏に合わせて古典舞踊が演じられる



インドゴムノキ

楽器が異なったり，音楽用語が異なったりするが，基本的には同じ音楽理論・美学によっている。その共通の理論は主としてラーガ*(音階・旋法)とターラ*(拍節・リズム)からなっている。

人間の耳で聞きうる最小の音程とインド人が考えるものはスルーティ*とよばれる。スルーティが組み合わされて，実際の音楽に使うことのできる音程にスバラがあり，七つのスバラにはsa, re, ga, ma, pa, dha, niという名称が与えられ，それらはヨーロッパ音楽のドレミファソラシと似ていて，楽理・実技の学習過程において応用される。七つのスバラからなるグラマは，いわば音階に相当する。そのグラマのそれぞれによってスバラの音程は細かく規定される。実際の音楽ではその音階の音をどのように使用するかを様式的に規定するラーガの理論が重要である。ラーガは音楽だけでなく他の諸芸術や宗教・社会慣習上の概念や価値観・自然観などと結びついていて，それぞれのラーガに名称があり，概念や季節・日時などを規定するようになっている。音楽におけるラーガは，旋律の上行・下行に応じてどのように音が進行すべきか，どの音にはどのような装飾音(北インドではムルチャナ，南インドではガマカ)が施されるかを規定する，いわば旋律法のことである。理論上，1,000以上のラーガがあるといわれているが，実際によく使われるのは50ほどである。

リズムの理論は，周期的付加リズムともいうべきターラによっている。これは，むしろ拍節法の理論であって，一つの周期的単位は1〜4の拍群から構成されていて，それぞれの拍群はさらに1〜9の拍を含み，そしてその全体がくり返される。たとえば，アディ-ターラとよばれるものは4＋2＋2を周期とするものである。この複雑な拍節法にのっとって実際に演奏するときは，手・指・ひざ・足指などを使って拍子をとることが，演奏者ならびに聴衆によって行なわれる。芸術音楽はこのように音階・旋法・拍節法・リズムなど各方面から細部にわたって規定されているにもかかわらず，演奏上の最大の特徴は即興演奏であるということがいえる。楽式もまた規定されていて，いわば約束事項に即した即興演奏であるが，特にグループによって演奏されるときには，演奏者どうしの音楽的な挑戦(ちょうせん)が行なわれて白熱することが多い。

〈楽器〉リズムをささえる太鼓(膜鳴楽器)のたぐいとして，北インドではタブラ-バヤ*という大きさの違う二つの太鼓を対にして立て，主として指で打つものがあり，南インドではムリダンガムを一つ横にして両面を両手の指，手のひらで打つものがある。撥弦(はつげん)の弦楽器では，グループ演奏に際してつねに主音saと5度上の音pa(ドとソにあたる)をドローン*として鳴らすタンブーラがある。旋律を奏するのは，北インドではシタール*，南インドではビーナ*，そして擦弦楽器ではサーランギ*・エスラージ*，最近ではバイオリンが使われる。サロード*は撥弦あるいは擦弦である。リード(簧(こう))楽器にはナガスラム(オーボエ，単簧)・スルーティ(クラリネット，複簧)がある。横笛は旋律楽器としてグループ演奏の場合特に重要である。〔山口　修〕

インドゴムのき【インドゴムの木】双子葉植物・クワ科。イチジクの仲間でインド原産の常緑高木。原産地では50mに達するが，日本では観葉植物となっている。枝先の芽は紅色の托葉(たくよう)に包まれる。葉は長円形，なめらかで光沢があり，長さ10〜30cmになる。托葉は早脱し，その跡が茎に輪となって残る。以前は弾性ゴムをこの木からとっていたが，現在はパラゴムノキに取って代わられている。

インドさらさ【インド更紗】⇨更紗

インドシナ［Indo-china］広くはインドシナ半島とシンガポールをはじめとするその付属の島々を含んだ地域をいい，狭くは旧フランス領インドシナ，すなわち現在のベトナム・ラオス・カンボジアの3国の存在する地域をいう。インドシナ半島は，アジアにおける大半島の一つで，太平洋とインド洋の接点にあり，東は南シナ海，西はベンガル湾に臨み，その先端は南へ延びてマライ半島となり，マラッカ海峡によってスマトラに相対している。広義のインドシナには，インドシナ3国と，タイ・ビル

マ・マレーシア・シンガポールの計7国があって，インドとシナの二大文化圏の漸移地帯をなしているので，インドシナの名称は，この地域にふさわしいものといえる。

〔自然〕インドシナ半島の地形は複雑で，ヒマラヤ山脈の延長である数条の山脈が南北に走り，その間をイラワジ・メナム・メコンなどの大河が流れて，下流に低湿な平野をつくり，ここが東南アジアにおける米の主産地となっている。気候は熱帯的で赤道に近いマライ半島を除けば，モンスーンの影響を強く受けて，雨季(5～10月)と乾季(11～4月)がはっきり分かれる。ケッペンの気候区ではインドシナ半島の東西両岸の熱帯モンスーン気候と，その中央部の熱帯サバナ気候，マライ半島の熱帯雨林気候の三つに分かれる。熱帯雨林気候と熱帯モンスーン気候の地域には，ジャングルとよぶ常緑広葉樹の密林があり，その中にはチーク・シタン・コクタンなどの有用な木もあり，またゾウ・サイ・トラ・ヒョウ・サルなどの哺乳(ほにゅう)類がすむ。トカゲやヘビなどの爬虫(はちゅう)類も多く，長さ10mにも達するニシキヘビがいる。クジャクやオウムをはじめ，鳥類も多い。熱帯サバナ地域では，タケやアカシアが目だつ。ココヤシをはじめとするヤシ科の植物は海岸に多く，海岸のマングローブ*の下には世界最大のイリエワニがすむ。

〔住民〕インドシナ半島は古くから民族移動の経路にあたっていたので，民族構成はきわめて複雑である。最初の住民は，いまはすでに南方へ去ってしまっているメラネシアまたはオーストラリア系の民族であったと思われ，次にインドネシア系の民族が来住し，いまベトナム人がモイ，ラオス人がカー，カンボジア人がプヌンとよんでいる山地民族は，そのなごりで，タイやビルマにも同系統のものが少数いる。次いで西暦紀元前後に，インド方面からインド系統の民族が移動してきて，大きな勢力をもつようになったが，やがて中国方面から南モンゴル系の民族が南下してくると，しだいにその地位を奪われて衰亡し，いまではカンボジアの主要民族であるクメール人や，ビルマのモン族を残すのみとなっている。現在の住民の大半は，南モンゴル系で，おもなものにはベトナム(アンナン)・タイ・ラオなどの華南から移動してきたものと，ビルマ・カレンなどチベット方面から移動してきたものとの二つの系統がある。このほか，山地にはメオ・ヤオ・ロロ・カチン，マライ半島のジャングル地域には，ネグリトの仲間であるセマンなどの少数民族が住んでいる。新しく中国から移住してきた華僑*(かきょう)は，経済的に大きな力をもっており，このほかの新しい移住者としては，インド人や，イギリス人・フランス人を主とするヨーロッパ人がいる。

〔産業〕おもな産業は農業で，米の単一栽培が主である。山地ではまだ焼畑*耕作が一般的であるが，マライ半島南部ではプランテーションによるゴムの栽培が盛んで，インドネシアとともに世界の天然ゴムの主産地となっている。地下資源として最も重要なのは，マライ半島の鉄鉱とスズで，開発が進んでおり，このためにマレーシアは東南アジアの新興国の中で，経済的にはいちばん安定している。このほかベトナムに無煙炭，ビルマにタングステンと少量の石油，マレーシアにボーキサイトなどがあるが，一般に地下資源は豊富とはいえない。工業は農林産物の加工や，紡織・セメントなどの工業があるにすぎないが，ビルマやタイには外国援助または外国資本による製鉄などの近代工業が，芽ばえている。

〔政治〕第2次世界大戦前には，タイを除いて，全地域がイギリスとフランスの植民地となっており，大戦中は日本軍に一時占領され，ビルマのように名目だけの独立を許されたものもあった。戦後は活発な民族運動が実を結び，イギリス領からはビルマ・マレーシア・シンガポール，フランス領からはベトナム・ラオス・カンボジアが独立したが，独立後も民族や思想の相違による内戦やゲリラ活動がどの国にも起きている。中でもベトナムの内戦は，アメリカ合衆国の直接参加とソ連・中国の間接的な介入によって，国際政治勢力の激しい争いの場となり，それがラオス・カンボジアにまで波及して，問題の解決がきわめて困難なものとなっていたが，1975年になって北ベトナムがアメリカ軍の支援を受けた南ベトナムを制圧，1976年にベトナムの統一が実現，アメリカ合衆国の勢力はインドシナの全地域から一掃された。〔浅井得一〕

インドシルク [Indian silk] インドに産する先染め絹織物。多くは手織りで，薄地で柔軟，ドレス・ブラウス・スカーフ・サリー*などに用いる。用途によって色彩・文様が異なるが，東洋ふうの色調のものが多い。

インドじん 【インド人】 インドの原住民をいう。インド人という語は，旧石器時代のころから，人種・言語・文化をことにする諸民族が混合し合い影響し合うことによって形成された各地の住民をさす，きわめて包括的な意味をもつ。おもなものをあげると，北方から中部インドに住むインド-アーリア語系諸族は，インドの高文化の形成と維持に大きな役割を果たし，南インドに住むドラビダ語系諸族はアーリアンの影響を受けつつ，逆に彼らの文化に各種の影響を及ぼした。山岳地帯には未開諸族が現存し，比較的孤立した文化をもつ。宗教はおもにヒンズー教*に属し独特なカースト*を発達させた。〔佐々木宏幹〕

インドぞう 【インド象】 哺乳(ほにゅう)類・長鼻目・ゾウ科。アジアゾウともいう。アフリカゾウ*よりやや小さく，体長5.5～6.4m，尾長1.2～1.5m，肩高2.7～3.3m，体重3.6～4.5t。雌は雄に比べて小さい。きばは雄ではふつう1.5～2.4mに達するが，雌では小さく口外には突出しない。耳はアフリカゾウよりも小さく，鼻の先端の指状突起は上端に1個。インド・セイロンからスマトラ・ボルネオ北部の森林に15～30頭の群れで生活し，朝夕，草，木の葉，たけのこ，果実などを食う。飼育下では1日に干し草250kgを食う。性質が温和で知能が高くよく慣れるので，インドやビルマなどではチーク材の運搬，その他の使役や儀式用に使う。➔ゾウ 〔今泉吉典〕

インドてつがく 【インド哲学】 インドで発達した哲学・思想の総称。その特徴は宗教との不可分性にあり，哲学的思索は単に知識のためではなく，宗教的目的達成の手段でもあった。また個人の哲学というよりも，むしろ体系ないし学派としての哲学であり，独創性よりもむしろ伝統に忠実であることが重視される。

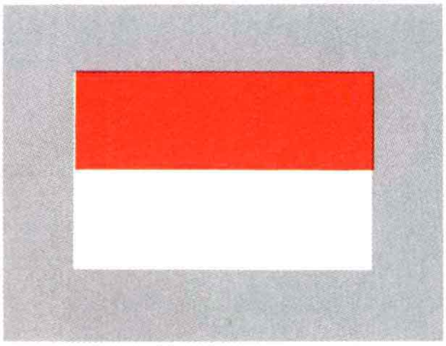
①インドにおける哲学的思索はすでにBC1200年を中心に成立した神々への賛歌の集成，《リグ-ベーダ*》にみられる。この宗教は多神教(日本で崇拝されているインドラ(帝釈天(たいしゃくてん))・バルナ(水天)・サラスバティー*(弁才天)などはこれに由来)ではあるが，賛歌にはそれに満足せず唯一の神を探求する一神教的傾向や，神々をも超越した唯一絶対の根本原理を追求する一元論の萌芽(ほうが)も現われている。

②この思想傾向は，BC500年ごろまでに成立したバラモン教*の根本聖典である，《リグ-ベーダ》をはじめとするベーダ聖典の終結部をなす《ウパニシャッド*》において絶頂に達する。《ウパニシャッド》の哲人たちは宇宙の根本原理をブラフマン*(梵(ぼん))に，個人存在の根本原理をアートマン*(我)に見いだし，かつ両者は本来同一(梵我一如*)であると考えた。

バラモン教はいくたの変遷を経てヒンズー教へと展開するが，《ウパニシャッド》はこのヒンズー教の思想的支柱となったばかりでなく，《ウパニシャッド》とともに始まる業*(ごう)と輪廻*(りんね)およびそれからの解脱の思想などは，インドにおけるほとんどすべての哲学的思索の出発点であると同時に最終目的であって，仏教の伝播(でんぱ)につれて広く日本を含めたアジア諸民族の人世観・世界観の基盤となった。③紀元前6世紀から紀元前5世紀ごろの経済の発展，都市の興隆とともに唯物論・運命論・懐疑論など，ベーダの権威を否認する多種多様な異端的思想が続出するが，ジャイナ教*，仏教はその代表である。ジャイナ教は無神論の立場に立ち，《ウパニシャッド》の絶対主義を排して相対主義を説き，一種の二元論を主張，インド思想史上はじめて原子論を唱えた。仏教は結局解決しえない形而上学(けいじじょうがく)的議論は無益であるとし

て論争を超越し，ひたすら人間の生きるべき道を明らかにしようとした。前者が教義上あまり変化なく今日に至り，単にインド内の一宗教にとどまっているのに反し，後者は複雑多様な発展の跡を示し，世界宗教としてアジア諸国を中心に行なわれている。④320年グプタ王朝が成立し，インド古典文化の黄金時代を迎えた。哲学の領域においては正統バラモン系統の六つの代表的な哲学体系(六派哲学)が一応完成し，こののち1,000年以上，あるものは現在に至るまで，ヒンズー教徒の，主として知識階級の思想的基盤となった。サーンキヤ学派とヨーガ学派，ニヤーヤ学派とバイシェーシカ学派，ミーマーンサー学派とベーダーンタ学派*とはそれぞれ相補う姉妹関係にある。㋑サーンキヤ学派の開祖はカピラ(BC350ごろ～BC250年ごろ)とされ，初期にはプルシャ(精神)とプラクリティ(物質)のみを認める無神論的二元論であったが，後代には有神論的一元論に調和の傾向を示す。この哲学が一般のヒンズー教徒の人生観・世界観に与えた影響は深くかつ広い。㋺ヨーガ学派の開祖はパタンジャリ(400～450年ごろ)であり，形而上学説はほぼサーンキヤ学派と同じであるが，その本領は解脱に達するための修行法を教えるにある。㋩ニヤーヤ学派はかなり古い時代から行なわれていた論理学を組織的に大成した学派で，開祖はガウタマ(50～150年ごろ)とされる。インド論理学はギリシア論理学とは独立に成立発展したが，かなりの類似性を示し，論理学はその性格上哲学者の共有財産として六学派のみならず，ジャイナ教・仏教でも研究されて高度の発達の跡を示している。㊁バイシェーシカ学派の開祖はカナーダ(BC150～BC50年ごろ)とされ，一種の多元論を唱導して，性質の異なる無数の原子を想定し，インド自然哲学の伝統の代表とみなされている。㋭ベーダ聖典全体は祭事部と知識部とに大別されるが，祭祀(さいし)・儀礼を説いている前者を体系的に研究する学問としてはジャイミニ(BC200～BC100年ごろ)を開祖とするミーマーンサー学派が成立。宇宙万有に関する知識を説く後者(主として《ウパニシャッド》)を研究することから，バーダラーヤナ(BC100～BC1年ごろ)を開祖とするベーダーンタ学派が成立した。ベーダーンタ学派はウパニシャッドの一元論的世界観を理論化・体系化し，ブラフマンを宇宙の唯一絶対の根本原理と考えた。しかし現象世界を実在とする実在論的一元論と，それを幻影のように非実在であるとするシャンカラ(700～750年ごろ)を中心とする幻影主義的一元論に大別される。ベーダーンタ哲学の伝統は今日に至るまで受け継がれ，ラーマーヌジャ*以来バクティ(神への信愛)を強調するヒンズー教に哲学的基礎を与えた。⑤1206年インドに最初のイスラム王朝が成立すると，イスラム教とヒンズー教の交流が始まった。カビール(1440～1518)はカースト*を否認し，諸宗教の区別を否定した。ナーナク(1469～1538)は両教を融合し，シク教*を創始した。⑥19世紀には，イギリスの支配のもとにヨーロッパ思想の影響を受けてインドの宗教・社会を改革しようとする思想家が活躍した。ラーム-モーハン-ローイ(1772～1833)は唯一のブラフマンのみを崇拝すべきであると主張。ダヤーナンダ-サラスバティー(1824～1883)は〈ベーダに帰れ〉と叫び，ラーマクリシュナ*はすべての宗教の一元性を強調し，その弟子(でし)ビベーカーナンダ*はそれを世界的に広めた。20世紀には〈サティヤ-グラハ*〉(真理の把持(はじ))運動を展開したインド独立の父ガンジー*，一元論的詩人思想家タゴール*，神秘主義的ヨーガ*行者オーロビンド-ゴーシュ*，シャンカラ系統の哲人政治家ラダクリシュナンらが大きな影響力をもっている。➔仏教

〔前田専学〕



インドネシアの国旗　1945年制定。赤と白は古くからの民族色で，スカルノの率いる独立運動のシンボルとして使用された。赤は勇気，白は純潔を，また両方で自由を表わしているといわれる。モナコ国旗と同一なのは偶然によるものである



ジャカルタの中央にある独立広場(メダン-ムルデカ)。そびえる塔はナショナル-モニュメント。市内の交通には，写真で見るようなベチャ(輪タク)とよばれる人力車が使われてきたが，最近では日本製の小形オート三輪もタクシー代わりに使われている



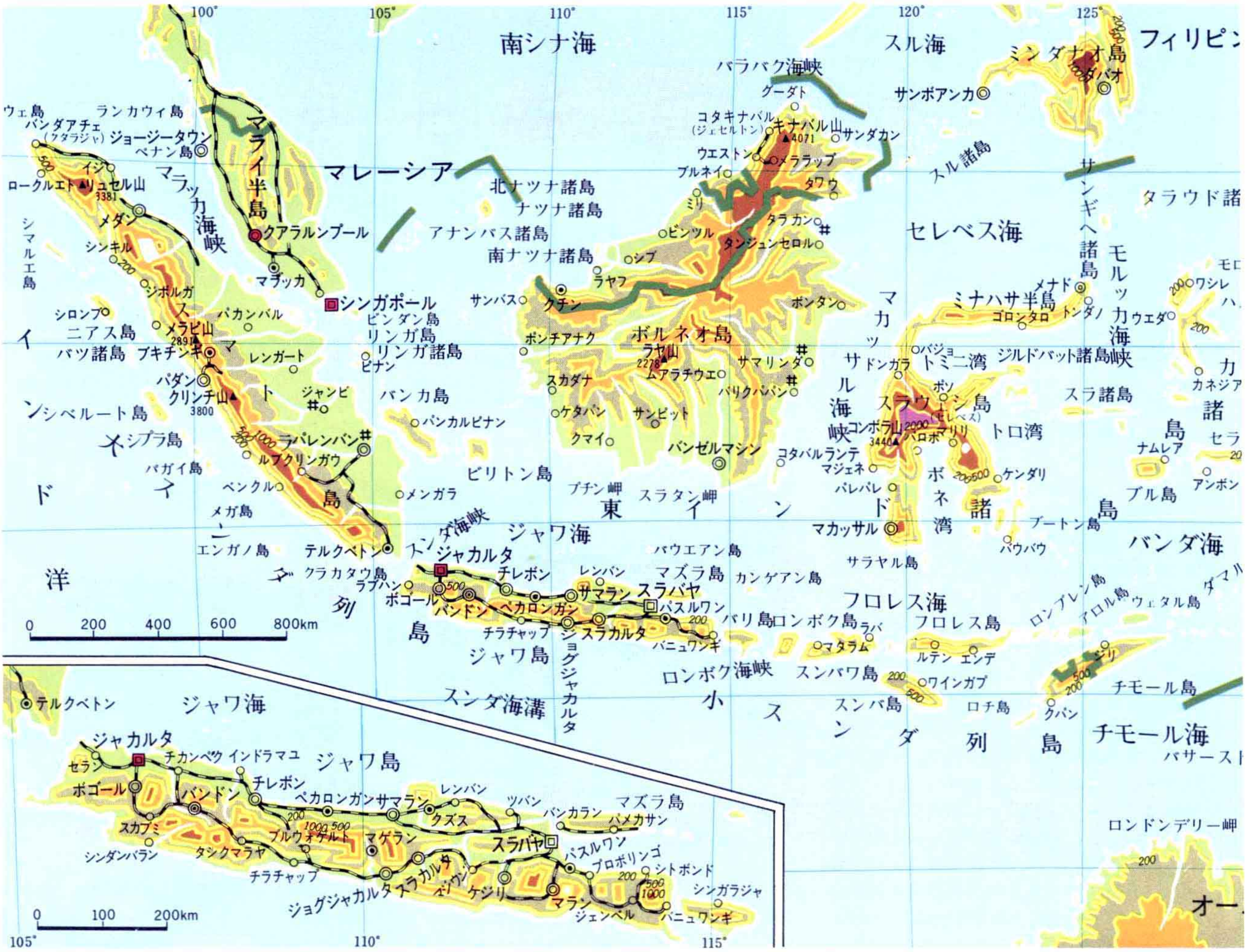
中部ジャワの農村風景。火山性の肥沃な土壌は大きい生産力をもち，膨大な農村人口をささえている。階段耕作がいたるところに見られる



ジャカルタ市にあるインドネシアの玄関クマヨラン空港。東南アジアの航空路網の焦点の一つとなっており，オーストラリアへの定期航空も開けている

インドネシア(共和国)　〔Republic of Indonesia, Republik Indonesia〕　フィリピンを除くマライ諸島の大部分とニューギニア島西半部とからなる東南アジアの共和国。北はマレーシア連邦，南はインド洋・アラフラ海を隔てて，それぞれ，アジア・オーストラリア両大陸に接する。面積190万4,345 km²。人口1億4,847万(1979年推)。首都ジャカルタ。

〔自然・住民〕国土は赤道をはさんで南北に広がり，スマトラ・ジャワ・ボルネオ・セレベスを中心とする大スンダ列島，バリ島から東に延びる小スンダ列島，モルッカ諸島およびニューギニア西半(西イリアン)など13,000余の島からなる。ボルネオ・西イリアンを除くほとんどの島々が地殻(ちかく)変動の激しい火山帯に属し，スマトラ・ジャワから小スンダ列島・モルッカ諸島にかけてはアルプス-ヒマラヤ造山帯の一環をなし，東は環太平洋造山帯にも接触している。セレベス・ハルマヘラにみられるK字状の特異な地形は地盤変動の激しさを物語っている。この変動は地質時代の比較的新しい時代に起こったものであり，スマトラ・ボルネオの海岸には，まだ低平な大湿原をなす所が多い。赤道直下の地方は常時高温多雨で，年間降水量4,000mmを越えるが，それから遠ざかるにしたがって熱帯モンスーン型となり，雨季と乾季が区別されてくる。12～2月が雨季，6～9月が乾季となるが，一般に，小スンダ列島から東に向かうにつれて乾季が長く，雨量も減少してくる傾向がある。高山では冷温帯的な気候となり，西イリアンの5,000mを越える



インドネシア

300万人以上の都市 □100～300万人の都市 ◎50～100万人の都市 ◎10～50万人の都市 ◉5～10万人の都市 ○5万人未満の都市 ■首府 #油田

山地では氷河や万年雪もみられる。自然が複雑なように住民もまた複雑である。原住民は一応全体的にはマライ民族に属するものの，島ごと，地域ごとに，実に多くの種族に分かれている。ジャワ島のスンダ・ジャワ・マドラの各種族，スマトラ島のアチェ・ミナンカバウ・バタク・ランポンの各種族，ボルネオ島のダヤク・バンジャル族，セレベス島のミナハサ・マカッサル・トラジャ族，その他バリ族・アンボン族などがおもな種族で，生活水準・文化段階にも差異がある。このほか外来民族としての中国人・アラビア人・インド人・ヨーロッパ人や，それら相互の混血などもいる。国語は，ムラユ語を原形とするインドネシア語であるが，各種族がそれぞれ固有の言語をもち，生活水準・文化段階にも格差がある。

〔歴史・政治〕古くからインド文化の影響を受けて発展し，特にスマトラ・ジャワ方面では仏教・ヒンズー教の導入とともにそれらを基盤とする多くの国家の興亡をみた。中でも中世のモジョパイト王国は，ヒンズー教をもとに現在の東南アジア全域に力をふるった。しかし13世紀になると，西方からイスラム勢力が浸透して王国は滅び，代わって各地にスルタン王国の成立をみた。17世紀からはオランダ勢力の侵入を受け，チモール島やボルネオの一部を除いて群島はその植民地と化した。オランダはこの広大な植民地の領有によって富裕な国となったが，インドネシア社会の発展はこれによってしばらく停滞することになった。第2次世界大戦中は，日本に占領され分割支配を受けたが，日本が降伏した1945年8月，スカルノ*のもとに独立を宣言し，再支配をめざすオランダとの激しい戦争を経て1949年正式に主権が委譲された。スカルノは独立に際し，神の信仰，民族主義，人道主義，民主主義，社会正義の五つを原則とするパンチャーシラ主義を樹立し，これによって広大な領土と複雑な民族とを統一しようとした。しかし国際情勢の動揺と根強い植民地時代の習性から政治は安定を欠き，経済はいっこうに進展・向上をみせなかった。スカルノは共産党と軍部とを支柱として1963年西イリアンの奪回，1965年国連からの脱退，マレーシアとの対決などの政策をとって国際的にははなばなしい動きをみせたが，国内経済の停滞は国民の不満を招き，1967年ついに失脚するに至った。彼のあとを継いだスハルト*政権は共産党を弾圧し，マレーシアとの復交，国連への復帰などの政策を推し進め，また先進諸国の援助も導入して経済の復興を図ろうとしている。

〔産業・経済〕インドネシアの諸島は，古くから各種の熱帯的特産物の産地として知られ，特にモルッカ諸島の香料は世界史の動きの上でも重要な役割を果たしてきた。この地域に外来の勢力が浸透したのも，主としてこれら特産物の獲得を目的とするものであった。現在のインドネシア経済の基盤もやはり農業にあって国民の80％がこれに従事している。いまだに焼き畑や採集生活に依存している未開地域もあるが，開けた地域ではイネの水田耕作を行なっている。しか



し生産性の低い伝統的農法がなお支配的なため，平均収量は1ヘクタールあたり1.8t前後であり，1,480万t(1967)の米生産高では自給にはなお不足するのが現状である。もっともこの国ではトウモロコシ・キャッサバをはじめ各種の作物・果実の産もあるのでインドのような深刻な食糧不足とはなっていない。これらの自給的農産物に対し，近世以後オランダ植民地体制下に発展したのがプランテーション*農業である。ゴム・茶・コーヒー・サトウキビ・ココヤシなどの農園は島々の開拓に大きな影響を与え，第2次世界大戦前にはインドネシア輸出高の40%はこれらの産物で占めた。しかし，プランテーション農業の性格から，これがそのままこの国の富とはならなかった。戦後は民族主義の高揚もあってこれを国有化したが，経営や技術の遅れもあって戦前の生産高には達していない。また地質構造が複雑なことから豊富な地下資源が埋蔵されており，バンカ島・ビリトン島のスズ，ビンタン島のボーキサイト，スマトラ・ボルネオの石油などは早くから外国資本によって採掘されてきた。特に石油は東南アジア諸国中最大の産出量を示し，1961年には約2,100万tを産出している。また未調査のままになっている資源も多く，今後さらに開発される可能性がある。近代工業は，しばしば計画は立てられているが，ゴム・コプラ・石油・スズ・木材などの原料を輸出して，工業製品の大部分を輸入に依存している状況であり，本格的な発展をみせるには至らず，わずかにバティック(さらさ)・金銀細工などの伝統的な手工業が散在する程度である。インドネシア経済は，第2次世界大戦後各国からの援助・借款でまかなわれたが，十分な効果があがらず，通貨は膨張し，インフレに悩まされてきた。スハルト政権はその建てなおしに大きな努力を払っているが，なお前途には多くの困難が予想される。貿易は輸出入とも6億ドル台で，これは人口1,300万の台湾と同程度にすぎない。鉄道はジャワ島では全域におよんでいるが，スマトラ島では一部にみられるだけで，他の島々の開発はまだまだ立ち遅れている。航空網は離島間の連絡もあって比較的発達しており，ジャカルタを中心に香港(ホンコン)・バンコク・マニラ・東京への航路を国営会社が運航している。海運は港湾の整備が進んでいないため船舶保有も少なく，これからの課題といえる。

〔社会・文化〕インドネシアの社会は，デサとよばれる血縁・地縁による村落社会によって規定づけられる。そこでは各種の慣習(アダット)が支配的であり，その下に土地の共同占有，各種生産活動の共同作業など家族主義的相互扶助の制度が存在している。宗教は全人口の90%以上がイスラム教徒であるが，キリスト教・仏教も信仰されている。しかし，その根底にはアニミズム*に基づく稲米儀礼・通婚儀礼などの精霊信仰がある。伝統的農村社会に対し，都市は各種の外来民族が混住し，別個の複合社会を形成している。インドネシア文化は歴史的に，インド・アラビアをはじめ種々の外来文化の影響を受けており，特にヒンズー文化は建築・絵画・彫刻などの芸術に大きな影響を与えた。一方，打楽器で構成されたジャワのガムラン音楽や舞踊のように独自の発展を示すものもある。自然・住民の複雑な構成と同様に，文化も高度な文化と未開文化とが地域により対照的に存在している。〔別技篤彦〕

インドネシアご【インドネシア語】インドネシアの公用語。マレーシア・シンガポールの共通語はマライ語というが，元来は同じ言語である。マライ-ポリネシア語族*のインドネシア語派に属し，その源はスマトラ島東岸リアウ諸島の原住民の言語であるといわれている。古くから島々の間の交易語として用いられ，また，16世紀以降渡航してきたポルトガル人・オランダ人がこれを利用したのでその通用範囲は著しく広がった。1928年ジョグジャカルタで開かれたインドネシア青年会議では，〈一つの国家，一つの民族，一つの言語〉を実現するために，各種族の統一語をマライ語に基礎を置いたインドネシア語にすることが決議された。現在，1億以上の人がこれを理解する。語尾変化はなく語順も比較的自由で，文法は一見単純だが，接辞*の用い方は練習を必要とする。インドネシア語はジャワ語・ミナンカバウ語などの影響を受け，語彙(ごい)・発音はマライ語と少し異なってきている。また，ローマ字*の正書法は両言語において若干の相違があるほか，マライ語では，現在もアラビア文字*が用いられている。〔崎山　理〕

インドネシア語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。《イソップ物語》から

パダ	スアトゥ	ハリ	アンギン
Pada	**suatu**	**hari**	**angin**
に(おいて)	ある	日	風
ウタラ	ドゥンガン	マタハリ	トゥラハ
utara	**dengan**	**matahari**	**telah**
北	と(共に)	太陽	(た)
ブルトゥンカル	シアパ	ヤング	ルビヒ
bertengkar	**siapa**	**jang**	**lebih**
争う	だれ	が	いっそう
クアト			
kuat.			
強い			

インドネシアぶよう【インドネシア舞踊】スマトラ・ジャワ・バリの3系統がある。総じて，演劇と結びついた芸術的舞踊と，土俗的な宗教儀礼的な踊りの両方の要素が混在する。ヒンズー教の影響で，叙事詩《マハーバーラタ*》や《ラーマーヤナ*》が演劇舞踊化され，ガムラン音楽の伴奏で踊られるもので，サルや鳥など動物を模した舞踊が多い。バリ島では仮面を使うことが多いが，他の地域ではあまり使われない。➔ガムラン音楽〔山口　修〕

イントネーション〔intonation〕文音調ともいう。アクセントが単語に付随した声の高低，または強弱の型をさすのに対して，イントネーションとは，文に付随して現われるおもに声の高低変化の型をいう。たとえば〈仕事は終わった〉という文を，なだらかな下降調で発音すれば伝える文(叙述文)になり，末尾をしり上がりに発音すれば尋ねる文(質問文)になるが，このときの下降調やしり上がり調はイントネーションである。同じ文の末尾を下降上昇調のイントネーションにすれば疑わしさを表わす文になる。

イントネーションは話し手の陳述，すなわち聞き手に対する気持ち(伝える気持ち，尋ねる気持ち，疑う気持ちまたは親愛の気持ちなど)，また伝えようとする物事に対する話し手の気持ち(驚き・失望など)の一部を伝える働きをもっていて，話しことばによる伝達の上では重要な役割を演ずる。



女神像
マイソール出土



菩薩頭部　ガンダーラ出土



ラホールにある
アザフ-カーンの墓廟



クリシュナ神像　ラージプト細密画

インド美術

上の例のように文の末尾の部分のおもに高低変化として現われるものと，文全体の音色に変化を与えるもの(たとえば，不満・失望を表わすイントネーション)とがほぼ区別されるようである。また，イントネーションの際の声の高低変化には，しばしば同時に声の強弱の変化，音色の変化，音節の持続時間の変化などが付随している。

インドびじゅつ　【インド美術】　インド美術は，BC3000年ごろからこの地にインド-アーリアン*の侵入したBC1500年ごろにかけて，インダス川流域を中心に栄えたインダス文明*を曙光(しょこう)として，およそ5,000年の長きにわたっているが，ほとんどが宗教に基盤をおいて形成されている。インドで宣揚された宗教は仏教・ジャイナ教・ヒンズー教・イスラム教に大別され，これらの宗教的変遷と造形美術のそれとの関係は，相互に重複していることもあってほぼ一致して展開された。

インド美術の時代区分はおよそ以下の5期に分けられる。

【古代期(紀元前6～紀元1世紀)】　マウリア朝の成立以前の美術活動については，現在ではその実体を明瞭(めいりょう)にしえないが，テラコッタ像や貨幣などが遺存していることによって，多少は行なわれていたことが想像される。一般に，インドの美術はマウリア朝にその端を発し，シュンガ-アンドラ前期へと継続される。仏教美術の活動は，マウリア朝第3代のアショカ王*の時代から開始された。そうした事実は，法勅を刻んだ石柱やヤクシャ・ヤクシー像などの遺品がよく物語っている。この期には，西方，特にアッシリア・ペルシアの文化を積極的に受容したいわゆる宮廷派と，インド古来の技術を踏襲した伝統派の2派が混在していた。次のシュンガ-アンドラ後期に至って，仏教美術はいよいよ盛んになり，この期を代表するものにはブダガヤ・バールフット・サンチーなどの仏塔建築があげられる。これら塔の欄楯(らんじゅん)や塔門に施された浮き彫りの主題には仏伝や本生譚(ほんじょうたん)が最も多く取り上げられ，わずかながらアショカ王ブダガヤ参詣(さんけい)などの史伝話や神話が含まれている。一方，このころから石窟(せっくつ)寺院が開掘され，西インドのピタルコーラやアジャンターの第9・10窟が著名である。この古代期を通じていえる特質は，いまだ仏像が表現されず釈迦牟尼(しゃかむに)を表わすのに塔・菩提樹(ぼだいじゅ)・宝座・法輪などの象徴を多く用いて，礼拝供養の対象に代えていたことである。

【クシャンおよびアンドラ後期(1～4世紀)】　この期は，ほぼ三つの地域に繁栄した美術に識別されよう。すなわち，ガンダーラ美術*・マトゥーラ美術*・アンドラ美術*がそれである。前者はインド西北部のガンダーラ地方，主としてチャルサダ・ペシャワール・マルダン・シクリなどの都市で栄えたローマ芸術の影響を強く受けた美術を称し，またマトゥーラ美術は中インドを中心に仏教の美術活動に花を咲かせた。アンドラ美術は南インドのドラビダ民族が興した王朝で，前二者とは少し異なった性質の美術を創造した。この三者の仏教美術にみる最大の特徴は無仏像時代からの脱出であり，象徴物で表わされていた釈迦に代わって，人間の姿をした釈迦像をつくりだしたことである。その発生をガンダーラとするか，マトゥーラとするかは，いまだに帰一された説をみない。

【グプタ期(4～7世紀)】　仏教美術はこの時代に最盛期を迎え，純然たるインドの理想的な造形美が完成され，多数の傑作が制作された。こうした純インド的美の創造が出現するまでには，前時代のマトゥーラ派の貢献するところが多かった。このように，美の極致を顕現したグプタ朝の美術は，サールナート・ナーランダに影響を及ぼし，さらに中央アジア・中国・東南アジアなどの遠国にまで多大の影響を与え，しかもその系統を継承した様式は8世紀ごろまでインドで続いて行なわれた。西インドでは，アジャンター・エローラなどの石窟寺院が数多く開窟され，またインド南東部に興ったパーラバ美術は次の中世期にまでわたっ

て，その活動を持続していた。

〔中世紀（7～13世紀）〕この期には，各地に多数の王朝が対立した。おもな美術活動には，インド中東部のパーラ期・セーナ期（9世紀～12世紀），南方インドのチョーラ期（9世紀～13世紀）があげられ，そのほかにもいくつかの美術の中心地は存在していた。中世期は，グプタ期末の仏教衰退の経過を受けて，ヒンズー教が台頭しはじめてきた時代である。元来，ヒンズー教はインド-アーリアン民族のベーダ信仰から発展したバラモン教を根底に形成された宗教で，造形美術には関心を示しはしなかったが，仏教美術の造形活動を反映して，しだいに寺院や神像を意欲的につくりだし，いわばヒンズー教美術の黄金期を現出した。現存の寺院は中インドのカジュラーホ，オリッサ地方のコナラク，ブバネスワルなどに多く集中して建立(こんりゅう)されている。

〔イスラム期（13～19世紀）〕この期は，回教徒の侵入によって始まる。イスラム教美術はタージマハールで代表される廟(びょう)や寺院などの建築がその主要な活動を占めており，一般に工芸的装飾美術が付随している場合が多い。また，絵画制作も広く行なわれ，ペルシアの画風を受け継いだムガール細密画が描かれ，インド美術史の内容を豊かにしたことは見のがせない。こうしたイスラム教統治の間にあっても，インドの伝統的美術の活動は各地，主として南インドで継続されていた。〔西岡康宏〕

インドぶよう【インド舞踊】インド舞踊は宗教と密接に結びついて発展してきた。舞踊によって世界を創造したとされるシバ神*をはじめインドのすべての神が舞踊を好み，舞踊は神によって地上にもたらされたと伝えられる。したがって舞踊は神との意志交流の重要な手段となるのである。BC200～BC100年ごろには宗教的・哲学的思想に基づいて，《ナティヤ-シャストラ》とよばれる大系的な舞踊の教典がつくられた。これは他の四つの聖典（ベーダ*）と並んで五大聖典の一つとして尊重され，1～2世紀ごろにはインド舞踊はその黄金時代に達した。舞台芸術として完成されたいまもなお，この宗教性は保持されており，舞踊手は〈この世と踊りの神なるシバ，汝(なんじ)を許したまわんことを〉と見物人にあいさつをして踊りはじめるのがならわしである。

インド古典舞踊には四つの様式がある。軽快急速なカタック（ジャムナ川流域），女性的で優雅なマニプリ（ガンジス川下流アッサム地方），舞踊劇*的なカタカリ（カベリ川流域西部），荘重で宗教的色彩の濃いバラタ-ナッチャム（カベリ川流域東部）である。これらに共通の特徴はムドラー（→印契）という手と指の表現で，指の形が特別な意味をもち，微妙な動きがインド舞踊独特の美を形成するのである。現在，これらの四つの様式はジャベリ-シスターズ，ムリナニ-サラバイ（1956年来日）ら多くの舞踊家によって再興され，世界に広められている。アメリカの舞踊家セント-デニスがインド舞踊にヒントを得てアメリカ-モダンダンス運動を起こしたのをはじめとして，世界の創作舞踊界への影響も大きく，近年インド舞踊への関心は高まっている。〔高橋孝一〕



インド舞踊
インドの古典舞踊として世界的に有名な《バラタ-ナッチャム》

インドぶんがく【インド文学】インドの文学は，その歴史の古いこと，パキスタンを含む広大な地域に使用されている言語の複雑なこと，文学の思想的背景をなしている宗教の多様なことなどの理由によって，きわめて複雑である。言語的にはインド-ヨーロッパ語系とドラビダ語系とに大別せられ，また宗教の面からは，古代のバラモン教・仏教・ジャイナ教，中世のヒンズー教，さらに近世になって移入された回教などは，それぞれ独自の文学をもっている。

インドにおける古代文学は，BC1500年ごろ，インドの西北部に移住してきたアリアン人によってつくられたベーダ文学で，自然神崇拝の宗教的叙情詩を中心とし，最古の文献《リグ-ベーダ》をはじめとする4種のベーダ聖典と，これらに付随する膨大なバラモン教の宗教文学である。BC400年ごろには，文典家パーニニが古典サンスクリット語の基礎を確立して以来，この言語が文章語として長く使用されるようになった。古代文学と中世文学との間には，インドの国民的二大叙事詩《マハーバーラタ*》と《ラーマーヤナ*》があり，のちのインド文学にはかり知れぬ影響を与えた。

中世の古典サンスクリット文学は，仏教詩人アシュバゴーシャ*（1～2世紀）らののち，文豪カーリダーサ*（4～5世紀）の出現によって黄金時代を現出し，叙情詩・叙事詩・戯曲・伝奇小説・説話などの各分野に多数の作家・作品が現われた。一方，ベーダ末期に興った革新宗教である仏教とジャイナ教は，プラークリット語・サンスクリット語により独自の宗教文学を発達させた。

インドの近世文学は，10世紀ごろから台頭し，サンスクリット文学に代わり各地方に方言文学を発達させた。各種の方言文学のうち，おもなものはヒンディー文学・ベンガル文学，南部のドラビダ語系のタミル文学などで，回教徒はペルシア文学系のウルドゥー文学を発達させた。イギリスによる統治後のインド文学は，ヨーロッパ文学の影響を受け，新しい形式や思想を取り入れたが，1947年の独立によってインドとパキスタンが政治的に分かれたあとは，インドはヒンディー文学・ベンガル文学，パキスタンはウルドゥー文学が主流をなしている。〔田中於菟弥〕

インドへのみち【インドへの道】フォースター*の小説（1924）。イギリスの植民地インドを舞台に，インド人の医師アジズとイギリス人の教師フィールディングの友情が，民族間の対立感情によって破綻(はたん)する様相を描き出す。インドの熱気にこもる風土と息づまるような人間関係を叙事詩的に描きながら，個人と民族との関係，西洋の分析的思考とインドの包括的直覚との対照，さらに現実認識の虚妄性など，思想的な主題が象徴的なリアリズムで表現された作品。〔長崎勇一〕

インドよう【インド洋】Indian Ocean 太平洋・大西洋に次ぐ広さをもった三大洋の一。北はインド半島を中心にアジア大陸に接し，マライ諸島とオーストラリア・アフリカ大陸に囲まれる。南極海とはアグリアス岬(みさき)（アフリカ大陸南端）とダントルカストー岬（オーストラリア大陸南西端）を結ぶ線で分けられる。面積7,344万km²。アジア大陸側よりマライ・インド・アラビア半島が突き出し，ベンガル湾・アラビア海を分け，さらにペルシア湾・紅海の湾入がみられる。オーストラリア大陸とアフリカ大陸側には湾入らしいものはみられない。島はマダガスカル・セイロン島のほか大きいものはない。モンスーンの影響で，夏冬には海が荒れ，特に赤道付近に著しい。古くは中近東とインド・中国方面との文化の交流に，スエズ運河の開通後はヨーロッパとアジアとの往来や貿易に，この海洋を通る航路の果たした役目は大きかった。アデン・カラチ・ボンベイ・コロンボ・マドラス・カルカッタ・ラングーンの港市が並んでいる。〔長津一郎〕

インド-ヨーロッパごぞく【インド-ヨーロッパ語族】略して印欧語族ともいう。また，ドイツの学者は，一般に，インド-ゲルマン語族というが，この語族*の研究が主としてドイツ人によって進められたことにもよる。イギリスではアーリア語族といわれたこともあったが，現在アーリアという名称は，インド-イラン語派*の意味でしか用いられない。歴史時代以前には，一つの言語であったことが比較言語学的に証明され，それは，今日，東はインドから西はヨーロッパのほとんど全域，さらに，新大陸の発見とともに，南北アメリカ大陸・オーストラリア・ニュージーランドなどにまで広がった一大言語グループの総称。もとは一つの言語としての印欧祖語を話していた印欧

人の原住地については諸説があり，まだ決定をみるに至っていないが，中央アジア説が最も有力である。この語族の言語は他の語族の言語と比べて，古典語としてのサンスクリット*・ギリシア語*・ラテン語*などのように歴史的・文化的に豊富な遺産をもち，また，世界の有力かつ強力な言語の大部分は，この語族に属する。現在，およそ16億の人間が母国語としているこの語族を構成する語派*・言語は，その使用者の多いものから順に①ゲルマン語派*（5億6,000万人），②インド-イラン語派*（5億1,500万人），③イタリック語派のロマンス諸語*（4億1,000万人），④バルト-スラブ語派*（3億3,000万人），⑤ギリシア語*（1,000万人），⑥アルメニア語（400万人），⑦アルバニア語（300万人），⑧ケルト語派*（300万人）となり，また，⑨小アジアのボガズケイで発見され楔形（くさびがた）文字*で書かれているヒッタイト語，⑩中央アジアのトルキスタンで発見されたトカラ語も死語ではあるが，この語族に含まれる。ただし，②に属するサンスクリット，④に属する古代教会スラブ語・リトワニア語などで，〈百〉のことを，それぞれ，śatám，sŭto，šimtasといい，③に属するラテン語，⑤のギリシア語，①に属するゴート語などで，同じく〈百〉を，それぞれ，centum（cはkの音），（he-）katón，hundといって，前者のs，šと後者のk（k>h）とは音が一致しないが，これは印欧祖語にすでに存在した方言的差異を示すものと考えられ，②，④，⑥，⑦をサテム語，①，③，⑤，⑧，⑨，⑩をケントゥム語とよんで，印欧諸言語を大きく東西に分ける根拠とされる。世界の語族の中で最も精密な比較研究が行なわれ，また，最も正確に祖語の再構成が試みられたのは，印欧語族であり，その研究方法は比較言語学*の規範となって，他の語族の設立に際しても有力な示唆を提供した場合が多い。〔崎山　理〕

インドール　［indole］　C_8H_7N　無色の小葉状または板状の結晶。不純品は特有の強いふん臭があるが，純品の希薄にしたものは新鮮な花のようなかおりになる。コールタール・ジャスミン油などの中に含まれ，腐敗タンパク質中にもある。また腸内消化生成物として排出される。ジャスミン油・ネロリ油などの調合，香料の調合に用いられる。誘導体にはスカトール・トリプトファン・インドール酢酸*・インジゴなどがある。〔石戸良治・荒木洋之助〕

インドール　［Indore］　インド共和国中部，マディヤ-プラデシ州西部の都市。ボンベイとニューデリーの中間に位置する。人口39万5,000（1961）。18世紀初めに建設され，マラータ王国のもとで発展，1818年以後はインドール藩王国の主都であった。現在は地方政治の中心で，小麦・綿花を集散し綿工業が盛んである。北部にはヒンズー教の聖地ウジャインがある。

インドールさくさん　【インドール酢酸】ヘテロオーキシンともいう。植物生長ホルモンの一つで，生長点付近で合成されると考えられる。天然オーキシンのうち植物界に最も広く分布しているもので，オーキシン類の作用力決定の基準とされている物質である。植物体内ではトリプトファンより生成し，植物に対する作用では細胞の伸長促進作用が顕著である。伸長に必要とされる最適濃度は器官・組織によって異なり，それより高濃度ではかえって生長が抑制される。フェニル酪酸・トリヨード安息香酸などにより拮抗（きっこう）的阻害を受ける。→アベナテスト　〔吉田精一〕

イントロダクション　［introduction］　音楽用語。序奏・導入部といわれる。主としてソナタ形式やロンド形式の長い部分の前に置かれるゆるやかなテンポの部分をさす。独奏曲・室内楽・管弦楽を問わずに使われ，ベートーベンの第1交響曲・第7交響曲はその好例である。

いんない　【院内】　秋田県雄勝郡雄勝町の一地区で，雄物川の最上流部の流域にあり，江戸時代には関所が置かれた。江戸初期に銀山が発見され，天保（てんぽう）年間（1830～1843）には毎月銀百貫を産出した記録が残されている。明治中期以降は古河（ふるかわ）鉱業が経営して，1895年（明治28）ごろには最盛期に達し，人口も20,000を数えたが，その後衰退して，現在は休山している。院内石とよばれる凝灰岩が，石材として切り出される。〔浅井得一〕

いんないけいさつ　【院内警察】　衆・参議院の議長が各議院の規律を保持するため，国会法および各議院の定める規則に従い，議院と利害関係を有するものに対して実力をもって命令し，強制する内部警察作用をいう。内部警察権は憲法58条に規定される〈議院の自律権〉に由来するものである。各議院において必要とする警察官は，議長の要求により内閣がこれを派出し，議長の指揮を受けることになっている（国会法115条）。

いんないそうむ　【院内総務】　floor leaderの訳語。アメリカの政党において，議員総会の指名により上下両院にそれぞれひとりずつ置かれ，議場の運営，質問順序の決定，党の規律維持などにあたる役員。議長とともに，政党の議会指導者として，委員会相互の意見調整などにもあたるが，その調整力は限られている。また院内の党の方針として決められた事項は，院内総務から院内幹事，幹事補佐の組織を通じて各議員に伝えられ，党の方針に沿うことを要請される。しかしこの要請は拘束力がないなど，その権限はかなり制限されたものである。〔広部和也〕

いんないゆでん　【院内油田】　秋田県由利郡の南西部，鳥海山のふもとにある油田。1932年（昭和7）に発見され，1938年から開発された。

インナー-キャビネット　［inner cabinet］　小内閣・閣内内閣ともいう。内閣運営の迅速性と統一的処置のために，大臣の中で比較的重要な地位にある者で構成される機関。特に戦時・非常事態時・連立内閣の際，この方法がとられる。イギリスのロイド-ジョージやチャーチルが設けたのが著名。

いんねん　【因縁】　仏教用語で，因と縁，すなわち結果を生み出す内的な直接原因とこれを外から助ける条件のこと。たとえば種子が〈因〉とすれば，それをはぐくむ土壌（どじょう）・日光・肥料・空気などは〈縁〉である。因縁によって生滅することを因縁所生（しょしょう）・縁起*などという。因と縁について，小乗仏教では〈六因四縁〉などの種々なる分析を行なうが，大乗仏教では因縁によって生滅するすべての存在には実体がない，すなわち空*であると説く。なお広義には，因と縁を合わせて因とも縁ともいう。→因果

いんのうすいしゅ　【陰囊水腫】　陰囊水瘤（すいりゅう）ともいう。睾丸（こうがん）を包んでいる睾丸鞘膜腔（しょうまくこう）内に異常に大量の漿液（しょうえき）がたまった状態。睾丸や副睾丸の炎症が原因となることもあるが，はっきりしない例が多い。小児では先天的な原因に基づくものが大部分である。睾丸の自然下降に伴って腹膜の一部が突出し，睾丸が陰囊腔内に収まるとともに鞘膜腔も完成するが，先天的に鞘膜自体が異常であれば漿液分泌も大量となる可能性がある。穿刺（せんし）による排液，手術による治療を行なう。〔大田黒和生〕

インノケンチウス（3世）　［Innocentius］（1160～1216）　ローマ教皇。在位1198～1216年。教皇権を最高度に高め，みずからを〈神の代理者〉と称した。オットー4世の問題で神聖ローマ帝国の皇帝選挙に干渉，フランス王フィリップ2世*の離婚問題を〈礼典停止令〉で妨害し，カンタベリーの大司教の任命問題でイングランド王ジョン*を破門・屈服させるなど，全ヨーロッパに君臨した。悪名高い第4回十字軍*の首唱者でもある。純粋に宗教的な面では，ラテラノ公会議でバルドウス派・アルビ派*を排斥し，フランシスコ会*・ドミニコ会*を公認した。

いんのしま　【因島（市）】　広島県南東部の市。中世には海賊大将軍と名のった村上氏の根拠地となり，明治以降は〈造船の町〉として発展した。1953年（昭和28）市制施行。人口40,000。市域は，尾道（おのみち）の南方沖合いにある芸予諸島東部の因島と西隣の生口（いくち）島の一部を含む。産業三大別人口比は14：49：37。南島部の土生（はぶ）には，明治以降造船業が発達し，日立造船の因島造船所がある。住民はおもに造船所の労働や農業に従事し，一部で漁業が行なわれる。造船労働者の一部はまわりの島々から船で通勤する。尾道や三原とはフェリーボートが通じているが，尾道から因島経由

で，今治(いまばり)(愛媛県)へ橋をかける計画も進んでいる。因島公園，村上水軍の青影城跡，十字観音などの景勝地があり，瀬戸内海観光の要地として知られる。

インパクト-ローン　[impact loan]　後進国開発計画の実施に伴い，間接的に必要となる運転資金の貸し付けで，計画の実施に直接必要な資金を貸し付けるプロジェクト-ローンに対する語。しかし，現在ではプロジェクト-ローンが資金の使途を規制している，いわば，ひもつきの貸し付けであるのに対して，一般に資金の使途を規制しない外貨貸し付けをこの名でよんでいる。近年，わが国の企業が世界銀行*や外国銀行から受け入れている借款のかなりの部分は，この意味におけるインパクト-ローンであって，これらは円資金の調達に用いられている。〔安井孝治〕

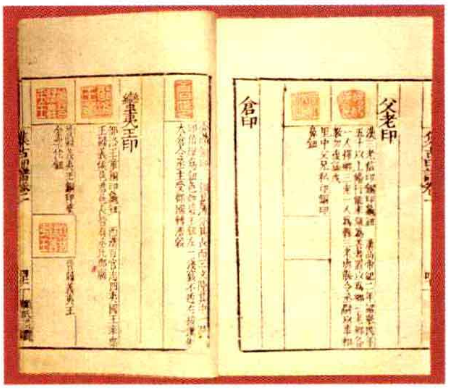
いんばぬま　【印旛沼】　千葉県北部，利根(とね)川に近い位置にあるW字形の沼。台地に囲まれた低湿地に，利根川の運搬する土砂が堆積(たいせき)して，堰止(せきどめ)の地形となりできた。水は北部から長戸川となって利根川に流れるが，利根川が増水すると逆流して沿岸の水田に浸水するため，いまは水門を設けて逆流を防いでいる。水害防止と新田を得るために，江戸時代以来しばしば干拓が試みられたが，1946年(昭和21)からは国営の干拓事業となり，徐々にではあるが進行している。W字形の中央部は干拓されて水田となり，水面は2分して北部調整池と西部調整池となり，中央水路と捷水路(しょうすいろ)が両水面を連絡している。また，水は工業用水として京葉工業地帯へ導水されている。水面積 10km² 余。千葉県立印旛手賀自然公園内にあり，つり場・行楽地としてにぎわっている。〔長津一郎〕

インバネス　インバネス-ケープの略。えりが詰まり，肩まわりにケープのたれさがったそでなしの外套(がいとう)。着用されていたスコットランド北西部の地名にちなんで名づけられたという。わが国には明治初年にはいり，男子の和服の上に着用されて，とんび・二重回しといわれて広く用いられたが，今日では見ることが少ない。

インバネス　[Inverness]　イギリス，スコットランドの都市。同名の州の州都。人口31,000(1965)。カレドニア運河の河口にあり，造船・製鉄・毛織物などの工業が盛んである。1652年クロムウェル*がここに砦(とりで)を築いた。この町で話される英語は純粋の英語だといわれている。

インバール　⇨アンバー

インパール　[Imphal]　インド共和国北東部，アッサム地方の都市。人口10万(1971)。政府直轄地マニプールの中心地で，標高約800mの盆地の中央に位置する。ビルマ国境に近く，ビルマとアッサムを結ぶ交通の要点にあたる。第2次世界大戦中，日本軍はインドでの足場を確保しようとしてビルマから国境の山地を越えてここに進出し，激戦が行なわれたことで知られる。米・トウモロコシの集散地で，手織りのマニプール織りは有名である。〔別技篤彦〕



印　　譜　《集古印譜》万暦印本巻1

インピーダンス　[impedance]　交流電気回路における電流の流れにくさの尺度。記号はZ，単位はΩ(オーム)。回路素子の両端に交流電圧E V(実効値)を加えたとき，交流電流I A(実効値)が流れたとすると，この素子のインピーダンスは$Z=E/I$で定義され，電圧と電流に位相差があるのでZは一般に複素数$R+jX$になる。Rを抵抗，Xはリアクタンスといい，$j=\sqrt{-1}$である。$R=0$，$X=0$の場合，素子は抵抗素子とよばれ，電流Iが流れると，I^2Rジュール/秒(＝ワット)の発熱(有効電力の損失)があり，電気ヒーター，白熱電球であればこの発熱によってフィラメントが灼熱(しゃくねつ)し熱源・光源となる。$R=0$，$X\neq0$のときはリアクタンス素子とよばれ$I^2R=0$であるから熱損失はないが，I^2X バール(Var)という無効電力の損失を伴う。インダクタンス*($R=0$の理想的コイル)では$X>0$なので，$I^2X>0$となり，キャパシター(無損失のコンデンサー)では$I^2X<0$となる。この作用を利用して，交流電気回路の力率調整や，送電網における電圧調整を行なう。力率とは，電圧に対する電流の位相(力率角)θの$\cos\theta$をいい，電圧・電流が同相(抵抗)のとき〔力率＝100％($\cos\theta=1$)〕，$\theta=+90°$(コンデンサー)のとき〔力率＝進みの0％($\cos\theta=0$)〕，$\theta=-90°$(コイル)のとき〔力率＝おくれの0％($\cos\theta=0$)〕という。同期発電機は一つの機械でありながら，数種類のインピーダンスをもつ典型例である。送電系統ではインピーダンス継電器を用いて故障の有無・種類・場所を迅速に検出する。〔田村康男〕

いんぷ　【印譜】　古鉨(こじ)・古印および篆刻家(てんこくか)の刻印を鑑賞研究するために集載した譜録。宋(そう)の徽宗*(きそう)の《宣和(せんな)印譜》4巻をはじめとするが，いまは伝わらない。そののち宋代において幾種かの印譜が行なわれたが，漢・魏(ぎ)・晋(しん)の古印を載せた王俅(おうきゅう)の《嘯堂集古録(しょうどうしゅうころく)》，王厚之(おうこうし)の《復斎印譜》(一名《漢晋印章図譜》)がみられるほかはほとんど現存していない。明(みん)の顧従徳の《集古印譜》によって秦(しん)・漢の官私印が，印文に基づいて捺印(なついん)分類されてから古銅印譜の体裁が整った。そののち清(しん)代に及んで印学の勃興(ぼっこう)と篆刻*の流行に伴い，印譜の作製は増加し，清末において最も盛行した。陳介祺(ちんかいき)の《十鍾山房印譜》が最も名高い。〔中田勇次郎〕

インフェルト　⇨ボルン

インフォーマル-グループ　[informal group]　一定の経済目的のもとに形成される社会組織(フォーマル-グループ)の中に生ずる私的な集団。構成員の心理的交流を基調にした自然発生的集団で，グループの成員は特有の価値観・倫理観・行動様式をもつ。このため，企業的観点からすると，従業員の企業への態度形成に大きな影響を及ぼすことからヒューマン-リレーションズ*の面で問題視されている。〔清水　晶〕

インフォーメーション　⇨情報

インフルエンザ　[influenza]　インフルエンザウイルス*によって起こる感染症。急性で，病変は呼吸器ことに上気道に限局するが，全身症状を伴い，自然に治癒(ちゆ)する。16〜17世紀以来流行の記載があるが，19世紀以降では1889〜1892年と，約2,000万人が死亡したといわれる1918〜1919年の世界的流行が有名である。世界的大流行はまれで，30〜40年の周期があるようにみえる。局地的流行は冬がおもであるが，夏にも起こる。

原因ウイルスは抗原構造からA・B・Cの各型に分けられるが，A型は2〜3年，B型は4〜5年の流行周期をもつ傾向がある。飛沫(ひまつ)感染で，罹患(りかん)するとA・Bとも6〜8か月間の免疫期間をもつが，交差免疫は認められない。病理学的には著明な上皮剝離(はくり)とある程度の上皮壊死(えし)を伴った上気道・気管・気管支の炎症がみられる。潜伏期は1〜2日，発病は急で，悪寒(おかん)・頭痛・発熱・不快・倦怠(けんたい)・食欲不振・筋痛・くさめ・鼻水，鼻咽腔(びいんこう)・喉頭(こうとう)・気管の充満感や刺激症状などの症状がある。せきは乾性で，鼻血・嗄声(させい)・嘔吐(おうと)・胸骨下痛などのみられることもある。熱は38〜40℃に達し，数日続く。呼吸・脈ともに多く，顔面潮紅，結膜・鼻粘膜・咽喉頭などの充血も認められる。普通は3〜5日の経過で回復する。以前は肺炎の合併症が最も多く，胸膜炎・中耳炎・神経炎などの合併症もみられることがあったが，最近は少なくなっている。診断は流行時には臨床症状から容易であるが，散発的感染の場合には困難である。普通感冒・急性上気道感染・呼吸器疾患，その他の急性伝染病の初期などとの鑑別を要する。予後は健康者が罹患した場合は良好だが，栄養不良・衰弱・慢性疾患・高齢者などでは合併症を起こしやすく，化学療法

を行なわなければ予後不良である。

予防としてはワクチン接種が効果があるが，流行株を用いたワクチンでないと効果が少ないのが難点である。治療は，ウイルスそのものに有効な薬剤はまだ一般的でないので対症療法を行なう。発熱期には安静臥床(がしょう)，下熱・鎮痛剤の投与，十分量の水分補給などを行なう。〔国井乙彦〕

インフルエンザウイルス　［influenza virus］　ミクソウイルス群に属し，主として球状で，直径80〜120mμの中型ウイルス。遺伝子としてはRNAをもつ。内部のらせん状のRNA-タンパク質複合体を，被膜が包んでいる。この内部構造の抗原性によって，A・B・Cの３型に分けられ，被膜の抗原性によって，さらに細かくA・A_1・A_2などに分類されている。ヒトに対しては，おもに呼吸器官を侵すが，脾(ひ)・肝臓からもウイルスが分離されている。サル・ブタ・マウスなども感染する。実験室では，おもに発育中の鶏卵で培養される。〔石川　彬〕

インフレギャップ　inflationary gap の略称。資本ストックや労働などの資源がすべて稼動(かどう)ないし雇用された場合に達成されうる総供給よりも現実の総需要が大きい場合，そのギャップをインフレギャップという。このギャップは完全雇用が行なわれていると仮定される場合の貯蓄水準に比べて，現実の投資水準がより高い状態にある場合に生ずるのであって，こうした需要の超過がある場合には当然経済はインフレ状態になる。本来，完全雇用国民所得水準はその経済の達成しうる実質産出能力の最高水準であるから，この水準を越える需要圧力があるならば，実質的な国民生産物の上昇はありえず，当面それはそのまま物価水準の一方的上昇のみをひき起こすことになる。インフレギャップに対する語をデフレギャップといい，両者を比較分析することによって経済変動を説明しようとする方法をギャップ分析という。〔富田重夫〕

インフレーション　⇨480ページ

インプレストシステム　［imprest system］　定額資金前渡し制度。現金の受け渡しに伴う危険や保管の不備を補うために，一般には小切手を使用するが，小額の支払いのためには，用度係または小払い係に小切手(銀行で現金に替える)を前渡して，そこから交通費や通信費などを支払うほうが便利である。この前渡し金を小口現金とよぶ。会計係では，この小口現金制度を採用し，一定期間(たとえば１か月)の支払い予定額を小切手を振り出して用度係または小払い係に前渡しし，期末(ここでは月末)に実際の支払い額を報告させ，それと同額をすぐに小切手で補給する制度である。このため，期首(ここでは月初め)には，用度係または小払い係の手もとにいつも一定額が保有されることになり，責任上・管理上効果がある制度である。〔山桝忠恕〕

いんぶん　【韻文】　韻を用いた文章。一般には一定の音楽的リズムをもつ言語文章をいい，散文に対して用いられる。日本の伝統的詩歌である和歌・俳諧(はいかい)などは，音数律を中心とする韻文である。ただし，韻文と詩とは必ずしも同義ではない。韻文であっても標語や語呂(ごろ)合わせは詩でないし，内面的リズムによる散文も詩である。

いんぺいきおく　【陰蔽記憶】　フロイトが用いた精神分析学上の概念。幼児期の不快な体験や外傷体験はしばしば無意識の世界に抑圧されてしまうが，この抑圧された記憶が後年の類似経験と複合され，新しいものの下に陰蔽されて想起される場合をいう。たとえばゲーテは《詩と真実》の中で，台所から食器類を家の外に投げ出すいたずらをしたという幼児期の断片的な記憶を伝えているが，フロイトはこの記憶について，弟のヤコブを家からほうり出したい，〈死んでしまえ〉という強い衝動をいだいていた幼児期体験を陰蔽し，それを代理してこのように記憶していた，と分析している。〔鈴木敏生〕

いんべし　【斎部氏】　はじめ忌部と記した。アメノフトダマノミコトを祖神とし，中臣(なかとみ)氏とともに代々大和(やまと)朝廷の神事をつかさどった氏。令(りょう)制では，天皇践祚(せんそ)の日には中臣が祝詞(のりと)を読み，忌部が幣帛(へいはく)を班(わか)つと定められた。姓(かばね)は首(おびと)，のち連(むらじ)を経て宿禰(すくね)となる。中臣氏に押されて衰え，８世紀以降両氏はしばしば衝突した。９世紀初頭，斎部広成(ひろなり)は《古語拾遺》を著わして自家の優位を主張したが，結果はむなしかった。〔黛　弘道〕

いんべのひろなり　【斎部広成】　生没年不詳。平安初期の官人。807年(大同２)平城(へいぜい)天皇の求めに応じて《古語拾遺》を著わした。神代以来の旧事で〈記紀〉に漏れ，自家にのみ伝わる説話を掲げ，祖神アメノフトダマノミコトの功業を特に強調し，８世紀以来の中臣(なかとみ)氏の非法を列挙してその改正を請うた。これは中臣氏に押されてふるわない斎部氏の勢力回復をねらったものであったが，その結果は思わしくなかった。〔黛　弘道〕

インペラトル　［imperator］　ローマ共和政時代，部下が軍司令官にささげた称号。野戦状態における無制限の命令権(インペリウム)の所有者の意。カエサルは終身この称号を用いた。のちアウグストゥスのときから軍司令官でなくプリンケプス(元首)がこの栄冠を受けるようになり，皇帝は必ずインペラトルとよばれた。英語のエンペラーの語源である。

インペリアル-ケミカル　⇨ＩＣＩ

インペリアルバリー　［Imperial Valley］　アメリカ合衆国西岸，カリフォルニア州東南端にある谷。谷底にはソルトン湖がある。標高は低く，大部分が海水面下の土地である。雨が少なく気温が極端に高いので，一帯は砂漠(さばく)になっているが，現在ではコロラド川から運河を引いて40万ヘクタールを灌漑(かんがい)し，日本人・メキシコ人・黒人などが綿花をはじめ野菜・果樹を栽培し，アメリカ全土に移出している。

インベルターゼ　［invertase］　ショ糖を加水分解してブドウ糖と果糖にする酵素。サッカラーゼ・転化酵素ともいう。動植物・微生物界に広く分布しているが，特に酵母菌のものは歴史的に有名で，酵素学の発展に重要な役割を果たした。たとえば，一般に酵素は一定のpHのときに活性は最も高くなるが，pHの測定の困難な時代にこの酵素を使って液のpHを逆に推定するなど，酵素反応の研究にいろいろな貢献をした。➔酵素〔井坂三郎〕

インベンション　［invention］〈創意〉〈着想〉を意味する主としてドイツの音楽理論上の用語。インベンションは生まれながらのものとされながらも，音の組み合わせや変形，あるいは歌詞の処理によって得る方法が説かれている。また楽曲の表題として16世紀から使われており，特別な作風や新奇さのある楽曲につけられている。しかし，最も有名なのはJ. S. バッハが1723年に書いた２声・３声各15曲のクラビア曲集で，単一な楽想が全体の構造にまで発展する意味でこの題が使われており，演奏技術・作曲技法にとってすぐれた教材となっている。20世紀の作曲家によってこのバッハの意味でインベンションと名づけられた曲が多く書かれている。〔徳丸吉彦〕

インベントリー-ファイナンス　［inventory finance］　国家の在庫手持ち資金を租税など経常財源でまかなうこと。たとえば，貴金属を買い入れて手持ちするための資金を，一般会計から貴金属特別会計への繰り入れで行なうこと。日本銀行からの借り入れや短期債券の発行によって資金を調達する場合には日銀券の増発によってインフレーションを招きやすいが，この場合はデフレ的な圧力が働く。わが国では，第２次世界大戦後のインフレ収束のため，1949年(昭和24)度予算においてはじめて採用された。これは，ドッジラインの一環である総合収支均衡財政の一つの重要な要素であった。その後，朝鮮動乱後の輸出の激増により国際収支が大幅な受け取り超過となったときも，貿易面からのインフレ要因を財政で消すために，外国為替(かわせ)資金特別会計からの支払い円資金を一般会計からの繰り入れによってまかなったことがある。しかし，国民生活向上のための財政需要の増大が要請されたことなどから，1953年度以降は行なわれていない。〔池内得二〕

インボイス　［invoice］　送り状。貿易に必要な船積み書類の一つで，輸出者が商品名・数量・価格など，取引上必要な諸事項を記入して輸入者に送付する。送付する商品

の明細書・計算書であるだけでなく，為替(かわせ)手形の金額や保険料の決定に際して必要であり，また輸入地での通関手続きの際には税関に提出しなければならない。

いんぼう【陰謀】政治行動の一形態として最も原始的なもの。しかし今日の政治でも，なお一定の役割を果たす。すなわち古代，封建諸国家では*権力をめぐる争いは，現代政治のように公然たる政策，党派的抗争の形態をとることよりも，少数特権者の*派閥，努力家の集団による隠密な術策の形をとる。宮廷陰謀はその典型的なものである。骨肉相争う激しさ，あるいは政略結婚，だまし討ち，裏切りがくり返される。しかし政治的自由がしだいに確立され，政治行動が大衆的動員を伴うに至ると，この種の陰謀は政治の主要手段ではなくなる。もちろんなお十分に近代国家における政治的自由の実現されない段階ないし国家では，たとえばフランス革命のときのバブーフの反乱陰謀，あるいは今日の南米・アフリカ・中近東・アジアの諸国での*クーデター企図のように陰謀はなお地下活動・非合法諸運動など，関連した政治行動の形態として用いられる。〔鈴木安蔵〕

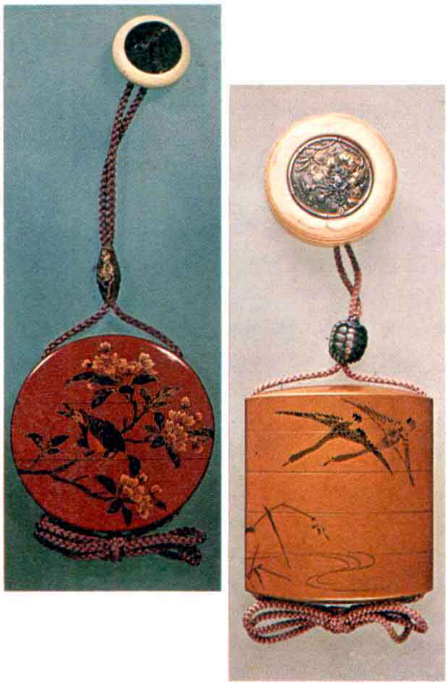
インポテンツ［Impotenz］陰萎(いんい)，性交不能症ともいう。陰茎の器質的な理由によるものは先天的な奇形(矮小(わいしょう)・尿道上裂・尿道下裂)，外傷性の欠損，瘢痕(はんこん)性萎縮などがある。神経機能の不全によるものとしては交通事故などで脊髄(せきずい)損傷を受けた場合や，糖尿病，あるいは性ホルモンの異常，薬物中毒がある。過労・嫌悪(けんお)・羞恥(しゅうち)などの精神的な理由で勃起力(ぼっきりょく)を失うことも少なくない。早漏を伴う場合もある。一般に高齢者や重病人にみられる。〔大田黒和生〕

インボリュート ⇨伸開線

いんぽん【院本】中国で南宋(なんそう)時代，北方の金で行なわれた演劇のこと。北宋の*雑劇を継承したもの。金代の俳優の演技所を行院といい，そこで使う脚本を院本といったことからこの名がある。わが国では丸本(→丸本歌舞伎(かぶき))をいうことがある。

いんみょう【因明】梵語(ぼんご)hetu-vidyā(ヘートゥビドゥヤー)の訳。仏教の論理学をいい，五明(5種の学問)の一つにあげられる。古く《方便心論》に説かれ，*アサンガ(無着)・*バスバンドゥ(世親)によって整理・発達をみた。これを古因明という。古因明では宗・因・喩(ゆ)・合・結の5段からなる五分作法を用いて論証した。5世紀前半ごろディグナーガ(陳那(じんな))が現われ，従来の五分作法を改めて三支作法に整えた。三支作法の形成は，①宗：論証する命題(断案)，②因：成立理由(小前提)，③喩：具体的例証(大前提)をもつ。これを新因明という。〔北条賢三〕

インムニテート［Immunität］公吏不入権。フランク王国では，王領と特別の教会領は裁判・課税を受けない権利をもっており，7世紀にはほとんどの教会領で一般化した。のちこれが世俗貴族すなわち封建領主の所領に対しても与えられ，領主は国家の官吏の立ち入りを拒否する治外法権をもち，領民を私有民とするようになり，こうして封建社会の地方分権が成立した。



印　籠　(左)花鳥漆絵印籠　(右)飯塚桃葉(観松斎)作　芦雁蒔絵印籠　東京国立博物館蔵

いんもう【陰毛】外陰部にはえる毛で，思春期になってからはえるので腋毛(えきもう)，および男性のあごひげとともに性毛とよばれる。男性では陰嚢(いんのう)・陰茎基部・下腹部にはえ，女性では大陰唇(だいいんしん)の外側から恥丘にかけてはえる。陰毛は縮毛を呈し，その断面は腎臓(じんぞう)型もしくは三角形をなしている。陰毛がすべてあるいはほとんどみられないものを陰毛発育不全症といい，女性に数パーセントみられる。

いんゆ【隠喩】⇨比喩

いんよう【陰葉】*陽葉の対語。弱光のもとで陽葉より大きな純同化量をもち，純同化量の最大値に達する同化器官。クチクラ層は薄く，柵状(さくじょう)*組織の発達が悪く，海綿状*組織が厚い。一般に植物個体の北側や下層の枝などの日陰に育った葉に，この傾向が強い。➔陰生植物➔陰樹➔光合成

いんようごぎょうせつ【陰陽五行説】⇨陰陽説　⇨五行説

いんようせき【陰陽石】男女の性器の形に似た石。自然の岩石と人工の石像の2種がある。金精神・金精様・道祖神・塞神(さえのかみ)とよんで信仰の対象とし，全国に分布している。陰陽石というが，実際には男性を象徴するものが圧倒的に多い。性器崇拝の信仰は世界的にみられる現象であるが，人間の生殖作用と農作物の繁殖を関連づけて考えたために，その象徴を信仰するようになったのであろう。わが国で古代からあった習俗かどうかは不明である。子授け石・子種石・孕石(はらみいし)などとよばれるのは子宝を祈願するからである。〔今野円助〕

いんようせつ【陰陽説】陰陽はもと日陰とひなたのこと。《*易経》の解釈学の用語に取り入れられて，宇宙・人事を理解するための重要観念となった。これによれば，陰陽は屈伸・動静・生死・天地・春秋や君臣・上下，さらに精神と肉体，善悪・賞罰など，*気の自己運動の2契機として，互いに対立・依存・交替しながら，宇宙・社会および各事物の成立・変化の基礎となっている。陰陽説は対立や変化を認めながら，全体としては調和論的世界観に立っている。
➔五行説〔西　順蔵〕

いんりつ【韻律】音楽・舞踊はもちろん，自然現象にもリズムといえるものがあるが，韻律とは言語上のリズムをいう。詩歌などの韻文には必ず韻律があり，その種類は多い。ことばの強弱・高低・長短などがその要素で，たとえば英語ではことばの強弱を一定の間隔でくり返すことによって韻律が形成されるが，日本語では音節の長さを一定に保つことによって生まれ，五七調などはその一例である。

いんりょうすい【飲料水】飲料または家庭用水に適する水のことで，一定の基準が決められている。わが国においては上水道に対しては水道法(1958年7月16日厚生省令第23号)によって規定されており，また一般飲料水に対しても判定標準案が作成されている。➔水質基準

いんりょく【引力】物体が空間を隔てて，互いに引っ張り合う力。*ケプラーは惑星の運行を太陽の自転によって引きずられて起こるものと考えたが，*ニュートンはすべての物体は互いに〈万有引力の*法則〉に従う引力を及ぼし合っていることを説いた。引力には，①万有引力(重力を含めて)，②クーロンの*法則で示される電磁気的な引力，③分子間力，④原子核内での核力などがある。なお，物体が空間を隔てて互いに反発し合う力を斥*力という。〔今淳治郎〕

いんれき【陰暦】⇨太陽暦

いんろう【印籠】もと武士が裃(かみしも)を着用した際，携行薬を入れて腰帯につけた装身具。江戸時代中期以降は常服にも用いられ，身分の上下を問わず一般に愛用された。その名称は，室町時代に中国から移入された印章入れに基づいて考案されたことに由来する。印籠は皮・象牙(ぞうげ)・木でつくり，蒔絵(まきえ)・象嵌(ぞうがん)・金銀細工・彫刻・堆朱(ついしゅ)などの多彩な技法を用いて秀抜な意匠を凝らし，印籠師として多数の名工を輩出した。なお，紐(ひも)締めに用いる緒締め玉と，腰帯につけるための根付けが付属する。〔河田　貞〕

インフレーション
［inflation］

一般には物価の上昇がある期間継続して起こったとき，その物価の上昇現象に対して用いられる用語である。

【形態および実態】《悪性インフレーション》最も典型的なインフレーションの事例はしばしば戦争直後に見いだされる。日本の場合を例にとってみると，第2次世界大戦中に強い価格統制によっておさえられていた物価が，戦争終了を機会に急速に上昇した。たとえば1945年（昭和20）の卸売物価水準を1と置いてみると，それからわずか3年後の1948年にはそれが35.9となり，卸売物価は約36倍にはね上がってしまった。さらにその3年後の1.51年には96.2となり，約96倍になったのである。わずか6年の間に物価が96倍近くになった。このようなことは，これまで日本国民が経験したことのない物価上昇である。しかし，この物価上昇はそのあとは落ち着きを取りもどし，10年ほどたった1962年の物価水準は98.3と，10年間にわずかに1,02倍にしかなっていない。この戦後6年間における異常な物価上昇は明らかにインフレーションといわれる現象である。このようなインフレーションは単に日本だけでなく，ヨーロッパ諸国でもみられたし，また第2次世界大戦直後だけでなく，第1次世界大戦直後にも生じた。第1次世界大戦直後のドイツでは，あまりに物価上昇が激しいので，賃金を支払うのに朝・昼・夕と3回に分け，そのたびに賃金支払い額を引き上げなければならないほどであった。

《クリーピング-インフレーション*》インフレーションは戦争直後だけでなく，平常時にも出現する。この場合はしばしば戦争直後ほど激しくはない緩慢なインフレーションが発生する。事実，多くの先進工業国では，物価は落ち着いているわけではないが，そうかといって，みるみるうちに上昇していくというほどでもない，という現象がみられた。日本を例にとると，1961年における消費者物価水準は，1963年を100としたとき，87.0という数値になっている。それが1968年には127.5となっている。これは消費者物価水準がこの7年間に40.5％上昇したこと，すなわち毎年5.8％のスピードで消費者物価が上昇したことになる。これなどは第2次世界大戦直後における物価上昇に比較すれば問題にならないほど小さい上昇率である。しかし，一般的にみて物価が毎年約6％で上昇するという事態は決して遅いとはいえない。たとえば，銀行に預金をして年利5.5％の利子を受け取る人は，10万円を預金したときに1年後に10万5,500円を手にするが，10万円の消費財はそのとき10万6,000円に上昇し，通貨価値の目減りが起きている。やはりインフレーションである。このような過熱しないインフレーションを〈忍び寄るインフレーション〉（クリーピング-インフレーション）という。これに対し，年率にして10％とか20％というような激しい物価上昇の場合は〈駆け足のインフレーション〉といわれている。国によって程度は異なるが，1973年の原油価格の大幅な引き上げのあとしばらくの間，先進工業国はこのタイプのインフレーションに悩まされた。

いま，インフレーションの実態をみるために，代表的な先進工業国の消費者物価上昇率をみると下表のようになる。

それぞれの物価上昇率をみると，そこに共通した現象がみられる。それは1961年からの10年間における物価の年平均上昇率よりも1971年からの10年間の年平均上昇率が各国を通じて高いということである。70年代にはいってからの原油価格上昇も手伝って先進工業国の物価が一般に上昇傾向を強めているが，70年代の国際状況のもとではある程度避けられない結果であった。一般的にはその国の定期預金金利よりも速いスピードで物価水準が上昇していくような事態になったとき，そのインフレーションは〈忍び寄るインフレーション〉から〈駆け足のインフレーション〉へ移行したと考えるべきであろう。

【原因】《有効需要と国民総生産》インフレーションの基本的原因は，その国の経済の生産物全体に対する需要が，その経済が生産する生産物全体よりも大きいところにある。一国の経済では毎年数多くの種類の生産物が多量に生産される。この生産物の総量は，その国に住むすべての人々が全体としてその1年間につくりだした生産物の総量という意味で国民総生産*（GNP）といわれる。これに対し，その経済では毎年その国に住むすべての人々がいろいろな生産物を需要し，それらを市場で購入する。通貨に裏打ちされた需要をその国全体として合計したものは，その国の購買力に裏打ちされたその国全体の需要という意味で，有効需要*といわれている。もしこの国民総生産と有効需要とが等しいならば，物価上昇の基本的な要因はなくなるであろう。もし国民総生産が有効需要を上回るようなことがあるならば，市場へ出て来る人々が購入したいと思っている生産物の総量は，生産者から市場へ出回ってくる生産物の量よりも少なく，売れ残りが出るようになり，物価は下がらざるをえなくなる。どの程度下がるかは，需要が生産をどの程度下回るかに依存することになる。国民総生産が有効需要を下回るとき，それとまったく逆のことが生じる。この品不足状態は物価を上昇させる圧力として作用し，従来の売れ残り部分を売り切ったときには文字どおり物価は上昇してしまう。

このように，国民総生産の大きさと有効需要の大きさとの相対的な大小関係によって物価上昇の程度が左右される。したがって，インフレーションはなぜ起きるかといえば，それは国民総生産と有効需要との間のギャップがたえず起きているからである。生産の増大していくスピードよりも，需要が増大していくスピードのほうが大きければ，いつでも市場には生産物にありつけない需要が滞留し，それがインフレーションをひき起こす。もちろん，市場で即座に生産物にありつけなくても，注文すればいずれは入手できるであろうが，インフレーション過程では注文から入手までの期間がどうしても長くなる。注文に生産が追いつけないからである。そして極端な場合には，いくら注文してもそれを入手できないということが起きる。買い手のほうも価格を引き上げてでもいいから入手したいということになるかもしれない。もし生産設備が完全に利用され，フル運転されているとすれば，生産はそれ以上ふやすことができない。しかもなお需要は市場にあふれているとすれば，物価は著しく上昇することになる。大戦の直後などは生産設備そのものが戦争で破壊されているために，インフレーションはきわめて激しいものになる。

また，かりに生産設備が十分にあっても，労働力がすべて完全に雇用されており，労働力不足のためにそれ以上生産を増加させることができないとしたら，やはり同じようなことが起きてくるであろう。このように，生産設備の不足，労働力の不足，原料の不足などは，生産量の増加を妨げる重要な要因である。そして，このうち労働力の不足と原料不足は新しい技術の発展とともに緩和される可能性がある。労働力や原料を節約する技術はつねに新しく開拓されているからである。しかし設備不足というのは技術では解決されない。ともかく設備をつく

列国の消費者物価上昇率

	アメリカ	日　本	西ドイツ	フランス	イギリス	イタリア	カナダ
1961−70	2.8	5.8	2.7	4.0	4.1	3.9	2.7
1971−80	7.9	9.1	5.1	9.7	13.8	14.1	8.1
上昇率格差	+5.1	+3.3	+2.4	+5.7	+9.7	+10.2	+5.4

らなければならないのである。他方，新しい技術を取り入れるときには新しい設備をつくらなければならない。そうすると，いずれにせよ，生産設備をつくることだけはどうしても必要となる。この従来の型の設備をつくることや新技術を取り入れた新しい型の設備をつくることを投資*とよんでいる。そうすると，その国の生産量の増大は，投資によって生産設備をふやすことによってはじめて可能になるということがわかる。

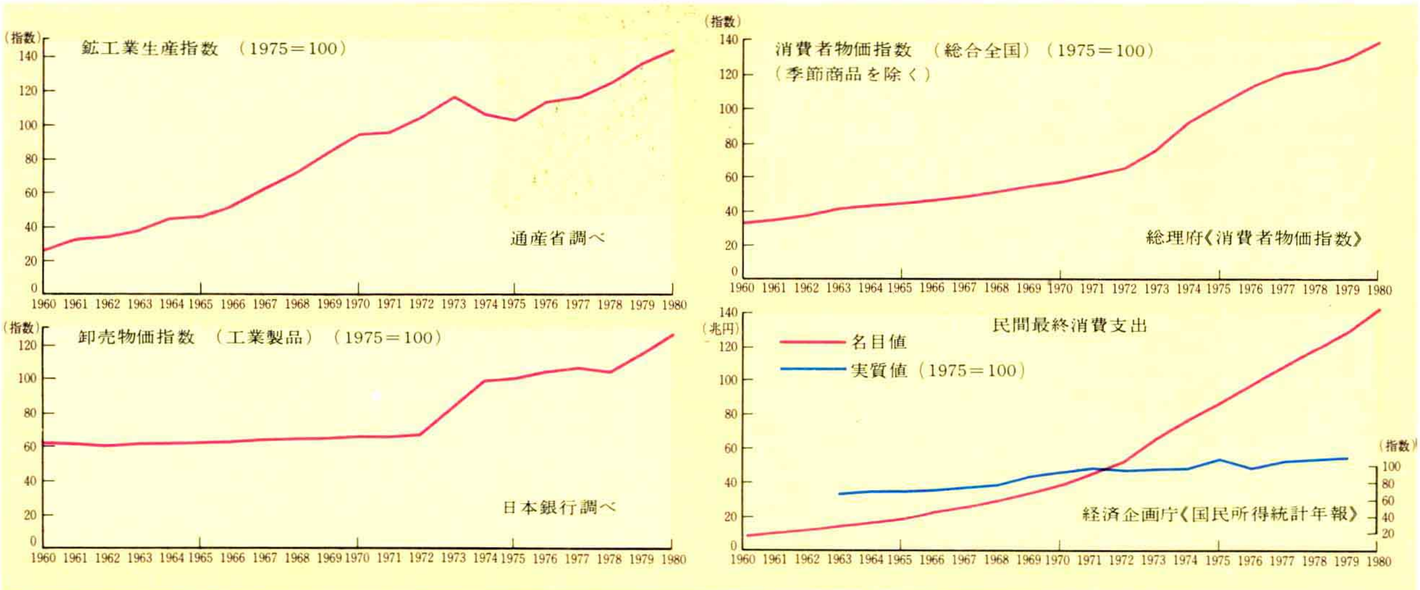
では生産に対し需要の方はどうであろうか。需要の中身はいろいろである。洗たく機のような耐久性のある消費財もあれば，食料品のような耐久性のない消費財もある。さらに原材料もあれば工作機械もある。あるいは政府が購入する資材もあるだろうし，外国のバイヤーが購入するテレビセットや雑貨もあるであろう。その国の生産物市場へ出現するあらゆる需要がここでいう需要である。これらは大きく分けると消費需要・投資需要・政府需要および外国需要となる。

これらの需要はさきにいったように通貨によって裏打ちされていなければならないから，需要が増加しているときには通貨の発行量も多くなってくる。この点に特に着目するとき，通貨発行量とインフレーションとの間には密接な関連があるという考え方が出てくる。たとえばアメリカの研究事例によると，過去において物価上昇がみられたときには必ず通貨発行総量が同じように上昇し，物価下落がみられたときには必ず通貨発行量が減少している。その事実から推して，金融機関による通貨の発行はインフレーションとかなり密接な関係があるといってさしつかえない。もちろん，いろいろな生産物に対する需要は単に購買力(通貨)をもっているからというだけでは増加はしない。しかし，事実としては需要増大と通貨発行総量の増大とは，市中銀行からの民間への貸し出しと中央銀行からの政府への貸し出し(政府の赤字財政)を通じて密接につながっている。

ここから，通貨発行総量を調節することによってインフレーションをおさえることができるという考え方が出てくる。この立場に立つ論者は，インフレーションをおさえるには通貨発行をおさえるしかなく，個々の生産物の価格をおさえてもなんの役にもたたないと思っている。政府が個別に一つ一つ価格を調べてそれを低くおさえておこうとしても，需要は別な生産物へ向かっていくだけのことであり，物価上昇は依然として続くであろうというのである。この立場では，政府の行なういかなる価格形成過程への介入にも反対することになる。

《コストプッシュ説・デマンドプル説》 以上のような考えに対し，インフレーションについてまったく別な見方，インフレーションが起きるのは必ずしも有効需要が国民総生産を上回るからではないとする立場がある。過去における物価の動きを取り上げてみると，それはきわめて特徴的で，その上昇は継続的であり，景気の動向とあまり関係がない。もし有効需要が国民総生産を上回ることによって物価が上昇するのであるとすれば，有効需要が国民総生産を下回るときには物価は低下しなければならないはずであり，景気が悪いときには，市場では生産物の供給に比して需要は相対的に不足するという状態が出現するから，物価が下落するのは当然のことと考えられる。しかし現実には，たとえ景気が悪くても，物価は低下しない場合がしばしばみられる。この事態は，有効需要が多すぎる，あるいは少なすぎるから物価が上昇する，あるいは下落するという主張とは明らかに矛盾する。

図-1は日本の工業製品の卸売物価と鉱工業生産の動きを示すが，これによると卸売物価は1960年から72年まで安定している。しかし，それ以後はゆるい上昇期と激しい上昇期の交替を示している。これに対して鉱工業生産は1973年から2年間かなり強い低落をつづけた。卸売物価のゆるい上昇期はそれとともに出現しているが，それは工業製品に対する生産企業相互の間の需要を中心としてかなり低下し，それが生産低下に結びつき，その低下が生産企業の工業製品需要を低下させたためである。それでも卸売物価は下落はしなかったのである。それは一般的にいって，国内の有効需要と国民総生産との間にギャップがあっても輸入原材料価格や賃金などがなかなか低落しないことにも一つの原因がある。また，図-2は消費者物価と消費支出の動きを示しているが，一見して明らかなように，消費者物価指数は1973年ごろを起点としてしだいに急激な上昇カーブを示しているが，消費支出も1973年から金額的にかなり増加テンポを強めている。しかし，1976年における実質消費はほとんど73年と同じである。これは73年における原油価格の大幅引き上げが消費財価格を急速に上昇させた結果である。コストプッシュ・インフレーションの様相がそこにはっきりとでている。1977年からは，1971－73年頃の実質消費の動きと類似した状態に戻っているが，インフレーションの進行状態は相変らずであり，1973年以前のようにはなっていない。金額的にみた消費支出(需要)は図に示されているように一直線で上昇している。それに対応して消費者物価の上昇もまた73年以前の状態には戻っていない。➔物価問題〔渡部福太郎〕



う

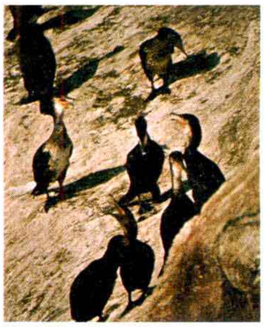
う【鵜】 鳥類・ペリカン目・ウ科の水鳥の総称。世界に30種,わが国にはウミウ・カワウ・ヒメウ・チシマウガラスの4種が生息している。ペリカン目の鳥の足指は，4本ともその間にみずかきがあるのが特徴で，全蹼(ぜんぼく)目ともいわれた。ウの類はいずれも細長いくびをし，上嘴(じょうし)は先端がかぎのように曲がっている。あしを前後にかいて,泳行・潜水して魚を捕える。尾は非常にかたく，かじの役目をしている。

ウミウ・ヒメウ・チシマウガラスは春夏季に海岸のがけや岩場で，カワウは内陸の湖沼付近のスギ・マツ林の樹上で冬季に，いずれも集団で繁殖する。わが国ではカワウとウミウが最も普通にみられる。カワウ・ウミウはともに水鳥としては羽毛が長く，ぬれやすい性質があるため，岩上で翼を広げて日にかわかしている風景がよく見られる。長良(ながら)川の鵜飼*で有名なウはウミウであり,頸部(けいぶ)をひもで絞めて，水中で捕えたアユがたまるようにしてある。ペルー沖のフンボルト海流はカタクチイワシの一種が非常に豊富で，この魚を主食にしているグアナイヒメウが何百万羽という大群で繁殖している島があって，昔からのふんが層をなしており，それを掘り出して窒素肥料グアノ*を産出している。 〔安部直哉〕

う【羽】 中国・朝鮮・日本の音楽理論用語で，五声(5音音階)すなわち宮商角徴羽の第5音である。宮の長六度上のものを律羽，短六度上のものを俗羽(都節の羽)といって区別することもある。

う【禹】 中国の神話上の聖天子。殷(いん)のまえにあったという伝説的王朝の夏(か)の始祖とされる。堯(ぎょう)・舜(しゅん)の世に大洪水(だいこうずい)が起こり,禹の父の鯀(こん)が治水を命ぜられたが失敗したので，禹が代わって苦心のすえついに成功した。中国を九つの州に分け，納税制度を定めるなど治績をあげたため，人望を得て帝位についたという。この話は史実ではなく，世界共通の天地開闢(かいびゃく)伝説・洪水伝説の一種と考えられている。 〔日比野丈夫〕





ウ

(上)カワウ

(下)ウミウ



ウイキョウ

ういきょう【茴香】 双子葉植物・セリ科。ヨーロッパ南部原産の多年草で，温帯各地で広く栽培される。わが国では北海道・長野県などで栽培されている。高さ1～2mに達し，茎はなめらかな緑白色で中空である。葉は3～4回羽状に細かく分裂し，葉柄の基部が広くなっていて茎をいだく。夏から秋にかけて，枝先に黄色の小さな花が集まって大きなかさ状の花序をつける。植物体を傷つけると強いにおいがする。果実を乾燥させたものが生薬の茴香で，漢方では芳香・健胃・駆虫・去痰(きょたん)薬として用いる。また，香辛料として，魚料理のソースなどに使われる。

ウィクセル [Johan Gustaf Knut Wicksell] (1851～1926) スウェーデンの経済学者。ウプサラ大学で数学を専攻中から新マルサス主義に傾倒し，急進的な思想家として筆をふるった。その後経済学に関心をもち，1893年，43歳のとき最初の労作である《価値，資本および地代》を著わし，続いて《利子と物価》(1898)，《国民経済学講義》(1913～1922)を発表した。晩年には南部スウェーデンのルンド大学で経済学の講義をしている。《価値，資本および地代》はリカード*に始まる労働価値説を批判しつつワルラス*の一般均衡理論を再構成し，これにオーストリア学派*の資本理論を接合しようと試みたものである。また,《利子と物価》は従来の素朴(そぼく)な貨幣数量説*に代わる，すぐれた貨幣分析として評価されている。ウィクセルの理論の特質を継承して北欧学派*が形成され，ダビットソン・ミュルダール*らの経済学者がその流れを継いでいる。 〔松浦 保〕

ウィクリフ [John Wycliffe] (1320ごろ～1384) イギリスの神学者・哲学者。宗教改革の先駆者で,〈宗教改革の暁星〉とよばれる。貴族の生まれでオックスフォード大学に学び，のち同大学の教授。聖書を唯一の権威とする立場から，教皇を反キリストとして弾劾(だんがい)するなど，カトリック教会の教義・制度を激しく批判，真の福音を説く百数十編の著作を公にした。存命中は国王をはじめ有力者の保護があったので無事であったが，死後，コンスタンツ公会議(1415)によって異端を宣言され,遺体・著書を焼かれた。彼は最初に聖書を英訳し,〈聖書の人，ロラーズ(lollards)〉とよばれる一群の人々を生み出して国内に大きな影響を与える一方，ボヘミアのフス*にも深い感化を及ぼした。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

ウイグル [Uighur] トルコ系民族。中国では回鶻(かいこつ)・回紇(かいこつ)・畏兀児と書く。はじめ外モンゴルのセレンガ川流域に住み，突厥*(とっくつ)に属していた。8世紀中ごろ，ウイグル帝国として興隆しはじめ，突厥その他を滅ぼし，漢北一帯をほぼ1世

紀にわたって支配した。安史の乱*(755～763)には唐を助け，唐との交渉が盛んになったが，840年キルギス族に襲われて部族は四散した。

ウイグルひぶん　【ウイグル碑文】　8～9世紀のモンゴル帝国時代に突厥(とっくつ)文字*(古代ウイグル文字)で刻まれた碑文。ウイグル帝国の第2代カガン(在位747～759)の紀功碑(シネ-ウス碑文)と第8代カガン(在位808～821)の紀功碑とがあり，中でも後者が有名で，突厥文字によるウイグル文のほか，ソグド文・漢文の3体を合刻している。

ウイグルもじ　【ウイグル文字】　イラン系のソグド人の用いたソグド文字から発展した文字で，その起源はアラム文字までさかのぼる。ウイグル人が使用しはじめたのは，9世紀中葉，キルギスに追われ，東トルキスタン・甘粛西北部に移動したのちのこととされる。この文字は，やがて13世紀ごろにはモンゴル人によって使用され，モンゴル文字の母体となり，さらに満州文字へと発展した。古代トルコ語文献のかなりのものがウイグル文字で書かれている。

〔荒井伸一〕

ウイスキー　[whisky]　大麦・ライ麦・トウモロコシなどを原料とした蒸留酒。本場はイギリスのスコットランドで，高原地帯産のモルトウイスキー(スコッチウイスキー)は特に良質で有名である。これは麦芽(モルト)だけを原料として，蒸留にはポットスチルと称する単式蒸留機を用いるもので，味が濃くかおりが高い。一方平地帯産のグレンウイスキー(アイリッシュウイスキー)は，大麦・ライ麦・トウモロコシなどを主原料として麦芽の糖化力で糖化し，パテントスチルと称する連続式蒸留機で蒸留するもので，味・かおりともに前者より劣る。つづりをwhiskeyとして前者と区別することもある。なお，現在市販されているスコッチウイスキーは，上記の両者を適宜ブレンド(調合)し，種々の階級の品質のものとしているブレンデッドウイスキーである。

製造の原理は麦が発芽するときできる糖化酵素を利用して穀類のデンプンを糖化し，次に酵母を加えてアルコール発酵を行ない，これを蒸留して原酒をつくる。モルトウイスキーは粉砕した乾燥麦芽に水を加え，暖めて糖液とし，その特有のかおりは生麦芽を乾燥するときに用いる泥炭(でいたん)の煙のかおりのついたものである。グレンウイスキーは麦芽とともに他の穀類をひき割って加える。原酒はナラのたるに詰めて保存する間に調熟し，かっ色を呈しかおりとこくを生ずる。保存期間は最低7年，良品は12～15年である。

スコッチウイスキー・アイリッシュウイスキーのほか，産地によるおもな種類に次のものがある。①アメリカのウイスキー：グレンウイスキーと同じ方法でつくられ，トウモロコシを用いるコーンウイスキー，ライ麦を用いるライウイスキーなどがある。内面を焦がした貯蔵だるに入れて保存したものには特殊のかおりがあり，バーボンウイスキーという。②カナダのウイスキー：大麦・小麦・ライ麦・トウモロコシを主原料とし，麦芽で糖化してつくる。味は軽い。③日本のウイスキー：スコッチウイスキーの製法でつくった濃厚な味の原酒を3年以上たるに貯蔵して調熟させ，これにサツマイモ・トウモロコシなどを原料とし連続蒸留機で蒸留したアルコールを水で薄めたものを混ぜてつくる。現在の規定では原酒30%以上を加えアルコール43度以上を特級，10%以上加え40度以上43度未満を1級，原酒10%未満で37度以上40度未満を2級とする。高級品には貯蔵数十年に及び，本場のスコッチウイスキーにあまり劣らぬものもある。

〔住江金之〕

ウィスコンシン(州)　[Wisconsin]　アメリカ合衆国北部，ミシガン湖西岸にある州。面積14万5,000km²。人口436万7,000(1970)，州都マジソン。1848年5月合衆国第30番めの州となる。州名はチプワ-インディアン語の〈草のはえている場所〉の意。湖沼が多く，その数は約8,500に達する。氷河侵食のために土地はやせているが，農地は州の70%に及び，年に10億ドル以上の現金粗収入をあげている。農地の80%は酪農地域で，全国の14%にあたる牛乳やバター・チーズ・食肉を生産し，酪農は合衆国第1である。恵まれた森林資源を基盤としてパルプ・木材工業も盛ん。またミシガン・スペリオル湖に臨んで14の港があり，セントローレンス水路に通じている。主要都市はミルウォーキー・マジソン・グリーンベイ。

〔相村大彬〕

ウィースバーデン　[Wiesbaden]　西ドイツ中部の温泉保養都市。ヘッセン州の州都で，ライン川右岸に位置する。人口25万(1970)。3世紀にケルト族によって建設され，ローマ時代からすでにヨーロッパ有数の温泉地として有名であった。なお，木材・ぶどう酒・果実などの取引が盛んであることでも知られている。

ウィスラ(川)　[Wisla]　ポーランド最大の川。ビスツラ川ともいう。全長約1,125km。流域面積約20万km²。カルパート山脈に発し，北東ないし北に流れ，ワルシャワ・グダニスクを経てバルト海に注ぐ。ワルシャワの上流クラクーフまで遡航(そこう)が可能であり，下流ではオーデル川と，上流ではドニエプル川とそれぞれ運河で結ばれて，ポーランドの重要な内陸交通路となっている。

ウィスリツェーヌス　[Johannes Adolf Wislicenus]　(1835～1902)　ドイツの有機化学者。ライプチヒ大学教授。1873年幾何異性を発見し，ファントホッフ*の四面体説に影響を与えた。また，トポ化学*の研究で有名である。

ウィーゼ　[Leopold von Wiese]　(1876～1969)　ドイツの社会学者。政治的には自由主義の立場をとったのでナチに追われ，一時アメリカに亡命。第2次世界大戦後祖国ドイツに帰り，ドイツ社会学会会長としてドイツ社会学の再建に努めた。ジンメル*の形式社会学*のあとを受けて，社会関係・社会過程・社会形象という三つの基本概念を基礎とし，アメリカ社会学の成果でもあるソシオメトリー*を導入し，人間関係の測定の問題にも手を染め，新しい集団理論を，関係学として体系的に打ち立てようとした。

〔国近浩一〕

ウィダールたいせん　【ウィダール苔癬】　慢性単純性苔癬・限局性神経皮膚炎ともいい，非常にかゆみの強い皮膚病。皮膚の一部がかゆくなり，それをかいているうちにその部分の皮膚が厚ぼったくざらざらするようになる。病巣周囲に小丘疹(しょうきゅうしん)が散在し，それが融合して病巣が広がっていく。湿疹*のようにじくじくすることはなく，つねにかわいている。うなじに最も多く発生するが，側頸部(そくけいぶ)やひじやひざの関節屈面にもみられる。おもに軟膏(なんこう)療法が行なわれる。

〔田嶋公子〕

ウィチタ　[Wichita]　アメリカ合衆国カンザス州南部にある州最大の商工業都市。人口127万7,000(1970)。航空機製造工業が盛んで，ボーイング・ビーチ・セスナなどの工場がある。また冬小麦地域の中心都市として，農畜産物の取引や，製粉・肉加工業が発達している。市立ウィチタ大学とフレンズ大学がある。

ウィックスティード　[Philip Henry Wicksteed]　(1844～1927)　イギリスの経済学者。ユニテリアン派の牧師の子に生まれ，彼自身も牧師として社会活動の第一歩を踏み出した。ヘンリー-ジョージ*の《進歩と貧困》に刺激され経済問題に関心をもち，その研究に専心するようになった。彼の主要な著書には《経済学入門》(1888)，《政治経済学の常識》(1910)があり，特に1894年に発表された論文《分配法則の整合に関する試論》は彼の声価を高めた。彼の理論は，古典学派理論の伝統とはっきり決別し，限界分析を新しい理論の基礎にしようとし，限界分析を人間の合理的な生活のあらゆる面まで拡張し，限界生産力*理論の基礎を築いた。また，生産と分配を統一的にとらえる点で，近代経済学*の新たな出発点となった。

〔松浦　保〕

ウィッツ　[Konrad Witz]　(1400?～1445?)　ホルバイン*以前のドイツ絵画における最も重要な画家のひとり。1431年以後はバーゼルで活躍したが，バン-エイク*やフレマールの画家から影響を受けたと思われる。透視図法や明暗の効果によって対象の三次元的把握(はあく)に努め，きわめて写実的な風景の描写を行なった。署名のある唯一



ウイッツ《ペテロの漁獲》1444

の作品として《ペテロの漁獲》が知られている。

ウィッテ ［Sergei Yul'evich Vitte］(1849～1915) 帝政ロシアの政治家。伯爵。アレクサンドル3世のもとで交通大臣・大蔵大臣などを歴任し，銀行資本の利益を代表する自由主義派の立場にあった。一時，軍事的冒険派に退けられたが，日露戦争の敗戦で再び登用され，ポーツマス講和の功労で伯爵位を得た。1905年革命の最高時に〈十月宣言〉を起草し，ツァーリズムの危機を救った。1906年政界から引退。

ウィッテンベルク ［Wittenberg］ 東ドイツ中央部，ハレ県にあるエルベ川沿いの工業都市。人口46,000(1963)。ベルリンの西北約90kmにあり，河港をもち，鉄道の要衝。紙・酒・機械・磁器などを産する。西のピエステリッツには大化学工場がある。宗教改革運動の発祥地で，一名〈ルターの町〉ともいわれ，1517年ルターが95条のテーゼを書きつけた〈テーゼの扉(とびら)〉のある教会をはじめ，宗教改革に関係する古跡が多い。〔梶川勇作〕

ウィット ⇨デ-ウィット

ウィットルセー ［Derwent Stainthorpe Whittlesey］(1890～1956) アメリカの地理学者。シカゴ大学(1920～1928)からハーバード大学に移り，近代アメリカ地理学の指導者となる。アメリカにおける政治地理学研究の基礎をつくり，地理学の中心問題〈地域〉について，その概念の考察，分析の方法の創出，その実際の適用に力を入れた。1944年アメリカ地理学者協会の会長となり，1954年最初の名誉会長となった。

ウィトゲンシュタイン ［Ludwig Wittgenstein］(1889～1951) オーストリア生まれの哲学者。ケンブリッジ大学でムーア・ラッセルに学び，1939年ムーアのあとを受け1948年まで同大学教授。その哲学は論理的原子論の哲学といわれる。きわめて独創的な思想家で，英米の哲学，特に今日の分析哲学に決定的な影響を与えている。彼の思想は前期と後期に分かれる。前期の思想は有名な《論理・哲学論》に述べられたもので，実在認識としての哲学の可能性を否定し，哲学の仕事は言語の明確化にあるとした。このことを彼は人工言語(記号論理学)の助けを借りて行なったが，後期になると日常言語へと関心が移り，言語は日常使用されている場において正しくとらえられるとして，日常言語学派の思想に近づいた。死後刊行された《哲学的研究》はオックスフォードの日常言語学派に大きな影響力を及ぼしている。〔寺中平治〕



ウィーナー

ウィドマンシュテッテンそしき ［ウィドマンシュテッテン組織］ 最初隕鉄(いんてつ)にはじめて見いだされた顕微鏡組織。合金がいったん高温に加熱されたのち，徐々に冷却されると，もとの相の特定の結晶格子(こうし)面に沿って規則正しい析出が起こり，美しい多角形模様を現わす。

ウィトワーテルスラント ［Witwatersrand］ 南アフリカ共和国，トランスバール州南部の鉱工業地帯。単にラントともいわれる。一帯はヨハネスバーグを中心として東西約240kmにわたって延びる高原地帯で，世界の産金量の3分の1を産出している。1886年から本格的な採掘がなされ，ジャーミストンなど多くの鉱業都市が発達してきた。また，第2次世界大戦後，ラントの金鉱石からウランを抽出する技術が開発されて世界の脚光を浴び，さらに，地続きとみられる北方のオーデンダールスルストの産を合わせてウランにおいても世界的な産地となっている。〔大石堪山〕

ウィーナー ［Norbert Wiener］(1894～1964) アメリカの電気工学者・数学者でサイバネチックス(情報処理理論)の創始者。14歳でハーバード大学大学院動物学科へ入学，18歳で数理哲学の学位を得る。電気技師見習いなどいろいろな職業についたが，25歳でマサチューセッツ工科大学の教員となった。1948年に通信と制御の総合的な理論である《サイバネチックス》を発表。数学・物理・神経生理学など，広範囲な分野にわたる研究がある。〔下平和夫〕

ウィニアフスキー ［Henrik Wieniawski］(1835～1880) ポーランドのバイオリン奏者・作曲家。8歳でパリ音楽院にはいり，11歳からポーランド・ロシアなどへ演奏旅行を試みた。1849年からは再びパリ音楽院で作曲を学んだ。1850年以後はビルトオーゾとして活躍，1862～1869年ペテルブルク音楽院，1874～1877年ブリュッセル音楽院の教授を勤めた。作品にはバイオリン曲に名作が多いが，中でも《バイオリン協奏曲第2番》と《モスコーの思い出》が名高い。〔向坂正久〕

ウィニペグ(川) ［Winnipeg］ カナダ中南部の川。ウッズ湖の北端に発し，いくつかの湖を経てウィニペグ湖の南東端に注ぐ。全長約2400km。下流部には急流や滝が多く，グレートフォールズ・パインフォールズなど多くの水力発電所が建設され，カナダにおける一大電源地帯を形成している。

ウィニペグ(湖) ［Winnipeg］ カナダ南部の湖。面積24,500km²。水深は19m。湖名は〈濁水〉の意。西側のウィニペゴシス湖・マニトバ湖とともに氷河時代の陥没による構造湖(陥没湖)のなごりといわれる。3湖ともに南北に長いため，カナダの東西を結ぶ大陸横断鉄道をはじめ，交通網は湖の南のウィニペグ市に集中している。

ウィニペグ ［Winnipeg］ カナダ，マニトバ州の州都。人口24万6,000，大ウィニペグ54万(1971)。州の南東部，ウィニペグ湖に注ぐレッド川とアシニボイン川の合流点にある。二つの大陸横断鉄道が合流する交通の要地で，北の湖沼地域と南のアメリカ合衆国との国境にはさまれた春小麦地域を控えて小麦の大集散地をなし，製粉，食品加工，肉類の加工，鉄道車両・バスの製造などの工業が盛んである。またマニトバ大学・コール大学があり，平原地方の学術・文化・教育の中心的役割を果たしている。この市のロイヤル-ウィニペグ-バレエ団は

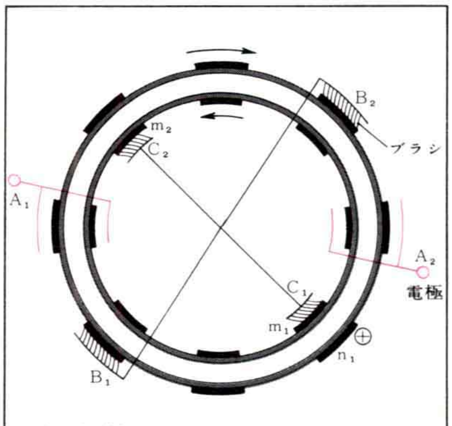
特色ある芸風で知られている。〔相村大彬〕

ういはくじゅ 【宇井伯寿】（1882〜1963） インド哲学者・仏教学者。愛知県に生まれ，幼名を茂七という。12歳で曹洞宗(そうとうしゅう)東漸寺活山卍寿和尚(まんじゅおしょう)に得度，名を伯寿と改めた。第1高等学校を経て東京帝国大学文科大学に入学，高楠(たかくす)順次郎*の指導でインド哲学を学んだ。1913年(大正2)ドイツのチュービンゲン大学に留学，さらにイギリスで研究し，1917年インド経由で帰国した。のち新設の東北大学教授を経て，1930年(昭和5)東京大学教授に就任。翌1931年著書《印度哲学研究》6巻に対し学士院賞を，1953年に文化勲章を授与された。著書に《印度哲学研究》12巻や，《宇井伯寿選集》8巻など多数がある。〔田中良昭〕

ウィーヒェルト ［Ernst Wiechert］（1887〜1950） ドイツの小説家。独自の内面世界を重んじた重厚なロマン主義的傾向の作品を書き，また，純粋な求道精神を貫いてナチス政権に抵抗し，強制収容所に捕えられたこともあり，《死者の森》はその体験記である。小説の代表作として《イェローミンの子ら》《単純な生活》などがあり，ほかに自伝的回想《森林と人びと》，童話集・詩および劇作がある。

うい・むい 【有為・無為】 梵語(ぼんご)のsaṃskṛta(サンスクリタ)・asaṃskṛta(アサンスクリタ)の訳。仏教用語で，すべての存在を分析したものの称。有為とは因果の関係によって種々の原因から合成され生じたもので，つねに変化するもの。無為とは因果の関係を離れた常住不変の存在をいう。仏教では有為は煩悩(ぼんのう)におおわれた苦しみの世界とし，色・形のあるものや人間の肉体などの物質的なもの，心，心の作用，心とも物質ともいえない時間や方角など，人間およびその外界のすべてが含まれる。これに対し，無為はこの有為を離れた世界で，ブッダの教えに従い経典を読み，さまざまな仏道により有為の真の姿を知り，煩悩を除き迷いからさめた悟り*の世界をさす。真如*(しんにょ)・涅槃*(ねはん)などともよぶ。また物が自由に場を占めることができる，妨げのない空間なども無為とよぶ宗派もある。すべての存在をなりたたせる要素として有為・無為を合わせて，小乗仏教では75の要素を，大乗仏教の中の唯識学派では100の要素を数える。〔小沢憲珠〕

ウィムズハーストのきでんき 【ウィムズハーストの起電機】 代表的な誘導起電機。1883年，イギリスの電気工学者ウィムズハーストによってつくられ，火花放電などの研究に用いられた。その構造は，周辺に金属片を等間隔に取り付け，逆向きに回転する2枚のガラスまたは，エボナイトの回転円板と，2対のブラシ(回転子と外部の回路との間に通電するため，整流子*に取り付けるもの)，および，集電極よりなる。いま，



図では便宜上2枚の円板を同心円で表わす

ウィムズハーストの起電機

図の一つの金属片n_1に少量の正電気を与えると，静電誘導*によりm_1には負，遠いm_2には正の電気を生ずる。これは，円板の回転につれて動き，ブラシB_1，B_2に相対する位置で，B_1に正，B_2には負の電気を起こし，そこの金属片はこれを運ぶ。こうして両板ともA_1，A_2におのおの正・負の電気を運び，これをライデンびんに集積して利用する。〔堀内和夫〕

ういやまぶみ 【初山踏】 本居宣長*(もとおりのりなが)が，初学者のために国学*を中心とする学問の道を説いた書。最初に総論を述べ，それを補説する形式で29項の細説を備える。国学の目的を神代の道の追求とし，古代日本人の心・事跡・言語を解明するための方法論を説き，儒学的な思考や価値説から脱却すべきことを再三にわたって勧告している。

ウィーラント ［Christoph Martin Wieland］（1733〜1813） ドイツの小説家・詩人。牧師の子として生まれ，初期には宗教的傾向が強く，いわゆる敬虔(けいけん)主義の影響のもとに，クロップシュトック*に傾倒したが，イギリスやフランスの啓蒙(けいもう)思潮に接して敬虔主義を脱し，ドイツ啓蒙主義*の代表的作家のひとりとなった。教養小説*の先駆となった《アガートン物語》のほか，《アブデラの人々》，叙事詩《オーベロン》などの作品がある。

ウィリアム(1世) ［William］（1027ごろ〜1087） イングランド王。在位1066〜1087年。征服王といわれる。1035年ノルマンジー公となる。1066年，イングランドの王位継承権を主張してイングランドに侵入。エドワード懺悔王(ざんげおう)の義弟ハロルドの軍をヘースチングスの戦いで破り，クリスマスにウェストミンスター寺院で戴冠(たいかん)してイングランド王となり，ノルマン朝*を開いた。1071年までに各地の反乱をしずめ，デーン人の侵入を退け，イングランド全土を平定した。アングロ-サクソンの諸侯をおさえるとともにノルマン貴族をイングランド各地に封じ，ノルマンの封建制度を移入した。1085〜1086年全国的な検地を施行し，ドームズデー-ブック*を作製。また，司教叙任権を握って教会に対する支配力も確立した。〔松下京子〕

ウィリアム(3世) ［William］（1650〜1702） イギリス国王。在位1689〜1702年。1672年オランダ総督となり，フランス王ルイ14世*のオランダ侵入に対抗して奮戦し，オランダの安全と繁栄を保った。ジェームズ2世の娘メアリを妻とし，1688年の名誉革命*に際しては，議会の召請に応じてイギリスに渡り，1689年メアリとともに王位について，権利宣言を承認した。ルイ14世のオランダ再侵入や，廃王ジェームズの王位復帰の動きがあったので，彼はイギリス・オランダ両国の国王として，1689年の第1回対フランス大同盟，1701年の第2回対フランス大同盟に加わるなど，終生ルイと戦い，その野望をくじいた。1701年王位継承法によって，王位をスチュアート系のプロテスタンチズムを奉ずる者に限ることを規定した。また，政党による責任内閣制の端を開き，〈君臨すれども，統治せず〉というイギリス王政のあり方を方向づけた。彼の治世中，1694年イングランド銀行，1698年ロンドン株式取引所が設立された。〔松下京子〕

ウィリアムおうせんそう 【ウィリアム王戦争】 1689〜1697年，アウグスブルク同盟戦争の一環として北アメリカ大陸で行なわれたイギリスのウィリアム3世*とフランスのルイ14世*との間の植民地争奪戦争。1690年イギリス軍がアカジア(ノバスコシア)のポートロイヤルを占領，1696年ニューファンドランドを占領したのに対し，フランスはインディアンを使ってイギリス植民地を攻撃した。しかし，いずれの攻撃も決定的とならず，1697年のライスウィック条約*で1689年以前の状態への復帰が決められた。〔折井一彦〕

ウィリアムズ ［Tennessee Williams］（1914〜 ） アメリカの劇作家。本名トマス-ラニア。現代アメリカ演劇界の代表的な作家で，出世作《ガラスの動物園》(1944)以来，独特の官能と叙情の世界を，抑圧された人間心理を通じて追求している。ほかに《欲望という名の電車*》《焼けたトタン屋根の上の猫(ねこ)》などの作品がある。

ウィリアムズ ［Hank Williams］（1923〜1953） アメリカのカントリー-アンド-ウェスタン歌手・作詞・作曲家。〈カントリー-アンド-ウェスタンの新約聖書〉などとよばれ，没後も着実な人気を保っている。13歳で楽団を結成。約4年間大スターとして活躍したあと，29歳で急逝(きゅうせい)した。幼少のとき，黒人からギターや歌を習った影響が大きく，それが彼の特徴となっている。《ラブ-シック-ブルース》《ジャンバラヤ》ほか自作のヒットが多い。〔鈴木道子〕

ウィリアムズ ［Andy Williams］（19

30～　）　アメリカのポピュラー歌手。アイオワ州の生まれ。幼少から３人の兄とウィリアムズ-ブラザーズを結成。放送やナイトクラブで活躍していたが，グループ解散とともに，1952年，ソロ歌手として独立した。テレビの《アンディ-ウィリアムズ-ショー》で人気を高め，家庭的な暖かい人柄と，癖のない甘い歌声には女性ファンが多い。《ハワイの結婚の歌》《ムーンリバー》などのヒット曲がある。　〔鈴木道子〕

ウィリアムソン　［Alexander William Williamson］（1824～1904）　イギリスの化学者。ロンドン大学教授。ハイデルベルクでグメリン*に，ギーセンではリービッヒに学んだ。エチルエーテル・メチルエーテル・エチレングリコールなどを合成し，1850年エーテル生成の理論から〈水型の説〉を提出した。日本人では幕末に伊藤博文(いとうひろぶみ)・井上馨(かおる)らのイギリス留学者が世話を受けたのをはじめ，明治初期には桜井錠二が彼のもとに留学している。また，すぐれた教師を日本に推薦するなど，わが国の化学の育成にも貢献した。　〔山下愛子〕

ウィリアム-テル　⇨ウィルヘルム-テル

ウィリー-ウィリーズ　［Wily Wilies］　熱帯地方に発生する低気圧を熱帯性低気圧といい，特に強いものをわが国では台風とよんでいるが，オーストラリアではウイリー-ウイリーズとよんでいる。オーストラリア大陸の北西および北東海岸地方を夏から秋にかけて襲うことが多い。なお，この種の低気圧は，アメリカではハリケーン*，インドではサイクロン*とよばれている。

ウィリス　［William Willis］（1837～1894）　イギリスの外科医。1859年エジンバラ大学を卒業後，1861年(文久１)にイギリス公使館医員として来日。生麦事件・薩英(さつえい)戦争の負傷者を診療したことが機縁となり，明治維新の際，各地の戦乱における官軍戦傷者を治療。のちに鹿児島病院長となり1878年(明治10)まで在職した。

ウィルクス　［John Wilkes］（1727～1797）　イギリスの政治家・政論家。1757年ホイッグ党の下院議員となり，1762年《ノース-ブリトン》誌を創刊し，トーリー党のビュート内閣とジョージ３世を攻撃，名誉毀損罪(きそんざい)に問われ議員を除名された。しかし，議会改革や言論の自由を主張するロンドンの民衆に支持され，その後数度下院に選出された。1774年ロンドン市長となるが，1780年のロンドン市民の蜂起(ほうき)を弾圧して民衆の支持を失った。また，早くからアメリカの独立運動を熱心に支持し，そのための秘密結社〈自由の子〉を組織した。
〔松下京子〕

ウィルクスランド　［Wilkes Land］　南極大陸の東経110°付近から140°付近までのインド洋に面した地域をいう。1838～1842年の間，アメリカ合衆国海軍の士官チャールス-ウィルクスがこの海岸を航海して，南



A.ウィリアムズ



T.W.ウィルソン

極に大陸のあることを確認し，彼の名を記念してつけられた。現在，フランスの基地のほか，合衆国・オーストラリアの共同のウィルクス基地がある。

ウィルシュテッター　［Richard Willstätter］（1872～1942）　ドイツの有機化学者。ミュンヘン大学・チューリッヒ大学教授。カイザー-ウィルヘルム研究所長。ミュンヘンでバイヤー*に学び，そこのA.アインホルンの影響でアルカロイドの研究を始め，のちクロロフィル・植物色素・酵素の研究に進んだ。1910年クロロフィルの結晶を得てその構造を研究，これによって1915年ノーベル化学賞を受けた。さらに高等植物の炭素同化作用を研究，また，カルボヒドラーゼ・プロテアーゼ・リパーゼなどの酵素の精製分離に成功した。〔山下愛子〕

ウイルス　⇨488ページ

ウィルソン　［Thomas Woodrow Wilson］（1856～1924）　アメリカ合衆国の政治家。第28代大統領。在任1913～1921年。プリンストン大学卒業後，弁護士を開業。のち母校で政治学教授。1902年総長に就任したが学制改革に失敗し，大学を去った。1910年ニュージャージー州知事に選出され，公益事業の規制，労災補償などの進歩的行政で名声を確立した。1912年〈ニュー　フリーダム*〉を唱え，民主党より大統領に当選。アンダーウッド関税法・連邦準備銀行制度・クレイトン反トラスト法*の三大改革のほか，連邦通商委員会の設立，アダムソン法の制定など進歩的政策で大資本の力を弱め，労働者や農民を保護して，プログレシビズムの実現に努めた。国際外交面ではタフトのドル外交を否定し，メキシコ関係やパナマ運河問題で協調外交を推進した。第１次世界大戦には中立維持に努めたが，1917年民主主義擁護のため参戦。〈勝利なき平和〉や〈十四か条平和原則〉を提唱して，戦後の国際平和を希求し，1919年にはノーベル平和賞を受賞した。第１次世界大戦後のパリ講和会議に出席して，14か条の実現に努力し，宿願の国際連盟*を実現したが，議会上院の同意を得られず，失意のうちに死亡した。
〔折井一彦〕

ウィルソン　［Charles Thomson Rees Wilson］（1869～1959）　イギリスの実験物理学者。キャベンディッシュ研究所*でトムソン*の指導を受け，のちケンブリッジ大学教授。雲の研究から水滴が荷電を中心にできることを発見して，ウィルソンの霧箱*を製作，原子核・宇宙線の研究に貢献した。また，γ線の光子的ふるまいを調べ，コンプトン散乱を実証して，コンプトン*とともにノーベル賞を受賞(1927)。

ウィルソン　［Edmund Wilson］（1895～1972）　アメリカの批評家。小説・詩なども書く。編集者・ジャーナリストとして幅広い活動を続け，アメリカの批評界の長老的存在。象徴主義*文学の研究《アクセルの城》のほか，《傷と弓》《愛国の血潮》などの著述がある。

ウィルソン　［Angus Wilson］（1913～　）　イギリスの小説家。大英博物館の図書部に勤務しながら小説を書きはじめ，1949年，中産階級の独善と愚劣さを風刺した短編集《悪い仲間》によってデビュー。長編には，同性愛の欲望のために破滅する善意の老作家を扱った《毒にんじんとその後日譚(たん)》，史学界の不正事件に巻き込まれて苦悩する良心的な老学者を描いた《アングロサクソンの姿勢》などがあり，きびしい倫理観によって現代人の生活を辛辣(しんらつ)に風刺した作品が多い。ほかに長編《エリオット夫人の中年》《動物園の老人たち》など。
〔栗原行雄〕

ウィルソン　［Harold Wilson］（1916～　）　イギリスの政治家・経済学者。オックスフォード大学卒業。第２次世界大戦中，燃料動力相の経済学・統計学顧問をつとめ，1947～1951年商相。1963年労働党党首。1963年10月の党大会で，〈労働党と科学革命〉と題する綱領を採択，技術革新の時代に即応して科学と社会主義を結びつけようとした。1964年の総選挙ではわずかの差で保守党に勝ち，13年ぶりに労働党内閣を成立させた。

ウィルソン　［Colin Wilson］（1931～　）　イギリスの批評家・小説家。早くからさまざまな職業を転々としながら読書生活を続け，24歳で評論《アウトサイダー*》を発表。内省と直観的な洞察(どうさつ)による意識の拡大と精神の深化を説いたこの作品は，批評家の絶賛を浴び，社会的にも大きな反響をよんだ。その思想は新実存主義あるいは実存的心理主義とよばれ，〈怒れる若者たち*〉のひとりとみなされている。その他，評論《宗教と反逆者》《敗北の時代》，小説《暗黒

の祭り》など。〔栗原行雄〕

ウィルソンさんてんもんだい【ウィルソン山天文台】 アメリカ合衆国，カリフォルニア州のウィルソン山頂(海抜1,742m，ロサンゼルスの北方約50km)に1904年創設された天文台。口径2.5mおよび1.5mの反射望遠鏡，高さ20mおよび45mの太陽塔望遠鏡を備え，恒星・星雲の探索，太陽磁場の研究に新分野を開いた。現在はパロマ山天文台とともに，ウィルソン山-パロマ山天文台としてカリフォルニア工科大学に属し，カーネギー財団によって運営されている。〔守山史生〕

ウィルソンのきりばこ【ウィルソンの霧箱】 ⇨霧箱

ウィルヘルミ [Ludwig Ferdinand Wilhelmy] (1812〜1864) ドイツの化学者。1850年ショ糖が酸の存在で転化反応を起こすことを旋光計を用いて明らかにし，反応速度を表わす数式を導入した。その当時はほとんど認められなかったが，化学反応論における先駆的研究であった。

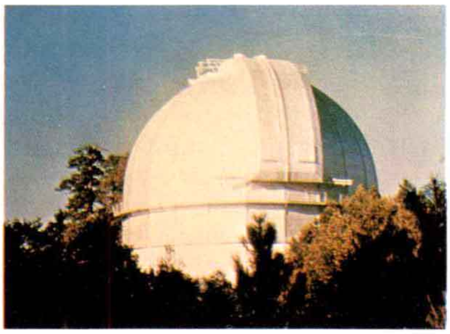
ウィルヘルム [Wilhelm]

1 1世(1797〜1888) プロイセン王。在位1861〜1888。ドイツ帝国初代皇帝。在位1871〜1888。ビスマルクを首相に任じてプロイセンの国力を充実させ，1866年プロイセン-オーストリア戦争でオーストリアを破ってドイツ統一の主導権を握り，1867年北ドイツ連邦を組織した。次いで1870年にはプロイセン-フランス戦争でナポレオン3世のフランスを破り，1871年ドイツ帝国を成立させ，初代皇帝となった。

2 2世(1859〜1941) ドイツ帝国皇帝。在位1888〜1918年。1世の孫。即位後，まもなくビスマルクと衝突して彼を下野させ，1890年以来，〈新航路〉とよばれる積極的な世界政策をとってドイツの強大化を図った。その結果，列強との対立をきたし，第1次世界大戦をひき起こした。大戦末期のドイツ革命(1918)によって退位し，オランダに亡命，その地で余生を送った。〔松 俊夫〕

ウィルヘルム-テル シラーの詩劇(1804)。スイスの古い3州がオーストリアの圧政から独立する伝説を演劇化したもので，シラーの最後の作品である。テルが自分の子どもの頭上に載せたリンゴを射落とす場面は非常に有名。スイスの大自然を背景に，自由を求める農民たちの革命運動を描いた民衆劇の傑作といえる。

ウィルヘルム-マイスター ゲーテの教養小説。《ウィルヘルム-マイスターの修業時代》(1796)と《ウィルヘルム-マイスターの遍歴時代》(1829)とからなる。なお，1910年に発見された初稿は《ウィルヘルム-マイスターの演劇的使命》とよばれる。主人公の人間形成の健全な発展過程と，多数の作中人物の性格の的確な把握(はあく)により，ドイツ文学特有の教養小説の最高峰とみなされる。➔美しい魂の告白



ウィルソン山天文台

ウィルミントン [Wilmington] アメリカ合衆国デラウェア州北端の工業都市。人口90,000(1970)。デラウェア湾奥の港町で，造船・ゴム・皮革・繊維・機械・化学などの工業が盛んである。デュポンの本社もある。アメリカ独立戦争の古戦場であり，市街には歴史的な建物も多い。

ウィルムスしゅよう【ウィルムス腫瘍】 乳幼児の腎臓(じんぞう)の悪性腫瘍。ドイツのマックス-ウィルムス(1867〜1918)が詳しく研究したので彼の名まえがつけられている。腎臓になるはずの中胚葉(ちゅうはいよう)組織の一部が悪性化したもので，癌(がん)と肉腫の両方の特徴を有する。乳幼児期の悪性腫瘍中，白血病・神経芽細胞腫に次いで多くみられ，予後が悪い。放射線療法・外科的手術のほかに，薬物療法としてアクチノマイシンDの効果が注目されている。〔大田黒和生〕

ウィレム(1世) [Willem] (1533〜1584) オランダの独立運動の指導者で，初代オランダ総督(1579〜1584)。オランイェ公，ナッサウ伯。1555年，スペインからネーデルラントのホラント州などの統治を命ぜられたが，スペインの専制政治に抗して1568年以降独立運動を指導し，特に〈海の乞食党(こじきとう)(海軍)〉を活躍させてスペイン艦船を悩ませた。スペインは，カトリック教徒の多い南部ネーデルラントを懐柔して独立運動を分裂させたが，ウィレムはカルバン派の商工業者の多い北部7州の間にユトレヒト同盟を成立させて抗戦を続け，1581年には独立宣言を発してネーデルラント連邦共和国を樹立し，初代総督に就任した。しかし，1584年暗殺され，独立運動はその子マウリッツに受け継がれた。➔オランダ独立戦争〔松 俊夫〕

ういろう【外郎】

1 江戸時代の売薬の一。中国の元の人で，礼部員外郎の官職にあった陳(ちん)宗敬が，元の滅亡後わが国の博多に帰化し，そしてその子孫が京都の西洞院から透頂香(とうちんこう)を売り出した。また北条(ほうじょう)氏綱(1486〜1541)のころ小田原から売り出した外郎透頂香はこの系統のもので，阿仙(あせん)薬を主にした清涼剤で小田原名物となった。発売元は代々虎屋(とらや)宇野藤右衛門(とうえもん)を名のる。外郎は今日まで伝わる売薬のうち最も古いものに属し，初期のものはチョコレート型で，痰(たん)の妙薬，髪の脱臭薬として用いられた。1718年森田座の《若緑勢曾我(そが)》で，2世市川団十郎が外郎売りのかっこうをして，長い薬の効能書きを一息に述べて好評を得，それが《外郎売》として歌舞伎(かぶき)十八番の一つに加えられている。〔三浦三郎〕

2 蒸し菓子の一種。もと黒砂糖を用いてつくり，色・形ともに売薬のういろうに似ているところから名づけられた。のちに白砂糖を使うようになり，これを白ういろうと称した。《和漢三才図会》によれば，そのつくり方は〈糯米(もちごめ)8合，粳米(うるちごめ)1合半，葛粉(くずこ)半合を混ぜ，黒砂糖1斤半に水7合入れて煮てかすをとり，精汁(せいじゅう)をもってこれをまぜ，火にかけてねり，蒸したもので，糸で切って食する〉とある。現在は白玉粉または葛粉に水を加えて塊をとかして上新粉を混ぜたものに，砂糖を煮とかした液を加えながらよく混ぜて，せいろで蒸してつくる。中京の名菓青柳(あおやぎ)ういろうは，白・黒・緑の3種があり，緑のものは抹茶(まっちゃ)の味が加えられている。山口市のものも有名で，これは材料にアズキのこしあんを混和したもの。ねずみ色を呈し粘りけがなく，一種の蒸しようかんである。また名古屋大須(おおす)のういろう・ないろうは，1本のさお物(➔棹(さお)菓子)としたのが特徴で，やや塩分を含んでいる。ないろうはアズキを点在させたもので，陳宗敬が礼部員外郎の職のほかに内郎職にもついていたことから名づけたものである。〔塩川ふみ〕

ウィーン [Wien] オーストリアの首都。ビエンナともいう。国土の東，アルプス山脈の東のふもとに広がる森林地帯の端に位置し，ドナウ川の河岸に発展した都市。大ウィーンの人口は161万5,000(1972)で，この国人口の23%を占める。音楽の都といわれ，古くから中部ヨーロッパの政治・経済・文化の一中心であった。年平均気温10℃，年間降水量660mmで気候は快適であるが，東ヨーロッパの大陸的気候の漸移地域にあり，急激な気温低下や，春・秋のあらしが多い。ドナウ川右岸の旧市街を中心にして，城壁跡が環状道路になっており，内側は内市とよばれている。古くから北西ヨーロッパと南東ヨーロッパを結ぶ交通路の結節点で，ドナウ川の水路や鉄道が通じている。産業は，皮細工・宝石・陶器など古くから有名な工芸器のほか，繊維・光学器械・化学・食品・醸造・出版・家具工業が盛んで，この国の4分の1の工場がここに集中している。

【歴史】古くはケルト族が居住し，古代ローマ時代には軍団の駐屯地(ちゅうとんち)となったりしたが，都市としての発展は10世紀以後，特に1137年オーストリア公領の首都となってからである。十字軍の遠征による東西世

→490ページ

ウイルス

［Virus］

語源はラテン語で毒の意味をもつ。ドイツ語系発音から派生したビールスという呼び名も一般に用いられているが，日本ウイルス学会はラテン語音に従ってウイルスという呼称を正式に採用した。ウイルスは哺乳(ほにゅう)類・鳥類・植物・細菌など種々の生物に寄生する光学顕微鏡の分解能以下の微小な病原体で，生きた細胞の内部でのみ増殖し，ウイルス粒子を合成することができる。ウイルス粒子は，基本的にはデオキシリボ核酸*(DNA)かリボ核酸*(RNA)のいずれか一方の核酸とタンパク質からなる複合体で，一種の核タンパク質である。ウイルスの名まえはそれがひき起こす病気の名を語頭につけてよばれることが多い。

【発見の歴史】1892年，ロシアのイワノウスキーはモザイク病にかかったタバコ葉の圧搾濾液(ろえき)(細菌を除去した液)に病原性のあることを報告した。すなわちこの濾液の中には今日でいうタバコモザイクウイルスが含まれていたのであるが，彼はそれが細菌の毒素であろうと考えていた。1898年，ドイツのレフレルとフロッシュはワクチンをつくる目的で，口蹄疫*(こうていえき)にかかったウシの水疱(すいほう)の濾液を健康なウシに注射したところ，口蹄疫にかかった。彼らはこの濾液の中にみずから増殖し，顕微鏡では見えない微生物が存在していると解釈して，濾過性病原体という概念を導入した。細菌よりも小さなこの病原体をみずから増殖するものと考えた点で，今日いうウイルスがこのとき発見されたものと考えられている。これに続いて発見された病原体としてのウイルスは，黄熱・狂犬病・牛痘(ぎゅうとう)・豚コレラなどで，今世紀初頭にかけて次々と確認された。さらに，赤痢菌に寄生するウイルスの存在は，1917年カナダ生まれの細菌学者デレルにより発見された。

【ウイルスの種類】ウイルスの宿主はそれぞれ特定の種類の生物に限定されており，便宜上宿主の種類によって動物ウイルス・こん虫ウイルス・植物ウイルス・細菌ウイルス(バクテリオファージ)に大別される。しかし，ウイルスによっては植物でもこん虫でも増殖しうる例が知られている。宿主によるウイルスの分類には系統的意味はない。〈動物ウイルス〉脊椎(せきつい)動物を宿主とするウイルス。多くはヒト・家畜・家禽(かきん)における伝染病の病原体として発見された。種々の野生動物・魚類・両生類でもウイルスは発見されている。ヒトの病原体としては，インフルエンザウイルス・ポリオウイルス・日本脳炎ウイルス・天然痘ウイルス・狂犬病ウイルス・麻疹(ましん)ウイルス・ヘルペスウイルス・アデノウイルスなどが知られている。よく似たウイルスで宿主動物の種類が異なる場合は，ウシアデノウイルス・トリアデノウイルスとその生物名を冠して呼称される。狂犬病ウイルスはもともとイヌの病原体であるが，同一のウイルスが多種類の哺乳類で病気を起こす。ニワトリやハツカネズミの白血病，ハツカネズミの乳癌(にゅうがん)，ウサギの乳頭腫(にゅうとうしゅ)，ヒトのいぼなどの病原体はウイルスであると確認されており，このようなウイルスを特に腫瘍(しゅよう)ウイルス*と総称する。病原性不明のウイルスはオーファンウイルスとよばれる。〈こん虫ウイルス〉無脊椎動物でウイルスが発見されているのは現在のところこん虫だけである。幼虫を宿主にする例が多く，カイコ多角体病ウイルスが代表例。〈植物ウイルス〉タバコ・キュウリの葉のモザイク病，イネ・ムギの萎縮病(いしゅくびょう)・チューリップの花，ダイズの種子のモザイク病などの病原体が知られている。中でも研究の歴史が古いタバコモザイクウイルスが有名で，このウイルス粒子は1935年アメリカのスタンリーにより結晶化された。〈細菌ウイルス〉バクテリオファージ(細菌を食うものという意)あるいは単にファージとよばれる。宿主の細菌は多種多様で，ほとんどあらゆる細菌に固有のファージ群が存在する可能性がある。最も有名でかつ詳細に研究されているのは大腸菌に感染するファージ群で，それらは符号で命名されていて，T_1，T_2，……T_7(T系ファージ)，λ，φ×174，f_2などとよばれている。1940年ごろより開始されたファージの感染増殖に関する研究は，生命現象の基本的過程を解析するためのよいモデルとなり，分子遺伝学・分子生物学といわれる新分野を展開し，現代生物学に重要な貢献をした。

【ウイルス粒子】成熟したウイルスを特にウイルス粒子(ビリオン)とよぶ。粒子の大きさは種類によって異なるが，リケッチア*とタンパク分子の中間に位する。天然痘ウイルスはれんが状で260×210mμの大きさをもち，最大のウイルスである。最小のウイルス粒子は球状の口蹄疫ウイルスで直径21mμ。ほぼ球状のウイルスが多く知られているが，それらの大きさはこの中間にはいる。このほか粒子の形には棒状(タバコモザイクウイルス：15×300mμ)，オタマジャクシ形(T_2ファージ：頭65×80mμ，尾12×120mμ)がある。

〈化学成分〉植物ウイルス・ポリオウイルス・アデノウイルスなどの粒子は，核酸とタンパク質のみで構成されているが，インフルエンザウイルス・日本脳炎ウイルスの粒子は核酸とタンパク質のほか脂質・多糖類を含む。脂質を含むウイルスは，エーテル・クロロホルムなどで不活化される。ウイルス粒子が酵素を含んでいる場合もあるが，エネルギー産生系に関係した重要な酵素は含まない。また，ウイルス粒子の核酸はDNAかRNAのいずれか一方であって，両者を含むウイルスはない。粒子がいずれの核酸を含むかによって，DNAウイルスとRNAウイルスに分ける場合がある。動物ウイルスと細菌ウイルスではこの両者が知られているが，植物ウイルスではRNAウイルスに限られている。細胞生物でみられる核酸は，DNAが二本鎖分子，RNAが一本鎖分子であるが，例外的にφ×174ファージ粒子は一本鎖DNAを，レオウイルス粒子は二本鎖RNAを含む。

ウイルスの遺伝的情報は，ウイルス核酸がもっている。ウイルス核酸を粒子から分離して宿主細胞内に入れると，ウイルスが増殖しウイルス粒子を合成することが最初タバコモザイクウイルスで見つかった。このような核酸を感染性核酸といい，動物ウイルス・細菌ウイルスでもその性質が証明された。感染性核酸では宿主範囲がもとのウイルス粒

ウ イ ル ス の 分 類

核　酸	対称性	外被膜	ウイルスまたはウイルスグループ
RNA	らせん	なし	タバコモザイクウイルス
		あり	ミクソウイルス(インフルエンザウイルスなど) 麻疹ウイルス
	立　体	なし	RNAファージ エンテロウイルス(ポリオウイルスなど) レオウイルス
DNA	らせん	あり	ポックスウイルス(天然痘ウイルス・牛痘ウイルスなど)
	立　体	なし	φ×174ファージ ポリオーマウイルス アデノウイルス
		あり	ヘルペスウイルス
	立　体 (尾部をもつ)	なし	T偶数系バクテリオファージ λファージ

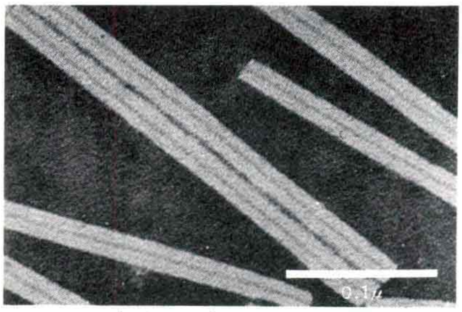
子より広がる場合がある。たとえばポリオウイルスの宿主はヒト・サル細胞であるが，感染性RNAはそのほか各種哺乳動物細胞に感染し，ウイルス粒子をつくれる。核酸がもつ遺伝的情報の量は１本の鎖状分子を構成するヌクレオチドの数(核酸の長さ)で決定されるが，最大のウイルス核酸であるポックスウイルス(牛痘ウイルス・天然痘ウイルスなど)DNAは長さ80～90 μ，約30万対のヌクレオチドからなり，最小のグループに属するウイルス核酸($\varphi\times174$，ポリオウイルスなど)は長さ約1.5 μ，約5,000個のヌクレオチドが連なった鎖状分子である。最小グループのウイルス核酸でも，少なくとも数種のタンパク質に対する暗号をもっていると考えられている。

〈構造〉ウイルス粒子は例外なく中心部に核酸があり，タンパク質がそれを保護するように包んでいる。外側のタンパク質部分はいくつかの小単位(形態学的単位，カプソメア)が規則正しく配列しており，カプシドとよばれる。核酸を内部にもつカプシドはヌクレオカプシドとよばれ，さらにそれを脂質や多糖類を含む外被(エンベロープ)がくるんでいる場合もある。小形ウイルスではヌクレオカプシドがウイルス粒子である場合が多く，大きさは均一である。外側に被膜をもつウイルス粒子はしばしば大きさが不ぞろいになる。ヌクレオカプシドは対称性をもっていて，らせん対称と立体対称の二つの基本形態が知られている。らせん対称の典型はタバコモザイクウイルスの粒子で，この構造は最も詳細に研究されている。タバコモザイクウイルス粒子は径15mμ，長さ300mμの棒状の核タンパク質で，分子量4.0×10^7，その５％がRNAである。6,500個のヌクレオチドから構成されているRNA分子の糸は，粒子内でちょうどつる巻きばねのような形で存在し，タンパク質の小単位(分子量1.8×10^4)2,200個を縫い合わせるようにしてらせん状に並べ，全体として中空の管のような形態をつくりあげている。インフルエンザウイルスのヌクレオカプシドもこれに似たらせん対称をもっていて，棒状のリボ核タンパク質を丸めた外側を，タンパク質・脂肪・多糖類からなる外被が包み，全体としてほぼ球状の粒子を形成している。立体対称は多くの，いわゆる球状ウイルスでみられる。そのカプシドは正二十面体で，内部に核酸がはいっている。カプシドの表面にはタンパク質の小単位が結晶学的条件を満たして並び，その数はウイルスにより決まっていて，ヘルペスウイルスは162個，アデノウイルスでは252個である。ヘルペスウイルス粒子はヌクレオカプシドをさらに外被がくるんでいる例である。ヌクレオカプシドの内部構造の詳細は不明であるが，最近，内部にさらに立体対称性をもつタンパク構造があることが明らかにされた。立体対称をもつウイルスの中で，T系ファージは特異な形態をもち，頭部と尾部に分かれている。六角柱の頭部内に核酸があり，尾部は中空の心とそれを取り巻くらせん状の柔軟なさやからなり，末端に六角形の小板がある。

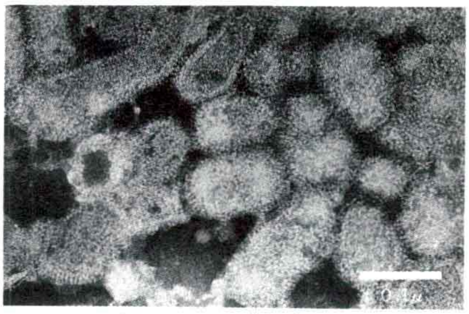
〈ウイルス粒子の分類〉ウイルスは宿主によって分類されるが，ウイルス粒子の化学的・物理的性状を規準にして分類されるのがいろいろな点で便利である。ウイルス核酸の種類，ヌクレオカプシドの対称性，外被膜の有無などがその規準となって表のような分類が試みられている。全部のウイルスの微細構造が解明されてはいないが，今後得られる知識はこのような骨組みの上に整理されていくであろう。

〔ウイルスの培養〕ウイルスは生きた細胞内でないと増殖できないため，ウイルスだけを簡単に培養することはできない。そこでは宿主である細菌・植物・動物を，それぞれ培養・栽培・飼育して，それに種ウイルスを接種しウイルス材料を得る。寒天培地を用いて各種細菌を分離培養する技法はウイルスの発見当時すでに確立していたので，細菌ウイルスの研究には当初から利用され，定量的研究が進められてきた。ヒトの病原体ウイルス研究の初期には，ヒト以外の宿主となる実験動物を捜すのが第１の仕事であった。その後ハツカネズミと発育鶏卵(孵化(ふか)途上の10日前後の受精卵)で，ヒトや家畜の多くの種類のウイルスが増殖することが発見され，動物ウイルスの研究を前進させた。現在では実験動物のほか，培養細胞が動物ウイルスの培養に広く用いられている。ヒトの胎児細胞，癌由来の細胞，サルの腎臓(じんぞう)の上皮細胞などは，適当な処理を行なって，栄養物質と血清を入れた培養液を与えれば，ガラス器の中で培養されるようになる。これを細胞培養法といい，培養された細胞を培養細胞といっている。ウイルスと培養細胞の組み合わせが適切であれば，ウイルスは能率よく増殖することが発見され，動物ウイルスの定量的研究の道が開けた。近年成功したポリオワクチンの開発には，サルの腎臓細胞培養が大きく貢献した。また，培養細胞の応用により，以前には知られていなかった種々のウイルスが分離された。このように，細胞培養法の導入は動物ウイルス研究の基礎的分野を一新した。

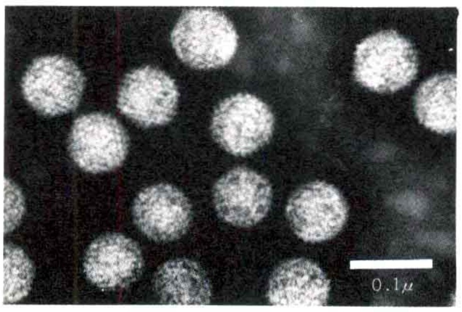
〔ウイルスの増殖〕細菌をはじめ，あらゆる生物の増殖の基本形式は細胞の二分裂であるが，ウイルス粒子自身が二分裂を行なうことはない。宿主細胞内にはいったウイルス遺伝子(核酸)が，細胞のエネルギー代謝系と物質合成系を利用して，ウイルス核酸とウイルスタンパクを合成し，ウイルス粒子を組み立てるという過程が，ウイルス増殖の基本形式である。最初に詳しい研究がなされたバクテリオファージT_2の大腸菌(Ｂ株)における増殖過程は次のとおりである。ファージの尾部が細菌に吸着すると尾部が収縮し，頭部にあるDNAが細菌内に注入される。注入されたDNAを鋳型にして伝令RNAが合成され，細菌のタンパク合成系にウイルスの遺伝情報が伝えられる。まずファージDNA合成に必要な酵素タンパクの合成があって大量のファージDNAの合成が始まり，感染後９分にはファージタンパク



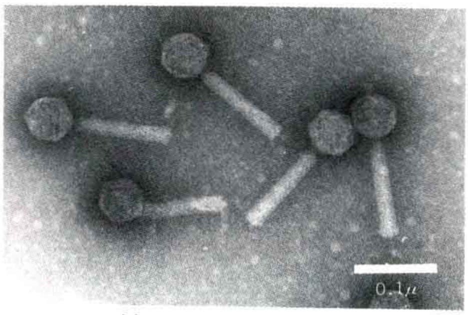
タバコモザイクウイルス



インフルエンザウイルス



アデノウイルス



バクテリオファージ D-6

生成も開始される。この間，宿主細菌DNAは破壊される。感染後12分から完成したファージ粒子が出現し急速に数を増し，20分後には約100個に達する。このころには加水分解酵素がつくられていて，その働きにより菌体の細胞壁がとかされ，ファージ粒子は菌体外に放出される。以上の経過は他の動植物ウイルスでもほぼ同様であると考えられているが，RNAウイルスの増殖は少し異なる。ポリオウイルスの例では，ウイルスRNAがそのまま伝令RNAとして働き，酵素タンパクやウイルスタンパクの合成を指令することができる。特に，ウイルスRNAをもとにして子孫RNAを合成するにはまったく新しい酵素が必要で，これはウイルス感染により細胞内に新生される。

動物ウイルスの感染では，ウイルス粒子がそのまま細胞内に取り込まれ，のちに脱殻(だっかく)が起こってウイルス核酸は裸になり増殖が進行する。それ以後ウイルス粒子の合成には数時間から数十時間を要するが，その時間はウイルスによりさまざまである。宿主が動物細胞の場合，増殖が核内で行なわれるウイルス群(アデノウイルス・ヘルペスウイルス)，核で始まり細胞質で完成するウイルス群(日本脳炎ウイルス)，細胞質内で行なわれるウイルス群(天然痘ウイルス・ポリオウイルス)などが知られている。一般にウイルス増殖は宿主細胞を死に至らしめるが，ニワトリ白血病ウイルスでみられるように腫瘍細胞が増殖しながらウイルス粒子の生産を続ける例もある。

【プロファージ(プロウイルス)】ウイルスが宿主細胞と共存する興味深い形態がプロファージである。ある種のファージを菌の培養液に入れると前述のように増殖し，菌集団の大部分は溶菌するが，一部の菌では侵入したファージが増殖過程にはいることなく，ファージDNAが宿主菌の染色体(DNA)のある決まった位置にはいりこむ。このような状態のウイルスをプロファージとよび，プロファージをもつ菌を溶原菌という。溶原菌は同じファージに対して感受性がなく，ファージ核酸が侵入しても増殖を許さない。プロファージは菌のDNAといっしょに複製されるため，菌はプロファージをもったまま分裂増殖を続けるが，ときどき少数の菌が溶菌して成熟ファージを放出する。溶原菌を紫外線で照射するか過酸化水素で処理すると，宿主DNAに組み込まれていたプロファージが離脱し，突然すべての菌でウイルス増殖が起こりファージ粒子がつくられる。このように誘発されたファージの中には，宿主DNAの一部をもった粒子があり，次に別の菌に感染してプロファージ化すると溶原菌に新しい性質をもたせることがある。これを形質導入*といっている。プロファージ化するウイルスのうち，大腸菌ファージλについては最も詳細な研究がなされた。

動物ウイルスでは，実験動物に腫瘍原性をもつDNA型腫瘍ウイルス(ポリオーマウイルス・シミアンウイルス40・アデノウイルスなど)の細胞腫瘍化をひき起こす過程が，プロファージ化と似た現象と考えられている。たとえばシミアンウイルス40は，ハムスターやハツカネズミの細胞を腫瘍化し，腫瘍細胞のDNA分子にはウイルスDNAが組み込まれている。この腫瘍細胞をウイルスの増殖を許す宿主細胞であるミドリザル細胞と融合すると，成熟ウイルスの産生が誘発される。

【ウイルスと生物学】核タンパク質であるウイルス粒子は，純化されると結晶をつくるものもあり(タバコモザイクウイルス・ポリオウイルス・ポリオーマウイルスなど)，ウイルス核酸とタンパク質を別々に調製してガラス器の中で混ぜると感染性をもった粒子を再構成できるウイルス(タバコモザイクウイルス・RNAファージなど)もある。これらのことからはウイルス粒子自身を生物とはよびがたい。しかし宿主細胞の中ではウイルス核酸が宿主を利用してではあるが生命活動を行ない，増殖する。ウイルスは増殖という生物固有の属性の一部をもった存在であり，遺伝子そのものともいえる。したがってウイルス(特にバクテリオファージ)の感染増殖に関する研究は，遺伝物質に関連した基本的生命現象の多くを明らかにした。遺伝子の微細構造，DNAの複製機構，遺伝的組み替え，DNAからタンパク質への情報伝達とその制御の機序などはその大きな成果で，これらの事がらは生物一般に適用される原理と考えられている。動物ウイルスの研究は細胞培養が利用されてから，ファージ研究で開発された技法も応用され，種々のウイルスの感染増殖過程を解明した。中でも近年注目されているのは腫瘍ウイルスの研究で，培養細胞を腫瘍化するのに成功して以来急速に発展した。ウイルスによって腫瘍化した細胞の中にはウイルス遺伝子が細胞遺伝子と共存していて，ウイルスの遺伝的情報の少なくとも一部がいつも細胞のタンパク合成系に伝えられているのであるが，それが腫瘍化とどのような関連をもつのかの解明は今後の課題である。ガラス器の中で培養した細胞を定量的に腫瘍化できること，腫瘍化を起こす因子(ウイルス)の生物学的解析が可能であることなどの理由から，実験的発癌のモデルとして，今後の発展が期待される。

【ウイルス病とワクチン】ウイルスは細胞の合成系に依存して増殖するため，非感染細胞の機能をそこなわずに，動物体内のウイルス増殖を薬剤で選択的に抑制するのは困難である。現在のところウイルス病に対する特効薬は発見されていない。ウイルスが動物に感染すると，ウイルス粒子のタンパク質は抗原として作用し，動物体内に抗体(γグロブリン分子で血流を回る)をつくらせる。抗体をもった動物にそのウイルスが侵入しても，抗体がウイルス粒子に付着してウイルスの感染性を失わせてしまい，動物は発病しない。このような原理をウイルス病の予防に用いたのがワクチン*であり，ウイルスの培養法・精製法の発展により，大いに開発された。ワクチンには不活化ワクチンと生ワクチンがある。不活化ワクチンは，ウイルス粒子の抗原性をそこなわないように紫外線とかホルマリンなどでウイルスを殺したもので，インフルエンザワクチン，日本脳炎ワクチン，小児麻痺(まひ)のソークワクチンなどがその例である。生ワクチンは生きた弱毒ウイルスである。ウイルスは自然界でもよく突然変異を起こすが，人工的に変異ウイルスをつくることもできる。たとえば，ウイルスの宿主動物(あるいは細胞)を変えて，くり返し増殖させると変異ウイルスが選択されることがあり，それらのうちから抗体産生能を保持しつつ，病原性を失った変異株を選び，生ワクチンが開発された。生ポリオワクチン(セービンワクチン)は，近年世界的規模で小児麻痺の流行を防いだ。今後の課題は，未解決の種種のウイルスワクチンが開発されること，現行のワクチンをさらに改良して副作用のまったくない完全なワクチンに近づけることなどであり，そのための研究が続けられている。ワクチンのみならず，ウイルス病の予防には，ウイルスの生態学の研究も重要である。たとえば日本脳炎ウイルスはカによって人に媒介され，流行に先だってブタで増殖することが知られているが，ウイルスがどのように越冬するのか不明である。ウイルス病の診断，ワクチンの効果の判定，ウイルス生態学の研究などに必要な臨床検査法には，細胞培養法・血清学的技法・螢光(けいこう)抗体法などが応用され，この方面の研究はいちだんと発展した。➔抗原抗体反応

〔吉池邦人〕

界の交流で発展し，13世紀以後はハプスブルク家の支配するオーストリアの中心となり，神聖ローマ帝国の首都として，18世紀後半女帝マリア-テレジア*の時代には隆盛をきわめ，ヨーロッパ文化の中心となった。19世紀初めにはナポレオン1世の侵略を受けたが，1814～1815年のウィーン会議*ののち，メッテルニヒ*の時代にはオーストリア帝国の隆盛に伴い，ヨーロッパの首府といった観さえ呈した。マリア-テレジアの統括した時代には，ハイドン・モーツァルトが住み，引き続いてベートーベン・シューベ



ウィーン　古都のおもかげは旧城壁のあとである環状道路(リングシュトラーセ)の内部に残され，商工業住宅地区の新市街は環状道路の外側にはてしなく広がっている

ルト・シュトラウスなどの音楽家が居住した。交響楽団・国立歌劇場・音楽院などがあり，世界の音楽の中心であるとともに，文学や学術一般の中心地となった。第1次世界大戦によるオーストリア-ハンガリー帝国の崩壊後は，オーストリアの首都となり，現在に至っている。長い文化的伝統にささえられ，ゴシック・バロック様式の有名な建築物が多く，ザンクトシュテファン聖堂・ザンクトミヒャエル教会聖母教会・カールスキルヘ，王宮だったホーフブルク・シェーンブルン宮・リヒテンシュタイン宮などがあり，また，大学・美術館・博物館，演劇の殿堂であるブルク劇場，音楽堂，オペラ劇場もある。〔野間三郎〕

ウィーン　［Wilhelm Wien］(1864～1928)　ドイツの物理学者。ゲッチンゲン・ハイデルベルク・ベルリンの各大学に学ぶ。国立理工学研究所でヘルムホルツの助手として光度単位，高温測定の問題に取り組み，やがて熱放射に対し熱力学*を適用して放射の変位則(ウィーンの変位則*)を導き(1892)，さらにボルツマン*の分布を用いて放射の分布式(ウィーンの分布式)を与え(1896)，量子論開拓の先駆となった。これらにより1911年，ノーベル賞受賞。その後陰極線・カナール線の研究でも業績をあげている。アーヘン工科大学・ギーセン大学・ビュルツブルク大学を経てミュンヘン大学教授。〔藤村　淳〕

ウィーン-アピール　［Wien Appeal］世界平和評議会が原水爆戦争に反対して1955年に発したアピール。ストックホルム-アピール*に続く。1954年(昭和29)3月アメリカのビキニ環礁での水爆実験で〈死の灰〉を日本漁船乗組員が浴びたこと，12月NATO理事会が防衛用原子兵器設置を発表したことで，原水爆実験・戦争への不安が高まった。1955年1月ウィーンで開かれた評議会理事会は原水爆戦争準備反対，原子兵器の製造停止と廃棄をアピールし，全世界から7億人以上の署名を得た。これを契機として，1955年8月広島で第1回原水爆禁止世界大会が開かれた。➔原水爆禁止運動〔折井一彦〕

ウィーンかいぎ　［ウィーン会議］　ナポレオン1世退位後の1814年9月から1815年6月までウィーンで開かれた国際会議。フランス革命とナポレオン戦争のあと始末を目的とした。ロシア皇帝アレクサンドル1世・プロイセン王フリードリヒ-ウィルヘルム3世，オーストリア宰相メッテルニヒ，イギリス代表カッスルリーら，ヨーロッパの諸君主・著名政治家が会議に参加し，フランス王国からはタレーランが出席した。会議は列国の利害が対立して進展せず〈会議は踊る，されど会議は進まず〉といわれたが，ナポレオンのエルバ島脱出の報に接して急ぎ妥協された。会議はメッテルニヒの司会で，フランス革命前の旧体制の復活をめざす〈正統主義〉の原理が貫かれた。タレーランの提唱したこの正統主義は，フランス王国の領土保全を目的としたものでもある。会議の結果，ウィーン体制*がヨーロッパを支配することになり，一時歴史の前進が阻止されることになった。調印された議定書は次のような内容からなっている。①フランス王国は1792年の国境に復する。②ロシアはポーランド・フィンランドを併合，支配する。③プロイセンはワルシャワ大公国の一部およびザクセンの北半部とライン川中流域に領土を取得する。④オランダは旧オーストリア領ネーデルラントを併合してネーデルラント連合王国を形成する。⑤オーストリアは代償としてベネチア・ロンバルジアを取得する。⑥スイスは永世中立を認められる。⑦ドイツは35国と4自由市を合わせてドイツ連邦を形成する。⑧イギリスはセイロン島・マルタ島・ケープ植民地を領有する。〔大野慎一郎〕

ウィーンがくは　［ウィーン学派］　⇨論理実証主義

ウィーンがくは　［ウィーン楽派］

1 1730年ごろから1780年ごろにかけて，ウィーンで活動した作曲家たちをいう。教会音楽では，前時代のローマやベネチアの様式の影響を強く受けたフックスやカルダーラの音楽を発展させ，またオペラでは，ナポリ派の影響下にある。一方，器楽ではナポリ派オペラに使用される諸器楽形式と，前古典派，主としてマンハイム楽派*の様式から出発している。その音楽史上の功績は，メヌエットを含む4楽章構成によるソナタやシンフォニーの形式の確立にあり，この形式は，ナポリ派のシンフォニア・教会ソナタ・古典組曲などから発展してきたものである。作曲家としてはロイター・ワーゲンザイル・モンらがいる。また，広義には，ハイドン・モーツァルト・ベートーベンらを含むいわゆるウィーン古典派の人々をも包含することもある。

2 20世紀前半，ウィーンでシェーンベルク*および彼に学んだ作曲家たちをいう。後期ロマン主義時代の作曲家，ブラームスやブルックナーの徹底的研究およびその批判から出発，十二音音楽*を確立するに至った。20世紀の現代音楽に与えた影響は多大で，セリー(➔音列)をはじめとする現代音楽の諸技法は，彼らを抜きにしては考えられない。しかし，その音楽的価値が一般に認識されるようになったのは第2次世界大戦後である。作曲家としてはシェーンベルクのほかベルク*・ウェーベルン*らがいる。〔吉田泰輔〕

ウィンクラー　［Clemens Alexander Winkler］(1838～1904)　ドイツの無機化学者。フライブルク鉱山学校教授。ガス分析法の先駆者。メンデレエフ*が周期律中に未発見の元素の存在を予言して，エカケイソとよんでいたものを1886年発見して，ゲルマニウムと名づけた。また，ニッケル・コバルトの工業的製法を創始した。

ウィンクラー　［Hugo Winckler］(1863～1913)　ドイツのアッシリア学者。ベルリン大学教授。中部エジプトのアマルナから出土した楔形(くさびがた)文字*粘土板が真正のものであることを確認し，《アマルナ文書*》を明らかにした。これは紀元前14世紀のオリエント列強をめぐる国際関係を解明するための貴重な史料である。1903年にシドンの発掘に参加し，1906年から中部トルコのボガズキョイ*の発掘に着手した。彼はこれがヒッタイトの首都ハットゥシャであることを確かめるとともに，多数の楔形文字粘土板，《ボガズキョイの文書》を発見し，ヒッタイト学の基礎を築いた。〔兼岩正夫〕

ウィンケルマン　［Johann Joachim Winckelmann］(1717～1768)　ドイツの美学・美術史学者。美術の歴史的発展の中に人間の全的な思想の展開を認める体系的美術史の先駆者。《絵画および彫刻におけるギリシア美術品の模倣についての考察》には，ギリシア美術の古典に理想美の実現をみる彼の美学的教説が示されている。主著《古代

美術史》は，ギリシア美術の生起・発展・没落を総合的に解明して近代美術史学の範となった名著で，同時代の思想家はもとより，新古典主義以後の美術に大きな影響を及ぼした。〔松久勝利〕

ウィーンこくりつかげきじょう 【ウィーン国立歌劇場】 オーストリアの国立歌劇場。1869年に宮廷歌劇場として誕生し，1918年に現在の名称となった。1945年に空襲で爆破されたが，1955年に再建され，一流の歌劇場としての存在を誇っている。総監督には初代のヘルベックをはじめ，マーラー・ワインガルトナー・ワルター・ベーム・カラヤンらの名指揮者が就任し，その伝統を継承発展させている。取り上げられる作品は古典から現代音楽まで多彩である。〔向坂正久〕

ウィンザー ［Windsor］ イギリス，バークシャーの都市。ロンドンの西方約37km。テームズ川右岸の河岸段丘上に位置する。人口約30,000(1965)。11世紀，ウィリアム1世*が建てた王宮ウィンザー城を中心として発達した市場町が市街を形成している。城の南にあるウィンザー公園の面積は8km²もあり，ロンドン郊外の観光地となっている。ジョージ礼拝堂は15世紀の建物で，ヘンリー8世・チャールズ1世らの墓がある。

ウィンザー ［Windsor］ カナダ，オンタリオ州南東部にある工業都市。1834年に建設された。人口19万2,000,大ウィンザー21万1,000(1968)。カナダにおける自動車産業の中心地で，アメリカ合衆国の自動車工業都市デトロイトとトンネル・橋で結ばれている。ゼネラルモーターズ社とクライスラー社のカナダ会社がある。

ウィンザー(家) ［Windsor］ イギリス王室の名称で，1917年以来用いられている。エドワード7世は即位後，ジョージ1世以来のハノーバー家を父アルバート公の出身にちなみサックス-コーバーク-ゴータ家と改称。その後即位したジョージ5世は第1次世界大戦に際し，敵国であるドイツ系の爵位称号を廃し，家名を王宮所在地のウィンザーに改めたものである。➔ハノーバー朝

ウィンザー(公) ［Windsor］(1894～1972) イギリスの元国王。ジョージ5世の長男。オックスフォード大学に学び，第1次世界大戦では近衛(このえ)歩兵隊付として各地に従軍。失業問題・住宅問題に関心をもち，国民の人望を集めた。父の死後即位しエドワード8世となったが，シンプソン夫人との結婚問題のため退位し，王位を弟ジョージ6世に譲り，ウィンザー公の称号を受けた。

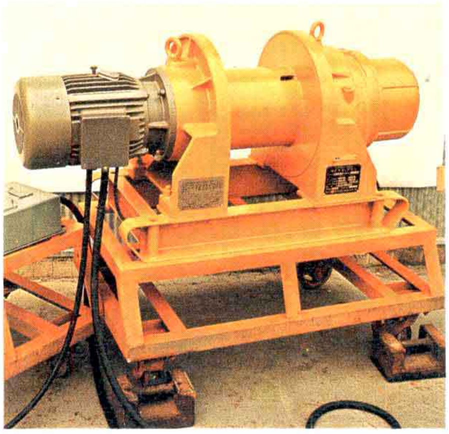
ウィンザー-チェア ［Windsor chair］ 18世紀半ばにイギリスで普及した木製いすの形式。細い紡錘形のろくろびきの棒をくしの歯状に縦に並べた背板と，鞍座(あんざ)状に削り出した座板，やや太めの紡錘形ろくろびきの足などが特色の，飾りの少ない単純素朴(そぼく)ないす。



ウィーン国立歌劇場



ウィンザ-チェア



ウ イ ン チ　全閉外扇籠型

起源は，イギリス南部のバッキンガム州あたりのろくろ屋が，農家や邸宅の使用人用につくっていたろくろびき足の簡単な安物いすにあり，急速な普及の原因は，産業革命に伴った工業都市の労働者住宅や事務所・教会などに，この種のいすが多く使われたことにある。今日に見るような丸背や扇背の形は，オーストリアが開発した蒸気成形技術によるところが多い。わが国では，特に第2次世界大戦後に，アメリカの影響を受けて，食卓用いす・ひじかけいす・揺りいすなどがつくられるようになった。〔前野　堯〕

ウィンザーのようきなにょうぼうたち 【ウィンザーの陽気な女房たち】 シェークスピア*中期の喜劇。1600～1601年の作と推定される。《ヘンリー4世*》の登場人物フォルスタッフに恋をさせてみたいというエリザベス1世の命で書かれたといわれる。フォルスタッフが，ウィンザーの町の女房たちに横恋慕して，さまざまにいじめられるという本筋に，ひとりの娘をめぐる町の男たちのやりとりがからんだ物語。この戯曲をもとに多くの音楽・オペラがつくられている。〔五十嵐一〕

ウィーンしょうねんがっしょうだん 【ウィーン少年合唱団】 オーストリアの少年合唱団。変声期前の少年を合宿訓練して15世紀末に創設され，ハイドンやシューベルトも歌ったといわれるほど古い伝統がある。本来はウィーン宮廷礼拝堂の聖歌隊であるが，現在では独立して世界各地に演奏旅行を行なっている。日本にも1957年以来たびたび来日しているが，宗教音楽やオーストリア民謡，ウィンナ-ワルツや小さなオペラまで上演し，広く親しまれている。〔向坂正久〕

ウィーンだいがく 【ウィーン大学】 1365年ハプスブルク家*のルドルフ4世により，パリ大学を模範に法・医・文の3学部をもつ大学としてウィーンに創設され，1384年神学部を付設した。その後，宗教改革の影響で一時は衰えたが，19世紀中葉に大改革が行なわれた。現在，法・政・医・哲・カトリック神学・プロテスタント神学の各学部がある。医学部は，いわゆるドイツ近代医学を築いた中心的存在として名高い。

ウィーンたいせい 【ウィーン体制】 ウィーン会議*の結果ヨーロッパに成立した保守反動の体制。タレーランの提唱した正統主義を原理とし，オーストリア宰相メッテルニヒを中心として，自由主義・国民主義の運動をおさえながらフランス革命前の旧秩序の維持を図り，そのために神聖同盟*・四国同盟*が結成された。しかし，ヨーロッパ内外の反抗運動によってたちまち動揺をきたし，1830年フランスの七月革命*をきっかけとして崩壊した。〔大野慎一郎〕

ウィンターツール ［Winterthur］ スイス北東部チューリヒ州の工業都市。人口90,000(1966)。鉄道交通の要地。機関車・絹織物・綿織物・せっけん・ビールなどの生産が盛んである。16世紀の後期ゴチックの教会や古い市公会堂が残っている。

ウインチ ［winch］ 綱・ワイヤロープ・鎖などを筒(巻き胴)に巻きとって，重い物を引き寄せ，またはつりあげる巻き上げ機である。昔は丸い木柱に直角に棒を差し込み，手押しで綱を引く仕掛けが使われた。現在の手巻きウインチは，ハンドルの力を歯車装置で拡大して巻き胴を回し，ワイヤロープを巻き取る。電動機やエンジンで駆動される動力ウインチは減速歯車の組み合わせで目的に適した能力と速度が得られる



ウィーン-フィルハーモニー管弦楽団

ので用途が多い。〔赤木　進〕

ウィンチェスターじゅう【ウィンチェスター銃】 1862年に完成した初期の連発式ライフル銃の名。アメリカ合衆国で，西部発展時代に護身用として広く愛用されたことで有名。その製造会社の名をとってウィンチェスター-ライフルとよばれた。

ウィンデルバント［Wilhelm Windelband］（1848～1915） ドイツの哲学者。新カント派。同系のマールブルク派に対して西南学派（バーデン学派）を創始。カントの先験的観念論を受け継ぎ，それを越えて各種の認識を新たに考察しようとした。哲学の体系家としても哲学史家としてもすぐれ，前者としては価値哲学の立場，後者としては問題の歴史的展開という観点から著作し，戦前の日本の哲学界にも影響を与えた。主著《前奏曲》《認識の確実性について》《哲学史教科書》。〔豊福英利〕

ウインドー-ディスプレー ⇨ディスプレー

ウィントフック［Windhoek］ アフリカ大陸南部，大西洋に面する南西アフリカの中心都市。人口36,000（1960）。1890年ドイツの植民都市として建設され，その後イギリスの植民地となったが，1949年南西アフリカが南アフリカ共和国の委任統治地となるとともにその商業の中心となる。古来，交通の要地であったが，ヨハネスバーグ・ケープタウンなどに通じる鉄道の開通以後は農産加工を中心とした工業も発達してきた。特に白・赤ぶどう酒は有名。

ウインドーペーン［windowpane］ 原義は窓ガラス。ガラス窓の桟（さん）のような単純な格子縞（こうしじま）をさす。主として毛織物の格子模様として織られ，スポーティーな服に用いられる。

ウインドヤッケ ⇨アノラック

ウィンドワード（諸島）［Windward］ 西インド諸島中，小アンチル諸島のリーワード諸島とベネズエラの間にある列島。アンチグア-バーブダ（1981年独立。面積441 km²，人口7万。首都セント・ジョーンズ），ドミニカ国（1978年独立。面積751km²，人口8万。首都ロゾー），セント-ルシア（1979年独立。面積616km²，人口12万。首都カストリーズ），セント-ビンセント及びグレナディーン諸島（1979年独立。面積389km²，人口12万。首都キングスタウン），グレナダ（1974年独立。面積344km²，人口10万。首都セント・ジョージ），バルバドスなどの国がある。いずれもイギリス領であった。

ウインナー［wiener］ ウインナソーセージともいう。ソーセージの一種。ヒツジ・ヤギの腸を使ったものをいう。オーストリアの首都ウィーンにちなんだ名称。**《作り方》** 一般のソーセージとほとんど同じであるが，わが国ではふつう，子牛肉3，豚肉4，豚脂3の割合で配合し，これらを細かいひき肉にし，食塩・香辛料・調味料を加えて十分混和したのち，ケーシング（包装材料）に詰める。1本の長さは10cmほどで，太さは手の指ぐらい。つながっていることが多い。

ウィーンのへんいそく【ウィーンの変位則】 ニクロム線などの温度をだんだん上げていくと，最初は目に見えない熱放射が強いが，だんだんと色が赤くなりさらに白っぽくなる。これは絶対温度Tが高くなるにつれてエネルギー最大の波長λ_mがTと逆比例して小さくなる，すなわち（$\lambda_m T$＝一定）の関係があるからである。ドイツの物理学者ウィーンが黒体放射を熱力学的に取り扱って導いた。比例定数はプランクの放射法則から定められる。λ_mは温度の上昇とともに短波長のほうに移るわけで，$\lambda_m=2896/T$〔μ/deg〕から温度がわかれば最大エネルギーの波長を計算することができる，また逆に最大波長がわかれば絶対温度を算出できる。この法則は高温度の測定に役だつ。

ウィンパー［Edward Whymper］（1840～1911） イギリスの登山家。ロンドンに生まれ，版画家として生計を立てた。1865年アルプスのマッターホーン（4,505m）に初登頂したが，下山の際ザイルが切れ，7名中4名が墜落，遭難した。1867年と1872年の2度にわたってグリーンランドに遠征，1880年にはアンデス山脈中のチンボラソ（6,272m），1901年カナジアン-ロッキー中の数座に初登頂した。著書《アルプス登攀記（とうはんき）》は登山書の古典とされている。また，テントの型に〈ウィンパーテント〉として彼の名が残っている。〔野間三郎〕

ウィーン-フィルハーモニーかんげんがくだん【ウィーン-フィルハーモニー管弦楽団】 オーストリアの管弦楽団。世界屈指の伝統をもつ。1842年にウィーン国立歌劇場管弦楽団のメンバーによって創立された。初代指揮者はニコライ。1860年に現在の名称になり独立した団体となったが，メンバーは歌劇場管弦楽団の団員を兼ねている。歴代の指揮者にはマーラー・リヒアルト-シュトラウス・ワインガルトナーらドイツ系の大指揮者が迎えられたが，現在は常任を置いていない。日本には1956年にヒンデミットが小編成で紹介し，1959年と1969年には大編成で来日した。〔向坂正久〕

ウィンブルドン［Wimbledon］ イギリス南東部にあるロンドンの郊外都市。人口57,000（1964）。大ロンドンの一部。全英ローンテニスクラブがあり，1877年以来，世界選手権試合（ウィンブルドンテニス大会）が行なわれている。町の歴史は古く，〈カエサルのキャンプ〉といわれるローマ時代の土塁も残っており，568年ケント王エセルバートがエセックス王に敗れた地でもある。19世紀の女流作家G.エリオットの住んだ町としても知られる。〔野間三郎〕

ウェイン［John Wain］（1925～　） イギリスの小説家。オックスフォード大学卒業後，レディング大学で英文学を教えるかたわら，詩・小説・批評の分野で活躍。1953年，ピカレスク小説ふうの長編小説《急いで降りろ》を発表，閉鎖的なイギリスの社会を風刺し，〈怒れる若者たち〉の代表的な作家とみなされるようになった。ほかに《現在に生きて》《闘争者たち》《旅する女》《父親を打ち殺せ》などの長編小説，文学論集や詩集がある。〔栗原行雄〕

うえき【植木（町）】 熊本県鹿本（かもと）郡の町。人口27,000。熊本市の北方にあり，鹿児島本線に沿う。1955年（昭和30）に，植木町ほか6村が合併して生まれた。中心地区植木は，《倭名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）》にも出てくる歴史の古い町である。スイカを産し，つけ物・みそ・しょうゆなどの工場も多い。西南戦争における熊本城攻防の最大の激戦地，田原坂（たばるざか）が町の東部にある。

うえきえもり【植木枝盛】（1857～1892） 明治の思想家・政治家。土佐藩士の家に生まれ，1874年（明治7）板垣（いたがき）退助が高知に立志社を立て自由民権を説いたのに共鳴して，1877年同社にはいり，民権運動に参加した。以後愛国社・国会期成同盟・自由党などを組織するにあたりつねに板垣と行動をともにした。自由党解党後は高知で文筆活動に従事し，県会議員・衆議院議員をもつとめた。言論活動は政治論

から婦人解放論に至るまで幅広く，著書に《民権自由論》《天賦人権弁》《言論自由論》などがある。〔岸野淳子〕

うえきざん【植木算】 ⇨算術

ウェーク(島)［Wake］北太平洋にあるアメリカ領の島。北緯19°18′，東経166°35′に位置し，面積8km²。潟(かた)を囲んだ台状の環礁の島で，隣接してピール・ウィルクスの2島がある。1796年に発見され，1898年アメリカ合衆国が領有を宣言した。第2次世界大戦開始後1941年(昭和16)12月に日本が占領したが，1945年9月敗戦とともにアメリカに復帰した。ユーラシアと北アメリカ両大陸を結ぶ好位置にあることから，航空燃料補給基地・海底無線中継所・海軍基地として重要な役割を果たしている。〔大崎　晃〕

ウェークフィールドのぼくし【ウェークフィールドの牧師】 ゴールドスミス*の小説(1766)。いなか牧師の一家の生活を，娘たちの結婚話をめぐる騒ぎを軸に，感傷とユーモア，穏健なモラルによって描き出した18世紀のホームドラマ。

ウェゲナー［Alfred Lothar Wegener］(1880〜1930) ドイツの気象学者・地球物理学者。ベルリン生まれ。ハイデルベルク大学で地球物理学を修めたのち，インスブルク大学で天文学を学び，最後にベルリン大学で天文学のほかに地質学と気象学を学び，1905年にベルリン大学から博士号を得た。1906年リンデンベルク高層気象台の助手となり，自由気球に搭乗(とうじょう)して高層観測を行ない，52時間も滞空して当時の記録を破った。1906年夏，デンマークのグリーンランド探検隊に参加，氷上に越冬して気象や氷河の観測を行なう。1909年マールブルク大学の講師となって，天文学と物理学を教えた。1911年には名著《大気熱力学》を発刊。1912年1月フランクフルトで開かれた地質学会で，大陸移動説*を発表，1912年7月には2回めのグリーンランドの探検に出かけている。第1次世界大戦中は従軍して負傷したが，入院療養中に移動説をまとめて発刊した(1915)。1917年にはヨーロッパのたつまきについてまとめた一書を発表。1929年には3回めのグリーンランドの探検に出発したが，翌1930年11月猛ふぶきにあって氷上に没する。遺体は1931年5月捜索隊によって発見された。〔根本順吉〕

ウェーザー(川)［Weser］西ドイツ最大の川。全長約812km。ロタール高原とチューリンゲンの森に発し，北流して北海に注ぐ。ブレーメン・ハノーバーをはじめ，ゲッチンゲン・カッセルなどの重要な都市が流路に沿う。中流部で，東はミッテルラント運河によってエルベ川に，西はエムス-ウェーザー運河によってエムス川・ライン川などと結ばれている。河口は11kmの幅をもつ三角口である。



上杉謙信

ウェーサカ［Wesak］南方仏教系諸国で行なわれる仏教徒最大の祭り。ブッダ*の誕生・成道・入滅の正確な日は不明で，さまざまな伝承があり，また陰暦と太陽暦の換算法の差もあって，日本などではこの3者を別々の日とする。しかし，南方仏教系ではそのいずれもが陰暦のバイシャーカ月の満月の日であったとする伝承があり，これは太陽暦の5月ごろにあたるので，この月の満月の日に仏誕・成道・入滅をいっしょにしてウェーサカ(バイシャーカ)祭を行なう。〔奈良康明〕

ウエザー-コック［weather cock］風見。風を受けて動き，つねに風の方向を示す装置で，装飾的なもの。ヨーロッパの建築では，塔や高い屋根の上などに好んで取り付ける。風向を示す矢と，風を受ける矢羽根とからなるが，おんどりをかたどった矢羽根が多いところから，この名がある。

うえじに【飢え死に】 ⇨飢餓死

うえじまおにつら【上島鬼貫】 ⇨鬼貫

ウェスカー［Arnold Wesker］(1932〜　) イギリスのユダヤ系劇作家。空軍勤務，大工見習い，パリでのコックなどを経て，劇作を始めた。三部作《大麦入りのチキンスープ》《根っこ》《ぼくはイエルサレムのことを話しているのだ》が代表作であり，1930〜1950年代にかけてロンドンのユダヤ人街の住人が，社会主義の理想を求めて苦悩する姿を描いたもの。その既成社会への攻撃性によって，〈怒れる若者たち*〉のひとりに数えられる。やがて新しい社会主義を求める運動に従事，その一環として1962年に労働組合演劇運動の拠点〈センター42〉を設立した。〔奥山康治〕

うえすぎかげかつ【上杉景勝】(1555〜1623) 安土桃山時代〜江戸初期の大名。長尾政景(まさかげ)の子。謙信の養子。謙信の死後，同じく養子の景虎(かげとら)を滅ぼして，越後(えちご)(新潟県)・佐渡(新潟県)・越中(富山県)・能登(のと)(石川県)を支配。豊臣秀吉(とよとみひでよし)とよしみを結び，参議となり，羽柴(はしば)の姓を与えられる。1590年(天正18)小田原征伐に従って功があり，文禄(ぶんろく)の役に渡鮮。1594年(文禄3)従三位(じゅさんみ)権中納言に昇進。1597年(慶長2)五大老*のひとりとなり，1598年会津(福島県)百二十万石に封ぜられた。1600年石田三成と結んで徳川家康(いえやす)打倒の兵をあげたが敗れて，出羽(でわ)(山形県)米沢(よねざわ)三十万石に減封された。大阪の陣には家康に従った。〔善積美恵子〕

うえすぎけんしん【上杉謙信】(1530〜1578) 戦国時代の武将。越後(えちご)(新潟県)の守護代長尾為景(ためかげ)の四子。幼名虎千代(とらちよ)，のちに景虎・政虎(まさとら)・輝虎(てるとら)と改名。出家して不識庵(ふしきあん)謙信という。父の死後，1548年(天文17)兄晴景(はるかげ)に代わって春日山(かすがやま)城主となり，越後を統一。北条(ほうじょう)氏に追われた関東管領(かんれい)の上杉憲政(のりまさ)，武田(たけだ)信玄に追われた村上義清(よしきよ)を助けて，北条・武田氏と合戦(かっせん)を続けた。特に信玄との数回に及ぶ川中島の戦い*は有名。1561年(永禄4)憲政から上杉の姓と関東管領職(かんれいしき)を譲られ，1573年(天正1)越中(富山県)を平定して北陸に一大勢力圏をつくりあげた。1578年都に上ろうとしたが，春日山城で急死。生涯(しょうがい)めとらず，おいの景勝が跡を継いだ。〔村尾元忠〕

うえすぎし【上杉氏】 藤原勧修寺(かじゅうじ)の分家。重房(しげふさ)が鎌倉初期，6代将軍宗尊(むねたか)親王に従って鎌倉に下り，丹波(京都府)上杉荘(しょう)を所領してから上杉を称した。のち足利尊氏(あしかがたかうじ)の外戚(がいせき)となり，憲顕(のりあき)の代に越後(えちご)(新潟県)・上野(こうずけ)(群馬県)・伊豆(いず)(静岡県)の守護，鎌倉府の執事(のち関東管領*(かんれい))となった。憲顕の兄弟らは4家に分かれたが，交互に執事として鎌倉府の実権を握った。詫間(たくま)・犬懸(いぬかけ)両家は早く衰え，山内(やまのうち)・扇谷(おうぎがやつ)(両上杉)両家は最後まで抗争したが，1546年(天文15)山内憲政(のりまさ)・扇谷朝定(ともさだ)は協力して新興の北条氏康(ほうじょううじやす)と川越(埼玉県)で戦い敗れた。朝定は戦死し，憲政は上野の平井城にのがれて，1561年(永禄4)越後の守護代長尾景虎(かげとら)(上杉謙信*)に関東管領職(かんれいしき)と上杉姓を譲った。景虎は周辺を攻略して，北国一の戦国大名となった。養子景勝は豊臣秀吉(とよとみひでよし)に従って会津(福島県)百二十万石を領したが，関ケ原の役後，出羽(でわ)(山形県)米沢(よねざわ)三十万石に移封され，のち十五万石に減封された。維新後伯爵。〔村尾元忠〕

うえすぎしげふさ【上杉重房】 生没年不詳。鎌倉時代の武将。上杉氏の祖。藤原清房の子で，もと勧修寺(かじゅうじ)を称する。1252年(建長4)宗尊(むねたか)親王が鎌倉幕府6代将軍として下向するのに従って，鎌倉に定住した。丹波(京都府)何鹿(いかる)郡上杉荘(しょう)を与えられて家名とし，式乾門院蔵人(しっけんもんいんくろうど)・修理大夫(しゅりだゆう)・左衛門督(さえもんのかみ)を歴任した。鎌倉市の明月院には鎌倉時代の肖像彫刻の名品，重房の木像が伝わっている。〔鹿野賀代子〕

うえすぎしんきち【上杉慎吉】(1878〜1929) 憲法学者。福井県に生まれる。東京

大学卒業後，ドイツに留学。帰国後，絶対主義的官僚主義法学を代表する学者として，1912年(大正1)穂積八束(ほづみやつか)のあとを受け，東大で憲法学の講座を担任。その間，多年にわたり陸軍大学校および海軍大学校の教官もつとめた。また各種の右翼団体の結成・活動にも参加した。明治憲法のブルジョア的側面を主張した美濃部(みのべ)達吉との間で起こした憲法(国体)論争は有名。〔吉田善明〕

うえすぎぜんしゅうのらん【上杉禅秀の乱】 1416年(応永23)，鎌倉公方(くぼう)足利(あしかが)持氏に対し，執事上杉氏憲(うじのり)(禅秀)が起こした謀叛(むほん)事件。犬懸(いぬかけ)家上杉氏の氏憲は，持氏が山内(やまのうち)家上杉氏の憲基を重んずることに不満をもち，家人の所領没収に関して執事を退き，将軍義持(よしもち)の弟義嗣(よしつぐ)，持氏の叔父(おじ)満隆(みつたか)らとはかって，1416年10月持氏の屋形を襲って駿河(するが)(静岡県)に敗走させた。しかし持氏は守護今川範政(のりまさ)をたより，その援助によって鎌倉を攻めたため，氏憲・満隆らはささえきれず，鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)別当坊で自殺した。持氏はその与党を刑し，憲基を執事とした。この乱には土豪層の武士が多く参加し，関東動乱の端緒となった。〔大三輪龍彦〕

うえすぎのりざね【上杉憲実】(1410ごろ～1466) 室町時代の武将。房方(ふさかた)の三男で，山内(やまのうち)上杉家の養子。1419年(応永26)鎌倉公方(くぼう)の執事となり，足利(あしかが)持氏を補佐したが，持氏の将軍義教(よしのり)に対する謀叛(むほん)をいさめて持氏と不和になり，永享の乱に際しては，義教の援助を受けて持氏を攻め殺した。乱の後は執事の職を弟清方に譲って伊豆(いず)(静岡県)国清寺で出家，のち諸国を行脚(あんぎゃ)し，周防(すおう)(山口県)で没した。足利学校を再建し，金沢文庫を再興するなどの功がある。〔大三輪龍彦〕

うえすぎはるのり【上杉治憲】(1751～1822) 出羽(でわ)(山形県)米沢(よねざわ)藩主。日向(ひゅうが)(宮崎県)高鍋(たかなべ)藩主秋月家の二男。上杉家の養子となり，1767年(明和4)襲封。細井平洲(へいしゅう)を招き，竹股当綱(たけのまたまさつな)・莅戸善政(のぞきどよしまさ)を登用して藩政改革に着手した。まず財政窮乏のおりから倹約の励行，都市商人との金融関係の回復を図り，一方では農村復興をめざし，地方支配機構の整備，国産奨励・備荒貯蓄を行なった。その結果，天明の飢饉(ききん)には領内からひとりの餓死者も出さなかったといわれる。また藩校興譲館を建て，学問を奨励した。隠居後鷹山(ようざん)と号した。〔善積美恵子〕

うえすぎようざん【上杉鷹山】⇨上杉治憲(はるのり)

ウェスタ［Vesta］ ローマ神話のかまどの女神。ギリシア神話のヘスチアと同一視される。家・氏族など団体生活の中心としてのかまどを神格化したもの。各家庭で崇拝される一方，古代の小屋をかたどった円形のウェスタ神殿で，国家の象徴としての神聖な火がウェスタレスとよばれる処女たちに守られていた。この火は，年の改まる3日1日を除いて，年じゅう絶えることがなかった。➔ヘスチア



上杉治憲

ウェスターマーク［Edward Alexander Westermarck］(1862～1939) フィンランドの社会学者・人類学者。ヘルシンキ大学教授・ロンドン大学教授。モロッコなどで調査活動に従事した。主要な関心は社会制度としての家族・婚姻・性的道徳観念などであった。特にホブハウスとともに社会制度の比較研究の領域では注目された。婚姻も社会的な家族生活の機能によってとらえようとしたもので，このような社会的機能によって社会制度をとらえようとする立場は，のちのマリノウスキーなどの機能主義に受け継がれた。〔国近浩一〕

ウェスタン-エレクトリック［Western Electric Co., Inc.］ アメリカ最大の電信電話設備の製造会社。電話機・交換機・搬送機器・電線・ケーブルを製造し，またこれらに関連する軍需品や宇宙関係製品もつくっている。アメリカ電信電話会社(AT&T)の100％子会社で製品の8割以上はベル系の電話会社に納めている。1869年クリーブランドに設立した合資会社のグレイ-アンド-バートン社が当社の前身で，1880年代からベル系電話会社の一括注文を受けるようになった。近年特に売れているのは，電話機のほか中央局の交換設備，長距離通信用の搬送チャンネル，マイクロウェーブリレー，電子交換設備などである。ミサイル開発にも誘導設備や予備品を供給している。本社ニューヨーク。年間売上高48億8,000万ドル，従業員数20万3,600(1969)。〔氏家　尚〕

ウェスタンおんがく【ウェスタン音楽】⇨カントリー-アンド-ウェスタン

ウェスチングハウス-エレクトリック［Westinghouse Electric Corp.］ アメリカの大手電気機器メーカー。重電機器を中心とし，売上高はアメリカ第2位。各種の発明で知られるジョージ-ウェスチングハウスが1886年に設立し，1900年ごろから1920年代にかけて多くの電機会社を吸収合併して急速に発展した。中心は火力発電や原子力発電設備，超高圧送電設備，海水の淡水化装置などで，最近では宇宙船をはじめ宇宙・軍需部門の電気装置・水中兵器，電子機器部品や医学用・科学用装置の製造も手がけている。国外ではウェスチングハウス-エレクトリック-インターナショナル会社を通じて製品の販売や技術の供与を進めている。本社ピッツバーグ。年間売上高35億1,000万ドル，従業員数14万2,000(1969)。〔氏家　尚〕

ウェスト［Nathanael West］(1903～1940) アメリカの小説家。本名ネイサン-ワインシュタイン。1930年代の危機(世界恐慌)を反映して，《大枚百万ドル》などの無気味で風刺的な作品を発表したが，自動車事故で若くして死んだため，作品の数は少ない。ハリウッドの映画界を描いた《いなごの日》が代表作。

ウェストサイド［West Side］ アメリカ合衆国，ニューヨーク市のマンハッタン島西岸のハドソン川に面した地区。ニューヨーク港の港湾施設があり，大西洋横断航路の発着地点である。洋服製造工場が並び，その生産量はアメリカ合衆国総生産量の約50％を占め，世界一の既成服製造地となっている。印刷・製本工場も多い。

ウェストサイドものがたり【ウェストサイド物語】 ミュージカル。音楽レナード-バーンスタイン，歌詞スティーブン-ソンドハイム，台本アーサー-ローレンツ，演出・振り付けジェローム-ロビンス。1957年ブロードウェーで初演，また1961年には映画化され，ともに大ヒットとなった。ニューヨークの貧民街ウェストサイドを舞台に，現代アメリカに巣食う人種・社会問題に鋭いメスを入れている。《トゥナイト》《マリア》ほか，多くのヒット曲がある。〔鈴木道子〕

ウェストバージニア(州)［West Virginia］ アメリカ合衆国東部，アパラチア山脈中部西側の州。面積62,000km²，人口170万2,000(1970)，州都チャールストン。1863年6月合衆国35番めの州となる。バージニア州に属していた西部40郡が，1861年南北戦争開始とともに分離し，1863年バージニア州が連邦政府から脱退した際に，この地域は同調せず，ウェストバージニアと命名された。東部はアパラチア山脈，西部はアレゲーニ台地で，ほとんどが山地である。瀝青炭(れきせいたん)を主とする石炭の生産高は全国の30％を占めて第1位。最近は天然ガスの生産も急増し，化学・鉄鋼・ガラス工業が発達している。主要都市，チャールストン・ハンチントン。〔相村大彬〕

ウェストファリアじょうやく【ウェストファリア条約】 1648年，三十年戦争(1618～1648)を終わらせるために，ヨーロッパ諸国の多くがドイツのオスナブリュックに会議を開き調印した条約。このときの会議はヨーロッパ最初の国際会議といわれ，その決定は19世紀のウィーン会議に至るまでヨ

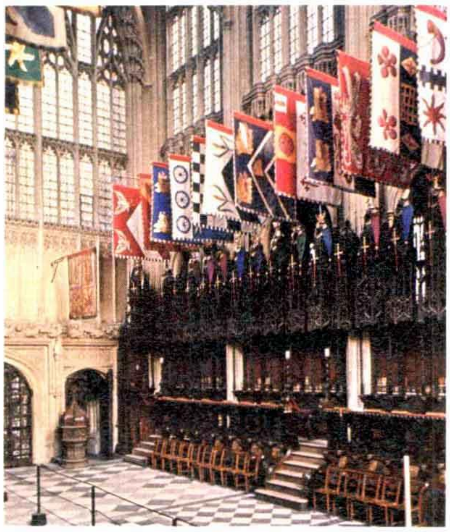
ーロッパの国際外交の基本となった。条約のおもな内容は，①フランスはアルザスの大部分とメッツなどの都市を取得する。②スウェーデンもドイツ国内に領土を取得する。③ブランデンブルクなどは領土を拡張する。④ドイツの諸侯はほぼ完全な主権を認められる。⑤ドイツのカルバン派もルター派同様，カトリック教徒と同等の権利を認められる。⑥スイス・オランダの独立が正式に認められる，などであった。これによってドイツの領邦国家の分立は決定的なものとなり，ハプスブルク家のオーストリアが弱体化し，一方フランス・ブランデンブルク(のちプロイセン)・スウェーデンの国際的地位が高まることとなった。
〔松　俊夫〕

ウェストファーレン　［Westfalen］　ウェストファリアともよばれる。ドイツ北西部，オランダに接する地方で，1945年以後，北ラインと合併してノルトライン-ウェストファーレン州の一部となっている。北部から中央部にかけてはライン川とウェーザー川流域の肥沃(ひよく)な平野が広がり，牛乳・肉・野菜・小麦などの生産を行なっている。東部と南部は丘陵・山地地帯であるが，南部のルール地方は石炭・鉄・銅などの地下資源に富み，鉄鋼・化学・石油精製などの重工業，繊維・食品加工などの軽工業の発達する世界的な工業地帯となっている。鉄鋼業はドルトムント，繊維工業はビーフェルトを中心に興り，ミュンスターはこの地方の政治・教育の中心となる。1648年，三十年戦争終結のためのウェストファリア条約*はオスナブリュックで調印された。
〔野間三郎〕

ウェストポイント　［West Point］　アメリカ合衆国ニューヨーク州南東部，ハドソン川西岸にある合衆国陸軍発祥の地。人口3,300(1960)。1802年創立の合衆国の陸軍士官学校があり，この地名が陸軍士官学校の代名詞ともなっている。

ウェストミンスター　［Westminster］　イギリス，ロンドンの中心部にあるテムズ川北岸の行政区。正式にはシティ-オブ-ウェストミンスターとよぶ。人口85,000(1961)。古くからイギリス国政の中心地区で，バッキンガム宮殿・国会議事堂や諸官庁のほか，歴代イギリス国王の戴冠(たいかん)式の行なわれるウェストミンスター寺院*などがある。ネルソンの記念像で知られるトラファルガル広場もこの地域にあり，国立美術館など学芸施設も多い。
〔大石堪山〕

ウェストミンスターじいん　【ウェストミンスター寺院】　イギリス王室ゆかりのロンドンのキリスト教寺院。歴代の諸王やイギリスの歴史に足跡をしるした人々の墓所があり，ヘンリー7世礼拝堂は11世紀以来のイギリス国王の戴冠(たいかん)式場である。会堂の主部は30mの幅と104mの長さをもち，1245年に起工され，1298年には完成をみたが，南フランスのゴシック様式を思わせる。なお，17世紀にクリストファー-レンの設計になる塔も有名である。
〔田島　学〕



ウェストミンスター寺院　イギリス国王の戴冠式の行なわれるヘンリー7世礼拝堂内部



上田秋成
陶像　西福寺蔵

ウェストミンスターじょうれい　【ウェストミンスター条令】　イギリス本国と自治領との関係を定めた法律で，1931年に成立。第1次世界大戦中にイギリスが自治領に兵力などの援助を要請したことなどにより自治領の地位はしだいに向上し，その結果，1926年のイギリス帝国会議は，本国と自治領が地位平等な自治体として自由に連合していることを宣言した。次いで1931年にこの条約が立法化され，〈イギリス本国議会で制定された法律は，自治領の要求と同意がなければ，自治領の法律の一部としてその自治領に適用されない〉ことが規定された。➔イギリス植民地会議
〔松下京子〕

ウェストンでんち　【ウェストン電池】　⇨標準電池

ウェスリー　［John Wesley］　(1703～1791)　イギリスの宗教家。メソジスト教会の創立者。オックスフォード大学在学中，国教会司祭となる。同大学助教授時代，聖書の命ずるところを厳守する人々の集まりである〈神聖クラブ〉に加わり，北アメリカのジョージア伝道に宣教師として参加したが失敗した。これを契機にルターの《ロマ書序文》に触れて深い回心を体験。以後国内伝道に専心し，死ぬまでに32万km以上，40,000回以上の説教をしたと伝えられる。彼は国教会の一員として伝道活動をするつもりだったが，国教会側から拒否され，メソジスト運動を起こした。彼の死後，これが国教会から完全に分離した新教団となり，今日に至る。彼の行動・思想はその《信仰日誌》により知ることができる。
〔五十嵐誠・石井忠厚〕

うえだ　【上田(市)】　長野県東部の市。1583年(天正11)，真田幸村(さなだゆきむら)の父昌幸(まさゆき)の築城以来，江戸時代を通じて，真田・仙石(せんごく)・松平3氏の五万三千石の城下町であった。江戸後期から製糸業が発達し，明治20年代には県下の中心地となった。1907年(明治40)市制施行。人口11万2,000。千曲(ちくま)川の中流に沿う上田盆地*にあり，東は烏帽子岳(えぼしだけ)のすそ野にあたる。西は塩田平とよばれる水田地域で，ため池が多い。産業三大別人口比は16：39：45。最近は製糸業に代わって輸送用機械・電子工業・計器類など諸工業が発達している。信越本線・国道18号線が南北に通じ，これと直交して，国道143号線(松本街道)が松本へ，国道144号線・145号線(上州街道)が沼田方面へ通ずる。南郊には信濃(しなの)の国府と国分寺の史跡，北東郊に上信越高原国立公園があり，周辺に多くの温泉群を控えた観光基地である。年中行事八日堂縁日(1月8日)が名高い。特産は上田紬*(うえだつむぎ)。

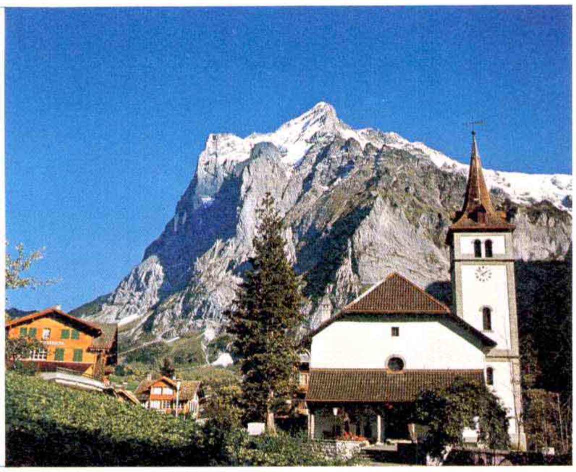
うえだあきなり　【上田秋成】　(1734～1809)　江戸後期の浮世草子*・読本*作者。国学・和歌など多方面にわたって活躍した。大阪の人。幼時，他家の養子となり，病弱のせいもあって甘やかされて育ち，果ては遊里に出はいりする放埒(ほうらつ)な青年期を過ごした。しかし，俳諧(はいかい)を学び，八文字屋本*に接して，しだいに文学に親しみ，33歳で《諸道聴耳世間猿(しょどうききみみせけんざる)》《世間妾気質(せけんてかけかたぎ)》の浮世草子を著わし，小説作者としての一歩を踏み出した。その後，儒学者都賀庭鐘*・国学者加藤宇万伎*(うまき)の門に学び，35歳のとき《雨月物語*》を書きあげた。これは和漢の典籍を学んだ学殖をもとに，読本の流れに新しい方面を開拓したものである。また，医者を業とするかたわら，《古今集打聴(うちぎき)》《よしやあしや》《金砂》など平安朝文学の注釈，《万葉集》の注釈校訂の書を著わし，本居宣長*(もとおりのりなが)と古代精神や音韻学に関する論争をくり返すなど国学研究にも従事した。晩年は，身体の衰弱に加えて家庭的不運・経済的困窮が重なるが，その境遇の中から読本《春雨(はるさめ)物語*》，随筆《胆大小心録*》を生み出し，筆を休めることがなかった。
〔渡辺守邦〕

うえだかずとし　【上田万年】　(1867～1937)　国語学者。尾張(おわり)藩下屋敷(東京大久保)に生まれ，1888年(明治21)東京大学和文学科卒業。イギリス人の日本学者チ

ャンブレンに師事して国語学を専攻。1890年から1894年までヨーロッパに留学，主としてドイツで言語学を修め，帰国すると同時に東京大学教授となり，近代的研究方法による国語学の建設に貢献した。また，文部省専門学務局長・国語調査委員会主査委員・東京大学文科大学学長・神宮皇学館館長・臨時国語調査会会長などを歴任。1927年(昭和２)東京大学名誉教授。1929年までの３年間国学院大学学長。西欧の言語学，特にその歴史的研究の方法を導入し，国語ハ行子音の歴史を考証した《Ｐ音考》は著名である。また，国語問題に関心深く，国運の隆盛は国語・国字の改善が基礎であることを力説し，字音かなづかいの改訂，漢字の制限，ローマ字の普及など国語政策の立案実施に指導的役割を果たした。明治・大正・昭和を通じ，言語学・国語学・国文学の著名な研究者を育成した功績は大である。おもな著書に《国語のため》(第一・第二)，《国語学の十講》，共著として《大日本国語辞典》(松井簡治)，《古本節用集の研究》(橋本進吉)などがある。　〔寒河江実〕

うえだじゅぞう　**【植田寿蔵】**　(1886～1973)　美学者。1886年(明治19)京都府に生まれ，第三高等学校を経て1911年京都大学哲学科を卒業。西田幾多郎の門下。京都大学哲学科助手・講師を経て，1922年(大正11)助教授。1916年《哲学研究》の創刊から以後３年間編集に従事する。1925年ヨーロッパに留学，1927年(昭和２)帰国後九州大学教授となり，1929年京都大学教授を兼任，美学・美術史を担当。1929年文学博士。1935年九州大学の職を解かれ，1946年７月京都大学を停年退官。以後いかなる職業への勧誘も固辞して研究に専念した。著書は多数あり，ほとんどすべては論文集。その思索は一作ごとに展開・深化してやまず，その美学は芸術制作の立場に立ち，見ることの根源的主体性として〈視覚〉を追求し続けた。《美学》は植田美学の体系的叙述である。その他の著書に《芸術哲学》《近代絵画史論》《芸術史の課題》《視覚構造》《日本美の精神》《仏教美術論》《美をきわめるもの》《セザンヌ以後》《近代絵画の方向》《西洋美術史》《芸術の論理》《絵画の論理》などがある。　〔中川　誠〕

うえだつむぎ　**【上田紬】**　長野県上田市およびその周辺の小県(ちいさがた)・埴科(はにしな)・更科郡一円に産する紬織物。経(たて)には生糸，緯(ぬき)には真綿から手引きで繰る紬糸(あるいは簡単な機械を使って繰る手紬糸)を使った平織物。縞(しま)や格子(こうし)が多いが，近年は絣(かすり)もある。染色は多く植物染料によっているが，特に茶系統の色調に特色があり，すぐれている。また，地質が堅牢(けんろう)で軽いのも特色の一つである。享保17年(1732)の序文を有する《万金産業袋》には，〈そのむかし信州上田より出たるは，たてよこ紬にて至極つよし，俗に表一ツに裏三ツを取かゆるとて，三うら島といふとか〉とあって，昔からそのじょうぶさがうたわれていた。創始の時期は明らかでないが，1678年(延宝６)刊の藤本箕山(きざん)の《色道大鏡》にその名がみえているから，少なくとも江戸時代初期には商品として世に出ていたと考えられる。1712年(正徳２)刊の《和漢三才図会》には〈紬は常州結城(ゆうき)に出(い)づるものを上とす。信州之(これ)に次ぐ〉とあり，江戸時代には結城に次いで著名であり，需要も多かったが，明治になってからは，時代の波に押されてまったく衰微した。しかし，第２次世界大戦後には民芸織物の名のもとに復興し，趣味の着尺として愛好されている。現在の生産は年間約3,000反ほどである。　〔北村哲郎〕



ウェッターホーン　登山基地のグリンデルワルト村からの遠望で，頂上付近には万年雪が残る

うえだびん　**【上田敏】**　(1874～1916)　詩人・評論家・英文学者。東京の生まれ。号は柳村。東京大学英文科卒。東京大学講師・京都大学教授を歴任したが，語学にすぐれ，西欧文学の翻訳・紹介に努めた。《文学界》同人の平田禿木(とくぼく)・樋口(ひぐち)一葉らと交わり，また，森鷗外(おうがい)らとともに雑誌《万年艸(まんねんぐさ)》を刊行。フランス象徴派および高踏派の詩作を集めた訳詩集《海潮音》は，数多い業績の中でも特に注目される。　〔小林啓子〕

うえだぼんち　**【上田盆地】**　古くは小県(ちいさがた)盆地ともいわれた。長野県の北西部に位置し，北東を烏帽子岳(えぼしだけ)の山麓(さんろく)に，南西を塩田平に囲まれる。盆地の中央を南東から北西に千曲(ちくま)川が貫流し，北から神川，南から依田(よだ)川・産川が合流して沖積(ちゅうせき)平野を形成する。降水量は1,000mm以下で県下で最も雨の少ない盆地となっている。千曲川に沿って信越本線が走り，中心に上田市がある。

うえだりゅう　**【上田流】**　尺八の流派の一。開祖の上田芳憧(ほうどう)(本名喜一，1892～　)は中尾都山に尺八を学び，その高弟として知られていたが，新作を発表したことにより破門され，1917年(大正６)大阪でこの派を開いて独立した。この派は古典本曲を演奏するだけでなく，50曲を越える自派の本曲をもっており，特に《落ち葉》は後者の作品として著名である。音楽的には都山流に近く，記譜法も旋律が明確な骨組みをもつ点も共通している。　〔徳丸吉彦〕

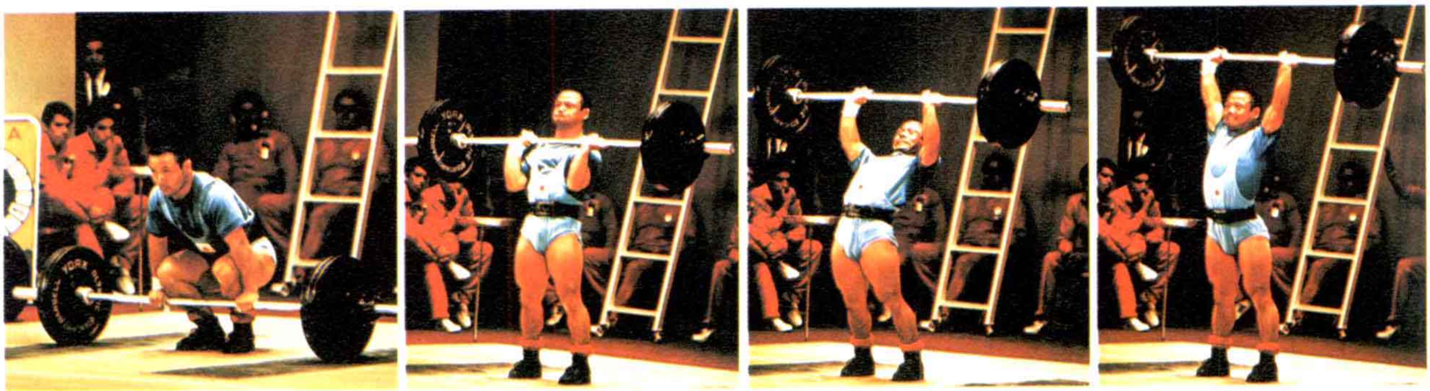
ウェッターホーン(山)　［Wetterhorn］　スイスの中南部にあるアルプス中の山。三峰よりなり，その中のミッテルホーンは3,708m。登山の根拠地インターラーケンの東南東約20kmにあり，アイガー山の北東10kmにあたる。初登頂は1854年イギリスのスピアーによってなされたが，浦松佐美太郎(さみたろう)の南西稜(りょう)初登頂(1928)は日本登山界のヨーロッパ進出のきっかけをつくった。

ウェッデル(海)　［Weddell］　南極大陸グレイアムランド，パーマー半島の東部にある湾入。フィルフナー氷棚(ひょうほう)が海に乗り出し，海面が広く氷に閉ざされているため，海陸の境は判然としない。1823年ジェームス-ウェッデルが発見したのでこの名がある。

ウェッブ　［Philip Webb］　(1831～1915)　イギリスの建築家。オックスフォードの生まれ。ラスキンの中世主義に深く影響を受けたウィリアム-モリスの工芸品浄化運動に参加。当時の古典主義的建築様式を排し，生活の内容要求を素朴(そぼく)に建築に表現した。1859年に設計したモリス邸〈赤い家〉は彼の代表作である。

ウェッブふさい　**【ウェッブ夫妻】**　Sidney Webb(1859～1947)・Beatrice Webb(1858～1943)の夫妻。夫妻ともイギリスのフェビアン社会主義者・社会学者。ベアトリスは，スペンサー・ブースらの影響のもとに，イギリスにおける貧困の調査に従事し，シドニーは1882年バーナード-ショーとともにフェビアン協会を設立した。1892年に結婚，以来理想的な研究者夫婦として，労働党の指導的役割を果たすとともに，労働・社会運動の研究・教育に努めた。数ある著作の中で，共著《労働組合運動史》は最も著名。　〔根本英美〕

うえつほんせん　**【羽越本線】**　新津(にいつ)～秋田間の国鉄路線。営業キロ数271.7。ほかに貨物支線2.7kmがある。1912～1924年(大正１～13)開業。日本海岸縦断の幹線鉄



ウエートリフティング　オリンピック-メキシコ大会における三宅義信のプレス。三宅はフェザー級1位となった

道の一つで，新発田(しばた)・村上・鶴岡(つるおか)・酒田などの都市を通過する。

ウエディングドレス　[wedding dress]　結婚式で花嫁が着るドレスの総称で，ブライダルガウンともよばれる。清楚(せいそ)で敬虔(けいけん)な感じの純白でつくられるが，再婚者は淡い色を用いる場合もある。形はワンピース仕立てでたけが長く，床にトレーン(裳裾(もすそ))を引くのが一般的とされているが，流行によって床までのもの，格式にこだわらない短いもの，またはツーピース形式が用いられることもある。西欧の結婚式は本来宗教的儀式なのではだをあまり見せないようにえりぐりは詰まっているのが普通。そでも長いのが標準である。白一色の装いなので，材料はサテン・レース・タフタ・ファイユなど豪華な布地が使われる。頭にはオレンジの花(他の白い花でもよい)を飾り，ベールのついたヘッドドレスをかぶる。くつはドレスと共布か白サテン・皮のパンプス型，手袋も白。装身具には真珠のネックレス・イヤリングが用いられる。〔小池千枝〕

ウエディングハット　[wedding hat]　結婚式に花嫁の着るウエディングドレスのヘッドドレスとして用いるもので，元来ドレスとともに純潔を表わす意味で純白でつくられる。形は王冠型・トーク型・シニオン型などが多く，花飾りのみのものもある。装飾には真珠・ダイヤ・羽根・造花(本来はオレンジの花であるが，そのほか花ことばなどにより幸福を暗示する白い花に限られる)が用いられる。このヘッドドレスには必ずベールがつけられるが，これは古くローマ時代からある宗教的な習慣である。その後，13～14世紀からこれがヨーロッパ諸国に広がり今日に至った。欧米の古い家庭では豪華なレースが代々譲り伝えられ，しあわせの象徴として扱われた。近年は絹・ナイロンなどのチュールを用いることが多い。たけは長くすそを引くものから，肩までの短いものまでさまざまである。〔酒井登代〕

ウエディングリング　[wedding ring]　結婚式で新郎新婦が取りかわす結婚記念の指輪。この風習はローマ時代からあり，はじめは鉄製であったが2世紀ごろから金製になり，19世紀ごろからダイヤも用いられるようになった。教会の結婚儀式に指輪の交換が組み入れられるようになったのは，11世紀ごろからである。男女ともに左手の第4指にはめる。かまぼこ形の金指輪が一般に用いられ，内側に結婚の日付と，相手の名まえ，またはふたりのイニシアルを刻む。〔小池千枝〕

ウェーデキント　[Frank Wedekind]　(1864～1918)　ドイツの劇作家。自然主義*の影響を受けながらも，のち，それに反抗して表現主義*的な傾向に走った。人間にとって本質的なものは，社会的なものではなく，社会から隔絶された人間の本能的なものだとする考えをもとに，多くの作品を書いた。思春期の少年少女の性欲をテーマとした《春の目ざめ*》には，そのような姿勢が現われている。ほかに《地霊》《パンドラの箱》などの作品がある。〔横溝政八郎〕

ウエートトレーニング　[weight training]　筋力(手足・腹・背の瞬間的運動能力とその持久力)を高めるために，バーベル・ダンベル・砂袋などの重量(負荷)物を用いて行なうトレーニング。最近はあらゆるスポーツに採用。これにはエキスパンダーやゴムのチューブを用いたり，自分自身の体重や，ふたりで組んで相手の体重を利用したりする抵抗運動も含む。また，一定の姿勢で力を入れる静的筋力トレーニング(アイソメトリックス)もあるが，普通には動作を伴う動的トレーニングをさす。トレーニングの方法は，競技種目・目的・時間・能力などによって違うが，一般には，最大筋力の3分の2以上を必要とするような重量物を用い，10回くり返して小休止するセット法が用いられる。オフシーズンには週3～5回行ない，シーズン中は週1回程度にとどめるのがよい。なお，急激に負荷をふやしてはならない。〔伊東春雄〕

ウエートリフティング　[weight lifting]　バーベルを使って力量を競う競技。重量あげともいう。わが国では古くから力石とか俵差しなどとよばれた種々の力比べの競技が行なわれてきたが，明治になって各種の体育運動が招来されると，用具として使用に簡便な鉄亜鈴などが用いられるようになり，これらを用いた運動が体力づくりの方法として学生や民間に普及した。特に武道家たちは，技と筋力向上のために欠くことのできない運動としてこれを重要視した。たまたま1934年(昭和9)3月，嘉納(かのう)治五郎*がオーストリアから国際基準のウエートリフティング用具一式を購入し，ここにウエートリフティングが本格的に競技として行なわれる機運が生まれ，以後しだいに普及した。

〔競技〕 4m四方(厚さ10cm以上)の台上で行なわれる。長さ2.2m，重さ20kgのシャフト(柄)の両端に，取りはずしのできるプレート(鉄の円板)をつけたもの全体をバーベルといい，これを両手で持ち上げる。プレートは1.25kgから20kgまで7種類あり，20kgのプレートの直径は45cm。持ち上げる重量は試技者(選手)が指定するが，上記のプレートの組み合わせで加減する。ただし競技では，最初に指定した重量は各スタイルごとに3回行なうことのできる試技(足もとの位置から頭上まで持ち上げる動作)に失敗しても減らすことはできない。試技の成功不成功に関係なく，2回めの重量は5kg以上，3回めには2.5kg以上増量しなければならない。後記の3通りのスタイルで成功した重量の総計で勝敗を決する。同記録の場合は試合1時間まえの検量で体重の軽かった者，これも同じなら試合後の検量で軽かった者が勝ちとなる。競技は別表の7階級別に行なわれる(世界選手権大会・オリンピック大会では，フライ級は行なわれない)。

　1チーム7人が参加できるが，重点視す

体重によるクラス分け

級	体重
フライ級	51.0kgまで
バンタム級	56.0kgまで
フェザー級	60.0kgまで
ライト級	67.5kgまで
ミドル級	75.0kgまで
ライト-ヘビー級	82.5kgまで
ミドル-ヘビー級	90.0kgまで
ヘビー級	90.0kg以上

る級に2名を参加させてもよい。重量級に好選手を得にくい日本チームが，バンタム・フェザー両級に2名申し込んだ例もある。

競技のスタイルは次の3種類。〈プレス〉クリーン(胸に引き上げる動作)したバーベルを腕力だけで押し上げる。足腰の反動を使ってはいけない。頭上に両腕が伸びきれば成功。〈スナッチ〉バーベルの下に体をもぐりこませるようにして，一気に頭上に引き上げて立てば成功。掛け声と同時に持ち上げ，途中にクリーンの動作がない。日本人の強い種目。〈ジャーク〉まず，クリーンし，次いで両足で床をけり，足を前後に開いて，バーベルを頭上に一気に突き上げる。反動を利用できるので，3種目中いちばん重いバーベルを使える。〈反則〉スナッチ・ジャークは，しりやひざが床に触れたり，心棒が頭に触れたりしてはならない。〔呉　政男〕

ウェヌス ［Venus］ ローマ神話の女神。英語でビーナス。ギリシア神話のアプロディテと同一視される。本来は菜園の女神であったが，特にユリウス家の守護神として崇拝された。➔アプロディテ

うえの 【上野】 東京都台東区の西半，上野公園・不忍池(しのばずのいけ)・広小路付近の総称。江戸時代から開けた下町の盛り場で，山手(やまのて)台地から突き出した上野台地には，徳川家の廟所(びょうしょ)東叡山(とうえいさん)寛永寺，東照宮をはじめ多数の寺院があったが，明治維新の際に彰義隊*の戦いで，大半が焼失した。江戸時代以来の桜の名所で，1873年(明治6)上野公園*として一般に開放され，国や東京都を代表する文化施設が集まる。台地の南東部には国鉄上野駅や広小路を中心とする繁華街があり，台地上の上野に対して，下谷*(したや)とよばれる。上野駅は1883年に開設され，東北本線・常磐(じょうばん)線・信越本線・上越線などの始発駅となり，国電・京成電鉄・地下鉄・バスなどの交通機関も集まる。国鉄上野駅の乗降客数は1日平均18万6,000人に達し，全国で第9位を占める(1973年度)。〔浅井得一〕

うえの 【上野(市)】 三重県北西部の市。1585年(天正13)筒井定次(さだつぐ)が上野城を築き，1608年(慶長13)藤堂高虎(たかとら)が大阪城の固めとして城下町を建設し，江戸時代を通じて城代を置いて支配した。1941年(昭和16)市制施行。人口61,000。伊賀(いが)盆地の北部，伊賀・服部(はっとり)・長田の3川が合流して木津川となる沖積地(ちゅうせきち)上に碁盤目状の町割をもつ。産業三大別人口比は19：33：48。伊賀米をはじめ，農・林産物を集散し，商業活動が活発である。清酒・和がさ・組みひも・もめん・伊賀焼などの伝統的な家内工業があり，最近は織物・ミシンなどの近代工業も興り，北部に産する陶土を利用した窯業関係の工場も進出している。近畿(きんき)日本鉄道伊賀線が通じ，同大阪線や関西本線と結ばれる。鉄道幹線からはずれているが，国道25号線(名阪国道)・163号線，名張街道などの道路交通がこれを補う。伊賀流忍術の発祥地，また芭蕉*(ばしょう)の生地として知られ，忍者屋敷・俳聖殿・芭蕉記念館があり，府中には伊賀の国府と国分寺の史跡，伊賀一宮の敢国(あえくに)神社がある。年中行事天神祭(10月23～25日)が知られる。

うえの 【上野(町)】 愛知県知多郡の町であったが，1969年東海市に合体。知多半島の北部，伊勢(いせ)湾岸にあり，北は名古屋市に接する。埋め立て地に工業地帯が造成され，特に1964年(昭和39)東海製鉄(現在の新日本製鉄名古屋製鉄所)が誘致されてから急に発展した。1960～1965年の人口増加率は77.9％で，愛知県市町村中第1位だった。名古屋鉄道常滑(とこなめ)線が通じている。

うえのこうえん 【上野公園】 江戸城の鬼門を鎮護するため建てられた寛永寺の境内(けいだい)に不忍池(しのばずのいけ)を合わせ，面積84ヘクタールの東京都管理の公園。1873年(明治6)に開園し，史跡として東叡山(とうえいさん)寛永寺・東照宮・輪王寺表門・清水堂・彰義隊墓碑，文化施設として東京国立博物館・国立科学博物館・都立美術館・国立西洋美術館・東京文化会館・東京芸術大学，行楽施設として動物園*などがある。〈花の雲，鐘は上野か浅草か〉とよまれて昔から花の名所としてにぎわったが，西郷隆盛(たかもり)の銅像をシンボルに，現在も都民に親しまれている。〔菊池万雄〕

うえのどうぶつえん 【上野動物園】 東京都上野公園内にあり，正式には東京都恩賜上野動物園という。1882年(明治15)に国立博物館の一部として開設されたわが国最初の動物園で，1924年(大正13)今上天皇成婚を記念して東京都に移管された。当初は面積も現在の5分の1程度で，動物も400種類ほどであったが，現在では面積約13ヘクタールに4,000種の動物を収容する世界有数の動物園となった。近年なお拡張されて不忍池(しのばずのいけ)畔に分園の水上動物園をもち，本園とはわが国最初のモノレールとイソップ橋で結ばれ，子どもの天国となっている。〔菊池万雄〕

うえのはら 【上野原(町)】 山梨県北都留(きたつる)郡の町。人口25,500。東は東京都と神奈川県に接する。1955年(昭和30)に上野原村ほか7村が合併して町制を敷いた。旧上野原村は，相模(さがみ)川の上流桂(かつら)川の段丘上に位置する甲州街道の宿場町で，また郡内織という甲斐絹*(かいき)機業の一中心として栄えた。現在は中央本線・国道20号線に沿い，大衆用織物を主とする機業の町として八王子市と深い関係をもち，また中央自動車道などの交通の発展によってしだいに東京の衛星都市化している。

うえのぼんち 【上野盆地】 伊賀(いが)盆地ともいう。三重県の北西部，鈴鹿(すずか)山脈・笠置(かさぎ)山地にはさまれた，東と北に断層崖(だんそうがい)をもつ地溝(ちこう)盆地で，南



上野市　上野城から望んだ市街。一部には京都に模した碁盤の目状の市街があり，古い武家屋敷のなごりをとどめる町並みが見られる



上野公園　(左)都心部にある緑地として都民に親しまれており，また園内には各種の博物館・美術館などの文化施設も多い　(右)上野公園の用地は江戸時代には寛永寺をはじめとする寺社が多数存在した。写真は寛永寺五重塔と上野東照宮の参道で，道の両側には江戸時代に諸大名が寄進した燈籠が並んでいる

は室生(むろう)火山群に囲まれている。盆地の一部には湖成層がみられ，かつて湖をたたえていたことを物語っている。東から柘植(つげ)川・服部(はっとり)川，南から長田川が盆地の北で合流して伊賀川となっている。米作が盛んで伊賀米の産地である。

ウェーバー ［Weber］ 磁束および磁極の強さの実用単位。記号Wb ドイツの電気磁気学者ウェーバー*の業績を記念してつけられた名称。一巻きのコイルまたは回路に鎖交していた磁束が時間とともに一様に減少するとき，1秒間に磁束が消えて，その回路に1Vの起電力ができる場合，この磁束を1ウェーバーという。

ウェーバー ［Carl Maria von Weber］(1786～1826) ドイツの作曲家。劇団の興行主であった父とともに，幼いころから各地を巡業する不安定な生活を送った。落ち着いて勉強することはできなかったが，その反面，早くから芝居や劇場の仕事にじかに接し，この体験は後年の劇作品の作曲に大いに役だった。ヒルトブルクハウゼンではホイシュケル，ザルツブルクではハイドンの弟M.ハイドン，ウィーンではフォーグラーらに師事し，作曲家・ピアノ演奏家・指揮者として出発した。1813年，プラハの歌劇場指揮者の地位を獲得し，1817年には，ドレスデンの歌劇場の指揮者に迎えられ，この時期に《魔弾の射手*》《オイリアンテ》などを完成した。後年，コベントガーデン歌劇場からの依頼に応じて作曲した歌劇《オベロン》を初演・指揮するためにイギリスに渡り，同地で客死した。遺骸(いがい)は，18年後の1844年，ワーグナーによってドレスデンに移された。代表作は歌劇《魔弾の射手》(1820)で，この作品によって，彼はロマン的ドイツ歌劇の確立者となった。劇作品以外の分野でも，器楽曲・声楽曲など，数多くの作品がある。特に，華麗な演奏技巧を駆使したピアノ曲が多数あり，中でも《舞踏への勧誘》(のちにベルリオーズが管弦楽化)はよく知られている。 〔寺田兼文〕

ウェーバー ［Wilhelm Eduard Weber］(1804～1891) ドイツの物理学者。電気磁気学の開拓者のひとり。はじめ生理学の研究を始めたがガウス*を知り，協力して地磁気の研究を進めた。ゲッチンゲン大学教授であったがハノーバー憲法廃止に抗議して，一時その職を追われたこともある。力学の観点から電気力学を建設し，また電気諸量の絶対単位系の創出，光速度定数cの決定など多くの業績を残した。

ウェーバー ［Max Weber］(1864～1920) ドイツの社会学者，法制史・経済史学者。はじめ経済学・法律学の分野で活躍したが，のち社会学に転じた。特に社会科学方法論の領域においては，現在に至るまで強い影響を及ぼしている。彼の社会学の出発点，ないし分析の単位は全体社会・集団などではなくて，個別的人間である。人間



C. M. ウェーバー



W. E. ウェーバー



M. ウェーバー

の社会的行為に注目し，その社会的行為を意味的に解明しつつ理解し，これによってその経過とその結果とを因果的に説明しようとしたものである。理解社会学といわれるゆえんである。また無限の現実的多様性の中から，純粋な思惟像(しいぞう)としての理念型として社会科学的概念構成を行なっている。ウェーバーは近代西欧社会の宿命的なもの，あるいは信仰に近いものとしての合理化を手がかりとして，近代社会における人間の解明を行なったのである。著書に《経済と社会》《社会科学方法論》などがある。 〔国近浩一〕

ウェーバー ［Alfred Weber］(1868～1958) ドイツの経済学者・社会学者。マックス-ウェーバー*の弟。はじめ法学と経済学を専攻したがのちに社会学に移り，形式社会学批判から歴史主義的文化社会学の樹立に努めた。社会過程・文明過程・文化運動の三つの基本的概念によって，具体的な歴史的社会の全領域を体系的に説明しようとした。特に不断に流動する歴史の文化運動過程をとらえようと，生の直観による全体的・具体的認識の立場を強調している。 〔国近浩一〕

ウエハース ［wafers］ 薄いせんべい状の洋菓子。小麦粉・砂糖・卵黄・食塩・牛乳・香料などを原料とし，これらをよく混ぜてどろりと練り，鉄製の焼き型に流して低温で徐々に焼いて仕上げる。そのままで食べることはほとんどなく，焼けたものを2枚合わせて間に種々のクリームをはさむのが普通。はさむものによってシュガーウエハース・クリームウエハース・チョコレートウエハースなどに分けられる。また，ウエハースの材料にチョコレートを混ぜて焼いたものや，オートミールを加えて焼いたスコッチウエハースなどもある。軽くて消化がよく栄養価も高いので，離乳期の乳児食や病人食などに適し，またアイスクリームその他の冷菓に添えて供する。 〔泉 敬子〕

ウェーバーせん ［ウェーバー線］ オランダの生物学者ウェーバーがマライ諸島の淡水魚の調査研究から，東洋区*とオーストラリア区*との間に動物分布の境界線として提唱したもの。ウォレス線*に比べれば，ニューギニア・オーストラリア側に近い。その根拠は，セレベス島の淡水魚相はオーストラリア系のものが少なくむしろ東洋区系のものを産するということにある。➔ウォレス線

ウェーバーのほうそく ［ウェーバーの法則］ 感覚の閾値(いきち)についての法則で，ボーゲル-ウェーバーの法則ともいう。Iという刺激が$I+\Delta I$とかろうじて区別することができる(ΔIは区別の閾値を示す)場合に$\Delta I/I$は一定であるという法則。すなわち，刺激Iが大きいとわずかな差は区別できない。たとえば30gに対しては31gを区別することができるとき，60gに対しては62gを区別することができるというものである。ただし，この法則はつねに成立するのではなく，刺激の強さがある一定範囲内でのみ成立する。 〔平野修助〕

ウェーバー-フェヒナーのほうそく ［ウェーバー-フェヒナーの法則］ フェヒナーの精神物理学的法則ともいう。刺激の強さと感覚の強さを量的に表現した法則で，感覚の強さは刺激の強さの対数に比例して増加するというものである。この法則の根拠は次のことによる。刺激Iによって起こる感覚の強さをEとし，刺激がΔIだけ増したときに感覚はΔEだけ増加したとする場合に，$\Delta E=k\cdot\Delta I/I$($k$は定数)と定義する。ただし，$\Delta I$は区別の閾値である。もし$\Delta I$ができるだけ小さく$dI$となった場合，感覚に$dE$の差が生じると考えると，$dE=k\cdot dI/I$となる。これを積分すると$E=k\cdot\log I+C$を得る。この式は感覚の強さ($E$)は刺激の強さ($I$)の対数に比例することを示している。つまり，感覚の強さを等差級数的に増すためには，刺激の大きさを等比級数的に増さなければならないことになる。この法則は感覚の強さを数量的に表わせると考え，それを微分的に取り扱ったところに難点があるが，適用限界を考慮すれば事実によく合

うものとして，価値の大きいものである。〔平野修助〕

うえはらろくしろう【上原六四郎】(1848～1913) 音楽理論家・物理学者。江戸に生まれる。東京音楽学校・東京高等師範学校で音響学を教えた。また，琴古流尺八の楽譜を改良し，《俗楽旋律考》を著わした。これは日本の伝統音楽を音階の面から科学的に分析・研究したものである。

ウェブスター［Noan Webster］(1758～1843) 独立戦争から合衆国建設の時代に活躍したアメリカの辞書編集者。エール大学卒業後教師，次いで弁護士となり，さらに新聞を発行，ワシントンの政策を支持した。その間，アメリカの政治的独立と同時に文化的独立を主張，1793年に最初のアメリカ独自の英語教科書を発表，同教科書は合衆国のほとんどの学校で採用され，その収入によって後半生は辞典編集に没頭した。1807年百科辞書的大英語辞典の編集に着手，1828年70歳のとき，いわゆる《ウェブスターの英語辞典》を出版，生涯(しょうがい)その改訂に従事した。同辞典の特色は，教科書編集以来踏襲されたつづり字法の簡易化，英米用語法の相違の指摘などであるが，彼の没後も改訂を重ね，アメリカにおける以後の辞典編集に多大の影響を与えた。〔北村　甫〕

ウェブスター［Daniel Webster］(1782～1852) アメリカ合衆国の政治家。ニューハンプシャー州出身。1813～1817年連邦下院議員。1816年ボストンに移り，1823～1827年マサチューセッツ州選出連邦下院議員，1827～1841年・1845～1850年上院議員をつとめた。1841年ハリソン，彼の死後タイラーのもとで国務長官となり，1842年イギリス領カナダとメイン国境を画定した〈ウェブスター-アシュバートン条約〉を締結，1843年辞任。1850年フィルモアにより再度国務長官に任命され，死ぬまで在職。はじめフェデラリスト党員としてジェファソン・マディソンの政策に反対。のちホイッグ党指導者のひとりとして北東部商業・産業資本家の利害を代弁し，保護関税や国立銀行の期限延長を主張してジャクソンと対立した。また，終生連邦の維持を至上目的として，1830年南部州権論に反対する有名な〈ウェブスター-ヘイン論争〉，1850年には連邦制維持のためには奴隷制承認もやむなしとして，奴隷制廃止論者の猛反撃にあいながらも，クレイの〈1850年の妥協〉を支持する〈3月7日演説〉を展開，得意の修辞と雄弁で反対派を論駁(ろんばく)し，説得した。南部のカルフーン，西部のクレイと並んで，北東部を代表する政治家として19世紀前半のアメリカ政治に果たした役割は大きい。〔折井一彦〕

ウェーベルン［Anton von Webern］(1883～1945) ドイツの作曲家。ウィーンの官吏の家庭に生まれ，ウィーン大学哲学科に入学して音楽学を専攻し，ルネサンスの作曲家イザークの研究で学位を得た。1904年シェーンベルクを知り，彼のもとでベルクとともに作曲法を学び，ウィーンやプラハなど各地の歌劇場の指揮者として生計を立てながら，1908年《パッサカリア》(作品1)を作曲。以後，小編成の楽器のためのきわめて小形式の作品をいくつか作曲した。この時期の彼は，〈ピアニシモ-エスプレッシーボの作曲家〉という名称でよばれているが，作品はほとんど最弱音で奏され，非常にデリケートな表情をもっている。1924年ごろからは，シェーンベルクやベルクとともに十二音音楽技法を推し進め，《宗教的民謡による三つの歌曲》などの作品を発表した。しかし，この十二音音楽の時期を過ぎると，その作風をしだいに〈点描主義〉に転換させていった。これは〈間〉(休止符)を生かした音楽で，沈黙の中で色彩のあざやかな音響が展開される。《交響曲》(作品21)《ピアノ変奏曲》(作品27)などはその典型である。晩年はナチズムに指揮者の職業を奪われたが，個人教授や楽譜の校正をしながらも，二つのカンタータ(作品29と31)のような傑作を書きあげた。未知の音響世界を開拓した彼の作風は，第2次世界大戦後の作曲家に多くの影響を与えている。〔船山　隆〕



上村松園《焔》1918　東京国立博物館蔵

うえほんまち【上本町】 大阪市南部，上町台地上の天王寺区・南区にまたがる地域で，南は阿倍野(あべの)区に接する。上本町筋は1～9丁目まであるが，中でも上本町6丁目は上六の通称で市民に親しまれ，近畿(きんき)日本鉄道の上本町駅は，伊勢(いせ)・名古屋・奈良方面への電車の発着点となり，駅を中心に付近一帯はターミナル商店街を形成している。

うえむらしょうえん【上村松園】(1875～1949) 日本画家。京都の生まれ。本名常子。京都府画学校を中途退学し，幸野楳嶺(ばいれい)・竹内栖鳳(せいほう)に学ぶ。第1回より文展に出品，文展審査員・帝国美術院会員・帝室技芸員になり，1948年(昭和23)女性としてはじめて文化勲章を受ける。四条派の技法に近代感覚を取り入れ気品高い美人画を開拓，近代閨秀(けいしゅう)画家の第一人者として知られる。

うえむらまさひさ【植村正久】(1858～1925) 明治・大正時代のキリスト教会の指導者。プロテスタントの牧師。横浜のブラウン塾(じゅく)に学び，宣教師バラの感化によって，1873年(明治6)横浜基督(キリスト)公会で受洗入信。東京一致神学校卒業後，富士見町教会を設立し，生涯(しょうがい)ここに牧師として勤めた。明治学院教授を兼ね，また，東京神学社を創立して校長となり，伝道者の養成に尽力。文筆活動として《福音新報》《日本評論》を発行し，キリスト教会内外に大きな功績を残している。彼は正統的・福音主義的立場に立ち，自由主義的立場の海老名弾正(えびなだんじょう)と論争を展開した。著書に《真理一班》など多数。《植村正久全集》がある。〔五十嵐誠〕

ウェーラー［Friedrich Wöhler］(1800～1882) ドイツの化学者。ベルリン大学教授。はじめ医学を志したが，ハイデルベルク大学でグメリンに化学を学び，勧められて化学に転じ，ストックホルムのベルツェリウスに学ぶ。この師と生涯(しょうがい)を通じての往復書簡は，化学文集として化学史上も貴重である。彼のシアン酸銀とリービッヒの雷酸銀との組成が同一であったことから，1824年異性体の存在を発見し，両者の生涯に及ぶ共同研究が始まる。1828年シアン酸アンモニウムから有機物質尿素を合成し，従来の生命力説に大きな打撃を与えた。それは同時に新しい異性体の例でもあった。1832年リービッヒと苦扁桃油(くへんとうゆ)の研究から，ベンゾイル基を発見し，基の説を展開して，有機化合物の構造研究に新しい分野を開いた。アルミニウム・ベリリウム・イットリウム・ホウ素・チタンなどを単離し，炭素とケイ素との類似を示した。また炭化カルシウムからアセチレンをつくるなど，無機化学工業への貢献も大きい。〔山下愛子〕

ウェリントン［Wellington］ ニュージーランドの首都。北島の南端，クック海峡に面する。人口13万6,000(1972)。偏西風から守られた良湾の奥に港をもち，その周辺

に市街が展開している。中央官庁・議事堂など政治行政上の諸機関のほか，ウェリントン大学など教育機関が集まる。同国の主産物であるヒツジ・ウシの取引の中心地であり，畜産加工工場が多い。それらの製品はこの港を通じて，ヨーロッパ，特にイギリスへ出荷される。〔小栗　宏〕

ウェリントン［Duke of Wellignton, Arthur Wellesley］（1769～1852）イギリスの軍人・政治家。1787年陸軍に入隊，1806年トーリー党の下院議員となる。ナポレオン戦争ではイベリア半島の戦闘に司令官として参加し，1814年パリに入城。戦功により公爵となる。ウィーン会議でイギリスの主席全権大使となり，ナポレオンがエルバ島を脱出して再起したとき連合軍司令官としてワーテルローの戦い*でこれを破った。以後は政治家として活躍。1828年内閣を組織。カトリック教徒解放令*を成立させたが，一方で強硬な反改革的政策を実施しようとしたため世論の反対を受けて辞職。のち，保守党の長老として1846年引退するまで政界に重きをなした。〔松下京子〕

ウェルウィッチア［Welwitschia］裸子植物・ウェルウィッチア科。西アフリカの海岸・砂漠（さばく）にただ一種，ウェルウィッチア-ミラビリスを産する。非常に寿命が長く，少なくとも100年は生きる。茎は木質であるが極端に短くて太く，巨大な帯状の葉を2枚対生につける。葉は年々大きくなり，古くなるといくつにも裂ける。花序は多数の花からなり，幹の先につく。雄花は4枚の花被をもち，おしべは6本で下部で融合している。雌花は花被1枚で子房1個をもつ。虫媒花で種子は多数である。採集は禁止され，特別保護をされている。〔加藤僖重〕

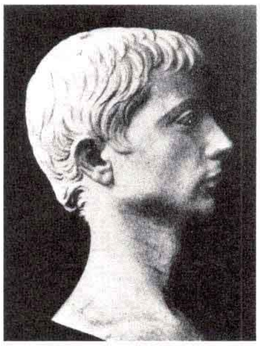
ウェルギリウス［Publius Vergilius Maro］（BC70～BC19）古典期ローマの詩人。北イタリアのマントバに近いアンデスの養蜂（ようほう）業の家庭に生まれた。クレモナで教育を受けたのちローマに出，弁論術・医学・天文学を学んだが興味がわかず，詩作のかたわらエピクロス哲学を研究した。28歳のとき《牧歌詩》に着手し，3年後に完成した。この詩はシチリア島の田園風景をテオクリトス*ふうにうたいあげたもの。ギリシアふうとイタリアふう，古典的趣向と現代的趣向が混然ととけ合い，高度の文学的技巧が駆使された魅力にあふれる詩編である。まもなく次の大作《農耕賦》4巻に着手し，7年の歳月を費やして完成した。次いで代表作《アエネーイス*》を発表。ローマ建国の祖，英雄アエネアスの放浪と建国の物語を，壮麗かつ端正な調べでうたいあげた叙事詩である。その主題と完璧（かんぺき）のできばえはアウグストゥス帝の深い関心をひいたのみならず，後世に至るまでラテン詩の範と仰がれた。〔久保正彰〕



ウェリントン　低い丘陵に取り囲まれ，住宅地は高台に延びている。クック海峡・ニコルソン湾の青い海が一望のもとにながめられる



ウェリントン



ウェルギリウス



H. G. ウェルズ

ウェルゲラン［Henrik Wergelland］（1808～1845）ノルウェーの詩人。1814年にデンマークから独立したノルウェーの国内から，デンマーク支配当時の文化的痕跡（こんせき）を払拭（ふっしょく）しようとして，急進的な啓蒙（けいもう）運動に献身した。長編劇詩《創造，人間および救世主》は，究極的な救いに至るまでの魂の遍歴を描き，暗黒から光明へ向かう祖国への愛情を吐露した。ほかに《ヤンファン-ホイムスの花の絵》《ユダヤ人》などの叙事詩，《私自身》などの叙情詩がある。〔鈴木徹郎〕

ウェルザー（家）［Welser］16世紀の南ドイツでフッガー家*と並んで活躍した商業資本家。アウグスブルクの都市貴族の出で14世紀の中ごろからイタリア貿易に従事し，16世紀には一時東インド貿易にも携わった。しかし，16世紀後半以降しだいに没落し，1614年破産した。

ウェルズ［Herbert George Wells］（1866～1946）イギリスの小説家・文明批評家。年季奉公などしながら，苦学して王立科学カレッジにはいり，T. H. ハックスリー*の教えを受け，科学の教師となる。はじめ《タイムマシン*》《透明人間》《宇宙戦争》《月世界初飛行》などのSF*により名声を得たあと，風刺性に富んだ社会小説《キップス》《トノ-バンゲー》，文明批評的小説《モダン-ユートピア》《新マキアベリ》《ウィリアム-クリソルドの世界》などを書いた。のち世界国家建設の理想を掲げて，百科全書派的な啓蒙書（けいもうしょ）の三部作《世界史大系》《生命の科学》《人類の仕事と富と幸福》，理想世界像を物語った《神のごとき人間》《来たるべき世界》を発表。第1次世界大戦により人類の未来に幻滅を感じながらも，社会主義による世界国家の設立を主張したが，第2次世界大戦によって晩年はペシミズムに陥った。〔奥山康治〕

ウェルズ［Orson Welles］（1915～　）アメリカの映画監督・俳優・シナリオライター。少年時代より演劇活動に才能を示し，各地を放浪したのち，劇作家ワイルダー*に認められてブロードウェーの舞台に立った。1938年ラジオドラマ《火星人襲来》の迫真性によって注目され，1941年映画《市民ケーン》をつくり，その新鮮で独創的な映画手法は映画史の新しい1ページを開いた。ほかに監督作品として《黒い罠（わな）》《審判》などがあり，俳優として《第三の男》《わが命尽きるとも》などに出演している。〔高沢瑛一〕

ウェールズ［Wales］イギリス，グレートブリテン島の南西部，カンブリア山脈を主体とする山地地方。面積19,000km²，人口264万4,000(1961)。13県よりなる。主都はカージフ。狭い海岸平野を除けば大部分が200m余の山地で，西部海岸に沿ってグレートブリテン島最高のスノードン山(1,085m)をはじめとする標高500～1,000mの山々がほぼ南北に走ってカンブリア山脈を形成している。山脈が北東風をさえぎるため，西岸平野部の気候は温暖で，年に1,000～1,500mmの降水量がある。山地には氷食の美し

い湖が数多くみられ，恵まれた気候とあいまってイギリスの重要な観光地となっている。牧畜が盛んで，肉・羊毛・フランネル織を産出する。南部は石炭資源に恵まれ，カージフを中心とする製鉄・紡績などの大工業地帯を成立させた。水力発電も盛んに行なわれ，イングランドのバーミンガムなどに電力を供給している。この地方には，早くからケルト人が定住し，5世紀以来アングロ-サクソンとの長い抗争の歴史が続いた。1282年，イングランドのエドワード1世に征服されてウェールズ王国は滅亡し，このとき以来，イギリス王の長子にプリンス-オブ-ウェールズの称号が与えられる習慣ができた。1536年イングランドと合併され，英語が公用語となったが，なお住民の30%ほどがケルト語系のウェールズ語を話し，独得な風俗がみられるなど，イングランドとは異なった気風を残している。〔野間三郎〕

ウェルティ [Eudora Welty] (1909～) アメリカの女流作家。ミシシッピ州生まれ。その作品の舞台はほとんど一貫してミシシッピ州のいなかであり，きびしく静かな筆致で，そこに住む人々の生活を描き，それに神話的な光彩を付与している。短編小説を得意とし，短編集《緑のカーテン》などがその代表作であるが，すぐれた長編《デルタの結婚式》もある。

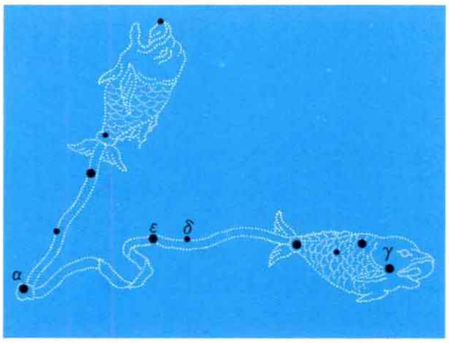
ウェールト [Georg Weerth] (1822～1856) ドイツの詩人。商人の生活を経てのち，1848年から1849年のドイツの革命と反革命の時代にマルクスの主宰する《新ライン新聞》の編集に参加し，卓抜な多くの詩を発表した。エンゲルスによって，〈ドイツ-プロレタリアートの最初の最もすぐれた詩人〉とよばれている。

ウェルトハイマー [Max Wertheimer] (1880～1943) ドイツの心理学者。1912年以来，ケーラー・コフカらとともにゲシュタルト心理学を展開，機関誌《心理学研究》を創刊して理論の発展に努めた。フランクフルト大学講師・ベルリン大学員外教授を歴任。1933年，ナチスに追われ渡米した。ゲシュタルト理論の第1ページともいうべき《仮現運動の実験的研究》をはじめ，ゲシュタルト理論に関する重要な論文を残している。主著に《ゲシュタルト学説研究》《生産的思考》などがある。〔古崎　敬〕

ウェルナー [Abraham Gottlob Werner] (1750～1817) ドイツの鉱物学者，近代地質学の先駆者。世界最初の鉱山専門学校がフライベルクに創設(1765)されて彼はその教授となり(1775～1817)，鉱物・岩石の記載と説明に専心し，それを基礎に鉱山学を大成した。門下は多く，その影響力は強かった。地質現象の説明と地球の歴史の解釈を試みたが，彼は水成説を唱え，火成説論者との間に激しい論争をした。結果的には今日火成説が有力とされているが，



ウオーキー-ルッキー　映像と音声は，背中の送信機から中継基地へ送られる



う お 座

彼の出現は地質学前進の一時期をつくった。〔野間三郎〕

ウェルフェル [Franz Werfel] (1890～1945) ドイツの詩人・小説家。ライプチヒで出版社に勤務し，多くの表現主義詩人と交わって，神への憧憬(どうけい)，人間性の謳歌(おうか)を主題とした表現主義の作品を書いた。詩集《世界の友》《われらは存在する》などのほか，戯曲《鏡人》，小説《殺された者に罪がある》などがある。反戦的平和主義のゆえにナチス政権確立後，フランスに亡命し，のちアメリカ合衆国にのがれた。

ウェワク [Wewak] ニューギニア島の北東部，オーストラリア信託統治領の太平洋に臨む都市。人口27,000(1965)。セピリ川の河口の西にあたり良港をもつ。セピリ川の上流は第2次世界大戦後開拓が進み，ここはその門戸として発展している。第2次世界大戦初期日本軍が占領していたが，連合軍の攻撃により1943年8月17日この町を撤退した。

ウェンツェル [Karl Friedrich Wenzel] (1740～1793) ドイツの化学者・冶金(やきん)学者。1777年の《物質の化学的親和力に関する講義》で，すでに質量作用の法則を認めている。また，金属に及ぼす酸の作用の速さが濃度に比例することを観察し，リヒターらの先駆的仕事をしている。

うお【魚】 ⇨魚類

ウォー [Evelyn Waugh] (1903～1966) イギリスの小説家。機知と風刺のうちに上流階級を戯曲化した初期の作品《衰亡》《黒いいたずら》《一握りのちり》のあと，《ブライズヘッド再び》でカトリック作家としての地位を確立した。第2次世界大戦後は，戦争三部作《武装した人々》《将校と紳士》《廃墟(はいきょ)の中の愛》をはじめ，鉄のカーテン内部の体制を風刺した《スコット-キングの現代的ヨーロッパ》，アメリカ文明批判《愛するもの》や《ギルバート-ピンフォールドの試練》など多くの作品を書いた。兄アレック(1898～1981)も作家として著名。〔奥山康治〕

ウォーカー [John Walker] (1780または1781～1859) イギリスの発明家。生地のストックトン-オン-チーズで開業医のかたわら，化学の実験に興味をもち，1827年ごろ最初の摩擦マッチを発明して有名となった。それは塩素酸カリウムと硫化アンチモンとの混合剤を用いたもので，50本1シリングで売られた。これが今日のマッチの祖である。彼は特許を取らなかったので，たちまち普及した。

うおがし【魚河岸】 江戸時代から近代にかけて日本橋(東京都中央区日本橋)の日本橋川の河岸に常設されていた鮮魚卸売市場。江戸市民の消費する魚介類が朝市で取引きされ，独特の市場風景を呈した。関東大震災ののち，築地(つきじ)の現在地に移転，東京中央卸売市場(→中央卸売市場)に改組され，今日に至っている。

ウオーキー-トーキー [walkie talkie] 近距離の打ち合わせまたはニュースの取材連絡に用いる携帯用の小形無線機。簡易な無線電話の送・受信機の組み合わせからなる。放送局で使用しているものを例にとると，周波数変調方式で，超短波帯の電波を利用している。送信部の最終出力段階以外はすべてトランジスター化されており，送受の切り換えは押しボタンによるプレストーク方式である。送信出力は1W程度である。〔内山明彦〕

ウオーキー-ルッキー [walkie lookie] テレビ番組取材用の携帯形中継カメラ装置。0.5～1インチのビジコン(光導電効果を利用したテレビジョン用撮像管)を収めた16mm用カメラと同程度の大きさのカメラ部分と，カメラ制御器・無線中継用送信機および電源を収めたケースからなっている。使用者はケースを背負い，カメラ部分を手に持って，ひとりで映像と音声を中継基地に送る。なお，使用周波数は300メガヘルツ以上が使われる。〔内山明彦〕

うおざ【魚座】 黄道第12星座。現在，春分点はこの星座の中にある。ペガスス座・アンドロメダ座の西南に暗い星がV字形に連なっているのが目じるし。冬の南天にかかる。➔星座

うおざき【魚崎】 神戸(こうべ)市東灘(ひがしなだ)区，住吉(すみよし)川の三角州扇状地の末端を占める地域。もと灘五郷の一つで，東郷，または魚崎郷とよばれた酒造地であり，19

50年(昭和25)に隣接の御影(みかげ)町・住吉村とともに，神戸市に編入された。住吉川が天井川*となって特有の景観を示し，第2次世界大戦前後から阪神(はんしん)地方の高級住宅地として急速に発達した。人口約20,000。

うおず　**【魚津】**　⇨うおづ

ウオーターカップ　[water cup]　ウシ・ブタ用の自動給水器。家畜の口がはいる大きさの鉄製の椀(わん)と弁とからできている。家畜が口で弁を押すと水が椀内に噴出してたまり，自由に欲するだけ飲水できる。同様の原理を利用して，弁から1滴ずつ水の出るニワトリ用の給水装置も考案されている。

ウオータークーラー　[water cooler]　冷水器。冷凍機を内蔵し，冷たい飲み水を供給する装置。あらかじめ，タンクに水やジュースを入れ冷やしておく貯水型と，水道に直結させ自動給水のできる水道直結型とがある。駅・工場・事務所・学校・劇場などで多く用いられる。

ウオータークレス　⇨オランダガラシ

ウオーターシュート　[water-chute]　斜面に敷かれたレール上に船をすべらせ，下方の池に飛び込むときのスリルを味わう娯楽施設。傾斜はおよそ15°，レールの長さは約50m，高さは水平面より13mぐらい。イギリスのグラスゴーで1902年に開催された博覧会に登場したのが世界最初で，わが国では翌年大阪で開かれた内国博覧会に出品され，その後，奈良市のあやめ池遊園地や東京の豊島園(としまえん)(現在廃止)などにつくられた。

ウオーターポロ　⇨水球

うおづ　**【魚津(市)】**　富山県東部の市。1952年(昭和27)市制施行。人口49,900。富山湾に臨み，片貝川扇状地と黒部山地を含む。産業三大別人口比は15：39：46。魚津港は，タイ・ホタルイカなどの水揚げが多く，北洋漁業の根拠地となる。近年，カーバイド・製鋼・紡績などの近代工業が興り，中小企業の機械工業団地がある。北陸本線・富山地方鉄道・国道8号線が通じる。スギを主とした樹齢500年前後の化石樹林(魚津埋没林*)とホタルイカが群遊する水域は海岸線の移動を示す貴重な資料で，ともに特別天然記念物に指定されている。初夏，海べに現われる蜃気楼(しんきろう)も名高い。海岸には北陸一の水族館がある。

ウオツカ　[vodka]　ソ連の代表的な蒸留酒。小麦・ライ麦・大麦などを原料とするが，その他トウモロコシ・アワ・コウリャン・ジャガイモなども用いられ，これらを発酵させたあと蒸留してつくる。その特徴は蒸留後シラカバの炭の層で濾過(ろか)し，無臭・無色とすることである。アルコール分は50～60度で，そのまま飲んだり，カクテルのベースに用いたりする。

うおつきりん　**【魚付林】**　魚群をその付近に集群滞泳させることを目的として，川岸・湖岸，あるいは海岸に植林をしたり，樹木の育成を助長したりしたもの。魚付林の効果に関する科学的な，十分な説明はまだなされていない。魚類のうちのあるものが陰影を好むこととか，陸水の場合の水質の保全に役だつことなどが，その理由の一つであろうといわれている。



ウオーター
シュート

ウォッシュ-アンド-ウエア　[wash and wear]　洗って着るという意味の略語。衣服を洗たくして絞らずにハンガーなどにかけて乾燥すると，しわが寄らないのでアイロンがけしないで着られるという意味。ふつう，合成繊維の製品にはこの性質があり，ポリエステル・ナイロンなどの高率混紡の織物，ポプリン・ブロードなどに応用されている。またレーヨンなどに特殊樹脂加工を施したパーマネントプレス加工製品も，これと同様の性能をもつ。〔小川安朗〕

うおづまいぼつりん　**【魚津埋没林】**　富山湾に面した魚津市内海岸にあり，1930年(昭和5)漁港修築の際に地下1mの所から発見された大小200余の樹齢500年前後のスギを主とした化石樹林。海岸沈降を実証する貴重な資料として，特別天然記念物に指定されている。

うおぬまれんぽう　**【魚沼連峰】**　新潟県南魚沼郡の駒ケ岳(こまがたけ)・中ノ岳・八海山の3山を中心とした県立自然公園。古くから魚沼三山あるいは越後(えちご)三山とよばれた霊地で，現在も福島県奥只見(おくただみ)への登山ルートや三山尾根筋縦走コースなどができて，訪れる人が多い。

うおのがわ　**【魚野川】**　新潟県南部，三国山脈西北斜面の水を集めて北流し，六日町(むいかまち)盆地を過ぎて信濃(しなの)川に合流する。流程72km。流域一帯の南魚沼郡・北魚沼郡は県下きっての深雪地であり，温泉も豊富なところから，この川沿いに上越線が開通してからは東京から最も便利なスキー場として開発され，最近は車窓からも川に向かった左右の斜面にスキー場が切れ間なく見られるようになった。近代的な施設のほかに，農家は季節旅館(民宿)を開業し，冬季は雪に閉ざされて隔絶されてきたこの地が，明るいウインタースポーツの場としてよみがえった。湯沢・石打・六日町はその中心である。〔長津一郎〕

うおのめ　**【魚の目】**　鶏眼・底まめともいう。おもに手のひらや足の裏などの皮膚がくり返して機械的刺激を受けることにより，限局性の角質増殖が起こって，それが皮内へくさび状に入り込んだもの。押すと神経を刺激して痛み，炎症や化膿(かのう)が加わると痛みのために歩けなくなることさえある。はきものが原因のことが多く，足に合ったくつをはくようにする。特に魚の目の発生しやすい部分があたらないものを選ぶ必要がある。手当てはスピール膏(こう)を患部にはり，角質が軟化したら清潔なかみそりの刃などで削り，消毒しておく。〔田嶋公子〕

ウオーミングアップ　[warming up]　激しい運動や競技のまえに行なう準備運動。これには，次のような効果がある。①身体に柔軟性をつける(拮抗筋(きっこうきん)を緊張させ，関節の可動範囲を広げる)。②体温を高めて，代謝機能を活発にする。③血流量を増加させて呼吸中枢を刺激し，吸気量をふやす。④脊髄(せきずい)や大脳神経の興奮を高めて，反応時間を短縮する。方法としては，ふつう，10種類前後の体操を行なったあと，軽く走り，参加する競技に似た運動(たとえば相撲(すもう)の四股(しこ)，野球のキャッチボールやフリーバッティング・シートノックなど)をする。運動時間は20～30分間が最も多いが，1時間近くかけることもある。〔伊東春雄〕

ウォラストン　[Hyde William Wallaston]　(1766～1828)　イギリスの物理学者。電流やスペクトルの研究から，太陽スペクトルに黒線を発見したのをはじめ，ウォラストンプリズム・ウォラストンレンズなどを発明。1803年にはパラジウム，1804年にはロジウムを発見した。

ウォリンガー　[Wilhelm Worringer]　(1881～1965)　ドイツの美術史学者。美術の史的変遷の根源的衝動である芸術意志に，〈感情移入衝動〉と〈抽象衝動〉の別のあることを立証し，後者を基礎理念として，それまで古典主義的美術史観から過小評価されていた原始美術やオリエントの美術，あるいはゴシックの美術に正当な史的評価を下し，再認識への道を開いた。学位論文の《抽象と感情移入》のほか，《ゴシックの形式問題》などの著がある。

ウォールがい　**【ウォール街】**　ニューヨーク市マンハッタン島南端にある摩天楼地区の町名。ニューヨーク株式取引所や大銀行，世界各国の銀行支店があり，世界金融の中心地として知られる。ウォールの名は植民地時代にインディアンの襲撃に備えてつくられた城壁に由来する。

ウォルサム　[Waltham]　アメリカ合衆国マサチューセッツ州東部の工業都市。人口57,000(1965)。ボストン西部，チャールズ川に臨み，時計・家具・ほうろう工業が盛ん。かつてウォルサム時計の名で知ら

れた。また1788年アメリカ合衆国最初の製紙工場が建設され，1813年ローウェルによって建設された綿織物工場には，アメリカ合衆国で最初の動力機械が用いられた。

ウォール-ストリート-ジャーナル ［Wall Street Journal］ 1889年に創刊されたアメリカの日刊経済新聞。ニューヨーク市のウォール街*に本社をもっているが，全国4か所で発行している全国紙である。アメリカ資本主義の動向に関する記事内容は国際的にも信頼がもたれている。全国発行部数の合計は約149万(1979)。

ウォルター ［John Walter］ (1739～1812) ウォルター1世はロンドンの代表的日刊紙《タイムズ*》の創立者。はじめ石炭商として成功したが，保険に手を出して失敗，ロンドンで印刷・出版業に従事する。1785年《デーリー-ユニバーサル-レジスター》を創刊，3年後にこれを《ザ-タイムズ-オブ-デーリー-ユニバーサル-レジスター》と改称する。創立当初は業績不振に苦しみ，政府の補助金を受けていたが，1803年むすこのウォルター2世(1776～1847)が同紙を主宰するようになってから，その特色である自主独立性を確立，権威ある新聞としての名声を高めた。さらに蒸気動力による印刷機を導入し，大量生産に着手して経営改善に努め，イギリス一流の新聞に築き上げた。ウォルター3世(1811～1894)はこの伝統を受け継ぎ，〈権力に屈しない自由な報道と社説〉を柱に，イギリスの政治外交面で最も権威ある新聞に発展させた。〔片岡一郎〕

ウォルトン ［Ernest Thomas Sinton Walton］ (1903～) イギリスの実験物理学者。ダブリンのトリニティー大学教授。電子加速器の製作で先駆的な役割を果たした。特にコッククロフト*と共同でつくった高電圧加速装置が有名で，これを用いて原子核の人工破壊に成功(1932)。コッククロフトとともにノーベル賞を受賞(1951)。

ウォルフ ［Christian Wolff］ (1679～1754) ドイツ啓蒙(けいもう)時代の指導的哲学者。いわゆるライプニッツ-ウォルフ派の中心人物。イエナ大学で数学・物理学・哲学を学び，のちライプチヒの私講師，またライプニッツの推薦によりハレ大学で教えた。しかし，その思想は独創性を欠き，ライプニッツ・デカルト・スピノザらの思想を彼なりに組織化したもので，特色は論理性と体系性にある。当時の風習に反してドイツ語で講義・著作し，哲学用語をドイツ語化した点で著名である。〔豊福英利〕



ウォール街　ニューヨーク市



ウォルポール

ウォルフ ［Casper Friedrich Wolff］ (1734～1794) ドイツの生物学者。ベルリンに生まれ，医学と哲学を学ぶ。ベルリン大学に職を得たが，やがてロシア政府に招かれ，ペテルブルク(現在のレニングラード)で研究生活を送り，その地で死去。前成説が有力であった18世紀において，ニワトリの腸が未分化の組織層から分離形成される事実を突き止め，後成説を主張した点で，近代発生学のさきがけとなった。

ウォルフ ［Hugo Wolf］ (1860～1903) オーストリアの作曲家。15歳でウィーン音楽院に入学したが，わずか2年間で退学し，以後独学。1875年，自作の上演・指揮のためにウィーンを訪れたワーグナー*に会い，熱烈なワグネリアンとなる。その後，作曲のかたわら，ウィーンの週刊紙《ウィーン-サロン新聞》の音楽批評を担当し，ハンスリック*一派のアンチ-ワーグナー派に対して，痛烈な批評を展開した。1888年，泉のようにわき出す霊感に導かれて，1日に2曲・3曲もの歌曲を書いたといわれる。このころの作品には《メーリケ歌曲集》《アイヒェンドルフ歌曲集》《ゲーテ歌曲集》《スペイン歌曲集》などがある。1891年末，《イタリア歌曲集》第1集を作曲後，霊感の枯渇に襲われた。数年間にわたる不毛の苦しみののち，1895年歌劇《お代官様》の作曲と並行して，再び霊感を受け，《イタリア歌曲集》第2集(全24曲)を1か月で完成した。しかし，このころから精神錯乱の徴候が現われ，精神病院に収容された。一時小康を得たが，再び発作に襲われ，投身自殺を図ったが未遂に終わり，狂気のうちにその生涯(しょうがい)を終えた。彼の作品の大部分は歌曲であり，ことばの真の意味で歌曲作曲家といいうる。シューベルトに始まり，シューマン・ブラームス・マーラー・リヒアルト-シュトラウスへと続くドイツ-ロマン派リート(歌曲)の流れの中で，ウォルフは特異な存在を占めると同時に，一つの頂点を形づくっている。前記歌曲集のほか，数多くの歌曲作品がある。〔寺田兼文〕

ウォルフ ［Friedrich Wolf］ (1888～1953) ドイツの劇作家。第1次世界大戦に軍医として従事し，のち反戦社会主義革命運動に参加。ナチ時代にフランスにのがれ，のちソ連に亡命し，終戦後は東ドイツで活動した。はじめ表現主義の影響のもとにあったが，正統的なリアリズムの作家になっていった。〈芸術は武器である〉の信念のもとに多くの戯曲のほか，小説・童話も書いた。代表作は《シアンカリ》《カッタロの水兵》《マムロック教授》《女村長アンナ》など。〔志村　博〕

ウォルフ-フェラーリ ［Ermanno Wolf Ferrari］ (1876～1948) イタリアのオペラ作曲家。ミュンヘンでヨーゼフ-ラインベルガーに師事し，1900年に最初のオペラ《シンデレラ》を発表して認められ，以後主として喜劇的な題材をもつオペラで成功した。代表作は1909年に発表した《スザンナの秘密》だが，やや悲劇的な題材による《聖母の宝石》(1911)が有名で，特にその間奏曲はよく知られている。オペラ以外の作品もあるが，あまり演奏されてはいない。〔向坂正久〕

ウォルフラム ［Wolfram］ タングステンの別名。➔タングステン

ウオールフラワー ［wall flower］ ウオールフラワーとよばれている植物は，オーストラリアの荒野に分布するマメ科のガストロロビュウム，アブラナ科のエリシウム(エゾスズシロソウ属)などいくつかあるが，ふつうアブラナ科のニオイアラセイトウをさす。本種はヨーロッパ南部原産の多年草で，高さ30～80cmでよく分枝し，半ば木化する。枝は直立し角張る。葉は長楕円(ちょうだえん)形で散生し，両面に軟毛がはえる。花は黄色または黄かっ色の4弁花で頂生の総状花序をなし，特殊の芳香がある。花期は春から初夏。八重咲きもある。はち植え・花壇・切り花用として広く栽培される。ヨーロッパでは古い建物の壁や岩石の間にみられるのでこの名がある。〔小杉清・加藤僖重〕

ウォルポール ［Robert Walpole］ (1676～1745) イギリスの政治家。ノーフォークの地主の出身。1701年ホイッグ党から下院議員となり，1715～1717年国庫長官(首相)兼蔵相。1720年南海泡沫(ほうまつ)会社の投機事件の処理に成功し，1721年再び国庫長官兼蔵相となる。以後21年間政権を担当し，事実上イギリス議会史上の初代首相として，健全財政・産業の発達・平和外交を推し進めてイギリス社会の繁栄に尽くし，議会に責任を置く責任内閣制*の基礎を築いた。しかし，半ば公然の買収によって政権を維持したため，政界の腐敗は著しかった。そ

の平和外交政策も，主戦派の反対により崩壊し，施政の末期にはスペイン・フランスを相手にオーストリア継承戦争*に参加せざるをえなくなり，しかも成果を得られなかった。1742年選挙に敗れ，政界を引退した。〔松下京子〕

ウォルムス［Worms］西ドイツの中西部の商工業都市。人口61,000(1962)。ライン川中流の西岸にあり，名産のぶどう酒取引のほか，製粉・皮革・家具・化学・機械などの工業も盛んである。5～6世紀のゲルマン部族国家であったブルグント王国の首都であり，英雄叙事詩《ニーベルンゲンのうた》の歴史的基盤をなしている。中世から19世紀初めまでは神聖ローマ帝国直属の自由都市であり，ドイツ最古の都市の一つである。13世紀創建のウォルムス大聖堂はドイツ-ロマネスク建築の代表的な建造物といわれる。その他，教会関係の史跡・建築物が多い。〔大石堪山〕

ウォルムスきょうやく［**ウォルムス協約**］1122年，神聖ローマ皇帝ハインリヒ5世とローマ教皇カリクストゥス2世が結んだ宗教協約。これによってドイツ以外での聖職叙任権は教皇の手に移り，皇帝権は弱まった。これより先の1059年，教皇ニコラウス2世は世俗人が聖職者を任命することを禁止し，さらに南イタリアに勢力を広げつつあるノルマン公の助力を得た。これが神聖ローマ皇帝を刺激し，皇帝と教皇との抗争が始まり，この間，1077年のカノッサの屈辱*事件も起こった。しかし，クレルモン公会議で十字軍遠征が決定され，教皇権が絶頂に達すると，神聖ローマ帝国の新王ハインリヒ5世はついにウォルムス協約を結び教皇と和解した。〔高山高雄〕

ウォルムスこっかい［**ウォルムス国会**］1521年，神聖ローマ皇帝カール5世*がルター*の弾圧を目的に召集した帝国議会*。カール5世は，帝国の統一とイタリア政策の必要上ローマ教皇と手を結ぼうとし，議会でルター*に改革説の撤回を求めた。しかし，ルターがこれを拒否したため，カール5世はウォルムスの勅命を発してルターの法律上の権利を奪い，さらに改革説を禁止した。一方，ルターはザクセン公の保護を受けてワルトブルクの城にのがれ，ここで聖書のドイツ語訳を完成し，自説の普及に努めた。〔松　俊夫〕

ウォルムスだいせいどう［**ウォルムス大聖堂**］ライン河畔にあるドイツ-ロマネスク建築の代表的な教会。東西の方向に158mの長さで伸び，東側・西側それぞれに内陣をもち(二重内陣式)，南北の側面に出入り口をもつロマネスク教会の典型的なプランを見せる。11世紀の旧寺の基礎を利用して1181年に起工されたが，装飾は少ない。なお，ライン河畔にはこの建築様式をとる教会は多いが，それぞれの建築表現に差のあることは興味深い。〔田島　学〕



ウォルムス大聖堂



ウォレス線

ウォレス［Alfred Russel Wallace］(1823～1913) イギリスの生物学者。アスクに生まれ，中等教育を受けるが，13歳で退学。やがて博物学・天文学に興味をもち，独学で研究。1848年，アマゾンに博物採集を試み，次いで1854年以後8年間，シンガポールを拠点として東南アジアを探検した。その間，マライ群島の東部と西部の間に生物分布の境界(ウォレス線*)が存在することを発見した。また当地における観察に基づき，1858年，ダーウィンとは別に，自然選択による進化の思想に到達した。〔中村禎里〕

ウォーレス［George Corle Wallace］(1919～　) アメリカ独立党党主。1942年アラバマ大学卒業後弁護士となり，のち地方検察官など司法関係に携わった。1947年アラバマ州選出下院議員，1953年同州判事，1958年再び弁護士となる。1963年民主党から同州知事に選出された。熱心な人種差別主義者で，同年6月アラバマ大学への黒人の入学を拒否して州兵を派遣しようとしたが，ケネディ大統領による州兵の連邦軍編入という非常手段によって阻止され，果たせなかった。1964年の大統領選挙に際しては，人種差別主義からジョンソンの対立候補，ゴールドウォーター(共和党)を支持した。1966年の中間選挙では州憲法で再選が禁じられているため，ラーリン夫人を身代わりに立て，自分は事実上の知事として実権をふるった。1968年大統領選出馬のため民主党を離れ，アメリカ独立党(第3党)を結成して党首となり，立候補したが敗れた。南部保守派に人気がある。〔吹浦忠正〕

ウォレスせん［**ウォレス線**］生物地理学上有名な境界線で，オーストラリア区*と東洋区*を分ける。ウォレス*はボルネオ島とセレベス島の間のマカッサル海峡と，バリ島とロンボク島の間のロンボク海峡を境として，鳥類・貝類・こん虫類・爬虫(はちゅう)類の動物相が非常に異なっていることを指摘し，この二つの海峡を結ぶ線を生物の分布境界線として提唱した。その後アメリカの植物分類学者メリルがウォレス線を修正した。しかし，ウェーバーは淡水魚の研究からウォレス線と異なった境界線を提唱している。➔ウェーバー線〔松本忠夫〕

ウォレン［Robert Penn Warren］(1905～　) アメリカの小説家・詩人・批評家。南北戦争以後の南部の歴史を背景にした作品が多い。その主人公たちは，歴史の重さをにない，さまざまな因習・政治的野心・暴力・人種差別のうずまく現代社会の中で，自己の本質を見きわめようとする。代表作に，《すべて王の臣》《天使の群れ》などがある。

ウォロシーロフ［Kliment Efremovich Voroshilov］(1881～1969) ソ連の政治家・軍人。若くして労働運動に加わり，しばしば投獄・流刑に会う。1917年の二月革命・十月革命に活躍し，白衛軍との国内戦にも赤軍を組織して功績を収めた。その後ソビエト軍の要職を歴任して，1935年にはソ連邦最初の元帥となり，第2次世界大戦ではレニングラード防衛を指揮して世界に勇名をはせた。スターリン*の死後1953～1960年ソ連邦最高会議幹部会議長をつとめたが，1961年フルシチョフ*の批判にあい，政界から退いた。〔山県弘志〕

ウォンバット［wombat］哺乳(ほにゅう)類・有袋目・ウォンバット科。フクログマモドキともいう。体長98cmほどで，体はずんぐりとし，日中は穴に隠れる。穴掘りが巧みで，長さが30mにも達するトンネルを掘ることがある。オーストラリア東南部とタスマニアに分布し，草や樹皮などを食う。生息数は減少している。

うか［**羽化**］こん虫には完全変態をするものと不完全変態をするものとがあるが，前者ではさなぎ，後者では最終齢幼虫から成虫となる。これが羽化である。こん虫は

主として前胸腺(ぜんきょうせん)ホルモン(脱皮ホルモンということもある)の作用で成虫化が進み,成虫の形態が完成したとき羽化するが,羽化の時期はこん虫の種類によってだいたい決まっている。それは羽化が,光とか湿度あるいは温度といった一定の環境条件によって支配されることが多いからである。〔深谷昌次〕

うかい 【鵜飼い】 ウ*を飼いならして魚をとらせること。業とする者を鵜匠という。鵜飼いの歴史は《古事記》《日本書紀》《万葉集》にみえるほど古く,江戸時代には全国の河川で行なわれていた。しかし,明治以降は特に皇室の保護があった長良(ながら)川などを残して姿を消した。鵜匠は昔ながらの風折烏帽子(かざおれえぼし)に腰蓑(こしみの)姿で船のへさきに乗り,船の中ほどにいる中鵜使いとともにウをたくみに操り,アユをとる。このような鵜飼い漁法は中国やインドでも行なわれている。〔渡辺欣雄〕

うかい 【鵜飼】 能の曲名。五番目物。作者不明の古い能で,僧に対して善行をなすと極楽浄土に生まれるという教訓と,殺生(せっしょう)の罪の恐ろしさとが主題となった宗教的な曲である。旅の僧が甲州(山梨県)石和(いさわ)川の川沿いの小屋に宿ると,老人の鵜匠が現われ,かつて僧の従者に一夜の宿を貸したことのある鵜使いが,密漁の罪で殺された次第を物語り,実は自分はその亡霊であるという。さらに僧の求めに応じてウを使うありさまを演じて見せ,消え去る。僧はそのあとを弔うと,閻魔(えんま)大王が現われて,鵜使いの罪を許し,極楽へ送り届けるありさまを演じる。前ジテは鵜使いの亡霊,後ジテは閻魔大王,ワキ・ワキヅレは僧,間狂言(あいきょうげん)は所の者。前場の,ウを使うありさまを演ずる〈鵜の段〉が特に有名である。〔長尾一雄〕

うがい 【嗽】 うがい薬や水を口に含み,口唇(こうしん)やほおの収縮緊張をくり返したり,軟口蓋(なんこうがい)を振動させること。機械的に食物のかすや細菌を洗い出し,口の中や咽頭部(いんとうぶ)の清掃・消毒をするために行なうことが多い。また,薬物の効果によって,歯肉炎や口内炎・咽頭炎などの病気の予防や治療,抜歯創などの感染予防にも役だてる。うがい薬としては,0.1%リバノール,2%ホウ酸水,2%重曹水(じゅうそうすい),オキシドールを10倍に薄めたものなどが一般に用いられている。その他,逆性せっけん,抗生物質の溶液も用いられる。また,これらにクロロフィル(葉緑素)などや,芳香・味・爽快感(そうかいかん)を与えるためはっか油を混ぜることがある。〔成田令博〕



鵜飼い 1,000年の歴史をもつ長良川の鵜飼い



ウォンバット

うかいせいさん 【迂回生産】 労働力や土地を直接消費財の生産に向けるのでなく,設備や機械などの生産財をつくることに使用し,これらの生産財を使って消費財の生産を増加し,いっそう多くの利益をあげようとする方法。迂回生産の利益を説明するロッシャー*は,原始社会の漁獲について,素手でとるよりも,まず網や漁船などの漁獲用具を整えてから魚をとるほうがはるかに多くの漁獲高をあげたことを例にしている。労働を最初に投入する段階から消費財を生産するまでに長い期間を費やすようであるが,複雑な設備や機械を使ったほうが大量生産が可能になる。分業や協業の進んだ現在の資本主義社会では,ほとんどすべての生産が迂回生産によって営まれている。〔藤枝省人〕

うがきかずしげ 【宇垣一成】 (1868〜1956) 陸軍大将・政治家。岡山県に生まれる。陸軍大学校卒業。ドイツ駐在武官・陸軍次官などを経て1924年(大正13)清浦内閣の陸相となり,加藤・若槻(わかつき)内閣にも留任,数次にわたる軍縮と軍備の近代化を行なった。1929年(昭和4)再び浜口内閣の陸相,1931年軍部のクーデター計画である三月事件*の黒幕とみられたため陸相を辞職。のち朝鮮総督となって朝鮮の軍需工業の育成に努力した。1937年1月,広田内閣のあと組閣の大命降下があったが,陸軍の反対を受けて流産した。1938年第1次近衛(このえ)内閣の外相兼拓務相となったが,わずか4か月で引退した。第2次世界大戦後政界に返り咲き,1953年の参議院議員選挙に全国区最高点で当選した。〔岸野淳子〕

うかだい 【雨花台】 ユイホワタイ 中国江蘇(こうそ)省南京(ナンキン)市南郊1.5kmにある景勝地。古来,南京城南方の防御の要地として重視され,もと砲台が設けられていた。国民政府時代は刑場であったが,中華人民共和国成立以後はここに革命烈士陵園がつくられている。周辺の台地一帯は美しい五色石を産する。

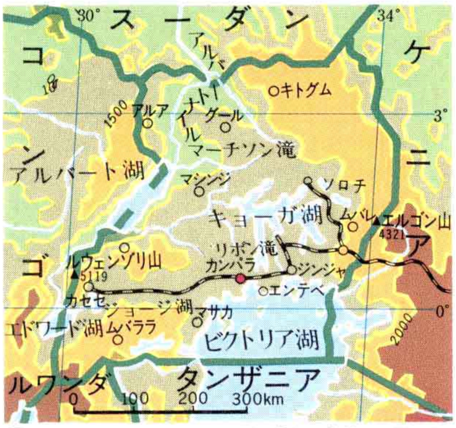
うがやふきあえずのみこと 【鸕鷀草葺不合尊】 日本神話の神。ヒコホホデミノミコトが海神の娘トヨタマヒメと結んで生んだ御子。海辺の産屋(うぶや)はウの羽をかやにしてふいたが,まだふき終わらないうちに生まれたので,この名がつけられた。一説には,トヨタマヒメが海べに子を置くのを非として抱き去り,やがて〈天孫の胤(たね),この海中に置きまつるべからず〉といって,妹タマヨリヒメに陸上へ送らしめたという。ここには古代の育児法と水界との関係が物語られており,また嬰児(えいじ)の健康な発育を願って海水に浸す慣習が古い時代に存在したのかもしれない。神武天皇はウガヤフキアエズノミコトの第4子と伝えられる。〔宮井義雄〕

ウガリット 〔Ugarit〕 紀元前20世紀半ばに栄えたフェニキア系の都市国家。現在のシリアの地中海岸にあるラス-シャムラにその遺跡があり,1927年以来フランス隊によって発掘が続けられている。ウガリットは,アルワド・ビブロス・シドン・ティルスなど,他のフェニキア諸都市とともに,キプロス島とメソポタミア,およびエジプトと小アジアを結ぶ古代オリエント世界の主要交易路の交差点に位置し,商業都市として繁栄した。特に紀元前16世紀からは勢力を伸ばし,フェニキア北部の覇権(はけん)を握ったが,紀元前14世紀半ば,ヒッタイト王シュピルリウマシュによって征服され,その属国となった。政治的独立を失ったのちも,商業都市としての繁栄は続いた。しかし紀元前13世紀,東部地中海地方を襲ったいわゆる〈海上民族〉の大移動によって,トロヤ・ハットゥシャシュ・クノッソスなどとともに壊滅的な打撃を受け,歴史上から姿を消した。

ウガリット人は,商業上の記録のために,29文字からなる独特の楔形(くさびがた)文字アルファベットを発明した。これはフェニキア-アルファベットの先駆をなすものである。文学作品としても《ケレト叙事詩》《ダネル叙事詩》など,すぐれた作品を残している。〔屋形禎亮〕

うかれぼうず 【浮かれ坊主】 日本舞踊・清元の曲名。1931年(昭和6)初演。6代目尾上(おのえ)菊五郎が常磐津(ときわず)《願人坊主》を改訂したもの。裸に薄衣(うすぎぬ)1枚の姿でちょぼくれ(願人坊主*が歌った歌謡)をにぎやかに踊り,混ぜこぜ節から,悪玉の面(→三社祭)をつけた踊りとなる。江戸時代のこじき坊主の生態を軽妙洒脱(しゃだつ)に描いた作品である。

うがん 【烏桓】 古代モンゴルの遊牧民族。モンゴル系・トルコ系の2説がある。BC206年ごろ匈奴(きょうど)に下ってその支配を受け,ウマや皮革を毎年貢納した。その根拠地は東モンゴルのラオハ川流域にあり,





ウガンダの国旗　1962年制定。黒はアフリカ大陸，黄色は太陽，赤は兄弟愛を象徴し，中央に描かれているカンムリヅルは国鳥である

各部落には世襲の君長がなく勇健な者を推して部落長とした。後漢時代，匈奴に内紛が起こると，烏桓はこれを略奪し，また招誘されて後漢のために匈奴・鮮卑を防御する役目を果たしたが，後漢末期には逆に中国の脅威となり，207年魏(ぎ)の曹操*(そうそう)に滅ぼされた。　〔若松　寛〕

ウガンダ(共和国)［Republic of Uganda］アフリカ東部高原にある内陸国で，ナイル川の水源地帯を占める。面積23万6,036 km²，人口1,322万(1978推計)。首都カンパラ。

〔自然・住民〕北はスーダン，東はケニア，西はコンゴ，南はタンザニアなどと接している。東部国境にエルゴン山(4,321 m)，西部国境にルウェンゾリ山(5,119 m)などの高山がそびえ，またアフリカ第1の大湖ビクトリアをはじめ，アルバート・ジョージなどの湖が国境の役割を果たしている。国土は，大地溝(だいちこう)帯*中の標高1,500 m前後の高原を主とするが，地形的にはきわめて変化に富み，特に湖水面積は全国土の15％にも及んでいる。ビクトリア湖を水源とするナイル川はこの国を南北に縦貫している。緯度上では熱帯にあるが，高原地帯にあるため涼しくて住みよい。年平均雨量は1,200 mm前後。北部ナイルの谷はマラリアなど風土病の多い不衛生な地域である。住民の大部分はバンツー族系の黒人であるが，アジア人やヨーロッパ人も少なくない。かなりの知識をもつ原住民もいるが，部族意識が強く，部族間の対立が絶えない。

〔産業・経済〕銅・金・スズなどの鉱産物も採掘されているが，主産物は農産物である。サトウキビ・サツマイモ・キャッサバなどを自給用作物としてつくっているが，経済の主軸となる作物は，コーヒーと綿花である。このうち綿花は輸出総額の50％以上を占め，コーヒーがそれに次ぐ。このほかウシ・ヒツジなどの獣皮，象牙(ぞうげ)も輸出されるが，量的には多くない。第2次世界大戦後，綿農園を結ぶ自動車道路が完成し，集荷がたやすくなった。鉄道は，モンバサ(ケニア)を起点としてこの国の北部に至るもののほかにはみられない。



浮　き

〔歴史・政治〕19世紀になると，ヨーロッパ諸国はアフリカを植民地化するために，探検と征服を行ない，1866年リビングストン*はビクトリア湖西部を探検した。この国も，イギリスがナイル川上流に勢力を延ばし，ビクトリア湖の北部を手に入れたために1894年からイギリスの植民地となった。第2次世界大戦後，アフリカの植民地独立運動が高まるとともに，1962年イギリス連邦の一員として独立し，1963年に共和制を敷いた。政治は大統領と一院制の国民議会により行なわれており，行政権は大統領がもっている。　〔小栗　宏〕

うき　【浮き】　つり具の一。道糸につけて水面に浮かべ，つり針やえさの深さを調節し，また魚信を知るのに用いる。したがって，軽く浮力が大で，水や風の抵抗が少なく，かつ見やすく水分が浸透しにくいものでなければならない。これらの条件を満たす材料として，キリ・ヒノキ・コルク・ヤマブキやタラの木のしん，セルロイド，プラスチック，鳥の羽毛などが用いられる。浮きはおもに形態と用途によって分類され，玉浮き(球形)・唐がらし浮き(円錐(えんすい)形)・ヘラ浮き(ヘラブナ用)などがおもなものであるが，夜づりには小形の電池を装塡(そうてん)した電気浮き，夜光塗料を塗った夜光浮きも用いられる。これらを対象魚の習性，つり場の状態や天候のぐあいなどの条件に応じて使い分けるのである。　〔清水游谷〕

うきうお　【浮き魚】　水面近くを自由に遊泳する性質をもつ魚のこと。海産魚でいえば，カツオ・イワシ・アジなどがそれであり，行動範囲は一般にきわめて広い。底魚と対比される呼称。

うきえ　【浮絵】　西洋画の透視遠近法を



浮　絵　北尾政美《浮絵東都新吉原夕暮之景》神奈川県立博物館蔵

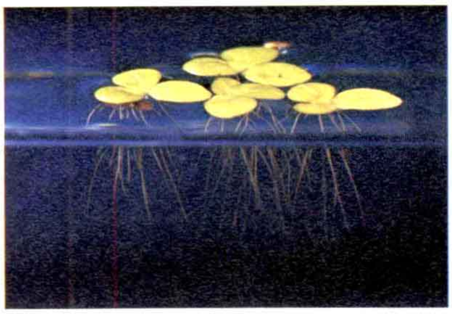
利用した浮世絵版画。中国の蘇州(そしゅう)版画などに学んだと思われ，空間の奥行きをやや誇張して表現した。画題には遊郭・劇場の内部の情景が好まれ，作者は奥村政信*(まさのぶ)・西村重長(しげなが)・歌川豊春(とよはる)らが名高い。

うきおりもの 【浮織物】 緯糸(ぬきいと)を浮かして文様を織り出した織物の総称。組織の上からは，地緯(じぬき)を浮かして文様を織り出したものと，地組織とは無関係に文様の織成にのみ必要な絵緯(えぬき)を浮かして文様を織り出したものとの2種がある。両方とも地も文も共色になる場合と，地と文とが異色となる場合とがある。この種の織物はすでに奈良時代に織りはじめられているが，衣料に盛んに用いられるようになったのは，平安時代になって公家(くげ)装束が確立してからのようである。公家装束では，文様の浮かない固織物(かたおりもの)に対して文様が立体的にはっきりと見え，しかも重重しくまた華麗な感じともなるところから，上位の人の料とされて，直衣袍(のうしうえのきぬ)・表袴(うえのはかま)・指貫*(さしぬき)・半尻(はんじり)・狩衣*(かりぎぬ)・唐衣*(からぎぬ)・袿*(うちき)，裳*(も)の腰などに広く用いられていた。〔北村哲郎〕

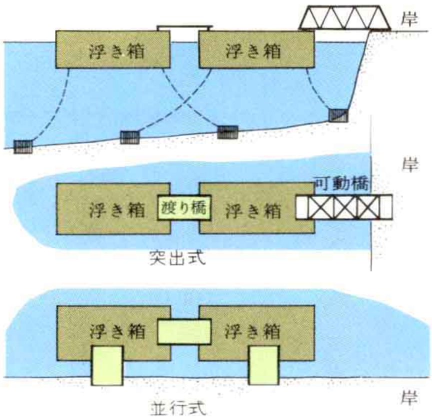
うきがし 【浮き貸し】 不正融資の一種。金融機関や会社の役職員が，その地位を利用して，自己または第三者の利益を図るため，業務上取り扱う金銭を正式の手続きを経ずにかってに融資したり，貸借の媒介をしたりすること。たとえば，銀行員が銀行の帳薄を通さずに他に貸し付け，不正利得を得る行為などをいう。浮き貸しには商法486条の特別背任罪が適用される。

うきくさ 【浮草・萍】 単子葉植物・ウキクサ科。水田や池にごく普通にみられる多年草。植物体は，扁平(へんぺい)な広倒卵形で，長さ5～8mm，幅4～6mm。表面は緑色，裏面は紫色をおびる。両端は丸みをおび，不明瞭(ふめいりょう)な葉脈がある。根は体の下面の中央からややかたよったところに5～11根はえ，根の着点近くの側方から芽を出して，通常2～数個連結し，しだいに離れて繁殖する。夏季，まれに白い小さな花をつける。別名をカガミグサまたはナキモノグサというが，これは秋に一度に姿を消し春にまた現われてくることによる。近縁のシマウキクサは葉状体が狭卵形で，秋に消えずそのまま越冬する。〔横井朝子〕

うきぐも 【浮雲】 二葉亭(ふたばてい)四迷*の処女作。1887年(明治20)から1889年にかけて発表され，第3編で中絶した長編小説である。近代写実小説の先駆をなし，〈言文一致体〉を試みた点でまさに画期的作品。19世紀ロシア文学の深い影響を受け，〈人生いかに生くべきか〉という切実な問題を追求した。主人公の内海文三(うつみぶんぞう)が，じみで世渡りがへたなため官吏の職も恋人もともに失い，深い苦悩を味わう，というもので，社会に迎合しえない近代知識人の姿が描き出されている。〔小林敬子〕



ウキクサ



浮き桟橋 配置形式

うきごけ 【浮苔】 苔(たい)類・ウキゴケ科。カヅノゴケ(鹿角苔)ともいう。各地に広く分布する。澄んだ水面に浮き，また日陰の湿土上にもはえる。幅1mmの薄い葉状体が数回二叉分枝し，長さ3cmぐらいになる。雌雄同株。胞子嚢(ほうしのう)は葉状体に埋もれて生ずる。普通は葉状体の分裂で繁殖。

うきさんばし 【浮き桟橋】 普通は，海面に鉄筋コンクリートの大きな平たい浮き箱を並べ，間を鉄板などで連絡し，陸岸との間は渡り橋で連絡した係船岸(船を横づけする岸)の一種。浮き箱は流されないようにいかりと鎖で留めておく。潮の干満の差が大きく，波が小さく，あるいは必要以上に深い所では他の様式のものより工費が安く，500tぐらいまでの小形船に客が乗降するのに便利である。ただ荷役能力は小さい。実例は今治(いまばり)港・下関(しものせき)港など瀬戸内海の港に多い。〔佐島秀夫〕

うきしま 【浮島】 池沼に浮遊する島。湿原は植物の遺骸(いがい)によってできた厚い泥炭(でいたん)層に生じる。このためそのような所の池の水は，腐植質や有機酸を含み，酸性を呈して泥炭をとかし，池は広く深く発達する。しかし，泥炭の性質や分布が均一でないため一様には浸食されず，凸出部(とっしゅつぶ)などを形成したり，隣接する小池とつながったりする。こうして池水に囲まれた島状部分は根もとがとけて失われると浮島を形成する。また，凸出部などの根もとがとけてひさし状の張り出しとなり，そのつけ根が切れることによっても浮島が形成される。あるいは挺水(ていすい)植物*の根や池底の泥炭層などに植物の遺骸が分解される際に発生したガスがたまって浮かび上がり，浮島を形成することもある。浮島は泥炭層の発達しやすい高層湿原に多くみられ，栃木県尾瀬ケ原や長野県霧ケ峰(きりがみね)の八島ケ原湿原などが代表的なものである。〔船越真樹〕

うきしまがはら 【浮島ヶ原】 静岡県沼津市西方，愛鷹(あしたか)山南麓(なんろく)の東西に細長い低湿地。歌枕(うたまくら)として古歌によまれたが，いまは干拓計画のもとに広く水田化されている。この湿地の中の浅い水面が浮島沼(須津沼(すどぬま))で，古くは周囲7km余とされていたが年々縮小し，いまは沼沢地としてなごりをとどめるにすぎない。

うきたひでいえ 【宇喜多秀家】 (1573～1655) 安土桃山時代の武将。浮田とも書く。直家の二男。美作(みまさか)(岡山県)岡山城主。豊臣秀吉(とよとみひでよし)に養われ，秀吉の一字をもらって初名の氏家を秀家と改める。秀吉の四国・九州・小田原征伐に軍功をたて，また文禄(ぶんろく)・慶長の役*には総大将となり，秀吉の信任を受けて五大老*のひとりとなった。1600年(慶長5)関ケ原の役で石田三成らに推され西軍の盟主となったが，大敗して薩摩(さつま)(鹿児島)にのがれた。1606年八丈島に流され，50年間流人生活を送って83歳で没した。〔松尾 涼〕

うきばかり 【浮き秤】 ⇨比重

うきぶくろ 【鰾】 多くの硬骨魚類にみられ，消化管の背側(ポリプテルスでは腹側)で腎臓(じんぞう)と消化管の間にあって炭酸ガス・酸素・窒素の混合気体を満たした袋。発生学的には消化管の始部の壁がふくれてできたもので，肺と相同の器官とする説が一般的である。胚(はい)の時期には，すべて気道という細い管によって消化管と連なる。終生気道の備わるものを有管鰾(ひょう)，気道が二次的に失われるものを無管鰾といい，進化の進んだ魚類では無管鰾をもつことが多い。形は卵形・管状・円錐(えんすい)形などいろいろあり，ポリプテルスを除き対となるものはないが，しきりの壁によって二つまたは三つの室に分かれているものがある。いろいろの部分から盲嚢(もうのう)を出すものや，肺魚類のように内部が高等動物の肺のように網状のものもある。鰾の主要な役目は，体の比重を生活する周囲の水の比重と同じようにして，遊泳が自由にできるようにすることにある。その目的のため，鰾内の気体を気道を通じて出入りさせたり，鰾の壁の特定部分から鰾内に気体を分泌放出し，別の部分から鰾内の気体を吸収したりして，鰾内の圧と鰾の体積を必要な大きさに保つしくみをもっている。鰾内の気体を吸収したり放出したりする働きは，鰾の壁の毛細血管によって行なわれる生理的なも

のであり，その速さには限度がある。たとえば，深みからつり上げたマダイが，水面近くになると体の平衡を失って腹を上にして浮き上がってくる。これはつり糸に引かれて急速に浅い位置に上がったため，鰾の容積が大きくなってしまうためである。
鰾は肺魚類では高等動物の肺と同じような働きがあり，その他のものでは音を感ずる器官や発音器官として働いている例も知られている。深海魚や流水にすむ淡水魚などには，鰾が退化している種類も少なくない。軟骨魚類では鰾は存在しないが，発生の途中で痕跡(こんせき)的に表われる種もある。
〔蒲原春一・菅野徹〕

うきぼり 【浮き彫り】 絵画と丸彫り彫刻との中間的な彫塑・彫刻。レリーフ(relief)ともいう。平板なものに多少の凹凸(おうとつ)をつけて表現する。凹凸の肉の厚さによって，高肉浮き彫り(オーレリーフ)，中肉浮き彫り(ドミーレリーフ)，薄肉浮き彫り(バーレリーフ)と分けられる。また，平らな石・木などに凹部のみを削り取る肉合(ししあい)彫りという方法もある。浮き彫りは古代エジプトをはじめ，ギリシアの建造物などに多くみられ，東洋・日本の工芸品などにも行なわれている。〔萩原卓也〕

わが国の浮き彫りには，石・木・金属を材料としたものが多く，古墳時代には横穴石室の壁画や石棺に多い。仏教美術の中では寺院・宮殿の壁飾りに用いたと思われる*塼(せん)にすぐれたものがあり，奈良法華寺(ほっけじ)の鳳凰塼(ほうおうせん)，岡寺の天人塼はそのよい例である。奈良の頭塔(ずとう)石仏は石製の浮き彫りである。平安時代にはいると興福*寺の板彫り十二神将が秀逸で，わが国浮き彫り中の名作といえる。ヨーロッパに比較すると，彫刻作品としての浮き彫りはきわめて少ない。〔永井信一〕

うきやく 【浮役】 浮物成ともいい，江戸時代の雑税(小物*成)の一種。郷帳に記載されて毎年一定額を納付する定小物成に対し，臨時に徴収されて税額が一定しないためこの名がある。何々運*上・何々冥*加(みょうが)・何々役などと称されたものの多くは，これに相当する。銀納の場合が多い。

うきよえ 【浮世絵】 ⇨512ページ

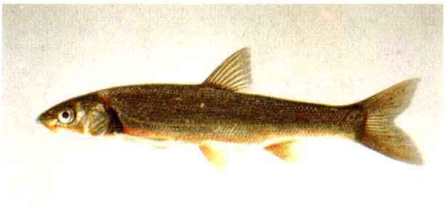
うきよぞうし 【浮世草子】 江戸前期，17世紀末(天和年間)から18世紀中葉(明和年間)まで，主として上方(京阪(けいはん)地方)で出版された小説類の総称。浮世とは現世・現実の生活，特に好色を意味し，作品の内容がおもに当時の町人の享楽的な現実生活を対象としているところから，この名が用いられた。そのほか，当時の武家生活や諸国の珍談・奇話を取り上げたものもある。流行期は前後90年間に及び，①西*鶴(さいかく)の作品を中心とする時代，②西鶴没後の14～15年間，③八文字屋*本時代に分けられる。西鶴は《好色一代*男》《日本永代*蔵》《世間胸算*用》など町人生活を好色・恋愛の面と経済生活の面から現実主義的・人間主義的な如実な方法で描き，文学の新分野を開拓した。西鶴没後は北*条(ほうじょう)団水・錦(にしき)文流などが西鶴を模した作品を書くが，西沢一風が《御前義経記》で浮世草子に伝奇小説の型を導入した。八文字屋本は八文字屋自*笑と江島其*磧(きせき)の手になったものである。西鶴の好色本の模倣作も多いが，現実生活の中で人間の類型のもつおもしろさなどを《世間子息気*質(むすこかたぎ)》以下一連の気質物とよばれる作品に描き，読者に教訓・娯楽を提供した。〔小池正胤〕



浮世草子
世間胸算用



浮世風呂



ウグイ



ウグイス

うきよどこ 【浮世床】 江戸後期の滑稽*本(こっけいぼん)。初編・2編は式亭(しきてい)三*馬の作で，3編は滝亭鯉*丈(りゅうていりじょう)の作である。1812～1823年(文化9～文政6)の刊。《浮世風*呂(ぶろ)》の続編ともいうべき作品で，当時の庶民の社交場でもあった髪結い床に集まる人物を，会話を中心にしてこっけい味豊かに描写している。場面構成は綿密で独特の写実的手法は，明治文学にも大きな影響を与えた。

うきよぶし 【浮世節】 日本伝統音楽の曲種の一。江戸時代には流行歌というほどの意味で使われたが，明治以後は寄席(よせ)において歌われる俗曲・流行歌を総称していうことがある。明治末期から大正にかけての立花家橘之助(きつのすけ)の活動により一流派として認められた。

うきよぶろ 【浮世風呂】 式亭(しきてい)三*馬の作品4編を収めた江戸初期の滑稽*本(こっけいぼん)で，1809～1813年(文化6～10)の刊。江戸市中の銭湯に集まる男女を会話を中心に描いたもので，場面は男湯・女湯に分けられている。一貫した筋はないが，人物の型，ことばづかい，特に方言やなまりなどを細かく書き分け，独特のこっけい味と如実な描写手法は滑稽本中随一である。後代の文学に与えた影響も大きい。

うぐい 【鯎】 硬骨魚類・コイ科。30cmほどになる淡水魚。全国の河川・湖沼にすむ。繁殖期には腹部が赤くなり，アカハラ・アカウオという地方名がある。東京ではハヤという。食用になり，長野県では特に賞味する。北海道・東北にはエゾウグイというやや小形の種類がある。なお，ウグイとごく近縁で東京でマルタとよばれる50cm近くになる魚は，ウグイときわめて似ていて，見分けはむずかしいが，春さきに体側に現われる婚姻色や生態で区別することができる。コイ科の魚としては珍しく，潮のさす川口や内湾にいる。

うぐいす 【鶯】

1 鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科の総称。この場合必ずウグイス類といい，その中の一種ウグイスと区別して使われる。旧世界特産で約300種あり，その半数はアフリカ産。木や草の茂み中を忙しく動き回ってこん虫をとる。ムシクイ類・ヨシキリ類など多くのグループを含む。

2 ウグイス亜科の一種で，全長14～16cm。雄は雌より大きい。東アジアに分布し，わが国では低地から高山までのやぶ(林の内外を問わず)にすみ，特に山地のササやぶに多い。山地のものは冬を低地や暖地で過ごす。じみな淡かっ色で，いわゆるうぐいす色ではない。早春から晩夏まで〈ホーホケキョ〉とさえずるが，秋・冬は〈チャッチャッ〉という声(ささ鳴きという)のみになる。春夏には〈キョキョキョキョキョケッキョケッキョ〉という鳴き方をもする。これは俗に谷渡りとよばれる。〔浦本昌紀〕

うぐいすいろ 【鶯色】 色名。ウグイス

の背の羽毛の色とされるが，それよりは緑色の多い暗い灰黄緑色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ウグイス色〉は，色相1.5GY，明度4.5，彩度3.5の色と規定されている。→色

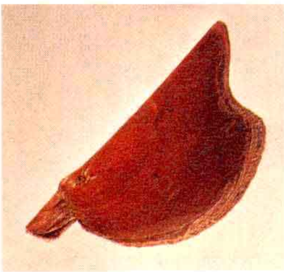
うぐいすがい【鶯貝】 軟体動物・二枚貝類。殻長(かくちょう)10cmほどの小鳥を形どった笛に似た姿をしている。殻表はかっ色，内面には真珠光沢がある。房総以南台湾までの水深10～30mの海底で，腔腸(こうちょう)動物のヤギ類の枝に付着する。殻(から)が黒く，ツバメのようなツバメガイもこれに近いもので，分布もほぼ同じでヤギ類に付着する。

うぐいすかぐら【鶯神楽】 双子葉植物・スイカズラ科。山地にはえる落葉低木で高さ1.5～3mになり，庭木に用いられる。葉は卵形～楕円(だえん)形で長さ2～6cm，幅1.5～5cmで無毛，裏は粉白色である。4～5月，葉腋(ようえき)に長い柄をもつ淡紅色の花を一つずつつける。花冠は少し曲がった漏斗形で，先が5裂する。果実は赤色の液果で5～6月に熟して食べられる。

うぐいすばり【鶯張り】 人が歩くと板張りがきしんで，ウグイスの鳴き声のような美しい音を出す廊下。京都二条城殿舎の廊下をはじめ，江戸時代の上流建築の廊下にその例が多い。一種の警報装置だとの説もある。L字形をした特殊なくぎを床下の根太に固定し，その先端のつめを床板の裏に彫ったほぞ穴にひっかけて板を留めてある。音は，その両者の摩擦によって生ずる。

うぐいすもち【鶯餅】 もち菓子の一種。いわゆるうぐいす色で，形も小鳥に似せてつくることからこの名がある。蜜(みつ)または砂糖と食塩とを混ぜた柔らかいもちを青大豆粉を敷いた上に取り，小さくちぎってこしあんを包み，両端をとがらせて腰の高い小判形にして青大豆粉を振る。また，白玉粉に水を入れてこね，火にかけて練り，砂糖を2～3回に分けて入れ，求肥のようにしたものをかたくり粉(または青大豆粉)をふるった板の上に取り出し，適当にちぎり，中にあんを包み，上に青大豆粉をまぶす方法もある。〔塩川ふみ〕

うくじま【宇久島】 長崎県の五島列島最北端の島で，南西に接する寺島とともに，北松浦郡宇久町を形成する。火山島で，海岸には低平な台地がある。面積25km²，宇久町の人口16,100。人口の流出が激しい。麦・サツマイモのほか，抑制栽培のトマト・タバコ・ミカンをつくり，またパイナップル苗の栽培場がある。牧牛も盛んで，宇久ウシの名が知られる。ブリ・タイ・イカ・アマダイの漁獲，潜水によるアワビ・サザエの採取，真珠の養殖なども行なわれる。島は壇ノ浦の戦い*に敗れて落ち延びた平家盛によって開かれたと伝えられ，中世から幕末まで五島列島を支配した五島氏は，もと宇久氏といってこの島の出身であった。北半は西海国立公園の区域内で，東岸には中心集落である漁港の平がある。〔浅井得一〕



ウグイスガイ



ウグイスカグラ

ウクライナ(共和国)［Ukrainskaya S.S.R.］ソビエト連邦を構成する共和国の一。南は黒海に面し，西はポーランド・ルーマニア・チェコスロバキアに接している。面積60万4,000km²。人口4,638万1,000(1968)。首都キエフ。

〔自然・住民〕全般に低平な地形で，海抜500m以下の台地・丘陵と，国土をS字状に貫くドニエプル川流域の大平野からなるが，西部のカルパート山脈一帯と黒海に突出したクリム(クリミア)半島南部は山地をなす。比較的温和な大陸性の気候を示し，気温は冬季5～6℃，夏季は18～23℃前後で，雨量は北部は多く南部は少ないが，年間平均400～700mm程度である。クリム半島の沿岸部は亜熱帯性となっている。住民はウクライナ人が78.6％を占め，ロシア人(16.9％)・ユダヤ人・ポーランド人・白ロシア人などで構成され，ロシア語とほとんど変わらないスラブ語系のウクライナ語を話す。ウクライナ人は東スラブ族に属し，ギリシア正教の影響を受けた点ではロシア人と共通するが，一方ポーランドを通じて西欧の影響も強く受けてきた。

〔産業・経済〕ソ連の穀倉といわれ，肥沃(ひよく)な黒土地帯で生産される小麦その他の穀類は，ソ連全体の生産量の4分の1，テンサイは2分の1に達する。鉱工業は，ソ連全体の約36％を産出するドンバスの石炭とクリボイログの鉄鉱石はソ連の鉄鋼生産に重要な位置を占め，内陸のハリコフ，黒海に面したオデッサなどは，自動車・精密機械工業中心の工業地帯となっている。また，ドニエプル川の水力発電を利用して各種の重化学工業や軽工業も盛んである。

〔政治・歴史〕アジアからヨーロッパへの通路にあたるため，諸国の文化がはいってきたが，10世紀ごろに伝わったギリシア正教はこの地に大きく影響した。1654年にロシアとの合併を決め，1920年ロシア-ソビエト共和国と同盟を結び，1923年ソビエト連邦を構成する共和国の一員となった。第2次世界大戦中，ドイツ軍の侵入によって，人的・物的に大きな損害を受けたが，戦後の5か年計画によりいちはやく復興した。〔斎藤晨二〕

うぐるしま【鵜来島】 高知県の南西端，宿毛(すくも)湾の湾口にあり，現在は宿毛市に所属する。面積1.3km²，人口440。もとはカツオ・イワシの漁業が盛んであったが，いまは漁業出かせぎが多い。江戸時代には宇和島藩領で，その流刑地となっていた。

ウグレゴルスク［Uglegorsk］ソビエト連邦，サハリン州(樺太(からふと))中部，間宮海峡に臨む港町。日本領時代には恵須取(えすとる)とよばれた。人口18,000(1963)。パルプ工場があり，漁港としても重要である。

ウクレレ［ukulele］ポルトガル起源の撥弦(はつげん)楽器。19世紀ハワイに伝えられてハワイ語の名称ウクレレ(とぶノミの意)がつけられた。4弦でソ・ド・ミ・ラと調弦される。比較的容易に基本的な和音を奏することができるので，近代ハワイ音楽などの軽音楽に広く使われている。通常は和音のみが奏されるが，名手になると旋律を織り交ぜることができる。類似の楽器が，南アメリカや東南アジアでみられるが，同じポルトガル起源のものが別の形をとって伝えられたものと思われる。〔山口　修〕

うけおい【請負】 当事者の一方(請負人)がある仕事を完成することを約し，相手方(注文者)がその仕事の結果に対して，報酬を支払うことを約することによって成立する契約をいう(民法632条)。仕事の内容は，家屋の建築のような有形のものでも，音楽演奏・講演などの無形のものであってもよい。仕事の結果が目的となっている点で，雇用契約*や委任*と異なり，したがって，いかに労務の提供があっても結果が生じなければ債務不履行である。請負人は仕事の完成と製作物の引き渡し義務を負うのに対し，注文者はその成果に対して報酬支払い義務を負い，仕事の目的物の引き渡しと同時に，あるいは労務の終了後に支払わなければならない(民法633条)。請負人はまた，自己の責任において下請負人を使用することもできるが，いずれの場合も仕事の結果に対して担保責任*を負っており，注文者に瑕疵(かし)修補請求権・損害賠償請求権，契約の解除権が与えられている(民法634・635条)。仕事の完成前ならば，注文者は損害を賠償して，契約を解除することもできる(民法641条)。注文者の不要となった仕事をしいて完成する必要はないからである。なお，仕事の完成前の災害は請負人の損害に帰するが，完成後，引き渡し前の災害については通常，注文者の損害に帰するとされている。〔黒木三郎〕

浮世絵

江戸時代の絵画諸流派中の一つをいい，万治年間(1658～1660)から1895年(明治28)ごろに至るまで，多くの絵師によって描き続けられてきた画系である。絵画様式としては肉筆画・木版画および版本などを残している。

〔誕生〕最も重要視される浮世絵師のひとりは菱川師宣*(ひしかわもろのぶ)である。彼は，当時の封建社会にあって，武士・町人という身分の別がなく，しかも一般社会の煩雑なしきたりに縛られない遊里と歌舞伎(かぶき)の享楽社会に題材を求め，庶民風俗画を描いた。この社会が人々によって〈うきよ〉とよばれたため，その風俗画も〈浮世絵〉の名称でよばれた。また，師宣をはじめとする浮世絵初期の絵師は，大和絵(やまとえ)の復興という考えを表わして，その肩書きに〈日本画師〉〈大和絵師〉という文字を用いている。この肩書きからも推察されるように，浮世絵は突然に発生したものではない。

今日では，近世初期の風俗画を源流として，御伽(おとぎ)草子*などによる諸要素が加味されて誕生したというのが通説となっている。たとえば，近世初期風俗画の中に〈寛文美人図〉とよばれる掛け幅装の作があり，湯女*(ゆな)・白拍子*(しらびょうし)といった享楽社会の人物の一人立ちの構図の作がある。師宣らはこの傾向をさらに推し進めて，新興都市江戸の庶民に合った絵画を開花させたのである。そのうえ，彼らは，すでにわが国では8世紀にその遺品をみる木版画の印刷法を活用して，単独で鑑賞の対象となりうる木版風俗画を創始した。この方法によって，同時に多数の人々が同一作品を愛好でき，また売り値の安いという利点もあって，浮世絵が庶民と結びつく結果をみたのである。

また御伽草子をはじめ歴史物や現実的な芝居風俗・吉原風俗を扱い，さらには，鎌倉時代に遺品をみる好色画(春画)などをも木版画で出版した絵画内容の平易さも，大いに民衆と浮世絵とを密着させる働きをなした。この版画にするための原画(版下絵)に菱川師宣・杉村治平衛(すぎむらじへい)(？～1681)らが筆をとっていた。中でも師宣は，作品数のきわだって多いことによって，浮世絵版画の祖と考えられている。

浮世絵は，その初期には肉筆画・版画の制作が並行して行なわれていた。当時の版画は，墨一色摺(ず)りの〈墨摺絵〉か，それに丹・黄土などを筆彩色した〈丹絵〉という原始的な彩色の様式をとっていた。そのためもあって，当時は多くの肉筆画が制作されていた。

〔展開〕浮世絵流派中でも，鳥居清信(きよのぶ)(1664～1729)を初代とする鳥居家を中心にした鳥居派*は，江戸の芝居小屋と特約して看板絵・番付絵などを専業とするかたわら，浮世絵を描いた。しかも，市川団十郎*によって創案された江戸独自の荒事歌舞伎を写すに適した〈ひょうたん足・みみず描(が)き〉という独特の画法を創作した。

また，懐月堂*安度の一門や，宮川長春を祖とする宮川派の絵師たちは，豊満な体軀(たいく)の美人画を得意として，肉筆画に終始した。このような中にあって，奥村政信*(まさのぶ)は，彼自身が版元を兼ねていたためか，木版画技法の改良に努めて大きな貢献をなしえた。丹から紅に主調を変えた〈紅絵〉，図の色彩に一つの発展をもたらした〈漆絵〉，さらに延享の初め(1745)に，彫師・摺師といった木版画技術者の協力によって，墨版と紅・草の色板とを重ね摺りする〈紅摺絵〉を開拓した。その作品には美人画・役者絵・武者絵などのほかに，ヨーロッパの線遠近透視画法を応用した〈浮絵*〉という一種の風景画もあり，彼みずから元祖を名のった。

しかし，木版画技法の改良や画材の拡大はひとり政信のみによるものではなく，西村重長(しげなが)(1716～1756)・石川豊信(とよのぶ)(1711～1785)・鳥居清満(1735～1785)らの活躍に負うところも多い。彼らは，これらの技法を活用した個性ある作品を発表した。

この木版画技法改良への努力は，明和初年(1765ごろ)の多色摺木版画，すなわち錦絵*(にしきえ)の誕生につながり，浮世絵といえば版画をさすようになった。この改良にあたっては，俳諧師(はいかいし)など一部の文化人の助言もあり，用紙も従来の〈仙花(せんか)〉〈西の内〉から上質の奉書紙を用いるようになり，真に芸術味豊かな絵画としての木版画となった。

その版下絵を描いたのが鈴木春信*である。春信は，手足の細い，夢をみるような情感あふれる美人を描き，その画材を一般庶民の年中行事や日常生活に求めた。この理想美の表現と一般風俗を主題とした傾向は，よりいっそう浮世絵を庶民に親しみのある絵画とした。

このような美人画における理想描写に対して，役者絵では，従来の様式化した鳥居派の作風に代わって，一筆斎文調(生没年未詳)・勝川春章*らによって，役者似顔絵という新様式が創始された。俳優の顔の特徴や舞台姿を写実的に描こうとするこの作画傾向は，勝川春好(1743～1812)・勝川春英(1762～1819)の俳優の顔だけを拡大構図する役者大首絵の作となり，ついには自己の極端な観察と誇張した描写によって，それぞれの俳優の個性や芸風をも印象的に描写しようとした東洲斎(とうしゅうさい)写楽*にみられる作風に達するに至った。

一方，春信がそのほとんどを独占していた美人画界も，1770年(明和7)に春信の没するや，ようやく単なる理想美追求のみではなく，当時の世俗の写実を加味した鳥居清長*の美人画となった。それは，流麗な描線と明快な色彩とによる肉感的な群像美を表現した芸術であった。この清長に対抗するかのように出現したのは，喜多川歌麿*(うたまろ)である。彼は，勝川派の役者似顔大首絵の手法を活用して，美人大首絵という新様式の美人画を創始した。そしてきわめて少ない描線・色彩を用いて，女性の外形上の美しさのみではなく，内面的なもの，さらにはその触感をさえも表現し，女性の理想像を描いた。

この美人画・役者絵は，19世紀にはいるとともに，時世の変動や世間の趣向の変化によってその表現も変わり，歌川国貞*(くにさだ)(3代豊国)や渓斎(けいさい)英泉(1790～1848)の作品にみられる退廃的な美人画となり，また歌川画法の様式化した役者似顔絵となった。

このとき，従来の美人画・役者絵に代わって，浮世絵の主題として注目されだしたのが風景描写である。葛飾(かつしか)北斎*はその大成者といわれ，安藤広重*は日本的風景版画の完成者といわれる。北斎の和漢洋の画法を修得した画風は，彼の合理主義的作画に調和して，よく人を驚かす構図・配色となって，西欧の画法を生かした斬新(ざんしん)な風景描写が行なわれた。これに対し，広重の作風は写生に基礎を置きながら，その土地の印象や日本風土の特色を画面に織り込むことを心がけた，画趣あふれる風景版画となっている。

〔周辺〕元禄(げんろく)の師宣から幕末の広重まで，浮世絵師の数は，画号のわかる絵師だけでも2,000余名を数える。しかし，浮世絵の遺品の大半を占める版画，その版画を出版した版元，版木を彫った彫師，版画を摺った摺師などの存在は絵師の名声の陰に隠れ，その実数はつかめない。そして，庶民とともに生活し，庶民の趣向を直ちに作品に取り入れることによって世の人気にささえられた浮世絵は，鳥居派の特殊な例を除いて，縦の系譜によって伝承されたものではなく，一時代・一時期の人気絵師と亜流絵師たちによって作り出され，その人気絵師が没するや次の人気絵師の出現となって，人気絵師を中心とする集団が生まれるという展開を示した。

こうした様相は浮世絵以外の絵画の流派にはみられない。浮世絵は江戸庶民とともに生き，江戸の庶民生活が滅びたときに活動を停止した絵画であった。➔519ページ(写)

〔菊地貞夫〕



寛文美人図



菱川師宣《見返美人図》 東京国立博物館蔵



墨摺絵 懐月堂度辰 《立美人》 東京国立博物館蔵

漆　絵 奥村政信《初代市川鰕蔵の助六》東京国立博物館蔵



浮　世　絵

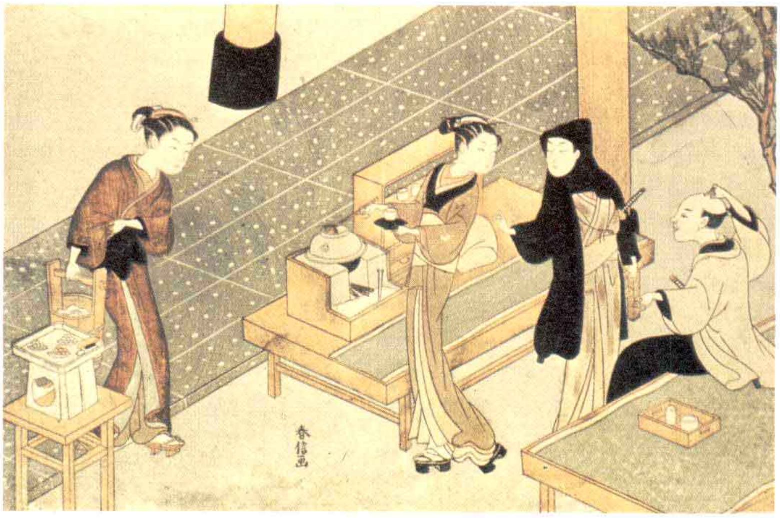


紅摺絵 石川豊信 《中村喜世三郎のおきくと市川亀蔵の幸助》 東京国立博物館蔵



丹　絵 鳥居清倍 《市川団十郎の竹抜き五郎》 東京国立博物館蔵

錦　絵 鈴木春信 《笠森おせん》 東京国立博物館蔵



うけおいきゅう【請負給】使用されている労働者が仕事の完成度合いに応じて受け取る賃金。単純に，出来高に賃金率を乗じて算定するもの，出来高の量に応じて賃金率をスライドさせるもの，固定日給などのほかに請負制を加味しているものなどがある。請負制は，労働者の最低生活を脅かす恐れがあることを考慮して，労働基準法は，請負制について〈労働時間に応ずる一定額〉の保障給の支払いを定めた。しかし，保障給の額は，労働基準法に定めがなく，当事者の約束によるから，協約などによってこれを定めることが望ましい。〔木元錦哉〕

うけさく【請作】荘園(しょうえん)において，農民が年来耕作してきた土地や開墾地などに対する権利を領主からあてがわれて，その権利を行使すること。あてがわれた土地に対する権利を作手・作職などという。領主より作手があてがわれる際には，通常農民は領主に対する負担の弁済などを明記した請文を提出させられたので，こうして成立した作手を請作と称した。平安中期以降盛んに行なわれた。

うけしょ【請所】鎌倉・室町時代，地頭・荘官(しょうかん)が荘園領主と契約して毎年一定額の年貢(ねんぐ)の納入を請け負う代わりに，荘園管理を全面的に任せられた制度をいう。請け負わされた年貢を請料といい，豊凶にかかわらず一定であった。鎌倉時代には地頭請，室町時代には守護による守護請が盛んに行なわれたが，請け負わされた年貢はしだいに武士に押領されるようになり，荘園制の解体が促進された。また応仁(おうにん)の乱・文明の乱後には郷村制の発達に伴って百姓請(地下請)も行なわれた。〔鈴木英雄〕

うげつものがたり【雨月物語】上田秋成による読本。中国・日本の古典文学に素材を得た九つの短編小説からなり，各編ごとに亡霊・妖怪(ようかい)が登場し，非現実の世界を展開する。古雅な語彙(ごい)と流麗な文体で人間の心の世界を描いた怪談は，人間存在の不可思議さ・不可解さに満ちている。

うけにん【請人】中世・近世の武家法における保証人。奈良時代以降，保人と償人の別があり，保人は債務者が死亡・逃亡した場合にのみ代償義務をもち，償人は債務者が弁済しない場合に代わって債務を弁済する義務をもった。中世ではこの両者を総称して請人といった。近世においても保人・償人の区別があったが，1704年(宝永1)の評定所一座の申し合わせで両者の区別はなくなり，1713年(正徳3)の評定所一座の相談で確認されてから，請人は今日の保証人と同一の性格をもつものとなった。近世では金銭の貸借に関する金請，奉公契約に関する人請のほか，地借り人・店(たな)借り人の身元を保証する地請・店請などの請人があった。〔鈴木英雄〕



雨月物語



ウコッケイ

うけぶみ【請文】古文書の一様式。綸旨(りんじ)・院宣・御教書(みきょうじょ)，その他上司の命令・尋問に対する返答をはじめとして，一般に返書として出した文書をさす場合と，みずからあることを発意してその履行を請け合うために差し出した文書をさす場合とがある。請書または散状ともいう。ときには本文の終わりに，違背のない旨を誓う起請(きしょう)の詞(ことば)を載せることがある。

うけもちのかみ【保食神】日本神話の食物の神。〈うけもち〉の〈う〉は単なる添辞で意味がない。〈け〉は食物の主として稲米をさし，〈もち〉はこの神の職能を保持する意味を潜めていて，オオナモチノミコトの〈モチ〉と同じく尊称であろう。ツクヨミノミコトがアマテラスオオミカミの命を受けて地上に天下り，この神のもとに至ったとき，この神は口から飯，大小のさかな，獣を出し，百机(ももとりのつくえ)に供えて出した。ツクヨミノミコトは怒って剣を抜いて打ち殺した。しかし，その神の頂には牛馬，額にはアワ，まゆにはカイコ，目にはヒエ，腹にはイネ，陰(ほと)には麦・ダイズ・アズキができた。アマテラスオオミカミは喜んで人間の食料に定めたという。〔宮井義雄〕

うけもどししょうけん【受戻証券】小切手は，その小切手と引き換えでなければ，小切手金を支払わなくてもよい。このように，証券と引き換えでなければ，その証券上の債務の履行をしなくてもよい有価証券をいう。証券の返還(受けもどし)を受けるのは，債務の履行が終わったのちも，善意の第三者がその証券を取得して再び請求する危険を防止するためで，上例の小切手のほか，手形・貨物引換証・倉庫証券・船荷証券などが，これにあたる。〔松本治雄〕

うけらがはな【うけらが花】加藤千蔭(ちかげ)自選の歌文集。和歌を四季・恋・雑・雑体・長歌の部立に分け，擬古文を付している。県居(あがたい)派のうち江戸派とよばれた千蔭の，新古今風を重視した優雅・繊細な歌風をうかがわせる。

うご【羽後(国)】秋田県の大部分と山形県の北西部にまたがる旧国名。東山道に属する。1868年(明治1)出羽(でわ)を2分したときその北半を羽後国(うごのくに)とした。もと飽海(あくみ)・雄勝(おがち)・平鹿(ひらか)・山本・河辺(かわべ)・秋田の6郡であったが，いまでは秋田県の秋田・能代(のしろ)・本荘(ほんじょう)など8市と，南北両秋田・山本・鹿角(かづの)・河辺・仙北(せんぼく)・平鹿・雄勝・由利の9郡，および山形県の酒田市と飽海郡となった。➔出羽国

うご【羽後(町)】秋田県雄勝郡の町。人口22,000。湯沢市の西に接している。1955年(昭和30)，西馬音内町ほか5村と明治村の一部が合併して生まれた。耕地の83%は米の単作水田地帯で，旧西馬音内町では江戸時代からの伝統をもつ九斎市がいまも開かれ，また，振りの美しい盆踊りで知られている。

うこうれんらくこうろ【宇高連絡航路】本州・四国間の国鉄連絡船航路で，岡山県玉野市宇野と香川県高松市を結ぶ。1910年(明治43)宇野線の開通により運行を開始し，実距離21.0kmで貨車航送も行なう。航路が平行する民営の宇高国道フェリー(1961年開設)との間に激しい競争を展開し，1966年(昭和41)以降新型連絡船への取り替えを行なって，1970年現在で貨客船5隻，貨車専用船1隻が就航している。

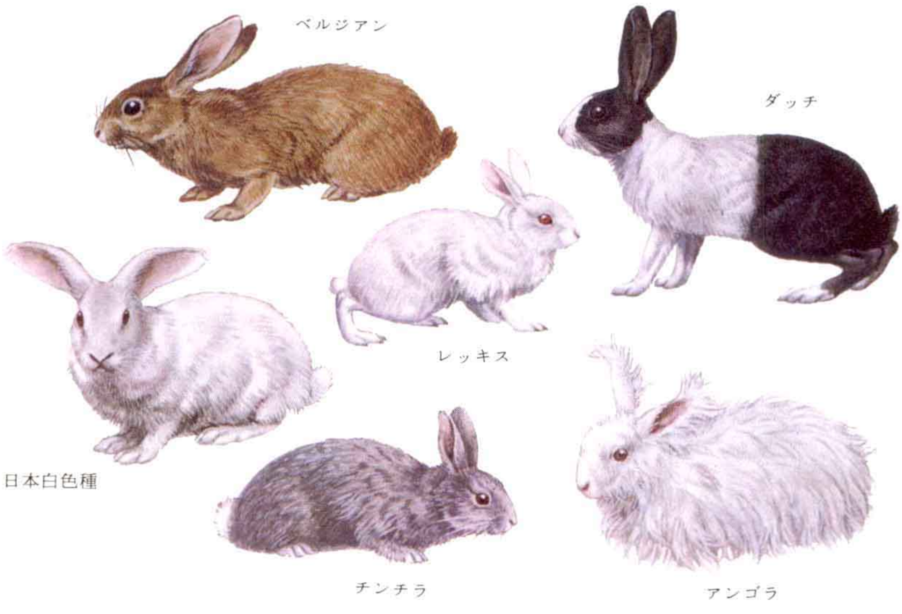
うこぎ【五加】双子葉植物・ウコギ科。山野にみられる落葉低木。いけがきに植えられることもある。枝に大きなとげがあり，短枝の上に葉が数枚つく。葉は掌状複葉で，長さ3～7cm，幅1～3cmの倒卵形，先は鈍くとがった5小葉からなり，縁の上半部に鋸歯(きょし)がある。雌雄異株で5～6月に短枝の葉間から淡緑色の，球形の花序を出す。果実は球形で黒熟する。根の皮は五加皮といわれ，漢方では強壮薬・鎮痛薬にして用いられる。また，五加皮酒の原料となる。若芽は香気があり，山菜として食される。〔加藤僖重〕

うこっけい【烏骨鶏】中国原産のニワトリの一品種。メラニン色素が多く，とさか・皮膚・骨・肉が紫黒色をしているのが特徴で，羽色は白色のものと黒色のものがある。わが国には古く中国よりはいり，独特の品種となった。1942年(昭和17)天然記念物に指定。

うこん【鬱金】単子葉植物・ショウガ科。熱帯アジア原産の多年草。草たけは50



ウコン
頂部の苞葉には淡紅色のぼかしがある



ウサギ

cmぐらい。カンナに似ており，葉は数枚が2列に互生し，根茎は太い。夏～秋に苞葉の多い花序をつけ，一苞内に3～4個の黄色花をつける。高温でよく育ち，わが国では温室で栽培する。なお，根茎に含まれるクルクミン$C_{21}H_{20}O_6$は，水またはアルコールに容易にとける黄色素であり，もめん・羊毛・絹などに直接または明礬(みょうばん)媒染で染色される。その色は鮮美な黄色いわゆる鬱金色を呈し，合成染料の普及以前には染料としてかなり使用されたが，日光・堅牢度(けんろうど)には乏しかった。今日では，おもにカレー粉やつけ物の着色に用いられている。また，アルコール浸出液で染めたクルクマ試験紙はアンモニアやホウ酸の検出に使われる。〔横井朝子・勝呂小枝〕

うこん【右近】 右近衛府(うこんえふ・うこのえふ)の略。左近に対する。長官を大将，次官を中将・少将，判官を将監(しょうげん)，主典を将曹(しょうそう)という。

うこんいろ【鬱金色】 色名。ウコンの根茎で染めた黄色。刈安色・黄蘗(きはだ)色とともにわが国の代表的な黄色で，刈安色よりもやや赤みが多い。刈安色の赤みをさらに減じて，やや緑みをもたせた色が黄蘗色である。

うこんのめいが【鬱金野螟蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。翅(はね)を広げた長さ25～30mm，前翅・後翅ともに淡黄色で各3本の波条線があり，前翅の中室に1個の小さいかっ色紋がある。成熟した幼虫は淡緑色で，体長18mm内外。ダイズおよびインゲンマメの葉を巻いてその中にすみ食害する。日本全土をはじめインドに至る東アジア一帯およびヨーロッパに広く分布し，成虫は6月ごろより出現する。年3回の発生で，幼虫の加害は夏季に最も著しい。防除には，巻いている葉を解いて幼虫を捕殺するか七酸石灰を散布する。〔鈴木邦雄〕

うさ【宇佐(市)】 大分県北部の市。宇佐神宮*の鳥居前町で，付近には古代の仏教遺跡も多い。1967年(昭和42)市制施行。人口52,000。中津平野の東部，駅館(やっかん)川・寄藻(よりも)川流域の沖積地(ちゅうせきち)と耶馬渓(やばけい)溶岩台地の北東部を占める。産業三大別人口比は35：23：42で，水田が古くから開け，条里制*の遺構(いこう)もみられる。旅館やみやげ物店が多く，工業は立ち遅れ，



ウサギギク

低開発地域の指定を受けている。海岸寄りに日豊本線，山麓(さんろく)寄りに国道10号線が通ずる。

うさぎ【兎】 哺乳(ほにゅう)類・ウサギ目・ウサギ科の総称。尾が短く，後肢(こうし)が長く跳躍に適し，耳が長い。前肢に5本，後肢に4本の指がある。齧歯(げっし)類に似るが，上顎(じょうがく)の門歯は2対あり前後の側ともエナメル質で包まれる。第1回めの糞(ふん)を食い，反芻(はんすう)の代用をする奇習がある。アジア・アフリカ・アメリカ・ヨーロッパに広く分布し，オセアニアには分布しなかったが，移入されたものが大増殖し，農作物などに害を及ぼすほどになっている。砂漠(さばく)・草原・森林・高山・ツンドラなど，ほとんどすべての環境にすみ，草食性。ふつうノウサギとアナウサギの二つに分ける。

1ノウサギ類：穴を掘らずに地上に子を産み，生まれたての子は有毛で，目が開きすぐに歩き回ることができる。ヨーロッパ・アフリカ・シベリアに広くすむものに，ヤブノウサギ・インドノウサギ・ユキウサギ・ノウサギなどがある。またアメリカには耳が長大で，長さは体長の3分の1ほどに達し，後肢が長く，4.5～6mを跳躍するジャックウサギなどがある。日本では北海道にエゾユキウサギ，本州・四国・九州にノウサギが分布する。東北地方から北陸・山陰には冬に白化するトウホクノウサギ(エチゴウサギともいう)，九州・四国から本州の太平洋側には白化しないキュウシュウノウサギの2亜種が分布する。

2アナウサギ類：地中に穴を掘って生活し，穴の中や岩の下に枯れ葉や毛を敷いた巣をつくり，その中に子を産む。子は毛がなく裸出し，目は閉じている。奄美(あまみ)大島・徳之島特産で特別天然記念物のアマミノクロウサギ，メキシコの高地の一部にすむメキシコウサギ，南アフリカの一部にすむアカウサギが含まれ，これらはいずれも生きた化石ともいうべき原始的な特徴をもつ。またヨーロッパからアフリカにはアナウサギが分布する。本種を畜化したものがカイウサギ(イエウサギともいう)で，50以上の品種がある。毛皮用としてはフランス原産のチンチラとレッキスなどがある。前者は南アメリカ産のチンチラに似ており，代用品とされる。毛用としてはトルコのアンゴラ地方原産といわれ，イギリス・フランスで改良されたアンゴラなどがある。肉用としてはベルギー原産のベルジアンと，フランス原産のフレミッシュなどがあり，愛玩(あいがん)用としてはヒマラヤ原産のヒマラヤン，ほかにイングリッシュ・ダッチなどがある。兼用としてはニュージーランド-ホワイト・日本白色種・メリケン・イタリアン・キンキンなどがある。ウサギはまた医学・生物学の実験動物として欠くことができない。〔今泉吉典〕

うさぎぎく 双子葉植物・キク科。キングルマともいう。本州中部以北の高山の日あたりがよく，やや湿ったところにはえる多年草。茎は枝分かれせず，高さ30cm内外。ウサギの耳に似たへら形の葉が対生する。

夏，茎の頂に直径４～５cmの黄色い頭花をつける。

うさぎこうもり　**【兎蝙蝠】**　哺乳(ほにゅう)類・翼手目・ヒナコウモリ科。体長４～５cm，前腕長3.8～4.6cm。耳は非常に長く３～４cmに達する。ユーラシアの温帯部から北部アフリカに広く分布。日本では山地の森林にすみ，洞窟(どうくつ)・樹洞などで冬眠する。



ウサギコウモリ

うさじんぐう　**【宇佐神宮】**　大分県宇佐市の小椋(おぐら)山にあり，宇佐八幡宮(はちまんぐう)・宇佐宮・広幡(ひろはた)八幡大神宮ともいい，全国八幡宮の総本社。祭神はふつう，応神天皇・神功(じんぐう)皇后・比売神(ひめがみ)の３神とされ，これらを八幡三所大神ともいう。

起源については《日本書紀》《扶桑(ふそう)略記》などの諸説があるが，欽明(きんめい)天皇のときに八幡大神の託宣によって３神を祭ったという。皇室の顕祖を祭る宇佐神宮と太祖を祭る伊勢(いせ)神宮は二所宗廟(そうびょう)と称され朝廷の信仰も厚かった。731年(天平３)の聖武(しょうむ)天皇の外敵討伐の奉賽(ほうさい)，769年(神護景雲３)の和気清麻呂*(きよまろ)の神託奏上などにみられるように，神威は高く，天皇の即位，国家の大事などに際して，朝廷は宇佐使を派遣したり，30年ごとに社殿を新しく造営する式年造営制度を設けたりした。859年(貞観１)には王城鎮護のため石清水(いわしみず)八幡宮*が勧請(かんじょう)された。また源頼朝(よりとも)が鎌倉幕府を開いたとき，鶴岡(つるがおか)八幡宮を勧請して，武門の守護神としても信仰された。現在の社殿は1863年(文久３)に古来の様式にのっとって造営されたもので，八幡造*の本源とされ，重要文化財。宇佐神宮は平安遷都(794)ごろには，その祭神を護国霊験威力神通大菩薩(だいぼさつ)と称し，神仏習合*の先駆となった。例祭は３月18日。７月31日から３日間行なわれる御神幸祭は一般にけんか祭りといわれ，８月15日の放生会，10月20日・21日の風除(かぜよけ)報賽祭とともに有名。

〔佐野文哉〕

うし　**【牛】**　脊椎(せきつい)動物門・哺乳(ほにゅう)綱・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科のウシ属・ヤギュウ属・スイギュウ属の総称。しかし，一般にウシといえばウシ属の家畜ウシをさす。

〔歴史〕ウシはイヌに次いで古い家畜である。いつの時代に家畜化されたかは判然としないが，人類のスイス湖棲(こせい)時代(BC5000年ごろ)にはすでに小形の食肉用のウシがいたと思われる証拠がある。またそのころに最も文化の進んでいた西アジアのメソポタミアでは，すでに農耕用にウシが飼われていたらしい。したがって，ウシの最も古い発祥地は，おそらくこれら西アジアの文化諸国であり，その年代はおよそBC8000年ごろと推定されている。ウシが家畜化される以前の野生のものを広く原牛(ボス-プリミゼニウス)といっている。これは有史時代までは，ヨーロッパ・西アジア・アフリカ北部などに広く分布していたらしいが，現在では絶滅し，遺骨として知られるだけである。原牛の遺骨は，その発見された場所によりそれぞれ固有の名がつけられたことがある。一般にヨーロッパに出土したものをボス-トーラス-プリミゼニウスといったが，その中には少し頭骨の変わったものもあり，これを区別してボス-トーラス-ブラキセロスといったこともある。頭骨は短く幅広く，現在のブラウン-スイス・ジャージーなどの品種はこれに由来するのであろう。しかし現在ではボス-トーラス-ブラキセロスはヨーロッパ原牛の一地方種とみなすべきものであるとされており，したがって，総括的にいえばヨーロッパのウシはすべてボス-トーラス-プリミゼニウスから生じたものとされている。また，インド・中国・ジャワ島などからも原牛の頭骨が出土している。これらをボス-ナマディカスといい，またアジアの原牛ともいわれた。現在，インド・アジア南部・アフリカにコブウシまたはゼブーとよばれる肩峰(肩から首にかけてのこぶ)のあるウシがいるが，これはボス-ナマディカスから生じたとされていた。しかし，これもまたボス-トーラス-プリミゼニウスの一地方種と考えられるに至って，結局世界のウシはすべてボス-トーラス-プリミゼニウスから生じたというのが現在の考え方である。

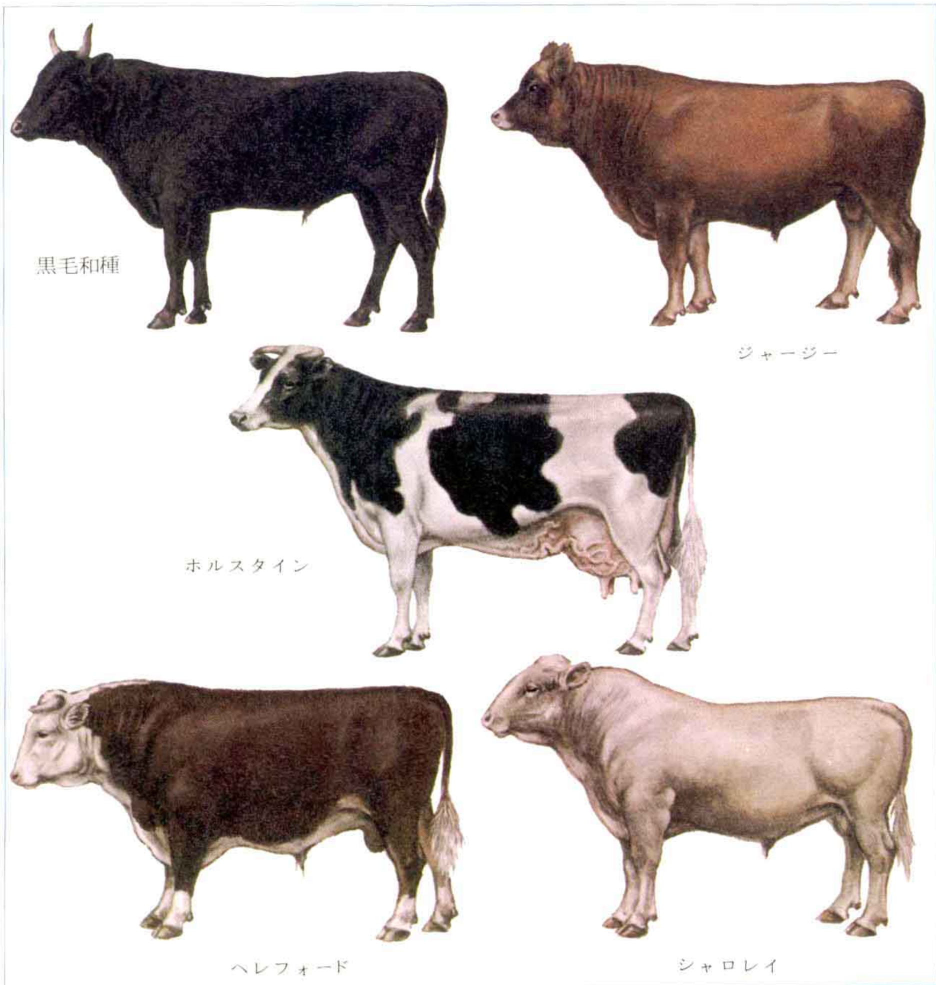
日本のウシについても詳細は不明であるが，おおよそ次のように考えられている。インドのゼブーが北上し，東部アジアに移り，これが南下してきたヨーロッパ系統のウシと種々の程度に混血された。その結果肩峰が低くなり，体形その他にかなりヨーロッパ系統の影響を受けて生じたのが朝鮮のウシである。その一つの分派が，弥生(やよい)時代の初期に人類とともに海を渡って日本に移ったと考えられている。すなわち，日本のウシの祖先にはかつてアジアの原牛といわれたボス-ナマディカスの系統とヨーロッパの原牛と称されたボス-トーラス-プリミゼニウスの系統との双方の血がはいっていることになる。ウシを飼うことは，古代ギリシア時代にすでに重要産業となっていたらしく，ウシの頭が貨幣に刻まれている。またウシが商取引の基準にされていたことが言語の上にも現われている。すなわち英語でウシの意のキャトルcattleはフランス語のキャテルcatelより転化したものであるが，これはさらにラテン語で財産という意味のカピアルcapialまたはカピターレcapitaleから出たといわれている。古来，ウシはいつの時代でも人類の発展，ことに農業の発展とともに栄えてきた。現在では世界各国に広く分布して，食肉・牛乳・バター・チーズなどを供給し，また地域によっては役牛としても働いて農業に貢献している。

〔頭数と分布〕世界のウシの総数は，国連食糧農業機関(FAO)の資料(1969)によれば，約10億8,730万頭である。特に多い国はインド１億7,610万頭，アメリカ合衆国１億915万頭，ソ連9,717万頭，ブラジル8,876万頭，中国6,295万頭，アルゼンチン5,147万頭，パキスタン3,555万頭，メキシコ3,500万頭である。熱帯・亜熱帯ではゼブーまたはその系統のものが飼われ，その他の地域ではヨーロッパ原産のもの，たとえばホルスタイン・ヘレフォードなどが主体である。わが国には，農林省資料によれば，1969年(昭和44)２月現在で，乳用牛166万3,000頭，肉用牛179万5,000頭で，計348万8,000頭のウシが飼われている。１戸あたりの飼養頭数は，乳用牛で5.2頭，肉用牛で1.8頭である。乳用牛の特に多い地域は，北海道43万5,340頭，千葉県81,470頭，岩手県72,130頭，群馬県66,820頭，長野県66,100頭などである。肉用牛の特に多い地域は，鹿児島県24万750頭，宮崎県14万8,810頭，熊本県11万800頭，大分県82,360頭，広島県69,570頭，岡山県68,200頭などである。

〔品種〕ウシの品種はふつう用途によって分類され，乳用種・肉用種・乳肉兼用種・役用種などと称される。

①ホルスタイン：乳用種。原産地はオランダの北オランダ州およびフリースランド州である。ドイツのホルスタイン地方にも早く分布していた。家畜としての歴史は古く，2,000年以上になるといわれる。毛色は黒白斑(はん)。乳用種としては大形のほうで，わが国の標準では，雌650kg，雄1,000kg。泌乳量は多く，年間4,500～5,000kg。乳脂率は他の品種に比べると若干低く，3.3～3.5％である。粗飼料の摂取量は多く，草生豊かな所で十分に能力を発揮する。性質は温順で，環境に対する適応性は大きい。雄の子ウシを肥育した場合，肉用としての能力も高く，ことに子牛肉の生産に適する。世界の主要酪農国に分布し，アメリカ・カナダ・オランダ・デンマーク・ドイツ・ニュージーランド・オーストラリアなどに多い。わが国へは1885年(明治18)にアメリカからはじめて輸入され，その後，アメリカ・オランダから数多く輸入されている。近年ではカナダからの輸入が目だっている。

②エヤシャー：乳用種。原産地はイギリスのスコットランド西南のエヤー州。ここ



ウ　シ

は冷涼で湿度が高く，低地が多く地味は豊かではなかった。このような所で造成された本種は粗放な管理に耐え，放牧地で草をよくあさり歩くことができる。乳用種としては中等の大きさで，体重は雌450kg，雄700kg。毛色は赤白斑で，その斑紋はブラシではいたような形をしている。長く前上方に屈曲している優美な角が特徴。年間泌乳量3,500～4,500kg，乳脂率４％。イギリス以外にはカナダ・アメリカ・フィンランド・ノルウェーなどに多い。わが国へも1878年以来イギリスからときどき輸入されたが，現在ではわが国には純粋種はほとんどいない。

③ジャージー：乳用種。イギリス海峡にあるチャネル諸島のジャージー島の原産。この品種の成立には，対岸のフランスに飼われていたノルマンジーやブルトンが関係している。過去600年以上も他品種を島に導入せず，その結果，体形・資質・能力において品種全体がよくそろっている。乳用種としては小形で，体重は雌400kg，雄600kg。毛色は白に近い淡かっ色から黒っぽい濃かっ色までさまざまであるが，斑紋がなく一色である。体形はくさび形で，乳房の形状は特によい。年間泌乳量3,000kgで少ないが，乳脂率は5.２％と高く，バター・クリーム生産用の乳である。イギリス・デンマークやアメリカ合衆国・オーストラリアなどに分布する。わが国へは明治初期にイギリスからはいったことがあるが発展しなかった。しかし，1953年以後は特に山間部の農村に適する乳用牛として奨励され，アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドから多数輸入されて，現在30,000頭ほどが飼われている。

④ガンジー：乳用種。チャネル諸島のガンジー島原産。この成立には，ジャージー同様にフランスのノルマンジーとブルトンが関係し，長年他品種を混入させず純粋繁殖を継続しているが，ジャージーがブルトンの血が多く混じっているのに対し，本種ではノルマンジーの血が多く混じる。体格はジャージーよりも少し大きく，体重は雌450kg，雄750kg。毛色は淡黄色～赤色の地色にいろいろの大きさの白斑を交える。年間泌乳量3,500kg，乳脂率5.0％。牛乳の黄色みが濃く，脂肪球が大きいのが特色。イギリス・アメリカ・カナダなどに分布。わが国へは1887年ごろアメリカから輸入されたことがあり，現在約200頭が飼われている。

⑤ブラウン-スイス：スイス北東部の山岳地帯に発達した乳用種。体は頑健(がんけん)で四肢(しし)もじょうぶである。スイスでは乳・肉・役の３用兼備のものとして発達したが，いまでは役牛としてはほとんど使われない。アメリカに導入され，乳用種として発達した。体形は大形で，雌600kg，雄1,000kg。年間泌乳量3,500kg，乳脂率4.0％。スイス以外にイタリア・フランス・東欧諸国・ソ連・アメリカなどで飼育されている。わが国へは1901年スイスから輸入され，和牛の改良に用いられたことがある。

⑥シムメンタール：乳肉兼用種。原産地はスイスの西部で，ブラウン-スイス同様，乳・肉・役の３用兼備のウシであったが，現在では乳と肉とが主体である。毛色は黄と白のまだらまたは赤と白のまだらで，大きさ・能力ともにブラウン-スイスと大差はない。スイス・フランス・イタリア・ドイツに分布する。わが国にも明治末期にスイスから輸入され，和牛の改良に用いられたことがある。

⑦ヘレフォード：肉用種。原産地はイングランドの西方，ヘレフォード州。肉用種としては大形で，体重は雌680kg，雄1,000kg。体形は典型的な肉用型でウシの側望は長方形である。毛色は主として赤色であるが，かなり濃淡があり，顔面は必ず白色。早熟早肥で放牧に適し，気候に対する適応性が高い。有角のものと無角のものとがある。イギリス・アメリカ・カナダ・アルゼンチンなどに広く分布し，近年わが国にも少数輸入され，飼育されている。

⑧アバディーン-アンガス：肉用種。スコットランド原産。毛色は黒で無角。典型的な肉用型であるが，全体の輪郭は丸みをおびていて角ばった長方形ではない。体重は雌530kg，雄900kg。肉づきがなめらかで，肉質がすぐれている。全世界のおもなウシの生産国に広がり，日本にも大正の初めにイギリスから輸入されて，無角和種の造成に貢献した。

⑨ショートホーン：乳用種と肉用種の２品種がある。イングランドの北東部の諸州が原産地。乳用ショートホーンは大形で，体重は雌650kg，雄1,100kg。体形は乳肉兼用型である。毛色は純白または暗赤色でまだらのないもの(一枚毛)，赤と白のまだらのもの，赤と白との毛が全身に均等に混ざってはえているもの(糟毛(かすげ))などまちまちである。年間乳量2,700kg，乳脂率4.0％。肥育性にも富む。現在イギリス・アメリカ・オーストラリアに乳用種として分布。わが国にも1872年にアメリカから輸入され日本短角種の改良に使われたことがある。肉用ショートホーンは，スコットランドの北部に端を発したもので，肉用種としては大形である。体重は雌650kg，雄950kg。毛色はまちまちで赤のもの，白のもの，糟毛など。飼いやすく，太らせやすい。泌乳量も比較的多いほうである。イギリス・アメリカ・オーストラリアに多く，わが国にもごく少

数がアメリカから輸入されている。

⑩シャロレイ：肉用種。フランスのシャロレイ地方の原産。もとは役畜であったが近年肉用種として改良された。毛色はクリーム白色。肉用種としては大形で，体重は３歳で雌735kg，雄1,140kgを標準としている。体各部の筋肉の発達が著しく，脂肪の少ない赤肉を多く生産するウシとして世界各国で現在もてはやされている。体の後方が丸尻(まるしり)であるのが特色である。わが国にも約700頭フランスから輸入され，飼育されている。

⑪黒毛和種：肉用種。わが国で古くから飼われているウシを，俗に和牛といっている。そのうち大部分を占めるのがこの黒毛和種である。したがって，黒毛和種のことを単に和牛ということもある。古来，日本には晩熟で小柄なウシがいたらしい。それを明治末期に改良しようとして，シムメンタール・ブラウン-スイス・ショートホーンなどの外国種との雑種繁殖が行なわれた。その結果，早熟性・飼料利用性・泌乳性などはいくらか改良されたが，反面，資質が悪化し，肉質が低下した。またウシが全体的に体形・資質ともに統一性の欠けるものとなった。その後，雑種繁殖をやめ，幾多の美点をもつ古来の和牛を土台にして，これに上述の雑種牛の美点をも取り入れていこうという改良方針がとられた。そして一定の改良目標が定められ，それに向かって改良が進められた。その結果，形質がよく整理され，ついに1944年国定種とみなされるまでに至った。そのころ，およびその後も役肉用牛といわれて，兼用種的な名がつけられていたが，現在では肉用種として，しかも日本の肉用牛として改良が進められている。黒毛和種は有角・黒色毛で，体重は雌520kg，雄900kgを標準としている。すき焼き肉として，肉質のすぐれていることは世界的に定評がある。全国いたるところに飼われ，特に九州地方・中国地方に多い。

⑫褐毛(あかげ)和種：肉用種。熊本県と高知県を主産地とし，関東・東北地方に分布している。熊本県系統のものには改良の経過にシムメンタールが導入されたことがあり，高知県系統のものには朝鮮ウシが導入されたことがある。黒毛和種と同様な方法により改良が進められ，現在ではいずれも固定した肉用種である。熊本県系統のものの毛色はかっ色で，皮膚の色も赤色である。高知県系統のものは毛分けと称して，かっ色の毛色に，角・ひづめ・まぶた，鼻の先のところ，舌・尾房・肛門(こうもん)などの黒いものをよしとしている。これは地方的好みの違いである。体重・体形などすべてにおいて黒毛和種と大差ない。肉質は現在では黒毛和種に比し少し劣るとされている。

⑬無角和種：肉用種。山口県萩(はぎ)市を中心とした地方で，在来の黒毛の和牛にスコットランドから輸入されたアバディーン-アンガスを交配して造成された。改良は大正の初期から始められ，品種として固定したのは1944年である。毛色は黒色で無角。飼料の利用性に富み，他の和牛より早熟である。すき焼き用としての肉質は黒毛和種に比していくぶん劣るといわれる。体形は丸みをおびた長方形で，アバディーン-アンガスに似る。体重は雌550kg，雄950kgを標準としている。現在，日本に8,000頭ほど飼われている。

⑭日本短角種：肉用種。岩手・青森・秋田県および北海道の１部に分布している。毛色は赤かっ色で，有角のウシである。旧南部藩地域の在来ウシに主としてイギリスから輸入したショートホーンを交配して作成された。輸入は1871年以来，数回に及んでいる。それが，ときに乳用型であったり，肉用型であったりしたので，本種の体形は不ぞろいであった。現在は肉用種として改良が進められ，体形の統一化が図られている。体重は他の和牛よりやや重く，大形のウシであるが，資質は一般によくない。粗飼料の利用性に富み，山野の放牧に適する。

⑮インドウシ：インドの土産牛の総称で，北アメリカではブラーマンといい，ヨーロッパ・南アメリカではゼブーといっている。耐暑性が十分であり，ダニ熱に対する耐病性も強く，熱帯・亜熱帯に広く分布している。また耐暑性や耐病性を与えるための雑種造成に用いられ，その地帯のウシの改良に貢献している。インドウシの中には30種以上の品種があり，乳用を主とするもの，役用を主とするものなどがある。乳用としてのシンド，乳役兼用としてのオンゴール，役用としてのミソールなどは有名である。毛色は白色・灰色・黒色などさまざまである。いずれも肩の上部の前方に肩峰があり，そのため俗にコブウシといわれる。アメリカの南部で耐熱性の強い肉用種としてつくり出され，世界的に有名になっているサンタ-ガートルーデスという品種は，このインドウシとショートホーンとの交雑をもとにしたものである。ビルマ・タイ・フィリピン・中国南部に飼われている黄牛は，このインドウシの系統である。〔上坂章次〕

うじ　【蛆】　一般にハエやアブなど双翅(そうし)目に属するこん虫の幼虫をさす。円筒形であしがない。汚物中で生活するイエバエ類，腐肉につくニクバエ類，他のこん虫類の幼虫などに寄生するヤドリバエ類，人体や家畜類に寄生するウジバエ類，生きた植物の葉の葉肉中に潜入するハモグリバエ類，汚水やたまり水中に生活するハナアブ類など，それぞれのうじの習性などは変化に富み，それに応じて形態もそれぞれの生活場所によく適応した特徴をもつ。害虫が多いが，ショウジョウバエ類のうじのように，その独特な唾腺(だせん)染色体が細胞遺伝学の好研究材料として用いられるものや，ヤドリバエ類のうじのように害虫の天敵として人類に益するものがある。また，キンバエのうじのように〈さし〉といわれつりえさとして使われるものもある。〔鈴木邦雄〕

うじ　【氏】　日本古代社会における支配層の構成単位。その構造は，奴婢*(ぬひ)のような隷属民を所有する多くの家父長制的な家族の集合体である。有力家族の家長を氏上とよび，これを中心にまとまって行動するのを原則とした。氏上は対内的には氏の一般成員である氏人の統率，氏神*の祭祀(さいし)，氏の財産管理，氏内部の訴訟の裁断と刑の執行などを行なった。また対外的には氏を代表し大和(やまと)朝廷において一定の政治的地位と職掌とを獲得した。氏人の多くは氏上を中心に事実上の血縁関係によって結ばれており，そのかぎりで氏は一種の血縁集団*といいうるが，原始社会に存在したと想定されている氏族共同体とは区別される。大化改新以前においては，氏は大和朝廷の支配機構のうちに世襲的に一定の地位を占め，その政治的地位に応じた姓*(かばね)を与えられ，氏上の統率のもとに特定の職務を遂行し，その地位と職掌に応じて多数の部*(べ)を私有，あるいは管理し，また大土地を私有した。大化改新以降，氏の私的支配権は否定されたが，氏そのものは制度的に整備され，新たに成立した律令(りつりょう)官人機構において一定の地位を獲得し，旧来の特権的地位を保持し続けた。しかし，古代社会の解体とともにその実質は失われていった。〔加藤　晃〕

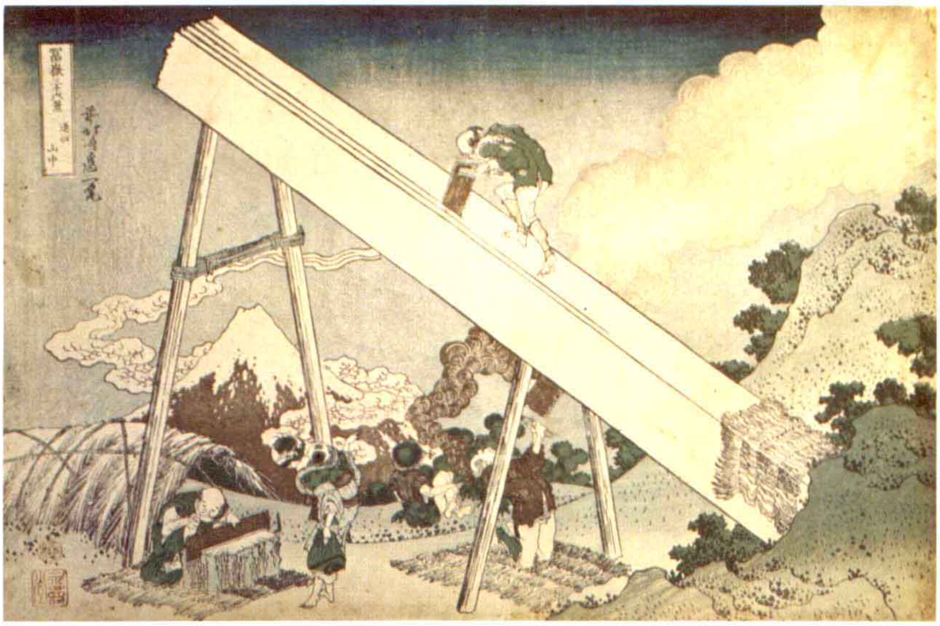
うじ　【宇治(市)】　京都府南部の市。古くから開けた地域で，宇治川にかかる宇治橋は，646年(大化２)にはじめて架橋されたといわれる。1951年(昭和26)市制施行。人口149,000。宇治川中流流域にあり，東岸には高さ300～500mの笠取(かさとり)山塊が迫る。産業三大別人口比は２：41：57で，気候・土質に恵まれて，日本の茶の栽培の発祥地となり，玉露・碾茶(ひきちゃ)などの〈宇治茶〉がつくられる。宇治川の水を利用したユニチカの大工場があり，琵琶湖(びわこ)総合開発計画の一環をなす天ケ瀬ダムもでき，1965年には，同ダムを水源とする府立浄水場が完成した。奈良線・京阪(けいはん)電鉄宇治線・近畿(きんき)日本鉄道京都線・国道24号線が通じて，京都・大阪の郊外住宅地となっており，京都大学分校もある。平等院*や黄檗宗(おうばくしゅう)の本山万福寺*などの名所・史跡に富み，宇治川ライン・琵琶湖の観光基地ともなる。

うしあぶ　【牛虻】　こん虫類・双翅(そうし)目・アブ科。体長17～25mmと大形で，体は灰黒色ないし灰かっ色。腹部の各節の背面中央に大きな黄色の三角斑(さんかくはん)がある。日本全国に分布し，７～８月ごろ出現する。本種に近似のアカウシアブは，体長23～25mm，体には黒と橙黄(とうおう)色のしま状の紋がある。ほかにも多くの近似種があるが，いずれもヒトやウシ・ウマなどの家畜に集

浮世絵 ———— 役者絵・風景画・美人画の３人の絵師

美人画の歌麿，役者似顔絵の写楽，そして風景版画の北斎の名は，数多くの浮世絵師の中でも，特に著名であり，浮世絵に関心のない人々でもこれらの絵師の名は知っている。

歌麿は，女性の真の美しさを決定するものは，顔を中心とする上半身にあるとして作画した大首絵によって，その理想とする女性像を創造した。これに対して写楽は，第一期と目される作品で，俳優の上半身だけを画面いっぱいに構図する大首絵の様式を用いながら，彼一流の鋭い観察眼により，それぞれの俳優の顔貌の特徴を皮肉なまでに誇張する描写法をとった。そして，渋い配色により個性および芸風までも描き尽くそうとしている。描き尽くすといえば，北斎は絵筆によってとらえられるあらゆるものを描いたが，なかでも風景版画では，自然そのものを題材とする画期的な作品を描き，浮世絵の新生面を開拓している



葛飾北斎　《富嶽三十六景　遠江山中》　東京国立博物館蔵



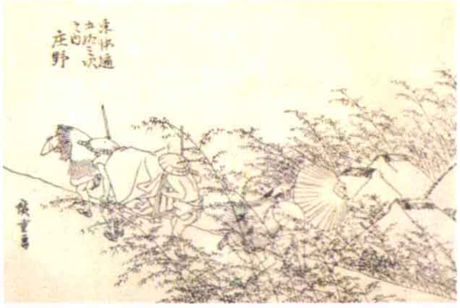
東洲斎写楽　《沢村宗十郎の大岸蔵人》　東京国立博物館蔵



喜多川歌麿　《婦女人相十品》　東京国立博物館蔵

浮世絵版画の順序摺

浮世絵版画は，絵師が版下絵を描き，彫師が板木に彫り込み，次に摺師が刷り上げ，三者の作業を経て完成をみる。ここには，その摺刷の例として，安藤広重の《東海道五拾三次，庄野》の復刻による13枚の過程を示した



①いわゆる地墨という基本になる墨版



②墨版に膚色(肉)をつける



③かご・からかさなどに黄色を入れる



④からかさの黄地に墨文字がのせられる



⑤腰にからげた衣服などに藍が加えられる



⑥背景の薄鼠が刷られる



⑦落款の朱紅がはいる



⑧竹やぶの中墨を入れる



⑨竹やぶの中墨とその上方にぼかし



⑩草色のぼかしをかける



⑪旅人の行きかう坂道に草ぼかし



⑫墨の天ぼかし(一文字)がはいる



⑬刷り上がり，雨線が加えられる

まり吸血する。卵は水辺の草木の葉などに卵塊として産付され，幼虫は水生である。➔アブ　〔鈴木邦雄〕

うしうま　【牛馬】　哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・ウマ科。ウマの一変種で，肩高1.2～1.3m。たてがみと尾の長毛，および体の上毛を欠き，くり色の下毛のみ生じ，夏になるとほとんど無毛になるものもある。鹿児島県種子島(たねがしま)特産で，天然記念物に指定されていたが，1947年(昭和22)絶滅した。文禄(ぶんろく)・慶長の役のとき，島津義弘(よしひろ)が朝鮮から持ち帰ったといわれる。

ウシェプチ　［ushabti］　ウシャブチともいう。古代エジプトのミイラ型の人形。木・石・陶器・金属でつくられ，すき・くわ・かまを持ち，《死者の書*》とともに副葬された。エジプト第12王朝のころからみられ，第18王朝から盛んとなった。死者が，オシリス*に命じられるほねのおれる仕事を，主人に代わってするという意味をもっていた。

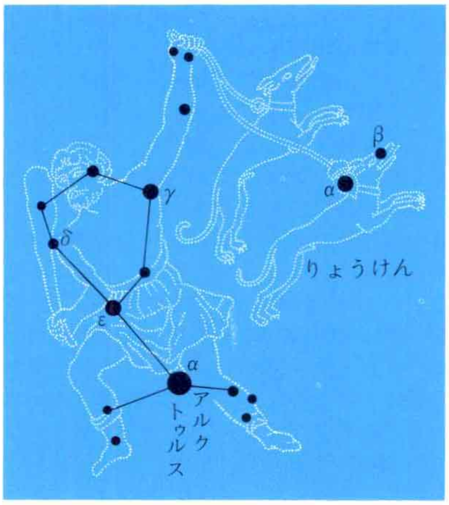
うしおじる　【潮汁】　新鮮な魚介類に水を入れて煮出し，塩味で仕立てた吸い物。煮出しじるは用いず材料の持ち味を賞味するのでうまみに富む魚介を選ぶ。タイ・スズキ・タラ・ハマグリなどを用いるが，代表的なものはタイとハマグリである。特にタイは頭の目の下の部分(ほお身)を最上とする。うまみの成分はおもにエキス分と皮や骨からのゼラチンとで，エキス分を溶出させるためには水から煮はじめる。しかし，水溶性のタンパク質の溶出を防ぐため，煮るまえに魚を切って3～4％の塩をし，30分～1時間おいてからさっと熱湯をくぐらせ，魚肉の表面のタンパク質を凝固させておく。コンブを用いるとコンブの中のグルタミン酸ナトリウムと魚のビタミンB_1分解物とが反応して特有の香を生ずる。少量の酒を加えると風味がよくなる。うしおじるは澄んでいることを第1条件とするので，新鮮な材料を用い，煮立ったら火を弱め上に浮くあくと油をすくい取りながら仕立て，味は供するときに塩で整える。ハマグリの場合はよく砂をはかせたものを水と酒とともに火にかけ，煮立って口が開いたらすぐ火を止めて味を整える。貝類の肉は加熱によりかたくなるので長時間加熱しない。吸い口*は木の芽・ユズなど季節のものを用いる。　〔塩川ふみ〕

うしおにまつり　【牛鬼祭】　愛媛県宇和島市の宇和津彦(うわつひこ)神社で10月29日に行なわれる祭り。体長7～8mあまりのウシと鬼を合わせたような霊獣の練り物をかついで町を練り歩く。この霊獣は悪魔を払うと信じられており，南伊予(みなみいよ)の各地の秋祭りでもみられる。

うしかいざ　【牛飼座】　春から夏にかけて天頂付近にかかる星座。6個の星が大きな菱形(ひしがた)を描く。北斗七星のひしゃくの柄を東に延長すれば，この星座の主星アルクトゥルスを見つけることができる。また，この星座のε星は小望遠鏡でも楽しめる美しい二重星。➔星座



牛鬼祭　宇和津彦神社の牛鬼祭



うしかい座



ウシガエル



宇治川　宇治川と宇治橋。下流側から見た写真で，手前が宇治橋，その上流に京阪電鉄の鉄橋がかかっている。丹塗りの欄干が清流にはえて美しい

うしがえる　【牛蛙】　両生類・アカガエル科。食用とするため食用ガエルともいう。原産地は北アメリカの南東部で，日本には1919年(大正8)に食用の目的で導入された。現在では沖縄までほとんど日本全土に広がっている。大形で体長は20cmに達する。幼生は12cmにも達し，幼生のまま越冬する。

うじがみ　【氏神】　元来は氏*の神すなわち氏族の祖先神，あるいは氏族に深い関係と由緒(ゆいしょ)ある神を意味した。祖先神を氏神とするのは，中臣(なかとみ)氏が天児屋根命(あめのこやねのみこと)を祭ったのが好例である。また，祖先神ではないが由緒ある神を祭る例には，源氏が平野神社のちに八幡宮(はちまんぐう)を氏神としたのがそれである。氏神を祭る社(やしろ)を氏神社(うじがみのやしろ)といい，氏神を祭る氏の信仰集団を氏子という。また，これを祭る最高祭祀権者(さいしけんじゃ)は一族の首長である氏上があたった。中世後期以降，各自が生まれた土地を守護する産土神(うぶすながみ)を混同して氏神と称し，これが一般庶民に浸透した。　〔田上光治〕

うじがわ　【宇治川】　京都府南部を流れる川。琵琶湖(びわこ)から流れる瀬田川の下流で，大阪府境付近で桂(かつら)川と合流して淀(よど)川となる。流程20km。滋賀県境から京都盆地に至る間を峡谷をなして流れる。天ケ瀬(あまがせ)ダムが築造されて細長い人造湖が出現し，宇治川ラインと名づけられて舟遊びに人気がある。近江(おうみ)(滋賀県)から山城(京都府)・大阪に通ずる水路として古くから重視された。また宇治*はこの川を渡って京都へはいる際の渡河点にあたり，戦略上の要地としてたびたび戦場となった。藤原氏全盛期に建てられた平等院*は左岸にあり，いまに栄華のあとを残している。　〔長津一郎〕

うしかわじん　【牛川人】　1957年(昭和32)と1959年に，愛知県豊橋(とよはし)市，牛川石灰岩採石場で，鈴木尚(ひさし)・高井冬二によって発見された洪積世(こうせきせい)化石人類の上腕骨の一部と大腿骨頭(だいたいこっとう)につけられた名称。復元された女性上腕骨から推定された身長は約135cmで低く，形態学的特徴は，デュッセルドルフ・ラ－シャペロ－サンなどの旧人*と共通するというが，どの段階の人類であるかはまだ明らかでない。

うじがわのたたかい　【宇治川の戦い】　宇治川*は京都を守る要衝にあたるので，歴史上幾度かこの川をはさんで合戦が行なわれた。①1184年(寿永3・元暦1)京を守る木曾義仲(よしなか)と，これを討つために西上してきた源義経(よしつね)軍との間に行なわれた合戦。佐々木高綱と梶原景季(かじわらかげすえ)の先陣争いの話が《平家物語》にしるされている。②1221年(承久3)承久(じょうきゅう)の乱*のときに朝廷軍と北条泰時(ほうじょうやすとき)・時房

(ときまさ)らの幕府軍との間に行なわれた合戦。激戦のすえに幕府軍が大勝した。〔飯田悠紀子〕

うしくぬま【牛久沼】 茨城県南部にある沼。周囲26km，水深2m余。ウナギ・コイその他の淡水魚が豊富。行楽地として知られ，湖畔を国道6号線が通過するので，ドライブインや川魚料亭(りょうてい)が並ぶ。

うしけのり【牛毛苔】 紅藻(こうそう)植物・ウシケノリ科。日本各地の沿岸に産し，高潮線近くの岩・杭(くい)に密生する海藻で，冬にみられる。体は糸状で分枝せず，15cmに達する。細胞は下部では1列に，上部では多列に並ぶ。雌雄異株。食用とすることがある。

うじこ【氏子】 ⇨氏神

うしころし 双子葉植物・バラ科。カマツカともいう。山野に普通の落葉低木で，高さ5mになる。枝はしなやかで折れにくい。葉は倒卵形で先がとがり，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。4～5月，枝先に白い花が多数集まって咲く。果実は卵形，長さ8～10mmで10月ごろに赤熟する。材はきわめてかたく緻密(ちみつ)で容易に折損しない。ウシコロシの名は曲げて鼻輪にすることに，また，カマツカの名はかまの柄にすることに由来する。〔加藤僖重・横井朝子〕

ウジジ〔Ujiji〕 東アフリカ，タンザニア共和国のタンガニーカ湖東岸にある町。人口10,000(1964)。古くはアラビア商人の奴隷・象牙(ぞうげ)の取引市場として栄えたが，現在は，湖岸一帯の商業および漁業の中心となっている。1871年スタンリー*がリビングストン*の消息を求めて，この町で出会ったことは有名。

うじしゅういものがたり【宇治拾遺物語】 鎌倉前期の編者未詳の説話集。日本・中国・インドの世俗説話・仏教説話の総計197話が雑纂(ざっさん)的に集められている。《鬼に瘤(こぶ)取らるる事》(こぶとり話)などの民話や《殺断聖露顕事(ころくだんのひじりあらわれのこと)》など健康でからっとした笑いに包まれた説話が多い。《今昔物語集*》《古本説話集》《古事談》など院政時代・鎌倉時代の説話集の影響を受けている。

うじじゅうじょう【宇治十帖】《源氏物語*》54帖中の最後の10帖の呼称で，正編・後編と分けるとき後者を形成している。正編が京都を舞台とするのに対して宇治が舞台となる。光源氏の正妻女三宮と柏木(かしわぎ)との間に生まれた罪の子薫(かおる)と，宇治に隠棲(いんせい)した八宮の姫君たち，大君・中君や異母妹の浮舟をめぐる遂げられぬ恋の物語が，匂宮(におうのみや)の好き事をもからめて展開されている。緊密な物語の構成，複雑で深い心理探求，強い仏教思想の投影など，正編をさらに発展させた面が多い。〔間野知子〕

うじぞく【氏族】 共通の祖先をもつという信仰で結びつけられた単系(母系または



ウシコロシ

父系)の血縁集団。氏族が基礎をなしている社会では，人は誕生と同時に父系・母系のどちらか一方をたどって氏族の構成員となる。前者の場合を父系氏族，後者を母系氏族という。氏族の構成員相互の関係は実際上，系譜をたどって跡づけられない場合があっても彼らは共通の祖先をもっていると信じている。これとは対照的に，ある集団の全構成員がひとりの男または女の祖先にまで系譜をたどりうる場合，この集団をリネージといい氏族と区別する。氏族の特徴として，①氏族外婚制(氏族構成員相互の婚姻の禁止)を伴う。②氏族の祖先と結びついているトーテム(特定の動植物)の名を氏族の名称としている。③氏族は経済的・社会的・宗教的な側面における重要な機能をもつ生活の単位である，などがあげられる。しかし，氏族には外婚制が必然的に伴うかどうか，氏族を純粋な血縁集団といえるかどうか，という問題が残されている。また，氏族に関連して19世紀の進化論者たち，たとえばモルガンらによって主張された，母系氏族から父系氏族への変化が歴史的普遍的にどの社会でも過去において生じたという説は今日の民族学においては否定されている。〔森部　一〕

うじでら【氏寺】 氏族*一門が帰依し，祈願所とした寺。古くは蘇我(そが)氏の向原寺，紀氏の紀寺などがあり，さらに藤原氏の興福寺，和気氏の神護寺などが有名である。氏族はほとんど氏寺をもち，大氏族はいくつかの氏寺をもつものもあった。一門の創立した寺が大部分だが，源氏の東大寺のように創立者の支族が氏寺と仰ぐものや，平氏が武力を期待して延暦(えんりゃく)寺を氏寺にしようとした便宜的な場合もある。氏人が俗別当となって寺の管理権をもち，経営維持にあたり，寺別当も氏出身の僧侶(そうりょ)が多くなったため，寺運は氏族の消長にかかった。平安時代には氏族の祈願所であったが，中世以後は先祖の遺骨を葬る菩提所(ぼだいしょ)を氏寺といった。〔藤本昌子〕

うじな【宇品】 広島市南部の地域。1889年(明治22)に当時の県令千田貞暁(さだあき)によって7年に及ぶ築港工事が完成し，1894～1895年の日清(にっしん)戦争では，広島に大本営が置かれたため，大陸出兵の兵站(へいたん)基地となった。その後も，第2次世界大戦終了時まで陸軍の軍事輸送基地として重要な役割を果たし，また，民間船舶の出入りも多く，文部省唱歌《港》の題材になった。広島駅との間の電車・バスの往復も多い。原子爆弾の被災を免れたために，かつての都市景観を残しており，戦後は貿易港として，また，瀬戸内海航路の交通センターとしてにぎわい，松山市三津浜*や江田島*との間にカーフェリーが就航する。対岸の元宇品は，向宇品ともよばれ，瀬戸内海国立公園に属し，暖帯林が繁茂して，植物学上貴重な資料が多い。海水浴場があり，湾内に浮かぶ紺青の島々や港が展望できる景勝地である。〔浅井得一〕

うしなわれたせせだい【失われた世代】 1890年代に生まれ，第1次世界大戦*によって強い衝撃を受けて，そこから文学活動を展開していったアメリカの作家たちをいう。このよび名は，ヘミングウェー*の《日はまた昇(のぼ)る*》にしるされているガートルード・スタインのことば〈あなたがたはみんな失われた世代の人たちです〉による。この世代の若い作家たちは戦後の価値の喪失感にとりつかれ，退廃・無目的・絶望のふんい気の中で，暗鬱(あんうつ)なエネルギーを激しく燃焼させた。代表的な作品には，戦争を素材とした，ドス・パソス*の《3人の兵士》，カミングズ*の《巨大な部屋(へや)》，ヘミングウェーの《武器よさらば*》，さらに，戦後の生活の虚無感を素材とした，フィッツジェラルド*の《楽園のこちら側》《偉大なギャツビー*》，フォークナー*の《兵士の報酬》のほか，パリにおけるアメリカ人たちを扱った上記の《日はまた昇る》などがある。1929年に始まったアメリカ経済の大恐慌を契機として，これらの作家たちはそれぞれ新たな変貌(へんぼう)を遂げていった。〔須山静夫〕

うしなわれたときをもとめて【失われた時を求めて】 プルースト*の長編小説(1913～1927)。7巻16冊に及び，《スワン家の方》に始まり《見いだされた時》で終わる。一人称形式で語られ，大伽藍(だいがらん)のような複雑な構成のもとに，第三共和制下のフランスのブルジョア社会と普遍的な人間精神とをきわめて高度な芸術的感覚で描いている。作家志望の主人公マルセルが小説の主題を模索しつつ，最後にようやく発見するという構成をなす。その主題は〈時間〉であり，この小説自体が，彼の書こうとする小説であるという印象を与える。20世紀の新しい小説の代表的作品。〔池田公麿〕

うじのかみ【氏上】 ⇨氏 ⇨氏神

うしのした ⇨シタビラメ

うじのちょうじゃ【氏長者】 平安時代以降の氏*の首長。奈良時代以前には氏上とよばれていたが，平安時代になると宣旨(せんじ)を受け，このようによばれるようになった。藤原・源・橘(たちばな)らの氏長者が有名。原則として氏の中の最高位者がなり，氏の代表として氏神*の祭祀(さいし)，氏寺*・氏の大

学別曹*(だいがくべっそう)の管理，氏人の任官の奏請，統制を破った氏人の追放(放氏)などを行なった。

うしのときまいり【丑の刻参り】丑の刻(午前2時ごろ)にひそかに社寺に参拝し祈願をこめる方法であるが，もっぱら人をのろう目的で行なう個人祈願の意味に使われている。のろう相手に擬したつえやわら人形をつくり，のろいのことばを唱えながら，寺社境内の神木などにくぎで打ちつける。こうするとめざす相手にのろいの効果が及ぶという。7日または21日の満願まで通い続けるのが普通で，作法にもやかましいきまりがあるが，素朴(そぼく)な形でいまも行なわれており，紙人形や写真も使われている。丑の刻参りは，宇治の橋姫伝説や能の《鉄輪(かなわ)》，浄瑠璃(じょうるり)の《蝉丸(せみまる)》などに取り上げられ，呪咀(じゅそ)の方面ばかりが誇張潤色されて広く知られるようになった。〔今野円助〕

うしのひ【丑の日】十二支の丑にあたる日であるが，特に夏の土用の丑の日と寒の丑の日をいうことが多い。土用の丑の日にウナギなど〈ウ〉のつくものを食べると病気にならないとか，寒の丑の日に買った紅をつけると，口中の荒れるのを防ぐなどという俗信と結びついている。

うじのわきいらつこ【菟道稚郎子】生没年不詳。5世紀の応神天皇の皇子。母は宮主宅媛(みやぬしやかひめ)。百済(くだら)の阿直岐(あちき)・王仁(わに)らの博士に経典を学んで通暁し，父天皇にも愛されたが，天皇没後異母兄仁徳(にんとく)と皇位を譲り合い空位3年に及んだので，ついに自殺して兄の即位を促したと伝えられる。これは兄弟で皇位を争った伝えを中国の禅譲思想でつくり変えたものであろう。

うしばえ【牛蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・ウシバエ科。体長15mm内外，体は黄かっ色で，腹部に黒い帯がある。日本をはじめヨーロッパや北アメリカなどの温帯地域に広く分布する。幼虫はウシ・ウマの皮下に寄生し，老熟すると皮膚に穴をあけて脱出し，地中でさなぎとなる。そのため皮革を痛める大害虫とされている。まれに人体にも寄生する。

うしはこべ【牛繁縷】双子葉植物・ナデシコ科。いたるところにみられる越年生または多年生の草本。形はハコベに似るが，大きさははるかに大きい。根はひげ状，茎はよく枝分かれして，下部のほうは地面をはうが上部は立ち，長さ50cmぐらい，やや紫色をおびる。葉は対生し形は卵形，長さ2～8cm。夏のはじめに葉のつけ根に白色の小さな花をつける。花びらは二つに裂けているので，10枚のように見えるが実際は5枚である。

うじびと【氏人】⇨氏

うしぶか【牛深(市)】熊本県，天草(あまくさ)下島南端の市。1954年(昭和29)市制施行。人口25,000。地名は〈潮深(うしおぶか)〉から転じたといわれる。牛深港は沈水海岸の天然の良港で，沿岸・沖合い漁業の根拠地となり，イワシ・サバ・アジなどの漁獲が多い。水産加工業が発達し，近年は真珠の養殖，ミカンの栽培が盛んである。産業三大別人口比は43：17：40。水俣(みなまた)・三角(みすみ)・本渡・阿久根(あくね)などへ定期船が通じ，国道266号線が天草パールラインを経て三角へ通ずる。


ウシハコベ

うじぶみ【氏文】主として古代氏族が，氏*の起源・経歴，代々の事績などをしるした記録。本系帳や系図*と同種であるが，氏文は文章の形をとる点で，表の形式をとる本系帳や系図と異なる。元来，口誦(こうしょう)して伝えた氏族伝承であるが，なんらかの必要で記録された場合に氏文となった。現存するものとして〈高橋氏文*〉はその代表的なものである。

うしまつり【牛祭り】京都市太秦(うずまさ)の広隆寺境内の大避(おおさけ)神社で，10月12日に行なわれる祭り。白装束の赤鬼・青鬼に扮(ふん)した四天王がほこを手にして現われ，そのあとからウシに乗った白面の主神摩多羅神(またらじん)が出現する。摩多羅神たちは祖師堂の前で円陣をつくり，恵心僧都(えしんそうず)(源信)作と称する祭文を，節をつけて読み上げる。この間，観衆は罵声(ばせい)や嘲笑(ちょうしょう)を投げかけ，主神と四天王もこれに叫び返す。祭文を読み終わると，主神以下の行列は祖師堂内に駆け込む。恵心僧都・慈覚大師(円仁(えんにん))に始まると伝えられるが，古代の帰化人が伝えたものか，あるいは中世に中国から伝えられたものであろう。〔紙谷威広〕

うじめぐり【宇治巡り】生田流の地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。山田流でも演奏される。1800年ごろ松浦検校(けんぎょう)によって作曲された京物の手事物*で，のちに八重崎検校が箏の手付けをした。通常の手事物より複雑な構成をとっていて，前唄(まえうた)・手事(マクラ・手事・中チラシ・本チラシ)・中唄・手事(マクラ・手事・チラシ)・後唄となっている。

うじやまだ【宇治山田】⇨伊勢(いせ)(市)

うしゅうかいどう【羽州街道】秋田街道ともいう。江戸時代東北地方に通じていた街道。桑折(こおり)(福島県)で仙台道(せんだいどう)から分岐して青森に達した。その間山形・新庄(しんじょう)・横手・久保田(秋田県)など58駅を経由，出羽(山形県・秋田県)を縦断したので羽州の名称がつけられた。街道の途中には山河の難所が多く，道路・宿駅も十分整えられていなかったが，一般の旅行者をはじめ東北諸藩主の参勤交代*(こうたい)に利用された。〔高崎徳次〕

うしゅうたんだい【羽州探題】室町時代の地方職*(じかたしき)の一。出羽(でわ)(山形・秋田県)の軍事・民政を総轄する職。南北朝時代のはじめ，足利尊氏(あしかがたかうじ)は吉良(きら)・畠山(はたけやま)両氏に陸奥(むつ)(福島・宮城・岩手・青森諸県)を担当させて奥州探題*と称したが，のち斯波(しば)家兼が両氏に代わった。家兼の死後，1358年(正平13・延文3)長子直持が陸奥，2子兼頼(かねより)が出羽を分掌し，兼頼が羽州探題と称した。出羽大将ともいわれ，最上(もがみ)郡山形にいたので最上氏*と称し子孫が世襲した。しかし，その命令の行なわれたのは最上・村山両郡ぐらいであった。〔鹿野賀代子〕

うじょうよう【羽状葉】葉軸の両側にある葉身がタンポポなどの葉のように羽状に浅く裂けた葉，または葉柄の軸の左右に小葉が向かい合って並ぶ複葉*をいう。後者には奇数羽状複葉と偶数羽状複葉がある。

うしょく【齲蝕】⇨むしば

うしろやま【後山】岡山県北東部，兵庫県との境にあり，かつて修験道*(しゅげんどう)の霊場であった。現在は大衆信仰の場となりつつあるが，いまだに女人禁制が続き，ブナ・スギ・カエデの自然林が神秘的なふんい気を保っている。

うしわかまる【牛若丸】⇨源義経(よしつね)

うしん【有心】歌論・歌学の用語。無心に対する語。916年(延喜16)の《亭子院歌合(ていじいんうたあわせ)》の序に〈心ある心なきえりいでん〉とあり，〈心あり〉の意味で用いられている。〈心あり〉とは，意味が深い，深い心がこもっているなどの意で，かなり広く使われるが，有心が歌論用語として重視されるようになったのは，藤原定家*が《毎月抄*》において，これをあらゆる美的なものの基本的理念として位置させてから以後であり，父藤原俊成*の〈幽玄*〉とともに，中世歌論の中枢的理念となった。〔佐藤恒雄〕

うしんしょう【右心症】正常の心臓は胸腔(きょうこう)内の左側に位置するが，これに対し鏡像の位置に心臓があるもの。他の腹腔内臓器の転移を伴うものとそうでないものとがある。単に心臓が右方に押されて右側に存在するものも，ときに右心症とよぶことがある。右心症に蓄膿症(ちくのうしょう)・気管支拡張症を伴うときは，カルタゲネル症候群とよぶ。

うす【臼】穀類を脱穀したり，粉にしたり，混ぜ合わせたりする民具。竪臼(たてうす)や唐臼のような搗臼(つきうす)と，一般に上

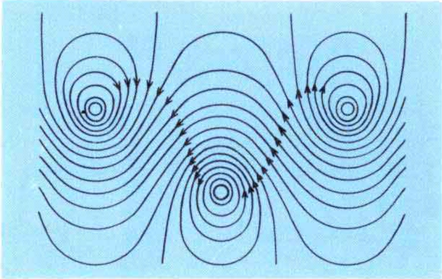
臼と下臼とからなる磨臼(すりうす)に大別できる。竪臼は大木を輪切りにして凹状(おうじょう)につくり，胴部をくびらせて下底をやや細くしたもので，日本だけでなく中国・朝鮮・東南アジア諸国で古くから用いられてきた。現在でも日本本土・沖縄・台湾などで正月のもちつきなどに使用されている。臼の歴史は古く，すでに弥生(やよい)時代の稲作の開始とともに，おもにもみの脱穀に使用され，静岡市の登呂(とろ)遺跡*からも発見されており，また銅鐸*(どうたく)にも竪臼を間にしてふたりの人物が手杵(てぎね)で食物をついている様子が刻まれている。特に竪臼については，その後の歴史書の中に多く描かれてきたが，基本的には弥生時代のそれと変わらない。その後，唐臼や磨臼が中国から伝わり，竪臼が粉やもちの調製に用いられたのに対して，石製の磨臼は粉の調製，唐臼は脱穀に用いられた。

臼にまつわる民俗には，特に竪臼に関するものが多い。それは古来から食物調整用具として最もたいせつなものであったからで，正月やその他の祭事に竪臼を用いてもちや粉食をつくるだけでなく，これを神壇として用いたり，難産のときには妊婦に臼を抱かせたり，また臼を女性に，杵(きね)を男性に見立てた神事など，臼を神聖視する風習は各地にみられる。〔渡辺欣雄〕

うず　**【渦】**　台風の中心部や，飛行機の両翼端から対になって出る飛行機雲の中心のように，流体が一つの剛体のような回転運動をする部分をうず，またはうずの核という。回転の角速度は一定でその2倍をうず度という。円周方向の速度は中心からの距離に比例して増加する。核の外側の流体も中心部に引きずられて円運動をしているが，ここの流体小部分は引きずられるだけで回転はしていない。この部分でのうず度は0で非回転である。外側での円周方向の速度は中心からの距離に反比例して減少する。そして圧力は全体として中心に向かい減少していく。これら内外の円運動全体をうずとよぶことも多い。流体中の閉曲線に沿って，曲線への接線方向の速度成分を積分したものを循環という。半径0のうずをうず糸またはうず線といい，うず糸の集まったものをうず管という。ヘルムホルツの定理によると，1本のうず管を取り巻く循環は一定に保たれる。循環はうず管の角速度 ω と直断面積 f との積で与えられ，これをうず管の強さという。ωf = 一定ということから，うずは流体中で切れることはない。たばこの煙の輪のようにそれ自身で閉じているか，壁から壁まで届いて終わっている。ケルビンの定理によると，粘性のない場合，流体とともに移動する閉曲線上の循環は時間的に変わらない。うずは粘性の作用によって，固体のとがったかどや物体の後ろに発生し，流体といっしょに運動し，途中で発生も消滅もしないことがわかる。成長して物体から離れると，それ以後は強さを変えずに回転し続ける。このようなうずの例は，みそしるにはしをつけてまっすぐに動かすとよく観測される。このように，物体の後方に規則正しく2列に並んだうずの列を〈カルマンのうず列〉という。完全流体*の理論によると，うずの列が安定して形をくずさないで進むことができるのは，千鳥形の配列で各列のうずの回転方向が反対となっているからである。川の中の杭(くい)の下流や鳴門(なると)のうず潮のうずにも同様のものが見られる。飛行機の翼が揚力を発生しているとき，翼はうず運動を起こす装置として働いている。翼の中にできたうずは，翼端から気流に流されてコの字形の馬蹄(ばてい)うずとなる。このうずを中心にして飛行機雲が発生するのである。〔内田茂男〕



臼　竪臼と杵　府中市立郷土館蔵



う　ず　カルマンうず列



碓氷峠　高崎・東京方面と，長野・北陸方面とを結ぶ最も重要なルートの峠であるが，いわゆるヘアピンカーブが多く，トラック・バス・自家用車の交通で混雑しており，新しい近代的道路の建設が計画されている



臼杵石仏　古園の大日如来像

うず　**【髻華】**　そもそもは草花や小枝の花を髪に差した飾りであるが，奈良時代より唐の冠制に習い，冠の飾りに用いた造花をいう。603年(推古11)冠位十二階の制定に伴い，皇子・諸臣すべて冠色に従いおのおの規定の金属製の髻華をつけたのがはじまりで，その後宮廷の儀式のおりにつけるようになった。

うすい　**【雨水】**　二十四気の一。陽暦の2月19日ごろにあたる。太陽黄経は330°。雨水(雪が雨に変わり，雪や氷がとけて水になる，の意)とはいっても，東京などでは，降雪は立春からこのころにかけて最も多い。

うすいとうげ　**【碓氷峠】**　群馬・長野の県境にある峠。標高956m。長野県側は標高940m内外の軽井沢盆地，群馬県側は碓氷川渓谷(けいこく)坂本で標高約450mである。古くから中山道(なかせんどう)第1の難所で，横川には碓氷の関所が置かれていた。江戸時代の旧道は，現国道のはるか北を通り，標高約1,200mの地点で峠を越えていた。1883年(明治16)には新道が開設され，また1893年には信越本線がアプト式を使って開通し，1963年には複線が完成した。〔高野　繁〕

うすき　**【臼杵(市)】**　大分県南東部の市。1563年(永禄6)大友宗麟(そうりん)が丹生(にう)島に築城以来，中国やポルトガルとの交易基地となり，江戸時代は太田氏三万五千石，のち稲葉氏五万石が領した。1950年(昭和25)市制施行。人口41,000。豊後(ぶんご)水道西側の臼杵湾に臨み，産業三大別人口比は21：32：47。湾奥の臼杵港はイワシ・タイ・ブリ・ボラなどの水揚げが多く，遠洋漁業の基地ともなる。船舶用エンジンをつくる臼杵鉄工所をはじめ，製糸・セメントなどの諸工場があり，サツマイモ・野菜類などの農産物を集散する。日豊本線に沿い，八幡浜(やわたはま)(愛媛県)との間にフェリーボートが通ずる。西郊約4kmの深田にある臼杵石仏*は，重要文化財・特別史跡に指定されている。

うすきせきぶつ　**【臼杵石仏】**　大分県臼杵市にある藤原期から鎌倉期にかけてつく

られた石仏。郊外の深田と中尾にまたがる谷間に群をなし，阿蘇(あそ)の凝灰岩の岩壁に磨崖仏(まがいぶつ)のように彫り出しているが，丸彫りに近い石仏も少なくない。中でも，ホキ石仏群の阿弥陀(あみだ)三尊と古園石仏群の大日如来仏頭が著名である。1952年(昭和27)国の特別史跡に指定された。

ウスクダル ⇨ユスキュダル

うすくちしょうゆ【淡口醤油】色を薄く仕上げたしょうゆで，兵庫県龍野(たつの)の人によって1666年(寛文6)に始まったと伝えられる。材料の色をできるだけそのまま残そうとする京・大阪の料理法に向くようにつくりだされたもので，おもに京阪神(けいはんしん)地方で消費される。つくり方は，普通のいわゆる濃い口しょうゆとあまり変わらない。ただ製品の色を薄くすることに注意が払われている。原料は丸大豆で，しかも大豆の皮をむいてから浸しつけ・蒸し煮を行なう。色は薄いが食塩濃度は濃い口しょうゆよりやや高くなっており，使用量が少なくてしかも味が整うのが長所である。〔佐藤友太郎〕

うすごろも【薄衣】筑紫(つくし)流箏曲(そうきょく)を八橋検校(けんぎょう)が編曲して伝えた《八橋の十三組》という箏組歌の裏組6曲のうちの1曲。《柏木(かしわぎ)の曲》ともいう。歌詞は《源氏物語 東屋(あずまや)・若菜》《続千載集》などから得たことばを集めたものである。

うすざん【有珠山】有珠岳ともいう。北海道半島部，内浦湾(噴火湾)北岸にある二重式火山。標高725m。北側にある洞爺湖(とうやこ)カルデラ壁上に噴出したもので，山体はコニーデであるが，山頂部に径約1.5kmの火口原があり，その中に中央火口丘の大有珠・小有珠が突出し，また多くの寄生火山がある。激しい火山活動の記録をもち，1853年(嘉永6)の爆発では南のふもとの村落虻田(あぶた)を全滅させ，1910年(明治43)には北側に明治新山，1943年(昭和18)には東側に昭和新山の寄生火山をつくった。〔高野 繁〕

うすずみのりんじ【薄墨の綸旨】⇨綸旨

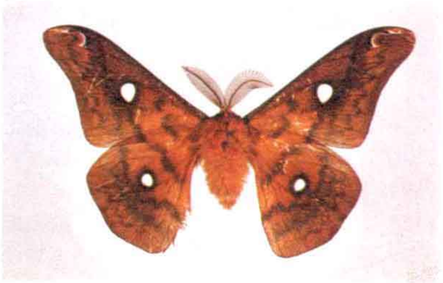
ウースター［Worcester］アメリカ合衆国，マサチューセッツ州中部，ボストンの西約60kmにある工業都市。人口17万7,000(1970)。電線・機械・繊維などの工場が550以上も集まっている。クラーク大学をはじめ，工科大学・州立学芸大学・ホーリークロス大学がある。

ウースター［Worcester］イギリス，イングランド中西部にある同名州の州都。人口70,000(1967)。〈衣料の町〉といわれるほど繊維工業が盛んであったが，現在は磁器・ソースなどを産する。特に，ウースターソースの生産は名高く，一般にソースといえば，長期保存に耐えるこのソースをさすほどである。

うすだあろう【臼田亜浪】(1879～1951)



有珠山　有珠山の最高点である中央火口丘の一つ大有珠の山頂付近に突出する溶岩塔。溶岩が露出して植生もわずかで，噴気孔からは噴煙があがっている





ウスタビガ
(上)成虫(雄)
(下)まゆ

俳人。長野県の生まれ。本名は卯一郎(ういちろう)，旧号は石楠花(しゃくなげ)。法政大学卒業。上京中に歌を与謝野(よさの)鉄幹に，俳句を高浜虚子に師事した。一時新聞記者をつとめたが，1914年(大正3)渋温泉で虚子に会い，俳壇に立つことを決意。1915年3月大須賀乙字(おおすがおとじ)らとともに《石楠(しゃくなげ)》を創刊，〈まこと〉と〈力〉とを主張し，傍流ながら多くの特色ある俳人を育てた。

ウースターソース ⇨ソース

うすたびが【薄手火蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。体長25～35mm，翅(はね)を広げた長さ90～115mm。雄の触角は羽毛状，雌の触角は櫛歯(くしば)状。体・翅ともに雄は黄かっ色，雌は黄色で，前翅・後翅に各1個の透明紋がある。日本特産種で，成虫は11月ごろ出現し，燈火によく飛来する。幼虫は後胸背に1対の突起をもち，緑色で，サクラ・ケヤキその他の広葉樹の葉を食べ，触れるとある種の音を発する。繭は長い柄をもち，緑色で小枝から懸垂する。この繭は落葉後も枝に残り，その形や色などが特徴的であるため，人目に触れやすく〈ヤマカマス〉ともよばれる。雌成虫は，繭から羽化すると直ちにその場で交尾することが多く，自分の繭に産卵するという特異な習性をもつ。〔鈴木邦雄〕

うすちゃ【薄茶】抹茶(まっちゃ)の一種。濃茶に対していう。つくり方は濃茶と変わらないが，古木でない茶樹からとった葉を蒸してかわかし，葉茶つぼに保管し，初冬のころ，つぼの口の封を切り，葉茶を茶うすでひいてつくる。《津田宗及茶湯日記(ちゃのゆにっき)》によれば，利休時代にその名称が現われ，濃茶は御茶，薄茶は薄茶と区別して書かれている。江戸時代には，極詰・別儀・極揃(ごくぞろい)・別儀揃の4銘があったが，明治以後，茶道家元宗匠の好みによって，種種の銘の薄茶ができた。薄茶のたて方は，濃茶と違って，一つの茶わんに茶杓(ちゃしゃく)で2杯すくって入れ，湯を注ぎ，茶筅(ちゃせん)でかき回し，あわを立てて，客に勧める。薄茶の平点前(ひらてまえ)は，茶の湯のあらゆる点前の基本とされている。〔桑田忠親〕

ウーステッド［worsted］梳毛(そもう)糸・梳毛織物の意味であるが，織物地としては細い梳毛糸で密に織られ，表面の毛羽を刈り取って織り目をはっきり現わした生地をさす。綾(あや)・変わり織りなどの組織で，無地・しま・格子(こうし)などのほか，種種のがらを織り出し，背広服地・婦人スーツ地などに用いる。

うずでんりゅう【渦電流】モーターの回転子やコイル内の鉄心などの導体の内部や表面に誘導される電流。磁界が変化するために電磁誘導によって生ずる。フーコー電流ともいう。この電流は，変化する磁力線に垂直な平面をうずのように流れ，その結果この電流によって導体内にジュール熱を生じたために，回路のもつ電磁エネルギーの一部は熱エネルギーに代わる。これをうず電流損といって，モーターなどの回転力を必要とするものには，あまり望ましいものではないが，逆に制動力を要求されるものにはこの現象を利用したものがある。〔堀内和夫〕

うすのこえ【臼の声】山田流箏曲(そうきょく)の曲名。3代山登松齢が1879年(明治12)ごろ作曲した。作詞は森川三左衛門(さんざえもん)。芳香のある栴檀(せんだん)でつくられた臼にちなんで〈うす〉ということばを掛詞(かけことば)ふうにひんぱんに織り込んである。山田流声楽技法が優雅に駆使され，器楽技法にもくふうが凝らされている名曲で，奥許の1曲とされている。箏の調子は半岩戸・雲井，三味線(しゃみせん)は二上がり・三下がり・本調子と曲の途中で変えられる。長い合いの手のところで〈六段の調べ〉の初段が合奏される。〔山口 修〕

うすばかげろう【蛟蜻蛉】こん虫類・脈翅(みゃくし)目・ウスバカゲロウ科の一種。体長35mm内外，翅(はね)を広げた長さ75～80

mm。日本全土をはじめ朝鮮・台湾などに分布し，成虫は7～8月ごろ出現する。コウスバカゲロウ・ホシウスバカゲロウ・カスリウスバカゲロウなど近似種が多く，区別も容易でない。

ウスバカゲロウ科は，ヘビトンボ・クサカゲロウ・ツノトンボ・カマキリモドキ科などの諸科とともに脈翅目を構成する。おもに熱帯および温帯に数百種が分布し，日本からも10数種が知られている。幼虫は穴を掘るものと掘らないものとがあり，前者はいわゆる〈アリジゴク〉として有名で，乾燥した砂地などにすりばち状の穴を掘り，そこに落ち込む小形のこん虫などの体液を吸う。穴を掘らないものは，地中に生活するものと，樹幹や石上のコケ類の上に生活するものとがあり，いずれも小形のこん虫類を捕食する。成虫は燈火に集まるものが多い。〔鈴木邦雄〕

うすばかみきり【薄翅天牛】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長30～50mm，体は暗かっ色。触角は，雄では太くかつ翅端を越え，雌では体長よりはるかに短い。鞘翅には後方で合する明瞭(めいりょう)な2本の縦条がある。日本全土・台湾・朝鮮・中国などに広く分布し，成虫は7～8月ごろ出現し，燈火によく飛来する。幼虫はキリをはじめ種々の広葉樹の生木に加害するほか，モミ・トドマツなどの枯れた幹の中でも生活する。

うすばきちょう【薄翅黄蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科・ウスバシロチョウ亜科。翅(はね)を広げた長さ50～60mm。前翅の地色は淡い黒色で半透明，中室内に2個，その外側に3列の黄色紋があり，後翅の地色は黄色で，内縁部は不規則な黒色。日本では，北海道大雪山の頂上付近のみに産し，採集を禁止して保護している。大雪山以外では，シベリア地方一帯やアラスカなどに分布し，いくつかの亜種に分けられている。幼虫はコマクサの葉を食べる。大雪山では7月中旬より8月上旬にかけて出現する。本種は卵から成虫になるまで2年を要する。

うすばきとんぼ【薄翅黄蜻蛉】こん虫類・トンボ目・トンボ科。腹長30mm内外，後翅(こうし)の長さ40mm内外。全体に淡いかっ色で小さい黒斑(こくはん)がある。翅(はね)は透明であるが，基部と後翅の先端のみ淡黄色。赤道を中心として世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。日本では，毎年春季より北上して所々で繁殖し，さらに北上して北海道・カムチャツカ半島にまで達する。本州中部地方では，8月から9月にかけてしばしば群飛するのがみられる。

うすばさいしん【薄葉細辛】双子葉植物・ウマノスズクサ科。単にサイシンともいう。本州(日本海側)，九州の山地の樹陰にはえる多年草。根茎には多くの節があり，1年に1節ずつふえる。春に長さ5～8cmのハート形の薄い葉を2枚つけ，その間に3裂する鐘形で黒紫色の花を一つつける。近縁のものにクロフネサイシン・ケイリンサイシンなどがある。根茎・根は生薬の細辛で，特有の芳香と辛みをもつ。漢方では鎮痛・鎮咳(ちんがい)薬として用いる。



ウスバカゲロウ　(左)幼虫　(右)成虫



ウスバキトンボ

うずはっせいき【渦発生器】ボルテックス-ゼネレータ。飛行機の翼や胴体の表面に列をなして，空気の流れに斜めに取り付けられる四角形の金属小片。流れがこれを乗り越えるとき気流方向に軸をもつうずを発生し，下流の翼面や胴体の表面に勢力の強い気流を誘い込む。これによってその付近の剝離(はくり)を防止することができる。うず発生器は高亜音速機において，衝撃波の発生に伴う不安定な剝離を防ぐために考案されたもので，ジェット旅客機の主翼の一部，尾翼などにしばしば取り付けられている。〔中口　博〕

ウスプルン［usplun］古くから用いられている種子消毒剤でその主成分は塩化メトキシエチル水銀である。わが国では1934年(昭和9)ごろから使用された。その殺菌作用は他の水銀剤*同様細胞内に侵入，原形質の活性基と結合してその機能を阻害することによってもたらされるものと思われる。

ウズベク(共和国)［Uzbekskaya S.S.R.］ソビエト連邦を構成する共和国の一。中央アジアに位置し，北と西はカザフ，東はキルギス・タジクの各共和国，南はトルクメン共和国とアフガニスタンに接する。面積44万9,000km²，人口1,126万6,000(1968)，首都タシケント。同国内にカラカルパク自治共和国がある。

〔自然・住民〕北西部はキジルクム砂漠(さばく)，ウスチュルト台地，アム川の広い三角州よりなり，南東部は天山山脈・パミール高原およびその間のオアシス盆地からなる。気候は大陸性を示し，著しく乾燥する。住民はウズベク族*(60%)のほかロシア人・カラカルパク人・タジク人・カザフ人・トルクメン人など多様である。オアシス地域に人口が集中しており，人口密度は南東部のフェルガナ盆地で1km²あたり130に対し，北西部では1km²あたり3.7である。

〔産業・経済〕オアシスを中心に灌漑(かんがい)による集約度の高い農業が行なわれ，ソ連第1の綿花の産地(全ソの60%)となっている。砂漠の緑化が大規模に実施され，1963年に〈飢えのステップ〉の30万ヘクタールが耕地化された。果実・米・絹などの産出も多い。北西部では牧羊が盛んである。鉱工業は，石油・石炭・銅などを産し，天然ガスはパイプラインを通じてウラル地方まで送られる。山地の水力発電も多く，綿・絹織物，農業用機械・肥料などの工業もみられる。

〔政治・歴史〕フェルガナ盆地には古いオアシス文化の遺跡が多く残っている。タシケントには1917年ソビエト政権ができたが，ブハラなどでは回教の封建勢力も根強く，現在の基礎ができたのは1925年である。〔斎藤晨二〕

ウズベクぞく【ウズベク族】西トルキスタンのシル川流域，フェルガナ・ブハラ・キバ地方に住むトルコ系民族。16世紀初頭シェイバン汗に率いられてチムール朝を倒し，ブハラ・キバ両汗国を建て，別派はコーカンド汗国を建てた。この3汗国は19世紀にあいついでロシアに征服され，ロシア革命後，1924年にウズベク共和国*となった。

ウスペンスキー［Nikolay Vasilievich Uspenskii］(1837～1889)　ロシアの小説家。1860年代に活躍した雑階級出身の代表的な作家で，無知な農民や陰惨ないなかの生活を客観的な筆致で描いた。グレープ-ウスペンスキー*のいとこにあたる。

ウスペンスキー［Gleb Ivanovich Uspenskii］(1843～1902)　ロシアの小説家。地方の町の貧しい人々の生活をスケッチふうに描いた《ラスチェリャーエワ通りの風俗》で文名をあげた。旅行・調査に基づいた資料によって，変わりつつある農村の姿を描いた作品が多く，いずれも的確でリアルな描写の中に，人間的な感情とユーモアをたたえている。代表作は《土地の力》。晩年に発狂し，精神病院で死んだ。

うずべんもうそうるい【渦鞭毛藻類】炎色植物の一綱。原生動物とするときは渦鞭毛虫類とよぶ。体はふつう楕円(だえん)形で，べん毛のほかに種々の突起などをもつものがある。体表に2本のみぞがあり腹部で交差する。この交差点より2本のべん毛が出て，一つは横みぞの中にあって体を左回転させ，他は縦みぞに沿って後方に延び前進用となる。細胞膜はセルロース。葉緑素はaとcをもつ。補助色素としてキサントフィル系のジノキサンチン・ペリジニンを含

む。貯蔵物質はデンプンまたは油脂。無性生殖は二分裂または遊走子による。有性生殖はまれで，接合が知られている。有性生殖は黄色鞭毛藻類に似るが，べん毛が腹側面につくことから褐色(かっしょく)鞭毛藻類・褐藻類に特に近縁と思われる。海・淡水の植物プランクトンとして重要であるが，海では赤潮の原因となる。ヤコウチュウなどのように発光するものもある。

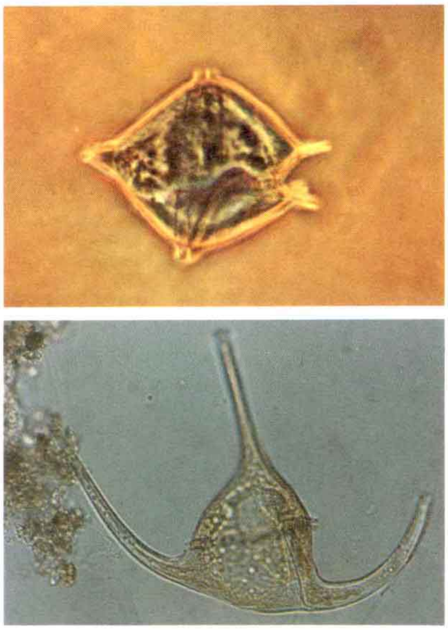
1 帯渦鞭毛藻亜綱　べん毛は頂生し体表にみぞがない。①帯渦鞭毛藻目：細胞膜が2殻(かく)にならない。デスモマスチックス。②ムレ帯渦鞭毛藻目：栄養体がパルメラ状。デスモカプサ。③皿(さら)渦鞭毛藻目：2殻片をもつ。プロロケントルム。

2 渦鞭毛藻亜綱　①ギムノジニウム目：細胞壁なし。ギムノジニウム・ヤコウチュウ。②ペリジニウム目：細胞壁は多くの殻板よりなる。ペリジニウム・ケラチウム。③ジノフィシス目：翼がある。ジノフィシス。④偽足渦鞭毛藻目：栄養体はアメーバ状，ジナメービジウム。⑤ムレ渦鞭毛藻目：栄養体はパルメラ状。グレーオジニウム。⑥イト渦鞭毛藻目：栄養体は糸状。ジノクロニウム。⑦トマリ渦鞭毛藻目：栄養体はべん毛のない単細胞。ピロキスチス。

うずまきもん　**【渦巻文】**　もののうずまく形象の文様。渦文ともいう。わが国では，すでに縄文(じょうもん)時代の土器や古墳時代の壁画などに現われ，その後の各時代を通じて各種の装飾の題材とされている。中でも狂言装束に用いられたものや，うずまき小紋の名で染織品にとられたものなどは，単純明確な文様がいっそう効果をあげている。

うずまさ　**【太秦】**　京都市右京区，旧平安京*の西部，双ケ岡(ならびがおか)南西のふもとの地域。もと葛野(かどの)郡の1村であったが，1931年(昭和6)に京都市に編入された。地名の起源は5世紀ごろ百済(くだら)から帰化した秦(はた)氏一族が当地に居住し，雄略天皇の代に，絹糸や絹布をうず高く積み上げて朝廷へ献上して，禹都万佐(うずまさ)の姓を賜わったことに由来する。海抜90mの台地上に，山城国最古の寺院広隆寺*があり，弥勒菩薩像(みろくぼさつぞう)をはじめ，平安期の文化財を多く所蔵する。1928年日本活動写真株式会社が撮影所を設立して以来京都の映画製作の中心となり，いまも東映・大映などのスタジオが立ち並んでいる。1975年，東映撮影所内に見学者のための〈映画村〉ができた。1910年(明治43)に京都市四条大宮と嵐山*(あらしやま)を結ぶ嵐山電鉄が開通して以来，市街地として発展し，製材工場も多い。〔浅井得一〕

うずむし　**【渦虫】**　扁形(へんけい)動物・渦虫類の総称。扁平で帯状または楕円(だえん)形。水生のものは，体表の繊毛でうず流を起こして泳ぐのでこの名がある。海産のものが多いが，淡水・湿地生のものもある。プラナリア*(淡水産)，コウガイビル*(湿地産)，海岸にいるウスヒラムシ，ツノヒラムシ*などがこれに属する。



渦鞭毛藻類　(上)ペリジニウム
(下)ケラチウム



ウスユキソウ



ウズラ



ウズラガイ

うすゆきそう　**【薄雪草】**　双子葉植物・キク科。山地にはえる多年草。群がってはえ，高さ25〜55cm。葉は細く，上面は緑色，下面は綿毛があり白色。夏から秋にかけて茎の上部に綿毛に包まれた葉が出て，その中に白色〜淡黄色の頭花が数個咲く。全体に白い毛が多く，雪をかぶっているようにみえるのでこの名がある。アルプスで有名なエーデルワイス*はこの仲間である。

うすゆきばと　**【薄雪鳩】**　鳥類・ハト科。オーストラリア原産のハトで，飼い鳥として世界各地で飼われる。上半身は灰色で下腹部は白みをおび，背面はかっ色，背や翼に白斑(はくはん)が散在して美しい。また，目の周囲の裸出部は鮮紅色。鳴き声もよい。主として地上で生活し，草の種子を主食としている。巣は樹上につくる。

うすゆきものがたり　**【薄雪物語】**　1628年(寛永9)刊の仮名草子*。成立は慶長年間(1596〜1614)と推定される。園部衛門(そのべえもん)と薄雪との恋の発端，恋文のやり取り，薄雪の病死と衛門の出家という筋立てで，形式・趣向の上で御伽(おとぎ)草子*の影響が濃い。しかし，中心部門をなす艶書(えんしょ)の交換は，往来物*の伝統を文学に発展させたもので，書簡体小説の典型として注目される。

うすよう　**【薄様】**　ガンピの皮を原料としてすいた斐紙(ひし)(雁皮(がんぴ)紙・鳥の子紙)のごく薄いのをいう。白紙のほかに，色紙もある。➔厚様

うずら　**【鶉】**

1 鳥類・キジ科のウズラ類の総称。キジ科の鳥の中で尾が短く，雌雄同色のものをウズラ類とシャコ*類に分ける。ウズラ類はさらに旧世界に10種内外を産する真正ウズラ類と新世界に約35種を産するアメリカウズラ類に分けられる。

2 真正ウズラ類の一種で，全長20cm，体重100g強の丸っこい体型の鳥。キジ科の中で唯一の長距離渡り鳥である。旧北区*およびアフリカ東南部で繁殖。わが国では中部高原以北で繁殖し関東以西で越冬する。

ウズラは従来猟鳥としてその価値が高く評価されてきたが，飼育しやすく多産であるため，家禽(かきん)としての価値も高い。環境の調節に十分に注意すれば，ほとんど連日産卵を継続しうる発達した卵巣をもつ。体重は雄100〜110g，雌120〜130g。ひなは入卵後16日で孵化(ふか)し，孵化後40〜50日で産卵を開始する。温度の変化に対して非常に鋭敏で，冬季には保温に留意しないと産卵を停止する。〔浦本昌紀・一戸健司〕

うずらがい　**【鶉貝】**　軟体動物・腹足類・ヤツシロガイ科の巻き貝。楕円(だえん)形の殻表(かくひょう)には，ウズラの羽の模様に似た白地に紫かっ色の斑紋(はんもん)がある。殻高15cmほど。殻(から)の厚みは薄い。房総以南・インド・太平洋海域の水深10〜50mの砂底にすむ。

うずらごろも　**【鶉衣】**　12冊の俳文集で

也有*(やゆう)の著。かねて也有の文才を認めていた大田南畝*(なんぽ)のあっせんにより前編3冊のうち2冊が1787年(天明7)に，以下後編(1788)・続編・拾遺(1823)と刊行された。也有のほとんど全作品を収める。文学を消閑の具としながら，才気に任せ機知・技巧を弄(ろう)して書かれた軽妙洒脱(しゃだつ)な俳文で，古来俳文の一典型とされる。

うずらしぎ　【鶉鷸】　鳥類・シギ科の水鳥。全体に赤かっ色の羽毛に富んだ小形のシギ。くびは短め，丸っこい体形で，広い干潟(ひがた)よりも草のまばらにはえている湿地を好み，そこで採食することが多い。春秋の渡りの途中に渡来する。➜シギ

ウスリー(川)　⇨アムール川

ウスリースク　[Ussuriisk]　ソビエト連邦の極東，沿海州にある都市。ウラジオストクの北方約100km，スイフン川に臨む。人口12万4,000(1968)。シベリア鉄道から中国へ通ずる鉄道の分岐点にあたる。油脂・砂糖・肉類のコンビナートを中心として発展している。

ウスワイア　[Ushuaia]　南アメリカ大陸の南端，フェゴ島にあるアルゼンチンの町。世界最南端の町である。人口6,000(1967)。林業・漁業などが行なわれるほか，郊外ではヒツジの飼育がみられる。また，アルゼンチンの海軍基地がある。

ウースン　【呉淞】　中国，江蘇(こうそ)省東部，揚子江の南岸にある小都市。上海(シャンハイ)の北にあたり，太湖に発源して上海に達し黄浦江(こうほこう)に合流する呉淞江(蘇州河ともいう)の河口に位置するので，この名が生まれた。上海の外港の役目を果たしている。

ウーゼ　[Bodo Uhse]　(1904～1963)ドイツの小説家。第1次世界大戦後，右翼運動に参加し，1923年にナチスに入党したが，農民運動に従事するうちに社会主義的傾向を強め，除名された。のち共産党にはいり，ナチスの政権獲得後亡命し，第2次世界大戦後は東ドイツにもどった。自己の変転を書いた《傭兵(ようへい)と兵士》，対ナチス抵抗小説《愛国者》などがある。

うぜん　【羽前(国)】　山形県の大部分を占める旧国名。東山道に属する。1868年(明治1)出羽(でわ)(秋田・山形県)を南北に2分したときその南半部をもって羽前とした。もと置賜(おきたま)・田川・出羽・最上(もがみ)・村山の5郡であったが，今日では山形・米沢(よねざわ)・鶴岡(つるおか)などの12市と東西の置賜，東西北の村山，東西の田川，最上の8郡となる。➜出羽(国)

うそ　【鷽】　鳥類・アトリ科。全長15cmの小鳥。灰かっ色で頭上・翼・尾が黒く，腰は白い。雄は顔からのどにかけてばら色で美しく，俗にアカウソともよぶ。ユーラシア大陸北部に分布し，わが国では本州中部の高山から北海道の山地にかけての亜高山針葉樹林帯で繁殖し，秋冬には低地に下る。



ウ　ソ



鷽 替　太宰府天満宮(右端)と亀戸天神の鷽

ときとして早春サクラやオウトウの花のつぼみを食害して問題となるが，主食は木や草の種子や低木の実。〈ヒ・フ・ヒ・フ〉と口笛を吹くように鳴く。なお，その名が嘘(うそ)に通じることから起こった各地の天満宮の正月の神事鷽替*は有名。　〔浦本昌紀〕

うそかえ　【鷽替】　九州の太宰府(だざいふ)天満宮や京都の北野天満宮，大阪の天満宮，東京の亀戸(かめいど)天神などで，正月7日や25日の初天神に行なわれる神事。ヤナギの木を材に，頭・尾を黒く，口の辺を赤く，背を緑にして，金箔(きんぱく)をつけるなどしてウソ*がつくられる。元来は前年神だなに供えたウソをそでに隠して持ち，夕方から夜中にかけて，〈かえましょ〉と呼び合って，手から手へと取り替えていったが，近年は神社で買い替えていくようになった。1年間のうそをウソに託すとも，前年の不幸がすべてうそとなり幸に変わるともいわれる。　〔紙谷威広〕

うそん　【烏孫】　中央アジアの天山山脈北方にいたトルコ系遊牧民族。はじめ匈奴*(きょうど)に属し，ジュンガリア地方にいたが，紀元前2世紀後半には匈奴の援助により，さきにイリ地方に移っていた大月氏*を駆逐してイリ地方に移動した。その都城はイシク湖南岸の赤谷城にあり，その国は戸口12万，人口63万を数えたといわれる。漢代に張騫*(ちょうけん)がこの国を訪れて以後，漢と共同して匈奴を牽制(けんせい)した。5世紀後半に柔然*に征服され，やがて史上から姿を消した。　〔若松　寛〕

うた　【歌】　広義には，長歌*・短歌*・旋頭歌*(せどうか)・片歌*はもとより，神楽歌(かぐらうた)・催馬楽(さいばら)・今様歌(七・五調四句の歌)などの歌謡・童謡や，さらには唱歌・歌曲などを総称し，やや狭くは長歌・短歌・旋頭歌・片歌，さらに狭くは短歌のみをいう。歌の形態はさまざまで，記紀(➜記紀歌謡)のころには長短の区別はあっても，まだ歌体は定まっていなかった。それが《万葉集》に至るまでに，短歌・旋頭歌・片歌の3種と仏足石歌*などに固定した。平安期になると，旋頭歌・片歌・仏足石歌がすたれ，長歌もまれに行なわれた程度で，もっぱら短歌形式が後世に伝わる。なお，歌の発生・語源についてはいろいろな説がある。　〔佐藤恒雄〕

うたあわせ　【歌合】　一種の文学的遊戯。平安初期から種々の物を出し合って優劣を競う物合(ものあわせ)(草合・根合・花合・絵合・貝合など)が貴族の間に行なわれていたが，それらの物に添えて出す歌がしだいに重視され，歌だけを合わせて勝負を争うようになった。左右2組みに分かれ，各1首ずつの歌を出し合って(一番という)優劣・勝負を決め，また互いに相手方の歌を論難・批評し合う会で，会全体を管理する頭・読師・講師・判者・員刺(かずさし)などの諸役を置いて行なわれた。勝負判定の方法には，特定の判者を置く場合と参加者全員の合議による衆議判(しゅぎはん)とがある。時代が下ると，詩と歌を合わせる詩歌合や自分の歌ばかりを合わせる自歌合なども現われる。

歌合は早く9世紀半ばから行なわれたらしいが，現存のものでは885年(仁和1)《民部卿(みんぶきょう)家歌合》が最も古い。初期の歌合は形式も整わず遊びの域を出なかったが，時代が下り960年(天徳4)《天徳内裏歌合》に至って形式が整い規模も大きくなり，12世紀末の《六百番歌合》や13世紀初頭の《千五百番歌合*》にまで発展していった。末梢(まっしょう)にとらわれたり，勝負にこだわって消極的になりすぎたりする弊もあったが，真剣な難陳の応酬は歌人たちの批評眼をつちかい，歌学の発達を促した。平安末鎌倉初期の《歌合判詞》は文学評論史上貴重な資料である。　〔佐藤恒雄〕

うたい　【謡】　⇨謡曲

うだいしょうみちつなのはは　【右大将道綱母】　⇨藤原道綱母

うだいじん　【右大臣】　律令*(りつりょう)官制において太政(だじょう)大臣・左大臣に次ぐ太政官の長官。645年(大化1)設置。正・従(じゅ)二位相当官。唐名では右丞相(うじょうしょう)・右相府(うしょうふ)・右府ともよばれた。職掌は左大臣と同じく太政官の政務を統理執行し，左大臣不参のときは代わって諸公事を総裁する。758(天平宝字2)大保と改称したが，まもなく旧に復した。鎌倉時代以後，実質的には有名無実となったが，1869年(明治2)の太政官制の改正では，太政大臣・左大臣とともに太政官の最高機関として設置されたが，1885年内閣制度の成立により廃止された。　〔星野良子〕

うたいぼん【謡本】 諷本・謳本とも書かれ，もと〈うたいの本〉とよばれた。本来は謡をうたうためのテキストで，謡曲の本文と節付けとを備えた本であるが，現在は上演台本の役割をも果たしている。節付けの記号は観世流・宝生流などと金春(こんぱる)流・金剛流・喜多流などとではやや異なる。室町時代には書写されていたが，江戸時代にはいると印刷技術の進歩で大阪・江戸を中心に続々刊行され，間拍子(まびょうし)・直し(細かな節の指定)の記入も詳細になり，謡曲愛好者を激増させた。江戸後期には寺子屋の教本としても利用された。明治以後はもっぱら家元と特定業者との提携によって出版され，現在はシテ方五流をはじめワキ方のものも発行されている。〔片桐 登〕

うたいもの【歌い物】 語り物と並ぶ日本伝統声楽の二大様式の一。歌詞の表現よりもむしろ音楽的ないし旋律的表現を重視する様式で，地歌・箏歌(ことうた)(箏曲)・長唄(ながうた)・荻江節(おぎえぶし)・端唄(はうた)・うた沢・小唄・民謡などを含む。➔語り物

うたかい【歌会】 和歌をよむ会合の総称。〈かかい〉ともいう。古くから自然発生的に存在したが，しだいに多様になり，さまざまな場で行なわれた。天皇が出席し清涼殿*で行なわれる〈中殿御会〉が最も公的で，宮廷で行なわれる〈公宴御会〉がこれに次ぐ。曲水宴・重陽宴などの年中行事や，行幸・観梅・観月などのおり，法会の後宴など多く宴を伴って催された。公式の歌会は歌人が世に認められる登龍門(とうりゅうもん)となったので，歌人は競って出席し技をみがいた。〔佐藤恒雄〕

うたがい【歌貝】 貝覆(かいおおい)から転じたもので，歌かるたのもととなるもの。彩色を施したハマグリの貝の左右の内側に1首の歌(《源氏物語》,《古今和歌集》,百人一首などの歌，また贈答歌)の上の句と下の句とを分けて書き，一方を地貝，他方を出し貝と称し，これを合わせて多く取った者を勝ちとする遊び。のちには貝の代わりに将棋のこまの形をした木片や厚紙を用い，これを一般に歌貝とよんだ。

うたかいはじめ【歌会始め】 新年にはじめて催される歌会*。もともと，歌会が定例化し毎月開かれる月次(つきなみ)歌会になったとき，年の初めのものを一般にさしていったが，特に宮中で行なわれる新年の歌会をいう場合が多い。この宮中での歌会始めは，正式には〈歌御会始め〉といい，その起源は正確には求められないが，14世紀ごろと考えられている。一般国民の詠進は1872年(明治5)から許され，1879年には選歌の制度が設けられた。1946年(昭和21)までは御歌所の寄人(よりうど)が選歌にあたったが，翌年からはふつう4～5名の民間歌人が選者をつとめるようになった。毎年9月1日から10月10日まで応募を受け付けて，その中から15首を選び，1月10日前後に歌会が行なわれる。天皇・皇后両陛下以下皇族の出席のもとに，講師(こうじ)・読師(どくじ)・発声・講頌(こうしょう)の役によって，御製以下の歌が披講(ひこう)される。〔佐藤恒雄〕



歌がるた《伊勢物語歌がるた》(旺文社出版文化センター所蔵)



歌川国貞《当世美人流光好，当時高名会席つくし》 1808ごろ 神奈川県立博物館蔵



歌川国芳《通俗水滸伝豪傑百八人壱箇，母夜刃孫二娘》 1827ごろ 神奈川県立博物館蔵

うたがき【歌垣】 日本の芸能の一つで奈良時代ごろまで行なわれていた。嬥歌(かがい)ともいう。特定の日に特定の戸外の場所で，男女がグループで歌舞や飲食を楽しむもの。茨城県の筑波(つくば)山，大阪府北部の歌垣山のものなどが有名で，土俗的な信仰によっていたと思われる。平安時代には道徳上の理由で禁止されたが，沖縄一帯では最近まで類似の習俗が残っていた。

うたがるた【歌がるた】 かるた*の一種。和歌一首を書いた読み札とその下句のみを書いた取り札各100枚からなる。平安時代の貝合*(かいあわせ)・貝覆*(かいおおい)から発展して考案されたもの。もともとは名歌を暗記するための遊びで，《古今集》《伊勢(いせ)物語》《源氏物語》など高名な古典中の和歌を用いたが，江戸初期ごろからはもっぱら《小倉(おぐら)百人一首*》の歌が用いられ，歌がるたといえばこれをさすようになった。遊び方には源平・ちらしその他がある。〔佐藤恒雄〕

うたがわくにさだ【歌川国貞】(1786～1864) 江戸末期の浮世絵師。姓は角田，俗称庄蔵(しょうぞう)，一雄斎などと号した。2代豊国(とよくに)を自称したが実際は3代にあたる。歌川国芳*(くによし)とともに初代豊国門の双璧(そうへき)と目され，長期にわたって旺盛(おうせい)な制作活動を続けた。原色を大胆に布置した美人画・役者似顔絵が得意。五渡亭(ごとてい)の号を用いた時期に傑作が多く，晩年は大首絵にみるべきものがある。➔歌川派

うたがわくによし【歌川国芳】(1797～1861) 江戸末期の文政・天保(てんぽう)(1818～1843)を中心に活躍した浮世絵師。江戸神田の染め物屋に生まれ，初代歌川豊国*(とよくに)に入門して一勇斎と称し，役者絵・武者絵・狂画にわたって新機軸を出したが，天保末年に《源頼光(よりみつ)公館土蜘(つちぐも)作妖怪(ようかい)図》その他で筆禍をこうむったことがある。反骨の強い画家として異才を放ったが，世評の高かった錦絵(にしきえ)には《通俗水滸伝(すいこでん)豪傑百八人壱箇(いっこ)》などの揃物(そろいもの)や日本戦記物語に関するものがあり，狂画では《荷宝蔵壁のびた書(がき)》《化物(ばけもの)忠臣蔵》などがある。〔須山計一〕

うたがわとよくに【歌川豊国】(1769～1825) 江戸後期の浮世絵師。本姓倉橋，俗称熊吉(くまきち)，号は一陽斎。歌川豊春に師事し役者似顔絵を得意とした。写実に基礎をおきながらもはなやかな様式美を失わぬ役者絵は，大衆の圧倒的な支持を得て，彼に流行作家の地位をもたらした。国貞(くにさだ)・国芳(くによし)・国政(くにまさ)などのすぐれた門人を多く集め，豊広などとともに歌川派の隆盛を実現したが，晩年には乱作がたたり作品の質を低めた。なお，豊国の没後，

養子の豊重(とよしげ)が2代豊国を名のった。

うたがわは　【歌川派】　浮世絵の流派の一。洋風表現を取り入れて新鮮な風景版画を発表した歌川豊春(とよはる)を始祖とし，その門下から豊国・豊広が出，さらに，豊国門には国貞(くにさだ)・国芳(くによし)，豊広門には安藤広重*(ひろしげ)と，多くの創造的な後継者を出し，大衆の支持を得て，幕末の浮世絵界に指導的な役割を果たした。流派活動のきわめてむずかしかった浮世絵界にあって，明治期にまで余勢を駆ったその活動は注目されてよい。　〔小林　忠〕

うたがわようあん　【宇田川榕菴】(1798～1846)　名は榕。蘭医(らんい)宇田川榛斎(しんさい)の養子。オランダ語にひいで，西洋自然科学の先進的な紹介者として忘れることができない人物である。《植学啓原》(1835)・《舎密(せいみ)開宗》(1839)を著わし，それぞれ植物学・化学の基本を日本に移入した。そのほか，生前刊行されないままになった《厚生新編》《動学啓原》も，こん虫学・動物学のすぐれた紹介書である。

うたくち　【歌口】　マウスピースともいわれ，管楽器の重要な機構。広義には奏者の口の中に入れられたり，くちびるにあてられる部分とされる。これは管楽器の音色や技法に最も深く関係し，楽器の分類基準となっている。歌口は大きく次の4種に分かれる。第1はトランペットのような金管楽器のカップ状歌口で，これはくちびるの振動を管に伝える役割をもつ。第2はクラリネットのような1枚リードの歌口で，側面をあけた筒状のものにリードをしばりつけるものである。第3は通常は歌口に含めないものであるが，オーボエのように2枚リードである。これだけが口にくわえられるので，広義には歌口である。なお，ルネサンス時代の木管楽器クルムホルンのように，歌口は空気を送るだけで，その中に2枚リードを収めたものもある。第4は，リコーダーのように，内部にある細い管に息を通すのを容易にするために口にくわえる歌口である。　〔徳丸吉彦〕

うだげんじ　【宇多源氏】　⇨源氏

うたざいもん　【歌祭文】　江戸時代に行なわれた俗曲の一種。中世以降，山伏が錫杖(しゃくじょう)を振り，法螺貝(ほらがい)を吹いて神仏の霊験を唱えたが，しだいにこれが娯楽化して，三味線(しゃみせん)に合わせて遊里で歌われたり，火災・洪水(こうずい)・地震などの天変地異や駆け落ち・心中などの世俗のできごとをおもしろおかしく歌うようになった。大阪に常設小屋ができたほど流行し，井原西鶴(さいかく)や近松門左衛門(もんざえもん)も歌祭文に題材を得た作品を残している。明治以後寄席芸(よせげい)になった。〔中山和芳〕

うたざわ　【うた沢】　三味線(しゃみせん)音楽のジャンルの一。成立は新しく，江戸末期1850年ごろ，端唄*(はうた)の同好者が端唄の品格を高めて，語るような歌い方に近づけるのを目的に一群を結成し，1857年(安政4)流派として認可されたものである。その代表は旗本(はたもと)の笹本彦太郎(ささもとひこたろう)(歌沢笹丸*)，畳屋の虎右衛門(とらえもん)(歌沢寅右衛門*(とらえもん))，御家人の柴田(しばた)金吉(哥沢(うたざわ)芝金*)らであった。笹丸の没後，芝金が別派を興し，区別するために，寅右衛門のほうを寅派といい歌沢の字をあて，芝金のほうを芝派といい，哥沢(カザワとも読む)をあてた。今日では，両者を総称するときには，うた沢と書くのが普通である。うた沢は端唄と共通の曲目が多いが，常磐津(ときわず)や清元からもはいっており，約300の曲が行なわれている。代表的な曲としては《秋の夜》《宇治茶》《薄墨》《書きおくる》《夕暮》《淀(よど)の川瀬》があげられる。音楽的な特徴としては，小唄や端唄より一般にテンポがおそく，語りとしての性格が強いことがあげられる。また，三味線は小唄の場合のような主導権をもっていない。寅派と芝派の違いは，芝派が芝居に結びついたため，三味線の手が技巧的になり，節がやや細かくなったのに対し，寅派のほうが半音を幅広くとり，節を長く引くなどの伝統的な特徴をもっている。　〔徳丸吉彦〕



歌川豊国《中村のしほのおそめに4代目岩井半四郎の久松》 1798　神奈川県立博物館蔵

うたざわささまる　【歌沢笹丸】(1797～1856)　うた沢*の創始者。本名は笹本彦太郎(ひこたろう)。江戸五百石取りの旗本(はたもと)の家に生まれた。河東節・一中節・宮薗節(みやぞのぶし)など数々の音曲に通じ，特に端唄(はうた)を好んだが，あきたらず，独特の細かい節回しで端唄を歌ううた沢を始めた。歌沢大和大掾(やまとだいじょう)の名を受けている。

うたざわしばきん　【哥沢芝金】(1828～1874)　うた沢芝派の創始者。本名の柴田(しばた)金吉の柴を芝と改め，芝金と称した。唄(うた)・三味線(しゃみせん)に通じ，歌沢笹丸*(ささまる)らに加わって端唄(はうた)からうた沢をつくり，のちみずからの派を編み出した。この名は襲名されて現在4世に至っている。

うたざわとらえもん　【歌沢寅右衛門】　うた沢寅派の家元。襲名されて現在5世に至っている。

[1] 2世(1813～1875)　本名平田虎右衛門(とらえもん)。江戸，日本橋橘(たちばな)町に住む畳職人で端唄(はうた)に長じ，歌沢笹丸*(ささまる)から家元を譲られた。寅右衛門としては初世だが，うた沢家元としては2世で，みずから2世を称した。

[2] 4世(1872～1943)　本名平田ゆき。2世の孫娘。月並温習会として松声会を興し，寅派の再興を図った。現5世はその娘。

うたしない　【歌志内(市)】　北海道中西部の市。1873年(明治6)榎本武揚*(えのもとたけあき)によって石炭が発見され，1891年に石炭輸送の鉄道が開通し，炭鉱の町として発展した。1958年(昭和33)市制施行。人口10,300。地名はアイヌ語の〈オタスナイ(砂のある川)〉にちなむ。夕張山脈北部の丘陵性山地と，石狩川支流のペンケオタスナイの河谷を占め，谷の上流に中心市街がある。石狩炭田北部の炭鉱地帯にあたり，住友・北海道炭礦(たんこう)汽船などの大手炭鉱や多くの中小炭鉱があったが，すべて閉山し，人口の流出が激しく，全国の市の中で最少の人口となっている。産業三大別人口比は1：55：44。石炭に代わって市勢回復のために，繊維・皮革・食品・機械修理など，各種の工場誘致をはかっているが，はかばかしくない。歌志内線が函館(はこだて)本線砂川から通ずる。

うたじょうるり　【唄浄瑠璃】　18世紀初頭に始まった長唄の一種で，歌い物*である長唄に語り物*の要素を取り入れたもの。また，語り物の中で歌い物の要素が比較的濃厚な一中節・河東節・常磐津(ときわず)・富本節・清元・新内などをさしていうこともある。

うたすつ　【歌棄】　北海道後志(しりべし)支庁管内，寿都(すっつ)湾に面する地域。江差追分に歌われ，古くから開けた港で，明治中期以後はニシン漁業の基地として栄えた。歌棄村と朱太川沿いの熱郛(ねっぷ)村の2村で歌棄郡を形成していたが，1955年(昭和30)の町村合併で歌棄村は寿都郡寿都町，熱郛村は同郡三和(みわ)村(現在の黒松内(くろまつない)町)に吸収されて，郡名は消滅した。

うたせあみ　【打瀬網】　引き網*の一種で，船体を横にして網を繰り出し，海底を引き回し，底生生物を採捕する漁法。機関を用いて引くもののほか，風を利用した風打瀬網，潮流を利用した潮打瀬網などがある。

うだつ　【梲・宇立】　古代では，切妻屋根の妻壁の梁(はり)の上に立てられた小屋束(こやづか)をさし，転じて簡単な造りの小屋を宇立屋とよんだ。中世以降の町屋では，切妻屋根の両側に高くあげた袖(そで)壁を意味するようになる。町屋の屋根としては上等

な造りなので，立身しないことを比喩(ひゆ)的に〈うだつが上がらぬ〉などという。

うだてんのう 【宇多天皇】 (867〜931) 名は定省(さだみ)。在位887〜897年。光孝天皇の第7皇子。母は班子女王(はんしにょおう)。藤原基経(もとつね)に推されて即位し，その直後に阿衡(あこう)事件*を起こした。基経の死後は関白を置かず，菅原道真(すがわらのみちざね)を重用して政治の刷新に努め(寛平の治)，子の醍醐(だいご)天皇に譲位する際，有名な〈寛平御遺誡*(かんぴょうのごゆいかい)〉を与えた。のち出家して法皇となり仁和(にんな)寺に住み，亭子院(ていじのいん)といわれた。日記を《宇多天皇御記》または《寛平御記》とよぶ。陵墓は京都の大内山陵。〔黛　弘道〕

うたねんぶつ 【歌念仏】 江戸時代に流行した歌謡で，門付芸(かどつけげい)の一。元来は民衆教化のため念仏に節をつけて歌うことであったが，しだいに通俗化し，その題材も仏教説話から，江戸初期には心中事件にまで変化して芸能化した。歌念仏は仏教的な哀感のこもった曲調をもち，鉦(かね)や撞木(しゅもく)の伴奏で，辻(つじ)や川原や家々の門口で演じられた。

うたのほん 【歌の本】 ハイネ*の詩集(1827)。学生時代を中心とするほぼ10年間の生活体験，とりわけ作者の失恋の経験が切実にうたわれている。青春を告白したハイネの代表的詩集として世界的に有名。全編は，〈若き悩み〉〈叙情挿曲(そうきょく)〉〈帰郷〉〈ハルツの旅から〉〈北海〉の5部からなっていて，それぞれが独立しつつ全体が一大交響楽のようになっている。純情・悲痛・自嘲(じちょう)など青春期の感情が美しく表現され，シューマン*その他によって作曲されている。



ウ-タント

うたひこう 【歌披講】 特別の作法で和歌を朗詠するもので，単に披講ともいう。無伴奏で，甲調・乙調・上甲調で1回ずつ歌う。二条流(綾小路(あやのこうじ)流)と冷泉(れいぜい)流の2通りあり，宮中歌会始では二条流で行なわれる。

うたまくら 【歌枕】 ふつう，和歌の題材として古来から多くよまれてきた名所をいう。しかし平安中期には，歌語の注釈，枕詞(まくらことば)の説明，名所の列挙などを内容とする書物の意に使われる。古歌を慕ってその境地を自作によみこむ傾向は《万葉集》にも見いだせるが，平安期にはいって名所の観念が固定してのち，歌枕の内容も定まったと思われる。歌枕によって現地を踏まずに心情をうたうため，作歌が類型的表現に陥ったが，その一方，古歌の連想と技巧のくふうによって歌の余情を深めることにもなった。歌枕は功罪相半ばするといえよう。〔桑原博史〕

うたものがたり 【歌物語】 主として平安前期に行なわれた歌を中心とする物語(→物語文学)。作品としては，ひとりの色好みを主人公とする《伊勢(いせ)物語*》や《平中物語*》，歌に関するゴシップ集ともいうべき《大和(やまと)物語*》などがある。つくり物語のようにすべてが虚構というのではなく，まず実在人物の歌があって，それが，いつ，どこで，だれによって，どんな事情のもとによまれたか，というような事がらが語られる。歌は物語の核となり，筋の展開や終結に最も大きな役割を果たす。なお，当時の貴族社会に，歌語りとよばれて，歌に関するうわさ話が口伝えに行なわれており，それが歌物語成立の基盤になったと考えられている。〔久保木哲夫〕

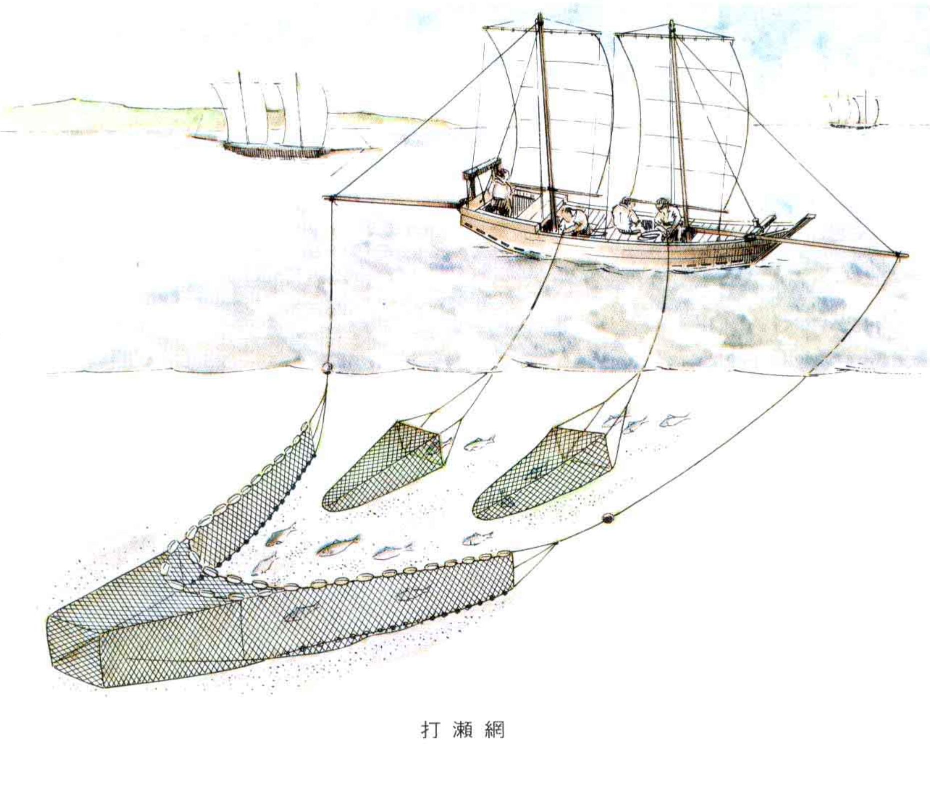
うたよみにあたうるしょ 【歌よみに与ふる書】 1898年(明治31)正岡子規*が新聞《日本》に発表した歌論。彼の和歌革新運動の第一声である。《古今和歌集*》の技巧性を排し，その亜流である旧派歌人の陳腐で没個性的な歌風を激しく非難して，これと対照的に，源実朝*(さねとも)の万葉ふうの歌を推称し，近代的自覚に立った写実性を重んぜよと説いている。

ウ-タント ［Sithu U Thant］ (1909〜1974) ビルマの外交官。国際連合事務総長。ラングーン大学卒業後高校教師となる。ビルマ独立後，新聞局・ラジオ局・内閣官房の各長官を歴任。1957年アメリカ大使兼国連常任代表となり，ハマーショルド前国連事務総長の後任として暫定事務総長に選出され，1962年正式に事務総長に就任。1967年再選される。コンゴ問題，西ニューギニア(西イリアン)の帰属，国連分担金未払い問題，キューバ危機の回避，ベトナム和平，中東危機の回避などの難問に対処し，東西両陣営の信頼を得た。〔折井一彦〕

うちあわび 【打鮑】 のしあわびまたは干しあわびともいう。アワビの肉を薄く長く切って打ち延ばし，干したもので，古来祝儀のさかなに用いられた。武士の出陣・帰陣の宴には必ず供し，出陣の際は打ちあわびといい，帰陣にはのしあわびといって威勢をのす意を表わした。一般の賀宴に供するものも永続の祝意としてのしあわびとよぶ。今日のするめのように裂いて食した。

うちいわい 【内祝い】 内輪の祝いの意味で，親類・知人などで特に親しい者が，婚礼・出産・病気全快・七五三の祝いなどに際して，内々で祝うこと。転じて，祝い事のあった家からの贈り物をもいう。本来，この種の祝い事は個人的な慶事にとどまらず，地域共同体的な行事として多くの人を招いてはでな供応が行なわれた。しかし，しだいに内輪ですますようになり，その代わりに贈り物をするようになった。

うちうらわん 【内浦湾】 北海道の渡島(おしま)半島の東側にある円形の湾で，湾口の北岸には室蘭(むろらん)港がある。海岸線は単調で，平地が少ない。最深点は107mである。噴火湾ともよばれるが，これは1796年(寛政8)イギリス船の船長ブロートンが，南の駒ケ岳(こまがだけ)と北の有珠山(うすざん)の噴煙を見



打瀬網

て命名したものといわれる。かつてはイワシ・マグロの漁獲があったが，いまはイカ・サケ・マス・カニなどが主である。

うちかけ 【打掛】 女子礼装の上着。室町時代，大名家の婦人は装束の複雑さを避け，その代わり小袖(こそで)の上に豪華な小袖形のものを重ねた。これが打掛である。たけは小袖より30cmほど長く，幅もまた広い。はじめ紗綾(さや)・綸子(りんず)，のちにちりめん・琥珀(こはく)地に縫箔(ぬいはく)の模様を施した。江戸初期には総模様だったが，中期にすそ模様となり，文化・文政期(1804～1829)には総模様となった。裏はふつう紅絹(もみ)または緋(ひ)綸子。下の小袖に帯をするが，打掛は羽織ったまま引きずるので，手でかい取らねば歩けない。別名〈掻取(かいどり)〉というのはそのためで，一説に京阪(けいはん)では打掛，江戸では掻取といったとある。はじめ打掛は上流武家にのみ用いられたが，しだいに中流武家にも及び，町人で裕福な者も武家にならった。特に花嫁衣装に白無垢(むく)綸子の打掛を用いることが普及し，今日に及んでいる。また，高級遊女が花魁(おいらん)道中にこれを着て華麗さを競った。

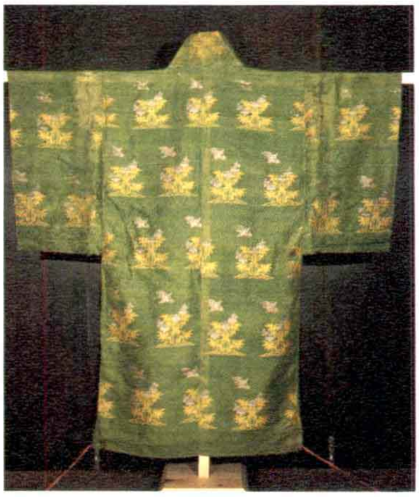
うちがし 【打ち菓子】 干菓子の一種で打ち物ともいう。砂糖とみじん粉およびかたくり粉などを混合してつくった種を，各種の木型に詰めて上面を平らにし，型の上端をたたいて抜き，かわかして仕上げたもの。木型は桜材を用い，それに彫刻を施す。室町時代の中ごろに創製され，江戸時代・明治時代に広く利用された。主として祝儀用・仏事用の注文菓子として用いられたが，最近は少なくなっている。しかし，小形打ち物はいまなお相当生産され，種類も多い。代表的なものに落雁(らくがん)がある。打ち物の原料は一般にはみじん粉(もち米を蒸して乾燥し，軽くいり，ひいて粉末にしたもので関西地方では上みじん粉のことを寒梅粉ともいう)であるが，大麦・うるち米・あずき・大豆・小麦をいって粉にしたものなども用いる。これらの原料の割合は，特殊なものは別として，だいたい砂糖・みじん粉同量以下からみじん粉量に対して砂糖倍量までの間であり，かたくり粉10～20％を加えるものもある。 〔塩川ふみ〕

うちき 【袿】 中古の女房装束の一部。また，男子が直衣(のうし)・狩衣(かりぎぬ)の下に着た中衣。表着(うわぎ)と単(ひとえ)の中間に着るもの。広袖(ひろそで)の着物の形で，平安時代には７～８枚から20枚近くも重ねて着た。したがって重袿の名があり，〈おんぞ〉〈衣(きぬ)〉などというのはすべてこれをさす。十二単の正装に対して，この袿と袴(はかま)だけの略装，すなわち下に着る袿を表へ出したものを袿袴(けいこ)という。また重色目を３色に見せたのを小袿といって高貴の婦人も着用した。

うちぎきしゅう 【打聞集】 平安後期の仏教説話集。僧栄源の書写した下帖(げのちょう)



打　掛
江戸時代の打掛姿



袿　桐竹鳳凰文二重織袿　熱田神宮蔵



ウチスズメ

１巻のみが現存する。インド・中国・日本の仏教霊験譚(れいげんたん)など24話を収録。表記法は漢字混じりのかたかな文，あて字も多い。談義僧が説教・法会の材料として筆録したものらしい。

うちぎぬ 【打衣】 中古の女房装束の一部。表着(うわぎ)の下に着るもので，紅無地の綾(あや)や平絹で仕立てるため紅・掻練(かいねり)の称もある。砧(きぬた)で打って光沢を出したが，のちには板引といって，ガラス板のようにかたくした。手ざわりがあらく，はだにまつわらないので，夏の装束に愛用された。

うちきん 【内金】 金銭の消費貸借・売買・請負などの契約において，支払い期限のまえに渡される代金や報酬の一部分をいう。本来は，契約総高の一部の弁済部分なのであるが，多くの場合は，手付*の意味を有する。その種類によって，契約成立の証拠や債務不履行の場合の違約金*，解除権の留保のための対価等々の目的をもつものとして交付される。

うちぐもり 【打曇】 上下に雲形をすき出した料紙(ひし)。雲紙ともいう。藤原時代・鎌倉時代のは青雲ばかりであるが，後世のは上方が青雲，下方が紫雲である。たんざく・色紙などに用いる。

うちこ 【内子(町)】 愛媛県喜多郡の町。人口14,000。肱(ひじ)川流域にあり，内山盆地の中心地。藩政時代から大正末期まで，ハゼノキの果皮からとる木ロウ製造の全国的中心地であった。現在は木材・クリの集散地である。予讃(よさん)本線の支線内子線が通じているが，将来はこの線が松山市と大洲(おおず)市を結ぶ本線となる予定である。

うちこないしんのう 【有智子内親王】 (807～847) 嵯峨(さが)天皇の第９皇女。810年(弘仁１)４歳のとき最初の賀茂(かも)斎院となる。漢詩にすぐれた才能を示し，823年には父天皇から三品(さんぼん)を授けられた。晩年は嵯峨野に風流な生活を送った。墓は有名な落柿舎(らくししゃ)の近くにある。

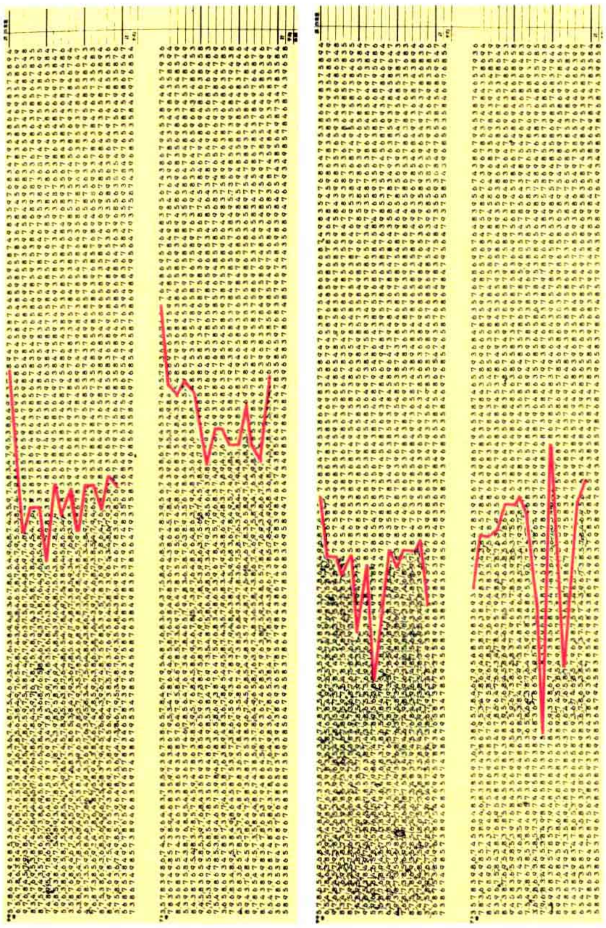
うちこわし 【打ちこわし】 江戸時代の都市下層民の暴動。多くは米騒動*であった。米価の暴騰により生活困難になった都市の貧民が富者と利益独占者に対して起こしたもの。米屋・質屋・酒屋など富豪の店舗や家宅を集団で襲撃して，家屋・道具を破却し，米銀を略奪，あるいは米穀や物品の安売りを強要した。凶作・飢饉(ききん)の年に百姓一揆*(いっき)とも密接な連関をもって多く発生した。大規模なものは1733年(享保18)１月の江戸の打ちこわしを最初とし，天明の飢饉(1781～1788)の際には連続的に起こった。特に1787年(天明７)に起こった打ちこわしは大阪をはじめ全国主要都市で発生し，それまでで最大のものであった。のち天保(てんぽう)年間(1830～1843)，また幕末にもしばしば起こり，1837年大阪で起こった大塩平八郎の乱も打ちこわしの一つであった。

うちすずめ 【内天蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。翅(はね)を広げた長さ80mm内外。体・翅ともに灰かっ色。前翅には濃淡の雲状紋がある。後翅には中央が淡黒色の顕著な青白色の環状紋があり，その外側は紅色。日本全土・朝鮮・中国・シベリアなどに分布する。幼虫はヤナギ類の葉を食べ，地中でさなぎになる。成虫は年２回の発生で，５～６月および８～９月ごろに出現。夜間活動性で，燈火にもよく飛来する。さなぎで越冬する。ウチスズメ類は，アメリカやユーラシア大陸に多くの種類が産し，日本にはほかにコウチスズメやヒメウチスズメの２種が産するが，ともに本種より小形で斑紋(はんもん)などが異なる。

うちだいわお 【内田巌】 (1900～1953) 洋画家。文学者内田魯庵*(ろあん)の長男として東京に生まれ，1925年(大正14)東京美術学校を卒業。1930～1932年フランスに滞在し，

帰国後は光風会展に出品したが，1936年(昭和11)新制作派協会結成に参加，会員として活躍。第2次世界大戦後は日本共産党に入党し，日本美術会の主要メンバーとして活動した。代表作《岩》《赤旗》などがある。

うちだクレペリンせいしんけんさ 【内田クレペリン精神検査】 ドイツの精神医学者E-クレペリンが作業機能の分析に用いた，数字の連続加算法をもとに，内田勇三郎が改訂し，一般的な人格検査としたもの。方法は，連続して配置された1位の数字を2個ずつ加算していく作業を15分行ない，5分休憩，さらに15分作業という形式。その結果各1分ごとの作業量を出し，時間を横軸に，作業量を縦軸に作業曲線*をつくり，この曲線を類型にまとめて，診断の手がかりとする。現在，工場の安全管理や交通機関従業員の事故多発者発見など，労務管理に利用されている。 〔江本 弘〕



内田クレペリン精神検査 検査結果例
(左)人柄が円満で，種々の行動場面において過不足のない行動のコントロールができ，不慮の災害や失敗をひき起こすことの少ない人に多くみられる。すなわち，前期作業量に対する後期作業量の相対的増加，適度な曲線の動揺，誤答が少ないなどから判断される (右)大きい落ち込みと突出，曲線の動揺過多などから，仕事あるいは行動面で多くの癖やかたよりをもっていることが予測される。しかし，場面によっては，むしろ特長的行動と結びつくことも考えられ，むら気だがやればよい仕事をする芸術家はだのタイプの人間に，こうした曲線型を示す者もいる

うちだこうさい 【内田康哉】 (1865～1936) 外交官。熊本県に生まれる。東京大学卒業。清(しん)国公使，オーストリア・アメリカ・ロシア大使を経て，第2次西園寺(さいおんじ)内閣の外相となり，以来，外相就任3回。原・加藤両総理の死去に際しては臨時首相をつとめた。枢密顧問官，パリ不戦条約会議の全権，貴族院議員などを歴任し，1931年(昭和6)南満州鉄道株式会社総裁。1932年斎藤内閣の外相として満州事変後の強硬外交を推進した。伯爵。〔岸野淳子〕

うちだとむ 【内田吐夢】 (1898～1970) 映画監督。岡山県に生まれた。岡山中学校卒業。俳優として映画界にはいり，のち監督に転じた。大胆率直なリアリズムと力強い批評精神に基づき，日本人の伝統的な情念を豊かに盛り込んだ作品で知られる。代表作は《生ける人形》《人生劇場》《土》《花の吉原(よしわら)百人斬(き)り》《飢餓海峡》など。

うちだひゃっけん 【内田百閒】 (1889～1971) 小説家・随筆家。岡山県の生まれ。本名は栄造，別号は百鬼園。第六高等学校(岡山)在学中から俳句をつくり，小品《老猫(ろうびょう)》を夏目漱石*(そうせき)に送って好評を受け，その後門下生となった。東京大学独文科卒業後ドイツ語の教官として陸軍士官学校などに奉職し，1934年(昭和9)以降文筆業にはいった。幼時より琴を習い，酒をたしなむなどは有名で，生活即文学ともいってよい。小説《冥途(めいど)》や《百鬼園随筆》など多くの作品がある。 〔小林敬子〕

うちだろあん 【内田魯庵】 (1868～1929) 評論家・小説家。初期に不知庵と称した。江戸下谷(したや)の生まれ。築地(つきじ)の立教学校を卒業後，大学予備門・東京専門学校を中退。1888年(明治21)山田美妙*《夏木立》に対する批評を《女学雑誌*》に掲載し，新進評論家として注目された。その第1期は文芸評論家，第2期はドストエフスキーなどの紹介者，第3期は《くれの廿八日(にじゅうはちにち)》《社会百面相》などの小説家，第4期は広義の文明批評家，第5期は随筆家として活躍した。 〔瀬良垣宏明〕

うちつおみ 【内臣】 645年(大化1)大化改新政権の発足にあたって左右大臣とともに新設され，藤原鎌足(かまたり)がはじめて任ぜられた官職。その後も藤原房前(ふささき)らが任ぜられたが，常置の官ではなく令(りょう)にも規定はない。天皇に密着した側近として重要政務にあずかるものであったらしい。

うちなだ 【内灘(町)】 石川県河北郡の町。人口20,000。河北潟(かほくがた)と日本海にはさまれる細長い砂丘上にある町。かつて北海道方面へのホタテガイ漁業の出かせぎ者が多い所であったが，第2次世界大戦後，在日アメリカ軍の試射場が置かれた。住民の激しい反対運動があり，1957年(昭和32)試射場撤去後は砂丘の畑地を灌漑(かんがい)してアスパラガスの栽培が盛んになり，また金沢市の郊外のため，住宅地や織物工場の進出も著しい。現在，北陸電力の火力発電所(出力37万5,000kW)建設の計画があり，また住民が反対している。

うちのうら 【内之浦(町)】 鹿児島県肝属(きもつき)郡の町。人口7,500。大隅(おおすみ)半島の南東部を占め，北部の内之浦湾に臨む中心集落内之浦はアジ・サバなどのとれる漁港である。農業ではタバコやポンカンなどに特色があり，林業も行なわれ，全国一の樟脳(しょうのう)の産地である。1962年(昭和37)にロケットセンター(東京大学鹿児島宇宙空間観測所)が開設され，打ち上げの実験のたびに全国の注目を浴び日本最初の人工衛星《おおすみ》も，ここから打ち上げられた。ソテツ・ビロウなどの亜熱帯植物の自生地もあるので，観光地としても有望となってきたが，鉄道が通じていないので，交通は不便である。

うちのまきおんせん 【内牧温泉】 熊本県阿蘇(あそ)郡阿蘇町にある温泉。泉温37～46℃，泉質は重炭酸芒硝泉(ぼうしょうせん)で，神経痛・胃腸病・婦人病にきくといわれる。阿蘇山の火口原にあり，8月でも20℃以下と涼しく避暑客が多い。湯量豊富で水稲の育成やサツマイモ苗の栽培にも利用される。夏目漱石*(そうせき)の小説《二百十日》執筆の地としても有名。阿蘇国立公園に属し，豊肥本線内牧駅からバスの便がある。

うちはら 【内原(町)】 茨城県東茨城郡の町で，水戸(みと)市の西隣にある。1955年(昭和30)に内原・中妻・下中妻の3村と鯉淵(こいぶち)村の一部が合併して内原村となり，1965年に町制を敷いた。人口14,000。かつて加藤完治の日本国民高等学校・満蒙(まんもう)開拓青少年義勇軍訓練所などの所在地として全国にその名を知られ，現在も日本国民高等学校のほか，東南アジア・インド・アフリカなどからの研究生を集めた茨城国際農業研修センター，農林省の農業機械化研修所・農村青年中央研修所などの農業教育施設が多い。

うちぶ【打ち歩】割増金またはプレミアム*のことで打歩(だぶ)ともいう。本来，金銀複本位制*のもとで，同一額の金貨と銀貨の２種の貨幣の間に流通力の開きが生じたため，交換に際して支払われた割増金を意味する。現在では有価証券の市場価格が額面価格より高くなったときの差額を意味する。

うちまき【散米】⇨さんまい

うちむらかんぞう【内村鑑三】(1861～1930) 無教会主義のキリスト教徒。高崎藩士の長子として江戸に生まれた。厳格な儒教的ふんい気の中で育ったが，札幌(さっぽろ)農学校在学中クラーク*の影響を受け，18歳のとき洗礼を受けた。1881年(明治14)同校を卒業し官吏となったが，1884年職を辞して自費でアメリカに渡り，アマースト大学・ハートフォード神学校に学んだ。1888年帰国し，各地のミッションスクールで教職についたが，その純粋な性格のため辞任をくり返した。講師として第一高等学校在任中，教育勅語に敬礼するのを拒み，いわゆる不敬事件を起こして職を追われた。以来，大阪・熊本・京都・名古屋を放浪したが，この間《基督(キリスト)教徒の慰め》《求安録》《余は如何(いか)にして基督教徒となりし乎(か)》などを著わした。彼の信条は二つのＪ(イエスと日本)に仕えることにあった。足尾鉱毒事件を糾弾したり，日露開戦に際して非戦論を唱えるとともに，晩年は個人雑誌《聖書之研究》によって聖書研究と伝道に専念し，塚本虎二(つかもととらじ)・矢内原忠雄(ただお)・小山内薫(おさないかおる)・正宗(まさむね)白鳥・有島武郎(たけお)・志賀直哉(なおや)らに大きな影響を与えた。〔石井忠厚〕

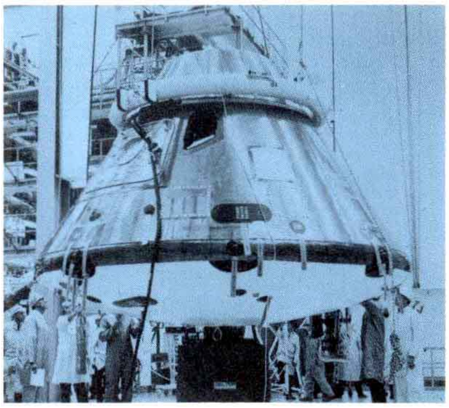
うちモンゴル【内モンゴル(自治区)】中国北部にある省級の民族自治区。面積は117万8,000km²，人口は1,300万(1967年推)。行政の中心は呼和浩特(フフホト)。２自治区轄市(呼和浩特・包頭(パオトウ))，７盟，22県，51旗，３自治旗に分かれる。北東部には大興安嶺(だいこうあんれい)が，南西部には陰山山脈がそれぞれ南北・東西に走り，北西部はゴビ砂漠(さばく)，中部はステップとなる。大陸性の気候に支配され，寒暑の差がきびしく，降水量はきわめて少ない。モンゴル族の自治区であるが，住民は漢族が80％を占め，モンゴル族は10％にすぎない。モンゴル族はおもに牧畜を行なって毛皮を産出するが，中華人民共和国成立後は牧畜の集団化・定住化が著しく進み，1960年ごろにはほとんど完了したといわれる。漢民族は，交通路の近くで農耕・商業・鉱工業に従事している。近年，包頭を中心とする鉄鋼コンビナートは中国屈指の重工業地帯に発展している。〔船越昭生〕

うちゅう【宇宙】⇨536ページ

うちゅういがく【宇宙医学】最近の宇宙開発技術のめざましい発展により人類は月面に到達し，さらに活動範囲をしだいに



内村鑑三



宇宙カプセル

遠くまで広げていこうとしている。このため新しい分野の医学，すなわち宇宙医学が必要になってきた。宇宙医学には人類が地球大気圏を越えて安全に航行し，地球に帰ることに必要なすべての医学が含まれる。宇宙医学者の責任には宇宙飛行者の検査と選択，宇宙の環境で行動しうる生命維持装置(宇宙服など)の開発を含む。そして宇宙医学，特に環境においては次の３面に注意を払わなければならない。①無重力または低重力。②熱および冷にさらされること。③高い加速度負荷状態，さらにその中にⓐ振動，ⓑ衝突，ⓒ連続的な直線的または有角の加速が含まれる。〔平野修助〕

うちゅうかいはつ【宇宙開発】⇨538ページ

うちゅうかがく【宇宙科学】宇宙空間での観測を主体にした科学。大気圏の外に出ると，光が大気によって吸収されないので，生のままの宇宙空間の姿がわかってくる。観測ロケットの打ち上げを契機として宇宙科学という新しい分野が開かれ，人工衛星や月探査体，あるいは人工惑星の登場によって，その内容は飛躍的に拡大した。超高空の構造，電離層の主体，電離層よりさらに上の外気圏の姿，地球を取り巻く磁場のありさまなどがわかってきた。地球を二重に囲む放射能帯(バン-アレン帯*)の存在はまったく予想もされなかったことで，太陽からの各種の放射線の測定も画期的なことだった。太陽からは，紫外線やＸ線などのほかに，高速の帯電粒子も放出されていて，それは太陽風*とよばれている。太陽面に爆発現象が起きると太陽風も激しくなり，電離層が乱される。月の研究はほんとうに新しい段階にはいったし，金星とか火星についても，次々と新資料が蓄積されつつある。宇宙科学の対象は太陽系に限らず，恒星や星雲にも向けられ，Ｘ線星*の発見などとなった。なお，人工衛星の軌道の研究から，地球そのものの形や重力分布なども詳しくわかってくるのである。〔新羅一郎〕

うちゅうカプセル【宇宙カプセル】数人乗りまでの小形の人間衛星，または宇宙船の船体。アメリカの用語。内部の気密が大気圏の外でも保たれ生活ができるようになっているが，事故の場合に備えて宇宙飛行士は宇宙服を着用，または用意している。

うちゅうこうがく【宇宙工学】宇宙空間を飛行するための総合的な工学。航空工学が基礎の一部となり新しい広い研究分野を含む。おもなものはロケット工学で，そのほか，飛道を決定し飛行体を誘導するための力学や宇宙通信のための電子工学，軽量で小容積の測定装置開発のための精密工学もこの分野にはいる。さらに人工衛星・探査体・宇宙船・宇宙ステーションの設計・製作研究など，多分野にわたる。将来は宇宙環境を利用する諸般の工学，月や惑星における人工施設・産業開発に関するものも発達するであろう。〔原田三夫〕

うちゅうこうこうがく【宇宙航行学】宇宙空間の航行技術の基礎となる科学。宇宙航行は，真空中を天体の引力に強く左右されながら飛行する点，および他の天体をめざす場合は距離が遠いために高速を必要とする点で，航空と趣を異にする。ロケットが唯一の機関である。

うちゅうじゅう【宇宙銃】宇宙遊泳*の際に，前後左右に自由に行動するために用いる小形のロケット銃。ボンベに詰めた圧縮酸素ガスなどを噴出させ，そのときの反作用を利用するものである。1965年６月，ジェミニ４号のホワイト宇宙飛行士が宇宙遊泳にはじめてこれを用いた。

うちゅうしょく【宇宙食】宇宙飛行中の食物。軽量であること，むだがなく栄養価の高いこと，繊維などはできるだけ取り除かれて，ほとんどのものが腸内で吸収されること，などが必要条件である。船室が狭いから容積も小さくし長期保存できるよう，すべて細分して調理し乾燥する。飛行中は無重量状態で物体が空中に浮散するから，食品は合成繊維のチューブに詰め水を加えてもとの状態にもどし，押し出して口に入れるか，一口大にしたものをほおばるかする。液体はすべてチューブから口に入れる。将来の長期飛行または月や火星の基地では，栄養に富み，繁殖が速く炭酸ガスと酸素の交換にも役だつ緑藻(りょくそう)の一種のクロレラ*などを培養して食糧を自給することが考えられ，その研究もすでに進んでいる。〔原田三夫〕

うちゅうじん【宇宙塵】星間空間や惑

星間空間に漂っている固体微粒子。星間空間ではガスとともに*星雲をつくり，遠くの星の光をおおい隠す暗黒星雲や，近くの星の光を反射して輝く星雲として観測される。*黄道光は宇宙塵が太陽の光を反射して輝いている姿であり，またそれらが地球大気に突入して発生するのが流星である。

うちゅうステーション　【宇宙ステーション】　ロケットで運ばれた機材で組み立てられ，人間が常駐的に居住できる大形の人工衛星。アメリカが開発中のものは長期の宇宙旅行に備えて，宇宙空間が長期間に人間や宇宙船に及ぼす影響の試験や科学観測，真空を利用する科学研究を目的としている。将来は宇宙船の整備工場・発着所・造船本部や宇宙天文台も設置されるであろう。遠い将来には宇宙船の発着基点となるもの，または宇宙観光客のためにホテルや宇宙病院のある巨大なものが現われ，それは人工引力をつくるために車輪形にして回転させることになるであろう。　〔原田三夫〕

うちゅうせいぶつがく　【宇宙生物学】　地球以外の天体に生息しているかもしれない生物についての研究分野。それに関連して他の天体・隕石(いんせき)の中の有機物質の分析，他の天体において生命が発生しつつあるという可能性から生命の起源に関する研究，宇宙船内および他の天体でのヒトおよび地球生物の生活・生存に関する研究などが含まれる。これらの分野のうちにはきわめてばく然としているものもあるが，今後宇宙航空技術などの発達に伴い，より具体的なものとして発展していくものと期待される。　〔福島　健〕

うちゅうせん　【宇宙船】　地球を離れて宇宙空間を航行する人間の乗り物。はじめはロケットにより，または自己のロケットエンジンによって必要速度をとるが，そののちは慣性で飛び，噴射装置で，姿勢制御や速度調整を行なう。船内は気密が保たれ，地球上とほぼ同様に生活ができる。また，地球上へ無事帰還するために，再突入に対する配慮も十分になされていなければならない。地球を回る衛星船とは区別される。



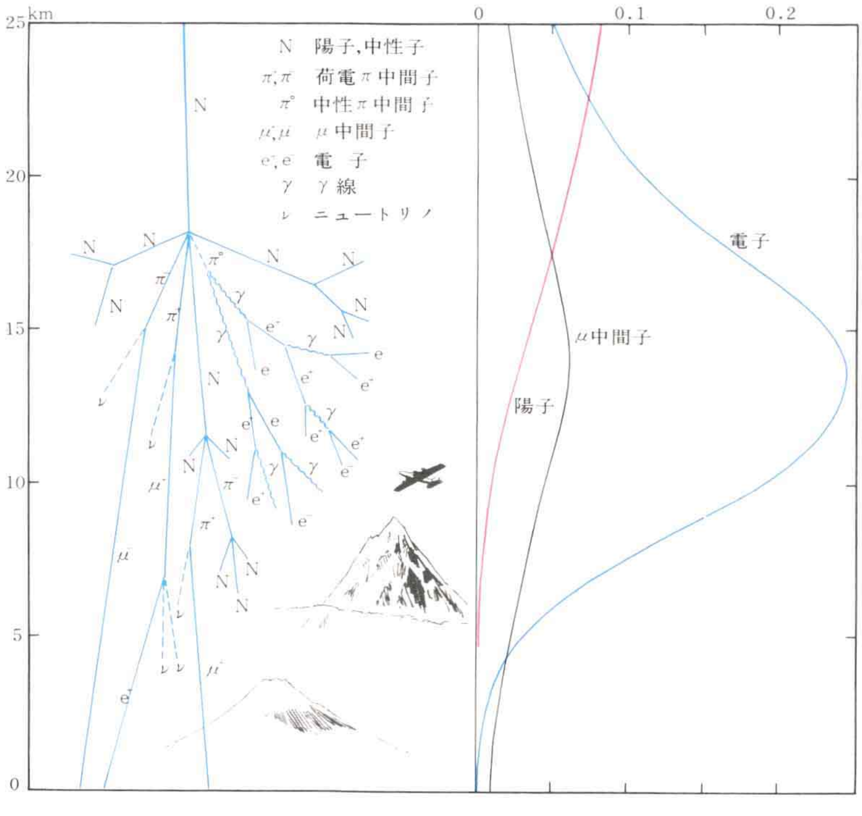
宇宙食　左の二つの袋状の容器に詰められた宇宙食は，右のさらなどに盛り付けられた，地上で平常にとられる食物から水分などを除去してつくられたものである。栄養価も同じ

うちゅうせん　【宇宙線】　宇宙空間に存在する特殊な放射線。個々の粒子のもつエネルギーが非常に大きいことがそのきわだった特徴で，たとえば原子核崩壊によって生ずる放射線のエネルギー(100万電子V程度)に比べてその100倍から最高100兆倍に及ぶものまで観測されている。宇宙線発見のきっかけは，今世紀初めごろに行なわれた空気の電離現象の研究で，まずその電離をつくりだしている放射線の中に物質貫通力の異常に強いものがあることが注目された。次いで高空の空気の電離状態を調べる気球実験が幾度か試みられ，高度5,000 mでは電離作用が地上の9倍にも達することがわかった。それを見いだした*ヘスの実験(1912)のころから未知の放射線が宇宙空間から地球大気に降り注いでいることが信じられるようになった。この外界からの宇宙線を直接にとらえることに成功したのはやはり気球によるブラット・ピータースらの実験(1948)で，原子核*乾板によって宇宙線が種種の原子核よりなることを確認した。主成分は陽子(水素原子核)でヘリウム原子核がそれに次いで多い。原子核以外の成分としては電子の存在が知られているが，それが確認されたのは比較的新しく1961年ごろである。また，γ線も小量ながら含まれていることが最近の実験ではほぼ確かになった。

宇宙空間から地球上層大気に入射した宇宙線は空気の原子核との衝突によって多くの種類の粒子をつくりだす。このように，大気中で発生した宇宙線は二次宇宙線と名づけられ，一方大気圏外からの宇宙線は一次宇宙線とよんでこれと区別する。二次宇宙線は大気の深さとともにその強度と組成を変え，地上付近ではμ中間子を主成分に電子・γ線・中性子などからなっている。貫通力の強いμ中間子はさらに地中に突入し，特にエネルギーの大きいものは地下1,000 m以上にまで達する。宇宙線と空気その他の物質の原子核との衝突やその際につくられた粒子の研究は素粒子物理学の発展に決定的な役割を果たした。陽電子，πおよびμ中間子，λ粒子など宇宙線中に発見された新粒子も少なくない。現在でも加速器の及ばない高エネルギー領域では，宇宙線を用いた素粒子の研究が重要である。エネルギーの特に高い宇宙線は，大気中でおびただしい数の二次宇宙線をつくりだし，その一部はほとんど同時にシャワーのように地球表面に降り注ぐので空気シャワーとよばれる。空気シャワーを構成する宇宙線粒子の数はその源となった一次宇宙線のエネルギーの推定に用いられ，また，その空間分布の詳しい研究は超高エネルギーでの素粒子間の相互作用の機構を明らかにするための有効な手段である。太陽系内の宇宙線は，太陽から常時放出されている*プラズマ流の影響でその強度が太陽に近づくに従って小さくなっており，また，そのプラズマ流の変化に伴って種々の擾乱(じょうらん)を受

→542ページ

宇　宙　線　宇宙線主要成分の強度(鉛直方向からの毎秒，1 cm²，単位体角あたりの入射数)



宇　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在するすべての領域をさすことばであるが，人類の知識の進歩につれて，宇宙の内容はしだいに変化してきている。

【宇宙観の変遷】古代民族にとっては自分たちが住む地域が宇宙の中心であり，頭上に広がる星をちりばめた天球は神の住む家であった。たとえば，いまから約6,000年前，チグリス・ユーフラテスの流域に古い文明を築いたカルデア人は，自分たちの住む大陸が宇宙の中心で，その中央部には雪をいただいた高山があり，ここにユーフラテスの源があると考えた。大陸のまわりは大洋が取り巻き，宇宙の果てまで続いていて，そこからは丸天井の大空が世界をおおっている。空は，昼間は太陽に照らされて青く輝き，夜は無数の星にちりばめられる。天の北側には東西に出入り口をもった管が通り，昼間天を回った太陽は，夜になると管の西の口から坑道を通って翌日東の口から再び顔を出すと考えていた。また，星占いを信じていたバビロニア人は，国王の運命や戦いの勝敗を予言するため，熱心に天文観測を行なったが，その知識を伝えられたギリシアでは，地球説(大地が球形であること)が完成され，太陽・月・惑星*などがどのように宇宙を構成しているかについて，いろいろの考えが提出された。この時代の宇宙観を代表するものがプトレマイオス*の天動説*である。中世紀にはいると，ヨーロッパの政治・文化はすべてキリスト教会に支配された。自然科学も旧約聖書に反しないものだけが権威をもち，地球を宇宙の中心とする天動説*はキリスト教の教義に矛盾しないことから広く信じられていた。

16世紀にポーランドの天文学者コペルニクス*は，惑星の運動をうまく説明できない天動説に疑問をいだき，宇宙の中心は太陽とする地動説*を発表した。しかし，地動説は当時の人々には受け入れられず，特にキリスト教会の圧迫はひどく，地動説を信ずる少数の人は迫害を受けた。一方，当時のヨーロッパでは探検や航海に必要な天文観測，暦*の編集を行なう天文台が各地につくられた。その一つ，デンマークのウラニエンボリ天文台で，チコ-ブラーエ*は1576年から21年間，非常に精密な惑星の観測を行なった。その記録を整理分析したケプラー*は，地球をはじめとする惑星が太陽を焦点とする楕円(だえん)軌道上を公転していることを見いだし，いわゆるケプラーの法則*を発見した。その後90年ほどたって，ニュートン*は力学の三つの原理と万有引力の法則によって，ケプラーの法則が導かれることを証明した。この結果，何千年も天文学者を悩ませた惑星の運動，すなわち太陽系中心ではあったが，地上の物体と同じように力学的な計算によって簡単に予測することができるようになった。

17世紀にはいり望遠鏡が発明されるに及んで，ようやく人々の注意は恒星の世界に向けられるようになった。1838年，恒星の距離がはじめて測定され，最も近い星でも光が届くのに4年以上かかることがわかり，かすかな光の点としかみえない恒星も，実は太陽と同じような天体であることが明らかになった。こうして宇宙は太陽系*を越えて恒星の世界へと広がっていったのである。恒星が銀河面を中心に凸(とつ)レンズ状に集まっていることは，すでに18世紀にハーシェル*によって考え出されたが，20世紀になって大口径の望遠鏡の活躍により，銀河系は1,000億以上の星が直径10万光年，中心部の厚さ15,000光年の円板状に集まったもので，太陽は中心から30,000光年以上離れた場所にある平凡な一恒星にすぎないことが明らかにされた。コペルニクスによって太陽系*の中心は地球から太陽に移ったが，太陽もまた銀河系の中心には位置していなかったのである。同じころアンドロメダ座*の大星雲が，銀河系と同様な恒星の集団であることが判明し，星雲の中には銀河系内のものと系外に存在するものと2種類あって，後者は銀河系と対等な小宇宙であることがわかった。このように天文学の発展につれて，宇宙はどんどん大きくなっていった。ガリレイの時代には宇宙は半径15億km(土星の軌道半径)であったが，19世紀の中ごろには50光年(明るく見える恒星の距離)に広がり，1924年には200万光年(アンドロメダ星雲*)，現在では数十億光年に拡大されたのである。

【宇宙の姿】われわれの住む地球は，他の惑星・衛星とともに太陽系をつくり，太陽は1,000億に余る他の恒星や星間物質*とともに銀河系を形づくっている。銀河系の外には，これと同じような天体の集団(銀河系外星雲*)が無数に存在し，銀河系や銀河系外星雲が集まって宇宙を構成している。このように，宇宙は階級的な体系(ヒエラルキー)によって形成されている。銀河系外星雲は，局部的には星雲群*や星雲団*に集まっているところもあるが，そのような場所を除けばほぼ一様に分布していて，星雲間の平均距離は約200万光年である。そして星雲と星雲の間には密度は小さいが星雲間物質が存在しており，数億光年の遠方にある天体の明るさが1等級暗くなる程度である。銀河面に沿う星間物質には平均1 cm^3中に数個の原子が存在するが，銀河面に沿って遠くの星を見ると3,000光年の距離で明るさが1等級暗くなると推定されているから，これと比較すると星雲間物質がいかに希薄か想像されよう。銀河系外星雲の物質を宇宙全体に平均すると$10^{-30}g/cm^3$くらいになる。これは一辺が10万kmの立方体の質量が1gに相当し，地球の体積で1,000分の1gにすぎない。このように宇宙は全体に平均すれば非常に希薄であって，その中で物質が集まっている領域が星雲であり，星雲の中の特に密に物が集まった場所が恒星・惑星を形成している。

銀河系外星雲のスペクトル*をとると，星雲を構成する個々の恒星のスペクトルが重なり合っているが，全体としては太陽に似たスペクトル型を示している。ところがこの中にみられるカルシウムの吸収線は，ごく少数の例外を除いてみな長波長側にずれる赤方変位を示し，われわれから遠ざかっていることを物語っている。しかも，これら星雲の後退速度は距離に比例していて，銀河系外星雲の距離が100万光年遠ざかるごとに，後退速度が30km/秒速くなっている。この関係を発見者の名をとってハッブル*の速度・距離関係とよぶ。たとえば，うみへび座星雲団は秒速60,000km，3C-9と名づけられた準星は秒速24万kmで，実に光の速度の80%のスピードでわれわれから遠ざかっている。もし，ハッブルの速度・距離関係がどこまでも正しくなりたつと仮定すれば，100億光年のかなたにある銀河系外星雲は光と同じ速度で遠ざかることになる。われわれが原理的に観測できるのは後退速度が光速度と等しくなる距離までであるから，観測可能な宇宙の半径はほぼ100億光年ということができよう。銀河系外星雲の速度・距離関係はすべての星雲がわれわれから遠ざかっていることを示しているが，これはわれわれが宇宙の中心にあることを意味するものではない。無数の星雲で構成されている宇宙が膨張しているために，星雲間の距離がしだいに広がり，遠方にある星雲ほど大きい相対速度で遠ざかる。つまり，どの星雲からみても同じように膨張していく宇宙の姿がみられるのである。だが，なぜ宇宙が膨張しているかについては，現在の科学では解明することができない。

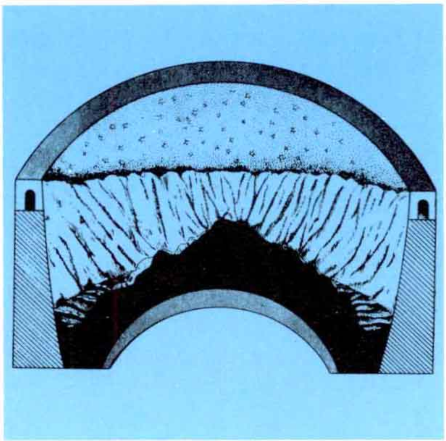
【宇宙の進化】もし，宇宙がはるか昔からいまと同じ速度で膨張しているとすれば，初期の宇宙は非常に小さかったに違いない。膨張を始めた当時の原始宇宙には，まだ星雲や恒星は誕生しておらず，現在の宇宙にばらまかれている物質が超高温・超高密度の状態で詰め込まれていたと想像される。おそらく水素やヘリウムのような元素さえ存在せず，小さな原始宇宙を満たしていたのは中性子と巨大なエネルギーであったろう。宇宙の膨張とともに中性子はこわれて陽子(水素原子核)と電子が生まれる。陽子は中性子をつかまえておのおの2個ずつが結びついたヘリウムの原子核をつくる。こ

うして宇宙の温度が数億度ぐらいまで下がってくるわずかな時間に，宇宙全体の物質の70～80％が水素，残りがヘリウムになった。原始宇宙を膨張させる原動力であった大きなエネルギーは，現在はすっかり希薄になってしまったが，その残骸(ざんがい)は電波領域で観測されている。

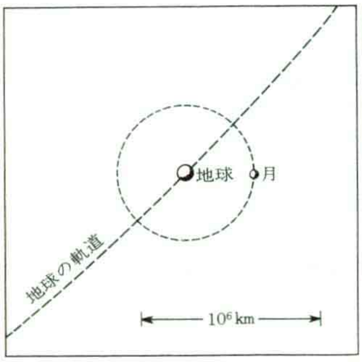
膨張を始めた直後は，宇宙のエネルギーはほとんど光が占めていたが，時間がたつと宇宙内の物質は光からエネルギーをもらって激しく運動し大小のうずに分かれ，おのおののうずは万有引力によって周囲の物質をとらえて成長し，無数の原始星雲が誕生する。銀河系やアンドロメダ星雲をはじめとして，銀河系外星雲が自転していることは，このような過程で星雲が生まれてきたことを示唆している。原始星雲は膨張する宇宙の中でちりぢりに分かれていくが，星雲内にも物質の濃淡のむらができて成長し，無数のかたまりに分かれて原始星が生じる。これらの原子星は太陽の数十倍から10分の１くらいまでの質量をもち，半径は太陽の数千倍に及ぶ冷たいガスのかたまりであるが，やがて自身の重力で収縮し，中心部が数千万度の高温に達すると水素をヘリウムに変える核融合*反応を起こし，恒星として輝くようになる。

恒星はその一生の大部分を主系列星*として過ごすが，中心部の水素を食いつぶすと巨星*から超巨星*へと進化し，その内部では炭素・酸素・ネオン・マグネシウムから鉄までの重い原子核がつくられる。そして最後には恒星の大部分を構成する物質を外界に放出して，白色矮星*(わいせい)となる。その一つの例が超新星*の爆発で，このときには星の中心部で起こる急激な核反応によって瞬時に多量の中性子が発生し，鉄より重いウランまでのすべての元素がつくられる。そして，星からまき散らされた物質は，星の間に漂う物質に混じり，その中から水素よりウランまでのすべての元素を含んだ新しい世代の星が誕生する。一般に，質量の重い星ほどエネルギーの消費量が多く，進化のスピードが速い。つまり星の寿命は質量によって決まり，太陽の10倍の質量をもった星は数千万年しか輝いていないが，逆に太陽の半分の質量の星は1,000億年の寿命をもっている。したがって，原始宇宙の中で最初に生まれた重い星は，とっくにその一生を終えているが，軽い星はいまも主系列星として輝き続けている。恒星と星間物質が，互いに姿を変えながら世代をくり返していくにつれて，銀河系も進化してくる。初期に生まれた星が生涯(しょうがい)の終わりにまき散らした物質はしだいに銀河面に集まってきて，そこで新たに若い星や散開星団*をつくる。こうしてはじめは比較的球状に近かった原始銀河系も，若い星のみられる円板部と，球状星団のように古く老いた星が存在する銀河系コロナの部分とに分かれ現在の姿になった。われわれの太陽系も，このような星の世代の移り変わりの間で，銀河面に沿って分布するガスや塵(ちり)の中から50億年ほど昔に生まれた。したがって，地球上で発生してきたわれわれ人間をつくっている物質にも，かつてはどこかの星に存在した物質が混じっているはずである。いわば，われわれのからだの中の物質も一度は星として輝いていたことになる。

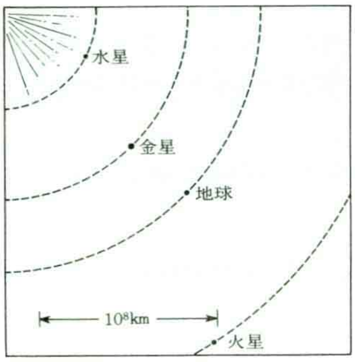
〔守山史生〕



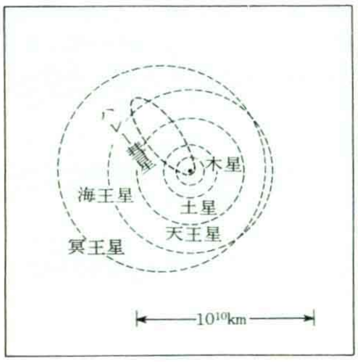
宇　宙　カルデア人の宇宙観



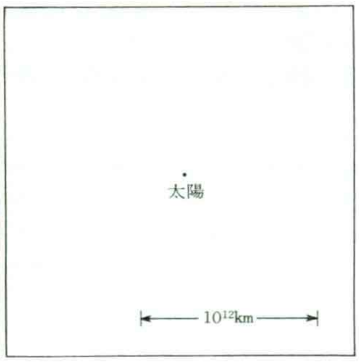
①地球の軌道はほとんど直線



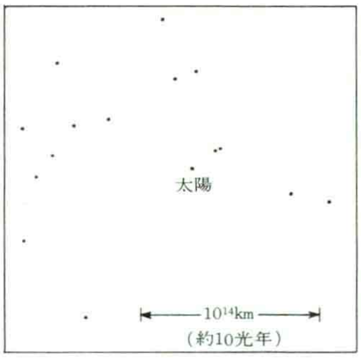
②水星から火星までの内惑星の軌道が現われ，太陽は左上角からわずかに外にある



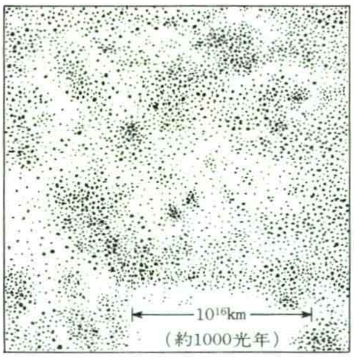
③太陽系のいちばん外側の冥王星まで，楽にはいる。内惑星の軌道は記入されていない



④太陽の位置は図示できるが，惑星の軌道は図に表わせない



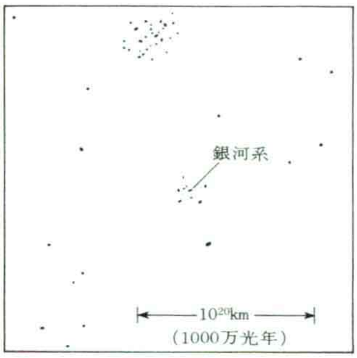
⑤太陽の近所にあるいくつかの恒星が現われる



⑥銀河系のたくさんの恒星や暗黒星雲などが現われ，太陽はどこにあるのか見分けがつかない



⑦銀河系宇宙の全体が現われる。隣の島宇宙はもっと遠くにある



⑧銀河系は図の中央の１点となり，ほかの一つ一つの点が銀河系と同じような星雲である

宇宙開発

大気圏外の宇宙空間に観測機器や人間を送り出し，人類の福祉向上・発展に役だたせようとする活動。大気圏外での観測は，それまでの，地上からだけのものからは想像もされなかった新しい要素が付け加わり，人間の活動の範囲を飛躍的に増大させる要因となった。そして，宇宙空間の画期的な利用の道が開けてきた。

〔宇宙開発の基礎〕宇宙空間に進出するということは，とりもなおさず，地球の引力との戦いにほかならない。したがって，引力に逆らうだけの十分な推力を保持することが基本であり，また，その機体をできるだけ軽くするくふうが必要である。それゆえに，ロケット技術の発達こそが宇宙開発の基礎をなすものであった。しかし，単にロケット*を飛ばすだけでは宇宙開発とはならない。ロケットを打ち上げる第1の目的は，地表からではできないいろいろな観測を実施することにあるから，観測器の開発がまず必要だったし，その観測資料を着実に手に入れる手段を確保しなければならなかった。弾頭の部分の回収法とか電波通信の方法の確立が肝心なのである。

第2次世界大戦は，画期的な戦争技術の結実として，ドイツの発明になるV－2号*を頂点とするロケット技術の発達，レーダーの実用化に伴う超短波技術の開発，それに原子爆弾の完成をもたらした。大戦後，前二者を土台にして宇宙開発が始まった。これらの技術開発は先端的なものであり，また，多くの関連分野をそこに集中させなくてはならない。それは，単に一つの研究所とか会社の仕事としては処理しきれない大きさであるため，国家予算でまかなわれる巨大科学技術（ビッグ-サイエンス）とよばれるようになった。原子力の平和利用も同じ性格のものであり，最近登場してきた海洋開発*も同様である。

なお，ロケットが巨大となり，費用がかさむようになるにつれて，ロケット発射からその使命の達成までにおける信頼性を高めることが重要課題となってきた。特に，ロケットに人を乗せて宇宙空間に送り出したり，他の天体まで届けたりすることになると，十分な信頼性を保つことが最重要な緊急問題となる。

多くの工業技術分野にまたがる事項を，所期の目的に合うように総合的にまとめあげるというのは新しい技術であって，ここに，システム-エンジニアリング*とよばれる科学技術の体系が生まれることになった。部品が700万個を上回るほどもある，サターン5型ロケットとアポロ宇宙船を，みごとに飛ばせたアポロの飛行は，システム-エンジニアリングの偉力をまざまざと見せつけたのである。

〔科学衛星〕大気圏の外に飛び出したV－2号は，早くも1946年秋には，地上からは観測されない短い波長の紫外線が太陽から放射されているのを明らかにした。そして観測ロケットが急速に発達した。けれども，観測ロケットでは，いかにも観測時間が短いし，その観測も局地的にすぎない。その欠点を救おうというのが人工衛星*であって，人工衛星の中でも，特に科学的な観測を目的とするものを科学衛星という。世界ではじめての人工衛星スプートニク1号も，アメリカの最初の人工衛星エクスプローラー1号も科学衛星である。科学衛星で観測する項目はきわめて多岐にわたっており，それらからすでに多くの成果が得られている。

地球をドーナツ状に取り巻く強いバン-アレン帯*の存在の確認，赤道方向の半径が地軸方向の半径より伸びている割合を示す地球の扁平（へんぺい）率の精度の高い測定，電離層のその外側からの観測，地表では望むべくもない太陽からの放射線の長期にわたる観測，また大気との相互作用を受けない宇宙線の広い範囲にわたる分布測定などである。

最近では，望遠鏡を載せて〈空飛ぶ天文台〉にしようという天体観測衛星（OAO），各種の計測器を使って太陽を総合的に研究しようという太陽観測衛星（OSO），同様に地球を総合的に研究する地球観測衛星（OGO）なども打ち上げられている。なお，コスモスとよばれているソ連の一連の衛星は，その多くは確かに科学衛生であるが，中にはいわゆる軍事衛星*らしいものや気象衛星*なども含まれているとみられている。

〔実用衛星〕人工衛星は，科学研究用というじみな役割を越えて，人類の生活に直接に役だつようにもなってきた。それが実用衛星であり，通信衛星・気象衛星・航行衛星・測地衛星・地球資源調査衛星など各種のものがある。実用衛星のはしりは1960年に現われた。すなわち，気象衛星のタイロス1号，航行衛星のトランシット1B，受動式通信衛星のエコー1号，遅延型能動式通信衛星のクーリエなどがそろって打ち上げられた。通信衛星のうち，受動式というのは単に電波を反射するだけのものであるが，能動式は電波を受け，それを増幅して送り出すものである。なお，クーリエを遅延型だというのは，受信したのをいったんテープに記録し，その後の指令によってそれを送信する形式だからである。その後は，受信したものが使われている。

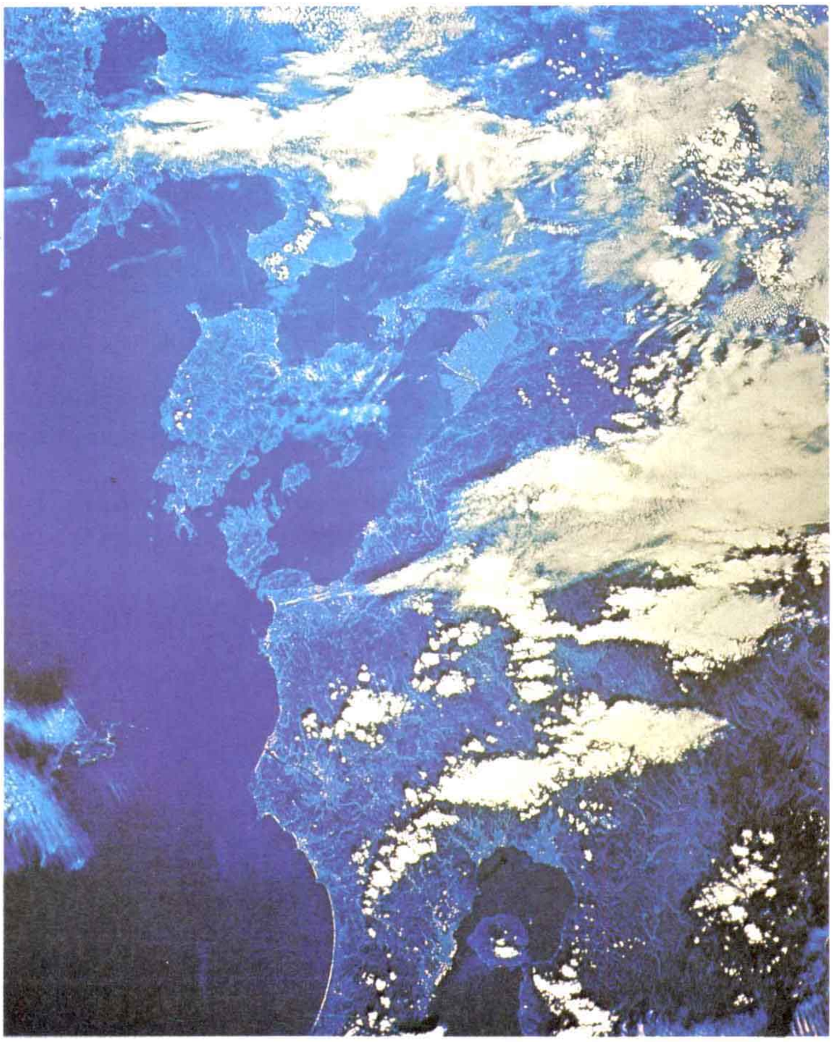
通信衛星や気象衛星として特に興味をもたれているのは，地表と相対的に静止している静止衛星*である。これによると，アンテナを動かす必要はないし，その高度が35,800kmという高いものなので，衛星から見渡せる範囲が非常に広い。すなわち，赤道上に同じ間隔で配置された3個の静止衛星によって，極の近くを除く地球の大部分がカバーされるのである。静止衛星の第1号は，1964年8月に打ち上げられたシンコム3号で，オリンピック東京大会を，太平洋を越えてテレビ中継するのに使われて脚光を浴びた。通信衛星は，もはや単なる実験的な段階を越え1964年に世界を結ぶ商業用通信衛星機構（インテルサットとよばれる）がつくられた。大西洋・太平洋およびインド洋の上空に商業用通信衛星を静止させ，商業的に，料金をとって宇宙通信を行なうのである。通信衛星の寿命にもよるが，この方法による国際電話の通話料は，海底ケーブルだけによる場合よりずっと安くなると見積もられている。また，これによって，国際的な大量の情報伝達が可能となるであろう。

気象衛星の成績も予想以上によく，これもすでに実用的な段階に達している。エッサという名まえをもつもので，高さほぼ1,400kmの極軌道をとっていて，周期は2時間足らずである。このほか，1966年から応用技術衛星（略称ATS）が続いて静止軌道に打ち上げられているが，これは気象観測用にも宇宙通信用にも活躍している。

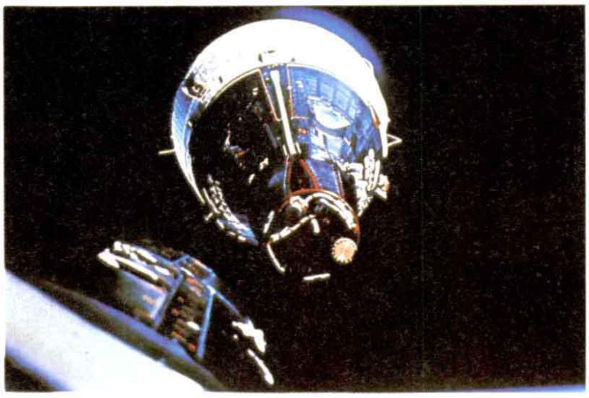
航行衛星*は現在のところ，軍事用にしか開発されておらず，原子力潜水艦などには大いに利用されているらしいが，まだ一般の船舶には活用されていない。しかし，航行衛星による位置の測定法が，船舶や航空機に広く用いられる日も遠くはないであろう。

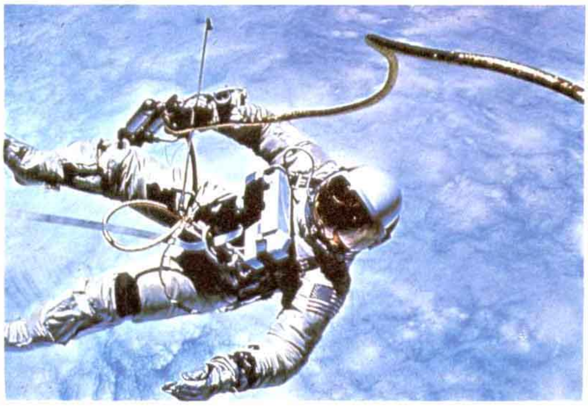
〔惑星の無人探査〕探測体を惑星の近くまで到達させたり，あるいは着陸させたりすることができれば，その惑星の研究は飛躍的な進歩をする。惑星をめがけての，そのような探測体は，まず，1962年8月に打ち上げられたマリナー2号で成功した。109日の飛行ののちに，金星から35,000kmのところを通過し，金星の表面温度や金星を取り巻く大気の構成のありさまなどを測定して地球に送ってきた。温度は430℃に達し，大気中に水蒸気は非常に少ないことなどがわかった。また，さらに重要だったのは，金星の近くでは磁場がほとんど見いだされなかったことである。大きさは地球とよく似ているが，そのようすは非常に違っている。金星の自転周期の長いこと（247日）が，この磁場のみられないことと関連しているのであろう。

金星への探測体発射はソ連からも数回行なわれた。特に1967年6月の金星4号は，ついに金星へ軟着陸するのに成功した。金星4号の重さは1.1t，軟着陸カプセルの重



アポロ７号が撮影した九州の南部　鹿児島市，鹿児島湾と桜島などがはっきりわかる。山岳地帯にまつわる雲の模様も手にとるように見える。アポロ７号の高度は約250km





(上)ランデブー　1965年12月，ジェミニ６号と７号によって行なわれた，世界最初のランデブー。両宇宙船は約30cmの至近距離まで接近し，その状態を保って数時間飛行した。宇宙飛行士は，６号にシラーとスタッフォード，７号にボーマンとラベル

(下)宇宙遊泳　1965年６月，ジェミニ４号に搭乗したホワイト少佐によって，アメリカでは最初の宇宙遊泳が約20分間行なわれた。画面上方に見えるのは命綱，右手に持っているのは宇宙銃。宇宙銃を使って，宇宙空間を自由に動き回ったのはこれがはじめて

さは380kg。秒速10.7kmで金星大気に突入し，大気の中で減速したのちにパラシュートを開いて降りたという。そして，表面の温度が270℃であること，表面の気圧は20気圧前後であること，大気の90～95％は炭酸ガスであることなどを測定した。1969年１月には，金星５号と６号とが打ち上げられ，これらも無事金星に到着した。

火星の近くまで最初に飛んで行ったのはマリナー４号である。1964年11月の末に打ち上げられ，228日の飛行ののちに，火星から16,000kmのところまで近づき，表面の写真をとって電送してきた。２億2,000万kmという長い距離を送られてきた写真は，火星表面にいくつかの凹孔(おうこう)があり，月面とよく似ているので，人々を驚かせた。これは，地上からの望遠鏡ではとても見られない光景である。その後1969年２月にはマリナー６号，３月には７号が発射され，ともに火星表面の詳しい写真を電送するのに成功した。

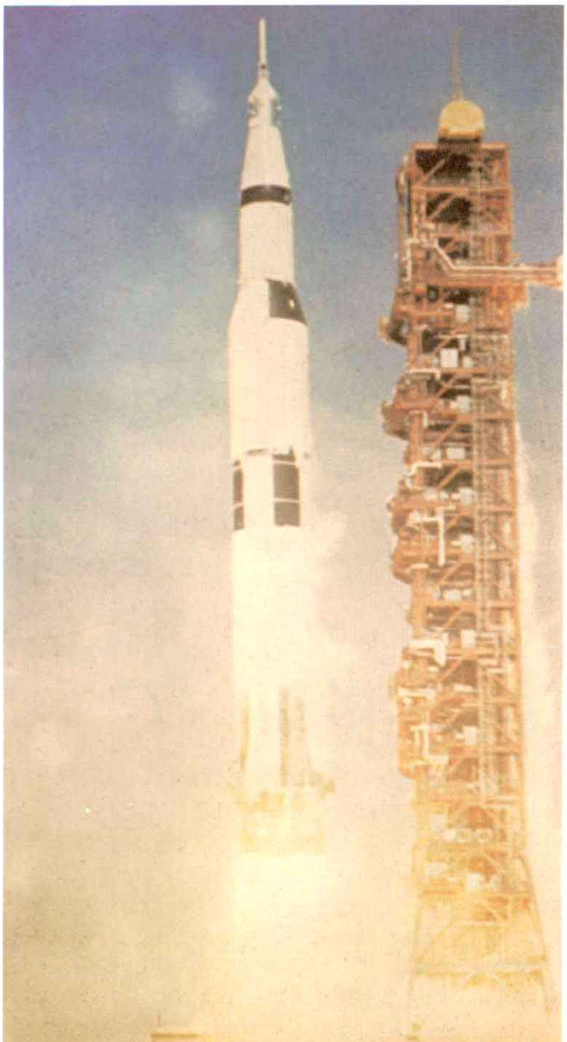
〔月の無人探査〕月の無人探査はすでに1959年に始まった。その年の１月，ソ連からルニク１号が発射され，月面から6,000kmのところを通過して，初の人工惑星になった。９月にはルニク２号が月面に命中し，10月にはルニク３号が月の裏側の写真をとって電送してきた。一方，月面に激突させながら，その衝突寸前までに月面の近接写真をとろうというのがアメリカのレインジャー探測体で，1964年７月の７号でみごとに成功し，直径30cmほどの穴まで識別して世界を驚かせた。レインジャーは７号に続く８号と９号とで終わり，それからは月に軟着陸させる方法に発展した。軟着陸にはじめて成功したのはソ連のルナ９号である。1966年２月，月面の，石ころがごろごろしているパノラマ写真を送ってきた。アメリカも，同じ年の５月の末にはサーベイヤ１号を打ち上げて，みごとに軟着陸させた。アメリカでは，軟着陸させるのはサーベイヤとよび，月を回る人工衛星すなわち孫衛星のほうはルナ-オービターといって区別しているが，ソ連はみなルナと総称している。孫衛星の第１号は，ソ連のルナ10号で，1966年の３月末に発射された。ルナ-オービター１号は同じ年の８月に打ち上げられて，月周回軌道に乗り，月面の広い範囲の詳しい写真をとった。無人探測体はその後，ソ連からもアメリカからも数多くが発射され，月面の調査に大きな貢献をした。非常に注目に価するのはルナ16号で，1970年９月に発射され，まったく自動的に，月面着陸・岩石採取を行ない月面から無事帰還した。

〔人類の宇宙への進出〕ソ連では，早くもスプートニク２号にイヌを乗せて，生物の宇宙への進出の熱意をみせたが，1960年８月には，イヌ２匹を乗せたスプートニク５号を無事に回収して，いよいよ人間衛星船の出現の近いことを思わせた。そしてそれ

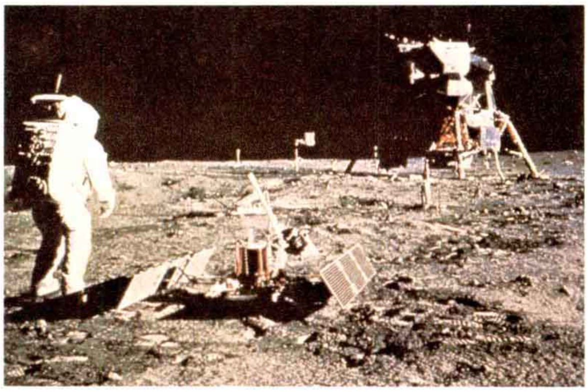
は1961年４月12日に実現した。衛星船の名まえはボストーク１号，搭乗者(とうじょうしゃ)はガガーリン。１時間48分で，地球を１周しただけだったが，人類がついに大気の外へ出て，宇宙空間へ活動の範囲を広げはじめたわけで，その意義は非常に大きい。衛星船の中は無重量であり，外は太陽の直射にさらされた真空の世界である。このようなきびしい環境で生き抜くには，たいへんな準備がいる。ボストークやアメリカのマーキュリーは１人乗りの窮屈なものだったが，その後のジェミニやボスホード，さらにはアポロやソユーズになると，内部も広くなり，居住性もずっと改良されてきた。近い将来にはより大形の宇宙ステーション*が建設され，特別な飛行訓練を受けたことのない科学者や観光客が往来することになるだろう。それは，地上では望めない特徴をもった独特な研究所であり，またすばらしい観光の場所でもある。

地球とは違う天体である月への着陸は，1969年７月21日に実現した。その８年前からスタートしたアポロ計画が，〈1960年代のうちに人を月に送り，無事に連れもどす〉という大目標を達成したのである。重さ約2,800ｔのサターン５型に積まれたアポロ11号には，アームストロング・オルドリン・コリンズの３宇宙飛行士が乗り，いったん月周回の軌道にはいってから，アームストロングとオルドリンが月着陸船に乗り替えて月面着陸を試みた。両人が月面活動をしたのは２時間40分，月の岩石を採集し，月面に地震計とレーザー*反射器をすえつけた。その活動の模様は，彼らが持っていったテレビカメラでとらえられ，宇宙中継されて，世界じゅうの人々がかたずをのんでそれに見入った。この徹底した公開性は，アポロの飛行への関心をいっそう深め，その価値をより増大させたといってよかろう。人がそこに行くことによって，無人探査では望めない科学観測も行なわれるし，やがて月の基地もつくられることになるであろう。そして，月を，南極に続く〈第８の大陸〉として，人類に役だたせるときがくるだろう。月までの観光旅行の日とて，あまり遠くはあるまい。惑星に人が立つのは，まだはっきりした計画にはなっていないけれども，アメリカの航空宇宙局のいちおうの目標では1980年代の半ばということになっている。

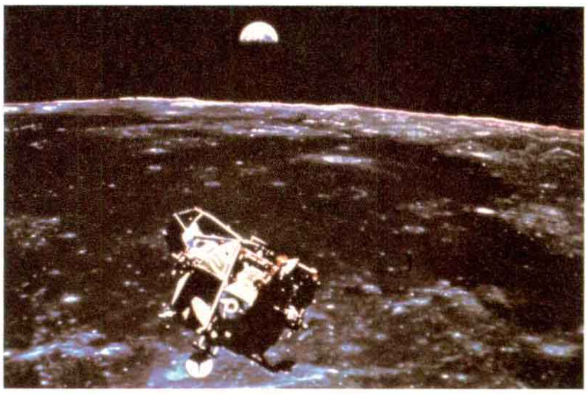
〔宇宙開発の効用〕各分野にまたがる先端的な技術を駆使しなければならない宇宙開発は，膨大にしてきびしい研究開発の結果として，当然いろいろな波及効果をもつ。



アポロ11号打ち上げの瞬間　人類最初の月着陸をめざしたアポロ11号は，1969年７月16日，ケネディ宇宙センターから，人々の興奮のうちに打ち上げられた。打ち上げロケットはサターン５型，高さ110ｍの巨体の先端に乗っているのは，アームストロング・オルドリン・コリンズの３宇宙飛行士



アポロ11号着陸船と月面地震計　月面地震計すえつけを終えたオルドリンが月着陸船イーグルに向かうところ。その距離は約30ｍ。着陸地の〈静かの海〉はちょうど夜明けで，太陽は水平近くの方向から強烈な光を投げかけている。月面は黒っぽい砂でおおわれ，歩き回った足跡がきれいに残る



アポロ11号の月着陸船　上昇用ロケットを噴射し，月面をあとに司令船へ近づく月着陸船の上昇部。アームストロングとオルドリンが乗っている。貴重な月の石23kgも積んである。この上昇部は，司令船とドッキングし，ふたりが司令船に乗り移ってから切り離され，月面に激突した



地球への帰還　最後の難関である再突入もみごとに成功し，ハワイ西南方の太平洋上に無事着水したアポロ11号の司令船。姿勢を正す風船，全体に浮力を与えるリング状の浮き，宇宙飛行士が乗り移るゴムボートなども見える

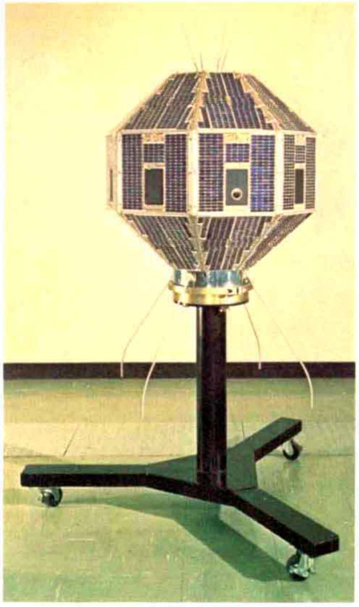


ミューセンター　東京大学鹿児島宇宙空間観測所には，ミューロケットとラムダロケットのそれぞれを打ち上げる台地がある。ミューセンターは海にいちばん近いところを占め，広大な太平洋に面している



ラムダ4S型5号機の発射　1970年2月11日，ラムダ4S型5号機が発射され，わが国初の人工衛星を軌道に乗せるのに成功した。人工衛星の名まえは〈おおすみ〉。ラムダ4Sは直径73.5cm，全長16.6m，重さ9.6t

科学衛星第1号MS-1　球に内接する26面体。その24面に太陽電池5,000個がはってある。直径75cm，重さ62kg。発射ロケットの4段めに点火せず，速度不足で太平洋に落下した





ランチャーセット　ミューロケットの整備塔と，ランチャーにセットされたミュー4S型1号機。整備塔の高さは36m。ランチャーは，そのときの風の状況により，発射角度を適当に決める。この1号機は，1970年9月25日に発射されたが，人工衛星を軌道に入れるのには失敗した

ミューロケット発射管制室　実験主任がいろいろの指令を出す発射管制司令卓をはじめ，ロケット機体点火系統・搭載機器などの各管制盤があり，ミューロケット発射のための本部となるところ



耐熱材料の発達，超小形の電子機器の開発，小形で精密なコンピューターの作製，電源装置の小形化，あるいは特殊な写真感光剤の開発等々。それらは次々と，いろいろな方面で一般の生活へも開放されていく。しかし，それらにも増して効果の大きかったのは，システム-エンジニアリングの発達であろう。

わが国の宇宙開発は，遅れて出発し，しかも総力を結集できないうらみはあったが，国産のロケットを使い，国産の人工衛星を打ち上げることは，1970年2月に実現した。ロケットはラムダ4S型，人工衛星の名まえは〈おおすみ*〉。本格的な科学衛星打ち上げの日も近いであろう。　〔新羅一郎〕

ける。このような現象を一般に宇宙線のモジュレーションとよび，地球上で観測される宇宙線強度の時間的変化の大部分はこのモジュレーションの効果に帰せられる。たとえば，宇宙線強度が11年の周期で10％程度の変化を示すのは，太陽活動の11年周期に伴うモジュレーション効果の変動が原因である。宇宙線のモジュレーションの詳しい観測は，逆に太陽プラズマ流の影響下にある惑星間空間*の状態を探る有力な手がかりを与える。宇宙線は宇宙空間内の磁場によってその進行方向が乱され，あらゆる方向からほとんど一様に飛んで来るので，光や電波のようにそのやって来た方向から発生源を推定することができない。宇宙線の発生が直接に確かめられている唯一の天体は太陽で，黒点の爆発（フレア*）に伴って時おり比較的エネルギーの低い宇宙線の発生がみられる。しかし，常時はかられている宇宙線の強度は銀河系の星の一つ一つが太陽と同じ能率で宇宙線をつくっていると考えたのではとても足りない程度に大きい。現在のところ宇宙線の重要な発生源の一つと考えられるものは新星*・超新星*など爆発現象を起こす星で，実際1054年に爆発した超新星の残骸(ざんがい)である〈かに星雲〉中にはいまだに高エネルギーの宇宙線電子が閉じ込められていることを示す実験的証拠がある。そのほか，大規模なフレアをしばしば起こすフレア星*なども有力な候補である。エネルギーの特に大きい宇宙線は銀河系の外から来ている可能性が強い。〔村山　喬〕

うちゅうせんあらし【宇宙線嵐】 惑星間空間*の宇宙線の密度や方向の乱れ。太陽のフレア*から放出された多量のプラズマ*の影響によって起こる。地球上で観測される宇宙線強度が急激に数パーセント程度減少し，その後1週間程度の間に徐々に回復する〈フォルブッシュ減少〉のは宇宙線嵐の際に起こる代表的な現象である。太陽プラズマが地球を包んだ際，そのプラズマに伴う磁場が宇宙線をはねのけ，あるいは減速させるのが宇宙線嵐の原因とされている。宇宙線嵐はしばしば磁気嵐*・電離層嵐・オーロラ*などを伴って起こり，これらを総括した〈地球嵐〉ということばも用いられる。〔村山　喬〕

うちゅうせんかんぱん【宇宙線乾板】 ⇨原子核乾板

うちゅうせんぼうえんきょう【宇宙線望遠鏡】 特定の方向から来る宇宙線を選択して観測する装置。代表的なものとして名古屋大学の宇宙線望遠鏡がある。これは宇宙線検出用に直径4.5mの反射鏡2基を備え，また方向を自由に変えることができるなど望遠鏡の名にふさわしい性能をもち，世界にも類のない存在である。その他，一般に宇宙線の中間子の強度を測定する装置は，ある程度方向の選択性をもっているので〈中間子望遠鏡〉とよばれる。また，近年



宇宙線望遠鏡（名古屋大学宇宙線望遠鏡第3号）

空気シャワー*(→宇宙線)の観測用に，シャワー粒子が高空で発するチェレンコフ効果*の光をとらえる反射望遠鏡が用いられているが，これもしばしば〈チェレンコフ望遠鏡〉の名でよばれ，広義の宇宙線望遠鏡に属する。〔村山　喬〕

うちゅうそくど【宇宙速度】 物体が地表から宇宙空間に飛び出すときの速さのことであるが，飛び方の区分によって，次の3種類がある。〈第1宇宙速度〉物体を人工衛星にすることのできる速度は軌道が高いほど大きいが，地球表面すれすれで，しかも空気がないと仮定したときに，人工衛星となって地球を回れる速さ。秒速7.91kmである。〈第2宇宙速度〉地球の引力圏外に出られる最小の速さ。人工惑星となるための最低限の速さである。秒速11.2kmである。実際には太陽の引力に引き寄せられて，それを回ることになる。〈第3宇宙速度〉太陽の引力から脱出できる速さ。秒速16.7kmである。地球が静止していれば，地球から飛び出して太陽の引力から脱出できる速度は毎秒42.1kmであるが，地球は毎秒29.8kmで公転しているから，その進行方向に飛び出せば，この速度でよいのである。〔原田三夫〕

うちゅうつうしん【宇宙通信】 人工衛星・人工惑星・地上局のそれぞれの間で行なわれる通信。指向性が強く小電力でも遠距離に達する極超短波が用いられる。具体的には次のような場合がある。①大気圏外に打ち上げられたロケットを制御誘導する地上局からの送信，または観測値を報告するロケットからの発信。②観測衛星船からの通信。③航海衛星*がつねに一定周波数の電波を出していて，船舶や航空機がそれにより自分の位置を決定するもの。④気象衛星*が地上を連続撮影して電送するもの。それによって気象の変化が予測され，天気予報が確実になり気象学が進歩する。⑤中継衛星は地上からの電波を中継し，地上では困難な遠距離の通信を容易にするもの。天空に固定する静止(中継)衛星*は広い地域内での常時中継を可能にし，これを3個以上用いれば全世界がほとんどカバーされ，同時中継ができる。

おわん形の宇宙通信用アンテナは極超短波の指向性と捕集力を強くするが，アンテナは大きいほどよい。イギリスのジョドレルバンク天文台*の直径75mのものが最大で，遠距離からの電波の受信ではこれが最も活躍している。わが国では茨城県の鹿島(かしま)町と十王町におわん形アンテナが建設されている。〔原田三夫〕

うちゅうでんぱ【宇宙電波】 太陽系外，宇宙のかなたから地球に降り注ぐ電波の総称。大別すれば，天の川に沿って天球上に連続的に分布する銀河電波と，天空のあちらこちらに孤立して散在する電波源(電波星)とからなる。➔電波天文学 ➔電波天体

うちゅうひこうし【宇宙飛行士】 宇宙船や衛星船に乗り飛行の目的を達するための操作を行なう人たち。現在の宇宙飛行は地上とまったく異なった環境と状態に置かれるので，年齢・体格・性質・教養，航空パイロットとしての経験などの諸条件に適した者の中から厳密に選ばれ，そのうえ長期の教育と訓練が課せられる。訓練としては大加速による重圧に耐えること，無重量状態に慣れること，無音の室にはいり孤独に慣れることなどがある。〔原田三夫〕

うちゅうふく【宇宙服】 宇宙飛行士が人工衛星や宇宙船・宇宙空間・月面など，地球上と異なった環境のもとで着用する衣服。ヘルメット・手袋・くつなども含められる。内部は，多くの場合純酸素によって3分の1気圧程度に保たれ気密になっていて，適温・適湿に保つなど地上に近い状態にし，真空中でも生活できるようになっている。材料は，高熱・高圧・宇宙塵*(うちゅうじん)に耐えうるよう特殊の合成樹脂布などを積層させてあり不燃性である。表面には薄い金属の膜が張られ，太陽からの放射熱も反射するし，普通の強さの宇宙線や各種の放射線ならば防がれる。作業時にも動作を容易にするため関節部は蛇腹(じゃばら)式になっており，ヘルメット着用のまま外部との通信も可能で，排泄(はいせつ)にも不便のないようくふうされている。宇宙服を着用するのは室内の酸素供給装置などの故障の場合と船外に出るときで，そのほかは宇宙作業服を着る。船外で独立行動をするときは酸素タンク・通信機などを収納した背箱を背負う。〔原田三夫〕

うちゅうへいき【宇宙兵器】 ①地上の発射基地から発射され，大気圏外を飛んで目標に到着する弾道ミサイル(地球ミサイル)。②大気圏外に浮かぶ人工衛星基地から発射されるミサイル，または光線兵器。③月その他の太陽系惑星から発射されるミサイルまたは光線兵器。以上を総称して宇宙兵器とよぶ。ただし，②③は，第21回国連総会で採択された宇宙天体条約により禁止されている。➔宇宙法

うちゅうほう【宇宙法】 宇宙空間・天体および人間の宇宙活動を律する法。従来の国際法の原則では，領空*の範囲として大気圏内だけを考え，実際的に利用不可能であった宇

宙空間や天体について考慮される必要はなかった。ところが，1957年10月4日スプートニク*1号の打ち上げにより，宇宙空間の大きな将来性が人類にとって現実のものとなり，宇宙活動を律する基本原則の制定が必要となった。1958年12月，国連総会において，宇宙空間の平和利用問題について決議がなされ，宇宙空間平和利用委員会が設置されて，宇宙空間の法制化のための努力がなされてきた。その後，国連総会におけるいくつかの決議を経て，1966年には，ついに米ソ両国の妥協がなり，1966年12月，第21回国連総会で審議のうえ満場一致で推奨決議され，1967年1月27日，ワシントン・モスクワ・ロンドンの3市で，〈宇宙条約〉としてすべての国に開放されて，同年2月末までに79か国が署名した。この条約は，宇宙天体条約あるいは宇宙平和利用条約ともいうが，正式には〈月その他の天体を含む宇宙空間の探査および利用における国家活動を律する原則に関する条約〉といい，天体を含む宇宙空間が領空とは異なった法的地位に立つことを前提に，宇宙空間と天体の領有禁止，宇宙活動の自由と国際法の遵守，天体の非軍事化と平和的目的にかなう利用の三原則を規定している。〔広部和也〕

うちゅうゆうえい【宇宙遊泳】 宇宙飛行士が，飛行中の宇宙船*や衛星船*の船外で行動すること。宇宙服を着用し，酸素の供給を受けて行なわれる。船外の飛行士の前向きの速度は船体と同速度であり，行動は宇宙銃*や背箱についている小ロケットによって行なわれる。普通は，もどれなくなる場合に備え，命綱で船体と連結する。1965年3月，ソ連の人間衛星船ボストークのレオノフが史上最初の宇宙遊泳を10分間行なった。1965年6月アメリカのジェミニ4号のホワイトがはじめて宇宙銃を使って20分間遊泳し，写真撮影もやってのけた。〔原田三夫〕

うちゅうロケット【宇宙ロケット】 およそ秒速8km以上の速度を出せるロケット。人工衛星打ち上げ用ロケット，および月や惑星に探査体や宇宙船を打ち上げるロケットなどがある。大陸間弾道弾を含めていうこともある。➔ロケット

うちゅうろん【宇宙論】 時間・空間・物質の一般的性質を研究して宇宙の有様を論ずる学問。古代においては形而上学*(けいじじょうがく)の領域に含まれていたが，近代になって宇宙がどのような構造をもっているか，どのような経路をたどって現在の姿になったか，さらに将来どのように進化していくかなどを理論的・観測的に研究する天文学の一分野になった。昔は太陽系が宇宙そのものと考えられていたが，恒星の距離の測定，銀河系外星雲*の発見によって宇宙の規模は非常に大きくなり，最近は銀河系外星雲の空間分布や運動についてかなり多くのことがわかるようになった。また原子核エネルギーの発見により，元素の起源，恒星の進化を解く手がかりが得られた。一方，われわれの観測できる範囲を越えた宇宙全体の構造を知るためには，時間・空間の性質について理論的な洞察(どうさつ)が必要である。これら各分野の知識を総合して宇宙論が組み立てられる。現在までにさまざまな説が提出されているが，将来の研究に待つ未解決の問題が多く残されている。〔守山史生〕



うちわ (左)江戸時代に流行した角形うちわ。歌川国貞の遊女芝居の木版図入り (中)江戸末期の丸形うちわ。名古屋の津島祭の木版図入り (右)香川県金刀比羅宮参拝記念に売られている民芸品。風神・雷神が描かれている



ウチワエビ



ウチワヤンマ

うちわ【団扇】 風を起こし涼をとる用具。奈良時代に中国(唐)から伝わり，はじめ宮廷貴族の権威の象徴，日光を避けるためのものであったが，戦国時代には軍配団扇として武将たちに用いられるようになった。一般に使用されるようになったのは，江戸時代にはいってからで，竹細工と紙の普及によって各地に広がった。装飾的なものとしては，扇面に浮世絵や役者の似顔を描いたもの，絹張りの絹団扇などがあり，実用的なものとしては，表面にカキの渋を塗ったじょうぶな渋団扇があった。また，修験道の山伏が用いた法貴扇(ほっきせん)，絵にみられる天狗(てんぐ)団扇などは呪具(じゅぐ)として用いられた。

うちわえび【団扇蝦】 甲殻(こうかく)類・ウチワエビ科。体長20cm前後で，上下に押しつぶされた平たい形をした赤かっ色のエビである。暖海性の種で，房総半島以南からオーストラリア東岸までの，100mより浅い泥底(でいてい)の海底にすみ，食用にされる。

うちわごけ【団扇苔】 シダ植物・コケシノブ科。山地の樹幹や岩の上に群生する小形のシダ。糸状の根茎が長くはい，黒色の毛が密生する。葉は扇形ないし円形で数個の裂片よりなり，各裂片の先はさらに細かく切れる。胞子嚢群(ほうしのうぐん)は葉の先端に生じる。

うちわだいこ【団扇太鼓】 うちわ状の木のわくに皮を張っただけの単純な構造の太鼓で，これを1本のばちでたたいて音を出す。日蓮宗(にちれんしゅう)で〈南無妙法蓮華経(なむみょうほうれんげきょう)〉の題目を唱える際に使うので，題目太鼓ともいわれる。大きさと形状から，御会式(おえしき)や寒参りなどで歩きながら使うのに適している。なお，歌舞伎(かぶき)の下座音楽にこれを模したものが用いられている。

うちわふぐ【団扇河豚】 硬骨魚類・ウチワフグ科。40cmほどになる海産魚。地色は紅かっ色で，体側に淡色の輪で囲まれた大きな黒斑(こくはん)がある。腹部が薄く，大きくたれ下がった奇妙な姿をしている。フグに似ているが，腹をふくらますことはできない。本州中部以南にすむが少ない。無毒。

うちわやんま【団扇蜻蜓】 こん虫類・トンボ目・サナエトンボ科。ウチワトンボともいう。腹長58mm内外，後翅(こうし)45mm内外の大形種。体は黒色の地に黄色斑(はん)があり，雌雄ともに腹部第8節に特徴的なうちわ状の付属物(雌では小さい)がある。本州以西，アジア東部の諸地域に広く分布。盛夏の候に池上を飛び，棒ぐいなどの先端に水平に静止する習性がある。四国・九州の南部以西，台湾・中国などには，本種に近似で，雄のうちわ状部が小さく黒色のタイワンウチワヤンマが分布する。〔鈴木邦雄〕

Document generated by Anna’s Archive around 2023-2024 as part of the DuXiu collection (https://annas-blog.org/duxiu-exclusive.html).

Images have been losslessly embedded. Information about the original file can be found in PDF attachments. Some stats (more in the PDF attachments):

```
{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTEuemlw",
    "filename_decoded": "40439091.zip",
    "filesize": 231745856,
    "md5": "1920002e1d33222553633f320ba15065",
    "header_md5": "77feae8f1be6144c952e3a6c33b60233",
    "sha1": "d6d29bc5784ee8d1aab3366f3ffeacac7ab6d22f",
    "sha256": "6fcdcc16e1501656284f9743b316907b3005f6a0a1f193895e93d124d5e4c1b4",
    "crc32": 89353103,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 241114713,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 2847410192
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTEuemlw",
    "filename_decoded": "40439091.zip",
    "filesize": 231560204,
    "md5": "17ea0d481244705c6149251003a1049f",
    "header_md5": "1462adf98e501be1f5f919aa5088e5f2",
    "sha1": "b83d4f532536a56f549484c907dc7c6bc54fce75",
    "sha256": "56a544a181f453e53fd330da655bdcdb1194001e5a5b04a389c6bc86d645d077",
    "crc32": 3474795393,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 241103729,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 3597074192
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}
```